2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　3　主管科目(db科目)　　）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S01000001|01|9S01000001[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	学術的文章の作成　O1		
担 当 教 員	太田　裕子@坂本　麻裕子@追田　好章		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	アカデミック・ライティング科目	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　早稲田生のための基礎講座

授業概要:　学術的な文章を書くために身につけておくとよい技術を学ぶための授業です。「学問をするために大学へ入学したが、学術的な文章とはどのようなものなのか、またどうしたら書けるようになるのか。」という疑問に応えます。「書く」という行為は「考える」ことと一体です。そして、よりよく「書く」ためには、他の文献の筆者や自分の文章の読者、さらに自分自身と「対話する」ことが必要です。文章を整えることによって、より広くより深く「考え」、自他と「対話し」、学問を修める第一歩を踏み出しましょう。1年生のうちに履修することをお勧めしますが、レポートの作成で力をつけたい2年生以上も履修できます。
※01-04クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。

本授業は全回オンデマンド形式です(好きな時間にMoodle上の動画を視聴する形式。毎週配信されます。)1週間で一つの技術を取り上げます。その週に学んだ技術を使って400字から600字の文章を書くことが毎週、課題として出されます。受講者が提出する文章は、個別にコメントと評価点がつけられ、それぞれの受講者に返されます(文章のやり取りもオンラインでなされます)。なお、受講者が提出した課題文章の中で、学んだ技術を効果的に使って書かれている文章や内容に独自性がある文章を、毎回、数人分選び、〈参考となる文章〉フォルダにて公開します。他の履修者の文章を読んで、お互いに学び合いましょう。名前を外して公開します。御了承下さい。流れは次の通りです。具体的なスケジュールは、Moodle上に一覧で示します。

1)動画配信開始日:土曜日　視聴を完了すると、課題提出に進めます。
2)課題提出締切日:翌週金曜日22時59分
3)提出した文章の返却期日:課題提出締切日の翌週木曜日
4)〈参考となる文章〉掲出完了日(随時公開):課題提出締切日の翌々週月曜日

授業の到達目標:　1)文章作成の過程を通して、自分の考えを明確にすることができる。
2)自分の考えを読み手にわかりやすく伝えるための、文章技術を身につけることができる。
・学術的文章作成の基本事項を理解し実践できる。
・明確な文を作成し、語句を適切に使うことができる。
・文章のわかりやすく構成することができる。
・引用と出典明記が適切にできる。

事前・事後学習の内容:　授業動画を視聴し、ワークシートにメモを取ります。(1時間程度)
授業画面で示された課題に沿って400字から600字の文章を作成し、提出します。(1～2時間)
提出した文章は翌週に返却されます。文章につけられたコメントと評価点を確認します。〈参考となる文章〉も見ます。(20分程度)

授業計画フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

授業計画フリー:　ガイダンス(本授業の進め方)／課題作成の留意点
【第1回】読み手を意識して書く／学術的文章作成の基本事項
[事前学修]
ガイダンス「第1章　本授業の進め方」と「第2章　課題作成の留意点―学術的文章における不正行為を防ぐために―」を視聴する。
[授業]
・「読み手を意識して書く／学術的文章作成の基本事項」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。ガイダンスと授業動画の内容を踏まえて課題文章を作成し、期日までに提出する。
・「課題作成の留意点」に関する小テストを受験する。合格点をとると、「第2回　文を整える／文と文の関係を考える」以降の動画が視聴できる。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第2回】文を整える／文と文の関係を考える
[授業]
・「文を整える／文と文の関係を考える」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し、期日までに提出する。
[事後学修]

・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第3回】語句を明確に使う
[授業]
・「語句を明確に使う」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第4回】ブレインストーミングを実践する／文章全体の構成を意識して書く
[授業]
・「ブレインストーミングを実践する／文章全体の構成を意識して書く」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第5回】論点を整理する／パラグラフ・ライティングを実践する
[授業]
・「論点を整理する／パラグラフ・ライティングを実践する」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第6回】引用して出典を示す 1
[授業]
・「引用して出典を示す 1」を視聴する。ワークシートにメモを取る。授業で指定された参考文献を読む。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第7回】引用して出典を示す2
[授業]
・「引用して出典を示す 2」を視聴する。ワークシートにメモを取る。授業で指定された参考文献を読む。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

※動画は、学期末まで何度も見ることができます。
※担当指導員にMoodle上で質問をすることができます。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 『課題に応える 卒論に活かせる 大学生のためのレポートの書き方』(佐渡島紗織・坂本麻裕子・中島宏治・太田裕子、2022年、ナツメ社)
(どうしても購入しなければならないというものではないが、授業内容が本書に準拠しているので、手元に置くことをお勧めします。)

また、以下の教科書も参考になります。
『これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版』(佐渡島紗織・吉野亜矢子、2021年、ひつじ書房)
『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』(佐渡島紗織・オリベイラ,ディエゴ・嶋田大海・デルグレゴ,ニコラス編著、2020年、大修館書店)
『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド―大学生・大学院生のための自己点検法29』(佐渡島紗織・坂本麻裕子・大野真澄編著、2015年、大修館書店)
『レポート・論文をさらによくする「観点」ガイド―学習と授業作りに役立つ25の観点―』(佐渡島紗織・宇都伸之・中島宏治編著／後藤大輔・坂本麻裕子・嶋田大海・外村江里奈・千仙永・平松友紀・渡寛法著、2025年、大修館書店)

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 3 視聴をふまえた、第１回小テストの得点。

レポート: 97 視聴をふまえた、全７編の課題文章につけられた得点の合計

備考・関連URL: ・01～04クラスのいずれも同内容の授業が開講されます。
・01クラス（春クォーター）の開始日は4月11日（土）です。Waseda Moodle「学術的文章の作成」内に表示されるスケジュールを確認するようにしてください。
・この科目では、Microsoft Wordで課題文章を作成し、提出します。在学中は、大学が提供する Microsoft Word のソフトウェアを無償で利用できます。必要な人は、以下を確認してください。
Office365（アプリケーション）
https://support.waseda.jp/it/s/software/office365?language=ja

■オンデマンド授業 受講環境（以下のURLで確認してください）
https://support.waseda.jp/it/s/systemrequirements?language=ja
※特に「Waseda Moodle」「Contents Creation Studio（コンテンツ試聴）」「Wasedaメール」の項目を確認し、環境を整えてください。
※自宅のパソコンでオンデマンド授業が受講できない場合には、学内のパソコン教室で受講してください。

関連URL: https://www.waseda.jp/inst/aw/course

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　3　主管科目（db科目）　）　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S01000001|02|9S01000001[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	学術的文章の作成　02		
担 当 教 員	太田　裕子@坂本　麻裕子@追田　好章		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	アカデミック・ライティング科目	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　早稲田生のための基礎講座

授業概要:　学術的な文章を書くために身につけておくとよい技術を学ぶための授業です。「学問をするために大学へ入学したが、学術的な文章とはどのようなものなのか、またどうしたら書けるようになるのか。」という疑問に応えます。「書く」という行為は「考える」ことと一体です。そして、よりよく「書く」ためには、他の文献の筆者や自分の文章の読者、さらに自分自身と「対話する」ことが必要です。文章を整えることによって、より広くより深く「考え」、自他と「対話し」、学問を修める第一歩を踏み出しましょう。１年生のうちに履修することをお勧めしますが、レポートの作成で力をつけたい２年生以上も履修できます。

※01-04クラスは同一内容です。どれか１クラスしか履修できません。

本授業は全回オンデマンド形式です（好きな時間にMoodle上の動画を視聴する形式。毎週配信されます。）1週間で一つの技術を取り上げます。その週に学んだ技術を使って400字から600字の文章を書くことが毎週、課題として出されます。受講者が提出する文章は、個別にコメントと評価点がつけられ、それぞれの受講者に返されます（文章のやり取りもオンラインでなされます）。なお、受講者が提出した課題文章の中で、学んだ技術を効果的に使って書かれている文章や内容に独自性がある文章を、毎回、数人分選び、〈参考となる文章〉フォルダにて公開します。他の履修者の文章を読んで、お互いに学び合いましょう。名前を外して公開します。御了承下さい。流れは次の通りです。具体的なスケジュールは、Moodle上に一覧で示します。

1）動画配信開始日：土曜日　視聴を完了すると、課題提出に進めます。
2）課題提出締切日：翌週金曜日22時59分
3）提出した文章の返却期日：課題提出締切日の翌週木曜日
4）〈参考となる文章〉掲出完了日（随時公開）：課題提出締切日の翌々週月曜日

授業の到達目標:　1）文章作成の過程を通して、自分の考えを明確にすることができる。
2）自分の考えを読み手にわかりやすく伝えるための、文章技術を身につけることができる。
・学術的文章作成の基本事項を理解し実践できる。
・明確な文を作成し、語句を適切に使うことができる。
・文章のわかりやすく構成することができる。
・引用と出典明記が適切にできる。

事前・事後学習の内容:　授業動画を視聴し、ワークシートにメモを取ります。（1時間程度）
授業画面で示された課題に沿って400字から600字の文章を作成し、提出します。（1～2時間）
提出した文章は翌週に返却されます。文章につけられたコメントと評価点を確認します。〈参考となる文章〉も見ます。（20分程度）

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

ガイダンス（本授業の進め方）／課題作成の留意点

【第1回】読み手を意識して書く／学術的文章作成の基本事項
[事前学修]
ガイダンス「第１章　本授業の進め方」と「第２章　課題作成の留意点―学術的文章における不正行為を防ぐために―」を視聴する。
[授業]
・「読み手を意識して書く／学術的文章作成の基本事項」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。ガイダンスと授業動画の内容を踏まえて課題文章を作成し、期日までに提出する。
・「課題作成の留意点」に関する小テストを受験する。合格点をとると、「第2回　文を整える／文と文の関係を考える」以降の動画が視聴できる。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第2回】文を整える／文と文の関係を考える
[授業]
・「文を整える／文と文の関係を考える」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し、期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第3回】語句を明確に使う
[授業]
・「語句を明確に使う」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第4回】ブレインストーミングを実践する／文章全体の構成を意識して書く
[授業]
・「ブレインストーミングを実践する／文章全体の構成を意識して書く」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第5回】論点を整理する／パラグラフ・ライティングを実践する
[授業]
・「論点を整理する／パラグラフ・ライティングを実践する」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第6回】引用して出典を示す 1
[授業]
・「引用して出典を示す 1」を視聴する。ワークシートにメモを取る。授業で指定された参考文献を読む。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第7回】引用して出典を示す 2
[授業]
・「引用して出典を示す 2」を視聴する。ワークシートにメモを取る。授業で指定された参考文献を読む。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

※動画は、学期末まで何度も見ることができます。
※担当指導員にMoodle上で質問をすることができます。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 『課題に応える 卒論に活かせる 大学生のためのレポートの書き方』(佐渡島紗織・坂本麻裕子・中島宏治・太田裕子、2022年、ナツメ社)
(どうしても購入しなければならないというものではないが、授業内容が本書に準拠しているので、手元に置くことをお勧めします。)

また、以下の教科書も参考になります。
『これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版』(佐渡島紗織・吉野亜矢子、2021年、ひつじ書房)
『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』(佐渡島紗織・オリベイラ,ディエゴ・嶼田大海・デルグレゴ,ニコラス編著、2020年、大修館書店)
『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド―大学生・大学院生のための自己点検法29』(佐渡島紗織・坂本麻裕子・大野真澄編著、2015年、大修館書店)

『レポート・論文をさらによくする「観点」ガイド―学習と授業作りに役立つ25の観点－』(佐渡島紗織・宇都伸之・中島宏治編著／後藤大輔・坂本麻裕子・嶋田大海・外村江里奈・千仙永・平松友紀・渡寛法著、2025年、大修館書店)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 3 視聴をふまえた、第1回小テストの得点。

レポート: 97 視聴をふまえた、全7編の課題文章につけられた得点の合計。

備考・関連URL: ・01～04クラスのいずれも同内容の授業が開講されます。
・02クラス(夏クォーター)の開始日は5月30日(土)です。Waseda Moodle「学術的文章の作成」内に表示されるスケジュールを確認するようにしてください。
・この科目では、Microsoft Wordで課題文章を作成し、提出します。在学中は、大学が提供する Microsoft Word のソフトウェアを無償で利用できます。必要な人は、以下を確認してください。
Office365(アプリケーション)
https://support.waseda.jp/it/s/software/office365?language=ja

■オンデマンド授業 受講環境(以下のURLで確認してください)
https://support.waseda.jp/it/s/systemrequirements?language=ja
※特に「Waseda Moodle」「Contents Creation Studio(コンテンツ試聴)」「Wasedaメール」の項目を確認し、環境を整えてください。
※自宅のパソコンでオンデマンド授業が受講できない場合には、学内のパソコン教室で受講してください。

関連URL: https://www.waseda.jp/inst/aw/course

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 3 主管科目（db科目） ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S01000001|03|9S01000001[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術的文章の作成 03		
担 当 教 員	太田 裕子@坂本 麻裕子@追田 好章		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	アカデミック・ライティング科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 早稲田生のための基礎講座

授業概要:

学術的な文章を書くために身につけておくとよい技術を学ぶための授業です。「学問をするために大学へ入学したが、学術的な文章とはどのようなものなのか、またどうしたら書けるようになるのか。」という疑問に応えます。「書く」という行為は「考える」ことと一体です。そして、よりよく「書く」ためには、他の文献の筆者や自分の文章の読者、さらに自分自身と「対話する」ことが必要です。文章を整えることによって、より広くより深く「考え」、自他と「対話し」、学問を修める第一歩を踏み出しましょう。1年生のうちに履修することをお勧めしますが、レポートの作成で力をつけたい2年生以上も履修できます。
※01-04クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。

本授業は全回オンデマンド形式です（好きな時間にMoodle上の動画を視聴する形式。毎週配信されます。）1週間で一つの技術を取り上げます。その週に学んだ技術を使って400字から600字の文章を書くことが毎週、課題として出されます。受講者が提出する文章は、個別にコメントと評価点がつけられ、それぞれの受講者に返されます（文章のやり取りもオンラインでなされます）。なお、受講者が提出した課題文章の中で、学んだ技術を効果的に使って書かれている文章や内容に独自性がある文章を、毎回、数人分選び、〈参考となる文章〉フォルダにて公開します。他の履修者の文章を読んで、お互いに学び合いましょう。名前を外して公開します。御了承下さい。流れは次の通りです。具体的なスケジュールは、Moodle上に一覧で示します。

1）動画配信開始日：土曜日 視聴を完了すると、課題提出に進めます。
2）課題提出締切日：翌週金曜日22時59分
3）提出した文章の返却期日：課題提出締切日の翌週木曜日
4）〈参考となる文章〉掲出完了日（随時公開）：課題提出締切日の翌々週月曜日

授業の到達目標:
1）文章作成の過程を通して、自分の考えを明確にすることができる。
2）自分の考えを読み手にわかりやすく伝えるための、文章技術を身につけることができる。
・学術的文章作成の基本事項を理解し実践できる。
・明確な文を作成し、語句を適切に使うことができる。
・文章のわかりやすく構成することができる。
・引用と出典明記が適切にできる。

事前・事後学習の内容:
授業動画を視聴し、ワークシートにメモを取ります。（1時間程度）
授業画面で示された課題に沿って400字から600字の文章を作成し、提出します。（1～2時間）
提出した文章は翌週に返却されます。文章につけられたコメントと評価点を確認します。〈参考となる文章〉も見ます。（20分程度）

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
ガイダンス（本授業の進め方）／課題作成の留意点
【第1回】読み手を意識して書く／学術的文章作成の基本事項
[事前学修]
ガイダンス「第1章 本授業の進め方」と「第2章 課題作成の留意点―学術的文章における不正行為を防ぐために―」を視聴する。
[授業]
・「読み手を意識して書く／学術的文章作成の基本事項」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。ガイダンスと授業動画の内容を踏まえて課題文章を作成し、期日までに提出する。
・「課題作成の留意点」に関する小テストを受験する。合格点をとると、「第2回 文を整える／文と文の関係を考える」以降の動画が視聴できる。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第2回】文を整える／文と文の関係を考える
[授業]

・「文を整える／文と文の関係を考える」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し、期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第3回】語句を明確に使う
[授業]
・「語句を明確に使う」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第4回】ブレインストーミングを実践する／文章全体の構成を意識して書く
[授業]
・「ブレインストーミングを実践する／文章全体の構成を意識して書く」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第5回】論点を整理する／パラグラフ・ライティングを実践する
[授業]
・「論点を整理する／パラグラフ・ライティングを実践する」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第6回】引用して出典を示す 1
[授業]
・「引用して出典を示す 1」を視聴する。ワークシートにメモを取る。授業で指定された参考文献を読む。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第7回】引用して出典を示す2
[授業]
・「引用して出典を示す 2」を視聴する。ワークシートにメモを取る。授業で指定された参考文献を読む。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

※動画は、学期末まで何度も見ることができます。

※担当指導員にMoodle上で質問をすることができます。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 『課題に応える 卒論に活かせる 大学生のためのレポートの書き方』(佐渡島紗織・坂本麻裕子・中島宏治・太田裕子、2022年、ナツメ社)
(どうしても購入しなければならないというものではないが、授業内容が本書に準拠しているので、手元に置くことをお勧めします。)

また、以下の教科書も参考になります。
『これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版』(佐渡島紗織・吉野亜矢子、2021年、ひつじ書房)
『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』(佐渡島紗織・オリベイラ,ディエゴ・嶼田大海・デルグレゴ,ニコラス編著、2020年、大修館書店)
『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド―大学生・大学院生のための自己点検法29』(佐渡島紗織・坂本麻裕子・大野真澄編著、2015年、大修館書店)
『レポート・論文をさらによくする「観点」ガイド―学習と授業作りに役立つ25の観点―』(佐渡島紗織・宇都伸之・中

島宏治編著／後藤大輔・坂本麻裕子・嶼田大海・外村江里奈・千仙永・平松友紀・渡寛法著、2025年、大修館書店）

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 3 視聴をふまえた、第1回小テストの得点。

レポート: 97 視聴をふまえた、全7編の課題文章につけられた得点の合計。

備考・関連URL: ・01～04クラスのいずれも同内容の授業が開講されます。
・03クラス（秋クォーター）の開始日は10月3日（土）です。Waseda Moodle「学術的文章の作成」内に表示されるスケジュールを確認するようにしてください。
・この科目では、Microsoft Wordで課題文章を作成し、提出します。在学中は、大学が提供する Microsoft Word のソフトウェアを無償で利用できます。必要な人は、以下を確認してください。
Office365（アプリケーション）
https://support.waseda.jp/it/s/software/office365?language=ja

■オンデマンド授業 受講環境（以下のURLで確認してください）
https://support.waseda.jp/it/s/systemrequirements?language=ja
※特に「Waseda Moodle」「Contents Creation Studio（コンテンツ試聴）」「Wasedaメール」の項目を確認し、環境を整えてください。
※自宅のパソコンでオンデマンド授業が受講できない場合には、学内のパソコン教室で受講してください。

関連URL: https://www.waseda.jp/inst/aw/course

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S01000001|04|9S01000001[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術的文章の作成 O4		
担 当 教 員	太田 裕子@坂本 麻裕子@追田 好章		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	アカデミック・ライティング科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 早稲田生のための基礎講座

授業概要: 学術的な文章を書くために身につけておくとよい技術を学ぶための授業です。「学問をするために大学へ入学したが、学術的な文章とはどのようなものなのか、またどうしたら書けるようになるのか。」という疑問に応えます。「書く」という行為は「考える」ことと一体です。そして、よりよく「書く」ためには、他の文献の筆者や自分の文章の読者、さらに自分自身と「対話する」ことが必要です。文章を整えることによって、より広くより深く「考え」、自他と「対話し」、学問を修める第一歩を踏み出しましょう。1年生のうちに履修することをお勧めしますが、レポートの作成で力をつけたい2年生以上も履修できます。
※01-04クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。

本授業は全回オンデマンド形式です（好きな時間にMoodle上の動画を視聴する形式。毎週配信されます。）1週間で一つの技術を取り上げます。その週に学んだ技術を使って400字から600字の文章を書くことが毎週、課題として出されます。受講者が提出する文章は、個別にコメントと評価点がつけられ、それぞれの受講者に返されます（文章のやり取りもオンラインでなされます）。なお、受講者が提出した課題文章の中で、学んだ技術を効果的に使って書かれている文章や内容に独自性がある文章を、毎回、数人分選び、〈参考となる文章〉フォルダにて公開します。他の履修者の文章を読んで、お互いに学び合いましょう。名前を外して公開します。御了承下さい。流れは次の通りです。具体的なスケジュールは、Moodle上に一覧で示します。

1）動画配信開始日：土曜日 視聴を完了すると、課題提出に進めます。
2）課題提出締切日：翌週金曜日22時59分
3）提出した文章の返却期日：課題提出締切日の翌週木曜日

4）〈参考となる文章〉掲出完了日（随時公開）：課題提出締切日の翌々週月曜日

授業の到達目標: 1）文章作成の過程を通して、自分の考えを明確にすることができる。
2）自分の考えを読み手にわかりやすく伝えるための、文章技術を身につけることができる。
・学術的文章作成の基本事項を理解し実践できる。
・明確な文を作成し、語句を適切に使うことができる。
・文章のわかりやすく構成することができる。
・引用と出典明記が適切にできる。

事前・事後学習の内容: 授業動画を視聴し、ワークシートにメモを取ります。（1時間程度）
授業画面で示された課題に沿って400字から600字の文章を作成し、提出します。（1～2時間）
提出した文章は翌週に返却されます。文章につけられたコメントと評価点を確認します。〈参考となる文章〉も見ます。（20分程度）

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

ガイダンス（本授業の進め方）／課題作成の留意点
【第1回】読み手を意識して書く／学術的文章作成の基本事項
[事前学修]
ガイダンス「第1章 本授業の進め方」と「第2章 課題作成の留意点―学術的文章における不正行為を防ぐために―」を視聴する。
[授業]
・「読み手を意識して書く／学術的文章作成の基本事項」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。ガイダンスと授業動画の内容を踏まえて課題文章を作成し、期日までに提出する。
・「課題作成の留意点」に関する小テストを受験する。合格点をとると、「第2回 文を整える／文と文の関係を考える」以降の動画が視聴できる。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第2回】文を整える／文と文の関係を考える
[授業]
・「文を整える／文と文の関係を考える」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し、期日までに提出する。

[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第3回】語句を明確に使う
[授業]
・「語句を明確に使う」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第4回】ブレインストーミングを実践する／文章全体の構成を意識して書く
[授業]
・「ブレインストーミングを実践する／文章全体の構成を意識して書く」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第5回】論点を整理する／パラグラフ・ライティングを実践する
[授業]
・「論点を整理する／パラグラフ・ライティングを実践する」を視聴する。ワークシートにメモを取る。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第6回】引用して出典を示す 1
[授業]
・「引用して出典を示す 1」を視聴する。ワークシートにメモを取る。授業で指定された参考文献を読む。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

【第7回】引用して出典を示す2
[授業]
・「引用して出典を示す 2」を視聴する。ワークシートにメモを取る。授業で指定された参考文献を読む。
・課題提出用紙をダウンロードする。授業動画の内容およびこれまで学んだ内容を踏まえて、課題文章を作成し期日までに提出する。
[事後学修]
・返却された文章に付けられたコメントを検討する。
・〈参考となる文章〉フォルダを確認し、他者の文章から学習する。

※動画は、学期末まで何度も見ることができます。
※担当指導員にMoodle上で質問をすることができます。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 『課題に応える 卒論に活かせる 大学生のためのレポートの書き方』(佐渡島紗織・坂本麻裕子・中島宏治・太田裕子、2022年、ナツメ社)
(どうしても購入しなければならないというものではないが、授業内容が本書に準拠しているので、手元に置くことをお勧めします。)

また、以下の教科書も参考になります。
『これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版』(佐渡島紗織・吉野亜矢子、2021年、ひつじ書房)
『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』(佐渡島紗織・オリベイラ,ディエゴ・嶋田大海・デルグレゴ,ニコラス編著、2020年、大修館書店)
『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド―大学生・大学院生のための自己点検法29』(佐渡島紗織・坂本麻裕子・大野真澄編著、2015年、大修館書店)
『レポート・論文をさらによくする「観点」ガイド―学習と授業作りに役立つ25の観点―』(佐渡島紗織・宇都伸之・中島宏治編著／後藤大輔・坂本麻裕子・嶋田大海・外村江里奈・千仙永・平松友紀・渡寛法著、2025年、大修館書店)

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 3 視聴をふまえた、第1回小テストの得点。

レポート: 97 視聴をふまえた、全7編の課題文章につけられた得点の合計。

備考・関連URL: ・01～04クラスのいずれも同内容の授業が開講されます。
・04クラス（冬クォーター）の開始日は11月21日（土）です。Waseda Moodle「学術的文章の作成」内に表示されるスケジュールを確認するようにしてください。
・この科目では、Microsoft Wordで課題文章を作成し、提出します。在学中は、大学が提供する Microsoft Word のソフトウェアを無償で利用できます。必要な人は、以下を確認してください。
Office365（アプリケーション）
https://support.waseda.jp/it/s/software/office365?language=ja

■オンデマンド授業 受講環境（以下のURLで確認してください）
https://support.waseda.jp/it/s/systemrequirements?language=ja
※特に「Waseda Moodle」「Contents Creation Studio（コンテンツ試聴）」「Wasedaメール」の項目を確認し、環境を整えてください。
※自宅のパソコンでオンデマンド授業が受講できない場合には、学内のパソコン教室で受講してください。

関連URL: https://www.waseda.jp/inst/aw/course

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000001|01|9S02000001[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	数学基礎プラスα（金利編） 01		
担 当 教 員	高木 悟@曽布川 拓也@佐藤 雄一郎@峰 正博@戸澗 勇一郎		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 金利でだまされないために

授業概要:

★ 本科目の01クラス（春クォーター設置）・02クラス（夏クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です。
1つしか履修できません。 04クラス（冬クォーター設置）はありません。

★ 本科目と英語科目「Introduction to University Mathematics (Calculating Interest) A」の両方を履修することはできません。

本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの1つで、Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である。

このα（金利編）では、高校数学の知識を前提とせずに授業を進めるので、数学が苦手であっても安心して学習できる。

銀行などにお金を預けるとき、また金融業者からお金を借りるときに、単利や複利などの基本的な金利計算を知らないことにより、じつは損をしていることもある。本科目では、金利計算のうち比較的考察しやすい「単利」と「複利」に焦点を絞り、その計算のしくみとそれに必要な数学の基礎を講義する。最終的に単利と複利の問題がたやすく解決できるような数学的能力の習得と、それらのしくみの理解を到達目標としている。また、論理的思考力についても、本科目を受講することにより自然と身に付けられるよう専用の教科書を用いて講義する。

いままで数学を避けてきた文系学生を主な対象とし、高校数学の知識を前提とせずに基礎からわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、LA (Learning Assistant) による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）やZoom会議室を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。

★ 本科目のビデオ講義担当： 高木悟教授

★ GEC数学ウェブサイト https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく、受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★「数学基礎プラス」シリーズ https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/
（数学基礎プラスシリーズのレベル（α・β・γ・δ）分け問題があります）

★ 科目登録3次登録者は、登録結果の発表前にWMにエクスターナルユーザとして登録され受講できるようになるので、登録されたら速やかに#1（第1回）と#2（第2回）を受講してください。すでに授業は始まっており、#1と#2の試験等の解答提出期限まであまり時間がありません。
3次登録する場合は、このことを了解の上で履修登録してください。

授業の到達目標: 数学の基礎知識（数列・指数・対数）、金利の基礎知識（金利用語・単利計算・複利計算）、論理的思考力が身に付く。

事前・事後学習の内容:
【初回授業前】 WM本科目内にある「ガイダンス資料」をよく読み、理解する。
【事前学習】 次回扱う単元について教科書等を読み、疑問点をまとめておく。
【事後学習】 授業で扱った定義・定理・例題を確認し、教科書の問題をもう一度解く。
毎回、合計で4時間程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

#1. 金利とは
金利とは、数と集合、指数、平方根、方程式（教科書 第1章）

＃2. 単利と等差数列
単利計算、数列、等差数列、単利と等差数列（教科書 第2章）
＃3. 複利と等比数列
複利計算、指数の整数への拡張、等比数列、複利と等比数列（教科書 第3章）
＃4. 満期前の元利合計
単利の場合、累乗根、指数の実数への拡張、1年複利の場合（教科書 第4章）
＃5. いろいろな複利
単利の場合、半年複利、いろいろな複利、条件を満たす年利は？（教科書 第5章）
＃6. 目標額到達はいつ？
毎回の元利合計から求める、対数、対数法則、対数を使って求める（教科書 第6章）
＃7. 総復習・最終試験
総復習、最終試験（教科書 第1章～第6章）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「金利の計算 ～解析学への入り口～」 高木悟・上江洲弘明著 共立出版 2022年
※冊子版と電子版があり、どちらを使用してもよい。なお、早大生協で冊子版と電子版の両方を同時に購入する場合は、セット割引料金が適用される（詳細は早大生協に確認のこと）。
※受講生が本書を購入することを前提にビデオ講義内で使用しているため、冊子版あるいは電子版を購入の上、受講のこと。
※各回のビデオ講義視聴後は、本書内の関連する問題を解いて理解を深めてほしい（本書内に問題の詳しい解答も掲載されている）。

参考文献: (1)「理工系のための基礎数学 [改訂増補版]」 高木悟・長谷川研二・熊ノ郷直人共著 培風館 2020年
(2)「経済系のための微分積分 [増補版]」 西原健二・瀧澤武信・玉置健一郎著 共立出版 2018年

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 ＃7（第7回）に実施する最終試験（40点満点）の得点を成績評価に用いる。

平常点評価: 60 ＃1（第1回）から＃6（第6回）まで毎回実施するドリル（各回6点満点）と小テスト（各回4点満点）の得点を成績評価に用いる。詳細は履修登録後にWM本科目内にある「ガイダンス資料」を確認すること。

備考・関連URL: 本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから＃1（第1回）が スタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する （日時はすべて日本標準時(JST)である）。
詳しい授業スケジュールについては、下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000001|02|9S02000001[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	数学基礎プラスα（金利編） 02		
担 当 教 員	高木 悟@曽布川 拓也@佐藤 雄一郎@峰 正博@戸澗 勇一郎		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： 金利でだまされないために

授業概要：

★ 本科目の01クラス（春クォーター設置）・02クラス（夏クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です。
1つしか履修できません。 04クラス（冬クォーター設置）はありません。

★ 本科目と英語科目「Introduction to University Mathematics (Calculating Interest) A」の両方を履修することはできません。

本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの1つで、Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である。

このα（金利編）では、高校数学の知識を前提とせずに授業を進めるので、数学が苦手であっても安心して学習できる。

銀行などにお金を預けるとき、また金融業者からお金を借りるときに、単利や複利などの基本的な金利計算を知らないことにより、じつは損をしていることもある。本科目では、金利計算のうち比較的考察しやすい「単利」と「複利」に焦点を絞り、その計算のしくみとそれに必要な数学の基礎を講義する。最終的に単利と複利の問題がたやすく解決できるような数学的能力の習得と、それらのしくみの理解を到達目標としている。また、論理的思考力についても、本科目を受講することにより自然と身に付けられるよう専用の教科書を用いて講義する。

いままで数学を避けてきた文系学生を主な対象とし、高校数学の知識を前提とせずに基礎からわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、LA（Learning Assistant）による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）やZoom会議室を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。

★ 本科目のビデオ講義担当： 高木悟教授

★ GEC数学ウェブサイト https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく、受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★「数学基礎プラス」シリーズ https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/
（数学基礎プラスシリーズのレベル（α・β・γ・δ）分け問題があります）

授業の到達目標： 数学の基礎知識（数列・指数・対数）、金利の基礎知識（金利用語・単利計算・複利計算）、論理的思考力が身に付く。

事前・事後学習の内容：
【初回授業前】 WM本科目内にある「ガイダンス資料」をよく読み、理解する。
【事前学習】 次回扱う単元について教科書等を読み、疑問点をまとめておく。
【事後学習】 授業で扱った定義・定理・例題を確認し、教科書の問題をもう一度解く。
毎回、合計で4時間程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

＃1. 金利とは
金利とは、数と集合、指数、平方根、方程式（教科書 第1章）

＃2. 単利と等差数列
単利計算、数列、等差数列、単利と等差数列（教科書 第2章）

＃3. 複利と等比数列
複利計算、指数の整数への拡張、等比数列、複利と等比数列（教科書 第3章）

＃4. 満期前の元利合計
単利の場合、累乗根、指数の実数への拡張、1年複利の場合（教科書 第4章）
＃5. いろいろな複利
単利の場合、半年複利、いろいろな複利、条件を満たす年利は？（教科書 第5章）
＃6. 目標額到達はいつ？
毎回の元利合計から求める、対数、対数法則、対数を使って求める（教科書 第6章）
＃7. 総復習・最終試験
総復習、最終試験（教科書 第1章～第6章）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「金利の計算 ～解析学への入り口～」 高木悟・上江洲弘明著 共立出版 2022年
※冊子版と電子版があり、どちらを使用してもよい。なお、早大生協で冊子版と電子版の両方を同時に購入する場合は、セット割引料金が適用される（詳細は早大生協に確認のこと）。
※受講生が本書を購入することを前提にビデオ講義内で使用しているため、冊子版あるいは電子版を購入の上、受講のこと。
※各回のビデオ講義視聴後は、本書内の関連する問題を解いて理解を深めてほしい（本書内に問題の詳しい解答も掲載されている）。

参考文献: (1)「理工系のための基礎数学 [改訂増補版]」 高木悟・長谷川研二・熊ノ郷直人共著 培風館 2020年
(2)「経済系のための微分積分 [増補版]」 西原健二・瀧澤武信・玉置健一郎著 共立出版 2018年

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 ＃7（第7回）に実施する最終試験（40点満点）の得点を成績評価に用いる。

平常点評価: 60 ＃1（第1回）から＃6（第6回）まで毎回実施するドリル（各回6点満点）と小テスト（各回4点満点）の得点を成績評価に用いる。詳細は履修登録後にWM本科目内にある「ガイダンス資料」を確認すること。

備考・関連URL: 本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから＃1（第1回）が スタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する （日時はすべて日本標準時(JST)である）。
詳しい授業スケジュールについては、下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000001|03|9S02000001[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	数学基礎プラスα（金利編） 03		
担 当 教 員	高木 悟@曽布川 拓也@佐藤 雄一郎@峰 正博@戸澗 勇一郎		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 金利でだまされないために

授業概要:

★ 本科目の01クラス（春クォーター設置）・02クラス（夏クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です。
1つしか履修できません。 04クラス（冬クォーター設置）はありません。

★ 本科目と英語科目「Introduction to University Mathematics (Calculating Interest) A」の両方を履修することはできません。

本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの1つで、Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である。

このα（金利編）では、高校数学の知識を前提とせずに授業を進めるので、数学が苦手であっても安心して学習できる。

銀行などにお金を預けるとき、また金融業者からお金を借りるときに、単利や複利などの基本的な金利計算を知らないことにより、じつは損をしていることもある。本科目では、金利計算のうち比較的考察しやすい「単利」と「複利」に焦点を絞り、その計算のしくみとそれに必要な数学の基礎を講義する。最終的に単利と複利の問題がたやすく解決できるような数学的能力の習得と、それらのしくみの理解を到達目標としている。また、論理的思考力についても、本科目を受講することにより自然と身に付けられるよう専用の教科書を用いて講義する。

いままで数学を避けてきた文系学生を主な対象とし、高校数学の知識を前提とせずに基礎からわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、LA（Learning Assistant）による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）やZoom会議室を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。

★ 本科目のビデオ講義担当： 高木悟教授

★ GEC数学ウェブサイト https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく、受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★「数学基礎プラス」シリーズ https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/
（数学基礎プラスシリーズのレベル（α・β・γ・δ）分け問題があります）

★ 科目登録3次登録者は、登録結果の発表前にWMにエクスターナルユーザとして登録され受講できるようになるので、登録されたら速やかに＃1（第1回）と＃2（第2回）を受講してください。すでに授業は始まっており、＃1と＃2の試験等の解答提出期限まであまり時間がありません。
3次登録する場合は、このことを了解の上で履修登録してください。

授業の到達目標: 数学の基礎知識（数列・指数・対数）、金利の基礎知識（金利用語・単利計算・複利計算）、論理的思考力が身に付く。

事前・事後学習の内容:
【初回授業前】 WM本科目内にある「ガイダンス資料」をよく読み、理解する。
【事前学習】 次回扱う単元について教科書等を読み、疑問点をまとめておく。
【事後学習】 授業で扱った定義・定理・例題を確認し、教科書の問題をもう一度解く。
毎回、合計で4時間程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

＃1．金利とは
金利とは、数と集合、指数、平方根、方程式（教科書 第1章）

＃2. 単利と等差数列
単利計算、数列、等差数列、単利と等差数列（教科書 第2章）
＃3. 複利と等比数列
複利計算、指数の整数への拡張、等比数列、複利と等比数列（教科書 第3章）
＃4. 満期前の元利合計
単利の場合、累乗根、指数の実数への拡張、1年複利の場合（教科書 第4章）
＃5. いろいろな複利
単利の場合、半年複利、いろいろな複利、条件を満たす年利は？（教科書 第5章）
＃6. 目標額到達はいつ？
毎回の元利合計から求める、対数、対数法則、対数を使って求める（教科書 第6章）
＃7. 総復習・最終試験
総復習、最終試験（教科書 第1章～第6章）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「金利の計算 ～解析学への入り口～」 高木悟・上江洲弘明著 共立出版 2022年
※冊子版と電子版があり、どちらを使用してもよい。なお、早大生協で冊子版と電子版の両方を同時に購入する場合は、セット割引料金が適用される（詳細は早大生協に確認のこと）。
※受講生が本書を購入することを前提にビデオ講義内で使用しているため、冊子版あるいは電子版を購入の上、受講のこと。
※各回のビデオ講義視聴後は、本書内の関連する問題を解いて理解を深めてほしい（本書内に問題の詳しい解答も掲載されている）。

参考文献: (1)「理工系のための基礎数学 [改訂増補版]」 高木悟・長谷川研二・熊ノ郷直人共著 培風館 2020年
(2)「経済系のための微分積分 [増補版]」 西原健二・瀧澤武信・玉置健一郎著 共立出版 2018年

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 ＃7（第7回）に実施する最終試験（40点満点）の得点を成績評価に用いる。

平常点評価: 60 ＃1（第1回）から＃6（第6回）まで毎回実施するドリル（各回6点満点）と小テスト（各回4点満点）の得点を成績評価に用いる。詳細は履修登録後にWM本科目内にある「ガイダンス資料」を確認すること。

備考・関連URL: 本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから＃1（第1回）が スタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する （日時はすべて日本標準時(JST)である）。
詳しい授業スケジュールについては、下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）。

数学基礎プラスシリーズの2026年度・秋クォーターについては、授業終了日を（大学の定める授業終了日より1日延長して）2026年11月22日（日）とする。
従って、最終試験の解答提出期限は 2026年11月22日（日） 23:55 である。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000002|01|9S02000002[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	数学基礎プラスα（最適化編） 01		
担 当 教 員	高木 悟@曽布川 拓也@佐藤 雄一郎@峰 正博@戸澗 勇一郎		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: いかに利益を最大にするか？

授業概要:

★ 本科目の01クラス（春クォーター設置）・02クラス（夏クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です。
1つしか履修できません。 04クラス（冬クォーター設置）はありません。

★ 本科目と英語科目「Introduction to University Mathematics (Optimization Problem) A」の両方を履修することはできません。

本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの1つで、Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である。

このα（最適化編）では、高校数学の知識を前提とせずに授業を進めるので、数学が苦手であっても安心して学習できる。

「限られた資源の中でいかに利益を最大にするか？」あるいは「どうしても発生する損失をいかに最小にするか？」といった問題は最適化問題といわれ、実社会でもよく現れる。本科目では、最適化問題のうち比較的考察しやすい「線形計画問題」の「最大問題」に焦点を絞り、その解決法（線形計画法という）とそれに必要な数学の基礎を講義する。最終的に線形計画問題の最大問題がたやすく解決できるような数学的能力の習得と、そのしくみの理解を到達目標としている。また、論理的思考力についても、本科目を受講することにより自然と身に付けられるよう専用の教科書を用いて講義する。

いままで数学を避けてきた文系学生を主な対象とし、高校数学の知識を前提とせずに基礎からわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、LA (Learning Assistant) による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）やZoom会議室を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。

★ 本科目のビデオ講義担当： 曽布川拓也教授

★ GEC数学ウェブサイト https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく、受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★「数学基礎プラス」シリーズ https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/
（数学基礎プラスシリーズのレベル（α・β・γ・δ）分け問題があります）

★ 科目登録3次登録者は、登録結果の発表前にWMにエクスターナルユーザとして登録され受講できるようになるので、登録されたら速やかに#1（第1回）と#2（第2回）を受講してください。すでに授業は始まっており、#1と#2の試験等の解答提出期限まであまり時間がありません。
3次登録する場合は、このことを了解の上で履修登録してください。

授業の到達目標: 数学の基礎知識（行列の演算・連立1次方程式の行列による解法）、最適化の基礎知識（線形計画法・最大問題・シンプレックス法）、論理的思考力が身に付く。

事前・事後学習の内容:
【初回授業前】 WM本科目内にある「ガイダンス資料」をよく読み、理解する。
【事前学習】 次回扱う単元について教科書等を読み、疑問点をまとめておく。
【事後学習】 授業で扱った定義・定理・例題を確認し、教科書の問題をもう一度解く。
毎回、合計で4時間程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

#1. 線形計画問題とは
線形計画問題とは（教科書 第0章）

＃2. 行列の定義
行列の定義、行列の和・実数倍（教科書 第1章）
＃3. 行列の積
行列の積、積の性質（教科書 第2章）
＃4. 連立1次方程式と行列
連立1次方程式と行列（教科書 第3章）
＃5. 基本変形
行列の基本変形、簡約化、階数（教科書 第4章）
＃6. シンプレックス法と最大問題
シンプレックス法と最大問題（教科書 第8章）
＃7. 総復習・最終試験
総復習、最終試験（教科書 第0章～第4章, 第8章）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: (1)「線形の世界 ～線形代数学への入り口～」 高木悟・曽布川拓也著 共立出版 2023年
※冊子版と電子版があり、どちらを使用してもよい。なお、早大生協で冊子版と電子版の両方を同時に購入する場合は、セット割引料金が適用される（詳細は早大生協に確認のこと）。
※受講生が本書を購入することを前提にビデオ講義内で使用しているため、冊子版あるいは電子版を購入の上、受講のこと。
※各回のビデオ講義視聴後は、本書内の関連する問題を解いて理解を深めてほしい（問題の詳しい解答は下記(2)に掲載されている）。
(2)「演習編 線形の世界 ～線形代数学への入り口～」 高木悟・曽布川拓也著 共立出版 2023年 （電子版のみ）

参考文献: (1)「理工系のための線形代数 [改訂版]」 高木悟・長谷川研二・熊ノ郷直人・菊田伸・森澤貴之共著 培風館 2018年
(2)「基本 線形代数」 坂田泄・曽布川拓也共著 サイエンス社 2005年
(3)「例題で学ぶ入門・経済数学（上）（下）」 E.ドウリング著 シーエーピー出版 1995年

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 ＃7（第7回）に実施する最終試験（40点満点）の得点を成績評価に用いる。

平常点評価: 60 ＃1（第1回）から＃6（第6回）まで毎回実施するドリル（各回6点満点）と小テスト（各回4点満点）の得点を成績評価に用いる。詳細は履修登録後にWM本科目内にある「ガイダンス資料」を確認すること。

備考・関連URL: 本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから＃1（第1回）が スタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する （日時はすべて日本標準時(JST)である）。
詳しい授業スケジュールについては、下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000002|02|9S02000002[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	数学基礎プラスα（最適化編） 02		
担 当 教 員	高木 悟@曽布川 拓也@佐藤 雄一郎@峰 正博@戸澗 勇一郎		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： いかに利益を最大にするか？

授業概要：

★ 本科目の01クラス（春クォーター設置）・02クラス（夏クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です。
1つしか履修できません。 04クラス（冬クォーター設置）はありません。

★ 本科目と英語科目「Introduction to University Mathematics (Optimization Problem) A」の両方を履修することはできません。

本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの1つで、Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である。

このα（最適化編）では、高校数学の知識を前提とせずに授業を進めるので、数学が苦手であっても安心して学習できる。

「限られた資源の中でいかに利益を最大にするか？」あるいは「どうしても発生する損失をいかに最小にするか？」といった問題は最適化問題といわれ、実社会でもよく現れる。本科目では、最適化問題のうち比較的考察しやすい「線形計画問題」の「最大問題」に焦点を絞り、その解決法（線形計画法という）とそれに必要な数学の基礎を講義する。最終的に線形計画問題の最大問題がたやすく解決できるような数学的能力の習得と、そのしくみの理解を到達目標としている。また、論理的思考力についても、本科目を受講することにより自然と身に付けられるよう専用の教科書を用いて講義する。

いままで数学を避けてきた文系学生を主な対象とし、高校数学の知識を前提とせずに基礎からわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、LA (Learning Assistant) による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）やZoom会議室を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。

★ 本科目のビデオ講義担当： 曽布川拓也教授

★ GEC数学ウェブサイト https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく、受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★「数学基礎プラス」シリーズ https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/
（数学基礎プラスシリーズのレベル（α・β・γ・δ）分け問題があります）

授業の到達目標： 数学の基礎知識（行列の演算・連立1次方程式の行列による解法）、最適化の基礎知識（線形計画法・最大問題・シンプレックス法）、論理的思考力が身に付く。

事前・事後学習の内容：
【初回授業前】 WM本科目内にある「ガイダンス資料」をよく読み、理解する。
【事前学習】 次回扱う単元について教科書等を読み、疑問点をまとめておく。
【事後学習】 授業で扱った定義・定理・例題を確認し、教科書の問題をもう一度解く。
毎回、合計で4時間程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

＃1. 線形計画問題とは
線形計画問題とは（教科書 第0章）
＃2. 行列の定義
行列の定義、行列の和・実数倍（教科書 第1章）
＃3. 行列の積
行列の積、積の性質（教科書 第2章）

＃4. 連立1次方程式と行列
連立１次方程式と行列（教科書 第3章）
＃5. 基本変形
行列の基本変形、簡約化、階数（教科書 第4章）
＃6. シンプレックス法と最大問題
シンプレックス法と最大問題（教科書 第8章）
＃7. 総復習・最終試験
総復習、最終試験（教科書 第0章～第4章, 第8章）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: (1)「線形の世界 ～線形代数学への入り口～」 高木悟・曽布川拓也著 共立出版 2023年
※冊子版と電子版があり、どちらを使用してもよい。なお、早大生協で冊子版と電子版の両方を同時に購入する場合は、セット割引料金が適用される（詳細は早大生協に確認のこと）。
※受講生が本書を購入することを前提にビデオ講義内で使用しているため、冊子版あるいは電子版を購入の上、受講のこと。
※各回のビデオ講義視聴後は、本書内の関連する問題を解いて理解を深めてほしい（問題の詳しい解答は下記(2)に掲載されている）。
(2)「演習編 線形の世界 ～線形代数学への入り口～」 高木悟・曽布川拓也著 共立出版 2023年 （電子版のみ）

参考文献: (1)「理工系のための線形代数 [改訂版]」 高木悟・長谷川研二・熊ノ郷直人・菊田伸・森澤貴之共著 培風館 2018年
(2)「基本 線形代数」 坂田泩・曽布川拓也共著 サイエンス社 2005年
(3)「例題で学ぶ入門・経済数学（上）（下）」 E.ドウリング著 シーエーピー出版 1995年

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 ＃7（第7回）に実施する最終試験（40点満点）の得点を成績評価に用いる。

平常点評価: 60 ＃1（第1回）から＃6（第6回）まで毎回実施するドリル（各回6点満点）と小テスト（各回4点満点）の得点を成績評価に用いる。詳細は履修登録後にWM本科目内にある「ガイダンス資料」を確認すること。

備考・関連URL: 本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから＃1（第1回）が スタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する （日時はすべて日本標準時(JST)である）。
詳しい授業スケジュールについては、下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000002|03|9S02000002[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	数学基礎プラスα（最適化編） 03		
担 当 教 員	高木 悟@曽布川 拓也@佐藤 雄一郎@峰 正博@戸澗 勇一郎		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: いかに利益を最大にするか？

授業概要:

★ 本科目の01クラス（春クォーター設置）・02クラス（夏クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です。
1つしか履修できません。 04クラス（冬クォーター設置）はありません。

★ 本科目と英語科目「Introduction to University Mathematics (Optimization Problem) A」の両方を履修することはできません。

本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの1つで、Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である。

このα（最適化編）では、高校数学の知識を前提とせずに授業を進めるので、数学が苦手であっても安心して学習できる。

「限られた資源の中でいかに利益を最大にするか？」あるいは「どうしても発生する損失をいかに最小にするか？」といった問題は最適化問題といわれ、実社会でもよく現れる。本科目では、最適化問題のうち比較的考察しやすい「線形計画問題」の「最大問題」に焦点を絞り、その解決法（線形計画法という）とそれに必要な数学の基礎を講義する。最終的に線形計画問題の最大問題がたやすく解決できるような数学的能力の習得と、そのしくみの理解を到達目標としている。また、論理的思考力についても、本科目を受講することにより自然と身に付けられるよう専用の教科書を用いて講義する。

いままで数学を避けてきた文系学生を主な対象とし、高校数学の知識を前提とせずに基礎からわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、LA (Learning Assistant) による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）やZoom会議室を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。

★ 本科目のビデオ講義担当： 曽布川拓也教授

★ GEC数学ウェブサイト https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく、受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★ 「数学基礎プラス」シリーズ https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/
（数学基礎プラスシリーズのレベル（α・β・γ・δ）分け問題があります）

★ 科目登録3次登録者は、登録結果の発表前にWMにエクスターナルユーザとして登録され受講できるようになるので、登録されたら速やかに#1（第1回）と#2（第2回）を受講してください。すでに授業は始まっており、#1と#2の試験等の解答提出期限まであまり時間がありません。
3次登録する場合は、このことを了解の上で履修登録してください。

授業の到達目標: 数学の基礎知識（行列の演算・連立1次方程式の行列による解法）、最適化の基礎知識（線形計画法・最大問題・シンプレックス法）、論理的思考力が身に付く。

事前・事後学習の内容:
【初回授業前】 WM本科目内にある「ガイダンス資料」をよく読み、理解する。
【事前学習】 次回扱う単元について教科書等を読み、疑問点をまとめておく。
【事後学習】 授業で扱った定義・定理・例題を確認し、教科書の問題をもう一度解く。
毎回、合計で4時間程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

#1. 線形計画問題とは
線形計画問題とは（教科書 第0章）

＃2. 行列の定義
行列の定義、行列の和・実数倍（教科書 第1章）
＃3. 行列の積
行列の積、積の性質（教科書 第2章）
＃4. 連立1次方程式と行列
連立1次方程式と行列（教科書 第3章）
＃5. 基本変形
行列の基本変形、簡約化、階数（教科書 第4章）
＃6. シンプレックス法と最大問題
シンプレックス法と最大問題（教科書 第8章）
＃7. 総復習・最終試験
総復習、最終試験（教科書 第0章～第4章, 第8章）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: (1)「線形の世界 ～線形代数学への入り口～」 高木悟・曽布川拓也著 共立出版 2023年
※冊子版と電子版があり、どちらを使用してもよい。なお、早大生協で冊子版と電子版の両方を同時に購入する場合は、セット割引料金が適用される（詳細は早大生協に確認のこと）。
※受講生が本書を購入することを前提にビデオ講義内で使用しているため、冊子版あるいは電子版を購入の上、受講のこと。
※各回のビデオ講義視聴後は、本書内の関連する問題を解いて理解を深めてほしい（問題の詳しい解答は下記(2)に掲載されている）。
(2)「演習編 線形の世界 ～線形代数学への入り口～」 高木悟・曽布川拓也著 共立出版 2023年 （電子版のみ）

参考文献: (1)「理工系のための線形代数 [改訂版]」 高木悟・長谷川研二・熊ノ郷直人・菊田伸・森澤貴之共著 培風館 2018年
(2)「基本 線形代数」 坂田洼・曽布川拓也共著 サイエンス社 2005年
(3)「例題で学ぶ入門・経済数学（上）（下）」 E.ドウリング著 シーエーピー出版 1995年

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 ＃7（第7回）に実施する最終試験（40点満点）の得点を成績評価に用いる。

平常点評価: 60 ＃1（第1回）から＃6（第6回）まで毎回実施するドリル（各回6点満点）と小テスト（各回4点満点）の得点を成績評価に用いる。詳細は履修登録後にWM本科目内にある「ガイダンス資料」を確認すること。

備考・関連URL: 本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから＃1（第1回）が スタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する （日時はすべて日本標準時(JST)である）。
詳しい授業スケジュールについては、下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）。

数学基礎プラスシリーズの2026年度・秋クォーターについては、授業終了日を（大学の定める授業終了日より1日延長して）2026年11月22日（日）とする。
従って、最終試験の解答提出期限は 2026年11月22日（日） 23:55 である。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000003|02|9S02000003[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	数学基礎プラスβ（金利編）　02		
担 当 教 員	高木　悟@曽布川　拓也@佐藤　雄一郎@峰　正博		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　賢くローンを組もう

授業概要：

★ 本科目の02クラス（夏クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です。
1つしか履修できません。 01クラス（春クォーター設置）・04クラス（冬クォーター設置）はありません。

★ 本科目と英語科目「Introduction to University Mathematics (Calculating Interest) B」の両方を履修することはできません。

本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの１つで、Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である。

このβ（金利編）は、α（金利編）の上位レベルのため、以下のうち少なくとも1つの条件を満たす学生のみ履修すること（文系学生で自信がなければα（金利編）を履修すること）。

（1）「数学基礎プラスα（金利編）」の単位を修得している

（2）下記ウェブサイトにある「レベル分け問題（金利・解析学系統）」を解き、β（金利編）の受講要件を満たしている
https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/

なお、α（金利編）で扱う金利の用語や基本的な計算は理解している前提で授業を進めるので、α（金利編）を受講していない場合は、指定教科書の第１章～第６章を初回授業前までに読んでおくこと。

家や車など高額な商品を購入したり、起業したりする際にローンを組むことがある。本科目では、金利の基礎知識や指数、対数などの数学知識を身に付けている学生を対象に、ローン計算のしくみについて講義する。さらに、金融工学などのより専門的な科目を学習するときのために、数列の極限や連続複利についても学習する。最終的にローンや連続複利の問題がたやすく解決できるような数学的能力の習得と、それらのしくみの理解を到達目標としている。また、論理的思考力についても、本科目を受講することにより自然と身に付けられるよう専用の教科書を用いて講義する。

上述のとおり、「数学基礎プラスα（金利編）」の単位を修得した、あるいは数学の基礎知識をもつ学生を主な対象としているが、文系学生でも理解できるようわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、LA (Learning Assistant) による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）やZoom会議室を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。

★ 本科目のビデオ講義担当：　高木悟教授

★ GEC数学ウェブサイト　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく、受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★「数学基礎プラス」シリーズ　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/
（数学基礎プラスシリーズのレベル（α・β・γ・δ）分け問題があります）

授業の到達目標：　数学の基礎知識（数列の和・数列の極限・極限の性質・ネイピア数）、ローン計算の知識（元金均等返済・元利均等返済・借入限度額・連続複利）、論理的思考力が身に付く。

事前・事後学習の内容：　【初回授業前】 WM本科目内にある「ガイダンス資料」をよく読み、理解する。指定教科書の第１章～第６章を読む。
【事前学習】 次回扱う単元について教科書等を読み、疑問点をまとめておく。
【事後学習】 授業で扱った定義・定理・例題を確認し、教科書の問題をもう一度解く。
毎回、合計で4時間程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

＃1. 貯金総額

貯金を運用、和の記号、等差数列の和と単利運用の貯金総額、等比数列の和と複利運用の貯金総額(教科書 第7章)

＃2. ローンの種類

元金均等返済、元利均等返済、アドオン返済(教科書 第8章)

＃3. ローンと漸化式

漸化式の解法、漸化式を用いたローン計算、実質年率と月利(教科書 第9章)

＃4. ローン返済公式

月々返済の毎回の返済額、ローンの返済公式(教科書 第10章)

＃5. 借入限度額

数列の極限、極限の性質、借入可能な上限金額(教科書 第11章)

＃6. 連続複利

ネイピア数、連続複利(教科書 第12章)

＃7. 総復習・最終試験

総復習、最終試験(教科書 第7章～第12章)

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「金利の計算 ～解析学への入り口～」 高木悟・上江洲弘明著 共立出版 2022年
※α(金利編)と同じ教科書なので、すでに所有している場合は改めて購入する必要はない。
※冊子版と電子版があり、どちらを使用してもよい。なお、早大生協で冊子版と電子版の両方を同時に購入する場合は、セット割引料金が適用される(詳細は早大生協に確認のこと)。
※受講生が本書を購入することを前提にビデオ講義内で使用しているため、冊子版あるいは電子版を購入の上、受講のこと。
※各回のビデオ講義視聴後は、本書内の関連する問題を解いて理解を深めてほしい(本書内に問題の詳しい解答も掲載されている)。

参考文献: (1)「理工系のための基礎数学 [改訂増補版]」 高木悟・長谷川研二・熊ノ郷直人共著 培風館 2020年
(2)「経済系のための微分積分 [増補版]」 西原健二・瀧澤武信・玉置健一郎著 共立出版 2018年

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 40 ＃7(第7回)に実施する最終試験(40点満点)の得点を成績評価に用いる。

平常点評価: 60 ＃1(第1回)から＃6(第6回)まで毎回実施するドリル(各回6点満点)と小テスト(各回4点満点)の得点を成績評価に用いる。詳細は履修登録後にWM本科目内にある「ガイダンス資料」を確認すること。

備考・関連URL: 本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから＃1(第1回)が スタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する (日時はすべて日本標準時(JST)である)。
詳しい授業スケジュールについては、下記関連資料(授業カレンダー)を参照のこと(MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない)。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000003|03|9S02000003[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	数学基礎プラスβ（金利編）　03		
担 当 教 員	高木　悟@曽布川　拓也@佐藤　雄一郎@峰　正博@戸澗　勇一郎		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　賢くローンを組もう

授業概要：

★ 本科目の02クラス（夏クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です。
1つしか履修できません。 01クラス（春クォーター設置）・04クラス（冬クォーター設置）はありません。

★ 本科目と英語科目「Introduction to University Mathematics (Calculating Interest) B」の両方を履修することはできません。

本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの1つで、Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である。

このβ（金利編）は、α（金利編）の上位レベルのため、以下のうち少なくとも1つの条件を満たす学生のみ履修すること（文系学生で自信がなければα（金利編）を履修すること）。

（1）「数学基礎プラスα（金利編）」の単位を修得している

（2）下記ウェブサイトにある「レベル分け問題（金利・解析学系統）」を解き、β（金利編）の受講要件を満たしている
https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/

なお、α（金利編）で扱う金利の用語や基本的な計算は理解している前提で授業を進めるので、α（金利編）を受講していない場合は、指定教科書の第1章～第6章を初回授業前までに読んでおくこと。

家や車など高額な商品を購入したり、起業したりする際にローンを組むことがある。本科目では、金利の基礎知識や指数、対数などの数学知識を身に付けている学生を対象に、ローン計算のしくみについて講義する。さらに、金融工学などのより専門的な科目を学習するときのために、数列の極限や連続複利についても学習する。最終的にローンや連続複利の問題がたやすく解決できるような数学的能力の習得と、それらのしくみの理解を到達目標としている。また、論理的思考力についても、本科目を受講することにより自然と身に付けられるよう専用の教科書を用いて講義する。

上述のとおり、「数学基礎プラスα（金利編）」の単位を修得した、あるいは数学の基礎知識をもつ学生を主な対象としているが、文系学生でも理解できるようわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、LA (Learning Assistant) による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）やZoom会議室を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。

★ 本科目のビデオ講義担当：　高木悟教授

★ GEC数学ウェブサイト　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく、受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★「数学基礎プラス」シリーズ　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/
（数学基礎プラスシリーズのレベル（α・β・γ・δ）分け問題があります）

★ 科目登録3次登録者は、登録結果の発表前にWMにエクスターナルユーザとして登録され受講できるようになるので、登録されたら速やかに＃1（第1回）と＃2（第2回）を受講してください。すでに授業は始まっており、＃1と＃2の試験等の解答提出期限まであまり時間がありません。
3次登録する場合は、このことを了解の上で履修登録してください。

授業の到達目標：　数学の基礎知識（数列の和・数列の極限・極限の性質・ネイピア数）、ローン計算の知識（元金均等返済・元利均等返済・借入限度額・連続複利）、論理的思考力が身に付く。

事前・事後学習の内容：

【初回授業前】 WM本科目内にある「ガイダンス資料」をよく読み、理解する。指定教科書の第1章～第6章を読む。
【事前学習】 次回扱う単元について教科書等を読み、疑問点をまとめておく。
【事後学習】 授業で扱った定義・定理・例題を確認し、教科書の問題をもう一度解く。
毎回、合計で4時間程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

＃1. 貯金総額
貯金を運用、和の記号、等差数列の和と単利運用の貯金総額、等比数列の和と複利運用の貯金総額（教科書 第7章）

＃2. ローンの種類
元金均等返済、元利均等返済、アドオン返済（教科書 第8章）

＃3. ローンと漸化式
漸化式の解法、漸化式を用いたローン計算、実質年率と月利（教科書 第9章）

＃4. ローン返済公式
月々返済の毎回の返済額、ローンの返済公式（教科書 第10章）

＃5. 借入限度額
数列の極限、極限の性質、借入可能な上限金額（教科書 第11章）

＃6. 連続複利
ネイピア数、連続複利（教科書 第12章）

＃7. 総復習・最終試験
総復習、最終試験（教科書 第7章～第12章）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「金利の計算 ～解析学への入り口～」 高木悟・上江洲弘明著 共立出版 2022年
※α（金利編）と同じ教科書なので、すでに所有している場合は改めて購入する必要はない。
※冊子版と電子版があり、どちらを使用してもよい。なお、早大生協で冊子版と電子版の両方を同時に購入する場合は、セット割引料金が適用される（詳細は早大生協に確認のこと）。
※受講生が本書を購入することを前提にビデオ講義内で使用しているため、冊子版あるいは電子版を購入の上、受講のこと。
※各回のビデオ講義視聴後は、本書内の関連する問題を解いて理解を深めてほしい（本書内に問題の詳しい解答も掲載されている）。

参考文献: (1)「理工系のための基礎数学 [改訂増補版]」 高木悟・長谷川研二・熊ノ郷直人共著 培風館 2020年
(2)「経済系のための微分積分 [増補版]」 西原健二・瀧澤武信・玉置健一郎著 共立出版 2018年

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 ＃7（第7回）に実施する最終試験（40点満点）の得点を成績評価に用いる。

平常点評価: 60 ＃1（第1回）から＃6（第6回）まで毎回実施するドリル（各回6点満点）と小テスト（各回4点満点）の得点を成績評価に用いる。詳細は履修登録後にWM本科目内にある「ガイダンス資料」を確認すること。

備考・関連URL: 本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから＃1（第1回）が スタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する （日時はすべて日本標準時(JST)である）。
詳しい授業スケジュールについては、下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）。

数学基礎プラスシリーズの2026年度・秋クォーターについては、授業終了日を（大学の定める授業終了日より1日延長して）2026年11月22日（日）とする。
従って、最終試験の解答提出期限は 2026年11月22日（日） 23:55 である。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000004|02|9S02000004[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	数学基礎プラスβ（最適化編）　02		
担 当 教 員	高木　悟@曽布川　拓也@佐藤　雄一郎@峰　正博		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　利益の最大化は損失を最小にするか？

授業概要：

★ 本科目の02クラス（夏クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です。
1つしか履修できません。 01クラス（春クォーター設置）・04クラス（冬クォーター設置）はありません。

★ 本科目と英語科目「Introduction to University Mathematics (Optimization Problem) B」の両方を履修することはできません。

本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの１つで、Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である。

このβ（最適化編）は、α（最適化編）の上位レベルのため、以下のうち少なくとも1つの条件を満たす学生のみ履修すること（文系学生で自信がなければα（最適化編）を履修すること）。

（1）「数学基礎プラスα（最適化編）」の単位を修得している

（2）下記ウェブサイトにある「レベル分け問題（最適化・線形代数学系統）」の中の最適化編に関する問題を解き、β（最適化編）の受講要件を満たしている
https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/

なお、最適化の用語や計算については、β（最適化編）授業内でも一から説明する。α（最適化編）で扱う行列に関する知識は理解している前提で授業を進めるので、α（最適化編）を受講していない場合は、指定教科書の第１章から第3章を初回授業前までに読んでおくこと。

「限られた資源の中でいかに利益を最大にするか？」あるいは「どうしても発生する損失をいかに最小にするか？」といった問題は最適化問題といわれ、実社会でもよく現れる。本科目では、行列や連立１次方程式の数学知識を身に付けている学生を対象に最適化問題、特に線形計画問題の双対定理と最小問題の解決法（線形計画法という）を講義する。さらに、線形計画法をより深く理解するために、連立１次方程式の解のしくみについても学習する。最終的に最適化問題がたやすく解決できるような数学的能力の習得と、そのしくみの理解を到達目標としている。また、論理的思考力についても、本科目を受講することにより自然と身に付けられるよう専用の教科書を用いて講義する。

上述のとおり、「数学基礎プラスα（最適化編）」の単位を修得した、あるいは行列の基礎知識をもつ学生を主な対象としているが、文系学生でも理解できるようわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、LA（Learning Assistant）による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）やZoom会議室を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。

★ 本科目のビデオ講義担当：　曽布川拓也教授

★ GEC数学ウェブサイト　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく、受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★「数学基礎プラス」シリーズ　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/
（数学基礎プラスシリーズのレベル（α・β・γ・δ）分け問題があります）

授業の到達目標：　数学の基礎知識（連立１次方程式の解の分類・逆行列）、最適化の基礎知識（双対定理・最小問題）、論理的思考力が身に付く。

事前・事後学習の内容：

【初回授業前】 WM本科目内にある「ガイダンス資料」をよく読み、理解する。指定教科書の第１章～第3章を読む。
【事前学習】 次回扱う単元について教科書等を読み、疑問点をまとめておく。
【事後学習】 授業で扱った定義・定理・例題を確認し、教科書の問題をもう一度解く。
毎回、合計で4時間程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

＃1. 基本変形
基本変形（教科書 第4章）
＃2. 連立1次方程式の解の分類
解が存在しない場合、不定解（教科書 第5章, 第6章）
＃3. 逆行列
逆行列（教科書 第7章）
＃4. 複雑な最大問題
複雑な最大問題（教科書 第8章）
＃5. 最小問題
最小問題（教科書 第9章）
＃6. 双対問題
双対問題（教科書 第9章）
＃7. 総復習・最終試験
総復習、最終試験（教科書 第4章～第9章）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: (1)「線形の世界 ～線形代数学への入り口～」 高木悟・曽布川拓也著 共立出版 2023年
※冊子版と電子版があり、どちらを使用してもよい。なお、早大生協で冊子版と電子版の両方を同時に購入する場合は、セット割引料金が適用される（詳細は早大生協に確認のこと）。
※受講生が本書を購入することを前提にビデオ講義内で使用しているため、冊子版あるいは電子版を購入の上、受講のこと。
※各回のビデオ講義視聴後は、本書内の関連する問題を解いて理解を深めてほしい（問題の詳しい解答は下記(2)に掲載されている）。
(2)「演習編 線形の世界 ～線形代数学への入り口～」 高木悟・曽布川拓也著 共立出版 2023年 （電子版のみ）

※上記(1)(2)ともに α（最適化編）と同じ教科書なので、すでに所有している場合は改めて購入する必要はない。

参考文献: (1)「理工系のための線形代数 [改訂版]」 高木悟・長谷川研二・熊ノ郷直人・菊田伸・森澤貴之共著 培風館 2018年
(2)「基本 線形代数」 坂田泟・曽布川拓也共著 サイエンス社 2005年
(3)「例題で学ぶ入門・経済数学（上）（下）」 E.ドウリング著 シーエーピー出版 1995年

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 ＃7（第7回）に実施する最終試験（40点満点）の得点を成績評価に用いる。

平常点評価: 60 ＃1（第1回）から＃6（第6回）まで毎回実施するドリル（各回6点満点）と小テスト（各回4点満点）の得点を成績評価に用いる。詳細は履修登録後にWM本科目内にある「ガイダンス資料」を確認すること。

備考・関連URL: 本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから＃1（第1回）が スタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する （日時はすべて日本標準時(JST)である）。
詳しい授業スケジュールについては、下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000004|03|9S02000004[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	数学基礎プラスβ（最適化編）　03		
担 当 教 員	高木　悟@曽布川　拓也@佐藤　雄一郎@峰　正博@戸澗　勇一郎		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　利益の最大化は損失を最小にするか？

授業概要:

★ 本科目の02クラス（夏クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です。
　1つしか履修できません。 01クラス（春クォーター設置）・04クラス（冬クォーター設置）はありません。

★ 本科目と英語科目「Introduction to University Mathematics (Optimization Problem) B」の両方を履修することはできません。

本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの１つで、Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である。

このβ（最適化編）は、α（最適化編）の上位レベルのため、以下のうち少なくとも1つの条件を満たす学生のみ履修すること（文系学生で自信がなければα（最適化編）を履修すること）。

（1）「数学基礎プラスα（最適化編）」の単位を修得している

（2）下記ウェブサイトにある「レベル分け問題（最適化・線形代数学系統）」の中の最適化編に関する問題を解き、β（最適化編）の受講要件を満たしている
　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/

なお、最適化の用語や計算については、β（最適化編）授業内でも一から説明する。α（最適化編）で扱う行列に関する知識は理解している前提で授業を進めるので、α（最適化編）を受講していない場合は、指定教科書の第１章から第3章を初回授業前までに読んでおくこと。

「限られた資源の中でいかに利益を最大にするか？」あるいは「どうしても発生する損失をいかに最小にするか？」といった問題は最適化問題といわれ、実社会でもよく現れる。本科目では、行列や連立１次方程式の数学知識を身に付けている学生を対象に最適化問題、特に線形計画問題の双対定理と最小問題の解決法（線形計画法という）を講義する。さらに、線形計画法をより深く理解するために、連立１次方程式の解のしくみについても学習する。最終的に最適化問題がたやすく解決できるような数学的能力の習得と、そのしくみの理解を到達目標としている。また、論理的思考力についても、本科目を受講することにより自然と身に付けられるよう専用の教科書を用いて講義する。

上述のとおり、「数学基礎プラスα（最適化編）」の単位を修得した、あるいは行列の基礎知識をもつ学生を主な対象としているが、文系学生でも理解できるようわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、LA（Learning Assistant）による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）やZoom会議室を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。

★ 本科目のビデオ講義担当：　曽布川拓也教授

★ GEC数学ウェブサイト　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
　（GEC数学科目の紹介だけでなく、受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★「数学基礎プラス」シリーズ　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/
　（数学基礎プラスシリーズのレベル（α・β・γ・δ）分け問題があります）

★ 科目登録3次登録者は、登録結果の発表前にWMにエクスターナルユーザとして登録され受講できるようになるので、登録されたら速やかに＃1（第1回）と＃2（第2回）を受講してください。すでに授業は始まっており、＃1と＃2の試験等の解答提出期限まであまり時間がありません。
　3次登録する場合は、このことを了解の上で履修登録してください。

授業の到達目標:　数学の基礎知識（連立１次方程式の解の分類・逆行列）、最適化の基礎知識（双対定理・最小問題）、論理的思考力が身に付く。

事前・事後学習の内容:　【初回授業前】 WM本科目内にある「ガイダンス資料」をよく読み、理解する。指定教科書の第１章～第3章を読む。
【事前学習】 次回扱う単元について教科書等を読み、疑問点をまとめておく。

【事後学習】 授業で扱った定義・定理・例題を確認し、教科書の問題をもう一度解く。
毎回、合計で4時間程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

＃1. 基本変形
基本変形（教科書 第4章）
＃2. 連立1次方程式の解の分類
解が存在しない場合、不定解（教科書 第5章, 第6章）
＃3. 逆行列
逆行列（教科書 第7章）
＃4. 複雑な最大問題
複雑な最大問題（教科書 第8章）
＃5. 最小問題
最小問題（教科書 第9章）
＃6. 双対問題
双対問題（教科書 第9章）
＃7. 総復習・最終試験
総復習、最終試験（教科書 第4章～第9章）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: (1)「線形の世界 ～線形代数学への入り口～」 高木悟・曽布川拓也著 共立出版 2023年
※冊子版と電子版があり、どちらを使用してもよい。なお、早大生協で冊子版と電子版の両方を同時に購入する場合は、セット割引料金が適用される（詳細は早大生協に確認のこと）。
※受講生が本書を購入することを前提にビデオ講義内で使用しているため、冊子版あるいは電子版を購入の上、受講のこと。
※各回のビデオ講義視聴後は、本書内の関連する問題を解いて理解を深めてほしい（問題の詳しい解答は下記(2)に掲載されている）。
(2)「演習編 線形の世界 ～線形代数学への入り口～」 高木悟・曽布川拓也著 共立出版 2023年 （電子版のみ）

※上記(1)(2)ともに α（最適化編）と同じ教科書なので、すでに所有している場合は改めて購入する必要はない。

参考文献: (1)「理工系のための線形代数 [改訂版]」 高木悟・長谷川研二・熊ノ郷直人・菊田伸・森澤貴之共著 培風館 2018年
(2)「基本 線形代数」 坂田泟・曽布川拓也共著 サイエンス社 2005年
(3)「例題で学ぶ入門・経済数学（上）（下）」 E.ドウリング著 シーエーピー出版 1995年

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 ＃7（第7回）に実施する最終試験（40点満点）の得点を成績評価に用いる。

平常点評価: 60 ＃1（第1回）から＃6（第6回）まで毎回実施するドリル（各回6点満点）と小テスト（各回4点満点）の得点を成績評価に用いる。詳細は履修登録後にWM本科目内にある「ガイダンス資料」を確認すること。

備考・関連URL: 本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから＃1（第1回）が スタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する （日時はすべて日本標準時(JST)である）。
詳しい授業スケジュールについては、下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）。

数学基礎プラスシリーズの2026年度・秋クォーターについては、授業終了日を（大学の定める授業終了日より1日延長して）2026年11月22日（日）とする。
従って、最終試験の解答提出期限は 2026年11月22日（日） 23:55 である。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000006|02|9S02000006[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	数学基礎プラスγ（解析学編） 02		
担 当 教 員	高木 悟@曽布川 拓也@佐藤 雄一郎@峰 正博		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 効用を最大にするには？

授業概要:

★ 本科目の02クラス（夏クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です。
1つしか履修できません。 01クラス（春クォーター設置）・04クラス（冬クォーター設置）はありません。

本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの1つで、Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である。

このγ（解析学編）は、β（金利編）の上位レベルのため、以下のうち少なくとも1つの条件を満たす学生のみ履修すること。
また、本科目では金利について扱っていないので、金利の知識を習得したい場合は、α（金利編）・β（金利編）を履修すること。
(1)「数学基礎プラスβ（金利編）」の単位を修得している

(2) 下記ウェブサイトにある「レベル分け問題（金利・解析学系統）」を解き、γ（解析学編）の受講要件を満たしている
https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/

なお、α（金利編）・β（金利編）で扱う数学知識を理解している前提で授業を進めるので、α（金利編）・β（金利編）を受講していない場合は、参考文献(1)の金利を除く数学単元を初回授業前までに読んでおくこと。
解析学は経済学・経営学などの社会科学でも重要なツールとされる。経済・経営などの現実社会における極値問題は、特定の条件や制約の下において極値や最大値・最小値を求めるものだが、これには解析学が深く関わる。本科目では、初等解析学として、関数とその極限、微分、偏微分を講義し、それらの数学ツールを用いて関数のグラフ描画や、1変数関数・2変数関数の効用最大化問題が解けるようになることを到達目標とする。また、論理的思考力についても、本科目を受講することにより自然と身に付けられるよう専用の教科書を用いて講義する。

上述のとおり、「数学基礎プラスβ（金利編）」の単位を修得した、あるいは数学の基礎知識をもつ学生を主な対象としているが、文系学生でも理解できるようわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、LA (Learning Assistant) による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）やZoom会議室を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。

★ 本科目のビデオ講義担当： 高木悟教授

★ GEC数学ウェブサイト https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく、受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★「数学基礎プラス」シリーズ https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/
（数学基礎プラスシリーズのレベル（α・β・γ・δ）分け問題があります）

授業の到達目標: 1変数関数の微分と2変数関数の偏微分が計算でき、さらにそれらの理論を用いて、関数のグラフ描画ができ、また1変数関数や2変数関数の効用最大化問題が解けるようになる。論理的思考力が身に付く。

事前・事後学習の内容: 【初回授業前】 WM本科目内にある「ガイダンス資料」をよく読み、理解する。
【事前学習】 次回扱う単元について教科書等を読み、疑問点をまとめておく。
【事後学習】 授業で扱った定義・定理・例題を確認し、教科書の問題をもう一度解く。
毎回、合計で4時間程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

＃1. さまざまな関数
関数の定義、さまざまな関数、逆関数、逆三角関数（教科書 第1章）

＃2. 微分係数と導関数
関数の極限、関数の連続性、微分係数と導関数、微分公式作成の準備（教科書 第2章）
＃3. 関数の増減と凹凸
微分公式、平均値の定理と2階導関数、関数の増減、関数の凹凸（教科書 第3章）
＃4. 極値問題
極値、ロピタルの定理、グラフの概形、効用最大化問題（教科書 第4章）
＃5. 偏微分
2変数関数、偏微分係数と偏導関数、2階偏導関数と連鎖律、2変数関数の極値（教科書 第5章）
＃6. 2変数の効用最大化
条件付き極値問題、2変数関数の効用最大化問題（教科書 第6章）
＃7. 総復習・最終試験
総復習、最終試験（教科書 第1章～第6章）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「解析をまなぶ ～微分・積分から微分方程式へ～」 高木悟・上江洲弘明著 共立出版 2026年
※2025年度以前にγ（解析学編）を受講し、今回再履修の場合は、教科書が異なるので注意すること。
※冊子版と電子版があり、どちらを使用してもよい。なお、早大生協で冊子版と電子版の両方を同時に購入する場合は、セット割引料金が適用される（詳細は早大生協に確認のこと）。
※受講生が本書を購入することを前提にビデオ講義内で使用しているため、冊子版あるいは電子版を購入の上、受講のこと。
※各回のビデオ講義視聴後は、本書内の関連する問題を解いて理解を深めてほしい（本書内に問題の詳しい解答も掲載されている）。

参考文献: (1)「金利の計算 ～解析学への入り口～」 高木悟・上江洲弘明著 共立出版 2022年
(2)「経済系のための微分積分［増補版］」 西原健二・瀧澤武信・玉置健一郎著 共立出版 2018年

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 ＃7（第7回）に実施する最終試験（40点満点）の得点を成績評価に用いる。

平常点評価: 60 ＃1（第1回）から＃6（第6回）まで毎回実施するドリル（各回6点満点）と小テスト（各回4点満点）の得点を成績評価に用いる。詳細は履修登録後にWM本科目内にある「ガイダンス資料」を確認すること。

備考・関連URL: 本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから＃1（第1回）が スタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する （日時はすべて日本標準時(JST)である）。
詳しい授業スケジュールについては、下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000006|03|9S02000006[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	数学基礎プラスγ（解析学編）　03		
担 当 教 員	高木　悟@曽布川　拓也@佐藤　雄一郎@峰　正博		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　効用を最大にするには？

授業概要：　★ 本科目の02クラス（夏クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です。
1つしか履修できません。 01クラス（春クォーター設置）・04クラス（冬クォーター設置）はありません。

本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの1つで、Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である。

このγ（解析学編）は、β（金利編）の上位レベルのため、以下のうち少なくとも1つの条件を満たす学生のみ履修すること。
また、本科目では金利について扱っていないので、金利の知識を習得したい場合は、α（金利編）・β（金利編）を履修すること。
（1）「数学基礎プラスβ（金利編）」の単位を修得している

（2）下記ウェブサイトにある「レベル分け問題（金利・解析学系統）」を解き、γ（解析学編）の受講要件を満たしている
https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/

なお、α（金利編）・β（金利編）で扱う数学知識を理解している前提で授業を進めるので、α（金利編）・β（金利編）を受講していない場合は、参考文献(1)の金利を除く数学単元を初回授業前までに読んでおくこと。
解析学は経済学・経営学などの社会科学でも重要なツールとされる。経済・経営などの現実社会における極値問題は、特定の条件や制約の下において極値や最大値・最小値を求めるものだが、これには解析学が深く関わる。本科目では、初等解析学として、関数とその極限、微分、偏微分を講義し、それらの数学ツールを用いて関数のグラフ描画や、1変数関数・2変数関数の効用最大化問題が解けるようになることを到達目標とする。また、論理的思考力についても、本科目を受講することにより自然と身に付けられるよう専用の教科書を用いて講義する。

上述のとおり、「数学基礎プラスβ（金利編）」の単位を修得した、あるいは数学の基礎知識をもつ学生を主な対象としているが、文系学生でも理解できるようわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、LA（Learning Assistant）による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）やZoom会議室を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。

★ 本科目のビデオ講義担当：　高木悟教授

★ GEC数学ウェブサイト　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく、受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★「数学基礎プラス」シリーズ　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/
（数学基礎プラスシリーズのレベル（α・β・γ・δ）分け問題があります）

★ 科目登録3次登録者は、登録結果の発表前にWMにエクスターナルユーザとして登録され受講できるようになるので、登録されたら速やかに#1（第1回）と#2（第2回）を受講してください。すでに授業は始まっており、#1と#2の試験等の解答提出期限まであまり時間がありません。
3次登録する場合は、このことを了解の上で履修登録してください。

授業の到達目標：　1変数関数の微分と2変数関数の偏微分が計算でき、さらにそれらの理論を用いて、関数のグラフ描画ができ、また1変数関数や2変数関数の効用最大化問題が解けるようになる。論理的思考力が身に付く。

事前・事後学習の内容：　【初回授業前】 WM本科目内にある「ガイダンス資料」をよく読み、理解する。
【事前学習】 次回扱う単元について教科書等を読み、疑問点をまとめておく。
【事後学習】 授業で扱った定義・定理・例題を確認し、教科書の問題をもう一度解く。
毎回、合計で4時間程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

＃1. さまざまな関数
関数の定義、さまざまな関数、逆関数、逆三角関数（教科書 第1章）
＃2. 微分係数と導関数
関数の極限、関数の連続性、微分係数と導関数、微分公式作成の準備（教科書 第2章）
＃3. 関数の増減と凹凸
微分公式、平均値の定理と2階導関数、関数の増減、関数の凹凸（教科書 第3章）
＃4. 極値問題
極値、ロピタルの定理、グラフの概形、効用最大化問題（教科書 第4章）
＃5. 偏微分
2変数関数、偏微分係数と偏導関数、2階偏導関数と連鎖律、2変数関数の極値（教科書 第5章）
＃6. 2変数の効用最大化
条件付き極値問題、2変数関数の効用最大化問題（教科書 第6章）
＃7. 総復習・最終試験
総復習、最終試験（教科書 第1章～第6章）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「解析をまなぶ ～微分・積分から微分方程式へ～」 高木悟・上江洲弘明著 共立出版 2026年
※2025年度以前にγ（解析学編）を受講し、今回再履修の場合は、教科書が異なるので注意すること。
※冊子版と電子版があり、どちらを使用してもよい。なお、早大生協で冊子版と電子版の両方を同時に購入する場合は、セット割引料金が適用される（詳細は早大生協に確認のこと）。
※受講生が本書を購入することを前提にビデオ講義内で使用しているため、冊子版あるいは電子版を購入の上、受講のこと。
※各回のビデオ講義視聴後は、本書内の関連する問題を解いて理解を深めてほしい（本書内に問題の詳しい解答も掲載されている）。

参考文献: (1)「金利の計算 ～解析学への入り口～」 高木悟・上江洲弘明著 共立出版 2022年
(2)「経済系のための微分積分 [増補版]」 西原健二・瀧澤武信・玉置健一郎著 共立出版 2018年

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 ＃7（第7回）に実施する最終試験（40点満点）の得点を成績評価に用いる。

平常点評価: 60 ＃1（第1回）から＃6（第6回）まで毎回実施するドリル（各回6点満点）と小テスト（各回4点満点）の得点を成績評価に用いる。詳細は履修登録後にWM本科目内にある「ガイダンス資料」を確認すること。

備考・関連URL: 本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから＃1（第1回）が スタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する （日時はすべて日本標準時(JST)である）。
詳しい授業スケジュールについては、下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）。

数学基礎プラスシリーズの2026年度・秋クォーターについては、授業終了日を（大学の定める授業終了日より1日延長して）2026年11月22日（日）とする。
従って、最終試験の解答提出期限は 2026年11月22日（日） 23:55 である。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000007|02|9S02000007[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	数学基礎プラスδ（解析学編）　02		
担 当 教 員	高木　悟@曽布川　拓也@佐藤　雄一郎@峰　正博		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　経済成長する条件は？

授業概要:　★ 本科目の02クラス（夏クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です。
1つしか履修できません。 01クラス（春クォーター設置）・04クラス（冬クォーター設置）はありません。

本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの１つで、Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である。

このδ（解析学編）は、γ（解析学編）の上位レベルのため、以下のうち少なくとも1つの条件を満たす学生のみ履修すること。
また、本科目では金利について扱っていないので、金利の知識を習得したい場合は、α（金利編）・β（金利編）を履修すること。

（1）「数学基礎プラスγ（解析学編）」の単位を修得している

（2）下記ウェブサイトにある「レベル分け問題（金利・解析学系統）」を解き、δ（解析学編）の受講要件を満たしている
https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/

なお、α（金利編）・β（金利編）・γ（解析学編）で扱う数学知識を理解している前提で授業を進めるので、α（金利編）・β（金利編）・γ（解析学編）を受講していない場合は、参考文献(1)の金利を除く数学単元と、指定教科書の第１章～第6章を初回授業前までに読んでおくこと。
また、γ（解析学編）は2026年度に内容改訂しており、2025年度までに履修していた場合は、WM本科目内に補足ビデオ講義をアップするので、必要に応じて利用するとよい。

解析学は経済学・経営学などの社会科学でも重要なツールとされる。例えば、経済成長モデルで経済成長する条件を考察する際に、微分方程式を解くことがある。また、微分方程式を解くためには積分の知識が必要であり、これらの考察に解析学が深く関わる。本科目では、基本的な微分方程式の解法と、それに必要な積分計算方法について講義し、それらの数学ツールを経済現象や自然現象の問題に適用して、適切に考察できるようになることを到達目標とする。また、論理的思考力についても、本科目を受講することにより自然と身に付けられるよう専用の教科書を用いて講義する。

上述のとおり、「数学基礎プラスγ（解析学編）」の単位を修得した、あるいは数学の基礎知識をもつ学生を主な対象としているが、文系学生でも理解できるようわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、LA（Learning Assistant）による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）やZoom会議室を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。

★ 本科目のビデオ講義担当：　高木悟教授

★ GEC数学ウェブサイト　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく、受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★「数学基礎プラス」シリーズ　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/
（数学基礎プラスシリーズのレベル（α・β・γ・δ）分け問題があります）

授業の到達目標:　いろいろな関数の積分計算と基本的な微分方程式の解法を習得し、それらを用いて経済現象や自然現象の問題を適切に考察できるようになる。論理的思考力が身に付く。

事前・事後学習の内容:　【初回授業前】 WM本科目内にある「ガイダンス資料」をよく読み、理解する。指定教科書の第１章～第6章を読む。
【事前学習】 次回扱う単元について教科書等を読み、疑問点をまとめておく。
【事後学習】 授業で扱った定義・定理・例題を確認し、教科書の問題をもう一度解く。
毎回、合計で4時間程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン:　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

＃1. 積分の定義
定積分の定義、微分積分学の基本定理、微分公式からの積分計算、合成関数の微分からの積分計算（教科書 第7章）

＃2. 積分の計算
部分積分、有理関数の積分、三角関数の累乗の積分（教科書 第8章）

＃3. 変数分離形
微分方程式とは、変数分離形、変数分離形が現れる応用例（教科書 第9章）

＃4. 1階線形微分方程式
1階線形微分方程式、非斉次1階線形微分方程式が現れる応用例（教科書 第10章）

＃5. 2階線形微分方程式
2階線形微分方程式の基本解、複素指数関数、定数係数斉次2階線形微分方程式（教科書 第11章）

＃6. 非斉次2階線形微分方程式
非斉次2階線形微分方程式の解、定数係数2階線形微分方程式が現れる応用例（教科書 第12章）

＃7. 総復習・最終試験
総復習、最終試験（教科書 第7章～第12章）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「解析をまなぶ ～微分・積分から微分方程式へ～」 高木悟・上江洲弘明著 共立出版 2026年
※2026年度のγ（解析学編）と同じ教科書なので、すでに所有している場合は改めて購入する必要はない。ただし、2025年度以前のγ（解析学編）とは教科書が異なるので注意すること。
※冊子版と電子版があり、どちらを使用してもよい。なお、早大生協で冊子版と電子版の両方を同時に購入する場合は、セット割引料金が適用される（詳細は早大生協に確認のこと）。
※受講生が本書を購入することを前提にビデオ講義内で使用しているため、冊子版あるいは電子版を購入の上、受講のこと。
※各回のビデオ講義視聴後は、本書内の関連する問題を解いて理解を深めてほしい（本書内に問題の詳しい解答も掲載されている）。

参考文献: (1)「金利の計算 ～解析学への入り口～」 高木悟・上江洲弘明著 共立出版 2022年
(2)「経済系のための微分積分 [増補版]」 西原健二・瀧澤武信・玉置健一郎著 共立出版 2018年

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 ＃7（第7回）に実施する最終試験（40点満点）の得点を成績評価に用いる。

平常点評価: 60 ＃1（第1回）から＃6（第6回）まで毎回実施するドリル（各回6点満点）と小テスト（各回4点満点）の得点を成績評価に用いる。詳細は履修登録後にWM本科目内にある「ガイダンス資料」を確認すること。

備考・関連URL: 本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから＃1（第1回）が スタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する （日時はすべて日本標準時(JST)である）。
詳しい授業スケジュールについては、下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000007|03|9S02000007[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	数学基礎プラスδ（解析学編）　03		
担 当 教 員	高木　悟@曽布川　拓也@佐藤　雄一郎@峰　正博		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　経済成長する条件は？

授業概要:　★ 本科目の02クラス（夏クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です。
1つしか履修できません。 01クラス（春クォーター設置）・04クラス（冬クォーター設置）はありません。

本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの1つで、Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である。

このδ（解析学編）は、γ（解析学編）の上位レベルのため、以下のうち少なくとも1つの条件を満たす学生のみ履修すること。
また、本科目では金利について扱っていないので、金利の知識を習得したい場合は、α（金利編）・β（金利編）を履修すること。

(1)「数学基礎プラスγ（解析学編）」の単位を修得している

(2) 下記ウェブサイトにある「レベル分け問題（金利・解析学系統）」を解き、δ（解析学編）の受講要件を満たしている
https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/

なお、α（金利編）・β（金利編）・γ（解析学編）で扱う数学知識を理解している前提で授業を進めるので、α（金利編）・β（金利編）・γ（解析学編）を受講していない場合は、参考文献(1)の金利を除く数学単元と、指定教科書の第1章～第6章を初回授業前までに読んでおくこと。
また、γ（解析学編）は2026年度に内容改訂しており、2025年度までに履修していた場合は、WM本科目内に補足ビデオ講義をアップするので、必要に応じて利用するとよい。

解析学は経済学・経営学などの社会科学でも重要なツールとされる。例えば、経済成長モデルで経済成長する条件を考察する際に、微分方程式を解くことがある。また、微分方程式を解くためには積分の知識が必要であり、これらの考察に解析学が深く関わる。本科目では、基本的な微分方程式の解法と、それに必要な積分計算方法について講義し、それらの数学ツールを経済現象や自然現象の問題に適用して、適切に考察できるようになることを到達目標とする。また、論理的思考力についても、本科目を受講することにより自然と身に付けられるよう専用の教科書を用いて講義する。

上述のとおり、「数学基礎プラスγ（解析学編）」の単位を修得した、あるいは数学の基礎知識をもつ学生を主な対象としているが、文系学生でも理解できるようわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、LA（Learning Assistant）による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）やZoom会議室を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。

★ 本科目のビデオ講義担当：　高木悟教授

★ GEC数学ウェブサイト　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく、受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★「数学基礎プラス」シリーズ　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/
（数学基礎プラスシリーズのレベル（α・β・γ・δ）分け問題があります）

★ 科目登録3次登録者は、登録結果の発表前にWMにエクスターナルユーザとして登録され受講できるようになるので、登録されたら速やかに＃1（第1回）と＃2（第2回）を受講してください。すでに授業は始まっており、＃1と＃2の試験等の解答提出期限まであまり時間がありません。
3次登録する場合は、このことを了解の上で履修登録してください。

授業の到達目標:　いろいろな関数の積分計算と基本的な微分方程式の解法を習得し、それらを用いて経済現象や自然現象の問題を適切に考察できるようになる。論理的思考力が身に付く。

事前・事後学習の内容:　【初回授業前】 WM本科目内にある「ガイダンス資料」をよく読み、理解する。指定教科書の第1章～第6章を読む。
【事前学習】 次回扱う単元について教科書等を読み、疑問点をまとめておく。

【事後学習】 授業で扱った定義・定理・例題を確認し、教科書の問題をもう一度解く。
毎回、合計で4時間程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

＃1. 積分の定義
定積分の定義、微分積分学の基本定理、微分公式からの積分計算、合成関数の微分からの積分計算（教科書 第7章）

＃2. 積分の計算
部分積分、有理関数の積分、三角関数の累乗の積分（教科書 第8章）

＃3. 変数分離形
微分方程式とは、変数分離形、変数分離形が現れる応用例（教科書 第9章）

＃4. 1階線形微分方程式
1階線形微分方程式、非斉次1階線形微分方程式が現れる応用例（教科書 第10章）

＃5. 2階線形微分方程式
2階線形微分方程式の基本解、複素指数関数、定数係数斉次2階線形微分方程式（教科書 第11章）

＃6. 非斉次2階線形微分方程式
非斉次2階線形微分方程式の解、定数係数2階線形微分方程式が現れる応用例（教科書 第12章）

＃7. 総復習・最終試験
総復習、最終試験（教科書 第7章～第12章）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「解析をまなぶ ～微分・積分から微分方程式へ～」 高木悟・上江洲弘明著 共立出版 2026年
※2026年度のγ（解析学編）と同じ教科書なので、すでに所有している場合は改めて購入する必要はない。ただし、2025年度以前のγ（解析学編）とは教科書が異なるので注意すること。
※冊子版と電子版があり、どちらを使用してもよい。なお、早大生協で冊子版と電子版の両方を同時に購入する場合は、セット割引料金が適用される（詳細は早大生協に確認のこと）。
※受講生が本書を購入することを前提にビデオ講義内で使用しているため、冊子版あるいは電子版を購入の上、受講のこと。
※各回のビデオ講義視聴後は、本書内の関連する問題を解いて理解を深めてほしい（本書内に問題の詳しい解答も掲載されている）。

参考文献: (1)「金利の計算 ～解析学への入り口～」 高木悟・上江洲弘明著 共立出版 2022年
(2)「経済系のための微分積分 [増補版]」 西原健二・瀧澤武信・玉置健一郎著 共立出版 2018年

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 ＃7（第7回）に実施する最終試験（40点満点）の得点を成績評価に用いる。

平常点評価: 60 ＃1（第1回）から＃6（第6回）まで毎回実施するドリル（各回6点満点）と小テスト（各回4点満点）の得点を成績評価に用いる。詳細は履修登録後にWM本科目内にある「ガイダンス資料」を確認すること。

備考・関連URL: 本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから＃1（第1回）が スタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する （日時はすべて日本標準時(JST)である）。
詳しい授業スケジュールについては、下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）。

数学基礎プラスシリーズの2026年度・秋クォーターについては、授業終了日を（大学の定める授業終了日より1日延長して）2026年11月22日（日）とする。
従って、最終試験の解答提出期限は 2026年11月22日（日） 23:55 である。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000008|01|9S02000008[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	数学基礎プラスα（線形システム編）　01		
担 当 教 員	高木　悟@曽布川　拓也@佐藤　雄一郎@峰　正博		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　連立方程式を解くということ

授業概要：　★ 本科目の01クラス（春クォーター設置）・02クラス（夏クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です。
　1つしか履修できません。 04クラス（冬クォーター設置）はありません。

本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの1つで、Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である。

このα（線形システム編）では、高校数学の知識を前提とせずに授業を進めるので、数学が苦手であっても安心して学習できる。

中学校、場合によっては小学校段階から「方程式」について学んできた。しかし昨今では、方程式を「解く」ことだけならばAI技術などを用いてコンピュータに容易に行うことができる。一方でそれ自体はブラックボックスになってしまい、何が行われているのか、その結果を信用して良いのかという疑念を拭うことはできない。本科目ではまずこの方程式の解法について概観する。次に連立1次方程式の解について検討する。解がただ一組に決定されるものばかりでなく、無数に解があるケースが応用上も有益であり、さらにそのシステムは結果的にAIの基礎技術の中核に据えられているものである。なお、本科目では（行列ではなく）行列式を中心に扱う。

なお、本シリーズ「最適化編」とは関連の深い内容であるが、独立に履修することができる。

いままで数学を避けてきた文系学生を主な対象とし、高校数学の知識を前提とせずに基礎からわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、LA（Learning Assistant）による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）やZoom会議室を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。

★ 本科目のビデオ講義担当：　曽布川拓也教授

★ GEC数学ウェブサイト　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
　（GEC数学科目の紹介だけでなく、受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★「数学基礎プラス」シリーズ　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/
　（数学基礎プラスシリーズのレベル（α・β・γ・δ）分け問題があります）

★ 科目登録3次登録者は、登録結果の発表前にWMにエクスターナルユーザとして登録され受講できるようになるので、登録されたら速やかに＃1（第1回）と＃2（第2回）を受講してください。すでに授業は始まっており、＃1と＃2の試験等の解答提出期限まであまり時間がありません。
　3次登録する場合は、このことを了解の上で履修登録してください。

授業の到達目標：　代数方程式を解くためのの基本的な理論を知る。特に連立1次方程式の行列式による解法を身につける。その中で解空間を導入し、その理論に慣れる。合わせて論理的思考力が身に付く。

事前・事後学習の内容：　【初回授業前】 WM本科目内にある「ガイダンス資料」をよく読み、理解する。
【事前学習】 次回扱う単元について参考書等を読み、疑問点をまとめておく。
【事後学習】 授業で扱った定義・定理・例題を確認し、問題をもう一度解く。
毎回、合計で4時間程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

＃1．方程式とは
（代数）方程式の解き方について概観する。2元連立1次方程式、2次方程式の解法を復習し、その本質を知る。

＃2．2元連立1次方程式と行列式
2元連立1次方程式の解の公式を考える。
＃3．未知数が3つある1次方程式
3元連立1次方程式の解の公式を考える。
＃4．斉次方程式と非斉次方程式の解空間
3元連立方程式、特に解が一組に決まらないケースを検討する。
＃5．ハイパー加減法と行列式の余因子展開
行列式の計算およびその性質を知るために有益である余因子展開について知る。
＃6．余因子展開の応用
余因子展開の応用および4元連立1次方程式を解く方法を考える。
＃7．総復習・最終試験
総復習、最終試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定教科書なし

参考文献: 坂田洼・曽布川拓也「基本　線形代数」（サイエンス社）

穂刈四三二「行列式」（共立出版）　入手困難

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 ＃7（第7回）に実施する最終試験（40点満点）の得点を成績評価に用いる。

平常点評価: 60 ＃1（第1回）から＃6（第6回）まで毎回実施するドリル（各回6点満点）と小テスト（各回4点満点）の得点を成績評価に用いる。詳細は履修登録後にWM本科目内にある「ガイダンス資料」を確認すること。

備考・関連URL: 本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから＃1（第1回）が スタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する （日時はすべて日本標準時(JST)である）。
詳しい授業スケジュールについては、下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000008|02|9S02000008[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	数学基礎プラスα（線形システム編） 02		
担 当 教 員	高木 悟@曽布川 拓也@佐藤 雄一郎@峰 正博		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 連立方程式を解くということ

授業概要: ★ 本科目の01クラス（春クォーター設置）・02クラス（夏クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です。
1つしか履修できません。 04クラス（冬クォーター設置）はありません。

本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの1つで、Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である。

このα（線形システム編）では、高校数学の知識を前提とせずに授業を進めるので、数学が苦手であっても安心して学習できる。

中学校、場合によっては小学校段階から「方程式」について学んできた。しかし昨今では、方程式を「解く」ことだけならばAI技術などを用いてコンピュータに容易に行うことができる。一方でそれ自体はブラックボックスになってしまい、何が行われているのか、その結果を信用して良いのかという疑念を拭うことはできない。本科目ではまずこの方程式の解法について概観する。次に連立1次方程式の解について検討する。解がただ一組に決定されるものばかりでなく、無数に解があるケースが応用上も有益であり、さらにそのシステムは結果的にAIの基礎技術の中核に据えられているものである。なお、本科目では（行列ではなく）行列式を中心に扱う。

なお、本シリーズ「最適化編」とは関連の深い内容であるが、独立に履修することができる。

いままで数学を避けてきた文系学生を主な対象とし、高校数学の知識を前提とせずに基礎からわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、LA（Learning Assistant）による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）やZoom会議室を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。

★ 本科目のビデオ講義担当： 曽布川拓也教授

★ GEC数学ウェブサイト https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく、受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★「数学基礎プラス」シリーズ https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/
（数学基礎プラスシリーズのレベル（α・β・γ・δ）分け問題があります）

授業の到達目標: 代数方程式を解くためのの基本的な理論を知る。特に連立1次方程式の行列式による解法を身につける。その中で解空間を導入し、その理論に慣れる。合わせて論理的思考力が身に付く。

事前・事後学習の内容: 【初回授業前】 WM本科目内にある「ガイダンス資料」をよく読み、理解する。
【事前学習】 次回扱う単元について参考書等を読み、疑問点をまとめておく。
【事後学習】 授業で扱った定義・定理・例題を確認し、問題をもう一度解く。
毎回、合計で4時間程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

＃1．方程式とは
（代数）方程式の解き方について概観する。2元連立1次方程式、2次方程式の解法を復習し、その本質を知る。

＃2．2元連立1次方程式と行列式
2元連立1次方程式の解の公式を考える。

＃3．未知数が3つある1次方程式
3元連立1次方程式の解の公式を考える。

＃4. 斉次方程式と非斉次方程式の解空間
3元連立方程式、特に解が一組に決まらないケースを検討する。
＃5. ハイパー加減法と行列式の余因子展開
行列式の計算およびその性質を知るために有益である余因子展開について知る。
＃6. 余因子展開の応用
余因子展開の応用および4元連立1次方程式を解く方法を考える。
＃7. 総復習・最終試験
総復習、最終試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定教科書なし

参考文献: 坂田洼・曽布川拓也「基本　線形代数」（サイエンス社）

穂刈四三二「行列式」（共立出版）　入手困難

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 ＃7（第7回）に実施する最終試験（40点満点）の得点を成績評価に用いる。

平常点評価: 60 ＃1（第1回）から＃6（第6回）まで毎回実施するドリル（各回6点満点）と小テスト（各回4点満点）の得点を成績評価に用いる。詳細は履修登録後にWM本科目内にある「ガイダンス資料」を確認すること。

備考・関連URL: 本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから＃1（第1回）が スタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する （日時はすべて日本標準時(JST)である）。
詳しい授業スケジュールについては、下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000008|03|9S02000008[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	数学基礎プラスα（線形システム編） 03		
担 当 教 員	高木 悟@曽布川 拓也@佐藤 雄一郎@峰 正博		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 連立方程式を解くということ

授業概要: ★ 本科目の01クラス（春クォーター設置）・02クラス（夏クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です。
1つしか履修できません。 04クラス（冬クォーター設置）はありません。

本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの1つで、Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である。

このα（線形システム編）では、高校数学の知識を前提とせずに授業を進めるので、数学が苦手であっても安心して学習できる。

中学校、場合によっては小学校段階から「方程式」について学んできた。しかし昨今では、方程式を「解く」ことだけならばAI技術などを用いてコンピュータに容易に行うことができる。一方でそれ自体はブラックボックスになってしまい、何が行われているのか、その結果を信用して良いのかという疑念を拭うことはできない。本科目ではまずこの方程式の解法について概観する。次に連立1次方程式の解について検討する。解がただ一組に決定されるものばかりでなく、無数に解があるケースが応用上も有益であり、さらにそのシステムは結果的にAIの基礎技術の中核に据えられているものである。なお、本科目では（行列ではなく）行列式を中心に扱う。

なお、本シリーズ「最適化編」とは関連の深い内容であるが、独立に履修することができる。

いままで数学を避けてきた文系学生を主な対象とし、高校数学の知識を前提とせずに基礎からわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、LA（Learning Assistant）による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）やZoom会議室を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。

★ 本科目のビデオ講義担当： 曽布川拓也教授

★ GEC数学ウェブサイト https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく、受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★「数学基礎プラス」シリーズ https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/
（数学基礎プラスシリーズのレベル（α・β・γ・δ）分け問題があります）

★ 科目登録3次登録者は、登録結果の発表前にWMにエクスターナルユーザとして登録され受講できるようになるので、登録されたら速やかに＃1（第1回）と＃2（第2回）を受講してください。すでに授業は始まっており、＃1と＃2の試験等の解答提出期限まであまり時間がありません。
3次登録する場合は、このことを了解の上で履修登録してください。

授業の到達目標: 代数方程式を解くためのの基本的な理論を知る。特に連立1次方程式の行列式による解法を身につける。その中で解空間を導入し、その理論に慣れる。合わせて論理的思考力が身に付く。

事前・事後学習の内容: 【初回授業前】 WM本科目内にある「ガイダンス資料」をよく読み、理解する。
【事前学習】 次回扱う単元について参考書等を読み、疑問点をまとめておく。
【事後学習】 授業で扱った定義・定理・例題を確認し、問題をもう一度解く。
毎回、合計で4時間程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

＃1．方程式とは
（代数）方程式の解き方について概観する。2元連立1次方程式、2次方程式の解法を復習し、その本質を知る。

＃2．2元連立1次方程式と行列式
2元連立1次方程式の解の公式を考える。
＃3．未知数が3つある1次方程式
3元連立1次方程式の解の公式を考える。
＃4．斉次方程式と非斉次方程式の解空間
3元連立方程式、特に解が一組に決まらないケースを検討する。
＃5．ハイパー加減法と行列式の余因子展開
行列式の計算およびその性質を知るために有益である余因子展開について知る。
＃6．余因子展開の応用
余因子展開の応用および4元連立1次方程式を解く方法を考える。
＃7．総復習・最終試験
総復習、最終試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定教科書なし

参考文献: 坂田洼・曽布川拓也「基本　線形代数」（サイエンス社）

穂刈四三二「行列式」（共立出版）　入手困難

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 ＃7（第7回）に実施する最終試験（40点満点）の得点を成績評価に用いる。

平常点評価: 60 ＃1（第1回）から＃6（第6回）まで毎回実施するドリル（各回6点満点）と小テスト（各回4点満点）の得点を成績評価に用いる。詳細は履修登録後にWM本科目内にある「ガイダンス資料」を確認すること。

備考・関連URL: 本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから＃1（第1回）が スタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する （日時はすべて日本標準時(JST)である）。
詳しい授業スケジュールについては、下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）。

数学基礎プラスシリーズの2026年度・秋クォーターについては、授業終了日を（大学の定める授業終了日より1日延長して）2026年11月22日（日）とする。
従って、最終試験の解答提出期限は 2026年11月22日（日） 23:55 である。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000009|02|9S02000009[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	数学基礎プラスβ（線形システム編）　02		
担 当 教 員	高木　悟@曽布川　拓也@佐藤　雄一郎@峰　正博		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　線形変換への誘い

授業概要：　★ 本科目の02クラス（夏クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です。
1つしか履修できません。 01クラス（春クォーター設置）・04クラス（冬クォーター設置）はありません。

本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの1つで、Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である。

このβ（線形システム編）は、α（線形システム編）の上位レベルのため、以下のうち少なくとも1つの条件を満たす学生のみ履修すること（文系学生で自信がなければα（線形システム編）を履修すること）。

（1）「数学基礎プラスα（線形システム編）」の単位を修得している

（2）下記ウェブサイトにある「レベル分け問題（最適化・線形代数学系統）」の中の線形システム編に関する問題を解き、β（線形システム編）の受講要件を満たしている
https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/

本講義では、α（線形システム編）で扱う連立方程式の解空間について理解している前提で授業を進めるので、WM本科目内に補足講義をアップする。

自然科学や社会科学の多くの分野では「線形性」の概念が重要であり、そのためには特にベクトル空間（線形空間）とその上の1次変換（線形変換）が重要な役割を持つ。さらにこれは昨今発展がめざましいAIの技術の根幹にあると言える。本講義ではその基本的な部分について考える。さらにその応用として、簡単なマルコフ・チェーンの理論への応用を図る。また、論理的思考力についても、本科目を受講することにより自然と身に付けられるよう講義する。

なお、本シリーズ「最適化編」とは関連の深い内容であるが、独立に履修することができる。

上述のとおり、「数学基礎プラスα（線形システム編）」の単位を修得した、あるいは行列式の基礎知識をもつ学生を主な対象としているが、文系学生でも理解できるようわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、LA（Learning Assistant）による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）やZoom会議室を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。

★ 本科目のビデオ講義担当：　曽布川拓也教授

★ GEC数学ウェブサイト　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく、受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★「数学基礎プラス」シリーズ　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/
（数学基礎プラスシリーズのレベル（α・β・γ・δ）分け問題があります）

授業の到達目標：　数ベクトル空間、線形変換について、そのメカニズムを知る。

事前・事後学習の内容：　【初回授業前】 WM本科目内にある「ガイダンス資料」をよく読み、理解する。
【事前学習】 次回扱う単元について参考書等を読み、疑問点をまとめておく。
【事後学習】 授業で扱った定義・定理・例題を確認し、問題をもう一度解く。
毎回、合計で4時間程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

＃1．連立1次方程式の解空間
3元、4元の連立方程式について、その解空間について概観し、ベクトル空間の性質を知る。

＃2．1次変換の行列表現
1次変換の行列表現を知り、その性質について知る。
＃3．1次変換の固有値・固有空間(1)
2次元空間における1次変換の固有値/固有空間
＃4．1次変換の固有値・固有空間(2)
3次元空間における1次変換の固有値/固有空間
＃5．簡単なマルコフ・チェーン
マルコフ・チェーンの簡単な例について知る
＃6．1次変換の固有値の応用
1次変換の固有値のマルコフ・チェーンへの応用を図る
＃7．総復習・最終試験
総復習、最終試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定教科書なし

参考文献: 坂田洼・曽布川拓也「基本　線形代数」(サイエンス社)

渡部隆一「マルコフ・チェーン」(共立出版)　入手困難

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 40 ＃7(第7回)に実施する最終試験(40点満点)の得点を成績評価に用いる。

平常点評価: 60 ＃1(第1回)から＃6(第6回)まで毎回実施するドリル(各回6点満点)と小テスト(各回4点満点)の得点を成績評価に用いる。詳細は履修登録後にWM本科目内にある「ガイダンス資料」を確認すること。

備考・関連URL: 本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから＃1(第1回)が スタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する (日時はすべて日本標準時(JST)である)。
詳しい授業スケジュールについては、下記関連資料(授業カレンダー)を参照のこと(MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない)。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000009|03|9S02000009[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	数学基礎プラスβ（線形システム編）　03		
担 当 教 員	高木　悟@曽布川　拓也@佐藤　雄一郎@峰　正博		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　線形変換への誘い

授業概要：　★ 本科目の02クラス（夏クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です。
1つしか履修できません。 01クラス（春クォーター設置）・04クラス（冬クォーター設置）はありません。

本科目は、早稲田大学の全学基盤教育「数学基礎プラス」シリーズの1つで、Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である。

このβ（線形システム編）は、α（線形システム編）の上位レベルのため、以下のうち少なくとも1つの条件を満たす学生のみ履修すること（文系学生で自信がなければα（線形システム編）を履修すること）。

（1）「数学基礎プラスα（線形システム編）」の単位を修得している

（2）下記ウェブサイトにある「レベル分け問題（最適化・線形代数学系統）」の中の線形システム編に関する問題を解き、β（線形システム編）の受講要件を満たしている
https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/

本講義では、α（線形システム編）で扱う連立方程式の解空間について理解している前提で授業を進めるので、WM本科目内に補足講義をアップする。

自然科学や社会科学の多くの分野では「線形性」の概念が重要であり、そのためには特にベクトル空間（線形空間）とその上の1次変換（線形変換）が重要な役割を持つ。さらにこれは昨今発展がめざましいAIの技術の根幹にあると言える。本講義ではその基本的な部分について考える。さらにその応用として、簡単なマルコフ・チェーンの理論への応用を図る。また、論理的思考力についても、本科目を受講することにより自然と身に付けられるよう講義する。

なお、本シリーズ「最適化編」とは関連の深い内容であるが、独立に履修することができる。

上述のとおり、「数学基礎プラスα（線形システム編）」の単位を修得した、あるいは行列式の基礎知識をもつ学生を主な対象としているが、文系学生でも理解できるようわかりやすく講義する。また、本科目を含む「数学基礎プラス」シリーズでは、LA（Learning Assistant）による対面指導のほか、質問用ML（メーリングリスト）やZoom会議室を用意しているので、授業内容で理解できなかった点や質問したい点を気軽に聞くことができる。おおいに利用し、理解を深めてほしい。

★ 本科目のビデオ講義担当：　曽布川拓也教授

★ GEC数学ウェブサイト　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく、受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★「数学基礎プラス」シリーズ　https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/math/
（数学基礎プラスシリーズのレベル（α・β・γ・δ）分け問題があります）

★ 科目登録3次登録者は、登録結果の発表前にWMにエクスターナルユーザとして登録され受講できるようになるので、登録されたら速やかに＃1（第1回）と＃2（第2回）を受講してください。すでに授業は始まっており、＃1と＃2の試験等の解答提出期限まであまり時間がありません。
3次登録する場合は、このことを了解の上で履修登録してください。

授業の到達目標：　数ベクトル空間、線形変換について、そのメカニズムを知る。

事前・事後学習の内容：　【初回授業前】 WM本科目内にある「ガイダンス資料」をよく読み、理解する。
【事前学習】 次回扱う単元について参考書等を読み、疑問点をまとめておく。
【事後学習】 授業で扱った定義・定理・例題を確認し、問題をもう一度解く。
毎回、合計で4時間程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

＃1．連立1次方程式の解空間
3元、4元の連立方程式について、その解空間について概観し、ベクトル空間の性質を知る。
＃2．1次変換の行列表現
1次変換の行列表現を知り、その性質について知る。
＃3．1次変換の固有値・固有空間(1)
2次元空間における1次変換の固有値/固有空間
＃4．1次変換の固有値・固有空間(2)
3次元空間における1次変換の固有値/固有空間
＃5．簡単なマルコフ・チェーン
マルコフ・チェーンの簡単な例について知る
＃6．1次変換の固有値の応用
1次変換の固有値のマルコフ・チェーンへの応用を図る
＃7．総復習・最終試験
総復習、最終試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定教科書なし

参考文献: 坂田洼・曽布川拓也「基本　線形代数」(サイエンス社)

渡部隆一「マルコフ・チェーン」(共立出版)　入手困難

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 40 ＃7(第7回)に実施する最終試験(40点満点)の得点を成績評価に用いる。

平常点評価: 60 ＃1(第1回)から＃6(第6回)まで毎回実施するドリル(各回6点満点)と小テスト(各回4点満点)の得点を成績評価に用いる。詳細は履修登録後にWM本科目内にある「ガイダンス資料」を確認すること。

備考・関連URL: 本学の定める当該クォーター授業開始日の00:00ちょうどから＃1(第1回)が スタートし、当該クォーター授業終了日の23:55ちょうどに最終試験が終了する (日時はすべて日本標準時(JST)である)。
詳しい授業スケジュールについては、下記関連資料(授業カレンダー)を参照のこと(MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない)。

数学基礎プラスシリーズの2026年度・秋クォーターについては、授業終了日を(大学の定める授業終了日より1日延長して)2026年11月22日(日)とする。
従って、最終試験の解答提出期限は 2026年11月22日(日) 23:55 である。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000011|01|9S02000011[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to University Mathematics (Calculating Interest) A 01		
担 当 教 員	曽布川 拓也		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： We treat several mathematical topics to calculate simple/compounded interest.

授業の到達目標：
1) Calculating exponential, logarithm and series.
2) Understanding the limit of sequence and series.
3) Applying those mathematical tools to simple and compounded interest

事前・事後学習の内容：
Any mathematical questions are welcome in the office hour of the instructor, opened at the room 208, Math and Stat center, Bldg No.3, Waseda Main Campus.
The Schedule is given on the Moodle site.

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Power and Exponential
Definitions and calculation of power function and exponential function.

Logarithm
Definitions and calculation of logarithm

Sequence and Series
Definitions and calculation of sequence and series. Arithmetric sequence/series, Geometric sequence/series

Binomial Theorem
Expansion of nth power of (a+b). The number of combinations and permutations.

Limits of Series/Sequences
Definitions and calculation of limits of sequence/series.

Money Profit(1) simple interest and compounded interest
Definitions and calculation of simple and compounded interest. Account balance

Money Profit(2) compound interest and continuously compounded interest
Definitions and calculation of continuously compounded interest.

言語区分： 0 英語 English

教科書： There is no text book. The instructor recommends to take notes on the video-lectures.

参考文献： Y.Kuang and E. Kase: Pre-Calculus for dummies, Wiley

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 30 Final examination.
To calculate exponential, logarithm, sequence, series and interests.
30pt.

平常点評価： 70 On each lecture, you can get 8 pts with drill. You can try many times as you like. With quiz, 2 pts, you can try only once.
So, at most, you can get 10 points.

備考・関連URL： 文部科学省が定める高等学校学習指導要領に沿った数学教育を受けたことがある場合には、日本語版の「数学基礎プラスα（金利編）」を受講してください。
This course is scheduled in JST (Japan Standard Time).

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000011|02|9S02000011[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to University Mathematics (Calculating Interest) A 02		
担 当 教 員	曽布川 拓也		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： We treat several mathematical topics to calculate simple/compounded interest.

授業の到達目標：
1) Calculating exponential, logarithm and series.
2) Understanding the limit of sequence and series.
3) Applying those mathematical tools to simple and compounded interest

事前・事後学習の内容：
Any mathematical questions are welcome in the office hour of the instructor, opened at the room 208, Math and Stat center, Bldg No.3, Waseda Main Campus.
The Schedule is given on the moodle site.

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Power and Exponential
Definitions and calculation of power function and exponential function.

Logarithm
Definitions and calculation of logarithm

Sequence and Series
Definitions and calculation of sequence and series. Arithmetric sequence/series, Geometric sequence/series

Binomial Theorem
Expansion of nth power of (a+b). The number of combinations and permutations.

Limits of Series/Sequences
Definitions and calculation of limits of sequence/series.

Money Profit(1) simple interest and compounded interest
Definitions and calculation of simple and compounded interest. Account balance

Money Profit(2) compound interest and continuously compounded interest
Definitions and calculation of continuously compounded interest.

言語区分： 0 英語 English

教科書： There is no text book. The instructor recommends to take notes on the video-lectures.

参考文献： Y.Kuang and E. Kase: Pre-Calculus for dummies, Wiley

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 30 Final examination.
To calculate exponential, logarithm, sequence, series and interests.
30pt.

平常点評価： 70 On each lecture, you can get 8 pts with drill. You can try many times as you like. With quiz, 2 pts, you can try only once.
So, at most, you can get 10 points.

備考・関連URL： 文部科学省が定める高等学校学習指導要領に沿った数学教育を受けたことがある場合には、日本語版の「数学基礎プラスα（金利編）」を受講してください。
This course is scheduled in JST (Japan Standard Time).

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000012|01|9S02000012[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to University Mathematics (Calculating Interest) B 01		
担 当 教 員	曽布川 拓也		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： We treat several mathematical topics to calculate simple/compounded interest.

授業の到達目標： 1) Understanding recursive relation of series and difference equation.
2) Understanding the limit of sequence and series.
3) Applying those mathematical tools to installment deposit and loan.

事前・事後学習の内容： Any mathematical questions are welcome in the office hour of the instructor, opened at the room 208, Math and Stat center, Bldg No.3, Waseda Main Campus.
The Schedule is given on the moodle site.

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Application to install deposit
Apply the mathematical technique in the former lecture to calculate install deposit.
Function
Study of some definitions related to mathematical function. Limit, continuity and approximation.
Recursive relation of sequence
Recursive relations of sequence. Arithmetic sequence and geometric sequence.
Difference equations
Recursive relation of sequence, general case.
Mathematics on Loan(1)
Acount balance of loan.
Mathematics on Loan(2)
Loan repayment
Final Examination
Final Examination

言語区分： 0 英語 English

教科書： There is no text book. The instructor recommends to take notes on the video-lectures.

参考文献： Y.Kuang and E. Kase: Pre-Calculus for dummies, Wiley

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 40 To calculate diffenrence equations, exponential, logarithm, sequence, series to consider installment deposit and loan.
40pt.

平常点評価： 60 On each lecture, you can get 8 pts with drill. You can try many times as you like. With quiz, 2 pts, you can try only once.
So, at most, you can get 10 points.

備考・関連URL： 文部科学省が定める高等学校学習指導要領に沿った数学教育を受けたことがある場合には、日本語版の「数学基礎プラスβ（金利編）」を受講してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000012|02|9S02000012[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to University Mathematics (Calculating Interest) B 02		
担 当 教 員	曽布川 拓也		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： We treat several mathematical topics to calculate simple/compounded interest.

授業の到達目標： 1) Understanding recursive relation of series and difference equation.
2) Understanding the limit of sequence and series.
3) Applying those mathematical tools to installment deposit and loan.

事前・事後学習の内容： Any mathematical questions are welcome in the office hour of the instructor, opened at the room 208, Math and Stat center, Bldg No.3, Waseda Main Campus.
The Schedule is given on the moodle site.

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Application to install deposit
Apply the mathematical technique in the former lecture to calculate install deposit.
Function
Study of some definitions related to mathematical function. Limit, continuity and approximation.
Recursive relation of sequence
Recursive relations of sequence. Arithmetic sequence and geometric sequence.
Difference equations
Recursive relation of sequence, general case.
Mathematics on Loan(1)
Acount balance of loan.
Mathematics on Loan(2)
Loan repayment
Final Examination
Final Examination

言語区分： 0 英語 English

教科書： There is no text book. The instructor recommends to take notes on the video-lectures.

参考文献： Y.Kuang and E. Kase: Pre-Calculus for dummies, Wiley

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 40 To calculate diffenrence equations, exponential, logarithm, sequence, series to consider installment deposit and loan.
40pt.

平常点評価： 60 On each lecture, you can get 8 pts with drill. You can try many times as you like. With quiz, 2 pts, you can try only once.
So, at most, you can get 10 points.

備考・関連URL： 文部科学省が定める高等学校学習指導要領に沿った数学教育を受けたことがある場合には、日本語版の「数学基礎プラスβ（金利編）」を受講してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000013|01|9S02000013[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to University Mathematics (Optimization Problem) A 01		
担 当 教 員	曽布川 拓也		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： The goal of this course is the simplex method for maximum problem in linear programming.
So, we treat the system of linear equations, linear inequalities and the calculation of matrix.

授業の到達目標： Solving maximum problem in linear programming by graph.
Solving maximum problem in linear programming with simplex method.

事前・事後学習の内容： Any mathematical questions are welcome in the office hour of the instructor, opened at the room 208, Math and Stat center, Bldg No.3, Waseda Main Campus.
The Schedule is given on the moodle site.

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Definition of matrix
Definition of matrix and its linear operation
Multiplication of matrix
Defintion of the multiplication of matrix
System of linear equations
System of linear equations, its expression by matrix and augmented matrix.Sweeping out method

Theory of linear equations
row echelon form of augmented matrix
Maximum problem (1) Solving with graph
Solving Maximum problem with graph of linear equation and inequalities.
Maximum problem (2) Solving with simplex method
Introduction to simplex method on linear programming.
Final exam
Final exam

言語区分： 0 英語 English

教科書： There is no text book. The instructor recommends to take notes on the video-lectures.

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 40 Final examination. 40pt.

平常点評価： 60 On each lecture, you can get 8 pts with drill. You can try many times as you like.
With quiz, 2 pts, you can try only once.
So, at most, you can get 10 points.

備考・関連URL： This course is scheduled in JST (Japan Standard Time).

Any mathematical questions are welcome in the office hour of the instructor, opened at the room 208, Math and Stat center, Bldg No.3, Waseda Main Campus.
The Schedule is given on the moodle site.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000013|02|9S02000013[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to University Mathematics (Optimization Problem) A 02		
担 当 教 員	曽布川 拓也		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： The goal of this course is the simplex method for maximum problem in linear programming.
So, we treat the system of linear equations, linear inequalities and the calculation of matrix.

授業の到達目標： Solving maximum problem in linear programming by graph.
Solving maximum problem in linear programming with simplex method.

事前・事後学習の内容： Any mathematical questions are welcome in the office hour of the instructor, opened at the room 208, Math and Stat center, Bldg No.3, Waseda Main Campus.
The Schedule is given on the moodle site.

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Definition of matrix
Definition of matrix and its linear operation
Multiplication of matrix
Defintion of the multiplication of matrix
System of linear equations
System of linear equations, its expression by matrix and augmented matrix.Sweeping out method

Theory of linear equations
row echelon form of augmented matrix
Maximum problem (1) Solving with graph
Solving Maximum problem with graph of linear equation and inequalities.
Maximum problem (2) Solving with simplex method
Introduction to simplex method on linear programming.
Final exam
Final exam

言語区分： 0 英語 English

教科書： There is no text book. The instructor recommends to take notes on the video-lectures.

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 40 Final examination. 40pt.

平常点評価： 60 On each lecture, you can get 8 pts with drill. You can try many times as you like.
With quiz, 2 pts, you can try only once.
So, at most, you can get 10 points.

備考・関連URL： This course is scheduled in JST (Japan Standard Time).

Any mathematical questions are welcome in the office hour of the instructor, opened at the room 208, Math and Stat center, Bldg No.3, Waseda Main Campus.
The Schedule is given on the moodle site.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000014|01|9S02000014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to University Mathematics (Optimization Problem) B 01		
担 当 教 員	曽布川 拓也		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: The goal of this course is the simplex method for maximum/minimum problem in linear programming.
So, we treat the system of linear equations, linear inequalities and the calculation of matrix and determinant.

授業の到達目標: 1) Solving maximum/minimum problem in linear programming with simplex method.
2) Solving minimum problem in linear programming with dual method.

事前・事後学習の内容: In this course, we use the following:
1. Definition of Matrix, addition, scalar multiplication and multiplication of two matrices.
2. Simplex method on linear programming.

So, it is strongly recommended that you have learned in the course
Introduction to University Mathematics(Optimization probem) A
before this course.

Any mathematical questions are welcome in the office hour of the instructor, opened at the room 208, Math and Stat center, Bldg No.3, Waseda Main Campus.
The Schedule is given on the moodle site.

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

System of linear equations

System of linear equations, its expression by matrix and augmented matrix.Sweeping out method

Rank of matrix

Structure of the system of linear equations

Inverse matrix and determinant

Inverse matrix and determinant (2×2).Sweeping out method for row echelon form and inverse matrix, Their application to simultaneous linear equations

Maximum problem: Estimation of slack variable

Application of simplex method to general problem.

Minimum problem with simplex method

Two-phase simplex method for minimum problem

Minimum problem with duality method

Duality method for minimum problem

Final Exam

Final Exam

言語区分: 0 英語 English

教科書: There is no text book. The instructor recommends to take notes on the video-lectures.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 Final examination. 30pt.

平常点評価: 60 On each lecture, you can get 8 pts with drill. You can try many times as you like.
With quiz, 2 pts, you can try only once.
So, at most, you can get 10 points.

備考・関連URL：　This course is scheduled in JST (Japan Standard Time).

Any mathematical questions are welcome in the office hour of the instructor, opened at the room 208, Math and Stat center, Bldg No.3, Waseda Main Campus.
The Schedule is given on the moodle site.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000014|02|9S02000014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to University Mathematics (Optimization Problem) B 02		
担 当 教 員	曽布川 拓也		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: The goal of this course is the simplex method for maximum/minimum problem in linear programming.
So, we treat the system of linear equations, linear inequalities and the calculation of matrix and determinant.

授業の到達目標: 1) Solving maximum/minimum problem in linear programming with simplex method.
2) Solving minimum problem in linear programming with dual method.

事前・事後学習の内容: In this course, we use the following:
1. Definition of Matrix, addition, scalar multiplication and multiplication of two matrices.
2. Simplex method on linear programming.

So, it is strongly recommended that you have learned in the course
Introduction to University Mathematics(Optimization probem) A
before this course.

Any mathematical questions are welcome in the office hour of the instructor, opened at the room 208, Math and Stat center, Bldg No.3, Waseda Main Campus.
The Schedule is given on the moodle site.

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

System of linear equations

System of linear equations, its expression by matrix and augmented matrix.Sweeping out method

Rank of matrix

Structure of the system of linear equations

Inverse matrix and determinant

Inverse matrix and determinant (2×2).Sweeping out method for row echelon form and inverse matrix, Their application to simultaneous linear equations

Maximum problem: Estimation of slack variable

Application of simplex method to general problem.

Minimum problem with simplex method

Two-phase simplex method for minimum problem

Minimum problem with duality method

Duality method for minimum problem

Final Exam

Final Exam

言語区分: 0 英語 English

教科書: There is no text book. The instructor recommends to take notes on the video-lectures.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 Final examination. 30pt.

平常点評価: 60 On each lecture, you can get 8 pts with drill. You can try many times as you like.
With quiz, 2 pts, you can try only once.
So, at most, you can get 10 points.

備考・関連URL：　This course is scheduled in JST (Japan Standard Time).

Any mathematical questions are welcome in the office hour of the instructor, opened at the room 208, Math and Stat center, Bldg No.3, Waseda Main Campus.
The Schedule is given on the moodle site.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000101|02|9S02000101[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	視覚的に捉える群論入門 02		
担 当 教 員	高木 悟		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

★ 本科目の02クラス（夏クォーター設置）・04クラス（冬クォーター設置）は同一の内容です.
1つしか履修できません. 01クラス（春クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）はありません.

★ 本科目と英語科目「Amida-Kuji Game and Mathematics」の両方を履修することはできません.

本科目は, Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である.
このシラバスに記載されているすべての事項をよく読み, 理解した上で履修登録すること.

群論 (group theory) は, 代数学の一分野で, 方程式の解の公式の研究が起源とされている.
方程式の解と係数の関係から対称性が見いだされ, この対称性のもつ構造を取り出したものが群である.
群論, つまり対称性の理論を用いることで, 複雑なものを分類整理し簡略化することができるため, 数学だけでなく様々な分野で利用されている.
例えば, 物理学における回転操作や量子力学における角運動量, 統計力学における相転移, 化学における分子結晶解析, 経済学における互酬性, 言語学における多言語比較などで群論が用いられている.
本科目では群の歴史から話を始め, 群の理論を「あみだくじ」「15ゲーム」「ルービックキューブ」などを用いて視覚的に捉えていき, 徐々にその本質に迫っていく.

★ GEC数学ウェブサイト https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく, 受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

授業の到達目標:

集合や写像などの数学の基礎知識を修得すること.
群のもつ基本性質と数学的構造を理解すること.

事前・事後学習の内容:

【初回授業前】 WMの本科目・クラス内で公開している「早大GEC 暗号/群論/結び目（担当：高木）共通ガイダンス（2026）」（以下「共通ガイダンス」と表記）をよく読み, 理解する.
【事前学習】 次回扱う単元について, 1週間前に公開される授業プリントと教科書を読み, 疑問点をまとめておく.
【事後学習】 授業で扱った単元と例題を復習し, 授業プリント内の問題をもう一度解く. また, 教科書の指定された例を確認し, 問を解く.
毎回合計で4時間程度かかると想定される.

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

＃1. 群の歴史と用語の準備
群の歴史的背景を解説し, 数の概念や集合・命題などの数学用語を紹介する. （教科書 1.1～1.4, 2.1～2.3節）

＃2. 写像
写像の定義からはじめ, 単射・全射・全単射などの特殊な写像についても紹介する. （教科書 2.4～2.7節）

＃3. 置換とあみだくじ
あみだくじを用いて置換を視覚的に捉え, あみだくじ全体からなる集合のもつ性質を調べる. （教科書 2.8節）

＃4. 群の定義
15ゲームについて考察し, 群を定義する. 群の具体例も紹介する. （教科書 2.9, 3.1～3.3節）

＃5. 部分群
群の基本性質を調べる. 巡回群の例としてルービックキューブを考える. 部分群を定義する. （教科書 2.10, 3.4, 3.6節）

＃6. コーシー・ラグランジュの定理
部分群かどうかを判定する定理を考える. 集合のクラス分けを用いて同値関係を導入し, コーシー・ラグランジュの定理を導く. （教科書 3.3～3.4, 3.7節）

＃7. 準同型定理
コーシー・ラグランジュの定理から，フェルマーの小定理を導く．また，2つの群の関係を調べるために準同型定理を紹介する．（教科書 3.8～3.11節）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「群論への途」 遠藤直樹・高木悟著 共立出版
※この本を持っていることを前提に授業を進める．

また，授業に沿ったワークシート形式の授業プリント（PDFファイル）をWMにアップする．ワークシート形式なので，ビデオ講義を視聴しながら書き込めるようになっている．ただし，必要最小限しか記載しないので，教科書の関連する項目を適宜参照し，また教科書内の問題を解いて，理解を深めてほしい．

参考文献: (1)「理工系のための基礎数学 [改訂増補版]」 高木悟・長谷川研二・熊ノ郷直人共著 培風館
(2)「理工系のための線形代数 [改訂版]」 高木悟・長谷川研二・熊ノ郷直人・菊田伸・森澤貴之共著 培風館
※初版（2016年発行）と改訂版（2018年発行）があるが，改訂版の方が写像などの話も載っていて便利である．
(3)「代数学1 群論入門 [第2版]」 雪江明彦著 日本評論社

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 36 ＃1から＃6まで毎回WMで実施する「試験」の得点（1回6点満点で合計36点満点）を成績評価に用いる．

「試験」についての補足:
・以下の「平常点評価」に記されている「理解度チェック」の類題が主であり，本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期間内に一度だけ受験可能である．
・制限時間は設けておらず，一時保存も可能であるが，本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期限までに提出する必要がある．
・得点・結果は公開しない（フルオンデマンド形式であることから，不正行為等防止のため，公開しないことにしている．各単元の復習や理解度の確認は「理解度チェック」で可能である）．
・＃7（最終回）は「試験」はない（最終試験もない）．

平常点評価: 64 ＃1から＃6まで毎回WMで実施する「理解度チェック」の得点（1回8点満点で合計48点満点）と，＃1から＃7までの「レビューシート」の提出（合計16点満点に換算）を成績評価に用いる．

「理解度チェック」についての補足:
・本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期間内であれば何度も受験可能で，その中の最高点を得点として採用する．
・解答直後に，各問について正解か不正解かが分かり（ただし，正答は表示されない），得点も表示されるため，間違えた箇所を復習することで，満点を取ることが可能である．
・制限時間は設けておらず，一時保存も可能であるが，本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期限までに提出する必要がある．
・＃7（最終回）は「理解度チェック」はない．

「レビューシート」についての補足:
・本科目・クラスの授業カレンダーに示された回答期間内であれば，何度も提出可能である．
・制限時間は設けておらず，一時保存も可能であるが，本科目・クラスの授業カレンダーに示された回答期限までに提出する必要がある．
・設問に条件（例えば，100字以上の字数制限など）があれば，それを満たす必要がある．

成績評価方法の詳細は，履修登録後に，WMの本科目・クラス内にアップしている共通ガイダンスを参照のこと．

備考・関連URL: 本科目の授業スケジュールは，本学の定める当該クォーター授業開始日の 00:00 ちょうどから＃1がスタートし，当該クォーター授業終了日の 23:55 ちょうどに＃7が終了する（日時はすべて日本標準時(JST)である）．
詳しい授業スケジュールについては，下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）．

★ GECの数学基礎プラスシリーズとは異なるスケジュール・成績評価方法なので注意すること．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000101|04|9S02000101[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	視覚的に捉える群論入門 04		
担 当 教 員	高木 悟		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

★ 本科目の02クラス（夏クォーター設置）・04クラス（冬クォーター設置）は同一の内容です.
1つしか履修できません. 01クラス（春クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）はありません.

★ 本科目と英語科目「Amida-Kuji Game and Mathematics」の両方を履修することはできません.

本科目は, Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である.
このシラバスに記載されているすべての事項をよく読み, 理解した上で履修登録すること.

群論 (group theory) は, 代数学の一分野で, 方程式の解の公式の研究が起源とされている.
方程式の解と係数の関係から対称性が見いだされ, この対称性のもつ構造を取り出したものが群である.
群論, つまり対称性の理論を用いることで, 複雑なものを分類整理し簡略化することができるため, 数学だけでなく様々な分野で利用されている.
例えば, 物理学における回転操作や量子力学における角運動量, 統計力学における相転移, 化学における分子結晶解析, 経済学における互酬性, 言語学における多言語比較などで群論が用いられている.
本科目では群の歴史から話を始め, 群の理論を「あみだくじ」「15ゲーム」「ルービックキューブ」などを用いて視覚的に捉えていき, 徐々にその本質に迫っていく.

★ GEC数学ウェブサイト https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく, 受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

授業の到達目標:

集合や写像などの数学の基礎知識を修得すること.
群のもつ基本性質と数学的構造を理解すること.

事前・事後学習の内容:

【初回授業前】 WMの本科目・クラス内で公開している「早大GEC 暗号/群論/結び目（担当：高木）共通ガイダンス（2026）」（以下「共通ガイダンス」と表記）をよく読み, 理解する.
【事前学習】 次回扱う単元について, 1週間前に公開される授業プリントと教科書を読み, 疑問点をまとめておく.
【事後学習】 授業で扱った単元と例題を復習し, 授業プリント内の問題をもう一度解く. また, 教科書の指定された例を確認し, 問を解く.
毎回合計で4時間程度かかると想定される.

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

＃1. 群の歴史と用語の準備
群の歴史的背景を解説し, 数の概念や集合・命題などの数学用語を紹介する. （教科書 1.1～1.4, 2.1～2.3節）

＃2. 写像
写像の定義からはじめ, 単射・全射・全単射などの特殊な写像についても紹介する. （教科書 2.4～2.7節）

＃3. 置換とあみだくじ
あみだくじを用いて置換を視覚的に捉え, あみだくじ全体からなる集合のもつ性質を調べる. （教科書 2.8節）

＃4. 群の定義
15ゲームについて考察し, 群を定義する. 群の具体例も紹介する. （教科書 2.9, 3.1～3.3節）

＃5. 部分群
群の基本性質を調べる. 巡回群の例としてルービックキューブを考える. 部分群を定義する. （教科書 2.10, 3.4, 3.6節）

＃6. コーシー・ラグランジュの定理
部分群かどうかを判定する定理を考える. 集合のクラス分けを用いて同値関係を導入し, コーシー・ラグランジュの定理を導く. （教科書 3.3～3.4, 3.7節）

＃7. 準同型定理
コーシー・ラグランジュの定理から，フェルマーの小定理を導く．また，2つの群の関係を調べるために準同型定理を紹介する．（教科書 3.8～3.11節）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「群論への途」 遠藤直樹・高木悟著 共立出版
※この本を持っていることを前提に授業を進める．

また，授業に沿ったワークシート形式の授業プリント（PDFファイル）をWMにアップする．ワークシート形式なので，ビデオ講義を視聴しながら書き込めるようになっている．ただし，必要最小限しか記載しないので，教科書の関連する項目を適宜参照し，また教科書内の問題を解いて，理解を深めてほしい．

参考文献: (1)「理工系のための基礎数学 [改訂増補版]」 高木悟・長谷川研二・熊ノ郷直人共著 培風館
(2)「理工系のための線形代数 [改訂版]」 高木悟・長谷川研二・熊ノ郷直人・菊田伸・森澤貴之共著 培風館
※初版（2016年発行）と改訂版（2018年発行）があるが，改訂版の方が写像などの話も載っていて便利である．
(3)「代数学1 群論入門 [第2版]」 雪江明彦著 日本評論社

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 36 ＃1から＃6まで毎回WMで実施する「試験」の得点（1回6点満点で合計36点満点）を成績評価に用いる．

「試験」についての補足:
・以下の「平常点評価」に記されている「理解度チェック」の類題が主であり，本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期間内に一度だけ受験可能である．
・制限時間は設けておらず，一時保存も可能であるが，本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期限までに提出する必要がある．
・得点・結果は公開しない（フルオンデマンド形式であることから，不正行為等防止のため，公開しないことにしている．各単元の復習や理解度の確認は「理解度チェック」で可能である）．
・＃7（最終回）は「試験」はない（最終試験もない）．

平常点評価: 64 ＃1から＃6まで毎回WMで実施する「理解度チェック」の得点（1回8点満点で合計48点満点）と，＃1から＃7までの「レビューシート」の提出（合計16点満点に換算）を成績評価に用いる．

「理解度チェック」についての補足:
・本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期間内であれば何度も受験可能で，その中の最高点を得点として採用する．
・解答直後に，各問について正解か不正解かが分かり（ただし，正答は表示されない），得点も表示されるため，間違えた箇所を復習することで，満点を取ることが可能である．
・制限時間は設けておらず，一時保存も可能であるが，本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期限までに提出する必要がある．
・＃7（最終回）は「理解度チェック」はない．

「レビューシート」についての補足:
・本科目・クラスの授業カレンダーに示された回答期間内であれば，何度も提出可能である．
・制限時間は設けておらず，一時保存も可能であるが，本科目・クラスの授業カレンダーに示された回答期限までに提出する必要がある．
・設問に条件（例えば，100字以上の字数制限など）があれば，それを満たす必要がある．

成績評価方法の詳細は，履修登録後に，WMの本科目・クラス内にアップしている共通ガイダンスを参照のこと．

備考・関連URL: 本科目の授業スケジュールは，本学の定める当該クォーター授業開始日の 00:00 ちょうどから＃1がスタートし，当該クォーター授業終了日の 23:55 ちょうどに＃7が終了する（日時はすべて日本標準時(JST)である）．
詳しい授業スケジュールについては，下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000102|01|9S02000102[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	素数の魅力と暗号理論 O1		
担 当 教 員	高木 悟		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

★ 本科目のO1クラス（春クォーター設置）・O3クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です．
1つしか履修できません． O2クラス（夏クォーター設置）・O4クラス（冬クォーター設置）はありません．

★ 本科目と英語科目「Cryptography and Mathematics」の両方を履修することはできません．

本科目は，Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である．
このシラバスに記載されているすべての事項をよく読み，理解した上で履修登録すること．

本科目では，代数学の一分野である初等整数論（elementary number theory）の基礎として，整数の性質，ユークリッドの互除法，1次不定方程式，素数の性質，合同式，オイラー関数，フェルマーの小定理を順に説明し，素数を用いたRSA暗号理論を解説する．
実際に，暗号化するための鍵を作ってメッセージを暗号化したり，復号する（暗号文を元のメッセージに戻す）ための鍵を作って暗号文を復号したりすることで理解を深めるとともに，弱点を知って解読（復号する鍵を使わずに暗号文から元のメッセージを得ること）を試みることで，暗号の安全性についても考察する．
定理の証明は教科書に記載されているが，そのうち重要な定理については最終回の＃7（第7回）にまとめて証明する．ただし，これらの証明のビデオ講義については，本科目の授業期間中いつでも視聴できるように設定しておく．
まずは，定理を（証明せずに）用いて具体的な問題が解けるようになることを優先する．
予備知識としては，中学程度の数学で十分であるが，理解するのが簡単だということではない．

★ GEC数学ウェブサイト https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく，受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★ 科目登録3次登録者は，登録結果の発表前にWMにエクスターナルユーザとして登録され受講できるようになるので，登録されたら速やかに＃1（第1回）と＃2（第2回）を受講してください．すでに授業は始まっており，＃1と＃2の試験等の解答提出期限まであまり時間がありません．
3次登録する場合は，このことを了解の上で履修登録してください．

授業の到達目標：

初等整数論の基本となる素因数分解とその一意性，ユークリッドの互除法，合同式，フェルマーの小定理を理解すること．
素数を用いたRSA暗号の仕組みを理解すること．
RSA暗号理論を用いて，公開鍵（暗号化鍵）と秘密鍵（復号鍵）を作成し，メッセージの暗号化と暗号文の復号ができること．

事前・事後学習の内容：

【初回授業前】 WMの本科目・クラス内で公開している「早大GEC 暗号/群論/結び目（担当：高木）共通ガイダンス（2026）」（以下「共通ガイダンス」と表記）をよく読み，理解する．
【事前学習】 次回扱う単元について，1週間前に公開される授業プリントと教科書を読み，疑問点をまとめておく．
【事後学習】 授業で扱った単元と例題を復習し，授業プリント内の問題をもう一度解く．また，教科書の指定された問題を解く．
毎回合計で4時間程度かかると想定される．

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

＃1．暗号の仕組みと整数の基本性質

まず，いろいろな暗号を紹介し，それぞれの仕組みを簡単に解説する．その後，RSA暗号理論を理解するために必要な数学を＃5まで順に解説するが，まずは整数の四則演算（加算・減算・乗算・除算）に関する基本的な性質を考察する．（教科書 7.1～7.3, 1.1節）

＃2．ユークリッドの互除法

2つ以上の整数の最大公約数を効率よく求めるアルゴリズムであるユークリッドの互除法について解説する．（教科書 1.2, 2.1節）

＃3．1次不定方程式の解法と素数の基本性質

係数も解も整数である1次不定方程式の性質を調べ，解法を考える．また，整数が素数の積にただ1通りに分解できること（素因数分解の一意性）など，素数に関する基本的な性質を紹介する．（教科書 2.2, 3.1～3.2節）

＃4．合同式

合同式の概念を導入し，時計やJR山手線など，日常にある合同式の例に触れながら，その基本的な性質を解説する．（教科書 4.1～4.4節）

＃5．オイラー関数とフェルマーの小定理

オイラー関数を導入し，その基本的な性質を解説する．また，フェルマーの小定理を解説し，具体的な応用例を紹介する．（教科書 5.1～5.3, 6.1～6.3節）

＃6．RSA暗号理論

RSA暗号の理論を解説し，実際に公開鍵（暗号化鍵）を作ってメッセージを暗号化したり，秘密鍵（復号鍵）を作って暗号文を復号したりする．また，RSA暗号の弱点を知り，解読を試みることで，RSA暗号の安全性について考察する．（教科書 7.3節）

＃7．重要な定理の証明

本科目で今までに扱った定理のうち，重要なものを証明する．（教科書 1.1～7.3節）

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：「整数論体験入門」 野口和範著　共立出版
※この本を持っていることを前提に授業を進める．

授業に沿ったワークシート形式の授業プリント（PDFファイル）をWMにアップする．ワークシート形式なので，ビデオ講義を視聴しながら書き込めるようになっている．ただし，必要最小限しか記載しないので，教科書の関連する項目を適宜参照し，また教科書内の問題を解いて，理解を深めてほしい．

参考文献：(1)「初等整数論講義第2版」 高木貞治著　共立出版
(2)「整数論1　初等整数論からp進数へ」 雪江明彦著　日本評論社

成績評価フリー入力サイン：0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：36　＃1から＃6まで毎回WMで実施する「試験」の得点（1回6点満点で合計36点満点）を成績評価に用いる．

「試験」についての補足：
・以下の「平常点評価」に記されている「理解度チェック」の類題が主であり，本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期間内に一度だけ受験可能である．
・制限時間は設けておらず，一時保存も可能であるが，本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期限までに提出する必要がある．
・得点・結果は公開しない（フルオンデマンド形式であることから，不正行為等防止のため，公開しないことにしている．各単元の復習や理解度の確認は「理解度チェック」で可能である）．
・＃7（最終回）は「試験」はない（最終試験もない）．

平常点評価：64　＃1から＃6まで毎回WMで実施する「理解度チェック」の得点（1回8点満点で合計48点満点）と，＃1から＃7までの「レビューシート」の提出（合計16点満点に換算）を成績評価に用いる．

「理解度チェック」についての補足：
・本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期間内であれば何度も受験可能で，その中の最高点を得点として採用する．
・解答直後に，各問について正解か不正解かが分かり（ただし，正答は表示されない），得点も表示されるため，間違えた箇所を復習することで，満点を取ることが可能である．
・制限時間は設けておらず，一時保存も可能であるが，本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期限までに提出する必要がある．
・＃7（最終回）は「理解度チェック」はない．

「レビューシート」についての補足：
・本科目・クラスの授業カレンダーに示された回答期間内であれば，何度も提出可能である．
・制限時間は設けておらず，一時保存も可能であるが，本科目・クラスの授業カレンダーに示された回答期限までに提出する必要がある．
・設問に条件（例えば，100字以上の字数制限など）があれば，それを満たす必要がある．

成績評価方法の詳細は，履修登録後に，WMの本科目・クラス内にアップしている共通ガイダンスを参照のこと．

備考・関連URL：本科目の授業スケジュールは，本学の定める当該クォーター授業開始日の 00:00 ちょうどから＃1がスタートし，当該クォーター授業終了日の 23:55 ちょうどに＃7が終了する（日時はすべて日本標準時(JST)である）．
詳しい授業スケジュールについては，下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）．

★ GECの数学基礎プラスシリーズとは異なるスケジュール・成績評価方法なので注意すること.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000102|03|9S02000102[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	素数の魅力と暗号理論 03		
担 当 教 員	高木 悟		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

★ 本科目の01クラス（春クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）は同一の内容です．
1つしか履修できません． 02クラス（夏クォーター設置）・04クラス（冬クォーター設置）はありません．

★ 本科目と英語科目「Cryptography and Mathematics」の両方を履修することはできません．

本科目は，Waseda Moodle（以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である．
このシラバスに記載されているすべての事項をよく読み，理解した上で履修登録すること．

本科目では，代数学の一分野である初等整数論（elementary number theory）の基礎として，整数の性質，ユークリッドの互除法，1次不定方程式，素数の性質，合同式，オイラー関数，フェルマーの小定理を順に説明し，素数を用いたRSA暗号理論を解説する．
実際に，暗号化するための鍵を作ってメッセージを暗号化したり，復号する（暗号文を元のメッセージに戻す）ための鍵を作って暗号文を復号したりすることで理解を深めるとともに，弱点を知って解読（復号する鍵を使わずに暗号文から元のメッセージを得ること）を試みることで，暗号の安全性についても考察する．
定理の証明は教科書に記載されているが，そのうち重要な定理については最終回の＃7（第7回）にまとめて証明する．ただし，これらの証明のビデオ講義については，本科目の授業期間中いつでも視聴できるように設定しておく．
まずは，定理を（証明せずに）用いて具体的な問題が解けるようになることを優先する．
予備知識としては，中学程度の数学で十分であるが，理解するのが簡単だということではない．

★ GEC数学ウェブサイト https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく，受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

★ 科目登録3次登録者は，登録結果の発表前にWMにエクスターナルユーザとして登録され受講できるようになるので，登録されたら速やかに＃1（第1回）と＃2（第2回）を受講してください．すでに授業は始まっており，＃1と＃2の試験等の解答提出期限まであまり時間がありません．
3次登録する場合は，このことを了解の上で履修登録してください．

授業の到達目標：

初等整数論の基本となる素因数分解とその一意性，ユークリッドの互除法，合同式，フェルマーの小定理を理解すること．
素数を用いたRSA暗号の仕組みを理解すること．
RSA暗号理論を用いて，公開鍵（暗号化鍵）と秘密鍵（復号鍵）を作成し，メッセージの暗号化と暗号文の復号ができること．

事前・事後学習の内容：

【初回授業前】 WMの本科目・クラス内で公開している「早大GEC 暗号/群論/結び目（担当：高木）共通ガイダンス（2026）」（以下「共通ガイダンス」と表記）をよく読み，理解する．
【事前学習】 次回扱う単元について，1週間前に公開される授業プリントと教科書を読み，疑問点をまとめておく．
【事後学習】 授業で扱った単元と例題を復習し，授業プリント内の問題をもう一度解く．また，教科書の指定された問題を解く．
毎回合計で4時間程度かかると想定される．

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

＃1．暗号の仕組みと整数の基本性質

まず，いろいろな暗号を紹介し，それぞれの仕組みを簡単に解説する．その後，RSA暗号理論を理解するために必要な数学を＃5まで順に解説するが，まずは整数の四則演算（加算・減算・乗算・除算）に関する基本的な性質を考察する．（教科書 7.1～7.3, 1.1節）

＃2．ユークリッドの互除法

2つ以上の整数の最大公約数を効率よく求めるアルゴリズムであるユークリッドの互除法について解説する．（教科書 1.2, 2.1節）

＃3．1次不定方程式の解法と素数の基本性質

係数も解も整数である1次不定方程式の性質を調べ，解法を考える．また，整数が素数の積にただ1通りに分解できること（素因数分解の一意性）など，素数に関する基本的な性質を紹介する．（教科書 2.2, 3.1～3.2節）

＃4．合同式

合同式の概念を導入し，時計やJR山手線など，日常にある合同式の例に触れながら，その基本的な性質を解説する．（教科書 4.1～4.4節）

＃5．オイラー関数とフェルマーの小定理

オイラー関数を導入し，その基本的な性質を解説する．また，フェルマーの小定理を解説し，具体的な応用例を紹介する．（教科書 5.1～5.3, 6.1～6.3節）

＃6．RSA暗号理論

RSA暗号の理論を解説し，実際に公開鍵（暗号化鍵）を作ってメッセージを暗号化したり，秘密鍵（復号鍵）を作って暗号文を復号したりする．また，RSA暗号の弱点を知り，解読を試みることで，RSA暗号の安全性について考察する．（教科書 7.3節）

＃7．重要な定理の証明

本科目で今までに扱った定理のうち，重要なものを証明する．（教科書 1.1～7.3節）

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：「整数論体験入門」 野口和範著　共立出版
※この本を持っていることを前提に授業を進める．

授業に沿ったワークシート形式の授業プリント（PDFファイル）をWMにアップする．ワークシート形式なので，ビデオ講義を視聴しながら書き込めるようになっている．ただし，必要最小限しか記載しないので，教科書の関連する項目を適宜参照し，また教科書内の問題を解いて，理解を深めてほしい．

参考文献：(1)「初等整数論講義第2版」 高木貞治著　共立出版
(2)「整数論1　初等整数論からp進数へ」 雪江明彦著　日本評論社

成績評価フリー入力サイン：0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：36　＃1から＃6まで毎回WMで実施する「試験」の得点（1回6点満点で合計36点満点）を成績評価に用いる．

「試験」についての補足：
・以下の「平常点評価」に記されている「理解度チェック」の類題が主であり，本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期間内に一度だけ受験可能である．
・制限時間は設けておらず，一時保存も可能であるが，本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期限までに提出する必要がある．
・得点・結果は公開しない（フルオンデマンド形式であることから，不正行為等防止のため，公開しないことにしている．各単元の復習や理解度の確認は「理解度チェック」で可能である）．
・＃7（最終回）は「試験」はない（最終試験もない）．

平常点評価：64　＃1から＃6まで毎回WMで実施する「理解度チェック」の得点（1回8点満点で合計48点満点）と，＃1から＃7までの「レビューシート」の提出（合計16点満点に換算）を成績評価に用いる．

「理解度チェック」についての補足：
・本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期間内であれば何度も受験可能で，その中の最高点を得点として採用する．
・解答直後に，各問について正解か不正解かが分かり（ただし，正答は表示されない），得点も表示されるため，間違えた箇所を復習することで，満点を取ることが可能である．
・制限時間は設けておらず，一時保存も可能であるが，本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期限までに提出する必要がある．
・＃7（最終回）は「理解度チェック」はない．

「レビューシート」についての補足：
・本科目・クラスの授業カレンダーに示された回答期間内であれば，何度も提出可能である．
・制限時間は設けておらず，一時保存も可能であるが，本科目・クラスの授業カレンダーに示された回答期限までに提出する必要がある．
・設問に条件（例えば，100字以上の字数制限など）があれば，それを満たす必要がある．

成績評価方法の詳細は，履修登録後に，WMの本科目・クラス内にアップしている共通ガイダンスを参照のこと．

備考・関連URL：本科目の授業スケジュールは，本学の定める当該クォーター授業開始日の 00:00 ちょうどから＃1がスタートし，当該クォーター授業終了日の 23:55 ちょうどに＃7が終了する（日時はすべて日本標準時(JST)である）．
詳しい授業スケジュールについては，下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）．

本科目の2026年度・秋クォーターについては，授業終了日を（大学の定める授業終了日より1日延長して）2026年11月22日（日）とする.
従って，＃7が終了するのは 2026年11月22日（日） 23:55 である.

★ GECの数学基礎プラスシリーズとは異なるスケジュール・成績評価方法なので注意すること.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000103|01|9S02000103[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Amida-Kuji Game and Mathematics 01		
担 当 教 員	曽布川 拓也		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： Introduction to Group theory

授業概要： Amida-Kuji Game is an easiest example of Symmetric Group, one of most important mathematical structure. With such games, we introduce the Group theory.

授業の到達目標： Enjoying the structure of some groups.

事前・事後学習の内容： Any mathematical questions are welcome in the office hour of the instructor, opened at the room 208, Math and Stat center, Bldg No.3, Waseda Main Campus.
The Schedule is given on the moodle site.

授業計画フリー入力サイン： 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー： We treat the following topics:
Amida-Kuji Game and Symmetric group
15 Game and Alternating group
Definition of Group
Equivalence relation and Equivalence class
Quotient group
Cauchy-Lagrange theorem
Fermat's little theorem
Fundamental homomorphism theorem

言語区分： 0 英語 English

教科書：

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 40 The final exam are given online.

平常点評価： 60 In each lecture, drills and quiz are given and you can get 10 pts on Lect. 1 to 6.
In order to get the full score, you can try drill as many times as you like before the deadline.
You can try the quiz only once.
Instead of them, study reports are sometimes required.

備考・関連URL： グローバルエデュケーションセンター設置科目「視覚的に捉える群論入門」（遠藤直樹講師 or 高木悟教授担当）を履修した者の履修はお断りいたします。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000103|02|9S02000103[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Amida-Kuji Game and Mathematics 02		
担 当 教 員	曽布川 拓也		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： Introduction to Group theory

授業概要： Amida-Kuji Game is an easiest example of Symmetric Group, one of most important mathematical structure. With such games, we introduce the Group theory.

授業の到達目標： Enjoying the structure of some groups.

事前・事後学習の内容： Any mathematical questions are welcome in the office hour of the instructor, opened at the room 208, Math and Stat center, Bldg No.3, Waseda Main Campus.
The Schedule is given on the moodle site.

授業計画フリー入力サイン： 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー： We treat the following topics:
Amida-Kuji Game and Symmetric group
15 Game and Alternating group
Definition of Group
Equivalence relation and Equivalence class
Quotient group
Cauchy-Lagrange theorem
Fermat's little theorem
Fundamental homomorphism theorem

言語区分： 0 英語 English

教科書：

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 40 The final exam are given online.

平常点評価： 60 In each lecture, drills and quiz are given and you can get 10 pts on Lect. 1 to 6.
In order to get the full score, you can try drill as many times as you like before the deadline.
You can try the quiz only once.
Instead of them, study reports are sometimes required.

備考・関連URL： グローバルエデュケーションセンター設置科目「視覚的に捉える群論入門」（遠藤直樹講師 or 高木悟教授担当）を履修した者の履修はお断りいたします。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000104|02|9S02000104[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	結び目で見る数学の世界 −トポロジーへの招待− 02		
担 当 教 員	高木 悟		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

★ 本科目の02クラス（夏クォーター設置）・04クラス（冬クォーター設置）は同一の内容です.
1つしか履修できません. 01クラス（春クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）はありません.

本科目は, Waseda Moodle （以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である.
このシラバスに記載されているすべての事項をよく読み, 理解した上で履修登録すること.

結び目理論 (knot theory) は, 幾何学の一分野である「位相幾何学（トポロジー）」の, さらに一分野である.
結び目は, 例えば靴ひもやネクタイなど日常生活でも馴染みの深いものであるが, これらをどのように数学で扱うことができるのか, 中学高校で学んだ数学からはとても想像できないだろう.
本科目では, 受験数学では扱うことのない自由な数学に触れ, 様々な例題や未解決問題を通してその魅力を肌で感じてもらいたい.
また, 結び目理論の実社会への応用として, DNAや高分子化合物における結び目型の分子構造やその変化のメカニズムを解明しようとする試みの一端を紹介する.
なお,「ドーナツとコーヒーカップは同じ形である」という話は, 位相幾何学（トポロジー）ではあるものの, 結び目理論ではないので本科目内では証明しないが, おまけ動画として, いくつか位相幾何学（トポロジー）に関する話題やクイズを提供している.

本科目の前提知識として, 数と集合, 指数・累乗根, 指数法則を使った多項式の計算が必要となる.
これらの単元に自信がない場合は, 下記参考文献(3)を参照しながら, WMにアップしている補足ビデオ講義を事前に視聴しておくとよい.

また, 本科目では, 電子ノートと電子ペンが使える環境だとよりよい（結び目をかいて, コピーして, 一部を消してかきかえる, という操作が多い）.
実際にビデオ講義内でも, 電子ノートと電子ペンを使って解説している.

★ GEC数学ウェブサイト https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく, 受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

授業の到達目標:

結び目・絡み目の数学的な定義を説明できること.
2つの結び目が「同じ」ではないことを, ジョーンズ多項式を使って証明できること.

事前・事後学習の内容:

【初回授業前】 WMの本科目・クラス内で公開している「早大GEC 暗号/群論/結び目（担当：高木）共通ガイダンス（2026）」（以下「共通ガイダンス」と表記）をよく読み, 理解する.
【事前学習】 次回扱う単元について, 1週間前に公開される授業プリントを読み, 疑問点をまとめておく.
【事後学習】 授業で扱った単元と例題を復習し, 授業プリント内の問題をもう一度解く.
毎回合計で4時間程度かかると想定される.

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

＃1. 結び目と絡み目
結び目と絡み目を数学的に定義し, 2つの結び目が「同じ」かどうかを調べるにはどうすればよいかを考える.

＃2. ライデマイスター変形
まず, 結び目の向きや鏡像という概念について紹介する. 続いて, ライデマイスター変形と呼ばれる結び目の局所的変形について解説する. 最後に結び目表を紹介する.

＃3. 絡み数
まず, 有向絡み目のライデマイスター変形を解説する. 続いて, 絡み数を定義し, これが2成分有向絡み目の不変量であることを確認する.

＃4. ブラケット多項式
結び目のブラケット多項式を定義し, ライデマイスター変形でどのように変わるか調べる.

＃5. ジョーンズ多項式

ブラケット多項式は結び目の不変量とならないので，それを解決するための方法を考える．結び目のジョーンズ多項式を定義し，これが結び目の不変量であることを確認する．

＃6. スケイン関係式

ジョーンズ多項式におけるスケイン関係式を使った計算方法を紹介する．

＃7. 結び目とDNA

分子生物学や高分子化学における結び目理論の応用について紹介する．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定教科書なし．
授業に沿ったワークシート形式の授業プリント(PDFファイル)をWMにアップする．ワークシート形式なので，ビデオ講義を視聴しながら書き込むことで完成するようになっている．
必要に応じて，以下の参考文献を利用するとよい．
特に，前提となる数と集合・指数・累乗根・指数法則について不安がある場合は，下記参考文献(3)を利用するとよい．

参考文献: (1)「結び目の数学 : 結び目理論への初等的入門 原書改訂版」 Colin C. Adams 原著・金信泰造翻訳 丸善出版
(2)「結び目理論とその応用」 村杉邦男著 日本評論社
(3)「金利の計算 ～解析学への入り口～」 高木悟・上江洲弘明著 共立出版
※ (3) は結び目理論に関する本ではなく，本科目で前提となる数と集合・指数・累乗根・指数法則などについて参照するための本として挙げている．冊子版と電子版があり，早大生協で冊子版と電子版の両方を同時に購入する場合は，セット割引料金が適用される（詳細は早大生協に確認のこと）．
(4)「結び目理論」 谷山公規著 共立出版
※ (4) は専門性が高いので，本科目を受講後にさらに興味があれば読んでみるとよい．

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 36 ＃1から＃6まで毎回WMで実施する「試験」の得点（1回6点満点で合計36点満点）を成績評価に用いる．

「試験」についての補足:
・以下の「平常点評価」に記されている「理解度チェック」の類題が主であり，本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期間内に一度だけ受験可能である．
・制限時間は設けておらず，一時保存も可能であるが，本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期限までに提出する必要がある．
・得点・結果は公開しない（フルオンデマンド形式であることから，不正行為等防止のため，公開しないことにしている．各単元の復習や理解度の確認は「理解度チェック」で可能である）．
・＃7（最終回）は「試験」はない（最終試験もない）．

平常点評価: 64 ＃1から＃6まで毎回WMで実施する「理解度チェック」の得点（1回8点満点で合計48点満点）と，＃1から＃7までの「レビューシート」の提出（合計16点満点に換算）を成績評価に用いる．

「理解度チェック」についての補足:
・本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期間内であれば何度も受験可能で，その中の最高点を得点として採用する．
・解答直後に，各問について正解か不正解かが分かり（ただし，正答は表示されない），得点も表示されるため，間違えた箇所を復習することで，満点を取ることが可能である．
・制限時間は設けておらず，一時保存も可能であるが，本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期限までに提出する必要がある．
・＃7（最終回）は「理解度チェック」はない．

「レビューシート」についての補足:
・本科目・クラスの授業カレンダーに示された回答期間内であれば，何度も提出可能である．
・制限時間は設けておらず，一時保存も可能であるが，本科目・クラスの授業カレンダーに示された回答期限までに提出する必要がある．
・設問に条件（例えば，100字以上の字数制限など）があれば，それを満たす必要がある．

成績評価方法の詳細は，履修登録後に，WMの本科目・クラス内にアップしている共通ガイダンスを参照のこと．

備考・関連URL: 本科目の授業スケジュールは，本学の定める当該クォーター授業開始日の 00:00 ちょうどから＃1がスタートし，当該クォーター授業終了日の 23:55 ちょうどに＃7が終了する（日時はすべて日本標準時(JST)である）．
詳しい授業スケジュールについては，下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）．

★ GECの数学基礎プラスシリーズとは異なるスケジュール・成績評価方法なので注意すること．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000104|04|9S02000104[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	結び目で見る数学の世界 −トポロジーへの招待− 04		
担 当 教 員	高木 悟		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

★ 本科目の02クラス（夏クォーター設置）・04クラス（冬クォーター設置）は同一の内容です.
1つしか履修できません. 01クラス（春クォーター設置）・03クラス（秋クォーター設置）はありません.

本科目は, Waseda Moodle （以下「WM」と表記）によるフルオンデマンド形式の講義である.
このシラバスに記載されているすべての事項をよく読み, 理解した上で履修登録すること.

結び目理論 (knot theory) は, 幾何学の一分野である「位相幾何学（トポロジー）」の, さらに一分野である.
結び目は, 例えば靴ひもやネクタイなど日常生活でも馴染みの深いものであるが, これらをどのように数学で扱うことができるのか, 中学高校で学んだ数学からはとても想像できないだろう.
本科目では, 受験数学では扱うことのない自由な数学に触れ, 様々な例題や未解決問題を通してその魅力を肌で感じてもらいたい.
また, 結び目理論の実社会への応用として, DNAや高分子化合物における結び目型の分子構造やその変化のメカニズムを解明しようとする試みの一端を紹介する.
なお,「ドーナツとコーヒーカップは同じ形である」という話は, 位相幾何学（トポロジー）ではあるものの, 結び目理論ではないので本科目内では証明しないが, おまけ動画として, いくつか位相幾何学（トポロジー）に関する話題やクイズを提供している.

本科目の前提知識として, 数と集合, 指数・累乗根, 指数法則を使った多項式の計算が必要となる.
これらの単元に自信がない場合は, 下記参考文献(3)を参照しながら, WMにアップしている補足ビデオ講義を事前に視聴しておくとよい.

また, 本科目では, 電子ノートと電子ペンが使える環境だとよりよい（結び目をかいて, コピーして, 一部を消してかきかえる, という操作が多い）.
実際にビデオ講義内でも, 電子ノートと電子ペンを使って解説している.

★ GEC数学ウェブサイト https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/academic/literacy/math/
（GEC数学科目の紹介だけでなく, 受講するか悩んでいるみなさんへの過去の受講生からのメッセージもあります）

授業の到達目標:

結び目・絡み目の数学的な定義を説明できること.
2つの結び目が「同じ」ではないことを, ジョーンズ多項式を使って証明できること.

事前・事後学習の内容:

【初回授業前】 WMの本科目・クラス内で公開している「早大GEC 暗号/群論/結び目（担当：高木）共通ガイダンス（2026）」（以下「共通ガイダンス」と表記）をよく読み, 理解する.
【事前学習】 次回扱う単元について, 1週間前に公開される授業プリントを読み, 疑問点をまとめておく.
【事後学習】 授業で扱った単元と例題を復習し, 授業プリント内の問題をもう一度解く.
毎回合計で4時間程度かかると想定される.

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

＃1. 結び目と絡み目
結び目と絡み目を数学的に定義し, 2つの結び目が「同じ」かどうかを調べるにはどうすればよいかを考える.

＃2. ライデマイスター変形
まず, 結び目の向きや鏡像という概念について紹介する. 続いて, ライデマイスター変形と呼ばれる結び目の局所的変形について解説する. 最後に結び目表を紹介する.

＃3. 絡み数
まず, 有向絡み目のライデマイスター変形を解説する. 続いて, 絡み数を定義し, これが2成分有向絡み目の不変量であることを確認する.

＃4. ブラケット多項式
結び目のブラケット多項式を定義し, ライデマイスター変形でどのように変わるか調べる.

＃5. ジョーンズ多項式

ブラケット多項式は結び目の不変量とならないので，それを解決するための方法を考える．結び目のジョーンズ多項式を定義し，これが結び目の不変量であることを確認する．

＃6. スケイン関係式

ジョーンズ多項式におけるスケイン関係式を使った計算方法を紹介する．

＃7. 結び目とDNA

分子生物学や高分子化学における結び目理論の応用について紹介する．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定教科書なし．
授業に沿ったワークシート形式の授業プリント(PDFファイル)をWMにアップする．ワークシート形式なので，ビデオ講義を視聴しながら書き込むことで完成するようになっている．
必要に応じて，以下の参考文献を利用するとよい．
特に，前提となる数と集合・指数・累乗根・指数法則について不安がある場合は，下記参考文献(3)を利用するとよい．

参考文献: (1)「結び目の数学 : 結び目理論への初等的入門 原書改訂版」 Colin C. Adams 原著・金信泰造翻訳 丸善出版
(2)「結び目理論とその応用」 村杉邦男著 日本評論社
(3)「金利の計算 ～解析学への入り口～」 高木悟・上江洲弘明著 共立出版
※ (3) は結び目理論に関する本ではなく，本科目で前提となる数と集合・指数・累乗根・指数法則などについて参照するための本として挙げている．冊子版と電子版があり，早大生協で冊子版と電子版の両方を同時に購入する場合は，セット割引料金が適用される（詳細は早大生協に確認のこと）．
(4)「結び目理論」 谷山公規著 共立出版
※ (4) は専門性が高いので，本科目を受講後にさらに興味があれば読んでみるとよい．

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 36 ＃1から＃6まで毎回WMで実施する「試験」の得点（1回6点満点で合計36点満点）を成績評価に用いる．

「試験」についての補足:
・以下の「平常点評価」に記されている「理解度チェック」の類題が主であり，本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期間内に一度だけ受験可能である．
・制限時間は設けておらず，一時保存も可能であるが，本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期限までに提出する必要がある．
・得点・結果は公開しない（フルオンデマンド形式であることから，不正行為等防止のため，公開しないことにしている．各単元の復習や理解度の確認は「理解度チェック」で可能である）．
・＃7（最終回）は「試験」はない（最終試験もない）．

平常点評価: 64 ＃1から＃6まで毎回WMで実施する「理解度チェック」の得点（1回8点満点で合計48点満点）と，＃1から＃7までの「レビューシート」の提出（合計16点満点に換算）を成績評価に用いる．

「理解度チェック」についての補足:
・本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期間内であれば何度も受験可能で，その中の最高点を得点として採用する．
・解答直後に，各問について正解か不正解かが分かり（ただし，正答は表示されない），得点も表示されるため，間違えた箇所を復習することで，満点を取ることが可能である．
・制限時間は設けておらず，一時保存も可能であるが，本科目・クラスの授業カレンダーに示された解答期限までに提出する必要がある．
・＃7（最終回）は「理解度チェック」はない．

「レビューシート」についての補足:
・本科目・クラスの授業カレンダーに示された回答期間内であれば，何度も提出可能である．
・制限時間は設けておらず，一時保存も可能であるが，本科目・クラスの授業カレンダーに示された回答期限までに提出する必要がある．
・設問に条件（例えば，100字以上の字数制限など）があれば，それを満たす必要がある．

成績評価方法の詳細は，履修登録後に，WMの本科目・クラス内にアップしている共通ガイダンスを参照のこと．

備考・関連URL: 本科目の授業スケジュールは，本学の定める当該クォーター授業開始日の 00:00 ちょうどから＃1がスタートし，当該クォーター授業終了日の 23:55 ちょうどに＃7が終了する（日時はすべて日本標準時(JST)である）．
詳しい授業スケジュールについては，下記関連資料（授業カレンダー）を参照のこと（MyWaseda にログインしないと関連資料は閲覧できない）．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000105|01|9S02000105[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Cryptography and Mathematics 01		
担 当 教 員	曽布川 拓也		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： Introduction to Number theory

授業概要： Number theory has long history, for more than 2000 years. Elementary 4 operations, Addition, Subtaction, Multiplication and Division are important. Then, you can treat many properties of integers, multible, divisor and prime number.In the 20th century, its new useful application was found, RSA Cryptorogy.
In this lecture, we shall give an introduction, from 4 elementary operation to ICT World.

授業の到達目標： Enjoying an algebraic structure of integers.

事前・事後学習の内容： Any mathematical questions are welcome in the office hour of the instructor, opened at the room 208, Math and Stat center, Bldg No.3, Waseda Main Campus.
The Schedule is given on the moodle site.

授業計画フリー入力サイン： 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー： We shall treat the following topics:
Multiple and Divisor, Properties of of 4 operations on the integral numbers
Euclidian Algorithm, Least common multiple and greatest common divisor
Prime numbers and prime factorization
Modular arithmetic
Euler function and Fermat's little theorem
Theory of RSA cryptography

言語区分： 0 英語 English

教科書： Everything is given in the video lecture.

参考文献： 野口和範（Kazunori NOGUCHI）「整数論体験入門」共立出版（in Japanese）

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 40 Final exam is given online.

平常点評価： 60 In each lecture, drills and quiz are given and you can get 10 pts on Lec. 1 to 6..
In order to get the full score, you can try drill as many times as you like before the deadline.
You can try the quiz only once.
Instead of them, study reports are sometimes required.

備考・関連URL： グローバル・エデュケーション・センター設置科目「素数の魅力と暗号理論」（小野雅隆講師or高木悟教授担当）を履修したことがある者は履修を認めない。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000105|02|9S02000105[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Cryptography and Mathematics 02		
担 当 教 員	曽布川 拓也		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	数学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： Introduction to Number theory

授業概要： Number theory has long history, for more than 2000 years. Elementary 4 operations, Addition, Subtaction, Multiplication and Division are important. Then, you can treat many properties of integers, multible, divisor and prime number.In the 20th century, its new useful application was found, RSA Cryptorogy.
In this lecture, we shall give an introduction, from 4 elementary operation to ICT World.

授業の到達目標： Enjoying an algebraic structure of integers.

事前・事後学習の内容： Any mathematical questions are welcome in the office hour of the instructor, opened at the room 208, Math and Stat center, Bldg No.3, Waseda Main Campus.
The Schedule is given on the moodle site.

授業計画フリー入力サイン： 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー： We shall treat the following topics:
Multiple and Divisor, Properties of of 4 operations on the integral numbers
Euclidian Algorithm, Least common multiple and greatest common divisor
Prime numbers and prime factorization
Modular arithmetic
Euler function and Fermat's little theorem
Theory of RSA cryptography

言語区分： 0 英語 English

教科書： Everything is given in the video lecture.

参考文献： 野口和範（Kazunori NOGUCHI）「整数論体験入門」共立出版（in Japanese）

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 40 Final exam is given online.

平常点評価： 60 In each lecture, drills and quiz are given and you can get 10 pts on Lec. 1 to 6..
In order to get the full score, you can try drill as many times as you like before the deadline.
You can try the quiz only once.
Instead of them, study reports are sometimes required.

備考・関連URL： グローバル・エデュケーション・センター設置科目「素数の魅力と暗号理論」（小野雅隆講師or高木悟教授担当）を履修したことがある者は履修をお断りします。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S02000106|03|9S02000106[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	曲線の微分幾何学 03		
担 当 教 員	佐藤 雄一郎		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	数学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 自然構造から建築設計へ

授業概要: 本科目では、平面曲線の「曲がり具合」を表す微分幾何学の基本概念である曲率を数学的に定式化し、具体的な曲線に対して弧長や曲率を計算する手法を習得する。微分幾何学は幾何学の一分野であり、初等幾何学との違いは、微分を用いて形や空間の変化・挙動を捉える点にある。平面曲線とは、紙面上に鉛筆で手を離さずに描くことで得られる形であり、これを径数表示によって定式化する。講義では、弧長・曲率の導入から始め、閉曲線に関する四頂点定理、さらに平面曲線の基本定理へと段階的に学習を深めていく。そして曲線論が自然界に現れるだけでなく、建築設計にも応用されていることを理解する。また適宜コンピューターを用いて視覚的・直感的な理解を促進する。

授業の到達目標: 平面曲線の数学的な扱いについて知り、曲がり具合を表現する曲率の意味を説明できること。また様々な曲線についてその形と性質について習得すること。そして自然界のみならず、建築や設計にも平面曲線が応用されていることを理解すること。

事前・事後学習の内容: 集合・写像の基礎的知識があることが望ましいが、第1回講義で復習する。また、初等関数（多項式関数・三角関数・指数関数）に対する微積分とベクトルや行列の演算に習熟していることが望ましいが、必要があればWaseda Moodleを用いて補足資料を適宜公開する。準備学習は毎回2時間を要求する。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：ガイダンス、基礎数学からの準備

平面曲線の微分幾何学について概説し、本科目の到達目標と授業計画を確認する。また基礎数学から必要となる集合と写像、初等関数の微積分、ベクトルの内積と直交行列を復習する。

第2回：曲線の径数表示

平面曲線の径数（パラメータ）表示について学習し、具体的な曲線の径数表示を学ぶ。

第3回：曲線の弧長

曲線の長さを定義し、径数の取り方に依らないことを学ぶ。また曲線に対して、弧長径数と呼ばれる特別な径数表示が存在することを学ぶ。

第4回：曲線の曲率

法ベクトルの概念を導入し、曲線の曲率を定義する。また曲率の意味について考える。

第5回：閉曲線と四頂点定理

閉曲線を定義し、卵形線と呼ばれる閉曲線には四頂点定理と呼ばれる定理が成立することを学ぶ。

第6回：平面曲線の基本定理

平面曲線の形は曲率によって完全に決定されることを学ぶ。応用として曲率が一定の平面曲線は、直線または円に限られることを示す。

第7回：平面曲線論の応用

最速降下曲線、懸垂曲線、緩和曲線など特別な平面曲線について学び、それぞれ我々の生活とどのように関わっているか知る。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教科書は特に指定せず、自作のプリントを用意する。

参考文献: (1)「手を動かしてまなぶ 曲線と曲面」藤岡敦著 裳華房
(2)「曲線と曲面（改訂版） ー微分幾何的アプローチー」 梅原雅顕・山田光太郎共著 裳華房
(3)「曲線と曲面の微分幾何（改訂版）」 小林昭七著 裳華房″

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	60	最終レポートにより習熟度を評価する。
平常点評価:	40	毎回授業で扱った内容の演習問題を授業中に解いてもらう。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000101|01|9S03000101[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーα O1		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データの整理

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において、手に入れたデータから意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法と考え方の基礎として、統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。本講義ではまず社会におけるデータ科学の重要性を学び、その上で統計学の中でも特に記述統計と呼ばれる項目を学びます。記述統計は統計学における最も基本的な部分です。本講義では主に、基本的な統計量の意味や算出方法、簡単なデータの分析方法などを扱います。また、これらを学ぶツールとして「MS Excel」を用います。（但し、本講義の主題はあくまで「記述統計を学ぶこと」なので、「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）
本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・データの持つ性質や傾向を的確に読み取れるようになること
・分析結果を的確にアウトプットできるようになること

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:データ科学の重要性とデータの視覚化（様々なグラフ）
データ科学の重要性, 母集団と標本・データの分類と尺度, さまざまなグラフ, Excelでのグラフの作成, グラフの使い分け
生成AIの考え方と利用における留意事項
第2回:分布の視覚化（ヒストグラム）
度数分布表とヒストグラム, Excelによるヒストグラムの作成, ヒストグラムから分布の特徴を見る
第3回:統計量の計算（1）
データの中心を表す統計量, 分散・標準偏差
第4回:統計量の計算（2）
四分位範囲・5数要約・箱ひげ図, ばらつきの比較, データの標準化
第5回:相関分析
2変量データと散布図, 共分散・相関係数, 相関分析を行う場合の注意点1, 相関分析を行う場合の注意点2
第6回:分割表
質的変数と量的変数の関係, 分割表, Excelでの分割表の作成, オッズ比・ユールの連関係数
第7回:理解度確認
理解度確認試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「統計リテラシーⅠ－ 記述統計から推測統計へ, サイエンス社, 堀井俊佑監修」

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－ データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 : 練習問題20%, 小テスト30%, 最終試験50%
学部生 : 練習問題20%, 小テスト30%, 最終試験50%

備考・関連URL: 2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
・コンピュータによる統計入門また、本科目と英語科目「Statistics Literacy α」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000101|02|9S03000101[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーα 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データの整理

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において、手に入れたデータから意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法と考え方の基礎として、統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。本講義ではまず社会におけるデータ科学の重要性を学び、その上で統計学の中でも特に記述統計と呼ばれる項目を学びます。記述統計は統計学における最も基本的な部分です。本講義では主に、基本的な統計量の意味や算出方法、簡単なデータの分析方法などを扱います。また、これらを学ぶツールとして「MS Excel」を用います。（但し、本講義の主題はあくまで「記述統計を学ぶこと」なので、「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）
本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・データの持つ性質や傾向を的確に読み取れるようになること
・分析結果を的確にアウトプットできるようになること

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:データ科学の重要性とデータの視覚化（様々なグラフ）
データ科学の重要性，母集団と標本・データの分類と尺度，さまざまなグラフ，Excelでのグラフの作成，グラフの使い分け，生成AIの考え方と利用における留意事項
第2回:分布の視覚化（ヒストグラム）
度数分布表とヒストグラム，Excelによるヒストグラムの作成，ヒストグラムから分布の特徴を見る
第3回:統計量の計算（1）
データの中心を表す統計量，分散・標準偏差
第4回:統計量の計算（2）
四分位範囲・5数要約・箱ひげ図，ばらつきの比較，データの標準化
第5回:相関分析
2変量データと散布図，共分散・相関係数，相関分析を行う場合の注意点1，相関分析を行う場合の注意点2
第6回:分割表
質的変数と量的変数の関係，分割表，Excelでの分割表の作成，オッズ比・ユールの連関係数
第7回:理解度確認
理解度確認試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「統計リテラシーⅠ－ 記述統計から推測統計へ，サイエンス社，堀井俊佑監修」

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生：練習問題20%，小テスト30%，最終試験50%
学部生：練習問題20%，小テスト30%，最終試験50%

備考・関連URL：　2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
・コンピュータによる統計入門また、本科目と英語科目「Statistics Literacy α」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000101|03|9S03000101[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーα 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データの整理

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において、手に入れたデータから意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法と考え方の基礎として、統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。本講義ではまず社会におけるデータ科学の重要性を学び、その上で統計学の中でも特に記述統計と呼ばれる項目を学びます。記述統計は統計学における最も基本的な部分です。本講義では主に、基本的な統計量の意味や算出方法、簡単なデータの分析方法などを扱います。また、これらを学ぶツールとして「MS Excel」を用います。（但し、本講義の主題はあくまで「記述統計を学ぶこと」なので、「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）
本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・データの持つ性質や傾向を的確に読み取れるようになること
・分析結果を的確にアウトプットできるようになること

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:データ科学の重要性とデータの視覚化（様々なグラフ）
データ科学の重要性，母集団と標本・データの分類と尺度，さまざまなグラフ，Excelでのグラフの作成，グラフの使い分け，生成AIの考え方と利用における留意事項
第2回:分布の視覚化（ヒストグラム）
度数分布表とヒストグラム，Excelによるヒストグラムの作成，ヒストグラムから分布の特徴を見る
第3回:統計量の計算（1）
データの中心を表す統計量，分散・標準偏差
第4回:統計量の計算（2）
四分位範囲・5数要約・箱ひげ図，ばらつきの比較，データの標準化
第5回:相関分析
2変量データと散布図，共分散・相関係数，相関分析を行う場合の注意点1，相関分析を行う場合の注意点2
第6回:分割表
質的変数と量的変数の関係，分割表，Excelでの分割表の作成，オッズ比・ユールの連関係数
第7回:理解度確認
理解度確認試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 堀井俊佑 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著，「統計リテラシーⅠ － 記述統計から推測統計へ」，サイエンス社.

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社. 松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 : 練習問題20%, 小テスト30%, 最終試験50%
学部生 : 練習問題20%, 小テスト30%, 最終試験50%

備考・関連URL: 2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
・コンピュータによる統計入門また、本科目と英語科目「Statistics Literacy α」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000101|04|9S03000101[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーα 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データの整理

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において、手に入れたデータから意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法と考え方の基礎として、統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。本講義ではまず社会におけるデータ科学の重要性を学び、その上で統計学の中でも特に記述統計と呼ばれる項目を学びます。記述統計は統計学における最も基本的な部分です。本講義では主に、基本的な統計量の意味や算出方法、簡単なデータの分析方法などを扱います。また、これらを学ぶツールとして「MS Excel」を用います。（但し、本講義の主題はあくまで「記述統計を学ぶこと」なので、「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）
本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・データの持つ性質や傾向を的確に読み取れるようになること
・分析結果を的確にアウトプットできるようになること

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:データ科学の重要性とデータの視覚化（様々なグラフ）
データ科学の重要性，母集団と標本・データの分類と尺度，さまざまなグラフ，Excelでのグラフの作成，グラフの使い分け，生成AIの考え方と利用における留意事項
第2回:分布の視覚化（ヒストグラム）
度数分布表とヒストグラム，Excelによるヒストグラムの作成，ヒストグラムから分布の特徴を見る
第3回:統計量の計算（1）
データの中心を表す統計量，分散・標準偏差
第4回:統計量の計算（2）
四分位範囲・5数要約・箱ひげ図，ばらつきの比較，データの標準化
第5回:相関分析
2変量データと散布図，共分散・相関係数，相関分析を行う場合の注意点1，相関分析を行う場合の注意点2
第6回:分割表
質的変数と量的変数の関係，分割表，Excelでの分割表の作成，オッズ比・ユールの連関係数
第7回:理解度確認
理解度確認試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 堀井俊佑 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著，「統計リテラシーⅠ － 記述統計から推測統計へ」，サイエンス社.

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社. 松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 : 練習問題20%, 小テスト30%, 最終試験50%
学部生 : 練習問題20%, 小テスト30%, 最終試験50%

備考・関連URL: 2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
・コンピュータによる統計入門また、本科目と英語科目「Statistics Literacy α」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000102|01|9S03000102[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーα（商学部） O1		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考			

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データの整理

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において、手に入れたデータから意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法と考え方の基礎として、統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。本講義ではまず社会におけるデータ科学の重要性を学び、その上で統計学の中でも特に記述統計と呼ばれる項目を学びます。記述統計は統計学における最も基本的な部分です。本講義では主に、基本的な統計量の意味や算出方法、簡単なデータの分析方法などを扱います。また、これらを学ぶツールとして「MS Excel」を用います。（但し、本講義の主題はあくまで「記述統計を学ぶこと」なので、「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）
本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・データの持つ性質や傾向を的確に読み取れるようになること
・分析結果を的確にアウトプットできるようになること

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:データ科学の重要性とデータの視覚化（様々なグラフ）
データ科学の重要性，母集団と標本・データの分類と尺度，さまざまなグラフ，Excelでのグラフの作成，グラフの使い分け，生成AIの考え方と利用における留意事項
第2回:分布の視覚化（ヒストグラム）
度数分布表とヒストグラム，Excelによるヒストグラムの作成，ヒストグラムから分布の特徴を見る
第3回:統計量の計算（1）
データの中心を表す統計量，分散・標準偏差
第4回:統計量の計算（2）
四分位範囲・5数要約・箱ひげ図，ばらつきの比較，データの標準化
第5回:相関分析
2変量データと散布図，共分散・相関係数，相関分析を行う場合の注意点1，相関分析を行う場合の注意点2
第6回:分割表
質的変数と量的変数の関係，分割表，Excelでの分割表の作成，オッズ比・ユールの連関係数
第7回:理解度確認
理解度確認試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「統計リテラシーⅠ－ 記述統計から推測統計へ，サイエンス社，堀井俊佑監修」

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生：練習問題20%，小テスト30%，最終試験50%
学部生：練習問題20%，小テスト30%，最終試験50%

備考・関連URL：　2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
・コンピュータによる統計入門また、本科目と英語科目「Statistics Literacy α」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000102|02|9S03000102[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーα（商学部） 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考			

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データの整理

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において、手に入れたデータから意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法と考え方の基礎として、統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。本講義ではまず社会におけるデータ科学の重要性を学び、その上で統計学の中でも特に記述統計と呼ばれる項目を学びます。記述統計は統計学における最も基本的な部分です。本講義では主に、基本的な統計量の意味や算出方法、簡単なデータの分析方法などを扱います。また、これらを学ぶツールとして「MS Excel」を用います。（但し、本講義の主題はあくまで「記述統計を学ぶこと」なので、「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）
本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・データの持つ性質や傾向を的確に読み取れるようになること
・分析結果を的確にアウトプットできるようになること

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:データ科学の重要性とデータの視覚化（様々なグラフ）
データ科学の重要性，母集団と標本・データの分類と尺度，さまざまなグラフ，Excelでのグラフの作成，グラフの使い分け，生成AIの考え方と利用における留意事項
第2回:分布の視覚化（ヒストグラム）
度数分布表とヒストグラム，Excelによるヒストグラムの作成，ヒストグラムから分布の特徴を見る
第3回:統計量の計算（1）
データの中心を表す統計量，分散・標準偏差
第4回:統計量の計算（2）
四分位範囲・5数要約・箱ひげ図，ばらつきの比較，データの標準化
第5回:相関分析
2変量データと散布図，共分散・相関係数，相関分析を行う場合の注意点1，相関分析を行う場合の注意点2
第6回:分割表
質的変数と量的変数の関係，分割表，Excelでの分割表の作成，オッズ比・ユールの連関係数
第7回:理解度確認
理解度確認試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「統計リテラシーⅠ－ 記述統計から推測統計へ，サイエンス社，堀井俊佑監修」

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生：練習問題20%，小テスト30%，最終試験50%
学部生：練習問題20%，小テスト30%，最終試験50%

備考・関連URL：　2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
・コンピュータによる統計入門また、本科目と英語科目「Statistics Literacy α」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000102|03|9S03000102[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーα（商学部） 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考			

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データの整理

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において、手に入れたデータから意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法と考え方の基礎として、統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。本講義ではまず社会におけるデータ科学の重要性を学び、その上で統計学の中でも特に記述統計と呼ばれる項目を学びます。記述統計は統計学における最も基本的な部分です。本講義では主に、基本的な統計量の意味や算出方法、簡単なデータの分析方法などを扱います。また、これらを学ぶツールとして「MS Excel」を用います。（但し、本講義の主題はあくまで「記述統計を学ぶこと」なので、「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）
本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・データの持つ性質や傾向を的確に読み取れるようになること
・分析結果を的確にアウトプットできるようになること

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:データ科学の重要性とデータの視覚化（様々なグラフ）
データ科学の重要性，母集団と標本・データの分類と尺度，さまざまなグラフ，Excelでのグラフの作成，グラフの使い分け，生成AIの考え方と利用における留意事項
第2回:分布の視覚化（ヒストグラム）
度数分布表とヒストグラム，Excelによるヒストグラムの作成，ヒストグラムから分布の特徴を見る
第3回:統計量の計算（1）
データの中心を表す統計量，分散・標準偏差
第4回:統計量の計算（2）
四分位範囲・5数要約・箱ひげ図，ばらつきの比較，データの標準化
第5回:相関分析
2変量データと散布図，共分散・相関係数，相関分析を行う場合の注意点1，相関分析を行う場合の注意点2
第6回:分割表
質的変数と量的変数の関係，分割表，Excelでの分割表の作成，オッズ比・ユールの連関係数
第7回:理解度確認
理解度確認試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 堀井俊佑 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著，「統計リテラシーⅠ － 記述統計から推測統計へ」，サイエンス社.

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社. 松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 : 練習問題20%, 小テスト30%, 最終試験50%
学部生 : 練習問題20%, 小テスト30%, 最終試験50%

備考・関連URL: 2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
・コンピュータによる統計入門また、本科目と英語科目「Statistics Literacy α」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000102|04|9S03000102[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーα（商学部） 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考			

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データの整理

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において、手に入れたデータから意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法と考え方の基礎として、統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。本講義ではまず社会におけるデータ科学の重要性を学び、その上で統計学の中でも特に記述統計と呼ばれる項目を学びます。記述統計は統計学における最も基本的な部分です。本講義では主に、基本的な統計量の意味や算出方法、簡単なデータの分析方法などを扱います。また、これらを学ぶツールとして「MS Excel」を用います。（但し、本講義の主題はあくまで「記述統計を学ぶこと」なので、「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）
本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・データの持つ性質や傾向を的確に読み取れるようになること
・分析結果を的確にアウトプットできるようになること

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:データ科学の重要性とデータの視覚化（様々なグラフ）
データ科学の重要性，母集団と標本・データの分類と尺度，さまざまなグラフ，Excelでのグラフの作成，グラフの使い分け，生成AIの考え方と利用における留意事項
第2回:分布の視覚化（ヒストグラム）
度数分布表とヒストグラム，Excelによるヒストグラムの作成，ヒストグラムから分布の特徴を見る
第3回:統計量の計算（1）
データの中心を表す統計量，分散・標準偏差
第4回:統計量の計算（2）
四分位範囲・5数要約・箱ひげ図，ばらつきの比較，データの標準化
第5回:相関分析
2変量データと散布図，共分散・相関係数，相関分析を行う場合の注意点1，相関分析を行う場合の注意点2
第6回:分割表
質的変数と量的変数の関係，分割表，Excelでの分割表の作成，オッズ比・ユールの連関係数
第7回:理解度確認
理解度確認試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 堀井俊佑 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著，「統計リテラシーⅠ － 記述統計から推測統計へ」，サイエンス社.

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社. 松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 : 練習問題20%, 小テスト30%, 最終試験50%
学部生 : 練習問題20%, 小テスト30%, 最終試験50%

備考・関連URL: 2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
・コンピュータによる統計入門また、本科目と英語科目「Statistics Literacy α」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000103|01|9S03000103[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門α 01		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データ科学の考え方の基礎

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学はデータから新しい知見を手に入れ、これを意思決定に役立てるための総合科学であり、その考え方は全ての学術院や学科において必要になってきております。
本講義はデータ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶデータ科学入門シリーズ4科目の最初の科目です。データ科学入門シリーズは統計学や機械学習、人工知能などを網羅的に学ぶことにより、広くデータ科学の分野を知るだけでなく、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に学びます。
本講義ではデータ科学の重要性やデータ分析の一連の流れを知った上で、1変量データ、2変量データの要約・パラメータ推定を題材に、データ科学において共通となる基本的な考え方を学びます。同一のデータであっても目的が複数存在しうることを学び、解析の目的による問題解決のプロセスを意識します。
また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・データ科学の一連の流れを理解し、目的にあった問題の設定と評価基準を検討できるようになること
・1変量及び2変量のデータの要約と確率分布を理解し、コンピュータを用いて統計量を求めたりパラメータの推定を行えるようになること

事前・事後学習の内容: 事前学習:
- シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
- 前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
- 教科書の該当部分を読み、予習する（45分）

事後学習:
- 動画・練習問題・小テストを見直して復習する（50分）
- 教科書の該当部分を確認し、理論的な理解を深める（50分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:データ科学の重要性、データ科学の問題設定と考え方
データ科学の重要性、データ科学を学ぶ目的、データの種類、Pythonの利用方法、Pythonの基礎

第2回:データの特徴記述
1変数データの要約、2変数データの要約

第3回:離散確率変数、連続確率変数
データ科学と数理モデル、離散確率変数、代表的な離散確率分布、連続確率変数、代表的な連続確率分布、同時分布

第4回:確率的データ生成観測メカニズム
母集団と標本、母集団に対する意思決定、母集団に対する仮定

第5回:パラメータの推定
パラメータの推定（推定量の評価基準）、パラメータの推定（最尤推定量）

第6回:階層的な確率的データ生成観測メカニズム、仮説検定の考え方
条件付き分布とベイズの定理、パラメータ推定に対するベイズ的アプローチ、仮説検定の考え方

第7回：2変量データの母集団に対する意思決定
同時密度関数と2変量正規分布、2変数データの母集団に対する意思決定、データサイエンスと倫理、生成AIの考え方と利用における留意事項

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　データ科学入門Ｉ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生 練習問題：40%，小テスト：60%
学部生 練習問題：40%，小テスト：60%

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000103|02|9S03000103[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門α 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データ科学の考え方の基礎

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学はデータから新しい知見を手に入れ、これを意思決定に役立てるための総合科学であり、その考え方は全ての学術院や学科において必要になってきております。
本講義はデータ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶデータ科学入門シリーズ4科目の最初の科目です。データ科学入門シリーズは統計学や機械学習、人工知能などを網羅的に学ぶことにより、広くデータ科学の分野を知るだけでなく、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に学びます。
本講義ではデータ科学の重要性やデータ分析の一連の流れを知った上で、1変量データ、2変量データの要約・パラメータ推定を題材に、データ科学において共通となる基本的な考え方を学びます。同一のデータであっても目的が複数存在しうることを学び、解析の目的による問題解決のプロセスを意識します。
また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・データ科学の一連の流れを理解し、目的にあった問題の設定と評価基準を検討できるようになること
・1変量及び2変量のデータの要約と確率分布を理解し、コンピュータを用いて統計量を求めたりパラメータの推定を行えるようになること

事前・事後学習の内容: 事前学習:
- シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
- 前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
- 教科書の該当部分を読み、予習する（45分）

事後学習:
- 動画・練習問題・小テストを見直して復習する（50分）
- 教科書の該当部分を確認し、理論的な理解を深める（50分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:データ科学の重要性、データ科学の問題設定と考え方
データ科学の重要性、データ科学を学ぶ目的、データの種類、Pythonの利用方法、Pythonの基礎

第2回:データの特徴記述
1変数データの要約、2変数データの要約

第3回:離散確率変数、連続確率変数
データ科学と数理モデル、離散確率変数、代表的な離散確率分布、連続確率変数、代表的な連続確率分布、同時分布

第4回:確率的データ生成観測メカニズム
母集団と標本、母集団に対する意思決定、母集団に対する仮定

第5回:パラメータの推定
パラメータの推定（推定量の評価基準）、パラメータの推定（最尤推定量）

第6回:階層的な確率的データ生成観測メカニズム、仮説検定の考え方
条件付き分布とベイズの定理、パラメータ推定に対するベイズ的アプローチ、仮説検定の考え方

第7回：2変量データの母集団に対する意思決定
同時密度関数と2変量正規分布、2変数データの母集団に対する意思決定、データサイエンスと倫理、生成AIの考え方と利用における留意事項

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　データ科学入門Ｉ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生 練習問題：40%，小テスト：60%
学部生 練習問題：40%，小テスト：60%

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000103|03|9S03000103[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門α 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データ科学の考え方の基礎

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学はデータから新しい知見を手に入れ、これを意思決定に役立てるための総合科学であり、その考え方は全ての学術院や学科において必要になってきております。
本講義はデータ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶデータ科学入門シリーズ4科目の最初の科目です。データ科学入門シリーズは統計学や機械学習、人工知能などを網羅的に学ぶことにより、広くデータ科学の分野を知るだけでなく、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に学びます。
本講義ではデータ科学の重要性やデータ分析の一連の流れを知った上で、1変量データ、2変量データの要約・パラメータ推定を題材に、データ科学において共通となる基本的な考え方を学びます。同一のデータであっても目的が複数存在しうることを学び、解析の目的による問題解決のプロセスを意識します。
また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・データ科学の一連の流れを理解し、目的にあった問題の設定と評価基準を検討できるようになること
・1変量及び2変量のデータの要約と確率分布を理解し、コンピュータを用いて統計量を求めたりパラメータの推定を行えるようになること

事前・事後学習の内容: 事前学習:
- シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
- 前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
- 教科書の該当部分を読み、予習する（45分）

事後学習:
- 動画・練習問題・小テストを見直して復習する（50分）
- 教科書の該当部分を確認し、理論的な理解を深める（50分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:データ科学の重要性、データ科学の問題設定と考え方
データ科学の重要性、データ科学を学ぶ目的、データの種類、Pythonの利用方法、Pythonの基礎

第2回:データの特徴記述
1変数データの要約、2変数データの要約

第3回:離散確率変数、連続確率変数
データ科学と数理モデル、離散確率変数、代表的な離散確率分布、連続確率変数、代表的な連続確率分布、同時分布

第4回:確率的データ生成観測メカニズム
母集団と標本、母集団に対する意思決定、母集団に対する仮定

第5回:パラメータの推定
パラメータの推定（推定量の評価基準）、パラメータの推定（最尤推定量）

第6回：階層的な確率的データ生成観測メカニズム、仮説検定の考え方
条件付き分布とベイズの定理、パラメータ推定に対するベイズ的アプローチ、仮説検定の考え方、生成AIの考え方と利用における留意事項
第7回：2変量データの母集団に対する意思決定
同時密度関数と2変量正規分布、2変数データの母集団に対する意思決定、データサイエンスと倫理

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　データ科学入門 I − データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生 練習問題：40%，小テスト：60%
学部生 練習問題：40%，小テスト：60%

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000103|04|9S03000103[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門α 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データ科学の考え方の基礎

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学はデータから新しい知見を手に入れ、これを意思決定に役立てるための総合科学であり、その考え方は全ての学術院や学科において必要になってきております。
本講義はデータ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶデータ科学入門シリーズ4科目の最初の科目です。データ科学入門シリーズは統計学や機械学習、人工知能などを網羅的に学ぶことにより、広くデータ科学の分野を知るだけでなく、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に学びます。
本講義ではデータ科学の重要性やデータ分析の一連の流れを知った上で、1変量データ、2変量データの要約・パラメータ推定を題材に、データ科学において共通となる基本的な考え方を学びます。同一のデータであっても目的が複数存在しうることを学び、解析の目的による問題解決のプロセスを意識します。
また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・データ科学の一連の流れを理解し、目的にあった問題の設定と評価基準を検討できるようになること
・1変量及び2変量のデータの要約と確率分布を理解し、コンピュータを用いて統計量を求めたりパラメータの推定を行えるようになること

事前・事後学習の内容: 事前学習:
- シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
- 前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
- 教科書の該当部分を読み、予習する（45分）

事後学習:
- 動画・練習問題・小テストを見直して復習する（50分）
- 教科書の該当部分を確認し、理論的な理解を深める（50分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:データ科学の重要性、データ科学の問題設定と考え方
データ科学の重要性、データ科学を学ぶ目的、データの種類、Pythonの利用方法、Pythonの基礎

第2回:データの特徴記述
1変数データの要約、2変数データの要約

第3回:離散確率変数、連続確率変数
データ科学と数理モデル、離散確率変数、代表的な離散確率分布、連続確率変数、代表的な連続確率分布、同時分布

第4回:確率的データ生成観測メカニズム
母集団と標本、母集団に対する意思決定、母集団に対する仮定

第5回:パラメータの推定
パラメータの推定（推定量の評価基準）、パラメータの推定（最尤推定量）

第6回:階層的な確率的データ生成観測メカニズム、仮説検定の考え方
条件付き分布とベイズの定理、パラメータ推定に対するベイズ的アプローチ、仮説検定の考え方

第7回：2変量データの母集団に対する意思決定
同時密度関数と2変量正規分布、2変数データの母集団に対する意思決定、データサイエンスと倫理、生成AIの考え方と利用における留意事項

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　データ科学入門Ｉ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生 練習問題：40%，小テスト：60%
学部生 練習問題：40%，小テスト：60%

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000121|01|9S03000121[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーβ 01		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： データの分布

授業概要： 膨大なデータが流通する現代において、手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として、統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。統計学における推測統計学（統計リテラシーγで扱う）は、母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問ですが、母集団と標本の間に何の関係もなければ、それは不可能です。母集団とそこから得られる標本の間には「確率」的な関係が存在し、推測統計学を理解するためには、確率論の知識が必要不可欠です。本講義では、推測統計学を理解するうえで必要となる確率論の基礎をしっかりと身につけることを目的とします。併せてデータを取り扱う際の注意事項、データ倫理についても学びます。

○ 受講前提条件
・ コンピュータの基本操作（起動・終了、文字入力、ファイル操作など）を習得していること。
・ 「統計リテラシーα」を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

※授業計画については、一部変更になることがあります。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標： 確率論の基礎を理解すること

事前・事後学習の内容： 事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：確率を学ぶ意義、確率の基礎
データ利用における注意事項、データ倫理．確率を学ぶ意義、試行と事象、確率の基本的性質

第2回：離散確率変数
離散確率変数、確率関数、分布関数、離散確率変数の期待値と分散、代表的な離散確率分布

第3回：離散確率変数の同時分布
離散確率変数の同時分布、周辺分布、共分散，相関係数，条件付き分布、独立性、ベイズの定理

第4回：連続確率変数（1）
連続確率変数、確率密度関数、連続確率変数に関する確率の計算

第5回：連続確率変数（2）
連続確率変数の期待値と分散、代表的な連続確率分布、連続確率関数の同時分布、周辺分布、共分散、相関係数、条件付き分布、独立性、ベイズの定理

第6回：確率変数の変換
確率変数の定数倍、確率変数と定数の和、確率変数同士の和、確率変数の関数の期待値、期待値の線形性、確率変数の標準化、正規分布の再生性、大数の法則

第7回：最終試験
最終試験

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書:	「統計リテラシーⅠ－記述統計から推測統計へ，サイエンス社，堀井俊佑 監修」
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい データ科学入門Ⅰ－データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．
成績評価フリー入力サイン:	1：フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 練習問題：20%，小テスト：30%，最終試験：50% 学部生 練習問題：20%，小テスト：30%，最終試験：50%
備考・関連URL:	2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。 ・コンピュータによる統計入門 また、本科目と英語科目「Statistics Literacy β 」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000121|02|9S03000121[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーβ 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： データの分布

授業概要： 膨大なデータが流通する現代において、手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として、統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。統計学における推測統計学（統計リテラシーγで扱う）は、母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問ですが、母集団と標本の間に何の関係もなければ、それは不可能です。母集団とそこから得られる標本の間には「確率」的な関係が存在し、推測統計学を理解するためには、確率論の知識が必要不可欠です。本講義では、推測統計学を理解するうえで必要となる確率論の基礎をしっかりと身につけることを目的とします。併せてデータを取り扱う際の注意事項、データ倫理についても学びます。

○ 受講前提条件
・ コンピュータの基本操作（起動・終了、文字入力、ファイル操作など）を習得していること。
・ 「統計リテラシーα」を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

※授業計画については、一部変更になることがあります。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標： 確率論の基礎を理解すること

事前・事後学習の内容： 事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：確率を学ぶ意義、確率の基礎
データ利用における注意事項、データ倫理. 確率を学ぶ意義、試行と事象、確率の基本的性質

第2回：離散確率変数
離散確率変数、確率関数、分布関数、離散確率変数の期待値と分散、代表的な離散確率分布

第3回：離散確率変数の同時分布
離散確率変数の同時分布、周辺分布、共分散, 相関係数, 条件付き分布、独立性、ベイズの定理

第4回：連続確率変数（1）
連続確率変数、確率密度関数、連続確率変数に関する確率の計算

第5回：連続確率変数（2）
連続確率変数の期待値と分散、代表的な連続確率分布、連続確率関数の同時分布、周辺分布、共分散、相関係数、条件付き分布、独立性、ベイズの定理

第6回：確率変数の変換
確率変数の定数倍、確率変数と定数の和、確率変数同士の和、確率変数の関数の期待値、期待値の線形性、確率変数の標準化、正規分布の再生性、大数の法則

第7回：最終試験
最終試験

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書:	「統計リテラシーⅠ－記述統計から推測統計へ，サイエンス社，堀井俊佑監修」
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい データ科学入門Ⅰ－データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．
成績評価フリー入力サイン:	1：フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 練習問題：20%，小テスト：30%，最終試験：50% 学部生 練習問題：20%，小テスト：30%，最終試験：50%
備考・関連URL:	2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。 ・コンピュータによる統計入門 また、本科目と英語科目「Statistics Literacy β 」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000121|03|9S03000121[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーβ 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： データの分布

授業概要： 膨大なデータが流通する現代において、手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として、統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。統計学における推測統計学（統計リテラシーγで扱う）は、母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問ですが、母集団と標本の間に何の関係もなければ、それは不可能です。母集団とそこから得られる標本の間には「確率」的な関係が存在し、推測統計学を理解するためには、確率論の知識が必要不可欠です。本講義では、推測統計学を理解するうえで必要となる確率論の基礎をしっかりと身につけることを目的とします。併せてデータを取り扱う際の注意事項、データ倫理についても学びます。

○ 受講前提条件
・ コンピュータの基本操作（起動・終了、文字入力、ファイル操作など）を習得していること。
・ 「統計リテラシーα」を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

※授業計画については、一部変更になることがあります。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標： 確率論の基礎を理解すること

事前・事後学習の内容： 事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：確率を学ぶ意義、確率の基礎
データ利用における注意事項、データ倫理．確率を学ぶ意義、試行と事象、確率の基本的性質

第2回：離散確率変数
離散確率変数、確率関数、分布関数、離散確率変数の期待値と分散、代表的な離散確率分布

第3回：離散確率変数の同時分布
離散確率変数の同時分布、周辺分布、共分散，相関係数，条件付き分布、独立性、ベイズの定理

第4回：連続確率変数（1）
連続確率変数、確率密度関数、連続確率変数に関する確率の計算

第5回：連続確率変数（2）
連続確率変数の期待値と分散、代表的な連続確率分布、連続確率関数の同時分布、周辺分布、共分散、相関係数、条件付き分布、独立性、ベイズの定理

第6回：確率変数の変換
確率変数の定数倍、確率変数と定数の和、確率変数同士の和、確率変数の関数の期待値、期待値の線形性、確率変数の標準化、正規分布の再生性、大数の法則

第7回：最終試験
最終試験

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書:	堀井俊佑 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著,「統計リテラシー Ⅰ – 記述統計から推測統計へ」, サイエンス社.
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著.
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット(教員による切替可)
成績評価フリー:	大学院生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50% 学部生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%
備考・関連URL:	2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。 ・コンピュータによる統計入門 また、本科目と英語科目「Statistics Literacy β 」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000121|04|9S03000121[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーβ 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： データの分布

授業概要： 膨大なデータが流通する現代において、手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として、統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。統計学における推測統計学（統計リテラシーγで扱う）は、母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問ですが、母集団と標本の間に何の関係もなければ、それは不可能です。母集団とそこから得られる標本の間には「確率」的な関係が存在し、推測統計学を理解するためには、確率論の知識が必要不可欠です。本講義では、推測統計学を理解するうえで必要となる確率論の基礎をしっかりと身につけることを目的とします。併せてデータを取り扱う際の注意事項、データ倫理についても学びます。

○ 受講前提条件
・ コンピュータの基本操作（起動・終了、文字入力、ファイル操作など）を習得していること。
・ 「統計リテラシーα」を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

※授業計画については、一部変更になることがあります。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標： 確率論の基礎を理解すること

事前・事後学習の内容：
事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：確率を学ぶ意義、確率の基礎
データ利用における注意事項、データ倫理．確率を学ぶ意義、試行と事象、確率の基本的性質

第2回：離散確率変数
離散確率変数、確率関数、分布関数、離散確率変数の期待値と分散、代表的な離散確率分布

第3回：離散確率変数の同時分布
離散確率変数の同時分布、周辺分布、共分散，相関係数，条件付き分布、独立性、ベイズの定理

第4回：連続確率変数（1）
連続確率変数、確率密度関数、連続確率変数に関する確率の計算

第5回：連続確率変数（2）
連続確率変数の期待値と分散、代表的な連続確率分布、連続確率関数の同時分布、周辺分布、共分散、相関係数、条件付き分布、独立性、ベイズの定理

第6回：確率変数の変換
確率変数の定数倍、確率変数と定数の和、確率変数同士の和、確率変数の関数の期待値、期待値の線形性、確率変数の標準化、正規分布の再生性、大数の法則

第7回：最終試験
最終試験

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書:	堀井俊佑 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著,「統計リテラシーⅠ – 記述統計から推測統計へ」, サイエンス社.
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい データ科学入門Ⅰ– データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著.
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット(教員による切替可)
成績評価フリー:	大学院生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50% 学部生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%
備考・関連URL:	2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。 ・コンピュータによる統計入門 また、本科目と英語科目「Statistics Literacy β 」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000122|01|9S03000122[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーβ（商学部） 01		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考			

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データの分布

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において、手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として、統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。統計学における推測統計学（統計リテラシーγで扱う）は、母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問ですが、母集団と標本の間に何の関係もなければ、それは不可能です。母集団とそこから得られる標本の間には「確率」的な関係が存在し、推測統計学を理解するためには、確率論の知識が必要不可欠です。本講義では、推測統計学を理解するうえで必要となる確率論の基礎をしっかりと身につけることを目的とします。併せてデータを取り扱う際の注意事項、データ倫理についても学びます。

○ 受講前提条件
・ コンピュータの基本操作（起動・終了、文字入力、ファイル操作など）を習得していること。
・ 「統計リテラシーα」を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

※授業計画については、一部変更になることがあります。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: 確率論の基礎を理解すること

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：確率を学ぶ意義、確率の基礎
データ利用における注意事項、データ倫理. 確率を学ぶ意義、試行と事象、確率の基本的性質

第2回：離散確率変数
離散確率変数、確率関数、分布関数、離散確率変数の期待値と分散、代表的な離散確率分布

第3回：離散確率変数の同時分布
離散確率変数の同時分布、周辺分布、共分散, 相関係数, 条件付き分布、独立性、ベイズの定理

第4回：連続確率変数（1）
連続確率変数、確率密度関数、連続確率変数に関する確率の計算

第5回：連続確率変数（2）
連続確率変数の期待値と分散、代表的な連続確率分布、連続確率関数の同時分布、周辺分布、共分散、相関係数、条件付き分布、独立性、ベイズの定理

第6回：確率変数の変換
確率変数の定数倍、確率変数と定数の和、確率変数同士の和、確率変数の関数の期待値、期待値の線形性、確率変数の標準化、正規分布の再生性、大数の法則

第7回：最終試験
最終試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:	「統計リテラシーⅠ－記述統計から推測統計へ，サイエンス社，堀井俊佑監修」
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい データ科学入門Ⅰ－データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．
成績評価フリー入力サイン:	1：フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 練習問題：20%，小テスト：30%，最終試験：50% 学部生 練習問題：20%，小テスト：30%，最終試験：50%
備考・関連URL:	2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。 ・コンピュータによる統計入門 また、本科目と英語科目「Statistics Literacy β 」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000122|02|9S03000122[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーβ（商学部） 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考			

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データの分布

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において、手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として、統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。統計学における推測統計学（統計リテラシーγで扱う）は、母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問ですが、母集団と標本の間に何の関係もなければ、それは不可能です。母集団とそこから得られる標本の間には「確率」的な関係が存在し、推測統計学を理解するためには、確率論の知識が必要不可欠です。本講義では、推測統計学を理解するうえで必要となる確率論の基礎をしっかりと身につけることを目的とします。併せてデータを取り扱う際の注意事項、データ倫理についても学びます。

○ 受講前提条件
・ コンピュータの基本操作（起動・終了、文字入力、ファイル操作など）を習得していること。
・ 「統計リテラシーα」を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

※授業計画については、一部変更になることがあります。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: 確率論の基礎を理解すること

事前・事後学習の内容:
事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：確率を学ぶ意義、確率の基礎
データ利用における注意事項、データ倫理. 確率を学ぶ意義、試行と事象、確率の基本的性質

第2回：離散確率変数
離散確率変数、確率関数、分布関数、離散確率変数の期待値と分散、代表的な離散確率分布

第3回：離散確率変数の同時分布
離散確率変数の同時分布、周辺分布、共分散, 相関係数, 条件付き分布、独立性、ベイズの定理

第4回：連続確率変数（1）
連続確率変数、確率密度関数、連続確率変数に関する確率の計算

第5回：連続確率変数（2）
連続確率変数の期待値と分散、代表的な連続確率分布、連続確率関数の同時分布、周辺分布、共分散、相関係数、条件付き分布、独立性、ベイズの定理

第6回：確率変数の変換
確率変数の定数倍、確率変数と定数の和、確率変数同士の和、確率変数の関数の期待値、期待値の線形性、確率変数の標準化、正規分布の再生性、大数の法則

第7回：最終試験
最終試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:	「統計リテラシーⅠ－記述統計から推測統計へ，サイエンス社，堀井俊佑監修」
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい データ科学入門Ⅰ－データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．
成績評価フリー入力サイン:	1：フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 練習問題：20%，小テスト：30%，最終試験：50% 学部生 練習問題：20%，小テスト：30%，最終試験：50%
備考・関連URL:	2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。 ・コンピュータによる統計入門 また、本科目と英語科目「Statistics Literacy β 」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000122|03|9S03000122[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーβ（商学部） 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考			

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データの分布

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において、手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として、統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。統計学における推測統計学（統計リテラシーγで扱う）は、母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問ですが、母集団と標本の間に何の関係もなければ、それは不可能です。母集団とそこから得られる標本の間には「確率」的な関係が存在し、推測統計学を理解するためには、確率論の知識が必要不可欠です。本講義では、推測統計学を理解するうえで必要となる確率論の基礎をしっかりと身につけることを目的とします。併せてデータを取り扱う際の注意事項、データ倫理についても学びます。

○ 受講前提条件
・ コンピュータの基本操作（起動・終了、文字入力、ファイル操作など）を習得していること。
・ 「統計リテラシーα」を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

※授業計画については、一部変更になることがあります。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: 確率論の基礎を理解すること

事前・事後学習の内容:
事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：確率を学ぶ意義、確率の基礎
データ利用における注意事項、データ倫理. 確率を学ぶ意義、試行と事象、確率の基本的性質

第2回：離散確率変数
離散確率変数、確率関数、分布関数、離散確率変数の期待値と分散、代表的な離散確率分布

第3回：離散確率変数の同時分布
離散確率変数の同時分布、周辺分布、共分散, 相関係数, 条件付き分布、独立性、ベイズの定理

第4回：連続確率変数（1）
連続確率変数、確率密度関数、連続確率変数に関する確率の計算

第5回：連続確率変数（2）
連続確率変数の期待値と分散、代表的な連続確率分布、連続確率関数の同時分布、周辺分布、共分散、相関係数、条件付き分布、独立性、ベイズの定理

第6回：確率変数の変換
確率変数の定数倍、確率変数と定数の和、確率変数同士の和、確率変数の関数の期待値、期待値の線形性、確率変数の標準化、正規分布の再生性、大数の法則

第7回：最終試験
最終試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:	堀井俊佑 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著,「統計リテラシー Ⅰ － 記述統計から推測統計へ」, サイエンス社.
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい データ科学入門 I－ データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著.
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50% 学部生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%
備考・関連URL:	2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。 ・コンピュータによる統計入門 また、本科目と英語科目「Statistics Literacy β 」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000122|04|9S03000122[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーβ（商学部） 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考			

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データの分布

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において、手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として、統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。統計学における推測統計学（統計リテラシーγで扱う）は、母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問ですが、母集団と標本の間に何の関係もなければ、それは不可能です。母集団とそこから得られる標本の間には「確率」的な関係が存在し、推測統計学を理解するためには、確率論の知識が必要不可欠です。本講義では、推測統計学を理解するうえで必要となる確率論の基礎をしっかりと身につけることを目的とします。併せてデータを取り扱う際の注意事項、データ倫理についても学びます。

○ 受講前提条件
・ コンピュータの基本操作（起動・終了、文字入力、ファイル操作など）を習得していること。
・ 「統計リテラシーα」を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

※授業計画については、一部変更になることがあります。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: 確率論の基礎を理解すること

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：確率を学ぶ意義、確率の基礎
データ利用における注意事項、データ倫理. 確率を学ぶ意義、試行と事象、確率の基本的性質

第2回：離散確率変数
離散確率変数、確率関数、分布関数、離散確率変数の期待値と分散、代表的な離散確率分布

第3回：離散確率変数の同時分布
離散確率変数の同時分布、周辺分布、共分散, 相関係数, 条件付き分布、独立性、ベイズの定理

第4回：連続確率変数（1）
連続確率変数、確率密度関数、連続確率変数に関する確率の計算

第5回：連続確率変数（2）
連続確率変数の期待値と分散、代表的な連続確率分布、連続確率関数の同時分布、周辺分布、共分散、相関係数、条件付き分布、独立性、ベイズの定理

第6回：確率変数の変換
確率変数の定数倍、確率変数と定数の和、確率変数同士の和、確率変数の関数の期待値、期待値の線形性、確率変数の標準化、正規分布の再生性、大数の法則

第7回：最終試験
最終試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:	堀井俊佑 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著,「統計リテラシー Ⅰ – 記述統計から推測統計へ」, サイエンス社.
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著.
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット(教員による切替可)
成績評価フリー:	大学院生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50% 学部生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%
備考・関連URL:	2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。 ・コンピュータによる統計入門 また、本科目と英語科目「Statistics Literacy β 」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000123|01|9S03000123[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門β 01		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 回帰と分類によるデータ科学の考え方

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学はデータから新しい知見を手に入れ、これを意思決定に役立てるための総合科学であり、その考え方は全ての学術院や学科において必要になってきております。
本講義はデータ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶデータ科学入門シリーズ4科目の2番目の科目です。データ科学入門シリーズは統計学や機械学習、人工知能などを網羅的に学ぶことにより、広くデータ科学の分野を知るだけでなく、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に学びます。
本講義では説明変数と目的変数の関係を表す回帰・分類の問題を対象としてデータ科学の考え方を学びます。このとき説明変数と目的変数の関係を数学的に表現し、これを評価するための目的に依存する様々な基準について説明します。
また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・回帰・分類においてデータの構造を知る目的と未知のデータに対する予測を行う目的の違いを分析に反映できる
・様々な目的に対する回帰・分類の数学的記述と関数の制約、それぞれの評価基準を理解し、コンピュータを用いて回帰・分類による分析を行うことができる

事前・事後学習の内容: 事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-教科書の該当部分を読み、予習する（45分）
事後学習：
-動画・練習問題・小テストを見直して復習する（50分）
- 教科書の該当部分を確認し、理論的な理解を深める（50分）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

回帰分析の問題設定と単回帰
特徴記述としての回帰（最小二乗法）、回帰の確率的データ生成観測メカニズム、Pythonによる回帰

回帰問題のベイズ的な取り扱い、予測問題、ベクトルと行列
回帰係数の推定に対するベイズ的アプローチ、予測を目的とした意思決定、回帰のベイズ的アプローチをPythonによるグラフで確認、多変量データの取り扱い（ベクトル，行列）

重回帰分析、多変量正規分布、質的な説明変数の取り扱い
重回帰分析（説明変数が2つの場合）、多変量正規分布、重回帰分析（説明変数が3つ以上の場合）、Pythonによる重回帰分析、ダミー変数を用いた重回帰分析、Pythonによる質的変数の変換

回帰式の評価
説明変数間の相関・多重共線性、回帰式の評価（寄与率，重相関係数）、回帰係数の解釈、Pythonによる回帰式の寄与率

分類問題（1）

分類問題、分類問題におけるデータの特徴記述、分類問題における同質性を仮定した予測、Pythonによる分類問題

分類問題（2）

クラス毎に確率モデルが異なる確率的データ生成観測メカニズム（1）、クラス毎に確率モデルが異なる確率的データ生成観測メカニズム（2）

分類問題（3）

ロジスティック関数を用いたデータの特徴記述、説明変数からクラスが決定する確率的データ生成観測メカニズム、Pythonによる分類問題（ロジスティック回帰）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: データ科学入門 II 特徴記述・構造推定・予測 ― 回帰と分類を例に
監修者：松嶋敏泰，著者：早稲田大学データ科学教育チーム

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 学部生 練習問題：40%、小テスト：60%
大学院生 練習問題：40%、小テスト：60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000123|02|9S03000123[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門β 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 回帰と分類によるデータ科学の考え方

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学はデータから新しい知見を手に入れ、これを意思決定に役立てるための総合科学であり、その考え方は全ての学術院や学科において必要になってきております。
本講義はデータ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶデータ科学入門シリーズ4科目の2番目の科目です。データ科学入門シリーズは統計学や機械学習、人工知能などを網羅的に学ぶことにより、広くデータ科学の分野を知るだけでなく、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に学びます。
本講義では説明変数と目的変数の関係を表す回帰・分類の問題を対象としてデータ科学の考え方を学びます。このとき説明変数と目的変数の関係を数学的に表現し、これを評価するための目的に依存する様々な基準について説明します。
また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・回帰・分類においてデータの構造を知る目的と未知のデータに対する予測を行う目的の違いを分析に反映できる
・様々な目的に対する回帰・分類の数学的記述と関数の制約、それぞれの評価基準を理解し、コンピュータを用いて回帰・分類による分析を行うことができる

事前・事後学習の内容: 事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-教科書の該当部分を読み、予習する（45分）
事後学習：
-動画・練習問題・小テストを見直して復習する（50分）
- 教科書の該当部分を確認し、理論的な理解を深める（50分）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

回帰分析の問題設定と単回帰
特徴記述としての回帰（最小二乗法）、回帰の確率的データ生成観測メカニズム、Pythonによる回帰

回帰問題のベイズ的な取り扱い、予測問題、ベクトルと行列
回帰係数の推定に対するベイズ的アプローチ、予測を目的とした意思決定、回帰のベイズ的アプローチをPythonによるグラフで確認、多変量データの取り扱い（ベクトル，行列）

重回帰分析、多変量正規分布、質的な説明変数の取り扱い
重回帰分析（説明変数が2つの場合）、多変量正規分布、重回帰分析（説明変数が3つ以上の場合）、Pythonによる重回帰分析、ダミー変数を用いた重回帰分析、Pythonによる質的変数の変換

回帰式の評価
説明変数間の相関・多重共線性、回帰式の評価（寄与率，重相関係数）、回帰係数の解釈、Pythonによる回帰式の寄与率

分類問題（1）

分類問題、分類問題におけるデータの特徴記述、分類問題における同質性を仮定した予測、Pythonによる分類問題

分類問題（2）

クラス毎に確率モデルが異なる確率的データ生成観測メカニズム（1）、クラス毎に確率モデルが異なる確率的データ生成観測メカニズム（2）

分類問題（3）

ロジスティック関数を用いたデータの特徴記述、説明変数からクラスが決定する確率的データ生成観測メカニズム、Pythonによる分類問題（ロジスティック回帰）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: データ科学入門 II 特徴記述・構造推定・予測 ― 回帰と分類を例に
監修者：松嶋敏泰，著者：早稲田大学データ科学教育チーム

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 学部生 練習問題：40%、小テスト：60%
大学院生 練習問題：40%、小テスト：60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000123|03|9S03000123[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門β 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 回帰と分類によるデータ科学の考え方

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学はデータから新しい知見を手に入れ、これを意思決定に役立てるための総合科学であり、その考え方は全ての学術院や学科において必要になってきております。
本講義はデータ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶデータ科学入門シリーズ4科目の2番目の科目です。データ科学入門シリーズは統計学や機械学習、人工知能などを網羅的に学ぶことにより、広くデータ科学の分野を知るだけでなく、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に学びます。
本講義では説明変数と目的変数の関係を表す回帰・分類の問題を対象としてデータ科学の考え方を学びます。このとき説明変数と目的変数の関係を数学的に表現し、これを評価するための目的に依存する様々な基準について説明します。
また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・回帰・分類においてデータの構造を知る目的と未知のデータに対する予測を行う目的の違いを分析に反映できる
・様々な目的に対する回帰・分類の数学的記述と関数の制約、それぞれの評価基準を理解し、コンピュータを用いて回帰・分類による分析を行うことができる

事前・事後学習の内容: 事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-教科書の該当部分を読み、予習する（45分）
事後学習：
-動画・練習問題・小テストを見直して復習する（50分）
- 教科書の該当部分を確認し、理論的な理解を深める（50分）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

回帰分析の問題設定と単回帰
特徴記述としての回帰（最小二乗法）、回帰の確率的データ生成観測メカニズム、Pythonによる回帰

回帰問題のベイズ的な取り扱い、予測問題、ベクトルと行列
回帰係数の推定に対するベイズ的アプローチ、予測を目的とした意思決定、回帰のベイズ的アプローチをPythonによるグラフで確認、多変量データの取り扱い（ベクトル，行列）

重回帰分析、多変量正規分布、質的な説明変数の取り扱い
重回帰分析（説明変数が2つの場合）、多変量正規分布、重回帰分析（説明変数が3つ以上の場合）、Pythonによる重回帰分析、ダミー変数を用いた重回帰分析、Pythonによる質的変数の変換

回帰式の評価
説明変数間の相関・多重共線性、回帰式の評価（寄与率，重相関係数）、回帰係数の解釈、Pythonによる回帰式の寄与率

分類問題（1）

分類問題、分類問題におけるデータの特徴記述、分類問題における同質性を仮定した予測、Pythonによる分類問題

分類問題（2）

クラス毎に確率モデルが異なる確率的データ生成観測メカニズム（1）、クラス毎に確率モデルが異なる確率的データ生成観測メカニズム（2）

分類問題（3）

ロジスティック関数を用いたデータの特徴記述、説明変数からクラスが決定する確率的データ生成観測メカニズム、Pythonによる分類問題（ロジスティック回帰）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: データ科学入門 II 特徴記述・構造推定・予測 ― 回帰と分類を例に
監修者：松嶋敏泰，著者：早稲田大学データ科学教育チーム

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 学部生 練習問題：40%、小テスト：60%
大学院生 練習問題：40%、小テスト：60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000123|04|9S03000123[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門β 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 回帰と分類によるデータ科学の考え方

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学はデータから新しい知見を手に入れ、これを意思決定に役立てるための総合科学であり、その考え方は全ての学術院や学科において必要になってきております。
本講義はデータ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶデータ科学入門シリーズ4科目の2番目の科目です。データ科学入門シリーズは統計学や機械学習、人工知能などを網羅的に学ぶことにより、広くデータ科学の分野を知るだけでなく、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に学びます。
本講義では説明変数と目的変数の関係を表す回帰・分類の問題を対象としてデータ科学の考え方を学びます。このとき説明変数と目的変数の関係を数学的に表現し、これを評価するための目的に依存する様々な基準について説明します。
また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・回帰・分類においてデータの構造を知る目的と未知のデータに対する予測を行う目的の違いを分析に反映できる
・様々な目的に対する回帰・分類の数学的記述と関数の制約、それぞれの評価基準を理解し、コンピュータを用いて回帰・分類による分析を行うことができる

事前・事後学習の内容: 事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-教科書の該当部分を読み、予習する（45分）
事後学習：
-動画・練習問題・小テストを見直して復習する（50分）
- 教科書の該当部分を確認し、理論的な理解を深める（50分）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

回帰分析の問題設定と単回帰
特徴記述としての回帰（最小二乗法）、回帰の確率的データ生成観測メカニズム、Pythonによる回帰

回帰問題のベイズ的な取り扱い、予測問題、ベクトルと行列
回帰係数の推定に対するベイズ的アプローチ、予測を目的とした意思決定、回帰のベイズ的アプローチをPythonによるグラフで確認、多変量データの取り扱い（ベクトル，行列）

重回帰分析、多変量正規分布、質的な説明変数の取り扱い
重回帰分析（説明変数が2つの場合）、多変量正規分布、重回帰分析（説明変数が3つ以上の場合）、Pythonによる重回帰分析、ダミー変数を用いた重回帰分析、Pythonによる質的変数の変換

回帰式の評価
説明変数間の相関・多重共線性、回帰式の評価（寄与率，重相関係数）、回帰係数の解釈、Pythonによる回帰式の寄与率

分類問題（1）

分類問題、分類問題におけるデータの特徴記述、分類問題における同質性を仮定した予測、Pythonによる分類問題

分類問題（2）

クラス毎に確率モデルが異なる確率的データ生成観測メカニズム（1）、クラス毎に確率モデルが異なる確率的データ生成観測メカニズム（2）

分類問題（3）

ロジスティック関数を用いたデータの特徴記述、説明変数からクラスが決定する確率的データ生成観測メカニズム、Pythonによる分類問題（ロジスティック回帰）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: データ科学入門 II 特徴記述・構造推定・予測 ― 回帰と分類を例に
監修者：松嶋敏泰，著者：早稲田大学データ科学教育チーム

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 学部生 練習問題：40%、小テスト：60%
大学院生 練習問題：40%、小テスト：60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000141|01|9S03000141[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーγ 01		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：
データからの推測

授業概要：
膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。推測統計学は，母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問です。本講義では，推定および検定といった推測統計における具体的な方法を，理論と実践の両面から説明します。実践のためのツールとしては，「MS Excel」を用います。（但し，本講義の主題はあくまで「推測統計を学ぶこと」なので，「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）また，本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：
・推測統計の基礎となる理論を理解できるようになること
・推測統計の方法（推定と検定）を実際に利用し，その結果を的確に解釈できるようになること

事前・事後学習の内容：
事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：
0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：統計的推測の目的と標本分布
母集団，標本，ランダムサンプリング，母集団分布，標本分布

第2回：大数の法則と中心極限定理
大数の法則，中心極限定理

第3回：点推定の考え方・母平均と母分散の点推定
点推定，不偏性，効率性，標準誤差，不偏分散

第4回：サンプルサイズと推定の誤差・区間推定の考え方
推定の誤差，推定の精度，母平均の区間推定（母分散既知），信頼区間，信頼係数，パーセント点

第5回：仮説検定の考え方
母平均の仮説検定（母分散既知），帰無仮説，対立仮説，有意水準，検定統計量，棄却域と採択域，第1種の誤り，第2種の誤り，検出力，p値，片側検定，両側検定

第6回：母平均・母分散の区間推定と仮説検定
母平均の区間推定と仮説検定，母分散の区間推定と仮説検定，様々な推定と検定

第7回：最終試験
最終試験

言語区分：
0 日本語 Japanese

教科書：
講義用資料をwaseda moodle上で配布。

参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著.
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50% 学部生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%
備考・関連URL:	2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。 ・コンピュータによる統計解析 また、本科目と英語科目「Statistics Literacy γ」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000141|02|9S03000141[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーγ 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： データからの推測

授業概要： 膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。推測統計学は，母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問です。本講義では，推定および検定といった推測統計における具体的な方法を，理論と実践の両面から説明します。実践のためのツールとしては，「MS Excel」を用います。（但し，本講義の主題はあくまで「推測統計を学ぶこと」なので，「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）また，本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標： ・推測統計の基礎となる理論を理解できるようになること
・推測統計の方法（推定と検定）を実際に利用し，その結果を的確に解釈できるようになること

事前・事後学習の内容： 事前学習：
−シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
−前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
−前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
−動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：統計的推測の目的と標本分布
母集団，標本，ランダムサンプリング，母集団分布，標本分布

第2回：大数の法則と中心極限定理
大数の法則，中心極限定理

第3回：点推定の考え方・母平均と母分散の点推定
点推定，不偏性，効率性，標準誤差，不偏分散

第4回：サンプルサイズと推定の誤差・区間推定の考え方
推定の誤差，推定の精度，母平均の区間推定（母分散既知），信頼区間，信頼係数，パーセント点

第5回：仮説検定の考え方
母平均の仮説検定（母分散既知），帰無仮説，対立仮説，有意水準，検定統計量，棄却域と採択域，第1種の誤り，第2種の誤り，検出力，p値，片側検定，両側検定

第6回：母平均・母分散の区間推定と仮説検定
母平均の区間推定と仮説検定，母分散の区間推定と仮説検定，様々な推定と検定

第7回：最終試験
最終試験

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 講義用資料をwaseda moodle上で配布。

参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著.
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50% 学部生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%
備考・関連URL:	2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。 ・コンピュータによる統計解析 また、本科目と英語科目「Statistics Literacy γ」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000141|03|9S03000141[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーγ 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： データからの推測

授業概要： 膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。推測統計学は，母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問です。本講義では，推定および検定といった推測統計における具体的な方法を，理論と実践の両面から説明します。実践のためのツールとしては，「MS Excel」を用います。（但し，本講義の主題はあくまで「推測統計を学ぶこと」なので，「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）また，本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標： ・推測統計の基礎となる理論を理解できるようになること
・推測統計の方法（推定と検定）を実際に利用し，その結果を的確に解釈できるようになること

事前・事後学習の内容： 事前学習：
−シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
−前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
−前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
−動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：統計的推測の目的と標本分布
母集団，標本，ランダムサンプリング，母集団分布，標本分布

第2回：大数の法則と中心極限定理
大数の法則，中心極限定理

第3回：点推定の考え方・母平均と母分散の点推定
点推定，不偏性，効率性，標準誤差，不偏分散

第4回：サンプルサイズと推定の誤差・区間推定の考え方
推定の誤差，推定の精度，母平均の区間推定（母分散既知），信頼区間，信頼係数，パーセント点

第5回：仮説検定の考え方
母平均の仮説検定（母分散既知），帰無仮説，対立仮説，有意水準，検定統計量，棄却域と採択域，第1種の誤り，第2種の誤り，検出力，p値，片側検定，両側検定

第6回：母平均・母分散の区間推定と仮説検定
母平均の区間推定と仮説検定，母分散の区間推定と仮説検定，様々な推定と検定

第7回：最終試験
最終試験

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 堀井俊佑 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著，「統計リテラシーⅡ − 推測統計の基本的考え方」，サイエ

ンス社.

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい

データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著.

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%
学部生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%

備考・関連URL: 2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
・コンピュータによる統計解析
また、本科目と英語科目「Statistics Literacy γ」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000141|04|9S03000141[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーγ 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： データからの推測

授業概要： 膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。推測統計学は，母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問です。本講義では，推定および検定といった推測統計における具体的な方法を，理論と実践の両面から説明します。実践のためのツールとしては，「MS Excel」を用います。（但し，本講義の主題はあくまで「推測統計を学ぶこと」なので，「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）また，本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標： ・推測統計の基礎となる理論を理解できるようになること
・推測統計の方法（推定と検定）を実際に利用し，その結果を的確に解釈できるようになること

事前・事後学習の内容： 事前学習：
−シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
−前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
−前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
−動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：統計的推測の目的と標本分布
母集団，標本，ランダムサンプリング，母集団分布，標本分布

第2回：大数の法則と中心極限定理
大数の法則，中心極限定理

第3回：点推定の考え方・母平均と母分散の点推定
点推定，不偏性，効率性，標準誤差，不偏分散

第4回：サンプルサイズと推定の誤差・区間推定の考え方
推定の誤差，推定の精度，母平均の区間推定（母分散既知），信頼区間，信頼係数，パーセント点

第5回：仮説検定の考え方
母平均の仮説検定（母分散既知），帰無仮説，対立仮説，有意水準，検定統計量，棄却域と採択域，第1種の誤り，第2種の誤り，検出力，p値，片側検定，両側検定

第6回：母平均・母分散の区間推定と仮説検定
母平均の区間推定と仮説検定，母分散の区間推定と仮説検定，様々な推定と検定

第7回：最終試験
最終試験

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 堀井俊佑 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著，「統計リテラシーⅡ − 推測統計の基本的考え方」，サイエ

ンス社.

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい

データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著.

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%
学部生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%

備考・関連URL: 2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
・コンピュータによる統計解析
また、本科目と英語科目「Statistics Literacy γ」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000142|01|9S03000142[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門γ 01		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 分析に適切なモデルの探索

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学はデータから新しい知見を手に入れ、これを意思決定に役立てるための総合科学であり、その考え方は全ての学術院や学科において必要になってきております。
本講義はデータ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶデータ科学入門シリーズ4科目の3番目の科目です。データ科学入門シリーズは統計学や機械学習、人工知能などを網羅的に学ぶことにより、広くデータ科学の分野を知るだけでなく、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に学びます。
本講義では多変量データの扱いを題材として重回帰分析と分類問題に焦点を当て、分析の目的に応じて適切なモデルを探索する方法を学習します。
また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
なお本講義の関連として、深層学習（ディープラーニング）について付録にて解説を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α」及び「データ科学入門β」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・重回帰分析及び分類問題のそれぞれに対して、目的及びデータの性質に合った適切なモデル化と評価基準を選択することができる
・コンピュータを用いて重回帰分析及び分類問題の分析を行うことができる

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-教科書の該当部分を読み、予習する（45分）
事後学習:
-動画・練習問題・小テストを見直して復習する（50分）
- 教科書の該当部分を確認し、理論的な理解を深める（50分）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

様々な基底関数、変数選択・モデル選択の問題

多項式回帰、交互作用、基底関数、Pythonによる多項式回帰のパラメータ推定

仮説検定を利用したモデル選択

基底の選択・変数選択・モデル選択、仮説検定に基づく構造の推定（検定の多重性）、分散分析

構造推定を目的とするモデル選択

構造推定を目的としたモデル選択、構造推定を目的としたモデル選択に対するベイズ的アプローチ（一致性、ベイズ基準）、Pythonによる構造推定を目的としたモデル選択

予測問題、予測を目的とするモデル選択（1）

予測を目的としたモデル選択（AIC）、AICとBICの比較、モデルを選択しない予測

予測を目的とするモデル選択（2）、間接予測と直接予測

クロスバリデーション、MallowsのCp基準、Pythonによるクロスバリデーション

変数・基底の数が大きい場合のモデル選択、正則化の目的、正則化のベイズ的解釈
モデルの探索（全数探索・変数増加法・変数減少法）、正則化（Lasso・リッジ回帰）、Pythonによる正則化、正則化の目的、正則化のベイズ的解釈、深層学習（ディープラーニング）
様々な回帰と分類のクラス
データの近さを利用する考え方(1)（回帰木・決定木）、データの近さを利用する考え方(2)（ノンパラメトリック回帰）、手法の選択

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「データ科学入門Ⅲ － モデルの候補が複数あるときの意思決定」
サイエンス社
著者：松嶋敏泰【監修】・早稲田大学データ科学教育チーム【著】

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 学部生 練習問題：40%、小テスト：60%
大学院生 練習問題：40%、小テスト：60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000142|02|9S03000142[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門γ 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 分析に適切なモデルの探索

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学はデータから新しい知見を手に入れ、これを意思決定に役立てるための総合科学であり、その考え方は全ての学術院や学科において必要になってきております。
本講義はデータ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶデータ科学入門シリーズ4科目の3番目の科目です。データ科学入門シリーズは統計学や機械学習、人工知能などを網羅的に学ぶことにより、広くデータ科学の分野を知るだけでなく、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に学びます。
本講義では多変量データの扱いを題材として重回帰分析と分類問題に焦点を当て、分析の目的に応じて適切なモデルを探索する方法を学習します。
また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
なお本講義の関連として、深層学習（ディープラーニング）について付録にて解説を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α」及び「データ科学入門β」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・重回帰分析及び分類問題のそれぞれに対して、目的及びデータの性質に合った適切なモデル化と評価基準を選択することができる
・コンピュータを用いて重回帰分析及び分類問題の分析を行うことができる

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-教科書の該当部分を読み、予習する（45分）
事後学習:
-動画・練習問題・小テストを見直して復習する（50分）
- 教科書の該当部分を確認し、理論的な理解を深める（50分）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

様々な基底関数、変数選択・モデル選択の問題

多項式回帰、交互作用、基底関数、Pythonによる多項式回帰のパラメータ推定

仮説検定を利用したモデル選択

基底の選択・変数選択・モデル選択、仮説検定に基づく構造の推定（検定の多重性）、分散分析

構造推定を目的とするモデル選択

構造推定を目的としたモデル選択、構造推定を目的としたモデル選択に対するベイズ的アプローチ（一致性、ベイズ基準）、Pythonによる構造推定を目的としたモデル選択

予測問題、予測を目的とするモデル選択（1）

予測を目的としたモデル選択（AIC）、AICとBICの比較、モデルを選択しない予測

予測を目的とするモデル選択（2）、間接予測と直接予測

クロスバリデーション、MallowsのCp基準、Pythonによるクロスバリデーション

変数・基底の数が大きい場合のモデル選択、正則化の目的、正則化のベイズ的解釈
モデルの探索（全数探索・変数増加法・変数減少法）、正則化（Lasso・リッジ回帰）、Pythonによる正則化、正則化の目的、正則化のベイズ的解釈、深層学習（ディープラーニング）
様々な回帰と分類のクラス
データの近さを利用する考え方(1)（回帰木・決定木）、データの近さを利用する考え方(2)（ノンパラメトリック回帰）、手法の選択

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「データ科学入門Ⅲ － モデルの候補が複数あるときの意思決定」
サイエンス社
著者：松嶋敏泰【監修】・早稲田大学データ科学教育チーム【著】

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 学部生 練習問題：40%、小テスト：60%
大学院生 練習問題：40%、小テスト：60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000142|03|9S03000142[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門γ 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 分析に適切なモデルの探索

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学はデータから新しい知見を手に入れ、これを意思決定に役立てるための総合科学であり、その考え方は全ての学術院や学科において必要になってきております。
本講義はデータ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶデータ科学入門シリーズ4科目の3番目の科目です。データ科学入門シリーズは統計学や機械学習、人工知能などを網羅的に学ぶことにより、広くデータ科学の分野を知るだけでなく、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に学びます。
本講義では多変量データの扱いを題材として重回帰分析と分類問題に焦点を当て、分析の目的に応じて適切なモデルを探索する方法を学習します。
また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
なお本講義の関連として、深層学習（ディープラーニング）について付録にて解説を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α」及び「データ科学入門β」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・重回帰分析及び分類問題のそれぞれに対して、目的及びデータの性質に合った適切なモデル化と評価基準を選択することができる
・コンピュータを用いて重回帰分析及び分類問題の分析を行うことができる

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-教科書の該当部分を読み、予習する（45分）
事後学習:
-動画・練習問題・小テストを見直して復習する（50分）
- 教科書の該当部分を確認し、理論的な理解を深める（50分）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

様々な基底関数、変数選択・モデル選択の問題

多項式回帰、交互作用、基底関数、Pythonによる多項式回帰のパラメータ推定

仮説検定を利用したモデル選択

基底の選択・変数選択・モデル選択、仮説検定に基づく構造の推定（検定の多重性）、分散分析

構造推定を目的とするモデル選択

構造推定を目的としたモデル選択、構造推定を目的としたモデル選択に対するベイズ的アプローチ（一致性、ベイズ基準）、Pythonによる構造推定を目的としたモデル選択

予測問題、予測を目的とするモデル選択（1）

予測を目的としたモデル選択（AIC）、AICとBICの比較、モデルを選択しない予測

予測を目的とするモデル選択（2）、間接予測と直接予測

クロスバリデーション、MallowsのCp基準、Pythonによるクロスバリデーション

変数・基底の数が大きい場合のモデル選択、正則化の目的、正則化のベイズ的解釈
モデルの探索（全数探索・変数増加法・変数減少法）、正則化（Lasso・リッジ回帰）、Pythonによる正則化、正則化の目的、正則化のベイズ的解釈、深層学習（ディープラーニング）
様々な回帰と分類のクラス
データの近さを利用する考え方(1)（回帰木・決定木）、データの近さを利用する考え方(2)（ノンパラメトリック回帰）、手法の選択

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「データ科学入門Ⅲ － モデルの候補が複数あるときの意思決定」
サイエンス社
著者：松嶋敏泰【監修】・早稲田大学データ科学教育チーム【著】

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 学部生 練習問題：40%、小テスト：60%
大学院生 練習問題：40%、小テスト：60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000142|04|9S03000142[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門γ 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 分析に適切なモデルの探索

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学はデータから新しい知見を手に入れ、これを意思決定に役立てるための総合科学であり、その考え方は全ての学術院や学科において必要になってきております。
本講義はデータ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶデータ科学入門シリーズ4科目の3番目の科目です。データ科学入門シリーズは統計学や機械学習、人工知能などを網羅的に学ぶことにより、広くデータ科学の分野を知るだけでなく、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に学びます。
本講義では多変量データの扱いを題材として重回帰分析と分類問題に焦点を当て、分析の目的に応じて適切なモデルを探索する方法を学習します。
また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
なお本講義の関連として、深層学習（ディープラーニング）について付録にて解説を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α」及び「データ科学入門β」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・重回帰分析及び分類問題のそれぞれに対して、目的及びデータの性質に合った適切なモデル化と評価基準を選択することができる
・コンピュータを用いて重回帰分析及び分類問題の分析を行うことができる

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-教科書の該当部分を読み、予習する（45分）
事後学習:
-動画・練習問題・小テストを見直して復習する（50分）
- 教科書の該当部分を確認し、理論的な理解を深める（50分）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

様々な基底関数、変数選択・モデル選択の問題

多項式回帰、交互作用、基底関数、Pythonによる多項式回帰のパラメータ推定

仮説検定を利用したモデル選択

基底の選択・変数選択・モデル選択、仮説検定に基づく構造の推定（検定の多重性）、分散分析

構造推定を目的とするモデル選択

構造推定を目的としたモデル選択、構造推定を目的としたモデル選択に対するベイズ的アプローチ（一致性、ベイズ基準）、Pythonによる構造推定を目的としたモデル選択

予測問題、予測を目的とするモデル選択（1）

予測を目的としたモデル選択（AIC）、AICとBICの比較、モデルを選択しない予測

予測を目的とするモデル選択（2）、間接予測と直接予測

クロスバリデーション、MallowsのCp基準、Pythonによるクロスバリデーション

変数・基底の数が大きい場合のモデル選択、正則化の目的、正則化のベイズ的解釈
モデルの探索（全数探索・変数増加法・変数減少法）、正則化（Lasso・リッジ回帰）、Pythonによる正則化、正則化の目的、正則化のベイズ的解釈、深層学習（ディープラーニング）
様々な回帰と分類のクラス
データの近さを利用する考え方(1)（回帰木・決定木）、データの近さを利用する考え方(2)（ノンパラメトリック回帰）、手法の選択

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「データ科学入門Ⅲ － モデルの候補が複数あるときの意思決定」
サイエンス社
著者：松嶋敏泰【監修】・早稲田大学データ科学教育チーム【著】

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 学部生 練習問題：40%、小テスト：60%
大学院生 練習問題：40%、小テスト：60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000161|01|9S03000161[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーδ 01		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。推測統計学は，母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問です。本講義では，推定および検定といった推測統計の基礎的な考え方を習得済みであることを前提として、様々な検定・推定の問題や分散分析などの発展的な内容を、理論と実践の両面から学習します。実践のためのツールとしては，「MS Excel」を用います。（但し，本講義の主題はあくまで「推測統計を学ぶこと」なので，「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）また，本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」「統計リテラシーγ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

様々な統計的検定・推定問題に対し、目的にあった手法を選択し、自らの手で検定・推定を行うことができ、その結果を適切に解釈できるようになること

事前・事後学習の内容：

事前学習：
- シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
- 前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
- 前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習：
- 動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：母集団の比較(1)

母平均の差に関する検定と推定
母分散の比に関する検定と推定
Welchのt検定

第2回：様々な分布の検定と推定

二項分布の検定と推定
ポアソン分布の検定と推定
母相関係数に関する検定と推定
分割表に関する検定

第3回：母集団の比較(2)

対応がある場合の母平均の差に関する検定と推定
二項分布の比較に関する検定と推定
ポアソン分布の比較に関する検定と推定

第4回：分散分析(1)

分散分析の考え方
一元配置分散分析
一元配置分散分析後の推定

第5回：分散分析(2)
繰り返しのある二元配置分散分析
繰り返しのない二元配置分散分析（対応のある一元配置分散分析）
二元配置分散分析後の推定
第6回：分散分析(3)
単回帰分析と最小二乗法
単回帰分析と分散分析
回帰係数に対する検定と推定
第7回：最終試験
最終試験

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　Waseda Moodle で教材を配布する.

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

成績評価フリー入力サイン：　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生 練習問題：20%, 小テスト：30%, 最終試験：50%
学部生 練習問題：20%, 小テスト：30%, 最終試験：50%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000161|02|9S03000161[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーδ 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。推測統計学は，母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問です。本講義では，推定および検定といった推測統計の基礎的な考え方を習得済みであることを前提として、様々な検定・推定の問題や分散分析などの発展的な内容を、理論と実践の両面から学習します。実践のためのツールとしては，「MS Excel」を用います。（但し，本講義の主題はあくまで「推測統計を学ぶこと」なので，「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）また，本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」「統計リテラシーγ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: 様々な統計的検定・推定問題に対し、目的にあった手法を選択し、自らの手で検定・推定を行うことができ、その結果を適切に解釈できるようになること

事前・事後学習の内容: 事前学習:
- シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
- 前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
- 前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習:
- 動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：母集団の比較(1)
母平均の差に関する検定と推定
母分散の比に関する検定と推定
Welchのt検定

第2回：様々な分布の検定と推定
二項分布の検定と推定
ポアソン分布の検定と推定
母相関係数に関する検定と推定
分割表に関する検定

第3回：母集団の比較(2)
対応がある場合の母平均の差に関する検定と推定
二項分布の比較に関する検定と推定
ポアソン分布の比較に関する検定と推定

第4回：分散分析(1)
分散分析の考え方
一元配置分散分析
一元配置分散分析後の推定

第5回：分散分析(2)
繰り返しのある二元配置分散分析
繰り返しのない二元配置分散分析（対応のある一元配置分散分析）
二元配置分散分析後の推定
第6回：分散分析(3)
単回帰分析と最小二乗法
単回帰分析と分散分析
回帰係数に対する検定と推定
第7回：最終試験
最終試験

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　Waseda Moodle で教材を配布する.

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生 練習問題：20%, 小テスト：30%, 最終試験：50%
学部生 練習問題：20%, 小テスト：30%, 最終試験：50%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000161|03|9S03000161[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーδ 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。推測統計学は，母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問です。本講義では，推定および検定といった推測統計の基礎的な考え方を習得済みであることを前提として、様々な検定・推定の問題や分散分析などの発展的な内容を、理論と実践の両面から学習します。実践のためのツールとしては，「MS Excel」を用います。（但し，本講義の主題はあくまで「推測統計を学ぶこと」なので，「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）また，本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」「統計リテラシーγ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: 様々な統計的検定・推定問題に対し、目的にあった手法を選択し、自らの手で検定・推定を行うことができ、その結果を適切に解釈できるようになること

事前・事後学習の内容: 事前学習:
- シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
- 前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
- 前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習:
- 動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：母集団の比較(1)
母平均の差に関する検定と推定
母分散の比に関する検定と推定
Welchのt検定

第2回：様々な分布の検定と推定
二項分布の検定と推定
ポアソン分布の検定と推定
母相関係数に関する検定と推定
分割表に関する検定

第3回：母集団の比較(2)
対応がある場合の母平均の差に関する検定と推定
二項分布の比較に関する検定と推定
ポアソン分布の比較に関する検定と推定

第4回：分散分析(1)
分散分析の考え方
一元配置分散分析
一元配置分散分析後の推定

第5回：分散分析(2)
繰り返しのある二元配置分散分析
繰り返しのない二元配置分散分析（対応のある一元配置分散分析）
二元配置分散分析後の推定
第6回：分散分析(3)
単回帰分析と最小二乗法
単回帰分析と分散分析
回帰係数に対する検定と推定
第7回：最終試験
最終試験

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　堀井俊佑 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著，「統計リテラシーⅡ － 推測統計の基本的考え方」，サイエンス社．

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生 練習問題：20%，小テスト：30%，最終試験：50%
学部生 練習問題：20%，小テスト：30%，最終試験：50%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000161|04|9S03000161[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーδ 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。推測統計学は，母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問です。本講義では，推定および検定といった推測統計の基礎的な考え方を習得済みであることを前提として、様々な検定・推定の問題や分散分析などの発展的な内容を、理論と実践の両面から学習します。実践のためのツールとしては，「MS Excel」を用います。（但し，本講義の主題はあくまで「推測統計を学ぶこと」なので，「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）また，本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」「統計リテラシーγ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: 様々な統計的検定・推定問題に対し、目的にあった手法を選択し、自らの手で検定・推定を行うことができ、その結果を適切に解釈できるようになること

事前・事後学習の内容: 事前学習:
- シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
- 前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
- 前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習:
- 動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：母集団の比較(1)
母平均の差に関する検定と推定
母分散の比に関する検定と推定
Welchのt検定

第2回：様々な分布の検定と推定
二項分布の検定と推定
ポアソン分布の検定と推定
母相関係数に関する検定と推定
分割表に関する検定

第3回：母集団の比較(2)
対応がある場合の母平均の差に関する検定と推定
二項分布の比較に関する検定と推定
ポアソン分布の比較に関する検定と推定

第4回：分散分析(1)
分散分析の考え方
一元配置分散分析
一元配置分散分析後の推定

第5回：分散分析(2)

繰り返しのある二元配置分散分析
繰り返しのない二元配置分散分析（対応のある一元配置分散分析）
二元配置分散分析後の推定

第6回：分散分析(3)

単回帰分析と最小二乗法
単回帰分析と分散分析
回帰係数に対する検定と推定

第7回：最終試験

最終試験

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　堀井俊佑 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著，「統計リテラシーⅡ － 推測統計の基本的考え方」，サイエンス社．

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生 練習問題：20%，小テスト：30%，最終試験：50%
学部生 練習問題：20%，小テスト：30%，最終試験：50%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000162|01|9S03000162[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	RIによる統計解析 O1		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。簡単な統計解析はExcelなどの表計算ソフトでも行うことができますが、より発展的な解析をする場合、統計解析に特化したソフトウェアの使用が必要となります。本講義では、統計リテラシーα～δの講義内容を、統計解析ソフトRを用いて学習します。ただし、各手法の考え方などについては統計リテラシーα～δで扱いますので、理論を学びたい方はそちらを受講してください。

受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」「統計リテラシーγ」「統計リテラシーδ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

授業の到達目標: RによるプログラミングをRを理解し、与えられたデータに対して基本的な統計解析を行うことが出来る

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:Rの基礎
基本的な使い方、スクリプトの作成と保存、関数の作成

第2回:Rによる演算
ベクトルの演算、行列の演算、データフレーム

第3回:Rによる可視化
グラフの作成、ヒストグラムの作成、散布図の作成、統計量の計算

第4回:Rによる検定と推定
母平均の検定と推定、母分散の検定と推定

第5回:Rによる分散分析
一元配置分散分析、二元配置分散分析

第6回:Rによる分析
単回帰分析、分岐処理と繰り返し処理、シミュレーション実験、ファイル処理、パッケージの利用

第7回:理解度確認試験
理解度確認試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: Waseda Moodle で教材を配布する.

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%
学部生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000162|02|9S03000162[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	RIによる統計解析 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。簡単な統計解析はExcelなどの表計算ソフトでも行うことができますが、より発展的な解析をする場合、統計解析に特化したソフトウェアの使用が必要となります。本講義では、統計リテラシーα～δの講義内容を、統計解析ソフトRを用いて学習します。ただし、各手法の考え方などについては統計リテラシーα～δで扱いますので、理論を学びたい方はそちらを受講してください。

受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」「統計リテラシーγ」「統計リテラシーδ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

授業の到達目標: RによるプログラミングをRを理解し、与えられたデータに対して基本的な統計解析を行うことが出来る

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:Rの基礎
基本的な使い方、スクリプトの作成と保存、関数の作成

第2回:Rによる演算
ベクトルの演算、行列の演算、データフレーム

第3回:Rによる可視化
グラフの作成、ヒストグラムの作成、散布図の作成、統計量の計算

第4回:Rによる検定と推定
母平均の検定と推定、母分散の検定と推定

第5回:Rによる分散分析
一元配置分散分析、二元配置分散分析

第6回:Rによる分析
単回帰分析、分岐処理と繰り返し処理、シミュレーション実験、ファイル処理、パッケージの利用

第7回:理解度確認試験
理解度確認試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: Waseda Moodle で教材を配布する.

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%
学部生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000162|03|9S03000162[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	RIによる統計解析 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。簡単な統計解析はExcelなどの表計算ソフトでも行うことができますが、より発展的な解析をする場合、統計解析に特化したソフトウェアの使用が必要となります。本講義では、統計リテラシーα～δの講義内容を、統計解析ソフトRを用いて学習します。ただし、各手法の考え方などについては統計リテラシーα～δで扱いますので、理論を学びたい方はそちらを受講してください。

受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」「統計リテラシーγ」「統計リテラシーδ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

授業の到達目標: RによるプログラミングをRを理解し、与えられたデータに対して基本的な統計解析を行うことが出来る

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:Rの基礎
基本的な使い方、スクリプトの作成と保存、関数の作成

第2回:Rによる演算
ベクトルの演算、行列の演算、データフレーム

第3回:Rによる可視化
グラフの作成、ヒストグラムの作成、散布図の作成、統計量の計算

第4回:Rによる検定と推定
母平均の検定と推定、母分散の検定と推定

第5回:Rによる分散分析
一元配置分散分析、二元配置分散分析

第6回:Rによる分析
単回帰分析、分岐処理と繰り返し処理、シミュレーション実験、ファイル処理、パッケージの利用

第7回:理解度確認試験
理解度確認試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: Waseda Moodle で教材を配布する.

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%
学部生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000162|04|9S03000162[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	RIによる統計解析 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。簡単な統計解析はExcelなどの表計算ソフトでも行うことができますが、より発展的な解析をする場合、統計解析に特化したソフトウェアの使用が必要となります。本講義では、統計リテラシーα～δの講義内容を、統計解析ソフトRを用いて学習します。ただし、各手法の考え方などについては統計リテラシーα～δで扱いますので、理論を学びたい方はそちらを受講してください。

受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」「統計リテラシーγ」「統計リテラシーδ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

授業の到達目標: RによるプログラミングをRを理解し、与えられたデータに対して基本的な統計解析を行うことが出来る

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:Rの基礎
基本的な使い方、スクリプトの作成と保存、関数の作成

第2回:RIによる演算
ベクトルの演算、行列の演算、データフレーム

第3回:RIによる可視化
グラフの作成、ヒストグラムの作成、散布図の作成、統計量の計算

第4回:RIによる検定と推定
母平均の検定と推定、母分散の検定と推定

第5回:RIによる分散分析
一元配置分散分析、二元配置分散分析

第6回:RIによる分析
単回帰分析、分岐処理と繰り返し処理、シミュレーション実験、ファイル処理、パッケージの利用

第7回:理解度確認試験
理解度確認試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: Waseda Moodle で教材を配布する.

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－ データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%
学部生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000163|01|9S03000163[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門δ 01		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データ解析の実践

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学はデータから新しい知見を手に入れ、これを意思決定に役立てるための総合科学であり、その考え方は全ての学術院や学科において必要になってきております。
本講義はデータ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶデータ科学入門シリーズ4科目の最後の科目です。データ科学入門シリーズは統計学や機械学習、人工知能などを網羅的に学ぶことにより、広くデータ科学の分野を知るだけでなく、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に学びます。
本講義ではデータ縮約の観点からクラスタリング及び主成分分析を学びます。さらにデータのサンプリングや前処理を踏まえ、データ科学の一連の流れにおける注意点を学びます。データ科学における解析の目的や手法についてはデータ科学入門α、β、γで履修済み相当の知識があることを前提として、より実際的なデータの取り扱いや、得られた結果の妥当性の検証などについて学びます。またデータ解析時及び考察の注意点についても解説を行います。
また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α」、「データ科学入門β」、「データ科学入門γ」を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・データ縮約として、クラスタリング及び主成分分析のモデル化を検討することができる
・データ解析の一連の流れを理解し、サンプリング、前処理、モデル化、分析、結果の考察、妥当性の検証を行うことができる

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

クラスタリング
クラスタリングの目的、問題設定、評価基準、確率的な表現
潜在変数が存在する状況におけるパラメータ推定
潜在変数を含むデータにおけるパラメータ推定最適化アルゴリズム
データの縮約
データの次数削減、主成分分析
データ解析の一連の流れ(1):問題解決のプロセス
分析目的の設定、データ取得の計画、サンプリングの方法
データ解析の一連の流れ(2):データの前処理
データの確認、欠測値、外れ値

データ解析の一連の流れ(3):モデルの妥当性の検証
モデルの妥当性の検証、データの変換、残差の分析、解析結果の利用に関する注意

データ科学入門に続いて
データ科学の応用(テキスト解析、画像解析)
発展的内容に関する説明、数学の重要性、因果構造の紹介、時系列構造の紹介、空間構造の紹介、回帰と分類の紹介(アンサンブル学習)

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「データ科学入門IV − 写像とグラフによる統一的体系化 変数/定数の観測可能性の視点から, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I − データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
「データ科学入門 II − 特徴記述・構造推定・予測 — 回帰と分類を例に, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
「データ科学入門 III − モデルの候補が複数あるときの意思決定, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 大学院生:練習問題40%, 小テスト60%
学部生:練習問題40%, 小テスト60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000163|02|9S03000163[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門δ 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データ解析の実践

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学はデータから新しい知見を手に入れ、これを意思決定に役立てるための総合科学であり、その考え方は全ての学術院や学科において必要になってきております。
本講義はデータ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶデータ科学入門シリーズ4科目の最後の科目です。データ科学入門シリーズは統計学や機械学習、人工知能などを網羅的に学ぶことにより、広くデータ科学の分野を知るだけでなく、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に学びます。
本講義ではデータ縮約の観点からクラスタリング及び主成分分析を学びます。さらにデータのサンプリングや前処理を踏まえ、データ科学の一連の流れにおける注意点を学びます。データ科学における解析の目的や手法についてはデータ科学入門α、β、γで履修済み相当の知識があることを前提として、より実際的なデータの取り扱いや、得られた結果の妥当性の検証などについて学びます。またデータ解析時及び考察の注意点についても解説を行います。
また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α」、「データ科学入門β」、「データ科学入門γ」を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・データ縮約として、クラスタリング及び主成分分析のモデル化を検討することができる
・データ解析の一連の流れを理解し、サンプリング、前処理、モデル化、分析、結果の考察、妥当性の検証を行うことができる

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

クラスタリング
クラスタリングの目的、問題設定、評価基準、確率的な表現
潜在変数が存在する状況におけるパラメータ推定
潜在変数を含むデータにおけるパラメータ推定最適化アルゴリズム
データの縮約
データの次数削減、主成分分析
データ解析の一連の流れ(1):問題解決のプロセス
分析目的の設定、データ取得の計画、サンプリングの方法
データ解析の一連の流れ(2):データの前処理
データの確認、欠測値、外れ値

データ解析の一連の流れ(3):モデルの妥当性の検証
モデルの妥当性の検証、データの変換、残差の分析、解析結果の利用に関する注意

データ科学入門に続いて
データ科学の応用(テキスト解析、画像解析)
発展的内容に関する説明、数学の重要性、因果構造の紹介、時系列構造の紹介、空間構造の紹介、回帰と分類の紹介(アンサンブル学習)

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「データ科学入門IV − 写像とグラフによる統一的体系化—変数/定数の観測可能性の視点から, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I − データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
「データ科学入門 II − 特徴記述・構造推定・予測 — 回帰と分類を例に, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
「データ科学入門 III − モデルの候補が複数あるときの意思決定, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 大学院生:練習問題40%, 小テスト60%
学部生:練習問題40%, 小テスト60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000163|03|9S03000163[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門δ 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データ解析の実践

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学はデータから新しい知見を手に入れ、これを意思決定に役立てるための総合科学であり、その考え方は全ての学術院や学科において必要になってきております。
本講義はデータ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶデータ科学入門シリーズ4科目の最後の科目です。データ科学入門シリーズは統計学や機械学習、人工知能などを網羅的に学ぶことにより、広くデータ科学の分野を知るだけでなく、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に学びます。
本講義ではデータ縮約の観点からクラスタリング及び主成分分析を学びます。さらにデータのサンプリングや前処理を踏まえ、データ科学の一連の流れにおける注意点を学びます。データ科学における解析の目的や手法についてはデータ科学入門α、β、γで履修済み相当の知識があることを前提として、より実際的なデータの取り扱いや、得られた結果の妥当性の検証などについて学びます。またデータ解析時及び考察の注意点についても解説を行います。
また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α」、「データ科学入門β」、「データ科学入門γ」を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・データ縮約として、クラスタリング及び主成分分析のモデル化を検討することができる
・データ解析の一連の流れを理解し、サンプリング、前処理、モデル化、分析、結果の考察、妥当性の検証を行うことができる

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

クラスタリング
クラスタリングの目的、問題設定、評価基準、確率的な表現
潜在変数が存在する状況におけるパラメータ推定
潜在変数を含むデータにおけるパラメータ推定最適化アルゴリズム
データの縮約
データの次数削減、主成分分析
データ解析の一連の流れ(1):問題解決のプロセス
分析目的の設定、データ取得の計画、サンプリングの方法
データ解析の一連の流れ(2):データの前処理
データの確認、欠測値、外れ値

データ解析の一連の流れ(3):モデルの妥当性の検証
モデルの妥当性の検証、データの変換、残差の分析、解析結果の利用に関する注意

データ科学入門に続いて
データ科学の応用(テキスト解析、画像解析)
発展的内容に関する説明、数学の重要性、因果構造の紹介、時系列構造の紹介、空間構造の紹介、回帰と分類の紹介(アンサンブル学習)

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「データ科学入門IV − 写像とグラフによる統一的体系化—変数/定数の観測可能性の視点から, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I − データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
「データ科学入門 II − 特徴記述・構造推定・予測 — 回帰と分類を例に, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
「データ科学入門 III − モデルの候補が複数あるときの意思決定, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 大学院生:練習問題40%, 小テスト60%
学部生:練習問題40%, 小テスト60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000163|04|9S03000163[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門δ 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データ解析の実践

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学はデータから新しい知見を手に入れ、これを意思決定に役立てるための総合科学であり、その考え方は全ての学術院や学科において必要になってきております。
本講義はデータ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶデータ科学入門シリーズ4科目の最後の科目です。データ科学入門シリーズは統計学や機械学習、人工知能などを網羅的に学ぶことにより、広くデータ科学の分野を知るだけでなく、データ科学における考え方、問題設定の目的や結果の考察、実際にデータ科学を用いて解析を行うときに気を付ける点などを中心に学びます。
本講義ではデータ縮約の観点からクラスタリング及び主成分分析を学びます。さらにデータのサンプリングや前処理を踏まえ、データ科学の一連の流れにおける注意点を学びます。データ科学における解析の目的や手法についてはデータ科学入門α、β、γで履修済み相当の知識があることを前提として、より実際的なデータの取り扱いや、得られた結果の妥当性の検証などについて学びます。またデータ解析時及び考察の注意点についても解説を行います。
また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α」、「データ科学入門β」、「データ科学入門γ」を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・データ縮約として、クラスタリング及び主成分分析のモデル化を検討することができる
・データ解析の一連の流れを理解し、サンプリング、前処理、モデル化、分析、結果の考察、妥当性の検証を行うことができる

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

クラスタリング
クラスタリングの目的、問題設定、評価基準、確率的な表現
潜在変数が存在する状況におけるパラメータ推定
潜在変数を含むデータにおけるパラメータ推定最適化アルゴリズム
データの縮約
データの次数削減、主成分分析
データ解析の一連の流れ(1):問題解決のプロセス
分析目的の設定、データ取得の計画、サンプリングの方法
データ解析の一連の流れ(2):データの前処理
データの確認、欠測値、外れ値

データ解析の一連の流れ(3):モデルの妥当性の検証
モデルの妥当性の検証、データの変換、残差の分析、解析結果の利用に関する注意

データ科学入門に続いて
データ科学の応用(テキスト解析、画像解析)
発展的内容に関する説明、数学の重要性、因果構造の紹介、時系列構造の紹介、空間構造の紹介、回帰と分類の紹介(アンサンブル学習)

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「データ科学入門IV − 写像とグラフによる統一的体系化—変数/定数の観測可能性の視点から, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I − データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
「データ科学入門 II − 特徴記述・構造推定・予測 — 回帰と分類を例に, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
「データ科学入門 III − モデルの候補が複数あるときの意思決定, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 大学院生:練習問題40%, 小テスト60%
学部生:練習問題40%, 小テスト60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000201|01|9S03000201[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Statistics Literacy α 01		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: Organizing data

授業概要:

In the present age where enormous amounts of data are available, extracting meaningful information from the data is becoming a more and more important problem.As a basis for it, statistical analysis has been recognized as an important technique.
In this lecture, we will learn descriptive statistics.
Descriptive statistics are the most fundamental part of statistics.
In this lecture, we mainly deal with the meaning and calculation method of basic statistics, basic analysis method of data and so on.
We will use ″MS Excel″ as a tool to learn about these.
(However, the subject of this lecture is ″to learn descriptive statistics″, so if you only want to learn how to use ″MS Excel″, we recommend you to take another lecture.)

This is a common course in the Data Science Education Program designed for all students in all faculties of Waseda University. For details of this program, please see
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculum.
This course is also included in the Data Science Certification System of Waseda University. More information is available at
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditation.

授業の到達目標:

・Being able to accurately read the nature and trend of data.
・Being able to output analysis results in an appropriate manner.

事前・事後学習の内容:

Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)

After class:
Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

Part 1: Visualization of data (various graphs)

Population and sample, Data classification and scale, Data visualization, Creating graphs using Excel, Using the appropriate graph

Part 2: Frequency distribution table and histogram

Frequency distribution table and histogram, Creating a histogram using Excel, How to view characteristics of a distribution from a histogram

Part 3: Measures of center and statistical dispersion of data

Statistics representing the center of data, Measures of statistical dispersion

Part 4: Boxplot and standardization of data

Interquartile range, five-number summary and boxplot, Comparison of variations, Standardization of data

Part 5: Correlation analysis

Bivariate data and scatter plot, Covariance and correlation coefficient, Notes on correlation analysis 1, Notes on correlation analysis 2

Part 6: Contingency table

Relation between qualitative variables and quantitative variables, Contingency table, Creating a contingency table in Excel, Statistics for contingency tables

Part 7: Examination
Examination

言語区分: 0 英語 English

教科書: The materials are distributed on Waseda Moodle.

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: Graduate students: Practice 20%, Mini-Exam 30%, Final Exam 50%
Undergraduate students: Practice 20%, Mini-Exam 30%, Final Exam 50%

備考・関連URL: Students who have acquired the credits of the following subjects by 2015 can not take the course.
・コンピュータによる統計入門You can't take this course if you take the Japanese class (統計リテラシーα), and vice versa.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000201|03|9S03000201[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Statistics Literacy α 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： Organizing data

授業概要： In the present age where enormous amounts of data are available, extracting meaningful information from the data is becoming a more and more important problem.As a basis for it, statistical analysis has been recognized as an important technique.
In this lecture, we will learn descriptive statistics.
Descriptive statistics are the most fundamental part of statistics.
In this lecture, we mainly deal with the meaning and calculation method of basic statistics, basic analysis method of data and so on.
We will use ″MS Excel″ as a tool to learn about these.
(However, the subject of this lecture is ″to learn descriptive statistics″, so if you only want to learn how to use ″MS Excel″, we recommend you to take another lecture.)

This is a common course in the Data Science Education Program designed for all students in all faculties of Waseda University. For details of this program, please see
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculum.
This course is also included in the Data Science Certification System of Waseda University. More information is available at
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditation.

授業の到達目標： ・Being able to accurately read the nature and trend of data.
・Being able to output analysis results in an appropriate manner.

事前・事後学習の内容： Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)

After class:
Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Part 1: Visualization of data (various graphs)

Population and sample, Data classification and scale, Data visualization, Creating graphs using Excel, Using the appropriate graph

Part 2: Frequency distribution table and histogram

Frequency distribution table and histogram, Creating a histogram using Excel, How to view characteristics of a distribution from a histogram

Part 3: Measures of center and statistical dispersion of data

Statistics representing the center of data, Measures of statistical dispersion

Part 4: Boxplot and standardization of data

Interquartile range, five-number summary and boxplot, Comparison of variations, Standardization of data

Part 5: Correlation analysis

Bivariate data and scatter plot, Covariance and correlation coefficient, Notes on correlation analysis 1, Notes on correlation analysis 2

Part 6: Contingency table

Relation between qualitative variables and quantitative variables, Contingency table, Creating a contingency table in Excel, Statistics for contingency tables

Part 7: Examination
Examination

言語区分: 0 英語 English

教科書: The materials are distributed on Waseda Moodle.

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: Graduate students: Practice 20%, Mini-Exam 30%, Final Exam 50%
Undergraduate students: Practice 20%, Mini-Exam 30%, Final Exam 50%

備考・関連URL: Students who have acquired the credits of the following subjects by 2015 can not take the course.
・コンピュータによる統計入門You can't take this course if you take the Japanese class (統計リテラシーα), and vice versa.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000221|02|9S03000221[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Statistics Literacy β 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： Introduction to Probability Theory

授業概要： In the present age where large amounts of data are available, knowledge about how to extract useful information from data becomes more and more important. Statistics provides theories and methods of interpreting data. Especially, inferential statistics (taught in the course Statistics Literacy γ) can help us infer properties of a population from its sample data. To accomplish this, we must first know how to describe the relationships between the population and its samples in a probabilistic way. That is, understanding probability theory is indispensable for comprehending inferential statistics. This course aims to help students firmly acquire fundamental knowledge of probability theory.

This course has joined in the Data Science Education Program. This program is open to all students of Waseda University, both undergraduate and graduate. For details of this program, please refer to https://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculum. This course is also included in the Data Science Certification System of Waseda University. More information is available at https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditation.

○ Prerequisites for taking this course
・Being able to do basic operations of computer, e.g., how to turn on or off your computer, how to use office software, how to sort out files, etc.
・It is desirable that you have taken the course "Statistics Literacy α" or have acquired knowledge equivalent to what is taught in the course.

※ Part of the course plan may be changed during the course.

授業の到達目標： Comprehending fundamental knowledge of probability theory

事前・事後学習の内容： Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)

After class:
Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Part 1: Importance of learning probability theory and basic concepts in probability theory

Significance of learning probability theory, trial and event, basic properties of probability

Part 2: Independence of events, conditional probability and Bayes' theorem

Joint probability, marginal probability, independence of events, conditional probability, Bayes' theorem

Part 3: Discrete random variable: definition and frequently used types

Discrete random variable, cumulative distribution function, probability mass function, some frequently used types of discrete probability distributions

Part 4: Discrete random variable: expected value and variance

Expected value of discrete random variable, difference between expected value and sample mean, variance of discrete random variable

Part 5: Continuous random variable: expected value, variance and standardization

Continuous random variable, probability density function, difference between discrete random variable and continuous random variable, normal distribution
expected value and variance of continuous random variable, standardization of random variable

Part 6: Multivariate probability distribution

Multivariate probability distribution, covariance and correlation coefficient between two random variables, independence of random variables

Part 7: Final exam

Final exam

言語区分: 0 英語 English

教科書: The materials are uploaded on Waseda Moodle.

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: Graduate student: Practice exercise 20%, Mini-exam 30%, Final exam 50%
Undergraduate student: Practice exercise 20%, Mini-exam 30%, Final exam 50%

備考・関連URL: Students who have acquired the credits of the course "コンピュータによる統計入門" by 2015 cannot take this course.
Students who have taken the Japanese version of this course (統計リテラシーβ) cannot take this course and vice versa.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000221|04|9S03000221[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Statistics Literacy β 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： Introduction to Probability Theory

授業概要：

In the present age where large amounts of data are available, knowledge about how to extract useful information from data becomes more and more important. Statistics provides theories and methods of interpreting data. Especially, inferential statistics (taught in the course Statistics Literacy γ) can help us infer properties of a population from its sample data. To accomplish this, we must first know how to describe the relationships between the population and its samples in a probabilistic way. That is, understanding probability theory is indispensable for comprehending inferential statistics. This course aims to help students firmly acquire fundamental knowledge of probability theory.

This course has joined in the Data Science Education Program. This program is open to all students of Waseda University, both undergraduate and graduate. For details of this program, please refer to https://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculum. This course is also included in the Data Science Certification System of Waseda University. More information is available at https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditation.

○ Prerequisites for taking this course
・Being able to do basic operations of computer, e.g., how to turn on or off your computer, how to use office software, how to sort out files, etc.
・It is desirable that you have taken the course "Statistics Literacy α" or have acquired knowledge equivalent to what is taught in the course.

※ Part of the course plan may be changed during the course.

授業の到達目標： Comprehending fundamental knowledge of probability theory

事前・事後学習の内容：

Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)

After class:
Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Part 1: Importance of learning probability theory and basic concepts in probability theory

Significance of learning probability theory, trial and event, basic properties of probability

Part 2: Independence of events, conditional probability and Bayes' theorem

Joint probability, marginal probability, independence of events, conditional probability, Bayes' theorem

Part 3: Discrete random variable: definition and frequently used types

Discrete random variable, cumulative distribution function, probability mass function, some frequently used types of discrete probability distributions

Part 4: Discrete random variable: expected value and variance

Expected value of discrete random variable, difference between expected value and sample mean, variance of discrete random variable

Part 5: Continuous random variable: expected value, variance and standardization

Continuous random variable, probability density function, difference between discrete random variable and continuous random variable, normal distribution
expected value and variance of continuous random variable, standardization of random variable

Part 6: Multivariate probability distribution

Multivariate probability distribution, covariance and correlation coefficient between two random variables, independence of random variables

Part 7: Final exam

Final exam

言語区分: 0 英語 English

教科書: The materials are uploaded on Waseda Moodle.

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: Graduate student: Practice exercise 20%, Mini-exam 30%, Final exam 50%
Undergraduate student: Practice exercise 20%, Mini-exam 30%, Final exam 50%

備考・関連URL: Students who have acquired the credits of the course "コンピュータによる統計入門" by 2015 cannot take this course.
Students who have taken the Japanese version of this course (統計リテラシーβ) cannot take this course and vice versa.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000241|01|9S03000241[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Statistics Literacy γ 01		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：
Inference from data

授業概要：
In the present age where enormous amounts of data are available, extracting meaningful information from the data is becoming more and more important.
As a basis for its method and way of thinking, statistical analysis has been recognized as an important technique Inference statistics is a study to infer the properties of a population from the sample obtained from the population.
In this lecture, we will explain concrete methods in inference statistics such as estimation and statistical testing from both theory and practice.

○ Prerequisites for attending a course
・Must learn basic operation of computer (activation / termination, character input, file operation etc.).
・It is desirable that students have already taken “Statistical Literacy α” and “Statistical Literacy β” or have knowledge equivalent to the students who have taken these course.

※Part of the course plan may be changed.

This is a common course in the Data Science Education Program designed for all students in all faculties of Waseda University. For details of this program, please see
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculum.
This course is also included in the Data Science Certification System of Waseda University. More information is available at
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditation.

授業の到達目標：
・To understand the theory of inference statistics
・To understand the estimation and statistical test, and interpret the result accurately.

事前・事後学習の内容：
Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)

After class:
Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン：
0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Part 1: Purpose of Statistical Inference / Sampling

Population, sample, random sampling, population distribution, sampling distribution

Part 2: Law of Large Numbers / Central Limit Theorem

Law of large numbers, central limit theorem

Part 3: Point Estimation of Population Mean and Population Variance

Point estimation, estimator, unbiasedness, efficiency, standard error, unbiased variance

Part 4: Estimation Error / Relation between the Number of Sample size and Estimation Error / Interval Est

Accuracy of estimation, interval estimation of population mean (the case of the population variance is known), confidence interval, confidence coefficient

Part 5: Hypothesis Testing

Hypothesis test of population mean (the case of the populationvariance is known), null hypothesis, alternative hypothesis, significancelevel, test statistics, rejection region and acceptance region, type I error,type II error, power, p-value, one-tailed test, two-tailed test

Part 6: Interval Estimation and Hypothesis Test of Population Mean and Variance

Interval estimation of population mean (the case of the population variance is unknown), hypothesis test of population mean (the case of the population variance is unknown), t-distribution, t test
interval estimation of population variance, hypothesis test of population variance, chi-square distribution, chi-square test, example of other estimation and test

Part 7: Final exam

Final exam

言語区分: 0 英語 English

教科書: The materials are distributed on Waseda Moodle.

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: Graduate student: Practice 20%, Mini-Exam 30%, Final Exam 50%
Undergraduate student: Practice 20%, Mini-Exam 30%, Final Exam 50%

備考・関連URL: Students who have acquired the credit of the following subject by 2015 can not take the course.
・コンピュータによる統計入門
You can't take this course if you take the Japanese class (統計リテラシーγ), and vice versa.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000241|03|9S03000241[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Statistics Literacy γ 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： Inference from data

授業概要：

In the present age where enormous amounts of data are available, extracting meaningful information from the data is becoming more and more important.
As a basis for its method and way of thinking, statistical analysis has been recognized as an important technique Inference statistics is a study to infer the properties of a population from the sample obtained from the population.
In this lecture, we will explain concrete methods in inference statistics such as estimation and statistical testing from both theory and practice.

○ Prerequisites for attending a course
・Must learn basic operation of computer (activation / termination, character input, file operation etc.).
・It is desirable that students have already taken “Statistical Literacy α” and “Statistical Literacy β” or have knowledge equivalent to the students who have taken these course.

※Part of the course plan may be changed.

This is a common course in the Data Science Education Program designed for all students in all faculties of Waseda University. For details of this program, please see
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculum.
This course is also included in the Data Science Certification System of Waseda University. More information is available at
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditation.

授業の到達目標：

・To understand the theory of inference statistics
・To understand the estimation and statistical test, and interpret the result accurately.

事前・事後学習の内容：

Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)

After class:
Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Part 1: Purpose of Statistical Inference / Sampling

Population, sample, random sampling, population distribution, sampling distribution

Part 2: Law of Large Numbers / Central Limit Theorem

Law of large numbers, central limit theorem

Part 3: Point Estimation of Population Mean and Population Variance

Point estimation, estimator, unbiasedness, efficiency, standard error, unbiased variance

Part 4: Estimation Error / Relation between the Number of Sample size and Estimation Error / Interval Est

Accuracy of estimation, interval estimation of population mean (the case of the population variance is known), confidence interval, confidence coefficient

Part 5: Hypothesis Testing

Hypothesis test of population mean (the case of the populationvariance is known), null hypothesis, alternative hypothesis, significancelevel, test statistics, rejection region and acceptance region, type I error,type II error, power, p-value, one-tailed test, two-tailed test

Part 6: Interval Estimation and Hypothesis Test of Population Mean and Variance

Interval estimation of population mean (the case of the population variance is unknown), hypothesis test of population mean (the case of the population variance is unknown), t-distribution, t test
interval estimation of population variance, hypothesis test of population variance, chi-square distribution, chi-square test, example of other estimation and test

Part 7: Final exam

Final exam

言語区分: 0 英語 English

教科書: The materials are distributed on Waseda Moodle.

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: Graduate student: Practice 20%, Mini-Exam 30%, Final Exam 50%
Undergraduate student: Practice 20%, Mini-Exam 30%, Final Exam 50%

備考・関連URL: Students who have acquired the credit of the following subject by 2015 can not take the course.
・コンピュータによる統計入門
You can't take this course if you take the Japanese class (統計リテラシーγ), and vice versa.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000300|01|9S03000300[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学のための数学 O1		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： 線形代数，微分積分によるデータ科学の考え方の表現

授業概要： 近年，情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い，多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで，実社会及びあらゆる学問・研究領域において，データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています．本科目はデータ科学に関する基本的な内容を学ぶ上で重要となる数学的思考法や数学知識を提供する科目です．
本科目を受講することで，データ科学入門シリーズをより深く理解することができます．また，今後データ科学に関する学習を進めていく中で出会う様々な数式の主張を理解し，その意味を解釈する際の助けにもなるでしょう．
具体的には，データそのものやデータに対する処理を表現する際に重要となるベクトル，行列といった線形代数の考え方，データ科学に登場する確率統計や最適化の概念を理解する際に重要となる微分積分の考え方を学びます．その過程で，数式を用いて記述された主張を読み解くために必要な力を身に着けていきます．単に数学知識を学ぶだけでなく，それがどのようにデータ科学に役立つかという視点を持ち続けられるような授業構成となっています．また，手計算では確認することが困難な複雑な計算はソフトウェアで実行することでその正当性を直感的に確認します．

○受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること
・本講義で扱う数学はデータ科学入門α，β，γ，δとの関連が深いため，合わせて受講することが望ましい．

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです．教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください．

授業の到達目標： データ科学の入門科目に登場する考え方を，線形代数，微分積分を用いて簡潔かつ正確に表現できる．
データ科学に登場する様々な数式がどんな主張を表現しているか解釈することができる．

事前・事後学習の内容： 事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：データ科学における数学，意思決定写像の表現のための集合と写像
データ科学における数学の重要性，集合と写像
第2回：データ科学に登場する関数，最適化問題のための微分（1変数）
データ科学で扱われる関数，最適化のための微分
第3回：データやその操作の表現のためのベクトル
ベクトルとその演算，ベクトルの幾何的解釈，データ科学における内積，平面
第4回：データやその操作の表現のための行列1
行列とその演算，連立方程式（1），連立方程式（2），Pythonによる行列の計算
第5回：データやその操作の表現のための行列2
基底と座標変換，二次形式，固有値，固有ベクトル
第6回：確率論のための定積分（1変数），データ科学における微分積分（多変数）
1変数関数の積分，多変数関数の微分，多変数関数の積分
第7回：理解度確認
理解度確認試験

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書:	講義用資料をWaseda Moodle上で配布
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい 「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 : 練習問題20%, 小テスト30%, 最終試験50% 学部生 : 練習問題20%, 小テスト30%, 最終試験50%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000300|02|9S03000300[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学のための数学 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 線形代数，微分積分によるデータ科学の考え方の表現

授業概要: 近年，情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い，多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで，実社会及びあらゆる学問・研究領域において，データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています．本科目はデータ科学に関する基本的な内容を学ぶ上で重要となる数学的思考法や数学知識を提供する科目です．
本科目を受講することで，データ科学入門シリーズをより深く理解することができます．また，今後データ科学に関する学習を進めていく中で出会う様々な数式の主張を理解し，その意味を解釈する際の助けにもなるでしょう．
具体的には，データそのものやデータに対する処理を表現する際に重要となるベクトル，行列といった線形代数の考え方，データ科学に登場する確率統計や最適化の概念を理解する際に重要となる微分積分の考え方を学びます．その過程で，数式を用いて記述された主張を読み解くために必要な力を身に着けていきます．単に数学知識を学ぶだけでなく，それがどのようにデータ科学に役立つかという視点を持ち続けられるような授業構成となっています．また，手計算では確認することが困難な複雑な計算はソフトウェアで実行することでその正当性を直感的に確認します．

○受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること
・本講義で扱う数学はデータ科学入門α，β，γ，δとの関連が深いため，合わせて受講することが望ましい．

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです．教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください．

授業の到達目標: データ科学の入門科目に登場する考え方を，線形代数，微分積分を用いて簡潔かつ正確に表現できる．
データ科学に登場する様々な数式がどんな主張を表現しているか解釈することができる．

事前・事後学習の内容: 事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：データ科学における数学，意思決定写像の表現のための集合と写像
データ科学における数学の重要性，集合と写像
第2回：データ科学に登場する関数，最適化問題のための微分（1変数）
データ科学で扱われる関数，最適化のための微分
第3回：データやその操作の表現のためのベクトル
ベクトルとその演算，ベクトルの幾何的解釈，データ科学における内積，平面
第4回：データやその操作の表現のための行列1
行列とその演算，連立方程式（1），連立方程式（2），Pythonによる行列の計算
第5回：データやその操作の表現のための行列2
基底と座標変換，二次形式，固有値，固有ベクトル
第6回：確率論のための定積分（1変数），データ科学における微分積分（多変数）
1変数関数の積分，多変数関数の積分，多変数関数の積分
第7回：理解度確認
理解度確認試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:	講義用資料をWaseda Moodle上で配布
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい 「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット(教員による切替可)
成績評価フリー:	大学院生 : 練習問題20%, 小テスト30%, 最終試験50% 学部生 : 練習問題20%, 小テスト30%, 最終試験50%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000300|03|9S03000300[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学のための数学 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： 線形代数，微分積分によるデータ科学の考え方の表現

授業概要： 近年，情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い，多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで，実社会及びあらゆる学問・研究領域において，データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています．本科目はデータ科学に関する基本的な内容を学ぶ上で重要となる数学的思考法や数学知識を提供する科目です．
本科目を受講することで，データ科学入門シリーズをより深く理解することができます．また，今後データ科学に関する学習を進めていく中で出会う様々な数式の主張を理解し，その意味を解釈する際の助けにもなるでしょう．
具体的には，データそのものやデータに対する処理を表現する際に重要となるベクトル，行列といった線形代数の考え方，データ科学に登場する確率統計や最適化の概念を理解する際に重要となる微分積分の考え方を学びます．その過程で，数式を用いて記述された主張を読み解くために必要な力を身に着けていきます．単に数学知識を学ぶだけでなく，それがどのようにデータ科学に役立つかという視点を持ち続けられるような授業構成となっています．また，手計算では確認することが困難な複雑な計算はソフトウェアで実行することでその正当性を直感的に確認します．

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること
・本講義で扱う数学はデータ科学入門α，β，γ，δとの関連が深いため，合わせて受講することが望ましい．

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです．教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください．

授業の到達目標： データ科学の入門科目に登場する考え方を，線形代数，微分積分を用いて簡潔かつ正確に表現できる．
データ科学に登場する様々な数式がどんな主張を表現しているか解釈することができる．

事前・事後学習の内容： 事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：データ科学における数学，意思決定写像の表現のための集合と写像
データ科学における数学の重要性，集合と写像
第2回：データ科学に登場する関数，最適化問題のための微分（1変数）
データ科学で扱われる関数，最適化のための微分
第3回：データやその操作の表現のためのベクトル
ベクトルとその演算，ベクトルの幾何的解釈，データ科学における内積，平面
第4回：データやその操作の表現のための行列1
行列とその演算，連立方程式（1），連立方程式（2），Pythonによる行列の計算
第5回：データやその操作の表現のための行列2
基底と座標変換，二次形式，固有値，固有ベクトル
第6回：確率論のための定積分（1変数），データ科学における微分積分（多変数）
1変数関数の積分，多変数関数の積分，多変数関数の積分
第7回：理解度確認
理解度確認試験

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書:	講義用資料をWaseda Moodle上で配布
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい 「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット(教員による切替可)
成績評価フリー:	大学院生 : 練習問題20%, 小テスト30%, 最終試験50% 学部生 : 練習問題20%, 小テスト30%, 最終試験50%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000300|04|9S03000300[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学のための数学 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： 線形代数，微分積分によるデータ科学の考え方の表現

授業概要： 近年，情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い，多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで，実社会及びあらゆる学問・研究領域において，データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています．本科目はデータ科学に関する基本的な内容を学ぶ上で重要となる数学的思考法や数学知識を提供する科目です．
本科目を受講することで，データ科学入門シリーズをより深く理解することができます．また，今後データ科学に関する学習を進めていく中で出会う様々な数式の主張を理解し，その意味を解釈する際の助けにもなるでしょう．
具体的には，データそのものやデータに対する処理を表現する際に重要となるベクトル，行列といった線形代数の考え方，データ科学に登場する確率統計や最適化の概念を理解する際に重要となる微分積分の考え方を学びます．その過程で，数式を用いて記述された主張を読み解くために必要な力を身に着けていきます．単に数学知識を学ぶだけでなく，それがどのようにデータ科学に役立つかという視点を持ち続けられるような授業構成となっています．また，手計算では確認することが困難な複雑な計算はソフトウェアで実行することでその正当性を直感的に確認します．

○受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること
・本講義で扱う数学はデータ科学入門α，β，γ，δとの関連が深いため，合わせて受講することが望ましい．

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです．教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください．

授業の到達目標： データ科学の入門科目に登場する考え方を，線形代数，微分積分を用いて簡潔かつ正確に表現できる．
データ科学に登場する様々な数式がどんな主張を表現しているか解釈することができる．

事前・事後学習の内容： 事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：データ科学における数学，意思決定写像の表現のための集合と写像
データ科学における数学の重要性，集合と写像
第2回：データ科学に登場する関数，最適化問題のための微分（1変数）
データ科学で扱われる関数，最適化のための微分
第3回：データやその操作の表現のためのベクトル
ベクトルとその演算，ベクトルの幾何的解釈，データ科学における内積，平面
第4回：データやその操作の表現のための行列1
行列とその演算，連立方程式（1），連立方程式（2），Pythonによる行列の計算
第5回：データやその操作の表現のための行列2
基底と座標変換，二次形式，固有値，固有ベクトル
第6回：確率論のための定積分（1変数），データ科学における微分積分（多変数）
1変数関数の積分，多変数関数の積分，多変数関数の積分
第7回：理解度確認
理解度確認試験

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書:	講義用資料をWaseda Moodle上で配布
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい 「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 : 練習問題20%, 小テスト30%, 最終試験50% 学部生 : 練習問題20%, 小テスト30%, 最終試験50%

備考・関連URL:

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000301|01|9S03000301[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	回帰と分類のデータ科学　01		
担 当 教 員	小林　学@野村　亮@堀井　俊佑@安田　豪毅@谷口　卓也@中原　悠太@望月　泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。本科目はデータ科学入門シリーズで扱っている問題の中で、特に回帰・分類問題に焦点を当てます。実際にデータを分析しようとすると、データ科学入門シリーズで扱っている内容だけでは望ましい分析結果が得られない場合があります。例えば、データ科学入門シリーズにおいて回帰問題を扱っており、そこではパラメータに関して線形な関数のみを扱っていますが、それでは望ましい予測精度が得られない場合があります。その場合、関数型を非線形にするなど何らかの拡張をする必要があります。
本講義ではデータ科学入門シリーズを受講していることを前提とし、回帰・分類問題における様々な拡張の中で重要と考えられるものについて、主にその考え方を中心に学びます。
本講義では例題のデータに対して実際にソフトウェアを用いて解析を行なうなどの演習を実施します。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α・β・γ・δ」の4科目、あるいは「統計リテラシーα・β」、「データ科学入門1（統計学既習者用）」、「データ科学入門2（統計学既習者用）」の4科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

実際のデータに対して目的を設定し、データ科学の問題設定として表現できる。
得られたデータと設定した問題に対して、適切な手法を選択することができる。
得られた結果に対して自分なりの考え方を反映して効果的な考察を加え、評価することができる。

事前・事後学習の内容：

事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：重回帰分析の統計的性質

回帰と分類、重回帰分析の統計的性質、Pythonによる回帰分析1

第2回：データの「近さ」を利用する考え方

重回帰分析の注意点、データの「近さ」を利用する考え方、Pythonによる回帰分析2

第3回：カーネルを用いてデータの「近さ」を利用する考え方

カーネルを用いてデータの「近さ」を利用する考え方、データを基底関数で変換して利用する方法、Pythonによる決定木とk近傍法

第4回：基底関数とカーネル関数の関係

基底関数とカーネル関数の関係、Pythonによる基底関数とカーネル関数を用いた回帰と分類、少数のデータで説明するカーネル法

第5回：基底関数をデータから求める考え方

基底関数をデータから求める考え方、Pythonによる基底関数とガウスカーネル関数を用いたサポートベクトルマシン、目的変数を説明する関係式を複数用いる考え方（集団学習）

第6回：質的変数に対する回帰分析と分散分析
Pythonによるニューラルネットワークを用いた回帰と分類、質的変数に対する回帰分析と分散分析、質的・量的変数の混在する説明変数に対する考え方、Pythonによる分散分析と回帰
第7回：一般化線形モデル
誤差が正規分布以外の場合の考え方（一般化線形モデル）、回帰と分類のまとめと注意事項、Pythonによる一般化線形モデル

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義用資料をWaseda Moodle上で配布。

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生 練習問題：40%，小テスト：60%
学部生 練習問題：40%，小テスト：60%

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000301|02|9S03000301[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	回帰と分類のデータ科学 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。本科目はデータ科学入門シリーズで扱っている問題の中で、特に回帰・分類問題に焦点を当てます。実際にデータを分析しようとすると、データ科学入門シリーズで扱っている内容だけでは望ましい分析結果が得られない場合があります。例えば、データ科学入門シリーズにおいて回帰問題を扱っており、そこではパラメータに関して線形な関数のみを扱っていますが、それでは望ましい予測精度が得られない場合があります。その場合、関数型を非線形にするなど何らかの拡張をする必要があります。
本講義ではデータ科学入門シリーズを受講していることを前提とし、回帰・分類問題における様々な拡張の中で重要と考えられるものについて、主にその考え方を中心に学びます。
本講義では例題のデータに対して実際にソフトウェアを用いて解析を行なうなどの演習を実施します。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α・β・γ・δ」の4科目、あるいは「統計リテラシーα・β」、「データ科学入門1（統計学既習者用）」、「データ科学入門2（統計学既習者用）」の4科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

実際のデータに対して目的を設定し、データ科学の問題設定として表現できる。
得られたデータと設定した問題に対して、適切な手法を選択することができる。
得られた結果に対して自分なりの考え方を反映して効果的な考察を加え、評価することができる。

事前・事後学習の内容：

事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：重回帰分析の統計的性質

回帰と分類、重回帰分析の統計的性質、Pythonによる回帰分析1

第2回：データの「近さ」を利用する考え方

重回帰分析の注意点、データの「近さ」を利用する考え方、Pythonによる回帰分析2

第3回：カーネルを用いてデータの「近さ」を利用する考え方

カーネルを用いてデータの「近さ」を利用する考え方、データを基底関数で変換して利用する方法、Pythonによる決定木とk近傍法

第4回：基底関数とカーネル関数の関係

基底関数とカーネル関数の関係、Pythonによる基底関数とカーネル関数を用いた回帰と分類、少数のデータで説明するカーネル法

第5回：基底関数をデータから求める考え方

基底関数をデータから求める考え方、Pythonによる基底関数とガウスカーネル関数を用いたサポートベクトルマシン、目的変数を説明する関係式を複数用いる考え方（集団学習）

第6回：質的変数に対する回帰分析と分散分析
Pythonによるニューラルネットワークを用いた回帰と分類、質的変数に対する回帰分析と分散分析、質的・量的変数の混在する説明変数に対する考え方、Pythonによる分散分析と回帰
第7回：一般化線形モデル
誤差が正規分布以外の場合の考え方（一般化線形モデル）、回帰と分類のまとめと注意事項、Pythonによる一般化線形モデル

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義用資料をWaseda Moodle上で配布。

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生 練習問題：40%，小テスト：60%
学部生 練習問題：40%，小テスト：60%

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000301|03|9S03000301[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	回帰と分類のデータ科学 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。本科目はデータ科学入門シリーズで扱っている問題の中で、特に回帰・分類問題に焦点を当てます。実際にデータを分析しようとすると、データ科学入門シリーズで扱っている内容だけでは望ましい分析結果が得られない場合があります。例えば、データ科学入門シリーズにおいて回帰問題を扱っており、そこではパラメータに関して線形な関数のみを扱っていますが、それでは望ましい予測精度が得られない場合があります。その場合、関数型を非線形にするなど何らかの拡張をする必要があります。
本講義ではデータ科学入門シリーズを受講していることを前提とし、回帰・分類問題における様々な拡張の中で重要と考えられるものについて、主にその考え方を中心に学びます。
本講義では例題のデータに対して実際にソフトウェアを用いて解析を行なうなどの演習を実施します。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α・β・γ・δ」の4科目、あるいは「統計リテラシーα・β」、「データ科学入門1（統計学既習者用）」、「データ科学入門2（統計学既習者用）」の4科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

実際のデータに対して目的を設定し、データ科学の問題設定として表現できる。
得られたデータと設定した問題に対して、適切な手法を選択することができる。
得られた結果に対して自分なりの考え方を反映して効果的な考察を加え、評価することができる。

事前・事後学習の内容：

事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：重回帰分析の統計的性質

回帰と分類、重回帰分析の統計的性質、Pythonによる回帰分析1

第2回：データの「近さ」を利用する考え方

重回帰分析の注意点、データの「近さ」を利用する考え方、Pythonによる回帰分析2

第3回：カーネルを用いてデータの「近さ」を利用する考え方

カーネルを用いてデータの「近さ」を利用する考え方、データを基底関数で変換して利用する方法、Pythonによる決定木とk近傍法

第4回：基底関数とカーネル関数の関係

基底関数とカーネル関数の関係、Pythonによる基底関数とカーネル関数を用いた回帰と分類、少数のデータで説明するカーネル法

第5回：基底関数をデータから求める考え方

基底関数をデータから求める考え方、Pythonによる基底関数とガウスカーネル関数を用いたサポートベクトルマシン、目的変数を説明する関係式を複数用いる考え方（集団学習）

第6回：質的変数に対する回帰分析と分散分析
Pythonによるニューラルネットワークを用いた回帰と分類、質的変数に対する回帰分析と分散分析、質的・量的変数の混在する説明変数に対する考え方、Pythonによる分散分析と回帰
第7回：一般化線形モデル
誤差が正規分布以外の場合の考え方（一般化線形モデル）、回帰と分類のまとめと注意事項、Pythonによる一般化線形モデル

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義用資料をWaseda Moodle上で配布。

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生 練習問題：40%，小テスト：60%
学部生 練習問題：40%，小テスト：60%

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000301|04|9S03000301[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	回帰と分類のデータ科学 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。本科目はデータ科学入門シリーズで扱っている問題の中で、特に回帰・分類問題に焦点を当てます。実際にデータを分析しようとすると、データ科学入門シリーズで扱っている内容だけでは望ましい分析結果が得られない場合があります。例えば、データ科学入門シリーズにおいて回帰問題を扱っており、そこではパラメータに関して線形な関数のみを扱っていますが、それでは望ましい予測精度が得られない場合があります。その場合、関数型を非線形にするなど何らかの拡張をする必要があります。
本講義ではデータ科学入門シリーズを受講していることを前提とし、回帰・分類問題における様々な拡張の中で重要と考えられるものについて、主にその考え方を中心に学びます。
本講義では例題のデータに対して実際にソフトウェアを用いて解析を行なうなどの演習を実施します。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α・β・γ・δ」の4科目、あるいは「統計リテラシーα・β」、「データ科学入門1（統計学既習者用）」、「データ科学入門2（統計学既習者用）」の4科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

実際のデータに対して目的を設定し、データ科学の問題設定として表現できる。
得られたデータと設定した問題に対して、適切な手法を選択することができる。
得られた結果に対して自分なりの考え方を反映して効果的な考察を加え、評価することができる。

事前・事後学習の内容：

事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：重回帰分析の統計的性質

回帰と分類、重回帰分析の統計的性質、Pythonによる回帰分析1

第2回：データの「近さ」を利用する考え方

重回帰分析の注意点、データの「近さ」を利用する考え方、Pythonによる回帰分析2

第3回：カーネルを用いてデータの「近さ」を利用する考え方

カーネルを用いてデータの「近さ」を利用する考え方、データを基底関数で変換して利用する方法、Pythonによる決定木とk近傍法

第4回：基底関数とカーネル関数の関係

基底関数とカーネル関数の関係、Pythonによる基底関数とカーネル関数を用いた回帰と分類、少数のデータで説明するカーネル法

第5回：基底関数をデータから求める考え方

基底関数をデータから求める考え方、Pythonによる基底関数とガウスカーネル関数を用いたサポートベクトルマシン、目的変数を説明する関係式を複数用いる考え方（集団学習）

第6回：質的変数に対する回帰分析と分散分析
Pythonによるニューラルネットワークを用いた回帰と分類、質的変数に対する回帰分析と分散分析、質的・量的変数の混在する説明変数に対する考え方、Pythonによる分散分析と回帰
第7回：一般化線形モデル
誤差が正規分布以外の場合の考え方（一般化線形モデル）、回帰と分類のまとめと注意事項、Pythonによる一般化線形モデル

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義用資料をWaseda Moodle上で配布。

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生 練習問題：40%，小テスト：60%
学部生 練習問題：40%，小テスト：60%

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000302|01|9S03000302[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	時系列構造のデータ科学 O1		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 時系列構造のデータ科学

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっている。
本講義はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、変数間に順序関係が存在する数理構造およびそこから発生するデータ分析の考え方を学ぶ。
順序関係を持つ数理構造の代表例として、時間的な前後関係があり、時間的な順序関係を持つデータに対する解析は時系列解析と呼ばれている。
本講義では、時系列解析の基礎を学ぶとともに必ずしも時間的な関係に限らない順序関係を持つデータおよびその数理構造に関しても焦点を当て解説を行う。

なお本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてRを利用し、演習を用意する。Rの基本的な利用法については、講義内で補足する。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α・β・γ・δ」の4科目、あるいは「統計リテラシーα・β」、「データ科学入門1（統計学既習者用）」、「データ科学入門2（統計学既習者用）」の4科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細については https://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculum をご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditation をご参照ください。

授業の到達目標: 本講義で対象とするデータ（時系列構造を持つデータ）の特徴について理解し、説明できる。

また時系列構造を持つデータの背後に存在するいくつかの数理モデルについて理解し、その特徴について説明できる。

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
- 前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

時系列構造を持つデータとその可視化
時系列構造を持つデータ（時系列データ）とは何か，その種類および特徴，周期および周期関数，時系列データを可視化する方法，標本自己共分散，標本自己相関，移動平均，Rによるデータの基本演算
時系列データの生成観測メカニズム – 時間の関数としての表現
三角関数，離散フーリエ変換，Rによる回帰
時系列データの生成観測メカニズム – 同時確率分布による表現
定常性，自己共分散，ガウス型時系列，ガウス過程の考え方，Rによるガウス型時系列の発生と予測
時系列データの生成観測メカニズム – 条件付き確率分布による表現
自己回帰モデル，最尤推定量，Yule-Walker推定量，RによるARモデルの取り扱い
自己回帰移動平均モデルを用いた分析
自己回帰移動平均モデル，時系列データの前処理，偏自己相関関数，RによるARMAモデルを用いた分析

時系列データの生成観測メカニズム − 状態空間モデル
状態空間モデル，カルマンフィルタの考え方，Rによる状態空間モデルの考え方
時系列データの生成観測メカニズム − マルコフモデル
マルコフモデル，隠れマルコフモデル，動的計画法の考え方，Rによる隠れマルコフモデルの取り扱い

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料をMoodle上で配布

参考文献: 時系列解析に関する書籍としては下記が参考になる

「時系列解析入門, 北川源四郎, 岩波書店, 2005.」

データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方としては下記を参考にするとよい

「データ科学入門 I − データに基づく意思決定の基礎，松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著，サイエンス社，2022. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 : 練習問題と小テストによる評価
学部生 : 練習問題と小テストによる評価

備考・関連URL: データ科学入門 α，β，γ，δ の単位を取得していることが望ましい

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000302|02|9S03000302[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	時系列構造のデータ科学 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： 時系列構造のデータ科学

授業概要： 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっている。
本講義はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、変数間に順序関係が存在する数理構造およびそこから発生するデータ分析の考え方を学ぶ。
順序関係を持つ数理構造の代表例として、時間的な前後関係があり、時間的な順序関係を持つデータに対する解析は時系列解析と呼ばれている。
本講義では、時系列解析の基礎を学ぶとともに必ずしも時間的な関係に限らない順序関係を持つデータおよびその数理構造に関しても焦点を当て解説を行う。

なお本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてRを利用し、演習を用意する。Rの基本的な利用法については、講義内で補足する。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α・β・γ・δ」の4科目、あるいは「統計リテラシーα・β」、「データ科学入門1（統計学既習者用）」、「データ科学入門2（統計学既習者用）」の4科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細については https://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculum をご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditation をご参照ください。

授業の到達目標： 本講義で対象とするデータ（時系列構造を持つデータ）の特徴について理解し、説明できる。

また時系列構造を持つデータの背後に存在するいくつかの数理モデルについて理解し、その特徴について説明できる。

事前・事後学習の内容： 事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
- 前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

時系列構造を持つデータとその可視化
時系列構造を持つデータ（時系列データ）とは何か，その種類および特徴，周期および周期関数，時系列データを可視化する方法，標本自己共分散，標本自己相関，移動平均，Rによるデータの基本演算
時系列データの生成観測メカニズム – 時間の関数としての表現
三角関数，離散フーリエ変換，Rによる回帰
時系列データの生成観測メカニズム – 同時確率分布による表現
定常性，自己共分散，ガウス型時系列，ガウス過程の考え方，Rによるガウス型時系列の発生と予測
時系列データの生成観測メカニズム – 条件付き確率分布による表現
自己回帰モデル，最尤推定量，Yule-Walker推定量，RによるARモデルの取り扱い
自己回帰移動平均モデルを用いた分析
自己回帰移動平均モデル，時系列データの前処理，偏自己相関関数，RによるARMAモデルを用いた分析

時系列データの生成観測メカニズム – 状態空間モデル
状態空間モデル, カルマンフィルタの考え方, Rによる状態空間モデルの考え方
時系列データの生成観測メカニズム – マルコフモデル
マルコフモデル, 隠れマルコフモデル, 動的計画法の考え方, Rによる隠れマルコフモデルの取り扱い

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料をMoodle上で配布

参考文献: 時系列解析に関する書籍としては下記が参考になる

「時系列解析入門, 北川源四郎, 岩波書店, 2005.」

データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方としては下記を参考にするとよい

「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著, サイエンス社, 2022. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 : 練習問題と小テストによる評価
学部生 : 練習問題と小テストによる評価

備考・関連URL: データ科学入門 α, β, γ, δ の単位を取得していることが望ましい

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000302|03|9S03000302[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	時系列構造のデータ科学 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： 時系列構造のデータ科学

授業概要： 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっている。
本講義はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、変数間に順序関係が存在する数理構造およびそこから発生するデータ分析の考え方を学ぶ。
順序関係を持つ数理構造の代表例として、時間的な前後関係があり、時間的な順序関係を持つデータに対する解析は時系列解析と呼ばれている。
本講義では、時系列解析の基礎を学ぶとともに必ずしも時間的な関係に限らない順序関係を持つデータおよびその数理構造に関しても焦点を当て解説を行う。

なお本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてRを利用し、演習を用意する。Rの基本的な利用法については、講義内で補足する。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α・β・γ・δ」の4科目、あるいは「統計リテラシーα・β」、「データ科学入門1（統計学既習者用）」、「データ科学入門2（統計学既習者用）」の4科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細については https://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculum をご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditation をご参照ください。

授業の到達目標： 本講義で対象とするデータ（時系列構造を持つデータ）の特徴について理解し、説明できる。

また時系列構造を持つデータの背後に存在するいくつかの数理モデルについて理解し、その特徴について説明できる。

事前・事後学習の内容： 事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
- 前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

時系列構造を持つデータとその可視化
時系列構造を持つデータ（時系列データ）とは何か，その種類および特徴，周期および周期関数，時系列データを可視化する方法，標本自己共分散，標本自己相関，移動平均，Rによるデータの基本演算
時系列データの生成観測メカニズム – 時間の関数としての表現
三角関数，離散フーリエ変換，Rによる回帰
時系列データの生成観測メカニズム – 同時確率分布による表現
定常性，自己共分散，ガウス型時系列，ガウス過程の考え方，Rによるガウス型時系列の発生と予測
時系列データの生成観測メカニズム – 条件付き確率分布による表現
自己回帰モデル，最尤推定量，Yule-Walker推定量，RによるARモデルの取り扱い
自己回帰移動平均モデルを用いた分析
自己回帰移動平均モデル，時系列データの前処理，偏自己相関関数，RによるARMAモデルを用いた分析

時系列データの生成観測メカニズム − 状態空間モデル
状態空間モデル，カルマンフィルタの考え方，Rによる状態空間モデルの考え方
時系列データの生成観測メカニズム − マルコフモデル
マルコフモデル，隠れマルコフモデル，動的計画法の考え方，Rによる隠れマルコフモデルの取り扱い

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料をMoodle上で配布

参考文献: 時系列解析に関する書籍としては下記が参考になる

「時系列解析入門, 北川源四郎, 岩波書店, 2005.」

データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方としては下記を参考にするとよい

「データ科学入門 I − データに基づく意思決定の基礎，松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著，サイエンス社，2022. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 : 練習問題と小テストによる評価
学部生 : 練習問題と小テストによる評価

備考・関連URL: データ科学入門 α，β，γ，δ の単位を取得していることが望ましい

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000302|04|9S03000302[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	時系列構造のデータ科学 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 時系列構造のデータ科学

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっている。
本講義はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、変数間に順序関係が存在する数理構造およびそこから発生するデータ分析の考え方を学ぶ。
順序関係を持つ数理構造の代表例として、時間的な前後関係があり、時間的な順序関係を持つデータに対する解析は時系列解析と呼ばれている。
本講義では、時系列解析の基礎を学ぶとともに必ずしも時間的な関係に限らない順序関係を持つデータおよびその数理構造に関しても焦点を当て解説を行う。

なお本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてRを利用し、演習を用意する。Rの基本的な利用法については、講義内で補足する。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α・β・γ・δ」の4科目、あるいは「統計リテラシーα・β」、「データ科学入門1（統計学既習者用）」、「データ科学入門2（統計学既習者用）」の4科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細については https://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculum をご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditation をご参照ください。

授業の到達目標: 本講義で対象とするデータ（時系列構造を持つデータ）の特徴について理解し、説明できる。

また時系列構造を持つデータの背後に存在するいくつかの数理モデルについて理解し、その特徴について説明できる。

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
- 前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

時系列構造を持つデータとその可視化
時系列構造を持つデータ（時系列データ）とは何か，その種類および特徴，周期および周期関数，時系列データを可視化する方法，標本自己共分散，標本自己相関，移動平均，Rによるデータの基本演算
時系列データの生成観測メカニズム – 時間の関数としての表現
三角関数，離散フーリエ変換，Rによる回帰
時系列データの生成観測メカニズム – 同時確率分布による表現
定常性，自己共分散，ガウス型時系列，ガウス過程の考え方，Rによるガウス型時系列の発生と予測
時系列データの生成観測メカニズム – 条件付き確率分布による表現
自己回帰モデル，最尤推定量，Yule-Walker推定量，RによるARモデルの取り扱い
自己回帰移動平均モデルを用いた分析
自己回帰移動平均モデル，時系列データの前処理，偏自己相関関数，RによるARMAモデルを用いた分析

時系列データの生成観測メカニズム − 状態空間モデル
状態空間モデル, カルマンフィルタの考え方, Rによる状態空間モデルの考え方
時系列データの生成観測メカニズム − マルコフモデル
マルコフモデル, 隠れマルコフモデル, 動的計画法の考え方, Rによる隠れマルコフモデルの取り扱い

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料をMoodle上で配布

参考文献: 時系列解析に関する書籍としては下記が参考になる

「時系列解析入門, 北川源四郎, 岩波書店, 2005.」

データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方としては下記を参考にするとよい

「データ科学入門 I − データに基づく意思決定の基礎, 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著, サイエンス社, 2022. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 : 練習問題と小テストによる評価
学部生 : 練習問題と小テストによる評価

備考・関連URL: データ科学入門 α, β, γ, δ の単位を取得していることが望ましい

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000303|01|9S03000303[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門1（統計学既習者用） O1		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学入門1・2（統計学既習者用）は、統計学の入門的な知識（統計リテラシー α・β 相当）を既に身につけている学生が、データ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶための科目であり、本科目はその前半に当たります。統計学はデータ科学を学ぶ上で重要な学問ですが、データ科学の考え方を身につけるためには、機械学習、人工知能などを網羅的に学んだ上で、より俯瞰的・統一的な視点で問題を捉える必要があります。

本講義では1変量データ・2変量データの要約・パラメータ推定・回帰分析を題材に、時には統計学との違いも踏まえつつ、データ科学の基本的な考え方を学びます。同一のデータであっても問題設定・目的・出力の設定の仕方には様々なものがあることを学び、解析の目的に応じた問題解決のプロセスを意識します。

また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・記述統計・確率の基礎知識（統計リテラシー α・β 相当）を有していること。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

・データ科学の一連の流れを理解し、目的にあった問題の設定と評価基準を検討できるようになること
・実際に与えられたデータに対して、（コンピュータを用いて）自分の設定した問題設定・評価基準のもとで、最適な意思決定が行えるようになること

事前・事後学習の内容：

事前学習：
−シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
−前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
−前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
−動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：データ科学を学ぶ目的と基本事項
・データ科学を学ぶ目的・データ科学と数理モデル
・1変数データの要約
・Python：利用方法と基礎

第2回：母集団に対する意思決定
・母集団と標本・母集団に対する意思決定と仮定
・Python：1変数データの要約および乱数生成

第3回：パラメータの推定
・パラメータの推定・パラメータの推定に対するベイズ的アプローチ
・Python：グラフの描画、正規分布の性質

第4回：仮説検定の考え方
・仮説検定の考え方・Python：推定量の評価基準、ベイズ危険関数と事後分布

第5回：回帰分析1

・特徴記述としての回帰・回帰の確率的データ生成観測メカニズム
・回帰係数の推定に対するベイズ的アプローチ
・予測を目的とした意思決定
・重回帰分析（説明変数が2つの場合）
・多変量データの取り扱い
・Python：回帰、重回帰分析

第6回：回帰分析2/ 分類問題1

・重回帰分析（説明変数が3つ以上の場合）
・ダミー変数を用いた重回帰分析
・説明変数間の相関・多重共線性
・回帰式の評価
・分類問題
・Python：分類問題

第7回：分類問題2

・統計的モデルとしての分類問題・説明変数からクラスが決定する分類問題
・Python：分類問題（ロジスティック回帰）
・ニューラルネットワークの基礎

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生 練習問題：40%，小テスト：60%
学部生 練習問題：40%，小テスト：60%

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000303|02|9S03000303[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門1（統計学既習者用） 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学入門1・2（統計学既習者用）は、統計学の入門的な知識（統計リテラシー α・β 相当）を既に身につけている学生が、データ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶための科目であり、本科目はその前半に当たります。統計学はデータ科学を学ぶ上で重要な学問ですが、データ科学の考え方を身につけるためには、機械学習、人工知能などを網羅的に学んだ上で、より俯瞰的・統一的な視点で問題を捉える必要があります。

本講義では1変量データ・2変量データの要約・パラメータ推定・回帰分析を題材に、時には統計学との違いも踏まえつつ、データ科学の基本的な考え方を学びます。同一のデータであっても問題設定・目的・出力の設定の仕方には様々なものがあることを学び、解析の目的に応じた問題解決のプロセスを意識します。

また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・記述統計・確率の基礎知識（統計リテラシー α・β 相当）を有していること。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：
・データ科学の一連の流れを理解し、目的にあった問題の設定と評価基準を検討できるようになること
・実際に与えられたデータに対して、（コンピュータを用いて）自分の設定した問題設定・評価基準のもとで、最適な意思決定が行えるようになること

事前・事後学習の内容：
事前学習：
−シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
−前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
−前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
−動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：
0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：データ科学を学ぶ目的と基本事項
・データ科学を学ぶ目的・データ科学と数理モデル
・1変数データの要約
・Python：利用方法と基礎

第2回：母集団に対する意思決定
・母集団と標本・母集団に対する意思決定と仮定
・Python：1変数データの要約および乱数生成

第3回：パラメータの推定
・パラメータの推定・パラメータの推定に対するベイズ的アプローチ
・Python：グラフの描画、正規分布の性質

第4回：仮説検定の考え方
・仮説検定の考え方・Python：推定量の評価基準、ベイズ危険関数と事後分布

第5回：回帰分析1

・特徴記述としての回帰・回帰の確率的データ生成観測メカニズム
・回帰係数の推定に対するベイズ的アプローチ
・予測を目的とした意思決定
・重回帰分析（説明変数が2つの場合）
・多変量データの取り扱い
・Python：回帰、重回帰分析

第6回：回帰分析2/ 分類問題1

・重回帰分析（説明変数が3つ以上の場合）
・ダミー変数を用いた重回帰分析
・説明変数間の相関・多重共線性
・回帰式の評価
・分類問題
・Python：分類問題

第7回：分類問題2

・統計的モデルとしての分類問題・説明変数からクラスが決定する分類問題
・Python：分類問題（ロジスティック回帰）
・ニューラルネットワークの基礎

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生 練習問題：40%，小テスト：60%
学部生 練習問題：40%，小テスト：60%

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000303|03|9S03000303[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門1（統計学既習者用） 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学入門1・2（統計学既習者用）は、統計学の入門的な知識（統計リテラシー α・β 相当）を既に身につけている学生が、データ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶための科目であり、本科目はその前半に当たります。統計学はデータ科学を学ぶ上で重要な学問ですが、データ科学の考え方を身につけるためには、機械学習、人工知能などを網羅的に学んだ上で、より俯瞰的・統一的な視点で問題を捉える必要があります。

本講義では1変量データ・2変量データの要約・パラメータ推定・回帰分析を題材に、時には統計学との違いも踏まえつつ、データ科学の基本的な考え方を学びます。同一のデータであっても問題設定・目的・出力の設定の仕方には様々なものがあることを学び、解析の目的に応じた問題解決のプロセスを意識します。

また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・記述統計・確率の基礎知識（統計リテラシー α・β 相当）を有していること。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

・データ科学の一連の流れを理解し、目的にあった問題の設定と評価基準を検討できるようになること
・実際に与えられたデータに対して、（コンピュータを用いて）自分の設定した問題設定・評価基準のもとで、最適な意思決定が行えるようになること

事前・事後学習の内容：

事前学習：
−シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
−前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
−前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
−動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：データ科学を学ぶ目的と基本事項
・データ科学を学ぶ目的・データ科学と数理モデル
・1変数データの要約
・Python：利用方法と基礎

第2回：母集団に対する意思決定
・母集団と標本・母集団に対する意思決定と仮定
・Python：1変数データの要約および乱数生成

第3回：パラメータの推定
・パラメータの推定・パラメータの推定に対するベイズ的アプローチ
・Python：グラフの描画、正規分布の性質

第4回：仮説検定の考え方
・仮説検定の考え方・Python：推定量の評価基準、ベイズ危険関数と事後分布

第5回：回帰分析1

・特徴記述としての回帰・回帰の確率的データ生成観測メカニズム
・回帰係数の推定に対するベイズ的アプローチ
・予測を目的とした意思決定
・重回帰分析（説明変数が2つの場合）
・多変量データの取り扱い
・Python：回帰、重回帰分析

第6回：回帰分析2/ 分類問題1

・重回帰分析（説明変数が3つ以上の場合）
・ダミー変数を用いた重回帰分析
・説明変数間の相関・多重共線性
・回帰式の評価
・分類問題
・Python：分類問題

第7回：分類問題2

・統計的モデルとしての分類問題・説明変数からクラスが決定する分類問題
・Python：分類問題（ロジスティック回帰）
・ニューラルネットワークの基礎

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生 練習問題：40%，小テスト：60%
学部生 練習問題：40%，小テスト：60%

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000303|04|9S03000303[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門1（統計学既習者用） 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。データ科学入門1・2（統計学既習者用）は、統計学の入門的な知識（統計リテラシー α・β 相当）を既に身につけている学生が、データ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶための科目であり、本科目はその前半に当たります。統計学はデータ科学を学ぶ上で重要な学問ですが、データ科学の考え方を身につけるためには、機械学習、人工知能などを網羅的に学んだ上で、より俯瞰的・統一的な視点で問題を捉える必要があります。

本講義では1変量データ・2変量データの要約・パラメータ推定・回帰分析を題材に、時には統計学との違いも踏まえつつ、データ科学の基本的な考え方を学びます。同一のデータであっても問題設定・目的・出力の設定の仕方には様々なものがあることを学び、解析の目的に応じた問題解決のプロセスを意識します。

また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・記述統計・確率の基礎知識（統計リテラシー α・β 相当）を有していること。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

・データ科学の一連の流れを理解し、目的にあった問題の設定と評価基準を検討できるようになること
・実際に与えられたデータに対して、（コンピュータを用いて）自分の設定した問題設定・評価基準のもとで、最適な意思決定が行えるようになること

事前・事後学習の内容：

事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：データ科学を学ぶ目的と基本事項
・データ科学を学ぶ目的・データ科学と数理モデル
・1変数データの要約
・Python：利用方法と基礎

第2回：母集団に対する意思決定
・母集団と標本・母集団に対する意思決定と仮定
・Python：1変数データの要約および乱数生成

第3回：パラメータの推定
・パラメータの推定・パラメータの推定に対するベイズ的アプローチ
・Python：グラフの描画、正規分布の性質

第4回：仮説検定の考え方
・仮説検定の考え方・Python：推定量の評価基準、ベイズ危険関数と事後分布

第5回：回帰分析1

・特徴記述としての回帰・回帰の確率的データ生成観測メカニズム
・回帰係数の推定に対するベイズ的アプローチ
・予測を目的とした意思決定
・重回帰分析（説明変数が2つの場合）
・多変量データの取り扱い
・Python：回帰、重回帰分析

第6回：回帰分析2/ 分類問題1

・重回帰分析（説明変数が3つ以上の場合）
・ダミー変数を用いた重回帰分析
・説明変数間の相関・多重共線性
・回帰式の評価
・分類問題
・Python：分類問題

第7回：分類問題2

・統計的モデルとしての分類問題・説明変数からクラスが決定する分類問題
・Python：分類問題（ロジスティック回帰）
・ニューラルネットワークの基礎

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生 練習問題：40%，小テスト：60%
学部生 練習問題：40%，小テスト：60%

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000304|01|9S03000304[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門2（統計学既習者用） 01		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。
データ科学入門1・2（統計学既習者用）は、統計学の入門的な知識（統計リテラシーα・β相当）を既に身につけている学生が、データ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶための科目であり、本科目はその後半に当たります。統計学はデータ科学を学ぶ上で重要な学問ですが、データ科学の考え方を身につけるためには、機械学習、人工知能などを網羅的に学んだ上で、より俯瞰的・統一的な視点で問題を捉える必要があります。
本講義では多変量データの扱いを題材として重回帰分析・分類問題・クラスタリング・主成分分析に焦点を当て、データ自身の持つ性質を定量的あるいは定性的に数理モデルや評価基準に反映する考え方を学びます。さらにデータのサンプリングや前処理を踏まえ、データ科学の一連の流れにおける注意点を学びます。
また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・記述統計・確率の基礎知識（統計リテラシーα・β相当）を有していること。・「データ科学入門1（統計学既修者用）相当の知識を有していること」
本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

・重回帰分析及び分類問題のそれぞれに対して、目的及びデータの性質に合った適切なモデル化と評価基準を選択することができる
・コンピュータを用いて重回帰分析及び分類問題の分析を行うことができる
・データ縮約として、クラスタリング及び主成分分析のモデル化を検討することができる
・データ解析の一連の流れを理解し、サンプリング、前処理、モデル化、分析、結果の考察、妥当性の検証を行うことができる

事前・事後学習の内容：

事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

様々な基底関数
多項式回帰交互作用
最小二乗法
基底の選択・変数選択・モデル選択
仮説検定に基づく構造の推定
構造推定と予測および目的に応じたモデル選択
モデル選択の評価基準
構造推定を目的としたモデル選択
BIC
ベイズ最適なモデル選択
予測を目的としたモデル選択
AIC
モデルを選択しない予測
ベイズ最適な予測

正則化および変数・基底の数が大きい場合のモデル選択
正則化
Lasso・リッジ回帰
クロスバリデーション
正則化のベイズ的解釈
正則化の目的
モデルの探索
変数増加法・変数減少法・変数増減法
クラスタリング
クラスタリングの問題設定・目的・評価基準データ生成観測メカニズムを仮定したクラスタリング
潜在変数が存在する状況におけるパラメータ推定
潜在変数を用いたモデル化潜在変数を含むモデルにおけるパラメータ推定
最適化アルゴリズム
データの縮約
データの次数削減データ科学の考え方
データ解析の一連の流れ
データ科学による問題解決のプロセスデータの前処理
モデルの妥当性の検証

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義資料をWaseda Moodle上で配布する

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 大学院生 練習問題:40%, 小テスト:60%
学部生 練習問題:40%, 小テスト:60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000304|02|9S03000304[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門2（統計学既習者用） 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。

データ科学入門1・2（統計学既習者用）は、統計学の入門的な知識（統計リテラシーα・β相当）を既に身につけている学生が、データ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶための科目であり、本科目はその後半に当たります。統計学はデータ科学を学ぶ上で重要な学問ですが、データ科学の考え方を身につけるためには、機械学習、人工知能などを網羅的に学んだ上で、より俯瞰的・統一的な視点で問題を捉える必要があります。

本講義では多変量データの扱いを題材として重回帰分析・分類問題・クラスタリング・主成分分析に焦点を当て、データ自身の持つ性質を定量的あるいは定性的に数理モデルや評価基準に反映する考え方を学びます。さらにデータのサンプリングや前処理を踏まえ、データ科学の一連の流れにおける注意点を学びます。

また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・記述統計・確率の基礎知識（統計リテラシーα・β相当）を有していること。・「データ科学入門1（統計学既修者用）相当の知識を有していること」
本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

・重回帰分析及び分類問題のそれぞれに対して、目的及びデータの性質に合った適切なモデル化と評価基準を選択することができる
・コンピュータを用いて重回帰分析及び分類問題の分析を行うことができる
・データ縮約として、クラスタリング及び主成分分析のモデル化を検討することができる
・データ解析の一連の流れを理解し、サンプリング、前処理、モデル化、分析、結果の考察、妥当性の検証を行うことができる

事前・事後学習の内容：

事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

様々な基底関数
多項式回帰交互作用
最小二乗法
基底の選択・変数選択・モデル選択
仮説検定に基づく構造の推定
構造推定と予測および目的に応じたモデル選択
モデル選択の評価基準
構造推定を目的としたモデル選択
BIC
ベイズ最適なモデル選択
予測を目的としたモデル選択
AIC
モデルを選択しない予測
ベイズ最適な予測

正則化および変数・基底の数が大きい場合のモデル選択
正則化
Lasso・リッジ回帰
クロスバリデーション
正則化のベイズ的解釈
正則化の目的
モデルの探索
変数増加法・変数減少法・変数増減法
クラスタリング
クラスタリングの問題設定・目的・評価基準データ生成観測メカニズムを仮定したクラスタリング
潜在変数が存在する状況におけるパラメータ推定
潜在変数を用いたモデル化潜在変数を含むモデルにおけるパラメータ推定
最適化アルゴリズム
データの縮約
データの次数削減データ科学の考え方
データ解析の一連の流れ
データ科学による問題解決のプロセスデータの前処理
モデルの妥当性の検証

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義資料をWaseda Moodle上で配布する

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 大学院生 練習問題:40%, 小テスト:60%
学部生 練習問題:40%, 小テスト:60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000304|03|9S03000304[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門2（統計学既習者用） 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。
データ科学入門1・2（統計学既習者用）は、統計学の入門的な知識（統計リテラシーα・β相当）を既に身につけている学生が、データ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶための科目であり、本科目はその後半に当たります。統計学はデータ科学を学ぶ上で重要な学問ですが、データ科学の考え方を身につけるためには、機械学習、人工知能などを網羅的に学んだ上で、より俯瞰的・統一的な視点で問題を捉える必要があります。
本講義では多変量データの扱いを題材として重回帰分析・分類問題・クラスタリング・主成分分析に焦点を当て、データ自身の持つ性質を定量的あるいは定性的に数理モデルや評価基準に反映する考え方を学びます。さらにデータのサンプリングや前処理を踏まえ、データ科学の一連の流れにおける注意点を学びます。
また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・記述統計・確率の基礎知識（統計リテラシーα・β相当）を有していること。・「データ科学入門1（統計学既修者用）相当の知識を有していること」
本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

・重回帰分析及び分類問題のそれぞれに対して、目的及びデータの性質に合った適切なモデル化と評価基準を選択することができる
・コンピュータを用いて重回帰分析及び分類問題の分析を行うことができる
・データ縮約として、クラスタリング及び主成分分析のモデル化を検討することができる
・データ解析の一連の流れを理解し、サンプリング、前処理、モデル化、分析、結果の考察、妥当性の検証を行うことができる

事前・事後学習の内容：

事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

様々な基底関数
多項式回帰交互作用
最小二乗法
基底の選択・変数選択・モデル選択
仮説検定に基づく構造の推定
構造推定と予測および目的に応じたモデル選択
モデル選択の評価基準
構造推定を目的としたモデル選択
BIC
ベイズ最適なモデル選択
予測を目的としたモデル選択
AIC
モデルを選択しない予測
ベイズ最適な予測

正則化および変数・基底の数が大きい場合のモデル選択
正則化
Lasso・リッジ回帰
クロスバリデーション
正則化のベイズ的解釈
正則化の目的
モデルの探索
変数増加法・変数減少法・変数増減法
クラスタリング
クラスタリングの問題設定・目的・評価基準データ生成観測メカニズムを仮定したクラスタリング
潜在変数が存在する状況におけるパラメータ推定
潜在変数を用いたモデル化潜在変数を含むモデルにおけるパラメータ推定
最適化アルゴリズム
データの縮約
データの次数削減データ科学の考え方
データ解析の一連の流れ
データ科学による問題解決のプロセスデータの前処理
モデルの妥当性の検証

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義資料をWaseda Moodle上で配布する

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 大学院生 練習問題:40%, 小テスト:60%
学部生 練習問題:40%, 小テスト:60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000304|04|9S03000304[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学入門2（統計学既習者用） 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。
データ科学入門1・2（統計学既習者用）は、統計学の入門的な知識（統計リテラシーα・β相当）を既に身につけている学生が、データ科学に関する基本的な内容を一通り学ぶための科目であり、本科目はその後半に当たります。統計学はデータ科学を学ぶ上で重要な学問ですが、データ科学の考え方を身につけるためには、機械学習、人工知能などを網羅的に学んだ上で、より俯瞰的・統一的な視点で問題を捉える必要があります。
本講義では多変量データの扱いを題材として重回帰分析・分類問題・クラスタリング・主成分分析に焦点を当て、データ自身の持つ性質を定量的あるいは定性的に数理モデルや評価基準に反映する考え方を学びます。さらにデータのサンプリングや前処理を踏まえ、データ科学の一連の流れにおける注意点を学びます。
また本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・記述統計・確率の基礎知識（統計リテラシーα・β相当）を有していること。・「データ科学入門1（統計学既修者用）相当の知識を有していること」
本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。
教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

・重回帰分析及び分類問題のそれぞれに対して、目的及びデータの性質に合った適切なモデル化と評価基準を選択することができる
・コンピュータを用いて重回帰分析及び分類問題の分析を行うことができる
・データ縮約として、クラスタリング及び主成分分析のモデル化を検討することができる
・データ解析の一連の流れを理解し、サンプリング、前処理、モデル化、分析、結果の考察、妥当性の検証を行うことができる

事前・事後学習の内容：

事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

様々な基底関数
多項式回帰交互作用
最小二乗法
基底の選択・変数選択・モデル選択
仮説検定に基づく構造の推定
構造推定と予測および目的に応じたモデル選択
モデル選択の評価基準
構造推定を目的としたモデル選択
BIC
ベイズ最適なモデル選択
予測を目的としたモデル選択
AIC
モデルを選択しない予測
ベイズ最適な予測

正則化および変数・基底の数が大きい場合のモデル選択
正則化
Lasso・リッジ回帰
クロスバリデーション
正則化のベイズ的解釈
正則化の目的
モデルの探索
変数増加法・変数減少法・変数増減法
クラスタリング
クラスタリングの問題設定・目的・評価基準データ生成観測メカニズムを仮定したクラスタリング
潜在変数が存在する状況におけるパラメータ推定
潜在変数を用いたモデル化潜在変数を含むモデルにおけるパラメータ推定
最適化アルゴリズム
データの縮約
データの次数削減データ科学の考え方
データ解析の一連の流れ
データ科学による問題解決のプロセスデータの前処理
モデルの妥当性の検証

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義資料をWaseda Moodle上で配布する

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 大学院生 練習問題:40%, 小テスト:60%
学部生 練習問題:40%, 小テスト:60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000305|01|9S03000305[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to Data Science α 01		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：
In recent years, with the rapid development of information processing and communication technologies, the importance of data science has increased significantly. Data science is a cross-disciplinary science for obtaining new knowledge from data and using it for decision making, and this concept is becoming necessary in all academic fields.
This is the first of four courses in the Introduction to Data Science series that will cover the basics of data science. In the introductory series, students learn not only each theory of statistics, machine learning, artificial intelligence, etc., but also how to think about the purpose of setting up a problem, interpretation of results, and points to be considered when conducting data analysis.
In this lecture, after learning the importance of data science, you will learn the basic ideas common to data science through basic analysis of univariate data and bivariate data.
In this lecture, we will use Python as a tool for computer-based analysis.
All lectures will be given on demand.

授業の到達目標：
Understand how to set up a purpose, formulate a problem, and set up evaluation criteria.
Understand how to summarize univariate and bivariate data.
Understand basic probabilistic modeling for univariate and bivariate data.

事前・事後学習の内容：
Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)

After class:
Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン：
0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Part1 : Importance of data science

Importance of data science, Objectives addressed in data science, Type of data, Introduction and use of Python, Basics of Python

Part2 : How to summarize data

Summarizing 1 variable data, Summarizing 2 variable data

Part3 : Discrete random variables, Continuous random variables

Data science and mathematical modeling, Discrete random variables, Typical probability distributions of discrete random variables, Continuous random variables, Typical probability distributions of continuous random variables, Joint distributions

Part4 : Population and sample

Population and sample, Decision making on population, Assumptions for populations

Part5 : Parameter estimation

Estimation evaluation criteria, Maximum likelihood estimator

Part6 : Bayesian approach

Conditional distributions, Bayes' theorem, Bayesian approach for parameter estimation, Hypothesis testing

Part7: Decision making on populations of bivariate data

Joint probability density function and bivariate normal distribution, Decision making on populations of bivariate data, Data science and ethics

言語区分： 0 英語 English

教科書： Lecture materials are distributed on Waseda Moodle.

参考文献： None

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: Graduate student: Practice exercise 40%, Mini-exam 60%
Undergraduate student: Practice exercise 40%, Mini-exam 60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000305|03|9S03000305[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to Data Science α 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：
In recent years, with the rapid development of information processing and communication technologies, the importance of data science has increased significantly. Data science is a cross-disciplinary science for obtaining new knowledge from data and using it for decision making, and this concept is becoming necessary in all academic fields.
This is the first of four courses in the Introduction to Data Science series that will cover the basics of data science. In the introductory series, students learn not only each theory of statistics, machine learning, artificial intelligence, etc., but also how to think about the purpose of setting up a problem, interpretation of results, and points to be considered when conducting data analysis.
In this lecture, after learning the importance of data science, you will learn the basic ideas common to data science through basic analysis of univariate data and bivariate data.
In this lecture, we will use Python as a tool for computer-based analysis.
All lectures will be given on demand.

授業の到達目標：
Understand how to set up a purpose, formulate a problem, and set up evaluation criteria.
Understand how to summarize univariate and bivariate data.
Understand basic probabilistic modeling for univariate and bivariate data.

事前・事後学習の内容：
Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)

After class:
Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン：
0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Part1 : Importance of data science

Importance of data science, Objectives addressed in data science, Type of data, Introduction and use of Python, Basics of Python

Part2 : How to summarize data

Summarizing 1 variable data, Summarizing 2 variable data

Part3 : Discrete random variables, Continuous random variables

Data science and mathematical modeling, Discrete random variables, Typical probability distributions of discrete random variables, Continuous random variables, Typical probability distributions of continuous random variables, Joint distributions

Part4 : Population and sample

Population and sample, Decision making on population, Assumptions for populations

Part5 : Parameter estimation

Estimation evaluation criteria, Maximum likelihood estimator

Part6 : Bayesian approach

Conditional distributions, Bayes' theorem, Bayesian approach for parameter estimation, Hypothesis testing

Part7: Decision making on populations of bivariate data

Joint probability density function and bivariate normal distribution, Decision making on populations of bivariate data, Data science and ethics

言語区分： 0 英語 English

教科書： Lecture materials are distributed on Waseda Moodle.

参考文献： None

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: Graduate student: Practice exercise 40%, Mini-exam 60%
Undergraduate student: Practice exercise 40%, Mini-exam 60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000306|02|9S03000306[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to Data Science β 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: Concepts of Data Science through Regression and Classification

授業概要: In recent years, with the rapid development of information processing and communication technologies, the importance of data science has increased significantly. Data science is a cross-disciplinary science for obtaining new knowledge from data and using it for decision making, and this concept is becoming necessary in all academic fields.
This is the second of four courses in the Introduction to Data Science series that will cover the basics of data science. In the introductory series, students learn not only each theory of statistics, machine learning, artificial intelligence, etc., but also how to think about the purpose of setting up a problem, interpretation of results, and points to be considered when conducting data analysis.
In this course, we will learn the concept of data science by focusing on the problem of regression and classification, which represents the relationship between explanatory and objective variables. The relationship between explanatory and objective variables is expressed mathematically, and the various criteria that depend on the objective to evaluate the relationship are explained.
In this course, we will use Python as a tool for computer-based analysis.
All lectures will be given on demand.

授業の到達目標: Understand the difference between the purpose of knowing the structure of data in regression/classification analysis and the purpose of making predictions about unobserved data.
Understand the mathematical description of regression/classification for various purposes.
Understand the various problem setups and evaluation criteria.
Able to perform regression/classification analysis using a computer.

事前・事後学習の内容: Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)

After class:
Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：Problem setup for regression analysis

Regression as feature description (least-square method), Probabilistic data generation and observation mechanism of regression, Regression with Python

第2回：Bayesian approach for regression, Prediction problem, Vectors and Matrices

Bayesian approach to estimating regression coefficients, Decision-making for prediction, Graphical review of the Bayesian approach to regression with Python, Handling of multivariate data

第3回：Multivariate linear regression, Multivariate normal distribution, Multivariate linear regression with du

Multiple regression analysis (with two explanatory variables), Multivariate normal distribution, Multiple regression analysis (for three or more explanatory variables), Multiple regression analysis using Python, Multiple regression analysis using dummy variables, Converting qualitative variables using Python

第4回：Evaluation of regression equations

Multicollinearity and correlations between explanatory variables, Evaluating regression equations, Interpreting the regression coefficient, The contribution ratio in regression equations in Python

第5回：Classification analysis (1)

Classification problems, Feature description in classification problems, Predictions that assume homogeneity in classification problems, Classification problems (Python)

第6回：Classification analysis (2)

Probabilistic Data Generation and Observation Mechanism When the Probability Model Differs by Class – Structure Estimation, Probabilistic Data Generation and Observation Mechanism When the Probability Model Differs by Class – Prediction

第7回：Classification analysis (3)

Feature Description of Data Using the Logistic Function, Decision-Making Map in Probabilistic Data Generation and Observation Mechanisms where Classes are Determined from Explanatory Variables, (Python) Classification Problem (Logistic Regression)

言語区分： 0 英語 English

教科書： Lecture materials are distributed on Waseda Moodle.

参考文献： None

成績評価フリー入力サイン： 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー： Undergraduate: Practice Exercises 40%, Mini-Exams 60%
Graduate: Practice Exercises 40%, Mini-Exams 60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000306|04|9S03000306[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to Data Science β 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: Concepts of Data Science through Regression and Classification

授業概要: In recent years, with the rapid development of information processing and communication technologies, the importance of data science has increased significantly. Data science is a cross-disciplinary science for obtaining new knowledge from data and using it for decision making, and this concept is becoming necessary in all academic fields.
This is the second of four courses in the Introduction to Data Science series that will cover the basics of data science. In the introductory series, students learn not only each theory of statistics, machine learning, artificial intelligence, etc., but also how to think about the purpose of setting up a problem, interpretation of results, and points to be considered when conducting data analysis.
In this course, we will learn the concept of data science by focusing on the problem of regression and classification, which represents the relationship between explanatory and objective variables. The relationship between explanatory and objective variables is expressed mathematically, and the various criteria that depend on the objective to evaluate the relationship are explained.
In this course, we will use Python as a tool for computer-based analysis.
All lectures will be given on demand.

授業の到達目標: Understand the difference between the purpose of knowing the structure of data in regression/classification analysis and the purpose of making predictions about unobserved data.
Understand the mathematical description of regression/classification for various purposes.
Understand the various problem setups and evaluation criteria.
Able to perform regression/classification analysis using a computer.

事前・事後学習の内容: Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)

After class:
Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：Problem setup for regression analysis

Regression as feature description (least-square method), Probabilistic data generation and observation mechanism of regression, Regression with Python

第2回：Bayesian approach for regression, Prediction problem, Vectors and Matrices

Bayesian approach to estimating regression coefficients, Decision-making for prediction, Graphical review of the Bayesian approach to regression with Python, Handling of multivariate data

第3回：Multivariate linear regression, Multivariate normal distribution, Multivariate linear regression with du

Multiple regression analysis (with two explanatory variables), Multivariate normal distribution, Multiple regression analysis (for three or more explanatory variables), Multiple regression analysis using Python, Multiple regression analysis using dummy variables, Converting qualitative variables using Python

第4回：Evaluation of regression equations

Multicollinearity and correlations between explanatory variables, Evaluating regression equations, Interpreting the regression coefficient, The contribution ratio in regression equations in Python

第5回：Classification analysis (1)

Classification problems, Feature description in classification problems, Predictions that assume homogeneity in classification problems, Classification problems (Python)

第6回：Classification analysis (2)

Probabilistic Data Generation and Observation Mechanism When the Probability Model Differs by Class – Structure Estimation, Probabilistic Data Generation and Observation Mechanism When the Probability Model Differs by Class – Prediction

第7回

Feature Description of Data Using the Logistic Function, Decision-Making Map in Probabilistic Data Generation and Observation Mechanisms where Classes are Determined from Explanatory Variables, (Python) Classification Problem (Logistic Regression)

言語区分：	0　英語　English
教科書：	Lecture materials are distributed on Waseda Moodle.
参考文献：	None
成績評価フリー入力サイン：	1：フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー：	Undergraduate: Practice Exercises 40%, Mini-Exams 60% Graduate: Practice Exercises 40%, Mini-Exams 60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000307|01|9S03000307[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	空間構造のデータ科学 O1		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。
本科目はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、空間的な変数を持つ数理構造のデータに焦点を当てます。より具体的には、変数間に距離などを含む何らかの関係性を持つ空間的な構造において発生するデータに焦点を当て、このようなデータを分析するデータ科学を学びます。例えば画像を例として考えると隣接する画素には強い関係性がありますが，この関係性に依存してデータ（画像）が発生していると考えることができます。またここで言う「空間」とは現実世界の2次元や3次元の空間のみならず、例えば「SNSにおける人と人」や「顧客が商品を購入する関係」などのように、より広く関係を表現できるデータ構造を扱い、統一的に空間構造データに対するデータ科学の考え方を学びます。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

空間構造のデータに対する考え方を身に着ける。
データに対する専門的な知見から、データがどのような空間構造を持つかどうか検討できる。
自身の専門領域において、データにおける空間構造を適切に設定して分析できるようになる。

事前・事後学習の内容：

事前学習：
シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
動画・スライド・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

第1回：データと空間構造
・空間構造を持つデータとは何か
・様々な空間構造を持つデータの例と空間構造の考え方
地理情報システム（GIS）、関係データなど
・2次元的に得られるデータと行列によるデータの表現
例：マーケティングデータ、画像データなど
・対の関係性を表すデータとグラフによるデータの表現
例：SNSにおけるコミュニケーション、都市間の移動人数、マーケティングデータなど
・空間データと回帰

第2回：等間隔で得られる空間データ
・基底関数を用いてデータを表現する方法（離散コサイン変換，ウェーブレット変換）
例：信号処理、ノイズ除去など
・等間隔空間データの生成観測メカニズム（グラフィカルモデル）
・Pythonによる演習

第3回：複数ドメイン関係データ
例：マーケティングデータなど
・複数ドメイン関係データの特徴記述（行列因子分解）
・複数ドメイン関係データの生成観測メカニズム（潜在変数を含むグラフィカルモデル）
・Pythonによる演習

第4回：単一ドメイン関係データ1 例：SNSコミュニケーションなど・単一ドメイン関係データのクラスタリングによる特徴記述（スペクトルクラスタリング）
・単一ドメイン関係データの質的潜在変数による生成観測メカニズム（確率的ブロックモデル）
・Pythonによる演習
第5回：単一ドメイン関係データ2
・単一ドメイン量的関係データの潜在変数ベクトルによる特徴記述（多次元尺度構成法）
・対象の同時出現データからの潜在変数ベクトルによる特徴記述（Word2Vec）
・Pythonによる演習

第6回：空間データと関係データの関連
・空間データと関係データの関連
・目的変数を持つ多量の空間構造データ1（特徴記述の利用，ディープニューラルネットワーク）

第7回：空間構造データにおける回帰・分類
　例：画像分類など
・目的変数を持つ多量の空間構造データ2（畳み込みニューラルネットワーク）
・目的変数を持つ多量の空間構造データ3（グラフニューラルネットワーク）
・Pythonによる演習

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義用資料をWaseda Moodle上で配布。

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生：練習問題 40%，小テスト 60%
学部生　：練習問題 40%，小テスト 60%

備考・関連URL：　データ科学入門α、β、γ、δ，あるいはデータ科学入門I，II（統計学既習者用）の単位を取得していることが望ましい

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000307|02|9S03000307[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	空間構造のデータ科学 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。
本科目はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、空間的な変数を持つ数理構造のデータに焦点を当てます。より具体的には、変数間に距離などを含む何らかの関係性を持つ空間的な構造において発生するデータに焦点を当て、このようなデータを分析するデータ科学を学びます。例えば画像を例として考えると隣接する画素には強い関係性がありますが，この関係性に依存してデータ（画像）が発生していると考えることができます。またここで言う「空間」とは現実世界の2次元や3次元の空間のみならず、例えば「SNSにおける人と人」や「顧客が商品を購入する関係」などのように、より広く関係を表現できるデータ構造を扱い、統一的に空間構造データに対するデータ科学の考え方を学びます。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

空間構造のデータに対する考え方を身に着ける。
データに対する専門的な知見から、データがどのような空間構造を持つかどうか検討できる。
自身の専門領域において、データにおける空間構造を適切に設定して分析できるようになる。

事前・事後学習の内容：

事前学習：
シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
動画・スライド・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

第1回：データと空間構造
・空間構造を持つデータとは何か
・様々な空間構造を持つデータの例と空間構造の考え方
地理情報システム（GIS）、関係データなど
・2次元的に得られるデータと行列によるデータの表現
例：マーケティングデータ、画像データなど
・対の関係性を表すデータとグラフによるデータの表現
例：SNSにおけるコミュニケーション、都市間の移動人数、マーケティングデータなど
・空間データと回帰

第2回：等間隔で得られる空間データ
・基底関数を用いてデータを表現する方法（離散コサイン変換，ウェーブレット変換）
例：信号処理、ノイズ除去など
・等間隔空間データの生成観測メカニズム（グラフィカルモデル）
・Pythonによる演習

第3回：複数ドメイン関係データ
例：マーケティングデータなど
・複数ドメイン関係データの特徴記述（行列因子分解）
・複数ドメイン関係データの生成観測メカニズム（潜在変数を含むグラフィカルモデル）
・Pythonによる演習

第4回：単一ドメイン関係データ1 例：SNSコミュニケーションなど・単一ドメイン関係データのクラスタリングによる特徴記述（スペクトルクラスタリング）
・単一ドメイン関係データの質的潜在変数による生成観測メカニズム（確率的ブロックモデル）
・Pythonによる演習
第5回：単一ドメイン関係データ2
・単一ドメイン量的関係データの潜在変数ベクトルによる特徴記述（多次元尺度構成法）
・対象の同時出現データからの潜在変数ベクトルによる特徴記述（Word2Vec）
・Pythonによる演習

第6回：空間データと関係データの関連
・空間データと関係データの関連
・目的変数を持つ多量の空間構造データ1（特徴記述の利用，ディープニューラルネットワーク）

第7回：空間構造データにおける回帰・分類
　例：画像分類など
・目的変数を持つ多量の空間構造データ2（畳み込みニューラルネットワーク）
・目的変数を持つ多量の空間構造データ3（グラフニューラルネットワーク）
・Pythonによる演習

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義用資料をWaseda Moodle上で配布。

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生：練習問題 40%，小テスト 60%
学部生　：練習問題 40%，小テスト 60%

備考・関連URL：　データ科学入門α、β、γ、δ，あるいはデータ科学入門I，II（統計学既習者用）の単位を取得していることが望ましい

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000307|03|9S03000307[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	空間構造のデータ科学 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。
本科目はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、空間的な変数を持つ数理構造のデータに焦点を当てます。より具体的には、変数間に距離などを含む何らかの関係性を持つ空間的な構造において発生するデータに焦点を当て、このようなデータを分析するデータ科学を学びます。例えば画像を例として考えると隣接する画素には強い関係性がありますが，この関係性に依存してデータ（画像）が発生していると考えることができます。またここで言う「空間」とは現実世界の2次元や3次元の空間のみならず、例えば「SNSにおける人と人」や「顧客が商品を購入する関係」などのように、より広く関係を表現できるデータ構造を扱い、統一的に空間構造データに対するデータ科学の考え方を学びます。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

空間構造のデータに対する考え方を身に着ける。
データに対する専門的な知見から、データがどのような空間構造を持つかどうか検討できる。
自身の専門領域において、データにおける空間構造を適切に設定して分析できるようになる。

事前・事後学習の内容：

事前学習：
シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
動画・スライド・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

第1回：データと空間構造
・空間構造を持つデータとは何か
・様々な空間構造を持つデータの例と空間構造の考え方
地理情報システム（GIS）、関係データなど
・2次元的に得られるデータと行列によるデータの表現
例：マーケティングデータ、画像データなど
・対の関係性を表すデータとグラフによるデータの表現
例：SNSにおけるコミュニケーション、都市間の移動人数、マーケティングデータなど
・空間データと回帰

第2回：等間隔で得られる空間データ
・基底関数を用いてデータを表現する方法（離散コサイン変換，ウェーブレット変換）
例：信号処理、ノイズ除去など
・等間隔空間データの生成観測メカニズム（グラフィカルモデル）
・Pythonによる演習

第3回：複数ドメイン関係データ
例：マーケティングデータなど
・複数ドメイン関係データの特徴記述（行列因子分解）
・複数ドメイン関係データの生成観測メカニズム（潜在変数を含むグラフィカルモデル）
・Pythonによる演習

第4回：単一ドメイン関係データ1 例：SNSコミュニケーションなど・単一ドメイン関係データのクラスタリングによる特徴記述（スペクトルクラスタリング）
・単一ドメイン関係データの質的潜在変数による生成観測メカニズム（確率的ブロックモデル）
・Pythonによる演習
第5回：単一ドメイン関係データ2
・単一ドメイン量的関係データの潜在変数ベクトルによる特徴記述（多次元尺度構成法）
・対象の同時出現データからの潜在変数ベクトルによる特徴記述（Word2Vec）
・Pythonによる演習

第6回：空間データと関係データの関連
・空間データと関係データの関連
・目的変数を持つ多量の空間構造データ1（特徴記述の利用，ディープニューラルネットワーク）

第7回：空間構造データにおける回帰・分類
　例：画像分類など
・目的変数を持つ多量の空間構造データ2（畳み込みニューラルネットワーク）
・目的変数を持つ多量の空間構造データ3（グラフニューラルネットワーク）
・Pythonによる演習

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義用資料をWaseda Moodle上で配布。

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生：練習問題 40%，小テスト 60%
学部生　：練習問題 40%，小テスト 60%

備考・関連URL：　データ科学入門α、β、γ、δ，あるいはデータ科学入門I，II（統計学既習者用）の単位を取得していることが望ましい

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000307|04|9S03000307[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	空間構造のデータ科学 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。
本科目はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、空間的な変数を持つ数理構造のデータに焦点を当てます。より具体的には、変数間に距離などを含む何らかの関係性を持つ空間的な構造において発生するデータに焦点を当て、このようなデータを分析するデータ科学を学びます。例えば画像を例として考えると隣接する画素には強い関係性がありますが，この関係性に依存してデータ（画像）が発生していると考えることができます。またここで言う「空間」とは現実世界の2次元や3次元の空間のみならず、例えば「SNSにおける人と人」や「顧客が商品を購入する関係」などのように、より広く関係を表現できるデータ構造を扱い、統一的に空間構造データに対するデータ科学の考え方を学びます。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

空間構造のデータに対する考え方を身に着ける。
データに対する専門的な知見から、データがどのような空間構造を持つかどうか検討できる。
自身の専門領域において、データにおける空間構造を適切に設定して分析できるようになる。

事前・事後学習の内容：

事前学習：
シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
動画・スライド・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

第1回：データと空間構造
・空間構造を持つデータとは何か
・様々な空間構造を持つデータの例と空間構造の考え方
地理情報システム（GIS）、関係データなど
・2次元的に得られるデータと行列によるデータの表現
例：マーケティングデータ、画像データなど
・対の関係性を表すデータとグラフによるデータの表現
例：SNSにおけるコミュニケーション、都市間の移動人数、マーケティングデータなど
・空間データと回帰

第2回：等間隔で得られる空間データ
・基底関数を用いてデータを表現する方法（離散コサイン変換，ウェーブレット変換）
例：信号処理、ノイズ除去など
・等間隔空間データの生成観測メカニズム（グラフィカルモデル）
・Pythonによる演習

第3回：複数ドメイン関係データ
例：マーケティングデータなど
・複数ドメイン関係データの特徴記述（行列因子分解）
・複数ドメイン関係データの生成観測メカニズム（潜在変数を含むグラフィカルモデル）
・Pythonによる演習

第4回：単一ドメイン関係データ1 例：SNSコミュニケーションなど・単一ドメイン関係データのクラスタリングによる特徴記述（スペクトルクラスタリング）
・単一ドメイン関係データの質的潜在変数による生成観測メカニズム（確率的ブロックモデル）
・Pythonによる演習
第5回：単一ドメイン関係データ2
・単一ドメイン量的関係データの潜在変数ベクトルによる特徴記述（多次元尺度構成法）
・対象の同時出現データからの潜在変数ベクトルによる特徴記述（Word2Vec）
・Pythonによる演習

第6回：空間データと関係データの関連
・空間データと関係データの関連
・目的変数を持つ多量の空間構造データ1（特徴記述の利用，ディープニューラルネットワーク）

第7回：空間構造データにおける回帰・分類
　例：画像分類など
・目的変数を持つ多量の空間構造データ2（畳み込みニューラルネットワーク）
・目的変数を持つ多量の空間構造データ3（グラフニューラルネットワーク）
・Pythonによる演習

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義用資料をWaseda Moodle上で配布。

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生：練習問題 40%，小テスト 60%
学部生　：練習問題 40%，小テスト 60%

備考・関連URL：　データ科学入門α、β、γ、δ，あるいはデータ科学入門I，II（統計学既習者用）の単位を取得していることが望ましい

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000308|01|9S03000308[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	因果構造のデータ科学 O1		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。
本科目はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、データの背後に存在する因果構造に焦点を当てます。因果関係がないにもかかわらず、相関分析や回帰分析の分析結果が因果関係を表すものとして解釈してしまうと、データ分析から得られた知見が誤ったもの・無意味なものになってしまう危険性があります。本科目では、相関分析・回帰分析と因果構造分析の違いから始め、「因果効果」を数理的に定義する方法及びそれをデータから推測するデータ科学の考え方を学びます。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: 相関分析・回帰分析と因果構造分析の違いを理解する
データに対する専門的な知見から、適切な因果効果の定義と推測手法を検討することができる。
自身の専門領域において、適切な因果推論のモデル・手法を選択して分析することができる。

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:統計的因果推論の問題設定
因果推論とその難しさ
反事実モデルとランダム化比較試験
平均処置効果を推定するための条件とマッチング推定量

第2回:傾向スコアに基づく因果推論
傾向スコア
傾向スコアを利用した平均処置効果推定
傾向スコアの推定方法

第3回:構造的因果モデルに基づく統計的因果推論の問題設定
構造的因果モデルと因果ダイアグラム
介入と平均因果効果

第4回:構造的因果モデルにおける統計的因果推論
平均因果効果の推定因果ダイアグラムの推定

第5回:反事実モデルと構造的因果モデルの関係性
反事実モデルと構造的因果モデル回帰分析による因果推論

第6回:操作変数法に基づく因果推論とフロントドア基準
操作変数法フロントドア基準

第7回:パネルデータに対する因果推論，講義のまとめ
差の差分析
回帰不連続デザイン
まとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:	講義用資料をWaseda Moodle上で配布。
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい 「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 練習問題:40%, 小テスト:60% 学部生 練習問題:40%, 小テスト:60%
備考・関連URL:	データ科学入門α、β、γ、δ, あるいはデータ科学入門I, II（統計学既習者用）の単位を取得していることが望ましい

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000308|02|9S03000308[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	因果構造のデータ科学 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。
本科目はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、データの背後に存在する因果構造に焦点を当てます。因果関係がないにもかかわらず、相関分析や回帰分析の分析結果が因果関係を表すものとして解釈してしまうと、データ分析から得られた知見が誤ったもの・無意味なものになってしまう危険性があります。本科目では、相関分析・回帰分析と因果構造分析の違いから始め、「因果効果」を数理的に定義する方法及びそれをデータから推測するデータ科学の考え方を学びます。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: 相関分析・回帰分析と因果構造分析の違いを理解する
データに対する専門的な知見から、適切な因果効果の定義と推測手法を検討することができる。
自身の専門領域において、適切な因果推論のモデル・手法を選択して分析することができる。

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:統計的因果推論の問題設定
因果推論とその難しさ
反事実モデルとランダム化比較試験
平均処置効果を推定するための条件とマッチング推定量

第2回:傾向スコアに基づく因果推論
傾向スコア
傾向スコアを利用した平均処置効果推定
傾向スコアの推定方法

第3回:構造的因果モデルに基づく統計的因果推論の問題設定
構造的因果モデルと因果ダイアグラム
介入と平均因果効果

第4回:構造的因果モデルにおける統計的因果推論
平均因果効果の推定因果ダイアグラムの推定

第5回:反事実モデルと構造的因果モデルの関係性
反事実モデルと構造的因果モデル回帰分析による因果推論

第6回:操作変数法に基づく因果推論とフロントドア基準
操作変数法フロントドア基準

第7回:パネルデータに対する因果推論，講義のまとめ
差の差分析
回帰不連続デザイン
まとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:	講義用資料をWaseda Moodle上で配布。
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい 「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット(教員による切替可)
成績評価フリー:	大学院生 練習問題:40%, 小テスト:60% 学部生 練習問題:40%, 小テスト:60%
備考・関連URL:	データ科学入門α、β、γ、δ, あるいはデータ科学入門I, II(統計学既習者用)の単位を取得していることが望ましい

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000308|03|9S03000308[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	因果構造のデータ科学 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。
本科目はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、データの背後に存在する因果構造に焦点を当てます。因果関係がないにもかかわらず、相関分析や回帰分析の分析結果が因果関係を表すものとして解釈してしまうと、データ分析から得られた知見が誤ったもの・無意味なものになってしまう危険性があります。本科目では、相関分析・回帰分析と因果構造分析の違いから始め、「因果効果」を数理的に定義する方法及びそれをデータから推測するデータ科学の考え方を学びます。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: 相関分析・回帰分析と因果構造分析の違いを理解する
データに対する専門的な知見から、適切な因果効果の定義と推測手法を検討することができる。
自身の専門領域において、適切な因果推論のモデル・手法を選択して分析することができる。

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:統計的因果推論の問題設定
因果推論とその難しさ
反事実モデルとランダム化比較試験
平均処置効果を推定するための条件とマッチング推定量

第2回:傾向スコアに基づく因果推論
傾向スコア
傾向スコアを利用した平均処置効果推定
傾向スコアの推定方法

第3回:構造的因果モデルに基づく統計的因果推論の問題設定
構造的因果モデルと因果ダイアグラム
介入と平均因果効果

第4回:構造的因果モデルにおける統計的因果推論
平均因果効果の推定因果ダイアグラムの推定

第5回:反事実モデルと構造的因果モデルの関係性
反事実モデルと構造的因果モデル回帰分析による因果推論

第6回:操作変数法に基づく因果推論とフロントドア基準
操作変数法フロントドア基準

第7回:パネルデータに対する因果推論，講義のまとめ
差の差分析
回帰不連続デザイン
まとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:	講義用資料をWaseda Moodle上で配布。
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい 「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 練習問題:40%, 小テスト:60% 学部生 練習問題:40%, 小テスト:60%
備考・関連URL:	データ科学入門α、β、γ、δ, あるいはデータ科学入門I, II（統計学既習者用）の単位を取得していることが望ましい

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000308|04|9S03000308[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	因果構造のデータ科学　04		
担 当 教 員	小林　学@野村　亮@堀井　俊佑@安田　豪毅@谷口　卓也@中原　悠太@望月　泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。
本科目はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、データの背後に存在する因果構造に焦点を当てます。因果関係がないにもかかわらず、相関分析や回帰分析の分析結果が因果関係を表すものとして解釈してしまうと、データ分析から得られた知見が誤ったもの・無意味なものになってしまう危険性があります。本科目では、相関分析・回帰分析と因果構造分析の違いから始め、「因果効果」を数理的に定義する方法及びそれをデータから推測するデータ科学の考え方を学びます。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：　相関分析・回帰分析と因果構造分析の違いを理解する
データに対する専門的な知見から、適切な因果効果の定義と推測手法を検討することができる。
自身の専門領域において、適切な因果推論のモデル・手法を選択して分析することができる。

事前・事後学習の内容：　事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：統計的因果推論の問題設定
因果推論とその難しさ
反事実モデルとランダム化比較試験
平均処置効果を推定するための条件とマッチング推定量

第2回：傾向スコアに基づく因果推論
傾向スコア
傾向スコアを利用した平均処置効果推定
傾向スコアの推定方法

第3回：構造的因果モデルに基づく統計的因果推論の問題設定
構造的因果モデルと因果ダイアグラム
介入と平均因果効果

第4回：構造的因果モデルにおける統計的因果推論
平均因果効果の推定因果ダイアグラムの推定

第5回：反事実モデルと構造的因果モデルの関係性
反事実モデルと構造的因果モデル回帰分析による因果推論

第6回：操作変数法に基づく因果推論とフロントドア基準
操作変数法フロントドア基準

第7回：パネルデータに対する因果推論，講義のまとめ
差の差分析
回帰不連続デザイン
まとめ

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書:	講義用資料をWaseda Moodle上で配布。
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい 「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 練習問題：40%, 小テスト：60% 学部生 練習問題：40%, 小テスト：60%
備考・関連URL:	データ科学入門α、β、γ、δ, あるいはデータ科学入門I, II（統計学既習者用）の単位を取得していることが望ましい

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000309|01|9S03000309[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to Data Science γ 01		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: Search for an appropriate model for the analysis

授業概要: In recent years, with the rapid development of information processing and communication technologies, the importance of data science has increased significantly. Data science is a cross-disciplinary science for obtaining new knowledge from data and using it for decision making, and this concept is becoming necessary in all academic fields.
This is the third of four courses in the Introduction to Data Science series that will cover the basics of data science. In the introductory series, students learn not only each theory of statistics, machine learning, artificial intelligence, etc., but also how to think about the purpose of setting up a problem, interpretation of results, and points to be considered when conducting data analysis.
This course focuses on multiple regression analysis and classification problems on the subject of multivariate data handling, and students will learn how to search for the appropriate model for the purpose of analysis.
In this course, we will use Python as a tool for computer-based analysis.
All lectures will be given on demand.

授業の到達目標: Select appropriate modeling and evaluation criteria for multiple regression analysis and classification problems, depending on the purpose and nature of the data.
Perform multiple regression and classification analysis using a computer.

事前・事後学習の内容: Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)

After class:
Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：Various Basis Functions, Variable Selection and Model Selection Problems

Polynomial Regression, Mathematical Model of Interaction, The Concept of Transforming Data with Basis Function, Python: Parameter Estimation for Polynomial Regression

第2回：Model Selection Using Hypothesis Tests

Basis Selection, Variable Selection, Model Selection, Structure Estimation Based on Hypothesis Testing, Analysis of Variance

第3回：Model Selection for Structure Estimation

Model Selection for Structure Estimation, Bayesian Approach to Model Selection for Structure Estimation (Consistency and Bayesian Criteria), Python: Model Selection for Structure Estimation

第4回：Prediction Problem, Model Selection for Prediction (1)

Model Selection for Prediction (AIC), Comparison of AIC and BIC, Prediction without Model Selection

第5回：Model Selection for Prediction(2), Indirect Prediction and Direct Prediction

Cross Validation, Mallows' Cp, Python: Cross Validation

第6回：Model Selection When the Number of Variables and Bases Is Large, Purpose of Regularization, Baye

Model Exploration, Regularization, Python: Regularization, Purpose of Regularization, Bayesian Interpretation of Regularization, Deep Learning

第7回：Various Regression and Classification Classes

Concept of using "Closeness" of Data (1) (Decision Trees), Concept of using "Closeness" of Data (2) (Non-parametric Regression), Choice of Method

言語区分: 0 英語 English

教科書:	Lecture materials are distributed on Waseda Moodle.
参考文献:	None
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	Undergraduate: Practice Exercises 40%, Mini-Exams 60% Graduate: Practice Exercises 40%, Mini-Exams 60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000309|03|9S03000309[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to Data Science γ 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: Search for an appropriate model for the analysis

授業概要: In recent years, with the rapid development of information processing and communication technologies, the importance of data science has increased significantly. Data science is a cross-disciplinary science for obtaining new knowledge from data and using it for decision making, and this concept is becoming necessary in all academic fields.
This is the third of four courses in the Introduction to Data Science series that will cover the basics of data science. In the introductory series, students learn not only each theory of statistics, machine learning, artificial intelligence, etc., but also how to think about the purpose of setting up a problem, interpretation of results, and points to be considered when conducting data analysis.
This course focuses on multiple regression analysis and classification problems on the subject of multivariate data handling, and students will learn how to search for the appropriate model for the purpose of analysis.
In this course, we will use Python as a tool for computer-based analysis.
All lectures will be given on demand.

授業の到達目標: Select appropriate modeling and evaluation criteria for multiple regression analysis and classification problems, depending on the purpose and nature of the data.
Perform multiple regression and classification analysis using a computer.

事前・事後学習の内容: Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)

After class:
Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：Various Basis Functions, Variable Selection and Model Selection Problems

Polynomial Regression, Mathematical Model of Interaction, The Concept of Transforming Data with Basis Function, Python: Parameter Estimation for Polynomial Regression

第2回：Model Selection Using Hypothesis Tests

Basis Selection, Variable Selection, Model Selection, Structure Estimation Based on Hypothesis Testing, Analysis of Variance

第3回：Model Selection for Structure Estimation

Model Selection for Structure Estimation, Bayesian Approach to Model Selection for Structure Estimation (Consistency and Bayesian Criteria), Python: Model Selection for Structure Estimation

第4回：Prediction Problem, Model Selection for Prediction (1)

Model Selection for Prediction (AIC), Comparison of AIC and BIC, Prediction without Model Selection

第5回：Model Selection for Prediction(2), Indirect Prediction and Direct Prediction

Cross Validation, Mallows' Cp, Python: Cross Validation

第6回：Model Selection When the Number of Variables and Bases Is Large, Purpose of Regularization, Baye

Model Exploration, Regularization, Python: Regularization, Purpose of Regularization, Bayesian Interpretation of Regularization, Deep Learning

第7回：Various Regression and Classification Classes

Concept of using "Closeness" of Data (1) (Decision Trees), Concept of using "Closeness" of Data (2) (Non-parametric Regression), Choice of Method

言語区分: 0 英語 English

教科書:	Lecture materials are distributed on Waseda Moodle.
参考文献:	None
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	Undergraduate: Practice Exercises 40%, Mini-Exams 60% Graduate: Practice Exercises 40%, Mini-Exams 60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000310|02|9S03000310[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to Data Science δ 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： Data analysis in practice

授業概要： In recent years, with the rapid development of information processing and communication technologies, the importance of data science has increased significantly. Data science is a cross-disciplinary science for obtaining new knowledge from data and using it for decision making, and this concept is becoming necessary in all academic fields.
This lecture is the last of the four courses in the Introduction to Data Science series, which covers the basics o data science. The Introduction to Data Science series not only provides a broad introduction to the field of data science through comprehensive study of statistics, machine learning, artificial intelligence, etc., but also focuses on the concept of data science, the purpose of problem formulation, the way to interpret data analysis results, and points to keep in mind when analyzing data.
In this lecture, students will learn clustering and principal component analysis from the viewpoint of data reduction. In addition, students will learn important points in data analysis. The course covers more practical data handling and validation of data analysis results.
In this lecture, we will use Python as a tool for computer-based analysis.
All lectures will be given on-demand.

授業の到達目標： To be able to examine the modeling of clustering and principal component analysis as data reduction
Understand the process of data analysis : data acquisition, preprocessing, modeling, verifying the validity of assumptions

事前・事後学習の内容： Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)

After class:
Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Clustering

Purpose of clustering, problem setting, evaluation criteria, probabilistic expressions

Parameter estimation in the presence of latent variables

Parameter estimation for models with latent variables, Optimization algorithms

Data reduction

Dimension reduction, Principal component analysis

Process of data analysis (1): Problem-solving process

Setting data analysis goals, planning data acquisition, sampling methods

Process of data analysis (2): Pre-processing

Checking data, missing values, outliers

Process of data analysis (3): Model validation

Model validation, data transformation, analysis of residuals, notes on use of analysis results

Application of data science (text analysis, image analysis), Future study

Application of data science (text analysis, image analysis), Explanation on the developmental content, importance of mathematics, introduction to causal structures, introduction to time series structures, introduction to spatial structures, introduction to regression and classification (ensemble learning)

言語区分： 0 英語 English

教科書:	Lecture materials are distributed on Waseda Moodle.
参考文献:	None
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	Graduate students: Practice 40%, Mini-Exam 60% Undergraduate students: Practice 40%, Mini-Exam 60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000310|04|9S03000310[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to Data Science δ 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： Data analysis in practice

授業概要： In recent years, with the rapid development of information processing and communication technologies, the importance of data science has increased significantly. Data science is a cross-disciplinary science for obtaining new knowledge from data and using it for decision making, and this concept is becoming necessary in all academic fields.
This lecture is the last of the four courses in the Introduction to Data Science series, which covers the basics o data science. The Introduction to Data Science series not only provides a broad introduction to the field of data science through comprehensive study of statistics, machine learning, artificial intelligence, etc., but also focuses on the concept of data science, the purpose of problem formulation, the way to interpret data analysis results, and points to keep in mind when analyzing data.
In this lecture, students will learn clustering and principal component analysis from the viewpoint of data reduction. In addition, students will learn important points in data analysis. The course covers more practical data handling and validation of data analysis results.
In this lecture, we will use Python as a tool for computer-based analysis.
All lectures will be given on-demand.

授業の到達目標： To be able to examine the modeling of clustering and principal component analysis as data reduction
Understand the process of data analysis : data acquisition, preprocessing, modeling, verifying the validity of assumptions

事前・事後学習の内容： Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)

After class:
Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Clustering

Purpose of clustering, problem setting, evaluation criteria, probabilistic expressions

Parameter estimation in the presence of latent variables

Parameter estimation for models with latent variables, Optimization algorithms

Data reduction

Dimension reduction, Principal component analysis

Process of data analysis (1): Problem-solving process

Setting data analysis goals, planning data acquisition, sampling methods

Process of data analysis (2): Pre-processing

Checking data, missing values, outliers

Process of data analysis (3): Model validation

Model validation, data transformation, analysis of residuals, notes on use of analysis results

Application of data science (text analysis, image analysis), Future study

Application of data science (text analysis, image analysis), Explanation on the developmental content, importance of mathematics, introduction to causal structures, introduction to time series structures, introduction to spatial structures, introduction to regression and classification (ensemble learning)

言語区分： 0 英語 English

教科書:	Lecture materials are distributed on Waseda Moodle.
参考文献:	None
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	Graduate students: Practice 40%, Mini-Exam 60% Undergraduate students: Practice 40%, Mini-Exam 60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000311|01|9S03000311[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学総合演習 O1		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@中原 悠太@望月 泰博		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【オンライン】リアルタイム配信
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

本科目は「データ科学教育プログラム」の一科目であり、以下の内容を学んだ学生を対象とする。
・データ科学の考え方（「データ科学入門α－δ」）
・各種数理モデル（「時系列構造のデータ科学」、「空間構造のデータ科学」，「潜在構造のデータ科学」等）
・数理モデルの設定の考え方（「データ科学のためのモデリング」）
受講生はデータ分析の課題が与えられたもとで、分析の目的に合わせて数理モデルを選択し、分析を一通り行う。分析の過程はいくつかの段階に分けられており、各段階で (1)分析に関する講義の受講，(2)分析，(3)分析結果の発表を行う。

※本科目は講義をオンデマンド形式，発表をオンライン形式で行うため，教室を指定していません．オンデマンド形式，オンライン形式で受講可能な環境があれば，場所を問わず受講できます．

〇受講前提条件
・データ科学認定制度の中級の取得までに必要となる科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があること。
・「データ科学のためのモデリング」を履修済みであるか、履修済み相当の知識があること。

〇注意事項
定員を30名までとする。受講希望者数が定員の上限を超えた場合は、抽選とする。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

データ分析の課題に対し、自ら適切な数理モデルを設定できる。

事前・事後学習の内容：

事前学習：
・前もって配布されている講義資料を用いて予習する（100分）

事後学習：
・講義内容に対する演習を各自で行って復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：課題と目的（講義：オンライン形式）
データ分析の課題および目的の説明
第2回：データの特徴の把握（講義：オンデマンド形式）
データの特徴の把握（図表によるデータの可視化，基本統計量による要約）の説明
第3回：データの特徴の把握（発表：オンライン形式）
データの特徴の把握の発表
第4回：数理モデルの設定（講義：オンデマンド形式）
数理モデルの設定の説明
第5回：数理モデルの設定（発表：オンライン形式）
数理モデルの設定の発表
第6回：分析とまとめ（講義：オンデマンド形式）
数理モデルを設定した後の分析の説明
分析結果のまとめ方の説明
第7回：分析とまとめ（発表：オンライン形式）
分析結果の発表

言語区分:	0　日本語　Japanese
教科書:	講義資料をWaseda Moodle上に提示
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい 「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 : 課題のレポートおよび発表の状況により評価する 学部生 : 課題のレポートおよび発表の状況により評価する

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000311|02|9S03000311[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学総合演習 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@中原 悠太@望月 泰博		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【オンライン】リアルタイム配信
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本科目は「データ科学教育プログラム」の一科目であり、以下の内容を学んだ学生を対象とする。
・データ科学の考え方（「データ科学入門α－δ」）
・各種数理モデル（「時系列構造のデータ科学」、「空間構造のデータ科学」，「潜在構造のデータ科学」等）
・数理モデルの設定の考え方（「データ科学のためのモデリング」）
受講生はデータ分析の課題が与えられたもとで、分析の目的に合わせて数理モデルを選択し、分析を一通り行う。分析の過程はいくつかの段階に分けられており、各段階で (1)分析に関する講義の受講，(2)分析，(3)分析結果の発表を行う。

※本科目は講義をオンデマンド形式，発表をオンライン形式で行うため，教室を指定していません．オンデマンド形式，オンライン形式で受講可能な環境があれば，場所を問わず受講できます．

〇受講前提条件
・データ科学認定制度の中級の取得までに必要となる科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があること。
・「データ科学のためのモデリング」を履修済みであるか、履修済み相当の知識があること。

〇注意事項
定員を30名までとする。受講希望者数が定員の上限を超えた場合は、抽選とする。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標:

データ分析の課題に対し、自ら適切な数理モデルを設定できる

事前・事後学習の内容:

事前学習:
・前もって配布されている講義資料を用いて予習する（100分）

事後学習:
・講義内容に対する演習を各自で行って復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：課題と目的 （講義：オンライン形式）
授業の目的と概要．データ分析の課題および目的の説明
第2回：データの特徴の把握 （講義：オンデマンド形式）
データの特徴の把握（図表によるデータの可視化，基本統計量による要約）の説明
第3回：データの特徴の把握 （発表：オンライン形式）
データの特徴の把握の発表
第4回：数理モデルの設定 （講義：オンデマンド形式）
数理モデルの設定の説明
第5回：数理モデルの設定 （発表：オンライン形式）
数理モデルの設定の発表
第6回：分析とまとめ （講義：オンデマンド形式）
数理モデルを設定した後の分析の説明
分析結果のまとめ方の説明
第7回：分析とまとめ （発表：オンライン形式）
分析結果の発表

言語区分:	0　日本語　Japanese
教科書:	講義資料をWaseda Moodle上に提示
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい 「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 : 課題のレポートおよび発表の状況により評価する 学部生 : 課題のレポートおよび発表の状況により評価する

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000311|03|9S03000311[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学総合演習 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@中原 悠太@望月 泰博		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火5時限	授業方法区分	【オンライン】リアルタイム配信
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

本科目は「データ科学教育プログラム」の一科目であり、以下の内容を学んだ学生を対象とする。
・データ科学の考え方（「データ科学入門α－δ」）
・各種数理モデル（「時系列構造のデータ科学」、「空間構造のデータ科学」，「潜在構造のデータ科学」等）
・数理モデルの設定の考え方（「データ科学のためのモデリング」）
受講生はデータ分析の課題が与えられたもとで、分析の目的に合わせて数理モデルを選択し、分析を一通り行う。分析の過程はいくつかの段階に分けられており、各段階で (1)分析に関する講義の受講，(2)分析，(3)分析結果の発表を行う。

※本科目は講義をオンデマンド形式，発表をオンライン形式で行うため，教室を指定していません．オンデマンド形式，オンライン形式で受講可能な環境があれば，場所を問わず受講できます．

〇受講前提条件
・データ科学認定制度の中級の取得までに必要となる科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があること。
・「データ科学のためのモデリング」を履修済みであるか、履修済み相当の知識があること。

〇注意事項
定員を30名までとする。受講希望者数が定員の上限を超えた場合は、抽選とする。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

データ分析の課題に対し、自ら適切な数理モデルを設定できる。

事前・事後学習の内容：

事前学習：
・前もって配布されている講義資料を用いて予習する（100分）

事後学習：
・講義内容に対する演習を各自で行って復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：課題と目的（講義：オンライン形式）
データ分析の課題および目的の説明
第2回：データの特徴の把握（講義：オンデマンド形式）
データの特徴の把握（図表によるデータの可視化，基本統計量による要約）の説明
第3回：データの特徴の把握（発表：オンライン形式）
データの特徴の把握の発表
第4回：数理モデルの設定（講義：オンデマンド形式）
数理モデルの設定の説明
第5回：数理モデルの設定（発表：オンライン形式）
数理モデルの設定の発表
第6回：分析とまとめ（講義：オンデマンド形式）
数理モデルを設定した後の分析の説明
分析結果のまとめ方の説明
第7回：分析とまとめ（発表：オンライン形式）
分析結果の発表

言語区分:	0　日本語　Japanese
教科書:	講義資料をWaseda Moodle上に提示
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい 「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 : 課題のレポートおよび発表の状況により評価する 学部生 : 課題のレポートおよび発表の状況により評価する

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000311|04|9S03000311[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学総合演習 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@中原 悠太@望月 泰博		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【オンライン】リアルタイム配信
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

本科目は「データ科学教育プログラム」の一科目であり、以下の内容を学んだ学生を対象とする。
・データ科学の考え方（「データ科学入門α－δ」）
・各種数理モデル（「時系列構造のデータ科学」、「空間構造のデータ科学」，「潜在構造のデータ科学」等）
・数理モデルの設定の考え方（「データ科学のためのモデリング」）
受講生はデータ分析の課題が与えられたもとで、分析の目的に合わせて数理モデルを選択し、分析を一通り行う。分析の過程はいくつかの段階に分けられており、各段階で (1)分析に関する講義の受講，(2)分析，(3)分析結果の発表を行う。

※本科目は講義をオンデマンド形式、発表をオンライン形式で行うため、教室は指定しない。

〇受講前提条件
・データ科学認定制度の中級の取得までに必要となる科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があること。
・「データ科学のためのモデリング」を履修済みであるか、履修済み相当の知識があること。

〇注意事項
定員を30名までとする。受講希望者数が定員の上限を超えた場合は、抽選とする。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つである。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumを参照のこと。
また、早稲田大学データ科学認定制度についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationを参照するとよい。

授業の到達目標：

データ分析の課題に対し、自ら適切な数理モデルを設定できる。

事前・事後学習の内容：

事前学習：
・前もって配布されている講義資料を用いて予習する（100分）

事後学習：
・講義内容に対する演習を各自で行って復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
課題と目的（講義：オンライン形式）
データ分析の課題および目的の説明

第2回
データの特徴の把握（講義：オンデマンド形式）
データの特徴の把握（図表によるデータの可視化，基本統計量による要約）の説明

第3回
データの特徴の把握（発表：オンライン形式）
データの特徴の把握の発表

第4回
数理モデルの設定（講義：オンデマンド形式）
数理モデルの設定の説明

第5回
数理モデルの設定（発表：オンライン形式）
数理モデルの設定の発表

第6回
分析とまとめ（講義：オンデマンド形式）
数理モデルを設定した後の分析の説明
分析結果のまとめ方の説明
第7回
分析とまとめ（発表：オンライン形式）
分析結果の発表

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義資料をWaseda Moodle上に提示

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 大学院生：課題のレポートおよび発表の状況により評価する
学部生：課題のレポートおよび発表の状況により評価する

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000311|05|9S03000311[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学総合演習 05		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@中原 悠太@望月 泰博		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【オンライン】リアルタイム配信
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本科目は「データ科学教育プログラム」の一科目であり、以下の内容を学んだ学生を対象とする。
・データ科学の考え方（「データ科学入門α－δ」）
・各種数理モデル（「時系列構造のデータ科学」、「空間構造のデータ科学」，「潜在構造のデータ科学」等）
・数理モデルの設定の考え方（「データ科学のためのモデリング」）
受講生はデータ分析の課題が与えられたもとで、分析の目的に合わせて数理モデルを選択し、分析を一通り行う。分析の過程はいくつかの段階に分けられており、各段階で (1)分析に関する講義の受講，(2)分析，(3)分析結果の発表を行う。

※本科目は講義をオンデマンド形式，発表をオンライン形式で行うため，教室を指定していません．オンデマンド形式，オンライン形式で受講可能な環境があれば，場所を問わず受講できます．

〇受講前提条件
・データ科学認定制度の中級の取得までに必要となる科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があること。
・「データ科学のためのモデリング」を履修済みであるか、履修済み相当の知識があること。

〇注意事項
定員を30名までとする。受講希望者数が定員の上限を超えた場合は、抽選とする。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標:

データ分析の課題に対し、自ら適切な数理モデルを設定できる

事前・事後学習の内容:

事前学習:
・前もって配布されている講義資料を用いて予習する（100分）

事後学習:
・講義内容に対する演習を各自で行って復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：課題と目的 （講義：オンライン形式）
授業の目的と概要．データ分析の課題および目的の説明
第2回：データの特徴の把握 （講義：オンデマンド形式）
データの特徴の把握（図表によるデータの可視化，基本統計量による要約）の説明
第3回：データの特徴の把握 （発表：オンライン形式）
データの特徴の把握の発表
第4回：数理モデルの設定 （講義：オンデマンド形式）
数理モデルの設定の説明
第5回：数理モデルの設定 （発表：オンライン形式）
数理モデルの設定の発表
第6回：分析とまとめ （講義：オンデマンド形式）
数理モデルを設定した後の分析の説明
分析結果のまとめ方の説明
第7回：分析とまとめ （発表：オンライン形式）
分析結果の発表

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義資料をWaseda Moodle上に提示

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I, II, III, IV, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 : 課題のレポートおよび発表の状況により評価する
学部生 : 課題のレポートおよび発表の状況により評価する

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000311|06|9S03000311[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学総合演習 06		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@中原 悠太@望月 泰博		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【オンライン】リアルタイム配信
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本科目は「データ科学教育プログラム」の一科目であり、以下の内容を学んだ学生を対象とする。
・データ科学の考え方（「データ科学入門α－δ」）
・各種数理モデル（「時系列構造のデータ科学」、「空間構造のデータ科学」，「潜在構造のデータ科学」等）
・数理モデルの設定の考え方（「データ科学のためのモデリング」）
受講生はデータ分析の課題が与えられたもとで、分析の目的に合わせて数理モデルを選択し、分析を一通り行う。分析の過程はいくつかの段階に分けられており、各段階で (1)分析に関する講義の受講，(2)分析，(3)分析結果の発表を行う。

※本科目は講義をオンデマンド形式，発表をオンライン形式で行うため，教室を指定していません．オンデマンド形式，オンライン形式で受講可能な環境があれば，場所を問わず受講できます．

〇受講前提条件
・データ科学認定制度の中級の取得までに必要となる科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があること。
・「データ科学のためのモデリング」を履修済みであるか、履修済み相当の知識があること。

〇注意事項
定員を30名までとする。受講希望者数が定員の上限を超えた場合は、抽選とする。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: データ分析の課題に対し、自ら適切な数理モデルを設定できる

事前・事後学習の内容:

事前学習:
・前もって配布されている講義資料を用いて予習する（100分）

事後学習:
・講義内容に対する演習を各自で行って復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：課題と目的 （講義：オンライン形式）
データ分析の課題および目的の説明
第2回：データの特徴の把握 （講義：オンデマンド形式）
データの特徴の把握（図表によるデータの可視化，基本統計量による要約）の説明
第3回：データの特徴の把握 （発表：オンライン形式）
データの特徴の把握の発表
第4回：数理モデルの設定 （講義：オンデマンド形式）
数理モデルの設定の説明
第5回：数理モデルの設定 （発表：オンライン形式）
数理モデルの設定の発表
第6回：分析とまとめ （講義：オンデマンド形式）
数理モデルを設定した後の分析の説明
分析結果のまとめ方の説明
第7回：分析とまとめ （発表：オンライン形式）
分析結果の発表

言語区分:	0　日本語　Japanese
教科書:	講義資料をWaseda Moodle上に提示
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい 「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 : 課題のレポートおよび発表の状況により評価する 学部生 : 課題のレポートおよび発表の状況により評価する

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000312|01|9S03000312[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーγ（商学部） 01		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考			

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データからの推測

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。推測統計学は，母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問です。本講義では，推定および検定といった推測統計における具体的な方法を，理論と実践の両面から説明します。実践のためのツールとしては，「MS Excel」を用います。（但し，本講義の主題はあくまで「推測統計を学ぶこと」なので，「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）また，本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・推測統計の基礎となる理論を理解できるようになること
・推測統計の方法（推定と検定）を実際に利用し，その結果を的確に解釈できるようになること

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：統計的推測の目的と標本分布
母集団，標本，ランダムサンプリング，母集団分布，標本分布

第2回：大数の法則と中心極限定理
大数の法則，中心極限定理

第3回：点推定の考え方・母平均と母分散の点推定
点推定，不偏性，効率性，標準誤差，不偏分散

第4回：サンプルサイズと推定の誤差・区間推定の考え方
推定の誤差，推定の精度，母平均の区間推定（母分散既知），信頼区間，信頼係数，パーセント点

第5回：仮説検定の考え方
母平均の仮説検定（母分散既知），帰無仮説，対立仮説，有意水準，検定統計量，棄却域と採択域，第1種の誤り，第2種の誤り，検出力，p値，片側検定，両側検定

第6回：母平均・母分散の区間推定と仮説検定
母平均の区間推定と仮説検定，母分散の区間推定と仮説検定，様々な推定と検定

第7回：最終試験
最終試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料をwaseda moodle上で配布。

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい

データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著.

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%
学部生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%

備考・関連URL: 2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
・コンピュータによる統計解析
また、本科目と英語科目「Statistics Literacy γ」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000312|02|9S03000312[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーγ（商学部） 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考			

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： データからの推測

授業概要： 膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。推測統計学は，母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問です。本講義では，推定および検定といった推測統計における具体的な方法を，理論と実践の両面から説明します。実践のためのツールとしては，「MS Excel」を用います。（但し，本講義の主題はあくまで「推測統計を学ぶこと」なので，「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）また，本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標： ・推測統計の基礎となる理論を理解できるようになること
・推測統計の方法（推定と検定）を実際に利用し，その結果を的確に解釈できるようになること

事前・事後学習の内容： 事前学習：
−シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
−前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
−前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
−動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：統計的推測の目的と標本分布
母集団，標本，ランダムサンプリング，母集団分布，標本分布

第2回：大数の法則と中心極限定理
大数の法則，中心極限定理

第3回：点推定の考え方・母平均と母分散の点推定
点推定，不偏性，効率性，標準誤差，不偏分散

第4回：サンプルサイズと推定の誤差・区間推定の考え方
推定の誤差，推定の精度，母平均の区間推定（母分散既知），信頼区間，信頼係数，パーセント点

第5回：仮説検定の考え方
母平均の仮説検定（母分散既知），帰無仮説，対立仮説，有意水準，検定統計量，棄却域と採択域，第1種の誤り，第2種の誤り，検出力，p値，片側検定，両側検定

第6回：母平均・母分散の区間推定と仮説検定
母平均の区間推定と仮説検定，母分散の区間推定と仮説検定，様々な推定と検定

第7回：最終試験
最終試験

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 講義用資料をwaseda moodle上で配布。

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい

データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著.

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%
学部生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%

備考・関連URL: 2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
・コンピュータによる統計解析
また、本科目と英語科目「Statistics Literacy γ」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000312|03|9S03000312[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーγ（商学部） 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考			

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： データからの推測

授業概要： 膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。推測統計学は，母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問です。本講義では，推定および検定といった推測統計における具体的な方法を，理論と実践の両面から説明します。実践のためのツールとしては，「MS Excel」を用います。（但し，本講義の主題はあくまで「推測統計を学ぶこと」なので，「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）また，本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標： ・推測統計の基礎となる理論を理解できるようになること
・推測統計の方法（推定と検定）を実際に利用し，その結果を的確に解釈できるようになること

事前・事後学習の内容： 事前学習：
−シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
−前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
−前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
−動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：統計的推測の目的と標本分布
母集団，標本，ランダムサンプリング，母集団分布，標本分布

第2回：大数の法則と中心極限定理
大数の法則，中心極限定理

第3回：点推定の考え方・母平均と母分散の点推定
点推定，不偏性，効率性，標準誤差，不偏分散

第4回：サンプルサイズと推定の誤差・区間推定の考え方
推定の誤差，推定の精度，母平均の区間推定（母分散既知），信頼区間，信頼係数，パーセント点

第5回：仮説検定の考え方
母平均の仮説検定（母分散既知），帰無仮説，対立仮説，有意水準，検定統計量，棄却域と採択域，第1種の誤り，第2種の誤り，検出力，p値，片側検定，両側検定

第6回：母平均・母分散の区間推定と仮説検定
母平均の区間推定と仮説検定，母分散の区間推定と仮説検定，様々な推定と検定

第7回：最終試験
最終試験

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 堀井俊佑 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著，「統計リテラシーⅡ − 推測統計の基本的考え方」，サイエ

ンス社.

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい

データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著.

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%
学部生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%

備考・関連URL: 2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
・コンピュータによる統計解析
また、本科目と英語科目「Statistics Literacy γ」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000312|04|9S03000312[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	統計リテラシーγ（商学部） 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考			

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データからの推測

授業概要: 膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，統計解析は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。推測統計学は，母集団から得られた一部の標本から母集団の性質を推測する学問です。本講義では，推定および検定といった推測統計における具体的な方法を，理論と実践の両面から説明します。実践のためのツールとしては，「MS Excel」を用います。（但し，本講義の主題はあくまで「推測統計を学ぶこと」なので，「MS Excel」の使い方のみ学びたい方は別の講義の履修を勧めます。）また，本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・推測統計の基礎となる理論を理解できるようになること
・推測統計の方法（推定と検定）を実際に利用し，その結果を的確に解釈できるようになること

事前・事後学習の内容: 事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習:
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：統計的推測の目的と標本分布
母集団，標本，ランダムサンプリング，母集団分布，標本分布

第2回：大数の法則と中心極限定理
大数の法則，中心極限定理

第3回：点推定の考え方・母平均と母分散の点推定
点推定，不偏性，効率性，標準誤差，不偏分散

第4回：サンプルサイズと推定の誤差・区間推定の考え方
推定の誤差，推定の精度，母平均の区間推定（母分散既知），信頼区間，信頼係数，パーセント点

第5回：仮説検定の考え方
母平均の仮説検定（母分散既知），帰無仮説，対立仮説，有意水準，検定統計量，棄却域と採択域，第1種の誤り，第2種の誤り，検出力，p値，片側検定，両側検定

第6回：母平均・母分散の区間推定と仮説検定
母平均の区間推定と仮説検定，母分散の区間推定と仮説検定，様々な推定と検定

第7回：最終試験
最終試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 堀井俊佑 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著，「統計リテラシーⅡ － 推測統計の基本的考え方」，サイエ

ンス社.

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい

データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著.

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%
学部生 練習問題:20%, 小テスト:30%, 最終試験:50%

備考・関連URL: 2015年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
・コンピュータによる統計解析
また、本科目と英語科目「Statistics Literacy γ」の両方を履修することはできません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000313|02|9S03000313[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Statistics Literacy δ 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

In today's data-rich environment, accurately extracting meaningful information from the plethora of available data is critical. Statistical analysis underpins these methods and is becoming an essential skill for students in all disciplines, be they in the humanities or sciences. Inferential statistics, a key component of this field, involves deducing characteristics of a population from a representative sample. This lecture will cover advanced topics in inferential statistics, including testing and estimation problems, analysis of variance, and more, from both theoretical and practical viewpoints. It is assumed that students already have a foundational understanding of basic inferential statistics concepts, such as estimation and hypothesis test.

○ Prerequisites for attending a course
・ Must learn basic operation of computer (activation / termination, character input, file operation etc.).
・ It is desirable that students have already taken "Statistical Literacy α", "Statistical Literacy β" and "Statistical Literacy γ", or have knowledge equivalent to the students who have taken these course.

※Part of the course plan may be changed.

This is a common course in the Data Science Education Program designed for all students in all faculties of Waseda University. For details of this program, please see
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculum.
This course is also included in the Data Science Certification System of Waseda University. More information is available at

https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditation.

授業の到達目標：

To be able to select the appropriate method for the purpose of various statistical tests and estimation problems, to be able to perform the test and estimation by oneself, and to be able to interpret the results appropriately.

事前・事後学習の内容：

Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)
After class:
・Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：Comparison of populations (1)

Test and Estimation on the Difference of the Population Means
Test and Estimation for the Ratio of Population Variances
Welch's t-test

第2回：Test and Estimation of Various Distributions

Test and Estimation of the Binomial Distribution
Test and Estimation of Poisson Distribution
Test and Estimation of the Population Correlation Coefficient
Test on Contingency Table

第3回：Comparison of populations (2)

Paired Test and Estimation on the Difference of Population Means
Test and Estimation for Comparison of Binomial Distributions
Test and Estimation for Comparison of Poisson Distributions

第4回：Analysis of variance (1)

Concept of Analysis of Variance (ANOVA)
One-way ANOVA
Estimation after One-way ANOVA

第5回：Analysis of variance (2)

Two-way Repeated Measures ANOVA
Two-way ANOVA without repetition (Paired One-way ANOVA)
Estimation after Two-way ANOVA

第6回：Analysis of variance (3)

Single Regression Analysis and Least Squares Method
Single Regression and Analysis of Variance
Test and Estimation for Regression Coefficients

第7回：Final Exam

Final Exam

言語区分：　0　英語　English

教科書：　The materials are distributed on Waseda Moodle.

参考文献：

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　Graduate student: Practice-exercises 20%, Mini-Exam 30%, Final Exam 50%
Undergraduate student: Practice-exercises 20%, Mini-Exam 30%, Final Exam 50%

備考・関連URL：　Students who have acquired the credit of the following subject by 2015 can not take the course.
・コンピュータによる統計入門
You can't take this course if you take the Japanese class (統計リテラシーδ), and vice versa.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000313|04|9S03000313[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Statistics Literacy δ 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

In today's data-rich environment, accurately extracting meaningful information from the plethora of available data is critical. Statistical analysis underpins these methods and is becoming an essential skill for students in all disciplines, be they in the humanities or sciences. Inferential statistics, a key component of this field, involves deducing characteristics of a population from a representative sample. This lecture will cover advanced topics in inferential statistics, including testing and estimation problems, analysis of variance, and more, from both theoretical and practical viewpoints. It is assumed that students already have a foundational understanding of basic inferential statistics concepts, such as estimation and hypothesis test.

○ Prerequisites for attending a course
・ Must learn basic operation of computer (activation / termination, character input, file operation etc.).
・ It is desirable that students have already taken "Statistical Literacy α", "Statistical Literacy β" and "Statistical Literacy γ", or have knowledge equivalent to the students who have taken these course.

※Part of the course plan may be changed.

This is a common course in the Data Science Education Program designed for all students in all faculties of Waseda University. For details of this program, please see
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculum.
This course is also included in the Data Science Certification System of Waseda University. More information is available at

https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditation.

授業の到達目標：

To be able to select the appropriate method for the purpose of various statistical tests and estimation problems, to be able to perform the test and estimation by oneself, and to be able to interpret the results appropriately.

事前・事後学習の内容：

Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)
After class:
・Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：Comparison of populations (1)

Test and Estimation on the Difference of the Population Means
Test and Estimation for the Ratio of Population Variances
Welch's t-test

第2回：Test and Estimation of Various Distributions

Test and Estimation of the Binomial Distribution
Test and Estimation of Poisson Distribution
Test and Estimation of the Population Correlation Coefficient
Test on Contingency Table

第3回：Comparison of populations (2)

Paired Test and Estimation on the Difference of Population Means
Test and Estimation for Comparison of Binomial Distributions
Test and Estimation for Comparison of Poisson Distributions

第4回：Analysis of variance (1)

Concept of Analysis of Variance (ANOVA)
One-way ANOVA
Estimation after One-way ANOVA

第5回：Analysis of variance (2)

Two-way Repeated Measures ANOVA
Two-way ANOVA without repetition (Paired One-way ANOVA)
Estimation after Two-way ANOVA

第6回：Analysis of variance (3)

Single Regression Analysis and Least Squares Method
Single Regression and Analysis of Variance
Test and Estimation for Regression Coefficients

第7回：Final Exam

Final Exam

言語区分：　0　英語　English

教科書：　The materials are distributed on Waseda Moodle.

参考文献：

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　Graduate student: Practice-exercises 20%, Mini-Exam 30%, Final Exam 50%
Undergraduate student: Practice-exercises 20%, Mini-Exam 30%, Final Exam 50%

備考・関連URL：　Students who have acquired the credit of the following subject by 2015 can not take the course.
・コンピュータによる統計入門
You can't take this course if you take the Japanese class (統計リテラシーδ), and vice versa.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000314|01|9S03000314[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Pythonによるデータ解析 01		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，データ分析技術は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。簡単な統計解析はExcelなどの表計算ソフトでも行うことができますが、より発展的な解析をする場合、データ分析に特化したソフトウェアの使用が必要となります。本講義では、データサイエンスを題材にしてプログラミング言語Pythonを学習します。Pythonにはデータ分析に特化したライブラリが豊富にあり、これらを活用することでデータ分析を効率的に行うことができます。

受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」「統計リテラシーγ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

授業の到達目標：

Pythonによるプログラミングを理解し、与えられたデータに対して基本的なデータ解析を行うことが出来る

事前・事後学習の内容：

事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：Pythonの利用方法と基礎
Pythonの利用方法Pythonの基礎：変数・演算子・関数
Pythonを学ぶ意義

第2回：Pythonによる基礎的なデータ処理
Pythonによるベクトルの演算Pythonによる行列の演算
データフレーム（Pandasパッケージの利用）
Pythonでのファイル処理（CSVファイルの読み込み）

第3回：重要なデータ構造、Pythonによるグラフの作成
重要なデータ構造：リスト、タプル、辞書、セットPythonによるグラフの作成：MatplotlibとSeabornライブラリを利用したデータの視覚化

第4回：確率の基礎と乱数
確率変数と確率分布乱数の生成
統計量の計算

第5回：統計処理を行う関数の作成
自作関数の定義検定・推定を行う関数の作成

第6回：繰り返し処理とシミュレーション
繰り返し処理シミュレーション
仮説検定、区間推定の意味を理解するためのシミュレーション実験

第7回：発展的内容
オブジェクト指向プログラミングの基本概念：クラス、インスタンス、メソッド、属性回帰分析と最小二乗法
scikit-learnライブラリを利用した回帰分析

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 練習問題:40%, 小テスト:60%
学部生 練習問題:40%, 小テスト:60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000314|02|9S03000314[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Pythonによるデータ解析 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，データ分析技術は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。簡単な統計解析はExcelなどの表計算ソフトでも行うことができますが、より発展的な解析をする場合、データ分析に特化したソフトウェアの使用が必要となります。本講義では、データサイエンスを題材にしてプログラミング言語Pythonを学習します。Pythonにはデータ分析に特化したライブラリが豊富にあり、これらを活用することでデータ分析を効率的に行うことができます。

受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」「統計リテラシーγ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

授業の到達目標：

Pythonによるプログラミングを理解し、与えられたデータに対して基本的なデータ解析を行うことが出来る

事前・事後学習の内容：

事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：Pythonの利用方法と基礎
Pythonの利用方法Pythonの基礎：変数・演算子・関数
Pythonを学ぶ意義

第2回：Pythonによる基礎的なデータ処理
Pythonによるベクトルの演算Pythonによる行列の演算
データフレーム（Pandasパッケージの利用）
Pythonでのファイル処理（CSVファイルの読み込み）

第3回：重要なデータ構造、Pythonによるグラフの作成
重要なデータ構造：リスト、タプル、辞書、セットPythonによるグラフの作成：MatplotlibとSeabornライブラリを利用したデータの視覚化

第4回：確率の基礎と乱数
確率変数と確率分布乱数の生成
統計量の計算

第5回：統計処理を行う関数の作成
自作関数の定義検定・推定を行う関数の作成

第6回：繰り返し処理とシミュレーション
繰り返し処理シミュレーション
仮説検定、区間推定の意味を理解するためのシミュレーション実験

第7回：発展的内容
オブジェクト指向プログラミングの基本概念：クラス、インスタンス、メソッド、属性回帰分析と最小二乗法
scikit-learnライブラリを利用した回帰分析

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 練習問題:40%, 小テスト:60%
学部生 練習問題:40%, 小テスト:60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000314|03|9S03000314[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Pythonによるデータ解析 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，データ分析技術は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。簡単な統計解析はExcelなどの表計算ソフトでも行うことができますが、より発展的な解析をする場合、データ分析に特化したソフトウェアの使用が必要となります。本講義では、データサイエンスを題材にしてプログラミング言語Pythonを学習します。Pythonにはデータ分析に特化したライブラリが豊富にあり、これらを活用することでデータ分析を効率的に行うことができます。

受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」「統計リテラシーγ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

授業の到達目標：

Pythonによるプログラミングを理解し、与えられたデータに対して基本的なデータ解析を行うことが出来る

事前・事後学習の内容：

事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：Pythonの利用方法と基礎
Pythonの利用方法Pythonの基礎：変数・演算子・関数
Pythonを学ぶ意義

第2回：Pythonによる基礎的なデータ処理
Pythonによるベクトルの演算Pythonによる行列の演算
データフレーム（Pandasパッケージの利用）
Pythonでのファイル処理（CSVファイルの読み込み）

第3回：重要なデータ構造、Pythonによるグラフの作成
重要なデータ構造：リスト、タプル、辞書、セットPythonによるグラフの作成：MatplotlibとSeabornライブラリを利用したデータの視覚化

第4回：確率の基礎と乱数
確率変数と確率分布乱数の生成
統計量の計算

第5回：統計処理を行う関数の作成
自作関数の定義検定・推定を行う関数の作成

第6回：繰り返し処理とシミュレーション
繰り返し処理シミュレーション
仮説検定、区間推定の意味を理解するためのシミュレーション実験

第7回：発展的内容
オブジェクト指向プログラミングの基本概念：クラス、インスタンス、メソッド、属性回帰分析と最小二乗法
scikit-learnライブラリを利用した回帰分析

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 練習問題:40%, 小テスト:60%
学部生 練習問題:40%, 小テスト:60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000314|04|9S03000314[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Pythonによるデータ解析 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，データ分析技術は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。簡単な統計解析はExcelなどの表計算ソフトでも行うことができますが、より発展的な解析をする場合、データ分析に特化したソフトウェアの使用が必要となります。本講義では、データサイエンスを題材にしてプログラミング言語Pythonを学習します。Pythonにはデータ分析に特化したライブラリが豊富にあり、これらを活用することでデータ分析を効率的に行うことができます。

受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「統計リテラシーα」「統計リテラシーβ」「統計リテラシーγ」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

授業の到達目標：

Pythonによるプログラミングを理解し、与えられたデータに対して基本的なデータ解析を行うことが出来る

事前・事後学習の内容：

事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：Pythonの利用方法と基礎
Pythonの利用方法Pythonの基礎：変数・演算子・関数
Pythonを学ぶ意義

第2回：Pythonによる基礎的なデータ処理
Pythonによるベクトルの演算Pythonによる行列の演算
データフレーム（Pandasパッケージの利用）
Pythonでのファイル処理（CSVファイルの読み込み）

第3回：重要なデータ構造、Pythonによるグラフの作成
重要なデータ構造：リスト、タプル、辞書、セットPythonによるグラフの作成：MatplotlibとSeabornライブラリを利用したデータの視覚化

第4回：確率の基礎と乱数
確率変数と確率分布乱数の生成
統計量の計算

第5回：統計処理を行う関数の作成
自作関数の定義検定・推定を行う関数の作成

第6回：繰り返し処理とシミュレーション
繰り返し処理シミュレーション
仮説検定、区間推定の意味を理解するためのシミュレーション実験

第7回：発展的内容
オブジェクト指向プログラミングの基本概念：クラス、インスタンス、メソッド、属性回帰分析と最小二乗法
scikit-learnライブラリを利用した回帰分析

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 練習問題:40%, 小テスト:60%
学部生 練習問題:40%, 小テスト:60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000315|01|9S03000315[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Pythonによるデータ解析（商学部） 01		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考			

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： 膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，データ分析技術は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。簡単な統計解析はExcelなどの表計算ソフトでも行うことができますが、より発展的な解析をする場合、データ分析に特化したソフトウェアの使用が必要となります。本講義では、データサイエンスを題材にしてプログラミング言語Pythonを学習します。Pythonにはデータ分析に特化したライブラリが豊富にあり、これらを活用することでデータ分析を効率的に行うことができます。

受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

授業の到達目標： Pythonによるプログラミングを理解し、与えられたデータに対して基本的なデータ解析を行うことが出来る

事前・事後学習の内容： 事前学習：
−シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
−前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
−前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
−動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：Pythonの利用方法と基礎
Pythonの利用方法Pythonの基礎：変数・演算子・関数
Pythonを学ぶ意義

第2回：Pythonによる基礎的なデータ処理
Pythonによるベクトルの演算Pythonによる行列の演算
データフレーム（Pandasパッケージの利用）
Pythonでのファイル処理（CSVファイルの読み込み）

第3回：重要なデータ構造、Pythonによるグラフの作成
重要なデータ構造：リスト、タプル、辞書、セットPythonによるグラフの作成：MatplotlibとSeabornライブラリを利用したデータの視覚化

第4回：確率の基礎と乱数
確率変数と確率分布乱数の生成
統計量の計算

第5回：統計処理を行う関数の作成
自作関数の定義検定・推定を行う関数の作成

第6回：繰り返し処理とシミュレーション
繰り返し処理シミュレーション
仮説検定、区間推定の意味を理解するためのシミュレーション実験

第7回：発展的内容
オブジェクト指向プログラミングの基本概念：クラス、インスタンス、メソッド、属性回帰分析と最小二乗法
scikit-learnライブラリを利用した回帰分析

言語区分： 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 練習問題：40%, 小テスト：60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000315|02|9S03000315[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Pythonによるデータ解析（商学部） 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考			

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： 膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，データ分析技術は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。簡単な統計解析はExcelなどの表計算ソフトでも行うことができますが、より発展的な解析をする場合、データ分析に特化したソフトウェアの使用が必要となります。本講義では、データサイエンスを題材にしてプログラミング言語Pythonを学習します。Pythonにはデータ分析に特化したライブラリが豊富にあり、これらを活用することでデータ分析を効率的に行うことができます。

受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

授業の到達目標： Pythonによるプログラミングを理解し、与えられたデータに対して基本的なデータ解析を行うことが出来る

事前・事後学習の内容：
事前学習：
−シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
−前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
−前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
−動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：Pythonの利用方法と基礎
Pythonの利用方法Pythonの基礎：変数・演算子・関数
Pythonを学ぶ意義

第2回：Pythonによる基礎的なデータ処理
Pythonによるベクトルの演算Pythonによる行列の演算
データフレーム（Pandasパッケージの利用）
Pythonでのファイル処理（CSVファイルの読み込み）

第3回：重要なデータ構造、Pythonによるグラフの作成
重要なデータ構造：リスト、タプル、辞書、セットPythonによるグラフの作成：MatplotlibとSeabornライブラリを利用したデータの視覚化

第4回：確率の基礎と乱数
確率変数と確率分布乱数の生成
統計量の計算

第5回：統計処理を行う関数の作成
自作関数の定義検定・推定を行う関数の作成

第6回：繰り返し処理とシミュレーション
繰り返し処理シミュレーション
仮説検定、区間推定の意味を理解するためのシミュレーション実験

第7回：発展的内容
オブジェクト指向プログラミングの基本概念：クラス、インスタンス、メソッド、属性回帰分析と最小二乗法
scikit-learnライブラリを利用した回帰分析

言語区分： 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	練習問題 : 40%, 小テスト : 60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000315|03|9S03000315[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Pythonによるデータ解析（商学部） 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考			

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： 膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，データ分析技術は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。簡単な統計解析はExcelなどの表計算ソフトでも行うことができますが、より発展的な解析をする場合、データ分析に特化したソフトウェアの使用が必要となります。本講義では、データサイエンスを題材にしてプログラミング言語Pythonを学習します。Pythonにはデータ分析に特化したライブラリが豊富にあり、これらを活用することでデータ分析を効率的に行うことができます。

受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

授業の到達目標： Pythonによるプログラミングを理解し、与えられたデータに対して基本的なデータ解析を行うことが出来る

事前・事後学習の内容：
事前学習：
−シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
−前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
−前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
−動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：Pythonの利用方法と基礎
Pythonの利用方法Pythonの基礎：変数・演算子・関数
Pythonを学ぶ意義

第2回：Pythonによる基礎的なデータ処理
Pythonによるベクトルの演算Pythonによる行列の演算
データフレーム（Pandasパッケージの利用）
Pythonでのファイル処理（CSVファイルの読み込み）

第3回：重要なデータ構造、Pythonによるグラフの作成
重要なデータ構造：リスト、タプル、辞書、セットPythonによるグラフの作成：MatplotlibとSeabornライブラリを利用したデータの視覚化

第4回：確率の基礎と乱数
確率変数と確率分布乱数の生成
統計量の計算

第5回：統計処理を行う関数の作成
自作関数の定義検定・推定を行う関数の作成

第6回：繰り返し処理とシミュレーション
繰り返し処理シミュレーション
仮説検定、区間推定の意味を理解するためのシミュレーション実験

第7回：発展的内容
オブジェクト指向プログラミングの基本概念：クラス、インスタンス、メソッド、属性回帰分析と最小二乗法
scikit-learnライブラリを利用した回帰分析

言語区分： 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 練習問題：40%, 小テスト：60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03000315|04|9S03000315[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Pythonによるデータ解析（商学部） 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考			

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： 膨大なデータが流通する現代において，手に入れたデータから正確で意味のある情報を抽出することが重要な問題となってきています。その方法・考え方の基礎として，データ分析技術は文理系問わず身につけるべき重要な技術として認識されてきています。簡単な統計解析はExcelなどの表計算ソフトでも行うことができますが、より発展的な解析をする場合、データ分析に特化したソフトウェアの使用が必要となります。本講義では、データサイエンスを題材にしてプログラミング言語Pythonを学習します。Pythonにはデータ分析に特化したライブラリが豊富にあり、これらを活用することでデータ分析を効率的に行うことができます。

受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

授業の到達目標： Pythonによるプログラミングを理解し、与えられたデータに対して基本的なデータ解析を行うことが出来る

事前・事後学習の内容：
事前学習：
−シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
−前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
−前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
−動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：Pythonの利用方法と基礎
Pythonの利用方法Pythonの基礎：変数・演算子・関数
Pythonを学ぶ意義

第2回：Pythonによる基礎的なデータ処理
Pythonによるベクトルの演算Pythonによる行列の演算
データフレーム（Pandasパッケージの利用）
Pythonでのファイル処理（CSVファイルの読み込み）

第3回：重要なデータ構造、Pythonによるグラフの作成
重要なデータ構造：リスト、タプル、辞書、セットPythonによるグラフの作成：MatplotlibとSeabornライブラリを利用したデータの視覚化

第4回：確率の基礎と乱数
確率変数と確率分布乱数の生成
統計量の計算

第5回：統計処理を行う関数の作成
自作関数の定義検定・推定を行う関数の作成

第6回：繰り返し処理とシミュレーション
繰り返し処理シミュレーション
仮説検定、区間推定の意味を理解するためのシミュレーション実験

第7回：発展的内容
オブジェクト指向プログラミングの基本概念：クラス、インスタンス、メソッド、属性回帰分析と最小二乗法
scikit-learnライブラリを利用した回帰分析

言語区分： 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 練習問題：40%, 小テスト：60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010165|01|9S03010165[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学実践 O1		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。

本科目はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、データ分析の筋道を立て、実際にデータ分析を行って結果を考察するまでの一連の流れを演習します。演習では、データ分析の目的、データの種類、前提となる条件等を考慮してデータ分析の筋道を立てることと、その筋道に沿ってデータ分析を行うことに重点を置きます。

〇受講前提条件
・「データ科学入門α」、「データ科学入門β」、「データ科学入門γ」、「データ科学入門δ」の4科目あるいは「統計リテラシーα」、「統計リテラシーβ」、「データ科学入門1（統計学既習者用）」、「データ科学入門2（統計学既習者用）」の4科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があること。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

・データ分析の目的、データの種類、前提となる条件等のデータ分析のポイントを正しく把握できる。
・データ分析のポイントを考慮して、データ分析の筋道を立てることができる。
・データ分析の筋道に沿ってデータ分析を行うことができる。

事前・事後学習の内容：

事前学習：
・シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
・前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
・前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習：
・動画・講義資料・練習問題を見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

はじめに
データ科学による問題解決のプロセス，課題の把握
データ科学による問題解決のプロセス（1）
データの特徴の把握
データ科学による問題解決のプロセス（2）
課題に対する分析：データの背後にある構造の推定，新たなデータについての予測
※回帰，分類，クラスタリング，データの縮約といった問題のうち，例として回帰を扱う。
データ科学による問題解決のプロセス（3）
分析の見直し（1）：データ分析において前提とした条件の検証
データ科学による問題解決のプロセス（4）
分析の見直し（2）：回帰式の見直し
データ分析の体系的方法（5）
データの見直し，データの変換，データ分析例
課題
データ科学による問題解決のプロセスに沿ってデータ分析を行う課題

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 講義資料はWaseda Moodleを参照。

参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい 「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 : 練習問題50%, レポート課題50% 学部生 : 練習問題50%, レポート課題50%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010165|02|9S03010165[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学実践 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。

本科目はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、データ分析の筋道を立て、実際にデータ分析を行って結果を考察するまでの一連の流れを演習します。演習では、データ分析の目的、データの種類、前提となる条件等を考慮してデータ分析の筋道を立てることと、その筋道に沿ってデータ分析を行うことに重点を置きます。

〇受講前提条件
・「データ科学入門α」、「データ科学入門β」、「データ科学入門γ」、「データ科学入門δ」の4科目あるいは「統計リテラシーα」、「統計リテラシーβ」、「データ科学入門1（統計学既習者用）」、「データ科学入門2（統計学既習者用）」の4科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があること。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

・データ分析の目的、データの種類、前提となる条件等のデータ分析のポイントを正しく把握できる。
・データ分析のポイントを考慮して、データ分析の筋道を立てることができる。
・データ分析の筋道に沿ってデータ分析を行うことができる。

事前・事後学習の内容：

事前学習：
・シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
・前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
・前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習：
・動画・講義資料・練習問題を見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

はじめに
データ科学による問題解決のプロセス，課題の把握
データ科学による問題解決のプロセス（1）
データの特徴の把握
データ科学による問題解決のプロセス（2）
課題に対する分析：データの背後にある構造の推定，新たなデータについての予測
※回帰，分類，クラスタリング，データの縮約といった問題のうち，例として回帰を扱う。
データ科学による問題解決のプロセス（3）
分析の見直し（1）：データ分析において前提とした条件の検証
データ科学による問題解決のプロセス（4）
分析の見直し（2）：回帰式の見直し
データ科学による問題解決のプロセス（5）
データの見直し，データの変換，データ分析例
課題
データ科学による問題解決のプロセスに沿ってデータ分析を行う課題

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 講義資料はWaseda Moodleを参照。

参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい 「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 : 練習問題50%, レポート課題50% 学部生 : 練習問題50%, レポート課題50%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010165|03|9S03010165[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学実践 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。

本科目はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、データ分析の筋道を立て、実際にデータ分析を行って結果を考察するまでの一連の流れを演習します。演習では、データ分析の目的、データの種類、前提となる条件等を考慮してデータ分析の筋道を立てることと、その筋道に沿ってデータ分析を行うことに重点を置きます。

〇受講前提条件
・「データ科学入門α」、「データ科学入門β」、「データ科学入門γ」、「データ科学入門δ」の4科目あるいは「統計リテラシーα」、「統計リテラシーβ」、「データ科学入門1（統計学既習者用）」、「データ科学入門2（統計学既習者用）」の4科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があること。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

・データ分析の目的、データの種類、前提となる条件等のデータ分析のポイントを正しく把握できる。
・データ分析のポイントを考慮して、データ分析の筋道を立てることができる。
・データ分析の筋道に沿ってデータ分析を行うことができる。

事前・事後学習の内容：

事前学習：
・シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
・前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
・前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習：
・動画・講義資料・練習問題を見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

はじめに
データ科学による問題解決のプロセス，課題の把握
データ科学による問題解決のプロセス（1）
データの特徴の把握
データ科学による問題解決のプロセス（2）
課題に対する分析：データの背後にある構造の推定，新たなデータについての予測
※回帰，分類，クラスタリング，データの縮約といった問題のうち，例として回帰を扱う。
データ科学による問題解決のプロセス（3）
分析の見直し（1）：データ分析において前提とした条件の検証
データ科学による問題解決のプロセス（4）
分析の見直し（2）：回帰式の見直し
データ科学による問題解決のプロセス（5）
データの見直し，データの変換，データ分析例
課題
データ科学による問題解決のプロセスに沿ってデータ分析を行う課題

言語区分：

0 日本語 Japanese

教科書：

講義資料はWaseda Moodleを参照。

参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい 「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 : 練習問題50%, レポート課題50% 学部生 : 練習問題50%, レポート課題50%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010165|04|9S03010165[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学実践 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。

本科目はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、データ分析の筋道を立て、実際にデータ分析を行って結果を考察するまでの一連の流れを演習します。演習では、データ分析の目的、データの種類、前提となる条件等を考慮してデータ分析の筋道を立てることと、その筋道に沿ってデータ分析を行うことに重点を置きます。

〇受講前提条件
・「データ科学入門α」、「データ科学入門β」、「データ科学入門γ」、「データ科学入門δ」の4科目あるいは「統計リテラシーα」、「統計リテラシーβ」、「データ科学入門1（統計学既習者用）」、「データ科学入門2（統計学既習者用）」の4科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があること。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

・データ分析の目的、データの種類、前提となる条件等のデータ分析のポイントを正しく把握できる。
・データ分析のポイントを考慮して、データ分析の筋道を立てることができる。
・データ分析の筋道に沿ってデータ分析を行うことができる。

事前・事後学習の内容：

事前学習：
・シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
・前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
・前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習：
・動画・講義資料・練習問題を見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

はじめに
データ科学による問題解決のプロセス，課題の把握
データ科学による問題解決のプロセス（1）
データの特徴の把握
データ科学による問題解決のプロセス（2）
課題に対する分析：データの背後にある構造の推定，新たなデータについての予測
※回帰，分類，クラスタリング，データの縮約といった問題のうち，例として回帰を扱う。
データ科学による問題解決のプロセス（3）
分析の見直し（1）：データ分析において前提とした条件の検証
データ科学による問題解決のプロセス（4）
分析の見直し（2）：回帰式の見直し
データ科学による問題解決のプロセス（5）
データの見直し，データの変換，データ分析例
課題
データ科学による問題解決のプロセスに沿ってデータ分析を行う課題

言語区分：

0 日本語 Japanese

教科書：

講義資料はWaseda Moodleを参照。

参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい 「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 : 練習問題50%, レポート課題50% 学部生 : 練習問題50%, レポート課題50%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010166|01|9S03010166[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	潜在構造のデータ科学 01		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。
本科目はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、潜在的な（不可視な）変数を持つ数理構造のデータに焦点を当てます。具体的には連続な潜在変数から連続な量的変数のデータへの線形変換に誤差が発生する数理構造として主成分分析や因子分析を学び、離散的な質的潜在変数の値により異なる確率分布からデータが生成されるクラスタリングや潜在クラスモデルを学びます。またデータの欠測（欠損）、異常値（外れ値）やベイズ統計学との関連などを含め、統一的に潜在構造データに対するデータ科学の考え方を学びます。
なお本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α・β・γ・δ」の4科目、あるいは「統計リテラシーα・β」、「データ科学入門1（統計学既習者用）」、「データ科学入門2（統計学既習者用）」の4科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

潜在構造のデータに対する考え方を身に着ける
データに対する専門的な知見から、データが潜在構造を持つかどうか検討できる。
自身の専門領域において、データにおける潜在構造を適切に設定できるようになる。

事前・事後学習の内容：

事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：講義の導入と混合正規分布モデル

潜在変数と潜在構造（講義の導入）
量的観測変数と質的潜在変数の潜在構造（混合正規分布モデル）
Pythonの環境構築

第2回：潜在クラスモデル・トピックモデルおよび主成分分析

質的観測変数と質的潜在変数の潜在構造（潜在クラスモデル・トピックモデル）
量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（主成分分析）
Pythonによる主成分分析

第3回：因子分析1

量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（潜在変数が1つの因子分析）
量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（潜在変数が2つの因子分析）
Pythonによる因子分析1

第4回：因子分析2

量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（一般の因子分析と因子数の推定）
量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（因子分析の評価基準）
Pythonによる因子分析2

第5回：構造方程式モデリング

量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（構造方程式モデリング）
量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（構造方程式モデリングにおけるモデルの評価）
Pythonによる構造方程式モデリング

第6回：グラフィカルモデルと階層ベイズモデル

変数間の関係を表すグラフの考え方（グラフィカルモデル）
変数間の関係を表すグラフの考え方（種々の潜在構造のグラフィカルモデルと評価基準）
変数間の関係が階層構造の場合の考え方（階層ベイズモデル）

第7回：コレスポンデンス分析およびその他のデータ構造との関連

質的観測変数の構造（コレスポンデンス分析）
その他のデータ構造との関連
潜在構造における尤度関数の最大化（EMアルゴリズム）
Pythonによるコレスポンデンス分析
Pythonによるベイズ推定

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料を早稲田Moodle上で配布。

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生　練習問題：40%、小テスト：60%
学部生　練習問題：40%、小テスト：60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010166|02|9S03010166[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	潜在構造のデータ科学 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。
本科目はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、潜在的な（不可視な）変数を持つ数理構造のデータに焦点を当てます。具体的には連続な潜在変数から連続な量的変数のデータへの線形変換に誤差が発生する数理構造として主成分分析や因子分析を学び、離散的な質的潜在変数の値により異なる確率分布からデータが生成されるクラスタリングや潜在クラスモデルを学びます。またデータの欠測（欠損）、異常値（外れ値）やベイズ統計学との関連などを含め、統一的に潜在構造データに対するデータ科学の考え方を学びます。
なお本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α・β・γ・δ」の4科目、あるいは「統計リテラシーα・β」、「データ科学入門1（統計学既習者用）」、「データ科学入門2（統計学既習者用）」の4科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

潜在構造のデータに対する考え方を身に着ける
データに対する専門的な知見から、データが潜在構造を持つかどうか検討できる。
自身の専門領域において、データにおける潜在構造を適切に設定できるようになる。

事前・事後学習の内容：

事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：講義の導入と混合正規分布モデル

潜在変数と潜在構造（講義の導入）
量的観測変数と質的潜在変数の潜在構造（混合正規分布モデル）
Pythonの環境構築

第2回：潜在クラスモデル・トピックモデルおよび主成分分析

質的観測変数と質的潜在変数の潜在構造（潜在クラスモデル・トピックモデル）
量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（主成分分析）
Pythonによる主成分分析

第3回：因子分析1

量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（潜在変数が1つの因子分析）
量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（潜在変数が2つの因子分析）
Pythonによる因子分析1

第4回：因子分析2

量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（一般の因子分析と因子数の推定）
量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（因子分析の評価基準）
Pythonによる因子分析2

第5回：構造方程式モデリング

量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（構造方程式モデリング）
量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（構造方程式モデリングにおけるモデルの評価）
Pythonによる構造方程式モデリング

第6回：グラフィカルモデルと階層ベイズモデル

変数間の関係を表すグラフの考え方（グラフィカルモデル）
変数間の関係を表すグラフの考え方（種々の潜在構造のグラフィカルモデルと評価基準）
変数間の関係が階層構造の場合の考え方（階層ベイズモデル）

第7回：コレスポンデンス分析およびその他のデータ構造との関連

質的観測変数の構造（コレスポンデンス分析）
その他のデータ構造との関連
潜在構造における尤度関数の最大化（EMアルゴリズム）
Pythonによるコレスポンデンス分析
Pythonによるベイズ推定

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義用資料を早稲田Moodle上で配布。

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生　練習問題：40%、小テスト：60%
学部生　練習問題：40%、小テスト：60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010166|03|9S03010166[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	潜在構造のデータ科学 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。
本科目はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、潜在的な（不可視な）変数を持つ数理構造のデータに焦点を当てます。具体的には連続な潜在変数から連続な量的変数のデータへの線形変換に誤差が発生する数理構造として主成分分析や因子分析を学び、離散的な質的潜在変数の値により異なる確率分布からデータが生成されるクラスタリングや潜在クラスモデルを学びます。またデータの欠測（欠損）、異常値（外れ値）やベイズ統計学との関連などを含め、統一的に潜在構造データに対するデータ科学の考え方を学びます。
なお本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α・β・γ・δ」の4科目、あるいは「統計リテラシーα・β」、「データ科学入門1（統計学既習者用）」、「データ科学入門2（統計学既習者用）」の4科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

潜在構造のデータに対する考え方を身に着ける
データに対する専門的な知見から、データが潜在構造を持つかどうか検討できる。
自身の専門領域において、データにおける潜在構造を適切に設定できるようになる。

事前・事後学習の内容：

事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：講義の導入と混合正規分布モデル

潜在変数と潜在構造（講義の導入）
量的観測変数と質的潜在変数の潜在構造（混合正規分布モデル）
Pythonの環境構築

第2回：潜在クラスモデル・トピックモデルおよび主成分分析

質的観測変数と質的潜在変数の潜在構造（潜在クラスモデル・トピックモデル）
量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（主成分分析）
Pythonによる主成分分析

第3回：因子分析1

量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（潜在変数が1つの因子分析）
量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（潜在変数が2つの因子分析）
Pythonによる因子分析1

第4回：因子分析2

量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（一般の因子分析と因子数の推定）
量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（因子分析の評価基準）
Pythonによる因子分析2

第5回：構造方程式モデリング

量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（構造方程式モデリング）
量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（構造方程式モデリングにおけるモデルの評価）
Pythonによる構造方程式モデリング

第6回：グラフィカルモデルと階層ベイズモデル

変数間の関係を表すグラフの考え方（グラフィカルモデル）
変数間の関係を表すグラフの考え方（種々の潜在構造のグラフィカルモデルと評価基準）
変数間の関係が階層構造の場合の考え方（階層ベイズモデル）

第7回：コレスポンデンス分析およびその他のデータ構造との関連

質的観測変数の構造（コレスポンデンス分析）
その他のデータ構造との関連
潜在構造における尤度関数の最大化（EMアルゴリズム）
Pythonによるコレスポンデンス分析
Pythonによるベイズ推定

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料を早稲田Moodle上で配布。

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生　練習問題：40%、小テスト：60%
学部生　練習問題：40%、小テスト：60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010166|04|9S03010166[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	潜在構造のデータ科学 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、情報処理技術並びに通信技術の急速な発展に伴い、多種多様かつ大量なデータの取り扱いが可能となったことで、実社会及びあらゆる学問・研究領域において、データ科学（データサイエンス）の重要性が高まっています。
本科目はデータ科学入門シリーズを学んだ学生を対象として、潜在的な（不可視な）変数を持つ数理構造のデータに焦点を当てます。具体的には連続な潜在変数から連続な量的変数のデータへの線形変換に誤差が発生する数理構造として主成分分析や因子分析を学び、離散的な質的潜在変数の値により異なる確率分布からデータが生成されるクラスタリングや潜在クラスモデルを学びます。またデータの欠測（欠損）、異常値（外れ値）やベイズ統計学との関連などを含め、統一的に潜在構造データに対するデータ科学の考え方を学びます。
なお本講義ではコンピュータを用いて分析を行うツールとしてPythonを利用し、演習を実施します。Pythonの利用法については、講義の中で説明を行います。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α・β・γ・δ」の4科目、あるいは「統計リテラシーα・β」、「データ科学入門1（統計学既習者用）」、「データ科学入門2（統計学既習者用）」の4科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

潜在構造のデータに対する考え方を身に着ける
データに対する専門的な知見から、データが潜在構造を持つかどうか検討できる。
自身の専門領域において、データにおける潜在構造を適切に設定できるようになる。

事前・事後学習の内容：

事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習：
-動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：講義の導入と混合正規分布モデル
潜在変数と潜在構造（講義の導入）
量的観測変数と質的潜在変数の潜在構造（混合正規分布モデル）
Pythonの環境構築

第2回：潜在クラスモデル・トピックモデルおよび主成分分析
質的観測変数と質的潜在変数の潜在構造（潜在クラスモデル・トピックモデル）
量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（主成分分析）
Pythonによる主成分分析

第3回：因子分析1
量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（潜在変数が1つの因子分析）
量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（潜在変数が2つの因子分析）
Pythonによる因子分析1

第4回：因子分析2
量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（一般の因子分析と因子数の推定）
量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（因子分析の評価基準）
Pythonによる因子分析2

第5回：構造方程式モデリング

量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（構造方程式モデリング）
量的観測変数と量的潜在変数の潜在構造（構造方程式モデリングにおけるモデルの評価）
Pythonによる構造方程式モデリング

第6回：グラフィカルモデルと階層ベイズモデル

変数間の関係を表すグラフの考え方（グラフィカルモデル）
変数間の関係を表すグラフの考え方（種々の潜在構造のグラフィカルモデルと評価基準）
変数間の関係が階層構造の場合の考え方（階層ベイズモデル）

第7回：コレスポンデンス分析およびその他のデータ構造との関連

質的観測変数の構造（コレスポンデンス分析）
その他のデータ構造との関連
潜在構造における尤度関数の最大化（EMアルゴリズム）
Pythonによるコレスポンデンス分析
Pythonによるベイズ推定

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義用資料を早稲田Moodle上で配布。

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．」

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生　練習問題：40%、小テスト：60%
学部生　練習問題：40%、小テスト：60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010167|01|9S03010167[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学のためのモデリング 01		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本科目は「データ科学教育プログラム」の一科目であり，「データ科学入門α－δ」によりデータ科学の考え方を理解し，「時系列構造のデータ科学」「空間構造のデータ科学」「潜在構造のデータ科学」等で各種数理モデルを学んだ学生を対象としている．
データ科学を用いた問題解決においてはデータを生成する数理構造（数理モデル）を仮定する状況が非常に多い．本科目では，既にいくつかの代表的な数理モデルに関する理解を深めた学生に対し，改めてこれらの数理モデルを統一的に整理する視点を説明する．具体的には確率変数間の関係性や，データに仮定される構造，潜在変数の有無など，数理モデルの決定に重要となる代表的な項目を説明し，これらの項目から既存の代表的な数理モデルを整理する．各科目で個別に学んでいた数理モデルを整理して理解することで，データ分析の目的に対して分析者自ら適切な数理モデルを選択，あるいは新たな数理モデルを構築できるようになることが本科目の目的となる．

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・データ科学の基本となる数理モデルについて，それを構成するいくつかの重要な項目を理解している．
・新しい問題に対し，自ら適切な数理モデルを選択あるいは構築できる．

事前・事後学習の内容: 事前学習：
－ シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
－ 前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
－ 前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
－ 動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：データ科学と数理モデル
データ科学の目的とデータ生成観測メカニズム，数理モデルの重要性
データ生成観測メカニズムと意思決定写像，Pythonを用いたデータ生成観測メカニズムの確認

第2回：同時確率分布に基づくデータ生成観測メカニズム
同時確率分布とデータ生成観測メカニズム条件付き独立性とグラフ表現，Python多変量正規分布の性質

第3回：マルコフ性とデータ生成観測メカニズム
有向グラフを用いた確率分布における確率演算マルコフ性を持つ確率過程とデータ生成観測メカニズム，Python条件付き独立性と確率演算

第4回：基底関数とカーネル関数
基底関数に基づくデータ生成観測メカニズム，基底関数とカーネル関数の関係一般化線形モデル，Python基底関数に基づくデータ生成観測メカニズム

第5回：潜在変数とデータ生成観測メカニズム
潜在変数の仮定とデータ生成観測メカニズム，潜在変数の構造Python潜在変数に基づくデータ生成観測メカニズム

第6回：階層的確率構造とデータ生成観測メカニズム
パラメータに確率分布を仮定するデータ生成観測メカニズム，階層構造を持つ設定におけるデータ生成観測メカニズムPython「パラメータに確率分布を持つモデルからのサンプリング」と「変数の数と尤度の関係」

第7回：専門知識と数理モデル
専門知識と数理モデル，意思決定写像と数理モデル，同質性を仮定した予測と数理モデルまとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義資料をWaseda Moodle上に提示

参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい 「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 : 各授業内で行う演習問題および小テストにより評価する（練習問題4割, 小テスト6割程度） 学部生 : 各授業内で行う演習問題および小テストにより評価する（練習問題4割, 小テスト6割程度）

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010167|02|9S03010167[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学のためのモデリング 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本科目は「データ科学教育プログラム」の一科目であり，「データ科学入門α－δ」によりデータ科学の考え方を理解し，「時系列構造のデータ科学」「空間構造のデータ科学」「潜在構造のデータ科学」等で各種数理モデルを学んだ学生を対象としている．
データ科学を用いた問題解決においてはデータを生成する数理構造（数理モデル）を仮定する状況が非常に多い．本科目では，既にいくつかの代表的な数理モデルに関する理解を深めた学生に対し，改めてこれらの数理モデルを統一的に整理する視点を説明する．具体的には確率変数間の関係性や，データに仮定される構造，潜在変数の有無など，数理モデルの決定に重要となる代表的な項目を説明し，これらの項目から既存の代表的な数理モデルを整理する．各科目で個別に学んでいた数理モデルを整理して理解することで，データ分析の目的に対して分析者自ら適切な数理モデルを選択，あるいは新たな数理モデルを構築できるようになることが本科目の目的となる．
本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標: ・データ科学の基本となる数理モデルについて，それを構成するいくつかの重要な項目を理解している．
・新しい問題に対し，自ら適切な数理モデルを選択あるいは構築できる．

事前・事後学習の内容: 事前学習：
－ シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
－ 前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
－ 前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
－ 動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：データ科学と数理モデル
データ科学の目的とデータ生成観測メカニズム，数理モデルの重要性
データ生成観測メカニズムと意思決定写像，Pythonを用いたデータ生成観測メカニズムの確認

第2回：同時確率分布に基づくデータ生成観測メカニズム
同時確率分布とデータ生成観測メカニズム
条件付き独立性とグラフ表現，Python多変量正規分布の性質

第3回：マルコフ性とデータ生成観測メカニズム
有向グラフを用いた確率分布における確率演算
マルコフ性を持つ確率過程とデータ生成観測メカニズム，Python条件付き独立性と確率演算

第4回：基底関数とカーネル関数
基底関数に基づくデータ生成観測メカニズム，基底関数とカーネル関数の関係
一般化線形モデル，Python基底関数に基づくデータ生成観測メカニズム

第5回：潜在変数とデータ生成観測メカニズム
潜在変数の仮定とデータ生成観測メカニズム，潜在変数の構造
Python潜在変数に基づくデータ生成観測メカニズム

第6回：階層的確率構造とデータ生成観測メカニズム
パラメータに確率分布を仮定するデータ生成観測メカニズム，階層構造を持つ設定におけるデータ生成観測メカニズム
Python「パラメータに確率分布を持つモデルからのサンプリング」と「変数の数と尤度の関係」

第7回：専門知識と数理モデル
専門知識と数理モデル，意思決定写像と数理モデル，同質性を仮定した予測と数理モデル
まとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:	講義資料をWaseda Moodle上に提示
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい 「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生：各授業内で行う演習問題および小テストにより評価する（練習問題4割, 小テスト6割程度） 学部生：各授業内で行う演習問題および小テストにより評価する（練習問題4割, 小テスト6割程度）

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010167|03|9S03010167[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学のためのモデリング 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本科目は「データ科学教育プログラム」の一科目であり，「データ科学入門α－δ」によりデータ科学の考え方を理解し，「時系列構造のデータ科学」「空間構造のデータ科学」および「潜在構造のデータ科学」等で各種数理モデルを学んだ学生を対象としている．
データ科学を用いた問題解決においてはデータを生成する数理構造（数理モデル）を仮定する状況が非常に多い．本科目では，既にいくつかの代表的な数理モデルに関する理解を深めた学生に対し，改めてこれらの数理モデルを統一的な視点から整理する．具体的には確率変数間の関係性や，データに仮定される構造，潜在変数の有無など，数理モデルの決定に重要となる代表的な項目を説明し，これらの項目から既存の代表的な数理モデルを整理する．各科目で個別に学んでいた数理モデルを整理して理解することで，データ分析の目的に対して分析者自ら適切な数理モデルを選択，あるいは新たな数理モデルを構築できるようになることが本科目の目的となる．

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは

授業の到達目標: ・データ科学の基本となる数理モデルについて，それを構成するいくつかの重要な項目を理解している．
・新しい問題に対し，自ら適切な数理モデルを選択あるいは構築できる．

事前・事後学習の内容: 事前学習：
−シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
−前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
−前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習：
動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：データ科学と数理モデル
データ科学の目的とデータ生成観測メカニズム，数理モデルの重要性
データ生成観測メカニズムと意思決定写像，Pythonを用いたデータ生成観測メカニズムの確認

第2回：同時確率分布に基づくデータ生成観測メカニズム
同時確率分布とデータ生成観測メカニズム
条件付き独立性とグラフ表現，Python多変量正規分布の性質

第3回：マルコフ性とデータ生成観測メカニズム
有向グラフを用いた確率分布における確率演算
マルコフ性を持つ確率過程とデータ生成観測メカニズム，Python条件付き独立性と確率演算

第4回：基底関数とカーネル関数
基底関数に基づくデータ生成観測メカニズム，基底関数とカーネル関数の関係
一般化線形モデル，Python基底関数に基づくデータ生成観測メカニズム

第5回：潜在変数とデータ生成観測メカニズム
潜在変数の仮定とデータ生成観測メカニズム，潜在変数の構造
Python潜在変数に基づくデータ生成観測メカニズム

第6回：階層的確率構造とデータ生成観測メカニズム
パラメータに確率分布を仮定するデータ生成観測メカニズム，階層構造を持つ設定におけるデータ生成観測メカニズム
Python「パラメータに確率分布を持つモデルからのサンプリング」と「変数の数と尤度の関係」

第7回：専門知識と数理モデル
専門知識と数理モデル，意思決定写像と数理モデル，同質性を仮定した予測と数理モデル
まとめ

言語区分:	0　日本語　Japanese
教科書:	講義資料をWaseda Moodle上に提示
参考文献:	データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい 「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	大学院生 : 各授業内で行う演習問題および小テストにより評価する（練習問題4割, 小テスト6割程度 学部生 : 各授業内で行う演習問題および小テストにより評価する（練習問題4割, 小テスト6割程度）

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010167|04|9S03010167[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学のためのモデリング 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本科目は「データ科学教育プログラム」の一科目であり，「データ科学入門α－δ」によりデータ科学の考え方を理解し，「時系列構造のデータ科学」「空間構造のデータ科学」および「潜在構造のデータ科学」等で各種数理モデルを学んだ学生を対象としている．
データ科学を用いた問題解決においてはデータを生成する数理構造（数理モデル）を仮定する状況が非常に多い．本科目では，既にいくつかの代表的な数理モデルに関する理解を深めた学生に対し，改めてこれらの数理モデルを統一的な視点から整理する．具体的には確率変数間の関係性や，データに仮定される構造，潜在変数の有無など，数理モデルの決定に重要となる代表的な項目を説明し，これらの項目から既存の代表的な数理モデルを整理する．各科目で個別に学んでいた数理モデルを整理して理解することで，データ分析の目的に対して分析者自ら適切な数理モデルを選択，あるいは新たな数理モデルを構築できるようになることが本科目の目的となる．

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは

授業の到達目標: ・データ科学の基本となる数理モデルについて，それを構成するいくつかの重要な項目を理解している．
・新しい問題に対し，自ら適切な数理モデルを選択あるいは構築できる．

事前・事後学習の内容: 事前学習：
−シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
−前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
−前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習：
動画・テキスト・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：データ科学と数理モデル

データ科学の目的とデータ生成観測メカニズム，数理モデルの重要性
データ生成観測メカニズムと意思決定写像，Pythonを用いたデータ生成観測メカニズムの確認

第2回：同時確率分布に基づくデータ生成観測メカニズム

同時確率分布とデータ生成観測メカニズム
条件付き独立性とグラフ表現，Python多変量正規分布の性質

第3回：マルコフ性とデータ生成観測メカニズム

有向グラフを用いた確率分布における確率演算
マルコフ性を持つ確率過程とデータ生成観測メカニズム，Python条件付き独立性と確率演算

第4回：基底関数とカーネル関数

基底関数に基づくデータ生成観測メカニズム，基底関数とカーネル関数の関係
一般化線形モデル，Python基底関数に基づくデータ生成観測メカニズム

第5回：潜在変数とデータ生成観測メカニズム

潜在変数の仮定とデータ生成観測メカニズム，潜在変数の構造
Python潜在変数に基づくデータ生成観測メカニズム

第6回：階層的確率構造とデータ生成観測メカニズム

パラメータに確率分布を仮定するデータ生成観測メカニズム，階層構造を持つ設定におけるデータ生成観測メカニズム
Python「パラメータに確率分布を持つモデルからのサンプリング」と「変数の数と尤度の関係」

第7回：専門知識と数理モデル

専門知識と数理モデル，意思決定写像と数理モデル，同質性を仮定した予測と数理モデル
まとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義資料をWaseda Moodle上に提示

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門 I – データに基づく意思決定の基礎, サイエンス社. 松嶋敏泰 監修, 早稲田大学データ科学教育チーム著. 」

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 大学院生:各授業内で行う演習問題および小テストにより評価する(練習問題4割, 小テスト6割程度)
学部生:各授業内で行う演習問題および小テストにより評価する(練習問題4割, 小テスト6割程度)

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010168|01|9S03010168[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Data Science in Practice 01		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

In recent years, rapid advancements in information processing and communication technologies have enabled the handling of diverse and large volumes of data. As a result, the importance of data science has increased significantly across various sectors of society as well as in all fields of study and research.

This course is designed for students who have completed the Introduction to Data Science series. Through the course, you will learn the process of of data analysis, encompassing the planning, execution, and reflection on the results. In the exercises, the focus will be on structuring the process of data analysis, taking into consideration the objectives of the analysis, the types of data, and any underlying assumptions or conditions, as well as on excuting the planned analysis.

The prerequisite requirement for enrollment is successful completion of the following set of courses or possessing equivalent knowledge:
"Introduction to Data Science alpha"
"Introduction to Data Science beta"
"Introduction to Data Science gamma"
"Introduction to Data Science delta"

授業の到達目標：

・Proficiently grasp key aspects of data analysis, such as the analysis objectives, types of data, and underlying conditions
・Competently formulate a structured plan for data analysis, taking into account the key aspects of data analysis
・Effectively conduct data analysis in accordance with the structured plan

事前・事後学習の内容：

Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)

After class:
Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Introduction

The importance of systematic approach to data analysis, Systematic approaches to data analysis, Understanding objectives in data analysis

Systematic approach to data analysis 1

Analysis aimed at understanding data characteristics

Systematic approach to data analysis 2

Analysis with primary objectives (structure estimation of give data, prediction of new data)
*Among problems such as regression, classification, clustering, and data reduction, we will focus on regression as an example.

Systematic approach to data analysis 3

Identification of outliers, Data transformation

Systematic approach to data analysis 4

Revising analysis 1: Validation of assumptions made in data analysis

Systematic approach to data analysis 5

Revising analysis 2: Consideration of analysis with additional variables, Revising structural and predictive models

Report assignment

Report assignment involving systematic approach to data analysis

言語区分:	0	英語	English
教科書:	Lecture materials are distributed on Waseda Moodle.		
参考文献:	None		
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）		

試験:	0	None
レポート:	50	Evaluation based on the submitted report assignment.
平常点評価:	50	Evaluation based on the status of practice exercise responses.
その他:	0	None

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010168|03|9S03010168[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Data Science in Practice 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

In recent years, rapid advancements in information processing and communication technologies have enabled the handling of diverse and large volumes of data. As a result, the importance of data science has increased significantly across various sectors of society as well as in all fields of study and research.

This course is designed for students who have completed the Introduction to Data Science series. Through the course, you will learn the process of of data analysis, encompassing the planning, execution, and reflection on the results. In the exercises, the focus will be on structuring the process of data analysis, taking into consideration the objectives of the analysis, the types of data, and any underlying assumptions or conditions, as well as on excuting the planned analysis.

The prerequisite requirement for enrollment is successful completion of the following set of courses or possessing equivalent knowledge:
"Introduction to Data Science alpha"
"Introduction to Data Science beta"
"Introduction to Data Science gamma"
"Introduction to Data Science delta"

授業の到達目標：

・Proficiently grasp key aspects of data analysis, such as the analysis objectives, types of data, and underlying conditions
・Competently formulate a structured plan for data analysis, taking into account the key aspects of data analysis
・Effectively conduct data analysis in accordance with the structured plan

事前・事後学習の内容：

Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)

After class:
Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Introduction

The importance of systematic approach to data analysis, Systematic approaches to data analysis, Understanding objectives in data analysis

Systematic approach to data analysis 1

Analysis aimed at understanding data characteristics

Systematic approach to data analysis 2

Analysis with primary objectives (structure estimation of give data, prediction of new data)
*Among problems such as regression, classification, clustering, and data reduction, we will focus on regression as an example.

Systematic approach to data analysis 3

Identification of outliers, Data transformation

Systematic approach to data analysis 4

Revising analysis 1: Validation of assumptions made in data analysis

Systematic approach to data analysis 5

Revising analysis 2: Consideration of analysis with additional variables, Revising structural and predictive models

Report assignment

Report assignment involving systematic approach to data analysis

言語区分:	0	英語	English
教科書:	Lecture materials are distributed on Waseda Moodle.		
参考文献:	None		
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）		

試験:	0	None
レポート:	50	Evaluation based on the submitted report assignment.
平常点評価:	50	Evaluation based on the status of practice exercise responses.
その他:	0	None

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010169|03|9S03010169[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Data Science on Latent Structure 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

In recent years, the rapid development of information processing and communication technologies has made it possible to handle large and diverse amounts of data. As a result, the importance of data science is growing in the real world and across all academic and research fields.
This course is intended for students who have completed the “Introduction to Data Science” series and focuses on data with mathematical structures that include latent (invisible) variables. Specifically, students will learn principal component analysis and factor analysis. Students will also learn clustering and latent class models, where data is generated from different probability distributions based on the values of discrete qualitative latent variables. Furthermore, students will learn a unified perspective on data science for latent structure data, including missing data, outliers, and Bayesian statistics. In this course, students will use Python as a tool for analysis and conduct exercises. The use of Python will be explained during the lectures.
All lectures for this course will be delivered on-demand.

〇Prerequisites for the Course
・Have basic computer skills, such as starting and shutting down the computer, typing, and handling files.
・Preferably have completed the four courses “Introduction to Data Science α, β, γ, and δ” or “Statistical Literacy α and β” and “Introduction to Data Science 1 and 2 (For Intermediates in Statistics)” or have equivalent knowledge.

This is a common course in the Data Science Education Program designed for all students in all faculties of Waseda University. For details of this program, please see
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculum.
This course is also included in the Data Science Certification System of Waseda University. More information is available at
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditation.

授業の到達目標：

Learn how to think about data with latent structures.
Based on specialized knowledge of data, students can determine whether data possesses latent structures.
Students will be able to appropriately define latent structures within your own field of expertise.

事前・事後学習の内容：

Before class:
- Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
- Prepare for the study of the next Lesson by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
- Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next Lesson. (45 minutes)

After class:
- Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Lesson 1: Introduction to the Course and the Gaussian Mixture Model

Latent Variables and Latent Structures (Introduction to the Course)
Latent Structure of Quantitative Observed Variables and Qualitative Latent Variables (Gaussian Mixture Model)
Setting Up the Python Environment

Lesson 2: Latent Class Models, Topic Models, and Principal Component Analysis

Latent Structure of Qualitative Observed Variables and Qualitative Latent Variables (Latent Class Model, Topic Model)
Latent Structure of Quantitative Observed Variables and Quantitative Latent Variables (PCA: Principal Component Analysis)
Principal Component Analysis (PCA) using Python

Lesson 3: Factor Analysis 1

Latent Structure of Quantitative Observed Variables and Quantitative Latent Variables (Factor Analysis with a Latent Variable)
Latent Structure of Quantitative Observed Variables and Quantitative Latent Variables (Factor Analysis with Two Latent Variables)
Factor Analysis using Python I

Lesson 4: Factor Analysis 2

Latent Structure of Quantitative Observed Variables and Quantitative Latent Variables (General Factor Analysis and Estimation of the Number of Factors)
Latent Structure of Quantitative Observed Variables and Quantitative Latent Variables (Evaluation Criteria of Factor Analysis)
Factor Analysis using Python II

Lesson 5: Structural Equation Modeling

Latent Structure of Quantitative Observed Variables and Quantitative Latent Variables (Structural Equation Modeling)
Latent Structure of Quantitative Observed Variables and Quantitative Latent Variables (Evaluation of Models in Structural Equation Modeling)
SEM using Python

Lesson 6: Graphical Models and Hierarchical Bayesian Models

Concepts of Graphs for Representing Relationships Between Variables (Graphical Models)
Concepts of Graphs for Representing Relationships Between Variables (Graphical Models and Evaluation Criteria for Various Latent Structures)
Concepts for the Case Where Relationships Between Variables are Hierarchical Structure (Hierarchical Bayesian Model)

Lesson 7: Correspondence Analysis and Its Relationship with Other Data Structures

Structure of Qualitative Observation Variables (Correspondence Analysis)
Correspondence Analysis using Python
Relationship with Other Data Structures
Maximizing the Likelihood Function in Latent Structures (EM Algorithm)
Bayesian Estimation using Python

言語区分: 0 英語 English

教科書: Lecture materials will be distributed via Waseda Moodle.

参考文献: None

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: Undergraduate: Practice Exercises 40%, Mini-Exams 60%
Graduate: Practice Exercises 40%, Mini-Exams 60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010170|03|9S03010170[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Data Science on Regression and Classification 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

In recent years, rapid advances in information processing and communication technologies have made it possible to handle a wide variety of large-scale data. As a result, the importance of data science has been increasing across real-world applications as well as in virtually all academic and research fields.
This course focuses specifically on regression and classification problems among the topics covered in the introductory data science course series.

When performing real-world data analysis, the content covered in the introductory data science series alone may not always yield satisfactory results. For example, although regression problems are addressed in the introductory series using only functions that are linear with respect to parameters, such models may fail to achieve sufficient predictive accuracy in practice. In such cases, some form of extension—such as introducing nonlinear functional forms—is required.

This course assumes that students have completed the introductory data science series and aims to deepen their understanding of key extensions for regression and classification problems, with an emphasis on the underlying concepts rather than purely technical details.
Hands-on exercises will be conducted in which students analyze example datasets using actual software tools.
All sessions of this course are delivered in an on-demand format.

〇Prerequisites
・Basic computer skills, including starting and shutting down a computer, text input, and file operations.
・Prior completion of one of the following sets of courses, or possession of equivalent knowledge:・“Introduction to Data Science α, β, γ, and δ”; or
・“Statistical Literacy α and β” plus “Introduction to Data Science 1 (for students with prior training in statistics)” and “Introduction to Data Science 2 (for students with prior training in statistics).”

This is a common course in the Data Science Education Program designed for all students in all faculties of Waseda University. For details of this program, please see
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculum.
This course is also included in the Data Science Certification System of Waseda University. More information is available at
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditation.

授業の到達目標：

・Able to define objectives for real-world data and formulate them as data science problems.
・Able to select appropriate methods for the given data and the defined problem.
・Able to incorporate one’s own reasoning into the interpretation of results, conduct effective discussion, and evaluate the outcomes.

事前・事後学習の内容：

Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)

After class:
Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Lesson 1: Statistical Properties of Multiple Regression Analysis

・Regression and Classification
・Geometric Interpretation and Statistical Properties of Multiple Regression Analysis
・Regression Analysis with Python 1

Lesson 2: How to Think about Data "Closeness"

・Points to Note in Multiple Regression Analysis
・How to Think about Data "Closeness"
・Regression Analysis with Python 1

Lesson 3: Using Kernel Functions to Leverage Data "Closeness"

・Using Kernel Functions to Leverage Data "Closeness"
・Using Basis Functions to Transform and Utilize Data
・Decision Trees and Nearest Neighbor/k-Nearest Neighbor Methods with Python

Lesson 4: The Relationship Between Basis Functions and Kernel Functions

・The Relationship Between Basis Functions and Kernel Functions・Regression Using Basis Functions and Kernel Functions with Python
・Kernel Method Described by Small Amounts of Data (Support Vector Machine)

Lesson 5: Determining Basis Functions from Data

・Determining Basis Functions from Data (Neural Networks / Deep Learning)・SVM Using Basis Functions and Gaussian Kernel Functions with Python
・Using Multiple Relationship Equations to Explain Target Variables (Ensemble Learning)

Lesson 6: Regression Analysis and ANOVA for Qualitative Variables

・Regression and Classification Using Neural Networks and Deep Learning with Python
・Regression Analysis and ANOVA for Qualitative Variables
・Approach for Mixed Qualitative and Quantitative Explanatory Variables
・Analysis of Variance (ANOVA) and Regression with Python

Lesson 7: Generalized Linear Models

・Approach When Errors Are Not Normally Distributed (Generalized Linear Models)
・Summary and Notes on Regression and Classification
・Generalized Linear Models with Python

言語区分: 0 英語 English

教科書: Lecture materials are distributed on Waseda Moodle.

参考文献: None

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: Undergraduate: Practice Exercises 40%, Mini-Exams 60%
Graduate: Practice Exercises 40%, Mini-Exams 60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010171|03|9S03010171[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to Data Science 1 (For Intermediates in Statistics) 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

In recent years, with the rapid development of information processing and communication technologies, the importance of data science has increased significantly. Data science is a cross-disciplinary science for obtaining new knowledge from data and using it for decision making, and this concept is becoming necessary in all academic fields.

Introduction to Data Science 1 & 2 (For Intermediates in Statistics) is a course designed for students who have already acquired introductory knowledge of statistics (equivalent to Statistics Literacy α and β) and aims to provide a comprehensive overview of the fundamental concepts of data science. This course corresponds to the first half of that sequence.

Acquiring the way of thinking underlying data science requires understanding a broad range of topics, such as machine learning and artificial intelligence, and then approaching problems from a broader, more integrated perspective.

In this course, you will learn the fundamental ways of thinking in data science through topics such as feature description of univariate and bivariate data, parameter estimation, and regression analysis. Where appropriate, differences between these approaches and those used in statistics will be considered.

Throughout the course, you will learn that even when working with the same dataset, problems, objectives, and outputs can be formulated in various ways, and you will gain insight into the problem-solving process tailored to the purpose of the analysis.

・Students are expected to have prior knowledge of descriptive statistics and probability (equivalent to Statistical Literacy α and β) before enrolling in this course.
・Python will be used as a tool for computer-based analysis.
・All lectures will be given on demand.

授業の到達目標：

・To understand the overall workflow of data science and be able to formulate problems and determine evaluation criteria appropriate to the objective.
・To be able to make optimal decisions for given data (using a computer) under one's own objective and evaluation criteria.

事前・事後学習の内容：

Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)

After class:
・Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Part1: Importance of data science

The purpose of studying data science, Data science and mathematical models, Summarizing univariate data, Introduction and use of Python, Basics of Python

Part2: Decision making on populations

Population and sample, Decision making on population, Assumptions for populations, Python: Summarizing univariate data and random number generation

Part3: Parameter Estimation

Parameter estimation, Bayesian approach to parameter estimation, Python: Data visualization and properties of the normal distribution

Part4: The Concept of Hypothesis Testing

The concept of hypothesis testing, Python: Criteria for estimators, Bayes risk function and posterior distributions

Part5: Regression Analysis 1

Regression as feature description, Probabilistic data generation and observation mechanisms in regression, Bayesian approach to estimating regression coefficients, Decision making for prediction, Multiple regression analysis (two explanatory variables), Handling multivariate data, Python: Regression and multiple regression analysis

Part6: Regression Analysis 2 / Classification 1

Multiple regression analysis (three or more explanatory variables), Multiple regression with dummy variables, Correlation among explanatory variables and multicollinearity, Evaluation of regression models, Classification problems, Python: Classification

Part7: Classification 2

Classification as a statistical model, Classification where classes are determined from explanatory variables, Python: Classification (logistic regression), Basics of neural networks

言語区分: 0 英語 English

教科書: Lecture materials are distributed on Waseda Moodle.

参考文献: None

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: Undergraduate: Practice Exercises 40%, Mini-Exams 60%
Graduate: Practice Exercises 40%, Mini-Exams 60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010172|04|9S03010172[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to Data Science 2 (For Intermediates in Statistics) 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

In recent years, with the rapid development of information processing and communication technologies, the importance of data science has increased significantly. Data science is a cross-disciplinary science for obtaining new knowledge from data and using it for decision making, and this concept is becoming necessary in all academic fields.

Introduction to Data Science 1 & 2 (For Intermediates in Statistics) is a course designed for students who have already acquired introductory knowledge of statistics (equivalent to Statistics Literacy α and β) and aims to provide a comprehensive overview of the fundamental concepts of data science. This course corresponds to the second half of that sequence.

Acquiring the way of thinking underlying data science requires understanding a broad range of topics, such as machine learning and artificial intelligence, and then approaching problems from a broader, more integrated perspective.

In this course, with multivariate data analysis as the central theme, we focus on multiple regression, classification, clustering, and principal component analysis, and learn how to incorporate the quantitative and qualitative characteristics of data into mathematical models and evaluation criteria. In addition, considering data sampling and preprocessing, we examine key considerations in the overall workflow of data science.

・Students are expected to have prior knowledge of descriptive statistics and probability (equivalent to Statistical Literacy α and β) before enrolling in this course.
・Students are expected to have prior knowledge equivalent to Introduction to Data Science 1 (For Intermediates in Statistics) before enrolling in this course..
・Python will be used as a tool for computer-based analysis.
・All lectures will be given on demand.

授業の到達目標：

・To be able to select appropriate models and evaluation criteria for multiple regression and classification problems based on the objective and the characteristics of the data.

・To be able to conduct multiple regression and classification analyses using computational tools.

・To be able to model clustering and principal component analysis as methods of dimensionality reduction.

・Understand the overall workflow of data analysis, including sampling, preprocessing, modeling, analysis, interpretation of results, and validation of findings.

事前・事後学習の内容：

Before class:
・Read the syllabus and grasp the orientation of this course. (10 minutes)
・Prepare for the study of next week by understanding the relative content you have learned. (45 minutes)
・Prepare your lesson using the lecture materials distributed for the next week. (45 minutes)

After class:
・Review the video, textbook and do the practice exercises and mini-exam. (100 minutes)

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Part1: Various basis functions

Polynomial regression, Interaction effects, Least squares method, Basis selection, variable selection, and model selection, Structure estimation based on hypothesis testing

Part2: Structure estimation, prediction, and model selection according to objectives

Evaluation criteria for model selection, Model selection for structural estimation, BIC, Bayes-optimal model selection, Model selection for prediction, AIC, Prediction without model selection, Bayes-optimal prediction

Part3: Regularization and model selection when the number of variables or basis functions is large

Regularization, Lasso and ridge regression, Cross-validation, Bayesian interpretation of regularization, Purpose of regularization, Model exploration, Forward selection, Backward elimination, Forward-backward selection

Part4: Clustering

Problem setting, objectives, and evaluation criteria for clustering, Clustering under the assumption of data generation and observation mechanism

Part5: Parameter estimation in the presence of latent variables

Modeling with latent variables, Parameter estimation in models with latent variables, Optimization algorithms

Part6: Dimensionality reduction

Dimensionality reduction, The way of thinking in data science

Part7: The overall workflow of data analysis

The problem-solving process in data science, Data preprocessing, Model validation

言語区分: 0 英語 English

教科書: Lecture materials are distributed on Waseda Moodle.

参考文献: None

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: Graduate students: Practice 40%, Mini-Exam 60%
Undergraduate students: Practice 40%, Mini-Exam 60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010173|02|9S03010173[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	生成AIのデータ科学 02		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年機械学習を応用した生成AIが急速に発展し、数多くの生成AIが実際に実用に供されています。このため生成AIの原理や考え方を理解しないまま生成AIを利用する機会が増えてきています。しかし生成AIを十全に活用し、さらにそれらの応用を考えるとき、生成AIそのものがどのようにできているのか、何を目指しているものであるのか、さらには問題点などを理解していることが重要となります。
そこで本講義では生成AIの考え方や原理について、データ科学の観点から学びます。さらに現状の問題点や対策についても解説します。これらの理解に基づき、生成AIを用いて適切で科学的・論理的な意思決定ができるようになることを目的とします。
本講義では実際にPythonを用いて解析を行なうなどの演習を実施します。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α・β・γ・δ」の4科目、あるいは「統計リテラシーα・β」、「データ科学入門1（統計学既習者用）」、「データ科学入門2（統計学既習者用）」の4科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

・現在の生成AIについての基本的な用語や原理、社会的意義を理解する
・生成AIにおいてデータ科学の考え方や手法がどのように利用されているのかを理解する
・現状の問題点やその対策を知った上で、生成AIを用いて適切で科学的・論理的な意思決定ができるようになる
・新しい生成AIが出てきたときに、自身でその動作原理における本質を見極め、適切に活用することができる

事前・事後学習の内容：

事前学習：
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
-前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
-動画・スライド・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：ガイダンス・生成AIとは
本講義の目的、生成AIの基本的な用語と種類、社会的意義
第2回：データ科学に基づく生成AIの理解
生成AIにおけるデータ科学、プロンプトとデータ科学
第3回：データ生成観測メカニズムとしての生成AI
深層学習、データ生成観測メカニズムとしての自己符号化，条件付き自己符号化
第4回：正規分布から任意の確率分布を出力する生成AI
画像の生成AIとその考え方、拡散モデルと逆過程
第5回：質的変数の並びから質的変数を出力する生成AI
テキストの生成AIとその考え方、トランスフォーマー
第6回：生成AIの問題点とその対策
正確性・信頼性の問題と対策、倫理・著作権・セキュリティの問題と対策
第7回：生成AIの応用
複数形式の入力／出力、既存システムとの連携や生成AI同士の連携、生成AI活用の考え方

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料をWaseda Moodle上で配布。

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著」
「データ科学入門Ⅱ－特徴記述・構造推定・予測 ― 回帰と分類を例に．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著」
「データ科学入門Ⅲ－モデルの候補が複数あるときの意思決定．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著」
「データ科学入門Ⅳ－写像とグラフによる統一的体系化―変数/定数の観測可能性の視点から．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著」

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 練習問題：40%，小テスト：60%
学部生 練習問題：40%，小テスト：60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010173|03|9S03010173[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	生成AIのデータ科学 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年機械学習を応用した生成AIが急速に発展し、数多くの生成AIが実際に実用に供されています。このため生成AIの原理や考え方を理解しないまま生成AIを利用する機会が増えてきています。しかし生成AIを十全に活用し、さらにそれらの応用を考えるとき、生成AIそのものがどのようにできているのか、何を目指しているものであるのか、さらには問題点などを理解していることが重要となります。
そこで本講義では生成AIの考え方や原理について、データ科学の観点から学びます。さらに現状の問題点や対策についても解説します。これらの理解に基づき、生成AIを用いて適切で科学的・論理的な意思決定ができるようになることを目的とします。
本講義では実際にPythonを用いて解析を行なうなどの演習を実施します。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α・β・γ・δ」の4科目、あるいは「統計リテラシーα・β」、「データ科学入門1（統計学既習者用）」、「データ科学入門2（統計学既習者用）」の4科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

・現在の生成AIについての基本的な用語や原理、社会的意義を理解する
・生成AIにおいてデータ科学の考え方や手法がどのように利用されているのかを理解する
・現状の問題点やその対策を知った上で、生成AIを用いて適切で科学的・論理的な意思決定ができるようになる
・新しい生成AIが出てきたときに、自身でその動作原理における本質を見極め、適切に活用することができる

事前・事後学習の内容：

事前学習：
−シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
−前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
−前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
−動画・スライド・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：ガイダンス・生成AIとは
本講義の目的、生成AIの基本的な用語と種類、社会的意義
第2回：データ科学に基づく生成AIの理解
生成AIにおけるデータ科学、プロンプトとデータ科学
第3回：データ生成観測メカニズムとしての生成AI
深層学習、データ生成観測メカニズムとしての自己符号化，条件付き自己符号化
第4回：正規分布から任意の確率分布を出力する生成AI
画像の生成AIとその考え方、拡散モデルと逆過程
第5回：質的変数の並びから質的変数を出力する生成AI
テキストの生成AIとその考え方、トランスフォーマー
第6回：生成AIの問題点とその対策
正確性・信頼性の問題と対策、倫理・著作権・セキュリティの問題と対策
第7回：生成AIの応用
複数形式の入力／出力、既存システムとの連携や生成AI同士の連携、生成AI活用の考え方

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料をWaseda Moodle上で配布。

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著」
「データ科学入門Ⅱ－特徴記述・構造推定・予測 ― 回帰と分類を例に．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著」
「データ科学入門Ⅲ－モデルの候補が複数あるときの意思決定．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著」
「データ科学入門Ⅳ－写像とグラフによる統一的体系化―変数/定数の観測可能性の視点から．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著」

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 練習問題：40%，小テスト：60%
学部生 練習問題：40%，小テスト：60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010173|04|9S03010173[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	生成AIのデータ科学 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年機械学習を応用した生成AIが急速に発展し、数多くの生成AIが実際に実用に供されています。このため生成AIの原理や考え方を理解しないまま生成AIを利用する機会が増えてきています。しかし生成AIを十全に活用し、さらにそれらの応用を考えるとき、生成AIそのものがどのようにできているのか、何を目指しているものであるのか、さらには問題点などを理解していることが重要となります。
そこで本講義では生成AIの考え方や原理について、データ科学の観点から学びます。さらに現状の問題点や対策についても解説します。これらの理解に基づき、生成AIを用いて適切で科学的・論理的な意思決定ができるようになることを目的とします。
本講義では実際にPythonを用いて解析を行なうなどの演習を実施します。
本講義は全回オンデマンド授業となります。

〇受講前提条件
・コンピュータの基本操作（起動・終了，文字入力，ファイル操作など）を習得していること。
・「データ科学入門α・β・γ・δ」の4科目、あるいは「統計リテラシーα・β」、「データ科学入門1（統計学既習者用）」、「データ科学入門2（統計学既習者用）」の4科目を履修済みであるか、履修済み相当の知識があることが望ましい。

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです。教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。
また、本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です。詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください。

授業の到達目標：

・現在の生成AIについての基本的な用語や原理、社会的意義を理解する
・生成AIにおいてデータ科学の考え方や手法がどのように利用されているのかを理解する
・現状の問題点やその対策を知った上で、生成AIを用いて適切で科学的・論理的な意思決定ができるようになる
・新しい生成AIが出てきたときに、自身でその動作原理における本質を見極め、適切に活用することができる

事前・事後学習の内容：

事前学習：
−シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
−前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える（45分）
−前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）
事後学習：
−動画・スライド・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：ガイダンス・生成AIとは
本講義の目的、生成AIの基本的な用語と種類、社会的意義
第2回：データ科学に基づく生成AIの理解
生成AIにおけるデータ科学、プロンプトとデータ科学
第3回：データ生成観測メカニズムとしての生成AI
深層学習、データ生成観測メカニズムとしての自己符号化，条件付き自己符号化
第4回：正規分布から任意の確率分布を出力する生成AI
画像の生成AIとその考え方、拡散モデルと逆過程
第5回：質的変数の並びから質的変数を出力する生成AI
テキストの生成AIとその考え方、トランスフォーマー
第6回：生成AIの問題点とその対策
正確性・信頼性の問題と対策、倫理・著作権・セキュリティの問題と対策
第7回：生成AIの応用
複数形式の入力／出力、既存システムとの連携や生成AI同士の連携、生成AI活用の考え方

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料をWaseda Moodle上で配布。

参考文献: データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい
「データ科学入門Ⅰ－データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著」
「データ科学入門Ⅱ－特徴記述・構造推定・予測 ― 回帰と分類を例に．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著」
「データ科学入門Ⅲ－モデルの候補が複数あるときの意思決定．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著」
「データ科学入門Ⅳ－写像とグラフによる統一的体系化―変数/定数の観測可能性の視点から．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著」

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生 練習問題：40%，小テスト：60%
学部生 練習問題：40%，小テスト：60%

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010174|03|9S03010174[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	総合的意思決定とデータ科学 03		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

一般に，意思決定とは目的達成のために合理的な選択肢を選ぶ行為とされる．したがって，産業界，学術界を問わず実社会の様々な目的達成のためには適切な意思決定が不可欠である．これらの意思決定には，データを用いて数理的に表現しにくい抽象的な意思決定が含まれることも多い．また，高度な目的を達成するためには階層構造を伴う複雑な意思決定を行う必要がある．このような総合的かつ階層的な意思決定の中で，データ科学認定制度中級レベルまでに学んできたデータ科学手法を効果的に活用するための考え方を学び，データ科学と実社会における問題発見・問題解決を結びつけるのが本科目である．

そのために，本科目ではデータ分析を伴う意思決定とそうでない意思決定を，意思決定写像という観点から統一的に理解する．意思決定写像とは，データ科学認定制度中級レベルまでの科目において，統計学，機械学習，人工知能などの様々なデータ科学手法をある種の意思決定と捉え，統一的に整理するために用いてきた枠組みである．この枠組みでは，意思決定の「目的」，「設定」，「評価基準」を明確にし，データを「入力」，意思決定を「出力」とする写像を考えることで，目的に対して合理的なデータ分析が可能となるのであった．一方，データとして扱える情報の種類が多様化している昨今の状況を踏まえれば，データ分析を伴う意思決定とそうでない意思決定はグラデーションを伴って接しているものであり，明確な区別は存在しないとも考えられる．そこで，本科目では意思決定写像の概念を一般化し，データ分析を伴わない意思決定をもこの枠組みで統一的に表現することを試みる．これにより，実社会における複雑な意思決定を意思決定写像の組み合わせとして表現することが可能となる．

さらに，一般化された意思決定写像の組み合わせとして表される総合的かつ階層的な意思決定プロセスにおいて，最終的な意思決定に資する形で意思決定写像の「目的」，「設定」，「評価基準」，「入力」，「出力」を自ら設計し，継続的に改善するための考え方を学ぶ．言い換えれば，実社会の複雑な問題発見・問題解決において，これまで学んできたデータ科学手法を効果的に活用するための考え方を学ぶということである．この考え方の中には，問題発見・問題解決に用いられるMECE，ロジックツリー，なぜなぜ分析といった手法を意思決定写像の観点から捉え直し，それらを適切に組み合わせ，その中でデータ分析を有効に用いるための考え方も含まれている．ただし，これらの問題発見解決手法を個別に学ぶのではなく，意思決定写像の「目的」，「設定」，「評価基準」，「入力」，「出力」を決めるというメタな意思決定写像を考える中で，これらの手法が具体例として自然に現れ，体系的に整理されていくことを目指す．

〇受講前提条件
- データ科学認定制度の中級の取得までに必要となる科目を履修済みであるか，履修済み相当の知識があること．
-「データ科学のためのモデリング」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があること．

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです．教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください．
また，本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です．詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください．

授業の到達目標:

- データ分析を伴わない一般的な意思決定とデータ分析に基づく意思決定の両方を意思決定写像の観点から統一的に理解できること．
- 意思決定写像を組み合わせた総合的かつ階層的な意思決定プロセスにおいて，最終的な意思決定に資する形で個々の意思決定写像の入力，出力，目的，設定，評価基準を自ら設計・改善できること．言い換えれば，実社会の複雑な問題発見・問題解決において，これまで学んできたデータ科学手法を効果的に活用できること．

事前・事後学習の内容:

事前学習:
- シラバスを読み，授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
- 前の回や関連する回の内容を確認し，次回の内容に備える（45分）
- 前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習:
- 動画・講義資料・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ／ 第1回:本科目で伝えたい考え方
意思決定と意思決定写像 ／ 意思決定写像の連鎖 ／ 意思決定写像構築時に意識すべき前提と観点

第2回 ／ 第2回：目的を決める意思決定写像1
上位目的の分解 ／ 上位目的の変換
第3回 ／ 第3回：目的を決める意思決定写像2
上位目的の明確化 ／ 目的間のつながりの検証 ／ 予測を目的とした意思決定写像の使い所
第4回 ／ 第4回：出力，評価基準を決める意思決定写像
出力の定め方 ／ 評価基準の定め方 ／ 複数の評価基準の組み合わせ
第5回 ／ 第5回：設定を決める意思決定写像
設定の客観性の高め方 ／ 客観性以外の観点 ／ データ生成観測メカニズムグラフ
第6回 ／ 第6回：入力（と設定）を決める意思決定写像
入力の質と量 ／ 前処理 ／ データの取り方
第7回 ／ 第7回：総合的意思決定の例
問題発見解決フレームワーク ／ 問題発見解決における意思決定写像の類型 ／ まとめ

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義資料をWaseda Moodle上に提示

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい．
– データ科学入門 I: データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．
– データ科学入門 II: 特徴記述・構造推定・予測 ― 回帰と分類を例に，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．
– データ科学入門 III: モデルの候補が複数あるときの意思決定，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．
– データ科学入門 IV: 写像とグラフによる統一的体系化 ― 変数/定数の観測可能性の視点から，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生 練習問題：40%，小テスト：60%
学部生 練習問題：40%，小テスト：60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010174|04|9S03010174[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	総合的意思決定とデータ科学 04		
担 当 教 員	小林 学@野村 亮@堀井 俊佑@安田 豪毅@谷口 卓也@中原 悠太@望月 泰博@寅		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

一般に，意思決定とは目的達成のために合理的な選択肢を選ぶ行為とされる．したがって，産業界，学術界を問わず実社会の様々な目的達成のためには適切な意思決定が不可欠である．これらの意思決定には，データを用いて数理的に表現しにくい抽象的な意思決定が含まれることも多い．また，高度な目的を達成するためには階層構造を伴う複雑な意思決定を行う必要がある．このような総合的かつ階層的な意思決定の中で，データ科学認定制度中級レベルまでに学んできたデータ科学手法を効果的に活用するための考え方を学び，データ科学と実社会における問題発見・問題解決を結びつけるのが本科目である．

そのために，本科目ではデータ分析を伴う意思決定とそうでない意思決定を，意思決定写像という観点から統一的に理解する．意思決定写像とは，データ科学認定制度中級レベルまでの科目において，統計学，機械学習，人工知能などの様々なデータ科学手法をある種の意思決定と捉え，統一的に整理するために用いてきた枠組みである．この枠組みでは，意思決定の「目的」，「設定」，「評価基準」を明確にし，データを「入力」，意思決定を「出力」とする写像を考えることで，目的に対して合理的なデータ分析が可能となるのであった．一方，データとして扱える情報の種類が多様化している昨今の状況を踏まえれば，データ分析を伴う意思決定とそうでない意思決定はグラデーションを伴って接しているものであり，明確な区別は存在しないとも考えられる．そこで，本科目では意思決定写像の概念を一般化し，データ分析を伴わない意思決定をもこの枠組みで統一的に表現することを試みる．これにより，実社会における複雑な意思決定を意思決定写像の組み合わせとして表現することが可能となる．

さらに，一般化された意思決定写像の組み合わせとして表される総合的かつ階層的な意思決定プロセスにおいて，最終的な意思決定に資する形で意思決定写像の「目的」，「設定」，「評価基準」，「入力」，「出力」を自ら設計し，継続的に改善するための考え方を学ぶ．言い換えれば，実社会の複雑な問題発見・問題解決において，これまで学んできたデータ科学手法を効果的に活用するための考え方を学ぶということである．この考え方の中には，問題発見・問題解決に用いられるMECE，ロジックツリー，なぜなぜ分析といった手法を意思決定写像の観点から捉え直し，それらを適切に組み合わせ，その中でデータ分析を有効に用いるための考え方も含まれている．ただし，これらの問題発見解決手法を個別に学ぶのではなく，意思決定写像の「目的」，「設定」，「評価基準」，「入力」，「出力」を決めるというメタな意思決定写像を考える中で，これらの手法が具体例として自然に現れ，体系的に整理されていくことを目指す．

〇受講前提条件
- データ科学認定制度の中級の取得までに必要となる科目を履修済みであるか，履修済み相当の知識があること．
-「データ科学のためのモデリング」を履修済みであるか，履修済み相当の知識があること．

本講義はCDS・GECの提供する全学共通データ科学教育プログラムに含まれる科目の1つです．教育プログラムの全体像及び詳細についてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください．
また，本講義は早稲田大学データ科学認定制度の対象科目です．詳しくは
https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditationをご参照ください．

授業の到達目標:

- データ分析を伴わない一般的な意思決定とデータ分析に基づく意思決定の両方を意思決定写像の観点から統一的に理解できること．
- 意思決定写像を組み合わせた総合的かつ階層的な意思決定プロセスにおいて，最終的な意思決定に資する形で個々の意思決定写像の入力，出力，目的，設定，評価基準を自ら設計・改善できること．言い換えれば，実社会の複雑な問題発見・問題解決において，これまで学んできたデータ科学手法を効果的に活用できること．

事前・事後学習の内容:

事前学習:
- シラバスを読み，授業全体における次回の内容の位置づけを確認する（10分）
- 前の回や関連する回の内容を確認し，次回の内容に備える（45分）
- 前もって配布されている講義資料を用いて予習する（45分）

事後学習:
- 動画・講義資料・練習問題・小テストを見直して復習する（100分）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ／ 第1回:本科目で伝えたい考え方
意思決定と意思決定写像 ／ 意思決定写像の連鎖 ／ 意思決定写像構築時に意識すべき前提と観点

第2回 ／ 第2回：目的を決める意思決定写像1
上位目的の分解 ／ 上位目的の変換
第3回 ／ 第3回：目的を決める意思決定写像2
上位目的の明確化 ／ 目的間のつながりの検証 ／ 予測を目的とした意思決定写像の使い所
第4回 ／ 第4回：出力，評価基準を決める意思決定写像
出力の定め方 ／ 評価基準の定め方 ／ 複数の評価基準の組み合わせ
第5回 ／ 第5回：設定を決める意思決定写像
設定の客観性の高め方 ／ 客観性以外の観点 ／ データ生成観測メカニズムグラフ
第6回 ／ 第6回：入力（と設定）を決める意思決定写像
入力の質と量 ／ 前処理 ／ データの取り方
第7回 ／ 第7回：総合的意思決定の例
問題発見解決フレームワーク ／ 問題発見解決における意思決定写像の類型 ／ まとめ

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義資料をWaseda Moodle上に提示

参考文献：　データ科学教育プログラム全般に通じる基本的な考え方を記している下記文献を参考にするとよい．
– データ科学入門 I: データに基づく意思決定の基礎，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．
– データ科学入門 II: 特徴記述・構造推定・予測 ― 回帰と分類を例に，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．
– データ科学入門 III: モデルの候補が複数あるときの意思決定，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．
– データ科学入門 IV: 写像とグラフによる統一的体系化 ― 変数/定数の観測可能性の視点から，サイエンス社．松嶋敏泰 監修，早稲田大学データ科学教育チーム著．

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生 練習問題：40%，小テスト：60%
学部生 練習問題：40%，小テスト：60%

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S03010175|01|9S03010175[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	株式会社ユニゾン・ホールディングス寄附講座 実践的データマネジメント		
担 当 教 員	桑田 修平@堀井 俊佑		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: データ活用が企業活動の中核となる現代において、単に分析手法を知るだけでなく、データをどのように収集・統合・管理し、意思決定やビジネス価値につなげるかという「データマネジメント」の理解が不可欠となっています。本講義では、企業実務を背景としたデータマネジメントの全体像を体系的に学びます。データ基盤やデータハブ、メダリオンアーキテクチャといったモダンなデータ基盤の考え方から、データ活用プロジェクトの進め方、BIツールを用いた可視化・洞察の導出までを、講義と演習を通じて体験的に理解します。また、ゲスト講師による実務事例の紹介を通して、理論と現場のつながりを学び、ビジネスに貢献できるデータ人材としての基礎力を養うことを目的とします。
※ 講義内でパソコンを用いた演習を実施するため、受講にあたってはノートPCを持参してください。

授業の到達目標: 本講義を通じて、以下の能力を身につけることを目標とします。
・データマネジメントの全体像と、分析・活用との関係を説明できるようになること
・企業におけるデータ基盤（DWH、ETL、BI 等）の役割と構成を理解できるようになること
・データを適切な形に整備・加工し、可視化を通じて意味のある洞察を導けるようになること
・データ活用プロジェクトの流れを理解し、簡単な活用計画を立案できるようになること

事前・事後学習の内容: 事前学習
・シラバスを読み、講義全体の構成と次回授業の位置づけを確認する（10分）
・前回までの講義内容や関連用語（データ基盤、データマネジメント概念など）を振り返る（40分）
・事前配布された講義資料や参考資料に目を通し、扱うテーマの概要を把握する（40分）
事後学習
・講義資料、演習内容、デモ操作を振り返り、理解が不十分な点を整理する（60分）
・演習で扱ったデータや可視化結果を見直し、「何が読み取れるか」を文章でまとめる（40分）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：データマネジメントとは何か（10月7日(水) 担当：桑田修平、堀井俊佑）
・ゲスト講師による講演：企業におけるデータマネジメントの重要性と実例
・データマネジメントの基本概念と目的
・ビジネス層・データ基盤層・活用層のレイヤー構造の導入
・講義全体の概要と各回の位置づけの説明

第2回：データ基盤とデータハブの概念（10月14日(水) 担当：桑田修平）
・モダンデータスタック（DWH・ETL・BI等）の構成
・データハブと従来のシステム連携との違い
・データ統合における課題とハブの利点
・グループ演習：部門ごとに異なるデータをどう統合するか

第3回：メダリオンアーキテクチャの理解と体験（10月21日(水) 担当：桑田修平）
・データレイク・レイクハウスの考え方
・ブロンズ・シルバー・ゴールドの3層構造
・Pythonによる簡単なデータ加工演習（欠損処理・集計など）

第4回：データ活用プロセスと分析プロジェクトの流れ（10月28日(水) 担当：桑田修平）
・CRISP-DMなどのデータ分析手法のプロセス紹介
・成功事例にみるプロジェクトの全体像
・グループ演習：与えられた課題に対してデータ活用の計画を立てる

第5回：BIツール演習①：データ可視化の基礎（11月4日(水) 担当：桑田修平）
・TableauやPower BIの基本操作
・単一グラフ（棒グラフ、折れ線グラフなど）の作成
・小規模データセットで売上や人数推移の可視化体験

第6回：BIツール演習②：ダッシュボードと洞察の導出（11月11日(水) 担当：桑田修平）
・複数グラフの組合せによるダッシュボード作成
・フィルタ・ドリルダウン等の応用機能の活用
・分析結果の共有・発表による洞察の可視化と説明練習

第7回：現場のデータマネジメントと講義のまとめ（11月18日（水）　担当：桑田修平、堀井俊佑）
・ゲスト講師による実務におけるデータマネジメントの実例紹介
・質疑応答を通じた理解の深化
・全7回の内容の振り返りと今後の学びの指針整理
・個人ワーク：学びの振り返りとレポート草案作成

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　河本薫「データ分析・AIを実務に活かす データドリブン思考」（ダイヤモンド社）
岩橋智宏、今西航平、増田啓志「Tableauで始めるデータサイエンス」（秀和システム）
ゆずたそ、渡部徹太郎、伊藤徹郎「実践的データ基盤への処方箋～ ビジネス価値創出のためのデータ・システム・ヒトのノウハウ」（技術評論社）
Bennie Haelen (原著), Dan Davis (原著), 長谷川 亮 (翻訳), 倉光 怜 (翻訳), 竹下 俊一郎 (翻訳)、「Delta Lake徹底入門」（翔泳社）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　100　講義内で課すレポートの内容により評価する

備考・関連URL：　講義内でパソコンを用いた演習を実施するため、受講にあたってはノートPCを持参してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04000101|01|9S04000101[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	情報科学の基礎 O1		
担 当 教 員	金光 永煥@星 健太郎@山極 綾子@邵 騰飛		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 情報技術の基礎知識と自ら調べる実践的スキル

授業概要: 情報化社会において全ての職業人が身に付けるべき情報技術（IT）に関する基礎知識について学ぶ。具体的には，コンピュータの主な構成要素，情報表現，プログラムとアルゴリズム等について例題を通して学ぶ。また，ネットワークや情報セキュリティなどの要素技術について概説する。
本科目はMoodleを通して全ての回をフルオンデマンド形式で実施する。

授業の到達目標: 1）コンピュータの主な構成要素や情報表現の基礎知識を習得する。
2）プログラムとアルゴリズムの関係・意義を理解する。
3）ネットワーク，情報セキュリティなどに関する基礎知識を習得する。

事前・事後学習の内容: 授業回ごとのミニテストを取り組むことと，授業内容に関する復習が重要である（60分）。
また，次回授業内容について，既習内容との関係を含めた確認が望まれる（30分）。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回 コンピュータの構成（1）
コンピュータの主な構成要素，ハードウェア

第2回 コンピュータの構成（2）
ソフトウェア（BIOS，OS，アプリケーション），インターフェース

第3回 情報表現（1）
2進数／10進数／16進数，情報量（bit/Byte），文字データの表現

第4回 情報表現（2）
数値データの表現，画像データの表現

第5回 初級プログラミング（1）
アルゴリズム

第6回 初級プログラミング（2）
データ構造とプログラムの動作の仕組み

第7回 ネットワークの仕組み（1）
ネットワークの構成，通信プロトコル

第8回 ネットワークの仕組み（2）
IPアドレス，IPネットワーク

第9回 ネットワークの仕組み（3）
DNS，メールの送受信の仕組み

第10回 情報セキュリティ（1）
ネットワークリテラシ

第11回 情報セキュリティ（2）
セキュリティ対策，暗号化技術

第12回 ビジネスと情報システム
企業の情報システム，経営戦略，インターネットビジネス

第13回 人工知能の基礎
AIの背景，仕組み，活用事例

第14回 まとめ
これまでの学習内容に関する理解度確認のための小テストを実施する

全ての授業回を全担当教員が担当。
主担当教員名はMoodle上でアナウンスする。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料をWaseda Moodle上に掲載する。

参考文献: なし

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生: 試験 60%, 平常点評価 40%
学部生: 試験 60%, 平常点評価 40%
・試験は，授業の内容の理解度確認のための小テストで評価する。
・平常点評価は，授業回ごとに用意したミニテストで評価する。

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル
・ミニテストはWaseda Moodle上でフィードバックします

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04000101|02|9S04000101[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	情報科学の基礎 02		
担 当 教 員	金光 永煥@星 健太郎@山極 綾子@邵 騰飛		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 情報技術の基礎知識と自ら調べる実践的スキル

授業概要: 情報化社会において全ての職業人が身に付けるべき情報技術（IT）に関する基礎知識について学ぶ。具体的には，コンピュータの主な構成要素，情報表現，プログラムとアルゴリズム等について例題を通して学ぶ。また，ネットワークや情報セキュリティなどの要素技術について概説する。
本科目はMoodleを通して全ての回をフルオンデマンド形式で実施する。

授業の到達目標: 1）コンピュータの主な構成要素や情報表現の基礎知識を習得する。
2）プログラムとアルゴリズムの関係・意義を理解する。
3）ネットワーク，情報セキュリティなどに関する基礎知識を習得する。

事前・事後学習の内容: 授業回ごとのミニテストを取り組むことと，授業内容に関する復習が重要である（60分）。
また，次回授業内容について，既習内容との関係を含めた確認が望まれる（30分）。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回 コンピュータの構成（1）
コンピュータの主な構成要素，ハードウェア

第2回 コンピュータの構成（2）
ソフトウェア（BIOS，OS，アプリケーション），インターフェース

第3回 情報表現（1）
2進数／10進数／16進数，情報量（bit/Byte），文字データの表現

第4回 情報表現（2）
数値データの表現，画像データの表現

第5回 初級プログラミング（1）
アルゴリズム

第6回 初級プログラミング（2）
データ構造とプログラムの動作の仕組み

第7回 ネットワークの仕組み（1）
ネットワークの構成，通信プロトコル

第8回 ネットワークの仕組み（2）
IPアドレス，IPネットワーク

第9回 ネットワークの仕組み（3）
DNS，メールの送受信の仕組み

第10回 情報セキュリティ（1）
ネットワークリテラシ

第11回 情報セキュリティ（2）
セキュリティ対策，暗号化技術

第12回 ビジネスと情報システム
企業の情報システム，経営戦略，インターネットビジネス

第13回 人工知能の基礎
AIの背景，仕組み，活用事例

第14回 まとめ
これまでの学習内容に関する理解度確認のための小テストを実施する

全ての授業回を全担当教員が担当。
主担当教員名はMoodle上でアナウンスする。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料をWaseda Moodle上に掲載する。

参考文献: なし

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生: 試験 60%, 平常点評価 40%
学部生: 試験 60%, 平常点評価 40%
・試験は，授業の内容の理解度確認のための小テストで評価する。
・平常点評価は，授業回ごとに用意したミニテストで評価する。

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル
・ミニテストはWaseda Moodle上でフィードバックします

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04000101|03|9S04000101[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	情報科学の基礎 03		
担 当 教 員	金光 永煥@星 健太郎@山極 綾子@邵 騰飛		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 情報技術の基礎知識と自ら調べる実践的スキル

授業概要: 情報化社会において全ての職業人が身に付けるべき情報技術（IT）に関する基礎知識について学ぶ。具体的には，コンピュータの主な構成要素，情報表現，プログラムとアルゴリズム等について例題を通して学ぶ。また，ネットワークや情報セキュリティなどの要素技術について概説する。
本科目はMoodleを通して全ての回をフルオンデマンド形式で実施する。

授業の到達目標: 1）コンピュータの主な構成要素や情報表現の基礎知識を習得する。
2）プログラムとアルゴリズムの関係・意義を理解する。
3）ネットワーク，情報セキュリティなどに関する基礎知識を習得する。

事前・事後学習の内容: 授業回ごとのミニテストを取り組むことと，授業内容に関する復習が重要である（60分）。
また，次回授業内容について，既習内容との関係を含めた確認が望まれる（30分）。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回 コンピュータの構成（1）
コンピュータの主な構成要素，ハードウェア

第2回 コンピュータの構成（2）
ソフトウェア（BIOS，OS，アプリケーション），インターフェース

第3回 情報表現（1）
2進数／10進数／16進数，情報量（bit/Byte），文字データの表現

第4回 情報表現（2）
数値データの表現，画像データの表現

第5回 初級プログラミング（1）
アルゴリズム

第6回 初級プログラミング（2）
データ構造とプログラムの動作の仕組み

第7回 ネットワークの仕組み（1）
ネットワークの構成，通信プロトコル

第8回 ネットワークの仕組み（2）
IPアドレス，IPネットワーク

第9回 ネットワークの仕組み（3）
DNS，メールの送受信の仕組み

第10回 情報セキュリティ（1）
ネットワークリテラシ

第11回 情報セキュリティ（2）
セキュリティ対策，暗号化技術

第12回 ビジネスと情報システム
企業の情報システム，経営戦略，インターネットビジネス

第13回 人工知能の基礎
AIの背景，仕組み，活用事例

第14回 まとめ
これまでの学習内容に関する理解度確認のための小テストを実施する

全ての授業回を全担当教員が担当。
主担当教員名はMoodle上でアナウンスする。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料をWaseda Moodle上に掲載する。

参考文献: なし

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生: 試験 60%, 平常点評価 40%
学部生: 試験 60%, 平常点評価 40%
・試験は，授業の内容の理解度確認のための小テストで評価する。
・平常点評価は，授業回ごとに用意したミニテストで評価する。

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル
・ミニテストはWaseda Moodle上でフィードバックします

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04000101|04|9S04000101[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	情報科学の基礎 04		
担 当 教 員	金光 永煥@星 健太郎@山極 綾子@邵 騰飛		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 情報技術の基礎知識と自ら調べる実践的スキル

授業概要: 情報化社会において全ての職業人が身に付けるべき情報技術（IT）に関する基礎知識について学ぶ。具体的には，コンピュータの主な構成要素，情報表現，プログラムとアルゴリズム等について例題を通して学ぶ。また，ネットワークや情報セキュリティなどの要素技術について概説する。
本科目はMoodleを通して全ての回をフルオンデマンド形式で実施する。

授業の到達目標: 1）コンピュータの主な構成要素や情報表現の基礎知識を習得する。
2）プログラムとアルゴリズムの関係・意義を理解する。
3）ネットワーク，情報セキュリティなどに関する基礎知識を習得する。

事前・事後学習の内容: 授業回ごとのミニテストを取り組むことと，授業内容に関する復習が重要である（60分）。
また，次回授業内容について，既習内容との関係を含めた確認が望まれる（30分）。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回 コンピュータの構成（1）
コンピュータの主な構成要素，ハードウェア

第2回 コンピュータの構成（2）
ソフトウェア（BIOS，OS，アプリケーション），インターフェース

第3回 情報表現（1）
2進数／10進数／16進数，情報量（bit/Byte），文字データの表現

第4回 情報表現（2）
数値データの表現，画像データの表現

第5回 初級プログラミング（1）
アルゴリズム

第6回 初級プログラミング（2）
データ構造とプログラムの動作の仕組み

第7回 ネットワークの仕組み（1）
ネットワークの構成，通信プロトコル

第8回 ネットワークの仕組み（2）
IPアドレス，IPネットワーク

第9回 ネットワークの仕組み（3）
DNS，メールの送受信の仕組み

第10回 情報セキュリティ（1）
ネットワークリテラシ

第11回 情報セキュリティ（2）
セキュリティ対策，暗号化技術

第12回 ビジネスと情報システム
企業の情報システム，経営戦略，インターネットビジネス

第13回 人工知能の基礎
AIの背景，仕組み，活用事例

第14回 まとめ
これまでの学習内容に関する理解度確認のための小テストを実施する

全ての授業回を全担当教員が担当。
主担当教員名はMoodle上でアナウンスする。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料をWaseda Moodle上に掲載する。

参考文献: なし

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生: 試験 60%, 平常点評価 40%
学部生: 試験 60%, 平常点評価 40%
・試験は，授業の内容の理解度確認のための小テストで評価する。
・平常点評価は，授業回ごとに用意したミニテストで評価する。

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル
・ミニテストはWaseda Moodle上でフィードバックします

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04000202|01|9S04000202[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング入門 01		
担 当 教 員	星 健太郎@金光 永煥@山極 綾子@邵 騰飛		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ビジュアルプログラミング言語を用いてプログラミングの基礎を学ぶ

授業概要: ビジュアルプログラミング言語（Scratch）を用いて，プログラムの作り方・仕組みを学びます。

具体的には，単元ごとにシンプルなアニメーションやゲームを実際に作成することで，変数，配列，制御構造，関数まで，プログラミングの基礎的な知識・技法の習得を目指します。

プログラミング未経験などの初学者の学生が様々なプログラミング言語の初級科目を円滑に履修する上での橋渡しとなる科目です。

本科目はWaseda Moodleを通して全ての回をフルオンデマンド形式で実施します。

授業の到達目標: 1）プログラムの作り方・仕組みを学び，プログラミングの基本的な考え方を理解する。
2）変数，配列などの基本的なデータ構造と，それを用いたデータの取扱いについて理解する。
3）条件分岐・繰り返しなど制御構造を学び，構造化プログラミングの仕方を習得する。
4）関数の定義とその活用の仕方などのプログラミング技法を習得する。

事前・事後学習の内容: 授業回ごとのミニテストや課題を取り組むとと同時に，授業内容に関する復習が肝要です。
復習にあたっては，過去数回分を遡って調べる必要もあります（60分）。
また，次回授業内容について，既習内容との関係を含めた確認が望まれます（30分）。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回： イントロダクション
Scratchのプログラミング環境の準備と基本操作について学びます。

第2回： データ構造1（変数）
スプライト間でメッセージのやり取りするプログラムを通して，メッセージの仕組みとプログラムの処理の流れを理解します。
また，スプライトを選択するゲームを作ることで変数の仕組みと使い方について学びます。

第3回： データ構造2（配列）
スプライトの順番を記憶するプログラムを作ることで，配列の仕組みと使い方について学びます。

第4回： 構造化プログラミング1（条件分岐）
ゲームを作りながら，条件によって処理を振り分ける方法（条件分岐）を学びます。

第5回： 構造化プログラミング2（繰り返し）
ゲームを作りながら，条件を満たすまで処理を繰り返す方法（繰り返し）を学びます。

第6回： 関数
スプライトの動きを関数によって定義することで，関数の定義・活用方法を学びます。

第7回： まとめ
これまでの学習内容に関する理解度確認のための小テストを実施します。

全ての授業回を全担当教員が担当します。
主となる講義担当教員名については、Waseda Moodle上でアナウンスします。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料をWaseda Moodle上で配布

参考文献: なし

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 試験 40%，平常点評価 60%

・試験は，授業の内容の理解度確認のための小テストで評価します。
・平常点評価は，授業回ごとに用意したミニテストや課題で評価します。

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル
ミニテストや課題はWaseda Moodle上でフィードバックします。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04000202|02|9S04000202[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング入門 02		
担 当 教 員	星 健太郎@金光 永煥@山極 綾子@邵 騰飛		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ビジュアルプログラミング言語を用いてプログラミングの基礎を学ぶ

授業概要: ビジュアルプログラミング言語（Scratch）を用いて，プログラムの作り方・仕組みを学びます。

具体的には，単元ごとにシンプルなアニメーションやゲームを実際に作成することで，変数，配列，制御構造，関数まで，プログラミングの基礎的な知識・技法の習得を目指します。

プログラミング未経験などの初学者の学生が様々なプログラミング言語の初級科目を円滑に履修する上での橋渡しとなる科目です。

本科目はWaseda Moodleを通して全ての回をフルオンデマンド形式で実施します。

授業の到達目標: 1）プログラムの作り方・仕組みを学び，プログラミングの基本的な考え方を理解する。
2）変数，配列などの基本的なデータ構造と，それを用いたデータの取扱いについて理解する。
3）条件分岐・繰り返しなど制御構造を学び，構造化プログラミングの仕方を習得する。
4）関数の定義とその活用の仕方などのプログラミング技法を習得する。

事前・事後学習の内容: 授業回ごとのミニテストや課題を取り組むとと同時に，授業内容に関する復習が肝要です。
復習にあたっては，過去数回分を遡って調べる必要もあります（60分）。
また，次回授業内容について，既習内容との関係を含めた確認が望まれます（30分）。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回： イントロダクション
Scratchのプログラミング環境の準備と基本操作について学びます。

第2回： データ構造1（変数）
スプライト間でメッセージのやり取りするプログラムを通して，メッセージの仕組みとプログラムの処理の流れを理解します。
また，スプライトを選択するゲームを作ることで変数の仕組みと使い方について学びます。

第3回： データ構造2（配列）
スプライトの順番を記憶するプログラムを作ることで，配列の仕組みと使い方について学びます。

第4回： 構造化プログラミング1（条件分岐）
ゲームを作りながら，条件によって処理を振り分ける方法（条件分岐）を学びます。

第5回： 構造化プログラミング2（繰り返し）
ゲームを作りながら，条件を満たすまで処理を繰り返す方法（繰り返し）を学びます。

第6回： 関数
スプライトの動きを関数によって定義することで，関数の定義・活用方法を学びます。

第7回： まとめ
これまでの学習内容に関する理解度確認のための小テストを実施します。

全ての授業回を全担当教員が担当します。
主となる講義担当教員名については、Waseda Moodle上でアナウンスします。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料をWaseda Moodle上で配布

参考文献: なし

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 試験 40%，平常点評価 60%

・試験は，授業の内容の理解度確認のための小テストで評価します。
・平常点評価は，授業回ごとに用意したミニテストや課題で評価します。

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル
ミニテストや課題はWaseda Moodle上でフィードバックします。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04000202|03|9S04000202[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング入門 03		
担 当 教 員	星 健太郎@金光 永煥@山極 綾子@邵 騰飛		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ビジュアルプログラミング言語を用いてプログラミングの基礎を学ぶ

授業概要: ビジュアルプログラミング言語（Scratch）を用いて，プログラムの作り方・仕組みを学びます。

具体的には，単元ごとにシンプルなアニメーションやゲームを実際に作成することで，変数，配列，制御構造，関数まで，プログラミングの基礎的な知識・技法の習得を目指します。

プログラミング未経験などの初学者の学生が様々なプログラミング言語の初級科目を円滑に履修する上での橋渡しとなる科目です。

本科目はWaseda Moodleを通して全ての回をフルオンデマンド形式で実施します。

授業の到達目標: 1）プログラムの作り方・仕組みを学び，プログラミングの基本的な考え方を理解する。
2）変数，配列などの基本的なデータ構造と，それを用いたデータの取扱いについて理解する。
3）条件分岐・繰り返しなど制御構造を学び，構造化プログラミングの仕方を習得する。
4）関数の定義とその活用の仕方などのプログラミング技法を習得する。

事前・事後学習の内容: 授業回ごとのミニテストや課題を取り組むとと同時に，授業内容に関する復習が肝要です。
復習にあたっては，過去数回分を遡って調べる必要もあります（60分）。
また，次回授業内容について，既習内容との関係を含めた確認が望まれます（30分）。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回： イントロダクション
Scratchのプログラミング環境の準備と基本操作について学びます。

第2回： データ構造1（変数）
スプライト間でメッセージのやり取りするプログラムを通して，メッセージの仕組みとプログラムの処理の流れを理解します。
また，スプライトを選択するゲームを作ることで変数の仕組みと使い方について学びます。

第3回： データ構造2（配列）
スプライトの順番を記憶するプログラムを作ることで，配列の仕組みと使い方について学びます。

第4回： 構造化プログラミング1（条件分岐）
ゲームを作りながら，条件によって処理を振り分ける方法（条件分岐）を学びます。

第5回： 構造化プログラミング2（繰り返し）
ゲームを作りながら，条件を満たすまで処理を繰り返す方法（繰り返し）を学びます。

第6回： 関数
スプライトの動きを関数によって定義することで，関数の定義・活用方法を学びます。

第7回： まとめ
これまでの学習内容に関する理解度確認のための小テストを実施します。

全ての授業回を全担当教員が担当します。
主となる講義担当教員名については、Waseda Moodle上でアナウンスします。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料をWaseda Moodle上で配布

参考文献: なし

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 試験 40%，平常点評価 60%

・試験は，授業の内容の理解度確認のための小テストで評価します。
・平常点評価は，授業回ごとに用意したミニテストや課題で評価します。

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル
ミニテストや課題はWaseda Moodle上でフィードバックします。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04000202|04|9S04000202[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング入門 04		
担 当 教 員	星 健太郎@金光 永煥@山極 綾子@邵 騰飛		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ビジュアルプログラミング言語を用いてプログラミングの基礎を学ぶ

授業概要: ビジュアルプログラミング言語（Scratch）を用いて，プログラムの作り方・仕組みを学びます。

具体的には，単元ごとにシンプルなアニメーションやゲームを実際に作成することで，変数，配列，制御構造，関数まで，プログラミングの基礎的な知識・技法の習得を目指します。

プログラミング未経験などの初学者の学生が様々なプログラミング言語の初級科目を円滑に履修する上での橋渡しとなる科目です。

本科目はWaseda Moodleを通して全ての回をフルオンデマンド形式で実施します。

授業の到達目標: 1）プログラムの作り方・仕組みを学び，プログラミングの基本的な考え方を理解する。
2）変数，配列などの基本的なデータ構造と，それを用いたデータの取扱いについて理解する。
3）条件分岐・繰り返しなど制御構造を学び，構造化プログラミングの仕方を習得する。
4）関数の定義とその活用の仕方などのプログラミング技法を習得する。

事前・事後学習の内容: 授業回ごとのミニテストや課題を取り組むとと同時に，授業内容に関する復習が肝要です。
復習にあたっては，過去数回分を遡って調べる必要もあります（60分）。
また，次回授業内容について，既習内容との関係を含めた確認が望まれます（30分）。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回： イントロダクション
Scratchのプログラミング環境の準備と基本操作について学びます。

第2回： データ構造1（変数）
スプライト間でメッセージのやり取りするプログラムを通して，メッセージの仕組みとプログラムの処理の流れを理解します。
また，スプライトを選択するゲームを作ることで変数の仕組みと使い方について学びます。

第3回： データ構造2（配列）
スプライトの順番を記憶するプログラムを作ることで，配列の仕組みと使い方について学びます。

第4回： 構造化プログラミング1（条件分岐）
ゲームを作りながら，条件によって処理を振り分ける方法（条件分岐）を学びます。

第5回： 構造化プログラミング2（繰り返し）
ゲームを作りながら，条件を満たすまで処理を繰り返す方法（繰り返し）を学びます。

第6回： 関数
スプライトの動きを関数によって定義することで，関数の定義・活用方法を学びます。

第7回： まとめ
これまでの学習内容に関する理解度確認のための小テストを実施します。

全ての授業回を全担当教員が担当します。
主となる講義担当教員名については、Waseda Moodle上でアナウンスします。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料をWaseda Moodle上で配布

参考文献: なし

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 試験 40%，平常点評価 60%

・試験は，授業の内容の理解度確認のための小テストで評価します。
・平常点評価は，授業回ごとに用意したミニテストや課題で評価します。

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル
ミニテストや課題はWaseda Moodle上でフィードバックします。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04000203|01|9S04000203[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to Programming 01		
担 当 教 員	邵 騰飛@金光 永煥@星 健太郎@山極 綾子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：
In this class, students learn how to create programs and how they work by using a visual programming language(Scratch).
Specifically, by creating simple animations and games for each unit, students aim to acquire basic knowledge and techniques of programming, including variables, arrays, control structures, and functions.
This course serves as a bridge for students with no prior experience in programming to smoothly complete introductory courses in various programming languages.

授業の到達目標：
(1) To learn how to make programs and how they work, and to understand the basic concepts of programming.
(2) To understand basic data structures such as variables and arrays, and how to handle data by using them.
(3) Students will learn about control structures such as conditional branching, repetition, and acquire methods of structured programming.
(4) To acquire programming techniques such as function definitions and how to utilize them.

事前・事後学習の内容：
It is important to review the contents of the class (mainly confirmatory exercises).
It is desirable to review the contents of the next class, including the relationship between the contents of the next class and the ones already taught.

授業計画フリー入力サイン：
1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
Part1: Introduction
Students learn how to set up and operate the Scratch programming environment, the flow of program creation and execution, and how to save programs.

Part 2: The Flow of Program Processing
Students will understand how messages work and how programs process messages through programs that exchange messages between sprites.

Part 3: Data Structure (Variables, Arrays)
Students learn about how variables work and how to use them by creating a game of catching fish.
And students learn about the mechanics and use of arrays by creating a program that remembers the order of fruits.

Part 4: Structured Programming 1 (Conditional Branching)
Students learn how to allocate processes according to conditions (conditional branching) while making a guessing game.

Part 5: Structured Programming 2 (Repetition)
Students learn how to create a game of falling objects and repeat the process until the conditions are met (repetition).

Part 6: Functions
Students learn how to define and use functions through a program that draws original patterns.

Part 7: Summary
Students will take a mini-test to check their understanding of what they have learned so far.

※全ての授業回を全担当教員が担当。
※主担当教員名はMoodle上でアナウンスする。

言語区分： 0 英語 English

成績評価フリー入力サイン：
1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：
Undergraduate, master, and doctoral students will be graded according to the following grading procedures.
60%---Evaluate to understand of the learning objectives with mini-test.
40%---Students will be evaluated on their approach to the mini-tests prepared for each class session.

備考・関連URL:　グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04000203|02|9S04000203[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to Programming 02		
担 当 教 員	邵 騰飛@金光 永煥@星 健太郎@山極 綾子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：
In this class, students learn how to create programs and how they work by using a visual programming language(Scratch).
Specifically, by creating simple animations and games for each unit, students aim to acquire basic knowledge and techniques of programming, including variables, arrays, control structures, and functions.This course serves as a bridge for students with no prior experience in programming to smoothly complete introductory courses in various programming languages.

授業の到達目標：
(1) To learn how to make programs and how they work, and to understand the basic concepts of programming.
(2) To understand basic data structures such as variables and arrays, and how to handle data by using them.
(3) Students will learn about control structures such as conditional branching, repetition, and acquire methods of structured programming.
(4) To acquire programming techniques such as function definitions and how to utilize them.

事前・事後学習の内容：
It is important to review the contents of the class (mainly confirmatory exercises).
It is desirable to review the contents of the next class, including the relationship between the contents of the next class and the ones already taught.

授業計画フリー入力サイン：
1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
Part1: Introduction
Students learn how to set up and operate the Scratch programming environment, the flow of program creation and execution, and how to save programs.

Part 2: The Flow of Program Processing
Students will understand how messages work and how programs process messages through programs that exchange messages between sprites.

Part 3: Data Structure (Variables, Arrays)
Students learn about how variables work and how to use them by creating a game of catching fish.
And students learn about the mechanics and use of arrays by creating a program that remembers the order of fruits.

Part 4: Structured Programming 1 (Conditional Branching)
Students learn how to allocate processes according to conditions (conditional branching) while making a guessing game.

Part 5: Structured Programming 2 (Repetition)
Students learn how to create a game of falling objects and repeat the process until the conditions are met (repetition).

Part 6: Functions
Students learn how to define and use functions through a program that draws original patterns.

Part 7: Summary
Students will take a mini-test to check their understanding of what they have learned so far.

※全ての授業回を全担当教員が担当。
※主担当教員名はMoodle上でアナウンスする。

言語区分： 0 英語 English

成績評価フリー入力サイン：
1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：
Undergraduate, master, and doctoral students will be graded according to the following grading procedures.
60%---Evaluate to understand of the learning objectives with mini-test.
40%---Students will be evaluated on their approach to the mini-tests prepared for each class session.

備考・関連URL:　グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04000203|03|9S04000203[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to Programming 03		
担 当 教 員	邵 騰飛@金光 永煥@星 健太郎@山極 綾子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：
In this class, students learn how to create programs and how they work by using a visual programming language(Scratch).
Specifically, by creating simple animations and games for each unit, students aim to acquire basic knowledge and techniques of programming, including variables, arrays, control structures, and functions.This course serves as a bridge for students with no prior experience in programming to smoothly complete introductory courses in various programming languages.

授業の到達目標：
(1) To learn how to make programs and how they work, and to understand the basic concepts of programming.
(2) To understand basic data structures such as variables and arrays, and how to handle data by using them.
(3) Students will learn about control structures such as conditional branching, repetition, and acquire methods of structured programming.
(4) To acquire programming techniques such as function definitions and how to utilize them.

事前・事後学習の内容：
It is important to review the contents of the class (mainly confirmatory exercises).
It is desirable to review the contents of the next class, including the relationship between the contents of the next class and the ones already taught.

授業計画フリー入力サイン：
1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
Part1: Introduction
Students learn how to set up and operate the Scratch programming environment, the flow of program creation and execution, and how to save programs.

Part 2: The Flow of Program Processing
Students will understand how messages work and how programs process messages through programs that exchange messages between sprites.

Part 3: Data Structure (Variables, Arrays)
Students learn about how variables work and how to use them by creating a game of catching fish.
And students learn about the mechanics and use of arrays by creating a program that remembers the order of fruits.

Part 4: Structured Programming 1 (Conditional Branching)
Students learn how to allocate processes according to conditions (conditional branching) while making a guessing game.

Part 5: Structured Programming 2 (Repetition)
Students learn how to create a game of falling objects and repeat the process until the conditions are met (repetition).

Part 6: Functions
Students learn how to define and use functions through a program that draws original patterns.

Part 7: Summary
Students will take a mini-test to check their understanding of what they have learned so far.

※全ての授業回を全担当教員が担当。
※主担当教員名はMoodle上でアナウンスする。

言語区分： 0 英語 English

成績評価フリー入力サイン：
1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：
Undergraduate, master, and doctoral students will be graded according to the following grading procedures.
60%---Evaluate to understand of the learning objectives with mini-test.
40%---Students will be evaluated on their approach to the mini-tests prepared for each class session.

備考・関連URL:　グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04000203|04|9S04000203[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Introduction to Programming 04		
担 当 教 員	邵 騰飛@金光 永煥@星 健太郎@山極 綾子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（英語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：
In this class, students learn how to create programs and how they work by using a visual programming language(Scratch).
Specifically, by creating simple animations and games for each unit, students aim to acquire basic knowledge and techniques of programming, including variables, arrays, control structures, and functions.This course serves as a bridge for students with no prior experience in programming to smoothly complete introductory courses in various programming languages.

授業の到達目標：
(1) To learn how to make programs and how they work, and to understand the basic concepts of programming.
(2) To understand basic data structures such as variables and arrays, and how to handle data by using them.
(3) Students will learn about control structures such as conditional branching, repetition, and acquire methods of structured programming.
(4) To acquire programming techniques such as function definitions and how to utilize them.

事前・事後学習の内容：
It is important to review the contents of the class (mainly confirmatory exercises).
It is desirable to review the contents of the next class, including the relationship between the contents of the next class and the ones already taught.

授業計画フリー入力サイン：
1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
Part1: Introduction
Students learn how to set up and operate the Scratch programming environment, the flow of program creation and execution, and how to save programs.

Part 2: The Flow of Program Processing
Students will understand how messages work and how programs process messages through programs that exchange messages between sprites.

Part 3: Data Structure (Variables, Arrays)
Students learn about how variables work and how to use them by creating a game of catching fish.
And students learn about the mechanics and use of arrays by creating a program that remembers the order of fruits.

Part 4: Structured Programming 1 (Conditional Branching)
Students learn how to allocate processes according to conditions (conditional branching) while making a guessing game.

Part 5: Structured Programming 2 (Repetition)
Students learn how to create a game of falling objects and repeat the process until the conditions are met (repetition).

Part 6: Functions
Students learn how to define and use functions through a program that draws original patterns.

Part 7: Summary
Students will take a mini-test to check their understanding of what they have learned so far.

※全ての授業回を全担当教員が担当。
※主担当教員名はMoodle上でアナウンスする。

言語区分： 0 英語 English

成績評価フリー入力サイン：
1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：
Undergraduate, master, and doctoral students will be graded according to the following grading procedures.
60%---Evaluate to understand of the learning objectives with mini-test.
40%---Students will be evaluated on their approach to the mini-tests prepared for each class session.

備考・関連URL:　グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04000222|02|9S04000222[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング初級（C/C++） 02		
担 当 教 員	金光 永煥@星 健太郎@山極 綾子@邵 騰飛		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本講義では，C言語でのプログラム作成から実行までの基本的な流れを学ぶ．
また，演算・入出力処理やデータ形式などに関する基礎知識を実習を通して学ぶ．
加えて、基本的な制御構造（条件分岐，繰り返し）、データ構造（配列）についても実践的な例題を通じて学習する．
本講義はWaseda Moodleを通じて全ての回をフルオンデマンドで行う．

授業の到達目標: ・プログラム作成から実行までの基本的な流れを理解する
・データ形式とその扱い方を理解する
・制御構造について理解し，簡単なアルゴリズムのプログラムを理解する
・関数・ポインタ・構造体についても導入として基礎的な考え方や基礎知識を理解する

事前・事後学習の内容: 授業内容に関する復習が重要である．
また，次回授業内容について，既習内容との関係を含めた確認が望まれる．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ※本講義はクオーター期間に実施する2単位分の講義になります。

第1回
イントロダクション，C言語とは
本講義の趣旨や進め方，本講義で取り扱うC言語によるプログラミングの基本操作について説明する

第2回
C言語の書き方の基本
C言語の仕組みや成り立ち等といった基礎的な知識を紹介する

第3回
コンパイル・実行、演算
また、定数同士の計算（四則演算）といった基本的な演算

第4回
変数
C言語で扱う変数について説明する

第5回
分岐処理（制御構造）
if, else, else if, switchといった分岐処理に関する基礎知識について説明する

第6回
繰り返し（制御構造）
for, whileといった繰り返し処理に関する基礎知識について説明する

第7回
繰り返しの応用（制御構造）
また、for, whileといった繰り返し処理に関する応用について説明する

第8回
配列
配列の作成・表示について説明する

第9回
関数
関数の作成や流れ，基本的な書き方（関数の呼び出し・引数・戻り値）について説明する

第10回
構造体、ポインタ
構造体やポインタについて説明する

第11回
総合的なプログラム作成にあたっての思考
目的に応じたプログラムを作成するための考え方について説明する

第12回
総合的なプログラムの作成
これまで学んだ内容を組み合わせたプログラムを作成に取り組む

第13回
自由なプログラムの作成
これまで学んだ内容を組み合わせて自身が考えるプログラム作成に取り組む

第14回
これまでの講義内容に関する理解度確認のための小テストを行う

より詳しい授業内容・進め方等は第一回のガイダンスに従ってください。

※全ての授業回を全担当教員が担当。
※主担当教員名はMoodle上でアナウンスする。

言語区分: 0 日本語 Japanese

参考文献: ・スラスラわかるC言語 第2版, 岡嶋 裕史 (著), 出版社: 翔泳社; 第2版 (2017/10/24)
・やさしいC 第5版 , 高橋 麻奈 (著), 出版社: SBクリエイティブ; 第5版 (2017/6/14)

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 学部生・大学院生共に以下の評価に基づいて成績評価を行う。
試験:40% 学習の到達目標に関する理解度確認のための小テストで評価する
平常点:60% 授業回ごとに用意したミニテスト等の課題で評価する

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04000222|04|9S04000222[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング初級（C/C++） 04		
担 当 教 員	金光 永煥@星 健太郎@山極 綾子@邵 騰飛		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本講義では，C言語でのプログラム作成から実行までの基本的な流れを学ぶ．
また，演算・入出力処理やデータ形式などに関する基礎知識を実習を通して学ぶ．
加えて、基本的な制御構造（条件分岐，繰り返し）、データ構造（配列）についても実践的な例題を通じて学習する．
本講義はWaseda Moodleを通じて全ての回をフルオンデマンドで行う．

授業の到達目標: ・プログラム作成から実行までの基本的な流れを理解する
・データ形式とその扱い方を理解する
・制御構造について理解し，簡単なアルゴリズムのプログラムを理解する
・関数・ポインタ・構造体についても導入として基礎的な考え方や基礎知識を理解する

事前・事後学習の内容: 授業内容に関する復習が重要である．
また，次回授業内容について，既習内容との関係を含めた確認が望まれる．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ※本講義はクオーター期間に実施する2単位分の講義になります。

第1回
イントロダクション，C言語とは
本講義の趣旨や進め方，本講義で取り扱うC言語によるプログラミングの基本操作について説明する

第2回
C言語の書き方の基本
C言語の仕組みや成り立ち等といった基礎的な知識を紹介する

第3回
コンパイル・実行、演算
また、定数同士の計算（四則演算）といった基本的な演算

第4回
変数
C言語で扱う変数について説明する

第5回
分岐処理（制御構造）
if, else, else if, switchといった分岐処理に関する基礎知識について説明する

第6回
繰り返し（制御構造）
for, whileといった繰り返し処理に関する基礎知識について説明する

第7回
繰り返しの応用（制御構造）
また、for, whileといった繰り返し処理に関する応用について説明する

第8回
配列
配列の作成・表示について説明する

第9回
関数
関数の作成や流れ，基本的な書き方（関数の呼び出し・引数・戻り値）について説明する

第10回
構造体、ポインタ
構造体やポインタについて説明する

第11回
総合的なプログラム作成にあたっての思考
目的に応じたプログラムを作成するための考え方について説明する

第12回
総合的なプログラムの作成
これまで学んだ内容を組み合わせたプログラムを作成に取り組む

第13回
自由なプログラムの作成
これまで学んだ内容を組み合わせて自身が考えるプログラム作成に取り組む

第14回
これまでの講義内容に関する理解度確認のための小テストを行う

より詳しい授業内容・進め方等は第一回のガイダンスに従ってください。

※全ての授業回を全担当教員が担当。
※主担当教員名はMoodle上でアナウンスする。

言語区分: 0 日本語 Japanese

参考文献: ・スラスラわかるC言語 第2版, 岡嶋 裕史 (著), 出版社: 翔泳社; 第2版 (2017/10/24)
・やさしいC 第5版 , 高橋 麻奈 (著), 出版社: SBクリエイティブ; 第5版 (2017/6/14)

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 学部生・大学院生共に以下の評価に基づいて成績評価を行う。
試験:40% 学習の到達目標に関する理解度確認のための小テストで評価する
平常点:60% 授業回ごとに用意したミニテスト等の課題で評価する

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04000223|02|9S04000223[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング初級（Java） 02		
担 当 教 員	金光 永煥@星 健太郎@山極 綾子@邵 騰飛		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: Java言語によるプログラミングの基礎

授業概要: Java言語を使用してプログラム作成から実行までの基本的な流れ，プログラミングに使用するソフトウェア（テキストエディタ，コンソール，コンパイラ）の操作方法について学ぶ。その上で，演算／入出力処理やデータ形式などに関する基礎知識を，実習を通して学ぶ。また，簡単なアルゴリズムを基に，基本的な制御構造（条件分岐，繰り返し），データ構造（配列）を理解する。あわせて，オブジェクト指向の基礎，クラスの定義や継承についても触れる。本授業はMoodleを通して全ての回をフルオンデマンド形式で実施する科目である。

授業の到達目標: ・プログラミングの基本的な流れ，関連するソフトウェアの操作などを習得する
・データ形式，データ構造を理解し，それらのデータの扱い方を習得する
・制御構造，関数を理解し，簡単なアルゴリズムのプログラムを理解する
・標準ライブラリの使用方法を習得する

事前・事後学習の内容: 授業回ごとのミニテストや課題を取り組むとと同時に，授業内容に関する復習が重要である。復習にあたっては，過去数回分を遡って調べる必要もある（90分）。
また，次回授業内容について，既習内容との関係を含めた確認が望まれる（30分）。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回 プログラミングの流れ，演算（算術演算子の使い方）
コンパイルと実行，四則演算，剰余，単項演算子，文字・文字列の演算

第2回 変数（データの保管と参照，変数を使った演算）
変数の宣言，値の代入・参照，代入演算子の使い方

第3回 様々なデータ型・型変換（キャスト）
データ型の種類，宣言の仕方，データ型ごとの演算とその結果

第4回 制御構造（1）
条件分岐（if文による分岐処理，比較演算子）

第5回 制御構造（2）
条件分岐（switch/case文とbreak文による制御）

第6回 制御構造（3）
繰り返し処理（for文による繰り返し）

第7回 制御構造（4）
繰り返し処理（while文による繰り返し，二重ループ）

第8回 配列
一次元配列の宣言（定義），値の代入・参照の仕方や，二次元配列の宣言と構造，行列の加算／乗算

第9回 入出力処理
データ型に基づく入力処理と入力データを使った演算・出力方法

第10回 標準ライブラリ
Javaで用意されている各種ライブラリの使い方

第11回 オブジェクト指向への導入（1）
オブジェクト指向の考え方，オブジェクト間のメッセージのやりとり，モデリングの仕方

第12回 オブジェクト指向への導入（2）
クラスの定義，フィールドとメソッド，インスタンスの生成

第13回 オブジェクト指向への導入（3）
コンストラクタの使い方，クラスの継承・メソッドのオーバーライド

第14回 まとめ
これまでの講義内容に関する理解度確認のための小テスト

全ての授業回を全担当教員が担当。
主担当教員名はMoodle上でアナウンスする。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料をWaseda Moodle上で配布する。

参考文献: ・スッキリわかるJava入門 第3版, 中山 清喬, 国本 大悟, インプレス, 2019.

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生: 試験 40%, 平常点評価 60%
学部生: 試験 40%, 平常点評価 60%
・試験は, 授業の内容の理解度確認のための小テストで評価する。
・平常点評価は, 授業回ごとに用意したミニテストや課題で評価する。

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル
・ミニテストや課題はWaseda Moodle上でフィードバックします。実習課題はコメント文とともにフィードバックします

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04000223|04|9S04000223[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング初級（Java） 04		
担 当 教 員	金光 永煥@星 健太郎@山極 綾子@邵 騰飛		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: Java言語によるプログラミングの基礎

授業概要: Java言語を使用してプログラム作成から実行までの基本的な流れ，プログラミングに使用するソフトウェア（テキストエディタ，コンソール，コンパイラ）の操作方法について学ぶ。その上で，演算／入出力処理やデータ形式などに関する基礎知識を，実習を通して学ぶ。また，簡単なアルゴリズムを基に，基本的な制御構造（条件分岐，繰り返し），データ構造（配列）を理解する。あわせて，オブジェクト指向の基礎，クラスの定義や継承についても触れる。本授業はMoodleを通して全ての回をフルオンデマンド形式で実施する科目である。

授業の到達目標: ・プログラミングの基本的な流れ，関連するソフトウェアの操作などを習得する
・データ形式，データ構造を理解し，それらのデータの扱い方を習得する
・制御構造，関数を理解し，簡単なアルゴリズムのプログラムを理解する
・標準ライブラリの使用方法を習得する

事前・事後学習の内容: 授業回ごとのミニテストや課題を取り組むとと同時に，授業内容に関する復習が重要である。復習にあたっては，過去数回分を遡って調べる必要もある（90分）。
また，次回授業内容について，既習内容との関係を含めた確認が望まれる（30分）。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回 プログラミングの流れ，演算（算術演算子の使い方）
コンパイルと実行，四則演算，剰余，単項演算子，文字・文字列の演算

第2回 変数（データの保管と参照，変数を使った演算）
変数の宣言，値の代入・参照，代入演算子の使い方

第3回 様々なデータ型・型変換（キャスト）
データ型の種類，宣言の仕方，データ型ごとの演算とその結果

第4回 制御構造（1）
条件分岐（if文による分岐処理，比較演算子）

第5回 制御構造（2）
条件分岐（switch/case文とbreak文による制御）

第6回 制御構造（3）
繰り返し処理（for文による繰り返し）

第7回 制御構造（4）
繰り返し処理（while文による繰り返し，二重ループ）

第8回 配列
一次元配列の宣言（定義），値の代入・参照の仕方や，二次元配列の宣言と構造，行列の加算／乗算

第9回 入出力処理
データ型に基づく入力処理と入力データを使った演算・出力方法

第10回 標準ライブラリ
Javaで用意されている各種ライブラリの使い方

第11回 オブジェクト指向への導入（1）
オブジェクト指向の考え方，オブジェクト間のメッセージのやりとり，モデリングの仕方

第12回 オブジェクト指向への導入（2）
クラスの定義，フィールドとメソッド，インスタンスの生成

第13回 オブジェクト指向への導入（3）
コンストラクタの使い方，クラスの継承・メソッドのオーバーライド

第14回 まとめ
これまでの講義内容に関する理解度確認のための小テスト

全ての授業回を全担当教員が担当。
主担当教員名はMoodle上でアナウンスする。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義用資料をWaseda Moodle上で配布する。

参考文献: ・スッキリわかるJava入門 第3版, 中山 清喬, 国本 大悟, インプレス, 2019.

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 大学院生: 試験 40%, 平常点評価 60%
学部生: 試験 40%, 平常点評価 60%
・試験は, 授業の内容の理解度確認のための小テストで評価する。
・平常点評価は, 授業回ごとに用意したミニテストや課題で評価する。

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル
・ミニテストや課題はWaseda Moodle上でフィードバックします。実習課題はコメント文とともにフィードバックします

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010121|01|9S04010121[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	UNIX入門 O1		
担 当 教 員	佐藤 健		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: はじめてのOpenSystemの世界

授業概要: 主に初級者ユーザという立場からUNIXシステムの利用方法について学びます．UNIX系のシステムでは多くのコマンドやフリーソフトウェアが利用可能です。欧米では、オープンソースの利点（無料である）を利用して、リテラシー教育に用いられます。初歩的なレベルから科学技術計算などのアプリケーションも利用できる環境が整っています．授業では、インストールから可能な限りテキスト処理，マルチメディアファイルの管理など多種多様なもの扱う予定です．授業を通して、オペレーションシステムやオープンソースを支援する企業活動などに興味を持ってもらいたいです． 利用するオペレーションシステムは、Linux系のOSです。持ち込む機器によって変更することがあります。

授業の到達目標: ターミナルソフトを用いて、授業環境にスムーズにログインできるようになること。基本的なコマンドを利用できるようになること。さらにエディタを使って簡単な文字列の入力・編集ができるようになることを目標とします。したがって、ツールとしてUNIX/LinuxのOSと，周辺のアプリケーション群を使い、インストールデモンストレーションから各種アプリケーションの応用までデスクトップ環境の利用をおこないます．コンピュータネットワークの仕組みがより理解できることを目標にします.ただし、機材の準備状況によっては、座学の時間を多くとります。

事前・事後学習の内容: 事前学修として、Moodleの小テストに回答（授業回どとの調べながらおよそ1時間程度）
事後学修として、Mooldeのレポートに回答（授業回ごとの実際のオペレーションの記録提出などのファイル操作に1時間程度）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション

本授業の概要・目的・目標や、本授業の進め方、レポート、試験の扱いなどの説明、教室設備の確認

第2回 選択肢としてのUNIX

UNIXが私たちの情報システムのどのあたりに使われているか紹介します。いろいろなコンピュータ関係の資料を見てもらいます

第3回 UNIXとマイクロソフトウィンドウズ

授業環境のWindowsシステムにもUNIXに似たコマンドや仕組みがあります。成り立ちやそれぞれの背景を知ることで情報システムの発展について理解しましょう。

第4回 インストールの実際

教室で、実際にフォーマットすることろからインストールのデモンストレーションを行います。時間内に終わらなくて失敗することもあります。
デスクトップ環境とウィンドウシステムを見てもらうところまでを授業内容の目標にしています。

第5回 オンデマンド（UNIXの導入されている事例研究）

各自でUNIX/Linuxが利用されている事例を調べてレポートを作成し、コースナビに提出します。

第6回 アプリケーションの活用

インストールされた授業環境のシステムにアプリケーションの追加やセキュリティパッチを充てるデモンストレーションを見てもらいます。

第7回 ユーザー登録

入学したときにもらえるIDとパスワードを手動で作成するとどのような手順となるのか、実際に自分のパスワードを自分で作成します。

第8回 リモートアクセス

ターミナルソフト（TeraTrem）を用いて、基本的なコマンドとファイルの操作と管理について学習します。

第9回 GUIとCUI

アイコンではないキャラクターベースのコマンドの入出力の練習を行います。現代でも利用できるPCスキルの元祖について体験してみましょう。

第10回　基本コマンド実習
システム調査の中間発表（Moodleを用いたオンデマンド週とします）
第11回　エディタの利用
マイクロソフトウィンドウズでいうメモ帳のもっとシンプルな編集ソフトの利用方法について学習します。
受講生のスキルによっては、各自でWEBページを手入力して作成してもらいます。
第12回　シェルについて
エディタとコマンドを用いて、簡単なシェルプログラムについて体験します。
第13回　WEBシステムの基本構造
UNIXサーバー環境をもちいたWEBシステムの基本を学習します。
第14回　施設見学と課題提出
プレゼンテーションソフト（パワーポイント等）を用いて、UNIXオペレーションシステムにういて課題を作成します。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 別途教場で提示します。
インターネット上のコンテンツを利用する予定です。

参考文献: 適宜、教場で指示します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	行わない
レポート:	40	授業期間内の課題としてレポートを作成します。基本的OSとしての機能の違いなどについて授業時で経験したことを記述されているか評価の対象とします。 期末レポート：20%、中間評価：20%（授業時の課題）
平常点評価:	60	Moodleを用いて、知識を確認する小テストを毎週行います。自宅学習、準備学習時間を確保しているか評価します。 小テスト（60%）に回答しましょう。
その他:	0	教育実習等、不在時が続く場合は、事前に申し出てください。

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

授業回ごとに、質問等に対応します。Moodleの課題へのコメントを入れたり、コミュニケーションツールを使って、授業時以外にもフィードバックする。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010121|02|9S04010121[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	UNIX入門 02		
担 当 教 員	佐藤 健		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： はじめてのOpenSystemの世界

授業概要： 主に初級者ユーザという立場からUNIXシステムの利用方法について学びます．UNIX系のシステムでは多くのコマンドやフリーソフトウェアが利用可能です。欧米では、オープンソースの利点（無料である）を利用して、リテラシー教育に用いられます。初歩的なレベルから科学技術計算などのアプリケーションも利用できる環境が整っています．授業では、インストールから可能な限りテキスト処理，マルチメディアファイルの管理など多種多様なもの扱う予定です．授業を通して、オペレーションシステムやオープンソースを支援する企業活動などに興味を持ってもらいたいです． 利用するオペレーションシステムは、Linux系のOSです。持ち込む機器によって変更することがあります。

授業の到達目標： ターミナルソフトを用いて、授業環境にスムーズにログインできるようになること。基本的なコマンドを利用できるようになること。さらにエディタを使って簡単な文字列の入力・編集ができるようになることを目標とします。したがって、ツールとしてUNIX/LinuxのOSと，周辺のアプリケーション群を使い、インストールデモンストレーションから各種アプリケーションの応用までデスクトップ環境の利用をおこないます．コンピュータネットワークの仕組みがより理解できることを目標にします.ただし、機材の準備状況によっては、座学の時間を多くとります。

事前・事後学習の内容： 事前学修として、Moodleの小テストに回答（授業回ごとに調べながらおよそ1時間程度）
事後学修として、Mooldeのレポートに回答（授業回ごとの実際のオペレーションの記録提出などのファイル操作におよそ1時間程度）

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーション
本授業の概要・目的・目標や、本授業の進め方、レポート、教室設備の確認

第2回 選択肢としてのUNIX
UNIXが私たちの情報システムのどのあたりに使われているか紹介します

第3回 UNIXとマイクロソフトウィンドウズ
授業環境のWindowsシステムにもUNIXに似たコマンドや仕組みがあります。成り立ちやそれぞれの背景を知ることで情報システムの発展について理解しましょう。

第4回 インストールの実際
教室で、実際にフォーマットすることろからインストールのデモンストレーションを行います。時間内に終わらなくて失敗することもあります。
デスクトップ環境とウィンドウシステムを見てもらうところまでを授業内容の目標にしています。

第5回 オンデマンド（UNIXの導入されている事例研究）
各自でUNIX/Linuxが利用されている事例を調べてレポートを作成し、コースナビに提出します。

第6回 アプリケーションの活用
インストールされた授業環境のシステムにアプリケーションの追加やセキュリティパッチを充てるデモンストレーションを見てもらいます。

第7回 ユーザー登録
入学したときにもらえるIDとパスワードを手動で作成するとどのような手順となるのか、実際に自分のパスワードを自分で作成します。

第8回 リモートアクセス
ターミナルソフト（TeraTrem）を用いて、基本的なコマンドとファイルの操作と管理について学習します。

第9回 GUIとCUI
アイコンではないキャラクターベースのコマンドの入出力の練習を行います。現代でも利用できるPCスキルの元祖について体験してみましょう。

第10回 基本コマンド実習
システム調査の中間発表（Moodleを用いたオンデマンド週とします）

第１１回　エディタの利用
マイクロソフトウィンドウズでいうメモ帳のもっとシンプルな編集ソフトの利用方法について学習します。
受講生のスキルによっては、各自でWEBページを手入力して作成してもらいます。
第１２回　シェルについて
エディタとコマンドを用いて、簡単なシェルプログラムについて体験します。
第１３回　WEBシステムの基本構造
UNIXサーバー環境をもちいたWEBシステムの基本を学習します。
第１４回　施設見学と課題提出
プレゼンテーションソフト（パワーポイント等）を用いて、UNIXオペレーションシステムにういて課題を作成します。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　別途教場で提示します。
インターネット上のコンテンツを利用する予定です。

参考文献：　適宜、教場で指示します。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	0	行わない
レポート：	40	授業期間内の課題としてレポートを作成します。基本的OSとしての機能の違いなどについて授業時で経験したことを記述されているか評価の対象とします。 期末レポート：20%、中間評価：20%（授業時の課題）
平常点評価：	60	Moodleを用いて、知識を確認する小テストを毎週行います。自宅学習、準備学習時間を確保しているか評価します。 小テスト（60%）に回答しましょう。
その他：	0	教育実習等、不在時が続く場合は、事前に申し出てください。

備考・関連URL：　グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

授業回ごとに、質問等に対応します。Moodleの課題へのコメントを入れたり、コミュニケーションツールを使って、授業時以外にもフィードバックする。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010122|01|9S04010122[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ネットワーク技術初級 O1		
担 当 教 員	多田 武丸		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	オンライン】ハイブリッド（対面回数半数未満
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: インターネットの仕組みを知ろう

授業概要: ※この講義は夏期集中オンデマンド方式で実施されます。
※全日程の内、最終日の修了試験のみ教場で実施予定で、それ以外はすべてMoodle上のオンデマンド形式で実施します。

本講義では以下の3分野
・情報工学 (Computer Science and Engineering)
・通信工学 (Telecommunications Engineering)
・電気電子工学 (Electrical and Electronics Engineering)
にまたがるネットワーク通信の仕組みの基礎について学びます。

現在の私たちの生活には、電子メールやWWWによる情報収集などのインターネットが提供してくれる各種サービスは必要不可欠なものとなってきています。
この講義ではこれらサービスがどのように実現されているのか、インターネットの仕組みの概要を把握することが目的となります。おもに以下の内容を取り扱います。

・コンピュータの基本的な仕組み
・ネットワークとは何か？またその役割
・通信するために必要な物理アドレスと論理アドレス
・広く普及した通信規格イーサネット
・ネットワークをつなぐルータの役割
・通信ケーブルの種類
・IPアドレスの仕組み
・インターネットで提供されている各種サービス
・異なる技術の共存を可能にする階層モデル
・DNSによる名前解決の仕組み
・電子メールとWWW（ホームページ）

オンデマンド教材を1回見ただけではよくわからないこともあるでしょう。
要所を何度も見直したり、積極的にネットを使って関連情報をあつめ勉強する必要があります。

授業の到達目標: インターネットの仕組みの概要を把握し、電子メールやWebページ参照がどのように実現されているのか、簡単に説明できるようになること。

事前・事後学習の内容: Moodle上で提供されるオンデマンドコンテンツを参照するための機器およびネットワーク環境の準備し、それを使いこなせるだけの基礎知識を持っていることを前提に、オンデマンド教材を参照し、適宜、ネット上での情報検索を行い、用語や仕組みについて積極的に、どんな仕組みがどのように運用されていて、それがネットワーク通信をどのように支える役割を果たしているのか考えることが大事です。最重要キーワードは「理解」。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: オンデマンドで実施されるため、以下の各回題目は目安です。
四部構成になっているので、実施期間中の進捗管理の目安にしてください。

＝＝＝導入＝＝＝
[第 1回]ガイダンス
受講方法や成績評価方法について
TODO（やらなければいけないこと）リスト
受講上の注意点

＝＝＝第一部＝＝＝
[第 2回]PCの基本を知ろう
ネットワークについて学ぶ前にPCについて学ぶ
どういう仕組みで動いているどんなものなのか？
コンピュータを構成する部品や役割
[第 3回]コンピュータを動かすプログラム
ハードウェアとソフトウェア
デバイスドライバー・OS・アプリケーションプログラム
[第 4回]ネットワークとは？通信の仕組み

ネットワークを理解するために必要なもの
通信するために必要なこと
ネットワーク通信の階層モデル

＝＝＝第二部＝＝＝
[第 5回]インターネットの概要
世界をつなぐために必要なこと
ルーティング（経路制御）
[第 6回]通信ケーブルの種類
PCをネットにつなげる第1歩
いろいろな種類があるが・・・
[第 7回]符号化とトポロジー
情報を電気信号で送受信するために
アナログとデジタルの違い
効率的に通信できるようにするための工夫
どうやってたくさんの機器をつなぐのか？

＝＝＝第三部＝＝＝
[第 8回]IPアドレスの基礎
2つのIPアドレス
IPアドレスv4の仕組み
[第 9回]IPアドレス演習
IPアドレスの読取
簡単な構成のネットワークのアドレス構成を考える

＝＝＝第四部＝＝＝
[第10回]TCP／IPの仕組みとWWW
事実上の標準となったTCP/IP
多重通信の要となるポート番号
WWWの仕組み
[第11回]無線通信の概要
末端機器を接続するのに便利なWIFI無線ネットワーク
通信データの暗号化の重要性
[第12回]セキュリティの概要と必要性
ネットを使った通信の安全性を確保するのは？
常時接続環境の光と影
[第13回]PC＆ネットワーク通信のトラブル対処
困ったときに何を考えどうすればよいか？
階層モデルと原因の推察

＝＝＝まとめ＝＝＝
[第14回]まとめ
レポートと修了試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 必要な教材はMoodle上で提供するが、提供教材だけしか参照しないのでは不十分。
自分で、必要に応じてネットや参考書を使って調べることも必要です。

参考文献: ネット検索を活用しましょう。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30 最終日教場で実施する。
ノート＆プリント類等の資料持ち込み可。
USBメモリー等で持ち込んだデータも資料として参照してかまわない。
ただし試験中にMoodle上の本講義情報以外のインターネット上のページの参照やスマホの使用は禁止

レポート: 30 インターネットの仕組みの概要を把握し、階層モデルやIPアドレス等についてどのような役割を果たしているのかを
A4数枚程度のレポートにまとめて指定期日までに提出してもらう。

平常点評価: 40 Moodle上で期間中何度でも受験可能な理解度チェックテストの総合得点より換算する。

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

修了試験以外の講義はオンデマンドで実施されます。
出来るだけ早めにガイダンスの説明をよく聞いて日程の確認をしてください。

開講日程：7月31日（金）～8月21日（金）
修了試験：8月21日（金）4-5限（教場で実施）
※ちゃんと受験できるよう予定をしっかり立てておいてください

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010122|02|9S04010122[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ネットワーク技術初級 02		
担 当 教 員	多田 武丸		
開 講 学 期	集秋	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	オンライン】ハイブリッド（対面回数半数未満
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: インターネットの仕組みを知ろう

授業概要: ※この講義は秋期集中オンデマンド方式で実施されます。
※全日程の内、最終日の修了試験のみ教場で実施予定で、それ以外はすべてMoodle上のオンデマンド形式で実施します。

本講義では以下の3分野
・情報工学 (Computer Science and Engineering)
・通信工学 (Telecommunications Engineering)
・電気電子工学 (Electrical and Electronics Engineering)
にまたがるネットワーク通信の仕組みの基礎について学びます。

現在の私たちの生活には、電子メールやWWWによる情報収集などのインターネットが提供してくれる各種サービスは必要不可欠なものとなってきています。
この講義ではこれらサービスがどのように実現されているのか、インターネットの仕組みの概要を把握することが目的となります。おもに以下の内容を取り扱います。

・コンピュータの基本的な仕組み
・ネットワークとは何か？またその役割
・通信するために必要な物理アドレスと論理アドレス
・広く普及した通信規格イーサネット
・ネットワークをつなぐルータの役割
・通信ケーブルの種類
・IPアドレスの仕組み
・インターネットで提供されている各種サービス
・異なる技術の共存を可能にする階層モデル
・DNSによる名前解決の仕組み
・電子メールとWWW（ホームページ）

オンデマンド教材を1回見ただけではよくわからないこともあるでしょう。
要所を何度も見直したり、積極的にネットを使って関連情報をあつめ勉強する必要があります。

授業の到達目標: インターネットの仕組みの概要を把握し、電子メールやWebページ参照がどのように実現されているのか、簡単に説明できるようになること。

事前・事後学習の内容: Moodle上で提供されるオンデマンドコンテンツを参照するための機器およびネットワーク環境の準備し、それを使いこなせるだけの基礎知識を持っていることを前提に、オンデマンド教材を参照し、適宜、ネット上での情報検索を行い、用語や仕組みについて積極的に、どんな仕組みがどのように運用されていて、それがネットワーク通信をどのように支える役割を果たしているのか考えることが大事です。最重要キーワードは「理解」。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: オンデマンドで実施されるため、以下の各回題目は目安です。
四部構成になっているので、実施期間中の進捗管理の目安にしてください。

＝＝＝導入＝＝＝
[第 1回]ガイダンス
受講方法や成績評価方法について
TODO（やらなければいけないこと）リスト
受講上の注意点

＝＝＝第一部＝＝＝
[第 2回]PCの基本を知ろう
ネットワークについて学ぶ前にPCについて学ぶ
どういう仕組みで動いているどんなものなのか？
コンピュータを構成する部品や役割
[第 3回]コンピュータを動かすプログラム
ハードウェアとソフトウェア
デバイスドライバー・OS・アプリケーションプログラム
[第 4回]ネットワークとは？通信の仕組み

ネットワークを理解するために必要なもの
通信するために必要なこと
ネットワーク通信の階層モデル

＝＝＝第二部＝＝＝
[第 5回]インターネットの概要
世界をつなぐために必要なこと
ルーティング（経路制御）
[第 6回]通信ケーブルの種類
PCをネットにつなげる第1歩
いろいろな種類があるが・・・
[第 7回]符号化とトポロジー
情報を電気信号で送受信するために
アナログとデジタルの違い
効率的に通信できるようにするための工夫
どうやってたくさんの機器をつなぐのか？

＝＝＝第三部＝＝＝
[第 8回]IPアドレスの基礎
2つのIPアドレス
IPアドレスv4の仕組み
[第 9回]IPアドレス演習
IPアドレスの読取
簡単な構成のネットワークのアドレス構成を考える

＝＝＝第四部＝＝＝
[第10回]TCP／IPの仕組みとWWW
事実上の標準となったTCP/IP
多重通信の要となるポート番号
WWWの仕組み
[第11回]無線通信の概要
末端機器を接続するのに便利なWIFI無線ネットワーク
通信データの暗号化の重要性
[第12回]セキュリティの概要と必要性
ネットを使った通信の安全性を確保するのは？
常時接続環境の光と影
[第13回]PC＆ネットワーク通信のトラブル対処
困ったときに何を考えどうすればよいか？
階層モデルと原因の推察

＝＝＝まとめ＝＝＝
[第14回]まとめ
レポートと修了試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 必要な教材はMoodle上で提供するが、提供教材だけしか参照しないのでは不十分。
自分で、必要に応じてネットや参考書を使って調べることも必要です。

参考文献: ネット検索を活用しましょう。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30 最終日教場で実施する。
ノート＆プリント類等の資料持ち込み可。
USBメモリー等で持ち込んだデータも資料として参照してかまわない。
ただし試験中にMoodle上の本講義情報以外のインターネット上のページの参照やスマホの使用は禁止

レポート: 30 インターネットの仕組みの概要を把握し、階層モデルやIPアドレス等についてどのような役割を果たしているのかを
A4数枚程度のレポートにまとめて指定期日までに提出してもらう。

平常点評価: 40 Moodle上で期間中何度でも受験可能な理解度チェックテストの総合得点より換算する。

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

修了試験以外の講義はオンデマンドで実施されます。
出来るだけ早めにガイダンスの説明をよく聞いて日程の確認をしてください。

開講日程：10月16日（金）～11月13日（金）
修了試験：11月13日（金）5-6限（教場で実施）
※ちゃんと受験できるよう予定をしっかり立てておいてください

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010123|01|9S04010123[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	情報ネットワークセキュリティ 01		
担 当 教 員	佐藤 健		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: --情報セキュリティー技術を中心に--

授業概要: 情報システムやネットワークシステムおよびそれらを通じて提供される様々のサービスに存在する脆弱性やリスク、それらに対応するための情報セキュリティ対策の基礎を解説する。

授業の到達目標: 高度化する情報化社会で、安全で快適な生活をおくるための、また社会人として情報システムやネットワークシステムを安全にかつ効果的に駆使し活動できるための、基本的知識の習得と対策方法の理解を目標とする。
更に、主要なマルウェアや攻撃手法などの特徴を説明でき、それらの被害にあわないための対策や留意点について説明できることを、目標とする。関連したIT系の資格試験を紹介し、適切な用語の理解を行う。

事前・事後学習の内容: 事前学習：授業回ごとの小テスト（調べながら対応しておよそ1時間程度）
事後学習：授業回ごとの課題作成（授業回ごとのネットワーク図の作成などファイル操作におよそ1時間程度）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション
本授業の概要・目的・目標や、本授業の進め方、レポート、試験の扱いなどの説明

第2回 情報セキュリティリテラシー1
今日のセキュリティリスク、情報セキュリティの基礎の説明

第3回 情報セキュリティリテラシー2
見えない脅威とその対策の説明、標的型攻撃と誘導型攻撃への対策、フィッシング詐欺への対策、ワンクリック不正請求への対策、無線LAN に潜む脅威とその対策

第4回 情報セキュリティリテラシー3
組織のセキュリティ対策、従業員としての心得、気を付けたい情報漏洩

第5回 情報セキュリティリテラシー4
アカウント、ID、パスワード、攻撃手法、ファイアウオール

第6回 情報セキュリティにおける脅威I
パスワードクラック、セッションハイジャック、DNSサーバーに対する攻撃

第7回 情報セキュリティにおける脅威II
DoS攻撃、Webアプリケーションの入力データを悪用した攻撃、マルウエアによる攻撃

第8回 情報セキュリティマネジメントの実践
ウイルスなどの不正プログラムによる被害とその対策

第9回 一般向けセキュリティ教材の実情
動画を見てもらいます

第10回 情報セキュリティにおける脆弱性
脆弱性とは、ネットワーク構成における脆弱性と対策、電子メールの脆弱性と対策、HTTP、DNSの脆弱性と対策

第11回 情報セキュリティマネジメント
リスクアセスメント、情報セキュリティポリシの策定、物理的、環境的、人的セキュリティ、事業継続管理（BCP）

第12回 セキュリティ要素技術
バイオメトリクス認証技術、公開鍵基盤（PKI）とその応用、暗号技術体系、AES などの共通鍵暗号、RSA などの公開鍵暗号

第13回 施設見学
オペレーション現場の視察、ミッションクリティカルの状況、空調など保守用の設備の重要性

第14回　まとめ
期末課題をMoodleで提出

言語区分:	0	日本語　　Japanese
教科書:	特になし、授業時に教室で指示します	
参考文献:	必要に応じて提示します。	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	0	行わない
レポート:	40	授業期間中の課題としてレポート課題を評価します。課題内容に関して、調査、検討している内容であるかどうか確認します。 期末レポート：20% 中間評価レポート：20%（授業時の課題）
平常点評価:	60	情報セキュリティマネジメントなどの資格試験に出てきそうな問題をコースナビ上に出します。準備学習・自宅学習時間を確保して、時間を掛けて正解を導いくことを評価します。 小テスト：3%×14回分：42%、古いビデオを見て現在のセキュリティとの違いについてコメント：18%、合計60%
その他:	0	平常点の小テストに配点をいれています。
備考・関連URL:	グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。 -GEC情報のカリキュラム -GEC情報の科目マップ -GEC情報の履修モデル	

授業回ごとに対面にて、質問・相談等に応答しフィードバックします。さらに、Mooldeでの課題にコメントをつけたり、コミュニケーションツールでフィードバックします。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010123|02|9S04010123[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	情報ネットワークセキュリティ 02		
担 当 教 員	佐藤 健		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: --情報セキュリティー技術を中心に--

授業概要: 情報システムやネットワークシステムおよびそれらを通じて提供される様々のサービスに存在する脆弱性やリスク、それらに対応するための情報セキュリティ対策の基礎を解説する。

授業の到達目標: 高度化する情報化社会で、安全で快適な生活をおくるための、また社会人として情報システムやネットワークシステムを安全にかつ効果的に駆使し活動できるための、基本的知識の習得と対策方法の理解を目標とする。
更に、主要なマルウェアや攻撃手法などの特徴を説明でき、それらの被害にあわないための対策や留意点について説明できることを、目標とする。関連したIT系の資格試験を紹介し、適切な用語の理解を行う。

事前・事後学習の内容: 事前学習：授業回ごとの小テスト（授業回ごとの調べながら対応しておよそ1時間程度）
事後学習：授業回ごとの課題作成（授業回ごとのネットワーク図の作成などファイル操作におよそ1時間程度）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション
本授業の概要・目的・目標や、本授業の進め方、レポート、教室設備の確認

第2回 情報セキュリティリテラシー1
今日のセキュリティリスク、情報セキュリティの基礎の説明

第3回 情報セキュリティリテラシー2
見えない脅威とその対策の説明、標的型攻撃と誘導型攻撃への対策、フィッシング詐欺への対策、ワンクリック不正請求への対策、無線LAN に潜む脅威とその対策

第4回 情報セキュリティリテラシー3
組織のセキュリティ対策、従業員としての心得、気を付けたい情報漏洩

第5回 情報セキュリティリテラシー4
アカウント、ID、パスワード、攻撃手法、ファイアウオール

第6回 情報セキュリティにおける脅威I
パスワードクラック、セッションハイジャック、DNSサーバーに対する攻撃

第7回 情報セキュリティにおける脅威II
DoS攻撃、Webアプリケーションの入力データを悪用した攻撃、マルウエアによる攻撃

第8回 情報セキュリティマネジメントの実践
ウイルスなどの不正プログラムによる被害とその対策

第9回 一般向けセキュリティ教材の実情
動画を見てらもいます。時代背景によって、テーマが違うことを理解する

第10回 情報セキュリティにおける脆弱性
脆弱性とは、ネットワーク構成における脆弱性と対策、電子メールの脆弱性と対策、HTTP、DNSの脆弱性と対策

第11回 情報セキュリティマネジメント
リスクアセスメント、情報セキュリティポリシの策定、物理的、環境的、人的セキュリティ、事業継続管理（BCP）

第12回 セキュリティ要素技術
バイオメトリクス認証技術、公開鍵基盤（PKI）とその応用、暗号技術体系、AES などの共通鍵暗号、RSA などの公開鍵暗号

第13回 施設見学
オペレーション現場の視察、ミッションクリティカルの状況

第14回　まとめ
期末課題をMoodleで提出

言語区分:	0	日本語　　Japanese
教科書:	特になし	
参考文献:	必要に応じて提示します。	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	0	行わない
レポート:	40	授業期間中の課題としてレポート課題を評価します。課題内容に関して、調査、検討している内容であるかどうか確認します。 期末レポート：20% 中間評価レポート：20%（授業時の課題提出状況）
平常点評価:	60	情報セキュリティマネジメントなどの資格試験に出てきそうな問題をコースナビ上に出します。準備学習・自宅学習時間を確保して、時間を掛けて正解を導いくことを評価します。 小テスト：3%×14回分：42%、古いビデオを見て現在のセキュリティとの違いについてコメント：18%、合計60%
その他:	0	平常点の小テストに配点をいれています。
備考・関連URL:	グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。 -GEC情報のカリキュラム -GEC情報の科目マップ -GEC情報の履修モデル	

授業回ごとに対面にて、質問・相談等に応答しフィードバックします。さらに、Mooldeでの課題にコメントをつけたり、コミュニケーションツールでフィードバックします。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010141|01|9S04010141[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ネットワーク技術準中級 O1		
担 当 教 員	前野 譲二		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: インターネットの技術を学ぶ

授業概要: 講義に際して学生が自己所有のPC（Windows・macOSは問いません）を持ち込み、PacketTracerという無償のソフトウェアをインストールして利用しつつ学習することを前提としていますので注意してください。
この講義では、中規模程度のネットワークの運用を視野に入れて、インターネットに関する知識と技術を学習します。なお、Cisco Networking Academyのカリキュラムに沿った講義を行います。

この科目ではまず、ローカルエリアネットワーク(LAN)周りの技術について学習します。

この講義は、単にインターネットについて知識を学ぶだけではなく、シミュレータを利用はしますが、標準的な機器によるネットワークの実装を通じて実学的な学びを目指します。

初学者でも歓迎しますが、慣れるまでには努力を要しますので、意欲的な学生の参加を期待します。

授業の到達目標: インターネットを構成する機器と、それらの基本的な設定を通じたネットワーキングの基本的な理解ができていること。

事前・事後学習の内容: Webで提示する教材の通読および演習課題

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 講義はCCNA v7(Introduction to NetworkおよびSwitching, Routing, and Wireless Essentials)の実習マニュアルから主要なものをピックアップしながら、学生諸君による実習を中心に行います。

以下の計画はおおまかなものであり、Cisco Networking Academyのカリキュラムに沿ったカリキュラムを提示していますが、参加者の習熟度等によって調整します。

1. オリエンテーション、ネットスペースへの登録、ソフトウェアインストール
2. IOSの基本、コマンドの基本
3. プロトコルとモデル、物理層とデータリンク層
4. イーサネット、スイッチ
5. ネットワーク層：インターネットプロトコル (IP)、IPアドレスとその設計、アドレス解決（ARP）
6. IPv4・IPv6アドレッシング
7. ICMP、トランスポート層:TCPとUDP、アプリケーション層
8. 実際のネットワークとセキュリティ
9. スイッチネットワーク入門（デバイスの基本設定とスイッチングの概念）
10. スイッチの概念と設定、VLANの設定、VLAN間ルーティング
11. STP、EtherChannel
12. DHCP(v4, v6)、SLAAC、FHRP
13. LANセキュリティ
14. 総合演習（試験）

受講生の理解と授業の進行に応じて内容は調整します。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: Webで提示します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50 最終課題とし講義内で実施する、実技のレポートを課します。

課題の内容は授業内でアナウンスします。

平常点評価: 50 毎回の講義で実施する授業課題を中心に、授業への積極的な参加を重視しながら、総合的に評価しま

す。

備考・関連URL： https://www.netacad.com/

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010143|02|9S04010143[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	情報セキュリティ技術 02		
担 当 教 員	鈴木 朋夫		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 情報ネットワークセキュリティについて技術面・管理面の基礎を総合的、実践的に学ぶ

授業概要: 20世紀末に普及し始めたパーソナルコンピューターにより情報のディジタル化が容易になり、インターネットとスマートフォンが普及し、多くの機器が常時ネットワークに接続するユビキタスネットワークが実現されつつある現代社会では、大量のディジタル情報が、瞬時に伝わる速報性と再利用性が飛躍的に高まり、私たちは多くの利便性を得ています。

しかしこれと同時に、様々な脅威によって、組織内の「価値ある情報」の改ざん、破壊、露出、流出など、望ましくない事態が引き起こされる可能性もまた高まっています。本講義では、こうした可能性を低減するために、情報セキュリティ技術者として必要な基礎（知識とスキル、それらの活用能力、業務遂行の考え方など）を構築します。

主な内容は次の通りです。

・情報セキュリティとは
・暗号技術
・ネットワーク技術の基礎と、そのセキュリティ
・Web、ネットワークアプリケーションのセキュリティ
・攻撃
・情報セキュリティポリシーと監査
・認証技術、PKI、ディジタル証明書
・アクセス制御、クラウド、仮想マシン、モバイル機器のセキュリティ
・侵入検知、物理セキュリティ、ログの概要
・インシデントと事業継続性の管理

【この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です】

授業の到達目標: 情報セキュリティを、論理的（技術的）、物理的（環境的）、組織的、人的な側面からとらえ、各側面に存在する脅威、ぜい弱性、セキュリティ対策の概要を理解し、情報セキュリティの要素、用語の基礎的な説明および、状況に応じた基礎的なセキュリティ対策を立てることができるようになる。

事前・事後学習の内容: 講義2回分で1回の講義レポートを提出しますので、事後に内容を復習していただきます。

受講の前提を備考に記しているので、必ず目を通してください。前提を満たしていないと受講できないという条件ではありませんが、ネットワークやIPルーティングなどの知識が無いと難しい内容です。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: [第 1回] 情報セキュリティの概要,識別と認証と認可の概要,暗号技術入門①(概念と用語,基本的な暗号アルゴリズム)
最初に講義の進め方、準備、課題等について説明し、情報セキュリティの概要と関連する団体と規格の概要、識別と認証と認可の概要、暗号技術入門①として基本的な用語と要素、暗号アルゴリズムついて解説します。

0.はじめに（概要説明）
1-1.情報セキュリティとは
　情報セキュリティに関連する用語と概念を理解し、説明できるようになる。
1-2.情報セキュリティに関係する主な団体と規格の概要
　情報セキュリティに関連する団体と規格の概要を理解し、説明できるようになる。
1-3.識別と認証と認可の概要
　識別と認証と認可の概要と用語を理解し、説明できるようになる
1-4.暗号技術の用語と要素
　暗号の用語を理解し、説明できるようになる。
1-5.基本的な暗号アルゴリズム
　基本的な暗号アルゴリズムを理解し説明できるようになる

[第 2回] 暗号技術入門②(対称鍵,鍵交換暗号,非対称鍵,耐量子,ハッシュ暗号,メッセージ認証コード,ハードウェアベースの技術)
対称鍵ストリーム暗号、対称鍵ブロック暗号、鍵交換暗号、非対称鍵暗号、耐量子暗号、ハッシュ暗号とメッセー

ジ認証コード、応用技術としてハードウェアベースの技術などについて解説します。

2-1.対称鍵暗号1（OTPと対称鍵ストリーム暗号）
　対称鍵暗号の種類と特徴を理解し、対称鍵ストリーム暗号を説明できるようになる。
2-2.対称鍵暗号2（対称鍵ブロック暗号）
　対称鍵ブロック暗号の特徴を理解し、種類を説明できるようになる。
2-3.鍵交換暗号と非対称鍵暗号と耐量子暗号
　鍵交換暗号と非対称鍵暗号と耐量子暗号の特徴を理解し、種類を説明できるようになる。
2-4.ハッシュ暗号とメッセージ認証コード
　ハッシュ暗号とメッセージ認証コードの特徴を理解し、種類を説明できるようになる。
2-5.暗号の応用技術1（ハードウェアベースの技術など）
　ハードウェアベースの技術やステガノグラフィなど多様な暗号の応用技術の概要について説明できるようになる。

[第 3回]　暗号技術入門③(ディジタル署名,PKIとディジタル証明書の概要,暗号の管理と規格)ネットワーク技術①(モデルと用語,無線LANの基礎)
暗号の応用技術としてディジタル署名、PKIとディジタル証明書の概要、暗号の規格および、そのセキュリティ要素、ネットワーク技術としてモデルと用語、無線LANの基礎技術を解説します。

3-1.暗号の応用技術2（ディジタル署名）
　ディジタル署名の特徴を理解し、説明できるようになる。
3-2.暗号の応用技術3（PKIとディジタル証明書およびPGPの概要）
　PKIの仕組みとディジタル証明書の概要、PGPの概要を理解し、説明できるようになる。
3-3.暗号の管理
　暗号の利用と管理、鍵管理技術の概要について説明できるようになる。
3-4.暗号の規格
　暗号の規格の概要について説明できるようになる
3-5.ネットワークモデルと用語などの基礎知識
　ネットワークモデルの種類と用語、考え方を理解し、説明できるようになる。
3-6.無線LANの基礎技術
　無線LANの基礎技術を理解し、無線LANのセキュリティの説明を補足できるようになる。

[第 4回]　ネットワーク技術②(ARP,IP,ICMP,IPv6,TCP,UDP,IPSec,DHCP)
ネットワークの基本的なプロトコル（ARP、IP、ICMP、IPv6、TCP、UDP、IPSec、DHCP）と、そのセキュリティ要素を解説します。

4-1.ARP,IP,ICMPのセキュリティ
　ARP、IP、ICMPのプロトコルの特徴と、そのセキュリティの要素を理解し、説明できるようになる。
4-2.IPv6
　IPv6の基本的なアドレス形式と、セキュリティの要素を理解し、説明できるようになる。
4-3.TCPとUDPのセキュリティ
　ソケット、TCP、UDPの特徴とセキュリティの要素を理解し、説明できるようになる。
4-4.IPSecのセキュリティ
　IPSecの特徴とセキュリティの要素を理解し、説明できるようになる。
4-5.DHCPのセキュリティ
　DHCPの特徴とセキュリティの要素を理解し、説明できるようになる。

[第 5回]　ネットワーク技術③(DNS,TLS/SSL,SSH,FTP,HTTPとHTTPS)
ネットワークの基本的なプロトコル（DNS、TLS/SSL、SSH、FTP、HTTPとHTTPS）と、そのセキュリティ要素について解説します。

5-1.DNSのセキュリティ
　DNSの特徴とセキュリティの要素を理解し、説明できるようになる。
5-2.TLS/SSLのセキュリティ
　TLS/SSLの特徴とセキュリティの要素を理解し、説明できるようになる。
5-3.SSH,telnet,FTP,SNMPなどのセキュリティ
　SSH,telnet,FTP,SNMPなどの特徴とセキュリティの要素を理解し、説明できるようになる。
5-4.HTTPとHTTPSのセキュリティ
　HTTP,HTTPS,Cookie、ブラウザなどの特徴とセキュリティの要素を理解し、説明できるようになる。

[第 6回]　ネットワーク技術④(Webベースアプリケーションの概要と開発技術,NATとVPN,メールシステム)
Webベースアプリケーションの概要と開発技術、NATとVPNおよび、メールシステムのセキュリティ要素について解説します。

6-1.Webベースアプリケーションの概要
　Webアプリケーションの概要を理解し、説明できるようになる。
6-2.Webベースアプリケーションの開発技術
　Webアプリケーションの開発技術のを理解し説明できるようになる。
6-3.NATとVPNのセキュリティ
　NATとVPNの特徴とセキュリティの要素を理解し、説明できるようになる。
6-4.メールシステムのセキュリティ
　SMTP、POP3などのプロトコルの特徴とセキュリティの要素を理解し、説明できるようになる。

[第 7回] 攻撃①（攻撃者の種類, 行動,基本的な攻撃手法,様々なアプリケーションへの攻撃,マルウェア）
攻撃者の種類、行動、基本的な攻撃手法、様々なアプリケーションへの攻撃および、マルウェアについて解説します。

7-1.攻撃者の種類
　攻撃者の種類を理解し、説明できるようになる。
7-2.攻撃者行動
　攻撃者の行動を理解し説明できるようになる。
7-3.基本的な攻撃手法
　基本的な攻撃手法を理解し、説明できるようになる。
7-4.様々なアプリケーションへの攻撃
　バナーグラビング、FTPバウンス、クロスサイトスクリプティング、インジェクションなどの様々な攻撃を理解し、説明できるようになる。
7-5.マルウェア
　マルウェアを理解し、説明できるようになる。

[第 8回] 攻撃②（DNSへの攻撃とDNSSEC,ソーシャルエンジニアリング,高度な攻撃）
DNSへの攻撃とDNSSEC、ソーシャルエンジニアリング攻撃および高度な攻撃ついて解説します。

8-1.DNSへの攻撃とDNSSEC
　DNSへの攻撃とDNSSECを理解し、説明できるようになる。
8-2.ソーシャルエンジニアリング
　ソーシャルエンジニアリング攻撃の概要を理解し、説明できるようになる。
8-3.高度な攻撃
　標的型攻撃などの高度な攻撃の概要を理解し、説明できるようになる。

[第 9回] 情報セキュリティ対策①(情報セキュリティポリシーの概要,項目と用語,リスク管理,監査,ぜい弱性の検査)
情報セキュリティポリシーの概要、項目と用語、リスク管理、情報セキュリティ監査および、ぜい弱性の検査、について解説します。

9-1.情報セキュリティポリシーの概要
　情報セキュリティポリシーの概要を理解し、説明できるようになる。
9-2.情報セキュリティポリシーの項目
　情報セキュリティポリシーの作成に関連するガイドライン項目を理解し、説明できるようになる。
9-3.情報セキュリティポリシーの用語
　情報セキュリティポリシーの用語を理解し、説明できるようになる。
9-4.リスク管理
　リスク管理の概要を理解し、説明できるようになる。
9-5.情報セキュリティ監査
　情報セキュリティに関連する様々な管理(マネジメント)の概要を理解し、説明できるようになる。
9-6.ぜい弱性の検査
　情報セキュリティの技術的なぜい弱性の検査の概要を理解し、説明できるようになる。

[第10回] 情報セキュリティ対策②（侵入検知とファイル改ざんの検査,識別の種類の詳細,PKIとディジタル証明書の詳細,基礎的な認証技術）
侵入検知とファイル改ざんの検査、識別の種類の詳細、PKIとディジタル証明書の詳細および、基礎的な認証技術について解説します。

10-1.侵入検知とファイル改ざんの検査
　コンピューターやネットワークへの侵入検知方法の概要、ファイル改ざんの検査の概要を理解し、説明できるようになる。
10-2.識別の種類の詳細
　識別の種類の詳細を理解し、説明できるようになる。
10-3.PKIとディジタル証明書の詳細
　PKIとディジタル証明書の詳細を理解し、説明できるようになる。
10-4.基礎的な認証技術
　基礎的な認証技術の特徴を理解し、説明できるようになる。

[第11回] 情報セキュリティ対策③（高度な認証技術1と2,リソースのアクセスの制御,クラウドコンピューティング）
高度な認証技術1としてディレクトリサービス、高度な認証技術2としてフェデレーション、リソースのアクセスの制御および、クラウドコンピューティングについて解説します。

11-1.高度な認証技術1
　ディレクトリサービスの特徴を理解し、説明できるようになる。
11-2.高度な認証技術2
　フェデレーションの特徴を理解し、説明できるようになる。
11-3.リソースのアクセスの制御
　MAC、DAC、RBACなどリソースのアクセス制御方法の概要を理解し、説明できるようになる。
11-4.クラウドコンピューティング
　クラウドコンピューティンの概要を理解し、説明できるようになる。

[第12回] 情報セキュリティ対策④(冗長構成,コンピューターの管理,ネットワークのアクセス制御)
冗長構成、コンピューターの管理、ネットワークのアクセス制御について解説します。

12-1.冗長構成
　システムの冗長構成の概要を理解し、説明できるようになる。
12-2.コンピューターの管理
　ユーザアカウント、BIOS、パッチ管理などの概要を理解し、説明できるようになる。
12-3.ネットワークのアクセス制御1
　ネットワークの構成要素のアクセス制御方法の概要を理解し、説明できるようになる。
12-4.ネットワークのアクセス制御2
　ファイアウォールの方式と例、高度なネットワークのアクセス制御の概要を理解し、説明できるようになる。

[第13回] 情報セキュリティ対策⑤(無線LANのセキュリティ,仮想化技術,テレワーキング,セキュアエリア,装置の物理セキュリティと環境のセキュリティ)
無線LANのセキュリティ、仮想化技術、テレワーキング、セキュアエリアおよび、装置の物理セキュリティと環境のセキュリティについて解説します。

13-1.無線LANのセキュリティ
　無線LAN、Bluetoothのセキュリティの要素を理解し、説明できるようになる。
13-2.仮想化技術
　仮想化技術の概要を理解し、説明できるようになる。
13-3.テレワーキング
　テレワーキングの定義と、モバイル機器に関する問題を理解し、説明できるようになる。
13-4.セキュアエリア(物理セキュリティ)
　物理セキュリティのセキュアエリアと関連する事柄の概要を理解し、説明できるようになる。
13-5.装置の物理セキュリティと環境のセキュリティ
　装置の物理セキュリティに関連する事柄の概要と環境のセキュリティの概要を理解し、説明できるようになる。

[第14回] 情報セキュリティ対策⑥(運用セキュリティ,インシデント管理とフォレンジックス,事業継続性の管理,事業継続性の管理,まとめ)
運用セキュリティとして変更管理、バックアップとデータ復旧,モニタリング、ログの概要、インシデント管理とフォレンジックスおよび事業継続性の管理の概要を解説し、講義をまとめます。

14-1.運用セキュリティ(1)(変更管理,バックアップとデータ復旧,モニタリング)
　変更管理とバックアップとデータ復旧、モニタリングの概要を理解し、説明できるようになる。
14-2.運用セキュリティ(2) ログの概要
　ログとログファイルの取り扱い、ログシステムの概要を理解し、説明できるようになる。
14-3.インシデントの管理とフォレンジックス
　インシデント管理とフォレンジックスの概要を理解し、説明できるようになる。
14-4.事業継続性の管理
　事業継続性計画や災害復旧計画の概要を理解し、説明できるようになる。
14-5.講義まとめ
　講義をまとめます。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 毎回、講義ビデオ毎に解説をつけたPDFファイルをアップします。ダウンロードして使用してください。

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 評価割合56%:講義レポート
評価割合40%:最終課題レポート
評価割合4%:その他

評価割合56%:講義レポート

各週(講義2回)に1回、各週のビデオ講義の偶数回(2,4,6,8,10,12回)の内でその週の講義内容の確認のための講義レポートの課題を出題します。
課題は、2回分の講義内容から出題し記述で答えていただきます。

講義レポート提出
講義レポートの提出は、ビデオ視聴と資料のダウンロードを前提とします。これは日々の学習を重視するからです。
Web上の講義ページ内に提出場所を用意しますので、指定形式の「ファイル」でレポートの提出していただきます。

提出期間は、ビデオ視聴期間とその後の原則1週間の期間です。
提出出来なかった方のための提出遅れレポートの提出場所を1月中旬に用意しますので、遅れた方はそこに提出していただけるようにします。(評価は期限内提出レポートとは異なります)

各講義レポートの評価
白紙レポートは評価しません。提出レポートの返却はいたしません。

講義レポートの提出は「ビデオ視聴」と「資料ダウンロード」を前提とし、各講義レポートは、設問についてのあなたの理解度を評価します。適切な記述に60%の評価をし残りの40%は記述内容（設問への理解や詳細な説明や工夫）により加点します。（誤りでも説明が記述されていればトライとして10%評価します。）
1行でレポートを提出される方もいますが、加点要素がいので再考でも60%の評価になります。
提出期限遅れで提出された講義レポートの評価は、公平性のため期限内提出レポートとは異なります。

_____
評価割合40%：最終課題レポート

通常の講義レポートとは異なる、最終課題を出題します。（全て必須問題で出題時期は1月下旬を予定）この最終課題について詳細なレポートを提出していただきます。

最終課題レポートの提出
Web上の講義ページ内に提出場所を用意しますので,指定形式の「ファイル」で提出していただきます。提出期間は、明記された日が期限となります。（例年2月初旬）

最終課題レポートの評価
各課題に対するレポートの記述内容の適切さの度合い、創造性などを総合的に判断して採点します。（講義2回に1回出題する講義レポートとは評価基準が異なりますので、しっかりと記述してください。）

提出にあたっては、不正行為にあたるような行動のないように注意してください。

_____
評価割合4%：その他

期限内提出の講義レポートの提出状況により加点評価します。
最終課題レポートで特に優秀と認められる場合も加点評価します。
上記の条件を両方満たしている場合でも加点評価は最大4%です。

備考・関連URL：　グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

〇受講前提
・ グローバルエデュケーションセンター設置情報科目のUNIX入門、ネットワーク技術初級の知識を習得しているか、Linux/UNIXの初歩的なコマンドの知識・技能を修得していることが望ましい
・EthernetのMACアドレス、L2スイッチに関する知識を有することが望ましい
・講義内での解説もありますが、TCP/IP（v4）のアドレッシング、IPルーティング、Well-Knownポート番号、および名前解決に関する初歩的な知識を有することが望ましい
・講義内での解説もありますが、インターネットの各種メカニズム（smtp、httpなどサーバアクセスプロトコル）に関する初歩的な知識を有することが望ましい
・Windowsに関する管理知識（ユーザアカウント、権限付与、アプリケーション導入方法など）を有することが望ましい
・Linuxに関する管理知識（ユーザアカウント、パーミッション付与、アプリケーション導入など）を有することが望ましい

2020年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
・ネットワークセキュリティI
・CompTIA Security+入門
・インターネットセキュリティ技術

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010144|01|9S04010144[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	サーバマネジメントα 01		
担 当 教 員	金光 永煥		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: インターネットはもはや日常生活で欠かせない世界であり，私たちは携帯端末や計算機，さらには家電製品経由で利用している．インターネットはいわば情報ネットワークのネットワーク，と言えるものであり，「情報ネットワークとは何か」を根本から理解することが，情報ネットワークをより安全かつ効率的に利用できることに繋がる．また，私たちがインターネット上でアクセスするサーバの仕組みや中身を理解することは，情報ネットワークの根本を知るために重要である．
本授業では，情報ネットワーク，ひいてはインターネット上で稼働するサーバの仕組みを知るだけでなく，サーバの管理を実習形式で学ぶ．具体的にはサーバとは何かや，サーバを安全に運用し，かつエンドユーザがセキュアにサーバへアクセスできるようなトピックも扱う．
主に，複数人で一つのLinux OSを割り当てて，そしてグループワークとしての実習を想定しています．ノートPCは必携ですが，ノートPCにソフトを入れることはせず，教員が用意した環境をノートPC経由で利用します．

授業の到達目標: ・Linux系OSで，各種操作のためのコマンドを状況に応じて使いこなせるようになること．
・サーバ上でのソフトウェア（Webサーバ，DBサーバ等）の仕組みを理解し，設定ができるようになること．
・サーバへの遠隔からのアクセスに関して，セキュリティ対策を施せるようになること．

事前・事後学習の内容: ・予習に30分，授業後の復讐に30分を費やして，講義資料の理解や操作について把握しておくことが望ましい．

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 Linuxについての基礎
LinuxOSをグループで操作する環境の説明を行い，各種コマンドについて実習を行う．

第2回 Linuxコマンドとシェル
シェルについての理解と，Linuxを使う上で必須となるコマンドを実習を通して学ぶ．

第3回 Webサーバの設定
ApacheというWebサーバソフトをインストールし，そして遠隔からのアクセスを受け付けるための操作を学ぶ．

第4回 Webサーバの活用
Webサーバをより実用的なものにするためのチューニングや管理法を実習を通して学ぶ．

第5回 DBサーバの基本
データベース(DB)のソフトをインストールし，そして設定する手法を学ぶ．

第6回 グループ課題
教員から課される要件に対して，グループワークとしてサーバの設定を行う．

第7回 グループ課題の評価
先週に引き続き，グループ課題に取り組んでもらい，グループ内での振り返りや反省を行う．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定なし．

参考文献: 必要に応じて講義時に適宜示す．

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	－
レポート:	20	授業内で課される課題への取り組み状況と結果を評価する．
平常点評価:	40	授業への取り組みと積極性を総合的に判断する．

その他: 40 グループワークでの取り組みや，成果物，各メンバーの貢献度について評価の対象とする.

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010145|01|9S04010145[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	サーバマネジメントβ 01		
担 当 教 員	金光 永煥		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: インターネットはもはや日常生活で欠かせない世界であり，私たちは携帯端末や計算機，さらには家電製品経由で利用している．インターネットはいわば情報ネットワークのネットワーク，と言えるものであり，「情報ネットワークとは何か」を根本から理解することが，情報ネットワークをより安全かつ効率的に利用できることに繋がる．また，私たちがインターネット上でアクセスするサーバの仕組みや中身を理解することは，情報ネットワークの根本を知るために重要である．
本授業では，情報ネットワーク，ひいてはインターネット上で稼働するサーバの仕組みを知るだけでなく，サーバの管理を実習形式で学ぶ．具体的にはサーバとは何かや，サーバを安全に運用し，かつエンドユーザがセキュアにサーバへアクセスできるようなトピックも扱う．
主に，複数人で一つのLinux OSを割り当てて，そしてグループワークとしての実習を想定しています．ノートPCは必携ですが，ノートPCにソフトを入れることはせず，教員が用意した環境をノートPC経由で利用します．

授業の到達目標: ・Linux OSのサーバでの管理（設定，セキュリティ対策，自動化）について理解し，使いこなせるようになること．
・DNSの設定をサーバ上で行えること．

事前・事後学習の内容: ・予習に30分，授業後の復讐に30分を費やして，講義資料の理解や操作について把握しておくことが望ましい．

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 Linuxの操作とユーザ管理
Linux上での必須とされるコマンドのおさらいと，ユーザ管理について学ぶ．

第2回 プロセスとサービスの管理
Linux上で稼働している処理単位の仕組みや，その処理を制御する方法を学ぶ．

第3回 DNS,ログの管理
Domain Name System (DNS)について学習し，サービスが書き出す各種ログの仕組みとその分析手法について学ぶ．

第4回 サーバの自動化
Linuxでの操作を自動化する上で必要な知識（シェルスクリプト）を学ぶ．

第5回 サーバ自動化の応用
シェルスクリプトを元にした，発展的なツールを紹介する．

第6回 グループ課題
教員から課される要件に対して，グループワークとしてサーバの設定を行う．

第7回 グループ課題の評価
先週に引き続き，グループ課題に取り組んでもらい，グループ内での振り返りや反省を行う．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定なし．

参考文献: 必要に応じて講義時に適宜示す．

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	－
レポート:	20	授業内で課される課題への取り組み状況と結果を評価する．
平常点評価:	40	授業への取り組みと積極性を総合的に判断する．

その他: 40 グループワークでの取り組みや，成果物，各メンバーの貢献度について評価の対象とする．

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010225|01|9S04010225[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	サーバサイドWebプログラミング初級 01		
担 当 教 員	小林 明大@満岡 秀一		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: はじめてのクライアント・サーバシステムの開発

授業概要: 本講はサーバサイド技術についての講義ですが、授業にはクライアントサイドアプリケーション開発も含まれます。
サーバサイドエンジニアにクライアントサイドの知識は必須で、クライアントサイドもまたサーバサイドの知識が必須です。
サーバサイドとクライアントサイドは切っても切れない関係でどちら片方だけでは生きていけません。
本講では互いの関係性を重視し、モダンでシンプルなクライアント・サーバシステムの開発を行います。講義の殆どが実際に手を動かすハンズオン実習となっています。
もしあなたがプロフェッショナルを目指すなら必須教科でしょう。もしあなたがゆるいエンジニアになりたいなら、この授業で手っ取り早くクライアントサーバの知識と経験を得ることができます。もしあなたがエンジニアと関係ない道へ進みたいならこの授業がクライアントサーバを触る最後の機会になるでしょう。どんな人でも遠慮せずに受けてください。たくさんの技術を詰め込んだタフな内容のため難易度は決して低くはありませんが得るものは大きいです。

授業の到達目標: 基本的なクライアントサーバの理解。
シンプルなクライアントアプリケーションを作成できる。
シンプルなサーバサイドアプリケーションを作成できる。
RESTful API の理解。
クライアントアプリケーションとサーバサイドアプリケーションの連携。
モバイルアプリケーション対応

事前・事後学習の内容: 以下のプログラミング言語の基本的な構文を理解しているとより内容が身につきます。
- Python
- Dart
- Flutter

本講ではPCの持参を必須とする。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 環境構築とプログラミング手順（担当：満岡）
開発環境の構築方法を理解し、プログラムの作成・実行・保存といった基本的な操作手順を修得する。

第2回 Python基礎 I （担当：満岡）
Pythonの基本構文を理解し、データ構造、変数、配列、条件分岐、繰り返し処理などの基礎的なプログラミング手法を修得する。

第3回 Python基礎 II （担当：満岡）
関数およびクラスの概念を理解し、オブジェクト指向プログラミングの基礎（カプセル化、フィールドとメソッド、パッケージとモジュール）を修得する。

第4回 JSONとHTTP通信（担当：小林）
JSON形式のデータ構造を理解し、HTTP通信の基礎および外部サービスとの接続方法を学ぶ。

第5回 Web API基礎（担当：小林）
Web APIの概要を理解し、実際に公開されている外部APIを活用して、リクエストの送信およびレスポンスの取得方法を修得する。

第6回 Webアプリケーション作成 I （担当：小林）
作成するアプリケーションの仕様を理解し、サーバサイドレンダリングの基礎を学ぶ。

第7回 Webアプリケーション作成 II （担当：小林）
Web APIの実装方法を学び、RESTツールを用いた動作確認を行う。

第8回 クロスプラットフォーム概要（担当：小林）
クロスプラットフォーム開発の概念を理解し、そのメリット・デメリットおよび代表的な技術について学ぶ。

第9回　Dart基礎（担当：小林）
Dartの基本構文および基礎的なプログラミング手法を修得する。
第10回　Flutter基礎Ⅰ（担当：小林）
Flutterの概要を理解し、Android・iOS・Web向けの基本的なアプリケーション作成およびWidgetの基礎を修得する。
第11回　Flutter基礎Ⅱ（担当：小林）
イベント処理（ボタンクリック）および画面遷移の実装方法を学ぶ。
第12回　クライアントアプリケーション作成Ⅰ（担当：小林）
クライアントアプリケーションの設計・開発に取り組み、自由課題を通して実装力を高める。
第13回　クライアント・サーバ連携Ⅰ（担当：小林）
サーバサイドアプリケーションの設計および実装を行い、クライアントとの連携方法を学ぶ。
第14回　クライアント・サーバ連携Ⅱ（担当：小林）
クライアント・サーバ連携機能の実装を完成させ、成果の確認および総括を行う。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　Google Cloud Platform GAEソフトウェア開発入門(https://www.amazon.co.jp/dp/4297112159)

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　30　定期試験は実施しないが、授業中に数回小テストを行う

レポート：　50　作成アプリケーションの完成度

平常点評価：　20　授業における態度・理解度・貢献度（困っている生徒がいたら積極的にサポートしましょう）

備考・関連URL：　グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

授業日程2026/08/25（火）2時限 ~ 4時限
2026/08/26（水）2時限 ~ 4時限
2026/08/27（木）2時限 ~ 5時限
2026/08/28（金）2時限 ~ 5時限
PCの持参を必須とする

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010225|02|9S04010225[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	サーバサイドWebプログラミング初級 02		
担 当 教 員	藤田 真一		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： PHPではじめるサーバサイドWeb開発基礎

授業概要： 現代社会では、インターネットを活用したサービスが学業・ビジネス・プライベートを問わず幅広く利用されています。こうしたWebサービスは、サーバ上で動作するプログラムによって支えられています。
本講義では、サーバサイドプログラミングの基礎を学びながら、Webシステムの仕組みを理解し、実際に PHP（Hypertext Preprocessor） を用いた開発に取り組みます。特に、Webアプリケーションの基本的な動作として重要な CRUD（Create, Read, Update, Delete） の概念を、実践的に学びます。
対象：プログラミング未経験者や初心者を主な対象とし、実習を通じて手を動かしながら学ぶスタイルを採用します。
内容：PHPの基本構文とプログラミングの基礎Webアプリケーションの仕組み（リクエストとレスポンス）フォーム処理とデータの受け渡しCRUDの実践（ファイルを使ったデータの保存・更新・削除）シンプルな動的Webサイトの開発初心者でも安心して取り組めるよう、基礎から丁寧に解説し、Web開発の第一歩をサポートします。

授業の到達目標： Webシステムの基礎的な仕組みを理解し、PHPを用いてフォーム入力やファイルを活用したデータ管理など、基本的なWebアプリケーションを開発できるようになる。

事前・事後学習の内容： 毎回の講義時間内に、その講義で出題された課題を完成させていきます。

毎回の課題はその前回の課題の続きになりますので、講義中に課題を完了できなかった場合や欠席した場合は、講義時間前に追いつくことが必要です（電子メール等でフォローします）。

授業計画フリー入力サイン： 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー： 第1回: イントロダクション講義の進め方・方針・評価の方法開発環境の準備（PHP・エディタ・ローカルサーバ）PHP実行環境の動作確認第2回: HTML & CSS、フォームの基礎クライアント・サーバシステムの概要HTMLタグの基本フォームの基本表の作成と編集第3回: PHPの基本構文PHPの基本的な構文、命令、エラーメッセージ開発環境のセットアップ確認変数と関数の組み合わせ第4回: PHPの変数とデータ型データの格納、データ型、定数、文字列数値の扱い（四則演算、数値関数）基本関数の活用第5回: PHPの配列と関数順序付き配列、連想配列配列への格納・修正、配列関数関数の作成と利用第6回: PHPの繰り返し処理（ループ）while, for, foreachループを活用したデータ処理第7回: PHPの条件分岐と論理演算条件分岐（if, switch）論理演算（AND, OR, NOT, 三項演算子）第8回: PHPにおけるファイルの入出力とCRUDの実装 I（Create, Update）PHPからテキストファイルへの書き込み（Create）既存データの更新（Update）簡易データ管理システムの作成ファイルのセキュリティ（権限・パスの扱い）第9回: PHPにおけるファイルの入出力とCRUDの実装 II（Read, Delete, JSON）PHPを利用したテキストファイルからの読み出し（Read）データの削除（Delete）JSON形式のファイルの読み書き入力値のエスケープ処理（XSS対策）第10回: PHPによるフォーム処理とセキュリティフォーム入力とデータ受け渡し（GET/POST）入力値のバリデーション（チェック機能）正規表現の基本フォームデータの保存と活用XSS（クロスサイトスクリプティング）対策CSRF（クロスサイトリクエストフォージェリ）対策第11回～第14回: Webアプリケーション開発実習CRUDの組み込みと機能拡張リストアプリの作成配列・ループ・表を活用したデータ管理JSONデータの活用Update/Delete 機能の実装オブジェクト指向の基礎（クラスとオブジェクト）セキュリティ対策の実装（XSS・CSRF・入力バリデーション）本番環境での運用（レンタルサーバの利用）

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： Waseda Moodle に資料を掲載します。

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート： 20 題材は13回目の講義で提示する予定です。

平常点評価： 80 実習したファイルを毎回提出します。提出率とその内容で評価します。

備考・関連URL： 8月24日（月）2～5時限
8月25日（火）2～4時限
8月26日（水）2～4時限
8月27日（木）2～5時限

就職活動や教育実習等で1日でも休む予定のある方はお勧めできません。

毎回の講義時間内に、その講義で出題された課題を完成させていきます。

毎回の課題はその前回の課題の続きになりますので、講義中に課題を完了できなかった場合や
欠席した場合は、講義時間前に追いつくことが必要です（電子メール等でフォローします）。

それ以外の予習・復習は必須ではありません。

2016年度までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
　〇サーバサイドWebプログラミング入門

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010226|02|9S04010226[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	クライアントサイドWebプログラミング初級 02		
担 当 教 員	山田 豊明		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: JavaScriptプログラミングの基礎を習得し，動的サイト構築の第一歩としよう

授業概要: 動的 Webページの構築にはユーザー側の Webブラウザで動作させるクライアントサイドWebプログラミングと Web サーバ側で動作させるサーバサイドWebプログラミングがあります（両者を併用することもあります）．
クライアントサイドWebプログラミングでは主に JavaScript が用いられます．

この授業は JavaScriptの初級レベルを学び，動的サイト構築への第一歩とします．プログラミングに初めて触れる・少しだけかじったことがあるといった人を対象とした入門・初級レベルの実習中心の授業です．

JavaScript の基本的な書き方・基礎を学びながら，繰り返しや条件分岐といったプログラミングの基礎を学んでいき，独自の簡単な動的 Webページの作成をめざします．
HTMLおよび CSSの理解を深めると共に，より上のレベルの JavaScript を学んでより高度なWeb作成を目指すうえで，この授業がその基礎となるでしょう．

端末室の PCを使って実習を行います．基本を説明しながら自分でタイピングしてコーディングを行いますので，タイピングやファイルの扱いなどのコンピュータの基本的な使い方は理解していることを前提とします．

理解度確認のための課題を毎週課しますので，しっかり達成して習得を積み上げていってください．
毎週前半に説明・実習を行い，後半に各自課題に取り組んでもらいます．課題は内容により授業中に完成できる場合と宿題となる場合があります．
最終週には発展的な課題を課す予定です．

#注意事項
・受講人数や受講生の皆さんの到達度により，授業計画各回の内容や順序を変更することがあります．
・各回の授業内容は独立したものではなく，前回の授業内容を達成していることを前提をしていますので，基本的に無遅刻・無欠席で授業に臨んでください．
・ファイルを保存するためのクラウドドライブや USBメモリ等を用意して授業に臨んでください．

授業の到達目標: ・JavaScriptの基礎的な知識・技術等を習得し，自分自身でオリジナルのプログラムを考えコーディングできるようになる．
・HTMLに組み込み，動的サイト構築の足がかりとする．
・簡単な独自の動的 Webページ作成ができるようになる

事前・事後学習の内容: ・事後学習
習得は毎週の積み上げですので，前週までの学習事項をしっかり達成していくことが重要になります．自分自身で考えるとともに，指定した参考文献・参考書を参照したり Webページを検索して調べたりすることが必要になります．
・事前学習
授業で来週までの予習事項を指示します．Moodle に掲載する資料に目を通したり，指定した参考文献・参考書を参照したり Webページを検索して調べたりすることが必要になります．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ・授業は 2コマ続きです．適宜休憩を入れながら行います．
・受講人数や受講生の皆さんの到達度により，各回の内容や順序を変更することがあります．
・各回の授業内容は独立したものではなく，前回の授業内容を達成していることを前提をしていますので，基本的に無遅刻・無欠席で授業に臨んでください．

第01・02回
オリエンテーション，JavaScriptの基本を学びます．

第03・04回
JavaScriptの基本
表示・演算子・変数等を学びます．

第05・06回
JavaScriptの基本
条件分岐・繰り返し等を学びます．

第07・08回
JavaScriptの基本
関数およびイベント処理導入等を学びます.

第09・10回
JavaScriptの基本
イベント処理等を学びます.
HTMLとのかかわりの理解を深めます.

第11・12回
JavaScript応用
配列をもう少し詳しく学ぶとともに. これまでの学習事項を組み合わせた実習を行います.

第13・14回
JavaScript応用
これまでの学習事項を組み合わせて, オリジナルのプログラムを作ります.

言語区分: 0 日本語 Japanese

参考文献: 参考書
・スラスラ読めるJavaScriptふりがなプログラミング 増補改訂版, リブロワークス (著), 及川卓也 (監修), 出版社:インプレス (2022/8/21)
・知識ゼロからのJavaScript入門, 小笠原寛(著), 出版社:技術評論社 (2018/8/22)

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 授業への取り組み 30%
出席や授業への取り組みなどの参加を中心に評価します.
課題 70%
毎週の課題の提出状況・達成度, 最終課題の達成度で評価します. ただし実習中心の対面授業ですので, 授業に出席せずに要件を満たして課題を提出するのは極めて困難になります.

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010226|03|9S04010226[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	クライアントサイドWebプログラミング初級 03		
担 当 教 員	高橋 優		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: JavaScriptによる動的Webページの作成を通してプログラミングを学ぶ

授業概要: 本科目では，情報科学およびソフトウェア開発の中でもとくにWeb技術に焦点を当て，JavaScriptを用いたクライアントサイドのWebプログラミングの基礎を学びます．Webページを表示するブラウザ（Chrome，Edge，Safari等）上で動作するJavaScriptは，動きのあるWebページの作成に広く利用されています．

本科目はプログラミング未経験者・初学者を想定としており，JavaScriptの基本的な書き方を学ぶことで，プログラミングにおける基礎的な要素（演算や繰り返し，条件分岐など）を身に付けていきます．JavaScriptを用いて柔軟でインタラクティブなWebページを作ることができるようになることを目指すとともに，「クライアントWebプログラミング中級」など，より高度なWeb開発を学ぶ上での基礎を築くことを目的とします．

また，Webページを記述するために必要なHTMLやCSSについても，授業の中で基礎を復習します．学ぶ内容は多岐にわたりますが，授業内の課題を通じて実践的に身に付けられるように構成されています．

授業の到達目標: ・JavaScriptによる基礎的なプログラミングができるようになる．
・JavaScriptを用いた動きのあるインタラクティブなWebページを作れるようになる．
・既存のWebサイトにおけるクライアントサイドのWeb技術を理解する基礎的な力を持つ．

事前・事後学習の内容: 授業に先立ち，講義資料をWaseda Moodleにて確認した上で，授業で提示された課題に取り組み，提出してください．反転授業（授業前に教材の自習によって必要な概念を学習し，授業の場ではその知識を元に課題に取り組む）も一部取り入れる予定です．各回の予習・復習時間は90～120分程度を想定しています．

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーションとHTML
授業の進め方と，Webプログラミングの前提となるHTMLについて学びます．

第2回 JavaScriptとは
基本的なプログラムの編集・実行方法について学びます．

第3回 変数の利用
データを利用するための変数について学びます．

第4回 繰り返し
プログラムの中で繰り返し処理を記述する方法を学びます．

第5回 条件分岐
条件ごとに異なる処理を行う方法を学びます．

第6回 関数の利用
関数を利用した記述について学びます．

第7回 配列(1)
データを整理して扱う方法である配列・連想配列について学びます．

第8回 配列(2)
前回の課題について演習を通じて理解を深めます．

第9回 オブジェクトの利用
オブジェクトとは何かを学びます．

第10回 イベント処理
ユーザの操作を受け取る方法を学びます．

第11回 イベント処理の利用(1)
ユーザの処理に応じた動作を設定します．

第12回 イベント処理の利用(2)
イベント処理について演習を通じて理解を深めます.
第13回 総合演習(1)
これまで学んだものを使った課題に取り組みます.
第14回 総合演習(2)
完成した課題を発表します.

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 『いちばんやさしいJavaScriptの教本 第2版』(岩田宇史著, インプレス, ISBNISBN978-4-295-00592-6)(WINE検索結果: https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/permalink/81SOKEI_WUNI/1lng8qo/alma991010742899704032).
その他, 授業内で資料を配付します.

参考文献: 必要に応じて授業内で紹介します.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート: 80 授業内で提示される課題により評価します.

平常点評価: 20 最後の総合演習の発表により評価します.

備考・関連URL: 前に出した課題をもとに授業を進めることが多いので, 毎回出席しきちんと課題に取り組むことが重要です. やむを得ぬ事情により欠席する場合は, 次回の授業までにWaseda Moodle を参照し, 授業内容と課題を確認しておいてください.

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010226|04|9S04010226[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	クライアントサイドWebプログラミング初級 04		
担 当 教 員	山田 豊明		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: JavaScriptプログラミングの基礎を習得し，動的サイト構築の第一歩としよう

授業概要: 動的 Webページの構築にはユーザー側の Webブラウザで動作させるクライアントサイドWebプログラミングと Web サーバ側で動作させるサーバサイドWebプログラミングがあります（両者を併用することもあります）．
クライアントサイドWebプログラミングでは主に JavaScript が用いられます．

この授業は JavaScriptの初級レベルを学び，動的サイト構築への第一歩とします．プログラミングに初めて触れる・少しだけかじったことがあるといった人を対象とした入門・初級レベルの実習中心の授業です．

JavaScript の基本的な書き方・基礎を学びながら，繰り返しや条件分岐といったプログラミングの基礎を学んでいき，独自の簡単な動的 Webページの作成をめざします．
HTMLおよび CSSの理解を深めると共に，より上のレベルの JavaScript を学んでより高度なWeb作成を目指すうえで，この授業がその基礎となるでしょう．

端末室の PCを使って実習を行います．基本を説明しながら自分でタイピングしてコーディングを行いますので，タイピングやファイルの扱いなどのコンピュータの基本的な使い方は理解していることを前提とします．

理解度確認のための課題を毎週課しますので，しっかり達成して習得を積み上げていってください．
毎週前半に説明・実習を行い，後半に各自課題に取り組んでもらいます．課題は内容により授業中に完成できる場合と宿題となる場合があります．
最終週には発展的な課題を課す予定です．

#注意事項
・受講人数や受講生の皆さんの到達度により，授業計画各回の内容や順序を変更することがあります．
・各回の授業内容は独立したものではなく，前回の授業内容を達成していることを前提をしていますので，基本的に無遅刻・無欠席で授業に臨んでください．
・ファイルを保存するためのクラウドドライブや USBメモリ等を用意して授業に臨んでください．

授業の到達目標: ・JavaScriptの基礎的な知識・技術等を習得し，自分自身でオリジナルのプログラムを考えコーディングできるようになる．
・HTMLに組み込み，動的サイト構築の足がかりとする．
・簡単な独自の動的 Webページ作成ができるようになる

事前・事後学習の内容: ・事後学習
習得は毎週の積み上げですので，前週までの学習事項をしっかり達成していくことが重要になります．自分自身で考えるとともに，指定した参考文献・参考書を参照したり Webページを検索して調べたりすることが必要になります．
・事前学習
授業で来週までの予習事項を指示します．Moodle に掲載する資料に目を通したり，指定した参考文献・参考書を参照したり Webページを検索して調べたりすることが必要になります．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ・授業は 2コマ続きです．適宜休憩を入れながら行います．
・受講人数や受講生の皆さんの到達度により，各回の内容や順序を変更することがあります．
・各回の授業内容は独立したものではなく，前回の授業内容を達成していることを前提をしていますので，基本的に無遅刻・無欠席で授業に臨んでください．

第01・02回
オリエンテーション，JavaScriptの基本を学びます．

第03・04回
JavaScriptの基本
表示・演算子・変数等を学びます．

第05・06回
JavaScriptの基本
条件分岐・繰り返し等を学びます．

第07・08回
JavaScriptの基本
関数およびイベント処理導入等を学びます.

第09・10回
JavaScriptの基本
イベント処理等を学びます.
HTMLとのかかわりの理解を深めます.

第11・12回
JavaScript応用
配列をもう少し詳しく学ぶとともに. これまでの学習事項を組み合わせた実習を行います.

第13・14回
JavaScript応用
これまでの学習事項を組み合わせて, オリジナルのプログラムを作ります.

言語区分: 0 日本語 Japanese

参考文献: 参考書
・スラスラ読めるJavaScriptふりがなプログラミング 増補改訂版, リブロワークス (著), 及川卓也 (監修), 出版社:インプレス (2022/8/21)
・知識ゼロからのJavaScript入門, 小笠原寛(著), 出版社:技術評論社 (2018/8/22)

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 授業への取り組み 30%
出席や授業への取り組みなどの参加を中心に評価します.
課題 70%
毎週の課題の提出状況・達成度, 最終課題の達成度で評価します. ただし実習中心の対面授業ですので, 授業に出席せずに要件を満たして課題を提出するのは極めて困難になります.

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010230|01|9S04010230[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	CGエンジニア入門 01		
担 当 教 員	白石 路雄		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ビジュアル情報処理ーCG・画像処理入門

授業概要: 情報科学、特に計算機科学において、画像を生成する技術、および、画像を処理する技術は重要な学問分野です. この科目では、これらの分野における基礎的な内容を取り扱います.

講義では、画像生成技術(CG)および画像処理の分野について, 以下の事項を講義します.
CGに関する事項 - ディジタルカメラモデル・モデリング・レンダリング・アニメーションなど.
画像処理に関する事項 - 濃淡変換・フィルタリング・画像の解析・パターン認識など.

なお、本講義ではCGおよび画像処理に関する理論を扱います。CGソフトウェアや画像処理ソフトウェアの操作についての実習は行いません.
また、基礎的な数学の概念（三角関数、ベクトル、および、行列）を利用します. 三角関数については高校数学で学習した内容を前提として講義しますが、ベクトルおよび行列については、前提知識がないものとして講義します.

授業の到達目標: コンピュータグラフィクス(CG)ならびに画像処理に関する基本的な知識を理解するとともに, CGや画像処理に関わる開発などに携わるCGエンジニアとしての基礎の習得を目指します.

事前・事後学習の内容: 教科書を使用して、あらかじめ講義内容について予習してください. 予習には60分～90分かかると想定されます。また、講義後には、小テストについて、教科書および講義資料と照らしあわせて復習してください。復習には30分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:イントロダクション & ディジタルカメラモデル (1)
イントロダクション, ビジュアル情報処理とディジタルカメラモデル
第2回:ディジタルカメラモデル (2)
座標系とモデリング, ビジュアル情報処理の幾何学的モデル, ビジュアル情報処理の光学的モデル, ディジタル画像, 画像処理の分類と役割
第3回:モデリング (1)
形状モデル, ソリッドモデルの形状表現
第4回:モデリング (2)
曲線・曲面ポリゴン曲面の表現, ボリュームを用いた形状表現
第5回:レンダリング (1)
レンダリングの処理過程, 隠面消去, シェーディング, 陰付け, マッピング, イメージベーストレンダリング
第6回:レンダリング (2)
大域証明計算, ボリュームレンダリング, ノンフォトリアリスティックレンダリング
第7回:アニメーション (1)
CGアニメーションの構成, キーフレームアニメーション, 手続き型アニメーション
第8回:アニメーション (2)
キャラクタのアニメーション, 物理ベースアニメーション, リアルタイムアニメーションと実写映像との合成
第9回:画像の解析 (1)
画像の性質を表す諸量, 画素ごとの濃淡変換
第10回:画像の解析 (2)
領域に基づく濃淡変換, そのほかの処理

第11回：パターン・特徴の検出とパターン認識，シーンの復元 (1)
2値画像処理, 領域分割処理, 動画像処理, 特異点による画像間のマッチング, 図形の検出, パターンの検出, パターン認識
第12回：パターン・特徴の検出とパターン認識，シーンの復元 (2)
ニューラルネットと深層学習, 画像と空間の幾何学的関係と3次元復元, 光学的なシーン復元
第13回：ビジュアル情報処理システム
CGとIPの融合, VIP用システム, VIP用ソフトウェアの構成, リアルタイム3次元CGシステム, 入出力装置, 画像フォーマットと記録方式
第14回：試験
試験

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　ビジュアル情報処理 -CG・画像処理入門- 改訂新版」(CG-ARTS協会)

※受講者は、必ずこの教科書を購入してください。なお、2017年3月に発売された「改訂新版」をもとに講義を行うので注意すること。

参考文献：　「コンピュータグラフィックス 改訂新版」(CG-ARTS協会)
「ディジタル画像処理 改訂新版」(CG-ARTS協会)

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験：　50　試験を実施します．授業の内容全般についての理解度を評価します．

平常点評価：　50　授業の理解度の確認のために，授業の終わりに毎回復習テストを実施します．

備考・関連URL：　グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010233|01|9S04010233[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	マルチメディア初級（画像処理とアニメーション）α O1		
担 当 教 員	星 健太郎		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 画像及びアニメーション処理技術を身に着け『デジタル表現＆発信力』を培う

授業概要: デジタル技術の進化は、私たちの世界を驚くほど変容させています。スマートフォンやタブレットの普及により、誰もが簡単に高度な技術を使いこなせる時代となり、AIやクラウドサービスは、コミュニケーションや問題解決の新しい常識となりました。

私たちの学び、働き方、そして楽しみ方までもが大きく変化し、現実と仮想の境界はますます密接になっています。このデジタル社会で求められるのは、最新の技術を駆使しながら、同時に人間らしい倫理観を持つクリエイティブな人材です。

人間は五感を通じて情報を受け取りますが、特に視覚と聴覚から得る情報の重要性が増しています。デジタル技術を活用してデータを収集し、加工し、発信する能力は、大学生活、研究、仕事、そして個人の表現活動において、もはや不可欠なスキルとなっています。

【講義のコンセプト】
この講義の目指すところは、「受け身」から「発信者」へ。デジタル技術を武器に、あなたの創造性を世界に伝える力を身につけます。

【学べる具体的なスキル】
・文字、音声、画像、CGなどマルチメディアの読み解き方
・スマートフォンやデジタルカメラでの撮影テクニック
・生成AIを活用した画像・音声・音楽・映像作成
・画像編集の基本と応用
・アニメーション制作
・Web配信やVR/AR技術の活用

【講義の進め方】
講義は座学と実習の2本立て。理論と実践を両立します。

αでは:
デジタル画像編集ソフトウェアを用いて、レイヤー概念、タイポグラフィ、DTP、レタッチ、マスク技術、ライトニング、撮影・編集技術を学びます。3DCGの基礎や最新の生成AI技術の活用方法にも触れていきます。

βでは:
静止画の連続体であるアニメーション（2D/3DCGアニメーション含む）の領域に踏み込み、動画編集やモーショングラフィックスの技術や倫理を学びます。

【大切にする学び】
技術を学ぶと同時に、最も重視するのは「人間性」と「倫理観」です。

著作権法、個人情報保護法、AI倫理など、デジタル表現に不可欠な法的・社会的側面も学びます。単なる技術者ではなく、社会を理解し、創造性豊かに表現できるクリエイターを目指します。

【学習スタイル】
特別な予習は不要です。むしろ、授業で学んだ技術を日常的に活用することが上達の秘訣です。
YouTubeやInstagram、TikTokなどのSNSを活用するなど、学んだスキルを実践してみましょう。知識や技術を使うこと自体が、最高の予習・復習になります。令和の時代におけるデジタル表現の可能性を探求し、創造的で倫理的なコンテンツ制作者を目指します。

授業の到達目標:

・デジタルコンテンツを読み解くリテラシーの向上と、自らがメディアに関わりコンテンツを制作するための応用的な考え方、ワークフローを掴む。

・デジタル表現、CG、合成、AI技術、アニメーション等の技術、演出、表現、デザインに関する応用知識を養うと共に、受け身でなく人に物事を伝える姿勢を身につける。

・画像編集の技術的な難しさ、便利さを体感し、自分なりの「マルチメディア」の実践的理解・批判的理解が出来る様になる。

・この種の技術に関するマルチメディアリテラシーを身に着ける(著作権に関する視点も含む)。

事前・事後学習の内容:

α・β 連続での受講を推奨しております。中級も併せて参考ください。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット(教員による切替可)

授業計画:

第1回
ガイダンス、マルチメディア社会とデジタルコンテンツ概論

第2回
デジタル画像データ理解(画像・文字・音声ファイルの形式と特徴)／メディアファイル編集基礎演習(ファイルの種類, 画像のフォーマット)

第3回
デジタル画像データソース理解(素材, 写真撮影データ扱い)／メディアファイル編集基礎演習(様々な編集, 補正手法)

第4回
デジタル画像データ出力とDTP／画像編集ソフト操作演習

第5回
著作者人格権と著作権及びレイヤー概念／画像作成演習

第6回
グループディスカッション、画像編集演習

第7回
課題スクリーニング／デジタルコンテンツ概論まとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定はしません, 教材はWEB上に用意し, 各自必要時にダウンロードし活用してください.

参考文献: 特に指定はしません

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 0 試験は行いません。

レポート: 0 レポートは行いません。

平常点評価: 50 授業への積極性により総合的に評価を行います.

その他: 50 講義内演習, 演習発表により総合的に評価を行います.

備考・関連URL: グループワークを想定しており、不必要な欠席をしてしまうと他学生に迷惑を掛けてしまうこととなりますので留意下さい。なお、一人グループも想定しております。

【準備するもの】
〇画像撮影、編集等に必要な機材
・タブレットやノートパソコン(推奨)
・スマートフォンやデジタルカメラ
・マウスやタッチペン

〇データ保存用ストレージ
・オンラインストレージ
・USBメモリなど

【参考情報】

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010233|02|9S04010233[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	マルチメディア初級（画像処理とアニメーション）α 02		
担 当 教 員	平野 砂峰旅		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: オーディオビジュアルコンテンツ(サウンドでグラフィック加工生成する)

授業概要: 本講義は、マルチメディアの様々な要素のうち、特に「サウンド」と「グラフィック」に注目して「サウンド」と「グラフィック」のデジタル表現の仕組みを学び，それに基づいたオーディオビジュアルコンテンツ表現について作品制作を通して学びます。特に「サウンド」と「グラフィック」をあらかじめ用意して組み合わせるだけでなく，サウンドによってグラフィックを生成したり加工したりする表現を目指します．そのために，オーディオ・ビジュアルを対象としたディジタル信号処理に注目していきます。 講義ではコンピュータ音楽やCG，メディアアート,ミュージックビデオの作品の紹介等を通じて、コンピュータを用いて「サウンド」や「グラフィック」をリアルタイムに生成したり加工したりという表現を学びます．コンピュータプログラムによってグラフィックやサウンドを生成したり，スマートホン等を用いて，録音，撮影します．そしてそれらを、加工するためのディジタル信号処理の応用例を知るとともに、それらがどのように作られているかを実習を通して理解します。なお、本講義では最終的にグループワークによる課題制作を行います。制作時間の全てを授業時間中に取ることは不可能であるため、授業時間以外の時間を活用して制作を進めていくことになります。サウンド制作にAudacityあるいはGarageBand(MacOS)をグラフィック制作にProcessingを用いて，ディジタル信号処理を利用したオーディオビジュアルコンテンツ制作の実習を行います。また，必要に応じてCycling74社のMax,PureData,PlugDataを使用する場合があります．

授業の到達目標: 授業の目標は、コンピュータの特性を活かしたメディアコンテンツの生成、加工の基礎知識を身につける。また制作をとおして理論的な知識を，理解するだけでなく，利用できるようになることを目指す．メディアコンテンツにおける「サウンド」と「グラフィックス」の知識を習得すると供に、コンテンツ制作のためのデジタル信号処理の基礎を実習(プログラミングやコンテンツ制作)を通して身につけること。同時にその理論的背景を理解すること。グループ制作により、お互いの知識やスキルの共有、またコミュニケーションスキルの向上を目指す。

事前・事後学習の内容: 授業を理解するために高校数学（指数関数、対数関数、三角関数、2進数）と高校物理（波動），情報Bの基礎を学習しておいてください。
できれば，ProcessingあるいはP5.jsを事前に学習しておくと制作がスムーズに進むでしょう．
講義については，プレゼンテーションの準備が必要です．30分～90分かかると想定されます．
ソフトウエアの使用方法については，授業においては概要を講義しますが，各自で使用方法を調べて習得する必要があります．60分～120分かかると想定されます．

作品制作に関しては，自宅でも制作する必要があります．60分～120分かかると想定されます．

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（本講義の目的と概要） ／ 本講義の目的と概要，授業の進め方について説明します。
画像とサウンドのデジタル表現のための基礎知識

第2回
Processing(1) /Processingによるプログラミングの基礎

第3回
Processing(2) /プログラムによるグラフィックス生成

第4回
Processing(3) /プログラムによる音響分析とグラフィックスの統合
作品制作の企画

第5回
作品制作（1）

第6回
作品制作（2）
作品プレゼンテーションの準備

第7回
作品プレゼンテーションと講評会
まとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

参考文献: コンピュータ音楽 歴史、テクノロジー、アート Curtis Roads(著) 東京電機大学出版
Processing クリエイティブ・コーディング入門 – コードが生み出す創造表現 田所 淳 (著) 技術評論社
ジェネラティブ・アート—Processingによる実践ガイド マット・ピアソン (著) ビー・エヌ・エヌ新社

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート: 50 作品課題制作とプレゼンテーション, 作品制作レポート, 作品のプログラム, 映像, サウンドなど

平常点評価: 50 授業中の発言, 積極性 ,小課題など
グループワークにおける貢献度

備考・関連URL: 受講前提条件:PC(Windows または MacOS)を持っていること. コンピュータやソフトウェアの起動・終了や、文字の入力など、コンピュータの基本操作を修得していること。なお、メールやWebブラウザーの使用に支障がないこと。
USBメモリを持参してください. 録音機器, 撮影機器(スマートホン, Web camera等も含む), ヘッドホン, イヤホンを持っている学生はできるだけ持参してください. また, 使い慣れたPCを持参して受講しても構いません.
マルチメディア初級βO2とは, 画像とサウンドのデジタル表現のための基礎知識やプログラミングの基礎知識など重複する内容が多いために
両方とも履修することは推奨しません.

関連URL
Processing
https://processing.org/
P5.js
https://p5js.org/

Audacity
http://audacity.sourceforge.net/
http://www.utsunomia.com/y.utsunomia/htmlindex%20for%20audacity_pro_manual_11_11_23/index.html

Max
http://www.cycling74.com/products/max/
http://crca.ucsd.edu/~msp/software.html
https://plugdata.org/

【講義日程】
20日(木), 26日(水), 28日(金)2限
8/20 3時限～5時限
8/26 3時限～5時限
8/28 2時限

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010234|01|9S04010234[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	マルチメディア初級（画像処理とアニメーション）β O1		
担 当 教 員	星 健太郎		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 画像及びアニメーション処理技術を身に着け『デジタル表現＆発信力』を培う

授業概要: デジタル技術の進化は、私たちの世界を驚くほど変容させています。スマートフォンやタブレットの普及により、誰もが簡単に高度な技術を使いこなせる時代となり、AIやクラウドサービスは、コミュニケーションや問題解決の新しい常識となりました。

私たちの学び、働き方、そして楽しみ方までもが大きく変化し、現実と仮想の境界はますます密接になっています。このデジタル社会で求められるのは、最新の技術を駆使しながら、同時に人間らしい倫理観を持つクリエイティブな人材です。

人間は五感を通じて情報を受け取りますが、特に視覚と聴覚から得る情報の重要性が増しています。デジタル技術を活用してデータを収集し、加工し、発信する能力は、大学生活、研究、仕事、そして個人の表現活動において、もはや不可欠なスキルとなっています。

【講義のコンセプト】
この講義の目指すところは、「受け身」から「発信者」へ。デジタル技術を武器に、あなたの創造性を世界に伝える力を身につけます。

【学べる具体的なスキル】
・文字、音声、画像、CGなどマルチメディアの読み解き方
・スマートフォンやデジタルカメラでの撮影テクニック
・生成AIを活用した画像・音声・音楽・映像作成
・画像編集の基本と応用
・アニメーション制作
・Web配信やVR/AR技術の活用

【講義の進め方】
講義は座学と実習の2本立て。理論と実践を両立します。

αでは:
デジタル画像編集ソフトウェアを用いて、レイヤー概念、タイポグラフィ、DTP、レタッチ、マスク技術、ライトニング、撮影・編集技術を学びます。3DCGの基礎や最新の生成AI技術の活用方法にも触れていきます。

βでは:
静止画の連続体であるアニメーション（2D/3DCGアニメーション含む）の領域に踏み込み、動画編集やモーショングラフィックスの技術や倫理を学びます。

【大切にする学び】
技術を学ぶと同時に、最も重視するのは「人間性」と「倫理観」です。

著作権法、個人情報保護法、AI倫理など、デジタル表現に不可欠な法的・社会的側面も学びます。単なる技術者ではなく、社会を理解し、創造性豊かに表現できるクリエイターを目指します。

【学習スタイル】
特別な予習は不要です。むしろ、授業で学んだ技術を日常的に活用することが上達の秘訣です。
YouTubeやInstagram、TikTokなどのSNSを活用するなど、学んだスキルを実践してみましょう。知識や技術を使うこと自体が、最高の予習・復習になります。令和の時代におけるデジタル表現の可能性を探求し、創造的で倫理的なコンテンツ制作者を目指します。

授業の到達目標: ・デジタルコンテンツを読み解くリテラシーの向上と、自らがメディアに関わりコンテンツを制作するための応用的な考え方、ワークフローを掴む。

・デジタル表現、CG、合成、AI技術、アニメーション等の技術、演出、表現、デザインに関する応用知識を養うと共に、受け身でなく人に物事を伝える姿勢を身につける。

・画像編集の技術的な難しさ、便利さを体感し、自分なりの「マルチメディア」の実践的理解・批判的理解が出来る様になる。

・この種の技術に関するマルチメディアリテラシーを身に着ける（著作権に関する視点も含む）。

事前・事後学習の内容: α・β 連続での受講を推奨しております。中級も併せて参考ください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
アニメーション、CG、WEBアニメーション概論／アニメーション作成演習
第2回
デジタルコンテンツに於ける聴覚と視覚（サウンドとテロップ等）の効果概要／アニメーション編集演習
第3回
歴史的背景とフレームレート／課題企画
第4回
コンテンツ制作におけるシナリオ，絵コンテ，スケジューリング考察
第5回
グルーピングとアニメーション作成演習
第6回
アニメーション編集演習
第7回
課題スクリーニング／デジタルコンテンツ概論まとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定はしません，教材はWEB上に用意し，各自必要時にダウンロードし活用してください．

参考文献: 特に指定はしません

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 試験は行いません。

レポート: 0 レポートは行いません。

平常点評価: 50 授業への積極性により総合的に評価を行います．

その他: 50 講義内演習，演習発表により総合的に評価を行います．

備考・関連URL: グループワークを想定しており、不必要な欠席をしてしまうと他学生に迷惑を掛けてしまうこととなりますので留意下さい。なお、一人グループも想定しております。

【準備するもの】
〇画像撮影、編集等に必要な機材
・タブレットやノートパソコン（推奨）
・スマートフォンやデジタルカメラ
・マウスやタッチペン

〇データ保存用ストレージ
・オンラインストレージ
・USBメモリなど

【参考情報】

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
- GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010234|02|9S04010234[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	マルチメディア初級（画像処理とアニメーション）β 02		
担 当 教 員	平野 砂峰旅		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: オーディオビジュアルコンテンツ(グラフィックによるサウンドの生成とコントロール)

授業概要: 本講義は、マルチメディアの様々な要素のうち、特に「サウンド」と「グラフィック」に注目して「サウンド」と「グラフィック」のデジタル表現の仕組みを学び，それに基づいたオーディオビジュアルコンテンツ表現について作品制作を通して学びます。特に「サウンド」と「グラフィック」をあらかじめ用意して組み合わせるだけでなく，サウンドによってグラフィックを生成したり加工したりする表現を目指します．そのために，オーディオ・ビジュアルを対象としたディジタル信号処理に注目していきます。 講義ではコンピュータ音楽やCG，メディアアート,ミュージックビデオの作品の紹介等を通じて、コンピュータを用いて「サウンド」や「グラフィック」をリアルタイムに生成したり加工したりという表現を学びます．コンピュータプログラムによってグラフィックやサウンドを生成したり，スマートホン等を用いて，録音，撮影します．そしてそれらを、加工するためのディジタル信号処理の応用例を知るとともに、それらがどのように作られているかを実習を通して理解します。なお、本講義では最終的にグループワークによる課題制作を行います。制作時間の全てを授業時間中に取ることは不可能であるため、授業時間以外の時間を活用して制作を進めていくことになります。サウンド制作にAudacityあるいはGarageBand(MacOS)をグラフィック制作にProcessingを用いて，ディジタル信号処理を利用したオーディオビジュアルコンテンツ制作の実習を行います。また，必要に応じてCycling74社のMaxあるいはPureDataを使用することがあります．

なお，マルチメディア初級α02とは，画像とサウンドのデジタル表現のための基礎知識やプログラミングの基礎知識など類似の部分が多いために，両方とも履修することは推奨しません．

授業の到達目標: 授業の目標は、コンピュータの特性を活かしたメディアコンテンツの生成、加工の基礎知識を身につける。また制作をとおして理論的な知識を，理解するだけでなく，利用できるようになることを目指す．メディアコンテンツにおける「サウンド」と「グラフィックス」の知識を習得すると供に、コンテンツ制作のためのデジタル信号処理の基礎を実習(プログラミングやコンテンツ制作）を通して身につけること。同時にその理論的背景を理解すること。グループ制作により、お互いの知識やスキルの共有、またコミュニケーションスキルの向上を目指す。

事前・事後学習の内容: 授業を理解するために高校数学（指数関数、対数関数、三角関数、2進数）と高校物理（波動），情報Bの基礎を学習しておいてください。Processingあるいは P5.jsを事前に学習しておくと制作がスムーズにいくでしょう.
講義については，プレゼンテーションの準備が必要です．30分～90分かかると想定されます．
ソフトウエアの使用方法については，授業においては概要を講義しますので，各自で使用方法を調べて習得する必要があります．60分～120分かかると想定されます．

作品制作に関しては，自宅でも制作する必要があります．60分～120分かかると想定されます．

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（本講義の目的と概要） ／ 本講義の目的と概要，授業の進め方について説明します。
画像とサウンドのデジタル表現のための基礎知識

第2回
Processing (1) / Processingによるプログラミングの基礎

第3回
Processing (2) / プログラムによるグラフィックスとサウンドの生成・加工

第4回
Processing (3) /プログラムによる画像（グラフィックス）分析とサウンドの統合
グラフィックスでサウンドを表現（演奏）する(Sonification)作品のプランニング

第5回
作品制作（1）

第6回
作品制作(2)
プレゼンテーションの準備
第7回
作品プレゼンテーション／講評会
まとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

参考文献: コンピュータ音楽 歴史、テクノロジー、アート Curtis Roads(著) 東京電機大学出版
Processing クリエイティブ・コーディング入門 – コードが生み出す創造表現 田所 淳 (著) 技術評論社
ジェネラティブ・アート—Processingによる実践ガイド マット・ピアソン (著) ビー・エヌ・エヌ新社

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート: 50 作品課題制作とプレゼンテーション, 作品制作レポート, 作品のプログラム, 映像, サウンドなど

平常点評価: 50 授業中の発言, 積極性 小課題,
グループワークにおける貢献度

備考・関連URL: 受講前提条件:PC(Windows または MacOS)を持っていること. コンピュータやソフトウェアの起動・終了や、文字の入力など、コンピュータの基本操作を修得していること。なお、メールやWebブラウザーの使用に支障がないこと。USBメモリを持参してください. 録音機器, 撮影機器(スマートホン, Web camera等も含む), ヘッドホン, イヤホンを持っている学生はできるだけ持参してください. また, 使い慣れたPCを持参して受講しても構いません.

関連URL
Processing
https://processing.org/
P5.js
https://p5js.org/

Audacity
http://audacity.sourceforge.net/
http://www.utsunomia.com/y.utsunomia/htmlindex%20for%20audacity_pro_manual_11_11_23/index.html

Max
http://www.cycling74.com/products/max/
http://crca.ucsd.edu/~msp/software.html
https://plugdata.org/

【講義日程】
8/21 2時限～4時限
8/27 3時限～5時限
8/28 3時限

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010237|01|9S04010237[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Webデザイン実践 01		
担 当 教 員	三橋 大輔		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: Web 標準技術と情報デザイン

授業概要: 本講義では、Webページの開発を情報学、ソフトウェア工学、メディアデザイン学の融合分野として捉え、その基礎から応用までを幅広く扱います。情報伝達メディアとしての Web ページを作成する実践的知識を基礎から身につけ、現代的な状況に対応可能な技術習得を目指します。具体的には、Web 標準技術である HTML living standard および CSS を用いた Web ライティング技術の習得を目標とします。また、情報デザインの観点から、他者に情報を伝達する際にどのように情報を整理し具体化していくかを検討し、効果的なコンテンツ作りを考えていきます。Web 技術は日々更新されていくものです。シラバスに記載されていない内容であっても、最新のトピックは常にとりあげていく予定です。

授業の到達目標: ・Web 技術について広範な知識をもつことができる
・情報デザインの思考を持ち、適切にコンテンツをデザインすることができる
・HTML および CSS でのコーディング技術を身につけることができる

事前・事後学習の内容: 【事前学習】講義資料を見ながらコーディングを行う。不明な点についてはあらかじめ調べる。（毎回2時間程度）
【事後学習】講義で学んだ技術を元に、課題 Web ページの開発を行う。（毎回2時間程度）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション、情報デザインとは？
講義の目的と概要について説明します。Web ページの企画および情報のまとめ方について講義します。

第2回 情報デザイン（Webページの企画、情報の整理、プロトタイピング）
実践的な情報デザイン技術を説明します。同時に Web サイトのプロトタイプの設計（プロトタイピング）を行います。

第3回 HTML 基礎（HTML とは、タグの記述法、セクショニング、見出し、段落）・開発環境の準備
HTML の基礎的な文法と記述法を説明します。また、開発環境の準備について説明します。

第4回 HTML 基礎（インライン要素、箇条書き、セクショニング）
文書構造とHTMLの関係性について説明します。

第5回 HTML 基礎（アンカー、ページ分割、リンクの設計）
アンカー要素の記述法とリンクの設計について説明します。

第6回 CSS 基礎（CSSとは、インライン要素に関わるプロパティ、カスタムプロパティ）
CSS の基礎的な文法を説明します。インライン要素に関わるプロパティを紹介します。

第7回 CSS 基礎（ボックスモデル、クラスセレクタ、IDセレクタ）
CSS におけるレイアウトの基礎となるボックスモデルの考え方を説明します。また、クラスセレクタやIDセレクタの利用方法についても説明します。

第8回 ディジタル画像と色彩についての基礎知識
Web ページで扱うディジタル画像についての基本的な知識を説明します。また、Web上で画像を扱う際に法的に留意すべき点について解説します。

第9回 CSS によるレイアウトデザイン[1]（フレキシブルボックスレイアウト）
フレキシブルボックスレイアウトの考え方とその活用法を紹介します。

第10回 CSS によるレイアウトデザイン[2]（グリッドレイアウト）
グリッドレイアウトの考え方とその活用法を紹介します。

第11回 CSS によるレイアウトデザイン[3]（マルチデバイス対応）
デバイスのサイズに応じて変化するレスポンシブレイアウトおよびリキッドレイアウトについて紹介します。

第12回 UI/UX デザイン、アクセシビリティ・デザイン
UI/UX デザインおよびアクセシビリティ・デザインについての解説を行います。具体的なWebページへの適用を紹介します。

第１３回　課題Webページ講評
課題 Web ページを発表してもらい、課題についての講評を行います
第１４回　発展: Web制作のラーニングパス
これまでの講義内では紹介しきれなかった最新の Web 技術について紹介し、更なる技術習得へのロードマップを示します。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特にありません。

参考文献: 講義スライドをPDFファイルとして配布致します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	試験は実施しません。
レポート:	50	授業終了時までに Web 標準技術にもとづいた Web サイトを完成させることを目標とします。 Web サイトは、コンテンツの充実度，情報デザイン，技術的工夫（HTML、CSS、JavaScript などその他のWeb技術）、ユーザビリティ・アクセシビリティへの配慮などを総合的に評価します。
平常点評価:	0	平常点は一切つけません。
その他:	50	講義最終回に課題講評会を行います。課題の Web サイトをプレゼンテーションをしていただきます。同時に講評によるフィードバックを行いますので、それを踏まえて課題の改善をしていただきます。課題発表を30%、課題の改善を20%として評価します。

備考・関連URL: 【課題に対するフィードバック】
・最終回の講評会で完成したWebページに対して口頭で講評を行います。
・また各回の演習時間にも個別に質問対応を行います。
・授業時間外のサポートはメール（mhashi@aoni.waseda.jp）で対応いたします。

【受講生に求めるスキル】
・日本語で支障なくコミュニケーション可能であること。
・PC の基本的な利用法を習得していること。
・電子メールが利用可能であり、その利用法に習熟していること。
・WWW を日常的に利用し、Web ページに多く接していること。
・参考文献・Web ページ などを利用して自習する能力があること。

2016年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
・Web設計入門
・PC・ネットワークを利用した情報表現中級（Web作成）
・Webコンテンツ作成技術と実践

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010237|02|9S04010237[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Webデザイン実践 02		
担 当 教 員	三橋 大輔		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: Web 標準技術と情報デザイン

授業概要: 本講義では、Webページの開発を情報学、ソフトウェア工学、メディアデザイン学の融合分野として捉え、その基礎から応用までを幅広く扱います。情報伝達メディアとしての Web ページを作成する実践的知識を基礎から身につけ、現代的な状況に対応可能な技術習得を目指します。具体的には、Web 標準技術である HTML living standard および CSS を用いた Web ライティング技術の習得を目標とします。また、情報デザインの観点から、他者に情報を伝達する際にどのように情報を整理し具体化していくかを検討し、効果的なコンテンツ作りを考えていきます。Web 技術は日々更新されていくものです。シラバスに記載されていない内容であっても、最新のトピックは常にとりあげていく予定です。

授業の到達目標: ・Web 技術について広範な知識をもつことができる
・情報デザインの思考を持ち、適切にコンテンツをデザインすることができる
・HTML および CSS でのコーディング技術を身につけることができる

事前・事後学習の内容: 【事前学習】講義資料を見ながらコーディングを行う。不明な点についてはあらかじめ調べる。（毎回2時間程度）
【事後学習】講義で学んだ技術を元に、課題 Web ページの開発を行う。（毎回2時間程度）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション、情報デザインとは？
講義の目的と概要について説明します。Web ページの企画および情報のまとめ方について講義します。

第2回 情報デザイン（Webページの企画、情報の整理、プロトタイピング）
実践的な情報デザイン技術を説明します。同時に Web サイトのプロトタイプの設計（プロトタイピング）を行います。

第3回 HTML 基礎（HTML とは、タグの記述法、セクショニング、見出し、段落）・開発環境の準備
HTML の基礎的な文法と記述法を説明します。また、開発環境の準備について説明します。

第4回 HTML 基礎（インライン要素、箇条書き、セクショニング）
文書構造とHTMLの関係性について説明します。

第5回 HTML 基礎（アンカー、ページ分割、リンクの設計）
アンカー要素の記述法とリンクの設計について説明します。

第6回 CSS 基礎（CSSとは、インライン要素に関わるプロパティ、カスタムプロパティ）
CSS の基礎的な文法を説明します。インライン要素に関わるプロパティを紹介します。

第7回 CSS 基礎（ボックスモデル、クラスセレクタ、IDセレクタ）
CSS におけるレイアウトの基礎となるボックスモデルの考え方を説明します。また、クラスセレクタやIDセレクタの利用方法についても説明します。

第8回 ディジタル画像と色彩についての基礎知識
Web ページで扱うディジタル画像についての基本的な知識を説明します。また、Web上で画像を扱う際に法的に留意すべき点について解説します。

第9回 CSS によるレイアウトデザイン[1]（フレキシブルボックスレイアウト）
フレキシブルボックスレイアウトの考え方とその活用法を紹介します。

第10回 CSS によるレイアウトデザイン[2]（グリッドレイアウト）
グリッドレイアウトの考え方とその活用法を紹介します。

第11回 CSS によるレイアウトデザイン[3]（マルチデバイス対応）
デバイスのサイズに応じて変化するレスポンシブレイアウトおよびリキッドレイアウトについて紹介します。

第12回 UI/UX デザイン、アクセシビリティ・デザイン
UI/UX デザインおよびアクセシビリティ・デザインについての解説を行います。具体的なWebページへの適用を紹介します。

第１３回　課題Webページ講評
課題 Web ページを発表してもらい、課題についての講評を行います
第１４回　発展: Web制作のラーニングパス
これまでの講義内では紹介しきれなかった最新の Web 技術について紹介し、更なる技術習得へのロードマップを示します。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特にありません。

参考文献: 講義スライドをPDFファイルとして配布致します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	試験は実施しません。
レポート:	50	授業終了時までに Web 標準技術にもとづいた Web サイトを完成させることを目標とします。 Web サイトは、コンテンツの充実度，情報デザイン，技術的工夫（HTML、CSS、JavaScript などその他のWeb技術）、ユーザビリティ・アクセシビリティへの配慮などを総合的に評価します。
平常点評価:	0	平常点は一切つけません。
その他:	50	講義最終回に課題講評会を行います。課題の Web サイトをプレゼンテーションをしていただきます。同時に講評によるフィードバックを行いますので、それを踏まえて課題の改善をしていただきます。課題発表を30%、課題の改善を20%として評価します。

備考・関連URL:
【課題に対するフィードバック】
・最終回の講評会で完成したWebページに対して口頭で講評を行います。
・また各回の演習時間にも個別に質問対応を行います。
・授業時間外のサポートはメール（mhashi@aoni.waseda.jp）で対応いたします。

【受講生に求めるスキル】
・日本語で支障なくコミュニケーション可能であること。
・PC の基本的な利用法を習得していること。
・電子メールが利用可能であり、その利用法に習熟していること。
・WWW を日常的に利用し、Web ページに多く接していること。
・参考文献・Web ページ などを利用して自習する能力があること。

2016年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
・Web設計入門
・PC・ネットワークを利用した情報表現中級（Web作成）
・Webコンテンツ作成技術と実践

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010237|03|9S04010237[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Webデザイン実践 03		
担 当 教 員	久保田 徹		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： Webページ制作基礎演習

授業概要： Webページの制作演習を通して情報メディアリテラシーを深めると同時に、自分の考えや感覚を理論的に組立て、最終的にプレゼンテーションの技術を身につけることを目標としています。講義内容として、HTMLについて／情報の取り扱い／情報の編集及び加工／その他、メディアリテラシーの基礎項目を予定しています。また、演習の進め方については2つの行程を想定しており、まず自己紹介を兼ねた簡単なWebページを個人で制作、次にグループに別れ、そのメンバーで討議を重ねながらWebページを制作していただきます。グループワークについては、他者との共同作業よってプロジェクトを進めてゆくことになりますので、グループ内での積極的なコミュニケーションが求められます。
★なお、この授業ではマルチメディアの技術的な熟達を主題としているものではないことを、重ねて明示しておきます。

授業の到達目標： 1／WEBページ作成を通して、インターネット環境における情報の取り扱い方（メディア・リテラシー）について認識が持てる。

2／WEBページ作成を通して、インターネット環境における情報発信の基礎的技法（プログラム基礎、編集手法、プレゼンテーション手法等）を理解できる。

3／グループワークにおけるチームメイト（他者）とのディスカッションを通して、集団的な創作活動の機会を得る。

事前・事後学習の内容： 事前学習：レイアウトや操作性、配色など、デザインに注目しながら複数のWEBページを閲覧する。

事後学習：授業を回想しながら、既存のWEBページを閲覧し、そこにあったであろう各種の作業プロセスについて想像する。また、気に入ったページを真似して作成してみる。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 ガイダンス・Webページとは何か？
本講義の主旨や今後の授業の進め方に関するガイダンス
第2回 HTMLについて1
エディターによるHTMLの記述演習 ---文字入力／色の設定／レイアウト
第3回 CSSについて
エディターによるCSSの記述演習 ---基礎的な構造とプロパティ
第4回 情報の取り扱い
知的所有権／その他 ---Webページ制作における各種マナー
第5回 自己紹介ページの作成1
これまでの演習授業で学んだ知識と技術を活用した自己紹介ページの作成演習
第6回 自己紹介ページの作成2
これまでの演習授業で学んだ知識と技術を活用した自己紹介ページの作成演習
第7回 Webページ制作に向けた各種ツールについて1
画像作成ツール（フォトレタッチ）Adobe Photoshopの概要
第8回 Webページ制作に向けた各種ツールについて2
画像作成ツール（グラフィック）Adobe Illustratorの概要と演習
第9回 Webページ制作に向けた各種ツールについて3
ファイル転送ツールFFFTPを利用したサーバーへのデータ転送
第10回 Webページ制作に向けた各種ツールについて4
グループワークによるWebページ制作 ---テーマ設定に関するディスカッション

第１１回　レポート制作演習1
グループワークによるWebページ制作 ---具体化に向けたプランニング
第１２回　レポート制作演習2
グループワークによるWebページ制作 ---制作作業
第１３回　レポート制作演習3
グループワークによるWebページ制作 ---制作作業
第１４回　レポート合評
各グループのレポート報告と合評---意見交換と対話

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特になし／授業中に随時紹介

参考文献: 特になし／授業中に随時紹介

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0　なし

レポート: 0　なし

平常点評価: 50　課題1（個人制作ページ）25%
課題2（グループ制作ページ）25%

その他: 50　授業への参加度

備考・関連URL: 受講前提条件として、コンピュータやソフトウェアの起動・終了や、文字の入力など、コンピュータの基本操作を修得していることを前提とします。

【講義日程】
・8月24日(月)2-4時限（早稲田キャンパス）
・8月25日(火)2-4時限（早稲田キャンパス）
・8月26日(水)2-4時限（早稲田キャンパス）
・8月27日(木)2-4時限（早稲田キャンパス）
・8月28日(金)2-3時限（早稲田キャンパス）

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010237|04|9S04010237[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Webデザイン実践 04		
担 当 教 員	三橋 大輔		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: Web 標準技術と情報デザイン

授業概要: 本講義では、Webページの開発を情報学、ソフトウェア工学、メディアデザイン学の融合分野として捉え、その基礎から応用までを幅広く扱います。情報伝達メディアとしての Web ページを作成する実践的知識を基礎から身につけ、現代的な状況に対応可能な技術習得を目指します。具体的には、Web 標準技術である HTML living standard および CSS を用いた Web ライティング技術の習得を目標とします。また、情報デザインの観点から、他者に情報を伝達する際にどのように情報を整理し具体化していくかを検討し、効果的なコンテンツ作りを考えていきます。Web 技術は日々更新されていくものです。シラバスに記載されていない内容であっても、最新のトピックは常にとりあげていく予定です。

授業の到達目標: ・Web 技術について広範な知識をもつことができる
・情報デザインの思考を持ち、適切にコンテンツをデザインすることができる
・HTML および CSS でのコーディング技術を身につけることができる

事前・事後学習の内容: 【事前学習】講義資料を見ながらコーディングを行う。不明な点についてはあらかじめ調べる。（毎回2時間程度）
【事後学習】講義で学んだ技術を元に、課題 Web ページの開発を行う。（毎回2時間程度）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション、情報デザインとは？
講義の目的と概要について説明します。Web ページの企画および情報のまとめ方について講義します。

第2回 情報デザイン（Webページの企画、情報の整理、プロトタイピング）
実践的な情報デザイン技術を説明します。同時に Web サイトのプロトタイプの設計（プロトタイピング）を行います。

第3回 HTML 基礎（HTML とは、タグの記述法、セクショニング、見出し、段落）・開発環境の準備
HTML の基礎的な文法と記述法を説明します。また、開発環境の準備について説明します。

第4回 HTML 基礎（インライン要素、箇条書き、セクショニング）
文書構造とHTMLの関係性について説明します。

第5回 HTML 基礎（アンカー、ページ分割、リンクの設計）
アンカー要素の記述法とリンクの設計について説明します。

第6回 CSS 基礎（CSSとは、インライン要素に関わるプロパティ、カスタムプロパティ）
CSS の基礎的な文法を説明します。インライン要素に関わるプロパティを紹介します。

第7回 CSS 基礎（ボックスモデル、クラスセレクタ、IDセレクタ）
CSS におけるレイアウトの基礎となるボックスモデルの考え方を説明します。また、クラスセレクタやIDセレクタの利用方法についても説明します。

第8回 ディジタル画像と色彩についての基礎知識
Web ページで扱うディジタル画像についての基本的な知識を説明します。また、Web上で画像を扱う際に法的に留意すべき点について解説します。

第9回 CSS によるレイアウトデザイン[1]（フレキシブルボックスレイアウト）
フレキシブルボックスレイアウトの考え方とその活用法を紹介します。

第10回 CSS によるレイアウトデザイン[2]（グリッドレイアウト）
グリッドレイアウトの考え方とその活用法を紹介します。

第11回 CSS によるレイアウトデザイン[3]（マルチデバイス対応）
デバイスのサイズに応じて変化するレスポンシブレイアウトおよびリキッドレイアウトについて紹介します。

第12回 UI/UX デザイン、アクセシビリティ・デザイン
UI/UX デザインおよびアクセシビリティ・デザインについての解説を行います。具体的なWebページへの適用を紹介します。

第１３回　課題Webページ講評
課題 Web ページを発表してもらい、課題についての講評を行います
第１４回　発展: Web制作のラーニングパス
これまでの講義内では紹介しきれなかった最新の Web 技術について紹介し、更なる技術習得へのロードマップを示します。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特にありません。

参考文献: 講義スライドをPDFファイルとして配布致します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	試験は実施しません。
レポート:	50	授業終了時までに Web 標準技術にもとづいた Web サイトを完成させることを目標とします。 Web サイトは、コンテンツの充実度，情報デザイン，技術的工夫（HTML、CSS、JavaScript などその他のWeb技術）、ユーザビリティ・アクセシビリティへの配慮などを総合的に評価します。
平常点評価:	0	平常点は一切つけません。
その他:	50	講義最終回に課題講評会を行います。課題の Web サイトをプレゼンテーションをしていただきます。同時に講評によるフィードバックを行いますので、それを踏まえて課題の改善をしていただきます。課題発表を30%、課題の改善を20%として評価します。

備考・関連URL: 【課題に対するフィードバック】
・最終回の講評会で完成したWebページに対して口頭で講評を行います。
・また各回の演習時間にも個別に質問対応を行います。
・授業時間外のサポートはメール（mhashi@aoni.waseda.jp）で対応いたします。

【受講生に求めるスキル】
・日本語で支障なくコミュニケーション可能であること。
・PC の基本的な利用法を習得していること。
・電子メールが利用可能であり、その利用法に習熟していること。
・WWW を日常的に利用し、Web ページに多く接していること。
・参考文献・Web ページ などを利用して自習する能力があること。

2016年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
・Web設計入門
・PC・ネットワークを利用した情報表現中級（Web作成）
・Webコンテンツ作成技術と実践

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010237|05|9S04010237[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Webデザイン実践 05		
担 当 教 員	三橋 大輔		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: Web 標準技術と情報デザイン

授業概要: 本講義では、Webページの開発を情報学、ソフトウェア工学、メディアデザイン学の融合分野として捉え、その基礎から応用までを幅広く扱います。情報伝達メディアとしての Web ページを作成する実践的知識を基礎から身につけ、現代的な状況に対応可能な技術習得を目指します。具体的には、Web 標準技術である HTML living standard および CSS を用いた Web ライティング技術の習得を目標とします。また、情報デザインの観点から、他者に情報を伝達する際にどのように情報を整理し具体化していくかを検討し、効果的なコンテンツ作りを考えていきます。Web 技術は日々更新されていくものです。シラバスに記載されていない内容であっても、最新のトピックは常にとりあげていく予定です。

授業の到達目標: ・Web 技術について広範な知識をもつことができる
・情報デザインの思考を持ち、適切にコンテンツをデザインすることができる
・HTML および CSS でのコーディング技術を身につけることができる

事前・事後学習の内容: 【事前学習】講義資料を見ながらコーディングを行う。不明な点についてはあらかじめ調べる。（毎回2時間程度）
【事後学習】講義で学んだ技術を元に、課題 Web ページの開発を行う。（毎回2時間程度）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション、情報デザインとは？
講義の目的と概要について説明します。Web ページの企画および情報のまとめ方について講義します。

第2回 情報デザイン（Webページの企画、情報の整理、プロトタイピング）
実践的な情報デザイン技術を説明します。同時に Web サイトのプロトタイプの設計（プロトタイピング）を行います。

第3回 HTML 基礎（HTML とは、タグの記述法、セクショニング、見出し、段落）・開発環境の準備
HTML の基礎的な文法と記述法を説明します。また、開発環境の準備について説明します。

第4回 HTML 基礎（インライン要素、箇条書き、セクショニング）
文書構造とHTMLの関係性について説明します。

第5回 HTML 基礎（アンカー、ページ分割、リンクの設計）
アンカー要素の記述法とリンクの設計について説明します。

第6回 CSS 基礎（CSSとは、インライン要素に関わるプロパティ、カスタムプロパティ）
CSS の基礎的な文法を説明します。インライン要素に関わるプロパティを紹介します。

第7回 CSS 基礎（ボックスモデル、クラスセレクタ、IDセレクタ）
CSS におけるレイアウトの基礎となるボックスモデルの考え方を説明します。また、クラスセレクタやIDセレクタの利用方法についても説明します。

第8回 ディジタル画像と色彩についての基礎知識
Web ページで扱うディジタル画像についての基本的な知識を説明します。また、Web上で画像を扱う際に法的に留意すべき点について解説します。

第9回 CSS によるレイアウトデザイン[1]（フレキシブルボックスレイアウト）
フレキシブルボックスレイアウトの考え方とその活用法を紹介します。

第10回 CSS によるレイアウトデザイン[2]（グリッドレイアウト）
グリッドレイアウトの考え方とその活用法を紹介します。

第11回 CSS によるレイアウトデザイン[3]（マルチデバイス対応）
デバイスのサイズに応じて変化するレスポンシブレイアウトおよびリキッドレイアウトについて紹介します。

第12回 UI/UX デザイン、アクセシビリティ・デザイン
UI/UX デザインおよびアクセシビリティ・デザインについての解説を行います。具体的なWebページへの適用を紹介します。

第１３回　課題Webページ講評
課題 Web ページを発表してもらい、課題についての講評を行います
第１４回　発展: Web制作のラーニングパス
これまでの講義内では紹介しきれなかった最新の Web 技術について紹介し、更なる技術習得へのロードマップを示します。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特にありません。

参考文献: 講義スライドをPDFファイルとして配布致します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	試験は実施しません。
レポート:	50	授業終了時までに Web 標準技術にもとづいた Web サイトを完成させることを目標とします。 Web サイトは、コンテンツの充実度，情報デザイン，技術的工夫（HTML、CSS、JavaScript などその他のWeb技術）、ユーザビリティ・アクセシビリティへの配慮などを総合的に評価します。
平常点評価:	0	平常点は一切つけません。
その他:	50	講義最終回に課題講評会を行います。課題の Web サイトをプレゼンテーションをしていただきます。同時に講評によるフィードバックを行いますので、それを踏まえて課題の改善をしていただきます。課題発表を30%、課題の改善を20%として評価します。

備考・関連URL: 【課題に対するフィードバック】
・最終回の講評会で完成したWebページに対して口頭で講評を行います。
・また各回の演習時間にも個別に質問対応を行います。
・授業時間外のサポートはメール（mhashi@aoni.waseda.jp）で対応いたします。

【受講生に求めるスキル】
・日本語で支障なくコミュニケーション可能であること。
・PC の基本的な利用法を習得していること。
・電子メールが利用可能であり、その利用法に習熟していること。
・WWW を日常的に利用し、Web ページに多く接していること。
・参考文献・Web ページ などを利用して自習する能力があること。

2016年までに以下の科目の単位修得者は履修できません。
・Web設計入門
・PC・ネットワークを利用した情報表現中級（Web作成）
・Webコンテンツ作成技術と実践

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010238|01|9S04010238[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データベース（SQL入門） 01		
担 当 教 員	佐々木 康成		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データベースの基本

授業概要: 本授業ではSQLを中心に、データベースの使い方の基本を講義します。SQLは主にリレーショナルデータベースの操作に用いられる言語です。リレーショナルデータベースは現在最も基本的かつ幅広く利用されているため、SQLを扱えるようになることで、主要なデータベースを操作できるようになると言えます。
データベースはデータを取り扱いやすくするための基地であり、様々な情報を整理して蓄える貯蔵庫としての役割だけでなく、必要な情報を検索し利用するための機能も備える便利なツールとして、あらゆる場面、あらゆる場所で活用されています。身近な例ではSNSアカウント情報などのユーザ管理システム、チケット販売やテレビ録画などの予約システム、ホームページなどのコンテンツ管理システムなどが挙げられます。サービスによってはアカウントや会員カードにもとづいた個人の活動情報などもデータベースに集められ、マーケティング戦略などに活用されています。
データベースはアプリケーションやサービスを裏で支えるツールのため、直接触れる機会は多くないかもしれません。しかしデータベースの基本を学ぶことで、大量のデータを使いやすい形で保管し利用できるようになるだけでなく、サービスを構成する技術的な仕組みを勘案した企画立案などが行えるようになります。
本授業でデータベースの基本を学び、将来にぜひ役立ててください。

授業では毎週、ハンズオン形式の講義を行った後、演習課題に取り組んでいただきます。
また前の週の授業内容に関する復習テストも毎週課す予定です。
これらの結果をもとに、成績評価します。詳細は〝成績評価方法〟の項目をご覧ください。

授業の到達目標: 本授業の到達目標は、SQLを中心にデータベースの基本を学び、データベースを扱えるようになることです。

事前・事後学習の内容: 毎週、前の週の授業内容を復習するテストを課しますので、授業内容の復習を行なってください。
またデータベースに慣れるための事後学習として、可能であればデータベースの構築・操作をお勧めします。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:ガイダンス
授業のガイダンスです。

第2回:データベースの概要
データベースの種類やSQLの役割など、データベースの概要を学びます。

第3回:データの読み出し
テーブルからデータを取り出す基本的な方法を学びます。

第4回:データの読み出しの実習
テーブルからデータを取り出す基本的な方法を実習します。

第5回:高度な読み出しと演算
順番の並び替えなど、高度なデータの読み出しの方法を学びます。

第6回:高度な読み出しと演算の実習
順番の並び替えなど、高度なデータの読み出しの方法を実習します。

第7回:データの集計とサブクエリ
データの集計処理、サブクエリについて学びます。

第8回:データの集計とサブクエリの実習
データの集計処理、サブクエリについて実習します。

第9回:複数のテーブルを用いた操作
複数のテーブルを組み合わせた操作について学びます。

第10回:複数のテーブルを用いた操作の実習
複数のテーブルを組み合わせた操作について実習します。

第11回：データの追加、削除、更新
読み出し以外のデータ操作について学びます。
第12回：データの追加、削除、更新の実習
読み出し以外のデータ操作について実習します。
第13回：データベースオブジェクト
データベースオブジェクトについての基本を学びます。
第14回：データベースオブジェクトの実習
データベースオブジェクトについての基本を実習します。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特にありません。

参考文献：　朝井 淳 著 "SQLはじめの一歩" 株式会社技術評論社, 2015.

成績評価フリー入力サイン：　0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　40　毎週の課題および最終レポートから評価する予定です。
それぞれ、内容は授業中にアナウンスします。

平常点評価：　60　毎回の授業での復習テストの点数を中心に評価します。

備考・関連URL：　フィードバックは、講義や提出課題へのコメントなどで実施する予定です。

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010238|02|9S04010238[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データベース（SQL入門） 02		
担 当 教 員	佐々木 康成		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データベースの基本

授業概要: 本授業ではSQLを中心に、データベースの使い方の基本を講義します。SQLは主にリレーショナルデータベースの操作に用いられる言語です。リレーショナルデータベースは現在最も基本的かつ幅広く利用されているため、SQLを扱えるようになることで、主要なデータベースを操作できるようになると言えます。
データベースはデータを取り扱いやすくするための基地であり、様々な情報を整理して蓄える貯蔵庫としての役割だけでなく、必要な情報を検索し利用するための機能も備える便利なツールとして、あらゆる場面、あらゆる場所で活用されています。身近な例ではSNSアカウント情報などのユーザ管理システム、チケット販売やテレビ録画などの予約システム、ホームページなどのコンテンツ管理システムなどが挙げられます。サービスによってはアカウントや会員カードにもとづいた個人の活動情報などもデータベースに集められ、マーケティング戦略などに活用されています。
データベースはアプリケーションやサービスを裏で支えるツールのため、直接触れる機会は多くないかもしれません。しかしデータベースの基本を学ぶことで、大量のデータを使いやすい形で保管し利用できるようになるだけでなく、サービスを構成する技術的な仕組みを勘案した企画立案などが行えるようになります。
本授業でデータベースの基本を学び、将来にぜひ役立ててください。

授業では毎週、ハンズオン形式の講義を行った後、演習課題に取り組んでいただきます。
また前の週の授業内容に関する復習テストも毎週課す予定です。
これらの結果をもとに、成績評価します。詳細は〝成績評価方法〟の項目をご覧ください。

授業の到達目標: 本授業の到達目標は、SQLを中心にデータベースの基本を学び、データベースを扱えるようになることです。

事前・事後学習の内容: 毎週、前の週の授業内容を復習するテストを課しますので、授業内容の復習を行なってください。
またデータベースに慣れるための事後学習として、可能であればデータベースの構築・操作をお勧めします。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:ガイダンス
授業のガイダンスです。

第2回:データベースの概要
データベースの種類やSQLの役割など、データベースの概要を学びます。

第3回:データの読み出し
テーブルからデータを取り出す基本的な方法を学びます。

第4回:データの読み出しの実習
テーブルからデータを取り出す基本的な方法を実習します。

第5回:高度な読み出しと演算
順番の並び替えなど、高度なデータの読み出しの方法を学びます。

第6回:高度な読み出しと演算の実習
順番の並び替えなど、高度なデータの読み出しの方法を実習します。

第7回:データの集計とサブクエリ
データの集計処理、サブクエリについて学びます。

第8回:データの集計とサブクエリの実習
データの集計処理、サブクエリについて実習します。

第9回:複数のテーブルを用いた操作
複数のテーブルを組み合わせた操作について学びます。

第10回:複数のテーブルを用いた操作の実習
複数のテーブルを組み合わせた操作について実習します。

第11回：データの追加、削除、更新
読み出し以外のデータ操作について学びます。
第12回：データの追加、削除、更新の実習
読み出し以外のデータ操作について実習します。
第13回：データベースオブジェクト
データベースオブジェクトについての基本を学びます。
第14回：データベースオブジェクトの実習
データベースオブジェクトについての基本を実習します。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特にありません。

参考文献：　朝井 淳 著 "SQLはじめの一歩" 株式会社技術評論社, 2015.

成績評価フリー入力サイン：　0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　40　毎週の課題および最終レポートから評価する予定です。
それぞれ、内容は授業中にアナウンスします。

平常点評価：　60　毎回の授業での復習テストの点数を中心に評価します。

備考・関連URL：　フィードバックは、講義や提出課題へのコメントなどで実施する予定です。

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010238|03|9S04010238[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データベース（SQL入門） 03		
担 当 教 員	邵 騰飛		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データベース操作の習得と理解

授業概要: ショッピングサイトやニュース，天気情報，ポータルサイトといったインターネット上でのサービスでは，予め蓄積された情報が利用されています．この蓄積された情報は一般にはRDB(リレーショナルデータベース)で保持されており，各種操作（データの取得，挿入，削除，更新）に基いてサービスを提供できるようになっています．データベースへの問い合わせには，一般にはSQL(Structured Query Language)が用いられます．データベースに対する知識や操作・SQLの作法を身につけることは，情報システムの根幹を理解する上で非常に重要です．
本講義では，主に実習を行いながらデータベースの実例を交えてSQLやデータベースの知識・技術を修得します．

授業の到達目標: ・データベースがどのようなものか・どのような場合にどのように利用すべきか判断できるようになること
・SQL（特にデータ取得，挿入，更新，削除）の文法・操作法を身につけること
・各自が独自のデータベースを設計・作成できるようになること

事前・事後学習の内容: 適宜，演習問題に取り組みますので，忘れずに提出してください．
また，授業前までには，前回のスライドを熟読して，スライド内に記載されているSQL文が動作することを確認しておいてください．

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回: データベースの概要
データベースの歴史や，なぜデータベースが必要であるかを説明します．

第2回: SELECT文を用いたデータの取得
SQLの最も基本的な命令文であるSELECT文を扱います．

第3回: 条件に基づいたデータ取得とソート
自分の指定条件に従って検索を行う方法について学びます．

第4回: 単一行関数
SQLにおいて関数を用いてデータを取得する方法について学びます．

第5回: テーブルの結合（内部結合）
複数のテーブルから情報を取得する方法において，最も基本的な内部結合を学びます．

第6回: テーブルの結合（外部結合）
複数のテーブルからデータを取得する方法において，どちらかを中心にしてデータを取得する方法を学びます．

第7回: グループ関数
共通する項目でグループ化したり，集計を行うSQLについて学びます．

第8回: 副問合せ
複数のSQLを一つのSQLにまとめる方法を学びます．

第9回: データの挿入・更新・削除
既存のデータに対する書き込み方法を学びます．

第10回: テーブル設計の概要
自分の想定するテーブルを無駄なく作成するための方法論・思想について学びます．

第11回: ERモデル
データベース設計のためのモデリングについて学びます．

第12回: 正規化
作成中のデータベースにおいて，無駄な箇所の検出と改善方法について学びます．

第13回: テーブル設計と作成
実際に各自でデータベースを作成していきます．

第１４回: データベースの応用とまとめ
これまで学んだことの応用を扱います.

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: SQLおよびMySQLの理解に役立つ参考書:
・西沢 夢路 著,「基礎からのMySQL第3版」, ソフトバンククリエイティブ.
データベース設計の理解に役立つ参考書:
・高橋 栄司, 飯室 美紀 著,「基礎からのデータベース設計第2版」, ソフトバンク クリエイティブ.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 40 授業の最後に課される課題への取り組みを評価します.

平常点評価: 30 授業に対する積極性・参加意欲を評価します.

その他: 30 課題の提出状況、内容および授業への参加度により総合的に評価します.

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010239|01|9S04010239[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング初級（Python） 01		
担 当 教 員	山極 綾子@金光 永煥@星 健太郎@邵 騰飛		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本科目「プログラミング初級（Python）」は，プログラミングの基礎を学ぶことを目的とし，情報学分野におけるプログラミング言語に関する一領域として位置づけられる．現代社会においてプログラミングは，ソフトウェア開発，デジタルトランスフォーメーション，自動化，データ解析など多岐にわたる分野で活用されており，その基礎技術の理解は極めて重要である．本科目では，プログラミングの基本概念や主要なアルゴリズム，データ構造，制御構造などの基礎知識を概観するとともに，コーディング演習やデバッグ技術，ソフトウェア設計の基礎を学ぶ．また，汎用的な開発環境を活用して実践的なプログラミングを行い，理論と実践を統合することを目的とする．これにより，プログラミングの基礎的な知識と技能を身につけ，今後の技術革新やキャリア構築に寄与する能力を修得する．

本科目では，以下の学修項目を主に扱う．プログラムの基礎とデータ型・変数値の演算（ブール値，数値，文字列）分岐処理（基礎と多重分岐）反復処理とデータ構造関数と例外処理オブジェクト指向とモジュール・パッケージ外部ライブラリの活用とまとめ
また，本科目は，GEC提供の情報科目「イ：情報技術の仕組・実装」カテゴリの「ソフトウェア」分野に属し，全学副専攻ソフトウェア学の履修に加算可能な科目の一つである．本科目の履修にあたっては，GEC提供の情報科目「ア：情報技術の概念・利用」カテゴリの「情報リテラシー」分野に属する基礎科目「情報科学の基礎」および「プログラミング入門」によってプログラミングの基本概念を理解しておくことが望ましい．なお，別科目のプログラミング初級（C/C++，Java）は本科目と並行して履修することが可能である．授業全体を通じて，本科目は，早稲田大学の掲げる「文理横断・連携・融合教育」に則し，情報学の学修を通して「創造性，論理的思考・計算論的思考，課題発見・問題解決，分野開拓」等の汎用的能力の育成にも寄与する．

本科目は，以下の点において特筆される．本科目はクォーター制で実施され，全7回の講義で構成される．本科目の各講義1回分は100分 の授業2回で構成され，最終授業（第14回）は期末試験の実施に充てられる．本科目の各講義は Waseda Moodle を用いたオンライン形式で行われ，オンデマンドの授業動画が配信される．本科目の学生は各自または学内のパソコンで任意の日時に授業動画を視聴し，プログラミングの学習に取り組むとともに，期限付きの課題やテストを提出することが求められる．本科目は複数の教員によって運用されており，1名の主担当教員によって全ての授業が進行される．本科目のフィードバックは必要に応じてWaseda Moodleから提供される．本科目の授業動画および授業資料はWaseda Moodleを通じて履修開始日に全て事前に提供される．本科目は初学者を対象としており，実践や実習を中心とした授業として展開される．全ての授業回を全担当教員が担当．

授業の到達目標:

本科目を履修することで，以下の知識・技能を習得することを目指す．
（到達目標1）プログラミングの基本的な流れを理解し，Pythonを用いた基本的なコードを記述できる．
（到達目標2）プログラミングに関連するソフトウェアや開発環境を適切に操作できる．
（到達目標3）基本的なデータ形式やデータ構造（数値，文字列，リスト，辞書，集合など）を理解し，適切に扱うことができる．
（到達目標4）制御構造（順次処理，分岐処理，反復処理）を用いて，基本的なアルゴリズムを実装できる．
（到達目標5）関数を活用し，プログラムの構造化を行い，コードの再利用性を向上させることができる．
（到達目標6）オブジェクト指向の基本概念を理解し，クラスとオブジェクトを用いた簡単なプログラムを作成できる．
（到達目標7）Pythonの標準ライブラリや外部パッケージを活用し，プログラムをより効率的に開発できる．

事前・事後学習の内容:

事前学修：授業計画に示されている授業各回のキーワードを予習し，意味や関連技術を調べる．
事後学修：授業各回の学修内容を見返して，再度プログラムの作成と実行に取り組む．確認テストがある場合はそれにも取り組む．

学修時間の目安：本学学則第13条に基づき，本科目の学修に必要な時間を60時間（3600分）と定める．そこから授業学修時間の1400分（100分の授業14回分）を差し引くと，授業外学修時間は2200分である．このうち，予習・復習・確認テストにかかる学修時間の目安を次のとおりに定める．

事前学修総計：840分（120分の予習7回分）
事後学修総計：840分（120分の復習7回分）
確認テスト総計：520分（74分の確認テスト6回，76分の確認テスト1回分）
小計：2200分

小計の時間に授業学修時間の1400分を加えると，合計3600分となり，本科目の学修に必要な時間が確保される．なお，ここで示した学修時間はあくまで下限値であるため，それ以上の学修時間を確保することは一向に構わない．授業動画の視聴時間が正規の時間を超過したり，確認テストの取り組み時間が目安時間を下回ったりする場合は，過不足分を予習時間または復習時間に足し引きして学修時間を調節することが望ましい．

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回　プログラムとプログラミング

プログラムとは何か，プログラミングとはどのような作業なのかを学びます．プログラムを書くための基本的なツールとして，エディタの使い方やプレーンテキストの重要性，プログラムの拡張子について理解します．
キーワード：プログラム，プログラミング言語，エディタ，プレーンテキスト，拡張子

第2回　データ型と変数

プログラミングにおいてデータの基本単位となるデータ型について学びます．変数の概念とその代入方法を理解し，対話型インタプリタを用いた基本的なプログラムの実行方法を習得します．
キーワード：オブジェクト，データ型，変数，代入，対話型インタプリタ

第3回　値の演算（ブール値と数値）

プログラムで用いる数値やブール値の扱いについて学びます．整数や浮動小数点数の基本的な計算方法，ブール値のリテラル表記，算術演算の基本を理解します．
キーワード：ブール値，整数，浮動小数点数，リテラル，算術演算

第4回　値の演算（文字列）

文字列の基本的な操作方法を学びます．文字列がシーケンスであること，イミュータブルな性質，スライスによる部分文字列の取得，f文字列を用いたフォーマットの方法を習得します．
キーワード：文字列，シーケンス，イミュータブル，スライス，f文字列

第5回　分岐処理

プログラムの流れを制御するための分岐処理について学びます．if文を用いた条件分岐，比較演算の仕組み，ブロックとインデントの重要性を理解し，if-else文を用いた基本的な分岐処理を習得します．
キーワード：if文，比較演算，ブロック，インデント，if-else文

第6回　多重分岐

より複雑な条件分岐を行うためのif-elif-else文について学びます．論理演算やin演算子を活用した条件判定，三項演算子による簡潔な条件式の記述，入れ子になった条件分岐の扱い方を理解します．
キーワード：if-elif-else文，論理演算，in演算子，三項演算子，入れ子

第7回　反復処理

プログラムの中で繰り返し処理を行う方法を学びます．while文とfor文の基本的な使い方，無限ループの注意点，break文やcontinue文を用いたループの制御方法を習得します．
キーワード：while文，for文，無限ループ，break文，continue文

第8回　データ構造

データを効果的に扱うための基本的なデータ構造について学びます．タプル，リスト，辞書，集合の特徴を理解し，それぞれの使いどころを学びます．また，内包表記を用いた効率的なデータ処理の方法を習得します．
キーワード：タプル，リスト，辞書，集合，内包表記

第9回　関数

コードの再利用性を高めるための関数の概念を学びます．関数の定義と呼び出し，引数と戻り値の扱い，スコープの概念を理解し，プログラムの可読性を向上させる方法を習得します．
キーワード：関数の定義，関数の呼び出し，引数，戻り値，スコープ

第10回　例外処理と応用的な関数

プログラムのエラー処理方法を学びます．例外の概念とtry-except文の基本，可変長引数を用いた柔軟な関数の設計，無名関数や再帰関数を活用した応用的なプログラミング技法を習得します．
キーワード：例外，try-except文，可変長引数，無名関数，再帰関数

第11回　オブジェクト指向

オブジェクト指向プログラミングの基本概念を学びます．class文を用いたクラスの定義，属性とメソッドの扱い，インスタンスの生成，コンストラクタの役割を理解し，オブジェクト指向の基本的な設計手法を習得します．
キーワード：class文，属性，メソッド，インスタンス，コンストラクタ

第12回　モジュールとパッケージ

プログラムをモジュール化して再利用性を高める方法を学びます．import文やfrom文，as文を用いたモジュールの活用，サブパッケージの構成方法，標準モジュールの活用を習得します．
キーワード：import文，from文，as文，サブパッケージ，標準モジュール

第13回　外部ライブラリ

外部ライブラリを活用することで，より高度な機能をプログラムに組み込む方法を学びます．リポジトリの利用，パッケージマネージャによるライブラリのインストール，点群データやグラフ，モンテカルロ法を用いた応用的なプログラムの作成を習得します．
キーワード：リポジトリ，パッケージマネージャ，点群データ，グラフ，モンテカルロ法

第14回　まとめ

テストを通じて，これまで学んだプログラミングの理解度を確認します．結果を振り返ることで，自分の得意な点や改善が必要な点を整理し，今後の学習方針を考えます．

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書:	指定なし.	
参考文献:	必要に応じて講義時に適宜示す.	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	40	期末テストの得点により本講義の理解度を評価する. 大学院生に関しては記述式の問題がある場合に学修に対する深い内省が学部生よりも相対的に見受けられるかどうかを基準として解答を評価する.
レポート:	0	−
平常点評価:	60	講義各回に付随する確認テストの得点により本講義への参加度を評価する. 確認テストは各講義の授業動画を視聴し終えると受験可能となる. 大学院生に関しても本項目の評価方法は学部生と同等とする. コンピュータプログラムを作成する任意の実習課題を提示する. 採点されたソースコードの得点によりプログラムの完成度を評価する.
備考・関連URL:	グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。 −GEC情報のカリキュラム −GEC情報の科目マップ −GEC情報の履修モデル	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010239|02|9S04010239[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング初級（Python） 02		
担 当 教 員	山極 綾子@金光 永煥@星 健太郎@邵 騰飛		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本科目「プログラミング初級（Python）」は，プログラミングの基礎を学ぶことを目的とし，情報学分野におけるプログラミング言語に関する一領域として位置づけられる．現代社会においてプログラミングは，ソフトウェア開発，デジタルトランスフォーメーション，自動化，データ解析など多岐にわたる分野で活用されており，その基礎技術の理解は極めて重要である．本科目では，プログラミングの基本概念や主要なアルゴリズム，データ構造，制御構造などの基礎知識を概観するとともに，コーディング演習やデバッグ技術，ソフトウェア設計の基礎を学ぶ．また，汎用的な開発環境を活用して実践的なプログラミングを行い，理論と実践を統合することを目的とする．これにより，プログラミングの基礎的な知識と技能を身につけ，今後の技術革新やキャリア構築に寄与する能力を修得する．

本科目では，以下の学修項目を主に扱う．プログラムの基礎とデータ型・変数値の演算（ブール値，数値，文字列）分岐処理（基礎と多重分岐）反復処理とデータ構造関数と例外処理オブジェクト指向とモジュール・パッケージ外部ライブラリの活用とまとめ
また，本科目は，GEC提供の情報科目「イ：情報技術の仕組・実装」カテゴリの「ソフトウェア」分野に属し，全学副専攻ソフトウェア学の履修に加算可能な科目の一つである．本科目の履修にあたっては，GEC提供の情報科目「ア：情報技術の概念・利用」カテゴリの「情報リテラシー」分野に属する基礎科目「情報科学の基礎」および「プログラミング入門」によってプログラミングの基本概念を理解しておくことが望ましい．なお，別科目のプログラミング初級（C/C++，Java）は本科目と並行して履修することが可能である．授業全体を通じて，本科目は，早稲田大学の掲げる「文理横断・連携・融合教育」に則し，情報学の学修を通して「創造性，論理的思考・計算論的思考，課題発見・問題解決，分野開拓」等の汎用的能力の育成にも寄与する．

本科目は，以下の点において特筆される．本科目はクォーター制で実施され，全7回の講義で構成される．本科目の各講義1回分は100分 の授業2回で構成され，最終授業（第14回）は期末試験の実施に充てられる．本科目の各講義は Waseda Moodle を用いたオンライン形式で行われ，オンデマンドの授業動画が配信される．本科目の学生は各自または学内のパソコンで任意の日時に授業動画を視聴し，プログラミングの学習に取り組むとともに，期限付きの課題やテストを提出することが求められる．本科目は複数の教員によって運用されており，1名の主担当教員によって全ての授業が進行される．本科目のフィードバックは必要に応じてWaseda Moodleから提供される．本科目の授業動画および授業資料はWaseda Moodleを通じて履修開始日に全て事前に提供される．本科目は初学者を対象としており，実践や実習を中心とした授業として展開される．全ての授業回を全担当教員が担当．

授業の到達目標:

本科目を履修することで，以下の知識・技能を習得することを目指す．
（到達目標1）プログラミングの基本的な流れを理解し，Pythonを用いた基本的なコードを記述できる．
（到達目標2）プログラミングに関連するソフトウェアや開発環境を適切に操作できる．
（到達目標3）基本的なデータ形式やデータ構造（数値，文字列，リスト，辞書，集合など）を理解し，適切に扱うことができる．
（到達目標4）制御構造（順次処理，分岐処理，反復処理）を用いて，基本的なアルゴリズムを実装できる．
（到達目標5）関数を活用し，プログラムの構造化を行い，コードの再利用性を向上させることができる．
（到達目標6）オブジェクト指向の基本概念を理解し，クラスとオブジェクトを用いた簡単なプログラムを作成できる．
（到達目標7）Pythonの標準ライブラリや外部パッケージを活用し，プログラムをより効率的に開発できる．

事前・事後学習の内容:

事前学修：授業計画に示されている授業各回のキーワードを予習し，意味や関連技術を調べる．
事後学修：授業各回の学修内容を見返して，再度プログラムの作成と実行に取り組む．確認テストがある場合はそれにも取り組む．

学修時間の目安：本学学則第13条に基づき，本科目の学修に必要な時間を60時間（3600分）と定める．そこから授業学修時間の1400分（100分の授業14回分）を差し引くと，授業外学修時間は2200分である．このうち，予習・復習・確認テストにかかる学修時間の目安を次のとおりに定める．

事前学修総計：840分（120分の予習7回分）
事後学修総計：840分（120分の復習7回分）
確認テスト総計：520分（74分の確認テスト6回，76分の確認テスト1回分）
小計：2200分

小計の時間に授業学修時間の1400分を加えると，合計3600分となり，本科目の学修に必要な時間が確保される．なお，ここで示した学修時間はあくまで下限値であるため，それ以上の学修時間を確保することは一向に構わない．授業動画の視聴時間が正規の時間を超過したり，確認テストの取り組み時間が目安時間を下回ったりする場合は，過不足分を予習時間または復習時間に足し引きして学修時間を調節することが望ましい．

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回　プログラムとプログラミング

プログラムとは何か，プログラミングとはどのような作業なのかを学びます．プログラムを書くための基本的なツールとして，エディタの使い方やプレーンテキストの重要性，プログラムの拡張子について理解します．
キーワード：プログラム，プログラミング言語，エディタ，プレーンテキスト，拡張子

第2回　データ型と変数

プログラミングにおいてデータの基本単位となるデータ型について学びます．変数の概念とその代入方法を理解し，対話型インタプリタを用いた基本的なプログラムの実行方法を習得します．
キーワード：オブジェクト，データ型，変数，代入，対話型インタプリタ

第3回　値の演算（ブール値と数値）

プログラムで用いる数値やブール値の扱いについて学びます．整数や浮動小数点数の基本的な計算方法，ブール値のリテラル表記，算術演算の基本を理解します．
キーワード：ブール値，整数，浮動小数点数，リテラル，算術演算

第4回　値の演算（文字列）

文字列の基本的な操作方法を学びます．文字列がシーケンスであること，イミュータブルな性質，スライスによる部分文字列の取得，f文字列を用いたフォーマットの方法を習得します．
キーワード：文字列，シーケンス，イミュータブル，スライス，f文字列

第5回　分岐処理

プログラムの流れを制御するための分岐処理について学びます．if文を用いた条件分岐，比較演算の仕組み，ブロックとインデントの重要性を理解し，if-else文を用いた基本的な分岐処理を習得します．
キーワード：if文，比較演算，ブロック，インデント，if-else文

第6回　多重分岐

より複雑な条件分岐を行うためのif-elif-else文について学びます．論理演算やin演算子を活用した条件判定，三項演算子による簡潔な条件式の記述，入れ子になった条件分岐の扱い方を理解します．
キーワード：if-elif-else文，論理演算，in演算子，三項演算子，入れ子

第7回　反復処理

プログラムの中で繰り返し処理を行う方法を学びます．while文とfor文の基本的な使い方，無限ループの注意点，break文やcontinue文を用いたループの制御方法を習得します．
キーワード：while文，for文，無限ループ，break文，continue文

第8回　データ構造

データを効果的に扱うための基本的なデータ構造について学びます．タプル，リスト，辞書，集合の特徴を理解し，それぞれの使いどころを学びます．また，内包表記を用いた効率的なデータ処理の方法を習得します．
キーワード：タプル，リスト，辞書，集合，内包表記

第9回　関数

コードの再利用性を高めるための関数の概念を学びます．関数の定義と呼び出し，引数と戻り値の扱い，スコープの概念を理解し，プログラムの可読性を向上させる方法を習得します．
キーワード：関数の定義，関数の呼び出し，引数，戻り値，スコープ

第10回　例外処理と応用的な関数

プログラムのエラー処理方法を学びます．例外の概念とtry-except文の基本，可変長引数を用いた柔軟な関数の設計，無名関数や再帰関数を活用した応用的なプログラミング技法を習得します．
キーワード：例外，try-except文，可変長引数，無名関数，再帰関数

第11回　オブジェクト指向

オブジェクト指向プログラミングの基本概念を学びます．class文を用いたクラスの定義，属性とメソッドの扱い，インスタンスの生成，コンストラクタの役割を理解し，オブジェクト指向の基本的な設計手法を習得します．
キーワード：class文，属性，メソッド，インスタンス，コンストラクタ

第12回　モジュールとパッケージ

プログラムをモジュール化して再利用性を高める方法を学びます．import文やfrom文，as文を用いたモジュールの活用，サブパッケージの構成方法，標準モジュールの活用を習得します．
キーワード：import文，from文，as文，サブパッケージ，標準モジュール

第13回　外部ライブラリ

外部ライブラリを活用することで，より高度な機能をプログラムに組み込む方法を学びます．リポジトリの利用，パッケージマネージャによるライブラリのインストール，点群データやグラフ，モンテカルロ法を用いた応用的なプログラムの作成を習得します．
キーワード：リポジトリ，パッケージマネージャ，点群データ，グラフ，モンテカルロ法

第14回　まとめ

テストを通じて，これまで学んだプログラミングの理解度を確認します．結果を振り返ることで，自分の得意な点や改善が必要な点を整理し，今後の学習方針を考えます．

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書:	指定なし.	
参考文献:	必要に応じて講義時に適宜示す.	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	40	期末テストの得点により本講義の理解度を評価する. 大学院生に関しては記述式の問題がある場合に学修に対する深い内省が学部生よりも相対的に見受けられるかどうかを基準として解答を評価する.
レポート:	0	-
平常点評価:	60	講義各回に付随する確認テストの得点により本講義への参加度を評価する. 確認テストは各講義の授業動画を視聴し終えると受験可能となる. 大学院生に関しても本項目の評価方法は学部生と同等とする. コンピュータプログラムを作成する任意の実習課題を提示する. 採点されたソースコードの得点によりプログラムの完成度を評価する.
備考・関連URL:	グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。 -GEC情報のカリキュラム -GEC情報の科目マップ -GEC情報の履修モデル	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010239|03|9S04010239[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング初級（Python） 03		
担 当 教 員	山極 綾子@金光 永煥@星 健太郎@邵 騰飛		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本科目「プログラミング初級（Python）」は，プログラミングの基礎を学ぶことを目的とし，情報学分野におけるプログラミング言語に関する一領域として位置づけられる．現代社会においてプログラミングは，ソフトウェア開発，デジタルトランスフォーメーション，自動化，データ解析など多岐にわたる分野で活用されており，その基礎技術の理解は極めて重要である．本科目では，プログラミングの基本概念や主要なアルゴリズム，データ構造，制御構造などの基礎知識を概観するとともに，コーディング演習やデバッグ技術，ソフトウェア設計の基礎を学ぶ．また，汎用的な開発環境を活用して実践的なプログラミングを行い，理論と実践を統合することを目的とする．これにより，プログラミングの基礎的な知識と技能を身につけ，今後の技術革新やキャリア構築に寄与する能力を修得する．

本科目では，以下の学修項目を主に扱う．プログラムの基礎とデータ型・変数値の演算（ブール値，数値，文字列）分岐処理（基礎と多重分岐）反復処理とデータ構造関数と例外処理オブジェクト指向とモジュール・パッケージ外部ライブラリの活用とまとめ
また，本科目は，GEC提供の情報科目「イ：情報技術の仕組・実装」カテゴリの「ソフトウェア」分野に属し，全学副専攻ソフトウェア学の履修に加算可能な科目の一つである．本科目の履修にあたっては，GEC提供の情報科目「ア：情報技術の概念・利用」カテゴリの「情報リテラシー」分野に属する基礎科目「情報科学の基礎」および「プログラミング入門」によってプログラミングの基本概念を理解しておくことが望ましい．なお，別科目のプログラミング初級（C/C++，Java）は本科目と並行して履修することが可能である．授業全体を通じて，本科目は，早稲田大学の掲げる「文理横断・連携・融合教育」に則し，情報学の学修を通して「創造性，論理的思考・計算論的思考，課題発見・問題解決，分野開拓」等の汎用的能力の育成にも寄与する．

本科目は，以下の点において特筆される．本科目はクォーター制で実施され，全7回の講義で構成される．本科目の各講義1回分は100分 の授業2回で構成され，最終授業（第14回）は期末試験の実施に充てられる．本科目の各講義は Waseda Moodle を用いたオンライン形式で行われ，オンデマンドの授業動画が配信される．本科目の学生は各自または学内のパソコンで任意の日時に授業動画を視聴し，プログラミングの学習に取り組むとともに，期限付きの課題やテストを提出することが求められる．本科目は複数の教員によって運用されており，1名の主担当教員によって全ての授業が進行される．本科目のフィードバックは必要に応じてWaseda Moodleから提供される．本科目の授業動画および授業資料はWaseda Moodleを通じて履修開始日に全て事前に提供される．本科目は初学者を対象としており，実践や実習を中心とした授業として展開される．全ての授業回を全担当教員が担当．

授業の到達目標:

本科目を履修することで，以下の知識・技能を習得することを目指す．
（到達目標1）プログラミングの基本的な流れを理解し，Pythonを用いた基本的なコードを記述できる．
（到達目標2）プログラミングに関連するソフトウェアや開発環境を適切に操作できる．
（到達目標3）基本的なデータ形式やデータ構造（数値，文字列，リスト，辞書，集合など）を理解し，適切に扱うことができる．
（到達目標4）制御構造（順次処理，分岐処理，反復処理）を用いて，基本的なアルゴリズムを実装できる．
（到達目標5）関数を活用し，プログラムの構造化を行い，コードの再利用性を向上させることができる．
（到達目標6）オブジェクト指向の基本概念を理解し，クラスとオブジェクトを用いた簡単なプログラムを作成できる．
（到達目標7）Pythonの標準ライブラリや外部パッケージを活用し，プログラムをより効率的に開発できる．

事前・事後学習の内容:

事前学修：授業計画に示されている授業各回のキーワードを予習し，意味や関連技術を調べる．
事後学修：授業各回の学修内容を見返して，再度プログラムの作成と実行に取り組む．確認テストがある場合はそれにも取り組む．

学修時間の目安：本学学則第13条に基づき，本科目の学修に必要な時間を60時間（3600分）と定める．そこから授業学修時間の1400分（100分の授業14回分）を差し引くと，授業外学修時間は2200分である．このうち，予習・復習・確認テストにかかる学修時間の目安を次のとおりに定める．

事前学修総計：840分（120分の予習7回分）
事後学修総計：840分（120分の復習7回分）
確認テスト総計：520分（74分の確認テスト6回，76分の確認テスト1回分）
小計：2200分

小計の時間に授業学修時間の1400分を加えると，合計3600分となり，本科目の学修に必要な時間が確保される．なお，ここで示した学修時間はあくまで下限値であるため，それ以上の学修時間を確保することは一向に構わない．授業動画の視聴時間が正規の時間を超過したり，確認テストの取り組み時間が目安時間を下回ったりする場合は，過不足分を予習時間または復習時間に足し引きして学修時間を調節することが望ましい．

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回　プログラムとプログラミング

プログラムとは何か，プログラミングとはどのような作業なのかを学びます．プログラムを書くための基本的なツールとして，エディタの使い方やプレーンテキストの重要性，プログラムの拡張子について理解します．
キーワード：プログラム，プログラミング言語，エディタ，プレーンテキスト，拡張子

第2回　データ型と変数

プログラミングにおいてデータの基本単位となるデータ型について学びます．変数の概念とその代入方法を理解し，対話型インタプリタを用いた基本的なプログラムの実行方法を習得します．
キーワード：オブジェクト，データ型，変数，代入，対話型インタプリタ

第3回　値の演算（ブール値と数値）

プログラムで用いる数値やブール値の扱いについて学びます．整数や浮動小数点数の基本的な計算方法，ブール値のリテラル表記，算術演算の基本を理解します．
キーワード：ブール値，整数，浮動小数点数，リテラル，算術演算

第4回　値の演算（文字列）

文字列の基本的な操作方法を学びます．文字列がシーケンスであること，イミュータブルな性質，スライスによる部分文字列の取得，f文字列を用いたフォーマットの方法を習得します．
キーワード：文字列，シーケンス，イミュータブル，スライス，f文字列

第5回　分岐処理

プログラムの流れを制御するための分岐処理について学びます．if文を用いた条件分岐，比較演算の仕組み，ブロックとインデントの重要性を理解し，if-else文を用いた基本的な分岐処理を習得します．
キーワード：if文，比較演算，ブロック，インデント，if-else文

第6回　多重分岐

より複雑な条件分岐を行うためのif-elif-else文について学びます．論理演算やin演算子を活用した条件判定，三項演算子による簡潔な条件式の記述，入れ子になった条件分岐の扱い方を理解します．
キーワード：if-elif-else文，論理演算，in演算子，三項演算子，入れ子

第7回　反復処理

プログラムの中で繰り返し処理を行う方法を学びます．while文とfor文の基本的な使い方，無限ループの注意点，break文やcontinue文を用いたループの制御方法を習得します．
キーワード：while文，for文，無限ループ，break文，continue文

第8回　データ構造

データを効果的に扱うための基本的なデータ構造について学びます．タプル，リスト，辞書，集合の特徴を理解し，それぞれの使いどころを学びます．また，内包表記を用いた効率的なデータ処理の方法を習得します．
キーワード：タプル，リスト，辞書，集合，内包表記

第9回　関数

コードの再利用性を高めるための関数の概念を学びます．関数の定義と呼び出し，引数と戻り値の扱い，スコープの概念を理解し，プログラムの可読性を向上させる方法を習得します．
キーワード：関数の定義，関数の呼び出し，引数，戻り値，スコープ

第10回　例外処理と応用的な関数

プログラムのエラー処理方法を学びます．例外の概念とtry-except文の基本，可変長引数を用いた柔軟な関数の設計，無名関数や再帰関数を活用した応用的なプログラミング技法を習得します．
キーワード：例外，try-except文，可変長引数，無名関数，再帰関数

第11回　オブジェクト指向

オブジェクト指向プログラミングの基本概念を学びます．class文を用いたクラスの定義，属性とメソッドの扱い，インスタンスの生成，コンストラクタの役割を理解し，オブジェクト指向の基本的な設計手法を習得します．
キーワード：class文，属性，メソッド，インスタンス，コンストラクタ

第12回　モジュールとパッケージ

プログラムをモジュール化して再利用性を高める方法を学びます．import文やfrom文，as文を用いたモジュールの活用，サブパッケージの構成方法，標準モジュールの活用を習得します．
キーワード：import文，from文，as文，サブパッケージ，標準モジュール

第13回　外部ライブラリ

外部ライブラリを活用することで，より高度な機能をプログラムに組み込む方法を学びます．リポジトリの利用，パッケージマネージャによるライブラリのインストール，点群データやグラフ，モンテカルロ法を用いた応用的なプログラムの作成を習得します．
キーワード：リポジトリ，パッケージマネージャ，点群データ，グラフ，モンテカルロ法

第14回　まとめ

テストを通じて，これまで学んだプログラミングの理解度を確認します．結果を振り返ることで，自分の得意な点や改善が必要な点を整理し，今後の学習方針を考えます．

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書:	指定なし.	
参考文献:	必要に応じて講義時に適宜示す.	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	40	期末テストの得点により本講義の理解度を評価する. 大学院生に関しては記述式の問題がある場合に学修に対する深い内省が学部生よりも相対的に見受けられるかどうかを基準として解答を評価する.
レポート:	0	-
平常点評価:	60	講義各回に付随する確認テストの得点により本講義への参加度を評価する. 確認テストは各講義の授業動画を視聴し終えると受験可能となる. 大学院生に関しても本項目の評価方法は学部生と同等とする. コンピュータプログラムを作成する任意の実習課題を提示する. 採点されたソースコードの得点によりプログラムの完成度を評価する.
備考・関連URL:	グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。 -GEC情報のカリキュラム -GEC情報の科目マップ -GEC情報の履修モデル	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010239|04|9S04010239[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング初級（Python） 04		
担 当 教 員	山極 綾子@金光 永煥@星 健太郎@邵 騰飛		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本科目「プログラミング初級（Python）」は，プログラミングの基礎を学ぶことを目的とし，情報学分野におけるプログラミング言語に関する一領域として位置づけられる．現代社会においてプログラミングは，ソフトウェア開発，デジタルトランスフォーメーション，自動化，データ解析など多岐にわたる分野で活用されており，その基礎技術の理解は極めて重要である．本科目では，プログラミングの基本概念や主要なアルゴリズム，データ構造，制御構造などの基礎知識を概観するとともに，コーディング演習やデバッグ技術，ソフトウェア設計の基礎を学ぶ．また，汎用的な開発環境を活用して実践的なプログラミングを行い，理論と実践を統合することを目的とする．これにより，プログラミングの基礎的な知識と技能を身につけ，今後の技術革新やキャリア構築に寄与する能力を修得する．

本科目では，以下の学修項目を主に扱う．プログラムの基礎とデータ型・変数値の演算（ブール値，数値，文字列）分岐処理（基礎と多重分岐）反復処理とデータ構造関数と例外処理オブジェクト指向とモジュール・パッケージ外部ライブラリの活用とまとめ
また，本科目は，GEC提供の情報科目「イ：情報技術の仕組・実装」カテゴリの「ソフトウェア」分野に属し，全学副専攻ソフトウェア学の履修に加算可能な科目の一つである．本科目の履修にあたっては，GEC提供の情報科目「ア：情報技術の概念・利用」カテゴリの「情報リテラシー」分野に属する基礎科目「情報科学の基礎」および「プログラミング入門」によってプログラミングの基本概念を理解しておくことが望ましい．なお，別科目のプログラミング初級（C/C++，Java）は本科目と並行して履修することが可能である．授業全体を通じて，本科目は，早稲田大学の掲げる「文理横断・連携・融合教育」に則し，情報学の学修を通して「創造性，論理的思考・計算論的思考，課題発見・問題解決，分野開拓」等の汎用的能力の育成にも寄与する．

本科目は，以下の点において特筆される．本科目はクォーター制で実施され，全7回の講義で構成される．本科目の各講義1回分は100分 の授業2回で構成され，最終授業（第14回）は期末試験の実施に充てられる．本科目の各講義は Waseda Moodle を用いたオンライン形式で行われ，オンデマンドの授業動画が配信される．本科目の学生は各自または学内のパソコンで任意の日時に授業動画を視聴し，プログラミングの学習に取り組むとともに，期限付きの課題やテストを提出することが求められる．本科目は複数の教員によって運用されており，1名の主担当教員によって全ての授業が進行される．本科目のフィードバックは必要に応じてWaseda Moodleから提供される．本科目の授業動画および授業資料はWaseda Moodleを通じて履修開始日に全て事前に提供される．本科目は初学者を対象としており，実践や実習を中心とした授業として展開される．全ての授業回を全担当教員が担当．

授業の到達目標:

本科目を履修することで，以下の知識・技能を習得することを目指す．
（到達目標1）プログラミングの基本的な流れを理解し，Pythonを用いた基本的なコードを記述できる．
（到達目標2）プログラミングに関連するソフトウェアや開発環境を適切に操作できる．
（到達目標3）基本的なデータ形式やデータ構造（数値，文字列，リスト，辞書，集合など）を理解し，適切に扱うことができる．
（到達目標4）制御構造（順次処理，分岐処理，反復処理）を用いて，基本的なアルゴリズムを実装できる．
（到達目標5）関数を活用し，プログラムの構造化を行い，コードの再利用性を向上させることができる．
（到達目標6）オブジェクト指向の基本概念を理解し，クラスとオブジェクトを用いた簡単なプログラムを作成できる．
（到達目標7）Pythonの標準ライブラリや外部パッケージを活用し，プログラムをより効率的に開発できる．

事前・事後学習の内容:

事前学修：授業計画に示されている授業各回のキーワードを予習し，意味や関連技術を調べる．
事後学修：授業各回の学修内容を見返して，再度プログラムの作成と実行に取り組む．確認テストがある場合はそれにも取り組む．

学修時間の目安：本学学則第13条に基づき，本科目の学修に必要な時間を60時間（3600分）と定める．そこから授業学修時間の1400分（100分の授業14回分）を差し引くと，授業外学修時間は2200分である．このうち，予習・復習・確認テストにかかる学修時間の目安を次のとおりに定める．

事前学修総計：840分（120分の予習7回分）
事後学修総計：840分（120分の復習7回分）
確認テスト総計：520分（74分の確認テスト6回，76分の確認テスト1回分）
小計：2200分

小計の時間に授業学修時間の1400分を加えると，合計3600分となり，本科目の学修に必要な時間が確保される．なお，ここで示した学修時間はあくまで下限値であるため，それ以上の学修時間を確保することは一向に構わない．授業動画の視聴時間が正規の時間を超過したり，確認テストの取り組み時間が目安時間を下回ったりする場合は，過不足分を予習時間または復習時間に足し引きして学修時間を調節することが望ましい．

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回　プログラムとプログラミング

プログラムとは何か，プログラミングとはどのような作業なのかを学びます．プログラムを書くための基本的なツールとして，エディタの使い方やプレーンテキストの重要性，プログラムの拡張子について理解します．
キーワード：プログラム，プログラミング言語，エディタ，プレーンテキスト，拡張子

第2回　データ型と変数

プログラミングにおいてデータの基本単位となるデータ型について学びます．変数の概念とその代入方法を理解し，対話型インタプリタを用いた基本的なプログラムの実行方法を習得します．
キーワード：オブジェクト，データ型，変数，代入，対話型インタプリタ

第3回　値の演算（ブール値と数値）

プログラムで用いる数値やブール値の扱いについて学びます．整数や浮動小数点数の基本的な計算方法，ブール値のリテラル表記，算術演算の基本を理解します．
キーワード：ブール値，整数，浮動小数点数，リテラル，算術演算

第4回　値の演算（文字列）

文字列の基本的な操作方法を学びます．文字列がシーケンスであること，イミュータブルな性質，スライスによる部分文字列の取得，f文字列を用いたフォーマットの方法を習得します．
キーワード：文字列，シーケンス，イミュータブル，スライス，f文字列

第5回　分岐処理

プログラムの流れを制御するための分岐処理について学びます．if文を用いた条件分岐，比較演算の仕組み，ブロックとインデントの重要性を理解し，if-else文を用いた基本的な分岐処理を習得します．
キーワード：if文，比較演算，ブロック，インデント，if-else文

第6回　多重分岐

より複雑な条件分岐を行うためのif-elif-else文について学びます．論理演算やin演算子を活用した条件判定，三項演算子による簡潔な条件式の記述，入れ子になった条件分岐の扱い方を理解します．
キーワード：if-elif-else文，論理演算，in演算子，三項演算子，入れ子

第7回　反復処理

プログラムの中で繰り返し処理を行う方法を学びます．while文とfor文の基本的な使い方，無限ループの注意点，break文やcontinue文を用いたループの制御方法を習得します．
キーワード：while文，for文，無限ループ，break文，continue文

第8回　データ構造

データを効果的に扱うための基本的なデータ構造について学びます．タプル，リスト，辞書，集合の特徴を理解し，それぞれの使いどころを学びます．また，内包表記を用いた効率的なデータ処理の方法を習得します．
キーワード：タプル，リスト，辞書，集合，内包表記

第9回　関数

コードの再利用性を高めるための関数の概念を学びます．関数の定義と呼び出し，引数と戻り値の扱い，スコープの概念を理解し，プログラムの可読性を向上させる方法を習得します．
キーワード：関数の定義，関数の呼び出し，引数，戻り値，スコープ

第10回　例外処理と応用的な関数

プログラムのエラー処理方法を学びます．例外の概念とtry-except文の基本，可変長引数を用いた柔軟な関数の設計，無名関数や再帰関数を活用した応用的なプログラミング技法を習得します．
キーワード：例外，try-except文，可変長引数，無名関数，再帰関数

第11回　オブジェクト指向

オブジェクト指向プログラミングの基本概念を学びます．class文を用いたクラスの定義，属性とメソッドの扱い，インスタンスの生成，コンストラクタの役割を理解し，オブジェクト指向の基本的な設計手法を習得します．
キーワード：class文，属性，メソッド，インスタンス，コンストラクタ

第12回　モジュールとパッケージ

プログラムをモジュール化して再利用性を高める方法を学びます．import文やfrom文，as文を用いたモジュールの活用，サブパッケージの構成方法，標準モジュールの活用を習得します．
キーワード：import文，from文，as文，サブパッケージ，標準モジュール

第13回　外部ライブラリ

外部ライブラリを活用することで，より高度な機能をプログラムに組み込む方法を学びます．リポジトリの利用，パッケージマネージャによるライブラリのインストール，点群データやグラフ，モンテカルロ法を用いた応用的なプログラムの作成を習得します．
キーワード：リポジトリ，パッケージマネージャ，点群データ，グラフ，モンテカルロ法

第14回　まとめ

テストを通じて，これまで学んだプログラミングの理解度を確認します．結果を振り返ることで，自分の得意な点や改善が必要な点を整理し，今後の学習方針を考えます．

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書:	指定なし.	
参考文献:	必要に応じて講義時に適宜示す.	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	40	期末テストの得点により本講義の理解度を評価する. 大学院生に関しては記述式の問題がある場合に学修に対する深い内省が学部生よりも相対的に見受けられるかどうかを基準として解答を評価する.
レポート:	0	-
平常点評価:	60	講義各回に付随する確認テストの得点により本講義への参加度を評価する. 確認テストは各講義の授業動画を視聴し終えると受験可能となる. 大学院生に関しても本項目の評価方法は学部生と同等とする. コンピュータプログラムを作成する任意の実習課題を提示する. 採点されたソースコードの得点によりプログラムの完成度を評価する.
備考・関連URL:	グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。 -GEC情報のカリキュラム -GEC情報の科目マップ -GEC情報の履修モデル	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010239|05|9S04010239[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング初級（Python） 05		
担 当 教 員	加藤 洋一		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

現代のソフトウェア開発では、パッケージ化された機能モジュールやライブラリを組み合わせて目的の応用を実現する、という方法が主流です。Pythonなどのスクリプト型プログラミング言語はその扱いや学習が容易であると同時に、AIやWebアプリケーション開発など多くの応用開発向けのライブラリが利用可能です。このような進化によりアプリケーション開発の生産性は大いに向上しました。実際にプログラムを開発するためには、従来のように計算機の構造とCなどのプログラミング言語を学ぶだけでは不十分であり、たとえ初級者であっても自己が目的とする機能実現のためには関連する内部・外部ライブラリの探索、それらの利用方法の理解・試行および実利用、などを実施する能力が必要となります。本講義では、小規模なアプリケーションプログラムを自ら開発できる能力の獲得を目的に、Pythonの基礎、有用なライブラリとその使い方、外部ライブラリの探索と利用方法などを学習するとともに、演習を通じてアプリケーション開発の実際について学びます。

本講義では、「Pythonを利用して自己が目的とする小規模な機能を持つソフトウェア（プログラム）を開発できる能力」を獲得することを目的に、以下のような事項を学習します。
・ Python プログラミング言語の基本的な使い方
・ プログラム開発の考え方
・ Python プログラム開発に用いるソフトウェア類の使い方
・ コンピューターの構造の概要と、Pythonからファイルシステム・キーボード入力・画面出力・ネットワーク、などのコンピューターリソースへアクセスする方法
・ 学習や研究にすぐに役立つライブラリの紹介と実利用
・ 外部ライブラリの探索と実利用
・ 生成AIを利用してプログラミングやライブラリの使用方法を探る方法

毎回演習を行うため、第一回を含めすべての講義に参加してください。
通常の教室を使用しますので受講生は必ずPC（Windows 10 あるいは 11）あるいは Mac（MacOS 11以降）を毎回講義に持参してください（iPad、iPhone、Android端末のみでの受講はできません）。講義で使用するPythonはVersion 3.14を予定しています。講師はWindows11のPCあるいはMacを使用する予定です.。演習実施内容はWord文書にまとめてMoodleへアップロードしていただきます。そのため、持参するPC/Macには予め Microsoft Office をインストールしておいてください。2限連続の講義ですので、機器の充電状況に注意してください。電源アダプターを持参することをお勧めします。
担当講師は、マルチユーザー3Dコミュニケーションシステム・サービス、Web会議システム・サービス、4K/8K高品質映像制作用サーバーシステム、などの製品企画・開発・運用などで、25年以上Pythonを実利用してきた経験を持ちます。

授業の到達目標:

「自己が目的とする機能を実現する小規模なプログラムをPython言語およびライブラリを用いて開発できる能力」を獲得するため、以下のような事項を習得・理解する
・普段使っているPCやスマートフォンなどのコンピューターはどのような構造を持っており、ユーザーにどのような機能を提供しているか
・プログラムとは要はコンピューターの機能を自分の目的のために利用する手続きを記述したものであること
・Python プログラム言語とプログラム開発方法の基礎
・Python プログラミングの作法
・Python プログラムを開発するためのソフトウェア類とその使い方
・実現したい機能をプログラムコードに変換するための考え方
・内部ライブラリの探し方と使い方
・外部ライブラリの探し方と使い方

知識獲得と応用による定着、という作業を積み重ねることで目標に到達できます。一方、全くの初学者が小規模なアプリケーションプログラムを開発できるようになるまでの学習時間は少なくとも50時間は必要と思われます。即ち、講義時間だけの学習では目標に到達できない可能性があります。演習課題の理解が不十分であると感じた場合には自学習（復習）を実施してください。

事前・事後学習の内容:

毎回演習を実施します。実施した演習の内容は毎回Moodleへ提出して頂きます。時間内に演習を終えることができなかった場合は残内容を時間外学習として実施し当日中にMoodleへ提出してください。この提出をもって出席を確認します。
事前学習についてはMoodleで指示します。Moodleのアナウンスメント機能を用いて必要な周知を行います。定期的にMoodleを確認するようにしてください。
プログラミング初級の学習はステップバイステップの積み重ね的なものとなりますので、各学習回の内容理解が不十分であると感じた場合には、次回講義までに自主的に復習を実施してください。

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　下記内容は受講生の学習進度に合わせて変更する場合があります。
第1回 最初の一歩
Pythonはプログラミング言語中で言語要素が最も少ないものの一つです（つまり学習が容易）。まずは ごく基本的な言語要素を学習します。それに先立ち、最初に、プログラミングを行うに際して必要なPC/Mac利用の方法を学習します。

・本講義の目的と概要
・コンピューターやプログラミングに関する一般知識
・プログラミングに必要なコンピューターリテラシー（ファイルシステムとコマンドラインインタフェース）
・Python3のインストールと動作確認
・Python対話モードの利用による基本的な演算と型（オブジェクト）の理解
・関数定義、ループ、条件分岐など、基本的な実行制御機能の理解
・Python に付属のエディタIDLEによるプログラムテキストの編集、IDLEからの実行と、コマンドラインによる実行
・演習：Python対話モードを利用し、演算機能、文字列処理機能、リストと辞書の形式とその機能を学習する
・演習：ごく簡単なプログラムを作成し、実行する（"Hello World!" 出力、整数の和の計算など）

第2回 Pythonおよびプログラム作成に慣れる
前回講義にて学習した、ごく簡易なプログラム作成に必要な知識の確認と定着を行うべく、演習を中心とした学習を行います。

・ ファイルの扱い
・ 演習：基本プログラムパターン（配列とループ、辞書とループと条件分岐など）
・ 演習：応用として地球温暖化を示すCSVファイルを読み込み、グラフとして表示するプログラムを作成

第3回 主要なPythonの言語要素の学習の完了
整形した印字出力を行う方法、外部パラメータなど、Python を実用的に使う方法を学習します。

・ 外部パラメータの与え方
・ 辞書型、文字出力のフォーマット、オブジェクト、クラス
・ 演習：多数の著作権切れテキストの処理
・ 演習：クラスの利用

第4回 プログラム開発の考え方
実現したい機能を開発するときは、最初にその機能を解析して機能の分割や詳細化、あるいは、手順の明確化を行います。このような作業では、「既存の類似プログラムを参考にする」、という方法が効率的です。現代では、生成AIにサンプルプログラムを出力させることもできます。演習を通じて、これらの作業の方法を実践的に学習します。

・ 演習：機能分割や詳細化
・ 演習：自動的に英文を生成するプログラム

第5回 応用プログラム作成1

Pythonで良く用いられるクロスプラットフォームGUIプログラム作成プラットフォーム Tkinter を使い、簡易的なフォトアルバムを作成します。今回は、GUIプログラミングの考え方とGUIプラットフォームが提供する機能を学習します。また、生成AIにプログラムサンプルを出力させ、それを参考に開発を行う方法を試行します。

・ GUI の基本構造
・ Tkinter の基本
・ フォトアルバムに求められる仕様
・ 演習：アルバム作成の第一歩

第6回 応用プログラム作成2

応用プログラムの作成を通じて、自分が欲する機能をプログラムコードに落とす、というのはどのような作業であるのかを理解します。

・ 演習：フォトアルバム開発の続き。Class を利用してプログラムの見通しを良くする

第7回 応用プログラム作成3

ここまでの学習の総合的な復習も兼ねて、フォトアルバム プログラムを完成させます。
・演習：フォトアルバムを完成させる

最終課題を出します。

・ 最終課題提出
提出締め切りまでには十分な時間を置く予定です。最終課題を実施することで、本講義受講の目標が達成されていることを確認します。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書: 講義で使用する文書類、サンプルプログラムなどはMoodleを通じて提供します。

演習中の常時参照用に初回講義時に、講師が作成した以下の文書（印刷物）を配布する予定です。毎回の講義に持参してください。
・ Python 簡易リファレンスマニュアル
・ Python インタラクティブモード、編集環境、実行環境
・「Python初級」のためのコンピューターリテラシー

参考文献: Pythonに関する本は様々な種類のものが出版されています。Webでのチュートリアル的資料も豊富です。参考図書を手元に置いておきたい方は図書館や書店で自分に合う書籍を探してみてください。ただし古い書籍は講義で使用するPython3.xとは互換性のないPython2およびそれ以前のバージョンのPythonについて書かれているものもあるので注意してください。
京都大学が「プログラミング演習 Python 2023」および「プログラミング演習 Python 2023（コラム編）」という読みやすいコース文書をOCWとして公開しています。
https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/285599/1/Version2023_10_17_01.pdf
https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/285599/2/Version2023_10_12_02.pdf
適宜参考にしてください。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	試験は行いません。
レポート:	40	第7回講義時に最終レポート課題を提出します。本課題の提出は単位認定に必須です。課題の内容は、「自分で発想したアプリケーションプログラムの開発」、とする予定です。
平常点評価:	60	講義に出席し、各回の演習課題を実施して演習の報告書をMoodleに提出してください。この提出をもって講義への出席を確認します。課題未達成でも必ず演習報告書のファイルをMoodleへアップロードしてください。どうしても出席できないときは予め講師に連絡してください。
その他:	0	その他の評価方法はありません。

備考・関連URL: ・本講義の履修を希望する場合は必ず第1回目から出席してください。
・講義中は自由に講師に質問ができます。講師のサポートを得つつ演習を進めることで効果的な学習ができます。
・講義は全回出席することを前提として進めます（欠席すると次回以降の講義の理解が難しくなってしまう場合があります）。
・受講生の理解度や進捗状況に応じてスケジュールや扱う内容が変更になる場合があります。

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010239|06|9S04010239[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング初級（Python） 06		
担 当 教 員	加藤 洋一		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

昨今、生成AIの能力は飛躍的に向上し、プログラミング初心者でもある程度の規模のアプリケーションプログラムを短時間に作成できるようになりました。現代のソフトウェア開発では、パッケージ化された外部機能モジュールやライブラリを組み合わせて目的の応用を実現する、という方法が主流ですが、コンプリートなプログラムを自動生成させるだけでなく、このようなモジュールの標準的な利用方法を調査するためにも生成AIの利用は有効です。一方、生成AIが吐き出すプログラムコードには不具合やセキュリティ上の問題が含まれることがあり、また、その動作が期待とは異なる場合もあります。そのため、たとえ生成AIをメインに利用する場合であっても、最低限、初級レベルのプログラミングおよびその周辺知識と技能が必要です。
本講義では、小規模なアプリケーションプログラムを自ら開発できる能力の獲得を目的に、Pythonの基礎、有用なライブラリとその使い方、外部ライブラリの探索と利用方法、生成AIの上手な使い方、などを学習するとともに、演習を通じてアプリケーション開発の実際について学びます。

本講義では、「Pythonを利用して自己が目的とする小規模な機能を持つソフトウェア（プログラム）を開発できる能力」を獲得することを目的に、以下のような事項を学習します。
・ Python プログラミング言語の基本的な使い方
・ プログラム開発の考え方
・ Python プログラム開発に用いるソフトウェア類の使い方
・ コンピューターの構造の概要と、Pythonからファイルシステム・キーボード入力・画面出力・ネットワーク、などのコンピューターリソースへアクセスする方法
・ 学習や研究にすぐに役立つライブラリの紹介と実利用
・ 外部ライブラリの探索と実利用
・ 生成AIを利用してプログラミングやライブラリの使用方法を探る方法

毎回演習を行うため、第一回を含めすべての講義に参加してください。
通常の教室を使用しますので受講生は必ずPC（Windows 11）あるいは Mac（MacOS １１以降）を毎回講義に持参してください（iPad、iPhone、Android端末のみでの受講はできません）。講義で使用するPythonはVersion 3.14を予定しています。講師はWindows11のPCあるいはMacを使用する予定です。。演習実施内容はWord文書にまとめてMoodleへアップロードしていただきます。そのため、持参するPC/Macには予め Microsoft Office をインストールしておいてください。2限連続の講義ですので、機器の充電状況に注意してください。電源アダプターを持参することをお勧めします。
担当講師は、マルチユーザー3Dコミュニケーションシステム・サービス、Web会議システム・サービス、4K/8K高品質映像制作用サーバーシステム、などの製品企画・開発・運用などで、25年以上Pythonを実利用してきた経験を持ちます。

授業の到達目標:

「自己が目的とする機能を実現する小規模なプログラムをPython言語およびライブラリを用いて開発できる能力」を獲得するため、以下のような事項を習得・理解する
・普段使っているPCやスマートフォンなどのコンピューターはどのような構造を持っており、ユーザーにどのような機能を提供しているか
・プログラムとは要はコンピューターの機能を自分の目的のために利用する手続きを記述したものであること
・Python プログラム言語とプログラム開発方法の基礎
・Python プログラミングの作法
・Python プログラムを開発するためのソフトウェア類とその使い方
・実現したい機能をプログラムコードに変換するための考え方
・内部ライブラリの探し方と使い方
・外部ライブラリの探し方と使い方
・プログラミングでの生成AIの利用方法

知識獲得と応用による定着、という作業を積み重ねることで目標に到達できます。一方、全くの初学者が小規模なアプリケーションプログラムを開発できるようになるまでの学習時間は少なくとも50時間は必要と思われます。即ち、講義時間だけの学習では目標に到達できない可能性があります。演習課題の理解が不十分であると感じた場合には自学習（復習）を実施してください。

事前・事後学習の内容:

毎回演習を実施します。実施した演習の内容は毎回Moodleへ提出して頂きます。時間内に演習を終えることができなかった場合は残内容を時間外学習として実施し当日中にMoodleへ提出してください。この提出をもって出席を確認します。
事前学習についてはMoodleで指示します。Moodleのアナウンスメント機能を用いて必要な周知を行います。定期的にMoodleを確認するようにしてください。
プログラミング初級の学習はステップバイステップの積み重ね的なものとなりますので、各学習回の内容理解が不十分であると感じた場合には、次回講義までに自主的に復習を実施してください。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 下記内容は受講生の学習進度に合わせて変更する場合があります。
第1回 最初の一歩
Pythonはプログラミング言語中で言語要素が最も少ないものの一つです（つまり学習が容易）。まずは ごく基本的な言語要素を学習します。それに先立ち、最初に、プログラミングを行うに際して必要なPC/Mac利用の方法を学習します。

・本講義の目的と概要
・コンピューターやプログラミングに関する一般知識
・プログラミングに必要なコンピューターリテラシー（ファイルシステムとコマンドラインインタフェース）
・Python3のインストールと動作確認
・Python対話モードの利用による基本的な演算と型（オブジェクト）の理解
・関数定義、ループ、条件分岐など、基本的な実行制御機能の理解
・Python に付属のエディタIDLEによるプログラムテキストの編集、IDLEからの実行と、コマンドラインによる実行
・演習：Python対話モードを利用し、演算機能、文字列処理機能、リストと辞書の形式とその機能を学習する
・演習：ごく簡単なプログラムを作成し、実行する（″Hello World!″ 出力、整数の和の計算など）

第2回 Pythonおよびプログラム作成に慣れる
前回講義にて学習した、ごく簡易なプログラム作成に必要な知識の確認と定着を行うべく、演習を中心とした学習を行います。

・ ファイルの扱い
・ 演習：基本プログラムパターン（配列とループ、辞書とループと条件分岐など）
・ 演習：応用として地球温暖化を示すCSVファイルを読み込み、グラフとして表示するプログラムを作成

第3回 主要なPythonの言語要素の学習の完了
整形した印字出力を行う方法、外部パラメータなど、Python を実用的に使う方法を学習します。

・ 外部パラメータの与え方
・ 辞書型、文字出力のフォーマット、オブジェクト、クラス
・ 演習：多数の著作権切れテキストの処理
・ 演習：クラスの利用

第4回 プログラム開発の考え方
実現したい機能を開発するときは、最初にその機能を解析して機能の分割や詳細化、あるいは、手順の明確化を行います。このような作業では、「既存の類似プログラムを参考にする」、という方法が効率的です。現代では、生成AIにサンプルプログラムを出力させることもできます。演習を通じて、これらの作業の方法を実践的に学習します。

・ 演習：機能分割や詳細化
・ 演習：自動的に英文を生成するプログラム

第5回 応用プログラム作成1

Pythonで良く用いられるクロスプラットフォームGUIプログラム作成プラットフォーム Tkinter を使い、簡易的なフォトアルバムを作成します。今回は、GUIプログラミングの考え方とGUIプラットフォームが提供する機能を学習します。また、生成AIにプログラムサンプルを出力させ、それを参考に開発を行う方法を試行します。

・ GUI の基本構造
・ Tkinter の基本
・ フォトアルバムに求められる仕様
・ 演習：アルバム作成の第一歩

第6回 応用プログラム作成2

応用プログラムの作成を通じて、自分が欲する機能をプログラムコードに落とす、というのはどのような作業であるのかを理解します。

・ 演習：フォトアルバム開発の続き。Class を利用してプログラムの見通しを良くする

第7回 応用プログラム作成3

ここまでの学習の総合的な復習も兼ねて、フォトアルバム プログラムを完成させます。
・演習：フォトアルバムを完成させる

最終課題を出します。

・ 最終課題提出
提出締め切りまでには十分な時間を置く予定です。最終課題を実施することで、本講義受講の目標が達成されていることを確認します。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義で使用する文書類、サンプルプログラムなどはMoodleを通じて提供します。

演習中の常時参照用に初回講義時に、講師が作成した以下の文書（印刷物）を配布する予定です。毎回の講義に持参してください。
・ Python 簡易リファレンスマニュアル
・ Python インタラクティブモード、編集環境、実行環境
・「Python初級」のためのコンピューターリテラシー

参考文献: Pythonに関する本は様々な種類のものが出版されています。Webでのチュートリアル的資料も豊富です。参考図書を手元に置いておきたい方は図書館や書店で自分に合う書籍を探してみてください。ただし古い書籍は講義で使用するPython3.xとは互換性のないPython2およびそれ以前のバージョンのPythonについて書かれているものもあるので注意してください。
京都大学が「プログラミング演習 Python 2023」および「プログラミング演習 Python 2023（コラム編）」という読みやすいコース文書をOCWとして公開しています。
https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/285599/1/Version2023_10_17_01.pdf
https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/285599/2/Version2023_10_12_02.pdf
適宜参考にしてください。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 試験は行いません。

レポート: 40 第7回講義時に最終レポート課題を提出します。本課題の提出は単位認定に必須です。課題の内容は、「自分で発想したアプリケーションプログラムの開発」、とする予定です。

平常点評価: 60 講義に出席し、各回の演習課題を実施して演習の報告書をMoodleに提出してください。この提出をもって講義への出席を確認します。課題未達成でも必ず演習報告書のファイルをMoodleへアップロードしてください。どうしても出席できないときは予め講師に連絡してください。

その他: 0 その他の評価方法はありません。

備考・関連URL: ・本講義の履修を希望する場合は必ず第1回目から出席してください。
・講義中は自由に講師に質問ができます。講師のサポートを得つつ演習を進めることで効果的な学習ができます。
・講義は全回出席することを前提として進めます（欠席すると次回以降の講義の理解が難しくなってしまう場合があります）。
・受講生の理解度や進捗状況に応じてスケジュールや扱う内容が変更になる場合があります。

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010239|07|9S04010239[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング初級（Python） 07		
担 当 教 員	山極 綾子		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: Pythonは，主に機械学習やIoT処理で広く用いられるプログラミング言語です．今後もますます普及していくプログラミング言語の一つであり，Pythonの習得は，皆さんの今後の研究活動等に非常に役に立つものと考えられます．本授業では，プログラミングの基礎的な知識と能力を身につけることを目的とし，プログラミングの概念や基本的な考え方や，プログラミングの基礎能力について学びます．具体的には，プログラムを作成する上で最も基本となる変数，演算，制御構造(条件文，繰り返し文)，基本的なデータ構造であるリストの概念と使い方や，関数の定義と呼び出しについて学習します．さらに授業を通して，近年急速に発達する生成AIを活用する際に欠かせない，プログラムを読むためのスキル向上にも取り組みます．
本授業では，主にGoogle Colaboratory上で教員と一緒に手を動かして，Pythonの挙動に関する理解を図ります．Google Colabは，ブラウザ上でPythonを実行できるクラウド型の開発環境です．特別なソフトウェアのインストールや環境構築を行うことなく利用でき，作成したノートブックはGoogleドライブに保存されます．
なお，本授業は対面による5日間の集中講義です．

授業の到達目標: プログラミングを作成する上で基本となる，値，変数，演算，基本構文(条件文，繰り返し文)，組み込み関数，標準ライブラリ，基本データ構造(リスト)に対する十分な理解，及びこれらを状況に応じて使いこなすようになることを目標とします．

事前・事後学習の内容: 各回の事前学習：授業前にMoodle上に開示するサンプルプログラム（コード）を，事前に入力して内容を理解してください．事前学習には90～120分かかると想定されます．授業中にサンプルプログラムの内容の説明や応用知識，演習問題を実施しますので，完成して提出してください．
各回の事後学習：提出された課題のフィードバックをしますので，内容を必ず確認し，必要に応じて修正し，再提出してください．事後学習には平均して90～120分かかると想定されます．授業時間内に終わらなかった演習問題があった場合，各自で次の授業までに終わらせておくことを推奨します．

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回: プログラミング実習環境の準備と導入
VSCode上でPythonプログラミングができるように設定します．また，本授業の目的等について説明します．

第2回: 値，変数，演算子（整数，小数）
変数の基本を学びます．

第3回: 値，変数，演算子（文字列，ブール値）
文字列や真偽に関する変数を学びます．

第4回: 組み込み関数，標準ライブラリ
Pythonの関数の使い方を学びます．

第5回: 文字列を操作する関数
文字列操作について学びます．

第6回: 条件分岐の構文
if/elseについて学びます．

第7回: 繰り返し(while/for)
while/for文といった，繰り返し処理を学びます．

第8回: リスト
リストの作成・操作を学びます．

第9回: リストと繰り返し
リストとfor文の組み合わせを学びます．

第10回: 関数の定義及び呼び出し
自作の関数の作り方，及び呼び出し方を学びます．

第11回: 関数・モジュール・パッケージ
モジュール，パッケージの概念を学びます．

第12回: 組み込み型(タプル，セット)
タプル，セットについて学びます．
第13回: 組み込み型(辞書)
辞書型のデータ構造を学びます．
第14回: 理解度の確認
これまでの内容に対する理解の確認を行います．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定しない．

参考文献: 必須ではありませんが，以下の参考書を参照すると本授業の理解がより深まります．
基礎Python 改訂2版 (IMPRESS KISO SERIES)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 50 理解度確認の評価

レポート: 30 毎回の課題に対する取り組みの評価

平常点評価: 20 授業に対する積極性・質問などの取り組み状況を評価

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内，もしくは以下のリンクからご参照ください．
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

講義日程:
8月18日(火)2,3,4時限
8月19日(水)2,3,4時限
8月20日(木)2,3,4時限
8月21日(金)2,3,4時限
8月24日(月)3,4時限

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010239|08|9S04010239[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング初級（Python） 08		
担 当 教 員	山極 綾子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:土3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: Pythonは，主に機械学習やIoT処理で広く用いられるプログラミング言語です．今後もますます普及していくプログラミング言語の一つであり，Pythonの習得は，皆さんの今後の研究活動等に非常に役に立つものと考えられます．本授業では，プログラミングの基礎的な知識と能力を身につけることを目的とし，プログラミングの概念や基本的な考え方や，プログラミングの基礎能力について学びます．具体的には，プログラムを作成する上で最も基本となる変数，演算，制御構造(条件文，繰り返し文)，基本的なデータ構造であるリストの概念と使い方や，関数の定義と呼び出しについて学習します．さらに授業を通して，近年急速に発達する生成AIを活用する際に欠かせない，プログラムを読むためのスキル向上にも取り組みます．
本授業では，主にGoogle Colaboratory上で教員と一緒に手を動かして，Pythonの挙動に関する理解を図ります．Google Colabは，ブラウザ上でPythonを実行できるクラウド型の開発環境です．特別なソフトウェアのインストールや環境構築を行うことなく利用でき，作成したノートブックはGoogleドライブに保存されます．

授業の到達目標: プログラミングを作成する上で基本となる，値，変数，演算，基本構文(条件文，繰り返し文)，組み込み関数，標準ライブラリ，基本データ構造(リスト)に対する十分な理解，及びこれらを状況に応じて使いこなすようになることを目標とします．

事前・事後学習の内容: 次回の講義内容を参照して，予習を行なっておくことが望ましく，毎回の授業では，前回までの内容が十分に身についていることとして進めます．そのため，各自復習を行い理解を定着させておくことを推奨します．授業時間内に終わらなかった演習問題があった場合，各自で次の授業までに終わらせ，理解を深めておくようにしてください．

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回: プログラミング実習環境の準備と導入
VSCode上でPythonプログラミングができるように設定します．また，本授業の目的等について説明します．

第2回: 値，変数，演算子 (整数，小数)
変数の基本を学びます．

第3回: 値，変数，演算子 (文字列，ブール値)
文字列や真偽に関する変数を学びます．

第4回: 組み込み関数，標準ライブラリ
Pythonの関数の使い方を学びます．

第5回: 文字列を操作する関数
文字列操作について学びます．

第6回: 条件分岐の構文
if/elseについて学びます．

第7回: 繰り返し(while/for)
while/for文といった，繰り返し処理を学びます．

第8回: リスト
リストの作成・操作を学びます．

第9回: リストと繰り返し
リストとfor文の組み合わせを学びます．

第10回: 関数の定義及び呼び出し
自作の関数の作り方，及び呼び出し方を学びます．

第11回: 関数・モジュール・パッケージ
モジュール，パッケージの概念を学びます．

第12回: 組み込み型(タプル，セット)
タプル，セットについて学びます．

第13回: 組み込み型(辞書)
辞書型のデータ構造を学びます.
第14回: 理解度の確認
これまでの内容に対する理解の確認を行う.

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定しない.

参考文献: 必須ではありませんが, 以下の参考書を参照すると本授業の理解がより深まります.
基礎Python 改訂2版 (IMPRESS KISO SERIES)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 50 理解度確認の評価

レポート: 30 毎回の課題に対する取り組みの評価

平常点評価: 20 授業に対する積極性・質問などの取り組み状況を評価

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010241|01|9S04010241[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（C/C++） 01		
担 当 教 員	小田井 圭		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 実用的なプログラム作成を目指して

授業概要: C言語の中級程度について解説及び実習してもらう授業です。対象は、プログラミング初級（C/C++)受講修了または同等レベル修得済みの学生です。ポインタを使った簡単なプログラム作成ができる程度だと問題ありません。
授業は、1コマの前半を講義、後半を実習の形で進めます。講義を聞くだけでなく、実際に自分で作業することで、より理解を深めてもらいたいと思います。必要な情報はweb等で調べて自力でプログラム作成ができるようなってもらいたいと思っています。

エディタを使いソースプログラムを作成し、gccでコンパイルをし、実行プログラムを作成します。
自分でPCを持ち込んでLinux環境(またはMacPCでXcodeを利用する場合も)で実施もできます。

この授業では次の5点が分かっているものとしています。受講レベルに達しているのかどうかを確認するチェックに使ってください。
1.ポインタとはアドレスを格納する変数のことである。
2.配列変数の添え字は[0]から始まる。
3.繰り返し文はfor文、while文、do～while文の3種類がある。
4.条件分岐はif文またはswitch文を使う。
5.演算子には優先順位がある。
以上

本授業は、情報工学という学問分野のソフトウェアに関する位置づけになります。具体的には、プログラミング言語（ここではC言語）によりソフトウェアの開発方法を学修します。
情報工学では、コンピュータのハードウェアからソフトウェア、ネットワーク、AIまでを体系的に学ぶことになります。

授業方法は対面授業を想定しています。状況によりオンラインに変更になる場合があります。
講義日程などに関してはいつでも変更されることがあります。また、本web上に書かれていることと授業の実際が乖離した場合は授業の実際が優先されます。

授業の到達目標: プログラミング中級(C/C++)の授業を受講することで

1. アルゴリズムとフローチャート、データ構造に関して理解します。
2. 関数・ポインタ・構造体について、実習を通じて理解します。
3. ライブラリを用いたプログラムの作成に取り組みます。
4. 規模の大きいプログラムの作成方法をを理解します。
5. 複数人でのプログラムの開発をする時に注意する点を理解します。
6. gccを使用して、自分でプログラミングが出来るようになります。

事前・事後学習の内容: 受講前：プログラミング初級（C/C++)の授業受講しておくことが望ましいです。
ポインタについて復習しておくこと。（授業内でも復習をします）

また、各回の授業後は復習をしてください。次回以降の授業で必要となる知識があります。

【事前・事後の学修】
予習として、Waseda Moodle に掲載する資料について目を通しておいてください各回の予習には90 分～120 分かかると想定されます。
また、毎回授業外課題を課しますので、復習として活用してください。90 分～120 分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回　オリエンテーション・C言語の基礎(初級の復習)

オリエンテーション／本講義の概要について説明します。教室のPCでgccの使い方について解説します。変数・演算子・条件文・繰返し文・関数・フローチャートについて復習します。【事前・事後の学修】シラバスを読んでおくこと。初級受講者はその内容を再度確認しておくこと。課題を提出すること。

第2回　関数とポインタ

関数・ポインタについて復習します。また、線形探索法について学修します。【事前・事後の学修】初級受講者はその内容を再度確認しておくこと。課題を提出すること。

第3回　文字と数値・文字列

「文字」と「数値」の扱い方を解説します。文字コード表について解説します。C言語独特の文字配列についても学修します。また、「文字」と「文字列」の違いについても解説します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第4回　ポインタと配列

本講義では「ポインタ」と配列の関係について理解します。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第5回　ポインタの利用

ポインタの理解の総仕上げとして、ポインタを利用したプログラムを3つ取り上げます。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第6回　コマンドラインパラメータ

main関数へ渡す引数について学修します。また、プログラム実行時のオプションフラグについても学修します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第7回　ファイル構造体・標準ライブラリ関数

別に用意したファイルからデータを読み込むプログラムや、プログラムで処理した結果をファイルに書き出すために必要な知識「ファイル構造体」について説明します。リダイレクションについても解説します。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第8回　動的メモリ管理・ソート法

プログラム実行時にメモリを確保・開放する方法について学修します。そのプログラム例により、プログラミングで使用される代表的なソートアルゴリズムについても学修します。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第9回　構造体・共用体

構造体および共用体について学修します。構造体・共用体を利用したプログラム例を使ってデータ構造について解説します。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第10回　ビット演算子・構造体ビットフィールド

ビット演算子および構造体(ビットフィールド)について説明します。
組込みシステムなどで必要とされるビット操作を学修します。ビットの概念を学修します。C言語では2進数が扱えないため、16進数表示がよく利用されます。2進数・16進数の変換についても触れます。また、バイトアドレッシング方式を説明し、使用しているPCがビックエンディアンかリトルエンディアンかをプログラムで確認します。ビット操作をするための知識としてビットフィールドについても学修します。共用体を利用してメモリの中身を確認します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第11回　Cプリプロセッサ

Cプリプロセッサについて説明します。その機能とCプリプロセッサを意識したプログラムの書き方について解説します。ヘッダーファイルに何が書かれているか概観します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第12回　最適化・アセンブリ

プログラムのビルド時に「最適化」をすることで、実行プログラムのファイル容量・実行スピードが変わります。最適化の仕方・抑止の仕方、および最適化による問題点について解説します。また、アセンブリ言語について概観します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第13回　複数人でのプログラム開発(モジュール)

大規模プログラムを複数のファイルに分割するときの問題点を解説した後、モジュールという考え方を説明します。大域変数やextern宣言も学修します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第14回　ライブラリファイルの作成
ライブラリ用ファイルを作成して、自分で作成した関数を管理します。スタティックライブラリの作成方法・ダイナミックリンクライブラリの作成方法について解説します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　Waseda Moodle上で公開・配布します。

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　20　最終回の「理解度確認試験」（Moodle利用）

レポート:　80　毎時間、簡単な課題を課します（Moodle利用）。（必須課題60%＋オプション課題20%）

備考・関連URL:　小田井の授業用URLhttp://keiodai.chobi.net/waseda26/index.html

最終授業で全体に対するフィードバックを実施します。
急ぎフィードバックが必要な場合は、必要に応じてWaseda Moodle のお知らせ機能などを通じてを行う予定です。

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010241|02|9S04010241[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（C/C++） 02		
担 当 教 員	石田 崇		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

C言語を用いたプログラミングを通じて、データ構造やアルゴリズムを学んでいきます。また、関数・ポインタ・構造体や、ライブラリを用いたプログラムについても実践的な実習によって理解を深めます。
本授業はプログラミング初級（C/C++)を受講済みかまたは同等レベルの内容を学習済みの学生を対象としています。授業方法は原則として対面で実施します。
本授業では，C言語の初級の学習を一通り終えていることを前提として，以下のような人を対象に初中級～中級レベルの学習を進めていきます。（C++は扱いません）
・初級の学習は終えているが，知識の定着がまだ不十分だと感じている人
・いきなりハイレベルな内容に進むのではなく，C言語の応用へ向けて基礎的な内容のより深い理解と定着を図りながら先へ進めたい人

本授業は，コンピュータサイエンスにおけるプログラミングに関連しています．コンピュータサイエンスは，情報や計算など情報処理に関する基礎理論や，それらをコンピュータ上に実装，応用するための技術に関する研究分野であり，今日の情報社会を支える情報技術の基盤となっています．
コンピュータサイエンスにおけるプログラミング言語はコンピュータに指示を与えるための言語の設計や活用，また，それを用いたソフトウェアの開発を扱う分野です．
この授業は，代表的なプログラミング言語であるCを対象として，C言語の基礎を学修済みの学生が，基礎的なプログラミングスキルとアルゴリズムの理解をより深めて定着させるとともに，継続して中級レベルのプログラミング技術を学修することによって，より高度なソフトウェア開発へ進むのための橋渡しとなる科目と位置づけられます．

授業の到達目標：

・データ構造とアルゴリズムの基本を実習を通じて理解する。
・関数・ポインタ・構造体について、実習を通じて理解する。
・ライブラリを用いたプログラムの作成に取り組む。
・やや規模の大きいプログラムの作成に取り組む。

事前・事後学習の内容：

講義資料を事前にWaseda Moodle上で配布します。
30分程度の事前学習として講義資料に目を通して予習をしておくことが求められます。
また，毎回の授業において理解度確認用の演習課題が多めに出題されます。授業終了後も60分程度の事後学修として課題を完了させることが求められます。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーション（本講義の目的と概要）／C言語基本事項のおさらい(1)
本講義の目的と概要を確認します．
プログラムの作成手順（ソースコード，コンパイル，実行，デバッグ）を理解し，簡単なサンプルプログラムを実行して動作環境を確認します．変数・基本演算・型について基本事項を確認します．

第2回 C言語基本事項のおさらい(2)
制御構造・配列について基本事項を確認します．

第3回 ポインタの基礎
アドレスとポインタの基礎について学習します．

第4回 文字列とポインタ
ポインタによる文字列の操作について学習します．

第5回 関数の基礎
関数の基礎について学習します．

第6回 関数の応用
さらに本格的な関数の作成について学習します．

第7回 構造体
構造体の概念と活用方法について学習します．

第8回　ここまでの復習課題
ここまでの内容の総合演習課題に取り組みます.
第9回　ファイル処理
ファイルの入出力について学習します.
第10回　ライブラリの活用
ライブラリの活用やソースファイルの分割について学習します.
第11回　データ構造
C言語におけるデータ構造について学習します.
第12回　アルゴリズム設計
アルゴリズムの概要と色々なアルゴリズムのプログラムについて学習します.
第13回　やや大規模なプログラム作成実習
ここまでに学習した内容を利用して，やや大規模なプログラムを作成する実習を行います.
第14回　理解度確認課題
理解度を確認するための最終課題を実施します.

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: Waseda Moodle上でPDFファイルを適宜配布します.

参考文献: 授業内で適宜紹介します.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 40　各回に実施する演習課題への取り組み状況による評価

その他: 60　第14回に実施する最終の理解度確認課題による評価

備考・関連URL: ・本講義の履修を希望する場合は必ず第1回目から出席するようにしてください.
・本講義は毎週2コマ連続して行います. 授業には1コマ目の冒頭から参加してください.
・講義は原則として全回出席することを前提として進めます（一度欠席すると次回以降の内容理解が困難になります）
・受講生の理解度や課題の進捗状況に応じてスケジュールや扱う内容が変更になる場合があります. ・Waseda Moodle上で実施する小テスト課題は採点結果として個別にフィードバックします.
・その他提出された演習課題や小テスト，コメントシートから全体的な理解状況を確認し，理解が不足していると考えられる部分については後日重点的に解説を行いフィードバックします.

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010241|03|9S04010241[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（C/C++） 03		
担 当 教 員	小田井 圭		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： 実用的なプログラム作成を目指して

授業概要： C言語の中級程度について解説及び実習してもらう授業です。対象は、プログラミング初級（C/C++)受講修了または同等レベル修得済みの学生です。ポインタを使った簡単なプログラム作成ができる程度だと問題ありません。
授業は、1コマの前半を講義、後半を実習の形で進めます。講義を聞くだけでなく、実際に自分で作業することで、より理解を深めてもらいたいと思います。必要な情報はweb等で調べて自力でプログラム作成ができるようなってもらいたいと思っています。

エディタを使いソースプログラムを作成し、gccでコンパイルをし、実行プログラムを作成します。
自分でPCを持ち込んでLinux環境(またはMacPCでXcodeを利用する場合も)で実施もできます。

この授業では次の5点が分かっているものとしています。受講レベルに達しているのかどうかを確認するチェックに使ってください。
1.ポインタとはアドレスを格納する変数のことである。
2.配列変数の添え字は[0]から始まる。
3.繰り返し文はfor文、while文、do～while文の3種類がある。
4.条件分岐はif文またはswitch文を使う。
5.演算子には優先順位がある。
以上

授業方法は対面授業を想定しています。状況によりオンラインに変更になる場合があります。
講義日程などに関してはいつでも変更されることがあります。また、本web上に書かれていることと授業の実際が乖離した場合は授業の実際が優先されます。

授業の到達目標： プログラミング中級(C/C++)の授業を受講すると

1. アルゴリズムとフローチャート、データ構造に関して理解できます。
2. 関数・ポインタ・構造体について、実習を通じて理解できます。
3. ライブラリを用いたプログラムの作成に取り組めます。
4. 規模の大きいプログラムの作成方法ををを理解できます。
5. 複数人でのプログラムの開発をする時に注意する点を理解できます。
6. gccを使用して、自分でプログラミングが出来るようになります。

事前・事後学習の内容： プログラミング初級（C/C++)の授業受講しておくことが望ましいです。
ポインタについて復習しておくこと。（授業内でも復習をします）
また、各回の授業後は復習をしてください。次回以降の授業で必要となる知識があります。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーション・C言語の基礎(初級の復習)
オリエンテーション／本講義の概要について説明します。教室のPCでgccの使い方について解説します。
変数・演算子・条件文・繰返し文・関数・フローチャートについて復習します。【事前・事後の学修】シラバスを読んでおくこと。初級受講者はその内容を再度確認しておくこと。課題を提出すること。

第2回 関数とポインタ
関数・ポインタについて復習します。また、線形探索法について学修します。【事前・事後の学修】初級受講者はその内容を再度確認しておくこと。課題を提出すること。

第3回　文字と数値・文字列

「文字」と「数値」の扱い方を解説します。文字コード表について解説します。C言語独特の文字配列についても学修します。また、「文字」と「文字列」の違いについても解説します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第4回　ポインタと配列

本講義では「ポインタ」と配列の関係について理解します。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第5回　ポインタの利用

ポインタの理解の総仕上げとして、ポインタを利用したプログラムを3つ取り上げます。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第6回　コマンドラインパラメータ

main関数へ渡す引数について学修します。また、プログラム実行時のオプションフラグについても学修します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第7回　ファイル構造体・標準ライブラリ関数

別に用意したファイルからデータを読み込むプログラムや、プログラムで処理した結果をファイルに書き出すために必要な知識「ファイル構造体」について説明します。リダイレクションについても解説します。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第8回　動的メモリ管理・ソート法

プログラム実行時にメモリを確保・開放する方法について学修します。そのプログラム例により、プログラミングで使用される代表的なソートアルゴリズムについても学修します。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第9回　構造体・共用体

構造体および共用体について学修します。構造体・共用体を利用したプログラム例を使ってデータ構造について解説します。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第10回　ビット演算子・構造体ビットフィールド

ビット演算子および構造体(ビットフィールド)について説明します。
組込みシステムなどで必要とされるビット操作を学修します。ビットの概念を学修します。C言語では2進数が扱えないため、16進数表示がよく利用されます。2進数・16進数の変換についても触れます。また、バイトアドレッシング方式を説明し、使用しているPCがビックエンディアンかリトルエンディアンかをプログラムで確認します。ビット操作をするための知識としてビットフィールドについても学修します。共用体を利用してメモリの中身を確認します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第11回　Cプリプロセッサ

Cプリプロセッサについて説明します。その機能とCプリプロセッサを意識したプログラムの書き方について解説します。ヘッダーファイルに何が書かれているか概観します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第12回　最適化・アセンブリ

プログラムのビルド時に「最適化」をすることで、実行プログラムのファイル容量・実行スピードが変わります。最適化の仕方・抑止の仕方、および最適化による問題点について解説します。また、アセンブリ言語について概観します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第13回　複数人でのプログラム開発(モジュール)

大規模プログラムを複数のファイルに分割するときの問題点を解説した後、モジュールという考え方を説明します。大域変数やextern宣言も学修します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第14回　ライブラリファイルの作成

ライブラリ用ファイルを作成して、自分で作成した関数を管理します。スタティックライブラリの作成方法・ダイナミックリンクライブラリの作成方法について解説します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　Waseda Moodle上で公開・配布します。

成績評価フリー入力サイン:　0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	20	最終回の「理解度確認試験」(Moodle利用)
レポート:	80	毎時間、簡単な課題を課します(Moodle利用)。(必須課題60%＋オプション課題20%)

備考・関連URL: 小田井の授業用URLhttp://keiodai.chobi.net/waseda25/index.html

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010241|04|9S04010241[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（C/C++） 04		
担 当 教 員	小棹 理子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: プログラムの品質向上のための方法論を学ぶ

授業概要: C言語プログラミングは、コンピュータサイエンスとソフトウェア工学の基礎的な分野の一つとして位置づけられています。C言語は、効率的でパフォーマンスが高いコードを書くことができるため、システムプログラミング、組み込みシステム、オペレーティングシステム、コンパイラ、ネットワークプロトコルなど、さまざまな用途に広く使われています。

本授業は、C言語の入門編を習得または他のプログラミング言語科目を学修された方を想定しています。場合分けや繰り返し（if文、while文、for文など）ができること、関数についての基本的な知識を持っていることを期待しています。

ここで扱う内容は、関数、配列、ポインタ、構造体、共用体、ファイル操作などです。ビット操作、CPUの違いなど、組み込みシステム向けの内容も扱います。さらに、分割コンパイル、モジュールなど、大規模プログラミング向けの内容にも触れます。
複数人でのプログラムの開発に取り組み、協力してプログラム開発を行う経験をします。個々が作成した小プログラムを連携統合させて大きなプログラムを作成します。また、中級者として重要な観点であるプログラムの作成過程と検査も重視します。

この授業では次の5点が分かっているものとしています。受講レベルに達しているのかどうかを確認するチェックに使ってください。
1 .ポインタとはアドレスを格納する変数のことである。
2. 配列変数の添え字は[0]から始まる。
3. 繰り返し文はfor文、while文、do～while文の3種類がある。
4. 条件分岐はif文またはswitch文を使う。
5. 演算子には優先順位と結合性という性質がある。

1日2コマ連続で7週間、集中して受講していただく対面講義です。コロナ感染等の状況によりオンラインに変更になる場合も想定してZoomも活用します。
各時限の前半でサンプルプログラムの説明を行い、後半で各自実習を行い、結果を提出するスタイルが基本です。

授業の到達目標: 本プログラミング中級(C/C++)の授業を受講することによって

1. アルゴリズムとフローチャート、データ構造に加えて決定表など準形式的手法を理解できます。
2. 関数・ポインタ・構造体について、実習を通じて説明できるようになります。
3. ライブラリを用いたプログラムの作成に取り組むことができるようになります。
4. 規模の大きいプログラムを作成できるようになります。
5. gccやbccなどを使用して、自分でプログラミングができるようになります。

事前・事後学習の内容: 本授業の前にプログラミング入門（C/C++)の授業を受講しておくことが望ましい。ポインタについて復習しておいてください。

各回の事前学習：授業前にサンプルプログラム（コード）をMoodle上に開示しますので、事前にコード入力して内容を理解してください。事前学習には90～120分かかると想定されます。
授業中にサンプルプログラムの内容の説明や応用知識を加えますので、完成して提出してください。
各回の事後学習：提出された課題のフィードバックをしますので、内容を必ず確認し、必要に応じて修正し、再提出してください。事後学習には平均して90～120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション（本講義の目的と概要）
授業の進め方、評価
実習環境と準備

第2回　基礎知識の復習(1)
変数・演算子など
第3回　基礎知識の復習(2)
条件分岐・繰返し　ー　決定表の利用
第4回　関数
関数の定義と利用
第5回　整数の配列
配列操作、2次元配列
第6回　文字コードと配列
整列、文字配列の操作
第7回　ポインタ
ポインタの基本とアドレス
第8回　ポインタの応用
ポインタと文字列操作
第9回　プリプロセッサ
プリプロセッサ、プログラムの整形
第10回　構造体
構造体と共用体
第11回　ファイル操作
ファイルの入出力・操作
第12回　組み込みシステム
ビット操作、CPUの個性
第13回　モジュール操作
分割コンパイル、モジュール構造
第14回　まとめと質問
全体をとおしてとフィードバックを行います

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特に指定しませんが、演算子の優先順位、文字セット、標準ライブラリ関数などが参照できる使いやすい初級テキストを準備してください。
例:　後藤良和・高田大二・佐久間修一著(筧　捷彦監修)、「初級C言語」 実教出版

参考文献: 参考文献　随時紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 0　試験は行いません。レポートでの評価になります

レポート: 40　プログラム作成の課題(2回)

平常点評価: 60　毎時間、簡単な課題を課します(Moodle利用)

その他: 0　試験は行いません。レポートでの評価になります

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

＊課題は本Moodleサイトで提出していただきます。1～2日以内にMoodle上でフィードバックしますので、必ず内容を確認し、必要に応じて修正・再提出してください。
＊受講生の理解度に応じて順序や内容を変更することがあります。
＊プログラムの説明は最初に行いますので、遅刻しないようにしてください。
＊USBメモリは必携です。

講義日程:　月曜日、1～2限の連続講義です
6月8日、6月15日、6月22日、6月29日、7月6日、7月13日、7月20日

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010241|05|9S04010241[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（C/C++） 05		
担 当 教 員	小棹 理子		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: プログラムの品質向上のための方法論を学ぶ

授業概要: C言語プログラミングは、コンピュータサイエンスとソフトウェア工学の基礎的な分野の一つとして位置づけられています。C言語は、効率的でパフォーマンスが高いコードを書くことができるため、システムプログラミング、組み込みシステム、オペレーティングシステム、コンパイラ、ネットワークプロトコルなど、さまざまな用途に広く使われています。

本授業は、C言語の入門編を習得または他のプログラミング言語科目を学修された方を想定しています。場合分けと繰り返し（if文、while文、for文など）ができること、関数についての基本的な知識を持っていることを期待しています。

ここで扱う内容は、関数、配列、ポインタ、構造体、共用体、ファイル操作などです。ビット操作、CPUの違いなど、組み込みシステム向けの内容も扱います。さらに、分割コンパイル、モジュールなど、大規模プログラミング向けの内容にも触れます。
複数人でのプログラムの開発に取り組み、協力してプログラム開発を行う経験をします。個々が作成した小プログラムを連携統合させて大きなプログラムを作成します。また、中級者として重要な観点であるプログラムの作成過程と検査も重視します。

この授業では次の5点が分かっているものとしています。受講レベルに達しているのかどうかを確認するチェックに使ってください。
1 .ポインタとはアドレスを格納する変数のことである。
2. 配列変数の添え字は[0]から始まる。
3. 繰り返し文はfor文、while文、do～while文の3種類がある。
4. 条件分岐はif文またはswitch文を使う。
5. 演算子には優先順位と結合性という性質がある。

対面による4日間の集中講義です。コロナ感染等の状況によりオンラインに変更になる場合も想定してZoomも活用します。
各時限の前半でサンプルプログラムの説明を行い、後半で各自実習を行い、結果を提出するスタイルが基本です。

授業の到達目標: 本プログラミング中級(C/C++)の授業を受講することによって

1. アルゴリズムとフローチャート、データ構造に加えて決定表、状態遷移図など準形式的手法を理解できます。
2. 関数・ポインタ・構造体について、実習を通じて説明できるようになります。
3. ライブラリを用いたプログラムの作成に取り組むことができるようになります。
4. 規模の大きいプログラムを作成できるようになります。
5. gccやbccなどを使用して、自分でプログラミングができるようになります。

事前・事後学習の内容: 本授業の前にプログラミング入門（C/C++)の授業受講しておくことが望ましく、ポインタについて復習しておいてください。

各回の事前学習：授業前にサンプルプログラム（コード）をMoodle上に開示しますので、事前にコード入力して内容を理解してください。事前学習には90～120分かかると想定されます。
授業中にサンプルプログラムの内容の説明や応用知識を加えますので、完成して提出してください。
各回の事後学習：提出された課題のフィードバックをしますので、内容を必ず確認し、必要に応じて修正し、再提出してください。事後学習には平均して90～120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション（本講義の目的と概要）
授業の進め方、評価
実習環境と準備

第2回　基礎知識の復習(1)
変数・演算子など
第3回　基礎知識の復習(2)
条件分岐・繰返し　ー　決定表の利用
第4回　関数
関数の定義と利用
第5回　整数の配列
配列操作、2次元配列
第6回　文字コードと配列
整列、文字配列の操作
第7回　ポインタ
ポインタとアドレス
第8回　ポインタの応用
ポインタと文字列操作
第9回　プリプロセッサ
プリプロセッサ、プログラムの整形
第10回　構造体
構造体と共用体
第11回　ファイル操作
ファイルの入出力・操作
第12回　組み込みシステム
ビット操作、CPUの個性
第13回　モジュール操作
分割コンパイル、モジュール構造
第14回　まとめと質問
全体をとおしたまとめとフィードバックを行います

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特に指定しませんが、演算子の優先順位、文字セット、標準ライブラリ関数などが参照できる使いやすい初級テキストを準備してください。
例:　後藤良和・高田大二・佐久間修一著(筧　捷彦監修)、「初級C言語」 実教出版

参考文献: 参考文献　随時紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 0　試験は行いません。レポートでの評価になります

レポート: 40　プログラム作成の課題(2回)

平常点評価: 60　毎時間、簡単な課題を課します(Moodle利用)

その他: 0　試験は行いません。レポートでの評価になります

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

＊課題は本Moodleサイトで提出していただきます。1～2日以内にMoodle上でフィードバックしますので、必ず内容を確認し、必要に応じて修正・再提出してください。
＊受講生の理解度に応じて順序や内容を変更することがあります。
＊プログラムの説明は最初に行いますので、遅刻しないようにしてください。
＊USBメモリは必携です。
講義日程:
7月31日(金)　2～4限
8月　3日(月)　1～4限
8月　4日(火)　1～4限
8月　5日(水)　1～3限

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010241|06|9S04010241[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（C/C++） 06		
担 当 教 員	小田井 圭		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： 実用的なプログラム作成を目指して

授業概要： C言語の中級程度について解説及び実習してもらう授業です。対象は、プログラミング初級（C/C++)受講修了または同等レベル修得済みの学生です。ポインタを使った簡単なプログラム作成ができる程度だと問題ありません。
授業は、1コマの前半を講義、後半を実習の形で進めます。講義を聞くだけでなく、実際に自分で作業することで、より理解を深めてもらいたいと思います。必要な情報はweb等で調べて自力でプログラム作成ができるようなってもらいたいと思っています。

エディタを使いソースプログラムを作成し、gccでコンパイルをし、実行プログラムを作成します。
自分でPCを持ち込んでLinux環境(またはMacPCでXcodeを利用する場合も)で実施もできます。

この授業では次の5点が分かっているものとしています。受講レベルに達しているのかどうかを確認するチェックに使ってください。
1.ポインタとはアドレスを格納する変数のことである。
2.配列変数の添え字は[0]から始まる。
3.繰り返し文はfor文、while文、do～while文の3種類がある。
4.条件分岐はif文またはswitch文を使う。
5.演算子には優先順位がある。
以上

授業方法は対面授業を想定しています。状況によりオンラインに変更になる場合があります。
講義日程などに関してはいつでも変更されることがあります。また、本web上に書かれていることと授業の実際が乖離した場合は授業の実際が優先されます。

授業の到達目標： プログラミング中級(C/C++)の授業を受講すると

1. アルゴリズムとフローチャート、データ構造に関して理解できます。
2. 関数・ポインタ・構造体について、実習を通じて理解できます。
3. ライブラリを用いたプログラムの作成に取り組めます。
4. 規模の大きいプログラムの作成方法ををを理解できます。
5. 複数人でのプログラムの開発をする時に注意する点を理解できます。
6. gccを使用して、自分でプログラミングが出来るようになります。

事前・事後学習の内容： プログラミング初級（C/C++)の授業受講しておくことが望ましいです。
ポインタについて復習しておくこと。（授業内でも復習をします）
また、各回の授業後は復習をしてください。次回以降の授業で必要となる知識があります。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーション・C言語の基礎(初級の復習)
オリエンテーション／本講義の概要について説明します。教室のPCでgccの使い方について解説します。
変数・演算子・条件文・繰返し文・関数・フローチャートについて復習します。【事前・事後の学修】シラバスを読んでおくこと。初級受講者はその内容を再度確認しておくこと。課題を提出すること。

第2回 関数とポインタ
関数・ポインタについて復習します。また、線形探索法について学修します。【事前・事後の学修】初級受講者はその内容を再度確認しておくこと。課題を提出すること。

第3回　文字と数値・文字列

「文字」と「数値」の扱い方を解説します。文字コード表について解説します。C言語独特の文字配列についても学修します。また、「文字」と「文字列」の違いについても解説します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第4回　ポインタと配列

本講義では「ポインタ」と配列の関係について理解します。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第5回　ポインタの利用

ポインタの理解の総仕上げとして、ポインタを利用したプログラムを3つ取り上げます。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第6回　コマンドラインパラメータ

main関数へ渡す引数について学修します。また、プログラム実行時のオプションフラグについても学修します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第7回　ファイル構造体・標準ライブラリ関数

別に用意したファイルからデータを読み込むプログラムや、プログラムで処理した結果をファイルに書き出すために必要な知識「ファイル構造体」について説明します。リダイレクションについても解説します。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第8回　動的メモリ管理・ソート法

プログラム実行時にメモリを確保・開放する方法について学修します。そのプログラム例により、プログラミングで使用される代表的なソートアルゴリズムについても学修します。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第9回　構造体・共用体

構造体および共用体について学修します。構造体・共用体を利用したプログラム例を使ってデータ構造について解説します。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第10回　ビット演算子・構造体ビットフィールド

ビット演算子および構造体(ビットフィールド)について説明します。
組込みシステムなどで必要とされるビット操作を学修します。ビットの概念を学修します。C言語では2進数が扱えないため、16進数表示がよく利用されます。2進数・16進数の変換についても触れます。また、バイトアドレッシング方式を説明し、使用しているPCがビックエンディアンかリトルエンディアンかをプログラムで確認します。ビット操作をするための知識としてビットフィールドについても学修します。共用体を利用してメモリの中身を確認します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第11回　Cプリプロセッサ

Cプリプロセッサについて説明します。その機能とCプリプロセッサを意識したプログラムの書き方について解説します。ヘッダーファイルに何が書かれているか概観します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第12回　最適化・アセンブリ

プログラムのビルド時に「最適化」をすることで、実行プログラムのファイル容量・実行スピードが変わります。最適化の仕方・抑止の仕方、および最適化による問題点について解説します。また、アセンブリ言語について概観します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第13回　複数人でのプログラム開発(モジュール)

大規模プログラムを複数のファイルに分割するときの問題点を解説した後、モジュールという考え方を説明します。大域変数やextern宣言も学修します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第14回　ライブラリファイルの作成

ライブラリ用ファイルを作成して、自分で作成した関数を管理します。スタティックライブラリの作成方法・ダイナミックリンクライブラリの作成方法について解説します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　Waseda Moodle上で公開・配布します。

成績評価フリー入力サイン:　0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	20	最終回の「理解度確認試験」(Moodle利用)
レポート:	80	毎時間、簡単な課題を課します(Moodle利用)。(必須課題60%＋オプション課題20%)

備考・関連URL: 小田井の授業用URLhttp://keiodai.chobi.net/waseda25/index.html

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010241|07|9S04010241[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（C/C++） 07		
担 当 教 員	石田 崇		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

C言語を用いたプログラミングを通じて、データ構造やアルゴリズムを学んでいきます。また、関数・ポインタ・構造体や、ライブラリを用いたプログラムについても実践的な実習によって理解を深めます。
本授業はプログラミング初級（C/C++)を受講済みかまたは同等レベルの内容を学習済みの学生を対象としています。授業方法は原則として対面で実施します。
本授業では，C言語の初級の学習を一通り終えていることを前提として，以下のような人を対象に初中級～中級レベルの学習を進めていきます。（C++は扱いません）
・初級の学習は終えているが，知識の定着がまだ不十分だと感じている人
・いきなりハイレベルな内容に進むのではなく，C言語の応用へ向けて基礎的な内容のより深い理解と定着を図りながら先へ進めたい人

本授業は，コンピュータサイエンスにおけるプログラミングに関連しています．コンピュータサイエンスは，情報や計算など情報処理に関する基礎理論や，それらをコンピュータ上に実装，応用するための技術に関する研究分野であり，今日の情報社会を支える情報技術の基盤となっています．
コンピュータサイエンスにおけるプログラミング言語はコンピュータに指示を与えるための言語の設計や活用，また，それを用いたソフトウェアの開発を扱う分野です．
この授業は，代表的なプログラミング言語であるCを対象として，C言語の基礎を学修済みの学生が，基礎的なプログラミングスキルとアルゴリズムの理解をより深めて定着させるとともに，継続して中級レベルのプログラミング技術を学修することによって，より高度なソフトウェア開発へ進むのための橋渡しとなる科目と位置づけられます．

授業の到達目標:

・データ構造とアルゴリズムの基本を実習を通じて理解する。
・関数・ポインタ・構造体について、実習を通じて理解する。
・ライブラリを用いたプログラムの作成に取り組む。
・やや規模の大きいプログラムの作成に取り組む。

事前・事後学習の内容:

講義資料を事前にWaseda Moodle上で配布します。
30分程度の事前学習として講義資料に目を通して予習をしておくことが求められます。
また，毎回の授業において理解度確認用の演習課題が多めに出題されます。授業終了後も60分程度の事後学修として課題を完了させることが求められます。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション（本講義の目的と概要）／C言語基本事項のおさらい(1)
本講義の目的と概要を確認します．
プログラムの作成手順（ソースコード，コンパイル，実行，デバッグ）を理解し，簡単なサンプルプログラムを実行して動作環境を確認します．変数・基本演算・型について基本事項を確認します．

第2回 C言語基本事項のおさらい(2)
制御構造・配列について基本事項を確認します．

第3回 ポインタの基礎
アドレスとポインタの基礎について学習します．

第4回 文字列とポインタ
ポインタによる文字列の操作について学習します．

第5回 関数の基礎
関数の基礎について学習します．

第6回 関数の応用
さらに本格的な関数の作成について学習します．

第7回 構造体
構造体の概念と活用方法について学習します．

第8回　ここまでの復習課題
ここまでの内容の総合演習課題に取り組みます.
第9回　ファイル処理
ファイルの入出力について学習します.
第10回　ライブラリの活用
ライブラリの活用やソースファイルの分割について学習します.
第11回　データ構造
C言語におけるデータ構造について学習します.
第12回　アルゴリズム設計
アルゴリズムの概要と色々なアルゴリズムのプログラムについて学習します.
第13回　やや大規模なプログラム作成実習
ここまでに学習した内容を利用して，やや大規模なプログラムを作成する実習を行います.
第14回　理解度確認課題
理解度を確認するための最終課題を実施します.

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: Waseda Moodle上でPDFファイルを適宜配布します.

参考文献: 授業内で適宜紹介します.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 40　各回に実施する演習課題への取り組み状況による評価

その他: 60　第14回に実施する最終の理解度確認課題による評価

備考・関連URL: ・本講義の履修を希望する場合は必ず第1回目から出席するようにしてください.
・本講義は毎週2コマ連続して行います. 授業には1コマ目の冒頭から参加してください.
・講義は原則として全回出席することを前提として進めます（一度欠席すると次回以降の内容理解が困難になります）
・受講生の理解度や課題の進捗状況に応じてスケジュールや扱う内容が変更になる場合があります. ・Waseda Moodle上で実施する小テスト課題は採点結果として個別にフィードバックします.
・その他提出された演習課題や小テスト，コメントシートから全体的な理解状況を確認し，理解が不足していると考えられる部分については後日重点的に解説を行いフィードバックします.

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010241|08|9S04010241[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（C/C++） 08		
担 当 教 員	小田井 圭		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 実用的なプログラム作成を目指して

授業概要: C言語の中級程度について解説及び実習してもらう授業です。対象は、プログラミング初級（C/C++)受講修了または同等レベル修得済みの学生です。ポインタを使った簡単なプログラム作成ができる程度だと問題ありません。
授業は、1コマの前半を講義、後半を実習の形で進めます。講義を聞くだけでなく、実際に自分で作業することで、より理解を深めてもらいたいと思います。必要な情報はweb等で調べて自力でプログラム作成ができるようなってもらいたいと思っています。

エディタを使いソースプログラムを作成し、gccでコンパイルをし、実行プログラムを作成します。
自分でPCを持ち込んでLinux環境(またはMacPCでXcodeを利用する場合も)で実施もできます。

この授業では次の5点が分かっているものとしています。受講レベルに達しているのかどうかを確認するチェックに使ってください。
1.ポインタとはアドレスを格納する変数のことである。
2.配列変数の添え字は[0]から始まる。
3.繰り返し文はfor文、while文、do～while文の3種類がある。
4.条件分岐はif文またはswitch文を使う。
5.演算子には優先順位がある。
以上

授業方法は対面授業を想定しています。状況によりオンラインに変更になる場合があります。
講義日程などに関してはいつでも変更されることがあります。また、本web上に書かれていることと授業の実際が乖離した場合は授業の実際が優先されます。

授業の到達目標: プログラミング中級(C/C++)の授業を受講すると

1. アルゴリズムとフローチャート、データ構造に関して理解できます。
2. 関数・ポインタ・構造体について、実習を通じて理解できます。
3. ライブラリを用いたプログラムの作成に取り組めます。
4. 規模の大きいプログラムの作成方法ををを理解できます。
5. 複数人でのプログラムの開発をする時に注意する点を理解できます。
6. gccを使用して、自分でプログラミングが出来るようになります。

事前・事後学習の内容: プログラミング初級（C/C++)の授業受講しておくことが望ましいです。
ポインタについて復習しておくこと。（授業内でも復習をします）
また、各回の授業後は復習をしてください。次回以降の授業で必要となる知識があります。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション・C言語の基礎(初級の復習)
オリエンテーション／本講義の概要について説明します。教室のPCでgccの使い方について解説します。
変数・演算子・条件文・繰返し文・関数・フローチャートについて復習します。【事前・事後の学修】シラバスを読んでおくこと。初級受講者はその内容を再度確認しておくこと。課題を提出すること。

第2回 関数とポインタ
関数・ポインタについて復習します。また、線形探索法について学修します。【事前・事後の学修】初級受講者はその内容を再度確認しておくこと。課題を提出すること。

第3回　文字と数値・文字列

「文字」と「数値」の扱い方を解説します。文字コード表について解説します。C言語独特の文字配列についても学修します。また、「文字」と「文字列」の違いについても解説します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第4回　ポインタと配列

本講義では「ポインタ」と配列の関係について理解します。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第5回　ポインタの利用

ポインタの理解の総仕上げとして、ポインタを利用したプログラムを3つ取り上げます。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第6回　コマンドラインパラメータ

main関数へ渡す引数について学修します。また、プログラム実行時のオプションフラグについても学修します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第7回　ファイル構造体・標準ライブラリ関数

別に用意したファイルからデータを読み込むプログラムや、プログラムで処理した結果をファイルに書き出すために必要な知識「ファイル構造体」について説明します。リダイレクションについても解説します。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第8回　動的メモリ管理・ソート法

プログラム実行時にメモリを確保・開放する方法について学修します。そのプログラム例により、プログラミングで使用される代表的なソートアルゴリズムについても学修します。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第9回　構造体・共用体

構造体および共用体について学修します。構造体・共用体を利用したプログラム例を使ってデータ構造について解説します。
【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第10回　ビット演算子・構造体ビットフィールド

ビット演算子および構造体(ビットフィールド)について説明します。
組込みシステムなどで必要とされるビット操作を学修します。ビットの概念を学修します。C言語では2進数が扱えないため、16進数表示がよく利用されます。2進数・16進数の変換についても触れます。また、バイトアドレッシング方式を説明し、使用しているPCがビックエンディアンかリトルエンディアンかをプログラムで確認します。ビット操作をするための知識としてビットフィールドについても学修します。共用体を利用してメモリの中身を確認します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第11回　Cプリプロセッサ

Cプリプロセッサについて説明します。その機能とCプリプロセッサを意識したプログラムの書き方について解説します。ヘッダーファイルに何が書かれているか概観します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第12回　最適化・アセンブリ

プログラムのビルド時に「最適化」をすることで、実行プログラムのファイル容量・実行スピードが変わります。最適化の仕方・抑止の仕方、および最適化による問題点について解説します。また、アセンブリ言語について概観します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第13回　複数人でのプログラム開発(モジュール)

大規模プログラムを複数のファイルに分割するときの問題点を解説した後、モジュールという考え方を説明します。大域変数やextern宣言も学修します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

第14回　ライブラリファイルの作成

ライブラリ用ファイルを作成して、自分で作成した関数を管理します。スタティックライブラリの作成方法・ダイナミックリンクライブラリの作成方法について解説します。【事前・事後の学修】Moodleに提示されたテキストを読んでおくこと。課題を提出すること。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　Waseda Moodle上で公開・配布します。

成績評価フリー入力サイン:　0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	20	最終回の「理解度確認試験」(Moodle利用)
レポート:	80	毎時間、簡単な課題を課します(Moodle利用)。(必須課題60%＋オプション課題20%)

備考・関連URL: 小田井の授業用URLhttp://keiodai.chobi.net/waseda25/index.html

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010242|01|9S04010242[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（Java） 01		
担 当 教 員	白銀 純子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： 実用的なJavaプログラミング

授業概要： Javaの基本的な制御構造やオブジェクト指向の考え方を理解した上で、Javaに標準で用意されているライブラリの活用方法や、必要に応じて自分で利用するライブラリの活用について学ぶ。さらに、プログラムでのデータの扱い方、処理の組み立て方について扱い、それらを活用して実用的なプログラミングを行う。また、グループでのプログラム作成も体験する。

授業の到達目標： 扱うデータや処理内容に応じて適切なデータ構造やアルゴリズム、ライブラリを活用し、オブジェクト指向のテクニックを用いて実用的なプログラムを作成できること

事前・事後学習の内容： 毎回の練習問題のプログラムをすべて自分で作成してみること

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

初級の復習と例外処理

プログラミング初級Javaの復習を行い、あわせて、プログラムでのエラーの取り扱いについて学びます。

データ構造

プログラム内部でのデータの扱い方について学びます。

ファイルの扱い方とAPIドキュメント

最初に、ファイルの扱い方について学びます。そしてファイルの扱い方を題材に、Javaで利用可能なクラスやメソッドの調べ方を扱います。

標準ライブラリの使い方

Javaに標準で用意されているライブラリ(よく使う処理をひとまとめにしたもの)について、よく使われるものをいくつか紹介し、その扱い方について学びます。

外部ライブラリの使い方

Javaに標準で用意されている以外のライブラリの扱い方について学びます。取り上げるライブラリは、OpenCSV・Guava・Commons IOの予定です。

プログラム作成演習(1)

これまでの内容を踏まえて、プログラムを作成する実習を行います。グループを作成し、グループのメンバーで協力してプログラムを作成することを体験します。

アルゴリズム(1)

再帰というメソッドの定義方法について学び、ソート(並べ替え)のアルゴリズムについて取り上げます。

アルゴリズム(2)

探索と文字列処理のアルゴリズムについて取り上げます。

アルゴリズム(3)

グラフ探索とファイル処理のアルゴリズムについて取り上げます。

プログラム作成演習(2)

これまでの内容を踏まえて、プログラムを作成する実習を行います。グループを作成し、グループのメンバーで協力してプログラムを作成することを体験します。

オブジェクト指向(1)

プログラミング初級で学んだオブジェクト指向について、クラスやメソッド、継承の復習をします。

オブジェクト指向(2)

データの他クラスからの隠蔽や、複数のクラスに共通する要素の定義といった、オブジェクト指向のテクニックについて学びます。

オブジェクト指向(3)
親クラスのメソッドを子クラスで定義しなおしたり、引数のみ異なるメソッドを定義することによる、メソッド呼び出しの記述の簡略化について学びます。
プログラム作成演習(3)
これまでの内容を踏まえて、プログラムを作成する実習を行います。グループを作成し、グループのメンバーで協力してプログラムを作成することを体験します。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特になし

参考文献: 高橋麻奈著 「やさしいJava 第7版」(ソフトバンク パブリッシング株式会社)
山田祥寛著「独習Java」(翔泳社)
中山清喬・国本大悟著, 株式会社フレアリン監修「スッキリわかるJava入門 第3版」(インプレス)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート: 70 (1) データ構造やアルゴリズム、ライブラリを適材適所で活用できること
(2) 作成したプログラムについて、実行したときに正確な結果を出力できること
(3) オブジェクト指向に基づいたプログラム作成ができていること

平常点評価: 30 毎回の課題の提出状況を評価します。

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010242|02|9S04010242[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（Java） 02		
担 当 教 員	白銀 純子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： 実用的なJavaプログラミング

授業概要： Javaの基本的な制御構造やオブジェクト指向の考え方を理解した上で、Javaに標準で用意されているライブラリの活用方法や、必要に応じて自分で利用するライブラリの活用について学ぶ。さらに、プログラムでのデータの扱い方、処理の組み立て方について扱い、それらを活用して実用的なプログラミングを行う。また、グループでのプログラム作成も体験する。

授業の到達目標： 扱うデータや処理内容に応じて適切なデータ構造やアルゴリズム、ライブラリを活用し、オブジェクト指向のテクニックを用いて実用的なプログラムを作成できること

事前・事後学習の内容： 毎回の練習問題のプログラムをすべて自分で作成してみること

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

初級の復習と例外処理

プログラミング初級Javaの復習を行い、あわせて、プログラムでのエラーの取り扱いについて学びます。

データ構造

プログラム内部でのデータの扱い方について学びます。

ファイルの扱い方とAPIドキュメント

最初に、ファイルの扱い方について学びます。そしてファイルの扱い方を題材に、Javaで利用可能なクラスやメソッドの調べ方を扱います。

標準ライブラリの使い方

Javaに標準で用意されているライブラリ(よく使う処理をひとまとめにしたもの)について、よく使われるものをいくつか紹介し、その扱い方について学びます。

外部ライブラリの使い方

Javaに標準で用意されている以外のライブラリの扱い方について学びます。取り上げるライブラリは、OpenCSV・Guava・Commons IOの予定です。

プログラム作成演習(1)

これまでの内容を踏まえて、プログラムを作成する実習を行います。グループを作成し、グループのメンバーで協力してプログラムを作成することを体験します。

アルゴリズム(1)

再帰というメソッドの定義方法について学び、ソート(並べ替え)のアルゴリズムについて取り上げます。

アルゴリズム(2)

探索と文字列処理のアルゴリズムについて取り上げます。

アルゴリズム(3)

グラフ探索とファイル処理のアルゴリズムについて取り上げます。

プログラム作成演習(2)

これまでの内容を踏まえて、プログラムを作成する実習を行います。グループを作成し、グループのメンバーで協力してプログラムを作成することを体験します。

オブジェクト指向(1)

プログラミング初級で学んだオブジェクト指向について、クラスやメソッド、継承の復習をします。

オブジェクト指向(2)

データの他クラスからの隠蔽や、複数のクラスに共通する要素の定義といった、オブジェクト指向のテクニックについて学びます。

オブジェクト指向(3)
親クラスのメソッドを子クラスで定義しなおしたり、引数のみ異なるメソッドを定義することによる、メソッド呼び出しの記述の簡略化について学びます。
プログラム作成演習(3)
これまでの内容を踏まえて、プログラムを作成する実習を行います。グループを作成し、グループのメンバーで協力してプログラムを作成することを体験します。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特になし

参考文献: 高橋麻奈著 「やさしいJava 第7版」(ソフトバンク パブリッシング株式会社)
山田祥寛著「独習Java」(翔泳社)
中山清喬・国本大悟著, 株式会社フレアリン監修「スッキリわかるJava入門 第3版」(インプレス)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート: 70 (1) データ構造やアルゴリズム、ライブラリを適材適所で活用できること
(2) 作成したプログラムについて、実行したときに正確な結果を出力できること
(3) オブジェクト指向に基づいたプログラム作成ができていること

平常点評価: 30 毎回の課題の提出状況を評価します。

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010242|03|9S04010242[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（Java） 03		
担 当 教 員	白銀 純子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： 実用的なJavaプログラミング

授業概要： Javaの基本的な制御構造やオブジェクト指向の考え方を理解した上で、Javaに標準で用意されているライブラリの活用方法や、必要に応じて自分で利用するライブラリの活用について学ぶ。さらに、プログラムでのデータの扱い方、処理の組み立て方について扱い、それらを活用して実用的なプログラミングを行う。また、グループでのプログラム作成も体験する。

授業の到達目標： 扱うデータや処理内容に応じて適切なデータ構造やアルゴリズム、ライブラリを活用し、オブジェクト指向のテクニックを用いて実用的なプログラムを作成できること

事前・事後学習の内容： 毎回の練習問題のプログラムをすべて自分で作成してみること

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

初級の復習と例外処理

プログラミング初級Javaの復習を行い、あわせて、プログラムでのエラーの取り扱いについて学びます。

データ構造

プログラム内部でのデータの扱い方について学びます。

ファイルの扱い方とAPIドキュメント

最初に、ファイルの扱い方について学びます。そしてファイルの扱い方を題材に、Javaで利用可能なクラスやメソッドの調べ方を扱います。

標準ライブラリの使い方

Javaに標準で用意されているライブラリ(よく使う処理をひとまとめにしたもの)について、よく使われるものをいくつか紹介し、その扱い方について学びます。

外部ライブラリの使い方

Javaに標準で用意されている以外のライブラリの扱い方について学びます。取り上げるライブラリは、OpenCSV・Guava・Commons IOの予定です。

プログラム作成演習(1)

これまでの内容を踏まえて、プログラムを作成する実習を行います。グループを作成し、グループのメンバーで協力してプログラムを作成することを体験します。

アルゴリズム(1)

再帰というメソッドの定義方法について学び、ソート(並べ替え)のアルゴリズムについて取り上げます。

アルゴリズム(2)

探索と文字列処理のアルゴリズムについて取り上げます。

アルゴリズム(3)

グラフ探索とファイル処理のアルゴリズムについて取り上げます。

プログラム作成演習(2)

これまでの内容を踏まえて、プログラムを作成する実習を行います。グループを作成し、グループのメンバーで協力してプログラムを作成することを体験します。

オブジェクト指向(1)

プログラミング初級で学んだオブジェクト指向について、クラスやメソッド、継承の復習をします。

オブジェクト指向(2)

データの他クラスからの隠蔽や、複数のクラスに共通する要素の定義といった、オブジェクト指向のテクニックについて学びます。

オブジェクト指向(3)
親クラスのメソッドを子クラスで定義しなおしたり、引数のみ異なるメソッドを定義することによる、メソッド呼び出しの記述の簡略化について学びます。
プログラム作成演習(3)
これまでの内容を踏まえて、プログラムを作成する実習を行います。グループを作成し、グループのメンバーで協力してプログラムを作成することを体験します。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特になし

参考文献: 高橋麻奈著 「やさしいJava 第7版」(ソフトバンク パブリッシング株式会社)
山田祥寛著「独習Java」(翔泳社)
中山清喬・国本大悟著, 株式会社フレアリン監修「スッキリわかるJava入門 第3版」(インプレス)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート: 70 (1) データ構造やアルゴリズム、ライブラリを適材適所で活用できること
(2) 作成したプログラムについて、実行したときに正確な結果を出力できること
(3) オブジェクト指向に基づいたプログラム作成ができていること

平常点評価: 30 毎回の課題の提出状況を評価します。

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010242|05|9S04010242[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（Java） 05		
担 当 教 員	白銀 純子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： 実用的なJavaプログラミング

授業概要： Javaの基本的な制御構造やオブジェクト指向の考え方を理解した上で、Javaに標準で用意されているライブラリの活用方法や、必要に応じて自分で利用するライブラリの活用について学ぶ。さらに、プログラムでのデータの扱い方、処理の組み立て方について扱い、それらを活用して実用的なプログラミングを行う。また、グループでのプログラム作成も体験する。

授業の到達目標： 扱うデータや処理内容に応じて適切なデータ構造やアルゴリズム、ライブラリを活用し、オブジェクト指向のテクニックを用いて実用的なプログラムを作成できること

事前・事後学習の内容： 毎回の練習問題のプログラムをすべて自分で作成してみること

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

初級の復習と例外処理

プログラミング初級Javaの復習を行い、あわせて、プログラムでのエラーの取り扱いについて学びます。

データ構造

プログラム内部でのデータの扱い方について学びます。

ファイルの扱い方とAPIドキュメント

最初に、ファイルの扱い方について学びます。そしてファイルの扱い方を題材に、Javaで利用可能なクラスやメソッドの調べ方を扱います。

標準ライブラリの使い方

Javaに標準で用意されているライブラリ(よく使う処理をひとまとめにしたもの)について、よく使われるものをいくつか紹介し、その扱い方について学びます。

外部ライブラリの使い方

Javaに標準で用意されている以外のライブラリの扱い方について学びます。取り上げるライブラリは、OpenCSV・Guava・Commons IOの予定です。

プログラム作成演習(1)

これまでの内容を踏まえて、プログラムを作成する実習を行います。グループを作成し、グループのメンバーで協力してプログラムを作成することを体験します。

アルゴリズム(1)

再帰というメソッドの定義方法について学び、ソート(並べ替え)のアルゴリズムについて取り上げます。

アルゴリズム(2)

探索と文字列処理のアルゴリズムについて取り上げます。

アルゴリズム(3)

グラフ探索とファイル処理のアルゴリズムについて取り上げます。

プログラム作成演習(2)

これまでの内容を踏まえて、プログラムを作成する実習を行います。グループを作成し、グループのメンバーで協力してプログラムを作成することを体験します。

オブジェクト指向(1)

プログラミング初級で学んだオブジェクト指向について、クラスやメソッド、継承の復習をします。

オブジェクト指向(2)

データの他クラスからの隠蔽や、複数のクラスに共通する要素の定義といった、オブジェクト指向のテクニックについて学びます。

オブジェクト指向(3)
親クラスのメソッドを子クラスで定義しなおしたり、引数のみ異なるメソッドを定義することによる、メソッド呼び出しの記述の簡略化について学びます。
プログラム作成演習(3)
これまでの内容を踏まえて、プログラムを作成する実習を行います。グループを作成し、グループのメンバーで協力してプログラムを作成することを体験します。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特になし

参考文献: 高橋麻奈著 「やさしいJava 第7版」(ソフトバンク パブリッシング株式会社)
山田祥寛著「独習Java」(翔泳社)
中山清喬・国本大悟著, 株式会社フレアリン監修「スッキリわかるJava入門 第3版」(インプレス)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート: 70 (1) データ構造やアルゴリズム、ライブラリを適材適所で活用できること
(2) 作成したプログラムについて、実行したときに正確な結果を出力できること
(3) オブジェクト指向に基づいたプログラム作成ができていること

平常点評価: 30 毎回の課題の提出状況を評価します。

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010245|01|9S04010245[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	サーバサイドWebプログラミング中級 01		
担 当 教 員	藤田 真一		
開 講 学 期	春季	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: PHPとLaravelで学ぶサーバサイドWebアプリケーション開発

授業概要: 本講義は、Webシステムの基礎的な仕組みを理解し、簡単なPHPを利用したプログラミングができるようになった学生を対象に、次のステップを提供するものです。
ただ動くだけのWebアプリケーションではなく、中規模以上の実用的なWebサービスを開発・運用し続けるためには、開発の効率、プログラムの再利用性、可読性、他の開発者との協調性を考慮することが不可欠です。
本講義では、実用的なWebアプリケーションの開発を実習形式で学びます。具体的には、PHPフレームワークのLaravelを用いたMVCモデルによるWebアプリケーション開発を中心に、より効率的でスケーラブルなシステム構築の方法を習得します。
前半では、PHPの基礎・オブジェクト指向・データベース操作（MySQL）を学び、MVCアーキテクチャの概念を理解します。後半では、Laravelを用いて、実際のWebアプリケーション開発を実践し、ユーザー認証や通知機能を実装します。最終的には、実用的なWebアプリケーションを構築し、開発・運用の基礎を習得することを目指します。
授業の主な内容サーバサイドWebプログラミングの基礎（LAMP環境）PHPの基本構文、オブジェクト指向プログラミングMySQLを用いたデータベース操作MVCアーキテクチャとフレームワークの理解Laravelを用いたWebアプリケーションの開発CRUD機能の実装とデータ管理ユーザー認証・通知機能の実装Webシステムの設計と実装プログラミング経験がある方はもちろん、基礎を身につけた上でより実践的なWebアプリケーション開発を学びたい方に適した講義内容となっています。

授業の到達目標: 実用的なサービスを提供できるWebアプリケーションを自分の手で開発できるようになることを到達目標とします。

事前・事後学習の内容: 共通の課題のほか、各自、自分の興味や能力によって開発するアプリケーションを決めて開発を進めていきます。

本授業は集中講義形式のため、授業内で扱う内容（フレームワークを用いたWebアプリ開発等）を円滑に理解・実装するには、受講前の段階でPHPの基礎（文法・配列・関数・条件分岐／繰り返し、フォーム送受信など）を理解していることが前提となります。受講開始までに各自で基礎事項の復習を行い、基本的なコードが読み書きできる状態にしておいてください。

また、授業期間中は、各回（各日）の内容をその日のうちに振り返り、共通課題の未完了部分の修正、エラー原因の調査と解決、追加実装を行うなど、授業外学習（復習・実装・改善）を計画的に進めてください。準備学習・復習に必要な時間はそれぞれの経験・知識によって異なります。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 第1回: オリエンテーション講義の進め方・方針・評価の方法LAMPの概要サーバサイドWebプログラミングの概要第2回: PHPの基礎（セッション・クッキー）セッションとクッキーの仕組みセッションを利用したデータ管理クッキーの活用とセキュリティ第3回: MySQLの基本とデータベース設計MySQLの概要データベース設計（正規化・リレーションの考え方）テーブル作成、基本的なクエリ（SELECT, INSERT, UPDATE, DELETE）第4回: PHPとオブジェクト指向クラスとオブジェクト継承とインターフェース名前空間とオートロード第5回: MVCモデルとフレームワークの概要MVCの基本概念フレームワークの概要第6回: Laravelの導入Laravelのインストールと環境構築ルートの基本とコントローラの作成第7回: Bladeテンプレートの基礎Bladeテンプレートの基本構文レイアウトとコンポーネントの活用ナビゲーションの作成第8回: モデルとマイグレーションEloquent ORMの基礎データベースマイグレーションの作成ファクトリーとシーディング第9回: CRUDの実装（Create & Read）フォームの作成データの登録（Create）データの取得と一覧表示（Read）第10回: CRUDの実装（Update & Delete）データの編集（Update）データの削除（Delete）バリデーションの追加第11回: 認証とユーザー管理Laravelの認証機能の導入ユーザー登録・ログイン・ログアウトユーザーごとのデータ管理第12回: 通知とイベントLaravelのイベントとリスナーメール通知の実装第13回～第14回: Webアプリケーション開発実習これまでに学んだ内容を活かしたアプリ開発各自のプロジェクトに沿った実装とフィードバック

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価:	50	週毎に到達度を確認します。
その他:	50	演習課題の成果物を評価します。

備考・関連URL: 2月3日（水）1～5時限
2月4日（木）1～5時限
2月5日（金）1～4時限

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

本講義は、PHPでの簡単なプログラムが記述できることを前提とします。具体的には、分岐処理・繰り返し処理・フォームとの連携 などの基本的な操作ができることを想定しています。
これらに不安がある場合は、事前に自習するか、「サーバサイドWebプログラミング初級」を履修し、その内容を復習することを推奨します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010246|01|9S04010246[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	クライアントサイドWebプログラミング中級 O1		
担 当 教 員	山名 早人		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火3時限@02:無フルOD	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 画像提供サイトや地図提供サイトの外部APIを使ってリッチなWebページを創ろう

授業概要: 本講義は、クライアントサイドWebプログラミング（HTMLページ内にJavaScriptを使ってプログラムを埋め込みます）により、話題のマッシュアップを実現することを目指します。現在のWebページでは、ほぼ100%のWebページで、この技術が用いられています。

本講義では、基本的なプログラミング技法の予備知識や経験を前提として進めます（前提を満たさない人は、参考文献2により本講義と並行して学習してください）。

はじめに、マッシュアップとは何かについて説明をし、昨今様々なサイトから提供されるWebサービスの紹介をします。

次に、これらのWebサービスで提供されるAPI（Flickr等のAPIを利用予定）をJavascript(Javaの簡略版と言えるスクリプト言語)を使ってマッシュアップし、実際に動作させてみます。

なお、この講義は、主に講義部分をオンラインで実施し、教場ではグループを構成(3～4名を想定)した上で、ほぼ毎回演習を行います。

■受講前提条件:

「クライアントサイドWebプログラミング初級」を履修済であるか、プログラミング経験（C,Java,PHP,Ruby,Pythonなど何でも構いません）があることを前提とします。なお、前提を満たさない人で受講したい皆さんは、参考文献2により本講義と並行して学習してください。

■授業実施形態

この講義は2単位科目でハイブリッド講義（週1で教場(早稲田キャンパス)、週1でオンデマンド）です。オンデマンドで事前学習（小テスト有）を行い、教室でグループで演習に取り組むというスタイルです。
※インタラクティブに講義を行うと共に、グループ学習を取り入れます。

■科目の位置付け

本科目は中級に位置付けられるプログラミング科目です。
プログラミングの基本ができていることを前提とし、動的なWebページを対象としたプログラミング応用を行います。
この過程において、情報科学を学ぶ上で必要となる「論理的思考力」「問題解決に向けた方法（アルゴリズム）構築能力」を磨きます。
さらに、プログラミングにおいて必要となる考え方（情報理論が扱う領域）を復習します。

授業の到達目標: 1）JavaScriptを使いこなし、外部APIと組み合わせたプログラミングができること。
外部API事例： 画像提供サイト（Flickr等）や地図提供サイト（Open Street Map）が提供するAPI

2） JavaScriptで提供される基本命令を使いこなせること。
命令：if文、for文、while文、break文、switch文、条件文、return文 等

3） Document Object Model (DOM)を理解し、動的なWebページが構築できること。

4） 以下のプログラミングができること。
関数構築、プロパティの操作、正規表現の利用、クッキーの構築、フォームで入力されるデータの検証

事前・事後学習の内容: 毎回、復習（次回の予習を含む）として60分～120分（各回の内容と履修者自身の経験に依存）が必要となります。
1）各回で用意されている小テストへの解答
2）最終回のプログラム構築に向けたプログラミング（これは班員で協力して実施します）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回: オリエンテーションと導入（4/14）【●教場実施】

・Yahoo! JAPAN、Googleをはじめ多くの企業からWebサービスを使ったAPIが提供されています。Webサービスの概要について説明すると共に、本講義の概要を紹介します。

第2回：JavaScript概説とデバッガ【オンデマンド実施】（第3回までの間）

・クライアントサイドプログラミングで必要となるJavaScriptについて概説します。
・JavaScriptでプログラミングする上で便利なデバッガについて紹介すると共に、利用してみます。

第3回: 地図利用(1)-JavaScriptの基礎（4/21）【●教場実施】

・WebページへのJavaScript埋め込み方法を学習します。
・OpenStreetMapを使って地図を表示し地図をA地点からB地点に移動するプログラムを作成します。
・この講義内で、if文、for文、prompt命令が出てきます。

第4回：地図利用(2)-JavaScriptの基礎【オンデマンド実施】（第5回までの間）

・前回に続き、ボタンを付けて地図をB地点からA地点に戻すプログラムを作成します。

・地図を少しずつ動かしてみます。

第5回：地図利用(3)-応用編（4/28）【●教場実施】

・地図上に様々なオブジェクト（円、マーカー、ポップアップ、折れ線、多角形）を表示する方法について学びます。

第6回：オブジェクト指向とDOM【オンデマンド実施】（第7回までの間）

・オブジェクト指向について説明すると共に、DOM（文書オブジェクトモデル）について学びます。
（DOMを用いることで、Web上のコンテンツを動的に書き換えることが可能になり、インタラクティブなWebページにすることができます）

第7回：DOM演習（5/12）【●教場実施】

・画像検索（Flicker Photo Search）を例題として、DOMの操作方法について学びます。
・画像検索、画像並び替え、重複画像の削除
・switch文、while文、this、addEventListener、乱数利用

第8回：DOM演習（つづき）【オンデマンド実施】（第9回までの間）

・前回のDOM演習を完成させます。

第9回：グループでのプログラム作成(1)（5/19）【●教場実施】

・グループのプログラム開発を開始します。
・グループ（3－5名）で分担して作品を作ります。制約条件は、外部APIを必ず1つ以上用いることです。

第10回：関数【オンデマンド実施】(第11回までの間)

・関数の役目を理解し関数を使えるようになることを目指します。
・座席予約システムを課題として用い、プログラム上で関数を作成する方法について学びます。

第11回：グループでのプログラム作成(2)（5/26）【●教場実施】

・グループのプログラム開発を継続します。

第12回：「正規表現とフォームの検証」【オンデマンド実施】(第14回までの間)

・Webページからユーザにデータを入力してもらった際に、入力データが適切であるかどうかを判定するためのプログラムについて演習を行います。・正規表現を用いて入力データのチェックを行います。

第13回：プロパティとクッキー【オンデマンド実施】（第14回までの間）

・プロパティとクッキーについて学びます。
・Webブラウザの表示画面の大きさにあわせてコンテンツ表示の大きさを変化させます。
・ブラウザを閉じても、状態を保持できるようクッキーを利用してみます。

第14回：グループでのプログラム発表と評価（6/2）【●教場実施】

グループ単位で作品を発表し相互評価を行います。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 無（講義資料としてスライドをWaseda Moodle経由で配布。

参考文献: 以下を参考文献として挙げるが購入の必要はない。必要な場合は講義中に指示する。

[参考文献1]
JavaScriptクイックリファレンス 第5版 オライリー・ジャパン
JavaScriptの文法を把握する上で便利です。

[参考文献2]
Head First JavaScript——頭とからだで覚えるJavaScriptの基本, オライリー・ジャパン
初めてJavaScriptを使うユーザ向け（他の言語を知らなくてもOK）のJavaScript入門書です。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	実施しません。
レポート:	80	演習として、グループ単位(3名～4名)で作品を作成します。 評価の80%は、この作品に基づいて行います(なお、最後にWebページをMoodleを通じて提出します)。 評価基準: 最終日に実施する班単位(ただし全員が担当部分を説明)でのプレゼンに対して以下を評価します。 １－１)班で設定したWebページ生成の難易度 １－２)班での協力体制 １－３)完成度 １－４)プレゼンテーション能力
平常点評価:	20	毎回の演習の出来具合(Moodle上での小テストや課題、及び教場での演習実施状況)を平常点として評価します。 評価基準: 1)毎回の小テストは、小テストの得点 2)教場での演習実施においては、質疑応答、演習の達成度
その他:	0	無
備考・関連URL:	グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。 -GEC情報のカリキュラム -GEC情報の科目マップ -GEC情報の履修モデル	

フィードバック方法:
1)毎回の教室で小テストに関する解説を行います(あるいは、Moodle上で行います)。また、演習は同日にフィードバックを教室もしくはMoodle上で行います。
2)最終日のプレゼンテーションについては、プレゼンテーションの中でフィードバックを行います。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010248|01|9S04010248[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データベース（管理と運用） O1		
担 当 教 員	小林 明大		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: はじめてのデータベース（管理と運用）

授業概要: データベースシステムは，インターネット上のオンラインショッピング，企業における顧客管理システムや業務システムなど、様々な場面で利用されている情報システムの基盤技術のひとつです。
しかし、データベースを単体で扱うことはほとんどなく、何かしらのアプリケーションのバックエンドサービスとして利用することが多いです。

本講義では，アプリケーションを開発しながらデータベースシステムを操作する方法にフォーカスをあてデータベース理論を学習します。

授業の到達目標: ・リレーショナルデータモデルの原理に関する理解
・データベースに対する操作，および演算方法の理解
・リレーショナルデータベーススキーマの設計法に関する理解
・NoSQLデータベースの設計法に関する理解

事前・事後学習の内容: データベース言語SQLに関しては、初級相当（データベースSQL入門）の理解が必要です。もし受講していない場合は参考文献等で事前に学習してください.
欠席した場合は出席者と同様、内容の理解と課題への取り組みが必要です。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ガイダンス
授業の目的・進め方・学習内容および評価方法について説明する。

第2回 データベースの基礎概論
データベースの定義と役割を整理し、リレーショナルデータベースおよび非リレーショナルデータベースの特徴を理解するとともに、クラウドにおけるフルマネージド型データベースサービスの概要を修得する。

第3回 Python基礎
Python の基本構文および基礎的なプログラミング手法を理解する。

第4回 Pandas基礎
Pandas の基本的な操作方法を学び、Python プログラムから CSV ファイルを読み書きする方法を修得する。

第5回 SQLite基礎
SQLite の基本概念を理解し、コマンドラインツールを用いたデータベースの作成および基本操作（CRUD）を修得する。

第6回 PythonによるSQL演習 I
Python プログラムから SQLite データベースを操作する方法を学ぶ。

第7回 PythonによるSQL演習 II
Python からの SQL 実行およびデータ処理の応用方法を学ぶ。

第8回 データ分析基礎
統計学の役割を理解し、データの種類と特徴、代表値や分布などの基礎的な記述統計の手法を学ぶ。

第9回 データ分析入門 I
Pandas および SQLite データベースを活用し、Python による基礎的なデータ分析手法を修得する。

第10回 データ分析入門 II
データベースと連携したデータ分析の応用手法を学び、分析結果の整理・可視化方法を修得する。

第11回 Pythonによるデータベース連携アプリケーション開発 I
Python を用いたデータベース接続の仕組みを理解し、DB と連携する基礎的なアプリケーションの設計および実装方法を学ぶ。

第12回　Pythonによるデータベース連携アプリケーション開発Ⅱ
データベース連携アプリケーションの機能拡張を行い、実践的な設計および実装手法を修得する。
第13回　総合開発演習
これまでに修得した知識および技術を統合し、実践的なアプリケーションの設計・開発に取り組む。
第14回　総合開発演習
これまでに修得した知識および技術を統合し、実践的なアプリケーションの設計・開発に取り組む。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 教科書はありません.
Webサイトに資料を掲載します.

参考文献: 参考文献はありません.
学習に必要な文献は講義内で紹介します.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30　授業内で小テストを数回行います

レポート: 40　最後の授業で課す課題で評価します

平常点評価: 30　授業内に課す課題で評価します

備考・関連URL: PCの持ち込みを必須とする

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010248|02|9S04010248[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データベース（管理と運用） 02		
担 当 教 員	邵 騰飛		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: データベースの運用・管理技術の実践的理解

授業概要: 現代の情報システムにおけるデータベース活用では、実装スキル（SQLなど）に加えて、管理・運用面の知見が不可欠です。本講義では、リレーショナルデータベース（RDB）を中心に、データベースの運用管理・パフォーマンスチューニング・セキュリティ・バックアップとリカバリなどの重要概念を扱いながら、実践的なデータベース管理方法を習得することを目的とします。講義の中では、演習・事例研究を交えながら、具体的な管理ツールや運用フローを学習します。

授業の到達目標: 1. データベースの管理・運用における基本的な概念と手法を理解する。
2. パフォーマンスを最適化するための手法を把握し、適切に選択・適用できるようになる。
3. 小規模システムを想定した管理・運用計画を立案し、実際に実装・検証できるようになる。

事前・事後学習の内容: 事前に「データベース（SQL入門） 03」を受講するかSQLの基本操作およびデータベースの基本概念を勉強しておくこと。
授業内で使用するスライドや参考資料を事前に確認し、授業内容の理解を深めること。
各回の授業後に提示される課題に取り組み、実際にデータベース管理ツールを使用すること。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回: データベース管理概論
データベース管理と運用の基本概念および運用管理が必要とされる背景、管理者の役割本講義の全体像（評価方法、準備物の確認）

第2回: 基礎操作の復習とデータベースの環境構築
リレーショナルモデルおよびSQL基礎のおさらい主要DBエンジン（MySQL/PostgreSQLなど）の環境構築

第3回: DBユーザ管理とアクセス制御
ユーザ管理の重要性（セキュリティ、権限分割など）ユーザ作成・権限設定の基本コマンドやGUI画面の使い方

第4回: バックアップとリカバリ
データの重要性とリスクバックアップの種類

第5回: パフォーマンスチューニングの基礎
インデックスの概念とクエリ最適化の必要性SQL実行計画の読み方とクエリの最適化手法

第6回: 同時実行制御とトランザクション管理
トランザクションとは？ロック機構とデッドロック分離レベルの概要

第7回: 運用監視と基本ツール
モニタリングの重要性GUIツールのダッシュボードやアラートの設定方法

第8回: バックアップとリカバリ
物理バックアップ・論理バックアップの手順詳細ポイントインタイムリカバリの操作例障害を想定して復旧を試す

第9回: セキュリティとアクセス制
SQLインジェクションや不正アクセスの脅威暗号化（通信のSSL/TLS、データ暗号化など）

第10回: 高可用性（HA）とレプリケーション概要
サーバ障害の対処方法と防止対策レプリケーション環境の構築

第11回: ログ解析とトラブルシューティング
エラーログ・スロークエリログなどの読み解き方不具合シナリオを想定した対策策定

第12回: 運用自動化と管理ドキュメントの作成
定型作業の自動化管理ドキュメント、手順書の作り方

第13回: 実践プロジェクト
データベースの運用および管理の実践
第14回: まとめ
これまでの管理・運用技術のまとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定なし.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート: 40 授業の最後に課される課題への取り組みを評価します.

平常点評価: 30 授業に対する積極性・参加意欲を評価します.

その他: 30 課題の提出状況、内容および授業への参加度により総合的に評価します.

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010249|01|9S04010249[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ミュージック・プログラミング 01		
担 当 教 員	鈴木 敬彦		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火2-3	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: デジタル オーディオ プログラミング入門

授業概要: 本講義では音響、特に楽音に注目し、信号処理のうち音響合成や音響加工のための基礎的な技術や理論的背景について学ぶと共にプログラミングの実習を行います。音響の物理的基礎や加算合成等の基本的な音響合成から始め、より現代的なグラニュラーシンセシスや周波数領域での信号処理、物理モデル合成の基礎程度までに焦点をあてていきます。
また同時に、各自のアイデアを基に作品制作を行います。

※ 本講義では Max という音楽用開発環境を用いてデジタル信号処理を行い、MIDI 音源は原則使用しません。
※ 所謂DTMや打ち込みは扱いません。

授業の到達目標: 「音」そのものに対する理解を深めると同時に、プログラミングの実習を通して論理的な思考方法を身に付ける。作品制作を通して、自らプロジェクトを企画立案し、自己のアイデアを具現化させることを目標とする。

事前・事後学習の内容: 毎講義前に、教材（moodle上に準備）に目を通しその理論的背景を理解する（30分～1時間程度）よう心掛け、また、その実装方法について考え実装を試みてください。
毎講義後に、事前学習の段階において不明であった理論的背景や実装方法について復習（30分～1時間程度）してください。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 受講前提条件: ・講義時間以外に学習および作品制作の時間を確保できること。
・英文マニュアル程度の英語が読めること。
・コンピューターの基本操作を修得しており、ファイル操作やメール、ブラウザーの使用等に支障がないこと。
・義務教育程度の最低限の音楽的素養があること。自発的な音楽経験があれば望ましい。
・数学的素養は特に問わないが、数学的・論理的思考ができること、あるいはプログラミング、スクリプティングの経験があれば望ましい。

講義初回までに:
・Max について予習しておくこと。
・高校数学（三角関数、指数関数、対数関数、2進数）と高校物理（波動）を復習しておくこと。
・作品の構想を可能な限り具体的に練っておくこと。（作品制作の詳細については備考を参照）
予定講義内容: 第01回: ガイダンス
第02回: Maxについて
第03回: プログラミングについて
第04回: 音響基礎（物理的特性）
第05回: 音響基礎（デジタル音響）
第06回: オシレーター、加算合成
第07回: 減算合成（フィルター基礎）
第08回: モジュレーション・シンセシス I（AM、RM）
第09回: モジュレーション・シンセシス II（FM）
第10回: ディレイ、モジュレーションディレイ、リバーブ（Schroeder、Griesinger 等）
第11回: Physical Modeling Synthesis 初歩（Karplus & Strong Algorithm）
第12回: ピッチシフト、タイムストレッチ
第13回: Granular Synthesis
第14回: フーリエ変換、畳み込み（Cross Synthesis、他）

※ 講義内容は、実習の進捗等によって変更される場合があります。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に無し。必要な場合は、講義時間内にプリント、ファイルを配布、あるいはURLを提示。

参考文献: Max Documentations [必読]
https://docs.cycling74.com/max8

The Computer Music Tutorial
Curtis Roads, 1996. Cambridge, MA., USA:The MIT Press. ISBN 9780262680820

(出版社/amazon us|jp/wine)
※ 2023年絶版。2023/06/06 に第二版が発売されるとのことです。

The Computer Music Tutorial, Second Edition
Curtis Roads, 2023. Cambridge, MA., USA:The MIT Press. ISBN 9780262044912
(出版社/amazon us|jp)
※ 2023/06/06 発売

The Csound Book – Perspectives in Software Synthesis, Sound Design, Signal Processing,and Programming
Richard Boulanger, 2000. Cambridge, MA., USA:The MIT Press. ISBN 9780262522618
(出版社/amazon us|jp)

A Digital Signal Processing Primer – With Applications to Digital Audio and Computer Music
Ken Steiglitz, 1996. Menlo Park, Calif. USA: Addison-Wesley ISBN 9780805316841
(出版社/amazon us|jp)

Theory and Techniques of Electronic Music
Miller Puckette
(http://msp.ucsd.edu/techniques.htm)

Computer Music Journal
MIT Press Journals (wine)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験:	0	試験は行いません。
レポート:	50	作品制作。提出を必須とします。作品のコンセプト、実装方針、技術力、レポートを評価します。作品未提出の場合は、評価を0点とします。
平常点評価:	50	講義への積極的な参加を評価します。

備考・関連URL:

講義時間以外の学習・作業について
講義と並行して各学生独自のテーマによる作品制作を行いますが、制作時間を講義時間中に取ることは不可能であるため、講義以外の時間を活用して制作を進めていくことになります。
また、週1回数十分間コンピューターの前に座ったからといってプログラミングを行えようになることはあり得ません。講義以外の時間に積極的な自習を必要とします。

課題のフィードバックについて
講義中の課題については、提出後の講義にてフィードバックします。最終課題については、希望者にメールにてフィードバックします。

講義で使用するソフトウェアについて
本講義で使用する Max は有償のソフトウェアです。602教室では自由に使用できますが、自分のコンピューターで使用するには購入する必要があります。購入以外にも月単位の購読も可能です。Max の購入は必須ではありません。
また、講義に於いては Max を主に使用しますが、オリジナルの Max の開発者である Miller Puckette 氏による PureData というソフトウェア(無償で利用可能)は Max ととてもよく似ており、代替環境として利用可能です。

作品制作について
テーマは自由。(講義の方向性に則していることが望ましい)
自分がどのようなことをやりたいのか、よく考えておいてください。
詳細についてはガイダンスにて伝えますが、特にアイデアを重視します。
作品制作は時間の掛かる作業です。充分に余裕を持って進めてください。
作品未提出の場合は、評価を0点とします。
提出期限は学期末(前期 7/31、後期 1/31)です。

関連URL:
Cycling74 Max
開発販売元: https://cycling74.com/
製品購入ページ: https://auth.cycling74.com/purchase#educational
マニュアル: https://docs.cycling74.com/max7
ユーザーフォーラム: https://cycling74.com/forums/
参考: https://cycling74.com/tutorials/

PureData
一次配布元: http://msp.ucsd.edu/
二次配布元: http://puredata.info/downloads/

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご

参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010249|02|9S04010249[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ミュージック・プログラミング 02		
担 当 教 員	鈴木 敬彦		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火2-3	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: デジタル オーディオ プログラミング入門

授業概要: 本講義では音響、特に楽音に注目し、信号処理のうち音響合成や音響加工のための基礎的な技術や理論的背景について学ぶと共にプログラミングの実習を行います。音響の物理的基礎や加算合成等の基本的な音響合成から始め、より現代的なグラニュラーシンセシスや周波数領域での信号処理、物理モデル合成の基礎程度までに焦点をあてていきます。
また同時に、各自のアイデアを基に作品制作を行います。

※ 本講義では Max という音楽用開発環境を用いてデジタル信号処理を行い、MIDI 音源は原則使用しません。
※ 所謂DTMや打ち込みは扱いません。

授業の到達目標: 「音」そのものに対する理解を深めると同時に、プログラミングの実習を通して論理的な思考方法を身に付ける。作品制作を通して、自らプロジェクトを企画立案し、自己のアイデアを具現化させることを目標とする。

事前・事後学習の内容: 毎講義前に、教材（moodle上に準備）に目を通しその理論的背景を理解する（30分～1時間程度）よう心掛け、また、その実装方法について考え実装を試みてください。
毎講義後に、事前学習の段階において不明であった理論的背景や実装方法について復習（30分～1時間程度）してください。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 受講前提条件: ・講義時間以外に学習および作品制作の時間を確保できること。
・英文マニュアル程度の英語が読めること。
・コンピューターの基本操作を修得しており、ファイル操作やメール、ブラウザーの使用等に支障がないこと。
・義務教育程度の最低限の音楽的素養があること。自発的な音楽経験があれば望ましい。
・数学的素養は特に問わないが、数学的・論理的思考ができること、あるいはプログラミング、スクリプティングの経験があれば望ましい。

講義初回までに:
・Max について予習しておくこと。
・高校数学（三角関数、指数関数、対数関数、2進数）と高校物理（波動）を復習しておくこと。
・作品の構想を可能な限り具体的に練っておくこと。（作品制作の詳細については備考を参照）
予定講義内容: 第01回: ガイダンス
第02回: Maxについて
第03回: プログラミングについて
第04回: 音響基礎（物理的特性）
第05回: 音響基礎（デジタル音響）
第06回: オシレーター、加算合成
第07回: 減算合成（フィルター基礎）
第08回: モジュレーション・シンセシス I（AM、RM）
第09回: モジュレーション・シンセシス II（FM）
第10回: ディレイ、モジュレーションディレイ、リバーブ（Schroeder、Griesinger 等）
第11回: Physical Modeling Synthesis 初歩（Karplus & Strong Algorithm）
第12回: ピッチシフト、タイムストレッチ
第13回: Granular Synthesis
第14回: フーリエ変換、畳み込み（Cross Synthesis、他）

※ 講義内容は、実習の進捗等によって変更される場合があります。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に無し。必要な場合は、講義時間内にプリント、ファイルを配布、あるいはURLを提示。

参考文献: Max Documentations [必読]
https://docs.cycling74.com/max8

The Computer Music Tutorial
Curtis Roads, 1996. Cambridge, MA., USA:The MIT Press. ISBN 9780262680820

(出版社/amazon us|jp/wine)
※ 2023年絶版。2023/06/06 に第二版が発売されるとのことです。

The Computer Music Tutorial, Second Edition
Curtis Roads, 2023. Cambridge, MA., USA:The MIT Press. ISBN 9780262044912
(出版社/amazon us|jp)
※ 2023/06/06 発売

The Csound Book – Perspectives in Software Synthesis, Sound Design, Signal Processing,and Programming
Richard Boulanger, 2000. Cambridge, MA., USA:The MIT Press. ISBN 9780262522618
(出版社/amazon us|jp)

A Digital Signal Processing Primer – With Applications to Digital Audio and Computer Music
Ken Steiglitz, 1996. Menlo Park, Calif. USA: Addison-Wesley ISBN 9780805316841
(出版社/amazon us|jp)

Theory and Techniques of Electronic Music
Miller Puckette
(http://msp.ucsd.edu/techniques.htm)

Computer Music Journal
MIT Press Journals (wine)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験:	0	試験は行いません。
レポート:	50	作品制作。提出を必須とします。作品のコンセプト、実装方針、技術力、レポートを評価します。作品未提出の場合は、評価を0点とします。
平常点評価:	50	講義への積極的な参加を評価します。

備考・関連URL:

講義時間以外の学習・作業について
講義と並行して各学生独自のテーマによる作品制作を行いますが、制作時間を講義時間中に取ることは不可能であるため、講義以外の時間を活用して制作を進めていくことになります。
また、週1回数十分間コンピューターの前に座ったからといってプログラミングを行えようになることはあり得ません。講義以外の時間に積極的な自習を必要とします。

課題のフィードバックについて
講義中の課題については、提出後の講義にてフィードバックします。最終課題については、希望者にメールにてフィードバックします。

講義で使用するソフトウェアについて
本講義で使用する Max は有償のソフトウェアです。602教室では自由に使用できますが、自分のコンピューターで使用するには購入する必要があります。購入以外にも月単位の購読も可能です。Max の購入は必須ではありません。
また、講義に於いては Max を主に使用しますが、オリジナルの Max の開発者である Miller Puckette 氏による PureData というソフトウェア(無償で利用可能)は Max ととてもよく似ており、代替環境として利用可能です。

作品制作について
テーマは自由。(講義の方向性に則していることが望ましい)
自分がどのようなことをやりたいのか、よく考えておいてください。
詳細についてはガイダンスにて伝えますが、特にアイデアを重視します。
作品制作は時間の掛かる作業です。充分に余裕を持って進めてください。
作品未提出の場合は、評価を0点とします。
提出期限は学期末(前期 7/31、後期 1/31)です。

関連URL:
Cycling74 Max
開発販売元: https://cycling74.com/
製品購入ページ: https://auth.cycling74.com/purchase#educational
マニュアル: https://docs.cycling74.com/max7
ユーザーフォーラム: https://cycling74.com/forums/
参考: https://cycling74.com/tutorials/

PureData
一次配布元: http://msp.ucsd.edu/
二次配布元: http://puredata.info/downloads/

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010252|01|9S04010252[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	アルゴリズムとデータ構造α O1		
担 当 教 員	金光 永煥		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: インターネット上のWebサイトやスタンドアロンのソフトウェア等，ほぼ全てのソフトウェアでは，そのまま処理をすると膨大な時間がかかる部分がある．例えば，データベースやファイルから，特定の情報を検索したり，あるデータ集合を特定の基準で並び替える必要がある．このような場合，総当りでの処理では処理の負荷が膨大なものとなり，一定時間で結果を出すのは難しい．これは，入力として与えられるデータの量に対して処理の回数がどの程度あるか，ということを考慮していないためである．そこで，処理の効率化を目指す概念，すなわちアルゴリズムが必要となる．アルゴリズムでは，情報系だけでなく，皆さんの日常においても非常に重要な要素となる（例えば数多くの課題を期限内に全て終わらせる場合，どの課題から取り組むべきか，等）．
本授業では，これまで確立された各種アルゴリズムを紹介するとともに，その用途やアルゴリズム間の特徴を理解し，各自の今後の日常生活や研究活動に役立ててもらうことを目的とする．
本授業ではプログラミングの経験は問わないが，Java/Python/C/C++のいずれかの経験があると非常に理解が進むものと考えられる．

授業の到達目標: 検索やソートに関する各種アルゴリズムやその計算量を理解し，実際に用途に応じて使いこなせるようになること

事前・事後学習の内容: 各回で，前回の内容を前提とするため，アルゴリズムの中身に関して30分程度の復習を必要とする．また，授業の円滑な理解のために，30分程度の予習が望ましい．

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 アルゴリズムの基礎
アルゴリズムとは何かや，その目的・計算量について学習します．

第2回 データ構造と検索アルゴリズム
データ構造の種類と，検索アルゴリズムについて学習します．

第3回 ソートアルゴリズム（バブルソート，選択ソート）
基本的なソートアルゴリズムであるバブルソート，選択ソートについて学習します．

第4回 ソートアルゴリズム（挿入ソート，シェルソート）
高速なソートアルゴリズムについて学習します．

第5回 ソートアルゴリズム（シェルソート，クイックソート，マージソート，ヒープソート）
さらなる高速なソートアルゴリズムについて学習します．

第6回 グラフアルゴリズム
最短経路問題について学習します．

第7回 これまでのまとめ
これまでの内容のまとめをします．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定しない

参考文献: 石畑 清，アルゴリズムとデータ構造（岩波講座 ソフトウェア科学 3）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50 アルゴリズムに関する試験を行います．

レポート: 30 毎回の授業の最後に課題を提示します．

平常点評価: 20 授業に対する積極性（質問，議論）を評価します．

備考・関連URL:　グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010252|02|9S04010252[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	アルゴリズムとデータ構造α 02		
担 当 教 員	金光 永煥		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: インターネット上のWebサイトやスタンドアロンのソフトウェア等，ほぼ全てのソフトウェアでは，そのまま処理をすると膨大な時間がかかる部分がある．例えば，データベースやファイルから，特定の情報を検索したり，あるデータ集合を特定の基準で並び替える必要がある．このような場合，総当りでの処理では処理の負荷が膨大なものとなり，一定時間で結果を出すのは難しい．これは，入力として与えられるデータの量に対して処理の回数がどの程度あるか，ということを考慮していないためである．そこで，処理の効率化を目指す概念，すなわちアルゴリズムが必要となる．アルゴリズムでは，情報系だけでなく，皆さんの日常においても非常に重要な要素となる（例えば数多くの課題を期限内に全て終わらせる場合，どの課題から取り組むべきか，等）．
本授業では，これまで確立された各種アルゴリズムを紹介するとともに，その用途やアルゴリズム間の特徴を理解し，各自の今後の日常生活や研究活動に役立ててもらうことを目的とする．
本授業ではプログラミングの経験は問わないが，Java/Python/C/C++のいずれかの経験があると非常に理解が進むものと考えられる．

授業の到達目標: 検索やソートに関する各種アルゴリズムやその計算量を理解し，実際に用途に応じて使いこなせるようになること

事前・事後学習の内容: 各回で，前回の内容を前提とするため，アルゴリズムの中身に関して30分程度の復習を必要とする．また，授業の円滑な理解のために，30分程度の予習が望ましい．

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 アルゴリズムの基礎
アルゴリズムとは何かや，その目的・計算量について学習します．

第2回 データ構造と検索アルゴリズム
データ構造の種類と，検索アルゴリズムについて学習します．

第3回 ソートアルゴリズム（バブルソート，選択ソート）
基本的なソートアルゴリズムであるバブルソート，選択ソートについて学習します．

第4回 ソートアルゴリズム（挿入ソート，シェルソート）
高速なソートアルゴリズムについて学習します．

第5回 ソートアルゴリズム（シェルソート，クイックソート，マージソート，ヒープソート）
さらなる高速なソートアルゴリズムについて学習します．

第6回 グラフアルゴリズム
最短経路問題について学習します．

第7回 これまでのまとめ
これまでの内容のまとめをします．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定しない

参考文献: 石畑 清，アルゴリズムとデータ構造（岩波講座 ソフトウェア科学 3）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	50	アルゴリズムに関する試験を行います．
レポート:	30	毎回の授業の最後に課題を提示します．
平常点評価:	20	授業に対する積極性（質問，議論）を評価します．

備考・関連URL:　グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010253|01|9S04010253[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	アルゴリズムとデータ構造β 01		
担 当 教 員	金光 永煥		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: インターネット上のWebサイトやスタンドアロンのソフトウェア等，ほぼ全てのソフトウェアでは，そのまま処理をすると膨大な時間がかかる部分がある．例えば，データベースやファイルから，特定の情報を検索したり，あるデータ集合を特定の基準で並び替える必要がある．このような場合，総当りでの処理では処理の負荷が膨大なものとなり，一定時間で結果を出すのは難しい．これは，入力として与えられるデータの量に対して処理の回数がどの程度あるか，ということを考慮していないためである．そこで，処理の効率化を目指す概念，すなわちアルゴリズムが必要となる．アルゴリズムでは，情報系だけでなく，皆さんの日常においても非常に重要な要素となる（例えば数多くの課題を期限内に全て終わらせる場合，どの課題から取り組むべきか，等）．
本授業では，これまで確立された各種アルゴリズムを紹介するとともに，その用途やアルゴリズム間の特徴を理解し，各自の今後の日常生活や研究活動に役立ててもらうことを目的とする．
本授業では「データ構造とアルゴリズムα」の内容を前提としており，履修済みであることが望ましい（が，必須ではない）．また，プログラミングの経験は問わないが，Java/Python/C/C++のいずれかの経験があると非常に理解が進むものと考えられる．

授業の到達目標: 応用的な各種アルゴリズムやその計算量を理解し，実際に用途に応じて使いこなせるようになること

事前・事後学習の内容: 各回で，前回の内容を前提とするため，アルゴリズムの中身に関して30分程度の復習を必要とする．また，授業の円滑な理解のために，30分程度の予習が望ましい．

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 グラフ理論
グラフの種類や構成要素について学びます．

第2回 最短経路問題
ダイクストラ法，ベルマンフォード法について学習します．

第3回 ネットワークフロー
費用問題，最大フロー最小カット定理について学習します．

第4回 スケジューリングの基礎
スケジューリング手法について学びます．特に，コンピュータネットワークにおける計算の効率化のためのスケジューリングを説明します．

第5回 スケジューリングアルゴリズム
ガントチャートを用いて，タスク（仕事）をどの計算機へ割り当てるかについて学習します．

第6回 ナップザック問題，箱詰め問題
有名な問題であるナップザック問題と箱詰め問題について，近似アルゴリズムで解を求める方法について学習します．

第7回 まとめ
これまで学修したことのまとめを行います．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定しない

参考文献: 石畑 清，アルゴリズムとデータ構造（岩波講座 ソフトウェア科学 3）

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50 アルゴリズムに関する試験を行います．

レポート: 30 毎回の授業の最後に課題を提示します．

平常点評価: 20 授業に対する積極性（質問，議論）を評価します．

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010253|02|9S04010253[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	アルゴリズムとデータ構造β 02		
担 当 教 員	金光 永煥		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: インターネット上のWebサイトやスタンドアロンのソフトウェア等，ほぼ全てのソフトウェアでは，そのまま処理をすると膨大な時間がかかる部分がある．例えば，データベースやファイルから，特定の情報を検索したり，あるデータ集合を特定の基準で並び替える必要がある．このような場合，総当りでの処理では処理の負荷が膨大なものとなり，一定時間で結果を出すのは難しい．これは，入力として与えられるデータの量に対して処理の回数がどの程度あるか，ということを考慮していないためである．そこで，処理の効率化を目指す概念，すなわちアルゴリズムが必要となる．アルゴリズムでは，情報系だけでなく，皆さんの日常においても非常に重要な要素となる（例えば数多くの課題を期限内に全て終わらせる場合，どの課題から取り組むべきか，等）．
本授業では，これまで確立された各種アルゴリズムを紹介するとともに，その用途やアルゴリズム間の特徴を理解し，各自の今後の日常生活や研究活動に役立ててもらうことを目的とする．
本授業では「データ構造とアルゴリズムα」の内容を前提としており，履修済みであることが望ましい（が，必須ではない）．また，プログラミングの経験は問わないが，Java/Python/C/C++のいずれかの経験があると非常に理解が進むものと考えられる．

授業の到達目標: 応用的な各種アルゴリズムやその計算量を理解し，実際に用途に応じて使いこなせるようになること

事前・事後学習の内容: 各回で，前回の内容を前提とするため，アルゴリズムの中身に関して30分程度の復習を必要とする．また，授業の円滑な理解のために，30分程度の予習が望ましい．

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 グラフ理論
グラフの種類や構成要素について学びます．

第2回 最短経路問題
ダイクストラ法，ベルマンフォード法について学習します．

第3回 ネットワークフロー
費用問題，最大フロー最小カット定理について学習します．

第4回 スケジューリングの基礎
スケジューリング手法について学びます．特に，コンピュータネットワークにおける計算の効率化のためのスケジューリングを説明します．

第5回 スケジューリングアルゴリズム
ガントチャートを用いて，タスク（仕事）をどの計算機へ割り当てるかについて学習します．

第6回 ナップザック問題，箱詰め問題
有名な問題であるナップザック問題と箱詰め問題について，近似アルゴリズムで解を求める方法について学習します．

第7回 まとめ
これまで学修したことのまとめを行います．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定しない

参考文献: 石畑 清，アルゴリズムとデータ構造（岩波講座 ソフトウェア科学 3）

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50 アルゴリズムに関する試験を行います．

レポート: 30 毎回の授業の最後に課題を提示します．

平常点評価: 20 授業に対する積極性（質問，議論）を評価します．

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010254|01|9S04010254[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	マルチメディア中級（画像処理とアニメーション）α O1		
担 当 教 員	星 健太郎		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 画像処理・アニメーション・映像表現の実践的スキル － デジタルクリエイションの中級技法

授業概要: デジタル技術の進化は、私たちの世界を驚くほど変容させています。スマートフォンやタブレットの普及により、誰もが簡単に高度な技術を使いこなせる時代となり、AIやクラウドサービスは、コミュニケーションや問題解決の新しい常識となりました。

私たちの学び、働き方、そして楽しみ方までもが大きく変化し、現実と仮想の境界はますます密接になっています。このデジタル社会で求められるのは、最新の技術を駆使しながら、同時に人間らしい倫理観を持つクリエイティブな人材です。

人間は五感を通じて情報を受け取りますが、特に視覚と聴覚から得る情報の重要性が増しています。デジタル技術を活用してデータを収集し、加工し、発信する能力は、大学生活、研究、仕事、そして個人の表現活動において、もはや不可欠なスキルとなっています。

【講義のコンセプト】
この講義の目指すところは、「受け身」から「発信者」へ。デジタル技術を武器に、あなたの創造性を世界に伝える力を身につけます。
初級で学んだ基礎スキルを発展させ、画像処理、アニメーション、映像制作の実践的な技術と理論を総合的に学びます。

【アプローチ】
汎用性の高い既存ソフトウェア、低スペックPCでも動作する編集ツール、オープンソース・フリーウェアを活用します。最新の映像生成AIや先端技術についても、その原理、可能性、倫理的側面の理解に焦点を当てていきます。

【学べる具体的なスキル】
・レイヤー、マスク、合成技術の応用
・カラーマネジメントと色彩理論
・生成AI技術を活用した画像制作の理解
・2D/3DCGアニメーションの基礎
・キャラクターデザインと動きの表現
・モーショングラフィックスの基本
・アニメーション制作ワークフロー
・基本的な映像撮影技術
・映像編集の基礎と応用

【講義の進め方】
講義は座学と実習の2本立て。理論と実践を両立します。

αでは:
初級で学んだ基礎を発展させ、デジタル画像編集ソフトウェアを用いて、より高度な技術を学びます。レイヤー概念の深い理解、タイポグラフィの応用、DTPの実践的スキル、高度なレタッチ技術、複雑なマスク処理、ライティング技法、撮影・編集のスキルなどを習得します。

βでは:
静止画の連続体であるアニメーション（2D/3DCGアニメーション含む）の領域に本格的に踏み込みます。動画編集の高度な技術、モーショングラフィックスの実践的スキルを学びます。

単なる技術習得だけでなく、制作における倫理的側面、ストーリーテリング、キャラクターデザイン、動きの表現などを総合的に学習します。限られたリソースの中で、いかに創造性豊かな表現を生み出すかに焦点を当てます。

【大切にする学び】
技術の追求と同時に、デジタル表現における倫理観と創造性を重視します。

著作権法、個人情報保護法、AI倫理など、デジタル表現に不可欠な法的・社会的側面も学びます。単なる技術者ではなく、社会を理解し、創造性豊かに表現できるクリエイターを目指します。

【学習スタイル】
特別な予習は不要です。むしろ、授業で学んだ技術を日常的に活用することが上達の秘訣です。
YouTubeやInstagram、TikTokなどのSNSを活用するなど、学んだスキルを実践してみましょう。知識や技術を使うこと自体が、最高の予習・復習になります。令和の時代におけるデジタル表現の可能性を探求し、創造的で倫理的なコンテンツ制作者を目指します。

授業の到達目標:

・デジタルコンテンツの本質的な理解と制作能力の向上
デジタルメディアを批判的に読み解く力を養い、自らがコンテンツ制作に関わるための応用的思考とワークフローを習得します。単なる技術の模倣ではなく、創造的かつ論理的なアプローチを身につけます。

・デジタル表現技術の実践的応用力の獲得
デジタル表現、CG、画像合成、AI技術、アニメーションなどの技術的側面を深く理解します。同時に、これらの技術を活用して、自分の意図や感情を効果的に伝える姿勢と能力を培います。

・マルチメディアの実践的・批判的理解
画像編集の技術的な難しさと可能性を体験的に学び、「マルチメディア」に対する自分なりの独自の視点を確立します。技術の限界と可能性を理解し、創造的な問題解決能力を養います。

・総合的なマルチメディアリテラシーの修得
デジタル技術に関する幅広い知識を獲得すると同時に、著作権や倫理的側面を含む、包括的なメディアリテラシーを身につけます。技術の社会的影響を理解し、責任ある創作者としての意識を高めます。

事前・事後学習の内容:

α・β 連続での受講を推奨しております。初級も併せて参考ください。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
講義ガイダンス：講義の進め方について／マルチメディア社会とデジタルコンテンツ概論
Guidance: Course overview, Introduction to Multimedia Society and Digital Content

第2回
デジタルデータ理解（画像処理に関するソフト・ハードウェア）／メディアファイル編集基礎演習（画像処理基礎）
Understanding Digital Data (Software and Hardware for Image Processing)／Basic Media File Editing Exercise (Fundamentals of Image Processing)

第3回
デジタルデータソース理解（プロジェクト進行からACA知識まで）／メディアファイル編集基礎演習（様々な編集，補正手法）
Understanding Digital Data Sources (From Project Progress to ACA Knowledge)／Basic Media File Editing Exercise (Various Editing and Correction Techniques)

第4回
コンテンツ産業に関わるマーケットや流通，政策／画像作成演習
Content Industry Markets, Distribution, and Policies, Image Creation Exercise

第5回
著作者人格権と著作権，レイヤー理解・応用、生成AI／画像作成演習（イラスト）
Moral Rights of Authors and Copyright, Understanding and Application of Layers, AI-Generated／Image Creation Exercise (Illustrations)

第6回
グループディスカッション／画像編集演習
Group Discussion／Image Editing Exercise

第7回
課題スクリーニング／デジタルコンテンツ概論まとめPresentations and Screening

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定はしません，教材はWEB上に用意し，各自必要時にダウンロードし活用してください．

参考文献: 特に指定はしません

成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	0	試験は行いません。
レポート:	0	レポートは行いません。
平常点評価:	50	授業への積極性により総合的に評価を行います.
その他:	50	講義内演習，演習発表により総合的に評価を行います.
備考・関連URL:	グループワークを想定しており、不必要な欠席をしてしまうと他学生に迷惑を掛けてしまうこととなりますので留意下さい。なお、一人グループも想定しております。	

【準備するもの】
〇画像撮影、編集等に必要な機材
・タブレットやノートパソコン（推奨）
・スマートフォンやデジタルカメラ
・マウスやタッチペン

〇データ保存用ストレージ
・オンラインストレージ
・USBメモリなど

【参考情報】

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010255|01|9S04010255[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	マルチメディア中級（画像処理とアニメーション）β O1		
担 当 教 員	星 健太郎		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 画像処理・アニメーション・映像表現の実践的スキル － デジタルクリエイションの中級技法

授業概要: デジタル技術の進化は、私たちの世界を驚くほど変容させています。スマートフォンやタブレットの普及により、誰もが簡単に高度な技術を使いこなせる時代となり、AIやクラウドサービスは、コミュニケーションや問題解決の新しい常識となりました。

私たちの学び、働き方、そして楽しみ方までもが大きく変化し、現実と仮想の境界はますます密接になっています。このデジタル社会で求められるのは、最新の技術を駆使しながら、同時に人間らしい倫理観を持つクリエイティブな人材です。

人間は五感を通じて情報を受け取りますが、特に視覚と聴覚から得る情報の重要性が増しています。デジタル技術を活用してデータを収集し、加工し、発信する能力は、大学生活、研究、仕事、そして個人の表現活動において、もはや不可欠なスキルとなっています。

【講義のコンセプト】
この講義の目指すところは、「受け身」から「発信者」へ。デジタル技術を武器に、あなたの創造性を世界に伝える力を身につけます。
初級で学んだ基礎スキルを発展させ、画像処理、アニメーション、映像制作の実践的な技術と理論を総合的に学びます。

【アプローチ】
汎用性の高い既存ソフトウェア、低スペックPCでも動作する編集ツール、オープンソース・フリーウェアを活用します。最新の映像生成AIや先端技術についても、その原理、可能性、倫理的側面の理解に焦点を当てていきます。

【学べる具体的なスキル】
・レイヤー、マスク、合成技術の応用
・カラーマネジメントと色彩理論
・生成AI技術を活用した画像制作の理解
・2D/3DCGアニメーションの基礎
・キャラクターデザインと動きの表現
・モーショングラフィックスの基本
・アニメーション制作ワークフロー
・基本的な映像撮影技術
・映像編集の基礎と応用

【講義の進め方】
講義は座学と実習の2本立て。理論と実践を両立します。

αでは:
初級で学んだ基礎を発展させ、デジタル画像編集ソフトウェアを用いて、より高度な技術を学びます。レイヤー概念の深い理解、タイポグラフィの応用、DTPの実践的スキル、高度なレタッチ技術、複雑なマスク処理、ライティング技法、撮影・編集のスキルなどを習得します。

βでは:
静止画の連続体であるアニメーション（2D/3DCGアニメーション含む）の領域に本格的に踏み込みます。動画編集の高度な技術、モーショングラフィックスの実践的スキルを学びます。

単なる技術習得だけでなく、制作における倫理的側面、ストーリーテリング、キャラクターデザイン、動きの表現などを総合的に学習します。限られたリソースの中で、いかに創造性豊かな表現を生み出すかに焦点を当てます。

【大切にする学び】
技術の追求と同時に、デジタル表現における倫理観と創造性を重視します。

著作権法、個人情報保護法、AI倫理など、デジタル表現に不可欠な法的・社会的側面も学びます。単なる技術者ではなく、社会を理解し、創造性豊かに表現できるクリエイターを目指します。

【学習スタイル】
特別な予習は不要です。むしろ、授業で学んだ技術を日常的に活用することが上達の秘訣です。
YouTubeやInstagram、TikTokなどのSNSを活用するなど、学んだスキルを実践してみましょう。知識や技術を使うこと自体が、最高の予習・復習になります。令和の時代におけるデジタル表現の可能性を探求し、創造的で倫理的なコンテンツ制作者を目指します。

授業の到達目標:

・デジタルコンテンツの本質的な理解と制作能力の向上
デジタルメディアを批判的に読み解く力を養い、自らがコンテンツ制作に関わるための応用的思考とワークフローを習得します。単なる技術の模倣ではなく、創造的かつ論理的なアプローチを身につけます。

・デジタル表現技術の実践的応用力の獲得
デジタル表現、CG、画像合成、AI技術、アニメーションなどの技術的側面を深く理解します。同時に、これらの技術を活用して、自分の意図や感情を効果的に伝える姿勢と能力を培います。

・マルチメディアの実践的・批判的理解
画像編集の技術的な難しさと可能性を体験的に学び、「マルチメディア」に対する自分なりの独自の視点を確立します。技術の限界と可能性を理解し、創造的な問題解決能力を養います。

・総合的なマルチメディアリテラシーの修得
デジタル技術に関する幅広い知識を獲得すると同時に、著作権や倫理的側面を含む、包括的なメディアリテラシーを身につけます。技術の社会的影響を理解し、責任ある創作者としての意識を高めます。

事前・事後学習の内容:

α・β 連続での受講を推奨しております。初級も併せて参考ください。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
講義ガイダンス：講義の進め方について／3DCGアニメーション概要

Guidance: Course overview, Introduction to 3DCG Animation

第2回
デジタルデータ理解（アニメーション処理に関するソフト・ハードウェア）／3DCGアニメーション作成演習
Understanding Digital Data (Software and Hardware for Animation Processing)／3DCG Animation Creation Exercise

第3回
コンテンツ制作におけるシナリオ，絵コンテ，スケジューリング考察／アニメーション編集演習及びグルーピングと課題企画
Consideration of Scenarios, Storyboards, and Scheduling in Content Production／Animation Editing Exercise, Grouping and Project Planning

第4回
音と声、台本及びキャスト

4thSound and Voice, Script and Cast

第5回
著作者人格権と著作権，レイヤー理解・応用、生成AI／アニメーション編集グループ演習
Moral Rights of Authors and Copyright, Understanding and Application of Layers, AI-Generated／Animation Editing Group Exercise

第6回
グループディスカッション／課題スクリーニング

Group Discussion／Project Screening

第7回
課題スクリーニングフィードバック／画像デジタルコンテンツ総論
Project Screening Feedback／Overview of Digital Image Content

言語区分:

0　日本語　Japanese

教科書:	特に指定はしません，教材はWEB上に用意し，各自必要時にダウンロードし活用してください.
参考文献:	特に指定はしません
成績評価フリー入力サイン:	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	試験は行いません。
レポート:	0	レポートは行いません。
平常点評価:	50	授業への積極性により総合的に評価を行います.
その他:	50	講義内演習，演習発表により総合的に評価を行います.

備考・関連URL: グループワークを想定しており、不必要な欠席をしてしまうと他学生に迷惑を掛けてしまうこととなりますので留意下さい。なお、一人グループも想定しております。

【準備するもの】
〇画像撮影、編集等に必要な機材
・タブレットやノートパソコン（推奨）
・スマートフォンやデジタルカメラ
・マウスやタッチペン

〇データ保存用ストレージ
・オンラインストレージ
・USBメモリなど

【参考情報】

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010259|01|9S04010259[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（Python） 01		
担 当 教 員	高橋 優		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: Pythonを活用したデータ処理

授業概要: Python言語プログラミングの基礎知識を応用して，データ構造やオブジェクトの利用など，より高度なプログラムの作成について学びます．その上で，アルゴリズムの設計についても学びます．また，外部ライブラリを導入してのデータ分析にも取り組みます．

授業の到達目標: ・データ形式・データ構造，オブジェクト指向について理解し，利用することができる．
・プログラムの目的に応じて適切なアルゴリズムを選択し適用することができる．
・外部ライブラリの使い方を理解し，データ分析に関する知識を習得する．
・複数人でのプログラムの開発に取り組み，協力してプログラム開発を行う経験をする．

事前・事後学習の内容: 授業に先立ち，講義資料をWaseda Moodleにて確認してください．事前学習資料が用意されているので，資料を読んでおいてください．学習用のノートブックを用意していますので，授業前に入力・実行して内容を把握しておきましょう．授業では，事前学習が行われていることを前提に，当日配布される演習資料に取り組みます．また，授業後に課題に取り組み，提出してください．各回の予習・復習時間は90～120分程度を想定しています．

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション，Pythonの文法を復習する(1)
変数と制御構造の利用について復習します．授業内で演習課題に取り組む形で復習を進めます．

第2回 Pythonの文法を復習する(2)
リスト，辞書，タプルについて復習します．

第3回 Pythonの文法を復習する(3)
関数の利用について復習します．事前学習における演習と授業内での演習課題により関数の活用を身につけます．

第4回 Pythonの文法を復習する(4)
文字列操作について学びます．

第5回 データの入出力
外部とのデータのやり取りについて学びます．

第6回 アルゴリズムの選択
課題に応じたアルゴリズムの適用について学びます．

第7回 オブジェクト指向
カプセル化と抽象化，ポリモーフィズム，継承について学びます．

第8回 外部ライブラリの利用(1)
外部ライブラリを用いた画像処理について学びます．

第9回 外部ライブラリの利用(2)
外部ライブラリを用いたデータ処理について学びます．

第10回 外部ライブラリの利用(3)
外部ライブラリの利用を用いた機械学習について演習します．

第11回 課題演習(1)
総合課題の提示とグループ分けを行い，演習テーマを検討します．

第12回 課題演習(2)
総合課題についてグループ単位で演習します．

第13回 課題成果発表(1)
制作した課題の発表．

第１４回 課題成果発表(2)
制作した課題の発表.

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 『Pythonライブラリの教科書』(立山英利著, 日経ソフトウェア編, 日経BP, ISBN9784296201600, WINE検索結果: https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/permalink/81SOKEI_WUNI/7jeksk/alma991027197567904032)を使用します.

参考文献: 『Pythonプログラミング&データサイエンスライブラリ活用入門』(河西朝雄著, 技術評論社, ISBN9784297150167, WINE検索結果: https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/permalink/81SOKEI_WUNI/7jeksk/alma991027579111404032). その他, 必要に応じて授業内で紹介します.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート: 70 授業内およびMoodle上で提示される課題により評価します.

平常点評価: 30 最終課題の発表内容により評価します.

備考・関連URL: 授業ではプログラミングの環境として「Google Colaboratory」を使用します. 利用にはGoogleのアカウントが必要になります.

過去の課題をもとに授業を進めることが多いので, 課題をこなしていくことが授業についていく上で重要です. やむを得ぬ事情により欠席する場合は, 次回の授業までにWaseda Moodle を参照し, 授業内容と課題を確認するとともに, 次回資料も確認しておいてください. 授業では反転授業にて進めます.

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010259|02|9S04010259[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（Python） 02		
担 当 教 員	石田 崇		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

Pythonプログラミングの基礎知識を応用して，データ構造やアルゴリズムの設計など，より複雑なプログラムの作成や，関連知識について深く学びます。その上で，オブジェクト指向の主要な項目（カプセル化，抽象化，ポリモーフィズム，継承）について，例題を通して実践的に学びます。また，外部ライブラリを導入してデータ分析，機械学習などやや規模の大きいプログラムの作成に取り組みます。本授業はプログラミング初級（Python)を受講済みかまたは同等レベルの内容を学習済みの学生を対象としています。授業方法は原則として対面で実施します。
本授業では，Pythonの初級の学習を一通り終えていることを前提として，以下のような人を対象に初中級～中級レベルの学習を進めていきます。
・初級の学習は終えているが，知識の定着がまだ不十分だと感じている人
・いきなりハイレベルな内容に進むのではなく，Pythonの応用へ向けて基礎的な内容のより深い理解と定着を図りながら先へ進めたい人

本授業は，コンピュータサイエンスにおけるプログラミングに関連しています．コンピュータサイエンスは，情報や計算など情報処理に関する基礎理論や，それらをコンピュータ上に実装，応用するための技術に関する研究分野であり，今日の情報社会を支える情報技術の基盤となっています．
コンピュータサイエンスにおけるプログラミング言語はコンピュータに指示を与えるための言語の設計や活用，また，それを用いたソフトウェアの開発を扱う分野です．
この授業は，代表的なプログラミング言語であるPythonを対象として，Pythonの基礎を学修済みの学生が，基礎的なプログラミングスキルとアルゴリズムの理解をより深めて定着させるとともに，継続して中級レベルのプログラミング技術を学修することによって，より高度なソフトウェア開発へ進むのための橋渡しとなる科目と位置づけられます．

授業の到達目標：

・データ形式，データ構造を理解し，アルゴリズムの設計方法を習得する。
・オブジェクト指向を理解し，プログラムに実装することができるようになる。
・外部ライブラリの使い方を理解し，簡単な画像処理プログラム，データ分析や機械学習などに関する知識を習得する。
・やや規模の大きいプログラムの作成に取り組む。

事前・事後学習の内容：

講義資料を事前にWaseda Moodle上で配布します。
30分程度の事前学習として講義資料に目を通して予習をしておくことが求められます。
また，毎回の授業において理解度確認用の演習課題が多めに出題されます。授業終了後も60分程度の事後学修として課題を完了させることが求められます。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーション（本講義の目的と概要）／Python基本事項のおさらい(1)
本講義の目的と概要を確認します．
スクリプトの作成と実行方法を理解し，簡単なサンプルスクリプトを実行して動作環境を確認します．
変数・基本演算・型について基本事項を確認します．

第2回 Python基本事項のおさらい(2)
Pythonの基本的なデータ構造についておさらいします．

第3回 Python基本事項のおさらい(3)
制御構造についておさらいします．

第4回 関数とスコープ
関数の活用と変数のスコープについて学習します．

第5回 オブジェクト指向プログラミングの基礎
オブジェクト指向の基礎概念として，クラスとインスタンス，フィールド，メソッドなどの概念について実習を通して学習します．

第6回 ファイル処理／例外処理
ファイル入出力処理と例外処理について実習を通して学習します．

第7回　オブジェクト指向プログラミングの応用
カプセル化，・抽象化，ポリモーフィズム，継承などの概念について実習を通して学習します．
第8回　総合演習
これまでの内容の復習として総合的な演習課題を実施します．
第9回　モジュールとパッケージ
モジュールとパッケージの取り扱いについて実習を通して学習します．
第10回　外部ライブラリの活用(1)
scikit-learnパッケージによる機械学習の実習を行います．
第11回　アルゴリズム設計
色々なアルゴリズムのプログラムについて学習します．
第12回　外部ライブラリの活用(2)
OpenCVパッケージによる画像処理の実習を行います．
第13回　やや大規模なプログラム作成実習
ここまでに学習した内容を利用して，やや大規模なプログラムを作成する実習を行います．
第14回　理解度確認課題
理解度を確認するための最終課題を実施します．

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　Waseda Moodle上でPDFファイルを適宜配布します．

参考文献：　授業内で適宜紹介します．

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　40　各回に実施する演習課題への取り組み状況による評価

その他：　60　第14回に実施する最終の理解度確認課題による評価

備考・関連URL：
・本講義の履修を希望する場合は必ず第1回目から出席するようにしてください．
・本講義は毎週2コマ連続して行います．授業には1コマ目の冒頭から参加してください．
・講義は原則として全回出席することを前提として進めます（一度欠席すると次回以降の内容理解が困難になります）
・受講生の理解度や課題の進捗状況に応じてスケジュールや扱う内容が変更になる場合があります．
・Waseda Moodle上で実施する小テスト課題は採点結果として個別にフィードバックします．
・その他提出された演習課題や小テスト，コメントシートから全体的な理解状況を確認し，理解が不足していると考えられる部分については後日重点的に解説を行いフィードバックします．

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010259|03|9S04010259[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（Python） 03		
担 当 教 員	鈴木 敬彦		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火2-3	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ゼロから始める強化学習

授業概要: 本講義では、オブジェクト指向によるプログラミングの基本を学ぶと共に、プログラミングの目的を強化学習としてその基本についても学んでゆきます。但し、講義の主軸はあくまでもプログラミングであり、実装のために必要な強化学習等については説明しますが、機械学習やニューラルネットワーク全般を扱うものではありません。また、本講義では PyTorch や TensorFlow 等のフレームワーク、外部ライブラリーは使用しません。

授業の到達目標: ・オブジェクト指向の基本を理解する。
・クラス設計の基本を習得する。
・ニューラルネットワークや機械学習への理解を深める。
・数式の読み方に慣れる。

事前・事後学習の内容: 「プログラミング初級（Python）」程度の内容（備考参照）を理解していること。
毎回講義後に演習課題を出題します。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

オリエンテーション（本講義の目的と概要）、オブジェクト指向プログラミング I
本講義の目的と概要を確認します。また、講義で前提とするPython実行環境についても触れます。
フィールド、メソッド、継承等のクラスの定義について復習します。

強化学習 I
強化学習の概要、強化学習の「環境」について説明すると共に、実装を進めます。

オブジェクト指向プログラミング II
クラスの継承、抽象基底クラスについて説明します。

強化学習 II
強化学習を用いない「エージェント」を実装し、その性能を確認します。

強化学習 III
Q学習について説明します。

強化学習 IV
Q学習エージェントを実装し、その性能を確認します。

強化学習 V
Q学習の限界について考えます。

強化学習 VI
Q学習の限界について説明します。また、解決策についても考えます。

ニューラルネットワーク I
MLP（多層パーセプトロン）の順伝播について説明すると共に、実装を進めます。

ニューラルネットワーク II
行列の演算について説明します。

ニューラルネットワーク III
MLPの逆伝播について説明すると共に、実装を進めます。

ニューラルネットワーク IV
微分について説明します。

ニューラルネットワーク V
DQN（ニューラルネットワークを用いたQ学習、深層Qネットワーク）について説明すると共に、実装を進めます。

ニューラルネットワーク VI
DQNについて説明すると共に、実装を進めます。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に無し。必要な場合は、講義時間内にプリント、ファイルを配布、あるいはURLを提示する。

参考文献: Python 3 ドキュメント (python.org)Q-learning (Wikipedia)Playing Atari with Deep Reinforcement Learning (DeepMind Technologies)Human Level Control Through Deep Reinforcement Learning (DeepMind Technologies)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 50 出席と演習課題

その他: 50 最終課題による評価

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

・本講義の履修を希望する場合は第1回目から出席するようにしてください。
・講義は原則として全回出席することを前提として進めます(欠席すると次回以降の講義の理解が難しくなってしまう場合があります)。
・受講生の理解度や進捗状況に応じてスケジュールや扱う内容が変更になる場合があります。
・本講義では数式も扱うため、数式の理解もしくは理解しようとする心掛けは必須となります。
・講義で用いる環境は、CPython 3 (※1)、システム付属の CLI (※2)、任意のコーディング用テキストエディター、を前提とします。

※1 CPython 3: python.org にて配布されている python。バージョン 3 以上。
※2 CLI: Command-Line Interface。Windows の場合は cmd.exe 等、MacOS の場合は ターミナル.app です。

「プログラミング初級(Python)」程度の内容:
・基本的な CLI の使い方、パスについての理解
・python スクリプトの書き方と実行
・変数、変数や関数等の命名規則
・コンピューター上での数値の内部表現
・基本データ型(int, float, complex, str, bool, list, tuple, range, dict, set)
・算術演算子、代入演算子、比較演算子、論理演算子、ビット演算子、演算子の優先順位
・基本的なリスト等シーケンスの操作、内包表記
・基本的なモジュールの読み込み方
・分岐処理(if)、反復処理(for, while, 再帰処理)
・関数、ラムダ式
・コマンドライン引数、標準入出力、ファイル入出力
・例外処理
・文字列の整形
・オブジェクト指向とクラスの概要

上記項目については、moodle にテキストを準備してあります。
未習の項目がある場合は、講義開始までに学習しておいてください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010259|04|9S04010259[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（Python） 04		
担 当 教 員	小林 明大		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木2-3	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： Python Webアプリケーション開発

授業概要： Pythonプログラミング経験者のためのPython Webアプリケーション開発講座です。Webアプリの基本的な概念から開発演習をとおして、Webアプリの開発の仕方を学ぶことができます。
【本講義の特徴】

・ Pythonをつかってwebアプリケーションを開発します。

・ 現場エンジニアによる実践的なPythonプログラミング

【本講義の講師】

小林明大 Google Cloud Authorized Trainer

Pythonエンジニアとして多数の開発経験を生かし、Webアプリを多く開発・公開。Google Cloud 関連のWeb記事、書籍多数。現在は、Google Cloud 認定トレーナーとして、企業エンジニア向けにGoogle Cloudトレーニングを実施。

授業の到達目標： Pythonを使ってWebアプリケーション開発ができる

事前・事後学習の内容： 事前知識として「 プログラミング初級（Python）」程度の理解が必要です。基本的なPython構文を理解し、開発ツール「PyCharm（推奨）」or「VSCode」の使い方を覚えましょう。

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 Python の可能性
Pythonの活用領域。AI・データ解析例紹介。
第2回 Python ウェブアプリケーション開発概要
アプリケーションの説明。開発環境の準備、パッケージ管理。
アルゴリズム設計

第3回 Webアプリケーション概要
今どきのWebアプリケーション。Web APIとは。HTTPメソッドとステータスコード
第4回 JSONとHTTPリクエスト
JSONの理解と外部サービスの接続
第5回 はじめてのPythonウェブアプリケーション開発
Flaskフレームワークの理解と使い方
第6回 View関数とテンプレートの利用
テンプレートエンジンの理解。Jinja2の基本
第7回 ロギング
logging モジュールを使ったログ出力。ログの設定と出力フォーマット
第8回 モデルとコントローラ
モデルの定義とコントローラの作成
オブジェクト指向（カプセル化、抽象化、ポリモーフィズム、継承）
データ構造
第9回 HTTP リクエストの処理 1
フォーム処理とWeb API、GETメソッド POSTメソッド

第10回 HTTP リクエストの処理 2
フォーム処理とWeb API、GETメソッド POSTメソッド
第11回 データベース 1
DBの基本とSQLite。sqlite3によるDB操作。取得、追加、更新、削除
第12回 データベース 2
DBの基本とSQLite。sqlite3によるDB操作。取得、追加、更新、削除
第13回 データベース 3
DBの基本とSQLite。sqlite3によるDB操作。取得、追加、更新、削除
第14回 Webアプリケーション開発実習 1
自由課題

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 授業時に、講義内容の資料を配布します。

参考文献: Google Cloud Platform GAEソフトウェア開発入門(https://www.amazon.co.jp/dp/4297112159)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30 定期試験は実施しないが、授業中に数回小テストを行う

レポート: 50 作成アプリケーションの完成度

平常点評価: 20 授業における態度・理解度・貢献度（困っている生徒がいたら積極的にサポートしましょう）

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

PCの持参を必須とする

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010259|05|9S04010259[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（Python） 05		
担 当 教 員	鈴木 敬彦		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火2-3	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ゼロから始める強化学習

授業概要: 本講義では、オブジェクト指向によるプログラミングの基本を学ぶと共に、プログラミングの目的を強化学習としてその基本についても学んでゆきます。但し、講義の主軸はあくまでもプログラミングであり、実装のために必要な強化学習等については説明しますが、機械学習やニューラルネットワーク全般を扱うものではありません。また、本講義では PyTorch や TensorFlow 等のフレームワーク、外部ライブラリーは使用しません。

授業の到達目標: ・オブジェクト指向の基本を理解する。
・クラス設計の基本を習得する。
・ニューラルネットワークや機械学習への理解を深める。
・数式の読み方に慣れる。

事前・事後学習の内容: 「プログラミング初級（Python）」程度の内容（備考参照）を理解していること。
毎回講義後に演習課題を出題します。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

オリエンテーション（本講義の目的と概要）、オブジェクト指向プログラミング I
本講義の目的と概要を確認します。また、講義で前提とするPython実行環境についても触れます。フィールド、メソッド、継承等のクラスの定義について復習します。

強化学習 I
強化学習の概要、強化学習の「環境」について説明すると共に、実装を進めます。

オブジェクト指向プログラミング II
クラスの継承、抽象基底クラスについて説明します。

強化学習 II
強化学習を用いない「エージェント」を実装し、その性能を確認します。

強化学習 III
Q学習について説明します。

強化学習 IV
Q学習エージェントを実装し、その性能を確認します。

強化学習 V
Q学習の限界について考えます。

強化学習 VI
Q学習の限界について説明します。また、解決策についても考えます。

ニューラルネットワーク I
MLP（多層パーセプトロン）の順伝播について説明すると共に、実装を進めます。

ニューラルネットワーク II
行列の演算について説明します。

ニューラルネットワーク III
MLPの逆伝播について説明すると共に、実装を進めます。

ニューラルネットワーク IV
微分について説明します。

ニューラルネットワーク V
DQN（ニューラルネットワークを用いたQ学習、深層Qネットワーク）について説明すると共に、実装を進めます。

ニューラルネットワーク VI
DQNについて説明すると共に、実装を進めます。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に無し。必要な場合は、講義時間内にプリント、ファイルを配布、あるいはURLを提示する。

参考文献: Python 3 ドキュメント (python.org)Q-learning (Wikipedia)Playing Atari with Deep Reinforcement Learning (DeepMind Technologies)Human Level Control Through Deep Reinforcement Learning (DeepMind Technologies)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 50 出席と演習課題

その他: 50 最終課題による評価

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

・本講義の履修を希望する場合は第1回目から出席するようにしてください。
・講義は原則として全回出席することを前提として進めます(欠席すると次回以降の講義の理解が難しくなってしまう場合があります)。
・受講生の理解度や進捗状況に応じてスケジュールや扱う内容が変更になる場合があります。
・本講義では数式も扱うため、数式の理解もしくは理解しようとする心掛けは必須となります。
・講義で用いる環境は、CPython 3 (※1)、システム付属の CLI (※2)、任意のコーディング用テキストエディター、を前提とします。

※1 CPython 3: python.org にて配布されている python。バージョン 3 以上。
※2 CLI: Command-Line Interface。Windows の場合は cmd.exe 等、MacOS の場合は ターミナル.app です。

「プログラミング初級(Python)」程度の内容:
・基本的な CLI の使い方、パスについての理解
・python スクリプトの書き方と実行
・変数、変数や関数等の命名規則
・コンピューター上での数値の内部表現
・基本データ型(int, float, complex, str, bool, list, tuple, range, dict, set)
・算術演算子、代入演算子、比較演算子、論理演算子、ビット演算子、演算子の優先順位
・基本的なリスト等シーケンスの操作、内包表記
・基本的なモジュールの読み込み方
・分岐処理(if)、反復処理(for, while, 再帰処理)
・関数、ラムダ式
・コマンドライン引数、標準入出力、ファイル入出力
・例外処理
・文字列の整形
・オブジェクト指向とクラスの概要

上記項目については、moodle にテキストを準備してあります。
未習の項目がある場合は、講義開始までに学習しておいてください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010259|06|9S04010259[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（Python） 06		
担 当 教 員	高橋 優		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： Pythonを活用したデータ処理

授業概要： Python言語プログラミングの基礎知識を応用して，データ構造やオブジェクトの利用など，より高度なプログラムの作成について学びます．その上で，アルゴリズムの設計についても学びます．また，外部ライブラリを導入してのデータ分析にも取り組みます．

授業の到達目標： ・データ形式・データ構造，オブジェクト指向について理解し，利用することができる．
・プログラムの目的に応じて適切なアルゴリズムを選択し適用することができる．
・外部ライブラリの使い方を理解し，データ分析に関する知識を習得する．
・複数人でのプログラムの開発に取り組み，協力してプログラム開発を行う経験をする．

事前・事後学習の内容： 授業に先立ち，講義資料をWaseda Moodleにて確認してください．事前学習資料が用意されているので，資料を読んでおいてください．学習用のノートブックを用意していますので，授業前に入力・実行して内容を把握しておきましょう．授業では，事前学習が行われていることを前提に，当日配布される演習資料に取り組みます．また，授業後に課題に取り組み，提出してください．各回の予習・復習時間は90～120分程度を想定しています．

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーション，Pythonの文法を復習する(1)
変数と制御構造の利用について復習します．授業内で演習課題に取り組む形で復習を進めます．

第2回 Pythonの文法を復習する(2)
リスト，辞書，タプルについて復習します．

第3回 Pythonの文法を復習する(3)
関数の利用について復習します．事前学習における演習と授業内での演習課題により関数の活用を身につけます．

第4回 Pythonの文法を復習する(4)
文字列操作について学びます．

第5回 データの入出力
外部とのデータのやり取りについて学びます．

第6回 アルゴリズムの選択
課題に応じたアルゴリズムの適用について学びます．

第7回 オブジェクト指向
カプセル化と抽象化，ポリモーフィズム，継承について学びます．

第8回 外部ライブラリの利用(1)
外部ライブラリを用いた画像処理について学びます．

第9回 外部ライブラリの利用(2)
外部ライブラリを用いたデータ処理について学びます．

第10回 外部ライブラリの利用(3)
外部ライブラリの利用を用いた機械学習について演習します．

第11回 課題演習(1)
総合課題の提示とグループ分けを行い，演習テーマを検討します．

第12回 課題演習(2)
総合課題についてグループ単位で演習します．

第13回 課題成果発表(1)
制作した課題の発表．

第１４回 課題成果発表(2)
制作した課題の発表.

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 『Pythonライブラリの教科書』(立山英利著, 日経ソフトウェア編, 日経BP, ISBN9784296201600, WINE検索結果: https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/permalink/81SOKEI_WUNI/7jeksk/alma991027197567904032)を使用します.

参考文献: 『Pythonプログラミング&データサイエンスライブラリ活用入門』(河西朝雄著, 技術評論社, ISBN9784297150167, WINE検索結果: https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/permalink/81SOKEI_WUNI/7jeksk/alma991027579111404032). その他, 必要に応じて授業内で紹介します.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート: 70 授業内およびMoodle上で提示される課題により評価します.

平常点評価: 30 最終課題の発表内容により評価します.

備考・関連URL: 授業ではプログラミングの環境として「Google Colaboratory」を使用します. 利用にはGoogleのアカウントが必要になります.

過去の課題をもとに授業を進めることが多いので, 課題をこなしていくことが授業についていく上で重要です. やむを得ぬ事情により欠席する場合は, 次回の授業までにWaseda Moodle を参照し, 授業内容と課題を確認するとともに, 次回資料も確認しておいてください. 授業では反転授業にて進めます.

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010259|07|9S04010259[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（Python） 07		
担 当 教 員	高橋 優		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： Pythonを活用したデータ処理

授業概要： Python言語プログラミングの基礎知識を応用して，データ構造やオブジェクトの利用など，より高度なプログラムの作成について学びます．その上で，アルゴリズムの設計についても学びます．また，外部ライブラリを導入してのデータ分析にも取り組みます．

授業の到達目標： ・データ形式・データ構造，オブジェクト指向について理解し，利用することができる．
・プログラムの目的に応じて適切なアルゴリズムを選択し適用することができる．
・外部ライブラリの使い方を理解し，データ分析に関する知識を習得する．
・複数人でのプログラムの開発に取り組み，協力してプログラム開発を行う経験をする．

事前・事後学習の内容： 授業に先立ち，講義資料をWaseda Moodleにて確認してください．事前学習資料が用意されているので，資料を読んでおいてください．学習用のノートブックを用意していますので，授業前に入力・実行して内容を把握しておきましょう．授業では，事前学習が行われていることを前提に，当日配布される演習資料に取り組みます．また，授業後に課題に取り組み，提出してください．各回の予習・復習時間は90～120分程度を想定しています．

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーション，Pythonの文法を復習する(1)
変数と制御構造の利用について復習します．授業内で演習課題に取り組む形で復習を進めます．

第2回 Pythonの文法を復習する(2)
リスト，辞書，タプルについて復習します．

第3回 Pythonの文法を復習する(3)
関数の利用について復習します．事前学習における演習と授業内での演習課題により関数の活用を身につけます．

第4回 Pythonの文法を復習する(4)
文字列操作について学びます．

第5回 データの入出力
外部とのデータのやり取りについて学びます．

第6回 アルゴリズムの選択
課題に応じたアルゴリズムの適用について学びます．

第7回 オブジェクト指向
カプセル化と抽象化，ポリモーフィズム，継承について学びます．

第8回 外部ライブラリの利用(1)
外部ライブラリを用いた画像処理について学びます．

第9回 外部ライブラリの利用(2)
外部ライブラリを用いたデータ処理について学びます．

第10回 外部ライブラリの利用(3)
外部ライブラリの利用を用いた機械学習について演習します．

第11回 課題演習(1)
総合課題の提示とグループ分けを行い，演習テーマを検討します．

第12回 課題演習(2)
総合課題についてグループ単位で演習します．

第13回 課題成果発表(1)
制作した課題の発表．

第１４回 課題成果発表(2)
制作した課題の発表.

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 『Pythonライブラリの教科書』(立山英利著, 日経ソフトウェア編, 日経BP, ISBN9784296201600, WINE検索結果: https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/permalink/81SOKEI_WUNI/7jeksk/alma991027197567904032)を使用します.

参考文献: 『Pythonプログラミング&データサイエンスライブラリ活用入門』(河西朝雄著, 技術評論社, ISBN9784297150167, WINE検索結果: https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/permalink/81SOKEI_WUNI/7jeksk/alma991027579111404032). その他, 必要に応じて授業内で紹介します.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート: 70 授業内およびMoodle上で提示される課題により評価します.

平常点評価: 30 最終課題の発表内容により評価します.

備考・関連URL: 授業ではプログラミングの環境として「Google Colaboratory」を使用します. 利用にはGoogleのアカウントが必要になります.

過去の課題をもとに授業を進めることが多いので, 課題をこなしていくことが授業についていく上で重要です. やむを得ぬ事情により欠席する場合は, 次回の授業までにWaseda Moodle を参照し, 授業内容と課題を確認するとともに, 次回資料も確認しておいてください. 授業では反転授業にて進めます.

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010259|08|9S04010259[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プログラミング中級（Python） 08		
担 当 教 員	石田 崇		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

Pythonプログラミングの基礎知識を応用して，データ構造やアルゴリズムの設計など，より複雑なプログラムの作成や，関連知識について深く学びます。その上で，オブジェクト指向の主要な項目（カプセル化，抽象化，ポリモーフィズム，継承）について，例題を通して実践的に学びます。また，外部ライブラリを導入してデータ分析，機械学習などやや規模の大きいプログラムの作成に取り組みます。本授業はプログラミング初級（Python)を受講済みかまたは同等レベルの内容を学習済みの学生を対象としています。授業方法は原則として対面で実施します。
本授業では，Pythonの初級の学習を一通り終えていることを前提として，以下のような人を対象に初中級～中級レベルの学習を進めていきます。
・初級の学習は終えているが，知識の定着がまだ不十分だと感じている人
・いきなりハイレベルな内容に進むのではなく，Pythonの応用へ向けて基礎的な内容のより深い理解と定着を図りながら先へ進めたい人

本授業は，コンピュータサイエンスにおけるプログラミングに関連しています．コンピュータサイエンスは，情報や計算など情報処理に関する基礎理論や，それらをコンピュータ上に実装，応用するための技術に関する研究分野であり，今日の情報社会を支える情報技術の基盤となっています．
コンピュータサイエンスにおけるプログラミング言語はコンピュータに指示を与えるための言語の設計や活用，また，それを用いたソフトウェアの開発を扱う分野です．
この授業は，代表的なプログラミング言語であるPythonを対象として，Pythonの基礎を学修済みの学生が，基礎的なプログラミングスキルとアルゴリズムの理解をより深めて定着させるとともに，継続して中級レベルのプログラミング技術を学修することによって，より高度なソフトウェア開発へ進むのための橋渡しとなる科目と位置づけられます．

授業の到達目標：

・データ形式，データ構造を理解し，アルゴリズムの設計方法を習得する。
・オブジェクト指向を理解し，プログラムに実装することができるようになる。
・外部ライブラリの使い方を理解し，簡単な画像処理プログラム，データ分析や機械学習などに関する知識を習得する。
・やや規模の大きいプログラムの作成に取り組む。

事前・事後学習の内容：

講義資料を事前にWaseda Moodle上で配布します。
30分程度の事前学習として講義資料に目を通して予習をしておくことが求められます。
また，毎回の授業において理解度確認用の演習課題が多めに出題されます。授業終了後も60分程度の事後学修として課題を完了させることが求められます。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーション（本講義の目的と概要）／Python基本事項のおさらい(1)
本講義の目的と概要を確認します．
スクリプトの作成と実行方法を理解し，簡単なサンプルスクリプトを実行して動作環境を確認します．
変数・基本演算・型について基本事項を確認します．

第2回 Python基本事項のおさらい(2)
Pythonの基本的なデータ構造についておさらいします．

第3回 Python基本事項のおさらい(3)
制御構造についておさらいします．

第4回 関数とスコープ
関数の活用と変数のスコープについて学習します．

第5回 オブジェクト指向プログラミングの基礎
オブジェクト指向の基礎概念として，クラスとインスタンス，フィールド，メソッドなどの概念について実習を通して学習します．

第6回 ファイル処理／例外処理
ファイル入出力処理と例外処理について実習を通して学習します．

第7回　オブジェクト指向プログラミングの応用
カプセル化，・抽象化，ポリモーフィズム，継承などの概念について実習を通して学習します．
第8回　総合演習
これまでの内容の復習として総合的な演習課題を実施します．
第9回　モジュールとパッケージ
モジュールとパッケージの取り扱いについて実習を通して学習します．
第10回　外部ライブラリの活用(1)
scikit-learnパッケージによる機械学習の実習を行います．
第11回　アルゴリズム設計
色々なアルゴリズムのプログラムについて学習します．
第12回　外部ライブラリの活用(2)
OpenCVパッケージによる画像処理の実習を行います．
第13回　やや大規模なプログラム作成実習
ここまでに学習した内容を利用して，やや大規模なプログラムを作成する実習を行います．
第14回　理解度確認課題
理解度を確認するための最終課題を実施します．

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　Waseda Moodle上でPDFファイルを適宜配布します．

参考文献：　授業内で適宜紹介します．

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　40　各回に実施する演習課題への取り組み状況による評価

その他：　60　第14回に実施する最終の理解度確認課題による評価

備考・関連URL：
・本講義の履修を希望する場合は必ず第1回目から出席するようにしてください．
・本講義は毎週2コマ連続して行います．授業には1コマ目の冒頭から参加してください．
・講義は原則として全回出席することを前提として進めます（一度欠席すると次回以降の内容理解が困難になります）
・受講生の理解度や課題の進捗状況に応じてスケジュールや扱う内容が変更になる場合があります．
・Waseda Moodle上で実施する小テスト課題は採点結果として個別にフィードバックします．
・その他提出された演習課題や小テスト，コメントシートから全体的な理解状況を確認し，理解が不足していると考えられる部分については後日重点的に解説を行いフィードバックします．

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010324|01|9S04010324[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	オープン・ソース・ソフトウェア概論 01		
担 当 教 員	大木 一浩		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: オープンソース・ソフトウェアとオープン・イノベーション

授業概要: オープンソース（Open Source）は、ソースコード等の資源を商用・非商用問わずに利用・表示・変更・配布を許可するポリシーと開発手法である。オープンソースソフトウェア(Open Source Software：OSS)は、これに則り開発・公開されるソフトウェアの総称である。
このオープンソースによって、現代社会は幅広い領域で大きな恩恵を受けており、新たな技術の想起やトレンド形成等がオープンソースによる共創活動によって日々活発に進められている。
このオープンソースの概念には、昨今のビジネスや諸活動に利活用しうるヒントが多分に含まれており、ソフトウェアに関する学びという視点だけでなく、共創活動の有用性や新たな着想点を見つけるというような観点でも注目に値する。
なお、講義では、OSSがどのような領域や用途で活用されているのか、またその種類等を具体的に紹介する。特に最新のものを紹介するという意図はないが、社会のさまざまな営みに幅広く活用されている、多くの用途毎にさまざまなものが開発されている状況の認識を深めてもらうことを考慮している。

本講義は、技術系の方々だけでなく、文科系の方々も受講してくれることを期待する。

【この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です】

授業の到達目標: ソフトウェアの創造や創出されたソフトウェアの活用方法の多様性を生み出すためには、技術的な観点だけでなく他の側面からアプローチし、発想力を養うことも重要なポイントであることから、オープンソースの概念を理解すること、この学習を通してOSSを活用する、新たな着眼点や発想力を養うきっかけを生み出すことを目標とする。

事前・事後学習の内容: 特になし

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: [第1回] オープンソースソフトウェアとは（講義ガイダンス）
第1章：オープンソースソフトウェアとはなにか
第2章：講義の目的

[第2回] オープンソースソフトウェアの経緯および文化的な側面−1
第1章：現在までの商業活動の思想
第2章：フリーソフトウェアの背景と経緯
第3章：GNUが果たした役割

[第3回] オープンソースソフトウェアの経緯と文化的側面−2
第1章：オープンソースソフトウェアの思想と背景
第2章：ハッカーについて
第3章：オープンソースソフトウェアとLinux

[第4回] オープンソースソフトウェアの経緯および文化的な側面−3
第1章：オープンソースの基本的特徴
第2章：立場の違いから見たオープンソース
第3章：オープンソース関連活動の支援組織

[第5回] オープンソースソフトウェアの経緯および文化的な側面−4
第1章：オープンイノベーション
第2章：オープンソースソフトウェアと商業活動
第3章：オープンソースソフトウェアとビジネスモデル

[第6回] オープンソースソフトウェアのライセンス
第1章：ライセンスの種類
第2章：商用ライセンスとの比較

第3章;オープンソースソフトウェアとビジネスの齟齬

[第7回] オープンソースとコミュニティ
第1章:オープンソースのコミュニティ
第2章:オープンソースソフトウェアの開発手法
第3章:拡大するオープンソースソフトウェア
[第8回] オープンソースプロジェクト
第1章:オープンソースプロジェクトと企業内プロジェクト
第2章:オープンソースソフトウェア開発におけるコミュニケーション
第3章:オープンソース開発への参加
第4章:ソフトウェア開発プラットフォーム
[第9回] オープンソースソフトウェアの種類-1　第1章:適用領域俯瞰
第2章:デスクトップ用途のソフトウェア

第3章:業務用アプリケーション
[第10回] オープンソースソフトウェアの種類-2
第1章:環境構築向けソフトウェア
第2章:開発支援向けソフトウェア
第3章:セキュリティ対策ソフトウェア

[第11回] オープンソースソフトウェアの種類-3
第1章:Webシステム構築向けソフトウェア
第2章:データベースソフトウェア
第3章:運用管理向けソフトウェア

[第12回] オープンソースソフトウェアの種類-4
第1章:ビッグデータ関連ソフトウェア
第2章:AI
第3章:OS
第4章:仮想化
第5章:クラウドサービス

[第13回] オープンソースソフトウェアの種類-5
第1章:都市OS
第2章:Internet of Things(IoT)
第3章:ブロックチェーン
[第14回] 総まとめ
第1章:オープンソースソフトウェアの今後
第2章:全体のまとめ

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: なし

参考文献: 必要に応じて、随時紹介する

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 20　授業理解度の確認のため、第1回から第13回の各回においてテストを実施する

レポート: 50　第14回に期末レポートの提出を課し、授業の内容全般についての理解度を評価する

平常点評価: 30　出席を評価する

備考・関連URL: ■オンデマンド授業 受講環境について(以下のURLで確認してください)
http://www.waseda.jp/inst/ches/ctlt/teaching/ondemand/#anc_12

※自宅のPCでオンデマンド授業が受講ができない場合には、学内のコンピュータルームで受講してください。

グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010324|02|9S04010324[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	オープン・ソース・ソフトウェア概論 02		
担 当 教 員	大木 一浩		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: オープンソースソフトウェアとオープンイノベーション

授業概要: オープンソース（Open Source）は、ソースコード等の資源を商用・非商用問わずに利用・表示・変更・配布を許可するポリシーと開発手法である。オープンソースソフトウェア(Open Source Software：OSS)は、これに則り開発・公開されるソフトウェアの総称である。
このオープンソースによって、現代社会は幅広い領域で大きな恩恵を受けており、新たな技術の想起やトレンド形成等がオープンソースによる共創活動によって日々活発に進められている。
このオープンソースの概念には、昨今のビジネスや諸活動に利活用しうるヒントが多分に含まれており、ソフトウェアに関する学びという視点だけでなく、共創活動の有用性や新たな着想点を見つけるというような観点でも注目に値する。
なお、講義では、OSSがどのような領域や用途で活用されているのか、またその種類等を具体的に紹介する。特に最新のものを紹介するという意図はないが、社会のさまざまな営みに幅広く活用されている、多くの用途毎にさまざまなものが開発されている状況の認識を深めてもらうことを考慮している。

本講義は、技術系の方々だけでなく、文科系の方々も受講してくれることを期待する。
【この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です】

授業の到達目標: ソフトウェアの創造や創出されたソフトウェアの活用方法の多様性を生み出すためには、技術的な観点だけでなく他の側面からアプローチし、発想力を養うことも重要なポイントであることから、オープンソースの概念を理解すること、この学習を通してOSSを活用する、新たな着眼点や発想力を養うきっかけを生み出すことを目標とする。

事前・事後学習の内容: 特になし

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: [第1回] オープンソースソフトウェアとは（講義ガイダンス）
第1章：オープンソースソフトウェアとはなにか
第2章：講義の目的

[第2回] オープンソースソフトウェアの経緯および文化的な側面−1
第1章：現在までの商業活動の思想
第2章：フリーソフトウェアの背景と経緯
第3章：GNUが果たした役割

[第3回] オープンソースソフトウェアの経緯と文化的側面−2
第1章：オープンソースソフトウェアの思想と背景
第2章：ハッカーについて
第3章：オープンソースソフトウェアとLinux

[第4回] オープンソースソフトウェアの経緯および文化的な側面−3
第1章：オープンソースの基本的特徴
第2章：立場の違いから見たオープンソース
第3章：オープンソース関連活動の支援組織

[第5回] オープンソースソフトウェアの経緯および文化的な側面−4
第1章：オープンイノベーション
第2章：オープンソースソフトウェアと商業活動
第3章：オープンソースソフトウェアとビジネスモデル

[第6回] オープンソースソフトウェアのライセンス
第1章：ライセンスの種類
第2章：商用ライセンスとの比較
第3章；オープンソースソフトウェアとビジネスの齟齬

[第7回] オープンソースとコミュニティ
第1章:オープンソースのコミュニティ
第2章:オープンソースソフトウェアの開発手法
第3章:拡大するオープンソースソフトウェア

[第8回] オープンソースプロジェクト
第1章:オープンソースプロジェクトと企業内プロジェクト
第2章:オープンソースソフトウェア開発におけるコミュニケーション
第3章:オープンソース開発への参加
第4章:ソフトウェア開発プラットフォーム
[第9回] オープンソースソフトウェアの種類-1　　第1章:適用領域俯瞰
第2章:デスクトップ用途のソフトウェア

第3章:業務用アプリケーション

[第10回] オープンソースソフトウェアの種類-2
第1章:環境構築向けソフトウェア
第2章:開発支援向けソフトウェア
第3章:セキュリティ対策ソフトウェア

[第11回] オープンソースソフトウェアの種類-3
第1章:Webシステム構築向けソフトウェア
第2章:データベースソフトウェア
第3章:運用管理向けソフトウェア

[第12回] オープンソースソフトウェアの種類-4
第1章:ビッグデータ関連ソフトウェア
第2章:AI
第3章:OS
第4章:仮想化
第5章:クラウドサービス

[第13回] オープンソースソフトウェアの種類-5
第1章:都市OS
第2章:Internet of Things(IoT)
第3章:ブロックチェーン

[第14回] 総まとめ
第1章:オープンソースソフトウェアの今後
第2章:全体のまとめ

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: なし

参考文献: 必要に応じて、随時紹介する

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 20　授業理解度の確認のため、第1回から第13回の各回においてテストを実施する

レポート: 50　第14回に期末レポートの提出を課し、授業の内容全般についての理解度を評価する

平常点評価: 30　出席を評価する

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル■オンデマンド授業 受講環境について(以下のURLで確認してください)
http://www.waseda.jp/inst/ches/ctlt/teaching/ondemand/#anc_12
※自宅のPCでオンデマンド授業が受講ができない場合には、学内のコンピュータルームで受講してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010329|02|9S04010329[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	コントラクトブリッジで学ぶ数理科学入門 02		
担 当 教 員	並木 亮@高木 悟@船木 由喜彦		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 論理的思考力を身につけよう

授業概要: ※本講座は公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟（JCBL）の協力に基づいて開設されています。
コントラクトブリッジは4人で行うゲームであるが，予めパートナが決まっているので，2人ゲームと考えることができる．この2人零和有限確定不完全情報ゲームであるコントラクトブリッジのオークションやプレイを通して，論理的な推論法や確率計算など数理科学の初歩を学ぶ．
このゲームは日本ではあまり行われていないが，日本を除くアジア，ヨーロッパ，アメリカでは大勢にされている．海外の小説，映画，テレビドラマ等でもブリッジを楽しむシーンがみられ、このゲームの解説書や研究レポート等も外国語での著作は多数ある．これを学ぶことは国際的な教養や外国語会話の能力などを高めるような副作用も期待できる．
（準備学習について）講義後に渡す「今週のトレッド」を読み，宿題として出された「問題」を解くことで準備学習になる．個人差はあるものの，それぞれ10分程度．参考文献を読めばより理解しやすい．

授業の到達目標: アジア，ヨーロッパ，アメリカで広く行われているカードゲーム「コントラクトブリッジ」の考察を通して，論理的な思考法など数理科学の基礎部分が理解できるようになる．

事前・事後学習の内容: 事前学習は特に必要ないが，より深く知りたい場合Waseda Moodleの授業参考資料などの活用を勧める。
小テストと同様の内容のクイズ，
オークションの理解を助けるためのクイズなどもWaseda Moodleに公開。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回（並木、高木，船木）
講義概要．ブリッジ成立までのあらまし、ブリッジのルール。ミニブリッジによるブリッジのプレイの進め方．トリックテークのコツとウィナーの予想、プレイの練習
準備学習：講義紹介動画

第2回（並木）
ゲームの見通し．ミニブリッジによるハンドの価値の評価練習．その近似法
準備学習：特に必要無い

第3回（並木）
スートエスタブリッシュの確率．ミニブリッジによるトリックテークの練習（ノートランプ・プレイ）
準備学習：前回のトレッドを読んでおくこと

第4回（並木）
トランプドローイングの確率．ミニブリッジによるトリックテークおよびコミュニケーションの練習（トランププレイ）
準備学習：前回のトレッドを読んでおくこと

第5回（並木）
カードロケーションの確率．ミニブリッジによるテクニック（フィネス） ミニブリッジによる試合の練習
準備学習：前回のトレッドを読んでおくこと

第6回（並木）
HCPの分布．ブリッジのビッドとプレイの進め方．ビッディングシステムの必要性
準備学習：前回のトレッドを読んでおくこと

第7回（並木）
ハンドパターンの確率．1スータハンドのビッディングとプレイ
準備学習：前回のトレッドを読んでおくこと

第8回（並木）
スートフィットの期待値．バランスドハンドのビッディングとプレイ
準備学習：前回のトレッドを読んでおくこと

第9回（並木）
最終コントラクトメイキングの確率．2スータハンドのビッディングとプレイ
準備学習：前回のトレッドを読んでおくこと
第10回（並木）
ブリッジのディフェンスの考え方．コミュニケーション．確率計算と論理的な推論の練習

準備学習：前回のトレッドを読んでおくこと
第11回（並木）
競り合いのビッディング．売るか買うかの判断と確率計算．論理的な推論の練習
準備学習：前回のトレッドを読んでおくこと
第12回（並木）
ブリッジにおける高級なプレイの説明．確率計算および推論．試合と分析
準備学習：ブリッジについて理解したことをまとめておくと良い
第13回（並木）
ブリッジの試合形式の総合練習
準備学習：今までの講義12回分のトレッドを読み返しておくと良い（特にビッド編以降）
第14回（並木，高木）
12回分の復習、試合のレビュー
講師が12回の授業で解決しきれていない疑問点などに答えます。
準備学習：疑問点などをまとめておくと良い

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　使用しない。

参考文献：　ゼロからのコントラクトブリッジ

【著者】清水映樹（しみずえいき）
【監修】早稲田大学ゲームの科学研究所
【発行】株式会社エスアイビー・アクセス
【発売】株式会社星雲社

ISBN 978-4-434-18379-9

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　25　授業内容全般についての理解度を評価します。第12回目の授業時間中に問題を配布、14回目の授業にて回収。

平常点評価：　70　授業（実習）に対する積極性を評価します。
講義内容の理解度を実習の中で評価します。

その他：　5　講義中に数回、パズル形式の問題を宿題として出し、提出させます。

備考・関連URL：　■オンデマンド授業 受講環境について（以下のURLで確認してください）
早稲田大学ITサービスナビ　→　各種システムの推奨環境
http://www.waseda.jp/navi/services/system/sys_requirements.html
※自宅のPCでオンデマンド授業が受講ができない場合には、学内のコンピュータルームで受講してください。

関連URL:開講前に視聴しておくこと
グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の履修モデルについては履修ガイド内をご参照ください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010343|01|9S04010343[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ソフトウェア開発技術α 01		
担 当 教 員	井上 健		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 現代のソフトウェア開発技術とオブジェクト指向の基礎。（開発上流編）。

授業概要:

あらゆるモノやコトはソフトウェアなしでは動かない時代になり、多種多様な分野内・分野間でソフトウェアが連携して価値を作り出すDXの時代である。また、生成AIの発展とともに、ソフトウェアの作り方も変化してきている。「ソフトウェアをいかに作るか」という研究分野である「ソフトウェア工学」も、日進月歩で研究が進んでいる。企業の現場もアジャイル開発が少しずつ浸透し、価値の高いソフトウェア製品作りを目指している。
「ソフトウェア価値を向上させるために、仕様・設計の頻繁な変化」が要求される中、ソフトウェア開発の基本技術である「オブジェクト指向」の理解は必須になっている。年間のα、βを通じて、オブジェクト指向の基礎・考え方、何故、現代のソフト開発にオブジェクト指向開発が必要なのかを理解する。
α、βの講義では、説明や演習、レポート課題を通してオブジェクト指向を学ぶ。また「常にソフトウェアの価値向上を求め続ける」開発手法として「アジャイル開発」も普及しており、本講義では、アジャイル開発の概要、考え方について学ぶ。
春学期のαでは、ソフトウェア開発ライフサイクルの中で、ドメイン分析や要求分析、いわゆる「開発の上流工程」を学び、上流工程で使われるオブジェクト指向技術、UMLモデル図を、現代・未来のソフトウェア技術の方向性と関連させながら理解する。将来エンジニアを目指す学生も、そうでない学生も、現代のソフト開発に求められる技術やマインドを考察する機会としてほしい。

講師は民間企業や独立行政法人「情報処理推進機構(IPA)」で長くソフトウェアの研究開発に関わっており、最新のソフトウェア技術やトレンドについても紹介する。この講義は2限続けて行い座学と演習を交えて行う。遅刻欠席をすると講義についていくことが難しくなる。予習は必須ではないが、講義内容を身に着けるために適度に（数十分程度）復習することが望ましい。以下の授業計画に関しては、受講生の理解度や随時ソフトウェア界のトピックを紹介することにより、各回の内容は前後することがある。

授業の到達目標: 「現代のソフトウェアづくり」の背景と内容を紹介し、αでは、ソフトウェア開発ライフサイクルの上流（ドメイン分析から、要求分析まで）を、オブジェクト指向技術とUML(Unified Modeling Language)を用いながら学び、オブジェクト指向が現代のソフトウェア開発になぜ必要かを理解する。また、開発中の仕様変更・設計変更に強い、アジャイル開発の概要とともに、開発上流工程で、アジャイルに必須とされる、組織作りや、チームビルディングなど人間系の内容も学ぶ。
授業の到達目標は、以下:
・現代のソフトウェア技術のwhy/what/howを理解する。
・オブジェクト指向の基本概念と「なぜ、変化に強いのか」を理解。上流工程で必要なUMLのモデル図（クラス図、ユースケース、アクティビティ図）を理解。
・アジャイル開発手法の基礎を理解し、開発中も「お客様価値」につなげ続ける開発のプロセスを「ソフトウェア開発の上流工程」で理解する。
・現代のソフトウェアエンジニアに必要な、技術スキルと、ヒューマンスキル、マインドを理解する。

事前・事後学習の内容: 予習：予習は必須ではないが、講義当日の前日午前中までには、資料をMOODLE上にアップロードし、事前に内容を把握できるような環境にします。
復習：講義・演習後、学んだことを理解すること。理解が不十分であると次の講義が理解できないこともあります。質問はメールで受け付けます。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回／ガイダンス、現代のソフトウェア開発

講義の目的・概要
ソフトウェア開発をめぐる、世の中の動向

第2回／現代のソフトウェア開発、オブジェクト指向イントロダクション

・現代の、ソフトウェア開発の現状と未来。国の状況、企業の状況。
・オブジェクト指向の基礎「クラス、インスタンス」

第3回／オブジェクト指向技術の基礎
オブジェクト指向の基礎「クラスとインスタンス、継承とポリモルフィズム」
第4回／オブジェクト指向の基礎、UMLとUML記述ツール
ソフトウェア工学、情報処理学会、SE4BS活動の紹介
UMLの説明、UML設計ツール「astah」の説明、astahの使い方演習
第5回／UMLの各モデル図説明、開発プロセスの解説
UMLの、上流工程で使うモデル図（クラス図、オブジェクト図、ユースケース、アクティビティ図など）説明
第6回／UMLクラス図
UMLクラス図解説、クラス図演習UMLオブジェクト図解説、オブジェクト図演習
第7回／UML演習（続き）、ドメイン分析
UMLのクラス図、オブジェクト図演習
航空便予約業務のドメイン分析と、オブジェクト抽出・クラス図作成
第8回／UML演習、第一回レポート課題
クラス図、オブジェクト図演習、第一回レポート課題（クラス図、オブジェクト図）
第9回／第一回レポート課題解説、要求分析
第一回レポート課題回答例解説
航空便チケット予約システムを例題とした、要求分析の説明。
第10回／要求分析演習
要求分析と、UMLユースケース説明。
ユースケース演習。
第11回／ドメイン分析演習
要求分析、要求工学、ユースケース詳細説明と演習。
UMLのアクティビティ図、解説と演習
第12回／第二回レポート課題
第二回レポート課題（ユースケース、アクティビティ図）
第13回／要求モデル、アジャイル開発の解説
第二回レポート課題回答例解説アジャイル開発の詳細説明。
第14回／価値創出ソフトウェア開発と最近のソフトウェア技術のトピック紹介
・価値駆動ソフトウェアエンジニアリングに必要なソフトウェア技術、ヒューマンスキル、アジャイルマインド
・最近のソフトウェア開発の話題（クラウド、DevOps、生成AI、etc）
・ソフトウェア開発βの概要

言語区分: 0 日本語 Japanese

参考文献:
オブジェクト指向でなぜ作るのか（日経BP）
UML入門（技術評論社）
アジャイル開発とスクラム（翔泳社）
参考WEBSITE: https://se4bs.com/sites

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 試験は実施しない。

レポート: 50 2回のレポート

平常点評価: 50 授業参加回数。参加の姿勢。

その他: 0 特になし

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

14回の内容スケジュールは、受講生の理解度を見ながら行うため、前後にずれることがあります。

本講義では、プログラミング関連授業の受講等を通じて、オブジェクト指向プログラミングの基礎を習得している学生を主対象としますが、何等かのオブジェクト指向言語（Java、C#、C++、Python、Ruby、etc.）を用いたプログラミング経験があれば受講可能です。プログラミング言語の詳細な文法知識は不要です。

2024年までの「ソフトウェア開発技術α」の単位修得者は、履修できません。

ソフトウェア開発技術 β（秋学期開催）で、中下流工程を学習するので、通年での受講をお勧めします。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010344|01|9S04010344[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ソフトウェア開発技術β O1		
担 当 教 員	井上 健		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 現代のソフトウェア開発技術とオブジェクト指向の基礎。（開発中下流編）。

授業概要:

あらゆるモノやコトはソフトウェアなしでは動かない時代になり、多種多様な分野内・分野間でソフトウェアが連携して価値を作り出すDXの時代である。また、生成AIの発展とともに、ソフトウェアの作り方も変化してきている。「ソフトウェアをいかに作るか」という研究分野である「ソフトウェア工学」も、日進月歩で研究が進んでいる。企業の現場もアジャイル開発が少しずつ浸透し、変化に強い、価値の高いソフトウェア製品作りを目指している。
「ソフトウェアの価値を向上のために、仕様・設計の頻繁な変化」がソフト開発で要求される中、基本技術である「オブジェクト指向」の理解は現代のソフトウェア開発では必須になっている。α、βを通じて、オブジェクト指向の基礎・考え方、何故、現代のソフト開発にオブジェクト指向開発が必要なのかを理解する。

現代のソフトウェア開発における基盤としてまず、オブジェクト指向の理解が不可欠であり、α、βを通じて、オブジェクト指向の基礎・考え方、開発プロセスを、講義や演習、レポート課題を通して学ぶ。
秋学期のβでは、ソフトウェア開発ライフサイクルの中で、システム分析・仕様、設計、実装（コーディング）など、いわゆる「開発の中下流工程」を学び、中下流工程で使われるオブジェクト指向技術、UMLモデル図を、理解する。開発中の仕様変化・設計変更に強い開発手法として「アジャイル開発」が普及している。βでは、主に設計の段階で、どのようにオブジェクト指向技術がアジャイル開発に生かされているかも学ぶ。将来エンジニアを目指す学生も、そうでない学生も、現代のエンジニアに求められる技術やマインド、考え方を考察する機会としてほしい。
講師は民間企業や独立行政法人「情報処理推進機構(IPA)」で長くソフトウェアの研究開発に関わっており、実践で使える最新のソフトウェア技術やトレンドについても紹介する。この講義は2限続けて行い座学と演習を交えて行う。遅刻欠席をすると講義についていくことが難しくなる。予習は必須ではないが、講義内容を身に着けるために適度に（数十分程度）復習することが望ましい。以下の授業計画に関しては、受講生の理解度や随時ソフトウェア界のトピックを紹介することにより、各回の内容は前後することがある。

授業の到達目標: ソフトウェア開発ライフサイクルの中下流（システム分析・仕様、基本設計・詳細設計、実装）を、オブジェクト指向技術とUML(Unified Modeling Language)を用いながら学ぶ。「開発の流れ」の学習としてオブジェクト指向のアーキテクチャを利用した、中下流工程の、アジャイル開発を理解する。社会変化や価値駆動の時代に、どのようなソフトウェア開発が求められているかを理解する。
授業の到達目標は、以下:
・現代のソフトウェア技術のwhy/what/howを理解する。（特に、中下流）
・オブジェクト指向の基本概念を理解し、中下流工程で必要なUMLのモデル図（クラス図、シーケンス図、ステートマシン図）を理解。
・設計から、実装（コーディング）の流れと、どのように動くソフトウェアにつながるのか理解。
・アジャイル開発手法における、上流から中下流の開発を理解し、現代のソフトウェア開発者に必要な、技術スキルと、考え方を学ぶ。

事前・事後学習の内容: 予習：予習は必須ではないが、講義当日の前日午前中までには、資料をMOODLE上にアップロードし、事前に内容を把握できるような環境にします。
復習：講義・演習後、学んだことを理解すること。理解が不十分であると次の講義が理解できないこともあります。質問はメールで受け付けます。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回／ガイダンス、現代のソフトウェア開発
講義の目的・概要
現代のソフトウェア開発の潮流と、要求される考え方。
第2回／現代のソフトウェア開発と、オブジェクト指向の基礎（αの復習）
現代のソフトウェア開発、ソフトウェア工学。オブジェクト指向の基礎（αの復習）。クラス、インスタンス、ポリモルフィズム、UML

第3回／オブジェクト指向技術の基礎
オブジェクト指向：中下流で重要な、ポリモルフィズムの解説。
UMLエディタastahの紹介
航空便予約システム

第4回／astahを用いたクラス図演習。システム分析とは
中下流で使われる、クラス図についてastahで演習
システム分析のイントロダクション、UMLコミュニケーション図の解説と、演習

第5回／システム分析と基本設計
航空便チケット予約システムを題材としたシステム分析の概要、ロバストネス分析
UMLコミュニケーション図

第6回／UMLシーケンス図の紹介と演習
UMLアクティビティ図とコミュニケーション図演習

第7回／基本設計とシーケンス図
UMLシーケンス図の説明アクティビティ図、クラス図、シーケンス図演習

第8回／第一回レポート課題
第一回レポート課題（クラス図、アクティビティ図、シーケンス図）

第9回／基本設計、詳細設計、UMLステートマシン図
第一回レポート課題回答例解説
詳細設計、デザインパターン
UMLステートマシン図

第10回／詳細設計から実装。ステートマシン図演習
詳細設計と実装フェーズUMLステートマシン図詳説

第11回／詳細設計と実装
ステートマシン図演習、詳細設計実装（プログラミング）

第12回／第二回レポート課題
第二回レポート課題（UMLステートマシン図）

第13回／実装とテスト。スクラム開発解説
第二回レポート課題回答例解説航空便チケット予約システムの実装（ソースコード）解説とデモ。

第14回／価値創出ソフトウェア開発
現代のフトウェアエンジニアに要求される、技術スキル、マインド、考え方。近年のソフトウェア開発の話題。
オブジェクト指向理解度小テスト（自己採点）

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：
オブジェクト指向でなぜ作るのか（日経BP）
かんたんUML（技術評論社）
アジャイル開発とスクラム（翔泳社）
参考WEBSITE: https://se4bs.com/sites

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　試験は実施しない。

レポート：　50　2回のレポート

平常点評価：　50　授業参加回数。参加の姿勢。

その他：　0　特になし

備考・関連URL：
グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

14回の内容スケジュールは、受講生の理解度を見ながら行うため、前後にずれることがあります。

本講義では、プログラミング関連授業の受講等を通じて、オブジェクト指向プログラミングの基礎を習得している学生を主対象としますが、何等かのオブジェクト指向言語（Java、C#、C++、Python、Ruby、etc.）を用いたプログラミング経験があれば受講可能です。プログラミング言語の詳細な文法知識は不要です。

2024年までの「ソフトウェア開発技術β」の単位修得者は、履修できません。

ソフトウェア開発技術α（春学期開催）を事前に受講しておくことをお勧めします。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010345|01|9S04010345[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	AIプログラミング基礎 01		
担 当 教 員	邵 騰飛@金光 永煥@星 健太郎@山極 綾子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本科目「AIプログラミング基礎」は，人工知能（AI）のプログラミング技術の基礎を学ぶことを目的とし，情報学および知的システムに関する一領域として位置づけられる．現代社会において，AIはデータ分析，自動化，意思決定支援など多岐にわたる分野で活用されており，その基礎技術の理解は極めて重要である．本科目では，AIの基本概念や歴史的発展を概観するとともに，問題解決のためのアルゴリズム，機械学習，強化学習，遺伝的アルゴリズム，ニューラルネットワーク，人工生命などの主要技術について講義し，Pythonプログラミングによる実践中心の演習をGoogle Colaboratory上で主に行うことで，AI技術の理論と実装を結びつけることを目的とする．これにより，AIの基礎的な知識とスキルを身につけ，今後の研究やキャリアの選択肢を広げる素養を修得する．

本科目では，以下の学修項目を主に扱う．人工知能の基礎概念とプログラミング準備AIプログラミングの基本技術（文字列生成とヒューリスティック探索）教師あり学習によるデータ分類と回帰分析教師なし学習（クラスタリング）と推薦システム機械学習技術を用いた検出（異常検出と物体検出）探索的学習アルゴリズム（強化学習と遺伝的アルゴリズム）ニューラルネットワークと人工生命
また，本科目は，GEC提供の情報科目「ア：情報技術の概念・利用」カテゴリの「情報の原理」分野に属し，全学副専攻ソフトウェア学の履修に加算可能な科目の一つである．なお，本科目は，同カテゴリの「情報リテラシー」分野に属する基礎科目「情報科学の基礎」および「プログラミング入門」と並列に位置付けられた基礎科目であり，プログラミングの前提知識やスキルは必須ではないが，ScratchやPython等によるプログラミングの基本概念を理解しておくことが望ましい．授業全体を通じて，本科目は，早稲田大学の掲げる「文理横断・連携・融合教育」に則り，情報学の学修を通して「創造性，論理的思考・計算論的思考，課題発見・問題解決，分野開拓」等のジェネリックスキルの育成にも寄与する．

本科目は，以下の点において特筆される．本科目はクォーター制で実施され，全7回の講義で構成される．本科目の各講義1回分は100分の授業2回で構成され，最終授業（第14回）時にはレポートと技能課題が告知される．本科目の各講義は学内のコンピュータルームで行われ，全回対面授業とする．本科目の学生は各自または学内のパソコンでAIプログラミングの事前学修と事後学修に取り組むとともに，期限付きの課題を提出することが求められる．本科目は複数の教員によって運用されており，1名の主担当教員（邵 騰飛）によって全ての授業が進行される．本科目のフィードバックは必要に応じてWaseda Moodleから提供される．本科目の授業資料はWaseda Moodleを通じて事前に提供される．本科目は初学者を対象としており，実践や実習を中心とした授業として展開される．本科目では，Google Colaboratoryが使えるGoogleアカウントの利用が必要とされる．

授業の到達目標:

本科目を履修することで，以下の知識・技能を習得することを目指す．
（到達目標1）人工知能の基本概念およびその歴史的発展を理解し，AIプログラミングに必要な基礎知識，GPUの役割，ならびにコンピュテーショナル・シンキングの考え方を習得することで，理論と実践の両面からAIに関する知識と技能を身につける．
（到達目標2）文字列処理および自然言語処理の基礎技術を理解し，テキスト生成手法を習得するとともに，各種ヒューリスティック探索アルゴリズムの原理と活用事例を把握することで，言語処理と探索技術の両面において実践的な技能を身につける．
（到達目標3）教師あり学習の基本原理を理解し，問題の種類に応じた分類アルゴリズムの選定方法および回帰モデルの構築・評価手法を実践することで，データ解析におけるモデル設計と活用能力を養う．
（到達目標4）教師なし学習に基づくクラスタリングアルゴリズムの基本仕組みと評価方法を理解し，協調フィルタリングをはじめとする推薦システム技術の応用例を把握することで，データの自動分類と個別最適化の両面で実践的な分析力を培う．
（到達目標5）異常検出において通常のパターンから逸脱するデータを識別する基本手法と特徴抽出の仕組みを理解し，物体検出において画像中の対象物を正確に認識する技術およびその活用事例を習得することで，双方の検出技術を実践的に活用する能力を身につける．
（到達目標6）強化学習において試行錯誤を通じた行動選択の最適化およびQ学習の基本原理を理解し，遺伝的アルゴリズムにおいて生物の進化原理を模倣した最適解探索のプロセスを実践することで，各探索・最適化手法の基本的な特徴と動作原理を理解し，基礎的な運用力を身につける．
（到達目標7）ニューラルネットワークの基本構造および学習プロセスを理解し，CNNやRNNなど各種ネットワークの特徴とその応用分野を把握するとともに，人工生命の可能性や将来展望についても考察することで，最新のAI技術とその未来的意義を包括的に理解する力を涵養する．

事前・事後学習の内容:

事前学修：授業計画に示されている授業各回の概要を予習し，意味や関連技術を調べる．
事後学修：授業各回の学修内容を振り返り，再び演習に取り組む．終講したのち，レポートと技能課題に取り組む．

学修時間の目安：本学学則第13条に基づき，本科目の学修に必要な時間を60時間（3600分）と定める．そこから授業学修時間の1400分（100分の授業14回分）を差し引くと，授業外学修時間は2200分である．このうち，予習・復習・レポート・技能課題にかかる学修時間の目安を次のとおりに定める．

事前学修総計：840分（120分の予習7回分）
事後学修総計：840分（120分の復習7回分）
レポート：260分（終講したのち1回分）
技能課題：260分（終講したのち1回分）
小計：2200分

小計の時間に授業学修時間の1400分を加えると合計3600分となり，本科目の学修に必要な時間が確保される．なお，ここで示した学修時間はあくまで下限値であるため，それ以上の学修時間を確保することは一向に構わない．

授業計画フリー入力サイン：
0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：人工知能（1）～基本概念～

人工知能の基本概念を学び，AIが抱える課題や技術的発展について説明する．初期のAI理論や実践について紹介した後，モダンなアプローチである機械学習についても触れ，その進化と今後の可能性を学ぶ．

第2回：人工知能（2）～AIプログラミングの準備～

AIプログラミングを始めるための基礎スキルとして，コンピュータとプログラミングの基礎知識，コンピュテーショナル・シンキング，GPUの役割などを学ぶ．

第3回： AIプログラミングの基本（1）～文字列生成～

文字列生成の基本的なアルゴリズムや自然言語処理を用いたテキスト生成手法の理解を目的とする．そこでまずはファイル処理や文字列操作を理解した後，自然言語処理の基礎技術について学ぶ．

第4回： AIプログラミングの基本（2）～ヒューリスティック探索～

問題に対する解候補から最適解を見つけるための基礎知識や代表的な手法を扱う．そこで，様々なヒューリスティック探索法の基礎の理解や，適用手法について学ぶ．

第5回：機械学習（1）～データの分類～

入力データを用いて訓練し，予測を行う「教師あり学習」を用いてデータ分類の基礎を学ぶ．各種分類手法を紹介した後，扱う問題の種類に応じて，どのような分類アルゴリズムをどのように適用すればよいかや，データ分類の実用例も学ぶ．

第6回：機械学習（2）～データの回帰～

回帰分析の基礎を理解し，実装手法を学ぶ．要因（独立変数）と結果（従属変数）の関係の分析や，データを元にした回帰モデルの構築方法と評価手法について学ぶ．

第7回：機械学習（3）～データクラスタリング～

教師なし学習を用いて，クラスタリングによってデータを分割・分類する手法やクラスタリング結果の評価手法を学ぶ．

第8回：機械学習（4）～推薦システム～

データ間の類似性をもとに各種推定・予測を行う仕組みの理解のために，推薦システムの基礎とアルゴリズムを学ぶ．そこで，協調フィルタリングや最近近傍法によって類似性を評価し，ユーザに最適なアイテムを推薦する方法を扱う．

第9回：機械学習（5）～異常検出～

与えられた複雑なデータ構造を，情報を保ちつつ簡潔なものに表現する手法や，その中から特徴を抽出する仕組みの理解を目的とする．そのための具体的な事例として異常検出の手法（異常の特徴や検出の仕組み）を学ぶ．

第10回：機械学習（6）～物体検出～

物体検出アルゴリズムの基礎を理解し，動画や画像から物体の動きを検出する仕組みを学ぶ．具体的には連続画像の変化からの動き検出，色の特徴による物体の区別，背景差分による物体検出手法を紹介し，実用的な技術を学ぶ．

第11回：機械学習（7）～強化学習～

試行錯誤を通じてより良い行動を学ぶ，いわゆる強化学習の基礎と，これを応用したゲーム内やVR空間におけるエージェントの行動の基礎を扱う．この内容を通じてエージェントが報酬を得るための学習方法とQ学習などの強化学習の仕組みを学ぶ．

第12回：機械学習（8）～遺伝的アルゴリズム～

AIにおける問題解決・最適化に用いられる，生物進化のプロセスを模倣した進化的アルゴリズムの基礎の理解を目的とする．具体的には進化的アルゴリズムで用いられる各個体の評価方法や，個体群を用いた最適解の発見プロセスを通して，遺伝的アルゴリズムの基礎理論と実装例について学ぶ．

第13回：人工知能に関する展望（1）～ニューラルネットワークの基礎～

ニューラルネットワークの基礎の理解を目的とする．そのために，基本的な構造，情報の入出力，学習プロセス，そして単層および多層ニューラルネットの仕組みを学ぶ．

第14回：人工知能に関する展望（2）～ニューラルネットワークと人工生命～

代表的なニューラルネットワークであるCNNやRNNの基礎を理解し，それぞれどのような分野に適用されるのかを学ぶ．その後，人工知能を超える次なる到達点としての人工生命の可能性と今後の展望について扱う．

言語区分:	0	日本語	Japanese
教科書:	指定なし.		
参考文献:	必要に応じて講義時に適宜示す.		
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）		

試験:	0	-
レポート:	20	レポートの提出状況と提出内容により総合的に評価する. 大学院生に関しては本項目の評価割合を30%とする.
平常点評価:	40	毎回課題の提出状況と提出内容により総合的に評価する. 毎回課題は授業出席前の知識習得状況と授業出席後の学習状況を報告する課題に分かれる. 大学院生に関しては本項目の評価割合を30%とする.
その他:	40	技能課題の提出状況と提出内容により総合的に評価する. 大学院生に関しても本項目の評価割合は学部生と同等とする.

備考・関連URL: グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S04010345|02|9S04010345[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	AIプログラミング基礎 02		
担 当 教 員	邵 騰飛@金光 永煥@星 健太郎@山極 綾子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本科目「AIプログラミング基礎」は，人工知能（AI）のプログラミング技術の基礎を学ぶことを目的とし，情報学および知的システムに関する一領域として位置づけられる．現代社会において，AIはデータ分析，自動化，意思決定支援など多岐にわたる分野で活用されており，その基礎技術の理解は極めて重要である．本科目では，AIの基本概念や歴史的発展を概観するとともに，問題解決のためのアルゴリズム，機械学習，強化学習，遺伝的アルゴリズム，ニューラルネットワーク，人工生命などの主要技術について講義し，Pythonプログラミングによる実践中心の演習をGoogle Colaboratory上で主に行うことで，AI技術の理論と実装を結びつけることを目的とする．これにより，AIの基礎的な知識とスキルを身につけ，今後の研究やキャリアの選択肢を広げる素養を修得する．

本科目では，以下の学修項目を主に扱う．人工知能の基礎概念とプログラミング準備AIプログラミングの基本技術（文字列生成とヒューリスティック探索）教師あり学習によるデータ分類と回帰分析教師なし学習（クラスタリング）と推薦システム機械学習技術を用いた検出（異常検出と物体検出）探索的学習アルゴリズム（強化学習と遺伝的アルゴリズム）ニューラルネットワークと人工生命
また，本科目は，GEC提供の情報科目「ア：情報技術の概念・利用」カテゴリの「情報の原理」分野に属し，全学副専攻ソフトウェア学の履修に加算可能な科目の一つである．なお，本科目は，同カテゴリの「情報リテラシー」分野に属する基礎科目「情報科学の基礎」および「プログラミング入門」と並列に位置付けられた基礎科目であり，プログラミングの前提知識やスキルは必須ではないが，ScratchやPython等によるプログラミングの基本概念を理解しておくことが望ましい．授業全体を通じて，本科目は，早稲田大学の掲げる「文理横断・連携・融合教育」に則り，情報学の学修を通して「創造性，論理的思考・計算論的思考，課題発見・問題解決，分野開拓」等のジェネリックスキルの育成にも寄与する．

本科目は，以下の点において特筆される．本科目はクォーター制で実施され，全7回の講義で構成される．本科目の各講義1回分は100分の授業2回で構成され，最終授業（第14回）時にはレポートと技能課題が告知される．本科目の各講義は学内のコンピュータルームで行われ，全回対面授業とする．本科目の学生は各自または学内のパソコンでAIプログラミングの事前学修と事後学修に取り組むとともに，期限付きの課題を提出することが求められる．本科目は複数の教員によって運用されており，1名の主担当教員（邵 騰飛）によって全ての授業が進行される．本科目のフィードバックは必要に応じてWaseda Moodleから提供される．本科目の授業資料はWaseda Moodleを通じて事前に提供される．本科目は初学者を対象としており，実践や実習を中心とした授業として展開される．本科目では，Google Colaboratoryが使えるGoogleアカウントの利用が必要とされる．

授業の到達目標:

本科目を履修することで，以下の知識・技能を習得することを目指す．
（到達目標1）人工知能の基本概念およびその歴史的発展を理解し，AIプログラミングに必要な基礎知識，GPUの役割，ならびにコンピュテーショナル・シンキングの考え方を習得することで，理論と実践の両面からAIに関する知識と技能を身につける．
（到達目標2）文字列処理および自然言語処理の基礎技術を理解し，テキスト生成手法を習得するとともに，各種ヒューリスティック探索アルゴリズムの原理と活用事例を把握することで，言語処理と探索技術の両面において実践的な技能を身につける．
（到達目標3）教師あり学習の基本原理を理解し，問題の種類に応じた分類アルゴリズムの選定方法および回帰モデルの構築・評価手法を実践することで，データ解析におけるモデル設計と活用能力を養う．
（到達目標4）教師なし学習に基づくクラスタリングアルゴリズムの基本仕組みと評価方法を理解し，協調フィルタリングをはじめとする推薦システム技術の応用例を把握することで，データの自動分類と個別最適化の両面で実践的な分析力を培う．
（到達目標5）異常検出において通常のパターンから逸脱するデータを識別する基本手法と特徴抽出の仕組みを理解し，物体検出において画像中の対象物を正確に認識する技術およびその活用事例を習得することで，双方の検出技術を実践的に活用する能力を身につける．
（到達目標6）強化学習において試行錯誤を通じた行動選択の最適化およびQ学習の基本原理を理解し，遺伝的アルゴリズムにおいて生物の進化原理を模倣した最適解探索のプロセスを実践することで，各探索・最適化手法の基本的な特徴と動作原理を理解し，基礎的な運用力を身につける．
（到達目標7）ニューラルネットワークの基本構造および学習プロセスを理解し，CNNやRNNなど各種ネットワークの特徴とその応用分野を把握するとともに，人工生命の可能性や将来展望についても考察することで，最新のAI技術とその未来的意義を包括的に理解する力を涵養する．

事前・事後学習の内容:

事前学修：授業計画に示されている授業各回の概要を予習し，意味や関連技術を調べる．
事後学修：授業各回の学修内容を振り返り，再び演習に取り組む．終講したのち，レポートと技能課題に取り組む．

学修時間の目安：本学学則第13条に基づき，本科目の学修に必要な時間を60時間（3600分）と定める．そこから授業学修時間の1400分（100分の授業14回分）を差し引くと，授業外学修時間は2200分である．このうち，予習・復習・レポート・技能課題にかかる学修時間の目安を次のとおりに定める．

事前学修総計：840分（120分の予習7回分）
事後学修総計：840分（120分の復習7回分）
レポート：260分（終講したのち1回分）
技能課題：260分（終講したのち1回分）
小計：2200分

小計の時間に授業学修時間の1400分を加えると合計3600分となり，本科目の学修に必要な時間が確保される．なお，ここで示した学修時間はあくまで下限値であるため，それ以上の学修時間を確保することは一向に構わない．

授業計画フリー入力サイン：
0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：人工知能（1）～基本概念～

人工知能の基本概念を学び，AIが抱える課題や技術的発展について説明する．初期のAI理論や実践について紹介した後，モダンなアプローチである機械学習についても触れ，その進化と今後の可能性を学ぶ．

第2回：人工知能（2）～AIプログラミングの準備～

AIプログラミングを始めるための基礎スキルとして，コンピュータとプログラミングの基礎知識，コンピュテーショナル・シンキング，GPUの役割などを学ぶ．

第3回： AIプログラミングの基本（1）～文字列生成～

文字列生成の基本的なアルゴリズムや自然言語処理を用いたテキスト生成手法の理解を目的とする．そこでまずはファイル処理や文字列操作を理解した後，自然言語処理の基礎技術について学ぶ．

第4回： AIプログラミングの基本（2）～ヒューリスティック探索～

問題に対する解候補から最適解を見つけるための基礎知識や代表的な手法を扱う．そこで，様々なヒューリスティック探索法の基礎の理解や，適用手法について学ぶ．

第5回：機械学習（1）～データの分類～

入力データを用いて訓練し，予測を行う「教師あり学習」を用いてデータ分類の基礎を学ぶ．各種分類手法を紹介した後，扱う問題の種類に応じて，どのような分類アルゴリズムをどのように適用すればよいかや，データ分類の実用例も学ぶ．

第6回：機械学習（2）～データの回帰～

回帰分析の基礎を理解し，実装手法を学ぶ．要因（独立変数）と結果（従属変数）の関係の分析や，データを元にした回帰モデルの構築方法と評価手法について学ぶ．

第7回：機械学習（3）～データクラスタリング～

教師なし学習を用いて，クラスタリングによってデータを分割・分類する手法やクラスタリング結果の評価手法を学ぶ．

第8回：機械学習（4）～推薦システム～

データ間の類似性をもとに各種推定・予測を行う仕組みの理解のために，推薦システムの基礎とアルゴリズムを学ぶ．そこで，協調フィルタリングや最近近傍法によって類似性を評価し，ユーザに最適なアイテムを推薦する方法を扱う．

第9回：機械学習（5）～異常検出～

与えられた複雑なデータ構造を，情報を保ちつつ簡潔なものに表現する手法や，その中から特徴を抽出する仕組みの理解を目的とする．そのための具体的な事例として異常検出の手法（異常の特徴や検出の仕組み）を学ぶ．

第10回：機械学習（6）～物体検出～

物体検出アルゴリズムの基礎を理解し，動画や画像から物体の動きを検出する仕組みを学ぶ．具体的には連続画像の変化からの動き検出，色の特徴による物体の区別，背景差分による物体検出手法を紹介し，実用的な技術を学ぶ．

第11回：機械学習（7）～強化学習～

試行錯誤を通じてより良い行動を学ぶ，いわゆる強化学習の基礎と，これを応用したゲーム内やVR空間におけるエージェントの行動の基礎を扱う．この内容を通じてエージェントが報酬を得るための学習方法とQ学習などの強化学習の仕組みを学ぶ．

第12回：機械学習（8）～遺伝的アルゴリズム～

AIにおける問題解決・最適化に用いられる，生物進化のプロセスを模倣した進化的アルゴリズムの基礎の理解を目的とする．具体的には進化的アルゴリズムで用いられる各個体の評価方法や，個体群を用いた最適解の発見プロセスを通して，遺伝的アルゴリズムの基礎理論と実装例について学ぶ．

第13回：人工知能に関する展望（1）～ニューラルネットワークの基礎～

ニューラルネットワークの基礎の理解を目的とする．そのために，基本的な構造，情報の入出力，学習プロセス，そして単層および多層ニューラルネットの仕組みを学ぶ．

第14回：人工知能に関する展望（2）～ニューラルネットワークと人工生命～

代表的なニューラルネットワークであるCNNやRNNの基礎を理解し，それぞれどのような分野に適用されるのかを学ぶ．その後，人工知能を超える次なる到達点としての人工生命の可能性と今後の展望について扱う．

言語区分:	0	日本語	Japanese
教科書:	指定なし.		
参考文献:	必要に応じて講義時に適宜示す.		
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）		
試験:	0	-	
レポート:	20	レポートの提出状況と提出内容により総合的に評価する. 大学院生に関しては本項目の評価割合を30%とする.	
平常点評価:	40	毎回課題の提出状況と提出内容により総合的に評価する. 毎回課題は授業出席前の知識習得状況と授業出席後の学習状況を報告する課題に分かれる. 大学院生に関しては本項目の評価割合を30%とする.	
その他:	40	技能課題の提出状況と提出内容により総合的に評価する. 大学院生に関しても本項目の評価割合は学部生と同等とする.	
備考・関連URL:	グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。 -GEC情報のカリキュラム -GEC情報の科目マップ -GEC情報の履修モデル		

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S05050027|01|9S05050027[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Writing Scientific Papers 1		
担 当 教 員	鹿又 宣弘		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	Writing Scientific Papers	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： 自然科学系の論文要旨を英語で論理的に書くために、ライティングの基礎をオンデマンドで身につけます。

【履修目安】
TOEIC 500点～、(2026/1/21 改訂後)TOEFL iBT 3.5点～

【授業内容】
・Waseda Moodleを利用したフルオンデマンド科目です。1週間を1ユニット(第1週目のみ2ユニット)とし、ビデオ講義の視聴や関連するテキストを読み、授業の理解度を確認するアクティビティを行います。
・授業で使用する例文や課題は化学分野の内容に基づいています。
・「Writing Scientific Papers 1」では自然科学系論文の構成・読み方を学び、パラグラフや要約の書き方、文献の引用方法といったライティングの基礎を身につけます。
・本科目はすべて英語で行います。

【備考】
・科目内容の監修や成績評価は担当教員が行い、実際の指導はチューターが行います。
・Writing Scientific Papers 1と2の両科目で研究論文の要旨を書くことに必要なスキルを網羅します。

授業の到達目標： 本科目では、自然科学系論文の作成に必要な以下のスキルを学習し、最終的に研究論文の要旨(Extended Abstracts)を書けるようになることを目標としています。
・自然科学系論文構成の理解
・アカデミックライティングの基礎となる段落の構成方法及び書き方
・言い換え(Paraphrasing)及び要約(Summarizing)の方法
・参考文献(References)の引用方法及び文献リストの作り方

事前・事後学習の内容： ・1ユニットあたりそれぞれ90～120分程度かかることが想定されます。
※上記学習時間は目安であり、個人差があります。

授業計画フリー入力サイン： 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

授業計画フリー：
1. Unit1 Introduction to Scientific Writing Unit 2 Structure of a Scientific Paper
2. Unit 3 Paragraph Writing – Part 1
3. Unit 4 Paragraph Writing – Part 2
4. Unit 5 Paraphrasing
5. Unit 6 Summarizing
6. Unit 7 Citing Sources
7. Unit 8 Integrating Sources

言語区分： 0 英語 English

教科書： 授業開始後、Waseda Moodleより資料をダウンロードして使用します。

参考文献： 推薦参考図書
Glasman-Deal, H. (2009). Science Research Writing: A Guide for Non-Native Speakers of English. Imperial College Press.

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験： 0 評価基準

レポート： 74 ・Single-submission(計4回) : 初稿のみ提出する課題 : ユニット内容に関連した課題に対する回答が評価されます(44%)。
・Double-submission(1回) : 初稿と最終稿の両方を提出する課題 : 複数のトピックから1つ選び、初稿を作成します。チューターの添削を受け、最終稿を作成し、その両方が評価されます(30%)。

平常点評価: 26 ・Participation：コンテンツの視聴状況を確認します（5%）。
・BBS課題（計2回）：与えられたトピックに関するBBS投稿の内容を評価します（9%）。
・Unit Comprehension Test（計3回）:2または4ユニットごとにレッスンの理解度を測るテストを実施します（12%）。

評価基準

備考・関連URL: 【科目詳細】
・本科目の詳細については、以下URLも参照してください。
https://led.w-as.jp/gogaku/wsp.html
・「Writing Scientific Papers 履修ガイド」
https://led.w-as.jp/guide.html
【費用】
・履修には、実験実習料として19,600円（税込）が必要です。

【その他】
・科目内容や履修レベルについてご不明な点やご相談のある方は、
https://led.w-as.jp/faq.html よりお問い合わせください。
・この授業は、MyWaseda経由でWaseda Moodleに接続し行います。履修者は必ず
MyWasedaを利用できる環境を整えてください。
・本科目の定員は15名です。
・本科目の最少開講人数は5名です。
・本科目は春クォーターのみ開講します。
・本科目は、早稲田大学グローバルエデュケーションセンターが、
株式会社早稲田大学アカデミックソリューションに運営を委託しています。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S05050028|01|9S05050028[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Writing Scientific Papers 2		
担 当 教 員	鹿又 宣弘		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	Writing Scientific Papers	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: より洗練された自然科学系の論文要旨を英語で書くために、効果的なデータ提示や要旨の書き方、推敲方法を学びます。

【履修目安】
TOEIC 500点～、(2026/1/21 改訂後)TOEFL iBT 3.5点～

【授業内容】
・Waseda Moodleを利用したフルオンデマンド科目です。1週間を1ユニット(第1週目のみ2ユニット)とし、ビデオ講義の視聴や関連するテキストを読み、授業の理解度を確認するアクティビティを行います。
・授業で使用する例文や課題は化学分野の内容に基づいています。
・「Writing Scientific Papers 1」で身につけたライティングのスキルを用いて、グラフ等のデータを含む研究論文の要旨の書き方および推敲方法を学びます。
・本科目はすべて英語で行います。

【備考】
・科目内容の監修や成績評価は担当教員が行い、実際の指導はチューターが行います。
・本科目を履修する場合、「Writing Scientific Papers 1」を履修する必要があります。
両科目で研究論文の要旨を書くことに必要なスキルを網羅します。

授業の到達目標: 本科目では、自然科学系論文の作成に必要な以下のスキルを学習し、最終的に研究論文の要旨(Extended Abstracts)を書けるようになることを目標としています。
・表やグラフの適切な使い方
・研究論文の要旨(Abstracts及びExtended Abstracts)の書き方及び推敲方法

事前・事後学習の内容: ・1ユニットあたりそれぞれ90～120分程度かかることが想定されます。
※上記学習時間は目安であり、個人差があります。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

授業計画フリー:
8. Unit 9 Effective Use of Tables and Graphs Unit 10 Writing an Abstract - Part 1
9. Unit 11 Writing an Abstract - Part 2
10. Unit 12 Editing Abstracts
11. Unit 13 Writing an Extended Abstract - Part 1
12. Unit 14 Writing an Extended Abstract - Part 2
13. Unit 15 Editing Extended Abstracts
14. Unit 16 Review Test

言語区分: 0 英語 English

教科書: 授業開始後、Waseda Moodleより資料をダウンロードして使用します。

参考文献: 推薦参考図書
Glasman-Deal, H. (2009). Science Research Writing: A Guide for Non-Native Speakers of English. Imperial College Press.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 0 評価基準

レポート:	60	・Double-submission（計2回）：初稿と最終稿を提出する課題：複数のトピックから1つ選び、初稿を作成します。チューターの添削を受け、最終稿を作成し、その内容を評価します（60%）。
平常点評価:	40	・Participation：コンテンツの視聴状況を確認します（5%）。 ・BBS課題（計2回）：与えられたトピックに関するBBS投稿の内容を評価します（16%）。 ・Unit Comprehension Test（計2回）: 3または4ユニットごとにレッスンの理解度を測るテストを実施します（8%）。 ・Review Test:総復習として、科目の理解度を測るテストを実施します（11%）。

備考・関連URL:

【科目詳細】
・本科目の詳細については、以下URLも参照してください。
https://led.w-as.jp/gogaku/wsp.html

・「Writing Scientific Papers 履修ガイド」
https://led.w-as.jp/guide.html

【費用】
・履修には、実験実習料として19,600円（税込）が必要です。

【その他】
・科目内容や履修レベルについてご不明な点やご相談のある方は、
https://led.w-as.jp/faq.html よりお問い合わせください。
・この授業は、MyWaseda経由でWaseda Moodleに接続し行います。履修者は必ず
MyWasedaを利用できる環境を整えてください。
・本科目の定員は15名です。
・本科目の最少開講人数は5名です。
・本科目は夏クォーターのみ開講します。
・本科目は、早稲田大学グローバルエデュケーションセンターが、
株式会社早稲田大学アカデミックソリューションに運営を委託しています。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050101|01|9S06050101[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ドイツ語総合基礎A1-1 01		
担 当 教 員	糸瀬 龍@ムレンス ゴリ カタリナ		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火4時限@02:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ドイツ語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ＊01・02クラスはどちらか一方しか履修できません。
ドイツ語をこれまで全く学んだことのない学生が対象の授業です。基本的で重要な文法項目と並び、日常的な表現や基本的な言い回し、簡単な会話なども学びます。さらに続けて「ドイツ語総合基礎A1-2」を履修すると、A1レベルへの到達が可能になります。
ネイティヴの教員と日本人教員とがペアになり、週一回ずつ授業を担当します。授業ではペアワークやグループワークなどを取り入れていきます。学生の積極的な授業参加が求められます。

授業の到達目標: ドイツ語学習に関しての国際標準である欧州評議会の「共通参照レベル」A1レベルの前半への到達を目標とします。

事前・事後学習の内容: 授業中で取り扱った文法事項および語彙を復習することが事前・事後の学習として不可欠です。授業中に出された宿題を毎週、確認します。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション
第2回
Lektion1
第3回
Lektion1
第4回
Lektion1
第5回
Lektion1
第6回
Lektion2
第7回
Lektion2
第8回
Lektion2
第9回
Lektion2
第10回
Lektion3
第11回
Lektion3
第12回
Lektion3
第13回
Lektion3
第14回
Lektion4

第15回
Lektion4
第16回
Lektion4
第17回
Lektion4
第18回
Lektion5
第19回
Lektion5
第20回
Lektion5
第21回
Lektion5
第22回
Lektion6
第23回
Lektion6
第24回
Lektion6
第25回
Lektion6
第26回
Lektion7
第27回
Lektion7
第28回
Lektion7

言語区分: 9 日本語/ドイツ語 Japanese/German

教科書: Schritte International Neu 1 (A1.1.)、Hueber
ISBN :9783193610829
4月より大学生協にて販売しています。ネットの書店などで購入する際は、他のレベルの教科書や旧版と間違えないように注意してください。

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 授業への出席状況、参加の姿勢、テストや課題等を総合的に評価します。

備考・関連URL: http://www.waseda.jp/open/docs/map_language/de_aim.pdf (ドイツ語到達目標の解説)

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050102|01|9S06050102[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ドイツ語総合基礎A1-2　01		
担 当 教 員	石井　道子@ムレンス　ゴリ　カタリナ		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金2時限@02:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ドイツ語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　日常的で身近な話題についてドイツ語の基礎を学び、筆記でも口述でもやり取りを練習します。ネイティヴの教員と日本人教員とがペアとなり、週一回ずつ授業を担当します。学生の積極的な参加を前提とし、授業ではペアワークやグループワークなどをとりいれ、ドイツ語を使う機会をできるだけ多く作りたいと考えています。担当は、火曜日はムレンス、金曜日は石井です。
※オープン教育・グローバルエデュケーションセンター設置の「ドイツ語総合基礎A1－1」を履修済み、あるいはそれと同等のドイツ語能力がある学生を対象とします。

授業の到達目標：　ドイツ語学習に関しての国際標準である欧州評議会の「共通参照レベル」A1レベルへの到達を目標とします。
（共通参照レベルについてはhttp://open-waseda.jp/common/contents/map/de.pdfを参照）。

事前・事後学習の内容：　この授業では、次の授業に向けて毎回課題が課されます。この課題を必ず自身で解き次回授業に臨むことが、毎回の授業を実りあるものにするための条件です。
この課題と毎回の授業の復習のために、90分ほどの時間を要します。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

導入（オリエンテーション、各自己紹介）、第8課
導入、第8課（担当：ムレンス）
導入導入（オリエンテーション、各自己紹介）、第8課
第8課（担当：石井道子）
第8課
第8課（担当：ムレンス）
第8課
第8課（担当：石井道子）
第9課
第9課（担当：ムレンス）
第9課
第9課（担当：石井道子）
第9課
第9課（担当：石井道子）
第9課
第9課（担当：ムレンス）
第10課
第10課（担当：石井道子）
第10課
第10課（担当：ムレンス）
第10課
第10課（担当：石井道子）
第10課
第10課（担当：ムレンス）
第11課
第11課（担当：石井道子）
第11課
第11課（担当：ムレンス）

第11課
第11課（担当：石井道子）
第11課
第11課（担当：ムレンス）
第12課
第12課（担当：石井道子）
第12課
第12課（担当：ムレンス）
第12課
第12課（担当：石井道子）
第12課
第12課（担当：ムレンス）
第13課
第13課（担当：石井道子）
第13課
第13課（担当：ムレンス）
第13課
第13課（担当：石井道子）
第13課
第13課（担当：ムレンス）
第14課
第14課（担当：石井道子）
第14課
第14課（担当：ムレンス）
第14課
第14課（担当：石井道子）
第14課
第14課（担当：ムレンス）

言語区分：　9　日本語/ドイツ語　Japanese/German

教科書：　Schritte International Neu 2, 出版社：Hueber Verlag
2020年度までこの科目で使っていたものは旧版です。21年度から【Neu】を使用しています。注意してください。
4月より大学生協にて販売しています。ネットの書店などで購入する際は、他のレベルの教科書や旧版と間違えないように注意してください。
音声データは、出版社の以下のサイトからA1.2 Kursbuchteil と A1.2 Arbeitsbuchteil をダウンロードしてください。
https://www.hueber.de/schritte-international-neu/lernen?kategorie=audio&kategorie_1=audio&band=a12&band_1=&livefilter=false

参考文献：　必携ドイツ文法総まとめ / 中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著、改訂版　白水社　2003
クラウン独和辞典〔第5版〕三省堂　2014
アクセス独和辞典〔第3版〕三修社　2010

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50　実施については授業中に指示する

平常点評価：　25　授業への貢献度

その他：　25　課題の達成度

備考・関連URL：　教科書の案内URL
出版社：https://shop.hueber.de/de/schritte-int-neu-2-kb-ab-978-3-19-661082-6.html

初回授業時に授業の進め方についてガイダンスを行うので必ず出席すること。
履修者は、紙製辞書もしくは電子辞書を用意すること。
授業時にドイツ語辞書としてスマートフォン・携帯電話を使用することは不可とする。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050102|02|9S06050102[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ドイツ語総合基礎A1-2　02		
担 当 教 員	糸瀬　龍@ムレンス　ゴリ　カタリナ		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火4時限@02:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ドイツ語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　＊01・02とも同一内容です。どちらか一方しか履修できません。
＊グローバルエデュケーションセンター設置の「ドイツ語総合基礎A1-1」を履修済み、あるいはそれと同等のドイツ語能力がある学生を対象とします。
基本的で重要な文法項目と並び、日常的な表現や基本的な言い回し、簡単な会話なども学びます。
ネイティヴの教員と日本人教教員とがペアとなり、週一回ずつ授業を担当します。授業ではペアワークやグループワークなどを取り入れていきます。学生の授業への積極的な参加を期待します。

授業の到達目標：　ドイツ語学習に関しての国際標準である欧州評議会の「共通参照レベル」A1レベルへの到達を目標とします。

事前・事後学習の内容：　授業中で取り扱った文法事項および語彙を復習することが事前・事後の学習として不可欠です。授業中で出された宿題を毎週、確認します。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
オリエンテーション
第2回
Lektion8
第3回
Lektion8
第4回
Lektion8
第5回
Lektion8
第6回
Lektion9
第7回
Lektion9
第8回
Lektion9
第9回
Lektion9
第10回
Lektion10
第11回
Lektion10
第12回
Lektion10
第13回
Lektion10
第14回
Lektion11

第15回
Lektion11
第16回
Lektion11
第17回
Lektion11
第18回
Lektion12
第19回
Lektion12
第20回
Lektion12
第21回
Lektion12
第22回
Lektion13
第23回
Lektion13
第24回
Lektion13
第25回
Lektion13
第26回
Lektion14
第27回
Lektion14
第28回
Lektion14

言語区分: 9 日本語/ドイツ語 Japanese/German

教科書: Schritte International Neu 2 (A1.2.), Hueber
ISBN: 9783196610826
4月より大学生協にて販売しています。ネットの書店などで購入する際は、他のレベルの教科書(あるいは旧版)と間違えないように注意してください。

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 授業への出席状況、参加の姿勢、テストや課題等を総合的に評価します。

備考・関連URL:

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050103|01|9S06050103[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ドイツ語総合基礎A2-1		
担 当 教 員	糸瀬　龍@ムレンス　ゴリ　カタリナ		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火５時限@02:水４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ドイツ語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　日常的で身近な話題についてドイツ語でコミュニケーションをしたり、平易な文章を読み書きすることを学びます。ネイティヴの教員と日本人教員とがペアとなり、週一回ずつ授業を担当します。学生の積極的な参加を前提とし、授業ではペアワークやグループワークなどを可能な限りとりいれ、ドイツ語を使う機会をできるだけ多く作りたいと考えています。

※オープン教育・グローバルエデュケーションセンター設置の「ドイツ語総合基礎A１－２」を履修済み、あるいはそれと同等のドイツ語能力がある学生を対象とします。

授業の到達目標：　ドイツ語学習に関しての国際標準である欧州評議会の「共通参照レベル」A2前半レベルへの到達を目標とします。
（共通参照レベルについてはhttp://open-waseda.jp/common/contents/map/de.pdfを参照）。

事前・事後学習の内容：　この授業では、次の授業に向けて毎回課題が課されます。この課題を必ず自身で解き次回授業に臨むことが、毎回の授業を実りあるものにするための条件です。
この課題と毎回の授業の復習のために、90分ほどの時間を要します。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

導入（オリエンテーション、各自己紹介）、第1課
オリエンテーション、第1課
導入（オリエンテーション、各自己紹介）、第1課
オリエンテーション、第1課
第1課
第1課
第1課
第1課
第2課
第2課
第2課
第2課
第2課
第2課
第2課
第2課
第2課
第3課
第3課
第3課
第3課
第3課
第3課
第3課
第3課
第4課
第4課

第4課
第4課
第4課
第4課
第4課
第4課
第5課
第5課
第5課
第5課
第5課
第5課
第5課
第5課
第6課
第6課
第6課
第6課
第6課
第6課
第6課
第6課
第7課
第7課
第7課
第7課
第7課
第7課
第7課
第7課

言語区分:	9	日本語/ドイツ語	Japanese/German
教科書:	Schritte International Neu 3(A2-1), 出版社:Hueber Verlag ISBN: 9783193610843 2020年度まで使っていた旧版から変更になり、【Neu】となります。古い版を買わないよう注意してください。 4月より大学生協にて販売しています。ネットの書店などで購入する際は、他のレベルの教科書や旧版と間違えないように注意してください。		
参考文献:	必携ドイツ文法総まとめ / 中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著、改訂版 白水社 2003		
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)		
試験:	50	期末試験	
平常点評価:	25	授業への貢献度	
その他:	25	課題の達成度	
備考・関連URL:	授業時にドイツ語辞書としてスマートフォン・携帯電話を使用することは不可とする。		

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050104|01|9S06050104[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ドイツ語総合基礎A2-2		
担 当 教 員	糸瀬　龍@ムレンス　ゴリ　カタリナ		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火５時限@02:水４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ドイツ語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　日常的で身近な話題についてドイツ語でコミュニケーションをしたり、平易な文章を読み書きすることを学びます。ネイティヴの教員と日本人教員とがペアとなり、週一回ずつ授業を担当します。学生の積極的な参加を前提とし、授業ではペアワークやグループワークなどをとりいれ、ドイツ語を使う機会をできるだけ多く作りたいと考えています。

※グローバルエデュケーションセンター設置の「ドイツ語総合基礎A２－１」を履修済み、あるいはそれと同等のドイツ語能力がある学生を対象とします（同等の目安は135時間程度のドイツ語受講経験）。

授業の到達目標：　ドイツ語学習に関しての国際標準である欧州評議会の「共通参照レベル」A2レベルへの到達を目標とします。（共通参照レベルについてはhttp://open-waseda.jp/common/contents/map/de.pdfを参照）。

事前・事後学習の内容：　この授業では、次の授業に向けて毎回課題が課されます。この課題を必ず自身で解き次回授業に臨むことが、毎回の授業を実りあるものにするための条件です。
この課題と毎回の授業の復習のために、90分ほどの時間を要します。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　導入（オリエンテーション、各自己紹介）
導入＋Lektion8（担当：ムレンス　ゴリ　カタリナ）
第2回　導入（オリエンテーション、各自己紹介）
導入＋Lektion8（担当：糸瀬龍）
第3回
Lektion8（担当：ムレンス　ゴリ　カタリナ）
第4回
Lektion8（担当：糸瀬龍）
第5回
Lektion9（担当：ムレンス　ゴリ　カタリナ）
第6回
Lektion9（担当：糸瀬龍）
第7回
Lektion9（担当：ムレンス　ゴリ　カタリナ）
第8回
Lektion9（担当：糸瀬龍）
第9回
Lektion10（担当：ムレンス　ゴリ　カタリナ）
第10回
Lektion10（担当：糸瀬龍）
第11回
Lektion10（担当：ムレンス　ゴリ　カタリナ）
第12回
Lektion10（担当：糸瀬龍）
第13回
Lektion11（担当：ムレンス　ゴリ　カタリナ）

第14回
Lektion11（担当：糸瀬龍）
第15回
Lektion11（担当：ムレンス　ゴリ　カタリナ）
第16回
Lektion11（担当：糸瀬龍）
第17回
Lektion12（担当：ムレンス　ゴリ　カタリナ）
第18回
Lektion12（担当：糸瀬龍）
第19回
Lektion12（担当：ムレンス　ゴリ　カタリナ）
第20回
Lektion12（担当：糸瀬龍）
第21回
Lektion13（担当：ムレンス　ゴリ　カタリナ）
第22回
Lektion13（担当：糸瀬龍）
第23回
Lektion13（担当：ムレンス　ゴリ　カタリナ）
第24回
Lektion13（担当：糸瀬龍）
第25回
Lektion14（担当：ムレンス　ゴリ　カタリナ）
第26回
Lektion14（担当：糸瀬龍）
第27回
Lektion14（担当：ムレンス　ゴリ　カタリナ）
第28回
Lektion14（担当：糸瀬龍）

言語区分：　9　日本語/ドイツ語　Japanese/German

教科書：　Schritte International Neu 4（A2-2），出版社：Hueber Verlag
ISBN：　9783196610840
2020年度まで使っていた旧版から変更になり、【Neu】となります。注意してください。
4月より大学生協にて販売しています。ネットの書店などで購入する際は、他のレベルの教科書や旧版と間違えないように注意してください。

参考文献：　必携ドイツ文法総まとめ / 中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著、改訂版　白水社　2003

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50　期末試験

平常点評価：　25　授業への貢献度

その他：　25　課題の達成度

備考・関連URL：　履修者は、紙製辞書もしくは電子辞書を用意すること。授業時にドイツ語辞書としてスマートフォン・携帯電話を使用することは不可とする。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050105|01|9S06050105[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ドイツ語コミュニケーション（基礎）		
担 当 教 員	生駒　美喜@井口　三奈子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ドイツ語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　ドイツ語の基礎的な学習を一通り終えた学生を対象として、4-5名からなる少人数グループでドイツ語による口頭コミュニケーションの練習を行います。具体的に、毎回の授業では、日常生活・学生生活に関するテーマについて、ドイツ語を母語とするチューターとグループ形式で対話を行い、ドイツ語のコミュニケーション能力の向上を目指します。

※本科目は最低1年（または1年相当）のドイツ語学習歴がある学生を対象にしています。

授業の到達目標：　日常生活・学生生活に関するテーマについて、相手の発話を聴き、理解した上で、自分の意見を述べる練習を行い、ドイツ語の口頭コミュニケーション能力の向上を目標とします。

事前・事後学習の内容：　毎回、事前に指示されるドイツ語語彙表現の確認が求められます。各回の予習に要する時間は60分程度を想定しています。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回（生駒・井口担当）
日本人教員による授業についての説明と導入
第2回（生駒・井口担当）
ドイツ語を母語とするチューターによるレッスン開始グループレッスン1: Kennen lernen, Familie und Freunde
第3回（井口担当）
グループレッスン2: Wohnen
第4回（井口担当）
グループレッスン3: Studium an der Uni
第5回（井口担当）
グループレッスン4: Mein Tag
第6回（井口担当）
グループレッスン5: Freizeit und Hobbys
第7回（井口担当）
グループレッスン6: Mein Heimatort und Japan
第8回（井口担当）
グループレッスン7: Essen und Trinken
第9回（井口担当）
グループレッスン8:Einkaufen
第10回（井口担当）
グループレッスン9:　Erziehung und Schulsystem
第11回（井口担当）
グループレッスン10: Arbeit und Beruf
第12回（井口担当）
グループレッスン11: Feste und Bräuche
第13回（生駒・井口担当）
グループレッスン12: In den Ferien
第14回（生駒・井口担当）
まとめのセッション

言語区分: 0 ドイツ語 German

教科書: ドイツ語コミュニケーション担当教員（編）「ドイツ語コミュニケーション（基礎）単語と表現集」

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 70 出席、授業への参加度、提出課題

その他: 30 学期末の発表

備考・関連URL: 授業の詳しい情報はMoodleコースにて案内します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050106|01|9S06050106[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ドイツ語コミュニケーション（応用）		
担 当 教 員	岡山 具隆@河村 麻里子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ドイツ語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ドイツ語の初級を一通り終え、日常生活・学生生活について簡単な会話ができる学生を対象として、4-5名の少人数クラスで口頭コミュニケーション中心の授業をおこないます。毎回の授業では、受講生の関心に応じて各グループごとに話し合ってテーマを決め、ドイツ語を母語とするチューターとグループで討論します。相手の発話を聴き、理解した上で、自分の意見を述べ、議論する練習をおこない、コミュニケーション能力全般の向上を目標とします。なお、初回は日本人教員による授業についての説明と導入をおこないます。また第13回授業では考査を兼ねたプレゼンテーションを受講者がグループで行います。

授業の到達目標: 相手の発話を聴き、理解した上で、自分の意見を述べ、議論する練習をおこない、ドイツ語によるコミュニケーション能力全般の向上を目標とします。

事前・事後学習の内容: 授業で扱ったテーマに関するドイツ語作文課題の作成、次の授業テーマに関するテキストの準備のための時間が60～90分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
[第 1回] 授業オリエンテーション （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第 2回] グループレッスン1: Reise und Freizeit （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第 3回] グループレッスン2 : Medien und Bücher （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第 4回] グループレッスン3 : Familienleben, Heirat und Wohnen （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第 5回] グループレッスン4 : Aktuelles Thema aus dem Internet (1) （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第 6回] グループレッスン5 : Aktuelles Thema aus dem Internet (2) （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第 7回] グループレッスン6 : Aktuelles Thema aus dem Internet (3) （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第 8回] グループレッスン7 : Spiele （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第 9回] グループレッスン8 : Freies Thema (1) （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第10回] グループレッスン9 : Freies Thema (2) （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第11回] グループレッスン10 : Vorbereitung auf die Präsentation (1) （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第12回] グループレッスン11 : Vorbereitung auf die Präsentation (2) （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第13回] 成果発表（グループでのプレゼンテーション） （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第14回] まとめ （担当：岡山具隆、河村麻里子）
グループレッスン8、9は、各グループで自由にテーマを設定してください。

言語区分: 0 ドイツ語 German

教科書: ドイツ語チュートリアル担当教員（編）「ドイツ語コミュニケーション（応用）単語と表現集」

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 70 出席状況、提出課題

その他: 30 プレゼンテーション

備考・関連URL: この授業はドイツ語を最低1年間は学習したことのある人を対象としており、ドイツ語の学習経験が全くない人は受講できません。「ドイツ語コミュニケーション（基礎）」を受講済みであることが望ましいですが、ドイツ語圏での短期語学研修や留学経験、あるいは他の授業である程度ドイツ語でのコミュニケーションに慣れているなど、学習歴によっては「ドイツ語コミュニケーション（基礎）」を受講していなくても履修可とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050107|01|9S06050107[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ドイツ語文法(入門)		
担 当 教 員	江口　大輔		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月１時限@02:月２時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ドイツ語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　ドイツ語文法の基礎を身につけるクラスです。
ドイツ語の文法は英語と比べて少し面倒な印象を与えますが、はじめのうちはあまり細かい規則にとらわれず、重要な規則から優先的に習得していけば、初級文法はマスターできます。
ただし、一つのゼメスターで初級文法をカバーする速習型の講義ですので、疑問点や理解のあいまいな点を残してしまうと、先の授業についていけなくなります。
よって、
1. 授業内や授業後に疑問点ははっきりと質問すること、
2. 毎週の宿題をきちんとこなすこと、
この2点が受講者には求められます。

授業の到達目標:　初級文法を一通り学び、中級以上の授業や自習でドイツ語学習を続けていくための基礎をつくる。

事前・事後学習の内容:　文法についての予習は必要ありません。各課で学ぶ内容に関する練習問題を、毎週宿題として課します。
各課に付いている短いテキストは、事前に読んできてもらってから授業内で内容の確認をします。
毎週の課題に要する時間は60分から90分程度を想定しています。

授業計画フリー入力サイン:　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第 1回：オリエンテーション、文字と発音
授業の進め方や教科書についての説明、ドイツ語の文字と発音についての基本。
第2回　Lektion1：動詞の現在人称変化
文法解説と練習問題
第3回　Lektion1：動詞の現在人称変化
文法解説と練習問題、および読解
第4回　Lektion2：名詞と冠詞の格変化・名詞の複数形
文法解説と練習問題
第5回　Lektion2：名詞と冠詞の格変化・名詞の複数形
文法解説と練習問題、および読解
第6回　Lektion3：不規則動詞の現在人称変化・命令形・人称代名詞
文法解説と練習問題
第7回　Lektion3：不規則動詞の現在人称変化・命令形・人称代名詞
文法解説と練習問題、および読解
第8回　Lektion4：定冠詞類・不定冠詞類
文法解説と練習問題
第9回　Lektion4：定冠詞類・不定冠詞類
文法解説と練習問題、および読解
第10回　Lektion5：前置詞の格支配
文法解説と練習問題
第11回　Lektion5：前置詞の格支配
文法解説と練習問題、および読解
第12回　Lektion6：話法の助動詞・分離／非分離動詞・接続詞
文法解説と練習問題
第13回　Lektion6：話法の助動詞・分離／非分離動詞・接続詞
文法解説と練習問題、および読解

第14回　Lektion1-6のまとめ、春クォーター試験
前半50分でまとめの練習問題をおこない、後半で春クォーターの試験を実施します。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　前田良三・高木葉子著『ドイツ語ナビゲーション3.0（Navigation ins Deutsche 3.0）』朝日出版社

参考文献:　辞書を用意して授業に持参してください。

紙の辞書もしくは電子辞書であれば、どの辞書でもかまいません。ただ、基礎的な語を調べることが多い初学者の場合、一覧性に優れた紙の辞書のほうが、電子辞書よりも使いやすいと思います。
スマートフォンの辞書アプリは、有料のものであれば問題ありません。android用にはクラウン独和辞典のアプリが提供されており、iphone/ipad用には、クラウン独和辞典、アクセス独和辞典、小学館独和大辞典のアプリが提供されています。

無料の辞書アプリは避けてください。

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　30　文法的知識を中心に問います。

平常点評価:　70　授業への積極的な参加や宿題の実施状況などを評価します。

備考・関連URL:

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050108|01|9S06050108[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ドイツ語文法(初級)		
担 当 教 員	江口　大輔		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月１時限@02:月２時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ドイツ語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　ドイツ語文法の基礎を身につけるクラスです。
ドイツ語の文法は英語と比べて少し面倒な印象を与えますが、はじめのうちはあまり細かい規則にとらわれず、重要な規則から優先的に習得していけば、初級文法はマスターできます。
ただし、一つのゼメスターで初級文法をカバーする速習型の講義ですので、疑問点や理解のあいまいな点を残してしまうと、先の授業についていけなくなります。
よって、
1. 授業内や授業後に疑問点ははっきりと質問すること、
2. 毎週の宿題をきちんとこなすこと、
この2点が受講者には求められます。

授業の到達目標:　初級文法を一通り学び、中級以上の授業や自習でドイツ語学習を続けていくための基礎をつくる。

事前・事後学習の内容:　文法についての予習は必要ありません。各課で学ぶ内容に関する練習問題を、毎回宿題として課します。
各課に付いている短いテキストは、事前に読んできてもらってから授業内で内容の確認をします。
毎週の課題に要する時間は60分から90分程度を想定しています。

授業計画フリー入力サイン:　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回　Lektion7：動詞の三基本形・現在完了形
文法解説と練習問題
第2回　Lektion7：動詞の三基本形・現在完了形
文法解説と練習問題、および読解
第3回　Lektion8：再帰表現・zu不定詞
文法解説と練習問題、および読解
第4回　Lektion8：再帰表現・zu不定詞
文法解説と練習問題
第5回　Lektion9：形容詞の格変化・比較表現
文法解説と練習問題、および読解
第6回　Lektion9：形容詞の格変化・比較表現
文法解説と練習問題
第7回　Lektion7-9のまとめ
練習問題
第8回　Lektion10：受動態
文法解説と練習問題
第9回　Lektion10：受動態
解説と練習問題、および読解
第10回　Lektion11：関係代名詞・指示代名詞
文法解説と練習問題
第11回　Lektion11：関係代名詞・指示代名詞
文法解説と練習問題、および読解
第12回　Lektion12：接続法
文法解説と練習問題
第13回　Lektion12：接続法
文法解説と練習問題、および読解

第14回　Lektion10-12のまとめ
前半50分でまとめの練習問題をおこない、後半で夏クォーターの試験を実施します。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　前田良三・高木葉子著『ドイツ語ナビゲーション3.0（Navigation ins Deutsche 3.0）』朝日出版社

参考文献:　辞書を用意して授業に持参してください。

紙の辞書もしくは電子辞書であれば、どの辞書でもかまいません。ただ、基礎的な語を調べることが多い初学者の場合、一覧性に優れた紙の辞書のほうが、電子辞書よりも使いやすいと思います。
スマートフォンの辞書アプリは、有料のものであれば問題ありません。android用にはクラウン独和辞典のアプリが提供されており、iphone/ipad用には、クラウン独和辞典、アクセス独和辞典、小学館独和大辞典のアプリが提供されています。

無料の辞書アプリは避けてください。

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　30　文法的知識を中心に問います。

平常点評価:　70　授業への積極的な参加や宿題の実施状況などを評価します。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050109|01|9S06050109[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ドイツ語コミュニケーション（上級）		
担 当 教 員	岡山 具隆@河村 麻里子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ドイツ語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ドイツ語の基本的な運用能力を持ち、日常生活・学生生活について会話ができる学生を対象として、4-5名の少人数グループでディスカッション中心の授業をおこないます。毎回の授業では、ドイツ語圏のアクチュアルなテーマに関する動画や資料をとりあげ、その内容についてグループごとにドイツ語を母語とするチューターとグループで討論します。日常生活を超え、時事的・学術的な内容について、与えられた資料を理解した上で、自分の意見を述べ、議論する練習をおこない、ドイツ語能力全般の向上を目標とします。なお、初回は日本人教員による授業についての説明と導入をおこないます。また第13回授業では考査を兼ねたプレゼンテーションを受講者がグループで行います。プレゼンテーションのテーマはグループごとに話合って決めてもらいます。

授業の到達目標: 時事的・学術的な内容について、資料を理解した上で、自分の意見を述べ、議論する練習をおこない、ドイツ語によるコミュニケーション能力全般の向上を目標とします。

事前・事後学習の内容: 授業で扱ったテーマに関するドイツ語作文課題の作成、次の授業テーマに関するテキストの準備のための時間が60～90分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
[第 1回] 授業オリエンテーション （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第 2回] グループレッスン1: Studentenleben （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第 3回] グループレッスン2 : Beruf （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第 4回] グループレッスン3 : Sport （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第 5回] グループレッスン4 : Aktuelles Thema aus dem Internet (1) （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第 6回] グループレッスン5 : Aktuelles Thema aus dem Internet (2) （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第 7回] グループレッスン6 : Aktuelles Thema aus dem Internet (3) （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第 8回] グループレッスン7 : Spiele （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第 9回] グループレッスン8 : Freies Thema (1) （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第10回] グループレッスン9 : Freies Thema (2) （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第11回] グループレッスン10 : Vorbereitung auf die Präsentation (1) （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第12回] グループレッスン11: Vorbereitung auf die Präsentation (2) （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第13回] 成果発表: Präsentation der Gruppen （担当：岡山具隆、河村麻里子）
[第14回] まとめ: Umfrage, Abschlussdiskussion （担当：岡山具隆、河村麻里子）グループレッスン8、9は、各グループで自由にテーマを設定してください。

言語区分: 0 ドイツ語 German

教科書: 開講時に指示します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 70 出席状況、提出課題

その他: 30 プレゼンテーション

備考・関連URL: この授業はドイツ語の基本的なコミュニケーション能力を身につけた人を対象としており、ドイツ語の学習経験が全くない人は受講できません。「ドイツ語コミュニケーション（応用）」を受講済みであることが望ましいですが、ドイツ語圏での短期語学研修や留学経験、あるいは「ドイツ語コミュニケーション（基礎）」など他の授業である程度ドイツ語でのコミュニケーションに慣れているなど、学習歴によっては「ドイツ語コミュニケーション（応用）」を受講していなくても履修可とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050110|01|9S06050110[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ドイツ語コミュニケーション（続基礎）		
担 当 教 員	生駒　美喜@井口　三奈子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ドイツ語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　ドイツ語の基礎的な学習を一通り終えた学生を対象として、4-5名からなる少人数グループでドイツ語による口頭コミュニケーションの練習を行います。具体的に、毎回の授業では、日常生活・学生生活に関するテーマについて、ドイツ語を母語とするチューターとグループ形式で対話を行い、ドイツ語のコミュニケーション能力の向上を目指します。
※本科目は最低1年（または1年相当）のドイツ語学習歴がある学生を対象にしています。

授業の到達目標：　日常生活・学生生活に関するテーマについて、相手の発話を聴き、理解した上で、自分の意見を述べる練習を行い、ドイツ語の口頭コミュニケーション能力の向上を目標とします。

事前・事後学習の内容：　毎回、事前に指示されるドイツ語語彙表現の確認が求められます。各回の予習に要する時間は60分程度を想定しています。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回（生駒・井口担当）
日本人教員による授業についての説明と導入
第2回（生駒・井口担当）
ドイツ語を母語とするチューターによるレッスン開始
グループレッスン1: Kennen lernen, Familie und Freunde
第3回（井口担当）
グループレッスン2: Studium an der Uni
第4回（井口担当）
グループレッスン3: Musik
第5回（井口担当）
グループレッスン4: Sport
第6回（井口担当）
グループレッスン5: Gesundheit
第7回（井口担当）
グループレッスン6: Internet
第8回（井口担当）
グループレッスン7: Filme
第9回（井口担当）
グループレッスン8: Lesen
第10回（井口担当）
グループレッスン9: Feste und Bräuche
第11回（井口担当）
グループレッスン10: Arbeit
第12回（井口担当）
グループレッスン11: Reisen
第13回（生駒・井口担当）
グループレッスン12: Umwelt
第14回（生駒・井口担当）
まとめのセッション

言語区分: 0 ドイツ語 German

教科書: ドイツ語コミュニケーション担当教員（編）「ドイツ語コミュニケーション（続基礎）単語と表現集」

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 70 出席、授業への参加度、提出課題

その他: 30 学期末の発表

備考・関連URL: 授業の詳細はMoodleコースにてお知らせします

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050201|01|9S06050201[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	フランス語総合基礎A1-1　01		
担 当 教 員	明石　伸子@ボォ・小林　シルヴィ		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水5時限@02:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	フランス語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　フランス語であいさつしよう！

授業概要：　((!)) The 5th class on Wednesday is conducted in Japanese. to explain the French grammar. Therefore, the students who do not understand the Japanese language can not take this course.

((!)) Japanese teacher's lesson (face-to-face lesson) : Wednesday 5th period principally in Japanese to explain the French grammar
French teacher's lesson (face-to-face lesson) : Friday 3rd period in French to put it in practice

※01・02クラスはどちらか一方しか履修できません。
初歩からフランス語をじっくり学ぶクラスです。週2回、日本人とフランス人の先生がそれぞれ1回ずつ担当し、同じ教科書を用いて授業します。ふたりの教員の成績を合算して平均した結果がひとつの成績となりますので注意してください。「ボンジュール」（こんにちは）から始めますので、最初は会話表現に重点が置かれますが、全体としては、「話す」「聞く」「読む」「書く」といった能力を総合的に伸ばすような、バランスのとれたプロセスの中で学習を進めます。文法の学習においては、読むための文法だけでなく、話したり、書いたりするための文法を重視します。言語は文法だけを知っていてもあまり役に立ちません。細かい文法事項を知っているよりも、むしろ、語彙や表現を豊富に学ぶことの方が、その言語の深い理解に繋がります。そしてまた、実践的にも役に立ちます。E-mailの書き方、サイトの閲覧なども含めた、総合的で時代に合ったフランス語を学んでいきます。
所属学部でフランス語の授業が選択できない学生、所属する学部の授業だけでは不足を感じる学生、将来、フランスに旅行に行ったり留学したいという希望を持っている学生、どんな分野でもいいがフランスに関係のある分野に興味を抱いている学生のためのクラスです。
教科書は、欧州評議会による外国語学習の「共通参照枠」にもとづいたものを用います。
フランスの大学への入学資格がえられるDELF／DALFの受験にも将来的に役立ちます。
学習内容についてはWebシラバスの備考欄をよく参照すること。自分のレベルに合うかどうかよく検討しましょう。なお日本人講師の授業は日本語とフランス語で行われます。日本語が理解できない場合は、履修できませんので注意してください。

※ ガイダンスと試験は日本人教員とネイティブ教員により1度ずつ行われます。授業実施日は下記の曜日を参考してください。
※ 上記の英語による注意事項に記されていますが、2023年度前期につきましては以下の通りに授業が実施されます。
日本人教員（対面授業）：水曜5限
ネイティブ教員（対面授業）：金曜4限

授業の到達目標：　フランス製の教科書を使いこなして、コミュニケーションに役立つ語学力を身につける。

事前・事後学習の内容：　事前・事後学習の内容　テキストの新出単語は調べてよく理解してから授業に臨み、また授業後は学習を定着させるため入念な復習をしましょう。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
ガイダンス（1）授業概要の※印を参照
第2回
ガイダンス（2）授業概要の※印を参照
第3回
第1課　出会いの表現（1）
第4回
第1課　出会いの表現（2）
第5回
第1課　出会いの表現（3）

第6回
第1課　出会いの表現（4）
第7回
第2課　挨拶する、自己紹介する、感謝する（1）
第8回
第2課　挨拶する、自己紹介する、感謝する（2）
第9回
第2課　挨拶する、自己紹介する、感謝する（3）
第10回
第2課　挨拶する、自己紹介する、感謝する（4）
第11回
まとめの復習
第12回
第3課　他者についての情報を尋ねる＆伝える[1]、好きなものを言う（1）
第13回
第3課　他者についての情報を尋ねる＆伝える[1]、好きなものを言う（2）
第14回
第3課　他者についての情報を尋ねる＆伝える[1]、好きなものを言う（3）
第15回
第3課　他者についての情報を尋ねる＆伝える[1]、好きなものを言う（4）
第16回
第4課　他者についての情報を尋ねる＆伝える[2]（1）

第17回
第4課　他者についての情報を尋ねる＆伝える[2]（2）
第18回
第4課　他者についての情報を尋ねる＆伝える[2]（3）
第19回
第4課　他者についての情報を尋ねる＆伝える[2]（4）
第20回
まとめの復習
第21回
第5課　どこから来た＆どこへ行くのか言う（1）
第22回
第5課　どこから来た＆どこへ行くのか言う（2）
第23回
第5課　どこから来た＆どこへ行くのか言う（3）
第24回
第5課　どこから来た＆どこへ行くのか言う（4）
第25回
第6課　場所、時間、スペル、電話番号、メール・アドレスを尋ねる＆伝える（1）
第26回
第6課　場所、時間、スペル、電話番号、メール・アドレスを尋ねる＆伝える（2）
第27回
第6課　場所、時間、スペル、電話番号、メール・アドレスを尋ねる＆伝える（3）
第28回
第6課　場所、時間、スペル、電話番号、メール・アドレスを尋ねる＆伝える（4）

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: Festival A1, CLE international社
※ 教科書の入手方法については Moodle のアナウンスメントあるいは日本人教員の初回授業の指示を参考にしてください。

参考文献: 『フランス語で広がる世界』駿河台出版社（フランス語を学ぶと将来どんなことができるかが、様々な人の体験を通して語られています）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	60	教材の内容の理解度を得点で測ります（学部および大学院に所属する受講生に共通します）。
レポート:	10	授業内に実施されるコメント・ペーパー等の内容に応じて評価を与えます（学部および大学院に所属する受講生に共通します）。
平常点評価:	20	授業内で解いた練習問題等の得点で測ります（学部および大学院に所属する受講生に共通します）。
その他:	10	授業への参加の姿勢を判断します（学部および大学院に所属する受講生に共通します）。

備考・関連URL: 『フェスティバル1』（1-6課）
【今学期の文法事項】tre / avoir / s'appeler / -er動詞 / -ir動詞 / 不規則動詞 / 定冠詞 l'article dfini / 縮約 les articles contracs / 疑問詞 o / 不定冠詞 l'article indfini / 疑問形容詞 quel

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050201|02|9S06050201[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	フランス語総合基礎A1-1 02		
担 当 教 員	ボォ・小林 シルヴィ@明石 伸子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水2時限@02:金5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	フランス語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: フランス語であいさつしよう！

授業概要: ((!)) The 5th class on Friday is conducted in Japanese to explain the French grammar. Therefore, the students who do not understand Japanese can't take this course.

((!)) Japanese teacher's lesson (face-to-face class) : Friday 5th period principally in Japanese to explain the French grammar
French teacher's lesson (face-to-face class) : Wednesday 2nd period in French to put it in practice

※01・02クラスはどちらか一方しか履修できません。
初歩からフランス語をじっくり学ぶクラスです。週2回、日本人とフランス人の先生がそれぞれ1回ずつ担当し、同じ教科書を用いて授業します。ふたりの教員の成績を合算して平均した結果がひとつの成績となりますので注意してください。「ボンジュール」（こんにちは）から始めますので、最初は会話表現に重点が置かれますが、全体としては、「話す」「聞く」「読む」「書く」といった能力を総合的に伸ばすような、バランスのとれたプロセスの中で学習を進めます。文法の学習においては、読むための文法だけでなく、話したり、書いたりするための文法を重視します。言語は文法だけを知っていてもあまり役に立ちません。細かい文法事項を知っているよりも、むしろ、語彙や表現を豊富に学ぶことの方が、その言語の深い理解に繋がります。そしてまた、実践的にも役に立ちます。E-mailの書き方、サイトの閲覧なども含めた、総合的で時代に合ったフランス語を学んでいきます。
所属学部でフランス語の授業が選択できない学生、所属する学部の授業だけでは不足を感じる学生、将来、フランスに旅行に行ったり留学したいという希望を持っている学生、どんな分野でもいいがフランスに関係のある分野に興味を抱いている学生のためのクラスです。
教科書は、欧州評議会による外国語学習の「共通参照枠」にもとづいたものを用います。
フランスの大学への入学資格がえられるDELF／DALFの受験にも将来的に役立ちます。
学習内容についてはWebシラバスの備考欄をよく参照すること。自分のレベルに合うかどうかよく検討しましょう。なお日本人講師の授業は日本語とフランス語で行われます。日本語が理解できない場合は、履修できませんので注意してください。

※ ガイダンスと試験は日本人教員とネイティブ教員により1度ずつ行われます。授業実施日は下記の曜日を参考してください。

※ 上記の英語による注意事項に記されていますが、2023年度後期につきましては以下の通りに授業が実施されます。

※ 上記の英語による注意事項に記されていますが、2023年度前期につきましては以下の通りに授業が実施されます。
日本人教員（対面授業）：金曜5限
ネイティブ教員（対面授業）：水曜2限

授業の到達目標: フランス製の教科書を使いこなして、コミュニケーションに役立つ語学力を身につける。

事前・事後学習の内容: 事前・事後学習の内容 テキストの新出単語は調べてよく理解してから授業に臨み、また授業後は学習を定着させるため入念な復習をしましょう。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
ガイダンス（1）授業概要の※印を参照
第2回
ガイダンス（2）授業概要の※印を参照
第3回
第1課 出会いの表現（1）
第4回
第1課 出会いの表現（2）

第5回
第1課　出会いの表現（3）
第6回
第1課　出会いの表現（4）
第7回
第2課　挨拶する、自己紹介する、感謝する（1）
第8回
第2課　挨拶する、自己紹介する、感謝する（2）
第9回
第2課　挨拶する、自己紹介する、感謝する（3）
第10回
第2課　挨拶する、自己紹介する、感謝する（4）
第11回
まとめの復習
第12回
第3課　他者についての情報を尋ねる＆伝える[1]、好きなものを言う（1）
第13回
第3課　他者についての情報を尋ねる＆伝える[1]、好きなものを言う（2）
第14回
第3課　他者についての情報を尋ねる＆伝える[1]、好きなものを言う（3）
第15回
第3課　他者についての情報を尋ねる＆伝える[1]、好きなものを言う（4）
第16回
第4課　他者についての情報を尋ねる＆伝える[2]（1）
第17回
第4課　他者についての情報を尋ねる＆伝える[2]（2）
第18回
第4課　他者についての情報を尋ねる＆伝える[2]（3）
第19回
第4課　他者についての情報を尋ねる＆伝える[2]（4）
第20回
まとめの復習
第21回
第5課　どこから来た＆どこへ行くのか言う （1）
第22回
第5課　どこから来た＆どこへ行くのか言う（2）
第23回
第5課　どこから来た＆どこへ行くのか言う（3）
第24回
第5課　どこから来た＆どこへ行くのか言う（4）
第25回
第6課　場所、時間、スペル、電話番号、メール・アドレスを尋ねる＆伝える（1）
第26回
第6課　場所、時間、スペル、電話番号、メール・アドレスを尋ねる＆伝える（2）
第27回
第6課　場所、時間、スペル、電話番号、メール・アドレスを尋ねる＆伝える（3）
第28回
第6課　場所、時間、スペル、電話番号、メール・アドレスを尋ねる＆伝える（4）

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: Festival 1, CLE international社
※ 教科書の入手方法については Moodle のアナウンスメントあるいは日本人教員の初回授業の指示を参考にしてください。

参考文献: 『フランス語で広がる世界』駿河台出版社（フランス語を学ぶと将来どんなことができるかが、様々な人の体験を通して語られています）

成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	60	教材の内容の理解度を得点で測ります（学部および大学院に所属する受講生に共通します）。
レポート:	10	授業内に実施されるコメント・ペーパー等の内容に応じて評価を与えます（学部および大学院に所属する受講生に共通します）。
平常点評価:	20	授業内で解いた練習問題等の得点で測ります（学部および大学院に所属する受講生に共通します）。
その他:	10	授業への参加の姿勢を判断します（学部および大学院に所属する受講生に共通します）。
備考・関連URL:	『フェスティバル1』（1-6課） 【今学期の文法事項】tre / avoir / s'appeler / -er動詞 / -ir動詞 / 不規則動詞 / 定冠詞 l'article dfini / 縮約 les articles contracs / 疑問詞 o / 不定冠詞 l'article indfini / 疑問形容詞 quel	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050202|01|9S06050202[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	フランス語総合基礎A1-2		
担 当 教 員	明石 伸子@ボォ・小林 シルヴィ		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水5時限@02:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	フランス語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: フランス語で旅をしよう！

授業概要: ((!)) The 5th class on Wednesday is conducted in Japanese to explain the French grammar. Therefore, the students who do not understand Japanese can't take this course.

((!)) Please, understand the required grammatical knowledge to take this course by reading the remarks and related URL fields （備考・関連URL）of this syllabus to compare them to your own actual French ability. You can't never change your course once you've registered your choice.

((!)) Japanese teacher's lesson (face-to-face lesson) : Wednesday 5th period principally in Japanese to explain the French grammar
French teacher's lesson (face-to-face lesson) : Friday 3rd period in French to put it in practice
春学期のフランス語総合基礎A1－1 01の継続クラスです。しかし、フランス語を半年程度学んだ人であれば、登録可能です。週2回、日本人とフランス人の先生が1回ずつ担当します。ふたりの先生の成績を合算し平均した成績がひとつになって与えられます。同じ教科書を用いて日本語とフランス語で授業し、「話す」「聞く」「読む」「書く」といった能力を総合的に伸ばすように、バランスのとれたプロセスの中で学習を進めていきます。たとえば、文法では、読むためだけでなく、話したり、書いたりするための文法も重視します。また、語彙や表現を豊富に学ぶことを通して、現代のフランスについての知識が自然に増えてくるように文化・社会面も重視し、総合的で時代に合ったフランス語を学んでいきます。今セメスターでは、主にフランス語で学生生活をするために便利な表現を覚えます。
所属する学部でフランス語の授業が選択できない学生、所属する学部の授業だけでは不足を感じている学生、将来、フランスに旅行に行ったり、留学したいという希望を持っている学生、どんな分野でもいいがフランスに関係のある分野に興味を抱いている学生のためのクラスです。
教科書は、欧州評議会による外国語学習の「共通参照枠」にもとづいたものを用います。したがって、フランスの大学への入学資格がえられるDELF／DALFの受験にも将来的に役立ちます。
学習内容についてはWebシラバスの備考欄をよく参照すること。自分のレベルに合うかどうかよく検討しましょう。なお日本人講師の授業は日本語とフランス語で行われます。日本語が理解できない場合は、履修できませんので注意してください。
※ ガイダンスと試験は日本人教員とネイティブ教員により1度ずつ行われます。授業実施日は下記の曜日を参考してください。

※ 上記の英語による注意事項に記されていますが、2023年度後期につきましては以下の通りに授業が実施されます。

日本人教員（対面授業）：水曜5限
ネイティブ教員（対面授業）：金曜4限

授業の到達目標: フランス製の教科書を使いこなして、コミュニケーションに役立つ語学力を身につける。

事前・事後学習の内容: 事前・事後学習の内容 テキストの新出単語は調べてよく理解してから授業に臨み、また授業後は学習を定着させるため入念な復習をしましょう。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
ガイダンス（1） 授業概要の※印を参照
第2回
ガイダンス（2） 授業概要の※印を参照
第3回
第7課 道順を教える、提案する、感謝する、拒絶する（1）
第4回
第7課 道順を教える、提案する、感謝する、拒絶する（2）

第5回
第7課　道順を教える、提案する、感謝する、拒絶する（3）
第6回
第7課　道順を教える、提案する、感謝する、拒絶する（4）
第7回
第8課　道順を尋ねる、位置を述べる（1）
第8回
第8課　道順を尋ねる、位置を述べる（2）
第9回
第8課　道順を尋ねる、位置を述べる（3）
第10回
第8課　道順を尋ねる、位置を述べる（4）
第11回
まとめの復習
第12回
第9課　買い物をする、値段を尋ねる（1）
第13回
第9課　買い物をする、値段を尋ねる（2）
第14回
第9課　買い物をする、値段を尋ねる（3）
第15回
第9課　買い物をする、値段を尋ねる（4）
第16回
第10課　レストランに行く（1）
第17回
第10課　レストランに行く（2）
第18回
第10課　レストランに行く（3）
第19回
第10課　レストランに行く（4）
第20回
まとめの復習
第21回
第11課　提案する、他者についての情報を尋ねる＆伝える[3]（1）
第22回
第11課　提案する、他者についての情報を尋ねる＆伝える[3]（2）
第23回
第11課　提案する、他者についての情報を尋ねる＆伝える[3]（3）
第24回
第11課　提案する、他者についての情報を尋ねる＆伝える[3]（4）
第25回
第12課　招待される、訪問する（1）
第26回
第12課　招待される、訪問する（2）
第27回
第12課　招待される、訪問する（3）
第28回
第12課　招待される、訪問する（4）

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: Festival A1, CLE international社

参考文献: 『フランス語で広がる世界』駿河台出版社（フランス語を学ぶと将来どんなことができるかが、様々な人の体験を通して語られています）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	60	教材の内容の理解度を得点で測ります（学部および大学院に所属する受講生に共通します）。
レポート:	10	授業内に実施されるコメント・ペーパー等の内容に応じて評価を与えます（学部および大学院に所属する受講生に共通します）。
平常点評価:	20	授業内で解いた練習問題等の得点で測ります（学部および大学院に所属する受講生に共通します）。
その他:	10	授業への参加の姿勢を判断します（学部および大学院に所属する受講生に共通します）。

備考・関連URL: 『フェスティバル1』（7－12課）
【既習とされる文法事項】（A1－1） tre / avoir / s’appeler / -er動詞 / -ir動詞 / 不規則動詞 / 定冠詞 l’article dfini / 縮約 les articles contracs / 疑問詞 o / 不定冠詞 l’article indfini / 疑問形容詞 quel
【今学期の文法事項】 疑問形 Est-ce que … / pouvoir / 命令形 l’impratif / 否定形 la forme ngative / vouloir / 部分冠詞l’article partitif / 否定の “de” “de” de ngation / 不定代名詞 on / 所有形容詞 les adjectifs possessifs / 疑問代名詞 les pronoms interrogatifs / 直接目的語les pronoms COD / 中性代名詞 “y” pronom neutre“y”

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050203|01|9S06050203[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	フランス語総合基礎A2-1		
担 当 教 員	明石 伸子@ボォ・小林 シルヴィ		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月５時限@02:水１時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	フランス語	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: フランス語で友達を作ろう！

授業概要: ((!)) The 5th class on Monday is conducted in Japanese to explain the French grammar. Therefore, the students who do not understand Japanese can't take this course.

((!)) Please, understand the required grammatical knowledge to take this course by reading the remarks and related URL fields （備考・関連URL）of this syllabus to compare them to your own actual French ability. You can't never change your course after you've registered your choice.

((!)) Japanese teacher's lesson (face-to-face class) : Monday 5th period principally in Japanese to explain the French grammar
French teacher's lesson (face-to-face class) : Friday 4th period in French to put it in practice

フランス語総合基礎A１－２の継続クラスです。しかし、フランス語を１年程度学んだ人であれば、登録可能です。週２回、日本人とフランス人の先生がそれぞれ１回ずつ担当し、同じ教科書を用いて授業します。ふたりの教員の成績を合算して平均した結果がひとつの成績となりますので注意してください。会話を中心としたテキストですが、練習問題を通して「話す」「聞く」「読む」「書く」といった能力を総合的に伸ばすような、バランスのとれた学習を進めます。文法の学習においては、読むための文法だけでなく、話したり、書いたりするための文法を重視します。言語は文法だけを知っていてもあまり役に立ちません。むしろ、語彙や表現を豊富に学ぶことの方が、その言語の深い理解に繋がり、実践的にも役に立ちます。総合的で時代に合った方法でフランス語を学んでいきます。このセメスターでは主にショッピング・観光・メディアのフランス語に親しみます。
　所属学部でフランス語の授業が選択できない学生、所属する学部の授業だけでは不足を感じる学生、将来、フランスに旅行に行ったり留学したいという希望を持っている学生、どんな分野でもいいがフランスに関係のある分野に興味を抱いている学生のためのクラスです。
　教科書は、欧州評議会による外国語学習の「共通参照枠」にもとづいたものを用います。フランスの大学への入学資格がえられるDELF／DALFの受験にも将来的に役立ちます。
　学習内容についてはWebシラバスの備考欄をよく参照すること。自分のレベルに合うかどうかよく検討しましょう。なお日本人講師の授業は日本語とフランス語で行われます。日本語が理解できない場合は、履修できませんので注意してください。

※ ガイダンスと試験は日本人教員とネイティブ教員により１度ずつ行われます。授業実施日は下記の曜日を参考してください。

※ 上記の英語による注意事項に記されていますが、2023年度前期につきましては以下の通りに授業が実施されます。

日本人教員（対面授業）：月曜５限
ネイティブ教員（対面授業）：水曜１限

授業の到達目標: フランス製の教科書を使いこなして、コミュニケーションに役立つ語学力を身につける。

事前・事後学習の内容: テキストの新出単語は調べてよく理解してから授業に臨み、また授業後は学習を定着させるため入念な復習をしましょう。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第１回
ガイダンス（１）授業概要の※印を参照
第２回
ガイダンス（２）授業概要の※印を参照
第３回
第13課　プレゼントを選ぶ、アドバイスを求める（１）

第4回
第13課　プレゼントを選ぶ、アドバイスを求める（2）
第5回
第13課　プレゼントを選ぶ、アドバイスを求める（3）
第6回
第13課　プレゼントを選ぶ、アドバイスを求める（4）
第7回
第14課　洋服を買う、アドバイスを求める＆与える、サイズを伝える（1）
第8回
第14課　洋服を買う、アドバイスを求める＆与える、サイズを伝える（2）
第9回
第14課　洋服を買う、アドバイスを求める＆与える、サイズを伝える（3）
第10回
第14課　洋服を買う、アドバイスを求める＆与える、サイズを伝える（4）
第11回
まとめの復習
第12回
第15課　アドバイスする、意見を述べる（1）
第13回
:第15課　アドバイスする、意見を述べる（2）
第14回
第15課　アドバイスする、意見を述べる（3）
第15回
第15課　アドバイスする、意見を述べる（4）
第16回
第16課　計画を立てる、希望を言う（1）
第17回
第16課　計画を立てる、希望を言う（2）
第18回
第16課　計画を立てる、希望を言う（3）
第19回
第16課　計画を立てる、希望を言う（4）
第20回
まとめの復習
第21回
第17課　天候を言う＆比較する（1）
第22回
第17課　天候を言う＆比較する（2）
第23回
第17課　天候を言う＆比較する（3）
第24回
第17課　天候を言う＆比較する（4）
第25回
第18課　時間を言う＆比較する（1）
第26回
第18課　時間を言う＆比較する（2）
第27回
第18課　時間を言う＆比較する（3）
第28回
第18課　時間を言う＆比較する（4）

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　Festival A1, CLE international社
※ 教科書の入手方法については Moodle のアナウンスメントあるいは日本人教員の初回授業の指示を参考にしてください。

参考文献:	『フランス語で広がる世界』駿河台出版社（フランス語を学ぶと将来どんなことができるかが、様々な人の体験を通して語られています）	
成績評価フリー入力サイン:	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	60	教材の内容の理解度を得点で測ります（学部および大学院も同じ評価基準となります）。
レポート:	10	授業内に実施されるコメント・ペーパー等の内容に応じて評価を与えます（学部および大学院も同じ評価基準となります）。
平常点評価:	20	授業内で解いた練習問題等の得点で測ります（学部および大学院も同じ評価基準となります）。
その他:	10	授業への参加の姿勢を判断します（学部および大学院も同じ評価基準となります）。
備考・関連URL:	『フェスティバル1』(13－18課) 【既習とされる文法事項】（A1－1） tre / avoir / s’appeler / -er動詞 / -ir動詞 / 不規則動詞 / 定冠詞 l’article dfini / 縮約 les articles contracs / 疑問詞 o / 不定冠詞 l’article indfini / 疑問形容詞 quel （A1－2） 疑問形 Est-ce que … / pouvoir / 命令形 l’impratif / 否定形 la forme ngative / vouloir / 部分冠詞l’article partitif / 否定の “de” “de” de ngation / 不定代名詞 on / 所有形容詞 les adjectifs possessifs / 疑問代名詞 les pronoms interrogatifs / 直接目的語les pronoms COD / 中性代名詞 “y” pronom neutre“y” 【今学期の文法事項】 間接目的語les pronoms COI / 指示形容詞 les adjectifs dmonstratifs / 否定命令形 l’impratif ngatif / 代名動詞 les verbes pronominaux / 命令形 + 目的語l’impratif + pronom / 疑問詞o & quand / 直説法単純未来 le futur simple / 最上級les superlatifs / 非人称表現の動詞les verbes impersonnels / 近接未来le futur proche / 比較級le comparatif / tre en train de … / 近接過去le pass rcent	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050204|01|9S06050204[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	フランス語総合基礎A2-2		
担 当 教 員	明石 伸子@ボォ・小林 シルヴィ		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月５時限@02:水１時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	フランス語	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: フランス語で友だちをつくろう！

授業概要: ((!)) The 5th class on Monday is conducted in Japanese to explain the French grammar. Therefore, the students who do not understand Japanese can't take this course.

((!)) Please, understand the required grammatical knowledge to take this course by reading the remarks and related URL fields （備考・関連URL）of this syllabus to compare them to your own actual French ability. You can't never change your course after you've registered your choice.

((!)) Japanese teacher's lesson (face-to-class) : Monday 5th period principally in Japanese to explain the Frencl grammar
French teacher's lesson (face-to-face class) : Friday 4th period in French to put it in practice

春から開講するフランス語総合基礎A2－１の継続クラスです。しかし、フランス語を1年半程度学んだ人であれば、登録可能です。週2回、日本人とフランス人の先生がそれぞれ1回ずつ担当し、同じ教科書を用いて授業します。ふたりの教員の成績を合算して平均した結果がひとつの成績となりますので注意してください。会話を中心としたテキストですが、練習問題を通して「話す」「聞く」「読む」「書く」といった能力を総合的に伸ばすような、バランスのとれた学習を進めます。文法の学習においては、読むための文法だけでなく、話したり、書いたりするための文法を重視します。言語は文法だけを知っていてもあまり役に立ちません。むしろ、語彙や表現を豊富に学ぶことの方が、その言語の深い理解に繋がり、実践的にも役に立ちます。総合的で時代に合った方法でフランス語を学んでいきます。このセメスターでは特にフランス語で自分の考えや経験について説明するためのトレーニングを積みます。 所属学部でフランス語の授業が選択できない学生、所属する学部の授業だけでは不足を感じる学生、将来、フランスに旅行に行ったり留学したいという希望を持っている学生、どんな分野でもいいがフランスに関係のある分野に興味を抱いている学生のためのクラスです。
教科書は、欧州評議会による外国語学習の「共通参照枠」にもとづいたものを用います。フランスの大学への入学資格がえられるDELF／DALFの受験にも将来的に役立ちます。
学習内容についてはWebシラバスの備考欄をよく参照すること。自分のレベルに合うかどうかよく検討しましょう。なお日本人講師の授業は日本語とフランス語で行われます。日本語が理解できない場合は、履修できませんので注意してください。
※ ガイダンスと試験は日本人教員とネイティブ教員により1度ずつ行われます。授業実施日は下記の曜日を参考してください。

※ 上記の英語による注意事項に記されていますが、2023年度後期につきましては以下の通りに授業が実施されます。

日本人教員（対面授業）: 月曜5限
ネイティブ教員（対面授業）: 水曜1限

授業の到達目標: フランス製の教科書を使いこなして、コミュニケーションに役立つ語学力を身につける。

事前・事後学習の内容: 事前・事後学習の内容 テキストの新出単語は調べてよく理解してから授業に臨み、また授業後は学習を定着させるため入念な復習をしましょう。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
ガイダンス（1）授業概要の※印を参照
第2回
ガイダンス（2）授業概要の※印を参照
第3回
第19課 場所を比較する、場所に関する意見を述べる（1）
第4回
第19課 場所を比較する、場所に関する意見を述べる（2）

第5回
第19課　場所を比較する、場所に関する意見を述べる（3）
第6回
第19課　場所を比較する、場所に関する意見を述べる（4）
第7回
第20課　ふたつの状況を比較する、自分を正当化する（1）
第8回
第20課　ふたつの状況を比較する、自分を正当化する（2）
第9回
第20課　ふたつの状況を比較する、自分を正当化する（3）
第10回
第20課　ふたつの状況を比較する、自分を正当化する（4）
第11回
まとめの復習
第12回
第21課　思い出を語る（1）
第13回
第21課　思い出を語る（2）
第14回
第21課　思い出を語る（3）
第15回
第21課　思い出を語る（4）
第16回
第22課　就職活動をする（1）
第17回
第22課　就職活動をする（2）
第18回
第22課　就職活動をする（3）
第19回
第22課　就職活動をする（4）
第20回
まとめの復習
第21回
第23課　休暇について述べる、感情を表わす（1）
第22回
第23課　休暇について述べる、感情を表わす（2）
第23回
第23課　休暇について述べる、感情を表わす（3）
第24回
第23課　休暇について述べる、感情を表わす（4）
第25回
第24課　事件について語る、状況を説明する（1）
第26回
第24課　事件について語る、状況を説明する（2）
第27回
第24課　事件について語る、状況を説明する（3）
第28回
第24課　事件について語る、状況を説明する（4）

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　Festival A1, CLE international社
※ 教科書の入手方法については Moodle のアナウンスメントあるいは日本人教員の初回授業の指示を参考にしてください。

参考文献：　『フランス語で広がる世界』駿河台出版社（フランス語を学ぶと将来どんなことができるかが、様々な人の体験を通して語られています）

成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	60	教材の内容の理解度を得点で測ります（学部および大学院に所属する受講生に共通します）。
レポート:	10	授業内に実施されるコメント・ペーパー等の内容に応じて評価を与えます（学部および大学院に所属する受講生に共通します）。
平常点評価:	20	授業内で解いた練習問題等の得点で測ります（学部および大学院に所属する受講生に共通します）。
その他:	10	授業への参加の姿勢を判断します（学部および大学院に所属する受講生に共通します）。
備考・関連URL:	『フェスティバル1』(19-24課) 【既習とされる文法事項】（A1－1） tre / avoir / s'appeler / -er動詞 / -ir動詞 / 不規則動詞 / 定冠詞 l'article dfini / 縮約 les articles contracs / 疑問詞 o / 不定冠詞 l'article indfini / 疑問形容詞 quel （A1－2） 疑問形 Est-ce que ... / pouvoir / 命令形 l'impratif / 否定形 la forme ngative / vouloir / 部分冠詞l'article partitif / 否定の“de”“de”de ngation / 不定代名詞 on / 所有形容詞 les adjectifs possessifs / 疑問代名詞 les pronoms interrogatifs / 直接目的語les pronoms COD / 中性代名詞“y” pronom neutre“y”（A2－1） 間接目的語les pronoms COI / 指示形容詞 les adjectifs dmonstratifs / 否定命令形 l'impratif ngatif / 代名動詞 les verbes pronominaux / 命令形 + 目的語l'impratif + pronom / 疑問詞o & quand / 直説法単純未来 le futur simple / 最上級les superlatifs / 非人称表現の動詞les verbes impersonnels / 近接未来le futur proche / 比較級le comparatif / tre en train de ... / 近接過去le pass rcent 【今学期の文法事項】 ne ... personne / ne ... rien / 条件法le conditionnel / 原因と目的の表現l'expression de cause & but / 直説法半過去形l'imparfait / ne ... que / 直説法複合過去形le pass compos / ne ... jamais	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050205|01|9S06050205[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	フランス語総合上級		
担 当 教 員	ボォ・小林 シルヴィ		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	フランス語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

Le cours s'organisera autour de la découverte progressive d'un reportage audiovisuel choisi par l'enseignant. Des exercices permettront d'en expliquer les principales structures, le vocabulaire et la grammaire le cas échéant. Les étudiants confronteront leurs idées sous forme de mini-débat, de discussion ou d'argumentation. Selon le sujet abordé, les étudiants pourront également être amenés à réfléchir collectivement aux réponses et arguments possibles sur le thème. Chaque reportage sera clôturé par un exercice à la maison : résumé et reportage et courte dissertation sur le thème.

授業では選んだヴィデオ・ルポルタージュを少しずつ紹介していきます。そしていくつかの練習をとおして、ルポルタージュの主要な構造、語彙、必要があれば文法も説明します。みなさんは討議、議論、論証をしながらお互いに考えをつき合わせることになるでしょう。扱う主題によっては、テーマに関する応答や議論をグループで考えてもらうこともあります。一つのルポルタージュが終わるたびに、レジュメ、報告、短い論述文を宿題として課します。

授業の到達目標：

À partir d'un document audiovisuel, les étudiants seront amenés à exprimer leurs avis, opinions, sentiments sur un fait de société, un sujet d'actualité et apprendront à débattre.

ヴィデオの資料を用いて、学生は、社会のできごとや現代的なテーマについて、自分の考え、意見、感情を表明するように求められ、議論することが出来るようになります。

事前・事後学習の内容：

Pour préparer la leçon, réviser ce qui a été fait dans les cours précédents.
Des exercices à faire à la maison sont donnés à la fin de chaque cours.

レッスンの準備をするには、前のレッスンを復習することが大事です。
毎回レッスンを終わりましたら、課題が出ます。

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：Introduction/ Clip musical 1/2

Selon les goûts exprimés par les étudiants, nous choisirons un clip musical à étudier au choix parmi les artistes Stromae, Tryo, Zaz...

第2回：Clip musical 2/2

Étude du clip musical choisi au premier cours, suite et fin.

第3回：L'art progresse dans la rue 1/2

Dans les années 90, les graffitis et tags étaient considérés comme du vandalisme. Aujourd'hui l'art de rue a pris place dans les musées.Décrire une œuvre d'art urbain, débattre de l'évolution paradoxale de l'art urbain.

第4回：L'art progresse dans la rue 2/2

Dans les années 90, les graffitis et tags étaient considérés comme du vandalisme. Aujourd'hui l'art de rue a pris place dans les musées.
Décrire une œuvre d'art urbain, débattre de l'évolution paradoxale de l'art urbain.Exercice à la maison:résumé du reportage et courte rédaction.

第5回：Un potager sur le toit 1/2

Un nouveau mode de culture arrive dans les assiettes; l'aéroponique. Encore expérimentale, la production industrielle est pour demain.
Présenter une innovation, débattre de l'intérêt et des risques de l'agriculture aéroponique.

第6回：Un potager sur le toit 2/2

Un nouveau mode de culture arrive dans les assiettes; l'aéroponique. Encore expérimentale, la production industrielle est pour demain.
Présenter une innovation, débattre de l'intérêt et des risques de l'agriculture aéroponique.
Exercice à la maison: résumé du reportage et courte rédaction.

第7回：Les voitures qui électrisent la Norvège 1/2

La Norvège incite ses citoyens à acquérir des véhicules électriques grâce à une multitude de privilèges. Mais ces avantages ne font pas que des heureux.
Comparer des moyens de transport, analyser l'angle du reportage.

第8回：Les voitures qui électrisent la Norvège 2/2

La Norvège incite ses citoyens à acquérir des véhicules électriques grâce à une multitude de privilèges. Mais ces avantages ne font pas que des heureux.
Comparer des moyens de transport, analyser l'angle du reportage.Exercice à la maison:résumé du reportage et courte rédaction

第9回：Le cri d'alarme du GIEC 1/2

Pourquoi faut-il s'inquiéter du réchauffement climatique ?
Formuler des hypothèses sur le futur de l'humanité et de la planète.

第10回：Le cri d'alarme du GIEC 2/2

Pourquoi faut-il s'inquiéter du réchauffement climatique ?
Formuler des hypothèses sur le futur de l'humanité et de la planète.
Exercice à la maison: résumé du reportage et courte rédaction.

第11回：L'université française plus chère pour les étrangers ? 1/2

En France, le délicat sujet des frais de scolarité est relancé : doit-on les augmenter pour les étudiants étrangers ?
Se renseigner sur des universités étrangères, rédiger un tract pour mobiliser les étudiants étrangers.

第12回：L'université française plus chère pour les étrangers ? 2/2

En France, le délicat sujet des frais de scolarité est relancé : doit-on les augmenter pour les étudiants étrangers ?
Se renseigner sur des universités étrangères, rédiger un tract pour mobiliser les étudiants étrangers.
Exercice à la maison: résumé du reportage et courte rédaction.

第13回：Des logos à gogo 1/2

Ce reportage revient sur l'histoire des logos de certaines grandes marques, et s'intéresse à leur impact sur les consommateurs.Inventer un logo et expliquer ses choix, décrire et analyser des logos.

第14回：Des logos à gogo 1/2

Ce reportage revient sur l'histoire des logos de certaines grandes marques, et s'intéresse à leur impact sur les consommateurs.
Inventer un logo et expliquer ses choix, décrire et analyser des logos.
Exercice à la maison: résumé du reportage et courte rédaction.

言語区分：　0　フランス語　French

教科書：　なし

参考文献：　なし

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	30	Exposé oral et texte de l'exposé à rendre à l'écrit. 口頭発表およびその原稿の提出
レポート：	30	Devoirs à la maison: deux exercices: résumer le reportage étudié et écrire une rédaction sur le thème du reportage. 宿題を出します。二つの練習です。学んだルポルタージュをレジュメすること、ルポルタージュのテーマについて論述すること。
平常点評価：	30	Présence et participation en cours 出席および授業への参加。
その他：	10	Dynamisme, attitude イナミズム、態度

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050321|01|9S06050321[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	広東語（入門）		
担 当 教 員	小林 さつき		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 初めて広東語を学ぶ人のために

授業概要: 広東語は香港や広東省をはじめ、シンガポール、マレーシアなど多くの国や地域で使用されている。中国語の方言のひとつである広東語だが、いわゆる中国語（標準語）とは、発音や語彙などにおいて大きな違いが見られ、互いにコミュニケーションがとれない程の差異がある。特に発音は大きく異なり、現代中国語にはない特徴が見られる興味深いことばである。
授業では、発音を基礎から学び、反復練習することで正しい発音を身につける。さらに簡単な会話ができるよう、広東語でのコミュニケーション能力の基礎を養成する。また、広東語の主要使用地域である香港の文化についても学ぶ。

授業の到達目標: 拼音を見て、正しい発音ができるようにする。
簡単な挨拶や会話を聞いて、内容を理解し、適切な返答ができるようにする。

事前・事後学習の内容: 受講後に、授業で扱った内容をもとに課題を提出してもらうことがあります。所要時間は30分程度の予定です。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション
広東語の特徴及び表記方法について 広東語の使用地域について
第2回 発音（1）
声調、母音の発音練習 簡単な挨拶
第3回 発音（2）
声調、母音の発音練習 簡単な挨拶
第4回 発音（3）
子音の発音練習 疑問詞を用いた疑問文
第5回 日常会話（1）
人称代名詞・動詞述語文
第6回 日常会話（2）
疑問詞を用いた表現
第7回 日常会話（3）
数字に関する表現
第8回 日常会話（4）
量詞を用いた表現
第9回 中間試験

第10回 日常会話（5）
指示代名詞・形容詞を用いた表現
第11回 日常会話（6）
存在を表す表現
第12回 日常会話（7）
連動文・前置詞を用いた表現
第13回 日常会話（8）
時を表す表現・助動詞を用いた表現

第14回　期末試験

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　飯田真紀『ニューエクスプレスプラス広東語』白水社

※必ず「プラス＋」のついたものを購入してください。
旧バージョンの『ニューエクスプレス広東語』は購入しないでください。

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　60　定期試験を行い、習得度を測って評価する。

平常点評価:　40　授業時に行う会話練習の習得度・参加態度をもとに評価する。

備考・関連URL:

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050322|01|9S06050322[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	広東語（初級）		
担 当 教 員	小林　さつき		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　「広東語入門」の次のステップへ

授業概要：　春学期開講の広東語（入門）で身につけた広東語の基礎を定着させ、より多くの表現を学ぶ。
広東語は香港や広東省をはじめ、シンガポール、マレーシアなど多くの国や地域で使用されている。中国語の方言のひとつである広東語だが、いわゆる中国語（標準語）とは、発音や語彙などにおいて大きな違いが見られ、互いにコミュニケーションがとれない程の差異がある。特に発音は大きく異なり、現代中国語にはない特徴が見られる興味深いことばである。 授業では、春学期の広東語（入門）に引き続き、広東語の基礎を学ぶ。簡単な挨拶や会話表現を用いて正確な発音の定着を図るとともに、文法を理解し、簡単な表現を組み立てられるようにする。また、広東語の主要使用地域である香港の文化についても学ぶ。

授業の到達目標：　前期に引き続き、発音の定着を図り、正確な発音ができるようにする。また広東語の音に耳を慣らし、簡単な会話を正確に聞き取れるようにする。
あわせて文法や語彙も学習し、簡単な会話のやり取りができるようにする。

事前・事後学習の内容：　受講後、授業で扱った内容をもとに、課題を提出してもらうことがあります。所要時間：30分程度を予定しています。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　オリエンテーション・発音の確認
広東語の文法の概要の説明。 発音を見直し、正しい発音ができているかを確認する。
第2回　日常会話（1）
意思を伝える
語気助詞を用いた表現
第3回　日常会話（2）
値引き交渉をする比較の表現（1）・助動詞を用いた表現
第4回　日常会話（3）
過去に行ったことを表現する
完了・実現の表現

第5回　日常会話（4）
依頼表現選択疑問文

第6回　日常会話（5）
経験のアスペクトを用いた表現
第7回　中間試験

第8回　日常会話（6）
進行のアスペクトを用いた表現
第9回　日常会話（7）
比較の表現（2）
第10回　会話練習
既習内容を用いた会話練習

第11回　日常会話（8）
結果補語
第12回　日常会話（9）
方向補語
第13回　復習
学習した内容の確認
応用会話
第14回　期末試験

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　飯田真紀『ニューエクスプレスプラス広東語』

※必ず「プラス＋」のついたものを購入してください。
旧バージョンの『ニューエクスプレス広東語』は購入しないでください。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　60　定期試験を行い、習得度を測り、評価する。

平常点評価：　40　授業の中で行う会話練習の習得度や参加態度、会話テストの成果をもとに評価する。

備考・関連URL：　春学期開講の広東語（入門）履修者または半年程度の広東語学習歴のある学生のみ履修可能。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050331|01|9S06050331[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 初中級 α 01		
担 当 教 員	村上 公一		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語(Tutorial)	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 中国語圏で日常生活を送るのに最低限必要なトピックを扱う。中国語のコミュニケーション力の基礎を身につけること、特にスピーキング力の向上を目的とする。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。
＊この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。
＊春学期は「初中級α」「初中級β」を開講する。秋学期は「準中級α」「準中級β」を開講する。
＊「初中級」は週2コマ1年～2年程度履修したレベル。「準中級」は週2コマ1年半～2年半程度履修したレベル。
＊この科目では、週1回、連続2コマの授業が行われる。
＊中国語未習者は履修できません。

授業の到達目標: 簡単な単語を用いた短いフレーズを話し、日常生活を送るために最低限必要な質問をしたり、経験や状況の説明をしたりすることができる。扱うトピックは「趣味について話す」「電話をする」「天気について話す」などである。

例: 我喜欢唱歌。/你的电话号码是多少？/地铁站在哪儿？/昨天晚上我看了三个小时电视。

事前・事後学習の内容: 事前学習:教科書の予習(音読、理解)
事後学習:学習内容の復習と作文課題
毎週3時間程度の予復習が必要です。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット(教員による切替可)

授業計画:

第1回
ガイダンス、グループ分け
第2回
ガイダンス、グループ分け
第3回
第1課 「谈爱好」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第4回
第1課 「谈爱好」 会話実践:趣味について尋ねる、自分の趣味を紹介する
第5回
第2課 「打电话」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第6回
第2課 「打电话」 会話実践:電話をかける、伝言を伝える
第7回
第3課 「旅行」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第8回
第3課 「旅行」 会話実践:旅行した場所を紹介する、旅行した感想を話す
第9回
第4課 「约定」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第10回
第4課 「约定」 会話実践:時間、場所を約束する、友達と出かけるときの約束
第11回
第5課 「谈天气」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第12回
第5課 「谈天气」 会話実践:天気、四季について話す、違う場所の四季を比較する

第13回
発表
第14回
発表

言語区分: 0 中国語 Chinese

教科書: 『快楽学漢語・説漢語−初中級中国語会話』
Webサイト上の教材

参考文献: 特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 1）原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。
2）平常点評価（70）%
全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。
3）その他（30）%
①出席の評価 5%
②作文課題の評価 5%
③発表の評価 20%

備考・関連URL: 1）Web教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2）中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050331|02|9S06050331[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 初中級 α 02		
担 当 教 員	李 棋		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語（Tutorial）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: この授業は対面授業です。

中国語圏で日常生活を送るのに最低限必要なトピックを扱う。中国語のコミュニケーション力の基礎を身につけること、特にスピーキング力の向上を目的とする。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。

＊この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。
春学期は「初中級α」「初中級β」を開講する。秋学期は「準中級α」「準中級β」を開講する。

＊初心者は履修できません。
「初中級」：週2回、1年～2年程度履修したレベル
「準中級」：週2回、1年半～2年半程度履修したレベル

授業の到達目標: 簡単な単語を用いた短いフレーズを話し、日常生活を送るために最低限必要な質問をしたり、経験や状況の説明をしたりすることができる。扱うトピックは「趣味について話す」「電話をする」「天気について話す」などである。
例: 我喜欢唱歌。/你的电话号码是多少？/地铁站在哪儿？/昨天晚上我看了三个小时电视。

事前・事後学習の内容: 事前学習：①CDを活用しながら、該当箇所の発音を繰り返し練習すること ②文法の解説を読むこと ③応用練習の内容を準備すること
事後学習：①CDを活用しながら、授業内容を復習すること。 ②課題の作文を書くこと
週に3時間程度

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: この科目では、週1回、1限、2限の連続授業が行われる。

「第1回」 ガイダンス、グループ分け
「第2回」 ガイダンス、グループ分け
「第3回」 第1課 「谈爱好」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第4回」 第1課 「谈爱好」 会話実践：趣味について尋ねる、自分の趣味を紹介する
「第5回」 第2課 「打电话」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第6回」 第2課 「打电话」 会話実践：電話をかける、伝言を伝える
「第7回」 第3課 「旅行」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第8回」 第3課 「旅行」 会話実践：旅行した場所を紹介する、旅行した感想を話す
「第9回」 第4課 「约定」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第10回」 第4課 「约定」 会話実践：時間、場所を約束する、友達と出かけるときの約束
「第11回」 第5課 「谈天气」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第12回」 第5課 「谈天气」 会話実践：天気、四季について話す、違う場所の四季を比較する
「第13回」 発表
「第14回」 発表

言語区分: 0 中国語 Chinese

教科書: 『快楽学漢語・説漢語-初中級中国語会話』
Webサイト上の教材

参考文献: 特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 1）原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。

2)平常点評価(70)%
全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。
3)その他(30)%
①出席の評価　5%
②作文課題の評価 5%
③発表の評価 20%

備考・関連URL:　1) Web教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2) 中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい。

＊注意:
オンライン授業実施の時に授業の方法を以下のように変更します。
1. 本科目は1限、2限の連続授業です。当初の計画では1限に担当教員から全員向けに教科書の「新出単語」「文法」「本文」の解説等行い、2限に5名ずつのグループに分かれ、TAからのチュートリアルを行う予定でした。しかし、1限、2限連続のオンライン授業(Zoomを利用します)は皆さんへの過負担となること、大学としてネットへの負担の軽減が求められていることもあり、1限の学習はみなさんの自己学習とし、2限のみZoomを利用したオンライン授業を行います。
2. 1限目の内容に相当する自己学習は以下のことを行ってください。1)「新出単語」:音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解し、単語を使用して文を作ることができるようにする。2)「文法」:文法の日本語説明と例文を理解し、「文法練習」を解答する。3)「本文」:音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解する。自己学習は当日の1限目の時間で行っても、それ以前の空き時間に行っても構いませんが、必ず自己学習をしっかり行っておいてください。
3. 2限目のZoomを利用したオンライン授業では、5名ずつのグループに分かれTAからのチュートリアルを行います。内容は、初めに自己学習の内容(「新出単語」「文法」「文法練習」「本文」)についての確認を行い、続いて会話練習や応用練習を行います。授業は「自己学習」がしっかり行われていることを前提に行われます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050332|01|9S06050332[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 初中級 β 01		
担 当 教 員	村上 公一		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語（Tutorial）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 中国語圏で日常生活を送るのに最低限必要なトピックを扱う。中国語のコミュニケーション力の基礎を身につけること、特にスピーキング力の向上を目的とする。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。
＊この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。
＊春学期は「初中級α」「初中級β」を開講する。秋学期は「準中級α」「準中級β」を開講する。
＊「初中級」は週2コマ1年～2年程度履修したレベル。「準中級」は週2コマ1年半～2年半程度履修したレベル。
＊この科目では、週1回、連続2コマの授業が行われる。
＊中国語未習者は履修できません。

授業の到達目標: 簡単な単語を用いた短いフレーズを話し、日常生活を送るために最低限必要な質問をしたり、経験や状況の説明をしたりすることができる。扱うトピックは「趣味について話す」「電話をする」「天気について話す」などである。

例: 我喜欢唱歌。/你的电话号码是多少？/地铁站在哪儿？/昨天晚上我看了三个小时电视。

事前・事後学習の内容: 事前学習：教科書の予習（音読、理解）
事後学習：学習内容の復習と作文課題
＊毎週3時間程度の予復習が必要です。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
ガイダンス、グループ分け
第2回
ガイダンス、グループ分け
第3回
第1課 「谈经验」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第4回
第1課 「谈经验」 会話実践：他人の経験を尋ねる、自分の経験を紹介する
第5回
第2課 「点菜」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第6回
第2課 「点菜」 会話実践：料理を注文する、自分の食習慣を紹介する
第7回
第3課 「问路」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第8回
第3課 「问路」 会話実践：ある場所の行き方を紹介する、ある場所および付近の 建物を紹介する
第9回
第4課 「讨价还价」新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第10回
第4課 「讨价还价」会話実践：野菜や果物の値段を紹介する、自分好きな果物の値段およびどこで買うのかについて話す
第11回
第5課 「买衣服」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第12回
第5課 「买衣服」 会話実践：服、試着について話す、自分の好きな服や店を紹介する

第13回
発表
第14回
発表

言語区分: 0 中国語 Chinese

教科書: 『快楽学漢語・説漢語−初中級中国語会話』
Webサイト上の教材

参考文献: 特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 1）原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。
2）平常点評価（70）%
全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。
3）その他（30）%
①出席の評価 5%
②作文課題の評価 5%
③発表の評価 20%

備考・関連URL: 1）Web教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2）中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050332|02|9S06050332[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 初中級 β 02		
担 当 教 員	李 棋		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語（Tutorial）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: この授業は対面授業です。

中国語圏で日常生活を送るのに最低限必要なトピックを扱う。中国語のコミュニケーション力の基礎を身につけること、特にスピーキング力の向上を目的とする。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。

＊この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。
春学期は「初中級α」「初中級β」を開講する。秋学期は「準中級α」「準中級β」を開講する。

＊初心者は履修できません。
「初中級」:週2回、1年～2年程度履修したレベル

「準中級」:週2回、1年半～2年半程度履修したレベル

授業の到達目標: 簡単な単語を用いた短いフレーズを話し、日常生活を送るために最低限必要な質問をしたり、経験や状況の説明をしたりすることができる。扱うトピックは「経験について話す」「レストランで注文する」「服を買う」などである。
例: 我喜欢唱歌。/你的电话号码是多少？/地铁站在哪儿？/昨天晚上我看了三个小时电视。

事前・事後学習の内容: 事前学習:①CDを活用しながら、該当箇所の発音を繰り返し練習すること ②文法の解説を読むこと ③応用練習の内容を準備すること
事後学習:①CDを活用しながら、授業内容を復習すること。 ②課題の作文を書くこと
週に3時間程度

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: この科目では、週1回、1限、2限の連続授業が行われる。]

「第1回」 ガイダンス、グループ分け
「第2回」 ガイダンス、グループ分け
「第3回」 第1課 「谈经验」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第4回」 第1課 「谈经验」 会話実践:他人の経験を尋ねる、自分の経験を紹介する
「第5回」 第2課 「点菜」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第6回」 第2課 「点菜」 会話実践:料理を注文する、自分の食習慣を紹介する
「第7回」 第3課 「问路」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第8回」 第3課 「问路」 会話実践:ある場所の行き方を紹介する、ある場所および付近の建物を紹介する
「第9回」 第4課 「讨价还价」新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第10回」 第4課 「讨价还价」会話実践:野菜や果物の値段を紹介する、自分好きな果物の値段およびどこで買うのかについて話す
「第11回」 第5課 「买衣服」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第12回」 第5課 「买衣服」 会話実践:服、試着について話す、自分の好きな服や店を紹介する
「第13回」 発表
「第14回」 発表

言語区分: 0 中国語 Chinese

教科書: 『快楽学漢語・説漢語-初中級中国語会話』
Webサイト上の教材

参考文献: 特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 1）原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。
2）平常点評価（70）%
全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。

3)その他(30)%
①出席の評価　5%
②作文課題の評価 5%
③発表の評価 20%

備考・関連URL:　1) Web教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2) 中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい。

＊注意:
オンライン授業実施の時に授業の方法を以下のように変更します。
1. 本科目は1限、2限の連続授業です。当初の計画では1限に担当教員から全員向けに教科書の「新出単語」「文法」「本文」の解説等行い、2限に5名ずつのグループに分かれ、TAからのチュートリアルを行う予定でした。しかし、1限、2限連続のオンライン授業(Zoomを利用します)は皆さんへの過負担となること、大学としてネットへの負担の軽減が求められていることもあり、1限の学習はみなさんの自己学習とし、2限のみZoomを利用したオンライン授業を行います。
2. 1限目の内容に相当する自己学習は以下のことを行ってください。1)「新出単語」:音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解し、単語を使用して文を作ることができるようにする。2)「文法」:文法の日本語説明と例文を理解し、「文法練習」を解答する。3)「本文」:音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解する。自己学習は当日の1限目の時間で行っても、それ以前の空き時間に行っても構いませんが、必ず自己学習をしっかり行っておいてください。
3. 2限目のZoomを利用したオンライン授業では、5名ずつのグループに分かれTAからのチュートリアルを行います。内容は、初めに自己学習の内容(「新出単語」「文法」「文法練習」「本文」)についての確認を行い、続いて会話練習や応用練習を行います。授業は「自己学習」がしっかり行われていることを前提に行われます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050333|01|9S06050333[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 準中級 α 01		
担 当 教 員	村上 公一		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語（Tutorial）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 中国語圏で日常生活を送る上での広範囲なトピックを扱う。トピックは「住所と交通手段を説明する」「知人の家を訪問する」「病院で診察を受ける」などです。中国語のコミュニケーション力を身につけること、特にスピーキング力の向上を目的とする。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。
＊この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。
＊春学期は「初中級α」「初中級β」を開講する。秋学期は「準中級α」「準中級β」を開講する。
＊「初中級」は週2コマ1年～2年程度履修したレベル。「準中級」は週2コマ1年半～2年半程度履修したレベル。
＊この科目では、週1回、連続2コマの授業が行われる。
＊中国語未習者は履修できません。

授業の到達目標: 補語や接続詞を用いた簡単な中国語を聴き取ることと、身近な事柄に関して自分の意思を伝えることができる。
例：A:内科在哪儿？ B:在二层，从这儿走上去。/要是今天休息，我就去看电影。

事前・事後学習の内容: 事前学習:教科書の予習（音読、理解）
事後学習:学習内容の復習と作文課題
＊毎週3時間程度の予復習が必要です。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
ガイダンス、グループ分け
第2回
ガイダンス、グループ分け
第3回
第1課 「坐地铁」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第4回
第1課 「坐地铁」 会話実践:家の位置を説明する、家からある場所までの交通手段を説明する
第5回
第2課 「拜访」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第6回
第2課 「拜访」 会話実践:人を訪ねるときの表現、友達と面会するときの表現
第7回
第3課 「租房」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第8回
第3課 「租房」 会話実践:部屋を借りるときの表現、家のレイアウトを説明する
第9回
第4課 「看病」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第10回
第4課 「看病」 会話実践:病院での診療についての表現、診療を受けた経験について話す
第11回
第5課 「登机」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第12回
第5課 「登机」 会話実践:新幹線のチケットなどを予約する、旅行準備（交通手段、荷物など）について話す

第13回
発表
第14回
発表

言語区分: 0 中国語 Chinese

教科書: 『快楽学漢語・説漢語−準中級中国語会話』
Webサイト上の教材

参考文献: 特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 1）原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。
2）平常点評価（70）%
全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。
3）その他（30）%
①出席の評価 5%
②作文課題の評価 5%
③発表の評価 20%

備考・関連URL: 1）Web教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2）中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050333|02|9S06050333[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 準中級 α 02		
担 当 教 員	李 棋		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語（Tutorial）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

この授業は対面授業です。

中国語圏で日常生活を送る上での広範囲なトピックを扱う。トピックは「住所と交通手段を説明する」「知人の家を訪問する」「病院で診察を受ける」などです。中国語のコミュニケーション力を身につけること、特にスピーキング力の向上を目的とする。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。

＊この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。
春学期は「初中級α」「初中級β」を開講する。秋学期は「準中級α」「準中級β」を開講する。

＊初心者は履修できません。
「初中級」：週2回、1年～2年程度履修したレベル

「準中級」：週2回、1年半～2年半程度履修したレベル

授業の到達目標：

補語や接続詞を用いた簡単な中国語を聴き取ることと、身近な事柄に関して自分の意思を伝えることができる。
例：A：内科在哪儿？ B：在二层，从这儿走上去。/要是今天休息，我就去看电影。

事前・事後学習の内容：

事前学習：①CDを活用しながら、該当箇所の発音を繰り返し練習すること ②文法の解説を読むこと ③応用練習の内容を準備すること
事後学習：①CDを活用しながら、授業内容を復習すること。 ②課題の作文を書くこと
週に3時間程度

授業計画フリー入力サイン：

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

この科目では、週1回、1限、2限の連続授業が行われる。
「第1回」 ガイダンス、グループ分け
「第2回」 ガイダンス、グループ分け
「第3回」 第1課 「坐地铁」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第4回」 第1課 「坐地铁」 会話実践：家の位置を説明する、家からある場所までの交通手段を説明する
「第5回」 第2課 「拜访」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第6回」 第2課 「拜访」 会話実践：人を訪ねるときの表現、友達と面会するときの表現
「第7回」 第3課 「租房」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第8回」 第3課 「租房」 会話実践：部屋を借りるときの表現、家のレイアウトを説明する
「第9回」 第4課 「看病」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第10回」 第4課 「看病」 会話実践：病院での診療についての表現、診療を受けた経験について話す
「第11回」 第5課 「登机」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第12回」 第5課 「登机」 会話実践：新幹線のチケットなどを予約する、旅行準備（交通手段、荷物など）について話す
「第13回」 発表
「第14回」 発表

言語区分：

0 中国語 Chinese

教科書：

『快楽学漢語・説漢語-準中級中国語会話』
Webサイト上の教材

参考文献：

特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン：

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：

1）原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。
2）平常点評価（70）％
全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。
3）その他（30）％
①出席の評価 5%

②作文課題の評価 5%
③発表の評価 20%

備考・関連URL: 1) Web教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2) 中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい。

＊注意:
オンライン授業実施の時に授業の方法を以下のように変更します。
1. 本科目は1限、2限の連続授業です。当初の計画では1限に担当教員から全員向けに教科書の「新出単語」「文法」「本文」の解説等行い、2限に5名ずつのグループに分かれ、TAからのチュートリアルを行う予定でした。しかし、1限、2限連続のオンライン授業(Zoomを利用します)は皆さんへの過負担となること、大学としてネットへの負担の軽減が求められていることもあり、1限の学習はみなさんの自己学習とし、2限のみZoomを利用したオンライン授業を行います。
2. 1限目の内容に相当する自己学習は以下のことを行ってください。1)「新出単語」:音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解し、単語を使用して文を作ることができるようにする。2)「文法」:文法の日本語説明と例文を理解し、「文法練習」を解答する。3)「本文」:音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解する。自己学習は当日の1限目の時間で行っても、それ以前の空き時間に行っても構いませんが、必ず自己学習をしっかり行っておいてください。
3. 2限目のZoomを利用したオンライン授業では、5名ずつのグループに分かれTAからのチュートリアルを行います。内容は、初めに自己学習の内容(「新出単語」「文法」「文法練習」「本文」)についての確認を行い、続いて会話練習や応用練習を行います。授業は「自己学習」がしっかり行われていることを前提に行われます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050334|01|9S06050334[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 準中級 β 01		
担 当 教 員	村上 公一		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語（Tutorial）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 中国語圏で日常生活を送る上での広範囲なトピックを扱う。トピックは「住所と交通手段を説明する」「知人の家を訪問する」「病院で診察を受ける」などです。中国語のコミュニケーション力を身につけること、特にスピーキング力の向上を目的とする。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。
＊この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。
＊春学期は「初中級α」「初中級β」を開講する。秋学期は「準中級α」「準中級β」を開講する。
＊「初中級」は週2コマ1年～2年程度履修したレベル。「準中級」は週2コマ1年半～2年半程度履修したレベル。
＊この科目では、週1回、連続2コマの授業が行われる。
＊中国語未習者は履修できません。

授業の到達目標: 補語や接続詞を用いた簡単な中国語を聴き取ることと、身近な事柄に関して自分の意思を伝えることができる。
例：A:内科在哪儿？ B:在二层，从这儿走上去。/要是今天休息，我就去看电影。

事前・事後学習の内容: 事前学習:教科書の予習（音読、理解）
事後学習:学習内容の復習と作文課題
＊毎週3時間程度の予復習が必要です。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
ガイダンス、グループ分け
第2回
ガイダンス、グループ分け
第3回
第1課 「住宿」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第4回
第1課 「住宿」 会話実践:ホテルや民宿を予約する、旅行準備（航空券、ホテルなど）について話す
第5回
第2課 「买东西」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第6回
第2課 「买东西」 会話実践:料理を注文する、旅行の経験について話す
第7回
第3課 「谈爱好」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第8回
第3課 「谈爱好」 会話実践:友達と試合を見に行くときの表現、好きなスポーツについて話す
第9回
第4課 「打工」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第10回
第4課 「打工」 会話実践: アルバイトに応募するときの表現、自分のアルバイトについて話す
第11回
第5課 「考试」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
第12回
第5課 「考试」 会話実践:試験を申し込むときの表現、自分の試験経験について話す
第13回
発表

第14回
発表

言語区分: 0 中国語 Chinese

教科書: 『快楽学漢語・説漢語−準中級中国語会話』
Webサイト上の教材

参考文献: 特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 1）原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。
2）平常点評価（70）%
全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。
3）その他（30）%
①出席の評価 5%
②作文課題の評価 5%
③発表の評価 20%

備考・関連URL: 1）Web教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2）中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050334|02|9S06050334[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 準中級 β 02		
担 当 教 員	李 棋		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語（Tutorial）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: この授業は対面授業です。

中国語圏で日常生活を送る上での広範囲なトピックを扱う。トピックは「買い物をする」「趣味について話す」「アルバイトをする」などです。中国語のコミュニケーション力を身につけること、特にスピーキング力の向上を目的とする。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。

＊この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。
春学期は「初中級α」「初中級β」を開講する。秋学期は「準中級α」「準中級β」を開講する。

＊初心者は履修できません。
「初中級」: 週2回、1年～2年程度履修したレベル

「準中級」: 週2回、1年半～2年半程度履修したレベル

授業の到達目標: 補語や接続詞を用いた簡単な中国語を聴き取ることと、身近な事柄に関して自分の意思を伝えることができる。
例: A:内科在哪儿？ B:在二层，从这儿走上去。/要是今天休息，我就去看电影。

事前・事後学習の内容: 事前学習:①CDを活用しながら、該当箇所の発音を繰り返し練習すること ②文法の解説を読むこと ③応用練習の内容を準備すること
事後学習:①CDを活用しながら、授業内容を復習すること。 ②課題の作文を書くこと
週に3時間程度

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: この科目では、週1回、1限、2限の連続授業が行われる。

「第1回」 ガイダンス、グループ分け
「第2回」 ガイダンス、グループ分け
「第3回」 第1課 「住宿」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第4回」 第1課 「住宿」 会話実践:ホテルや民宿を予約する、旅行準備（航空券、ホテルなど）について話す
「第5回」 第2課 「买东西」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第6回」 第2課 「买东西」 会話実践:料理を注文する、旅行の経験について話す
「第7回」 第3課 「谈爱好」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第8回」 第3課 「谈爱好」 会話実践:友達と試合を見に行くときの表現、好きなスポーツについて話す
「第9回」 第4課 「打工」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第10回」 第4課 「打工」 会話実践: アルバイトに応募するときの表現、自分のアルバイトについて話す
「第11回」 第5課 「考试」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第12回」 第5課 「考试」 会話実践:試験を申し込むときの表現、自分の試験経験について話す
「第13回」 発表
「第14回」 発表

言語区分: 0 中国語 Chinese

教科書: 『快楽学漢語・説漢語-準中級中国語会話』
Webサイト上の教材

参考文献: 特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 1）原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。
2）平常点評価（70）%
全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。
3）その他（30）%
①出席の評価 5%

②作文課題の評価 5%
③発表の評価 20%

備考・関連URL: 1) Web教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2) 中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい。

＊注意:
オンライン授業実施の時に授業の方法を以下のように変更します。
1. 本科目は1限、2限の連続授業です。当初の計画では1限に担当教員から全員向けに教科書の「新出単語」「文法」「本文」の解説等行い、2限に5名ずつのグループに分かれ、TAからのチュートリアルを行う予定でした。しかし、1限、2限連続のオンライン授業(Zoomを利用します)は皆さんへの過負担となること、大学としてネットへの負担の軽減が求められていることもあり、1限の学習はみなさんの自己学習とし、2限のみZoomを利用したオンライン授業を行います。
2. 1限目の内容に相当する自己学習は以下のことを行ってください。1)「新出単語」:音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解し、単語を使用して文を作ることができるようにする。2)「文法」:文法の日本語説明と例文を理解し、「文法練習」を解答する。3)「本文」:音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解する。自己学習は当日の1限目の時間で行っても、それ以前の空き時間に行っても構いませんが、必ず自己学習をしっかり行っておいてください。
3. 2限目のZoomを利用したオンライン授業では、5名ずつのグループに分かれTAからのチュートリアルを行います。内容は、初めに自己学習の内容(「新出単語」「文法」「文法練習」「本文」)についての確認を行い、続いて会話練習や応用練習を行います。授業は「自己学習」がしっかり行われていることを前提に行われます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050335|01|9S06050335[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 中級 α 01		
担 当 教 員	若林 ゆりん		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語(Tutorial)	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: この科目では対面授業です、週1回、連続2コマの授業が行われる。

日常生活の話題に加え、社会・文化などのトピックを扱う。扱うトピックは「学生生活」「北京と上海」「大学受験」などがある。中国語のコミュニケーション力を身につけること、特にスピーキング力の向上を目的とする。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。
＊この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。
＊「中級」(週2コマ2年～3年程度履修したレベル)

授業の到達目標: 前置詞や副詞、接続詞が含まれる複文などを使用して、日常生活や社会・文化に関するトピックについて話すことができる。

例:1、A:中国人请客总是要做很多菜，我觉得有点儿浪费。

B:很多外国人都这么说，但是这可能是中国文化的一部分吧。

2、幸亏我有奖学金，不然没办法生活。

3、随着经济的发展，人们的生活水平越来越高。

事前・事後学習の内容: 事前学習:CDを活用しながら、該当箇所の発音を繰り返し練習すること。
事後学習:CDを活用しながら、授業内容を復習すること。
毎週3時間程度の予復習が必要です。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

授業計画フリー:
「第1コマ」 ガイダンス、グループ分け
「第2コマ」 ガイダンス、グループ分け
「第3コマ」 第1課 「演唱会」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第4コマ」 第1課 「演唱会」 会話実践:介绍一个你喜欢的歌星并说明为什么喜欢他/她
谈谈你对追星族的看法
「第5コマ」 第2課 「大学生活」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第6コマ」 第2課 「大学生活」 会話実践:谈谈你现在的消费情况
谈谈你的大学生活
「第7コマ」 第3課 「北京和上海」新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第8コマ」 第3課 「北京和上海」会話実践:介绍两个你熟悉的城市，并比较两者间的异同
介绍一下你的家乡
「第9コマ」 第4課 「高考」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第10コマ」 第4課 「高考」 会話実践:谈谈在日本考大学的情况
谈谈你对高考的看法
「第11コマ」 第5課「请客」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第12コマ」 第5課「请客」 会話実践:谈谈日本人请客和中国人请客有什么不同
谈谈别的国家(中国以外)的人和日本人对待朋友或客人的方式有什么不同
「第13コマ」 発表
「第14コマ」 発表

言語区分: 0 中国語 Chinese

教科書: 『快楽学漢語・説漢語-中級中国語会話』
Webサイト上の教材

参考文献: 特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 1)原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。

2）平常点評価70%
　全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。
3）その他30%
　①出席の評価5%　②作文課題の評価5%　　③発表の評価20%

備考・関連URL:　1）教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2）中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050335|02|9S06050335[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 中級 α 02		
担 当 教 員	郎 潔		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語（Tutorial）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 日常生活の話題に加え、社会・文化などのトピックを扱う。扱うトピックは「学生生活」「北京と上海」「大学受験」などがある。中国語のコミュニケーション力を身につけること、特にスピーキング力の向上を目的とする。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。

＊この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。
＊春学期は「初中級α」「初中級β」、「中級α」「中級β」、「準上級α」「準上級β」を開講する。
＊秋学期は「準中級α」「準中級β」、「中上級α」「中上級β」、「上級α」「上級β」を開講する。
＊「初中級」（週2コマ1年～2年程度履修したレベル）
「準中級」（週2コマ1年半～2年半程度履修したレベル）
「中級」（週2コマ2年～3年程度履修したレベル）
「中上級」（週2コ マ2年半～3年半程度履修したレベル）
「準上級」（中国語で自己表現できる人）
「上級」（中国語で自己表現できる人）
各レベルに合った科目を履修すること。
＊この科目では、週1回、連続2コマの授業で行われる。

授業の到達目標: 前置詞や副詞、接続詞が含まれる複文などを使用して、日常生活や社会・文化に関するトピックについて話すことができる。

例：1、A：中国人请客总是要做很多菜，我觉得有点儿浪费。

B：很多外国人都这么说，但是这可能是中国文化的一部分吧。

2、幸亏我有奖学金，不然没办法生活。

3、随着经济的发展，人们的生活水平越来越高。

事前・事後学習の内容: 事前学習：CDを活用しながら、該当箇所の発音を繰り返し練習すること。（1時間）
事後学習：CDを活用しながら、授業内容を復習すること。（2時間）

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: この科目では、週1回、連続2コマの授業が行われる。
「第1コマ」 ガイダンス、グループ分け
「第2コマ」 ガイダンス、グループ分け
「第3コマ」 第1課 「演唱会」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第4コマ」 第1課 「演唱会」 会話実践：介绍一个你喜欢的歌星并说明为什么喜欢他/她，谈谈你对追星族的看法
「第5コマ」 第2課 「大学生活」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第6コマ」 第2課 「大学生活」 会話実践：谈谈你现在的消费情况，谈谈你的大学生活
「第7コマ」 第3課 「北京和上海」新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第8コマ」 第3課 「北京和上海」会話実践：介绍两个你熟悉的城市，并比较两者间的异同，介绍一下你的家乡
「第9コマ」 第4課 「高考」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第10コマ」 第4課 「高考」 会話実践：谈谈在日本考大学的情况，谈谈你对高考的看法

「第11コマ」 第5課「请客」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第12コマ」 第5課「请客」 会話実践：谈谈日本人请客和中国人请客有什么不同，谈谈别的国家（中国以外）的人和日本人对待朋友或客人的方式有什么不同
「第13コマ」 発表
「第14コマ」 発表

言語区分: 0 中国語 Chinese

教科書: 『快楽学漢語・説漢語−中級中国語会話』
Webサイト上の教材

参考文献: 特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 1）原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。
2）平常点評価70%
　全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。
3）その他30%
①出席の評価5%　②作文課題の評価5%　　③発表の評価20%

備考・関連URL: 1）Web教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2）中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい。

＊注意
オンライン授業実施の時に授業の方法を以下のように変更します。
1．本科目は1限、2限の2コマ連続授業です。当初の計画では1限に担当教員から全員向けに教科書の「新出単語」「文法」「本文」の解説等行い、2限に5名ずつのグループに分かれ、TAからのチュートリアルを行う予定でした。しかし、2コマ連続のオンライン授業（Zoomを利用します）は皆さんへの過負担となること、大学としてネットへの負担の軽減が求められていることもあり、1限の学習はみなさんの自己学習とし、2限のみZoomを利用したオンライン授業を行います。
2．1限目の内容に相当する自己学習は以下のことを行ってください。1）「新出単語」：音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解し、単語を使用して文を作ることができるようにする。2）「文法」：文法の日本語説明と例文を理解し、「文法練習」を解答する。3）「本文」：音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解する。自己学習は当日の1限目の時間で行っても、それ以前の空き時間に行っても構いませんが、必ず自己学習をしっかり行っておいてください。
3．2限目のZoomを利用したオンライン授業では、5名ずつのグループに分かれTAからのチュートリアルを行います。内容は、初めに自己学習の内容（「新出単語」「文法」「文法練習」「本文」）についての確認を行い、続いて会話練習や応用練習を行います。授業は「自己学習」がしっかり行われていることを前提に行われます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050336|01|9S06050336[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 中級 β 01		
担 当 教 員	若林 ゆりん		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語(Tutorial)	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: この科目では対面授業です、週1回、連続2コマの授業が行われる。

日常生活の話題に加え、社会・文化などのトピックを扱う。扱うトピックは「教育」「恋愛と結婚」「旧正月」などがある。中国語のコミュニケーション力を身につけること、特にスピーキング力の向上を目的とする。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。

＊この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。
「中級」(週2コマ2年～3年程度履修したレベル)
＊この科目では、週1回、連続2コマの授業が行われる。

授業の到達目標: 授業の到達目標:
前置詞や副詞、接続詞が含まれる複文などを使用して、日常生活や社会・文化に関するトピックについて話すことができる。
例:
1.A:中国人请客总是要做很多菜，我觉得有点儿浪费。
B:很多外国人都这么说，但是这可能是中国文化的一部分吧。
2.幸亏我有奖学金，不然没办法生活。
3.随着经济的发展，人们的生活水平越来越高。

事前・事後学習の内容: 事前学習:CDを活用しながら、該当箇所の発音を繰り返し練習すること。
事後学習:CDを活用しながら、授業内容を復習すること。
毎週3時間程度の予復習が必要です。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

授業計画フリー:
「第1コマ」 ガイダンス、グループ分け
「第2コマ」 ガイダンス、グループ分け
「第3コマ」 第1課 「教育」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第4コマ」 第1課 「教育」 会話実践:谈谈日本小学生的学习、生活情况
谈谈你对日本的小学或中学教育的看法
「第5コマ」 第2課 「婚姻恋爱」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第6コマ」 第2課 「婚姻恋爱」 会話実践:谈谈日本人的结婚观念、方式
谈谈你对婚姻的看法
「第7コマ」 第3課 「独生子女」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第8コマ」 第3課 「独生子女」 会話実践:谈谈独生子女和有兄弟姐妹的人各有什么好或不好的地
谈谈日本独生子女的情况
「第9コマ」 第4課 「春节」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第10コマ」 第4課 「春节」 会話実践:谈谈日本的新年跟中国的春节有什么不同介绍一个日本的节日
「第11コマ」 第5課 「找工作」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第12コマ」 第5課 「找工作」 会話実践:谈谈自己对找工作有什么打算 介绍一下日本大学生找工作的情况
「第13コマ」 発表
「第14コマ」 発表

言語区分: 0 中国語 Chinese

教科書: 『快楽学漢語・説漢語-中級中国語会話』
Webサイト上の教材

参考文献: 特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 1)原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。
2)平常点評価70%

全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。
3)その他30%
①出席の評価5% ②作文課題の評価5% ③発表の評価20%

備考・関連URL: 1) 教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2) 中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050336|02|9S06050336[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 中級 β 02		
担 当 教 員	郎 潔		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語（Tutorial）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 日常生活の話題に加え、社会・文化などのトピックを扱う。扱うトピックは「教育」「婚姻恋愛」「独生子女」などがある。中国語のコミュニケーション力を身につけること、特にスピーキング力の向上を目的とする。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。

＊この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。
＊春学期は「初中級α」「初中級β」、「中級α」「中級β」、「準上級α」「準上級β」を開講する。
＊秋学期は「準中級α」「準中級β」、「中上級α」「中上級β」、「上級α」「上級β」を開講する。
＊「初中級」（週2コマ1年～2年程度履修したレベル）
「準中級」（週2コマ1年半～2年半程度履修したレベル）
「中級」（週2コマ2年～3年程度履修したレベル）
「中上級」（週2コ マ2年半～3年半程度履修したレベル）
「準上級」（中国語で自己表現できる人）
「上級」（中国語で自己表現できる人）
各レベルに合った科目を履修すること。
＊この科目では、週1回、連続2コマの授業で行われる。

授業の到達目標: 授業の到達目標:
前置詞や副詞、接続詞が含まれる複文などを使用して、日常生活や社会・文化に関するトピックについて話すことができる。
例:
1.A:中国人请客总是要做很多菜，我觉得有点儿浪费。
B:很多外国人都这么说，但是这可能是中国文化的一部分吧。
2.幸亏我有奖学金，不然没办法生活。
3.随着经济的发展，人们的生活水平越来越高。

事前・事後学習の内容: 事前学習:CDを活用しながら、該当箇所の発音を繰り返し練習すること。（1時間）
事後学習:CDを活用しながら、授業内容を復習すること。（2時間）

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: この科目では、週一回、連続2コマの授業が行われる。「第1コマ」 ガイダンス、グループ分け
「第2コマ」 ガイダンス、グループ分け
「第3コマ」 第1課 「教育」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第4コマ」 第1課 「教育」 会話実践:谈谈日本小学生的学习、生活情况，谈谈你对日本的小学或中学教育的看法
「第5コマ」 第2課 「婚姻恋爱」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第6コマ」 第2課 「婚姻恋爱」 会話実践:谈谈日本人的结婚观念、方式，谈谈你对婚姻的看法
「第7コマ」 第3課 「独生子女」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第8コマ」 第3課 「独生子女」 会話実践:谈谈独生子女和有兄弟姐妹的人各有什么好或不好的地方，谈谈日本独生子女的情况
「第9コマ」 第4課 「春节」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第10コマ」 第4課 「春节」 会話実践:谈谈日本的新年跟中国的春节有什么不同，介绍一个日本的节日
「第11コマ」 第5課 「找工作」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第12コマ」 第5課 「找工作」 会話実践:谈谈自己对找工作有什么打算，介绍一下日本大学生找工作的情况
「第13コマ」 発表
「第14コマ」 発表

言語区分: 0 中国語 Chinese

教科書: 『快楽学漢語・説漢語-中級中国語会話』
Webサイト上の教材

参考文献: 特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 1）原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。
2）平常点評価70%
　全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。
3）その他30%
　①出席の評価5%　②作文課題の評価5%　　③発表の評価20%

備考・関連URL: 1） Web教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2） 中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい

＊注意
オンライン授業実施の時に授業の方法を以下のように変更します。
1．本科目は1限、2限の2コマ連続授業です。当初の計画では1限に担当教員から全員向けに教科書の「新出単語」「文法」「本文」の解説等行い、2限に5名ずつのグループに分かれ、TAからのチュートリアルを行う予定でした。しかし、2コマ連続のオンライン授業（Zoomを利用します）は皆さんへの過負担となること、大学としてネットへの負担の軽減が求められていることもあり、1限の学習はみなさんの自己学習とし、2限のみZoomを利用したオンライン授業を行います。
2．1限目の内容に相当する自己学習は以下のことを行ってください。1）「新出単語」：音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解し、単語を使用して文を作ることができるようにする。2）「文法」：文法の日本語説明と例文を理解し、「文法練習」を解答する。3）「本文」：音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解する。自己学習は当日の1限目の時間で行っても、それ以前の空き時間に行っても構いませんが、必ず自己学習をしっかり行っておいてください。

3．2限目のZoomを利用したオンライン授業では、5名ずつのグループに分かれTAからのチュートリアルを行います。内容は、初めに自己学習の内容（「新出単語」「文法」「文法練習」「本文」）についての確認を行い、続いて会話練習や応用練習を行います。授業は「自己学習」がしっかり行われていることを前提に行われます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050337|01|9S06050337[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 中上級 α 01		
担 当 教 員	若林 ゆりん		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語（Tutorial）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: この科目では対面授業です、週1回、連続2コマの授業が行われる。

中国の社会や文化、時事問題に関するトピックを扱う。扱うトピックは「中華街」「都市と農村」「魯迅」などがある。中国語のコミュニケーション力、特にスピーキング力を高める。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。

＊この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。
「中上級」（週2コ マ2年半～3年半程度履修したレベル）

授業の到達目標: 中国の社会・文化や時事問題に関するトピックについて、複文を使用したり、複数の文を組み立てたりして自分の考えをまとめ、論理的な文章で伝えることができる。
例: 1、互联网使我们的生活更丰富、更方便。但是同时，它也带来了一些不好的影响。应该引起人们的重视。
2、一方面，情人节是浪漫、甜蜜的，另一方面，情人节是伴随着商业化流行起来的，人们似乎忘记了这个节日本来的意义。

事前・事後学習の内容: 事前学習：CDを活用しながら、該当箇所の発音を繰り返し練習すること。
事後学習：CDを活用しながら、授業内容を復習すること。
毎週3時間程度の予復習が必要です。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: この科目では、週1回、連続2コマの授業が行われる。

中上級α
「第1コマ」 ガイダンス、グループ分け
「第2コマ」 ガイダンス、グループ分け
「第3コマ」 第1課 「互联网」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第4コマ」 第1課 「互联网」 会話実践：谈谈你的上网情况
谈谈互联网给人们带来哪些方便，有什么不好的影响
「第5コマ」 第2課 「中华街」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第6コマ」 第2課 「中华街」 会話実践：谈谈你对中国菜、中华街的印象
比较一下中国菜和日本菜有什么不同
「第7コマ」 第3課 「海归」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第8コマ」 第3課 「海归」 会話実践：谈谈留学与找工作的关系
谈谈你对留学的看法
「第9コマ」 第4課 「城市与农村」新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第10コマ」 第4課 「城市与农村」会話実践：谈谈日本城市和农村的现状
比较一下中国和日本的农村有什么不同或相同的地方
「第11コマ」 第5課「鲁迅」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第12コマ」 第5課「鲁迅」 会話実践：介绍一位你喜欢的日本作家
介绍一个你喜欢的小说或电影
「第13コマ」 発表
「第14コマ」 発表

言語区分: 0 中国語 Chinese

教科書: 『快楽学漢語・説漢語-中上級中国語会話』

参考文献: 特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 1）原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。

2）平常点評価70%
　全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。
3）その他30%
　①出席の評価5%　②作文課題の評価5%　　③発表の評価20%

備考・関連URL:　1）教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2）中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050337|02|9S06050337[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 中上級 α 02		
担 当 教 員	郎 潔		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語（Tutorial）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

中国の社会や文化、時事問題に関するトピックを扱う。扱うトピックは「中華街」「都市と農村」などである。中国語のコミュニケーション力、特にスピーキング力を高める。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。
この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。
春学期は「初中級α」「初中級β」、「中級α」「中級β」、「準上級α」「準上級β」を開講する。
秋学期は「準中級α」「準中級β」、「中上級α」「中上級β」、「上級α」「上級β」を開講する。

＊
「初中級」（週2コマ1年～2年程度履修したレベル）
「準中級」（週2コマ1年半～2年半程度履修したレベル）
「中級」（週2コマ2年～3年程度履修したレバル）
「中上級」（週2コマ2年半～3年半程度履修したレベル）
「準上級」（中国語で自己表現できる人）
「上級」（中国語で自己表現できる人）
各レベルに合った科目を履修すること。

授業の到達目標: 中国の社会・文化や時事問題に関するトピックについて、複文を使用したり、複数の文を組み立てたりして自分の考えをまとめ、論理的な文章で伝えることができる。
例：互联网使我们的生活更丰富、更方便。但是同时，它也带来了一些不好的影响。应该引起人们的重视。一方面，情人节是浪漫、甜蜜的，另一方面，情人节是伴随着商业化流行起来的，人们似乎忘记了这个节日本来的意义。

事前・事後学習の内容: 事前学習：CDを活用しながら、該当箇所の発音を繰り返し練習すること。（1時間）
事後学習：CDを活用しながら、授業内容を復習すること（2時間）

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: この科目では、週1回、連続2コマの授業が行われる。

「第1コマ」 ガイダンス、グループ分け
「第2コマ」 ガイダンス、グループ分け
「第3コマ」 第1課 「互联网」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第4コマ」 第1課 「互联网」 会話実践：谈谈你的上网情况，谈谈互联网给人们带来哪些方便，有什么不好的影响
「第5コマ」 第2課 「中华街」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第6コマ」 第2課 「中华街」 会話実践：谈谈你对中国菜、中华街的印象，比较一下中国菜和日本菜有什么不同
「第7コマ」 第3課 「海归」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第8コマ」 第3課 「海归」 会話実践：谈谈留学与找工作的关系，谈谈你对留学的看法
「第9コマ」 第4課 「城市与农村」新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第10コマ」 第4課 「城市与农村」会話実践：谈谈日本城市和农村的现状，比较一下中国和日本的农村有什么不同或相同的地方
「第11コマ」 第5課「鲁迅」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第12コマ」 第5課「鲁迅」 会話実践：介绍一位你喜欢的日本作家，介绍一个你喜欢的小说或电影
「第13コマ」 発表
「第14コマ」 発表

言語区分: 0 中国語 Chinese

教科書: 『快楽学漢語・説漢語-中上級中国語会話』
Webサイト上の教材

参考文献: 特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 1）原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。
2）平常点評価（70）％
　全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。
3）その他（30）％
①出席の評価　5％
②作文課題の評価 5％
③発表の評価 20％

備考・関連URL: 1） Web教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2） 中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい。

*注意

オンライン授業実施の時に授業の方法を以下のように変更します。
1．本科目は1限、2限の2コマ連続授業です。当初の計画では1限に担当教員から全員向けに教科書の「新出単語」「文法」「本文」の解説等行い、2限に5名ずつのグループに分かれ、TAからのチュートリアルを行う予定でした。しかし、2コマ連続のオンライン授業（Zoomを利用します）は皆さんへの過負担となること、大学としてネットへの負担の軽減が求められていることもあり、1限の学習はみなさんの自己学習とし、2限のみZoomを利用したオンライン授業を行います。
2．1限目の内容に相当する自己学習は以下のことを行ってください。1）「新出単語」：音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解し、単語を使用して文を作ることができるようにする。2）「文法」：文法の日本語説明と例文を理解し、「文法練習」を解答する。3）「本文」：音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解する。自己学習は当日の1限目の時間で行っても、それ以前の空き時間に行っても構いませんが、必ず自己学習をしっかり行っておいてください。
3．2限目のZoomを利用したオンライン授業では、5名ずつのグループに分かれTAからのチュートリアルを行います。内容は、初めに自己学習の内容（「新出単語」「文法」「文法練習」「本文」）についての確認を行い、続いて会話練習や応用練習を行います。授業は「自己学習」がしっかり行われていることを前提に行われます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050338|01|9S06050338[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 中上級 β 01		
担 当 教 員	若林 ゆりん		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語（Tutorial）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: この科目では対面授業です、週1回、連続2コマの授業が行われる。

中国の社会や文化、時事問題に関するトピックを扱う。扱うトピックは「台湾の屋台」「バレンタインデー」などがある。中国語のコミュニケーション力、特にスピーキング力を高める。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。

＊この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。
「中上級」（週2コ マ2年半～3年半程度履修したレベル）

授業の到達目標: 中国の社会・文化や時事問題に関するトピックについて、複文を使用したり、複数の文を組み立てたりして自分の考えをまとめ、論理的な文章で伝えることができる。
例: 1、互联网使我们的生活更丰富、更方便。但是同时，它也带来了一些不好的影响。应该引起人们的重视。

2、一方面，情人节是浪漫、甜蜜的，另一方面，情人节是伴随着商业化流行起来的，人们似乎忘记了这个节日本来的意义。

事前・事後学習の内容: 事前学習：CDを活用しながら、該当箇所の発音を繰り返し練習すること。
事後学習：CDを活用しながら、授業内容を復習すること。
毎週3時間程度の予復習が必要です。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
「第1コマ」 ガイダンス、グループ分け
「第2コマ」 ガイダンス、グループ分け
「第3コマ」 第1課 「台湾的夜市」新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第4コマ」 第1課 「台湾的夜市」会話実践：要想体会普通东京人的生活，应该去哪儿？介绍一下这个地方。
日本有没有类似台湾夜市的地方？介绍一下这个地方。
「第5コマ」 第2課 「跳槽」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第6コマ」 第2課 「跳槽」 会話実践：谈谈日本人对跳槽的看法
比较一下日本人和中国人（或其他国家的人）对跳槽的看法以及跳槽情况
「第7コマ」 第3課 「情人节」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第8コマ」 第3課 「情人节」 会話実践：谈谈日本的情人节及日本人对情人节的看法
谈谈你心目中理想的情人及你的恋爱观
「第9コマ」 第4課 「台湾的哈日族」新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第10コマ」 第4課 「台湾的哈日族」会話実践：介绍一下日本的某个族群或团体
谈谈你对媒体影响力的看法
「第11コマ」 第5課 「中日关系」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第12コマ」 第5課 「中日关系」 会話実践：谈谈日本人如何看待中日关系
谈谈日本的外交关系，比如对中、对美、对亚洲或其他国家
「第13コマ」 発表
「第14コマ」 発表

言語区分: 0 中国語 Chinese

教科書: 『快楽学漢語・説漢語-中上級中国語会話』

参考文献: 特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 1）原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。
2）平常点評価70%
全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。
3）その他30%
①出席の評価5% ②作文課題の評価5% ③発表の評価20%

備考・関連URL:　1）Web教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2）中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050338|02|9S06050338[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 中上級 β 02		
担 当 教 員	郎 潔		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語（Tutorial）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

中国の社会や文化、時事問題に関するトピックを扱う。扱うトピックは「台湾的夜市」「跳槽」などである。中国語のコミュニケーション力、特にスピーキング力を高める。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。

＊この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。

春学期は「初中級α」「初中級β」、「中級α」「中級β」、「準上級α」「準上級β」を開講する。
秋学期は「準中級α」「準中級β」、「中上級α」「中上級β」、「上級α」「上級β」を開講する。

＊「初中級」（週2コマ1年～2年程度履修したレベル）
「準中級」（週2コマ1年半～2年半程度履修したレベル）
「中級」（週2コマ2年～3年程度履修したレバル）
「中上級」（週2コマ2年半～3年半程度履修したレベル）
「準上級」（中国語で自己表現できる人）
「上級」（中国語で自己表現できる人）

各レベルに合った科目を履修すること。

授業の到達目標: 中国の社会・文化や時事問題に関するトピックについて、複文を使用したり、複数の文を組み立てたりして自分の考えをまとめ、論理的な文章で伝えることができる。
例: 互联网使我们的生活更丰富、更方便。但是同时，它也带来了一些不好的影响。应该引起人们的重视。

一方面，情人节是浪漫、甜蜜的，另一方面，情人节是伴随着商业化流行起来的，人们似乎忘记了这个节日本来的意义。

事前・事後学習の内容: 事前学習：CDを活用しながら、該当箇所の発音を繰り返し練習すること。（1時間）
事後学習：CDを活用しながら、授業内容を復習すること。（2時間）

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: この科目では、週1回、連続2コマの授業が行われる。

「第1コマ」 ガイダンス、グループ分け
「第2コマ」 ガイダンス、グループ分け
「第3コマ」 第1課 「台湾的夜市」新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第4コマ」 第1課 「台湾的夜市」会話実践：要想体会普通东京人的生活，应该去哪儿？介绍一下这个地方。日本有没有类似台湾夜市的地方？介绍一下这个地方。
「第5コマ」 第2課 「跳槽」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第6コマ」 第2課 「跳槽」 会話実践：谈谈日本人对跳槽的看法，比较一下日本人和中国人（或其他国家的人）对跳槽的看法以及跳槽情况
「第7コマ」 第3課 「情人节」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第8コマ」 第3課 「情人节」 会話実践：谈谈日本的情人节及日本人对情人节的看法，谈谈你心目中理想的情人及你的恋爱观
「第9コマ」 第4課 「台湾的哈日族」新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第10コマ」 第4課 「台湾的哈日族」会話実践：介绍一下日本的某个族群或团体，谈谈你对媒体影响力的看法
「第11コマ」 第5課 「中日关系」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第12コマ」 第5課 「中日关系」 会話実践：谈谈日本人如何看待中日关系，谈谈日本的外交关系，比如对中、对美、对亚洲或其他国家
「第13コマ」 発表
「第14コマ」 発表

言語区分: 0 中国語 Chinese

教科書: 『快楽学漢語・説漢語-中上級中国語会話』
Webサイト上の教材

参考文献: 特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 1）原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。
2）平常点評価（70）%
全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。
3）その他（30）%
①出席の評価 5%
②作文課題の評価 5%
③発表の評価 20%

備考・関連URL: 備考・関連URL:
1） Web教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2） 中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい。

*注意

オンライン授業実施の時に授業の方法を以下のように変更します。
1．本科目は1限、2限の2コマ連続授業です。当初の計画では1限に担当教員から全員向けに教科書の「新出単語」「文法」「本文」の解説等行い、2限に5名ずつのグループに分かれ、TAからのチュートリアルを行う予定でした。しかし、2コマ連続のオンライン授業（Zoomを利用します）は皆さんへの過負担となること、大学としてネットへの負担の軽減が求められていることもあり、1限の学習はみなさんの自己学習とし、2限のみZoomを利用したオンライン授業を行います。
2．1限目の内容に相当する自己学習は以下のことを行ってください。1）「新出単語」：音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解し、単語を使用して文を作ることができるようにする。2）「文法」：文法の日本語説明と例文を理解し、「文法練習」を解答する。3）「本文」：音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解する。自己学習は当日の1限目の時間で行っても、それ以前の空き時間に行っても構いませんが、必ず自己学習をしっかり行っておいてください。
3．2限目のZoomを利用したオンライン授業では、5名ずつのグループに分かれTAからのチュートリアルを行います。内容は、初めに自己学習の内容（「新出単語」「文法」「文法練習」「本文」）についての確認を行い、続いて会話練習や応用練習を行います。授業は「自己学習」がしっかり行われていることを前提に行われます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050339|01|9S06050339[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 準上級 α		
担 当 教 員	李 棋		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語（Tutorial）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： この授業は対面授業です。

中国語圏の歴史や文化、社会情勢等に対する理解を深めるとともに、それぞれのテーマについて様々な語彙、表現を使って説明したり、自分の考えを述べたりすることができ、ディスカッションする力を身につけることを目的とする。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。
＊この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。
春学期は「準上級α」「準上級β」を開講する。秋学期は「上級α」「上級β」を開講する。

＊「準上級」：中国語で自己表現できる人
「上級」： 中国語で自己表現できる人

授業の到達目標： 中国語圏の歴史や文化、社会情勢等に関するピックについて、いろいろな説明方法を使用して、自分の意見や考えを述べることができる。
例：【按时间顺序说明】
1998年中国的高等教育入学率仅为9.3%，在2002年突破了15%，接着到2012年更是达到了30%，跻身高等教育大国的行列。
【总结两个以上的不同见解并做出结论】
有人一味强调作者权益，有人坚决认为应注重资讯流通，我们应如何看待呢？我们不能固守文以载道的传统观念而漠视作者的个人权益，但同时也不应过分苛刻地要求知识产权法将作品束缚起来。

事前・事後学習の内容： 事前学習：①CDを活用しながら、該当箇所の発音を繰り返し練習すること ②文法の解説を読むこと ③応用練習の内容を準備すること
事後学習：①CDを活用しながら、授業内容を復習すること。 ②課題の作文を書くこと
週に3時間程度

授業計画フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー： この科目では、週1回、1限、2限の連続授業が行われる。

「第1回」 ガイダンス、グループ分け
「第2回」 ガイダンス、グループ分け
「第3回」 第1課 「转向大众化的中国高等教育」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第4回」 第1課 「转向大众化的中国高等教育」 会話実践：按时间顺序进行叙述
围绕课本中给出的话题进行讨论
「第5回」 第2課 「中日两国关于钓鱼岛主权问题的争端」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第6回」 第2課 「中日两国关于钓鱼岛主权问题的争端」 会話実践：用正反两方面的观点来说明一个问题
围绕课本中给出的话题进行讨论
「第7回」 第3課 「中国人的“面子”」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第8回」 第3課 「中国人的“面子”」 会話実践：以提问形式引出问题并加以说明
围绕课本中给出的话题进行讨论
「第9回」 第4課 「中日词汇的交流」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第10回」 第4課 「中日词汇的交流」 会話実践：先概述然后进行具体说明
围绕课本中给出的话题进行讨论
「第11回」 第5課 「日益凸显的独生子女和老龄化问题」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第12回」 第5課 「日益凸显的独生子女和老龄化问题」 会話実践：用具体的事例和数字进行说明
围绕课本中给出的话题进行讨论
「第13回」 発表
「第14回」 発表

言語区分： 0 中国語 Chinese

教科書： 『快楽学漢語・説漢語-準上級中国語会話』
Webサイト上の教材

参考文献: 特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 成績評価方法：
1）原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。
2）平常点評価（70）％
全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。
3）その他（30）％
①出席の評価　5%
②作文課題の評価 5%
③発表の評価 20%

備考・関連URL: 1） Web教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2） 中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい。

＊注意：
オンライン授業実施の時に授業の方法を以下のように変更します。
1．本科目は1限、2限の連続授業です。当初の計画では1限に担当教員から全員向けに教科書の「新出単語」「文法」「本文」の解説等行い、2限に5名ずつのグループに分かれ、TAからのチュートリアルを行う予定でした。しかし、1限、2限連続のオンライン授業（Zoomを利用します）は皆さんへの過負担となること、大学としてネットへの負担の軽減が求められていることもあり、1限の学習はみなさんの自己学習とし、2限のみZoomを利用したオンライン授業を行います。
2．1限目の内容に相当する自己学習は以下のことを行ってください。1）「新出単語」：音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解し、単語を使用して文を作ることができるようにする。2）「文法」：文法の日本語説明と例文を理解し、「文法練習」を解答する。3）「本文」：音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解する。自己学習は当日の1限目の時間で行っても、それ以前の空き時間に行っても構いませんが、必ず自己学習をしっかり行っておいてください。
3．2限目のZoomを利用したオンライン授業では、5名ずつのグループに分かれTAからのチュートリアルを行います。内容は、初めに自己学習の内容（「新出単語」「文法」「文法練習」「本文」）についての確認を行い、続いて会話練習や応用練習を行います。授業は「自己学習」がしっかり行われていることを前提に行われます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050340|01|9S06050340[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 準上級 β		
担 当 教 員	李 棋		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語(Tutorial)	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: この授業は対面授業です。

中国語圏の歴史や文化、社会情勢等に対する理解を深めるとともに、それぞれのテーマについて様々な語彙、表現を使って説明したり、自分の考えを述べたりすることができ、ディスカッションする力を身につけることを目的とする。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。

＊この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。
春学期は「準上級α」「準上級β」を開講する。秋学期は「上級α」「上級β」を開講する。

＊「準上級」:中国語で自己表現できる人

「上級」: 中国語で自己表現できる人

授業の到達目標: 中国語圏の歴史や文化、社会情勢等に関するピックについて、いろいろな説明方法を使用して、自分の意見や考えを述べることができる。
例:【按时间顺序说明】
1998年中国的高等教育入学率仅为9.3%, 在2002年突破了15%, 接着到2012年更是达到了30%, 跻身高等教育大国的行列。
【总结两个以上的不同见解并做出结论】
有人一味强调作者权益, 有人坚决认为应注重资讯流通, 我们应如何看待呢？我们不能固守文以载道的传统观念而漠视作者的个人权益, 但同时也不应过分苛刻地要求知识产权法将作品束缚起来。

事前・事後学習の内容: 事前学習:①CDを活用しながら、該当箇所の発音を繰り返し練習すること ②文法の解説を読むこと ③応用練習の内容を準備すること
事後学習:①CDを活用しながら、授業内容を復習すること。 ②課題の作文を書くこと
週に3時間程度

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

授業計画フリー: この科目では、週1回、1限、2限の連続授業が行われる。

「第1回」 ガイダンス、グループ分け
「第2回」 ガイダンス、グループ分け
「第3回」 第1課 「亚洲共同体」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第4回」 第1課 「亚洲共同体」 会話実践:赞成某个见解并加以说明
围绕课本中给出的话题进行讨论
「第5回」 第2課 「大学生学习第二外语的"无用之用"」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第6回」 第2課 「大学生学习第二外语的"无用之用"」 会話実践:以反对者的立场对某种做法提出批评
围绕课本中给出的话题进行讨论
「第7回」 第3課 「著作权」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第8回」 第3課 「著作权」 会話実践:总结两个以上的不同见解并做出结论
围绕课本中给出的话题进行讨论
「第9回」 第4課 「喉舌论---管窥中国当代媒体和新闻环境」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第10回」 第4課 「喉舌论---管窥中国当代媒体和新闻环境」 会話実践:使用对仗形式和分条列出的方法进行说明
围绕课本中给出的话题进行讨论
「第11回」 第5課 「环境问题」 新出単語、文法、本文の基本知識を学ぶ
「第12回」 第5課 「环境问题」 会話実践:使用俗语、成语和引用的方法进行说明
围绕课本中给出的话题进行讨论
「第13回」 発表
「第14回」 発表

言語区分: 0 中国語 Chinese

教科書: 『快楽学漢語・説漢語-準上級中国語会話』
Webサイト上の教材

参考文献: 特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 1）原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。
2）平常点評価（70）％
　全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。
3）その他（30）％
　①出席の評価　5％
　②作文課題の評価 5％
　③発表の評価 20％

備考・関連URL: 1） Web教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2） 中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい。

＊注意：
オンライン授業実施の時に授業の方法を以下のように変更します。
1．本科目は1限、2限の連続授業です。当初の計画では1限に担当教員から全員向けに教科書の「新出単語」「文法」「本文」の解説等行い、2限に5名ずつのグループに分かれ、TAからのチュートリアルを行う予定でした。しかし、1限、2限の連続のオンライン授業（Zoomを利用します）は皆さんへの過負担となること、大学としてネットへの負担の軽減が求められていることもあり、1限の学習はみなさんの自己学習とし、2限のみZoomを利用したオンライン授業を行います。
2．1限目の内容に相当する自己学習は以下のことを行ってください。1）「新出単語」：音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解し、単語を使用して文を作ることができるようにする。2）「文法」：文法の日本語説明と例文を理解し、「文法練習」を解答する。3）「本文」：音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解する。自己学習は当日の1限目の時間で行っても、それ以前の空き時間に行っても構いませんが、必ず自己学習をしっかり行っておいてください。
3．2限目のZoomを利用したオンライン授業では、5名ずつのグループに分かれTAからのチュートリアルを行います。内容は、初めに自己学習の内容（「新出単語」「文法」「文法練習」「本文」）についての確認を行い、続いて会話練習や応用練習を行います。授業は「自己学習」がしっかり行われていることを前提に行われます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050341|01|9S06050341[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 上級 α		
担 当 教 員	李 棋		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語(Tutorial)	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: この授業は対面授業です。

中国語圏の歴史や文化、社会情勢等について、本格的なディスカッションを行う科目である。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。

＊この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。
春学期は「準上級α」「準上級β」を開講する。秋学期は「上級α」「上級β」を開講する。

＊「準上級」:中国語で自己表現できる人

「上級」: 中国語で自己表現できる人

授業の到達目標: 中国語圏の歴史や文化、社会情勢等のテーマについて中国語での講義を聴いて理解することと、その内容について論理的に自分の考えを述べたり、異なる見解に対して反論することができる。
例:【中国近代史入门】
就中国近代史进行说明。围绕某些历史事件进行讨论。
【中国的城市和农村—生活状况与教育环境的差异—】
就中国的城市和农村不同的生活状况与教育环境进行说明。围绕教育进行讨论。

事前・事後学習の内容: 事前学習:①Moodleにアップされた講義の内容を視聴すること。②「討論問題」の中、問題を一つ選んで、発表を準備すること。
事後学習:①授業内容を復習すること。②レポートを書くこと(一回)。
週に3時間程度

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

授業計画フリー: この科目では、週1回、1限、2限の連続授業が行われる。
「第1回」 ガイダンス、グループ分け

「第2回」 ガイダンス、グループ分け
「第3回」 第1課 「日本学生常见的汉语用法偏误」 Moodleで講義を聞き、新出単語、文法、講義内容を理解する
「第4回」 第1課 「日本学生常见的汉语用法偏误」 会話実践:就日本学生常见的汉语用法偏误进行说明
围绕汉语学习进行讨论
「第5回」 第2課 「看不见的界线 —日中之间的交际摩擦—」 Moodleで講義を聞き、新出単語、文法、講義内容を理解する
「第6回」 第2課 「看不见的界线 —日中之间的交际摩擦—」 会話実践:就日中之间的交际摩擦进行说明
围绕不同文化、习惯造成的交流困难进行讨论
「第7回」 第3課 「华侨、华人研究」 Moodleで講義を聞き、新出単語、文法、講義内容を理解する
「第8回」 第3課 「华侨、华人研究」 会話実践:就华侨、华人研究进行说明
围绕华侨或日侨的现状进行讨论
「第9回」 第4課 「中国近代史入门」 Moodleで講義を聞き、新出単語、文法、講義内容を理解する
「第10回」 第4課 「中国近代史入门」 会話実践:就中国近代史进行说明
围绕某些历史事件进行讨论
「第11回」 第5課 「中国的媒体改革与中日关系」 Moodleで講義を聞き、新出単語、文法、講義内容を理解する
「第12回」 第5課 「中国的媒体改革与中日关系」 会話実践:就中国的媒体改革和中日关系进行说明
围绕各国的媒体现状进行讨论
「第13回」 発表
「第14回」 発表

言語区分: 0 中国語 Chinese

教科書: Moodleで講義を視聴する
Webサイト上の教材

参考文献: 特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 1）原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。
2）平常点評価（70）％
全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。
3）その他（30）％
①出席の評価　5%
②作文課題の評価 5%
③発表の評価 20%

備考・関連URL: 1） Web教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2） 中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい。

＊注意：
オンライン授業実施の時に授業の方法を以下のように変更します。
1．本科目は1限、2限の連続授業です。当初の計画では1限に担当教員から全員向けに教科書の「新出単語」「詞語用法」、「本文」の解説等行い、2限に5名ずつのグループに分かれ、TAからのチュートリアルを行う予定でした。しかし、1限、2限の連続のオンライン授業（Zoomを利用します）は皆さんへの過負担となること、大学としてネットへの負担の軽減が求められていることもあり、1限の学習はみなさんの自己学習とし、2限のみZoomを利用したオンライン授業を行います。
2．1限目の内容に相当する自己学習は以下のことを行ってください。1）「新出単語」：ビデオの原稿をダウンロードして、音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解し、単語を使用して文を作ることができるようにする。2）「詞語用法」：例文を理解し、詞語を使用して文を作ることができるようにする。3）「本文」：ビデオを見て、ビデオ原稿の空欄に語彙を入れ、ビデオの内容を理解する。自己学習は当日の1限目の時間で行っても、それ以前の空き時間に行っても構いませんが、必ず自己学習をしっかり行っておいてください。
3．2限目のZoomを利用したオンライン授業では、5名ずつのグループに分かれTAからのチュートリアルを行います。内容は、初めに自己学習の内容（「新出単語」「詞語用法」「本文」）についての確認を行い、続いて会話練習や応用練習を行います。授業は「自己学習」がしっかり行われていることを前提に行われます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050342|01|9S06050342[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語コミュニケーション 上級 β		
担 当 教 員	李 棋		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	中国語（Tutorial）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： この授業は対面授業です。

中国語圏の歴史や文化、社会情勢等について、本格的なディスカッションを行う科目である。会話実践のクラスで、1グループ最大5名学生、1名中国語のネイティブスピーカー付きの構成で効果的に学習することができる。

＊この授業はクォーター科目である。クォーター科目は1つのレベルがαとβで構成されている。
春学期は「準上級α」「準上級β」を開講する。秋学期は「上級α」「上級β」を開講する。

＊「準上級」：中国語で自己表現できる人

「上級」： 中国語で自己表現できる人

授業の到達目標： 中国語圏の歴史や文化、社会情勢等のテーマについて中国語での講義を聴いて理解することと、その内容について論理的に自分の考えを述べたり、異なる見解に対して反論することができる。
例：【中国近代史入门】
就中国近代史进行说明。围绕某些历史事件进行讨论。
【中国的城市和农村—生活状况与教育环境的差异—】
就中国的城市和农村不同的生活状况与教育环境进行说明。围绕教育进行讨论。

事前・事後学習の内容： 事前学習：①Moodleにアップされた講義の内容を視聴すること。②「討論問題」の中、問題を一つ選んで、発表を準備すること。
事後学習：①授業内容を復習すること。②レポートを書くこと（一回）。
週に3時間程度

授業計画フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー： この科目では、週1回、1限、2限の連続授業が行われる。
「第1回」 ガイダンス、グループ分け
「第2回」 ガイダンス、グループ分け
「第3回」 第1課 「中日关系中的历史问题」 Moodleで講義を聞き、新出単語、文法、講義内容を理解する
「第4回」 第1課 「中日关系中的历史问题」 会話実践：就中日关系中的历史问题进行说明
围绕中日关系进行讨论
「第5回」 第2課 「中国的城市和农村—生活状况与教育环境的差异—」
Moodleで講義を聞き、新出単語、文法、講義内容を理解する
「第6回」 第2課 「中国的城市和农村—生活状况与教育环境的差异—」
会話実践：就中国的城市和农村不同的生活状况与教育环境进行说明
围绕教育进行讨论
「第7回」 第3課 「中国大陆、台湾及日本三地的贸易关系」 Moodleで講義を聞き、新出単語、文法、講義内容を理解する
「第8回」 第3課 「中国大陆、台湾及日本三地的贸易关系」 会話実践：就中国大陆、台湾及日本三地的贸易关系进行说明
围绕不同地域之间的贸易进行讨论
「第9回」 第4課 「中国的知识产权保护」 Moodleで講義を聞き、新出単語、文法、講義内容を理解する
「第10回」 第4課 「中国的知识产权保护」 会話実践：就中国的知识产权保护进行说明
围绕知识产权保护进行讨论
「第11回」 第5課 「中国的环境问题与农村可持续发展」 Moodleで講義を聞き、新出単語、文法、講義内容を理解する
「第12回」 第5課 「中国的环境问题与农村可持续发展」 会話実践：就中国的环境问题和农村可持续发展进行说明
围绕世界的环境问题进行讨论
「第13回」 発表
「第14回」 発表

言語区分： 0 中国語 Chinese

教科書: Moodleで講義を視聴する
Webサイト上の教材

参考文献: 特になし。必要に応じて授業内で指定。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 1）原則として、授業回数の3分の2以上の出席を必須とする。
2）平常点評価（70）％
全回レッスンを対象に、出欠のほか、毎回のレッスンの学習目標の達成度や発言の積極性について評価する。
3）その他（30）％
①出席の評価　5％
②作文課題の評価 5％
③発表の評価 20％

備考・関連URL: 1） Web教材を積極的に利用すること。特に授業を欠席した場合は必ず該当の課の学習をしておくこと。
2） 中国語の学習は授業の内容を限らず、中国語関連するインターネット、映画、音楽などと通じて、積極的に利用することが望ましい。

＊注意：
オンライン授業実施の時に授業の方法を以下のように変更します。
1．本科目は1限、2限の連続授業です。当初の計画では1限に担当教員から全員向けに教科書の「新出単語」「詞語用法」、「本文」の解説等行い、2限に5名ずつのグループに分かれ、TAからのチュートリアルを行う予定でした。しかし、1限、2限の連続のオンライン授業（Zoomを利用します）は皆さんへの過負担となること、大学としてネットへの負担の軽減が求められていることもあり、1限の学習はみなさんの自己学習とし、2限のみZoomを利用したオンライン授業を行います。
2．1限目の内容に相当する自己学習は以下のことを行ってください。1）「新出単語」：ビデオの原稿をダウンロードして、音声教材を聞き、正しい発音を確認し、繰り返し発音を練習する。意味を理解し、単語を使用して文を作ることができるようにする。2）「詞語用法」：例文を理解し、詞語を使用して文を作ることができるようにする。3）「本文」：ビデオを見て、ビデオ原稿の空欄に語彙を入れ、ビデオの内容を理解する。自己学習は当日の1限目の時間で行っても、それ以前の空き時間に行っても構いませんが、必ず自己学習をしっかり行っておいてください。
3．2限目のZoomを利用したオンライン授業では、5名ずつのグループに分かれTAからのチュートリアルを行います。内容は、初めに自己学習の内容（「新出単語」「詞語用法」「本文」）についての確認を行い、続いて会話練習や応用練習を行います。授業は「自己学習」がしっかり行われていることを前提に行われます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050420|02|9S06050420[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（入門） 理解 02		
担 当 教 員	朝比奈 佳尉		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： イタリア語をゼロから学びたい、という学生を対象とします。
この講座ではイタリア語のアルファベットに始まり、動詞の活用を中心に名詞や形容詞など、「イタリア語を学ぶ上での基礎となる項目」を扱います。
文法は少しだけ複雑ですが、発音は日本語にとてもよく似ているイタリア語。

「英語の発音は苦手だけれど、何か外国語を話してみたい」という皆さんに履修して欲しいと思います。

授業の到達目標： 「イタリア語の基礎」を学ぶことを通じ、留学・旅行する際に必要な最低限のイタリア語力を身につけ、後期の「イタリア語初級」への足がかりとする。

事前・事後学習の内容： 外国語を学ぶ上で重要なのは、学んだことを何度も反復し、定着させることです。
ですから受講生の皆さんには、授業の予習ではなく、10分でも20分でもいいですから、授業で学んだことを復習をしてもらえたらと思います。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 発音・アルファベットと自己紹介
イタリア語の発音とアルファベットに耳を慣らしてから、自己紹介で実践練習

第2回 名詞の性と不定冠詞・定冠詞
イタリア語の名詞の性について理解した上で、それぞれの名詞とセットになる不定冠詞・定冠詞を覚える

第3回 動詞essereと文の作り方
動詞essereを素材に、イタリア語の動詞の活用について理解し、文の作り方を学ぶ

第4回 形容詞
イタリア語の形容詞の使い方を学ぶ

第5回 動詞essereと形容詞
essereと形容詞を組み合わせて使うやり方を学ぶ

第6回 所有形容詞
「私の mio」など、所有形容詞の使い方を学ぶ

第7回 動詞avereと名詞の複数形
avereを素材に、名詞の複数形を学ぶ

第8回 形容詞の複数形
形容詞の複数形を学ぶ

第9回 are動詞
are動詞の活用を学ぶ

第10回 自動詞・他動詞と直接目的語代名詞
自動詞と他動詞の違いを理解した上で、直接目的語代名詞について学ぶ

第11回 ere動詞・ire動詞
ere動詞・ire動詞の活用を学ぶ

第12回 間接目的語代名詞
間接目的語代名詞について学ぶ

第13回 目的語代名詞の結合形
直接目的語代名詞と間接目的語代名詞の結合形について学ぶ

第14回 前期のまとめ
前期の内容について、理解度を確認する試験を実施

言語区分:	0	日本語　　Japanese
教科書:	MoodleにテキストのPDFをアップロードします。 初回の授業までに各自ダウンロードし、必要に応じてプリントアウトしておいてください。	
参考文献:	外国語を身につけるには、どうしても反復練習が必要になります。 「授業以外で自分で勉強したい！」という人のために、「練習問題集」「単語帳」として次の本をお勧めしておきます。 『もやもやを解消! イタリア語文法ドリル』、小久保真理江、三修社 https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384057836/ 『改訂版キクタンイタリア語【入門編】基本500語レベル』 https://book.alc.co.jp/book/b10132063.html	
成績評価フリー入力サイン:	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	60	第14回目の授業時間中に定期試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。
レポート:	0	なし
平常点評価:	40	出席および授業への参加態度を評価します。
その他:	0	なし
備考・関連URL:	何か質問があるときは、いつでもkaiasahina.l@gmail.comまでご連絡ください。	

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050420|03|9S06050420[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	イタリア語（入門）　理解　03		
担 当 教 員	朝比奈　佳尉		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　イタリア語をゼロから学びたい、という学生を対象とします。
この講座ではイタリア語のアルファベットに始まり、動詞の活用を中心に名詞や形容詞など、「イタリア語を学ぶ上での基礎となる項目」を扱います。
文法は少しだけ複雑ですが、発音は日本語にとてもよく似ているイタリア語。

「英語の発音は苦手だけれど、何か外国語を話してみたい」という皆さんに履修して欲しいと思います。

授業の到達目標：　「イタリア語の基礎」を学ぶことを通じ、留学・旅行する際に必要な最低限のイタリア語力を身につけ、後期の「イタリア語初級」への足がかりとする。

事前・事後学習の内容：　外国語を学ぶ上で重要なのは、学んだことを何度も反復し、定着させることです。
ですから受講生の皆さんには、授業の予習ではなく、10分でも20分でもいいですから、授業で学んだことを復習をしてもらえたらと思います。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　発音・アルファベットと自己紹介
イタリア語の発音とアルファベットに耳を慣らしてから、自己紹介で実践練習

第2回　名詞の性と不定冠詞・定冠詞
イタリア語の名詞の性について理解した上で、それぞれの名詞とセットになる不定冠詞・定冠詞を覚える

第3回　動詞essereと文の作り方
動詞essereを素材に、イタリア語の動詞の活用について理解し、文の作り方を学ぶ

第4回　形容詞
イタリア語の形容詞の使い方を学ぶ

第5回　動詞essereと形容詞
essereと形容詞を組み合わせて使うやり方を学ぶ

第6回　所有形容詞
「私の mio」など、所有形容詞の使い方を学ぶ

第7回　動詞avereと名詞の複数形
avereを素材に、名詞の複数形を学ぶ

第8回　形容詞の複数形
形容詞の複数形を学ぶ

第9回　are動詞
are動詞の活用を学ぶ

第10回　自動詞・他動詞と直接目的語代名詞
自動詞と他動詞の違いを理解した上で、直接目的語代名詞について学ぶ

第11回　ere動詞・ire動詞
ere動詞・ire動詞の活用を学ぶ

第12回　間接目的語代名詞
間接目的語代名詞について学ぶ

第13回　目的語代名詞の結合形
直接目的語代名詞と間接目的語代名詞の結合形について学ぶ

第14回　前期のまとめ
前期の内容について、理解度を確認する試験を実施

言語区分:	0	日本語　　Japanese
教科書:	MoodleにテキストのPDFをアップロードします。 初回の授業までに各自ダウンロードし、必要に応じてプリントアウトしておいてください。	
参考文献:	外国語を身につけるには、どうしても反復練習が必要になります。 「授業以外で自分で勉強したい！」という人のために、「練習問題集」「単語帳」として次の本をお勧めしておきます。 『もやもやを解消! イタリア語文法ドリル』、小久保真理江、三修社 https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384057836/ 『改訂版キクタンイタリア語【入門編】基本500語レベル』 https://book.alc.co.jp/book/b10132063.html	
成績評価フリー入力サイン:	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	60	第14回目の授業時間中に定期試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。
レポート:	0	なし
平常点評価:	40	出席および授業への参加態度を評価します。
その他:	0	なし
備考・関連URL:	何か質問があるときは、いつでもkaiasahina.l@gmail.comまでご連絡ください。	

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050420|04|9S06050420[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	イタリア語（入門）　理解　04		
担 当 教 員	朝比奈　佳尉		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　イタリア語をゼロから学びたい、という学生を対象とします。
この講座ではイタリア語のアルファベットに始まり、動詞の活用を中心に名詞や形容詞など、「イタリア語を学ぶ上での基礎となる項目」を扱います。
文法は少しだけ複雑ですが、発音は日本語にとてもよく似ているイタリア語。

「英語の発音は苦手だけれど、何か外国語を話してみたい」という皆さんに履修して欲しいと思います。

授業の到達目標：　「イタリア語の基礎」を学ぶことを通じ、留学・旅行する際に必要な最低限のイタリア語力を身につけ、後期の「イタリア語初級」への足がかりとする。

事前・事後学習の内容：　外国語を学ぶ上で重要なのは、学んだことを何度も反復し、定着させることです。
ですから受講生の皆さんには、授業の予習ではなく、10分でも20分でもいいですから、授業で学んだことを復習をしてもらえたらと思います。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　発音・アルファベットと自己紹介
イタリア語の発音とアルファベットに耳を慣らしてから、自己紹介で実践練習

第2回　名詞の性と不定冠詞・定冠詞
イタリア語の名詞の性について理解した上で、それぞれの名詞とセットになる不定冠詞・定冠詞を覚える

第3回　動詞essereと文の作り方
動詞essereを素材に、イタリア語の動詞の活用について理解し、文の作り方を学ぶ

第4回　形容詞
イタリア語の形容詞の使い方を学ぶ

第5回　動詞essereと形容詞
essereと形容詞を組み合わせて使うやり方を学ぶ

第6回　所有形容詞
「私の mio」など、所有形容詞の使い方を学ぶ

第7回　動詞avereと名詞の複数形
avereを素材に、名詞の複数形を学ぶ

第8回　形容詞の複数形
形容詞の複数形を学ぶ

第9回　are動詞
are動詞の活用を学ぶ

第10回　自動詞・他動詞と直接目的語代名詞
自動詞と他動詞の違いを理解した上で、直接目的語代名詞について学ぶ

第11回　ere動詞・ire動詞
ere動詞・ire動詞の活用を学ぶ

第12回　間接目的語代名詞
間接目的語代名詞について学ぶ

第13回　目的語代名詞の結合形
直接目的語代名詞と間接目的語代名詞の結合形について学ぶ

第14回　前期のまとめ
前期の内容について、理解度を確認する試験を実施

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: MoodleにテキストのPDFをアップロードします。
初回の授業までに各自ダウンロードし、必要に応じてプリントアウトしておいてください。

参考文献: 外国語を身につけるには、どうしても反復練習が必要になります。
「授業以外で自分で勉強したい！」という人のために、「練習問題集」「単語帳」として次の本をお勧めしておきます。
『もやもやを解消! イタリア語文法ドリル』、小久保真理江、三修社
https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384057836/
『改訂版キクタンイタリア語【入門編】基本500語レベル』
https://book.alc.co.jp/book/b10132063.html

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 60 第14回目の授業時間中に定期試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。

レポート: 0 なし

平常点評価: 40 出席および授業への参加態度を評価します。

その他: 0 なし

備考・関連URL: 何か質問があるときは、いつでもkaiasahina.l@gmail.comまでご連絡ください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050420|07|9S06050420[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（入門） 理解 07		
担 当 教 員	木名瀬 紀子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: イタリア語を理解しましょう （1）

授業概要: 本授業は、全回教室授業として実施します。この授業ではイタリア語に関する基礎的な文法や語句を丁寧に学びます。
はじめてイタリア語を学ぶ人も、イタリア語を学んだことのある人もイタリア語の魅力に触れ、イタリア語を学ぶことの楽しみを味わっていただければと思います。
教科書、配布資料、ロールプレイ等によって、受講生はイタリア語入門レベル相当の会話表現や語彙、慣用表現習得へと意欲付けされるでしょう。

授業の到達目標: CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)のA1レベルを到達目標とします。
この授業目標は、日常生活によくある場面を通じて受講生の皆さんにイタリアやイタリア人との出会いのための準備をしてもらうことにあります。

事前・事後学習の内容: シラバスを事前によく読み、授業内容に基づき、当該箇所について予習して下さい。各回の予習、復習には銘々90分～120分要すると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 対面授業
Introduzione （1）
はじめに。授業の紹介と全体の紹介。オリエンテーション。

第2回 対面授業
Introduzione （2）
Lezione 1
イタリア語についての基礎的な事項を説明します。
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。

第3回 対面授業
Lezione 1 続き
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。

第4回 対面授業
Lezione 2
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。

第5回 対面授業
Lezione 2 続き
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。

第6回 対面授業
Lezione 3
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。

第7回 対面授業
Lezione 3 続き
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。

第8回 対面授業
Lezione 4
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。

第9回 対面授業
Lezione 4 続き
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。

第10回　対面授業
Lezione　5
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。
第11回　対面授業
Lezione　5　続き
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。
第12回　対面授業
Lezione　6
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。
第13回　対面授業
Lezione　6　続き
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。
第14回　対面授業
理解度の確認。

言語区分:	0	日本語　　Japanese
教科書:	一之瀬俊和『最新　ア・ゾンゾ　ーイタリア語そぞろ歩き』朝日出版社　ISBN 978-4-255-55310-8 C1087	
参考文献:	授業において指示します。	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	20	実施については授業において指示します。
レポート:	20	課題は授業において提示します。
平常点評価:	40	出席および積極的な授業参加、発言など。
その他:	20	学期最終授業日に試験、あるいはレポート提出受付を行う予定です。
備考・関連URL:	授業において教示します。受講者の興味や習熟度に応じます。最終授業において、全体のフィードバックを行います。	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050421|01|9S06050421[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（入門） 表現 01		
担 当 教 員	アルベリッツィ ヴァレリオ ルイジ		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ICTを活用した「視る」,「聴く」,「話す」,「楽しむ」イタリア語

Italian with ICT: ≪Seeing≫, ≪Listening≫, ≪Speaking≫, and enjoying the language

授業概要: ICT（Information and Communication Technology, 情報通信技術）を積極的に活用しながら, イタリア語によるコミュニケーション能力の養成と基礎的な文法の取得を目標とする。
受講者はスマートデバイス, インタラクティブな資料や語学学習に適したアプリケーションなどを利用しながら, グループワークによりイタリア語の形式と機能を類推・発見し, 実際に応用する。
具体的には, 短い会話表現を組み合わせたシナリオを作成し, 覚え, ロールプレイなどのようなアクティビティを通して, 身近な話題について話したり, 自分の意見を述べたりする。

This course is designed to enhance communication skills in Italian and to offer an elementary knowledge of Italian grammar through the integrated use of ICT (Information and Communication Technology).
In class, students will engage in group work using smart devices, interactive materials, and applications that aid in language learning and enable them to infer, discover, and practically apply the forms and functions of the Italian language.
Specifically, students will create scenarios that combine short conversational expressions, memorize them, and engage in activities such as role-playing to talk about familiar topics and express their opinions.

授業の到達目標: 多様な文化を理解し、国際舞台の活躍に必須の語学力を身につけ、実践的な外国語能力を養成する。
受講者が約600語からなる一般使用頻度の高いボキャブラリを使いながら基礎的なイタリア語の文書・会話を理解し, 簡単で自然な自己表現ができるようになることを目指す。本講座を修了したものはCEFRのA1に対応する言語運用能力を習得できるようになると想定される。CEFRとは, Common European Framework of Reference for Languages（ヨーロッパ言語共通参照枠）の略称であり, ヨーロッパのすべての言語のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格である。

To understand diverse cultures, acquire the language skills necessary to succeed on the international stage, and develop practical foreign language proficiency.
This course aims to enable students to understand basic Italian texts and conversations using a high-frequency vocabulary of approximately 600 words, allowing them to express themselves in ways that are both simple and natural. Students are expected to reach a proficiency level close to A1 as prescribed by the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR). CEFR, the Common European Framework of Reference for Languages, is used as an international standard to describe the level of communication proficiency for all European languages.

事前・事後学習の内容: 受講者はWasedaMoodleなどにアップロードされているコンテンツを授業の前に予習しておき（所要時間約30～45分と想定されている）, 授業後は授業で触れたテーマについてiOSとAndroid端末からもアクセスできるオンラインの復習問題を行ってもらう（所要時間約15～20分と想定されている）。

Students are expected prepare ahead of class using the contents delivered via Waseda Moodle (estimated time: approximately 30-45 minutes). After class, they will complete online review exercises on the topics covered in the lesson, which can be accessed from both iOS and Android devices (estimated time: approximately 15-20 minutes).

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（本講義の目的と概要）
【理解】名詞の性（単数形）, 国籍を表す形容詞
【表現】簡単な自己紹介（名前、国籍、出身地など）, 挨拶, クラス活動に役に立つ表現（ことばの意味の訊き方など）

Orientation (Purpose and Overview of the Course)
[Grammatical skills]Gender of nouns (singular); Adjectives of nationality
[Communication skills]Simple self-introduction (name, nationality, place of origin); greetings, expressions

useful for class activities (such as how to ask about the meaning of words)

第2回

【理解】essere, chiamarsi 動詞の活用(単数形), 不定冠詞(単数形)
【表現】自分の仕事について話す

〔Grammatical skills〕 Conjugation of ≪essere≫ and ≪chiamarsi≫ (singular); indefinite articles (singular forms)
〔Communication skills〕Talking about one's job

第3回

【理解】指示代名詞(単数形), avere 動詞の活用(単数形), 1から30までの基数
【表現】年齢を尋ねる, 1から30まで数える, 教室にある物

〔Grammatical skills〕Demonstrative pronouns (singular); Conjugation of ≪avere≫ (singular); Cardinal numbers (1 – 30)
〔Communication skills〕 Asking for someone's age; Count from 1 to 30; objects in the classroom

第4回

【理解】are 動詞の活用(単数形)
【表現】自分について話す

〔Grammatical skills〕Conjugation of -are verbs (singular)
〔Communication skills〕Talking about oneself

第5回

【理解】所有形容詞の mio, tuo(単数形), 主な疑問詞
【表現】スケジュールについて話す, 一日の区分, 曜日

〔Grammatical skills〕 Possessive adjectives ≪mio≫, ≪tuo≫ (singular), Interrogatives
〔Communication skills〕Talking about one's schedule; Parts of the day; Days of week

第6回

【理解】essere, avere 動詞の活用(複数形), 名詞の性(複数形), 形容詞の複数形
【表現】グループで自分と日常について話す

〔Grammatical skills〕 Conjugation of ≪essere≫ and ≪avere≫ (plural); Gender of nouns (plural); The plural of adjectives
〔Communication skills〕Talking about oneself and one's daily life in a group

第7回

【理解】chiamarsi 動詞の活用(複数形), 定冠詞(単数形・複数形), 所有形容詞の mio, tuo(複数形)
【表現】家族について話す, 親族名称

〔Grammatical skills〕 Conjugation of ≪chiamarsi≫ (plural); Definite articles (singular and plural); The plural of possessive adjectives ≪mio≫ and ≪tuo≫
〔Communication skills〕Talking about one's family; Kinship terms

第8回

【理解】定冠詞(単数形・複数形), suo(単数形・複数形)
【表現】話し相手の誕生日について尋ねる, 季節, 月名

〔Grammatical skills〕Definite articles (singular and plural); The possessive adjective ≪suo≫ (singular and plural)
〔Communication skills〕Asking about someone's birthday, seasons and months' names

第9回

【理解】C'è, ci sono を使った表現, 前置詞の da の用法, 所有形容詞(まとめ)
【表現】人や物の所在について話す

〔Grammatical skills〕 Expression of existence: ≪c'è≫ and ≪ci sono≫; Use of the preposition ≪da≫; Possessive adjectives (summary)
〔Communication skills〕Talking about the whereabouts of people and things

第10回
【理解】are 動詞の活用（複数形），指示代名詞（複数形），31から60までの基数
【表現】時刻を尋ねる

〔Grammatical skills〕 Conjugation of -are verbs (plural); Demonstrative pronouns (plural); Cardinal numbers (31 - 60)
〔Communication skills〕Asking about time

第11回
【理解】品質形容詞
【表現】店で買い物する，衣服

〔Grammatical skills〕Qualifying adjectives
〔Communication skills〕Going shopping; Clothes

第12回
【理解】位置を表す副詞，前置詞と冠詞の結合形
【表現】人や物の相対的な位置関係を説明する

〔Grammatical skills〕Adverbs of position; Compound prepositions
〔Communication skills〕Explain the relative positional relationships of people and objects

第13回
【理解】敬称表現
【表現】フォーマルな会話とインフォーマルな会話

〔Grammatical skills〕Formal expressions
〔Communication skills〕Formal conversation and informal conversation

第14回
期末テスト

Final test

言語区分: 0 日・英併用 Japanese/English

教科書: ① Valerio L. Alberizzi,『Ai posti! イタリア語入門』（マルチタッチブック）: https://apple.co/3sr4ft7

② Quizlet（講師の承認が必要）

a. フラッシュカードセット：https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔改訂版〕伊和基礎辞典：【名詞】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【動詞】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【副詞】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【形容詞】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔改訂版〕和伊基礎辞典：【名詞】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【動詞】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【副詞】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【形容詞】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※教材に関する詳しい説明は初回に行う。

① Valerio L. Alberizzi, Ai posti! Italian for beginners (Multi-touch book in Japanese): https://apple.co/3sr4ft7

② Quizlet (Teacher's approval needed to join the classes)

a. Flash card sets: https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔Revised edition〕Italian-Japanese Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【Verbs】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【Adverbs】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【Adjectives】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔Revised edition〕Japanese-Italian Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【Verbs】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【Adverbs】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【Adjectives】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※ Teaching materials will be discussed in detail during the course introduction

参考文献: 長神悟, 『イタリア語のABC[改訂版]《CD付》』, 白水社, 2018年

池田廉編, 『伊和中辞典・第2版』, 小学館, 1999年

西川一郎編, 『和伊中辞典・第2版』, 小学館, 2008年

郡史郎編, 『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』, 小学館, 2001年

秋山余思監修, 『プリーモ伊和辞典　和伊付《シングルCD付》』, 白水社, 2011年

※辞書などの参考文献に関する説明は初回に行う。

Nagami Satoru, Itariago no ABC (Revised edition), Hakusuisha, 2018.

Ikeda Yasushi (ed.), I-Wa chujiten – 2nd Edition, Shogakukan, 1999.

Nishikawa Ichiro (ed.), Wa-I chujiten – 2nd Edition, Shogakukan, 2008.

Gun Shiro (ed.), Pocket Progressive Italian-Japanese / Japanese-Italian Dictionary, Shogakukan, 2001.

Akiyama Yoshi, Il Primo – I-Wa jiten, Wa-I tsuki (single CD tsuki), Hakusuisha, 2011

※ Reference materials such as dictionaries will be discussed during the course introduction

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50 ※定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。

※ A final test will be conducted to assess overall understanding of the course contents.

平常点評価: 50 ※グループワークにおいて受講者の取り組む態度を評価する。

※受講者の授業への積極的な参加, 学習意欲などを評価する。

※受講者の学習内容の理解度と単語習得のレベルを確認するため, 毎回, 小テストを実施する。

※オンライン教材による学習の履歴, 宿題や課題などの提出を評価する。

※ Students will be evaluated for their individual contribution to group work

※ Students will be evaluated for their active participation in class and their motivation to learn and improve

※ Quizzes and short tests will be administered at the beginning of each lesson to check the students' comprehension of the learning outcomes and their vocabulary acquisition level.

※ Students will be evaluated for the submission of homework, tasks, and online exercises

備考・関連URL: ※　3分の2以上の出席が単位取得に必須である。
※　グループワークやプレゼンテションなどを実施する。準備などに時間がかかるので, 定刻に授業に来ることが望ましい。
※　iPadを所有する受講者は授業に持って来ること。

※Attendance of 2/3 or more is required for credit acquisition.
※ Preparing for group work and presentations requires time. Students are strongly advised to come to class on time.
※ Students who own an iPad should bring it to class.

初めてイタリア語を学ぶ人、または入門レベルの断片的な知識しか持たない人を対象とする授業だが, 受講者の学習進度やレベルに応じて進める予定である。
外国語の学習というのは, 根本的には, その言語を話している人々が, その目の前に広がる世界をどのように認識しているかということを身につけるプロセスである。そのため, 外国語学習には「ことば」がその背景に持っている文化の知識が不可欠である。したがって, イタリア語・イタリア文化に興味を持ち授業に積極的に参加する受講者を期待する。

This class is intended for students who are learning Italian for the first time or only have a fragmentary knowledge at the introductory level. The pace of instruction will be determined by the students' progress and the overall level of the class.
Foreign language acquisition means learning how a group of people recognizes and classifies the world before

their eyes. Therefore, an understanding of the cultural background that exists behind ≪words≫ is key to successful language learning. Highly motivated students with a strong interest in Italian language and culture are encouraged to take this class.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050421|02|9S06050421[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（入門） 表現 02		
担 当 教 員	ビオンディ マルコ		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: Primi passi in Italiano イタリア語初歩

授業概要: このイタリア語（入門）コースは、完全な初心者またはイタリア語の知識が少ない人向けに設計されており、イタリア語の堅固な基礎を築くことを目的としています。基本的な言語スキル（聞く、読む、書く、会話）の開発に焦点を当て、日常の文脈での実用的な言語使用に重点を置いたコミュニケーションアプローチを採用しています。授業はインタラクティブで、ロールプレイやクラス内討論、グループ活動を通じて学生の積極的な参加を促進し、テキスト、オーディオ、ビデオ、オンラインリソースを含む教材を用いて学習をサポートします。評価は、授業内の課題、積極的な参加、小テスト、コース終了時の筆記試験に基づいて行われ、生徒の理解度とイタリア語使用能力を評価します。このコースはイタリア語学習の初歩を学びたい人や基礎知識を新たにしたい人に最適で、事前の言語知識は不要です。

授業の到達目標: イタリア語の基本的な文法理解を獲得すること、これには現在の動詞時制、冠詞、代名詞、前置詞が含まれます。
簡単な対話や短文を通じて聞く力と理解力を開発する。
挨拶、自己紹介、食事、家族、趣味、方向など、日常的な状況に関連する基本的な語彙を学ぶ。
聞く練習と繰り返しを通じて、正しい発音とイントネーションを練習する。
イタリア語で簡単な文を作り、基本的な質問に答えることを始める。
イタリアとその伝統に関連する基本的な文化的認識を獲得する。

事前・事後学習の内容: 本講義では、学生の皆さんに効果的な学習経験を提供するため、事前学習と事後学習を推奨しています。事前学習では、授業で取り上げる内容について予め目を通し、知らない単語の調査など、基本的な準備を行っていただくことが望ましいです。このためには、約15分程度の時間があれば十分です。また、授業後の事後学習では、授業中に学んだ内容を一度復習し、理解を深めることを目指しています。この事後学習には約30分の時間を要すると想定しています。事前学習と事後学習を通じて、より充実した学習が可能となり、授業への理解と参加が深まることを期待しています。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回

アルファベート. 発音. 人称代名詞(単数): Io, tu, lui/lei. 動詞 essereとchiamarsi.肯定と否定の副詞: sì, no, non. 肯定文と否定文: “sì ... sono” / “no, non sono ...”. 表現 “Non lo so”. 挨拶する. 肯定する. 否定する. 自己紹介をする. 名前の聞き方（親称） 国籍、出身地を尋ねる、答える. 別れの挨拶.

第2回

親称/敬称 “Tu/Lei”. 国籍の形容詞. 定冠詞(単数): il/lo, la, l’. 疑問副詞: “come?”, “di dove ...?”, “qual è...?”. 他の敬称表現: “Signor ...”, “Signora”.名前の聞き方(敬称). 国籍、出身地を尋ねる、答える(敬称). 単語の書き方を尋ねる、伝える

第3回

人称代名詞(複数): noi, voi, loro. 動詞 avere. 定冠詞(複数): “i/gli”, “le”. 基数(0～20).
＜会話＞…はイタリア語で何と言いますか？ 電話番号、住所を聞く、伝える. 繰り返してもらう. 謝る. 礼を述べる.

第4回

男性名詞と女性名詞. 名詞(単数と複数). 不定冠詞: un/uno, una/un’. 色. 選言文: o/oppure. 疑問形: “chi è?”, “che cos’è?”, “di che colore è?”, “com’è?”, “qual è?”, “quale ... è ...?”. 形容詞と代名詞: questo/a, questi/e.
<会話> 物を描写する. 人を描写する. 何をしているか聞く、答える. 何の仕事をしているか聞く、答える. 意見を述べる. 感嘆表現.

第5回

規則動詞-are. 不規則動詞 fare. 平叙文(否定文)で使われる動詞 essere, avere, stare, fare, parlare. 副詞: bene, male.
＜会話＞誰かを紹介する: “Ti presento/Le presento”. 何かに対して残念な気持ちを表現する. 言葉の意味を聞く.

第6回

前置詞 a, in, di. 疑問詞: che, chi, dove, quanti. 動詞esserci (c'è, ci sono). 場所を表す副詞: qui/qua, lì/là. 形容詞と代名詞: quel/quello.
〈会話〉 年齢を聞く、伝える. 基数(21～100).イラストの描写.

第7回

規則動詞-ere. vorreiの使い方. 形容詞と所有格代名詞(単数). 不規則動詞: bere.その他の動詞 mancare: manca, mancano.
〈会話〉 バール、レストランで注文する. 卓上で足りないものをお願いする. 会計をお願いする.

第8回

副詞: prima, poi, dopo, già, ora, adesso, sempre, mai, oggi, domani, ieri. 二重否定: "non ... niente"; "non ... mai"; "non ... più".
〈会話〉 習慣について話す. 時間を聞く、伝える. 何曜日かきく、伝える.

第9回

規則動詞 -ire. 不規則動詞: andare, venire, uscire, salire. 曜日. 疑問代名詞"mai".副詞: sempre, quasi sempre, spesso, di solito, a volte, raramente, non ... mai. fareの主な使い方.
＜会話＞ 余暇について話す. 趣味について話す. 生活習慣について聞く、答える.

第10回

形容詞と疑問代名詞: perché, quando. 不規則動詞: dare, scegliere, dire. 副詞: volentieri, abbastanza ; molto/tanto, poco, più, meno.
〈会話〉 好みについて話す. 同意、不同意を示す. 要望を示す.

第11回

不規則動詞 potere e venire. 形容詞と疑問代名詞: quanto?
＜会話＞ ホテルの部屋を予約する. 情報を得る. 宿泊料金を聞く. 付帯設備について回答する.

第12回

前置詞: tra/fra. 月(1月～12月). 形容詞や所有格代名詞(複数).＜会話＞ 苦情を伝える. 家を描写する. 物の位置を示す. 月日を表す. アパートを借りる.

第13回

形容詞と不定代名詞: molto/tanto, poco, tutto. 冠詞前置詞 del, al, dal, nel, sul, etc. 不規則動詞: dovere, sapere. 副詞: sopra, sotto, vicino, lontano, etc.
〈会話〉 場所を描写する. 情報を聞く、答える. 場所の行き方を説明する.

第14回

補助動詞: volere, potere, dovere.疑問副詞: quando, quale. L'orario (a che ora ...?).
営業時間について話す(バール・銀行・美術館・郵便局・レストラン)確認する.交通機関について聞く。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: Nuovo Espresso 1 (Alma Edizioni)※教材・資料は全てクラス内で配布します。
※教材に関する詳しい説明は初回に行う。

参考文献: 池田廉編,『伊和中辞典・第2版』, 小学館, 1999年

西川一郎編,『和伊中辞典・第2版』, 小学館, 2008年

郡史郎編,『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』, 小学館, 2001年

長神悟,『イタリア語のABC』, 白水社, 2003年

※辞書などの参考文献に関する説明は初回に行う。

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 前期・後期 共に開講期間中に数回のミニテストを予定しています。ミニテストの結果、出席状況(3分の2以上の出席必須)や学習意欲、課題提出状況を考慮し総合的に評価します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050421|03|9S06050421[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（入門） 表現 03		
担 当 教 員	アルベリッツィ ヴァレリオ ルイジ		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ICTを活用した「視る」,「聴く」,「話す」,「楽しむ」イタリア語

Italian with ICT: ≪Seeing≫, ≪Listening≫, ≪Speaking≫, and enjoying the language

授業概要: ICT（Information and Communication Technology, 情報通信技術）を積極的に活用しながら, イタリア語によるコミュニケーション能力の養成と基礎的な文法の取得を目標とする。
受講者はスマートデバイス, インタラクティブな資料や語学学習に適したアプリケーションなどを利用しながら, グループワークによりイタリア語の形式と機能を類推・発見し, 実際に応用する。
具体的には, 短い会話表現を組み合わせたシナリオを作成し, 覚え, ロールプレイなどのようなアクティビティを通して, 身近な話題について話したり, 自分の意見を述べたりする。

This course is designed to enhance communication skills in Italian and to offer an elementary knowledge of Italian grammar through the integrated use of ICT (Information and Communication Technology).
In class, students will engage in group work using smart devices, interactive materials, and applications that aid in language learning and enable them to infer, discover, and practically apply the forms and functions of the Italian language.
Specifically, students will create scenarios that combine short conversational expressions, memorize them, and engage in activities such as role-playing to talk about familiar topics and express their opinions.

授業の到達目標: 多様な文化を理解し、国際舞台の活躍に必須の語学力を身につけ、実践的な外国語能力を養成する。
受講者が約600語からなる一般使用頻度の高いボキャブラリを使いながら基礎的なイタリア語の文書・会話を理解し, 簡単で自然な自己表現ができるようになることを目指す。本講座を修了したものはCEFRのA1に対応する言語運用能力を習得できるようになると想定される。CEFRとは, Common European Framework of Reference for Languages（ヨーロッパ言語共通参照枠）の略称であり, ヨーロッパのすべての言語のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格である。

To understand diverse cultures, acquire the language skills necessary to succeed on the international stage, and develop practical foreign language proficiency.
This course aims to enable students to understand basic Italian texts and conversations using a high-frequency vocabulary of approximately 600 words, allowing them to express themselves in ways that are both simple and natural. Students are expected to reach a proficiency level close to A1 as prescribed by the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR). CEFR, the Common European Framework of Reference for Languages, is used as an international standard to describe the level of communication proficiency for all European languages.

事前・事後学習の内容: 受講者はWasedaMoodleなどにアップロードされているコンテンツを授業の前に予習しておき（所要時間約30～45分と想定されている）, 授業後は授業で触れたテーマについてiOSとAndroid端末からもアクセスできるオンラインの復習問題を行ってもらう（所要時間約15～20分と想定されている）。

Students are expected prepare ahead of class using the contents delivered via Waseda Moodle (estimated time: approximately 30-45 minutes). After class, they will complete online review exercises on the topics covered in the lesson, which can be accessed from both iOS and Android devices (estimated time: approximately 15-20 minutes).

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（本講義の目的と概要）
【理解】名詞の性（単数形）, 国籍を表す形容詞
【表現】簡単な自己紹介（名前、国籍、出身地など）, 挨拶, クラス活動に役に立つ表現（ことばの意味の訊き方など）

Orientation (Purpose and Overview of the Course)
[Grammatical skills]Gender of nouns (singular); Adjectives of nationality
[Communication skills]Simple self-introduction (name, nationality, place of origin); greetings, expressions

useful for class activities (such as how to ask about the meaning of words)

第2回

【理解】essere, chiamarsi 動詞の活用(単数形), 不定冠詞(単数形)
【表現】自分の仕事について話す

〔Grammatical skills〕 Conjugation of ≪essere≫ and ≪chiamarsi≫ (singular); indefinite articles (singular forms)
〔Communication skills〕Talking about one's job

第3回

【理解】指示代名詞(単数形), avere 動詞の活用(単数形), 1から30までの基数
【表現】年齢を尋ねる, 1から30まで数える, 教室にある物

〔Grammatical skills〕Demonstrative pronouns (singular); Conjugation of ≪avere≫ (singular); Cardinal numbers (1 – 30)
〔Communication skills〕 Asking for someone's age; Count from 1 to 30; objects in the classroom

第4回

【理解】are 動詞の活用(単数形)
【表現】自分について話す

〔Grammatical skills〕Conjugation of –are verbs (singular)
〔Communication skills〕Talking about oneself

第5回

【理解】所有形容詞の mio, tuo(単数形), 主な疑問詞
【表現】スケジュールについて話す, 一日の区分, 曜日

〔Grammatical skills〕 Possessive adjectives ≪mio≫, ≪tuo≫ (singular), Interrogatives
〔Communication skills〕Talking about one's schedule; Parts of the day; Days of week

第6回

【理解】essere, avere 動詞の活用(複数形), 名詞の性(複数形), 形容詞の複数形
【表現】グループで自分と日常について話す

〔Grammatical skills〕 Conjugation of ≪essere≫ and ≪avere≫ (plural); Gender of nouns (plural); The plural of adjectives
〔Communication skills〕Talking about oneself and one's daily life in a group

第7回

【理解】chiamarsi 動詞の活用(複数形), 定冠詞(単数形・複数形), 所有形容詞の mio, tuo(複数形)
【表現】家族について話す, 親族名称

〔Grammatical skills〕 Conjugation of ≪chiamarsi≫ (plural); Definite articles (singular and plural); The plural of possessive adjectives ≪mio≫ and ≪tuo≫
〔Communication skills〕Talking about one's family; Kinship terms

第8回

【理解】定冠詞(単数形・複数形), suo(単数形・複数形)
【表現】話し相手の誕生日について尋ねる, 季節, 月名

〔Grammatical skills〕Definite articles (singular and plural); The possessive adjective ≪suo≫ (singular and plural)
〔Communication skills〕Asking about someone's birthday, seasons and months' names

第9回

【理解】C'è, ci sono を使った表現, 前置詞の da の用法, 所有形容詞(まとめ)
【表現】人や物の所在について話す

〔Grammatical skills〕 Expression of existence: ≪c'è≫ and ≪ci sono≫; Use of the preposition ≪da≫; Possessive adjectives (summary)
〔Communication skills〕Talking about the whereabouts of people and things

第10回
【理解】are 動詞の活用（複数形），指示代名詞（複数形），31から60までの基数
【表現】時刻を尋ねる

〔Grammatical skills〕 Conjugation of –are verbs (plural); Demonstrative pronouns (plural); Cardinal numbers (31 – 60)
〔Communication skills〕Asking about time

第11回
【理解】品質形容詞
【表現】店で買い物する，衣服

〔Grammatical skills〕Qualifying adjectives
〔Communication skills〕Going shopping; Clothes

第12回
【理解】位置を表す副詞，前置詞と冠詞の結合形
【表現】人や物の相対的な位置関係を説明する

〔Grammatical skills〕Adverbs of position; Compound prepositions
〔Communication skills〕Explain the relative positional relationships of people and objects

第13回
【理解】敬称表現
【表現】フォーマルな会話とインフォーマルな会話

〔Grammatical skills〕Formal expressions
〔Communication skills〕Formal conversation and informal conversation

第14回
期末テスト

Final test

言語区分: 0 日・英併用 Japanese/English

教科書: ① Valerio L. Alberizzi,『Ai posti! イタリア語入門』（マルチタッチブック）: https://apple.co/3sr4ft7

② Quizlet（講師の承認が必要）

a. フラッシュカードセット：https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔改訂版〕伊和基礎辞典：【名詞】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【動詞】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【副詞】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【形容詞】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔改訂版〕和伊基礎辞典：【名詞】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【動詞】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【副詞】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【形容詞】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※教材に関する詳しい説明は初回に行う。

① Valerio L. Alberizzi, Ai posti! Italian for beginners (Multi-touch book in Japanese): https://apple.co/3sr4ft7

② Quizlet (Teacher's approval needed to join the classes)

a. Flash card sets: https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔Revised edition〕Italian-Japanese Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【Verbs】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【Adverbs】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【Adjectives】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔Revised edition〕Japanese-Italian Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【Verbs】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【Adverbs】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【Adjectives】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※ Teaching materials will be discussed in detail during the course introduction

参考文献: 長神悟, 『イタリア語のABC[改訂版]《CD付》』, 白水社, 2018年

池田廉編, 『伊和中辞典・第2版』, 小学館, 1999年

西川一郎編, 『和伊中辞典・第2版』, 小学館, 2008年

郡史郎編, 『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』, 小学館, 2001年

秋山余思監修, 『プリーモ伊和辞典　和伊付《シングルCD付》』, 白水社, 2011年

※辞書などの参考文献に関する説明は初回に行う。

Nagami Satoru, Itariago no ABC (Revised edition), Hakusuisha, 2018.

Ikeda Yasushi (ed.), I-Wa chujiten – 2nd Edition, Shogakukan, 1999.

Nishikawa Ichiro (ed.), Wa-I chujiten – 2nd Edition, Shogakukan, 2008.

Gun Shiro (ed.), Pocket Progressive Italian-Japanese / Japanese-Italian Dictionary, Shogakukan, 2001.

Akiyama Yoshi, Il Primo – I-Wa jiten, Wa-I tsuki (single CD tsuki), Hakusuisha, 2011

※ Reference materials such as dictionaries will be discussed during the course introduction

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50 ※定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。

※ A final test will be conducted to assess overall understanding of the course contents.

平常点評価: 50 ※グループワークにおいて受講者の取り組む態度を評価する。

※受講者の授業への積極的な参加, 学習意欲などを評価する。

※受講者の学習内容の理解度と単語習得のレベルを確認するため, 毎回, 小テストを実施する。

※オンライン教材による学習の履歴, 宿題や課題などの提出を評価する。

※ Students will be evaluated for their individual contribution to group work

※ Students will be evaluated for their active participation in class and their motivation to learn and improve

※ Quizzes and short tests will be administered at the beginning of each lesson to check the students' comprehension of the learning outcomes and their vocabulary acquisition level.

※ Students will be evaluated for the submission of homework, tasks, and online exercises

備考・関連URL: ※　3分の2以上の出席が単位取得に必須である。
※　グループワークやプレゼンテションなどを実施する。準備などに時間がかかるので, 定刻に授業に来ることが望ましい。
※　iPadを所有する受講者は授業に持って来ること。

※Attendance of 2/3 or more is required for credit acquisition.
※ Preparing for group work and presentations requires time. Students are strongly advised to come to class on time.
※ Students who own an iPad should bring it to class.

初めてイタリア語を学ぶ人、または入門レベルの断片的な知識しか持たない人を対象とする授業だが, 受講者の学習進度やレベルに応じて進める予定である。
外国語の学習というのは, 根本的には, その言語を話している人々が, その目の前に広がる世界をどのように認識しているかということを身につけるプロセスである。そのため, 外国語学習には「ことば」がその背景に持っている文化の知識が不可欠である。したがって, イタリア語・イタリア文化に興味を持ち授業に積極的に参加する受講者を期待する。

This class is intended for students who are learning Italian for the first time or only have a fragmentary knowledge at the introductory level. The pace of instruction will be determined by the students' progress and the overall level of the class.
Foreign language acquisition means learning how a group of people recognizes and classifies the world before

their eyes. Therefore, an understanding of the cultural background that exists behind ≪words≫ is key to successful language learning. Highly motivated students with a strong interest in Italian language and culture are encouraged to take this class.

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050421|04|9S06050421[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	イタリア語（入門）　表現　04		
担 当 教 員	朝比奈　佳尉		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　イタリア語をゼロから学びたい、という学生を対象とします。
この講座ではイタリア語のアルファベットから出発し、「イタリア語を学ぶ上での基礎となる項目」を扱います。
あまり細かい文法事項にはこだわらず、「学んだことを実際に声に出して使う練習」に重点を置いて授業を進めていきます。
発音が日本語にとてもよく似ているイタリア語。
「英語の発音は苦手だけれど、何か外国語を話してみたい」という皆さんにぜひ履修して欲しいと思います。
イタリア留学を考えている人も大歓迎です。

授業の到達目標：　本講座の目標は、イタリア語の初級文法を理解しながら実際のコミュニケーションに結びつけることです。
目標はヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）のA1レベルに到達することです。

事前・事後学習の内容：　外国語を学ぶ上で重要なのは、学んだことを何度も反復し、定着させることです。
ですから受講生の皆さんには、授業の予習ではなく、10分でも20分でもいいですから、授業で学んだことを復習をしてもらえたらと思います。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　発音・アルファベットと自己紹介
イタリア語の発音とアルファベットに耳を慣らしてから、自己紹介で実践練習

第2回　名詞の性と不定冠詞・定冠詞
名詞を使って「注文する」「場所を尋ねる」

第3回　動詞essereと文の作り方
essereを使って自分のことを話す

第4回　形容詞
形容詞を使って店で欲しいものを伝える

第5回　動詞essereと形容詞
essereと形容詞を組み合わせ感想を伝える

第6回　所有形容詞
家族について話す

第7回　動詞avereと名詞の複数形
自分と家族について話す

第8回　形容詞の複数形
essereと形容詞を組み合わせ感想を伝える

第9回　are動詞
自分のことを話す

第10回　自動詞・他動詞と直接目的語代名詞
クラスメートと会話する

第11回　ere動詞・ire動詞
自分のことを話す

第12回　間接目的語代名詞
クラスメートと会話する

第13回　目的語代名詞の結合形
クラスメートと会話する

第１４回　前期のまとめ
前期の内容について、理解度を確認する試験を実施

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: MoodleにテキストのPDFをアップロードします。
授業までに各自ダウンロードし、必要に応じてプリントアウトしておいてください。
また、イタリア語用のノートを1冊準備しておいてください（パソコンやダブレットなどでもOKです）。

参考文献: 外国語を身につけるには、どうしても反復練習が必要になります。
「授業以外で自分で勉強したい！」という人のために、「練習問題集」「単語帳」として次の本をお勧めしておきます。
『もやもやを解消! イタリア語文法ドリル』、小久保真理江、三修社
https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384057836/
『改訂版キクタンイタリア語【入門編】基本500語レベル』
https://book.alc.co.jp/book/b10132063.html

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 60　第14回目の授業時間中に定期試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。

レポート: 0　なし

平常点評価: 40　出席および授業への参加態度を評価します。

その他: 0　なし

備考・関連URL: 何か質問があるときは、いつでもkaiasahina.l@gmail.comまでご連絡ください。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050421|05|9S06050421[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	イタリア語（入門）　表現　05		
担 当 教 員	朝比奈　佳尉		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　イタリア語をゼロから学びたい、という学生を対象とします。
この講座ではイタリア語のアルファベットから出発し、「イタリア語を学ぶ上での基礎となる項目」を扱います。
あまり細かい文法事項にはこだわらず、「学んだことを実際に声に出して使う練習」に重点を置いて授業を進めていきます。
発音が日本語にとてもよく似ているイタリア語。
「英語の発音は苦手だけれど、何か外国語を話してみたい」という皆さんにぜひ履修して欲しいと思います。
イタリア留学を考えている人も大歓迎です。

授業の到達目標：　本講座の目標は、イタリア語の初級文法を理解しながら実際のコミュニケーションに結びつけることです。
目標はヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）のA1レベルに到達することです。

事前・事後学習の内容：　外国語を学ぶ上で重要なのは、学んだことを何度も反復し、定着させることです。
ですから受講生の皆さんには、授業の予習ではなく、10分でも20分でもいいですから、授業で学んだことを復習をしてもらえたらと思います。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　発音・アルファベットと自己紹介
イタリア語の発音とアルファベットに耳を慣らしてから、自己紹介で実践練習

第2回　名詞の性と不定冠詞・定冠詞
名詞を使って「注文する」「場所を尋ねる」

第3回　動詞essereと文の作り方
essereを使って自分のことを話す

第4回　形容詞
形容詞を使って店で欲しいものを伝える

第5回　動詞essereと形容詞
essereと形容詞を組み合わせ感想を伝える

第6回　所有形容詞
家族について話す

第7回　動詞avereと名詞の複数形
自分と家族について話す

第8回　形容詞の複数形
essereと形容詞を組み合わせ感想を伝える

第9回　are動詞
自分のことを話す

第10回　自動詞・他動詞と直接目的語代名詞
クラスメートと会話する

第11回　ere動詞・ire動詞
自分のことを話す

第12回　間接目的語代名詞
クラスメートと会話する

第13回　目的語代名詞の結合形
クラスメートと会話する

第１４回　前期のまとめ
前期の内容について、理解度を確認する試験を実施

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: MoodleにテキストのPDFをアップロードします。
授業までに各自ダウンロードし、必要に応じてプリントアウトしておいてください。
また、イタリア語用のノートを1冊準備しておいてください（パソコンやダブレットなどでもOKです）。

参考文献: 外国語を身につけるには、どうしても反復練習が必要になります。
「授業以外で自分で勉強したい！」という人のために、「練習問題集」「単語帳」として次の本をお勧めしておきます。
『もやもやを解消! イタリア語文法ドリル』、小久保真理江、三修社
https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384057836/
『改訂版キクタンイタリア語【入門編】基本500語レベル』
https://book.alc.co.jp/book/b10132063.html

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 60　第14回目の授業時間中に定期試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。

レポート: 0　なし

平常点評価: 40　出席および授業への参加態度を評価します。

その他: 0　なし

備考・関連URL: 何か質問があるときは、いつでもkaiasahina.l@gmail.comまでご連絡ください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050421|06|9S06050421[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（入門） 表現 06		
担 当 教 員	アルベリッツィ ヴァレリオ ルイジ		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ICTを活用した「視る」,「聴く」,「話す」,「楽しむ」イタリア語

Italian with ICT: ≪Seeing≫, ≪Listening≫, ≪Speaking≫, and enjoying the language

授業概要: ICT（Information and Communication Technology, 情報通信技術）を積極的に活用しながら, イタリア語によるコミュニケーション能力の養成と基礎的な文法の取得を目標とする。
受講者はスマートデバイス, インタラクティブな資料や語学学習に適したアプリケーションなどを利用しながら, グループワークによりイタリア語の形式と機能を類推・発見し, 実際に応用する。
具体的には, 短い会話表現を組み合わせたシナリオを作成し, 覚え, ロールプレイなどのようなアクティビティを通して, 身近な話題について話したり, 自分の意見を述べたりする。

This course is designed to enhance communication skills in Italian and to offer an elementary knowledge of Italian grammar through the integrated use of ICT (Information and Communication Technology).
In class, students will engage in group work using smart devices, interactive materials, and applications that aid in language learning and enable them to infer, discover, and practically apply the forms and functions of the Italian language.
Specifically, students will create scenarios that combine short conversational expressions, memorize them, and engage in activities such as role-playing to talk about familiar topics and express their opinions.

授業の到達目標: 多様な文化を理解し、国際舞台の活躍に必須の語学力を身につけ、実践的な外国語能力を養成する。
受講者が約600語からなる一般使用頻度の高いボキャブラリを使いながら基礎的なイタリア語の文書・会話を理解し, 簡単で自然な自己表現ができるようになることを目指す。本講座を修了したものはCEFRのA1に対応する言語運用能力を習得できるようになると想定される。CEFRとは, Common European Framework of Reference for Languages（ヨーロッパ言語共通参照枠）の略称であり, ヨーロッパのすべての言語のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格である。

To understand diverse cultures, acquire the language skills necessary to succeed on the international stage, and develop practical foreign language proficiency.
This course aims to enable students to understand basic Italian texts and conversations using a high-frequency vocabulary of approximately 600 words, allowing them to express themselves in ways that are both simple and natural. Students are expected to reach a proficiency level close to A1 as prescribed by the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR). CEFR, the Common European Framework of Reference for Languages, is used as an international standard to describe the level of communication proficiency for all European languages.

事前・事後学習の内容: 受講者はWasedaMoodleなどにアップロードされているコンテンツを授業の前に予習しておき（所要時間約30～45分と想定されている）, 授業後は授業で触れたテーマについてiOSとAndroid端末からもアクセスできるオンラインの復習問題を行ってもらう（所要時間約15～20分と想定されている）。

Students are expected prepare ahead of class using the contents delivered via Waseda Moodle (estimated time: approximately 30-45 minutes). After class, they will complete online review exercises on the topics covered in the lesson, which can be accessed from both iOS and Android devices (estimated time: approximately 15-20 minutes).

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（本講義の目的と概要）
【理解】名詞の性（単数形）, 国籍を表す形容詞
【表現】簡単な自己紹介（名前、国籍、出身地など）, 挨拶, クラス活動に役に立つ表現（ことばの意味の訊き方など）

Orientation (Purpose and Overview of the Course)
[Grammatical skills]Gender of nouns (singular); Adjectives of nationality
[Communication skills]Simple self-introduction (name, nationality, place of origin); greetings, expressions

useful for class activities (such as how to ask about the meaning of words)

第2回

【理解】essere, chiamarsi 動詞の活用(単数形), 不定冠詞(単数形)
【表現】自分の仕事について話す

〔Grammatical skills〕 Conjugation of ≪essere≫ and ≪chiamarsi≫ (singular); indefinite articles (singular forms)
〔Communication skills〕Talking about one's job

第3回

【理解】指示代名詞(単数形), avere 動詞の活用(単数形), 1から30までの基数
【表現】年齢を尋ねる, 1から30まで数える, 教室にある物

〔Grammatical skills〕Demonstrative pronouns (singular); Conjugation of ≪avere≫ (singular); Cardinal numbers (1 – 30)
〔Communication skills〕 Asking for someone's age; Count from 1 to 30; objects in the classroom

第4回

【理解】are 動詞の活用(単数形)
【表現】自分について話す

〔Grammatical skills〕Conjugation of –are verbs (singular)
〔Communication skills〕Talking about oneself

第5回

【理解】所有形容詞の mio, tuo(単数形), 主な疑問詞
【表現】スケジュールについて話す, 一日の区分, 曜日

〔Grammatical skills〕 Possessive adjectives ≪mio≫, ≪tuo≫ (singular), Interrogatives
〔Communication skills〕Talking about one's schedule; Parts of the day; Days of week

第6回

【理解】essere, avere 動詞の活用(複数形), 名詞の性(複数形), 形容詞の複数形
【表現】グループで自分と日常について話す

〔Grammatical skills〕 Conjugation of ≪essere≫ and ≪avere≫ (plural); Gender of nouns (plural); The plural of adjectives
〔Communication skills〕Talking about oneself and one's daily life in a group

第7回

【理解】chiamarsi 動詞の活用(複数形), 定冠詞(単数形・複数形), 所有形容詞の mio, tuo(複数形)
【表現】家族について話す, 親族名称

〔Grammatical skills〕 Conjugation of ≪chiamarsi≫ (plural); Definite articles (singular and plural); The plural of possessive adjectives ≪mio≫ and ≪tuo≫
〔Communication skills〕Talking about one's family; Kinship terms

第8回

【理解】定冠詞(単数形・複数形), suo(単数形・複数形)
【表現】話し相手の誕生日について尋ねる, 季節, 月名

〔Grammatical skills〕Definite articles (singular and plural); The possessive adjective ≪suo≫ (singular and plural)
〔Communication skills〕Asking about someone's birthday, seasons and months' names

第9回

【理解】C'è, ci sono を使った表現, 前置詞の da の用法, 所有形容詞(まとめ)
【表現】人や物の所在について話す

〔Grammatical skills〕 Expression of existence: ≪c'è≫ and ≪ci sono≫; Use of the preposition ≪da≫; Possessive adjectives (summary)
〔Communication skills〕Talking about the whereabouts of people and things

第10回
【理解】are 動詞の活用（複数形），指示代名詞（複数形），31から60までの基数
【表現】時刻を尋ねる

〔Grammatical skills〕 Conjugation of -are verbs (plural); Demonstrative pronouns (plural); Cardinal numbers (31 - 60)
〔Communication skills〕Asking about time

第11回
【理解】品質形容詞
【表現】店で買い物する，衣服

〔Grammatical skills〕Qualifying adjectives
〔Communication skills〕Going shopping; Clothes

第12回
【理解】位置を表す副詞，前置詞と冠詞の結合形
【表現】人や物の相対的な位置関係を説明する

〔Grammatical skills〕Adverbs of position; Compound prepositions
〔Communication skills〕Explain the relative positional relationships of people and objects

第13回
【理解】敬称表現
【表現】フォーマルな会話とインフォーマルな会話

〔Grammatical skills〕Formal expressions
〔Communication skills〕Formal conversation and informal conversation

第14回
期末テスト

Final test

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: ① Valerio L. Alberizzi,『Ai posti! イタリア語入門』（マルチタッチブック）: https://apple.co/3sr4ft7

② Quizlet（講師の承認が必要）

a. フラッシュカードセット：https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔改訂版〕伊和基礎辞典：【名詞】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【動詞】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【副詞】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【形容詞】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔改訂版〕和伊基礎辞典：【名詞】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【動詞】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【副詞】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【形容詞】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※教材に関する詳しい説明は初回に行う。

① Valerio L. Alberizzi, Ai posti! Italian for beginners (Multi-touch book in Japanese): https://apple.co/3sr4ft7

② Quizlet (Teacher's approval needed to join the classes)

a. Flash card sets: https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔Revised edition〕Italian-Japanese Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【Verbs】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【Adverbs】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【Adjectives】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔Revised edition〕Japanese-Italian Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【Verbs】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【Adverbs】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【Adjectives】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※ Teaching materials will be discussed in detail during the course introduction

参考文献: 長神悟,『イタリア語のABC[改訂版]《CD付》』, 白水社, 2018年

池田廉編,『伊和中辞典・第2版』, 小学館, 1999年

西川一郎編,『和伊中辞典・第2版』, 小学館, 2008年

郡史郎編,『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』, 小学館, 2001年

秋山余思監修,『プリーモ伊和辞典　和伊付《シングルCD付》』, 白水社, 2011年

※辞書などの参考文献に関する説明は初回に行う。

Nagami Satoru, Itariago no ABC (Revised edition), Hakusuisha, 2018.

Ikeda Yasushi (ed.), I-Wa chujiten – 2nd Edition, Shogakukan, 1999.

Nishikawa Ichiro (ed.), Wa-I chujiten – 2nd Edition, Shogakukan, 2008.

Gun Shiro (ed.), Pocket Progressive Italian-Japanese / Japanese-Italian Dictionary, Shogakukan, 2001.

Akiyama Yoshi, Il Primo – I-Wa jiten, Wa-I tsuki (single CD tsuki), Hakusuisha, 2011

※ Reference materials such as dictionaries will be discussed during the course introduction

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50 ※定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。

※ A final test will be conducted to assess overall understanding of the course contents.

平常点評価: 50 ※グループワークにおいて受講者の取り組む態度を評価する。

※受講者の授業への積極的な参加, 学習意欲などを評価する。

※受講者の学習内容の理解度と単語習得のレベルを確認するため, 毎回, 小テストを実施する。

※オンライン教材による学習の履歴, 宿題や課題などの提出を評価する。

※ Students will be evaluated for their individual contribution to group work

※ Students will be evaluated for their active participation in class and their motivation to learn and improve

※ Quizzes and short tests will be administered at the beginning of each lesson to check the students' comprehension of the learning outcomes and their vocabulary acquisition level.

※ Students will be evaluated for the submission of homework, tasks, and online exercises

備考・関連URL: ※　3分の2以上の出席が単位取得に必須である。
※　グループワークやプレゼンテションなどを実施する。準備などに時間がかかるので, 定刻に授業に来ることが望ましい。
※　iPadを所有する受講者は授業に持って来ること。

※Attendance of 2/3 or more is required for credit acquisition.
※ Preparing for group work and presentations requires time. Students are strongly advised to come to class on time.
※ Students who own an iPad should bring it to class.

初めてイタリア語を学ぶ人、または入門レベルの断片的な知識しか持たない人を対象とする授業だが, 受講者の学習進度やレベルに応じて進める予定である。
外国語の学習というのは, 根本的には, その言語を話している人々が, その目の前に広がる世界をどのように認識しているかということを身につけるプロセスである。そのため, 外国語学習には「ことば」がその背景に持っている文化の知識が不可欠である。したがって, イタリア語・イタリア文化に興味を持ち授業に積極的に参加する受講者を期待する。

This class is intended for students who are learning Italian for the first time or only have a fragmentary knowledge at the introductory level. The pace of instruction will be determined by the students' progress and the overall level of the class.
Foreign language acquisition means learning how a group of people recognizes and classifies the world before their eyes. Therefore, an understanding of the cultural background that exists behind ≪words≫ is key to successful language learning. Highly motivated students with a strong interest in Italian language and culture are

encouraged to take this class.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050421|07|9S06050421[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（入門） 表現 07		
担 当 教 員	アルベリッツィ ヴァレリオ ルイジ		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ICTを活用した「視る」,「聴く」,「話す」,「楽しむ」イタリア語

Italian with ICT: ≪Seeing≫, ≪Listening≫, ≪Speaking≫, and enjoying the language

授業概要: ICT（Information and Communication Technology, 情報通信技術）を積極的に活用しながら, イタリア語によるコミュニケーション能力の養成と基礎的な文法の取得を目標とする。
受講者はスマートデバイス, インタラクティブな資料や語学学習に適したアプリケーションなどを利用しながら, グループワークによりイタリア語の形式と機能を類推・発見し, 実際に応用する。
具体的には, 短い会話表現を組み合わせたシナリオを作成し, 覚え, ロールプレイなどのようなアクティビティを通して, 身近な話題について話したり, 自分の意見を述べたりする。

This course is designed to enhance communication skills in Italian and to offer an elementary knowledge of Italian grammar through the integrated use of ICT (Information and Communication Technology).
In class, students will engage in group work using smart devices, interactive materials, and applications that aid in language learning and enable them to infer, discover, and practically apply the forms and functions of the Italian language.
Specifically, students will create scenarios that combine short conversational expressions, memorize them, and engage in activities such as role-playing to talk about familiar topics and express their opinions.

授業の到達目標: 多様な文化を理解し、国際舞台の活躍に必須の語学力を身につけ、実践的な外国語能力を養成する。
受講者が約600語からなる一般使用頻度の高いボキャブラリを使いながら基礎的なイタリア語の文書・会話を理解し, 簡単で自然な自己表現ができるようになることを目指す。本講座を修了したものはCEFRのA1に対応する言語運用能力を習得できるようになると想定される。CEFRとは, Common European Framework of Reference for Languages（ヨーロッパ言語共通参照枠）の略称であり, ヨーロッパのすべての言語のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格である。

To understand diverse cultures, acquire the language skills necessary to succeed on the international stage, and develop practical foreign language proficiency.
This course aims to enable students to understand basic Italian texts and conversations using a high-frequency vocabulary of approximately 600 words, allowing them to express themselves in ways that are both simple and natural. Students are expected to reach a proficiency level close to A1 as prescribed by the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR). CEFR, the Common European Framework of Reference for Languages, is used as an international standard to describe the level of communication proficiency for all European languages.

事前・事後学習の内容: 受講者はWasedaMoodleなどにアップロードされているコンテンツを授業の前に予習しておき（所要時間約30～45分と想定されている）, 授業後は授業で触れたテーマについてiOSとAndroid端末からもアクセスできるオンラインの復習問題を行ってもらう（所要時間約15～20分と想定されている）。

Students are expected prepare ahead of class using the contents delivered via Waseda Moodle (estimated time: approximately 30-45 minutes). After class, they will complete online review exercises on the topics covered in the lesson, which can be accessed from both iOS and Android devices (estimated time: approximately 15-20 minutes).

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（本講義の目的と概要）
【理解】名詞の性（単数形）, 国籍を表す形容詞
【表現】簡単な自己紹介（名前、国籍、出身地など）, 挨拶, クラス活動に役に立つ表現（ことばの意味の訊き方など）

Orientation (Purpose and Overview of the Course)
[Grammatical skills]Gender of nouns (singular); Adjectives of nationality
[Communication skills]Simple self-introduction (name, nationality, place of origin); greetings, expressions

useful for class activities (such as how to ask about the meaning of words)

第2回

【理解】essere, chiamarsi 動詞の活用(単数形), 不定冠詞(単数形)
【表現】自分の仕事について話す

〔Grammatical skills〕 Conjugation of ≪essere≫ and ≪chiamarsi≫ (singular); indefinite articles (singular forms)
〔Communication skills〕Talking about one's job

第3回

【理解】指示代名詞(単数形), avere 動詞の活用(単数形), 1から30までの基数
【表現】年齢を尋ねる, 1から30まで数える, 教室にある物

〔Grammatical skills〕Demonstrative pronouns (singular); Conjugation of ≪avere≫ (singular); Cardinal numbers (1 – 30)
〔Communication skills〕 Asking for someone's age; Count from 1 to 30; objects in the classroom

第4回

【理解】are 動詞の活用(単数形)
【表現】自分について話す

〔Grammatical skills〕Conjugation of –are verbs (singular)
〔Communication skills〕Talking about oneself

第5回

【理解】所有形容詞の mio, tuo(単数形), 主な疑問詞
【表現】スケジュールについて話す, 一日の区分, 曜日

〔Grammatical skills〕 Possessive adjectives ≪mio≫, ≪tuo≫ (singular), Interrogatives
〔Communication skills〕Talking about one's schedule; Parts of the day; Days of week

第6回

【理解】essere, avere 動詞の活用(複数形), 名詞の性(複数形), 形容詞の複数形
【表現】グループで自分と日常について話す

〔Grammatical skills〕 Conjugation of ≪essere≫ and ≪avere≫ (plural); Gender of nouns (plural); The plural of adjectives
〔Communication skills〕Talking about oneself and one's daily life in a group

第7回

【理解】chiamarsi 動詞の活用(複数形), 定冠詞(単数形・複数形), 所有形容詞の mio, tuo(複数形)
【表現】家族について話す, 親族名称

〔Grammatical skills〕 Conjugation of ≪chiamarsi≫ (plural); Definite articles (singular and plural); The plural of possessive adjectives ≪mio≫ and ≪tuo≫
〔Communication skills〕Talking about one's family; Kinship terms

第8回

【理解】定冠詞(単数形・複数形), suo(単数形・複数形)
【表現】話し相手の誕生日について尋ねる, 季節, 月名

〔Grammatical skills〕Definite articles (singular and plural); The possessive adjective ≪suo≫ (singular and plural)
〔Communication skills〕Asking about someone's birthday, seasons and months' names

第9回

【理解】C'è, ci sono を使った表現, 前置詞の da の用法, 所有形容詞(まとめ)
【表現】人や物の所在について話す

〔Grammatical skills〕 Expression of existence: ≪c'è≫ and ≪ci sono≫; Use of the preposition ≪da≫; Possessive adjectives (summary)
〔Communication skills〕Talking about the whereabouts of people and things

第10回
【理解】are 動詞の活用（複数形），指示代名詞（複数形），31から60までの基数
【表現】時刻を尋ねる

〔Grammatical skills〕 Conjugation of -are verbs (plural); Demonstrative pronouns (plural); Cardinal numbers (31 - 60)
〔Communication skills〕Asking about time

第11回
【理解】品質形容詞
【表現】店で買い物する，衣服

〔Grammatical skills〕Qualifying adjectives
〔Communication skills〕Going shopping; Clothes

第12回
【理解】位置を表す副詞，前置詞と冠詞の結合形
【表現】人や物の相対的な位置関係を説明する

〔Grammatical skills〕Adverbs of position; Compound prepositions
〔Communication skills〕Explain the relative positional relationships of people and objects

第13回
【理解】敬称表現
【表現】フォーマルな会話とインフォーマルな会話

〔Grammatical skills〕Formal expressions
〔Communication skills〕Formal conversation and informal conversation

第14回
期末テスト

Final test

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: ① Valerio L. Alberizzi,『Ai posti! イタリア語入門』（マルチタッチブック）: https://apple.co/3sr4ft7

② Quizlet（講師の承認が必要）

a. フラッシュカードセット：https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔改訂版〕伊和基礎辞典：【名詞】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【動詞】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【副詞】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【形容詞】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔改訂版〕和伊基礎辞典：【名詞】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【動詞】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【副詞】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【形容詞】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※教材に関する詳しい説明は初回に行う。

① Valerio L. Alberizzi, Ai posti! Italian for beginners (Multi-touch book in Japanese): https://apple.co/3sr4ft7

② Quizlet (Teacher's approval needed to join the classes)

a. Flash card sets: https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔Revised edition〕Italian-Japanese Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【Verbs】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【Adverbs】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【Adjectives】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔Revised edition〕Japanese-Italian Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【Verbs】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【Adverbs】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【Adjectives】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※ Teaching materials will be discussed in detail during the course introduction

参考文献: 長神悟,『イタリア語のABC[改訂版]《CD付》』, 白水社, 2018年

池田廉編,『伊和中辞典・第2版』, 小学館, 1999年

西川一郎編,『和伊中辞典・第2版』, 小学館, 2008年

郡史郎編,『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』, 小学館, 2001年

秋山余思監修,『プリーモ伊和辞典　和伊付《シングルCD付》』, 白水社, 2011年

※辞書などの参考文献に関する説明は初回に行う。

Nagami Satoru, Itariago no ABC (Revised edition), Hakusuisha, 2018.

Ikeda Yasushi (ed.), I-Wa chujiten – 2nd Edition, Shogakukan, 1999.

Nishikawa Ichiro (ed.), Wa-I chujiten – 2nd Edition, Shogakukan, 2008.

Gun Shiro (ed.), Pocket Progressive Italian-Japanese / Japanese-Italian Dictionary, Shogakukan, 2001.

Akiyama Yoshi, Il Primo – I-Wa jiten, Wa-I tsuki (single CD tsuki), Hakusuisha, 2011

※ Reference materials such as dictionaries will be discussed during the course introduction

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50 ※定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。

※ A final test will be conducted to assess overall understanding of the course contents.

平常点評価: 50 ※グループワークにおいて受講者の取り組む態度を評価する。

※受講者の授業への積極的な参加, 学習意欲などを評価する。

※受講者の学習内容の理解度と単語習得のレベルを確認するため, 毎回, 小テストを実施する。

※オンライン教材による学習の履歴, 宿題や課題などの提出を評価する。

※ Students will be evaluated for their individual contribution to group work

※ Students will be evaluated for their active participation in class and their motivation to learn and improve

※ Quizzes and short tests will be administered at the beginning of each lesson to check the students' comprehension of the learning outcomes and their vocabulary acquisition level.

※ Students will be evaluated for the submission of homework, tasks, and online exercises

備考・関連URL: ※　3分の2以上の出席が単位取得に必須である。
※　グループワークやプレゼンテションなどを実施する。準備などに時間がかかるので, 定刻に授業に来ることが望ましい。
※　iPadを所有する受講者は授業に持って来ること。

※Attendance of 2/3 or more is required for credit acquisition.
※ Preparing for group work and presentations requires time. Students are strongly advised to come to class on time.
※ Students who own an iPad should bring it to class.

初めてイタリア語を学ぶ人、または入門レベルの断片的な知識しか持たない人を対象とする授業だが, 受講者の学習進度やレベルに応じて進める予定である。
外国語の学習というのは, 根本的には, その言語を話している人々が, その目の前に広がる世界をどのように認識しているかということを身につけるプロセスである。そのため, 外国語学習には「ことば」がその背景に持っている文化の知識が不可欠である。したがって, イタリア語・イタリア文化に興味を持ち授業に積極的に参加する受講者を期待する。

This class is intended for students who are learning Italian for the first time or only have a fragmentary knowledge at the introductory level. The pace of instruction will be determined by the students' progress and the overall level of the class.
Foreign language acquisition means learning how a group of people recognizes and classifies the world before their eyes. Therefore, an understanding of the cultural background that exists behind ≪words≫ is key to successful language learning. Highly motivated students with a strong interest in Italian language and culture are

encouraged to take this class.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050423|01|9S06050423[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（入門） ＜アクティブ・ラーニングで学ぶイタリア語＞		
担 当 教 員	アルベリッツィ ヴァレリオ ルイジ		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月３時限@02:火３時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： 生きたイタリア語に主体的に触れてみよう

Let's actively engage with living Italian

授業概要： ICT（Information and Communication Technology，情報通信技術）を積極的に活用しながら，イタリア語によるコミュニケーション能力の養成と基礎的な文法の取得を目標とする。
受講者はスマートデバイス，インタラクティブな資料や語学学習に適したアプリケーションなどを利用しながら，グループワークによりイタリア語の形式と機能を類推・発見し，実際に応用する。
具体的には，短い会話表現を組み合わせたシナリオを作成し，覚え，ロールプレイなどのようなアクティビティを通して，身近な話題について話したり，自分の意見を述べたりする。
同講師が担当する「イタリア語（入門） 表現 01・03」と異なり、本授業は週に2コマ割り当てられているため、進行がより速く、上記のクラス活動（実習・練習）に充てられる時間が多く、イタリア語によるコミュニケーションの諸問題をより詳細に扱う。
イタリア留学を控えている、または短期間で実践的なコミュニケーション能力を身につけたい学習者向けの授業である。

This course is designed to enhance communication skills in Italian and to offer an elementary knowledge of the Italian grammar through the integrated use of ICT (Information and Communication Technology).
In class, students will engage in group work using smart devices, interactive materials, and applications that aid in language learning and enable them to infer, discover, and practically apply the forms and functions of the Italian language.
Specifically, they will create scenarios that combine short conversational expressions, memorize them, and engage in activities such as role-playing to talk about familiar topics and express their opinions.
Unlike the instructor's other courses, Italian (Introductory) Expression 01 and 03, this class meets twice a week allowing for a faster pace and more time dedicated to class activities (practical exercises and drills). This schedule allows for a more detailed exploration of various communication challenges in Italian.
The course is designed for students preparing to study in Italy or those who wish to acquire practical communication skills in a short period.

授業の到達目標： 多様な文化を理解し、国際舞台の活躍に必須の語学力を身につけ、実践的な外国語能力を養成する。
受講者が約850語からなる一般使用頻度の高いボキャブラリを使いながら基礎的なイタリア語の文書・会話を理解し，簡単で自然な自己表現ができるようになることを目指す。本講座を修了したものはCEFRのA1-A2に対応する言語運用能力を習得できるようになると想定される。CEFRとは，Common European Framework of Reference for Languages（ヨーロッパ言語共通参照枠）の略称であり，ヨーロッパのすべての言語のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格である。

To understand diverse cultures, acquire the language skills necessary to succeed on the international stage, and develop practical foreign language proficiency.
This course aims to enable students to understand basic Italian texts and conversations using a high-frequency vocabulary of approximately 850 words, allowing them to express themselves in ways that are both simple and natural. Students are expected to reach a proficiency level close to A1-A2 as prescribed by the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR). CEFR, the Common European Framework of Reference for Languages, is used as an international standard to describe the level of communication proficiency for all European languages.

事前・事後学習の内容： 受講者はWasedaMoodleなどにアップロードされているコンテンツを授業の前に予習しておき（所要時間約30～45分と想定されている），授業後は授業で触れたテーマについてiOSとAndroid端末からもアクセスできるオンラインの復習問題を行ってもらう（所要時間約15～20分と想定されている）。

Students are expected prepare ahead of class using the contents delivered via Waseda Moodle (estimated time: approximately 30-45 minutes). After class, they will complete online review exercises on the topics covered in the lesson, which can be accessed from both iOS and Android devices (estimated time: approximately 15-20 minutes).

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回

オリエンテーション（本講義の目的と概要）
【理解】名詞の性（単数形），国籍を表す形容詞
【表現】簡単な自己紹介（名前、国籍、出身地など），挨拶，クラス活動に役に立つ表現（ことばの意味の訊き方など）

Orientation (Purpose and Overview of the Course)
〔Grammatical skills〕Gender of nouns (singular); Adjectives of nationality
〔Communication skills〕Simple self-introduction (name, nationality, place of origin); greetings, expressions useful for class activities (such as how to ask about the meaning of words)

第2回

【理解】essere，chiamarsi 動詞の活用（単数形），不定冠詞（単数形）
【表現】自分の仕事について話す

〔Grammatical skills〕 Conjugation of ≪essere≫ and ≪chiamarsi≫ (singular); indefinite articles (singular forms)
〔Communication skills〕Talking about one's job

第3回

【理解】指示代名詞（単数形），avere 動詞の活用（単数形），1から30までの基数
【表現】年齢を尋ねる，1から30まで数える，教室にある物

〔Grammatical skills〕Demonstrative pronouns (singular); Conjugation of ≪avere≫ (singular); Cardinal numbers (1 – 30)
〔Communication skills〕 Asking for someone's age; Count from 1 to 30; objects in the classroom

第4回

【理解】are 動詞の活用（単数形）
【表現】自分について話す

〔Grammatical skills〕Conjugation of -are verbs (singular)
〔Communication skills〕Talking about oneself

第5回

【理解】所有形容詞の mio，tuo（単数形），主な疑問詞
【表現】スケジュールについて話す，一日の区分，曜日

〔Grammatical skills〕 Possessive adjectives ≪mio≫, ≪tuo≫ (singular), Interrogatives
〔Communication skills〕Talking about one's schedule; Parts of the day; Days of week

第6回

【理解】essere, avere 動詞の活用（複数形），名詞の性（複数形），形容詞の複数形
【表現】グループで自分と日常について話す

〔Grammatical skills〕 Conjugation of ≪essere≫ and ≪avere≫ (plural); Gender of nouns (plural); The plural of adjectives
〔Communication skills〕Talking about oneself and one's daily life in a group

第7回

【理解】chiamarsi 動詞の活用（複数形），定冠詞（単数形・複数形），所有形容詞の mio，tuo（複数形）
【表現】家族について話す，親族名称

〔Grammatical skills〕 Conjugation of ≪chiamarsi≫ (plural); Definite articles (singular and plural); The plural of possessive adjectives ≪mio≫ and ≪tuo≫
〔Communication skills〕Talking about one's family; Kinship terms

第8回

【理解】定冠詞（単数形・複数形），suo（単数形・複数形）
【表現】話し相手の誕生日について尋ねる，季節，月名

〔Grammatical skills〕Definite articles (singular and plural); The possessive adjective ≪suo≫ (singular and plural)
〔Communication skills〕Asking about someone's birthday, seasons and months' names

第9回
【理解】C'è, ci sono を使った表現, 前置詞の da の用法, 所有形容詞(まとめ)
【表現】人や物の所在について話す

〔Grammatical skills〕 Expression of existence: ≪c'è≫ and ≪ci sono≫; Use of the preposition ≪da≫; Possessive adjectives (summary)
〔Communication skills〕Talking about the whereabouts of people and things

第10回
【理解】are 動詞の活用(複数形), 指示代名詞(複数形), 31から60までの基数
【表現】時刻を尋ねる

〔Grammatical skills〕 Conjugation of -are verbs (plural); Demonstrative pronouns (plural); Cardinal numbers (31 - 60)
〔Communication skills〕Asking about time

第11回
【理解】品質形容詞
【表現】店で買い物する, 衣服

〔Grammatical skills〕Qualifying adjectives
〔Communication skills〕Going shopping; Clothes

第12回
【理解】位置を表す副詞, 前置詞と冠詞の結合形
【表現】人や物の相対的な位置関係を説明する

〔Grammatical skills〕Adverbs of position; Compound prepositions
〔Communication skills〕Explain the relative positional relationships of people and objects

第13回
【理解】敬称表現
【表現】フォーマルな会話とインフォーマルな会話

〔Grammatical skills〕Formal expressions
〔Communication skills〕Formal conversation and informal conversation

第14回
中間テストおよび解説

Midterm test and comment

第15回
【理解】ere動詞の活用
【表現】飲食店で注文する, イタリアのバーの食べ物と飲み物

〔Grammatical skills〕Conjugation of -ere verbs;
〔Communication skills〕Giving orders at a restaurant or café; Food and drinks in an Italian bar

第16回
【理解】不定冠詞の複数形, 部分冠詞
【表現】スーパーや市場などで買い物する, イタリアの果物と野菜

〔Grammatical skills〕The plural of indefinite articles; Partitive articles
〔Communication skills〕 Shopping at a supermarket or at a market, Italian fruits and vegetables

第17回
【理解】近称指示形容詞と遠称指示形容詞, 所有代名詞
【表現】友達と食事する

〔Grammatical skills〕Demonstrative Adjectives of Proximity and Distance, Possessive Pronouns
〔Communication skills〕Eating with friends

第18回
【理解】fare, andare, venire動詞の活用
【表現】人と約束する, fareを使った表現

〔Grammatical skills〕Conjugation of ≪fare≫, ≪andare≫, ≪venire≫
〔Communication skills〕Making an appointment; Idiomatic expressions with fare

第19回
【理解】頻度副詞
【表現】自分の習慣について話す，娯楽場・施設

〔Grammatical skills〕Adverbs of frequency
〔Communication skills〕Talking about one's habits, Entertainment venues, facilities

第20回
【理解】補助動詞 potere, dovere, volere の活用
【表現】人に頼む・お願いする，許可を求める

〔Grammatical skills〕Conjugation of modal verbs ≪potere≫, ≪dovere≫, ≪volere≫
〔Communication skills〕Making requests and asking for permission

第21回
【理解】ire動詞の活用
【表現】店などの開閉時間を尋ねる

〔Grammatical skills〕Conjugation of -ire verbs
〔Communication skills〕Asking about opening and closing hours of shops, museums, etc.

第22回
【理解】potere, sapere, conoscere動詞の用法，形容詞bello, buono，副詞bene, maleの用法
【表現】長所・短所・知識・外見・性格・状態について尋ねる

〔Grammatical skills〕The verbs ≪potere≫, ≪sapere≫, ≪conoscere≫; The adjectives ≪bello≫ and ≪buono≫; The adverbs ≪bene≫ and ≪male≫
〔Communication skills〕Asking about strength and weaknesses, knowledge, physical appearance, personality, condition

第23回
【理解】Avere動詞を使う近過去（過去完了）
【表現】過去の体験を語る

〔Grammatical skills〕Passato prossimo (Perfect past tense) of verbs that require the auxiliary ≪avere≫
〔Communication skills〕Telling a past experience

第24回
【理解】Essere動詞を使う近過去（過去完了）
【表現】過去の旅行を語る

〔Grammatical skills〕Passato prossimo (Perfect past tense) of verbs that require the auxiliary ≪essere≫
〔Communication skills〕Talking about a past travel

第25回
【理解】規則動詞の半過去（過去未完了）
【表現】子供の頃の思い出

〔Grammatical skills〕Imperfetto (Imperfect past tense) of regular verbs
〔Communication skills〕Childhood memories

第26回
【理解】規則動詞の近過去（過去完了）と半過去（過去未完了）の併用
【表現】一日を語る

〔Grammatical skills〕The combined use of the passato prossimo (perfect past tense) and the imperfetto (imperfect past tense) of regular verbs.
〔Communication skills〕Talking about one's day

第27回
【理解】総合復習
【表現】自由会話

〔Grammatical skills〕General review
〔Communication skills〕 Free conversation

第28回
期末テスト

Final test

言語区分: 0 日・英併用 Japanese/English

教科書:

① Valerio L. Alberizzi,『Ai posti! イタリア語入門』(マルチタッチブック): https://apple.co/3sr4ft7

② Valerio L. Alberizzi,『Pronti! イタリア語初級』(マルチタッチブック)

③ Quizlet(講師の承認が必要)

a. フラッシュカードセット:https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔改訂版〕伊和基礎辞典:【名詞】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【動詞】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【副詞】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【形容詞】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔改訂版〕和伊基礎辞典:【名詞】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【動詞】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【副詞】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【形容詞】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※教材に関する詳しい説明は初回に行う。

① Valerio L. Alberizzi, Ai posti! Italian for beginners (Multi-touch book in Japanese): https://apple.co/3sr4ft7

② Valerio L. Alberizzi, Pronti! Elementary Italian (Multi-touch book in Japanese)

③ Quizlet (Teacher's approval needed to join the classes)

a. Flash card sets: https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔Revised edition〕Italian-Japanese Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【Verbs】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【Adverbs】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【Adjectives】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔Revised edition〕Japanese-Italian Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【Verbs】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【Adverbs】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【Adjectives】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※ Teaching materials will be discussed in detail during the course introduction

参考文献:

長神悟,『イタリア語のABC[改訂版]《CD付》』, 白水社, 2018年

池田廉編,『伊和中辞典・第2版』, 小学館, 1999年

西川一郎編,『和伊中辞典・第2版』, 小学館, 2008年

郡史郎編,『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』, 小学館, 2001年

秋山余思監修,『プリーモ伊和辞典　和伊付《シングルCD付》』, 白水社, 2011年

※辞書などの参考文献に関する説明は初回に行う。

Nagami Satoru, Itariago no ABC (Revised edition), Hakusuisha, 2018.

Ikeda Yasushi (ed.), I-Wa chujiten - 2nd Edition, Shogakukan, 1999.

Nishikawa Ichiro (ed.), Wa-I chujiten - 2nd Edition, Shogakukan, 2008.

Gun Shiro (ed.), Pocket Progressive Italian-Japanese / Japanese-Italian Dictionary, Shogakukan, 2001.

Akiyama Yoshi, Il Primo - I-Wa jiten, Wa-I tsuki (single CD tsuki), Hakusuisha, 2011

※ Reference materials such as dictionaries will be discussed during the course introduction

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 50 ※定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。

※第14回目の授業時間中に中間テストを実施し，理解度の確認を行う。

※ A final test will be conducted to assess overall understanding of the course contents.

※ A midterm test will be conducted during the 14th lesson to assess the level of understanding.

平常点評価: 50 ※グループワークにおいて受講者の取り組む態度を評価する。

※受講者の授業への積極的な参加，学習意欲などを評価する。

※受講者の学習内容の理解度と単語習得のレベルを確認するため，毎回，小テストを実施する。

※オンライン教材による学習の履歴，宿題や課題などの提出を評価する。

※ Students will be evaluated for their individual contribution to group work

※ Students will be evaluated for their active participation in class and their motivation to learn and improve

※ Quizzes and short tests will be administered at the beginning of each lesson to check the students' comprehension of the learning outcomes and their vocabulary acquisition level.

※ Students will be evaluated for the submission of homework, tasks and online exercises

備考・関連URL: ※ 3分の2以上の出席が単位取得に必須である。
※ グループワークやプレゼンテションなどを実施する。準備などに時間がかかるので，定刻に授業に来ることが望ましい。
※ iPadを所有する受講者は授業に持って来ること。
※ Attendance of 2/3 or more is required for credit acquisition.
※ Preparing for group work and presentations requires time. Students are strongly advised to come to class on time.
※ Students who own an iPad should bring it to class.

初めてイタリア語を学ぶ人，または入門レベルの断片的な知識しか持たない人を対象とする授業だが，受講者の学習進度やレベルに応じて進める予定である。特に，イタリア留学を控えている、または短期間で実践的なコミュニケーション能力を身につけたい学習者向けの授業である。
外国語の学習というのは，根本的には，その言語を話している人々が，その目の前に広がる世界をどのように認識しているかということを身につけるプロセスである。そのため，外国語学習には「ことば」がその背景に持っている文化の知識が不可欠である。したがって，イタリア語・イタリア文化に興味を持ち授業に積極的に参加する受講者を期待する。

This class is intended for students learning Italian for the first time or those who only have fragmentary knowledge at the introductory level. The pace of instruction will be determined by the students' progress and the overall level of the class. The course is especially designed for students preparing to study in Italy or those who wish to acquire practical communication skills in a short period.
Foreign language acquisition means learning how a group of people recognizes and classifies the world before their eyes. Therefore, an understanding of the cultural background that exists behind ≪words≫ is key to successful language learning. Highly motivated students with a strong interest in Italian language and culture are encouraged to take this class.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050424|01|9S06050424[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（入門） ＜英語で学ぶイタリア語＞		
担 当 教 員	ビオンディ マルコ		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火４時限@02:木２時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： Discovering Italian: An Elementary Path

授業概要： This Elementary Italian course (A1) is designed for absolute beginners or those with very limited knowledge of Italian. The course aims to provide students with a solid foundation in Italian, focusing on developing essential language skills: listening, reading, writing, and speaking. Through a variety of teaching materials and interactive activities, students will be introduced to basic grammatical structures and essential vocabulary.

授業の到達目標： - Gain a basic understanding of Italian grammar, including present tense verbs, articles, pronouns, and prepositions.
- Develop listening and comprehension skills through simple dialogues and short texts.
- Learn essential vocabulary related to everyday situations, such as greetings, introductions, food, family, hobbies, and directions.
- Practice correct pronunciation and intonation through listening exercises and repetition.
- Begin to form simple sentences and respond to basic questions in Italian.
- Acquire a basic cultural awareness of Italy and its traditions.

事前・事後学習の内容： In this lecture, we recommend pre-class and post-class learning to provide an effective learning experience for all students. In pre-class learning, it's desirable to briefly review the content that will be covered in the class, including looking up any unknown words and doing basic preparation. This should take about 15 minutes. After class, in post-class learning, the aim is to review what was learned during the class to deepen understanding. This post-learning is expected to take about 30 minutes. Through both pre-class and post-class learning, a more fulfilling learning experience is possible, and it is hoped that this will lead to a deeper understanding and participation in the class.

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Introduction

Orientation and general introduction

Primi contatti (1)

- greeting people upon arriving and leaving- introducing oneself
- asking about pronunciation and spelling
- asking about meaning

Primi contatti (2)

- asking about someone's place of origin (and answering)- giving one's phone number
- asking someone to repeat something

Buon appetito! (1)

- ordering in a café and in a restaurant

Buon appetito! (2)

- asking thing in a polite way - pointing at close/far away objects
- getting someone's attention
- asking for the bill
-thanking someone
- asking for price

Review

(review)

Io e gli altri (1)

- introducing someone - describing people's activities on a specific day of the week
- asking for someone's age and giving one's age
- asking for someone's profession and mentioning one's occupation

Io e gli altri (2)

– giving personal details on someone– telling dates
– asking someone how he/she is and saying one is doing

Tempo libero (1)

– talking about free time and leisure activities – talking about how often one does something

Tempo libero (2)

– talking about people's interests and occupations– expressing one's like and dislikes

Review

(review)

In giro per l'Italia (1)

– describing a city, a neighbourhood, a street

In giro per l'Italia (2)

– talking about the quality of life in a given city– following and giving street directions
– asking and telling time

In giro per l'Italia (3)

– submitting a questionnaire in order to make a survey

In albergo (1)

– understanding hotel brochures and web sites– describing one's favorite hotel
– describing a room
– booking a hotel room

In albergo (2)

– asking for information on accommodation – asking for and giving timetable information– complaining about one's room in a hotel

In albergo (3)

– talking about one's holiday activities– describing a perfect vacation

Review

(review)

Un fine settimana (1)

– understanding travel brochures, webs and ads in general– describing a perfect weekend

Un fine settimana (2)

– talking about past actions and understanding descriptions of past events

Un fine settimana (3)

– specifying when a past event took place

Un fine settimana (4)

– asking for and providing information on means of transport, prices and time– talking about weather conditions

Review

(review)

Vita quotidiana (1)

– describing one's habits– commenting on someone else's lifestyle
– describing and asking about someone's daily routine

Vita quotidiana (2)

– submitting a questionnaire and presenting its results

Vita quotidiana (3)

– congratulating someone on special occasions and public holidays– saying the date
– talking about one's country's public holidays

Vita quotidiana (4)

– writing messages for one's favorite national holiday

La famiglia (1)

– describing a family tree– talking and writing about one's family and family habits

言語区分: 0 英語 English

教科書: Gruppo Italiaidea "New Italian Espresso – beginner and pre-intermediate", ALMA Edizioni, 2014

＊handouts will be distributed

参考文献:
– Proudfoot, "Modern Italian Grammar: A Practical Guide", 2nd edition, Routledge, 2005
– "Pocket Oxford Italian Dictionary", 3rd edition, Oxford University Press, 2006
– "Oxford Paravia Italian Dictionary", 2nd edition, Oxford University Press, 2007
– Gruppo Italiaidea "New Italian Espresso – beginner and pre-intermediate", ALMA Edizioni, 2014

成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	Assessment will be based on in-class assignments, active participation, short written quizzes, and a brief written exam at the end of the course. The aim is to evaluate the students' understanding and their ability to use Italian in simple contexts.
備考・関連URL:	Italian Ministry of Foreign Affairs and International Cooperation's web "Study in Italy": https://studyinitaly.esteri.it/en/home_borse

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050425|02|9S06050425[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（初級） 理解 02		
担 当 教 員	朝比奈 佳尉		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 前期の「イタリア語入門」を履修した学生を対象とします。この講座では、イタリア語を使ううえで欠かすことのできない助動詞や再帰動詞、さらに近過去と半過去の時制を中心に扱います。入門レベルからさらにステップアップしたい、という人や、イタリアへの留学を考えている皆さんに履修してほしいと思います。

授業の到達目標: イタリア語の近過去・半過去時制をしっかり習得することで、最低限の日常的な会話をするための能力を身につけ、より高度なイタリア語を学ぶ上での足がかりとする。

事前・事後学習の内容: 外国語を学ぶ上で重要なのは、学んだことを何度も反復し、定着させることです。
ですから受講生の皆さんには、授業の予習ではなく、10分でも20分でもいいですから、授業で学んだことを復習をしてもらえたらと思います。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 前期のおさらい
動詞の活用を中心に前期で扱った内容をおさらいする
第2回 不規則な変化をする動詞①
不規則な変化をするandareとvenireの使い方を学ぶ
第3回 不規則な変化をする動詞②
不規則な変化をするfare・stare・uscireの使い方を学ぶ

第4回 時間の表現
「～時に…する」などの時間の表現を学ぶ
第5回 補助動詞①
補助動詞dovereとvolereの使い方を学ぶ
第6回 補助動詞②
補助動詞potereとsapereの使い方を学ぶ
第7回 再帰動詞①
再帰動詞の基本を学ぶ
第8回 再帰動詞②
再帰動詞の相互的用法を学ぶ
第9回 近過去①
avereを使う近過去を学ぶ
第10回 近過去②
essereを使う近過去を学ぶ
第11回 近過去③
近過去を使いこなす練習をする
第12回 半過去①
半過去の活用と用法を練習する
第13回 半過去②
近過去と半過去の違いを練習する
第14回 後期のまとめ
後期の内容について、理解度を確認する試験を実施

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:	MoodleにテキストのPDFをアップロードします。 初回の授業までに各自ダウンロードし、必要に応じてプリントアウトしておいてください。
参考文献:	外国語を身につけるには、どうしても反復練習が必要になります。 「授業以外で自分で勉強したい！」という人のために、「練習問題集」「単語帳」として次の本をお勧めしておきます。 『もやもやを解消! イタリア語文法ドリル』、小久保真理江、三修社 https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384057836/ 『改訂版キクタンイタリア語【入門編】基本500語レベル』 https://book.alc.co.jp/book/b10132063.html
成績評価フリー入力サイン:	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	60	第14回目の授業時間中に定期試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。
レポート:	0	なし
平常点評価:	40	出席および授業への参加態度を評価します。
その他:	0	なし

備考・関連URL: 何か質問があるときは、いつでもkaiasahina.l@gmail.comまでご連絡ください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050425|03|9S06050425[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（初級） 理解 03		
担 当 教 員	朝比奈 佳尉		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 前期の「イタリア語入門」を履修した学生を対象とします。この講座では、イタリア語を使ううえで欠かすことのできない助動詞や再帰動詞、さらに近過去と半過去の時制を中心に扱います。入門レベルからさらにステップアップしたい、という人や、イタリアへの留学を考えている皆さんに履修してほしいと思います。

授業の到達目標: イタリア語の近過去・半過去時制をしっかり習得することで、最低限の日常的な会話をするための能力を身につけ、より高度なイタリア語を学ぶ上での足がかりとする。

事前・事後学習の内容: 外国語を学ぶ上で重要なのは、学んだことを何度も反復し、定着させることです。
ですから受講生の皆さんには、授業の予習ではなく、10分でも20分でもいいですから、授業で学んだことを復習をしてもらえたらと思います。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 前期のおさらい
動詞の活用を中心に前期で扱った内容をおさらいする
第2回 不規則な変化をする動詞①
不規則な変化をするandareとvenireの使い方を学ぶ
第3回 不規則な変化をする動詞②
不規則な変化をするfare・stare・uscireの使い方を学ぶ

第4回 時間の表現
「～時に…する」などの時間の表現を学ぶ
第5回 補助動詞①
補助動詞dovereとvolereの使い方を学ぶ
第6回 補助動詞②
補助動詞potereとsapereの使い方を学ぶ
第7回 再帰動詞①
再帰動詞の基本を学ぶ
第8回 再帰動詞②
再帰動詞の相互的用法を学ぶ
第9回 近過去①
avereを使う近過去を学ぶ
第10回 近過去②
essereを使う近過去を学ぶ
第11回 近過去③
近過去を使いこなす練習をする
第12回 半過去①
半過去の活用と用法を練習する
第13回 半過去②
近過去と半過去の違いを練習する
第14回 後期のまとめ
後期の内容について、理解度を確認する試験を実施

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:	MoodleにテキストのPDFをアップロードします。 初回の授業までに各自ダウンロードし、必要に応じてプリントアウトしておいてください。
参考文献:	外国語を身につけるには、どうしても反復練習が必要になります。 「授業以外で自分で勉強したい！」という人のために、「練習問題集」「単語帳」として次の本をお勧めしておきます。 『もやもやを解消! イタリア語文法ドリル』、小久保真理江、三修社 https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384057836/ 『改訂版キクタンイタリア語【入門編】基本500語レベル』 https://book.alc.co.jp/book/b10132063.html
成績評価フリー入力サイン:	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	60	第14回目の授業時間中に定期試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。
レポート:	0	なし
平常点評価:	40	出席および授業への参加態度を評価します。
その他:	0	なし

備考・関連URL: 何か質問があるときは、いつでもkaiasahina.l@gmail.comまでご連絡ください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050425|04|9S06050425[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（初級） 理解 04		
担 当 教 員	朝比奈 佳尉		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 前期の「イタリア語入門」を履修した学生を対象とします。この講座では、イタリア語を使ううえで欠かすことのできない助動詞や再帰動詞、さらに近過去と半過去の時制を中心に扱います。入門レベルからさらにステップアップしたい、という人や、イタリアへの留学を考えている皆さんに履修してほしいと思います。

授業の到達目標: イタリア語の近過去・半過去時制をしっかり習得することで、最低限の日常的な会話をするための能力を身につけ、より高度なイタリア語を学ぶ上での足がかりとする。

事前・事後学習の内容: 外国語を学ぶ上で重要なのは、学んだことを何度も反復し、定着させることです。
ですから受講生の皆さんには、授業の予習ではなく、10分でも20分でもいいですから、授業で学んだことを復習をしてもらえたらと思います。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 前期のおさらい
動詞の活用を中心に前期で扱った内容をおさらいする
第2回 不規則な変化をする動詞①
不規則な変化をするandareとvenireの使い方を学ぶ
第3回 不規則な変化をする動詞②
不規則な変化をするfare・stare・uscireの使い方を学ぶ

第4回 時間の表現
「～時に…する」などの時間の表現を学ぶ
第5回 補助動詞①
補助動詞dovereとvolereの使い方を学ぶ
第6回 補助動詞②
補助動詞potereとsapereの使い方を学ぶ
第7回 再帰動詞①
再帰動詞の基本を学ぶ
第8回 再帰動詞②
再帰動詞の相互的用法を学ぶ
第9回 近過去①
avereを使う近過去を学ぶ
第10回 近過去②
essereを使う近過去を学ぶ
第11回 近過去③
近過去を使いこなす練習をする
第12回 半過去①
半過去の活用と用法を練習する
第13回 半過去②
近過去と半過去の違いを練習する
第14回 後期のまとめ
後期の内容について、理解度を確認する試験を実施

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:	MoodleにテキストのPDFをアップロードします。 初回の授業までに各自ダウンロードし、必要に応じてプリントアウトしておいてください。
参考文献:	外国語を身につけるには、どうしても反復練習が必要になります。 「授業以外で自分で勉強したい！」という人のために、「練習問題集」「単語帳」として次の本をお勧めしておきます。 『もやもやを解消! イタリア語文法ドリル』、小久保真理江、三修社 https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384057836/ 『改訂版キクタンイタリア語【入門編】基本500語レベル』 https://book.alc.co.jp/book/b10132063.html
成績評価フリー入力サイン:	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	60	第14回目の授業時間中に定期試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。
レポート:	0	なし
平常点評価:	40	出席および授業への参加態度を評価します。
その他:	0	なし

備考・関連URL: 何か質問があるときは、いつでもkaiasahina.l@gmail.comまでご連絡ください。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050425|07|9S06050425[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	イタリア語（初級）　理解　07		
担 当 教 員	木名瀬　紀子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　イタリア語を理解しましょう　（2）

授業概要：　本授業は、全回教室授業として実施します。この授業ではイタリア語に関する基礎的な文法や語句を丁寧に学びます。
文法を正しく理解することによってイタリア語の文章も正しく読めるようになり、イタリアとの文化交流の機会も増えることと思います。
教科書、配布資料、ロールプレイ等によって、受講生はイタリア語初級レベル相当の会話表現や語彙、慣用表現習得へと意欲付けされるでしょう。

授業の到達目標：　CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1～A2レベルを到達目標とします。
この授業目標は、日常生活によくある場面を通じて受講生の皆さんにイタリアやイタリア人との出会いのための準備をしてもらうことにあります。

事前・事後学習の内容：　シラバスを事前によく読み、授業内容に基づき、当該箇所について予習して下さい。各回の予習、復習には銘々90分～120分要すると想定されます。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　対面授業
はじめに。
授業の案内と全体の紹介。オリエンテーション。

第2回　対面授業
Lezione　7
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。

第3回　対面授業
Lezione　7　続き
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。

第4回　対面授業
講読と和訳
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。

第5回　対面授業
練習と復習
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。

第6回　対面授業
Lezione　8
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。

第7回　対面授業
Lezione　8　続き
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。

第8回　対面授業
講読と和訳
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。

第9回　対面授業
練習と復習
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。

第10回　対面授業
Lezione　9
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。

第11回　対面授業
Lezione　9　続き
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。
第12回　対面授業
講読と和訳
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。
第13回　対面授業
練習と復習
テキストに基づき、単語、文法事項、スキット、練習問題などを体系的に行います。
第14回　対面授業
理解度の確認。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 一之瀬俊和 『最新　ア・ゾンゾ　ーイタリア語そぞろ歩き』朝日出版社 ISBN 978-4-255-55310-8 C1087

参考文献: 授業において指示します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	20	実施については授業において指示します。
レポート:	20	課題は授業において提示します。
平常点評価:	40	出席および積極的な授業参加、発言など。
その他:	20	学期最終授業日に試験、あるいはレポート提出受付を行う予定です。

備考・関連URL: 授業において教示します。受講者の興味や習熟度に応じます。最終授業において、全体のフィードバックを行います。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050426|01|9S06050426[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（初級） 表現 O1		
担 当 教 員	アルベリッツィ ヴァレリオ ルイジ		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： ICTを活用した「視る」，「聴く」，「話す」，「楽しむ」イタリア語

Italian with ICT: ≪Seeing≫, ≪Listening≫, ≪Speaking≫, and enjoying the language

授業概要： ICT（Information and Communication Technology，情報通信技術）を積極的に活用しながら，イタリア語によるコミュニケーション能力の養成と入門コースで紹介された文法の定着度を上げることを目標とする。
受講者はスマートデバイス，インタラクティブな資料や語学学習に適したアプリケーションなどを利用しながら，グループワークによりイタリア語の形式と機能を類推・発見し，実際に応用する。
具体的には，入門コースで身につけた能力を踏まえて発展させ，ミニプレゼンテーションなどのようなアクティビティを通して，身近な話題について話したり，自分の意見を述べたりする。

This course is designed to enhance communication skills in Italian and reinforce the knowledge of the Italian grammar introduced in the introductory course through the integrated use of ICT (Information and Communication Technology). In class, students will engage in group work using smart devices, interactive materials, and applications that aid in language learning and enable them to infer, discover, and practically apply the forms and functions of the Italian language.
Specifically, building on the skills acquired in the introductory course, students will further develop their abilities through activities such as mini-presentations that enable them to talk about familiar topics and express their opinions.

授業の到達目標： 多様な文化を理解し、国際舞台の活躍に必須の語学力を身につけ、実践的な外国語能力を養成する。
受講者が約650語からなる一般使用頻度の高いボキャブラリを使いながら基礎的なイタリア語の知識をさらに深め，日常生活での身近なことがらについて自己表現力を豊かにすることを目指す。本講座を修了したものはCEFRのA1-A2に対応する言語運用能力を習得できるようになると想定される。CEFRとは，Common European Framework of Reference for Languages（ヨーロッパ言語共通参照枠）の略称であり，ヨーロッパのすべての言語のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格である。

To understand diverse cultures, acquire the language skills necessary to succeed on the international stage, and develop practical foreign language proficiency.
This course aims to enable students to improve their basic knowledge of Italian, using a vocabulary based on 650 of the most frequently used words in contemporary Italian, thus enhancing their ability to express themselves on familiar topics that are commonly encountered in everyday life.
Students are expected to reach a proficiency level close to A1-A2 as prescribed by the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR). CEFR, the Common European Framework of Reference for Languages, is used as an international standard to describe the level of communication proficiency for all European languages.

事前・事後学習の内容： 受講者はWasedaMoodleなどにアップロードされているコンテンツを授業の前に予習しておき（所要時間約30～45分と想定されている），授業後は授業で触れたテーマについてiOSとAndroid端末からもアクセスできるオンラインの復習問題を行ってもらう（所要時間約15～20分と想定されている）。

Students are expected prepare ahead of class using the contents delivered via Waseda Moodle (estimated time: approximately 30-45 minutes). After class, they will complete online review exercises on the topics covered in the lesson, which can be accessed from both iOS and Android devices (estimated time: approximately 15-20 minutes).

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
オリエンテーション（本講義の目的と概要）
自己紹介・自由会話

Orientation (Purpose and Overview of the Course)
Self-introduction; Free conversation

第2回
【理解】ere動詞の活用
【表現】飲食店で注文する，イタリアのバーの食べ物と飲み物

〔Grammatical skills〕Conjugation of -ere verbs;
〔Communication skills〕Giving orders at a restaurant or café; Food and drinks in an Italian bar

第3回
【理解】不定冠詞の複数形，部分冠詞
【表現】スーパーや市場などで買い物する，イタリアの果物と野菜

〔Grammatical skills〕The plural of indefinite articles; Partitive articles
〔Communication skills〕 Shopping at a supermarket or at a market, Italian fruits and vegetables

第4回
【理解】近称指示形容詞と遠称指示形容詞，所有代名詞
【表現】友達と食事する

〔Grammatical skills〕Demonstrative Adjectives of Proximity and Distance, Possessive Pronouns
〔Communication skills〕Eating with friends

第5回
【理解】fare, andare, venire動詞の活用
【表現】人と約束する，fareを使った表現

〔Grammatical skills〕Conjugation of ≪fare≫, ≪andare≫, ≪venire≫
〔Communication skills〕Making an appointment; Idiomatic expressions with fare

第6回
【理解】頻度副詞
【表現】自分の習慣について話す，娯楽場・施設

〔Grammatical skills〕Adverbs of frequency
〔Communication skills〕Talking about one’s habits, Entertainment venues, facilities

第7回
【理解】補助動詞 potere, dovere, volere の活用
【表現】人に頼む・お願いする，許可を求める

〔Grammatical skills〕Conjugation of modal verbs ≪potere≫, ≪dovere≫, ≪volere≫
〔Communication skills〕Making requests and asking for permission

第8回
【理解】ire動詞の活用
【表現】店などの開閉時間を尋ねる

〔Grammatical skills〕Conjugation of -ire verbs
〔Communication skills〕Asking about opening and closing hours of shops, museums, etc.

第9回
【理解】potere, sapere, conoscere動詞の用法，形容詞bello, buono，副詞bene, maleの用法
【表現】長所・短所・知識・外見・性格・状態について尋ねる

〔Grammatical skills〕The verbs ≪potere≫, ≪sapere≫, ≪conoscere≫; The adjectives ≪bello≫ and ≪buono≫; The adverbs ≪bene≫ and ≪male≫
〔Communication skills〕Asking about strength and weaknesses, knowledge, physical appearance, personality, condition

第10回
【理解】Avere動詞を使う近過去（過去完了）
【表現】過去の体験を語る

〔Grammatical skills〕Passato prossimo (Perfect past tense) of verbs that require the auxiliary ≪avere≫
〔Communication skills〕Telling a past experience

第11回
【理解】Essere動詞を使う近過去（過去完了）
【表現】過去の旅行を語る

〔Grammatical skills〕Passato prossimo (Perfect past tense) of verbs that require the auxiliary ≪essere≫
〔Communication skills〕Talking about a past travel

第12回
【理解】規則動詞の半過去（過去未完了）
【表現】子供の頃の思い出

〔Grammatical skills〕Imperfetto (Imperfect past tense) of regular verbs
〔Communication skills〕Childhood memories

第13回
【理解】規則動詞の近過去（過去完了）と半過去（過去未完了）の併用
【表現】一日を語る

〔Grammatical skills〕The combined use of the passato prossimo (perfect past tense) and the imperfetto (imperfect past tense) of regular verbs.
〔Communication skills〕Talking about one's day

第14回
期末テスト

Final test

言語区分: 0 日・英併用 Japanese/English

教科書:

① Valerio L. Alberizzi,『Ai posti! イタリア語入門』（マルチタッチブック）: https://apple.co/3sr4ft7

② Valerio L. Alberizzi,『Pronti! イタリア語初級』（マルチタッチブック）

③ Quizlet（講師の承認が必要）

a. フラッシュカードセット：https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔改訂版〕伊和基礎辞典：【名詞】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【動詞】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【副詞】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【形容詞】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔改訂版〕和伊基礎辞典：【名詞】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【動詞】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【副詞】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【形容詞】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※教材に関する詳しい説明は初回に行う。

① Valerio L. Alberizzi, Ai posti! Italian for beginners (Multi-touch book in Japanese): https://apple.co/3sr4ft7

② Valerio L. Alberizzi, Pronti! Elementary Italian (Multi-touch book in Japanese)

③ Quizlet (Teacher's approval needed to join the classes)

a. Flash card sets: https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔Revised edition〕Italian-Japanese Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【Verbs】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【Adverbs】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【Adjectives】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔Revised edition〕Japanese-Italian Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【Verbs】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【Adverbs】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【Adjectives】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※ Teaching materials will be discussed in detail during the course introduction

参考文献: 長神悟，『イタリア語のABC[改訂版]《CD付》』，白水社，2018年

池田廉編,『伊和中辞典・第2版』, 小学館, 1999年

西川一郎編,『和伊中辞典・第2版』, 小学館, 2008年

郡史郎編,『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』, 小学館, 2001年

秋山余思監修,『プリーモ伊和辞典　和伊付《シングルCD付》』, 白水社, 2011年

※辞書などの参考文献に関する説明は初回に行う。

Nagami Satoru, Itariago no ABC (Revised edition), Hakusuisha, 2018.

Ikeda Yasushi (ed.), I-Wa chujiten – 2nd Edition, Shogakukan, 1999.

Nishikawa Ichiro (ed.), Wa-I chujiten – 2nd Edition, Shogakukan, 2008.

Gun Shiro (ed.), Pocket Progressive Italian-Japanese / Japanese-Italian Dictionary, Shogakukan, 2001.

Akiyama Yoshi, Il Primo – I-Wa jiten, Wa-I tsuki (single CD tsuki), Hakusuisha, 2011

※ Reference materials such as dictionaries will be discussed during the course introduction

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50 ※定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。

※ A final test will be conducted to assess overall understanding of the course contents.

平常点評価: 50 ※グループワークにおいて受講者の取り組む態度を評価する。

※受講者の授業への積極的な参加，学習意欲などを評価する。

※受講者の学習内容の理解度と単語習得のレベルを確認するため，毎回，小テストを実施する。

※オンライン教材による学習の履歴，宿題や課題などの提出を評価する。

※ Students will be evaluated for their individual contribution to group work

※ Students will be evaluated for their active participation in class and their motivation to learn and improve

※ Quizzes and short tests will be administered at the beginning of each lesson to check the students' comprehension of the learning outcomes and their vocabulary acquisition level.

※ Students will be evaluated for the submission of homework, tasks and online exercises

備考・関連URL: ※　3分の2以上の出席が単位取得に必須である。
※　グループワークやプレゼンテションなどを実施する。準備などに時間がかかるので，定刻に授業に来ることが望ましい。
※　iPadを所有する受講者は授業に持って来ること。

※ Attendance of 2/3 or more is required for credit acquisition.
※ Preparing for group work and presentations requires time. Students are strongly advised to come to class on time.
※ Students who own an iPad should bring it to class.

「イタリア語（入門）」を履修した受講者あるいはそれに等しい知識と能力（およそCEFRのA1-A2）を持つ人を対象とする授業だが，受講者の学習進度やレベルに応じて進める予定である。
外国語の学習というのは，根本的には，その言語を話している人々が，その目の前に広がる世界をどのように認識しているかということを身につけるプロセスである。そのため，外国語学習には「ことば」がその背景に持っている文化の知識が不可欠である。したがって，イタリア語・イタリア文化に興味を持ち授業に積極的に参加する受講者を期待する。

This class is intended for students who have taken ≪Italian (Introductory)≫ or have an equivalent knowledge and proficiency of the language (approximately CEFR A1-A2). The pace of instruction will be determined by the students' progress and the overall level of the class.
Foreign language acquisition means learning how a group of people recognizes and classifies the world before their eyes. Therefore, an understanding of the cultural background that exists behind ≪words≫ is key to successful language learning. Highly motivated students with a strong interest in Italian language and culture are encouraged to take this class.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050426|02|9S06050426[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（初級） 表現 02		
担 当 教 員	ビオンディ マルコ		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： Un passo avanti!

授業概要： 本講座では発音から動詞の活用まで、イタリア語の学ぶ上で基礎となる項目を、文法及び基本的な日常会話を通じて学んでいきます。

授業の到達目標： イタリアの町や休暇の過ごし方、食文化、仕事、家族など、日常生活の場面を通じて基本的なコミュニケーションが図れるようになることを目指します。

事前・事後学習の内容： 本講義では、学生の皆さんに効果的な学習経験を提供するため、事前学習と事後学習を推奨しています。事前学習では、授業で取り上げる内容について予め目を通し、知らない単語の調査など、基本的な準備を行っていただくことが望ましいです。このためには、約15分程度の時間があれば十分です。また、授業後の事後学習では、授業中に学んだ内容を一度復習し、理解を深めることを目指しています。この事後学習には約30分の時間を要すると想定しています。事前学習と事後学習を通じて、より充実した学習が可能となり、授業への理解と参加が深まることを期待しています。

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回

間接補語代名詞. beneとbuonoの使い方.
基数(100～3,000,000). 序数. 形容詞と代名詞: troppo, poco, un po'; qualche, alcuni, tutti/tutte
＜会話＞ お金. 金額を聞く、答える. 要望を伝える. 量を聞く、答える. 見せる、渡す. 他に買いたい物があるか聞く. 好みを言う. 交換できるか聞く(購入後) .

第2回

間接代名詞. 動詞 piacere. 形容詞と代名詞: tutto, ogni, ciascuno, qualunque; nessuno, nessuno dei due.
＜会話＞人の服装を描写する. 洋服について話す. サイズを聞く、答える. 比較する.

第3回

近過去. 過去分詞(規則/不規則動詞).
<会話> 過去の出来事について話す: “hai mai…?”. “sei mai…?”; “quando è stata l'ultima voltà che ...?” 心配を表現する.

第4回

前置詞 da+場所(人がいる). 副詞小詞 “ci” + 場所.季節.
<会話> 休暇について話す. 過去の休暇について話す. 出会いについて話す.

第5回

“perché”の使い方. per+不定詞. 代名詞 lo, la, li.
<会話> ショッピングでの会話. 食品店で買い物をする、買いたい物を伝える.
特産品について話す

第6回

表現mentre, quando, dopo, prima di.再帰動詞(現在).副詞: già, ancora, appena; neanche, nemmeno, neppure, senza dubbio. 表現(否定文) “non”, “neanche/nemmeno/neppure”.イタリアの主な祝祭日、学業または仕事での日々のスケジュールについて話す。天気について話す。

第7回

補助動詞(近過去): potere, dovere, volere. sapere, potere, conoscereの使い方. 形容詞bello e buono. Gli avverbi副詞 bene e male. Il periodo ipotetico della realtà仮定法se +動詞(現在形) (se + presente).
同意・不同意を表現する。仮定する。

第8回

再帰動詞(近過去).
日常生活、習慣について話す.

第9回

平叙文 “cioè”, “infatti”
家族構成について話す。能力について話す。知識について話す。過去について話す。

第10回
(1)半過去.
過去の習慣的な活動について。過去ある時点で同時に行われた行動。
第11回
補助動詞(半過去): potere, dovere, volere.
過去のある継続的動作・状態が、ある瞬間的な動作によって中断される。過去と現在の比較。
第12回
半過去と近過去
過去形で描写する。思い出について話す。
第13回
現在形・過去形で描写する①
第14回
現在形・過去形で描写する②

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:
『イタリア語初級・単語集』: http://quizlet.com/join/YHSSggXpz

伊和基礎辞典: http://quizlet.com/join/hhQUtWuYS

和伊基礎辞典: http://quizlet.com/join/4Gq9yrXZR

⑥ マニュアル: https://goo.gl/F7cZFm

※教材に関する詳しい説明は初回に行う。

参考文献: 池田廉編,『伊和中辞典・第2版』, 小学館, 1999年

西川一郎編,『和伊中辞典・第2版』, 小学館, 2008年

郡史郎編,『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』, 小学館, 2001年

長神悟,『イタリア語のABC』, 白水社, 2003年

※辞書などの参考文献に関する説明は初回に行う。

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 前期・後期 共に開講期間中に数回のミニテストを予定しています。ミニテストの結果、出席状況(3分の2以上の出席必須)や学習意欲、課題提出状況を考慮し総合的に評価します。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050426|03|9S06050426[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（初級） 表現 03		
担 当 教 員	アルベリッツィ ヴァレリオ ルイジ		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：

ICTを活用した「視る」，「聴く」，「話す」，「楽しむ」イタリア語

Italian with ICT: ≪Seeing≫, ≪Listening≫, ≪Speaking≫, and enjoying the language

授業概要：

ICT（Information and Communication Technology，情報通信技術）を積極的に活用しながら，イタリア語によるコミュニケーション能力の養成と入門コースで紹介された文法の定着度を上げることを目標とする。
受講者はスマートデバイス，インタラクティブな資料や語学学習に適したアプリケーションなどを利用しながら，グループワークによりイタリア語の形式と機能を類推・発見し，実際に応用する。
具体的には，入門コースで身につけた能力を踏まえて発展させ，ミニプレゼンテーションなどのようなアクティビティを通して，身近な話題について話したり，自分の意見を述べたりする。

This course is designed to enhance communication skills in Italian and reinforce the knowledge of the Italian grammar introduced in the introductory course through the integrated use of ICT (Information and Communication Technology). In class, students will engage in group work using smart devices, interactive materials, and applications that aid in language learning and enable them to infer, discover, and practically apply the forms and functions of the Italian language.
Specifically, building on the skills acquired in the introductory course, students will further develop their abilities through activities such as mini-presentations that enable them to talk about familiar topics and express their opinions.

授業の到達目標：

多様な文化を理解し、国際舞台の活躍に必須の語学力を身につけ、実践的な外国語能力を養成する。
受講者が約650語からなる一般使用頻度の高いボキャブラリを使いながら基礎的なイタリア語の知識をさらに深め，日常生活での身近なことがらについて自己表現力を豊かにすることを目指す。本講座を修了したものはCEFRのA1-A2に対応する言語運用能力を習得できるようになると想定される。CEFRとは，Common European Framework of Reference for Languages（ヨーロッパ言語共通参照枠）の略称であり，ヨーロッパのすべての言語のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格である。

To understand diverse cultures, acquire the language skills necessary to succeed on the international stage, and develop practical foreign language proficiency.
This course aims to enable students to improve their basic knowledge of Italian, using a vocabulary based on 650 of the most frequently used words in contemporary Italian, thus enhancing their ability to express themselves on familiar topics that are commonly encountered in everyday life.
Students are expected to reach a proficiency level close to A1-A2 as prescribed by the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR). CEFR, the Common European Framework of Reference for Languages, is used as an international standard to describe the level of communication proficiency for all European languages.

事前・事後学習の内容：

受講者はWasedaMoodleなどにアップロードされているコンテンツを授業の前に予習しておき（所要時間約30～45分と想定されている），授業後は授業で触れたテーマについてiOSとAndroid端末からもアクセスできるオンラインの復習問題を行ってもらう（所要時間約15～20分と想定されている）。

Students are expected prepare ahead of class using the contents delivered via Waseda Moodle (estimated time: approximately 30-45 minutes). After class, they will complete online review exercises on the topics covered in the lesson, which can be accessed from both iOS and Android devices (estimated time: approximately 15-20 minutes).

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
オリエンテーション（本講義の目的と概要）
自己紹介・自由会話

Orientation (Purpose and Overview of the Course)
Self-introduction; Free conversation

第2回
【理解】ere動詞の活用
【表現】飲食店で注文する，イタリアのバーの食べ物と飲み物

〔Grammatical skills〕Conjugation of -ere verbs;
〔Communication skills〕Giving orders at a restaurant or café; Food and drinks in an Italian bar

第3回
【理解】不定冠詞の複数形，部分冠詞
【表現】スーパーや市場などで買い物する，イタリアの果物と野菜

〔Grammatical skills〕The plural of indefinite articles; Partitive articles
〔Communication skills〕 Shopping at a supermarket or at a market, Italian fruits and vegetables

第4回
【理解】近称指示形容詞と遠称指示形容詞，所有代名詞
【表現】友達と食事する

〔Grammatical skills〕Demonstrative Adjectives of Proximity and Distance, Possessive Pronouns
〔Communication skills〕Eating with friends

第5回
【理解】fare, andare, venire動詞の活用
【表現】人と約束する，fareを使った表現

〔Grammatical skills〕Conjugation of ≪fare≫, ≪andare≫, ≪venire≫
〔Communication skills〕Making an appointment; Idiomatic expressions with fare

第6回
【理解】頻度副詞
【表現】自分の習慣について話す，娯楽場・施設

〔Grammatical skills〕Adverbs of frequency
〔Communication skills〕Talking about one’s habits, Entertainment venues, facilities

第7回
【理解】補助動詞 potere, dovere, volere の活用
【表現】人に頼む・お願いする，許可を求める

〔Grammatical skills〕Conjugation of modal verbs ≪potere≫, ≪dovere≫, ≪volere≫
〔Communication skills〕Making requests and asking for permission

第8回
【理解】ire動詞の活用
【表現】店などの開閉時間を尋ねる

〔Grammatical skills〕Conjugation of -ire verbs
〔Communication skills〕Asking about opening and closing hours of shops, museums, etc.

第9回
【理解】potere, sapere, conoscere動詞の用法，形容詞bello, buono，副詞bene, maleの用法
【表現】長所・短所・知識・外見・性格・状態について尋ねる

〔Grammatical skills〕The verbs ≪potere≫, ≪sapere≫, ≪conoscere≫; The adjectives ≪bello≫ and ≪buono≫; The adverbs ≪bene≫ and ≪male≫
〔Communication skills〕Asking about strength and weaknesses, knowledge, physical appearance, personality, condition

第10回
【理解】Avere動詞を使う近過去（過去完了）
【表現】過去の体験を語る

〔Grammatical skills〕Passato prossimo (Perfect past tense) of verbs that require the auxiliary ≪avere≫
〔Communication skills〕Telling a past experience

第11回
【理解】Essere動詞を使う近過去（過去完了）
【表現】過去の旅行を語る

〔Grammatical skills〕Passato prossimo (Perfect past tense) of verbs that require the auxiliary ≪essere≫
〔Communication skills〕Talking about a past travel

第12回
【理解】規則動詞の半過去（過去未完了）
【表現】子供の頃の思い出

〔Grammatical skills〕Imperfetto (Imperfect past tense) of regular verbs
〔Communication skills〕Childhood memories

第13回
【理解】規則動詞の近過去（過去完了）と半過去（過去未完了）の併用
【表現】一日を語る

〔Grammatical skills〕The combined use of the passato prossimo (perfect past tense) and the imperfetto (imperfect past tense) of regular verbs.
〔Communication skills〕Talking about one's day

第14回
期末テスト

Final test

言語区分: 0 日・英併用 Japanese/English

教科書: ① Valerio L. Alberizzi,『Ai posti! イタリア語入門』（マルチタッチブック）: https://apple.co/3sr4ft7

② Valerio L. Alberizzi,『Pronti! イタリア語初級』（マルチタッチブック）

③ Quizlet（講師の承認が必要）

a. フラッシュカードセット：https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔改訂版〕伊和基礎辞典：【名詞】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【動詞】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【副詞】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【形容詞】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔改訂版〕和伊基礎辞典：【名詞】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【動詞】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【副詞】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【形容詞】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※教材に関する詳しい説明は初回に行う。

① Valerio L. Alberizzi, Ai posti! Italian for beginners (Multi-touch book in Japanese): https://apple.co/3sr4ft7

② Valerio L. Alberizzi, Pronti! Elementary Italian (Multi-touch book in Japanese)

③ Quizlet (Teacher's approval needed to join the classes)

a. Flash card sets: https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔Revised edition〕Italian-Japanese Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【Verbs】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【Adverbs】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【Adjectives】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔Revised edition〕Japanese-Italian Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【Verbs】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【Adverbs】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【Adjectives】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※ Teaching materials will be discussed in detail during the course introduction

参考文献: 長神悟，『イタリア語のABC[改訂版]《CD付》』，白水社，2018年

池田廉編,『伊和中辞典・第2版』, 小学館, 1999年

西川一郎編,『和伊中辞典・第2版』, 小学館, 2008年

郡史郎編,『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』, 小学館, 2001年

秋山余思監修,『プリーモ伊和辞典　和伊付《シングルCD付》』, 白水社, 2011年

※辞書などの参考文献に関する説明は初回に行う。

Nagami Satoru, Itariago no ABC (Revised edition), Hakusuisha, 2018.

Ikeda Yasushi (ed.), I-Wa chujiten – 2nd Edition, Shogakukan, 1999.

Nishikawa Ichiro (ed.), Wa-I chujiten – 2nd Edition, Shogakukan, 2008.

Gun Shiro (ed.), Pocket Progressive Italian-Japanese / Japanese-Italian Dictionary, Shogakukan, 2001.

Akiyama Yoshi, Il Primo – I-Wa jiten, Wa-I tsuki (single CD tsuki), Hakusuisha, 2011

※ Reference materials such as dictionaries will be discussed during the course introduction

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50 ※定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。

※ A final test will be conducted to assess overall understanding of the course contents.

平常点評価: 50 ※グループワークにおいて受講者の取り組む態度を評価する。

※受講者の授業への積極的な参加, 学習意欲などを評価する。

※受講者の学習内容の理解度と単語習得のレベルを確認するため, 毎回, 小テストを実施する。

※オンライン教材による学習の履歴, 宿題や課題などの提出を評価する。

※ Students will be evaluated for their individual contribution to group work

※ Students will be evaluated for their active participation in class and their motivation to learn and improve

※ Quizzes and short tests will be administered at the beginning of each lesson to check the students' comprehension of the learning outcomes and their vocabulary acquisition level.

※ Students will be evaluated for the submission of homework, tasks and online exercises

備考・関連URL: ※　3分の2以上の出席が単位取得に必須である。
※　グループワークやプレゼンテションなどを実施する。準備などに時間がかかるので, 定刻に授業に来ることが望ましい。
※　iPadを所有する受講者は授業に持って来ること。

※ Attendance of 2/3 or more is required for credit acquisition.
※ Preparing for group work and presentations requires time. Students are strongly advised to come to class on time.
※ Students who own an iPad should bring it to class.

「イタリア語（入門）」を履修した受講者あるいはそれに等しい知識と能力（およそCEFRのA1-A2）を持つ人を対象とする授業だが, 受講者の学習進度やレベルに応じて進める予定である。
外国語の学習というのは, 根本的には, その言語を話している人々が, その目の前に広がる世界をどのように認識しているかということを身につけるプロセスである。そのため, 外国語学習には「ことば」がその背景に持っている文化の知識が不可欠である。したがって, イタリア語・イタリア文化に興味を持ち授業に積極的に参加する受講者を期待する。

This class is intended for students who have taken ≪Italian (Introductory)≫ or have an equivalent knowledge and proficiency of the language (approximately CEFR A1-A2). The pace of instruction will be determined by the students' progress and the overall level of the class.
Foreign language acquisition means learning how a group of people recognizes and classifies the world before their eyes. Therefore, an understanding of the cultural background that exists behind ≪words≫ is key to successful language learning. Highly motivated students with a strong interest in Italian language and culture are encouraged to take this class.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050426|04|9S06050426[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（初級） 表現 04		
担 当 教 員	朝比奈 佳尉		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 前期の「イタリア語（入門）」を受講した学生を対象とします。
この講座ではあまり細かい文法事項にはこだわらず、「学んだことを実際に声に出して使う練習」に重点を置いて授業を進めていきます。
発音が日本語にとてもよく似ているイタリア語。
「英語の発音は苦手だけれど、何か外国語を話してみたい」という皆さんにぜひ履修して欲しいと思います。
イタリア留学を考えている人も大歓迎です。

授業の到達目標: 本講座の目標は、イタリア語の初級文法を理解しながら実際のコミュニケーションに結びつけることです。
目標はヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）のA1レベルに到達することです。

事前・事後学習の内容: 外国語を学ぶ上で重要なのは、学んだことを何度も反復し、定着させることです。
ですから受講生の皆さんには、授業の予習ではなく、10分でも20分でもいいですから、授業で学んだことを復習をしてもらえたらと思います。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 前期のおさらい
動詞の活用を中心に前期で扱った内容をおさらいする
第2回 不規則な変化をする動詞①
andareとvenireを使って「予定を話す」「相手を誘う」
第3回 不規則な変化をする動詞②
fare・stare・uscireを使って「予定を話す」「相手を誘う」
第4回 時間の表現
クラスメートと会話する
第5回 補助動詞①
補助動詞dovereとvolereを使って「相手を誘う」「誘いを断る」
第6回 補助動詞②
補助動詞potereとsapereを使って「許可をとる」「お願いする」
第7回 再帰動詞①
再帰動詞を使って1日の予定を話す
第8回 再帰動詞②
再帰動詞を使ってクラスメートと旅行の予定を立てる
第9回 近過去①
avereを使う近過去で昨日したことを話す
第10回 近過去②
essereを使う近過去で昨日したことを話す
第11回 近過去③
現在・近過去を両方使ってクラスメートと会話する
第12回 半過去①
半過去を使って昨日したことを話す
第13回 半過去②
近過去と半過去を両方使って休みのあいだにしたことを話す

第14回 後期のまとめ
後期の内容について、理解度を確認する試験を実施

言語区分:	0	日本語	Japanese

教科書: MoodleにテキストのPDFをアップロードします。
授業までに各自ダウンロードし、必要に応じてプリントアウトしておいてください。
また、イタリア語用のノートを1冊準備しておいてください（パソコンやダブレットなどでもOKです）。

参考文献: 外国語を身につけるには、どうしても反復練習が必要になります。
「授業以外で自分で勉強したい！」という人のために、「練習問題集」「単語帳」として次の本をお勧めしておきます。
『もやもやを解消! イタリア語文法ドリル』、小久保真理江、三修社
https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384057836/
『改訂版キクタンイタリア語【入門編】基本500語レベル』
https://book.alc.co.jp/book/b10132063.html

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	60	第14回目の授業時間中に定期試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。
レポート:	0	なし
平常点評価:	40	出席および授業への参加態度を評価します。
その他:	0	なし

備考・関連URL: 何か質問があるときは、いつでもkaiasahina.l@gmail.comまでご連絡ください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050426|05|9S06050426[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（初級） 表現 05		
担 当 教 員	朝比奈 佳尉		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 前期の「イタリア語（入門）」を受講した学生を対象とします。
この講座ではあまり細かい文法事項にはこだわらず、「学んだことを実際に声に出して使う練習」に重点を置いて授業を進めていきます。
発音が日本語にとてもよく似ているイタリア語。
「英語の発音は苦手だけれど、何か外国語を話してみたい」という皆さんにぜひ履修して欲しいと思います。
イタリア留学を考えている人も大歓迎です。

授業の到達目標: 本講座の目標は、イタリア語の初級文法を理解しながら実際のコミュニケーションに結びつけることです。
目標はヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）のA1レベルに到達することです。

事前・事後学習の内容: 外国語を学ぶ上で重要なのは、学んだことを何度も反復し、定着させることです。
ですから受講生の皆さんには、授業の予習ではなく、10分でも20分でもいいですから、授業で学んだことを復習をしてもらえたらと思います。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 前期のおさらい
動詞の活用を中心に前期で扱った内容をおさらいする
第2回 不規則な変化をする動詞①
andareとvenireを使って「予定を話す」「相手を誘う」
第3回 不規則な変化をする動詞②
fare・stare・uscireを使って「予定を話す」「相手を誘う」
第4回 時間の表現
クラスメートと会話する
第5回 補助動詞①
補助動詞dovereとvolereを使って「相手を誘う」「誘いを断る」
第6回 補助動詞②
補助動詞potereとsapereを使って「許可をとる」「お願いする」
第7回 再帰動詞①
再帰動詞を使って1日の予定を話す
第8回 再帰動詞②
再帰動詞を使ってクラスメートと旅行の予定を立てる
第9回 近過去①
avereを使う近過去で昨日したことを話す
第10回 近過去②
essereを使う近過去で昨日したことを話す
第11回 近過去③
現在・近過去を両方使ってクラスメートと会話する
第12回 半過去①
半過去を使って昨日したことを話す
第13回 半過去②
近過去と半過去を両方使って休みのあいだにしたことを話す

第14回 後期のまとめ
後期の内容について、理解度を確認する試験を実施

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: MoodleにテキストのPDFをアップロードします。
初回の授業までに各自ダウンロードし、必要に応じてプリントアウトしておいてください。

参考文献: 外国語を身につけるには、どうしても反復練習が必要になります。
「授業以外で自分で勉強したい！」という人のために、「練習問題集」「単語帳」として次の本をお勧めしておきます。
『もやもやを解消! イタリア語文法ドリル』、小久保真理江、三修社
https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384057836/
『改訂版キクタンイタリア語【入門編】基本500語レベル』
https://book.alc.co.jp/book/b10132063.html

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 60 第14回目の授業時間中に定期試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。

レポート: 0 なし

平常点評価: 40 出席および授業への参加態度を評価します。

その他: 0 なし

備考・関連URL: 何か質問があるときは、いつでもkaiasahina.l@gmail.comまでご連絡ください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050426|06|9S06050426[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（初級） 表現 06		
担 当 教 員	アルベリッツィ ヴァレリオ ルイジ		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：

ICTを活用した「視る」，「聴く」，「話す」，「楽しむ」イタリア語

Italian with ICT: ≪Seeing≫, ≪Listening≫, ≪Speaking≫, and enjoying the language

授業概要：

ICT（Information and Communication Technology，情報通信技術）を積極的に活用しながら，イタリア語によるコミュニケーション能力の養成と入門コースで紹介された文法の定着度を上げることを目標とする。
受講者はスマートデバイス，インタラクティブな資料や語学学習に適したアプリケーションなどを利用しながら，グループワークによりイタリア語の形式と機能を類推・発見し，実際に応用する。
具体的には，入門コースで身につけた能力を踏まえて発展させ，ミニプレゼンテーションなどのようなアクティビティを通して，身近な話題について話したり，自分の意見を述べたりする。

This course is designed to enhance communication skills in Italian and reinforce the knowledge of the Italian grammar introduced in the introductory course through the integrated use of ICT (Information and Communication Technology). In class, students will engage in group work using smart devices, interactive materials, and applications that aid in language learning and enable them to infer, discover, and practically apply the forms and functions of the Italian language.
Specifically, building on the skills acquired in the introductory course, students will further develop their abilities through activities such as mini-presentations that enable them to talk about familiar topics and express their opinions.

授業の到達目標：

多様な文化を理解し、国際舞台の活躍に必須の語学力を身につけ、実践的な外国語能力を養成する。
受講者が約650語からなる一般使用頻度の高いボキャブラリを使いながら基礎的なイタリア語の知識をさらに深め，日常生活での身近なことがらについて自己表現力を豊かにすることを目指す。本講座を修了したものはCEFRのA1-A2に対応する言語運用能力を習得できるようになると想定される。CEFRとは，Common European Framework of Reference for Languages（ヨーロッパ言語共通参照枠）の略称であり，ヨーロッパのすべての言語のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格である。

To understand diverse cultures, acquire the language skills necessary to succeed on the international stage, and develop practical foreign language proficiency.
This course aims to enable students to improve their basic knowledge of Italian, using a vocabulary based on 650 of the most frequently used words in contemporary Italian, thus enhancing their ability to express themselves on familiar topics that are commonly encountered in everyday life.
Students are expected to reach a proficiency level close to A1-A2 as prescribed by the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR). CEFR, the Common European Framework of Reference for Languages, is used as an international standard to describe the level of communication proficiency for all European languages.

事前・事後学習の内容：

受講者はWasedaMoodleなどにアップロードされているコンテンツを授業の前に予習しておき（所要時間約30～45分と想定されている），授業後は授業で触れたテーマについてiOSとAndroid端末からもアクセスできるオンラインの復習問題を行ってもらう（所要時間約15～20分と想定されている）。

Students are expected prepare ahead of class using the contents delivered via Waseda Moodle (estimated time: approximately 30-45 minutes). After class, they will complete online review exercises on the topics covered in the lesson, which can be accessed from both iOS and Android devices (estimated time: approximately 15-20 minutes).

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
オリエンテーション（本講義の目的と概要）
自己紹介・自由会話

Orientation (Purpose and Overview of the Course)
Self-introduction; Free conversation

第2回
【理解】ere動詞の活用
【表現】飲食店で注文する，イタリアのバーの食べ物と飲み物

〔Grammatical skills〕Conjugation of -ere verbs;
〔Communication skills〕Giving orders at a restaurant or café; Food and drinks in an Italian bar

第3回
【理解】不定冠詞の複数形，部分冠詞
【表現】スーパーや市場などで買い物する，イタリアの果物と野菜

〔Grammatical skills〕The plural of indefinite articles; Partitive articles
〔Communication skills〕 Shopping at a supermarket or at a market, Italian fruits and vegetables

第4回
【理解】近称指示形容詞と遠称指示形容詞，所有代名詞
【表現】友達と食事する

〔Grammatical skills〕Demonstrative Adjectives of Proximity and Distance, Possessive Pronouns
〔Communication skills〕Eating with friends

第5回
【理解】fare, andare, venire動詞の活用
【表現】人と約束する，fareを使った表現

〔Grammatical skills〕Conjugation of ≪fare≫, ≪andare≫, ≪venire≫
〔Communication skills〕Making an appointment; Idiomatic expressions with fare

第6回
【理解】頻度副詞
【表現】自分の習慣について話す，娯楽場・施設

〔Grammatical skills〕Adverbs of frequency
〔Communication skills〕Talking about one's habits, Entertainment venues, facilities

第7回
【理解】補助動詞 potere, dovere, volere の活用
【表現】人に頼む・お願いする，許可を求める

〔Grammatical skills〕Conjugation of modal verbs ≪potere≫, ≪dovere≫, ≪volere≫
〔Communication skills〕Making requests and asking for permission

第8回
【理解】ire動詞の活用
【表現】店などの開閉時間を尋ねる

〔Grammatical skills〕Conjugation of -ire verbs
〔Communication skills〕Asking about opening and closing hours of shops, museums, etc.

第9回
【理解】potere, sapere, conoscere動詞の用法，形容詞bello, buono，副詞bene, maleの用法
【表現】長所・短所・知識・外見・性格・状態について尋ねる

〔Grammatical skills〕The verbs ≪potere≫, ≪sapere≫, ≪conoscere≫; The adjectives ≪bello≫ and ≪buono≫; The adverbs ≪bene≫ and ≪male≫
〔Communication skills〕Asking about strength and weaknesses, knowledge, physical appearance, personality, condition

第10回
【理解】Avere動詞を使う近過去（過去完了）
【表現】過去の体験を語る

〔Grammatical skills〕Passato prossimo (Perfect past tense) of verbs that require the auxiliary ≪avere≫
〔Communication skills〕Telling a past experience

第11回
【理解】Essere動詞を使う近過去（過去完了）
【表現】過去の旅行を語る

〔Grammatical skills〕Passato prossimo (Perfect past tense) of verbs that require the auxiliary ≪essere≫
〔Communication skills〕Talking about a past travel

第12回
【理解】規則動詞の半過去（過去未完了）
【表現】子供の頃の思い出

〔Grammatical skills〕Imperfetto (Imperfect past tense) of regular verbs
〔Communication skills〕Childhood memories

第13回
【理解】規則動詞の近過去（過去完了）と半過去（過去未完了）の併用
【表現】一日を語る

〔Grammatical skills〕The combined use of the passato prossimo (perfect past tense) and the imperfetto (imperfect past tense) of regular verbs.
〔Communication skills〕Talking about one's day

第14回
期末テスト

Final test

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: ① Valerio L. Alberizzi,『Ai posti! イタリア語入門』（マルチタッチブック）: https://apple.co/3sr4ft7

② Valerio L. Alberizzi,『Pronti! イタリア語初級』（マルチタッチブック）

③ Quizlet（講師の承認が必要）

a. フラッシュカードセット：https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔改訂版〕伊和基礎辞典：【名詞】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【動詞】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【副詞】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【形容詞】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔改訂版〕和伊基礎辞典：【名詞】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【動詞】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【副詞】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【形容詞】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※教材に関する詳しい説明は初回に行う。

① Valerio L. Alberizzi, Ai posti! Italian for beginners (Multi-touch book in Japanese): https://apple.co/3sr4ft7

② Valerio L. Alberizzi, Pronti! Elementary Italian (Multi-touch book in Japanese)

③ Quizlet (Teacher's approval needed to join the classes)

a. Flash card sets: https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔Revised edition〕Italian-Japanese Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【Verbs】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【Adverbs】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【Adjectives】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔Revised edition〕Japanese-Italian Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【Verbs】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【Adverbs】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【Adjectives】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※ Teaching materials will be discussed in detail during the course introduction

参考文献: 長神悟，『イタリア語のABC[改訂版]《CD付》』，白水社，2018年

池田廉編,『伊和中辞典・第2版』, 小学館, 1999年

西川一郎編,『和伊中辞典・第2版』, 小学館, 2008年

郡史郎編,『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』, 小学館, 2001年

秋山余思監修,『プリーモ伊和辞典　和伊付《シングルCD付》』, 白水社, 2011年

※辞書などの参考文献に関する説明は初回に行う。

Nagami Satoru, Itariago no ABC (Revised edition), Hakusuisha, 2018.

Ikeda Yasushi (ed.), I-Wa chujiten – 2nd Edition, Shogakukan, 1999.

Nishikawa Ichiro (ed.), Wa-I chujiten – 2nd Edition, Shogakukan, 2008.

Gun Shiro (ed.), Pocket Progressive Italian-Japanese / Japanese-Italian Dictionary, Shogakukan, 2001.

Akiyama Yoshi, Il Primo – I-Wa jiten, Wa-I tsuki (single CD tsuki), Hakusuisha, 2011

※ Reference materials such as dictionaries will be discussed during the course introduction

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50 ※定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。

※ A final test will be conducted to assess overall understanding of the course contents.

平常点評価: 50 ※グループワークにおいて受講者の取り組む態度を評価する。

※受講者の授業への積極的な参加，学習意欲などを評価する。

※受講者の学習内容の理解度と単語習得のレベルを確認するため，毎回，小テストを実施する。

※オンライン教材による学習の履歴，宿題や課題などの提出を評価する。

※ Students will be evaluated for their individual contribution to group work

※ Students will be evaluated for their active participation in class and their motivation to learn and improve

※ Quizzes and short tests will be administered at the beginning of each lesson to check the students' comprehension of the learning outcomes and their vocabulary acquisition level.

※ Students will be evaluated for the submission of homework, tasks and online exercises

備考・関連URL: ※　3分の2以上の出席が単位取得に必須である。
※　グループワークやプレゼンテーションなどを実施する。準備などに時間がかかるので，定刻に授業に来ることが望ましい。
※　iPadを所有する受講者は授業に持って来ること。

※ Attendance of 2/3 or more is required for credit acquisition.
※ Preparing for group work and presentations requires time. Students are strongly advised to come to class on time.
※ Students who own an iPad should bring it to class.

「イタリア語（入門）」を履修した受講者あるいはそれに等しい知識と能力（およそCEFRのA1-A2）を持つ人を対象とする授業だが，受講者の学習進度やレベルに応じて進める予定である。
外国語の学習というのは，根本的には，その言語を話している人々が，その目の前に広がる世界をどのように認識しているかということを身につけるプロセスである。そのため，外国語学習には「ことば」がその背景に持っている文化の知識が不可欠である。したがって，イタリア語・イタリア文化に興味を持ち授業に積極的に参加する受講者を期待する。

This class is intended for students who have taken ≪Italian (Introductory)≫ or have an equivalent knowledge and proficiency of the language (approximately CEFR A1-A2). The pace of instruction will be determined by the students' progress and the overall level of the class.
Foreign language acquisition means learning how a group of people recognizes and classifies the world before their eyes. Therefore, an understanding of the cultural background that exists behind ≪words≫ is key to successful language learning. Highly motivated students with a strong interest in Italian language and culture are encouraged to take this class.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050426|07|9S06050426[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（初級） 表現 07		
担 当 教 員	アルベリッツィ ヴァレリオ ルイジ		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：

ICTを活用した「視る」，「聴く」，「話す」，「楽しむ」イタリア語

Italian with ICT: ≪Seeing≫, ≪Listening≫, ≪Speaking≫, and enjoying the language

授業概要：

ICT（Information and Communication Technology，情報通信技術）を積極的に活用しながら，イタリア語によるコミュニケーション能力の養成と入門コースで紹介された文法の定着度を上げることを目標とする。
受講者はスマートデバイス，インタラクティブな資料や語学学習に適したアプリケーションなどを利用しながら，グループワークによりイタリア語の形式と機能を類推・発見し，実際に応用する。
具体的には，入門コースで身につけた能力を踏まえて発展させ，ミニプレゼンテーションなどのようなアクティビティを通して，身近な話題について話したり，自分の意見を述べたりする。

This course is designed to enhance communication skills in Italian and reinforce the knowledge of the Italian grammar introduced in the introductory course through the integrated use of ICT (Information and Communication Technology). In class, students will engage in group work using smart devices, interactive materials, and applications that aid in language learning and enable them to infer, discover, and practically apply the forms and functions of the Italian language.
Specifically, building on the skills acquired in the introductory course, students will further develop their abilities through activities such as mini-presentations that enable them to talk about familiar topics and express their opinions.

授業の到達目標：

多様な文化を理解し、国際舞台の活躍に必須の語学力を身につけ、実践的な外国語能力を養成する。
受講者が約650語からなる一般使用頻度の高いボキャブラリを使いながら基礎的なイタリア語の知識をさらに深め，日常生活での身近なことがらについて自己表現力を豊かにすることを目指す。本講座を修了したものはCEFRのA1-A2に対応する言語運用能力を習得できるようになると想定される。CEFRとは，Common European Framework of Reference for Languages（ヨーロッパ言語共通参照枠）の略称であり，ヨーロッパのすべての言語のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格である。

To understand diverse cultures, acquire the language skills necessary to succeed on the international stage, and develop practical foreign language proficiency.
This course aims to enable students to improve their basic knowledge of Italian, using a vocabulary based on 650 of the most frequently used words in contemporary Italian, thus enhancing their ability to express themselves on familiar topics that are commonly encountered in everyday life.
Students are expected to reach a proficiency level close to A1-A2 as prescribed by the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR). CEFR, the Common European Framework of Reference for Languages, is used as an international standard to describe the level of communication proficiency for all European languages.

事前・事後学習の内容：

受講者はWasedaMoodleなどにアップロードされているコンテンツを授業の前に予習しておき（所要時間約30～45分と想定されている），授業後は授業で触れたテーマについてiOSとAndroid端末からもアクセスできるオンラインの復習問題を行ってもらう（所要時間約15～20分と想定されている）。

Students are expected prepare ahead of class using the contents delivered via Waseda Moodle (estimated time: approximately 30-45 minutes). After class, they will complete online review exercises on the topics covered in the lesson, which can be accessed from both iOS and Android devices (estimated time: approximately 15-20 minutes).

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
オリエンテーション（本講義の目的と概要）
自己紹介・自由会話

Orientation (Purpose and Overview of the Course)
Self-introduction; Free conversation

第2回
【理解】ere動詞の活用
【表現】飲食店で注文する，イタリアのバーの食べ物と飲み物

〔Grammatical skills〕Conjugation of -ere verbs;
〔Communication skills〕Giving orders at a restaurant or café; Food and drinks in an Italian bar

第3回
【理解】不定冠詞の複数形，部分冠詞
【表現】スーパーや市場などで買い物する，イタリアの果物と野菜

〔Grammatical skills〕The plural of indefinite articles; Partitive articles
〔Communication skills〕 Shopping at a supermarket or at a market, Italian fruits and vegetables

第4回
【理解】近称指示形容詞と遠称指示形容詞，所有代名詞
【表現】友達と食事する

〔Grammatical skills〕Demonstrative Adjectives of Proximity and Distance, Possessive Pronouns
〔Communication skills〕Eating with friends

第5回
【理解】fare, andare, venire動詞の活用
【表現】人と約束する，fareを使った表現

〔Grammatical skills〕Conjugation of ≪fare≫, ≪andare≫, ≪venire≫
〔Communication skills〕Making an appointment; Idiomatic expressions with fare

第6回
【理解】頻度副詞
【表現】自分の習慣について話す，娯楽場・施設

〔Grammatical skills〕Adverbs of frequency
〔Communication skills〕Talking about one’s habits, Entertainment venues, facilities

第7回
【理解】補助動詞 potere, dovere, volere の活用
【表現】人に頼む・お願いする，許可を求める

〔Grammatical skills〕Conjugation of modal verbs ≪potere≫, ≪dovere≫, ≪volere≫
〔Communication skills〕Making requests and asking for permission

第8回
【理解】ire動詞の活用
【表現】店などの開閉時間を尋ねる

〔Grammatical skills〕Conjugation of -ire verbs
〔Communication skills〕Asking about opening and closing hours of shops, museums, etc.

第9回
【理解】potere, sapere, conoscere動詞の用法，形容詞bello, buono，副詞bene, maleの用法
【表現】長所・短所・知識・外見・性格・状態について尋ねる

〔Grammatical skills〕The verbs ≪potere≫, ≪sapere≫, ≪conoscere≫; The adjectives ≪bello≫ and ≪buono≫; The adverbs ≪bene≫ and ≪male≫
〔Communication skills〕Asking about strength and weaknesses, knowledge, physical appearance, personality, condition

第10回
【理解】Avere動詞を使う近過去（過去完了）
【表現】過去の体験を語る

〔Grammatical skills〕Passato prossimo (Perfect past tense) of verbs that require the auxiliary ≪avere≫
〔Communication skills〕Telling a past experience

第11回
【理解】Essere動詞を使う近過去（過去完了）
【表現】過去の旅行を語る

〔Grammatical skills〕Passato prossimo (Perfect past tense) of verbs that require the auxiliary ≪essere≫
〔Communication skills〕Talking about a past travel

第12回
【理解】規則動詞の半過去（過去未完了）
【表現】子供の頃の思い出

〔Grammatical skills〕Imperfetto (Imperfect past tense) of regular verbs
〔Communication skills〕Childhood memories

第13回
【理解】規則動詞の近過去（過去完了）と半過去（過去未完了）の併用
【表現】一日を語る

〔Grammatical skills〕The combined use of the passato prossimo (perfect past tense) and the imperfetto (imperfect past tense) of regular verbs.
〔Communication skills〕Talking about one's day

第14回
期末テスト

Final test

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: ① Valerio L. Alberizzi,『Ai posti! イタリア語入門』（マルチタッチブック）: https://apple.co/3sr4ft7

② Valerio L. Alberizzi,『Pronti! イタリア語初級』（マルチタッチブック）

③ Quizlet（講師の承認が必要）

a. フラッシュカードセット：https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔改訂版〕伊和基礎辞典：【名詞】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【動詞】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【副詞】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【形容詞】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔改訂版〕和伊基礎辞典：【名詞】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【動詞】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【副詞】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【形容詞】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※教材に関する詳しい説明は初回に行う。

① Valerio L. Alberizzi, Ai posti! Italian for beginners (Multi-touch book in Japanese): https://apple.co/3sr4ft7

② Valerio L. Alberizzi, Pronti! Elementary Italian (Multi-touch book in Japanese)

③ Quizlet (Teacher's approval needed to join the classes)

a. Flash card sets: https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔Revised edition〕Italian-Japanese Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【Verbs】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【Adverbs】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【Adjectives】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔Revised edition〕Japanese-Italian Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【Verbs】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【Adverbs】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【Adjectives】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※ Teaching materials will be discussed in detail during the course introduction

参考文献: 長神悟, 『イタリア語のABC[改訂版]《CD付》』, 白水社, 2018年

池田廉編,『伊和中辞典・第2版』, 小学館, 1999年

西川一郎編,『和伊中辞典・第2版』, 小学館, 2008年

郡史郎編,『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』, 小学館, 2001年

秋山余思監修,『プリーモ伊和辞典　和伊付《シングルCD付》』, 白水社, 2011年

※辞書などの参考文献に関する説明は初回に行う。

Nagami Satoru, Itariago no ABC (Revised edition), Hakusuisha, 2018.

Ikeda Yasushi (ed.), I-Wa chujiten – 2nd Edition, Shogakukan, 1999.

Nishikawa Ichiro (ed.), Wa-I chujiten – 2nd Edition, Shogakukan, 2008.

Gun Shiro (ed.), Pocket Progressive Italian-Japanese / Japanese-Italian Dictionary, Shogakukan, 2001.

Akiyama Yoshi, Il Primo – I-Wa jiten, Wa-I tsuki (single CD tsuki), Hakusuisha, 2011

※ Reference materials such as dictionaries will be discussed during the course introduction

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50 ※定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。

※ A final test will be conducted to assess overall understanding of the course contents.

平常点評価: 50 ※グループワークにおいて受講者の取り組む態度を評価する。

※受講者の授業への積極的な参加，学習意欲などを評価する。

※受講者の学習内容の理解度と単語習得のレベルを確認するため，毎回，小テストを実施する。

※オンライン教材による学習の履歴，宿題や課題などの提出を評価する。

※ Students will be evaluated for their individual contribution to group work

※ Students will be evaluated for their active participation in class and their motivation to learn and improve

※ Quizzes and short tests will be administered at the beginning of each lesson to check the students' comprehension of the learning outcomes and their vocabulary acquisition level.

※ Students will be evaluated for the submission of homework, tasks and online exercises

備考・関連URL: ※　3分の2以上の出席が単位取得に必須である。
※　グループワークやプレゼンテーションなどを実施する。準備などに時間がかかるので，定刻に授業に来ることが望ましい。
※　iPadを所有する受講者は授業に持って来ること。

※ Attendance of 2/3 or more is required for credit acquisition.
※ Preparing for group work and presentations requires time. Students are strongly advised to come to class on time.
※ Students who own an iPad should bring it to class.

「イタリア語（入門）」を履修した受講者あるいはそれに等しい知識と能力（およそCEFRのA1-A2）を持つ人を対象とする授業だが，受講者の学習進度やレベルに応じて進める予定である。
外国語の学習というのは，根本的には，その言語を話している人々が，その目の前に広がる世界をどのように認識しているかということを身につけるプロセスである。そのため，外国語学習には「ことば」がその背景に持っている文化の知識が不可欠である。したがって，イタリア語・イタリア文化に興味を持ち授業に積極的に参加する受講者を期待する。

This class is intended for students who have taken ≪Italian (Introductory)≫ or have an equivalent knowledge and proficiency of the language (approximately CEFR A1-A2). The pace of instruction will be determined by the students' progress and the overall level of the class.
Foreign language acquisition means learning how a group of people recognizes and classifies the world before their eyes. Therefore, an understanding of the cultural background that exists behind ≪words≫ is key to successful language learning. Highly motivated students with a strong interest in Italian language and culture are encouraged to take this class.

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050428|01|9S06050428[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	イタリア語（初級）　＜アクティブ・ラーニングで学ぶイタリア語＞		
担 当 教 員	アルベリッツィ　ヴァレリオ　ルイジ		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月３時限@02:火３時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　生きたイタリア語に主体的に触れてみよう

Let's actively engage with living Italian

授業概要：　ICT（Information and Communication Technology，情報通信技術）を積極的に活用しながら，イタリア語によるコミュニケーション能力の養成と入門コースで紹介された文法の定着度を上げることを目標とする。
受講者はスマートデバイス，インタラクティブな資料や語学学習に適したアプリケーションなどを利用しながら，グループワークによりイタリア語の形式と機能を類推・発見し，実際に応用する。
具体的には，入門コースで身につけた能力を踏まえて発展させ，ミニプレゼンテーションなどのようなアクティビティを通して，身近な話題について話したり，自分の意見を述べたりする。
同講師が担当する「イタリア語（初級）表現 01・03」と異なり、本授業は週に2コマ割り当てられているため、進行がより速く、上記のクラス活動（実習・練習）に充てられる時間が多く、イタリア語によるコミュニケーションの諸問題をより詳細に扱う。
イタリア留学を控えている、または短期間で実践的なコミュニケーション能力を身につけたい学習者向けの授業である。

This course is designed to enhance communication skills in Italian and reinforce the knowledge of the Italian grammar introduced in the introductory course through the integrated use of ICT (Information and Communication Technology).
In class, students will engage in group work using smart devices, interactive materials, and applications that aid in language learning and enable them to infer, discover, and practically apply the forms and functions of the Italian language.
Specifically, building on the skills acquired in the introductory course, students will further develop their abilities through activities such as mini presentations that enable them to talk about familiar topics and express their opinions.
Unlike the instructor's other courses, Italian (Elementary) Expression 01 and 03, this class meets twice a week, allowing for a faster pace and more time dedicated to class activities (practical exercises and drills). This schedule allows for a more detailed exploration of various communication challenges in Italian.
The course is designed for students preparing to study in Italy or those who wish to acquire practical communication skills in a short period.

授業の到達目標：　多様な文化を理解し、国際舞台の活躍に必須の語学力を身につけ、実践的な外国語能力を養成する。
受講者が約1200語からなる一般使用頻度の高いボキャブラリを使いながら基礎的なイタリア語の知識をさらに深め，日常生活での身近なことがらについて自己表現力を豊かにすることを目指す。本講座を修了したものはCEFRのA2に対応する言語運用能力を習得できるようになると想定される。CEFRとは，Common European Framework of Reference for Languages（ヨーロッパ言語共通参照枠）の略称であり，ヨーロッパのすべての言語のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格である。

To understand diverse cultures, acquire the language skills needed to succeed on the international stage, and develop practical foreign language proficiency.
This course aims to enable students improve their basic knowledge of Italian, using a vocabulary based on 1200 of the most frequently used words in contemporary Italian, thus enhancing their ability to express themselves on familiar topics that are commonly encountered in everyday life.
Students are expected to reach a proficiency level close to A2 as prescribed by the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR). CEFR, the Common European Framework of Reference for Languages, is used as an international standard to describe the level of communication proficiency for all European languages.

事前・事後学習の内容：　受講者はWasedaMoodleなどにアップロードされているコンテンツを授業の前に予習しておき（所要時間約30～45分と想定されている），授業後は授業で触れたテーマについてiOSとAndroid端末からもアクセスできるオンラインの復習問題を行ってもらう（所要時間約15～20分と想定されている）。

Students are expected prepare ahead of class using the contents delivered via Waseda Moodle (estimated time: approximately 30-45 minutes). After class, they will complete online review exercises on the topics covered in the lesson, which can be accessed from both iOS and Android devices (estimated time: approximately 15-20 minutes).

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション(本講義の目的と概要)
自由会話

Orientation (Purpose and Overview of the Course)
Free conversation

第2回
【理解】近過去(過去完了)と半過去(過去未完了)の復習とまとめ, 体験表現の「hai mai…」
【表現】過去の体験を語る

〔Grammatical skills〕Review and summary of the passato prossimo (perfect past tense) and the imperfetto (imperfect past tense); Idiomatic expression of experience ≪Hai mai…≫
〔Communication skills〕Telling a past experience

第3回
【理解】代名動詞の活用
【表現】自分の日課について話す

〔Grammatical skills〕Conjugation of pronominal verbs
〔Communication skills〕Talking about one's daily routine

第4回
【理解】代名動詞の近過去(過去完了)と半過去(過去未完了)
【表現】一日を振り返る

〔Grammatical skills〕Passato prossimo (perfect past tense) and Imperfetto (imperfect past tense) of pronominal verbs
〔Communication skills〕Looking back over one's day

第5回
【理解】piacereとdispiacere動詞の用法, preferire動詞との比較
【表現】好き嫌いについて話す, 丁寧に断る

〔Grammatical skills〕Use of ≪piacere≫ and ≪dispiacere≫ in comparison with ≪preferire≫
〔Communication skills〕Expressing likes and dislikes, Decline politely

第6回
【理解】直接補語代名詞(非強勢形・三人称)
【表現】お使いに行く

〔Grammatical skills〕Direct object pronouns (unstressed form, third person)
〔Communication skills〕Running errands

第7回
【理解】間接補語代名詞(非強制形・三人称)
【表現】物をあげる・もらう, 情報を伝聞する

〔Grammatical skills〕Indirect object pronouns (unstressed form, third person)
〔Communication skills〕Give and take things; Report information

第8回
【理解】間接補語代名詞(強制形)
【表現】好みについて話す

〔Grammatical skills〕Indirect object pronouns (stressed)
〔Communication skills〕Talking about one's likes

第9回
【理解】補語人称代名詞の結合形
【表現】お願いする

〔Grammatical skills〕Combined pronouns (indirect + direct)
〔Communication skills〕Ask for a favor

第10回
【理解】人称代名詞の位置と総合まとめ
【表現】一般的な話題について話す

〔Grammatical skills〕The position of personal pronouns
〔Communication skills〕Talking about general topics

第11回
【理解】小辞ciの代名詞的な用法
【表現】行きつけの場所や観光に行った町について話す

〔Grammatical skills〕The pronominal use of the particle ≪ci≫
〔Communication skills〕Talking about one's favorite places or towns visited for sightseeing

第12回
【理解】neの用法
【表現】友達を家に招く

〔Grammatical skills〕Uses of ≪ne≫
〔Communication skills〕Invite a friend to one's home

第13回
【理解】ciとneの様々な用法
【表現】意見を求める・述べる

〔Grammatical skills〕Different uses of ≪ci≫ and ≪ne≫
〔Communication skills〕Asking for and expressing opinions

第14回
中間テストおよび解説

Midterm test and comment

第15回
【理解】比較級・最上級
【表現】物や事柄を比べる，不動産業者で家を探す

〔Grammatical skills〕Comparisons and degrees of intensity
〔Communication skills〕Comparing things or matters; looking for a house at real estate agency

第16回
【理解】規則動詞の未来形
【表現】計画を立てる

〔Grammatical skills〕The future tense of regular verbs
〔Communication skills〕Making plans

第17回
【理解】不規則的な現在形を持つ動詞の未来形，stare per + 不定詞法
【表現】天気について話す

〔Grammatical skills〕The future tense of irregular verbs; ≪stare per≫ + infinitive
〔Communication skills〕Talking about the weather

第18回
【理解】関係代名詞cheの用法
【表現】自分の国・街を紹介する

〔Grammatical skills〕The relative pronoun ≪che≫ and its use
〔Communication skills〕Introducing a country or a city

第19回
【理解】関係代名詞cuiの用法
【表現】世間話をする

〔Grammatical skills〕The relative pronoun≪cui≫ and its use
〔Communication skills〕Small talk

第20回
【理解】大過去の用法，近過去・半過去のとの関わり
【表現】過去の体験を多角的に振り返る

〔Grammatical skills〕The uses of trapassato prossimo (pluperfect) and its relation with passato prossimo (perfect past tense) and imperfetto (imperfect past tense)
〔Communication skills〕Reflect on past experiences from multiple perspectives

第21回
【理解】規則動詞の先立未来
【表現】現在の推量や不確かな事柄について話す

〔Grammatical skills〕Future perfect tense of regular verbs
〔Communication skills〕Talking about suppositions in the present or uncertain matters

第22回
【理解】stare + ジェルンディオ，ジェルンディオの他の用法
【表現】進行中・同時に行われている動作について話す，原因・理由を述べる

〔Grammatical skills〕≪Stare≫ + gerund; Other uses of gerund
〔Communication skills〕Talking about ongoing and simultaneous actions, explaining cause or reason

第23回
【理解】命令法と禁止表現
【表現】レシピを教える

〔Grammatical skills〕Imperative mood and expressions of prohibition
〔Communication skills〕Teaching a recipe

第24回
【理解】命令法と禁止表現に伴う代名詞の位置
【表現】道案内

〔Grammatical skills〕The position of pronouns with the imperative mood and expressions of prohibition
〔Communication skills〕Giving directions

第25回
【理解】使役動詞fare，放任動詞lasciareと知覚動詞の用法
【表現】指示を与える

〔Grammatical skills〕Causative use of the verb ≪fare≫; The verb ≪lasciare≫, verbs of perception and their use
〔Communication skills〕Giving instructions

第26回
【理解】不定代名詞・形容詞の用法
【表現】パーティーで

〔Grammatical skills〕Indefinite pronouns, adjectives and their use
〔Communication skills〕At a party

第27回
【理解】総合復習
【表現】自由会話

〔Grammatical skills〕General review
〔Communication skills〕 Free conversation

第28回
期末テスト

Final test

言語区分: 0 日・英併用 Japanese/English

教科書: ① Valerio L. Alberizzi,『Ai posti! イタリア語入門』(マルチタッチブック): https://apple.co/3sr4ft7

② Valerio L. Alberizzi,『Pronti! イタリア語初級』(マルチタッチブック)

③ Quizlet（講師の承認が必要）

a. フラッシュカードセット：https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔改訂版〕伊和基礎辞典：【名詞】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【動詞】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【副詞】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【形容詞】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔改訂版〕和伊基礎辞典：【名詞】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【動詞】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【副詞】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【形容詞】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※教材に関する詳しい説明は初回に行う。

① Valerio L. Alberizzi, Ai posti! Italian for beginners (Multi-touch book in Japanese): https://apple.co/3sr4ft7

② Valerio L. Alberizzi, Pronti! Elementary Italian (Multi-touch book in Japanese)

③ Quizlet (Teacher's approval needed to join the classes)

a. Flash card sets: https://quizlet.com/join/EuJDm5kMA

b.〔Revised edition〕Italian-Japanese Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/jhvYpZgg9
【Verbs】https://quizlet.com/join/QaRmXPxew
【Adverbs】https://quizlet.com/join/qNGKpdNSq
【Adjectives】https://quizlet.com/join/uACfhzJPV

c.〔Revised edition〕Japanese-Italian Basic Dictionary:
【Nouns】https://quizlet.com/join/Qm94T5DTN
【Verbs】https://quizlet.com/join/CYGMAT8VJ
【Adverbs】https://quizlet.com/join/fCH6MmDka
【Adjectives】https://quizlet.com/join/4knBfN6D8

※ Teaching materials will be discussed in detail during the course introduction

参考文献：

長神悟，『イタリア語のABC[改訂版]《CD付》』，白水社，2018年

池田廉編，『伊和中辞典・第2版』，小学館，1999年

西川一郎編，『和伊中辞典・第2版』，小学館，2008年

郡史郎編，『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』，小学館，2001年

秋山余思監修，『プリーモ伊和辞典　和伊付《シングルCD付》』，白水社，2011年

※辞書などの参考文献に関する説明は初回に行う。

Nagami Satoru, Itariago no ABC (Revised edition), Hakusuisha, 2018.

Ikeda Yasushi (ed.), I-Wa chujiten - 2nd Edition, Shogakukan, 1999.

Nishikawa Ichiro (ed.), Wa-I chujiten - 2nd Edition, Shogakukan, 2008.

Gun Shiro (ed.), Pocket Progressive Italian-Japanese / Japanese-Italian Dictionary, Shogakukan, 2001.

Akiyama Yoshi, Il Primo - I-Wa jiten, Wa-I tsuki (single CD tsuki), Hakusuisha, 2011

※ Reference materials such as dictionaries will be discussed during the course introduction

成績評価フリー入力サイン：

0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50

※定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。

※第14回目の授業時間中に中間テストを実施し，理解度の確認を行う。

※ A final test will be conducted to assess overall understanding of the course contents.

※ A midterm test will be conducted during the 14th lesson to assess the level of understanding.

平常点評価：　50

※グループワークにおいて受講者の取り組む態度を評価する。

※受講者の授業への積極的な参加，学習意欲などを評価する。

※受講者の学習内容の理解度と単語習得のレベルを確認するため，毎回，小テストを実施する。

※オンライン教材による学習の履歴，宿題や課題などの提出を評価する。

※ Students will be evaluated for their individual contribution to group work

※ Students will be evaluated for their active participation in class and their motivation to learn and improve

※ Quizzes and short tests will be administered at the beginning of each lesson to check the students' comprehension of the learning outcomes and their vocabulary acquisition level.

※ Students will be evaluated for the submission of homework, tasks and online exercises

備考・関連URL：

※　3分の2以上の出席が単位取得に必須である。
※　グループワークやプレゼンテションなどを実施する。準備などに時間がかかるので，定刻に授業に来ることが望ましい。
※　iPadを所有する受講者は授業に持って来ること。

※ Attendance of 2/3 or more is required for credit acquisition.
※ Preparing for group work and presentations requires time. Students are strongly advised to come to class on time.
※ Students who own an iPad should bring it to class.

「イタリア語（入門）　＜アクティブ・ラーニングで学ぶイタリア語＞」を履修した受講者あるいはそれに等しい知識と能力（およそCEFRのA1-A2）を持つ人を対象とする授業だが，受講者の学習進度やレベルに応じて進める予定である。特に，イタリア留学を控えている、または短期間で実践的なコミュニケーション能力を身につけたい学習者向けの授業である。
外国語の学習というのは，根本的には，その言語を話している人々が，その目の前に広がる世界をどのように認識しているかということを身につけるプロセスである。そのため，外国語学習には「ことば」がその背景に持っている文化の知識が不可欠である。したがって，イタリア語・イタリア文化に興味を持ち授業に積極的に参加する受講者を期待する。

This class is intended for students who have taken ≪Italian (Introductory) <Learning Italian through Active Learning>≫ or have an equivalent knowledge and proficiency of the language (approximately CEFR A1-A2). The pace of instruction will be determined by the students' progress and the overall level of the class.
In particular, the course is designed for students preparing to study in Italy or who wish to acquire practical communication skills in a short period.
Foreign language acquisition means learning how a group of people recognizes and classifies the world before their eyes. Therefore, an understanding of the cultural background that exists behind ≪words≫ is key to successful language learning. Highly motivated students with a strong interest in Italian language and culture are encouraged to take this class.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050429|01|9S06050429[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（初級） ＜英語で学ぶイタリア語＞		
担 当 教 員	ビオンディ マルコ		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火４時限@02:木２時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: Waystage Italian

授業概要: This Elementary Italian course (A1) is designed for absolute beginners or those with very limited knowledge of Italian. The course aims to provide students with a solid foundation in Italian, focusing on developing essential language skills: listening, reading, writing, and speaking. Through a variety of teaching materials and interactive activities, students will be introduced to basic grammatical structures and essential vocabulary.

授業の到達目標: - Gain a basic understanding of Italian grammar, including present tense verbs, articles, pronouns, and prepositions.
- Develop listening and comprehension skills through simple dialogues and short texts.
- Learn essential vocabulary related to everyday situations, such as greetings, introductions, food, family, hobbies, and directions.
- Practice correct pronunciation and intonation through listening exercises and repetition.
- Begin to form simple sentences and respond to basic questions in Italian.
- Acquire a basic cultural awareness of Italy and its traditions.

事前・事後学習の内容: In this lecture, we recommend pre-class and post-class learning to provide an effective learning experience for all students. In pre-class learning, it's desirable to briefly review the content that will be covered in the class, including looking up any unknown words and doing basic preparation. This should take about 15 minutes. After class, in post-class learning, the aim is to review what was learned during the class to deepen understanding. This post-learning is expected to take about 30 minutes. Through both pre-class and post-class learning, a more fulfilling learning experience is possible, and it is hoped that this will lead to a deeper understanding and participation in the class.

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

Introduction

general introduction and orientation

Sapori d'Italia (1)

- talking about one's eating habits- writing a shopping list
- talking about typical Italian recipes

Sapori d'Italia (2)

- understanding recipe instructions - describing one's favorite recipe
- doing grocery shopping- indicating quantities

Sapori d'Italia (3)

- organizing a picnic or a party

Fare acquisti (1)

- talking and asking about events that will occur in the future- writing a short article on future fashion styles

Fare acquisti (2)

- shopping for clothes and shoes- making a polite request
- describing one's look on special occasion

Fare acquisti (3)

- talking about differences of style- comparing culture cliches

Review

(review)

Noi e gli animali (1)

- understanding a survey- carrying out a survey and reporting its findings

Noi e gli animali (2)

– talking about animals– espressioni one's opinion on animal
– describing past situations and actions that occurred repeatedly

Noi e gli animali (3)

– talking about one's childhood– writing a short news story

Non è bello ciò che è bello... (1)

– understanding and giving physical descriptions– describing one's personality
– making descriptions of the past and the present personality, physical aspect and habits

Non è bello ciò che è bello... (2)

– reading one's horoscope– talking about sings of the zodiac

Non è bello ciò che è bello... (3)

– making, accepting and refusing an invitation– describing actions which are going on tight now

Non è bello ciò che è bello... (4)

– writing a short fiction story

Review

(review)

Casa dolce casa (1)

– understanding and writing short rental ads– understanding and giving home descriptions
– expressing wishes

Casa dolce casa (2)

– expressing the consequences of a possible hypothesis – writing a short article on an ideal home

Casa dolce casa (3)

– expressing likes and dislikes – giving advice

Casa dolce casa (4)

– complaining about someone and relating an unpleasant experience

Review

(review)

Vivere in Italia (1)

– comparing Italian social habits and traditions with those of one's country

Vivere in Italia (2)

– understanding travel brochures and travel blogs– understanding and giving orders, recommendations and instructions

Vivere in Italia (3)

– writing a short article on the do's and don's for tourists coming to your country– underlining cultural differences

General review

(review)

Final examination

(examination)

Italian music (1)

– open discussion about music

Italian music (2)

– open discussion about music

言語区分: 0 英語 English

教科書: Gruppo Italiaidea "New Italian Espresso – beginner and pre-intermediate", ALMA Edizioni, 2014.

* handouts will be distributed

参考文献:
– Proudfoot, "Modern Italian Grammar: A Practical Guide", 2nd edition, Routledge, 2005
– "Pocket Oxford Italian Dictionary", 3rd edition, Oxford University Press, 2006
– "Oxford Paravia Italian Dictionary", 2nd edition, Oxford University Press, 2007
– Gruppo Italiaidea "New Italian Espresso – beginner and pre-intermediate", ALMA Edizioni, 2014

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: Assessment will be based on in-class assignments, active participation, short written quizzes, and a brief written exam at the end of the course. The aim is to evaluate the students' understanding and their ability to use Italian in simple contexts.

備考・関連URL：　Italian Ministry of Foreign Affairs and International Cooperation's web "Study in Italy":
https://studyinitaly.esteri.it/en/home_borse

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050430|03|9S06050430[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（準中級） 理解 03		
担 当 教 員	朝比奈 佳尉		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： すでに「イタリア語(初級)」を履修済みの人を対象とします。

授業の到達目標： 実際にイタリアに留学・旅行することを念頭に、イタリア語を運用する上で欠かせない「近過去」と「半過去」というふたつの過去時制に加え、「命令法」と「使役」までを習得することを目指します。
EFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)のA2～B1レベルが到達目標です。

事前・事後学習の内容： 外国語を学ぶ上で重要なのは、学んだことを何度も反復し、定着させることです。
ですから受講生の皆さんには、授業の予習ではなく、10分でも20分でもいいですから、授業で学んだことを復習をしてもらえたらと思います。

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 前年度のおさらい①
ガイダンス/初級の復習（名詞・動詞・形容詞など）

第2回 前年度のおさらい②
初級の復習（名詞・動詞・形容詞など）

第3回 近過去①
近過去(avere)について学びます。

第4回 近過去②
近過去(essere)について学びます。

第5回 近過去③
再帰動詞の近過去について学びます。

第6回 近過去④
piacereの近過去について学びます。

第7回 半過去
半過去について学びます。

第8回 近過去と半過去①
近過去と半過去の使い分けについて学びます。

第9回 近過去と半過去②
近過去と半過去の使い分けを練習します。

第10回 命令法①
命令法の作り方を学びます。

第11回 命令法②
命令法の使い方を学びます。

第12回 使役fare
fareを使う使役表現「～させる」を学びます。

第13回 会話練習
ここまで学んできたことを使って、まとまった会話を作る練習をします。

第14回 前期のまとめ
前期の内容について、理解度を確認する試験を実施

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: MoodleにテキストのPDFをアップロードします。
各自ダウンロードし、必要に応じてプリントアウトしておいてください。

参考文献: 外国語を身につけるには、どうしても反復練習が必要になります。
「授業以外で自分で勉強したい！」という人のために、「練習問題集」「単語帳」として次の本をお勧めしておきます。
『もやもやを解消! イタリア語文法ドリル』、小久保真理江、三修社
https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384057836/
『改訂版キクタンイタリア語【入門編】基本500語レベル』
https://book.alc.co.jp/book/b10132063.html

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 60 第14回目の授業時間中に定期試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。

平常点評価: 40 出席および授業への参加態度を評価します。

備考・関連URL: ・「授業計画」はあくまでも目安です。受講生の習熟度に応じて、変更となることがあります。・質問がある場合は kaiasahina.l@gmail.comまでいつでも気軽にご連絡ください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050431|02|9S06050431[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（準中級） 表現 02		
担 当 教 員	ビオンディ マルコ		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: Parla con passione

授業概要: このイタリア語会話コースは、イタリア語の基礎知識を持つ学生を対象に設計されており、日常的な状況でのコミュニケーション能力を向上させたいと考えています。様々な実践的な活動を通じて、学生は自分の語彙を広げ、言語の流暢さと自信を向上させ、イタリアの文化や慣習への理解を深める機会を得られます。 このコースは、実際のテーマや状況に焦点を当て、学生に積極的に交流し、自然で自発的な方法で言語を使用するよう促します。授業には、ガイド付きの対話、ロールプレイ、実際の素材に基づくリスニング演習、日常生活からイタリアの文化的伝統に至るまでのさまざまなトピックについての議論が含まれます。 学生は、自分の意見を表現し、個人的な経験を共有し、共通の関心事についての会話に参加することで刺激されます。コースのアプローチは非常にインタラクティブで、協力的でサポート的な学習環境の中でコミュニケーションスキルを発展させることに特に重点を置いています。

授業の到達目標: ·日常的な状況でイタリア語で効果的にコミュニケーションする。
·より豊かで多様な語彙を使用する。
·慣用表現や一般的なフレーズを理解し使用する。
·発音とイントネーションを改善する。
·イタリア語の使用においてより自信を持つ。
·イタリア文化についての知識を深める。

事前・事後学習の内容: 本講義では、学生の皆さんに効果的な学習経験を提供するため、事前学習と事後学習を推奨しています。事前学習では、授業で取り上げる内容について予め目を通し、知らない単語の調査など、基本的な準備を行っていただくことが望ましいです。このためには、約15分程度の時間があれば十分です。また、授業後の事後学習では、授業中に学んだ内容を一度復習し、理解を深めることを目指しています。この事後学習には約30分の時間を要すると想定しています。事前学習と事後学習を通じて、より充実した学習が可能となり、授業への理解と参加が深まることを期待しています。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回

【文法事項】直接目的語代名詞:強勢形・非強勢形、題名的小詞ne, 現在進行形stare＋ジェルンデイオ、 ci(ce)の用法(″ce l'ho)、副詞：già、non...ancora,比較級meglio,migliore.
及び縮小辞、形容詞と副詞の絶対最上級、最上級。
【会話練習】提案をする。提案を受ける、拒絶する。別の提案をする。
及び縮小辞、形容詞と副詞の絶対最上級、最上級。
【会話練習】提案をする。提案を受ける、拒絶する。別の提案をする。【会話】提案をする。提案を受ける、拒絶する。別の提案をする。

第2回

【文法事項】 関係代名詞”che″と”ne″, ciの用法：pensarci (″ci penso), metterci(″ci metto), volerci(″ci vuole″), 比較級と縮小辞、形容詞と副詞の絶対最上級、相対最上級。
【会話練習】 特定の時に起きた事柄を話す。ある場所へ行く方法を尋ねる。 どのくらいの時間を要するかを尋ねる。

第3回

【文法事項】望乃至意図を表す半過去の用法。sapereとconoscereの近過去と半過去。近過去と半過去の用法（復習と新たな文法事項）, tuttoとogniの用法, 何かについて問い合わせる。
【会話練習】好みを訊く。意図を明確に伝える。何かを尋ねる。

第4回

【文法事項】 間接目的語、sembrare(mi sembra/sembrano),評価と判断の副詞（purtroppo, sicuro/sicurmente, certo/certamente, davvero,esatto/esattamente. di sicuro,ecc.),
疑念（probabilmente, forse,quasi, eventualmente, semmai）,非人称::”si＋動詞。
【会話練習】 旅行の話をする。留学経験の話をする。

第5回

【文法事項】 時、様相、原因・理由、仮定をジェルンデイオで表す。stare ＋ジェルンデイオ、mentreとduranteの用法、"non sopporto quando...＋直説法。
【会話練習】 行為の切迫、驚き、遺憾の意を表明する。

第6回

【文法事項】 間接目的語とpiacere, non piacere, dispiacere, 形容詞の比較級と最上級。品質形容詞の位置。
【会話練習】 比較をする。同意と反対の表明をする。疑念を表す。

第7回

【文法事項】間接目的語代名詞とbastare ("mi basta..."/ "mi bastano"), interessare("mi interessa...") 不特定な形容詞と代名詞(
【会話練習】助言を与える。必要英を説く。外国での生活について語る。フォーマルでない電話をする。

第8回

【文法事項】
規則動詞と不規則動詞の単純未来 時間を表す副詞::ancora, ora, mai, sempre, prima, dopo, ieri, oggi, domani, subito, presto, frequentemente, spesso.
【会話練習】
未来を語る。自身の未来の計画を述べる。願望や意図を表現する。約束を表現する。予報を表す。

第9回

未来形で意見を表す動詞。"ho deciso che..." " credo che.." "penso che..." " ho paura che..." " spero che..." 量を表す副詞:poco, molto, tanto, più、meno, appena, abbastanza,troppo, quasi, piuttosto,【文法事項】未来形で意見を表す動詞。"ho deciso che..." " credo che.." "penso che..." " ho paura che..." " spero che..." 量を表す副詞:poco, molto, tanto, più、meno, appena, abbastanza,troppo, quasi, piuttosto, quanto,ecc. 推測を表す未来形の用法。
【会話練習】
未来形で推測を表す。意見や判断を表す。望みや恐れを表す。

第10回

規則動詞の条件法現在。不特定を表す形容詞及び代名詞:qualcuno, ,nessuno。nessuno ＋名詞(penna, libro, persona, voglia..)の用法。cominciare, finirenの他動詞及び自動詞としての用法。
【会話練習】
願望及び意図を表現する。丁寧に何かを頼む。条件法の用法。

第11回

代名動詞、助動詞の条件法現在、dare, fare,stare, andare, potere, sapere,bere,dire, venireの条件法。直接目的語代名詞と間接目的語代名詞。
【会話】推測をする。何かを丁寧に頼む。人物の体型を表現する。何かを一緒にするように提案する。ある人物の性格について話す。

第12回

【文法事項】
場所を表す副詞:là,qui, qua, giú, su, laggiù,lassù, davanti, dietro, sopra, sotto, dentro, fuori, altrove, ci)
直説法、命令法、不定詞を用いた感嘆文、che sorpresa !,等位接続詞 e.、及び否定の né("non ci sono andato né ci andrò")
【会話練習】
ある状況内での位置を述べる。ある街の中での空間や建物の位置を述べる。驚きを表現する。

第13回

直説法、条件法、接続詞(ma, mentre, quando)を用いて反対の表明をする。その他、invece di～、anzichéの用法。"penso questo, che...."＋essere 乃至avereの接続法,penso che...＋未来形, "Ho la【文法事項】 直説法、条件法、接続詞(ma, mentre, quando)を用いて反対の表明をする。その他、invece di～、anzichéの用法。"penso questo, che...."＋essere 乃至avereの接続法,
penso che...＋未来形, "Ho la sensazione che.."＋essere乃至avereの接続法, "avevo la certezza di..."＋不定詞, "desidera questo..."＋不定詞.
【会話練習】
自らの考えを表明する,ecc. 印象及び疑念を表現する。

第14回

未来形と条件法の用法。"pensare di..."avere intenzione di..."の用法, "che"と "cui"を用いた従属節。
【会話練習】
提案をする。申し出を受ける、拒む。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講師配布資料

参考文献: il Primo. Dizionario italiano-giapponese プリーモ伊和辞典 和伊付 白水社

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 前期・後期 共に開講期間中に数回のミニテストを予定しています。ミニテストの結果、出席状況(3分の2以上の出席必須)や学習意欲、課題提出状況を考慮し総合的に評価します。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050431|04|9S06050431[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（準中級） 表現 04		
担 当 教 員	朝比奈 佳尉		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: すでに「イタリア語（初級）」を履修した学生を対象とします。
この講座ではあまり細かい文法事項にはこだわらず、実際にイタリアに留学・旅行することを念頭に、「学んだことを実際に声に出して使う練習」に重点を置いて授業を進めていきます。

授業の到達目標: イタリア語でのコミュニケーション能力を高め、イタリアを訪れる際に、最低限の意思の疎通をはかれるようになることが目標です。

事前・事後学習の内容: 外国語の習得には、予習よりも復習が重要です。
ぜひ授業後に10分でも15分でも復習をしてほしいと思います。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
入門・初級のおさらい
第2回
初級のおさらい
第3回
友人を誘う表現を学びます
第4回
提案する・勧める表現を学びます
第5回
過去の出来事について話す表現を学びます①
第6回
過去の出来事について話す表現を学びます②
第7回
過去の出来事について印象やコメントを伝える表現を学びます①
第8回
過去の出来事について印象やコメントを伝える表現を学びます②
第9回
買い物をするときの表現を学びます①
第10回
買い物をするときの表現を学びます②
第11回
イタリア人と知り合うときの会話を練習します
第12回
イタリア人と出かけるときの会話を練習します①
第13回
イタリア人と出かけるときの会話を練習します②
第14回 前期のまとめ
前期の内容について、理解度を確認する試験を実施

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 必要に応じてPDFファイルあるいはプリントを配布します

参考文献:	「授業以外で自分で勉強したい！」という人のために、「練習問題集」「単語帳」として次の本をお勧めしておきます。 『もやもやを解消! イタリア語文法ドリル』、小久保真理江、三修社 https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384057836/ 『改訂版キクタンイタリア語【入門編】基本500語レベル』 https://book.alc.co.jp/book/b10132063.html
成績評価フリー入力サイン:	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	60	第14回目の授業時間中に定期試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。
レポート:	0	特になし。
平常点評価:	40	出席および授業への参加態度を評価します。
その他:	0	特になし。
備考・関連URL:	何か質問があるときは、いつでもkaiasahina.l@gmail.comまでご連絡ください。	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050434|02|9S06050434[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イタリア語（中級） 表現 02		
担 当 教 員	ビオンディ マルコ		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: Italiano in azione

授業概要: このイタリア語会話コースは、イタリア語の基礎知識を持つ学生を対象に設計されており、日常的な状況でのコミュニケーション能力を向上させたいと考えています。様々な実践的な活動を通じて、学生は自分の語彙を広げ、言語の流暢さと自信を向上させ、イタリアの文化や慣習への理解を深める機会を得られます。 このコースは、実際のテーマや状況に焦点を当て、学生に積極的に交流し、自然で自発的な方法で言語を使用するよう促します。授業には、ガイド付きの対話、ロールプレイ、実際の素材に基づくリスニング演習、日常生活からイタリアの文化的伝統に至るまでのさまざまなトピックについての議論が含まれます。 学生は、自分の意見を表現し、個人的な経験を共有し、共通の関心事についての会話に参加することで刺激されます。コースのアプローチは非常にインタラクティブで、協力的でサポート的な学習環境の中でコミュニケーションスキルを発展させることに特に重点を置いています。

授業の到達目標: ·日常的な状況でイタリア語で効果的にコミュニケーションする。
·より豊かで多様な語彙を使用する。
·慣用表現や一般的なフレーズを理解し使用する。
·発音とイントネーションを改善する。
·イタリア語の使用においてより自信を持つ。
·イタリア文化についての知識を深める。

事前・事後学習の内容: 本講義では、学生の皆さんに効果的な学習経験を提供するため、事前学習と事後学習を推奨しています。事前学習では、授業で取り上げる内容について予め目を通し、知らない単語の調査など、基本的な準備を行っていただくことが望ましいです。このためには、約15分程度の時間があれば十分です。また、授業後の事後学習では、授業中に学んだ内容を一度復習し、理解を深めることを目指しています。この事後学習には約30分の時間を要すると想定しています。事前学習と事後学習を通じて、より充実した学習が可能となり、授業への理解と参加が深まることを期待しています。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回

親称の命令形とその否定形。命令法における代名詞の位置。間接目的語代名詞を伴う動詞sevire(mi serve/ mi servono).
【会話】食べ物と食習慣について話す。意見を言う。状況を説明する。

第2回

敬称の2人称の命令形とその否定形（Lei 及びvoiを用いる場合）。命令形における代名詞の位置。
【会話】健康問題について話す。症状を述べる。助言と指示を与える。

第3回

補語代名詞の結合形。補語代名詞の結合形を伴う親称と敬称の命令文。命令文と直接目的語代名詞とともに用いるaltrimentiの用法。”Mangiali, altrimenti, vanno a male.buonoとbeneの比較級と最上級
【会話】運動について質問する。それについての自身の意見を表す。誰かを説得する。行為及び頼みごとをお願いする。

第4回

小詞″ci″と”ne″. 非人称動詞（sembrare, parere, accadere, succedere, bastare, bisognare, importare, toccare, dispiacere, ） 従属的な目的を表す部分を有する文、Mi sono ricordato/a di finire in tempo.../ Credo di non essere in grado di terminare il lavoro. 時を表す文。理由を表すsiccome, dato che,を用いた文。
【会話】否認の表明。自らについて及び自らの選択について話す。経験、自身の意見、他者との関係について話す。

第5回

近過去形における直接目的語代名詞。条件法現在。代名動詞：farcela, andarsene, avercela,, mettercela, starsene, sbrigarsela, cavarsela, prendersela. 形容詞belloの用法。
【会話】町の中や外における生活について話す。部屋の配置、ある区域における再構築工事について述べる。自身の能力について話す。

第6回

非人称のsi。現在進行形stare＋ジェルンディオ。代名動詞volerci: ci vuole/ ci vogliono。非人称動詞: bastare, essere permesso, essere vietato/proibito。動詞bisogna＋不定詞。形容詞の比較級、最上級。
【会話】イタリア料理の製品について話す。皆が何をしているのか話す（非人称）。ある料理がどのように準備されるのかを説明する。自身の好みや健康維持について話す。

第7回

再帰動詞の非人称形.。関係代名詞のquale.。近過去形における代名的小辞の”ne″(Si, ne ho presi/e...)。文の一部の代わりに用いる″ne″(″Non se ne intende.″″Me ne occupo io″)
【会話】買い物をする時に助言を求める、助言する。バカンスについての会話。ある地方の様々な特徴を話す。

第8回

規則的過去分詞及び不規則過去分詞の複合未来。先立未来。不規則な比較級と最上級。
【会話】ある社会で生ずる変化について話す。電話でインフォメーションを求める。職業の将来と求職について話す。学業及び仕事に関する会話。

第9回

規則動詞の条件法過去。間接話法。costare と 0bastareの近過去形。
【会話】都市生活における長所と短所について考える。会話の中で自身の意見を表明、主張する。

第10回

題名動詞、再帰動詞、及び助動詞を用いた場合の条件法過去, dare, fare, stare, andare, potere, sapere, bere, dire, venireの条件法過去。
【会話】習慣とテレヴィ番組について話す。イタリア人がどのように週末を過ごすかについて話す。スポーツについて語る。

第11回

”ne”を用いた代名動詞：averne abbastanza, poterne.../non poterne, dirne, starsene/restarsene。現在形及び過去形のいくつかの慣用的な動詞:mettersi a,, stare per/a, andare a, cominciare a, continure a, finire di.。
【会話】友情について話す。愛情と友情についての文の講読。

第12回

近過去形における自動詞・他動詞のcominciareとfinireの用法。使役形（far vedere, far sentire, far fare, far portare.
【会話】パーティーについて語る。何かを提案する。何かを提案する。何かをしたり、させたりする必要性を表現する。

第13回

従属節を導く”quale″。.譲歩に用いるchiunque, qualunque, qualsiasi。 副詞のdovunque, comunque。
【会話】ある街、ある地区、ある領域における特徴について話す。

第14回

cheによって導かれる従属節、che ＋直説法, che ＋congiuntivo(sia/ siano,abbia/abbiano), che ＋condizionale。関係代名詞のche, cui , chi, il quale.
【会話】経験、自身の意見、他者との関係を話す。状況を述べる。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講師配布資料

参考文献: il Primo. Dizionario italiano-giapponese プリーモ伊和辞典　和伊付　白水社

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 前期・後期 共に開講期間中に数回のミニテストを予定しています。ミニテストの結果、出席状況(3分の2以上の出席必須)や学習意欲、課題提出状況を考慮し総合的に評価します。

備考・関連URL:

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050434|04|9S06050434[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	イタリア語（中級）　表現　04		
担 当 教 員	朝比奈　佳尉		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	イタリア語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　すでにイタリア語準中級クラスを履修している方を対象とします。入門・初級・準中級クラスで扱ってきた内容をさらに発展させ、実際に使うことができる、実践的なコミュニケーション能力の向上を主眼とします。

授業の到達目標：　実際にイタリアを訪れる際、幅広い場面で現地の人々とイタリア語でコミュニケーションを取れるようになることが目標です。

事前・事後学習の内容：　外国語を学ぶ上で重要なのは、学んだことを何度も反復し、定着させることです。
受講生の皆さんには、授業の予習ではなく、10分でも20分でもいいですから、授業で学んだことを復習をしてもらえたらと思います。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
初級・準中級のおさらい
第2回
準中級のおさらい
第3回
過去の経験について話す①（近過去と半過去）
第4回
過去の経験について話す②（近過去と半過去）
第5回
イタリアと日本のルールの違いについて話す（非人称表現）
第6回
イタリアと日本の風習について話す（非人称表現）
第7回
プレゼントを選ぶ（間接目的語代名詞）
第8回
お土産を選ぶ（目的語代名詞の結合）
第9回
相談に乗る（条件法）
第10回
アドバイスをする（条件法）
第11回
出かける予定を立てる
第12回
食事に出かける
第13回
遊びに出かける
第14回
今学期扱った内容について、理解度を確認する試験を実施

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書：　必要に応じてPDFファイル・プリントを配布します

参考文献:	外国語を身につけるには、どうしても反復練習が必要になります。 「授業以外で自分で勉強したい！」という人のために、「練習問題集」「単語帳」として次の本をお勧めしておきます。 『もやもやを解消! イタリア語文法ドリル』、小久保真理江、三修社 https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384057836/ 『改訂版キクタンイタリア語【入門編】基本500語レベル』 https://book.alc.co.jp/book/b10132063.html
成績評価フリー入力サイン:	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	60	第14回目の授業時間中に定期試験を実施します。授業の内容全般についての理解度を評価します。
レポート:	0	特になし。
平常点評価:	40	出席および授業への参加態度を評価します。
その他:	0	なし

備考・関連URL: 何か質問があるときは、いつでもkaiasahina.l@gmail.comまでご連絡ください。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050501|01|9S06050501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（入門）　01		
担 当 教 員	姜　多映@家永　祐子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月３時限@02:水２時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 朝鮮語（韓国語）初学者を対象としたクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「入門」13は週2回の授業を同一教員が担当します。
　朝鮮語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語母語話者や日本語学習者にとって取り組みやすい言語です。ただ、そうは言っても、手を抜かずに努力をしなければならないことは、他の言語の場合と同じです。
　春学期の入門では、(1)文字・発音の習得に力点をおきながら、(2)簡単な日常会話を通して、基礎的な文法事項を学びます。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　本授業は、1年後に辞書を引きながら簡単な新聞記事などを読解し、日常会話が行える段階へ到達するための基礎を築くことを目的とします。その前段階として、自己紹介および日常的に使用できる基本表現を理解し、運用できる力の習得を到達目標とします。

事前・事後学習の内容:　事前学習:各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習:各課終了後、翌週までに担当の先生からの課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション／第1課:母音①／定型文表現①
2. 第2課:子音①／有声音化／定型文表現②
3. 第3課:子音②／母音②／激音・濃音
4. 第4課:7つの終声（パッチム）／連音化／第5課:かなのハングル表記
5. 第5課:発音変化（鼻音化・激音化・濃音化・流音化・h弱化・口蓋音化）
6. 中間試験および解説
————————以上、ハングル文字および発音の学習————————

7. 第6課:指定詞「AはBです／AはBですか？」／助詞「は」
8. 第7課:体言の否定形／存在詞「います・あります」／助詞「が」「に（場所）」
9. 第8課:用言の活用①（합니다体）／助詞「で（場所）」／「～が好きです」
10. 第9課:固有数詞と助数詞（年齢・時刻・個数・人数など）／「～をください」／助詞「を」
11. 第10課:漢数詞と助数詞（日付・金額など）／時刻（～時～分）／「～から～まで」
12. 第11課:用言の活用②（해요体）／「どれくらいかかりますか」／助詞「から～まで（場所）」「で（手段）」
13. 総復習
14. 期末試験（理解度の確認）および解説

※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合があります。

言語区分:　0　　日本語　　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　試験:第13回目または14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。期末テストのほかに中間テストを行なう場合もあります。
平常点評価:毎回の授業の理解度チェックのために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音および会話のやりとりを通じて発話力を確認します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。
その他:成績評価は、小テストを含む試験の結果だけでなく、授業中の態度、欠席・遅刻などを含めて総合的に判

断・評価します。週2回のうち片方の授業にしか出席していない、片方の試験しか受講していない場合は評価の対象となりません。

備考・関連URL: 初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050501|02|9S06050501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（入門）　02		
担 当 教 員	金　牡蘭@文　珍瑛		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月2時限@02:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　※ 朝鮮語（韓国語）初学者を対象としたクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「入門」13は週2回の授業を同一教員が担当します。
　朝鮮語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語母語話者や日本語学習者にとって取り組みやすい言語です。ただ、そうは言っても、手を抜かずに努力をしなければならないことは、他の言語の場合と同じです。
　春学期の入門では、(1)文字・発音の習得に力点をおきながら、(2)簡単な日常会話を通して、基礎的な文法事項を学びます。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標：　本授業は、1年後に辞書を引きながら簡単な新聞記事などを読解し、日常会話が行える段階へ到達するための基礎を築くことを目的とします。その前段階として、自己紹介および日常的に使用できる基本表現を理解し、運用できる力の習得を到達目標とします。

事前・事後学習の内容：　事前学習：各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習：各課終了後、翌週までに担当の先生からの課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション／第1課：母音①／定型文表現①
2. 第2課：子音①／有声音化／定型文表現②
3. 第3課：子音②／母音②／激音・濃音
4. 第4課：7つの終声（パッチム）／連音化／第5課：かなのハングル表記
5. 第5課：発音変化（鼻音化・激音化・濃音化・流音化・h弱化・口蓋音化）
6. 中間試験および解説
――――――――――以上、ハングル文字および発音の学習――――――――――

7. 第6課：指定詞「AはBです／AはBですか？」／助詞「は」
8. 第7課：体言の否定形／存在詞「います・あります」／助詞「が」「に（場所）」
9. 第8課：用言の活用①（합니다体）／助詞「で（場所）」／「～が好きです」
10. 第9課：固有数詞と助数詞（年齢・時刻・個数・人数など）／「～をください」／助詞「を」
11. 第10課：漢数詞と助数詞（日付・金額など）／時刻（～時～分）／「～から～まで」
12. 第11課：用言の活用②（해요体）／「どれくらいかかりますか」／助詞「から～まで（場所）」「で（手段）」
13. 総復習
14. 期末試験（理解度の確認）および解説

※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合があります。

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書：　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献：　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　試験：第13回目または14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。期末テストのほかに中間テストを行なう場合もあります。
平常点評価：毎回の授業の理解度チェックのために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音および会話のやりとりを通じて発話力を確認します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。
その他：成績評価は、小テストを含む試験の結果だけでなく、授業中の態度、欠席・遅刻などを含めて総合的に判

断・評価します。週2回のうち片方の授業にしか出席していない、片方の試験しか受講していない場合は評価の対象となりません。

備考・関連URL: 初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050501|03|9S06050501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（入門）　03		
担 当 教 員	姜　多映@徐　旻廷		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月４時限@02:木２時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 朝鮮語（韓国語）初学者を対象としたクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「入門」13は週2回の授業を同一教員が担当します。
　朝鮮語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語母語話者や日本語学習者にとって取り組みやすい言語です。ただ、そうは言っても、手を抜かずに努力をしなければならないことは、他の言語の場合と同じです。
　春学期の入門では、(1)文字・発音の習得に力点をおきながら、(2)簡単な日常会話を通して、基礎的な文法事項を学びます。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　本授業は、1年後に辞書を引きながら簡単な新聞記事などを読解し、日常会話が行える段階へ到達するための基礎を築くことを目的とします。その前段階として、自己紹介および日常的に使用できる基本表現を理解し、運用できる力の習得を到達目標とします。

事前・事後学習の内容:　事前学習:各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習:各課終了後、翌週までに担当の先生からの課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション／第1課:母音①／定型文表現①
2. 第2課:子音①／有声音化／定型文表現②
3. 第3課:子音②／母音②／激音・濃音
4. 第4課:7つの終声（パッチム）／連音化／第5課:かなのハングル表記
5. 第5課:発音変化（鼻音化・激音化・濃音化・流音化・h弱化・口蓋音化）
6. 中間試験および解説
————————以上、ハングル文字および発音の学習————————

7. 第6課:指定詞「AはBです／AはBですか？」／助詞「は」
8. 第7課:体言の否定形／存在詞「います・あります」／助詞「が」「に（場所）」
9. 第8課:用言の活用①（합니다体）／助詞「で（場所）」／「～が好きです」
10. 第9課:固有数詞と助数詞（年齢・時刻・個数・人数など）／「～をください」／助詞「を」
11. 第10課:漢数詞と助数詞（日付・金額など）／時刻（～時～分）／「～から～まで」
12. 第11課:用言の活用②（해요体）／「どれくらいかかりますか」／助詞「から～まで（場所）」「で（手段）」
13. 総復習
14. 期末試験（理解度の確認）および解説

※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合があります。

言語区分:　0　　日本語　　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　試験:第13回目または14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。期末テストのほかに中間テストを行なう場合もあります。
平常点評価:毎回の授業の理解度チェックのために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音および会話のやりとりを通じて発話力を確認します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。
その他:成績評価は、小テストを含む試験の結果だけでなく、授業中の態度、欠席・遅刻などを含めて総合的に判

断・評価します。週2回のうち片方の授業にしか出席していない、片方の試験しか受講していない場合は評価の対象となりません。

備考・関連URL: 初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050501|04|9S06050501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（入門）　04		
担 当 教 員	尹　惠貞@貝森　時子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月5時限@02:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 朝鮮語（韓国語）初学者を対象としたクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「入門」13は週2回の授業を同一教員が担当します。
　朝鮮語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語母語話者や日本語学習者にとって取り組みやすい言語です。ただ、そうは言っても、手を抜かずに努力をしなければならないことは、他の言語の場合と同じです。
　春学期の入門では、(1)文字・発音の習得に力点をおきながら、(2)簡単な日常会話を通して、基礎的な文法事項を学びます。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　本授業は、1年後に辞書を引きながら簡単な新聞記事などを読解し、日常会話が行える段階へ到達するための基礎を築くことを目的とします。その前段階として、自己紹介および日常的に使用できる基本表現を理解し、運用できる力の習得を到達目標とします。

事前・事後学習の内容:　事前学習:各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習:各課終了後、翌週までに担当の先生からの課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション／第1課:母音①／定型文表現①
2. 第2課:子音①／有声音化／定型文表現②
3. 第3課:子音②／母音②／激音・濃音
4. 第4課:7つの終声（パッチム）／連音化／第5課:かなのハングル表記
5. 第5課:発音変化（鼻音化・激音化・濃音化・流音化・h弱化・口蓋音化）
6. 中間試験および解説
————————以上、ハングル文字および発音の学習————————

7. 第6課:指定詞「AはBです／AはBですか？」／助詞「は」
8. 第7課:体言の否定形／存在詞「います・あります」／助詞「が」「に（場所）」
9. 第8課:用言の活用①（합니다体）／助詞「で（場所）」／「～が好きです」
10. 第9課:固有数詞と助数詞（年齢・時刻・個数・人数など）／「～をください」／助詞「を」
11. 第10課:漢数詞と助数詞（日付・金額など）／時刻（～時～分）／「～から～まで」
12. 第11課:用言の活用②（해요体）／「どれくらいかかりますか」／助詞「から～まで（場所）」「で（手段）」
13. 総復習
14. 期末試験（理解度の確認）および解説

※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合があります。

言語区分:　0　　日本語　　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　試験:第13回目または14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。期末テストのほかに中間テストを行なう場合もあります。
平常点評価:毎回の授業の理解度チェックのために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音および会話のやりとりを通じて発話力を確認します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。
その他:成績評価は、小テストを含む試験の結果だけでなく、授業中の態度、欠席・遅刻などを含めて総合的に判

断・評価します。週2回のうち片方の授業にしか出席していない、片方の試験しか受講していない場合は評価の対象となりません。

備考・関連URL: 初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050501|05|9S06050501[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（入門） 05		
担 当 教 員	尹 惠貞@貝森 時子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火2時限@02:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ※ 朝鮮語（韓国語）初学者を対象としたクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「入門」13は週2回の授業を同一教員が担当します。
朝鮮語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語母語話者や日本語学習者にとって取り組みやすい言語です。ただ、そうは言っても、手を抜かずに努力をしなければならないことは、他の言語の場合と同じです。
春学期の入門では、(1)文字・発音の習得に力点をおきながら、(2)簡単な日常会話を通して、基礎的な文法事項を学びます。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標: 本授業は、1年後に辞書を引きながら簡単な新聞記事などを読解し、日常会話が行える段階へ到達するための基礎を築くことを目的とします。その前段階として、自己紹介および日常的に使用できる基本表現を理解し、運用できる力の習得を到達目標とします。

事前・事後学習の内容: 事前学習：各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習：各課終了後、翌週までに担当の先生からの課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ＜14週/28回＞
1. オリエンテーション／第1課：母音①／定型文表現①
2. 第2課：子音①／有声音化／定型文表現②
3. 第3課：子音②／母音②／激音・濃音
4. 第4課：7つの終声（パッチム）／連音化／第5課：かなのハングル表記
5. 第5課：発音変化（鼻音化・激音化・濃音化・流音化・h弱化・口蓋音化）
6. 中間試験および解説
————————以上、ハングル文字および発音の学習————————

7. 第6課：指定詞「AはBです／AはBですか？」／助詞「は」
8. 第7課：体言の否定形／存在詞「います・あります」／助詞「が」「に（場所）」
9. 第8課：用言の活用①（합니다体）／助詞「で（場所）」／「～が好きです」
10. 第9課：固有数詞と助数詞（年齢・時刻・個数・人数など）／「～をください」／助詞「を」
11. 第10課：漢数詞と助数詞（日付・金額など）／時刻（～時～分）／「～から～まで」
12. 第11課：用言の活用②（해요体）／「どれくらいかかりますか」／助詞「から～まで（場所）」「で（手段）」
13. 総復習
14. 期末試験（理解度の確認）および解説

※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合があります。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「朝鮮語 入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献: 授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 試験：第13回目または14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。期末テストのほかに中間テストを行なう場合もあります。
平常点評価：毎回の授業の理解度チェックのために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音および会話のやりとりを通じて発話力を確認します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。
その他：成績評価は、小テストを含む試験の結果だけでなく、授業中の態度、欠席・遅刻などを含めて総合的に判

断・評価します。週2回のうち片方の授業にしか出席していない、片方の試験しか受講していない場合は評価の対象となりません。

備考・関連URL: 初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050501|06|9S06050501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（入門）　06		
担 当 教 員	尹　惠貞@伊藤　知子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火3時限@02:木5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 朝鮮語（韓国語）初学者を対象としたクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「入門」13は週2回の授業を同一教員が担当します。
　朝鮮語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語母語話者や日本語学習者にとって取り組みやすい言語です。ただ、そうは言っても、手を抜かずに努力をしなければならないことは、他の言語の場合と同じです。
　春学期の入門では、(1)文字・発音の習得に力点をおきながら、(2)簡単な日常会話を通して、基礎的な文法事項を学びます。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　本授業は、1年後に辞書を引きながら簡単な新聞記事などを読解し、日常会話が行える段階へ到達するための基礎を築くことを目的とします。その前段階として、自己紹介および日常的に使用できる基本表現を理解し、運用できる力の習得を到達目標とします。

事前・事後学習の内容:　事前学習:各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習:各課終了後、翌週までに担当の先生からの課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション／第1課:母音①／定型文表現①
2. 第2課:子音①／有声音化／定型文表現②
3. 第3課:子音②／母音②／激音・濃音
4. 第4課:7つの終声（パッチム）／連音化／第5課:かなのハングル表記
5. 第5課:発音変化（鼻音化・激音化・濃音化・流音化・h弱化・口蓋音化）
6. 中間試験および解説
————————以上、ハングル文字および発音の学習————————

7. 第6課:指定詞「AはBです／AはBですか？」／助詞「は」
8. 第7課:体言の否定形／存在詞「います・あります」／助詞「が」「に（場所）」
9. 第8課:用言の活用①（합니다体）／助詞「で（場所）」／「～が好きです」
10. 第9課:固有数詞と助数詞（年齢・時刻・個数・人数など）／「～をください」／助詞「を」
11. 第10課:漢数詞と助数詞（日付・金額など）／時刻（～時～分）／「～から～まで」
12. 第11課:用言の活用②（해요体）／「どれくらいかかりますか」／助詞「から～まで（場所）」「で（手段）」
13. 総復習
14. 期末試験（理解度の確認）および解説

※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合があります。

言語区分:　0　　日本語　　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　試験:第13回目または14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。期末テストのほかに中間テストを行なう場合もあります。
平常点評価:毎回の授業の理解度チェックのために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音および会話のやりとりを通じて発話力を確認します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。
その他:成績評価は、小テストを含む試験の結果だけでなく、授業中の態度、欠席・遅刻などを含めて総合的に判

断・評価します。週2回のうち片方の授業にしか出席していない、片方の試験しか受講していない場合は評価の対象となりません。

備考・関連URL: 初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050501|07|9S06050501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（入門）　07		
担 当 教 員	全　東園@平　香織		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火４時限@02:金２時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 朝鮮語（韓国語）初学者を対象としたクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「入門」13は週2回の授業を同一教員が担当します。
　朝鮮語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語母語話者や日本語学習者にとって取り組みやすい言語です。ただ、そうは言っても、手を抜かずに努力をしなければならないことは、他の言語の場合と同じです。
　春学期の入門では、(1)文字・発音の習得に力点をおきながら、(2)簡単な日常会話を通して、基礎的な文法事項を学びます。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　本授業は、1年後に辞書を引きながら簡単な新聞記事などを読解し、日常会話が行える段階へ到達するための基礎を築くことを目的とします。その前段階として、自己紹介および日常的に使用できる基本表現を理解し、運用できる力の習得を到達目標とします。

事前・事後学習の内容:　事前学習:各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習:各課終了後、翌週までに担当の先生からの課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション／第1課:母音①／定型文表現①
2. 第2課:子音①／有声音化／定型文表現②
3. 第3課:子音②／母音②／激音・濃音
4. 第4課:7つの終声（パッチム）／連音化／第5課:かなのハングル表記
5. 第5課:発音変化（鼻音化・激音化・濃音化・流音化・h弱化・口蓋音化）
6. 中間試験および解説
————————以上、ハングル文字および発音の学習————————

7. 第6課:指定詞「AはBです／AはBですか？」／助詞「は」
8. 第7課:体言の否定形／存在詞「います・あります」／助詞「が」「に（場所）」
9. 第8課:用言の活用①（합니다体）／助詞「で（場所）」／「～が好きです」
10. 第9課:固有数詞と助数詞（年齢・時刻・個数・人数など）／「～をください」／助詞「を」
11. 第10課:漢数詞と助数詞（日付・金額など）／時刻（～時～分）／「～から～まで」
12. 第11課:用言の活用②（해요体）／「どれくらいかかりますか」／助詞「から～まで（場所）」「で（手段）」
13. 総復習
14. 期末試験（理解度の確認）および解説

※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合があります。

言語区分:　0　　日本語　　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　試験:第13回目または14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。期末テストのほかに中間テストを行なう場合もあります。
平常点評価:毎回の授業の理解度チェックのために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音および会話のやりとりを通じて発話力を確認します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。
その他:成績評価は、小テストを含む試験の結果だけでなく、授業中の態度、欠席・遅刻などを含めて総合的に判

断・評価します。週2回のうち片方の授業にしか出席していない、片方の試験しか受講していない場合は評価の対象となりません。

備考・関連URL: 初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050501|08|9S06050501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（入門）　08		
担 当 教 員	阪堂　千津子@平　香織		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水5時限@02:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 朝鮮語（韓国語）初学者を対象としたクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「入門」13は週2回の授業を同一教員が担当します。
　朝鮮語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語母語話者や日本語学習者にとって取り組みやすい言語です。ただ、そうは言っても、手を抜かずに努力をしなければならないことは、他の言語の場合と同じです。
　春学期の入門では、(1)文字・発音の習得に力点をおきながら、(2)簡単な日常会話を通して、基礎的な文法事項を学びます。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　本授業は、1年後に辞書を引きながら簡単な新聞記事などを読解し、日常会話が行える段階へ到達するための基礎を築くことを目的とします。その前段階として、自己紹介および日常的に使用できる基本表現を理解し、運用できる力の習得を到達目標とします。

事前・事後学習の内容:　事前学習:各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習:各課終了後、翌週までに担当の先生からの課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション／第1課:母音①／定型文表現①
2. 第2課:子音①／有声音化／定型文表現②
3. 第3課:子音②／母音②／激音・濃音
4. 第4課:7つの終声（パッチム）／連音化／第5課:かなのハングル表記
5. 第5課:発音変化（鼻音化・激音化・濃音化・流音化・h弱化・口蓋音化）
6. 中間試験および解説
————————以上、ハングル文字および発音の学習————————

7. 第6課:指定詞「AはBです／AはBですか？」／助詞「は」
8. 第7課:体言の否定形／存在詞「います・あります」／助詞「が」「に（場所）」
9. 第8課:用言の活用①（합니다体）／助詞「で（場所）」／「～が好きです」
10. 第9課:固有数詞と助数詞（年齢・時刻・個数・人数など）／「～をください」／助詞「を」
11. 第10課:漢数詞と助数詞（日付・金額など）／時刻（～時～分）／「～から～まで」
12. 第11課:用言の活用②（해요体）／「どれくらいかかりますか」／助詞「から～まで（場所）」「で（手段）」
13. 総復習
14. 期末試験（理解度の確認）および解説

※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合があります。

言語区分:　0　　日本語　　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　試験:第13回目または14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。期末テストのほかに中間テストを行なう場合もあります。
平常点評価:毎回の授業の理解度チェックのために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音および会話のやりとりを通じて発話力を確認します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。
その他:成績評価は、小テストを含む試験の結果だけでなく、授業中の態度、欠席・遅刻などを含めて総合的に判

断・評価します。週2回のうち片方の授業にしか出席していない、片方の試験しか受講していない場合は評価の対象となりません。

備考・関連URL: 初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050501|09|9S06050501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（入門）　09		
担 当 教 員	家永　祐子@尹　永洙		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水５時限@02:金４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 朝鮮語（韓国語）初学者を対象としたクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「入門」13は週2回の授業を同一教員が担当します。
　朝鮮語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語母語話者や日本語学習者にとって取り組みやすい言語です。ただ、そうは言っても、手を抜かずに努力をしなければならないことは、他の言語の場合と同じです。
　春学期の入門では、(1)文字・発音の習得に力点をおきながら、(2)簡単な日常会話を通して、基礎的な文法事項を学びます。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　本授業は、1年後に辞書を引きながら簡単な新聞記事などを読解し、日常会話が行える段階へ到達するための基礎を築くことを目的とします。その前段階として、自己紹介および日常的に使用できる基本表現を理解し、運用できる力の習得を到達目標とします。

事前・事後学習の内容:　事前学習:各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習:各課終了後、翌週までに担当の先生からの課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション／第1課:母音①／定型文表現①
2. 第2課:子音①／有声音化／定型文表現②
3. 第3課:子音②／母音②／激音・濃音
4. 第4課:7つの終声（パッチム）／連音化／第5課:かなのハングル表記
5. 第5課:発音変化（鼻音化・激音化・濃音化・流音化・h弱化・口蓋音化）
6. 中間試験および解説
————————以上、ハングル文字および発音の学習————————

7. 第6課:指定詞「AはBです／AはBですか？」／助詞「は」
8. 第7課:体言の否定形／存在詞「います・あります」／助詞「が」「に（場所）」
9. 第8課:用言の活用①（합니다体）／助詞「で（場所）」／「～が好きです」
10. 第9課:固有数詞と助数詞（年齢・時刻・個数・人数など）／「～をください」／助詞「を」
11. 第10課:漢数詞と助数詞（日付・金額など）／時刻（～時～分）／「～から～まで」
12. 第11課:用言の活用②（해요体）／「どれくらいかかりますか」／助詞「から～まで（場所）」「で（手段）」
13. 総復習
14. 期末試験（理解度の確認）および解説

※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合があります。

言語区分:　0　　日本語　　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　試験:第13回目または14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。期末テストのほかに中間テストを行なう場合もあります。
平常点評価:毎回の授業の理解度チェックのために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音および会話のやりとりを通じて発話力を確認します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。
その他:成績評価は、小テストを含む試験の結果だけでなく、授業中の態度、欠席・遅刻などを含めて総合的に判

断・評価します。週2回のうち片方の授業にしか出席していない、片方の試験しか受講していない場合は評価の対象となりません。

備考・関連URL: 初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050501|10|9S06050501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（入門）　10		
担 当 教 員	神谷　丹路@尹　永洙		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水４時限@02:金５時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 朝鮮語（韓国語）初学者を対象としたクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「入門」13は週2回の授業を同一教員が担当します。
　朝鮮語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語母語話者や日本語学習者にとって取り組みやすい言語です。ただ、そうは言っても、手を抜かずに努力をしなければならないことは、他の言語の場合と同じです。
　春学期の入門では、(1)文字・発音の習得に力点をおきながら、(2)簡単な日常会話を通して、基礎的な文法事項を学びます。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　本授業は、1年後に辞書を引きながら簡単な新聞記事などを読解し、日常会話が行える段階へ到達するための基礎を築くことを目的とします。その前段階として、自己紹介および日常的に使用できる基本表現を理解し、運用できる力の習得を到達目標とします。

事前・事後学習の内容:　事前学習:各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習:各課終了後、翌週までに担当の先生からの課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション／第1課:母音①／定型文表現①
2. 第2課:子音①／有声音化／定型文表現②
3. 第3課:子音②／母音②／激音・濃音
4. 第4課:7つの終声（パッチム）／連音化／第5課:かなのハングル表記
5. 第5課:発音変化（鼻音化・激音化・濃音化・流音化・h弱化・口蓋音化）
6. 中間試験および解説
――――――――――以上、ハングル文字および発音の学習――――――――――

7. 第6課:指定詞「AはBです／AはBですか？」／助詞「は」
8. 第7課:体言の否定形／存在詞「います・あります」／助詞「が」「に（場所）」
9. 第8課:用言の活用①（합니다体）／助詞「で（場所）」／「～が好きです」
10. 第9課:固有数詞と助数詞（年齢・時刻・個数・人数など）／「～をください」／助詞「を」
11. 第10課:漢数詞と助数詞（日付・金額など）／時刻（～時～分）／「～から～まで」
12. 第11課:用言の活用②（해요体）／「どれくらいかかりますか」／助詞「から～まで（場所）」「で（手段）」
13. 総復習
14. 期末試験（理解度の確認）および解説

※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合があります。

言語区分:　0　　日本語　　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　試験:第13回目または14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。期末テストのほかに中間テストを行なう場合もあります。
平常点評価:毎回の授業の理解度チェックのために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音および会話のやりとりを通じて発話力を確認します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。
その他:成績評価は、小テストを含む試験の結果だけでなく、授業中の態度、欠席・遅刻などを含めて総合的に判

断・評価します。週2回のうち片方の授業にしか出席していない、片方の試験しか受講していない場合は評価の対象となりません。

備考・関連URL: 初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050501|11|9S06050501[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（入門） 11		
担 当 教 員	尹 惠貞@全 東園		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火4時限@02:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ※ 朝鮮語（韓国語）初学者を対象としたクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「入門」13は週2回の授業を同一教員が担当します。
朝鮮語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語母語話者や日本語学習者にとって取り組みやすい言語です。ただ、そうは言っても、手を抜かずに努力をしなければならないことは、他の言語の場合と同じです。
春学期の入門では、(1)文字・発音の習得に力点をおきながら、(2)簡単な日常会話を通して、基礎的な文法事項を学びます。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標: 本授業は、1年後に辞書を引きながら簡単な新聞記事などを読解し、日常会話が行える段階へ到達するための基礎を築くことを目的とします。その前段階として、自己紹介および日常的に使用できる基本表現を理解し、運用できる力の習得を到達目標とします。

事前・事後学習の内容: 事前学習：各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習：各課終了後、翌週までに担当の先生からの課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ＜14週/28回＞
1. オリエンテーション／第1課：母音①／定型文表現①
2. 第2課：子音①／有声音化／定型文表現②
3. 第3課：子音②／母音②／激音・濃音
4. 第4課：7つの終声（パッチム）／連音化／第5課：かなのハングル表記
5. 第5課：発音変化（鼻音化・激音化・濃音化・流音化・h弱化・口蓋音化）
6. 中間試験および解説
————————以上、ハングル文字および発音の学習————————

7. 第6課：指定詞「AはBです／AはBですか？」／助詞「は」
8. 第7課：体言の否定形／存在詞「います・あります」／助詞「が」「に（場所）」
9. 第8課：用言の活用①（합니다体）／助詞「で（場所）」／「～が好きです」
10. 第9課：固有数詞と助数詞（年齢・時刻・個数・人数など）／「～をください」／助詞「を」
11. 第10課：漢数詞と助数詞（日付・金額など）／時刻（～時～分）／「～から～まで」
12. 第11課：用言の活用②（해요体）／「どれくらいかかりますか」／助詞「から～まで（場所）」「で（手段）」
13. 総復習
14. 期末試験（理解度の確認）および解説

※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合があります。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「朝鮮語 入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献: 授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 試験：第13回目または14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。期末テストのほかに中間テストを行なう場合もあります。
平常点評価：毎回の授業の理解度チェックのために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音および会話のやりとりを通じて発話力を確認します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。
その他：成績評価は、小テストを含む試験の結果だけでなく、授業中の態度、欠席・遅刻などを含めて総合的に判

断・評価します。週2回のうち片方の授業にしか出席していない、片方の試験しか受講していない場合は評価の対象となりません。

備考・関連URL: 初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050501|12|9S06050501[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（入門） 12		
担 当 教 員	貝森 時子@中島 仁		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月2時限@02:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

※ 朝鮮語（韓国語）初学者を対象としたクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「入門」13は週2回の授業を同一教員が担当します。
朝鮮語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語母語話者や日本語学習者にとって取り組みやすい言語です。ただ、そうは言っても、手を抜かずに努力をしなければならないことは、他の言語の場合と同じです。
春学期の入門では、(1)文字・発音の習得に力点をおきながら、(2)簡単な日常会話を通して、基礎的な文法事項を学びます。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標：

本授業は、1年後に辞書を引きながら簡単な新聞記事などを読解し、日常会話が行える段階へ到達するための基礎を築くことを目的とします。その前段階として、自己紹介および日常的に使用できる基本表現を理解し、運用できる力の習得を到達目標とします。

事前・事後学習の内容：

事前学習：各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習：各課終了後、翌週までに担当の先生からの課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン：

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

＜14週/28回＞

1. オリエンテーション／第1課：母音①／定型文表現①
2. 第2課：子音①／有声音化／定型文表現②
3. 第3課：子音②／母音②／激音・濃音
4. 第4課：7つの終声（パッチム）／連音化／第5課：かなのハングル表記
5. 第5課：発音変化（鼻音化・激音化・濃音化・流音化・h弱化・口蓋音化）
6. 中間試験および解説

————————以上、ハングル文字および発音の学習————————

7. 第6課：指定詞「AはBです／AはBですか？」／助詞「は」
8. 第7課：体言の否定形／存在詞「います・あります」／助詞「が」「に（場所）」
9. 第8課：用言の活用①（합니다体）／助詞「で（場所）」／「～が好きです」
10. 第9課：固有数詞と助数詞（年齢・時刻・個数・人数など）／「～をください」／助詞「を」
11. 第10課：漢数詞と助数詞（日付・金額など）／時刻（～時～分）／「～から～まで」
12. 第11課：用言の活用②（해요体）／「どれくらいかかりますか」／助詞「から～まで（場所）」「で（手段）」
13. 総復習

14. 期末試験（理解度の確認）および解説

※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合があります。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献: 授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 試験：第13回目または14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。期末テストのほかに中間テストを行なう場合もあります。
平常点評価：毎回の授業の理解度チェックのために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音および会話のやりとりを通じて発話力を確認します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。
その他：成績評価は、小テストを含む試験の結果だけでなく、授業中の態度、欠席・遅刻などを含めて総合的に判断・評価します。週2回のうち片方の授業にしか出席していない、片方の試験しか受講していない場合は評価の対象となりません。

備考・関連URL: 初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050501|13|9S06050501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（入門）　13		
担 当 教 員	崔　チョンア		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火3時限@02:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 朝鮮語（韓国語）初学者を対象としたクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「入門」13は週2回の授業を同一教員が担当します。
　朝鮮語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語母語話者や日本語学習者にとって取り組みやすい言語です。ただ、そうは言っても、手を抜かずに努力をしなければならないことは、他の言語の場合と同じです。
　春学期の入門では、(1)文字・発音の習得に力点をおきながら、(2)簡単な日常会話を通して、基礎的な文法事項を学びます。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　本授業は、1年後に辞書を引きながら簡単な新聞記事などを読解し、日常会話が行える段階へ到達するための基礎を築くことを目的とします。その前段階として、自己紹介および日常的に使用できる基本表現を理解し、運用できる力の習得を到達目標とします。

事前・事後学習の内容:　事前学習:各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習:各課終了後、翌週までに担当の先生からの課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション／第1課:母音①／定型文表現①
2. 第2課:子音①／有声音化／定型文表現②
3. 第3課:子音②／母音②／激音・濃音
4. 第4課:7つの終声（パッチム）／連音化／第5課:かなのハングル表記
5. 第5課:発音変化（鼻音化・激音化・濃音化・流音化・h弱化・口蓋音化）
6. 中間試験および解説
――――――――――以上、ハングル文字および発音の学習――――――――――

7. 第6課:指定詞「AはBです／AはBですか？」／助詞「は」
8. 第7課:体言の否定形／存在詞「います・あります」／助詞「が」「に（場所）」
9. 第8課:用言の活用①（합니다体）／助詞「で（場所）」／「～が好きです」
10. 第9課:固有数詞と助数詞（年齢・時刻・個数・人数など）／「～をください」／助詞「を」
11. 第10課:漢数詞と助数詞（日付・金額など）／時刻（～時～分）／「～から～まで」
12. 第11課:用言の活用②（해요体）／「どれくらいかかりますか」／助詞「から～まで（場所）」「で（手段）」
13. 総復習
14. 期末試験（理解度の確認）および解説

※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合があります。

言語区分:　0　　日本語　　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　試験:第13回目または14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。期末テストのほかに中間テストを行なう場合もあります。
平常点評価:毎回の授業の理解度チェックのために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音および会話のやりとりを通じて発話力を確認します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。
その他:成績評価は、小テストを含む試験の結果だけでなく、授業中の態度、欠席・遅刻などを含めて総合的に判

断・評価します。週2回のうち片方の授業にしか出席していない、片方の試験しか受講していない場合は評価の対象となりません。

備考・関連URL: 初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050501|14|9S06050501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（入門）　14		
担 当 教 員	黒澤　朋子@平　香織		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水2時限@02:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 朝鮮語（韓国語）初学者を対象としたクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「入門」13は週2回の授業を同一教員が担当します。
　朝鮮語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語母語話者や日本語学習者にとって取り組みやすい言語です。ただ、そうは言っても、手を抜かずに努力をしなければならないことは、他の言語の場合と同じです。
　春学期の入門では、(1)文字・発音の習得に力点をおきながら、(2)簡単な日常会話を通して、基礎的な文法事項を学びます。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　本授業は、1年後に辞書を引きながら簡単な新聞記事などを読解し、日常会話が行える段階へ到達するための基礎を築くことを目的とします。その前段階として、自己紹介および日常的に使用できる基本表現を理解し、運用できる力の習得を到達目標とします。

事前・事後学習の内容:　事前学習:各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習:各課終了後、翌週までに担当の先生からの課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション／第1課:母音①／定型文表現①
2. 第2課:子音①／有声音化／定型文表現②
3. 第3課:子音②／母音②／激音・濃音
4. 第4課:7つの終声（パッチム）／連音化／第5課:かなのハングル表記
5. 第5課:発音変化（鼻音化・激音化・濃音化・流音化・h弱化・口蓋音化）
6. 中間試験および解説
————————以上、ハングル文字および発音の学習————————

7. 第6課:指定詞「AはBです／AはBですか？」／助詞「は」
8. 第7課:体言の否定形／存在詞「います・あります」／助詞「が」「に（場所）」
9. 第8課:用言の活用①（합니다体）／助詞「で（場所）」／「～が好きです」
10. 第9課:固有数詞と助数詞（年齢・時刻・個数・人数など）／「～をください」／助詞「を」
11. 第10課:漢数詞と助数詞（日付・金額など）／時刻（～時～分）／「～から～まで」
12. 第11課:用言の活用②（해요体）／「どれくらいかかりますか」／助詞「から～まで（場所）」「で（手段）」
13. 総復習
14. 期末試験（理解度の確認）および解説

※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合があります。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　試験:第13回目または14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。期末テストのほかに中間テストを行なう場合もあります。
平常点評価:毎回の授業の理解度チェックのために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音および会話のやりとりを通じて発話力を確認します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。
その他:成績評価は、小テストを含む試験の結果だけでなく、授業中の態度、欠席・遅刻などを含めて総合的に判

断・評価します。週2回のうち片方の授業にしか出席していない、片方の試験しか受講していない場合は評価の対象となりません。

備考・関連URL: 初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050501|15|9S06050501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（入門）　15		
担 当 教 員	岸　加那子@徐　旻廷		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月４時限@02:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 朝鮮語（韓国語）初学者を対象としたクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「入門」13は週2回の授業を同一教員が担当します。
　朝鮮語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語母語話者や日本語学習者にとって取り組みやすい言語です。ただ、そうは言っても、手を抜かずに努力をしなければならないことは、他の言語の場合と同じです。
　春学期の入門では、(1)文字・発音の習得に力点をおきながら、(2)簡単な日常会話を通して、基礎的な文法事項を学びます。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　本授業は、1年後に辞書を引きながら簡単な新聞記事などを読解し、日常会話が行える段階へ到達するための基礎を築くことを目的とします。その前段階として、自己紹介および日常的に使用できる基本表現を理解し、運用できる力の習得を到達目標とします。

事前・事後学習の内容:　事前学習:各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習:各課終了後、翌週までに担当の先生からの課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション／第1課:母音①／定型文表現①
2. 第2課:子音①／有声音化／定型文表現②
3. 第3課:子音②／母音②／激音・濃音
4. 第4課:7つの終声（パッチム）／連音化／第5課:かなのハングル表記
5. 第5課:発音変化（鼻音化・激音化・濃音化・流音化・h弱化・口蓋音化）
6. 中間試験および解説
————————以上、ハングル文字および発音の学習————————

7. 第6課:指定詞「AはBです／AはBですか？」／助詞「は」
8. 第7課:体言の否定形／存在詞「います・あります」／助詞「が」「に（場所）」
9. 第8課:用言の活用①（합니다体）／助詞「で（場所）」／「～が好きです」
10. 第9課:固有数詞と助数詞（年齢・時刻・個数・人数など）／「～をください」／助詞「を」
11. 第10課:漢数詞と助数詞（日付・金額など）／時刻（～時～分）／「～から～まで」
12. 第11課:用言の活用②（해요体）／「どれくらいかかりますか」／助詞「から～まで（場所）」「で（手段）」
13. 総復習
14. 期末試験（理解度の確認）および解説

※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合があります。

言語区分:　0　　日本語　　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　試験:第13回目または14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。期末テストのほかに中間テストを行なう場合もあります。
平常点評価:毎回の授業の理解度チェックのために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音および会話のやりとりを通じて発話力を確認します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。
その他:成績評価は、小テストを含む試験の結果だけでなく、授業中の態度、欠席・遅刻などを含めて総合的に判

断・評価します。週2回のうち片方の授業にしか出席していない、片方の試験しか受講していない場合は評価の対象となりません。

備考・関連URL: 初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050501|16|9S06050501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（入門）　16		
担 当 教 員	岸　加那子@鄭　宇鎭		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月３時限@02:木２時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 朝鮮語（韓国語）初学者を対象としたクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「入門」13は週2回の授業を同一教員が担当します。
　朝鮮語は、語順が日本語と似ている上に、共通する漢字語も多いので、日本語母語話者や日本語学習者にとって取り組みやすい言語です。ただ、そうは言っても、手を抜かずに努力をしなければならないことは、他の言語の場合と同じです。
　春学期の入門では、(1)文字・発音の習得に力点をおきながら、(2)簡単な日常会話を通して、基礎的な文法事項を学びます。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　本授業は、1年後に辞書を引きながら簡単な新聞記事などを読解し、日常会話が行える段階へ到達するための基礎を築くことを目的とします。その前段階として、自己紹介および日常的に使用できる基本表現を理解し、運用できる力の習得を到達目標とします。

事前・事後学習の内容:　事前学習:各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習:各課終了後、翌週までに担当の先生からの課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション／第1課:母音①／定型文表現①
2. 第2課:子音①／有声音化／定型文表現②
3. 第3課:子音②／母音②／激音・濃音
4. 第4課:7つの終声（パッチム）／連音化／第5課:かなのハングル表記
5. 第5課:発音変化（鼻音化・激音化・濃音化・流音化・h弱化・口蓋音化）
6. 中間試験および解説
————————以上、ハングル文字および発音の学習————————

7. 第6課:指定詞「AはBです／AはBですか？」／助詞「は」
8. 第7課:体言の否定形／存在詞「います・あります」／助詞「が」「に（場所）」
9. 第8課:用言の活用①（합니다体）／助詞「で（場所）」／「～が好きです」
10. 第9課:固有数詞と助数詞（年齢・時刻・個数・人数など）／「～をください」／助詞「を」
11. 第10課:漢数詞と助数詞（日付・金額など）／時刻（～時～分）／「～から～まで」
12. 第11課:用言の活用②（해요体）／「どれくらいかかりますか」／助詞「から～まで（場所）」「で（手段）」
13. 総復習
14. 期末試験（理解度の確認）および解説

※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合があります。

言語区分:　0　　日本語　　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　試験:第13回目または14回目の授業時間中に試験を実施し、理解度の確認を行います。期末テストのほかに中間テストを行なう場合もあります。
平常点評価:毎回の授業の理解度チェックのために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音および会話のやりとりを通じて発話力を確認します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。
その他:成績評価は、小テストを含む試験の結果だけでなく、授業中の態度、欠席・遅刻などを含めて総合的に判

断・評価します。週2回のうち片方の授業にしか出席していない、片方の試験しか受講していない場合は評価の対象となりません。

備考・関連URL: 初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050502|01|9S06050502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（初級）　01		
担 当 教 員	姜　多映@全　東園		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月3時限@02:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 春学期「朝鮮語（入門）」履修済レベルのクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「初級」11は週2回の授業を同一教員が担当します。
朝鮮語は、日本語と語順が類似しており、共通する漢字語も多いため、日本語母語話者や日本語学習者にとって比較的に取り組みやすい言語であります。一方で、継続的な学習と着実な努力が求められる点は、他の外国語と同様であります。

秋学期の「初級」は、春学期の「入門」の基礎とした発展段階の科目であり、文法・文型事項が増加するため、学習内容の難易度も高まります。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　春学期「入門」に続き、本科目では、辞書を用いながら簡単なニュース記事等を読解できること、ならびに日常的な内容について基本的な会話ができることを到達目標とする。さらに、朝鮮語文献の講読を通して読解力を高めるとともに、自らの意思を簡潔に表現できる力の養成を目指す。

事前・事後学習の内容:　事前学習：各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習：各課終了後、翌週までにドリルや課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション、春学期「入門」の復習
2. 第12課：用言の否定形（前置否定）「～しない」「～くない」／希望「～したい」／用言の活用（過去形）
3. 第13課：尊敬形（現在・過去）／依頼「～してください」
4. 第14課：並列（-고）／動作の連続（-아서／어서）／理由（-니까／으니까）＋依頼・指示・勧誘・意志
5. 第15課：不規則活用／理由（-아서／어서）
6. 中間試験および解説／第16課：動詞・存在詞の連体形（現在）

7. 第16課：形容詞・指定詞の連体形（現在）／第17課：動詞の連体形（過去）
8. 第17課：形容詞・指定詞の連体形（過去）／第18課：連体形（未来）
9. 第18課：未来・推量「～するつもりです」／可能・不可能表現
10. 第19課：連体形の応用「～するとき」／逆接「～だが」「～けれど」
11. 第19課：目的「～しに」／勧誘「～しましょうか」「～しませんか」／第20課：同時「～しながら」
12. 第20課：約束・意志表現／第21課：条件「～したら」「～すれば」
13. ※第21課：確認表現「～しますよね」「～でしょう」
※第22課：経験「～したことがあります」／時間表現
14. 期末試験および解説
※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合がある。また、第22課および第22課は状況に応じて扱わない場合がある。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　・試験：第13回目または14回目の授業時間内に期末試験を実施し、理解度を確認します。必要に応じて中間試験を実施する場合があります。

・平常点評価：毎回の授業内容の理解度確認のために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音練習や会話活動を通して発話力を評価します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。

・その他：成績評価は、各種試験（小テストを含む）の結果に加え、授業への参加状況、受講態度、出席状況（欠席・遅刻など）を含めて総合的に判断します。週2回のうち一方の授業のみに出席している場合、またはいずれかの試験を受験していない場合は、成績評価の対象外とします。

備考・関連URL：　初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050502|02|9S06050502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（初級）　02		
担 当 教 員	金　牡蘭@文　珍瑛		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月2時限@02:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 春学期「朝鮮語（入門）」履修済レベルのクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「初級」11は週2回の授業を同一教員が担当します。
朝鮮語は、日本語と語順が類似しており、共通する漢字語も多いため、日本語母語話者や日本語学習者にとって比較的に取り組みやすい言語であります。一方で、継続的な学習と着実な努力が求められる点は、他の外国語と同様であります。

秋学期の「初級」は、春学期の「入門」の基礎とした発展段階の科目であり、文法・文型事項が増加するため、学習内容の難易度も高まります。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　春学期「入門」に続き、本科目では、辞書を用いながら簡単なニュース記事等を読解できること、ならびに日常的な内容について基本的な会話ができることを到達目標とする。さらに、朝鮮語文献の講読を通して読解力を高めるとともに、自らの意思を簡潔に表現できる力の養成を目指す。

事前・事後学習の内容:　事前学習:各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習:各課終了後、翌週までにドリルや課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション、春学期「入門」の復習
2. 第12課:用言の否定形（前置否定）「～しない」「～くない」／希望「～したい」／用言の活用（過去形）
3. 第13課:尊敬形（現在・過去）／依頼「～してください」
4. 第14課:並列（-고）／動作の連続（-아서／어서）／理由（-니까／으니까）＋依頼・指示・勧誘・意志
5. 第15課:不規則活用／理由（-아서／어서）
6. 中間試験および解説／第16課:動詞・存在詞の連体形（現在）

7. 第16課:形容詞・指定詞の連体形（現在）／第17課:動詞の連体形（過去）
8. 第17課:形容詞・指定詞の連体形（過去）／第18課:連体形（未来）
9. 第18課:未来・推量「～するつもりです」／可能・不可能表現
10. 第19課:連体形の応用「～するとき」／逆接「～だが」「～けれど」
11. 第19課:目的「～しに」／勧誘「～しましょうか」「～しませんか」／第20課:同時「～しながら」
12. 第20課:約束・意志表現／第21課:条件「～したら」「～すれば」
13. ※第21課:確認表現「～しますよね」「～でしょう」
※第22課:経験「～したことがあります」／時間表現
14. 期末試験および解説
※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合がある。また、第22課および第22課は状況に応じて扱わない場合がある。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　・試験:第13回目または14回目の授業時間内に期末試験を実施し、理解度を確認します。必要に応じて中間試験を実施する場合があります。

・平常点評価:毎回の授業内容の理解度確認のために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音練習や会話活動を通して発話力を評価します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。

・その他：成績評価は、各種試験（小テストを含む）の結果に加え、授業への参加状況、受講態度、出席状況（欠席・遅刻など）を含めて総合的に判断します。週2回のうち一方の授業のみに出席している場合、またはいずれかの試験を受験していない場合は、成績評価の対象外とします。

備考・関連URL：　初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050502|03|9S06050502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（初級）　03		
担 当 教 員	姜　多映@徐　旻廷		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月４時限@02:木２時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 春学期「朝鮮語（入門）」履修済レベルのクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「初級」11は週2回の授業を同一教員が担当します。
朝鮮語は、日本語と語順が類似しており、共通する漢字語も多いため、日本語母語話者や日本語学習者にとって比較的に取り組みやすい言語であります。一方で、継続的な学習と着実な努力が求められる点は、他の外国語と同様であります。

秋学期の「初級」は、春学期の「入門」の基礎とした発展段階の科目であり、文法・文型事項が増加するため、学習内容の難易度も高まります。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　春学期「入門」に続き、本科目では、辞書を用いながら簡単なニュース記事等を読解できること、ならびに日常的な内容について基本的な会話ができることを到達目標とする。さらに、朝鮮語文献の講読を通して読解力を高めるとともに、自らの意思を簡潔に表現できる力の養成を目指す。

事前・事後学習の内容:　事前学習：各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習：各課終了後、翌週までにドリルや課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション、春学期「入門」の復習
2. 第12課：用言の否定形（前置否定）「～しない」「～くない」／希望「～したい」／用言の活用（過去形）
3. 第13課：尊敬形（現在・過去）／依頼「～してください」
4. 第14課：並列（-고）／動作の連続（-아서／어서）／理由（-니까／으니까）＋依頼・指示・勧誘・意志
5. 第15課：不規則活用／理由（-아서／어서）
6. 中間試験および解説／第16課：動詞・存在詞の連体形（現在）

7. 第16課：形容詞・指定詞の連体形（現在）／第17課：動詞の連体形（過去）
8. 第17課：形容詞・指定詞の連体形（過去）／第18課：連体形（未来）
9. 第18課：未来・推量「～するつもりです」／可能・不可能表現
10. 第19課：連体形の応用「～するとき」／逆接「～だが」「～けれど」
11. 第19課：目的「～しに」／勧誘「～しましょうか」「～しませんか」／第20課：同時「～しながら」
12. 第20課：約束・意志表現／第21課：条件「～したら」「～すれば」
13. ※第21課：確認表現「～しますよね」「～でしょう」
※第22課：経験「～したことがあります」／時間表現
14. 期末試験および解説
※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合がある。また、第22課および第22課は状況に応じて扱わない場合がある。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　・試験：第13回目または14回目の授業時間内に期末試験を実施し、理解度を確認します。必要に応じて中間試験を実施する場合があります。

・平常点評価：毎回の授業内容の理解度確認のために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音練習や会話活動を通して発話力を評価します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。

・その他：成績評価は、各種試験（小テストを含む）の結果に加え、授業への参加状況、受講態度、出席状況（欠席・遅刻など）を含めて総合的に判断します。週2回のうち一方の授業のみに出席している場合、またはいずれかの試験を受験していない場合は、成績評価の対象外とします。

備考・関連URL：　初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050502|04|9S06050502[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（初級） 04		
担 当 教 員	ムン ヒチョル@貝森 時子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月5時限@02:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ※ 春学期「朝鮮語（入門）」履修済レベルのクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「初級」11は週2回の授業を同一教員が担当します。
朝鮮語は、日本語と語順が類似しており、共通する漢字語も多いため、日本語母語話者や日本語学習者にとって比較的に取り組みやすい言語であります。一方で、継続的な学習と着実な努力が求められる点は、他の外国語と同様であります。

秋学期の「初級」は、春学期の「入門」の基礎とした発展段階の科目であり、文法・文型事項が増加するため、学習内容の難易度も高まります。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標: 春学期「入門」に続き、本科目では、辞書を用いながら簡単なニュース記事等を読解できること、ならびに日常的な内容について基本的な会話ができることを到達目標とする。さらに、朝鮮語文献の講読を通して読解力を高めるとともに、自らの意思を簡潔に表現できる力の養成を目指す。

事前・事後学習の内容: 事前学習：各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習：各課終了後、翌週までにドリルや課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ＜14週/28回＞
1. オリエンテーション、春学期「入門」の復習
2. 第12課：用言の否定形（前置否定）「～しない」「～くない」／希望「～したい」／用言の活用（過去形）
3. 第13課：尊敬形（現在・過去）／依頼「～してください」
4. 第14課：並列（-고）／動作の連続（-아서／어서）／理由（-니까／으니까）＋依頼・指示・勧誘・意志
5. 第15課：不規則活用／理由（-아서／어서）
6. 中間試験および解説／第16課：動詞・存在詞の連体形（現在）

7. 第16課：形容詞・指定詞の連体形（現在）／第17課：動詞の連体形（過去）
8. 第17課：形容詞・指定詞の連体形（過去）／第18課：連体形（未来）
9. 第18課：未来・推量「～するつもりです」／可能・不可能表現
10. 第19課：連体形の応用「～するとき」／逆接「～だが」「～けれど」
11. 第19課：目的「～しに」／勧誘「～しましょうか」「～しませんか」／第20課：同時「～しながら」
12. 第20課：約束・意志表現／第21課：条件「～したら」「～すれば」
13. ※第21課：確認表現「～しますよね」「～でしょう」
※第22課：経験「～したことがあります」／時間表現
14. 期末試験および解説
※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合がある。また、第22課および第22課は状況に応じて扱わない場合がある。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「朝鮮語 入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献: 授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: ・試験：第13回目または14回目の授業時間内に期末試験を実施し、理解度を確認します。必要に応じて中間試験を実施する場合があります。

・平常点評価：毎回の授業内容の理解度確認のために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音練習や会話活動を通して発話力を評価します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。

・その他：成績評価は、各種試験（小テストを含む）の結果に加え、授業への参加状況、受講態度、出席状況（欠席・遅刻など）を含めて総合的に判断します。週2回のうち一方の授業のみに出席している場合、またはいずれかの試験を受験していない場合は、成績評価の対象外とします。

備考・関連URL：　初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050502|05|9S06050502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（初級）　05		
担 当 教 員	朴　志姫@貝森　時子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火2時限@02:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 春学期「朝鮮語（入門）」履修済レベルのクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「初級」11は週2回の授業を同一教員が担当します。
朝鮮語は、日本語と語順が類似しており、共通する漢字語も多いため、日本語母語話者や日本語学習者にとって比較的に取り組みやすい言語であります。一方で、継続的な学習と着実な努力が求められる点は、他の外国語と同様であります。

秋学期の「初級」は、春学期の「入門」の基礎とした発展段階の科目であり、文法・文型事項が増加するため、学習内容の難易度も高まります。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　春学期「入門」に続き、本科目では、辞書を用いながら簡単なニュース記事等を読解できること、ならびに日常的な内容について基本的な会話ができることを到達目標とする。さらに、朝鮮語文献の講読を通して読解力を高めるとともに、自らの意思を簡潔に表現できる力の養成を目指す。

事前・事後学習の内容:　事前学習：各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習：各課終了後、翌週までにドリルや課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション、春学期「入門」の復習
2. 第12課：用言の否定形（前置否定）「～しない」「～くない」／希望「～したい」／用言の活用（過去形）
3. 第13課：尊敬形（現在・過去）／依頼「～してください」
4. 第14課：並列（-고）／動作の連続（-아서／어서）／理由（-니까／으니까）＋依頼・指示・勧誘・意志
5. 第15課：不規則活用／理由（-아서／어서）
6. 中間試験および解説／第16課：動詞・存在詞の連体形（現在）

7. 第16課：形容詞・指定詞の連体形（現在）／第17課：動詞の連体形（過去）
8. 第17課：形容詞・指定詞の連体形（過去）／第18課：連体形（未来）
9. 第18課：未来・推量「～するつもりです」／可能・不可能表現
10. 第19課：連体形の応用「～するとき」／逆接「～だが」「～けれど」
11. 第19課：目的「～しに」／勧誘「～しましょうか」「～しませんか」／第20課：同時「～しながら」
12. 第20課：約束・意志表現／第21課：条件「～したら」「～すれば」
13. ※第21課：確認表現「～しますよね」「～でしょう」
※第22課：経験「～したことがあります」／時間表現
14. 期末試験および解説
※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合がある。また、第22課および第22課は状況に応じて扱わない場合がある。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　・試験：第13回目または14回目の授業時間内に期末試験を実施し、理解度を確認します。必要に応じて中間試験を実施する場合があります。

・平常点評価：毎回の授業内容の理解度確認のために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音練習や会話活動を通して発話力を評価します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。

・その他：成績評価は、各種試験（小テストを含む）の結果に加え、授業への参加状況、受講態度、出席状況（欠席・遅刻など）を含めて総合的に判断します。週2回のうち一方の授業のみに出席している場合、またはいずれかの試験を受験していない場合は、成績評価の対象外とします。

備考・関連URL：　初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050502|06|9S06050502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（初級）　06		
担 当 教 員	朴　志姫@伊藤　知子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火3時限@02:木5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 春学期「朝鮮語（入門）」履修済レベルのクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「初級」11は週2回の授業を同一教員が担当します。
朝鮮語は、日本語と語順が類似しており、共通する漢字語も多いため、日本語母語話者や日本語学習者にとって比較的に取り組みやすい言語であります。一方で、継続的な学習と着実な努力が求められる点は、他の外国語と同様であります。

秋学期の「初級」は、春学期の「入門」の基礎とした発展段階の科目であり、文法・文型事項が増加するため、学習内容の難易度も高まります。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　春学期「入門」に続き、本科目では、辞書を用いながら簡単なニュース記事等を読解できること、ならびに日常的な内容について基本的な会話ができることを到達目標とする。さらに、朝鮮語文献の講読を通して読解力を高めるとともに、自らの意思を簡潔に表現できる力の養成を目指す。

事前・事後学習の内容:　事前学習：各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習：各課終了後、翌週までにドリルや課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション、春学期「入門」の復習
2. 第12課：用言の否定形（前置否定）「～しない」「～くない」／希望「～したい」／用言の活用（過去形）
3. 第13課：尊敬形（現在・過去）／依頼「～してください」
4. 第14課：並列（-고）／動作の連続（-아서／어서）／理由（-니까／으니까）＋依頼・指示・勧誘・意志
5. 第15課：不規則活用／理由（-아서／어서）
6. 中間試験および解説／第16課：動詞・存在詞の連体形（現在）

7. 第16課：形容詞・指定詞の連体形（現在）／第17課：動詞の連体形（過去）
8. 第17課：形容詞・指定詞の連体形（過去）／第18課：連体形（未来）
9. 第18課：未来・推量「～するつもりです」／可能・不可能表現
10. 第19課：連体形の応用「～するとき」／逆接「～だが」「～けれど」
11. 第19課：目的「～しに」／勧誘「～しましょうか」「～しませんか」／第20課：同時「～しながら」
12. 第20課：約束・意志表現／第21課：条件「～したら」「～すれば」
13. ※第21課：確認表現「～しますよね」「～でしょう」
※第22課：経験「～したことがあります」／時間表現
14. 期末試験および解説
※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合がある。また、第22課および第22課は状況に応じて扱わない場合がある。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　・試験：第13回目または14回目の授業時間内に期末試験を実施し、理解度を確認します。必要に応じて中間試験を実施する場合があります。

・平常点評価：毎回の授業内容の理解度確認のために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音練習や会話活動を通して発話力を評価します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。

・その他：成績評価は、各種試験（小テストを含む）の結果に加え、授業への参加状況、受講態度、出席状況（欠席・遅刻など）を含めて総合的に判断します。週2回のうち一方の授業のみに出席している場合、またはいずれかの試験を受験していない場合は、成績評価の対象外とします。

備考・関連URL：　初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050502|07|9S06050502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（初級）　07		
担 当 教 員	全　東園@姜　多映		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火４時限@02:金２時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 春学期「朝鮮語（入門）」履修済レベルのクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「初級」11は週2回の授業を同一教員が担当します。
朝鮮語は、日本語と語順が類似しており、共通する漢字語も多いため、日本語母語話者や日本語学習者にとって比較的に取り組みやすい言語であります。一方で、継続的な学習と着実な努力が求められる点は、他の外国語と同様であります。

秋学期の「初級」は、春学期の「入門」の基礎とした発展段階の科目であり、文法・文型事項が増加するため、学習内容の難易度も高まります。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　春学期「入門」に続き、本科目では、辞書を用いながら簡単なニュース記事等を読解できること、ならびに日常的な内容について基本的な会話ができることを到達目標とする。さらに、朝鮮語文献の講読を通して読解力を高めるとともに、自らの意思を簡潔に表現できる力の養成を目指す。

事前・事後学習の内容:　事前学習：各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習：各課終了後、翌週までにドリルや課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション、春学期「入門」の復習
2. 第12課：用言の否定形（前置否定）「～しない」「～くない」／希望「～したい」／用言の活用（過去形）
3. 第13課：尊敬形（現在・過去）／依頼「～してください」
4. 第14課：並列（-고）／動作の連続（-아서／어서）／理由（-니까／으니까）＋依頼・指示・勧誘・意志
5. 第15課：不規則活用／理由（-아서／어서）
6. 中間試験および解説／第16課：動詞・存在詞の連体形（現在）

7. 第16課：形容詞・指定詞の連体形（現在）／第17課：動詞の連体形（過去）
8. 第17課：形容詞・指定詞の連体形（過去）／第18課：連体形（未来）
9. 第18課：未来・推量「～するつもりです」／可能・不可能表現
10. 第19課：連体形の応用「～するとき」／逆接「～だが」「～けれど」
11. 第19課：目的「～しに」／勧誘「～しましょうか」「～しませんか」／第20課：同時「～しながら」
12. 第20課：約束・意志表現／第21課：条件「～したら」「～すれば」
13. ※第21課：確認表現「～しますよね」「～でしょう」
※第22課：経験「～したことがあります」／時間表現
14. 期末試験および解説
※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合がある。また、第22課および第22課は状況に応じて扱わない場合がある。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　・試験：第13回目または14回目の授業時間内に期末試験を実施し、理解度を確認します。必要に応じて中間試験を実施する場合があります。

・平常点評価：毎回の授業内容の理解度確認のために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音練習や会話活動を通して発話力を評価します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。

・その他：成績評価は、各種試験（小テストを含む）の結果に加え、授業への参加状況、受講態度、出席状況（欠席・遅刻など）を含めて総合的に判断します。週2回のうち一方の授業のみに出席している場合、またはいずれかの試験を受験していない場合は、成績評価の対象外とします。

備考・関連URL：　初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050502|08|9S06050502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（初級）　08		
担 当 教 員	阪堂　千津子@姜　多映		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水5時限@02:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 春学期「朝鮮語（入門）」履修済レベルのクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「初級」11は週2回の授業を同一教員が担当します。
朝鮮語は、日本語と語順が類似しており、共通する漢字語も多いため、日本語母語話者や日本語学習者にとって比較的に取り組みやすい言語であります。一方で、継続的な学習と着実な努力が求められる点は、他の外国語と同様であります。

秋学期の「初級」は、春学期の「入門」の基礎とした発展段階の科目であり、文法・文型事項が増加するため、学習内容の難易度も高まります。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　春学期「入門」に続き、本科目では、辞書を用いながら簡単なニュース記事等を読解できること、ならびに日常的な内容について基本的な会話ができることを到達目標とする。さらに、朝鮮語文献の講読を通して読解力を高めるとともに、自らの意思を簡潔に表現できる力の養成を目指す。

事前・事後学習の内容:　事前学習：各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習：各課終了後、翌週までにドリルや課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション、春学期「入門」の復習
2. 第12課：用言の否定形（前置否定）「～しない」「～くない」／希望「～したい」／用言の活用（過去形）
3. 第13課：尊敬形（現在・過去）／依頼「～してください」
4. 第14課：並列（-고）／動作の連続（-아서／어서）／理由（-니까／으니까）＋依頼・指示・勧誘・意志
5. 第15課：不規則活用／理由（-아서／어서）
6. 中間試験および解説／第16課：動詞・存在詞の連体形（現在）

7. 第16課：形容詞・指定詞の連体形（現在）／第17課：動詞の連体形（過去）
8. 第17課：形容詞・指定詞の連体形（過去）／第18課：連体形（未来）
9. 第18課：未来・推量「～するつもりです」／可能・不可能表現
10. 第19課：連体形の応用「～するとき」／逆接「～だが」「～けれど」
11. 第19課：目的「～しに」／勧誘「～しましょうか」「～しませんか」／第20課：同時「～しながら」
12. 第20課：約束・意志表現／第21課：条件「～したら」「～すれば」
13. ※第21課：確認表現「～しますよね」「～でしょう」
※第22課：経験「～したことがあります」／時間表現
14. 期末試験および解説
※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合がある。また、第22課および第22課は状況に応じて扱わない場合がある。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　・試験：第13回目または14回目の授業時間内に期末試験を実施し、理解度を確認します。必要に応じて中間試験を実施する場合があります。

・平常点評価：毎回の授業内容の理解度確認のために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音練習や会話活動を通して発話力を評価します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。

・その他：成績評価は、各種試験（小テストを含む）の結果に加え、授業への参加状況、受講態度、出席状況（欠席・遅刻など）を含めて総合的に判断します。週2回のうち一方の授業のみに出席している場合、またはいずれかの試験を受験していない場合は、成績評価の対象外とします。

備考・関連URL：　初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050502|09|9S06050502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（初級）　09		
担 当 教 員	家永　祐子@尹　永洙		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水5時限@02:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 春学期「朝鮮語（入門）」履修済レベルのクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「初級」11は週2回の授業を同一教員が担当します。
朝鮮語は、日本語と語順が類似しており、共通する漢字語も多いため、日本語母語話者や日本語学習者にとって比較的に取り組みやすい言語であります。一方で、継続的な学習と着実な努力が求められる点は、他の外国語と同様であります。

秋学期の「初級」は、春学期の「入門」の基礎とした発展段階の科目であり、文法・文型事項が増加するため、学習内容の難易度も高まります。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　春学期「入門」に続き、本科目では、辞書を用いながら簡単なニュース記事等を読解できること、ならびに日常的な内容について基本的な会話ができることを到達目標とする。さらに、朝鮮語文献の講読を通して読解力を高めるとともに、自らの意思を簡潔に表現できる力の養成を目指す。

事前・事後学習の内容:　事前学習：各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習：各課終了後、翌週までにドリルや課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション、春学期「入門」の復習
2. 第12課：用言の否定形（前置否定）「～しない」「～くない」／希望「～したい」／用言の活用（過去形）
3. 第13課：尊敬形（現在・過去）／依頼「～してください」
4. 第14課：並列（-고）／動作の連続（-아서／어서）／理由（-니까／으니까）＋依頼・指示・勧誘・意志
5. 第15課：不規則活用／理由（-아서／어서）
6. 中間試験および解説／第16課：動詞・存在詞の連体形（現在）

7. 第16課：形容詞・指定詞の連体形（現在）／第17課：動詞の連体形（過去）
8. 第17課：形容詞・指定詞の連体形（過去）／第18課：連体形（未来）
9. 第18課：未来・推量「～するつもりです」／可能・不可能表現
10. 第19課：連体形の応用「～するとき」／逆接「～だが」「～けれど」
11. 第19課：目的「～しに」／勧誘「～しましょうか」「～しませんか」／第20課：同時「～しながら」
12. 第20課：約束・意志表現／第21課：条件「～したら」「～すれば」
13. ※第21課：確認表現「～しますよね」「～でしょう」
※第22課：経験「～したことがあります」／時間表現
14. 期末試験および解説
※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合がある。また、第22課および第22課は状況に応じて扱わない場合がある。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　・試験：第13回目または14回目の授業時間内に期末試験を実施し、理解度を確認します。必要に応じて中間試験を実施する場合があります。

・平常点評価：毎回の授業内容の理解度確認のために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音練習や会話活動を通して発話力を評価します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。

・その他：成績評価は、各種試験（小テストを含む）の結果に加え、授業への参加状況、受講態度、出席状況（欠席・遅刻など）を含めて総合的に判断します。週2回のうち一方の授業のみに出席している場合、またはいずれかの試験を受験していない場合は、成績評価の対象外とします。

備考・関連URL：　初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050502|10|9S06050502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（初級）　１０		
担 当 教 員	神谷　丹路@尹　永洙		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水４時限@02:金５時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 春学期「朝鮮語（入門）」履修済レベルのクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「初級」11は週2回の授業を同一教員が担当します。
朝鮮語は、日本語と語順が類似しており、共通する漢字語も多いため、日本語母語話者や日本語学習者にとって比較的に取り組みやすい言語であります。一方で、継続的な学習と着実な努力が求められる点は、他の外国語と同様であります。

秋学期の「初級」は、春学期の「入門」の基礎とした発展段階の科目であり、文法・文型事項が増加するため、学習内容の難易度も高まります。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　春学期「入門」に続き、本科目では、辞書を用いながら簡単なニュース記事等を読解できること、ならびに日常的な内容について基本的な会話ができることを到達目標とする。さらに、朝鮮語文献の講読を通して読解力を高めるとともに、自らの意思を簡潔に表現できる力の養成を目指す。

事前・事後学習の内容:　事前学習：各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習：各課終了後、翌週までにドリルや課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション、春学期「入門」の復習
2. 第12課：用言の否定形（前置否定）「～しない」「～くない」／希望「～したい」／用言の活用（過去形）
3. 第13課：尊敬形（現在・過去）／依頼「～してください」
4. 第14課：並列（-고）／動作の連続（-아서／어서）／理由（-니까／으니까）＋依頼・指示・勧誘・意志
5. 第15課：不規則活用／理由（-아서／어서）
6. 中間試験および解説／第16課：動詞・存在詞の連体形（現在）

7. 第16課：形容詞・指定詞の連体形（現在）／第17課：動詞の連体形（過去）
8. 第17課：形容詞・指定詞の連体形（過去）／第18課：連体形（未来）
9. 第18課：未来・推量「～するつもりです」／可能・不可能表現
10. 第19課：連体形の応用「～するとき」／逆接「～だが」「～けれど」
11. 第19課：目的「～しに」／勧誘「～しましょうか」「～しませんか」／第20課：同時「～しながら」
12. 第20課：約束・意志表現／第21課：条件「～したら」「～すれば」
13. ※第21課：確認表現「～しますよね」「～でしょう」
※第22課：経験「～したことがあります」／時間表現
14. 期末試験および解説
※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合がある。また、第22課および第22課は状況に応じて扱わない場合がある。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　・試験：第13回目または14回目の授業時間内に期末試験を実施し、理解度を確認します。必要に応じて中間試験を実施する場合があります。

・平常点評価：毎回の授業内容の理解度確認のために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音練習や会話活動を通して発話力を評価します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。

・その他：成績評価は、各種試験（小テストを含む）の結果に加え、授業への参加状況、受講態度、出席状況（欠席・遅刻など）を含めて総合的に判断します。週2回のうち一方の授業のみに出席している場合、またはいずれかの試験を受験していない場合は、成績評価の対象外とします。

備考・関連URL：　初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050502|11|9S06050502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（初級）　11		
担 当 教 員	崔　チョンア		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火2時限@02:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 春学期「朝鮮語（入門）」履修済レベルのクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「初級」11は週2回の授業を同一教員が担当します。
朝鮮語は、日本語と語順が類似しており、共通する漢字語も多いため、日本語母語話者や日本語学習者にとって比較的に取り組みやすい言語であります。一方で、継続的な学習と着実な努力が求められる点は、他の外国語と同様であります。

秋学期の「初級」は、春学期の「入門」の基礎とした発展段階の科目であり、文法・文型事項が増加するため、学習内容の難易度も高まります。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　春学期「入門」に続き、本科目では、辞書を用いながら簡単なニュース記事等を読解できること、ならびに日常的な内容について基本的な会話ができることを到達目標とする。さらに、朝鮮語文献の講読を通して読解力を高めるとともに、自らの意思を簡潔に表現できる力の養成を目指す。

事前・事後学習の内容:　事前学習：各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習：各課終了後、翌週までにドリルや課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション、春学期「入門」の復習
2. 第12課：用言の否定形（前置否定）「～しない」「～くない」／希望「～したい」／用言の活用（過去形）
3. 第13課：尊敬形（現在・過去）／依頼「～してください」
4. 第14課：並列（-고）／動作の連続（-아서／어서）／理由（-니까／으니까）＋依頼・指示・勧誘・意志
5. 第15課：不規則活用／理由（-아서／어서）
6. 中間試験および解説／第16課：動詞・存在詞の連体形（現在）

7. 第16課：形容詞・指定詞の連体形（現在）／第17課：動詞の連体形（過去）
8. 第17課：形容詞・指定詞の連体形（過去）／第18課：連体形（未来）
9. 第18課：未来・推量「～するつもりです」／可能・不可能表現
10. 第19課：連体形の応用「～するとき」／逆接「～だが」「～けれど」
11. 第19課：目的「～しに」／勧誘「～しましょうか」「～しませんか」／第20課：同時「～しながら」
12. 第20課：約束・意志表現／第21課：条件「～したら」「～すれば」
13. ※第21課：確認表現「～しますよね」「～でしょう」
※第22課：経験「～したことがあります」／時間表現
14. 期末試験および解説
※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合がある。また、第22課および第22課は状況に応じて扱わない場合がある。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　・試験：第13回目または14回目の授業時間内に期末試験を実施し、理解度を確認します。必要に応じて中間試験を実施する場合があります。

・平常点評価：毎回の授業内容の理解度確認のために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音練習や会話活動を通して発話力を評価します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。

・その他：成績評価は、各種試験（小テストを含む）の結果に加え、授業への参加状況、受講態度、出席状況（欠席・遅刻など）を含めて総合的に判断します。週2回のうち一方の授業のみに出席している場合、またはいずれかの試験を受験していない場合は、成績評価の対象外とします。

備考・関連URL：　初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050502|12|9S06050502[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（初級） 12		
担 当 教 員	貝森 時子@中島 仁		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月2時限@02:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ※ 春学期「朝鮮語（入門）」履修済レベルのクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「初級」11は週2回の授業を同一教員が担当します。
朝鮮語は、日本語と語順が類似しており、共通する漢字語も多いため、日本語母語話者や日本語学習者にとって比較的に取り組みやすい言語であります。一方で、継続的な学習と着実な努力が求められる点は、他の外国語と同様であります。

秋学期の「初級」は、春学期の「入門」の基礎とした発展段階の科目であり、文法・文型事項が増加するため、学習内容の難易度も高まります。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標: 春学期「入門」に続き、本科目では、辞書を用いながら簡単なニュース記事等を読解できること、ならびに日常的な内容について基本的な会話ができることを到達目標とする。さらに、朝鮮語文献の講読を通して読解力を高めるとともに、自らの意思を簡潔に表現できる力の養成を目指す。

事前・事後学習の内容: 事前学習：各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習：各課終了後、翌週までにドリルや課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ＜14週/28回＞
1. オリエンテーション、春学期「入門」の復習
2. 第12課：用言の否定形（前置否定）「～しない」「～くない」／希望「～したい」／用言の活用（過去形）
3. 第13課：尊敬形（現在・過去）／依頼「～してください」
4. 第14課：並列（-고）／動作の連続（-아서／어서）／理由（-니까／으니까）＋依頼・指示・勧誘・意志
5. 第15課：不規則活用／理由（-아서／어서）
6. 中間試験および解説／第16課：動詞・存在詞の連体形（現在）

7. 第16課：形容詞・指定詞の連体形（現在）／第17課：動詞の連体形（過去）
8. 第17課：形容詞・指定詞の連体形（過去）／第18課：連体形（未来）
9. 第18課：未来・推量「～するつもりです」／可能・不可能表現
10. 第19課：連体形の応用「～するとき」／逆接「～だが」「～けれど」
11. 第19課：目的「～しに」／勧誘「～しましょうか」「～しませんか」／第20課：同時「～しながら」
12. 第20課：約束・意志表現／第21課：条件「～したら」「～すれば」
13. ※第21課：確認表現「～しますよね」「～でしょう」
※第22課：経験「～したことがあります」／時間表現
14. 期末試験および解説
※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合がある。また、第22課および第22課は状況に応じて扱わない場合がある。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「朝鮮語 入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献: 授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: ・試験：第13回目または14回目の授業時間内に期末試験を実施し、理解度を確認します。必要に応じて中間試験を実施する場合があります。

・平常点評価：毎回の授業内容の理解度確認のために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音練習や会話活動を通して発話力を評価します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。

・その他：成績評価は、各種試験（小テストを含む）の結果に加え、授業への参加状況、受講態度、出席状況（欠席・遅刻など）を含めて総合的に判断します。週2回のうち一方の授業のみに出席している場合、またはいずれかの試験を受験していない場合は、成績評価の対象外とします。

備考・関連URL：　初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050502|13|9S06050502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（初級）　13		
担 当 教 員	高　優美@平　香織		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火４時限@02:金２時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 春学期「朝鮮語（入門）」履修済レベルのクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「初級」11は週2回の授業を同一教員が担当します。
朝鮮語は、日本語と語順が類似しており、共通する漢字語も多いため、日本語母語話者や日本語学習者にとって比較的に取り組みやすい言語であります。一方で、継続的な学習と着実な努力が求められる点は、他の外国語と同様であります。

秋学期の「初級」は、春学期の「入門」の基礎とした発展段階の科目であり、文法・文型事項が増加するため、学習内容の難易度も高まります。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　春学期「入門」に続き、本科目では、辞書を用いながら簡単なニュース記事等を読解できること、ならびに日常的な内容について基本的な会話ができることを到達目標とする。さらに、朝鮮語文献の講読を通して読解力を高めるとともに、自らの意思を簡潔に表現できる力の養成を目指す。

事前・事後学習の内容:　事前学習：各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習：各課終了後、翌週までにドリルや課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション、春学期「入門」の復習
2. 第12課：用言の否定形（前置否定）「～しない」「～くない」／希望「～したい」／用言の活用（過去形）
3. 第13課：尊敬形（現在・過去）／依頼「～してください」
4. 第14課：並列（-고）／動作の連続（-아서／어서）／理由（-니까／으니까）＋依頼・指示・勧誘・意志
5. 第15課：不規則活用／理由（-아서／어서）
6. 中間試験および解説／第16課：動詞・存在詞の連体形（現在）

7. 第16課：形容詞・指定詞の連体形（現在）／第17課：動詞の連体形（過去）
8. 第17課：形容詞・指定詞の連体形（過去）／第18課：連体形（未来）
9. 第18課：未来・推量「～するつもりです」／可能・不可能表現
10. 第19課：連体形の応用「～するとき」／逆接「～だが」「～けれど」
11. 第19課：目的「～しに」／勧誘「～しましょうか」「～しませんか」／第20課：同時「～しながら」
12. 第20課：約束・意志表現／第21課：条件「～したら」「～すれば」
13. ※第21課：確認表現「～しますよね」「～でしょう」
※第22課：経験「～したことがあります」／時間表現
14. 期末試験および解説
※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合がある。また、第22課および第22課は状況に応じて扱わない場合がある。

言語区分:　0　　日本語　　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　・試験：第13回目または14回目の授業時間内に期末試験を実施し、理解度を確認します。必要に応じて中間試験を実施する場合があります。

・平常点評価：毎回の授業内容の理解度確認のために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音練習や会話活動を通して発話力を評価します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。

・その他：成績評価は、各種試験（小テストを含む）の結果に加え、授業への参加状況、受講態度、出席状況（欠席・遅刻など）を含めて総合的に判断します。週2回のうち一方の授業のみに出席している場合、またはいずれかの試験を受験していない場合は、成績評価の対象外とします。

備考・関連URL：　初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050502|14|9S06050502[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（初級） 14		
担 当 教 員	黒澤 朋子@平 香織		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水2時限@02:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ※ 春学期「朝鮮語（入門）」履修済レベルのクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「初級」11は週2回の授業を同一教員が担当します。
朝鮮語は、日本語と語順が類似しており、共通する漢字語も多いため、日本語母語話者や日本語学習者にとって比較的に取り組みやすい言語であります。一方で、継続的な学習と着実な努力が求められる点は、他の外国語と同様であります。

秋学期の「初級」は、春学期の「入門」の基礎とした発展段階の科目であり、文法・文型事項が増加するため、学習内容の難易度も高まります。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標: 春学期「入門」に続き、本科目では、辞書を用いながら簡単なニュース記事等を読解できること、ならびに日常的な内容について基本的な会話ができることを到達目標とする。さらに、朝鮮語文献の講読を通して読解力を高めるとともに、自らの意思を簡潔に表現できる力の養成を目指す。

事前・事後学習の内容: 事前学習：各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習：各課終了後、翌週までにドリルや課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ＜14週/28回＞
1. オリエンテーション、春学期「入門」の復習
2. 第12課：用言の否定形（前置否定）「～しない」「～くない」／希望「～したい」／用言の活用（過去形）
3. 第13課：尊敬形（現在・過去）／依頼「～してください」
4. 第14課：並列（-고）／動作の連続（-아서／어서）／理由（-니까／으니까）＋依頼・指示・勧誘・意志
5. 第15課：不規則活用／理由（-아서／어서）
6. 中間試験および解説／第16課：動詞・存在詞の連体形（現在）

7. 第16課：形容詞・指定詞の連体形（現在）／第17課：動詞の連体形（過去）
8. 第17課：形容詞・指定詞の連体形（過去）／第18課：連体形（未来）
9. 第18課：未来・推量「～するつもりです」／可能・不可能表現
10. 第19課：連体形の応用「～するとき」／逆接「～だが」「～けれど」
11. 第19課：目的「～しに」／勧誘「～しましょうか」「～しませんか」／第20課：同時「～しながら」
12. 第20課：約束・意志表現／第21課：条件「～したら」「～すれば」
13. ※第21課：確認表現「～しますよね」「～でしょう」
※第22課：経験「～したことがあります」／時間表現
14. 期末試験および解説
※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合がある。また、第22課および第22課は状況に応じて扱わない場合がある。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「朝鮮語 入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献: 授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: ・試験：第13回目または14回目の授業時間内に期末試験を実施し、理解度を確認します。必要に応じて中間試験を実施する場合があります。

・平常点評価：毎回の授業内容の理解度確認のために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音練習や会話活動を通して発話力を評価します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。

・その他：成績評価は、各種試験（小テストを含む）の結果に加え、授業への参加状況、受講態度、出席状況（欠席・遅刻など）を含めて総合的に判断します。週2回のうち一方の授業のみに出席している場合、またはいずれかの試験を受験していない場合は、成績評価の対象外とします。

備考・関連URL：　初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050502|15|9S06050502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（初級）　１５		
担 当 教 員	岸　加那子@徐　旻廷		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月４時限@02:木３時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※ 春学期「朝鮮語（入門）」履修済レベルのクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「初級」11は週2回の授業を同一教員が担当します。
朝鮮語は、日本語と語順が類似しており、共通する漢字語も多いため、日本語母語話者や日本語学習者にとって比較的に取り組みやすい言語であります。一方で、継続的な学習と着実な努力が求められる点は、他の外国語と同様であります。

秋学期の「初級」は、春学期の「入門」の基礎とした発展段階の科目であり、文法・文型事項が増加するため、学習内容の難易度も高まります。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標:　春学期「入門」に続き、本科目では、辞書を用いながら簡単なニュース記事等を読解できること、ならびに日常的な内容について基本的な会話ができることを到達目標とする。さらに、朝鮮語文献の講読を通して読解力を高めるとともに、自らの意思を簡潔に表現できる力の養成を目指す。

事前・事後学習の内容:　事前学習：各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習：各課終了後、翌週までにドリルや課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜14週/28回＞
1. オリエンテーション、春学期「入門」の復習
2. 第12課：用言の否定形（前置否定）「～しない」「～くない」／希望「～したい」／用言の活用（過去形）
3. 第13課：尊敬形（現在・過去）／依頼「～してください」
4. 第14課：並列（-고）／動作の連続（-아서／어서）／理由（-니까／으니까）＋依頼・指示・勧誘・意志
5. 第15課：不規則活用／理由（-아서／어서）
6. 中間試験および解説／第16課：動詞・存在詞の連体形（現在）

7. 第16課：形容詞・指定詞の連体形（現在）／第17課：動詞の連体形（過去）
8. 第17課：形容詞・指定詞の連体形（過去）／第18課：連体形（未来）
9. 第18課：未来・推量「～するつもりです」／可能・不可能表現
10. 第19課：連体形の応用「～するとき」／逆接「～だが」「～けれど」
11. 第19課：目的「～しに」／勧誘「～しましょうか」「～しませんか」／第20課：同時「～しながら」
12. 第20課：約束・意志表現／第21課：条件「～したら」「～すれば」
13. ※第21課：確認表現「～しますよね」「～でしょう」
※第22課：経験「～したことがあります」／時間表現
14. 期末試験および解説
※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合がある。また、第22課および第22課は状況に応じて扱わない場合がある。

言語区分:　0　　日本語　　Japanese

教科書:　「朝鮮語　入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献:　授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　・試験：第13回目または14回目の授業時間内に期末試験を実施し、理解度を確認します。必要に応じて中間試験を実施する場合があります。

・平常点評価：毎回の授業内容の理解度確認のために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音練習や会話活動を通して発話力を評価します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。

・その他：成績評価は、各種試験（小テストを含む）の結果に加え、授業への参加状況、受講態度、出席状況（欠席・遅刻など）を含めて総合的に判断します。週2回のうち一方の授業のみに出席している場合、またはいずれかの試験を受験していない場合は、成績評価の対象外とします。

備考・関連URL：　初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050502|16|9S06050502[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（初級） 16		
担 当 教 員	岸 加那子@鄭 宇鎭		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月3時限@02:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ※ 春学期「朝鮮語（入門）」履修済レベルのクラスです。

※ 01-16クラスは同一内容です。どれか1クラスしか履修できません。
※「初級」11は週2回の授業を同一教員が担当します。
朝鮮語は、日本語と語順が類似しており、共通する漢字語も多いため、日本語母語話者や日本語学習者にとって比較的に取り組みやすい言語であります。一方で、継続的な学習と着実な努力が求められる点は、他の外国語と同様であります。

秋学期の「初級」は、春学期の「入門」の基礎とした発展段階の科目であり、文法・文型事項が増加するため、学習内容の難易度も高まります。

本課目は週2回開講し、同一テキストを用いて2人の教員が分担して授業を行います。

授業の到達目標: 春学期「入門」に続き、本科目では、辞書を用いながら簡単なニュース記事等を読解できること、ならびに日常的な内容について基本的な会話ができることを到達目標とする。さらに、朝鮮語文献の講読を通して読解力を高めるとともに、自らの意思を簡潔に表現できる力の養成を目指す。

事前・事後学習の内容: 事前学習：各課の単語チェックおよび音声データを用いての音読練習（60分想定）
事後学習：各課終了後、翌週までにドリルや課題提出（60分想定）

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ＜14週/28回＞
1. オリエンテーション、春学期「入門」の復習
2. 第12課：用言の否定形（前置否定）「～しない」「～くない」／希望「～したい」／用言の活用（過去形）
3. 第13課：尊敬形（現在・過去）／依頼「～してください」
4. 第14課：並列（-고）／動作の連続（-아서／어서）／理由（-니까／으니까）＋依頼・指示・勧誘・意志
5. 第15課：不規則活用／理由（-아서／어서）
6. 中間試験および解説／第16課：動詞・存在詞の連体形（現在）

7. 第16課：形容詞・指定詞の連体形（現在）／第17課：動詞の連体形（過去）
8. 第17課：形容詞・指定詞の連体形（過去）／第18課：連体形（未来）
9. 第18課：未来・推量「～するつもりです」／可能・不可能表現
10. 第19課：連体形の応用「～するとき」／逆接「～だが」「～けれど」
11. 第19課：目的「～しに」／勧誘「～しましょうか」「～しませんか」／第20課：同時「～しながら」
12. 第20課：約束・意志表現／第21課：条件「～したら」「～すれば」
13. ※第21課：確認表現「～しますよね」「～でしょう」
※第22課：経験「～したことがあります」／時間表現
14. 期末試験および解説
※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合がある。また、第22課および第22課は状況に応じて扱わない場合がある。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「朝鮮語 入門・初級」パイロット版
大学生協への注文で該当教科書購入可能。

参考文献: 授業中にアナウンスします

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: ・試験：第13回目または14回目の授業時間内に期末試験を実施し、理解度を確認します。必要に応じて中間試験を実施する場合があります。

・平常点評価：毎回の授業内容の理解度確認のために、宿題提出および随時小テストを実施します。また、発音練習や会話活動を通して発話力を評価します。したがって、授業への参加度が非常に重要です。

・その他：成績評価は、各種試験（小テストを含む）の結果に加え、授業への参加状況、受講態度、出席状況（欠席・遅刻など）を含めて総合的に判断します。週2回のうち一方の授業のみに出席している場合、またはいずれかの試験を受験していない場合は、成績評価の対象外とします。

備考・関連URL：　初回ガイダンスにて、授業の進め方や履修上の注意事項等についてアナウンスします。履修登録者は必ず出席してください。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050503|01|9S06050503[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（準中級）　01		
担 当 教 員	貝森　時子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：
・初級の学習を終えた学生を対象とし、中級レベルの文法・語彙・発音・表現などを総合的に学習する授業です。
・テキストに沿って進め、必要に応じてプリントなど副教材を準備します。
・隔週で小テストを行い、学習した文法や単語の復習の時間をもうけます。
・実践的な語学力を身に着けるため、授業ではペアワークやグループワークを行います。

授業の到達目標：
・入門・初級での学習内容を定着させる。
・中級前半レベルの文法・語彙を身に着け、朝鮮語の「読む・書く・聞く・話す」の4技能をレベルアップさせる。
・教科書で学んだことを応用し、自分のことを自分の言葉で表現したり、簡単な内容の文章やコンテンツを理解できるようになる。

事前・事後学習の内容：
・各文法項目の復習、小テストの準備
・単語の学習
・聞き取り、作文などの課題

授業計画フリー入力サイン：
1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
第1回　オリエンテーション（自己紹介、授業の概要説明など）
第2回～第7回　第1～4課（適宜、初級の復習および補足を含む）
第8回　中間テスト
第9回～13回　第5～8課
第14回　期末テスト
※隔週で小テストを実施します。
※進度については状況に応じて変更する可能性があります。

言語区分：
0　　日本語　　Japanese

教科書：
金庚芬/丁仁京『チンチャ！チョアヘヨ！！韓国語2』（朝日出版社）
※教科書の前半部分を中心に使用し、後半は「中級01」の授業で使用する予定です。

参考文献：
必要に応じて授業中に提示

成績評価フリー入力サイン：
0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：
60　　中間・期末各30%

平常点評価：
40　　小テスト、課題提出状況、授業参加度など
3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。

備考・関連URL：
【履修登録について注意事項】
朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050503|02|9S06050503[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（準中級） 02		
担 当 教 員	尹 惠貞		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： ワンアクション

授業概要： この授業は、初級朝鮮語（韓国語）を履修した者、または同等の実力を持つ学生を対象とします。
初級で学んだ発音や文法事項を確認した上で、（準）中級の文法を学習し、多くの表現を用いることができるようにします。
教科書の内容を基本としながら、会話の練習（ペアワーク）を行い、聞取り練習の宿題を提出していただきます。
映像資料や絵本を見・触れ、言語文化である朝鮮語（韓国語）の理解を深め、さらに比較文化の対象である日本語についても考えていただきます。授業に積極的に参加する学生を、心から歓迎します。

授業の到達目標： 朝鮮語（韓国語）の（準）中級文法を習得することを一つの目標としますが、学んだ文法表現を使い会話ができ、自分の考えを言えることを到達目標とします。

事前・事後学習の内容： 週に1回、100分の授業を通して習得できる内容は、自ずと限られます。
【事前学習内容】授業で次回進む教科書の箇所を指定しますので、予習をし課題にも積極的に取り組んでいただきます（60分）。
【事後学習内容】習熟度を確認するため、筆記・口頭両方の小テストを行います（60分）。

授業計画フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー： 1. オリエンテーション： レベルチェック、韓国語で自己紹介する 第1課： 自己紹介

【初級の復習】

2. 第1課： 趣味や自分のことを話す。 第2課： （直近）予定を尋ねる。

3. 第3課： 買い物をする。

4. 第4課： 予定を話す。

5. 第5課： 日程を決める。

6. 1～5まで筆記の中間テスト、及び解説。

7. 第6課： 過去の出来事を述べる。

8. 第7課： 目上の人と話す。

9. 第8課： 尊敬の過去形で話す。

10. 第9課： 理由を話す。

11. 第10課： 状況を伝える。

12 第11課： 過去の経験を話す。

13. 第12課： 相手を誘う。

14. 6～12の確認期末テスト、及び解説。

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 朴庚卿ほか『ワンアクション韓国語』、朝日出版社、2023年(ISBN : 9784255557014)

参考文献： 必要に応じて提示します。

成績評価フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー： 授業態度（欠席・遅刻）：30%、小テスト・課題：30%、期末テスト：40%

備考・関連URL:　授業の内容や進度は、受講者の実力に伴い一部変更する場合があります。
欠席する場合は、必ず一報ください。

第8回6月8日、もしくは第9回15日にZoomで、韓国にいらっしゃるゲスト・スピーカーをお招きする予定です。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050503|03|9S06050503[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（準中級）　03		
担 当 教 員	龍野　沙代		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　初級クラスで学び終えたレベルの学生を対象とします。中級レベルの教科書を使用し、これまで学んだ語彙や文法を自然に使えるよう練習しながら、併せて、より高度なレベルの表現も学んでいきます。文法説明や基本的な練習はMoodleに配信する動画で行い、授業では、聞き取りや会話などを中心にコミュニケーションの技能を磨いていきます。

授業の到達目標：　初級レベルの語彙や文法を、より自然に使いこなせるようにします。朝鮮語の文体や発音、リズムの特徴に慣れ、朝鮮語を身近なことばにします。
やや難しい内容についても、語彙を調べながら文を組み立て、相手に伝えられるようにします。

事前・事後学習の内容：　教科書の文法事項や練習問題について、あらかじめMoodleに解説動画を配信します。必要に応じて利用し、事前・事後学習を行って授業に臨んでください。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　導入
授業の進め方を説明します。受講生へのインタビューを実施し、計画を立てます。これまでの学習内容の復習をし、習得度を確認します。

第2回　教科書第1課
尊敬表現の作り方について学びます。文法事項を確認後、聞き取りや書き取り練習をします。学んだ表現を用いて仲間と会話練習をします。

第3回　教科書第2課
原因・理由をあらわすいくつかの表現について学びます。文法事項を確認後、聞き取りや書き取り練習をします。学んだ表現を用いて仲間と会話練習をします。

第4回　教科書第1～2課まとめ、テーマ別学習①
第1～2課の書き取りクイズをします。仲間とテーマを決め、会話練習をします。自由発表（翻訳、創作、プレゼンなど）のテーマを相談・決定し、それぞれ作業計画を立て、作業を始めます。

第5回　教科書第3課
意思をあらわしたり、相手に提案する表現を学びます。文法事項を確認後、聞き取りや書き取り練習をします。学んだ表現を用いて仲間と会話練習をします。

第6回　教科書第4課
連用形を使ったさまざまな表現を学びます。文法事項を確認後、聞き取りや書き取り練習をします。学んだ表現を用いて仲間と会話練習をします。

第7回　教科書第3～4課まとめ、テーマ別学習②
第3～4課の書き取りクイズをします。仲間とテーマを決め、会話練習をします。自由発表の準備をすすめたり、発表日程を決めます。

第8回　教科書第5課
現在連体形と、これを使ったさまざまな表現を学びます。文法事項を確認後、聞き取りや書き取り練習をします。学んだ表現を用いて仲間と会話練習をします。

第9回　教科書第6課
未来連体形と、これを使ったさまざまな表現を学びます。文法事項を確認後、聞き取りや書き取り練習をします。学んだ表現を用いて仲間と会話練習をします。

第10回　教科書第5～6課まとめ、テーマ別学習③
第5～6課の書き取りクイズをします。仲間とテーマを決め、会話練習をします。自由発表の準備をすすめます。

第11回　発表①
それぞれが取り組んできたテーマについて、発表会をします。発表の感想などを仲間と共有します。

第12回　発表②
それぞれが取り組んできたテーマについて、発表会をします。発表の感想などを仲間と共有します。

第13回　発表③
それぞれが取り組んできたテーマについて、発表会をします。発表の感想などを仲間と共有します。

第14回　確認テスト
口頭で確認テストを実施します。詳細は学期中に相談し、決定します。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 金仁姫・金智英『レベルアップ！韓国語表現』 朝日出版社（生協で購入できます）

参考文献: 『朝鮮語辞典』（小学館）ないし各種電子辞書、各種翻訳アプリ

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30　書き取りクイズや音読テストを適宜実施します。

平常点評価: 35　授業での取り組み状況から評価します。

その他: 35　授業で取り組んだ課題も含めて、総合的に評価します。

備考・関連URL: ・受講生の習得度に差が出るため、上記の内容を変更することがあります。
・受講生各自の関心や能力を生かした発表（プレゼンテーション）をグループまたは個人単位で一度ずつお願いする予定です。テーマについては開講後、相談し、決定していきます。
・必要な授業資料はMoodleに配信します。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050503|04|9S06050503[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（準中級） 04		
担 当 教 員	崔 チョンア		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「朝鮮語（初級）」を履修した者、または同等の実力を持った人を対象とします。
これまで学んだ初級の文法事項を踏まえ、学習者が理解しにくい点や曖昧になりやすい事項を重点的かつ体系的に整理しながら，中級レベルへと進むための朝鮮語文法の基盤を固めます。

授業では、各テーマ別に関連する文法事項を学習するとともに、日本語との対照の観点も取り入れ、場面設定に基づくアクティビティを通して，実際の例や応用表現も身につけます。

また，授業内で2～4名でのアクティビティやクイズへの積極的な参加を求めます。

授業の到達目標: ・使用頻度が高く、かつ誤用しやすい文法事項を体系的に整理し，適切に運用できる。
・イントネーションの基本規則を理解・習得し、より自然な発話ができる。

事前・事後学習の内容: 事前学習：文法定着度を高めるため、テーマの内容を読み、知らない単語を調べてくる。
学習効率を考慮し、反転授業を行うことがあります。その場合は、履修前に単元の予習ビデオ＆予習クイズを終えてから授業に参加する
（Moodle利用）。
※ 全体で60～90分かかることを想定

事後学習：毎回の授業の始めに、前授業で扱ったトピックの小テストを行うので、履修後に配信される動画教材と学習張アプリを用いて復習をする。
※ 全体で60～90分かかることを想定

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 第1回：オリエンテーション、数詞の復習
第2回：原因理由の複文①（「-아서/어서」と「-고」、「-기 때문에」と「名詞 때문에」）
第3回：原因理由の複文②（「-아서/어서」と「-니까」）
第4回：指示・依頼（「-아 주세요/어 주세요」と「-(으)세요」）
第5回：道探し・地下鉄の乗り換え
第6回：群読活動（発音・イントネーションの強化）
第7回：確認テスト，グループプレゼンテーション
第8回：動詞の連体形およびその応用表現
第9回：手順の説明，形容詞連体形
第10回：色彩表現および人物の外見描写
第11回：談話表現（前触れ：「～だが」「～だから」「～するところに」）
第12回：約束・意志の表現
第13回：フィードバックの冊子，総復習
第14回：総括活動・理解度確認

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: プリント対応

参考文献: 必要に応じて提示します。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 70 期末テスト（または、中間・期末テスト）の成績

平常点評価: 30 授業参加度（ペアワーク、指名時の予習状況、宿題を含む）、予習および授業内課題（小テスト、音読など）

備考・関連URL: ・出席の最低基準を満たしていない者は、試験の成績に関わらず評価の対象とならないので注意すること（追試、レポート等による救済措置はなし）。
・欠席をする場合は、事前に連絡すること。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050503|05|9S06050503[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（準中級） 05		
担 当 教 員	文 珍瑛		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： この授業は、入門と初級を履修した学生と同等レベルの学生を対象にします。入門と初級で学んだ文法事項などを確認しながら、韓国語の読解と作文の力を伸ばします。韓国文化について学び、実際に日常会話で使われている言葉を用いて総合的かつ実践的な語学力の養成を目指します。但し、授業の進行度合いその他によって変更があり得ます。

授業の到達目標： 韓国語の文章を読解し、より自然な文章を作ることよを目標にします。

事前・事後学習の内容： 前回学んだ学習内容を復習してください。復習は60分が望ましいです。

授業計画フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
第1回： ガイダンス、復習
第2回： 第1課 믿음직스러운 김밥1

第3回： 第1課 믿음직스러운 김밥2

第4回： 作文1
第5回： 第2課 상상1
第6回： 第2課 상상2
第7回： 作文2
第8回： テスト1
第9回： 第3課 소통과 공감1
第10回： 第3課 소통과 공감2
第11回： 作文3
第12回： 第4課 호기심1
第13回： 第4課 호기심2、作文4
第14回： テスト2

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 金恵媛・文珍瑛著『文化で学ぶコリアン』白帝社、2023年。

参考文献： 韓日・日韓辞書

成績評価フリー入力サイン： 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 40 テスト

平常点評価： 20 授業への参加度

その他： 40 提出物

備考・関連URL： 【履修登録について注意事項】
朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050503|06|9S06050503[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（準中級）　06		
担 当 教 員	家永　祐子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　この授業は、初級を履修した学生を対象にします。
ネイティブスピーカーや上級者は対象にしておりません。
初級で学んだ文法を踏まえ、より高度な文法と自然な表現を身につけます。
そのためには、語彙を増やし、積極的に話すことが必要です。
また、学んだ文法・文型を用いて作文の練習をするとともに、さまざまなシチュエーションを設定して会話練習をします。
リスニングは、音楽や映像資料などを使って練習します。
より総合的かつ実践的な語学力の養成を目指します。

授業の到達目標：　日常会話で使う表現を身につけて、会話ができることと中級レベルの作文ができることを目標にします。

事前・事後学習の内容：　予習復習

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　文化体験の日程は、授業の進度により変更されることもあります。
学生のレベルに合わせて授業を進めますので、シラバス通り進められない可能性もあります。

第 1回：　ガイダンス、1課　教室で

第 2回：　2課　電話連絡

第 3回：　3課　約束/提案

第 4回：　4課　カフェ

第 5回：　5課　食べ物

第 6回：　まとめ

第 7回：　理解度の確認　1

第 8回：　文化体験

第 9回：　文化体験

第10回：　6課　電話注文

第11回：　7課　服

第12回：　8課　位置

第13回：　9課　経験

第14回：　理解度の確認　2、まとめ

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書：　カナタ韓国語学院著、『カナタKOREAN初級2』、国書刊行会（2013年）

参考文献：　韓国語・朝鮮語辞書

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	80	テスト(理解度の確認)を2回行います。 第7回と第14回に行います。
レポート:	10	課題、レビューシート
平常点評価:	10	ペアワークなど授業参加

備考・関連URL: 【履修登録について注意事項】
朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050503|07|9S06050503[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（準中級） 07		
担 当 教 員	徐 旻廷		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 初級朝鮮語を履修した者、または初級文法を学習した人を対象とします。これまで学んだ初級レベルの文法を固めながら、中級レベル文法(テキストの前半)に進みます。授業ではペアワークを取り入れ、学んだ内容を中心に会話トレーニングを行います。また、語彙力アップのため小テストを毎回実施します。様々な活動を通して、「聞く・話す・読む・書く」のスキルをバランスよく伸ばすことを目指しています。朝鮮語のみならず、朝鮮半島の歴史・社会・文化などについても学べるように「質問コーナー」を設けています。授業への積極的な参加を期待します。

授業の到達目標: TOPIK3~4級及びハングル能力試験3~4級レベルの文法の習得を目指します。

事前・事後学習の内容: 事前予習：毎課の「語彙と表現」を覚えておくこと。
事後学習：練習問題を書いたり、読む練習をすること。(30分以上)

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1回：オリエンテーション、初級の復習
第2回：第1課 何年度入学ですか。
第3回：第1課 何年度入学ですか。
第4回：第2課 韓国語を一生懸命勉強するつもりです。
第5回：第2課 韓国語を一生懸命勉強するつもりです。
第6回：第3課 あの靴、ちょっと見せてください。
第7回：中間試験
第8回：第4課 よく行く韓国料理のお店があれば紹介してください。
第9回：第4課 よく行く韓国料理のお店があれば紹介してください。
第10回：第5課 一緒に撮った写真を添付しました。
第11回：第5課 一緒に撮った写真を添付しました。
第12回：第6課 発表の時間に遅れてすみません。
第13回：第6課 発表の時間に遅れてすみません。
第14回：期末試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 『改訂版・韓国語の世界へ 初中級編』 李潤玉 /酒勾康裕 /須賀井義教 /睦宗均 /山田恭子（朝日出版社）

参考文献: 必要に応じて提示します。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 試 験：70%（中間30%+期末40%）
平常点：30%（出欠10%+授業参加度および小テスト20%）

備考・関連URL: 【履修登録について注意事項】
朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050503|08|9S06050503[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（準中級） 08		
担 当 教 員	安 垠姫		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 初級レベルの既習事項を確認し、さらに準中級レベルの文法・語彙・慣用的な表現などを学びます。日韓のコミュニケーションスタイルの違いを理解し、円滑なコミュニケーションが取れるようにします。韓国に関する映像資料などを鑑賞し、言語と文化への理解も深めます。関心テーマでミニスピーチを行い、自分の意見を正確に伝える練習も行います。

授業の到達目標: ハングル能力検定試験4級～3級、TOPIK3～4級レベルの実力を身につけることを目標にします。韓国語らしい表現を習得し、中級レベルの文章力・読解力・会話力を身につけ、総合的な実力を養います。

事前・事後学習の内容: テキスト内容の復習と予習を行う。テキストのCDを聞いたり、読み練習をする。与えられた課題を行って提出する。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
1. オリエンテーション(自己紹介、初級文法の復習など)
2. フランスから来ました。(過去形, 進行形, 仮定形, 願望)①
3. フランスから来ました。(過去形, 進行形, 仮定形, 願望)②
4. ご家族は何名でいらっしゃいますか。(尊敬形, 並列, 感嘆)①
5. ご家族は何名でいらっしゃいますか。(尊敬形, 並列, 感嘆)②
6. 金ミンスさんのお宅でしょうか。(尊敬形, 確認, 婉曲)①
7. 金ミンスさんのお宅でしょうか。(尊敬形, 確認, 婉曲)②
8. 中間テスト, 文化の理解
9. 野菜が多くて体にも良いです。(否定形, ㅂ変則, 理由, 選択意志)①
10. 野菜が多くて体にも良いです。(否定形, ㅂ変則, 理由, 選択意志)②
11. 夏休みの時に何をするつもりですか。(予定, 意志・推量, 現在連体形, 目的)①
12. 夏休みの時に何をするつもりですか。(予定, 意志・推量, 現在連体形, 目的)②
13. 総復習
14. 期末テスト

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 『おはよう韓国語 2 (2024年度第2版) 最新版 』崔柄珠著, 朝日出版社

参考文献: 必要に応じて提示します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 70 中間・期末テスト

平常点評価: 30 小テスト、課題、発表、授業への参加度など。(遅刻・欠席も減点対象となる)

備考・関連URL: ・中級の授業は、実力の異なる学生が集まりますので、それを勘案しながら授業を進めることになります。したがって、授業の内容や進度は、シラバス通りに進めることが難しい場合、適宜変更します。出席の最低基準を満たしていない者は、試験の成績に関わらず評価の対象とならないので注意すること(追試、レポート等による救済措置はなし)。
・欠席をする場合は、事前に連絡すること。

【履修登録について注意事項】
朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050503|09|9S06050503[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（準中級） 09		
担 当 教 員	全 東園		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

*この科目は、朝鮮語の初級を終えた学生が対象となる。
・初級で学習した文法や語彙などを復習する。
・準中級の文法事項や語彙、表現などを覚える。
・朝鮮語の音読練習をする。
・文献・映像などの資料を用いて、朝鮮語だけでなく「韓国人・韓国社会」に関する全般的な理解度を深める。

授業の到達目標:

・学習した内容の文法を理解する。
・語彙と表現をたくさん覚える。
・音読の練習を通して、朝鮮語をすらすら読めるようにする。
・「読む、聞く、書く、話す」能力の全般的な向上を目指す。

事前・事後学習の内容:

*以下の内容は、毎回、授業中で確認(小テスト等)してから授業に進むので、必ず復習してください。
・学習した語彙を覚える。
・学習した文型を用いて、自分で朝鮮語の作文を10個程度作ってみる。
・授業中で学習した資料の音読練習をする。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回： オリエンテーション
授業の内容や進み方などを説明する。
第2回： 第1課「私の友達を紹介します。」Ⅰ
文法の説明と語彙暗記のための練習をする。
第3回： 第1課「私の友達を紹介します。」Ⅱ
会話を中心に練習する。
第4回： 第2課「メールアドレスも教えてください。」Ⅰ
文法の説明と語彙暗記のための練習をする。
第5回： 第2課「メールアドレスも教えてください。」Ⅱ
会話を中心に練習する。
第6回： 第3課「今日の昼ごはん、何にしましょうか？」Ⅰ
文法の説明と語彙暗記のための練習をする。
第7回： 第3課「今日の昼ごはん、何にしましょうか？」Ⅱ
会話を中心に練習する。
第8回： 第4課「1号線に乗れば仁寺洞に行きますか？」Ⅰ
文法の説明と語彙暗記のための練習をする。
第9回： 第4課「1号線に乗れば仁寺洞に行きますか?」Ⅱ
会話を中心に練習する。
第10回： 第5課「一回、履いてみてもいいですか？」Ⅰ
文法の説明と語彙暗記のための練習をする。
第11回： 第5課「一回、履いてみてもいいですか?」Ⅱ
会話を中心に練習する。
第12回： 第6課「一緒に明洞に行きませんか?」Ⅰ
文法の説明と語彙暗記のための練習をする。

第13回： 第6課「一緒に明洞に行きませんか?」Ⅱ
会話を中心に練習する。
第14回:「期末評価」
この授業で学習した音読、語彙、文型などの総合テストを行う。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 睦 宗均、須賀井 義教、小島 大輝 著『ロールプレイで学ぶ韓国語 初級から中級へ』白水社、2019年

参考文献: 特になし

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: *評価の基準は毎回の「平常点」と「期末テスト」で評価する。
・平常点(課題提出と小テスト)50%
・期末テスト(筆記テストと音読テスト)50%

備考・関連URL: 【履修登録について注意事項】
朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050503|10|9S06050503[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（準中級） 10		
担 当 教 員	金 牡蘭		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本授業では、朝鮮語（初級）を履修した学習者、あるいは同等の実力を持った人を対象に、初級から中級への実力向上を目指す。初級で学んだ学習事項を基本とし、応用的な初級以降の文法や表現、語彙を総合的に身に着けていく。授業ではペアワークやグループワークを頻繁に取り入れ、受講者が朝鮮語で話し合う機会を多く持てるようにする。そのため、受講者にはこのような授業活動に積極的に参加することが求められる。これらの活動を通じて、日常生活における朝鮮語コミュニケーション能力を伸ばすとともに、朝鮮半島の社会・文化に関する理解を深めることが本授業の目標である。

授業の到達目標: ・初級・中級の語彙と表現を身に着け、日常生活において朝鮮語でコミュニケーションすることができる。
・言語の学習とともに朝鮮半島の社会・文化に関する理解を深め、主体的かつ能動的に異文化に接することができる。

事前・事後学習の内容: ・事前学習：教科書の学習予定部分の知らない語彙を調べてくる。
・事後学習：授業内容を振り返りながら授業後課題を作成し、MOODLEに提出する。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（本講義の目的と概要）、受講者の自己紹介
第2回
第1課 一緒に勉強することになって嬉しいです①：-게 되다, -아/어서, -(으)려고 하다
第3回
第1課 一緒に勉強することになって嬉しいです②：-지만, -거든요, -(으)려고
第4回
第2課 私が先輩じゃないですか：-ㄹ/을까요?, -ㄹ/을게요, -잖아요, -는, -ㄴ/은, -ㄴ/은 적이 있다/없다
第5回
第3課 右に曲がってまっすぐ行けばいいです①：-(으)면, -아/어서요, -(으)면 되다/안 되다
第6回
第3課 右に曲がってまっすぐ行けばいいです②：-ㄹ/을 것이다, -는데&-ㄴ/은데, -ㄴ/은 지
第7回
理解度の確認とそのフィードバック
第8回
第4課 映画を観に行きませんか①：-ㄴ/은 뒤(에), -(으)러 안 갈래요?, -(으)려고요
第9回
第4課 映画を観に行きませんか②：-아/어야 하다/되다, -기로 하다, -(이)라서
第10回
第5課 韓国語で翻訳するのが夢ですから①：-ㄴ/은가요?, -(이)고요, -(이)라서요
第11回
第5課 韓国語で翻訳するのが夢ですから②：아직 못 -았/었어요, -ㄹ/을 수 있다/없다, -아/어도 되다/

第12回
第6課　グッズ販売を手伝う仕事のようです①:-네요, -ㄹ/을 수 있겠다, -아/어 보고 싶다
第13回
第6課　グッズ販売を手伝う仕事のようです②:-ㄹ/을까 하다, -(으)면 좋겠다, -지 않을까 하다
第14回
理解度の確認とそのフィードバック

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　金京子『話してみよう韓国語 中級会話コース』白水社、2024

参考文献:　必要に応じて授業で提示する。

成績評価フリー入力サイン:　0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　60　理解度の確認（中間テスト・期末テスト）の成績

平常点評価:　40　授業活動への参加とその評点、小テストなど。

備考・関連URL:　・出席の最低基準を満たしていない履修者は、試験結果に関わらず評価の対象としないので注意すること（追試及びレポート等による救済措置はない）。

【履修登録について注意事項】
朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050503|11|9S06050503[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（準中級） 11		
担 当 教 員	鄭 宇鎭		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 韓国語読解（準中級）

授業概要: 本授業では『韓国語』（入門・初級）に出ていない新出の文法（の意味）や語彙項目（の意味）を学習しつつも『韓国語』（入門・初級）で習得した文法や語彙項目をも用いながら（準）中級韓国語文章の読解（と音読）ができる語学能力を身につけます。

授業の到達目標: 学生は、比較的平易な韓国語の文章を自分で読み取り、内容を理解できるようになります。
学生は、（準）中級レベルの文章を自然な発音、イントネーションで音読できるようになります。
学生は、初級で身に着けた文法知識を発展させ、実践的な読解ができるようになります。
学生は、使用頻度のきわめて高い基本的な語彙、表現を体系的に習得し、準中級レベルの韓国語文章を読み取ることができます。

事前・事後学習の内容: [事前学習]
学習する箇所の韓国語文章の発音記入および日本語訳（60分想定）

[事後学習]
『参考文献』に紹介する学習書や辞書を参考にして、授業で学んだ箇所に出てくる語彙や文法に関するノート作成（60分～120分想定）
（ノート作成には、新出の語彙や文法の実例調査やオリジナル作文が含まれる場合がある）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ガイダンス、第1課 春を知らせる花（봄을 알리는 꽃）（1）
オリエンテーション（本講義の目的と概要） ／ 本講義の目的と概要について説明します。第1課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第2回 第1課 春を知らせる花（봄을 알리는 꽃）（2）
第1課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第3回 小テスト① ／ 第2課 五月病と月曜病（오월병과 월요병）（1）
第1課の小テストを実施します。第2課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第4回 第2課 五月病と月曜病（오월병과 월요병）（2）
第2課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第5回 小テスト② ／ 第3課 5月の記念日（오월의 기념일）（1）
第2課の小テストを実施します。第3課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第6回 第3課 5月の記念日（오월의 기념일）（2）
第3課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第7回 小テスト③ ／第4課 出前文化（배달 문화）（1）
第3課の小テストを実施します。第4課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第8回 第4課 出前文化（배달 문화）（2）
第4課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第9回 小テスト④ ／ 第5課 七五三、韓国では？（시치고산, 한국에서는?）（1）
第4課の小テストを実施します。第5課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第10回 第5課 七五三、韓国では？（시치고산, 한국에서는?）（2）
第5課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第11回 小テスト⑤ ／第6課 食事のマナー（식사 예절）（1）
第5課の小テストを実施します。第6課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第12回　第6課 食事のマナー(식사 예절)(2)
第6課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。
第13回　第6課 食事のマナー(식사 예절)(3)
第6課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。
第14回　総まとめおよび期末試験(理解度の確認)
総まとめおよび期末試験(理解度の確認)

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　『読みたい韓国語一初級から中級へ一』金美仙(著)、朝日出版社、2021年

参考文献:　紙辞書は中級以上の学習にも対応できる『朝鮮語辞典』(小学館)が薦められる。
電子辞書タイプはカシオEx-Wordが使いやすし、スマホからだとNaver辞書アプリがもっとも一般的に使われている。

・安辰明・李炅雅・韓厚英(著)[吉本一・中島仁(訳)](2012)『実用韓国語文法:初級』DARAKWON.
(安辰明(著)(2021)『実用韓国語文法:初級』IBCパブリッシング.)

・閔珍英・安辰明(著)[吉本一・中島仁(訳)](2013)『実用韓国語文法:中級』DARAKWON.
(安辰明(著)(2021)『実用韓国語文法:中級』IBCパブリッシング.)

・安辰明・宣恩姫(著)[吉本一・中島仁(訳)](2013)『実用韓国語文法:上級』DARAKWON.
(安辰明(著)(2021)『実用韓国語文法:上級』IBCパブリッシング.)

・中島仁(2021)『これなら分かる韓国語文法:入門から上級まで』NHK出版.

成績評価フリー入力サイン:　1:フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー:　期末試験(音読評価を含む):30%
小テスト(音読評価を含む):30%
ノート作成の出来:20%
平常点:20%(平常点は授業への積極的参加、出席率が含まれます。)

備考・関連URL:　この進行予定(授業計画)はあくまでも目安であり、変更される場合があります。

【履修登録について注意事項】　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050503|12|9S06050503[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（準中級） 12		
担 当 教 員	姜 多映		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ・「朝鮮語（初級）」を履修した者、または同等の実力を持った人を対象とする。・初級で学習した内容を固めながら、準中級レベルの文法や語彙を学習する。
・授業は基本的にテキストに沿って行う。
・適宜ペアワークを行い、学んだ内容を定着させる。

授業の到達目標: ・準中級レベルの文法や語彙を身につけ、それらを用いて会話・作文ができるようにする。
・場面や相手に相応しい表現を身につけ、情報のやり取りができるように練習する。
・口頭練習の際、発音規則に従って正しく発音できるように心がける。
・総合的な口頭・聴解・作文の学習活動を通して、「聞く・話す・読む・書く」の四技能をバランスよく身につけることを目指す。

事前・事後学習の内容: ・予習：新しい単語の意味と発音を確認しておく。
・復習：毎回小テストを実施する。学習内容をしっかり理解し、暗記すること。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション、第1課 컴퓨터 수업을 들을 거예요①
第2回
第1課 컴퓨터 수업을 들을 거예요②
第3回
第2課 초록색 모자를 쓰고 있어요①
第4回
第2課 초록색 모자를 쓰고 있어요②
第5回
第3課 3번 버스로 갈아타세요①
第6回
第3課 3번 버스로 갈아타세요②
第7回
中間試験：理解度の確認
第8回
第4課 비가 많이 오니까 오늘은 가지 마세요①
第9回
第4課 비가 많이 오니까 오늘은 가지 마세요②
第10回
第5課 제가 하나 씨한테 연락할게요①
第11回
第5課 제가 하나 씨한테 연락할게요②
第12回
第6課 할머니께서 일본에 오셨어요①
第13回
第6課 할머니께서 일본에 오셨어요②
第14回
期末試験：理解度の確認

言語区分:	0	日本語	Japanese
教科書:	朴珍姫・李順蓮・金菊熙（2025）『とくとく韓国語2』朝日出版社		
成績評価フリー入力サイン:	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）		
試験:	80	中間試験：40%、期末試験40%	
平常点評価:	20	授業態度・小テスト・課題を総合的に評価する	

備考・関連URL: 【履修登録について注意事項】
朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050503|14|9S06050503[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（準中級） 14		
担 当 教 員	中島 仁		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： この授業は、初級を履修した者、または同等の実力を持った人を対象とします。初級で習得した基本的な知識を土台に、中級レベルの学習項目（テキストの前半）の学習、定着を図ります。
朝鮮語の運用能力の向上のため、作文や会話活動（ペアワーク、グループワーク等）も多く取り入れます。
ことばだけではなく、韓国の文化・社会についての理解も深めます。

授業の到達目標： 中級前半レベルの学習項目を習得し、自分のことを自分の言葉で表現したり、簡単な文章の読解ができるようになることを目標とします。

事前・事後学習の内容： 事前学習：授業前に学習内容を把握しておく。新出単語の意味を調べておく。（30～60分かかることを想定）
事後学習：当日学習した内容を再確認し復習する。各課の本文は声を出し読む練習をする。
課題や小テストの勉強はしっかりしておく。（30分以上）

授業計画フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
第1回：8A/8B 否定形、不可能形
第2回：9A/9B 過去形
第3回：10A 可能、希望
第4回：10B 継続、位置
第5回：11A 尊敬形
第6回：11B 特殊な尊敬形
第7回：中間試験、理解度の確認
第8回：12A 連体形①、感嘆
第9回：12B 連体形②、経験、目的
第10回：13A 連体形③、試み、意図
第11回：13B 連体形④、意志・推量
第12回：14A 接続形（先行、並列、理由）
第13回：14B 接続形（逆接、理由）
第14回：期末試験、理解度の確認

※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合があります。

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 『新・韓国語へのとびら』、中島仁・金珉秀・吉本一著（朝日出版社）

参考文献： 必要に応じて提示します。

成績評価フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：
成績評価方法
試 験：60%（中間30%+期末30%）
平常点：40%（出欠20%+授業参加度および小テスト20%）

備考・関連URL： ・上記の授業計画は学習状況により変更になることがある。
・出席の最低基準を満たしていない者は、試験の成績に関わらず評価の対象とならないので注意すること（追試、レポート等による救済措置はなし）。

【履修登録について注意事項】
朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050504|01|9S06050504[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（中級）　01		
担 当 教 員	貝森　時子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　・準中級レベルの学習を終えた学生を対象とし、中級レベルの文法・語彙・発音・表現などを総合的に学習する授業です。
・テキストに沿って進め、必要に応じてプリントなど副教材を準備します。
・隔週で小テストを行い、学習した文法や単語の復習の時間をもうけます。

・実践的な語学力を身に着けるため、授業ではペアワークやグループワークを行います。

授業の到達目標：　・入門・初級～準中級での学習内容を定着させる。
・中級後半レベルの文法・語彙を身に着け、朝鮮語の「読む・書く・聞く・話す」の4技能をレベルアップさせる。
・教科書で学んだことを応用し、自分のことを自分の言葉で表現したり、簡単な内容の文章やコンテンツを理解できるようになる。

事前・事後学習の内容：　・各文法項目の復習、小テストの準備
・単語の学習
・聞き取り、作文などの課題

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

第1回　オリエンテーション（自己紹介、授業の概要説明など）
第2回～第7回　9～13課
第8回　中間テスト
第9回～第13回　14～18課
第14回　期末テスト
※隔週で小テストを実施します。
※進度は状況に応じて変更する可能性があります。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　金庚芬/丁仁京『チンチャ！チョアヘヨ！！韓国語2』（朝日出版社）
準中級01で前半を扱い、中級01ではその続きから扱う予定です。

参考文献：　必要に応じて授業中に提示

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　60　中間・期末各30%

平常点評価：　40　小テスト、課題提出状況、授業参加度など

3分の2以上の出席が認められない場合は評価の対象になりません。

備考・関連URL：　【履修登録について注意事項】
朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050504|02|9S06050504[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（中級） 02		
担 当 教 員	尹 惠貞		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： ワンアクション

授業概要： この授業は、準中級朝鮮語（韓国語）を履修した者、または同等の実力を持つ学生を対象とします。
準中級で学んだ発音や文法事項を確認した上で、中級の文法を学習し、多くの表現を用いることができるようにします。
教科書の内容を基本としながら、会話の練習（ペアワーク）を行い、作文練習の宿題を提出していただきます。映像資料や絵本を見・触れ、言語文化である朝鮮語（韓国語）の理解を深め、さらに比較文化の対象である日本語についても考えていただきます。授業に積極的に参加する学生を、心から歓迎します。

授業の到達目標： 朝鮮語（韓国語）の中級文法を習得することを一つの目標としますが、学んだ文法表現を使い会話ができ、自分の考えを言えることを到達目標とします。

事前・事後学習の内容： 週に1回、100分の授業を通して習得できる内容は、自ずと限られます。
【事前学習内容】授業で次回進む教科書の箇所を指定しますので、予習をし課題にも積極的に取り組んでいただきます(60分)。
【事後学習内容】習熟度を確認するため、筆記・口頭両方の小テストを行います（60分）。

授業計画フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
1. オリエンテーション： 春の習得事項をチェック、 第13課： 状況を推測する
2. 第13課： 推測を会話で使う。 第14課： 可能表現を話す。
3. 第14課： 可能表現を会話で使う。 第15課： 許可を求める。
4. 第15課： 許可を会話で使う。 第16課： 時間の経過を話す。
5. 第16課： 時間の経過を会話で使う。 ここまでの復習。
6. 13～16まで筆記の中間テスト、及び解説。
7. 第17課： 変化を話す。
8. 第17課： 変化を会話で使う。 第18課：病気の症状を話す。
9. 第18課： 病気の症状を会話で使う。 第19課：計画を話す。
10. 第19課： 計画を会話で使う。 第20課：助言をする。
11. 第20課： 助言を会話で使う。
12 17～20までの復習。
13. 17～20までの期末テスト。
14. 期末テストの解説。 感想を韓国語で述べる。

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 朴庾卿ほか『ワンアクション韓国語』、朝日出版社、2023年(ISBN : 9784255557014)

参考文献： 必要に応じて提示します。

成績評価フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー： 授業態度（欠席・遅刻）：30%、小テスト・課題：30%、期末テスト：40%

備考・関連URL： 授業の内容や進度は、受講者の実力に伴い一部変更する場合があります。

欠席する場合は、必ず一報ください。

第8回11月23日もしくは、第9回30日にZoomで、韓国にいらっしゃるゲストスピーカーをお招きする予定です。

【履修登録について注意事項】 朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050504|03|9S06050504[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（中級） 03		
担 当 教 員	龍野 沙代		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 準中級クラスで学び終えたレベルの学生を対象とします。中級レベルの教科書で新たな表現を学びながら、やや難しい文章にも対応できる力をつけます。文法説明や基本的な練習はMoodleに配信する動画で行い、授業では、朝鮮語による発話練習に力を入れ、コミュニケーションの技能を高めます。

授業の到達目標: 日常生活や学校生活でよく使われる語彙や表現を十分に理解し、自然に使えるレベルを目指します。朝鮮語を聞き、話すことに慣れます。自分の意見や感想を伝え、また相手のそれを聞き取って、対話できるようにします。

事前・事後学習の内容: 教科書の文法事項や練習問題について、あらかじめMoodleに解説動画を配信します。必要に応じて利用し、事前・事後学習を行って授業に臨んでください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 導入

授業の進め方を説明します。また、書き取りや音読、仲間との会話でウォーミングアップします。

第2回 教科書第7課

過去連体形を用いた表現を学びます。文法事項を確認後、聞き取りや書き取り練習をします。学んだ表現を用いて仲間と会話練習をします。

第3回 教科書第8課

希望と提案の表現を学びます。文法事項を確認後、聞き取りや書き取り練習をします。学んだ表現を用いて仲間と会話練習をします。

第4回 教科書第7～8課まとめ、テーマ別学習①

第7～8課の書き取りクイズをします。仲間とテーマを決め、会話練習します。自由発表（翻訳、創作、プレゼンなど）のテーマを相談・決定し、それぞれ作業計画を立て、作業を始めます。

第5回 教科書第9課

未来連体形を用いた可能の表現を学びます。文法事項を確認後、聞き取りや書き取り練習をします。学んだ表現を用いて仲間と会話練習をします。

第6回 教科書第10課

過去の経験や回想の表現を学びます。文法事項を確認後、聞き取りや書き取り練習をします。学んだ表現を用いて仲間と会話練習をします。

第7回 教科書第9～10課まとめ、テーマ別学習②

第9～10課の書き取りクイズをします。仲間とテーマを決め、会話練習します。自由発表の準備を進めたり、発表日程を決めます。

第8回 教科書第11課

引用の表現を学びます。文法事項を確認後、聞き取りや書き取り練習をします。学んだ表現を用いて仲間と会話練習をします。

第9回 教科書第12課

パンマル（ぞんざいな話し方）について学びます。文法事項を確認後、聞き取りや書き取り練習をします。学んだ表現を用いて仲間と会話練習をします。

第10回 教科書第11～12課まとめ、テーマ別学習③

第11～12課の書き取りクイズをします。仲間とテーマを決め、会話練習します。自由発表の準備をすすめます。

第11回 発表①

それぞれが取り組んできたテーマについて、発表会をします。発表の感想などを仲間と共有します。

第12回　発表②
それぞれが取り組んできたテーマについて、発表会をします。発表の感想などを仲間と共有します。
第13回　発表③、振り返り
それぞれが取り組んできたテーマについて、発表会をします。発表の感想などを仲間と共有します。
教科書で習った文法事項や、仲間と交わした会話を振り返り、学習のまとめをします。
第14回　確認テスト
口頭で確認テストをします。詳細は学期中に相談し、決定します。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 金仁姫・金智英『レベルアップ！韓国語表現』 朝日出版社（生協で購入できます）

参考文献: 『朝鮮語辞典』（小学館）ないし各種電子辞書、各種翻訳アプリ

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30　書き取りクイズや音読テストを適宜実施します。

平常点評価: 35　授業での取り組み状況から評価します。

その他: 35　授業で取り組んだ課題も含めて、総合的に評価します。

備考・関連URL: ・受講生の習得度に差が出るため、上記の内容を変更することがあります。
・受講生各自の関心や能力を生かした発表（プレゼンテーション）をグループまたは個人単位で一度ずつお願いする予定です。テーマについては開講後、相談し、決定していきます。
・必要な授業資料はMoodleに配信します。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050504|04|9S06050504[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（中級） 04		
担 当 教 員	崔 チョンア		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

「朝鮮語（準中級）」を履修した者、または同等の実力を有する学習者を対象とします。
本授業では、準中級で学んだ内容を踏まえ、中上級レベルへの発展を視野に入れながら、文法事項を体系的に整理し、より精緻な運用力の習得を目指します。

授業では、テーマ別に文法事項を扱うと共に、日本語との対照の観点を取り入れ、場面設定に基づくアクティビティを通して応用力を高めます。

また、このクラスでは発音の変化や音読練習を積極的に行い、イントネーションを含めた総合的な発話能力の向上を図ります。授業への積極的参加を求めます。

授業の到達目標: ・準中級で扱った内容を踏まえ、使用頻度が高く、誤用しやすい文法事項を体系的に整理し、文脈に応じて適切に運用できる。
・イントネーション規則を理解・実践し、自身の発話を客観的に振り返り、修正できる。

事前・事後学習の内容: 事前学習：文法定着度を高めるため、知らない単語を事前に調べてくる。
学習効率を考慮し、 反転授業を行うことがあります。その場合は、履修前に単元の予習ビデオ＆予習クイズを終えてから授業に参加する（Moodle利用）。
※ 全体で60～90分かかることを想定

事後学習：毎回の授業の始めで、前授業で扱ったトピックの小テストを行うので、履修後に配信される動画教材と学習張アプリを用いて復
習をする。
※ 全体で60～90分かかることを想定

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1回：オリエンテーション、準中級内容の復習
第2回：多様な数詞表現
第3回：感嘆表現（「-네요」と「-군요」）
第4回：誤りと後悔の表現
第5回：経験表現および確認表現
第6回：話し手・聞き手の意志や意向を表す表現
第7回：決心表現（「～することにする」）および発表
第8回：理解度の確認（前半のまとめ）
第9回：文化提案①（日本と韓国の住居）／伝達様式（「～だそうです」「～らしい」）
第10回：フィードバック資料の配布およびディスカッション
第11回：プレゼンテーション
第12回：文化②（日本と韓国の衣服生活）／推測（「～ようだ」「～そうだ」）
第13回：フィードバック資料の配布およびディスカッション
第14回：プレゼンテーションおよび確認テスト

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: プリント対応

参考文献: 必要に応じて授業中に提示する。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 70 期末テスト（または、中間・期末テスト）の成績

平常点評価: 30 授業参加度（ペアワーク、指名時の予習状況、宿題を含む）、予習および授業内課題（小テスト、音読など）

備考・関連URL:　・出席の最低基準を満たしていない者は、試験の成績に関わらず評価の対象とならないので注意すること（追試、レポート等による救済措置はなし）。
・欠席をする場合は、事前に連絡すること。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050504|05|9S06050504[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（中級） 05		
担 当 教 員	文 珍瑛		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： この授業は、準中級を履修した学生と同等レベルの学生を対象にします。準中級で学んだ文法事項などを確認しながら、韓国語の読解と作文の力を伸ばします。韓国文化について学び、実際に日常会話で使われている言葉を用いて、総合的かつ実践的な語学力の養成を目指します。但し、授業の進行度合いその他によって変更があり得ます。

授業の到達目標： 韓国語の文章を読解し、より自然な文章を作ることよを目標にします。

事前・事後学習の内容： 前回学んだ学習内容を復習してください。復習は60分が望ましいです。

授業計画フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
第1回： ガイダンス、第5課 n개의 디어 마이셀브즈1
第2回： 第5課 n개의 디어 마이셀브즈2

第3回： 作文1

第4回： 第6課 놀라운 신세계1
第5回： 第6課 놀라운 신세계2
第6回： 作文2、
第7回： テスト1
第8回： 第7課 대인관계1
第9回： 第7課 대인관계2
第10回： 作文3
第11回： 第8課 소소한 발견1
第12回： 第8課 소소한 발견2
第13回： 作文4
第14回： テスト2

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 金恵媛・文珍瑛著『文化で学ぶコリアン』白帝社、2023年。

参考文献： 韓日・日韓辞書

成績評価フリー入力サイン： 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 40 テスト

平常点評価： 20 授業への参加度

その他： 40 提出物

備考・関連URL： 【履修登録について注意事項】
朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050504|06|9S06050504[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（中級） 06		
担 当 教 員	家永 祐子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： この授業は、初級を履修した学生を対象にします。
ネイティブスピーカーや中級以上の方は対象にしておりません。
春学期に引き続き、中級レベルの文法と自然な表現を身につけます。
また、学んだ文法・文型を用いて作文の練習をするとともに、さまざまなシチュエーションを設定して会話の練習をします。
リスニングは、音楽や映像資料などを使って練習します。
より総合的かつ実践的な語学力の養成を目指します。

授業の到達目標： 受講生全員が、それぞれテーマを決め作文してスピーチができることを目標にします。

事前・事後学習の内容： 予習復習

授業計画フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー： 文化体験の日程は授業進度により変更されることもあります。
学生のレベルに合わせて授業を進めますので、シラバス通り進められない可能性もあります。

第 1回： ガイダンス、10課 品物の紹介
第 2回： 10課 品物の紹介
第 3回： 11課 友たち紹介
第 4回： 12課 春の表現
第 5回： 13課 夏の表現
第 6回： 復習
第 7回： 理解度の確認 1
第 8回： 文化体験
第 9回： 文化体験
第10回： 14課 秋の表現
第11回： 15課 冬の表現
第12回： 16課 韓国語の経歴
第13回： 17課 お願い
第14回： 理解度の確認 2

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： カナタ韓国語学院著、『カナタKOREAN初級2』、国書刊行会（2013年）

参考文献： 韓国語、朝鮮語辞書

成績評価フリー入力サイン： 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 80 テスト（理解度の確認）を2回行います。
第7回と第14回に行います。

レポート： 10 課題、レビューシート

平常点評価： 10 ペアワークなどの授業参加

備考・関連URL： 【履修登録について注意事項】 朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050504|07|9S06050504[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（中級） 07		
担 当 教 員	徐 旻廷		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 準中級朝鮮語を履修した者、または初級文法を学習した人を対象とします。これまで学んだ初級レベルの文法を固めながら、中級レベル文法(テキストの後半)に進みます。授業ではペアワークを取り入れ、学んだ内容を中心に会話トレーニングを行います。また、語彙力アップのため小テストを毎回実施します。様々な活動を通して、「聞く・話す・読む・書く」のスキルをバランスよく伸ばすことを目指しています。朝鮮語のみならず、朝鮮半島の歴史・社会・文化などについても学べるように「質問コーナー」を設けています。授業への積極的な参加を期待します。

授業の到達目標: TOPIK3~4級及びハングル能力試験3~4級レベルの文法の習得を目指します。

事前・事後学習の内容: 事前予習：毎課の「語彙と表現」を覚えておくこと。
事後学習：練習問題を書いたり、読む練習をすること。(30分以上)

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1回：オリエンテーション、準中級の復習
第2回：第7課 暑い夏にサムゲタンを食べます。
第3回：第7課 暑い夏にサムゲタンを食べます。
第4回：第8課 重くないので一人でしますよ。
第5回：第8課 重くないので一人でしますよ。
第6回：第8課 パソコンちょっと借りてもいいですか。
第7回：中間試験
第8回：第10課 リムジンバスの方がいいでしょうね。
第9回：第10課 リムジンバスの方がいいでしょうね。
第10回：第11課 陶磁器も作ってみましたか。
第11回：第11課 陶磁器も作ってみましたか。
第12回：第12課 韓国の会社に就職しようと思っています。
第13回：第12課 韓国の会社に就職しようと思っています。
第14回：期末試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 『改訂版・韓国語の世界へ 初中級編』 李潤玉 /酒勾康裕 /須賀井義教 /睦宗均 /山田恭子（朝日出版社）

参考文献: 必要に応じて提示します。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 試 験：70%（中間30%+期末40%）
平常点：30%（出欠10%+授業参加度および小テスト20%）

備考・関連URL: 【履修登録について注意事項】
朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050504|08|9S06050504[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（中級） 08		
担 当 教 員	安 垠姫		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:
既習事項を復習し、さらに中級レベルの文法・語彙・慣用的な表現を学びます。日韓のコミュニケーションスタイルの違いを理解し、円滑なコミュニケーションが取れるようにします。韓国に関する映像資料などを鑑賞し、言語と文化への理解も深めます。関心テーマでミニスピーチを行い、自分の意見を正確に伝える練習も行います。

授業の到達目標: ハングル能力検定試験4級～3級、TOPIK3～4級レベルの実力を身につけることを目標にします。韓国語らしい表現を習得し、中級レベルの文章力・読解力・会話力を身につけ、総合的な実力を養います。

事前・事後学習の内容: テキスト内容の復習と予習を行う。テキストのCDを聞いたり、読み練習をする。与えられた課題をやって提出する。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
1. オリエンテーション、既習事項の復習
2. どのように行けばいいですか。（許可，ㄹ語幹，尊敬形の過去形，理由）①
3. どのように行けばいいですか。（許可，ㄹ語幹，尊敬形の過去形，理由）②
4. 写真添付しますよ。（可能形，過去連体形，約束意志）①
5. 写真添付しますよ。（可能形，過去連体形，約束意志）②
6. 連体形(現在・過去)のまとめ・練習
7. メール・手紙の書き方、作文
8. 中間テスト，文化の理解
9. みんな一緒に歌いましょう。（意図，決まり，未来連体形，ㄹ変則）①
10. みんな一緒に歌いましょう。（意図，決まり，未来連体形，ㄹ変則）②
11. どんなアルバイトをしていますか。（義務，未来の推測，ㅎ変則，許可）①
12. どんなアルバイトをしていますか。（義務，未来の推測，ㅎ変則，許可）②
13. どんなアルバイトをしていますか。（義務，未来の推測，ㅎ変則，許可）③
14. 期末テスト

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 『おはよう韓国語 2 （2024年度第2版） 最新版 』崔柄珠著，朝日出版社

参考文献: 必要に応じて提示します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 70 中間・期末テスト

平常点評価: 30 小テスト、課題、発表、授業への参加度など。（遅刻・欠席も減点対象となる）

備考・関連URL:
・中級の授業は、実力の異なる学生が集まりますので、それを勘案しながら授業を進めることになります。したがって、授業の内容や進度は、シラバス通りに進めることが難しい場合、適宜変更します。出席の最低基準を満たしていない者は、試験の成績に関わらず評価の対象とならないので注意すること（追試、レポート等による救済措置はなし）。
・欠席をする場合は、事前に連絡すること。

【履修登録について注意事項】 朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050504|09|9S06050504[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（中級） 09		
担 当 教 員	全 東園		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

*この科目は、朝鮮語の準中級を終えた学生が対象となる。
・中級の文法事項や語彙、表現などを覚える。
・朝鮮語の音読練習をする。
・文献・映像などの資料を用いて、朝鮮語だけでなく「韓国人・韓国社会」に関する全般的な理解度を深める。

授業の到達目標：

・学習した内容の文法を理解する。
・語彙と表現をたくさん覚える。
・音読の練習を通して、朝鮮語をすらすら読めるようにする。
・「読む、聞く、書く、話す」能力の全般的な向上を目指す。

事前・事後学習の内容：

*以下の内容は、毎回、授業中で確認(小テスト等)してから授業に進むので、必ず復習してください。
・学習した語彙を覚える。
・学習した文型を用いて、自分で朝鮮語の作文を10個程度作ってみる。
・授業中で学習した資料の音読練習をする。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回： オリエンテーション
授業の内容や進み方などを説明する。
第2回： 第7課「前に教えた経験があるので、大丈夫です。」Ⅰ
文法の説明と語彙暗記のための練習をする。
第3回： 第7課「前に教えた経験があるので、大丈夫です。」Ⅱ
会話を中心に練習する。
第4回： 第8課「風邪を引いたようです。」Ⅰ
文法の説明と語彙暗記のための練習をする。
第5回： 第8課「風邪を引いたようです。」Ⅱ
会話を中心に練習する。
第6回： 第9課「携帯電話を探しに来たのですが。」Ⅰ
文法の説明と語彙暗記のための練習をする。
第7回： 第9課「携帯電話を探しに来たのですが。」Ⅱ
会話を中心に練習する。
第8回： 第10課「故障の届け出をインターネットでできるんですか？」Ⅰ
文法の説明と語彙暗記のための練習をする。
第9回： 第10課「故障の届け出をインターネットでできるんですか?」Ⅱ
会話を中心に練習する。
第10回： 第11課「代わりに返却してくれませんか？」Ⅰ
文法の説明と語彙暗記のための練習をする。
第11回： 第11課「代わりに返却してくれませんか?」Ⅱ
会話を中心に練習する。
第12回： 第12課「休みながら大学院の準備をするつもりです。」Ⅰ
文法の説明と語彙暗記のための練習をする。

第13回： 第12課「休みながら大学院の準備をするつもりです。」Ⅱ
会話を中心に練習する。
第14回：「期末評価」
この授業で学習した音読、語彙、文型などの総合テストを行う。

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 睦 宗均、須賀井 義教、小島 大輝 著『ロールプレイで学ぶ韓国語 初級から中級へ』白水社、2019年

参考文献： 特になし

成績評価フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー： *評価の基準は毎回の「平常点」と「期末テスト」で評価する。
・平常点(課題提出と小テスト)50%
・期末テスト(筆記テストと音読テスト)50%

備考・関連URL：

【履修登録について注意事項】
朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050504|10|9S06050504[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（中級） 10		
担 当 教 員	金 牡蘭		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本授業では、朝鮮語（準中級）を履修した学習者、あるいは同等の実力を持った人を対象に、準中級から中級への実力向上を目指す。初級・準中級で学んだ学習事項を基本とし、応用的な初級以降の文法や表現、語彙を総合的に身に着けていく。授業ではペアワークやグループワークを頻繁に取り入れ、受講者が朝鮮語で話し合う機会を多く持てるようにする。そのため、受講者にはこのような授業活動に積極的に参加することが求められる。これらの活動を通じて、日常生活における朝鮮語コミュニケーション能力を伸ばすとともに、朝鮮半島の社会・文化に関する理解を深めることが本授業の目標である。

授業の到達目標: ・中級の語彙と表現を身に着け、日常生活において朝鮮語でコミュニケーションすることができる。
・言語の学習とともに朝鮮半島の社会・文化に関する理解を深め、主体的かつ能動的に異文化に接することができる。

事前・事後学習の内容: ・事前学習：教科書の学習予定部分の知らない語彙を調べてくる。
・事後学習：授業内容を振り返りながら授業後課題を作成し、MOODLEに提出する。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（本講義の目的と概要）、受講者の自己紹介 第7課 今日からセールだそうです①:-ㄴ/은 것 같다, -(이)래요, -지 않으면 안 되다
第2回
第7課 今日からセールだそうです②:-ㄹ/을 것 같다, -아/어 봐도 돼요?, -(으)니까
第3回
第8課 3泊4日くらいでいかがですか①:-기 전이다, -는 게 좋겠다, -(으)면 어때요?
第4回
第8課 3泊4日くらいでいかがですか②:-아/어서 그런지, -지 마세요, -아/어도 될까요?
第5回
第9課 めんどくさい時は出前を取ったりもします①:-기도 하다, -는 데, -는 것 같다
第6回
第9課 めんどくさい時は出前を取ったりもします②:-ㄹ/을 생각이다, -아/어 주면 안 돼요?, -아/어 보니
第7回
理解度の確認とそのフィードバック
第8回
第10課 どうやら風邪をひいたようです①:-ㄴ/은 것 같다, -(으)니까 -았/었어요, -아/어서는 안 되다
第9回
第10課 どうやら風邪をひいたようです②:-ㅂ/읍시다, -는군요, -기는/긴 하다
第10回
第11課 近い食堂でラーメンでも食べよう①:-지 않을래?, -자, -가/이 아니라도 돼
第11回
第11課 近い食堂でラーメンでも食べよう②:-아/어, -말고 -(으)로 하다, -아/어도 될 것 같다

第12回
第12課　用事があって行けそうにありません①：못 -ㄹ/을 것 같다, -ㄹ/을 줄 알다/모르다, -는 중이다
第13回
第12課　用事があって行けそうにありません②：-(으)시죠, -아/어야겠다, -아/어야 했는데
第14回
理解度の確認とそのフィードバック

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　金京子『話してみよう韓国語 中級会話コース』白水社、2024

参考文献：　必要に応じて授業で提示する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　60　理解度の確認（中間テスト・期末テスト）の成績

平常点評価：　30　授業活動への参加とその評点、小テストなど。

備考・関連URL：　・出席の最低基準を満たしていない履修者は、試験結果に関わらず評価の対象としないので注意すること（追試及びレポート等による救済措置はない）。

【履修登録について注意事項】
　朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050504|11|9S06050504[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（中級） 11		
担 当 教 員	鄭 宇鎭		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 韓国語読解（中級）

授業概要: 本授業では『韓国語』（入門・初級）に出ていない新出の文法（の意味）や語彙項目（の意味）を学習しつつも『韓国語』（入門・初級）で習得した文法や語彙項目をも用いながら（準）中級韓国語文章の読解（と音読）ができる語学能力を身につけます。

授業の到達目標: 学生は、比較的平易な韓国語の文章を自分で読み取り、内容を理解できるようになります。
学生は、（準）中級レベルの文章を自然な発音、イントネーションで音読できるようになります。
学生は、初級で身に着けた文法知識を発展させ、実践的な読解ができるようになります。
学生は、使用頻度のきわめて高い基本的な語彙、表現を体系的に習得し、準中級レベルの韓国語文章を読み取ることができます。

事前・事後学習の内容: ［事前学習］
学習する箇所の韓国語文章の発音記入および日本語訳（60分想定）

［事後学習］
『参考文献』に紹介する学習書や辞書を参考にして、授業で学んだ箇所に出てくる語彙や文法に関するノート作成（60分～120分想定）
（ノート作成には、新出の語彙や文法の実例調査やオリジナル作文が含まれる場合がある）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ガイダンス ／第7課 汁物の多い食文化（국물 요리가 많은 음식 문화）（1）
オリエンテーション（本講義の目的と概要） ／ 本講義の目的と概要について説明します。第7課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第2回 第7課 汁物の多い食文化（국물 요리가 많은 음식 문화）（2）
第7課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第3回 小テスト①／ 第8課 夏場の保養食、参鶏湯（여름철 보양식, 삼계탕）（1）
第7課の小テストを実施します。第8課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第4回 第8課 夏場の保養食、参鶏湯（여름철 보양식, 삼계탕）（2）
第8課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第5回 小テスト② ／ 第9課 大衆交通（대중교통）（1）
第8課の小テストを実施します。第9課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第6回 第9課 大衆交通（대중교통）（2）
第9課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第7回 小テスト③ ／ 第10課 結婚式（결혼식）（1）
第9課の小テストを実施します。第10課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第8回 第10課 結婚式（결혼식）（2）
第10課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第9回 小テスト④ ／第11課 秋夕（추석）（1）
第10課の小テストを実施します。第11課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第10回 第11課 秋夕（추석）（2）
第11課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第11回 小テスト⑤ ／ 第12課 兵役の義務（병역 의무）（1）
第11課の小テストを実施します。第12課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第12回 第12課 兵役の義務（병역 의무）（2）
第12課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。

第13回　第12課 兵役の義務（병역 의무）（3）
第12課の発音・語彙・文法の解説、音読練習を行います。
第14回　総まとめおよび期末試験
総まとめおよび期末試験を実施します。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　『読みたい韓国語ー初級から中級へー』金美仙（著）、朝日出版社、2021年

参考文献：　紙辞書は中級以上の学習にも対応できる『朝鮮語辞典』（小学館）が薦められる。
電子辞書タイプはカシオEx-Wordが使いやすし、スマホからだとNaver辞書アプリがもっとも一般的に使われている。

・安辰明・李炅雅・韓厚英（著）［吉本一・中島仁（訳）］（2012）『実用韓国語文法：初級』DARAKWON.
（安辰明（著）（2021）『実用韓国語文法：初級』IBCパブリッシング.）

・閔珍英・安辰明（著）［吉本一・中島仁（訳）］（2013）『実用韓国語文法：中級』DARAKWON.
（安辰明（著）（2021）『実用韓国語文法：中級』IBCパブリッシング.）

・安辰明・宣恩姫（著）［吉本一・中島仁（訳）］（2013）『実用韓国語文法：上級』DARAKWON.
（安辰明（著）（2021）『実用韓国語文法：上級』IBCパブリッシング.）

・中島仁（2021）『これなら分かる韓国語文法：入門から上級まで』NHK出版.

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　期末試験（音読評価を含む）：30%
小テスト（音読評価を含む）：30%
ノート作成の出来：20%
平常点：20%（平常点は授業への積極的参加、出席率が含まれます。）

備考・関連URL：　【履修登録について注意事項】 朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050504|12|9S06050504[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮語（中級） 12		
担 当 教 員	姜 多映		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：
・「朝鮮語（準中級）」を履修した者、または同等の実力を持った人を対象とする。
・「朝鮮語（準中級）」で学習した内容を固めながら、中級レベルの文法や語彙を学習する。
・授業は基本的にテキストに沿って行う。
・適宜ペアワークを行い、学んだ内容を定着させる。

授業の到達目標：
・中級レベルの文法や語彙を身につけ、それらを用いて会話・作文ができるようにする。
・場面や相手に相応しい表現を身につけ、情報のやり取りができるように練習する。
・口頭練習の際、発音規則に従って正しく発音できるように心がける。
・総合的な口頭・聴解・作文の学習活動を通して、幅広いコミュニケーション能力を身につける。

事前・事後学習の内容：
・予習：新しい単語の意味と発音を確認しておく。
・復習：毎回小テストを実施する。学習内容をしっかり理解し、暗記すること。

授業計画フリー入力サイン：
0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
オリエンテーション、第7課 처음 스키를 타 봤어요①
第2回
第7課 처음 스키를 타 봤어요②
第3回
第8課 절에서는 신발을 벗어야 해요①
第4回
第8課 절에서는 신발을 벗어야 해요②
第5回
第9課 춤을 출 때 긴장되지 않아요?①
第6回
第9課 춤을 출 때 긴장되지 않아요?②
第7回
中間試験：理解度の確認
第8回
第10課 일주일 정도 걸릴 것 같아요①
第9回
第10課 일주일 정도 걸릴 것 같아요②
第10回
第11課 방이 좁아서 이사를 할까 해요①
第11回
第11課 방이 좁아서 이사를 할까 해요②
第12回
第12課 대학원에 진학하게 되었어요①
第13回
第12課 대학원에 진학하게 되었어요②
第14回
期末試験：理解度の確認

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 朴珍姫・李順蓮・金菊熙（2025）『とくとく韓国語2』朝日出版社

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 80 中間試験：40%、期末試験：40%

平常点評価: 20 授業態度・小テスト・課題を総合的に評価する。

備考・関連URL: 【履修登録について注意事項】 朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050504|14|9S06050504[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（中級）　14		
担 当 教 員	中島　仁		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　この授業は、準中級を履修した者、または同等の実力を持った人を対象とします。
準中級で習得した基本的な知識を土台に、中級レベルの学習項目（テキストの後半）の学習、定着を図ります。
朝鮮語の運用能力の向上のため、作文や会話活動（ペアワーク、グループワーク等）も多く取り入れます。ことばだけではなく、韓国の文化・社会についての理解も深めます。

授業の到達目標：　準中級に引き続き、中級後半レベルの学習項目を習得し、自分のことを自分の言葉で表現したり、理解したものを説明できるようになることを目標とします。

事前・事後学習の内容：　事前学習：授業前に学習内容を把握しておく。新出単語を確認しておく。
事後学習：当日学習した内容を再確認し復習する。各課の本文（この課の表現）は声を出し読む練習をする。
課題や小テストの勉強はしっかりしておく。（30分以上）

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　第1回：15A/15B 指定詞、으語幹活用、～ように
第2回：16A ㄹ語幹活用、能力
第3回：16B ㅂ不規則用言、～てあげる
第4回：17A/17B ㄷ不規則用言、르不規則用言、～する前
第5回：18A ㅅ不規則用言、～しやすい/しにくい
第6回：18B 推量、提案
第7回：中間試験、理解度の確認
第8回：19A 接続形（仮定、同時）、確認
第9回：19B ㅎ不規則用言、接続形（前提・逆接）
第10回：20A 変化
第11回：20B 許可、条件、義務
第12回：21A 推量、意志、準備
第13回：21B 疑問、文中疑問、根拠
第14回：期末試験、理解度の確認

※授業の進度や受講状況により、内容を一部変更する場合があります。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　『新・韓国語へのとびら』、中島仁・金珉秀・吉本一著（朝日出版社）

参考文献：　必要に応じて提示します。

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　試　験：60%（中間30%+期末30%）
平常点：40%（出欠20%+授業参加度および小テスト20%）

備考・関連URL：　・上記の授業計画は学習状況により変更になることがある。
・出席の最低基準を満たしていない者は、試験の成績に関わらず評価の対象とならないので注意すること（追試、レポート等による救済措置はなし）。

【履修登録について注意事項】
朝鮮語では言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・準中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合、授業開始後であっても、他レベルへのクラス変更を指示する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050505|01|9S06050505[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮語（上級）		
担 当 教 員	崔　チョンア		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　1年間の韓国交換留学経験者およびそれに相当する朝鮮語能力を有する朝鮮語学習者（非韓国語ネイティブ）を対象とする、学内最上級レベルの科目である。
授業は原則として朝鮮語で実施する。ニュース等の映像資料を用い、日本語と朝鮮語を言語的・社会的観点から対照し、両言語の差異を多角的に分析する。また、語彙や文体、細かなニュアンスに留意しながら高度な日韓翻訳にも取り組む。語彙力のさらなる向上を図るため、漢字語についても体系的に扱う。
さらに、各自が朝鮮半島に関連するテーマについて調査を行い、発表および討議を通して学習者同士の専門的関心を共有することで、より高度な朝鮮語運用能力と論理的表現力を養う。

授業への主体的かつ積極的な参加を求める。

授業の到達目標：・日常的な会話だけではなく、プレゼン資料の作成を通じてこれまで学習してきた文法事項を実践に移せるようになる。
・人の前で論理的にプレゼンテーションができるようになる。

事前・事後学習の内容：・事前学習：予習課題（時事ニュース）の単語・文法チェック、翻訳（60-90分を想定）
・事後学習：1トピックが終わるごとに、朝鮮語で自身の意見をまとめて提出する。復習する重要語彙および表現は学習張アプリに記入
し、URLは掲示板（Moodle）に共有する。また、翌週に確認小テストを行う。（60-90分程度を想定）

授業計画フリー入力サイン：1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：第1回：授業ガイダンスと受講者レベル確認

第2回～第6回：時事ニュースの読解・ディクテーション、討論。

※一つのテーマが終わると、確認テストを行う。
※第2回から第6回までのうち、ゲストスピーカーによる授業1回実施

第8回～第13回：受講生の調査発表（プレゼンテーション）とそれに対する討論

※ 受講生の興味・関心や人数など考慮し、発表スケジュールを決める。状況により、変更になることがある。

第14回：統合討論/まとめ

言語区分：0　朝鮮語　Korean

教科書：プリント配布

参考文献：必要に応じて授業中に提示する。

成績評価フリー入力サイン：0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：70　予習状況、授業参加度、確認テスト、授業内の課題

平常点評価：30　発表事前準備、本発表、発表後のレポート作成

備考・関連URL：・出席の最低基準を満たしていない者は、発表やレポートの成績に関わらず評価の対象とならないので注意すること。
・欠席をする場合は、事前に連絡すること。
・履修者数や履修者の興味・関心に応じて、授業内容が若干変更になることがある。初回授業に調査するので、履修を考えている学生は初回授業に必ず出席すること。

【履修登録上の注意】
この授業は、半年～1年間の韓国交換留学経験者およびそれに相当する朝鮮語能力を持つ朝鮮語学習者を対

象としている。そのため、高度な朝鮮語4技能が要求される。GEC開講「中上級」レベルの授業を2つ以上（または文学学術院「上級」レベル）履修済で、留学経験レベルの朝鮮語運用能力があり、あるテーマについて自身の考えや意見を朝鮮語で発表したり、記述した経験がある学生（韓国語以外を母語とする学生）を対象としている（目安としてTOPIK5級～6級取得者レベル）。

自身でのレベル判断が難しい場合は、初回の授業に出て確認し、必要に応じて教員に相談すること。
※ 2次・3次登録の場合は登録開始前までに連絡すること。

なお、指導方法を学びたい等、本来の授業レベル・目標と異なる者、韓国語を母語とする者は、必ず事前に担当教員に相談をすること（2次・3次登録の場合は、登録開始前まで）。

なお、相談をする際には以下の情報について伝えてください。
a）独学について、学習期間（週何回＆何時間を何年、など）・使用したことのある教材
b）朝鮮語（韓国語）でどのようなことができるか（過去形、連体形、会話レベルなど）
c）検定試験（TOPIK、ハングル検定）合格級

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050507|01|9S06050507[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	現代韓国を理解する朝鮮語読解（中上級）		
担 当 教 員	崔 チョンア		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 学内で中級レベルを履修した者、またはそれと同等の朝鮮語力を有する学習者を対象とする、中上級レベルの科目です。
本授業では、朝鮮語を通して現代韓国を多角的に理解する読解力と分析力の向上を目指します。伝統文化、大衆文化、経済、社会などに関する時事的な内容を扱い、内容理解にとどまらず、背景知識や理論構成にも注目しながら精読を行います。

授業は日本語と朝鮮語を併用して実施します。各回は、受講者による予習を前提とし、新出単語や文法事項の確認、本文読解と解説、音読練習という流れで進めます。またテーマに関連する記事や資料を各自が収集・紹介し、内容理解を深めると共に批判的視点を養います。

さらに、漢字語の語彙知識や慣用的表現にも重点を置き、語彙運用力の強化を図ります。加えて、韓国標準語（ソウル方言）のイントネーション規則に基づいた音読練習を積極的に行い、読解と発話の運動を目指します。

授業の到達目標: 辞書を参照しながら、韓国の新聞や雑誌の内容を自力で理解出来ることを目標とする。

事前・事後学習の内容: ・事前学習：次回授業で扱うテーマに関連する基本的な単語チェックや課題を翻訳する。また、指示があるテーマに関しては、自分自身が
関心を持った記事や雑誌も探してくる。（60～90分かかることを想定）。
・事後学習：1つのテーマが終わるごとに音読チェックおよび確認小テストを行うので、復習しておく（60分かかることを想定）

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 第1回：授業ガイダンスと受講者レベル・関心分野の確認
第2回：テーマ①慣用表現
第3回～第4回：テーマ②韓国の伝統文化・文学などに関する時事的な記事を読み、現代韓国に関する理解を深める。
第5回～第6回：テーマ③韓国の大衆文化・健康などに関する時事的な記事を読み、現代韓国に関する理解を深める。
第7回～第8回： 群読
第9回： 群読発表
第10回：テーマ④4字熟語
第11回：テーマ⑤ことわざ
第12回～第13回：テーマ⑥韓国の社会などに関する時事的な記事を読み、現代韓国に関する理解を深める。
第14回：確認テスト

言語区分: 9 日本語/朝鮮語 Japanese/Korean

教科書: プリント配布

参考文献: 必要に応じて授業中に提示する。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 授業参加度、予習状況および授業内課題（語彙おさらいテスト、群読活動など）

備考・関連URL: ・初回の授業では朝鮮語レベル確認を行うので、履修を考えている学生は必ず出席すること。
・出席の最低基準を満たしていない者は、試験の成績に関わらず評価の対象とならないので注意すること。
・欠席をする場合は、事前に連絡すること。

【履修登録上の注意】

自身でのレベル判断に迷う場合、科目登録期間開始前までに教員へ連絡してください。なお、連絡いただくタイミングによっては各科目登録期間の終了までに教員から連絡することが出来ない場合がありますので、予めご了承ください。
※担当教員連絡先 jchoi@aoni.waseda.jp

指導方法を学びたい等、本来の授業レベル・目標と異なる者、韓国語を母語とする者は、事前に担当教員に相談をすること（2次・3次登録の場合は、登録開始前まで）。

なお、相談をする際には以下の情報について伝えてください。
a）独学について、学習期間（週何回＆何時間を何年、など）・使用したことのある教材
b）朝鮮語（韓国語）でどのようなことができるか（過去形、連体形、会話レベルなど）
c）検定試験（TOPIK、ハングル検定）合格級

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050508|01|9S06050508[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	現代韓国を理解する朝鮮語会話（中上級）		
担 当 教 員	崔 チョンア		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	朝鮮語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 学内で中級レベルを履修した者、またはそれと同等の朝鮮語力を有する者を対象とする、中上級レベルの科目です。 本授業では、朝鮮語を通して現代韓国を理解するとともに、その内容について自身の考えを整理し、プレゼンテーションやグループ討論を行う発信力・議論力の向上を目指します。伝統文化・大衆文化・経済・社会などの時事的なテーマを扱いながら、実践的なコミュニケーション能力を養います。
各回の授業は、受講者の予習を前提とし、新出単語や文法事項の確認、テーマに沿った討論、そしてプレゼンおよびプレゼンおよびその後の討論、という流れで進めます。課題として、プレゼンテーション用のPPT資料や録音音声を提出し、翌週には課題で使用した語彙の確認テストを実施します。
さらに、日本語との対照の観点から慣用表現（イディオム）にも重点を置き、表現力の向上を図ります。また、韓国標準語（ソウル方言）のイントネーション規則に基づく音読練習を行い、発話の精度を高めます。
授業は日本語と朝鮮語を併用して実施します。主体的かつ積極的な参加を求めます。

授業の到達目標: 現代韓国に関する時事的な内容に対して、朝鮮語で討論および文章化でき、自身の考えを論理的にまとめてプレゼンできることを目標とする。

事前・事後学習の内容: ・事前学習：次回授業で扱うトピックに関連する単語をチェックし、翻訳する（60～90分かかることを想定）。
・事後学習：プレゼン用のPPT資料、録音した音声などを提出たり、討論で使われた語彙・表現を覚える（60-90分かかることを想定）

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1回： 授業ガイダンスおよび受講生のレベル・関心分野の確認
第2回～第3回： 受講者のレベルに応じた既習文法の復習（特に、書き言葉と話し言葉の区別）
第4回～第6回： テーマ①「レシピ作り」について
・叙述文（書き言葉）によるレシピの作成
・プレゼンテーション用PPT作成
※使用する料理写真は各自で調理したものを用いる（第5回までに準備）
・書き言葉のレシピを基にした話し言葉での説明練習
※課題：音声提出
・プレゼンテーションⅠ（一人5分ほど）
※後日、LP4形式の動画を提出
※一部、相互評価を実施
第7回 これまでに扱った文法・表現・語彙の確認テスト
第8回： テーマ②「日本と韓国の食文化」
（ワークシート作成、討論を踏まえプレゼンテーションテーマを決定）
第9回： プレゼンテーション用のPPT作成および提出
※図表等の適切な引用方法について指導
第10回： プレゼンテーションⅡおよび講評
第11回： テーマ③「日本と韓国の住居文化」
（ワークシート作成、討論を踏まえプレゼンテーションテーマを決定）
第12回： プレゼンテーション用のPPT作成および提出
第13回： プレゼンテーションⅢおよび講評
第14回： 総括および文法・表現・語彙の確認テスト

言語区分: 9 日本語/朝鮮語 Japanese/Korean

教科書: プリント配布

参考文献: 必要に応じて授業中に提示する。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50 確認テスト実施

平常点評価: 50 授業参加度、予習状況および授業内の課題、発表、小テスト

備考・関連URL:　・初回の授業では朝鮮語レベル確認を行う。
また、その際、履修者人数やレベル、興味や要望に基づき、効果的な学習のために、授業内容の一部をアレンジする可能性がある。履修を考えている学生は初回授業に必ず出席すること。
・出席の最低基準を満たしていない者は、試験の成績に関わらず評価の対象とならないので注意すること。
・欠席をする場合は、事前に連絡すること。

【履修登録上の注意】
この授業は、「学内で中級レベルを履修した者およびそれに同等の朝鮮語力を持った者」を対象としている。
自身でのレベル判断に迷う場合、科目登録期間開始前までに教員に連絡してください。なお、連絡いただくタイミングによっては各科目登録期間　　の終了までに教員から連絡することが出来ない場合がありますので、予めご了承ください。
※担当教員連絡先 jchoi@aoni.waseda.jp
指導方法を学びたい等、本来の授業レベル・目標と異なる者、韓国語を母語とする者は、事前に担当教員に相談をすること（2次・3次登録の場合は、登録開始前まで）。

なお、相談をする際には以下の情報について伝えてください。
a）独学について…学習期間（週何回＆何時間を何年、など）・使用したことのある教材
b）朝鮮語（韓国語）でどのようなことができるか（過去形、連体形、会話レベルなど）
c）検定試験（TOPIK、ハングル検定）合格級

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050801|01|9S06050801[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	アイヌ語（入門会話）		
担 当 教 員	志賀 雪湖		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	アイヌ語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: アイヌ語で話そう！ aynuytak ani ukoytak=an ro!

授業概要: アイヌ語は日本列島で育まれた言語のひとつであり、日本語とは別の固有の言語です。
動詞は時制による変化がありません。日本語から類推できる単語はあまりないので、語彙力をつけることが大事です。
主語や目的語が3人称の場合は、ほぼ日本語と同じ語順となり、日本語話者にとっては学びやすい言語だといえるでしょう。
ただし、日本語と違って、動詞や一部の名詞が人称変化するので（人称接辞がつくので）、早い段階できちんと覚えるように練習します。

授業では、アイヌ語沙流方言の母語話者が発音した短い例文やweb上で公開されている新しい資料をつかって、日常会話の基本的なパターンを覚えたら、主語や目的語を変えて応用練習をします。

授業の到達目標: ・アイヌ語の短い例文を正確な発音と抑揚でいえるようになります。
・そうした例文を用いた簡単な会話ができるようになります。
・会話に必要な単語を覚えます。

事前・事後学習の内容: 事前学習（毎回40分ほど）は音声を聞いて新しい単語や表現を発音できるように練習し、意味を理解しておきましょう。
事後学習（毎回80分ほど）は、動詞や名詞の人称変化を復習し、授業時間内に覚えられなかった単語や表現を覚えるようにしましょう。
応用練習もし、覚えた表現を忘れないように、復習に重点を置くとよいでしょう。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

「こんにちは」「私は～と申します」「～学部にいます」

前半は、自己紹介の文から、普通名詞とﾃﾞｱﾙ動詞neの人称変化を覚えます。後半は、3人チームで自己紹介の文を引き出す疑問詞を使った質問で会話しながら覚えます。
さらに、チームのメンバーを紹介する練習もします。

「これの名前は何ですか」「捧酒箸というものです」

前半は、民具の名前と鳥の名前と色の名称を覚えます。後半は、3人チームで疑問詞makanak(短縮形mak)をつかった文で質問し、物の名前やどんなものかを答えます。

「いくつありますか？」「１０個あります」

前半は、野菜や果物の名称、個数の言い方を覚えます。
後半は、3人チームで、疑問詞hempakをつかって質問し、個数を答えます。

「何歳ですか？」「20才です」

前半は、年齢の言い方を覚えます。
後半は、3人チームで、疑問詞hempakをつかって質問し、年齢を答えます。

「いつ来ましたか」「きのう来ました」

前半は、時の表現を覚え、単複の区別のある自動詞ek[単]arki[複] の人称変化を覚えます。後半は、3人チームで、疑問詞hemparaをつかった文で質問し、いつ来たのかいつ来るのか答えます。
アイヌ語由来の地名を使って会話しましょう。

「食事をしましょう」「魚を食べましょう」※自動詞と他動詞

前半は、相手をさそう言い方を自動詞と他動詞を使って練習をします。
後半は、次回の口頭テストのチーム分けと内容の確認をします。

口頭テスト1

前回決めたチームごとに、口頭テストを受けます。テストの内容は第１回～第６回で覚えた文です。

第8回「どこから来ましたか？」「十勝から来ました」

前半は、北海道のアイヌ語由来の地名を覚えます。
後半は、疑問詞hinak を使った文で質問し、どこから来たのか答える練習をします。

第9回「2人で食事をしました」「2人で食事をしましょう」
前半は、人数の言い方を覚え、誘う言い方を使って、「聞き手を含む私達」と「聞き手を含まない私達」の違いを学びます。後半は、誘ったり、質問したりして、答える練習をします。
第10回　「お母さん！どこへ行くの」
前半は、疑問詞hunakをつかって質問し答える練習をします。後半は、相手を誘う言い方の練習をし、一緒に行く設定で会話します。
第11回「お父さん！どこへいらっしゃるの？」
前回と同じ設定の会話を、2人称敬称をつかって会話します。
第12回　第10回 「雨が降る」「天気が良い」「暑い」「寒い」＆口頭テストの準備
前半：天気の表現を覚えます。人が主語の「寒さ、暑さ、涼しさ、暖かさ」の言い方と気候の言い方の違いを覚えます
後半：第8回～第12回で学んだ例文をつかって、次回の口頭テスト2の準備をします（内容とチーム分け）
口頭テスト2
前回決めたチームごとに、口頭テストを受けます。テストの内容は第8回～第12回で覚えた会話です。
まとめ
ウェブ上で公開されている国立国語研究所「トピック別アイヌ語会話辞典」をつかって状況設定を決め、即興で3人の会話を作りましょう。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　会話資料をWasedaMoodleに毎回アップします。事前に会話文や発音の確認をしておきましょう。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50　2回の口頭テストの評価を合計します。

平常点評価：　40　会話練習に積極的に参加したかどうかを評価します

その他：　10　チームで協力してつくる即興的な状況設定や作文力を評価します

備考・関連URL：　アイヌ語が未習でも、このクラスから履修することができます

事前にアイヌ語がどんな言語か知りたい方は、国立国語研究所の「トピック別　アイヌ語会話辞典」をご覧ください。
トピック別 アイヌ語会話辞典 | A Topical Dictionary of Conversational Ainu (ninjal.ac.jp)

後半は、前半に覚えた動詞をつかって会話をしましょう。 動詞を変えて応用力をつける練習もします。
学生の理解の度合いによって内容や進行を変更する場合があります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050802|01|9S06050802[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	アイヌ語（初級会話）		
担 当 教 員	志賀　雪湖		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	アイヌ語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　アイヌ語で話そう aynuytak ani ukoytak=an ro!

授業概要：　アイヌ語は日本列島で育まれた言語のひとつであり、日本語とは別の固有の言語です。
動詞は時制による変化がありません。日本語から類推できる単語はあまりないので、語彙力をつけることが大事です。
主語や目的語が3人称の場合は、ほぼ日本語と同じ語順となり、日本語話者にとっては勉強しやすい言語だといえるでしょう。
ただし、日本語と違って、動詞や一部の名詞が人称変化するので（人称接辞がつくので）、毎回人称変化の練習をして慣れます。

母語話者が発音した短い例文を教材として、アイヌ語の日常会話表現の基本的なパターンを学びます。
このクラスからアイヌ語の勉強を始めることもできるよう、ゆっくり例文を真似して発音する練習をします。

授業の到達目標：　・アイヌ語の短文や、もう少し長めの文が正確な発音と抑揚でいえるようになります
・そうした例文を用いた簡単な会話ができるようになります
・例文の主語や目的語、動詞を置き換えて、新たな文を作ることができるようになります。
・会話に必要な単語を覚えて語彙力を高めます

事前・事後学習の内容：　事前学習（毎回40分ほど）は音声を聞いて新しい表現を発音できるように練習しましょう。
事後学習（毎回80分ほど）は、授業で練習した表現を覚え、同じ構文で名詞や動詞を置き換える練習をして、応用できるようにしましょう。動詞や名詞の人称変化の練習も忘れずにやりましょう。
覚えた表現を忘れないように、復習に重点を置くとよいでしょう。

授業計画フリー入力サイン：　0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回「久しぶり」「私の友人です」「さようなら」

前半は、兄弟姉妹と友人などの名詞所属形の人称形を覚えます。
さらに、単複の区別のある自動詞　ahun[単]　ahup[複]と　arpa[単]p　aye[複]をつかった挨拶の言葉も覚えます。
後半は、3人チームで、兄弟姉妹の玄関でのあいさつ、友人の紹介のあと、訪問を促し、帰るまでの会話の流れを練習します。

第2回　「～と申します」「～出身です」「寒くないですか？」

前半は、普通名詞とﾃﾞｱﾙ動詞neの人称変化を覚え、自動詞 merayke の人称変化を覚えます。
後半は、3人チームで出身地の言い方を覚えます。さらに、チームのメンバーを紹介する練習もします。

第3回　基本構文で会話しましょう

前半は、自動詞 ipe をつかった ya 疑問文の会話で主格人称変化の練習をし、肯定の答え方、否定の答え方、「誘う言い方」も覚えます。
後半は、料理の名前を覚え、他動詞 e や nukar　をつかった ya 疑問文の会話で、主格人称変化の練習をし、肯定の答え方、否定の答え方、「誘う言い方」も覚えます。

第4回「料理し終えたから、食事しましょう」「来て私を手伝ってください」

前半は、自動詞suke の主格人称変化と、他動詞 kasuy, kore の目的格人称変化を覚え、追加の自動詞を4つ覚えます。
追加で覚えた単語をつかって「～し終えたから～しましょう」と会話をし、単語を増やします。
後半は、3人チームで、前回の会話に今回の場面を加えて帰るまでの会話の流れを練習します。
時間があれば、設定を変えて作文したものを発表します。

第5回伝統的なアイヌ料理の紹介と応用会話

前半は、伝統的なアイヌ料理の名前を覚え、,自動詞ipeと他動詞kar と e の主格人称変化を覚えます。
後半は、3人チームで、料理の名前を尋ねたり、食べましょうと誘って練習しましょう

第6回「お箸ないの？」「ここにあるよ」「あなたはこれを使いなさい」
前半は、基本の色の名称と、他動詞 kor の人称形を使った所有表現を覚えます。
後半は、3人チームで、「無いの？」「あるよ」を主語をかえて練習します。

第7回　口頭テスト2

第1回～第6回の内容で口頭テストを実施します。
第8回「明日私を起こしてください」「心配しないで眠っていなさい」
前半は、他動詞mososo,koreの目的格人称変化を覚え、他動詞 oyra を追加して目的格人称変化を覚えます。
後半は、oyra, kanpi kore, などの動詞を覚えて「～しないで～しなさい」の練習をします。

第9回　「明日私達を起こしてください」「心配しないで眠っていなさい」

前回と同じ表現ですが、目的語が私達に変わり、「～している」の主語が複数の場合の言い方を覚えます。
時間があれば、設定を変えて作文したものを発表します。
第10回　「きのう、あなたを見たよ」「昨日私を見たっていうの？」
前半は、「今日」「昨日」「おととい」を覚え、他動詞 nukar　の主格人称変化、目的格人称変化、主格・目的格人称変化を覚えます。
後半は、主語と目的語は誰なのかを意識しながら会話の練習をします。
時間があれば、設定を変えて作文したものを発表します。
第11回「どこで私を見たの？」「病院でよ」
前半は、「病院で」「商店街で」などの場所の表現を覚え、他動詞 nukar の「私があなたを」や「（あなたが）私を」などの主格・目的格人称接辞を覚えます。
後半は、疑問詞hinak(hunak)を使って質問し、どこで見たのか答える練習をします。

第12回「どこであなた達は私を見たの？」「私を呼んだら良かったのに」
前半は、他動詞 nukar と hotuyekar の「あなた達が私を」を示す主格・目的格人称接辞を覚えます。
後半は、疑問詞hinak(hunak)を使って質問し、答える練習をします。
次回の口頭テストのチーム分けと内容の確認をします。
第13回　口頭テスト2
第8回から第12回の内容で口頭テストを実施します
第14回 まとめ
今学期に学んだ例文をつかって会話をつなぎ、つぎつぎと会話を展開させていってまとめとします。
ウェブ上で公開されている国立国語研究所「トピック別アイヌ語会話辞典」や、国立アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブも使いましょう。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　会話資料をWaseda Moodleにアップします。

参考文献：　アイヌ民族の現状について知っていただくために
北海道制作（2012）「アイヌモシリ～アイヌ民族の誇り～」25：08を事前にご覧ください。
http://www.youtube.com/watch?v=4ZgCa4Vnj8s

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50　2回の口頭テストの評価を合計します

平常点評価：　40　毎回、動詞や名詞の人称変化が言えるかどうかを評価します

その他：　10　まとめで、自由に会話をつづけたり展開させたりできるかを評価します

備考・関連URL：　「アイヌ語」を履修していなくても、このクラスから始めることができます。

アイヌ民族の現状について知っていただくために
北海道制作（2012）「アイヌモシリ～アイヌ民族の誇り～」25：08を事前にご覧ください。
http://www.youtube.com/watch?v=4ZgCa4Vnj8s

学生の理解の度合いによって内容を変更することがあります。″

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050805|01|9S06050805[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	アイヌ語＜言語文化＞（入門）		
担 当 教 員	志賀 雪湖		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	アイヌ語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: アイヌ文化を学ぶ

授業概要: アイヌ語は日本列島で育まれた言語のひとつであり、日本語とは別の固有の言語です。
アイヌ民族は統一国家を作らず、日本の江戸時代には、松前藩や幕府の植民地のような状況に置かれたため、アイヌ民族による文字表記は明治・大正時代以降に始まりました。
アイヌは日本の先住民族ですが、現在、母語話者が減り、言語復興が試みられています。
文法的には、動詞が人称変化する点が日本語と異なりますが、語順が、ほぼ日本語と同じです。
「なぞなぞ」や「まじないの言葉」、「鳥の聞きなし」などを覚えてアイヌ文化にふれながら、文法も学んでいきます。
さらに、映像化された物語資料を使って、描かれた生活文化も学びます。

授業の到達目標: 1. アイヌ語の言葉遊び、まじないの言葉などを唱えたり歌ったりできるようになります。
2. アイヌ文化について理解できるようになります。
3. アイヌ語の基本的な文法の説明ができるようになります。

事前・事後学習の内容: 事前学習（毎回40分ほど）は音声を聞いて文章をスムーズに発音できるように練習しましょう。
資料読解のときは、アイヌ語アーカイブの辞書機能を使って訳してから授業に参加するようにしましょう。
事後学習(毎回80分ほど)は、授業で暗唱した表現を確実に覚え、学んだ文法事項を自分で解説できるように、たとえば友人に自分の言葉で説明できるように練習しましょう。
また、授業で学んだ文化事項に関連する資料など自ら探して鑑賞し、文化理解を深めましょう。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 アイヌ語表記の試み

アイヌの人々のアイヌ語を表記する試みの紹介

発音と表記とアクセントの原則

アイヌの物語によく登場する動植物を紹介しながら、ローマ字表記カタカナ表記について説明し、発音練習をします。
文法は音節の種類とアクセントの原則について学びます。

第3回 発音と表記（単語と語構成）

第1回で覚えた単語を、構成要素に分けることができる語とできない語とに分け、語構成も覚えます。
文法は単語の語構成、他動詞の主格人称形について学び、チームに分かれて語構成の説明や主格人称形の練習をしたり、自作の「どっちがほしいか」クイズを作ったりします。

第4回「などなぞ」

「なぞなぞ」を覚えて、伝統的な生活文化について学びます。文法は動詞の種類と語順について学び、身体部位の概念形と所属形についても学びます。

第5回「鳥のききなし」

野鳥の聞きなしを覚えて、伝統的な生活と野鳥のむすびつきを学びます。文法は、動詞の人称形と所有表現について学び、チームに分かれて文法説明の練習をします。
接続助詞についても学びます。

第6回 4月5月の文法まとめと試験対策

第1回から第5回まで学んだ文法事項についてまとめ、さらに次回の中間テスト対策もおこないます。

第7回 中間テスト

第6回までに学んだ文化や文法について、理解できているかどうかを確認するテストを実施します。

第8回 まじないの言葉

生活に密着した「まじないの言葉」をいくつか覚えます。文法は命令文、人称接辞ku=の母音脱落について学び、チームに分かれて文法説明の練習をします。

第9回 神様と人間の関係1

神謡（しんよう）「キツネのチャランケ」に登場するキツネの行為をとおして、人間と神である動物の関係を学びます。
文法は、物語ジャンルによって「私」を示す人称が異なることを学びます。

第10回 神様と人間の関係2

神謡「キツネのチャランケ」の類話鑑賞。歌う物語のージャンルである「神謡」をそっくりまねて歌う練習をします。

第11回 生活文化を学ぶ1

神謡「小さなアワの穂の女神」に登場する貧しいおばあさんの行為から社会によって規範となる行動が異なることを学びます。

第12回　伝統的生活文化を学ぶ2　6月7月の文法まとめと試験対策

第11回に鑑賞した神謡「小さなアワの穂の女神」から生活文化を読み取る練習をし、チーム別に発表します。第8回から第11回までに学んだ文化や文法事項についてまとめます。

第13回 文法のまとめ試験2と次回のチーム別発表の打合せ

第8回から第12回までに学んだ文化や文法事項について理解できているかどうかを確認するテストを実施します。終了後、次回の発表の担当決めと打合せをおこないます。

第14回　総まとめ

今学期に覚えたなぞなぞや鳥の聞きなし、2つの神謡（抜粋）を各担当者が発表しまとめとします。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 毎回、WasedaMoodleに講義資料をアップします。

参考文献: ・アイヌ民族博物館（監修）（1993）『アイヌ文化の基礎知識』草風館。
・中川裕（1995）『アイヌ語をフィールドワークする』大修館書店。
・中川裕（1997）『アイヌの物語世界』平凡社。〃

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 60　授業で学んだ単語、なぞなぞ、鳥の聞きなし、神謡などを暗唱、筆記することができるかどうか、基本文法の理解ができたかどうかを確認する試験（2回）の合計で評価

レポート: 30　随時、提示するテーマについて自分の意見をまとめた課題（2回）で評価

その他: 10　チームあるいは個人でテーマを決め、発表したものを評価

備考・関連URL:

アイヌ民族の現状について知っていただくために
北海道制作（2012）「アイヌモシリ～アイヌ民族の誇り～」25：08を事前にご覧ください。
http://www.youtube.com/watch?v=4ZgCa4Vnj8s

受講生の理解度により予定を変更することがあります〃

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050806|01|9S06050806[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	アイヌ語＜言語文化＞（初級）		
担 当 教 員	志賀　雪湖		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	アイヌ語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　アイヌ民族の世界観や生活文化を学ぶ

授業概要:　アイヌ語は日本列島で育まれた言語のひとつであり、日本語とは別の固有の言語です。アイヌ民族は統一国家を作らず、日本の江戸時代には、松前藩や幕府の植民地のような状況に置かれたため、アイヌ民族による文字表記は明治・大正時代以降に始まりました。
アイヌは日本の先住民族ですが、現在、母語話者が減り、言語復興が試みられています。このクラスから勉強を始めることができるように、文法は、重要な文法事項に焦点をあてて解説します。
「言い伝え」の資料から少しまとまった文章を抜粋し、発音したり暗記したりしながらアイヌ語の文章に慣れます。主に、アイヌの世界観、歴史認識や生活文化について学びます。

授業の到達目標:　1. アイヌ語の文章を読解する単語力をつけます。
2. 語りの資料を通してアイヌの世界観や歴史認識、生活文化について知ります。
3. 文法の理解だけではなく、きちんと説明できるようになります。

事前・事後学習の内容:　事前学習（毎回40分ほど）は音声を聞いて文章をスムーズに発音できるように練習しましょう。
資料読解のときは、アイヌ語アーカイブの辞書機能を使って訳してから授業に参加するようにしましょう。
事後学習（毎回80分ほど）は、授業で暗唱した表現を確実に覚え、学んだ文法事項を自分で解説できるように、たとえば友人に自分の言葉で説明できるようになりましょう。
また、授業で学んだ文化事項に関連する資料など自ら探して確認したり鑑賞し、文化理解を深めましょう。

授業計画フリー入力サイン:　0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 アイヌの世界観1「大地をつくる」鑑賞

世界に伝わる「世界の始まり」について略説したうえで、アイヌ民族の言い伝えから、国造りの神が大地をつくったことを語った資料「大地をつくる」を聞いて発音練習をします。重要な単語を覚え、文法事項からひとつ解説したうえで、説明する練習もします。

第2回 アイヌの世界観1「大地をつくる」暗唱

「大地をつくる」の復習のあと、覚える単語の確認をし、暗唱の練習をしてアイヌ語の語順に慣れます。文法の確認もします。

第3回　アイヌの世界観2「人間をつくる」鑑賞

世界に伝わる「人間創造について略説したうえで、アイヌ民族の言い伝えから、地上の神々が人間を作ったことを語った資料「人間をつくる」を聞いて発音練習します。重要な単語を覚え、文法事項からひとつ解説したうえで、チームに分かれて説明する練習もします。

第4回　アイヌの世界観2「人間をつくる」暗唱

「人間をつくる」の復習のあと、覚える単語の確認をし、暗唱の練習をしてアイヌ語の語順に慣れます。文法の確認もします。

第5回 アイヌ語地名1「地名をつける」鑑賞

北海道に多く残るアイヌ語地名について略説したうえで、アイヌ民族が名もない北海道に上陸し、アイヌ語地名をつけていったことを語った資料を聞いて、発音します。重要な単語を覚え、文法事項からひとつ解説したうえで、チームに分かれて説明する練習もします。

第6回　アイヌ語地名2「地名をつける」 暗唱と中間テスト対策

「地名をつける」の復習のあと、覚える単語の確認をし、暗唱の練習をしてアイヌ語の語順に慣れます。中間テストに向けて文法の確認もします。

第7回　中間テストとアイヌ民族に関する映像資料鑑賞

中間テストのあと、いくつかの映像資料から、アイヌ民族の歴史や現状について学ぶ資料を見ます。

第8回　カムイとは 「ゆたんぽカムイ」

「器物送り」について略説したあとに、萱野茂氏が見た舅の器物おくりについて語った資料を聞いて、発音します。

第9回　動物の霊魂の送り儀礼1

動物の送り儀礼について語った日本語による映像資料「パナウンペとハルニレの木」「パナンペとペナンペうみのカムイによばれる」を見て動物の霊魂の送り儀礼を学びます。重要な祭具の名称を覚え、伝統的な室内の座の習慣について学びます。

第10回　動物の送り儀礼2

前回の資料の基となった音声資料、あるいは同じ内容を語ったアイヌ語音声資料から抜粋した文を、読解します。

第11回　動物の送り儀礼3

ひきつづき、前回の資料から抜粋した文を読解します。室内の座の習慣について説明します。

第12回　文法のまとめ2と期末テスト対策

前回の資料から抜粋した文をもとに、内容について質問し、答える練習をします。その後グループにわかれて、文法説明をする練習もし、期末テストに向けて文法の確認もします。

第13回 期末テスト　※次回のまとめ発表の担当決めもあります

第7回から第11回までの内容について筆記テストを実施したあとに、次回の発表の担当を決めます。

第14回 まとめの発表

今学期に学んだことをチームあるいは個人で発表してまとめとします。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 毎回、WasedaMoodleに講義資料をアップします。

参考文献:
・アイヌ民族博物館（監修）（1993）『アイヌ文化の基礎知識』草風館。
・中川裕（1995）『アイヌ語をフィールドワークする』大修館書店。
・中川裕（1997）『アイヌの物語世界』平凡社。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 60　中間テスト、期末テストとして、授業で学んだ文法や文化について理解できているかどうかチェックし、評価します。

レポート: 30　いくつのかのテーマについて随時（2回ほど）自分の考えをまとめたレポート提出を課し、それを評価します。

その他: 10　学期末に今学期にまなんだことをグループまたは個人で発表する内容について評価します。

備考・関連URL: アイヌ語が未習でも、このクラスから始めることができます。
受講生の理解度により予定を変更することがあります。

アイヌ民族の現状について知っていただくために
北海道制作（2012）「アイヌモシリ～アイヌ民族の誇り～」25:08を
事前にご覧ください。
http://www.youtube.com/watch?v=4ZgCa4Vnj8s

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050807|01|9S06050807[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	アイヌ語＜口承文芸＞（入門）		
担 当 教 員	奥田 統己		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	アイヌ語	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: アイヌ口承文芸のうち、とくに散文説話（ふつうの人間の数奇な体験の物語）というメロディーをつけずに語られるジャンルを中心に、内容を概観し、その背景にある世界観、倫理観、幸福観などの文化にどのように接近していくか、自らの文化を省みながら、考えます。また散文説話のテキストに加えて日常会話の例文についても学び、アイヌ語の発音と文法の基礎を学びます。さらにテキストの実例に即して録音を聞き、訳を確認して、基本単語や表現、技巧の基本を見て行きます。「ゴールデンカムイ」のようなマンガが描く虚構と固定観念によるイメージではなく、現実の多様なアイヌ文化・アイヌ史に接近しましょう。

授業の到達目標: ・目の前に提示されているさまざまな「アイヌ文化」を鵜呑みせずに、「事実を追う力」「考える力」を身につける。
・アイヌ口頭文芸の語り手の多様性への想像力を身につけ、また自己もやはり多様であって他者を測定する安定した尺度ではないことを認識する。
・アイヌ語の発音と文法の基礎を理解し、基本単語や散文説話の表現、技巧の基本を学ぶ。
・日常会話の例文を、アイヌ語らしいリズムとイントネーションに沿って発音できる。

事前・事後学習の内容: 事前学習：提示された参考資料を閲覧・視聴し、また前回までの授業で配布された教材を復習する。
事後学習：授業で配布された教材を復習し、新たな問題について自ら考える。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
アイヌ口承文芸の概説
第2回
散文説話の概説
第3回
散文説話に描かれる倫理観（1）
第4回
散文説話に描かれる倫理観（2）
第5回
アイヌ語の発音の基礎（1）
第6回
アイヌ語の発音の基礎（2）
第7回
アイヌ語の日常会話（1）
第8回
アイヌ語の日常会話（2）
第9回
散文説話に描かれる幸福観（1）
第10回
散文説話に描かれる幸福観（2）
第11回
散文説話の語りの特徴（1）
第12回
散文説話の語りの特徴（2）
第13回
アイヌ民族の歴史と現状について

第１４回
試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: プリントを配布

参考文献: ・萱野茂『新訂復刻　ウウェペケレ集大成』日本伝統文化振興財団、2005
・中川裕『改訂版　アイヌの物語世界』平凡社、2020
・『知里真志保著作集』平凡社、1973

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50 最終日に試験を実施します。

平常点評価: 50 授業中随時、小課題や発問などによって理解の状況を確認し、平常点評価の材料にします。

備考・関連URL: アイヌ語を初めて学ぶ人でも構いませんが、通年または集中で開講されるアイヌ語のクラスを履修中または履修済であるとさらに効果的でしょう。

【授業日程（予定）】
８月１７日（月）２～４限　８月１８日（火）２～４限　８月１９日（水）２～４限　８月２０日（木）２～３限　８月２１日（金）２～４限（最後の２日は試験運営などのため3コマ／4コマで開講します）

関連URL:
アイヌ語学習者のためのアイヌ語基本文献・音声資料リスト
http://jinbunweb.sgu.ac.jp/ainu/biblio/japanese.html
アイヌ語音声資料
https://waseda.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=1635&pn=1&count=20&order=7&lang=japanese&page_id=13&block_id=21

国立アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ

https://ainugo.nam.go.jp/
AA研アイヌ語資料公開プロジェクト
https://ainugo.aa-ken.jp/
ほっかいどうアイヌ語アーカイブ
http://ainugo.hm.pref.hokkaido.lg.jp/

北海道アイヌ協会
http://www.ainu-assn.or.jp/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050808|01|9S06050808[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	アイヌ語＜口承文芸＞（初級）		
担 当 教 員	奥田 統己		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	アイヌ語	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: アイヌ口承文芸のうち、とくに叙情歌（個人の感情を込める歌謡）、神謡（神々が歌う物語）および英雄叙事詩（英雄が語る物語）というメロディーをつけて歌われる3つのジャンルから、それぞれいくつかの実例をとりあげ、テキストを見ながら録音を聞き、訳を確認して、基本単語や表現、技巧の基本を見て行きます。
アイヌ語のリズムとイントネーションに沿った朗読を少し練習します。とくに韻文を語るうえで必要となる、アイヌ語の韻律について学びます。
「入門」に引き続き、「ゴールデンカムイ」のようなマンガが描く虚構と固定観念によるイメージではなく、現実の多様なアイヌ文化・アイヌ史に接近することを試みます。

授業の到達目標: ・アイヌ口承文芸を理解するための基本単語を覚え、発音でき、アイヌ語のリズムとイントネーションに沿ってテキストを朗読できるようになること。
・独特な表現や常套句、対句、韻律などの技巧の実例から、アイヌ語らしさを学ぶこと。
・物語の含意を読み取ること。

事前・事後学習の内容: 事前学習：提示された参考資料を閲覧・視聴し、また前回までの授業で配布された教材を復習する。
事後学習：授業で配布された教材を復習し、新たな問題について自ら考える。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
アイヌ口承文芸の概説（入門の確認）
第2回
叙情歌について（1）
第3回
アイヌ語の発音の基礎（1）
第4回
アイヌ語の発音の基礎（2）
第5回
叙情歌について（2）
第6回
神謡について（1）
第7回
神謡について（2）
第8回
アイヌ民族の歴史と現状について
第9回
アイヌ語の韻文の基礎（1）
第10回
神謡の折り節とメロディーについて
第11回
アイヌ語の韻文の基礎（2）
第12回
英雄叙事詩について（1）
第13回
英雄叙事詩について（2）

第１４回
試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: プリント配布

参考文献: ・中川裕『改訂版　アイヌの物語世界』平凡社、2020
・『知里真志保著作集』平凡社、1973
・久保寺逸彦『アイヌ叙事詩　神謡聖伝の研究』岩波書店、1977

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50 最終日に試験を実施します。

平常点評価: 50 授業中随時、小課題や発問などによって理解の状況を確認し、平常点評価の材料にします。

備考・関連URL: アイヌ語を初めて学ぶ人でも構いませんが、通年または集中で開講されるアイヌ語のクラスを履修中または履修済であるとさらに効果的でしょう。

【授業日程（予定）】
８月２４日（月）２～４限　８月２５日（火）２～４限　８月２６日（水）２～４限　８月２７日（木）２～３限　８月２８日（金）２～４限（最後の２日は試験運営などのため3コマ／4コマで開講します）

関連URL:
アイヌ語学習者のためのアイヌ語基本文献・音声資料リスト
http://jinbunweb.sgu.ac.jp/ainu/biblio/japanese.html
アイヌ語音声資料
https://waseda.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=1635&pn=1&count=20&order=7&lang=japanese&page_id=13&block_id=21

国立アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ

https://ainugo.nam.go.jp/
AA研アイヌ語資料公開プロジェクト
https://ainugo.aa-ken.jp/
ほっかいどうアイヌ語アーカイブ
http://ainugo.hm.pref.hokkaido.lg.jp/

北海道アイヌ協会
http://www.ainu-assn.or.jp/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050815|01|9S06050815[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	アラビア語（入門） 01		
担 当 教 員	榮谷 温子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	アラビア語	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： アラビア語基本文法

授業概要： 初めてアラビア語を学ぶ学生を対象に、文字と発音、基礎的な文法の習得を目的とする。中東・北アフリカの広い地域で用いられるアラビア語には、多くの方言（アーンミーヤ）が存在するが、本講座で学ぶのは、正則アラビア語（フスハー）である。
※01・02は、どちらか一方しか履修できない。

授業の到達目標： 春学期では、正則アラビア語の名詞と形容詞（格変化、数、等）を中心に、前基本的な構文を身につける。

事前・事後学習の内容： 予習として、事前に配付するプリントの事前読了を求める。各回の予習には60分ほどを要すると想定される。
復習として、練習問題への取り組みを求める。各回の復習には60分ほどを要すると想定される。

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
アラビア文字の書き方と発音
第2回
アラビア文字の発音記号類
第3回
第1課 名詞と冠詞
第4回
第1課 名詞と冠詞
第5回
第2課 名詞の性
第6回
第2課 名詞の性
第7回
第3課 名詞の格
第8回
第3課 名詞の格
第9回
第4課 名詞の数（双数）
第10回
第4課 名詞の数（規則複数）
第11回
第5課 不規則複数
第12回
第6課 人称代名詞（haveの表現、there is/are … の表現）
第13回
第6課 人称代名詞（haveの表現、there is/are … の表現）
第14回
期末試験

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書:	佐々木淑子『新版 アラビア語入門』(翔文社) その他、プリント配付
参考文献:	参考となる文法入門書としては、ほかに、 黒柳恒男、飯森嘉助『現代アラビア語入門』(大学書林) 奴田原睦明『基本アラビア語入門』(大学書林) 依田純和『アラビア語』(大阪大学出版会) ※別冊もあり 教科書よりさらに詳しい文法入門としては、 新妻仁一『アラビア語文法ハンドブック』(白水社) などがある。
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験:	40	文法の基本事項の理解を見る。
レポート:	30	授業中に時間不足でできなかった練習問題等を宿題とする。
平常点評価:	30	出席率だけではなく、練習問題への取り組みなども含めて評価する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050815|02|9S06050815[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	アラビア語（入門） 02		
担 当 教 員	榮谷 温子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	アラビア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： アラビア語基本文法

授業概要： 初めてアラビア語を学ぶ学生を対象に、文字と発音、基礎的な文法の習得を目的とする。中東・北アフリカの広い地域で用いられるアラビア語には、多くの方言（アーンミーヤ）が存在するが、本講座で学ぶのは、正則アラビア語（フスハー）である。
※01・02は、どちらか一方しか履修できない。

授業の到達目標： 春学期では、正則アラビア語の名詞と形容詞（格変化、数、等）を中心に、前基本的な構文を身につける。

事前・事後学習の内容： 予習として、事前に配付するプリントの事前読了を求める。各回の予習には60分ほどを要すると想定される。
復習として、練習問題への取り組みを求める。各回の復習には60分ほどを要すると想定される。

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
アラビア文字の書き方と発音
第2回
アラビア文字の発音記号類
第3回
第1課 名詞と冠詞
第4回
第1課 名詞と冠詞
第5回
第2課 名詞の性
第6回
第2課 名詞の性
第7回
第3課 名詞の格
第8回
第3課 名詞の格
第9回
第4課 名詞の数（双数）
第10回
第4課 名詞の数（規則複数）
第11回
第5課 不規則複数
第12回
第6課 人称代名詞（haveの表現、there is/are … の表現）
第13回
第6課 人称代名詞（haveの表現、there is/are … の表現）
第14回
期末試験

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書:	佐々木淑子『新版 アラビア語入門』(翔文社) その他、プリント配付
参考文献:	参考となる文法入門書としては、ほかに、 黒柳恒男、飯森嘉助『現代アラビア語入門』(大学書林) 奴田原睦明『基本アラビア語入門』(大学書林) 依田純和『アラビア語』(大阪大学出版会) ※別冊もあり 教科書よりさらに詳しい文法入門としては、 新妻仁一『アラビア語文法ハンドブック』(白水社) などがある。
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験:	40	文法の基本事項の理解を見る。
レポート:	30	授業中に時間不足でできなかった練習問題等を宿題とする。
平常点評価:	30	出席率だけではなく、練習問題への取り組みなども含めて評価する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050816|01|9S06050816[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	アラビア語（初級） O1		
担 当 教 員	榮谷 温子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	アラビア語	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: アラビア語基本文法

授業概要: ※春学期の「入門」の続きである。アラビア語を文字から学習する授業ではない。 ※01・02は、どちらか一方しか履修できない。
春学期の入門を終えたレベルの学生を対象に、動詞の用法を中心に、基本文法の習得を目指す。

授業の到達目標: 基本動詞の活用をしっかりと身に付け、その土台の上に動詞派生形を構築していく。

事前・事後学習の内容: 予習として、事前に配付するプリントの事前読了を求める。各回の予習には60分ほどを要すると想定される。
復習として、練習問題への取り組みを求める。各回の復習には60分ほどを要すると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
第7課 前置詞
第2回
第8課 指示代名詞・指示形容詞・疑問詞
第3回
第9課 形容詞
第4回
第10課 動詞完了形
第5回
第11課 動詞未完了形
第6回
第11課 動詞未完了形
第7回
第12課 受動態
第13課 分詞・動名詞・場所名詞・道具名詞
第8回
第14課 be動詞カーナ
第9回
第15課 否定動詞ライサ
第10回
第17課 関係代名詞
第11回
第18課 派生形
第12回
第18課 派生形
第13回
第19課 条件文・強調文・that構文など
第14回
期末試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:	佐々木淑子『新版 アラビア語入門』(翔文社) その他、プリント配付
参考文献:	参考となる文法入門書としては、ほかに、 黒柳恒男、飯森嘉助『現代アラビア語入門』(大学書林) 奴田原睦明『基本アラビア語入門』(大学書林) 依田純和『アラビア語』(大阪大学出版会) ※別冊もあり 教科書よりさらに詳しい文法入門としては、 新妻仁一『アラビア語文法ハンドブック』(白水社) などがある。
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験:	40	基本事項の習得度を見る。
レポート:	30	授業中に、時間不足でできなかった練習問題等を宿題にすることがある。
平常点評価:	30	出席点だけでなく、練習問題への取り組みなども含めて評価する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050816|02|9S06050816[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	アラビア語（初級） 02		
担 当 教 員	榮谷 温子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	アラビア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: アラビア語基本文法

授業概要: ※春学期の「入門」の続きである。アラビア語を文字から学習する授業ではない。 ※01・02は、どちらか一方しか履修できない。
春学期の入門を終えたレベルの学生を対象に、動詞の用法を中心に、基本文法の習得を目指す。

授業の到達目標: 基本動詞の活用をしっかりと身に付け、その土台の上に動詞派生形を構築していく。

事前・事後学習の内容: 予習として、事前に配付するプリントの事前読了を求める。各回の予習には60分ほどを要すると想定される。
復習として、練習問題への取り組みを求める。各回の復習には60分ほどを要すると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
第7課 前置詞
第2回
第8課 指示代名詞・指示形容詞・疑問詞
第3回
第9課 形容詞
第4回
第10課 動詞完了形
第5回
第11課 動詞未完了形
第6回
第11課 動詞未完了形
第7回
第12課 受動態
第13課 分詞・動名詞・場所名詞・道具名詞
第8回
第14課 be動詞カーナ
第9回
第15課 否定動詞ライサ
第10回
第17課 関係代名詞
第11回
第18課 派生形
第12回
第18課 派生形
第13回
第19課 条件文・強調文・that構文など
第14回
期末試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:	佐々木淑子『新版 アラビア語入門』(翔文社) その他、プリント配付
参考文献:	参考となる文法入門書としては、ほかに、 黒柳恒男、飯森嘉助『現代アラビア語入門』(大学書林) 奴田原睦明『基本アラビア語入門』(大学書林) 依田純和『アラビア語』(大阪大学出版会) ※別冊もあり 教科書よりさらに詳しい文法入門としては、 新妻仁一『アラビア語文法ハンドブック』(白水社) などがある。
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験:	40	基本事項の習得度を見る。
レポート:	30	授業中に、時間不足でできなかった練習問題等を宿題にすることがある。
平常点評価:	30	出席点だけでなく、練習問題への取り組みなども含めて評価する。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050817|01|9S06050817[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	アラビア語（準中級）		
担 当 教 員	榮谷　温子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	アラビア語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　アラビア語の基本文法の復習・補強とアラビア語読解

授業概要：　1. アラビア語基本文法の復習や補足をする。
2. 簡易なアラビア語の文章を読み進めていく。
　童話、漫画、新聞記事の一部、小説の一部など。
　受講者の希望をなるべく取り入れていきたいと考える。
※アラビア語「入門」「初級」の履修完了者あるいは同等のアラビア語力を持つ者を対象とした授業である。
※例えばまったくの未習者が受講しても単位取得は見込めない。未習者が受講しても特別な配慮はしない。

授業の到達目標：　アラビア語入門・初級で学んだ文法事項の定着と、それを生かして、アラビア語を読んだり書いたりできるようになることを目標とする。

事前・事後学習の内容：　予習として、事前に配付するプリントを読み、練習問題を解いたり、読解教材を読んだりして、疑問点をはっきりさせておくこと。各階の予習には、90分～120分掛かると想定される。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
・基数詞の説明と練習
・発音記号の付いた平易な短文

第2回
・序数詞の説明と練習
・発音記号の付いた平易なパラグラフ

第3回
・規則動詞完了形の復習
・発音記号の付いた平易なパラグラフ

第4回
・派生形完了形の復習
・発音記号の付いた平易な読み物

第5回
・不規則動詞完了形の説明と練習
・発音記号の付いた平易な読み物

第6回
・規則動詞未完了形の復習
・発音記号の付いた平易な読み物

第7回
・派生形未完了形の復習
・発音記号の付いた平易な読み物

第8回
・不規則動詞未完了形の説明と練習
・発音記号の付いた平易な読み物

第9回
・良く使う不規則動詞の派生形の練習・アルジャジーラのアラビア語学習サイトの読み物（発音記号付き）

第10回
・受動態について・アルジャジーラのアラビア語学習サイトの読み物（発音記号付き）

第11回
・第1形や派生形の能動分詞、受動分詞、動名詞・アルジャジーラのアラビア語学習サイトの読み物（発音記号付き）

第12回
・名詞・形容詞の格変化の復習・アルジャジーラのアラビア語学習サイトの読み物（発音記号付き）
第13回
・指示詞の用法の復習・アルジャジーラのアラビア語学習サイトの読み物（発音記号付き）
第14回
・形容詞の復習・アルジャジーラのアラビア語学習サイトの読み物（発音記号付き）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 佐々木淑子『新版アラビア語入門』翔文社
プリント配付。

参考文献: 読解用に、できれば下記の辞書を用意してください。
1. Hans Wehr "Arabic English Dictionary of Modern Written Arabic" (Spoken Language Services)
あるいは
2. Arabic almanac (スマートフォンのアプリ。1 の第4版)

必要に応じて、使い慣れた文法書を持参してください。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 50 基本的な文法等の理解度を見る。

平常点評価: 50 出席率だけではなく、練習問題への取り組みなども含めて評価する。

備考・関連URL: https://ejtaal.net/aa/
語根引きのアラビア語辞典が複数集められており、ひとまとめに引くことができる。
https://shinjikai.app/#/
深辞海（しんじかい） 日本語アラビア語辞典

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050818|01|9S06050818[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	アラビア語（中級）		
担 当 教 員	榮谷　温子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	アラビア語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　アラビア語の基本文法の復習・補強とアラビア語読解

授業概要：　アラビア語准中級に引き続き、 1. アラビア語の基本文法の復習や補強をする。
2. 簡易なアラビア語の文章を読み進めていく。
童話、漫画、新聞記事の一部、小説の一部など。
受講者の希望をなるべく取り入れていきたいと考えます。

※アラビア語「入門」「初級」を履修済み、あるいは同等のアラビア語力を持つ者を対象とした授業である。
※例えばまったくの未習者が受講しても単位取得は見込めない。未習者が受講しても特別な配慮はしない。

授業の到達目標：　アラビア語入門・初級・準中級で学んだ文法事項の定着と、それを生かして、アラビア語を読んだり書いたりできるようになることを目標とする。

事前・事後学習の内容：　予習として、事前に配付するプリントを読み、練習問題を解いたり、読解教材を読んだりして、疑問点をはっきりさせておくこと。各階の予習には、90分～120分掛かると想定される。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
・カーナ動詞の復習・アルジャジーラのアラビア語学習サイトの読み物（発音記号なし）
第2回
・否定動詞ライサの復習・アルジャジーラのアラビア語学習サイトの読み物（発音記号なし）
第3回
・分詞や動名詞の復習・アルジャジーラのアラビア語学習サイトの読み物（発音記号なし）
第4回
・関係代名詞の復習・アルジャジーラのアラビア語学習サイトの読み物（発音記号なし）
第5回
・条件文の復習・発音記号のない文章
第6回
・付帯状況の表現についての説明・発音記号のない文章
第7回
・4語根動詞についての説明・発音記号のない文章
第8回
・未完了形接続形の復習・発音記号のない文章
第9回
・未完了形短形の復習・発音記号のない文章
第10回
・命令形の復習・発音記号のない文章
第11回
・形容詞（複合形容詞など）の復習・発音記号のない文章
第12回
・不規則複数形の復習・発音記号のない文章
第13回
・受動態の補足説明・発音記号のない文章

第１４回
・付帯状況、説明の対格（タムイーズ）などの説明・発音記号のない文章

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: プリント配付。

参考文献: 読解用に、できれば、下記の辞書を用意してください。
1. Hans Wehr ″Arabic English Dictionary of Modern Written Arabic″ (Spoken Language Services)
あるいは
2. Arabic almanac (スマートフォンのアプリ。1 の第4版)

必要に応じて、使い慣れた文法書を持参してください。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 50 基本的な文法等の理解度を見ます。

平常点評価: 50 出席率だけではなく、練習問題への取り組みなども含めて評価します。

備考・関連URL: https://ejtaal.net/aa/
語根引きのアラビア語辞典が複数集められており、ひとまとめに引くことができる。
https://shinjikai.app/#/
深辞海（しんじかい） 日本語アラビア語辞典

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050819|01|9S06050819[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	アラビア語（ネイティブによるアラビア語） 01		
担 当 教 員	スライマーン アラーエルディーン		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	アラビア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: アラビア語をまったく知らない学生を対象にする授業です。標準アラビア語の文字の書き方と正しい発音を学んでから、基本的な挨拶を学び、なるべく少ない語彙で名詞と前置詞を使って「授業到達目標」に記載されている事項を身に付けます。この授業では、アラビア語の基本的な文法を学びますが、会話も重視し、新しい文法項目を学ぶたびに、それを使って、クラスのパートナーと会話形式で会話の練習をします。

授業の到達目標: この授業の履修者は次の①～⑦の事項や表現ができるようになります。

①地名、自分や他人の名前を読んだり、書いたりすることができるようになります。

②基本的な挨拶。

③自己紹介。例えば、「私は…です。私は....出身です。」「あなたの名前は何ですか」

④人や物の属性を述べたり訊ねたりする。例えば、「この大学は有名です」、「彼は親切です」、「これはなんですか」「この本は簡単ですか」「大学の図書館は大きいです」など。

⑤人や物が存在する場所を述べたり、それを訊ねたりする。例えば、「あなたの大学はどこですか」、「私の大学は早稲田にあります」など。

⑥ある場所に存在する人や物を述べたり、それを訊ねたりする。例えば、「部屋には誰がいますか」、「部屋には学生がいます」など。

⑦自分や他人が所有する物を述べたり、訊ねたりする。例えば、「私は自転車を持っている」、「あなたはペンを持っていますか」など。

事前・事後学習の内容: この授業の目標に到達するために次のことに心がけていただきたいです。

① 授業中に教員の説明が分からなかったら、なるべく早い段階でそのことを教員に伝えてください。文法や単語の意味などを分からないままにしないでください。恥ずかしいと思うことなく、質問をしてください。

② アラビア語は授業にしか触れることができないので、学習したことは、説明を覚えているうちに復習してください。

③ 教員が配布する音声ファイルを聞いてください。語彙を簡単に覚えられるだけでなく、発音もよくなります。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1回 文字と発音
第2回 文字と発音記号
第3回 挨拶、「あなたの名前はなんですか」
第4回 「その学生は勤勉ですか」
第5回 「これは何ですか」、「この大学は大きいです」
第6回 「彼の車は大きいです」
第7回 「その学生の自転車は新しいです」
第8回 「あなたの本はどこですか」
第9回 「大学の前には、レストランがあります」
第10回 「私は自転車を持っています」
第11回 「その学生は勤勉ではありません」
第12回 「その学生は勤勉でした」
第13回 「昨日、何をしましたか」、「明日、何をしますか」
第14回 試験

言語区分: 0 日・英併用 Japanese/English

教科書: プリントを配布します。

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 試験 80%
レポート %
平常点評価 20% （平常点は、予習、復習の状況、授業中の発言、小テストの成績などで評価します。）

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050819|02|9S06050819[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	アラビア語（ネイティブによるアラビア語） 02		
担 当 教 員	スライマーン アラーエルディーン		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	アラビア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: アラビア語をまったく知らない学生を対象にする授業です。標準アラビア語の文字の書き方と正しい発音を学んでから、基本的な挨拶を学び、なるべく少ない語彙で名詞と前置詞を使って「授業到達目標」に記載されている事項を身に付けます。この授業では、アラビア語の基本的な文法を学びますが、会話も重視し、新しい文法項目を学ぶたびに、それを使って、クラスのパートナーと会話形式で会話の練習をします。

授業の到達目標: この授業の履修者は次の①～⑦の事項や表現ができるようになります。

①地名、自分や他人の名前を読んだり、書いたりすることができるようになります。

②基本的な挨拶。

③自己紹介。例えば、「私は…です。私は....出身です。」「あなたの名前は何ですか」

④人や物の属性を述べたり訊ねたりする。例えば、「この大学は有名です」、「彼は親切です」、「これはなんですか」「この本は簡単ですか」「大学の図書館は大きいです」など。

⑤人や物が存在する場所を述べたり、それを訊ねたりする。例えば、「あなたの大学はどこですか」、「私の大学は早稲田にあります」など。

⑥ある場所に存在する人や物を述べたり、それを訊ねたりする。例えば、「部屋には誰がいますか」、「部屋には学生がいます」など。

⑦自分や他人が所有する物を述べたり、訊ねたりする。例えば、「私は自転車を持っている」、「あなたはペンを持っていますか」など。

事前・事後学習の内容: この授業の目標に到達するために次のことに心がけていただきたいです。

① 授業中に教員の説明が分からなかったら、なるべく早い段階でそのことを教員に伝えてください。文法や単語の意味などを分からないままにしないでください。恥ずかしいと思うことなく、質問をしてください。

② アラビア語は授業にしか触れることができないので、学習したことは、説明を覚えているうちに復習してください。

③ 教員が配布する音声ファイルを聞いてください。語彙を簡単に覚えられるだけでなく、発音もよくなります。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1回 文字と発音
第2回 文字と発音記号
第3回 挨拶、「あなたの名前はなんですか」
第4回 「その学生は勤勉ですか」
第5回 「これは何ですか」、「この大学は大きいです」
第6回 「彼の車は大きいです」
第7回 「その学生の自転車は新しいです」
第8回 「あなたの本はどこですか」
第9回 「大学の前には、レストランがあります」
第10回 「私は自転車を持っています」
第11回 「その学生は勤勉ではありません」
第12回 「その学生は勤勉でした」
第13回 「昨日、何をしましたか」、「明日、何をしますか」
第14回 試験

言語区分: 0 日・英併用 Japanese/English

教科書: プリントを配布します。

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 試験 80%
レポート %
平常点評価 20% （平常点は、予習、復習の状況、授業中の発言、小テストの成績などで評価します。）

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050823|01|9S06050823[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	インドネシア語（入門） 01		
担 当 教 員	クットリル イメルダ		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	インドネシア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： インドネシア語基礎文法の習得に重点を置き、基礎学力を養成することを目標とします。また、随時インドネシア文化についての解説も行い、インドネシア語への興味を深めるようにします。

授業の到達目標： 基礎文法を理解し、インドネシア語の辞書を使用し単語の意味を調べることができるようになる。

事前・事後学習の内容： 毎週単語テストがありますので、新しい単語を事前に覚えること。新しい単語を覚えたり、作文したり必要な時間は人によりますが一時間程度です。

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 4月16日 3限 アルファベットの読み方･発音・自己紹介・挨拶
アルファベットの読み方･発音・自己紹介・挨拶。
第2回 4月16日 4限 名詞・名詞句
名詞及び名詞句を使用する会話、作文。
第3回 4月23日 3限 形容詞 その1
名詞＋形容詞を使用し、作文する。
第4回 4月23日 4限 形容詞 その2
名詞＋形容詞を使用し、作文する。
第5回 4月30日 3限 比較文章
形容詞の確認。比較文章を会話形式で学ぶ。
第6回 4月30日 4限 数字
会話形式で数字を使用する。
第7回 5月7日 3限 語幹のみ動詞（主に自動詞）
インドネシア語のテンスについて。作文する。
第8回 5月7日 4限 助動詞・副詞
名詞＋語幹のみ動詞を使用し、文章を作る。
第9回 5月14日 3限 Ber- 動詞（主に自動詞）
ber-動詞の文章。
第10回 5月14日 4限 時間
時間の言い方及び練習。
第11回 5月21日 3限Me- 動詞 （他動詞） その1
me 動詞の変化、語幹の探し方
第12回 5月21日 4限Me- 動詞 （他動詞） その2
語幹の探し方、辞書を使用する及び作文する。
第13回 5月28日 3限読解 動詞さがし
短いお話を日本語に訳す。
第14回 5月28日 4限 読解・作文
短いお話を日本語に訳す。

言語区分： 0 日・英併用 Japanese/English

教科書： 国際インドネシア語教育協会、日本支局・在日インドネシア共和国大使館教育文化部の入門・初級者向け教材「Rona Pesona Indonesia A1-A2」（緑表紙）を使用します。

https://appbipa-jepang.org/RPI%E5%88%9D%E7%B4%9A%E6%9C%AC%E4%BD%93.pdf より各自にダウンロードしてください。（無料）

授業中タブレット端末やパソコン使用を許可しますので、紙で書きたい方は各自で印刷してください。

参考文献: 舟田京子編「『プログレッシブ　インドネシア語辞典』 小学館、B6版　1104ページ　ISBN978-4-09-515811-2, 定価：　4,900円＋消費税

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 出席状況を含む平常点、小テスト、期末テストの成績をもとに総合的に評価します。

備考・関連URL:

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050824|01|9S06050824[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	インドネシア語（初級）　01		
担 当 教 員	クットリル　イメルダ		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	インドネシア語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　春クオターに学んだインドネシア語の基礎学力をもとに会話力・作文力を高めることに重点を置きます。常に、インドネシア文化についての解説も行い、インドネシア語への興味を深めるようにします。

授業の到達目標：　基礎文法を理解し、インドネシア語の辞書を使用し単語の意味を調べることができるようにする。

事前・事後学習の内容：　毎週単語テストがありますので、新しい単語を事前に覚えること。新しい単語を覚えたり、作文したり必要な時間は人によりますが一時間程度です。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　6月4限　3限　　me-動詞の練習と命令文
動詞を使って作文する。「私の一日」など。
第2回　6月4日　4限　　me-動詞の練習と命令文
動詞を使って作文する。「私の一日」など。
第3回　6月11日　3限　他の形の他動詞　（ me-kan/me-i）
他の形の他動詞　(me-kan/me-i)の説明。
第4回　6月11日　4限　他の形の他動詞　（ me-kan/me-i）
他の形の他動詞　(me-kan/me-i)の練習。
第5回　6月18日　3限　命令文と疑問文
疑問詞の説明や命令文の説明
第6回　6月18日　4限　命令文と疑問文
疑問文と命令文の練習・作文
第7回　6月25日　3限　接尾辞・接尾辞がつく名詞
-an, pe-, pe-an, ke-anの説明
第8回　6月25日　4限　接尾辞・接尾辞がつく名詞
-an, pe-, pe-an, ke-anの練習
第9回　7月2日　3限　受動態
受動態の説明や練習
第10回 7月2日　4限　他の形の動詞
memper- の説明
第11回　7月9日　3限　他の形の動詞
ke-an 被害動詞とter 受動態
第12回 7月9日　4限他の形の動詞
ke-an 被害動詞とter 受動態
第13回　7月16日　3限読解
短いお話を日本語に翻訳する
第14回　7月16日　4限作文
短いお話を日本語に翻訳する

言語区分：　0　　日・英併用　　Japanese/English

教科書：　国際インドネシア語教育協会、日本支局・在日インドネシア共和国大使館教育文化部の入門・初級者向け教材「Rona Pesona Indonesia　A1-A2」（緑表紙）を使用します。

	https://appbipa-jepang.org/RPI%E5%88%9D%E7%B4%9A%E6%9C%AC%E4%BD%93.pdf より各自にダウンロードしてください。（無料）
	授業中タブレット端末やパソコン使用を許可しますので、紙で書きたい方は各自で印刷してください。
参考文献:	舟田京子編「『プログレッシブ インドネシア語辞典』 小学館、B6版 1104ページ ISBN978-4-09-515811-2, 定価： 4,900円＋消費税
成績評価フリー入力サイン:	1：フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	出席状況を含む平常点、小テスト、期末テストの成績をもとに総合的に評価します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050825|01|9S06050825[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	インドネシア語（準中級）		
担 当 教 員	クットリル イメルダ		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	インドネシア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： 「入門・初級」で習得した基礎学力を高めることを目標とします。学んだ文法や表現のパターンを確認しながら、より複雑な文章や他の接頭辞・接尾辞・イディオムなどを学び、インドネシアの文化・習慣等を紹介する文章を教材とします

授業の到達目標： インドネシア語の文章を日本語に翻訳できるようになります。

事前・事後学習の内容： 指摘された単語の意味を調べ、またその単語で自分なりの文章を考えてもらう。意味調べと作文するための必要な時間は一時間程度。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 10月1日 3限 講読及び会話練習
「Keluarga（家族）」を読む。会話練習。
第2回 10月1日 4限 講読及び会話練習
家族または人物について作文し、話します。
第3回 10月8日 3限 講読及び会話練習
「Berbelanja （買い物する） 」を読む。会話練習。
第4回 10月8日 4限 講読及び会話練習
「Berbelanja （買い物する） 」を読む。会話練習。
第5回10月15日 3限 講読及び会話練習
「Kebiasaan Makan（食習慣）」を読む。会話練習。
第6回 10月15日 4限 講読及び会話練習
「Restoran danWarung（外食について）」を読む。会話練習。
第7回 10月22日 3限 講読及び会話練習
「Rumah（家屋）」を読む。会話練習。
第8回 10月22日 4限 講読及び会話練習
「Rumah（家屋）」を読む。会話練習。
第9回 10月29日 3限 講読及び会話練習
「AGAMA （宗教）」を読む。会話練習。
第10回 10月29日 4限 講読及び会話練習
「AGAMA （宗教）」を読む。会話練習。
第11回 11月12日 3限 講読及び会話練習
「Lagu（歌）」を読む。
第12回 11月12日 4限 講読及び会話練習
「Bioskop （映画）」を読む。
第13回 11月19日 3限 作文
お勧めの映画か本をインドネシア語で紹介する。
第14回 11月19日 4限 発表
お勧めの映画か本をインドネシア語で紹介する。

言語区分： 0 日・英併用 Japanese/English

教科書： 国際インドネシア語教育協会、日本支局・在日インドネシア共和国大使館教育文化部の中級者向け教材「Rona

	Pesona Indonesia　B1-B2」を使用します。 https://appbipa-jepang.org/RPI_APPBIPA%E6%9C%AC%E4%BD%93.pdf　より各自にダウンロードしてください。（無料） 授業中タブレット端末やパソコン使用を許可しますので、紙で書きたい方は各自で印刷してください。
参考文献:	舟田京子編「『プログレッシブ　インドネシア語辞典』 小学館、B6版　1104ページ　ISBN978-4-09-515811-2,　定価:　4,900円＋消費税
成績評価フリー入力サイン:	1：フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	出席状況を含む平常点、小テスト、期末テスト又は課題をもとに総合的に評価します。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050826|01|9S06050826[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	インドネシア語（中級）		
担 当 教 員	クットリル　イメルダ		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	インドネシア語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　「入門・初級」で習得した基礎学力を高めることを目標とします。学んだ文法や表現のパターンを確認しながら、より複雑な文章や他の接頭辞・接尾辞・イディオムなどを学び、インドネシアの文化・習慣等を紹介する文章を教材とします。後半に日本語からインドネシア語に翻訳も挑戦する予定です。

授業の到達目標：　インドネシア語の翻訳できるようにすることと、自分の考えをインドネシア語で表現できるようになる。

事前・事後学習の内容：　指摘された単語の意味を調べ、またその単語を使って作文する。意味調べと作文するための必要な時間は一時間程度。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　11月26日　3限　講読及び会話練習
「Nasi Goreng」を読む。
第2回 11月26日　4限　会話
日本の代表的な食べ物について会話する。
第3回　12月3日　3限　講読
「Pisang（バナナ）」を読む。
第4回　12月3日　4限　会話
好きな果物とその理由について話す。
第5回　12月10日　3限　講読
「Jakarta」を読む。
第6回 12月10日　4限　会話
「Jakarta」を読む。観光地などについて会話する。
第7回　12月17日　3限　講読
「Yogyakarta」を読む。
第8回12月17日　4限　講読
「Yogyakarta」を読む。
第9回　1月7日　3限　読解
「Bali」を読む
第10回　1月7日　4限　読解
「Bali」を読む
第11回　1月14日　3限 読解
「Batik」か「Wayang」を読む。
第12回　1月14日　4限　読解
「Batik」か「Wayang」を読む。日本の民芸品・芸術について話す。
第13回　1月21日　3限　発表会
自分の街について発表する
第14回　1月21日　4限　発表会
自分の街について発表する

言語区分：　0　　日・英併用　　Japanese/Englis

h

教科書:	国際インドネシア語教育協会、日本支局・在日インドネシア共和国大使館教育文化部の中級者向け教材「Rona Pesona Indonesia」を使用します。 https://appbipa-jepang.org/RPI_APPBIPA%E6%9C%AC%E4%BD%93.pdf より各自にダウンロードしてください。（無料） 授業中タブレット端末やパソコン使用を許可しますので、紙で書きたい方は各自で印刷してください。
参考文献:	舟田京子編「『プログレッシブ インドネシア語辞典』 小学館、B6版 1104ページ ISBN978-4-09-515811-2, 定価： 4,900円＋消費税
成績評価フリー入力サイン:	1：フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	出席状況を含む平常点、練習、期末テスト又は課題をもとに総合的に評価します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050827|01|9S06050827[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	スワヒリ語（入門）		
担 当 教 員	角谷 征昭		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限@02:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スワヒリ語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 東アフリカのことばと文化入門

授業概要: スワヒリ語は東アフリカで使用されている広域共通語です。母語話者以外も含む話者数はおそらく3億人を超えています。授業では学校教育や公の場で用いられている標準スワヒリ語を中心に学習します。
＜授業内容＞
1. 毎回授業の最初に暗記暗唱の確認をします。
2. 文法解説と練習問題をします。
3. 口頭作文・会話練習をします。
最終回はゲストスピーカーを迎えて、スワヒリとリンガラの歌とリズムを体験します。歌って踊りますので準備運動をお願いします。
＜評価＞

評価は、授業での演習参加と小テストと期末試験で行ないます。

【登録時の注意】
この授業は月と木の週2回あります。入門は全14回です。

授業の到達目標: 学習した会話例に順って以下のことが出来る。
1. 基本的挨拶、2. 基本的質問と応答、3. 1と2の聞き取り、4. 美しい発音ができる。

事前・事後学習の内容: 授業の最初に復習テストをするので、準備をしておく。（30分以内） 授業で学習したスワヒリ語について必要に応じて暗記や反復練習を指示する。（復習1時間） 予習は必ずしも必要ではない。その分復習に時間を費やしていただきたい。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1回 第1課
第2回 《文法》]基本4時制
第3回 第2課
第4回 《文法》否定文；第3課
第5回 第3課
第6回 第4課；1クラス～8クラスの一致
第7回 《文法》目的接辞、単音節動詞；第5課
第8回 第5課；第6課
第9回 第7課；《文法》属詞
第10回 第8課
第11回 作文と会話の演習
第12回 スワヒリ語の歌の歌詞
第13回 ゲストスピーカー「アフリカンミュージック～歌って踊って」
第14回 【期末試験】

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「ニューエクスプレス＋スワヒリ語」 竹村景子 著 白水社 ISBN 978-4-560-08805-0
4月中に各自で購入（入手）してください。授業中に追加で文法解説の資料を配布します。

参考文献: 文法
①世界の言語シリーズ1 スワヒリ語 著者：小森淳子 発行：大阪大学出版会
②Simplified Swahili 著者：Peter M. Wilson 発行：Longman
辞書
①Kamusi ya Kiswahili - Kiingereza(2014第2版) 著者：TUKI
②Swahili-English English-Swahili Practical Dictionary 著者：Nicholas Awde 発行：Hippocrene Practical Dictionary
②Comprehensive Swahili-English Dictionary 著者：Mohamed A Mohamed 発行：East African Educational Publishers Ltd
オンライン辞書

https://swahili-dictionary.com/swahili-english

成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	40	期末試験
平常点評価:	30	授業参加（演習参加）
その他:	30	小テスト

備考・関連URL:

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050828|01|9S06050828[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	スワヒリ語（初級）		
担 当 教 員	角谷　征昭		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月２時限@02:木２時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スワヒリ語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　東アフリカのことばと文化

授業概要：　この授業（初級）はスワヒリ語（入門）の続きですが、初級から参加で学習内容に追いつけるので、初級から履修可能です。第１回に必要に応じて文法概説をします。第２回以降は文法学習と演習を続けます。
＜授業内容＞１．授業の最初に復習の音読暗唱をします。
２．文法解説と練習問題をします。
３．口頭作文・会話練習をします。
４．最終回（予定）では、ゲストスピーカーとして駐日ケニア共和国大使館次席をお招きする予定です。
　次席にはケニアのスワヒリ語と教育にまつわるディスカッションに学生と共に参加していただきます。また学生には習得してきたスワヒリ語の会話の実践をしてもらいます。
＜評価＞

評価は、授業参加と小テストと期末試験で行ないます。

授業の到達目標：　派生動詞と関係節・副詞節などの複雑な文の構造を理解する。
学習してきた文章をテンプレートにして作文をする（例えば１００語程度の自己紹介文を書くなど）

事前・事後学習の内容：　毎回授業の最初に復習テストをするので、準備をする。（３０分～１時間）
授業で学習した範囲の練習問題の解答をし、学習内容の確認をする（３０～１時間）
テキストに出てきたスワヒリ語を音読する。（２０分）←軽視されがちだが経験上学習効果◎あり。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
第１回　第９課
第２回　《文法》接続法
第３回　第１０課
第４回　《文法》時計
第５回　第１１課
第６回　《文法》命令法
第７回　《文法》関係節
第８回　《文法》可能形；関係節
第９回　第１２課
第１０回　《文法》コピュラの関係節；複合時制；条件・付帯状況などの時制接辞ki
第１１回　第１３課
第１２回　第１４課
第１３回　期末試験
第１４回　ゲストスピーカー　駐日ケニア共和国大使館次席　～「ケニアの言語教育（予定）」のテーマで

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　「ニューエクスプレス＋スワヒリ語」竹村景子　著　白水社　ISBN 978-4-560-08805-0
各自で購入・入手してください。追加資料を授業内で配布します。

参考文献：　文法
①世界の言語シリーズ１　スワヒリ語　著者：小森淳子　発行：大阪大学出版会
②Simplified Swahili　著者：Peter M. Wilson 発行：Longman

辞書
①Kamusi ya Kiswahili - Kiingereza(2014第2版) 著者：TUKI
②Swahili-English English-Swahili Practical Dictionary 著者：Nicholas Awde 発行：Hippocrene Practical Dictionary
③Comprehensive Swahili-English Dictionary 著者：Mohamed A Mohamed 発行：East African Educational Publishers Ltd

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　30　期末テスト

平常点評価:	40	授業での演習参加
その他:	30	小テスト

備考・関連URL:

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050831|01|9S06050831[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	タイ語（入門）　01		
担 当 教 員	大友　有		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:土2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	タイ語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　※01・02とも同一内容です。どちらか一方しか履修できません。
はじめてタイ語に出会う人のためのクラスです。
タイ語を学ぶうえで基礎となるタイ文字の読み書き、声調、発音を春学期と秋学期の1年間を通し，しっかりと身につけます。
タイ語の音を身に着けることを目的に，タイのポップスを歌うことにも挑戦します。
また，タイ語だけではなく，タイの社会についていくつかのトピックをとりあげて学びます。

授業の到達目標：　タイ語の文字を読み書きできるようにします。
タイ語の声調の仕組みを理解し、正しく発音できるようにします。
簡単な会話表現を使えるようにします。

事前・事後学習の内容：　予習と復習（課題提出）が求められます。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　オリエンテーション
オリエンテーション／タイ語はどんな言葉か。
第2回　子音（1）
子音の種類
テキスト第1課　あいさつの表現
第3回　子音（2）
子音と子音字の読み方・書き方
テキスト第1課
第4回　母音（1）　長母音
母音(長母音)と母音字の読み方・書き方
第5回　声調（1）　中子音
中子音と平音節の声調
テキスト第2課　「AはBである」の表現
第6回　声調（2）　高子音
高子音と平節の声調
テキスト第2課
第7回　声調（3）　低子音
低子音と平音節の声調
o-nam/h-na,m

第8回　母音（2）　短母音
母音（短母音）と母音字の宇読み方・書き方
テキスト第3課　疑問の表現
第9回　声調（4）　短母音・促音節の声調
短母音・促音節の声調
テキスト第3課
第10回　子音（3）　二重頭子音
二重頭子音
第11回　数詞・類別詞
数詞・類別詞
テキスト第4課　「いる・ある」の表現

第12回
テキスト第4課
第13回
時間を表す表現
さまざまな記号
第14回
テキスト第5課　場所を表す表現

言語区分:	0	日本語	Japanese
教科書:	プリント 水野潔著「ニューエクスプレスタイ語」(白水社)		
参考文献:	宇戸清治著「やさしいタイ語　文字の読み書き」(大学書林) その他は，講義で紹介する。		
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)		
試験:	0	評価基準とする定期試験は実施しません。	
レポート:	0	評価基準とするレポートは実施しません。	
平常点評価:	100	学部生：毎回の授業の理解を定着させるため、毎週，宿題を課します。評価は，授業への出席と課題提出を基準に行います。 大学院生：毎回の授業の理解を定着させるため、毎週，宿題を課します。評価は，授業への出席と課題提出を基準に行います。	
その他:	0	その他の基準はありません。	
備考・関連URL:	課題は，次の講義で解説を行います。その際，受講生は，自身で修正をいれ，理解を深めます。		

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050831|02|9S06050831[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	タイ語（入門）　02		
担 当 教 員	大友　有		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:土3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	タイ語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　※01・02とも同一内容です。どちらか一方しか履修できません。
はじめてタイ語に出会う人のためのクラスです。
タイ語を学ぶうえで基礎となるタイ文字の読み書き、声調、発音を春学期と秋学期の1年間を通し，しっかりと身につけます。
タイ語の音を身に着けることを目的に，タイのポップスを歌うことにも挑戦します。
また，タイ語だけではなく，タイの社会についていくつかのトピックをとりあげて学びます。

授業の到達目標：　タイ語の文字を読み書きできるようにします。
タイ語の声調の仕組みを理解し、正しく発音できるようにします。
簡単な会話表現を使えるようにします。

事前・事後学習の内容：　予習と復習（課題提出）が求められます。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　オリエンテーション
オリエンテーション／タイ語はどんな言葉か。
第2回　子音（1）
子音の種類
テキスト第1課　あいさつの表現
第3回　子音（2）
子音と子音字の読み方・書き方
テキスト第1課
第4回　母音（1）　長母音
母音(長母音)と母音字の読み方・書き方
第5回　声調（1）　中子音
中子音と平音節の声調
テキスト第2課　「AはBである」の表現
第6回　声調（2）　高子音
高子音と平節の声調
テキスト第2課
第7回　声調（3）　低子音
低子音と平音節の声調
o-nam/h-na,m

第8回　母音（2）　短母音
母音（短母音）と母音字の宇読み方・書き方
テキスト第3課　疑問の表現
第9回　声調（4）　短母音・促音節の声調
短母音・促音節の声調
テキスト第3課
第10回　子音（3）　二重頭子音
二重頭子音
第11回　数詞・類別詞
数詞・類別詞
テキスト第4課　「いる・ある」の表現

第12回
テキスト第4課
第13回
時間を表す表現
さまざまな記号
第14回
テキスト第5課　場所を表す表現

言語区分:	0	日本語	Japanese
教科書:	プリント 水野潔著「ニューエクスプレスタイ語」(白水社)		
参考文献:	宇戸清治著「やさしいタイ語　文字の読み書き」(大学書林) その他は，講義で紹介する。		
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)		
試験:	0	評価基準とする定期試験は実施しません。	
レポート:	0	評価基準とするレポートは実施しません。	
平常点評価:	100	学部生：毎回の授業の理解を定着させるため、毎週，宿題を課します。評価は，授業への出席と課題提出を基準に行います。 大学院生：毎回の授業の理解を定着させるため、毎週，宿題を課します。評価は，授業への出席と課題提出を基準に行います。	
その他:	0	その他の基準はありません。	
備考・関連URL:	課題は，次の講義で解説を行います。その際，受講生は，自身で修正をいれ，理解を深めます。		

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050832|01|9S06050832[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	タイ語（初級） 01		
担 当 教 員	大友 有		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:土2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	タイ語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ※01・02とも同一内容です。どちらか一方しか履修できません。
これまでにタイ語（入門）を受講した人を対象としたクラスです。
タイ語(入門)を受講していなくても、すでにタイ語の文字と声調の仕組みを理解している人であれば、受講できます。
タイ語の文法を理解し、文章を読み書きすること、より深い会話を楽しめるようになるためのクラスです。
タイ語の音を身に着けることを目的に，タイのポップスを歌うことにも挑戦します。
また，タイ語だけではなく，タイの社会についていくつかのトピックをとりあげて学びます。

授業の到達目標: タイ語の文章構造など、タイ語の文法を理解し、身につけます。
タイ語の文章を読めるようようにします。
自分の言いたいことをタイ語で表現できるようにします。
いろいろな会話表現を学びます。

事前・事後学習の内容: 予習と復習（課題提出）が求められます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション
オリエンテーション

第2回 タイ語（入門）の復習
タイ語（入門）で学んだことの復習
テキスト第6課 「～している」の表現

第3回 疑似二重子音
疑似二重子音
テキスト第6課

第4回 一字再読字
一字再読字

第5回 特殊な綴り（1）
特殊な綴り（1）

第6回 特殊な綴り（2）
特殊な綴り（2）テキスト第7課 指示代名詞

第7回 特殊な綴り（3）
特殊な綴り（3）
テキスト第7課

第8回 表現（1）
テキスト第8課 「～しなければならない」の表現

第9回 表現（2）
テキスト第8課

第10回 親族の呼び方
親族の呼び方

第11回 表現（3）
テキスト第9課 可能の表現

第12回 表現（4）
テキスト第9課

第13回　表現（5）
感情をあらわす言葉，表現
第14回　表現（6）
テキスト第10課　不定代名詞

言語区分：	0	日本語	Japanese
教科書：	プリント使用 水野潔著「ニューエクスプレス　タイ語」（白水社）		
参考文献：	宇戸清治著「やさしいタイ語　文字の読み書き」（大学書林） 他の参考文献は，講義で紹介する。		
成績評価フリー入力サイン：	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）		

試験：	0	評価基準とする定期試験は実施しません。
レポート：	0	評価基準とするレポートは実施しません。
平常点評価：	100	学部生：毎回の授業の理解を定着させるため、毎週，宿題を課します。評価は，授業への出席と課題提出を基準に行います。 大学院生：毎回の授業の理解を定着させるため、毎週，宿題を課します。評価は，授業への出席と課題提出を基準に行います。
その他：	0	その他の評価基準はありません。
備考・関連URL：	課題は，次の講義で解説を行います。その際，受講生は，自身で修正をいれ，理解を深めます。	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050832|02|9S06050832[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	タイ語（初級） 02		
担 当 教 員	大友 有		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:土3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	タイ語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ※01・02とも同一内容です。どちらか一方しか履修できません。
これまでにタイ語（入門）を受講した人を対象としたクラスです。
タイ語(入門)を受講していなくても、すでにタイ語の文字と声調の仕組みを理解している人であれば、受講できます。
タイ語の文法を理解し、文章を読み書きすること、より深い会話を楽しめるようになるためのクラスです。
タイ語の音を身に着けることを目的に，タイのポップスを歌うことにも挑戦します。
また，タイ語だけではなく，タイの社会についていくつかのトピックをとりあげて学びます。

授業の到達目標: タイ語の文章構造など、タイ語の文法を理解し、身につけます。
タイ語の文章を読めるようようにします。
自分の言いたいことをタイ語で表現できるようにします。
いろいろな会話表現を学びます。

事前・事後学習の内容: 予習と復習（課題提出）が求められます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション
オリエンテーション

第2回 タイ語（入門）の復習
タイ語（入門）で学んだことの復習
テキスト第6課 「～している」の表現

第3回 疑似二重子音
疑似二重子音
テキスト第6課

第4回 一字再読字
一字再読字

第5回 特殊な綴り（1）
特殊な綴り（1）

第6回 特殊な綴り（2）
特殊な綴り（2）テキスト第7課 指示代名詞

第7回 特殊な綴り（3）
特殊な綴り（3）
テキスト第7課

第8回 表現（1）
テキスト第8課 「～しなければならない」の表現

第9回 表現（2）
テキスト第8課

第10回 親族の呼び方
親族の呼び方

第11回 表現（3）
テキスト第9課 可能の表現

第12回 表現（4）
テキスト第9課

第13回　表現（5）
感情をあらわす言葉，表現
第14回　表現（6）
テキスト第10課　不定代名詞

言語区分：	0	日本語	Japanese
教科書：	プリント使用 水野潔著「ニューエクスプレス　タイ語」（白水社）		
参考文献：	宇戸清治著「やさしいタイ語　文字の読み書き」（大学書林） 他の参考文献は，講義で紹介する。		
成績評価フリー入力サイン：	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）		

試験：	0	評価基準とする定期試験は実施しません。
レポート：	0	評価基準とするレポートは実施しません。
平常点評価：	100	学部生：毎回の授業の理解を定着させるため、毎週，宿題を課します。評価は，授業への出席と課題提出を基準に行います。 大学院生：毎回の授業の理解を定着させるため、毎週，宿題を課します。評価は，授業への出席と課題提出を基準に行います。
その他：	0	その他の評価基準はありません。

備考・関連URL：　課題は，次の講義で解説を行います。その際，受講生は，自身で修正をいれ，理解を深めます。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050833|01|9S06050833[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	タイ語（準中級）		
担 当 教 員	大友　有		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:土４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	タイ語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　タイ語の基礎（文字、声調、文法等）を理解している人のためのクラスです。
それまで身に付けたタイ語の知識をさらに深め、定着させるように、タイ語の文章読解と作文、会話の練習を行います。
タイの映画，ドラマなど、テキスト以外の教材を利用し、タイの文化やタイ社会の価値観を学びます。
タイ語に対する瞬発力をつけることを目的に，タイのポップスを歌うことにも挑戦します。

授業の到達目標：　タイ語の文章を読み、理解することができるようにします。
会話を通して、タイ語でコミュニケーションをとれるようにします。
タイ語学習を通じて、タイ人の生活や文化、考え方を理解することを最終の目標とします。

事前・事後学習の内容：　予習と復習（課題の提出）が求められます。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　オリエンテーション
オリエンテーション
第2回
テキスト第11課
第3回
タイの文化を知る（1）
第4回
テキスト第12課
第5回
タイの文化を知る（2）
第6回
テキスト第13課
第7回
タイの文化を知る（3）
第8回
テキスト第14課
第9回
タイの文化を知る（4）
第10回
テキスト第15課
第11回
タイの文化を知る（5）
第12回
会話練習
第13回
会話練習（1）
第14回
会話練習（2）

言語区分:	0	日本語　　Japanese
教科書:	水野潔「ニューエクスプレス　プラス　タイ語」(白水社) スニサー・ウィッタヤーパンヤーノン「表現を広げる中級へのタイ語」(三修社)	
参考文献:	講義で紹介する。	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)	
試験:	0	評価基準とする定期試験は実施しません。
レポート:	0	評価基準とするレポートは実施しません。
平常点評価:	100	学部生:毎回の授業の理解を定着させるため、課題を課します。 大学院生:毎回の授業の理解を定着させるため、課題を課します。
その他:	0	その他の評価基準はありません。
備考・関連URL:	課題は，次の講義で解説を行います。その際，受講生は，自身で修正をいれ，理解を深めます。	

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050834|01|9S06050834[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	タイ語（中級）		
担 当 教 員	大友　有		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:土４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	タイ語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　タイ語の基礎（文字、声調、文法等）を理解している人のためのクラスです。
2年間のタイ語学習の最終段階として、タイ語の知識とタイへの理解をさらに深めます。
タイの映画，ドラマなど、テキスト以外の教材を利用し、タイの文化やタイ社会の価値観を学びます。
タイ語に対する瞬発力をつけることを目的に，タイのポップスを歌うことにも挑戦します。

授業の到達目標：　タイ語の文章を読み、理解することができるようにします。
タイ語らしい表現を使い、文章を書くことができるようにします。
タイ・ネイティブの話すタイ語を理解し、自然な会話をできるようにします。
タイ語学習を通じて、タイ人の生活や文化、考え方を理解することを最終の目標とします。

事前・事後学習の内容：　予習と復習（課題の提出）が求められます。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　オリエンテーション
オリエンテーション
第2回
テキスト第16課
第3回
タイ語で自分の言いたいことを表現してみよう（1）
第4回
テキスト第17課
第5回
タイ語で自分の言いたいことを表現してみよう（2）
第6回
テキスト第18課
第7回
タイ語で自分の言いたいことを表現してみよう（3）
第8回
テキスト第19課
第9回
タイ語で自分の言いたいことを表現してみよう（4）
第10回
テキスト第20課
第11回
タイ語で自分の言いたいことを表現してみよう（5）
第12回
タイ語で自分の言いたいことを表現してみよう（6）
第13回
タイ語で自分の言いたいことを表現してみよう（7）
第14回
タイ語で自分の言いたいことを表現してみよう（8）

言語区分:	0	日本語　　Japanese
教科書:	水野潔「ニューエクスプレス　プラス　タイ語」（白水社） スニサー・ウィッタヤーパンヤーノン「表現を広げる中級へのタイ語」（三修社）	
参考文献:	講義で紹介する。	
成績評価フリー入力サイン:	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	0	評価基準とする定期試験は実施しません。
レポート:	0	評価基準とするレポートは実施しません。
平常点評価:	100	学部生：毎回の授業の理解を定着させるため、課題を課します。 大学院生：毎回の授業の理解を定着させるため、課題を課します。
その他:	0	その他の評価基準はありません。
備考・関連URL:	課題は，次の講義で解説を行います。その際，受講生は，自身で修正をいれ，理解を深めます。	

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050837|01|9S06050837[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	デンマーク語（入門）		
担 当 教 員	甲斐崎　由典		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	デンマーク語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：
ダイアローグ中心の教材を使い、デンマーク語独特の発音や文字の読み方、基本語彙と文法の基礎を練習する。
まったくの初心者を対象とするので予備知識は一切必要ない。

授業の到達目標：　デンマーク語の文字の読み方と発音の基礎を身につけ、基本的なあいさつ表現や現在形を使った簡単な文による受け答えができるようになる。

事前・事後学習の内容：　重要表現の暗記だけでなく、新出の単語や文法事項等も翌週までにマスターしておくことが望ましい。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
（以下は受講者の理解度に合わせて変更される）
第1回　ガイダンス（デンマーク語の特徴、英語との関係、シラバスの補足等）
第2回　デンマーク語の文字と発音
第3回　あいさつ表現・基本数詞・語句や文法の解説と演習
第4回　自己紹介・語句や文法の解説と演習
第5回　さまざまな時の表現・語句や文法の解説と演習
第6回　行き先の表現・語句や文法の解説と演習
第7回　「はい・いいえ」の表現・語句や文法の解説と演習
第8回　到達度確認
第9回　予定などの未来の表現・語句や文法の解説と演習
第10回　助動詞と動詞の語形・語句や文法の解説と演習
第11回　現在形を使った表現・語句や文法の解説と演習
第12回　決定疑問文の作り方と答え方・語句や文法の解説と演習
第13回　好き嫌いの表現・語句や文法の解説と演習
第14回　到達度確認

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　プリントを配布する。

参考文献：　教場で指示する。

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：
理解度確認80%（中間・期末の理解度確認の得点）
平常点20%（課題・復習への取り組み具合）

備考・関連URL：

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050838|01|9S06050838[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	デンマーク語（初級）		
担 当 教 員	甲斐崎　由典		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	デンマーク語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：
前期にひき続き、ダイアローグ中心の教材を使い、デンマーク語独特の発音や文字の読み方、基本語彙と文法の基礎を練習する。
「デンマーク語（入門）」を履修していること、または入門レベルの予備知識（名詞や形容詞の語尾変化、動詞の原形や現在形）があることが望ましいが、始めに前期の内容を一通り復習し、まったくの初心者でも参加できるように進めていく。

授業の到達目標：　動詞のさまざまな時制の語形と使い分け、名詞の文法性や数の違いによる語形など、入門段階より進んだ文法知識を元に、「この人は少しデンマーク語ができる」と思ってもらえるような表現力を身につける。

事前・事後学習の内容：　重要表現の暗記だけでなく、新出の単語や文法事項等も翌週までにマスターしておくことが望ましい。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
（以下は受講者の理解度に合わせて変更される）
第1回　ガイダンス（既習事項の整理、シラバスの補足等）
第2回　前期学習内容の復習（発音の基礎、基本表現等）
第3回　前期学習内容の復習（代名詞、動詞の原形と現在形等）
第4回　助動詞の用法・語句や文法の解説と演習
第5回　名詞の文法性・語句や文法の解説と演習
第6回　名詞の複数形・語句や文法の解説と演習
第7回　名詞の未知形と既知形・語句や文法の解説と演習
第8回　到達度確認
第9回　形容詞の語尾変化と副詞用法・語句や文法の解説と演習
第10回　動詞の現在完了形と用法・語句や文法の解説と演習
第11回　所有冠詞の語形と用法・語句や文法の解説と演習
第12回　動詞の過去形と用法・語句や文法の解説と演習
第13回　形容詞の比較級と最上級・語句や文法の解説と演習
第14回　到達度確認

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　プリントを配布する。

参考文献：　教場で指示する。

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：
理解度確認80%（中間・期末の理解度確認の得点）
平常点20%（課題・復習への取り組み具合）

備考・関連URL：

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050843|01|9S06050843[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	バスク語（入門）		
担 当 教 員	吉田　浩美		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	バスク語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　系統不明の謎の言語，バスク語の世界へようこそ！

授業概要：　バスク語は、スペインとフランスの西側国境地帯にまたがる「バスク地方」で話されている系統不明の言語です。バスク地方はピカソの「ゲルニカ」によっても有名であり、また、イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルやイグナティウス・デ・ロヨラの故郷としても知られています。最近ではアスレチック・ビルバオやレアル・ソシエダ、オサスナなど、バスクをホームとするサッカー・チームを通じても知られるようになりましたし、また、バスクの料理や音楽なども徐々に確実にファンを増やしているようです。言語学を志すみなさんにとっても，系統不明でどの言語とも似ていないバスク語のような言語を知っておくことはとても有益なことと考えます。 この授業では，バスク地方に関する基本情報，バスク語の発音という基礎の基礎から始め，英語で言うと中1の2学期までに習うようなことがらの習得を目指します．
また，バスクのダンスや音楽の映像などにより，バスクの文化にも適宜，触れて行きます．
予習形式ではなく，復習形式の授業です．

授業の到達目標：
・スペリングと発音の関係を理解し身につける。
・あいさつ、自己紹介の仕方を覚える。
・名詞句の構造を理解する。
・「…である」「…を持っている」の直説法現在の活用を覚える。
・直接目的語がある文と、直接目的語がない文の構造の違いを理解する。
・「完了したこと」「ふだんやっていること」「これから起こること」の表し方を理解する。
・助動詞を伴う文と伴わない文の構造の違いを理解する。
・主語、直接目的語の表し方を理解する。
・場所を表す表現の一部を覚える。

事前・事後学習の内容：　予習は必要ありません．授業で学んだことを復習して確認していきます．復習の方法などについては適宜指示します．

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
本授業の目的と概要を説明した後，バスク語はどんな言語か，バスク地方とはどんなところか，バスク地方とバスク語をめぐる状況に関する基本情報を学びます．その後，バスク語とスペリングと発音の関係を実践的に学びます．

第2回
スペリングと発音の関係（バスク語の音声を実践的に学び，身につける）の続き，挨拶の表現を学びます．

第3回
「これは辞書です」「この辞書は古いです」「これらは辞書です」「これらの辞書は新しいです」

第4回
「私は学生です」「私は学生ではありません」「あなたは学生ですか？」「はい，そうです」「いいえ，ちがいます」

第5回
私はその本を持っています」「あなたは車その本を持っていますか」「はい，持っています／いいえ，持っていません」

第6回
「私は本をたくさん持っています」「私には兄弟がいません」

第7回
「今何時ですか」「私は今日学校へ行きました」

第8回
「私は今日その映画を見ました」

第9回
「私は明日図書館へ行きます」「私は明日映画を見ます」

第10回
「私は毎日図書館へ行きます」「私は毎週映画を1本見ます」

第11回
動詞述語のまとめ

第12回
「どこに住んでいますか」「早稲田に住んでいます」「これは私たちの家です」「これはだれの？」「それは私のです」

第13回
動詞の構造と名詞類の格のまとめ

第14回
期末試験と解説

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 『ニューエクスプレスプラス バスク語』(白水社)＜事前に各自購入しておいてください．2026年発売の新版でも，それ以前に発売された旧版でも，どちらでも大丈夫です．
ほかに，適宜プリント教材を配布します．

参考文献: ★吉田浩美 著『バスク語のしくみ(新版)』(白水社)＊バスク語がどんな言語なのかをおおまかに述べている本ですので，バスク語がどんな言語かだいたいの全体像をつかむことができます．
★萩尾生・吉田浩美 編『現代バスクを知るための60章』(明石書店)＊現代バスクに関するありとあらゆるテーマについて解説しています．
★ベルナト・エチェパレ著，萩尾生・吉田浩美 訳『バスク初文集』＊16世紀に書かれた，バスク語による史上初の印刷出版本．歴史的・社会的背景に関する解説，および言語面からの解説がついています．

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 85 学期末に行う。平常点と合わせて100点満点とし、60点以上を合格とする。
欠席が5回を超える場合は、評価の対象とならない。

平常点評価: 15 授業への積極的な参加度、宿題の達成度による。

備考・関連URL: シラバスは，進捗状況によってマイナーチェンジすることがあります．5回以上欠席した場合は成績評価の対象としません．

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050844|01|9S06050844[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	バスク語（初級）		
担 当 教 員	吉田　浩美		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	バスク語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　バスク語の基本的な表現を学ぼう

授業概要：　（1）この授業では，バスク語の基本的な表現に重きを置きながら，文法も学びます．18コマのイラストによるスキットを用い，ロールプレイングなども行いつつ，表現を中心に実践的に学びます．
（2）「バスク語入門」を履修していない方も受講・履修できます．
（3）「バスク語入門」を履修済みの方にももちろん受講・履修いただけます，入門で学んだことを新たな切り口から学んでさらに理解を深めるとともに，新しい事項も学べます．例えば，入門では「進行形」「～が欲しい」「～にある・いる」などは未習ですが，この授業で学ぶことができます．
（4）バスクの文化についても適宜言及します．

授業の到達目標：　バスク語の基礎的な文法とともに，表現を学ぶ．

事前・事後学習の内容：　指定のテキスト『ニューエクスプレスプラスバスク語』の発音のページを，付属の音声を使用しつつ見ておくことが望ましいですが，義務ではありません．

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
[第 1回]　バスク語の発音と挨拶の表現

第2回
[第 2回]　「とうとうパリに来た！」「あの人たちはバスク人のようだよ」「私たちはスペイン人ではありません」etc.

第3回
[第 3回]　「お母さん，誰か来たよ」「中に入って！」「あなたは可愛いわね」etc.

第4回
[第 4回]　「ここはリビングです」「お父さんはあそこで働いているよ」etc.

第5回
[第 5回]「小銭もってる？」「持ってないよ」「あそこで買いなよ」「君，何歳？」「休暇中なんだ」etc.

第6回
[第 6回]　「私，疲れてるんです」「君はどこに住んでるの？」「君はどこにいるの？」「ここにいるよ」etc.

第7回
[第 7回]　「君は何にする？」「私はカフェオレにします」etc.

第8回
[第 8回]　「誰が鍵を持っているの？」「お父さんが持っているよ」「変な天気！」etc.

第9回
[第 9回]　「車をどこに停めたの？」「あっちの通りに停めたよ」「古い車は売ってしまったよ」etc.

第10回
[第10回]　「明日，何する？」「山へ行こうよ」etc.

第11回
[第11回]「これはいくらですか？」「安くはないわね」etc.

第１２回
[第12回] 「君，どこへ行くとこなの？」「薬局へ行くところだよ」etc.
第１３回
[第13回] 総復習

第１４回
[第14回] 期末試験と解説

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: おもにプリント教材を配布しますが，『ニューエクスプレスプラス　バスク語』（白水社）も使用します．新版と旧版がありますが，どちらでも大丈夫です．

参考文献: ★吉田浩美　著『バスク語のしくみ』（白水社）＊バスク語がどんな言語なのかをおおまかに述べている本ですので，バスク語がどんな言語かだいたいの全体像をつかむことができます．
★萩尾生・吉田浩美　編『現代バスクを知るための60章』（明石書店）＊現代バスクに関するありとあらゆるテーマについて解説しています．
★ベルナト・エチェパレ著，萩尾生・吉田浩美　訳『バスク初文集』＊16世紀に書かれた，バスク語による史上初の印刷出版本．歴史的・社会的背景に関する解説，および言語面からの解説がついています．

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 85 平常点と合わせて100点満点とし、60点以上を合格とする。
欠席が5回を超える場合は評価の対象とならない。

平常点評価: 15 授業への貢献度、宿題の達成度などによる．

備考・関連URL: 進捗状況に応じて，シラバスの内容にマイナーチェンジが生じることがあります．5回以上欠席した場合は，成績評価の対象にしません．

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050845|01|9S06050845[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	バスク語（準中級）		
担 当 教 員	吉田　浩美		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	バスク語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　バスク語の世界をさらに深く見てみよう

授業概要：　この授業では，2025年度バスク語入門の続きを学びます．2025年度前期の「バスク語入門」を履修したものの2025年度後期の「バスク語初級」を履修できなかった方は，この授業を受講すると，2025年度前期の「バスク語入門」から繋がるようになっています．

授業の到達目標：　テキストにしがたって授業を進め，17課まで終えることを目標とします．

事前・事後学習の内容：　特になし

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第１回
バスク語入門の復習
第２回
「これは私たちの家です」「ここに住んでいます」
第３回
「これは町の図書館です」「16世紀のものです」
第４回
「何がしたいですか？」「何をしなければなりませんか？」
第５回
「おばさんが僕らを招待してくれたよ」
第６回
「バスク料理は好き？」「ワインとビールと，どっちが好き？」
第７回
「何してるの？」「本を読んでいるところだよ」
第８回
「港を通って行こうよ」「試合の前に，ウォーミングアップをしているよ」
第９回
「母が私に本をプレゼントしてくれました」
第１０回
「店は閉まっているよ」「子どもたちは喜んでいるよ」
第１１回
「雨が降っているね」「もし天気が良かったら山へ行きたいなあ」
第１２回
「友人たちが山へ行きたいと言っている」
第１３回
総復習
第１４回
試験と解説

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書：　『ニューエクスプレスプラス　バスク語』（白水社）

参考文献:	教場にて適宜指示する.	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)	
試験:	85	平常点と合わせて100点満点とし, 60点以上を合格とする. 欠席が5回を超える場合は, 評価の対象とならない.
平常点評価:	15	授業への参加度, 貢献度, 宿題の達成度による.

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050846|01|9S06050846[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	バスク語（中級）		
担 当 教 員	吉田　浩美		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	バスク語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　バスク語をさらに深めよう

授業概要：　【対象となる受講者】2026年度バスク語準中級を履修済みの方，または，2025年度以前の「バスク語初級」を履修済みの方，またはそれに相当する習熟度にある方（白水社『ニューエクスプレスプラス　バスク語』の16課まで学習済みであること）が対象です．テキスト『ニューエクスプレスプラス　バスク語』の17課～20課までを学び，その後はさらに進んだ内容をプリント教材を用いて学びます．

授業の到達目標：　初級文法の完成を目指します．

事前・事後学習の内容：　『ニューエクスプレスプラス　バスク語』の16課までをざっと復習しておくことが望ましいです．

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
テキスト17課「天気の表現」「もし～」の表現
第2回
「私はスキーができる」「私はエネコはその本を買ったと思う」
第3回
「君はエネコが来るかどうか知っていますか？」「私はエネコがいつ来るか知らない」
第4回
「君はなぜそれを買いたいの？」「なぜなら安いからです」「私がバスクへ行ったら，君を訪問するね」
第5回
過去形の表し方（1）
第6回
過去形の表し方（2）
第7回
連体修飾節（1）「昨日私が会った人は，エネコのお兄さんです」
第8回
連体修飾節（2）「私が買ったのはこれです」
第9回
「私はラジオの修理をするためにメガネを使用した」
第10回
「そろそろ寝る時間ですよ」
第11回
「お母さんが早く宿題をするように言ってるよ」
第12回
時を表す様々な表現
第13回
条件を表す様々な表現
第14回
まとめと試験

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書:	『ニューエクスプレスプラス　バスク語』(白水社)	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)	
試験:	85	平常点と合わせて100点満点とし, 60点以上を合格とする. 欠席が5回を超える場合は, 評価の対象とならない.
平常点評価:	15	授業への参加度, 宿題の達成度による.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050849|01|9S06050849[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	フィリピノ語		
担 当 教 員	峯下 ロセル		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火3時限@02:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	フィリピノ語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： フィリピノ語

授業概要： We will begin each session with the introduction of grammatical rules supported by key sentence samples. Scripts with useful dialogues and expressions will follow each lesson on grammar for practical application. Supplementary materials will be provided in class to support the students' speaking, reading comprehension and listening skills.

授業の到達目標： This class aims to achieve the competency of being able to construct: ① nominal sentences and their expansions ②adjectival sentences and their expansions ③ verbal and adverbial sentences and their expansions. At the end of the course, students are expected to have acquired sufficient communication skills and confidence to expound on a free range of topics using Filipino as a second language. To be able to achieve these goals, students are expected to read all the assigned materials and prepare in advance before attending each session.

事前・事後学習の内容： Grammar review, vocabulary notes and assigned coursework

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 Introduction to Filipino Language
History, Ortography, Syllabication

第2回 Basic Sentence Structure
Introduction to Linkers;Greetings and Phrases

第3回 Basic Sentence Structure
Introduction to Demonstrative Pronouns

第4回 Basic Sentence Structure
Markers; Simple Sentences

第5回 Basic Sentence Structure
Existential Sentences

第6回 Basic Sentence Structure
Asking Questions; Interrogative Sentences; Pluralization

第7回 Basic Sentence Structure
Questions (Yes & No Questions); Affirmative and Negative Sentences

第8回 Basic Sentence Structure
Introduction to Enclitic Particles

第9回 Basic Sentence Structure
Quantifiers and Numerals; Cardinals and Ordinals; Other Numerical Expressions

第10回 Adjectival Sentence and their Expansions
Introduction to Adjectives; Unaffixed Adjectives; Ma Adjectives

第11回 Adjectival Sentence and their Expansions
Adjectives as Modifiers; Pluralization

第12回 Adjectival Sentence and their Expansions
Intensification and Moderation of Adjectives; Comparison of Equality and Inequality

第13回 Adjectival Sentence and their Expansions
Phrases Expressing Similarity; Possessive Sa and May Phrases

第14回 Adjectival Sentence and their Expansions
Existential and Exclamatory Sentences
第15回 Adjectival Sentence and their Expansions
Pseudo Verbs and Pseudo Verb Phrases
第16回 Adjectival Sentence and their Expansions
Confirmation Questions
第17回 Adjectival Sentence and their Expansions
Comparative and Superlative Sentences
第18回 Adjectival Sentence and their Expansions
Commonly Used Expressions
第19回 Verbal Sentence and their Expansions
Introduction to Verbs
第20回 Verbal Sentence and their Expansions
Survey of Major Affixes
第21回 Verbal Sentence and their Expansions
Actor Focus Verbs and Complements
第22回 Verbal Sentence and their Expansions
Compound Sentences; Coordinators and Subordinators
第23回 Verbal Sentence and their Expansions
Exclamatory Sentences; Modifiers
第24回 Verbal Sentence and their Expansions
Existential Sentences
第25回 Verbal Sentence and their Expansions
Comparative and Superlative Sentences
第26回 Verbal Sentence and their Expansions
Interrogative Sentences
第27回 Adverbial Sentence and their Expansions
Introduction to Adverbs; Position of Enclitic Particles in Sentences
第28回 Reading Comprehension
Selected Reading

言語区分: 0 英語 English

教科書: ·山下 美知子, ニューエクスプレス フィリピノ語,白水社, ISBN: 9784560085509

·大上 正直, フィリピン語 (世界の言語シリーズ6), 大阪大学出版会, ISBN: 9784872593303

参考文献: Schachter, P. and Otanes, F. 1972 (1983). Tagalog Reference Grammar. Berkeley: University of California Press.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験:	50	Long Exams
レポート:	20	Written Essays & Speech
平常点評価:	15	Class participation (recitation, group activities)
その他:	15	Quizzes

備考・関連URL:

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050853|01|9S06050853[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ベトナム語（入門）		
担 当 教 員	鷲頭　小弓		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ベトナム語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：

授業概要：

はじめてベトナム語を学ぼうとする方向けのクラスです。授業のはじめに文字の歴史的背景について概説します。ローマ字化された正書法クオックグーに基づき、ベトナム語の音節（文字と発音）の構成を理解して発音と6種類の声調に慣れるまで練習を繰り返し、綴り方を確認します。第1課から第10課まで基本的な文法事項を解説し、短く覚えやすい例文で会話練習を実施し、練習問題で定着を図ります。

授業の到達目標：　文字の歴史的な背景について理解を深め、ベトナム語の音節（文字と発音）を習得し、挨拶、人称代名詞、自己紹介、数の数え方、曜日や年月日の言い方、類別詞や指示詞の用法を覚え、所在や存在を尋ねたりする文法事項を理解し、短い例文を用いて会話練習をしながら、正しい発音と綴り方を覚えることを目標とします。

事前・事後学習の内容：　正しい発音と自然な速さでテキストの会話文を音読できるように練習する。
練習問題はできるだけノートに書き写して正しい綴り方を確認する。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　文字の歴史的背景　文字と発音（1）
クオックグ―について　　単母音、声調

第2回　文字と発音（2）挨拶、基本語順
単母音、声調、語頭子音、介母音、二重母音、語末子音

第3回　文字と発音（3）　第1課　こんにちは／ありがとう
韻と語末子音、　基本語順　人称代名詞、親族名称練習問題

第4回　第2課　私は日本人です
名詞文　否定文・疑問文　疑問詞疑問文練習問題

第5回　第3課　ベトナムはどうですか
形容詞文　否定文・疑問文　程度副詞練習問題

第6回 第4課　あなたはコーヒーを飲みますか
動詞文　疑問文・否定文　疑問詞疑問文練習問題

第7回　第5課　こちらは田中さん、私の同僚です
指示詞と類別詞（1）練習問題

第8回　第6課　あなたの会社には何人いますか　　第1課から第6課のまとめ練習問題（小テスト）
数と類別詞（2）　練習問題

第9回　第7課　何時に仕事に行きますか
時刻と時間の長さ　「～時に～する」「～時間～する」練習問題

第10回　第8課　あなたの誕生日はいつですか
曜日と日付の言い方、疑問詞「どのくらい、いくつ」
練習問題

第11回　第9課　あなたはいつハノイに行きますか
疑問詞「いつ」、場所名詞の前置詞「～で」練習問題

第12回　第10課　近くに銀行はありますか　　第7課～第10課　練習問題（小テスト）
存在文　所在文　位置を表す言葉　「～するために」練習問題

第13回　位置を表す言葉　課題提出
第1課から第10課までの冒頭の会話例文を、音読練習した成果を教室で一人ずつ発表し、個別に発音を指導します。

第１４回　学期末テスト
筆記式テスト

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　鷲頭小弓著　寺戸ホア著『新ゼロからスタート　ベトナム語（文法編）』Jリサーチ出版

参考文献:
Đoàn Thiện Thuật “Thực hành tiếng Việt B” 2007 Đại học Quốc gia Hà Nội
John De Francis ″Colonialism and language policy in Vietnam″ De Gruyter
David G Marr ″Vietnamese tradition on trial 1920-1945″ University of California Press
David G.Marr “Vietnamese Anticolonialism 1885-1925“ 1971 University of California
五味政信『ベトナム語辞典』武蔵野大学出版会
竹内与之助編『越日辞書』大学書林
川本邦衛 『ベトナム語詳解辞典』大修館書店
池端雪浦『岩波講座東南アジア史7植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』
白石昌也『ベトナムのラストエンペラー』平凡社
坪井善明『暮らしがわかるアジア読本　ヴェトナム』河出書房
坪井善明『近代ベトナム政治社会史』東京大学出版会
桜井由躬雄監修『ベトナムの事典』同朋舎
小松みゆき『動き出した時計』めこん
井川一久他著『―ベトナム独立戦争参加日本人の事跡に基づく日越の在り方に関する研究―』東京財団研究報告書
古田元夫『日本・ベトナム関係を学ぶ人のために』世界思想社
川口健一著『近代文学研究序説』（東京外国語大学）
今井昭夫　岩井美佐紀編著『現代ベトナムを知るための60章』明石書店
太田垣晴子、藤田ヒロコ『絵を見て話せるタビトモ会話ベトナム』JTBパブリッシング
清水政明著　鷲頭小弓著『暮らしと仕事の会話集ベトナム語』ナツメ社

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　30　第14回目に筆記式試験を実施します。
大学院生は記述問題の内容を重視します。

レポート:　20　音読をレポート提出とみなし、積極的な参加を評価します。
大学院生は意見や質問を発表する態度を評価します。

平常点評価:　50　第8回と第12回には小テストを実施して到達度を確認します。
大学院生は努力している姿勢を評価します。

備考・関連URL:　https://vietnam.un.org/vi/sdgs

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050854|01|9S06050854[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ベトナム語（初級）		
担 当 教 員	鷲頭　小弓		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ベトナム語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　はじめてベトナム語を学ぼうとする人と入門から継続者向けのクラスです。はじめに文字の歴史的背景について概説し、ローマ字化された正書法クオックグーに基づき、ベトナム語の音節（文字と発音）の構成を理解し、複雑な母音体系と語末子音、六声調に慣れるまで発音練習を繰り返します。第１課から第10課まで基本的な文法事項を解説し、短く覚えやすい例文で会話練習を実施した後は練習問題で定着をはかります。移動を表す動詞、指示詞、類別詞のような基本的な文法事項を詳しく解説して習得を確実なものにします。

授業の到達目標：　文字の歴史的な背景について理解を深め、トナム語の音節（文字と発音）を覚えて正しい発音を習得し、挨拶、人称代名詞、自己紹介、数の数え方、曜日や年月日の言い方、類別詞や指示詞の用法や、「～に～がある」、「～に～ありますか」などの表現を覚えて会話に応用できるようになることを目標とします

事前・事後学習の内容：　自然な速さと正しい発音で読めるように会話文の音読練習をすること。
練習問題は出来るだけノートに書き写して、正しい綴り方と発音を確認してください。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　文字の歴史的背景について　／文字と発音（1）
クオックグ―について　　単母音　声調　語頭子音　介母音　二重母音　語末子音

第2回　文字と発音（2）　第1課　あいさつ、人称代名詞
文字と発音（2）基本語順　人称代名詞、親族名称

第3回　第2課　私は日本人です
名詞文、疑問文、否定文　名前は何ですか？
練習問題

第4回　第3課　ベトナムはどうですか？
形容詞文、疑問文、否定文、「どんな様子」、程度副詞
練習問題

第5回　第4課　あなたはコーヒーを飲みますか
動詞文、疑問文と否定文、疑問詞
練習問題

第6回　第5課　こちらは田中さん、私の同僚です
指示詞と類別詞（1）、所有・所属「～の」 練習問題

第7回　　第6課　あなたの会社には何人いますか
数詞と類別詞（2）10より大きな数
練習問題

第8回　（第1～6課まとめ）第7課　何時に仕事に行きますか
指示詞と類別詞の復習、時刻の言い方、時間の長さの言い方
練習問題　小テスト

第9回　　第8課　あなたの誕生日はいつですか
曜日と日付の言い方　数量を問う疑問詞
練習問題

第10回　第9課　あなたはいつハノイに行きますか
漠然とした「いつ」／範囲の限定された「いつ」／場所の前置詞「～で」
練習問題

第11回　第10課　近くに銀行はありますか
場所名詞＋ở「～で」／存在文、位置を表す言葉、動作の目的を表すđể＋動詞 「～するために」
練習問題
第12回　第1課～12課 まとめ　小テスト
存在文復習
第13回　　音読課題提出
第1課から第10課の冒頭の会話例文を一人ずつ教室で音読してもらい、個別に発音の指導をします。
第14回　学期末テスト
筆記式テスト

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　鷲頭小弓著　寺戸ホア著『新ゼロからスタートベトナム語文法編』Jリサーチ出版

参考文献:
Đoàn Thiện Thuật “Thực hành tiếng Việt B” 2007 Đại học Quốc gia Hà Nội
John de Francis “Colonialism and language policy in Viet Nam”1977,Mouton Publishers
David.G. Marr “Vietnamese Tradition on Trial 1920-1945” University of California Press Berkeley
David G.Marr “Vietnamese Anticolonialism 1885-1925“ 1971 University of California
五味政信『ベトナム語辞典』武蔵野大学出版会
竹内与之助編『越日辞書』大学書林
川本邦衛『ベトナム語詳解辞典』大修館書店
桜井由躬雄監修『ベトナムの事典』同朋舎
古田元夫『日本・ベトナム関係を学ぶ人のために』世界思想社
池端雪浦『岩波講座東南アジア史7植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』
白石昌也『ベトナムのラストエンペラー』平凡社
坪井善明『近代ベトナム政治社会史』東京大学出版会
坪井善明『暮らしがわかるアジア読本　ヴェトナム』河出書房
小松みゆき『動き出した時計』めこん
井川一久他著『―ベトナム独立戦争参加日本人の事跡に基づく日越の在り方に関する研究―』東京財団研究報告書
今井昭夫　岩井美佐紀編著『現代ベトナムを知るための60章』明石書店
川口健一著『近代文学研究序説』(東京外国語大学)
太田垣晴子・藤田ヒロコ『絵を見て話せるタビトモ会話ベトナム』JTBパブリッシング
清水政明著　鷲頭小弓著『暮らしと仕事の会話集ベトナム語』ナツメ社

成績評価フリー入力サイン:　0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験:　30　第14回目に筆記試験を実施します。
d大学院生は記述問題の内容を重視します。

レポート:　20　音読をレポート提出とみなし、積極的な参加を評価します。
大学院生は質問や意見を発表する積極的な態度を評価します。

平常点評価:　50　第8回目と12回目に小テストを実施して到達度を確認します。
大学院生は努力している姿勢を重視します。

備考・関連URL:　https://vietnam.un.org/vi/sdgs

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050855|01|9S06050855[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ベトナム語（準中級）		
担 当 教 員	鷲頭　小弓		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ベトナム語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：

授業概要：　前半は『新ゼロからスタートベトナム語文法編』の第11課から第20課、後半は五味政信著『初級レッスンベトナム語1』の9課から12課までの内容に従って、過去や未来を表す副詞、完了と未完了、近接過去と近接未来、比較、状態と頻度の副詞、義務・忠告・必要の助動詞、移動を表す動詞、授受表現、可能、勧誘と意向確認、丁寧な依頼と命令文、受身表現まで学習を進めます。基本的な文法事項を解説し、会話練習や練習問題を通して文法事項の定着と語彙力の補強をはかり、会話例文の音読を通して発音指導を徹底します。適宜、応用的な文法事項にも触れて日常会話の習得に重点を置きます。

授業の到達目標：　声調などのベトナム語の発音に慣れ、基本的な文法事項を学習して日常会話に必要とされるスキルを習得し、漢字文化圏共通の語彙に見える言葉でも、意味や用法が異なる場合があることに注意しながら語彙力を伸ばし、聞いて話す基本的な会話能力を達成し、最終的には比較的やさしいベトナム語で書かれた文章を読解できるようになることを目標とします。

事前・事後学習の内容：　各課の会話例文をスラスラ読めるように音読練習をするようにしてください。第13回の授業で実施する音読課題の提出をレポート提出と見なします。、

授業の終わりに実施する練習問題は必ず最後までやり、新しい単語と表現をノートに書き取り、綴りを確認しておくことが望ましい。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　オリエンテーション　文字の歴史的背景について　／第11課　明日、私は海水浴に行くつもりです
時制を表す副詞、過去、未来、動作や状態の継続

練習問題

第2回　第12課　私は今日タインさんに会ったばかりです　（初級レッスン10課）
完了・未完了、近接過去、近接未来
練習問題

第3回　第13課　ナムさんはランさんより背が高いです
形容詞の比較表現、優等比較、同等比較、最上級
練習問題

第4回　第14課　彼は時々ジョギングをします。
動作の状態を修飾する副詞、頻度の副詞、副詞の比較表現
練習問題

第5回　第15課　私は出張に行かなければなりません
義務、必要、忠告の助動詞、願望、嗜好
練習問題

第6回　第16課　彼女は歩いて駅に行きます
移動を表す動詞、状態の変化、手段を表す前置詞練習問題

第7回　第11課～第16課復習　小テスト
第11課から第16課まで復習

第8回　第17課　　私は彼女の誕生プレゼントを贈ります
「あげる」、「差し上げる」、「贈る」、「～をください」の動詞”cho”の前置詞としての用法、使役表現
練習問題

第9回　第18課　私はフォーを作れます　（初級レッスン1の9課）
能力可能、状況可能、学習によって達成する能力可能、「～の仕方」
練習問題

第10回　第19課　この席に座ってもいいですか
天候を表す表現、勧誘、意向確認、敬意の文末詞
練習問題
第11回　第20課　少々を待ちください　（初級レッスン1の11課）
丁寧な依頼と命令文。催促、勧める
練習問題
第12回　（初級レッスン1の）第12課　時々、母に叱られました
恩恵の受身と被害の受身、可能、意向確認、許可・不許可。
練習問題
第13回　音読課題提出　小テスト
第11課から第20課の会話例文を自然な速さで音読してもらい、個別に発音指導を実施します。小テスト
第14回　学期末テスト
筆記式テスト

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 鷲頭小弓著　寺戸ホア著『新ゼロからスタートベトナム語文法編』Jリサーチ出版
五味政信著『初級レッスンベトナム語1』スリーエーネットワーク

参考文献:
Đoàn Thiện Thuật “Thực hành tiếng Việt B” 2007 Đại học Quốc gia Hà Nội
John de Francis “Colonialism and language policy in Viet Nam”1977,Mouton Publishers
David G.Marr “Vietnamese Anticolonialism 1885-1925“ 1971 University of California
David.G. Marr “Vietnamese Tradition on Trial 1920-1945” University of California Press Berkeley
五味政信『ベトナム語辞典』武蔵野大学出版会
竹内与之助編『越日辞書』大学書林
川本邦衛『ベトナム語詳解辞典』大修館書店
桜井由躬雄監修『ベトナムの事典』同朋舎
古田元夫『日本・ベトナム関係を学ぶ人のために』世界思想社
鮎川正訓『ベトナム憲法史』日本評論社
白石昌也『ベトナムのラストエンペラー』平凡社
坪井善明『近代ベトナム政治社会史』東京大学出版会
坪井善明『暮らしがわかるアジア読本　ヴェトナム』河出書房
小松みゆき『動き出した時計』めこん
井川一久他著『―ベトナム独立戦争参加日本人の事跡に基づく日越の在り方に関する研究―』東京財団研究報告書
今井昭夫　岩井美佐紀編著『現代ベトナムを知るための60章』明石書店
川口健一著『近代文学研究序説』（東京外国語大学）

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	30	14回目に筆記試験を実施します。 大学院生は記述内容を重視します。
レポート:	20	音読をレポート提出とみなし、積極的な参加を評価します。 大学院生は質問や意見などを発表する積極的な姿勢も評価します。
平常点評価:	50	第7回目と13回目に小テストを実施します。 大学院生は努力している姿勢を評価します。

備考・関連URL: https://vietnam.un.org/vi/sdgs

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050856|01|9S06050856[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ベトナム語（中級）		
担 当 教 員	鷲頭　小弓		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ベトナム語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　五味政信著『ベトナム語レッスン初級②』の13課から24課に従い、比較、経験、関係代名詞、比喩、完全否定、「どの～もみな」、使役、受身などの基本的な文法事項、動作の同時進行、逆接と接続表現、対比、譲歩、条件結果、仮定結果の基本文型を学習し、わかりやすい例文で会話練習を行い、練習問題で文法事項の定着をはかります。テキストの音読練習でベトナム語の発音に親しんで会話能力の向上をはかり、後半では少しずつ読解を取り入れていきます。

授業の到達目標：　CDを聴きながら音読練習をすることにより、日常会話で必要とされるスキルの向上を目指します。漢字文化圏共通の語彙に見える言葉でも、意味や用法が異なることがあることに留意しながら、日常会話ができるようになることをに重点を置き、最終的には辞書を使って新聞記事などの長文読解が出来るようになることを目標とします。

事前・事後学習の内容：　第14回の音読課題提出の際に、各課の冒頭の会話を音読してもらうので、予めCDを聴きながらシャドーウイングをするなどして音読練習をしておいて下さい。授業の後は分からなかった練習問題や単語・表現をノートに書き取り、綴りと意味を確認しておくことが望ましいです。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　オリエンテーション　文字の歴史的背景について　／第13課　アイスコーヒーとカフェラテをください
動詞の名詞化、～してみる、義務、～をください、禁止、命令・催促
練習問題

第2回　第14課　ホーチミン市ではどこに行くつもりですか
優等比較、最上級、同等比較、～するつもり、伝聞、忠告
練習問題

第3回　第15課　楽しそうですね
～する前、～した後、～のようだ、どう思う、～について
練習問題

第4回　第16課　カエルの肉を食べたことがありますか
かつて～したことがある、経験、近接未来、近接過去、～になる
練習問題

第5回　第17課　独立と自由ほど尊いものはない
～しながら～する、関係代名詞、比喩表現、完全否定
練習問題

第6回　第18課　お友達は何をするためにベトナムに来ますか
～するために、使役、逆接、どの～、条件と結果練習問題

第7回　第13課から第18課　復習　　小テスト
復習　小テスト

第8回　第19課　疲れているように見えますね
～に見える、～ということを、ただ～だけ、～すれば～するほど
練習問題

第9回　第20課　チン・コン・ソンは多くの日本人に知られています
どの～もみな、不特定多数の受身、～として、～から借りる、～して～する
練習問題

第10回　第21課　分かりやすいですね。
～しやすい、時間の経過、「象は鼻が長い」、まず～してそれから
練習問題

第11回　第22課　もし明日あなたに時間があったら、一緒に見に行きましょうね
仮定結果、条件結果　練習問題

第12回　第23課　ボールーつさえあれば、どこでも遊ぶことができます
対比、一方～は、必須条件～さえあれば、～と言われている、～もまた～です
練習問題
第13回　第24課　ベトナム女性にとってノンは無ければならないものです
譲歩表現、～だけでなく～も、～にとって、とても～らしい
練習問題　小テスト
第14回　音読課題提出　学期末テスト
音読課題提出　筆記式テスト

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 五味政信著『ベトナム語初級レッスン②』スリーエーネットワーク

参考文献:
Đoàn Thiện Thuật “Thực hành tiếng Việt B” 2007 Đại học Quốc gia Hà Nội
John de Francis “Colonialism and language policy in Viet Nam”1977,Mouton Publishers
David G.Marr “Vietnamese Anticolonialism 1885-1925“ 1971 University of California
David.G. Marr “Vietnamese Tradition on Trial 1920-1945” University of California Press Berkeley
五味政信『ベトナム語辞典』武蔵野大学出版会
竹内与之助編『越日辞書』大学書林
川本邦衛 『ベトナム語詳解辞典』大修館書店
鮎京正訓『ベトナム憲法史』日本評論社
坪井善明『暮らしがわかるアジア読本 ヴェトナム』河出書房
桜井由躬雄監修『ベトナムの事典』同朋舎
小松みゆき『動き出した時計』めこん
井川一久他著『―ベトナム独立戦争参加日本人の事跡に基づく日越の在り方に関する研究―』東京財団研究報告書
古田元夫『日本・ベトナム関係を学ぶ人のために』世界思想社
今井昭夫　岩井美佐紀編著『現代ベトナムを知るための60章』明石書店
川口健一著『近代文学研究序説』(東京外国語大学)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 30　第14回目に筆記試験を実施します。
大学院生は記述問題の内容を重視します。

レポート: 20　第１４回の音読をレポート提出とみなします。
大学院生は質問や意見などを発表する積極的な姿勢を評価します。

平常点評価: 50　第7回目と第13回目に小テストを実施します。
大学院生は努力している姿勢を評価します。

備考・関連URL: https://vietnam.un.org/vi/sdgs
多言語・学校プロジェクト (mext.go.jp)

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050859|01|9S06050859[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ペルシア語（入門）		
担 当 教 員	水上　遼		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ペルシア語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

ペルシア語は現在、イランの公用語であり、アフガニスタン（ダリー語）やタジキスタン（タジク語）でもやや名称は異なるもののほぼ同じ言葉が公用語となっています。ですが20世紀初めまでは、西はバルカン半島から東は中央アジア、北インド、中国の一部までの広大な地域において、ペルシア語は文芸や行政の共通語として用いられていました。ユーラシアの諸文化に大きな影響を与えたと言えるこのペルシア語は、文法が比較的平易で日本語にも似ており、我々にとって学びやすい言葉と言えます。前期の入門クラスでは、文字と基礎的な文法を学びながらペルシア語に慣れることを目指します。授業内容は文法が中心ですが、学んだ内容を用いた簡単な発音・会話の練習や、イラン文化の紹介も取り入れる予定です。
なお、授業内容は学生の人数や理解度に応じて変わることもあります。

授業の到達目標：　ペルシア文字の読み書きを覚える。
ペルシア語の基礎的な文法を理解し、簡単な文章を読み解くことができる。
ペルシア語の簡単な会話を行うことができる。

事前・事後学習の内容：　課題として出された練習問題に取り組み、翌週に提出してください。こちらで添削したものを返却しますので、間違った箇所を教科書でよく確認しておくこと。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　イントロダクション
授業の進め方の説明
ペルシア語とはどういう言葉か

第2回　文字の書き方と発音①
ペルシア文字（アラビア文字）の書き方と特徴を覚えます。

第3回　文字の書き方と発音②
ペルシア文字（アラビア文字）の書き方と特徴を覚えます。

第4回　指示代名詞・指示形容詞、疑問文
「これ、あれ／この、あの」といった表現を用い、AはBである、というような簡単な肯定文と、簡単な疑問文を学びます。

第5回　エザーフェの役割
ペルシア語の最重要文法事項であるエザーフェを扱います。

第6回　人称代名詞・人称接尾辞
代名詞の表現を扱います。

第7回　イランの映画を見てみよう
イラン映画を鑑賞します。

第8回　動詞の過去形、前置詞
動詞とそれに関連する前置詞を扱います。

第9回　名詞の複数形、後置詞・無強勢のī
ペルシア語での複数形の考え方と、文章を読み解くヒントになる文法事項について学びます。

第10回　動詞の現在形
動詞の現在形の使い方を学んでいきます。

第11回　budan動詞の現在形
「～である」「～がある」の表現を学びます。

第12回　数詞①
数の基礎的な表現を扱います。
第13回　数詞②
数の応用的な表現を学びます。
第14回　まとめ
入門クラスの学習内容を総括します。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 岡崎正孝『基礎ペルシア語』大学書林, 1982.
※授業内容の確認用に用意してください。ただし、教科書はやや古い表記法で書かれているため、授業は毎回プリントを配布して行います。

参考文献: 浜畑祐子『ニューエクスプレスプラス ペルシア語』白水社, 2018. ※会話表現の例文が豊富です。
吉枝聡子『ペルシア語文法ハンドブック』白水社, 2011. ※文法事項について、より詳細な説明や例文があります。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 70　文法事項に関する試験を授業内で行います。

平常点評価: 30　授業への積極的な参加、課題への取り組みで評価します。

備考・関連URL: ペルシア語の初学者が対象となります。ペルシア文字（アラビア文字）の書き方、読み方には慣れが必要ですが、練習を繰り返せば必ずできるようになります。他の言語の習得と同様、大切なのはなるべく欠席せず、粘り強く学び続けることです。
また、後期に開講されるペルシア語（初級）とあわせて、一通りの文法を学んでいく計画です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050860|01|9S06050860[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ペルシア語（初級）		
担 当 教 員	水上 遼		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ペルシア語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： ペルシア語入門を終えた学生、もしくは同等の学習を終えた学生が対象となります。初級授業ではやや複雑で応用的な文法事項を学び、辞書を利用しながら一般的なペルシア語の文章を読めるレベルの読解力を身につけることを目指します。節や句を用い、前期と比べてより長い文章を読む練習を行っていきます。また、発話や会話の練習も引き続き取り入れていきます。後期では特に、会話での特殊な語句や訛り、語順の変化、敬語表現などを扱います。
なお、授業内容は学生の人数や理解度に応じて変わることもあります。

授業の到達目標： ペルシア語文法の基礎を理解できる。
指定された語句を用いながら、簡単なペルシア語作文を行うことができる。
やや複雑な会話表現を理解し、使うことができる。

事前・事後学習の内容： 課題として出された練習問題に取り組み、翌週に提出してください。こちらで添削したものを返却しますので、間違った箇所を教科書でよく確認しておくこと。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 入門クラスの振り返り、時の表現
入門クラスで学んだ内容を確認し、新たに時間に関する表現を学びます。

第2回 複合動詞
ペルシア語文で登場する動詞の大半を占める、複合動詞を扱います。

第3回 未来形と命令形
動詞の変化形について学びます。

第4回 完了形
動詞の変化形について学びます。

第5回 助動詞①
「～できる」「～したい」の表現を扱います。

第6回 助動詞②
「～しなければならない」「おそらく～だろう」の表現を扱います。

第7回 イランの映画を見てみよう
イラン映画を鑑賞します。

第8回 受動態、前置詞
受け身の表現と、複合前置詞について学びます。

第9回 関係代名詞
関係代名詞の表現方法について学びます。

第10回 仮定法
「もし～なら」「たとえ～であっても」といった仮定表現を扱います。

第１１回　接続詞のke
節をつくる接続詞について学びます。
第１２回　その他の接続詞
その他の様々な接続詞の表現を学びます。
第１３回　副詞的表現など
文章中に頻出する副詞的表現を扱います。
第１４回　まとめ
初級クラスで学んだ内容を総括します。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　岡崎正孝『基礎ペルシア語』大学書林, 1982.
※授業内容の確認用に用意してください。ただし、教科書はやや古い表記で書かれているため、授業は毎回プリントを配布して行います。

参考文献:　浜畑祐子『ニューエクスプレスプラス ペルシア語』白水社, 2018.　※会話表現の例文が豊富です。
吉枝聡子『ペルシア語文法ハンドブック』白水社, 2011.　※文法事項について、より詳細な説明や例文があります。

[辞書]
黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』大学書林, 2002.　※最も充実したペルシア語・日本語辞典です。
黒柳恒男『ポケット版 日本語・ペルシア語辞典』1996年　※使いやすい日本語・ペルシア語辞典です。

成績評価フリー入力サイン:　0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　70　後期に学んだ文法事項を中心に、授業内で試験を行います。

平常点評価:　30　授業への積極的な参加、課題への取り組みで評価します。

備考・関連URL:　入門クラス同様、なるべく欠席せず粘り強く学ぶ姿勢が重要となります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050863|01|9S06050863[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ポーランド語（入門）		
担 当 教 員	ジャブコ・ポトポヴィッチ　クシシトフ		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ポーランド語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　ポーランド語はチェコ語やスロバキア語と共に西スラブ語を構成する中央ヨーロッパの代表的な言語の一つです。同じスラブ語に属することから、ロシア語やウクライナ語、ブルガリア語などと多くの類似点を持っています。また、南スラブ語のセルビア語やクロアチア語などとも根っこの部分では共通の水脈を分かち合っています。本講座は全国の大学の中でも極めてユニークな存在で、過去に幾多の専門家を輩出してきています。ソ連破壊以降、ポーランドは、こと経済について言えば、旧東欧諸国の中で最も期待されている国のひとつです。そのほかにも、学問や芸術の分野で輝かしい伝統を誇ってきました。日本ではまだまだ学ぶ機会の少ないこの言語を学習することで、現に再生しつつある新しいヨーロッパの姿を直に自分の目で確かめて下さい。

授業の到達目標：　ポーランド語基礎文法、基礎表現の取得。

事前・事後学習の内容：　レッスンの準備をするには、前のレッスンを復習することが大事です。
毎回レッスンを終わりましたら、課題が出ます。
（本講座は秋学期からの参加が可能ですが、ポーランド語、又はその他のスラブ語を勉強したことがない方には春学期からの参加をお勧めします。）

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　文字、発音、簡単な挨拶。
授業の目標とポーランド語勉強についての一言。ポーランドの簡単な挨拶。ポーランド語の文字の紹介、発音の基礎の説明と練習。簡単な自己紹介。人称代名詞。

第2回　簡単な質問と会話。
シンプルの質問・回答の会話を通してポーランド語の語順、名詞、疑問代名詞、人称代名詞、形容詞、動詞の基礎。名詞（単数の主格、名詞の性）

第3回　人称代名詞、動詞の活用。
文法：曲用と活用への入門。

第4回　自己紹介と他人の紹介、形容詞。
形容詞への入門、自分の国籍や職業などの語り方。

第5回　指示代名詞と形容詞、副詞。
文法：形容詞と指示代名詞の曲用と言葉の文法的関係の説明。形容詞と副詞のタイプとその関係。

第6回　人の描写に使う形容詞。
会話で学ぶ指示代名詞と形容詞の使い方。

第7回　家族・所有代名詞。
家族関係に関する表現。文法：所有代名詞

第8回　趣味や好み。
趣味や好みに触れる会話。動詞とその対象の文法的な関係。

第9回　名詞。
文法：名詞の曲用。

第10回　私の一日。前置詞。
現在形で活動について話す。前置詞の基本。

第11回　数詞への入門。
文法：数詞の分類、物の数え方、個数詞の使い方。

第12回　買物と値段。
買い物のさいに使う表現。個数詞を利用した量と数、価格に関する表現。

第13回　入門コースのまとめ。
今まで習った文法と表現の復習。
第14回　期末試験。
約40分の試験・ポーランド語の様々な発音と方言について。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　『ニューエクスプレスプラス　ポーランド語』(白水社)(早大生協扱い)

参考文献:　『Polski krok po kroku』(polish-courses.com)
『明解ポーランド語文法・新版』、石井哲士朗著(白水社2023年6月25日)

成績評価フリー入力サイン:　0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験:　100　期末試験を実施

備考・関連URL:

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050864|01|9S06050864[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ポーランド語（初級）		
担 当 教 員	ジャブコ・ポトポヴィッチ　クシシトフ		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ポーランド語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　ポーランド語はチェコ語やスロバキア語と共に西スラブ語を構成する中央ヨーロッパの代表的な言語の一つです。同じスラブ語に属することから、ロシア語やウクライナ語、ブルガリア語などと多くの類似点を持っています。また、南スラブ語のセルビア語やクロアチア語などととも根っこの部分では共通の水脈を分かち合っています。本講座は全国の大学の中でも極めてユニークな存在で、過去に幾多の専門家を輩出してきています。ソ連破壊以降、ポーランドは、こと経済について言えば、旧東欧諸国の中で最も期待されている国のひとつです。そのほかにも、学問や芸術の分野で輝かしい伝統を誇ってきました。日本ではまだまだ学ぶ機会の少ないこの言語を学習することで、現に再生しつつある新しいヨーロッパの姿を直に自分の目で確かめて下さい。

授業の到達目標：　ポーランド語文法の知識を深めながら、日常会話を含む表現力と簡単な文書の解読練習に進みます。

事前・事後学習の内容：　秋学期のコースは春学期の「ポーランド語（入門）」の引き続きで行います。秋学期から参加する方には春学期の資料を渡しますが、内容の自習をお願いします。ポーランド語、又はその他のスラブ語を勉強したことがない方には春学期からの参加をお勧めします。

レッスンの準備をするには、前のレッスンを復習することが大事です。
毎回レッスンが終わりましたら、課題が出ます。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1(15)回　感想・過去形の基礎。
参加したイベントの感想と過去形の基礎。補語として人称代名詞。文法：過去形。

第2(16)回　順序数詞と集合数詞。
文法：順序数詞の曲用、集合数詞とその他の数詞。

第3(17)回　明日の予定・未来形の基礎、時刻。
遠足の計画、未来形への入門。時刻の訪ね方と答え方。

第4(18)回　過去形と未来形・動詞のアスペクト。
文法：未来形。完了と不完了動詞とその使い方。

第5(19)回　アイスを食べに行きましょう。
文法：命令法と仮定法の基礎。誘い方。

第6(20)回　伝えて下さい・教えて下さい。
文法：仮定法の基礎。物を頼むための表現。敬語の中の仮定法。

第7(21)回　助けを求めるときの表現。
助けを求める表現。仮定法と命令法の使い方。

第8(22)回　移動動詞と方向。
移動動詞の使用方法とアスペクトとの関係。道を訪ね方、方向の説明。

第9(23)回　食事と料理。
食事と食べ物に関する表現。食料品と造格の使い方。

第10(24)回　食事と料理の引き続き・外食・好み・味の感想など。
外食や注文に関する表現。料理の味と店についての感想。

第11(25)回　季節や天気、状況の語り方。
非人称形、情報の伝え方。（間接話法の基礎）

第12(26)回　形容詞と副詞の比較変化・評価と比較。
文法：比較変化；形容詞と副詞の比較変化を使って自分の意見と評価を伝えるための表現。ものを比較するときに使う表現。

第13(27)回　初級コースのまとめ。
第12(26)課の引き続き。今まで習った文法と表現の復習。
第14(28)回　期末試験。
役40分の試験。ポーランド語の勉強を続けたい方へ。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　『ニューエクスプレスプラス　ポーランド語』(白水社)(早大生協扱い)

参考文献:　『Polski krok po kroku』(polish-courses.com)
『明解ポーランド語文法・新版』、石井哲士朗著(白水社2023年6月25日)

成績評価フリー入力サイン:　0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験:　100　期末試験を実施

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分: 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050869|01|9S06050869[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ポルトガル語（ポルトガル）（入門）		
担 当 教 員	荻野 恵		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ポルトガル語	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 日常の会話表現及び主語に応じて6つに変化する動詞の活用に慣れながら、ポルトガル・スペインの文化比較を学ぶ。

授業の到達目標: ポルトガル式の発音及び直説法現在・規則活用を理解し、平易な会話、読解、作文力をつける。

事前・事後学習の内容: 次回の予習箇所を指示するので、辞書で意味を調べ、単語帳（カード）と動詞の活用ノートを作成すること（約1～2時間）。授業後は発音練習をしながら、単語・熟語と活用を覚えること（約1～2時間）。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

1: 第一回 タイトル:ポルトガル語の文字
授業内容:アルファベット 綴り字記号 挨拶表現

2: 第二回 タイトル:発音
授業内容:母音 子音 音節 アクセント 日付 曜日 月 季節の表現

3: 第三回 タイトル:名詞 数詞
授業内容:性と数 基数 序数 「首都」会話

4: 第四回 タイトル:冠詞 形容詞
授業内容:定冠詞 不定冠詞 「首都」購読
形容詞の位置と性・数

5: 第五回 タイトル:主語人称代名詞 疑問詞
授業内容:1人称単数から3人称複数までの 「首都」練習問題
主語となる代名詞
疑問代名詞・形容詞・副詞

6: 第六回 タイトル:ポルトガル語のbe動詞(1)
授業内容: serの活用と用例 「生活時間」会話

7: 第七回 タイトル:ポルトガル語のbe動詞(2)
授業内容: estarの活用と用例 「生活時間」購読

8: 第八回 タイトル:前置詞 動詞と文型
第八回 タイトル:前置詞 動詞と文型

9: 第九回 タイトル:規則動詞 直説法現在(1)
授業内容:-ar型の活用と用例 「ワイン」会話

10: 第十回 タイトル:指示詞
授業内容:指示形容詞 指示代名詞 「ワイン」購読

11: 第十一回 タイトル:指示詞 冠詞の用法
授業内容:前置詞と指示詞の縮合形 「ワイン」練習問題
定冠詞と不定冠詞の用法

12: 第十二回 タイトル:規則動詞 直説法現在(2)
授業内容:-er型の活用と用例 「闘牛」会話

13: 第十三回 タイトル:規則動詞 直説法現在(3)
授業内容:-ir型の活用と用例 「闘牛」購読

14: 第十四回　タイトル：目的格人称代名詞
授業内容：直接・間接目的格代名詞　　「闘牛」練習問題

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　「総合ブラジル ポルトガル文法」（富野他）朝日出版社
「ボア・ソルチ!」（市之瀬他）朝日出版社
「イベリア文化への誘い」大学書林（荻野恵他）→部数不足の為、プリントを配布

参考文献：　適宜教室で指示する

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　90　授業時間中に試験を実施し、復習の確認をする。

平常点評価：　10　授業への積極的取り組み、課題提出。

備考・関連URL：　授業内試験の日程は授業の進度により別途授業内で知らせる。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050870|01|9S06050870[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ポルトガル語（ポルトガル）（初級）		
担 当 教 員	荻野　恵		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ポルトガル語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　直説法現在の不規則活用を中心に、比較・最上級をはじめとする初級文法を習得しながら、イベリア半島の文化、歴史を学ぶ。

授業の到達目標：　直説法現在の不規則活用を理解し、中級レベルに進むことのできる総合力を身につける。

事前・事後学習の内容：　次回の予習箇所を指示するので、辞書で意味を調べ、単語帳（カード）と動詞の活用ノートを作成すること(約1～2時間）。授業後は発音練習をしながら、単語・熟語と活用を覚えること（約1~2時間）。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　1:第一回　タイトル：春学期の文法確認　授業内容：目的格代名詞　動詞の活用等
2:第2回 第二回　タイトル：春学期の文法確認　　所有詞 授業内容：語彙　会話表現　　所有形容詞　代名詞3:第三回　タイトル：比較級(1)授業内容：形容詞の比較級　　「パラドールとポウザーダ」会話4:第四回　タイトル：比較級(2)授業内容：副詞の比較級　　「パラドールとポウザーダ」購読5:第五回　タイトル：最上級(1)授業内容：形容詞の最上級　　「パラドールとポウザーダ」練習問題6:第六回　タイトル：最上級(2)授業内容：副詞の最上級　　「ファドとフラメンコ」会話7:第七回　タイトル：不規則動詞　直説法現在(1)授業内容：terの活用と用例　　「ファドとフラメンコ」購読8:第八回　タイトル：不定形容詞等授業内容：不定形容詞　代名詞
「ファドとフラメンコ」練習問題9:第九回　タイトル：不規則動詞　直説法現在(2)授業内容：vir等の活用と用例
「クリスマス」会話10:第十回　タイトル：不規則動詞　直説法現在(3) 授業内容：poder等の活用と用例
「クリスマス」購読11:第十一回　タイトル：不規則動詞　直説法現在(4)授業内容：querer等の活用と用例
「クリスマス」練習問題12:第十二回　タイトル：不規則動詞　直説法現在(5)授業内容：不規則活用まとめ
「大航海時代」会話13:第十三回　タイトル：時間の表現授業内容：2つの表現法他　　「大航海時代」購読14:第十四回　タイトル：秋学期文法の確認授業内容：不規則活用を中心に復習　　「大航海時代」練習問題

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　荻野恵他「イベリア文化への誘い」（大学書林）→部数不足の為、プリントを配布。
富野・伊藤「総合ブラジル・ポルトガル語文法」（朝日出版社）→春・入門履修者は購入不要。秋・初級からの履修者は必ず購入。
市之瀬他「Boa Sorte!」（朝日出版社）→春・入門履修者は購入不要。秋・初級からの履修者は必ず購入

参考文献：　適宜教室で指示する

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　90　授業時間中に試験を実施し、復習の確認をする。

平常点評価：　10　授業への積極的取り組み、課題提出。

備考・関連URL：　授業内試験の日程は授業の進度により授業内で伝える。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050877|01|9S06050877[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ポルトガル語（ブラジル）（準中級）		
担 当 教 員	荻野　恵		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ポルトガル語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　ポルトガル語の中級レベルを目指す

授業概要:　教科書各課の進め方は以下の通り。①文法→②練習問題→③ブラジルの民話購読　この流れを通じて「文法力」「作文力」「読解力」を培い、それを踏まえ適宜口頭練習（会話）を行う。

授業の到達目標:　初級文法を復習しながら動詞の時制は直説法完全過去から直説法大過去まで進むことを目標とする。

事前・事後学習の内容:　①ポ和辞書を使い教室で指示する箇所を予習する。その際に単語帳・動詞の活用ノートを作成しておくこと（約1～2時間）②授業で済んだ内容の特に動詞の活用と単語・熟語を暗記する（約1～2時間）

授業計画フリー入力サイン:　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（本講義の目的と概要）/本講義の目的、概要、注意点について説明する教科書を持参すること。
第2回
直接・間接目的格人称代名詞　練習問題
第3回
ブラジルの民話1
第4回
関係代名詞　練習問題
第5回
ブラジルの民話2
第6回
比較級・最上級　練習問題
第7回
ブラジルの民話3
第8回
直説法完全過去形の用法　規則活用　練習問題
第9回
直説法完全過去形　不規則活用　練習問題
第10回
ブラジルの民話4
第11回
直説法不完全過去形の用法　規則・不規則活用　練習問題
第12回
ブラジルの民話5
第13回
直説法大過去の用法　活用　練習問題
第14回
ブラジルの民話6

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　教科書：兼安シルビア典子『ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語中級』2019年同学社。

辞書：現代ポルトガル語辞典』2017年白水社。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　90　授業内で実施。ただし欠席が2回以上になると受験資格を失う。

平常点評価：　10　授業中の発話、小テスト、リアクションペーパー等。

備考・関連URL：　語学授業の為出席（授業参加）が重要。実際の受講者数により試験はリアクションペーパーと小テストに変更の可能性有り。まずは第1回のオリエンテーションに出席してください。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050878|01|9S06050878[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ポルトガル語（ブラジル）（中級）		
担 当 教 員	荻野　恵		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	ポルトガル語	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　中級レベルから上級レベルに進めるポルトガル語力を固めましょう。

授業概要:　教科書各課①文法→②練習問題→③ブラジルの民話という流れで「文法力」「作文力」「読解力」を培い、それを踏まえて適宜「口頭練習（会話）」を行う。

授業の到達目標:　準中級までの復習をしながら動詞の時制は直説法未来形から接続法未来形まで進むことを目標とする。

事前・事後学習の内容:　教室で指示する教科書の頁をポ和辞書を使い予習する。その際単語帳や動詞の活用ノートを作成しておくこと（約1～2時間）。毎回進んだ頁の動詞の活用と単語・熟語を暗記すること（約1～2時間）。

授業計画フリー入力サイン:　0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（本講義の目的と概要）　＊教科書を持参
第2回
直説法未来形の活用と用法　　練習問題
第3回
ブラジルの民話7
第4回
直説法過去未来形の活用と用法　　練習問題
第5回
ブラジルの民話8
第6回
直説法現在完了形の活用と用法　練習問題
第7回
直説法過去完了形の活用と用法　練習問題
第8回
直説法未来完了形の活用と用法　練習問題
第9回
直説法過去未来完了　練習問題　　直説法のまとめ
第10回
ブラジルの民話9
第11回
接続法現在形　練習問題
第12回
接続法不完全過去　練習問題
第13回
接続法未来形　練習問題　ブラジルの民話10
第14回
命令法　練習問題　　ブラジルの民話11

言語区分:　0　　日本語　　Japanese

教科書:　教科書:兼安シルビア典子『ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語（中級）』2019年同学社。
辞書:『現代ポルトガル語辞典』2017年白水社

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 90 授業内で実施＊原則欠席2回以上は受験資格を失う。

平常点評価: 10 授業参加（原則欠席は2回まで）、小テスト、リアクションペーパー。

備考・関連URL: 評価方法は実際の履修者数により変更の可能性有り。第1回授業に教科書を持参の上出席してください。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050882|01|9S06050882[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	モンゴル語（初級）		
担 当 教 員	青木　雅浩		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	モンゴル語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　近年、モンゴル人力士の活躍や、天然資源開発等で、遊牧と草原の国モンゴルが日本でも少しずつ知られるようになってきました。そのモンゴルで話されているモンゴル語は、文法が日本語に大変近く、日本人にとって学びやすい外国語の1つであると言えます。
本講座は、主として、過去に簡単なモンゴル語の授業を受けたことがある学生を対象とし、モンゴル国で使用されているキリル文字モンゴル語を教授します。授業では、会話練習、読解、文法事項の説明を中心に行います。特に、モンゴル語習得に必須となる重要な文法事項を、モンゴル語（入門）の授業よりも詳細に解説します。受講者が自発的にモンゴル語を理解し、モンゴル語で自分から表現できるようになることを目指します。

授業の到達目標:　本講座の目標は、受講者が、モンゴル語の文法を身につけ、基本的な読解、会話、作文が自発的にできるようになることです。

事前・事後学習の内容:　授業で学んだ表現を、次の授業までに復習しておいてください。
また、授業に関連する教科書の項目を予め読んでおくと、授業が分かりやすくなります。
復習と予習に必要な時間は、1時間位だと思われます。

授業計画フリー入力サイン:　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回／ガイダンス、キリル文字の学習
本講座の説明を行い、受講者の希望やモンゴル語の習熟度を考慮して、具体的にどのような授業を行っていくか（会話重視、読解重視など）を決めます。また、モンゴル国のモンゴル語で使用されているキリル文字の学習を行います。

第2回／名詞に関する文法・表現1
読解、会話の学習を通じて、名詞に関する文法と表現を学習します。

第3回／動詞に関する文法・表現1
動詞に関する文法と表現を学習します

第4回／名詞に関する文法・表現2
引き続き、名詞に関する文法と表現を学びます。

第5回／動詞に関する文法・表現2
引き続き、動詞に関する文法と表現を学習します。

第6回／名詞に関する文法・表現3、形容詞、副詞
引き続き、名詞に関する文法と表現を学びます。また、形容詞と副詞に関して学習します。

第7回／動詞に関する文法・表現3
引き続き、動詞に関する文法と表現を学習します。

第8回／数字に関する表現
数字に関する単語、表現を学習します。

第9回／動詞に関する文法・表現4
引き続き、動詞に関する文法と表現を学習します。

第10回／否定の表現
モンゴル語における様々な否定表現を学びます。

第11回／疑問形
疑問文について説明します。

第12回／その他様々な表現1
モンゴル語を習得する上で欠かせない様々な表現を解説します。

第13回／その他様々な表現2
引き続き、様々な表現を解説します。

第１４回／まとめ―理解度の確認
今までの授業の内容に基づいて、試験を行い、受講者の理解度を確認します。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定しません。

参考文献: 山越康裕、『詳しくわかるモンゴル語文法』[新版]、白水社、2022. 辞書等については授業中に指定します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50 第14回目の授業時間中に試験を行い、理解度の確認をします。

平常点評価: 50 授業に対する真摯な姿勢、積極的な参加を高く評価します

備考・関連URL: モンゴル語の授業を初めて受講する学生にも対応し、授業内容を理解できるようにします。春クォーターのモンゴル語（入門）を受講できない学生の参加も歓迎します。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050891|01|9S06050891[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	マレー語（入門）		
担 当 教 員	モハメッド　ファリダ		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水５時限@02:金１時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	マレー語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　Bahasa Melayu (Beginner)

授業概要：　初心者を対象に、マレーシアの生活習慣や文化を題材とした会話や発音、基本単語、基礎文法を取得する一方で、ナチュラルスピードでコミュニケーションを図る練習をする。マレー語で自分の意見を述べたり、会話する。

授業の到達目標：　日常生活における簡単なコミュニケーションをマレー語でできる。マレー語で自分の意見を述べたり、会話をすることができる。

事前・事後学習の内容：　毎週の単語の小テスト、Situational Malay, How to say in Malay, Story Telling, Speechの発表

授業計画フリー入力サイン：　0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：
導入
文字と発音と単語
第2回：
1. Apa khabar?「ごきげんいかがですか？」
第3回：
2. Selamat petang.「こんにちは」
第4回：
3. Ini beg Encik Satokah?「これは佐藤さんのかばんですか？」①
第5回：
3. Ini beg Encik Satokah?「これは佐藤さんのかばんですか？」②
第6回：
4. Nasi goreng ini sungguh pedas.「このチャーハンはとても辛いですね」
第7回：
5. Belum ada seminggu pun, ya!「まだ1週間もたっていませんね」
第8回：
6. Kerja-kerja saya tidak pernah habis.「私の仕事は終わりがないんです」①
第9回：
6. Kerja-kerja saya tidak pernah habis.「私の仕事は終わりがないんです」②
第10回：
7. Daripada siapa?「どなたからですか？」
第11回：
8. Boleh makan apa-apa sahaja.「何でも食べられます」①
第12回：
8. Boleh makan apa-apa sahaja.「何でも食べられます」②
第13回：
理解度の確認（口答試験）
第14回：
理解度の確認（筆記試験）

言語区分：　0　日・英併用　Japanese/English

教科書:	『CDエクスプレスマレー語』ファリダ・モハメッド、近藤由美共著（白水社）テキスト2,700円 『マレー語を勉強しよう』ファリダ・モハメッド、山本佐永共著（USIM）テキスト 2,800円 + CD
参考文献:	『ニューエクスプレスマレー語』ファリダ・モハメッド、近藤由美共著（白水社）テキスト 2,700円 『デイリー日本語・マレー語・英語辞典』ファリダ・モハメッド、是洞佐永　2，９００円
成績評価フリー入力サイン:	1：フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	出席状況、授業参加、発表、定期試験より総合的に評価する。

備考・関連URL:

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S06050892|01|9S06050892[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	マレー語（初級）		
担 当 教 員	モハメッド　ファリダ		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水５時限@02:金１時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	マレー語	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　Bahasa Melayu （Basic）

授業概要：　マレー語の発音をブラッシュアップする。マレー語で口頭でのコミュニケーションを図るために必要なスピーキングとリスニングスキルを習得する。ナチュラルスピードでコミュニケーションを図る練習をする。マレー語で自分の考えを表現する。一般的で自然なマレー語で会話をする。マレー語で自分の意見を述べる。

授業の到達目標：　日常生活における簡単なコミュニケーションをマレー語でできる。一般的で自然なマレー語で会話ができる。マレー語で自分の意見を述べることができる。

事前・事後学習の内容：　毎週の単語の小テスト、Situational Malay, How to say in Malay, Story Telling, Speechの発表

授業計画フリー入力サイン：　0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：
導入
9. Pukul berapa bertolak?「何時に出ますか？」
第2回：
10. Mahu cuba roti canai, tak?「ロティチャナイをお試しになりますか？」
第3回：
11. Kalau masa mengizinkan.「もし時間があれば」①
第4回：
11. Kalau masa mengizinkan.「もし時間があれば」②
第5回：
12. Pasti menggembirakan.「きっと喜びますよ」①
第6回：
12. Pasti menggembirakan.「きっと喜びますよ」②
第7回：
13. Saya tak menyedari hal ini.「私はそのことに気付かなかったよ」
第8回：
14. Maafkan saya.「ごめんなさい」
第9回：
15. Sudah kami sahkan.「すでに確認しました」①
第10回：
15. Sudah kami sahkan.「すでに確認しました」②
第11回：
16. Penyertaan peserta?「参加者の出席状況は？」①
第12回：
16. Penyertaan peserta?「参加者の出席状況は？」②
第13回：
理解度の確認（口答試験）
第14回：
理解度の確認（筆記試験）

言語区分：　0　　日・英併用　　Japanese/Englis

h

教科書:	『CDエクスプレスマレー語』ファリダ・モハメッド、近藤由美共著（白水社）テキスト2,700円 『マレー語を勉強しよう』ファリダ・モハメッド、山本佐永共著（USIM）テキスト 2,800円 + CD
参考文献:	『ニューエクスプレスマレー語』ファリダ・モハメッド、近藤由美共著（白水社）テキスト 2,700円 『デイリー日本語・マレー語・英語辞典』ファリダ・モハメッド、是洞佐永　2，９００円
成績評価フリー入力サイン:	1：フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	出席状況、授業参加、発表、定期試験より総合的に評価する。

備考・関連URL:

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010013|01|9S07010013[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	実践の中で生かすスポーツ科学α		
担 当 教 員	堀野　博幸@鳥居　俊@岡田　純一@岡　浩一朗@石井　昌幸		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　本学においても、在学生、卒業生が多くオリンピック、パラリンピックに参加する可能性もあり、非常に関心が高い。また自身の環境や志向によって、さまざまな関わりでスポーツを楽しむ人が増えている。一方で、これらスポーツを支える、「実践の中で生かせるスポーツ科学」については、これが具体的にどのような分野を包含しているのかなどについての知識は、十分に知られているとはいえない。
そこで本授業では、全学の学生諸君にむけて、スポーツの中でスポーツ科学がどのように活かされているのかを具体的な事例をもとに解説し、自身のスポーツ活動に活かせるようにしたい。実践の中で生かすスポーツ科学βと併せて受講することで、実践を通したスポーツ科学の内容を広範に理解でき、自身のスポーツ実践に活用可能となろう。
なお、本授業は、全回オンデマンド授業として実施します。

授業の到達目標：　実践の中で活かせるスポーツ科学の基礎知識を理解し、自身のスポーツ活動に活かす。

事前・事後学習の内容：　各自で授業内容について、予習と復習（90-120分程度）を行う。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第１回：ガイダンス：堀野
ガイダンス（本講義の目的と概要）／ 本講義の目的と概要について説明します。
第２回：石井
歴史を彩ったスポーツ
第３回：岡
健康とスポーツ
第４回：岡田
スポーツのトレーニング科学
第５回：鳥居
スポーツのケガとその対応
第６回：心理＋まとめ
心とスポーツ、まとめ
第７回：堀野
・到達度テスト

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　教養としてのスポーツ科学（大修館書店）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50　到達度テスト。テストは、最終週の水曜日終日として、受験機会は1回のみ30分間とします（変更の場合はMoodleを通じて連絡します）。

平常点評価：　50　毎回の授業時に出されるテストまたは課題の評価を行います。

備考・関連URL：　本講義は、フルオンデマンド形式となります。各回（テーマ）講義の視聴期間は原則として1週間です。視聴期間の延長は行いませんので、設定期限に留意し計画的にWaseda Moodleにて受講してください。出席（レビューシート提出）が2/3に満たない場合は、成績評価の対象となりません（F判定となります）ので留意ください。またレポートの提出状況や出席状況の確認、成績評価の変更要望に関する個人的な問い合わせメッセージには対応できませ

ん。
到達度テストは、秋クォーター最終週の水曜日に実施予定です。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010014|01|9S07010014[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	実践の中で生かすスポーツ科学β		
担 当 教 員	堀野　博幸@土屋　純@奥野　景介@礒　繁雄@広瀬　統一@杉山　千鶴@松岡　宏高		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　本学においても、在学生、卒業生が多くオリンピック、パラリンピックに参加する可能性もあり、非常に関心が高い。また自身の環境や志向によって、さまざまな関わりでスポーツを楽しむ人が増えている。一方で、これらスポーツを支える、「実践の中で生かせるスポーツ科学」については、これが具体的にどのような分野を包含しているのかなどについての知識は、十分に知られているとはいえない。
そこで本授業では、全学の学生諸君にむけて、スポーツの中でスポーツ科学がどのように活かされているのかを具体的な事例をもとに解説し、自身のスポーツ活動に活かせるようにしたい。実践の中で生かすスポーツ科学αと併せて受講することで、実践を通したスポーツ科学の内容を広範に理解でき、自身のスポーツ実践に活用可能となろう。
なお、本授業は、全回オンデマンド授業として実施します。

授業の到達目標：　実践の中で活かせるスポーツ科学の基礎知識を理解し、自身のスポーツ活動に活かす。

事前・事後学習の内容：　各自で授業内容について、予習と復習（90-120分程度）を行う。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第１回：堀野
ガイダンス
第２回：奥野
オリンピックの中で
第３回：礒
パラリンピックの中で
第４回：杉山
美をもつスポーツ
第５回：土屋
スポーツのコーチング
第６回：広瀬
スポーツのコンディショニング
第７回：松岡
スポーツのマーケティング（松岡）・到達度テスト（堀野）

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　教養としてのスポーツ科学（大修館書店）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50　到達度テスト。テストは、最終週の水曜日終日として、受験機会は1回のみ30分間とします（変更の場合はMoodleを通じて連絡します）。

平常点評価：　50　毎回の授業で出されるテストまたはレポートにて評価します。

備考・関連URL：　本講義は、フルオンデマンド形式となります。各回（テーマ）講義の視聴期間は原則として１週間です。視聴期間の延長は行いませんので、設定期限に留意し計画的にWaseda Moodleにて受講してください。出席（レビューシート提出）が2/3に満たない場合は、成績評価の対象となりません（F判定となります）ので留意ください。またレポートの提出状況や出席状況の確認、成績評価の変更要望に関する個人的な問い合わせメッセージには対応できませ

ん。
到達度テストは、冬クォーター最終週の水曜日に実施予定です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010017|01|9S07010017[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Budo O1		
担 当 教 員	工藤 龍太@佐藤 忠之		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： The charm and ability of the traditional Japanese Arts

授業概要： Budo or Japanese martial arts has been very popular not only as competitive sports but also as traditional Japanese arts. The latter are valid not only for the skill of self-defense but also even nursing care for bedridden person. Budo includes dignified etiquette that is useful also for self-defense. The purpose of this class is to learn those basic knowledges through various practical training methods and lectures of traditional budo.

授業の到達目標： To understand the basic thoughts of budo as the traditional Japanese arts

事前・事後学習の内容： It is assumed that it will take about 90 to 120 minutes to prepare and review each session.

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Introduction (Kudo)

The basic philosophy of budo can be expressed in "The practice of technique is the means to that mastery". The students learn why technique was considered to be important.

The basic movements of budo (The class's accompanying skills practice 1) (Satoh)

The principles of kenjutsu are considered as eye contact,distance, position and timing, and how to use a sword, while judo's principles are considered as natural posture, flexibility and balance breaking. The students learn those basic postures, footwork, body handling, etc.

The etiquette of a samurai and technique (The class's accompanying skills practice 2) (Satoh)

The famous saying "Etiquette is namely preparation" shows why etiquette was strictly disciplined in the training of budo. The students learn various traditional manners and their reasons.

Kendo Philosophy and the Modernization of Japanese Martial Arts (Kudo)

Kendo has three dimensions such as a) actual fighting, b) accomplishments of art, c) athletic sport. The students learn a triadic relationship among three dimensions, and the originality of budo.
The judo founder defined judo as the way of using the energy of body and spirit most effectively, and demanded trainees to apply the principle into not only techniques but your life. The students learn why his theory had an influence on other budo.

The principle of budo and the basic techniques (The class's accompanying skills practice 3) (Satoh)

Shizentai (Natural posture) and Mugamae (Omnidirectional posture) are crucial postures in budo. The students learn the strength, significance and grace of budo through a lesson of some forms of Jujutsu (judo) and kenjutsu.

Practical power of budo for stretching exercise and nursing care (The class's accompanying skills practice

In jujutsu, rotating an arm and a wrist, and/or physical movement are important to bring an opponent under control. The students learn interesting methods to apply the technique to a stretching exercise or a nursing care.

Test and review (Kudo)

An educational evaluation test and the review of the test.

言語区分： 0 英語 English

教科書： Reading assignment for each week will be handed out in class.

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 50 Students must score at least 60% at the term-end test.

レポート:	0	None
平常点評価:	50	Students must attend at least 2/3 of all classes in order to qualify for credit.
その他:	0	None

備考・関連URL:

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010024|01|9S07010024[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	姿勢と健康　01		
担 当 教 員	碓田　拓磨		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　これまで姿勢を保とうとしても、結局上手くいかなかったという人が多いのではないだろうか。
何を隠そう、僕自身もそうだった。
【姿勢を保てる能力】は肉体的にも、気分や気持ちなどの精神的健康にも、また周囲に与える印象を左右するという点でも、非常に価値のある能力である。
にもかかわらず、どうすれば姿勢を保てるようになるのか（方法）、何ができるようになれば良いのか（目標）、どんな良いことがあるのか（メリット）を分かりやすく伝えられる人は皆無である。
これでは姿勢を保てる能力が備わらないのも当然といえる。
そこで本講座は、理屈（座学）のみならず、実技（ストレッチなど）にも重点を置き、毎回の授業の中で繰り返し実践し、実際に姿勢を保てる能力を身に付けていただく。
肩こり・腰痛をはじめ健康上の問題や不調を抱えている人はもちろん、印象を良くしたい、スポーツのパフォーマンスを上げたい、集中力を高めたいという人、さらにより豊かな人生を送りたいという人であれば、きっと受講して良かったと思ってもらえる内容である。

授業の到達目標：　・理想的な姿勢（100点姿勢）を理解し、実際にその姿勢を保持できるようにする。
・現在抱えている健康上の問題（肩こり、腰痛、メンタル、お通じ、その他様々な問題）を改善する。
・姿勢の本質を理解し、姿勢を味方につけて豊かな人生のために役立てる。
・姿勢の大切さを人に伝えられるようになる。

事前・事後学習の内容：　特にありません

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 ：姿勢について
・理想的な姿勢とは
・100点姿勢の取り方

第2回：理想的な姿勢がもたらすメリット
・姿勢の新しい考え方
・100点姿勢を身に付けるメリット

第3回：姿勢の評価
・背中が丸まる最大の理由
・猫背の種類
・注意すべき姿勢習慣と対策

第4回：ゲストスピーカー
受講生にとって【生きる姿勢】の参考になる話をゲストスピーカーにしていただく。
※日程はゲストスピーカーの都合により、第4回目とは限らない。

第5回：痛みの意味、姿勢と肩こりの関係
・痛みについて
・「こり」が生じるメカニズム
・姿勢が悪いまま肩こりの解消を求めるのは、画びょうを踏んでも痛くない体を求めるのと同じ

第6回：健康について、姿勢と腰痛の関係
・健康について
・姿勢から考える腰痛

第7回：心の姿勢、姿勢と背骨と神経の関係
・姿勢とストレス
・背骨と神経

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　書名：「ねこ背」を治す　1日1分ストレッチ！

著者：碓田拓磨
出版社：青春出版社
ISBN：978-4-413-29868-1
定価：990円+税

成績評価フリー入力サイン：	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	15	最終回の授業にて姿勢を保っていられる時間に応じて評価する
レポート：	30	姿勢に関する課題
平常点評価：	35	毎回の授業の冒頭と最後に出題する質問をレポート用紙に回答してもらい出席点とする
その他：	20	提出物の評価

備考・関連URL：　授業内容は毎回配布するレジュメに記入してもらうので、ノートを用意する必要はありません。

◆関連URL:

虎ノ門カイロプラクティック院：http://toranomon-chiro.com/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010024|02|9S07010024[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	姿勢と健康 02		
担 当 教 員	碓田 拓磨		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: これまで姿勢を保とうとしても、結局上手くいかなかったという人が多いのではないだろうか。
何を隠そう、僕自身もそうだった。
【姿勢を保てる能力】は肉体的にも、気分や気持ちなどの精神的健康にも、また周囲に与える印象を左右するという点でも、非常に価値のある能力である。
にもかかわらず、どうすれば姿勢を保てるようになるのか（方法）、何ができるようになれば良いのか（目標）、どんな良いことがあるのか（メリット）を分かりやすく伝えられる人は皆無である。
これでは姿勢を保てる能力が備わらないのも当然といえる。
そこで本講座は、理屈（座学）のみならず、実技（ストレッチなど）にも重点を置き、毎回の授業の中で繰り返し実践し、実際に姿勢を保てる能力を身に付けていただく。
肩こり・腰痛をはじめ健康上の問題や不調を抱えている人はもちろん、印象を良くしたい、スポーツのパフォーマンスを上げたい、集中力を高めたいという人、さらにより豊かな人生を送りたいという人であれば、きっと受講して良かったと思ってもらえる内容である。

授業の到達目標: ・理想的な姿勢（100点姿勢）を理解し、実際にその姿勢を保持できるようにする。
・現在抱えている健康上の問題（肩こり、腰痛、メンタル、お通じ、その他様々な問題）を改善する。
・姿勢の本質を理解し、姿勢を味方につけて豊かな人生のために役立てる。
・姿勢の大切さを人に伝えられるようになる。

事前・事後学習の内容: 特にありません

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 :姿勢について
・理想的な姿勢とは
・100点姿勢の取り方

第2回:理想的な姿勢がもたらすメリット
・姿勢の新しい考え方
・100点姿勢を身に付けるメリット

第3回:姿勢の評価
・背中が丸まる最大の理由
・猫背の種類
・注意すべき姿勢習慣と対策

第4回:ゲストスピーカー
受講生にとって【生きる姿勢】の参考になる話をゲストスピーカーにしていただく。
※日程はゲストスピーカーの都合により、第4回目とは限らない。

第5回:痛みの意味、姿勢と肩こりの関係
・痛みについて
・「こり」が生じるメカニズム
・姿勢が悪いまま肩こりの解消を求めるのは、画びょうを踏んでも痛くない体を求めるのと同じ

第6回:健康について、姿勢と腰痛の関係
・健康について
・姿勢から考える腰痛
・腰は痛みたくて痛んでいるのではない

第7回:心の姿勢、姿勢と背骨と神経の関係
・姿勢とストレス
・背骨と神経

言語区分: 0 日本語 Japanese

参考文献:	書名:「ねこ背」を治す　1日1分ストレッチ！ 著者:碓田拓磨 出版社:青春出版社 ISBN:978-4-413-29868-1 定価:990円+税
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	15	最終回の授業にて姿勢を保っていられる時間に応じて評価する
レポート:	30	姿勢に関する課題
平常点評価:	35	毎回の授業の冒頭と最後に出題する質問をレポート用紙に回答してもらい出席点とする
その他:	20	提出物の評価

備考・関連URL: 授業内容は毎回配布するレジュメに記入してもらうので、ノートを用意する必要はありません。

◆関連URL:

虎ノ門カイロプラクティック院:http://toranomon-chiro.com/

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010024|03|9S07010024[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	姿勢と健康　03		
担 当 教 員	碓田　拓磨		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　これまで姿勢を保とうとしても、結局上手くいかなかったという人が多いのではないだろうか。
何を隠そう、僕自身もそうだった。
【姿勢を保てる能力】は肉体的にも、気分や気持ちなどの精神的健康にも、また周囲に与える印象を左右するという点でも、非常に価値のある能力である。
にもかかわらず、どうすれば姿勢を保てるようになるのか（方法）、何ができるようになれば良いのか（目標）、どんな良いことがあるのか（メリット）を分かりやすく伝えられる人は皆無である。
これでは姿勢を保てる能力が備わらないのも当然といえる。
そこで本講座は、理屈（座学）のみならず、実技（ストレッチなど）にも重点を置き、毎回の授業の中で繰り返し実践し、実際に姿勢を保てる能力を身に付けていただく。
肩こり・腰痛をはじめ健康上の問題や不調を抱えている人はもちろん、印象を良くしたい、スポーツのパフォーマンスを上げたい、集中力を高めたいという人、さらにより豊かな人生を送りたいという人であれば、きっと受講して良かったと思ってもらえる内容である。

授業の到達目標：　・理想的な姿勢（100点姿勢）を理解し、実際にその姿勢を保持できるようにする。
・現在抱えている健康上の問題（肩こり、腰痛、メンタル、お通じ、その他様々な問題）を改善する。
・姿勢の本質を理解し、姿勢を味方につけて豊かな人生のために役立てる。
・姿勢の大切さを人に伝えられるようになる。

事前・事後学習の内容：　特にありません

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 ：姿勢について
・理想的な姿勢とは
・100点姿勢の取り方

第2回：理想的な姿勢がもたらすメリット
・姿勢の新しい考え方
・100点姿勢を身に付けるメリット

第3回：姿勢の評価
・背中が丸まる最大の理由
・猫背の種類
・注意すべき姿勢習慣と対策

第4回：ゲストスピーカー
受講生にとって【生きる姿勢】の参考になる話をゲストスピーカーにしていただく。
※日程はゲストスピーカーの都合により、第4回目とは限らない。

第5回：痛みの意味、姿勢と肩こりの関係
・痛みについて
・「こり」が生じるメカニズム
・姿勢が悪いまま肩こりの解消を求めるのは、画びょうを踏んでも痛くない体を求めるのと同じ

第6回：健康について、姿勢と腰痛の関係
・健康について
・姿勢から考える腰痛
・腰は痛みたくて痛んでいるのではない

第7回：心の姿勢、姿勢と背骨と神経の関係
・姿勢とストレス
・背骨と神経

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献:	書名:「ねこ背」を治す　1日1分ストレッチ！ 著者:碓田拓磨 出版社:青春出版社 ISBN:978-4-413-29868-1 定価:990円+税
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	15	最終回の授業にて姿勢を保っていられる時間に応じて評価する
レポート:	30	姿勢に関する課題
平常点評価:	35	毎回の授業の冒頭と最後に出題する質問をレポート用紙に回答してもらい出席点とする
その他:	20	提出物の評価

備考・関連URL: 授業内容は毎回配布するレジュメに記入してもらうので、ノートを用意する必要はありません。

◆関連URL:

虎ノ門カイロプラクティック院:http://toranomon-chiro.com/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010024|04|9S07010024[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	姿勢と健康 04		
担 当 教 員	碓田 拓磨		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: これまで姿勢を保とうとしても、結局上手くいかなかったという人が多いのではないだろうか。
何を隠そう、僕自身もそうだった。
【姿勢を保てる能力】は肉体的にも、気分や気持ちなどの精神的健康にも、また周囲に与える印象を左右するという点でも、非常に価値のある能力である。
にもかかわらず、どうすれば姿勢を保てるようになるのか（方法）、何ができるようになれば良いのか（目標）、どんな良いことがあるのか（メリット）を分かりやすく伝えられる人は皆無である。
これでは姿勢を保てる能力が備わらないのも当然といえる。
そこで本講座は、理屈（座学）のみならず、実技（ストレッチなど）にも重点を置き、毎回の授業の中で繰り返し実践し、実際に姿勢を保てる能力を身に付けていただく。
肩こり・腰痛をはじめ健康上の問題や不調を抱えている人はもちろん、印象を良くしたい、スポーツのパフォーマンスを上げたい、集中力を高めたいという人、さらにより豊かな人生を送りたいという人であれば、きっと受講して良かったと思ってもらえる内容である。

授業の到達目標: ・理想的な姿勢（100点姿勢）を理解し、実際にその姿勢を保持できるようにする。
・現在抱えている健康上の問題（肩こり、腰痛、メンタル、お通じ、その他様々な問題）を改善する。
・姿勢の本質を理解し、姿勢を味方につけて豊かな人生のために役立てる。
・姿勢の大切さを人に伝えられるようになる。

事前・事後学習の内容: 特にありません

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 :姿勢について
・理想的な姿勢とは
・100点姿勢の取り方

第2回:理想的な姿勢がもたらすメリット
・姿勢の新しい考え方
・100点姿勢を身に付けるメリット

第3回:姿勢の評価
・背中が丸まる最大の理由
・猫背の種類
・注意すべき姿勢習慣と対策

第4回:ゲストスピーカー
受講生にとって【生きる姿勢】の参考になる話をゲストスピーカーにしていただく。
※日程はゲストスピーカーの都合により、第4回目とは限らない。

第5回:痛みの意味、姿勢と肩こりの関係
・痛みについて
・「こり」が生じるメカニズム
・姿勢が悪いまま肩こりの解消を求めるのは、画びょうを踏んでも痛くない体を求めるのと同じ

第6回:健康について、姿勢と腰痛の関係
・健康について
・姿勢から考える腰痛
・腰は痛みたくて痛んでいるのではない

第7回:心の姿勢、姿勢と背骨と神経の関係
・姿勢とストレス
・背骨と神経

言語区分: 0 日本語 Japanese

参考文献: 書名:「ねこ背」を治す　1日1分ストレッチ！
著者:碓田拓磨
出版社:青春出版社
ISBN:978-4-413-29868-1
定価:990円+税

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	15	最終回の授業にて姿勢を保っていられる時間に応じて評価する
レポート:	30	正しい姿勢を普及させるためのアイデアをまとめる
平常点評価:	35	毎回の授業の冒頭と最後に出題する質問をレポート用紙に回答してもらい出席点とする
その他:	20	提出物の評価

備考・関連URL: 授業内容は毎回配布するレジュメに記入してもらうので、ノートを用意する必要はありません。

◆関連URL:

虎ノ門カイロプラクティック院:http://toranomon-chiro.com/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010025|01|9S07010025[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	スポーツと文化 １ 01		
担 当 教 員	渡邉 昌史		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: スポーツを文化の問題として考える

授業概要: 私たちは日々、スポーツに熱中し、挑戦し、楽しんでいる。このように、あたりまえにスポーツがあるということは、スポーツとは「そういうもの」という共通理解が私たちの世界にあるからである。ボールをゴールに蹴り込む様子を見れば「サッカー」と思うように、スポーツにはそれを成り立たたせている「約束ごと」がたくさんある。このように、人々が自明のこととして、つまり説明せずとも、あたりまえのものとして共有している「約束ごと」を文化と呼ぶ。
昨今、「文化としてのスポーツ」「スポーツ文化」など。最近、スポーツに「文化」を付けたフレーズを見かけることが多い。なぜ「文化」が大流行（おおはやり）なのだろうか？ なかには「文化」を冠することで教育や政治、経済などの価値をことさらに強調しようとしていることも少なくない。
あたりまえであり、普遍的だと思い込んでいる価値観「スポーツはすばらしい」についても、なぜ「すばらしい」とされているのかを考えることは、これからのスポーツの未来を考える上でも大切なことである。スポーツの「あたりまえ」を考えることは、「ちょっと待って、本当にそうなのか」と問い直すことにつながる。「ルールだから」「常識だから」と現実をそのまま受け入れるのではなく、「違うやり方もあるのでは」と多様な可能性に気づくこともできる。こうした発想の仕方や物ごとに対する見方は、「考える力」＝知識、思考力、判断力を涵養し、問題発見から問題解決へと至るプロセスを提供してくれる。
本講義の目的は、読者が自分にとってあたりまえのスポーツの世界を見直すための思考のヒントを提供することにある。そのための手がかりとして、講義ではスポーツに関わる具体的な事象を例にあげながら、スポーツ文化を理解する多面的な考え方について示していく。
具体的な進め方としては、スポーツ（語源的意味にまでさかのぼり、気晴らしする、遊ぶを含む）とこれをめぐる「約束ごと」、すなわちスポーツ文化について、歴史的・社会的な背景を織り交ぜながら考えることによって、スポーツについての視野を広げていく。
テーマは身体文化、民族、儀礼・宗教、教育、国家・権力、伝統と近代、植民地主義をはじめ、今日的な事象としてのメディア、コミュニケーション、性・ジェンダー、エスニシティ、観光、など幅広く取り扱う。毎回、テーマを設定し、映像・画像資料を糸口にして複眼的視点から考察を進めて行く。あわせて、スポーツに関わる昨今のトピックについても取り上げる。
※以下「授業計画」記載の内容はあくまでも予定あり、事前に受講者に告知した後、内容および順序が変更される場合もある。

授業の到達目標: 本講義のねらいは、スポーツに関わる「知識の習得」というよりも、むしろ習得された幅広い知識及び分析視点によって「批判的に考える」ことによる知識の再構成にある。
よって、授業の到達目標は「スポーツについて、固定観念や固有の価値観にとらわれることなく、多様な視点から多面的に考えることができるようになる」こととする。

事前・事後学習の内容: 予習としてWaseda Moodleに掲載する各回のレジュメの事前読了を求めます。予習には60分～90分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
1. イントロダクション：スポーツを文化の問題として考えるとは
2. サッカーはなぜ世界に広まったのか：スポーツの起源と国際化
3. sportとオリンピック
4. スポーツとジェンダー
5. 国民文化「国技」としての相撲：スポーツ化と創られた伝統
6. 伝統文化とスポーツ：台湾先住民族の土俵をもつ相撲
7. スポーツ文化として考える「音」と「ことば」（ゲストスピーカー予定）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定しない。適宜、関連文献を紹介する。

参考文献: 「ひと・もの・こと・ば」から読み解くスポーツ文化論. 大修館書店. 2019
よくわかるスポーツ人類学. ミネルヴァ書房. 2017
教養としてのスポーツ人類学. 大修館書店. 2004.
スポーツ文化論. 杏林書院. 1994.

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	50	期末レポートを50点満点で評価する。
平常点評価:	50	出席確認兼ねて、毎回「コメントカード」の提出を求める。全回を通じて50点満点で評価する。

備考・関連URL: この科目は、次のクオーターに同じ曜日時限に開講される科目と、授業内容が連続しています。継続して履修することで、より幅広く学習することができます。
(例)「スポーツと文化　1　01」(春クオーター)と「スポーツと文化　2　01」(夏クオーター)を連続して履修し、合計2単位修得する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010025|02|9S07010025[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	スポーツと文化 1 02		
担 当 教 員	渡邉 昌史		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: スポーツを文化の問題として考える

授業概要: 私たちは日々、スポーツに熱中し、挑戦し、楽しんでいる。このように、あたりまえにスポーツがあるということは、スポーツとは「そういうもの」という共通理解が私たちの世界にあるからである。ボールをゴールに蹴り込む様子を見れば「サッカー」と思うように、スポーツにはそれを成り立たたせている「約束ごと」がたくさんある。このように、人々が自明のこととして、つまり説明せずとも、あたりまえのものとして共有している「約束ごと」を文化と呼ぶ。
昨今、「文化としてのスポーツ」「スポーツ文化」など。最近、スポーツに「文化」を付けたフレーズを見かけることが多い。なぜ「文化」が大流行（おおはやり）なのだろうか？ なかには「文化」を冠することで教育や政治、経済などの価値をことさらに強調しようとしていることも少なくない。
あたりまえであり、普遍的だと思い込んでいる価値観「スポーツはすばらしい」についても、なぜ「すばらしい」とされているのかを考えることは、これからのスポーツの未来を考える上でも大切なことである。スポーツの「あたりまえ」を考えることは、「ちょっと待って、本当にそうなのか」と問い直すことにつながる。「ルールだから」「常識だから」と現実をそのまま受け入れるのではなく、「違うやり方もあるのでは」と多様な可能性に気づくこともできる。こうした発想の仕方や物ごとに対する見方は、「考える力」＝知識、思考力、判断力を涵養し、問題発見から問題解決へと至るプロセスを提供してくれる。
本講義の目的は、読者が自分にとってあたりまえのスポーツの世界を見直すための思考のヒントを提供することにある。そのための手がかりとして、講義ではスポーツに関わる具体的な事象を例にあげながら、スポーツ文化を理解する多面的な考え方について示していく。
具体的な進め方としては、スポーツ（語源的意味にまでさかのぼり、気晴らしする、遊ぶを含む）とこれをめぐる「約束ごと」、すなわちスポーツ文化について、歴史的・社会的な背景を織り交ぜながら考えることによって、スポーツについての視野を広げていく。
テーマは身体文化、民族、儀礼・宗教、教育、国家・権力、伝統と近代、植民地主義をはじめ、今日的な事象としてのメディア、コミュニケーション、性・ジェンダー、エスニシティ、観光、など幅広く取り扱う。毎回、テーマを設定し、映像・画像資料を糸口にして複眼的視点から考察を進めて行く。あわせて、スポーツに関わる昨今のトピックについても取り上げる。

※以下「授業計画」記載の内容はあくまでも予定あり、事前に受講者に告知した後、内容および順序が変更される場合もある。

授業の到達目標: 本講義のねらいは、スポーツに関わる「知識の習得」というよりも、むしろ習得された幅広い知識及び分析視点によって「批判的に考える」ことによる知識の再構成にある。
よって、授業の到達目標は「スポーツについて、固定観念や固有の価値観にとらわれることなく、多様な視点から多面的に考えることができるようになる」こととする。

事前・事後学習の内容: 予習としてWaseda Moodleに掲載する各回のレジュメの事前読了を求めます。予習には60分～90分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
1. イントロダクション：スポーツを文化の問題として考えるとは
2. サッカーはなぜ世界に広まったのか：スポーツの起源と国際化
3. sportとオリンピック
4. スポーツとジェンダー
5. 国民文化「国技」としての相撲：スポーツ化と創られた伝統
6. 伝統文化とスポーツ：台湾先住民族の土俵をもつ相撲
7. スポーツ文化として考える「音」と「ことば」（ゲストスピーカー予定）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定しない。適宜、関連文献を紹介する。

参考文献:
「ひと・もの・こと・ば」から読み解くスポーツ文化論. 大修館書店. 2019
よくわかるスポーツ人類学. ミネルヴァ書房. 2017
教養としてのスポーツ人類学. 大修館書店. 2004.
スポーツ文化論. 杏林書院. 1994.

成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
レポート:	50	期末レポートを50点満点で評価する。
平常点評価:	50	出席確認兼ねて、毎回「コメントカード」の提出を求める。全回を通じて50点満点で評価する。
備考・関連URL:	この科目は、次のクオーターに同じ曜日時限に開講される科目と、授業内容が連続しています。継続して履修することで、より幅広く学習することができます。 （例）「スポーツと文化　１　０２」（春クオーター）と「スポーツと文化　２　０２」（夏クオーター）を連続して履修し、合計2単位修得する。	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010026|01|9S07010026[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	スポーツと文化 ２ 01		
担 当 教 員	渡邉 昌史		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: スポーツを文化の問題として考える

授業概要: 私たちは日々、スポーツに熱中し、挑戦し、楽しんでいる。このように、あたりまえにスポーツがあるということは、スポーツとは「そういうもの」という共通理解が私たちの世界にあるからである。ボールをゴールに蹴り込む様子を見れば「サッカー」と思うように、スポーツにはそれを成り立たたせている「約束ごと」がたくさんある。このように、人々が自明のこととして、つまり説明せずとも、あたりまえのものとして共有している「約束ごと」を文化と呼ぶ。
昨今、「文化としてのスポーツ」「スポーツ文化」など。最近、スポーツに「文化」を付けたフレーズを見かけることが多い。なぜ「文化」が大流行（おおはやり）なのだろうか？ なかには「文化」を冠することで教育や政治、経済などの価値をことさらに強調しようとしていることも少なくない。
あたりまえであり、普遍的だと思い込んでいる価値観「スポーツはすばらしい」についても、なぜ「すばらしい」とされているのかを考えることは、これからのスポーツの未来を考える上でも大切なことである。スポーツの「あたりまえ」を考えることは、「ちょっと待って、本当にそうなのか」と問い直すことにつながる。「ルールだから」「常識だから」と現実をそのまま受け入れるのではなく、「違うやり方もあるのでは」と多様な可能性に気づくこともできる。こうした発想の仕方や物ごとに対する見方は、「考える力」＝知識、思考力、判断力を涵養し、問題発見から問題解決へと至るプロセスを提供してくれる。
本講義の目的は、読者が自分にとってあたりまえのスポーツの世界を見直すための思考のヒントを提供することにある。そのための手がかりとして、講義ではスポーツに関わる具体的な事象を例にあげながら、スポーツ文化を理解する多面的な考え方について示していく。
具体的な進め方としては、スポーツ（語源的意味にまでさかのぼり、気晴らしする、遊ぶを含む）とこれをめぐる「約束ごと」、すなわちスポーツ文化について、歴史的・社会的な背景を織り交ぜながら考えることによって、スポーツについての視野を広げていく。
テーマは身体文化、民族、儀礼・宗教、教育、国家・権力、伝統と近代、植民地主義をはじめ、今日的な事象としてのメディア、コミュニケーション、性・ジェンダー、エスニシティ、観光、など幅広く取り扱う。毎回、テーマを設定し、映像・画像資料を糸口にして複眼的視点から考察を進めて行く。あわせて、スポーツに関わる昨今のトピックについても取り上げる。

※以下「授業計画」記載の内容はあくまでも予定あり、事前に受講者に告知した後、内容および順序が変更される場合もある。

授業の到達目標: 本講義のねらいは、スポーツに関わる「知識の習得」というよりも、むしろ習得された幅広い知識及び分析視点によって「批判的に考える」ことによる知識の再構成にある。
よって、授業の到達目標は「スポーツについて、固定観念や固有の価値観にとらわれることなく、多様な視点から多面的に考えることができるようになる」こととする。

事前・事後学習の内容: 予習としてWaseda Moodleに掲載する各回のレジュメの事前読了を求めます。予習には60分～90分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
1. 文化としての「甲子園野球」2. スポーツによる文化化：学校武道によって教える文化とは
3. 祭り・伝統行事にみるススポーツ4. 文化に縛られた身体
5. 養生から健康へ日本人の身体観
6. 遊びとスポーツ
7. スポーツと空間文化（ゲストスピーカー予定）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定しない。適宜、関連文献を紹介する。

参考文献: 「ひと・もの・こと・ば」から読み解くスポーツ文化論. 大修館書店. 2019
よくわかるスポーツ人類学. ミネルヴァ書房. 2017
教養としてのスポーツ人類学. 大修館書店. 2004.
スポーツ文化論. 杏林書院. 1994.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	50	期末レポートを50点満点で評価する。
平常点評価:	50	出席確認兼ねて、毎回「コメントカード」の提出を求める。全回を通じて50点満点で評価する。

備考・関連URL: この科目は、前のクオーターに同じ曜日時限に開講される科目と、授業内容が連続しています。継続して履修することで、より幅広く学習することができます。
（例）「スポーツと文化　１　０１」（春クオーター）と「スポーツと文化　２　０１」（夏クオーター）を連続して履修し、合計2単位修得する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010026|02|9S07010026[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	スポーツと文化 ２ 02		
担 当 教 員	渡邉 昌史		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: スポーツを文化の問題として考える

授業概要: 私たちは日々、スポーツに熱中し、挑戦し、楽しんでいる。このように、あたりまえにスポーツがあるということは、スポーツとは「そういうもの」という共通理解が私たちの世界にあるからである。ボールをゴールに蹴り込む様子を見れば「サッカー」と思うように、スポーツにはそれを成り立たたせている「約束ごと」がたくさんある。このように、人々が自明のこととして、つまり説明せずとも、あたりまえのものとして共有している「約束ごと」を文化と呼ぶ。
昨今、「文化としてのスポーツ」「スポーツ文化」など。最近、スポーツに「文化」を付けたフレーズを見かけることが多い。なぜ「文化」が大流行（おおはやり）なのだろうか？ なかには「文化」を冠することで教育や政治、経済などの価値をことさらに強調しようとしていることも少なくない。
あたりまえであり、普遍的だと思い込んでいる価値観「スポーツはすばらしい」についても、なぜ「すばらしい」とされているのかを考えることは、これからのスポーツの未来を考える上でも大切なことである。スポーツの「あたりまえ」を考えることは、「ちょっと待って、本当にそうなのか」と問い直すことにつながる。「ルールだから」「常識だから」と現実をそのまま受け入れるのではなく、「違うやり方もあるのでは」と多様な可能性に気づくこともできる。こうした発想の仕方や物ごとに対する見方は、「考える力」＝知識、思考力、判断力を涵養し、問題発見から問題解決へと至るプロセスを提供してくれる。
本講義の目的は、読者が自分にとってあたりまえのスポーツの世界を見直すための思考のヒントを提供することにある。そのための手がかりとして、講義ではスポーツに関わる具体的な事象を例にあげながら、スポーツ文化を理解する多面的な考え方について示していく。
具体的な進め方としては、スポーツ（語源的意味にまでさかのぼり、気晴らしする、遊ぶを含む）とこれをめぐる「約束ごと」、すなわちスポーツ文化について、歴史的・社会的な背景を織り交ぜながら考えることによって、スポーツについての視野を広げていく。
テーマは身体文化、民族、儀礼・宗教、教育、国家・権力、伝統と近代、植民地主義をはじめ、今日的な事象としてのメディア、コミュニケーション、性・ジェンダー、エスニシティ、観光、など幅広く取り扱う。毎回、テーマを設定し、映像・画像資料を糸口にして複眼的視点から考察を進めて行く。あわせて、スポーツに関わる昨今のトピックについても取り上げる。

※以下「授業計画」記載の内容はあくまでも予定あり、事前に受講者に告知した後、内容および順序が変更される場合もある。

授業の到達目標: 本講義のねらいは、スポーツに関わる「知識の習得」というよりも、むしろ習得された幅広い知識及び分析視点によって「批判的に考える」ことによる知識の再構成にある。
よって、授業の到達目標は「スポーツについて、固定観念や固有の価値観にとらわれることなく、多様な視点から多面的に考えることができるようになる」こととする。

事前・事後学習の内容: 予習としてWaseda Moodleに掲載する各回のレジュメの事前読了を求めます。予習には60分～90分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

1. 文化としての「甲子園野球」
2. スポーツによる文化化：学校武道によって教える文化とは
3. 祭り・伝統行事にみるススポーツ
4. 文化に縛られた身体
5. 養生から健康へ日本人の身体観
6. 遊びとスポーツ
7. スポーツと空間文化（ゲストスピーカー予定）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定しない。適宜、関連文献を紹介する。

参考文献: 「ひと・もの・こと・ば」から読み解くスポーツ文化論. 大修館書店. 2019
よくわかるスポーツ人類学. ミネルヴァ書房. 2017
教養としてのスポーツ人類学. 大修館書店. 2004.
スポーツ文化論. 杏林書院. 1994.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	50	期末レポートを50点満点で評価する。
平常点評価:	50	出席確認兼ねて、毎回「コメントカード」の提出を求める。全回を通じて50点満点で評価する。

備考・関連URL: この科目は、前のクオーターに同じ曜日時限に開講される科目と、授業内容が連続しています。継続して履修することで、より幅広く学習することができます。
（例）「スポーツと文化　１　０２」（春クオーター）と「スポーツと文化　２　０２」（夏クオーター）を連続して履修し、合計2単位修得する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010027|01|9S07010027[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	東洋健康論 1 01		
担 当 教 員	奈良 雅之		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 健康という言葉とそれに関する情報は、新聞や雑誌の記事・広告に載らない日はないほど氾濫している。健康面に不安を抱える人も多く、街を歩けば、「癒し」や「治療」など健康づくりに関連する様々な看板を見かけることができる。
このような状況の中、わたしたちが健康に関する適切な情報を取捨選択し、自身の健康度を高めるためには、健康に関するより信頼性の高い知識や方法を理解することが重要と考える。とくに東洋の伝統的な医療に関する知識は、一般的な関心が高いにも関わらず、これまで大学の授業などで取り扱う対象となっておらず、偏った知識や方法が伝わりやすい状況にある。
本授業では、現代社会におけるストレスや生活習慣病などの健康問題、「癒し」や健康法、漢方、鍼灸、リハビリテーションなどの関心事、及び競技スポーツ・トレーニングなどを話題に取り上げ、東洋医学的な視点と科学的な視点から概説、考察する。また、セルフツボ押しやセルフマッサージなどの方法を簡単な実技を通して体験することにより課題への理解を深めてく。それにより、受講者の健康に関する知識の幅を広げるとともに、バランスのよい健康観を養い、適切な判断と望ましい健康行動の発現を促すことを授業のねらいとする。
本授業の学問的ベースは東洋医学を中心に、心理学、解剖学、生理学、病理学、衛生学、臨床医学などに置く。専門用語を使う際には極力、その語の意味を説明する。

授業の到達目標: 1. 授業で解説した東洋医学、現代医学の用語の示す意味が理解できる。
2. 健康法のいくつかについて手順や期待される効果が理解できるとともに、体験した結果感じたことを文章で表現することができる。
3. 健康問題のいくつかについて東洋医学、西洋医学、心理学などの複数の視点から説明できる。

事前・事後学習の内容: 事前学習としてWasedaMoodleに掲載するレジュメの事前読了を求める。
事後学習として毎回出題する復習課題への解答を求める。
各回の予習・復習には 90 分～120 分かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回／オリエンテーション及び東洋的人間観・健康観:
授業全体の説明を行うとともに、貝原益軒や養老孟司を引用しながら日本人の死生観や健康観に触れる。東洋的人間観・健康観の根底にある陰陽論について具体例を挙げながら解説する。ツボ押しやセルフマッサージなどのポイントを紹介する。

第2回／ストレスと東洋医学:
イライラすると身体はどうなるか。現代社会におけるストレッサーとストレスについて東洋医学的視点から考える。ストレス対処に効果が期待できるツボ押しや身体技法などを紹介する。

第3回／食行動・栄養と健康:

ダイエットやサプリメントなど現代社会における食の問題について、食行動・栄養を中心に東洋医学的視点からとらえてみる。ツボ押しの他、食養生、薬膳などを紹介するとともに、色彩の効果についても触れる。

第4回／漢方薬の基礎知識:

漢方薬の基礎知識について東洋医学、現代医学の視点から解説する。また、漢方薬による治療を選択する際の注意点について、映像などを使用しながらわかりやすく解説する。

第5回／睡眠と夢:

睡眠の満足度をたかめるにはどうしたらよいか。現代人に不足しがちな睡眠について科学的視点、東洋医学的視点からとらえてみたい。睡眠に関係するツボ押しや身体技法などを紹介する。夢についても精神医学的な分析と東洋医学的な分析について考察してみたい。

第6回／東洋的動き・姿勢と運動:

東洋的動きや姿勢の基礎となる東洋的身体技法に注目して、ここでは「ナンバ」の動きや「野口体操」などスポーツや実生活で活用可能な東洋的動きや姿勢について考える（屋内での簡単な実技も体験する）。

第7回／東洋療法の基礎及び授業のまとめ: :

東洋療法としての鍼灸・手技療法の基礎知識について紹介する。第1回～第6回の授業のまとめと筆記試験を行う。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 奈良雅之他著「健康行動科学」（共栄出版）

参考文献: 丹澤章八監修「あはき心理学入門」（ヒューマンワールド社）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	60	筆記試験を実施する。
レポート:	10	レポート課題を課す。
平常点評価:	30	第1回目～第6回目の復習課題（確認問題及び感想文記入）の得点と授業時間内に課す課題の提出状況で評価する。

備考・関連URL: ・課題に対するフィードバックはWaseda Moodle を通じて行う。
・欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は単位を認定しない。
・試験は紙媒体の資料（教科書、プリント、ノート等）持込み可

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010027|02|9S07010027[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	東洋健康論 1 02		
担 当 教 員	奈良 雅之		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 健康という言葉とそれに関する情報は、新聞や雑誌の記事・広告に載らない日はないほど氾濫している。健康面に不安を抱える人も多く、街を歩けば、「癒し」や「治療」など健康づくりに関連する様々な看板を見かけることができる。
このような状況の中、わたしたちが健康に関する適切な情報を取捨選択し、自身の健康度を高めるためには、健康に関するより信頼性の高い知識や方法を理解することが重要と考える。とくに東洋の伝統的な医療に関する知識は、一般的な関心が高いにも関わらず、これまで大学の授業などで取り扱う対象となっておらず、偏った知識や方法が伝わりやすい状況にある。
本授業では、現代社会におけるストレスや生活習慣病などの健康問題、「癒し」や健康法、漢方、鍼灸、リハビリテーションなどの関心事、及び競技スポーツ・トレーニングなどを話題に取り上げ、東洋医学的な視点と科学的な視点から概説、考察する。また、セルフツボ押しやセルフマッサージなどの方法を簡単な実技を通して体験することにより課題への理解を深めてく。それにより、受講者の健康に関する知識の幅を広げるとともに、バランスのよい健康観を養い、適切な判断と望ましい健康行動の発現を促すことを授業のねらいとする。
本授業の学問的ベースは東洋医学を中心に、心理学、解剖学、生理学、病理学、衛生学、臨床医学などに置く。専門用語を使う際には極力、その語の意味を説明する。

授業の到達目標: 1. 授業で解説した東洋医学、現代医学の用語の示す意味が理解できる。
2. 健康法のいくつかについて手順や期待される効果が理解できるとともに、体験した結果感じたことを文章で表現することができる。
3. 健康問題のいくつかについて東洋医学、西洋医学、心理学などの複数の視点から説明できる。

事前・事後学習の内容: 事前学習としてWasedaMoodleに掲載するレジュメの事前読了を求める。
事後学習として毎回出題する復習課題への解答を求める。
各回の予習・復習には 90 分～120 分かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回／オリエンテーション及び東洋的人間観・健康観:
授業全体の説明を行うとともに、貝原益軒や養老孟司を引用しながら日本人の死生観や健康観に触れる。東洋的人間観・健康観の根底にある陰陽論について具体例を挙げながら解説する。ツボ押しやセルフマッサージなどのポイントを紹介する。

第2回／ストレスと東洋医学:
イライラすると身体はどうなるか。現代社会におけるストレッサーとストレスについて東洋医学的視点から考える。ストレス対処に効果が期待できるツボ押しや身体技法などを紹介する。

第3回／食行動・栄養と健康:

ダイエットやサプリメントなど現代社会における食の問題について、食行動・栄養を中心に東洋医学的視点からとらえてみる。ツボ押しの他、食養生、薬膳などを紹介するとともに、色彩の効果についても触れる。

第4回／漢方薬の基礎知識:

漢方薬の基礎知識について東洋医学、現代医学の視点から解説する。また、漢方薬による治療を選択する際の注意点について、映像などを使用しながらわかりやすく解説する。

第5回／睡眠と夢:

睡眠の満足度をたかめるにはどうしたらよいか。現代人に不足しがちな睡眠について科学的視点、東洋医学的視点からとらえてみたい。睡眠に関係するツボ押しや身体技法などを紹介する。夢についても精神医学的な分析と東洋医学的な分析について考察してみたい。

第6回／東洋的動き・姿勢と運動:

東洋的動きや姿勢の基礎となる東洋的身体技法に注目して、ここでは「ナンバ」の動きや「野口体操」などスポーツや実生活で活用可能な東洋的動きや姿勢について考える（屋内での簡単な実技も体験する）。

第7回／東洋療法の基礎及び授業のまとめ: :

東洋療法としての鍼灸・手技療法の基礎知識について紹介する。第1回～第6回の授業のまとめと筆記試験を行う。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 奈良雅之他著「健康行動科学」（共栄出版）

参考文献: 丹澤章八監修「あはき心理学入門」（ヒューマンワールド社）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	60	筆記試験を実施する。
レポート:	10	レポート課題を課す。
平常点評価:	30	第1回目～第6回目の復習課題（確認問題及び感想文記入）の得点と授業時間内に課す課題の提出状況で評価する。

備考・関連URL: ・課題に対するフィードバックはWaseda Moodle を通じて行う。
・欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は単位を認定しない。
・試験は紙媒体の資料（教科書、プリント、ノート等）持込み可

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010028|01|9S07010028[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	東洋健康論 ２ 01		
担 当 教 員	奈良 雅之		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

健康という言葉とそれに関する情報は、新聞や雑誌の記事・広告に載らない日はないほど氾濫している。健康面に不安を抱える人も多く、街を歩けば、「癒し」や「治療」など健康づくりに関連する様々な看板を見かけることができる。
　このような状況の中、わたしたちが健康に関する適切な情報を取捨選択し、自身の健康度を高めるためには、健康に関するより信頼性の高い知識や方法を理解することが重要と考える。とくに東洋の伝統的な医療に関する知識は、一般的な関心が高いにも関わらず、これまで大学の授業などで取り扱う対象となっておらず、偏った知識や方法が伝わりやすい状況にある。
　本授業では、現代社会におけるストレスや生活習慣病などの健康問題、「癒し」や健康法、漢方、鍼灸、リハビリテーションなどの関心事、及び競技スポーツ・トレーニングなどを話題に取り上げ、東洋医学的な視点と科学的な視点から概説、考察する。また、セルフツボ押しやセルフマッサージなどの方法を簡単な実技を通して体験することにより課題への理解を深めてく。それにより、受講者の健康に関する知識の幅を広げるとともに、バランスのよい健康観を養い、適切な判断と望ましい健康行動の発現を促すことを授業のねらいとする。
本授業の学問的ベースは東洋医学を中心に、心理学、解剖学、生理学、病理学、衛生学、臨床医学などに置く。専門用語を使う際には極力、その語の意味を説明する。

授業の到達目標：

1. 授業で解説した東洋医学、現代医学の用語の示す意味が理解できる。
2. 健康法のいくつかについて手順や期待される効果が理解できるとともに、体験した結果感じたことを文章で表現することができる。
3. 健康問題のいくつかについて東洋医学、西洋医学、心理学などの複数の視点から説明できる。

事前・事後学習の内容：

事前学習としてWasedaMoodleに掲載するレジュメの事前読了を求める。
事後学習として毎回出題する復習課題への解答を求める。
各回の予習・復習には 90 分～120 分かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回／東洋的リラクセーション法：

授業全体の説明を行うとともに、気功や呼吸法、太極拳など東洋的身体技法をベースとしたリラクセーション法について体験的に学ぶ。注意集中、あがり予防などへの応用についても解説するとともに、日常で活用できる簡単な実技を体験する。

第2回／東洋療法（1）はり灸療法：

東洋医学の治療法としてのはり灸療法について、その種類や期待される効果など、東洋医学的視点、現代医学的視点の双方から解説する。鍼灸療法による治療を選択する際の注意点について、映像やデモンストレーションを交えながら説明する。

第3回／東洋療法（2）手技療法：

東洋医学の治療法としての指圧、按摩マッサージの他、足つぼ・整体等に至るまでの手技療法について東洋医学的視点、現代医学的視点の双方から解説する。手技療法に関する基本的な技法についても映像やデモンストレーションを交えながら説明する。

第4回／東洋医学の診断法：

東洋医学における脈や舌の診立てなど、その診断法について解説する。漢方チェックシートで自分の体質を調べるとともに、各自の体質や健康度に応じた健康保持増進の方法、疾病予防の方法について考える。

第5回／四季と健康：

「冷える」「ほてる」「むくむ」「かさつく」などの愁訴を取り上げ、季節に応じた東洋医学的健康法や身体を温めるための入浴法、疾病予防法、及び東洋医学の治療について、その効果などに言及しながら解説する。

第6回／美容・健康づくりとしての東洋医学：

東洋医学の美容・健康づくり効果について、方法を紹介しながら解説する。美容に効くツボ、足つぼや整体、耳つぼ等に関する応用的な知識、婦人科疾患の予防と治療などについて紹介する。

第7回／東洋療法の実際及び授業のまとめ：

東洋療法の実際について解説するとともに第1回～第6回の授業のまとめと筆記試験を行う。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 奈良雅之他著「健康行動科学」(共栄出版)

参考文献: 丹澤章八監修「あはき心理学入門」(ヒューマンワールド社)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 60 筆記試験の得点。

レポート: 10 レポート課題の得点。

平常点評価: 30 第1回目～第6回目の復習課題(確認問題及び感想文記入)の得点、および、授業時間内に課す課題の提出状況で評価する。

備考・関連URL: ・当該授業の履修には、その基礎的内容となる「東洋健康論1 01」または、「東洋健康論1 02」の受講を必要とする。

・課題に対するフィードバックはWaseda Moodle を通じて行う。
・欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は単位を認定しない。
・試験は紙媒体の資料(教科書、プリント、ノート等)持込み可

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010028|02|9S07010028[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	東洋健康論 ２ 02		
担 当 教 員	奈良 雅之		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 健康という言葉とそれに関する情報は、新聞や雑誌の記事・広告に載らない日はないほど氾濫している。健康面に不安を抱える人も多く、街を歩けば、「癒し」や「治療」など健康づくりに関連する様々な看板を見かけることができる。
このような状況の中、わたしたちが健康に関する適切な情報を取捨選択し、自身の健康度を高めるためには、健康に関するより信頼性の高い知識や方法を理解することが重要と考える。とくに東洋の伝統的な医療に関する知識は、一般的な関心が高いにも関わらず、これまで大学の授業などで取り扱う対象となっておらず、偏った知識や方法が伝わりやすい状況にある。
本授業では、現代社会におけるストレスや生活習慣病などの健康問題、「癒し」や健康法、漢方、鍼灸、リハビリテーションなどの関心事、及び競技スポーツ・トレーニングなどを話題に取り上げ、東洋医学的な視点と科学的な視点から概説、考察する。また、セルフツボ押しやセルフマッサージなどの方法を簡単な実技を通して体験することにより課題への理解を深めてく。それにより、受講者の健康に関する知識の幅を広げるとともに、バランスのよい健康観を養い、適切な判断と望ましい健康行動の発現を促すことを授業のねらいとする。
本授業の学問的ベースは東洋医学を中心に、心理学、解剖学、生理学、病理学、衛生学、臨床医学などに置く。専門用語を使う際には極力、その語の意味を説明する。

授業の到達目標: 1. 授業で解説した東洋医学、現代医学の用語の示す意味が理解できる。
2. 健康法のいくつかについて手順や期待される効果が理解できるとともに、体験した結果感じたことを文章で表現することができる。
3. 健康問題のいくつかについて東洋医学、西洋医学、心理学などの複数の視点から説明できる。

事前・事後学習の内容: 事前学習としてWasedaMoodleに掲載するレジュメの事前読了を求める。
事後学習として毎回出題する復習課題への解答を求める。
各回の予習・復習には 90 分～120 分かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回／東洋的リラクセーション法:
授業全体の説明を行うとともに、気功や呼吸法、太極拳など東洋的身体技法をベースとしたリラクセーション法について体験的に学ぶ。注意集中、あがり予防などへの応用についても解説するとともに、日常で活用できる簡単な実技を体験する。

第2回／東洋療法（1）はり灸療法:
東洋医学の治療法としてのはり灸療法について、その種類や期待される効果など、東洋医学的視点、現代医学的視点の双方から解説する。鍼灸療法による治療を選択する際の注意点について、映像やデモンストレーションを交えながら説明する。

第3回／東洋療法（2）手技療法:
東洋医学の治療法としての指圧、按摩マッサージの他、足つぼ・整体等に至るまでの手技療法について東洋医学的視点、現代医学的視点の双方から解説する。手技療法に関する基本的な技法についても映像やデモンストレーションを交えながら説明する。

第4回／東洋医学の診断法:
東洋医学における脈や舌の診立てなど、その診断法について解説する。漢方チェックシートで自分の体質を調べるとともに、各自の体質や健康度に応じた健康保持増進の方法、疾病予防の方法について考える。

第5回／四季と健康:
「冷える」「ほてる」「むくむ」「かさつく」などの愁訴を取り上げ、季節に応じた東洋医学的健康法や身体を温めるための入浴法、疾病予防法、及び東洋医学の治療について、その効果などに言及しながら解説する。

第6回／美容・健康づくりとしての東洋医学:

東洋医学の美容・健康づくり効果について、方法を紹介しながら解説する。美容に効くツボ、足つぼや整体、耳つぼ等に関する応用的な知識、婦人科疾患の予防と治療などについて紹介する。

第7回／東洋療法の実際及び授業のまとめ:
東洋療法の実際について解説するとともに第1回～第6回の授業のまとめと筆記試験を行う。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 奈良雅之他著「健康行動科学」(共栄出版)

参考文献: 丹澤章八監修「あはき心理学入門」(ヒューマンワールド社)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 60 筆記試験の得点。

レポート: 10 レポート課題の得点。

平常点評価: 30 第1回目～第6回目の復習課題(確認問題及び感想文記入)の得点、および、授業時間内に課す課題の提出状況で評価する。

備考・関連URL: ・当該授業の履修には、その基礎的内容となる「東洋健康論1 01」または、「東洋健康論1 02」の受講を必要とする。

・課題に対するフィードバックはWaseda Moodle を通じて行う。
・欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は単位を認定しない。
・試験は紙媒体の資料(教科書、プリント、ノート等)持込み可

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010029|01|9S07010029[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Sport Sciences 1 01		
担 当 教 員	細川 由梨@宮地 元彦@宮本 直和@谷澤 薫平@欠畑 岳@林 直亨		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： Scientific aspect of Sport Sciences

授業概要： The area surrounding sport and exercise continues to expand. Sport sciences encompass a wide range of disciplines, yet the scope and depth of this field are not always fully understood by students. In this course, faculty members in Sport Sciences will introduce various aspects of this dynamic and attractive field. The classes include both classroom-based lectures and on-site practical sessions. Through this combination, students will have opportunities to explore not only the theoretical foundations of sport sciences but also their practical applications. We hope you enjoy learning about this field.

授業の到達目標： To obtain general knowledge about sport sciences.

事前・事後学習の内容： It is expected that it will take about 90 minutes to prepare for and review each lecture.

授業計画フリー入力サイン： 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
Sport Sciences 01 (Scientific aspect)
[1] 4月17日 細川由梨 Yuri Hosokawa (in-person)
Orientation
[2] 4月24日 谷澤薫平 Kumpei Tanisawa (in-person)
Sports Genomics
[3] 5月 1日 宮地元彦 Motohiko Miyachi (in-person)
Physical activity and health
[4] 5月 8日 欠畑 岳 Gaku Kakehata（実技; in-person）
Running (Hands-on Practice)
[5] 5月15日 林直亨 Naoyuki Hayashi (in-person)
Exercise Physiology
[6] 5月22日 宮本直和 Naokazu Miyamoto (in-person)
Biomechanics
[7] 5月29日 細川由梨 Yuri Hosokawa (online)
Examination

言語区分： 0 英語 English

教科書： None

参考文献： Materials will be delivered at the class or in the Waseda Moodle when needed.

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	60	Multiple choice test will be done at the last class at the end of semester.
レポート：	0	We currently do not plan report submission.
平常点評価：	40	Attendance: Some classes (e.g., 実技) may be held in another location. Please let the instructor know if your class schedule does not allow enough time to attend the class when it is held at another location.
その他：	0	N/A

備考・関連URL： You are recommended to take continuous class, “Sport Sciences 2 01”, in the next quarter, to learn this class extensively.
If so, you will earn 2 credits in total.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010030|01|9S07010030[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Sport Sciences 2 01		
担 当 教 員	細川 由梨@射手矢 岬@深見 英一郎@中澤 篤史@松本 泰介@高嶋 航@岡田 千あ		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： Multidisciplinary aspect of Sport Sciences

授業概要： The area surrounding sport and exercise continues to expand. Sport sciences encompass a wide range of disciplines, yet the scope and depth of this field are not always fully understood by students. In this course, faculty members in Sport Sciences will introduce various aspects of this dynamic and attractive field. The classes include both classroom-based lectures and on-site practical sessions. Through this combination, students will have opportunities to explore not only the theoretical foundations of sport sciences but also their practical applications. We hope you enjoy learning about this field.

授業の到達目標： To obtain general knowledge about sport sciences.

事前・事後学習の内容： It is expected that it will take about 90 minutes to prepare for and review each lecture.

授業計画フリー入力サイン： 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
Sport Sciences 02 (Multidisciplinary aspect)
[1] 6月 5日 岡田千あき Chiaki Okada (in-person)
Sport and International Development
[2] 6月12日 松本泰介 Taisuke Matsumoto (online)
Sports Law
[3] 6月19日 高嶋 航 Ko Takashima (in-person)
History of Sport
[4] 6月26日 深見英一郎 Eiichiro Fukami (in-person)
Sports Education
[5] 7月 3日 中澤篤史 Atsushi Nakazawa (in-person)
Sports Sociology
[6] 7月10日 射手矢岬 Misaki Iteya（実技; in-person）
Judo (Hands-on Practice)
[7] 7月17日 細川由梨 Yuri Hosokawa (in-person)
Examination

言語区分： 0 英語 English

教科書： None

参考文献： Materials will be delivered at the class or in the Waseda Moodle when needed.

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	60	Multiple choice test will be done at the last class at the end of semester.
レポート：	0	We currently do not plan report submission.
平常点評価：	40	Attendance: Some classes (e.g., 実技) may be held in another location. Please let the instructor know if your class schedule does not allow enough time to attend the class when it is held at another location.
その他：	0	No current plan.

備考・関連URL： Before taking this class, you are recommended to take continuous class, “Sport Sciences 1 01”, in spring quarter, to learn this class extensively.
If so, you will earn 2 credits in total.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010031|01|9S07010031[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	障がい者スポーツとソーシャルイノベーション 01		
担 当 教 員	塩田 琴美		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 我が国において、障害者がスポーツを楽しめる環境は未だ十分だとは言い難い。障がい者スポーツの振興を図る上では、障害者の心身の構造といった個体の面から障害者のスポーツを取り巻く社会・文化的背景など環境の面まで幅広い知見が必要となる。本講義では障がい者のスポーツ振興を図る上での課題やその課題解決に向けた思考法、社会実装の概要について学ぶ。

授業の到達目標: ・障害とは何かを理解する。
・障害者がスポーツを行うことの意義の理解をする。
・障害者とスポーツについての現状や課題について理解し、社会実装についても具視化できる。

事前・事後学習の内容: 各回に提示するアサイメントを実施し、自身が足りていない知識については随時復習し次回に向けた予習をすること。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーション、障害特性とスポーツ
担当教員の自己紹介、知的障害、精神障害、身体障害の障害特性を理解し、各障害特性に応じたスポーツのルールや道具について解説する。

第2回:障害者スポーツにおける課題とスポーツに対する価値
障害者が地域でスポーツを実施する上での課題について考える。自身のスポーツに対する価値を分析し、ケーススタディを通じて地域スポーツクラブへの障害者の受け入れについて、検討を行う。

第3回: 障害者のスポーツの実施状況
障害者がスポーツを行う意義やその効果、障害者がスポーツを行う上での現状の課題および実践方法について解説をする。

第4回:障害者のスポーツ環境
障害者を取り巻くスポーツ環境と障害特性に応じたサポート方法の概要について解説する。

第5回:障がい者スポーツの普及促進
障害を有する当事者をゲストスピーカーに招き、障害者スポーツと障害理解、障がい者スポーツの普及促進に向けた取り組みについて理解をする。

第6回:障がい者スポーツを支える
ゲストスピーカーによる講演:支える側としての障害者のスポーツ促進に向けた環境整備、障がい者スポーツの指導者やボランティアなど支える層の取り組み状況について理解をする。

第7回:障がい者スポーツの社会的価値
各回で行ったケーススタディやグループワークを通じて、障害者スポーツと社会的価値について自身の考えをまとめる。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 必要な資料は各講義内でアナウンスする。

参考文献: 相澤 純也 , 塩田 琴美 著,極めに・究める・スポーツリハ（極めに・究める・リハビリテーション）,丸善出版, 2019

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	90	毎回の動画閲覧後に小テストもしくはレポートを実施し、全7回終了後に最終課題に取り組むことで、授業内容の理解度の確認を行います。
平常点評価:	10	2/3以上の参加（期限内受講およぶ課題提出）を原則とし、フォーラムに投稿されるコメントやディスカッション、グループワークの内容など授業への積極的な取り組み状況を評価します。

備考・関連URL：　・各回の受講期間は1週間とし、受講期間内に必ず各回で出されている小テストもしくはレポート課題を提出すること。受講期間が過ぎた課題を個別にメールやメッセージで頂いても受付いたしません。
・本事業はGoogle スライドを用いたオンライン上でのグループワークを実施しますので、Google スライドの使い方には慣れておくことが望ましいです。
・本科目の学びを深めるために、「障害者スポーツ振興事業」等、担当教員が提示する障害者が実際にスポーツを実施する場面等に見学や参加をすることを推奨します。

他のダイバーシティ関連科目：
https://www.waseda.jp/inst/diversity/information/diversity-courses/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010035|01|9S07010035[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ウェルビーイングな生活を送るための健康科学 O1		
担 当 教 員	岡 浩一朗@石井 香織@田口 素子@西多 昌規		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ウェルビーイングとは、身体的、精神的、社会的に完全に満たされた状態のことを指す。
本授業では、ウェルビーイングな生活を送るために必要な健康習慣（睡眠、食生活、身体活動・運動など）のあり方について学ぶとともに、ウェルビーイングを実現する環境づくりや対人関係スキルの修得を目指す。
＊本授業は、2コマはオンデマンド配信型授業として実施します。

授業の到達目標: ・ウェルビーイングの本質や概念を理解し、説明することができる
・ウェルビーイングに生活習慣（睡眠、食生活、身体活動・運動、座位行動など）や環境・対人関係などが及ぼす影響を理解し、説明することができる。
・ウェルビーイングな生活を送るためのヘルスリテラシーを高め、実際の日常生活に活かすことができる

事前・事後学習の内容: ・授業受講前に、授業で扱う各生活習慣の振り返りを行い、問題点・課題を整理する（1時間/日程度）。
・授業で学んだ内容を活かし、ウェルビーイングな生活の実践を試みる（1時間程度/日）。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:ウェルビーイングとは（岡）
本授業の進め方や成績評価等に関するガイダンスを行う。
ウェルビーイングという概念に関する基本的な考え方を学ぶ。
課題:現在、自分自身が実践しているウェルビーイングな生活習慣について列挙する。

第2回:ウェルビーイングと睡眠・生体リズム（西多）
＊本授業は、オンデマンド配信型授業として実施します。
ウェルビーイングと睡眠・生体リズムの関連について理解し、望ましい睡眠習慣獲得のためのポイントについて学ぶ。
課題:現在の自分自身の睡眠習慣について振り返り、今後実践可能な望ましい睡眠習慣獲得のための方法について列挙する。

第3回:ウェルビーイングと食生活（田口）
＊本授業は、オンデマンド配信型授業として実施します。
ウェルビーイングと食生活の関連について理解し、健康的な食習慣獲得のためのポイントについて学ぶ。
課題:現在の自分自身の食習慣について振り返り、今後実践可能なヘルシーな食生活を送るための方法について列挙する。

第4回:ウェルビーイングと身体活動・運動（石井）
ウェルビーイングと身体活動・運動の関連について理解し、身体活動実践や運動習慣獲得のためのポイントについて学ぶ。
課題:現在の自分自身の身体活動・運動習慣について振り返り、今後実践可能なアクティブな生活を送るための方法について列挙する。

第5回:ウェルビーイングと座位行動（岡）
ウェルビーイングと座りすぎ（長時間の座位行動）の関連について理解し、座りすぎ対策のポイントについて学ぶ。
課題:現在の自分自身の座位行動について振り返り、今後実践可能な座りすぎ対策について列挙する。

第6回:ウェルビーイング実現のための環境づくり（石井）
ウェルビーイングと環境の関連について理解し、ウェルビーイングな生活を実現するための環境づくりのポイントについて学ぶ。
課題:現在の自分自身を取り巻く環境について振り返り、今後ウェルビーイングな生活を実現するために可能な環境づくりの方法を列挙する。

第7回:ウェルビーイングとストレス・マネジメント（岡）
ウェルビーイングとストレスの関連について理解し、ストレス・マネジメントとしての対人コミュニケーションのあり方について学ぶとともに、本授業のまとめと講評を行う。
課題:現在の自分自身が抱えるストレスについて振り返り、今後の対人関係を円滑にするコミュニケーションの方法を列挙する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:	特になし
参考文献:	特になし
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	特になし
レポート:	40	授業の中で最も興味深かったテーマを1つ取り上げ、レポートを提出する
平常点評価:	60	授業への取り組み度合いおよび各回の課題
その他:	0	特になし

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07010035|02|9S07010035[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ウェルビーイングな生活を送るための健康科学 02		
担 当 教 員	岡 浩一朗@石井 香織@田口 素子@西多 昌規		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	スポーツ理論	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ウェルビーイングとは、身体的、精神的、社会的に完全に満たされた状態のことを指す。
本授業では、ウェルビーイングな生活を送るために必要な健康習慣（睡眠、食生活、身体活動・運動など）のあり方について学ぶとともに、ウェルビーイングを実現する環境づくりや対人関係スキルの修得を目指す。
＊本授業は、2コマはオンデマンド配信型授業として実施します。

授業の到達目標: ・ウェルビーイングの本質や概念を理解し、説明することができる
・ウェルビーイングに生活習慣（睡眠、食生活、身体活動・運動、座位行動など）や環境・対人関係などが及ぼす影響を理解し、説明することができる。
・ウェルビーイングな生活を送るためのヘルスリテラシーを高め、実際の日常生活に活かすことができる

事前・事後学習の内容: ・授業受講前に、授業で扱う各生活習慣の振り返りを行い、問題点・課題を整理する（1時間/日程度）。
・授業で学んだ内容を活かし、ウェルビーイングな生活の実践を試みる（1時間程度/日）。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:ウェルビーイングとは（岡）
本授業の進め方や成績評価等に関するガイダンスを行う。
ウェルビーイングという概念に関する基本的な考え方を学ぶ。
課題:現在、自分自身が実践しているウェルビーイングな生活習慣について列挙する。

第2回:ウェルビーイングと睡眠・生体リズム（西多）
＊本授業は、オンデマンド配信型授業として実施します。
ウェルビーイングと睡眠・生体リズムの関連について理解し、望ましい睡眠習慣獲得のためのポイントについて学ぶ。
課題:現在の自分自身の睡眠習慣について振り返り、今後実践可能な望ましい睡眠習慣獲得のための方法について列挙する。

第3回:ウェルビーイングと食生活（田口）
＊本授業は、オンデマンド配信型授業として実施します。
ウェルビーイングと食生活の関連について理解し、健康的な食習慣獲得のためのポイントについて学ぶ。
課題:現在の自分自身の食習慣について振り返り、今後実践可能なヘルシーな食生活を送るための方法について列挙する。

第4回:ウェルビーイングと身体活動・運動（石井）
ウェルビーイングと身体活動・運動の関連について理解し、身体活動実践や運動習慣獲得のためのポイントについて学ぶ。
課題:現在の自分自身の身体活動・運動習慣について振り返り、今後実践可能なアクティブな生活を送るための方法について列挙する。

第5回:ウェルビーイングと座位行動（岡）
ウェルビーイングと座りすぎ（長時間の座位行動）の関連について理解し、座りすぎ対策のポイントについて学ぶ。
課題:現在の自分自身の座位行動について振り返り、今後実践可能な座りすぎ対策について列挙する。

第6回:ウェルビーイング実現のための環境づくり（石井）
ウェルビーイングと環境の関連について理解し、ウェルビーイングな生活を実現するための環境づくりのポイントについて学ぶ。
課題:現在の自分自身を取り巻く環境について振り返り、今後ウェルビーイングな生活を実現するために可能な環境づくりの方法を列挙する。

第7回:ウェルビーイングとストレス・マネジメント（岡）
ウェルビーイングとストレスの関連について理解し、ストレス・マネジメントとしての対人コミュニケーションのあり方について学ぶとともに、本授業のまとめと講評を行う。
課題:現在の自分自身が抱えるストレスについて振り返り、今後の対人関係を円滑にするコミュニケーションの方法を列挙する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:	特になし
参考文献:	特になし
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	特になし
レポート:	40	授業の中で最も興味深かったテーマを1つ取り上げ、レポートを提出する
平常点評価:	60	授業への取り組み度合いおよび各回の課題
その他:	0	特になし

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040001|01|9S07040001[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	合気道 基礎 01		
担 当 教 員	佐藤 忠之		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 武道の中に於ける合気道の位置づけを知り、その技術の特性に触れその根幹をなす術理を学習する。
合気道とは何か？を日本伝統文化としてとらえ、合わせて日本人的教養を学習する

授業の到達目標: 基本動作の運足法と手刀操作法の習得から実技はスタートする。
第2回目以降の授業からこれらを用いて、その上で「技」を学ぶ。

事前・事後学習の内容: 各回の予習・復習には約30分程度かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
導入 授業ガイダンス
第2回
武道史概論、技の種類特色について
第3回
目付・間合・構え・姿勢 運足法、受身法
第4回
運足法、手刀単独動作・体捌き法
第5回
（運足法、受身法、手刀単独動作）
第6回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）関節（手首技）
第7回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）関節（手首技）
第8回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）関節（肘技）
第9回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）当身技解説
第10回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）関節技の総合応用
第11回
総合的練習（10回までの補完を含む）
第12回
総合的練習（10回までの補完を含む）
第13回
総合的練習（10回までの補完を含む）
第14回
総合的練習による到達度を確認してまとめとする

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 合気道の自修帖 佐藤忠之著

参考文献:	武道論　富木謙治著	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	

試験:	20	最終講義に到達度確認のための参考審査を行う
レポート:	0	やむを得ない事情で受講出来なくなった場合にのみ考慮する
平常点評価:	80	教場での実習態度を評価する
その他:	0	なし

備考・関連URL:　服装については初回導入時に説明。（注意）安全管理上 付け爪は厳禁　道衣着用を原則とする。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040001|02|9S07040001[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	合気道 基礎 02		
担 当 教 員	佐藤 忠之		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 武道の中に於ける合気道の位置づけを知り、その技術の特性に触れその根幹をなす術理を学習する。
合気道とは何か？を日本伝統文化としてとらえ、合わせて日本人的教養を学習する

授業の到達目標: 基本動作の運足法と手刀操作法の習得から実技はスタートする。
第2回目以降の授業からこれらを用いて、その上で「技」を学ぶ。

事前・事後学習の内容: 各回の予習・復習には約30分程度かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
導入 授業ガイダンス
第2回
武道史概論、技の種類特色について
第3回
目付・間合・構え・姿勢 運足法、受身法
第4回
運足法、手刀単独動作・体捌き法
第5回
（運足法、受身法、手刀単独動作）
第6回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）関節技（手首技）
第7回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）関節技（手首技）
第8回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）関節技（肘技）
第9回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）当身技解説
第10回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）関節技の総合応用
第11回
総合的練習（10回までの補完を含む）
第12回
総合的練習（10回までの補完を含む）
第13回
総合的練習（10回までの補完を含む）
第14回
総合的練習による到達度を確認してまとめとする

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 合気道の自修帖 佐藤忠之著

参考文献:	武道論 富木謙治著	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	

試験:	20	最終講義に到達度確認のための参考審査を行う
レポート:	0	やむを得ない事情で受講出来なくなった場合にのみ考慮する
平常点評価:	80	教場での実習態度を評価する
その他:	0	なし

備考・関連URL: 服装については初回導入時に説明。
（注意）安全上 付け爪は厳禁。 道衣着用を原則とする。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040001|03|9S07040001[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	合気道 基礎 03		
担 当 教 員	佐藤 忠之		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 武道の中に於ける合気道の位置づけを知り、その技術の特性に触れその根幹をなす術理を学習する。
合気道とは何か？を日本伝統文化としてとらえ、合わせて日本人的教養を学習する

授業の到達目標: 基本動作の運足法と手刀操作法の習得から実技はスタートする。
第2回目以降の授業からこれらを用いて、その上で「技」を学ぶ。

事前・事後学習の内容: 各回の予習・復習には約30分程度かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
導入 授業ガイダンス
第2回
武道史概論、技の種類特色について
第3回
目付・間合・構え・姿勢 運足法、受身法
第4回
運足法、手刀単独動作・体捌き法
第5回
（運足法、受身法、手刀単独動作）
第6回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟） 関節技（手首技）
第7回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）関節技（手首技）
第8回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）関節技（肘技）
第9回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）当身技解説
第10回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）関節技の総合応用
第11回
総合的練習（10回までの補完を含む）
第12回
総合的練習（10回までの補完を含む）
第13回
総合的練習（10回までの補完を含む）
第14回
総合的練習による到達度を確認してまとめとする

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 合気道の自修帖 佐藤忠之著

参考文献:	武道論 富木謙治著	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	20	最終講義に到達度確認のための参考審査を行う
レポート:	0	やむを得ない事情で受講出来なくなった場合にのみ考慮する
平常点評価:	80	教場での実習態度を評価する
その他:	0	なし

備考・関連URL: 服装については初回導入時に説明。
（注意）安全上 付け爪は厳禁。 道衣着用を原則とする

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040001|04|9S07040001[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	合気道 基礎 04		
担 当 教 員	佐藤 忠之		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 武道の中に於ける合気道の位置づけを知り、その技術の特性に触れその根幹をなす術理を学習する。
合気道とは何か？を日本伝統文化としてとらえ、合わせて日本人的教養を学習する

授業の到達目標: 基本動作の運足法と手刀操作法の習得から実技はスタートする。
第2回目以降の授業からこれらを用いて、その上で「技」を学ぶ。

事前・事後学習の内容: 各回の予習・復習には約30分程度かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
導入 授業ガイダンス
第2回
武道史概論、技の種類特色について
第3回
目付・間合・構え・姿勢 運足法、受身法
第4回
運足法、手刀単独動作・体捌き法
第5回
（運足法、受身法、手刀単独動作）
第6回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟） 関節技（手首技）
第7回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟） 関節技（手首技）
第8回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）関節（肘技）

第9回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）当身技解説
第10回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）関節技の総合応用
第11回
総合的練習（10回までの補完を含む）
第12回
総合的練習（10回までの補完を含む）
第13回
総合的練習（10回までの補完を含む）
第14回
総合的練習による到達度を確認してまとめとする

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 合気道の自修帖 佐藤忠之著

参考文献:	武道論　富木謙治著	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	20	最終講義に到達度確認のための参考審査を行う
レポート:	0	やむを得ない事情で受講出来なくなった場合のみ考慮する
平常点評価:	80	教場での実習態度を評価する
その他:	0	なし

備考・関連URL:　服装については初回導入時に説明。
（注意）安全上 付け爪は厳禁。 道衣着用を原則とする。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040001|05|9S07040001[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	合気道 基礎 05		
担 当 教 員	佐藤 忠之		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 武道の中に於ける合気道の位置づけを知り、その技術の特性に触れその根幹をなす術理を学習する。
合気道とは何か？を日本伝統文化としてとらえ、合わせて日本人的教養を学習する

授業の到達目標: 基本動作の運足法と手刀操作法の習得から実技はスタートする。
第2回目以降の授業からこれらを用いて、その上で「技」を学ぶ。

事前・事後学習の内容: 各回の予習・復習には約30分程度かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
導入 授業ガイダンス
第2回
武道史概論、技の種類特色について
第3回
目付・間合・構え・姿勢 運足法、受身法
第4回
運足法、手刀単独動作・体捌き法
第5回
（運足法、受身法、手刀単独動作）
第6回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟） 関節技（手首技）
第7回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟） 関節技（手首技）
第8回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）関節技（肘技）
第9回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）当身技解説
第10回
（運足法、受身法、手刀単独動作 以下これを習熟）関節技の総合応用
第11回
総合的練習（10回までの補完を含む）
第12回
総合的練習（10回までの補完を含む）
第13回
総合的練習（10回までの補完を含む）
第14回
総合的練習による到達度を確認してまとめとする

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 合気道の自修帖 佐藤忠之著

参考文献:	武道論　富木謙治著	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	20	最終講義に到達度確認のための参考審査を行う
レポート:	0	やむを得ない事情で受講出来なくなった場合にのみ考慮する
平常点評価:	80	実技の場合は教場での実習態度を評価する
その他:	0	なし

備考・関連URL:　服装については初回導入時に説明。
（注意）安全上 付け爪は厳禁。 道衣着用を原則とする。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040002|01|9S07040002[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	アジアのフィジカルエクササイズ（カラリパヤット）０１		
担 当 教 員	高橋　京子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ｉ	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　インドのカラリパヤット

授業概要：　本授業ではアジアのフィジカルエクササイズとして、インドのマーシャルアーツ（武術）であるカラリパヤットを行う。
カラリパヤットとは南インド・ケーララ州に伝承されるマーシャルアーツ（武術）である。カラリパヤットは戦士の身体訓練として発達したトレーニングで、一説には空手の源流ともいわれている。欧米のダンサー、俳優、格闘家の中にはこれをトレーニングの一環に取り入れる者もいる。したがって健康な身体づくりを目指す学生はもちろんのこと、舞踊やスポーツの実践者など多くの人々に適した対象である。加えてカラリパヤットは単なるトレーニングにとどまらない。インドの伝統医学や信仰などの要素も含んでいる。そのため体験を通して異文化についても学ぶことができる。カラリパヤットは以上のような要素をもちつつ、身体を健康にしていくエクササイズである。

授業の到達目標：　本授業の目標は、
1. カラリパヤットにおいて健康上欠かせない柔軟性を強化し、しなやかな身体をつくること。ただし各自が無理のない範囲内で行うことが前提であるので、各自の習熟度にあわせて行う。
2. 「早稲田式カラリパヤット」として、音楽にあわせグループごとに楽しみながら心と体を健康にすること。
3. 最後に授業の成果を「公開パフォーマンス」として発表すること。
である。
なお、本授業は基礎と位置づけるため、運動経験がなく体力に自信のない方から体力に自信のある方まで多くの方に適した内容とする。

事前・事後学習の内容：　普段から一日5分でも良いので、授業のはじめに行うウォームアップ（ストレッチ）を行い、各自で柔軟性向上に努めてください。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
オリエンテーション（授業の目的と概要、服装等の注意事項、評価方法、カラリパヤット解説等）、アンケート【着替え不要】
第2回
ウォームアップ、クールダウンカラリパヤット①祈りの作法、休息のポーズ、基本ポーズ、②脚のエクササイズ1
第3回
カラリパヤット②脚のエクササイズ1、2
第4回
カラリパヤット②脚のエクササイズ2
第5回
カラリパヤット②脚のエクササイズ2、3
第6回
カラリパヤット②脚のエクササイズ3、仕上げ
第7回
グループワーク
カラリパヤット③基本動作プータラトラル1、衣装の着用練習
第8回
グループワークカラリパヤット③基本動作プータラトラル2、衣装の着用練習

第9回
グループワークカラリパヤット③基本動作プータラトラル3、衣装の着用練習
第10回
グループワークカラリパヤット③基本動作プータラトラル4（完成）、衣装の着用練習
第11回
グループワークリハーサル、ビデオ撮影
カラリパヤット②脚のエクササイズ1、2、3、③基本動作プータラトラル、衣装の着用練習
第12回
グループワークビデオチェック
カラリパヤット②脚のエクササイズ1、2、3、③基本動作プータラトラル、、衣装の着用練習
第13回
公開パフォーマンス（入場無料）@小野記念講堂【出席必須】
第14回
ビデオ鑑賞、アンケートカラリパヤット④武器

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教科書は使用しません。

参考文献: 授業時に適宜、紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	20	期末レポートを課します。 1）公開パフォーマンスの感想を含め全授業を通した感想、2）カラリパヤットを通して得られた身体の使い方とこれまでに経験したスポーツにおける身体の使い方の共通点などを参考に、自らの身体がどのように変化したかについての考察。1）2）の両方を評価します。
平常点評価:	60	理由を問わず欠席4回以上の者は評価対象外とします。 授業への積極的な取り組み態度（服装忘れ、スマホをいじる等含む）（40%）、グループにおける貢献度（20%）を評価します。
その他:	20	授業の13回目に、大学内の講堂で公開パフォーマンスを実施します（出席必須）。 そのため「どのくらい頑張ったか」という個人のパフォーマンス達成度を評価します。

備考・関連URL: ◆年度初めの健康診断は受診すること。
・服装は運動着（ジーンズ、ショート丈のミニパンツ、ベルト、キャップなど等屋内の運動に相応しくない格好は不可。中高時代に着ていたような体育時の服装）着用のこと。足元は素足（ストッキング着用不可）。また安全上の観点から華美なアクセサリー着用禁止。何か不明な点は初回授業時に必ず質問してください。
・運動にふさわしくない服装で授業に出席した場合は減点の対象となります。
・本授業では、最低限のマナーを守ってもらいます（服装、スマホをいじる・食事をしながら・飴やガムを噛みながらの受講禁止）。
・初回はオリエンテーションのため更衣不要です。
・授業内容の多少の変更は考えられます。
・本授業は毎回新しいことを学ぶ積み上げ式の実技科目です。
・30分未満の遅刻・見学は各々3回で、30分以上の遅刻・早退は各々1回で欠席1回に相当します。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040002|02|9S07040002[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	アジアのフィジカルエクササイズ（カラリパヤット）０２		
担 当 教 員	高橋　京子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ｉ	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　インドのカラリパヤット

授業概要：　本授業ではアジアのフィジカルエクササイズとして、インドのマーシャルアーツ（武術）であるカラリパヤットを行う。
カラリパヤットとは南インド・ケーララ州に伝承されるマーシャルアーツ（武術）である。カラリパヤットは戦士の身体訓練として発達したトレーニングで、一説には空手の源流ともいわれている。欧米のダンサー、俳優、格闘家の中にはこれをトレーニングの一環に取り入れる者もいる。したがって健康な身体づくりを目指す学生はもちろんのこと、舞踊やスポーツの実践者など多くの人々に適した対象である。加えてカラリパヤットは単なるトレーニングにとどまらない。インドの伝統医学や信仰などの要素も含んでいる。そのため体験を通して異文化についても学ぶことができる。カラリパヤットは以上のような要素をもちつつ、身体を健康にしていくエクササイズである。

授業の到達目標：　本授業の目標は、
1. カラリパヤットにおいて健康上欠かせない柔軟性を強化し、しなやかな身体をつくること。ただし各自が無理のない範囲内で行うことが前提であるので、各自の習熟度にあわせて行う。
2.「早稲田式カラリパヤット」として、音楽にあわせグループごとに楽しみながら心と体を健康にすること。
3. 最後に授業の成果を「公開パフォーマンス」として発表すること。
である。
なお、本授業は基礎と位置づけるため、運動経験がなく体力に自信のない方から体力に自信のある方まで多くの方に適した内容とする。

事前・事後学習の内容：　普段から一日5分でも良いので、授業のはじめに行うウォームアップ（ストレッチ）を行い、各自で柔軟性向上に努めてください。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
オリエンテーション（授業の目的と概要、服装等の注意事項、評価方法、カラリパヤット解説等）、アンケート
【着替え不要】
第2回
ウォームアップ、クールダウン
カラリパヤット①祈りの作法、休息のポーズ、②脚のエクササイズ1
第3回
カラリパヤット②脚のエクササイズ1、2
第4回
カラリパヤット②脚のエクササイズ2
第5回
カラリパヤット②脚のエクササイズ2、3
第6回
カラリパヤット②脚のエクササイズ3、仕上げ
第7回
グループワーク
カラリパヤット③基本動作プータラトラル1、衣装の着用練習
第8回
グループワーク
カラリパヤット③基本動作プータラトラル2、衣装の着用練習

第9回
グループワーク
カラリパヤット③基本動作プータラトラル3、衣装の着用練習
第10回
グループワーク
カラリパヤット③基本動作プータラトラル4（完成）、衣装の着用練習
第11回
グループワーク
リハーサル、ビデオ撮影
カラリパヤット②脚のエクササイズ1、2、3、③基本動作プータラトラル、衣装の着用練習
第12回
グループワーク
ビデオチェック
カラリパヤット②脚のエクササイズ1、2、3、③基本動作プータラトラル、、衣装の着用練習
第13回
公開パフォーマンス（入場無料）@小野記念講堂【出席必須】
第14回
ビデオ鑑賞、アンケート
カラリパヤット④武器

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教科書は使用しません。

参考文献: 授業時に適宜、紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	20	期末レポートを課します。 1）公開パフォーマンスの感想を含め全授業を通した感想、2）カラリパヤットを通して得られた身体の使い方とこれまでに経験したスポーツにおける身体の使い方の共通点などを参考に、自らの身体がどのように変化したかについての考察。1）2）の両方を評価します。
平常点評価:	60	理由を問わず欠席4回以上の者は評価対象外とします。 授業への積極的な取り組み態度（服装忘れ、スマホをいじる等含む）（40%）、グループにおける貢献度（20%）を評価します。
その他:	20	授業の13回目に、大学内の講堂で公開パフォーマンスを実施します（出席必須）。 そのため「どのくらい頑張ったか」という個人のパフォーマンス達成度を評価します。

備考・関連URL: ◆年度初めの健康診断は受診すること。
・服装は運動着（ジーンズ、ショート丈のミニパンツ、ベルト、キャップなど等屋内の運動に相応しくない格好は不可。中高時代に着ていたような体育時の服装）着用のこと。足元は素足（ストッキング着用不可）。また安全上の観点から華美なアクセサリー着用禁止。何か不明な点は初回授業時に必ず質問してください。
・運動にふさわしくない服装で授業に出席した場合は減点の対象となります。
・本授業では、最低限のマナーを守ってもらいます（服装、スマホをいじる・食事をしながら・飴やガムを噛みながらの受講禁止）。
・初回はオリエンテーションのため更衣不要です。
・授業内容の多少の変更は考えられます。
・本授業は毎回新しいことを学ぶ積み上げ式の実技科目です。
・30分未満の遅刻・見学は各々3回で、30分以上の遅刻・早退は各々1回で欠席1回に相当します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040003|01|9S07040003[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ウエイトトレーニング 基礎 01		
担 当 教 員	後藤 貴徳		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 一生涯を通じて役に立つ「トレーニングシステム」

授業概要: 介護予防事業や特定保健指導の義務化に続き、政府が掲げた日本再興戦略における健康分野の重要性、並びに生涯スポーツ社会を目指す施策が打ち出され、ウエイトトレーニングが競技者だけではなく、一般人の健康維持・増進にも最も効果的であると再認識されるようになりました。しかしながら、医科学的根拠のない健康情報の氾濫、多種多様の肩書きを持つ民間資格者（国家資格は存在しない）や迷インストラクターによる指導が、健康弊害を招くケースも少なくありません。そこで、厳しい社会環境に適応するには「自己の健康は自分で管理する」ことを信条として、日常的な「健康投資」による心身の調整を図り、健康資本を増大させていくことが重要となります。
地球上では常に重力の影響を受けていることを忘れてはなりません。有史以来、長い時をかけて、人体の機能や筋肉は重力へ上手く順応できるように形成されてきました。ウエイトトレーニングは、「どれくらい身体を快適に動かせて（重力への順応性）、それにはどのくらいのエネルギーを費やしているか（運動エネルギー消費量）」を体得する最良の手段となります。
本授業では、効率よく深部筋温を一定のレベルに上昇させることで、モチベーションを喚起し、良好な運動パフォーマンスや日常生活動作が発揮しやすくなるように導く『リハーサルコンディショニング』を取り入れ、「継続意識を促して、運動習慣の形成に繋げていく」ことを目指します。筋温の上昇により代謝が高まると、柔軟性が増して傷害の予防や脂肪燃焼を促してメタボ対策になるだけでなく、やる気（ポジティブ志向）が出て勉強や仕事への集中力が高まり意識性を向上させ、ストレス解消にも効果があり、行動変容を促します。安全かつ効果的なウエイトトレーニングで、身体を動かしながら楽しさを味わうことができる「適正な筋温のターゲットゾーン」へ誘います。本授業で習得したトレーニング種目やその方法は、一過性のものでなく、一生涯を通じて必要であり、どのライフステージにおいても必ず接する財産となります。
本授業では、個々の目的や体力レベルに応じたウエイトトレーニングの実践を通して、総合的な身体機能や相対的筋力の向上、心身の調整を図れるようになることを学びます。健康・体力づくり、シェイプアップ、ダイエット、ストレス解消、浪人生活で衰えた体力の回復等、参加の動機は何でも構いません。また、「楽しくかつ適確なトレーニング」をモットーとし、初心者歓迎で、身体能力の優劣や完成度は問いません。
なお、トレーニングシステムでは、トレーニングの基礎知識や基本原則、並びに実践する種目とトレーニングの進め方を修得し、トレーニングを体系的に学んでいきます。さらに、体得した技術を活用して、自己の目的や目標を達成する「ウエイトトレーニング（トレーニングメソッド）」（密接に連動する）を、本授業の履修後に受講することが望ましい。

授業の到達目標: ウェイトトレーニングの基礎知識や基本原則を理解し、身体部位別及び主働筋別のトレーニング種目の正確な動作を習得する。トレーニングを安全かつ効果的に行う為のグループでの協力体制づくり。トレーニングの継続意欲を促し、運動習慣の形成に繋げる。

事前・事後学習の内容: 講義で習得したことを実際にトレーニングを行って下さい。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション、グループ編成、自己紹介、トレーニング場、器具、トレーニングマシーン等の説明
第2回
重力への順応性とリハーサルコンディショニングについての説明
基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第3回
安全かつ効果的なトレーニング方法の基礎・実践
基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第4回
国内フィットネス業界及びスポーツ業界におけるトレーニングの現状と展望
基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第5回
トレーニング時での事故や傷害防止に関する留意点
基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践

第6回
トレーニングの概論（トレーニングの原則・トレーニング方法・栄養や休養との関係等）
　基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第7回
トレーナー（運動指導・管理の専門家）に関する資格取得制度の現状と課題
　基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第8回
トレーニングの進め方（負荷・回数・セット数・トレーニング頻度）
　部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第9回
トレーニングの進め方（負荷・回数・セット数・トレーニング頻度）
　部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第10回
現代社会における健康管理の重要性（自己の健康は自分で管理する）
　部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第11回
企業内フィットネスの現状と実際（特定健診及び特定保健指導、メタボリックシンドローム）
　部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第12回
企業内フィットネスの現状と実際（職業別トレーニングプログラム、職場内の健康づくり活動等の紹介）
　部位別のトレーニング種目の紹介、　基本動作の修得と実践
第13回
部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
　（試験の傾向と対策）
第14回
部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
　（試験の傾向と対策）

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: テキスト:「トレーニングマニュアル」（前野書店）販売店:前野書店　価格890円
用　具:トレーニングウェア上下、トレーニングシューズ

参考文献: 体力トレーニング・ワンポイントコーチ　大修館書店　代表著者　窪田登
マスルトレーニング　西村書店　加藤清忠 著

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40　試験を実施します。授業の内容全般について理解度を評価します。 第15回目の授業時間中に記述式試験と実技テスト・口頭試問を実施し、理解度の確認を行います（試験の解説も同時間内に行います）。

平常点評価: 60　授業への積極性や、授業態度、グループワークでの協力体制について評価します。トレーニング種目の正確な動作の習得及び作用筋の理解について評価します。 出席数も採点の対象とする。

備考・関連URL: 第1週目の授業はオリエンテーションを行うので平服のままで、筆記用具のみ持参すればよい。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040003|02|9S07040003[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ウエイトトレーニング 基礎 02		
担 当 教 員	後藤 貴徳		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 一生涯を通じて役に立つ「トレーニングシステム」

授業概要: 介護予防事業や特定保健指導の義務化に続き、政府が掲げた日本再興戦略における健康分野の重要性、並びに生涯スポーツ社会を目指す施策が打ち出され、ウエイトトレーニングが競技者だけではなく、一般人の健康維持・増進にも最も効果的であると再認識されるようになりました。しかしながら、医科学的根拠のない健康情報の氾濫、多種多様の肩書きを持つ民間資格者（国家資格は存在しない）や迷インストラクターによる指導が、健康弊害を招くケースも少なくありません。そこで、厳しい社会環境に適応するには「自己の健康は自分で管理する」ことを信条として、日常的な「健康投資」による心身の調整を図り、健康資本を増大させていくことが重要となります。
地球上では常に重力の影響を受けていることを忘れてはなりません。有史以来、長い時をかけて、人体の機能や筋肉は重力へ上手く順応できるように形成されてきました。ウエイトトレーニングは、「どれくらい身体を快適に動かせて（重力への順応性）、それにはどのくらいのエネルギーを費やしているか（運動エネルギー消費量）」を体得する最良の手段となります。
本授業では、効率よく深部筋温を一定のレベルに上昇させることで、モチベーションを喚起し、良好な運動パフォーマンスや日常生活動作が発揮しやすくなるように導く『リハーサルコンディショニング』を取り入れ、「継続意識を促して、運動習慣の形成に繋げていく」ことを目指します。筋温の上昇により代謝が高まると、柔軟性が増して傷害の予防や脂肪燃焼を促してメタボ対策になるだけでなく、やる気（ポジティブ志向）が出て勉強や仕事への集中力が高まり意識性を向上させ、ストレス解消にも効果があり、行動変容を促します。安全かつ効果的なウエイトトレーニングで、身体を動かしながら楽しさを味わうことができる「適正な筋温のターゲットゾーン」へ誘います。本授業で習得したトレーニング種目やその方法は、一過性のものでなく、一生涯を通じて必要であり、どのライフステージにおいても必ず接する財産となります。
本授業では、個々の目的や体力レベルに応じたウエイトトレーニングの実践を通して、総合的な身体機能や相対的筋力の向上、心身の調整を図れるようになることを学びます。健康・体力づくり、シェイプアップ、ダイエット、ストレス解消、浪人生活で衰えた体力の回復等、参加の動機は何でも構いません。また、「楽しくかつ適確なトレーニング」をモットーとし、初心者歓迎で、身体能力の優劣や完成度は問いません。
なお、トレーニングシステムでは、トレーニングの基礎知識や基本原則、並びに実践する種目とトレーニングの進め方を修得し、トレーニングを体系的に学んでいきます。さらに、体得した技術を活用して、自己の目的や目標を達成する「ウエイトトレーニング（トレーニングメソッド）」（密接に連動する）を、本授業の履修後に受講することが望ましい。

授業の到達目標: ウェイトトレーニングの基礎知識や基本原則を理解し、身体部位別及び主働筋別のトレーニング種目の正確な動作を習得する。トレーニングを安全かつ効果的に行う為のグループでの協力体制づくり。トレーニングの継続意欲を促し、運動習慣の形成に繋げる。

事前・事後学習の内容: 講義で習得したことを実際にトレーニングを行って下さい。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション、グループ編成、自己紹介、トレーニング場、器具、トレーニングマシーン等の説明
第2回
重力への順応性とリハーサルコンディショニングについての説明
基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第3回
安全かつ効果的なトレーニング方法の基礎・実践
基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第4回
国内フィットネス業界及びスポーツ業界におけるトレーニングの現状と展望
基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第5回
トレーニング時での事故や傷害防止に関する留意点
基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践

第6回
トレーニングの概論（トレーニングの原則・トレーニング方法・栄養や休養との関係等）
　基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第7回
トレーナー（運動指導・管理の専門家）に関する資格取得制度の現状と課題
　基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第8回
トレーニングの進め方（負荷・回数・セット数・トレーニング頻度）
　部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第9回
トレーニングの進め方（負荷・回数・セット数・トレーニング頻度）
　部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第10回
現代社会における健康管理の重要性（自己の健康は自分で管理する）
　部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第11回
企業内フィットネスの現状と実際（特定健診及び特定保健指導、メタボリックシンドローム）
　部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第12回
企業内フィットネスの現状と実際（職業別トレーニングプログラム、職場内の健康づくり活動等の紹介）
　部位別のトレーニング種目の紹介、　基本動作の修得と実践
第13回
部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
　（試験の傾向と対策）
第14回
部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
　（試験の傾向と対策）

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: テキスト:「トレーニングマニュアル」（前野書店）販売店:前野書店　価格890円
用　具:トレーニングウェア上下、トレーニングシューズ

参考文献: 体力トレーニング・ワンポイントコーチ　大修館書店　代表著者　窪田登
マスルトレーニング　西村書店　加藤清忠 著

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40　試験を実施します。授業の内容全般について理解度を評価します。 第15回目の授業時間中に記述式試験と実技テスト・口頭試問を実施し、理解度の確認を行います（試験の解説も同時間内に行います）。

平常点評価: 60　授業への積極性や、授業態度、グループワークでの協力体制について評価します。トレーニング種目の正確な動作の習得及び作用筋の理解について評価します。 出席数も採点の対象とする。

備考・関連URL: 第1週目の授業はオリエンテーションを行うので平服のままで、筆記用具のみ持参すればよい。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040003|03|9S07040003[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ウエイトトレーニング 基礎 03		
担 当 教 員	後藤 貴徳		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 一生涯を通じて役に立つ「トレーニングシステム」

授業概要: 介護予防事業や特定保健指導の義務化に続き、政府が掲げた日本再興戦略における健康分野の重要性、並びに生涯スポーツ社会を目指す施策が打ち出され、ウエイトトレーニングが競技者だけではなく、一般人の健康維持・増進にも最も効果的であると再認識されるようになりました。しかしながら、医科学的根拠のない健康情報の氾濫、多種多様の肩書きを持つ民間資格者（国家資格は存在しない）や迷インストラクターによる指導が、健康弊害を招くケースも少なくありません。そこで、厳しい社会環境に適応するには「自己の健康は自分で管理する」ことを信条として、日常的な「健康投資」による心身の調整を図り、健康資本を増大させていくことが重要となります。
地球上では常に重力の影響を受けていることを忘れてはなりません。有史以来、長い時をかけて、人体の機能や筋肉は重力へ上手く順応できるように形成されてきました。ウエイトトレーニングは、「どれくらい身体を快適に動かせて（重力への順応性）、それにはどのくらいのエネルギーを費やしているか（運動エネルギー消費量）」を体得する最良の手段となります。
本授業では、効率よく深部筋温を一定のレベルに上昇させることで、モチベーションを喚起し、良好な運動パフォーマンスや日常生活動作が発揮しやすくなるように導く『リハーサルコンディショニング』を取り入れ、「継続意識を促して、運動習慣の形成に繋げていく」ことを目指します。筋温の上昇により代謝が高まると、柔軟性が増して傷害の予防や脂肪燃焼を促してメタボ対策になるだけでなく、やる気（ポジティブ志向）が出て勉強や仕事への集中力が高まり意識性を向上させ、ストレス解消にも効果があり、行動変容を促します。安全かつ効果的なウエイトトレーニングで、身体を動かしながら楽しさを味わうことができる「適正な筋温のターゲットゾーン」へ誘います。本授業で習得したトレーニング種目やその方法は、一過性のものでなく、一生涯を通じて必要であり、どのライフステージにおいても必ず接する財産となります。
本授業では、個々の目的や体力レベルに応じたウエイトトレーニングの実践を通して、総合的な身体機能や相対的筋力の向上、心身の調整を図れるようになることを学びます。健康・体力づくり、シェイプアップ、ダイエット、ストレス解消、浪人生活で衰えた体力の回復等、参加の動機は何でも構いません。また、「楽しくかつ適確なトレーニング」をモットーとし、初心者歓迎で、身体能力の優劣や完成度は問いません。
なお、トレーニングシステムでは、トレーニングの基礎知識や基本原則、並びに実践する種目とトレーニングの進め方を修得し、トレーニングを体系的に学んでいきます。さらに、体得した技術を活用して、自己の目的や目標を達成する「ウエイトトレーニング（トレーニングメソッド）」（密接に連動する）を、本授業の履修後に受講することが望ましい。

授業の到達目標: ウェイトトレーニングの基礎知識や基本原則を理解し、身体部位別及び主働筋別のトレーニング種目の正確な動作を習得する。トレーニングを安全かつ効果的に行う為のグループでの協力体制づくり。トレーニングの継続意欲を促し、運動習慣の形成に繋げる。

事前・事後学習の内容: 講義で習得したことを実際にトレーニングを行って下さい。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション、グループ編成、自己紹介、トレーニング場、器具、トレーニングマシーン等の説明
第2回
重力への順応性とリハーサルコンディショニングについての説明
基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第3回
安全かつ効果的なトレーニング方法の基礎・実践
基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第4回
国内フィットネス業界及びスポーツ業界におけるトレーニングの現状と展望
基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第5回
トレーニング時での事故や傷害防止に関する留意点
基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践

第6回
トレーニングの概論（トレーニングの原則・トレーニング方法・栄養や休養との関係等）
　基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第7回
トレーナー（運動指導・管理の専門家）に関する資格取得制度の現状と課題
　基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第8回
トレーニングの進め方（負荷・回数・セット数・トレーニング頻度）
　部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第9回
トレーニングの進め方（負荷・回数・セット数・トレーニング頻度）
　部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第10回
現代社会における健康管理の重要性（自己の健康は自分で管理する）
　部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第11回
企業内フィットネスの現状と実際（特定健診及び特定保健指導、メタボリックシンドローム）
　部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第12回
企業内フィットネスの現状と実際（職業別トレーニングプログラム、職場内の健康づくり活動等の紹介）
　部位別のトレーニング種目の紹介、　基本動作の修得と実践
第13回
部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
　（試験の傾向と対策）
第14回
部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
　（試験の傾向と対策）

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: テキスト:「トレーニングマニュアル」（前野書店）販売店:前野書店　価格890円
用　具:トレーニングウェア上下、トレーニングシューズ

参考文献: 体力トレーニング・ワンポイントコーチ　大修館書店　代表著者　窪田登
マスルトレーニング　西村書店　加藤清忠 著

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40　試験を実施します。授業の内容全般について理解度を評価します。 第15回目の授業時間中に記述式試験と実技テスト・口頭試問を実施し、理解度の確認を行います（試験の解説も同時間内に行います）。

平常点評価: 60　授業への積極性や、授業態度、グループワークでの協力体制について評価します。トレーニング種目の正確な動作の習得及び作用筋の理解について評価します。 出席数も採点の対象とする。

備考・関連URL: 第1週目の授業はオリエンテーションを行うので平服のままで、筆記用具のみ持参すればよい。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040003|04|9S07040003[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ウエイトトレーニング 基礎 04		
担 当 教 員	後藤 貴徳		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 一生涯を通じて役に立つ「トレーニングシステム」

授業概要: 介護予防事業や特定保健指導の義務化に続き、政府が掲げた日本再興戦略における健康分野の重要性、並びに生涯スポーツ社会を目指す施策が打ち出され、ウエイトトレーニングが競技者だけではなく、一般人の健康維持・増進にも最も効果的であると再認識されるようになりました。しかしながら、医科学的根拠のない健康情報の氾濫、多種多様の肩書きを持つ民間資格者（国家資格は存在しない）や迷インストラクターによる指導が、健康弊害を招くケースも少なくありません。そこで、厳しい社会環境に適応するには「自己の健康は自分で管理する」ことを信条として、日常的な「健康投資」による心身の調整を図り、健康資本を増大させていくことが重要となります。
地球上では常に重力の影響を受けていることを忘れてはなりません。有史以来、長い時をかけて、人体の機能や筋肉は重力へ上手く順応できるように形成されてきました。ウエイトトレーニングは、「どれくらい身体を快適に動かせて（重力への順応性）、それにはどのくらいのエネルギーを費やしているか（運動エネルギー消費量）」を体得する最良の手段となります。
本授業では、効率よく深部筋温を一定のレベルに上昇させることで、モチベーションを喚起し、良好な運動パフォーマンスや日常生活動作が発揮しやすくなるように導く『リハーサルコンディショニング』を取り入れ、「継続意識を促して、運動習慣の形成に繋げていく」ことを目指します。筋温の上昇により代謝が高まると、柔軟性が増して傷害の予防や脂肪燃焼を促してメタボ対策になるだけでなく、やる気（ポジティブ志向）が出て勉強や仕事への集中力が高まり意識性を向上させ、ストレス解消にも効果があり、行動変容を促します。安全かつ効果的なウエイトトレーニングで、身体を動かしながら楽しさを味わうことができる「適正な筋温のターゲットゾーン」へ誘います。本授業で習得したトレーニング種目やその方法は、一過性のものでなく、一生涯を通じて必要であり、どのライフステージにおいても必ず接する財産となります。
本授業では、個々の目的や体力レベルに応じたウエイトトレーニングの実践を通して、総合的な身体機能や相対的筋力の向上、心身の調整を図れるようになることを学びます。健康・体力づくり、シェイプアップ、ダイエット、ストレス解消、浪人生活で衰えた体力の回復等、参加の動機は何でも構いません。また、「楽しくかつ適確なトレーニング」をモットーとし、初心者歓迎で、身体能力の優劣や完成度は問いません。
なお、トレーニングシステムでは、トレーニングの基礎知識や基本原則、並びに実践する種目とトレーニングの進め方を修得し、トレーニングを体系的に学んでいきます。さらに、体得した技術を活用して、自己の目的や目標を達成する「ウエイトトレーニング（トレーニングメソッド）」（密接に連動する）を、本授業の履修後に受講することが望ましい。

授業の到達目標: ウェイトトレーニングの基礎知識や基本原則を理解し、身体部位別及び主働筋別のトレーニング種目の正確な動作を習得する。トレーニングを安全かつ効果的に行う為のグループでの協力体制づくり。トレーニングの継続意欲を促し、運動習慣の形成に繋げる。

事前・事後学習の内容: 講義で習得したことを実際にトレーニングを行って下さい。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション、グループ編成、自己紹介、トレーニング場、器具、トレーニングマシーン等の説明

第2回
重力への順応性とリハーサルコンディショニングについての説明
基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践

第3回
安全かつ効果的なトレーニング方法の基礎・実践
基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践

第4回
国内フィットネス業界及びスポーツ業界におけるトレーニングの現状と展望
基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践

第5回
トレーニング時での事故や傷害防止に関する留意点
基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践

第6回
トレーニングの概論（トレーニングの原則・トレーニング方法・栄養や休養との関係等）
　基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第7回
トレーナー（運動指導・管理の専門家）に関する資格取得制度の現状と課題
　基本的なトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第8回
トレーニングの進め方（負荷・回数・セット数・トレーニング頻度）
　部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第9回
トレーニングの進め方（負荷・回数・セット数・トレーニング頻度）
　部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第10回
現代社会における健康管理の重要性（自己の健康は自分で管理する）
　部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第11回
企業内フィットネスの現状と実際（特定健診及び特定保健指導、メタボリックシンドローム）
　部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
第12回
企業内フィットネスの現状と実際（職業別トレーニングプログラム、職場内の健康づくり活動等の紹介）
　部位別のトレーニング種目の紹介、　基本動作の修得と実践
第13回
部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
　（試験の傾向と対策）
第14回
部位別のトレーニング種目の紹介、基本動作の修得と実践
　（試験の傾向と対策）

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: テキスト:「トレーニングマニュアル」（前野書店）販売店:前野書店　価格890円
用　具:トレーニングウェア上下、トレーニングシューズ

参考文献: 体力トレーニング・ワンポイントコーチ　大修館書店　代表著者　窪田登
マスルトレーニング　西村書店　加藤清忠 著

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40　試験を実施します。授業の内容全般について理解度を評価します。 第15回目の授業時間中に記述式試験と実技テスト・口頭試問を実施し、理解度の確認を行います（試験の解説も同時間内に行います）。

平常点評価: 60　授業への積極性や、授業態度、グループワークでの協力体制について評価します。トレーニング種目の正確な動作の習得及び作用筋の理解について評価します。 出席数も採点の対象とする。

備考・関連URL: 第1週目の授業はオリエンテーションを行うので平服のままで、筆記用具のみ持参すればよい。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040003|05|9S07040003[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ウエイトトレーニング 基礎 05		
担 当 教 員	武井 誠一郎		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 実践ウエイトトレーニング入門

授業概要: 本授業では、バーベルやダンベルを用いたウエイトトレーニングを中心に運動を実施し、筋力・スピード・柔軟性・バランスなどの体力要素を総合的に高めることを目指します。スクワット、プレス、クリーンなどの基本種目の習得を通して、力を適切に発揮するための姿勢や動作の基礎を身につけます。
あわせて、自重運動、ストレッチング、各種体操なども取り入れ、身体の可動性や機能性を高めるコンディショニングも実施します。これらの実践を通して、自身のからだの状態を感じ取り、適切に調整しながら運動を行う力を養います。

スポーツパフォーマンスの向上、健康増進、運動不足の解消など、それぞれの目的に応じて段階的に指導を行いますので、初心者も安心して履修できます。授業を通して、トレーニング技術の習得とともに、自身の目的に応じたトレーニングを主体的に実践できる基礎を身につけることを目指します。

授業の到達目標: スクワット、プレス、クリーンなどの基本的なウエイトトレーニング種目を、安全かつ適切なフォームで実施できるようになる。
自重運動やストレッチングなどを通して、可動性や機能性を意識した適切な身体操作を実践できるようになる。
自身の身体の状態を感じ取り、それに応じて負荷や動作を調整しながらトレーニングを実施できるようになる。
体力向上や健康増進など自身の目的に応じた基礎的なトレーニング方法を理解し、主体的に継続できるようになる。

事前・事後学習の内容: 指導されたトレーニング種目の復習を行う。
トレーニングに興味を持ち、書籍等で情報収集を行う。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーションおよびウエイトトレーニングの基礎
授業の目的、安全管理、基本姿勢およびウォームアップ方法を学ぶ

第2回 ウォームアップおよび基礎的な身体操作
体操運動や自重運動、バーベル運動を通して、姿勢の安定性や動作の基礎を習得する

第3回 スクワット種目①
自重および軽負荷を用いて、スクワットの基本フォームを学ぶ

第4回 スクワット種目②
バーベルやダンベルを用いて、安全で効率的な動作を習得する

第5回 上半身プッシュ種目
プッシュアップやベンチプレスを実施し、押す動作の基本技術を習得する

第6回 上半身プル種目
プルアップやローイングなどの種目を通して、引く動作の基本技術を習得する

第7回 クイックリフト①
ジャンプ動作や軽負荷を用いて、爆発的な力発揮の基礎を学ぶ

第8回 クイックリフト②
ハングクリーンなどを実施し、全身を協調させた動作を習得する

第9回 トレーニングプログラムの基礎
目的に応じた負荷設定、回数、休息などの基本的な考え方を学ぶ

第10回 個別・グループトレーニング①
各自の目的に応じたトレーニングを実施する

第11回 個別・グループトレーニング②
各自の目的に応じたトレーニングを実施する

第12回　個別・グループトレーニング③
各自の目的に応じたトレーニングを実施する
第13回　習得した種目の復習
スクワット、プッシュ、プル、クイックリフトの復習を行う
第14回　実技テスト・口頭試問
トレーニングの振り返りと、今後の主体的な実践方法を確認する

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　「トレーニングとリカバリーの科学的基礎」平山邦明（編）、文光堂

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　40　実技テスト・口頭試問を実施します。授業内容の理解度・習得度を評価します。

平常点評価:　60　授業への積極性や授業態度、グループワークでの協力体制についても評価します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040003|06|9S07040003[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ウエイトトレーニング 基礎 06		
担 当 教 員	武井 誠一郎		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 実践ウエイトトレーニング入門

授業概要: 本授業では、バーベルやダンベルを用いたウエイトトレーニングを中心に運動を実施し、筋力・スピード・柔軟性・バランスなどの体力要素を総合的に高めることを目指します。スクワット、プレス、クリーンなどの基本種目の習得を通して、力を適切に発揮するための姿勢や動作の基礎を身につけます。
あわせて、自重運動、ストレッチング、各種体操なども取り入れ、身体の可動性や機能性を高めるコンディショニングも実施します。これらの実践を通して、自身のからだの状態を感じ取り、適切に調整しながら運動を行う力を養います。

スポーツパフォーマンスの向上、健康増進、運動不足の解消など、それぞれの目的に応じて段階的に指導を行いますので、初心者も安心して履修できます。授業を通して、トレーニング技術の習得とともに、自身の目的に応じたトレーニングを主体的に実践できる基礎を身につけることを目指します。

授業の到達目標: スクワット、プレス、クリーンなどの基本的なウエイトトレーニング種目を、安全かつ適切なフォームで実施できるようになる。
自重運動やストレッチングなどを通して、可動性や機能性を意識した適切な身体操作を実践できるようになる。
自身の身体の状態を感じ取り、それに応じて負荷や動作を調整しながらトレーニングを実施できるようになる。
体力向上や健康増進など自身の目的に応じた基礎的なトレーニング方法を理解し、主体的に継続できるようになる。

事前・事後学習の内容: 指導されたトレーニング種目の復習を行う。
トレーニングに興味を持ち、書籍等で情報収集を行う。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーションおよびウエイトトレーニングの基礎
授業の目的、安全管理、基本姿勢およびウォームアップ方法を学ぶ

第2回 ウォームアップおよび基礎的な身体操作
体操運動や自重運動、バーベル運動を通して、姿勢の安定性や動作の基礎を習得する

第3回 スクワット種目①
自重および軽負荷を用いて、スクワットの基本フォームを学ぶ

第4回 スクワット種目②
バーベルやダンベルを用いて、安全で効率的な動作を習得する

第5回 上半身プッシュ種目
プッシュアップやベンチプレスを実施し、押す動作の基本技術を習得する

第6回 上半身プル種目
プルアップやローイングなどの種目を通して、引く動作の基本技術を習得する

第7回 クイックリフト①
ジャンプ動作や軽負荷を用いて、爆発的な力発揮の基礎を学ぶ

第8回 クイックリフト②
ハングクリーンなどを実施し、全身を協調させた動作を習得する

第9回 トレーニングプログラムの基礎
目的に応じた負荷設定、回数、休息などの基本的な考え方を学ぶ

第10回 個別・グループトレーニング①
各自の目的に応じたトレーニングを実施する

第11回 個別・グループトレーニング②
各自の目的に応じたトレーニングを実施する

第12回　個別・グループトレーニング③
各自の目的に応じたトレーニングを実施する
第13回　習得した種目の復習
スクワット、プッシュ、プル、クイックリフトの復習を行う
第14回　実技テスト・口頭試問
トレーニングの振り返りと、今後の主体的な実践方法を確認する

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　「トレーニングとリカバリーの科学的基礎」平山邦明（編）、文光堂

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　40　実技テスト・口頭試問を実施します。授業内容の理解度・習得度を評価します。

平常点評価:　60　授業への積極性や授業態度、グループワークでの協力体制についても評価します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040004|01|9S07040004[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	エアロビックダンス 基礎 01		
担 当 教 員	吉宇田 和泉		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

エアロビックダンスとは、音楽に合わせてステップしながら、少しずつ振付（コリオグラフィ）を完成させるというプロセスを通して、有酸素運動の効果を得ようというものです。現在普及しているものは、ステップ（足の動き）だけでなく腕の動きを加えたり、ステップ台などの道具を使ったり、様々なダンス要素や格闘技の動作、トレーニング要素を取り入れたりと、プログラムや内容は多種多様化し、個人個人が自分に合ったエクササイズを楽しめるようになっています。

エアロビックダンスは、芸術性やコリオの完成度ではなく、体を動かす「楽しさ」と「効果」を追求するものです。エアロビックダンスのような中程度（ややきつい）の有酸素運動は、持久力を高めるとともに、代謝機能を改善します。また、様々な音楽に合わせて変化のある動きを続けることで、気分が高揚し、ストレスの解消などにもつながります。

本授業では、スタンダードなエアロビックダンスを基本とし、そこにジャズ、ラテン、ストリートといったダンスムーブメントを取り入れたダンスを展開します。また、格闘技の動作を取り入れたエクササイズも扱います。関節を大きく協調させて多様に動かすことで、身体動作の調整力を高める（体の動かし方の引き出しを増やす）ねらいもあります。

エアロビックダンスの他に、調子を整えたりメインエクササイズで体を動かしやすくするためのコンディショニングエクササイズを行います。
また、必要に応じて体の構造や機能などについてのレクチャーをします。体験だけでなく理論的な面からも、健康や体づくりへの理解を深められるよう展開してきます。

前半は、エアロビクスに慣れることからスタートし、徐々に強度と難度を上げていきます。また、状況に応じてグループやペアワークを取り入れます。
運動継続のためには、「楽しい」「効果がある」「安全（ケガをしにくい）」の3要素が大切です。これらを理論的にも感覚的にも体験することで、授業以外でも運動を習慣化できるようにすることを目指します。

ダンス経験は関係ありません。自己を解放し、また仲間を感じながら、みんなで楽しく体を動かしましょう。

授業の到達目標:

様々なエアロビックダンスやエクササイズを通じて、持久力、柔軟性などの体力の向上を図る。
体を動かす楽しさ、爽快感、達成感を体験を通じて、運動と日常生活のつながりを理解し、運動習慣の確立を目指す。

事前・事後学習の内容:

日々の健康状態を観察し、調子の良し悪しの原因や体のリズムなどについて把握すること、
授業内で紹介するエクササイズ、体の使い方などを日常生活に取り入れ、健康との関わりについて観察すること。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：オリエンテーション、ベーシックエアロビクス①

授業の進め方、エアロビクス理論、姿勢・アライメントについて
基本的なエアロビクスに慣れる
※身体を動かしますので運動できる準備をしてきてください。

第2回：ベーシックエアロビクス②

腹圧を高めるためのエクササイズ
ローインパクトのステップとコンビネーション

第3回：ジャズエアロ①

肩関節の動きチェックとコンディショニング①
アクセントやアームワーク（腕の動き）を取り入れたを4×8のコリオ

第4回：ジャズエアロ②

肩関節の動きチェックとコンディショニング②、
前回のコリオを自分らしく楽しみながら通す。

第5回：ラテンエアロ①

背骨と胸郭の動きを良くするエクササイズ、アイソレーション、ラテンエアロのステップ
骨盤の動きを意識した4×8のコリオ

第6回：ラテンエアロ②

股関節の動きチェック、アイソレーション
骨盤と肩甲骨の連動を意識して行う4×8のコリオ

第7回：ラテンエアロ③

股関節のコンディショニング①、アイソレーション
ラテンのステップやチェストの動きを多く取り入れた4×8のコリオ

第8回：ラテンエアロ④

股関節のコンディショニング②、アイソレーション
ラテンのステップやチェストの動きを楽しみながら通す。

第9回：ストリート系ダンスエアロ①

アイソレーション、リズム（アップ/ダウン）の取り方と主なステップ
裏拍を使う動きを含めた4×8のコリオ

第10回：ストリート系ダンスエアロ②

アイソレーション、股関節の使い方のコツ、リズム（アップ/ダウン）の取り方とステップ
アームワークを取り入れた4×8のコリオ

第11回：ストリート系ダンスエアロ③

アイソレーション、足首の使い方、リズム（アップ/ダウン、横）の取り方とステップ
ストリートダンスの雰囲気を楽しみながら行う4×8のコリオ

第12回：ストリート系ダンスエアロ④

アイソレーション、ストリートダンスの雰囲気を楽しみながら行う4×8のコリオ

第13回：格闘技系エクササイズ（フィットネスボクシング）

力の伝達や体の連動について
基本的な構えとパンチ、ディフェンスの動き

第14回：格闘技系エクササイズ（フィットネスボクシング）／まとめ

パンチとキック、ディフェンスを組み合わせる
まとめ（ふりかえり）

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　新・エアロビックダンスエクササイズの実技指導（日本エアロビックフィットネス協会）
最新フィットネス基礎理論（日本エアロビックフィットネス協会）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　40　授業のまとめとして、自分の身体への気づきや運動の価値や認識についてまとめたものを提出します。また、毎回運動の記録（体調、運動強度などを記すリアクションペーパー）を通して授業内容の理解度について評価します。

平常点評価：　60　授業への参加状況（出席状況やグループワークの取り組みなど）などを評価します。
全授業回数の2/3以上の出席を必須とし、出席状況を重視します。

備考・関連URL：　運動に適した服装、屋内用のトレーニングシューズ（高校の体育館履きなどでOK）、飲み物（蓋付きのもの）、筆記用具、必要に応じてタオルを持参してください。

参加学生の状況（体力、技術など）に応じて、授業の順番を入替えたり内容を変更することがあります。
低めの運動強度でシンプルな動きからスタートします。また、自分に合った動作やエクササイズを選択できるよう展開していきますので、運動やダンスに苦手意識がある学生や、体力や技術などに不安がある学生でも安心して参加できます。
ダンス系エクササイズに興味がある学生はもちろん、健康づくりやボディメイクエクササイズ（ダイエットやトレーニングなど）に興味関心のある学生の積極的な参加を希望します。
※春学期「エアロビックトレーニング」は、シンプルな動きで、弾む動きや方向の切り替えなどエクササイズ（トレーニング）要素が強いエアロビックダンス、秋学期「エアロビックダンス」は「たくさんの関節を連動させて、軸や重心のコントロール、動きのアクセントなどリズム感や身体操作性を重視したエアロビックダンス」です。いずれの授業も、エクササイズとしてはもちろん、ダンスとしても楽しく参加していただけます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040004|02|9S07040004[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	エアロビックダンス 基礎 02		
担 当 教 員	吉宇田 和泉		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

エアロビックダンスとは、音楽に合わせてステップしながら、少しずつ振付（コリオグラフィ）を完成させるというプロセスを通して、有酸素運動の効果を得ようというものです。現在普及しているものは、ステップ（足の動き）だけでなく腕の動きを加えたり、ステップ台などの道具を使ったり、様々なダンス要素や格闘技の動作、トレーニング要素を取り入れたりと、プログラムや内容は多種多様化し、個人個人が自分に合ったエクササイズを楽しめるようになっています。

エアロビックダンスは、芸術性やコリオの完成度ではなく、体を動かす「楽しさ」と「効果」を追求するものです。エアロビックダンスのような中程度（ややきつい）の有酸素運動は、持久力を高めるとともに、代謝機能を改善します。また、様々な音楽に合わせて変化のある動きを続けることで、気分が高揚し、ストレスの解消などにもつながります。

本授業では、スタンダードなエアロビックダンスを基本とし、そこにジャズ、ラテン、ストリートといったダンスムーブメントを取り入れたダンスを展開します。また、格闘技の動作を取り入れたエクササイズも扱います。関節を大きく協調させて多様に動かすことで、身体動作の調整力を高める（体の動かし方の引き出しを増やす）ねらいもあります。

エアロビックダンスの他に、調子を整えたりメインエクササイズで体を動かしやすくするためのコンディショニングエクササイズを行います。
また、必要に応じて体の構造や機能などについてのレクチャーをします。体験だけでなく理論的な面からも、健康や体づくりへの理解を深められるよう展開してきます。

前半は、エアロビクスに慣れることからスタートし、徐々に強度と難度を上げていきます。また、状況に応じてグループやペアワークを取り入れます。
運動継続のためには、「楽しい」「効果がある」「安全（ケガをしにくい）」の3要素が大切です。これらを理論的にも感覚的にも体験することで、授業以外でも運動を習慣化できるようにすることを目指します。

ダンス経験は関係ありません。自己を解放し、また仲間を感じながら、みんなで楽しく体を動かしましょう。

授業の到達目標：

様々なエアロビックダンスやエクササイズを通じて、持久力、柔軟性などの体力の向上を図る。
体を動かす楽しさ、爽快感、達成感を体験を通じて、運動と日常生活のつながりを理解し、運動習慣の確立を目指す。

事前・事後学習の内容：

日々の健康状態を観察し、調子の良し悪しの原因や体のリズムなどについて把握すること、
授業内で紹介するエクササイズ、体の使い方などを日常生活に取り入れ、健康との関わりについて観察すること。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：オリエンテーション、ベーシックエアロビクス①

授業の進め方、エアロビクス理論、姿勢・アライメントについて
基本的なエアロビクスに慣れる
※身体を動かしますので運動できる準備をしてきてください。

第2回：ベーシックエアロビクス②

腹圧を高めるためのエクササイズ
ローインパクトのステップとコンビネーション

第3回：ジャズエアロ①

肩関節の動きチェックとコンディショニング①
アクセントやアームワーク（腕の動き）を取り入れたを4×8のコリオ

第4回：ジャズエアロ②

肩関節の動きチェックとコンディショニング②、
前回のコリオを自分らしく楽しみながら通す。

第5回：ラテンエアロ①

背骨と胸郭の動きを良くするエクササイズ、アイソレーション、ラテンエアロのステップ
骨盤の動きを意識した4×8のコリオ

第6回：ラテンエアロ②

股関節の動きチェック、アイソレーション
骨盤と肩甲骨の連動を意識して行う4×8のコリオ

第7回：ラテンエアロ③

股関節のコンディショニング①、アイソレーション
ラテンのステップやチェストの動きを多く取り入れた4×8のコリオ

第8回：ラテンエアロ④

股関節のコンディショニング②、アイソレーション
ラテンのステップやチェストの動きを楽しみながら通す。

第9回：ストリート系ダンスエアロ①

アイソレーション、リズム（アップ/ダウン）の取り方と主なステップ
裏拍を使う動きを含めた4×8のコリオ

第10回：ストリート系ダンスエアロ②

アイソレーション、股関節の使い方のコツ、リズム（アップ/ダウン）の取り方とステップ
アームワークを取り入れた4×8のコリオ

第11回：ストリート系ダンスエアロ③

アイソレーション、足首の使い方、リズム（アップ/ダウン、横）の取り方とステップ
ストリートダンスの雰囲気を楽しみながら行う4×8のコリオ

第12回：ストリート系ダンスエアロ④

アイソレーション、ストリートダンスの雰囲気を楽しみながら行う4×8のコリオ

第13回：格闘技系エクササイズ（フィットネスボクシング）

力の伝達や体の連動について
基本的な構えとパンチ、ディフェンスの動き

第14回：格闘技系エクササイズ（フィットネスボクシング）／まとめ

パンチとキック、ディフェンスを組み合わせる
まとめ（ふりかえり）

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　新・エアロビックダンスエクササイズの実技指導（日本エアロビックフィットネス協会）
最新フィットネス基礎理論（日本エアロビックフィットネス協会）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　40　授業のまとめとして、自分の身体への気づきや運動の価値や認識についてまとめたものを提出します。また、毎回運動の記録（体調、運動強度などを記すリアクションペーパー）を通して授業内容の理解度について評価します。

平常点評価：　60　授業への参加状況（出席状況やグループワークの取り組みなど）などを評価します。
全授業回数の2/3以上の出席を必須とし、出席状況を重視します。

備考・関連URL：　運動に適した服装、屋内用のトレーニングシューズ（高校の体育館履きなどでOK）、飲み物（蓋付きのもの）、筆記用具、必要に応じてタオルを持参してください。

参加学生の状況（体力、技術など）に応じて、授業の順番を入替えたり内容を変更することがあります。
低めの運動強度でシンプルな動きからスタートします。また、自分に合った動作やエクササイズを選択できるよう展開していきますので、運動やダンスに苦手意識がある学生や、体力や技術などに不安がある学生でも安心して参加できます。
ダンス系エクササイズに興味がある学生はもちろん、健康づくりやボディメイクエクササイズ（ダイエットやトレーニングなど）に興味関心のある学生の積極的な参加を希望します。
※春学期「エアロビックトレーニング」は、シンプルな動きで、弾む動きや方向の切り替えなどエクササイズ（トレーニング）要素が強いエアロビックダンス、秋学期「エアロビックダンス」は「たくさんの関節を連動させて、軸や重心のコントロール、動きのアクセントなどリズム感や身体操作性を重視したエアロビックダンス」です。いずれの授業も、エクササイズとしてはもちろん、ダンスとしても楽しく参加していただけます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040005|01|9S07040005[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	エアロビックトレーニング 基礎 01		
担 当 教 員	吉宇田 和泉		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

エアロビックダンスとは、音楽に合わせてステップしながら、少しずつ振付（コリオグラフィ）を完成させるというプロセスを通して、有酸素運動の効果を得ようというものです。現在普及しているものは、ステップ（足の動き）だけでなく腕の動きを加えたり、ステップ台などの道具を使ったり、様々なダンス要素や格闘技の動作、トレーニング要素を取り入れたりと、プログラムや内容は多種多様化し、個人個人が自分に合ったエクササイズを楽しめるようになっています。

エアロビックダンスは、芸術性やコリオの完成度ではなく、体を動かす「楽しさ」と「効果」を追求するものです。エアロビックダンスのような中程度（ややきつい）の有酸素運動は、持久力を高めるとともに、代謝機能を改善します。また、様々な音楽に合わせて変化のある動きを続けることで、気分が高揚し、ストレスの解消などにもつながります。

本授業で扱うエアロビックダンスは、骨格筋や関節運動を意識した身体機能を高めることを主眼に置いた比較的シンプルな動きで構成されたエクササイズです。リズミカルに大きな筋群を動かすことで、有酸素運動の効果（持久力向上、体脂肪燃焼、気分転換など）を十分に得られるようなプログラムを展開していきます。

また、エアロビックダンスとは他に、メインエクササイズをやりやすくしたり体の調子を整えることを目的に、大きな筋群を使うやや高強度のエクササイズや身体を動かしやすくするストレッチなどを扱い、姿勢保持や筋力および柔軟性向上に役立てます。

合わせて、これらのエクササイズの基礎となる理論を必要に応じて扱い、これらの体験を通して、健康的な身体づくりの知識と技術を習得します。

前半は、体慣らしや運動できる身体作りを中心に展開し、中盤から後半では徐々に高強度の運動も取り入れていきます。また、状況に応じてグループやペアワークを取り入れます。

運動継続のためには、「楽しい」「効果がある」「安全（ケガをしにくい）」の3要素が大切です。これらを理論的にも感覚的にも体験することで、授業以外でも運動を習慣化できるようにすることを目指します。

授業の到達目標:

日常生活を快適に過ごすための持久力、筋力、柔軟性を高める。
「健康の維持・増進のための運動」を理論的、体験的に理解し、運動の習慣化を目指す。

事前・事後学習の内容:

日々の健康状態を観察し、調子の良し悪しの原因や体のリズムなどについて把握すること、
授業内で紹介するエクササイズ、体の使い方などを日常生活に取り入れ、健康との関わりについて観察すること。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：オリエンテーション／体慣らし

オリエンテーション（授業の目的や意義、概要の説明、授業の進め方や注意事項など）
この授業でよく使うステップを練習しながら、運動に体を少し慣らす。
※初回から実技を行いますので、運動できるよう準備をしてきてください。

第2回：ローインパクトエアロビクス①

姿勢・アライメントの確認
エアロビクスの基本ステップとプログラムの流れに慣れる①

第3回：ローインパクトエアロビクス②

有酸素運動理論
エアロビクスの基本ステップとプログラムの流れに慣れる②

第4回：ローインパクトのエアロビクス③

有酸素運動における強度設定と調節方法①
8×4のシンメトリープログラム①

第5回：ローインパクトエアロビクス④

有酸素運動における強度設定と調節方法②
8×4のシンメトリープログラム②

第6回：ローインパクトエアロビクス⑤

動き方のコツ（軸と重心の理解から）
8×4シンメトリープログラムのまとめ（自分らしく自分のペースで動くこと）

第7回:ミドルインパクトエアロビクス①
弾む動きを入れる運動時の注意事項を理解し、安全なエクササイズにつなげる
軽く弾むステップを取り入れたエアロビクス①
第8回:ミドルインパクトエアロビクス②
呼吸と運動の関わりについて
軽く弾むステップを多く取り入れたエアロビクス②
第9回:エアロビックダンスと筋トレを組み合わせたエアロビックトレーニング①
スタビライザー(体幹トレーニング)の意義と基本①
エアロビクスに筋トレ動作を組み合わせて、エネルギー消費量を高める②
第10回:エアロビックダンスと筋トレを組み合わせたエアロビックトレーニング②
スタビライザー(体幹トレーニング)の意義と基本②
エアロビクスに筋トレ動作を組み合わせてエネルギー消費量を高める②
第11回:中～高強度エクササイズを取り入れたエアロビックトレーニング①
大筋群の筋力トレーニングの基本①
中～高強度のエクササイズを取り入れてエネルギー消費量を高める①
第12回:中～高強度エクササイズを取り入れたエアロビックトレーニング②
大筋群の筋力トレーニングの基本②
中～高強度エクササイズを取り入れてエネルギー消費量を高める②
第13回:フィットネスボクシング①
基本の構えとパンチ、防御の動きの確認
第14回:フィットネスボクシング②／まとめ
パンチと防御を組み合わせるまとめ(ふりかえり)

言語区分: 0 日本語 Japanese

参考文献: 新・エアロビックダンスエクササイズの実技指導(日本エアロビックフィットネス協会)
最新フィットネス基礎理論(日本エアロビックフィットネス協会)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート: 40 授業のまとめとして、自分の身体への気づきや運動の価値や認識についてまとめたものを提出します。
また、毎回運動の記録(体調、運動強度などを記すリアクションペーパー)を通して授業内容の理解度について評価します。

平常点評価: 60 授業への参加状況(出席状況やグループワークの取り組みなど)などを評価します。
全授業回数の2/3以上の出席を必須とし、出席状況を重視します。

備考・関連URL: 運動に適した服装、屋内用のトレーニングシューズ(高校の体育館履きなどでOK)、飲み物(蓋付きのもの)、筆記用具、必要に応じてタオルを持参してください。

参加学生の状況(体力、技術など)に応じて、授業の順番を入替えたり内容を変更することがあります。

低めの運動強度でシンプルな動きからスタートします。また、自分に合った動作やエクササイズを選択できるよう展開していきますので、運動やダンスに苦手意識がある学生や、体力や技術などに不安がある学生でも安心して参加できます。
ダンス系エクササイズに興味がある学生はもちろん、健康づくりやボディメイクエクササイズ(ダイエットやトレーニングなど)に興味関心のある学生の積極的な参加を希望します。

※春学期「エアロビックトレーニング」は、シンプルな動きで、弾む動きや方向の切り替えなどエクササイズ(トレーニング)要素が強いエアロビックダンス、秋学期「エアロビックダンス」は「たくさんの関節を連動させて、軸や重心のコントロール、動きのアクセントなどリズム感や身体操作性を重視したエアロビックダンス」です。いずれの授業も、エクササイズとしてはもちろん、ダンスとしても楽しく参加していただけます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040005|02|9S07040005[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	エアロビックトレーニング 基礎 02		
担 当 教 員	吉宇田 和泉		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

エアロビックダンスとは、音楽に合わせてステップしながら、少しずつ振付（コリオグラフィ）を完成させるというプロセスを通して、有酸素運動の効果を得ようというものです。現在普及しているものは、ステップ（足の動き）だけでなく腕の動きを加えたり、ステップ台などの道具を使ったり、様々なダンス要素や格闘技の動作、トレーニング要素を取り入れたりと、プログラムや内容は多種多様化し、個人個人が自分に合ったエクササイズを楽しめるようになっています。

エアロビックダンスは、芸術性やコリオの完成度ではなく、体を動かす「楽しさ」と「効果」を追求するものです。エアロビックダンスのような中程度（ややきつい）の有酸素運動は、持久力を高めるとともに、代謝機能を改善します。また、様々な音楽に合わせて変化のある動きを続けることで、気分が高揚し、ストレスの解消などにもつながります。

本授業で扱うエアロビックダンスは、骨格筋や関節運動を意識した身体機能を高めることを主眼に置いた比較的シンプルな動きで構成されたエクササイズです。リズミカルに大きな筋群を動かすことで、有酸素運動の効果（持久力向上、体脂肪燃焼、気分転換など）を十分に得られるようなプログラムを展開していきます。

また、エアロビックダンスとは他に、メインエクササイズをやりやすくしたり体の調子を整えることを目的に、大きな筋群を使うやや高強度のエクササイズや身体を動かしやすくするストレッチなどを扱い、姿勢保持や筋力および柔軟性向上に役立てます。

合わせて、これらのエクササイズの基礎となる理論を必要に応じて扱い、これらの体験を通して、健康的な身体づくりの知識と技術を習得します。

前半は、体慣らしや運動できる身体作りを中心に展開し、中盤から後半では徐々に高強度の運動も取り入れていきます。また、状況に応じてグループやペアワークを取り入れます。

運動継続のためには、「楽しい」「効果がある」「安全（ケガをしにくい）」の3要素が大切です。これらを理論的にも感覚的にも体験することで、授業以外でも運動を習慣化できるようにすることを目指します。

授業の到達目標：

日常生活を快適に過ごすための持久力、筋力、柔軟性を高める。
「健康の維持・増進のための運動」を理論的、体験的に理解し、運動の習慣化を目指す。

事前・事後学習の内容：

日々の健康状態を観察し、調子の良し悪しの原因や体のリズムなどについて把握すること、
授業内で紹介するエクササイズ、体の使い方などを日常生活に取り入れ、健康との関わりについて観察すること。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：オリエンテーション／体慣らし

オリエンテーション（授業の目的や意義、概要の説明、授業の進め方や注意事項など）
この授業でよく使うステップを練習しながら、運動に体を少し慣らす。
※初回から実技を行いますので、運動できるよう準備をしてきてください。

第2回：ローインパクトエアロビクス①

姿勢・アライメントの確認
エアロビクスの基本ステップとプログラムの流れに慣れる①

第3回：ローインパクトエアロビクス②

有酸素運動理論
エアロビクスの基本ステップとプログラムの流れに慣れる②

第4回：ローインパクトのエアロビクス③

有酸素運動における強度設定と調節方法①
8×4のシンメトリープログラム①

第5回：ローインパクトエアロビクス④

有酸素運動における強度設定と調節方法②
8×4のシンメトリープログラム②

第6回：ローインパクトエアロビクス⑤

動き方のコツ（軸と重心の理解から）
8×4シンメトリープログラムのまとめ（自分らしく自分のペースで動くこと）

第7回：ミドルインパクトエアロビクス①
弾む動きを入れる運動時の注意事項を理解し、安全なエクササイズにつなげる
軽く弾むステップを取り入れたエアロビクス①
第8回：ミドルインパクトエアロビクス②
呼吸と運動の関わりについて
軽く弾むステップを多く取り入れたエアロビクス②
第9回：エアロビックダンスと筋トレを組み合わせたエアロビックトレーニング①
スタビライザー（体幹トレーニング）の意義と基本①
エアロビクスに筋トレ動作を組み合わせて、エネルギー消費量を高める②
第10回：エアロビックダンスと筋トレを組み合わせたエアロビックトレーニング②
スタビライザー（体幹トレーニング）の意義と基本②
エアロビクスに筋トレ動作を組み合わせてエネルギー消費量を高める②
第11回：中～高強度エクササイズを取り入れたエアロビックトレーニング①
大筋群の筋力トレーニングの基本①
中～高強度のエクササイズを取り入れてエネルギー消費量を高める①
第12回：中～高強度エクササイズを取り入れたエアロビックトレーニング②
大筋群の筋力トレーニングの基本②
中～高強度エクササイズを取り入れてエネルギー消費量を高める②
第13回：フィットネスボクシング①
基本の構えとパンチ、防御の動きの確認
第14回：フィットネスボクシング②／まとめ
パンチと防御を組み合わせるまとめ（ふりかえり）

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　新・エアロビックダンスエクササイズの実技指導（日本エアロビックフィットネス協会）
最新フィットネス基礎理論（日本エアロビックフィットネス協会）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　40　授業のまとめとして、自分の身体への気づきや運動の価値や認識についてまとめたものを提出します。また、毎回運動の記録（体調、運動強度などを記すリアクションペーパー）を通して授業内容の理解度について評価します。

平常点評価：　60　授業への参加状況（出席状況やグループワークの取り組みなど）などを評価します。
全授業回数の2/3以上の出席を必須とし、出席状況を重視します。

備考・関連URL：　運動に適した服装、屋内用のトレーニングシューズ（高校の体育館履きなどでOK）、飲み物（蓋付きのもの）、筆記用具、必要に応じてタオルを持参してください。

参加学生の状況（体力、技術など）に応じて、授業の順番を入替えたり内容を変更することがあります。

低めの運動強度でシンプルな動きからスタートします。また、自分に合った動作やエクササイズを選択できるよう展開していきますので、運動やダンスに苦手意識がある学生や、体力や技術などに不安がある学生でも安心して参加できます。
ダンス系エクササイズに興味がある学生はもちろん、健康づくりやボディメイクエクササイズ（ダイエットやトレーニングなど）に興味関心のある学生の積極的な参加を希望します。

※春学期「エアロビックトレーニング」は、シンプルな動きで、弾む動きや方向の切り替えなどエクササイズ（トレーニング）要素が強いエアロビックダンス、秋学期「エアロビックダンス」は「たくさんの関節を連動させて、軸や重心のコントロール、動きのアクセントなどリズム感や身体操作性を重視したエアロビックダンス」です。いずれの授業も、エクササイズとしてはもちろん、ダンスとしても楽しく参加していただけます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040006|01|9S07040006[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	カバディ 01		
担 当 教 員	藤井 亮輔		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: カバディはインド・ウエストベンガル地方を中心として発展してきたアジア生まれのスポーツである。その歴史は紀元前にまで遡るといわれるが、戦後になって現在のルールに統一された。わが国には1979年に紹介されたが、アジア競技大会の正式種目（第11回北京大会、1990年）になり、さらに2010年の広州で行われた第16回アジア競技大会では銅メダルを獲得したこともあり、現在ではカバディを知る人は多い。その特徴は、一呼吸で「カバディ、カバディ」と声を発しながら攻撃するという一風変わった所にある。また、カバディを「鬼ごっこのようだ」と形容する人もいるが、実際には体と体のぶつかり合う、かなりハードでしかもスリリングなスポーツである。試合中、息をつかせぬ攻防が繰り返され、1度このスポーツを経験した者は、その魅力に取り付かれること請け合いである。
本スポーツ実習では、まずルールや競技法を簡略化したミニカバディを体験し、その後、安全性に配慮した早稲田式カバディを行う。授業で今までに経験したことのないような面白さを味わい、スポーツを生涯のものとして位置づける一助になればと期待している。

授業の到達目標: 基本的な攻撃・守備の技術を正しく理解し、実践の中で表現することができる。さらに、早稲田式カバディの競技ルールを理解し、ゲームが行えるようになる。

事前・事後学習の内容: 事前学修:
・カバディのルールや歴史などを各自で学修しておくこと。

事後学修:
・修得した技術を次回授業に反映できるようにすること。

事前学習として、カバディのルールや歴史などは、90分～120分程度の時間をかけることが望ましい

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
・オリエンテーション（授業内容、進め方、カバディの概略説明、等）・守備のステップとキャッチ1
第2回
・守備のステップとキャッチ2
第3回
・攻撃のステップとタッチ1
第4回
攻撃のステップとタッチ2
第5回
・ミニカバディによるゲーム実践1
第6回
ミニカバディによるゲーム実践2
第7回
・守備のフォーメーション1
第8回
・守備のフォーメーション2
第9回
・守備の連携
第10回
・攻撃の応用技術1
第11回
・攻撃の応用技術2

第12回
・ゲーム実践1
第13回
・ゲーム実践2
第14回
・ゲーム実践3

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし

参考文献: なし

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30 技術テストを実施し、基本的及び実践的技術の習得度合いを評価する。実施日については授業内で告知する。

平常点評価: 70 授業の出席状況、積極な取り組みについて評価する。

備考・関連URL: 運動衣は、通常のトレーニングウェアで良い。シューズは、滑りにくいゴム底の運動靴で屋内用のものを着用すること。準備できれば体育館の使用に適したものが良い。
カバディでは金属・ガラス類を身につけて競技することは許されないので、メガネが必要な人はコンタクトレンズを用意すること。また、危険防止のために肘・膝プロテクターを着用することが望ましい。

【注意事項】
初回の授業から実技を行うので、運動のできる準備（上記参照）をして早稲田アリーナ（ステージ側）に集合すること。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040006|02|9S07040006[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	カバディ 02		
担 当 教 員	藤井 亮輔		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: カバディはインド・ウエストベンガル地方を中心として発展してきたアジア生まれのスポーツである。その歴史は紀元前にまで遡るといわれるが、戦後になって現在のルールに統一された。わが国には1979年に紹介されたが、アジア競技大会の正式種目（第11回北京大会、1990年）になり、さらに2010年の広州で行われた第16回アジア競技大会では銅メダルを獲得したこともあり、現在ではカバディを知る人は多い。その特徴は、一呼吸で「カバディ、カバディ」と声を発しながら攻撃するという一風変わった所にある。また、カバディを「鬼ごっこのようだ」と形容する人もいるが、実際には体と体のぶつかり合う、かなりハードでしかもスリリングなスポーツである。試合中、息をつかせぬ攻防が繰り返され、1度このスポーツを経験した者は、その魅力に取り付かれること請け合いである。
本スポーツ実習では、まずルールや競技法を簡略化したミニカバディを体験し、その後、安全性に配慮した早稲田式カバディを行う。授業で今までに経験したことのないような面白さを味わい、スポーツを生涯のものとして位置づける一助になればと期待している。

授業の到達目標: 基本的な攻撃・守備の技術を正しく理解し、実践の中で表現することができる。さらに、早稲田式カバディの競技ルールを理解し、ゲームが行えるようになる。

事前・事後学習の内容: 事前学修:
・カバディのルールや歴史などを各自で学修しておくこと。

事後学修:
・修得した技術を次回授業に反映できるようにすること。

事前学習として、カバディのルールや歴史などは、90分～120分程度の時間をかけることが望ましい

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
・オリエンテーション（授業内容、進め方、カバディの概略説明、等）・守備のステップとキャッチ1
第2回
・守備のステップとキャッチ2
第3回
・攻撃のステップとタッチ1
第4回
攻撃のステップとタッチ2
第5回
・ミニカバディによるゲーム実践1
第6回
ミニカバディによるゲーム実践2
第7回
・守備のフォーメーション1
第8回
・守備のフォーメーション2
第9回
・守備の連携
第10回
・攻撃の応用技術1
第11回
・攻撃の応用技術2

第12回
・ゲーム実践1
第13回
・ゲーム実践2
第14回
・ゲーム実践3

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし

参考文献: なし

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30 技術テストを実施し、基本的及び実践的技術の習得度合いを評価する。実施日については授業内で告知する。

平常点評価: 70 授業の出席状況、積極な取り組みについて評価する。

備考・関連URL: 運動衣は、通常のトレーニングウェアで良い。シューズは、滑りにくいゴム底の運動靴で屋内用のものを着用すること。準備できれば体育館の使用に適したものが良い。
カバディでは金属・ガラス類を身につけて競技することは許されないので、メガネが必要な人はコンタクトレンズを用意すること。また、危険防止のために肘・膝プロテクターを着用することが望ましい。

【注意事項】
初回の授業から実技を行うので、運動のできる準備（上記参照）をして早稲田アリーナ（ステージ側）に集合すること。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040007|01|9S07040007[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	空手 01		
担 当 教 員	大丸 良太		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

古来沖縄を発祥として本州を経て世界に伝わった空手は、東京オリンピックで採用されたという話題とも相まって、その競技人口は増加傾向にあり、世界で1億人以上の愛好者がいると言われている。
また、スポーツとして、武道として、護身術としての空手というように、その稽古する人の稽古目的も多様化している。本実技では、松濤館という空手の流派に伝わる“基本の動作”を習得することを通じて、スポーツ競技、武道、護身術といった空手の様々な側面を学習できる機会を提供する。“基本の動作”は、「基本技―突き・蹴り技と受け技」、「形」、「基本組手」で構成されており、それぞれの動作を反復して稽古することにより、その動きの意味、技の使い方等を習得する。
また中盤以降は、相手の動き、相手の心の動きを読みながらの“気自由組手”に発展していく。

・精神面における空手の本質の一つは、相手と“立ち会う”ことである。相手に対してどういう心持で立ち向かわなければならないか、という武道としての自己の心の持ち方を、「基本技」、「形」、「基本組手」、「自由組手」の稽古を通して習得する。また同時に、その重要な要素である「呼吸」についても認識を深めていく。

・技術面では、攻撃の究極の目標である“先の先（相手の攻撃する気持ちの起こりを捉えるカウンター）”を、仕手と受け手に分かれて、数種のパターン練習を繰り返すことにより習得する。
・礼式面では、稽古相手との正しい礼の仕方、黙想の意味、稽古中の立ち振る舞い等、古来より日本に伝わる心と形式の一致を習得する。また稽古の一環として道場の掃除も行う。

・また、怪我防止の準備（プロテクター等の装着）を十分整えた上で、実戦に近い立ち合いを経験しながら、精神面、技術面、礼式面で各自の目標とするレベルに到達することのサポートを行う。
一緒に稽古をする相手を変えていくので、授業生同士の交流も深まることも期待できる。流派が異なる経験者も、空手が全く初めての初心者も、自らが、本質を求めて稽古する機会を提供したい。
初心者、経験者と分けて稽古をする時もあるが、基本は全員一緒に一つの動きを稽古していく。

・基本、形、組手以外に、投げ技、取り手、護身法なども全員で実践してみる。

・講義のレベルは初心者を基準にしているが、有段者、経験者は、初心者と別れて稽古することもある。

・最終講義では実際に杉板の試割りを全員で行う。

授業の到達目標:

基本技
下段払い、上段上受け、外受け等の受け技、追突き、逆突き等の突技、前蹴り、回し蹴り、蹴上げ等の蹴り技、そのコンビネーションを習得。実践の際に、“効く”技を出すための”形“、”運足“、”腰の動き“、”肩甲骨の動き“”呼吸“、”体の軸“などの各概念を学び、すべてを”効く技“へ統合していく。

形
松濤館の伝統的な形である平安形、観空、抜塞、慈恩、燕飛などの形を覚えて、自分一人で形を演武できる様になる。

組手
五本組手、三本組手、一本組手という約束組手から、自由に相手を攻撃していく自由組手へと発展していく。
相手をつけて、カウンター（先の先）の稽古を通して、いつ技をしかけるかを体得していく。
プロテクターを装着し、自由に技を出し合う自由組手、全空連の試合ルールを知り、オリンピックと同じルールの下で、試合組手を初心者も体験できる。

事前・事後学習の内容:

授業の前に時間がとれる学生は、早めに道場に入って自分で準備運動をおねがいします。
空手の型を何種類か教えますので、できる学生はYoutube等を参考にしながら、自宅で形の復習をお願いします。
未経験の学生にとっては、普段の生活にない変わった動きなので、覚えるのに少し時間がかかりますが、それ自体が稽古です。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 道場での心構え、今後の稽古内容の説明
空手の歴史、基本の立ち方、拳の握り方、礼式、呼吸法、初歩的な動きを学ぶ。いくつかの少人数のグルー

プに分けて、グループで形を授業で毎回稽古する。第2回以降移動基本、形、組手を説明しつつ、毎回の実技で、ミット打ち、基本、全員での形の稽古、グループでの形の稽古、基本組手から自由組手、試合組手へ発展させながら、基本と形と組手は毎回の授業で必ず復習も兼ねて行う。

第2回　基本技

正座の仕方、ウォーミングアップ、各種”立ち方”の説明、突きの説明、平安初段
受け技と突き技、実際に仕手と受手に分かれて、相手と向き合い、技を出してみる。

第3回　呼吸と気合

突きの反復練習、蹴り技、動作する際の呼吸方法と実際に気合をだす稽古。平安初段
ミットに向かって実際に突いてみる、受手は実際にミットで相手の突きを受けてみる。

第4回　運足

すり足、腰をの使い、追突きの習得、反復練習、組手のためのステップの習得
前手の説明、前手を打つ際の腰の動きと運足の説明、実践。連続技の習得

第5回　受けと突きと形と約束組手

平安初段の順番を覚える。形の部分を取り出し、意味を解説、相手をつけて技をかけてみる。
三本組手の習得
基本の動作、形は毎回行います。
自由組手を開始。

第6回　抜塞（形）

松濤館の15の形の一つである抜塞を説明、実際に一緒に動いてみる。基本の受け技（下段払い、上げ受け、うち受け、手刀受け）、追突、逆突、前蹴の稽古

第7回　組手

前手突きの説明、連続技の説明、相手を付けて前手で攻撃してみる。ミットを打ってみる。
どのように技を仕掛けるのかを説明、実際に相手をつけてわざをかけてみる。

第8回　　取手（とりて）

相手の攻撃をさばいて、手首をつかみ、相手の重心を崩して、投げながら決める。立ち技と正座からの取り手。
自由組手から審判を付けての試合組手の稽古

第9回　投げ技

屏風倒し、燕返し、肩輪車など、松濤館の投げ技を習得、カウンター前手の運足。

第10回　　形　燕飛

ウォームアップ、ミット、基本の復習、平安初段、前手突（先の先）、燕飛の順番を覚える、組手

第11回　先の先―カウンターの前手突、逆突

相手をつけて、先の先の稽古、中心線を切る、腰で打つ、気合と”気“をいれる。遠間の打ち。

第12回　　形復習

平安形、抜塞、燕飛の復習、追加で基本の動き又は慈恩を覚える。相手をつけて先の先（カウンター）の稽古、自由組手、試合組手

第13回　約束組手と自由組手

メンホー、腹当て、拳サポーターを付けて、自由組手から試合組手へ。グループ対抗戦、または個人戦を全日本空手連盟のルールで全員が体験する。

第14回　総復習、形の発表会、試割り

基本、組手などこれまでの総復習、グループによる形の発表会、杉板の試し割（女子も割れます）

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　特になし

参考文献:　空手道教範（船越義珍著）

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:　10　授業の終了2週間ほど前にレポートを提出すること。

平常点評価:　90　毎回教条で出席をとります。レポートも加点することとし、合わせた出席率で60%を超えると授業評価の最低限はクリアしたことになります。

備考・関連URL:　稽古は空手着を着用すること。空手着は指定はないが、授業初日に限り、授業開始30分前より道場にて東海堂が空手着を販売します。（価格6,000円　白帯付、税込、サイズ各種有）空手着をもっていない学生は購入して授業に出て下さい。経験者、有段者は、茶帯又は黒帯着用して構いません。柔道着、合気道着では稽古できません。

＜＜安全のため、以下のルールの順守をお願いします。＞＞

※爪は切って参加してください。また、ネイルはご遠慮ください。
※腕時計、並びにネックレス、ブレスレット、イヤリングなどの装飾品は外してご参加ください。
※組手の際には、メガネを外して頂くことがあります。
※道場では裸足での参加となります。

<<For safety season, please observe the following instructions. >>

*Please keep your nails cut. Also, please refrain from wearing nail polish.
*Please remove watch and any jewelry such as necklaces, bracelets, and earrings.
*You may be asked to remove your glasses during kumite.
*Participants must be barefoot in the dojo.

<<为确保安全，请遵守以下说明。>>

*请保持指甲修剪整齐。另外，请不要涂指甲油。
*请摘下手表和任何珠宝，如项链、手镯和耳环。
*在组手期间，可能会要求您摘下眼镜。
*参与者必须赤脚进入道场。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040007|02|9S07040007[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	空手 02		
担 当 教 員	大丸 良太		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

古来沖縄を発祥として本州を経て世界に伝わった空手は、東京オリンピックで採用されたという話題とも相まって、その競技人口は増加傾向にあり、世界で1億人以上の愛好者がいると言われている。
また、スポーツとして、武道として、護身術としての空手というように、その稽古する人の稽古目的も多様化している。本実技では、松濤館という空手の流派に伝わる“基本の動作”を習得することを通じて、スポーツ競技、武道、護身術といった空手の様々な側面を学習できる機会を提供する。“基本の動作”は、「基本技―突き・蹴り技と受け技」、「形」、「基本組手」で構成されており、それぞれの動作を反復して稽古することにより、その動きの意味、技の使い方等を習得する。
また中盤以降は、相手の動き、相手の心の動きを読みながらの“気自由組手”に発展していく。

・精神面における空手の本質の一つは、相手と“立ち会う”ことである。相手に対してどういう心持で立ち向かわなければならないか、という武道としての自己の心の持ち方を、「基本技」、「形」、「基本組手」、「自由組手」の稽古を通して習得する。また同時に、その重要な要素である「呼吸」についても認識を深めていく。

・技術面では、攻撃の究極の目標である“先の先（相手の攻撃する気持ちの起こりを捉えるカウンター）”を、仕手と受け手に分かれて、数種のパターン練習を繰り返すことにより習得する。
・礼式面では、稽古相手との正しい礼の仕方、黙想の意味、稽古中の立ち振る舞い等、古来より日本に伝わる心と形式の一致を習得する。また稽古の一環として道場の掃除も行う。

・また、怪我防止の準備（プロテクター等の装着）を十分整えた上で、実戦に近い立ち合いを経験しながら、精神面、技術面、礼式面で各自の目標とするレベルに到達することのサポートを行う。
一緒に稽古をする相手を変えていくので、授業生同士の交流も深まることも期待できる。流派が異なる経験者も、空手が全く初めての初心者も、自らが、本質を求めて稽古する機会を提供したい。
初心者、経験者と分けて稽古をする時もあるが、基本は全員一緒に一つの動きを稽古していく。

・基本、形、組手以外に、投げ技、取り手、護身法なども全員で実践してみる。

・講義のレベルは初心者を基準にしているが、有段者、経験者は、初心者と別れて稽古することもある。

・最終講義では実際に杉板の試割りを全員で行う。

授業の到達目標:

基本技
下段払い、上段上受け、外受け等の受け技、追突き、逆突き等の突技、前蹴り、回し蹴り、蹴上げ等の蹴り技、そのコンビネーションを習得。実践の際に、“効く”技を出すための”形“、”運足“、”腰の動き“、”肩甲骨の動き“”呼吸“、”体の軸“などの各概念を学び、すべてを”効く技“へ統合していく。

形
松濤館の伝統的な形である平安形、観空、抜塞、慈恩、燕飛などの形を覚えて、自分一人で形を演武できる様になる。

組手
五本組手、三本組手、一本組手という約束組手から、自由に相手を攻撃していく自由組手へと発展していく。
相手をつけて、カウンター（先の先）の稽古を通して、いつ技をしかけるかを体得していく。
プロテクターを装着し、自由に技を出し合う自由組手、全空連の試合ルールを知り、オリンピックと同じルールの下で、試合組手を初心者も体験できる。

事前・事後学習の内容:

授業の前に時間がとれる学生は、早めに道場に入って自分で準備運動をおねがいします。
空手の型を何種類か教えますので、できる学生はYoutube等を参考にしながら、自宅で形の復習をお願いします。
未経験の学生にとっては、普段の生活にない変わった動きなので、覚えるのに少し時間がかかりますが、それ自体が稽古です。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 道場での心構え、今後の稽古内容の説明
空手の歴史、基本の立ち方、拳の握り方、礼式、呼吸法、初歩的な動きを学ぶ。いくつかの少人数のグルー

プに分けて、グループで形を授業で毎回稽古する。第2回以降移動基本、形、組手を説明しつつ、毎回の実技で、ミット打ち、基本、全員での形の稽古、グループでの形の稽古、基本組手から自由組手、試合組手へ発展させながら、基本と形と組手は毎回の授業で必ず復習も兼ねて行う。

第2回　基本技

正座の仕方、ウォーミングアップ、各種”立ち方”の説明、突きの説明、平安初段
受け技と突き技、実際に仕手と受手に分かれて、相手と向き合い、技を出してみる。

第3回　呼吸と気合

突きの反復練習、蹴り技、動作する際の呼吸方法と実際に気合をだす稽古。平安初段
ミットに向かって実際に突いてみる、受手は実際にミットで相手の突きを受けてみる。

第4回　運足

すり足、腰をの使い、追突きの習得、反復練習、組手のためのステップの習得
前手の説明、前手を打つ際の腰の動きと運足の説明、実践。連続技の習得

第5回　受けと突きと形と約束組手

平安初段の順番を覚える。形の部分を取り出し、意味を解説、相手をつけて技をかけてみる。
三本組手の習得
基本の動作、形は毎回行います。
自由組手を開始。

第6回　抜塞（形）

松濤館の15の形の一つである抜塞を説明、実際に一緒に動いてみる。基本の受け技（下段払い、上げ受け、うち受け、手刀受け）、追突、逆突、前蹴の稽古

第7回　組手

前手突きの説明、連続技の説明、相手を付けて前手で攻撃してみる。ミットを打ってみる。
どのように技を仕掛けるのかを説明、実際に相手をつけてわざをかけてみる。

第8回　　取手（とりて）

相手の攻撃をさばいて、手首をつかみ、相手の重心を崩して、投げながら決める。立ち技と正座からの取り手。
自由組手から審判を付けての試合組手の稽古

第9回　投げ技

屏風倒し、燕返し、肩輪車など、松濤館の投げ技を習得、カウンター前手の運足。

第10回　　形　燕飛

ウォームアップ、ミット、基本の復習、平安初段、前手突（先の先）、燕飛の順番を覚える、組手

第11回　先の先―カウンターの前手突、逆突

相手をつけて、先の先の稽古、中心線を切る、腰で打つ、気合と”気“をいれる。遠間の打ち。

第12回　　形復習

平安形、抜塞、燕飛の復習、追加で基本の動き又は慈恩を覚える。相手をつけて先の先（カウンター）の稽古、自由組手、試合組手

第13回　約束組手と自由組手

メンホー、腹当て、拳サポーターを付けて、自由組手から試合組手へ。グループ対抗戦、または個人戦を全日本空手連盟のルールで全員が体験する。

第14回　総復習、形の発表会、試割り

基本、組手などこれまでの総復習、グループによる形の発表会、杉板の試し割（女子も割れます）

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　特になし

参考文献:　空手道教範（船越義珍著）

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:　10　授業の終了2週間ほど前にレポートを提出すること。

平常点評価:　90　毎回教条で出席をとります。レポートも加点することとし、合わせた出席率で60%を超えると授業評価の最低限はクリアしたことになります。

備考・関連URL:　稽古は空手着を着用すること。空手着は指定はないが、授業初日に限り、授業開始30分前より道場にて東海堂が空手着を販売します。（価格6,000円　白帯付、税込、サイズ各種有）空手着をもっていない学生は購入して授業に出て下さい。経験者、有段者は、茶帯又は黒帯着用して構いません。柔道着、合気道着では稽古できません。

＜＜安全のため、以下のルールの順守をお願いします。＞＞

※爪は切って参加してください。また、ネイルはご遠慮ください。
※腕時計、並びにネックレス、ブレスレット、イヤリングなどの装飾品は外してご参加ください。
※組手の際には、メガネを外して頂くことがあります。
※道場では裸足での参加となります。

<<For safety season, please observe the following instructions. >>

*Please keep your nails cut. Also, please refrain from wearing nail polish.
*Please remove watch and any jewelry such as necklaces, bracelets, and earrings.
*You may be asked to remove your glasses during kumite.
*Participants must be barefoot in the dojo.

<<为确保安全，请遵守以下说明。>>

*请保持指甲修剪整齐。另外，请不要涂指甲油。
*请摘下手表和任何珠宝，如项链、手镯和耳环。
*在组手期间，可能会要求您摘下眼镜。
*参与者必须赤脚进入道场。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040007|03|9S07040007[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	空手 03		
担 当 教 員	大丸 良太		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

古来沖縄を発祥として本州を経て世界に伝わった空手は、東京オリンピックで採用されたという話題とも相まって、その競技人口は増加傾向にあり、世界で1億人以上の愛好者がいると言われている。
また、スポーツとして、武道として、護身術としての空手というように、その稽古する人の稽古目的も多様化している。本実技では、松濤館という空手の流派に伝わる“基本の動作”を習得することを通じて、スポーツ競技、武道、護身術といった空手の様々な側面を学習できる機会を提供する。“基本の動作”は、「基本技―突き・蹴り技と受け技」、「形」、「基本組手」で構成されており、それぞれの動作を反復して稽古することにより、その動きの意味、技の使い方等を習得する。
また中盤以降は、相手の動き、相手の心の動きを読みながらの“気自由組手”に発展していく。

・精神面における空手の本質の一つは、相手と“立ち会う”ことである。相手に対してどういう心持で立ち向かわなければならないか、という武道としての自己の心の持ち方を、「基本技」、「形」、「基本組手」、「自由組手」の稽古を通して習得する。また同時に、その重要な要素である「呼吸」についても認識を深めていく。

・技術面では、攻撃の究極の目標である“先の先（相手の攻撃する気持ちの起こりを捉えるカウンター）”を、仕手と受け手に分かれて、数種のパターン練習を繰り返すことにより習得する。
・礼式面では、稽古相手との正しい礼の仕方、黙想の意味、稽古中の立ち振る舞い等、古来より日本に伝わる心と形式の一致を習得する。また稽古の一環として道場の掃除も行う。

・また、怪我防止の準備（プロテクター等の装着）を十分整えた上で、実戦に近い立ち合いを経験しながら、精神面、技術面、礼式面で各自の目標とするレベルに到達することのサポートを行う。
一緒に稽古をする相手を変えていくので、授業生同士の交流も深まることも期待できる。流派が異なる経験者も、空手が全く初めての初心者も、自らが、本質を求めて稽古する機会を提供したい。
初心者、経験者と分けて稽古をする時もあるが、基本は全員一緒に一つの動きを稽古していく。

・基本、形、組手以外に、投げ技、取り手、護身法なども全員で実践してみる。

・講義のレベルは初心者を基準にしているが、有段者、経験者は、初心者と別れて稽古することもある。

・最終講義では実際に杉板の試割りを全員で行う。

授業の到達目標:

基本技
下段払い、上段上受け、外受け等の受け技、追突き、逆突き等の突技、前蹴り、回し蹴り、蹴上げ等の蹴り技、そのコンビネーションを習得。実践の際に、“効く”技を出すための”形“、”運足“、”腰の動き“、”肩甲骨の動き“”呼吸“、”体の軸“などの各概念を学び、すべてを”効く技“へ統合していく。

形
松濤館の伝統的な形である平安形、観空、抜塞、慈恩、燕飛などの形を覚えて、自分一人で形を演武できる様になる。

組手
五本組手、三本組手、一本組手という約束組手から、自由に相手を攻撃していく自由組手へと発展していく。
相手をつけて、カウンター（先の先）の稽古を通して、いつ技をしかけるかを体得していく。
プロテクターを装着し、自由に技を出し合う自由組手、全空連の試合ルールを知り、オリンピックと同じルールの下で、試合組手を初心者も体験できる。

事前・事後学習の内容:

授業の前に時間がとれる学生は、早めに道場に入って自分で準備運動をおねがいします。
空手の型を何種類か教えますので、できる学生はYoutube等を参考にしながら、自宅で形の復習をお願いします。
未経験の学生にとっては、普段の生活にない変わった動きなので、覚えるのに少し時間がかかりますが、それ自体が稽古です。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 道場での心構え、今後の稽古内容の説明
空手の歴史、基本の立ち方、拳の握り方、礼式、呼吸法、初歩的な動きを学ぶ。いくつかの少人数のグルー

プに分けて、グループで形を授業で毎回稽古する。第2回以降移動基本、形、組手を説明しつつ、毎回の実技で、ミット打ち、基本、全員での形の稽古、グループでの形の稽古、基本組手から自由組手、試合組手へ発展させながら、基本と形と組手は毎回の授業で必ず復習も兼ねて行う。

第2回　基本技

正座の仕方、ウォーミングアップ、各種”立ち方”の説明、突きの説明、平安初段
受け技と突き技、実際に仕手と受手に分かれて、相手と向き合い、技を出してみる。

第3回　呼吸と気合

突きの反復練習、蹴り技、動作する際の呼吸方法と実際に気合をだす稽古。平安初段
ミットに向かって実際に突いてみる、受手は実際にミットで相手の突きを受けてみる。

第4回　運足

すり足、腰をの使い、追突きの習得、反復練習、組手のためのステップの習得
前手の説明、前手を打つ際の腰の動きと運足の説明、実践。連続技の習得

第5回　受けと突きと形と約束組手

平安初段の順番を覚える。形の部分を取り出し、意味を解説、相手をつけて技をかけてみる。
三本組手の習得
基本の動作、形は毎回行います。
自由組手を開始。

第6回　抜塞（形）

松濤館の15の形の一つである抜塞を説明、実際に一緒に動いてみる。基本の受け技（下段払い、上げ受け、うち受け、手刀受け）、追突、逆突、前蹴の稽古

第7回　組手

前手突きの説明、連続技の説明、相手を付けて前手で攻撃してみる。ミットを打ってみる。
どのように技を仕掛けるのかを説明、実際に相手をつけてわざをかけてみる。

第8回　　取手（とりて）

相手の攻撃をさばいて、手首をつかみ、相手の重心を崩して、投げながら決める。立ち技と正座からの取り手。
自由組手から審判を付けての試合組手の稽古

第9回　投げ技

屏風倒し、燕返し、肩輪車など、松濤館の投げ技を習得、カウンター前手の運足。

第10回　　形　燕飛

ウォームアップ、ミット、基本の復習、平安初段、前手突（先の先）、燕飛の順番を覚える、組手

第11回　先の先―カウンターの前手突、逆突

相手をつけて、先の先の稽古、中心線を切る、腰で打つ、気合と”気“をいれる。遠間の打ち。

第12回　　形復習

平安形、抜塞、燕飛の復習、追加で基本の動き又は慈恩を覚える。相手をつけて先の先（カウンター）の稽古、自由組手、試合組手

第13回　約束組手と自由組手

メンホー、腹当て、拳サポーターを付けて、自由組手から試合組手へ。グループ対抗戦、または個人戦を全日本空手連盟のルールで全員が体験する。

第14回　総復習、形の発表会、試割り

基本、組手などこれまでの総復習、グループによる形の発表会、杉板の試し割（女子も割れます）

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　特になし

参考文献:　空手道教範（船越義珍著）

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:　10　授業の終了2週間ほど前にレポートを提出すること。

平常点評価:　90　毎回教条で出席をとります。レポートも加点することとし、合わせた出席率で60%を超えると授業評価の最低限はクリアしたことになります。

備考・関連URL:　稽古は空手着を着用すること。空手着は指定はないが、授業初日に限り、授業開始30分前より道場にて東海堂が空手着を販売します。（価格6,000円　白帯付、税込、サイズ各種有）空手着をもっていない学生は購入して授業に出て下さい。経験者、有段者は、茶帯又は黒帯着用して構いません。柔道着、合気道着では稽古できません。

＜＜安全のため、以下のルールの順守をお願いします。＞＞

※爪は切って参加してください。また、ネイルはご遠慮ください。
※腕時計、並びにネックレス、ブレスレット、イヤリングなどの装飾品は外してご参加ください。
※組手の際には、メガネを外して頂くことがあります。
※道場では裸足での参加となります。

<<For safety season, please observe the following instructions. >>

*Please keep your nails cut. Also, please refrain from wearing nail polish.
*Please remove watch and any jewelry such as necklaces, bracelets, and earrings.
*You may be asked to remove your glasses during kumite.
*Participants must be barefoot in the dojo.

<<为确保安全，请遵守以下说明。>>

*请保持指甲修剪整齐。另外，请不要涂指甲油。
*请摘下手表和任何珠宝，如项链、手镯和耳环。
*在组手期间，可能会要求您摘下眼镜。
*参与者必须赤脚进入道场。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040007|04|9S07040007[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	空手 04		
担 当 教 員	大丸 良太		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

古来沖縄を発祥として本州を経て世界に伝わった空手は、東京オリンピックで採用されたという話題とも相まって、その競技人口は増加傾向にあり、世界で1億人以上の愛好者がいると言われている。
また、スポーツとして、武道として、護身術としての空手というように、その稽古する人の稽古目的も多様化している。本実技では、松濤館という空手の流派に伝わる“基本の動作”を習得することを通じて、スポーツ競技、武道、護身術といった空手の様々な側面を学習できる機会を提供する。“基本の動作”は、「基本技―突き・蹴り技と受け技」、「形」、「基本組手」で構成されており、それぞれの動作を反復して稽古することにより、その動きの意味、技の使い方等を習得する。
また中盤以降は、相手の動き、相手の心の動きを読みながらの“気自由組手”に発展していく。

・精神面における空手の本質の一つは、相手と“立ち会う”ことである。相手に対してどういう心持で立ち向かわなければならないか、という武道としての自己の心の持ち方を、「基本技」、「形」、「基本組手」、「自由組手」の稽古を通して習得する。また同時に、その重要な要素である「呼吸」についても認識を深めていく。

・技術面では、攻撃の究極の目標である“先の先（相手の攻撃する気持ちの起こりを捉えるカウンター）”を、仕手と受け手に分かれて、数種のパターン練習を繰り返すことにより習得する。
・礼式面では、稽古相手との正しい礼の仕方、黙想の意味、稽古中の立ち振る舞い等、古来より日本に伝わる心と形式の一致を習得する。また稽古の一環として道場の掃除も行う。

・また、怪我防止の準備（プロテクター等の装着）を十分整えた上で、実戦に近い立ち合いを経験しながら、精神面、技術面、礼式面で各自の目標とするレベルに到達することのサポートを行う。
一緒に稽古をする相手を変えていくので、授業生同士の交流も深まることも期待できる。流派が異なる経験者も、空手が全く初めての初心者も、自らが、本質を求めて稽古する機会を提供したい。
初心者、経験者と分けて稽古をする時もあるが、基本は全員一緒に一つの動きを稽古していく。

・基本、形、組手以外に、投げ技、取り手、護身法なども全員で実践してみる。

・講義のレベルは初心者を基準にしているが、有段者、経験者は、初心者と別れて稽古することもある。

・最終講義では実際に杉板の試割りを全員で行う。

授業の到達目標:

基本技
下段払い、上段上受け、外受け等の受け技、追突き、逆突き等の突技、前蹴り、回し蹴り、蹴上げ等の蹴り技、そのコンビネーションを習得。実践の際に、“効く”技を出すための”形“、”運足“、”腰の動き“、”肩甲骨の動き“”呼吸“、”体の軸“などの各概念を学び、すべてを”効く技“へ統合していく。

形
松濤館の伝統的な形である平安形、観空、抜塞、慈恩、燕飛などの形を覚えて、自分一人で形を演武できる様になる。

組手
五本組手、三本組手、一本組手という約束組手から、自由に相手を攻撃していく自由組手へと発展していく。
相手をつけて、カウンター（先の先）の稽古を通して、いつ技をしかけるかを体得していく。
プロテクターを装着し、自由に技を出し合う自由組手、全空連の試合ルールを知り、オリンピックと同じルールの下で、試合組手を初心者も体験できる。

事前・事後学習の内容:

授業の前に時間がとれる学生は、早めに道場に入って自分で準備運動をおねがいします。
空手の型を何種類か教えますので、できる学生はYoutube等を参考にしながら、自宅で形の復習をお願いします。
未経験の学生にとっては、普段の生活にない変わった動きなので、覚えるのに少し時間がかかりますが、それ自体が稽古です。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 道場での心構え、今後の稽古内容の説明
空手の歴史、基本の立ち方、拳の握り方、礼式、呼吸法、初歩的な動きを学ぶ。いくつかの少人数のグルー

プに分けて、グループで形を授業で毎回稽古する。第2回以降移動基本、形、組手を説明しつつ、毎回の実技で、ミット打ち、基本、全員での形の稽古、グループでの形の稽古、基本組手から自由組手、試合組手へ発展させながら、基本と形と組手は毎回の授業で必ず復習も兼ねて行う。

第2回　基本技

正座の仕方、ウォーミングアップ、各種”立ち方”の説明、突きの説明、平安初段
受け技と突き技、実際に仕手と受手に分かれて、相手と向き合い、技を出してみる。

第3回　呼吸と気合

突きの反復練習、蹴り技、動作する際の呼吸方法と実際に気合をだす稽古。平安初段
ミットに向かって実際に突いてみる、受手は実際にミットで相手の突きを受けてみる。

第4回　運足

すり足、腰をの使い、追突きの習得、反復練習、組手のためのステップの習得
前手の説明、前手を打つ際の腰の動きと運足の説明、実践。連続技の習得

第5回　受けと突きと形と約束組手

平安初段の順番を覚える。形の部分を取り出し、意味を解説、相手をつけて技をかけてみる。
三本組手の習得
基本の動作、形は毎回行います。
自由組手を開始。

第6回　抜塞（形）

松濤館の15の形の一つである抜塞を説明、実際に一緒に動いてみる。基本の受け技（下段払い、上げ受け、うち受け、手刀受け）、追突、逆突、前蹴の稽古

第7回　組手

前手突きの説明、連続技の説明、相手を付けて前手で攻撃してみる。ミットを打ってみる。
どのように技を仕掛けるのかを説明、実際に相手をつけてわざをかけてみる。

第8回　　取手（とりて）

相手の攻撃をさばいて、手首をつかみ、相手の重心を崩して、投げながら決める。立ち技と正座からの取り手。
自由組手から審判を付けての試合組手の稽古

第9回　投げ技

屏風倒し、燕返し、肩輪車など、松濤館の投げ技を習得、カウンター前手の運足。

第10回　　形　燕飛

ウォームアップ、ミット、基本の復習、平安初段、前手突（先の先）、燕飛の順番を覚える、組手

第11回　先の先―カウンターの前手突、逆突

相手をつけて、先の先の稽古、中心線を切る、腰で打つ、気合と”気“をいれる。遠間の打ち。

第12回　　形復習

平安形、抜塞、燕飛の復習、追加で基本の動き又は慈恩を覚える。相手をつけて先の先（カウンター）の稽古、自由組手、試合組手

第13回　約束組手と自由組手

メンホー、腹当て、拳サポーターを付けて、自由組手から試合組手へ。グループ対抗戦、または個人戦を全日本空手連盟のルールで全員が体験する。

第14回　総復習、形の発表会、試割り

基本、組手などこれまでの総復習、グループによる形の発表会、杉板の試し割（女子も割れます）

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　特になし

参考文献:　空手道教範（船越義珍著）

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:　10　授業の終了2週間ほど前にレポートを提出すること。

平常点評価:　90　毎回教条で出席をとります。レポートも加点することとし、合わせた出席率で60%を超えると授業評価の最低限はクリアしたことになります。

備考・関連URL:　稽古は空手着を着用すること。空手着は指定はないが、授業初日に限り、授業開始30分前より道場にて東海堂が空手着を販売します。（価格6,000円　白帯付、税込、サイズ各種有）空手着をもっていない学生は購入して授業に出て下さい。経験者、有段者は、茶帯又は黒帯着用して構いません。柔道着、合気道着では稽古できません。

＜＜安全のため、以下のルールの順守をお願いします。＞＞

※爪は切って参加してください。また、ネイルはご遠慮ください。
※腕時計、並びにネックレス、ブレスレット、イヤリングなどの装飾品は外してご参加ください。
※組手の際には、メガネを外して頂くことがあります。
※道場では裸足での参加となります。

<<For safety season, please observe the following instructions. >>

*Please keep your nails cut. Also, please refrain from wearing nail polish.
*Please remove watch and any jewelry such as necklaces, bracelets, and earrings.
*You may be asked to remove your glasses during kumite.
*Participants must be barefoot in the dojo.

<<为确保安全，请遵守以下说明。>>

*请保持指甲修剪整齐。另外，请不要涂指甲油。
*请摘下手表和任何珠宝，如项链、手镯和耳环。
*在组手期间，可能会要求您摘下眼镜。
*参与者必须赤脚进入道场。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040008|01|9S07040008[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	弓道 基礎 01		
担 当 教 員	加藤 善行		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 「日置流印西派射法」を学び、正しく安全に矢を飛ばす技術を習得する。

授業概要:

弓矢は世界各地で狩猟のための道具として、戦いの武器として、スポーツの用具として進化して現在も様々な形で継承されています。ただし、道具の素材・形状や射る方法は、各地の環境・文化により違いがあります。日本の弓は、他の国に見ることの出来ない長尺でしなやかで美しい形状へと独特の発展を遂げて、現在に至っています。
現在、日本の弓道にはいくつかの流派が存在しますが、本講座は、室町時代に日置弾正正次(へきだんじょうまさつぐ)により技術的に完成された、日置流(へきりゅう)の流れを汲む一派である「日置流印西派(へきりゅういんさいは)」の射法を通じて、射法の基本を習得しながら、並行して歴史、道具、作法等の講義を行い日本の伝統文化の素晴らしさに接して頂きます。全くの初心者でも、10回程度の授業で的を狙い、安全に発射するところまでは身に付けることができます。そのために基礎講座では、一本の矢を射るために定められた10の基本項目を繰り返しつつ、毎回新しいことを加えながら一連の流れとして身に付けていきます。そのため2週間以上連続して休むとついて行くことが大変になるので、就職活動、教育実習等により休むことがあらかじめわかっている場合には、他の学期に登録することを勧めます。
受講にあたっては、更衣の必要はありませんが、出来るだけ運動のしやすいダボつきの少ない服装としてください。なお、長い爪の方は弓具が装着できません。また、危険防止の観点から、講義中はアクセサリー類は外していただきますのでご留意願います。

授業の到達目標: 射法の基本である一連の動作（10の必須項目）をマスターし、正しい射形で的を狙い、安全な離れを行うことができるようにします。
全くの初心者でも10回程度の講座で、徐々に的までの距離を伸ばしたうえで、正規の距離である28メートルから正しく引けるようになることを目指します。

事前・事後学習の内容: 事前学習は特に必要ありません。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ： オリエンテーション （東伏見スポーツホール地下1階弓道場に集合のこと）
授業の進め方、日本の弓道の歴史、弓道場と弓具の説明、授業に際しての注意点、
矢尺の計測、デモンストレーション 教科書の配布(500円)

第2回 ： 射法の説明 「足踏み」「胴造」
ゴム弓と弱い弓を使用して基本動作（素引く）の説明及び練習、足踏み説明、胴造の説明

第3回 ： 弽(ゆがけ)の使用法、矢を番える方法、射法の説明「取懸」「打起」「三分の二」「詰合」
下弽(したがけ)の配布、弽の差し方「ゴム弓と弱い弓を使用して素引きを行う練習」と「弓に矢を番えて弓構（取懸・手の内・物見）までの行う練習」

第4回 ： 手の内（紅葉重ね）の作り方
ゴム弓にて手の内（紅葉重ね）の説明及び練習後、前週と同様に「素引きの練習」と「矢を番えて弓構までの練習」を行う

第5回 ： 矢を発射する直前までの練習、射法の説明「伸合」
「素引きの練習」の後、「矢を番えて足踏みから詰合までの練習」繰り返す

第6回 ： 「角見の動き」の説明、射法の説明「離れ」「残心」
「角見の動き」の説明、射法「離れ」「残心」
ゴム弓による離れの練習、矢の発射（4メートル）

第7回 ： 離れの反復練習（8メートル）
ゴム弓での離れの練習矢を番えての離れの練習（8メートル）

第8回 ： 離れの反復練習（8メートル）
矢を番えての離れの練習（8メートル）

第9回 ： 的の狙い方、12メートルからの反復練習
的の狙い方の説明的に向かい矢を射る（12メートル）
第10回 ： 20メートルからの反復練習
的に向かい矢を射る（20メートル）
第11回 ： 28メートルからの反復練習
正規の距離である、28メートルから矢を射る
第12回 ： 28メートルからの反復練習
正規の距離である、28メートルから矢を射る
第13回 ： 28メートルからの反復練習
正規の距離である、28メートルから矢を射る （含む立ち行射）
第14回 ： 28メートルからの反復練習
正規の距離である、28メートルから矢を射る （含む立ち行射）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「日置當流射術教本」 著者：稲垣源四郎

（第1回授業時に代金500円と引換で配布します。）

参考文献: 「日置流印西派歩射 弓道教本」 著者：稲垣源四郎
「紅葉重ね・離れの時期・弓具の見方と扱い方」 著者：浦上 栄

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 10 1.「射法十節」の中から、選定された2項目について解説する。
2.「授業の感想」

平常点評価: 50 出席を重視する。
特に前半は、毎回「新しい動作」を追加して学ぶので、極力欠席せず継続して受講してください。
止むを得ず欠席する場合は、理由を付して書面又はメールで連絡してください。考慮します。

その他: 40 授業で伝えたことを正しく行えているか、繰り返しの練習の中で確認していきます。
13回・14回の授業では、射法の習得状況を「立ち」形式での実技により確認します。
射法における10の基本項目を正しく実技できるかがポイントです。的中は不問です。
少なくともどちらか1回は出席してください。

備考・関連URL: ・教科書代500円が必要となります。下弾は配布します。
・弓具(弓、矢、弾)については授業用のものを貸与します。(経験者の方でお持ちの方は、自己の弓具を持参しても構いません)

関連URL
東伏見キャンバス 75-3 東伏見スポーツホール地下1階。少し分かり辛いので初回は早めに来て確認してください。(靴は地下1階弓道場内の下駄箱にお持ちください)
https://www.waseda.jp/top/access/higashifushimi-campus

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040008|02|9S07040008[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	弓道 基礎 02		
担 当 教 員	加藤 善行		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 「日置流印西派射法」を学び、正しく安全に矢を飛ばす技術を習得する。

授業概要:

弓矢は世界各地で狩猟のための道具として、戦いの武器として、スポーツの用具として進化して現在も様々な形で継承されています。ただし、道具の素材・形状や射る方法は、各地の環境・文化により違いがあります。日本の弓は、他の国に見ることの出来ない長尺でしなやかで美しい形状へと独特の発展を遂げて、現在に至っています。
現在、日本の弓道にはいくつかの流派が存在しますが、本講座は、室町時代に日置弾正正次(へきだんじょうまさつぐ)により技術的に完成された、日置流(へきりゅう)の流れを汲む一派である「日置流印西派(へきりゅういんさいは)」の射法を通じて、射法の基本を習得しながら、並行して歴史、道具、作法等の講義を行い日本の伝統文化の素晴らしさに接して頂きます。全くの初心者でも、10回程度の授業で的を狙い、安全に発射するところまでは身に付けることができます。そのために基礎講座では、一本の矢を射るために定められた10の基本項目を繰り返しつつ、毎回新しいことを加えながら一連の流れとして身に付けていきます。そのため2週間以上連続して休むとついて行くことが大変になるので、就職活動、教育実習等により休むことがあらかじめわかっている場合には、他の学期に登録することを勧めます。
受講にあたっては、更衣の必要はありませんが、出来るだけ運動のしやすいダボつきの少ない服装としてください。なお、長い爪の方は弓具が装着できません。また、危険防止の観点から、講義中はアクセサリー類は外していただきますのでご留意願います。

授業の到達目標: 射法の基本である一連の動作（10の必須項目）をマスターし、正しい射形で的を狙い、安全な離れを行うことができるようにします。
全くの初心者でも10回程度の講座で、徐々に的までの距離を伸ばしたうえで、正規の距離である28メートルから正しく引けるようになることを目指します。

事前・事後学習の内容: 事前学習は特に必要ありません。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ： オリエンテーション （東伏見スポーツホール地下1階弓道場に集合のこと）
授業の進め方、日本の弓道の歴史、弓道場と弓具の説明、授業に際しての注意点、
矢尺の計測、デモンストレーション 教科書の配布(500円)

第2回 ： 射法の説明 「足踏み」「胴造」
ゴム弓と弱い弓を使用して基本動作（素引く）の説明及び練習、足踏み説明、胴造の説明

第3回 ： 弽（ゆがけ）の使用法、矢を番える方法、射法の説明「取懸」「打起」「三分の二」「詰合」
下弽（したがけ）の配布、弽の差し方「ゴム弓と弱い弓を使用して素引きを行う練習」と「弓に矢を番えて弓構（取懸・手の内・物見）までの行う練習」

第4回 ： 手の内（紅葉重ね）の作り方
ゴム弓にて手の内（紅葉重ね）の説明及び練習後、前週と同様に「素引きの練習」と「矢を番えて弓構までの練習」を行う

第5回 ： 矢を発射する直前までの練習、射法の説明「伸合」
「素引きの練習」の後、「矢を番えて足踏みから詰合までの練習」繰り返す

第6回 ： 「角見の動き」の説明、射法の説明「離れ」「残心」
「角見の動き」の説明、射法「離れ」「残心」
ゴム弓による離れの練習、矢の発射（4メートル）

第7回 ： 離れの反復練習（8メートル）
ゴム弓での離れの練習矢を番えての離れの練習（8メートル）

第8回 ： 離れの反復練習（8メートル）
矢を番えての離れの練習（8メートル）

第9回 ： 的の狙い方、12メートルからの反復練習
的の狙い方の説明的に向かい矢を射る（12メートル）
第10回 ： 20メートルからの反復練習
的に向かい矢を射る（20メートル）
第11回 ： 28メートルからの反復練習
正規の距離である、28メートルから矢を射る
第12回 ： 28メートルからの反復練習
正規の距離である、28メートルから矢を射る
第13回 ： 28メートルからの反復練習
正規の距離である、28メートルから矢を射る （含む立ち行射）
第14回 ： 28メートルからの反復練習
正規の距離である、28メートルから矢を射る （含む立ち行射）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「日置當流射術教本」 著者：稲垣源四郎

（第1回授業時に代金500円と引換で配布します。）

参考文献: 「日置流印西派歩射 弓道教本」 著者：稲垣源四郎
「紅葉重ね・離れの時期・弓具の見方と扱い方」 著者：浦上 栄

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 10 1.「射法十節」の中から、選定された2項目について解説する。
2.「授業の感想」

平常点評価: 50 出席を重視する。
特に前半は、毎回「新しい動作」を追加して学ぶので、極力欠席せず継続して受講してください。
止むを得ず欠席する場合は、理由を付して書面又はメールで連絡してください。考慮します。

その他: 40 授業で伝えたことを正しく行えているか、繰り返しの練習の中で確認していきます。
13回・14回の授業では、射法の習得状況を「立ち」形式での実技により確認します。
射法における10の基本項目を正しく実技できるかがポイントです。的中は不問です。
少なくともどちらか1回は出席してください。

備考・関連URL: ・教科書代500円が必要となります。下弾は配布します。
・弓具(弓、矢、弾)については授業用のものを貸与します。(経験者の方でお持ちの方は、自己の弓具を持参しても構いません)

関連URL
東伏見キャンバス 75-3 東伏見スポーツホール地下1階。少し分かり辛いので初回は早めに来て確認してください。(靴は地下1階弓道場内の下駄箱にお持ちください)
https://www.waseda.jp/top/access/higashifushimi-campus

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040008|03|9S07040008[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	弓道 基礎 03		
担 当 教 員	加藤 善行		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 「日置流印西派射法」を学び、正しく安全に矢を飛ばす技術を習得する。

授業概要:

弓矢は世界各地で狩猟のための道具として、戦いの武器として、スポーツの用具として進化して現在も様々な形で継承されています。ただし、道具の素材・形状や射る方法は、各地の環境・文化により違いがあります。日本の弓は、他の国に見ることの出来ない長尺でしなやかで美しい形状へと独特の発展を遂げて、現在に至っています。
現在、日本の弓道にはいくつかの流派が存在しますが、本講座は、室町時代に日置弾正正次(へきだんじょうまさつぐ)により技術的に完成された、日置流(へきりゅう)の流れを汲む一派である「日置流印西派(へきりゅういんさいは)」の射法を通じて、射法の基本を習得しながら、並行して歴史、道具、作法等の講義を行い日本の伝統文化の素晴らしさに接して頂きます。全くの初心者でも、10回程度の授業で的を狙い、安全に発射するところまでは身に付けることができます。そのために基礎講座では、一本の矢を射るために定められた10の基本項目を繰り返しつつ、毎回新しいことを加えながら一連の流れとして身に付けていきます。そのため2週間以上連続して休むとついて行くことが大変になるので、就職活動、教育実習等により休むことがあらかじめわかっている場合には、他の学期に登録することを勧めます。
受講にあたっては、更衣の必要はありませんが、出来るだけ運動のしやすいダボつきの少ない服装としてください。なお、長い爪の方は弓具が装着できません。また、危険防止の観点から、講義中はアクセサリー類は外していただきますのでご留意願います。

授業の到達目標: 射法の基本である一連の動作（10の必須項目）をマスターし、正しい射形で的を狙い、安全な離れを行うことができるようにします。
全くの初心者でも10回程度の講座で、徐々に的までの距離を伸ばしたうえで、正規の距離である28メートルから正しく引けるようになることを目指します。

事前・事後学習の内容: 事前学習は特に必要ありません。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ： オリエンテーション （東伏見スポーツホール地下1階弓道場に集合のこと）
授業の進め方、日本の弓道の歴史、弓道場と弓具の説明、授業に際しての注意点、
矢尺の計測、デモンストレーション 教科書の配布(500円)

第2回 ： 射法の説明 「足踏み」「胴造」
ゴム弓と弱い弓を使用して基本動作（素引く）の説明及び練習、足踏み説明、胴造の説明

第3回 ： 弽（ゆがけ）の使用法、矢を番える方法、射法の説明「取懸」「打起」「三分の二」「詰合」
下弽（したがけ）の配布、弽の差し方「ゴム弓と弱い弓を使用して素引きを行う練習」と「弓に矢を番えて弓構（取懸・手の内・物見）までの行う練習」

第4回 ： 手の内（紅葉重ね）の作り方
ゴム弓にて手の内（紅葉重ね）の説明及び練習後、前週と同様に「素引きの練習」と「矢を番えて弓構までの練習」を行う

第5回 ： 矢を発射する直前までの練習、射法の説明「伸合」
「素引きの練習」の後、「矢を番えて足踏みから詰合までの練習」繰り返す

第6回 ： 「角見の動き」の説明、射法の説明「離れ」「残心」
「角見の動き」の説明、射法「離れ」「残心」
ゴム弓による離れの練習、矢の発射（4メートル）

第7回 ： 離れの反復練習（8メートル）
ゴム弓での離れの練習矢を番えての離れの練習（8メートル）

第8回 ： 離れの反復練習（8メートル）
矢を番えての離れの練習（8メートル）

第9回 ： 的の狙い方、12メートルからの反復練習
的の狙い方の説明的に向かい矢を射る（12メートル）
第10回 ： 20メートルからの反復練習
的に向かい矢を射る（20メートル）
第11回 ： 28メートルからの反復練習
正規の距離である、28メートルから矢を射る
第12回 ： 28メートルからの反復練習
正規の距離である、28メートルから矢を射る
第13回 ： 28メートルからの反復練習
正規の距離である、28メートルから矢を射る （含む立ち行射）
第14回 ： 28メートルからの反復練習
正規の距離である、28メートルから矢を射る （含む立ち行射）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「日置當流射術教本」 著者：稲垣源四郎

（第1回授業時に代金500円と引換で配布します。）

参考文献: 「日置流印西派歩射 弓道教本」 著者：稲垣源四郎
「紅葉重ね・離れの時期・弓具の見方と扱い方」 著者：浦上 栄

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 10 1.「射法十節」の中から、選定された2項目について解説する。
2.「授業の感想」

平常点評価: 50 出席を重視する。
特に前半は、毎回「新しい動作」を追加して学ぶので、極力欠席せず継続して受講してください。
止むを得ず欠席する場合は、理由を付して書面又はメールで連絡してください。考慮します。

その他: 40 授業で伝えたことを正しく行えているか、繰り返しの練習の中で確認していきます。
13回・14回の授業では、射法の習得状況を「立ち」形式での実技により確認します。
射法における10の基本項目を正しく実技できるかがポイントです。的中は不問です。
少なくともどちらか1回は出席してください。

備考・関連URL: ・教科書代500円が必要となります。下弾は配布します。
・弓具(弓、矢、弾)については授業用のものを貸与します。(経験者の方でお持ちの方は、自己の弓具を持参しても構いません)

関連URL
東伏見キャンバス 75-3 東伏見スポーツホール地下1階。少し分かり辛いので初回は早めに来て確認してください。(靴は地下1階弓道場内の下駄箱にお持ちください)
https://www.waseda.jp/top/access/higashifushimi-campus

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040008|04|9S07040008[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	弓道 基礎 04		
担 当 教 員	加藤 善行		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 「日置流印西派射法」を学び、正しく安全に矢を飛ばす技術を習得する。

授業概要:

弓矢は世界各地で狩猟のための道具として、戦いの武器として、スポーツの用具として進化して現在も様々な形で継承されています。ただし、道具の素材・形状や射る方法は、各地の環境・文化により違いがあります。日本の弓は、他の国に見ることの出来ない長尺でしなやかで美しい形状へと独特の発展を遂げて、現在に至っています。
現在、日本の弓道にはいくつかの流派が存在しますが、本講座は、室町時代に日置弾正正次(へきだんじょうまさつぐ)により技術的に完成された、日置流(へきりゅう)の流れを汲む一派である「日置流印西派(へきりゅういんさいは)」の射法を通じて、射法の基本を習得しながら、並行して歴史、道具、作法等の講義を行い日本の伝統文化の素晴らしさに接して頂きます。全くの初心者でも、10回程度の授業で的を狙い、安全に発射するところまでは身に付けることができます。そのために基礎講座では、一本の矢を射るために定められた10の基本項目を繰り返しつつ、毎回新しいことを加えながら一連の流れとして身に付けていきます。そのため2週間以上連続して休むとついて行くことが大変になるので、就職活動、教育実習等により休むことがあらかじめわかっている場合には、他の学期に登録することを勧めます。
受講にあたっては、更衣の必要はありませんが、出来るだけ運動のしやすいダボつきの少ない服装としてください。なお、長い爪の方は弓具が装着できません。また、危険防止の観点から、講義中はアクセサリー類は外していただきますのでご留意願います。

授業の到達目標: 射法の基本である一連の動作（10の必須項目）をマスターし、正しい射形で的を狙い、安全な離れを行うことができるようにします。
全くの初心者でも10回程度の講座で、徐々に的までの距離を伸ばしたうえで、正規の距離である28メートルから正しく引けるようになることを目指します。

事前・事後学習の内容: 事前学習は特に必要ありません。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ： オリエンテーション （東伏見スポーツホール地下1階弓道場に集合のこと）
授業の進め方、日本の弓道の歴史、弓道場と弓具の説明、授業に際しての注意点、
矢尺の計測、デモンストレーション 教科書の配布(500円)

第2回 ： 射法の説明 「足踏み」「胴造」
ゴム弓と弱い弓を使用して基本動作（素引く）の説明及び練習、足踏み説明、胴造の説明

第3回 ： 弽（ゆがけ）の使用法、矢を番える方法、射法の説明「取懸」「打起」「三分の二」「詰合」
下弽（したがけ）の配布、弽の差し方「ゴム弓と弱い弓を使用して素引きを行う練習」と「弓に矢を番えて弓構（取懸・手の内・物見）までの行う練習」

第4回 ： 手の内（紅葉重ね）の作り方
ゴム弓にて手の内（紅葉重ね）の説明及び練習後、前週と同様に「素引きの練習」と「矢を番えて弓構までの練習」を行う

第5回 ： 矢を発射する直前までの練習、射法の説明「伸合」
「素引きの練習」の後、「矢を番えて足踏みから詰合までの練習」繰り返す

第6回 ： 「角見の動き」の説明、射法の説明「離れ」「残心」
「角見の動き」の説明、射法「離れ」「残心」
ゴム弓による離れの練習、矢の発射（4メートル）

第7回 ： 離れの反復練習（8メートル）
ゴム弓での離れの練習矢を番えての離れの練習（8メートル）

第8回 ： 離れの反復練習（8メートル）
矢を番えての離れの練習（8メートル）

第9回 ： 的の狙い方、12メートルからの反復練習
的の狙い方の説明的に向かい矢を射る（12メートル）
第10回 ： 20メートルからの反復練習
的に向かい矢を射る（20メートル）
第11回 ： 28メートルからの反復練習
正規の距離である、28メートルから矢を射る
第12回 ： 28メートルからの反復練習
正規の距離である、28メートルから矢を射る
第13回 ： 28メートルからの反復練習
正規の距離である、28メートルから矢を射る （含む立ち行射）
第14回 ： 28メートルからの反復練習
正規の距離である、28メートルから矢を射る （含む立ち行射）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「日置當流射術教本」 著者：稲垣源四郎

（第1回授業時に代金500円と引換で配布します。）

参考文献: 「日置流印西派歩射 弓道教本」 著者：稲垣源四郎
「紅葉重ね・離れの時期・弓具の見方と扱い方」 著者：浦上 栄

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 10 1.「射法十節」の中から、選定された2項目について解説する。
2.「授業の感想」

平常点評価: 50 出席を重視する。
特に前半は、毎回「新しい動作」を追加して学ぶので、極力欠席せず継続して受講してください。
止むを得ず欠席する場合は、理由を付して書面又はメールで連絡してください。考慮します。

その他: 40 授業で伝えたことを正しく行えているか、繰り返しの練習の中で確認していきます。
13回・14回の授業では、射法の習得状況を「立ち」形式での実技により確認します。
射法における10の基本項目を正しく実技できるかがポイントです。的中は不問です。
少なくともどちらか1回は出席してください。

備考・関連URL: ・教科書代500円が必要となります。下弾は配布します。
・弓具(弓、矢、弾)については授業用のものを貸与します。(経験者の方でお持ちの方は、自己の弓具を持参しても構いません)

関連URL
東伏見キャンバス 75-3 東伏見スポーツホール地下1階。少し分かり辛いので初回は早めに来て確認してください。(靴は地下1階弓道場内の下駄箱にお持ちください)
https://www.waseda.jp/top/access/higashifushimi-campus

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040009|01|9S07040009[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	剣道 基礎 01		
担 当 教 員	吉村 哲夫		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

剣道は、日本の伝統文化として育まれ現在に至っている。本科目では、剣道の基本的な考え方や技術の習得を目指して授業が展開される。対象となるのは主に、初心者および初級段階の学生が中心である。もちろん、剣道の経験者でもう1度基本的な所作事や技術を新たに学ぶことも可能である。個人的技術を中心に応用動作（対人的技術）に発展させることを目的として授業を展開する。授業では剣道の基礎的な技能と共に「木刀による剣道基本技稽古法」の習得を目指す。授業を通じて、剣道の特性を理解し、応用段階に通じる相手との攻防の楽しさを経験してもらいたい。なお、この科目は対面授業を行う予定であるが、変更等は事前にmoodleにて連絡するので、授業参加の前に必ず確認しておくこと。成績評価の方法および割合については授業の実施形態によって変更することもある。

授業の到達目標：

実技においては、基本的な技術を習得したうえで、応用段階に通じる攻防ができるようにする。「木刀による剣道基本技稽古法」の構成を理解し、演武ができるようになること、および、剣道具を着装して基礎的な「切り返し」と「約束稽古」が出来るようになることが目標である。また、剣道を日本の伝統的な文化として位置づけ、歴史や文化性について理解を深めることも目標とする。

事前・事後学習の内容：

事前に剣道の歴史について学習しておくことが望ましい。また授業に際しては前回の内容について復習しておくことが望ましい。

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回オリエンテーション（対面）
本科目の目的と概要等について説明。対面で行います。

第2回基本動作（個人的技術）を中心に礼法・姿勢と構え方・足さばき
基礎・基本動作について学ぶ。対面で行います。

第3回素振り・打突の仕方・打たせ方および受け方（対面実技）
素振りと打突の仕方。打たせ方および受け方を学ぶ。
剣道基本技稽古法1

第4回素振り・打突の仕方・打たせ方および受け方（対面実技）
素振りと打突の仕方。打たせ方および受け方を学ぶ
剣道基本技稽古法1～2
剣道具の着装について

第5回剣道の基本技（しかけ技）を中心に（対面実技）
しかけ技一本打ちの技を中心に学ぶ
剣道基本技稽古法1～3

第6回剣道の基本技（しかけ技）を中心に（対面実技）
しかけ技一本打ちの技を中心に学ぶ
剣道基本技稽古法1～4

第7回剣道の基本技（しかけ技）を中心に（対面実技）
しかけ技一本打ちの技を中心に学ぶ
剣道基本技稽古法1～5

第8回剣道の基本技（応じ技）を中心に（対面実技）
応じ技の基本的なやり方について学ぶ
剣道基本技稽古法1～6

第9回剣道の基本技（応じ技）を中心に（対面実技）
応じ技の基本的なやり方について学ぶ
剣道基本技稽古法1～7

第１０回剣道具を着装した総合的練習（対面実技）
剣道基本技稽古法１～８
切り返し・打ち込み
第１１回剣道基本技稽古法の習得（対面実技）
剣道基本技稽古法１～９
切り返し・打ち込み
第１２回剣道基本技稽古法の習得と展開（対面実技）
基本技稽古法１～９
切り返し・打ち込み・地稽古

第１３回剣道基本技稽古法の習得と展開（対面実技）
基本技稽古法１～９
切り返し・打ち込み・地稽古　実技テストの説明
第１４回剣道基本技稽古法の習得および実技テスト（対面実技）
基本技稽古法1から9までを対象に実技試験を行う
切り返し・打ち込みの実技テスト練習

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 教科書は特に指定しない。

参考文献: 「剣道を知る事典」東京堂出版

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40　基本技術の習得状況をテストする。評価は「よくできる」「できる」「できない」の三段階評価（絶対評価）とする。

平常点評価: 60　出席の状況および受講時の態度や姿勢を評価する。

備考・関連URL: 剣道具および竹刀については大学の備品を使用するので個人で準備する必要は特にない。（個人の用具を使用することも可）特に稽古着や袴を準備する必要はない。長袖のトレーニングウエアを着用のこと。実技授業の場合、面手拭いが必要となるので各自準備が必要。詳細については第１回目のオリエンテーション時に発表する。（対面実施の予定）

関連URL:
全日本剣道連盟
http://www.kendo.or.jp/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040009|02|9S07040009[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	剣道 基礎 02		
担 当 教 員	吉村 哲夫		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

剣道は、日本の伝統文化として育まれ現在に至っている。本科目では、剣道の基本的な考え方や技術の習得を目指して授業が展開される。対象となるのは主に、初心者および初級段階の学生が中心である。もちろん、剣道の経験者でもう1度基本的な所作事や技術を新たに学ぶことも可能である。個人的技術を中心に応用動作（対人的技術）に発展させることを目的として授業を展開する。授業では剣道の基礎的な技能と共に「木刀による剣道基本技稽古法」の習得を目指す。授業を通じて、剣道の特性を理解し、応用段階に通じる相手との攻防の楽しさを経験してもらいたい。なお、この科目は対面授業を行う予定であるが、変更等は事前にmoodleにて連絡するので、授業参加の前に必ず確認しておくこと。成績評価の方法および割合については授業の実施形態によって変更することもある。

授業の到達目標：

実技においては、基本的な技術を習得したうえで、応用段階に通じる攻防ができるようにする。「木刀による剣道基本技稽古法」の構成を理解し、演武ができるようになること、および、剣道具を着装して基礎的な「切り返し」と「約束稽古」が出来るようになることが目標である。また、剣道を日本の伝統的な文化として位置づけ、歴史や文化性について理解を深めることを目標とする。

事前・事後学習の内容：

事前に前回の内容について復習しておくことが望ましい。実技科目のルール、歴史などを各自で学修しておくこと。

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回オリエンテーション（対面）
本科目の目的と概要等について説明。対面で行います。

第2回基本動作（個人的技術）を中心に礼法・姿勢と構え方・足さばき（対面実技）
基礎・基本動作について学ぶ。対面で行います。

第3回素振り・打突の仕方・打たせ方および受け方（対面実技）
素振りと打突の仕方。打たせ方および受け方を学ぶ。
剣道基本技稽古法1

第4回素振り・打突の仕方・打たせ方および受け方（対面実技）
素振りと打突の仕方。打たせ方および受け方を学ぶ
剣道基本技稽古法1～2
剣道具の着装について

第5回剣道の基本技（しかけ技）を中心に（対面実技）
しかけ技一本打ちの技を中心に学ぶ
剣道基本技稽古法1～3

第6回剣道の基本技（しかけ技）を中心に（対面実技）
しかけ技一本打ちの技を中心に学ぶ
剣道基本技稽古法1～4

第7回剣道の基本技（しかけ技）を中心に（対面実技）
しかけ技一本打ちの技を中心に学ぶ
剣道基本技稽古法1～5

第8回剣道の基本技（応じ技）を中心に（対面実技）
応じ技の基本的なやり方について学ぶ
剣道基本技稽古法1～6

第9回剣道の基本技（応じ技）を中心に（対面実技）
応じ技の基本的なやり方について学ぶ
剣道基本技稽古法1～7

第１０回剣道具を着装した総合的練習（対面実技）
剣道基本技稽古法１～８
切り返し・打ち込み
第１１回剣道基本技稽古法の習得（対面実技）
剣道基本技稽古法１～９
切り返し・打ち込み
第１２回剣道基本技稽古法の習得と展開（対面実技）
基本技稽古法１～９
切り返し・打ち込み・地稽古

第１３回剣道基本技稽古法の習得と展開（対面実技）
基本技稽古法１～９
切り返し・打ち込み・地稽古　実技テストの説明
第１４回剣道基本技稽古法の習得および実技テスト（対面実技）
基本技稽古法1から9までを対象に実技試験を行う
切り返し・打ち込みの実技テスト練習

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 教科書は特に指定しない。

参考文献: 「剣道を知る事典」東京堂出版

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40　基本技術の習得状況をテストする。評価は「よくできる」「できる」「できない」の三段階評価（絶対評価）とする。

平常点評価: 60　出席の状況および受講時の態度や姿勢を評価する。

備考・関連URL: 剣道具および竹刀については大学の備品を使用するので個人で準備する必要は特にない。（個人の用具を使用することも可）特に稽古着や袴を準備する必要はない。長袖のトレーニングウエアを着用のこと。実技授業の場合、面手拭いが必要となるので各自準備が必要。詳細については第１回目のオリエンテーション時に発表する。オリエンテーションはオンライン（オンデマンド）で行います。

関連URL:
全日本剣道連盟
http://www.kendo.or.jp/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040009|03|9S07040009[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	剣道 基礎 03		
担 当 教 員	吉村 哲夫		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

剣道は、日本の伝統文化として育まれ現在に至っている。本科目では、剣道の基本的な考え方や技術の習得を目指して授業が展開される。対象となるのは主に、初心者および初級段階の学生が中心である。もちろん、剣道の経験者でもう1度基本的な所作事や技術を新たに学ぶことも可能である。個人的技術を中心に応用動作（対人的技術）に発展させることを目的として授業を展開する。授業では剣道の基礎的な技能と共に「木刀による剣道基本技稽古法」の習得を目指す。授業を通じて、剣道の特性を理解し、応用段階に通じる相手との攻防の楽しさを経験してもらいたい。なお、この科目は対面授業を行う予定であるが、変更等は事前にmoodleにて連絡するので、授業参加の前に必ず確認しておくこと。成績評価の方法および割合については授業の実施形態によって変更することもある。

授業の到達目標：

実技においては、基本的な技術を習得したうえで、応用段階に通じる攻防ができるようにする。「木刀による剣道基本技稽古法」の構成を理解し、演武ができるようになること、および、剣道具を着装して基礎的な「切り返し」と「約束稽古」が出来るようになることが目標である。また、剣道を日本の伝統的な文化として位置づけ、歴史や文化性について理解を深めることを目標とする。

事前・事後学習の内容：

事前に前回の内容について復習しておくことが望ましい。実技科目のルール、歴史などを各自で学修しておくこと。

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回オリエンテーション
本科目の目的と概要等について説明。対面で行います。

第2回基本動作（個人的技術）を中心に礼法・姿勢と構え方・足さばき
基礎・基本動作について学ぶ。対面実技。

第3回素振り・打突の仕方・打たせ方および受け方
素振りと打突の仕方。打たせ方および受け方を学ぶ。
剣道基本技稽古法1

第4回素振り・打突の仕方・打たせ方および受け方
素振りと打突の仕方。打たせ方および受け方を学ぶ
剣道基本技稽古法1～2
剣道具の着装について

第5回剣道の基本技（しかけ技）を中心に
しかけ技一本打ちの技を中心に学ぶ
剣道基本技稽古法1～3

第6回剣道の基本技（しかけ技）を中心に
しかけ技一本打ちの技を中心に学ぶ
剣道基本技稽古法1～4

第7回剣道の基本技（しかけ技）を中心に
しかけ技一本打ちの技を中心に学ぶ
剣道基本技稽古法1～5

第8回剣道の基本技（応じ技）を中心に
応じ技の基本的なやり方について学ぶ
剣道基本技稽古法1～6

第9回剣道の基本技（応じ技）を中心に
応じ技の基本的なやり方について学ぶ
剣道基本技稽古法1～7

第１０回剣道具を着装した総合的練習
剣道基本技稽古法１～８
切り返し・打ち込み
第１１回剣道基本技稽古法の習得
剣道基本技稽古法１～９
切り返し・打ち込み
第１２回剣道基本技稽古法の習得と展開
基本技稽古法１～９
切り返し・打ち込み・地稽古

第１３回剣道基本技稽古法の習得と展開
基本技稽古法１～９
切り返し・打ち込み・地稽古　実技テストの説明
第１４回剣道基本技稽古法の習得および実技テスト
基本技稽古法1から9までを対象に実技試験を行う
切り返し・打ち込みの実技テスト練習

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 教科書は特に指定しない。

参考文献: 「剣道を知る事典」東京堂出版

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40　基本技術の習得状況をテストする。評価は「よくできる」「できる」「できない」の三段階評価（絶対評価）とする。

平常点評価: 60　出席の状況および受講時の態度や姿勢を評価する。

備考・関連URL: 剣道具および竹刀については大学の備品を使用するので個人で準備する必要は特にない。（個人の用具を使用することも可）特に稽古着や袴を準備する必要はない。長袖のトレーニングウエアを着用のこと。実技授業の場合、面手拭いが必要となるので各自準備が必要。詳細については第１回目のオリエンテーション時に発表する。（対面実施の予定）

関連URL:
全日本剣道連盟
http://www.kendo.or.jp/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040010|02|9S07040010[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ゴルフ 基礎 02		
担 当 教 員	土屋 圭吾		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

ゴルフは今や幅広い健康ニーズの中で、レクリエーションとして、又、生涯スポーツとして世界に広く普及しています。それは、日本におけるゴルフ場の数（世界第2位、約2,150ヶ所）、ゴルフ人口（世界2位、約810万人）や国体の競技種目として各都道府県にもゴルフ団体が作られ、各市町村で数多くの大会が開催されていることからも明白です。ジュニア（6-17才）からシニア（60才以上）、グランドシニア（70才以上）、ゴールドシニア（80才以上）まで、ライフステージ全般に渡って幅広い年齢層で競技が行われ、ハンディキャップ制度などにより、年齢や体力の差異に左右されないスポーツでもあります。2020年の東京オリンピック大会でも正式種目として選ばれ、今後も参加志向、競技志向が高まることと思われます。ゴルフは生涯スポーツとして、又社会へ出てからのコミュニケーションツールとして、親子3代で一緒に楽しめるスポーツです。ゴルフ基礎授業は基本的に実技授業になりますが、ゴルフコースでのルール、エチケット、マナーやゴルフ理論を学び、学生時代にゴルフの入り口編として受講されることをお推めします。

授業の到達目標：

最終目標はコースへ出られるようになること、こんな希望をする学生が多いです。期待に応えられるよう、14回の授業では、ルール、エチケット、マナーから始まって、ゴルフの特性、歴史、スイング理論をルールブックやテキストを使用しながら理解してもらい、実技は各クラブでのショットだけでなくパッティングやバンカーショットまで体験していただきます。
フルスイングができるレベルを目指します。

事前・事後学習の内容：

事前学修：
・実技科目のルール、歴史などを各自で学修しておくこと。ゴルフトーナメントのテレビ中継等、ゴルフ関連番組、映像を積極的に視聴すること。
・Moodle上のコンテンツを授業前に確認すること。

事後学修：
・修得した技術を次回授業や打ち放しゴルフ練習場での実技復習、ルール、マナーの実践できるようにすること。
・TV他映像などで授業内容を復習すること。

『事前学習として、実技科目のルール、歴史は、60分程度の時間をかけることが望ましい』

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 実技指導
オリエンテーション（授業の目標、授業の進め方、評価等）
・ルールブック：ゲームの基礎 規則1～4
・テキスト：ゴルフの歴史、G・A・P、コントロールスイングYTA ・実技：グリップの握り方、エイムの取り方、構え方、Aｽｲﾝｸﾞ

第2回 実技指導
・ルールブック：ゲームの基礎 規則1～4
・テキスト：G・A・P、コントロールYTA、パッティング
・実技 グリップの握り方、エイムの取り方、構え方、Aスイング、パッティング

第3回 実技指導
・ルールブック：ラウンドとホールをプレーする 規則5～6
・テキスト：G・A・P、5つの法則、9つの球筋
・実技 グリップの握り方、エイムの取り方、構え方、Aｽｲﾝｸﾞ

第4回 実技指導
・ルールブック：ラウンドとホールをプレーする 規則5～6
・テキスト：コントロールスイングYTA、スイングセオリー（オルガニックアーム）、スイングコンポーネント

・実技 グリップの握り方、エイムの取り方、構え方、Aｽｲﾝｸﾞ、Tｽｲﾝｸﾞ

第5回　実技指導

・ルールブック：球をプレーすること　規則7～11
・テキスト：テンポ・リズム・タイミング、スイングセオリー（スイングセンター）
・実技　グリップの握り方、エイムの取り方、構え方チェック、Tｽｲﾝｸﾞ

第6回　実技指導

・ルールブック：球をプレーすること　規則7～11
・テキスト：スイングセオリー（レフトリストポジション）
・実技　グリップの握り方、エイムの取り方、構え方チェック、Tｽｲﾝｸﾞ、GAPとTスイングチェック

第7回　実技指導

・ルールブック：球をプレーすること　規則7～11
・テキスト：スイングセオリー（アイデアルプレーン）
・実技　スイング構築、Yスイング

第8回　実技指導

・ルールブック：球をプレーすること　規則7～11
・テキスト：スイングセオリー（トライアングルフォーメーション）
・実技　スイング構築、Yスイング

第9回　実技指導

・ルールブック：バンカーとパッティンググリーンのための特別規則　規則12～13
・テキスト：クラブ別機能、フルモーションスイング
・実技　スイング構築、Yスイング

第10回　実技指導

・ルールブック：バンカーとパッティンググリーンのための特別規則　規則12～13
・テキスト：グリンサードバンカー、パッティング
・実技　バンカーショット、パッティング、パッティングチェック、アプローチチェック

第11回　実技指導

・ルールブック：罰なしの救済　規則15～16
・テキスト：スイングセオリー（リズミカルスイング）
・実技　フルモーション　ミドルアイアン

第12回　実技指導

・ルールブック：罰なしの救済　規則15～16
・テキスト：スイングセオリー（グランドアークレングス）
・実技　フルモーション　ミドルアイアン

第13回　実技指導

・ルールブック：罰ありの救済　規則17～19
・テキスト：スイングセオリー（ヒッティングゾーン）
・実技　フルモーション　ロングアイアン、フェアウェイウッド、ドライバー

第14回 実技指導

・ルールブック：罰ありの救済　規則17～19
・テキスト：スイングセオリー（ユアウェイトシフト）
・実技　フルモーション　ロングアイアン、フェアウェイウッド、ドライバー、ドライバーショットチェック

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　ゴルフスクールテキスト
日本ゴルフ協会規則書

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　30　GAP（グリップ、アドレス、ポジション）ゴルフの基本となる三つの要素と、Tスイング、パッティング、ショートアプローチ、ドライバーショットをチェックします。

平常点評価：　70　体育の授業の基本は出席すること。頭で理解できても、身体を動かすことのギャップをいかに埋めるか。その為には、ボールをたくさん打つこと（数は力なり）。服装、授業の始め、終わりを含め取り組む心構え、受講姿勢も評価します。

備考・関連URL：　・第一週のオリエンテーションから高等学院（上石神井）のゴルフ練習場で行います。
・用具について：授業用クラブを用意してありますので不要です。
自分専用クラブも持参、使用可。
・服装について：運動ができるような服装なら何でも可。靴は運動靴とします。更衣室有り。
・授業の休講について：台風のような大雨、雪等で練習場が使用できないとき。・教科書について：授業時に貸与します。
・バンカー、パッティング実技は天候などにより日程の変更があります。

・車、バイクでの通学はできません。

関連URL:
上石神井ゴルフ練習場

https://www.waseda.jp/inst/gec/assets/uploads/2019/04/8e94e2c4a420219a1a5898580f0b2d1f.pdf

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040010|03|9S07040010[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ゴルフ 基礎 03		
担 当 教 員	土屋 圭吾		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

ゴルフは今や幅広い健康ニーズの中で、レクリエーションとして、又、生涯スポーツとして世界に広く普及しています。それは、日本におけるゴルフ場の数（世界第2位、約2,150ヶ所）、ゴルフ人口（世界2位、約810万人）や国体の競技種目として各都道府県にもゴルフ団体が作られ、各市町村で数多くの大会が開催されていることからも明白です。ジュニア（6-17才）からシニア（60才以上）、グランドシニア（70才以上）、ゴールドシニア（80才以上）まで、ライフステージ全般に渡って幅広い年齢層で競技が行われ、ハンディキャップ制度などにより、年齢や体力の差異に左右されないスポーツでもあります。2020年の東京オリンピック大会でも正式種目として選ばれ、今後も参加志向、競技志向が高まることと思われます。ゴルフは生涯スポーツとして、又社会へ出てからのコミュニケーションツールとして、親子3代で一緒に楽しめるスポーツです。ゴルフ基礎授業は基本的に実技授業になりますが、ゴルフコースでのルール、エチケット、マナーやゴルフ理論を学び、学生時代にゴルフの入り口編として受講されることをお推めします。

授業の到達目標：

最終目標はコースへ出られるようになること、こんな希望をする学生が多いです。期待に応えられるよう、14回の授業では、ルール、エチケット、マナーから始まって、ゴルフの特性、歴史、スイング理論をルールブックやテキストを使用しながら理解してもらい、実技は各クラブでのショットだけでなくパッティングやバンカーショットまで体験していただきます。
フルスイングができるレベルを目指します。

事前・事後学習の内容：

事前学修：
・実技科目のルール、歴史などを各自で学修しておくこと。ゴルフトーナメントのテレビ中継等、ゴルフ関連番組、映像を積極的に視聴すること。
・Moodle上のコンテンツを授業前に確認すること。

事後学修：
・修得した技術を次回授業や打ち放しゴルフ練習場での実技復習、ルール、マナーの実践できるようにすること。
・TV他映像などで授業内容を復習すること。

『事前学習として、実技科目のルール、歴史は、60分程度の時間をかけることが望ましい』

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 実技指導
オリエンテーション（授業の目標、授業の進め方、評価等）
・ルールブック：ゲームの基礎 規則1～4
・テキスト：ゴルフの歴史、G・A・P、コントロールスイングYTA ・実技：グリップの握り方、エイムの取り方、構え方、Aｽｲﾝｸﾞ

第2回 実技指導
・ルールブック：ゲームの基礎 規則1～4
・テキスト：G・A・P、コントロールYTA、パッティング
・実技 グリップの握り方、エイムの取り方、構え方、Aスイング、パッティング

第3回 実技指導
・ルールブック：ラウンドとホールをプレーする 規則5～6
・テキスト：G・A・P、5つの法則、9つの球筋
・実技 グリップの握り方、エイムの取り方、構え方、Aｽｲﾝｸﾞ

第4回 実技指導
・ルールブック：ラウンドとホールをプレーする 規則5～6
・テキスト：コントロールスイングYTA、スイングセオリー（オルガニックアーム）、スイングコンポーネント

・実技 グリップの握り方、エイムの取り方、構え方、Aｽｲﾝｸﾞ、Tｽｲﾝｸﾞ

第5回　実技指導

・ルールブック：球をプレーすること　規則7～11
・テキスト：テンポ・リズム・タイミング、スイングセオリー（スイングセンター）
・実技　グリップの握り方、エイムの取り方、構え方チェック、Tｽｲﾝｸﾞ

第6回　実技指導

・ルールブック：球をプレーすること　規則7～11
・テキスト：スイングセオリー（レフトリストポジション）
・実技　グリップの握り方、エイムの取り方、構え方チェック、Tｽｲﾝｸﾞ、GAPとTスイングチェック

第7回　実技指導

・ルールブック：球をプレーすること　規則7～11
・テキスト：スイングセオリー（アイデアルプレーン）
・実技　スイング構築、Yスイング

第8回　実技指導

・ルールブック：球をプレーすること　規則7～11
・テキスト：スイングセオリー（トライアングルフォーメーション）
・実技　スイング構築、Yスイング

第9回　実技指導

・ルールブック：バンカーとパッティンググリーンのための特別規則　規則12～13
・テキスト：クラブ別機能、フルモーションスイング
・実技　スイング構築、Yスイング

第10回　実技指導

・ルールブック：バンカーとパッティンググリーンのための特別規則　規則12～13
・テキスト：グリンサードバンカー、パッティング
・実技　バンカーショット、パッティング、パッティングチェック、アプローチチェック

第11回　実技指導

・ルールブック：罰なしの救済　規則15～16
・テキスト：スイングセオリー（リズミカルスイング）
・実技　フルモーション　ミドルアイアン

第12回　実技指導

・ルールブック：罰なしの救済　規則15～16
・テキスト：スイングセオリー（グランドアークレングス）
・実技　フルモーション　ミドルアイアン

第13回　実技指導

・ルールブック：罰ありの救済　規則17～19
・テキスト：スイングセオリー（ヒッティングゾーン）
・実技　フルモーション　ロングアイアン、フェアウェイウッド、ドライバー

第14回 実技指導

・ルールブック：罰ありの救済　規則17～19
・テキスト：スイングセオリー（ユアウェイトシフト）
・実技　フルモーション　ロングアイアン、フェアウェイウッド、ドライバー、ドライバーショットチェック

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　ゴルフスクールテキスト
日本ゴルフ協会規則書

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　30　GAP（グリップ、アドレス、ポジション）ゴルフの基本となる三つの要素と、Tスイング、パッティング、ショートアプローチ、ドライバーショットをチェックします。

平常点評価：　70　体育の授業の基本は出席すること。頭で理解できても、身体を動かすことのギャップをいかに埋めるか。その為には、ボールをたくさん打つこと（数は力なり）。服装、授業の始め、終わりを含め取り組む心構え、受講姿勢も評価します。

備考・関連URL：　・第一週のオリエンテーションから高等学院（上石神井）のゴルフ練習場で行います。
・用具について：授業用クラブを用意してありますので不要です。
自分専用クラブも持参、使用可。
・服装について：運動ができるような服装なら何でも可。靴は運動靴とします。更衣室有り。
・授業の休講について：台風のような大雨、雪等で練習場が使用できないとき。・教科書について：授業時に貸与します。
・バンカー、パッティング実技は天候などにより日程の変更があります。

・車、バイクでの通学はできません。

関連URL:
上石神井ゴルフ練習場

https://www.waseda.jp/inst/gec/assets/uploads/2019/04/8e94e2c4a420219a1a5898580f0b2d1f.pdf

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040010|04|9S07040010[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ゴルフ 基礎 04		
担 当 教 員	土屋 圭吾		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ゴルフは今や幅広い健康ニーズの中で、レクリエーションとして、又、生涯スポーツとして世界に広く普及しています。それは、日本におけるゴルフ場の数（世界第2位、約2,150ヶ所）、ゴルフ人口（世界2位、約810万人）や国体の競技種目として各都道府県にもゴルフ団体が作られ、各市町村で数多くの大会が開催されていることからも明白です。ジュニア（6-17才）からシニア（60才以上）、グランドシニア（70才以上）、ゴールドシニア（80才以上）まで、ライフステージ全般に渡って幅広い年齢層で競技が行われ、ハンディキャップ制度などにより、年齢や体力の差異に左右されないスポーツでもあります。2020年の東京オリンピック大会でも正式種目として選ばれ、今後も参加志向、競技志向が高まることと思われます。ゴルフは生涯スポーツとして、又社会へ出てからのコミュニケーションツールとして、親子3代で一緒に楽しめるスポーツです。ゴルフ基礎授業は基本的に実技授業になりますが、ゴルフコースでのルール、エチケット、マナーやゴルフ理論を学び、学生時代にゴルフの入り口編として受講されることをお推めします。

授業の到達目標: 最終目標はコースへ出られるようになること、こんな希望をする学生が多いです。期待に応えられるよう、14回の授業では、ルール、エチケット、マナーから始まって、ゴルフの特性、歴史、スイング理論をルールブックやテキストを使用しながら理解してもらい、実技は各クラブでのショットだけでなくパッティングやバンカーショットまで体験していただきます。
フルスイングができるレベルを目指します。

事前・事後学習の内容: 事前学修:
・実技科目のルール、歴史などを各自で学修しておくこと。ゴルフトーナメントのテレビ中継等、ゴルフ関連番組、映像を積極的に視聴すること。
・Moodle上のコンテンツを授業前に確認すること。

事後学修:
・修得した技術を次回授業や打ち放しゴルフ練習場での実技復習、ルール、マナーの実践できるようにすること。
・TV他映像などで授業内容を復習すること。

『事前学習として、実技科目のルール、歴史は、60分程度の時間をかけることが望ましい』

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 実技指導

オリエンテーション（授業の目標、授業の進め方、評価等）
・ルールブック：ゲームの基礎 規則1～4
・テキスト：ゴルフの歴史、G・A・P、コントロールスイングYTA ・実技：グリップの握り方、エイムの取り方、構え方、Aｽｲﾝｸﾞ

第2回 実技指導

・ルールブック：ゲームの基礎 規則1～4
・テキスト：G・A・P、コントロールYTA、パッティング
・実技 グリップの握り方、エイムの取り方、構え方、Aスイング、パッティング

第3回 実技指導

・ルールブック：ラウンドとホールをプレーする 規則5～6
・テキスト：G・A・P、5つの法則、9つの球筋
・実技 グリップの握り方、エイムの取り方、構え方、Aｽｲﾝｸﾞ

第4回 実技指導

・ルールブック：ラウンドとホールをプレーする 規則5～6
・テキスト：コントロールスイングYTA、スイングセオリー（オルガニックアーム）、スイングコンポーネント

・実技 グリップの握り方、エイムの取り方、構え方、Aｽｲﾝｸﾞ、Tｽｲﾝｸﾞ

第5回 実技指導

・ルールブック：球をプレーすること 規則7～11
・テキスト：テンポ・リズム・タイミング、スイングセオリー（スイングセンター）
・実技 グリップの握り方、エイムの取り方、構え方チェック、Tｽｲﾝｸﾞ

第6回　実技指導

・ルールブック：球をプレーすること　規則7～11
・テキスト：スイングセオリー（レフトリストポジション）
・実技　グリップの握り方、エイムの取り方、構え方チェック、Tｽｲﾝｸﾞ、GAPとTスイングチェック

第7回　実技指導

・ルールブック：球をプレーすること　規則7～11
・テキスト：スイングセオリー（アイデアルプレーン）
・実技　スイング構築、Yスイング

第8回　実技指導

・ルールブック：球をプレーすること　規則7～11
・テキスト：スイングセオリー（トライアングルフォーメーション）
・実技　スイング構築、Yスイング

第9回　実技指導

・ルールブック：バンカーとパッティンググリーンのための特別規則　規則12～13
・テキスト：クラブ別機能、フルモーションスイング
・実技　スイング構築、Yスイング

第10回　実技指導

・ルールブック：バンカーとパッティンググリーンのための特別規則　規則12～13
・テキスト：グリンサードバンカー、パッティング
・実技　バンカーショット、パッティング、パッティングチェック、アプローチチェック

第11回　実技指導

・ルールブック：罰なしの救済　規則15～16
・テキスト：スイングセオリー（リズミカルスイング）
・実技　フルモーション　ミドルアイアン

第12回　実技指導

・ルールブック：罰なしの救済　規則15～16
・テキスト：スイングセオリー（グランドアークレングス）
・実技　フルモーション　ミドルアイアン

第13回　実技指導

・ルールブック：罰ありの救済　規則17～19
・テキスト：スイングセオリー（ヒッティングゾーン）
・実技　フルモーション　ロングアイアン、フェアウェイウッド、ドライバー

第14回 実技指導

・ルールブック：罰ありの救済　規則17～19
・テキスト：スイングセオリー（ユアウェイトシフト）
・実技　フルモーション　ロングアイアン、フェアウェイウッド、ドライバー、ドライバーショットチェック

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　ゴルフスクールテキスト
日本ゴルフ協会規則書

参考文献：　最近のテレビ中継、映像は非常にリアルでコースに出ているように楽しめます。プロ・アマ問わず、男女とも国内外試合の（トーナメント等）テレビ中継、映像をできるだけたくさん見ること。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　30　GAP（グリップ、アドレス、ポジション）ゴルフの基本となる三つの要素と、Tスイング、パッティング、ショートアプローチ、ドライバーショットをチェックします。

平常点評価：　70　体育の授業の基本は出席すること。頭で理解できても、身体を動かすことのギャップをいかに埋めるか。その為には、ボールをたくさん打つこと（数は力なり）。服装、授業の始め、終わりを含め取り組む心構え、受講姿勢も評価する。

備考・関連URL：　・第一週のオリエンテーションから高等学院（上石神井）のゴルフ練習場で行います。
・用具について：授業用クラブを用意してありますので不要です。
自分専用クラブも持参、使用可。
・服装について：運動ができるような服装なら何でも可。靴は運動靴とします。更衣室有り。
・授業の休講について：台風のような大雨、雪等で練習場が使用できないとき。・教科書について：授業時に貸与します。
・バンカー、パッティング実技は天候などにより日程の変更があります。

・車、バイクでの通学はできません。

関連URL:
上石神井ゴルフ練習場
https://www.waseda.jp/inst/gec/assets/uploads/2019/04/8e94e2c4a420219a1a5898580f0b2d1f.pdf

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040010|05|9S07040010[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ゴルフ 基礎 05		
担 当 教 員	土屋 圭吾		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

ゴルフは今や幅広い健康ニーズの中で、レクリエーションとして、又、生涯スポーツとして世界に広く普及しています。それは、日本におけるゴルフ場の数（世界第2位、約2,150ヶ所）、ゴルフ人口（世界2位、約810万人）や国体の競技種目として各都道府県にもゴルフ団体が作られ、各市町村で数多くの大会が開催されていることからも明白です。ジュニア（6-17才）からシニア（60才以上）、グランドシニア（70才以上）、ゴールドシニア（80才以上）まで、ライフステージ全般に渡って幅広い年齢層で競技が行われ、ハンディキャップ制度などにより、年齢や体力の差異に左右されないスポーツでもあります。2020年の東京オリンピック大会でも正式種目として選ばれ、今後も参加志向、競技志向が高まることと思われます。ゴルフは生涯スポーツとして、又社会へ出てからのコミュニケーションツールとして、親子3代で一緒に楽しめるスポーツです。ゴルフ基礎授業は基本的に実技授業になりますが、ゴルフコースでのルール、エチケット、マナーやゴルフ理論を学び、学生時代にゴルフの入り口編として受講されることをお推めします。

授業の到達目標:

最終目標はコースへ出られるようになること、こんな希望をする学生が多いです。期待に応えられるよう、14回の授業では、ルール、エチケット、マナーから始まって、ゴルフの特性、歴史、スイング理論をルールブックやテキストを使用しながら理解してもらい、実技は各クラブでのショットだけでなくパッティングやバンカーショットまで体験していただきます。
フルスイングができるレベルを目指します。

事前・事後学習の内容:

事前学修:
・実技科目のルール、歴史などを各自で学修しておくこと。ゴルフトーナメントのテレビ中継等、ゴルフ関連番組、映像を積極的に視聴すること。
・Moodle上のコンテンツを授業前に確認すること。

事後学修:
・修得した技術を次回授業や打ち放しゴルフ練習場での実技復習、ルール、マナーの実践できるようにすること。
・TV他映像などで授業内容を復習すること。

『事前学習として、実技科目のルール、歴史は、60分程度の時間をかけることが望ましい』

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 実技指導
オリエンテーション（授業の目標、授業の進め方、評価等）
・ルールブック：ゲームの基礎 規則1～4
・テキスト：ゴルフの歴史、G・A・P、コントロールスイングYTA ・実技：グリップの握り方、エイムの取り方、構え方、Aｽｲﾝｸﾞ

第2回 実技指導
・ルールブック：ゲームの基礎 規則1～4
・テキスト：G・A・P、コントロールYTA、パッティング
・実技 グリップの握り方、エイムの取り方、構え方、Aスイング、パッティング

第3回 実技指導
・ルールブック：ラウンドとホールをプレーする 規則5～6
・テキスト：G・A・P、5つの法則、9つの球筋
・実技 グリップの握り方、エイムの取り方、構え方、Aｽｲﾝｸﾞ

第4回 実技指導
・ルールブック：ラウンドとホールをプレーする 規則5～6
・テキスト：コントロールスイングYTA、スイングセオリー（オルガニックアーム）、スイングコンポーネント

・実技 グリップの握り方、エイムの取り方、構え方、Aｽｲﾝｸﾞ、Tｽｲﾝｸﾞ

第5回　実技指導

・ルールブック：球をプレーすること　規則7～11
・テキスト：テンポ・リズム・タイミング、スイングセオリー（スイングセンター）
・実技　グリップの握り方、エイムの取り方、構え方チェック、Tｽｲﾝｸﾞ

第6回　実技指導

・ルールブック：球をプレーすること　規則7～11
・テキスト：スイングセオリー（レフトリストポジション）
・実技　グリップの握り方、エイムの取り方、構え方チェック、Tｽｲﾝｸﾞ、GAPとTスイングチェック

第7回　実技指導

・ルールブック：球をプレーすること　規則7～11
・テキスト：スイングセオリー（アイデアルプレーン）
・実技　スイング構築、Yスイング

第8回　実技指導

・ルールブック：球をプレーすること　規則7～11
・テキスト：スイングセオリー（トライアングルフォーメーション）
・実技　スイング構築、Yスイング

第9回　実技指導

・ルールブック：バンカーとパッティンググリーンのための特別規則　規則12～13
・テキスト：クラブ別機能、フルモーションスイング
・実技　スイング構築、Yスイング

第10回　実技指導

・ルールブック：バンカーとパッティンググリーンのための特別規則　規則12～13
・テキスト：グリンサードバンカー、パッティング
・実技　バンカーショット、パッティング、パッティングチェック、アプローチチェック

第11回　実技指導

・ルールブック：罰なしの救済　規則15～16
・テキスト：スイングセオリー（リズミカルスイング）
・実技　フルモーション　ミドルアイアン

第12回　実技指導

・ルールブック：罰なしの救済　規則15～16
・テキスト：スイングセオリー（グランドアークレングス）
・実技　フルモーション　ミドルアイアン

第13回　実技指導

・ルールブック：罰ありの救済　規則17～19
・テキスト：スイングセオリー（ヒッティングゾーン）
・実技　フルモーション　ロングアイアン、フェアウェイウッド、ドライバー

第14回 実技指導

・ルールブック：罰ありの救済　規則17～19
・テキスト：スイングセオリー（ユアウェイトシフト）
・実技　フルモーション　ロングアイアン、フェアウェイウッド、ドライバー、ドライバーショットチェック

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　ゴルフスクールテキスト
日本ゴルフ協会規則書

参考文献：　最近のテレビ中継、映像は非常にリアルでコースに出ているように楽しめます。プロ・アマ問わず、男女とも国内外試合の（トーナメント等）テレビ中継、映像をできるだけたくさん見ること。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　30　GAP（グリップ、アドレス、ポジション）ゴルフの基本となる三つの要素と、Tスイング、パッティング、ショートアプローチ、ドライバーショットをチェックします。

平常点評価：　70　体育の授業の基本は出席すること。頭で理解できても、身体を動かすことのギャップをいかに埋めるか。その為には、ボールをたくさん打つこと（数は力なり）。服装、授業の始め、終わりを含め取り組む心構え、受講姿勢も評価する。

備考・関連URL：　・第一週のオリエンテーションから高等学院（上石神井）のゴルフ練習場で行います。
・用具について：授業用クラブを用意してありますので不要です。
自分専用クラブも持参、使用可。
・服装について：運動ができるような服装なら何でも可。靴は運動靴とします。更衣室有り。
・授業の休講について：台風のような大雨、雪等で練習場が使用できないとき。・教科書について：授業時に貸与します。
・バンカー、パッティング実技は天候などにより日程の変更があります。

・車、バイクでの通学はできません。

関連URL:
上石神井ゴルフ練習場
https://www.waseda.jp/inst/gec/assets/uploads/2019/04/8e94e2c4a420219a1a5898580f0b2d1f.pdf

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040014|01|9S07040014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	柔道 01		
担 当 教 員	射手矢 岬		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： 日本で生まれ育った柔道は、世界の隅々まで普及（国際柔道連盟に約200ヶ国・地域加盟）し、オリンピックの正式種目になるほどの発展をみた。それは、柔道のもつスポーツとしての楽しさや興味、護身術としての価値、そして人間形成としての教育的価値などが広く受け入れられた結果といえる。
本授業は、柔道の特性である投げる、抑える、関節の逆をとる、絞めるといった技の魅力を各自のレベルに応じてその合理性を経験するとともに、日本文化としての柔道を正しく理解することをねらいとしている。投技・固技の基本技の体験、受身の習得、ルールの解説など、初心者から経験者までを対象として、約束練習や乱取を行うなど技能に応じて指導する。
柔道は1人では成立しない。相手を尊重し、礼儀正しく協力しながら、柔道の楽しさや、理に適った技に触れてほしい。そして、心身の調和した発達の一助となることを期待している。

授業の到達目標： 柔道の特性を理解し、主な基本の技を体験し、投げる・投げられる（取・受）の役割ができるようになる。

事前・事後学習の内容：
事前学修：
・実技科目のルール、歴史などを各自で学修しておくこと。
・Moodle上のコンテンツを授業前に確認すること。
事後学修：
・修得した技術を次回授業や日常生活に反映できるようにすること。

事前学習として、実技科目のルール、歴史は、90分～120分程度の時間をかけることが望ましい。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
ガイダンス（授業の進め方、道場における心得など）
柔道の歴史と特性
第2回
柔道衣の扱い方、礼法、後ろ受け身、横受け身
第3回
投技の基本動作、膝車、前回り受け身
第4回
出足払い、送り足払い、技に応じた受け身の練習
第5回
大腰、体落とし、技に応じた受け身の練習
第6回
大内刈り、小内刈り、技に応じた受け身の練習
第7回
大外刈り、技に応じた受け身の練習
第8回
投げ技の連絡技：後ろから前へ、大内刈りから大腰前から前へ、膝車から体落とし
第9回
投げ技の連絡技：後ろから後ろへ、大内刈りから大外刈り固め技：抑え技（1）けさ固め
第10回
投げ技の変化技：大内刈りを返す固め技：抑え技（2）横四方固め
第11回
投げ技の自由練習固め技：関節技（腕ひしぎ十字固め）

第12回
投げ技の自由練習固め技：絞技（送り襟絞め）
第13回
投げ技・固め技の総合練習
第14回
実技発表（演武）

言語区分：　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　30　実技発表における、技の理合の理解と習得度を評価します。

平常点評価：　70　主体的・積極的な授業参加度、相手を尊重し安全に対する配慮を評価します。

備考・関連URL：　第1回、ガイダンスを行うので普段着で集合のこと。柔道衣の準備などの説明します。
期間中、貴金属（ピアス、ネックレス、指輪など）、ミサンガを装着しての受講はできません。
手足の爪は、尖っていないこと、爪の上にアクセサリーを貼り付けていないことも受講条件です。
第2回、柔道衣を持っている人は持参、持ってない人は運動のできる服装で集合してください。
第3回、全員柔道衣で授業をします。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040014|02|9S07040014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	柔道 02		
担 当 教 員	射手矢 岬		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： 日本で生まれ育った柔道は、世界の隅々まで普及（国際柔道連盟に約200ヶ国・地域加盟）し、オリンピックの正式種目になるほどの発展をみた。それは、柔道のもつスポーツとしての楽しさや興味、護身術としての価値、そして人間形成としての教育的価値などが広く受け入れられた結果といえる。
本授業は、柔道の特性である投げる、抑える、関節の逆をとる、絞めるといった技の魅力を各自のレベルに応じてその合理性を経験するとともに、日本文化としての柔道を正しく理解することをねらいとしている。投技・固技の基本技の体験、受身の習得、ルールの解説など、初心者から経験者までを対象として、約束練習や乱取を行うなど技能に応じて指導する。
柔道は1人では成立しない。相手を尊重し、礼儀正しく協力しながら、柔道の楽しさや、理に適った技に触れてほしい。そして、心身の調和した発達の一助となることを期待している。

授業の到達目標： 柔道の特性を理解し、主な基本の技を体験し、投げる・投げられる（取・受）の役割ができるようになる。

事前・事後学習の内容：
事前学修：
・実技科目のルール、歴史などを各自で学修しておくこと。
・Moodle上のコンテンツを授業前に確認すること。
事後学修：
・修得した技術を次回授業や日常生活に反映できるようにすること。

事前学習として、実技科目のルール、歴史は、90分～120分程度の時間をかけることが望ましい。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
ガイダンス（授業の進め方、道場における心得など）
柔道の歴史と特性
第2回
柔道衣の扱い方、礼法、後ろ受け身、横受け身
第3回
投技の基本動作、膝車、前回り受け身
第4回
出足払い、送り足払い、技に応じた受け身の練習
第5回
大腰、体落とし、技に応じた受け身の練習
第6回
大内刈り、小内刈り、技に応じた受け身の練習
第7回
大外刈り、技に応じた受け身の練習
第8回
投げ技の連絡技：後ろから前へ、大内刈りから大腰前から前へ、膝車から体落とし
第9回
投げ技の連絡技：後ろから後ろへ、大内刈りから大外刈り固め技：抑え技（1）けさ固め
第10回
投げ技の変化技：大内刈りを返す固め技：抑え技（2）横四方固め
第11回
投げ技の自由練習固め技：関節技（腕ひしぎ十字固め）

第12回
投げ技の自由練習固め技：絞技（送り襟絞め）
第13回
投げ技・固め技の総合練習
第14回
実技発表（演武）

言語区分：　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　30　実技発表における、技の理合の理解と習得度を評価します。

平常点評価：　70　主体的・積極的な授業参加度、相手を尊重し安全に対する配慮を評価します。

備考・関連URL：　第1回、ガイダンスを行うので普段着で集合のこと。柔道衣の準備などの説明します。
期間中、貴金属（ピアス、ネックレス、指輪など）、ミサンガを装着しての受講はできません。
手足の爪は、尖っていないこと、爪の上にアクセサリーを貼り付けていないことも受講条件です。
第2回、柔道衣を持っている人は持参、持ってない人は運動のできる服装で集合してください。
第3回、全員柔道衣で授業をします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040015|01|9S07040015[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	柔道（護身術）　01		
担 当 教 員	射手矢　岬		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　日本で生まれ育った柔道は、世界の隅々まで普及（国際柔道連盟に約200ヶ国・地域加盟）し、オリンピックの正式種目になるほどの発展をみた。それは、柔道のもつスポーツとしての楽しさや興味、護身術としての価値、そして人間形成としての教育的価値などが広く受け入れられた結果といえる。
本授業は、柔道の中でも特に護身術の技に焦点を当て、その魅力を理解することをねらいとしている。護身術の基本技および受け身の習得に努め、初心者から経験者までを対象として、その技能に応じて指導する。
柔道は1人では成立しない。相手を尊重し、礼儀正しく協力しながら、柔道の楽しさや、理に適った技に触れてほしい。そして、心身の調和した発達の一助となることを期待している。

授業の到達目標:　柔道（護身術）の特性を理解し、主な基本の技を体験し、受と取ができるようになる。

事前・事後学習の内容:　事前に柔道の特性や競技のルールについて学修しておくこと。また、Waseda Moodle上のコンテンツを授業前に確認しておくこと。
事後はWaseda Moodle上のコンテンツや映像資料などを用いて授業内容を復習すること。
各回の予習・復習には約90～120分程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン:　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
ガイダンス（授業の進め方、道場における心得、技術構造・護身術についてなど）

第2回
柔道衣の扱い方、礼法
受け身（後ろ受け身と横受け身）
護身術（徒手の部・組みつかれた場合）

第3回
受け身（前受身、前回り受身）
護身術（組みつかれた場合2）

第4回
体さばき、小手捻りと小手返し

第5回
体さばき、小手捻りと小手返し
護身術（組みつかれた場合4）

第6回
護身術　（組みつかれた場合のまとめ）

第7回
突きの基本と体さばき
護身術　（離れた場合）

第8回
蹴りの基本と体さばき
護身術　（離れた場合2）

第9回
護身術（離れた場合のまとめ）

第10回
短刀の扱い方とそれに対応した体さばき
護身術（武器の部）

第11回
杖の扱い方とそれに対応した体さばき

第12回
護身術（武器の部のまとめ）
第13回
総合練習
第14回
実技発表（演武）

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30 実技発表における、技の理合の理解と習得度

平常点評価: 70 授業での取り組み方や態度など

備考・関連URL: 第1週目の授業はガイダンスを行うので普段着で集合のこと。
期間中、貴金属（ピアス、ネックレス、指輪など）、ミサンガを装着しての受講はできません。
手足の爪は、尖っていないこと、爪の上にアクセサリーを貼り付けていないことも受講条件です。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040015|02|9S07040015[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	柔道（護身術）　02		
担 当 教 員	射手矢　岬		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ｉ	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　日本で生まれ育った柔道は、世界の隅々まで普及（国際柔道連盟に約200ヶ国・地域加盟）し、オリンピックの正式種目になるほどの発展をみた。それは、柔道のもつスポーツとしての楽しさや興味、護身術としての価値、そして人間形成としての教育的価値などが広く受け入れられた結果といえる。
本授業は、柔道の中でも特に護身術の技に焦点を当て、その魅力を理解することをねらいとしている。護身術の基本技および受け身の習得に努め、初心者から経験者までを対象として、その技能に応じて指導する。
柔道は1人では成立しない。相手を尊重し、礼儀正しく協力しながら、柔道の楽しさや、理に適った技に触れてほしい。そして、心身の調和した発達の一助となることを期待している。

授業の到達目標：　柔道（護身術）の特性を理解し、主な基本の技を体験し、受と取ができるようになる。

事前・事後学習の内容：　事前に柔道の特性や競技のルールについて学修しておくこと。また、Waseda Moodle上のコンテンツを授業前に確認しておくこと。
事後はWaseda Moodle上のコンテンツや映像資料などを用いて授業内容を復習すること。
各回の予習・復習には約90～120分程度かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
ガイダンス（授業の進め方、道場における心得、技術構造・護身術についてなど）

第2回
柔道衣の扱い方、礼法
受け身（後ろ受け身と横受け身）
護身術（徒手の部・組みつかれた場合）

第3回
受け身（前受身、前回り受身）
護身術（組みつかれた場合2）

第4回
体さばき、小手捻りと小手返し

第5回
体さばき、小手捻りと小手返し
護身術（組みつかれた場合4）

第6回
護身術　（組みつかれた場合のまとめ）

第7回
突きの基本と体さばき
護身術　（離れた場合）

第8回
蹴りの基本と体さばき
護身術　（離れた場合2）

第9回
護身術（離れた場合のまとめ）

第10回
短刀の扱い方とそれに対応した体さばき
護身術（武器の部）

第11回
杖の扱い方とそれに対応した体さばき

第12回
護身術（武器の部のまとめ）
第13回
総合練習
第14回
実技発表（演武）

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30 実技発表における、技の理合の理解と習得度

平常点評価: 70 授業での取り組み方や態度など

備考・関連URL: 第1週目の授業はガイダンスを行うので普段着で集合のこと。
期間中、貴金属（ピアス、ネックレス、指輪など）、ミサンガを装着しての受講はできません。
手足の爪は、尖っていないこと、爪の上にアクセサリーを貼り付けていないことも受講条件です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040016|01|9S07040016[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	水泳 01		
担 当 教 員	岡 功		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 生命は水から誕生し、人と水の関りは深く、水に関するスポーツの中でも水泳はバランス（全身運動）の良い代表的なもので、周知の通りオリンピックの競技種目である。近年水泳は、病気・怪我等のリハビリや様々な競技・スポーツのトレーニングにも行われている。先に述べた水に関するスポーツ〔サーフィン・ダイビング・ヨット・カヌー・フィッシング・その他〕を楽しむ為にも安全面等から水泳を習得しておきたい。今後、自分自身のライフスタイルが楽しく広がると思う。
本授業では初心者から上級者まで無理なく、楽しく、親切・丁寧に指導し、技術の向上はもとより健康増進を目指し、競泳4泳法を基本から色々な練習方法で段階的に行いながら、自分自身の潜在能力に気づき、水・『水泳』の本当の楽しさに感動と感謝をできるようにしたい。※レクリエーション（水球ゲーム・リレー・他）も実施予定。

授業の到達目標: ・初心者は、クロール、背泳ぎ、平泳ぎの3泳法を習得（マスターする）。バタフライの練習（導入）。
・中、上級者は、クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの4泳法を習得（マスターする）。
※技術の習得には個人差あり。

事前・事後学習の内容: 授業について重要なお知らせ(心電図検査結果の提出・実習費納入の期日及方法・他について)を一次登録の方へ登録完了後にWaseda moodleでアナウンスメントしますので必ず確認お願い致します。
※二次・三次登録の方も登録完了しましたらアナウンスメントを必ず確認お願い致します。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（授業上の注意、用具の説明）
第2回
水泳能力分け（第3週以降は能力分けしたクラスにより練習）
第3回
クロール・背泳ぎ（基本練習）水中における姿勢・水に慣れる
第4回
クロール・背泳ぎ（ドリル練習プル・キック）部分的に手のかき・足（キック）の練習
第5回
クロール・背泳ぎ（コンビネーション）両泳法の全体練習
第6回
クロール・背泳ぎ（スタート・ターンの練習）
第7回
平泳ぎ・バタフライ（基本練習）
第8回
平泳ぎ・バタフライ（ドリル練習プル・キック）部分的に手のかき・足（キック）の練習
第9回
平泳ぎ・バタフライ（コンビネーション）両泳法の全体練習
第10回
平泳ぎ・バタフライ（スタート・ターンの練習）
第11回
個人メドレー（バタフライ→背泳ぎ→平泳ぎ→クロールの順に泳ぐ練習）
第12回
個人メドレー（バタフライ→背泳ぎ→平泳ぎ→クロールの順に泳ぐ練習）
第13回
4泳法・横泳ぎ・立ち泳ぎの総合練習

第１４回
泳力確認（技術の習得状況の確認）一定の距離を泳ぐ
※授業最終日となりますので『まとめ(総　括)』を行います。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 競泳用水着・スイミングキャップ・スイミングゴーグル着用。

参考文献: 特になし。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 15　社会性、協調性、他

その他: 85　（出席点65%：毎回の出席状況の評価　技術点20%：技術の習得状況の評価）

備考・関連URL: 練習内容は授業の進行・習得状況により変更する場合がある。

【学生定期健康診断、心電図検査の受診について】
　科目登録をした年度に実施する「学生定期健康診断」と「心電図検査」を受診し、「心電図検査」の結果が含まれた「学生定期健康診断結果（当年度）」（My Wasedaから出力）を担当教員に提出することが必要です。他の医療機関による健康診断等で代用する場合、担当教員から「所定用紙」を受け取り、医療機関で証明を受けたものを提出してください。なお、「水泳」登録決定者で上記両検査が未受診であると確認した場合は、その時点で授業の参加を不可とします。

【安全上水泳に支障をきたす疾病(その他)について】
安全上水泳に支障をきたす疾病(その他)がありましたら、必ず教員に申し出てください。その際、医師の診断書や同意書が必要な場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040016|02|9S07040016[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	水泳 02		
担 当 教 員	岡 功		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 生命は水から誕生し、人と水の関りは深く、水に関するスポーツの中でも水泳はバランス（全身運動）の良い代表的なもので、周知の通りオリンピックの競技種目である。近年水泳は、病気・怪我等のリハビリや様々な競技・スポーツのトレーニングにも行われている。先に述べた水に関するスポーツ〔サーフィン・ダイビング・ヨット・カヌー・フィッシング・その他〕を楽しむ為にも安全面等から水泳を習得しておきたい。今後、自分自身のライフスタイルが楽しく広がると思う。
本授業では初心者から上級者まで無理なく、楽しく、親切・丁寧に指導し、技術の向上はもとより健康増進を目指し、競泳4泳法を基本から色々な練習方法で段階的に行いながら、自分自身の潜在能力に気づき、水・『水泳』の本当の楽しさに感動と感謝をできるようにしたい。※レクリエーション（水球ゲーム・リレー・他）も実施予定。

授業の到達目標: ・初心者は、クロール、背泳ぎ、平泳ぎの3泳法を習得（マスターする）。バタフライの練習（導入）。
・中、上級者は、クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの4泳法を習得（マスターする）。
※技術の習得には個人差あり。

事前・事後学習の内容: 授業について重要なお知らせ(心電図検査結果の提出・実習費納入の期日及方法・他について)を一次登録の方へ登録完了後にWaseda moodleでアナウンスメントしますので必ず確認お願い致します。
※二次・三次登録の方も登録完了しましたらアナウンスメントを必ず確認お願い致します。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（授業上の注意、用具の説明）
第2回
水泳能力分け（第3週以降は能力分けしたクラスにより練習）
第3回
クロール・背泳ぎ（基本練習）水中における姿勢・水に慣れる
第4回
クロール・背泳ぎ（ドリル練習プル・キック）部分的に手のかき・足（キック）の練習
第5回
クロール・背泳ぎ（コンビネーション）両泳法の全体練習
第6回
クロール・背泳ぎ（スタート・ターンの練習）
第7回
平泳ぎ・バタフライ（基本練習）
第8回
平泳ぎ・バタフライ（ドリル練習プル・キック）部分的に手のかき・足（キック）の練習
第9回
平泳ぎ・バタフライ（コンビネーション）両泳法の全体練習
第10回
平泳ぎ・バタフライ（スタート・ターンの練習）
第11回
個人メドレー（バタフライ→背泳ぎ→平泳ぎ→クロールの順に泳ぐ練習）
第12回
個人メドレー（バタフライ→背泳ぎ→平泳ぎ→クロールの順に泳ぐ練習）
第13回
4泳法・横泳ぎ・立ち泳ぎの総合練習

第１４回
泳力確認（技術の習得状況の確認）一定の距離を泳ぐ
※授業最終日となりますので『まとめ(総　括)』を行います。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 競泳用水着・スイミングキャップ・スイミングゴーグル着用。

参考文献: 特になし。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 15　社会性、協調性、他

その他: 85　（出席点65%：毎回の出席状況の評価　技術点20%：技術の習得状況の評価）

備考・関連URL: 練習内容は授業の進行・習得状況により変更する場合がある。

【学生定期健康診断、心電図検査の受診について】
　科目登録をした年度に実施する「学生定期健康診断」と「心電図検査」を受診し、「心電図検査」の結果が含まれた「「学生定期健康診断結果（当年度）」（My Wasedaから出力）を担当教員に提出することが必要です。他の医療機関による健康診断等で代用する場合、担当教員から「所定用紙」を受け取り、医療機関で証明を受けたものを提出してください。なお、「水泳」登録決定者で上記両検査が未受診であると確認した場合は、その時点で授業の参加を不可とします。

【安全上水泳に支障をきたす疾病(その他)について】
安全上水泳に支障をきたす疾病(その他)がありましたら、必ず教員に申し出てください。その際、医師の診断書や同意書が必要な場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040016|03|9S07040016[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	水泳 03		
担 当 教 員	岡 功		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 生命は水から誕生し、人と水の関りは深く、水に関するスポーツの中でも水泳はバランス（全身運動）の良い代表的なもので、周知の通りオリンピックの競技種目である。近年水泳は、病気・怪我等のリハビリや様々な競技・スポーツのトレーニングにも行われている。先に述べた水に関するスポーツ〔サーフィン・ダイビング・ヨット・カヌー・フィッシング・その他〕を楽しむ為にも安全面等から水泳を習得しておきたい。今後、自分自身のライフスタイルが楽しく広がると思う。
本授業では初心者から上級者まで無理なく、楽しく、親切・丁寧に指導し、技術の向上はもとより健康増進を目指し、競泳4泳法を基本から色々な練習方法で段階的に行いながら、自分自身の潜在能力に気づき、水・『水泳』の本当の楽しさに感動と感謝をできるようにしたい。※レクリエーション（水球ゲーム・リレー・他）も実施予定。

授業の到達目標: ・初心者は、クロール、背泳ぎ、平泳ぎの3泳法を習得（マスターする）。バタフライの練習（導入）。
・中、上級者は、クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの4泳法を習得（マスターする）。
※技術の習得には個人差あり。

事前・事後学習の内容: 授業について重要なお知らせ(心電図検査結果の提出・実習費納入の期日及方法・他について)を一次登録の方へ登録完了後にWaseda moodleでアナウンスメントしますので必ず確認お願い致します。
※二次・三次登録の方も登録完了しましたらアナウンスメントを必ず確認お願い致します。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（授業上の注意、用具の説明）
第2回
水泳能力分け（第3週以降は能力分けしたクラスにより練習）
第3回
クロール・背泳ぎ（基本練習）水中における姿勢・水に慣れる
第4回
クロール・背泳ぎ（ドリル練習プル・キック）部分的に手のかき・足（キック）の練習
第5回
クロール・背泳ぎ（コンビネーション）両泳法の全体練習
第6回
クロール・背泳ぎ（スタート・ターンの練習）
第7回
平泳ぎ・バタフライ（基本練習）
第8回
平泳ぎ・バタフライ（ドリル練習プル・キック）部分的に手のかき・足（キック）の練習
第9回
平泳ぎ・バタフライ（コンビネーション）両泳法の全体練習
第10回
平泳ぎ・バタフライ（スタート・ターンの練習）
第11回
個人メドレー（バタフライ→背泳ぎ→平泳ぎ→クロールの順に泳ぐ練習）
第12回
個人メドレー（バタフライ→背泳ぎ→平泳ぎ→クロールの順に泳ぐ練習）
第13回
4泳法・横泳ぎ・立ち泳ぎの総合練習

第１４回
泳力確認（技術の習得状況の確認）一定の距離を泳ぐ
※授業最終日となりますので『まとめ(総　括)』を行います。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 競泳用水着・スイミングキャップ・スイミングゴーグル着用。

参考文献: 特になし。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 15　社会性、協調性、他

その他: 85　（出席点65%：毎回の出席状況の評価　技術点20%：技術の習得状況の評価）

備考・関連URL: 練習内容は授業の進行・習得状況により変更する場合がある。

【学生定期健康診断、心電図検査の受診について】
　科目登録をした年度に実施する「学生定期健康診断」と「心電図検査」を受診し、「心電図検査」の結果が含まれた「学生定期健康診断結果（当年度）」（My Wasedaから出力）を担当教員に提出することが必要です。他の医療機関による健康診断等で代用する場合、担当教員から「所定用紙」を受け取り、医療機関で証明を受けたものを提出してください。なお、「水泳」登録決定者で上記両検査が未受診であると確認した場合は、その時点で授業の参加を不可とします。

【安全上水泳に支障をきたす疾病(その他)について】
安全上水泳に支障をきたす疾病(その他)がありましたら、必ず教員に申し出てください。その際、医師の診断書や同意書が必要な場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040016|04|9S07040016[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	水泳 04		
担 当 教 員	岡 功		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 生命は水から誕生し、人と水の関りは深く、水に関するスポーツの中でも水泳はバランス（全身運動）の良い代表的なもので、周知の通りオリンピックの競技種目である。近年水泳は、病気・怪我等のリハビリや様々な競技・スポーツのトレーニングにも行われている。先に述べた水に関するスポーツ〔サーフィン・ダイビング・ヨット・カヌー・フィッシング・その他〕を楽しむ為にも安全面等から水泳を習得しておきたい。今後、自分自身のライフスタイルが楽しく広がると思う。
本授業では初心者から上級者まで無理なく、楽しく、親切・丁寧に指導し、技術の向上はもとより健康増進を目指し、競泳4泳法を基本から色々な練習方法で段階的に行いながら、自分自身の潜在能力に気づき、水・『水泳』の本当の楽しさに感動と感謝をできるようにしたい。※レクリエーション（水球ゲーム・リレー・他）も実施予定。

授業の到達目標: ・初心者は、クロール、背泳ぎ、平泳ぎの3泳法を習得（マスターする）。バタフライの練習（導入）。
・中、上級者は、クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの4泳法を習得（マスターする）。
※技術の習得には個人差あり。

事前・事後学習の内容: 授業について重要なお知らせ(心電図検査結果の提出・実習費納入の期日及方法・他について)を一次登録の方へ登録完了後にWaseda moodleでアナウンスメントしますので必ず確認お願い致します。
※二次・三次登録の方も登録完了しましたらアナウンスメントを必ず確認お願い致します。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（授業上の注意、用具の説明）
第2回
水泳能力分け（第3週以降は能力分けしたクラスにより練習）
第3回
クロール・背泳ぎ（基本練習）水中における姿勢・水に慣れる
第4回
クロール・背泳ぎ（ドリル練習プル・キック）部分的に手のかき・足（キック）の練習
第5回
クロール・背泳ぎ（コンビネーション）両泳法の全体練習
第6回
クロール・背泳ぎ（スタート・ターンの練習）
第7回
平泳ぎ・バタフライ（基本練習）
第8回
平泳ぎ・バタフライ（ドリル練習プル・キック）部分的に手のかき・足（キック）の練習
第9回
平泳ぎ・バタフライ（コンビネーション）両泳法の全体練習
第10回
平泳ぎ・バタフライ（スタート・ターンの練習）
第11回
個人メドレー（バタフライ→背泳ぎ→平泳ぎ→クロールの順に泳ぐ練習）
第12回
個人メドレー（バタフライ→背泳ぎ→平泳ぎ→クロールの順に泳ぐ練習）
第13回
4泳法・横泳ぎ・立ち泳ぎの総合練習

第１４回
泳力確認（技術の習得状況の確認）一定の距離を泳ぐ
※授業最終日となりますので『まとめ(総　括)』を行います。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 競泳用水着・スイミングキャップ・スイミングゴーグル着用。

参考文献: 特になし。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 15　社会性、協調性、他

その他: 85　（出席点65%：毎回の出席状況の評価　技術点20%：技術の習得状況の評価）

備考・関連URL: 練習内容は授業の進行・習得状況により変更する場合がある。

【学生定期健康診断、心電図検査の受診について】
　科目登録をした年度に実施する「学生定期健康診断」と「心電図検査」を受診し、「心電図検査」の結果が含まれた「学生定期健康診断結果（当年度）」（My Wasedaから出力）を担当教員に提出することが必要です。他の医療機関による健康診断等で代用する場合、担当教員から「所定用紙」を受け取り、医療機関で証明を受けたものを提出してください。なお、「水泳」登録決定者で上記両検査が未受診であると確認した場合は、その時点で授業の参加を不可とします。

【安全上水泳に支障をきたす疾病(その他)について】
安全上水泳に支障をきたす疾病(その他)がありましたら、必ず教員に申し出てください。その際、医師の診断書や同意書が必要な場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040016|05|9S07040016[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	水泳 05		
担 当 教 員	岡 功		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 生命は水から誕生し、人と水の関りは深く、水に関するスポーツの中でも水泳はバランス（全身運動）の良い代表的なもので、周知の通りオリンピックの競技種目である。近年水泳は、病気・怪我等のリハビリや様々な競技・スポーツのトレーニングにも行われている。先に述べた水に関するスポーツ〔サーフィン・ダイビング・ヨット・カヌー・フィッシング・その他〕を楽しむ為にも安全面等から水泳を習得しておきたい。今後、自分自身のライフスタイルが楽しく広がると思う。
本授業では初心者から上級者まで無理なく、楽しく、親切・丁寧に指導し、技術の向上はもとより健康増進を目指し、競泳4泳法を基本から色々な練習方法で段階的に行いながら、自分自身の潜在能力に気づき、水・『水泳』の本当の楽しさに感動と感謝をできるようにしたい。※レクリエーション（水球ゲーム・リレー・他）も実施予定。

授業の到達目標: ・初心者は、クロール、背泳ぎ、平泳ぎの3泳法を習得（マスターする）。バタフライの練習（導入）。
・中、上級者は、クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの4泳法を習得（マスターする）。
※技術の習得には個人差あり。

事前・事後学習の内容: 授業について重要なお知らせ(心電図検査結果の提出・実習費納入の期日及方法・他について)を一次登録の方へ登録完了後にWaseda moodleでアナウンスメントしますので必ず確認お願い致します。
※二次・三次登録の方も登録完了しましたらアナウンスメントを必ず確認お願い致します。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（授業上の注意、用具の説明）
第2回
水泳能力分け（第3週以降は能力分けしたクラスにより練習）
第3回
クロール・背泳ぎ（基本練習）水中における姿勢・水に慣れる
第4回
クロール・背泳ぎ（ドリル練習プル・キック）部分的に手のかき・足（キック）の練習
第5回
クロール・背泳ぎ（コンビネーション）両泳法の全体練習
第6回
クロール・背泳ぎ（スタート・ターンの練習）
第7回
平泳ぎ・バタフライ（基本練習）
第8回
平泳ぎ・バタフライ（ドリル練習プル・キック）部分的に手のかき・足（キック）の練習
第9回
平泳ぎ・バタフライ（コンビネーション）両泳法の全体練習
第10回
平泳ぎ・バタフライ（スタート・ターンの練習）
第11回
個人メドレー（バタフライ→背泳ぎ→平泳ぎ→クロールの順に泳ぐ練習）
第12回
個人メドレー（バタフライ→背泳ぎ→平泳ぎ→クロールの順に泳ぐ練習）
第13回
4泳法・横泳ぎ・立ち泳ぎの総合練習

第１４回
泳力確認（技術の習得状況の確認）一定の距離を泳ぐ
※授業最終日となりますので『まとめ(総　括)』を行います。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 競泳用水着・スイミングキャップ・スイミングゴーグル着用。

参考文献: 特になし。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 15　社会性、協調性、他

その他: 85　（出席点65%：毎回の出席状況の評価　技術点20%：技術の習得状況の評価）

備考・関連URL: 練習内容は授業の進行・習得状況により変更する場合がある。

【学生定期健康診断、心電図検査の受診について】
　科目登録をした年度に実施する「学生定期健康診断」と「心電図検査」を受診し、「心電図検査」の結果が含まれた「学生定期健康診断結果（当年度）」（My Wasedaから出力）を担当教員に提出することが必要です。他の医療機関による健康診断等で代用する場合、担当教員から「所定用紙」を受け取り、医療機関で証明を受けたものを提出してください。なお、「水泳」登録決定者で上記両検査が未受診であると確認した場合は、その時点で授業の参加を不可とします。

【安全上水泳に支障をきたす疾病(その他)について】
安全上水泳に支障をきたす疾病(その他)がありましたら、必ず教員に申し出てください。その際、医師の診断書や同意書が必要な場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040016|06|9S07040016[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	水泳 06		
担 当 教 員	岡 功		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 生命は水から誕生し、人と水の関りは深く、水に関するスポーツの中でも水泳はバランス（全身運動）の良い代表的なもので、周知の通りオリンピックの競技種目である。近年水泳は、病気・怪我等のリハビリや様々な競技・スポーツのトレーニングにも行われている。先に述べた水に関するスポーツ〔サーフィン・ダイビング・ヨット・カヌー・フィッシング・その他〕を楽しむ為にも安全面等から水泳を習得しておきたい。今後、自分自身のライフスタイルが楽しく広がると思う。
本授業では初心者から上級者まで無理なく、楽しく、親切・丁寧に指導し、技術の向上はもとより健康増進を目指し、競泳4泳法を基本から色々な練習方法で段階的に行いながら、自分自身の潜在能力に気づき、水・『水泳』の本当の楽しさに感動と感謝をできるようにしたい。※レクリエーション（水球ゲーム・リレー・他）も実施予定。

授業の到達目標: ・初心者は、クロール、背泳ぎ、平泳ぎの3泳法を習得（マスターする）。バタフライの練習（導入）。
・中、上級者は、クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの4泳法を習得（マスターする）。
※技術の習得には個人差あり。

事前・事後学習の内容: 授業について重要なお知らせ(心電図検査結果の提出・実習費納入の期日及方法・他について)を一次登録の方へ登録完了後にWaseda moodleでアナウンスメントしますので必ず確認お願い致します。
※二次・三次登録の方も登録完了しましたらアナウンスメントを必ず確認お願い致します。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（授業上の注意、用具の説明）
第2回
水泳能力分け（第3週以降は能力分けしたクラスにより練習）
第3回
クロール・背泳ぎ（基本練習）水中における姿勢・水に慣れる
第4回
クロール・背泳ぎ（ドリル練習プル・キック）部分的に手のかき・足（キック）の練習
第5回
クロール・背泳ぎ（コンビネーション）両泳法の全体練習
第6回
クロール・背泳ぎ（スタート・ターンの練習）
第7回
平泳ぎ・バタフライ（基本練習）
第8回
平泳ぎ・バタフライ（ドリル練習プル・キック）部分的に手のかき・足（キック）の練習
第9回
平泳ぎ・バタフライ（コンビネーション）両泳法の全体練習
第10回
平泳ぎ・バタフライ（スタート・ターンの練習）
第11回
個人メドレー（バタフライ→背泳ぎ→平泳ぎ→クロールの順に泳ぐ練習）
第12回
個人メドレー（バタフライ→背泳ぎ→平泳ぎ→クロールの順に泳ぐ練習）
第13回
4泳法・横泳ぎ・立ち泳ぎの総合練習

第１４回
泳力確認（技術の習得状況の確認）一定の距離を泳ぐ
※授業最終日となりますので『まとめ(総　括)』を行います。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 競泳用水着・スイミングキャップ・スイミングゴーグル着用。

参考文献: 特になし。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 15　社会性、協調性、他

その他: 85　（出席点65%：毎回の出席状況の評価　技術点20%：技術の習得状況の評価）

備考・関連URL: 練習内容は授業の進行・習得状況により変更する場合がある。

【学生定期健康診断、心電図検査の受診について】
　科目登録をした年度に実施する「学生定期健康診断」と「心電図検査」を受診し、「心電図検査」の結果が含まれた「学生定期健康診断結果（当年度）」（My Wasedaから出力）を担当教員に提出することが必要です。他の医療機関による健康診断等で代用する場合、担当教員から「所定用紙」を受け取り、医療機関で証明を受けたものを提出してください。なお、「水泳」登録決定者で上記両検査が未受診であると確認した場合は、その時点で授業の参加を不可とします。

【安全上水泳に支障をきたす疾病(その他)について】
安全上水泳に支障をきたす疾病(その他)がありましたら、必ず教員に申し出てください。その際、医師の診断書や同意書が必要な場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040017|01|9S07040017[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ストレッチング 基礎 01		
担 当 教 員	包國 友幸		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

超高齢社会の到来による社会保障費の高騰が問題とされ、国民医療費も増加している。医療費削減の対策として、運動・身体活動が注目されており、介護・転倒予防、メタボリックシンドローム・ロコモーティブシンドローム予防、健康寿命の延伸などを目的とした様々なエクササイズや運動プログラムが開発されている。その中で、動的なものや二人一組施術を含む様々なストレッチングもその社会的貢献性が期待されている。

この授業では筋の付着部を引き伸ばすストレッチングの実技だけではなく、初心者でも簡単に安全に行える促通・皮膚刺激・各種関節操作などの施術法を実施して「動かし易くなる」「すっきりする」「体が楽になる」などの即時効果を毎回の授業において実感してもらう。その体感を通して肩・腰・膝のしくみやその痛みのメカニズムなどについての興味・関心を深め、その予防法や改善法にふれ人体の不思議さ奥深さについて経験学習することをねらいとしており、身体教育が及ぼす社会貢献の可能性について共に考える。 現在まで誰もがストレッチングを行ったことはあるであろうが、正しい知識と技術を学ぶ機会が限られていたと推測している。ストレッチングの各種技術の中でも特にセルフストレッチングおよびパートナーストレッチングの技術を習得することを目的としており、各パート別にどのようなストレッチングを行えばターゲットとした筋肉が伸ばせるのか、代償運動を見抜く力およびリスク管理能力の向上も含め、安全で効果的な方法をテキストを用いながら学ぶ。

授業を受けて「肩こりが楽になった」「体が軽くなった」「体が柔らかくなった」「これからの実生活で役に立つ」などの声を多く耳にする。授業を受けてもらい自分自身の体調管理に活かしてもらうことはもちろん、セルフコンディショニング法を家族に教えてあげることや、肩・腰・膝の施術法を覚えてもらい家庭・部活・サークル活動・将来の職場で実施するなど、少しでも広めて役立ててもらいたい。

授業の到達目標:

パートナーストレッチングを各パート別に安全に効果的にかけることができるようになる。セルフストレッチングを各パート別にクリエイティブな発想で正しく効果的かつ安全に実践できるようになる。また、その他多くの自己コンディショニング法・施術法を紹介するので「これは覚えたい」と思う方法（例えば肩こりコンディショニング法）などを習得してもらい体調・メンタルの管理法として今後の日常生活・職業生活に活かすことができるようになる。

事前・事後学習の内容:

授業で学んだ実技の中で特にセルフ（自分自身）で行うことができるものは必ず復習し、いつでもどこでも実施でき他の者にも教えることができるようにすること。
また、なるべく肩こり、腰痛、膝痛などの改善を目的とした二人一組施術を、自分の生活の中で、家族・部活・アルバイト先・サークル活動などで積極的に実施し、ストレッチングおよび各種コンディショニングの即時効果を実感してもらう技術を磨き今後の人生で活かしてほしい。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーション

講義:①受講上の注意点（次週からの着替え・持ち物等）、②授業の目標・目的、③評価・成績について、など
実技:①私服でできる初心者にも実施可能な即時効果を実感できる肩の施術など

第2回:基礎理論Ⅰ、体を動かし易くしてみよう

講義:①関節の基本的な動き:屈曲－伸展、外転－内転、外旋－内旋、②筋の機能とストレッチング
実技:①即時効果を実感:骨盤の前傾－後傾（ペルビックティルト）、②ハムストリング・大胸筋のセルフストレッチング

第3回:基礎理論Ⅱ、肩を動かし易くしてみよう

講義:①肩甲骨の基本的な動き:挙上－下制、外転－内転、上方回旋－下方回旋、②集合運動パターン、
実技:①即時効果を実感:肩甲帯コンディションニングⅠ、②僧帽筋のパートナーストレッチング、③上腕二頭筋・上腕三頭筋・大胸筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第4回:肩のしくみ、より肩を動かし易くしてみよう

講義:①肩関節は5つの複合関節、②肩甲上腕リズム、③ゼロポジション
実技:①即時効果を実感:肩甲帯コンディショニングⅡ、②前鋸筋のパートナーストレッチング

第5回:肩コンディションニングの重要ポイント、肩こりを改善してみよう

講義:①インナーマッスル、②肩こりとは、③五十肩とは、④肩の痛みの原因、
実技:①即時効果を実感:肩こり改善コンディションニング、②肩甲帯・上肢総合パートナーストレッチング
（僧帽筋・大胸筋・広背筋・外旋筋・内旋筋・上腕二頭筋・上腕三頭筋）

第6回：下肢のしくみⅠ、開脚を柔らかくしてみよう

講義：①主動筋と拮抗筋：腸腰筋と大殿筋、大腿四頭筋とハムストリング、内転筋と外転筋
実技：①即時効果を実感：開脚のパートナーレジスタンスストレッチング、②大殿筋のパートナーストレッチングⅠ

第7回：骨盤と下肢、骨盤を動かし易くしてみよう

講義：①上前腸骨棘、②坐骨結節、③殿筋群、④内転筋群
実技：①即時効果を実感：骨盤のコンディショニング、②股関節のコンディショニングⅠ

第8回：下肢後面の筋、脚を上げ易くしてみよう

講義：①膝のしくみ、②膝の痛みについて、③ハムストリング
実技：①即時効果を実感：股関節のコンデショニングⅡ、②ハムストリングのセルフ＆パートナーストレッチング、大殿筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第9回：体験PNFストレッチング、より脚を上げ易くしてみよう

講義：①筋の収縮様式と促通・抑制
実技：①即時効果を実感：ハムストリングのコントラクトリラックス、②大腿四頭筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第10回：下腿の筋のストレッチングを開発してみよう、セルフコンデショニングで脚を上げ易くしてみよう

講義：①下腿の筋、②腓腹筋、③ヒラメ筋、④アキレス腱、⑤前脛骨筋
実技：①即時効果を実感：上部体幹パターン後に腕を動かし易くしてみようⅠ．②下肢総合、③下腿の筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第11回：腹筋群の筋トレとストレッチング、いろいろな腹筋運動を体験して体幹を動かし易くしてみよう

講義：①体幹屈筋（腹筋）群の筋とその機能とエクササイズ、②腰痛の原因とその対処法、③伸展型腰痛とは
実技：①即時効果を実感：上肢から刺激して体幹を動かし易くする、②トルソーサーキット、③低体力者・高齢者を対象とした低強度の腹筋運動

第12回：高齢者・低体力者対象の運動プログラムを実施してその効果を実感しよう

講義：①軽運動の心理的効果と促通による動かし易さを改善することの重要性、②腰痛とメンタル
実技：①即時効果を実感：肩・腰・膝痛予防・改善運動プログラムを体験、②腕を動かし易くしてみようⅡ

第13回：理解度の確認対策、反応をさらに上げてより動かし易くしてみよう

講義：①理解度の確認対策としてのセルフ＆パートナーストレッチング講義
実技：①理解度の確認対策としてのセルフ＆パートナーストレッチング実技　②即時効果を実感：腕をより動かし易くしてみよう

第14回：理解度の確認

授業時間中に理解度の確認を行う

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　「スポーツストレッチング」（NPO法人日本ストレッチング協会・定価2100円＋税）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　40　授業の14回目の二人一組による実技試験を実施し達成度を評価します。

平常点評価：　18　授業に取り組む姿勢を評価します。

その他：　42　実技科目ですので出席率も重視します。3分の2以上の出席を目標とします。

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040017|02|9S07040017[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ストレッチング 基礎 02		
担 当 教 員	包國 友幸		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

超高齢社会の到来による社会保障費の高騰が問題とされ、国民医療費も増加している。医療費削減の対策として、運動・身体活動が注目されており、介護・転倒予防、メタボリックシンドローム・ロコモーティブシンドローム予防、健康寿命の延伸などを目的とした様々なエクササイズや運動プログラムが開発されている。その中で、動的なものや二人一組施術を含む様々なストレッチングもその社会的貢献性が期待されている。
この授業では筋の付着部を引き伸ばすストレッチングの実技だけではなく、初心者でも簡単に安全に行える促通・皮膚刺激・各種関節操作などの施術法を実施して「動かし易くなる」「すっきりする」「体が楽になる」などの即時効果を毎回の授業において実感してもらう。その体感を通して肩・腰・膝のしくみやその痛みのメカニズムなどについての興味・関心を深め、その予防法や改善法にふれ人体の不思議さ奥深さについて経験学習することをねらいとしており、身体教育が及ぼす社会貢献の可能性について共に考える。 現在まで誰もがストレッチングを行ったことはあるであろうが、正しい知識と技術を学ぶ機会が限られていたと推測している。ストレッチングの各種技術の中でも特にセルフストレッチングおよびパートナーストレッチングの技術を習得することを目的としており、各パート別にどのようなストレッチングを行えばターゲットとした筋肉が伸ばせるのか、代償運動を見抜く力およびリスク管理能力の向上も含め、安全で効果的な方法をテキストを用いながら学ぶ。
授業を受けて「肩こりが楽になった」「体が軽くなった」「体が柔らかくなった」「これからの実生活で役に立つ」などの声を多く耳にする。授業を受けてもらい自分自身の体調管理に活かしてもらうことはもちろん、セルフコンディショニング法を家族に教えてあげることや、肩・腰・膝の施術法を覚えてもらい家庭・部活・サークル活動・将来の職場で実施するなど、少しでも広めて役立ててもらいたい。

授業の到達目標:

パートナーストレッチングを各パート別に安全に効果的にかけることができるようになる。セルフストレッチングを各パート別にクリエイティブな発想で正しく効果的かつ安全に実践できるようになる。また、その他多くの自己コンディショニング法・施術法を紹介するので「これは覚えたい」という方法（例えば肩こりコンディショング法）などを習得してもらい体調・メンタルの管理法として今後の日常生活・職業生活に活かすことができるようになる。

事前・事後学習の内容:

授業で学んだ実技の中で特にセルフ（自分自身）で行うことができるものは必ず復習し、いつでもどこでも実施でき他の者にも教えることができるようにすること。
また、なるべく肩こり、腰痛、膝痛などの改善を目的とした二人一組施術を、自分の生活の中で、家族・部活・アルバイト先・サークル活動などで積極的に実施し、ストレッチングおよび各種コンディションニングの即時効果を実感してもらう技術を磨き今後の人生で活かしてほしい。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーション

講義:①受講上の注意点（次週からの着替え・持ち物等）、②授業の目標・目的、③評価・成績について、など
実技:①私服でできる初心者にも実施可能な即時効果を実感できる肩の施術など

第2回:基礎理論Ⅰ、体を動かし易くしてみよう

講義:①関節の基本的な動き:屈曲－伸展、外転－内転、外旋－内旋、②筋の機能とストレッチング
実技:①即時効果を実感:骨盤の前傾－後傾（ペルビックティルト）、②ハムストリング・大胸筋のセルフストレッチング

第3回:基礎理論Ⅱ、肩を動かし易くしてみよう

講義:①肩甲骨の基本的な動き:挙上－下制、外転－内転、上方回旋－下方回旋、②集合運動パターン、
実技:①即時効果を実感:肩甲帯コンディションニング Ⅰ、②僧帽筋のパートナーストレッチング、③上腕二頭筋・上腕三頭筋・大胸筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第4回:肩のしくみ、より肩を動かし易くしてみよう

講義:①肩関節は5つの複合関節、②肩甲上腕リズム、③ゼロポジション
実技:①即時効果を実感:肩甲帯コンディショニング Ⅱ、②前鋸筋のパートナーストレッチング

第5回:肩コンディションニングの重要ポイント、肩こりを改善してみよう

講義:①インナーマッスル、②肩こりとは、③五十肩とは、④肩の痛みの原因、
実技:①即時効果を実感:肩こり改善コンディションニング、②肩甲帯・上肢総合パートナーストレッチング
（僧帽筋・大胸筋・広背筋・外旋筋・内旋筋・上腕二頭筋・上腕三頭筋）

第6回：下肢のしくみⅠ、開脚を柔らかくしてみよう
講義：①主動筋と拮抗筋：腸腰筋と大殿筋、大腿四頭筋とハムストリング、内転筋と外転筋
実技：①即時効果を実感：開脚のパートナーレジスタンスストレッチング、②大殿筋のパートナーストレッチングⅠ

第7回：骨盤と下肢、骨盤を動かし易くしてみよう
講義：①上前腸骨棘、②坐骨結節、③殿筋群、④内転筋群
実技：①即時効果を実感：骨盤のコンディショニング、②股関節のコンディショニングⅠ

第8回：下肢後面の筋、脚を上げ易くしてみよう
講義：①膝のしくみ、②膝の痛みについて、③ハムストリング
実技：①即時効果を実感：股関節のコンデショニングⅡ、②ハムストリングのセルフ＆パートナーストレッチング、大殿筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第9回：体験PNFストレッチング、より脚を上げ易くしてみよう
講義：①筋の収縮様式と促通・抑制
実技：①即時効果を実感：ハムストリングのコントラクトリラックス、②大腿四頭筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第10回：下腿の筋のストレッチングを開発してみよう、セルフコンデショニングで脚を上げ易くしてみよう
講義：①下腿の筋、②腓腹筋、③ヒラメ筋、④アキレス腱、⑤前脛骨筋
実技：①即時効果を実感：上部体幹パターン後に腕を動かし易くしてみようⅠ．②下肢総合、③下腿の筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第11回：腹筋群の筋トレとストレッチング、いろいろな腹筋運動を体験して体幹を動かし易くしてみよう
講義：①体幹屈筋（腹筋）群の筋とその機能とエクササイズ、②腰痛の原因とその対処法、③伸展型腰痛とは
実技：①即時効果を実感：上肢から刺激して体幹を動かし易くする、②トルソーサーキット、③低体力者・高齢者を対象とした低強度の腹筋運動

第12回：高齢者・低体力者対象の運動プログラムを実施してその効果を実感しよう
講義：①軽運動の心理的効果と促通による動かし易さを改善することの重要性、②腰痛とメンタル
実技：①即時効果を実感：肩・腰・膝痛予防・改善運動プログラムを体験、②腕を動かし易くしてみようⅡ

第13回：理解度の確認対策、反応をさらに上げてより動かし易くしてみよう
講義：①理解度の確認対策としてのセルフ＆パートナーストレッチング講義
実技：①理解度の確認対策としてのセルフ＆パートナーストレッチング実技　②即時効果を実感：腕をより動かし易くしてみよう

第14回：理解度の確認
授業時間中に理解度の確認を行う

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　「スポーツストレッチング」（NPO法人日本ストレッチング協会・定価2100円＋税）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	40	授業の14回目において二人一組による実技試験を実施し達成度を評価します。
平常点評価：	18	授業に取り組む姿勢を評価します。
その他：	42	実技科目ですので出席率も重視します。3分の2以上の出席を目標とします。

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040017|03|9S07040017[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ストレッチング 基礎 03		
担 当 教 員	包國 友幸		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 超高齢社会の到来による社会保障費の高騰が問題とされ、国民医療費も増加している。医療費削減の対策として、運動・身体活動が注目されており、介護・転倒予防、メタボリックシンドローム・ロコモーティブシンドローム予防、健康寿命の延伸などを目的とした様々なエクササイズや運動プログラムが開発されている。その中で、動的なものや二人一組施術を含む様々なストレッチングもその社会的貢献性が期待されている。
この授業では筋の付着部を引き伸ばすストレッチングの実技だけではなく、初心者でも簡単に安全に行える促通・皮膚刺激・各種関節操作などの施術法を実施して「動かし易くなる」「すっきりする」「体が楽になる」などの即時効果を毎回の授業において実感してもらう。その体感を通して肩・腰・膝のしくみやその痛みのメカニズムなどについての興味・関心を深め、その予防法や改善法にふれ人体の不思議さ奥深さについて経験学習することをねらいとしており、身体教育が及ぼす社会貢献の可能性について共に考える。 現在まで誰もがストレッチングを行ったことはあるであろうが、正しい知識と技術を学ぶ機会が限られていたと推測している。ストレッチングの各種技術の中でも特にセルフストレッチングおよびパートナーストレッチングの技術を習得することを目的としており、各パート別にどのようなストレッチングを行えばターゲットとした筋肉が伸ばせるのか、代償運動を見抜く力およびリスク管理能力の向上も含め、安全で効果的な方法をテキストを用いながら学ぶ。 授業を受けて「肩こりが楽になった」「体が軽くなった」「体が柔らかくなった」「これからの実生活で役に立つ」などの声を多く耳にする。授業を受けてもらい自分自身の体調管理に活かしてもらうことはもちろん、セルフコンディショニング法を家族に教えてあげることや、肩・腰・膝の施術法を覚えてもらい家庭・部活・サークル活動・将来の職場で実施するなど、少しでも広めて役立ててもらいたい。

授業の到達目標: パートナーストレッチングを各パート別に安全に効果的にかけることができるようになる。セルフストレッチングを各パート別にクリエイティブな発想で正しく効果的かつ安全に実践できるようになる。また、その他多くの自己コンディショニング法・施術法を紹介するので「これは覚えたい」と思う方法（例えば肩こりコンディショニング法）などを習得してもらい体調・メンタルの管理法として今後の日常生活・職業生活に活かすことができるようになる。

事前・事後学習の内容: 授業で学んだ実技の中で特にセルフ（自分自身）で行うことができるものは必ず復習し、いつでもどこでも実施でき他の者にも教えることができるようにすること。
また、なるべく肩こり、腰痛、膝痛などの改善を目的とした二人一組施術を、自分の生活の中で、家族・部活・アルバイト先・サークル活動などで積極的に実施し、ストレッチングおよび各種コンディショニングの即時効果を実感してもらう技術を磨き今後の人生で活かしてほしい。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーション
講義:①受講上の注意点（次週からの着替え・持ち物等）、②授業の目標・目的、③評価・成績について、など
実技:①私服でできる初心者にも実施可能な即時効果を実感できる肩の施術など

第2回:基礎理論Ⅰ、体を動かし易くしてみよう
講義:①関節の基本的な動き:屈曲－伸展、外転－内転、外旋－内旋、②筋の機能とストレッチング
実技:①即時効果を実感:骨盤の前傾－後傾（ペルビックティルト）、②ハムストリング・大胸筋のセルフストレッチング

第3回:基礎理論Ⅱ、肩を動かし易くしてみよう
講義:①肩甲骨の基本的な動き:挙上－下制、外転－内転、上方回旋－下方回旋、②集合運動パターン、
実技:①即時効果を実感:肩甲帯コンディションニングⅠ、②僧帽筋のパートナーストレッチング、③上腕二頭筋・上腕三頭筋・大胸筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第4回:肩のしくみ、より肩を動かし易くしてみよう
講義:①肩関節は5つの複合関節、②肩甲上腕リズム、③ゼロポジション
実技:①即時効果を実感:肩甲帯コンディショニングⅡ、②前鋸筋のパートナーストレッチング

第5回:肩コンディションニングの重要ポイント、肩こりを改善してみよう
講義:①インナーマッスル、②肩こりとは、③五十肩とは、④肩の痛みの原因、
実技:①即時効果を実感:肩こり改善コンディションニング、②肩甲帯・上肢総合パートナーストレッチング
（僧帽筋・大胸筋・広背筋・外旋筋・内旋筋・上腕二頭筋・上腕三頭筋）

第6回：下肢のしくみⅠ、開脚を柔らかくしてみよう
講義：①主動筋と拮抗筋：腸腰筋と大殿筋、大腿四頭筋とハムストリング、内転筋と外転筋
実技：①即時効果を実感：開脚のパートナーレジスタンスストレッチング、②大殿筋のパートナーストレッチングⅠ

第7回：骨盤と下肢、骨盤を動かし易くしてみよう
講義：①上前腸骨棘、②坐骨結節、③殿筋群、④内転筋群
実技：①即時効果を実感：骨盤のコンディショニング、②股関節のコンディショニングⅠ

第8回：下肢後面の筋、脚を上げ易くしてみよう
講義：①膝のしくみ、②膝の痛みについて、③ハムストリング
実技：①即時効果を実感：股関節のコンデショニングⅡ、②ハムストリングのセルフ＆パートナーストレッチング、大殿筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第9回：体験PNFストレッチング、より脚を上げ易くしてみよう
講義：①筋の収縮様式と促通・抑制
実技：①即時効果を実感：ハムストリングのコントラクトリラックス、②大腿四頭筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第10回：下腿の筋のストレッチングを開発してみよう、セルフコンデショニングで脚を上げ易くしてみよう
講義：①下腿の筋、②腓腹筋、③ヒラメ筋、④アキレス腱、⑤前脛骨筋
実技：①即時効果を実感：上部体幹パターン後に腕を動かし易くしてみようⅠ．②下肢総合、③下腿の筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第11回：腹筋群の筋トレとストレッチング、いろいろな腹筋運動を体験して体幹を動かし易くしてみよう
講義：①体幹屈筋（腹筋）群の筋とその機能とエクササイズ、②腰痛の原因とその対処法、③伸展型腰痛とは
実技：①即時効果を実感：上肢から刺激して体幹を動かし易くする、②トルソーサーキット、③低体力者・高齢者を対象とした低強度の腹筋運動

第12回：高齢者・低体力者対象の運動プログラムを実施してその効果を実感しよう
講義：①軽運動の心理的効果と促通による動かし易さを改善することの重要性、②腰痛とメンタル
実技：①即時効果を実感：肩・腰・膝痛予防・改善運動プログラムを体験、②腕を動かし易くしてみようⅡ

第13回：理解度の確認対策、反応をさらに上げてより動かし易くしてみよう
講義：①理解度の確認対策としてのセルフ＆パートナーストレッチング講義
実技：①理解度の確認対策としてのセルフ＆パートナーストレッチング実技　②即時効果を実感：腕をより動かし易くしてみよう

第14回：理解度の確認
授業時間中に理解度の確認を行う

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　「スポーツストレッチング」（NPO法人日本ストレッチング協会・定価2100円＋税）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	40	授業の14回目において二人一組による実技試験を実施し達成度を評価します。
平常点評価：	18	授業に取り組む姿勢を評価します。
その他：	42	実技科目ですので出席率も重視します。3分の2以上の出席を目標とします。

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040017|04|9S07040017[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ストレッチング 基礎 04		
担 当 教 員	包國 友幸		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

超高齢社会の到来による社会保障費の高騰が問題とされ、国民医療費も増加している。医療費削減の対策として、運動・身体活動が注目されており、介護・転倒予防、メタボリックシンドローム・ロコモーティブシンドローム予防、健康寿命の延伸などを目的とした様々なエクササイズや運動プログラムが開発されている。その中で、動的なものや二人一組施術を含む様々なストレッチングもその社会的貢献性が期待されている。

この授業では筋の付着部を引き伸ばすストレッチングの実技だけではなく、初心者でも簡単に安全に行える促通・皮膚刺激・各種関節操作などの施術法を実施して「動かし易くなる」「すっきりする」「体が楽になる」などの即時効果を毎回の授業において実感してもらう。その体感を通して肩・腰・膝のしくみやその痛みのメカニズムなどについての興味・関心を深め、その予防法や改善法にふれ人体の不思議さ奥深さについて経験学習することをねらいとしており、身体教育が及ぼす社会貢献の可能性について共に考える。 現在まで誰もがストレッチングを行ったことはあるであろうが、正しい知識と技術を学ぶ機会が限られていたと推測している。ストレッチングの各種技術の中でも特にセルフストレッチングおよびパートナーストレッチングの技術を習得することを目的としており、各パート別にどのようなストレッチングを行えばターゲットとした筋肉が伸ばせるのか、代償運動を見抜く力およびリスク管理能力の向上も含め、安全で効果的な方法をテキストを用いながら学ぶ。

授業を受けて「肩こりが楽になった」「体が軽くなった」「体が柔らかくなった」「これからの実生活で役に立つ」などの声を多く耳にする。授業を受けてもらい自分自身の体調管理に活かしてもらうことはもちろん、セルフコンディショニング法を家族に教えてあげることや、肩・腰・膝の施術法を覚えてもらい家庭・部活・サークル活動・将来の職場で実施するなど、少しでも広めて役立ててもらいたい。

授業の到達目標:

パートナーストレッチングを各パート別に安全に効果的にかけることができるようになる。セルフストレッチングを各パート別にクリエイティブな発想で正しく効果的かつ安全に実践できるようになる。また、その他多くの自己コンディショニング法・施術法を紹介するので「これは覚えたい」と思う方法（例えば肩こりコンディショニング法）などを習得してもらい体調・メンタルの管理法として今後の日常生活・職業生活に活かすことができるようになる。

事前・事後学習の内容:

授業で学んだ実技の中で特にセルフ（自分自身）で行うことができるものは必ず復習し、いつでもどこでも実施でき他の者にも教えることができるようにすること。
また、なるべく肩こり、腰痛、膝痛などの改善を目的とした二人一組施術を、自分の生活の中で、家族・部活・アルバイト先・サークル活動などで積極的に実施し、ストレッチングおよび各種コンディショニングの即時効果を実感してもらう技術を磨き今後の人生で活かしてほしい。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーション

講義:①受講上の注意点（次週からの着替え・持ち物等）、②授業の目標・目的、③評価・成績について、など
実技:①私服でできる初心者にも実施可能な即時効果を実感できる肩の施術など

第2回:基礎理論Ⅰ、体を動かし易くしてみよう

講義:①関節の基本的な動き:屈曲－伸展、外転－内転、外旋－内旋、②筋の機能とストレッチング
実技:①即時効果を実感:骨盤の前傾－後傾（ペルビックティルト）、②ハムストリング・大胸筋のセルフストレッチング

第3回:基礎理論Ⅱ、肩を動かし易くしてみよう

講義:①肩甲骨の基本的な動き:挙上－下制、外転－内転、上方回旋－下方回旋、②集合運動パターン、
実技:①即時効果を実感:肩甲帯コンディションニングⅠ、②僧帽筋のパートナーストレッチング、③上腕二頭筋・上腕三頭筋・大胸筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第4回:肩のしくみ、より肩を動かし易くしてみよう

講義:①肩関節は5つの複合関節、②肩甲上腕リズム、③ゼロポジション
実技:①即時効果を実感:肩甲帯コンディショニングⅡ、②前鋸筋のパートナーストレッチング

第5回:肩コンディションニングの重要ポイント、肩こりを改善してみよう

講義:①インナーマッスル、②肩こりとは、③五十肩とは、④肩の痛みの原因、
実技:①即時効果を実感:肩こり改善コンディションニング、②肩甲帯・上肢総合パートナーストレッチング
（僧帽筋・大胸筋・広背筋・外旋筋・内旋筋・上腕二頭筋・上腕三頭筋）

第6回：下肢のしくみⅠ、開脚を柔らかくしてみよう
講義：①主動筋と拮抗筋：腸腰筋と大殿筋、大腿四頭筋とハムストリング、内転筋と外転筋
実技：①即時効果を実感：開脚のパートナーレジスタンスストレッチング、②大殿筋のパートナーストレッチングⅠ

第7回：骨盤と下肢、骨盤を動かし易くしてみよう
講義：①上前腸骨棘、②坐骨結節、③殿筋群、④内転筋群
実技：①即時効果を実感：骨盤のコンディショニング、②股関節のコンディショニングⅠ

第8回：下肢後面の筋、脚を上げ易くしてみよう
講義：①膝のしくみ、②膝の痛みについて、③ハムストリング
実技：①即時効果を実感：股関節のコンデショニングⅡ、②ハムストリングのセルフ＆パートナーストレッチング、大殿筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第9回：体験PNFストレッチング、より脚を上げ易くしてみよう
講義：①筋の収縮様式と促通・抑制
実技：①即時効果を実感：ハムストリングのコントラクトリラックス、②大腿四頭筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第10回：下腿の筋のストレッチングを開発してみよう、セルフコンデショニングで脚を上げ易くしてみよう
講義：①下腿の筋、②腓腹筋、③ヒラメ筋、④アキレス腱、⑤前脛骨筋
実技：①即時効果を実感：上部体幹パターン後に腕を動かし易くしてみようⅠ．②下肢総合、③下腿の筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第11回：腹筋群の筋トレとストレッチング、いろいろな腹筋運動を体験して体幹を動かし易くしてみよう
講義：①体幹屈筋（腹筋）群の筋とその機能とエクササイズ、②腰痛の原因とその対処法、③伸展型腰痛とは
実技：①即時効果を実感：上肢から刺激して体幹を動かし易くする、②トルソーサーキット、③低体力者・高齢者を対象とした低強度の腹筋運動

第12回：高齢者・低体力者対象の運動プログラムを実施してその効果を実感しよう
講義：①軽運動の心理的効果と促通による動かし易さを改善することの重要性、②腰痛とメンタル
実技：①即時効果を実感：肩・腰・膝痛予防・改善運動プログラムを体験、②腕を動かし易くしてみようⅡ

第13回：理解度の確認対策、反応をさらに上げてより動かし易くしてみよう
講義：①理解度の確認対策としてのセルフ＆パートナーストレッチング講義
実技：①理解度の確認対策としてのセルフ＆パートナーストレッチング実技　②即時効果を実感：腕をより動かし易くしてみようⅢ

第14回：理解度の確認
授業時間中に理解度の確認を行う

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　「スポーツストレッチング」（NPO法人日本ストレッチング協会・定価2100円＋税）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	40	授業の14回目において二人一組による実技試験を実施し達成度を評価します。
平常点評価：	18	授業に取り組む姿勢を評価します。
その他：	42	実技科目ですので出席率も重視します。3分の2以上の出席を目標とします。

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040017|05|9S07040017[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ストレッチング 基礎 05		
担 当 教 員	包國 友幸		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 超高齢社会の到来による社会保障費の高騰が問題とされ、国民医療費も増加している。医療費削減の対策として、運動・身体活動が注目されており、介護・転倒予防、メタボリックシンドローム・ロコモーティブシンドローム予防、健康寿命の延伸などを目的とした様々なエクササイズや運動プログラムが開発されている。その中で、動的なものや二人一組施術を含む様々なストレッチングもその社会的貢献性が期待されている。
この授業では筋の付着部を引き伸ばすストレッチングの実技だけではなく、初心者でも簡単に安全に行える促通・皮膚刺激・各種関節操作などの施術法を実施して「動かし易くなる」「すっきりする」「体が楽になる」などの即時効果を毎回の授業において実感してもらう。その体感を通して肩・腰・膝のしくみやその痛みのメカニズムなどについての興味・関心を深め、その予防法や改善法にふれ人体の不思議さ奥深さについて経験学習することをねらいとしており、身体教育が及ぼす社会貢献の可能性について共に考える。 現在まで誰もがストレッチングを行ったことはあるであろうが、正しい知識と技術を学ぶ機会が限られていたと推測している。ストレッチングの各種技術の中でも特にセルフストレッチングおよびパートナーストレッチングの技術を習得することを目的としており、各パート別にどのようなストレッチングを行えばターゲットとした筋肉が伸ばせるのか、代償運動を見抜く力およびリスク管理能力の向上も含め、安全で効果的な方法をテキストを用いながら学ぶ。 授業を受けて「肩こりが楽になった」「体が軽くなった」「体が柔らかくなった」「これからの実生活で役に立つ」などの声を多く耳にする。授業を受けてもらい自分自身の体調管理に活かしてもらうことはもちろん、セルフコンディショニング法を家族に教えてあげることや、肩・腰・膝の施術法を覚えてもらい家庭・部活・サークル活動・将来の職場で実施するなど、少しでも広めて役立ててもらいたい。

授業の到達目標: パートナーストレッチングを各パート別に安全に効果的にかけることができるようになる。セルフストレッチングを各パート別にクリエイティブな発想で正しく効果的かつ安全に実践できるようになる。また、その他多くの自己コンディショニング法・施術法を紹介するので「これは覚えたい」と思う方法（例えば肩こりコンディショニング法）などを習得してもらい体調・メンタルの管理法として今後の日常生活・職業生活に活かすことができるようになる。

事前・事後学習の内容: 授業で学んだ実技の中で特にセルフ（自分自身）で行うことができるものは必ず復習し、いつでもどこでも実施でき他の者にも教えることができるようにすること。
また、なるべく肩こり、腰痛、膝痛などの改善を目的とした二人一組施術を、自分の生活の中で、家族・部活・アルバイト先・サークル活動などで積極的に実施し、ストレッチングおよび各種コンディショニングの即時効果を実感してもらう技術を磨き今後の人生で活かしてほしい。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーション
講義:①受講上の注意点（次週からの着替え・持ち物等）、②授業の目標・目的、③評価・成績について、など
実技:①私服でできる初心者にも実施可能な即時効果を実感できる肩の施術など

第2回:基礎理論Ⅰ、体を動かし易くしてみよう
講義:①関節の基本的な動き:屈曲－伸展、外転－内転、外旋－内旋、②筋の機能とストレッチング
実技:①即時効果を実感:骨盤の前傾－後傾（ペルビックティルト）、②ハムストリング・大胸筋のセルフストレッチング

第3回:基礎理論Ⅱ、肩を動かし易くしてみよう
講義:①肩甲骨の基本的な動き:挙上－下制、外転－内転、上方回旋－下方回旋、②集合運動パターン、
実技:①即時効果を実感:肩甲帯コンディションニングⅠ、②僧帽筋のパートナーストレッチング、③上腕二頭筋・上腕三頭筋・大胸筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第4回:肩のしくみ、より肩を動かし易くしてみよう
講義:①肩関節は5つの複合関節、②肩甲上腕リズム、③ゼロポジション
実技:①即時効果を実感:肩甲帯コンディショニングⅡ、②前鋸筋のパートナーストレッチング

第5回:肩コンディションニングの重要ポイント、肩こりを改善してみよう
講義:①インナーマッスル、②肩こりとは、③五十肩とは、④肩の痛みの原因、
実技:①即時効果を実感:肩こり改善コンディションニング、②肩甲帯・上肢総合パートナーストレッチング
（僧帽筋・大胸筋・広背筋・外旋筋・内旋筋・上腕二頭筋・上腕三頭筋）

第6回：下肢のしくみⅠ、開脚を柔らかくしてみよう
講義：①主動筋と拮抗筋：腸腰筋と大殿筋、大腿四頭筋とハムストリング、内転筋と外転筋
実技：①即時効果を実感：開脚のパートナーレジスタンスストレッチング、②大殿筋のパートナーストレッチングⅠ

第7回：骨盤と下肢、骨盤を動かし易くしてみよう
講義：①上前腸骨棘、②坐骨結節、③殿筋群、④内転筋群
実技：①即時効果を実感：骨盤のコンディショニング、②股関節のコンディショニングⅠ

第8回：下肢後面の筋、脚を上げ易くしてみよう
講義：①膝のしくみ、②膝の痛みについて、③ハムストリング
実技：①即時効果を実感：股関節のコンデショニングⅡ、②ハムストリングのセルフ＆パートナーストレッチング、大殿筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第9回：体験PNFストレッチング、より脚を上げ易くしてみよう
講義：①筋の収縮様式と促通・抑制
実技：①即時効果を実感：ハムストリングのコントラクトリラックス、②大腿四頭筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第10回：下腿の筋のストレッチングを開発してみよう、セルフコンデショニングで脚を上げ易くしてみよう
講義：①下腿の筋、②腓腹筋、③ヒラメ筋、④アキレス腱、⑤前脛骨筋
実技：①即時効果を実感：上部体幹パターン後に腕を動かし易くしてみようⅠ．②下肢総合、③下腿の筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第11回：腹筋群の筋トレとストレッチング、いろいろな腹筋運動を体験して体幹を動かし易くしてみよう
講義：①体幹屈筋（腹筋）群の筋とその機能とエクササイズ、②腰痛の原因とその対処法、③伸展型腰痛とは
実技：①即時効果を実感：上肢から刺激して体幹を動かし易くする、②トルソーサーキット、③低体力者・高齢者を対象とした低強度の腹筋運動

第12回：高齢者・低体力者対象の運動プログラムを実施してその効果を実感しよう
講義：①軽運動の心理的効果と促通による動かし易さを改善することの重要性、②腰痛とメンタル
実技：①即時効果を実感：肩・腰・膝痛予防・改善運動プログラムを体験、②腕を動かし易くしてみようⅡ

第13回：理解度の確認対策、反応をさらに上げてより動かし易くしてみよう
講義：①理解度の確認対策としてのセルフ＆パートナーストレッチング講義
実技：①理解度の確認対策としてのセルフ＆パートナーストレッチング実技　②即時効果を実感：腕をより動かし易くしてみようⅢ

第14回：理解度の確認
授業時間中に理解度の確認を行う

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　「スポーツストレッチング」（NPO法人日本ストレッチング協会・定価2100円＋税）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	40	授業の14回目において二人一組による実技試験を実施し達成度を評価します。
平常点評価：	18	授業に取り組む姿勢を評価します。
その他：	42	実技科目ですので出席率も重視します。3分の2以上の出席を目標とします。

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040017|06|9S07040017[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ストレッチング 基礎 06		
担 当 教 員	包國 友幸		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

超高齢社会の到来による社会保障費の高騰が問題とされ、国民医療費も増加している。医療費削減の対策として、運動・身体活動が注目されており、介護・転倒予防、メタボリックシンドローム・ロコモーティブシンドローム予防、健康寿命の延伸などを目的とした様々なエクササイズや運動プログラムが開発されている。その中で、動的なものや二人一組施術を含む様々なストレッチングもその社会的貢献性が期待されている。

この授業では筋の付着部を引き伸ばすストレッチングの実技だけではなく、初心者でも簡単に安全に行える促通・皮膚刺激・各種関節操作などの施術法を実施して「動かし易くなる」「すっきりする」「体が楽になる」などの即時効果を毎回の授業において実感してもらう。その体感を通して肩・腰・膝のしくみやその痛みのメカニズムなどについての興味・関心を深め、その予防法や改善法にふれ人体の不思議さ奥深さについて経験学習することをねらいとしており、身体教育が及ぼす社会貢献の可能性について共に考える。 現在まで誰もがストレッチングを行ったことはあるであろうが、正しい知識と技術を学ぶ機会が限られていたと推測している。ストレッチングの各種技術の中でも特にセルフストレッチングおよびパートナーストレッチングの技術を習得することを目的としており、各パート別にどのようなストレッチングを行えばターゲットとした筋肉が伸ばせるのか、代償運動を見抜く力およびリスク管理能力の向上も含め、安全で効果的な方法をテキストを用いながら学ぶ。

授業を受けて「肩こりが楽になった」「体が軽くなった」「体が柔らかくなった」「これからの実生活で役に立つ」などの声を多く耳にする。授業を受けてもらい自分自身の体調管理に活かしてもらうことはもちろん、セルフコンディショニング法を家族に教えてあげることや、肩・腰・膝の施術法を覚えてもらい家庭・部活・サークル活動・将来の職場で実施するなど、少しでも広めて役立ててもらいたい。

授業の到達目標:

パートナーストレッチングを各パート別に安全に効果的にかけることができるようになる。セルフストレッチングを各パート別にクリエイティブな発想で正しく効果的かつ安全に実践できるようになる。また、その他多くの自己コンディショニング法・施術法を紹介するので「これは覚えたい」と思う方法（例えば肩こりコンディショニング法）などを習得してもらい体調・メンタルの管理法として今後の日常生活・職業生活に活かすことができるようになる。

事前・事後学習の内容:

授業で学んだ実技の中で特にセルフ（自分自身）で行うことができるものは必ず復習し、いつでもどこでも実施でき他の者にも教えることができるようにすること。
また、なるべく肩こり、腰痛、膝痛などの改善を目的とした二人一組施術を、自分の生活の中で、家族・部活・アルバイト先・サークル活動などで積極的に実施し、ストレッチングおよび各種コンディショニングの即時効果を実感してもらう技術を磨き今後の人生で活かしてほしい。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーション

講義:①受講上の注意点（次週からの着替え・持ち物等）、②授業の目標・目的、③評価・成績について、など
実技:①私服でできる初心者にも実施可能な即時効果を実感できる肩の施術など

第2回:基礎理論Ⅰ、体を動かし易くしてみよう

講義:①関節の基本的な動き:屈曲－伸展、外転－内転、外旋－内旋、②筋の機能とストレッチング
実技:①即時効果を実感:骨盤の前傾－後傾（ペルビックティルト）、②ハムストリング・大胸筋のセルフストレッチング

第3回:基礎理論Ⅱ、肩を動かし易くしてみよう

講義:①肩甲骨の基本的な動き:挙上－下制、外転－内転、上方回旋－下方回旋、②集合運動パターン、
実技:①即時効果を実感:肩甲帯コンディションニングⅠ、②僧帽筋のパートナーストレッチング、③上腕二頭筋・上腕三頭筋・大胸筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第4回:肩のしくみ、より肩を動かし易くしてみよう

講義:①肩関節は5つの複合関節、②肩甲上腕リズム、③ゼロポジション
実技:①即時効果を実感:肩甲帯コンディショニングⅡ、②前鋸筋のパートナーストレッチング

第5回:肩コンディションニングの重要ポイント、肩こりを改善してみよう

講義:①インナーマッスル、②肩こりとは、③五十肩とは、④肩の痛みの原因、
実技:①即時効果を実感:肩こり改善コンディションニング、②肩甲帯・上肢総合パートナーストレッチング
（僧帽筋・大胸筋・広背筋・外旋筋・内旋筋・上腕二頭筋・上腕三頭筋）

第6回：下肢のしくみⅠ、開脚を柔らかくしてみよう
講義：①主動筋と拮抗筋：腸腰筋と大殿筋、大腿四頭筋とハムストリング、内転筋と外転筋
実技：①即時効果を実感：開脚のパートナーレジスタンスストレッチング、②大殿筋のパートナーストレッチングⅠ

第7回：骨盤と下肢、骨盤を動かし易くしてみよう
講義：①上前腸骨棘、②坐骨結節、③殿筋群、④内転筋群
実技：①即時効果を実感：骨盤のコンディショニング、②股関節のコンディショニングⅠ

第8回：下肢後面の筋、脚を上げ易くしてみよう
講義：①膝のしくみ、②膝の痛みについて、③ハムストリング
実技：①即時効果を実感：股関節のコンデショニングⅡ、②ハムストリングのセルフ＆パートナーストレッチング、大殿筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第9回：体験PNFストレッチング、より脚を上げ易くしてみよう
講義：①筋の収縮様式と促通・抑制
実技：①即時効果を実感：ハムストリングのコントラクトリラックス、②大腿四頭筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第10回：下腿の筋のストレッチングを開発してみよう、セルフコンデショニングで脚を上げ易くしてみよう
講義：①下腿の筋、②腓腹筋、③ヒラメ筋、④アキレス腱、⑤前脛骨筋
実技：①即時効果を実感：上部体幹パターン後に腕を動かし易くしてみようⅠ．②下肢総合、③下腿の筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第11回：腹筋群の筋トレとストレッチング、いろいろな腹筋運動を体験して体幹を動かし易くしてみよう
講義：①体幹屈筋（腹筋）群の筋とその機能とエクササイズ、②腰痛の原因とその対処法、③伸展型腰痛とは
実技：①即時効果を実感：上肢から刺激して体幹を動かし易くする、②トルソーサーキット、③低体力者・高齢者を対象とした低強度の腹筋運動

第12回：高齢者・低体力者対象の運動プログラムを実施してその効果を実感しよう
講義：①軽運動の心理的効果と促通による動かし易さを改善することの重要性、②腰痛とメンタル
実技：①即時効果を実感：肩・腰・膝痛予防・改善運動プログラムを体験、②腕を動かし易くしてみようⅡ

第13回：理解度の確認対策、反応をさらに上げてより動かし易くしてみよう
講義：①理解度の確認対策としてのセルフ＆パートナーストレッチング講義
実技：①理解度の確認対策としてのセルフ＆パートナーストレッチング実技　②即時効果を実感：腕をより動かし易くしてみようⅢ

第14回：理解度の確認
授業時間中に理解度の確認を行う

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　「スポーツストレッチング」（NPO法人日本ストレッチング協会・定価2100円＋税）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	40	授業の14回目において二人一組による実技試験を実施し達成度を評価します。
平常点評価：	18	授業に取り組む姿勢を評価します。
その他：	42	実技科目ですので出席率も重視します。3分の2以上の出席を目標とします。

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040017|07|9S07040017[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ストレッチング 基礎 07		
担 当 教 員	包國 友幸		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

超高齢社会の到来による社会保障費の高騰が問題とされ、国民医療費も増加している。医療費削減の対策として、運動・身体活動が注目されており、介護・転倒予防、メタボリックシンドローム・ロコモーティブシンドローム予防、健康寿命の延伸などを目的とした様々なエクササイズや運動プログラムが開発されている。その中で、動的なものや二人一組施術を含む様々なストレッチングもその社会的貢献性が期待されている。
この授業では筋の付着部を引き伸ばすストレッチングの実技だけではなく、初心者でも簡単に安全に行える促通・皮膚刺激・各種関節操作などの施術法を実施して「動かし易くなる」「すっきりする」「体が楽になる」などの即時効果を毎回の授業において実感してもらう。その体感を通して肩・腰・膝のしくみやその痛みのメカニズムなどについての興味・関心を深め、その予防法や改善法にふれ人体の不思議さ奥深さについて経験学習することをねらいとしており、身体教育が及ぼす社会貢献の可能性について共に考える。 現在まで誰もがストレッチングを行ったことはあるであろうが、正しい知識と技術を学ぶ機会が限られていたと推測している。ストレッチングの各種技術の中でも特にセルフストレッチングおよびパートナーストレッチングの技術を習得することを目的としており、各パート別にどのようなストレッチングを行えばターゲットとした筋肉が伸ばせるのか、代償運動を見抜く力およびリスク管理能力の向上も含め、安全で効果的な方法をテキストを用いながら学ぶ。
授業を受けて「肩こりが楽になった」「体が軽くなった」「体が柔らかくなった」「これからの実生活で役に立つ」などの声を多く耳にする。授業を受けてもらい自分自身の体調管理に活かしてもらうことはもちろん、セルフコンディショニング法を家族に教えてあげることや、肩・腰・膝の施術法を覚えてもらい家庭・部活・サークル活動・将来の職場で実施するなど、少しでも広めて役立ててもらいたい。

授業の到達目標:

パートナーストレッチングを各パート別に安全に効果的にかけることができるようになる。セルフストレッチングを各パート別にクリエイティブな発想で正しく効果的かつ安全に実践できるようになる。また、その他多くの自己コンディショニング法・施術法を紹介するので「これは覚えたい」と思う方法（例えば肩こりコンディショニング法）などを習得してもらい体調・メンタルの管理法として今後の日常生活・職業生活に活かすことができるようになる。

事前・事後学習の内容:

授業で学んだ実技の中で特にセルフ（自分自身）で行うことができるものは必ず復習し、いつでもどこでも実施でき他の者にも教えることができるようにすること。
また、なるべく肩こり、腰痛、膝痛などの改善を目的とした二人一組施術を、自分の生活の中で、家族・部活・アルバイト先・サークル活動などで積極的に実施し、ストレッチングおよび各種コンディショニングの即時効果を実感してもらう技術を磨き今後の人生で活かしてほしい。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーション
講義:①受講上の注意点（次週からの着替え・持ち物等）、②授業の目標・目的、③評価・成績について、など
実技:①私服でできる初心者にも実施可能な即時効果を実感できる肩の施術など

第2回:基礎理論Ⅰ、体を動かし易くしてみよう
講義:①関節の基本的な動き:屈曲－伸展、外転－内転、外旋－内旋、②筋の機能とストレッチング
実技:①即時効果を実感:骨盤の前傾－後傾（ペルビックティルト）、②ハムストリング・大胸筋のセルフストレッチング

第3回:基礎理論Ⅱ、肩を動かし易くしてみよう
講義:①肩甲骨の基本的な動き:挙上－下制、外転－内転、上方回旋－下方回旋、②集合運動パターン、
実技:①即時効果を実感:肩甲帯コンディションニングⅠ、②僧帽筋のパートナーストレッチング、③上腕二頭筋・上腕三頭筋・大胸筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第4回:肩のしくみ、より肩を動かし易くしてみよう
講義:①肩関節は5つの複合関節、②肩甲上腕リズム、③ゼロポジション
実技:①即時効果を実感:肩甲帯コンディショニングⅡ、②前鋸筋のパートナーストレッチング

第5回:肩コンディションニングの重要ポイント、肩こりを改善してみよう
講義:①インナーマッスル、②肩こりとは、③五十肩とは、④肩の痛みの原因、
実技:①即時効果を実感:肩こり改善コンディションニング、②肩甲帯・上肢総合パートナーストレッチング
（僧帽筋・大胸筋・広背筋・外旋筋・内旋筋・上腕二頭筋・上腕三頭筋）

第6回：下肢のしくみⅠ、開脚を柔らかくしてみよう
講義：①主動筋と拮抗筋：腸腰筋と大殿筋、大腿四頭筋とハムストリング、内転筋と外転筋
実技：①即時効果を実感：開脚のパートナーレジスタンスストレッチング、②大殿筋のパートナーストレッチングⅠ

第7回：骨盤と下肢、骨盤を動かし易くしてみよう
講義：①上前腸骨棘、②坐骨結節、③殿筋群、④内転筋群
実技：①即時効果を実感：骨盤のコンディショニング、②股関節のコンディショニングⅠ

第8回：下肢後面の筋、脚を上げ易くしてみよう
講義：①膝のしくみ、②膝の痛みについて、③ハムストリング
実技：①即時効果を実感：股関節のコンデショニングⅡ、②ハムストリングのセルフ＆パートナーストレッチング、大殿筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第9回：体験PNFストレッチング、より脚を上げ易くしてみよう
講義：①筋の収縮様式と促通・抑制
実技：①即時効果を実感：ハムストリングのコントラクトリラックス、②大腿四頭筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第10回：下腿の筋のストレッチングを開発してみよう、セルフコンデショニングで脚を上げ易くしてみよう
講義：①下腿の筋、②腓腹筋、③ヒラメ筋、④アキレス腱、⑤前脛骨筋
実技：①即時効果を実感：上部体幹パターン後に腕を動かし易くしてみようⅠ．②下肢総合、③下腿の筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第11回：腹筋群の筋トレとストレッチング、いろいろな腹筋運動を体験して体幹を動かし易くしてみよう
講義：①体幹屈筋（腹筋）群の筋とその機能とエクササイズ、②腰痛の原因とその対処法、③伸展型腰痛とは
実技：①即時効果を実感：上肢から刺激して体幹を動かし易くする、②トルソーサーキット、③低体力者・高齢者を対象とした低強度の腹筋運動

第12回：高齢者・低体力者対象の運動プログラムを実施してその効果を実感しよう
講義：①軽運動の心理的効果と促通による動かし易さを改善することの重要性、②腰痛とメンタル
実技：①即時効果を実感：肩・腰・膝痛予防・改善運動プログラムを体験、②腕を動かし易くしてみようⅡ

第13回：理解度の確認対策、反応をさらに上げてより動かし易くしてみよう
講義：①理解度の確認対策としてのセルフ＆パートナーストレッチング講義
実技：①理解度の確認対策としてのセルフ＆パートナーストレッチング実技　②即時効果を実感：腕をより動かし易くしてみようⅢ

第14回：理解度の確認
授業時間中に理解度の確認を行う

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　「スポーツストレッチング」（NPO法人日本ストレッチング協会・定価2100円＋税）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	40	授業の14回目において二人一組による実技試験を実施し達成度を評価します。
平常点評価：	18	授業に取り組む姿勢を評価します。
その他：	42	実技科目ですので出席率も重視します。3分の2以上の出席を目標とします。

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040017|08|9S07040017[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ストレッチング 基礎 08		
担 当 教 員	包國 友幸		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

超高齢社会の到来による社会保障費の高騰が問題とされ、国民医療費も増加している。医療費削減の対策として、運動・身体活動が注目されており、介護・転倒予防、メタボリックシンドローム・ロコモーティブシンドローム予防、健康寿命の延伸などを目的とした様々なエクササイズや運動プログラムが開発されている。その中で、動的なものや二人一組施術を含む様々なストレッチングもその社会的貢献性が期待されている。
この授業では筋の付着部を引き伸ばすストレッチングの実技だけではなく、初心者でも簡単に安全に行える促通・皮膚刺激・各種関節操作などの施術法を実施して「動かし易くなる」「すっきりする」「体が楽になる」などの即時効果を毎回の授業において実感してもらう。その体感を通して肩・腰・膝のしくみやその痛みのメカニズムなどについての興味・関心を深め、その予防法や改善法にふれ人体の不思議さ奥深さについて経験学習することをねらいとしており、身体教育が及ぼす社会貢献の可能性について共に考える。 現在まで誰もがストレッチングを行ったことはあるであろうが、正しい知識と技術を学ぶ機会が限られていたと推測している。ストレッチングの各種技術の中でも特にセルフストレッチングおよびパートナーストレッチングの技術を習得することを目的としており、各パート別にどのようなストレッチングを行えばターゲットとした筋肉が伸ばせるのか、代償運動を見抜く力およびリスク管理能力の向上も含め、安全で効果的な方法をテキストを用いながら学ぶ。
授業を受けて「肩こりが楽になった」「体が軽くなった」「体が柔らかくなった」「これからの実生活で役に立つ」などの声を多く耳にする。授業を受けてもらい自分自身の体調管理に活かしてもらうことはもちろん、セルフコンディショニング法を家族に教えてあげることや、肩・腰・膝の施術法を覚えてもらい家庭・部活・サークル活動・将来の職場で実施するなど、少しでも広めて役立ててもらいたい。

授業の到達目標:

パートナーストレッチングを各パート別に安全に効果的にかけることができるようになる。セルフストレッチングを各パート別にクリエイティブな発想で正しく効果的かつ安全に実践できるようになる。また、その他多くの自己コンディショニング法・施術法を紹介するので「これは覚えたい」と思う方法（例えば肩こりコンディショニング法）などを習得してもらい体調・メンタルの管理法として今後の日常生活・職業生活に活かすことができるようになる。

事前・事後学習の内容:

授業で学んだ実技の中で特にセルフ（自分自身）で行うことができるものは必ず復習し、いつでもどこでも実施でき他の者にも教えることができるようにすること。
また、なるべく肩こり、腰痛、膝痛などの改善を目的とした二人一組施術を、自分の生活の中で、家族・部活・アルバイト先・サークル活動などで積極的に実施し、ストレッチングおよび各種コンディショニングの即時効果を実感してもらう技術を磨き今後の人生で活かしてほしい。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーション
講義:①受講上の注意点（次週からの着替え・持ち物等）、②授業の目標・目的、③評価・成績について、など
実技:①私服でできる初心者にも実施可能な即時効果を実感できる肩の施術など

第2回:基礎理論Ⅰ、体を動かし易くしてみよう
講義:①関節の基本的な動き:屈曲－伸展、外転－内転、外旋－内旋、②筋の機能とストレッチング
実技:①即時効果を実感:骨盤の前傾－後傾（ペルビックティルト）、②ハムストリング・大胸筋のセルフストレッチング

第3回:基礎理論Ⅱ、肩を動かし易くしてみよう
講義:①肩甲骨の基本的な動き:挙上－下制、外転－内転、上方回旋－下方回旋、②集合運動パターン、
実技:①即時効果を実感:肩甲帯コンディションニング Ⅰ、②僧帽筋のパートナーストレッチング、③上腕二頭筋・上腕三頭筋・大胸筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第4回:肩のしくみ、より肩を動かし易くしてみよう
講義:①肩関節は5つの複合関節、②肩甲上腕リズム、③ゼロポジション
実技:①即時効果を実感:肩甲帯コンディショニング Ⅱ、②前鋸筋のパートナーストレッチング

第5回:肩コンディションニングの重要ポイント、肩こりを改善してみよう
講義:①インナーマッスル、②肩こりとは、③五十肩とは、④肩の痛みの原因、
実技:①即時効果を実感:肩こり改善コンディションニング、②肩甲帯・上肢総合パートナーストレッチング
（僧帽筋・大胸筋・広背筋・外旋筋・内旋筋・上腕二頭筋・上腕三頭筋）

第6回：下肢のしくみⅠ、開脚を柔らかくしてみよう
講義：①主動筋と拮抗筋：腸腰筋と大殿筋、大腿四頭筋とハムストリング、内転筋と外転筋
実技：①即時効果を実感：開脚のパートナーレジスタンスストレッチング、②大殿筋のパートナーストレッチングⅠ

第7回：骨盤と下肢、骨盤を動かし易くしてみよう
講義：①上前腸骨棘、②坐骨結節、③殿筋群、④内転筋群
実技：①即時効果を実感：骨盤のコンディショニング、②股関節のコンディショニングⅠ

第8回：下肢後面の筋、脚を上げ易くしてみよう
講義：①膝のしくみ、②膝の痛みについて、③ハムストリング
実技：①即時効果を実感：股関節のコンデショニングⅡ、②ハムストリングのセルフ＆パートナーストレッチング、大殿筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第9回：体験PNFストレッチング、より脚を上げ易くしてみよう
講義：①筋の収縮様式と促通・抑制
実技：①即時効果を実感：ハムストリングのコントラクトリラックス、②大腿四頭筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第10回：下腿の筋のストレッチングを開発してみよう、セルフコンデショニングで脚を上げ易くしてみよう
講義：①下腿の筋、②腓腹筋、③ヒラメ筋、④アキレス腱、⑤前脛骨筋
実技：①即時効果を実感：上部体幹パターン後に腕を動かし易くしてみようⅠ．②下肢総合、③下腿の筋のセルフ＆パートナーストレッチング

第11回：腹筋群の筋トレとストレッチング、いろいろな腹筋運動を体験して体幹を動かし易くしてみよう
講義：①体幹屈筋（腹筋）群の筋とその機能とエクササイズ、②腰痛の原因とその対処法、③伸展型腰痛とは
実技：①即時効果を実感：上肢から刺激して体幹を動かし易くする、②トルソーサーキット、③低体力者・高齢者を対象とした低強度の腹筋運動

第12回：高齢者・低体力者対象の運動プログラムを実施してその効果を実感しよう
講義：①軽運動の心理的効果と促通による動かし易さを改善することの重要性、②腰痛とメンタル
実技：①即時効果を実感：肩・腰・膝痛予防・改善運動プログラムを体験、②腕を動かし易くしてみようⅡ

第13回：理解度の確認対策、反応をさらに上げてより動かし易くしてみよう
講義：①理解度の確認対策としてのセルフ＆パートナーストレッチング講義
実技：①理解度の確認対策としてのセルフ＆パートナーストレッチング実技、②即時効果を実感：腕をより動かし易くしてみようⅢ

第14回：理解度の確認
授業時間中に理解度の確認を行う

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　「スポーツストレッチング」（NPO法人日本ストレッチング協会・定価2100円＋税）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	40	授業の14回目において二人一組による実技試験を実施し達成度を評価します。
平常点評価：	18	授業に取り組む姿勢を評価します。
その他：	42	実技科目ですので出席率も重視します。3分の2以上の出席を目標とします。

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040018|03|9S07040018[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ソフトテニス 基礎 03		
担 当 教 員	永野 康治		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： ソフトテニスは日本で生まれ、老若男女によって楽しまれているスポーツである。学校スポーツして多くの競技者がいる一方、高齢化社会においては生涯スポーツとしても愛好者が多いことがソフトテニスの特徴である。
本授業ではソフトテニスの基本的な技術を習得し、ラリーおよびゲームを行えるようになることが目的である。その中でソフトテニスの楽しみを学び、生涯スポーツとしての可能性を実践する。

授業の到達目標： ・ソフトテニスの基本的技術を習得する。
・ソフトテニスのゲームを戦略を立てて進めることができる。
・ソフトテニスの楽しさを体感する。

事前・事後学習の内容： 事前学習としてその日に行う内容についての目標を設定する. 事後学習としてその日の授業に内容について振り返りを行いレビューシートに入力する.

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：オリエンテーション
本授業の目的と概要を説明する。また、実習に必要な服装・用具・テニスコートへの経路の確認を行う。

第2回：ラケットコントロール、コーディネーション
ラケットの操作方法を学び、各種打法のためのラケットコントロールを身につける。また、コーディネーショントレーニングによって身体操作の向上も目指す。

第3回：ストロークの基本その1
ストローク(フォア, バック)の基本的な打法を習得する。打球を的確に捉えるスイングを身につけることにより、相手コートにボールを返球することを目指す.

第4回：ストロークの基本その2
ストローク(フォア, バック)の打法を習得する。ボールの落下点に素早く移動して行うストロークを身につけることにより、相手コートにボールを連続して返球することを目指す.

第5回：ストロークの応用
各種打点における打ち方やコースの打ち分けを行い、状況に応じたストロークを目指す。

第6回：サービス
ゲームの開始となるサービスの習得を行う。各種サービスの種類やコースの打ち分けを行い、主導権をとれるサービスを目指す。

第7回：スマッシュ・ボレー
ロビングやチャンスボールに対するスマッシュの習得を行う。ボールの高さに応じてスマッシュとハイボレーを使い分け、確実に得点できるスマッシュを目指す。ネットプレーの中心となるボレーの習得を行う。フォアボレー、バックボレー、および各種コースにおけるボレーを行い、得点源となるボレーを目指す。

第8回：レシーブ
サービスに対するレシーブおよびそこからのゲーム展開を習得する。現在のソフトテニスでは状況に応じて陣形が変化するため、陣形に合わせたレシーブ・ゲーム展開を目指す。

第9回：ゲームの進め方
シングルスおよびダブルスゲームの進め方を理解し、実践する。

第10回：シングルス
これまで習得した技術を活かしてシングルスゲームを行う。

第11回：ダブルス①
これまで習得した技術を活かしてダブルスゲームを行う。ペアでゲームを行うことでソフトテニスの楽しみを学ぶ。

第12回：ダブルス②
試合映像を基にダブルスでの戦略を学び, それを実際の試合に活かす.

第13回：ソフトテニスの応用
ローカルルールを採用したソフトテニスや，近接ラケット競技（ピックルボールなど）を体験し，ソフトテニスの可能性を探る．
第14回：技術の確認
授業を通して技術がどの程度上達したか確認する。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に指定しない。

参考文献：　公益財団法人日本ソフトテニス連盟　編　最新版　ソフトテニス指導教本(ベースボールマガジン社)

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　30　技術の確認を行う。

平常点評価：　70　出席及びレビューシートを提出する。

備考・関連URL：　喜久井町テニスコートにて実施します。各自、テニスシューズか運動に適したシューズを準備してください。
ラケットは貸し出し用がありますが、自身のものを持参してもかまいません。

＜喜久井町キャンパス＞
喜久井町キャンパスへのアクセス
（教室は、喜久井町テニスコート横の更衣室の上となります）
http://www.waseda.jp/inst/athletic/news/2016/02/14/8054/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040018|05|9S07040018[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ソフトテニス 基礎 05		
担 当 教 員	永野 康治		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： ソフトテニスは日本で生まれ、老若男女によって楽しまれているスポーツである。学校スポーツして多くの競技者がいる一方、高齢化社会においては生涯スポーツとしても愛好者が多いことがソフトテニスの特徴である。
本授業ではソフトテニスの基本的な技術を習得し、ラリーおよびゲームを行えるようになることが目的である。その中でソフトテニスの楽しみを学び、生涯スポーツとしての可能性を実践する。

授業の到達目標： ・ソフトテニスの基本的技術を習得する。
・ソフトテニスのゲームを戦略を立てて進めることができる。
・ソフトテニスの楽しさを体感する。

事前・事後学習の内容： 事前学習としてその日に行う内容についての目標を設定する. 事後学習としてその日の授業に内容について振り返りを行いレビューシートに入力する.

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：オリエンテーション
本授業の目的と概要を説明する。また、実習に必要な服装・用具・テニスコートへの経路の確認を行う。

第2回：ラケットコントロール、コーディネーション
ラケットの操作方法を学び、各種打法のためのラケットコントロールを身につける。また、コーディネーショントレーニングによって身体操作の向上も目指す。

第3回：ストロークの基本その1
ストローク(フォア, バック)の基本的な打法を習得する。打球を的確に捉えるスイングを身につけることにより、相手コートにボールを返球することを目指す.

第4回：ストロークの基本その2
ストローク(フォア, バック)の打法を習得する。ボールの落下点に素早く移動して行うストロークを身につけることにより、相手コートにボールを連続して返球することを目指す.

第5回：ストロークの応用
各種打点における打ち方やコースの打ち分けを行い、状況に応じたストロークを目指す。

第6回：サービス
ゲームの開始となるサービスの習得を行う。各種サービスの種類やコースの打ち分けを行い、主導権をとれるサービスを目指す。

第7回：スマッシュ・ボレー
ロビングやチャンスボールに対するスマッシュの習得を行う。ボールの高さに応じてスマッシュとハイボレーを使い分け、確実に得点できるスマッシュを目指す。ネットプレーの中心となるボレーの習得を行う。フォアボレー、バックボレー、および各種コースにおけるボレーを行い、得点源となるボレーを目指す。

第8回：レシーブ
サービスに対するレシーブおよびそこからのゲーム展開を習得する。現在のソフトテニスでは状況に応じて陣形が変化するため、陣形に合わせたレシーブ・ゲーム展開を目指す。

第9回：ゲームの進め方
シングルスおよびダブルスゲームの進め方を理解し、実践する。

第10回：シングルス
これまで習得した技術を活かしてシングルスゲームを行う。

第11回：ダブルス①
これまで習得した技術を活かしてダブルスゲームを行う。ペアでゲームを行うことでソフトテニスの楽しみを学ぶ。

第12回：ダブルス②
試合映像を基にダブルスでの戦略を学び, それを実際の試合に活かす.

第１３回：ソフトテニスの応用
ローカルルールを採用したソフトテニスや，近接ラケット競技（ピックルボールなど）を体験し，ソフトテニスの可能性を探る．
第１４回：技術の確認
授業を通して技術がどの程度上達したか確認する。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に指定しない。

参考文献：　公益財団法人日本ソフトテニス連盟　編　最新版　ソフトテニス指導教本(ベースボールマガジン社)

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　30　技術の確認を行う。

平常点評価：　70　出席及びレビューシートを提出する。

備考・関連URL：　喜久井町テニスコートにて実施します。各自、テニスシューズか運動に適したシューズを準備してください。
ラケットは貸し出し用がありますが、自身のものを持参してもかまいません。

＜喜久井町キャンパス＞
喜久井町キャンパスへのアクセス
（教室は、喜久井町テニスコート横の更衣室の上となります）
http://www.waseda.jp/inst/athletic/news/2016/02/14/8054/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040019|01|9S07040019[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ソフトボール（入門） 01		
担 当 教 員	高杉 聡		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:土1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ～スローピッチ、ティーボール等を7種のボールで楽しく行う～

授業概要:

①恵まれたプレー環境、グラウンドの利便性！
本授業は喜久井町グラウンドで行います。早稲田駅徒歩2分、利便性に非常に恵まれています。
バット、グローブ、ボールなどはすべてこちらで用意して皆さんをお迎えします。
もちろん更衣室も完備です。
思う存分にソフトボールを楽しむ環境がそこにはあります！
是非土曜日の午前中にソフトボールに汗を流して、充実した週末を過ごしてください！

②「楽しむ」ための様々な工夫！
ソフトボールやティーボール※1は「いつでも、どこでも、誰でも」楽しめる球技です。
本授業ではこの特性を最大化して皆さんに体験、体感してもらいます！
グラウンドの状態やその時集まった人数・スキル習熟度などによって、様々なボールを駆使し、
オリジナルのルールを設け、授業に参加した皆さんが楽しめる環境を用意します。
また、ソフトボール特有の「ウィンドミル投法」についても、授業終了時に習得できるように楽しく学んでいきます。

③教員からのメッセージ

■運動が苦手だと思ってる方、お待ちしています
ボールの投げ方、取り方、バットの振り方から指導しますので、
野球・ソフトボール経験がなくても全く心配ありません。

■スポーツ指導者になりたい方、お待ちしています
基礎的な技術指導だけではなく、試合の運営やルールの工夫、安全性の確保など
様々な要素を勘案しながら授業を組み立てていきますので、近い将来の皆さんの
スポーツ指導に役に立つ経験になると思います。

■教職希望の方、お待ちしています
ソフトボールやティーボールはすでに学習指導要領の中で「ベースボール型球技」として記載されており、
学校教育の中で取り入れられています。
この授業では、子供たちがゲームをする際のルールを適用してみたり、ソフトボール歴の無い人用の練習メニューを組んだりしますので、
教員になった後に役に立つ要素がたくさんあると思います。

④教員紹介
・前早稲田大学男子ソフトボール部監督（監督歴8年）
・現早稲田大学男子ソフトボール部コーチ（コーチ歴19年）
・現稲門ソフトボールクラブ 早稲田クラブ監督
・早稲田大学男子ソフトボール部出身
・現 株式会社電通勤務

＊主な戦績（コーチ、監督時）
インカレ優勝 4回、準優勝 3回 ベスト4 3回
東日本インカレ 5連覇
他多数

※1ティーボール
ピッチャーのいない野球・ソフトボール型球技。バッティングティーに置かれたボールを打つことでゲームがスタートします。
文部科学省の「学習指導要領」の実施に伴い、今では全国の小学校でも体育の授業で行われており、野球やソフトボールの入門スポーツとしても注目を浴びています。

授業の到達目標:
①スローピッチソフトボールを楽しく行える技術レベルの習得
②ウィンドミルの習得
③チームプレーの習得

事前・事後学習の内容:
事前学習：ソフトボールのルール、歴史などを各自で学修しておくこと。
事後学修：習得した技術、特にウィンドミルに関する技術を次回授業で反映できるようにすること。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（ソフトボール、ティーボールの魅力、スケジュールの説明など）
場所：喜久井町グラウンド内教室にて行います
第2回
基礎練習（準備運動とキャッチボール、スローイング、ゴロの捕球法、フライの捕球法）
第3回
基礎練習（一列内野ノック、外野ノック）
第4回
基礎練習（トスバッテイング、ロングティー）
第5回
基礎練習（トス打撃、遠くへ飛ばすバッティング）
第6回
基礎練習（メジャーリーグゲーム、どか点ゲーム）
第7回
ティーボールゲーム（1）
第8回
ティーボールゲーム（2）
第9回
ティーボールゲーム（3）
第10回
スローピッチソフトボール試合(1)
第11回
スローピッチソフトボール試合(2)
第12回
スローピッチソフトボール試合(3)
第13回
スローピッチソフトボール試合(4)
第14回
ファーストピッチ体験、スローピッチソフトボール試合（5）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: ボール、バット、グラブは大学が用意します・
教科書は『ソフトボール教室』（吉村正先生著）大修館書店、価格1,400円（税抜）を使用する。

参考文献: 「うまくなるソフトボール」全3巻：吉村正先生著（ベースボールマガジン社）
「ティーボールのすすめ」：吉村正先生編著（ベースボールマガジン社）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 5 雨天時レポート内容

平常点評価: 90 出席回数を最重視する。

その他: 5 授業中の態度など

備考・関連URL: 第1週オリエンテーションの授業では、各人パスポート用の写真を持参すること。

※雨天時
1. スポーツビジネスの現状と今後
2. 生涯スポーツの普及について
場所：喜久井町グランド内教室

関連URL:
喜久井町キャンパスへのアクセス
http://www.waseda.jp/inst/athletic/news/2016/02/14/8054/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040019|02|9S07040019[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ソフトボール（入門） 02		
担 当 教 員	高杉 聡		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:土2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： ～スローピッチ、ティーボール等を7種のボールで楽しく行う～

授業概要：

①恵まれたプレー環境、グラウンドの利便性！
本授業は喜久井町グラウンドで行います。早稲田駅徒歩2分、利便性に非常に恵まれています。
バット、グローブ、ボールなどはすべてこちらで用意して皆さんをお迎えします。
もちろん更衣室も完備です。
思う存分にソフトボールを楽しむ環境がそこにはあります！
是非土曜日の午前中にソフトボールに汗を流して、充実した週末を過ごしてください！

②「楽しむ」ための様々な工夫！
ソフトボールやティーボール※1は「いつでも、どこでも、誰でも」楽しめる球技です。
本授業ではこの特性を最大化して皆さんに体験、体感してもらいます！
グラウンドの状態やその時集まった人数・スキル習熟度などによって、様々なボールを駆使し、
オリジナルのルールを設け、授業に参加した皆さんが楽しめる環境を用意します。
また、ソフトボール特有の「ウィンドミル投法」についても、授業終了時に習得できるように楽しく学んでいきます。

③教員からのメッセージ

■運動が苦手だと思ってる方、お待ちしています
ボールの投げ方、取り方、バットの振り方から指導しますので、
野球・ソフトボール経験がなくても全く心配ありません。

■スポーツ指導者になりたい方、お待ちしています
基礎的な技術指導だけではなく、試合の運営やルールの工夫、安全性の確保など
様々な要素を勘案しながら授業を組み立てていきますので、近い将来の皆さんの
スポーツ指導に役に立つ経験になると思います。

■教職希望の方、お待ちしています
ソフトボールやティーボールはすでに学習指導要領の中で「ベースボール型球技」として記載されており、
学校教育の中で取り入れられています。
この授業では、子供たちがゲームをする際のルールを適用してみたり、ソフトボール歴の無い人用の練習メニューを組んだりしますので、
教員になった後に役に立つ要素がたくさんあると思います。

④教員紹介
・前早稲田大学男子ソフトボール部監督（監督歴8年）
・現早稲田大学男子ソフトボール部コーチ（コーチ歴19年）
・現稲門ソフトボールクラブ 早稲田クラブ監督
・早稲田大学男子ソフトボール部出身
・現 株式会社電通勤務

＊主な戦績（コーチ、監督時）
インカレ優勝 4回、準優勝 3回 ベスト4 3回
東日本インカレ 5連覇
他多数

※1ティーボール
ピッチャーのいない野球・ソフトボール型球技。バッティングティーに置かれたボールを打つことでゲームがスタートします。
文部科学省の「学習指導要領」の実施に伴い、今では全国の小学校でも体育の授業で行われており、野球やソフトボールの入門スポーツとしても注目を浴びています。

授業の到達目標：
①スローピッチソフトボールを楽しく行える技術レベルの習得
②ウィンドミルの習得
③チームプレーの習得

事前・事後学習の内容：
事前学習：ソフトボールのルール、歴史などを各自で学修しておくこと。
事後学修：習得した技術、特にウィンドミルに関する技術を次回授業で反映できるようにすること。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（ソフトボール、ティーボールの魅力、スケジュールの説明など）
場所：喜久井町グラウンド内教室にて行います
第2回
基礎練習（準備運動とキャッチボール、スローイング、ゴロの捕球法、フライの捕球法）
第3回
基礎練習（一列内野ノック、外野ノック）
第4回
基礎練習（トスバッテイング、ロングティー）
第5回
基礎練習（トス打撃、遠くへ飛ばすバッティング）
第6回
基礎練習（メジャーリーグゲーム、どか点ゲーム）
第7回
ティーボールゲーム（1）
第8回
ティーボールゲーム（2）
第9回
ティーボールゲーム（3）
第10回
スローピッチソフトボール試合(1)
第11回
スローピッチソフトボール試合(2)
第12回
スローピッチソフトボール試合(3)
第13回
スローピッチソフトボール試合(4)
第14回
ファーストピッチ体験、スローピッチソフトボール試合（5）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: ボール、バット、グラブは大学が用意します・
教科書は『ソフトボール教室』（吉村正先生著）大修館書店、価格1,400円（税抜）を使用する。

参考文献: 「うまくなるソフトボール」全3巻：吉村正先生著（ベースボールマガジン社）
「ティーボールのすすめ」：吉村正先生編著（ベースボールマガジン社）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 5 雨天時レポート内容

平常点評価: 90 出席回数を最重視する。

その他: 5 授業中の態度など

備考・関連URL: 第1週オリエンテーションの授業では、各人パスポート用の写真を持参すること。

※雨天時
1. スポーツビジネスの現状と今後
2. 生涯スポーツの普及について
場所：喜久井町グランド内教室

関連URL:
喜久井町キャンパスへのアクセス
http://www.waseda.jp/inst/athletic/news/2016/02/14/8054/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040019|03|9S07040019[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ソフトボール（入門） 03		
担 当 教 員	高杉 聡		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:土1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： ～スローピッチ、ティーボール等を7種のボールで楽しく行う～

授業概要：

①恵まれたプレー環境、グラウンドの利便性！
本授業は喜久井町グラウンドで行います。早稲田駅徒歩2分、利便性に非常に恵まれています。
バット、グローブ、ボールなどはすべてこちらで用意して皆さんをお迎えします。
もちろん更衣室も完備です。
思う存分にソフトボールを楽しむ環境がそこにはあります！
是非土曜日の午前中にソフトボールに汗を流して、充実した週末を過ごしてください！

②「楽しむ」ための様々な工夫！
ソフトボールやティーボール※1は「いつでも、どこでも、誰でも」楽しめる球技です。
本授業ではこの特性を最大化して皆さんに体験、体感してもらいます！
グラウンドの状態やその時集まった人数・スキル習熟度などによって、様々なボールを駆使し、
オリジナルのルールを設け、授業に参加した皆さんが楽しめる環境を用意します。
また、ソフトボール特有の「ウィンドミル投法」についても、授業終了時に習得できるように楽しく学んでいきます。

③教員からのメッセージ

■運動が苦手だと思ってる方、お待ちしています
ボールの投げ方、取り方、バットの振り方から指導しますので、
野球・ソフトボール経験がなくても全く心配ありません。

■スポーツ指導者になりたい方、お待ちしています
基礎的な技術指導だけではなく、試合の運営やルールの工夫、安全性の確保など
様々な要素を勘案しながら授業を組み立てていきますので、近い将来の皆さんの
スポーツ指導に役に立つ経験になると思います。

■教職希望の方、お待ちしています
ソフトボールやティーボールはすでに学習指導要領の中で「ベースボール型球技」として記載されており、
学校教育の中で取り入れられています。
この授業では、子供たちがゲームをする際のルールを適用してみたり、ソフトボール歴の無い人用の練習メニューを組んだりしますので、
教員になった後に役に立つ要素がたくさんあると思います。

④教員紹介
・前早稲田大学男子ソフトボール部監督（監督歴8年）
・現早稲田大学男子ソフトボール部コーチ（コーチ歴19年）
・現稲門ソフトボールクラブ 早稲田クラブ監督
・早稲田大学男子ソフトボール部出身
・現 株式会社電通勤務

＊主な戦績（コーチ、監督時）
インカレ優勝 4回、準優勝 3回 ベスト4 3回
東日本インカレ 5連覇
他多数

※1ティーボール
ピッチャーのいない野球・ソフトボール型球技。バッティングティーに置かれたボールを打つことでゲームがスタートします。
文部科学省の「学習指導要領」の実施に伴い、今では全国の小学校でも体育の授業で行われており、野球やソフトボールの入門スポーツとしても注目を浴びています。

授業の到達目標：
①スローピッチソフトボールを楽しく行える技術レベルの習得
②ウィンドミルの習得
③チームプレーの習得

事前・事後学習の内容：
事前学習：ソフトボールのルール、歴史などを各自で学修しておくこと。
事後学修：習得した技術、特にウィンドミルに関する技術を次回授業で反映できるようにすること。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（ソフトボール、ティーボールの魅力、スケジュールの説明など）
場所：喜久井町グラウンド内教室にて行います
第2回
基礎練習（準備運動とキャッチボール、スローイング、ゴロの捕球法、フライの捕球法）
第3回
基礎練習（一列内野ノック、外野ノック）
第4回
基礎練習（トスバッテイング、ロングティー）
第5回
基礎練習（トス打撃、遠くへ飛ばすバッティング）
第6回
基礎練習（メジャーリーグゲーム、どか点ゲーム）
第7回
ティーボールゲーム（1）
第8回
ティーボールゲーム（2）
第9回
ティーボールゲーム（3）
第10回
スローピッチソフトボール試合(1)
第11回
スローピッチソフトボール試合(2)
第12回
スローピッチソフトボール試合(3)
第13回
スローピッチソフトボール試合(4)
第14回
ファーストピッチ体験、スローピッチソフトボール試合（5）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: ボール、バット、グラブは大学が用意します・
教科書は『ソフトボール教室』（吉村正先生著）大修館書店、価格1,400円（税抜）を使用する。

参考文献: 「うまくなるソフトボール」全3巻：吉村正先生著（ベースボールマガジン社）
「ティーボールのすすめ」：吉村正先生編著（ベースボールマガジン社）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 5 雨天時レポート内容

平常点評価: 90 出席回数を最重視する。

その他: 5 授業中の態度など

備考・関連URL: 第1週オリエンテーションの授業では、各人パスポート用の写真を持参すること。

※雨天時
1. スポーツビジネスの現状と今後
2. 生涯スポーツの普及について
場所：喜久井町グランド内教室

関連URL:
喜久井町キャンパスへのアクセス
http://www.waseda.jp/inst/athletic/news/2016/02/14/8054/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040019|04|9S07040019[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ソフトボール（入門） 04		
担 当 教 員	高杉 聡		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:土2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： ～スローピッチ、ティーボール等を7種のボールで楽しく行う～

授業概要：

①恵まれたプレー環境、グラウンドの利便性！
本授業は喜久井町グラウンドで行います。早稲田駅徒歩2分、利便性に非常に恵まれています。
バット、グローブ、ボールなどはすべてこちらで用意して皆さんをお迎えします。
もちろん更衣室も完備です。
思う存分にソフトボールを楽しむ環境がそこにはあります！
是非土曜日の午前中にソフトボールに汗を流して、充実した週末を過ごしてください！

②「楽しむ」ための様々な工夫！
ソフトボールやティーボール※1は「いつでも、どこでも、誰でも」楽しめる球技です。
本授業ではこの特性を最大化して皆さんに体験、体感してもらいます！
グラウンドの状態やその時集まった人数・スキル習熟度などによって、様々なボールを駆使し、
オリジナルのルールを設け、授業に参加した皆さんが楽しめる環境を用意します。
また、ソフトボール特有の「ウィンドミル投法」についても、授業終了時に習得できるように楽しく学んでいきます。

③教員からのメッセージ

■運動が苦手だと思ってる方、お待ちしています
ボールの投げ方、取り方、バットの振り方から指導しますので、
野球・ソフトボール経験がなくても全く心配ありません。

■スポーツ指導者になりたい方、お待ちしています
基礎的な技術指導だけではなく、試合の運営やルールの工夫、安全性の確保など
様々な要素を勘案しながら授業を組み立てていきますので、近い将来の皆さんの
スポーツ指導に役に立つ経験になると思います。

■教職希望の方、お待ちしています
ソフトボールやティーボールはすでに学習指導要領の中で「ベースボール型球技」として記載されており、
学校教育の中で取り入れられています。
この授業では、子供たちがゲームをする際のルールを適用してみたり、ソフトボール歴の無い人用の練習メニューを組んだりしますので、
教員になった後に役に立つ要素がたくさんあると思います。

④教員紹介
・前早稲田大学男子ソフトボール部監督（監督歴8年）
・現早稲田大学男子ソフトボール部コーチ（コーチ歴19年）
・現稲門ソフトボールクラブ 早稲田クラブ監督
・早稲田大学男子ソフトボール部出身
・現 株式会社電通勤務

＊主な戦績（コーチ、監督時）
インカレ優勝 4回、準優勝 3回 ベスト4 3回
東日本インカレ 5連覇
他多数

※1ティーボール
ピッチャーのいない野球・ソフトボール型球技。バッティングティーに置かれたボールを打つことでゲームがスタートします。
文部科学省の「学習指導要領」の実施に伴い、今では全国の小学校でも体育の授業で行われており、野球やソフトボールの入門スポーツとしても注目を浴びています。

授業の到達目標：
①スローピッチソフトボールを楽しく行える技術レベルの習得
②ウィンドミルの習得
③チームプレーの習得

事前・事後学習の内容：
事前学習：ソフトボールのルール、歴史などを各自で学修しておくこと。
事後学修：習得した技術、特にウィンドミルに関する技術を次回授業で反映できるようにすること。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（ソフトボール、ティーボールの魅力、スケジュールの説明など）
場所：喜久井町グラウンド内教室にて行います
第2回
基礎練習（準備運動とキャッチボール、スローイング、ゴロの捕球法、フライの捕球法）
第3回
基礎練習（一列内野ノック、外野ノック）
第4回
基礎練習（トスバッテイング、ロングティー）
第5回
基礎練習（トス打撃、遠くへ飛ばすバッティング）
第6回
基礎練習（メジャーリーグゲーム、どか点ゲーム）
第7回
ティーボールゲーム（1）
第8回
ティーボールゲーム（2）
第9回
ティーボールゲーム（3）
第10回
スローピッチソフトボール試合(1)
第11回
スローピッチソフトボール試合(2)
第12回
スローピッチソフトボール試合(3)
第13回
スローピッチソフトボール試合(4)
第14回
ファーストピッチ体験、スローピッチソフトボール試合（5）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: ボール、バット、グラブは大学が用意します・
教科書は『ソフトボール教室』（吉村正先生著）大修館書店、価格1,400円（税抜）を使用する。

参考文献: 「うまくなるソフトボール」全3巻：吉村正先生著（ベースボールマガジン社）
「ティーボールのすすめ」：吉村正先生編著（ベースボールマガジン社）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 5 雨天時レポート内容

平常点評価: 90 出席回数を最重視する。

その他: 5 授業中の態度など

備考・関連URL: 第1週オリエンテーションの授業では、各人パスポート用の写真を持参すること。

※雨天時
1. スポーツビジネスの現状と今後
2. 生涯スポーツの普及について
場所：喜久井町グランド内教室

関連URL:
喜久井町キャンパスへのアクセス
http://www.waseda.jp/inst/athletic/news/2016/02/14/8054/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040022|01|9S07040022[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	卓球 基礎 01		
担 当 教 員	本橋 道直		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 卓球はとても身近で手軽なスポーツである。卓球台があって、ラケットとボールさえあれば誰でも接することができる。しかしいざボールを打ってみると、自分が思うようにボールをコントロールする事はなかなか難しい。それを克服するには正しいフォームを身につけ、ラケットで正確にボールをとらえなければならない。それと同時に様々な回転を持ちながら、飛んでくるボールに対応していく知識を身につけなければならない。
この授業では、基礎となる基本技術を身につけ、高めるために、ラケットの正しい持ち方からラケットの角度、合理的な身体の使い方などを練習していく。そしてもうひとつ「ボールの回転」について理解し実践の中で対応できるように練習していく。
基本技術のレベルがあがり、ボールの回転への対応力が増すことにより、打球の確実性・安定性は明らかに上昇していくはずである。その満足感・達成感を実感してほしい。

授業の到達目標: ・基本技術をしっかり身につけ、可能なかぎり高めていく。
・ボールの回転を理解し、それに対して確実に調整できるようにする。
・身体の動きのスピード、ボールのスピードをあげる。
・回転の変化に対応しながら、シングルス・ダブルスのゲームを楽しめるようにする。
・クラス全体のコミュニケーションを図る。

事前・事後学習の内容: 時間がある際は、卓球の動画などを観てもらうと参考になります。授業後には各種打法、技術の重要点を十分に理解し、次回の授業の際にいかしてください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション
授業での諸注意 心構え、用意するもの等
評価の方法の説明

第2回 クラス分け
初級・中級・上級の3つのクラスに分ける

第3回 フォアハンドの練習①
正しいグリップの説明
ラケットの角度・スイングの方向、タイミングの取り方などの説明

第4回 フォアハンドの練習②
フットワークとスマッシュ
フットワークを使ってしっかりボールをとらえる
身体を大きく強く使ってボールを強く打つ

第5回 バックハンドの練習
正しいラケットの角度とスイングの方向の説明
打球点とタイミングの取り方の説明

第6回 バックハンドとフォアハンドのコンビネーション
バックハンドとフォアハンドの切り替え
フットワークと身体の合理的な使い方の説明

第7回 ツッツキの練習①
下回転の特性の説明
正しいラケットの角度とスイング方向の説明
タイミングの取り方の注意

第8回 ツッツキの練習② および ドライブ
下回転の量の変化と、それに対するラケットの角度の調整の方法
下回転のボールにドライブをかける

第9回 卓球のルール説明と50本ラリー へのチャレンジ
卓球のルール説明と50本ラリーへのチャレンジ

第10回　サーブとレシーブとゲームの説明
様々な回転を持つサーブとそれに対応するレシーブの方法
ダブルスのゲームの進め方の説明
第11回　ダブルスのゲーム①
サーブ・レシーブの良否が勝敗を左右するので、その重要性を頭に入れてゲームを進める
第12回　ダブルスのゲーム②
コンビネーションを高めるために、動き方・コースの取り方に注意する
第13回　シングルスのゲーム①
サーブ・レシーブの大切さをシングルスのゲームにおいても意識してゲームを進める
第14回　シングルスのゲーム②、授業のまとめ
フットワークを使ってしっかりボールをとらえる。また相手より1本多く返球する意識を持ってプレーする
卓球の授業における重要なポイントを復習する

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特に指定するものはありません。
各自必要に応じて情報を得てください。

参考文献: 特に指定するものはありません。
各自必要に応じて情報を得てください。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	30	ラリー往復50本：100点、 40本：90点、 30本：80点、 30本未満：70点
レポート:	30	卓球の重要なポイントについての内容のレポートを提出する。
平常点評価:	40	3分の2以上の出席が必要となる。 それ以下となると評価の対象外となるので注意してください。

備考・関連URL: 用意するもの： ラケット、体操服（上下）、体育館用シューズ、ゼッケン
※第1回授業はオリエンテーションのため、第2回以降用意すること。
【重要】
・授業開始後15分以降は遅刻とします。ただし、交通機関の遅延等特別な理由がある場合は、必ず担当教員に報告し、その後授業に参加すること。
・事前に欠席しなければならない等、連絡事項があるときは、メールにて連絡してください。
・体調管理には万全を期して、元気にいきましょう。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040022|02|9S07040022[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	卓球 基礎 02		
担 当 教 員	本橋 道直		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： 卓球はとても身近で手軽なスポーツである。卓球台があって、ラケットとボールさえあれば誰でも接することができる。しかしいざボールを打ってみると、自分が思うようにボールをコントロールする事はなかなか難しい。それを克服するには正しいフォームを身につけ、ラケットで正確にボールをとらえなければならない。それと同時に様々な回転を持ちながら、飛んでくるボールに対応していく知識を身につけなければならない。
この授業では、基礎となる基本技術を身につけ、高めるために、ラケットの正しい持ち方からラケットの角度、合理的な身体の使い方などを練習していく。そしてもうひとつ「ボールの回転」について理解し実践の中で対応できるように練習していく。
基本技術のレベルがあがり、ボールの回転への対応力が増すことにより、打球の確実性・安定性は明らかに上昇していくはずである。その満足感・達成感を実感してほしい。

授業の到達目標： ・基本技術をしっかり身につけ、可能なかぎり高めていく。
・ボールの回転を理解し、それに対して確実に調整できるようにする。
・身体の動きのスピード、ボールのスピードをあげる。
・回転の変化に対応しながら、シングルス・ダブルスのゲームを楽しめるようにする。
・クラス全体のコミュニケーションを図る。

事前・事後学習の内容： 時間がある際は、卓球の動画などを観てもらうと参考になります。授業後には各種打法、技術の重要点を十分に理解し、次回の授業の際にいかしてください。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーション
授業での諸注意 心構え、用意するもの等
評価の方法の説明

第2回 クラス分け
初級・中級・上級の3つのクラスに分ける

第3回 フォアハンドの練習①
正しいグリップの説明
ラケットの角度・スイングの方向、タイミングの取り方などの説明

第4回 フォアハンドの練習②
フットワークとスマッシュ
フットワークを使ってしっかりボールをとらえる
身体を大きく強く使ってボールを強く打つ

第5回 バックハンドの練習
正しいラケットの角度とスイングの方向の説明
打球点とタイミングの取り方の説明

第6回 バックハンドとフォアハンドのコンビネーション
バックハンドとフォアハンドの切り替え
フットワークと身体の合理的な使い方の説明

第7回 ツッツキの練習①
下回転の特性の説明
正しいラケットの角度とスイング方向の説明
タイミングの取り方の注意

第8回 ツッツキの練習② および ドライブ
下回転の量の変化と、それに対するラケットの角度の調整の方法
下回転のボールにドライブをかける

第9回 卓球のルール説明と50本ラリー へのチャレンジ
卓球のルール説明と50本ラリーへのチャレンジ

第10回　サーブとレシーブとゲームの説明
様々な回転を持つサーブとそれに対応するレシーブの方法
ダブルスのゲームの進め方の説明
第11回　ダブルスのゲーム①
サーブ・レシーブの良否が勝敗を左右するので、その重要性を頭に入れてゲームを進める
第12回　ダブルスのゲーム②
コンビネーションを高めるために、動き方・コースの取り方に注意する
第13回　シングルスのゲーム①
サーブ・レシーブの大切さをシングルスのゲームにおいても意識してゲームを進める
第14回　シングルスのゲーム②、授業のまとめ
フットワークを使ってしっかりボールをとらえる。また相手より1本多く返球する意識を持ってプレーする
卓球の授業における重要なポイントを復習する

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特に指定するものはありません。
各自必要に応じて情報を得てください。

参考文献: 特に指定するものはありません。
各自必要に応じて情報を得てください。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	30	ラリー往復50本：100点、 40本：90点、 30本：80点、 30本未満：70点
レポート:	30	卓球の重要なポイントについての内容のレポートを提出する。
平常点評価:	40	3分の2以上の出席が必要となる。 それ以下となると評価の対象外となるので注意してください。

備考・関連URL: 用意するもの： ラケット、体操服（上下）、体育館用シューズ、ゼッケン
※第1回授業はオリエンテーションのため、第2回以降用意すること。
【重要】
・授業開始後15分以降は遅刻とします。ただし、交通機関の遅延等特別な理由がある場合は、必ず担当教員に報告し、その後授業に参加すること。
・事前に欠席しなければならない等、連絡事項があるときは、メールにて連絡してください。
・体調管理には万全を期して、元気にいきましょう。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040022|03|9S07040022[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	卓球 基礎 03		
担 当 教 員	本橋 道直		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 相手とともにラリーを続ける楽しみ、回転・スピード・タイミングの変化を楽しむことができるようになることを目標とする。

授業概要: 卓球はとても身近で手軽なスポーツである。卓球台があって、ラケットとボールさえあれば誰でも接することができる。しかしいざボールを打ってみると、自分が思うようにボールをコントロールする事はなかなか難しい。それを克服するには正しいフォームを身につけ、ラケットで正確にボールをとらえなければならない。それと同時に様々な回転を持ちながら、飛んでくるボールに対応していく知識を身につけなければならない。
この授業では、基礎となる基本技術を身につけ、高めるために、ラケットの正しい持ち方からラケットの角度、合理的な身体の使い方などを練習していく。そしてもうひとつ「ボールの回転」について理解し実践の中で対応できるように練習していく。
基本技術のレベルがあがり、ボールの回転への対応力が増すことにより、打球の確実性・安定性は明らかに上昇していくはずである。その満足感・達成感を実感してほしい。

授業の到達目標: ・基本技術をしっかり身につけ、可能なかぎり高めていく。
・ボールの回転を理解し、それに対して確実に調整できるようにする。
・身体の動きのスピード、ボールのスピードをあげる。
・回転の変化に対応しながら、シングルス・ダブルスのゲームを楽しめるようにする。
・クラス全体のコミュニケーションを図る。

事前・事後学習の内容: 時間がある際は、卓球の動画などを観てもらうと参考になります。授業後には各種打法、技術の重要点を十分に理解し、次回の授業の際にいかしてください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション
授業での諸注意 心構え、用意するもの等
評価の方法の説明

第2回 クラス分け
初級・中級・上級の3つのクラスに分ける

第3回 フォアハンドの練習①
正しいグリップの説明
ラケットの角度・スイングの方向、タイミングの取り方などの説明

第4回 フォアハンドの練習②
フットワークとスマッシュ
フットワークを使ってしっかりボールをとらえる
身体を大きく強く使ってボールを強く打つ

第5回 バックハンドの練習
正しいラケットの角度とスイングの方向の説明
打球点とタイミングの取り方の説明

第6回 バックハンドとフォアハンドのコンビネーション
バックハンドとフォアハンドの切り替え
フットワークと身体の合理的な使い方の説明

第7回 ツッツキの練習①
下回転の特性の説明
正しいラケットの角度とスイング方向の説明
タイミングの取り方の注意

第8回 ツッツキの練習② および ドライブ
下回転の量の変化と、それに対するラケットの角度の調整の方法
下回転のボールにドライブをかける

第9回　卓球のルール説明と50本ラリー へのチャレンジ
卓球のルール説明と50本ラリーへのチャレンジ
第10回　サーブとレシーブとゲームの説明
様々な回転を持つサーブとそれに対応するレシーブの方法
ダブルスのゲームの進め方の説明
第11回　ダブルスのゲーム①
サーブ・レシーブの良否が勝敗を左右するので、その重要性を頭に入れてゲームを進める
第12回　ダブルスのゲーム②
コンビネーションを高めるために、動き方・コースの取り方に注意する
第13回　シングルスのゲーム①
サーブ・レシーブの大切さをシングルスのゲームにおいても意識してゲームを進める
第14回　シングルスのゲーム②、授業のまとめ
フットワークを使ってしっかりボールをとらえる。また相手より1本多く返球する意識を持ってプレーする
卓球の授業における重要なポイントを復習する

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特に指定するものはありません。
各自必要に応じて情報を得てください。

参考文献: 特に指定するものはありません。
各自必要に応じて情報を得てください。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30　ラリー往復50本：100点、 40本：90点、 30本：80点、 30本未満：70点

レポート: 30　卓球の重要なポイントについての内容のレポートを提出する。

平常点評価: 40　3分の2以上の出席が必要となる。
それ以下となると評価の対象外となるので注意してください。

備考・関連URL: 用意するもの： ラケット、体操服（上下）、体育館用シューズ、ゼッケン
※第1回授業はオリエンテーションのため、第2回以降用意すること。
【重要】
・授業開始後15分以降は遅刻とします。ただし、交通機関の遅延等特別な理由がある場合は、必ず担当教員に報告し、その後授業に参加すること。
・事前に欠席しなければならない等、連絡事項があるときは、メールにて連絡してください。
・体調管理には万全を期して、元気にいきましょう。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040022|04|9S07040022[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	卓球 基礎 04		
担 当 教 員	時吉 佑一		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 相手とともにラリーを続ける楽しみ、回転・スピード・タイミングの変化を楽しむことができるようになることを目標とする

授業概要: 1. 卓球は老若男女、誰でもが楽しめるスポーツである。技術レベルの向上に伴って、ラリーを続けることができるようになること、これが最も楽しい要素である。
2. 卓球の起源や歴史、技術や戦術およびルールの変遷などを知ることにより、興味や関心が湧くことになる。卓球競技の最新技術をDVDによる動画像で客観的にとらえて、卓球のイメージを広げることが可能となる。
3. ラケットの握り方（グリップ）、基本姿勢の指導は最も大切なポイントである。
しかし、個々に骨格、体力が異なるため、その指導は画一的であってはならない。
サービス（コース、タイミング、弾道、回転等）の出し方はルールの理解が前提となることから、詳細に説明を加える。また、回転サービスのレシーブ方法として、適正なラケット角度の決定がそのコントロール性を高めることに寄与する点について、実際の模範演技を見せると同時に、ボール時計を図示して理解を深めさせる。
特に、初心者の場合は技術レベルと理解度が異なることを踏まえて指導する。
さらに、技術レベルが向上すると、サービスやレシーブを含め、基礎から応用にいたる技術をマスターすることで、さらにラリーを楽しむことができるようになる。
これらの技術を状況によって使い分けることができる段階になると、ゲームを楽しめるようになる。

授業の到達目標: 1. 卓球の競技特性を知る。
2. 卓球の歴史、ルール、競技構造を知る。
3. 卓球の用具特性を知り、自分にあった用具を選択する。
4. ラケットの握り方を学び、実際にラケットを振ってみる。
5. 感覚練習で、実際にボールを打ち、ボール感覚を養成する。
6. 相手とのラリーを楽しむことができるようにする。
7. いろいろなサービスを出せるようにする。
8. 相手のサービスをレシーブできるようにする。
9. 自分の基本戦術を確立させ、さまざまな相手のプレーに対応できるようにする。
10. 相手の技術レベルに合わせた練習やゲームが出来るようにする。
11. 卓球の往復するタイミングは早く、ボールも早いために、スポーツビジョントレーニングもマスターすること。
12. 相手の戦型に応じた卓球の戦術を考え、自分の良さを出し切るように工夫する。
13. トップレベルの選手のプレーを見て参考にするとともに、練習では何かしらのプレーをトライしてみる。

事前・事後学習の内容: 事前学修：卓球の簡単なルールを学修しておきましょう。卓球はネットをはさんで、ラバー貼りラケットを使用してプラスチック製の軽いボールをネットをはさんだ卓球台上を向かい合った2人が打ち合うスポーツです。ボールを打ち返すことで、心と心のラリーが生まれます。お互いが相手に打ちやすいボールを送ることで、軽やかなラリーが続きます。授業で一緒になった多くの学生と卓球を通して友人となりましょう。卓球がお互いのコミュニケーションを高めるのです。

事後学修：卓球の実技授業の終了後は、球速の早いボールが連続したラリーにも目がついているようになっていることでしょう。毎回の授業で1,000回以上相手のボールを打ち返すことで、動体視力（スポーツビジョン）のレベルが上がっているのです。ユーチューブやテレビで放映される卓球のプレーはもはや他人事ではありません。自分の楽しみになっていることでしょう。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回

オリエンテーション（卓球の歴史、戦術の変遷、現代卓球の内容の紹介を行う。）
ラケットを含む卓球用具の説明。ゼッケンの配布。授業の進め方の説明を実施する。
授業の成績評価の方法。17号館3階卓球場ミーティングルームで実施する。
オンデマンド授業を数回実施することの説明も行う。

第2回

ラケットの握り方の学習。感覚練習を行う。自己紹介ラリー。連続ラリーを続ける練習。

第3回
ﾊﾞｯｸｼｮｰﾄ打法とフォアハンド打法の説明。感覚練習を行う。自己紹介ラリー。連続ラリーを続ける練習。安定性の高い打球を打つことを心掛ける。
第4回
卓球各種打法の紹介。模範演技。打球時の基本姿勢を学ぶ。ﾊﾞｯｸｼｮｰﾄ打法。フォアハンド打法の練習。

第5回
フォアハンドのラリー練習、ショート打法のラリー練習、基本的なルールの説明。コントロールラリーの練習。ゲーム練習。
第6回
サーブの出し方。サーブを出してからフォアハンドラリーの練習。シングルスのゲームj練習。ダブルスのゲーム。
第7回
シングルスのゲーム。ﾀﾞﾌﾞﾙｽのゲーム。エレベーターゲーム。
第8回
シングルスのゲーム。ﾀﾞﾌﾞﾙｽのゲーム。エレベーターゲーム。
第9回
数グループにわけてシングルスの試合を行う。
第10回
シングルスとダブルスによる団体戦1を行う。50本ラリーの練習。
第11回
シングルスとダブルスによる団体戦2を行う。50本ラリーの練習。
第12回
技術レベル別のゲーム1を行う。50本ラリーの練習。
第13回
技術レベル別のゲーム2を行う。50本ラリーの練習。
第14回
第1回目の実技テスト（連続50本ラリー）を行う。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に、定めた教科書はありません。しかしながら、ルール解説その他は、科学的研究成果をもとにした内容をもとに説明します。関連した重要ポイントは、オンデマンド資料にて解説します。

参考文献:
1. 卓球コーチ教本（大修館書店）
2. 卓球基礎指導教本
3. 卓球王国
4. ニッタクニュース
6. 日本卓球協会ホームページ

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	20	卓球の往復50本ラリーに挑戦して頂きます。達成した瞬間の喜びはとても大きいものです。相手とタイミングを合わせることがとても大切です。
レポート:	10	オンデマンド授業の資料を視聴して、その感想を300字以上400字以内でんまとめて下さい。
平常点評価:	60	平常の出席状況を重視します。なお、対面授業では、相手を尊重する態度、周囲の方と強調して技術の向上に励みましょう。
その他:	10	①レポートの内容が秀逸である。 ②技術レベルが高いだけでなく、技術レベルの低い人を指導してあげる。 ③授業を進める上で積極的に関わる。 ④真面目にコツコツと課題に取り組む姿勢があり、着実に技術レベルを向上させる。①～④にとらわれることなく、様々な観点からプラスアルファの加点がある。

備考・関連URL: 授業の初回にオリエンテーションを行います。授業の進め方、使用用具・服装などについて説明を行いますので、運動用の体操着の用意はしなくとも結構です。
なお、授業の開始に先立ち、授業中に使用するラケットは本人の意志で購入して頂きます。授業の充実を図るにあたり、受講生自身が使用するラケットは15回におよぶ講義・技術・戦の講義を受ける中で、ラケットは常に同じであることが必須です。
市場で出回っている1千円～2千円程度のラバー張ラケットの使用は、回転がかからないため、卓球の競技特性であるタイミング・スピード・回転を学ぶ上でマイナスであり、さらに、練習相手に対しても迷惑をかけてしまいます。したがって、某卓球メーカーの支援を受け、市価の3分の1程度の手ごろ感のある値段で、良質のラケットをオリエンテーションの際に販売しています。両面のラバーが張られているラケットで、3,500円、片面のラバーが張られているラケットで3,000円です。
他に、お互いのコミュニケーションを図るために、受講者が氏名を記載できるゼッケン（200円）を用意しますの

で、購入して下さい。ラケットはしっかり保存すれば、一生涯にわたって使用が可能です。卓球のエッセンスを学び、卓球を楽しみましょう。
　週1回の実技で体をおもいきり動かし、日常生活の中でメリハリの利いた活動を心掛けるようにしましょう。

関連URL:
　公益財団法人 日本卓球協会のHP
　http://www.jtta.or.jp/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040022|05|9S07040022[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	卓球 基礎 05		
担 当 教 員	川田 雄二		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本授業は対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を実施します。事前にアナウンスで連絡します。1. 卓球は老若男女、誰でもが楽しめるスポーツである。技術レベルの向上に伴って、ラリーを続けることが出来るようになる事、これが最も楽しい要素である。
2. 卓球の起源や歴史、技術や戦術およびルールの変遷などを知ることにより興味や関心が湧くことになる。
3. ラケットの握り方(グリップ)、基本姿勢の指導は最も大切なポイントである。
しかし、個々の骨格、体力が異なるため、その指導は画一的であってはならない。
サービス(コース、タイミング、弾道、回転等)の出し方はルールの理解が前提となる事から、詳細に説明を加える。また、回転サービスのレシーブ方法として、適正なラケット角度の決定がそのコントロール性を高めることに寄与する点について、実際の模範演技を見せ理解を深めさせる。
特に、初心者の場合は技術レベルと理解度が異なる事を踏まえて指導する。
さらに、技術レベルが向上すると、サービスやレシーブを含め、基礎から応用にいたる技術をマスターする事で、さらにラリーを楽しむ事が出来るようになる。これらの技術を状況によって使い分ける事が出来る段階となると、ゲームを楽しめるようになる。

授業の到達目標:

1. 基本技術をしっかり身につけ可能な限り高めていく。
2. 卓球の用具特性を知り、自分にあった用具を選択する。
3. ラケットの握り方を学び、実際にラケットを振ってみる。
4. 感覚練習で実際にボールを打ち、ボール感覚を養成する。
5. 相手とのラリーを楽しむ事が出来るようにする。
6. 50本、100本ラリーに挑戦して達成する。特に50本ラリーはレベルに応じて全員が達成完了する。
7. いろいろなサービスを出せるようにする。
8. 相手のサービスをレシーブ出来るようにする。
9. 自分の基本戦術を確立させ、さまざまな相手のプレーに対応出来るようにする。

事前・事後学習の内容:

事後レポートの提出を求めることがあります。
オンライン授業を行なった場合は、課題レポートの提出を求めます。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット(教員による切替可)

授業計画:

第1回 オリエンテーション(授業の進め方)

授業での諸注意、心構え、用意する物等、評価方法について(ラケット・シューズは各自で用意、体操できる服装は必須)
「マイラケット」「ゼッケン」の説明、購入。

第2回 卓球の歴史(1)・卓球ラリーに挑戦①

卓球の歴史(1):発展史(卓球の始まり)ラケットの握り方(グリップ)の学習、ボールの打ち方基本的打法の説明、基礎的ショート打法、フォアハンド・バックハンドのロング・ショート打法、スイング(素振り)しよう。ラリーに挑戦する。

第3回 卓球の歴史(2)・卓球ラリーに挑戦②

卓球の歴史(2):発展史(ピンポンから再びテーブルテニスへ)基本的打法の説明、基礎的ショート打法、フォアハンド・バックハンドのロング・ショート打法、スイング(素振り)しよう。

第4回 卓球の歴史(3)・フォアバックのラリー①

卓球の歴史(3)・発展史(第1回世界選手権の頃)打球時の基本姿勢、正しいフォームでスイング(素振り)しよう。フォアハンド・バックハンドでのラリー練習

第5回 卓球の歴史(4)・フォアバックのラリー②

卓球の歴史(4)・発展史(卓球競技の発展)打球時の基本姿勢、正しいフォームでスイング(素振り)しよう。
フォアハンド・バックハンドでのラリー練習

第6回 卓球の歴史(5)・正しいサービスの出し方(20本ラリーに挑戦①)

卓球の歴史(5)・発展史(オリンピックの正式種目になった卓球)
正しいサービスの出し方・サービスの主な回転(上回転、下回転、横回転)
フォアハンド・バックハンド・ショートのラリー練習、正しいフォームを覚える。
20本ラリーに挑戦

第7回　卓球の歴史（6）・レシーブの方法（20本ラリーに挑戦②）

卓球の歴史（6）・発展史（国際卓球連盟の歴史）
基本的な考え方、具体的なレシーブ方法（上回転、下回転、横回転）
フォアハンド・バックハンド・ショートのラリー練習、正しいフォームを覚える。
20本ラリーの達成

第8回　卓球の歴史（7）・卓球の主な3打法・50本ラリーの練習①

卓球の歴史（7）・発展史（スポーツ交流とピンポン外交）
主な3打法　1フォアハンド打法　2バックハンド打法　3ツッツキまたはカット
50本ラリーの練習

第9回　卓球の歴史（8）・シングルスの試合方法・50本ラリーの練習②

卓球の歴史（8）・日本伝来（日本への伝来と卓球日本の夜明け）
レベルに応じて、シングルスの練習とゲーム
50本ラリーの練習

第10回　ダブルスの試合方法・50本ラリーの実技テスト①

レベルに応じて、ダブルスの練習とゲーム
シングルスのゲームを行う。
50本ラリーの達成・テスト

第11回　卓球の歴史（9）・50本ラリーの実技テスト②

卓球の歴史（9）・初の国際大会開催
団体戦の試合方法：団体戦の形式（オリンピック・世界選手権・学生リーグ戦等）
50本ラリーの達成・テスト

第12回　卓球の歴史（10）・シングルスのゲーム練習

卓球の歴史（10）・世界選手権と日本卓球
T リーグ独自ルールと全日本観戦ポイントについて
色々なサービス・技術を使ってのラリー展開。
クラス別のゲームを行う。70本ラリーの練習

第13回　卓球の基本的試合方式とフェアープレイ・100本ラリーの挑戦

試合方式について　1トーナメント方式　2リーグ戦方式クラス別のゲームを行う。100本ラリーの挑戦

第14回　フェアプレー（勝利と目指す前に大切なことがある）・100本ラリー達成

フェアプレーについて、勝利を目指す前に大切なことがある。ゲーム練習を行う。100本ラリーの達成

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に定めた教科書はありません。しかしながら、ルール解説その他については、これまで培った経験をもとにした内容を詳細に説明します。関連した重要ポイントは、ホワイトボードなどに図示、あるいは予め用意した資料を基に行います。

参考文献：
1.卓球コーチ教本(大修館書店)
2.卓球指導教本
3.卓球王国
4.卓球レポート
5.ニッタクニュース
6.日本卓球協会広報誌

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　20　実技テストを行います。50本連続ノーミスラリー（必達）、100本連続ノーミスラリーの達成テスト
50本ラリーは全員が達成を目標とします。

レポート：　20　卓球に対する自分なりの考え方、ラリーを繋げるために大切な事等まとめレポートもプラス評価します。
また、関東学生リーグ戦や全日本選手権大会の試合観戦等のレポートもプラス評価します。

平常点評価：　60　平常の出席状況を重視し、20～100本以上ラリーの各回の達成状況を把握して評価します。
授業内容に対する積極性含む態度も重視します。

備考・関連URL：　授業の初回にオリエンテーションを行います。授業の進め方、使用用具・服装・シューズなどについて説明を行います。
なお、折角半年間に亘り実技を行うので、「マイラケット」を持っていない方は、ラケットを購入した方が良いでしょう。卓球メーカーのラケットを市価(8,000円程度)よりも安く(3,500円程度)販売します。半額以下で良いラケットの購入が可能です。ラバーの表面が空気に触れないように保存すれば、半永久的に使用出来るでしょう。最初のオリエンテーションから3回目授業まで販売します。4～5回目授業でも在庫が無くなるまで購入可能です。
また、コミュニケーションを図りお互いをよく知るために、名前入りのゼッケンを授業で使用します。このゼッケンは受講者名簿に皆さんの氏名が記載される頃を目処に配布します。
実技では体を思いきり動かし、日常生活の中でメリハリの利いた活動を心掛けるようにしましょう。

関連URL：公益財団法人 日本卓球協会のHP
http://www.jtta.or.jp/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040022|06|9S07040022[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	卓球 基礎 06		
担 当 教 員	川田 雄二		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本授業は対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を実施します。事前にアナウンスで連絡します。1. 卓球は老若男女、誰でもが楽しめるスポーツである。技術レベルの向上に伴って、ラリーを続けることが出来るようになる事、これが最も楽しい要素である。
2. 卓球の起源や歴史、技術や戦術およびルールの変遷などを知ることにより興味や関心が湧くことになる。
3. ラケットの握り方(グリップ)、基本姿勢の指導は最も大切なポイントである。
しかし、個々の骨格、体力が異なるため、その指導は画一的であってはならない。
サービス(コース、タイミング、弾道、回転等)の出し方はルールの理解が前提となる事から、詳細に説明を加える。また、回転サービスのレシーブ方法として、適正なラケット角度の決定がそのコントロール性を高めることに寄与する点について、実際の模範演技を見せ理解を深めさせる。
特に、初心者の場合は技術レベルと理解度が異なる事を踏まえて指導する。
さらに、技術レベルが向上すると、サービスやレシーブを含め、基礎から応用にいたる技術をマスターする事で、さらにラリーを楽しむ事が出来るようになる。これらの技術を状況によって使い分ける事が出来る段階となると、ゲームを楽しめるようになる。

授業の到達目標: 1. 基本技術をしっかり身につけ可能な限り高めていく。
2. 卓球の用具特性を知り、自分にあった用具を選択する。
3. ラケットの握り方を学び、実際にラケットを振ってみる。
4. 感覚練習で実際にボールを打ち、ボール感覚を養成する。
5. 相手とのラリーを楽しむ事が出来るようにする。
6. 50本、100本ラリーに挑戦して達成する。特に50本ラリーはレベルに応じて全員が達成完了する。
7. いろいろなサービスを出せるようにする。
8. 相手のサービスをレシーブ出来るようにする。
9. 自分の基本戦術を確立させ、さまざまな相手のプレーに対応出来るようにする。

事前・事後学習の内容: 事後レポートの提出を求めることがあります。
オンライン授業を行なった場合は、課題レポートの提出を求めます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット(教員による切替可)

授業計画:

第1回 オリエンテーション(授業の進め方)

授業での諸注意、心構え、用意する物等、評価方法について(ラケット・シューズは各自で用意、体操できる服装は必須)
「マイラケット」「ゼッケン」の説明、購入。
卓球の歴史(1)概略

第2回 卓球の歴史(1)・卓球ラリーに挑戦①

卓球の歴史(1):発展史(卓球の始まり)ラケットの握り方(グリップ)の学習、ボールの打ち方基本的打法の説明、基礎的ショート打法、フォアハンド・バックハンドのロング・ショート打法、スイング(素振り)しよう。ラリーに挑戦する。

第3回 卓球の歴史(2)・卓球ラリーに挑戦②

卓球の歴史(2):日本の歴史(ピンポンから再びテーブルテニスへ)基本的打法の説明、基礎的ショート打法、フォアハンド・バックハンドのロング・ショート打法、スイング(素振り)しよう。

第4回 卓球の歴史(3)・フォアバックのラリー①

卓球の歴史(3)・発展史(第1回世界選手権の頃)打球時の基本姿勢、正しいフォームでスイング(素振り)しよう。フォアハンド・バックハンドでのラリー練習

第5回 卓球の歴史(4)・フォアバックのラリー②

卓球の歴史(4):発展史(卓球競技の発展)打球時の基本姿勢、正しいフォームでスイング(素振り)しよう。フォアハンド・バックハンドでのラリー練習

第6回　卓球の歴史（5）・サービスの出し方（20本ラリーに挑戦①）

卓球の歴史（5）：発展史（オリンピックの正式種目になった種目）
正しいサービスの出し方・サービスの主な回転（上回転、下回転、横回転）
フォアハンド・バックハンド・ショートのラリー練習、正しいフォームを覚える。
20本ラリーに挑戦

第7回　卓球の歴史（6）・レシーブの方法（20本ラリーに挑戦②）

卓球の歴史（6）：発展史（国際卓球連盟の歴史）
基本的な考え方、具体的なレシーブ方法（上回転、下回転、横回転）
フォアハンド・バックハンド・ショートのラリー練
習、正しいフォームを覚える。
20本ラリーの達成

第8回　卓球の歴史（7）・卓球の主な3打法（50本ラリーの練習①）

卓球の歴史（7）：発展史（スポーツ交流とピンポン外交）
主な3打法　1フォアハンド打法　2バックハンド打法　3ツッツキまたはカット
50本ラリーの練習

第9回　卓球の歴史（8）・シングルスの試合方法（50本ラリーの練習②）

卓球の歴史（8）：日本伝来（日本への伝来と卓球日本の夜明け）
シングルスの練習とゲーム
50本ラリーの練習

第10回　ダブルスの試合方法・50本ラリーの実技テスト①

レベルに応じて、ダブルスの練習とゲーム
シングルスのゲームを行う。
50本ラリーの達成・テスト

第11回　卓球の歴史（9）・50本ラリーの実技テスト②

卓球の歴史（9）：初の国際大会開催
団体戦の形式（オリンピック・世界選手権・学生リーグ戦等）
50本ラリーの達成・テスト

第12回　卓球の歴史（10）・シングルスのゲーム練習

卓球の歴史（10）：世界選手権と日本卓球
T リーグ独自ルールと全日本観戦ポイントについて
色々なサービス・技術を使ってのラリー展開。
クラス別のゲームを行う。70本ラリーの練習

第13回　卓球の基本的試合方式とフェアープレイ・100本ラリーの挑戦

試合方式について　1トーナメント方式　2リーグ戦方式クラス別のゲームを行う。100本ラリーの挑戦

第14回　フェアプレー（勝利と目指す前に大切なことがある）・100本ラリー達成

フェアプレーについて、勝利を目指す前に大切なことがある。ゲーム練習を行う。100本ラリーの達成

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に定めた教科書はありません。しかしながら、ルール解説その他については、これまで培った経験をもとにした内容を詳細に説明します。関連した重要ポイントは、ホワイトボードなどに図示、あるいは予め用意した資料を基に行います。

参考文献：
1.卓球コーチ教本(大修館書店)
2.卓球指導教本
3.卓球王国
4.卓球レポート
5.ニッタクニュース
6.日本卓球協会広報誌

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	20	実技テストを行います。50本連続ノーミスラリー（必達）、100本連続ノーミスラリーの達成テスト 50本ラリーは全員が達成を目標とします。
レポート：	20	卓球に対する自分なりの考え方、ラリーを繋げるために大切な事等まとめレポートもプラス評価します。 また、関東学生リーグ戦や全日本選手権大会の試合観戦等のレポートもプラス評価します。
平常点評価：	60	平常の出席状況を重視し、20～100本以上ラリーの各回の達成状況を把握して評価します。 授業内容に対する積極性含む態度も重視します。

備考・関連URL：　授業の初回にオリエンテーションを行います。授業の進め方、使用用具・服装・シューズなどについて説明を行います。
なお、折角半年間に亘り実技を行うので、「マイラケット」を持っていない方は、ラケットを購入した方が良いでしょう。卓球メーカーのラケットを市価(8,000円程度)よりも安く(3,500円程度)販売します。半額以下で良いラケットの購入が可能です。ラバーの表面が空気に触れないように保存すれば、半永久的に使用出来るでしょう。最初のオリエンテーションから3回目授業まで販売します。4～5回目授業でも在庫が無くなるまで購入可能です。
また、コミュニケーションを図りお互いをよく知るために、名前入りのゼッケンを授業で使用します。このゼッケンは受講者名簿に皆さんの氏名が記載される頃を目処に配布します。

実技では体を思いきり動かし、日常生活の中でメリハリの利いた活動を心掛けるようにしましょう。

関連URL：公益財団法人 日本卓球協会のHP
http://www.jtta.or.jp/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040022|07|9S07040022[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	卓球 基礎 07		
担 当 教 員	鄭 泰應		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

1．卓球は老若男女、誰でもが楽しめるスポーツである。技術レベルの向上に伴って、ラリーを続けることができるようになること、これが最も楽しい要素である。
2．卓球の起源や歴史、技術や戦術およびルールの変遷などを知ることにより、興味や関心が湧くことになる。卓球競技の最新技術をDVDによる動画像で客観的にとらえて、卓球のイメージを広げることが可能となる。
3．ラケットの握り方（グリップ）、基本姿勢の指導は最も大切なポイントである。しかし、個々に骨格、体力が異なるため、その指導は画一的であってはならない。サービス（コース、タイミング、弾道、回転等）の出し方はルールの理解が前提となることから、詳細に説明を加える。また、回転サービスのレシーブ方法として、適正なラケット角度の決定がそのコントロール性を高めることに寄与する点について、実際の模範演技を見せると同時に、ボール時計を図示して理解を深めさせる。特に、初心者の場合は技術レベルと理解度が異なることを踏まえて指導する。さらに、技術レベルが向上すると、サービスやレシーブを含め、基礎から応用にいたる技術をマスターすることで、さらにラリーを楽しむことができるようになる。これらの技術を状況によって使い分けることができる段階になると、ゲームを楽しめるようになる。

授業の到達目標：

1．卓球の競技特性を知る。
2．卓球の歴史、ルール、競技構造を知る。
3．卓球の用具特性を知り、自分にあった用具を選択する。
4．ラケットの握り方を学び、実際にラケットを振ってみる。
5．感覚練習で、実際にボールを打ち、ボール感覚を養成する。
6．相手とのラリーを楽しむことができるようにする。
7．いろいろなサービスを出せるようにする。
8．相手のサービスをレシーブできるようにする。
9．自分の基本戦術を確立させ、さまざまな相手のプレーに対応できるようにする。

事前・事後学習の内容：

卓球に関する書籍、文献、ビデオなどを事前に参考にしながら事前・事後の学習を行う。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：オリエンテーション
卓球の歴史、戦術の変遷、現代卓球の内容の紹介を行う。

第2回：クラス分け
技術レベル（初級、中級、上級）によるクラス分け。ラケットの握り方の学習。

第3回：基本打法
ボールの打ち方、基礎的ショート打法、フォアハンド打法。

第4回：打ってみよう 1
卓球の技術分類と紹介。打球時の基本姿勢。フォアハンドでのラリー練習。

第5回：打ってみよう 2
フォアハンドでのラリー、ショートでのラリー、ツッツキ打法の練習。

第6回：サービスの出し方
ゲーム時のサーブの出し方とルール。サーブを出してのフォアハンドラリーの練習。

第7回：シングルスのゲームの進め方
ゲームのやり方を解説する。シングルスのゲーム。卓球のルールを紹介する。

第8回：いろいろなサービスの出し方
フォアハンド強打。サービスの種類を紹介する。シングルスのゲームを行う。

第9回：ダブルスのゲームの進め方
ダブルスゲームのやり方を紹介する。ダブルスのゲームを行う。

第10回：フットワーク
フットワークの紹介と練習。シングルスとダブルスによるチーム戦を行う。
第11回：バックハンド
バックハンド打法の紹介と練習。シングルスとダブルスによるチーム戦を行う。
第12回：クラス別ゲーム1
色々なサーブ・技術を使ってのラリー展開。クラス別のゲームを行う。
第13回：総当たりゲーム1
各種技術の練習。上達度合いのチェック。総当たりゲームを行う。
第14回：テスト
フォアハンドとバックハンドを使いラリー50本を行う。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に、定めた教科書はありません。しかしながら、ルール解説その他については、これまでに培った経験および科学的研究成果をもとにした内容を詳細に説明します。関連した重要ポイントは、ホワイトボードに図示、あるいは予め用意した資料を基に行います。

参考文献：
1．卓球コーチ教本（大修館書店）
2．卓球指導教本
3．卓球王国
4．卓球レポート
5．ニッタクニュース
6．日本卓球協会広報誌

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　60　フォアハンドとバックハンドを使いラリー50本を行う。

レポート：　20　卓球の練習方法や試合方法に対する自分なりの考え方、戦術をまとめることが大切です。

平常点評価：　20　平常の出席状況を重視します。なお、体育祭における試合参加、関東学生リーグ戦や全日本選手権大会の試合観戦等も評価します。

備考・関連URL：　授業の第1回目はオリエンテーションを行います。配布する用紙に、卓球の経験度やスポーツ体験等を記入してもらいます。筆記用具を持参してください。平服で結構です。但し、中学・高校時代に卓球の部活動経験者は、ラケットを持参して実打の時間は取ります。
貸出ラケットはありません。卓球のユニフォームは要りませんが、着替えは用意して下さい。結構、汗をかくためです。シューズは必要です。また、ゼッケンは自己紹介や試合の時に必要です。
なお、初心者向けに格別に安いラケットを購入可能です（市販では1万円のラケットが3,700円です。お釣りのないように用意して下さい）。また、ゼッケンも1枚200円で販売します（各自が用意しても結構です）。

【重要】
授業の履修前提として、登録が必要です。指定された時期に、卓球の登録手続きをしないと、後で履修者名簿に登録されません。忘れないように手続きを行ってください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040022|08|9S07040022[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	卓球 基礎 08		
担 当 教 員	鄭 泰應		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

1．卓球は老若男女、誰でもが楽しめるスポーツである。技術レベルの向上に伴って、ラリーを続けることができるようになること、これが最も楽しい要素である。
2．卓球の起源や歴史、技術や戦術およびルールの変遷などを知ることにより、興味や関心が湧くことになる。卓球競技の最新技術をDVDによる動画像で客観的にとらえて、卓球のイメージを広げることが可能となる。
3．ラケットの握り方（グリップ）、基本姿勢の指導は最も大切なポイントである。しかし、個々に骨格、体力が異なるため、その指導は画一的であってはならない。サービス（コース、タイミング、弾道、回転等）の出し方はルールの理解が前提となることから、詳細に説明を加える。また、回転サービスのレシーブ方法として、適正なラケット角度の決定がそのコントロール性を高めることに寄与する点について、実際の模範演技を見せると同時に、ボール時計を図示して理解を深めさせる。特に、初心者の場合は技術レベルと理解度が異なることを踏まえて指導する。さらに、技術レベルが向上すると、サービスやレシーブを含め、基礎から応用にいたる技術をマスターすることで、さらにラリーを楽しむことができるようになる。これらの技術を状況によって使い分けることができる段階になると、ゲームを楽しめるようになる。

授業の到達目標：

1．卓球の競技特性を知る。
2．卓球の歴史、ルール、競技構造を知る。
3．卓球の用具特性を知り、自分にあった用具を選択する。
4．ラケットの握り方を学び、実際にラケットを振ってみる。
5．感覚練習で、実際にボールを打ち、ボール感覚を養成する。
6．相手とのラリーを楽しむことができるようにする。
7．いろいろなサービスを出せるようにする。
8．相手のサービスをレシーブできるようにする。
9．自分の基本戦術を確立させ、さまざまな相手のプレーに対応できるようにする。

事前・事後学習の内容：

卓球に関する書籍、文献、ビデオなどを事前に参考にしながら事前・事後の学習を行う。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：オリエンテーション
卓球の歴史、戦術の変遷、現代卓球の内容の紹介を行う。

第2回：クラス分け
技術レベル（初級、中級、上級）によるクラス分け。ラケットの握り方の学習。

第3回：基本打法
ボールの打ち方、基礎的ショート打法、フォアハンド打法。

第4回：打ってみよう 1
卓球の技術分類と紹介。打球時の基本姿勢。フォアハンドでのラリー練習。

第5回：打ってみよう 2
フォアハンドでのラリー、ショートでのラリー、ツッツキ打法の練習。

第6回：サービスの出し方
ゲーム時のサーブの出し方とルール。サーブを出してのフォアハンドラリーの練習。

第7回：シングルスのゲームの進め方
ゲームのやり方を解説する。シングルスのゲーム。卓球のルールを紹介する。

第8回：いろいろなサービスの出し方
フォアハンド強打。サービスの種類を紹介する。シングルスのゲームを行う。

第9回：ダブルスのゲームの進め方
ダブルスゲームのやり方を紹介する。ダブルスのゲームを行う。

第10回：フットワーク
フットワークの紹介と練習。シングルスとダブルスによるチーム戦を行う。
第11回：バックハンド
バックハンド打法の紹介と練習。シングルスとダブルスによるチーム戦を行う。
第12回：クラス別ゲーム1
色々なサーブ・技術を使ってのラリー展開。クラス別のゲームを行う。
第13回：総当たりゲーム1
各種技術の練習。上達度合いのチェック。総当たりゲームを行う。
第14回：テスト
フォアハンドとバックハンドを使いラリー50本を行う。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に、定めた教科書はありません。しかしながら、ルール解説その他については、これまでに培った経験および科学的研究成果をもとにした内容を詳細に説明します。関連した重要ポイントは、ホワイトボードに図示、あるいは予め用意した資料を基に行います。

参考文献：
1．卓球コーチ教本（大修館書店）
2．卓球指導教本
3．卓球王国
4．卓球レポート
5．ニッタクニュース
6．日本卓球協会広報誌

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	60	フォアハンドとバックハンドを使いラリー50本を行う。
レポート：	20	卓球の練習方法や試合方法に対する自分なりの考え方、戦術をまとめることが大切です。
平常点評価：	20	平常の出席状況を重視します。なお、体育祭における試合参加、関東学生リーグ戦や全日本選手権大会の試合観戦等も評価します。

備考・関連URL：　授業の第1回目はオリエンテーションを行います。配布する用紙に、卓球の経験度やスポーツ体験等を記入してもらいます。筆記用具を持参してください。平服で結構です。但し、中学・高校時代に卓球の部活動経験者は、ラケットを持参して実打の時間は取ります。
貸出ラケットはありません。卓球のユニフォームは要りませんが、着替えは用意して下さい。結構、汗をかくためです。シューズは必要です。また、ゼッケンは自己紹介や試合の時に必要です。
なお、初心者向けに格別に安いラケットを購入可能です（市販では1万円のラケットが3,700円です。お釣りのないように用意して下さい）。また、ゼッケンも1枚200円で販売します（各自が用意しても結構です）。

【重要】
授業の履修前提として、登録が必要です。指定された時期に、卓球の登録手続きをしないと、後で履修者名簿に登録されません。忘れないように手続きを行ってください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040022|11|9S07040022[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	卓球 基礎 １１		
担 当 教 員	鄭 泰應		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ｉ	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

１．卓球は老若男女、誰でもが楽しめるスポーツである。技術レベルの向上に伴って、ラリーを続けることができるようになること、これが最も楽しい要素である。
２．卓球の起源や歴史、技術や戦術およびルールの変遷などを知ることにより、興味や関心が湧くことになる。卓球競技の最新技術をDVDによる動画像で客観的にとらえて、卓球のイメージを広げることが可能となる。
３．ラケットの握り方（グリップ）、基本姿勢の指導は最も大切なポイントである。しかし、個々に骨格、体力が異なるため、その指導は画一的であってはならない。サービス（コース、タイミング、弾道、回転等）の出し方はルールの理解が前提となることから、詳細に説明を加える。また、回転サービスのレシーブ方法として、適正なラケット角度の決定がそのコントロール性を高めることに寄与する点について、実際の模範演技を見せると同時に、ボール時計を図示して理解を深めさせる。特に、初心者の場合は技術レベルと理解度が異なることを踏まえて指導する。さらに、技術レベルが向上すると、サービスやレシーブを含め、基礎から応用にいたる技術をマスターすることで、さらにラリーを楽しむことができるようになる。これらの技術を状況によって使い分けることができる段階になると、ゲームを楽しめるようになる。

授業の到達目標：

１．卓球の競技特性を知る。
２．卓球の歴史、ルール、競技構造を知る。
３．卓球の用具特性を知り、自分にあった用具を選択する。
４．ラケットの握り方を学び、実際にラケットを振ってみる。
５．感覚練習で、実際にボールを打ち、ボール感覚を養成する。
６．相手とのラリーを楽しむことができるようにする。
７．いろいろなサービスを出せるようにする。
８．相手のサービスをレシーブできるようにする。
９．自分の基本戦術を確立させ、さまざまな相手のプレーに対応できるようにする。

事前・事後学習の内容：

卓球に関する書籍、文献、ビデオなどを事前に参考にしながら事前・事後の学習を行う。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：オリエンテーション
卓球の歴史、戦術の変遷、現代卓球の内容の紹介を行う。

第2回：クラス分け
技術レベル（初級、中級、上級）によるクラス分け。ラケットの握り方の学習。

第3回：基本打法
ボールの打ち方、基礎的ショート打法、フォアハンド打法。

第4回：打ってみよう １
卓球の技術分類と紹介。打球時の基本姿勢。フォアハンドでのラリー練習。

第5回：打ってみよう ２
フォアハンドでのラリー、ショートでのラリー、ツッツキ打法の練習。

第6回：サービスの出し方
ゲーム時のサーブの出し方とルール。サーブを出してのフォアハンドラリーの練習。

第7回：シングルスのゲームの進め方
ゲームのやり方を解説する。シングルスのゲーム。卓球のルールを紹介する。

第8回：いろいろなサービスの出し方
フォアハンド強打。サービスの種類を紹介する。シングルスのゲームを行う。

第9回：ダブルスのゲームの進め方
ダブルスゲームのやり方を紹介する。ダブルスのゲームを行う。

第10回：フットワーク
フットワークの紹介と練習。シングルスとダブルスによるチーム戦を行う。
第11回：バックハンド
バックハンド打法の紹介と練習。シングルスとダブルスによるチーム戦を行う。
第12回：クラス別ゲーム1
色々なサーブ・技術を使ってのラリー展開。クラス別のゲームを行う。
第13回：総当たりゲーム1
各種技術の練習。上達度合いのチェック。総当たりゲームを行う。
第14回：テスト
フォアハンドとバックハンドを使いラリー50本を行う。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に、定めた教科書はありません。しかしながら、ルール解説その他については、これまでに培った経験および科学的研究成果をもとにした内容を詳細に説明します。関連した重要ポイントは、ホワイトボードに図示、あるいは予め用意した資料を基に行います。

参考文献：
1．卓球コーチ教本（大修館書店）
2．卓球指導教本
3．卓球王国
4．卓球レポート
5．ニッタクニュース
6．日本卓球協会広報誌

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	60	フォアハンドとバックハンドを使いラリー50本を行う。
レポート：	20	卓球の練習方法や試合方法に対する自分なりの考え方、戦術をまとめることが大切です。
平常点評価：	20	平常の出席状況を重視します。なお、体育祭における試合参加、関東学生リーグ戦や全日本選手権大会の試合観戦等も評価します。

備考・関連URL：　授業の第1回目はオリエンテーションを行います。配布する用紙に、卓球の経験度やスポーツ体験等を記入してもらいます。筆記用具を持参してください。平服で結構です。但し、中学・高校時代に卓球の部活動経験者は、ラケットを持参して実打の時間は取ります。
貸出ラケットはありません。卓球のユニフォームは要りませんが、着替えは用意して下さい。結構、汗をかくためです。シューズは必要です。また、ゼッケンは自己紹介や試合の時に必要です。
なお、初心者向けに格別に安いラケットを購入可能です（市販では1万円のラケットが3,700円です。お釣りのないように用意して下さい）。また、ゼッケンも1枚200円で販売します（各自が用意しても結構です）。

【重要】
授業の履修前提として、登録が必要です。指定された時期に、卓球の登録手続きをしないと、後で履修者名簿に登録されません。忘れないように手続きを行ってください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040022|12|9S07040022[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	卓球 基礎 １２		
担 当 教 員	鄭 泰應		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ｉ	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

１．卓球は老若男女、誰でもが楽しめるスポーツである。技術レベルの向上に伴って、ラリーを続けることができるようになること、これが最も楽しい要素である。
２．卓球の起源や歴史、技術や戦術およびルールの変遷などを知ることにより、興味や関心が湧くことになる。卓球競技の最新技術をDVDによる動画像で客観的にとらえて、卓球のイメージを広げることが可能となる。
３．ラケットの握り方（グリップ）、基本姿勢の指導は最も大切なポイントである。しかし、個々に骨格、体力が異なるため、その指導は画一的であってはならない。サービス（コース、タイミング、弾道、回転等）の出し方はルールの理解が前提となることから、詳細に説明を加える。また、回転サービスのレシーブ方法として、適正なラケット角度の決定がそのコントロール性を高めることに寄与する点について、実際の模範演技を見せると同時に、ボール時計を図示して理解を深めさせる。特に、初心者の場合は技術レベルと理解度が異なることを踏まえて指導する。さらに、技術レベルが向上すると、サービスやレシーブを含め、基礎から応用にいたる技術をマスターすることで、さらにラリーを楽しむことができるようになる。これらの技術を状況によって使い分けることができる段階になると、ゲームを楽しめるようになる。

授業の到達目標：

１．卓球の競技特性を知る。
２．卓球の歴史、ルール、競技構造を知る。
３．卓球の用具特性を知り、自分にあった用具を選択する。
４．ラケットの握り方を学び、実際にラケットを振ってみる。
５．感覚練習で、実際にボールを打ち、ボール感覚を養成する。
６．相手とのラリーを楽しむことができるようにする。
７．いろいろなサービスを出せるようにする。
８．相手のサービスをレシーブできるようにする。
９．自分の基本戦術を確立させ、さまざまな相手のプレーに対応できるようにする。

事前・事後学習の内容：

卓球に関する書籍、文献、ビデオなどを事前に参考にしながら事前・事後の学習を行う。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第１回：オリエンテーション
卓球の歴史、戦術の変遷、現代卓球の内容の紹介を行う。

第２回：クラス分け
技術レベル（初級、中級、上級）によるクラス分け。ラケットの握り方の学習。

第３回：基本打法
ボールの打ち方、基礎的ショート打法、フォアハンド打法。

第４回：打ってみよう １
卓球の技術分類と紹介。打球時の基本姿勢。フォアハンドでのラリー練習。

第５回：打ってみよう ２
フォアハンドでのラリー、ショートでのラリー、ツッツキ打法の練習。

第６回：サービスの出し方
ゲーム時のサーブの出し方とルール。サーブを出してのフォアハンドラリーの練習。

第７回：シングルスのゲームの進め方
ゲームのやり方を解説する。シングルスのゲーム。卓球のルールを紹介する。

第８回：いろいろなサービスの出し方
フォアハンド強打。サービスの種類を紹介する。シングルスのゲームを行う。

第９回：ダブルスのゲームの進め方
ダブルスゲームのやり方を紹介する。ダブルスのゲームを行う。

第10回：フットワーク
フットワークの紹介と練習。シングルスとダブルスによるチーム戦を行う。
第11回：バックハンド
バックハンド打法の紹介と練習。シングルスとダブルスによるチーム戦を行う。
第12回：クラス別ゲーム1
色々なサーブ・技術を使ってのラリー展開。クラス別のゲームを行う。
第13回：総当たりゲーム1
各種技術の練習。上達度合いのチェック。総当たりゲームを行う。
第14回：テスト
フォアハンドとバックハンドを使いラリー50本を行う。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に、定めた教科書はありません。しかしながら、ルール解説その他については、これまでに培った経験および科学的研究成果をもとにした内容を詳細に説明します。関連した重要ポイントは、ホワイトボードに図示、あるいは予め用意した資料を基に行います。

参考文献：
1．卓球コーチ教本（大修館書店）
2．卓球指導教本
3．卓球王国
4．卓球レポート
5．ニッタクニュース
6．日本卓球協会広報誌

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	60	フォアハンドとバックハンドを使いラリー50本を行う。
レポート：	20	卓球の練習方法や試合方法に対する自分なりの考え方、戦術をまとめることが大切です。
平常点評価：	20	平常の出席状況を重視します。なお、体育祭における試合参加、関東学生リーグ戦や全日本選手権大会の試合観戦等も評価します。

備考・関連URL：　授業の第1回目はオリエンテーションを行います。配布する用紙に、卓球の経験度やスポーツ体験等を記入してもらいます。筆記用具を持参してください。平服で結構です。但し、中学・高校時代に卓球の部活動経験者は、ラケットを持参して実打の時間は取ります。
貸出ラケットはありません。卓球のユニフォームは要りませんが、着替えは用意して下さい。結構、汗をかくためです。シューズは必要です。また、ゼッケンは自己紹介や試合の時に必要です。
なお、初心者向けに格別に安いラケットを購入可能です（市販では1万円のラケットが3,700円です。お釣りのないように用意して下さい）。また、ゼッケンも1枚200円で販売します（各自が用意しても結構です）。

【重要】
授業の履修前提として、登録が必要です。指定された時期に、卓球の登録手続きをしないと、後で履修者名簿に登録されません。忘れないように手続きを行ってください。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040022|13|9S07040022[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	卓球　基礎　１３		
担 当 教 員	本橋　道直		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ｉ	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　相手とともにラリーを続ける楽しみ、回転・スピード・タイミングの変化を楽しむことができるようになることを目標とする。

授業概要:　卓球はとても身近で手軽なスポーツである。卓球台があって、ラケットとボールさえあれば誰でも接することができる。しかしいざボールを打ってみると、自分が思うようにボールをコントロールする事はなかなか難しい。それを克服するには正しいフォームを身につけ、ラケットで正確にボールをとらえなければならない。それと同時に様々な回転を持ちながら、飛んでくるボールに対応していく知識を身につけなければならない。
　この授業では、基礎となる基本技術を身につけ、高めるために、ラケットの正しい持ち方からラケットの角度、合理的な身体の使い方などを練習していく。そしてもうひとつ「ボールの回転」について理解し実践の中で対応できるように練習していく。
基本技術のレベルがあがり、ボールの回転への対応力が増すことにより、打球の確実性・安定性は明らかに上昇していくはずである。その満足感・達成感を実感してほしい。

授業の到達目標:　・基本技術をしっかり身につけ、可能なかぎり高めていく。
・ボールの回転を理解し、それに対して確実に調整できるようにする。
・身体の動きのスピード、ボールのスピードをあげる。
・回転の変化に対応しながら、シングルス・ダブルスのゲームを楽しめるようにする。
・クラス全体のコミュニケーションを図る。

事前・事後学習の内容:　時間がある際は、卓球の動画などを観てもらうと参考になります。授業後には各種打法、技術の重要点を十分に理解し、次回の授業の際にいかしてください。

授業計画フリー入力サイン:　0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回　オリエンテーション
授業での諸注意　心構え、用意するもの等
評価の方法の説明

第2回　クラス分け
初級・中級・上級の3つのクラスに分ける

第3回　フォアハンドの練習①
正しいグリップの説明
ラケットの角度・スイングの方向、タイミングの取り方などの説明

第4回　フォアハンドの練習②
フットワークとスマッシュ
フットワークを使ってしっかりボールをとらえる
身体を大きく強く使ってボールを強く打つ

第5回　バックハンドの練習
正しいラケットの角度とスイングの方向の説明
打球点とタイミングの取り方の説明

第6回　バックハンドとフォアハンドのコンビネーション
バックハンドとフォアハンドの切り替え
フットワークと身体の合理的な使い方の説明

第7回　ツッツキの練習①
下回転の特性の説明
正しいラケットの角度とスイング方向の説明
タイミングの取り方の注意

第8回　ツッツキの練習②　および　ドライブ
下回転の量の変化と、それに対するラケットの角度の調整の方法
下回転のボールにドライブをかける

第9回　卓球のルール説明と50本ラリー へのチャレンジ
卓球のルール説明と50本ラリーへのチャレンジ
第10回　サーブとレシーブとゲームの説明
様々な回転を持つサーブとそれに対応するレシーブの方法
ダブルスのゲームの進め方の説明
第11回　ダブルスのゲーム①
サーブ・レシーブの良否が勝敗を左右するので、その重要性を頭に入れてゲームを進める
第12回　ダブルスのゲーム②
コンビネーションを高めるために、動き方・コースの取り方に注意する
第13回　シングルスのゲーム①
サーブ・レシーブの大切さをシングルスのゲームにおいても意識してゲームを進める
第14回　シングルスのゲーム②、授業のまとめ
フットワークを使ってしっかりボールをとらえる。また相手より1本多く返球する意識を持ってプレーする
卓球の授業における重要なポイントを復習する

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特に指定するものはありません。
各自必要に応じて情報を得てください。

参考文献: 特に指定するものはありません。
各自必要に応じて情報を得てください。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30　ラリー往復50本：100点、 40本：90点、 30本：80点、 30本未満：70点

レポート: 30　卓球の重要なポイントについての内容のレポートを提出する。

平常点評価: 40　3分の2以上の出席が必要となる。
それ以下となると評価の対象外となるので注意してください。

備考・関連URL: 用意するもの： ラケット、体操服（上下）、体育館用シューズ、ゼッケン
※第1回授業はオリエンテーションのため、第2回以降用意すること。
【重要】
・授業開始後15分以降は遅刻とします。ただし、交通機関の遅延等特別な理由がある場合は、必ず担当教員に報告し、その後授業に参加すること。
・事前に欠席しなければならない等、連絡事項があるときは、メールにて連絡してください。
・体調管理には万全を期して、元気にいきましょう。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040022|14|9S07040022[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	卓球 基礎 １４		
担 当 教 員	川田 雄二		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ｉ	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

本授業は対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を実施します。事前にアナウンスで連絡します。1. 卓球は老若男女、誰でもが楽しめるスポーツである。技術レベルの向上に伴って、ラリーを続けることが出来るようになる事、これが最も楽しい要素である。
2. 卓球の起源や歴史、技術や戦術およびルールの変遷などを知ることにより興味や関心が湧くことになる。
3. ラケットの握り方(グリップ)、基本姿勢の指導は最も大切なポイントである。
しかし、個々の骨格、体力が異なるため、その指導は画一的であってはならない。
サービス（コース、タイミング、弾道、回転等）の出し方はルールの理解が前提となる事から、詳細に説明を加える。また、回転サービスのレシーブ方法として、適正なラケット角度の決定がそのコントロール性を高めることに寄与する点について、実際の模範演技を見せ理解を深めさせる。
特に、初心者の場合は技術レベルと理解度が異なる事を踏まえて指導する。
さらに、技術レベルが向上すると、サービスやレシーブを含め、基礎から応用にいたる技術をマスターする事で、さらにラリーを楽しむ事が出来るようになる。これらの技術を状況によって使い分ける事が出来る段階となると、ゲームを楽しめるようになる。

授業の到達目標：

1. 基本技術をしっかり身につけ可能な限り高めていく。
2. 卓球の用具特性を知り、自分にあった用具を選択する。
3. ラケットの握り方を学び、実際にラケットを振ってみる。
4. 感覚練習で実際にボールを打ち、ボール感覚を養成する。
5. 相手とのラリーを楽しむ事が出来るようにする。
6. 50本、100本ラリーに挑戦して達成する。特に50本ラリーはレベルに応じて全員が達成完了する。
7. いろいろなサービスを出せるようにする。
8. 相手のサービスをレシーブ出来るようにする。
9. 自分の基本戦術を確立させ、さまざまな相手のプレーに対応出来るようにする。

事前・事後学習の内容：

事後レポートの提出を求めることがあります。
オンライン授業を行なった場合は、課題レポートの提出を求めます。

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーション（授業の進め方）

授業での諸注意、心構え、用意する物等、評価方法について（ラケット・シューズは各自で用意、体操できる服装は必須）
「マイラケット」「ゼッケン」の説明、購入。

第2回 卓球の歴史（1）・卓球ラリーに挑戦①

卓球の歴史（1）：発展史（卓球の始まり）ラケットの握り方（グリップ）の学習、ボールの打ち方基本的打法の説明、基礎的ショート打法、フォアハンド・バックハンドのロング・ショート打法、スイング（素振り）しよう。ラリーに挑戦する。

第3回 卓球の歴史（2）・卓球ラリーに挑戦②

卓球の歴史（2）：発展史（ピンポンから再びテーブルテニスへ）基本的打法の説明、基礎的ショート打法、フォアハンド・バックハンドのロング・ショート打法、スイング（素振り）しよう。

第4回 卓球の歴史（3）・フォアバックのラリー①

卓球の歴史（3）：発展史（第1回世界選手権の頃）
卓球用具（台・ラケット・ボール等）を知る。打球時の基本姿勢、正しいフォームでスイング（素振り）しよう。
フォアハンド・バックハンドでのラリー練習

第5回 卓球の歴史（4）・フォアバックのラリー②

卓球の歴史（4）：発展史（卓球競技の発展）
ゲームの進め方、正規のサービス・リターン打球時の基本姿勢、正しいフォームでスイング（素振り）しよう。
フォアハンド・バックハンドでのラリー練習

第6回　卓球の歴史（5）・正しいサービスの出し方・20本ラリーに挑戦①

卓球の歴史（5）：発展史（オリンピックの正式種目となった卓球）
正しいサービスの出し方・サービスの主な回転（上回転、下回転、横回転）
フォアハンド・バックハンド・ショートのラリー練習、正しいフォームを覚える。
20本ラリーに挑戦

第7回　卓球の歴史（6）・レシーブの方法・20本ラリーに挑戦②

卓球の歴史（6）：発展史（国際卓球連盟の歴史）
基本的な考え方、具体的なレシーブ方法（上回転、下回転、横回転）
フォアハンド・バックハンド・ショートのラリー練習、正しいフォームを覚える。
20本ラリーの達成

第8回　卓球の歴史（7）・卓球の主な3打法・50本ラリーの練習①

卓球の歴史（7）：発展史（スポーツ交流とピンポン外交）
主な3打法　1フォアハンド打法　2バックハンド打法　3ツッツキまたはカット
50本ラリーの練習

第9回　卓球の歴史（8）・シングルスの試合方法・50本ラリーの練習②

卓球の歴史（8）：日本伝来（日本への伝来と卓球日本の夜明け）レベルに応じて、シングルスの練習とゲーム50本ラリーの練習

第10回　ダブルスの試合方法・50本ラリーの実技テスト①

レベルに応じて、ダブルスの練習とゲーム
シングルスのゲームを行う。
50本ラリーの達成・テスト

第11回　卓球の歴史（9）・団体戦の試合方法・50本ラリーの実技テスト②

卓球の歴史（9）：初の国際大会開催
団体戦の形式（オリンピック・世界選手権・学生リーグ戦等）
50本ラリーの達成・テスト

第12回　卓球の歴史（10）・シングルスのゲーム練習

卓球の歴史（10）：世界選手権と日本卓球
Tリーグ独自ルールと全日本観戦ポイントについて
色々なサービス・技術を使ってのラリー展開。
クラス別のゲームを行う。70本ラリーの練習

第13回　卓球の基本的試合方式とフェアープレイ・100本ラリーの挑戦

試合方式について　1トーナメント方式　2リーグ戦方式クラス別のゲームを行う。100本ラリーの挑戦

第14回　フェアプレー（勝利と目指す前に大切なことがある）・100本ラリー達成

フェアプレーについて、勝利を目指す前に大切なことがある。ゲーム練習を行う。100本ラリーの達成

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に定めた教科書はありません。しかしながら、ルール解説その他については、これまで培った経験をもとにした内容を詳細に説明します。関連した重要ポイントは、ホワイトボードなどに図示、あるいは予め用意した資料を基に行います。

参考文献：
1.卓球コーチ教本(大修館書店)
2.卓球指導教本
3.卓球王国
4.卓球レポート
5.ニッタクニュース
6.日本卓球協会広報誌

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　20　実技テストを行います。50本連続ノーミスラリー（必達）、100本連続ノーミスラリーの達成テスト
50本ラリーは全員が達成を目標とします。

レポート：　20　卓球に対する自分なりの考え方、ラリーを繋げるために大切な事等まとめレポートもプラス評価します。
また、関東学生リーグ戦や全日本選手権大会の試合観戦等のレポートもプラス評価します。

平常点評価：　60　平常の出席状況を重視し、20～100本以上ラリーの各回の達成状況を把握して評価します。
授業内容に対する積極性含む態度も重視します。

備考・関連URL：　授業の初回にオリエンテーションを行います。授業の進め方、使用用具・服装・シューズなどについて説明を行います。
なお、折角半年間に亘り実技を行うので、「マイラケット」を持っていない方は、ラケットを購入した方が良いでしょう。卓球メーカーのラケットを市価(8,000円程度)よりも安く(3,500円程度)販売します。半額以下で良いラケットの購入が可能です。ラバーの表面が空気に触れないように保存すれば、半永久的に使用出来るでしょう。最初のオリエンテーションから3回目授業まで販売します。4～5回目授業でも在庫が無くなるまで購入可能です。
また、コミュニケーションを図りお互いをよく知るために、名前入りのゼッケンを授業で使用します。このゼッケンは受講者名簿に皆さんの氏名が記載される頃を目処に配布します。
実技では体を思いきり動かし、日常生活の中でメリハリの利いた活動を心掛けるようにしましょう。

関連URL：公益財団法人 日本卓球協会のHP
http://www.jtta.or.jp/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040022|15|9S07040022[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	卓球 基礎 １５		
担 当 教 員	川田 雄二		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ｉ	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

本授業は対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を実施します。事前にアナウンスで連絡します。1. 卓球は老若男女、誰でもが楽しめるスポーツである。技術レベルの向上に伴って、ラリーを続けることが出来るようになる事、これが最も楽しい要素である。
2. 卓球の起源や歴史、技術や戦術およびルールの変遷などを知ることにより興味や関心が湧くことになる。
3. ラケットの握り方(グリップ)、基本姿勢の指導は最も大切なポイントである。
しかし、個々の骨格、体力が異なるため、その指導は画一的であってはならない。
サービス（コース、タイミング、弾道、回転等）の出し方はルールの理解が前提となる事から、詳細に説明を加える。また、回転サービスのレシーブ方法として、適正なラケット角度の決定がそのコントロール性を高めることに寄与する点について、実際の模範演技を見せ理解を深めさせる。
特に、初心者の場合は技術レベルと理解度が異なる事を踏まえて指導する。
さらに、技術レベルが向上すると、サービスやレシーブを含め、基礎から応用にいたる技術をマスターする事で、さらにラリーを楽しむ事が出来るようになる。これらの技術を状況によって使い分ける事が出来る段階となると、ゲームを楽しめるようになる。

授業の到達目標：

1. 基本技術をしっかり身につけ可能な限り高めていく。
2. 卓球の用具特性を知り、自分にあった用具を選択する。
3. ラケットの握り方を学び、実際にラケットを振ってみる。
4. 感覚練習で実際にボールを打ち、ボール感覚を養成する。
5. 相手とのラリーを楽しむ事が出来るようにする。
6. 50本、100本ラリーに挑戦して達成する。特に50本ラリーはレベルに応じて全員が達成完了する。
7. いろいろなサービスを出せるようにする。
8. 相手のサービスをレシーブ出来るようにする。
9. 自分の基本戦術を確立させ、さまざまな相手のプレーに対応出来るようにする。

事前・事後学習の内容：

事後レポートの提出を求めることがあります。
オンライン授業を行なった場合は、課題レポートの提出を求めます。

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーション（授業の進め方）

授業での諸注意、心構え、用意する物等、評価方法について（ラケット・シューズは各自で用意、体操できる服装は必須）
「マイラケット」「ゼッケン」の説明、購入。

第2回 卓球の歴史（1）・卓球ラリーに挑戦①

卓球の歴史（1）：発展史（卓球の始まり）ラケットの握り方（グリップ）の学習、ボールの打ち方基本的打法の説明、基礎的ショート打法、フォアハンド・バックハンドのロング・ショート打法、スイング（素振り）しよう。ラリーに挑戦する。

第3回 卓球の歴史（2）・卓球ラリーに挑戦②

卓球の歴史（2）：発展史（ピンポンから再びテーブルテニスへ）基本的打法の説明、基礎的ショート打法、フォアハンド・バックハンドのロング・ショート打法、スイング（素振り）しよう。

第4回 卓球の歴史（3）・フォアバックのラリー①

卓球の歴史（2）：発展史（第1回世界選手権の頃）
卓球用具（台・ラケット・ボール等）を知る。打球時の基本姿勢、正しいフォームでスイング（素振り）しよう。
フォアハンド・バックハンドでのラリー練習

第5回 卓球の歴史（4）・フォアバックのラリー②

卓球の歴史（4）：発展史（卓球競技の発展）打球時の基本姿勢、正しいフォームでスイング（素振り）しよう。
フォアハンド・バックハンドでのラリー練習

第6回　卓球の歴史（5）・正しいサービスの出し方（20本ラリーに挑戦①）

卓球の歴史（5）：発展史（オリンピックの正式種目になった卓球）
正しいサービスの出し方・サービスの主な回転（上回転、下回転、横回転）
フォアハンド・バックハンド・ショートのラリー練習、正しいフォームを覚える。
20本ラリーに挑戦

第7回　卓球の歴史（6）・レシーブの方法（20本ラリーに挑戦②）

卓球の歴史（6）：発展史（国際卓球連盟の歴史）
基本的な考え方、具体的なレシーブ方法（上回転、下回転、横回転）
フォアハンド・バックハンド・ショートのラリー練習、正しいフォームを覚える。
20本ラリーの達成

第8回　卓球の歴史（7）：卓球の主な3打法（50本ラリーの練習①）

卓球の歴史（7）：発展史（スポーツ交流とピンポン外交）
主な3打法　1フォアハンド打法　2バックハンド打法　3ツッツキまたはカット
50本ラリーの練習

第9回　卓球の歴史（8）：シングルスの試合方法（50本ラリーの練習②）

卓球の歴史（8）：日本伝来（日本への伝来と卓球日本の夜明け）レベルに応じて、シングルスの練習とゲーム50本ラリーの練習

第10回　ダブルスの試合方法・50本ラリーの実技テスト①

レベルに応じて、ダブルスの練習とゲーム
シングルスのゲームを行う。
50本ラリーの達成・テスト

第11回　卓球の歴史（9）・50本ラリーの実技テスト②

卓球の歴史（9）：発展史（初の国際大学開催）
団体戦の形式（オリンピック・世界選手権・学生リーグ戦等）
50本ラリーの達成・テスト

第12回　卓球の歴史（10）・シングルスのゲーム練習

卓球の歴史（10）：世界選手権と日本卓球
Tリーグ独自ルールと全日本観戦ポイントについて
色々なサービス・技術を使ってのラリー展開。
クラス別のゲームを行う。70本ラリーの練習

第13回　卓球の基本的試合方式とフェアープレイ・100本ラリーの挑戦

試合方式について　1トーナメント方式　2リーグ戦方式クラス別のゲームを行う。100本ラリーの挑戦

第14回　フェアプレー（勝利と目指す前に大切なことがある）・100本ラリー達成

フェアプレーについて、勝利を目指す前に大切なことがある。ゲーム練習を行う。100本ラリーの達成

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に定めた教科書はありません。しかしながら、ルール解説その他については、これまで培った経験をもとにした内容を詳細に説明します。関連した重要ポイントは、ホワイトボードなどに図示、あるいは予め用意した資料を基に行います。

参考文献：
1.卓球コーチ教本(大修館書店)
2.卓球指導教本
3.卓球王国
4.卓球レポート
5.ニッタクニュース
6.日本卓球協会広報誌

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　20　実技テストを行います。50本連続ノーミスラリー（必達）、100本連続ノーミスラリーの達成テスト
50本ラリーは全員が達成を目標とします。

レポート：　20　卓球に対する自分なりの考え方、ラリーを繋げるために大切な事等まとめレポートもプラス評価します。
また、関東学生リーグ戦や全日本選手権大会の試合観戦等のレポートもプラス評価します。

平常点評価：　60　平常の出席状況を重視し、20～100本以上ラリーの各回の達成状況を把握して評価します。
授業内容に対する積極性含む態度も重視します。

備考・関連URL：　授業の初回にオリエンテーションを行います。授業の進め方、使用用具・服装・シューズなどについて説明を行います。
なお、折角半年間に亘り実技を行うので、「マイラケット」を持っていない方は、ラケットを購入した方が良いでしょう。卓球メーカーのラケットを市価(8,000円程度)よりも安く(3,500円程度)販売します。半額以下で良いラケットの購入が可能です。ラバーの表面が空気に触れないように保存すれば、半永久的に使用出来るでしょう。最初のオリエンテーションから3回目授業まで販売します。4～5回目授業でも在庫が無くなるまで購入可能です。
また、コミュニケーションを図りお互いをよく知るために、名前入りのゼッケンを授業で使用します。このゼッケンは受講者名簿に皆さんの氏名が記載される頃を目処に配布します。
実技では体を思いきり動かし、日常生活の中でメリハリの利いた活動を心掛けるようにしましょう。

関連URL：公益財団法人 日本卓球協会のHP
http://www.jtta.or.jp/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040022|16|9S07040022[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	卓球 基礎 16		
担 当 教 員	本橋 道直		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： 卓球はとても身近で手軽なスポーツである。卓球台があって、ラケットとボールさえあれば誰でも接することができる。しかしいざボールを打ってみると、自分が思うようにボールをコントロールする事はなかなか難しい。それを克服するには正しいフォームを身につけ、ラケットで正確にボールをとらえなければならない。それと同時に様々な回転を持ちながら、飛んでくるボールに対応していく知識を身につけなければならない。
この授業では、基礎となる基本技術を身につけ、高めるために、ラケットの正しい持ち方からラケットの角度、合理的な身体の使い方などを練習していく。そしてもうひとつ「ボールの回転」について理解し実践の中で対応できるように練習していく。
基本技術のレベルがあがり、ボールの回転への対応力が増すことにより、打球の確実性・安定性は明らかに上昇していくはずである。その満足感・達成感を実感してほしい。

授業の到達目標： ・基本技術をしっかり身につけ、可能なかぎり高めていく。
・ボールの回転を理解し、それに対して確実に調整できるようにする。
・身体の動きのスピード、ボールのスピードをあげる。
・回転の変化に対応しながら、シングルス・ダブルスのゲームを楽しめるようにする。
・クラス全体のコミュニケーションを図る。

事前・事後学習の内容： 時間がある際は、卓球の動画などを観てもらうと参考になります。授業後には各種打法、技術の重要点を十分に理解し、次回の授業の際にいかしてください。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーション
授業での諸注意 心構え、用意するもの等
評価の方法の説明

第2回 クラス分け
初級・中級・上級の3つのクラスに分ける

第3回 フォアハンドの練習①
正しいグリップの説明
ラケットの角度・スイングの方向、タイミングの取り方などの説明

第4回 フォアハンドの練習②
フットワークとスマッシュ
フットワークを使ってしっかりボールをとらえる
身体を大きく強く使ってボールを強く打つ

第5回 バックハンドの練習
正しいラケットの角度とスイングの方向の説明
打球点とタイミングの取り方の説明

第6回 バックハンドとフォアハンドのコンビネーション
バックハンドとフォアハンドの切り替え
フットワークと身体の合理的な使い方の説明

第7回 ツッツキの練習①
下回転の特性の説明
正しいラケットの角度とスイング方向の説明
タイミングの取り方の注意

第8回 ツッツキの練習② および ドライブ
下回転の量の変化と、それに対するラケットの角度の調整の方法
下回転のボールにドライブをかける

第9回 卓球のルール説明と50本ラリー へのチャレンジ
卓球のルール説明と50本ラリーへのチャレンジ

第10回　サーブとレシーブとゲームの説明
様々な回転を持つサーブとそれに対応するレシーブの方法
ダブルスのゲームの進め方の説明
第11回　ダブルスのゲーム①
サーブ・レシーブの良否が勝敗を左右するので、その重要性を頭に入れてゲームを進める
第12回　ダブルスのゲーム②
コンビネーションを高めるために、動き方・コースの取り方に注意する
第13回　シングルスのゲーム①
サーブ・レシーブの大切さをシングルスのゲームにおいても意識してゲームを進める
第14回　シングルスのゲーム②、授業のまとめ
フットワークを使ってしっかりボールをとらえる。また相手より1本多く返球する意識を持ってプレーする
卓球の授業における重要なポイントを復習する

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特に指定するものはありません。
各自必要に応じて情報を得てください。

参考文献: 特に指定するものはありません。
各自必要に応じて情報を得てください。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30　ラリー往復50本：100点、 40本：90点、 30本：80点、 30本未満：70点

レポート: 30　卓球の重要なポイントについての内容のレポートを提出する。

平常点評価: 40　3分の2以上の出席が必要となる。
それ以下となると評価の対象外となるので注意してください。

備考・関連URL: 用意するもの： ラケット、体操服（上下）、体育館用シューズ、ゼッケン
※第1回授業はオリエンテーションのため、第2回以降用意すること。
【重要】
・授業開始後15分以降は遅刻とします。ただし、交通機関の遅延等特別な理由がある場合は、必ず担当教員に報告し、その後授業に参加すること。
・事前に欠席しなければならない等、連絡事項があるときは、メールにて連絡してください。
・体調管理には万全を期して、元気にいきましょう。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040022|17|9S07040022[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	卓球 基礎 17		
担 当 教 員	本橋 道直		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 卓球はとても身近で手軽なスポーツである。卓球台があって、ラケットとボールさえあれば誰でも接することができる。しかしいざボールを打ってみると、自分が思うようにボールをコントロールする事はなかなか難しい。それを克服するには正しいフォームを身につけ、ラケットで正確にボールをとらえなければならない。それと同時に様々な回転を持ちながら、飛んでくるボールに対応していく知識を身につけなければならない。
この授業では、基礎となる基本技術を身につけ、高めるために、ラケットの正しい持ち方からラケットの角度、合理的な身体の使い方などを練習していく。そしてもうひとつ「ボールの回転」について理解し実践の中で対応できるように練習していく。
基本技術のレベルがあがり、ボールの回転への対応力が増すことにより、打球の確実性・安定性は明らかに上昇していくはずである。その満足感・達成感を実感してほしい。

授業の到達目標: ・基本技術をしっかり身につけ、可能なかぎり高めていく。
・ボールの回転を理解し、それに対して確実に調整できるようにする。
・身体の動きのスピード、ボールのスピードをあげる。
・回転の変化に対応しながら、シングルス・ダブルスのゲームを楽しめるようにする。
・クラス全体のコミュニケーションを図る。

事前・事後学習の内容: 時間がある際は、卓球の動画などを観てもらうと参考になります。授業後には各種打法、技術の重要点を十分に理解し、次回の授業の際にいかしてください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション
授業での諸注意 心構え、用意するもの等
評価の方法の説明

第2回 クラス分け
初級・中級・上級の3つのクラスに分ける

第3回 フォアハンドの練習①
正しいグリップの説明
ラケットの角度・スイングの方向、タイミングの取り方などの説明

第4回 フォアハンドの練習②
フットワークとスマッシュ
フットワークを使ってしっかりボールをとらえる
身体を大きく強く使ってボールを強く打つ

第5回 バックハンドの練習
正しいラケットの角度とスイングの方向の説明
打球点とタイミングの取り方の説明

第6回 バックハンドとフォアハンドのコンビネーション
バックハンドとフォアハンドの切り替え
フットワークと身体の合理的な使い方の説明

第7回 ツッツキの練習①
下回転の特性の説明
正しいラケットの角度とスイング方向の説明
タイミングの取り方の注意

第8回 ツッツキの練習② および ドライブ
下回転の量の変化と、それに対するラケットの角度の調整の方法
下回転のボールにドライブをかける

第9回 卓球のルール説明と50本ラリー へのチャレンジ
卓球のルール説明と50本ラリーへのチャレンジ

第10回　サーブとレシーブとゲームの説明
様々な回転を持つサーブとそれに対応するレシーブの方法
ダブルスのゲームの進め方の説明
第11回　ダブルスのゲーム①
サーブ・レシーブの良否が勝敗を左右するので、その重要性を頭に入れてゲームを進める
第12回　ダブルスのゲーム②
コンビネーションを高めるために、動き方・コースの取り方に注意する
第13回　シングルスのゲーム①
サーブ・レシーブの大切さをシングルスのゲームにおいても意識してゲームを進める
第14回　シングルスのゲーム②、授業のまとめ
フットワークを使ってしっかりボールをとらえる。また相手より1本多く返球する意識を持ってプレーする
卓球の授業における重要なポイントを復習する

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特に指定するものはありません。
各自必要に応じて情報を得てください。

参考文献: 特に指定するものはありません。
各自必要に応じて情報を得てください。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	30	ラリー往復50本：100点、 40本：90点、 30本：80点、 30本未満：70点
レポート:	30	卓球の重要なポイントについての内容のレポートを提出する。
平常点評価:	40	3分の2以上の出席が必要となる。 それ以下となると評価の対象外となるので注意してください。

備考・関連URL: 用意するもの： ラケット、体操服（上下）、体育館用シューズ、ゼッケン
※第1回授業はオリエンテーションのため、第2回以降用意すること。
【重要】
・授業開始後15分以降は遅刻とします。ただし、交通機関の遅延等特別な理由がある場合は、必ず担当教員に報告し、その後授業に参加すること。
・事前に欠席しなければならない等、連絡事項があるときは、メールにて連絡してください。
・体調管理には万全を期して、元気にいきましょう。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040025|01|9S07040025[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	テニス 基礎 01		
担 当 教 員	森井 大治		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 生涯スポーツとして非常に適しているとされるテニスにおける基本技術（グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス等）の習得とテニスに必要な体力の向上を図り、それらを活かしたダブルスゲームへの応用およびダブルスゲームの進め方を習得する。

授業の到達目標: ダブルスゲームで必要な基本技術およびルール等を習得し、テニスの楽しさを理解することが目標とする。

事前・事後学習の内容: テニスのビデオや動画等をみたり、専門書を確認して基本的な情報を得ておくこと。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション
場所：75－2号館（体育教室棟）1F教室（東伏見キャンパス）
第2回
テニスの基礎 ラケッティング
第3回
グラウンドストロークの基本1 フォアハンドストロークの打ち方
第4回
グラウンドストロークの基本2 バックハンドストロークの打ち方
第5回
ネットプレーの基本1 フォアおよびバックボレーの打ち方
第6回
ネットプレーの基本2 ダブルスでのポーチの打ち方
第7回
ネットプレーの基本3 スマッシュの打ち方
第8回
サービスの基本 サービスの打ち方
第9回
ダブルスゲームへの応用1 サービスリターンの打ち方
第10回
ダブルスゲームへの応用2 ダブルスゲームの進め方
第11回
ダブルスゲームへの応用3 フォーメーションの確認
第12回
ダブルスゲーム
第13回
ダブルスゲーム
第14回
テストおよびダブルスゲーム

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	30	基本技術の試験を行い、基本技術の正しい理解および実践ができるかを確認する。
レポート:	10	テニスを通じて生涯スポーツと健康について理解して考察しているか評価する。
平常点評価:	60	出席状況、授業への積極的な参加姿勢、授業の理解度を総合的に評価する。

備考・関連URL: 【初回授業】
オリエンテーション
場所：７５－２号館（体育教室棟）１F教室（東伏見キャンパス）

授業開始時間を守れる者のみ履修して欲しい。
ラケット、シューズの貸し出しは行っていないので各自で用意すること。
オリエンテーションは平服のまま、テニスコートではなく東伏見教室で行う。
細かい説明を行うのでオリエンテーションは要出席のこと。
日本語のみで授業を展開するので、ある程度日本語が理解出来ないと難しいことを理解しておくこと
レポート（任意提出）は出席を補完するものでは無いことを理解しておくこと

関連URL:
東伏見キャンパス
http://www.waseda.jp/gec/wp-content/uploads/2014/02/sports02.pdf

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040025|02|9S07040025[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	テニス 基礎 02		
担 当 教 員	森井 大治		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 生涯スポーツとして非常に適しているとされるテニスにおける基本技術（グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス等）の習得とテニスに必要な体力の向上を図り、それらを活かしたダブルスゲームへの応用およびダブルスゲームの進め方を習得する。

授業の到達目標: ダブルスゲームで必要な基本技術およびルール等を習得し、テニスの楽しさを理解することが目標とする。

事前・事後学習の内容: テニスのビデオや動画等をみたり、専門書を確認して基本的な情報を得ておくこと。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション
場所：75－2号館（体育教室棟）1階教室（東伏見キャンパス）
第2回
テニスの基礎 ラケッティング
第3回
グラウンドストロークの基本1 フォアハンドストロークの打ち方
第4回
グラウンドストロークの基本2 バックハンドストロークの打ち方
第5回
ネットプレーの基本1 フォアおよびバックボレーの打ち方
第6回
ネットプレーの基本2 ダブルスでのポーチの打ち方
第7回
ネットプレーの基本3 スマッシュの打ち方
第8回
サービスの基本 サービスの打ち方
第9回
ダブルスゲームへの応用1 サービスリターンの打ち方
第10回
ダブルスゲームへの応用2 ダブルスゲームの進め方
第11回
ダブルスゲームへの応用3 フォーメーションの確認
第12回
ダブルスゲーム
第13回
ダブルスゲーム
第14回
テストおよびダブルスゲーム

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	30	基本技術の試験を行い、基本技術の正しい理解および実践ができるかを確認する。
レポート:	10	テニスを通じて生涯スポーツと健康について理解して考察しているか評価する。
平常点評価:	60	出席状況、授業への積極的な参加姿勢、授業の理解度を総合的に評価する。

備考・関連URL:

【初回授業】
オリエンテーション
場所：７５－２号館（体育教室棟）１階教室（東伏見キャンパス）

授業開始時間を守れる者のみ履修して欲しい。
ラケット、シューズの貸し出しは行っていないので各自で用意すること。
オリエンテーションは平服のまま、テニスコートではなく東伏見教室で行う。
細かい説明を行うのでオリエンテーションは要出席のこと。
日本語のみで授業を展開するので、ある程度日本語が理解出来ないと難しいことを理解しておくこと
レポート（任意提出）は出席を補完するものでは無いことを理解しておくこと

関連URL:
東伏見キャンパス
http://www.waseda.jp/gec/wp-content/uploads/2014/02/sports02.pdf

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040025|03|9S07040025[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	テニス 基礎 03		
担 当 教 員	森井 大治		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 生涯スポーツとして非常に適しているとされるテニスにおける基本技術（グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス等）の習得とテニスに必要な体力の向上を図り、それらを活かしたダブルスゲームへの応用およびダブルスゲームの進め方を習得する。

授業の到達目標: ダブルスゲームで必要な基本技術およびルール等を習得し、テニスの楽しさを理解することが目標とする。

事前・事後学習の内容: テニスのビデオや動画等をみたり、専門書を確認して基本的な情報を得ておくこと。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション
場所：75－2号館（体育教室棟）1F教室（東伏見キャンパス）
第2回
テニスの基礎 ラケッティング
第3回
グラウンドストロークの基本1 フォアハンドストロークの打ち方
第4回
グラウンドストロークの基本2 バックハンドストロークの打ち方
第5回
ネットプレーの基本1 フォアおよびバックボレーの打ち方
第6回
ネットプレーの基本2 ダブルスでのポーチの打ち方
第7回
ネットプレーの基本3 スマッシュの打ち方
第8回
サービスの基本 サービスの打ち方
第9回
ダブルスゲームへの応用1 サービスリターンの打ち方
第10回
ダブルスゲームへの応用2 ダブルスゲームの進め方
第11回
ダブルスゲームへの応用3 フォーメーションの確認
第12回
ダブルスゲーム
第13回
ダブルスゲーム
第14回
テニスおよびダブルスゲーム

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	30	基本技術の試験を行い、基本技術の正しい理解および実践ができるかを確認する。
レポート:	10	テニスを通じて生涯スポーツと健康について理解して考察しているか評価する。
平常点評価:	60	出席状況、授業への積極的な参加姿勢、授業の理解度を総合的に評価する。

備考・関連URL: 【初回授業】
オリエンテーション
場所：７５－２号館（体育教室棟）１F教室（東伏見キャンパス）

授業開始時間を守れる者のみ履修して欲しい。
ラケット、シューズの貸し出しは行っていないので各自で用意すること。
オリエンテーションは平服のまま、テニスコートではなく東伏見教室で行う。
細かい説明を行うのでオリエンテーションは要出席のこと。
日本語のみで授業を展開するので、ある程度日本語が理解出来ないと難しいことを理解しておくこと
レポート（任意提出）は出席を補完するものでは無いことを理解しておくこと

関連URL:
東伏見キャンパス
http://www.waseda.jp/gec/wp-content/uploads/2014/02/sports02.pdf

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040025|04|9S07040025[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	テニス 基礎 04		
担 当 教 員	森井 大治		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 生涯スポーツとして非常に適しているとされるテニスにおける基本技術（グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス等）の習得とテニスに必要な体力の向上を図り、それらを活かしたダブルスゲームへの応用およびダブルスゲームの進め方を習得する。

授業の到達目標: ダブルスゲームで必要な基本技術およびルール等を習得し、テニスの楽しさを理解することが目標とする。

事前・事後学習の内容: テニスのビデオや動画等をみたり、専門書を確認して基本的な情報を得ておくこと。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション
場所：75－2号館（体育教室棟）1F教室（東伏見キャンパス）
第2回
テニスの基礎 ラケッティング
第3回
グラウンドストロークの基本1 フォアハンドストロークの打ち方
第4回
グラウンドストロークの基本2 バックハンドストロークの打ち方
第5回
ネットプレーの基本1 フォアおよびバックボレーの打ち方
第6回
ネットプレーの基本2 ダブルスでのポーチの打ち方
第7回
ネットプレーの基本3 スマッシュの打ち方
第8回
サービスの基本 サービスの打ち方
第9回
ダブルスゲームへの応用1 サービスリターンの打ち方
第10回
ダブルスゲームへの応用2 ダブルスゲームの進め方
第11回
ダブルスゲームへの応用3 フォーメーションの確認
第12回
ダブルスゲーム
第13回
ダブルスゲーム
第14回
テストおよびダブルスゲーム

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	30	基本技術の試験を行い、基本技術の正しい理解および実践ができるかを確認する。
レポート:	10	テニスを通じて生涯スポーツと健康について理解して考察しているか評価する。
平常点評価:	60	出席状況、授業への積極的な参加姿勢、授業の理解度を総合的に評価する。

備考・関連URL: 【初回授業】
オリエンテーション
場所：75－2号館（体育教室棟）1F教室（東伏見キャンパス）

授業開始時間を守れる者のみ履修して欲しい。
ラケット、シューズの貸し出しは行っていないので各自で用意すること。
オリエンテーションは平服のまま、テニスコートではなく東伏見教室で行う。
細かい説明を行うのでオリエンテーションは要出席のこと。
日本語のみで授業を展開するので、ある程度日本語が理解出来ないと難しいことを理解しておくこと
レポート（任意提出）は出席を補完するものでは無いことを理解しておくこと

関連URL:
東伏見キャンパス
http://www.waseda.jp/gec/wp-content/uploads/2014/02/sports02.pdf

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040027|01|9S07040027[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	馬術 基礎 01		
担 当 教 員	倉田 孝之		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 馬を知ろう。馬に乗ろう。

授業概要:

世界最古の馬術書は紀元前5世紀ギリシャで刊行されている。以来人類は馬とともに、馬術という高度な技術を磨いてきた。やがて中央アジアには強大な騎馬民族が登場し、世界史を変える大きな役割を馬が果たした。人類の歴史を考えるとき馬を抜きに語ることはできない。この講座は、伝統的なヨーロッパスタイルの馬術の基礎を学び、馬に乗ったことのない人が、馬を1人で動かせるようになることを目標とする。もちろん経験者も大歓迎である。まずは馬にまたがってみよう。そして馬を知ろう。そのためにはリラックスして馬に自分をまかせること。馬の手入れを通して馬に触れ合うことや馬を知る馬学もとても大切だ。そして馬術の試合を観戦してほしい。日本ではまだまだマイナースポーツの一つだが、パリオリンピックでは90年ぶりのメダルを獲得している。
この授業を履修し、馬に触れ合い、君も乗馬愛好家の仲間入りをしないか。この快感を忘れられず、多くの仲間たちが馬術履修後も集まって、馬に乗り続けている。（体重100kgを超える場合には、騎乗に制限がかかることもある。 指導は日本語）

（写真をクリックすると拡大します）

授業の到達目標:

1 馬の乗り方・軽速歩を学ぶ
2 一人で馬を動かす。まきのりができる
※ 簡単な経路を一人で速歩で回る。
3 馬の手入れのしかたを理解し、馬と触れ合う。

事前・事後学習の内容: 馬に接することが初めての人は、馬の習性を理解することが安全を確保する上で大切。参考文献の馬の扱い方を熟読しておくとよい。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

＜基本姿勢の練習＞
この段階の練習では初心者でも安心して乗馬を楽しめるように馬に調馬索というひもをつけて、一定の円運動をさせ、バランスで馬にまたがることを習得する。とにかく力を抜くこと。リラックスして馬に乗ることを目標とする。さらに、馬のリズムに合わせて自分の腰をあげる軽速足を体得する。速足での馬のゆれを感じないように快適に乗馬するために、軽速足を身につけることは必須条件である。
<1>オリエンテーション（用具、服装の説明）
<3>常足での基本姿勢 と馬上体操
<2>乗馬の仕方 馬に乗ること、降りること
<4>速足（リラックスして馬にのる）
<5>軽速足1（馬にリズムをあわせる）
<6>軽速足2（にこやかにのる）
<7>軽速足3（自分のペースに馬を合わせる）

＜部班運動＞（複数の馬が列を作って行進することを部班運動という。軽速歩ができた人から、一人で馬を動かす練習を始めます。）
初めは常足で、次に軽速足で前の馬と一定の距離をとって行進する。馬に馬鹿にされると、まったく動いてくれないこともある。馬に的確に自分の指示を伝えること。遠慮は禁物。指示に従わなければ、馬をける勇気も必要である。部班の中で左に曲がったり、円を描いたり（巻き乗り）細かい運動をできれば、初心者競技ジムカーナーの練習へ。レッドコーンをおいて馬をジグザグに誘導する競技がジムカーナー競技である。
<8>一人で馬を動かす（停止、発進、まきのり）
<9>厩舎管理の方法 馬術試合のルール 解説と観戦
<10>一人で馬を動かす（速足での部班運動1）
<11.>馬装の仕方 手入れの仕方

<12>一人で馬を動かす（速足での部班運動2）
<13>ジムカーナーに向けて、スラローム練習1
<14>馬と共に写真を撮ろう

注意　雨の日は、厩舎管理の方法や、馬の引き方、馬の手入れ、馬装の仕方などを厩舎で教える。また雨のひどい時は、教室で馬学の話をします。馬の病気、毛色、馬術の競技会のルール、観戦の仕方など、馬について知ってほしいことをお話します。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 乗馬ズボン（キュロット）、乗馬手袋着用（軍手や、テニスや野球などの手袋でも代用可）。体に密着したジーンズ、ジャージなども可。ただし安全のためキュロット着用がのぞましい。ヘルメット、バックガード（安全用プロテクター）、乗馬用ゴム長靴は貸し出しあり。

参考文献: 以下、馬に初めて乗る人は参考文献を読んでおくと、
乗馬上達に役立ちます。
① 楽しい乗馬ビジュアルテキスト（ジョー・バード著、楠瀬良訳） 2800円（税別） 緑書房
カラーでの写真が多く、ヨーロツパ馬術だけでなく、ウェスタン乗馬の仕方も詳細に解説しています。
馬の扱い方、馬の乗り方、障害や馬場馬術の乗り方など、かなりレベルの高いことまで、知りたい人には勧められます）
② 乗馬をはじめよう（岩谷一裕著） 1870円
乗馬クラブクレインで初心者向けに作った乗馬テキストです。授業で扱うテーマは、この本を読めば、すべて詳述されています。
写真も多様されており、悪い姿勢などが写真入りで詳述されているので、参考になると思います。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 20　馬術試合の観戦の感想と馬について興味を持ったこと。A4 1－2枚程度。馬に対する関心の高さを評価する。
（観戦する試合は別途指示する）

平常点評価: 80
出席をすることを評価します。

備考・関連URL:
関連URL:
早稲田大学馬術部
http://whrc1927.wordpress.com/
公益社団法人 日本馬術連盟(ルール解説と見方)
https://www.equitation-japan.com/rules_01.html
東伏見キャンパス
http://www.waseda.jp/gec/wp-content/uploads/2014/02/sports02.pdf

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040027|02|9S07040027[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	馬術 基礎 02		
担 当 教 員	倉田 孝之		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 馬に乗ろう。馬を知ろう。

授業概要: 世界最古の馬術書は紀元前5世紀ギリシャで刊行されている。以来人類は馬とともに、馬術という高度な技術を磨いてきた。やがて中央アジアには強大な騎馬民族が登場し、世界史を変える大きな役割を馬が果たした。人類の歴史を考えるとき馬を抜きに語ることはできない。この講座は、伝統的なヨーロッパスタイルの馬術の基礎を学び、馬に乗ったことのない人が、馬を1人で動かせるようになることを目標とする。もちろん経験者も大歓迎である。まずは馬にまたがってみよう。そして馬をしろう。そのためにはリラックスして馬に自分をまかせること。馬の手入れを通して馬に触れ合うことや馬を知る座学もとても大切だ。そして馬の試合を観戦してほしい。日本では馬術はまだまだマイナースポーツの一つだが、パリオリンピックでは90年ぶりのメダルを獲得している。この授業を履修し、馬に触れ合い、君も乗馬愛好家の仲間入りをしないか。この快感を忘れられず、多くの仲間たちが馬術履修後も集まって、馬に乗り続けている。（体重が100kgを超える場合には騎乗に制限がかかる場合があります。指導は日本語）

（写真をクリックすると拡大します）

授業の到達目標:

1 馬の乗り方・軽速歩を学ぶ
2 まきのりができる
※簡単な経路を一人で速歩で回ることができる
3 馬の手入れのしかたを理解し馬と触れ合う。

事前・事後学習の内容: はじめて馬に乗る人は、馬の習性を知ることが安全のために必要です。参考文献の馬の習性について熟読しておくと乗馬習得に役立ちます。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ＜基本姿勢の練習＞
この段階の練習では初心者でも安心して乗馬を楽しめるように馬に調馬索というひもをつけて、一定の円運動をさせ、バランスで馬にまたがることを習得する。とにかく力を抜くこと。リラックスして馬に乗ることを目標とする。さらに、馬のリズムに合わせて自分の腰をあげる軽速足を体得する。速足での馬のゆれを感じないように快適に乗馬するために、軽速足を身につけることは必須条件である。
〈1〉オリエンテーション（用具、服装の説明）
〈2〉乗馬の仕方 馬に乗ること、降りること
〈3〉常足での基本姿勢 と馬上体操
〈4〉姿勢を正しく乗る
〈5〉軽速足1（馬にリズムをあわせる）
〈6〉軽速足2（にこやかにのる）
〈7〉軽速足3（自分のペースに馬を合わせる）

＜部班運動＞（複数の馬が列を作って行進することを部班運動という。軽速歩ができた人から、一人で馬を動かす練習を始めます。）
初めは常足で、次に軽速足で前の馬と一定の距離をとって行進する。馬に馬鹿にされると、まったく動いてくれないこともある。馬に的確に自分の指示を伝えること。遠慮は禁物。指示に従わなければ、馬をける勇気も必要である。部班の中で左に曲がったり、円を描いたり（巻き乗り）細かい運動をできれば、初心者競技ジムカーナーの練習へ。レッドコーンをおいて馬をジグザグに誘導する競技がジムカーナー競技である。
〈8〉一人で馬を動かす（停止、発進）
〈9〉一人で馬を動かす（巻き乗り）
〈10〉一人で馬を動かす（速足での部班運動1）
〈11〉馬装の仕方 手入れの仕方
〈12〉一人で馬を動かす（速足での部班運動2）
〈13〉厩舎管理の方法と試合のルール解説と観戦
〈14〉馬ともに写真をとろう

注意　雨の日は、厩舎管理の方法や、馬の引き方、馬の手入れ、馬装の仕方などを厩舎で教える。また雨のひどい時は、教室で馬学の話をします。馬の病気、毛色、馬術の競技会のルール、観戦の仕方など、馬について知ってほしいことをお話します。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　乗馬ズボン（キュロット）、乗馬手袋着用（軍手や、テニスや野球などの手袋でも代用可）。体に密着したジーンズ、ジャージなども可。ただし安全のためキュロット着用がのぞましい。ヘルメット、バックガード（安全用プロテクター）、乗馬用ゴム長靴は貸し出しあり。

参考文献:　以下、馬に初めて乗る人は参考文献を読んでおくと、
乗馬上達に役立ちます。
① 楽しい乗馬ビジュアルテキスト（ジョー・バード著、楠瀬良訳） 2800円（税別） 緑書房
カラーでの写真が多く、ヨーロッパ馬術だけでなく、ウェスタン乗馬の仕方も詳細に解説しています。
馬の扱い方、馬の乗り方、障害や馬場馬術の乗り方など、かなりレベルの高いことまで、知りたい人には勧められます）
② 乗馬をはじめよう（岩谷一裕著） 1870円
乗馬クラブクレインで初心者向けに作った乗馬テキストです。授業で扱うテーマは、この本を読めば、すべて詳述されています。
写真も多様されており、悪い姿勢などが写真入りで詳述されているので、参考になると思います。

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:　20　試合観戦の感想と馬について興味を持ったこと。A4 １－２枚程度。馬に対する関心の高さを評価する。（観戦擦る試合は別途指示する）

平常点評価:　80　遅刻せず授業に来ることをなによりも評価する。

備考・関連URL:　初回授業はオリエンテーション。感染状況により今年度の授業は変更があります。初回授業で詳細はお伝えします。

関連URL:
早稲田大学馬術部
http://whrc1927.wordpress.com/
公益社団法人 日本馬術連盟(ルール解説と見方)
https://www.equitation-japan.com/rules_01.html
東伏見キャンパス
http://www.waseda.jp/gec/wp-content/uploads/2014/02/sports02.pdf

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040027|03|9S07040027[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	馬術 基礎 03		
担 当 教 員	倉田 孝之		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 馬に乗ろう。馬を知ろう。

授業概要: 世界最古の馬術書は紀元前5世紀ギリシャで刊行されている。以来人類は馬とともに、馬術という高度な技術を磨いてきた。やがて中央アジアには強大な騎馬民族が登場し、世界史を変える大きな役割を馬が果たした。人類の歴史を考えるとき馬を抜きに語ることはできない。この講座は、伝統的なヨーロッパスタイルの馬術の基礎を学び、馬に乗ったことのない人が、馬を1人で動かせるようになることを目標とする。もちろん経験者も大歓迎である。まずは馬にまたがってみよう。そして馬をしろう。そのためにはリラックスして馬に自分をまかせること。馬の手入れを通して馬に触れ合うことや馬を知る座学もとても大切だ。馬の習性を知ることで人馬一体の境地を体現できる。他の大学にはない、この馬術の授業は、ウマライフという乗馬専門誌の取材を受けている。この授業を履修し、馬に触れ合い、君も乗馬愛好家の仲間入りをしないか。この快感を忘れられず、多くの仲間たちが馬術履修後も集まって、馬に乗り続けている。体重100kgを超える場合には騎乗制限がかかる場合があります。指導は日本語です。

（写真をクリックすると拡大します）

授業の到達目標:
1 軽速足ができる。
2 1人で馬を右・左に曲げられる。
3 ジグザクにコーンを通過できる。

事前・事後学習の内容: はじめて馬に乗る人は、馬の習性を理解することが大切。参考文献の馬の習性について熟読しておくと上達がはやまります。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
＜基本姿勢の練習＞
この段階の練習では初心者でも安心して乗馬を楽しめるように馬に調馬索というひもをつけて、一定の円運動をさせ、バランスで馬にまたがることを習得する。とにかく力を抜くこと。リラックスして馬に乗ることを目標とする。さらに、馬のリズムに合わせて自分の腰をあげる軽速足を体得する。速足での馬のゆれを感じないように快適に乗馬するために、軽速足を身につけることは必須条件である。
<1>オリエンテーション（用具、服装の説明）
<2>乗馬の仕方 馬に乗ること、降りること
<3>常足での基本姿勢 と馬上体操
<4>速足（リラックスして馬にのる）
<5>軽速足1（馬にリズムをあわせる）
<6>軽速足2（にこやかにのる）
<7>軽速足3（自分のペースに馬を合わせる）

＜部班運動＞（複数の馬が列を作って行進することを部班運動という。軽速歩ができた人から、一人で馬を動かす練習を始めます。）
初めは常足で、次に軽速足で前の馬と一定の距離をとって行進する。馬に馬鹿にされると、まったく動いてくれないこともある。馬に的確に自分の指示を伝えること。遠慮は禁物。指示に従わなければ、馬をける勇気も必要である。部班の中で左に曲がったり、円を描いたり（巻き乗り）細かい運動をできれば、初心者競技ジムカーナーの練習へ。レッドコーンをおいて馬をジグザグに誘導する競技がジムカーナー競技である。
<8>一人で馬を動かす（停止、発進）
<9>一人で馬を動かす（巻き乗り）
<10>一人で馬を動かす（速足での部班運動1）
<11>馬装の仕方 手入れの仕方
<12>一人で馬を動かす（速足での部班運動2）
<13>ジムカーナーに向けて、スラローム練習1
<14>馬とともに写真ととろう

注意 雨の日は、厩舎管理の方法や、馬の引き方、馬の手入れ、馬装の仕方などを厩舎で教える。また雨のひどい時は、教室で馬学の話をします。馬の病気、毛色、馬術の競技会のルール、観戦の仕方など、馬について知ってほしいことをお話します。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 乗馬ズボン(キュロット)、乗馬手袋着用(軍手や、テニスや野球などの手袋でも代用可)。体に密着したジーンズ、ジャージなども可。ただし安全のためキュロット着用がのぞましい。ヘルメット、バックガード(安全用プロテクター)、乗馬用ゴム長靴は貸し出しあり。

参考文献: 以下、馬に初めて乗る人は参考文献を読んでおくと、
乗馬上達に役立ちます。
① 楽しい乗馬ビジュアルテキスト(ジョー・バード著、楠瀬良訳) 2800円(税別) 緑書房
カラーでの写真が多く、ヨーロツパ馬術だけでなく、ウェスタン乗馬の仕方も詳細に解説しています。
馬の扱い方、馬の乗り方、障害や馬場馬術の乗り方など、かなりレベルの高いことまで、知りたい人には勧められます)
② 乗馬をはじめよう(岩谷一裕著) 1870円
乗馬クラブクレインで初心者向けに作った乗馬テキストです。授業で扱うテーマは、この本を読めば、すべて詳述されています。
写真も多様されており、悪い姿勢などが写真入りで詳述されているので、参考になると思います。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート: 20 A4 1ー2枚程度。馬術の試合観戦 馬に対する関心の高さを評価する。

平常点評価: 80 出席点が60パーセント。技術点が20パーセント。休まず、遅刻せず来ることをなによりも評価する。

備考・関連URL: 初回授業はオリエンテーション。平服で筆記具持参の上東伏見75-2号館(体育教室棟)1階教室に集合。必ず出席すること。教室で騎乗する上での注意、服装などを説明後、馬場に行き、馬への接し方、用具の身につけ方を説明する。

関連URL:
早稲田大学馬術部
http://whrc1927.wordpress.com/
公益社団法人 日本馬術連盟(ルール解説と見方)
https://www.equitation-japan.com/rules_01.html
東伏見キャンパス
http://www.waseda.jp/gec/wp-content/uploads/2014/02/sports02.pdf

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040028|01|9S07040028[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バスケットボール 基礎 01		
担 当 教 員	戸坂 勝		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： バスケットボールは、走る、跳ぶ、投げる、という運動を含み、瞬発力、持久力も必要とするたいへんバランスの良いスポーツです。また、シュート、ドリブル、パスといった個人的技能は、長い時間をかけ習慣的にボールに触れることにより上達していきます。実際に動くとたいへん激しく、若い一時期にしかできないスポーツのように感じますが、技術が向上すると体力面も巧緻性でカバーすることができ、各年代に合った楽しみ方ができます。この授業では、基本的な個人的技能を中心に、楽しみながら技術を向上させていき、それをゲームで表現し、いろいろな場面に対応できる能力を身につけていきます。さらに、チームスポーツの特性を生かし、チームメイトとプレーすることにより協調性の向上を、また相手に対して次に何をしてくるか先を読むといった精神心理的な充実も目標としています。したがって、比較的早い段階で、ミニゲームを行うことを予定しています。

授業の到達目標： シュート、ドリブル、パスといったオフェンスの個人的技能を向上させ、ゲームで得点に絡むプレーができるようになることを目標とします。さらに、チームスポーツの特性を生かし、チームメイトとプレーすることにより協調性の向上を、また相手に対して次に何をしてくるか先を読むといった精神心理的な充実も目標としています。

事前・事後学習の内容： 体育館等、体の動かせる場所で、ボールを使って、授業で行ったドリルを繰り返し練習してください。

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
オリエンテーション（個人で用意する用具、心構え、評価等についての説明）
第2回
コーディネーショントレーニング（ボールコントロール、ボディコントロール） ミニゲーム
第3回
スキルテスト（基本的なシュート、ドリブルのテスト）
第4回
オフェンスの基本姿勢（トリプル・スレット）とストップ・ターン ミニゲーム
第5回
レイアップ・シュート、セットシュート ミニゲーム
第6回
対面シュート、1on1 ミニゲーム
第7回
リバウンドシュート、ターン・シュート ミニゲーム
第8回
ドリブル（チェンジオブディレクション） クロスオーバー、スピン、ビハインドザバック、レッグスルー ミニゲーム
第9回
ドリブル（チェンジオブペース） ストップ＆ゴー、シェイク、インサイドアウト ミニゲーム
第10回
パス、ピボット、2メンランニングシュート ミニゲーム
第11回
アウトナンバー（2on1） ミニゲーム
第12回
アウトナンバー（3on2） ミニゲーム

第13回
スキルテスト（第3回と同種目）技能到達度の確認
第14回
総合学習・ゲーム

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特になし

参考文献: 特になし

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 2回のスキルテストを実施し、その記録と上達度などを評価します。

平常点評価: 60 出席を重視します。授業で行うドリルやゲームへの取り組み方、その積極性を評価します。

備考・関連URL: 第1週目の授業はオリエンテーションを行います。シューティングなど体を動かしたい受講生は体育館専用シューズを用意してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040028|02|9S07040028[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バスケットボール 基礎 02		
担 当 教 員	戸坂 勝		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: バスケットボールは、走る、跳ぶ、投げる、という運動を含み、瞬発力、持久力も必要とするたいへんバランスの良いスポーツです。また、シュート、ドリブル、パスといった個人的技能は、長い時間をかけ習慣的にボールに触れることにより上達していきます。実際に動くとたいへん激しく、若い一時期にしかできないスポーツのように感じますが、技術が向上すると体力面も巧緻性でカバーすることができ、各年代に合った楽しみ方ができます。この授業では、基本的な個人的技能を中心に、楽しみながら技術を向上させていき、それをゲームで表現し、いろいろな場面に対応できる能力を身につけていきます。さらに、チームスポーツの特性を生かし、チームメイトとプレーすることにより協調性の向上を、また相手に対して次に何をしてくるか先を読むといった精神心理的な充実も目標としています。したがって、比較的早い段階で、ミニゲームを行うことを予定しています。

授業の到達目標: シュート、ドリブル、パスといったオフェンスの個人的技能を向上させ、ゲームで得点に絡むプレーができるようになることを目標とします。さらに、チームスポーツの特性を生かし、チームメイトとプレーすることにより協調性の向上を、また相手に対して次に何をしてくるか先を読むといった精神心理的な充実も目標としています。

事前・事後学習の内容: 体育館等、体の動かせる場所で、ボールを使って、授業で行ったドリルを繰り返し練習してください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（個人で用意する用具、心構え、評価等についての説明）
第2回
コーディネーショントレーニング（ボールコントロール、ボディコントロール） ミニゲーム
第3回
スキルテスト（基本的なシュート、ドリブルのテスト）
第4回
オフェンスの基本姿勢（トリプル・スレット）とストップ・ターン ミニゲーム
第5回
レイアップ・シュート、セットシュート ミニゲーム
第6回
対面シュート、1on1 ミニゲーム
第7回
リバウンド・シュート、ターン・シュート ミニゲーム
第8回
ドリブル（チェンジオブディレクション） クロスオーバー、スピン、ビハインドザバック、レッグスルー ミニゲーム
第9回
ドリブル（チェンジオブペース） ストップ＆ゴー、シェイク、インサイドアウト ミニゲーム
第10回
パス、ピボット、2メンランニングシュート ミニゲーム
第11回
アウトナンバー（2on1） ミニゲーム
第12回
アウトナンバー（3on2） ミニゲーム
第13回
スキルテスト（第3回と同種目）技能到達度の確認

第１４回
総合学習・ゲーム

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特になし

参考文献: 特になし

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 2回のスキルテストを実施し、その記録と上達度などを評価します。

平常点評価: 60 出席を重視します。授業で行うドリルやゲームへの取り組み方、その積極性を評価します。

備考・関連URL: 第１週目の授業はオリエンテーションを行います。シューティングなど体を動かしたい受講生は体育館専用シューズを用意してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040028|03|9S07040028[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バスケットボール 基礎 03		
担 当 教 員	木村 和宏		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: バスケットボールは、数ある球技種目の中でも、「走・跳・投」をバランスよく使われるスポーツである。特に、中学や高校の競技人口は48万人を超え人気スポーツとなっている。また、世界的にもポピュラーであり、4億5千万人の競技者をもつなど最も盛んに学校教育で行われている。
授業では、毎回バスケットボールを構成する各技術（スキル）や戦術を個別に取り上げ、それぞれにおける基礎的な個人スキルを高め、ゲームに活かせる基本戦術を学ぶことに重点を置く。さらに、その個人スキルや戦術を駆使して、ゲームに活用できるよう、又楽しく行えるように段階的に内容をグレードアップさせながら授業を進めていく。
[ディプロマポリシーとの関連]保健体育教員や生涯・競技スポーツ指導者に必要な知識や実技能力の習得を目指す。

授業の到達目標: バスケットボールのオフェンスを行うための基礎技術（スキル）としてシュート、ドリブル、パスを習得する、または向上する。最終的には、ゲームにおいてスムーズに更には楽しんでプレイすることができるようになる。

事前・事後学習の内容: 各回の復習には、90分～120分かかると予想されます。習得した技術を次回の授業に反映できるようにすること。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ガイダンス
授業の進め方や注意事項
第2回 オフェンスファンダメンタル①、ミニゲーム
トリプルスレット、レイアップシュート、ストップ＆ターン等基本的プレイ
第3回 オフェンスファンダメンタル②、ミニゲーム
パス、ドリブル
第4回 オフェンスファンダメンタル③、ミニゲーム
ジャンプシュート、いろいろなスキルを使ったシュート
第5回 数的有利な場面でのオフェンス①、ミニゲーム
1on0、2on1、3on2
第6回 数的有利な場面でのオフェンス②、ミニゲーム
4on3、5on4
第7回 同数場面でのオフェンス①、ミニゲーム
ハーフ3on3の攻防
第8回 同数場面でのオフェンス②、ミニゲーム
ハーフ4on4の攻防
第9回 トランジッション①、ミニゲーム
フルコートでの攻防
第10回 トランジッション②、ミニゲーム
ラリー形式の攻防（マンツーマンディフェンス）
第11回 トランジッション③、ミニゲーム
ラリー形式の攻防（ゾーンディフェンス）
第12回 リーグ戦①
審判法、ゲーム運営
第13回 リーグ戦②
審判法、ゲーム運営

第１４回 トーナメント、まとめ
審判法、ゲーム運営

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特になし、必要に応じて指示する。

参考文献: 倉石平のオフェンシブバスケットボール」「倉石平のディフェンシブバスケットボール」（どちらもベースボールマガジン社）「バスケットボール指導教本改訂版上・下」（日本バスケットボール協会編）

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 実技テスト（シュート他）及びゲームにおける勝敗ポイント

平常点評価: 60 授業への出席状況、毎回の授業の理解度、取り組み姿勢、貢献度を評価する。

備考・関連URL: ・授業の第1回ガイダンスは、今後の授業内容について説明します。
・対面授業の場合には、授業開始から30分以降の遅刻は認めないので注意のこと。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040028|04|9S07040028[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バスケットボール 基礎 04		
担 当 教 員	木村 和宏		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： バスケットボールは、数ある球技種目の中でも、「走・跳・投」をバランスよく使われるスポーツである。特に、中学や高校の競技人口は48万人を超え人気スポーツとなっている。また、世界的にもポピュラーであり、4億5千万人の競技者をもつなど最も盛んに学校教育で行われている。
授業では、毎回バスケットボールを構成する各技術（スキル）や戦術を個別に取り上げ、それぞれにおける基礎的な個人スキルを高め、ゲームに活かせる基本戦術を学ぶことに重点を置く。さらに、その個人スキルや戦術を駆使して、ゲームに活用できるよう、又楽しく行えるように段階的に内容をグレードアップさせながら授業を進めていく。
[ディプロマポリシーとの関連]保健体育教員や生涯・競技スポーツ指導者に必要な知識や実技能力の習得を目指す。

授業の到達目標： バスケットボールのオフェンスを行うための基礎技術（スキル）としてシュート、ドリブル、パスを習得する、または向上する。最終的には、ゲームにおいてスムーズに更には楽しんでプレイすることができるようになる。

事前・事後学習の内容： 各回の復習には、90分～120分かかると予想されます。習得した技術を次回の授業に反映できるようにすること。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 ガイダンス
授業の進め方や注意事項
第2回 オフェンスファンダメンタル①、ミニゲーム
トリプルスレット、レイアップシュート、ストップ＆ターン等基本的プレイ
第3回 オフェンスファンダメンタル②、ミニゲーム
パス、ドリブル
第4回 オフェンスファンダメンタル③、ミニゲーム
ジャンプシュート、いろいろなスキルを使ったシュート
第5回 数的有利な場面でのオフェンス①、ミニゲーム
1on0、2on1、3on2
第6回 数的有利な場面でのオフェンス②、ミニゲーム
4on3、5on4
第7回 同数場面でのオフェンス①、ミニゲーム
ハーフ3on3の攻防
第8回 同数場面でのオフェンス②、ミニゲーム
ハーフ4on4の攻防
第9回 トランジッション①、ミニゲーム
フルコートでの攻防
第10回 トランジッション②、ミニゲーム
ラリー形式の攻防（マンツーマンディフェンス）
第11回 トランジッション③、ミニゲーム
ラリー形式の攻防（ゾーンディフェンス）
第12回 リーグ戦①
審判法、ゲーム運営
第13回 リーグ戦②
審判法、ゲーム運営

第１４回 トーナメント、まとめ
審判法、ゲーム運営

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特になし、必要に応じて指示する。

参考文献: 倉石平のオフェンシブバスケットボール」「倉石平のディフェンシブバスケットボール」（どちらもベースボールマガジン社）「バスケットボール指導教本改訂版上・下」（日本バスケットボール協会編）

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 実技テスト（シュート他）及びゲームにおける勝敗ポイント

平常点評価: 60 授業への出席状況、毎回の授業の理解度、取り組み姿勢、貢献度を評価する。

備考・関連URL: ・授業の第1回ガイダンスは、今後の授業内容について説明します。
・授業開始から30分以降の遅刻は認めないので注意のこと。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040028|05|9S07040028[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バスケットボール 基礎 05		
担 当 教 員	戸坂 勝		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: バスケットボールは、走る、跳ぶ、投げる、という運動を含み、瞬発力、持久力も必要とするたいへんバランスの良いスポーツです。また、シュート、ドリブル、パスといった個人的技能は、長い時間をかけ習慣的にボールに触れることにより上達していきます。実際に動くとたいへん激しく、若い一時期にしかできないスポーツのように感じますが、技術が向上すると体力面も巧緻性でカバーすることができ、各年代に合った楽しみ方ができます。この授業では、基本的な個人的技能を中心に、楽しみながら技術を向上させていき、それをゲームで表現し、いろいろな場面に対応できる能力を身につけていきます。さらに、チームスポーツの特性を生かし、チームメイトとプレーすることにより協調性の向上を、また相手に対して次に何をしてくるか先を読むといった精神心理的な充実も目標としています。したがって、比較的早い段階で、ミニゲームを行うことを予定しています。

授業の到達目標: シュート、ドリブル、パスといったオフェンスの個人的技能を向上させ、ゲームで得点に絡むプレーができるようになることを目標とします。さらに、チームスポーツの特性を生かし、チームメイトとプレーすることにより協調性の向上を、また相手に対して次に何をしてくるか先を読むといった精神心理的な充実も目標としています。

事前・事後学習の内容: 体育館等、体の動かせる場所で、ボールを使って、授業で行ったドリルを繰り返し練習してください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（個人で用意する用具、心構え、評価等についての説明）
第2回
コーディネーショントレーニング（ボールコントロール、ボディコントロール） ミニゲーム
第3回
スキルテスト（基本的なシュート、ドリブルのテスト）
第4回
オフェンスの基本姿勢（トリプル・スレット）とストップ・ターン ミニゲーム
第5回
レイアップ・シュート、セットシュート ミニゲーム
第6回
対面シュート、1on1 ミニゲーム
第7回
リバウンドシュート、ターンシュート ミニゲーム
第8回
ドリブル（チェンジオブディレクション） クロスオーバー、スピン、ビハインドザバック、レッグスルー ミニゲーム
第9回
ドリブル（チェンジオブペース） ストップ＆ゴー、シェイク、インサイドアウト ミニゲーム
第10回
パス、ピボット、2メンランニングシュート ミニゲーム
第11回
アウトナンバー（2on1） ミニゲーム
第12回
アウトナンバー（3on2） ミニゲーム
第13回
スキルテスト（第3回と同種目）技能到達度の確認

第１４回
総合学習・ゲーム

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特になし

参考文献: 特になし

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 2回のスキルテストを実施し、その記録と上達度などを評価します。

平常点評価: 60 出席を重視します。授業で行うドリルやゲームへの取り組み方、その積極性を評価します。

備考・関連URL: 第１週目の授業はオリエンテーションを行います。シューティングなど体を動かしたい受講生は体育館専用シューズを用意してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040028|06|9S07040028[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バスケットボール 基礎 06		
担 当 教 員	戸坂 勝		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: バスケットボールは、走る、跳ぶ、投げる、という運動を含み、瞬発力、持久力も必要とするたいへんバランスの良いスポーツです。また、シュート、ドリブル、パスといった個人的技能は、長い時間をかけ習慣的にボールに触れることにより上達していきます。実際に動くとたいへん激しく、若い一時期にしかできないスポーツのように感じますが、技術が向上すると体力面も巧緻性でカバーすることができ、各年代に合った楽しみ方ができます。この授業では、基本的な個人的技能を中心に、楽しみながら技術を向上させていき、それをゲームで表現し、いろいろな場面に対応できる能力を身につけていきます。さらに、チームスポーツの特性を生かし、チームメイトとプレーすることにより協調性の向上を、また相手に対して次に何をしてくるか先を読むといった精神心理的な充実も目標としています。したがって、比較的早い段階で、ミニゲームを行うことを予定しています。

授業の到達目標: シュート、ドリブル、パスといったオフェンスの個人的技能を向上させ、ゲームで得点に絡むプレーができるようになることを目標とします。さらに、チームスポーツの特性を生かし、チームメイトとプレーすることにより協調性の向上を、また相手に対して次に何をしてくるか先を読むといった精神心理的な充実も目標としています。

事前・事後学習の内容: 体育館等、体の動かせる場所で、ボールを使って、授業で行ったドリルを繰り返し練習してください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（個人で用意する用具、心構え、評価等についての説明）
第2回
コーディネーショントレーニング（ボールコントロール、ボディコントロール） ミニゲーム
第3回
スキルテスト（基本的なシュート、ドリブルのテスト）
第4回
オフェンスの基本姿勢（トリプル・スレット）とストップ・ターン ミニゲーム
第5回
レイアップ・シュート、セットシュート ミニゲーム
第6回
対面シュート、1on1 ミニゲーム
第7回
リバウンド・シュート、ターン・シュート ミニゲーム
第8回
ドリブル（チェンジオブディレクション） クロスオーバー、スピン、ビハインドザバック、レッグスルー ミニゲーム
第9回
ドリブル（チェンジオブペース） ストップ＆ゴー、シェイク、インサイドアウト ミニゲーム
第10回
パス、ピボット、2メンランニングシュート ミニゲーム
第11回
アウトナンバー（2on1） ミニゲーム
第12回
アウトナンバー（3on2） ミニゲーム
第13回
スキルテスト（第3回と同種目）技能到達度の確認

第１４回
総合学習・ゲーム

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特になし

参考文献: 特になし

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 2回のスキルテストを実施し、その記録と上達度などを評価します。

平常点評価: 60 出席を重視します。授業で行うドリルやゲームへの取り組み方、その積極性を評価します。

備考・関連URL: 第１週目の授業はオリエンテーションを行います。シューティングなど体を動かしたい受講生は体育館専用シューズを用意してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040028|09|9S07040028[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バスケットボール 基礎 09		
担 当 教 員	木村 和宏		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: バスケットボールは、数ある球技種目の中でも、「走・跳・投」をバランスよく使われるスポーツである。特に、中学や高校の競技人口は48万人を超え人気スポーツとなっている。また、世界的にもポピュラーであり、4億5千万人の競技者をもつなど最も盛んに学校教育で行われている。
授業では、毎回バスケットボールを構成する各技術（スキル）や戦術を個別に取り上げ、それぞれにおける基礎的な個人スキルを高め、ゲームに活かせる基本戦術を学ぶことに重点を置く。さらに、その個人スキルや戦術を駆使して、ゲームに活用できるよう、又楽しく行えるように段階的に内容をグレードアップさせながら授業を進めていく。
[ディプロマポリシーとの関連]保健体育教員や生涯・競技スポーツ指導者に必要な知識や実技能力の習得を目指す。

授業の到達目標: バスケットボールのオフェンスを行うための基礎技術（スキル）としてシュート、ドリブル、パスを習得する、または向上する。最終的には、ゲームにおいてスムーズに更には楽しんでプレイすることができるようになる。

事前・事後学習の内容: 各回の復習には、90分～120分かかると予想されます。習得した技術を次回の授業に反映できるようにすること。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ガイダンス
授業の進め方や注意事項
第2回 オフェンスファンダメンタル①、ミニゲーム
トリプルスレット、レイアップシュート、ストップ＆ターン等基本的プレイ
第3回 オフェンスファンダメンタル②、ミニゲーム
パス、ドリブル
第4回 オフェンスファンダメンタル③、ミニゲーム
ジャンプシュート、いろいろなスキルを使ったシュート
第5回 数的有利な場面でのオフェンス①、ミニゲーム
1on0、2on1、3on2
第6回 数的有利な場面でのオフェンス②、ミニゲーム
4on3、5on4
第7回 同数場面でのオフェンス①、ミニゲーム
ハーフ3on3の攻防
第8回 同数場面でのオフェンス②、ミニゲーム
ハーフ4on4の攻防
第9回 トランジッション①、ミニゲーム
フルコートでの攻防
第10回 トランジッション②、ミニゲーム
ラリー形式の攻防（マンツーマンディフェンス）
第11回 トランジッション③、ミニゲーム
ラリー形式の攻防（ゾーンディフェンス）
第12回 リーグ戦①
審判法、ゲーム運営
第13回 リーグ戦②
審判法、ゲーム運営

第１４回 トーナメント、まとめ
審判法、ゲーム運営

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特になし、必要に応じて指示する。

参考文献: 倉石平のオフェンシブバスケットボール」「倉石平のディフェンシブバスケットボール」（どちらもベースボールマガジン社）「バスケットボール指導教本改訂版上・下」（日本バスケットボール協会編）

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 実技テスト（シュート他）及びゲームにおける勝敗ポイント

平常点評価: 60 授業への出席状況、毎回の授業の理解度、取り組み姿勢、貢献度を評価する。

備考・関連URL: ・授業の第1回ガイダンスは、今後の授業内容について説明します。
・対面授業の場合には、授業開始から30分以降の遅刻は認めないので注意のこと。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040028|10|9S07040028[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バスケットボール 基礎 10		
担 当 教 員	木村 和宏		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: バスケットボールは、数ある球技種目の中でも、「走・跳・投」をバランスよく使われるスポーツである。特に、中学や高校の競技人口は48万人を超え人気スポーツとなっている。また、世界的にもポピュラーであり、4億5千万人の競技者をもつなど最も盛んに学校教育で行われている。
授業では、毎回バスケットボールを構成する各技術（スキル）や戦術を個別に取り上げ、それぞれにおける基礎的な個人スキルを高め、ゲームに活かせる基本戦術を学ぶことに重点を置く。さらに、その個人スキルや戦術を駆使して、ゲームに活用できるよう、又楽しく行えるように段階的に内容をグレードアップさせながら授業を進めていく。
[ディプロマポリシーとの関連]保健体育教員や生涯・競技スポーツ指導者に必要な知識や実技能力の習得を目指す。

授業の到達目標: バスケットボールのオフェンスを行うための基礎技術（スキル）としてシュート、ドリブル、パスを習得する、または向上する。最終的には、ゲームにおいてスムーズに更には楽しんでプレイすることができるようになる。

事前・事後学習の内容: 各回の復習には、90分～120分かかると予想されます。習得した技術を次回の授業に反映できるようにすること。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ガイダンス
授業の進め方や注意事項
第2回 オフェンスファンダメンタル①、ミニゲーム
トリプルスレット、レイアップシュート、ストップ＆ターン等基本的プレイ
第3回 オフェンスファンダメンタル②、ミニゲーム
パス、ドリブル
第4回 オフェンスファンダメンタル③、ミニゲーム
ジャンプシュート、いろいろなスキルを使ったシュート
第5回 数的有利な場面でのオフェンス①、ミニゲーム
1on0、2on1、3on2
第6回 数的有利な場面でのオフェンス②、ミニゲーム
4on3、5on4
第7回 同数場面でのオフェンス①、ミニゲーム
ハーフ3on3の攻防
第8回 同数場面でのオフェンス②、ミニゲーム
ハーフ4on4の攻防
第9回 トランジッション①、ミニゲーム
フルコートでの攻防
第10回 トランジッション②、ミニゲーム
ラリー形式の攻防（マンツーマンディフェンス）
第11回 トランジッション③、ミニゲーム
ラリー形式の攻防（ゾーンディフェンス）
第12回 リーグ戦①
審判法、ゲーム運営
第13回 リーグ戦②
審判法、ゲーム運営

第１４回 トーナメント、まとめ
審判法、ゲーム運営

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特になし、必要に応じて指示する。

参考文献: 倉石平のオフェンシブバスケットボール」「倉石平のディフェンシブバスケットボール」（どちらもベースボールマガジン社）「バスケットボール指導教本改訂版上・下」（日本バスケットボール協会編）

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 実技テスト（シュート他）及びゲームにおける勝敗ポイント

平常点評価: 60 授業への出席状況、毎回の授業の理解度、取り組み姿勢、貢献度を評価する。

備考・関連URL: ・授業の第1回ガイダンスは、今後の授業内容について説明します。
・授業開始から30分以降の遅刻は認めないので注意のこと。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040029|01|9S07040029[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バドミントン 基礎 01		
担 当 教 員	渡辺 英次		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 健康の保持増進，生涯スポーツの獲得を目指す。

授業概要: バドミントンは広場や屋外のちょっとしたスペース、地域の体育館等で老若男女問わず、手軽におこなえるスポーツである。一方、競技として行うと、打ち出されたシャトルの速度は一流選手では初速400kmを超え、独特の飛行曲線を描きながら急減速する。近年、各種目で世界top10入りするなどナショナルチームの活躍により、多くの人が競技を目にし、実際に競技に触れる方も多くなった。見た目以上にハードなスポーツであるとともに、このシャトルの打感、速度変化、飛行性に魅了されてきた人も少なくない。
本授業では、バドミントンの歴史やルール、技術を学習・体感することでバドミントンの競技特性を理解し、バドミントンを通じて健康と運動との関わり合いを認識し、日々の生活の中で運動を積極的に実践する理論及び技能の修得を目指す。対面授業と合わせて、インターネット上にある多種多様な情報を利用し、授業を展開していくので、学生生活の身体的・精神的尺度として積極的に活用しバドミントンを存分に楽しみ、生涯スポーツへの動機づけの機会として欲しい。
授業計画は以下の通りであるが、基本ストロークの習得からゲーム練習まで、出来る限りコート内にいる時間を多くするために、履修生の人数・技術レベル、教場の状況等によって柔軟に対応していく。

授業の到達目標: 1. ルール、マナーを正しく理解し、実践できる。
2. 仲間と協調して積極的にコートに入り、競技を楽しむことができる。
3. 競技特性を理解し、各ショットを打ち分けることができる。
4. 狙った場所にシャトルを落とすことができる。
5. 運動と健康の関わりを理解し、生活習慣に取り込むことができる。

事前・事後学習の内容: 各回の講義概要の指示に従い各項目について映像資料などを用いて予習すること。
授業終了後は技術練習や映像資料などを用い授業内容を復習するとともに自分のライフスタイルを省察すること。
各回の予習・復習には 90 分～120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション［競技の特徴、教材、心構え、安全管理、評価等についての説明を行う］

【事前学習】バドミントン競技について広く情報収集すること。

【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、各自使用する用具、環境を確認すること。

持ち物：個人カード作成の為の顔写真（3cm×4cm程度、スマホ等で撮影しプリントアウトしたものや、スナップ写真など）1枚持参すること。
※集合場所：早稲田アリーナ内バドミントンコート（ステージ側）
※フロア内は土足厳禁です。
※平服のままで結構です。

第2回
導入1［環境（教場）の確認。体つくり・体ほぐし、模範演技等によって競技特性を理解する］
【事前学習】シャトル、ラケット等、用具の特性について調べること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、競技動画を視聴すること。

第3回
導入2［環境の確認。シャトル、ラケットに慣れる。競技特性を理解し、自分の体を評価する］
【事前学習】自身の体のコンディションを客観的に把握すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、教材や動画を見て動きを確認すること。

第4回
技能実習1[グリップ・ラケットワーク・フットワークの理解]
【事前学習】ラケットワーク、フットワークついて、動画等教材を確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、安全な動きについて理解すること。

第5回
技能実習2[基本ストローク　オーバーヘッドストローク、アンダーハンドストローク]
【事前学習】各ショットのフライトを確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、サーブ周りのルールを確認すること。

第6回
技能実習3[基本ストローク　サイドアームストローク]
【事前学習】各ショットのフライトを確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、正しいフォームについて確認すること。

第7回
技能実習4[コンビネーションプレー、コートの制約のあるゲーム]
ケガ・安全管理[バドミントンに多いケガ、体育館での振る舞い、リスクについて確認する]
【事前学習】競技の動きを確認し、スポーツに多いケガを確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、正しい動きとケガの予防について確認すること。

第8回
技能実習5[ルールの制約のあるゲーム、道具の制約のあるゲーム]
ルールを知る[競技規則を見て、ルールを正しく理解する]
【事前学習】基本的なルールについて調べること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、ルールの疑問点について調べること。

第9回
シングルスゲームの進め方[審判法の学習]
マナー、大会運営を知る[マナー、エチケット、スポーツマンシップとフェアプレーを理解する、大会運営について学ぶ]
【事前学習】シングルスのルールを確認すること。自分が行っているスポーツのマナー、エチケットを確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、教材や動画を見てスポーツマンシップをフェアプレーについて考えること。

第10回
ダブルスゲームの進め方[審判法の学習]
バドミントン選手の運動能力[競技に必要な運動能力について考える]
【事前学習】ダブルスのルールを確認すること。競技特性から、必要な運動能力について調べること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、競技の動きを確認すること。

第11回
大会実習1[個人戦の進め方]
体育施設の状況を知る[スポーツを継続するために各施設のガイドラインを知る]
【事前学習】各種大会のドロー、タイムテーブルなどを確認すること。近隣の体育施設の状況を確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、各施設の状況について調べること。

第12回
大会実習2[団体戦の進め方]
ルールについて考える[アダプテッドスポーツについて考える]
【事前学習】各種大会のドロー、タイムテーブルなどを確認すること。オリンピック、パラリンピックのルールについて調べること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、国内、国際大会の状況について調べること。

第13回
技術チェック[技術習熟度の確認。サーブテスト]
【事前学習】各ショットの良い打ち方を再確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、うまくいかなかった点など課題を見つけて取り組むこと。

第14回
理解度チェック[競技に関する理解度の確認。本授業のまとめ、質問、解説]
【事前学習】これまで学んだバドミントンに関する知識、ルール、マナー、情報について確認すること。
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し、疑問点、間違えた点について確認すること。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　特になし

参考文献:　必要に応じて授業内で紹介します

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　30　理解度チェックを実施し、バドミントンに関する知識、情報、取り巻く環境などの理解度を評価します。

平常点評価:　60　授業態度、ルール、マナー、競技への取り組み等、オンライン課題への取り組み、課題の提出、授業へ

の積極性を評価します。

その他: 10 実技チェックを実施し、競技力が向上したかを評価します。

備考・関連URL: 諸連絡等、Waseda-netを使用します。毎週確認してください。
【対面授業】
早稲田アリーナ内バドミントンコート（アリーナステージ側）にて実施します。
運動に適した服装（ジャージ等の運動服）、室内履き（体育館用シューズ）を必ず準備すること。
忘れた場合は参加できません。
フロア内は土足厳禁。
ラケットについては、個人で準備することを推奨します。

日本バドミントン協会
http://www.badminton.or.jp/
世界バドミントン連盟
http://www.bwfbadminton.org/
日本障がい者バドミントン連盟
http://jpbf.jp

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040029|02|9S07040029[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	バドミントン　基礎　02		
担 当 教 員	渡辺　英次		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　健康の保持増進、生涯スポーツの獲得を目指す。

授業概要:　バドミントンは広場や屋外のちょっとしたスペース、地域の体育館等で老若男女問わず、手軽におこなえるスポーツである。一方、競技として行うと、打ち出されたシャトルの速度は一流選手では初速400kmを超え、独特の飛行曲線を描きながら急減速する。近年、各種目で世界top10入りするなどナショナルチームの活躍により、多くの人が競技を目にし、実際に競技に触れる方も多くなった。見た目以上にハードなスポーツであるとともに、このシャトルの打感、速度変化、飛行性に魅了されてきた人も少なくない。
本授業では、バドミントンの歴史やルール、技術を学習・体感することでバドミントンの競技特性を理解し、バドミントンを通じて健康と運動との関わり合いを認識し、日々の生活の中で運動を積極的に実践する理論及び技能の修得を目指す。対面授業と合わせて、インターネット上にある多種多様な情報を利用し、授業を展開していくので、学生生活の身体的・精神的尺度として積極的に活用しバドミントンを存分に楽しみ、生涯スポーツへの動機づけの機会として欲しい。
授業計画は以下の通りであるが、基本ストロークの習得からゲーム練習まで、出来る限りコート内にいる時間を多くするために、履修生の人数・技術レベル、教場の状況等によって柔軟に対応していく。

授業の到達目標:
1. ルール、マナーを正しく理解し、実践できる。
2. 仲間と協調して積極的にコートに入り、競技を楽しむことができる。
3. 競技特性を理解し、各ショットを打ち分けることができる。
4. 狙った場所にシャトルを落とすことができる。
5. 運動と健康の関わりを理解し、生活習慣に取り込むことができる。

事前・事後学習の内容:　各回の講義概要の指示に従い各項目について映像資料などを用いて予習すること。
授業終了後は技術練習や映像資料などを用い授業内容を復習するとともに自分のライフスタイルを省察すること。
各回の予習・復習には 90 分～120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン:　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション［競技の特徴、教材、心構え、安全管理、評価等についての説明を行う］

【事前学習】バドミントン競技について広く情報収集すること。

【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、各自使用する用具、環境を確認すること。

持ち物：個人カード作成の為の顔写真（3cm×4cm程度、スマホ等で撮影しプリントアウトしたものや、スナップ写真など）1枚持参すること。
※集合場所：早稲田アリーナ内バドミントンコート（ステージ側）
※フロア内は土足厳禁です。
※平服のままで結構です。

第2回
導入1［環境（教場）の確認。体つくり・体ほぐし、模範演技等によって競技特性を理解する］
【事前学習】シャトル、ラケット等、用具の特性について調べること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、競技動画を視聴すること。

第3回
導入2［環境の確認。シャトル、ラケットに慣れる。競技特性を理解し、自分の体を評価する］
【事前学習】自身の体のコンディションを客観的に把握すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、教材や動画を見て動きを確認すること。

第4回
技能実習1[グリップ・ラケットワーク・フットワークの理解]
【事前学習】ラケットワーク、フットワークついて、動画等教材を確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、安全な動きについて理解すること。

第5回
技能実習2[基本ストローク　オーバーヘッドストローク、アンダーハンドストローク]
【事前学習】各ショットのフライトを確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、サーブ周りのルールを確認すること。

第6回
技能実習3[基本ストローク　サイドアームストローク]
【事前学習】各ショットのフライトを確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、正しいフォームについて確認すること。

第7回
技能実習4[コンビネーションプレー、コートの制約のあるゲーム]
ケガ・安全管理[バドミントンに多いケガ、体育館での振る舞い、リスクについて確認する]
【事前学習】競技の動きを確認し、スポーツに多いケガを確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、正しい動きとケガの予防について確認すること。

第8回
技能実習5[ルールの制約のあるゲーム、道具の制約のあるゲーム]
ルールを知る[競技規則を見て、ルールを正しく理解する]
【事前学習】基本的なルールについて調べること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、ルールの疑問点について調べること。

第9回
シングルスゲームの進め方[審判法の学習]
マナー、大会運営を知る[マナー、エチケット、スポーツマンシップとフェアプレーを理解する、大会運営について学ぶ]
【事前学習】シングルスのルールを確認すること。自分が行っているスポーツのマナー、エチケットを確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、教材や動画を見てスポーツマンシップをフェアプレーについて考えること。

第10回
ダブルスゲームの進め方[審判法の学習]
バドミントン選手の運動能力[競技に必要な運動能力について考える]
【事前学習】ダブルスのルールを確認すること。競技特性から、必要な運動能力について調べること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、競技の動きを確認すること。

第11回
大会実習1[個人戦の進め方]
体育施設の状況を知る[スポーツを継続するために各施設のガイドラインを知る]
【事前学習】各種大会のドロー、タイムテーブルなどを確認すること。近隣の体育施設の状況を確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、各施設の状況について調べること。

第12回
大会実習2[団体戦の進め方]
ルールについて考える[アダプテッドスポーツについて考える]
【事前学習】各種大会のドロー、タイムテーブルなどを確認すること。オリンピック、パラリンピックのルールについて調べること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、国内、国際大会の状況について調べること。

第13回
技術チェック[技術習熟度の確認。サーブテスト]
【事前学習】各ショットの良い打ち方を再確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、うまくいかなかった点など課題を見つけて取り組むこと。

第14回
理解度チェック[競技に関する理解度の確認。本授業のまとめ、質問、解説]
【事前学習】これまで学んだバドミントンに関する知識、ルール、マナー、情報について確認すること。
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し、疑問点、間違えた点について確認すること。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特になし

参考文献: 必要に応じて授業内で紹介します

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30　理解度チェックを実施し、バドミントンに関する知識、情報、取り巻く環境などの理解度を評価します。

平常点評価: 60　授業態度、ルール、マナー、競技への取り組み等、オンライン課題への取り組み、課題の提出、授業へ

の積極性を評価します。

その他: 10 実技チェックを実施し、競技力が向上したかを評価します。

備考・関連URL: 諸連絡等、Waseda-netを使用します。毎週確認してください。
【対面授業】
早稲田アリーナ内バドミントンコート（アリーナステージ側）にて実施します。
運動に適した服装（ジャージ等の運動服）、室内履き（体育館用シューズ）を必ず準備すること。
忘れた場合は参加できません。
フロア内は土足厳禁。
ラケットについては、個人で準備することを推奨します。

日本バドミントン協会
http://www.badminton.or.jp/
世界バドミントン連盟
http://www.bwfbadminton.org/
日本障がい者バドミントン連盟
http://jpbf.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040029|03|9S07040029[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バドミントン 基礎 03		
担 当 教 員	渡辺 英次		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 健康の保持増進、生涯スポーツの獲得を目指す。

授業概要: バドミントンは広場や屋外のちょっとしたスペース、地域の体育館等で老若男女問わず、手軽におこなえるスポーツである。一方、競技として行うと、打ち出されたシャトルの速度は一流選手では初速400kmを超え、独特の飛行曲線を描きながら急減速する。近年、各種目で世界top10入りするなどナショナルチームの活躍により、多くの人が競技を目にし、実際に競技に触れる方も多くなった。見た目以上にハードなスポーツであるとともに、このシャトルの打感、速度変化、飛行性に魅了されてきた人も少なくない。
本授業では、バドミントンの歴史やルール、技術を学習・体感することでバドミントンの競技特性を理解し、バドミントンを通じて健康と運動との関わり合いを認識し、日々の生活の中で運動を積極的に実践する理論及び技能の修得を目指す。対面授業と合わせて、インターネット上にある多種多様な情報を利用し、授業を展開していくので、学生生活の身体的・精神的尺度として積極的に活用しバドミントンを存分に楽しみ、生涯スポーツへの動機づけの機会として欲しい。
授業計画は以下の通りであるが、基本ストロークの習得からゲーム練習まで、出来る限りコート内にいる時間を多くするために、履修生の人数・技術レベル、教場の状況等によって柔軟に対応していく。

授業の到達目標: 1. ルール、マナーを正しく理解し、実践できる。
2. 仲間と協調して積極的にコートに入り、競技を楽しむことができる。
3. 競技特性を理解し、各ショットを打ち分けることができる。
4. 狙った場所にシャトルを落とすことができる。
5. 運動と健康の関わりを理解し、生活習慣に取り込むことができる。

事前・事後学習の内容: 各回の講義概要の指示に従い各項目について映像資料などを用いて予習すること。
授業終了後は技術練習や映像資料などを用い授業内容を復習するとともに自分のライフスタイルを省察すること。
各回の予習・復習には 90 分～120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション［競技の特徴、教材、心構え、安全管理、評価等についての説明を行う］

【事前学習】バドミントン競技について広く情報収集すること。

【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、各自使用する用具、環境を確認すること。

持ち物：個人カード作成の為の顔写真（3cm×4cm程度、スマホ等で撮影しプリントアウトしたものや、スナップ写真など）1枚持参すること。
※集合場所：早稲田アリーナ内バドミントンコート（ステージ側）
※フロア内は土足厳禁です。
※平服のままで結構です。

第2回
導入1［環境（教場）の確認。体つくり・体ほぐし、模範演技等によって競技特性を理解する］
【事前学習】シャトル、ラケット等、用具の特性について調べること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、競技動画を視聴すること。

第3回
導入2［環境の確認。シャトル、ラケットに慣れる。競技特性を理解し、自分の体を評価する］
【事前学習】自身の体のコンディションを客観的に把握すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、教材や動画を見て動きを確認すること。

第4回
技能実習1[グリップ・ラケットワーク・フットワークの理解]
【事前学習】ラケットワーク、フットワークついて、動画等教材を確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、安全な動きについて理解すること。

第5回
技能実習2[基本ストローク　オーバーヘッドストローク、アンダーハンドストローク]
【事前学習】各ショットのフライトを確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、サーブ周りのルールを確認すること。

第6回
技能実習3[基本ストローク　サイドアームストローク]
【事前学習】各ショットのフライトを確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、正しいフォームについて確認すること。

第7回
技能実習4[コンビネーションプレー、コートの制約のあるゲーム]
ケガ・安全管理[バドミントンに多いケガ、体育館での振る舞い、リスクについて確認する]
【事前学習】競技の動きを確認し、スポーツに多いケガを確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、正しい動きとケガの予防について確認すること。

第8回
技能実習5[ルールの制約のあるゲーム、道具の制約のあるゲーム]
ルールを知る[競技規則を見て、ルールを正しく理解する]
【事前学習】基本的なルールについて調べること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、ルールの疑問点について調べること。

第9回
シングルスゲームの進め方[審判法の学習]
マナー、大会運営を知る[マナー、エチケット、スポーツマンシップとフェアプレーを理解する、大会運営について学ぶ]
【事前学習】シングルスのルールを確認すること。自分が行っているスポーツのマナー、エチケットを確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、教材や動画を見てスポーツマンシップをフェアプレーについて考えること。

第10回
ダブルスゲームの進め方[審判法の学習]
バドミントン選手の運動能力[競技に必要な運動能力について考える]
【事前学習】ダブルスのルールを確認すること。競技特性から、必要な運動能力について調べること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、競技の動きを確認すること。

第11回
大会実習1[個人戦の進め方]
体育施設の状況を知る[スポーツを継続するために各施設のガイドラインを知る]
【事前学習】各種大会のドロー、タイムテーブルなどを確認すること。近隣の体育施設の状況を確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、各施設の状況について調べること。

第12回
大会実習2[団体戦の進め方]
ルールについて考える[アダプテッドスポーツについて考える]
【事前学習】各種大会のドロー、タイムテーブルなどを確認すること。オリンピック、パラリンピックのルールについて調べること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、国内、国際大会の状況について調べること。

第13回
技術チェック[技術習熟度の確認。サーブテスト]
【事前学習】各ショットの良い打ち方を再確認すること。
【事後学習】学修内容、取り組みを省察し、うまくいかなかった点など課題を見つけて取り組むこと。

第14回
理解度チェック[競技に関する理解度の確認。本授業のまとめ、質問、解説]
【事前学習】これまで学んだバドミントンに関する知識、ルール、マナー、情報について確認すること。
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し、疑問点、間違えた点について確認すること。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　特になし

参考文献:　必要に応じて授業内で紹介します

成績評価フリー入力サイン:　0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　30　理解度チェックを実施し、バドミントンに関する知識、情報、取り巻く環境などの理解度を評価します。

平常点評価:　60　授業態度、ルール、マナー、競技への取り組み等、オンライン課題への取り組み、課題の提出、授業へ

の積極性を評価します。

その他: 10 実技チェックを実施し、競技力が向上したかを評価します。

備考・関連URL: 諸連絡等、Waseda-netを使用します。毎週確認してください。
【対面授業】
早稲田アリーナ内バドミントンコート(アリーナステージ側)にて実施します。
運動に適した服装(ジャージ等の運動服)、室内履き(体育館用シューズ)を必ず準備すること。
忘れた場合は参加できません。
フロア内は土足厳禁。
ラケットについては、個人で準備することを推奨します。

日本バドミントン協会
http://www.badminton.or.jp/
世界バドミントン連盟
http://www.bwfbadminton.org/
日本障がい者バドミントン連盟
http://jpbf.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040029|04|9S07040029[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バドミントン 基礎 04		
担 当 教 員	小関 信一		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

バドミントンを公園、庭先で見たり、遊んだりした人は多いはずです。しかし、正式に試合を観戦したりコートに立ってプレーした人は少ないでしょう。バドミントンはリクリエーションスポーツとしてはラケットとシャトルさえあれば、いつでもどこでも簡単にできるスポーツですが、競技スポーツとしては他のスポーツと比較しても、かなり動きの激しいスポーツです。
水鳥の羽でできているシャトルは、トッププレーヤーがスマッシュを打つと初速400キロを超すスピードで飛んでいき、手元で急減速します。そのスピードの変化と独特の飛行性、打球感など、その魅力にとりつかれた人は少なくはありません。

本授業では、バドミントンの概要（歴史・ルール・競技の特性）を理解し、基本的技術からゲーム練習までを実技として実践し、その理論と技術の習得を目指します。また、生涯スポーツの動機づけの一つとしてバドミントンを楽しむ機会を提供します。

授業計画は以下の通り、原則として対面授業を実施予定です。基本ストロークの習得からゲーム練習まで、できる限りコート内にいる時間を増やしていく予定です。
授業実施にあたっては、履修生の人数・技術レベル・教場の状況等によって柔軟に対応していきます。

授業の到達目標:

1. ルールやマナーを正しく理解し、実践できる。
2. 受講生間の協調性を発揮して積極的にコートに入り、楽しむことができる。
3. 基本的フライト・ストロークを覚えて打ち分けることができる。
4. 狙った場所にシャトルを落とすことができる。
5. バドミントン実技の実践を通して、健康への関わり方を考えることができる。

事前・事後学習の内容:

実技を伴う授業なので、授業前・授業後の体調管理を十分に行う。
各回の講義内容に従い動画映像資料などを用いて事前学習をすること。授業終了後は技術練習や動画映像資料などを用いて授業内容を事後学習するとともに、自分のライフスタイルの中にその学習内容を活かすこと。
各回の事前学習・事後学習には 90 分～120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ／ 第1回:オリエンテーション（教場の確認、用品、教材、心構え、評価等について説明）
持ち物 : 個人カード作成の為の顔写真 （ 3cm × 4cm程度、スマホ等で撮影しプリントアウトしたものや、スナップ写真などでOK)1枚持参すること。
※集合場所 : 早稲田アリーナ内バドミントンコート （ステージ側）
※フロア内は土足厳禁です。
※平服のままで結構です。

第2回 ／ 基本技能実習①
バドミントン競技の用具・器具・コートの確認、 シャトル、ラケットに慣れる、グリップの握り方など

第3回 ／ 基本技能実習②
基本フライト・基本ストロークの確認 ／ 基本フライト・基本ストロークの種類について説明します。
ラケットワーク、フットワークなどの学習

第4回 ／基本技能実技③
基本フライト:サービス・ヘアピン・ドロップ 習得のための実技技能実習となります。

第5回 ／ 基本技能実習④
基本フライト:ドライブ・クリア・スマッシュ 習得のための実技技能実習となります。

第6回 ／ 基本技能実習⑤
基本ストローク、フライトのコンビネーションプレイ、簡易ラリー

第7回 ／　基本技能実習⑥
基本ストローク、フライトのコンビネーションプレイ、簡易ラリー
第8回 ／ 基本技能実習⑦ ・ 基本技能チェックテスト
基本ストローク、フライトのチェック

実技・ペーパーテスト（サーブ等）
第9回 ／ シングルス簡易ゲームⅠ（審判法の学習）
シングルスゲームのルールと審判の方法について学習します。
第10回 ／ シングルス簡易ゲーム（ゲーム実習）
簡単なシングルスゲーム(リーグ戦)を行い審判も同様に行います。
第11回 ／ ダブルス簡易ゲームⅠ（審判法の学習）
ダブルスゲームのルールと審判の方法について学習します。。
第12回 ／ ダブルス簡易ゲームⅡ（ゲーム実習）
簡単なダブルスゲームを行い審判も同様に行います。

第13回 ／ 大会運営（シングルス・トーナメント）
シングルスゲームをトーナメント方式で行いながら、ゲーム進行・運営も行います。

第14回 ／　大会運営（ダブルス・トーナメント） ・ 本授業のまとめ、質問、解説
ダブルスゲームをトーナメント方式で行いながら、ゲーム進行・運営も行います。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特に無し。

参考文献: 必要に応じて授業内で紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 25　ルール、実技（サーブ）について試験実施評価。

レポート: 10　.課題は授業時に提示します。 ルールの理解度等について評価。

平常点評価: 65　授業態度・ルール・マナー・競技への取り組み等や授業への積極性を評価する。

備考・関連URL: 諸連絡等、Waseda Moodle を使用する。
自治体からの要請、大学からの指示、社会状況を見て、対面授業をオンライン授業に切り替える場合もある。
【対面授業】
早稲田アリーナ内バドミントンコート（アリーナステージ側）にて実施する。
運動に適した服装（ジャージ等の運動着）、室内履き（体育館用シューズ）を必ず準備すること。
フロアー内は土足厳禁。
ラケットについては個人で準備することを推奨する。貸し出しのラケット有り。【オンライン授業に変更された場合】
授業時間帯にWaseda Moodle に資料を提示し、課題の提出を求める。

【関連URL】
日本バドミントン協会 http://www.badminton.or.jp/
世界バドミントン連盟 http://www.bwfbadminton.org/
日本障がい者バドミントン連盟 http://jpbf.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040029|05|9S07040029[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バドミントン 基礎 05		
担 当 教 員	小関 信一		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

バドミントンを公園、庭先で見たり、遊んだりした人は多いはずです。しかし、正式に試合を観戦したりコートに立ってプレーした人は少ないでしょう。バドミントンはリクリエーションスポーツとしてはラケットとシャトルさえあれば、いつでもどこでも簡単にできるスポーツですが、競技スポーツとしては他のスポーツと比較しても、かなり動きの激しいスポーツです。
水鳥の羽でできているシャトルは、トッププレーヤーがスマッシュを打つと初速400キロを超すスピードで飛んでいき、手元で急減速します。そのスピードの変化と独特の飛行性、打球感など、その魅力にとりつかれた人は少なくはありません。

本授業では、バドミントンの概要（歴史・ルール・競技の特性）を理解し、基本的技術からゲーム練習までを実技として実践し、その理論と技術の習得を目指します。また、生涯スポーツの動機づけの一つとしてバドミントンを楽しむ機会を提供します。

授業計画は以下の通り、原則として対面授業を実施予定です。基本ストロークの習得からゲーム練習まで、できる限りコート内にいる時間を増やしていく予定です。
授業実施にあたっては、履修生の人数・技術レベル・教場の状況等によって柔軟に対応していきます。

授業の到達目標：

1. ルールやマナーを正しく理解し、実践できる。
2. 受講生間の協調性を発揮して積極的にコートに入り、楽しむことができる。
3. 基本的フライト・ストロークを覚えて打ち分けることができる。
4. 狙った場所にシャトルを落とすことができる。
5. バドミントン実技の実践を通して、健康への関わり方を考えることができる。

事前・事後学習の内容：

実技を伴う授業なので、授業前・授業後の体調管理を十分に行う。
各回の講義内容に従い動画映像資料などを用いて事前学習をすること。授業終了後は技術練習や動画映像資料などを用いて授業内容を事後学習するとともに、自分のライフスタイルの中にその学習内容を活かすこと。
各回の事前学習・事後学習には 90 分～120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 ／ 第1回:オリエンテーション（教場の確認、用品、教材、心構え、評価等について説明）
持ち物：個人カード作成の為の顔写真 （ 3cm×4cm程度、スマホ等で撮影しプリントアウトしたものや、スナップ写真など)1枚持参すること。
※集合場所 ：早稲田アリーナ内バドミントンコート （ステージ側）
※フロア内は土足厳禁です。
※平服のままで結構です。

第2回 ／ 基本技能実習①
バドミントン競技の用具・器具・コートの確認、 シャトル、ラケットに慣れる、グリップの握り方など

第3回 ／ 基本技能実習②
基本フライト・基本ストロークの確認 ／ 基本フライト・基本ストロークの種類について説明します。
ラケットワーク、フットワークなどの学習

第4回 ／基本技能実技③
基本フライト:サービス・ヘアピン・ドロップ 習得のための実技技能実習となります。

第5回 ／ 基本技能実習④
基本フライト:ドライブ・クリア・スマッシュ 習得のための実技技能実習となります。

第6回 ／ 基本技能実習⑤
基本ストローク、フライトのコンビネーションプレイ、簡易ラリー

第7回 ／　基本技能実習⑥
基本ストローク、フライトのコンビネーションプレイ、簡易ラリー
第8回 ／ 基本技能実習⑦ ・ 基本技能チェックテスト
基本ストローク、フライトのチェック

実技・ペーパーテスト（サーブ等）
第9回 ／ シングルス簡易ゲームⅠ（審判法の学習）
シングルスゲームのルールと審判の方法について学習します。
第10回 ／ シングルス簡易ゲーム（ゲーム実習）
簡単なシングルスゲーム(リーグ戦)を行い審判も同様に行います。
第11回 ／ ダブルス簡易ゲームⅠ（審判法の学習）
ダブルスゲームのルールと審判の方法について学習します。。
第12回 ／ ダブルス簡易ゲームⅡ（ゲーム実習）
簡単なダブルスゲームを行い審判も同様に行います。

第13回 ／ 大会運営（シングルス・トーナメント）
シングルスゲームをトーナメント方式で行いながら、ゲーム進行・運営も行います。

第14回 ／　大会運営（ダブルス・トーナメント） ・ 本授業のまとめ、質問、解説
ダブルスゲームをトーナメント方式で行いながら、ゲーム進行・運営も行います。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特に無し。

参考文献: 必要に応じて授業内で紹介します
。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 25　ルール、実技（サーブ）について試験実施評価。

レポート: 10　.課題は授業時に提示します。 ルールの理解度等について評価。

平常点評価: 65　授業態度・ルール・マナー・競技への取り組み等や授業への積極性を評価する。

備考・関連URL: 諸連絡等、Waseda Moodle を使用する。
自治体からの要請、大学からの指示、社会状況を見て、対面授業をオンライン授業に切り替える場合もある。
【対面授業】
早稲田アリーナ内バドミントンコート（アリーナステージ側）にて実施する。
運動に適した服装（ジャージ等の運動着）、室内履き（体育館用シューズ）を必ず準備すること。
フロアー内は土足厳禁。
ラケットについては個人で準備することを推奨する。貸し出し用のラケットはあります。【オンライン授業に変更された場合】
授業時間帯にWaseda Moodle に資料を提示し、課題の提出を求める。

【関連URL】
日本バドミントン協会 http://www.badminton.or.jp/
世界バドミントン連盟 http://www.bwfbadminton.org/
日本障がい者バドミントン連盟 http://jpbf.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040029|06|9S07040029[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バドミントン 基礎 06		
担 当 教 員	小関 信一		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

バドミントンを公園、庭先で見たり、遊んだりした人は多いはずです。しかし、正式に試合を観戦したりコートに立ってプレーした人は少ないでしょう。バドミントンはリクリエーションスポーツとしてはラケットとシャトルさえあれば、いつでもどこでも簡単にできるスポーツですが、競技スポーツとしては他のスポーツと比較しても、かなり動きの激しいスポーツです。
水鳥の羽でできているシャトルは、トッププレーヤーがスマッシュを打つと初速400キロを超すスピードで飛んでいき、手元で急減速します。そのスピードの変化と独特の飛行性、打球感など、その魅力にとりつかれた人は少なくはありません。

本授業では、バドミントンの概要（歴史・ルール・競技の特性）を理解し、基本的技術からゲーム練習までを実技として実践し、その理論と技術の習得を目指します。また、生涯スポーツの動機づけの一つとしてバドミントンを楽しむ機会を提供します。

授業計画は以下の通り、原則として対面授業を実施予定です。基本ストロークの習得からゲーム練習まで、できる限りコート内にいる時間を増やしていく予定です。
授業実施にあたっては、履修生の人数・技術レベル・教場の状況等によって柔軟に対応していきます。

授業の到達目標：

1. ルールやマナーを正しく理解し、実践できる。
2. 受講生間の協調性を発揮して積極的にコートに入り、楽しむことができる。
3. 基本的フライト・ストロークを覚えて打ち分けることができる。
4. 狙った場所にシャトルを落とすことができる。
5. バドミントン実技の実践を通して、健康への関わり方を考えることができる。

事前・事後学習の内容：

実技を伴う授業なので、授業前・授業後の体調管理を十分に行う。
各回の講義内容に従い動画映像資料などを用いて事前学習をすること。授業終了後は技術練習や動画映像資料などを用いて授業内容を事後学習するとともに、自分のライフスタイルの中にその学習内容を活かすこと。
各回の事前学習・事後学習には 90 分～120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 ／ 第1回:オリエンテーション（教場の確認、用品、教材、心構え、評価等について説明）
持ち物：個人カード作成の為の顔写真 （ 3cm×4cm程度、スマホ等で撮影しプリントアウトしたものや、スナップ写真などでOK ）1枚持参すること。
※集合場所 ：早稲田アリーナ内バドミントンコート （ステージ側）
※フロア内は土足厳禁です。
※平服のままで結構です。

第2回 ／ 基本技能実習①
バドミントン競技の用具・器具・コートの確認、 シャトル、ラケットに慣れる、グリップの握り方など

第3回 ／ 基本技能実習②
基本フライト・基本ストロークの確認 ／ 基本フライト・基本ストロークの種類について説明します。
ラケットワーク、フットワークなどの学習

第4回 ／基本技能実技③
基本フライト:サービス・ヘアピン・ドロップ 習得のための実技技能実習となります。

第5回 ／ 基本技能実習④
基本フライト:ドライブ・クリア・スマッシュ 習得のための実技技能実習となります。

第6回 ／ 基本技能実習⑤
基本ストローク、フライトのコンビネーションプレイ、簡易ラリー

第7回 ／　基本技能実習⑥
基本ストローク、フライトのコンビネーションプレイ、簡易ラリー
第8回 ／ 基本技能実習⑦ ・ 基本技能チェックテスト
基本ストローク、フライトのチェック

実技・ペーパーテスト（サーブ等）
第9回 ／ シングルス簡易ゲームⅠ（審判法の学習）
シングルスゲームのルールと審判の方法について学習します。
第10回 ／ シングルス簡易ゲーム（ゲーム実習）
簡単なシングルスゲーム(リーグ戦)を行い審判も同様に行います。
第11回 ／ ダブルス簡易ゲームⅠ（審判法の学習）
ダブルスゲームのルールと審判の方法について学習します。。
第12回 ／ ダブルス簡易ゲームⅡ（ゲーム実習）
簡単なダブルスゲームを行い審判も同様に行います。

第13回 ／ 大会運営（シングルス・トーナメント）
シングルスゲームをトーナメント方式で行いながら、ゲーム進行・運営も行います。

第14回 ／　大会運営（ダブルス・トーナメント） ・ 本授業のまとめ、質問、解説
ダブルスゲームをトーナメント方式で行いながら、ゲーム進行・運営も行います。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特に無し。

参考文献: 必要に応じて授業内で紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 25　ルール、実技（サーブ）について試験実施評価。

レポート: 10　.課題は授業時に提示します。 ルールの理解度等について評価。

平常点評価: 65　授業態度・ルール・マナー・競技への取り組み等や授業への積極性を評価する。

備考・関連URL: 諸連絡等、Waseda Moodle を使用する。
自治体からの要請、大学からの指示、社会状況を見て、対面授業をオンライン授業に切り替える場合もある。
【対面授業】
早稲田アリーナ内バドミントンコート（アリーナステージ側）にて実施する。
運動に適した服装（ジャージ等の運動着）、室内履き（体育館用シューズ）を必ず準備すること。
フロアー内は土足厳禁。
ラケットについては個人で準備することを推奨する。貸し出し用のラケットは有ります。【オンライン授業に変更された場合】
授業時間帯にWaseda Moodle に資料を提示し、課題の提出を求める。

【関連URL】
日本バドミントン協会 http://www.badminton.or.jp/
世界バドミントン連盟 http://www.bwfbadminton.org/
日本障がい者バドミントン連盟 http://jpbf.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040029|07|9S07040029[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バドミントン 基礎 07		
担 当 教 員	木内 広史		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: バドミントンを体感し、楽しむ

授業概要:
2016年リオデジャネイロオリンピックでの女子ダブルスの金メダル獲得でバドミントンが注目されるようになり、東京オリンピック2020や2022年東京で開催された世界選手権での出場選手の活躍は多くの感動を与えた。2023年4月、インド男子選手のスマッシュは初速565km/hを計測し、世界最速のスポーツとしてギネスブックにも認定されている。
バドミントンは屋外であれ屋内であれ少しのスペースがあれば、幅広い世代が手軽に楽しめるスポーツである。競技としてはネットを挟んだ対人競技なので接触によるケガの心配が少なく、スポーツがあまり得意でない受講生も気軽に取り組める。しかし見た目以上に激しいスポーツで、シャトルの動きはスピーディーで変化に富み、室内スポーツとしては一番ハードな競技である。シャトルの独特の形状から終速時の減速が大きく、ラリーが続くだけでも楽しむことができて、互いの打ち合いの面白さにプレーに熱中することになるであろう。
授業は対面でアリーナで実施し、基礎技術からゲーム練習までを実践するが、取組み状況や進度等により内容を変更する場合もある。授業を通して、バドミントンの歴史やルール、競技特性を理解し、バドミントンを楽しむことで生涯スポーツとしての位置づけの機会として欲しい。
なお授業計画を以下に示すが、履修者の人数、技術レベル、教場の状況等により柔軟に対応する。

授業の到達目標:
1. ルールやマナー、競技の特性を正しく理解し、実践できる。
2. 受講生同士、協力協調し合い、競技を楽しむことができる。
3. 基礎技術の習得と、各ショットを打ち分けてゲームで実践できる。
4. 自身の健康や体力を知り、心身の体調管理に生かすことができる。
5. 運動と健康の関わりを理解し、日常生活に取り込むことができる。

事前・事後学習の内容:
各回の授業概要の指示に従い、教材や映像資料などで予習しておく。
授業終了後は、技術練習や資料などを用いて授業内容を復習し、日常生活に取り込むことができることは活用する。
各回の事前学習、事後学習には90分～120分かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（用具・教材、心構え、安全管理、評価等についての説明）
競技の紹介（バドミントンの歴史、ルールの概要など）
＜事前学習＞ バドミントン競技について、広く情報収集すること。
＜事後学習＞ 講義内容を振り返り、各自使用する用具、環境を確認すること。
会場:早稲田アリーナ(バドミントンコート)
備考:平服のまま集合、フロア内は土足厳禁、筆記具・ノート、顔写真1枚（3×4程度・個人カード作成用)を用意すること。

第2回
基礎技術（ウォーミングアップ、1人で打つ練習、ストロークの説明、各種フライトの技術練習）
＜事前学習＞ シャトル、ラケット等、用具の特性について調べること。
＜事後学習＞ 実技講義内容、取り組みを振り返り、競技動画を視聴すること。

第3回
競技の紹介（スイング，ストロークなど。競技特性を理解して自分の身体を評価する）基礎技術（各種フライトの技術練習:前回との組合せ練習）
＜事前学習＞ 自身の身体のコンディションを客観的に把握すること。
＜事後学習＞ 実技講義内容,、取り組みを振り返り、教材や動画を見て動きを確認すること。

第4回
ラケットワーク，フットワークの理解基礎技術（各種フライトの技術練習:前回との組合せ練習）＜事前学習＞ ラケットワーク、フットワークについて、動画等教材を確認すること。
＜事後学習＞ 実技講義内容、取り組みを振り返り、安全な動きについて理解すること。

第5回

基本ストローク、フットワーク（全面）練習基礎技術（各種フライトの技術練習：複数のフライトによるコンビネーションプレー）
＜事前学習＞　各ショットのフライトを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、サーブ周りのルールを確認すること。

第6回

基礎技術習得の振り返り（自己評価表記入）
簡易ゲーム
＜事前学習＞　各ショットのフライトを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、正しいフォームについて確認すること。

第7回

ダブルス制約ゲーム，ダブルスゲームの導入（コートの範囲確認，ショートサービスの練習）
ケガ，安全管理について理解する
＜事前学習＞　競技の動きを理解し、スポーツに多いケガを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、正しい動きとケガの予防について確認すること。

第8回

技術チェック（サーブなど基礎技術習得の確認）
ルールについて理解する
＜事前学習＞　基礎技術を再点検すること。基本的なルールについて調べること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、ルールの疑問点について調べること。

第9回

シングルスゲームの進め方（審判法の学習）マナーについて学ぶ
＜事前学習＞　シングルスのルールを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、教材や動画を見て シングルスの動きを考察すること。スポーツマンシップやフェアプレーを考えること。

第10回

ダブルスゲームの進め方（審判法の学習）＜事前学習＞　ダブルスのルールを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、教材や動画を見てダブルスの動きを考察すること。

第11回

大会実習 I（個人戦の進め方）
＜事前学習＞　各種大会のドロー、タイムテーブルなどを確認すること。審判の仕方について再認識しておくこと。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、個人戦の進め方について調べること。

第12回

大会実習 II（団体戦の進め方）審判の実践チェック（主審・線審）
＜事前学習＞　各種大会のドロー、タイムテーブルなどを確認すること。審判の仕方について再確認しておくこと。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、団体戦の進め方について調べること。

第13回

技術チェック（技術習熟度の確認）
＜事前学習＞　各ショットのよい打ち方を再認識すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、うまくいかなかった点について考察すること。

第14回

理解度チェック（競技に関する理解度の確認，質問，解説など）
授業のまとめ（基礎技術，ルールと審判法など）

＜事前学習＞　これまで学んだバドミントンに関する知識、ルール、マナー、情報について確認しておくこと。
＜事後学習＞　授業全体を振り返り、良くできた点、できなかった点を自己評価すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特になし。

参考文献：　必要に応じて授業内で紹介する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	10	理解度チェックを実施し、バドミントンに関する知識、情報、取り巻く環境などの理解度を評価します。
レポート：	15	基礎技術の授業終了後に、自己評価表の提出を課題とします。レポートは各自使用しているノートを提出します。
平常点評価：	60	授業態度、ルールやマナーの理解、競技への取り組み、授業への積極性を評価の対象とします。
その他：	15	実技チェックを実施して、競技力が向上したかを評価します。（審判の仕方も含みます）

備考・関連URL：　諸連絡等、Waseda-netを使用する。毎回確認すること。
【初回授業：オリエンテーション】

会場：早稲田アリーナ(ステージ側，バドミントンコート)
備考：第1回は平服で集合、筆記具・ノート、顔写真1枚を用意する。
第2回から運動に適した服装(ジャージ等の運動服)と室内履き(体育館用シューズ)を必ず準備すること。
＊　忘れた場合は参加できない。
ラケットについては、個人で準備することを推奨する。

関連URL:
大会情報、競技規則等を参考にする。
公益財団法人 日本バドミントン協会HP
http://www.badminton.or.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040029|08|9S07040029[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バドミントン 基礎 08		
担 当 教 員	木内 広史		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: バドミントンを体感し、楽しむ

授業概要:

2016年リオデジャネイロオリンピックでの女子ダブルスの金メダル獲得でバドミントンが注目されるようになり、東京オリンピック2020や2022年東京で開催された世界選手権での出場選手の活躍は多くの感動を与えた。2023年4月、インド男子選手のスマッシュは初速565km/hを計測し、世界最速のスポーツとしてギネスブックにも認定されている。

バドミントンは屋外であれ屋内であれ、少しのスペースがあれば幅広い世代が手軽に楽しめるスポーツである。競技としてはネットを挟んだ対人競技なので接触によるケガの心配が少なく、スポーツがあまり得意でない受講生も気軽に取り組める。しかし見た目以上に激しいスポーツで、シャトルの動きはスピーディーで変化に富み、室内スポーツとしては一番ハードな競技である。シャトルの独特の形状から終速時の減速が大きく、ラリーが続くだけでも楽しむことができて、互いの打ち合いの面白さにプレーに熱中することになるであろう。

授業は対面でアリーナで実施し、基礎技術からゲーム練習までを実践するが、取組み状況や進度等により内容を変更する場合もある。授業を通してバドミントンの歴史やルール、競技特性を理解し、バドミントンを楽しむことで生涯スポーツとしての位置付けの機会として欲しい。

なお授業計画を以下に示すが、履修者の人数、技術レベル、大学行事等により柔軟に対応していく。

授業の到達目標:

1. ルールやマナー、競技の特性を正しく理解し、実践できる。
2. 受講生同士、協力協調し合い、競技を楽しむことができる。
3. 基礎技術の習得と、各ショットを打ち分けてゲームで実践できる。
4. 自身の健康や体力を知り、心身の体調管理に生かすことができる。
5. 運動と健康の関わりを理解し、日常生活に取り込むことができる。

事前・事後学習の内容:

各回の授業概要の指示に従い、教材や映像資料などで予習しておく。

授業終了後は、技術練習や資料などを用いて授業内容を復習し、日常生活に取り込むことができることは活用する。

各回の事前学習、事後学習には90分～120分かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回

オリエンテーション（用具・教材、心構え、安全管理、評価等についての説明）
競技の紹介（バドミントンの歴史、ルールの概要など）
＜事前学習＞ バドミントン競技について、広く情報収集すること。
＜事後学習＞ 講義内容を振り返り、各自使用する用具、環境を確認すること。
会場：早稲田アリーナ(バドミントンコート)
備考：平服のまま集合、フロア内は土足禁止、筆記具・ノート・顔写真1枚（3cm×4cm程度、個人カード作成用）を用意すること。

第2回

基礎技術（ウォーミングアップ、1人で打つ練習、ストロークの説明、各種フライトの技術練習）＜事前学習＞
シャトル、ラケット等用具の特性について調べること。
＜事後学習＞ 実技講義内容、取り組みを振り返り、競技動画を視聴すること。

第3回

競技の紹介（スイング，ストロークなど）
競技特性を理解して、自分の身体を評価する。
基礎技術（各種フライトの技術練習：前回との組合せ練習）
＜事前学習＞ 自身の身体のコンディションを客観的に把握すること。
＜事後学習＞ 実技講義内容、取り組みを振り返り、教材や動画を見て動きを確認すること。

第4回
ラケットワーク、フットワークの理解基礎技術（各種フライトの技術練習：前回との組合せ練習）＜事前学習＞　ラケットワーク、フットワークについて、動画等、教材を確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、安全な動きについて理解すること。

第5回
基本ストローク、フットワーク（全面）練習基礎技術（各種フライトの技術練習：複数のフライトによるコンビネーションプレー）
＜事前学習＞　各ショットのフライトを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、サーブ周りのルールを確認すること。

第6回
基礎技術習得の振り返り（自己評価表記入）、簡易ゲーム
＜事前学習＞　各ショットのフライトを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、正しいフォームを確認すること。

第7回
ダブルス制約ゲーム、ダブルスゲームの導入（コートの範囲確認，ショートサービスの練習）
ケガ、安全管理について理解する
＜事前学習＞　競技の動きを理解し、スポーツに多いケガを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、正しい動きとケガの予防について確認すること。

第8回
技術チェック（サーブなど基礎技術習得の確認）
ルールについて理解する
＜事前学習＞　基礎技術を再点検すること。基本的なルールについて調べること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、ルールの疑問点について調べること。

第9回
シングルスゲームの進め方（審判法の学習）マナーについて学ぶ
＜事前学習＞　シングルスのルールを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、教材や動画を見てシングルスの動きを考察すること。スポーツマンシップやフェアプレーを考えること。

第10回
ダブルスゲームの進め方（審判法の学習）＜事前学習＞　ダブルスのルールを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、教材や動画を見てダブルスの動きを考察すること。

第11回
大会実習Ⅰ（個人戦の進め方）
審判の実践チェック（主審・線審）
＜事前学習＞　各種大会のドロー、タイムテーブルを確認すること。審判の仕方について再認識しておくこと。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、個人戦の進め方について調べること。

第12回
大会実習Ⅱ（団体戦の進め方）審判の実践チェック（主審・線審）
＜事前学習＞　各種大会のドロー、タイムテーブルを確認すること。審判の仕方について再認識しておくこと。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、団体戦の進め方について調べること。

第13回
技術チェック（技術習熟度の確認）
＜事前学習＞　各ショットのよい打ち方を再認識すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、うまくいかなかった点について考察すること。

第14回
理解度チェック（競技に関する理解度の確認、質問、解説など）授業のまとめ（基礎技術，ルール、審判法など）

＜事前学習＞　これまで学んだバドミントンに関する知識、、ルール、マナー、情報について確認しておくこと。
＜事後学習＞　授業全体を振り返り、よくできた点、できなかった点を自己評価すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特になし。

参考文献：　必要に応じて授業内で紹介する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	10	理解度チェックを実施し、バドミントンに関する知識、情報、取り巻く環境などの理解度を評価します。
レポート：	15	基礎技術の授業終了後に、自己評価レポートの提出を課題とします。レポートは各自使用しているノートを提出します。
平常点評価：	60	授業態度、ルールやマナーの理解、競技への取り組み、授業への積極性を評価の対象とします。

その他:　15　実技チェックを実施して、競技力が向上したかを評価します。(審判の仕方も含みます)

備考・関連URL:　諸連絡等、Waseda-netを使用する。毎回確認すること。
会場:早稲田アリーナ(ステージ側, バドミントンコート)
備考:第1回はオリエンテーション、平服のまま集合、筆記具・ノート・顔写真1枚を用意をする。
第2回からは運動に適した服装(ジャージ等の運動服)と室内履き(体育館用シューズ)を必ず準備する。
＊　忘れた場合は参加できない。
ラケットについては個人で準備することを推奨する。

関連URL:
大会情報、競技規則等を参考にする。
公益財団法人 日本バドミントン協会HP
http://www.badminton.or.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040029|09|9S07040029[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バドミントン 基礎 09		
担 当 教 員	木内 広史		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: バドミントンを体感し、楽しむ

授業概要:
2016年リオデジャネイロオリンピックでの女子ダブルスの金メダル獲得でバドミントンが注目されるようになり、東京オリンピック2020や2022年東京で開催された世界選手権での出場選手の活躍は多くの感動を与えた。2023年4月、インド男子選手のスマッシュは初速565km/hを計測し、世界最速のスポーツとしてギネスブックにも認定されている。
バドミントンは屋外であれ屋内であれ少しのスペースがあれば、幅広い世代が手軽に楽しめるスポーツである。競技としてはネットを挟んだ対人競技なので接触によるケガの心配が少なく、スポーツがあまり得意でない受講生も気軽に取り組める。しかし見た目以上に激しいスポーツで、シャトルの動きはスピーディーで変化に富み、室内スポーツとしては一番ハードな競技である。シャトルの独特の形状から終速時の減速が大きく、ラリーが続くだけでも楽しむことができて、互いの打ち合いの面白さにプレーに熱中することになるであろう。
授業は対面でアリーナで実施し、基礎技術からゲーム練習までを実践するが、取組み状況や進度等により内容を変更する場合もある。授業を通してバドミントンの歴史やルール、競技特性を理解し、バドミントンを楽しむことで生涯スポーツとしての位置付けの機会として欲しい。
なお授業計画を以下に示すが、履修者の人数、技術レベル、大学行事等により柔軟に対応していく。

授業の到達目標:
1. ルールやマナー、競技の特性を正しく理解し、実践できる。
2. 受講生同士、協力協調し、競技を楽しむことができる。
3. 基礎技術の習得と、各ショットを打ち分けてゲームで実践できる。
4. 自身の健康や体力を知り、心身の体調管理に生かすことができる。
5. 運動と健康の関わりを理解し、日常生活に取り込むことができる。

事前・事後学習の内容:
各回の授業概要の指示に従い、教材や映像資料などで予習しておく。
授業終了後は、技術練習や資料などを用いて授業内容を復習し、日常生活に取り込むことができることは活用する。
各回の事前学習、事後学習には90分～120分かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（用具・教材、心構え、安全管理、評価等についての説明）
競技の紹介（バドミントンの歴史、ルールの概要など）
＜事前学習＞ バドミントン競技について、広く情報収集すること。
＜事後学習＞ 講義内容を振り返り、各自使用する用具、環境を確認すること。
会場：早稲田アリーナ(バドミントンコート)
備考：平服のまま集合、フロア内は土足禁止、筆記具・ノート、顔写真1枚（3cm×4cm程度、個人カード作成用）を用意する。

第2回
基礎技術（ウォーミングアップ、1人で打つ練習、ストロークの説明，各種フライトの技術練習）＜事前学習＞
シャトル、ラケット等、用具の特性について調べること。
＜事後学習＞ 実技講義内容、取り組みを振り返り、競技動画を視聴すること。

第3回
競技の紹介（スイング，ストロークなど）
競技特性を理解して、自分の身体を評価する
基礎技術（各種フライトの技術練習：前回との組合せ練習）
＜事前学習＞ 自身の身体のコンディションを客観的に把握すること。
＜事後学習＞ 実技講義内容、取り組みを振り返り、教材や動画を見て動きを確認すること。

第4回
ラケットワーク、フットワークの理解基礎技術（各種フライトの技術練習：前回との組合せ練習）＜事前学習＞　ラケットワーク、フットワークについて、動画等、教材を確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、安全な動きについて理解すること。

第5回
基本ストローク、フットワーク（全面）練習基礎技術（各種フライトの技術練習：複数のフライトによるコンビネーションプレー）
＜事前学習＞　各ショットのフライトを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、正しいフォームについて確認すること。

第6回
基礎技術習得の振り返り（自己評価表記入）、簡易ゲーム
＜事前学習＞　各ショットのフライトを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、正しいフォームについて確認すること。

第7回
ダブルス制約ゲーム、ダブルスゲームの導入（コートの範囲確認，ショートサービスの練習）
ケガ、安全管理について理解する
＜事前学習＞　ダブルスの動きを理解し、スポーツに多いケガを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、正しい動きとケガの予防について確認すること。

第8回
技術チェック（サーブなど基礎技術習得の確認）
ルールについて理解する
＜事前学習＞　基礎技術を再点検すること。基本的なルールについて調べること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、ルールの疑問点について調べること。

第9回
シングルスゲームの進め方（審判法の学習）マナーについて学ぶ
＜事前学習＞　シングルスのルールを確認する。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、教材や動画を見てシングルスの動きを考察すること。スポーツマンシップやフェアプレーを考えること。

第10回
ダブルスゲームの進め方（審判法の学習）＜事前学習＞　ダブルスのルールを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、教材や動画を見てダブルスの動きを考察すること。

第11回
大会実習Ⅰ（個人戦の進め方主にダブルスの動き方）
＜事前学習＞　各種大会のドロー、タイムテーブルを確認すること。審判の仕方について再認識しておくこと。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、個人戦の進め方について調べること。

第12回
大会実習Ⅱ（団体戦の進め方）＜事前学習＞　各種大会のドロー、タイムテーブルを確認すること。審判の仕方について再認識しておくこと。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、団体戦の進め方について調べること。

第13回
技術チェック（技術習熟度の確認）＜事前学習＞　各ショットの正しい打ち方を確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、うまくいかなかった点について考察すること。

第14回
理解度チェック（競技に関する理解度の確認、質問、解説など）授業のまとめ（基礎技術，ルール、審判法など）

＜事前学習＞　これまで学んだバドミントンに関する知識、ルール、マナー、情報について確認しておくこと。
＜事後学習＞　授業全体を振り返り、よくできた点、できなかった点を自己評価すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特になし。

参考文献：　必要に応じて授業内で紹介する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	10	理解度チェックを実施し、バドミントンに関する知識、情報、取り巻く環境などの理解度を評価します。
レポート：	15	基礎技術の授業終了後に、自己評価レポートの提出を課題とします。レポートは各自使用しているノートを提出します。
平常点評価：	60	授業態度、ルールやマナーの理解、競技への取り組み、授業への積極性を評価の対象とします。
その他：	15	実技チェックを実施して、競技力が向上したかを評価します。（審判の仕方も含みます）

備考・関連URL：　諸連絡等、Waseda-netを使用する。毎回確認すること。

会場：早稲田アリーナ(ステージ側，バドミントンコート)
備考：第1回はオリエンテーション、平服のまま集合、筆記具・ノート・顔写真1枚を用意する。
第2回からは運動に適した服装（ジャージ等の運動服）と室内履き（体育館用シューズ）を必ず準備する。
＊　忘れた場合は参加できない。
ラケットについては個人で準備することを推奨する。

関連URL:
大会情報、競技規則等を参考にする。
公益財団法人 日本バドミントン協会HP
http://www.badminton.or.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040029|10|9S07040029[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バドミントン 基礎 10		
担 当 教 員	小関 信一		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

バドミントンを公園、庭先で見たり、遊んだりした人は多いはずです。しかし、正式に試合を観戦したりコートに立ってプレーした人は少ないでしょう。バドミントンはリクリエーションスポーツとしてはラケットとシャトルさえあれば、いつでもどこでも簡単にできるスポーツですが、競技スポーツとしては他のスポーツと比較しても、かなり動きの激しいスポーツです。
水鳥の羽でできているシャトルは、トッププレーヤーがスマッシュを打つと初速400キロを超すスピードで飛んでいき、手元で急減速します。そのスピードの変化と独特の飛行性、打球感など、その魅力にとりつかれた人は少なくはありません。

本授業では、バドミントンの概要（歴史・ルール・競技の特性）を理解し、基本的技術からゲーム練習までを実技として実践し、その理論と技術の習得を目指します。また、生涯スポーツの動機づけの一つとしてバドミントンを楽しむ機会を提供します。

授業計画は以下の通り、原則として対面授業を実施予定です。基本ストロークの習得からゲーム練習まで、できる限りコート内にいる時間を増やしていく予定です。
授業実施にあたっては、履修生の人数・技術レベル・教場の状況等によって柔軟に対応していきます。

授業の到達目標:

1. ルールやマナーを正しく理解し、実践できる。
2. 受講生間の協調性を発揮して積極的にコートに入り、楽しむことができる。
3. 基本的フライト・ストロークを覚えて打ち分けることができる。
4. 狙った場所にシャトルを落とすことができる。
5. バドミントン実技の実践を通して、健康への関わり方を考えることができる。

事前・事後学習の内容:

実技を伴う授業なので、授業前・授業後の体調管理を十分に行う。
各回の講義内容に従い動画映像資料などを用いて事前学習をすること。授業終了後は技術練習や動画映像資料などを用いて授業内容を事後学習するとともに、自分のライフスタイルの中にその学習内容を活かすこと。
各回の事前学習・事後学習には 90 分～120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ／ 第1回:オリエンテーション（教場の確認、用品、教材、心構え、評価等について説明）
持ち物 : 個人カード作成の為の顔写真 （ 3cm × 4cm程度、スマホ等で撮影しプリントアウトしたものや、スナップ写真など)1枚持参すること。
※集合場所 : 早稲田アリーナ内バドミントンコート （ステージ側）
※フロア内は土足厳禁です。
※平服のままで結構です。

第2回 ／ 基本技能実習①
バドミントン競技の用具・器具・コートの確認、 シャトル、ラケットに慣れる、グリップの握り方など

第3回 ／ 基本技能実習②
基本フライト・基本ストロークの確認 ／ 基本フライト・基本ストロークの種類について説明します。
ラケットワーク、フットワークなどの学習

第4回 ／基本技能実技③
基本フライト:サービス・ヘアピン・ドロップ 習得のための実技技能実習となります。

第5回 ／ 基本技能実習④
基本フライト:ドライブ・クリア・スマッシュ 習得のための実技技能実習となります。

第6回 ／ 基本技能実習⑤
基本ストローク、フライトのコンビネーションプレイ、簡易ラリー

第7回 ／　基本技能実習⑥
　基本ストローク、フライトのコンビネーションプレイ、簡易ラリー
第8回 ／ 基本技能実習⑦ ・ 基本技能チェックテスト
基本ストローク、フライトのチェック

実技・ペーパーテスト（サーブ等）
第9回 ／ シングルス簡易ゲームⅠ（審判法の学習）
シングルスゲームのルールと審判の方法について学習します。
第10回 ／ シングルス簡易ゲーム（ゲーム実習）
簡単なシングルスゲーム(リーグ戦)を行い審判も同様に行います。
第11回 ／ ダブルス簡易ゲームⅠ（審判法の学習）
　ダブルスゲームのルールと審判の方法について学習します。。
第12回 ／ ダブルス簡易ゲームⅡ（ゲーム実習）
簡単なダブルスゲームを行い審判も同様に行います。

第13回 ／ 大会運営 （シングルス・トーナメント）
シングルスゲームをトーナメント方式で行いながら、ゲーム進行・運営も行います。

第14回 ／　大会運営 （ダブルス・トーナメント） ・ 本授業のまとめ、質問、解説
　ダブルスゲームをトーナメント方式で行いながら、ゲーム進行・運営も行います。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特に無し。

参考文献: 必要に応じて授業内で紹介します
。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 25　ルール、実技 （サーブ） について試験実施評価。

レポート: 10　.課題は授業時に提示します。 ルールの理解度等について評価。

平常点評価: 65　授業態度・ルール・マナー・競技への取り組み等や授業への積極性を評価する。

備考・関連URL: 諸連絡等、Waseda Moodle を使用する。
自治体からの要請、大学からの指示、社会状況を見て、対面授業をオンライン授業に切り替える場合もある。
【対面授業】
早稲田アリーナ内バドミントンコート（アリーナステージ側）にて実施する。
運動に適した服装（ジャージ等の運動着）、室内履き（体育館用シューズ）を必ず準備すること。
フロアー内は土足厳禁。
ラケットについては個人で準備することを推奨する。【オンライン授業に変更された場合】
授業時間帯にWaseda Moodle に資料を提示し、課題の提出を求める。

【関連URL】
日本バドミントン協会 http://www.badminton.or.jp/
世界バドミントン連盟 http://www.bwfbadminton.org/
日本障がい者バドミントン連盟 http://jpbf.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040029|11|9S07040029[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バドミントン 基礎 11		
担 当 教 員	小関 信一		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

バドミントンを公園、庭先で見たり、遊んだりした人は多いはずです。しかし、正式に試合を観戦したりコートに立ってプレーした人は少ないでしょう。バドミントンはリクリエーションスポーツとしてはラケットとシャトルさえあれば、いつでもどこでも簡単にできるスポーツですが、競技スポーツとしては他のスポーツと比較しても、かなり動きの激しいスポーツです。
水鳥の羽でできているシャトルは、トッププレーヤーがスマッシュを打つと初速400キロを超すスピードで飛んでいき、手元で急減速します。そのスピードの変化と独特の飛行性、打球感など、その魅力にとりつかれた人は少なくはありません。

本授業では、バドミントンの概要（歴史・ルール・競技の特性）を理解し、基本的技術からゲーム練習までを実技として実践し、その理論と技術の習得を目指します。また、生涯スポーツの動機づけの一つとしてバドミントンを楽しむ機会を提供します。

授業計画は以下の通り、原則として対面授業を実施予定です。基本ストロークの習得からゲーム練習まで、できる限りコート内にいる時間を増やしていく予定です。
授業実施にあたっては、履修生の人数・技術レベル・教場の状況等によって柔軟に対応していきます。

授業の到達目標:

1. ルールやマナーを正しく理解し、実践できる。
2. 受講生間の協調性を発揮して積極的にコートに入り、楽しむことができる。
3. 基本的フライト・ストロークを覚えて打ち分けることができる。
4. 狙った場所にシャトルを落とすことができる。
5. バドミントン実技の実践を通して、健康への関わり方を考えることができる。

事前・事後学習の内容:

実技を伴う授業なので、授業前・授業後の体調管理を十分に行う。
各回の講義内容に従い動画映像資料などを用いて事前学習をすること。授業終了後は技術練習や動画映像資料などを用いて授業内容を事後学習するとともに、自分のライフスタイルの中にその学習内容を活かすこと。
各回の事前学習・事後学習には 90 分～120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ／ 第1回:オリエンテーション（教場の確認、用品、教材、心構え、評価等について説明）
持ち物 : 個人カード作成の為の顔写真 （ 3cm × 4cm程度、スマホ等で撮影しプリントアウトしたものや、スナップ写真など)1枚持参すること。
※集合場所 : 早稲田アリーナ内バドミントンコート（ステージ側）
※フロア内は土足厳禁です。
※平服のままで結構です。

第2回 ／ 基本技能実習①
バドミントン競技の用具・器具・コートの確認、 シャトル、ラケットに慣れる、グリップの握り方など

第3回 ／ 基本技能実習②
基本フライト・基本ストロークの確認 ／ 基本フライト・基本ストロークの種類について説明します。
ラケットワーク、フットワークなどの学習

第4回 ／基本技能実技③
基本フライト:サービス・ヘアピン・ドロップ 習得のための実技技能実習となります。

第5回 ／ 基本技能実習④
基本フライト:ドライブ・クリア・スマッシュ 習得のための実技技能実習となります。

第6回 ／ 基本技能実習⑤
基本ストローク、フライトのコンビネーションプレイ、簡易ラリー

第7回 ／　基本技能実習⑥
基本ストローク、フライトのコンビネーションプレイ、簡易ラリー
第8回 ／ 基本技能実習⑦ ・ 基本技能チェックテスト
基本ストローク、フライトのチェック

実技・ペーパーテスト（サーブ等）
第9回 ／ シングルス簡易ゲームⅠ（審判法の学習）
シングルスゲームのルールと審判の方法について学習します。
第10回 ／ シングルス簡易ゲーム（ゲーム実習）
簡単なシングルスゲーム(リーグ戦)を行い審判も同様に行います。
第11回 ／ ダブルス簡易ゲームⅠ（審判法の学習）
ダブルスゲームのルールと審判の方法について学習します。。
第12回 ／ ダブルス簡易ゲームⅡ（ゲーム実習）
簡単なダブルスゲームを行い審判も同様に行います。

第13回 ／ 大会運営 （シングルス・トーナメント）
シングルスゲームをトーナメント方式で行いながら、ゲーム進行・運営も行います。

第14回 ／　大会運営 （ダブルス・トーナメント） ・ 本授業のまとめ、質問、解説
ダブルスゲームをトーナメント方式で行いながら、ゲーム進行・運営も行います。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特に無し。

参考文献: 必要に応じて授業内で紹介します
。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 25　ルール、実技 （サーブ） について試験実施評価。

レポート: 10　.課題は授業時に提示します。 ルールの理解度等について評価。

平常点評価: 65　授業態度・ルール・マナー・競技への取り組み等や授業への積極性を評価する。

備考・関連URL: 諸連絡等、Waseda Moodle を使用する。
自治体からの要請、大学からの指示、社会状況を見て、対面授業をオンライン授業に切り替える場合もある。
【対面授業】
早稲田アリーナ内バドミントンコート（アリーナステージ側）にて実施する。
運動に適した服装（ジャージ等の運動着）、室内履き（体育館用シューズ）を必ず準備すること。
フロアー内は土足厳禁。
ラケットについては個人で準備することを推奨する。貸し出し用のラケットは有ります。【オンライン授業に変更された場合】
授業時間帯にWaseda Moodle に資料を提示し、課題の提出を求める。

【関連URL】
日本バドミントン協会 http://www.badminton.or.jp/
世界バドミントン連盟 http://www.bwfbadminton.org/
日本障がい者バドミントン連盟 http://jpbf.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040029|12|9S07040029[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バドミントン 基礎 12		
担 当 教 員	小関 信一		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

バドミントンを公園、庭先で見たり、遊んだりした人は多いはずです。しかし、正式に試合を観戦したりコートに立ってプレーした人は少ないでしょう。バドミントンはリクリエーションスポーツとしてはラケットとシャトルさえあれば、いつでもどこでも簡単にできるスポーツですが、競技スポーツとしては他のスポーツと比較しても、かなり動きの激しいスポーツです。
水鳥の羽でできているシャトルは、トッププレーヤーがスマッシュを打つと初速400キロを超すスピードで飛んでいき、手元で急減速します。そのスピードの変化と独特の飛行性、打球感など、その魅力にとりつかれた人は少なくはありません。

本授業では、バドミントンの概要（歴史・ルール・競技の特性）を理解し、基本的技術からゲーム練習までを実技として実践し、その理論と技術の習得を目指します。また、生涯スポーツの動機づけの一つとしてバドミントンを楽しむ機会を提供します。

授業計画は以下の通り、原則として対面授業を実施予定です。基本ストロークの習得からゲーム練習まで、できる限りコート内にいる時間を増やしていく予定です。
授業実施にあたっては、履修生の人数・技術レベル・教場の状況等によって柔軟に対応していきます。

授業の到達目標:

1. ルールやマナーを正しく理解し、実践できる。
2. 受講生間の協調性を発揮して積極的にコートに入り、楽しむことができる。
3. 基本的フライト・ストロークを覚えて打ち分けることができる。
4. 狙った場所にシャトルを落とすことができる。
5. バドミントン実技の実践を通して、健康への関わり方を考えることができる。

事前・事後学習の内容:

実技を伴う授業なので、授業前・授業後の体調管理を十分に行う。
各回の講義内容に従い動画映像資料などを用いて事前学習をすること。授業終了後は技術練習や動画映像資料などを用いて授業内容を事後学習するとともに、自分のライフスタイルの中にその学習内容を活かすこと。
各回の事前学習・事後学習には 90 分～120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ／ 第1回:オリエンテーション（教場の確認、用品、教材、心構え、評価等について説明）
持ち物 : 個人カード作成の為の顔写真 （ 3cm × 4cm程度、スマホ等で撮影しプリントアウトしたものや、スナップ写真などでOK)1枚持参すること。
※集合場所 : 早稲田アリーナ内バドミントンコート （ステージ側）
※フロア内は土足厳禁です。
※平服のままで結構です。

第2回 ／ 基本技能実習①
バドミントン競技の用具・器具・コートの確認、 シャトル、ラケットに慣れる、グリップの握り方など

第3回 ／ 基本技能実習②
基本フライト・基本ストロークの確認 ／ 基本フライト・基本ストロークの種類について説明します。
ラケットワーク、フットワークなどの学習

第4回 ／基本技能実技③
基本フライト:サービス・ヘアピン・ドロップ 習得のための実技技能実習となります。

第5回 ／ 基本技能実習④
基本フライト:ドライブ・クリア・スマッシュ 習得のための実技技能実習となります。

第6回 ／ 基本技能実習⑤
基本ストローク、フライトのコンビネーションプレイ、簡易ラリー

第7回 ／　基本技能実習⑥
基本ストローク、フライトのコンビネーションプレイ、簡易ラリー
第8回 ／ 基本技能実習⑦ ・ 基本技能チェックテスト
基本ストローク、フライトのチェック

実技・ペーパーテスト（サーブ等）
第9回 ／ シングルス簡易ゲームⅠ（審判法の学習）
シングルスゲームのルールと審判の方法について学習します。
第10回 ／ シングルス簡易ゲーム（ゲーム実習）
簡単なシングルスゲーム(リーグ戦)を行い審判も同様に行います。
第11回 ／ ダブルス簡易ゲームⅠ（審判法の学習）
ダブルスゲームのルールと審判の方法について学習します。。
第12回 ／ ダブルス簡易ゲームⅡ（ゲーム実習）
簡単なダブルスゲームを行い審判も同様に行います。

第13回 ／ 大会運営（シングルス・トーナメント）
シングルスゲームをトーナメント方式で行いながら、ゲーム進行・運営も行います。

第14回 ／　大会運営（ダブルス・トーナメント） ・ 本授業のまとめ、質問、解説
ダブルスゲームをトーナメント方式で行いながら、ゲーム進行・運営も行います。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特に無し。

参考文献: 必要に応じて授業内で紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 25　ルール、実技（サーブ）について試験実施評価。

レポート: 10　.課題は授業時に提示します。 ルールの理解度等について評価。

平常点評価: 65　授業態度・ルール・マナー・競技への取り組み等や授業への積極性を評価する。

備考・関連URL: 諸連絡等、Waseda Moodle を使用する。
自治体からの要請、大学からの指示、社会状況を見て、対面授業をオンライン授業に切り替える場合もある。
【対面授業】
早稲田アリーナ内バドミントンコート（アリーナステージ側）にて実施する。
運動に適した服装（ジャージ等の運動着）、室内履き（体育館用シューズ）を必ず準備すること。
フロアー内は土足厳禁。
ラケットについては個人で準備することを推奨する。貸し出し用のラケットは有ります。【オンライン授業に変更された場合】
授業時間帯にWaseda Moodle に資料を提示し、課題の提出を求める。

【関連URL】
日本バドミントン協会 http://www.badminton.or.jp/
世界バドミントン連盟 http://www.bwfbadminton.org/
日本障がい者バドミントン連盟 http://jpbf.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040029|13|9S07040029[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バドミントン 基礎 13		
担 当 教 員	木内 広史		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: バドミントンを体感し、楽しむ

授業概要: 2016年リオデジャネイロオリンピックでの女子ダブルスの金メダル獲得でバドミントンが注目されるようになり、東京オリンピック2020や2022年東京で開催された世界選手権での出場選手の活躍は多くの感動を与えた。2023年インド男子選手のスマッシュは初速565km/hを計測し、世界最速のスポーツとしてギネスブックのも認定されている。
バドミントンは屋外であれ屋内であれ少しのスペースがあれば、幅広い世代が手軽に楽しめるスポーツである。競技としてはネットを挟んだ対人競技なので接触によるケガの心配が少なく、スポーツがあまり得意でない受講生も気軽に取り組める。しかし見た目以上に激しいスポーツで、シャトルの動きはスピーディーで変化に富み、室内スポーツとしては一番ハードな競技である。シャトルの独特の形状から終速時の減速が大きく、ラリーが続くだけでも楽しむことができて、互いの打ち合いの面白さにプレーに熱中することになるであろう。
授業は対面でアリーナで実施し、基礎技術からゲーム練習までを実践するが、取組み状況や進度等により内容を変更する場合もある。授業を通してバドミントンの歴史やルール、競技特性を理解し、バドミントンを楽しむことで生涯スポーツとしての位置づけの機会として欲しい。
なお授業計画を以下に示すが、履修者の人数、技術レベル、大学行事等により柔軟に対応していく。

授業の到達目標:

1. ルールやマナー、競技の特性を正しく理解し、実践できる。
2. 受講生同士、協力協調し合い、競技を楽しむことができる。
3. 基礎技術の習得と、各ショットを打ち分けてゲームで実践できる。
4. 自身の健康や体力を知り、心身の健康管理に生かすことができる。
5. 運動と健康の関わりを理解し、日常生活に取り込むことができる。

事前・事後学習の内容: 各回の授業概要の指示に従い、教材や映像資料などで予習しておく。
授業終了後は、技術練習や資料などを用いて授業内容を復習し、日常生活に取り込むことができることは活用する。
各回の事前学習、事後学習には90分～120分かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（用具・教材、心構え、安全管理、評価等について説明）
競技の紹介（バドミントンの歴史、ルールの概要など）
＜事前学習＞ バドミントン競技について、広く情報収集すること。
＜事後学習＞ 講義内容を振り返り、各自使用する用具、環境を確認すること。
会場：早稲田アリーナ(バドミントンコート)
備考：平服のまま集合、フロア内は土足禁止、筆記具・ノート・顔写真1枚（3cm×4cm程度、個人カード作成用）を用意すること。

第2回
基礎技術（ウォーミングアップ、1人で打つ練習、ストロークの説明，各種フライトの技術練習）＜事前学習＞
シャトル、ラケット等、用具の特性について調べること。
＜事後学習＞ 実技講義内容、取り組みを振り返り、競技動画を視聴すること。

第3回
競技の紹介（スイング，ストロークなど）
競技特性を理解して、自分の身体を評価する。
基礎技術（各種フライトの技術練習：前回との組合せ練習）
＜事前学習＞ 自身の身体のコンディションを客観的に把握すること。
＜事後学習＞ 実技講義内容、取り組みを振り返り、教材や動画を見て動きを確認すること。

第4回
ラケットワーク、フットワークの理解基礎技術（各種フライトの技術練習：前回との組合せ練習）＜事前学習＞　ラケットワーク、フットワークについて、動画等教材を確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、安全な動きについて理解すること。

第5回
基本ストローク、フットワーク（全面）練習基礎技術（各種フライトの技術練習：複数のフライトによるコンビネーションプレー）
＜事前学習＞　各ショットのフライトを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、サーブ周りのルールを確認すること。

第6回
基礎技術習得の振り返り（自己評価表記入）、簡易ゲーム
＜事前学習＞　各ショットのフライトを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、正しいフォームについて確認すること。

第7回
ダブルス制約ゲーム，ダブルスゲームの導入（コートの範囲確認，ショートサービスの練習）
ケガ、安全管理について理解する
＜事前学習＞　ダブルスの動きを理解し、スポーツに多いケガを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、正しい動きとケガの予防について確認すること。

第8回
技術チェック（サーブなど基礎技術習得の確認）
ルールについて理解する
＜事前学習＞　基本技術を再点検すること。基本的なルールについて調べること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、ルールの疑問点について調べること。

第9回
シングルスゲームの進め方（審判法の学習）マナーについて学ぶ
＜事前学習＞　シングルスのルールを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、教材や動画を見てシングルスの動きの確認すること。スポーツマンシップやフェアプレーを考えること。

第10回
ダブルスゲームの進め方（審判法の学習）＜事前学習＞　ダブルスのルールを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、教材や動画を見てダブルスの動きを確認すること。

第11回
大会実習Ⅰ（個人戦の進め方）審判の実践チェック（主審・線審）
＜事前学習＞　個人戦のドロー、タイムテーブルについて確認すること。審判の仕方について再認識しておくこと。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、個人戦の進め方について調べること。

第12回
大会実習Ⅱ（団体戦の進め方）審判の実践チェック（主審・線審）
＜事前学習＞　団体戦のドロー、タイムテーブルについて確認すること。審判の仕方について再認識しておくこと。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、団体戦の進め方について調べること。

第13回
技術チェック（技術習熟度の確認）＜事前学習＞　各ショットのよい打ち方を再認識すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、うまくいかなかった点について考察すること。

第14回
理解度チェック（競技に関する理解度の確認、質問、解説など）授業のまとめ（基礎技術，ルール、審判法など）

＜事前学習＞　これまで学んだバドミントンに関する知識、ルール、マナー、情報について確認しておくこと。
＜事後学習＞　授業全体を振り返り、よくできた点、できなかった点を自己評価すること。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特になし。

参考文献: 必要に応じて授業内で紹介する。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	10	理解度チェックを実施し、バドミントンに関する知識、情報、取り巻く環境などの理解度を評価します。
レポート:	15	基礎技術の授業終了後に、自己評価レポートの提出を課題とします。レポートは各自使用しているノートを提出します。
平常点評価:	60	授業態度、ルールやマナーの理解、競技への取り組み、授業への積極性を評価の対象とします。
その他:	15	実技チェックを実施して、競技力が向上したかを評価します。（審判の仕方も含みます）

備考・関連URL:　諸連絡等、Waseda-netを使用する。毎回確認すること。
会場：早稲田アリーナ(ステージ側，バドミントンコート)
　備考：第1回はオリエンテーション、平服のまま集合、筆記具・ノート・顔写真1枚を用意する。
　　第2回からは運動に適した服装(ジャージ等の運動服)と室内履き(体育館用シューズ)を必ず準備すること。
　　＊　忘れた場合は参加できない。
　　ラケットについては個人で準備することを推奨する。

関連URL:
　大会情報、競技規則等を参考にする。
　公益財団法人 日本バドミントン協会HP
　http://www.badminton.or.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040029|14|9S07040029[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バドミントン 基礎 14		
担 当 教 員	木内 広史		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: バドミントンを体感し、楽しむ

授業概要: 2016年リオデジャネイロオリンピックでの女子ダブルスの金メダル獲得でバドミントンが注目されるようになり、東京オリンピック2020や2022年東京で開催された世界選手権での出場選手の活躍は多くの感動を与えた。2023年4月、インド男子選手のスマッシュは初速565km/hを計測し、世界最速のスポーツとしてギネスブックにも認定されている。
バドミントンは屋外であれ屋内であれ少しのスペースがあれば、幅広い世代が手軽に楽しめるスポーツである。競技としてはネットを挟んだ対人競技なので接触によるケガの心配が少なく、スポーツがあまり得意でない受講生も気軽に取り組める。しかし見た目以上に激しいスポーツで、シャトルの動きはスピーディーで変化に富み、室内スポーツとしては一番ハードな競技である。シャトルの独特の形状から終速時の減速が大きく、ラリーが続くだけでも楽しむことができて、互いの打ち合いの面白さにプレーに熱中することになるであろう。
授業は対面でアリーナで実施し、基礎技術からゲーム練習までを実践するが、取組み状況や進度等により内容を変更する場合もある。授業を通してバドミントンの歴史やルール、競技特性を理解し、バドミントンを楽しむことで生涯スポーツとしての位置づけの機会として欲しい。
なお授業計画を以下に示すが、履修者の人数、技術レベル、大学行事等により柔軟に対応していく。

授業の到達目標:
1. ルールやマナー、競技の特性を正しく理解し、実践できる。
2. 受講生同士、協力協調し合い、競技を楽しむことができる。
3. 基礎技術の習得と、各ショットを打ち分けてゲームで実践できる。
4. 自身の健康や体力を知り、心身の体調管理に生かすことができる。
5. 運動と健康の関わりを理解し、日常生活に取り込むことができる。

事前・事後学習の内容: 各回の授業概要の指示に従い、教材や映像資料などで予習しておく。
授業終了後は、技術練習や資料などを用いて授業内容を復習し、日常生活に取り込むことができることは活用する。
各回の事前学習、事後学習には90分～120分かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（用具・教材、心構え、安全管理、評価等についての説明）
競技の紹介（バドミントンの歴史、ルールの概要など）
＜事前学習＞ バドミントン競技について、広く情報収集すること。
＜事後学習＞ 講義内容を振り返り、各自使用する用具、環境を確認すること。
会場：早稲田アリーナ(バドミントンコート)
備考：平服のまま集合、フロア内は土足禁止、ノート・筆記具・顔写真1枚（3cm×4cm程度、個人カード作成用）を用意すること。

第2回
基礎技術（ウォーミングアップ、1人で打つ練習、ストロークの説明、各種フライトの技術練習）＜事前学習＞
シャトル、ラケット等、用具の特性について調べること。
＜事後学習＞ 実技講義内容、取り組みを振り返り、競技動画を視聴すること。

第3回
競技の紹介（スイング，ストロークなど）
競技特性を理解して、自分の身体を評価する
基礎技術（各種フライトの技術練習：前回との組合せ練習）
＜事前学習＞ 自身の身体のコンディションを客観的に把握すること。
＜事後学習＞ 実技講義内容、取り組みを振り返り、教材や動画を見て動きを確認すること。

第4回

ラケットワーク、フットワークの理解基礎技術（各種フライトの技術練習：前回との組合せ練習）＜事前学習＞　ラケットワーク、フットワークについて、動画、教材を確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、安全な動きについて理解すること。

第5回

基本ストローク、フットワーク（全面）練習
基礎技術（各種フライトの技術練習：複数のフライトによるコンビネーションプレー）
＜事前学習＞　各ショットのフライトを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、サーブ周りのルールを確認すること。

第6回

基礎技術習得の振り返り（自己評価表記入）、簡易ゲーム
＜事前学習＞　各ショットのフライトを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、正しいフォームについて確認すること。

第7回

ダブルス制約ゲーム、ダブルスゲームの導入（コートの範囲確認，ショートサービスの練習）
ケガ、安全管理について理解する
＜事前学習＞　競技の動きを理解し、スポーツに多いケガを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、正しい動きとケガの予防について確認すること。

第8回

技術チェック（サーブなど基礎技術習得の確認）
ルールについて理解する
＜事前学習＞　基礎技術を再点検すること。基本的なルールについて調べること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、ルールの疑問点について調べること。

第9回

シングルスゲームの進め方（審判法の学習）マナーについて学ぶ
＜事前学習＞　シングルスのルールを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、教材や動画を見てシングルスの動きを確認すること。
スポーツマンシップやフェアプレーを考えること。

第10回

ダブルスゲームの進め方（審判法の学習）＜事前学習＞　ダブルスのルールを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、教材や動画を見てダブルスの動きを確認すること。

第11回

大会実習Ⅰ（個人戦の進め方）審判の実技チェック（主審・線審）
＜事前学習＞　各種大会のドロー、タイムテーブルを確認すること。審判の仕方を復習しておくこと。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、個人戦の進め方について調べること。

第12回

大会実習Ⅱ（団体戦の進め方）審判の実践チェック（主審・線審）
＜事前学習＞　各種大会のドロー、タイムテーブルを確認すること。審判の仕方について復習しておくこと。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、団体戦の進め方について調べること。

第13回

技術チェック（技術習熟度の確認）＜事前学習＞　各ショットのよい打ち方を再認識すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、うまくいかなかった点について考察すること。

第14回

理解度チェック（競技に関する理解度の確認、質問、解説など）
授業のまとめ（基礎技術，ルール、審判法など）

＜事前学習＞　これまで学んだバドミントンに関する知識、ルール、マナー、情報について確認しておくこと。
＜事後学習＞　授業全体を振り返り、よくできた点、できなかった点を自己評価すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特になし。

参考文献：　必要に応じて授業内で紹介する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	10	理解度チェックを実施し、バドミントンに関する知識、情報、取り巻く環境などの理解度を評価します。
レポート：	15	基礎技術の授業終了後に、自己評価レポートの提出を課題とします。レポートは各自使用しているノートを提出します。
平常点評価：	60	授業態度、ルールやマナーの理解、競技への取り組み、授業への積極性を評価の対象とします。
その他：	15	実技チェックを実施して、競技力が向上したかを評価します。（審判の仕方も含みます）

備考・関連URL：　諸連絡等、Waseda-netを使用する。毎回確認すること。
会場：早稲田アリーナ(ステージ側，バドミントンコート)

備考：第1回はオリエンテーション、平服のまま集合、筆記具・ノート・顔写真1枚を用意する。
第2回からは運動に適した服装（ジャージ等の運動服）と室内履き（体育館用シューズ）を必ず準備すること。
＊　忘れた場合は参加できない。
ラケットについては個人で準備することを推奨する。

関連URL:
大会情報、競技規則等を参考にする。
公益財団法人 日本バドミントン協会HP
http://www.badminton.or.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040029|15|9S07040029[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バドミントン 基礎 15		
担 当 教 員	木内 広史		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: バドミントンを体感し、楽しむ

授業概要: 2016年リオデジャネイロオリンピックでの女子ダブルスの金メダル獲得でバドミントンが注目されるようになり、東京オリンピック2020や2022年東京で開催された世界選手権での出場選手の活躍は多くの感動を与えた。2023年4月、インド男子選手のスマッシュは初速565km/hを計測し、世界最速のスポーツとしてギネスブックにも認定されている。
バドミントンは屋外であれ屋内であれ少しのスペースがあれば、幅広い世代が手軽に楽しめるスポーツである。競技としてはネットを挟んだ対人競技なので、接触によるケガの心配が少なく、スポーツがあまり得意でない受講生も気軽に取り組める。しかし見た目以上に激しいスポーツで、シャトルの動きはスピーディーで変化に富み、室内スポーツとしては一番ハードな競技である。シャトルの独特の形状から終速時の減速が大きく、ラリーが続くだけでも楽しむことができて、互いの打ち合いの面白さにプレーに熱中することになるであろう。
授業は対面でアリーナで実施し、基礎技術からゲーム練習までを実践するが、取組み状況や進度等により内容を変更する場合もある。授業を通してバドミントンの歴史やルール、競技特性を理解し、バドミントンを楽しむことで生涯スポーツとしての位置づけの機会として欲しい。
なお授業計画を以下に示すが、履修者の人数、技術レベル、大学行事等により柔軟に対応していく。

授業の到達目標:
1. ルールやマナー、競技の特性を正しく理解し、実践できる。
2. 受講生同士、協力協調し合い、競技を楽しむことができる。
3. 基礎技術の習得と、各ショットを打ち分けてゲームで実践できる。
4. 自身の健康や体力を知り、心身の体調管理に生かすことができる。
5. 運動と健康の関わりを理解し、日常生活に取り込むことができる。

事前・事後学習の内容: 各回の授業概要の指示に従い、教材や映像資料などで予習しておく。
授業終了後は，技術練習や資料などを用いて授業内容を復習し、日常生活に取り込むことができることは活用する。
各回の事前学習、事後学習には90分～120分かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（用具・教材、心構え、安全管理、評価等についての説明）
競技の紹介（バドミントンの歴史、ルールの概要など）
＜事前学習＞ バドミントン競技について、広く情報を収集すること。
＜事後学習＞ 講義内容を振り返り、各自使用する用具、環境を確認すること。
会場：早稲田アリーナ(バドミントンコート)
備考：平服のまま集合、フロア内は土足禁止、筆記具・ノート・顔写真1枚（3cm×4cm程度・個人カード作成用）を用意すること。

第2回
基礎技術（ウォーミングアップ、1人で打つ練習、ストロークの説明、各種フライトの技術練習）＜事前学習＞
シャトル、ラケット等、用具の特性について調べること。
＜事後学習＞ 実技講義内容、取り組みを振り返り、競技動画を視聴すること。

第3回
競技の紹介（スイング，ストロークなど）
競技特性を理解して、自身の身体を評価する基礎技術（各種フライトの技術練習：前回との組合せ練習）
＜事前学習＞ 自身の身体のコンディションを客観的に把握すること。
＜事後学習＞ 実技講義内容、取り組みを振り返り、教材や動画を見て動きを確認すること。

第4回

ラケットワーク、フットワークの理解基礎技術（各種フライトの技術練習：前回との組合せ練習）＜事前学習＞　ラケットワーク、フットワークについて、動画等教材を確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、安全な動きについて理解すること。

第5回

基本ストローク、フットワーク（全面）練習基礎技術（各種フライトの技術練習：複数のフライトによるコンビネーションプレー）
＜事前学習＞　各ショットのフライトを確認確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、サーブ周りのルールを確認すること。

第6回

基礎技術習得の振り返り（自己評価表記入）簡易ゲーム
＜事前学習＞　各ショットのフライトを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、正しいフォームについて確認すること。

第7回

ダブルス制約ゲーム，ダブルスゲームの導入（コートの範囲確認、ショートサービスの練習）
ケガ、安全管理について理解する
＜事前学習＞　競技の動きを理解し、スポーツに多いケガについて確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、正しい動きとケガの予防について確認すること。

第8回

技術チェック（サーブなど基礎技術習得の確認）
ルールについて理解する
＜事前学習＞　基礎技術を再点検すること。基本的なルールについて調べること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、ルールの疑問点について調べること。

第9回

シングルスゲームの進め方（審判法の学習）マナーについて学ぶ
＜事前学習＞　シングルスのルールを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、教材や動画を見てシングルスの動きを考察すること。
スポーツマンシップやフェアプレーを考えること。

第10回

ダブルスゲームの進め方（審判法の学習）＜事前学習＞　ダブルスのルールを確認すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、教材や動画を見てダブルスの動きを考察すること。

第11回

大会実習Ⅰ（個人戦の進め方）
審判の実践チェック（主審・線審）
＜事前学習＞　各種大会のドロー、タイムテーブルを確認すること。審判の仕方について確認しておくこと。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、個人戦の進め方について調べること。

第12回

大会実習Ⅱ（団体戦の進め方）審判の実践チェック（主審・線審）
＜事前学習＞　各種大会のドロー、タイムテーブルを確認すること。審判の仕方について確認しておくこと。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、団体戦の進め方について調べること。

第13回

技術チェック（技術習熟度の確認）＜事前学習＞　各ショットのよい打ち方を再認識すること。
＜事後学習＞　実技講義内容、取り組みを振り返り、うまくいかなかった点について考察すること。

第14回

理解度チェック（競技に関する理解度の確認、質問、解説など）
授業のまとめ（基礎技術、ルール、審判法など）

＜事前学習＞　これまで学んだバドミントンに関する知識、ルール、マナー、情報について確認しておくこと。
＜事後学習＞　授業全体を振り返り、よくできた点、できなかった点を自己評価すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特になし。

参考文献：　必要に応じて授業内で紹介する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	10	理解度チェックを実施し、バドミントンに関する知識、情報、取り巻く環境などの理解度を評価します。
レポート：	15	基礎技術の授業終了後に、自己評価レポートの提出を課題とします。レポートは各自使用しているノートをします。
平常点評価：	60	授業態度、ルールやマナーの理解、競技への取り組み、授業への積極性を評価の対象とします。
その他：	15	実技チェックを実施して、競技力が向上したかを評価します。（審判の仕方も含みます）

備考・関連URL：　諸連絡等、Waseda-netを使用する。毎回確認すること。

会場：早稲田アリーナ(ステージ側，バドミントンコート)
備考：第1回はオリエンテーション、平服のまま集合、筆記具・ノート・顔写真1枚を用意する。
第2回からは運動に適した服装（ジャージ等の運動服）と室内履き（体育館用シューズ）を必ず準備する。
＊　忘れた場合は参加できない。
ラケットについては個人で準備することを推奨する。

関連URL:
大会情報、競技規則等を参考にする。
公益財団法人 日本バドミントン協会HP
http://www.badminton.or.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040030|01|9S07040030[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バレエ 基礎 01		
担 当 教 員	高橋 佳子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

〇クラシックバレエを踊るためのレッスンを身体の内外両面から捕らえられる。そのために身体とゆっくり向かい合い、回ごとの講義に沿ったフロアでのストレッチなどを取り入れ、クラシックバレエを踊るための身体技術の基礎を理解し実践する。 ・履修対象 入門～初心者。主にバレエ経験0～3年の方を対象とする。経験者の参加も可能。
・踊るための技術のみならず、バレエの歴史、音楽や作品にも触れて自分のバレエへのイメージをふくらませ、豊かな理解につなげる。
最終回の発表では人前で踊ることで、身体だけでなく気持ち、視線の感覚の変化を感じながら踊る楽しさを味わう。

＊シラバスの内容は受講者の状態を見ながら進めていきたいので、変更する場合もある。
☆便宜上それぞれの足腕のポジションを第1ポジション=1st 第2ポジション=2nd 第3ポジション=3rd 第4ポジション=4th 第5ポジション=5thで表記する。
☆それぞれの回でのメインテーマはあるが前回までの復習も含めながら進める。

授業の到達目標:

〇ポジション、姿勢、身体の方向、よく使われるバレエ用語と動きを習得する。
〇身体の形が動きの機能に関連していることを理解する。
〇音楽にあわせて動ける。
〇音楽を感じ、レッスンの「動き」から作品としての表現へのつながりも考察する。

事前・事後学習の内容:

☆バレエ用語が多く出てくるのでその都度説明をするが、用語の予備知識があるとよい。
プリエ、タンジュ、ジュッテ ポジション などが言葉と動きと連動しておくとわかりやすい。

Youtube
Insight: Ballet Glossary(Royal Opera House) パ(ステップ)ごとに紹介されています。
https://www.youtube.com/watch?v=zQl78gCPHxs&list=PL7E40E6E2DAB561B5

・バレエの理解を深めるためにも、バレエだけでなく、自身の経験してきた舞踊も含め、広く様々な種類の舞踊に触れるのもよい。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

授業の目標 概要及び進め方 姿勢と腕と脚のポジション

◎目標(できるようになりたいこと)
◎受講についての注意事項・進め方
◎レッスンの構成、バレエの技法上での原則と姿勢、ポジションと8つの方向
基本姿勢、バーレッスンの立ち位置、ポジションで立つためのアンデオール（外旋）、脚と腕のポジション 実践を含む。(動いたり座ったりするのでスカートでない方が好ましい)

姿勢と脚と腕のポジション （1stと2ndのポジションを中心に）

・フロアでのストレッチ(ポイント、ドゥミ・ポイントの足の使い方)・前回の復習-基本姿勢、バーレッスンの立ち位置、バーの持ち方、ポジションで立つためのアンデオール（外旋）、脚と腕のポジション
・バーレッスン （両手バーを中心に） [プリエ、ライズ タンジュ、 ア・テール（足裏が踵まで床についた状態）] ・センターレッスン [バーレッスンの復習 両足着地のジャンプ、レベランス(おじぎ)]

姿勢と脚と腕のポジション （1stから5thのポジションへ 脚と腕のポジションとの連動 ポーズへ）

・フロアでのストレッチ(5thのために 腕の位置や姿勢の確認)・バーレッスン （両手バーを中心に） [プリエ タンジュ/ジュテ(特に遊脚の入替え（横）) スシュ]
・センターレッスン [バーレッスンの復讐、両足着地のジャンプ]

2nd/4thポジションから前後左右の移動へ（重心移動とつなぎのパへの準備）

・フロアを使ったストレッチ （動きと呼吸)・バーレッスン [両手バー～片手バーへ 2ndを使った左右の移動 4thを使った前後の移動 タン・リエ シャセ トンベ]
・センターレッスン [バーの復習 フロアを移動するステップ （トンベ シャセ タン・リエ の応用）]

両脚立位から片脚軸へ（クペ　ルティレ　パッセ）

・フロアを使ったストレッチとトレーニング(片足軸への準備)・バーレッスン ［ 5thから片脚軸でのバランス、脚の低い位置でのアダージオ(ゆっくりな動き)］
・センターレッスン ［バーの復習］ 視線/スポット

8つ方向/(身体の方向と移動する方向) クロワゼ　エファッセ　エカルテ

〇前後左右に加えて斜めの方向へ
・方向を意識したフロアストレッチ
・方向を変える時のためのスポット(視点)、ピボット(足の踏み方)

・バーレッスン　［プリエ　タンジュ/ジュテ(身体の方向を変える) ロンド・ジャンブ・アテール］
・センターレッスン[フロアでの方向変化 方向を変えるジャンプ ］
・回転のためのヒント

回転1(方向変化の応用としての両脚の回転　トゥルネ　ストニュー・アンデダン ）

・クロワゼ／エファッセ　8つの方向の復習
・バーレッスン[プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　バーを使った回転の練習 ］
・センターレッスン［バーの復習　センターでの回転　ピルエット　回転のためのスポット］

回転2(ピルエット　アンデダン/内回り)

・ルルベアップ　ルティレ／パッセのフロアでの練習・バーレッスン[プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　ルティレ／パッセ　バーを使ってのピルエットの練習]・センターレッスン[ピルエット]

回転3 (ピルエット　アンデダン/内回り) 連続し移動する回転1(シェネ)　ジャンプ1 (アサンブレ　グリサ

・バー・センターレッスンについては前回同様のものにアダージオを加える。
・両足踏切から両脚着地のジャンプ
・移動して連続する回転の基礎練習(スポットと体の方向)

回転4(アンデオール/外回り) 連続し移動する回転2(ストニュー　ピケ・トゥール・アンデダン)　ジャンプ2

・ピルエット　アンデオール・両足踏切から両脚着地と両脚着地のジャンプ　・バーレッスン[プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　バーを使ってのジャンプや回転の練習]・センターレッスン[バーレッスンの応用]

ジャンプ3(シソンヌ)　つなぎのパ (トンベ・パ・ド・ブレ　ピケ・パ・ド・ブレ　ワルツ、バランセ)

・バーレッスン[プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　バーを使ってのつなぎパの脚の運びの練習]
・センターレッスン　つなぎのパ、回転、ジャンプの復習

ジャンプ4 (移動する大きなジャンプ　グラン・ジュテ)

・バーレッスン　［プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　課題に向けてフレーズをつなげながら練習]・センターレッスン ［つなぎのパを助走とした移動する大きな片脚着地のジャンプ]
・課題曲の振りつけ

課題曲の練習

・バーレッスン、・課題曲の振りと注意点
・自身の動きを動画を撮り確認

発表とまとめ

・バーレッスン、・グループ練習、取出し練習　課題曲の発表
・14回を通して実践できるようになったこと、努力したこと等をまとめる。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 教科書は特になし

〇用意するもの
・動きやすい服装。普段着のスカートは不可。レッスン用のオーバースカートはOK
・バレエシューズ(底のやわらかいかかとのないもの)あるいは厚手の靴下(スポーツソックスやスクールソックスのようにフィットし、脱げにくいもの)。
・髪の長い人(肩よりも長い場合)は必ず束ねる。

参考文献:
三浦雅士著　新書館 「バレエ入門」
M・Fクリストウ著　白水社 「バレエの歴史」
N・ザハーロワ著　かるさびな出版 「クラシック・バレエの基礎　ワガノワ・バレエ学校のプログラム」
ジョーン・ローソン著　森下はるみ訳 「ヤングダンサー指導のためのバレエの基本レッスン」
ヴィヴィアナ・デュランテ　河出書房新社 「バレエ大図鑑」
島田智史　東洋出版 「バレエ筋肉ハンドブック」「バレエ整体ハンドブック」「バーレッスンハンドブック」
芳賀直子　世界文化社 「ビジュアル版バレエ・ヒストリー　バレエ誕生からバレエ・リュスまで」
海野敏　中公新書 「バレエの世界史」
廣瀬健士　Ballet College

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 45　動きを覚えて踊れたか。
授業で行った動きを組み合わせるので、基本の部分(ポジションや方向)がおさえられているか。
音楽に合わせて動き、動きに曲調を含めることができたか。

平常点評価:	45	・実技なので、出席や授業参加態度を重視。課題曲の練習時の貢献度も加味。 ・毎回のテーマを理解しようとしたか。 ・踊ることが楽しめたか。
その他:	10	取り組みの誠実さや熱心さ

備考・関連URL: 身に着けるものについては自己負担

関連URL:
バレエ総合サイト「カーテンライン」
http://www.flamencoole.com/ballet/
バレエ書籍テータベース
http://j-ballet.info/tosyokan/db/2000.html
「日本バレエ協会 HP 」バレエ検定
http://www.j-b-a.or.jp/
「チャコット ダンスキューブ」
http://www.chacott-jp.com/magazine/

その他 舞台やDVD、動画(バレエ団の上演作品)を鑑賞するのを勧める。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040030|02|9S07040030[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バレエ 基礎 02		
担 当 教 員	高橋 佳子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

〇クラシックバレエを踊るためのレッスンを身体の内外両面から捕らえられる。そのために身体とゆっくり向かい合い、回ごとの講義に沿ったフロアでのストレッチなどを取り入れ、クラシックバレエを踊るための身体技術の基礎を理解し実践する。 ・履修対象 入門～初心者。主にバレエ経験0～3年の方を対象とする。経験者の参加も可能。
・踊るための技術のみならず、バレエの歴史、音楽や作品にも触れて自分のバレエへのイメージをふくらませ、豊かな理解につなげる。
最終回の発表では人前で踊ることで、身体だけでなく気持ち、視線の感覚の変化を感じながら踊る楽しさを味わう。

＊シラバスの内容は受講者の状態を見ながら進めていきたいので、変更する場合もある。
☆便宜上それぞれの足腕のポジションを第1ポジション=1st 第2ポジション=2nd 第3ポジション=3rd 第4ポジション=4th 第5ポジション=5thで表記する。
☆それぞれの回でのメインテーマはあるが前回までの復習も含めながら進める。

授業の到達目標:

〇ポジション、姿勢、身体の方向、よく使われるバレエ用語と動きを習得する。
〇身体の形が動きの機能に関連していることを理解する。
〇音楽にあわせて動ける。
〇音楽を感じ、レッスンの「動き」から作品としての表現へのつながりも考察する。

事前・事後学習の内容:

☆バレエ用語が多く出てくるのでその都度説明をするが、用語の予備知識があるとよい。
プリエ、タンジュ、ジュッテ ポジション などが言葉と動きと連動しておくとわかりやすい。

Youtube
Insight: Ballet Glossary(Royal Opera House) パ(ステップ)ごとに紹介されています。
https://www.youtube.com/watch?v=zQl78gCPHxs&list=PL7E40E6E2DAB561B5

・バレエの理解を深めるためにも、バレエだけでなく、自身の経験してきた舞踊も含め、広く様々な種類の舞踊に触れるのもよい。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

授業の目標 概要及び進め方 姿勢と腕と脚のポジション

◎目標(できるようになりたいこと)
◎受講についての注意事項・進め方
◎レッスンの構成、バレエの技法上での原則と姿勢、ポジションと8つの方向
基本姿勢、バーレッスンの立ち位置、ポジションで立つためのアンデオール（外旋）、脚と腕のポジション 実践を含む。(動いたり座ったりするのでスカートでない方が好ましい)

姿勢と脚と腕のポジション （1stと2ndのポジションを中心に）

・フロアでのストレッチ(ポイント、ドゥミ・ポイントの足の使い方)・前回の復習-基本姿勢、バーレッスンの立ち位置、バーの持ち方、ポジションで立つためのアンデオール（外旋）、脚と腕のポジション
・バーレッスン （両手バーを中心に） [プリエ、ライズ タンジュ、 ア・テール（足裏が踵まで床についた状態）] ・センターレッスン [バーレッスンの復習 両足着地のジャンプ、レベランス(おじぎ)]

姿勢と脚と腕のポジション （1stから5thのポジションへ 脚と腕のポジションとの連動 ポーズへ）

・フロアでのストレッチ(5thのために 腕の位置や姿勢の確認)・バーレッスン （両手バーを中心に） [プリエ タンジュ/ジュテ(特に遊脚の入替え（横）) スシュ]
・センターレッスン [バーレッスンの復讐、両足着地のジャンプ]

2nd/4thポジションから前後左右の移動へ（重心移動とつなぎのパへの準備）

・フロアを使ったストレッチ （動きと呼吸)・バーレッスン [両手バー～片手バーへ 2ndを使った左右の移動 4thを使った前後の移動 タン・リエ シャセ トンベ]
・センターレッスン [バーの復習 フロアを移動するステップ （トンベ シャセ タン・リエ の応用）]

両脚立位から片脚軸へ（クペ　ルティレ　パッセ）

・フロアを使ったストレッチとトレーニング(片足軸への準備)・バーレッスン ［ 5thから片脚軸でのバランス、脚の低い位置でのアダージオ(ゆっくりな動き)］
・センターレッスン ［バーの復習］ 視線/スポット

8つ方向/(身体の方向と移動する方向) クロワゼ　エファッセ　エカルテ

〇前後左右に加えて斜めの方向へ
・方向を意識したフロアストレッチ
・方向を変える時のためのスポット(視点)、ピボット(足の踏み方)

・バーレッスン　［プリエ　タンジュ/ジュテ(身体の方向を変える) ロンド・ジャンブ・アテール］
・センターレッスン[フロアでの方向変化 方向を変えるジャンプ ］
・回転のためのヒント

回転1(方向変化の応用としての両脚の回転　トゥルネ　ストニュー・アンデダン ）

・クロワゼ／エファッセ　8つの方向の復習
・バーレッスン[プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　バーを使った回転の練習 ］
・センターレッスン[バーの復習　センターでの回転　ピルエット　回転のためのスポット]

回転2(ピルエット　アンデダン/内回り)

・ルルベアップ　ルティレ／パッセのフロアでの練習・バーレッスン[プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　ルティレ／パッセ　バーを使ってのピルエットの練習]・センターレッスン[ピルエット]

回転3 (ピルエット　アンデダン/内回り) 連続し移動する回転1(シェネ)　ジャンプ1 (アサンブレ　グリサ

・バー・センターレッスンについては前回同様のものにアダージオを加える。
・両足踏切から両脚着地のジャンプ
・移動して連続する回転の基礎練習(スポットと体の方向)

回転4(アンデオール/外回り) 連続し移動する回転2(ストニュー　ピケ・トゥール・アンデダン)　ジャンプ2

・ピルエット　アンデオール・両足踏切から両脚着地と両脚着地のジャンプ　・バーレッスン[プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　バーを使ってのジャンプや回転の練習]・センターレッスン[バーレッスンの応用]

ジャンプ3(シソンヌ)　つなぎのパ (トンベ・パ・ド・ブレ　ピケ・パ・ド・ブレ　ワルツ、バランセ)

・バーレッスン[プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　バーを使ってのつなぎパの脚の運びの練習]
・センターレッスン　つなぎのパ、回転、ジャンプの復習

ジャンプ4 (移動する大きなジャンプ　グラン・ジュテ)

・バーレッスン　［プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　課題に向けてフレーズをつなげながら練習]・センターレッスン ［つなぎのパを助走とした移動する大きな片脚着地のジャンプ]
・課題曲の振りつけ

課題曲の練習

・バーレッスン、・課題曲の振りと注意点
・自身の動きを動画を撮り確認

発表とまとめ

・バーレッスン、・グループ練習、取出し練習　課題曲の発表
・14回を通して実践できるようになったこと、努力したこと等をまとめる。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 教科書は特になし

〇用意するもの
・動きやすい服装。普段着のスカートは不可。レッスン用のオーバースカートはOK
・バレエシューズ(底のやわらかいかかとのないもの)あるいは厚手の靴下(スポーツソックスやスクールソックスのようにフィットし、脱げにくいもの)。
・髪の長い人(肩よりも長い場合)は必ず束ねる。

参考文献:
三浦雅士著　新書館 「バレエ入門」
M・Fクリストウ著　白水社 「バレエの歴史」
N・ザハーロワ著　かるさびな出版 「クラシック・バレエの基礎　ワガノワ・バレエ学校のプログラム」
ジョーン・ローソン著　森下はるみ訳 「ヤングダンサー指導のためのバレエの基本レッスン」
ヴィヴィアナ・デュランテ　河出書房新社 「バレエ大図鑑」
島田智史　東洋出版 「バレエ筋肉ハンドブック」「バレエ整体ハンドブック」「バーレッスンハンドブック」
芳賀直子　世界文化社 「ビジュアル版バレエ・ヒストリー　バレエ誕生からバレエ・リュスまで」
海野敏　中公新書 「バレエの世界史」
廣瀬健士　Ballet College

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 45　動きを覚えて踊れたか。
授業で行った動きを組み合わせるので、基本の部分(ポジションや方向)がおさえられているか。
音楽に合わせて動き、動きに曲調を含めることができたか。

平常点評価:	45	・実技なので、出席や授業参加態度を重視。課題曲の練習時の貢献度も加味。 ・毎回のテーマを理解しようとしたか。 ・踊ることが楽しめたか。
その他:	10	取り組みの誠実さや熱心さ

備考・関連URL: 身に着けるものについては自己負担

関連URL:
バレエ総合サイト「カーテンライン」
http://www.flamencoole.com/ballet/
バレエ書籍テータベース
http://j-ballet.info/tosyokan/db/2000.html
「日本バレエ協会 HP 」バレエ検定
http://www.j-b-a.or.jp/
「チャコット ダンスキューブ」
http://www.chacott-jp.com/magazine/

その他 舞台やDVD、動画(バレエ団の上演作品)を鑑賞するのを勧める。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040030|03|9S07040030[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バレエ 基礎 03		
担 当 教 員	高橋 佳子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

〇クラシックバレエを踊るためのレッスンを身体の内外両面から捕らえられる。そのために身体とゆっくり向かい合い、回ごとの講義に沿ったフロアでのストレッチなどを取り入れ、クラシックバレエを踊るための身体技術の基礎を理解し実践する。 ・履修対象 入門～初心者。主にバレエ経験0～3年の方を対象とする。経験者の参加も可能。
・踊るための技術のみならず、バレエの歴史、音楽や作品にも触れて自分のバレエへのイメージをふくらませ、豊かな理解につなげる。
最終回の発表では人前で踊ることで、身体だけでなく気持ち、視線の感覚の変化を感じながら踊る楽しさを味わう。

＊シラバスの内容は受講者の状態を見ながら進めていきたいので、変更する場合もある。
☆便宜上それぞれの足腕のポジションを第1ポジション=1st 第2ポジション=2nd 第3ポジション=3rd 第4ポジション=4th 第5ポジション=5thで表記する。
☆それぞれの回でのメインテーマはあるが前回までの復習も含めながら進める。

授業の到達目標:

〇ポジション、姿勢、身体の方向、よく使われるバレエ用語と動きを習得する。
〇身体の形が動きの機能に関連していることを理解する。
〇音楽にあわせて動ける。
〇音楽を感じ、レッスンの「動き」から作品としての表現へのつながりも考察する。

事前・事後学習の内容:

☆バレエ用語が多く出てくるのでその都度説明をするが、用語の予備知識があるとよい。
プリエ、タンジュ、ジュッテ ポジション などが言葉と動きと連動しておくとわかりやすい。

Youtube
Insight: Ballet Glossary(Royal Opera House) パ(ステップ)ごとに紹介されています。
https://www.youtube.com/watch?v=zQl78gCPHxs&list=PL7E40E6E2DAB561B5

・バレエの理解を深めるためにも、バレエだけでなく、自身の経験してきた舞踊も含め、広く様々な種類の舞踊に触れるのもよい。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

授業の目標 概要及び進め方 姿勢と腕と脚のポジション

◎目標(できるようになりたいこと)
◎受講についての注意事項・進め方
◎レッスンの構成、バレエの技法上での原則と姿勢、ポジションと8つの方向
基本姿勢、バーレッスンの立ち位置、ポジションで立つためのアンデオール（外旋）、脚と腕のポジション 実践を含む。(動いたり座ったりするのでスカートでない方が好ましい)

姿勢と脚と腕のポジション （1stと2ndのポジションを中心に）

・フロアでのストレッチ(ポイント、ドゥミ・ポイントの足の使い方)・前回の復習-基本姿勢、バーレッスンの立ち位置、バーの持ち方、ポジションで立つためのアンデオール（外旋）、脚と腕のポジション
・バーレッスン （両手バーを中心に） [プリエ、ライズ タンジュ、 ア・テール（足裏が踵まで床についた状態）] ・センターレッスン [バーレッスンの復習 両足着地のジャンプ、レベランス(おじぎ)]

姿勢と脚と腕のポジション （1stから5thのポジションへ 脚と腕のポジションとの連動 ポーズへ）

・フロアでのストレッチ(5thのために 腕の位置や姿勢の確認)・バーレッスン （両手バーを中心に） [プリエ タンジュ/ジュテ(特に遊脚の入替え（横）) スシュ]
・センターレッスン [バーレッスンの復讐、両足着地のジャンプ]

2nd/4thポジションから前後左右の移動へ（重心移動とつなぎのパへの準備）

・フロアを使ったストレッチ （動きと呼吸)・バーレッスン [両手バー～片手バーへ 2ndを使った左右の移動 4thを使った前後の移動 タン・リエ シャセ トンベ]
・センターレッスン [バーの復習 フロアを移動するステップ （トンベ シャセ タン・リエ の応用）]

両脚立位から片脚軸へ（クペ　ルティレ　パッセ）

・フロアを使ったストレッチとトレーニング(片足軸への準備)・バーレッスン ［ 5thから片脚軸でのバランス、脚の低い位置でのアダージオ(ゆっくりな動き)］
・センターレッスン ［バーの復習］ 視線/スポット

8つ方向/(身体の方向と移動する方向) クロワゼ　エファッセ　エカルテ

〇前後左右に加えて斜めの方向へ
・方向を意識したフロアストレッチ
・方向を変える時のためのスポット(視点)、ピボット(足の踏み方)

・バーレッスン　［プリエ　タンジュ/ジュテ(身体の方向を変える) ロンド・ジャンブ・アテール］
・センターレッスン[フロアでの方向変化 方向を変えるジャンプ ］
・回転のためのヒント

回転1(方向変化の応用としての両脚の回転　トゥルネ　ストニュー・アンデダン ）

・クロワゼ／エファッセ　8つの方向の復習
・バーレッスン[プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　バーを使った回転の練習 ］
・センターレッスン［バーの復習　センターでの回転　ピルエット　回転のためのスポット］

回転2(ピルエット　アンデダン/内回り)

・ルルベアップ　ルティレ／パッセのフロアでの練習・バーレッスン[プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　ルティレ／パッセ　バーを使ってのピルエットの練習]・センターレッスン[ピルエット]

回転3 (ピルエット　アンデダン/内回り) 連続し移動する回転1(シェネ)　ジャンプ1 (アサンブレ　グリサ

・バー・センターレッスンについては前回同様のものにアダージオを加える。
・両足踏切から両脚着地のジャンプ
・移動して連続する回転の基礎練習(スポットと体の方向)

回転4(アンデオール/外回り) 連続し移動する回転2(ストニュー　ピケ・トゥール・アンデダン)　ジャンプ2

・ピルエット　アンデオール・両足踏切から両脚着地と両脚着地のジャンプ　・バーレッスン[プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　バーを使ってのジャンプや回転の練習]・センターレッスン[バーレッスンの応用]

ジャンプ3(シソンヌ)　つなぎのパ (トンベ・パ・ド・ブレ　ピケ・パ・ド・ブレ　ワルツ、バランセ)

・バーレッスン[プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　バーを使ってのつなぎパの脚の運びの練習]
・センターレッスン　つなぎのパ、回転、ジャンプの復習

ジャンプ4 (移動する大きなジャンプ　グラン・ジュテ)

・バーレッスン　［プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　課題に向けてフレーズをつなげながら練習]・センターレッスン ［つなぎのパを助走とした移動する大きな片脚着地のジャンプ]
・課題曲の振りつけ

課題曲の練習

・バーレッスン、・課題曲の振りと注意点
・自身の動きを動画を撮り確認

発表とまとめ

・バーレッスン、・グループ練習、取出し練習　課題曲の発表
・14回を通して実践できるようになったこと、努力したこと等をまとめる。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 教科書は特になし

〇用意するもの
・動きやすい服装。普段着のスカートは不可。レッスン用のオーバースカートはOK
・バレエシューズ(底のやわらかいかかとのないもの)あるいは厚手の靴下(スポーツソックスやスクールソックスのようにフィットし、脱げにくいもの)。
・髪の長い人(肩よりも長い場合)は必ず束ねる。

参考文献:
三浦雅士著　新書館 「バレエ入門」
M・Fクリストウ著　白水社 「バレエの歴史」
N・ザハーロワ著　かるさびな出版 「クラシック・バレエの基礎　ワガノワ・バレエ学校のプログラム」
ジョーン・ローソン著　森下はるみ訳 「ヤングダンサー指導のためのバレエの基本レッスン」
ヴィヴィアナ・デュランテ　河出書房新社 「バレエ大図鑑」
島田智史　東洋出版 「バレエ筋肉ハンドブック」「バレエ整体ハンドブック」「バーレッスンハンドブック」
芳賀直子　世界文化社 「ビジュアル版バレエ・ヒストリー　バレエ誕生からバレエ・リュスまで」
海野敏　中公新書 「バレエの世界史」
廣瀬健士　Ballet College

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 45　動きを覚えて踊れたか。
授業で行った動きを組み合わせるので、基本の部分(ポジションや方向)がおさえられているか。
音楽に合わせて動き、動きに曲調を含めることができたか。

平常点評価:	45	・実技なので、出席や授業参加態度を重視。課題曲の練習時の貢献度も加味。 ・毎回のテーマを理解しようとしたか。 ・踊ることが楽しめたか。
その他:	10	取り組みの誠実さや熱心さ

備考・関連URL: 身に着けるものについては自己負担

関連URL:
バレエ総合サイト「カーテンライン」
http://www.flamencoole.com/ballet/
バレエ書籍テータベース
http://j-ballet.info/tosyokan/db/2000.html
「日本バレエ協会 HP 」バレエ検定
http://www.j-b-a.or.jp/
「チャコット ダンスキューブ」
http://www.chacott-jp.com/magazine/

その他 舞台やDVD、動画(バレエ団の上演作品)を鑑賞するのを勧める。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040030|04|9S07040030[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バレエ 基礎 04		
担 当 教 員	高橋 佳子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

〇クラシックバレエを踊るためのレッスンを身体の内外両面から捕らえられる。そのために身体とゆっくり向かい合い、回ごとの講義に沿ったフロアでのストレッチなどを取り入れ、クラシックバレエを踊るための身体技術の基礎を理解し実践する。 ・履修対象 入門～初心者。主にバレエ経験0～3年の方を対象とする。経験者の参加も可能。
・踊るための技術のみならず、バレエの歴史、音楽や作品にも触れて自分のバレエへのイメージをふくらませ、豊かな理解につなげる。
最終回の発表では人前で踊ることで、身体だけでなく気持ち、視線の感覚の変化を感じながら踊る楽しさを味わう。

＊シラバスの内容は受講者の状態を見ながら進めていきたいので、変更する場合もある。
☆便宜上それぞれの足腕のポジションを第1ポジション=1st 第2ポジション=2nd 第3ポジション=3rd 第4ポジション=4th 第5ポジション=5thで表記する。
☆それぞれの回でのメインテーマはあるが前回までの復習も含めながら進める。

授業の到達目標:

〇ポジション、姿勢、身体の方向、よく使われるバレエ用語と動きを習得する。
〇身体の形が動きの機能に関連していることを理解する。
〇音楽にあわせて動ける。
〇音楽を感じ、レッスンの「動き」から作品としての表現へのつながりも考察する。

事前・事後学習の内容:

☆バレエ用語が多く出てくるのでその都度説明をするが、用語の予備知識があるとよい。
プリエ、タンジュ、ジュッテ ポジション などが言葉と動きと連動しておくとわかりやすい。

Youtube
Insight: Ballet Glossary(Royal Opera House) パ(ステップ)ごとに紹介されています。
https://www.youtube.com/watch?v=zQl78gCPHxs&list=PL7E40E6E2DAB561B5

・バレエの理解を深めるためにも、バレエだけでなく、自身の経験してきた舞踊も含め、広く様々な種類の舞踊に触れるのもよい。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

授業の目標 概要及び進め方 姿勢と腕と脚のポジション

◎目標(できるようになりたいこと)
◎受講についての注意事項・進め方
◎レッスンの構成、バレエの技法上での原則と姿勢、ポジションと8つの方向
基本姿勢、バーレッスンの立ち位置、ポジションで立つためのアンデオール（外旋）、脚と腕のポジション 実践を含む。(動いたり座ったりするのでスカートでない方が好ましい)

姿勢と脚と腕のポジション （1stと2ndのポジションを中心に）

・フロアでのストレッチ(ポイント、ドゥミ・ポイントの足の使い方)・前回の復習-基本姿勢、バーレッスンの立ち位置、バーの持ち方、ポジションで立つためのアンデオール（外旋）、脚と腕のポジション
・バーレッスン （両手バーを中心に） [プリエ、ライズ タンジュ、 ア・テール（足裏が踵まで床についた状態）] ・センターレッスン [バーレッスンの復習 両足着地のジャンプ、レベランス(おじぎ)]

姿勢と脚と腕のポジション （1stから5thのポジションへ 脚と腕のポジションとの連動 ポーズへ）

・フロアでのストレッチ(5thのために 腕の位置や姿勢の確認)・バーレッスン （両手バーを中心に） [プリエ タンジュ/ジュテ(特に遊脚の入替え（横）) スシュ]
・センターレッスン [バーレッスンの復讐、両足着地のジャンプ]

2nd/4thポジションから前後左右の移動へ（重心移動とつなぎのパへの準備）

・フロアを使ったストレッチ （動きと呼吸)・バーレッスン [両手バー～片手バーへ 2ndを使った左右の移動 4thを使った前後の移動 タン・リエ シャセ トンベ]
・センターレッスン [バーの復習 フロアを移動するステップ （トンベ シャセ タン・リエ の応用）]

両脚立位から片脚軸へ（クペ　ルティレ　パッセ）

・フロアを使ったストレッチとトレーニング(片足軸への準備)・バーレッスン ［ 5thから片脚軸でのバランス、脚の低い位置でのアダージオ(ゆっくりな動き)］
・センターレッスン ［バーの復習］ 視線/スポット

8つ方向/(身体の方向と移動する方向) クロワゼ　エファッセ　エカルテ

〇前後左右に加えて斜めの方向へ
・方向を意識したフロアストレッチ
・方向を変える時のためのスポット(視点)、ピボット(足の踏み方)

・バーレッスン　［プリエ　タンジュ/ジュテ(身体の方向を変える) ロンド・ジャンブ・アテール］
・センターレッスン[フロアでの方向変化 方向を変えるジャンプ ］
・回転のためのヒント

回転1(方向変化の応用としての両脚の回転　トゥルネ　ストニュー・アンデダン ）

・クロワゼ／エファッセ　8つの方向の復習
・バーレッスン[プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　バーを使った回転の練習 ］
・センターレッスン[バーの復習　センターでの回転　ピルエット　回転のためのスポット]

回転2(ピルエット　アンデダン/内回り)

・ルルベアップ　ルティレ／パッセのフロアでの練習・バーレッスン[プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　ルティレ／パッセ　バーを使ってのピルエットの練習]・センターレッスン[ピルエット]

回転3 (ピルエット　アンデダン/内回り) 連続し移動する回転1(シェネ)　ジャンプ1 (アサンブレ　グリサ

・バー・センターレッスンについては前回同様のものにアダージオを加える。
・両足踏切から両脚着地のジャンプ
・移動して連続する回転の基礎練習(スポットと体の方向)

回転4(アンデオール/外回り) 連続し移動する回転2(ストニュー　ピケ・トゥール・アンデダン)　ジャンプ2

・ピルエット　アンデオール・両足踏切から両脚着地と両脚着地のジャンプ　・バーレッスン[プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　バーを使ってのジャンプや回転の練習]・センターレッスン[バーレッスンの応用]

ジャンプ3(シソンヌ)　つなぎのパ (トンベ・パ・ド・ブレ　ピケ・パ・ド・ブレ　ワルツ、バランセ)

・バーレッスン[プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　バーを使ってのつなぎパの脚の運びの練習]
・センターレッスン　つなぎのパ、回転、ジャンプの復習

ジャンプ4 (移動する大きなジャンプ　グラン・ジュテ)

・バーレッスン　［プリエ　タンジュ/ジュテ　ロンド・ジャンブ・アテール　課題に向けてフレーズをつなげながら練習]・センターレッスン ［つなぎのパを助走とした移動する大きな片脚着地のジャンプ]
・課題曲の振りつけ

課題曲の練習

・バーレッスン、・課題曲の振りと注意点
・自身の動きを動画を撮り確認

発表とまとめ

・バーレッスン、・グループ練習、取出し練習　課題曲の発表
・14回を通して実践できるようになったこと、努力したこと等をまとめる。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 教科書は特になし

〇用意するもの
・動きやすい服装。普段着のスカートは不可。レッスン用のオーバースカートはOK
・バレエシューズ(底のやわらかいかかとのないもの)あるいは厚手の靴下(スポーツソックスやスクールソックスのようにフィットし、脱げにくいもの)。
・髪の長い人(肩よりも長い場合)は必ず束ねる。

参考文献:
三浦雅士著　新書館 「バレエ入門」
M・Fクリストウ著　白水社 「バレエの歴史」
N・ザハーロワ著　かるさびな出版 「クラシック・バレエの基礎　ワガノワ・バレエ学校のプログラム」
ジョーン・ローソン著　森下はるみ訳 「ヤングダンサー指導のためのバレエの基本レッスン」
ヴィヴィアナ・デュランテ　河出書房新社 「バレエ大図鑑」
島田智史　東洋出版 「バレエ筋肉ハンドブック」「バレエ整体ハンドブック」「バーレッスンハンドブック」
芳賀直子　世界文化社 「ビジュアル版バレエ・ヒストリー　バレエ誕生からバレエ・リュスまで」
海野敏　中公新書 「バレエの世界史」
廣瀬健士　Ballet College

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 45　動きを覚えて踊れたか。
授業で行った動きを組み合わせるので、基本の部分(ポジションや方向)がおさえられているか。
音楽に合わせて動き、動きに曲調を含めることができたか。

平常点評価:	45	・実技なので、出席や授業参加態度を重視。課題曲の練習時の貢献度も加味。 ・毎回のテーマを理解しようとしたか。 ・踊ることが楽しめたか。
その他:	10	取り組みの誠実さや熱心さ

備考・関連URL: 身に着けるものについては自己負担

関連URL:
バレエ総合サイト「カーテンライン」
http://www.flamencoole.com/ballet/
バレエ書籍テータベース
http://j-ballet.info/tosyokan/db/2000.html
「日本バレエ協会 HP 」バレエ検定
http://www.j-b-a.or.jp/
「チャコット ダンスキューブ」
http://www.chacott-jp.com/magazine/

その他 舞台やDVD、動画(バレエ団の上演作品)を鑑賞するのを勧める。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040031|03|9S07040031[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バレーボール 基礎 03		
担 当 教 員	藤生 栄一郎		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

バレーボールは中学校・高等学校の体育授業で実施されることの多い種目ですが、その技能的特性（＝飛んでくるボールをボレーで打ち返すことによってゲームが成り立つこと）から、「誰にでも簡単に楽しめる種目」だとも言えない状況があります。
一方、その難しい技能を駆使して行われるゲームには、「チーム内メンバーによる協力、協働」といった要素が重要となり、まさに「チームワーク」が求められるがゆえに、チーム力を最大に発揮して獲得したポイントに対する興奮は抑えがたいものとなるとも言えます。
本授業では、このようなバレーボールの「構造的な特性」を踏まえ、個々の技能を獲得・上達させるとともに、チームとしての戦術の構築、バレーボール全体に関する知識の向上を目指し、これまでバレーボールを不得意とすら感じていた学生にも、その面白さを実感してもらい、生涯スポーツの一つとして、「するスポーツ」として、また「見るスポーツ」「分析するスポーツ」「支えるスポーツ」として位置付けてもらえることを大きな目標としたいと考えています。
なお、授業は構成メンバー全員で、各チームとも男女、経験者・未経験者を混在させたチーム編成によってゲームを進め、その過程ではコミュニケーションの充実も重要な目標になると考えます。
＜認知学習として理解してもらいたい内容（解説する内容）＞
・「バレーボールの歴史と発展」「ゲーム構造の理解」「ルールの理解」「試合におけるシステムやフォーメーション」に関する内容
・これまで通常の実技授業（高校まで）で見られた内容 -特に初心者が間違えやすい、あるいは試合において混乱が見られた内容-

授業の到達目標:

・バレーボールの基本的な技能習得から始め、より高度な技能の獲得を目指す。
・バレーボールのゲーム構造を理解し、チームとしてゲームを楽しむことができるようになる。
・ゲーム構造、技能構造、戦術を理解し、自分たちでゲームを楽しめるようになると同時に、高度な水準のバレーボールゲームをも楽しむことのできるようになることで、生涯にわたり「するスポーツ」「見るスポーツ」「分析するスポーツ」「支えるスポーツ」としてバレーボールと関わることのできる知識や技能を身に着ける。
・授業内メンバー同士でのコミュニケーションを充実させ、それを楽しみながら、チームスポーツとしての技能上達を目指す。

事前・事後学習の内容:

特にありませんが、頻繁に欠席したり、授業を途中で放棄しないようにして下さい。（チームスポーツです。）

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション及び身体慣らしのための運動
授業内容:授業のすすめ方、留意事項の伝達、日程の確認、身体慣らしの運動（基礎的なバレーボール技能の練習を含む）を行う。

第2回 基本的技能の習得（1）
授業内容:バレーボールの基本的な技能の練習および
初歩的なルールを確認するゲームを行う。

第3回 基本的技能の習得（2）
授業内容:ゲーム構造の理解と、得点・失点を意識したゲームを行う。

第4回 攻防の技術とその応用
授業内容:攻防に焦点を当てた練習とゲームを行う。

第5回 戦術（1）フォーメーションとは何か？
授業内容:セッター役とフォーメーションづくりを意識したゲームを行う。

第6回 戦術（2）守備範囲とは何か？
授業内容:個人の守備範囲とチームの守備範囲。サーブレシーブからの攻防を意識したゲームを行う。

第7回 戦術（3）トータルディフェンスとは何か？
授業内容:ゲームの中で、相手の攻撃を守り、攻め返す。戦術を意識したゲームを行う。

第8回　戦術（4）戦術とは何か？
授業内容：チームとしてそれぞれに戦術を考え、それを意識したゲームを行う。
第9回　リーグ戦（1）戦術とチーム内コミュニケーションの重視
授業内容：相手の戦術等に対応した戦術を駆使したゲームを行う。
第10回　リーグ戦（2）「チーム力　対　チーム力」で重要なことは？
授業内容：より精錬された技術を駆使して、相手に勝つための戦術を意識してゲームを行う。
第11回　リーグ戦（3）ポジションの役割、ポジションチェンジ
授業内容：それぞれが役割として担うポジションを意識し、またそれらを機能的にする方法としてのポジションチェンジを理解する。
第12回　リーグ戦（4）勝つためにチームとして考えるべきこと。
授業内容：リーグ戦も後半となり、お互いの技能戦術を理解しながら、より綿密な作戦などを駆使して勝敗にこだわりながら楽しむ。
第13回　リーグ戦（5）勝つこと、負けること、大切なこと。
授業内容：勝つチームがあれば負けるチームもある。そこで大切なことは何か？
第14回　リーグ戦（6）リーグ戦を通して学んだこと
授業内容：これまでのリーグ戦を通して、理解した戦術や技術に磨きをかけ、より高度な試合を目指す。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特にありません

参考文献：　特にありません

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	0	定期試験や実技試験などは実施しない。
レポート：	10	授業中に簡単なレポート（アンケート）を実施する。
平常点評価：	70	実技科目であるため、授業に出席しての活動が、評価の大前提となる。
その他：	20	特にチームスポーツであることから、仲間との協力、協働は重視される。 社会性、協調性を発揮することも評価の対象となることを意識してほしい。

備考・関連URL：　基本的に、「チームスポーツ」であることと、何回か「チームを固定して」授業を進めていくことから、頻繁に欠席したり、授業を途中で放棄しない様にしてください。
（希望者多数のため、受講者の決定が抽選になっていることも考えて下さい。）
バレーボール実技を行うにあたって、適していると考えられる服装（Tシャツ・トレーニングウェア、等）とシューズ（体育館履き）を準備して受講して下さい。
なお、第一回目の授業より体を動かすので、運動ができる服装で集合して下さい。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040031|04|9S07040031[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バレーボール 基礎 04		
担 当 教 員	藤生 栄一郎		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: バレーボールは中学校・高等学校の体育授業で実施されることの多い種目ですが、その技能的特性（＝飛んでくるボールをボレーで打ち返すことによってゲームが成り立つこと）から、「誰にでも簡単に楽しめる種目」だとも言えない状況があります。
一方、その難しい技能を駆使して行われるゲームには、「チーム内メンバーによる協力、協働」といった要素が重要となり、まさに「チームワーク」が求められるがゆえに、チーム力を最大に発揮して獲得したポイントに対する興奮は抑えがたいものとなるとも言えます。
本授業では、このようなバレーボールの「構造的な特性」を踏まえ、個々の技能を獲得・上達させるとともに、チームとしての戦術の構築、バレーボール全体に関する知識の向上を目指し、これまでバレーボールを不得意とすら感じていた学生にも、その面白さを実感してもらい、生涯スポーツの一つとして、「するスポーツ」として、また「見るスポーツ」「分析するスポーツ」「支えるスポーツ」として位置付けてもらえることを大きな目標としたいと考えています。
なお、授業は構成メンバー全員で、各チームとも男女、経験者・未経験者を混在させたチーム編成によってゲームを進め、その過程ではコミュニケーションの充実も重要な目標になると考えます。
＜認知学習として理解してもらいたい内容（解説する内容）＞
・「バレーボールの歴史と発展」「ゲーム構造の理解」「ルールの理解」「試合におけるシステムやフォーメーション」に関する内容
・これまで通常の実技授業（高校まで）で見られた内容 -特に初心者が間違えやすい、あるいは試合において混乱が見られた内容-

授業の到達目標: ・バレーボールの基本的な技能習得から始め、より高度な技能の獲得を目指す。
・バレーボールのゲーム構造を理解し、チームとしてゲームを楽しむことができるようになる。
・ゲーム構造、技能構造、戦術を理解し、自分たちでゲームを楽しめるようになると同時に、高度な水準のバレーボールゲームをも楽しむことのできるようになることで、生涯にわたり「するスポーツ」「見るスポーツ」「分析するスポーツ」「支えるスポーツ」としてバレーボールと関わることのできる知識や技能を身に着ける。
・授業内メンバー同士でのコミュニケーションを充実させ、それを楽しみながら、チームスポーツとしての技能上達を目指す。

事前・事後学習の内容: 特にありませんが、頻繁に欠席したり、授業を途中で放棄しないようにして下さい。（チームスポーツです。）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション及び身体慣らしのための運動
授業内容：授業のすすめ方、留意事項の伝達、日程の確認、身体慣らしの運動（基礎的なバレーボール技能の練習を含む）を行う。

第2回 基本的技能の習得（1）
授業内容：バレーボールの基本的な技能の練習および
初歩的なルールを確認するゲームを行う。

第3回 基本的技能の習得（2）
授業内容：ゲーム構造の理解と、得点・失点を意識したゲームを行う。

第4回 攻防の技術とその応用
授業内容：攻防に焦点を当てた練習とゲームを行う。

第5回 戦術（1）フォーメーションとは何か？
授業内容：セッター役とフォーメーションづくりを意識したゲームを行う。

第6回 戦術（2）守備範囲とは何か？
授業内容：個人の守備範囲とチームの守備範囲。サーブレシーブからの攻防を意識したゲームを行う。

第7回 戦術（3）トータルディフェンスとは何か？
授業内容：ゲームの中で、相手の攻撃を守り、攻め返す。戦術を意識したゲームを行う。

第8回　戦術（4）戦術とは何か？
授業内容：チームとしてそれぞれに戦術を考え、それを意識したゲームを行う。
第9回　リーグ戦（1）戦術とチーム内コミュニケーションの重視
授業内容：相手の戦術等に対応した戦術を駆使したゲームを行う。
第10回　リーグ戦（2）「チーム力　対　チーム力」で重要なことは？
授業内容：より精錬された技術を駆使して、相手に勝つための戦術を意識してゲームを行う。
第11回　リーグ戦（3）ポジションの役割、ポジションチェンジ
授業内容：それぞれが役割として担うポジションを意識し、またそれらを機能的にする方法としてのポジションチェンジを理解する。
第12回　リーグ戦（4）勝つためにチームとして考えるべきこと。
授業内容：リーグ戦も後半となり、お互いの技能戦術を理解しながら、より綿密な作戦などを駆使して勝敗にこだわりながら楽しむ。
第13回　リーグ戦（5）勝つこと、負けること、大切なこと。
授業内容：勝つチームがあれば負けるチームもある。そこで大切なことは何か？
第14回　リーグ戦（6）リーグ戦を通して学んだこと
授業内容：これまでのリーグ戦を通して、理解した戦術や技術に磨きをかけ、より高度な試合を目指す。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特にありません

参考文献：　特にありません

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	0	定期試験や実技試験などは実施しない。
レポート：	10	授業中に簡単なレポート（アンケート）を実施する。
平常点評価：	70	実技科目であるため、授業に出席しての活動が、評価の大前提となる。
その他：	20	特にチームスポーツであることから、仲間との協力、協働は重視される。 社会性、協調性を発揮することも評価の対象となることを意識してほしい。

備考・関連URL：　基本的に、「チームスポーツ」であることと、何回か「チームを固定して」授業を進めていくことから、頻繁に欠席したり、授業を途中で放棄しない様にしてください。
（希望者多数のため、受講者の決定が抽選になっていることも考えて下さい。）
バレーボール実技を行うにあたって、適していると考えられる服装（Tシャツ・トレーニングウェア、等）とシューズ（体育館履き）を準備して受講して下さい。
なお、第一回目の授業より体を動かすので、運動ができる服装で集合して下さい。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040032|01|9S07040032[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	はじめて学ぶハンドボール　01		
担 当 教 員	岩本　岳		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　～走跳投、すべての要素を含んだハンドボールを学びながら健康保持増進を！～

授業概要:　ハンドボールは走る、跳ぶ、投げるといった基本的運動能力をバランス良く採り入れたスポーツとして大きく発展してきた。人間の最も器用な手を使い、ボールを扱うため、より容易に、より正確に、よりテクニカルに、よりダイナミックに、誰にでも踏み込むことのできるスポーツ分野である。授業においてはハンドボールを初めての者でも「楽しく」「自ら主体的に」行えるように、ウォーミングアップからボールゲームを取り入れ展開していく。導入段階では専門的なルールには拘らず、ハンドボールという競技を通して体を動かす喜びを実感、体感でき、そしてゲームを通じて、仲間と協力して得点する防御する喜び、そして心地よい汗を流した後の爽快感を充分体験してほしい。
また、学生諸君の健康の保持・増進の一助となり、生涯スポーツ、将来のスポーツライフを考えるベースとなることを期待している。
同時に部活動等で経験してきた者は、さらなるスキルアップをするための個々の指導も行う。
※本講義は基本的に対面で行うが、オンデマンドにて実施することもある。オンデマンド授業においては、ハンドボールの魅力(歴史・競技の特性・世界のハンドボール等)を様々な視点から学び、理解することを目指してほしい。

授業の到達目標:　ボールに親しみ、走跳投の特性を理解する。パス・キャッチ、ジャンプシュートを身につけ、チームの一員として、ゲームを楽しむことができる。
ハンドボールの魅力を様々な視点から理解する。

事前・事後学習の内容:　毎回の授業で行ったことを確認し、イメージして次の授業にのぞむ（各自実技の復習等は必要ありません）

授業計画フリー入力サイン:　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回／ボールに親しむ
用具の準備、評価基準等の説明
ボールに親しむ。いろいろなボールゲーム。
基本的パス　ボールコントロール1とステップワーク1

第2回／ボールに親しむ②
ボールに親しむ。いろいろなボールゲーム
基本的パス　ボールコントロール1とステップワーク1
基本的シュート1

第3回／オフェンス基本スキル①
ボールゲーム

ボールコントロール
ステップ・ジャンプシュート1
簡易ゲーム

第4回／オフェンス基本スキル②
各ポジションシュート
簡易ゲーム
ゲーム

第5回／基本スキル復習　応用スキル
各シュート・オフェンス1対1・2対2の応用ステップ
簡易ゲーム
ゲーム

第6回／基本スキル復習　応用スキル②
各シュート・オフェンス1対1・2対2の応用ステップ
3対3・4対4
簡易ゲーム
ゲーム

第7回／基本スキルの復習　ポストプレイの基本スキル
ポストの基本的な考え方と動き
セットオフェンスゲーム
ゲーム

第8回／基本スキルの復習　ポストプレイの基本スキル②
ポストの応用スキル
セットオフェンスゲーム
ゲーム

第9回／ディフェンスの基本スキルと基本戦術
基本ステップワーク
1対1の考え方
2対2のディフェンススキル
セットディフェンスゲーム
ゲーム

第10回／速攻における基本戦術
1対1、2対2での速攻戦術
ミニゲーム
ゲーム

第11回／速攻における基本戦術②
3対3、4対4での速攻戦術
ゲーム

第12回／速攻における応用戦術
4対4、5対5での速攻戦術
ゲーム

第13回／速攻における応用戦術②
4対4、5対5、6対6での速攻戦術
ゲーム

第14回／総合実技実習①
ゲームにおける総合実技実習

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: なし

参考文献: なし

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 20　授業最後の2時間のゲームを対象に、オフェンス10点満点・デフェンス10点満点で授業内容の理解度を評価をする。

平常点評価: 80　授業概要で申し述べたように授業に参加して汗をかくのが大きな目的の一つであるので、出席し、参加することが何より重要である。

備考・関連URL: 基本的にはすべて対面による実技を行いますが、オンライン授業（オンデマンド動画）になった場合も充実した内容の授業を展開します。

東伏見キャンパスへのアクセス
http://www.waseda.jp/gec/wp-content/uploads/2014/02/sports02.pdf

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040032|02|9S07040032[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	はじめて学ぶハンドボール　02		
担 当 教 員	岩本　岳		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　～走跳投、すべての要素を含んだハンドボールを学びながら健康保持増進を！～

授業概要：　ハンドボールは走る、跳ぶ、投げるといった基本的運動能力をバランス良く採り入れたスポーツとして大きく発展してきた。人間の最も器用な手を使い、ボールを扱うため、より容易に、より正確に、よりテクニカルに、よりダイナミックに、誰にでも踏み込むことのできるスポーツ分野である。授業においてはハンドボールを初めての者でも「楽しく」「自ら主体的に」行えるように、ウォーミングアップからボールゲームを取り入れ展開していく。導入段階では専門的なルールには拘らず、ハンドボールという競技を通して体を動かす喜びを実感、体感でき、そしてゲームを通じて、仲間と協力して得点する防御する喜び、そして心地よい汗を流した後の爽快感を充分体験してほしい。
また、学生諸君の健康の保持・増進の一助となり、生涯スポーツ、将来のスポーツライフを考えるベースとなることを期待している。
同時に部活動等で経験してきた者は、さらなるスキルアップをするための個々の指導も行う。
※本講義は基本的に対面で行うが、オンデマンドにて実施することもある。オンデマンド授業においては、ハンドボールの魅力(歴史・競技の特性・世界のハンドボール等)を様々な視点から学び、理解することを目指してほしい。

授業の到達目標：　ボールに親しみ、走跳投の特性を理解する。パス・キャッチ、ジャンプシュートを身につけ、チームの一員として、ゲームを楽しむことができる。
ハンドボールの魅力を様々な視点から理解する。

事前・事後学習の内容：　毎回の授業で行ったことを確認し、イメージして次の授業にのぞむ（各自実技の復習等は必要ありません）

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回／ボールに親しむ
用具の準備、評価基準等の説明
ボールに親しむ。いろいろなボールゲーム。
基本的パス　ボールコントロール1とステップワーク1

第2回／ボールに親しむ②
ボールに親しむ。いろいろなボールゲーム
基本的パス　ボールコントロール1とステップワーク1
基本的シュート1

第3回／オフェンス基本スキル①
ボールゲーム

ボールコントロール
ステップ・ジャンプシュート1
簡易ゲーム

第4回／オフェンス基本スキル②
各ポジションシュート
簡易ゲーム
ゲーム

第5回／基本スキル復習　応用スキル
各シュート・オフェンス1対1・2対2の応用ステップ
簡易ゲーム
ゲーム

第6回／基本スキル復習　応用スキル②
各シュート・オフェンス1対1・2対2の応用ステップ
3対3・4対4
簡易ゲーム
ゲーム

第7回／基本スキルの復習　ポストプレイの基本スキル
ポストの基本的な考え方と動き
セットオフェンスゲーム
ゲーム

第8回／基本スキルの復習　ポストプレイの基本スキル②
ポストの応用スキル
セットオフェンスゲーム
ゲーム

第9回／ディフェンスの基本スキルと基本戦術
基本ステップワーク
1対1の考え方
2対2のディフェンススキル
セットディフェンスゲーム
ゲーム

第10回／速攻における基本戦術
1対1、2対2での速攻戦術
ミニゲーム
ゲーム

第11回／速攻における基本戦術②
3対3、4対4での速攻戦術
ゲーム

第12回／速攻における応用戦術
4対4、5対5での速攻戦術
ゲーム

第13回／速攻における応用戦術②
4対4、5対5、6対6での速攻戦術
ゲーム

第14回／総合実技実習①
ゲームにおける総合実技実習

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: なし

参考文献: なし

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 20　授業最後の2時間のゲームを対象に、オフェンス10点満点・デフェンス10点満点で授業内容の理解度を評価をする。

平常点評価: 80　授業概要で申し述べたように授業に参加して汗をかくのが大きな目的の一つであるので、出席し、参加することが何より重要である。

備考・関連URL: 基本的にはすべて対面による実技を行いますが、オンライン授業（オンデマンド動画）になった場合も充実した内容の授業を展開します。

東伏見キャンパスへのアクセス
http://www.waseda.jp/gec/wp-content/uploads/2014/02/sports02.pdf

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040033|01|9S07040033[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ピラーティス　基礎　01		
担 当 教 員	杉本　亮子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　本授業は、原則対面授業で行う。
本授業では、呼吸法を活用し、自分の身体各部の動き、体重の乗せ方、重心移動の仕方をイメージしながら、身体のもつ「感じる能力」を向上することを目指す。このイメージの補助として、プリントや模型を通して解剖学の知見を用いる。イメージを元に動かしたときの感触・感覚とイメージとが結びつくようになると姿勢や動作のコントロールが可能となり、特定の動作において自分の身体のどこを使い、どこを使うことが出来ていないのかが確認できる。従ってその使うことの出来ていない部分をいかに活性化させるかを自ら試みることが可能となり、当該種目におけるパフォーマンスの向上に貢献、或いは日常生活においては、動作の際に特定の部位のみならず体幹部も連動するようになるため、動作が活発化すると共に、全身のシルエットに変化が生じる。

授業の到達目標：
・自己の身体のイメージと感触・感覚の統合
・柔軟性の向上、姿勢、動作の改善、痛みや違和感の軽減
・体幹トレーニングを理解し、安全に効率良く行うことができるようになること

事前・事後学習の内容：　Waseda Moodleに掲載される動画URLを利用して、日々のコンディショニングを継続する。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　オリエンテーション
ピラーティスの解説、自身のからだチェック（要更衣）

第2回　3つの呼吸法とジグリング
腹式呼吸・胸式呼吸・インプリンティングの練習と柔軟性を上げるための体のほぐし方の練習

第3回　身体の縦の硬さをとろう
前回の呼吸の確認、毎回行う「準備運動」のエクササイズと体幹、下肢の縦のラインの硬さをとるエクササイズの実践

第4回　身体の歪みを戻そう
体幹の回旋運動と、初回行ったからだチェックより自分の歪みに合わせた調整を行う

第5回　肩甲骨をしっかり動かそう
前回の体の歪み戻しの動きの確認と肩甲骨を動かすエクササイズの実践

第6回　インプリンティングで体幹を鍛えよう①
下腹部を引き込み（インプリンティング）で反り腰の緩和＆下腹部筋強化エクササイズの実践

第7回　インプリンティングで体幹を鍛えよう②
下腹部を引き込み（インプリンティング）で反り腰の緩和＆下腹部筋強化エクササイズの確認

第8回　インプリンティングで体幹を鍛えよう③
一連の動きにおける体幹の各部位の動きと下腹部の引き込みのタイミングの練習

第9回　ニュートラルで体幹を整えよう①
前回のインプリンティング系のエクササイズの確認と体幹部をまっすぐに保つ（ニュートラル）の姿勢の作り方と呼吸の練習

第10回　ニュートラルで体幹を整えよう②
体幹をニュートラルに保ちながら下肢を動かすエクササイズの実践　ワークシート記入

第11回　ニュートラルで体幹を整えよう③
体幹をニュートラルに保ちながら上肢を動かすエクササイズの実践

第12回　ニュートラルで体幹を整えよう④
上肢、下肢でニュートラルに保った体幹を支えるエクササイズの実践　ワークシート記入

第13回　ニュートラルで体幹を整えよう⑤
両腕、片腕で体幹を支えるタイプの体幹トレーニングエクササイズのコツを理解して実践する
第14回　緩めて、歪み戻しをして、整えて、鍛える
すべてのエクササイズの総まとめ、自身のからだチェック

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 随時プリントを配布（Moodleにて掲載予定）

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 50　ワークシートにより、自己の身体に対する自覚的・能動的な意識、授業理解度を評価する。

その他: 50　対面授業での出席点。毎回のエクササイズの効果を体感するためには、出席することが重要。
遅刻した場合は、必ず当日授業の終わりに申告をすること。当日授業時間内以外での変更は不可。

備考・関連URL: 授業で使用する資料、授業における伝達事項等は、WasedaMoodleに掲載する。
遅刻した場合は、必ず当日授業の終わりに申告をすること。当日授業時間内以外での変更は不可。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040033|02|9S07040033[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ピラーティス　基礎　02		
担 当 教 員	杉本　亮子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　本授業は、原則対面授業で行う。
本授業では、呼吸法を活用し、自分の身体各部の動き、体重の乗せ方、重心移動の仕方をイメージしながら、身体のもつ「感じる能力」を向上することを目指す。このイメージの補助として、プリントや模型を通して解剖学の知見を用いる。イメージを元に動かしたときの感触・感覚とイメージとが結びつくようになると姿勢や動作のコントロールが可能となり、特定の動作において自分の身体のどこを使い、どこを使うことが出来ていないのかが確認できる。従ってその使うことの出来ていない部分をいかに活性化させるかを自ら試みることが可能となり、当該種目におけるパフォーマンスの向上に貢献、或いは日常生活においては、動作の際に特定の部位のみならず体幹部も連動するようになるため、動作が活発化すると共に、全身のシルエットに変化が生じる。

授業の到達目標:　・自己の身体のイメージと感触・感覚の統合
・柔軟性の向上、姿勢、動作の改善、痛みや違和感の軽減
・体幹トレーニングを理解し、安全に効率良く行うことができるようになること

事前・事後学習の内容:　Waseda Moodleに掲載される動画URLを利用して、日々のコンディショニングを継続する。

授業計画フリー入力サイン:　0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回　オリエンテーション
ピラーティスの解説、自身のからだチェック（要更衣）

第2回　3つの呼吸法とジグリング
腹式呼吸・胸式呼吸・インプリンティングの練習と柔軟性を上げるための体のほぐし方の練習

第3回　身体の縦の硬さをとろう
前回の呼吸の確認、毎回行う「準備運動」のエクササイズと体幹、下肢の縦のラインの硬さをとるエクササイズの実践

第4回　身体の歪みを戻そう
体幹の回旋運動と、初回行ったからだチェックより自分の歪みに合わせた調整を行う

第5回　肩甲骨をしっかり動かそう
前回の体の歪み戻しの動きの確認と肩甲骨を動かすエクササイズの実践

第6回　インプリンティングで体幹を鍛えよう①
下腹部を引き込み（インプリンティング）で反り腰の緩和＆下腹部筋強化エクササイズの実践

第7回　インプリンティングで体幹を鍛えよう②
下腹部を引き込み（インプリンティング）で反り腰の緩和＆下腹部筋強化エクササイズの確認

第8回　インプリンティングで体幹を鍛えよう③
一連の動きにおける体幹の各部位の動きと下腹部の引き込みのタイミングの練習

第9回　ニュートラルで体幹を整えよう①
前回のインプリンティング系のエクササイズの確認と体幹部をまっすぐに保つ（ニュートラル）の姿勢の作り方と呼吸の練習

第10回　ニュートラルで体幹を整えよう②
体幹をニュートラルに保ちながら下肢を動かすエクササイズの実践　ワークシート記入

第11回　ニュートラルで体幹を整えよう③
体幹をニュートラルに保ちながら上肢を動かすエクササイズの実践

第12回　ニュートラルで体幹を整えよう④
上肢、下肢でニュートラルに保った体幹を支えるエクササイズの実践　ワークシート記入

第13回　ニュートラルで体幹を整えよう⑤
両腕、片腕で体幹を支えるタイプの体幹トレーニングエクササイズのコツを理解して実践する
第14回　緩めて、歪み戻しをして、整えて、鍛える
すべてのエクササイズの総まとめ、自身のからだチェック

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　随時プリントを配布（Moodleにて掲載予定）

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価:　50　ワークシートにより、自己の身体に対する自覚的・能動的な意識、授業理解度を評価する。

その他:　50　対面授業での出席点。毎回のエクササイズの効果を体感するためには、出席することが重要。
遅刻した場合は、必ず当日授業の終わりに申告をすること。当日授業時間内以外での変更は不可。

備考・関連URL:　授業で使用する資料、授業における伝達事項等は、WasedaMoodleに掲載する。
遅刻した場合は、必ず当日授業の終わりに申告をすること。当日授業時間内以外での変更は不可。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040033|03|9S07040033[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ピラーティス　基礎　03		
担 当 教 員	杉本　亮子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　本授業は、原則対面授業で行う。
本授業では、呼吸法を活用し、自分の身体各部の動き、体重の乗せ方、重心移動の仕方をイメージしながら、身体のもつ「感じる能力」を向上することを目指す。このイメージの補助として、プリントや模型を通して解剖学の知見を用いる。イメージを元に動かしたときの感触・感覚とイメージとが結びつくようになると姿勢や動作のコントロールが可能となり、特定の動作において自分の身体のどこを使い、どこを使うことが出来ていないのかが確認できる。従ってその使うことの出来ていない部分をいかに活性化させるかを自ら試みることが可能となり、当該種目におけるパフォーマンスの向上に貢献、或いは日常生活においては、動作の際に特定の部位のみならず体幹部も連動するようになるため、動作が活発化すると共に、全身のシルエットに変化が生じる。

授業の到達目標：
・自己の身体のイメージと感触・感覚の統合
・柔軟性の向上、姿勢、動作の改善、痛みや違和感の軽減
・体幹トレーニングを理解し、安全に効率良く行うことができるようになること

事前・事後学習の内容：　Waseda Moodleに掲載される動画URLを利用して、日々のコンディショニングを継続する。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　オリエンテーション
ピラーティスの解説、自身のからだチェック（要更衣）

第2回　3つの呼吸法とジグリング
腹式呼吸・胸式呼吸・インプリンティングの練習と柔軟性を上げるための体のほぐし方の練習

第3回　身体の縦の硬さをとろう
前回の呼吸の確認、毎回行う「準備運動」のエクササイズと体幹、下肢の縦のラインの硬さをとるエクササイズの実践

第4回　身体の歪みを戻そう
体幹の回旋運動と、初回行ったからだチェックより自分の歪みに合わせた調整を行う

第5回　肩甲骨をしっかり動かそう
前回の体の歪み戻しの動きの確認と肩甲骨を動かすエクササイズの実践

第6回　インプリンティングで体幹を鍛えよう①
下腹部を引き込み（インプリンティング）で反り腰の緩和＆下腹部筋強化エクササイズの実践

第7回　インプリンティングで体幹を鍛えよう②
下腹部を引き込み（インプリンティング）で反り腰の緩和＆下腹部筋強化エクササイズの確認

第8回　インプリンティングで体幹を鍛えよう③
一連の動きにおける体幹の各部位の動きと下腹部の引き込みのタイミングの練習

第9回　ニュートラルで体幹を整えよう①
前回のインプリンティング系のエクササイズの確認と体幹部をまっすぐに保つ（ニュートラル）の姿勢の作り方と呼吸の練習

第10回　ニュートラルで体幹を整えよう②
体幹をニュートラルに保ちながら下肢を動かすエクササイズの実践　ワークシート記入

第11回　ニュートラルで体幹を整えよう③
体幹をニュートラルに保ちながら上肢を動かすエクササイズの実践

第12回　ニュートラルで体幹を整えよう④
上肢、下肢でニュートラルに保った体幹を支えるエクササイズの実践　ワークシート記入

第13回　ニュートラルで体幹を整えよう⑤
両腕、片腕で体幹を支えるタイプの体幹トレーニングエクササイズのコツを理解して実践する
第14回　緩めて、歪み戻しをして、整えて、鍛える
すべてのエクササイズの総まとめ、自身のからだチェック

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　随時プリントを配布（Moodleにて掲載予定）

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価:　50　ワークシートにより、自己の身体に対する自覚的・能動的な意識、授業理解度を評価する。

その他:　50　対面授業での出席点。毎回のエクササイズの効果を体感するためには、出席することが重要。
遅刻した場合は、必ず当日授業の終わりに申告をすること。当日授業時間内以外での変更は不可。

備考・関連URL:　授業で使用する資料、授業における伝達事項等は、WasedaMoodleに掲載する。
遅刻した場合は、必ず当日授業の終わりに申告をすること。当日授業時間内以外での変更は不可。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040033|04|9S07040033[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ピラーティス　基礎　04		
担 当 教 員	杉本　亮子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　本授業は、原則対面授業で行う。
本授業では、呼吸法を活用し、自分の身体各部の動き、体重の乗せ方、重心移動の仕方をイメージしながら、身体のもつ「感じる能力」を向上することを目指す。このイメージの補助として、プリントや模型を通して解剖学の知見を用いる。イメージを元に動かしたときの感触・感覚とイメージとが結びつくようになると姿勢や動作のコントロールが可能となり、特定の動作において自分の身体のどこを使い、どこを使うことが出来ていないのかが確認できる。従ってその使うことの出来ていない部分をいかに活性化させるかを自ら試みることが可能となり、当該種目におけるパフォーマンスの向上に貢献、或いは日常生活においては、動作の際に特定の部位のみならず体幹部も連動するようになるため、動作が活発化すると共に、全身のシルエットに変化が生じる。

授業の到達目標：
・自己の身体のイメージと感触・感覚の統合
・柔軟性の向上、姿勢、動作の改善、痛みや違和感の軽減
・体幹トレーニングを理解し、安全に効率良く行うことができるようになること

事前・事後学習の内容：　Waseda Moodleに掲載される動画URLを利用して、日々のコンディショニングを継続する。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　オリエンテーション
ピラーティスの解説、自身のからだチェック（要更衣）

第2回　3つの呼吸法とジグリング
腹式呼吸・胸式呼吸・インプリンティングの練習と柔軟性を上げるための体のほぐし方の練習

第3回　身体の縦の硬さをとろう
前回の呼吸の確認、毎回行う「準備運動」のエクササイズと体幹、下肢の縦のラインの硬さをとるエクササイズの実践

第4回　身体の歪みを戻そう
体幹の回旋運動と、初回行ったからだチェックより自分の歪みに合わせた調整を行う

第5回　肩甲骨をしっかり動かそう
前回の体の歪み戻しの動きの確認と肩甲骨を動かすエクササイズの実践

第6回　インプリンティングで体幹を鍛えよう①
下腹部を引き込み（インプリンティング）で反り腰の緩和＆下腹部筋強化エクササイズの実践

第7回　インプリンティングで体幹を鍛えよう②
下腹部を引き込み（インプリンティング）で反り腰の緩和＆下腹部筋強化エクササイズの確認

第8回　インプリンティングで体幹を鍛えよう③
一連の動きにおける体幹の各部位の動きと下腹部の引き込みのタイミングの練習

第9回　ニュートラルで体幹を整えよう①
前回のインプリンティング系のエクササイズの確認と体幹部をまっすぐに保つ（ニュートラル）の姿勢の作り方と呼吸の練習

第10回　ニュートラルで体幹を整えよう②
体幹をニュートラルに保ちながら下肢を動かすエクササイズの実践　ワークシート記入

第11回　ニュートラルで体幹を整えよう③
体幹をニュートラルに保ちながら上肢を動かすエクササイズの実践

第12回　ニュートラルで体幹を整えよう④
上肢、下肢でニュートラルに保った体幹を支えるエクササイズの実践　ワークシート記入

第13回　ニュートラルで体幹を整えよう⑤
両腕、片腕で体幹を支えるタイプの体幹トレーニングエクササイズのコツを理解して実践する
第14回　緩めて、歪み戻しをして、整えて、鍛える
すべてのエクササイズの総まとめ、自身のからだチェック

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　随時プリントを配布（Moodleにて掲載予定）

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価:　50　ワークシートにより、自己の身体に対する自覚的・能動的な意識、授業理解度を評価する。

その他:　50　対面授業での出席点。毎回のエクササイズの効果を体感するためには、出席することが重要。
遅刻した場合は、必ず当日授業の終わりに申告をすること。当日授業時間内以外での変更は不可。

備考・関連URL:　授業で使用する資料、授業における伝達事項等は、WasedaMoodleに掲載する。
遅刻した場合は、必ず当日授業の終わりに申告をすること。当日授業時間内以外での変更は不可。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040033|05|9S07040033[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ピラーティス 基礎 05		
担 当 教 員	杉本 亮子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

本授業は、原則対面授業で行う。
本授業では、呼吸法を活用し、自分の身体各部の動き、体重の乗せ方、重心移動の仕方をイメージしながら、身体のもつ「感じる能力」を向上することを目指す。このイメージの補助として、プリントや模型を通して解剖学の知見を用いる。イメージを元に動かしたときの感触・感覚とイメージとが結びつくようになると姿勢や動作のコントロールが可能となり、特定の動作において自分の身体のどこを使い、どこを使うことが出来ていないのかが確認できる。従ってその使うことの出来ていない部分をいかに活性化させるかを自ら試みることが可能となり、当該種目におけるパフォーマンスの向上に貢献、或いは日常生活においては、動作の際に特定の部位のみならず体幹部も連動するようになるため、動作が活発化すると共に、全身のシルエットに変化が生じる。

授業の到達目標：

・自己の身体のイメージと感触・感覚の統合
・柔軟性の向上、姿勢、動作の改善、痛みや違和感の軽減
・体幹トレーニングを理解し、安全に効率良く行うことができるようになること

事前・事後学習の内容：

Waseda Moodleに掲載される動画URLを利用して、日々のコンディショニングを継続する。

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーション
ピラーティスの解説、自身のからだチェック（要更衣）

第2回 3つの呼吸法とジグリング
腹式呼吸・胸式呼吸・インプリンティングの練習と柔軟性を上げるための体のほぐし方の練習

第3回 身体の縦の硬さをとろう
前回の呼吸の確認、毎回行う「準備運動」のエクササイズと体幹、下肢の縦のラインの硬さをとるエクササイズの実践

第4回 身体の歪みを戻そう
体幹の回旋運動と、初回行ったからだチェックより自分の歪みに合わせた調整を行う

第5回 肩甲骨をしっかり動かそう
前回の体の歪み戻しの動きの確認と肩甲骨を動かすエクササイズの実践

第6回 インプリンティングで体幹を鍛えよう①
下腹部を引き込み（インプリンティング）で反り腰の緩和＆下腹部筋強化エクササイズの実践

第7回 インプリンティングで体幹を鍛えよう②
下腹部を引き込み（インプリンティング）で反り腰の緩和＆下腹部筋強化エクササイズの確認

第8回 インプリンティングで体幹を鍛えよう③
一連の動きにおける体幹の各部位の動きと下腹部の引き込みのタイミングの練習

第9回 ニュートラルで体幹を整えよう①
前回のインプリンティング系のエクササイズの確認と体幹部をまっすぐに保つ（ニュートラル）の姿勢の作り方と呼吸の練習

第10回 ニュートラルで体幹を整えよう②
体幹をニュートラルに保ちながら下肢を動かすエクササイズの実践 ワークシート記入

第11回 ニュートラルで体幹を整えよう③
体幹をニュートラルに保ちながら上肢を動かすエクササイズの実践

第12回 ニュートラルで体幹を整えよう④
上肢、下肢でニュートラルに保った体幹を支えるエクササイズの実践 ワークシート記入

第13回　ニュートラルで体幹を整えよう⑤
両腕、片腕で体幹を支えるタイプの体幹トレーニングエクササイズのコツを理解して実践する
第14回　緩めて、歪み戻しをして、整えて、鍛える
すべてのエクササイズの総まとめ、自身のからだチェック

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　随時プリントを配布（Moodleにて掲載予定）

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価:　50　ワークシートにより、自己の身体に対する自覚的・能動的な意識、授業理解度を評価する。

その他:　50　対面授業での出席点。毎回のエクササイズの効果を体感するためには、出席することが重要。
遅刻した場合は、必ず当日授業の終わりに申告をすること。当日授業時間内以外での変更は不可。

備考・関連URL:　授業で使用する資料、授業における伝達事項等は、WasedaMoodleに掲載する。
遅刻した場合は、必ず当日授業の終わりに申告をすること。当日授業時間内以外での変更は不可。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040033|06|9S07040033[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ピラーティス　基礎　06		
担 当 教 員	杉本　亮子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　本授業は、原則対面授業で行う。
本授業では、呼吸法を活用し、自分の身体各部の動き、体重の乗せ方、重心移動の仕方をイメージしながら、身体のもつ「感じる能力」を向上することを目指す。このイメージの補助として、プリントや模型を通して解剖学の知見を用いる。イメージを元に動かしたときの感触・感覚とイメージとが結びつくようになると姿勢や動作のコントロールが可能となり、特定の動作において自分の身体のどこを使い、どこを使うことが出来ていないのかが確認できる。従ってその使うことの出来ていない部分をいかに活性化させるかを自ら試みることが可能となり、当該種目におけるパフォーマンスの向上に貢献、或いは日常生活においては、動作の際に特定の部位のみならず体幹部も連動するようになるため、動作が活発化すると共に、全身のシルエットに変化が生じる。

授業の到達目標：・自己の身体のイメージと感触・感覚の統合
・柔軟性の向上、姿勢、動作の改善、痛みや違和感の軽減
・体幹トレーニングを理解し、安全に効率良く行うことができるようになること

事前・事後学習の内容：Waseda Moodleに掲載される動画URLを利用して、日々のコンディショニングを継続する。

授業計画フリー入力サイン：0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　オリエンテーション
ピラーティスの解説、自身のからだチェック（要更衣）

第2回　3つの呼吸法とジグリング
腹式呼吸・胸式呼吸・インプリンティングの練習と柔軟性を上げるための体のほぐし方の練習

第3回　身体の縦の硬さをとろう
前回の呼吸の確認、毎回行う「準備運動」のエクササイズと体幹、下肢の縦のラインの硬さをとるエクササイズの実践

第4回　身体の歪みを戻そう
体幹の回旋運動と、初回行ったからだチェックより自分の歪みに合わせた調整を行う

第5回　肩甲骨をしっかり動かそう
前回の体の歪み戻しの動きの確認と肩甲骨を動かすエクササイズの実践

第6回　インプリンティングで体幹を鍛えよう①
下腹部を引き込み（インプリンティング）で反り腰の緩和＆下腹部筋強化エクササイズの実践

第7回　インプリンティングで体幹を鍛えよう②
下腹部を引き込み（インプリンティング）で反り腰の緩和＆下腹部筋強化エクササイズの確認

第8回　インプリンティングで体幹を鍛えよう③
一連の動きにおける体幹の各部位の動きと下腹部の引き込みのタイミングの練習

第9回　ニュートラルで体幹を整えよう①
前回のインプリンティング系のエクササイズの確認と体幹部をまっすぐに保つ（ニュートラル）の姿勢の作り方と呼吸の練習

第10回　ニュートラルで体幹を整えよう②
体幹をニュートラルに保ちながら下肢を動かすエクササイズの実践　ワークシート記入

第11回　ニュートラルで体幹を整えよう③
体幹をニュートラルに保ちながら上肢を動かすエクササイズの実践

第12回　ニュートラルで体幹を整えよう④
上肢、下肢でニュートラルに保った体幹を支えるエクササイズの実践　ワークシート記入

第13回　ニュートラルで体幹を整えよう⑤
両腕、片腕で体幹を支えるタイプの体幹トレーニングエクササイズのコツを理解して実践する
第14回　緩めて、歪み戻しをして、整えて、鍛える
すべてのエクササイズの総まとめ、自身のからだチェック

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　随時プリントを配布（Moodleにて掲載予定）

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価:　50　ワークシートにより、自己の身体に対する自覚的・能動的な意識、授業理解度を評価する。

その他:　50　対面授業での出席点。毎回のエクササイズの効果を体感するためには、出席することが重要。
遅刻した場合は、必ず当日授業の終わりに申告をすること。当日授業時間内以外での変更は不可。

備考・関連URL:　授業で使用する資料、授業における伝達事項等は、WasedaMoodleに掲載する。
遅刻した場合は、必ず当日授業の終わりに申告をすること。当日授業時間内以外での変更は不可。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040035|01|9S07040035[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	フィットネス　基礎		
担 当 教 員	太田　章		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月５時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ｉ	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　持久力アップ、筋力アップ、柔軟性アップ、脂肪減少の運動を!

授業概要：　本授業は、エアロビックエクササイズ、ジョギング、スキッピングロープなどの「有酸素運動」と、自分の体重あるいはパートナーの体重を利用した「レジスタンストレーニング」、さらに全身のストレッチングを組み合せたいわゆる「フィットネストレーニング」を行い、１、持久力アップ　２、筋力アップ　３、柔軟性向上を目指す。また、レクリエーションとしての簡単なゲームを通じ、「遊び」の中に、様々なトレーニングを組み入れて、集団として、あるいは個人としての「競争」を楽しむ。と以上のことを目標にしている。この授業は特に初心者用に負荷を軽くしている。

授業の到達目標：　持久力アップ、筋力アップ、柔軟性アップ、脂肪減少の運動を理解できる。

事前・事後学習の内容：　各回の予習、復習には約90~120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第１回
オリエンテーション
本年度については,、基本として対面授業で行います。初回から軽い運動を行います。着替えを忘れない事。

第２回
基礎フィットネス、ジョギング、ストレッチ、筋力トレーニング

第３回
基礎フィットネス、縄跳び、手押し車、二人で組んでするトレーニング

第４回
基礎フィットネス、マット運動、ゲーム、部分トレーニング

第５回
基礎フィットネス、エアロビクス、ストレッチ、細くするトレーニング

第６回
基礎フィットネス、ボクササイズ、ストレッチ、部分トレーニング

第７回
基礎フィットネス、キックボクササイズ、ストレッチ、筋トレーニング

第８回
基礎フィットネス、ハイインパクトエアロビクス1

第９回
基礎フィットネス、ハイインパクトエアロビクス2

第１０回
基礎フィットネス、ハイインパクトエアロビクス3

第１１回
基礎フィットネス、ハイインパクトエアロビクス4

第１２回
基礎フィットネス、ハイインパクトエアロビクス5

第１３回
筋力トレーニングゲーム1

第１４回
筋力トレーニングゲーム2、まとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: レスリングマットを使用するのでレスリングシューズ（貸し出しあり）、トレーニングウエア上下。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 （出席：90%、授業態度：10%）出席が最重要！

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040036|01|9S07040036[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	フェンシング（サーブル） 01		
担 当 教 員	出野 晴信		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:土2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: フェンシング競技 種目 サーブル

授業概要: フェンシング競技にはフルーレ、エペ、サーブルの3種目があります。このうち実技では男女ともサーブルを行います。サーブルは中央アジアの騎馬民族が得意とした武術で、ヨーロッパを制覇した際、特にハンガリーの騎兵隊にその技術が受け継がれ発達してきました。この種目の特色は、フルーレ、エペの突き専門と違って、相手を切る（実際には剣先で軽くたたく）動作が主体を成している点です。サーブルの競技独特の攻撃と切り返しによる華麗な剣さばきが楽しめ、授業として行う上でも単調化を避けられます。授業では正しい剣の持ち方、構え方から始まり、基本的な攻撃と防御の動作を覚えます。ある程度進んだら、学生同士の軽い練習試合を行い、それと並行して基本的なルールや試合用語を覚え、男女とも春学期の中盤以後は審査員をつけて5本勝負を行います。基本動作のくり返しと試合の2本立てで少しずつ間口を広げ、奥深い領域に入って行きます。週1回の授業を継続的に行うなら、最終的にはかなりのレベルまで達成できるはずです。ソウルオリンピック、フェンシング日本代表の講師が、過去の経験談も含めながら、初心者の皆さんに分かりやすく授業を行います。

授業の到達目標: フェンシング（サーブル種目）のルールをしっかりと理解し、電気審判器での練習試合が出来るスキルを習得する。

事前・事後学習の内容: 特になし

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション：授業の進め方、用具、評価等の説明
第2回
基本動作I：剣の持ち方、構え（アンガルド）、ステップ、攻撃の動作等の実習
第3回
基本動作II：前週の復習の後、学生同士が2人ずつ組んで向かい合い、攻撃の実習
第4回
基本動作III：ステップ、攻撃動作の復習。防御（パラード）から反撃（リポスト）の実習
第5回
基本動作IV：攻撃（アタック）のバリエーション（フォイントアタック等）
第6回
試合：アソー（学生同士による練習試合。得点のカウントは行わない）
第7回
ルール：フェンシング独特のルール、プレオリティー（攻撃の優先権）についての説明
第8回
マッチ：5本勝負を行う上での必要な試合規則の説明(1)。
第9回
マッチ：5本勝負を行う上での必要な試合規則の説明(2)。
第10回
攻撃、防御動作のバリエーション練習とマッチ(1)
第11回
攻撃、防御動作のバリエーション練習とマッチ(2)
第12回
攻撃のバリエーション：アタック・オ・フェール

第13回
試合：審査員をつけた5本勝負（マッチ）。5-6組（1）
第14回
試合：審査員をつけた5本勝負（マッチ）。5-6組（2）

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 教科書は、ありません。
グローブ、マスク、剣、プロテクターは貸し出します。自分で用意するものはトレーニングウェア、トレーニングシューズ。

成績評価フリー入力サイン： 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 5 授業期間の後半で、電気審判器を使用した試合を行うための用具準備を自身で行えるか、簡単な試験を行います。

平常点評価： 95 出席率と授業態度、授業中に行われる練習試合のスキルを見て評価します。

備考・関連URL： 第1週のオリエンテーションは普段着のまま。ただし筆記用具は持参すること。

関連URL:
日本フェンシング協会 公式サイト
http://www.fencing-jpn.jp
※授業に関係ありませんが、興味のある方は、覗いてみてください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040036|02|9S07040036[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	フェンシング（サーブル） 02		
担 当 教 員	出野 晴信		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:土2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: フェンシング競技 種目 サーブル

授業概要: フェンシング競技にはフルーレ、エペ、サーブルの3種目があります。このうち実技では男女ともサーブルを行います。サーブルは中央アジアの騎馬民族が得意とした武術で、ヨーロッパを制覇した際、特にハンガリーの騎兵隊にその技術が受け継がれ発達してきました。この種目の特色は、フルーレ、エペの突き専門と違って、相手を切る（実際には剣先で軽くたたく）動作が主体を成している点です。サーブルの競技独特の攻撃と切り返しによる華麗な剣さばきが楽しめ、授業として行う上でも単調化を避けられます。授業では正しい剣の持ち方、構え方から始まり、基本的な攻撃と防御の動作を覚えます。ある程度進んだら、学生同士の軽い練習試合を行い、それと並行して基本的なルールや試合用語を覚え、男女とも秋学期の中盤以後は審査員をつけて5本勝負を行います。基本動作のくり返しと試合の2本立てで少しずつ間口を広げ、奥深い領域に入って行きます。週1回の授業を継続的に行うなら、最終的にはかなりのレベルまで達成できるはずです。ソウルオリンピック、フェンシング日本代表の講師が、過去の経験談も含めながら、初心者の皆さんに分かりやすく授業を行います。

授業の到達目標: フェンシング（サーブル種目）のルールをしっかりと理解し、電気審判器での練習試合が出来るスキルを習得する。

事前・事後学習の内容: 特になし

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション：授業の進め方、用具、評価等の説明
第2回
基本動作I：剣の持ち方、構え（アンガルド）、ステップ、攻撃の動作等の実習
第3回
基本動作II：前週の復習の後、学生同士が2人ずつ組んで向かい合い、攻撃の実習
第4回
基本動作III：ステップ、攻撃動作の復習。防御（パラード）から反撃（リポスト）の実習
第5回
基本動作IV：攻撃（アタック）のバリエーション（フォイントアタック等）
第6回
試合：アソー（学生同士による練習試合。得点のカウントは行わない）
第7回
ルール：フェンシング独特のルール、プレオリティー（攻撃の優先権）についての説明
第8回
マッチ：5本勝負を行う上での必要な試合規則の説明(1)。
第9回
マッチ：5本勝負を行う上での必要な試合規則の説明(2)。
第10回
攻撃、防御動作のバリエーション練習とマッチ(1)
第11回
攻撃、防御動作のバリエーション練習とマッチ(2)
第12回
攻撃のバリエーション：アタック・オ・フェール

第13回
試合：審査員をつけた5本勝負（マッチ）。5-6組(1)
第14回
試合：審査員をつけた5本勝負（マッチ）。5-6組(2)

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 教科書は、ありません。
グローブ、マスク、剣、プロテクターは貸し出します。自分で用意するものはトレーニングウェア、トレーニングシューズ。

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 5 授業期間の後半で、電気審判器を使用した試合を行うための用具準備を自身で行えるか、簡単な試験を行います。

平常点評価： 95 出席率と授業態度、授業中に行われる練習試合のスキルを見て評価します。

備考・関連URL： 第1週のオリエンテーションは普段着のまま。ただし筆記用具は持参すること。

関連URL:
日本フェンシング協会 公式サイト
http://www.fencing-jpn.jp
※授業に関係ありませんが、興味のある方は、覗いてみてください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040037|01|9S07040037[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	フェンシング（フルーレ） 01		
担 当 教 員	出野 晴信		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:土3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： フェンシング競技 種目 フルーレ

授業概要： フェンシング競技にはフルーレ、エペ、サーブルの3種目があります。このうち実技では男女ともフルーレを行います。剣術の向上を目的として開発された種目で、3種目の中で最も細かい技術を要求される種目です。日本においては、フルーレをフェンシングの基本とする傾向が強く、選手を育成する際に最初に指導する種目でもあります。パリオリンピックで日本チームが金メダルを獲得したのも、この種目です。
授業では正しい剣の持ち方、構え方から始まり、基本的な攻撃と防御の動作を覚えます。ある程度進んだら、学生同士の軽い練習試合を行い、それと並行して基本的なルールや試合用語を覚え、男女とも春学期の中盤以後は審査員をつけて5本勝負を行います。基本動作のくり返しと試合の2本立てで少しずつ間口を広げ、奥深い領域に入って行きます。最終的にはかなりのレベルまで達成できるはずです。ソウルオリンピック、フェンシング日本代表の講師が、過去の経験談も含めながら、初心者の皆さんに分かりやすく授業を行います。

授業の到達目標： フェンシング（フルーレ種目）のルールをしっかりと理解し、電気審判器での練習試合が出来るスキルを習得する。

事前・事後学習の内容： 特になし

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
オリエンテーション：授業の進め方、用具、評価等の説明
第2回
基本動作I：剣の持ち方、構え（アンガルド）、ステップ、攻撃の動作等の実習
第3回
基本動作II：前週の復習の後、学生同士が2人ずつ組んで向かい合い、攻撃の実習
第4回
基本動作III：ステップ、攻撃動作の復習。防御（パラード）から反撃（リポスト）の実習
第5回
基本動作IV：攻撃（アタック）のバリエーション（フォイントアタック等）
第6回
試合：アソー（学生同士による練習試合。得点のカウントは行わない）
第7回
ルール：フェンシング独特のルール、プレオリティー（攻撃の優先権）についての説明
第8回
マッチ：5本勝負を行う上での必要な試合規則の説明(1)。
第9回
マッチ：5本勝負を行う上での必要な試合規則の説明(2)。
第10回
攻撃、防御動作のバリエーション練習とマッチ(1)
第11回
攻撃、防御動作のバリエーション練習とマッチ(2)
第12回
攻撃のバリエーション：アタック・オ・フェール
第13回
試合：審査員をつけた5本勝負（マッチ）。5-6組(1)

第１４回
試合：審査員をつけた5本勝負（マッチ）。5−6組(2)

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は、ありません。グローブ、マスク、剣、プロテクターは貸し出します。自分で用意するものはトレーニングウェア、トレーニングシューズ。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　5　授業期間の後半で、電気審判器を使用した試合を行うための用具準備を自身で行えるか、簡単な試験を行います。

平常点評価：　95　出席率と授業態度、授業中に行われる練習試合のスキルを見て評価します。

備考・関連URL：　第１週のオリエンテーションは普段着のまま。ただし筆記用具は持参すること。

関連URL:
日本フェンシング協会 公式サイト
http://www.fencing-jpn.jp
※授業に関係ありませんが、興味のある方は、覗いてみてください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040037|02|9S07040037[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	フェンシング（フルーレ） 02		
担 当 教 員	出野 晴信		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:土3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： フェンシング競技 種目 フルーレ

授業概要： フェンシング競技にはフルーレ、エペ、サーブルの3種目があります。このうち実技では男女ともフルーレを行います。剣術の向上を目的として開発された種目で、3種目の中で最も細かい技術を要求される種目です。日本においては、フルーレをフェンシングの基本とする傾向が強く、選手を育成する際に最初に指導する種目でもあります。パリオリンピックで日本チームが金メダルを獲得したのも、この種目です。
授業では正しい剣の持ち方、構え方から始まり、基本的な攻撃と防御の動作を覚えます。ある程度進んだら、学生同士の軽い練習試合を行い、それと並行して基本的なルールや試合用語を覚え、男女とも秋学期の中盤以後は審査員をつけて5本勝負を行います。基本動作のくり返しと試合の2本立てで少しずつ間口を広げ、奥深い領域に入って行きます。最終的にはかなりのレベルまで達成できるはずです。ソウルオリンピック、フェンシング日本代表の講師が、過去の経験談も含めながら、初心者の皆さんに分かりやすく授業を行います。

授業の到達目標： フェンシング（フルーレ種目）のルールをしっかりと理解し、電気審判器での練習試合が出来るスキルを習得する。

事前・事後学習の内容： 特になし

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
オリエンテーション：授業の進め方、用具、評価等の説明
第2回
基本動作I：剣の持ち方、構え（アンガルド）、ステップ、攻撃の動作等の実習
第3回
基本動作II：前週の復習の後、学生同士が2人ずつ組んで向かい合い、攻撃の実習
第4回
基本動作III：ステップ、攻撃動作の復習。防御（パラード）から反撃（リポスト）の実習
第5回
基本動作IV：攻撃（アタック）のバリエーション（フォイントアタック等）
第6回
試合：アソー（学生同士による練習試合。得点のカウントは行わない）
第7回
ルール：フェンシング独特のルール、プレオリティー（攻撃の優先権）についての説明
第8回
マッチ：5本勝負を行う上での必要な試合規則の説明(1)。
第9回
マッチ：5本勝負を行う上での必要な試合規則の説明(2)。
第10回
攻撃、防御動作のバリエーション練習とマッチ(1)
第11回
攻撃、防御動作のバリエーション練習とマッチ(2)
第12回
攻撃のバリエーション：アタック・オ・フェール

第13回
試合：審査員をつけた5本勝負（マッチ）。5-6組(1)
第14回
試合：審査員をつけた5本勝負（マッチ）。5-6組(2)

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は、ありません。グローブ、マスク、剣、プロテクターは貸し出します。自分で用意するものはトレーニングウェア、トレーニングシューズ。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　5　授業期間の後半で、電気審判器を使用した試合を行うための用具準備を自身で行えるか、簡単な試験を行います。

平常点評価：　95　出席率と授業態度、授業中に行われる練習試合のスキルを見て評価します。

備考・関連URL：　第1週のオリエンテーションは普段着のまま。ただし筆記用具は持参すること。

関連URL:
日本フェンシング協会 公式サイト
http://www.fencing-jpn.jp
※授業に関係ありませんが、興味のある方は、覗いてみてください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040038|01|9S07040038[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	複合スポーツ（ゲーム＆リズム） 基礎 01		
担 当 教 員	泉田 糸江		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ～運動を楽しみ、健康意識を高めよう！～

授業概要: 春学期の複合スポーツは、リズムエクササイズ、運動を伴う仲間づくりゲーム、フォークダンス、を主な内容とし、コンディショニングとして身体ほぐしやストレッチ、簡単な筋力アップトレーニングにも取り組む。課題の運動が備える遊び感覚、リフレッシュ効果等を体感し、受講者が互いにコミュニケーションをとりながら健康づくりにおける運動の重要性を理解し、日常生活に生かせるように図る。
講義名が「複合スポーツ」となっているが、複数のスポーツ種目の技術を習得し、勝敗を競うという意味での複合スポーツではなく、課題の運動を通じて、運動が身体に与える影響、効果を楽しみながら敏感に察知することを目標とする。誰もができる基本的な運動を複合的な方法で行うことにより、自分自身の身体の状態を知り、体力の維持や増進を図ることができるようにしていく。
「複合スポーツ」は、春学期（ゲーム＆リズム）→秋学期（リズム＆ウォーキング）の順に履修することが最も望ましいが、運動レベルはどちらも基本的なものなので、順不同でも、履修時期のあいだがあいても問題はない。

授業の到達目標: ・課題の運動を通じて、リズミカルに身体を動かせるようにする。
・運動によって自分や仲間の身体に生じる変化を敏感に察知できるようにする。
・身体を動かすことの楽しさを発見する。
・2人またはグループで行う課題の運動を通じて、受講者同士の円滑なコミュニケーションを図れるようにする。

事前・事後学習の内容: 学習したコンディショニングは、早期に日常生活に取り入れていく。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:ガイダンス（平服）

授業概要の説明と受講にあたっての諸注意を説明する。ロコモティブシンドロームチェックテスト（立ち上がりテスト、2ステップテスト）を行い、自己の体の状態を把握する。

第2回:リズムエクササイズ＆仲間づくりのゲーム

1 コンディショニング（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）及び、反復横跳びテスト実施。
2 リズム・エクササイズ（ローインパクト）
リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキング・レベルの全身運動を行う。
3 仲間づくりのゲームにより、仲間とコミュニケーションを図り心身をほぐす。
じゃんけんゲーム、人間知恵の輪を予定。
4 瞬発力、敏捷性の指標となる「反復横跳び」の測定を行う。
5 クールダウン

第3回:リズムエクササイズ＆仲間づくりのゲーム

1 コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）
2 リズム・エクササイズ（ローインパクト）
リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキング・レベルの全身運動を行う。
3 仲間づくりのゲームにより、仲間とのコミュニケーションを図り、心と体をほぐす。
人間ボーリングを予定。
4 クールダウン

第4回:リズムエクササイズ＆仲間づくりのゲーム

1 コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）
2 リズム・エクササイズ（ローインパクト）
リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキング・レベルの全身運動を行う。
3 仲間づくりのゲームにより、仲間とコミュニケーションを図り心身をほぐす。
お宝争奪ゲームを予定。
4 クールダウン

第5回:リズムエクササイズ＆仲間づくりのゲーム
1　コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）2　リズム・エクササイズ（ローインパクト～ハイインパクト）
　リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキングレベルからジョギングレベルの全身運動を行う。
3　仲間づくりのゲームにより、仲間とコミュニケーションを図り心身をほぐす。
　逆玉入れを予定。
4　クールダウン

第6回:リズムエクササイズ＆仲間づくりのゲーム
1　コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）2　リズム・エクササイズ（ローインパクト～ハイインパクト）
　リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキングレベルからジョギングレベルの全身運動を行う。
3　仲間づくりのゲームにより、仲間とコミュニケーションを図り心身をほぐす。
　ダンス震源地ゲームを予定。

4　クールダウン

第7回:リズムエクササイズ＆仲間づくりのゲーム
1　コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）2　リズム・エクササイズ（ローインパクト～ハイインパクト）
　リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキングレベルからジョギングレベルの全身運動を行う。
3　仲間づくりのゲームにより、仲間とコミュニケーションを図り心身をほぐす。
　ケンケン押し相撲陣取りゲームを予定。
4　クールダウン

第8回:グループ・リズムエクササイズ＆フォークダンス
1　コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ。筋トレ等）2　グループ・リズムエクササイズ
　習得したリズムエクササイズを使って、パートナーとフォーメーションなどのアレンジを試みる3　フォークダンスにより、世界各国の様々なリズムとステップを体験しながら、仲間とのコミュニケーションを楽しむ。
　「マイムマイム」の予定。
4　クールダウン

第9回:グループ・リズムエクササイズ＆フォークダンス
1　コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）2　グループ・リズムエクササイズ　習得したリズムエクササイズを使って、パートナーとフォーメーションなどのアレンジを試みる。
3　フォークダンスを中心に、世界各国の様々なリズムとステップを体験しながら、仲間とのコミュニケーションを楽しむ。
　「オクラホマミキサー」または「コロブチカ」の予定。

第10回:グループ・リズムエクササイズ＆フォークダンス
1　コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）2　グループ・リズムエクササイズ
　習得したリズムエクササイズを使って、グループでフォーメーションなどのアレンジを試みる。3　フォークダンスを中心に、世界各国の様々なリズムとステップを体験しながら、仲間とのコミュニケーションを楽しむ。

　「ロード・トゥー・ジ・アイルズ」の予定。
4　クールダウン

第11回:グループ・リズムエクササイズ＆フォークダンス
1　コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）2　習得したリズムエクササイズを使って、グループでアレンジを試みる。
3　フォークダンスを中心に、世界各国の様々なリズムとステップを体験しながら、仲間とのコミュニケーションを楽しむ。
　「タタロチカ」の予定。また、各自の出身地の盆踊りを紹介をしあうので、調べておきましょう。
4　クールダウン

第12回:リズムエクササイズ＆フォークダンスの総復習
1　コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）2　リズムエクササイズの総復習と試験対策。
3　フォークダンスの総復習と試験曲の選択。4　クールダウン

第13回:総復習と実技試験
1　コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）2　リズムエクササイズ
3　リズムエクササイズ実技試験
4　フォークダンス試験対策練習。
5　クールダウン

第14回:実技試験と総括
1　コンディショニング（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）2　フォークダンスの実技試験
3　「ロコモティブシンドロームチェックテスト」および「反復横跳び」を再度行い、自分の体の変化を確認しつつ今後の課題を設定する。
4　クールダウン
5　総括

言語区分:　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン:	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	30	第13回および第14回の授業時間内に実技試験を実施する。 課題のリズムエクササイズおよびフォークダンスを理解し動けているかどうか。
平常点評価:	42	①実技科目のため、出席率を重視する。欠席は4回まで。5回以上は、実技試験の受験も認めない。従って、合格点は得られない。欠席事由のある場合は証明書等提出により考慮する。②上記授業到達目標より、授業への積極的参加、仲間への働きかけを重視する。
その他:	28	毎回コメントシートに各自の気付きを記入してもらい、その内容を評価する。

備考・関連URL:

【第1回授業：ガイダンスについて】
・必ず出席のこと。（2次3次登録者は追って対応）
・更衣不要。ただし、ロコモティブシンドローム（運動器機能不全症候群）チェックテストを行うので、スカート不可。当日就活などでスカートの人は更衣して下さい。
・筆記具と顔写真（3cm×4cm）持参。顔が明確であれば、スナップ写真、コピー可。

【第2回以降の服装について】
動きやすいウェア（上下）に着替える。体育館（室内用）シューズ持参。
ウエア、シューズともに高校で使用していたものや、Tシャツ・ジャージで良い。
シューズの忘れ物は、足を痛めるので見学とする。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040038|02|9S07040038[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	複合スポーツ（ゲーム＆リズム） 基礎 02		
担 当 教 員	泉田 糸江		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ～運動を楽しみ、健康意識を高めよう！～

授業概要: 春学期の複合スポーツは、リズムエクササイズ、運動を伴う仲間づくりゲーム、フォークダンス、を主な内容とし、コンディショニングとして身体ほぐしやストレッチ、簡単な筋力アップトレーニングにも取り組む。課題の運動が備える遊び感覚、リフレッシュ効果等を体感し、受講者が互いにコミュニケーションをとりながら健康づくりにおける運動の重要性を理解し、日常生活に生かせるように図る。
講義名が「複合スポーツ」となっているが、複数のスポーツ種目の技術を習得し、勝敗を競うという意味での複合スポーツではなく、課題の運動を通じて、運動が身体に与える影響、効果を楽しみながら敏感に察知することを目標とする。誰もができる基本的な運動を複合的な方法で行うことにより、自分自身の身体の状態を知り、体力の維持や増進を図ることができるようにしていく。
「複合スポーツ」は、春学期（ゲーム＆リズム）→秋学期（リズム＆ウォーキング）の順に履修することが最も望ましいが、運動レベルはどちらも基本的なものなので、順不同でも、履修時期のあいだがあいても問題はない。

授業の到達目標: ・課題の運動を通じて、リズミカルに身体を動かせるようにする。
・運動によって自分や仲間の身体に生じる変化を敏感に察知できるようにする。
・身体を動かすことの楽しさを発見する。
・2人またはグループで行う課題の運動を通じて、受講者同士の円滑なコミュニケーションを図れるようにする。

事前・事後学習の内容: 学習したコンディショニングは、早期に日常生活に取り入れていく。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:ガイダンス（平服）

授業概要の説明と受講にあたっての諸注意を説明する。ロコモティブシンドロームチェックテスト（立ち上がりテスト、2ステップテスト）を行い、自己の体の状態を把握する。

第2回:リズムエクササイズ＆仲間づくりのゲーム

1 コンディショニング（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）及び、反復横跳びテスト実施。
2 リズム・エクササイズ（ローインパクト）
リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキング・レベルの全身運動を行う。
3 仲間づくりのゲームにより、仲間とコミュニケーションを図り心身をほぐす。
じゃんけんゲーム、人間知恵の輪を予定。
4 瞬発力、敏捷性の指標となる「反復横跳び」の測定を行う。
5 クールダウン

第3回:リズムエクササイズ＆仲間づくりのゲーム

1 コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）
2 リズム・エクササイズ（ローインパクト）
リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキング・レベルの全身運動を行う。
3 仲間づくりのゲームにより、仲間とのコミュニケーションを図り、心と体をほぐす。
人間ボーリングを予定。
4 クールダウン

第4回:リズムエクササイズ＆仲間づくりのゲーム

1 コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）
2 リズム・エクササイズ（ローインパクト）
リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキング・レベルの全身運動を行う。
3 仲間づくりのゲームにより、仲間とコミュニケーションを図り心身をほぐす。
お宝争奪ゲームを予定。
4 クールダウン

第5回:リズムエクササイズ＆仲間づくりのゲーム
1　コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）2　リズム・エクササイズ（ローインパクト～ハイインパクト）
　リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキングレベルからジョギングレベルの全身運動を行う。
3　仲間づくりのゲームにより、仲間とコミュニケーションを図り心身をほぐす。
　逆玉入れを予定。
4　クールダウン

第6回:リズムエクササイズ＆仲間づくりのゲーム
1　コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）2　リズム・エクササイズ（ローインパクト～ハイインパクト）
　リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキングレベルからジョギングレベルの全身運動を行う。
3　仲間づくりのゲームにより、仲間とコミュニケーションを図り心身をほぐす。
　ダンス震源地ゲームを予定。

4　クールダウン

第7回:リズムエクササイズ＆仲間づくりのゲーム
1　コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）2　リズム・エクササイズ（ローインパクト～ハイインパクト）
　リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキングレベルからジョギングレベルの全身運動を行う。
3　仲間づくりのゲームにより、仲間とコミュニケーションを図り心身をほぐす。
　ケンケン押し相撲陣取りゲームを予定。
4　クールダウン

第8回:グループ・リズムエクササイズ＆フォークダンス
1　コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ。筋トレ等）2　グループ・リズムエクササイズ
　習得したリズムエクササイズを使って、パートナーとフォーメーションなどのアレンジを試みる3　フォークダンスにより、世界各国の様々なリズムとステップを体験しながら、仲間とのコミュニケーションを楽しむ。
　「マイムマイム」の予定。
4　クールダウン

第9回:グループ・リズムエクササイズ＆フォークダンス
1　コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）2　グループ・リズムエクササイズ　習得したリズムエクササイズを使って、パートナーとフォーメーションなどのアレンジを試みる。
3　フォークダンスを中心に、世界各国の様々なリズムとステップを体験しながら、仲間とのコミュニケーションを楽しむ。
　「オクラホマミキサー」または「コロブチカ」の予定。

第10回:グループ・リズムエクササイズ＆フォークダンス
1　コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）2　グループ・リズムエクササイズ
　習得したリズムエクササイズを使って、グループでフォーメーションなどのアレンジを試みる。3　フォークダンスを中心に、世界各国の様々なリズムとステップを体験しながら、仲間とのコミュニケーションを楽しむ。

　「ロード・トゥー・ジ・アイルズ」の予定。
4　クールダウン

第11回:グループ・リズムエクササイズ＆フォークダンス
1　コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）2　習得したリズムエクササイズを使って、グループでアレンジを試みる。
3　フォークダンスを中心に、世界各国の様々なリズムとステップを体験しながら、仲間とのコミュニケーションを楽しむ。
　「タタロチカ」の予定。また、各自の出身地の盆踊りを紹介をしあうので、調べておきましょう。
4　クールダウン

第12回:リズムエクササイズ＆フォークダンスの総復習
1　コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）2　リズムエクササイズの総復習と試験対策。
3　フォークダンスの総復習と試験曲の選択。4　クールダウン

第13回:総復習と実技試験
1　コンディショニング（（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）2　リズムエクササイズ
3　リズムエクササイズ実技試験
4　フォークダンス試験対策練習。
5　クールダウン

第14回:実技試験と総括
1　コンディショニング（ほぐし、ストレッチ、筋トレ等）2　フォークダンスの実技試験
3　「ロコモティブシンドロームチェックテスト」および「反復横跳び」を再度行い、自分の体の変化を確認しつつ今後の課題を設定する。
4　クールダウン
5　総括

言語区分:　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン:	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	30	第13回および第14回の授業時間内に実技試験を実施する。 課題のリズムエクササイズおよびフォークダンスを理解し動けているかどうか。
平常点評価:	42	①実技科目のため、出席率を重視する。欠席は4回まで。5回以上は、実技試験の受験も認めない。従って、合格点は得られない。欠席事由のある場合は証明書等提出により考慮する。②上記授業到達目標より、授業への積極的参加、仲間への働きかけを重視する。
その他:	28	毎回コメントシートに各自の気付きを記入してもらい、その内容を評価する。

備考・関連URL:

【第1回授業：ガイダンスについて】
・必ず出席のこと。（2次3次登録者は追って対応）
・更衣不要。ただし、ロコモティブシンドローム（運動器機能不全症候群）チェックテストを行うので、スカート不可。当日就活などでスカートの人は更衣して下さい。
・筆記具と顔写真（3cm×4cm）持参。顔が明確であれば、スナップ写真、コピー可。

【第2回以降の服装について】
動きやすいウェア（上下）に着替える。体育館（室内用）シューズ持参。
ウエア、シューズともに高校で使用していたものや、Tシャツ・ジャージで良い。
シューズの忘れ物は、足を痛めるので見学とする。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040039|01|9S07040039[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	複合スポーツ(リズム＆ウォーキング) 基礎 01		
担 当 教 員	泉田 糸江		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ～運動を楽しみ、健康意識を高めよう！～

授業概要: 秋学期の複合スポーツは、人間の最も基本的な運動であるウォーキングを改めて見つめ直し、正しいウォーキングを体得しながら、実践活動として散歩に出かけ、応用としてリズムエクササイズや、フォークダンス(世界各国のさまざまなリズムやステップをペアやグループで行うダンス)を楽しむことを主な内容とする。効率よく歩ける体づくりとして、ほぐし、ストレッチ、呼吸法もとりあげる。 講義名が「複合スポーツ」となっているが、複数のスポーツ種目の技術を習得し、勝敗を競うという意味での複合スポーツではない。課題の運動を通じて、運動が身体に与える影響や効果を楽しみながら体験することを目標としている。誰もができる基本的な運動を複合的な方法で行うことにより、自分自身の身体の状態を知り、体力の維持増進を図る。また、運動を通じて、仲間とコミュニケーションする楽しさを体験する。さらに、これらの運動をリフレッシュ法の一つと考え、受講者が日常生活に活かすことができるように解説していく。
「複合スポーツ」は、春学期(リズム＆ゲーム)→秋学期(リズム＆ウォーキング)の順に履修することが最も望ましいが、運動レベルはどちらも基礎的なものなので、順不同でも、履修時期の間があいても問題はない。

授業の到達目標: ・人間の最も基本的な運動である「歩く」ことを意識的に捉え、正しい立ち方と歩き方を習得し、効率よく歩けるようにする。また、発見を重ねて、生活 の中で歩くことを楽しめるようにする。
・課題のダンスの基本的なステップを理解し、リズミカルに身体をコントロールできるようにする。
・運動の中でパートナーや仲間を尊重し、助け合うことができるようにする。
・受講生同士、円滑なコミュニケーションを図る。

事前・事後学習の内容: 学習したコンディショニング及びウォーキングスキルは、早期に日常生活に活かす。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット(教員による切替可)

授業計画:

第1回:ガイダンス(平服)
授業概要の説明と受講における諸注意。ロコモティブシンドローム(運動器機能不全症候群)チェックテスト(立ち上がりテスト、2ステップテストなど)を行い、自己の体の状態を把握する。
更衣は不要だが、大股で歩くのでスカート不可。当日就活などスカートの必要がある人は、着替えて参加。

第2回:正しい歩き方＆ウォーキングレベルのリズム・エクササイズ
1 コンディショニング
真っ直ぐ自然に立つための身体ほぐし、ストレッチ、簡単な筋トレ。
2 正しい立ち方と歩き方①
3 リズム・エクササイズ(ローインパクト)
リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキング・レベルの全身運動を行う。4 敏捷性の指標として「反復横跳び」の測定を行う。
5 クールダウン
疲れを残さないためのほぐし、ストレッチ

第3回:正しい歩き方＆ウォーキングレベルのリズム・エクササイズ
1 コンディショニング
真っ直ぐ自然に立つための身体ほぐし、ストレッチ、簡単な筋トレ。
2 正しい立ち方と歩き方②
3 リズム・エクササイズ(ローインパクト)
リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキング・レベルの全身運動。4 クールダウン
疲れを残さないためのほぐし、ストレッチ

第4回：正しい歩き方＆ジョギングレベルのリズム・エクササイズ

1　コンディショニング
　真っ直ぐ自然に立つための身体ほぐし、ストレッチ、簡単な筋トレ。
2　正しい立ち方と歩き方③
3　リズム・エクササイズ（ハイインパクトメインに）
　リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキング・レベルからジョギング・レベルの全身運動。
4　クールダウン

　疲れを残さないためのほぐし、ストレッチ

第5回：正しい歩き方＆ジョギングレベルのリズム・エクササイズ

1　コンディショニング
　真っ直ぐ自然に立つための身体ほぐし、ストレッチ、簡単な筋トレ。
2　正しい立ち方と歩き方④
3　リズム・エクササイズ（ハイインパクトメインに）
　リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキング・レベルからジョギング・レベルの全身運動。
4　クールダウン
　疲れを残さないためのほぐし、ストレッチ

第6回：正しい歩き方＆ジョギングレベルのリズム・エクササイズ

1　コンディショニング
　真っ直ぐ自然に立つための身体ほぐし、ストレッチ、簡単な筋トレ。
2　正しい立ち方と歩き方⑤
3　リズム・エクササイズ（ロー＆ハイインパクト）
　ウォーキング・レベルからからジョギング・レベルの全身運動。
4　クールダウン
　疲れを残さないためのほぐし、ストレッチ

第7回：校外ウォーキング

1　コンディショニング
2　校外ウォーキング（散歩）
　学習したウォーキングスキルを活用しながら、早稲田キャンパス周辺の公園散策を実施する。
　肥後細川庭園を予定。
3　クールダウン

悪天候の場合は予定を変更する。

第8回：校外ウォーキング

1　コンディショニング
2　校外ウォーキング（散歩）
　学習したウォーキングスキルを活用しながら、早稲田キャンパス周辺の公園散策を実施する。
　戸山公園（箱根山）を予定。
3　クールダウン

　悪天候の場合は予定を変更する。

第9回：校外ウォーキング

1　コンディショニング
2　校外ウォーキング（散歩）
　学習したウォーキングスキルを活用しながら、早稲田キャンパス周辺の公園散策を実施する。
　甘泉園を予定。
3　クールダウン

悪天候の場合は予定を変更する。

第10回：リズムエクササイズ＆フォークダンス

1　コンディショニング
2　問題点を改善しながらのウォーキング
3　身体トレーニングを意識しながらのリズムエクササイズ　（ロー＆ハイインパクト）
4　フォークダンス
　世界各国の様々なリズムとステップを体験しながら、仲間とのコミュニケーションを楽しむ。
　これまでに体得した姿勢やリズム感覚をスキルアップする。
　「タンゴ・ミキサー」を予定。
5　クールダウン

第11回：リズムエクササイズ＆フォークダンス

1　コンディショニング
2　問題点を改善しながらのウォーキング
3　身体トレーニングを意識しながらのリズムエクササイズ　（ロー＆ハイインパクト）
4　フォークダンス
　世界各国の様々なリズムとステップを体験しながら、仲間とのコミュニケーションを楽しむ。
　これまでに体得した姿勢やリズム感覚をスキルアップする。
　「エース・オブ・ダイヤモンド」を予定。
5　クールダウン

第12回:ウォーキング総復習とフォークダンス

1 コンディショニング
　真っ直ぐ自然に立つための身体ほぐし、ストレッチ、簡単な筋トレ、及びリズムエクササイズを行う。
2 ウォーキング
　学習してきたウォーキングの知識と技術を確認。ウォーキングの効果もグループで話し合い、校外ウォーキングを顧みつつ歩き方を改善しあう。

3 フォークダンス
　世界各国の様々なリズムとステップを体験しながら仲間とコミュニケーションを楽しむ。
　これまでに体得した姿勢やリズム感覚をスキルアップ。
　「ドードレブスカ・ポルカ」を予定。
4 クールダウン

第13回:ウォーキング実技試験とフォークダンス総復習

1 コンディショニング
　真っ直ぐ自然に立つための身体ほぐし、ストレッチ、簡単な筋トレ、及びリズムエクササイズを行う。
2 ウォーキング実技試験

3 フォークダンス(テスト対策)
　これまでに習得した姿勢やコミュニケーション力を生かして、より美しく、お互いをエスコートしあえるように思いやりを持ってフォークダンスに取り組む。
　リズムが揃ってくる楽しさを享受できるよう、体と気持ちを揃える。
4 クールダウン

第14回:フォークダンス実技試験と総括

1 コンディショニング　真っ直ぐ自然に立つための身体ほぐし、ストレッチ、簡単な筋トレ、及びリズムエクササイズを行う。
2 フォークダンス実技試験
3 「ロコモティブシンドロームチェックテスト」および「反復横跳び」を再度行い、自己の体の変化を確認し、これからの自己課題を設定する。
4 クールダウン
5 総括

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 30 第13回、第14回の授業時間内に以下の実技試験を実施する。
①ウォーキング②フォークダンス
それぞれの内容や技術を理解し、習得しているか。

平常点評価: 42 ①実技科目の為、出席率を重視する。欠席は4回まで。5回以上の欠席は実技試験を認めない。従って合格点は得られない。正式な欠席事由がある場合は、証明書の提出を受領した場合のみ考慮する。
②運動課題に向かって積極的に取り組んでいるかどうか。③仲間とのコミュニケーションを図り、課題を円滑に遂行できているかどうか。

その他: 28 自己の気づきを明確にする為、毎回コメントを提出してもらい、評価する。

備考・関連URL: 【第1回授業:ガイダンスについて】
　必ず出席のこと。(2次3次登録者は追って対応する。)
　更衣不要。ただしロコモティブシンドロームチェックテストを行うので、スカート不可。当日就活などで動きづらい服装の人は更衣して下さい。
　筆記具と顔写真(3cm×4cm)持参。顔が明確であれば、スナップ写真でもコピーでも可。

【第2回以降の服装について】
　動きやすいトレーニングウェア(上下)に着替える。体育館用シューズ持参。ウエア、シューズとも高校で使用していたもので可。Tシャツ、ジャージ可。
　シューズを忘れた場合は足を痛めるので、見学とする。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040039|02|9S07040039[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	複合スポーツ(リズム＆ウォーキング) 基礎 02		
担 当 教 員	泉田 糸江		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ～運動を楽しみ、健康意識を高めよう！～

授業概要: 秋学期の複合スポーツは、人間の最も基本的な運動であるウォーキングを改めて見つめ直し、正しいウォーキングを体得しながら、実践活動として散歩に出かけ、応用としてリズムエクササイズや、フォークダンス(世界各国のさまざまなリズムやステップをペアやグループで行うダンス)を楽しむことを主な内容とする。効率よく歩ける体づくりとして、ほぐし、ストレッチ、呼吸法もとりあげる。 講義名が「複合スポーツ」となっているが、複数のスポーツ種目の技術を習得し、勝敗を競うという意味での複合スポーツではない。課題の運動を通じて、運動が身体に与える影響や効果を楽しみながら体験することを目標としている。誰もができる基本的な運動を複合的な方法で行うことにより、自分自身の身体の状態を知り、体力の維持増進を図る。また、運動を通じて、仲間とコミュニケーションする楽しさを体験する。さらに、これらの運動をリフレッシュ法の一つと考え、受講者が日常生活に活かすことができるように解説していく。
「複合スポーツ」は、春学期(リズム＆ゲーム)→秋学期(リズム＆ウォーキング)の順に履修することが最も望ましいが、運動レベルはどちらも基礎的なものなので、順不同でも、履修時期の間があいても問題はない。

授業の到達目標: ・人間の最も基本的な運動である「歩く」ことを意識的に捉え、正しい立ち方と歩き方を習得し、効率よく歩けるようにする。また、発見を重ねて、生活 の中で歩くことを楽しめるようにする。
・課題のダンスの基本的なステップを理解し、リズミカルに身体をコントロールできるようにする。
・運動の中でパートナーや仲間を尊重し、助け合うことができるようにする。
・受講生同士、円滑なコミュニケーションを図る。

事前・事後学習の内容: 学習したコンディショニング及びウォーキングスキルは、早期に日常生活に活かす。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット(教員による切替可)

授業計画:

第1回:ガイダンス(平服)
授業概要の説明と受講における諸注意。ロコモティブシンドローム(運動器機能不全症候群)チェックテスト(立ち上がりテスト、2ステップテストなど)を行い、自己の体の状態を把握する。
更衣は不要だが、大股で歩くのでスカート不可。当日就活などスカートの必要がある人は、着替えて参加。

第2回:正しい歩き方＆ウォーキングレベルのリズム・エクササイズ
1 コンディショニング
真っ直ぐ自然に立つための身体ほぐし、ストレッチ、簡単な筋トレ。
2 正しい立ち方と歩き方①
3 リズム・エクササイズ(ローインパクト)
リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキング・レベルの全身運動を行う。4 敏捷性の指標として「反復横跳び」の測定を行う。
5 クールダウン
疲れを残さないためのほぐし、ストレッチ

第3回:正しい歩き方＆ウォーキングレベルのリズム・エクササイズ
1 コンディショニング
真っ直ぐ自然に立つための身体ほぐし、ストレッチ、簡単な筋トレ。
2 正しい立ち方と歩き方②
3 リズム・エクササイズ(ローインパクト)
リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキング・レベルの全身運動。4 クールダウン
疲れを残さないためのほぐし、ストレッチ

第4回：正しい歩き方＆ジョギングレベルのリズム・エクササイズ

1　コンディショニング
　真っ直ぐ自然に立つための身体ほぐし、ストレッチ、簡単な筋トレ。
2　正しい立ち方と歩き方③
3　リズム・エクササイズ（ハイインパクトメインに）
　リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキング・レベルからジョギング・レベルの全身運動。
4　クールダウン

　疲れを残さないためのほぐし、ストレッチ

第5回：正しい歩き方＆ジョギングレベルのリズム・エクササイズ

1　コンディショニング
　真っ直ぐ自然に立つための身体ほぐし、ストレッチ、簡単な筋トレ。
2　正しい立ち方と歩き方④
3　リズム・エクササイズ（ハイインパクトメインに）
　リズムに合わせ、身体各部位を複合的に使ったウォーキング・レベルからジョギング・レベルの全身運動。
4　クールダウン
　疲れを残さないためのほぐし、ストレッチ

第6回：正しい歩き方＆ジョギングレベルのリズム・エクササイズ

1　コンディショニング
　真っ直ぐ自然に立つための身体ほぐし、ストレッチ、簡単な筋トレ。
2　正しい立ち方と歩き方⑤
3　リズム・エクササイズ（ロー＆ハイインパクト）
　ウォーキング・レベルからからジョギング・レベルの全身運動。
4　クールダウン
　疲れを残さないためのほぐし、ストレッチ

第7回：校外ウォーキング

1　コンディショニング
2　校外ウォーキング（散歩）
　学習したウォーキングスキルを活用しながら、早稲田キャンパス周辺の公園散策を実施する。
　肥後細川庭園を予定。
3　クールダウン

悪天候の場合は予定を変更する。

第8回：校外ウォーキング

1　コンディショニング
2　校外ウォーキング（散歩）
　学習したウォーキングスキルを活用しながら、早稲田キャンパス周辺の公園散策を実施する。
　戸山公園（箱根山）を予定。
3　クールダウン

　悪天候の場合は予定を変更する。

第9回：校外ウォーキング

1　コンディショニング
2　校外ウォーキング（散歩）
　学習したウォーキングスキルを活用しながら、早稲田キャンパス周辺の公園散策を実施する。
　甘泉園を予定。
3　クールダウン

悪天候の場合は予定を変更する。

第10回：リズムエクササイズ＆フォークダンス

1　コンディショニング
2　問題点を改善しながらのウォーキング
3　身体トレーニングを意識しながらのリズムエクササイズ　（ロー＆ハイインパクト）
4　フォークダンス
　世界各国の様々なリズムとステップを体験しながら、仲間とのコミュニケーションを楽しむ。
　これまでに体得した姿勢やリズム感覚をスキルアップする。
　「タンゴ・ミキサー」を予定。
5　クールダウン

第11回：リズムエクササイズ＆フォークダンス

1　コンディショニング
2　問題点を改善しながらのウォーキング
3　身体トレーニングを意識しながらのリズムエクササイズ　（ロー＆ハイインパクト）
4　フォークダンス
　世界各国の様々なリズムとステップを体験しながら、仲間とのコミュニケーションを楽しむ。
　これまでに体得した姿勢やリズム感覚をスキルアップする。
　「エース・オブ・ダイヤモンド」を予定。
5　クールダウン

第12回：ウォーキング総復習とフォークダンス

1 コンディショニング
　真っ直ぐ自然に立つための身体ほぐし、ストレッチ、簡単な筋トレ、及びリズムエクササイズを行う。
2 ウォーキング
　学習してきたウォーキングの知識と技術を確認。ウォーキングの効果もグループで話し合い、校外ウォーキングを顧みつつ歩き方を改善しあう。

3 フォークダンス
　世界各国の様々なリズムとステップを体験しながら仲間とコミュニケーションを楽しむ。
　これまでに体得した姿勢やリズム感覚をスキルアップ。
　「ドードレブスカ・ポルカ」を予定。
4 クールダウン

第13回：ウォーキング実技試験とフォークダンス総復習

1 コンディショニング
　真っ直ぐ自然に立つための身体ほぐし、ストレッチ、簡単な筋トレ、及びリズムエクササイズを行う。
2 ウォーキング実技試験

3 フォークダンス（テスト対策）
　これまでに習得した姿勢やコミュニケーション力を生かして、より美しく、お互いをエスコートしあえるように思いやりを持ってフォークダンスに取り組む。
　リズムが揃ってくる楽しさを享受できるよう、体と気持ちを揃える。
4 クールダウン

第14回：フォークダンス実技試験と総括

1 コンディショニング　真っ直ぐ自然に立つための身体ほぐし、ストレッチ、簡単な筋トレ、及びリズムエクササイズを行う。
2 フォークダンス実技試験
3 「ロコモティブシンドロームチェックテスト」および「反復横跳び」を再度行い、自己の体の変化を確認し、これからの自己課題を設定する。
4 クールダウン
5 総括

言語区分：　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　30　第13回、第14回の授業時間内に以下の実技試験を実施する。
①ウォーキング②フォークダンス
それぞれの内容や技術を理解し、習得しているか。

平常点評価：　42　①実技科目の為、出席率を重視する。欠席は4回まで。5回以上の欠席は実技試験を認めない。従って合格点は得られない。正式な欠席事由がある場合は、証明書の提出を受領した場合のみ考慮する。
②運動課題に向かって積極的に取り組んでいるかどうか。③仲間とのコミュニケーションを図り、課題を円滑に遂行できているかどうか。

その他：　28　自己の気づきを明確にする為、毎回コメントを提出してもらい、評価する。

備考・関連URL：【第1回授業：ガイダンスについて】
　必ず出席のこと。（2次3次登録者は追って対応する。）
　更衣不要。ただしロコモティブシンドロームチェックテストを行うので、スカート不可。当日就活などで動きづらい服装の人は更衣して下さい。
　筆記具と顔写真（3cm×4cm）持参。顔が明確であれば、スナップ写真でもコピーでも可。

【第2回以降の服装について】
　動きやすいトレーニングウェア（上下）に着替える。体育館用シューズ持参。ウエア、シューズとも高校で使用していたもので可。Tシャツ、ジャージ可。
　シューズを忘れた場合は足を痛めるので、見学とする。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040040|01|9S07040040[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	フットサル 基礎 01		
担 当 教 員	須田 芳正		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: いつでも、どこでも、誰もが気軽にプレーすることができるフットサルの楽しさを体験すると同時に、フットサル技術の向上やフットサル戦術の理解を深め、フットサルの楽しさ、面白さを理解することを目的とします。また、チームメイトや対戦相手とのコミュニケーションを通して、仲間の拡大とコミュニケーション能力の向上を図ります。

授業の到達目標: フットサルに必要とされる基本技術、戦術の習得、コミュニケーションを通じてのチームワークの獲得を目指し、フットサルを生涯スポーツとして身につけることを目標とする。

事前・事後学習の内容: 授業前、授業後の体調管理をしっかりと行うこと。（睡眠、栄養補給、ストレッチなど）
授業前、ルールを各自で学習しておくこと。
授業後、修得した技術を次回授業に反映できるようにすること。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ガイダンス後、技術トレーニングと試合

授業内容の説明後、パス、コントロール、シュートなどの技術トレーニングと試合を行う。
【事前・事後の学修】体調を良好に保ち、日常より体力を高めておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第2回 技術トレーニングと試合

パス、コントロール、シュートなどの技術トレーニングと試合を行う。
【事前・事後の学修】体調を良好に保ち、日常より体力を高めておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第3回 技術トレーニングと試合

パス、コントロール、シュートなどの技術トレーニングと試合を行う。
【事前・事後の学修】体調を良好に保ち、日常より体力を高めておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第4回 戦術トレーニングと試合

4対1、4対2の戦術トレーニングと試合を行う。
【事前・事後の学修】体調を良好に保ち、日常より体力を高めておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第5回 プレシーズンマッチ

チーム分けをして次週から行うリーグ戦に向けて試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第6回 リーグ戦（1）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第7回 リーグ戦（2）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第8回 リーグ戦（3）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第9回 リーグ戦（4）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第10回 リーグ戦（5）

チーム分けをして次週から行うリーグ戦に向けて試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第11回　リーグ戦（6）
チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。
第12回　リーグ戦（7）
チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。
第13回　リーグ戦（8）
チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。
第14回　リーグ戦（9）
チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　参考書：フットサル教本（大修館書店）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　授業態度とフットサル競技の理解度の2項目を総合して評価する。

備考・関連URL：　喜久井町キャンパスへのアクセス
http://www.waseda.jp/inst/athletic/news/2016/02/14/8054/

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040040|02|9S07040040[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	フットサル　基礎　02		
担 当 教 員	須田　芳正		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　いつでも、どこでも、誰もが気軽にプレーすることができるフットサルの楽しさを体験すると同時に、フットサル技術の向上やフットサル戦術の理解を深め、フットサルの楽しさ、面白さを理解することを目的とします。また、チームメイトや対戦相手とのコミュニケーションを通して、仲間の拡大とコミュニケーション能力の向上を図ります。

授業の到達目標：　フットサルに必要とされる基本技術、戦術の習得、コミュニケーションを通じてのチームワークの獲得を目指し、フットサルを生涯スポーツとして身につけることを目標とする。

事前・事後学習の内容：　授業前、授業後の体調管理をしっかりと行うこと。（睡眠、栄養補給、ストレッチなど）
授業前、ルールを各自で学習しておくこと。
授業後、修得した技術を次回授業に反映できるようにすること。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　ガイダンス後、技術トレーニングと試合

授業内容の説明後、パス、コントロール、シュートなどの技術トレーニングと試合を行う。
【事前・事後の学修】体調を良好に保ち、日常より体力を高めておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第2回　技術トレーニングと試合

パス、コントロール、シュートなどの技術トレーニングと試合を行う。
【事前・事後の学修】体調を良好に保ち、日常より体力を高めておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第3回　技術トレーニングと試合

パス、コントロール、シュートなどの技術トレーニングと試合を行う。
【事前・事後の学修】体調を良好に保ち、日常より体力を高めておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第4回　戦術トレーニングと試合

4対1、4対2の戦術トレーニングと試合を行う。
【事前・事後の学修】体調を良好に保ち、日常より体力を高めておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第5回　プレシーズンマッチ

チーム分けをして次週から行うリーグ戦に向けて試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第6回　リーグ戦（1）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第7回　リーグ戦（2）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第8回　リーグ戦（3）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第9回　リーグ戦（4）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第10回　リーグ戦（5）

チーム分けをして次週から行うリーグ戦に向けて試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第11回 リーグ戦(6)
チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。
第12回 リーグ戦(7)
チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。
第13回 リーグ戦(8)
チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。
第14回 リーグ戦(9)
チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 参考書:フットサル教本(大修館書店)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 100 授業態度とフットサル競技の理解度の2項目を総合して評価する。

備考・関連URL: 喜久井町キャンパスへのアクセス
http://www.waseda.jp/inst/athletic/news/2016/02/14/8054/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040041|03|9S07040041[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ボクササイズ 03		
担 当 教 員	岩崎 仁		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 運動経験を問わず安心して参加できるボクシングエクササイズ

授業概要: 本授業は、運動経験や体力レベルの違いに配慮し、誰もが安心して参加できる内容として構成されています。サンドバッグ打ちやミット打ちなどの打撃を伴う運動、対人によるスパーリングは行いません。実践的な打撃練習や対人競技を目的とした授業ではありませんので、あらかじめ理解した上で受講してください。

授業では、ボクシングの基本動作である「構え」「フットワーク」「パンチ」「防御動作」を、個々の体力や運動経験に配慮しながら段階的に学びます。その後、音楽に合わせたシャドーボクシング（ボクササイズ）を中心とした有酸素運動を行い、心肺機能の向上、体力増進、ストレスの軽減を目指します。

運動経験の有無や体力レベルに関わらず、無理のないペースで取り組めるよう配慮して進行します。音楽に合わせて身体を動かすことで、楽しみながら継続的な運動習慣を身につけることを重視した授業です。

授業の到達目標: ボクシングエクササイズの基本的な動きを理解し、安全に配慮しながら、無理のない姿勢と動作で身体を動かすことができる。

音楽に合わせた運動を通して、自身の体力や体調に応じたペースで継続的に身体を動かし、健康維持につながる運動習慣の基礎を身につける。

運動に前向きに取り組む姿勢を養い、気分転換やストレスの軽減を図ることで、日常生活をより快適に過ごす意識を高める。

事前・事後学習の内容: 事前学習
特別な準備は不要です。体調管理に気を配り、動きやすい服装で授業に参加してください。

事後学習
授業での運動をきっかけに、日常生活の中でも健康的な生活や適度な運動を意識してください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション／ 本講義の目的と概要について説明./軽い運動

第2回
準備運動／ジョギング／縄飛び／拳の握り方・構え方・フットワークの基本／軽い筋トレ

第3回
準備運動／ジョギング／縄飛び／前回の復習／左右ストレート動作の習得／軽い筋トレ

第4回
準備運動／ジョギング／縄飛び／前回の復習／左右フック動作の習得／軽い筋トレ

第5回
準備運動／ジョギング／縄飛び／前回の復習／左右アッパー動作の習得／軽い筋トレ

第6回
準備運動／ジョギング／縄飛び／前回の復習／コンビネーション動作の習得／軽い筋トレ

第7回
準備運動／ジョギング／縄飛び／前回の復習／防御動作ダッキングの習得／防御動作を入れたコンビネーションの習得／軽い筋トレ

第8回
準備運動／ジョギング／縄飛び／前回の復習／防御動作ウィービングの習得／防御動作を入れたコンビネーションの習得／軽い筋トレ

第9回
準備運動／ジョギング／縄飛び／前回の復習／リズムに合わせてシャドーボクシング／軽い筋トレ
第10回
準備運動／ジョギング／縄飛び／リズムに合わせてシャドーボクシング／軽い筋トレ
第11回
準備運動／ジョギング／縄飛び／リズムに合わせてシャドーボクシング／軽い筋トレ
第12回
準備運動／ジョギング／縄飛び／二人一組で向かい合い、リズムに合わせてシャドーボクシング／軽い筋トレ
第13回
準備運動／ジョギング／縄飛び／二人一組で向かい合い、リズムに合わせてシャドーボクシング／軽い筋トレ
第14回
準備運動／ジョギング／縄飛び／二人一組で向かい合い、リズムに合わせてシャドーボクシング／軽い筋トレ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 準備物：縄跳び、室内用運動靴、運動着上下（Tシャツ、短パン、ジャージなど）、汗拭きタオル、汗をかいた後の着替え

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 平常点評価（100%）
・出席：80%
・授業態度：20%（安全への配慮、意欲的な参加姿勢、協調性等）

※やむを得ない欠席には補講対応あり

備考・関連URL: 講師
https://www.waseda.jp/inst/athletic/director/2026/01/19/54406/

参考動画https://www.youtube.com/@REALROUND-boxing

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040043|01|9S07040043[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	軟式野球 基礎 01		
担 当 教 員	小宮山 悟		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 野球は、日本のスポーツの中で最もポピュラーなスポーツです。野球を愛する学生の受講を歓迎します。基本動作を学びたいという初心者から、高校球児だった者まで幅広い層を対象とします。授業を通して野球というスポーツの面白さ、楽しさ、そして素晴らしさを感じてもらいたいという事と、チームスポーツとしての大切な心、考え方を、実戦形式を中心とした中で、指導します。
授業では、自分が少しずつ「上手になってきた」と実感できることが大切な事で、その為には、「投げる」「打つ」「捕る」「走る」と言った基本動作を習得する必要があります。
チームスポーツである野球の素晴らしさは、チーム全員がチームの勝利を最大の目標とすることにあります。そのために、全てのプレーには、「思いやりの心」「励まし合う心」「助け合う心」「協調の心」、「心のつながり」、「心の持ち方」が、大変重要になっている事もしっかり指導したいと考えています。

授業の到達目標: 野球の基礎的技術と理論の習得。チームスポーツを理解し実践すること。更にルールに精通することで、フェアプレー精神を身につけてもらうこと。

事前・事後学習の内容: 事前学習は特にありません。
事後学習については、授業の振り返りとして実施する場合があります。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第一回:対面授業①
オリエンテーション
第二回:対面授業②
「キャッチボール」「ティーバッティング」
第三回:対面授業③
「キャッチボール」「ティーバッティング」
第四回:対面授業④
「守備の基本」
第五回:対面授業⑤
「バッティングの基本」
第六回:対面授業⑥
「ゲーム」「走塁」
第七回:対面授業⑦
「ゲーム」「バント・エンドラン」
第八回:対面授業⑧
「ゲーム」「守備連携」
第九回:対面授業⑨
「ゲーム」「作戦」
第十回:対面授業⑩
「ゲーム」
第十一回:対面授業⑪
「ゲーム」
第十二回:対面授業⑫
「ゲーム」
第十三回:対面授業⑬
「ゲーム」

第十四回：対面授業⑭(最終回)
「ゲーム」「総まとめ」

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　なし

参考文献：　なし

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　基本的技術の習得と試合においての状況判断力、チームプレーにおけるリーダーシップの在り方など総合評価。真摯な姿勢、出欠の有無を重要視する。

備考・関連URL：　【初回授業】
オリエンテーション

場所：東伏見軟式野球場のバックネット裏（雨天時以外）
硬式野球場に隣接した雨天練習場（雨天時）
※雨天の場合、野球の理論について講義します。

【更衣】
75-3号館スポーツホール更衣室で着替えてください。

関連URL: 東伏見キャンパス
http://www.waseda.jp/gec/wp-content/uploads/2014/02/sports02.pdf

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040043|02|9S07040043[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	軟式野球 基礎 02		
担 当 教 員	小宮山 悟		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 野球は、日本のスポーツの中で最もポピュラーなスポーツです。野球を愛する学生の受講を歓迎します。基本動作を学びたいという初心者から、高校球児だった者まで幅広い層を対象とします。授業を通して野球というスポーツの面白さ、楽しさ、そして素晴らしさを感じてもらいたいという事と、チームスポーツとしての大切な心、考え方を、実戦形式を中心とした中で、指導します。
授業では、自分が少しずつ「上手になってきた」と実感できることが大切な事で、その為には、「投げる」「打つ」「捕る」「走る」と言った基本動作を習得する必要があります。
チームスポーツである野球の素晴らしさは、チーム全員がチームの勝利を最大の目標とすることにあります。そのために、全てのプレーには、「思いやりの心」「励まし合う心」「助け合う心」「協調の心」、「心のつながり」、「心の持ち方」が、大変重要になっている事もしっかり指導したいと考えています。

授業の到達目標: 野球の基礎的技術と理論の習得。チームスポーツを理解し実践すること。更にルールに精通することで、フェアプレー精神を身につけてもらうこと。

事前・事後学習の内容: 事前学習は特にありません。
事後学習については、授業の振り返りとして実施する場合があります。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第一回:対面授業①
オリエンテーション
第二回:対面授業②
「キャッチボール」「ティーバッティング」
第三回:対面授業③
「キャッチボール」「ティーバッティング」
第四回:対面授業④
「守備の基本」
第五回:対面授業⑤
「バッティングの基本」
第六回:対面授業⑥
「ゲーム」「走塁」
第七回:対面授業⑦
「ゲーム」「バント・エンドラン」
第八回:対面授業⑧
「ゲーム」「守備連携」
第九回:対面授業⑨
「ゲーム」「作戦」
第十回:対面授業⑩
「ゲーム」
第十一回:対面授業⑪
「ゲーム」
第十二回:対面授業⑫
「ゲーム」
第十三回:対面授業⑬
「ゲーム」

第十四回：対面授業⑭(最終回)
「ゲーム」「総まとめ」

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　なし

参考文献：　なし

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　基本的技術の習得と試合においての状況判断力、チームプレーにおけるリーダーシップの在り方など総合評価。真摯な姿勢、出欠の有無を重要視する。

備考・関連URL：　【初回授業】
オリエンテーション

場所：東伏見軟式野球場のバックネット裏（雨天時以外）
硬式野球場に隣接した雨天練習場（雨天時）
※雨天の場合、野球の理論について講義します。

【更衣】
75-3号館スポーツホール更衣室で着替えてください。

関連URL: 東伏見キャンパス
http://www.waseda.jp/gec/wp-content/uploads/2014/02/sports02.pdf

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040044|01|9S07040044[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ヨガ 01		
担 当 教 員	番場 裕之		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ヨーガとマインドフルネスを通して思想を体感する

授業概要: 本科目は、対面授業として展開します。

[目的]
ヨーガは、その健康法的側面が強調され、フィットネス効果をもたらすものとして知られています。しかし、本来は、仏教興隆の礎ともなった、インドの精神文化で育まれた人格的向上目指す全人格的な精神修養法なのです。それは、仏教成立以前の文化的・宗教的潮流に端を発した、実践、思想、哲学を伴ったインド思想の根底に流れる実践体系なのです。
ヨーガは身体的苦痛と精神的苦悩を和らげる手段を伝えており、身体的健全をもたらし、心と身体のバランスを調え、活性化する効果が期待されています。
ヨーガには長い歴史の中で培われた思想があることから、基本的な思想を踏まえて実践することで、体験できるヨーガの質をかなり深めることができます。それについては、別途提示するオンデマンド動画で補足します。授業では、ヨーガの実践によって、思想の一端を感じ取ってもえればと思います。

[内容]
ヨーガの中心となる実践は、呼吸を調える調気法（プラーナーヤーマ）と一体的に行う体位法（アーサナ）です。呼吸は生命の要であると同時に心と密接につながる身体活動です。ストレスや不快を感じるときには、呼吸は浅く、粗いままですが、呼吸をゆっくりと深めることによって、落ち着きを取り戻し、ストレスからも解消され、心の健全を取り戻すことができます。腹式呼吸で呼吸をゆったりと調えることで副交感神経が活性化され、やすらぎを実感できます。また、胸式呼吸によって交感神経を活性化し、積極性やダイナミックさを導くことができるようになります。
体位法（アーサナ）は、運動機能の維持にも心の健全にも極めて大切な要素です。姿勢が悪く、肩こりや腰痛を感じる場合は、ダイナミックな呼吸活動がしにくくなっています。体位法の実践と呼吸を一体的に行う「ひと呼吸ひと動作」によって、呼吸活動も活発になり、心と身体の一体感や充実感、爽快感を実感し、身体のアライメントが飛躍的に整えられます。
本講では、そうした気づき（マインドフルネス）をうながし、身体の動きと呼吸の流れを一致させたヨーガを行うことで、四肢五体を活性させて生命感あふれる若者にふさわしい姿勢を創り出し、全人格のまとまりをつくり出すべく、実践指導にあたる予定です。
坐禅・瞑想の時間を設定するなど、ヨーガ体験をより深められるようにしていきます。

授業の到達目標: 1：呼吸法（プラーナーヤーマ）と体位法（アーサナ）を中心とした身体技法によって、心が静まってゆくプロセスを見つめていく瞑想（マインドフルネス）を体感する。
2：身体感覚に目覚め、姿勢やしぐさなどを意識できるようになる。
3：ヨーガの思想と実践の関連性を体感し、実生活に生きる思想を習得する。
4：ダイナミックなハタ・ヨーガの技法を体験する。

事前・事後学習の内容: 事前学習
＊Waseda Moodleに毎回授業で行う実践動画を掲載します。必ず、事前に視聴して実践してください。
＊講義動画はヨーガの歴史と思想を含んでいます。自ら時間をかけて調べてみるようにしてください。それによってヨーガ体験が格段に深まります。歴史と思想が、ヨーガ体験に反映できるように興味を持って臨んでください。

事後学習
＊授業で行った内容を中心に、動画視聴をしつつ復習してください。
＊日頃から呼吸や姿勢などを意識できるようにしてください。
＊それによって、四肢五体、身体をしっかりと動かせる習慣が身につき、自ずと身体感覚が養われていきます。
＊授業ごとにしたヨーガ体験を言語化する習慣をつけてください。身体感覚を直感的に言語化することで、体験が一層深まります。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：ヨーガとは何か
ヨーガの歴史と基本思想～講義動画
腹式呼吸と胸式呼吸によって、呼吸機能の活性と沈静をもたらす。
心と身体をダイナミックに調える。
見える視野、感じる心の視野（遠望視）の関係を実感する。

呼吸の深まりと心を解放する瞑想。

第2回：身体の硬さの原因とその改善

上下半身の繋ぎ目・骨盤を意識する。
骨盤の動きを改善する。 大腿二頭筋の活性化（合蹠前屈の体位）。
骨盤の動きに目覚める瞑想。

第3回：手、腕、肩の活性化1

呼吸と動作を合わせる。 手の指先を極限まで伸ばす。
腕を垂直に極限まで上げる。 合掌した腕を極限まで引き上げる。
手と腕の余韻を感じる瞑想。冷え性の改善。

第4回：手、腕、肩の活性化2

呼吸法と「気」を調える調気法（プラーナーヤーマ）～講義動画
手の指を極限まで開く。
呼吸をしやすい体づくり～腕を斜めに引き上げて胸郭を開く。
姿勢の改善と呼吸の奥行き～身体感覚に目覚める。
上腕部～胸部の活性を感じる瞑想。

第5回：片鼻交替呼吸と下肢の活性化1

伝統的調気法～片鼻で行う調気法（スーリヤ・ベーダナ）
骨盤の歪みを調える。 下肢の強張りを把握する。
簡易的太陽礼拝の体位。背骨を意識する。 膝裏を伸ばす。
下肢の感覚に目覚める瞑想

第6回：浄化呼吸法と下肢の活性化2

カパーラバーティ浄化呼吸法。下肢の強張りを改善する。
簡易的太陽礼拝の体位。両脚の活性化（大腿四頭筋と大腿二頭筋）
下肢の感覚を深める瞑想

第7回：背骨を反らせる

背骨をダイナミックに反らせるブジャンガの体位。
背筋力で「反る」と上体を持ち上げて「撓る（しなる）」の違い。
背骨を反らせる感覚を観察する瞑想

第8回：立位から展開する体位法（アーサナ）～背骨をねじる

骨盤を動かして上半身と下半身をダイナミックに活性化する。
背骨をねじる感覚を感受する瞑想。

第9回：股関節の解放1

床に座って開脚する。 60度開脚前屈（大腿二頭筋の活性化）。
開脚の感覚に目覚める瞑想。

第10回：股関節の解放2

インド的調気法と中国的呼吸法の違い
鼻孔呼吸を行う理由呼吸の「間」を掴む～講義動画
横開脚から鷺（クラウンチャ）の体位、そして縦開脚（ハヌマーン）の体位へ。
開脚を深めて前屈する（開脚前屈）。仰向けで開脚する。
前後開脚の感覚に目覚める瞑想。

第11回：立位で行う6種の体位法（アーサナ）

立位で行う6種の体位法（アーサナ）を続けて行う。
体位法を連続して行う感覚を味合う瞑想。

第12回：背骨をダイナミックにねじる1

床に座って背骨をねじる（マッチェーンドラ）の体位。
背骨をダイナミックにねじる感覚を味合う瞑想。

第13回：背骨をダイナミックにねじる2

床に座って背骨をねじる（マッチェーンドラ）の体位。
床に座って背骨をねじり、体側を伸ばす。
体側の感覚に目覚める瞑想。

第14回：背骨をダイナミックにねじり体側を伸ばす

床に座って背骨をねじり、極限まで体側を伸ばす。
呼吸の深まり、身体の覚醒、心の統御から「至上の境地(parama-gati)」へ～

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 1. 毎回、自習動画をWaseda Moodleにて配信します。
2. 必要に応じてWaseda Moodleにてレジュメを配布します。

参考文献: 番場裕之（著）、2008、『5分でスッキリ簡単ヨーガで健康に! 』、NHK出版
番場裕之（著）、2008、『実践『ヨーガ・スートラ』入門』、春秋社

【中国語圏留学生の場合】
下記を参照して下さい。
番場裕之（著）、楊鴻儒（譯）、2009、『禪味瑜珈』、瑞昇文化事業股份有限公司
※上記『5分でスッキリ簡単ヨーガで健康に! 』の中国語版

番場裕之（著）、李暁雯、李敏華（譯）、2011、『瑜伽：身心安頓』、新自然主義股份有限公司
※『心を鍛えるヨーガ』（NHK出版）の中国語版

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：	50	14回に2回程度、レポートを設定します。 直感的に体験した内容、身体感覚を言語化することで、ヨーガの体験を思考する振り返る契機となり、思想を学ぶ手段となります。 詳細はWaseda Moodleにて伝達します。 ＊レポートは加点が大きく、未提出だと減点が大きくなります。必ず全回提出してください。
平常点評価：	50	出席は、点呼（出席簿チェック）を行います。 欠席の場合は、必ず事前にメールすること（yoga@aoni.waseda.jp 番場）。 教場に入室次第、教員に出席を申し出てください。 無断欠席が授業回数の3分の1を超える場合は、成績評価の対象としません。

備考・関連URL：　1：講師の号令に合わせて、受講者全員と一体感をもって実践します。呼吸の流れにあわせて身体を動かすので、身体の柔軟性などには影響されません（ポーズの完成を目指していません）。
2：服装は必ずトレーニングウエアを着用してください。原則として裸足で実践します 。
3：授業開始までに指定された更衣室で更衣し、体育館の指定の場所で待機してください。
4：欠席の場合は事前にメールで伝達のこと（yoga@aoni.waseda.jp）。
5：詳細はWaseda Moodleにて説明を行うので、毎回確認してください。
※健康問題など心配事があれば、ヨーガ的視点からのアドバイスが可能です。

関連URL
https://www.yoga-korei.org/

https://www.yukoyogayogin.com/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040044|03|9S07040044[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ヨガ 03		
担 当 教 員	山内 やよい		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 健康とは、身体・心・魂がどれひとつ切り離されることなく、全体として捉えたときに、その人が本来持つその人らしい輝きが放たれる状態をいいます。安定した心と、健やかな肉体。そして平和で穏やかな魂は、人から与えられるものではなく、今を生きる私たちそれぞれが主体的に獲得していくものです。
身体をすみずみまで気持ちよく伸ばしていくと、驚くほど呼吸が深くなる。そして、深い呼吸は安定したメンタリティを産み出す。ヨガの流派は様々あれど、基本は同じ。体を整えると呼吸が整う。呼吸が整うと心が整う。呼吸を通して心と身体をつなげていく作業を「ヨガ」と言います。
本授業では、いくつかの呼吸法とともに穏やかな身体操作を行っていきます。ポーズ毎に内観の時間をもち、身体への気づきの感覚を育んでいきます。身体操作が中心の授業になりますが、必要に応じてヨガ哲学や、臨床場面での活用やエビデンス紹介、瞑想体験を行っていきます。

授業の到達目標: 調身・調息・調心によって、健やかな心身と、健康に生きる知恵、ストレスにもしなやかに対応できるスキルを獲得する。

事前・事後学習の内容: その日実習したアーサナや呼吸法の復習を翌週の授業まで毎日行う

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ガイダンス（本授業の目的と概要）
ヨガの歴史、目的と概要について説明した後、実際に体を動かしてヨガを体験します。
（動きやすい服装で集合すること）

第2回 実技①姿勢と呼吸（氣:Prana）の学習
・呼吸の解剖学的理解
・呼吸を深める呼吸筋
・呼吸体操の実践

第3回 実技②丹田および丹田呼吸
・丹田とは
・脳と丹田の関わり
・丹田強化法の実践
・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察

第4回 実技③排毒を促す
・ヨガでできる腎臓＆肝臓の養生
・身体の不要なものを手放す（排毒）ために必要なこと
・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ

第5回 実技④基本ポーズ
・ヨガの基本ポーズの学習
・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ

第6回 実技⑤太陽礼拝
ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝運動の実践

第7回 実技⑥基本ポーズ
・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント
・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ

第8回 実技⑦
パフォーマンスを上げたいアスリート向けコンディショニングヨガの実践

第9回 実技⑧安定したメンタル1
リラクゼーションのための呼吸法やアーサナを学習する

第10回 実技⑨安定したメンタル2
集中力＆パフォーマンスアップのための呼吸法やアーサナを学習する

第１１回　実技⑩胃腸を整える
ストレスに影響を受けやすい胃腸を養生し働きを高めるためのアーサナを学習する
第１２回　実技⑪「指ヨガ」部分即全体の考え方
心・氣・体にアプローチするヨガの実践
第１３回　ハタヨーガと瞑想
心・氣・体にアプローチするヨガの実践
第１４回　授業の振り返り
全体を通しての復習と
気づきのシェア
ヨガの実践

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　必要に応じてプリントを配布する

参考文献:　「ハタヨガの真髄」B･K･Sアイアンガー著　沖正弘 監訳（白揚社）
「深い呼吸で体が変わる」龍村修著（草思社）
「ヨガ呼吸修正法 上・下」(日貿出版）
「冥想ヨガ入門」 沖正弘著（日貿出版）

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　10　13回目に簡単な実技テストを行います。

平常点評価:　25　授業に取り組む姿勢をチェックします。

その他:　65　出席率70％以上を目標とします。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040044|04|9S07040044[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ヨガ 04		
担 当 教 員	山内 やよい		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 健康とは、身体・心・魂がどれひとつ切り離されることなく、全体として捉えたときに、その人が本来持つその人らしい輝きが放たれる状態をいいます。安定した心と、健やかな肉体。そして平和で穏やかな魂は、人から与えられるものではなく、今を生きる私たちそれぞれが主体的に獲得していくものです。
身体をすみずみまで気持ちよく伸ばしていくと、驚くほど呼吸が深くなる。そして、深い呼吸は安定したメンタリティを産み出す。ヨガの流派は様々あれど、基本は同じ。体を整えると呼吸が整う。呼吸が整うと心が整う。呼吸を通して心と身体をつなげていく作業を「ヨガ」と言います。
本授業では、いくつかの呼吸法とともに穏やかな身体操作を行っていきます。ポーズ毎に内観の時間をもち、身体への気づきの感覚を育んでいきます。身体操作が中心の授業になりますが、必要に応じてヨガ哲学や、臨床場面での活用やエビデンス紹介、瞑想体験を行っていきます。

授業の到達目標: 調身・調息・調心によって、健やかな心身と、健康に生きる知恵、ストレスにもしなやかに対応できるスキルを獲得する。

事前・事後学習の内容: その日実習したアーサナや呼吸法の復習を翌週の授業まで毎日行う

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ガイダンス（本授業の目的と概要）
ヨガの歴史、目的と概要について説明した後、実際に体を動かしてヨガを体験します。
（動きやすい服装で集合すること）

第2回 実技①姿勢と呼吸（氣:Prana）の学習
・呼吸の解剖学的理解
・呼吸を深める呼吸筋
・呼吸体操の実践

第3回 実技②丹田および丹田呼吸
・丹田とは
・脳と丹田の関わり
・丹田強化法の実践
・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察

第4回 実技③排毒を促す
・ヨガでできる腎臓＆肝臓の養生
・身体の不要なものを手放す（排毒）ために必要なこと
・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ

第5回 実技④基本ポーズ
・ヨガの基本ポーズの学習
・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ

第6回 実技⑤太陽礼拝
ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝運動の実践

第7回 実技⑥基本ポーズ
・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント
・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ

第8回 実技⑦
パフォーマンスを上げたいアスリート向けコンディショニングヨガの実践

第9回 実技⑧安定したメンタル1
リラクゼーションのための呼吸法やアーサナを学習する

第10回 実技⑨安定したメンタル2
集中力＆パフォーマンスアップのための呼吸法やアーサナを学習する

第１１回　実技⑩胃腸を整える
ストレスに影響を受けやすい胃腸を養生し働きを高めるためのアーサナを学習する
第１２回　実技⑪「指ヨガ」部分即全体の考え方
心・氣・体にアプローチするヨガの実践
第１３回　ハタヨーガと瞑想
心・氣・体にアプローチするヨガの実践
第１４回　授業の振り返り
全体を通しての復習と
気づきのシェア
ヨガの実践

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 必要に応じてプリントを配布する

参考文献: 「ハタヨガの真髄」B·K·Sアイアンガー著　沖正弘 監訳（白揚社）
「深い呼吸で体が変わる」龍村修著（草思社）
「ヨガ呼吸修正法 上・下」(日貿出版)
「冥想ヨガ入門」 沖正弘著（日貿出版）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 10　13回目に簡単な実技テストを行います。

平常点評価: 25　授業に取り組む姿勢をチェックします。

その他: 65　出席率70%以上を目標とします。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040044|05|9S07040044[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ヨガ 05		
担 当 教 員	番場 裕之		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ヨーガとマインドフルネスを通して思想を体感する

授業概要: 本科目は、対面授業として展開します。

[目的]
ヨーガは、その健康法的側面が強調され、フィットネス効果をもたらすものとして知られています。しかし、本来は、仏教興隆の礎ともなった、インドの精神文化で育まれた人格的向上目指す全人格的な精神修養法なのです。それは、仏教成立以前の文化的・宗教的潮流に端を発した、実践、思想、哲学を伴ったインド思想の根底に流れる実践体系なのです。
ヨーガは身体的苦痛と精神的苦悩を和らげる手段を伝えており、身体的健全をもたらし、心と身体のバランスを調え、活性化する効果が期待されています。
ヨーガには長い歴史の中で培われた思想があることから、基本的な思想を踏まえて実践することで、体験できるヨーガの質をかなり深めることができます。それについては、別途提示するオンデマンド動画で補足します。授業では、ヨーガの実践によって、思想の一端を感じ取ってもえればと思います。

[内容]
ヨーガの中心となる実践は、呼吸を調える調気法（プラーナーヤーマ）と一体的に行う体位法（アーサナ）です。呼吸は生命の要であると同時に心と密接につながる身体活動です。ストレスや不快を感じるときには、呼吸は浅く、粗いままですが、呼吸をゆっくりと深めることによって、落ち着きを取り戻し、ストレスからも解消され、心の健全を取り戻すことができます。腹式呼吸で呼吸をゆったりと調えることで副交感神経が活性化され、やすらぎを実感できます。また、胸式呼吸によって交感神経を活性化し、積極性やダイナミックさを導くことができるようになります。
体位法（アーサナ）は、運動機能の維持にも心の健全にも極めて大切な要素です。姿勢が悪く、肩こりや腰痛を感じる場合は、ダイナミックな呼吸活動がしにくくなっています。体位法の実践と呼吸を一体的に行う「ひと呼吸ひと動作」によって、呼吸活動も活発になり、心と身体の一体感や充実感、爽快感を実感し、身体のアライメントが飛躍的に整えられます。
本講では、そうした気づき（マインドフルネス）をうながし、身体の動きと呼吸の流れを一致させたヨーガを行うことで、四肢五体を活性させて生命感あふれる若者にふさわしい姿勢を創り出し、全人格のまとまりをつくり出すべく、実践指導にあたる予定です。
坐禅・瞑想の時間を設定するなど、ヨーガ体験をより深められるようにしていきます。

授業の到達目標: 1：呼吸法（プラーナーヤーマ）と体位法（アーサナ）を中心とした身体技法によって、心が静まってゆくプロセスを見つめていく瞑想（マインドフルネス）を体感する。
2：身体感覚に目覚め、姿勢やしぐさなどを意識できるようになる。
3：ヨーガの思想と実践の関連性を体感し、実生活に生きる思想を習得する。
4：ダイナミックなハタ・ヨーガの技法を体験する。

事前・事後学習の内容: 事前学習
＊Waseda Moodleに毎回授業で行う実践動画を掲載します。必ず、事前に視聴して実践してください。
＊講義動画はヨーガの歴史と思想を含んでいます。自ら時間をかけて調べてみるようにしてください。それによってヨーガ体験が格段に深まります。歴史と思想が、ヨーガ体験に反映できるように興味を持って臨んでください。

事後学習
＊授業で行った内容を中心に、動画視聴をしつつ復習してください。
＊日頃から呼吸や姿勢などを意識できるようにしてください。
＊それによって、四肢五体、身体をしっかりと動かせる習慣が身につき、自ずと身体感覚が養われていきます。
＊授業ごとにしたヨーガ体験を言語化する習慣をつけてください。身体感覚を直感的に言語化することで、体験が一層深まります。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：ヨーガとは何か
ヨーガの歴史と基本思想～講義動画
腹式呼吸と胸式呼吸によって、呼吸機能の活性と沈静をもたらす。
心と身体をダイナミックに調える。
見える視野、感じる心の視野（遠望視）の関係を実感する。

呼吸の深まりと心を解放する瞑想。

第2回：身体の硬さの原因とその改善

上下半身の繋ぎ目・骨盤を意識する。
骨盤の動きを改善する。 大腿二頭筋の活性化（合蹠前屈の体位）。
骨盤の動きに目覚める瞑想。

第3回：手、腕、肩の活性化1

呼吸と動作を合わせる。 手の指先を極限まで伸ばす。
腕を垂直に極限まで上げる。 合掌した腕を極限まで引き上げる。
手と腕の余韻を感じる瞑想。冷え性の改善。

第4回：手、腕、肩の活性化2

呼吸法と「気」を調える調気法（プラーナーヤーマ）～講義動画
手の指を極限まで開く。
呼吸をしやすい体づくり～腕を斜めに引き上げて胸郭を開く。
姿勢の改善と呼吸の奥行き～身体感覚に目覚める。
上腕部～胸部の活性を感じる瞑想。

第5回：片鼻交替呼吸と下肢の活性化1

伝統的調気法～片鼻で行う調気法（スーリヤ・ベーダナ）
骨盤の歪みを調える。 下肢の強張りを把握する。
簡易的太陽礼拝の体位。背骨を意識する。 膝裏を伸ばす。
下肢の感覚に目覚める瞑想

第6回：浄化呼吸法と下肢の活性化2

カパーラバーティ浄化呼吸法。下肢の強張りを改善する。
簡易的太陽礼拝の体位。両脚の活性化（大腿四頭筋と大腿二頭筋）
下肢の感覚を深める瞑想

第7回：背骨を反らせる

背骨をダイナミックに反らせるブジャンガの体位。
背筋力で「反る」と上体を持ち上げて「撓る（しなる）」の違い。
背骨を反らせる感覚を観察する瞑想

第8回：立位から展開する体位法（アーサナ）～背骨をねじる

骨盤を動かして上半身と下半身をダイナミックに活性化する。
背骨をねじる感覚を感受する瞑想。

第9回：股関節の解放1

床に座って開脚する。 60度開脚前屈（大腿二頭筋の活性化）。
開脚の感覚に目覚める瞑想。

第10回：股関節の解放2

インド的調気法と中国的呼吸法の違い
鼻孔呼吸を行う理由呼吸の「間」を掴む～講義動画
横開脚から鷺（クラウンチャ）の体位、そして縦開脚（ハヌマーン）の体位へ。
開脚を深めて前屈する（開脚前屈）。仰向けで開脚する。
前後開脚の感覚に目覚める瞑想。

第11回：立位で行う6種の体位法（アーサナ）

立位で行う6種の体位法（アーサナ）を続けて行う。
体位法を連続して行う感覚を味合う瞑想。

第12回：背骨をダイナミックにねじる1

床に座って背骨をねじる（マッチェーンドラ）の体位。
背骨をダイナミックにねじる感覚を味合う瞑想。

第13回：背骨をダイナミックにねじる2

床に座って背骨をねじる（マッチェーンドラ）の体位。
床に座って背骨をねじり、体側を伸ばす。
体側の感覚に目覚める瞑想。

第14回：背骨をダイナミックにねじり体側を伸ばす

床に座って背骨をねじり、極限まで体側を伸ばす。
呼吸の深まり、身体の覚醒、心の統御から「至上の境地(parama-gati)」へ～

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 1. 毎回、自習動画をWaseda Moodleにて配信します。
2. 必要に応じてWaseda Moodleにてレジュメを配布します。

参考文献: 番場裕之（著）、2008、『5分でスッキリ簡単ヨーガで健康に! 』、NHK出版
番場裕之（著）、2008、『実践『ヨーガ・スートラ』入門』、春秋社

【中国語圏留学生の場合】
下記を参照して下さい。
番場裕之（著）、楊鴻儒（譯）、2009、『禪味瑜珈』、瑞昇文化事業股份有限公司
※上記『5分でスッキリ簡単ヨーガで健康に! 』の中国語版

番場裕之（著）、李曉雯、李敏華（譯）、2011、『瑜伽：身心安頓』、新自然主義股份有限公司
※『心を鍛えるヨーガ』（NHK出版）の中国語版

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：	50	14回に2回程度、レポートを設定します。 直感的に体験した内容、身体感覚を言語化することで、ヨーガの体験を思考する振り返る契機となり、思想を学ぶ手段となります。 詳細はWaseda Moodleにて伝達します。 ＊レポートは加点が大きく、未提出だと減点が大きくなります。必ず全回提出してください。
平常点評価：	50	出席は、点呼（出席簿チェック）を行います。 欠席の場合は、必ず事前にメールすること（yoga@aoni.waseda.jp 番場）。 教場に入室次第、教員に出席を申し出てください。 無断欠席が授業回数の3分の1を超える場合は、成績評価の対象としません。

備考・関連URL：　1：講師の号令に合わせて、受講者全員と一体感をもって実践します。呼吸の流れにあわせて身体を動かすので、身体の柔軟性などには影響されません（ポーズの完成を目指していません）。
2：服装は必ずトレーニングウエアを着用してください。原則として裸足で実践します 。
3：授業開始までに指定された更衣室で更衣し、体育館の指定の場所で待機してください。
4：欠席の場合は事前にメールで伝達のこと（yoga@aoni.waseda.jp）。
5：詳細はWaseda Moodleにて説明を行うので、毎回確認してください。
※健康問題など心配事があれば、ヨーガ的視点からのアドバイスが可能です。

関連URL
https://www.yoga-korei.org/

https://www.yukoyogayogin.com/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040044|07|9S07040044[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ヨガ 07		
担 当 教 員	山内 やよい		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

健康とは、身体・心・魂がどれひとつ切り離されることなく、全体として捉えたときに、その人が本来持つその人らしい輝きが放たれる状態をいいます。安定した心と、健やかな肉体。そして平和で穏やかな魂は、人から与えられるものではなく、今を生きる私たちそれぞれが主体的に獲得していくものです。
身体をすみずみまで気持ちよく伸ばしていくと、驚くほど呼吸が深くなる。そして、深い呼吸は安定したメンタリティを産み出す。ヨガの流派は様々あれど、基本は同じ。体を整えると呼吸が整う。呼吸が整うと心が整う。呼吸を通して心と身体をつなげていく作業を「ヨガ」と言います。
本授業では、いくつかの呼吸法とともに穏やかな身体操作を行っていきます。ポーズ毎に内観の時間をもち、身体への気づきの感覚を育んでいきます。身体操作が中心の授業になりますが、必要に応じてヨガ哲学や、臨床場面での活用やエビデンス紹介、瞑想体験を行っていきます。

授業の到達目標：

調身・調息・調心によって、健やかな心身と、健康に生きる知恵、ストレスにもしなやかに対応できるスキルを獲得する。

事前・事後学習の内容：

その日実習したアーサナや呼吸法の復習を翌週の授業まで毎日行う

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 ガイダンス（本授業の目的と概要）

ヨガの歴史、目的と概要について説明した後、実際に体を動かしてヨガを体験します。
（動きやすい服装で集合すること）

第2回 実技①姿勢と呼吸（氣:Prana）の学習

・呼吸の解剖学的理解
・呼吸を深める呼吸筋
・呼吸体操の実践

第3回 実技②丹田および丹田呼吸

・丹田とは
・脳と丹田の関わり
・丹田強化法の実践
・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察

第4回 実技③排毒を促す

・ヨガでできる腎臓＆肝臓の養生
・身体の不要なものを手放す（排毒）ために必要なこと
・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ

第5回 実技④基本ポーズ

・ヨガの基本ポーズの学習
・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ

第6回 実技⑤太陽礼拝

ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝運動の実践

第7回 実技⑥基本ポーズ

・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント
・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ

第8回 実技⑦

パフォーマンスを上げたいアスリート向けコンディショニングヨガの実践

第9回 実技⑧安定したメンタル1

リラクゼーションのための呼吸法やアーサナを学習する

第10回 実技⑨安定したメンタル2

集中力＆パフォーマンスアップのための呼吸法やアーサナを学習する

第１１回　実技⑩胃腸を整える
ストレスに影響を受けやすい胃腸を養生し働きを高めるためのアーサナを学習する
第１２回　実技⑪「指ヨガ」部分即全体の考え方
心・氣・体にアプローチするヨガの実践
第１３回　ハタヨーガと瞑想
心・氣・体にアプローチするヨガの実践
第１４回　授業の振り返り
全体を通しての復習と
気づきのシェア
ヨガの実践

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 必要に応じてプリントを配布する

参考文献: 「ハタヨガの真髄」B·K·Sアイアンガー著　沖正弘 監訳（白揚社）
「深い呼吸で体が変わる」龍村修著（草思社）
「ヨガ呼吸修正法 上・下」(日貿出版)
「冥想ヨガ入門」 沖正弘著（日貿出版）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 10　13回目に簡単な実技テストを行います。

平常点評価: 25　授業に取り組む姿勢をチェックします。

その他: 65　出席率70%以上を目標とします。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040044|08|9S07040044[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ヨガ 08		
担 当 教 員	山内 やよい		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

健康とは、身体・心・魂がどれひとつ切り離されることなく、全体として捉えたときに、その人が本来持つその人らしい輝きが放たれる状態をいいます。安定した心と、健やかな肉体。そして平和で穏やかな魂は、人から与えられるものではなく、今を生きる私たちそれぞれが主体的に獲得していくものです。
身体をすみずみまで気持ちよく伸ばしていくと、驚くほど呼吸が深くなる。そして、深い呼吸は安定したメンタリティを産み出す。ヨガの流派は様々あれど、基本は同じ。体を整えると呼吸が整う。呼吸が整うと心が整う。呼吸を通して心と身体をつなげていく作業を「ヨガ」と言います。
本授業では、いくつかの呼吸法とともに穏やかな身体操作を行っていきます。ポーズ毎に内観の時間をもち、身体への気づきの感覚を育んでいきます。身体操作が中心の授業になりますが、必要に応じてヨガ哲学や、臨床場面での活用やエビデンス紹介、瞑想体験を行っていきます。

授業の到達目標：

調身・調息・調心によって、健やかな心身と、健康に生きる知恵、ストレスにもしなやかに対応できるスキルを獲得する。

事前・事後学習の内容：

その日実習したアーサナや呼吸法の復習を翌週の授業まで毎日行う

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 ガイダンス（本授業の目的と概要）

ヨガの歴史、目的と概要について説明した後、実際に体を動かしてヨガを体験します。
（動きやすい服装で集合すること）

第2回 実技①姿勢と呼吸（氣:Prana）の学習

・呼吸の解剖学的理解
・呼吸を深める呼吸筋
・呼吸体操の実践

第3回 実技②丹田および丹田呼吸

・丹田とは
・脳と丹田の関わり
・丹田強化法の実践
・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察

第4回 実技③排毒を促す

・ヨガでできる腎臓＆肝臓の養生
・身体の不要なものを手放す（排毒）ために必要なこと
・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ

第5回 実技④基本ポーズ

・ヨガの基本ポーズの学習
・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ

第6回 実技⑤太陽礼拝

ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝運動の実践

第7回 実技⑥基本ポーズ

・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント
・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ

第8回 実技⑦

パフォーマンスを上げたいアスリート向けコンディショニングヨガの実践

第9回 実技⑧安定したメンタル1

リラクゼーションのための呼吸法やアーサナを学習する

第10回 実技⑨安定したメンタル2

集中力＆パフォーマンスアップのための呼吸法やアーサナを学習する

第１１回　実技⑩胃腸を整える
ストレスに影響を受けやすい胃腸を養生し働きを高めるためのアーサナを学習する
第１２回　実技⑪「指ヨガ」部分即全体の考え方
心・氣・体にアプローチするヨガの実践
第１３回　ハタヨーガと瞑想
心・氣・体にアプローチするヨガの実践
第１４回　授業の振り返り
全体を通しての復習と
気づきのシェア
ヨガの実践

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 必要に応じてプリントを配布する

参考文献: 「ハタヨガの真髄」B·K·Sアイアンガー著　沖正弘 監訳（白揚社）
「深い呼吸で体が変わる」龍村修著（草思社）
「ヨガ呼吸修正法 上・下」(日貿出版)
「冥想ヨガ入門」 沖正弘著（日貿出版）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 10　13回目に簡単な実技テストを行います。

平常点評価: 25　授業に取り組む姿勢をチェックします。

その他: 65　出席率70％以上を目標とします。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040044|09|9S07040044[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ヨガ 09		
担 当 教 員	番場 裕之		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ヨーガとマインドフルネスを通して思想を体感する

授業概要: 本科目は、対面授業として展開します。

[目的]
ヨーガは、その健康法的側面が強調され、フィットネス効果をもたらすものとして知られています。しかし、本来は、仏教興隆の礎ともなった、インドの精神文化で育まれた人格的向上目指す全人格的な精神修養法なのです。それは、仏教成立以前の文化的・宗教的潮流に端を発した、実践、思想、哲学を伴ったインド思想の根底に流れる実践体系なのです。
ヨーガは身体的苦痛と精神的苦悩を和らげる手段を伝えており、身体的健全をもたらし、心と身体のバランスを調え、活性化する効果が期待されています。
ヨーガには長い歴史の中で培われた思想があることから、基本的な思想を踏まえて実践することで、体験できるヨーガの質をかなり深めることができます。それについては、別途提示するオンデマンド動画で補足します。授業では、ヨーガの実践によって、思想の一端を感じ取ってもえればと思います。

[内容]
ヨーガの中心となる実践は、呼吸を調える調気法（プラーナーヤーマ）と一体的に行う体位法（アーサナ）です。呼吸は生命の要であると同時に心と密接につながる身体活動です。ストレスや不快を感じるときには、呼吸は浅く、粗いままですが、呼吸をゆっくりと深めることによって、落ち着きを取り戻し、ストレスからも解消され、心の健全を取り戻すことができます。腹式呼吸で呼吸をゆったりと調えることで副交感神経が活性化され、やすらぎを実感できます。また、胸式呼吸によって交感神経を活性化し、積極性やダイナミックさを導くことができるようになります。
体位法（アーサナ）は、運動機能の維持にも心の健全にも極めて大切な要素です。姿勢が悪く、肩こりや腰痛を感じる場合は、ダイナミックな呼吸活動がしにくくなっています。体位法の実践と呼吸を一体的に行う「ひと呼吸ひと動作」によって、呼吸活動も活発になり、心と身体の一体感や充実感、爽快感を実感し、身体のアライメントが飛躍的に整えられます。
本講では、そうした気づき（マインドフルネス）をうながし、身体の動きと呼吸の流れを一致させたヨーガを行うことで、四肢五体を活性させて生命感あふれる若者にふさわしい姿勢を創り出し、全人格のまとまりをつくり出すべく、実践指導にあたる予定です。
坐禅・瞑想の時間を設定するなど、ヨーガ体験をより深められるようにしていきます。

授業の到達目標: 1：呼吸法（プラーナーヤーマ）と体位法（アーサナ）を中心とした身体技法によって、心が静まってゆくプロセスを見つめていく瞑想（マインドフルネス）を体感する。
2：身体感覚に目覚め、姿勢やしぐさなどを意識できるようになる。
3：ヨーガの思想と実践の関連性を体感し、実生活に生きる思想を習得する。
4：ダイナミックなハタ・ヨーガの技法を体験する。

事前・事後学習の内容: 事前学習
＊Waseda Moodleに毎回授業で行う実践動画を掲載します。必ず、事前に視聴して実践してください。
＊講義動画はヨーガの歴史と思想を含んでいます。自ら時間をかけて調べてみるようにしてください。それによってヨーガ体験が格段に深まります。歴史と思想が、ヨーガ体験に反映できるように興味を持って臨んでください。

事後学習
＊授業で行った内容を中心に、動画視聴をしつつ復習してください。
＊日頃から呼吸や姿勢などを意識できるようにしてください。
＊それによって、四肢五体、身体をしっかりと動かせる習慣が身につき、自ずと身体感覚が養われていきます。
＊授業ごとにしたヨーガ体験を言語化する習慣をつけてください。身体感覚を直感的に言語化することで、体験が一層深まります。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：ヨーガとは何か
ヨーガの歴史と基本思想～講義動画
腹式呼吸と胸式呼吸によって、呼吸機能の活性と沈静をもたらす。
心と身体をダイナミックに調える。
見える視野、感じる心の視野（遠望視）の関係を実感する。

呼吸の深まりと心を解放する瞑想。

第2回：身体の硬さの原因とその改善

上下半身の繋ぎ目・骨盤を意識する。
骨盤の動きを改善する。 大腿二頭筋の活性化（合蹠前屈の体位）。
骨盤の動きに目覚める瞑想。

第3回：手、腕、肩の活性化1

呼吸と動作を合わせる。 手の指先を極限まで伸ばす。
腕を垂直に極限まで上げる。 合掌した腕を極限まで引き上げる。
手と腕の余韻を感じる瞑想。冷え性の改善。

第4回：手、腕、肩の活性化2

呼吸法と「気」を調える調気法（プラーナーヤーマ）～講義動画
手の指を極限まで開く。
呼吸をしやすい体づくり～腕を斜めに引き上げて胸郭を開く。
姿勢の改善と呼吸の奥行き～身体感覚に目覚める。
上腕部～胸部の活性を感じる瞑想。

第5回：片鼻交替呼吸と下肢の活性化1

伝統的調気法～片鼻で行う調気法（スーリヤ・ベーダナ）
骨盤の歪みを調える。 下肢の強張りを把握する。
簡易的太陽礼拝の体位。背骨を意識する。 膝裏を伸ばす。
下肢の感覚に目覚める瞑想

第6回：浄化呼吸法と下肢の活性化2

カパーラバーティ浄化呼吸法。下肢の強張りを改善する。
簡易的太陽礼拝の体位。両脚の活性化（大腿四頭筋と大腿二頭筋）
下肢の感覚を深める瞑想

第7回：背骨を反らせる

背骨をダイナミックに反らせるブジャンガの体位。
背筋力で「反る」と上体を持ち上げて「撓る（しなる）」の違い。
背骨を反らせる感覚を観察する瞑想

第8回：立位から展開する体位法（アーサナ）～背骨をねじる

骨盤を動かして上半身と下半身をダイナミックに活性化する。
背骨をねじる感覚を感受する瞑想。

第9回：股関節の解放1

床に座って開脚する。 60度開脚前屈（大腿二頭筋の活性化）。
開脚の感覚に目覚める瞑想。

第10回：股関節の解放2

インド的調気法と中国的呼吸法の違い
鼻孔呼吸を行う理由呼吸の「間」を掴む～講義動画
横開脚から鷺（クラウンチャ）の体位、そして縦開脚（ハヌマーン）の体位へ。
開脚を深めて前屈する（開脚前屈）。仰向けで開脚する。
前後開脚の感覚に目覚める瞑想。

第11回：立位で行う6種の体位法（アーサナ）

立位で行う6種の体位法（アーサナ）を続けて行う。
体位法を連続して行う感覚を味合う瞑想。

第12回：背骨をダイナミックにねじる1

床に座って背骨をねじる（マッチェーンドラ）の体位。
背骨をダイナミックにねじる感覚を味合う瞑想。

第13回：背骨をダイナミックにねじる2

床に座って背骨をねじる（マッチェーンドラ）の体位。
床に座って背骨をねじり、体側を伸ばす。
体側の感覚に目覚める瞑想。

第14回：背骨をダイナミックにねじり体側を伸ばす

床に座って背骨をねじり、極限まで体側を伸ばす。
呼吸の深まり、身体の覚醒、心の統御から「至上の境地(parama-gati)」へ～

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 1. 毎回、自習動画をWaseda Moodleにて配信します。
2. 必要に応じてWaseda Moodleにてレジュメを配布します。

参考文献: 番場裕之（著）、2008、『5分でスッキリ簡単ヨーガで健康に! 』、NHK出版
番場裕之（著）、2008、『実践『ヨーガ・スートラ』入門』、春秋社

【中国語圏留学生の場合】
下記を参照して下さい。
番場裕之（著）、楊鴻儒（譯）、2009、『禪味瑜珈』、瑞昇文化事業股份有限公司
※上記『5分でスッキリ簡単ヨーガで健康に! 』の中国語版

番場裕之（著）、李暁雯、李敏華（譯）、2011、『瑜伽：身心安頓』、新自然主義股份有限公司
※『心を鍛えるヨーガ』（NHK出版）の中国語版

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：	50	14回に2回程度、レポートを設定します。 直感的に体験した内容、身体感覚を言語化することで、ヨーガの体験を思考する振り返る契機となり、思想を学ぶ手段となります。 詳細はWaseda Moodleにて伝達します。 ＊レポートは加点が大きく、未提出だと減点が大きくなります。必ず全回提出してください。
平常点評価：	50	出席は、点呼（出席簿チェック）を行います。 欠席の場合は、必ず事前にメールすること（yoga@aoni.waseda.jp 番場）。 教場に入室次第、教員に出席を申し出てください。 無断欠席が授業回数の3分の1を超える場合は、成績評価の対象としません。

備考・関連URL：　1：講師の号令に合わせて、受講者全員と一体感をもって実践します。呼吸の流れにあわせて身体を動かすので、身体の柔軟性などには影響されません（ポーズの完成を目指していません）。
2：服装は必ずトレーニングウエアを着用してください。原則として裸足で実践します 。
3：授業開始までに指定された更衣室で更衣し、体育館の指定の場所で待機してください。
4：欠席の場合は事前にメールで伝達のこと（yoga@aoni.waseda.jp）。
5：詳細はWaseda Moodleにて説明を行うので、毎回確認してください。
※健康問題など心配事があれば、ヨーガ的視点からのアドバイスが可能です。

関連URL
https://www.yoga-korei.org/

https://www.yukoyogayogin.com/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040044|10|9S07040044[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ヨガ 10		
担 当 教 員	番場 裕之		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ヨーガとマインドフルネスを通して思想を体感する

授業概要: 本科目は、対面授業として展開します。

[目的]
ヨーガは、その健康法的側面が強調され、フィットネス効果をもたらすものとして知られています。しかし、本来は、仏教興隆の礎ともなった、インドの精神文化で育まれた人格的向上目指す全人格的な精神修養法なのです。それは、仏教成立以前の文化的・宗教的潮流に端を発した、実践、思想、哲学を伴ったインド思想の根底に流れる実践体系なのです。
ヨーガは身体的苦痛と精神的苦悩を和らげる手段を伝えており、身体的健全をもたらし、心と身体のバランスを調え、活性化する効果が期待されています。
ヨーガには長い歴史の中で培われた思想があることから、基本的な思想を踏まえて実践することで、体験できるヨーガの質をかなり深めることができます。それについては、別途提示するオンデマンド動画で補足します。授業では、ヨーガの実践によって、思想の一端を感じ取ってもえればと思います。

[内容]
ヨーガの中心となる実践は、呼吸を調える調気法（プラーナーヤーマ）と一体的に行う体位法（アーサナ）です。呼吸は生命の要であると同時に心と密接につながる身体活動です。ストレスや不快を感じるときには、呼吸は浅く、粗いままですが、呼吸をゆっくりと深めることによって、落ち着きを取り戻し、ストレスからも解消され、心の健全を取り戻すことができます。腹式呼吸で呼吸をゆったりと調えることで副交感神経が活性化され、やすらぎを実感できます。また、胸式呼吸によって交感神経を活性化し、積極性やダイナミックさを導くことができるようになります。
体位法（アーサナ）は、運動機能の維持にも心の健全にも極めて大切な要素です。姿勢が悪く、肩こりや腰痛を感じる場合は、ダイナミックな呼吸活動がしにくくなっています。体位法の実践と呼吸を一体的に行う「ひと呼吸ひと動作」によって、呼吸活動も活発になり、心と身体の一体感や充実感、爽快感を実感し、身体のアライメントが飛躍的に整えられます。
本講では、そうした気づき（マインドフルネス）をうながし、身体の動きと呼吸の流れを一致させたヨーガを行うことで、四肢五体を活性させて生命感あふれる若者にふさわしい姿勢を創り出し、全人格のまとまりをつくり出すべく、実践指導にあたる予定です。
坐禅・瞑想の時間を設定するなど、ヨーガ体験をより深められるようにしていきます。

授業の到達目標: 1：呼吸法（プラーナーヤーマ）と体位法（アーサナ）を中心とした身体技法によって、心が静まってゆくプロセスを見つめていく瞑想（マインドフルネス）を体感する。
2：身体感覚に目覚め、姿勢やしぐさなどを意識できるようになる。
3：ヨーガの思想と実践の関連性を体感し、実生活に生きる思想を習得する。
4：ダイナミックなハタ・ヨーガの技法を体験する。

事前・事後学習の内容: 事前学習
＊Waseda Moodleに毎回授業で行う実践動画を掲載します。必ず、事前に視聴して実践してください。
＊講義動画はヨーガの歴史と思想を含んでいます。自ら時間をかけて調べてみるようにしてください。それによってヨーガ体験が格段に深まります。歴史と思想が、ヨーガ体験に反映できるように興味を持って臨んでください。

事後学習
＊授業で行った内容を中心に、動画視聴をしつつ復習してください。
＊日頃から呼吸や姿勢などを意識できるようにしてください。
＊それによって、四肢五体、身体をしっかりと動かせる習慣が身につき、自ずと身体感覚が養われていきます。
＊授業ごとにしたヨーガ体験を言語化する習慣をつけてください。身体感覚を直感的に言語化することで、体験が一層深まります。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：ヨーガとは何か
ヨーガの歴史と基本思想～講義動画
腹式呼吸と胸式呼吸によって、呼吸機能の活性と沈静をもたらす。
心と身体をダイナミックに調える。
見える視野、感じる心の視野（遠望視）の関係を実感する。

呼吸の深まりと心を解放する瞑想。

第2回：身体の硬さの原因とその改善

上下半身の繋ぎ目・骨盤を意識する。
骨盤の動きを改善する。 大腿二頭筋の活性化（合蹠前屈の体位）。
骨盤の動きに目覚める瞑想。

第3回：手、腕、肩の活性化1

呼吸と動作を合わせる。 手の指先を極限まで伸ばす。
腕を垂直に極限まで上げる。 合掌した腕を極限まで引き上げる。
手と腕の余韻を感じる瞑想。冷え性の改善。

第4回：手、腕、肩の活性化2

呼吸法と「気」を調える調気法（プラーナーヤーマ）～講義動画
手の指を極限まで開く。
呼吸をしやすい体づくり～腕を斜めに引き上げて胸郭を開く。
姿勢の改善と呼吸の奥行き～身体感覚に目覚める。
上腕部～胸部の活性を感じる瞑想。

第5回：片鼻交替呼吸と下肢の活性化1

伝統的調気法～片鼻で行う調気法（スーリヤ・ベーダナ）
骨盤の歪みを調える。 下肢の強張りを把握する。
簡易的太陽礼拝の体位。背骨を意識する。 膝裏を伸ばす。
下肢の感覚に目覚める瞑想

第6回：浄化呼吸法と下肢の活性化2

カパーラバーティ浄化呼吸法。下肢の強張りを改善する。
簡易的太陽礼拝の体位。両脚の活性化（大腿四頭筋と大腿二頭筋）
下肢の感覚を深める瞑想

第7回：背骨を反らせる

背骨をダイナミックに反らせるブジャンガの体位。
背筋力で「反る」と上体を持ち上げて「撓る（しなる）」の違い。
背骨を反らせる感覚を観察する瞑想

第8回：立位から展開する体位法（アーサナ）～背骨をねじる

骨盤を動かして上半身と下半身をダイナミックに活性化する。
背骨をねじる感覚を感受する瞑想。

第9回：股関節の解放1

床に座って開脚する。 60度開脚前屈（大腿二頭筋の活性化）。
開脚の感覚に目覚める瞑想。

第10回：股関節の解放2

インド的調気法と中国的呼吸法の違い
鼻孔呼吸を行う理由呼吸の「間」を掴む～講義動画
横開脚から鷺（クラウンチャ）の体位、そして縦開脚（ハヌマーン）の体位へ。
開脚を深めて前屈する（開脚前屈）。仰向けで開脚する。
前後開脚の感覚に目覚める瞑想。

第11回：立位で行う6種の体位法（アーサナ）

立位で行う6種の体位法（アーサナ）を続けて行う。
体位法を連続して行う感覚を味合う瞑想。

第12回：背骨をダイナミックにねじる1

床に座って背骨をねじる（マッチェーンドラ）の体位。
背骨をダイナミックにねじる感覚を味合う瞑想。

第13回：背骨をダイナミックにねじる2

床に座って背骨をねじる（マッチェーンドラ）の体位。
床に座って背骨をねじり、体側を伸ばす。
体側の感覚に目覚める瞑想。

第14回：背骨をダイナミックにねじり体側を伸ばす

床に座って背骨をねじり、極限まで体側を伸ばす。
呼吸の深まり、身体の覚醒、心の統御から「至上の境地(parama-gati)」へ～

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 1. 毎回、自習動画をWaseda Moodleにて配信します。
2. 必要に応じてWaseda Moodleにてレジュメを配布します。

参考文献: 番場裕之（著）、2008、『5分でスッキリ簡単ヨーガで健康に! 』、NHK出版
番場裕之（著）、2008、『実践『ヨーガ・スートラ』入門』、春秋社

【中国語圏留学生の場合】
下記を参照して下さい。
番場裕之（著）、楊鴻儒（譯）、2009、『禪味瑜珈』、瑞昇文化事業股份有限公司
※上記『5分でスッキリ簡単ヨーガで健康に! 』の中国語版

番場裕之（著）、李暁雯、李敏華（譯）、2011、『瑜伽：身心安頓』、新自然主義股份有限公司
※『心を鍛えるヨーガ』（NHK出版）の中国語版

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：	50	14回に2回程度、レポートを設定します。 直感的に体験した内容、身体感覚を言語化することで、ヨーガの体験を思考する振り返る契機となり、思想を学ぶ手段となります。 詳細はWaseda Moodleにて伝達します。 ＊レポートは加点が大きく、未提出だと減点が大きくなります。必ず全回提出してください。
平常点評価：	50	出席は、点呼（出席簿チェック）を行います。 欠席の場合は、必ず事前にメールすること（yoga@aoni.waseda.jp 番場）。 教場に入室次第、教員に出席を申し出てください。 無断欠席が授業回数の3分の1を超える場合は、成績評価の対象としません。

備考・関連URL：　1：講師の号令に合わせて、受講者全員と一体感をもって実践します。呼吸の流れにあわせて身体を動かすので、身体の柔軟性などには影響されません（ポーズの完成を目指していません）。
2：服装は必ずトレーニングウエアを着用してください。原則として裸足で実践します 。
3：授業開始までに指定された更衣室で更衣し、体育館の指定の場所で待機してください。
4：欠席の場合は事前にメールで伝達のこと（yoga@aoni.waseda.jp）。
5：詳細はWaseda Moodleにて説明を行うので、毎回確認してください。
※健康問題など心配事があれば、ヨーガ的視点からのアドバイスが可能です。

関連URL
https://www.yoga-korei.org/

https://www.yukoyogayogin.com/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040044|11|9S07040044[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ヨガ 11		
担 当 教 員	山内 やよい		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 健康とは、身体・心・魂がどれひとつ切り離されることなく、全体として捉えたときに、その人が本来持つその人らしい輝きが放たれる状態をいいます。安定した心と、健やかな肉体。そして平和で穏やかな魂は、人から与えられるものではなく、今を生きる私たちそれぞれが主体的に獲得していくものです。
身体をすみずみまで気持ちよく伸ばしていくと、驚くほど呼吸が深くなる。そして、深い呼吸は安定したメンタリティを産み出す。ヨガの流派は様々あれど、基本は同じ。体を整えると呼吸が整う。呼吸が整うと心が整う。呼吸を通して心と身体をつなげていく作業を「ヨガ」と言います。
本授業では、いくつかの呼吸法とともに穏やかな身体操作を行っていきます。ポーズ毎に内観の時間をもち、身体への気づきの感覚を育んでいきます。身体操作が中心の授業になりますが、必要に応じてヨガ哲学や、臨床場面での活用やエビデンス紹介、瞑想体験を行っていきます。

授業の到達目標: 調身・調息・調心によって、健やかな心身と、健康に生きる知恵、ストレスにもしなやかに対応できるスキルを獲得する。

事前・事後学習の内容: その日実習したアーサナや呼吸法の復習を翌週の授業まで毎日行う

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ガイダンス（本授業の目的と概要）
ヨガの歴史、目的と概要について説明した後、実際に体を動かしてヨガを体験します。
（動きやすい服装で集合すること）

第2回 実技①姿勢と呼吸（氣:Prana）の学習
・呼吸の解剖学的理解
・呼吸を深める呼吸筋
・呼吸体操の実践

第3回 実技②丹田および丹田呼吸
・丹田とは
・脳と丹田の関わり
・丹田強化法の実践
・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察

第4回 実技③排毒を促す
・ヨガでできる腎臓＆肝臓の養生
・身体の不要なものを手放す（排毒）ために必要なこと
・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ

第5回 実技④基本ポーズ
・ヨガの基本ポーズの学習
・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ

第6回 実技⑤太陽礼拝
ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝運動の実践

第7回 実技⑥基本ポーズ
・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント
・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ

第8回 実技⑦
パフォーマンスを上げたいアスリート向けコンディショニングヨガの実践

第9回 実技⑧安定したメンタル1
リラクゼーションのための呼吸法やアーサナを学習する

第10回 実技⑨安定したメンタル2
集中力＆パフォーマンスアップのための呼吸法やアーサナを学習する

第１１回　実技⑩胃腸を整える
ストレスに影響を受けやすい胃腸を養生し働きを高めるためのアーサナを学習する
第１２回　実技⑪「指ヨガ」部分即全体の考え方
心・氣・体にアプローチするヨガの実践
第１３回　ハタヨーガと瞑想
心・氣・体にアプローチするヨガの実践
第１４回　授業の振り返り
全体を通しての復習と
気づきのシェア
ヨガの実践

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　必要に応じてプリントを配布する

参考文献:　「ハタヨガの真髄」B･K･Sアイアンガー著　沖正弘 監訳（白揚社）
「深い呼吸で体が変わる」龍村修著（草思社）
「ヨガ呼吸修正法 上・下」(日貿出版)
「冥想ヨガ入門」 沖正弘著（日貿出版）

成績評価フリー入力サイン:　0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　10　13回目に簡単な実技テストを行います。

平常点評価:　25　授業に取り組む姿勢をチェックします。

その他:　65　出席率70％以上を目標とします。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040044|12|9S07040044[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ヨガ 12		
担 当 教 員	山内 やよい		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

健康とは、身体・心・魂がどれひとつ切り離されることなく、全体として捉えたときに、その人が本来持つその人らしい輝きが放たれる状態をいいます。安定した心と、健やかな肉体。そして平和で穏やかな魂は、人から与えられるものではなく、今を生きる私たちそれぞれが主体的に獲得していくものです。
身体をすみずみまで気持ちよく伸ばしていくと、驚くほど呼吸が深くなる。そして、深い呼吸は安定したメンタリティを産み出す。ヨガの流派は様々あれど、基本は同じ。体を整えると呼吸が整う。呼吸が整うと心が整う。呼吸を通して心と身体をつなげていく作業を「ヨガ」と言います。
本授業では、いくつかの呼吸法とともに穏やかな身体操作を行っていきます。ポーズ毎に内観の時間をもち、身体への気づきの感覚を育んでいきます。身体操作が中心の授業になりますが、必要に応じてヨガ哲学や、臨床場面での活用やエビデンス紹介、瞑想体験を行っていきます。

授業の到達目標：

調身・調息・調心によって、健やかな心身と、健康に生きる知恵、ストレスにもしなやかに対応できるスキルを獲得する。

事前・事後学習の内容：

その日実習したアーサナや呼吸法の復習を翌週の授業まで毎日行う

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 ガイダンス（本授業の目的と概要）

ヨガの歴史、目的と概要について説明した後、実際に体を動かしてヨガを体験します。
（動きやすい服装で集合すること）

第2回 実技①姿勢と呼吸（氣:Prana）の学習

・呼吸の解剖学的理解
・呼吸を深める呼吸筋
・呼吸体操の実践

第3回 実技②丹田および丹田呼吸

・丹田とは
・脳と丹田の関わり
・丹田強化法の実践
・丹田を鍛えたあとの、体と精神の安定の観察

第4回 実技③排毒を促す

・ヨガでできる腎臓＆肝臓の養生
・身体の不要なものを手放す（排毒）ために必要なこと
・東洋医学から学ぶ柔軟性向上のセルフマッサージ

第5回 実技④基本ポーズ

・ヨガの基本ポーズの学習
・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ

第6回 実技⑤太陽礼拝

ヨガの伝統的動きである、太陽礼拝運動の実践

第7回 実技⑥基本ポーズ

・ツイスト/側屈/バランスポーズのポイント
・ポーズを深めるための関連部位セルフマッサージ

第8回 実技⑦

パフォーマンスを上げたいアスリート向けコンディショニングヨガの実践

第9回 実技⑧安定したメンタル1

リラクゼーションのための呼吸法やアーサナを学習する

第10回 実技⑨安定したメンタル2

集中力＆パフォーマンスアップのための呼吸法やアーサナを学習する

第１１回　実技⑩胃腸を整える
ストレスに影響を受けやすい胃腸を養生し働きを高めるためのアーサナを学習する
第１２回　実技⑪「指ヨガ」部分即全体の考え方
心・氣・体にアプローチするヨガの実践
第１３回　ハタヨーガと瞑想
心・氣・体にアプローチするヨガの実践
第１４回　授業の振り返り
全体を通しての復習と
気づきのシェア
ヨガの実践

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 必要に応じてプリントを配布する

参考文献: 「ハタヨガの真髄」B·K·Sアイアンガー著　沖正弘 監訳（白揚社）
「深い呼吸で体が変わる」龍村修著（草思社）
「ヨガ呼吸修正法 上・下」(日貿出版)
「冥想ヨガ入門」 沖正弘著（日貿出版）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 10　13回目に簡単な実技テストを行います。

平常点評価: 25　授業に取り組む姿勢をチェックします。

その他: 65　出席率70％以上を目標とします。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040045|01|9S07040045[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ラグビー 基礎		
担 当 教 員	宝田 雄大		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

ラグビーは、楕円球を追いかけ奪い合うボールゲームであり、走る・パスする・キックする・相手をかわす・身体をぶつけるなど、多様な運動技能が求められる。また、“No Side” や “One for all, all for one” の精神に象徴されるように、身体的・精神的な協働性を重んじるスポーツである。
本授業では、ラグビー型ゲームに必要な基礎技術とルールを理解し、実技を通してラグビーの身体的・精神的特徴を体感する。また、基礎的な技能習得を通じて、ラグビー観戦における“観る楽しみ”を深めることも目指す。初心者の受講を歓迎する。
本科目は 原則として対面で実施する実技科目 であるが、梅雨期間（6月中旬～7月中旬）や猛暑日（7月以降）など、人工芝グラウンドでの屋外実技が安全に実施できない気象条件の場合は、学生の安全確保を最優先し、電子配信授業（課題提示型） に切り替えることがある。

授業の到達目標:

ラグビーの精神とルールを理解し、ラグビー型ゲームに必要な基本技能を知り、その獲得を目指す。

事前・事後学習の内容:

各回の Waseda Moodle 掲載内容の事前読了、技術動画の視聴、ルール確認、授業内容の振り返りなど、予習・復習には 90～120分程度 を要する。電子配信授業（課題提示型）では、課題読解・レポート作成に加え、提示された URL から動画や参考資料を視聴・閲覧する学習が中心となる。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション※本授業は原則対面で実施するが、気象条件により電子配信（課題提示型）に切り替える場合がある。
第2回
ラグビーとは
第3回
主要なルール
第4回
パス
第5回
相手をかわす
第6回
（ライン）アタック
第7回
タックル
第8回
（ライン）ディフェンスとは
第9回
（ライン）ディフェンスの練習方法
第10回
キック
第11回
タッチラグビーとは
第12回
ラグビーに必要な体力とは

第13回
体力強化の実際
第14回
ラグビーの精神

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 授業中に適宜紹介する。

参考文献: ・『わかりやすいラグビーのルール』(成美堂出版) ・体力強化に関する文献: https://bjsm.bmj.com/content/37/5/416.short ・World Rugby Laws(http://laws.worldrugby.org/) ・日本ラグビー協会(https://www.rugby-japan.jp/)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 100 授業への参加態度、課題への取り組み、実技の習熟度、協力姿勢を総合的に評価する。

備考・関連URL: ・運動靴を着用し、運動に適した服装で参加すること。水分補給のための飲料を持参すること。・授業は主に上井草ラグビー場の人工芝グラウンド(http://www.waseda.jp/inst/gec/news/2016/03/01/2816/)で実施する。・実技中の安全確保を最優先とし、けがや体調不良がある場合は速やかに申し出ること。・危険行為は禁止し、教員の指示に従って安全に実施すること。・熱中症対策として、適宜水分補給を行うこと。・受講者数・経験度・技術習熟度・天候等により授業内容を柔軟に変更する場合がある。・本授業は屋外での実技を中心とし、走行・接触・方向転換などの動作を伴うため、安全確保が最優先となる。授業の特性上、個別の安全補助を十分に行えない場合があり、実技参加に制約が生じる可能性がある。必要な合理的配慮については、履修前に障がい学生支援室へ相談し、大学の手続きに基づき検討される。・担当教員は A級コーチ(公財 日本ラグビーフットボール協会) および World Rugby Level 3 Coaching Award を有している。・資料は標準形式で提供する。・担当教員: https://researchmap.jp/Yt_read210422; http://scholar.google.co.jp/citations?user=8JwZqCIAAAAJ&hl=ja

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040047|01|9S07040047[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	レスリング　基礎		
担 当 教 員	太田　章		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ｉ	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　オリンピックレスリングを体験してみよう？！

授業概要：　レスリング競技は、男対男の格闘技としてだけに見られがちであるが、レクリエーションとしてのレスリングを見た場合、エアロビック的な運動の中に無酸素的な技の発揮があるといえる。しかも対人間同士のレジスタンストレーニングであるともいえる。そして階級性を持つところから、その減量方法や効果にも期待できるであろう。現在、女子レスリングも盛んになってきており、女性にも安全なスポーツということが明らかになってきている。
本授業は、本来人間の持つ闘争本能を引き出すような格闘ではなく、むしろ、1）ストレッチングやエアロビックエクササイズを取り入れ、酸素をより多く吸収して余分な脂肪を取り除き、柔軟性、持久性の高い体作りを目指す。2）自分の体重、あるいはパートナーの体重を利用したレジスタンストレーニングから、筋肉に刺激を与えて筋力を鍛え、よりたくましい体、美しいスタイル作りを目指す。3）レクリエーションとしてのレスリングを楽しむ。と以上のことを目標にしている。なお、毎授業の最後には必ずパートナー同士でスポーツマッサージを行う。このクラスは、基本を中心に行う初心者クラスである。

授業の到達目標：　レスリング技の打ち込みができる。
軽いスパーリングができる。

事前・事後学習の内容：　事前学習は、特に要りませんが、レスリングとはどんなものかは、分かって来て下さい！

事後学習、ルールの理解、トレーニングの復習、ストレッチングなどで身体をほぐして下さい。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
オリエンテーション
基本として、対面授業で行います。初回については、基本的にはオリエンテーションと軽い運動を行います。
トレーニングウェアを忘れずに！

第2回
レスリングの基礎、タックル1。軽いゲームなども行います。汗をかくと思います。タオルも忘れずに！

第3回
レスリングの基礎、タックル2。様々な形の攻撃と防御を基本から手ほどきして行きます。基本的に最初は、ウォームアップからです。

第4回
レスリングの基礎、タックル3。多少慣れて来たら、ブリッジなども増やして行きます。首の運動です。

第5回
レスリングの基礎、タックル4。足首にリボンを巻き、そのリボンの取り合いをします。ほとんどレスリングのような取り合いになります。
怪我に注意しながら、楽しくリボンの取り合いをして行きます。

第6回
レスリングの基礎、タックル5。寝技も徐々に増やして行きます。アンクルホールドや、押さえ込む技です。その攻防をして行きます。

第7回
レスリングの基礎、投げ技1。基本的な投技に、入って行きます。安全な打ち込みです。

第8回
レスリングの基礎、投げ技2。その後、スパーリングが出来るように、短い時間のレスリングのゲームをして行きます。

第9回
レスリングの基礎、投げ技3。首投げ、一本背負い投げ、飛行機投げなど、少しずつ技を増やして行きます。

第10回
レスリングの基礎、投げ技4。軽いスパーリングが出来るようにして行きます。
第11回
レスリングの基礎、投げ技5。投技のカウンター、防御なども、指導して行きます。
第12回
レスリングの基礎、カウンター1。相手の力を利用したカウンター技も出来るようにして行きます。
第13回
レスリングの基礎、カウンター2。すべての技と力の連動した、レスリングマッチが出来るようにしましょう？！
第14回
スパーリング。試合が出来るように、安全に試合を組んで行きます。まとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: レスリングシューズ（貸し出しあり）。トレーニングウエア上下。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

その他: 100 出席

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040049|01|9S07040049[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	健康のためのレクリエーション 01		
担 当 教 員	沖田 祐蔵		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 生涯にわたる健康的なライフスタイルを獲得するためには、楽しみながらからだを動かすことのできる、さまざまな運動を経験することが重要である。また個人の体力を考慮しながら、運動内容や行い方を工夫することで、その運動の効果・効用を一層高めることができる。 メジャーなスポーツやトレーニングのほかにも、さまざまなツールを用いたトレーニングや、ニュースポーツと呼ばれる新しいジャンルのスポーツを行うことは、これまで経験したことのない新しい技能を習得できたり、からだを動かす楽しみ方をさらに広げたりするのに役立つ。
本授業では、生涯にわたる健康的なライフスタイルを獲得するための理論と実践方法を学習し、健康・体力面だけでなく、仲間とともにからだを動かすことによる、「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」をねらいとして、フライングディスクやスポーツ鬼ごっこなどのレクリエーションや、バランスボールなどのツールを用いたトレーニングを実践することで、受講者が楽しみながらかつ健康づくりに役立つ運動に触れていくことを目指す。

授業の到達目標: 受講者が健康に関する知識や考え方を学び、自己の体力にあった運動やスポーツ・トレーニングの実践方法と効果を理解し、また自由にルールを変更したり、道具や場を工夫したりすることで、その「楽しさ」の変化を実感し、生涯にわたり自ら工夫して実践できるようになること

事前・事後学習の内容: 事前学修:
・次回授業で実施する予定の運動内容について、各自で事前に学修しておくこと。
・Moodle上のコンテンツを授業前に確認すること。

事後学修:
・修得した技術を次回授業や日常生活に反映できるようにすること。
・Moodle上のコンテンツや映像資料などを用いて授業内容を復習すること。

事前学修・事後学修には90～120分程度の時間をかけることが望ましい

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 4月17日 オリエンテーション・コミュニケーションワーク①（対面授業）
授業の目的と概要および授業スケジュールの説明、成績および評価について、簡単なグループワークの紹介
事前学修:シラバスの内容の確認や疑問点の整理
事後学修:Waseda Moodle の該当ページの確認および課題の提出方法の確認

第2回 4月24日 コミュニケーションワーク②（対面授業）
アイコンタクト（仲間づくりのためのレクリエーション、グループワーク）
事前学修:コミュニケーションワークについて確認
事後学修:授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第3回 5月1日 コミュニケーションワーク③（対面授業）
チームビルディング（仲間づくりのためのレクリエーション、グループワーク）
事前学修:アウトドアレクリエーションについて確認
事後学修:授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第4回 5月8日 コンディショニング＆トレーニング①（対面授業）
巧みな動きのためのトレーニング（コーディネーショントレーニング）の理論と実践
事前学修:コーディネーショントレーニングについて確認
事後学修:授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第5回 5月15日 コンディショニング＆トレーニング②（対面授業）
ストレッチングの理論および自宅でも実施できるストレッチングの実践
事前学修:ストレッチングについて確認
事後学修:授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第6回 5月22日 コンディショニング＆トレーニング③（対面授業）
筋力トレーニング＆リラクセーション
事前学修:筋力トレーニングについて確認
事後学修:授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第7回　5月29日　コンディショニング＆トレーニング④（対面授業）
バランスボールを使ったトレーニング・ストレッチ
事前学修：バランスボールの歴史について確認
事後学修：授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第8回　6月5日　コンディショニング＆トレーニング⑤（対面授業）
バランスボールを使ったレクリエーション
事前学修：ちゃれんGボールについて確認
事後学修：授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第9回　6月12日　コンディショニング＆トレーニング⑥（対面授業）
なわを使った運動（短なわ・大なわ・ダブルダッチ）
事前学修：有酸素トレーニングについて確認
事後学修：授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出、レポート課題の提出

第10回　6月19日　ニュースポーツの実践①（対面授業）
フライングディスク（ドッジビー、アルティメット、ガッツなど）
事前学修：フライングディスクを使ったスポーツについて確認事後学修：授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第11回　6月26日　ニュースポーツの実践②（対面授業）
フライングディスク（ドッジビー、アルティメット、ガッツなど）
予習：アルティメット競技について確認事後学修：授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第12回　7月3日　ニュースポーツの実践③（対面授業）
さまざまな鬼ごっこの実践およびルールのアレンジ
事前学修：鬼ごっこについて確認
事後学修：授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第13回　7月10日　ニュースポーツの実践④（対面授業）
さまざまな鬼ごっこの実践およびルールのアレンジ
事前学修：スポーツおにごっこについて確認
事後学修：授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第14回　7月17日　まとめ（対面授業）
授業のまとめ
事前学修：これまで学習してきた運動について、その内容、実践方法、効果等について見直す
事後学修：全授業の振り返りをふまえ、授業の成果と今後への課題についてのレポートに取り組む

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特になし

参考文献：　「Gボール指導マニュアル改訂版」（日本Gボール協会）
「Gボール指導マニュアル・バリエーション編」（日本Gボール協会）
「Gボールスポーツコンディショニング」阿部良仁（スキージャーナル）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　40
1）コンディショニング＆トレーニングの実践方法および効果の理解　配点10点
2）ニュースポーツの実践方法および効果の理解　配点10点
3）健康のためのレクリエーションの応用の理解　配点20点

平常点評価：　60
1）授業への出席　配点30点
2）授業への取り組み状況（授業態度・ミニレポートなど）　配点30点

※出席および課題提出の回数が授業回数の2／3以上の場合に評価の対象とする

備考・関連URL：　毎回の授業に関する疑問等についてはWaseda Moodle を通じて質問することができ、そのフィードバックは次回授業時に行う。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040049|02|9S07040049[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	健康のためのレクリエーション 02		
担 当 教 員	沖田 祐蔵		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 生涯にわたる健康的なライフスタイルを獲得するためには、楽しみながらからだを動かすことのできる、さまざまな運動を経験することが重要である。また個人の体力を考慮しながら、運動内容や行い方を工夫することで、その運動の効果・効用を一層高めることができる。 メジャーなスポーツやトレーニングのほかにも、さまざまなツールを用いたトレーニングや、ニュースポーツと呼ばれる新しいジャンルのスポーツを行うことは、これまで経験したことのない新しい技能を習得できたり、からだを動かす楽しみ方をさらに広げたりするのに役立つ。
本授業では、生涯にわたる健康的なライフスタイルを獲得するための理論と実践方法を学習し、健康・体力面だけでなく、仲間とともにからだを動かすことによる、「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」をねらいとして、フライングディスクやスポーツ鬼ごっこなどのレクリエーションや、バランスボールなどのツールを用いたトレーニングを実践することで、受講者が楽しみながらかつ健康づくりに役立つ運動に触れていくことを目指す。

授業の到達目標: 受講者が健康に関する知識や考え方を学び、自己の体力にあった運動やスポーツ・トレーニングの実践方法と効果を理解し、また自由にルールを変更したり、道具や場を工夫したりすることで、その「楽しさ」の変化を実感し、生涯にわたり自ら工夫して実践できるようになること

事前・事後学習の内容:
事前学修:
・次回授業で実施する予定の運動内容について、各自で事前に学修しておくこと。
・Moodle上のコンテンツを授業前に確認すること。

事後学修:
・修得した技術を次回授業や日常生活に反映できるようにすること。
・Moodle上のコンテンツや映像資料などを用いて授業内容を復習すること。

事前学修・事後学修には90～120分程度の時間をかけることが望ましい

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 4月17日 オリエンテーション・コミュニケーションワーク①（対面授業）
授業の目的と概要および授業スケジュールの説明、成績および評価について、簡単なグループワークの紹介
事前学修:シラバスの内容の確認や疑問点の整理
事後学修:Waseda Moodle の該当ページの確認および課題の提出方法の確認

第2回 4月24日 コミュニケーションワーク②（対面授業）
アイコンタクト（仲間づくりのためのレクリエーション、グループワーク）
事前学修:コミュニケーションワークについて確認
事後学修:授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第3回 5月1日 コミュニケーションワーク③（対面授業）
チームビルディング（仲間づくりのためのレクリエーション、グループワーク）
事前学修:アウトドアレクリエーションについて確認
事後学修:授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第4回 5月8日 コンディショニング＆トレーニング①（対面授業）
巧みな動きのためのトレーニング（コーディネーショントレーニング）の理論と実践
事前学修:コーディネーショントレーニングについて確認
事後学修:授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第5回 5月15日 コンディショニング＆トレーニング②（対面授業）
ストレッチングの理論および自宅でも実施できるストレッチングの実践
事前学修:ストレッチングについて確認
事後学修:授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第6回 5月22日 コンディショニング＆トレーニング③（対面授業）
筋力トレーニング＆リラクセーション
事前学修:筋力トレーニングについて確認
事後学修:授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第7回　5月29日　コンディショニング＆トレーニング④（対面授業）
バランスボールを使ったトレーニング・ストレッチ
事前学修：バランスボールの歴史について確認
事後学修：授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第8回　6月5日　コンディショニング＆トレーニング⑤（対面授業）
バランスボールを使ったレクリエーション
事前学修：ちゃれんGボールについて確認
事後学修：授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第9回　6月12日　コンディショニング＆トレーニング⑥（対面授業）
なわを使った運動（短なわ・大なわ・ダブルダッチ）
事前学修：有酸素トレーニングについて確認
事後学修：授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出、レポート課題の提出

第10回　6月19日　ニュースポーツの実践①（対面授業）
フライングディスク（ドッジビー、アルティメット、ガッツなど）
事前学修：フライングディスクを使ったスポーツについて確認事後学修：授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第11回　6月26日　ニュースポーツの実践②（対面授業）
フライングディスク（ドッジビー、アルティメット、ガッツなど）
予習：アルティメット競技について確認事後学修：授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第12回　7月3日　ニュースポーツの実践③（対面授業）
さまざまな鬼ごっこの実践およびルールのアレンジ
事前学修：鬼ごっこについて確認
事後学修：授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第13回　7月10日　ニュースポーツの実践④（対面授業）
さまざまな鬼ごっこの実践およびルールのアレンジ
事前学修：スポーツおにごっこについて確認
事後学修：授業終了後、実習内容をまとめ、感想等の課題を提出

第14回　7月17日　まとめ（対面授業）
授業のまとめ
事前学修：これまで学習してきた運動について、その内容、実践方法、効果等について見直す
事後学修：全授業の振り返りをふまえ、授業の成果と今後への課題についてのレポートに取り組む

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特になし

参考文献：　「Gボール指導マニュアル改訂版」（日本Gボール協会）
「Gボール指導マニュアル・バリエーション編」（日本Gボール協会）
「Gボールスポーツコンディショニング」阿部良仁（スキージャーナル）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　40　1）コンディショニング＆トレーニングの実践方法および効果の理解　配点10点
2）ニュースポーツの実践方法および効果の理解　配点10点
3）健康のためのレクリエーションの応用の理解　配点20点

平常点評価：　60　1）授業への出席　配点30点
2）授業への取り組み状況（授業態度・ミニレポートなど）　配点30点

※出席および課題提出の回数が授業回数の2／3以上の場合に評価の対象とする

備考・関連URL：　毎回の授業に関する疑問等についてはWaseda Moodle を通じて質問することができ、そのフィードバックは次回授業時に行う。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040050|01|9S07040050[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Bon Dance		
担 当 教 員	弓削田 綾乃		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: This course learns about the Japanese traditional body culture through practicing of the Bon Dance – the Japanese "Bon Odori". There are summer festivals with the Bon Dance in many parts of Japan. This dance features the movement which is the simple and the traditional sense of beauty. Also we can expect the cardiopulmonary function-improving as body exercise.
At first, you must learn the culture and the social background of some Bon dances. Then you will do their dances, and understand the meaning of traditional movements.
We put on the yukata – cotton cloth for summer kimono – in this class. You need to prepare yukata, obi, and belt by May.
We will cancel the third class session and hold a make-up session in July instead.

授業の到達目標: Through the study of Bon Dance, students understand traditional body movements and think about healthy mind and body.

事前・事後学習の内容: The preparation: Examine about the history, the locality, the way of dancing of the Bon dance. Use literatures, Internet, images and others.
The review : Practice a learned dance.
The assumption time : About 90 minutes

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

Orientation

Explaining about this class. Let's dance Tanko bushi. No need to change clothes.
The preparation: reading a syllabus thoroughly.

Soran-bushi

Practice Soran bushi in Hokkaido. Prepare clothes to exercise.
The preparation: examine about Soran / The review: practice a learned dance

History of Japanese traditional dance

Class cancelled. Makeup class in July,

How to wear yukata

How to wear Yugekara. Let's dance Tokyo ondo, putting on yukata.
The preparation: examine about Tokyo ondo / The review: practice a learned dance

Dance of Tokyo – 1

Dai Tokyo ondo.
The preparation: examine about Tokyo ondo / The review: practice a learned dance.

Dance of Tokyo – 2

Nenbutsu odori.
The preparation: examine about Nenbutsu odori / The review:practice a learned dance

Gujo odori – 1

Gujo odori, Kawasaki.
The preparation: examine about Gujo odori / The review: practice a learned dance

Gujo odori – 2

Gujo odori, Harukoma.
The preparation: examine about a way of dancing of Gujo odori / The review: practice a learned dance.

Gujo odori – 3

Gujo odori, Nekonoko.
The preparation: examine about a way of dancing of Gujo odori / The review: practice a learned dance.

Okesa bushi – 1

Sado okesa.
The preparation: examine about Okesa bushi / The review: practice a learned dance

Okesa bushi – 2

Ushibuka haiya bushi
The preparation: examine about Ushibuka haiya bushi / The review: practice learned dances

Practice of learned dances

Practice of learned dances.
The preparation: reconsider the Bon dance / The review: practice learned dances

Recapitulation of this class

Watching videos and exchanging views.
The preparation: consider the significance of the Bon Dance / The review: practice learned dances

Confirming of understanding

Reviewing of data and considering of body culture. No need to change clothes.The preparation: consider the significance of the Bon Dance / The review: practice learned dances

言語区分: 0 英語 English

教科書: During the lecture, the person in charge will hand out materials accordingly.

参考文献: Shigeru Gorai(1988), Odori Nenbutsu, Heibonsya (Japanese)
Bon Odoroukai(2014), Bon Odoru Hon– Bon Odori wo Hajimeyo!, Seigensya (Japanese)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート: 30 It will show a research subject in the first class.
I evaluate that you consider in the viewpoint of the body about the Bon dance.

平常点評価: 20 The active efforts, the data description, and the self-expression in the performance.

その他: 50 The attendance is considered important. Because it needs an exercise once per week to get the effect of the mind and body.

備考・関連URL: ・The 4th class~ : We put on a yukata.
・the necessary : yukata and obi.
tabi(Japanese socks; only the necessary person), juban(Japanese shirt; t-shirt's being possible)
I explain about details on the 1st class.
・about attendance: I admit being late until 20 beginning minutes. After it, it makes absent.
If you are late 3times, it convert to once of absence.
・In this class we use Japanese and English.
・Reference URL: 1."Spiritual dance in midsummer night" http://www.bonodori.net/index.htm

2. まつりと | 日本のまつり探検プロジェクト (matsurito.jp)

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040052|01|9S07040052[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	アスレティックウォーキング・ジョギング		
担 当 教 員	礒　繁雄		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水４時限	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	スポーツ実習Ｉ	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　この授業では、生活の移動手段としてのウォーキングや制限時間を守るための軽度のジョギングを見直すとともに、より効率の良い動作を学習することさらに、基礎代謝向上のための筋量を生活の中で増やす取り組みも計画しています。この授業で得られた知識と技術を生活習慣に組み込む手法を実践します。また、運動強化プログラムの理解と実践を通して、「健康」「リフレッシュ」等の心身の向上方法も実践教育として提供します。学びの実践の場として、競技ウォーキング大会やロードレース大会の参加または自主企画による個人での実施を望みます。

授業の到達目標：　生活になかでの運動を見直し、特にウォーキング・ジョギングへの関心と理論的な動作等の学習と安全管理事項の理解等を深める。さらに、今後の生活の中での運動の生活化を安定的に実践する姿勢を高める。

事前・事後学習の内容：　Moodleによる事前事後の提示や授業中での指示により、学習効果を高める

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　オリエンテーション
半期授業説明、評価視点等、授業提供方法などを説明する

第2回　動作・力の伝達
歩行と力と外反母趾判定を講義実践する

第3回　靴の選択
靴の選択と生活行動のとらえ方を講義する

第4回　生活の中のウォーキング
「歩きを楽しむ」ための準備内容や安全管理を講義する

第5回　生活消費
基礎代謝・基礎代謝等の消費エネルギーの理解を得る

第6回　生活運動記録
生活の運動を組み入れる視点とその実践方法を講義し実践する

第7回　供応運動
周囲との共存による容易な歩行法を学び実践する

第8回　生活の見直し
生活に運動を組み入れた状況の整理法等を講義する

第9回　軽度な生活負荷
生活行動に負荷を加える視点等を講義し実践する

第10回　運動時間
生活時間での運動負荷を組み込まれて実践する方法を学ぶ

第11回　健康と人口
日本の人口構成の変化とこれからの健康視点を学ぶ

第12回　デジタルデトックス
余暇時間に携帯等情報環境をなくした歩行時間の実践視点と実行を学ぶ

第13回　自主企画等
1日1時間以上のウォーキング企画または大会参加を経験する

第14回　まとめ
半期授業のまとめと個々の質問に対応する。可能であれば、今後の運動代謝と生活についてグループ討議する

言語区分:	0	日本語　　Japanese
教科書:	随時指示する	
参考文献:	随時指示する	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	

試験:	0	なし
レポート:	40	２～４回の課題を課しそれぞれに満点評価点と評価基準を示したうえで、提示する。
平常点評価:	60	1回参加4点程度で評価する
その他:	0	なし

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040053|01|9S07040053[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	スリムウォーキング		
担 当 教 員	礒　繁雄		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　生活の中で歩行(ウォーキング)は、無意識のうちに個々の自然体として動作獲得されています。この科目では、個々の動作の状況を説明すると共にウォーキングを通して生活全般を見直す機会につながることを期待します。さらに、今後ウォーキングを通して生活および精神的なリフレッシュにつながる視点も学習する。

授業の到達目標：　個々の歩行動作の理解を実体験と共に理論を学習する。また、今後の生活に組み込める新たな気づきを個々が取得できることを望む。

事前・事後学習の内容：　授業提供は、対面中心であるが授業計画になかの課題によってはオンデマンド提供も計画している。そのため、事前事後学習の内容は各回に口頭等で指示する。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　オリエンテーション
半期授業説明、評価視点等、授業提供方法など
第2回　力の伝達
歩行と力と外反母趾判定
第3回　靴の選択
靴の選択と生活行動のとらえ方
第4回　生活の中のウォーキング
「歩きを楽しむ」
第5回　生活消費
基礎代謝の理解と実践視点
第6回　生活運動記録
生活に運動を組み入れる
第7回　供応運動
周囲との共存による容易な歩行法
第8回　生活の見直し
生活に運動を組み入れた状況の整理法
第9回　軽度な生活負荷
生活行動に負荷を追加する視点
第10回　運動時間
運動負荷と生活時間を知ろう
第11回　健康と人口
日本の人口構成の変化と健康の視点
第12回　デジタルデトックス
余暇時間に携帯等情報環境なくした歩行時間の実践視点と実行
第13回　自主企画等
1日1時間以上のウォーキング企画または大会参加を経験する
第14回　まとめ
半期の授業提供に対する質問や疑問、さらに今後の課題の持ち方等の講義

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　随時説明

参考文献:	随時説明	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)	

レポート:	40	課題を2～4回提示しそれぞれの得点を指示する
平常点評価:	60	授業参加点を4点程度とする

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040055|01|9S07040055[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	合気道（護身術）		
担 当 教 員	佐藤　忠之		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　合気道に伝承されている古流武術には、優れた護身性の技が数多くある。
素手による技から武器を用いた技に至るまで、その技法術理を現代社会の実際に合わせて科学的に体験学習を行う。武道を介して教養としての日本の伝統文化にふれる機会でもある。

授業の到達目標:　・外敵からの攻撃に対する防御の技術力を科学的に証明する。
・攻防原理のうち、勝機の核となる「崩し」の術理を追求して実践する。
・広義・狭義の両面から「護身」とは何かを理解する。

事前・事後学習の内容:　直接授業に於いて解説するので、それを以て事後の復習とする

授業計画フリー入力サイン:　0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:授業ガイダンス　護身とは何か？
授業展望を説明

第2回:護身術の基本ファクター1
姿勢と構え 「一眼二足三胆四力」の武術訓　目付の間合いの基本を学ぶ

第3回:護身術の基本ファクター2
転倒時に於ける護身法　生理学的弱点を護る受身Ⅰ

第4回:護身術の基本ファクター3
転倒時に於ける護身法　生理学的弱点を護る受身Ⅱ

第5回:護身術①離脱法
手首・腕を掴まれた時、上体に抱きつかれた時の脱出法

第6回:護身術② 制御法その1
手首・腕を掴まれた時の制御法

第7回:護身術③ 制御法その2
後方から上体に抱きつかれた時の制御法

第8回:護身術④ 制御法その3
両襟を掴んで攻撃してきた場合の制御法

第9回:護身術⑤ 対武器　短刀突き防禦を制禦その1
腹部を短刀で突いてくる相手を制禦する

第10回:護身術⑥ 対武器 短刀突き防禦と制禦その2
顔面を短刀で斬ってくる相手を制禦する

第11回:護身術⑦ 対武器 刀の正面斬りの防禦と制禦 その1
刀で正面から斬ってくる相手から身を護るその1

第12回:護身術⑧ 対武器 刀の正面斬りの防禦と制禦 その2
刀で正面から斬ってくる相手から身を護るその2

第13回:前回までの総復習と柔術小史
前回までの授業を通し、これに加えて学習する

第14回:総復習
履修した実技を最終練習しながら、到達度を反省する※履修学生の身体能力・経験を考慮して開講後にレベルに合わせた内容を取捨することがある

言語区分:　0　日本語　Japanese

参考文献:	武道論　富木謙治著 合気道の自修帖　佐藤忠之著	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	20	最終講義に到達度確認のための参考審査を行う
レポート:	0	特別な理由で欠席した場合、課題レポートによる補完を考慮する
平常点評価:	80	教場での実習態度を評価する
その他:	0	なし
備考・関連URL:	服装については初回導入時に説明。 （注意）安全管理上 付け爪は厳禁。道衣着用が最善。	

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040056|01|9S07040056[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	形（かた）で学ぶ剣道		
担 当 教 員	吉村　哲夫		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　「形（かた）で学ぶ剣道」
初心者及び有段者を対象とする科目である。本年度は対面授業を基本として実施する予定である。（状況に応じて変更の可能性あり）
本授業では「日本剣道形（にほんけんどうかた）」と「木刀による剣道基本技稽古法」の修得を目指す。「日本剣道形」は1912年（大正元年）に制定された剣道の基本を「形」を通して学ぶものである。「日本剣道形」の学習を通じて、礼法や五つの構えを学ぶとともに剣道の基本となる技を覚える。お互いに太刀を用いて行う形が七本、太刀と小太刀で行う形が三本、計十本の形で構成されている。履修者のレベルに応じて習得する本数等を決定する。
「木刀による剣道基本技稽古法」は2003年（平成15年）に全日本剣道連盟が剣道の基礎を習得するための指導法の一つとして考案したものである。全ての技が「中段の構え」から始まる。日本剣道形（にほんけんどうかた）に比べて現代剣道の実践につながり易い内容である。現在では初心者の１級審査の課題として用いられ、また有段者を対象とした剣道指導にも活用されている。

授業の到達目標：　「日本剣道形（にほんけんどうかた）」については、初段程度の技能を目指す者は三本目まで、二段程度を目指す者は五本目まで、三段以上の技能を目指す者は小太刀三本を含めた計十本の形の習得を目標とする。二人組で行うため、お互いに相手の様子をよく見て誰とでも合気（相手の気持ちや動きに合わせる）になって行うことができるようになることが大切である。
「木刀による剣道基本技稽古法」は、まず技の名称を覚えて技を正確にできるようにしたい。この科目を通じて、剣道の伝統性や文化性に対する理解も深めてほしい。

事前・事後学習の内容：　・あらかじめ、剣道の歴史や特性および日本剣道形についてインターネット等で情報を調べておくと理解が進みやすい。毎回30分程度自宅で復習するとより一層上達が望まれる。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第１回：授業全般についてのオリエンテーション
概要の説明
日本剣道形・木刀による剣道基本技稽古法について

第２回：実技実習
日本剣道形・木刀による剣道基本技稽古法模範演武
日本剣道形　太刀の形一本目・二本目
木刀による剣道基本技稽古法　基本１

第３回：実技実習
日本剣道形　太刀の形一本目～三本目
木刀による剣道基本技稽古法　基本１・２

第４回：実技実習
日本剣道形　太刀の形一本目～三本目
木刀による剣道基本技稽古法　基本１～３

第５回：実技実習
日本剣道形　太刀の形一本目～四本目
木刀による剣道基本技稽古法　基本１～４

第６回：実技実習
日本剣道形　太刀の形一本目～四本目
木刀による剣道基本技稽古法　基本１～５

第７回：実技実習
日本剣道形　太刀の形一本目～五本目
木刀による剣道基本技稽古法　基本１～６

第８回：実技実習
日本剣道形　太刀の形一本目～六本目
木刀による剣道基本技稽古法　基本1～７

第9回：実技実習

日本剣道形　太刀の形一本目～七本目
木刀による剣道基本技稽古法　基本1～8

第10回：実技実習

日本剣道形　太刀の形一本目～七本目
日本剣道形　小太刀の形一本目
木刀による剣道基本技稽古法　基本1～8

第11回：実技実習

日本剣道形　太刀の形一本目～七本目
日本剣道形　小太刀の形一本目・二本目
木刀による剣道基本技稽古法　基本1～9

第12回：実技実習

日本剣道形　太刀の形一本目～七本目
日本剣道形　小太刀の形一本目～三本目
木刀による剣道基本技稽古法　基本1～9

第13回：実技実習

日本剣道形　太刀の形一本目～七本目
日本剣道形　小太刀の形一本目～三本目
木刀による剣道基本技稽古法

第14回：まとめ・実技試験

授業のまとめ
実技テスト（日本剣道形）

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に指定しない

参考文献：　適宜紹介する

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　40　実技試験の出来映えを「できる」「ややできる」「できない」の3段階で評価する

オンデマンド授業時のミニレポートの提出状況に応じて評価

平常点評価：　60　平常時の技能と態度など

備考・関連URL：　本科目は、初心者から有段者まで受講できる。剣道具を着用せず、相手を打突することなく剣道の基礎を学ぶものである。「日本剣道形（にほんけんどうかた）」は剣道の昇段審査に必須の課題であるので、昇段を目指す学生にも適している。授業形態により成績評価の基準が変更される場合もある。初回授業（オリエンテーション）は対面で実施の予定である。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040057|01|9S07040057[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ゲームで楽しむソフトボール 01		
担 当 教 員	績 公利		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ①挑戦:オーバーフェンス（フライ革命）

②挑戦:ウインドミル投法での快速球

授業概要: 1）抜群の競技環境 広々としたグラウンドで思いっきり楽しもう‼
「12インチファーストピッチソフトボール」(注1) をプレーできるのはここだけ。
のびのびと東伏見グラウンドを満喫しましょう。 “この空間をひとり占め”

広報誌:“早稲田Weekly”の取材を受け、授業内容が紹介されました。
下記URLをご覧ください。

紹介記事、中ほどにソフトボール授業が紹介されています。
https://www.waseda.jp/inst/weekly/feature/2023/06/05/109229/

「ソフトボール基礎」履修者も受講できます。
性別関係なく、初心者も多く参加して頂いています。

（2） 様々なゲームで思いっきり楽しもう！
ソフトボールには様々なボールの種類（大きさや固さ）やルール（球の速さ、塁間距離、人数）で競技が楽しめます。バリアフリーな時代です。ルールを工夫することで、個性豊かな皆様が、多様なルールにて一緒に楽しめることを体感して下さい。この広い東伏見ですからできるのです。学校で経験したティーボールもやってみてもいいですよ。ですから初心者大歓迎です。

（3）教員からのメッセージ
●将来の仕事への発展性
①教職希望の皆さん
学校教育には「ベースボール型ボールゲーム」授業が採用されています。
ソフトボール、ティーボール(注2)を体験しませんか？

②バリアフリーなスポーツ企画運営
オリンピックでも開催された「12インチファーストピッチソフトボール」をプレーできるのは、本学では本科目のみです。その競技性を理解した上で、ソフトボールの特色であるボール・ルールの多様性を生かした様々なゲームを体験し、

「経験の有無や年齢差等を超えて、社会での指導者としてバリアフリーな
スポーツ企画運営」

ができる人材になるきっかけとして欲しい。

●「うまくなりたいのに、なかなか上達しない。もう少しなのに、なぜか殻を破れない。」と
いうプレーヤーを上手にするのが得意です。

「打てなかったボールを打ちかえす自分、取れなかった打球をしっかり
キャッチする自分」

に会えるかも！ 大谷君のように、遠くに、遠くに飛ばしましょう！
● 指導にあたってのモットー

「ソフトボールの楽しさ（打つ・捕る・走る）を諸君と共感したい。」

● 教場の移動等で時間がかかる場合、配慮しますので申し出て下さい。

⑷ 教員紹介
元早稲田大学ソフトボール部監督
主な戦歴

・1996年2月、ボブラップトーナメント(ハワイ州ヒロ市) 優勝 ワールドシリーズ出場権獲得
・東京都ソフトボール男子1部リーグ　　4連覇
・その他　多数
（注1）「12インチファーストピッチソフトボール」・・・周囲12インチのボールを使用した、投手が速いボールを投げることが認められているソフトボール

(注2)ティーボール・・・野球やソフトボールに極めて類似したボールゲームで、本塁プレートの後方に置いたバッティングティーにボールを載せ、その止まったボールを打つことからゲームが始まるためピッチャーが存在しない点が、野球やソフトボールと異なる。

授業の到達目標:

（1）遠くに打球を飛ばしましょう！
　ソフトボールの楽しさは色々あると思いますが、その中で打つことはやはり楽しいと思います。広いグラウンドで思い切り振りぬいて遠くに打球を飛ばせる様になりましょう。
　　～　挑戦　：　オーバーフェンス　～

（2）チームビルディングを体験しましょう！
　チームで行う競技です。「余人をもって代え難い」皆さんがチームを作り、その居場所と役割を学んでいきます。ここではメンバー交代はありません。チーム作りを通じて、自身の成長を感じましょう。

事前・事後学習の内容:

・授業の第1週は、オリエンテーションとなります。年間の授業計画はこの際にお話しします。
　オリエンテーションの場所は別途、ご連絡します。
・対面授業は実技競技となります。体を動かすことが基本です。体調を整えて、運動する服装で参画して下さい。
・初心者も歓迎しています。従って、初心者向けにルール等の学習用ガイドブックを用意しています。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回（対面授業）:オリエンテーション

感染症の状態を勘案して、具体的な授業の進め方をお話します。
状況により、ここに記載の授業計画が変更となる場合があることをご理解下さい。
授業計画では全て対面授業を行う前提で記載しています。
ソフトボールやティーボールの魅力、スケジュールや授業の進め方、諸注意をお話します。

第2回（対面授業）:基礎練習①

キャッチボール、スローイング、ゴロの捕り方、フライの捕り方を確認します。
ソフトボール固有のウインドミル投法にチャレンジします。ウインドミル投法の練習・確認は毎回実施します。

第3回（対面授業）:基礎練習②

練習したゴロ、フライの捕り方を内野・外野のノックで確認します。前回習得した技術の振り返り、確認を行います。

第4回（対面授業）:基礎練習③

バッティングを行います。トスバッティングやティー打撃を行います。
フライ革命への導入です。

第5回（対面授業）:遠くに打球を打ちましょう。

ロングティーなどで打球を遠くに飛ばします。参加者を2チームに分けて、キャプテンの下に、チーム作りを開始します。
ピンチングもより実戦に近づけます。

第6回（対面授業）:ゲーム形式でもチームプレーを行います。

チーム毎に役割を確認します。ティーボール、もしくはソフトボール形式でゲーム形式の試行を行います。
キャプテンの出番です。

第7回（対面授業）:ティーボールゲーム

　導入でティーボールゲームを行います。ルールは受講生の技能や参加人数を見て、最適と考えられるゲームルールで行います。これ以降、チームとしての勝敗を記録します。

第8回（対面授業）:スローピッテソフトボールゲーム（1）

まずは、スローピッチのゲームルールを理解します。当面は14インチソフトボールでボールの種類を選択しながらゲームします。

第9回（対面授業）:スローピッテソフトボールゲーム（2）

14インチソフトボールでボールの種類を選択しながらゲームします。選択するボールの違いに伴う、競技性の差異を体得して頂きます。

第10回（対面授業）：スローピッテソフトボールゲーム（3）

「学校体育検定ボール」（12インチサイズ検定球の質感を損なわずにソフト加工したボール、実際の学校体育で使用されます。）もしくは、12インチソフトボールでボールの種類を選択しながらゲームします。

第11回（対面授業）：スローピッテソフトボールゲーム（4）

12インチサイズソフトボールでボールの種類を選択しながらゲームします。同じ12インチでも異なるボールでのゲームを体得して頂きます。

第12回（対面授業）：スローピッテソフトボールゲーム（5）

その他のスローピッチソフトボールゲームを試行します。「車椅子ソフトボール」で実施されているボール等を紹介します。

第13回（対面授業）：ファーストピッチ試合体験（1）

12インチファーストピッチソフトボールゲームを体験します。体験にとどめ、状況を見て、スローピッチに切り替える場合もあります。
皆さん、ウインドミル投法でストライクを投げましょう！

第14回（対面授業）：ファーストピッチ試合体験（2）

12インチファーストピッチソフトボールゲームを体験します。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は使用しません。

参考文献：　・「うまくなるソフトボール」全3巻　吉村正先生著（ベースボールマガジン社）
・「ティーボールのすすめ」　吉村正先生編著（ベースボールマガジン社）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　なし

レポート：　10　何らかの理由で授業に出席できなくなった場合、事由によりレポート作成を指示する場合があります。

平常点評価：　70　授業中の取り組みにて判断します。通常は平常点評価のみです。

その他：　20　何らかの理由で授業に出席できなくなった場合、事由により考慮する場合があります。

備考・関連URL：　※「ソフトボール基礎」履修者も受講できます。※東伏見キャンパス
http://www.waseda.jp/gec/wp-content/uploads/2014/02/sports02.pdf

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040057|02|9S07040057[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ゲームで楽しむソフトボール 02		
担 当 教 員	績 公利		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ①挑戦:オーバーフェンス（フライ革命）

②挑戦:ウインドミル投法での快速球

授業概要: 1）抜群の競技環境 広々としたグラウンドで思いっきり楽しもう‼
「12インチファーストピッチソフトボール」(注1) をプレーできるのはここだけ。
のびのびと東伏見グラウンドを満喫しましょう。 “この空間をひとり占め”

広報誌:“早稲田Weekly”の取材を受け、授業内容が紹介されました。
下記URLをご覧ください。

紹介記事、中ほどにソフトボール授業が紹介されています。
https://www.waseda.jp/inst/weekly/feature/2023/06/05/109229/

「ソフトボール基礎」履修者も受講できます。
性別関係なく、初心者も多く参加して頂いています。

（2） 様々なゲームで思いっきり楽しもう！
ソフトボールには様々なボールの種類（大きさや固さ）やルール（球の速さ、塁間距離、人数）で競技が楽しめます。バリアフリーな時代です。ルールを工夫することで、個性豊かな皆様が、多様なルールにて一緒に楽しめることを体感して下さい。この広い東伏見ですからできるのです。学校で経験したティーボールもやってみてもいいですよ。ですから初心者大歓迎です。

（3）教員からのメッセージ
●将来の仕事への発展性
①教職希望の皆さん
学校教育には「ベースボール型ボールゲーム」授業が採用されています。
ソフトボール、ティーボール(注2)を体験しませんか？

②バリアフリーなスポーツ企画運営
オリンピックでも開催された「12インチファーストピッチソフトボール」をプレーできるのは、本学では本科目のみです。その競技性を理解した上で、ソフトボールの特色であるボール・ルールの多様性を生かした様々なゲームを体験し、

「経験の有無や年齢差等を超えて、社会での指導者としてバリアフリーな
スポーツ企画運営」

ができる人材になるきっかけとして欲しい。

●「うまくなりたいのに、なかなか上達しない。もう少しなのに、なぜか殻を破れない。」と
いうプレーヤーを上手にするのが得意です。

「打てなかったボールを打ちかえす自分、取れなかった打球をしっかり
キャッチする自分」

に会えるかも！ 大谷君のように、遠くに、遠くに飛ばしましょう！
● 指導にあたってのモットー

「ソフトボールの楽しさ（打つ・捕る・走る）を諸君と共感したい。」

● 教場の移動等で時間がかかる場合、配慮しますので申し出て下さい。

⑷ 教員紹介
元早稲田大学ソフトボール部監督
主な戦歴

・1996年2月、ボブラップトーナメント(ハワイ州ヒロ市) 優勝 ワールドシリーズ出場権獲得
・東京都ソフトボール男子1部リーグ　　4連覇
・その他　多数
（注1）「12インチファーストピッチソフトボール」・・・周囲12インチのボールを使用した、投手が速いボールを投げることが認められているソフトボール

(注2)ティーボール・・・野球やソフトボールに極めて類似したボールゲームで、本塁プレートの後方に置いたバッティングティーにボールを載せ、その止まったボールを打つことからゲームが始まるためピッチャーが存在しない点が、野球やソフトボールと異なる。

授業の到達目標:

（1）遠くに打球を飛ばしましょう！
　ソフトボールの楽しさは色々あると思いますが、その中で打つことはやはり楽しいと思います。広いグラウンドで思い切り振りぬいて遠くに打球を飛ばせる様になりましょう。
　　～　挑戦　：　オーバーフェンス　～

（2）チームビルディングを体験しましょう！
　チームで行う競技です。「余人をもって代え難い」皆さんがチームを作り、その居場所と役割を学んでいきます。ここではメンバー交代はありません。チーム作りを通じて、自身の成長を感じましょう。

事前・事後学習の内容:

・授業の第1週は、オリエンテーションとなります。年間の授業計画はこの際にお話しします。
　オリエンテーションの場所は別途、ご連絡します。
・対面授業は実技競技となります。体を動かすことが基本です。体調を整えて、運動する服装で参画して下さい。
・初心者も歓迎しています。従って、初心者向けにルール等の学習用ガイドブックを用意しています。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回（対面授業）:オリエンテーション

感染症の状態を勘案して、具体的な授業の進め方をお話します。
状況により、ここに記載の授業計画が変更となる場合があることをご理解下さい。
授業計画では全て対面授業を行う前提で記載しています。
ソフトボールやティーボールの魅力、スケジュールや授業の進め方、諸注意をお話します。

第2回（対面授業）:基礎練習①

キャッチボール、スローイング、ゴロの捕り方、フライの捕り方を確認します。
ソフトボール固有のウインドミル投法にチャレンジします。ウインドミル投法の練習・確認は毎回実施します。

第3回（対面授業）:基礎練習②

練習したゴロ、フライの捕り方を内野・外野のノックで確認します。前回習得した技術の振り返り、確認を行います。

第4回（対面授業）:基礎練習③

バッティングを行います。トスバッティングやティー打撃を行います。
フライ革命への導入です。

第5回（対面授業）:遠くに打球を打ちましょう。

ロングティーなどで打球を遠くに飛ばします。参加者を2チームに分けて、キャプテンの下に、チーム作りを開始します。
ピンチングもより実戦に近づけます。

第6回（対面授業）:ゲーム形式でもチームプレーを行います。

チーム毎に役割を確認します。ティーボール、もしくはソフトボール形式でゲーム形式の試行を行います。
キャプテンの出番です。

第7回（対面授業）:ティーボールゲーム

　導入でティーボールゲームを行います。ルールは受講生の技能や参加人数を見て、最適と考えられるゲームルールで行います。これ以降、チームとしての勝敗を記録します。

第8回（対面授業）:スローピッテソフトボールゲーム（1）

まずは、スローピッチのゲームルールを理解します。当面は14インチソフトボールでボールの種類を選択しながらゲームします。

第9回（対面授業）:スローピッテソフトボールゲーム（2）

14インチソフトボールでボールの種類を選択しながらゲームします。選択するボールの違いに伴う、競技性の差異を体得して頂きます。

第10回（対面授業）：スローピッテソフトボールゲーム（3）

「学校体育検定ボール」（12インチサイズ検定球の質感を損なわずにソフト加工したボール、実際の学校体育で使用されます。）もしくは、12インチソフトボールでボールの種類を選択しながらゲームします。

第11回（対面授業）：スローピッテソフトボールゲーム（4）

12インチサイズソフトボールでボールの種類を選択しながらゲームします。同じ12インチでも異なるボールでのゲームを体得して頂きます。

第12回（対面授業）：スローピッテソフトボールゲーム（5）

その他のスローピッチソフトボールゲームを試行します。「車椅子ソフトボール」で実施されているボール等を紹介します。

第13回（対面授業）：ファーストピッチ試合体験（1）

12インチファーストピッチソフトボールゲームを体験します。体験にとどめ、状況を見て、スローピッチに切り替える場合もあります。
皆さん、ウインドミル投法でストライクを投げましょう！

第14回（対面授業）：ファーストピッチ試合体験（2）

12インチファーストピッチソフトボールゲームを体験します。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は使用しません。

参考文献：　・「うまくなるソフトボール」全3巻　吉村正先生著（ベースボールマガジン社）
・「ティーボールのすすめ」　吉村正先生編著（ベースボールマガジン社）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　なし

レポート：　10　何らかの理由で授業に出席できなくなった場合、事由によりレポート作成を指示する場合があります。

平常点評価：　70　授業中の取り組みにて判断します。通常は平常点評価のみです。

その他：　20　何らかの理由で授業に出席できなくなった場合、事由により考慮する場合があります。

備考・関連URL：　※「ソフトボール基礎」履修者も受講できます。※東伏見キャンパス
http://www.waseda.jp/gec/wp-content/uploads/2014/02/sports02.pdf

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040057|03|9S07040057[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ゲームで楽しむソフトボール 03		
担 当 教 員	績 公利		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ①挑戦:オーバーフェンス（フライ革命）

②挑戦:ウインドミル投法での快速球

授業概要: 1）抜群の競技環境 広々としたグラウンドで思いっきり楽しもう‼
「12インチファーストピッチソフトボール」(注1) をプレーできるのはここだけ。
のびのびと東伏見グラウンドを満喫しましょう。 “この空間をひとり占め”

広報誌:“早稲田Weekly”の取材を受け、授業内容が紹介されました。
下記URLをご覧ください。

紹介記事、中ほどにソフトボール授業が紹介されています。
https://www.waseda.jp/inst/weekly/feature/2023/06/05/109229/

「ソフトボール基礎」履修者も受講できます。
性別関係なく、初心者も多く参加して頂いています。

（2） 様々なゲームで思いっきり楽しもう！
ソフトボールには様々なボールの種類（大きさや固さ）やルール（球の速さ、塁間距離、人数）で競技が楽しめます。バリアフリーな時代です。ルールを工夫することで、個性豊かな皆様が、多様なルールにて一緒に楽しめることを体感して下さい。この広い東伏見ですからできるのです。学校で経験したティーボールもやってみてもいいですよ。ですから初心者大歓迎です。

（3）教員からのメッセージ
●将来の仕事への発展性
①教職希望の皆さん
学校教育には「ベースボール型ボールゲーム」授業が採用されています。
ソフトボール、ティーボール(注2)を体験しませんか？

②バリアフリーなスポーツ企画運営
オリンピックでも開催された「12インチファーストピッチソフトボール」をプレーできるのは、本学では本科目のみです。その競技性を理解した上で、ソフトボールの特色であるボール・ルールの多様性を生かした様々なゲームを体験し、

「経験の有無や年齢差等を超えて、社会での指導者としてバリアフリーな
スポーツ企画運営」

ができる人材になるきっかけとして欲しい。

●「うまくなりたいのに、なかなか上達しない。もう少しなのに、なぜか殻を破れない。」と
いうプレーヤーを上手にするのが得意です。

「打てなかったボールを打ちかえす自分、取れなかった打球をしっかり
キャッチする自分」

に会えるかも！ 大谷君のように、遠くに、遠くに飛ばしましょう！
● 指導にあたってのモットー

「ソフトボールの楽しさ（打つ・捕る・走る）を諸君と共感したい。」

● 教場の移動等で時間がかかる場合、配慮しますので申し出て下さい。

⑷ 教員紹介
元早稲田大学ソフトボール部監督
主な戦歴

・1996年2月、ボブラップトーナメント(ハワイ州ヒロ市) 優勝 ワールドシリーズ出場権獲得
・東京都ソフトボール男子1部リーグ　　4連覇
・その他　多数
（注1）「12インチファーストピッチソフトボール」・・・周囲12インチのボールを使用した、投手が速いボールを投げることが認められているソフトボール

(注2)ティーボール・・・野球やソフトボールに極めて類似したボールゲームで、本塁プレートの後方に置いたバッティングティーにボールを載せ、その止まったボールを打つことからゲームが始まるためピッチャーが存在しない点が、野球やソフトボールと異なる。

授業の到達目標:

（1）遠くに打球を飛ばしましょう！
　ソフトボールの楽しさは色々あると思いますが、その中で打つことはやはり楽しいと思います。広いグラウンドで思い切り振りぬいて遠くに打球を飛ばせる様になりましょう。
　　～　挑戦　：　オーバーフェンス　～

（2）チームビルディングを体験しましょう！
　チームで行う競技です。「余人をもって代え難い」皆さんがチームを作り、その居場所と役割を学んでいきます。ここではメンバー交代はありません。チーム作りを通じて、自身の成長を感じましょう。

事前・事後学習の内容:

・授業の第1週は、オリエンテーションとなります。年間の授業計画はこの際にお話しします。
　オリエンテーションの場所は別途、ご連絡します。
・対面授業は実技競技となります。体を動かすことが基本です。体調を整えて、運動する服装で参画して下さい。
・初心者も歓迎しています。従って、初心者向けにルール等の学習用ガイドブックを用意しています。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回（対面授業）:オリエンテーション

感染症の状態を勘案して、具体的な授業の進め方をお話します。
状況により、ここに記載の授業計画が変更となる場合があることをご理解下さい。
授業計画では全て対面授業を行う前提で記載しています。
ソフトボールやティーボールの魅力、スケジュールや授業の進め方、諸注意をお話します。

第2回（対面授業）:基礎練習①

キャッチボール、スローイング、ゴロの捕り方、フライの捕り方を確認します。
ソフトボール固有のウインドミル投法にチャレンジします。ウインドミル投法の練習・確認は毎回実施します。

第3回（対面授業）:基礎練習②

練習したゴロ、フライの捕り方を内野・外野のノックで確認します。前回習得した技術の振り返り、確認を行います。

第4回（対面授業）:基礎練習③

バッティングを行います。トスバッティングやティー打撃を行います。
フライ革命への導入です。

第5回（対面授業）:遠くに打球を打ちましょう。

ロングティーなどで打球を遠くに飛ばします。参加者を2チームに分けて、キャプテンの下に、チーム作りを開始します。
ピンチングもより実戦に近づけます。

第6回（対面授業）:ゲーム形式でもチームプレーを行います。

チーム毎に役割を確認します。ティーボール、もしくはソフトボール形式でゲーム形式の試行を行います。
キャプテンの出番です。

第7回（対面授業）:ティーボールゲーム

　導入でティーボールゲームを行います。ルールは受講生の技能や参加人数を見て、最適と考えられるゲームルールで行います。これ以降、チームとしての勝敗を記録します。

第8回（対面授業）:スローピッテソフトボールゲーム（1）

まずは、スローピッチのゲームルールを理解します。当面は14インチソフトボールでボールの種類を選択しながらゲームします。

第9回（対面授業）:スローピッテソフトボールゲーム（2）

14インチソフトボールでボールの種類を選択しながらゲームします。選択するボールの違いに伴う、競技性の差異を体得して頂きます。

第10回（対面授業）：スローピッテソフトボールゲーム（3）

「学校体育検定ボール」（12インチサイズ検定球の質感を損なわずにソフト加工したボール、実際の学校体育で使用されます。）もしくは、12インチソフトボールでボールの種類を選択しながらゲームします。

第11回（対面授業）：スローピッテソフトボールゲーム（4）

12インチサイズソフトボールでボールの種類を選択しながらゲームします。同じ12インチでも異なるボールでのゲームを体得して頂きます。

第12回（対面授業）：スローピッテソフトボールゲーム（5）

その他のスローピッチソフトボールゲームを試行します。「車椅子ソフトボール」で実施されているボール等を紹介します。

第13回（対面授業）：ファーストピッチ試合体験（1）

12インチファーストピッチソフトボールゲームを体験します。体験にとどめ、状況を見て、スローピッチに切り替える場合もあります。
皆さん、ウインドミル投法でストライクを投げましょう！

第14回（対面授業）：ファーストピッチ試合体験（2）

12インチファーストピッチソフトボールゲームを体験します。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は使用しません。

参考文献：　・「うまくなるソフトボール」全3巻　吉村正先生著（ベースボールマガジン社）
・「ティーボールのすすめ」　吉村正先生編著（ベースボールマガジン社）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　なし

レポート：　10　何らかの理由で授業に出席できなくなった場合、事由によりレポート作成を指示する場合があります。

平常点評価：　70　授業中の取り組みにて判断します。通常は平常点評価のみです。

その他：　20　何らかの理由で授業に出席できなくなった場合、事由により考慮する場合があります。

備考・関連URL：　※「ソフトボール基礎」履修者も受講できます。※東伏見キャンパス
http://www.waseda.jp/gec/wp-content/uploads/2014/02/sports02.pdf

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040057|04|9S07040057[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ゲームで楽しむソフトボール 04		
担 当 教 員	績 公利		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ①挑戦:オーバーフェンス（フライ革命）

②挑戦:ウインドミル投法での快速球

授業概要: 1）抜群の競技環境 広々としたグラウンドで思いっきり楽しもう‼
「12インチファーストピッチソフトボール」(注1) をプレーできるのはここだけ。
のびのびと東伏見グラウンドを満喫しましょう。 “この空間をひとり占め”

広報誌:“早稲田Weekly”の取材を受け、授業内容が紹介されました。
下記URLをご覧ください。

紹介記事、中ほどにソフトボール授業が紹介されています。
https://www.waseda.jp/inst/weekly/feature/2023/06/05/109229/

「ソフトボール基礎」履修者も受講できます。
性別関係なく、初心者も多く参加して頂いています。

（2） 様々なゲームで思いっきり楽しもう！
ソフトボールには様々なボールの種類（大きさや固さ）やルール（球の速さ、塁間距離、人数）で競技が楽しめます。バリアフリーな時代です。ルールを工夫することで、個性豊かな皆様が、多様なルールにて一緒に楽しめることを体感して下さい。この広い東伏見ですからできるのです。学校で経験したティーボールもやってみてもいいですよ。ですから初心者大歓迎です。

（3）教員からのメッセージ
●将来の仕事への発展性
①教職希望の皆さん
学校教育には「ベースボール型ボールゲーム」授業が採用されています。
ソフトボール、ティーボール(注2)を体験しませんか？

②バリアフリーなスポーツ企画運営
オリンピックでも開催された「12インチファーストピッチソフトボール」をプレーできるのは、本学では本科目のみです。その競技性を理解した上で、ソフトボールの特色であるボール・ルールの多様性を生かした様々なゲームを体験し、

「経験の有無や年齢差等を超えて、社会での指導者としてバリアフリーな
スポーツ企画運営」

ができる人材になるきっかけとして欲しい。

●「うまくなりたいのに、なかなか上達しない。もう少しなのに、なぜか殻を破れない。」と
いうプレーヤーを上手にするのが得意です。

「打てなかったボールを打ちかえす自分、取れなかった打球をしっかり
キャッチする自分」

に会えるかも！ 大谷君のように、遠くに、遠くに飛ばしましょう！
● 指導にあたってのモットー

「ソフトボールの楽しさ（打つ・捕る・走る）を諸君と共感したい。」

● 教場の移動等で時間がかかる場合、配慮しますので申し出て下さい。

⑷ 教員紹介
元早稲田大学ソフトボール部監督
主な戦歴

・1996年2月、ボブラップトーナメント(ハワイ州ヒロ市) 優勝 ワールドシリーズ出場権獲得
・東京都ソフトボール男子1部リーグ　　4連覇
・その他　多数
（注1）「12インチファーストピッチソフトボール」・・・周囲12インチのボールを使用した、投手が速いボールを投げることが認められているソフトボール

(注2)ティーボール・・・野球やソフトボールに極めて類似したボールゲームで、本塁プレートの後方に置いたバッティングティーにボールを載せ、その止まったボールを打つことからゲームが始まるためピッチャーが存在しない点が、野球やソフトボールと異なる。

授業の到達目標:

（1）遠くに打球を飛ばしましょう！
　ソフトボールの楽しさは色々あると思いますが、その中で打つことはやはり楽しいと思います。広いグラウンドで思い切り振りぬいて遠くに打球を飛ばせる様になりましょう。
　　～　挑戦　：　オーバーフェンス　～

（2）チームビルディングを体験しましょう！
　チームで行う競技です。「余人をもって代え難い」皆さんがチームを作り、その居場所と役割を学んでいきます。ここではメンバー交代はありません。チーム作りを通じて、自身の成長を感じましょう。

事前・事後学習の内容:

・授業の第1週は、オリエンテーションとなります。年間の授業計画はこの際にお話しします。
　オリエンテーションの場所は別途、ご連絡します。
・対面授業は実技競技となります。体を動かすことが基本です。体調を整えて、運動する服装で参画して下さい。
・初心者も歓迎しています。従って、初心者向けにルール等の学習用ガイドブックを用意しています。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回（対面授業）:オリエンテーション

感染症の状態を勘案して、具体的な授業の進め方をお話します。
状況により、ここに記載の授業計画が変更となる場合があることをご理解下さい。
授業計画では全て対面授業を行う前提で記載しています。
ソフトボールやティーボールの魅力、スケジュールや授業の進め方、諸注意をお話します。

第2回（対面授業）:基礎練習①

キャッチボール、スローイング、ゴロの捕り方、フライの捕り方を確認します。
ソフトボール固有のウインドミル投法にチャレンジします。ウインドミル投法の練習・確認は毎回実施します。

第3回（対面授業）:基礎練習②

練習したゴロ、フライの捕り方を内野・外野のノックで確認します。前回習得した技術の振り返り、確認を行います。

第4回（対面授業）:基礎練習③

バッティングを行います。トスバッティングやティー打撃を行います。
フライ革命への導入です。

第5回（対面授業）:遠くに打球を打ちましょう。

ロングティーなどで打球を遠くに飛ばします。参加者を2チームに分けて、キャプテンの下に、チーム作りを開始します。
ピンチングもより実戦に近づけます。

第6回（対面授業）:ゲーム形式でもチームプレーを行います。

チーム毎に役割を確認します。ティーボール、もしくはソフトボール形式でゲーム形式の試行を行います。
キャプテンの出番です。

第7回（対面授業）:ティーボールゲーム

　導入でティーボールゲームを行います。ルールは受講生の技能や参加人数を見て、最適と考えられるゲームルールで行います。これ以降、チームとしての勝敗を記録します。

第8回（対面授業）:スローピッテソフトボールゲーム（1）

まずは、スローピッチのゲームルールを理解します。当面は14インチソフトボールでボールの種類を選択しながらゲームします。

第9回（対面授業）:スローピッテソフトボールゲーム（2）

14インチソフトボールでボールの種類を選択しながらゲームします。選択するボールの違いに伴う、競技性の差異を体得して頂きます。

第10回（対面授業）：スローピッテソフトボールゲーム（3）

「学校体育検定ボール」（12インチサイズ検定球の質感を損なわずにソフト加工したボール、実際の学校体育で使用されます。）もしくは、12インチソフトボールでボールの種類を選択しながらゲームします。

第11回（対面授業）：スローピッテソフトボールゲーム（4）

12インチサイズソフトボールでボールの種類を選択しながらゲームします。同じ12インチでも異なるボールでのゲームを体得して頂きます。

第12回（対面授業）：スローピッテソフトボールゲーム（5）

その他のスローピッチソフトボールゲームを試行します。「車椅子ソフトボール」で実施されているボール等を紹介します。

第13回（対面授業）：ファーストピッチ試合体験（1）

12インチファーストピッチソフトボールゲームを体験します。体験にとどめ、状況を見て、スローピッチに切り替える場合もあります。
皆さん、ウインドミル投法でストライクを投げましょう！

第14回（対面授業）：ファーストピッチ試合体験（2）

12インチファーストピッチソフトボールゲームを体験します。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は使用しません。

参考文献：　・「うまくなるソフトボール」全3巻　吉村正先生著（ベースボールマガジン社）
・「ティーボールのすすめ」　吉村正先生編著（ベースボールマガジン社）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　なし

レポート：　10　何らかの理由で授業に出席できなくなった場合、事由によりレポート作成を指示する場合があります。

平常点評価：　70　授業中の取り組みにて判断します。通常は平常点評価のみです。

その他：　20　何らかの理由で授業に出席できなくなった場合、事由により考慮する場合があります。

備考・関連URL：　※「ソフトボール基礎」履修者も受講できます。※東伏見キャンパス
http://www.waseda.jp/gec/wp-content/uploads/2014/02/sports02.pdf

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040099|01|9S07040099[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	生活の中のウォーキング 基礎		
担 当 教 員	荒木 邦子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:土2時限	授業方法区分	オンライン】ハイブリッド（対面回数半数未満
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

大学入学というイベントは、ライフスタイルに大きな変革をもたらす。人間関係の激変もさることながら、食生活の変化や日常の運動量・身体活動量の低下によって心身の変調をもたらすことも危惧されるところである。
“ウォーキング”は、いつでも誰でも実行できる手軽な運動として推奨されているが、そのウォーキングでさえ日常生活の中に組み入れるためには知識・技法（スキル）が必要とされる。高校までの学習過程では保健体育の授業を通じて運動・身体活動の機会は与えられてきたが、それは運動や身体活動の機会を自らが見いだすライフスキルを育成するものではなかった。
そこで、本講座では、日常生活の中での歩行機会を増やすための様々な知識と技法を教授し、ウォーキング体験の機会を自ら見いだすようなきっかけを提供することによって、自身の生活を見直して日常を健康的に過ごすためのライフスキルを獲得することを目的としている。

【受講希望者への重要なお知らせ】
1. 初回ガイダンスにて、今後の履修にあたっての重要事項を話すので、必ず出席すること。
2. 第2回目以降は、mywasedaを利用した授業となります。
3. 受講者は、初回までに歩数計（携帯電話等の歩数記録アプリでも可）を各自で準備して下さい。

授業の到達目標：

・生活の中の「ウォーキング」を理解する。
・日常生活におけるウォーキング(歩行)の客観的評価法ならびに主観的評価法を理解する。
・日常生活における歩行機会を理解する。
・個々の生活活動における歩行と健康維持増進の関連を理解する。

事前・事後学習の内容：

日常生活における身体活動、座位行動に着目し、講義終了後も獲得した歩行週間を維持するようセルフチェックを継続する。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 ガイダンス【必須】
授業内容：日常生活における歩行の客観的評価と主観的評価法

第2回 タイトル：生活の中のウォーキング(自分の身体活動量を知る)
授業内容：キャンパス内や周辺のウォーキングを実践し、客観的評価ならびに主観的評価を行う

第3回 タイトル：生活の中のウォーキング(きづいたこと)
授業内容：個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
ウォーキング実践時の発見(環境・身体・心理的要因等)

第4回 タイトル：生活の中のウォーキング(階段利用を意識する)
授業内容：個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
着目点…駅からキャンパスまでの道のり

第5回 タイトル：生活の中のウォーキング(早歩き)
授業内容：個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
主観的身体的変化を分析する

第6回 タイトル：生活の中のウォーキング(空き時間のウォーキング)
授業内容：個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
空き時間を活用した歩行促進を検討・実践する

第7回 タイトル：生活の中のウォーキング(休日のウォーキング) リフレッシュ散歩
授業内容：個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
リフレッシュ散歩のレポートを受講者間で共有

第8回 タイトル：食生活について
授業内容：個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
食生活を振り返る

第9回　タイトル：生活の中のウォーキング（キャンパス内の歩行）
授業内容：個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
キャンパス内の歩行を意識する
第10回　タイトル：生活の中のウォーキング（歩きたくなる場所）
授業内容：個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
歩行促進場面の創出
第11回　タイトル：歩行促進のための行動科学「セルフ・エフィカシー」
授業内容：個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
第12回　タイトル：歩数記録からの自己分析
授業内容：個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
歩行促進計画
受講者間の情報共有
第13回　タイトル：自分の身体活動を振り返る
授業内容：個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
第14回　タイトル：ウォーキング生活の評価
授業内容：個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
歩行促進計画と実践と自己評価

言語区分：　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　50　日常生活における歩数ならびに日常生活歩行に対する感想をコースナビ上にレポートすること
評価基準
日常生活の中の「ウォーキング」に関する気づき，理解を評価する

平常点評価：　50　評価基準
初回ガイダンス参加による本授業意図の理解

備考・関連URL：　【受講希望者への重要なお知らせ】
1. 初回ガイダンスにて、今後の履修にあたっての重要事項を話すので、必ず出席すること。
2. 第2回目以降は、my wasedaを利用した授業となります。
3. 受講者は、初回までに歩数計（携帯電話等の歩数記録アプリでも可）を各自で準備して下さい。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040100|01|9S07040100[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	馬術（集中実技）		
担 当 教 員	倉田　孝之		
開 講 学 期	夏シ	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ｉ	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　馬の騎乗技術を向上させ、厩舎管理の方法を学ぼう

授業概要：　馬術集中授業では、初心者は馬を一人で動かすこと、経験者は初心者競技ジムカーナ競技に参加できる技術を身に付けることを目標とする。また普段の授業では体験できない、馬を厩舎から出し、馬装（鞍や水勒をつける）をし、騎乗、そして手入れ、飼いつけという、牧場で毎日繰り広げられている厩舎体験ができる。またバランスボールをつかった騎乗訓練をすることで、より高度な馬術姿勢の習得を目指す。最終日には簡単な初心者競技を行う予定。
履修者の技術にあった競技を考える。

授業の到達目標：　初心者　①　軽速歩ができる　②　一人で馬を動かす　③　厩舎管理の方法を学び、馬術の試合のルールを理解する。
経験者　①　ジムカーナ競技に参加できる技術を身に付ける　②　厩舎管理の方法を学び、馬術の高度な技術、姿勢を体得する。

事前・事後学習の内容：　馬に乗る映像を見ておく。
体験乗馬で馬に乗る練習をしておくとよい。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

【基礎授業：早稲田キャンパス】
　日時：2026年6月20日（土）10:40～
　場所：早稲田キャンパス　7-202室
【実技授業：東伏見キャンパス】
第1回　8月1日　　4.5限
①　バランスボールをつかった騎乗訓練　②　馬装、騎乗訓練　初心者は軽速歩の練習。 経験者はスラローム、横木通過などを部班で練習。

第2回　8月18日　4.5限
①　バランスボールをつかった騎乗訓練　②　馬装、騎乗訓練　初心者は軽速歩の練習。 経験者はスラローム、横木通過などを部班で練習。

第3回　8月20日　　4.5限
①　バランスボールをつかった騎乗訓練　②　馬装、騎乗訓練　初心者は軽速歩の練習。 経験者はスラローム、横木通過などを部班で練習

第4回　8月22日　4.5限
①　バランスボールをつかった騎乗訓練　②　馬装、騎乗訓練　初心者は軽速歩の練習。軽速歩をマスターしたら部班に参加。 経験者はスラローム、横木通過などを部班で練習。ジムカーナ競技の練習。

第5回　8月25日　3,4.5限
①馬学　（試合の観戦をすることで、試合に参加するうえでの注意事項を確認）　②　騎乗訓練　ジムカーナまたは部班競技の練習
③　手入れ、厩舎管理を学ぶ。

第6回　8月28日　3,4,5限
①馬学　（試合の観戦をすることで、試合に参加するうえでの注意事項を確認）　②　試合の準備。馬場の整備や厩舎管理
③　ジムカーナ競技　または部班競技を実施予定（履修者の技量によって変更あり）
　※安全のために、履修者の習得度や馬の状態などを考え、運動内容を変更することがあります。

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書：　とくになし　プリント配布します；。

参考文献：　楽しい乗馬ビジュアルテキスト　緑書房　2800円　税別

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	とくになし
レポート:	20	馬学の講義を聞いて、馬について興味を持つたこと A4　1ページ程度
平常点評価:	80	馬を愛する気持ち、参加意欲を何よりも評価する

備考・関連URL:　早稲田大学馬術部ホームページ日本馬術連盟ホームページ

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040101|01|9S07040101[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	サッカー（ベーシック）		
担 当 教 員	堀野 博幸		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：
「サッカーのプレーを楽しもう！」
Let's enjoy soccer!

授業概要：
人工芝の素晴らしいグランドで、サッカーを楽しみたい！そんなサッカー大好きな学生さんに、この授業はおすすめです。GECのサッカー授業は、下記の4つの科目で構成されており、科目登録のルール上は4科目すべてを履修可能です。どの科目から履修してもOK！初心者から経験者まで、サッカー好きにはたまらない内容となっています。なお、サッカー初心者の方は(ベイシック)もしくは(クアトロゲーム)をはじめに履修されることをお勧めめします！

サッカー（ベイシック）：ゲームを中心に、「基本テクニックとテクニックの奥深さ」を楽しもう！
サッカー（クアトロゲーム）：多様なゲームの中で、「クリエイティブでサッカー」を楽しもう！
サッカー（マッチトレーニング）：本格的なゲームの中で、「サッカーの本質」を楽しもう！
サッカー（戦術＆ゲーム）：最新かつ多様な戦術の中で、「サッカー脳」を鍛えて楽しもう！

まずは、授業と教場紹介ビデオ https://youtu.be/Syak_Fj-lJs をみてみてください。

教場は、早稲田サッカーの聖地「東伏見」！
ア式蹴球部（サッカー部）もトレーニングしている、その素晴らしい人工芝のグランドで、初心者から経験者まで誰もが、「ベーシックな技術・戦術とサッカーの楽しさの体験」をテーマに、ウォーミングアップトレーニングとゲームの中で楽しく学んでいきます。

サッカーが好き！ サッカーをしてみたい！ サッカーが上手くなりたい！ 人工芝のグランドでサッカーを楽しみたい！
そんな思いを持っている学生のみなさん、東伏見で一緒にサッカーを楽しみましょう！
プレーしながら、様々なテクニックを身につけましょう。またサッカーの試合をより楽しく観戦できるよう、試合の技術戦術分析の方法も学べます！

授業と教場紹介ビデオ https://youtu.be/Syak_Fj-lJs

授業の到達目標：
サッカーを楽しむこと、そしてもっともっと楽しくサッカーができるテクニックを身につける。

事前・事後学習の内容：
サッカー実技が行えるコンディションづくりをしてください。サッカーに適した服装。足のけがを防止するため、必ずサッカーのストッキングまたは足首を完全にカバーできるソックスなどを着用してください。

事前：サッカーを楽しむ気持ちを育てて来てくださいね。
事後：サッカーがもっと楽しくなった気持ちとクリエイティブなプレー経験を持ち帰ってくださいね。

授業計画フリー入力サイン：
0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：ガイダンス・導入ゲーム（実技を行います）場所：東伏見サッカー場
ガイダンス・導入ゲーム（実技を行います）場所：東伏見サッカー場
第2回：ゲームの中で使える個のテクニック①
前半：ゲームの中で使える個のテクニック①
後半：ゲームでトライ！
第3回：ゲームの中で使える個のテクニック②
前半：ゲームの中で使える個のテクニック②
後半：ゲームでトライ！
第4回：ゲームの中で使えるグループのテクニック①：攻撃
前半：ゲームの中で使えるグループのテクニック①：攻撃
後半：ゲームでトライ！

第5回：ゲームの中で使えるグループのテクニック②：守備
前半：ゲームの中で使えるグループのテクニック②：守備
後半：ゲームでトライ！
第6回：ゲームの中で使えるグループのテクニック③：トランジション
前半：ゲームの中で使えるグループのテクニック③：トランジション
後半：ゲームでトライ！
第7回：個の技術・戦術論
個の技術・戦術論
第8回：チーム対抗戦①
チーム対抗戦①
第9回：チーム対抗戦②
チーム対抗戦②
第10回：チーム対抗戦③
チーム対抗戦③
第11回：ゲーム分析①
ゲーム分析①：実際の試合を分析する
第12回：ゲーム分析②
ゲーム分析②：試合をビデオ分析する
第13回：まとめのゲーム
まとめのゲーム
第14回：総合・まとめ
総合・まとめ

言語区分：	0	日本語	Japanese
教科書：	なし		
参考文献：	なし		
成績評価フリー入力サイン：	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）		

レポート：	50	試合分析
平常点評価：	50	出席と取り組み

備考・関連URL：
東伏見キャンパスと教員紹介
https://youtu.be/Syak_Fj-lJs

実技に際しては、安全管理の観点から、足首を完全にカバーできるストッキングを着用すること。眼鏡・時計・アクセサリー類の着用は厳禁とします。
実技実習は、安全かつ効果的なプロセスが必要不可欠なため、授業開始時間に始まるウォーミングアップからの参加が必須です。遅刻した場合は、実技への参加ができなくなりますので時間に余裕を持って移動してください。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040102|01|9S07040102[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	サッカー（クアトロゲーム）		
担 当 教 員	堀野　博幸		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　「クアトロゲーム（多様なミニサッカー）の中で、クリエイティブなサッカーを楽しもう！」
Let's enjoy creative plays in various mini soccer games!

授業概要：　人工芝の素晴らしいグランドで、サッカーを楽しみたい！そんなサッカー大好きな学生さんに、この授業はおすすめです。GECのサッカー授業は、下記の4つの科目で構成されており、科目登録のルール上は4科目すべてを履修可能です。どの科目から履修してもOK！初心者から経験者まで、サッカー好きにはたまらない内容となっています。なお、サッカー初心者の方は(ベイシック)もしくは(クアトロゲーム)をはじめに履修されることをお勧めめします！

サッカー（ベイシック）：ゲームを中心に、「基本テクニックとテクニックの奥深さ」を楽しもう！
サッカー（クアトロゲーム）：多様なゲームの中で、「クリエイティブでサッカー」を楽しもう！
サッカー（マッチトレーニング）：本格的なゲームの中で、「サッカーの本質」を楽しもう！
サッカー（戦術＆ゲーム）：最新かつ多様な戦術の中で、「サッカー脳」を鍛えて楽しもう！

まずは、授業と教場紹介ビデオ https://youtu.be/Syak_Fj-lJs をみてみてください。

教場は、早稲田サッカーの聖地「東伏見」！
ア式蹴球部（サッカー部）もトレーニングしている、その素晴らしい人工芝のグランドで、初心者から経験者まで誰もが、「多様なゲームの中で、クリエイティブなサッカーを楽しむこと」をテーマに、ウォーミングアップトレーニングとゲームの中で楽しく学んでいきます。

サッカーが好き！ サッカーをしてみたい！ サッカーが上手くなりたい！人工芝のグランドでサッカーを楽しみたい！クリエイティブなサッカーにトライしたい！
そんな思いを持っている学生のみなさん、東伏見で一緒にサッカーを楽しみましょう！
プレーしながら、様々なテクニックを身につけましょう。またサッカーの試合をより楽しく観戦できるよう、試合の技術戦術分析の方法も学べます！

授業と教場紹介ビデオ https://youtu.be/Syak_Fj-lJs

授業の到達目標：　サッカーを楽しむこと、そして多様なクアトロゲームの中で、クリエイティブなアイデアとプレーを身につけ、サッカーを楽しくプレーできるようになる。

事前・事後学習の内容：　サッカー実技が行えるコンディションづくりをしてください。サッカーに適した服装。足のけがを防止するため、必ずサッカーのストッキングまたは足首を完全にカバーできるソックスなどを着用してください。

事前：サッカーを楽しむ気持ちを育てて来てくださいね。
事後：サッカーがもっと楽しくなった気持ちとクリエイティブなプレー経験を持ち帰ってくださいね。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：ガイダンス・導入ゲーム（実技を行います）場所：東伏見サッカー場
ガイダンス・導入ゲーム（実技を行います）場所：東伏見サッカー場
第2回：多様なミニサッカーの中で、活かせるテクニックに気づこう！
前半：多様なミニサッカーの中で、活かせるテクニックに気づこう！
後半：ゲームでトライ！
第3回：多様なミニサッカーの中で、活かせる戦術に気づこう！
前半：多様なミニサッカーの中で、活かせる戦術に気づこう！
後半：ゲームでトライ！
第4回：多様なミニサッカーの中で、自分のクリエイティブな能力を刺激してみよう！
前半：多様なミニサッカーの中で、自分のクリエイティブな能力を刺激してみよう！
後半：ゲームでトライ！

第5回：個の技術・戦術論
個の技術・戦術論
第6回：クアトロゲームトーナメント①
クアトロゲームトーナメント①
第7回：クアトロゲームトーナメント②
クアトロゲームトーナメント②
第8回：クアトロゲームトーナメント③
クアトロゲームトーナメント③
第9回：クアトロゲームトーナメント④
クアトロゲームトーナメント④
第10回：クアトロゲームトーナメント⑤
クアトロゲームトーナメント⑤
第11回：ゲーム分析①
ゲーム分析①：実際の試合を分析する
第12回：ゲーム分析②
ゲーム分析②：試合をビデオ分析する
第13回：まとめのゲーム
まとめのゲーム
第14回：総合・まとめ
総合・まとめ

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　なし

参考文献：　なし

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　50　試合分析

平常点評価：　50　出席と取り組み

備考・関連URL：　東伏見キャンパスと教員紹介
https://youtu.be/Syak_Fj-lJs

実技に際しては、安全管理の観点から、足首を完全にカバーできるストッキングを着用すること。眼鏡・時計・アクセサリー類の着用は厳禁とします。
実技実習は、安全かつ効果的なプロセスが必要不可欠なため、授業開始時間に始まるウォーミングアップからの参加が必須です。遅刻した場合は、実技への参加ができなくなりますので時間に余裕を持って移動してください。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040103|01|9S07040103[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	サッカー（マッチ・トレーニング）		
担 当 教 員	堀野　博幸		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　「本格的なゲームの中で、サッカーの本質を楽しもう！」
Let's enjoy essential soccer in the match!

授業概要：　人工芝の素晴らしいグランドで、サッカーを楽しみたい！そんなサッカー大好きな学生さんに、この授業はおすすめです。GECのサッカー授業は、下記の4つの科目で構成されており、科目登録のルール上は4科目すべてを履修可能です。どの科目から履修してもOK！初心者から経験者まで、サッカー好きにはたまらない内容となっています。なお、サッカー初心者の方は(ベイシック)もしくは(クアトロゲーム)をはじめに履修されることをお勧めめします！

サッカー（ベイシック）：ゲームを中心に、「基本テクニックとテクニックの奥深さ」を楽しもう！
サッカー（クアトロゲーム）：多様なゲームの中で、「クリエイティブでサッカー」を楽しもう！
サッカー（マッチトレーニング）：本格的なゲームの中で、「サッカーの本質」を楽しもう！
サッカー（戦術＆ゲーム）：最新かつ多様な戦術の中で、「サッカー脳」を鍛えて楽しもう！

まずは、授業と教場紹介ビデオ https://youtu.be/Syak_Fj-lJs をみてみてください。

教場は、早稲田サッカーの聖地「東伏見」！
ア式蹴球部（サッカー部）もトレーニングしている、その素晴らしい人工芝のグランドで、初心者から経験者まで誰もが、「本格的なゲームの中で、サッカーの本質を楽しむこと」をテーマに、ウォーミングアップトレーニングとゲームの中で楽しく学んでいきます。複数チームでのリーグ戦やトーナメントを実施します。

サッカーが好き！ サッカーをしてみたい！ サッカーが上手くなりたい！人工芝のグランドでサッカーを楽しみたい！ 本格的なサッカーのゲームの中で、「サッカーの本質」を楽しみたい！
そんな思いを持っている学生のみなさん、東伏見で一緒にサッカーを楽しみましょう！
プレーしながら、様々なテクニックを身につけましょう。またサッカーの試合をより楽しく観戦できるよう、試合の技術戦術分析の方法も学べます！

授業と教場紹介ビデオ https://youtu.be/Syak_Fj-lJs

授業の到達目標：　サッカーを楽しむこと、そして多くの本格的試合（match）を通じて、サッカーの本質を噛み締め、実践的プレーテクニックを身につける。

事前・事後学習の内容：　サッカー実技が行えるコンディションづくりをしてください。サッカーに適した服装。足のけがを防止するため、必ずサッカーのストッキングまたは足首を完全にカバーできるソックスなどを着用してください。

事前：サッカーを楽しむ気持ちを育てて来てくださいね。
事後：サッカーがもっと楽しくなった気持ちとクリエイティブなプレー経験を持ち帰ってくださいね。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：ガイダンス・導入ゲーム（実技を行います）場所：東伏見サッカー場
ガイダンス・導入ゲーム（実技を行います）場所：東伏見サッカー場
第2回：ゲーム：「高速カウンター：モウリーニョのサッカーに挑戦！」
ゲーム：「高速カウンター：モウリーニョのサッカーに挑戦！」
第3回：ゲーム：「ゲーゲンプレッシング：クロップのサッカーに挑戦！」
ゲーム：「ゲーゲンプレッシング：クロップのサッカーに挑戦！」
第4回：ゲーム：「プログレッション：グラウディオラのサッカーに挑戦！」
ゲーム：「プログレッション：グラウディオラのサッカーに挑戦！」
第5回：グループ・チームの技術・戦術論
グループ・チームの技術・戦術論

第6回:チーム対抗戦①
チーム対抗戦①
第7回:チーム対抗戦②
チーム対抗戦②
第8回:チーム対抗戦③
チーム対抗戦③
第9回:チーム対抗戦④
チーム対抗戦④
第10回:チーム対抗戦⑤
チーム対抗戦⑤
第11回:ゲーム分析①
ゲーム分析①:実際の試合をこれまで習得した実践的プレーの観点から分析する
第12回:ゲーム分析②
ゲーム分析②:これまで習得した実践的プレーの観点から、映像を用いた試合分析を行う。
第13回:まとめのゲーム
まとめのゲーム
第14回:総合・まとめ
総合・まとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし

参考文献: なし

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート: 50 試合分析

平常点評価: 50 出席と取り組み

備考・関連URL: 東伏見キャンパスと教員紹介 https://youtu.be/Syak_Fj-lJs

実技に際しては、安全管理の観点から、足首を完全にカバーできるストッキングを着用すること。眼鏡・時計・アクセサリー類の着用は厳禁とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040104|01|9S07040104[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	サッカー（戦術＆ゲーム）		
担 当 教 員	堀野　博幸		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：
「最新、そして多様な戦術を経験し、自らの「サッカー脳」を鍛えプレー楽しもう！」
Let's enjoy tactical play of soccer in the match!

授業概要：
人工芝の素晴らしいグランドで、サッカーを楽しみたい！そんなサッカー大好きな学生さんに、この授業はおすすめです。GECのサッカー授業は、下記の4つの科目で構成されており、科目登録のルール上は4科目すべてを履修可能です。どの科目から履修してもOK！初心者から経験者まで、サッカー好きにはたまらない内容となっています。なお、サッカー初心者の方は(ベイシック)もしくは(クアトロゲーム)をはじめに履修されることをお勧めします！

サッカー（ベイシック）：ゲームを中心に、「基本テクニックとテクニックの奥深さ」を楽しもう！
サッカー（クアトロゲーム）：多様なゲームの中で、「クリエイティブでサッカー」を楽しもう！
サッカー（マッチトレーニング）：本格的なゲームの中で、「サッカーの本質」を楽しもう！
サッカー（戦術＆ゲーム）：最新かつ多様な戦術を経験し、自らの「サッカー脳」を鍛えプレー楽しもう！

まずは、授業と教場紹介ビデオ https://youtu.be/Syak_Fj-lJs をみてみてください。

教場は、早稲田サッカーの聖地「東伏見」！
ア式蹴球部（サッカー部）もトレーニングしている、その素晴らしい人工芝のグランドで、初心者から経験者まで誰もが、「ゲームの中で、最新かつ多様な戦術を経験し、自らの「サッカー脳」を鍛える。そしてプレーを楽しむこと」をテーマに、ウォーミングアップトレーニングとゲームの中で楽しく学んでいきます。途中からは、自分たちでチームの戦術を決定し学生が主体となってゲームを重ねていきます。

サッカーが好き！ サッカーをしてみたい！ サッカーが上手くなりたい！人工芝のグランドでサッカーを楽しみたい！サッカーの「戦術を知りたい」、「自分たちで戦術を立てて戦ってみたい！」
そんな思いを持っている学生のみなさん、東伏見で一緒にサッカーを楽しみましょう！
プレーしながら、様々なテクニックを身につけましょう。またサッカーの試合をより楽しく観戦できるよう、試合の技術戦術分析の方法も学べます！

授業と教場紹介ビデオ https://youtu.be/Syak_Fj-lJs

授業の到達目標：
サッカーを楽しむこと、そして多くの本格的試合（match）を通じて、サッカーの戦術を深く理解し、自らゲーム戦術の立案と遂行能力を習得する。

事前・事後学習の内容：
サッカー実技が行えるコンディションづくりをしてください。サッカーに適した服装。足のけがを防止するため、必ずサッカーのストッキングまたは足首を完全にカバーできるソックスなどを着用してください。

事前：サッカーを楽しむ気持ちを育てて来てくださいね。
事後：サッカーがもっと楽しくなった気持ちとクリエイティブなプレー経験を持ち帰ってくださいね。

授業計画フリー入力サイン：
0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：ガイダンス・導入ゲーム（実技を行います）場所：東伏見サッカー場
ガイダンス・導入ゲーム（実技を行います）場所：東伏見サッカー場
第2回：ゲーム：「カウンターアタック：意図的に誘い込み、相手を切り裂きゴールへ奪う！」
前半：多様なミニサッカーの中で、活かせるテクニックに気づこう！
後半：
ゲーム：「カウンターアタック：意図的に誘い込み、相手を切り裂きゴールへ奪う！」ームでトライ！
第3回：ゲーム：「プレッシング・フットボール：後退せず、仲間を追い越しゴールへ迫る！」
ゲーム：「プレッシング・フットボール：後退せず、仲間を追い越しゴールへ迫る！」
第4回：ゲーム：「ポゼッション・フットボール：ボールを失わず、相手を動かし隙を見逃さず仕留める！」
ゲーム：「ポゼッション・フットボール：ボールを失わず、相手を動かし隙を見逃さず仕留める！」

第5回：ゲーム：「プログレッション：主導権を握り、ゴールへの推進力を持ち続けて相手を打ち破る！」
ゲーム：「プログレッション：主導権を握り、ゴールへの推進力を持ち続けて相手を打ち破る！」
第6回：グループ・チームの技術・戦術論
グループ・チームの技術・戦術論
第7回：チーム対抗戦①
チーム対抗戦①
第8回：チーム対抗戦②
チーム対抗戦②
第9回：チーム対抗戦③
チーム対抗戦③
第10回：チーム対抗戦④
チーム対抗戦④
第11回：ゲーム分析①
ゲーム分析①：実際の試合をこれまで習得した戦術的プレーの観点から分析する
第12回：ゲーム分析②
ゲーム分析②：これまで習得した戦術的プレーの観点から、映像を用いた試合分析を行う。
第13回：まとめのゲーム
まとめのゲーム
第14回：総合・まとめ
総合・まとめ

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　なし

参考文献：　なし

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　50　試合分析

平常点評価：　50　出席と取り組み

備考・関連URL：　東伏見キャンパスと教員紹介
https://youtu.be/Syak_Fj-lJs

実技に際しては、安全管理の観点から、足首を完全にカバーできるストッキングを着用すること。眼鏡・時計・アクセサリー類の着用は厳禁とします。
実技実習は、安全かつ効果的なプロセスが必要不可欠なため、授業開始時間に始まるウォーミングアップからの参加が必須です。遅刻した場合は、実技への参加ができなくなりますので時間に余裕を持って移動してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040202|01|9S07040202[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ウエイトトレーニング（トレーニングメソッド） 01		
担 当 教 員	後藤 貴徳		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 目標・目的を達成するための「トレーニングメソッド」

授業概要: 介護予防事業や特定保健指導の義務化に続き、政府が掲げた日本再興戦略における健康分野の重要性、並びに生涯スポーツ社会を目指す施策が打ち出され、ウエイトトレーニングが競技者だけではなく、一般人の健康維持・増進にも最も効果的であると再認識されるようになりました。しかしながら、医科学的根拠のない健康情報の氾濫、多種多様の肩書きを持つ民間資格者（国家資格は存在しない）や迷インストラクターによる指導が、健康弊害を招くケースも少なくありません。そこで、厳しい社会環境に適応するには「自己の健康は自分で管理する」ことを信条として、日常的な「健康投資」による心身の調整を図り、健康資本を増大させていくことが重要となります。
地球上では常に重力の影響を受けていることを忘れてはなりません。有史以来、長い時をかけて、人体の機能や筋肉は重力へ上手く順応できるように形成されてきました。ウエイトトレーニングは、「どれくらい身体を快適に動かせて（重力への順応性）、それにはどのくらいのエネルギーを費やしているか（運動エネルギー消費量）」を体得する最良の手段となります。
本授業では、効率よく深部筋温を一定のレベルに上昇させることで、モチベーションを喚起し、良好な運動パフォーマンスや日常生活動作が発揮しやすくなるように導く『リハーサルコンディショニング』を取り入れ、「継続意識を促して、運動習慣の形成に繋げていく」ことを目指します。筋温の上昇により代謝が高まると、柔軟性が増して傷害の予防や脂肪燃焼を促してメタボ対策になるだけでなく、やる気（ポジティブ志向）が出て勉強や仕事への集中力が高まり意識性を向上させ、ストレス解消にも効果があり、行動変容を促します。安全かつ効果的なウエイトトレーニングで、身体を動かしながら楽しさを味わうことができる「適正な筋温のターゲットゾーン」へ誘います。本授業で習得したトレーニング種目やその方法は、一過性のものでなく、一生涯を通じて必要であり、どのライフステージにおいても必ず接する財産となります。
本授業では、個々の目的や体力レベルに応じたウエイトトレーニングの実践を通して、総合的な身体機能や相対的筋力の向上、心身の調整を図れるようになることを学びます。健康・体力づくり、シェイプアップ、ダイエット、ストレス解消、浪人生活で衰えた体力の回復等、参加の動機は何でも構いません。また、「楽しくかつ適確なトレーニング」をモットーとし、初心者歓迎で、身体能力の優劣や完成度は問いません。
なお、「トレーニングメソッド」では、自己の目的や目標を達成するため、目的別トレーニングからプログラムの作成に至るまで、より実践的なトレーニング方法を修得します。

授業の到達目標: 自己の目的や目標を達成するための目的別トレーニングの方法やトレーニングプログラムの作成、並びに重力への順応性を高めるハイクリーンの正確な動作を習得する。トレーニングを安全かつ効果的に行う為のグループでの協力体制づくり。トレーニングのモチベーションを喚起し、良好な運動パフォーマンスを発揮する。

事前・事後学習の内容: 講義で習得したことを実際にトレーニングを行って下さい。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション「授業の概要、進め方、教材、評価等の説明」 グループ編成（体重や習熟度に応じて）、トレーニング場、器具、トレーニングマシーン等の説明
基本的なトレーニング種目の実施

第2回
重力への順応性、及びリハーサルコンディショニングによる、トレーニング方法への活用
基本的なトレーニング種目の実施

第3回
各種トレーニングシステム及びトレーニング方法の実践（トレーニング効果を最大限に引き出す為に、各種トレーニングシステムやトレーニング方法とその組み合わせ、トレーニングテクニック等、実践を通して修得する）

第4回
目的別トレーニング（シェイプアップやダイエットへのトレーニングシステムの活用）
最新のスポーツ、トレーニング、健康等に関する情報の紹介

第5回
目的別トレーニング（各種スポーツの補強へのトレーニングシステムの活用）
トレーニング、フィットネスにまつわる諸問題

第6回
各種トレーニングシステム及びトレーニング方法の実践
第7回
目的別トレーニング（健康維持・増進やストレス解消へのトレーニングシステムの活用）
　リラクセーションとメンタル・マネージメント
第8回
各種トレーニングシステム及びトレーニング方法の実践
第9回
目的別トレーニング（体力増強へのトレーニングシステムの活用）
　迷トレーナー、迷インストラクターの見抜き方
第10回
各種トレーニングシステム及びトレーニング方法の実践
第11回
実技テスト（ハイクリーンのテクニック）
第12回
目的別トレーニング（リコンディショニングへのトレーニシステムの活用）
　社会人からの健康管理（ライフステージ別のトレーニング等について）
第13回
トレーニングプログラムの作成方法
第14回
レポート提出（題名；私の考えたトレーニングプログラム）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: テキスト：「トレーニングマニュアル」（前野書店）販売店：前野書店　価格890円
用　具：トレーニングウェア上下、トレーニングシューズ

参考文献: 体力トレーニング・ワンポイントコーチ　大修館書店　代表著者　窪田登
マスルトレーニング　西村書店　加藤清忠　著

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30 試験を実施します。重力への順応性を高めるハイクリーンの正確な動作について習熟度を評価します。
第10－11回目の授業時間中に実施します。

レポート: 30 課題は11－12回目の授業時間中に提示します。テーマは「私の考えたトレーニングプログラム」として、講義内容を十分に理解して具体的なプログラムに反映させているかどうかを評価します。

平常点評価: 40 授業への積極性や、授業態度、グループワークでの協力体制について評価します。トレーニングの各種システムや方法、並びに重力への順応性を高めるハイクリーンの正確な動作の習得について評価します。出席数も採点の対象とする。

備考・関連URL: 第1週目の授業はオリエンテーションを行うので平服のままで、筆記用具のみ持参すればよい。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040202|02|9S07040202[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ウエイトトレーニング（トレーニングメソッド） 02		
担 当 教 員	後藤 貴徳		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 目標・目的を達成するための「トレーニングメソッド」

授業概要: 介護予防事業や特定保健指導の義務化に続き、政府が掲げた日本再興戦略における健康分野の重要性、並びに生涯スポーツ社会を目指す施策が打ち出され、ウエイトトレーニングが競技者だけではなく、一般人の健康維持・増進にも最も効果的であると再認識されるようになりました。しかしながら、医科学的根拠のない健康情報の氾濫、多種多様の肩書きを持つ民間資格者（国家資格は存在しない）や迷インストラクターによる指導が、健康弊害を招くケースも少なくありません。そこで、厳しい社会環境に適応するには「自己の健康は自分で管理する」ことを信条として、日常的な「健康投資」による心身の調整を図り、健康資本を増大させていくことが重要となります。
地球上では常に重力の影響を受けていることを忘れてはなりません。有史以来、長い時をかけて、人体の機能や筋肉は重力へ上手く順応できるように形成されてきました。ウエイトトレーニングは、「どれくらい身体を快適に動かせて（重力への順応性）、それにはどのくらいのエネルギーを費やしているか（運動エネルギー消費量）」を体得する最良の手段となります。
本授業では、効率よく深部筋温を一定のレベルに上昇させることで、モチベーションを喚起し、良好な運動パフォーマンスや日常生活動作が発揮しやすくなるように導く『リハーサルコンディショニング』を取り入れ、「継続意識を促して、運動習慣の形成に繋げていく」ことを目指します。筋温の上昇により代謝が高まると、柔軟性が増して傷害の予防や脂肪燃焼を促してメタボ対策になるだけでなく、やる気（ポジティブ志向）が出て勉強や仕事への集中力が高まり意識性を向上させ、ストレス解消にも効果があり、行動変容を促します。安全かつ効果的なウエイトトレーニングで、身体を動かしながら楽しさを味わうことができる「適正な筋温のターゲットゾーン」へ誘います。本授業で習得したトレーニング種目やその方法は、一過性のものでなく、一生涯を通じて必要であり、どのライフステージにおいても必ず接する財産となります。
本授業では、個々の目的や体力レベルに応じたウエイトトレーニングの実践を通して、総合的な身体機能や相対的筋力の向上、心身の調整を図れるようになることを学びます。健康・体力づくり、シェイプアップ、ダイエット、ストレス解消、浪人生活で衰えた体力の回復等、参加の動機は何でも構いません。また、「楽しくかつ適確なトレーニング」をモットーとし、初心者歓迎で、身体能力の優劣や完成度は問いません。
なお、「トレーニングメソッド」では、自己の目的や目標を達成するため、目的別トレーニングからプログラムの作成に至るまで、より実践的なトレーニング方法を修得します。

授業の到達目標: 自己の目的や目標を達成するための目的別トレーニングの方法やトレーニングプログラムの作成、並びに重力への順応性を高めるハイクリーンの正確な動作を習得する。トレーニングを安全かつ効果的に行う為のグループでの協力体制づくり。トレーニングのモチベーションを喚起し、良好な運動パフォーマンスを発揮する。

事前・事後学習の内容: 講義で習得したことを実際にトレーニングを行って下さい。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション「授業の概要、進め方、教材、評価等の説明」 グループ編成（体重や習熟度に応じて）、トレーニング場、器具、トレーニングマシーン等の説明
基本的なトレーニング種目の実施

第2回
重力への順応性、及びリハーサルコンディショニングによる、トレーニング方法への活用
基本的なトレーニング種目の実施

第3回
各種トレーニングシステム及びトレーニング方法の実践（トレーニング効果を最大限に引き出す為に、各種トレーニングシステムやトレーニング方法とその組み合わせ、トレーニングテクニック等、実践を通して修得する）

第4回
目的別トレーニング（シェイプアップやダイエットへのトレーニングシステムの活用）
最新のスポーツ、トレーニング、健康等に関する情報の紹介

第5回
目的別トレーニング（各種スポーツの補強へのトレーニングシステムの活用）
トレーニング、フィットネスにまつわる諸問題

第6回
各種トレーニングシステム及びトレーニング方法の実践
第7回
目的別トレーニング（健康維持・増進やストレス解消へのトレーニングシステムの活用）
　リラクセーションとメンタル・マネージメント
第8回
各種トレーニングシステム及びトレーニング方法の実践
第9回
目的別トレーニング（体力増強へのトレーニングシステムの活用）
　迷トレーナー、迷インストラクターの見抜き方
第10回
各種トレーニングシステム及びトレーニング方法の実践
第11回
実技テスト（ハイクリーンのテクニック）
第12回
目的別トレーニング（リコンディショニングへのトレーニシステムの活用）
　社会人からの健康管理（ライフステージ別のトレーニング等について）
第13回
トレーニングプログラムの作成方法
第14回
レポート提出（題名；私の考えたトレーニングプログラム）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: テキスト：「トレーニングマニュアル」（前野書店）販売店：前野書店　価格890円
用　具：トレーニングウェア上下、トレーニングシューズ

参考文献: 体力トレーニング・ワンポイントコーチ　大修館書店　代表著者　窪田登
マスルトレーニング　西村書店　加藤清忠　著

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30 試験を実施します。重力への順応性を高めるハイクリーンの正確な動作について習熟度を評価します。
第10－11回目の授業時間中に実施します。

レポート: 30 課題は11－12回目の授業時間中に提示します。テーマは「私の考えたトレーニングプログラム」として、講義内容を十分に理解して具体的なプログラムに反映させているかどうかを評価します。

平常点評価: 40 授業への積極性や、授業態度、グループワークでの協力体制について評価します。トレーニングの各種システムや方法、並びに重力への順応性を高めるハイクリーンの正確な動作の習得について評価します。出席数も採点の対象とする。

備考・関連URL: 第1週目の授業はオリエンテーションを行うので平服のままで、筆記用具のみ持参すればよい。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040208|01|9S07040208[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	卓球（ゲーム） 応用		
担 当 教 員	時吉 佑一		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 様々な練習を行い、試合に応用できるようにします。練習も試合も楽しめるようにします。

授業概要: 球技で最も小さく軽い（2.4g）ボールを扱うのが卓球である。巧みさ、緻密さ、器用さが養われる。その一方で、小さく軽いボールに強い回転をかけて遠くへ飛ばすためには、パワーも必要である。老若男女、年齢に関係なく誰でもどこでも出来ることが日本全国に普及し、愛好者が多くなった理由であろう。ちなみに、チャンピオンの数は登録人数と比し大変少ない。それは、卓球愛好者がとても多いことを意味する。年齢が高まるにつれ、技術の向上がみられるのも特徴的である。そのためか、マスターズ大会参加者も数多い。
卓球のもうひとつの魅力は、ゲーム性にある。さまざまなゲームを楽しみ、勝負を楽しみ、自分自身を振り返る楽しみがもてる。技術は際限なく深く、その1つ1つを磨く過程もまた楽しいといえよう。さらに、そのさまざまな技術を組み立てて、さまざまな相手に対して、その磨いた技術を発揮できるかどうかをお互いに競いあうことも非常な楽しみなポイントといえよう。多くの人と試合をし、いろいろな経験を積むことが更なる向上につながるものと思われるものと考えられるために設定した講座である。
本講座では様々な観点から卓球を料理し、理論と実践から卓球をとことん味わってもらう。
本講座では徹底的に試合を行い、勝敗にこだわりたい。勝利と強さを競いあう過程における創意工夫やアイデアの誕生を期待したい。
授業は、上手い人どうしが多くなると思うが、レベルが低いからといって、卑下する必要はない。どんなに下手でも継続的に努力を積めば、大きな目標を達成できることは歴史や多くの人が証明しているし、何よりも上手い人の良いところをいくらでも、しかもタダで取り入れることができる点にメリットがある。その意味では、発展途上の人がもっとも得する授業となるのであるが、そのような人ばかりであると、なかなかハイレベルな状況での競い合いを期待することはできない。すなわち、教育的な面から考えれば初心者の方々を大歓迎するわけではあるが、本講座の趣旨から慮った場合、以下のようになろう。
本講座は、試合が連続してもOKな体力のタフさ、敗者としての自分を認める潔さ、勝利者としての驕りを感じさせない精神の持ち主であれば、その技術レベルは基本的に一切問わない。ただし、中学・高校時代に卓球クラブの経験を持っていることは基本的な条件にあげられよう。

授業の到達目標: 授業では、ゲームを多くこなすことから、精神的タフさ、身体的タフさが求められる。実技レベルの高低は問わず、男女・年齢差も問わないことで、さまざまなプレッシャーを感じながらも、勝ち負けにこだわらない大らかさを堪能できるだろう。授業では、ゲームで負けても負けてもへこたれない精神的タフさ、何ゲームを消化してもへこたれない身体的タフさを涵養する場を提供する。
その中で、お互いの技術レベルを高め、お互いの連帯感を高め、授業としての充実感を求める。

事前・事後学習の内容: 事前学修：卓球の簡単なルールを学修しておきましょう。卓球はネットをはさんで、ラバー貼りラケットを使用してプラスチック製の軽いボールをネットをはさんだ卓球台上を向かい合った2人が打ち合うスポーツです。ボールを打ち返すことで、心と心のラリーが生まれます。お互いが相手に打ちやすいボールを送ることで、軽やかなラリーが続きます。授業で一緒になった多くの学生と卓球を通して友人となりましょう。卓球がお互いのコミュニケーションを高めるのです。

事後学修：卓球の実技授業の終了後は、球速の早いボールが連続したラリーにも目がついているようになっていることでしょう。毎回の授業で1,000回以上相手のボールを打ち返すことで、動体視力（スポーツビジョン）のレベルが上がっているのです。ユーチューブやテレビで放映される卓球のプレーはもはや他人事ではありません。自分の楽しみになっていることでしょう。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
生涯スポーツとしての卓球、競技スポーツとしての卓球を楽しみましょう。

健康スポーツとしての卓球、競技スポーツとしての卓球を紹介します。オリエンテーション（卓球の歴史、戦術の変遷、現代卓球の内容の紹介を行う。）
ラケットを含む卓球用具の説明。ゼッケンの配布。授業の進め方の説明を実施する。
授業の成績評価の方法。17号館3階卓球場ミーティングルームで実施する。オンデマンド授業を数回実施することの説明も行う。①生涯スポーツとしての卓球、競技スポーツとしての卓球を紹介します。

第2回
卓球の歴史、日本史、世界史を知りましょう。

第3回
卓球独自のコミュニケーションツールとしての卓球、自己紹介練習、感覚練習、コントロール練習をマスターしましょう。
第4回
ｴﾚﾍﾞｰﾀｰｹﾞｰﾑをやろう。試合で勝つと、上位の台に移ります。負けると、下位の台に移り、ゲームを繰り返します。
第5回
全員で、総当たりのシングルスのゲーム練習をやりましょう。
第6回
ボールあてゲームをやりましょう。同時打球練習をやりましょう。
第7回
シングルスとﾀﾞﾌﾞﾙｽ混合の試合をやりましょう。
第8回
シングルスのゲームのやり方とダブルスのゲームの仕方を学びましょう。そして、実際に正しいルールで試合をやりましょう。
第9回
シングルスのエレベーターゲームを行いましょう。
第10回
ダブルスのエレベーターゲームを行いましょう。
第11回
複数の団体戦形式で試合をやりましょう。
第12回
日本トップクラスのビデオを見ましょう。
第13回
世界のトッププレーヤーのビデオを見ましょう。
第14回
シングルスの総当たりゲームをやりましょう。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に、定めた教科書はありません。しかしながら、ルール解説その他については、これまでに培った経験および科学的研究成果をもとにした内容を詳細に説明します。関連した重要ポイントは、ホワイトボードに図示、あるいは予め用意した資料を基に行います。
スポーツ医科学ハンドブック(杏林書院) スポーツ心理学ハンドブック(杏林書院)

参考文献: スポーツ医科学ハンドブック(杏林書院) スポーツ心理学ハンドブック(杏林書院)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 20 実技試験(サービスの下回転)とラリーの実技テストを実施します。

レポート: 10 隔週のオンデマンドの資料を視聴しての感想を30字以上400字以内でレポートを提出して下さい。

平常点評価: 60 平常の出席状況を重視します。なお、対面授業では、相手を尊重する態度、周囲の方と強調して技術の向上に励みましょう。

その他: 10 ①レポートの内容が秀逸である。 ②技術レベルが高いだけでなく、技術レベルの低い人を指導してあげる。 ③授業を進める上で積極的に関わる。
④真面目にコツコツと課題に取り組む姿勢があり、着実に技術レベルを向上させる。①～④にとらわれることなく、様々な観点からプラスアルファの加
点がある。

備考・関連URL: オリエンテーションは、卓球場横のミーティングルームで開催します。授業の際は運動着を着用していただきますが、オリエンテーション時には平服で結構です。筆記用具を必ず用意して下さい。なお、授業の開始に先立ち、授業中に使用するラケットは本人の意志で購入して頂きます。授業の充実を図るにあたり、受講生自身が使用するラケットは15回におよぶ講義・技術・戦の講義を受ける中で、ラケットは常に同じであることが必須です。
市場で出回っている1千円～2千円程度のラバー張ラケットの使用は、回転がかからないため、卓球の競技特性であるタイミング・スピード・回転を学ぶ上でマイナスであり、さらに、練習相手に対しても迷惑をかけてしまいます。したがって、某卓球メーカーの支援を受け、市価の3分の1程度の手ごろ感のある値段で、良質のラケットをオリエンテーションの際に販売しています。両面のラバーが張られているラケットで、3,500円、片面のラバーが張られているラケットで3,000円です。
他に、お互いのコミュニケーションを図るために、受講者が氏名を記載できるゼッケン(200円)を用意しますので、購入して下さい。ラケットは保存をしっかり行えば、一生涯にわたって使用が可能です。卓球のエッセンスを学び、卓球を楽しみましょう。

なお、この授業は、クラスの大半の学生が中学・高校時代の卓球部の部活動経験者です。この方々を前提(上級者レベル)を対象として授業の形式を整えております。両ハンド、サービス、レシーブ、ツッツキ、ドライブなどの

技術をこなせることが前提です。但し、カットマンは例外です。初心者の方は受けないようにしてください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040209|01|9S07040209[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	卓球（プラクティス＆ゲーム） 01		
担 当 教 員	時吉 佑一		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 様々な練習を行い、試合に応用できるようにします。練習も試合も楽しめるようにします。

授業概要: 球技で最も小さく軽い（2.4g）ボールを扱うのが卓球である。巧みさ、緻密さ、器用さが養われる。その一方で、小さく軽いボールに強い回転をかけて遠くへ飛ばすためには、パワーも必要である。老若男女、年齢に関係なく誰でもどこでも出来ることが日本全国に普及し、愛好者が多くなった理由であろう。ちなみに、チャンピオンの数は登録人数と比し大変少ない。それは、卓球愛好者がとても多いことを意味する。年齢が高まるにつれ、技術の向上がみられるのも特徴的である。そのためか、マスターズ大会参加者も数多い。
卓球基礎の授業を踏まえ、卓球の種々な面でのレベルアップを図る。実技練習では、卓球の様々な技術をマスターするとともに、各種の練習方法を覚え、各種の技術や打法の技能レベルの向上を図るようにする。技術を磨くことは己の心と脳神経系統を磨き鍛えることにも通じるものと考えられ、その発展と向上を図ることは誠に意義深いといえよう。

授業の到達目標: 本講座では様々な観点から卓球を料理し、理論と実践から卓球をとことん味わってもらう。さまざまな技術をさまざまな角度からマスターすべく、練習に時間をかけてみる。技術を磨くために、さまざまな切り口からトライする。多くの失敗の中からたまたま成功したハプニングが神経系統にしっかりとインプットされるには多くの時間と忍耐が必要である。確かな練習は、確かな成果を約束します。

事前・事後学習の内容: 事前学修：卓球の簡単なルールを学修しておきましょう。卓球はネットをはさんで、ラバー貼りラケットを使用してプラスチック製の軽いボールをネットをはさんだ卓球台上を向かい合った2人が打ち合うスポーツです。ボールを打ち返すことで、心と心のラリーが生まれます。お互いが相手に打ちやすいボールを送ることで、軽やかなラリーが続きます。授業で一緒になった多くの学生と卓球を通して友人となりましょう。卓球がお互いのコミュニケーションを高めるのです。

事後学修：卓球の実技授業の終了後は、球速の早いボールが連続したラリーにも目がついているようになっていることでしょう。毎回の授業で1,000回以上相手のボールを打ち返すことで、動体視力（スポーツビジョン）のレベルが上がっているのです。ユーチューブやテレビで放映される卓球のプレーはもはや他人事ではありません。自分の楽しみになっていることでしょう。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
健康スポーツとしての卓球、競技スポーツとしての卓球を紹介します。オリエンテーション（卓球の歴史、戦術の変遷、現代卓球の内容の紹介を行う。）
ラケットを含む卓球用具の説明。ゼッケンの配布。授業の進め方の説明を実施する。
授業の成績評価の方法。17号館3階卓球場ミーティングルームで実施する。オンデマンド授業を数回実施することの説明も行う。①生涯スポーツとしての卓球、競技スポーツとしての卓球を紹介します。

第2回
卓球の歴史を知ろう。卓球の日本史、世界史を知りましょう。ゲーム練習。

第3回
卓球の独特のコミュニケーションである特性を利用した「自己紹介ラリー練習」をやってみましょう。。ゲーム練習。

第4回
感覚練習をやってみよう。マスターして、他の人にも教えて上げましょう。ゲーム練習。

第5回
サービス練習をやってみましょう。ｻｰﾋﾞｽの模範演技はﾄｯﾌﾟﾚﾍﾞﾙの選手にやってもらいましょう。ﾄﾞﾗｲﾌﾞ打法も紹介します。ﾄﾞﾗｲﾌﾞ打法の練習もやってみましょう。
シングルスのゲームのやり方を紹介します。シングルスの試合をやってみましょう。ゲーム練習。

第6回
スマッシュ打法を紹介します。スマッシュ打法の練習もやってみましょう。ゲーム練習。
シングルスのゲームをたくさんやってみましょう。そして、自分のプレースタイルを創ります。

第7回
バックハンド打法を紹介します。バックハンド打法の練習もやってみましょう。ゲーム練習。
シングルスのゲームを総当たりでやりましょう。
第8回
シングルスのゲームとﾀﾞﾌﾞﾙｽのゲームを団体戦でやってみましょう。
第9回
世界のトップレベルの試合をビデオで見ましょう。ゲーム練習。
第10回
日本のトップレベルの選手のぷれーをビデオで見ましょう。ゲーム練習。
第11回
シングルスの試合とダブルスの試合をたくさんやってみましょう。同じ技術レベルの人と総当たりで試合をやりましょう。
第12回
団体戦形式で、シングルスとダブルスの試合をたくさんやりましょう。
第13回
実技テスト1（ラリーおよび回転）を実施します。
第14回
実技rテスト2（ラリーおよび回転）を実施します。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 卓球王国。
卓球コーチング教本。
卓球基礎指導者教本。

参考文献: スポーツ医科学ハンドブック（杏林書院） スポーツ心理学ハンドブック（杏林書院）

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 出席点、授業内容に対する積極性を含む態度、実技テスト、卓球レポート、試合観戦。

備考・関連URL: オリエンテーションは、卓球場横のミーティングルームで開催します。授業の際は運動着を着用していただきますが、オリエンテーション時には平服で結構です。筆記用具を必ず用意すること。
なお、授業の開始に先立ち、授業中に使用するラケットは本人の意志で購入して頂きます。授業の充実を図るにあたり、受講生自身が使用するラケットは15回におよぶ講義・技術・戦の講義を受ける中で、ラケットは常に同じであることが必須です。市場で出回っている1千円～2千円程度のラバー張ラケットの使用は、回転がかからないため、卓球の競技特性であるタイミング・スピード・回転を学ぶ上でマイナスであり、さらに、練習相手に対しても迷惑をかけてしまいます。したがって、某卓球メーカーの支援を受け、市価の3分の1程度の手ごろ感のある値段で、良質のラケットをオリエンテーションの際に販売していpます。両面のラバーが張られているラケットで、3,500円、片面のラバーが張られているラケットで3,000円です。
他に、お互いのコミュニケーションを図るために、受講者が氏名を記載できるゼッケン（200円）を用意しますので、購入して下さい。ラケットは保存をしっかり行えば、一生涯にわたって使用が可能です。卓球のエッセンスを学び、卓球を楽しみましょう。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040209|02|9S07040209[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	卓球（プラクティス＆ゲーム）　02		
担 当 教 員	時吉　佑一		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　様々な練習を行い、試合に応用できるようにする。練習も試合も楽しめるようにします。

授業概要：　球技で最も小さく軽い（2.4g）ボールを扱うのが卓球である。巧みさ、緻密さ、器用さが養われる。その一方で、小さく軽いボールに強い回転をかけて遠くへ飛ばすためには、パワーも必要である。老若男女、年齢に関係なく誰でもどこでも出来ることが日本全国に普及し、愛好者が多くなった理由であろう。ちなみに、チャンピオンの数は登録人数と比し大変少ない。それは、卓球愛好者がとても多いことを意味する。年齢が高まるにつれ、技術の向上がみられるのも特徴的である。そのためか、マスターズ大会参加者も数多い。
　卓球基礎の授業を踏まえ、卓球の種々な面でのレベルアップを図る。実技練習では、卓球の様々な技術をマスターするとともに、各種の練習方法を覚え、各種の技術や打法の技能レベルの向上を図るようにする。技術を磨くことは己の心と脳神経系統を磨き鍛えることにも通じるものと考えられ、その発展と向上を図ることは誠に意義深いといえよう。

授業の到達目標：　本講座では様々な観点から卓球を料理し、理論と実践から卓球をとことん味わってもらう。さまざまな技術をさまざまな角度からマスターしましょう。多くの失敗の中からたまたま成功したハプニングが神経系統にしっかりとインプットされるためには、多くの時間が費やされます。確かな練習は、確かな成果を約束することでしょう。

事前・事後学習の内容：　事前学修：卓球の簡単なルールを学修しておきましょう。卓球はネットをはさんで、ラバー貼りラケットを使用してプラスチック製の軽いボールをネットをはさんだ卓球台上を向かい合った2人が打ち合うスポーツです。ボールを打ち返すことで、心と心のラリーが生まれます。お互いが相手に打ちやすいボールを送ることで、軽やかなラリーが続きます。授業で一緒になった多くの学生と卓球を通して友人となりましょう。卓球がお互いのコミュニケーションを高めるのです。

事後学修：卓球の実技授業の終了後は、球速の早いボールが連続したラリーにも目がついているようになっていることでしょう。毎回の授業で1,000回以上相手のボールを打ち返すことで、動体視力（スポーツビジョン）のレベルが上がっているのです。ユーチューブやテレビで放映される卓球のプレーはもはや他人事ではありません。自分の楽しみになっていることでしょう。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回

オリエンテーション（卓球の歴史、戦術の変遷、現代卓球の内容の紹介を行う。）
ラケットを含む卓球用具の説明。ゼッケンの配布。授業の進め方の説明を実施する。
授業の成績評価の方法。17号館3階卓球場ミーティングルームで実施する。オンデマンド授業を数回実施することの説明も行う。①生涯スポーツとしての卓球、競技スポーツとしての卓球を紹介します。

第2回

卓球の歴史を知ろう。日本の卓球史、世界の卓球史を知りましょう。ゲーム練習。

第3回

コミュニケーション能力を高める、卓球独特の自己紹介ラリーをやってみましょう。ゲーム練習。

第4回

感覚練習を知ってますか？
やってみるとい結構面白いので、マスターして仲間にも教えてあげましょう。ゲーム練習。

第5回

ｻｰﾋﾞｽの練習をやってみましょう。ｻｰﾋﾞｽの模範演技（トップレベルの選手）を実施します。ドライブ打法を紹介します。ﾄﾞﾗｲﾌﾞ打法の練習もやってみmしょう。ドライブをマスターする練習にもトライしましょう。シングルスとダブルスのゲームのやり方を紹介します。ゲーム練習。

第6回

スマッシュ打法を紹介しましょう。模範演技。スマッシュ打法の練習をやってみましょう。シングルスのゲームをやってみましょう。ゲーム練習。

第7回
バックハンド打法を紹介します。一緒にやってみましょう。シングルスのゲーム第2弾です。いろいろなタイプの人としあいをやってみましょう。ゲーム練習。
第8回
シングルスのゲーム第3弾です。いままでやっていない人とも試合をしましょう。
ﾀﾞﾌﾞﾙｽのゲームをしましょう。相手を変えてダブルスをやりましょう。ゲーム練習。
第9回
シングルスのゲームとﾀﾞﾌﾞﾙｽのゲームを団体戦形式でやってみましょう。ゲーム練習。
第10回
シングルスのゲームとﾀﾞﾌﾞﾙｽのゲームを団体戦形式でやってみましょう。ゲーム練習。
第11回
ビデオで世界最高のプレーを見ましょう。ゲーム練習。
第12回
ビデオでありえないプレー、超エキセントリックなプレーを楽しみましょう。ゲーム練習。
第13回
カット性サービスをマスターしましょう。ゲーム練習。
第14回
変化モーションをつけたサービスをマスターしましょう。ゲーム練習。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 卓球王国。
卓球コーチ教本
卓球基礎指導者教本

参考文献: スポーツ医科学ハンドブック（杏林書院） スポーツ心理学ハンドブック（杏林書院）

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 出席点、授業内容に対する積極性を含む態度、実技テスト、卓球レポート、試合観戦。

備考・関連URL: オリエンテーションは、17号館（体育館）卓球場のミーティングルームで開催します。授業の際は運動着を着用していただきますが、オリエンテーション時には平服で結構です。筆記用具を必ず用意すること。
なお、授業の開始に先立ち、授業中に使用するラケットは本人の意志で購入して頂きます。授業の充実を図るにあたり、受講生自身が使用するラケットは15回におよぶ講義・技術・戦の講義を受ける中
で、ラケットは常に同じであることが必須です。市場で出回っている1千円～2千円程度のラバー張ラケットの使用は、回転がかからないため、卓球の競技特性であるタイミング・スピード・回転を学ぶ上でマイナスであり、さらに、練習相手に対しても迷惑をかけてしまいます。したがって、某卓球メーカーの支援を受け、市価の3分の1程度の手ごろ感のある値段で、良質のラケットをオリエンテーションの際に販売しています。両面のラバーが張られているラケットで、3,500円、片面のラバーが張られているラケットで3,000円です。
他に、お互いのコミュニケーションを図るために、受講者が氏名を記載できるゼッケン（200円）を用意します。ラケットは保存をしっかり行えば、一生涯にわたって使用が可能です。卓球のエッセンスを学び、
卓球を楽しみましょう。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040212|01|9S07040212[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	馬術　応用		
担 当 教 員	倉田　孝之		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　馬を操れ。馬を乗りこなせ。

授業概要:　草原を馬で疾走したい人、集まれ。馬術の競技をやってみたい人集まれ。馬を1人で操りたい人集まれ。
馬術応用クラスの目標は1人で馬を自在に操り、速足で部班運動ができるようになることだ。これをクリアーした人は、初心者競技・ジムカーナー競技に参加できる技量を身につけることである。また馬術経験者で軽速足ができる人も集まって欲しい。馬術は、運動神経に関係なく女性でも男性でも回数を重ねるごとに上手になっていくものである。その意味で誰にでもできる手軽なスポーツである。又、女性の持つ体のしなやかさや動物に対しての細やかな愛情が、男性以上の能力を引き出してくれる稀有な競技でもある。馬術にはオリンピックでも男女の区別が無い。一方、男性の持つ力強さも馬を御すには不可欠だ。さあ、馬にもっともっと乗って、自在に馬を操ってみよう。この講座が終わるころには、1人で馬を操り、野山を散策できるようになるはずだ。キミも乗馬愛好家の仲間入りをしないか。
（体重100kg以上の方は騎乗できない場合があります。また授業は日本語で行います）

（写真をクリックすると拡大します）

授業の到達目標:　1　コーンをジグザグに通過できる。
2　巻き乗りや輪のりなど正確に馬を動かせる。
3　横木を通過できる。

事前・事後学習の内容:　参考文献を熟読すると上達がはやまります。

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＜部班運動とジムカーナー競技の練習＞
まずは、何頭かの馬を列に並べ、部班運動がきちっとできるように練習をする。常足でそして速足でスムーズに馬を動かせるように。これをマスターしたらレッドコーンを等間隔に置きジムカーナー競技の練習に入る。手綱を引きすぎず、体重の移動で馬を誘導する。一人で馬を動かす自信のない人は、馬術の基礎にもどり軽速足の練習へ。馬はバランスで乗ることがとても大切。また、馬に馬鹿にされずに指示に従わせることが、自在に馬を乗りこなすためには必要になってくる
<1>1人で馬を動かす。（部班運動　前の馬に遅れずについていく）
<2>1人で馬を動かす。（部班運動　他の馬に動きを合わせる）
<3>1人で馬を動かす。（スラローム練習1）
<4>1人で馬を動かす。（スラローム練習2）
<5>1人で馬を動かす。（スラローム練習3）
＜簡単な障害物の通過。＞（キャバレッティー通過）　使用馬匹により危険だと判断したときには、別のメニューとする。
馬も人も地上に目標があったほうが、進路を決めやすい。何も無いところをただ初心者が馬を誘導するのは難しい。そこで、地上に横木を置いて、それを目標として馬を誘導する練習がキャバレッティー練習である。ちょっとした障害をやったような喜びを人も馬も感じられるはずだ。
<6>地上横木通過練習1（まっすぐ真ん中に誘導する。）

<7>地上横木通過練習2（馬を横木前でおす）
<8>馬学　馬の毛色、種類、病気、くせなど馬に乗ったからには知っておきたいことを解説する。

＜正確な図形を描く。＞
（輪のり、巻き乗り、輪のりの手前を変えなど。この練習は駆け足発進の序章である。馬に内方姿勢をとらせ自分の思ったとおりの正確な図形を歩かせる。）
<9>厩舎管理の方法
<10> 馬術の試合の観戦の仕方などの馬学
<11>ハミ受けを体感する①　馬とコンタクトを取り、馬が人の要求を待つ姿勢をハミを受けた姿勢という。これができれば馬術上級者だ。
<12>総合練習①
<13>総合練習②
<14>馬とともに写真と取ろう

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 乗馬ズボン（キュロット）、乗馬手袋着用（軍手や、テニスや野球などの手袋でも代用可）。体に密着したジーンズ、ジャージなども可。ただし安全のためキュロット着用がのぞましい。ヘルメット、バックガード（安全用プロテクター）、乗馬用ゴム長靴は貸し出しあり。

参考文献: 以下、馬に初めて乗る人は参考文献を読んでおくと、
乗馬上達に役立ちます。
① 楽しい乗馬ビジュアルテキスト（ジョー・バード著、楠瀬良訳） 2800円（税別） 緑書房
カラーでの写真が多く、ヨーロツパ馬術だけでなく、ウェスタン乗馬の仕方も詳細に解説しています。
馬の扱い方、馬の乗り方、障害や馬場馬術の乗り方など、かなりレベルの高いことまで、知りたい人には勧められます）
② 乗馬をはじめよう（岩谷一裕著） 1870円
乗馬クラブクレインで初心者向けに作った乗馬テキストです。授業で扱うテーマは、この本を読めば、すべて詳述されています。
写真も多様されており、悪い姿勢などが写真入りで詳述されているので、参考になると思います。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 20 テーマ 馬について興味を持ったこと。A4 1－2枚程度。馬への関心や興味の高さを評価する。

平常点評価: 80 （出席点60%。技術点20%。）対面では遅刻せず休まずくることを何よりも評価する。

備考・関連URL: 関連URL:
早稲田大学馬術部
http://whrc1927.wordpress.com/
公益社団法人 日本馬術連盟(ルール解説と見方)
https://www.equitation-japan.com/rules_01.html
東伏見キャンパス
http://www.waseda.jp/gec/wp-content/uploads/2014/02/sports02.pdf

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040213|01|9S07040213[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バスケットボール 応用 01		
担 当 教 員	木村 和宏		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 世界的にもポピュラーな競技のひとつであるバスケットボールは、年齢層も小学生から一般まで、実に多くの人々が参加する人気スポーツである。
本授業は、バスケットボール（基礎）で行ってきた内容を発展させ、より実戦的にグレードアップした内容になっている。
対象は、中・高のいずれかの時期にクラブ活動や愛好会活動を通じてバスケットボールに取り組んだことのある学生、もしくは過去にバスケットボール（基礎）受講し単位を取得した学生、または同等レベルのスキルを持った学生とする。尚、履修者以外の授業参加は一切認めない。
[ディプロマポリシーとの関連]保健体育教員や生涯・競技スポーツ指導者に必要な知識や実技能力の習得を目指す。

授業の到達目標: 本授業では、バスケットボールを通じて、基礎体力の向上を図ると同時に、基本的なチーム・オフェンスやチーム・ディフェンスについての知識やプレーの習得を目指す。

事前・事後学習の内容: 各回の復習には、90分～120分かかると予想されます。習得した技術を次回の授業に反映できるようにすること。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ガイダンス
本授業の内容や注意事項を説明する
第2回 オフェンスファンダメンタル
シュート、パス、ドリブル
第3回 数的優位教区面での攻防①、ミニゲーム
1対0、2対1
第4回 数的優位局面での攻防②、ミニゲーム
3対2、4対3
第5回 チームオフェンスの基本的な考え方①、ミニゲーム
マンツーマンオフェンス
第6回 チームオフェンスの基本的な考え方②、ミニゲーム
ゾーンオフェンス
第7回 特別な状況下のオフェンス、ミニゲーム
ベースラインアウトオブバウンス、サイドラインアウトオブバウンス
第8回 チームディフェンスの基本的な考え方①、ミニゲーム
マンツーマンディフェンス
第9回 チームディフェンスの基本的な考え方②、ミニゲーム
ゾーンディフェンス
第10回 フルコートでの攻防の切り替え、ミニゲーム
トランジッション（オフェンスからディフェンスへ、ディフェンスからオフェンスへ）
第11回 戦術・戦略を駆使したゲーム①、審判法の習得
リーグ戦形式①
第12回 戦術・戦略を駆使したゲーム②、審判法の習得
リーグ戦形式②
第13回 戦術・戦略を駆使したゲーム③、審判法の習得
トーナメント形式

第１４回　戦術・戦略を駆使したゲーム④、審判法の習得、まとめ
トーナメント形式

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特に定めなし

参考文献: 「バスケットボール指導教本」（日本バスケットボール協会編　大修館書店　2002）「倉石平のオフェンシブバスケットボール」「倉石平のディフェンシブバスケットボール」「倉石平のファンダメンタルバスケットボール（オフェンス編）」「倉石平のファンダメンタルバスケットボール（ディフェンス編）」（いずれも倉石平、ベースボールマガジン社）

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30　ゲームにおける勝敗ポイント

平常点評価: 70　授業への出席状況、毎回の授業の理解度、取り組み、貢献度を評価する。

備考・関連URL:
・第1回のガイダンスは、今後の授業内容について説明します。
・対面授業時は、授業開始から30分以上の遅刻は認めないので注意のこと。

◆履修対象は、中・高のいずれかの時期にクラブ活動や愛好会活動を通じて１年以上バスケットボールに取り組んだことのある学生、
　もしくは過去にバス　ケットボール（基礎）受講し単位を取得した学生、
　または同等レベルのスキルを持った学生とする。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040214|01|9S07040214[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バスケットボール（ゲーム） 応用 01		
担 当 教 員	木村 和宏		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： 世界的にもポピュラーな競技のひとつであるバスケットボールのゲームを通して、チームスポーツでのコミュニケーションの大切さや楽しさを実体験してもらう。
本授業は、個人技術・戦術からグループ戦術、チーム戦術へと段階的にグレードアップさせてゲーム内容（レベル）を向上させていく。
対象は、中・高のいずれかの時期にクラブ活動や愛好会活動を通じてバスケットボールに取り組んだことのある学生、もしくは過去にバスケットボール（基礎）受講し単位を取得した学生、または同等レベルのスキルを持った学生とする。尚、履修者以外の授業参加は一切認めない。
[ディプロマポリシーとの関連]保健体育教員や生涯・競技スポーツ指導者に必要な知識や実技能力の習得を目指す。

授業の到達目標： 本授業では、日々のバスケットボールゲームを通じて、実戦に即した技術等のスキル・戦術の習得を目指す。

事前・事後学習の内容： 各回の復習には、90分～120分かかると予想されます。習得した技術を次回の授業に反映できるようにすること。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 ガイダンス
本授業の内容や注意事項を説明する
第2回 オフェンスファンダメンタル、ゲーム
個人技術・戦術
第3回 数的優位局面での攻防<1>、ゲーム
1対0、2対1
第4回 数的優位局面での攻防<2>、ゲーム
3対2、4対3
第5回 グループ戦術<1>、ゲーム
2対2、3対3
第6回 グループ戦術<2>、ゲーム
3対3、4対3
第7回 チーム戦術<1>、ゲーム
マンディフェンス＆オフェンス①
第8回 チーム戦術<2>、ゲーム
マンディフェンス＆オフェンス②
第9回 チーム戦術<3>、ゲーム
ゾーンディフェンス＆オフェンス
第10回 特別な状況下でのオフェンス1、ゲーム
ベースラインアウトオブバウンス（BOB）
第11回 特別な状況下でのオフェンス2、ゲーム
サイドラインアウトオブバウンス（SOB）
第12回 フルコートでの攻防の切り替え、ゲーム
トランジション（オフェンスからディフェンスへ、ディフェンスからオフェンスへ）
第13回 戦術を駆使したゲーム①、審判法の習得
リーグ戦形式

第１４回　戦術を駆使したゲーム②、審判法の習得、まとめ
トーナメント形式

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　特に定めなし

参考文献:　「バスケットボール指導教本」（日本バスケットボール協会編　大修館書店 2002）「倉石平のオフェンシブバスケットボール」「倉石平のディフェンシブバスケットボール」「倉石平のファンダメンタルバスケットボール（オフェンス編）」「倉石平のファンダメンタルバスケットボール（ディフェンス編）」（いずれも倉石平、ベースボールマガジン社）

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　30　ゲームにおける勝敗ポイント

平常点評価:　70　授業への出席状況、毎回の授業の理解度、取り組み姿勢、貢献度を評価する。

備考・関連URL:

・第1回のガイダンスは、今後の授業内容について説明します。
・対面授業時は、授業開始から30分以上の遅刻は認めないので注意のこと。

◆履修対象は、中・高のいずれかの時期にクラブ活動や愛好会活動を通じて１年以上バスケットボールに取り組んだことのある学生、
もしくは過去にバス　ケットボール（基礎）受講し単位を取得した学生、
または同等レベルのスキルを持った学生とする。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040215|01|9S07040215[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バドミントン 応用 01		
担 当 教 員	渡辺 英次		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 競技力向上を目指す

授業概要:

本授業は、今までに修得したバドミントンの知識・技能をより向上させることを目指す。
受講対象者は、バドミントンのさらなる上達を目指すバドミントン基礎修了者および同等以上の知識・技術を有するもの（競技経験者等，備考参照）とする。従って、ルール、マナーを理解し、各ショットを打ち分けできることが前提となる。
基礎体力向上とともに、基本ストロークを磨き、ショットの種類・コースを増やすため練習を含めた技術練習とゲーム練習を平行しながら進めていく予定である。
授業計画は次の通りであるが、各技術の習得からゲーム練習まで、出来る限りコート内にいる時間を多くするために、履修生の人数・技術レベル等によって柔軟に対応していく。

◆本授業は「応用」のため、競技経験者を想定して授業を展開します。初心者、初級者の履修はご遠慮ください。

授業の到達目標:
1. ルール、マナーを正しく理解し、実践することができる。
2. 仲間と協調して積極的にコートに入り、競技を楽しむことができる。
3. 競技特性を理解し、各ショットを状況に応じて打ち分けることができる。
4. 競技力向上のための練習、トレーニングを理解し、実践することができる。
5. 運動と健康の関わりを理解し、生活習慣に取り込むことができる。

事前・事後学習の内容:
各回の講義概要の指示に従い各項目について映像資料などを用いて予習すること。
授業終了後は技術練習や映像資料などを用い授業内容を復習するとともに自分のライフスタイルを省察すること。
各回の予習・復習には 90 分～120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン:
0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション［用品，教材，心構え，安全管理，評価等についての説明．バドミントン競技の映像から考える］
【事前学習】指導者の視座，受講生の視座から受講することについて考えること
【事後学習】学修内容を見直し，自分が使用する用具について確認すること

持ち物：個人カード作成の為の顔写真（3cm×4cm程度、スマホ等で撮影しプリントアウトしたものや、スナップ写真など）1枚持参すること。
※集合場所：早稲田アリーナ内バドミントンコート（ステージ側）
※フロア内は土足厳禁です。
※平服のままで結構です。
【最新の情報についてはポータル等確認すること】

第2回
運動能力・技能チェック［運動能力，基本的なストロークの習得度を確認する］
【事前学習】各ショットのお手本となるフォームを確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，得意な動き，不得手な動きを確認すること

第3回
段階別技術実習1［得意なショットを活かす練習］
【事前学習】得意なショットの精度を高めるために教材等確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，教材や動画等をみて精度を高めること

第4回
段階別技術実習2［苦手なショットを克服する練習］
【事前学習】苦手なショットの問題点について教材等を確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，教材や動画等をみて精度を高めること

第5回

段階別技術実習3[コンビネーションショットを習得する練習]
【事前学習】連動した動きについて，トップ選手の動画等を確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，教材や動画等をみて精度を高めること

第6回

段階別技術実習4[生体負担度に合わせた練習]
【事前学習】自分の体力と受講生の体力について調べること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，自分の体力レベルを把握すること

第7回

段階別技術実習5[攻撃的なショット，守備的なショットを重視した練習]
【事前学習】単発のショット，連動したショット練習について教材等を閲覧すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，目的に沿った練習ができたか確認すること

第8回

段階別技術実習6[ダブルスのローテーションを意識した練習]
【事前学習】基本のフォーメーションについて確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，動きの原則を確認すること

第9回

技能実習1[シングルスゲームの戦術・戦略を考え，実践する]
【事前学習】シングルスの動きのパターンを確認するため動画等を閲覧すること【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，戦術・戦略を複数考えること

第10回

技能実習2[ダブルスゲームの戦術・戦略を考え，実践する]
【事前学習】ダブルスの動きのパターンを確認するため動画等を閲覧すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，戦術・戦略を複数考えること

第11回

技能実習3[ミックスダブルスゲームの戦術・戦略を考え，実践する]
【事前学習】ミックスダブルスの動きのパターンを確認するため動画等を閲覧すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，戦術・戦略を複数考えること

第12回

大会実習1[団体戦の大会運営]
【事前学習】団体戦の試合形式について確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，いろいろな団体戦の仕組みについて理解すること

第13回

大会実習2[団体戦の大会運営]
【事前学習】試合時間，タイムテーブル，試合後の審判の流れを確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，会場の環境や救護体制について理解すること

第14回

本授業のまとめと解説、理解度チェック[技能習得度の確認、ルール，マナー，関連事項の確認]
課題についての動画を撮影し，アドバイスを行う.
【事前学習】お手本となるフォームを教材等閲覧し，自分の動きと照らし合わせて確認すること。今まで学んできたルール，マナー，戦術戦略，情報について確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，増えてなショットの精度を上げること。ルール、マナーなど、間違えた点を確認すること

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30 実技試験、筆記試験を実施し、技術レベル、理解度を評価します。

レポート: 10 課題は授業時に提示します。バドミントンを取り巻く状況を理解し、各人の視座から深く考察しているか評価します1

平常点評価: 60 授業態度、ルール、マナー、競技への取り組み等、授業への積極性を評価します。

備考・関連URL: ◆履修対象は1を必須とし、2～5のいずれかに該当する学生とする.
1. ルール・マナーを理解し、基本的なショットを打ち分けることができる
2.「バドミントン　基礎」を履修済
3. 中・高の体育の授業でバドミントンを履修済
4. クラブ活動（小学校～大学）にて1年以上の経験がある
5. 2～5と同等以上の技術・経験を有する

◆初回授業時に個人カードを作成します。顔写真（3cm×4cm程度、スマホ等で撮影しプリントアウトしたものや、スナップ写真など）を準備してください.

※集合場所：早稲田アリーナ内バドミントンコート（ステージ側）
※フロア内は土足厳禁です。
※平服のままで結構です。
※Waseda Moodleを使用します。
【最新の情報についてはポータル等確認すること】

関連URL:
日本バドミントン協会　http://www.badminton.or.jp/
世界バドミントン連盟　http://www.bwfbadminton.org/
日本障がい者バドミントン連盟　http://jpbf.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040215|02|9S07040215[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バドミントン 応用 02		
担 当 教 員	渡辺 英次		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 競技力向上を目指す

授業概要: 本授業は、今までに修得したバドミントンの知識・技能をより向上させることを目指す。
受講対象者は、バドミントンのさらなる上達を目指すバドミントン基礎修了者および同等以上の知識・技術を有するもの（競技経験者等，備考参照）とする。従って、ルール、マナーを理解し、各ショットを打ち分けできることが前提となる。
基礎体力向上とともに、基本ストロークを磨き、ショットの種類・コースを増やすため練習を含めた技術練習とゲーム練習を平行しながら進めていく予定である。
授業計画は次の通りであるが、各技術の習得からゲーム練習まで、出来る限りコート内にいる時間を多くするために、履修生の人数・技術レベル等によって柔軟に対応していく。

◆本授業は「応用」のため、競技経験者を想定して授業を展開します。初心者、初級者の履修はご遠慮ください。

授業の到達目標: 1. ルール、マナーを正しく理解し、実践することができる。
2. 仲間と協調して積極的にコートに入り、競技を楽しむことができる。
3. 競技特性を理解し、各ショットを状況に応じて打ち分けることができる。
4. 競技力向上のための練習、トレーニングを理解し、実践することができる。
5. 運動と健康の関わりを理解し、生活習慣に取り込むことができる。

事前・事後学習の内容: 各回の講義概要の指示に従い各項目について映像資料などを用いて予習すること。
授業終了後は技術練習や映像資料などを用い授業内容を復習するとともに自分のライフスタイルを省察すること。
各回の予習・復習には 90 分～120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション［用品，教材，心構え，安全管理，評価等についての説明．バドミントン競技の映像から考える］
【事前学習】指導者の視座，受講生の視座から受講することについて考えること
【事後学習】学修内容を見直し，自分が使用する用具について確認すること

持ち物：個人カード作成の為の顔写真（3cm×4cm程度、スマホ等で撮影しプリントアウトしたものや、スナップ写真など）1枚持参すること。
※集合場所：早稲田アリーナ内バドミントンコート（ステージ側）
※フロア内は土足厳禁です。
※平服のままで結構です。
【最新の情報についてはポータル等確認すること】

第2回
運動能力・技能チェック［運動能力，基本的なストロークの習得度を確認する］
【事前学習】各ショットのお手本となるフォームを確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，得意な動き，不得手な動きを確認すること

第3回
段階別技術実習1［得意なショットを活かす練習］
【事前学習】得意なショットの精度を高めるために教材等確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，教材や動画等をみて精度を高めること

第4回
段階別技術実習2［苦手なショットを克服する練習］
【事前学習】苦手なショットの問題点について教材等を確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，教材や動画等をみて精度を高めること

第5回

段階別技術実習3[コンビネーションショットを習得する練習]
【事前学習】連動した動きについて，トップ選手の動画等を確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，教材や動画等をみて精度を高めること

第6回

段階別技術実習4[生体負担度に合わせた練習]
【事前学習】自分の体力と受講生の体力について調べること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，自分の体力レベルを把握すること

第7回

段階別技術実習5[攻撃的なショット，守備的なショットを重視した練習]
【事前学習】単発のショット，連動したショット練習について教材等を閲覧すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，目的に沿った練習ができたか確認すること

第8回

段階別技術実習6[ダブルスのローテーションを意識した練習]
【事前学習】基本のフォーメーションについて確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，動きの原則を確認すること

第9回

技能実習1[シングルスゲームの戦術・戦略を考え，実践する]
【事前学習】シングルスの動きのパターンを確認するため動画等を閲覧すること【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，戦術・戦略を複数考えること

第10回

技能実習2[ダブルスゲームの戦術・戦略を考え，実践する]
【事前学習】ダブルスの動きのパターンを確認するため動画等を閲覧すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，戦術・戦略を複数考えること

第11回

技能実習3[ミックスダブルスゲームの戦術・戦略を考え，実践する]
【事前学習】ミックスダブルスの動きのパターンを確認するため動画等を閲覧すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，戦術・戦略を複数考えること

第12回

大会実習1[団体戦の大会運営]
【事前学習】団体戦の試合形式について確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，いろいろな団体戦の仕組みについて理解すること

第13回

大会実習2[団体戦の大会運営]
【事前学習】試合時間，タイムテーブル，試合後の審判の流れを確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，会場の環境や救護体制について理解すること

第14回

本授業のまとめと解説、理解度チェック[技能習得度の確認、ルール，マナー，関連事項の確認]
課題についての動画を撮影し，アドバイスを行う.
【事前学習】お手本となるフォームを教材等閲覧し，自分の動きと照らし合わせて確認すること。今まで学んできたルール，マナー，戦術戦略，情報について確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，増えてなショットの精度を上げること。ルール、マナーなど、間違えた点を確認すること

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30 実技試験、筆記試験を実施し、技術レベル、理解度を評価します。

レポート: 10 課題は授業時に提示します。バドミントンを取り巻く状況を理解し、各人の視座から深く考察しているか評価します1

平常点評価: 60 授業態度、ルール、マナー、競技への取り組み等、授業への積極性を評価します。

備考・関連URL: ◆履修対象は1を必須とし、2～5のいずれかに該当する学生とする.
1. ルール・マナーを理解し、基本的なショットを打ち分けることができる
2. 「バドミントン　基礎」を履修済
3. 中・高の体育の授業でバドミントンを履修済
4. クラブ活動（小学校～大学）にて1年以上の経験がある
5. 2～5と同等以上の技術・経験を有する
◆本授業は「応用」のため、初心者、初級者は遠慮してください。

◆初回授業時に個人カードを作成します。顔写真（3cm×4cm程度、スマホ等で撮影しプリントアウトしたものや、スナップ写真など）を準備してください.
※集合場所：早稲田アリーナ内バドミントンコート（ステージ側）

※フロア内は土足厳禁です。
※平服のままで結構です。
※Waseda Moodleを使用します。
【最新の情報についてはポータル等確認すること】

関連URL:
日本バドミントン協会　http://www.badminton.or.jp/
世界バドミントン連盟　http://www.bwfbadminton.org/
日本障がい者バドミントン連盟　http://jpbf.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040215|03|9S07040215[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バドミントン 応用 03		
担 当 教 員	渡辺 英次		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 競技力向上を目指す

授業概要: 本授業は、今までに修得したバドミントンの知識・技能をより向上させることを目指す。
受講対象者は、バドミントンのさらなる上達を目指すバドミントン基礎修了者および同等以上の知識・技術を有するもの（競技経験者等，備考参照）とする。従って、ルール、マナーを理解し、各ショットを打ち分けできることが前提となる。
基礎体力向上とともに、基本ストロークを磨き、ショットの種類・コースを増やすため練習を含めた技術練習とゲーム練習を平行しながら進めていく予定である。
授業計画は次の通りであるが、各技術の習得からゲーム練習まで、出来る限りコート内にいる時間を多くするために、履修生の人数・技術レベル等によって柔軟に対応していく。

◆本授業は「応用」のため、競技経験者を想定して授業を展開します。初心者、初級者の履修はご遠慮ください。

授業の到達目標: 1. ルール、マナーを正しく理解し、実践することができる。
2. 仲間と協調して積極的にコートに入り、競技を楽しむことができる。
3. 競技特性を理解し、各ショットを状況に応じて打ち分けることができる。
4. 競技力向上のための練習、トレーニングを理解し、実践することができる。
5. 運動と健康の関わりを理解し、生活習慣に取り込むことができる。

事前・事後学習の内容: 各回の講義概要の指示に従い各項目について映像資料などを用いて予習すること。
授業終了後は技術練習や映像資料などを用い授業内容を復習するとともに自分のライフスタイルを省察すること。
各回の予習・復習には 90 分～120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション［用品，教材，心構え，安全管理，評価等についての説明．バドミントン競技の映像から考える］
【事前学習】指導者の視座，受講生の視座から受講することについて考えること
【事後学習】学修内容を見直し，自分が使用する用具について確認すること

持ち物：個人カード作成の為の顔写真（3cm×4cm程度、スマホ等で撮影しプリントアウトしたものや、スナップ写真など）1枚持参すること。
※集合場所：早稲田アリーナ内バドミントンコート（ステージ側）
※フロア内は土足厳禁です。
※平服のままで結構です。
【最新の情報についてはポータル等確認すること】

第2回
運動能力・技能チェック［運動能力，基本的なストロークの習得度を確認する］
【事前学習】各ショットのお手本となるフォームを確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，得意な動き，不得手な動きを確認すること

第3回
段階別技術実習1［得意なショットを活かす練習］
【事前学習】得意なショットの精度を高めるために教材等確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，教材や動画等をみて精度を高めること

第4回
段階別技術実習2［苦手なショットを克服する練習］
【事前学習】苦手なショットの問題点について教材等を確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，教材や動画等をみて精度を高めること

第5回

段階別技術実習3[コンビネーションショットを習得する練習]
【事前学習】連動した動きについて，トップ選手の動画等を確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，教材や動画等をみて精度を高めること

第6回

段階別技術実習4[生体負担度に合わせた練習]
【事前学習】自分の体力と受講生の体力について調べること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，自分の体力レベルを把握すること

第7回

段階別技術実習5[攻撃的なショット，守備的なショットを重視した練習]
【事前学習】単発のショット，連動したショット練習について教材等を閲覧すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，目的に沿った練習ができたか確認すること

第8回

段階別技術実習6[ダブルスのローテーションを意識した練習]
【事前学習】基本のフォーメーションについて確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，動きの原則を確認すること

第9回

技能実習1[シングルスゲームの戦術・戦略を考え，実践する]
【事前学習】シングルスの動きのパターンを確認するため動画等を閲覧すること【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，戦術・戦略を複数考えること

第10回

技能実習2[ダブルスゲームの戦術・戦略を考え，実践する]
【事前学習】ダブルスの動きのパターンを確認するため動画等を閲覧すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，戦術・戦略を複数考えること

第11回

技能実習3[ミックスダブルスゲームの戦術・戦略を考え，実践する]
【事前学習】ミックスダブルスの動きのパターンを確認するため動画等を閲覧すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，戦術・戦略を複数考えること

第12回

大会実習1[団体戦の大会運営]
【事前学習】団体戦の試合形式について確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，いろいろな団体戦の仕組みについて理解すること

第13回

大会実習2[団体戦の大会運営]
【事前学習】試合時間，タイムテーブル，試合後の審判の流れを確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，会場の環境や救護体制について理解すること

第14回

本授業のまとめと解説、理解度チェック[技能習得度の確認、ルール，マナー，関連事項の確認]
課題についての動画を撮影し，アドバイスを行う.
【事前学習】お手本となるフォームを教材等閲覧し，自分の動きと照らし合わせて確認すること。今まで学んできたルール，マナー，戦術戦略，情報について確認すること
【事後学習】学修内容，取り組みを省察し，増えてなショットの精度を上げること。ルール、マナーなど、間違えた点を確認すること

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30 実技試験、筆記試験を実施し、技術レベル、理解度を評価します。

レポート: 10 課題は授業時に提示します。バドミントンを取り巻く状況を理解し、各人の視座から深く考察しているか評価します1

平常点評価: 60 授業態度、ルール、マナー、競技への取り組み等、授業への積極性を評価します。

備考・関連URL: ◆履修対象は1を必須とし、2～5のいずれかに該当する学生とする.
1. ルール・マナーを理解し、基本的なショットを打ち分けることができる
2.「バドミントン　基礎」を履修済
3. 中・高の体育の授業でバドミントンを履修済
4. クラブ活動（小学校～大学）にて1年以上の経験がある
5. 2～5と同等以上の技術・経験を有する
◆本授業は「応用」のため、初心者、初級者は遠慮してください。

◆初回授業時に個人カードを作成します。顔写真（3cm×4cm程度、スマホ等で撮影しプリントアウトしたものや、スナップ写真など）を準備してください.
※集合場所：早稲田アリーナ内バドミントンコート（ステージ側）

※フロア内は土足厳禁です。
※平服のままで結構です。
※Waseda Moodleを使用します。
【最新の情報についてはポータル等確認すること】

関連URL:
日本バドミントン協会　http://www.badminton.or.jp/
世界バドミントン連盟　http://www.bwfbadminton.org/
日本障がい者バドミントン連盟　http://jpbf.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040216|01|9S07040216[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バレエ 応用 01		
担 当 教 員	高橋 佳子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

・過去や「基礎」で得た知識や技術などをもとに、パ（ステップ）の組み合わせや回数を増やし、長いフレーズにして動く。またテンポやリズムを変えて動く。 動くだけでなく、より洗練された動きやポーズを習得するために、身体の動かしかたを観察し、改善する意識を持てるようにしたい。
・履修対象 バレエ基礎を履修済、もしくは3年以上の経験者（おおよそ初級～中級レベル）
※以前バレエの経験があり、中断期間のある人はケガに十分気を付けて臨むこと。

・レッスン構成は毎回ごとに大きく変えずにその時のテーマに沿ったエクササイズを取り入れながら進める
・授業後半ではバリエーションを踊る。バリエーションはどの作品も技術的に難易度が高く持久力等も必要で基礎なくしては踊れないが挑戦してみる。

・ 課題曲では役へのイメージを膨らませたり、身体の感覚の違いを経験する。

＊シラバスの内容は履修者の状況により変更する。

授業の到達目標：

〇授業内で行った複数のパ（ステップ）を組み合わせたフレーズを続けて踊ることができる。
〇パが、ポジションの組合せで成立ち、動きとして機能していくことを確認し、基本に立返る。
〇音楽のとり方も工夫してみる。
〇バリエーションの振付を各自が覚えることはもちろんのこと、動きとしてただ踊りきることだけではなく、音楽の中でのポジションや方向の正確さも加味。作品の中での役柄を考えて表現し演じ伝えることも含ませて踊る。

事前・事後学習の内容：

バレエが久しぶりの方の確認の参考のため
「Insight:Ballet glossary https://www.youtube.com/watch?v=zQl78gCPHxs&list=PL7E40E6E2DAB561B5 」(バレエ用語)

ストレッチ動画など多くがあるが、自分に合うと思うものを、無理のない範囲で行っておくとよい。

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

目的 概要
・受講についての注意事項(動けるように更衣して準備)
・授業概要 バレエの成り立ちなど
・姿勢 ポジション、方向の確認

姿勢と脚と腕のポジション （1stと2ndのポジションを中心に）
・〈姿勢/アラインメント 頭部、上体、骨盤の関係の確認〉 〈ドゥミ・ポイント ポイント アンデオールの確認〉・バーレッスン[プリエ、タンジュ、ジュテ、ロンド・ジャンプ、フラッペ、フォンデュ、アダジオ、グラン・バトマン]
・センターレッスン[タンジュ、アダジオ、プチ・ソテ（アレグロ） レベランス]

姿勢と脚と腕のポジション （1stから5thのポジションへ 腕のポジションとのコーディネーション）
・〈フロアで腕の位置の確認 1st 5thの組み合わせ シュス ストニュー トゥルネ〉・バーレッスン[プリエ、タンジュ、ジュテ、ロンド・ジャンプ、フラッペ、フォンデュ、アダジオ、グラン・バトマンなど →以後レッスン構成はほぼ同様]
・センターレッスン[タンジュ、アダジオ、プチ・ソテ、ピルエット、ジャンプ]など →以後レッスン構成はほぼ同様]

2nd/4thポジションから移動(重心)へ タン・リエ シャセ トンベ
〈重心移動の意識〉
・バーレッスン
・センターレッスン

両脚立位から片脚軸へ（ｸﾍﾟ ルティレ パッセ アダージオ/デベロッペ）
〈アラインメント 頭部と腕の位置関係の確認〉 ＜フロアで片足で立つための準備＞〈足、足指、足底の確認〉・バーレッスン.
・センターレッスン
8つ方向/（身体の方向と移動する方向） クロワゼ エファッセ ｴｶﾙﾃ
〈方向を意識したフロアでのストレッチ〉・バーレッスン
・センターレッスン
回転1（ストニュー ピケ・アンデダン） アンデダンの回転（その場のもの 移動するもの）
〈方向〉の意識の連続を回転へとつなげる スポット〉・バーレッスン【バーを使ったピルエットの練習など】・センターレッスン

回転2(ピルエット アンデオール/アンデダン)
〈アンデダンの回転に加えてアンデオールを行う〉・バーレッスン【バーを使ったピルエットの練習など】・センターレッスン

回転3.アンデオール(外回り) アンデダン(内回り) アダージオ/プロムナード
〈アダージオで体の方向を変え、体幹や軸の強さを意識する〉・バーレッスン【バーでのプロムナード】・センターレッスン
ジャンプ1 （ミディアム・ジャンプ アサンブレ シソンヌ） つなぎのパ （トンベ・パ・ド・ブレなど)からのピルエッ
〈移動ありの両脚踏切から両脚着地あるいは片脚着地 移動のパからの回転 〉・バーレッスン
・センターレッスン
アダージオ （ エカルテ パンシェ ロンド・ジャンプなど）
挙げている脚や身体の方向や位置が変わることに加えて腕脚のポジションも連動する・バーレッスンとセンターレッスン
・バリエーションの選定
ジャンプ2 （グラン・ジャンプ） 課題曲の振り渡し
・バーレッスンとセンターレッスン
・バリエーションの振付と練習・自身の動画を撮ってみる。(改善点を考える)。
課題曲の練習
バーレッスン
・バリエーションの練習のための注意点・改善点を整理して練習
発表とまとめ
バーレッスン
バリエーションの練習 発表まとめ 学べたこと・発見したこと・努力したことをまとめる

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教科書は特になし

〇対面の場合は更衣する
【用意するもの】
動きやすい服装。ただし普段着のスカートは不可(レッスン用のオーバースカートはOK)
バレエシューズ（底のやわらかいかかとのないもの）あるいは厚手の脱げにくい靴下着用。
髪の長い人は必ず束ねること。

参考文献: ヴァレリー・グリーグ著 大修館書店「インサイド・バレエ・テクニック」
小川正三著 大修館書店「ダンサーズ・ヘルスケアブック」
ジョン・ローソン著、森下はるみ訳 大修館書店「ヤングダンサー指導のためのバレエの基礎レッスン」
島田智史 東洋出版 「バレエ筋肉ハンドブック」「バレエ整体ハンドブック」
海野敏 中公新書 「バレエ」の世界史
その他 関連舞台やダンサーインタビューのビデオ・DVDを鑑賞するのをお薦めします。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 決められた動きを覚えて踊ることができる。ポジション プレースメントを正しくとり、 腕脚のコーディネーションを調和させ、音楽にあわせ、作品の場面の状況にあわせて表現しようとする工夫がみられる。

平常点評価: 50 実技なので出席・授業参加態度などを重視。
毎回のテーマに意識を持てたか。
踊ることが楽しめるか。

その他: 10 意欲的に参加しているか。

備考・関連URL: 身に着けるものについては自己負担。 初回から更衣する。

関連URL:
「バレエDVDライブラリー　http://www.balletballet.net/」
「バレエ書籍テータベース　http://j-ballet.info/tosyokan/db/2000.html」
「チャコット　ダンスキューブ http://www.chacott-jp.com/magazine/」
「日本バレエ協会　バレエ検定　　http://www.j-b-a.or.jp/」
「専心良治」 youtube 動画　様々な動きとコツを紹介
「廣瀬健士のBalley College」 youtube　動画　動きのコツや論文などを紹介

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040216|02|9S07040216[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バレエ 応用 02		
担 当 教 員	高橋 佳子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

・過去や「基礎」で得た知識や技術などをもとに、パ（ステップ）の組み合わせや回数を増やし、長いフレーズにして動く。またテンポやリズムを変えて動く。 動くだけでなく、より洗練された動きやポーズを習得するために、身体の動かしかたを観察し、改善する意識を持てるようにしたい。
・履修対象 バレエ基礎を履修済、もしくは3年以上の経験者（おおよそ初級～中級レベル）
※以前バレエの経験があり、中断期間のある人はケガに十分気を付けて臨むこと。

・レッスン構成は毎回ごとに大きく変えずにその時のテーマに沿ったエクササイズを取り入れながら進める
・授業後半ではバリエーションを踊る。バリエーションはどの作品も技術的に難易度が高く持久力等も必要で基礎なくしては踊れないが挑戦してみる。

・ 課題曲では役へのイメージを膨らませたり、身体の感覚の違いを経験する。

＊シラバスの内容は履修者の状況により変更する。

授業の到達目標：

〇授業内で行った複数のパ（ステップ）を組み合わせたフレーズを続けて踊ることができる。
〇パが、ポジションの組合せで成立ち、動きとして機能していくことを確認し、基本に立返る。
〇音楽のとり方も工夫してみる。
〇バリエーションの振付を各自が覚えることはもちろんのこと、動きとしてただ踊りきることだけではなく、音楽の中でのポジションや方向の正確さも加味。作品の中での役柄を考えて表現し演じ伝えることも含ませて踊る。

事前・事後学習の内容：

バレエが久しぶりの方の確認の参考のため
「Insight:Ballet glossary https://www.youtube.com/watch?v=zQl78gCPHxs&list=PL7E40E6E2DAB561B5 」(バレエ用語)

ストレッチ動画など多くがあるが、自分に合うと思うものを、無理のない範囲で行っておくとよい。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

目的 概要
・受講についての注意事項(動けるように更衣して準備)
・授業概要 バレエの成り立ちなど
・姿勢 ポジション、方向の確認

姿勢と脚と腕のポジション （1stと2ndのポジションを中心に）
・〈姿勢/アラインメント 頭部、上体、骨盤の関係の確認〉 〈ドゥミ・ポイント ポイント アンデオールの確認〉・バーレッスン[プリエ、タンジュ、ジュテ、ロンド・ジャンプ、フラッペ、フォンデュ、アダジオ、グラン・バトマン]
・センターレッスン[タンジュ、アダジオ、プチ・ソテ（アレグロ） レベランス]

姿勢と脚と腕のポジション （1stから5thのポジションへ 腕のポジションとのコーディネーション）
・〈フロアで腕の位置の確認 1st 5thの組み合わせ シュス ストニュー トゥルネ〉・バーレッスン[プリエ、タンジュ、ジュテ、ロンド・ジャンプ、フラッペ、フォンデュ、アダジオ、グラン・バトマンなど →以後レッスン構成はほぼ同様]
・センターレッスン[タンジュ、アダジオ、プチ・ソテ、ピルエット、ジャンプ]など →以後レッスン構成はほぼ同様]

2nd/4thポジションから移動(重心)へ タン・リエ シャセ トンベ
〈重心移動の意識〉
・バーレッスン
・センターレッスン

両脚立位から片脚軸へ（ｸﾍﾟ ルティレ パッセ アダージオ/デベロッペ）
〈アラインメント 頭部と腕の位置関係の確認〉 ＜フロアで片足で立つための準備＞〈足、足指、足底の確認〉・バーレッスン.
・センターレッスン
8つ方向/（身体の方向と移動する方向） クロワゼ エファッセ ｴｶﾙﾃ
〈方向を意識したフロアでのストレッチ〉・バーレッスン
・センターレッスン
回転1（ストニュー ピケ・アンデダン） アンデダンの回転（その場のもの 移動するもの）
〈方向〉の意識の連続を回転へとつなげる スポット〉・バーレッスン【バーを使ったピルエットの練習など】・センターレッスン

回転2(ピルエット アンデオール/アンデダン)
〈アンデダンの回転に加えてアンデオールを行う〉・バーレッスン【バーを使ったピルエットの練習など】・センターレッスン

回転3.アンデオール(外回り) アンデダン(内回り) アダージオ/プロムナード
〈アダージオで体の方向を変え、体幹や軸の強さを意識する〉・バーレッスン【バーでのプロムナード】・センターレッスン
ジャンプ1 （ミディアム・ジャンプ アサンブレ シソンヌ） つなぎのパ （トンベ・パ・ド・ブレなど)からのピルエッ
〈移動ありの両脚踏切から両脚着地あるいは片脚着地 移動のパからの回転 〉・バーレッスン
・センターレッスン
アダージオ （ エカルテ パンシェ ロンド・ジャンプなど）
挙げている脚や身体の方向や位置が変わることに加えて腕脚のポジションも連動する・バーレッスンとセンターレッスン
・バリエーションの選定
ジャンプ2 （グラン・ジャンプ） 課題曲の振り渡し
・バーレッスンとセンターレッスン
・バリエーションの振付と練習・自身の動画を撮ってみる。(改善点を考える)。
課題曲の練習
バーレッスン
・バリエーションの練習のための注意点・改善点を整理して練習
発表とまとめ
バーレッスン
バリエーションの練習 発表まとめ 学べたこと・発見したこと・努力したことをまとめる

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教科書は特になし

〇対面の場合は更衣する
【用意するもの】
動きやすい服装。ただし普段着のスカートは不可(レッスン用のオーバースカートはOK)
バレエシューズ（底のやわらかいかかとのないもの）あるいは厚手の脱げにくい靴下着用。
髪の長い人は必ず束ねること。

参考文献:
ヴァレリー・グリーグ著 大修館書店「インサイド・バレエ・テクニック」
小川正三著 大修館書店「ダンサーズ・ヘルスケアブック」
ジョン・ローソン著、森下はるみ訳 大修館書店「ヤングダンサー指導のためのバレエの基礎レッスン」
島田智史 東洋出版 「バレエ筋肉ハンドブック」「バレエ整体ハンドブック」
海野敏 中公新書 「バレエ」の世界史
その他 関連舞台やダンサーインタビューのビデオ・DVDを鑑賞するのをお薦めします。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 決められた動きを覚えて踊ることができる。ポジション プレースメントを正しくとり、 腕脚のコーディネーションを調和させ、音楽にあわせ、作品の場面の状況にあわせて表現しようとする工夫がみられる。

平常点評価: 50 実技なので出席・授業参加態度などを重視。
毎回のテーマに意識を持てたか。
踊ることが楽しめるか。

その他: 10 意欲的に参加しているか。

備考・関連URL: 身に着けるものについては自己負担。 初回から更衣する。

関連URL:
「バレエDVDライブラリー　http://www.balletballet.net/」
「バレエ書籍テータベース　http://j-ballet.info/tosyokan/db/2000.html」
「チャコット　ダンスキューブ http://www.chacott-jp.com/magazine/」
「日本バレエ協会　バレエ検定　　http://www.j-b-a.or.jp/」
「専心良治」 youtube 動画　様々な動きとコツを紹介
「廣瀬健士のBalley College」 youtube　動画　動きのコツや論文などを紹介

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040217|01|9S07040217[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バレーボール 応用 01		
担 当 教 員	藤生 栄一郎		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＜受講にあたって＞
バレーボール応用の授業では、中学、高校、大学での授業（バレーボール基礎）や部活動などをを含めた「バレーボール経験者」を、主な対象として考えています。
バレーボール基礎を受講していないと履修できないというわけではありませんが、高校までの体育実技授業でバレーボールを全く学習した経験が無く、経験者と一緒に授業を受けることに自信の無い人は、
バレーボール基礎から受講して戴いた方が取り組みやすいと思います。
一方、部活動などでバレーボールの経験が無くても、高校時代の体育実技よりも高度なゲームを楽しみたいという人は、遠慮無く受講してください。
未経験者もこの授業で上達し、経験者と遜色ない技能を獲得しています。
なお、受講希望者が多数なため、抽選によって受講者を決定していることや、授業期間中に何回かチームを固定して試合を行なっていきますので、授業を途中で放棄することはやめて下さい。
最後まで、無遅刻無欠席を目指す人だけ、受講するようにして下さい。

＜運動学習としての内容＞
バレーボールは中学校・高等学校の体育授業で実施されることの多い種目ですが、その技能的特性（＝飛んでくるボールをボレーで打ち返すことによってゲームが成り立つこと）から、「誰にでも簡単に楽しめる種目」だとも言えない状況があります。
一方、その難しい技能を駆使して行われるゲームには、「チーム内メンバーによる協力、協働」といった要素が重要となり、まさに「チームワーク」が求められるがゆえに、チーム力を最大に発揮して獲得したポイントに対する興奮は抑えがたいものとなるとも言えます。
本授業では、このようなバレーボールの「構造的な特性」を踏まえ、個々の技能を獲得・上達させるとともに、チームとしての戦術の構築、バレーボール全体に関する知識の向上を目指し、これまでバレーボールを不得意とすら感じていた学生にも、その面白さを実感してもらい、生涯スポーツの一つとして、「するスポーツ」として、また「見るスポーツ」「分析するスポーツ」「支えるスポーツ」として位置付けてもらえることを大きな目標としたいと考えています。
なお、授業は構成メンバー全員で、各チームとも男女、経験者・未経験者を混在させたチーム編成によってゲームを進め、その過程ではコミュニケーションの充実も重要な目標になると考えます。

＜認知学習として理解してもらいたい内容＞
・「バレーボールの歴史と発展」「ゲーム構造の理解」「ルールの理解」「試合におけるシステムやフォーメーション」に関する内容
・特に初心者の人が、これまでの授業（高校まで）において、間違った理解や不完全な理解のまま来ている内容

授業の到達目標:

・バレーボールの高度な技能の獲得を目指す。
・バレーボールのゲーム構造を理解し、チームとしてゲームを楽しむことができるようになる。
・ゲーム構造、技能構造、戦術を理解し、自分たちでゲームを楽しめるようになると同時に、高度な水準のバレーボールゲームをも楽しむことのできるようになることで、生涯にわたり「するスポーツ」「見るスポーツ」「分析するスポーツ」「支えるスポーツ」としてバレーボールと関わることのできる知識や技能を身に着ける。
・授業内メンバー同士でのコミュニケーションを充実させ、それを楽しみながら、チームスポーツとしての技能上達を目指す。

事前・事後学習の内容:

特にありません。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション及び身体慣らしのための運動

授業内容:授業のすすめ方、留意事項の伝達、日程の確認、身体慣らしの運動（バレーボールの基礎的技能の練習を含む。）を行う。

第2回 基本的技能の確認（1）

授業内容:バレーボールの基本的な技能の練習および
初歩的なルールを確認するゲームを行う。

第3回　基本的技能の確認（2）
授業内容：ゲーム構造の理解と、得点・失点を意識したゲームを行う。
第4回　攻防の技術とその応用
授業内容：攻防に焦点を当てた練習とゲームを行う。
第5回　戦術（1）フォーメーションとは何か？
授業内容：セッター役とフォーメーションづくりを意識したゲームを行う。
第6回　戦術（2）守備範囲とは何か？
授業内容：個人の守備範囲とチームの守備範囲。サーブレシーブからの攻防を意識したゲームを行う。
第7回　戦術（3）トータルディフェンスとは何か？
授業内容：ゲームの中で、相手の攻撃を守り、攻め返す。戦術を意識したゲームを行う。
第8回　戦術（4）戦術とは何か？
授業内容：チームとしてそれぞれに戦術を考え、それを意識したゲームを行う。
第9回　リーグ戦（1）戦術とチーム内コミュニケーションの重視
授業内容：相手の戦術等に対応した戦術を駆使したゲームを行う。
第10回　リーグ戦（2）「チーム力　対　チーム力」で重要なことは？
授業内容：より精錬された技術を駆使して、相手に勝つための戦術を意識してゲームを行う。
第11回　リーグ戦（3）ポジションの役割、ポジションチェンジ
授業内容：それぞれが役割として担うポジションを意識し、またそれらを機能的にする方法としてのポジションチェンジを理解する。
第12回　リーグ戦（4）勝つためにチームとして考えるべきこと。
授業内容：リーグ戦も後半となり、お互いの技能戦術を理解しながら、より綿密な作戦などを駆使して勝敗にこだわりながら楽しむ。
第13回　リーグ戦（5）勝つこと、負けること、大切なこと。
授業内容：勝つチームがあれば負けるチームもある。そこで大切なことは何か？
第14回　リーグ戦（6）リーグ戦を通して学んだこと
授業内容：これまでのリーグ戦を通して、理解した戦術や技術に磨きをかけ、より高度な試合を目指す。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特にありません

参考文献：　特にありません

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：	10	授業中に簡単なレポート（アンケート）を実施する。
平常点評価：	70	実技科目であるため、授業に出席しての活動が、評価の大前提となる。
その他：	20	特にチームスポーツであることから、仲間との協力、協働は重視される。 社会性、協調性を発揮することも評価の対象となることを意識してほしい。

備考・関連URL：　受講希望者が多数なため、抽選によって受講者を決定していることや、授業期間中に何回かチームを固定して試合を行なっていきますので、授業を途中で放棄することはやめて下さい。
最後まで、無遅刻無欠席を目指す人だけ、受講するようにして下さい。
バレーボール実技を行うにあたって、適していると考えられる服装（Tシャツ・トレーニングウェア、等）とシューズ（体育館履き）を準備して受講してください。
なお、第一回目の授業より体を動かすので、運動ができる服装で集合してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040217|02|9S07040217[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	バレーボール 応用 02		
担 当 教 員	藤生 栄一郎		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 今回の授業概要は、全ての授業が対面式で行えるものという前提で記載しますが、
オンライン授業となった際の内容も簡単に書いておきますので参考にして下さい。

授業概要: ＜受講にあたって＞
バレーボール応用の授業では、中学、高校、大学での授業（バレーボール基礎）や部活動などをを含めた「バレーボール経験者」を、主な対象として考えています。
バレーボール基礎を受講していないと履修できないというわけではありませんが、高校までの体育実技授業でバレーボールを全く学習した経験が無く、経験者と一緒に授業を受けることに自信の無い人は、
バレーボール基礎から受講して戴いた方が取り組みやすいと思います。
一方、部活動などでバレーボールの経験が無くても、高校時代の体育実技よりも高度なゲームを楽しみたいという人は、遠慮無く受講してください。
未経験者もこの授業で上達し、経験者と遜色ない技能を獲得しています。
なお、受講希望者が多数なため、抽選によって受講者を決定していることや、授業期間中に何回かチームを固定して試合を行なっていきますので、授業を途中で放棄することはやめて下さい。
最後まで、無遅刻無欠席を目指す人だけ、受講するようにして下さい。

＜運動学習としての内容＞
バレーボールは中学校・高等学校の体育授業で実施されることの多い種目ですが、その技能的特性（＝飛んでくるボールをボレーで打ち返すことによってゲームが成り立つこと）から、「誰にでも簡単に楽しめる種目」だとも言えない状況があります。
一方、その難しい技能を駆使して行われるゲームには、「チーム内メンバーによる協力、協働」といった要素が重要となり、まさに「チームワーク」が求められるがゆえに、チーム力を最大に発揮して獲得したポイントに対する興奮は抑えがたいものとなるとも言えます。
本授業では、このようなバレーボールの「構造的な特性」を踏まえ、個々の技能を獲得・上達させるとともに、チームとしての戦術の構築、バレーボール全体に関する知識の向上を目指し、これまでバレーボールを不得意とすら感じていた学生にも、その面白さを実感してもらい、生涯スポーツの一つとして、「するスポーツ」として、また「見るスポーツ」「分析するスポーツ」「支えるスポーツ」として位置付けてもらえることを大きな目標としたいと考えています。
なお、授業は構成メンバー全員で、各チームとも男女、経験者・未経験者を混在させたチーム編成によってゲームを進め、その過程ではコミュニケーションの充実も重要な目標になると考えます。

＜認知学習として理解してもらいたい内容＞
・「バレーボールの歴史と発展」「ゲーム構造の理解」「ルールの理解」「試合におけるシステムやフォーメーション」に関する内容
・特に初心者の人が、これまでの授業（高校まで）において、間違った理解や不完全な理解のまま来ている内容

授業の到達目標: ・バレーボールの高度な技能の獲得を目指す。
・バレーボールのゲーム構造を理解し、チームとしてゲームを楽しむことができるようになる。
・ゲーム構造、技能構造、戦術を理解し、自分たちでゲームを楽しめるようになると同時に、高度な水準のバレーボールゲームをも楽しむことのできるようになることで、生涯にわたり「するスポーツ」「見るスポーツ」「分析するスポーツ」「支えるスポーツ」としてバレーボールと関わることのできる知識や技能を身に着ける。
・授業内メンバー同士でのコミュニケーションを充実させ、それを楽しみながら、チームスポーツとしての技能上達を目指す。

事前・事後学習の内容: 特にありません。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション及び身体慣らしのための運動
授業内容：授業のすすめ方、留意事項の伝達、日程の確認、身体慣らしの運動（バレーボールの基礎的技能の練習を含む。）を行う。

第2回　基本的技能の確認（1）
授業内容：バレーボールの基本的な技能の練習および
初歩的なルールを確認するゲームを行う。
第3回　基本的技能の確認（2）
授業内容：ゲーム構造の理解と、得点・失点を意識したゲームを行う。
第4回　攻防の技術とその応用
授業内容：攻防に焦点を当てた練習とゲームを行う。
第5回　戦術（1）フォーメーションとは何か？
授業内容：セッター役とフォーメーションづくりを意識したゲームを行う。
第6回　戦術（2）守備範囲とは何か？
授業内容：個人の守備範囲とチームの守備範囲。サーブレシーブからの攻防を意識したゲームを行う。
第7回　戦術（3）トータルディフェンスとは何か？
授業内容：ゲームの中で、相手の攻撃を守り、攻め返す。戦術を意識したゲームを行う。
第8回　戦術（4）戦術とは何か？
授業内容：チームとしてそれぞれに戦術を考え、それを意識したゲームを行う。
第9回　リーグ戦（1）戦術とチーム内コミュニケーションの重視
授業内容：相手の戦術等に対応した戦術を駆使したゲームを行う。
第10回　リーグ戦（2）「チーム力　対　チーム力」で重要なことは？
授業内容：より精錬された技術を駆使して、相手に勝つための戦術を意識してゲームを行う。
第11回　リーグ戦（3）ポジションの役割、ポジションチェンジ
授業内容：それぞれが役割として担うポジションを意識し、またそれらを機能的にする方法としてのポジションチェンジを理解する。
第12回　リーグ戦（4）勝つためにチームとして考えるべきこと。
授業内容：リーグ戦も後半となり、お互いの技能戦術を理解しながら、より綿密な作戦などを駆使して勝敗にこだわりながら楽しむ。
第13回　リーグ戦（5）勝つこと、負けること、大切なこと。
授業内容：勝つチームがあれば負けるチームもある。そこで大切なことは何か？
第14回　リーグ戦（6）リーグ戦を通して学んだこと
授業内容：これまでのリーグ戦を通して、理解した戦術や技術に磨きをかけ、より高度な試合を目指す。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特にありません

参考文献：　特にありません

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：	10	授業中に簡単なレポート（アンケート）を実施する。
平常点評価：	70	実技科目であるため、授業に出席しての活動が、評価の大前提となる。
その他：	20	特にチームスポーツであることから、仲間との協力、協働は重視される。 社会性、協調性を発揮することも評価の対象となることを意識してほしい。

備考・関連URL：　受講希望者が多数なため、抽選によって受講者を決定していることや、授業期間中に何回かチームを固定して試合を行なっていきますので、授業を途中で放棄することはやめて下さい。
最後まで、無遅刻無欠席を目指す人だけ、受講するようにして下さい。
バレーボール実技を行うにあたって、適していると考えられる服装（Tシャツ・トレーニングウェア、等）とシューズ（体育館履き）を準備して受講してください。
なお、第一回目の授業より体を動かすので、運動ができる服装で集合してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040218|01|9S07040218[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	フィットネス 応用		
担 当 教 員	太田 章		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 持久力アップ、筋力アップ、脂肪減少、柔軟性アップのための運動をしよう！？

授業概要: 本授業は、エアロビックエクササイズ、ジョギング、スキッピングロープなどの「有酸素運動」と、自分の体重あるいはパートナーの体重を利用した「レジスタンストレーニング」、さらに全身のストレッチングを組み合せたいわゆる「フィットネストレーニング」を行い、1、持久力アップ 2、筋力アップ 3、柔軟性向上を目指す。また、レクリエーションとしての簡単なゲームを通じ、「遊び」の中に、様々なトレーニングを組み入れて、集団として、あるいは個人としての「競争」を楽しむ。と以上のことを目標にしている。この授業は特に中級者用に徐々に負荷を重くしていく予定。

授業の到達目標: 持久力アップ、筋力アップ、脂肪減少、柔軟性アップのための運動を理解できる。

事前・事後学習の内容: 各回の予習復習に約90~120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション
基本的に対面授業で行います。初回から軽い運動を行います。着替えを忘れずに？！
第2回
ジョギング、縄跳び、ストレッチ、サーキットトレーニング
第3回
ウォームアップ、サーキットトレーニング2
第4回
ジョギング、縄跳び、ストレッチ、筋力トレーニング1
第5回
ウォームアップ、サーキットトレーニング3
第6回
ジョギング、縄跳び、ストレッチ、筋力トレーニング2
第7回
ウォームアップ、サーキットトレーニング4
第8回
ジョギング、縄跳び、ストレッチ、筋力トレーニング3
第9回
ウォームアップ、サーキットトレーニング5
第10回
ジョギング、縄跳び、ストレッチ、筋力トレーニング4
第11回
応用エアロビクス、ハードエアロビクス1
第12回
応用エアロビクス、ハードエアロビクス2
第13回
応用エアロビクス、ハードエアロビクス3
第14回
応用エアロビクス、ハードエアロビクス4、まとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: レスリングマットを使用するのでレスリングシューズ（貸し出しあり）、トレーニングウエア上下。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 （出席：90%、授業態度：10%）出席が最重要！

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040219|01|9S07040219[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	フットサル 応用 01		
担 当 教 員	須田 芳正		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: いつでも、どこでも、誰もが気軽にプレーすることができるフットサルの楽しさを体験すると同時に、フットサル技術の向上やフットサル戦術の理解を深め、フットサルの楽しさ、面白さを理解することを目的とします。また、チームメイトや対戦相手とのコミュニケーションを通して、仲間の拡大とコミュニケーション能力の向上を図ります。

授業の到達目標: フットサルに必要とされる基本技術、戦術の習得、コミュニケーションを通じてのチームワークの獲得を目指し、フットサルを生涯スポーツとして身につけることを目標とする。

事前・事後学習の内容: 授業前、授業後の体調管理をしっかりと行うこと。（睡眠、栄養補給、ストレッチなど）
授業前、ルールを各自で学修しておくこと。
授業後、修得した技術、戦術を次回授業に反映できるようにすること。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ガイダンス後、技術トレーニングと試合

授業内容の説明後、パス、コントロール、シュートなどの技術トレーニングと試合を行う。
【事前・事後の学修】体調を良好に保ち、日常より体力を高めておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第2回 戦術トレーニングと試合

4対1、4対2の戦術トレーニングと試合を行う。
【事前・事後の学修】体調を良好に保ち、日常より体力を高めておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第3回 戦術トレーニングと試合

フォーメーション、セットプレーの戦術トレーニングと試合を行う。
【事前・事後の学修】体調を良好に保ち、日常より体力を高めておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第4回 プレシーズンマッチ

チーム分けをして次週から行うリーグ戦に向けて試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第5回 リーグ戦（1）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第6回 リーグ戦（2）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第7回 リーグ戦（3）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第8回 リーグ戦（4）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第9回 リーグ戦（5）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第10回 リーグ戦（6）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第11回 リーグ戦（7）
チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。
第12回 リーグ戦（8）
チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。
第13回 リーグ戦（9）
チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。
第14回 リーグ戦（10）
チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 参考書:フットサル教本（大修館書店）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 授業態度とフットサル競技の理解度の2項目を総合して評価する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040219|02|9S07040219[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	フットサル 応用 02		
担 当 教 員	須田 芳正		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: いつでも、どこでも、誰もが気軽にプレーすることができるフットサルの楽しさを体験すると同時に、フットサル技術の向上やフットサル戦術の理解を深め、フットサルの楽しさ、面白さを理解することを目的とします。また、チームメイトや対戦相手とのコミュニケーションを通して、仲間の拡大とコミュニケーション能力の向上を図ります。

授業の到達目標: フットサルに必要とされる基本技術、戦術の習得、コミュニケーションを通じてのチームワークの獲得を目指し、フットサルを生涯スポーツとして身につけることを目標とする。

事前・事後学習の内容: 授業前、授業後の体調管理をしっかりと行うこと。（睡眠、栄養補給、ストレッチなど）
授業前、ルールを各自で学修しておくこと。
授業後、修得した技術、戦術を次回授業に反映できるようにすること。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ガイダンス後、技術トレーニングと試合

授業内容の説明後、パス、コントロール、シュートなどの技術トレーニングと試合を行う。
【事前・事後の学修】体調を良好に保ち、日常より体力を高めておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第2回 戦術トレーニングと試合

4対1、4対2の戦術トレーニングと試合を行う。
【事前・事後の学修】体調を良好に保ち、日常より体力を高めておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第3回 戦術トレーニングと試合

フォーメーション、セットプレーの戦術トレーニングと試合を行う。
【事前・事後の学修】体調を良好に保ち、日常より体力を高めておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第4回 プレシーズンマッチ

チーム分けをして次週から行うリーグ戦に向けて試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第5回 リーグ戦（1）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第6回 リーグ戦（2）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第7回 リーグ戦（3）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第8回 リーグ戦（4）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第9回 リーグ戦（5）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第10回 リーグ戦（6）

チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

第11回 リーグ戦（7）
チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。
第12回 リーグ戦（8）
チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。
第13回 リーグ戦（9）
チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。
第14回 リーグ戦（10）
チームに分かれてウォーミングアップ後、試合を行う。
【事前・事後の学修】ルールを学習しておくこと。授業で扱った内容について復習しておくこと。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 参考書:フットサル教本（大修館書店）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 授業態度とフットサル競技の理解度の2項目を総合して評価する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040222|01|9S07040222[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ラグビー 応用		
担 当 教 員	宝田 雄大		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本授業は、初心者も歓迎するが、「ラグビー基礎」履修済、または授業初日までに1年以上のラグビー経験を有する学生を主な対象とする。ラグビー型ゲームを遂行するために必要な基本技能（コンタクトプレー関連技能を除く）を、状況に応じて発揮できるように指導する。
授業では、ラグビー型ゲームを用いながら、「テーマの提示 → ゲームの実施 → 課題の修正 → 再確認」というサイクルを繰り返し、ゲーム遂行能力と戦術理解を高める。
本科目は 原則として対面で実施する実技科目 であるが、梅雨期間（6月中旬～7月中旬）や猛暑日（7月以降）など、人工芝グラウンドでの屋外実技が安全に実施できない気象条件の場合は、学生の安全確保を最優先し、電子配信授業（課題提示型） に切り替えることがある。

授業の到達目標: ラグビー（型）ゲーム遂行能力を高める過程で、運動局面における問題点を発見し、その解決策を導き出す問題解決力を獲得する。

事前・事後学習の内容: 各回の Waseda Moodle 掲載内容の事前読了、技術動画の視聴、ルール確認、授業内容の振り返りなど、予習・復習には 90～120分程度 を要する。電子配信授業（課題提示型）では、課題読解・レポート作成に加え、提示された URL から動画や参考資料を視聴・閲覧する学習が中心となる。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション※本授業は原則対面で実施するが、気象条件により電子配信（課題提示型）に切り替える場合がある。
第2回
ラグビー型ゲーム（1） ボールを持って走る
第3回
ラグビー型ゲーム（2） 後方へパスする
第4回
ラグビー型ゲーム（3） 前方へキックする
第5回
ラグビー型ゲーム（4） 相手を止める
第6回
戦術的プレー（1）攻撃
第7回
戦術的プレー（2）防御
第8回
ラグビー型ゲーム 応用（1）
第9回
ラグビー型ゲーム 応用（2）
第10回
ラグビー型ゲーム 応用（3）
第11回
コンタクトプレー（タックル、モール、ラック）の紹介
第12回
様々なキックの紹介

第13回
国内ラグビー事情
第14回
国外ラグビー事情

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 授業中に適宜紹介する。

参考文献: ・『わかりやすいラグビーのルール』(成美堂出版) ・World Rugby Laws(http://laws.worldrugby.org/) ・日本ラグビー協会(https://www.rugby-japan.jp/)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 100 授業への参加態度、課題への取り組み、実技の習熟度、協力姿勢を総合的に評価する。

備考・関連URL: ・運動靴を着用し、運動に適した服装で参加すること。水分補給のための飲料を持参すること。・授業は主に上井草ラグビー場の人工芝グラウンド((http://www.waseda.jp/inst/gec/news/2016/03/01/2816/)で実施する。・実技中の安全確保を最優先とし、けがや体調不良がある場合は速やかに申し出ること。・危険行為は禁止し、教員の指示に従って安全に実施すること。・熱中症対策として、適宜水分補給を行うこと。・受講者数・経験度・技術習熟度・天候等により授業内容を柔軟に変更する場合がある。・本授業は屋外での実技を中心とし、走行・接触・方向転換などの動作を伴うため、安全確保が最優先となる。授業の特性上、個別の安全補助を十分に行えない場合があり、実技参加に制約が生じる可能性がある。必要な合理的配慮については、履修前に障がい学生支援室へ相談し、大学の手続きに基づき検討される。・担当教員は A級コーチ(公財 日本ラグビーフットボール協会) および World Rugby Level 3 Coaching Award を有している。・資料は標準形式で提供する。・担当教員: https://researchmap.jp/Yt_read210422; http://scholar.google.co.jp/citations?user=8JwZqCIAAAAJ&hl=ja

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040223|01|9S07040223[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	レスリング （トレーニング＆スパーリング）		
担 当 教 員	太田 章		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: オリンピックレスリングを体験しよう？！

授業概要: レスリング競技は、男対男の格闘技としてだけに見られがちであるが、レクリエーションとしてのレスリングを見た場合、エアロビック的な運動の中に無酸素的な技の発揮があるといえる。しかも対人間同士のレジスタンストレーニングであるともいえる。そして階級性を持つところから、その減量方法や効果にも期待できるであろう。現在、女子レスリングも盛んになってきており、女性にも安全なスポーツということが明らかになってきている。
本授業は、本来人間の持つ闘争本能を引き出すような格闘ではなく、むしろ、1）ストレッチングやエアロビックエクササイズを取り入れ、酸素をより多く吸収して余分な脂肪を取り除き、柔軟性、持久性の高い体作りを目指す。2）自分の体重、あるいはパートナーの体重を利用したレジスタンストレーニングから、筋肉に刺激を与えて筋力を鍛え、よりたくましい体、美しいスタイル作りを目指す。3）レクリエーションとしてのレスリングを楽しむ。と以上のことを目標にしている。なお、毎授業の最後には必ずパートナー同士でスポーツマッサージを行う。

授業の到達目標: 本格的スパーリングができる。
試合ができる。

事前・事後学習の内容: 各回の予習復習に約90~120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション
基本的に対面授業で行います。初回から軽い運動を行います。着替えを忘れずに！？
第2回
応用、レスリングの技の連続練習1
第3回
応用、レスリングの技の連続練習2
第4回
応用、レスリングの技の連続練習3
第5回
応用、レスリングの技の連続練習4
第6回
応用、レスリングの技の連続練習5
第7回
グランドレスリング技の駆け引き1
第8回
グランドレスリング技の駆け引き2
第9回
グランドレスリング技の駆け引き3
第10回
グランドレスリング技の駆け引き4
第11回
グランドレスリング技の駆け引き5
第12回
試合形式スパーリング1

第13回
試合形式スパーリング2
第14回
試合形式スパーリング3、まとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: レスリングシューズ（貸し出しあり）。トレーニングウエア上下。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 （出席：90%、授業態度：10%）運動神経やレスリングの技術がすべてではない。 授業出席を重視する。やむを得ず欠席した場合は、さまざまな補講を用意している。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040224|01|9S07040224[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	生活の中のウォーキング 応用		
担 当 教 員	荒木 邦子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:土2時限	授業方法区分	オンライン】ハイブリッド（対面回数半数未満
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: “ウォーキング”は、いつでも誰でも実行できる手軽な運動として推奨されているが、日常生活の中に組み入れるためには知識・技法（スキル）が必要とされる。前期に開講されている「生活の中のウォーキング（基礎）」では、日常生活の中での歩行機会を増やすための様々な知識と技法を教授し、ウォーキング体験の機会を自ら見いだすようなきっかけを提供することによって、自身の生活を見直して日常を健康的に過ごすためのライフスキルを獲得したが、それに引き続いて開講される本講座では、様々なウォーキング環境に触れることで、ウォーキング習慣の確立を目指すと共に、食生活も含めた健康的な生活習慣を獲得することを目的としている。

【受講希望者への重要なお知らせ】
1. 初回ガイダンスにて、今後の履修にあたっての重要事項を話すので、必ず出席すること。
2. 第2回目以降は、mywasedaを利用した授業となります。
3. 受講者は、初回までに歩数計（携帯電話等の歩数記録アプリでも可）を各自で準備して下さい。

授業の到達目標: 1）生活の中の様々な場面にウォーキングを取り入れて、自身の生活をさらに活動的にすることができる
2）健康的な食生活を営むことができるようになる

事前・事後学習の内容: 日常生活における身体活動および食選択行動の維持

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ガイダンス【必須出席】
授業内容: 日常生活における歩行の客観的評価と主観的評価法

第2回 からだカルテマイル
授業内容: 健康維持増進のための自己歩数の評価

第3回 からだ目標
授業内容: 個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
個々の歩数目標を設定する

第4回 歩数イベント
授業内容: 個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
歩数イベントを理解し、生活を見直す

第5回 お勧めの場所を見つけよう～リフレッシュ散歩～
授業内容: 個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
歩きたくなる場所の選定、受講者との共有

第6回 ウォーキングコミュニケーション
授業内容: 個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
ウォーキングを通じたコミュニケーション促進

第7回 健康的食生活
授業内容: 個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
食生活を振り返り、健康維持増進食生活企画を学ぶ

第8回 座位行動と健康影響
授業内容: 個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
意欲を高めるウォーキング

第9回 セルフコンディショニング(1) 姿勢と歩き方
授業内容: 個々の姿勢をセルフチェックならびにセルフコンディショニング法を解説・実践
個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録

第１０回　セルフコンディショニング(2) カラダの声を聴くセルフコンディショニング
授業内容：日常生活における様々なシーンにおける身体コントロール法を解説・実践　例)1分間「眼筋のコンディショニング」など
個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録

第１１回　年末年始の過ごし方
授業内容：個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
環境変化と歩数の変化

第１２回　健康経営とは
授業内容：社会における健康づくりの取組を紹介、企業における健康経営を解説
個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録

第１３回　期末試験に向けて
授業内容：個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
環境変化への歩行促進対策

第１４回　生活の中のウォーキング（ウォーキング生活の確立）
授業内容：個々の日常生活における歩数と主観的評価の実践と記録
健康維持増進のためのウォーキングライフを考える

言語区分：　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　50　日常生活における歩数ならびに日常生活歩行に対する感想をコースナビ上にレポートすること.
評価基準
日常生活の中の「ウォーキング」に関する気づき，理解，自身の食生活への理解を評価する.

平常点評価：　50　評価基準
初回ガイダンス参加による本授業意図の理解

備考・関連URL：　【受講希望者への重要なお知らせ】
1. 初回ガイダンスにて、今後の履修にあたっての重要事項を話すので、必ず出席すること。
2. 第2回目以降は、mywasedaを利用した授業となります。
3. 受講者は、初回までに歩数計（携帯電話等の歩数記録アプリでも可）を各自で準備して下さい。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040226|01|9S07040226[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	軟式野球 ゲーム		
担 当 教 員	小宮山 悟		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 野球は、日本のスポーツの中で最もポピュラーなスポーツです。野球を愛する学生の受講を歓迎します。基本動作を学びたいという初心者から、高校球児だった者まで幅広い層を対象とします。授業を通して野球というスポーツの面白さ、楽しさ、そして素晴らしさを感じてもらいたいという事と、チームスポーツとしての大切な心、考え方を、実戦形式を中心とした中で、指導します。
授業では、自分が少しずつ「上手になってきた」と実感できることが大切な事で、その為には、「投げる」「打つ」「捕る」「走る」と言った基本動作を習得する必要があります。
チームスポーツである野球の素晴らしさは、チーム全員がチームの勝利を最大の目標とすることにあります。そのために、全てのプレーには、「思いやりの心」「励まし合う心」「助け合う心」「協調の心」、「心のつながり」、「心の持ち方」が、大変重要になっている事もしっかり指導したいと考えています。

授業の到達目標: 野球の基礎的技術と理論の習得。チームスポーツを理解し実践すること。更にルールに精通することで、フェアプレー精神を身につけてもらうこと。

事前・事後学習の内容: 事前学習は特にありません。
事後学習については、授業の振り返りとして実施する場合があります。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第一回:対面授業①
オリエンテーション
第二回:対面授業②
ゲーム
第三回:対面授業③
ゲーム
第四回:対面授業④
ゲーム
第五回:対面授業⑤
ゲーム
第六回:対面授業⑥
ゲーム
第七回:対面授業⑦
ゲーム
第八回:対面授業⑧
ゲーム
第九回:対面授業⑨
ゲーム
第十回:対面授業⑩
ゲーム
第十一回:対面授業⑪
ゲーム
第十二回:対面授業⑫
ゲーム
第十三回:対面授業⑬
ゲーム

第十四回：対面授業⑭(最終回)
ゲーム、総まとめ

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　なし

参考文献：　なし

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　基本的技術の習得と試合においての状況判断力、チームプレーにおけるリーダーシップの在り方など総合評価。真摯な姿勢、出欠の有無を重要視する。

備考・関連URL：　【初回授業】
オリエンテーション

場所：東伏見軟式野球場のバックネット裏（雨天時以外）
硬式野球場に隣接した雨天練習場（雨天時）
※雨天の場合、野球の理論について講義します。

【更衣】
75-3号館スポーツホール更衣室で着替えてください。

関連URL: 東伏見キャンパス
http://www.waseda.jp/gec/wp-content/uploads/2014/02/sports02.pdf

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040302|01|9S07040302[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ワンダーフォーゲル		
担 当 教 員	渡辺　幸倫		
開 講 学 期	夏シ	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　東京近郊での日帰り4回という制限を活用し、同一地域に定着すると実現困難な多様な内容（街歩き、カヌー体験、登山）を組み合わせた活動としました。活動が多様な分、参加者の得意なところ不得意なところが出てくるかと思います。それぞれの得手不得手を補いあいながら、しっかりとしたチームワークを醸成し、最終的日程まで完遂できるよう頑張りましょう。

授業の到達目標:　授業での経験を通して、様々な活動への興味関心を高め、自己研鑽できるような視点を得ることを目指す。

事前・事後学習の内容:　事前学修:
・対象地域の地理、歴史などを各自で学修しておくこと。
・Moodle上のコンテンツを授業前に確認すること。

事後学修:
・修得した技術を次回授業や日常生活に反映できるようにすること。
・Moodle上のコンテンツや映像資料などを用いて授業内容を復習すること。

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　（注意）

2026年6月20日（土）　10:40-12:20（@早稲田キャンパス）のシーズン実技基礎授業（1回）、および下記の4日の日程への参加が必要です。

8月31日（月）都内歩き（神田川沿い）【雨天も同じ】
早稲田と縁の深い神田川沿いを歩きます。開講式のあと、早稲田から上流へのルートについて学んでから、源頭の井の頭公園まで（16km）歩きます。お互いの人柄や体力などを知る、神田川を知ることが目標です。早稲田を流れる神田川の最初の一滴を見に行きましょう。

集合：早稲田大学（9時）昼食：行動中に各自
解散：井の頭公園（早稲田駅へ20分300円程度）
活動時間：7時間（1時間の教室室活動、1時間の休憩など含む）

9月1日（火）都内歩き（神田川沿い）【雨天も同じ】
初日に続いて早稲田と神田川沿いを歩きます。早稲田から下流へのルートについて学んでから、隅田川の河口（浜離宮）まで（15km)歩きます。早稲田を起点に神田川がどこまで続いているのか見に行きましょう。場所による景観の変化を観察します。

集合：早稲田大学（9時）昼食：行動中に各自
解散：井の頭公園（早稲田駅へ20分300円程度）
活動時間：7時間（1時間の教室室活動、1時間の休憩など含む）

9月3日（木）相模湖（カヌー、幕営、読図の体験）【雨天時は幕営体験と石老山雨中ハイキング】
午前中はカヌー体験です。日本セーフティパドリング協会の指導者の下、初心者でも乗れる艇を使い、基本的なパドリング等の練習をします。午後は、キャンプ場にて様々な形態のテントを張ってみる体験、および地図の見方（読図）の練習をします。

集合（解散）場所：JR相模湖駅（9時集合・17時解散）（早稲田駅へ1時間15分、1090円）
営体験、読図体験
午前：カヌー体験：10：00から12：00
相模湖カヌースクール
午後：幕営体験（いろいろな種類のテントを張ってみる）、読図体験：13：00から17時（4時間）

9月4日（金）丹沢（塔ノ岳登山）【雨天時はボルダリングと丹沢散策】

丹沢山系でも最も人気の大倉尾根を上るルートで、山頂から360度の大展望が望める塔ノ岳に上ります。高低差は約1200m。これを一日で往復します。体力的にきついと感じる場面もあるかもしれませんが、歩きとおした時の達成感は何物にも代えがたいものとなることでしょう。

集合場所: 大倉バス停(9時集合・17時解散)(早稲田駅へ1時間55分、1210円)
活動時間:8時間(1.5時間の休憩含む)昼食:行動中に各自
活動内容:大倉尾根から塔ノ岳往復(大倉～塔ノ岳～大倉)

言語区分:	0	日本語	Japanese
教科書:	なし		
参考文献:	なし		
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)		

レポート:	20	行程についての振り返りをしてもらいます。
平常点評価:	80	4日間の行程を十分にこなせているかによって判断します。

備考・関連URL: 当授業では、大学へ納入する費用の他に、各活動地までの往復交通費、昼食代などが必要です。
また、ハイキングのための基本的な用具(ウエア、靴など)がない場合にはそろえるようにしてください。
詳細は、基礎授業の際に説明します。
https://wasedawangel.sakura.ne.jp/ワンダーフォーゲル部のページです。
活動内容の参考に見ておいてください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040303|01|9S07040303[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ヨット		
担 当 教 員	石山 雄大		
開 講 学 期	夏シ	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ヨットで大海原を帆走する快感を貴方も体験してみませんか。

授業概要: ヨットシーズン実技授業は神奈川県葉山町にある葉山新港を教場に葉山沖海面で行います。教場からは江ノ島や富士山を目の前に望むことができ、風光明媚な環境のもとで真夏の日差しを受けてこれまでに経験したことのないアグレッシブな授業を体験することができます。神奈川県内はもとより、東京都、千葉県、埼玉県にお住いの方も通うことができるアクセス環境の良いところです。授業はディンギー（2人乗り小型艇）と大学が所有する稲魂号（大型艇）を使用して行いますが、早稲田大学ヨット部OBである教員の指導のもと、仲間との助け合い、コミュニケーションを取りながら行います。また授業を補助するTAは、2024年度全日本インカレで史上初の総合優勝五連覇を果たした早稲田大学ヨット部員が担当します。2018年卒の岡田奎樹氏がパリ五輪のセーリング470級の代表に選出され見事シルバーメダルを獲得しました。大海原で仲間と一緒にヨットを操ることで、これまでに経験したことのない感動に出会うことでしょう。

授業の到達目標: 1. 安全操船を理解し実践できる。
2. ヨットの各部名称と役割を理解し、ロープワーク、方向転換操作（タック・ジャイブ）などの基本動作ができる。
3. 競技規則、航路権など海上法規を理解する。
4. 小型艇実技では模擬レースで舵（ティラー）を持って自ら操船し、定められたコースを帆走できる。
5. 大型艇実技ではセールの上げ下げ、タックやジャイブなどの方向転換操作を他の受講生と協力し安全に行うことができ、基礎航海術を実践できる。

事前・事後学習の内容: ・ロープワークを習得して日常生活でも活用できるようにする。
・正しい競技規則、航路権を理解して小型艇の模擬レースに参加する。
・大型艇の基礎航海術を習得する。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 【基礎授業：早稲田キャンパス】
授業内容：安全教育・歴史・ヨットの各部名称・帆走理論・ロープワーク・競技規則・海上法規
日時：2026年6月20日（土）10:40～12:20
場所：早稲田キャンパス

【日帰り授業：葉山新港】※JR逗子駅または京急線逗子・葉山駅から葉山行きバス10分「鐙摺（あぶずり）」下車徒歩3分〈第1日〉2026年7月31日(金)
授業内容：①開講式
②安全教育（避難訓練） ③陸上シミュレーションとロープワーク
④帆走練習（午後） ・小型艇によるタックやジャイブなど基本動作の練習

〈第2日〉2026年8月3日(月)
授業内容：帆走練習
①小型艇は受講生自ら風向を判断し、トリムして帆走する練習
②大型艇は基本動作の練習（セールの上げ下ろし、帆走練習）

〈第3日〉2026年8月4日(火)
授業内容：帆走練習
①小型艇はレースを想定した帆走練習（スタートやマーク回航等）
②大型艇は基本動作の練習（タック・ジャイブ）と基礎航海術

〈第4日〉2026年8月5日(水)
授業内容：小型艇による模擬レースと試験
午前：各班対抗で模擬レース
午後：筆記試験と授業総括

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　70　安全に関する知識を理解し、帆走に必要な知識と技術を習得している

平常点評価:　30　安全規則を守り、時間厳守で仲間と協調して授業に参加できる

備考・関連URL:　【1. 基礎授業について】
シーズン実技授業は事前に開催される基礎授業と4日間の日帰り授業から構成されています。基礎授業の欠席は原則認めません。
日時:2026年6月20日(土)10:20～12:20
場所:早稲田キャンパス教室
※場所は、当日変更になる場合があります。

【2. 日帰り授業について】
日時:2026年7月31日(金)～5日(水)
場所:葉山新港(神奈川県葉山町)
08:50 3階研修室 集合
09:00 開講 ～ 17:00解散

【3. 講義にかかる費用について】
実験実習料 45,000円(科目登録後に納入)
※納入方法の詳細な案内は、別途Wasedaメールアドレス宛てに、各々所定の時期に案内します。

【4. その他費用について】
日帰り授業にかかる現地までの交通費、昼食代などが別途自己負担となります。
詳細は基礎授業にて説明します。

【5. ヨット経験】
これまでのヨット経験は不要です。過去に参加された受講生はほとんどが初めての経験です。

【6. 安全体制】
海上授業時には救命胴着(ライフジャケット)着用を義務としているので泳ぎが得意でない方も問題ありません。また、救助艇が常に練習海面に配備されているので急に体調が悪くなっても迅速に陸上に戻ることができます。障害をお持ちの学生の方も安全体制を整備して合理的な配慮をもとに授業を進めるので安全・安心です。

【7. その他留意事項】
1. シーズン実技科目は、学外で開講されるため、災害等の不測の事態や、講師や教場など授業環境の変化により、やむをえず開講直前に休講とする可能性があります。また、集中講義形式で授業を展開するため、原則として全期間の授業出席が単位取得に必要となります。従って、以下に該当する方は、他の科目も併せて履修する等、余裕をもった履修計画を立ててください。
1)シーズン実技科目の単位を卒業に必要な単位として充足させる予定の方
2)シーズン実技科目の単位を教育職員免許状取得に必要な単位として充足させる予定の方
3)シーズン実技科目の単位を進級に必要な単位として充足させる予定の方
2. 日程・参加費などの詳細は「オープン科目履修ガイド」またはグローバルエデュケーションセンターホームページ「シーズン実技詳細(保健体育科目)」などで必ず確認してください。

関連URL
シーズン実技詳細(保健体育科目)
https://www.waseda.jp/inst/gec/undergraduate/registration-2/
葉山新港
https://www.pref.kanagawa.jp/docs/wk7/cnt/f11988/p36331.html
受講者の声
http://www.waseda.jp/inst/gec/news/2016/03/01/2823/
早稲田大学ヨット部
https://wasedayacht.net/
早稲田大学ヨット部2024年度インカレモチベーションアップムービー
https://www.youtube.com/watch?v=aqJspfpAs7I

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040307|01|9S07040307[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ゴルフ （コース） 基礎		
担 当 教 員	土屋 圭吾		
開 講 学 期	夏シ	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ゴルフは、自然の中で友人たちと語らいながら、それぞれの体力や技術に合わせ て、老若男女が楽しめる生涯スポーツです。この授業は、プロトーナメント開催したゴルフコースの施設を利用し、テキスト教材、教材備品を使用して、ゴルフの歴史やルールマナー、ゴルフ 用具の知識やスイング理論などの講義、ゴルフ練習場、ゴルフコース内での実技研修を4日間行いながら、スイングやラウンド技術、ショートゲームやパッティングの基礎を学び、ゴルフを理解、体験、実践します。

授業の到達目標: ゴルフ初心者がゴルフコースをラウンドするのに最低限必要な、ルール、マナーや ゴルフの基本知識とスイング技術、ラウンド技術を学び、体験し、そのパフォーマン スをゴルフコースで実践できることを目標にします。また、生涯スポーツとしてのゴルフを楽しむ、きっかけ作りも行います。

事前・事後学習の内容:
事前学修:
・実技科目のルール、歴史などを各自で学修しておくこと。ゴルフトーナメントのテレビ中継等、ゴルフ関連番組、映像を積極的に視聴すること。

事後学修:
・修得した技術を次回授業や打ち放しゴルフ練習場での実技復習、ゴルフコースラウンドで実技＆ルール、マナーの実践できるようにすること。

『事前学習として、実技科目のルール、歴史は、60分程度の時間をかけることが望ましい』

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 基礎授業：早稲田】

授業内容：概要説明
日時：2026年6月20日（土） 10:40～12:20
場所：早稲田キャンパス 7-201室

【日帰り授業：高坂カントリークラブ(埼玉県)】
高坂カントリークラブ（7月30日<木>・7月31日<金>、8月4日<火>・8月5日<水>）
http://065takasakacc.sakura.ne.jp/acccess.html

＜第1日＞2026年7月30日(木) 高坂カントリークラブ
オリエンテーション、規則書、テキスト講義、練習場、コース内実技

＜第2日＞2026年7月31日(金) 高坂カントリークラブ
規則書、テキスト講義、練習場、コース内実技、筆記試験
＜第3日＞2026年8月4日(火) 高坂カントリークラブ
規則書、テキスト講義、練習場、コース内実技
コースラウンド実技、筆記試験
＜第4日＞2026年8月5日(水) 高坂カントリークラブ
規則書、テキスト講義、練習場、コース内実技、筆記試験

【備考】
天候により変更になる場合があります。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: プリント、ゴルフ規則書（公財）日本ゴルフ協会発行、ゴルフスクールテキスト（授業初日に配布予定）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30 知識、理論講義の習得度 ※2日目と3日目に筆記試験を実施します。

平常点評価: 70 練習場、コース実技講習での総合評価、 授業参加の取り組み姿勢

備考・関連URL：

【1. 基礎授業について】
シーズン実技授業は、事前に開催される基礎授業と4日間の日帰り授業から構成されています。基礎授業の欠席は原則認めません。
日時：2026年6月20日(土) 10:40～12:20
場所：早稲田キャンパス
※場所は、当日変更になる場合があります。

【2. 授業について】
日時・場所　高坂カントリークラブ　2026年7月30日(木)～31日(金)、8月4日（火）～5日（水）
＊7月30日(木)の集合時間・集合場所
午前9時　高坂カントリークラブ　クラブハウス入口

【3. 講義にかかる費用について】
①実験実習料　4,000円（科目登録後に納入）
②合宿参加費　22,000円（保険料等／基礎授業終了後に納入）
※合宿参加費については、金額が変更になる場合があります。
※納入方法の詳細な案内は、別途Wasedaメールアドレス宛に、各々所定の時期に案内します。

【4. その他費用について】
日帰り授業に係る現地までの交通費、装備費などが別途自己負担となります。詳細は基礎授業にて説明します。

【5. その他留意事項】
1. ゴルフクラブ、シューズ、手袋、キャップ、キャディバック、ボール等の用品については、各自持参すること。用品購入等、基礎授業時にアドバイスします。
2. 定員は15名。
3. シーズン実技科目は、学外で開講されるため、災害等の不測の事態や、講師や教場など授業環境の変化により、やむをえず開講直前に休講とする可能性があります。また、集中講義形式で授業を展開するため、原則として全期間の授業出席が単位取得に必要となります。従って、以下に該当する方は、他の科目も併せて履修する等、余裕をもった履修計画を立ててください。
1）シーズン実技科目の単位を卒業に必要な単位として充足させる予定の方
2）シーズン実技科目の単位を教育職員免許状取得に必要な単位として充足させる予定の方
3）シーズン実技科目の単位を進級に必要な単位として充足させる予定の方
4. 日程・合宿参加費等の詳細は「オープン科目履修ガイド」またはグローバルエデュケーションセンターホームページ「シーズン実技詳細（保健体育科目）」などで必ず確認してください。

関連URL：
シーズン実技詳細（保健体育科目）
https://www.waseda.jp/inst/gec/undergraduate/registration-2/

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|01|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（野球部）		
担 当 教 員	日野　愛郎		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|02|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（庭球部）		
担 当 教 員	中井　浩巳		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|03|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（漕艇部）		
担 当 教 員	松居　辰則		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|04|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（剣道部）		
担 当 教 員	君塚　弘恭		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|05|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（柔道部）		
担 当 教 員	射手矢　岬		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|06|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（弓道部）		
担 当 教 員	伊坪　徳宏		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|07|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（水泳部）		
担 当 教 員	長谷川　恵一		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|08|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目 （競走部）		
担 当 教 員	藤本　浩志		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|09|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（相撲部）		
担 当 教 員	作野　誠一		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|10|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目 （ラグビー蹴球部）		
担 当 教 員	恩藏　直人		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|11|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（山岳部）		
担 当 教 員	高嶋　航		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|12|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目 （スキー部）		
担 当 教 員	木村　和彦		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|13|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（スケート部）		
担 当 教 員	福島　淑彦		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|14|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（バスケットボール部）		
担 当 教 員	藤田　誠		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|15|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目 （ア式蹴球部）		
担 当 教 員	石井　昌幸		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|16|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（馬術部）		
担 当 教 員	松本　淳		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|17|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目 （卓球部）		
担 当 教 員	仲道　祐樹		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|18|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（ボクシング部）		
担 当 教 員	片岡　貞治		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|19|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（体操部）		
担 当 教 員	石井　香織		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|20|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目 （空手部）		
担 当 教 員	遠藤　晶久		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|21|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（バレーボール部）		
担 当 教 員	上野　達弘		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|22|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（レスリング部）		
担 当 教 員	平山　廉		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|23|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目 （自動車部）		
担 当 教 員	草鹿　仁		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|24|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（米式蹴球部）		
担 当 教 員	下田　啓		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|25|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（ヨット部）		
担 当 教 員	青木　則幸		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|26|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（ハンドボール部）		
担 当 教 員	萬歳　寛之		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標:　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容:　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分:　0　日本語　Japanese

参考文献:　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価:　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL:　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|27|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目 （ホッケー部）		
担 当 教 員	中村　信男		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|28|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目 （フェンシング部）		
担 当 教 員	小森　宏美		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|29|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目 （応援部）		
担 当 教 員	前田　清司		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|30|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目 （軟式庭球部）		
担 当 教 員	正木　宏明		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|31|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（準硬式野球部）		
担 当 教 員	梁取　美夫		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|32|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（自転車部）		
担 当 教 員	礒　繁雄		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|33|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（バドミントン部）		
担 当 教 員	野村　亮		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|34|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目 （航空部）		
担 当 教 員	戸川　望		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|35|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（ワンダーフォーゲル部）		
担 当 教 員	益田　朋幸		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|36|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（ゴルフ部）		
担 当 教 員	清水　信匡		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|37|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（ウエイトリフティング部）		
担 当 教 員	岡田　純一		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|38|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（射撃部）		
担 当 教 員	深川　由起子		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標:　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容:　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分:　0　日本語　Japanese

参考文献:　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価:　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL:　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|39|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（合気道部）		
担 当 教 員	加藤　尚志		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|40|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（アーチェリー部）		
担 当 教 員	早田　宰		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|41|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（ソフトボール部）		
担 当 教 員	スコット　ダグラス		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|42|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（日本拳法部）		
担 当 教 員	柿沼　陽平		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|43|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（ラクロス部）		
担 当 教 員	尾形　祥		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040501|44|9S07040501[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部1年目　（少林寺拳法部）		
担 当 教 員	小西　暁和		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習Ⅰ	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|01|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（野球部）		
担 当 教 員	日野　愛郎		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	2年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とします。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|02|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（庭球部）		
担 当 教 員	中井　浩巳		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|03|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（漕艇部）		
担 当 教 員	松居　辰則		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|04|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（剣道部）		
担 当 教 員	君塚　弘恭		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|05|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（柔道部）		
担 当 教 員	射手矢　岬		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|06|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（弓道部）		
担 当 教 員	伊坪　徳宏		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|07|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （水泳部）		
担 当 教 員	長谷川　恵一		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|08|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （競走部）		
担 当 教 員	藤本　浩志		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|09|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （相撲部）		
担 当 教 員	作野　誠一		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|10|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （ラグビー蹴球部）		
担 当 教 員	恩藏　直人		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|11|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （山岳部）		
担 当 教 員	高嶋　航		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|12|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （スキー部）		
担 当 教 員	木村　和彦		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|13|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （スケート部）		
担 当 教 員	福島　淑彦		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|14|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（バスケットボール部）		
担 当 教 員	藤田　誠		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	2年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|15|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （ア式蹴球部）		
担 当 教 員	石井　昌幸		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|16|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（馬術部）		
担 当 教 員	松本　淳		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|17|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （卓球部）		
担 当 教 員	仲道　祐樹		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|18|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（ボクシング部）		
担 当 教 員	片岡　貞治		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|19|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （体操部）		
担 当 教 員	石井　香織		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|20|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （空手部）		
担 当 教 員	遠藤　晶久		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|21|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（バレーボール部）		
担 当 教 員	上野　達弘		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|22|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（レスリング部）		
担 当 教 員	平山　廉		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|23|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （自動車部）		
担 当 教 員	草鹿　仁		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|24|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（米式蹴球部）		
担 当 教 員	下田　啓		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|25|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（ヨット部）		
担 当 教 員	青木　則幸		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|26|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（ハンドボール部）		
担 当 教 員	萬歳　寛之		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|27|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （ホッケー部）		
担 当 教 員	中村　信男		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|28|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （フェンシング部）		
担 当 教 員	小森　宏美		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|29|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （応援部）		
担 当 教 員	前田　清司		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|30|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （軟式庭球部）		
担 当 教 員	正木　宏明		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	2年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|31|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（準硬式野球部）		
担 当 教 員	梁取　美夫		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|32|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（自転車部）		
担 当 教 員	礒　繁雄		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	2年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|33|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（バドミントン部）		
担 当 教 員	野村　亮		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|34|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （航空部）		
担 当 教 員	戸川　望		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|35|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（ワンダーフォーゲル部）		
担 当 教 員	益田　朋幸		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	2年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「1年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「2年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|36|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（ゴルフ部）		
担 当 教 員	清水　信匡		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|37|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（ウエイトリフティング部）		
担 当 教 員	岡田　純一		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|38|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （射撃部）		
担 当 教 員	深川　由起子		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|39|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （合気道部）		
担 当 教 員	加藤　尚志		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|40|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（アーチェリー部）		
担 当 教 員	早田　宰		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|41|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目　（ソフトボール部）		
担 当 教 員	スコット　ダグラス		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|42|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （日本拳法部）		
担 当 教 員	柿沼　陽平		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|43|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （ラクロス部）		
担 当 教 員	尾形　祥		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S07040502|44|9S07040502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	体育各部2年目 （少林寺拳法部）		
担 当 教 員	小西　暁和		
開 講 学 期	通年	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	スポーツ実習II	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　体育各部に所属する部員を対象とした「体育各部科目」は、所属する体育各部の部長・監督の指導下で行う全ての活動を対象とし、各部員の年間を通じた取組みに対して評価する科目である。
なお、科目登録の際の注意事項を「備考」欄に記している。登録希望者は必ず確認すること。

授業の到達目標：　体育各部で取り組むスポーツに関して、競技力だけでなく社会性の向上にも着眼した指導を専門的指導者から受けることにより、身体教養の獲得、スポーツの実践と技術習得、チームワークやルールの順守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させること、豊かな人間性を涵養することを目的とする。

事前・事後学習の内容：　部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　体育各部の部活動が年間の授業計画に相当する。
部長・監督の指導下で、体育各部の活動に精力的に参加すること。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　「早稲田アスリート宣言」参照　https://www.waseda.jp/inst/athletic/about/history/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　所属する体育各部の部長・監督の指導下で行なうすべての部活動を通じて、各部員の取り組みに対して評価する。
登録した年度の部活動を評価の対象とする。

備考・関連URL：　【科目登録時の注意事項】
①体育各部科目は体育各部に入部した部員を対象とした科目です。体育各部の部員以外の学生が登録することはできません。なお、体育各部に入部するためには、所属する部の主務を通じて、部員登録を行なってください。
②学年に関係なく、体育各部科目の登録を初めて行う場合は「１年目」の科目を、2回目に登録を行う場合は「２年目」の科目を登録してください。また、同じ年度に2科目を登録することはできません。
③登録した年度の部活動を評価の対象とします。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S08010014|01|9S08010014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	生命科学概論 O1		
担 当 教 員	大島 登志男@武岡 真司@常田 聡@竹山 春子@武田 直也@井上 貴文@佐藤 政充		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 生物学は，もはや生物学を専門とする学生のためだけにある学問ではない。生物学はわれわれ人間とそれを取り巻く環境そのものについての学問であり，現在は数学・物理学・化学・医学・ロボティクスを含めた工学，社会システムから知財問題に至るまで，様々な分野に携わる者が生物学を学ぶ必要性が生じてきている。
このような状況を鑑みて，本科目は，これまで十分な生物学教育を高等学校で受けなかった学生が、少しでも生命の神秘に興味を持ってもらうために設けられた科目である。また、本講義では、我々ほ乳類だけでなく幅広い生命体の活動、日常生活の場でも良く耳にする遺伝子改変生物の現状と未来や最先端医療の基盤を支える最新科学テクノロジーについてもできるだけ分かりやすく紹介する。さらに、本講義は、細胞生物学など今後より高いレベルの講義の履修を考えている学生にも、生命科学に対して十分な基礎知識をつけてもらうための登竜門と考えてほしい。

授業の到達目標: 生命科学と先端バイオテクノロジーに関する基礎教養ならびに基礎知識を身につけ、生命科学分野の学問への興味を喚起する。
先進理工学部の学生については、先進理工学部のカリキュラムポリシーで定めている「共通基礎」の一つである生命科学を学習し、各学科の専門分野に応じた「専門基礎」の修得を進めるための基盤構築を行う。
創造理工学部の学生については、生命科学の学習を通じて、各学科の専門科目の修得を進めるための基盤構築を行う。

学修成果1: 分子・細胞レベルで生命現象を理解・探求する力を身につける。
学修成果3: 理工学と生命科学の知識を統合し，先端バイオテクノロジーを理解する力を身につける。

事前・事後学習の内容: 予習としては，各回の講義に該当する教科書の章を事前に熟読してから，講義に臨むことが望まれる。可能であれば要点をノートにまとめて，そのノートを講義に持参し，講義内容を書き込んでいくと良い。所要時間：1時間程度。本講義は基本的には資料を配付しないので，教科書とノートを持参する必要がある。復習については，講義内容をもとに教科書の要点をまとめ直すことが望ましい。所要時間：1時間程度。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 本科目は授業と期末試験を対面で実施します（ただし，GEC設置科目の「生命科学概論01」履修者に対する評価方法は異なるので，履修者に別途連絡します）。

[第1回] 04月16 日「生命と生命科学」（武田）
[第2回] 04月23日「遺伝と遺伝物質」（佐藤）
[第3回] 04月30日「細胞の構造と各部の役割」（武田）
[第4回] 05月07日「生命活動とエネルギー」（野崎）
[第5回] 05月14日「食品・医薬品と生物」（常田）
[第6回] 05月21日「環境と生物」（常田）
[第7回] 05月28日「生命の誕生から死まで」（佐藤）
[第8回] 06月04日「生命科学と医療」（井上）
[第9回] 06月11日「エネルギー・資源と生物」（武岡）
[第10回] 06月18日「人工知能と遺伝子解析」（城戸）
[第11回] 06月25日「遺伝子工学の基礎」（竹山）
[第12回] 07月02日「ゲノム科学と医療」（大島）
[第13回] 07月09日「先端バイオテクノロジー」（武岡）
[第14回] 07月16日「先端バイオ計測」（竹山）
[第15回]「期末試験」：試験日時と試験会場は後日にアナウンスする。配当されている曜日・時限と異なる可能性があるため注意すること。（GEC設置科目「生命科学概論01」履修者を除く）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 『生命科学概論－第2版 環境・エネルギーから医療まで－』）朝倉書店/編集：早稲田大学先進理工学部生命医科学科
＊講義を受講する際には必ず教科書を携帯すること。

参考文献: 教科書の各章末尾に掲載されている参考文献を参照すること。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　100　期末試験:試験日時と試験会場は後日にアナウンスする。配当されている曜日・時限と異なる可能性があるため注意すること。
（ただし，GEC設置科目の「生命科学概論01」履修者に対するの評価方法は異なるので，履修者に別途連絡あり）

備考・関連URL:　・欠席を4回以上した場合は，期末試験を受けても単位は与えられない。

・遅刻は30分までとする。2回の遅刻あるいは早退で1回の欠席扱いとする。
・病気で欠席・遅刻・早退をする場合は、それを証明する診断書などの書類を提出すること。

・出席を取りやすくするため、履修するコース毎に座席を指定することがある。

・生命科学概論Aと生命科学概論Bの単位を両方修得することは認められない。「生命科学概論A」 担当者:竹山春子 (haruko-takeyama@waseda.jp)
GEC設置科目「生命科学概論01」 担当者:大島登志男（ohshima@waseda.jp）

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S08010014|02|9S08010014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	生命科学概論 02		
担 当 教 員	大島 登志男@武岡 真司@常田 聡@竹山 春子@武田 直也@井上 貴文@佐藤 政充		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 生物学は，もはや生物学を専門とする学生のためだけにある学問ではない。生物学はわれわれ人間とそれを取り巻く環境そのものについての学問であり，現在は数学・物理学・化学・医学・ロボティクスを含めた工学，社会システムから知財問題に至るまで，様々な分野に携わる者が生物学を学ぶ必要性が生じてきている。
このような状況を鑑みて，本科目は，これまで十分な生物学教育を高等学校で受けなかった学生が、少しでも生命の神秘に興味を持ってもらうために設けられた科目である。また、本講義では、我々ほ乳類だけでなく幅広い生命体の活動、日常生活の場でも良く耳にする遺伝子改変生物の現状と未来や最先端医療の基盤を支える最新科学テクノロジーについてもできるだけ分かりやすく紹介する。さらに、本講義は、細胞生物学など今後より高いレベルの講義の履修を考えている学生にも、生命科学に対して十分な基礎知識をつけてもらうための登竜門と考えてほしい。

授業の到達目標: 生命科学と先端バイオテクノロジーに関する基礎教養ならびに基礎知識を身につけ、生命科学分野の学問への興味を喚起する。
基幹理工学部ならびに創造理工学部の学生については、生命科学の学習を通じて、各学科の専門科目の修得を進めるための基盤構築を行う。
先進理工学部の学生については、先進理工学部のカリキュラムポリシーで定めている「共通基礎」の一つである生命科学を学習し、各学科の専門分野に応じた「専門基礎」の修得を進めるための基盤構築を行う。

学修成果1: 分子・細胞レベルで生命現象を理解・探求する力を身につける。
学修成果3: 理工学と生命科学の知識を統合し，先端バイオテクノロジーを理解する力を身につける。

事前・事後学習の内容: 予習としては，各回の講義に該当する教科書の章を事前に熟読してから，講義に臨むことが望まれる。可能であれば要点をノートにまとめて，そのノートを講義に持参し，講義内容を書き込んでいくと良い。所要時間：1時間程度。本講義は基本的には資料を配付しないので，教科書とノートを持参する必要がある。復習については，講義内容をもとに教科書の要点をまとめ直すことが望ましい。所要時間：1時間程度。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 本科目は授業と期末試験を対面で実施します（ただし，GEC設置科目の「生命科学概論02」履修者に対する評価方法は異なるので，履修者に別途連絡します）。

[第1回] 04月17日「生命と生命科学」（武田）
[第2回] 04月24日「遺伝と遺伝物質」（佐藤）
[第3回] 05月01日「細胞の構造と各部の役割」（武田）
[第4回] 05月08日「生命活動とエネルギー」（野崎）
[第5回] 05月15日「食品・医薬品と生物」(常田)
[第6回] 05月22日「環境と生物」(常田)
[第7回] 05月29日「生命の誕生から死まで」（佐藤）
[第8回] 06月05日「生命科学と医療」（井上）
[第9回] 06月12日「ゲノム科学と医療」（大島）
[第10回] 06月19日「人工知能と遺伝子解析」（城戸）
[第11回] 06月26日「遺伝子工学の基礎」（竹山）
[第12回] 07月03日「エネルギー・資源と生物」（武岡）
[第13回] 07月10日「先端バイオテクノロジー」（武岡）
[第14回] 07月17日「先端バイオ計測」(竹山)
[第15回]「期末試験」：試験日時と試験会場は後日にアナウンスする。配当されている曜日・時限と異なる可能性があるため注意すること。（GEC設置科目「生命科学概論02」履修者を除く）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 『生命科学概論－第2版 環境・エネルギーから医療まで－』）朝倉書店/編集：早稲田大学先進理工学部生命医科学科
＊講義を受講する際には必ず教科書を携帯すること。

参考文献: 教科書の各章末尾に掲載されている参考文献を参照すること。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　100　期末試験:試験日時と試験会場は後日にアナウンスする。配当されている曜日・時限と異なる可能性があるため注意すること。
（ただし，GEC設置科目の「生命科学概論02」履修者に対するの評価方法は異なるので，履修者に別途連絡あり）

備考・関連URL:　・欠席を4回以上した場合は，期末試験を受けても単位は与えられない。

・遅刻は30分までとする。2回の遅刻あるいは早退で1回の欠席扱いとする。
・病気で欠席・遅刻・早退をする場合は、それを証明する診断書などの書類を提出すること。

・出席を取りやすくするため、履修するコース毎に座席を指定することがある。

・生命科学概論Aと生命科学概論Bの単位を両方修得することは認められない。「生命科学概論A」 担当者:竹山春子 (haruo-takeyama@waseda.jp)
GEC設置科目「生命科学概論02」 担当者:大島登志男（ohshima@waseda.jp）

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S08010025|01|9S08010025[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	環境科学基礎講座 1		
担 当 教 員	納富 信@榊原 豊@山田 和芳@野津 喬		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 環境科学の論理と手法を学ぶために

授業概要: 今日の環境保全のための科学と技術は多くの専門分野に分散配置されており、それぞれの分野が特徴的な論理と手法を持っていて、しかも専門性が高い。このため、環境保全に関する科学・技術のエッセンスを横断的に学ぶことは容易ではない。
本講座は、いわゆる自然科学系（理学、工学、農学等）の教員が、「環境」という統一的な視点から、最新の学術的知見をわかりやすく解き明かすものであり、文系・理系の学生を問わず、環境科学の基礎をバランスよく履修するための入門講座として好適である。環境科学基礎講座1と環境科学基礎講座2の両方を学ぶことによって全体体系を知ることができるように構成されており、環境科学基礎講座2を履修するためには、それ以前に環境科学基礎講座1を履修している必要がある。。
環境科学基礎講座1では、地球システムの視点から環境を眺めることから始まり、地球温暖化、エネルギーと環境、環境リスク評価、農業と環境、水環境科学、資源循環と持続可能性へと進む。

授業の到達目標: 地球システムの特性、温暖化のメカニズム、水環境科学、農業とエネルギー、資源の循環、環境のリスク管理等の環境問題を理解するために不可欠な基礎的知識を身につけることを目標とする。

事前・事後学習の内容: 事前学習：講義前日までに講義資料をMoodleに掲載するので、それを予習すること。
事後学習：各講義回で課されるレポート課題へのとりくみ、ならびに第7回講義時に全講義回内容およびそれに対する質問へのフィードバックを実施する。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1講 ガイダンス・イントロダクション・地球温暖化の科学および地球環境容量（納富、野津）
第2講 水の惑星・地球（山田）
第3講 河川環境の保全と水生生物（榊原）
第4講 資源循環・エネルギー利用と環境（納富）
第5講 持続的な再生可能エネルギーの利活用（野津）
第6講 化学物質とリスク（ゲストスピーカー 国立環境研究所 （平野靖史郎先生（予定）、納富、野津）
第7講 教場での振り返り（納富、野津）
※講義の順序は、ゲストスピーカーの都合などによって変更する可能性があります。第1回講義時に確定情報をお伝えします。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 各回講義で配布する資料ならびにそこで紹介される参考図書

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 なし

レポート: 70 各講義回（第2～6回）にて課題を提示します。
与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価します。

平常点評価: 30 各講義回の出席状況、ならびに毎回の授業において自身の理解度や授業の感想などをレビューシート（教場にて配布）に記入・提出をしてもらいます。
授業への積極性を評価します。

その他: 0 なし

備考・関連URL: 本講義（環境科学基礎講座1）のみを履修することは、原則としては望ましくない。環境科学基礎講座2と合わせて履修登録することを強く勧める
各回の講義担当講師は外部機関に所属している方も多いことから、講義の順序については、環境科学基礎講座2との間で調整を図る可能性があることを付記する。
出欠に関しては、開始15分までを出席とし、それ以降開始30分までを遅刻扱いとする。30分以降の教場への来室・聴講に関しては欠席扱いとするので、注意すること。

なお、忌引き等授業の出欠については、GECの下記案内を参照すること。（判断に迷う場合は、教員に相談するこ

と。最終的には担当教員が出欠を判断する）
https://www.waseda.jp/inst/gec/undergraduate/class/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S08010026|01|9S08010026[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	環境科学基礎講座 2		
担 当 教 員	納富 信@太田 俊二@野津 喬		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 環境科学の論理と手法を学ぶために

授業概要: 今日の環境保全のための科学と技術は多くの専門分野に分散配置されており、それぞれの分野が特徴的な論理と手法を持っていて、しかも専門性が高い。このため、環境保全に関する科学・技術のエッセンスを横断的に学ぶことは容易ではない。
本授業は、いわゆる自然科学系（理学、工学、農学等）の教員が、「環境」という統一的な視点から、最新の学術的知見をわかりやすく解き明かすものであり、文系・理系の学生を問わず、環境科学の基礎をバランスよく履修するための入門講座として好適である。
環境科学基礎講座2は、環境科学基礎講座1の続編として、森林の機能と生態的特性、自然環境と生物多様性保全、生態系と産業社会、環境保全活動と地域、気候変動への適応策、環境影響評価（ライフサイクルアセスメント、環境アセスメント）、に関わる環境科学を学ぶ。
なお、環境科学基礎講座2を履修するためには環境科学基礎講座1を先行して履修する必要がある。

授業の到達目標: 森林・生態系の特性、自然環境と生物多様性保全、生態系と産業社会、環境保全活動と地域、気候変動への適応策、環境影響評価（ライフサイクルアセスメント、環境アセスメント）、などの環境問題を理解するために不可欠な基礎的知識を身につけることを目標とする。

事前・事後学習の内容: 事前学習：講義前日までに講義資料をMoodleに掲載するので、それを予習すること。
事後学習：各講義回で課されるレポート課題へのとりくみ、ならびに第7回講義時に全講義回内容およびそれに対する質問へのフィードバックを実施する。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1講 オリエンテーション・各担当からの話題提供（納富、野津）
第2講 森林の機能と生態的な特性（ゲストスピーカー 天野正博 早大名誉教授（予定））
第3講 自然環境と生物多様性の保全（ゲストスピーカー 国立環境研究所 松崎慎一郎先生（予定））
第4講 生態系と産業・社会（野生鳥獣被害の環境問題）、環境保全活動と地域（野津）
第5講 気候変動への適応策（太田）
第6講 環境影響評価（LCA・環境アセスメント）（納富）
第7講 教場での振り返り（納富、野津）
※講義の順序は、ゲストスピーカーの都合などによって変更する可能性があります。第1回講義時までに確定情報をお伝えします。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 毎回の講義で配布する資料。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 なし

レポート: 70 各講義回で課されるレポート課題（第2～第6回）
与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価します。

平常点評価: 30 各講義回の出席状況、ならびに毎回の授業において自身の理解度や授業の感想などをレビューシート（教場にて配布）に記入・提出をしてもらいます。
授業への積極性を評価します。

その他: 0 なし

備考・関連URL: 本環境科学基礎講座2は、講座内容の性格上、環境科学基礎講座1との有機的連続性の下で目標を達成するものであることから、環境科学基礎講座1を履修していることを履修条件としている。

各回の講義担当講師は外部機関に所属している方も多いことから、講義の順序については、環境科学基礎講座1との間で調整を図る可能性があることを付記する。

出欠に関しては、開始15分までを出席とし、それ以降開始30分までを遅刻扱いとする。30分以降の教場への来室・聴講に関しては欠席扱いとするので、注意すること。

なお、忌引き等授業の出欠については、GECの下記案内を参照すること。（判断に迷う場合は、教員に相談すること。最終的には担当教員が出欠を判断する）

https://www.waseda.jp/inst/gec/undergraduate/class/

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S08010027|01|9S08010027[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	宇宙を考える　1　−自然科学、社会科学を結びつける宇宙への視点−		
担 当 教 員	佐藤　哲也@古谷　修一@稲葉　知士@宮下　朋之@手塚　亜聖		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　「宇宙」をキーワードに、宇宙理工学等の従来の理工系分野に加えて、政治・法学・社会・ビジネス・環境問題等の様々な学術的分野との結びつきを、本学教員および他機関の専門家の講義により紹介します。
　宇宙に関する基本的な事項を抑えつつ、宇宙に関わるさまざまな問題を多角的にアプローチし、学術的な視点で宇宙を学ぶ科目とします。

授業の到達目標：　1. 宇宙に関する基本的事項を理解する。
2. 宇宙が幅広い分野に関係していることを理解する。
3. さらに「いま、なぜ宇宙なのか」を多角的にとらえることで、受講する学生がそれぞれの関心をもって、「宇宙を考える」ことをめざす。

事前・事後学習の内容：　事前学習は特に必要ない。事後学習として、講義の内容について興味をもった点を深く調べ、レビューシートに反映させること。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

イントロダクション（ロケットの現在・過去・未来）：講師：佐藤哲也
本講義の概要を説明した後、宇宙輸送機の歴史と原理、将来の計画等について説明します。

宇宙線で探る宇宙と素粒子の謎：講師：鳥居祥二
宇宙と素粒子に関して、実際のプロジェクトを通して説明します。

天文学入門：講師：稲葉知士
天文学（自然科学）の基礎について、わかりやすく説明します。

大きく展開する宇宙構造物：講師：宮下朋之
宇宙構造物について、特徴、設計方法、試験等、実際のプロジェクトを通して説明します。

宇宙と人文社会及びビジネス：講師：岩渕 泰晶
　宇宙に関するプロジェクト等について多面的に概説し、どのようにビジネスに繋がっていくかについて説明します。table{mso-displayed-decimal-separator:"¥.";mso-displayed-thousand-separator:"¥,";}tr{mso-height-source:auto;mso-ruby-visibility:none;}col{mso-width-source:auto;mso-ruby-visibility:none;}br{mso-data-placement:same-cell;}td{padding-top:1px;padding-right:1px;padding-left:1px;mso-ignore:padding;color:black;font-size:11.0pt;font-weight:400;font-style:normal;text-decoration:none;font-family:"MS Pゴシック";mso-generic-font-family:auto;mso-font-charset:128;mso-number-format:General;text-align:general;vertical-align:middle;border:none;mso-background-source:auto;mso-pattern:auto;mso-protection:locked visible;white-space:nowrap;mso-rotate:0;}.xl65{font-size:10.0pt;font-family:"Arial Unicode MS";mso-generic-font-family:auto;mso-font-charset:0;}ruby{ruby-align:left;}rt{color:windowtext;font-size:6.0pt;font-weight:400;font-style:normal;text-decoration:none;font-family:"MS Pゴシック";mso-generic-font-family:auto;mso-font-charset:128;mso-char-type:katakana;display:none;}

国際宇宙法：発展と特徴：講師：古谷修一
国際宇宙法について、歴史、基本原則、活動に関する権利、義務などについて説明します。

まとめ（意見交換会）：講師：手塚亜聖
これまでの講義に基づき、宇宙と環境問題等についての意見交換会を実施します。

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書：　特にありません。

参考文献：　特にありません。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

		試験は実施しません。
レポート:	40	授業中に課題を発表します。その課題に沿ったレポートを提出してもらいます。
平常点評価:	60	授業各回における理解度や授業の感想などをWaseda Moodleのレビューシートに入力してもらいます。 このレビューシートの内容で授業への積極性を評価します。ただし、質問には回答できません。質問をしたい場合は、授業中に積極的に質問してください。 提出は4日後（授業のあった翌週の火曜日）とします。 なお、授業に欠席したにも関わらず、レビューシートのみを提出した場合、当該のレビューシートに関する評価は「0点」となります。 授業欠席は2回までとし、3回以上欠席のあった場合には成績評価の対象外とします。出欠については、初回授業で説明します。
備考・関連URL:	講義の順番や講師は変更する可能性があります。	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S08010029|01|9S08010029[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	先端ロボティクスと医療		
担 当 教 員	大島 登志男@高西 淳夫@菅野 重樹@岩田 浩康@石井 裕之@岩崎 清隆		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 早稲田大大学・奈良県立医大連携科目

授業概要: 最先端のロボット技術とその医療応用の現状について，講義形式の授業，研究現場の見学，学生参加型授業を実施する．集中講義という形態を生かし，「聴く」・「見る」・「触れる」の有機的融合により，理論としてのロボット工学ではなく，実践研究としてのロボット工学を学ぶ機会となる事を期待している．

授業の到達目標: ・最先端のロボット技術についての理解が深まる
・ロボット技術の医療応用の問題と効用の基本的枠組みについての理解が深まる

事前・事後学習の内容: ガイダンスで周知の予定。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 授業期間：8月中の3日間 8/24-26
ガイダンスを6月中に実施予定
講師の都合により変更となる場合がある

【8/24（月）】
3限：高西「ヒューマノイドとその医療福祉への応用」
4限：岩田「人間を支援するRT」
5限：大島「グループワーク」

【8/25（火）】
1限：岩崎「未来の医療を創る医工学研究」
2限：岡本先生（ゲストスピーカー）「医療とRTを融合したスマート治療」（大島）
3限：奈良医講師（ゲストスピーカー）（大島）
4限：奈良医講師（ゲストスピーカー）（大島）
5限：大島「レポート作成」

【8/26（水）】
1限：大島「ツインズ見学」
2限：石井 「医学教育のためのRobot Technology (RT)」
3限：大島「グループワーク」
4限：大島「グループワーク発表会」
5限：大島「レポート作成」

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定なし

参考文献: ガイダンスで周知予定

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 80 講義内容についてレポートを課します

平常点評価: 20 講義への参加など

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 2 非主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S08010034|01|9S08010034[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	カーボンニュートラル技術概論α（学部生用）		
担 当 教 員	所 千晴@齋藤 潔@田邉 新一@森本 章倫@高口 洋人@若尾 真治@林 泰弘@犬束		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金6時限	授業方法区分	オンライン】ハイブリッド（対面回数半数未満
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： カーボンニュートラル宣言（https://www.waseda.jp/netzero/）に至った気候変動に対する科学的根拠を解説するとともに、その実現のためにエネルギーや都市において検討されている最先端の技術開発について、その考え方と現状、展望を解説する。

授業の到達目標： 気候変動に対する科学的根拠を正確に理解するとともに、カーボンニュートラル実現に向けたエネルギーや都市における種々の技術革新の考え方と現状、展望について理解する。

事前・事後学習の内容： 報告書や書籍を使った1時間程度の予習と、講義内容に対する1時間程度の復習を要する。

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
6/5 当該科目のオリエンテーション（所千晴）
第2回
6/12 既築建築物のカーボンキュートラルとその政策（高口洋人）
第3回
6/19 太陽光発電システム技術革新がもたらすカーボンニュートラル（若尾真治）
第4回
6/26 カーボンニュートラルとこれからの都市計画（森本章倫）
第5回
7/3 電力マネジメントシステム技術革新がもたらすカーボンニュートラル（藤本悠）
第6回
7/10 熱エネルギー技術革新がもたらすカーボンニュートラル（齋藤潔）
第7回
7/17 住宅・建築・都市のカーボンニュートラル先進技術―ZEB／ZEH（ネット・ゼロエネルギービル・ハウス）とくらしー（田邉新一）

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 講義内で指定、あるいは配布する。

参考文献： 講義内で指定、あるいは配布する。

成績評価フリー入力サイン： 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー： 大学院生
レポート 40% 講義毎に課すレポートを評価する。
平常点 60% 出席状況ならびに講義内での質疑応答内容を評価する。

学部生
レポート 30% 講義毎に課すレポートを評価する。
平常点 70% 出席状況ならびに講義内での質疑応答内容を評価する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 2 非主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S08010035|01|9S08010035[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	カーボンニュートラル技術概論β（学部生用）		
担 当 教 員	所 千晴@中垣 隆雄@國本 雅宏@関根 泰@納富 信@小野田 弘士@犬束 学@岩井		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月6時限	授業方法区分	オンライン】ハイブリッド（対面回数半数未満
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: カーボンニュートラルの実現のために資源、物質循環において検討されている最先端の技術開発について、その考え方と現状、展望を解説する。また、持続可能な社会構築のために欠かせないライフサイクルを通した環境負荷の評価方法や、経済性との両立をはかるサーキュラーエコノミーの考え方についても学ぶ。

授業の到達目標: カーボンニュートラルと資源、物質循環との関係性を正確に理解するとともに、カーボンニュートラル実現に向けた資源、物質循環における種々の技術革新の考え方と現状、展望について理解する。また、持続可能な社会構築のためには、技術革新のみならず、サプライチェーンの構築やライフサイクル評価、経済性との両立などシステム革新も必要であることを理解する。

事前・事後学習の内容: 報告書や書籍を使った1時間程度の予習と、講義内容に対する1時間程度の復習を要する。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
10/5 当該講義のオリエンテーション，資源リサイクル技術革新がもたらすカーボンニュートラル （犬束学）
第2回
10/12 物質閉鎖系の地球における水素・炭素・窒素・酸素の循環とカーボンニュートラル（関根泰）
第3回
10/19 蓄エネルギー技術革新がもたらすカーボンニュートラル（國本雅宏）
第4回
10/26 環境配慮エネルギー・循環システム革新がもたらすカーボンニュートラル（小野田弘士）
第5回
11/2 カーボンニュートラルに関するゲストスピーカーによる特別講義（所千晴）
第6回
11/9 カーボンニュートラルにおけるCCUSの役割（中垣隆雄）
第7回
11/16 ライフサイクル影響評価から見たカーボンニュートラル（納富信）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義内で指定、あるいは配布する。

参考文献: 講義内で指定、あるいは配布する。

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:
大学院生
レポート 40% 講義毎に課すレポートを評価する。
平常点 60% 出席状況ならびに講義内での質疑応答内容を評価する。

学部生
レポート 30% 講義毎に課すレポートを評価する。
平常点 70% 出席状況ならびに講義内での質疑応答内容を評価する。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 2 非主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S08010036|01|9S08010036[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術・研究公正概論（生命・理工系）（学部生用） O1		
担 当 教 員	吉澤 剛		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	3年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 責任ある研究活動（RCR）として、単に研究不正を防止・予防するのではなく、学術的・社会的に公正な研究活動を推進していくための自主的で前向きな取り組みを紹介しながら、受講生それぞれの関心や理解の向上を促します。はじめに、科学や研究、倫理や責任といった基本的な概念について検討し、自然科学と人文・社会科学の違い、研究者と研究対象との関係、研究組織や研究評価における実践的な課題について掘り下げます。続いてAIや民間企業、安全保障などの現代的なテーマにおける研究公正のあり方を考えます。そして、責任ある研究・イノベーション（RRI）と言われるような多様な人々や社会、未来に開かれた研究の意義や課題を展望し、現在の学問や研究のあり方を改めて問い直します。本授業は、全回オンデマンド授業として実施します。

授業の到達目標: 生命・理工系の研究に携わる学部生・大学院生が、責任ある研究活動（RCR）とは何かを理解し、現代の研究環境や社会を批判的に捉えながら、これからの研究者や社会人に求められる自分なりの問いや考え方を深めます。学術・研究公正とは、研究や公正とは何かを常に振り返り、自分のなかの《正しさ》を不断に問い直していく反省的な姿勢であることを体得します。

事前・事後学習の内容: 履修前に指定した教科書を事前に読み込むこと（3時間）
各回の講義内容について十分な復習を行うこと（1時間×7回=7時間）
eL CoRE （大学院生用）を修了すること（2時間）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：研究とは何か、公正とは何か

科学は確立した知的業績ではなく、科学として作られつつある途上のプロセスです。そのプロセスを研究と呼びますが、自然科学における研究は人文・社会科学と何が異なるのでしょうか？科学と疑似科学の境界線はどこにあるのでしょうか？なぜ研究において倫理や公正さが必要なのでしょうか？そもそも倫理や公正とは何でしょうか？研究公正を学ぶにあたって、そもそも科学や研究、倫理、公正とは何かという根源的な問いについて掘り下げます。

第2回：研究者としての倫理と責任

研究者として、捏造・改ざん・盗用などの研究不正をしないことにとどまらず、利益相反・責務相反をどのようにマネジメントするか、疑わしい研究行為や有害な研究行為を避けるために必要な考えや取り組みについて学びます。こうした適切な研究行為や責任ある研究活動において、研究者の倫理と責任はどのように折り合えるのでしょうか？研究者としての責任と人としての責任についても整理します。

第3回：組織やコミュニティにおける研究実践

今や研究が個人で完結することはほとんどなく、多くの場合は大学や研究機関に所属し、学術出版社や助成機関、政府の支援を受けてチームやグループで進めなければなりません。研究の組織化と科学の巨大化は、研究者個人の規範と頻繁に衝突するようになりますが、個人と組織との衝突とはいったい何でしょうか？それを乗り越えるための新たな個人的規範とはどのようなものでしょうか？研究室における研究ノートや研究データの管理、研究指導やハラスメントなどの実務的な課題とあわせて検討します。

第4回：再現性の危機とAI時代の倫理

生成AIの登場は「研究は人が行うものである」というこれまでの常識を覆しました。断りなく生成AIを用いて研究・評価・出版を行うことは明らかに公正さを欠きますが、それでは、どの程度までAIを活用してよいのでしょうか？活用すべきなのでしょうか？AIという技術そのものに内在する倫理的な問題も山積しているなかで、研究者のみならず、私たちはどのようにAIと付き合っていけばよいのでしょうか？研究倫理はAIによってどのように変わりうるのでしょうか？科学実験の再現性が深刻な問題となり、評価や出版のあり方が厳しく問われる現代にあって、どのように科学観と倫理観をアップデートすればよいかについて挑戦します。

第5回：研究対象への公正さ

AIの登場までは、研究は人間だけが行うものでした。人が研究する以上、同じ世界で研究対象に干渉・介入する限りにおいて、どうしても研究者と研究対象との相関が発生してしまうことは避けられません。研究者が自らの倫理観で研究を行うだけでは十分ではなく、研究の結果や成果について社会的に説明責任や応答責任も発生します。人を対象とする研究や生命倫理・動物福祉、バイオセーフティ/セキュリティ、デュアルユース、安全保障などのテーマを通じて、学術的・社会的に公正な研究活動のあり方を捉えます。

第6回：社会に開かれた研究

これまでの科学は職業研究者が担い、英語話者の西洋白人男性が支配的な属性でした。しかし、学際的でオープンな活動による科学の進展とその意義が認められるようになると、これを社会的に促進する取り組みが広がり始めました。また、それに対する反発も見られるようになり、研究をより開かれたものにすることの意義が改めて問われるようになっています。多様性や公平性、包摂性に配慮した研究活動は逆差別になるのでしょうか？市民科学やオープンサイエンス、企業における研究は学術研究のあり方を脅かすのでしょうか？そもそも《開かれた》研究とは何でしょうか？ここでは留意点や課題とともに社会に開かれた研究について考えます。

第7回：これからの学問と社会のために

現代では、科学が社会や世界に与える影響とともに、科学に投資される資源も非常に大きくなっています。学問は知的好奇心だけで駆動されることが善しとされないとすると、何のために学問をするのでしょうか？学問はどのような方向に向かっていけばいいのでしょうか？本講義の最終回として、新しい科学技術の倫理的・法的・社会的影響（ELSI）や責任ある研究・イノベーション（RRI）の考え方や実践を紹介しつつ、学問や社会の未来のあり方を予見することで、現在の学術・研究公正のあり方そのものを問い直します。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会、『科学の健全な発展のために 第2版ー誠実な科学者の心得ー』、丸善、2025年。
https://www.jsps.go.jp/file/storage/j-kousei/data/rinri.pdf

参考文献：　田中智之・小出隆規・安井裕之『科学者の研究倫理―化学・ライフサイエンスを中心に』東京化学同人、2018年。
https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/permalink/81SOKEI_WUNI/16dpchh/cdi_nii_cinii_1130282271138075264

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50　各回授業の最後に講義内容に関する数問の選択肢式のテストを行います。

レポート：　30　小論文（大学院生：2テーマで計1600字程度、学部生：1テーマで800字程度）

その他：　20　日本学術振興会提供の研究倫理eラーニングコース「eL CoRE」の「大学院生向け」修了証の提出

備考・関連URL：

1. 重要な連絡はWaseda Moodleを通じて行うので、よく確認してください。
2. 講義期間の延長、および再受講等は一切行いません。
3. 個人的な事情による問合せに対して、加点などの特別対応は行いません。
4. PCのトラブルや操作ミスを理由とした、受講期間の延長や確認テストの再受験は行いません。
5. 確認テストを受験する前に、すべての講義動画の視聴を完了する必要があります。
6. 講義に関するお問合せは全て「学術・研究公正概論」事務局のメールアドレス（researchethics2@list.waseda.jp）宛にお送りください。担当教員への直接連絡はしないでください。
　※システムに関するお問合せはITヘルプデスク宛にお送りください。
7. 動作環境等を各自確認の上、受講してください。
http://www.waseda.jp/navi/services/system/sys_requirements.html

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 2 非主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S08010036|02|9S08010036[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術・研究公正概論（生命・理工系）（学部生用） 02		
担 当 教 員	吉澤 剛		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	3年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 責任ある研究活動（RCR）として、単に研究不正を防止・予防するのではなく、学術的・社会的に公正な研究活動を推進していくための自主的で前向きな取り組みを紹介しながら、受講生それぞれの関心や理解の向上を促します。はじめに、科学や研究、倫理や責任といった基本的な概念について検討し、自然科学と人文・社会科学の違い、研究者と研究対象との関係、研究組織や研究評価における実践的な課題について掘り下げます。続いてAIや民間企業、安全保障などの現代的なテーマにおける研究公正のあり方を考えます。そして、責任ある研究・イノベーション（RRI）と言われるような多様な人々や社会、未来に開かれた研究の意義や課題を展望し、現在の学問や研究のあり方を改めて問い直します。本授業は、全回オンデマンド授業として実施します。

授業の到達目標: 生命・理工系の研究に携わる学部生・大学院生が、責任ある研究活動（RCR）とは何かを理解し、現代の研究環境や社会を批判的に捉えながら、これからの研究者や社会人に求められる自分なりの問いや考え方を深めます。学術・研究公正とは、研究や公正とは何かを常に振り返り、自分のなかの《正しさ》を不断に問い直していく反省的な姿勢であることを体得します。

事前・事後学習の内容: 履修前に指定した教科書を事前に読み込むこと（3時間）
各回の講義内容について十分な復習を行うこと（1時間×7回=7時間）
eL CoRE （大学院生用）を修了すること（2時間）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：研究とは何か、公正とは何か

科学は確立した知的業績ではなく、科学として作られつつある途上のプロセスです。そのプロセスを研究と呼びますが、自然科学における研究は人文・社会科学と何が異なるのでしょうか？科学と疑似科学の境界線はどこにあるのでしょうか？なぜ研究において倫理や公正さが必要なのでしょうか？そもそも倫理や公正とは何でしょうか？研究公正を学ぶにあたって、そもそも科学や研究、倫理、公正とは何かという根源的な問いについて掘り下げます。

第2回：研究者としての倫理と責任

研究者として、捏造・改ざん・盗用などの研究不正をしないことにとどまらず、利益相反・責務相反をどのようにマネジメントするか、疑わしい研究行為や有害な研究行為を避けるために必要な考えや取り組みについて学びます。こうした適切な研究行為や責任ある研究活動において、研究者の倫理と責任はどのように折り合えるのでしょうか？研究者としての責任と人としての責任についても整理します。

第3回：組織やコミュニティにおける研究実践

今や研究が個人で完結することはほとんどなく、多くの場合は大学や研究機関に所属し、学術出版社や助成機関、政府の支援を受けてチームやグループで進めなければなりません。研究の組織化と科学の巨大化は、研究者個人の規範と頻繁に衝突するようになりますが、個人と組織との衝突とはいったい何でしょうか？それを乗り越えるための新たな個人的規範とはどのようなものでしょうか？研究室における研究ノートや研究データの管理、研究指導やハラスメントなどの実務的な課題とあわせて検討します。

第4回：再現性の危機とAI時代の倫理

生成AIの登場は「研究は人が行うものである」というこれまでの常識を覆しました。断りなく生成AIを用いて研究・評価・出版を行うことは明らかに公正さを欠きますが、それでは、どの程度までAIを活用してよいのでしょうか？活用すべきなのでしょうか？AIという技術そのものに内在する倫理的な問題も山積しているなかで、研究者のみならず、私たちはどのようにAIと付き合っていけばよいのでしょうか？研究倫理はAIによってどのように変わりうるのでしょうか？科学実験の再現性が深刻な問題となり、評価や出版のあり方が厳しく問われる現代にあって、どのように科学観と倫理観をアップデートすればよいかについて挑戦します。

第5回：研究対象への公正さ

AIの登場までは、研究は人間だけが行うものでした。人が研究する以上、同じ世界で研究対象に干渉・介入する限りにおいて、どうしても研究者と研究対象との相関が発生してしまうことは避けられません。研究者が自らの倫理観で研究を行うだけでは十分ではなく、研究の結果や成果について社会的に説明責任や応答責任も発生します。人を対象とする研究や生命倫理・動物福祉、バイオセーフティ/セキュリティ、デュアルユース、安全保障などのテーマを通じて、学術的・社会的に公正な研究活動のあり方を捉えます。

第6回：社会に開かれた研究

これまでの科学は職業研究者が担い、英語話者の西洋白人男性が支配的な属性でした。しかし、学際的でオープンな活動による科学の進展とその意義が認められるようになると、これを社会的に促進する取り組みが広がり始めました。また、それに対する反発も見られるようになり、研究をより開かれたものにすることの意義が改めて問われるようになっています。多様性や公平性、包摂性に配慮した研究活動は逆差別になるのでしょうか？市民科学やオープンサイエンス、企業における研究は学術研究のあり方を脅かすのでしょうか？そもそも《開かれた》研究とは何でしょうか？ここでは留意点や課題とともに社会に開かれた研究について考えます。

第7回：これからの学問と社会のために

現代では、科学が社会や世界に与える影響とともに、科学に投資される資源も非常に大きくなっています。学問は知的好奇心だけで駆動されることが善しとされないとすると、何のために学問をするのでしょうか？学問はどのような方向に向かっていけばいいのでしょうか？本講義の最終回として、新しい科学技術の倫理的・法的・社会的影響（ELSI）や責任ある研究・イノベーション（RRI）の考え方や実践を紹介しつつ、学問や社会の未来のあり方を予見することで、現在の学術・研究公正のあり方そのものを問い直します。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会、『科学の健全な発展のために 第2版ー誠実な科学者の心得ー』、丸善、2025年。
https://www.jsps.go.jp/file/storage/j-kousei/data/rinri.pdf

参考文献：　田中智之・小出隆規・安井裕之『科学者の研究倫理―化学・ライフサイエンスを中心に』東京化学同人、2018年。
https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/permalink/81SOKEI_WUNI/16dpchh/cdi_nii_cinii_1130282271138075264

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50　各回授業の最後に講義内容に関する数問の選択肢式のテストを行います。

レポート：　30　小論文（大学院生：2テーマで計1600字程度、学部生：1テーマで800字程度）

その他：　20　日本学術振興会提供の研究倫理eラーニングコース「eL CoRE」の「大学院生向け」修了証の提出

備考・関連URL：

1. 重要な連絡はWaseda Moodleを通じて行うので、よく確認してください。
2. 講義期間の延長、および再受講等は一切行いません。
3. 個人的な事情による問合せに対して、加点などの特別対応は行いません。
4. PCのトラブルや操作ミスを理由とした、受講期間の延長や確認テストの再受験は行いません。
5. 確認テストを受験する前に、すべての講義動画の視聴を完了する必要があります。
6. 講義に関するお問合せは全て「学術・研究公正概論」事務局のメールアドレス（researchethics2@list.waseda.jp）宛にお送りください。担当教員への直接連絡はしないでください。
　※システムに関するお問合せはITヘルプデスク宛にお送りください。
7. 動作環境等を各自確認の上、受講してください。
http://www.waseda.jp/navi/services/system/sys_requirements.html

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 2 非主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S08010037|01|9S08010037[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術・研究公正概論（生命・理工系）（学部生用）（英語授業） 01		
担 当 教 員	吉澤 剛		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	3年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: This course encourages participants to deepen their understanding and interests by introducing self-motivating and proactive initiatives for the promotion of research integrity in academic and societal terms, not merely as preventing misconduct but as responsible conduct of research (RCR). It begins by examining fundamental concepts such as science, research, ethics, and responsibility, and exploring the differences between natural sciences and humanities/social sciences, the relationship between researchers and research subjects, and practical challenges within research organisations and evaluation systems. We then consider the nature of research integrity in contemporary topics such as AI, private enterprise, and security. Our focus moves to the significance and challenges of research that is open to diverse people, society, and the future – often termed responsible research and innovation (RRI) – in order to re-examine the current state of academia and research. This course will be delivered entirely as an on-demand lecture series.

授業の到達目標: Undergraduate and graduate students engaged in life sciences and engineering research will deepen their understanding of responsible research conduct (RCR), critically examine contemporary research environments and society, and develop their own questions and perspectives required of future researchers and professionals. They will internalize that academic and research integrity involves a reflective stance—constantly re-examining what constitutes research and integrity, and continually questioning their own sense of "rightness."

事前・事後学習の内容: Read the assigned textbook in advance (3 hours).
Review the main points of each lecture after watching it (1 hour x 7 lectures).
Complete the Japan Society of the Promotion of Sciences e-learning course,"eL CoRE." (For graduate students) (2 hours).

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

1. What is Research, What is Integrity?

Science is not an established body of intellectual achievement, but an ongoing process in the making. We call this process research, but how does research in the natural sciences differ from research in the social sciences and humanities? Where is the boundary between science and pseudoscience? Why is ethics or integrity necessary in research? What is ethics or integrity in the first place? When learning about research integrity, we delve into the fundamental questions: What is science, research, ethics, or integrity?

2. Ethics and Responsibility as a Researcher

As researchers, we must not only refrain from research misconduct such as fabrication, falsification, or plagiarism, but also learn how to manage conflict of interest and conflict of commitment, and the necessary mindset and approaches to avoid questionable or detrimental research practices. How can we reconcile the ethics and responsibilities of researchers within these good research practices and responsible conduct of research? We also argue the difference between professional responsibility and moral responsibility.

3. Research Practice in Organizations and Communities

Research is now rarely conducted solely by individuals. In most cases, researchers belong to universities or research institutions and must advance their work in teams or groups, supported by academic publishers, funding agencies, and the government. Where the organization of research and big science frequently clash with individual researchers' norms, what exactly is this conflict between the individual and the organization? What can new individual norms help overcome it? In addition to this, we examine more practical challenges such as lab note-taking, research data management, research supervision, and harassment within laboratories.

4. Replication Crisis and Ethics in the AI Era

The emergence of generative AI has overturned the long-held belief that “research is conducted by humans.” While using generative AI without disclosure for research, evaluation, and publication clearly lacks integrity, how much may or should we utilize AI? Amidst the myriad ethical issues inherent in AI technology itself, how should not only researchers, but all of us, engage with AI? How might research ethics change by AI? In an era where the reproducibility of scientific experiments has become a serious problem and the nature of evaluation and publication is being rigorously questioned, we discuss how to update our views on science and ethics.

5. Sincerity to Research Subject

Before the advent of AI, research was conducted solely by humans. As long as humans conduct research, and as long as they interfere with or intervene their research subjects in the same world, a correlation between researcher and subject inevitably arises. It is insufficient for researchers to conduct research based solely on their own ethical standards; they also bear social accountability and responsibility for the results and outcomes of their research. Through issues such as human subjects research, bioethics and animal welfare, biosafety/biosecurity, dual-use, and national security, we explore how to ensure research integrity in academic and societal terms.

6. Opening Science to Society

Traditionally science was the domain of professional researchers, with English-speaking Western white males holding dominant positions. However, as the progress and significance of science through interdisciplinary and open activities gained recognition, efforts to socially promote this began to spread. At the same time, counter-reactions emerged, leading to renewed questioning of the value of making research more open. Does research that prioritizes diversity, equity, and inclusion constitute reverse discrimination? Do citizen science, open science, and corporate research threaten the nature of academic research? What does “open” research even mean? Here, we explore research open to the society, considering its considerations and challenges.

7. For the Future of Academia and Society

In the modern era, science exerts significant influence on the society and the world, and the resources invested in science have also grown enormously. If academia driven solely by intellectual curiosity is no longer considered sufficient, what is the purpose of academia? In what direction should academia move forward? As the final session of this lecture series, we introduce the concepts and practices of Ethical, Legal, and Social Implications (ELSI) of emerging science and technology, as well as Responsible Research and Innovation (RRI). By envisioning the future of academia and society, we re-examine the very nature of current academic and research integrity.

言語区分: 0 英語 English

教科書: Editing Committee "For the Sound Development of Science", the Japan Society for the Promotion of Science. " For the Sound Development of Science: The Attitude of a Conscience Scientist." JSPS (2015).
This text is available at https://www.jsps.go.jp/english/e-kousei/ethics.html

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	50	At the end of each lecture, several multiple-choice questions relating to the lecture content will be administered.
レポート:	30	Short essay (Postgraduate students: approx. 800-1,000 words; Undergraduate students: approx. 400-600 words)
その他:	20	Submission of a certificate of completion of the Japan Society of the Promotion of Sciences e-learning course for Graduate Students,“eL CoRE.”

備考・関連URL: 1. As important notices will be posted in Waseda Moodle, students should be sure to check there regularly.
2. Extension of the lecture viewing period and the retaking of lectures are not permitted.
3. No special arrangement such as the awarding of extra points will be made, regardless of reasons such as personal circumstances.
4. No special arrangement for extending the lecture viewing period will be made, regardless of reasons such as PC trouble /operation error.
5. Students should view all lectures before taking the final comprehension test.
6. All questions and inquiries should be sent by email to the secretariat (researchethics2@list.waseda.jp). Students should not contact the lecturers directly.
※General technical inquiries concerning Waseda Moodle (e.g. viewing difficulty) should be addressed to the IT HelpDesk. To inquire, log in to MyWaseda and access the help desk.
7. Students should check the operating environment of their computer systems before taking the course. The recommended environment for Waseda Moodle is explained at
http://www.waseda.jp/navi/e/services/system/sys_requirements.html

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 2 非主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S08010037|02|9S08010037[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術・研究公正概論（生命・理工系）（学部生用）（英語授業） 02		
担 当 教 員	吉澤 剛		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	3年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： This course encourages participants to deepen their understanding and interests by introducing self-motivating and proactive initiatives for the promotion of research integrity in academic and societal terms, not merely as preventing misconduct but as responsible conduct of research (RCR). It begins by examining fundamental concepts such as science, research, ethics, and responsibility, and exploring the differences between natural sciences and humanities/social sciences, the relationship between researchers and research subjects, and practical challenges within research organisations and evaluation systems. We then consider the nature of research integrity in contemporary topics such as AI, private enterprise, and security. Our focus moves to the significance and challenges of research that is open to diverse people, society, and the future – often termed responsible research and innovation (RRI) – in order to re-examine the current state of academia and research. This course will be delivered entirely as an on-demand lecture series.

授業の到達目標： Undergraduate and graduate students engaged in life sciences and engineering research will deepen their understanding of responsible research conduct (RCR), critically examine contemporary research environments and society, and develop their own questions and perspectives required of future researchers and professionals. They will internalize that academic and research integrity involves a reflective stance—constantly re-examining what constitutes research and integrity, and continually questioning their own sense of “rightness.”

事前・事後学習の内容： Read the assigned textbook in advance (3 hours).
Review the main points of each lecture after watching it (1 hour x 7 lectures).
Complete the Japan Society of the Promotion of Sciences e-learning course,“eL CoRE.” (For graduate students) (2 hours).

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

1. What is Research, What is Integrity?

Science is not an established body of intellectual achievement, but an ongoing process in the making. We call this process research, but how does research in the natural sciences differ from research in the social sciences and humanities? Where is the boundary between science and pseudoscience? Why is ethics or integrity necessary in research? What is ethics or integrity in the first place? When learning about research integrity, we delve into the fundamental questions: What is science, research, ethics, or integrity?

2. Ethics and Responsibility as a Researcher

As researchers, we must not only refrain from research misconduct such as fabrication, falsification, or plagiarism, but also learn how to manage conflict of interest and conflict of commitment, and the necessary mindset and approaches to avoid questionable or detrimental research practices. How can we reconcile the ethics and responsibilities of researchers within these good research practices and responsible conduct of research? We also argue the difference between professional responsibility and moral responsibility.

3. Research Practice in Organizations and Communities

Research is now rarely conducted solely by individuals. In most cases, researchers belong to universities or research institutions and must advance their work in teams or groups, supported by academic publishers, funding agencies, and the government. Where the organization of research and big science frequently clash with individual researchers' norms, what exactly is this conflict between the individual and the organization? What can new individual norms help overcome it? In addition to this, we examine more practical challenges such as lab note-taking, research data management, research supervision, and harassment within laboratories.

4. Replication Crisis and Ethics in the AI Era

The emergence of generative AI has overturned the long-held belief that “research is conducted by humans.” While using generative AI without disclosure for research, evaluation, and publication clearly lacks integrity, how much may or should we utilize AI? Amidst the myriad ethical issues inherent in AI technology itself, how should not only researchers, but all of us, engage with AI? How might research ethics change by AI? In an era where the reproducibility of scientific experiments has become a serious problem and the nature of evaluation and publication is being rigorously questioned, we discuss how to update our views on science and ethics.

5. Sincerity to Research Subject

Before the advent of AI, research was conducted solely by humans. As long as humans conduct research, and as long as they interfere with or intervene their research subjects in the same world, a correlation between researcher and subject inevitably arises. It is insufficient for researchers to conduct research based solely on their own ethical standards; they also bear social accountability and responsibility for the results and outcomes of their research. Through issues such as human subjects research, bioethics and animal welfare, biosafety/biosecurity, dual-use, and national security, we explore how to ensure research integrity in academic and societal terms.

6. Opening Science to Society

Traditionally science was the domain of professional researchers, with English-speaking Western white males holding dominant positions. However, as the progress and significance of science through interdisciplinary and open activities gained recognition, efforts to socially promote this began to spread. At the same time, counter-reactions emerged, leading to renewed questioning of the value of making research more open. Does research that prioritizes diversity, equity, and inclusion constitute reverse discrimination? Do citizen science, open science, and corporate research threaten the nature of academic research? What does “open” research even mean? Here, we explore research open to the society, considering its considerations and challenges.

7. For the Future of Academia and Society

In the modern era, science exerts significant influence on the society and the world, and the resources invested in science have also grown enormously. If academia driven solely by intellectual curiosity is no longer considered sufficient, what is the purpose of academia? In what direction should academia move forward? As the final session of this lecture series, we introduce the concepts and practices of Ethical, Legal, and Social Implications (ELSI) of emerging science and technology, as well as Responsible Research and Innovation (RRI). By envisioning the future of academia and society, we re-examine the very nature of current academic and research integrity.

言語区分: 0 英語 English

教科書: Editing Committee "For the Sound Development of Science", the Japan Society for the Promotion of Science. " For the Sound Development of Science: The Attitude of a Conscience Scientist." JSPS (2015).
This text is available at https://www.jsps.go.jp/english/e-kousei/ethics.html

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	50	At the end of each lecture, several multiple-choice questions relating to the lecture content will be administered.
レポート:	30	Short essay (Postgraduate students: 2 topics, approx. 800-1,000 words; Undergraduate students: 1 topic, approx. 400-600 words)
その他:	20	Submission of a certificate of completion of the Japan Society of the Promotion of Sciences e-learning course for Graduate Students,“eL CoRE.”

備考・関連URL: 1. As important notices will be posted in Waseda Moodle, students should be sure to check there regularly.
2. Extension of the lecture viewing period and the retaking of lectures are not permitted.
3. No special arrangement such as the awarding of extra points will be made, regardless of reasons such as personal circumstances.
4. No special arrangement for extending the lecture viewing period will be made, regardless of reasons such as PC trouble /operation error.
5. Students should view all lectures before taking the final comprehension test.
6. All questions and inquiries should be sent by email to the secretariat (researchethics2@list.waseda.jp). Students should not contact the lecturers directly.
※General technical inquiries concerning Waseda Moodle (e.g. viewing difficulty) should be addressed to the IT HelpDesk. To inquire, log in to MyWaseda and access the help desk.
7. Students should check the operating environment of their computer systems before taking the course. The recommended environment for Waseda Moodle is explained at
http://www.waseda.jp/navi/e/services/system/sys_requirements.html

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S08030010|01|9S08030010[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	身近な化学への招待（導入） 01		
担 当 教 員	大江 親臣		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

われわれの日常生活には数多くの物質が引き起こす現象や事柄を利用したものがあふれている。化学は“物質”を扱う学問であるので、われわれの生活と深いかかわりをもっている。
本講義では、各自が実際に簡単な実験を行い、化学現象を観察することで、まず身近な化学を実感してもらう。つぎにその観察結果とその現象の理論的な説明(理屈やしくみ)との共通点・相違点などを比較、検討する。これにより身の回りで起こる現象に対して、より深く観察・思考できるようになると期待される。

※ 本授業は、全回対面形式で実施します。

授業の到達目標：

受験のための知識を中心とした暗記する化学を脱却して、科学本来のなぜ？どうして？から始まり、考え、理解する「思考する化学」の素養を身につけることを目標とする。16テーマ(項目)の実験を予定しているが、理解度は各実験テーマごとに違っていて構わない。この講義を通して、理論(理屈やしくみ)と実際に行った実験結果との共通点・相違点を実感できるようになる。また、行った実験で観察した現象や事柄がより深く理解できるようになる。

事前・事後学習の内容：

各学生諸君の現時点での知識や理解度によって予習復習の時間は異なる。実験実習の安全上、次回行う実験の「概要」、「器具」、「試薬」と「操作」について、予習として最低限20分程度は指導書の該当箇所（行う実験項目）に目を通すこと。余力があれば参考文献などで下調べを行うこと（下記1）。実験終了後に実験結果をまとめて、その原因や本質について考える（下記2）。行った実験に共通する現象や事柄を調べてみる（下記3）。受講にあたっては以下のような態度を奨励する。

1. 次回行う実験の予習を行う(指導書や参考文献を読むだけでよい)
2. 実験を行って、得られた結果や分った事柄をまとめる(レポート)
3. 行った実験に共通する現象や事柄を調べてみる(今後のために)

とにかく肩肘を張らずに受講してほしい。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回／第14回（4月16日）：ガイダンス・演示実験

ガイダンス(本講義の概要と評価方法などの説明)を受け、演示実験を観察する。
【事前学修】シラバスを読んでおくこと。【事後学修】配布された指導書の該当ページを読み返しておくこと。

第2回／第14回（4月23日）：実験「アイスクリームを作ろう！」

以後の実験を安全に行うための基本操作として、アイスクリームを作る実験を行う。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第3回／第14回（4月30日）：実験「ケミカルガーデン」「膜を通した小さい分子と水の動き」

古くから「ケミカルガーデン」として知られる実験と透析膜（半透膜）の性質を調べる実験を行う。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第4回／第14回（5月7日）：実験「水と酸・氷と酸のパズル」「混合冷却剤」

凝固点降下に関連する2つの実験を行う。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第5回／第14回（5月14日）：実験「おいしい水はどれだ」

水に含まれるミネラルのうち、カルシウムとマグネシウムの含有量の指標となる水の硬度を決定する。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の測定結果から水の硬度を算出して評価小レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第6回／第14回（5月21日）：実験「イオンの水和と体積変化」「体積の非加成性」

水に溶け込んだイオンが引き寄せる水分子の数(水和の強さ)の違いによる体積(容量)変化に関連する2つの実験を行う。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第7回／第14回（5月28日）：社会の中での化学の活用

社会の中で実際に使われている化学的な知見について、具体的な実例を交えた話を聞く。
【事前学修】ゲストスピーカーの勤務先(労働安全衛生総合研究所)の仕事について、事前に簡単に調べておくこと。【事後学修】話に出てきた内容の中で興味を持った事柄について調べてみる。

第8回／第14回（6月4日）：実験「減圧下での沸騰、加熱せずに沸騰する水」

大気圧と物質の蒸気圧がつりあう現象である沸騰に関連する実験を行う。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第9回／第14回（6月11日）：実験「紙おむつの秘密」

紙おむつなどに含まれる高吸水性樹脂の性質に関連する実験を行う。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第10回／第14回（6月18日）：実験「過飽和」「粘質物中の水素結合」

結晶の析出に関連する実験と物質中に存在する水素結合の性質(粘性)に関連する実験を行う。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第11回／第14回（6月25日）：実験「固形燃料」「カルメ焼き」

コロイド粒子の網目構造（ゲルやキセロゲルの状態）を持った2つの物質、「固形燃料」と「カルメ焼き」を作製する。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第12回／第14回（7月2日）：実験「果物電池」「燃料電池」

いくつかの「果物電池」と簡単な「燃料電池」を作製して、モーターなどを動作させてみる。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第13回／第14回（7月9日）：まとめ（講義）

これまでの実験に関連した話題や実験の背景に関連するしくみなどの講義を受け、まとめる。
【事前学修】これまでの行った実験テーマ(項目)で興味のあるものを選んでおくこと。【事後学修】選んだ実験項目について、期末レポート(A4レポート用紙)にまとめて次回授業時までに提出する。

第14回／第14回（7月16日）：期末レポート提出

これまでに未提出となっている通常レポートや評価小レポートに加えて、この科目のまとめとなる期末レポートの提出を行う。
【事前学修】提出するレポートの準備を行うこと。【事後学修】興味を持った内容について、今後のために調べてみる。

――――――――

【注意事項】
※1　上記は予定である。実験テーマ(項目)は準備の都合により順序の入れ替え、変更を行う場合がある。

※2　実験テーマにより実験所用時間はまちまちである。そのため、最初に講義を行うことがある。(15分程度)

※3　授業中に行う実験は、二人一組で行い、第2回授業時の実験で基本的な操作の確認を行う。そのため実験操作に不慣れなことを気にする必要はない。ただし、実験室内での説明は安全のためにしっかり聞くこと。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　身近な化学への招待(導入) 指導書：グローバルエデュケーションセンター 自然科学部門化学実験室編

※ 第1回授業時に配布する。店頭販売はしていないので注意すること。

参考文献：
1. 左巻健男 編著, ブルーバックス「新しい高校化学の教科書」, 講談社 (2006).
2. 数研出版編集部 (編), 「改訂版　視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録」, 数研出版 (2024).
3. 浜島書店編集部 (編), 「二訂版 ニューステージ 化学図表　化学基礎＋化学 対応」, 浜島書店 (2023).
4. 実教出版編修部 (編), 「サイエンスビュー　化学総合資料」, 実教出版 (2024).
5. 渡辺正, 北條博彦 共著, 大人のための科学「高校で教わりたかった化学」, 日本評論社 (2008).
6. 日本化学会 編, 「化学ってそういうこと！」, 化学同人 (2003).

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　50　通常レポート(8通)、評価小レポート(2通)、期末レポート(1通)の3種類のレポートを予定している 。

平常点評価：　50　講義や実験での授業(実験)態度など。遅刻は減点の対象となる。15分以上の遅刻(実験の操作説明終

了後)は欠席扱いとする。特に実験室での説明・注意点を理解せずに実験を行おうとする場合は、本人や周囲の人間を危険にさらすことになるため、減点したり・安全のために実験を一旦中止することがある。

備考・関連URL:　第1回授業時に本講義で行う実験指導書を配布し、ガイダンスを行う。第2回目に今後の実験を安全に行うための基本操作として、実験「アイスクリームを作ろう！」を行う。以後ほぼ毎回実験を行い、行った実験についての簡単なレポートの提出を課する。第7回授業では実際に社会の中で化学を用いて活躍されている方の話を聞き、現代社会と化学の関わり合いについての理解を深める。

〇安全管理上、受講者数には上限を設定している(上限受講者数は状況により調整している)。
〇上限受講者数を超えた申し込みに対しては抽選により決定するが、「単位取得のみを目的とする学生」や「実験のみを行い、実験結果について考える姿勢のない学生」は受講しないこと。
〇実験実習を中心とするので、7割以上の出席と7割以上のレポート提出が必要である(提出困難な学生は受講しないこと)。 [困難な理由(就職活動などは不可)がある場合は直接相談のこと]
〇提出されたレポートはコメントなどを付けて返却する予定である。
〇資料などの配布や補足に Waseda Moodle を使うことがある。

この講義は自分自身で理解度を上げていく努力が重要である。無茶は禁物だができる範囲で積極的に取り組んでほしい。

※ この科目は、基幹・創造・先進理工学部学生および教育学部理学科学生は履修できません。
※ 商学部「化学探究A1」の単位修得者は登録することができません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S08030010|02|9S08030010[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	身近な化学への招待（導入） 02		
担 当 教 員	山口 正		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

われわれの日常生活には数多くの物質が引き起こす現象や事柄を利用したものがあふれている。化学は“物質”を扱う学問であるので、われわれの生活と深いかかわりをもっている。
本講義では、各自が実際に簡単な実験を行い、化学現象を観察することで、まず身近な化学を実感してもらう。つぎにその観察結果とその現象の理論的な説明(理屈やしくみ)との共通点・相違点などを比較、検討する。これにより身の回りで起こる現象に対して、より深く観察・思考できるようになると期待される。

授業の到達目標：

受験のための知識を中心とした暗記する化学を脱却して、科学本来のなぜ？どうして？から始まり、考え、理解する「思考する化学」の素養を身につけることを目標とする。16テーマ(項目)の実験を予定しているが、理解度は各実験テーマごとに違っていて構わない。この講義を通して、理論(理屈やしくみ)と実際に行った実験結果との共通点・相違点を実感できるようになる。また、行った実験で観察した現象や事柄がより深く理解できるようになる。

事前・事後学習の内容：

各学生諸君の現時点での知識や理解度によって予習復習の時間は異なる。実験実習の安全上、次回行う実験の「概要」、「器具」、「試薬」と「操作」について、予習として最低限15分程度はテキストの該当箇所に目を通すこと。余力があれば参考文献などで下調べを行うこと（下記1）。受講にあたっては以下のような態度を奨励する。

1. 次回行う実験の予習を行う(指導書や参考文献を読むだけでよい)
2. 実験を行って、得られた結果や分った事柄をまとめる(レポート)
3. 実験終了後、共通する現象や事柄を調べてみる(今後のために)

とにかく肩肘を張らずに受講してほしい。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回／第14回：ガイダンス・演示実験

ガイダンス(本講義の概要と評価方法などの説明)を受け、演示実験を見る。
【事前・事後の学修】シラバスを読んでおくこと、配布された指導書の該当ページを読み返しておくこと。
――――――――――

【注意事項】
※1 下記は予定である。実験テーマ(項目)は準備の都合により順序の入れ替え、変更を行う場合がある。
※2 実験テーマにより実験所用時間はまちまちである。そのため、最初に講義を行うことがある。(10～15分程度)
※3 授業中に行う実験は、二人一組で行い、第2回授業時の実験で基本的な操作の確認を行う。そのため、実験操作に不慣れなことを気にする必要はない。

第2回／第14回：実験「アイスクリームを作ろう！」

以後の実験を安全に行うための基本操作として、アイスクリームを作る実験を行う。
【事前・事後の学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと、行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回提出すること。

第3回／第14回：実験「ケミカルガーデン」「膜を通した小さい分子と水の動き」

古くから「ケミカルガーデン」として知られる実験と半透膜の性質を調べる実験を行う。
【事前・事後の学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと、行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回提出すること。

第4回／第14回：実験「水と酸・氷と酸のパズル」「混合冷却剤」

凝固点降下に関連する2つの実験を行う。
【事前・事後の学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと、行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回提出すること。

第5回／第14回：実験「おいしい水はどれだ」

水に含まれるミネラルのうち、カルシウムとマグネシウムの含有量をあわせた水の硬度を決定する。
【事前・事後の学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと、行った実験の測定結果から水の硬度を算出して評価小レポート(指定用紙)にまとめて次回提出すること。

第6回／第14回：実験「イオンの水和と体積変化」「体積の非加成性」

水に溶け込んだイオンがひきつける水分子の数(水和の強さ)の違いによる体積(容量)変化に関連する2つの実験を行う。
【事前・事後の学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと、行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回提出すること。

第7回／第14回：社会の中での化学の活用

社会の中で実際に使われている化学について、具体的な実例を交えての話を聞く。
【事前・事後の学修】ゲストスピーカーの勤務先(労働安全衛生総合研究所)の仕事について、事前に簡単に調べておき、興味を持った事柄について事後に調べてみる。

第8回／第14回：実験「減圧下での沸騰、加熱せずに沸騰する水」

大気圧と蒸気圧がつりあう沸騰に関連する実験を行う。
【事前・事後の学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと、行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回提出すること。

第9回／第14回：実験「紙おむつの秘密」

紙おむつなどに含まれる高吸水性樹脂の性質に関連する実験を行う。
【事前・事後の学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと、行った実験の測定・観察結果から吸水量などを算出して評価小レポート(指定用紙)にまとめて次回提出すること。

第10回／第14回：実験「過飽和」「粘質物中の水素結合」

結晶の析出に関連する実験と物質中に存在する水素結合の性質(粘性)に関連する実験を行う。
【事前・事後の学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと、行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回提出すること。

第11回／第14回：実験「固形燃料」「カルメ焼き」

コロイド粒子の網目構造（ゲルの状態）を持った2つの物質、「固形燃料」と「カルメ焼き」を作製する。
【事前・事後の学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと、行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回提出すること。

第12回／第14回：実験「果物電池」「燃料電池」

いくつかの「果物電池」と簡単な「燃料電池」を作製する。
【事前・事後の学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと、行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回提出すること。

第13回／第14回：まとめ（講義）

これまでの実験に関連した話題や実験の背景に関連するしくみなどの講義を受け、まとめる。
【事前・事後の学修】これまでの実験テーマ(項目)で気になるものを選んでおき、授業後に選んだ項目について、期末レポート(A4レポート用紙)にまとめて次回提出する。

第14回／第14回：期末レポート提出

これまでに未提出となっている通常レポートや評価小レポートに加えて、この科目のまとめとなる期末レポートの提出を行う。
【事前学修】提出するレポートの準備を行うこと。【事後学修】興味を持った内容について、今後のために調べてみる。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　身近な化学への招待(導入) 指導書：グローバルエデュケーションセンター 自然科学部門化学実験室編

※ 第1回授業時に配布する。店頭販売はしていないので注意すること。

参考文献：
1. 左巻健男 編著, ブルーバックス「新しい高校化学の教科書」, 講談社 (2006).
2. 数研出版編集部 (編),「新課程　視覚でとらえる フォトサイエンス化学図録」, 数研出版 (2022).
3. 浜島書店編集部 (編),「二訂版 ニューステージ 化学図表　化学基礎＋化学 対応」, 浜島書店 (2023).
4. 実教出版編修部 (編),「サイエンスビュー　化学総合資料」, 実教出版 (2024).
5. 渡辺正, 北條博彦 共著, 大人のための科学「高校で教わりたかった化学」, 日本評論社 (2008).
6. 日本化学会 編,「化学ってそういうこと！」, 化学同人 (2003).

成績評価フリー入力サイン：　0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　50　通常レポート(7通)、評価小レポート(2通)、期末レポート(1通)の3種類のレポートを予定している 。

平常点評価：　50　講義や実験での授業(実験)態度など。遅刻は減点の対象となる。15分以上の遅刻(実験の操作説明終了後)は欠席扱いとする。特に実験室での説明・注意点を理解せずに実験を行おうとする場合は、本人や周囲の人間を危険にさらすことになるため、減点したり・安全のために実験を一旦中止することがある。

備考・関連URL：　第1回授業時に本講義で行う実験テキストを配布し、ガイダンスを行う。第2回目に今後の実験を安全に行うための基本操作として、実験「アイスクリームを作ろう！」を行う。以後ほぼ毎回実験を行い、行った実験についての簡単なレポートの提出を課する。第7回授業では実際に社会の中で化学を用いて活躍されている方の話を聞き、現代社会と化学の関わり合いについての理解を深める。

〇安全管理上、受講者数には上限を設定している(上限受講者数は状況により調整している)。
〇上限受講者数を超えた申し込みに対しては抽選により決定するが、「単位取得のみを目的とする学生」や「実験のみを行い、実験結果について考える姿勢のない学生」は受講しないこと。
〇実験実習を中心とするので、7割以上の出席と7割以上のレポート提出が必要である(提出困難な学生は受講しないこと)。［困難な理由(就職活動などは不可)がある場合は直接相談のこと］
〇提出されたレポートはコメントなどを付けて返却する予定である。
〇資料などの配布や補足に Waseda Moodle を使うことがある。

この講義は自分自身で理解度を上げていく努力が重要である。無茶は禁物だができる範囲で積極的に取り組んでほしい。

※ この科目は、基幹・創造・先進理工学部学生および教育学部理学科学生は履修できません。
※ 商学部「化学探究A1」の単位修得者は登録することができません。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S08030011|01|9S08030011[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	身近な化学への招待（発展）　01		
担 当 教 員	大江　親臣		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

われわれの日常生活には数多くの物質が引き起こす現象や事柄を利用したものがあふれている。化学は“物質”を扱う学問であるので、われわれの生活と深いかかわりをもっている。
本講義では、各自が実際に簡単な実験を行い、化学現象を観察することで、まず身近な化学を実感してもらう。つぎにその観察結果とその現象の理論的な説明(理屈やしくみ)との共通点・相違点などを比較、検討する。これにより身の回りで起こる現象に対して、より深く観察・思考できるようになると期待される。

※　本授業は、全回対面形式で実施します。
※※　科目名に「発展」とありますが、「導入」の科目を受けていなければ理解できないということはありません。実験操作や現象の観察は問題なくできます。

授業の到達目標：

受験のための知識を中心とした暗記する化学を脱却して、科学本来のなぜ？どうして？から始まり、考え、理解する「思考する化学」の素養を身につけることを目標とする。14テーマ(項目)の実験を予定しているが、理解度は各実験テーマごとに違っていて構わない。この講義を通して、理論(理屈やしくみ)と実際に行った実験結果との共通点・相違点を実感できるようになる。また、行った実験で観察した現象や事柄がより深く理解できるようになる。

事前・事後学習の内容：

各学生諸君の現時点での知識や理解度によって予習復習の時間は異なる。実験実習の安全上、次回行う実験の「概要」、「器具」、「試薬」と「操作」について、予習として最低限20分程度はテキストの該当箇所に目を通すこと。余力があれば参考文献などで下調べを行うこと（下記1）。実験終了後に実験結果をまとめて、その原因や本質について考える（下記2）。行った実験に共通する現象や事柄を調べてみる（下記3）。受講にあたっては以下のような態度を奨励する。

1. 次回行う実験の予習を行う(指導書や参考文献を読むだけでよい)
2. 実験を行って、得られた結果や分った事柄をまとめる(レポート)
3. 行った実験に共通する現象や事柄を調べてみる(今後のために)

とにかく肩肘を張らずに受講してほしい。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回／第14回（10月1日）：ガイダンス

ガイダンス(本講義の概要と評価方法などの説明、実験における安全性についての説明)を受ける。
【事前学修】シラバスを読んでおくこと。【事後学修】配布された指導書の該当ページを読み返しておくこと。

第2回／第14回（10月8日）：実験「雪が降る！？」

実験操作に基本的な操作の多い、実験「雪が降る！？」を実験室の使い方の説明を受けながら行う。この実験では特徴的な再結晶の様子が観察できる。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第3回／第14回（10月15日）：実験「無電解メッキと合金」

電気を流すことなく銅板にメッキを行い、加熱して合金を作製する。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第4回／第14回（10月22日）：実験「セッケンの合成・セッケン膜の性質」

セッケンの作製とその性質に関連する実験を行う。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の観察結果からセッケンの合成・特徴・性質などについて評価小レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第5回／第14回（10月29日）：実験「交通信号反応」

試験管を振ることにより色が変わる物質を使った実験を行う。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第6回／第14回（11月12日）：実験「フォトクロミズム」「有機蛍光体の合成」

紫外光照射によって色が変わる物質を使った実験と蛍光物質の合成と蛍光を観察する実験を行う。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第7回／第14回（11月19日）：実験「振動反応」

いくつかの反応を組み合わせて、周期的に色が変わる実験を行う。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第8回／第14回（11月26日）：実験「香料の合成」

エステルと総称される化合物のうち、3種類(酢酸プロピル、酢酸イソアミル、酪酸エチル)の香料を作製する。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第9回／第14回（12月3日）：実験「サーモクロミズム錯体の合成」

温度によって色が変わる物質を使った実験を行う。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第10回／第14回（12月10日）：実験「マイクロカプセル」

さまざまなマイクロカプセルを作製する。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第11回／第14回（12月17日）：実験「使い捨てカイロのしくみ」

市販の使い捨てカイロの発熱に利用されている鉄の酸化反応について、その温度や反応速度(持続時間)に関する実験を行う。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の測定結果から、鉄の酸化反応の温度や持続時間を変化させる条件などについて、評価小レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第12回／第14回（1月7日）：実験「尿素樹脂の合成」「ナイロン6・6の合成」「光硬化性樹脂」

尿素樹脂、ナイロン6・6の合成と光(可視光線～赤外線)の照射で硬化する樹脂を作製する。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。【事後学修】行った実験の観察結果を通常レポート(指定用紙)にまとめて次回授業時に提出すること。

第13回／第14回（1月14日）：最終まとめ（講義）

これまでの実験に関連した話題や実験の背景に関連するしくみなどの講義を受ける。
【事前学修】これまでの行った実験テーマ(項目)で興味のあるものを選んでおくこと。【事後学修】選んだ実験項目について、期末レポート(A4レポート用紙)にまとめて次回授業時までに提出する。

第14回／第14回（1月21日）：期末レポート提出

これまでに未提出となっている通常レポートや評価小レポートに加えて、この科目のまとめとなる期末レポートの提出を行う。
【事前学修】提出するレポートの準備を行うこと。【事後学修】興味を持った内容について、今後のために調べてみる。

――――――――――

【注意事項】
※1　上記は予定である。実験テーマ(項目)は準備の都合により順序の入れ替え、変更を行う場合がある。

※2　実験テーマにより実験所用時間はまちまちである。そのため、最初に講義を行うことがある。(15分程度)

※3　授業中に行う実験は、二人一組で行い、第2回授業時の実験で基本的な操作の確認を行う。そのため実験操作に不慣れなことを気にする必要はない。ただし、実験室内での説明は安全のためにしっかり聞くこと。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　化学の考え方・身近な化学への招待(発展) 指導書：グローバルエデュケーションセンター 自然科学部門 化学実験室編

※ 第1回授業時に配布する。店頭販売はしていないので注意すること。

参考文献：
1. 左巻健男 編著, ブルーバックス「新しい高校化学の教科書」, 講談社 (2006).
2. 数研出版編集部 (編),「改訂版　視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録」, 数研出版 (2024).
3. 浜島書店編集部 (編),「二訂版 ニューステージ 化学図表　化学基礎＋化学 対応」, 浜島書店 (2023).
4. 実教出版編修部 (編),「サイエンスビュー　化学総合資料」, 実教出版 (2024).
5. 渡辺正, 北條博彦 共著, 大人のための科学「高校で教わりたかった化学」, 日本評論社 (2008).
6. 上野景平 著,「S高校化学クラブ日記」, 化学同人 (1994).
7. 日本化学会 編,「身近な現象の化学」, 培風館 (1978).
8. 日本化学会 編,「台所の化学 (身近な現象の化学)」, 培風館 (1989).
9. 日本化学会 編, ブルーバックス「化学・意表を突かれる身近な疑問」, 講談社 (2001).

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	50	通常レポート(10通)、評価小レポート(2通)、期末レポート(1通)の3種類のレポートを予定している 。
平常点評価:	50	講義や実験での授業(実験)態度など。遅刻は減点の対象となる。15分以上の遅刻(実験の操作説明終了後)は欠席扱いとする。特に実験室での説明・注意点を理解せずに実験を行おうとする場合は、本人や周囲の人間を危険にさらすことになるため、減点したり・安全のために実験を一旦中止することがある。

備考・関連URL:　第1回授業時に本講義で行う実験指導書を配布し、ガイダンスを行う。第2回目に今後の実験を安全に行うための基本操作として、実験「雪が降る！？」を行う。以後ほぼ毎回実験を行い、行った実験についての簡単なレポートの提出を課する。

〇安全管理上、受講者数には上限を設定している(上限受講者数は状況により調整している)。
〇上限受講者数を超えた申し込みに対しては抽選により決定するが、「単位取得のみを目的とする学生」や「実験のみを行い、実験結果について考える姿勢のない学生」は受講しないこと。
〇実験実習を中心とするので、7割以上の出席と7割以上のレポート提出が必要である(提出困難な学生は受講しないこと)。［困難な理由(就職活動などは不可)がある場合は直接相談のこと］
〇提出されたレポートはコメントなどを付けて返却する予定である。
〇資料などの配布や補足に Waseda Moodle を使うことがある。

この講義は自分自身で理解度を上げていく努力が重要である。無茶は禁物だができる範囲で積極的に取り組んでほしい。

※ この科目は、基幹・創造・先進理工学部学生および教育学部理学科学生は履修できません。
※ 商学部「化学探究B1」の単位修得者は登録することができません。また、商学部「化学の考え方1」と本科目を同時に申請した場合、一方の科目はエラーとなり登録されません。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S08030011|02|9S08030011[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	身近な化学への招待（発展）　02		
担 当 教 員	大坂　直樹		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

われわれの日常生活には数多くの物質が引き起こす現象や事柄を利用したものがあふれている。化学は“物質”を扱う学問であるので、われわれの生活と深いかかわりをもっている。
本講義では、各自が実際に簡単な実験を行い、化学現象を観察することで、まず身近な化学を実感してもらう。つぎにその観察結果とその現象の理論的な説明(理屈やしくみ)との共通点・相違点などを比較、検討する。これにより身の回りで起こる現象に対して、より深く観察・思考できるようになると期待される。

※　本授業は、全回対面形式で実施します。
※※　科目名に「発展」とありますが、「導入」の科目を受けていなければ理解できないということはありません。実験操作や現象の観察は問題なくできます。

授業の到達目標:

受験のための知識を中心とした暗記する化学を脱却して、科学本来のなぜ？どうして？から始まり、考え、理解する「思考する化学」の素養を身につけることを目標とする。14テーマ(項目)の実験を予定しているが、理解度は各実験テーマごとに違っていて構わない。この講義を通して、理論(理屈やしくみ)と実際に行った実験結果との共通点・相違点を実感できるようになる。また、行った実験で観察した現象や事柄がより深く理解できるようになる。

事前・事後学習の内容:

各学生諸君の現時点での知識や理解度によって予習復習の時間は異なる。実験実習の安全上、次回行う実験の「概要」、「器具」、「試薬」と「操作」について、予習として最低限20分程度はテキストの該当箇所に目を通すこと。余力があれば参考文献などで下調べを行うこと（下記1）。実験終了後に実験結果をまとめて、その原因や本質について考える（下記2）。行った実験に共通する現象や事柄を調べてみる（下記3）。受講にあたっては以下のような態度を奨励する。

1. 次回行う実験の予習を行う(指導書や参考文献を読むだけでよい)
2. 実験を行って、得られた結果や分った事柄をまとめる(レポート)
3. 行った実験に共通する現象や事柄を調べてみる(今後のために)

とにかく肩肘を張らずに受講してほしい。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回

第1回／第14回（10月2日）：ガイダンス
ガイダンス(本講義の概要と評価方法などの説明、実験における安全性についての説明)を受ける。
【事前学修】シラバスを読んでおくこと。
【事後学修】配布された指導書の該当ページを読み返しておくこと。

第2回

第2回／第14回（10月9日）：実験「雪が降る！？」
実験操作に基本的な操作の多い、実験「雪が降る！？」を実験室の使い方の説明を受けながら行う。この実験では特徴的な再結晶の様子が観察できる。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。
【事後学修】行った実験の観察結果を「通常レポート(指定用紙)」にまとめて次回授業時に提出すること。

第3回

第3回／第14回（10月16日）：実験「無電解メッキと合金」
電気を流すことなく銅板にメッキを行い、加熱して合金を作製する。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。
【事後学修】行った実験の観察結果を「通常レポート(指定用紙)」にまとめて次回授業時に提出すること。

第4回

第4回／第14回（10月23日）：実験「セッケンの合成・セッケン膜の性質」
セッケンの作製とその性質に関連する実験を行う。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。
【事後学修】行った実験の観察結果からセッケンの合成・特徴・性質などについて「評価小レポート(指定用紙)」にまとめて次回授業時に提出すること。

第5回

第5回／第14回（10月30日）：実験「交通信号反応」
試験管を振ることにより色が変わる物質を使った実験を行う。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。
【事後学修】行った実験の観察結果を「通常レポート(指定用紙)」にまとめて次回授業時に提出すること。

第6回

第6回／第14回（11月13日）：実験「フォトクロミズム」「有機蛍光体の合成」
紫外光照射によって色が変わる物質を使った実験と蛍光物質の合成と蛍光を観察する実験を行う。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。
【事後学修】行った実験の観察結果を「通常レポート(指定用紙)」にまとめて次回授業時に提出すること。

第7回

第7回／第14回（11月20日）：実験「振動反応」
いくつかの反応を組み合わせて、周期的に色が変わる実験を行う。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。
【事後学修】行った実験の観察結果を「通常レポート(指定用紙)」にまとめて次回授業時に提出すること。

第8回

第8回／第14回（11月27日）：実験「香料の合成」
エステルと総称される化合物のうち、3種類(酢酸プロピル、酢酸イソアミル、酪酸エチル)の香料を作製する。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。
【事後学修】行った実験の観察結果を「通常レポート(指定用紙)」にまとめて次回授業時に提出すること。

第9回

第9回／第14回（12月4日）：実験「サーモクロミズム錯体の合成」
温度によって色が変わる物質を使った実験を行う。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。
【事後学修】行った実験の観察結果を「通常レポート(指定用紙)」にまとめて次回授業時に提出すること。

第10回

第10回／第14回（12月11日）：実験「マイクロカプセル」
さまざまなマイクロカプセルを作製する。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。
【事後学修】行った実験の観察結果を「通常レポート(指定用紙)」にまとめて次回授業時に提出すること。

第11回

第11回／第14回（12月18日）：実験「使い捨てカイロのしくみ」
市販の使い捨てカイロの発熱に利用されている鉄の酸化反応について、その温度や反応速度(持続時間)に関する実験を行う。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。
【事後学修】行った実験の測定結果から、鉄の酸化反応の温度や持続時間を変化させる条件などについて、「評価小レポート(指定用紙)」にまとめて次回授業時に提出すること。

第12回

第12回／第14回（1月8日）：実験「尿素樹脂の合成」「ナイロン6・6の合成」「光硬化性樹脂」
尿素樹脂、ナイロン6・6の合成と光(可視光線～赤外線)の照射で硬化する樹脂を作製する。
【事前学修】指導書の該当する実験テーマ(項目)の「概要」・「器具」・「試薬」・「操作」を読んでおくこと。
【事後学修】行った実験の観察結果を「通常レポート(指定用紙)」にまとめて次回授業時に提出すること。

第13回

第13回／第14回（1月15日）：最終まとめ（講義）
これまでの実験に関連した話題や実験の背景に関連するしくみなどの講義を受ける。
【事前学修】これまでの行った実験テーマ(項目)で興味のあるものを選んでおくこと。
【事後学修】選んだ実験項目について、期末レポート(A4レポート用紙)にまとめて次回授業時までに提出する。

第14回

第14回／第14回（1月22日）：期末レポート提出
これまでに未提出となっている通常レポートや評価小レポートに加えて、この科目のまとめとなる期末レポートの提出を行う。
【事前学修】提出するレポートの準備を行うこと。
【事後学修】興味を持った内容について、今後のために調べてみる。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 身近な化学への招待(発展) 指導書：グローバルエデュケーションセンター 自然科学部門 化学実験室編

※ 第1回授業時に配布する。店頭販売はしていないので注意すること。

参考文献:

1. 左巻健男 編著, ブルーバックス「新しい高校化学の教科書」, 講談社 (2006).
2. 数研出版編集部 (編),「改訂版　視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録」, 数研出版 (2024).
3. 浜島書店編集部 (編),「二訂版 ニューステージ 化学図表　化学基礎＋化学 対応」, 浜島書店 (2023).
4. 実教出版編修部 (編),「サイエンスビュー　化学総合資料」, 実教出版 (2024).
5. 渡辺正, 北條博彦 共著, 大人のための科学「高校で教わりたかった化学」, 日本評論社 (2008).
6. 上野景平 著,「S高校化学クラブ日記」, 化学同人 (1994).
7. 日本化学会 編,「身近な現象の化学」, 培風館 (1978).
8. 日本化学会 編,「台所の化学 (身近な現象の化学)」, 培風館 (1989).
9. 日本化学会 編, ブルーバックス「化学・意表を突かれる身近な疑問」, 講談社 (2001).

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 50　通常レポート(10通)、評価小レポート(2通)、期末レポート(1通)の3種類のレポートを予定している 。

平常点評価: 50　講義や実験での授業(実験)態度など。遅刻は減点の対象となる。15分以上の遅刻(実験の操作説明終了後)は欠席扱いとする。特に実験室での説明・注意点を理解せずに実験を行おうとする場合は、本人や周囲の人間を危険にさらすことになるため、減点したり・安全のために実験を一旦中止することがある。

備考・関連URL: 第1回授業時に本講義で行う実験指導書を配布し、ガイダンスを行う。第2回目に今後の実験を安全に行うための基本操作として、実験「雪が降る！？」を行う。以後ほぼ毎回実験を行い、行った実験についての簡単なレポートの提出を課する。

〇安全管理上、受講者数には上限を設定している(上限受講者数は状況により調整している)。
〇上限受講者数を超えた申し込みに対しては抽選により決定するが、「単位取得のみを目的とする学生」や「実験のみを行い、実験結果について考える姿勢のない学生」は受講しないこと。
〇実験実習を中心とするので、7割以上の出席と7割以上のレポート提出が必要である(提出困難な学生は受講しないこと)。［困難な理由(就職活動などは不可)がある場合は直接相談のこと］
〇提出されたレポートはコメントなどを付けて返却する予定である。
〇資料などの配布や補足に Waseda Moodle を使うことがある。

この講義は自分自身で理解度を上げていく努力が重要である。無茶は禁物だができる範囲で積極的に取り組んでほしい。

【注意事項】
※1　上記は予定である。実験テーマ(項目)は準備の都合により順序の入れ替え、変更を行う場合がある。

※2　実験テーマにより実験所用時間はまちまちである。そのため、最初に講義を行うことがある。(15分程度)

※3　授業中に行う実験は、二人一組で行い、第2回授業時の実験で基本的な操作の確認を行う。そのため実験操作に不慣れなことを気にする必要はない。ただし、実験室内での説明は安全のためにしっかり聞くこと。

※4　この科目は、基幹・創造・先進理工学部学生および教育学部理学科学生は履修できません。

※5　商学部「化学探究B1」の単位修得者は登録することができません。また、商学部「化学の考え方1」と本科目を同時に申請した場合、一方の科目はエラーとなり登録されません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S08030013|01|9S08030013[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	生物と環境		
担 当 教 員	吉竹 晋平		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 生物は自身の周辺の環境から影響を受けると同時に、周辺環境を改変するという作用を持っている。
生態学はこの生物と環境の間の相互作用を対象として、実際の自然の中での生物の生き様をより深く理解することを目的として発展してきた。
今日問題となっている様々な環境問題も、我々人間の活動が地球環境を大きく変化させ、その影響が人間を含む生態系の機能や構造に及んでいると考えることができる。

本講義の前半では、生態系におけるさまざまな物質の循環過程に関する基礎概念を述べる。
特に温室効果ガスによる気候変動との関連性が高い炭素の循環過程についてやや詳しく説明する。
講義後半では、生物や環境に関する屋外測定・実験や簡単な室内実験等を行うことで、生物と環境の相互作用についての理解を深める。

本講義は原則として対面での実施を予定しているが、状況によってはオンライン（Moodleでのオンデマンド方式）に切り替わり可能性がある（事前にMoodle経由でアナウンスする）。

授業の到達目標: ・生態系における物質循環について基礎的な知識を身につける
・気候変動と炭素循環の関係についての理解を深める
・生態学における野外調査法や測定法を理解するとともに、生物とその周辺の環境との関係性を理解する

事前・事後学習の内容: 事前学習:
生態系の概念について事前に調べ、おおまかなイメージをつかむ。
高校生物の光合成や呼吸、生態系などの分野を復習しておくと講義の理解に役立つ。

事後学習:
実習で得られたデータをエクセルを用いて集計・解析し、グラフ・表などを作成して可視化する。
自分の班のデータだけでなく、他班の実験結果も合わせて考察を行い、レポートを作成する。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 本講義は対面実施を基本としますが、新型コロナウイルスの感染状況を受けて対面での実施が困難な場合にはオンデマンド授業での実施となります。

2026年8月19日（水） 1～5限
2026年8月20日（木） 1～5限
2026年8月21日（金） 1～4限

＜講義＞

・本講義のためのガイダンス・生態学の概念について
・生態系の機能と構造
・生態系における水循環
・生態系における炭素循環
・生態系における窒素循環
・さまざまな生態系における炭素循環の実態
＜実験・実習＞
・生態学におけるフィールドワークの実際（ガイダンス）
・光・温度環境の計測
・植物群落の光合成速度の測定と環境要因との関係
・植物群落の炭素収支
・土壌環境の計測
・土壌試料の採取
・微生物呼吸速度の測定と環境要因との関係・データ処理と解析

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特になし

参考文献: 適宜指示する

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	50	実験結果についてのレポートを課し、その内容について評価する。
平常点評価:	50	出席状況と授業・実習に参加する態度等を総合的に評価する。

備考・関連URL: 本講義ではデータ収集や解析など、自然科学のごく基礎的な部分を扱います。
GEC科目ですので、普段そういういったことになじみが無い文系の学生さんが履修することを想定しています。
定員が限られているので、所属学部において高度、専門的な実習・講義を受ける機会がある理系学部の学生さんの履修は配慮をお願いします。

授業実施期間：2026年 8月19日～8月21日
8月19日（水） 1限～5限
8月20日（木） 1限～5限
8月21日（金） 1限～4限

当日使用した講義・実験資料やデータ等については、講義後に必要に応じてMoodle上で共有する予定です。
簡単な野外実験・測定を早稲田キャンパス内で行う予定なので、動きやすい服装で参加してください。
自分たちで取ったデータをもとに全員でデータ解析やディスカッションを行い、その内容をもとに各自がレポートを作成・提出します。

例年、学生授業アンケートの結果を踏まえて講義の進行スタイルを改善しています。
所属学部、学年等を混合した少人数グループに分け、学生同士のコミュニケーションをとってもらいながら実習およびその後のディスカッションを進める形になりました。
また、各グループに配置された高度授業TAが、実習やディスカッションのサポートを行います。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S08030019|01|9S08030019[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	身近な物理		
担 当 教 員	伊藤　悦朗		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　すべての現象が物理法則によって支配されており、たとえそれが人間の営みであっても、その支配から逃げることはできない。もちろん、我々はそのことを恐れる必要はなく、人間はこれまでに物理法則の理解に努め、かつ上手にそれをコントロールして、豊かな生活を送ることに成功している。様々な装置を使い物理学の基礎を実験したのちに、平易な電子回路工作（ライントレースカー）を通じて物理を身近に感じていただく。なお、全回対面での授業となる。

授業日程：
8月18日（火）1～4時限　6号館101室
8月19日（水）1～4時限　6号館101室
8月20日（木）1～4時限　6号館101室
8月21日（金）3・4時限（競技会）この日の1・2時限目は授業自体は無いが、3・4時限目の競技会のために各自で準備をするために使われる）

授業の到達目標：　物理法則を理解し、安全に物理実験ができるようになる。また、基礎実験と電子回路工作を通じて、いかに人間がそれらをコントロールし利用しているかを理解する。

事前・事後学習の内容：　なし

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
・実験ガイダンス
第2回
・Excel演習
第3回
・固体の熱膨張
第4回
・ガラスの屈折率とレンズの曲率半径
第5回
・オシロスコープ
第6回
・電子回路の基礎1
第7回
・電子回路の基礎2
第8回
・電子回路製作1
第9回
・電子回路製作2
第10回
・電子回路製作3
第11回
・電子回路製作4
第12回
・電子回路製作5

第13回
・競技会
第14回
・競技会

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: Waseda Moodleで電子ファイルを配布する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 40 授業への出欠状況や態度を評価します。

その他: 60 データシート、競技会の結果。

備考・関連URL: <履修について>
教育学部理学科の学生は、物理学実験ⅠとⅡを履修していない場合は履修可とする。
基幹・創造・先進理工学部の学生は履修不可とする。
受講者の定員は20名とします（授業ではTAの指導補助が付きます）。

<その他>
費用：なし
持ち物：実験データを入力するために各自でMicrosoft Excel（無料）がインストールされたノートパソコンを持参してください（インストール方法などはMoodleで指示します）。
ライントレースカー：赤外線センサーを用いて黒い線を検出し、その情報に基づいてモーターを制御することで動走行する車です。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S08030020|01|9S08030020[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	身近な物理（入門）		
担 当 教 員	伊藤　悦朗		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　すべての現象が物理法則によって支配されており、たとえそれが人間の営みであっても、その支配から逃げることはできない。もちろん、我々はそのことを恐れる必要はなく、人間はこれまでに物理法則の理解に努め、かつ上手にそれをコントロールして、豊かな生活を送ることに成功している。大学の設備を利用した物理実験を中心に、２日目には国立科学博物館（上野）の体験型展示を通じて、身近にある物理現象を体感する。なお、全回対面での授業となる。

授業の到達目標：　物理法則を理解し、安全に物理実験ができるようになる。また実験とフィールドワークを通じて、いかに人間がそれらをコントロールし利用しているかを理解する。

事前・事後学習の内容：　なし

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　授業日程：
7月30日（木）1～4時限　６号館１０１室
7月31日（金）1～4時限　国立科学博物館演習
8月3日（月）1～4時限　６号館１０１室
8月4日（火）3・4時限（この日の1・2時限目は授業自体は無いが、3・4時限目のプレゼンテーションのために各自で準備をするために使われる）

授業計画：
＜1日目＞
第1回：実験ガイダンス
第2回：Excel入門
第3回：放射線を測る
第4回：偏光の仕組み

＜2日目＞
1日目で実施した実験を科学博物館で復習をする。また体験コーナーを使い物理現象を理解し、展示物の装置を確認し翌日実施する実験の基礎を身につける。
第5回：国立科学博物館（上野）フィールドワーク
第6回：国立科学博物館（上野）フィールドワーク
第7回：国立科学博物館（上野）フィールドワーク
第8回：国立科学博物館（上野）フィールドワーク

＜3日目＞
博物館の展示物を大学の設備を使い実証実験を行い物理学を習得する。以下の実験は一例であるが詳細は実験ガイダンスで説明する。
第9回　：地球の磁場をはかる
第10回：電気抵抗の温度変化
第11回：光を分解する
第12回：AMラジオの仕組み

＜4日目＞
第13回：口頭発表
第14回：口頭発表

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書：　Waseda Moodleで電子ファイルを配布する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 40 授業への出席状況や態度を評価します。

その他: 60 データシートの提出及び最終日に実験した一つの項目について口頭発表（プレゼンテーション）を行う。

備考・関連URL: <履修について>
教育学部理学科の学生は、物理学実験ⅠとⅡを履修していない場合は履修可とする。
基幹・創造・先進理工学部の学生は履修不可とする。
受講者の定員は20名とします（授業ではTAの指導補助が付きます）。

<その他>
上野にある国立科学博物館の入場料は学生証の提示で無料です。
自宅から科学博物館までの交通費は各自で支払いをお願いします。
持ち物：実験データを入力するために各自でMicrosoft Excel（無料）がインストールされたノートパソコンを持参してください（インストール方法などはMoodleで指示します）。

＜重要＞
本科目では、上野にある国立科学博物館を訪問します。
訪問にあたり、「国内実習参加誓約書」の提出が必要となります。
科目登録後に、Moodleより当該ファイルをダウンロードし、印刷、記入、捺印の上、紙媒体で提出してください。
提出場所：早稲田キャンパス 6号館3階 307室 教育学部理学科・GEC 共通事務室窓口
提出期限：2026年6月30日（火）17:00まで
＊事務室開室時間 月～金 9:00～17:00
なお、誓約書には保護者等の直筆署名、捺印が必要な記入欄があります。
保護者等が遠方にお住いの方は、余裕をもって計画的に準備してください。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010007|01|9S09010007[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	アイスランドの文化と言語（入門）		
担 当 教 員	森田　彰@宮城　学		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	文・社会科学科目（歴史・文化（西欧・中東編	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　アイスランドとその文化、言語の姿を知る

授業概要:　本講座はアイスランド共和国の協力に基づいて開設されるアイスランド共和国提携講座です。そして、本講座は、設置センターのディプロマ・ポリシーである「グローバルな視点で問題解決に貢献できる人間力・洞察力」を学生に身に着けてもらう、その道の一つとして設けられているものです。
北の端が北極圏に接する大西洋の孤島アイスランドは、近くに大きな漁場を持つものの、それ以外の資源には恵まれず、いたるところに火山や氷河があり、決して住みやすい国ではありません。しかしこの島の住民は、与えられた条件を生かし、現在も環境と調和して豊かに生きています。自然と共に生きるアイスランド人の生き方は、私たちに大きな教訓を与えるでしょう。
また、北欧神話が息づき、長い民主主義の伝統を誇る国アイスランドは、今日でも古風な言語と文化を豊かに保持している稀有な存在であり、人類の文化に対する貢献の大きさは計り知れません。過去の偉大な文化遺産もさることながら、アイスランド出身の芸術家たちの活動は、現在、世界中の若者の支持を受けています。また、小国の経済活動を考える上でも貴重な研究対象と言えるでしょう。アイスランドは、その重要性に比して、アイスランドは日本では知られることの少ない国の1つです。
本講座は、アイスランドの中世と現代の文化を初心者に紹介するために設置され、この国の世界文化における地位の確認と、文化理解に必須のアイスランド語教育（初級者向け）をその内容とします。アイスランド語は、中世からその変化が少なく、言語文化の伝統を保っています。従って、中世、近・現代、いずれにおけるアイスランドの姿も同時に学ぶ事ができるのです。本講座受講者は、アイスランド人の知恵を学ぶばかりでなく、ヨーロッパ文化を真に理解するための指針を得るはずです。
また、「アイスランドの文化と言語（入門）」では、アイスランド語のみならず、アイスランドの誇る文化的伝統、ヴァイキングの活動、他のゲルマン諸語との関係などについても学びます。授業計画はあくまで予定です。語学演習が中心となりますが、皆さんが楽しく学習できるように工夫しようと考えています。また、アイスランドの諸情報に関するゲストスピーカーも予定しています。また、本年度もアイスランドからの講演者も予定しています。

授業の到達目標:　センターの教育目標を踏まえつつ本講座では特に:
・アイスランドの伝統的文化を前提とした、現代アイスランド語の入門的知識が身に着く。
・アイスランド人の言語への態度から、アイスランドという国の成り立ちと姿が理解できる。
・ヨーロッパにおけるアイスランド、アイスランド人、アイスランド語の位置と価値が理解できる。
ことを目標にしています。

事前・事後学習の内容:　外国語の習得には、特に毎回の復習、準備が欠かせません。講座内容の整理、覚えるべき事項など、毎回60分以上の時間が必要でしょう。講義として聞き流すことのないようにしてください。また、文化等の講座に関しては事前準備は特にいりませんが、講座後に必ずまとめをしてください。

授業計画フリー入力サイン:　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション（アイスランドの文化と言語を学ぶ意義） 担当：宮城・森田（以下、特記なき場合は、宮城が担当）

第2回
中世のアイスランドの姿

第3回
ヨーロッパの言語でも特異な文法・語彙を持つ言語の姿を以下で丁寧に学んでいきます。語学演習1―人称代名詞やvera（英語のbe動詞）の人称変化。

第4回
語学演習2―名詞の性と定冠詞。「私の～」の言い方。

第5回
講義：ゲルマン語（とインド・ヨーロッパ語）におけるアイスランド語の位置、特に英語と関係について講義を行う予定です（森田・宮城）。

第6回
語学演習3—一般動詞の人称変化。
第7回
語学演習4—前半のまとめ。人や物を紹介する。
第8回
語学演習5—名詞の格について。中性名詞の格変化。
第9回
語学演習6—前置詞の基本。
第10回
講義：ヴァイキング活動とアイスランドに関する講義を予定しています。なお、内容により2回に亘る場合もあります。（森田・宮城）また、2回になった場合は、そのうちの1回はゲスト・スピーカを依頼する場合があります。
第11回
語学演習7—女性名詞の格変化。「～語を話す」の言い方。
第12回
語学演習8—二つの格をとる前置詞。「～がある」の言い方。
第13回
語学演習9—男性名詞の格変化。
第14回
全体のまとめと到達度の確認

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特にありません。授業中に講師自作のプリント配布するので、整理し、毎回持参してください。

参考文献：　授業中に指示します。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　60　語学テスト・小テスト等により理解度を評価します。聞き取りがあったり、発話を求められる場合もあります。

平常点評価：　40　評価の基本になるのは、やはり出席です。語学は積み重ねが必要です。無理のない進度ですので、出席して積極的に授業に参加してください。出席しなければ、授業で行われる個人、ペア、グループなどによる活動にも参加できません。講義の文化的内容の部分も、アイスランドの全体的理解に必要です。こちらにも積極的に参加してください。また、文化に関する講義への積極的な参加も評価されます。

備考・関連URL：　・本講座は、アイスランド共和国の格別のご厚意により設置されている、他校に類を見ない貴重な講座です。受講者はその点を十分理解して、授業に臨んでください。
・諸般の事情により、講義日程が動く場合があります。Moodle は、常にチェックするようにしてください。
・講義（授業）の内容以外の質問およびその解答は、原則Moodle を通して行いますが、詳細はオリエンテーションで指示します。・授業内容に関する質問は、授業中にしてください。それが、授業への参加の一つの形でもあります。
・森田（場合によりゲスト・スピーカ）の講義の日程は、開講後調整します。
・本講座は、外国語講座なので、基本的に毎回、発話、発言の機会があります。グループによる活動も含みます。
・早稲田ウィークリーに学生による講座の紹介があります。
https://www.waseda.jp/inst/weekly/news/2022/12/08/103202/

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010008|01|9S09010008[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	アイスランドの文化と言語（初歩）		
担 当 教 員	森田　彰@宮城　学		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	文・社会科学科目（歴史・文化（西欧・中東編	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　アイスランドの文化と言語について理解を深める。

授業概要：　本講座は、春学期設置の「アイスランドの文化と言語（入門）」の単位取得者あるいはそれと同程度（以上）の知識を持つ諸君を対象とします。アイスランド語のさらなる勉強に加えて、アイスランドに残された文化遺産（神話）について学びます。また、アイスランド、アイスランド文化等に関する情報収集の方法についても触れる予定です。
アイスランドを学ぶ意味については、「アイスランドの文化と言語（入門）」の授業概要をご覧ください。全般について、春学期のシラバスを読んでおいてください。

授業の到達目標：　本講座は、設置センターの学生に「グローバルな視点で問題解決に貢献できる人間力・洞察力」を身に着けてもらう、その道の一つとして設けられています。その中で、本講座では特に：
・春学期の成果を更に充実させ、より良い理解につなげられる。
・アイスランドの伝統的文化を前提とし、アイスランドでの日常生活に必要な表現ができるようになる。
・言語の学習を通じて過去と現代のアイスランドの文化のエッセンスに触れる。
・アイスランドに関する様々な情報を収集する手掛かりが得られる。
ことを目標にしています。

事前・事後学習の内容：　外国語の学習に関しては、特に復習が大切です。学んだ事を確実に定着させるには、各自がきちんと復習をし、場合によっては次回に質問をする準備をしてください。各回、60分程度は掛かると思われます。また、アイスランドから発信されるネットによる情報など、積極的にアイスランド語に触れる努力をしてください。文化等に関する講義の後は、必ずそのまとめを行ってください。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：オリエンテーション（本講義の目的と概要）
アイスランド語基礎知識の確認（春学期「アイスランドの文化と言語（入門）」で学んだ語学的知識の復習）
春学期からの履修継続を想定していますが、秋学期のみ履修の学生は、必ず出席してください。

第2回
語学演習1（所有代名詞などの格変化）

第3回
語学演習2（様々な動詞）

第4回
語学演習3（基礎的なテキストの購読1）このころアイスランドからの講師を予定（先方の都合で変更の可能性もあります）

第5回
語学演習4（名詞の複数形1）

第6回
語学演習5（名詞の複数形2）

第7回
語学演習6（名詞の複数形3）

第8回
語学演習7（人称代名詞について）

第9回
語学演習8（テキストの購読2）

第10回
ゲストスピーカーによる講義（内容は、アイスランドの諸情報のネットでの入手方法、また、そこにある情報の種類などを予定しています）

第11回
語学演習9（形容詞について1）

第12回
語学演習10（形容詞について2）
第13回
語学演習11（テキストの購読3）
第14回
全体のまとめと到達度の確認

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 授業中に講師自作のプリントを配布します。整理して毎回持参してください。

参考文献: 授業中に指示します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 60 「アイスランドの文化と言語（入門）」参照

平常点評価: 40 評価の基本になるのは、やはり出席です。語学は積み重ねが必要です。無理のない進度ですので、出席して積極的に授業に参加してください。出席しなければ、授業で行われる個人、ペア、グループなどによる活動にも参加できません。講義の文化的内容の部分も、アイスランドの全体的理解に必要です。こちらにも積極的に参加してください。また、文化に関する講義への積極的な参加も評価されます。

備考・関連URL: ・諸般の事情により、講義日程が動く場合があります。Moodle は、常にチェックするようにしてください。
・講義（授業）の内容以外の質問およびその解答は、原則Moodle を通して行いますが、詳細はオリエンテーションで指示します。
・授業内容に関する質問は、授業中にしてください。それが、授業への参加の一つの形でもあります。
・ゲスト・スピーカの講義の日程は、開講後調整します。
・本講座の主任講師は、宮城学ですが、全般のコーディネイトは、森田（商学部）が行います。
・本講座は、外国語講座なので、基本的に毎回、発話、発言の機会があります。グループによる活動も含みます。
・早稲田ウィークリーに学生による講座の紹介があります。
https://www.waseda.jp/inst/weekly/news/2022/12/08/103202/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010011|01|9S09010011[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	アセット・マネジメント（資産運用）の世界		
担 当 教 員	竹原 均@渡辺 信一@田倉 達彦		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月２時限@02:木２時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（経営・経済・金融）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: アセットマネジメント・ビジネスの最先端に立つ実務家や研究者を講師に迎え、資産運用の世界を概観する。資産運用の機能や社会的位置付けを踏まえつつ、金融資本市場の現状、法制度など、その取り巻く環境、資産運用における投資手法や経済記事の読み方からアセットマネジメント・ビジネスの実態に至るまで幅広く学ぶ。特に、重要な概念である「リターンとリスク」についての正しい認識をもち、資産運用についての理解を深める。人生100年時代と言われるなかで、資産運用についての基礎的・実践的な知識を持つことは資産形成について正しい知識を持つ機会になる。
なお本講座は、一般社団法人 資産運用業協会の協力に基づいて開設されている。

（コーディネーター・担当教員）
大学院経営管理研究科 竹原 均 教授
（担当教員）
東京国際大学商学部 渡辺 信一 教授
㈱つかさ長期投資研究所 代表 田倉竜彦氏

授業の到達目標: アセットマネジメントに必要とされる知識や能力、行動規律などを学び、資産運用ビジネスの社会的使命と役割について理解する。

事前・事後学習の内容: 小テストで確認

授業計画フリー入力サイン: 2：講義回毎フォーマット（教員による切替不可）

授業計画:

11月23日：オリエンテーション投資資産（株式・債券）のリスクとリターン
担当教員：竹原、渡辺
〇講義の概要、評価基準、講義の聞き所
〇株式・債券の特徴
〇マーケットの現状と運用スタイル、投資手法
〇株式･債券のリスク・リターン
〇ポートフォリオ構築の基本

11月26日@：アセット・アロケーションと分散投資
ゲストスピーカー：P-ALMキャピタル株式会社CIO 竹崎竜二 氏
担当教員：田倉
〇資本市場の動向
〇アセット・アロケーションの実務
〇分散投資の効用
〇リスクマネジメントの実務

11月30日@：投資信託
ゲストスピーカー：㈱国際社会経済研究所理事長 藤沢久美 氏
担当教員：竹原
〇投資信託（主に証券投資信託）の仕組み、特性、種類等
〇資産運用における投資信託活用のポイント

12月3日：不動産証券化と資産運用
ゲストスピーカー：野村不動産投資顧問㈱専務取締役 石郷岡弘 氏
担当教員：竹原
〇投資としての不動産の特性
〇J・REIT（不動産投資信託）の特徴
〇不動産証券化商品の基本構造

12月7日：株式市場の分析
担当教員：田倉、渡辺
〇株式市場分析のフレームワーク
〇企業価値分析の手法

12月10日：PE（プライベート・エクイティ）投資

ゲストスピーカー：ティーキャピタルパートナーズ㈱取締役社長マネージングパートナー　佐々木康二 氏
担当教員：渡辺
〇PE投資とは
〇意外に身近なPE投資案件
〇PEファンドの収益源泉と日常

12月14日：ETF(上場投資信託）

ゲストスピーカー：㈱東京証券取引所株式部長兼ETF推進部長　南出浩希 氏
担当教員：田倉
〇上場投資信託(ETF)の特徴、他の金融商品との比較
〇世界のETF市場概観
〇アクティブETFの上場

12月17日：ESG投資

ゲストスピーカー：㈱大和総研 フェロー兼エグゼクティブ･サステナビリティ･アドバイザー（元 GPIF ESG・スチュワードシップ推進部長）　塩村賢史 氏
担当教員：竹原
〇ESG投資とは
〇アセットオーナーの立場
〇ESG投資の投資手法と課題

12月21日：株主によるガバナンスと企業行動・企業価値

ゲストスピーカー：京都大学　客員教授　上田亮子 氏
担当教員：田倉
〇株主とコーポーレートガバナンス
〇ガバナンスが企業行動・企業価値に与える影響

1月7日：ヘッジファンド

ゲストスピーカー：㈱GCIアセット・マネジメント代表取締役CEO　山内英貴 氏
担当教員：田倉
〇ヘッジファンドの概要
〇代表的な運用手法、主なプレーヤー、グローバルな動向

1月14日：年金制度の動向

ゲストスピーカー：企業年金連合会常務理事兼運用執行理事　中村明弘 氏
担当教員：渡辺
〇日本の年金制度の概要と企業年金を取り巻く環境変化
〇年金の資産運用の実務（確定拠出企業年金と資産運用との関わり等）

1月18日：エコノミスト・ストラテジストの業務

ゲストスピーカー：アセットマネジメントOne㈱運用本部エグゼクティブエコノミスト　小出晃三 氏
担当教員：渡辺
〇マクロ経済分析の基本
〇投資対象（株式、債券等）のグローバル･マーケットの動向
〇国際分散投資の効用
〇エコノミスト・ストラテジストの業務

1月21日＠：日本の上場企業の評価

ゲストスピーカー：国際基督教大学理事長特別補佐・基金担当理事　新井亮一 氏
担当教員：竹原
〇上場企業の収益と株価の長期推移と対米比較
〇日本の組織構造と株式投資における企業分析の視点
〇株式市場の長期展望と資産形成における位置付け

1月25日：資産運用業の将来

ゲストスピーカー：資産運用業協会会長　菱田賀夫 氏
担当教員：竹原
〇資産運用業への社会的期待と取り組むべき課題
〇資産運用業の今後の展望

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　宇野純監修・日本投資顧問業協会編『アセットマネジメントの世界』東洋経済新報社（第2版）、2022.

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50　小テスト（授業毎）
出席カードにより授業への参加が確認できなかった講義回については、小テスト、感想文ともに原則として評価対象とはせず、最終評価時の参考資料とする。

レポート：　50　感想文（授業毎）
欠席のレポートによる代替は一切認めない。
出席カードにより授業への参加が確認できなかった講義回については、小テスト、感想文ともに原則として評価対象とはせず、最終評価時の参考資料とする。

授業中の学生による質疑応答を評価に加点することがある。

備考・関連URL:　一般社団法人 資産運用業協会　https://www.imaj.or.jp/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010014|01|9S09010014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	EU科学技術政策		
担 当 教 員	福田 八寿絵@朝日 透		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 欧州グリーンディールとデジタル変革（DX)によるイノベーション

授業概要: 本講義は、EU科学技術政策の歴史や決定の仕組み、科学技術政策の分析手法と評価、各専門分野別の国際共同研究の実施状況や研究者交流の取り組みについて紹介し、EUの先端科学研究を総合的に解説する。EUにおいて科学技術は、知識基盤型経済社会の構築を目指す「リスボン戦略」や「欧州研究圏（ERA）」創設によるイノベーション促進との関連できわめて重要視されている。EU科学技術政策の中心は、科学技術研究開発枠組み計画に基づいており、現在ホライズン2020が実施され始めている。科学技術研究は、環境問題、病気の克服、世界の貧困や飢餓など、地球規模の諸問題の解決に貢献できるが、社会や人間との関係を無視することは許されない。本講義は、EU国際公共政策研究の学際的な視点から、EU科学技術政策の全体像を体系的に分かり易く理解できるように設計したい。

授業の到達目標: EU国際公共政策研究の学際的な視点から、EU科学技術政策の全体像と日欧科学技術国際共同研究の在り方を理解する。

事前・事後学習の内容: 配布物がある場合は事前に毎回の講義資料、PPTを読み、理解しておくこと。
事後に、課題レポートを提出すること。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: [[第1回]「EU科学技術政策」（文理融合科目）の概要 （福田八寿絵）8/24・2限
[第2回] EU科学技術政策とSDGs地球規模課題対応 （福田八寿絵）8/24・3限

[第3回] SDGsと環境エネルギー技術－気候変動対策(福田八寿絵)8/24・4限

[第4回] EU科学技術とグリーン・デジタル・イノベーション(福田八寿絵)8/25・2限

[第5回] 情報社会のEU共同規制と金融・GAFA等企業(福田八寿絵)8/25・3限

[第6回] EU医療DX技術とサイバーセキュリティ（福田八寿絵)8/25・4限

[第7回] EU科学技術と少子高齢社会への欧州対応（福田八寿絵)8/26・2限

[第8回] 地域包括ケア・介護とEU時間銀行ガバナンス（福田八寿絵)8/26・3限

[第9回] 地域包括ケアとAI・ロボット技術の倫理規範 （福田八寿絵)8/26・4限

[第10回]科学技術政策とイノベーション （朝日 透)8/27・2限

[第11回]SDGs・第4次産業革命・Society5.0 1（朝日 透) 8/27・3限

[第12回]SDGs・第4次産業革命・Society5.0 2（朝日 透)8/27・4限

[第13回]社会イノベーションをどう引き起こすか（朝日 透)8/28・2限

[第14回]社会イノベーションの切っ掛けをつくる（朝日 透)8/28・3限

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: テキストは特に指定しないが、必要な参考資料や報告書等のURLを紹介する。

参考文献: 授業時に、最新の資料、参考文献を適宜紹介する。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 試験・レポートおよび原則として3分の2（10回）以上の出席による平常点評価

備考・関連URL:　8月24日　2－4時限
8月25日　2—4時限
8月26日　2－4時限
8月27日　2－4時限
8月28日　2－3時限

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010025|01|9S09010025[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	メンタルヘルスマネジメント概論		
担 当 教 員	堀 正士@岡 浩一朗@石井 香織@越川 房子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水５時限@02:金５時限	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: メンタルヘルスを健康に保つための知識を学ぶ

授業概要: 現在わが国では急激なストレス社会を迎え、個々人が自ら行うメンタルヘルスマネジメントが不可欠になっている。本学が進める「健康キャンパス構想」に基づき、学生が在学中だけではなく卒業後も自らの心身に関心を持ち健康を維持できるように、健康面と病理面の両面から様々なトピックを通して心身の健康に関する講義を行う。具体的には、学内外の多彩な講師陣に青年期のメンタルヘルスの向上に関する話題を提供していただき、心身医学や臨床心理学、精神医学などの様々な観点からメンタルヘルスに関するセルフマネジメント方略を学ぶ。

授業の到達目標: 心身医学や臨床心理学、精神医学などの様々な視点からメンタルヘルスマネジメントの重要性とその方策を理解し、学生自らが在学中から卒業後の将来にわたるまで、心身の健康を維持できるようになること。

事前・事後学習の内容: 事前に授業のレジュメをMoodle上に掲載するので、それをもとに予習をしてくることが望ましい。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第１回10月２日（金） オリエンテーション（オンデマンド）
堀 正士 （教育・総合科学学術院 教授）

第２回10月７日（水） アサーティブなコミュニケーション
岡 浩一朗 （スポーツ科学学術院 教授）

第３回10月９日（金） ストレス軽減テクニック（マインドフルネス認知療法）
越川 房子 （文学学術院 教授）

第４回10月１４日（水） 交流分析
満山 かおる（ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：一般社団法人アスファレス心理センター代表理事）

第５回10月１６日（金） 職場のメンタルヘルス
梅田 忠敬（ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：吉野聡産業医事務所 副代表）

第６回10月２１日（水） こころのスキルアップトレーニング（認知行動療法）
大野 裕 （ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：認知行動療法研修開発センター 理事長）

第７回10月２３日（金） 青年期の自殺とその予防
堀 正士 （教育・総合科学学術院 教授）

第８回10月２８日（水） 栄養とメンタルヘルス
功刀 浩 （ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：医療法人永寿会 恩方病院 院長）

第９回10月30日（金） 身体活動・座位行動とメンタルヘルス
石井 香織 （スポーツ科学学術院 教授）

第１０回11月４日（金） 睡眠とメンタルヘルス
治徳 大介（ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：東京医科歯科大学サイバー精神医学講座 准教授）

第１１回11月１１日（水） 酒とゲームと依存症
瀧村 剛 （ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：久里浜医療センター 非常勤医師）

第１２回11月１３日（金） 酒と社会とあなたの人生
瀧村 剛 （ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：久里浜医療センター 非常勤医師）

第１３回11月１８日（水） 睡眠の基礎
有竹 清夏（ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ：埼玉県立大学 教授）

第１４回11月２０日（金） 若者のこころの病～ここ最近の傾向から～
白鳥 裕貴 （ゲストスピーカー：筑波大学医学医療系 講師）

言語区分:	0	日本語　　Japanese
教科書:	特に指定しない。	
参考文献:	各講義で参考文献が示されることがある。	
成績評価フリー入力サイン:	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
レポート:	40	講義の中でもっとも印象に残った講義に関してのレポートを必ず提出してください（※ただし専任教員の講義が対象。ゲストスピーカーを除く。表紙を除いてA4用紙に2枚程度）。 なお、レポートのテーマは講義内容に関連するものであれば自由ですが、講義中担当講師によって示される場合もあるので注意してください。 評価は40点満点。
平常点評価:	60	初回講義（オンデマンド）を除いた全13回中、出席9回以上を必須とします。この場合出席点60点を付与。8回以下は原則出席点を与えないので十分注意してください（出席は毎回お配りするコメントペーパーにてカウントします。コメントペーパーには授業の感想や疑問点などどしどし記入してください）。 上記のレポート評価（40点満点）を加えて、計100点満点で成績評価をします。 なお、公欠（部活動の公式戦など）や病欠（感染症など）は出席と見なすこともありますので、しかるべき証明書を添えてティーチングアシスタントに申し出てください。
備考・関連URL:	・原則、初回オリエンテーションをのぞきすべて対面授業の予定です。（感染症流行状況により変更する場合もあります） ・学外招聘講師の先生を多数お招きします。くれぐれも私語などは慎むようお願いいたします。 ・毎年成績評価に関する質問を多数受けております。履修申請をするまえに、上記成績評価方法を熟読してください。 ・講師の先生方 のご都合により、講義日程が変更になることがあります。その都度Moodle上で周知しますので気をつけてください。 ・提出必須のレポートの提出期間は第14回講義終了日翌日（11月21日土曜日）から11月28日土曜日17時までの1週間です。提出場所は7号館ポータルオフィス内「メンタルヘルスマネジメント概論」レポートボックスになります。なお、毎年レポートの提出期限を過ぎて提出を求める学生がいますが、原則上記期限を過ぎたレポートは受け取らないので注意してください。また、レポートの対象講義は専任教員（岡、越川、石井、堀）の講義に限ります。例年間違いが多く見られますのでこれも注意してください。また、授業開始後20分を経過した以降は入室を認めません（出席カードを渡しません）のでくれぐれもご注意ください。また、持ち込んだコメントペーパーを使って回答することは厳に慎んでください。 詳細については、初回講義（10月2日）オンデマンドにて説明します。 必ず視聴してください。	

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010037|01|9S09010037[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	環境問題と持続可能な社会		
担 当 教 員	松岡　俊二		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　サステイナビリティとレジリエンスを考える

授業概要:　本講義は、1987年の国連・ブルントラント報告の提起した「持続可能な発展（Sustainable Development）」から、1995年の阪神淡路大震災や2011年の東日本大震災・福島原発事故などから注目されている「レジリエンス（災害に強い社会）」という考え方、さらには2015年に国連が採択した「2030年持続可能な開発アジェンダ：SDGs」などの展開を、理論と政策の両面から論じる。特に、2011年の東日本大震災と福島原発事故の大きな教訓である災害に強く（レジリエンス）、持続可能な（サステナビリティ）社会のあり方を、エネルギーと原子力、さらには科学技術リスクと市民社会との関係性を軸として、受講者の発表や討論なども含めて考える。

本講義は「主体的・対話的な学び」を重視し、参加者との対話型講義を実践します。

講義（クオーター科目ですので、2回で1セット）の後には、講義に対する簡単な感想文を書いてもらいます。提出された感想文の中から優れたものは、次回の講義で紹介し、予習・復習のポイントを明確にします。

＊本講義は春クオーター（第1クオーター）科目です。本講義は対面で実施します。

授業の到達目標:　(1)サステイナビリティ（持続性）やレジリエンス（抵抗力、回復力、適応力）のコンセプトや指標が説明できる。
(2)サステイナビリティ（持続性）やレジリエンス（抵抗力、回復力、適応力）の現実の社会的課題への応用について考える力を身につける。

事前・事後学習の内容:　事前にWebサイトに揚げる講義資料や文献を事前に読了し、事後には講義内容を整理し、資料も再読する。

事前・事後学習には90分から120分程度の時間が必要と考えられます。

授業計画フリー入力サイン:　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回

1. 講義ガイダンス
講義の目的・概要や日程、さらに課題などの履修における注意点を話します。講義（クオーター科目ですので、2回で1セット）の後には、講義に対する簡単な感想文を書いてもらいます。提出された感想文の中から優れたものは、次回の講義で紹介し、予習・復習のポイントを明確にします。

第2回

2. 続可能な発展：概念と歴史（1）
国連ブルントラント委員会報告（1987）を中心に持続可能な発展（Sustainable Development: SD）の考え方や注意点を講義します。

第3回

3. 持続可能な発展：概念と歴史（2）ブルントラント委員会報告（1987）の前後のSDをめぐる議論の歴史について講義します。特に、21世紀における持続性の議論やSDGsに焦点を当てます。

第4回

4. 持続可能な発展の測定と指標（1）
持続可能な社会を形成する様々な政策の有効性を評価するために必要となるSDの測定方法や指標について講義します。

第5回

5. 持続可能な発展の測定と指標（2）持続可能な社会を形成する様々な政策の有効性を評価するために必要となるSDの測定方法や指標について講義します。

第6回

6. サステナビリティとレジリエンス（1）
地震・津波・火山噴火や気候変動にともなう気候災害、新型コロナなどの生物災害に対する対応力・回復力としてのレジリエンスという考え方や重要性を講義します。

第7回

7. サステナビリティとレジリエンス（2）レジリエンスにおける適応能力の重要性やSDや持続性との関係を講義します。

第8回

8. サステナビリティとレジリエンスの事例研究：福島原子力災害と福島復興を考える（1）サステナビリティとレジリエンスの具体的な事例研究として、東日本大震災と福島原子力災害を考えます。

第9回

9. サステナビリティとレジリエンスの事例研究：福島原子力災害と福島復興を考える（2）サステナビリティとレジリエンスの具体的な事例研究として、東日本大震災と福島原子力災害を考えます。

第10回

10. サステナビリティとレジリエンスの事例研究：高レベル放射性廃棄物の最終処分（バックエンド問題）を考える（1）サステナビリティとレジリエンスの具体的な事例研究として、高レベル放射性廃棄物の最終処分（バックエンド問題）を考えます。

第11回

11. サステナビリティとレジリエンスの事例研究：高レベル放射性廃棄物の最終処分（バックエンド問題）を考える（2）サステナビリティとレジリエンスの具体的な事例研究として、高レベル放射性廃棄物の最終処分（バックエンド問題）を考えます。

第12回

12. ゲストによる講義と討論（1）阪神淡路大震災、東日本大震災や福島復興に取り組んでこられた地方自治体の関係者などから「災害と復興」の話をお聞きし、討論したいと考えています。

第13回

13. ゲストによる講義と討論（2）阪神淡路大震災、東日本大震災や福島復興に取り組んでこられた地方自治体の関係者などから「災害と復興」の話をお聞きし、討論したいと考えています。

第14回

14. 講義のまとめ「環境問題と持続可能な社会」のまとめとして、持続可能な発展（SD）やSDGsやレジリエンスの何が問題なのかを、トランス・サイエンスをめぐる議論から考えます。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：
1. 松岡俊二（編）（2018）『社会イノベーションと地域の持続性：場の形成と社会的受容性の醸成』有斐閣
2. 松岡俊二（他）（2022）『未来へ繋ぐ災害対策：科学と政治と社会の協働のために』有斐閣

参考文献：
1. 環境白書（毎年度版）
2. 松岡俊二他（2004）『シリーズ国際開発 第2巻 環境と開発』日本評論社
3. 武内和彦（2007）『地球持続学のすすめ』岩波書店

＊講義の進行に応じて、参考文献や参照情報をWaseda-Moodleで配布する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　50　毎回の講義に対する感想文（ショート・リポート）を評価する。

平常点評価：　50　議論への積極的な参加状況などの評価する。

備考・関連URL：　松岡研究室HP　https://smatsu.w.waseda.jp早稲田大学レジリエンス研究所（WRRI）HP　http://prj-matsuoka311.w.waseda.jp/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010047|01|9S09010047[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	キリスト教の世界		
担 当 教 員	伊藤 遼@村上 寛@若松 功一郎@西村 雄太		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（映像・表象・芸術）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: キリスト教とはどんな宗教か

授業概要: キリスト教を抜きにしてはヨーロッパ精神を語ることはできない。ヨーロッパ精神の還元不可能な根源的形成力としてのキリスト教とは、いったいどんなメッセージをわたしたちに発信する宗教なのであろうか。
こうした問題をキリスト教の人間理解、世界理解に触れて考えてみたい。講義はオムニバス形式になるが、まずはキリスト教の人間本質理解と神理解の問題から始まり、神の受肉と原罪の問題、聖母マリア崇敬や聖人崇敬、愛といったキリスト教の中心的事柄にまで踏み込んで取り上げてみたい。こうしたキリスト教の本質や多面的な在り方から、自然科学の時代を生きる現代の人々が、どうして、キリスト教を捨てずにかかわり続けているのかを各自考えてもらいたいと思っている。

授業の到達目標: キリスト教という一宗教が発するメッセ―ジを理解し、そこにある価値の提言を現代に生きる私たちの視点から多面的に考えてみるという思考力を身に着けるようになることを目指す。

事前・事後学習の内容: 事前に『聖書』を用意して「旧約聖書 創世記」、および「新約聖書 福音書」の1つに出来るだけ目を通しておくこと。
事後学習としては、各テーマごとの講義で理解できなかったキリスト教の語句・概念を参考書で調べておくこと。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

旧約聖書「創世記」における人間理解

キリスト教の概要を学び、そこに含まれている検討課題について考察する。（伊藤、ゲストスピーカー：田島照久）

キリスト教のヨーロッパ土着化
聖母マリア崇敬と守護聖人崇敬について。（伊藤、ゲストスピーカー：田島照久）

キリスト教と善悪二元論
キリスト教における悪の起源の問題について。（若松）

キリスト教の原罪理解
アウグスティヌスから見る、キリスト教の原罪理解について。（若松）

キリストの受肉
カルケドン信条に見る、キリスト教の心身問題について。（若松）

キリスト教における「十字架上の死」
カルケドン信条における罪のゆるしについて。（若松）

聖母マリア（1）
福音書及び外典に見る聖母像の原型について。（村上）

聖母マリア（2）
歴史の中における聖母崇敬及び教義について。（村上）

聖人崇敬
聖人及びその崇敬について。（村上）

聖地巡礼
キリスト教における聖地と巡礼の意味について。（村上）

新約聖書とイエス
新約聖書研究と歴史的なイエス像の関係について。（西村）

キリスト教における愛
隣人愛の教説と自己愛の解釈について。（西村）

愛と赦し
愛の徹底と応報主義の克服について。（西村）
まとめおよび定期試験
まとめおよび定期試験。（西村）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定なし。

参考文献: 田島・阿部編『テオーシス —東方・西方教会における人間神化思想の伝統』、教友社2018年。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 80 相対評価。評価基準は多人数の場合グローバルエデュケイションセンターの基準による。

レポート: 0 なし。

平常点評価: 20 出席回数による。

その他: 0 なし

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010048|01|9S09010048[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	グローバルヘルス		
担 当 教 員	兵藤 智佳		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

本科目はグループワークを基礎とするプロジェクト型の科目（Project Based Learning）であり、受講生は最終目標として啓発映像を制作します。

講義では、グローバルな「人間の健康問題」を医療問題としてだけではなく、社会・文化的な現象として理解を深め、グローバルな視点を持ってローカルな実践から社会を変えることを目指します。特に、講義では、受講生が自ら「HIV/AIDS」、「被爆」、「ドメスティック・バイオレンス」、「障害」など現代的なグローバルヘルスに関するテーマを選択し、主にマイノリティ当事者の視点から社会と個人との関連を具体的に考察します。マイノリティの権利や問題は、講義における重要課題です。受講生は、社会構造がもらたす心身への影響を考察することで、一人ひとりができる対策や行動変容、社会変革についての視点を得ます。

受講生は、講義を通じて参加型の研究プロジェクトの方法論を学ぶことでプロジェクトを実際に実施し、社会啓発実践の契機とします。具体的な啓発活動としては、2－3分程度の映像制作を行います。最終の授業回は「受講生の制作した映像上映会」として、受講生がその成果を広く社会に伝える場とします。

「実際にグループでの研究プロジェクトをやってみたい」、「映像作品をつくってみたい」、「実際に社会を変える行動をしたい」という受講生が対象です。

授業の到達目標：

1 グルーバルな健康問題をマイノリティの視点から理解する

2 受講生自らが課題を設定し、「社会的マイノリティ」についての研究プロジェクトを実践する

3 社会啓発に向けて映像を作成する

事前・事後学習の内容：

本科目は、グループワークを基本とするため、授業後に出される各回の課題について、授業時間外にグループでの議論とプロジェクト実践の時間を持ちます。
時間については、1回につき、1－2時間が目安となります。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーションとテーマ決定

科目の目的と授業計画を知り、最終目標について理解する一人ひとりが取り組む「グルーバルヘルス」に関するテーマを設定し、グループをつくる
グループでの役割と分担を決める

第2回 情報収集と既存資料のまとめ

自分が担当する基礎資料のテーマを決めるテーマに関する統計資料と既存研究資料を収集する
テーマについて「これまでわかっていること」について資料にまとめる

第3回 既存資料の共有と「問い」の設定

基礎データのまとめをグループで共有する基礎データに関してディスカッションするデータを基礎として、プロジェクトで取り組むグループの「問い」を設定する

第4回 方法論の決定

「問い」に迫るための方法論を検討する方法論の妥当性についてアドバイスを受ける
中間発表にむけたスライド資料を作成する

第5回 中間報告（発表）

グループごとに問いと方法論についての発表を行う妥当性について全体からのフィードバックを受ける
グループごとに個別のアドバイスをうける

第6回　中間報告フィードバック（発表）

中間発表へのフィードバックを受けて方法論を精査するデータ収集についてのスケジュールを決定する
データ収集に関する役割を分担する

第7回　データ収集と分析

収集したデータをグループ内で発表する「わかったこと」をグループで整理する
わかったことをスライド資料としてまとめる

第8回　データの考察とメッセージの作成

「わかったこと」からメッセージを検討する検討したメッセージをグループごとに発表する
メッセージについて「マイノリティと人権」の視点からアドバイスを受ける

第9回　映像プロットつくり

メッセージを伝える方法論を検討するグループごとに映像の構成をつくるプロットの意味と概要を知り、グループごとに映像のプロットを作成する

第10回　映像制作

撮影作業についての役割分担をするグループごとに映像の場面を撮る
発表と編集についての役割分担をする

第11回　映像作品への中間フィードバック

映像制作プロセスについて発表する映像についてのアドバイスとフィードバックを得るフィードバックについてグループごとにディスカッションする

第12回　映像編集作業と発表準備

フィードバックを基礎として修正点を整理する映像の編集作業を行う最終発表と上映会の役割分担をする

第13回　映像上映会と最終発表

グループごとに最終発表を行う制作した映像を上映する
発表についてのフィードバックを得る

第14回　科目のふりかえりとまとめ

映像作品についての成果と課題をディスカッションする科目全体を通じたグループでの学びをふりかえる
個人の学びを言語化する

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: なし

参考文献: グループでのテーマが決定してから参考文献を提供します

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 35　毎回の授業のあと提出するコメントシートを評価する（7回×5点）

その他: 65　中間、及び最終発表と映像作品を評価の対象とする（中間発表30点、最終発表35点）

備考・関連URL: グループで使用する映像制作ソフトについては自分たちで用意してもらいます

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010057|01|9S09010057[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	言語学（形態論）		
担 当 教 員	乙黒 亮		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 【授業形態】フルオンデマンド
形態論（morphology）とは言語学の中でも「語」について研究する領域です。語の研究というと、ともすれば地味でつまらないという印象を持つかもしれません。しかし、語は複雑かつ興味深い特性を持ち、その語を対象とする形態論は奥深い研究領域です。形態論の理論には、サンスクリット語の記述やアメリカ構造主義言語学を起源に持ち、形態素という語を構成する要素を基盤として語の内部構造や語形成のプロセスを中心に研究する流れと、ヨーロッパにおいてギリシャ語やラテン語の活用体系を記述するために発展してきた、パラダイムという概念を基盤に語同士の相互関係を中心に研究する流れが存在します。この授業ではそれぞれの最先端の理論である分散形態論（Distributed Morphology）とパラダイム関数形態論（Paradigm Function Morphology）という2つのアプローチの基礎を学び、これらの理論が語が示す様々な現象に対してどういう説明を与え得るのかを概観します。取り上げる現象は、融合（syncretism）、補充法（suppletion）、ゼロ形態（zero morph）、阻止（blocking）、迂言法（periphrasis）と多岐に渡り、参照する言語も30以上にのぼります。自分で実際にデータの理論的分析をすることで、形態論研究の醍醐味を味わってもらいます。

授業の到達目標: 形態論の基本概念を理解し、具体例とともに説明できるようになる。
形態論に関わる主要な現象を概観し、それらのメカニズムを理解する。
講義で得た知識を基に、形態論に関わる主要な現象のデータの分析を一定程度のレベルで提示できるようになる。

事前・事後学習の内容: 事前：教科書の次回講義箇所を読み、理解できない部分を確認しておくこと。
事後：オンデマンド講義の内容の理解度確認と応用の課題が毎週出されるので、再度教科書を読んで確認しながら取り組むこと。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：導入
授業の進め方などの説明
第2回：はじめに＋形態論の基礎
形態論の基本概念の導入
第3回：形態論への2つのアプローチ（前半）
教科書第2章前半部分の解説
第4回：形態論への2つのアプローチ（後半）
教科書第2章後半部分の解説
第5回：融合（前半）
教科書第3章前半部分の解説
第6回：融合（後半）
教科書第3章後半部分の解説
第7回：補充法（前半）
教科書第4章前半部分の解説
第8回：補充法（後半）
教科書第4章後半部分の解説
第9回：ゼロ形態（前半）
教科書第5章前半部分の解説
第10回：ゼロ形態（後半）
教科書第5章後半部分の解説
第11回：阻止（前半）
教科書第7章前半部分の解説

第12回：阻止（後半）
教科書第7章後半部分の解説
第13回：迂言法（前半）
教科書第8章前半部分の解説
第14回：迂言法（後半）
教科書第8章前半部分の解説

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　乙黒亮, 田川拓海. (2024).『形態論の諸相：6つの現象と2つの理論』くろしお出版. ISBN: 978-4-87424-990-1

参考文献：　初回授業および講義内で紹介します。

成績評価フリー入力サイン：　0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　複数回出される課題の成績を総合して評価します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010059|01|9S09010059[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	言語学（言語類型論）		
担 当 教 員	乙黒 亮		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 言語の普遍性と多様性

授業概要: 【授業形態】フルオンデマンド
自分の母語以外の言語を学んだことがある人の多くは、異なった言語間の違いの大きさに驚いたり、あるいは思わぬ共通点を発見して不思議に思ったりという経験をしたことがあるだろう。数え方により幅があるが、世界には4,000から7,000の言語が存在すると言われている。その中のごく限られた言語間の比較においても興味深い相違点、共通点を見い出すことができるのなら、より多くの言語を比較対照するとどうなるのだろうか。そのような関心に基づき、膨大な言語のデータを整理、分析し、その普遍性と多様性を考察する研究分野が言語類型論である。ある現象について幅広い言語を観察した際、どのような普遍性が見いだされるのか、多様性が見られる場合そこに制約は存在するのか、その制約に基づいて各言語を類型化することが可能なのか、といった視点から、言語類型論では多くの興味深い研究が蓄積されてきた。本講義では、数多くの言語の様々な現象を実際に観察しながら、言語類型論の研究手法への理解を深め、その成果を概観する。本講義を通して、受講者が少数の言語に触れるだけでは得られない言語に対する幅広い知見と考察力を養うこととともに、自身の母語や親しみのある言語を類型論的に相対化できるようになることを目標とする。

授業の到達目標: 1. 初めて触れる言語のデータを読み解くことができるようになる。
2. 言語類型論においてこれまで提案されてきた重要な概念に触れ、具体的な言語現象と併せて理解ができるようになる。
3. 世界の様々な言語に見られる多様性と普遍性を観察し、その背後で働くメカニズムの考察を行えるようになる。

事前・事後学習の内容: オンデマンド講義の内容の理解度確認と応用の課題が毎週出されるので、演習までに提出する。演習では課題の解説と追加のトピックを導入するので、各自で練習問題をこなし，授業後に復習し理解度を高めること。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：導入
講義の概要
基本概念

第2回：言語類型論の諸問題
1. 言語類型論とは
2. 言語形式
3. 方法論
4. 形式主義と機能主義

第3回：文法関係と格
1. 文法関係とは
2. 文法関係の標示
3. 格標示のタイプ
4. 分裂能格性5. 名詞階層

第4回：文法関係と格
課題解説と演習問題

第5回：態
1. 受動態と逆行態
2. 周辺的な態
3. 受動態と能格性
4. 複他動詞5. 充当態
6. 二重目的語と受動態
7. 使役
8. 逆受動態

第6回：態
課題解説と演習問題

第7回：関係節と接近度階層

1. 関係節とは
2. 関係節の位置
3. 関係詞
4. 接近度階層

第8回：関係節と接近度階層

課題解説と演習問題

第9回：形態的多様性・言語変化

1. 統合性
2. 融合性
3. 文法化4. 音韻的変化
5. 形態統語的変化
6. 機能的変化

第10回：形態的多様性・言語変化

課題解説と演習問題

第11回：情報構造

1. 情報構造とは
2. 焦点
3. 主題
4. 情報構造と形態・統語

第12回：情報構造

課題解説と演習問題

第13回：言語類型論における日本語

1. 主要部と補部
2. 格体系
3. 名詞階層4. 関係節と名詞修飾節
5. 文法化
6. する的言語となる的言語

第14回：言語類型論における日本語

課題解説と演習問題

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　なし。

参考文献：

- Comrie, Bernard. 1981. Language Universals and Linguistic Typology: Syntax and Morphology. 2nd Edition. University of Chicago Press.（翻訳：松本克己，山本秀樹（訳）『言語普遍性と言語類型論ー統語論と形態論』ひつじ書房．2001年）
- Croft, William. 2003. Typology and Universals. 2nd Edition. Cambridge University Press.
- Dixon, R. M. W. 2010, 2012. Basic Linguistic Theory, vol. 1-3. Oxford University Press.
- Givón, Talmy. 2001. Syntax, vol. 1-2. John Benjamins.
- Kroeger, Paul R. 2005. Analyzing Grammar. Cambridge University Press.
- Moravcsik, Edith A. 2013. Introducing Language Typology. Cambrdige University Press.
- Shopen, Timothy. 2007. Language Typology and Syntactic Description. Vol. 1--3. 2nd Edition. Cambridge University Press.
- Song, Jae Jung, ed. 2011. The Oxford Handbook of Linguistic Typology. Oxford University Press.
- Spencer, Andrew. 1991. Morphological Theory. Blackwell.
- Van Valin, Ronald Jr., and Randy J. LaPolla. 1997. Syntax: Structure, Meaning and Function. Cambridge University Press.
- Velupillai, Viveka. 2012. An Introduction to Linguistic Typology. John Benjamins.
- Whaley, Lindsay J. 1997. Introduction to Typology: The Unity and Diversity of Language. Sage.（翻訳：大堀壽夫，古賀裕章，山泉実（訳）『言語類型論入門ー言語の普遍性と多様性』岩波書店．2006年）
- 角田太作．2009.『世界の言語と日本語 改訂版ー言語類型論から見た日本語』くろしお出版．

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　講義中に提示される複数回の演習課題による。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010060|01|9S09010060[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	言語学（統語論・入門）		
担 当 教 員	乙黒 亮		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 文法理論の基本的概念と統語分析

授業概要: 【授業形態】フルオンデマンド
我々は母語を話すとき、ほとんど意識することなく文を組み上げていく。また耳から入った発話を即座に処理し、その内容を理解する。しかし、一見自明のように思えるこのような言語の情報処理が、実際はひじょうに複雑なプロセスであることは、少しでも母語以外の言語の習得を試みた者なら、容易に想像がつくはずである。また、脳内で行われている言語処理過程やその背後にある「文法」というシステムは、目で観察できるものではなく、我々がどのように文を組み上げ、分析しているのかは、いわばブラックボックス化していると言える。このブラックボックスを解明するために、理論言語学では実際の言語データを分析し、その結果を様々な形で理論化、モデル化するという試みが行われてきた。そのような文構築、分析に関する理論的研究が統語論と呼ばれるものである。本講義では、実際の言語データを見ながらの統語論の基本的な概念を導入し、これまでに提案されてきた文法理論のモデルを概観する。また、文法理論がコンピュータによる言語処理、幼児の言語獲得といった計算機科学、発達心理学などの近接分野とどのような関わりを持つのかについても触れる。この講義を通し、受講者が科学的な言語構造の分析への関心を高め、英文法、日本語文法といった個別言語を越えた文法理論への理解を深めることを目標とする。

授業の到達目標: 1. 目に見える形で表面に現れにくい言語の「構造」について理解を深める。
2. 理論言語学、とりわけ1960年代以降の統語論の理論的な仮定、基本概念、研究手法に触れる。
3. 具体的にこれまで取り上げられてきた統語分析を理解する。
4. 統語論と近接関係にある分野とのつながりを概観する。

事前・事後学習の内容: オンデマンド講義の内容の理解度確認と応用の課題が毎週出されるので、演習までに提出する。演習では課題の解説と追加のトピックを導入するので、動画を見ながら各自で練習をし，授業後にも復習し理解度を高めること。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：導入
講義概要
基本概念

第2回：言語研究と統語論
1. 文法の特徴（無限性，制約，有限性）
2. 統語論と文法モデル（有限状態文法，句構造文法）

第3回：範疇・句構造規則・レキシコン
1. 制約
2. レキシコン
3. 統合

第3回：範疇・句構造規則・レキシコン
課題解説と演習問題

第5回：文法関係と句構造
1. 述語の種類
2. 文法関係と下位範疇化
3. 下位範疇化されない文法関係

第6回：文法関係と句構造
課題解説と演習問題

第7回：下位範疇化と項構造
1. 項構造
2. 項構造の変化

第8回：下位範疇化と項構造
課題解説と演習問題

第9回：統語分析（コントロールと繰り上げ）

1. コントロール
2. 繰り上げ

第10回：統語分析（コントロールと繰り上げ）

課題解説と演習問題

第11回：統語分析（長距離依存関係）

1. データ
2. 主題化
3. wh疑問文
4. 長距離依存の拡張
5. 関係節
6. 島の制約

第12回：統語分析（長距離依存関係）

課題解説と演習問題

第13回：統語分析（照応）

1. データ
2. 代名詞，照応形，束縛
3. 束縛理論

第14回：統語分析（照応）

課題解説と演習問題

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　なし。

参考文献：　講義は以下のような文献をベースにしているが、初学者には難しいため必ずしも読む必要はない。意欲のある受講者は、本講義受講中や受講後に理解をより深めるために適宜担当教員のアドバイスを受けながら参照することをお勧めする。

- Börjars, Kersti, Rachel Nordlinger, and Louisa Sadler. 2019. Lexical-Functional Grammar: An Introduction. Cambrige University Press.
- Borsley, Robert D. 1996. Modern Phrase Structure Grammar. Blackwell.
- Borsley, Robert D. 1999. Syntactic Theory: A Unified Approach. Arnold.
- Bresnan, Joan. 2001. Lexical-Functional Syntax. Blackwell.
- Culicover, Peter. 2009. Natural Language Syntax. Oxford University Press.
- Kroeger, Paul R. 2005. Analyzing Grammar: An Introduction. Cambridge University Press.
- Sag, Ivan A., Thomas Wasow, and Emily M. Bender. 2003. Syntactic Theory: A Formal Introduction. 2nd edition. CSLI Publications.

成績評価フリー入力サイン：　0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　講義中に提示される複数回の演習課題による。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010069|01|9S09010069[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	グローバル社会貢献論		
担 当 教 員	兵藤 智佳		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

本科目は、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）提供科目となる。

近年、学生によるグローバルな社会貢献活動に対する関心は高く、具体的に将来の職業やキャリアとして社会貢献活動の業務を志す者も多い。本授業では、早稲田大学の卒業生をはじめ、国際機関、企業等、グルーバルな視点をもって社会貢献に携わる多様な講師による活動紹介と講義を行う。講義では、異なる立場や方法を用いた課題へのアプローチを知り、それぞれの可能性と限界について理解を深める。今、世界各地のフィールドで働き、「よりよい世界」を目指す講師によって、グローバルな社会貢献活動を憧れやイメージではなく、具体的なキャリアとして描く機会としたい。

講義では、人権、教育、健康、貧困、紛争等、講師が対峙する課題の所在だけでなく、これまでのキャリアのプロセス、具体的な実務の内容等について解説し、受講生たちが今後のキャリアを模索するための知識を提供する。こうした講義は、受講生にとっては、「世界の問題が大きすぎて何もできない」といった無力感を超えて、大学生や市民として自分ができることを模索し、行動する指針となることが期待される。

授業形態は、対面授業を基本としつつ、海外在住の講師による回は、オンラインで講義を実施する。受講生は毎回、課題を提出する。なお、本授業は、グローバルエデュケーションセンター（GEC）の全学共通副専攻「社会貢献とボランティア」コア科目、「グローバル・スタディーズ」の選択科目であり、その他の選択科目と合わせて受講することで各副専攻に関するより深い理解を得ることが期待される。

授業の到達目標：

（1）グローバルな社会貢献活動の実際的な仕事の内容について理解する。
（2）多様で国際的な社会貢献分野における課題の所在を理解する。
（3）実務家の経験を直接聞くことで、将来のキャリアに有用な知識、望ましい経験の蓄積等、各分野で必要とされる人物像についての具体的なイメージを描く。

事前・事後学習の内容：

受講生は、毎回、講義を受けて「問い」を作成し、それに関する自らの考えをまとめてmoodleに提出する
「問いと考察」の準備に60分程度が予定される

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーション

講義の目的と内容を理解する。WAVOCについて知る。
グローバル社会貢献の分野に関する概要を理解する。

第2回 国際機関による社会貢献活動

国連機関としてのWHOの活動を知る。グローバルな健康問題とその対策について理解する。
「健康と人権」の関連について議論する。

第3回 映像作家による社会貢献活動

チベット問題の歴史と現状を知る。映像の持つ影響力と課題について理解する。
「当事者の物語」について議論する。

第4回 大学生による海外ボランティア活動

学生によるグローバルな視点を持ったボランティア活動について知る。大学生たちが対峙する課題やボランティアの可能性と限界について理解する。
「大学生だからできること」について議論する。

第5回 企業による社会貢献活動

企業による社会貢献の事例について知る。
ビジネスを通じた社会貢献の可能性と限界を理解する。
「商品購買による社会貢献」について議論する。

第6回 研究者による社会貢献活動

研究者による社会貢献について知る。
研究の可能性と限界について理解する。
「理論と実践」に関する議論をする。

第7回　講義のまとめとふりかえり
6回の講義のふりかえりとまとめを行う。多様なグルーバル社会貢献の方法やキャリアについてディスカッションする。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター編（2019）「ボランティアで学生は変わるのか」ナカニシヤ出版

参考文献: 内海成治編（2005）『国際協力論を学ぶ人のために』世界思想
勝間靖編（2012）『テキスト国際開発論～貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』ミネルヴァ書房
岩井雪乃・兵藤智佳・西尾雄志(2010)『世界をちょっとでもよくしたい～早大生のボランティア物語～』早稲田大学出版部

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 30　教科書「ボランティアで学生は変わるのか」ナカニシヤ出版　2019年を読んで「大学生がグローバルな社会貢献をする意義」について2000字程度でレポートを提出する。
事例の分析を踏まえて、自分なりの独自の意見を持てているかを評価する。

平常点評価: 70　毎回の授業の後に提出されるコメントシートによる評価を行う（10点×7回）

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010077|01|9S09010077[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	再生可能エネルギーを地域から考える。		
担 当 教 員	納富 信@小野田 弘士@岡田 久典@中野 健太郎@永井 祐二		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 地域、環境、再生可能エネルギーの各キーワードに沿って、総合的な観点から、地球環境問題、我が国の地域創生問題、再生可能エネルギー及びSDGs、ネイチャーポジティブの基礎知識および最新状況を学ぶことができる。
講義のみならず、ワークショップ（対話・交流型グループワーク）、地域における環境・エネルギープロジェクトに携わるキーパーソン（ゲストスピーカー）による情報提供、希望者に対しては実地での研修、活動の機会も提供する予定としている。本講義は、多様な学部、多様な年次の学生が受講するので、ワークショップ等で普段接することの少ない専門分野の学生の考えを知り、議論を深めることができる。
春学期開講科目「地域・環境・エネルギーを考える」とは近しい分野を対象としているが、いずれも観点を異にする立場からの最新状況に基づいた情報の提供を行うので、内容は異なる。
今年度の授業は再生可能エネルギー、地域創生、地球環境問題それぞれでわが国のトップランナーであるイオングループの協力のもと、地域における環境・エネルギー問題への企業の取り組みを具体的に学習する。
また、今年度は、自伐林業、ソーラーシェアリングなどを事例とした具体的な学習につとめる。
希望者には、イオングループ主催の実地調査や、学生の専門分野に応じたより深い学習も支援する。今年度は、「新しい里山」をコンセプトに、イオングループ（イオン環境財団）等と連携した教育を行う。

授業の到達目標: 再生可能エネルギーの具体的な事業・計画事例を通じて、エネルギー問題と地域問題について総合的に考える場を作り、具体的なソリューションを構築できる人材の基礎づくりを行う。

事前・事後学習の内容: Moodleに事前・事後学習用の資料を掲載するともに、関連行事の案内を行う。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1回(6/5)／本講義の概要・導入（納富、小野田、岡田、永井、中野）：本講義の概要
第2回(6/5)／SDGs・エネルギーの基礎知識（ローカルSDGs含む）（納富、岡田、永井、中野）：SDGsの基礎、取り組みの現状などを説明
第3回(6/12)／地域の不都合な真実（林業編）NPO法人自伐林業推進協会代表・中嶋健造氏
第4回(6/12)／地域の不都合な真実（林業編）を基にグループワーク（岡田・永井・中野）
第5回(6/19)／地域の不都合な真実（郊外編）小田原かなごてファーム代表・山田大和氏
第6回(6/19)／小山田大和氏と教員のサポートによるグループワーク（岡田・永井・中野）
第7回(6/26)／地域の生活圏を企業活動から知る・イオングループ
第8回(6/26)／グループワーク
第9回(7/3)／地域の不都合な真実（企業編）・新宿区企業およびイオン(株)鈴木氏（調整中）
第10回(7/3)／グループワーク
第11回(7/10)／地域の不都合な真実（離島編）西表島農家・大浜氏
第12回(7/10)／大浜氏を交えたグループワーク
第13回(7/17)／まとめ・小野田
第14回(7/17)／総合討論・まとめ（納富、小野田、岡田、中野）：全体の総括
なお、各回講義において現場（実務）の専門知識を持つゲストスピーカーを招へいする場合がある事から、都合によって講義の順序や内容に変更が加わる場合がある。第1回講義時には確定情報を知らせるので、履修にあたってはこのことを留意されたい。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 毎回資料を配布します。

参考文献: 随時通知します。
http://www.aeontowa.jp/about.html
本講義の基盤となるイオンと早稲田大学環境総合研究センターが共同で設置したAEONTOWA リサーチセンターのHP 受講希望者は事前に目を通しておいて頂きたい。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 50 特に課題解決の観点から、総合力、情報収集力を試すレポート作成。

平常点評価: 50 出席、受講態度、グループワークでの貢献（積極性など）、関連行事、情報収集力など。

備考・関連URL：　忌引き等に関する出欠については、下記を参照のこと。https://www.waseda.jp/inst/gec/undergraduate/class/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010099|01|9S09010099[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	台湾を知る（入門）		
担 当 教 員	江 正殷		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本講座は、日本にとって最も身近な隣人である台湾を対象に、歴史・政治・社会・文化を横断する多面的な理解を目的とする。講義では、台湾史および台湾政治に関する主要な先行研究を踏まえつつ、文学・映画・音楽などの文化表象も取り上げ、現代台湾の立体的理解を試みる。

各回のテーマでは、ポストコロニアリズム、ナショナリズム、民主化、市民社会など社会科学の基本概念を導入し、台湾を単なる地域研究の対象としてではなく、理論的に考察可能な事例として位置づける。受講生が台湾という個別的対象を通して、より普遍的な社会科学的視座を獲得することを目指す。

近年、ロシアによるウクライナ侵攻や米中関係の構造変動を背景に、既存の国際秩序は大きな転換点を迎えている。東アジアにおける台湾の位置づけも急速に変化しており、本講座では台湾が直面する諸課題を「遠い地域の問題」としてではなく、同時代的な国際課題として捉え直す。台湾をめぐる歴史的経験と現代的状況を架橋しながら、受講生自身が主体的に考察する姿勢を養う。

授業の到達目標: 1,台湾の近現代史の基本的な展開を説明することができる。（学修成果：専門基礎知識）

2.台湾の政治・社会構造を主要概念（民主化・ナショナリズム・アイデンティティ等）を用いて説明できる。（学修成果：分析力）

3.社会科学の基礎理論を台湾の事例に適用して考察することができる。（学修成果：理論的思考力）

4.台湾をめぐる現代的課題を国際関係の文脈の中で位置づけて論じることができる。（学修成果：国際的視野・批判的思考）

5.多様な情報源を批判的に検討し、自らの視点を言語化することができる。（学修成果：判断力・表現力）

事前・事後学習の内容: 事前学修
各回の授業前に、配布資料および指定文献の読了を求める。必要に応じて、映像資料やオンデマンド教材の事前視聴を行うこと。
・各回の予習時間の目安：90～120分

事後学修
授業内容の理解を深めるため、講義内容の整理および参考文献の再読を行う。授業内で提示された論点について、コメントペーパーまたは短い課題としてまとめることを求める場合がある。
・各回の復習時間の目安：90～120分

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 第1回 オリエンテーション：方法としての「台湾」授業の目的・方法の共有。台湾研究の意義と社会科学における位置づけ。第2回 歴史とは何か：台湾の近現代史植民地経験・戦後体制・民主化までの歴史的展開を概観。第3回 ポストコロニアリズムとアイデンティティ多層的な歴史経験と台湾アイデンティティの形成。第4回 デモクラシーと市民社会民主化過程、本土化、社会運動の展開。第5回 ネイションとナショナリズム「国家なきナショナリズム」としての台湾の特質。第6回 非承認国家としての台湾主権・承認・安全保障をめぐる国際政治的視点。第7回 総括講義内容の総合的整理・教場試験（期末考査）

授業運営上の補足：
1.本講義はクォーター科目のため、各回は2コマ連続で実施する。
2.授業内で映像資料やゲスト講義を取り入れる場合がある。
3.授業内容は国際情勢の変化や受講者の理解度に応じて調整する場合がある。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定なし。

参考文献: 授業時に指示する。

成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	50	最終回の授業時間内に期末試験を実施する。講義内容全体に関する基礎的理解および論点把握の程度を評価する。
レポート:	20	授業時間内に小レポートを2回実施する（各300字程度）。授業に関する理解度および論点整理の的確さを評価する。
平常点評価:	30	以下の要素を総合的に評価する。 授業内で提示する問いに対する応答やコメントシート等の内容（理解度・思考の深さ） 授業への主体的な参加状況（発言、リアクション、課題提出状況等） ※出席のみでは評価対象としない。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010100|01|9S09010100[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	台湾を知る（発展）		
担 当 教 員	江 正殷		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本講座は、「台湾を知る（入門）」に続く発展科目として、台湾の歴史・政治・社会・文化をより理論的・分析的に考察することを目的とする。入門科目で扱った基礎的知識を前提に、台湾をめぐる諸課題に対し、社会科学的理論および学術的議論を踏まえた深い理解を目指す。なお、「台湾を知る（入門）」を履修しなくても、受講できるように工夫する。

講義では、台湾史および台湾政治に関する主要研究を再検討するとともに、諸文献などを批判的に読み解き、知識生産の構造や語りの枠組みに注目する。また、ナショナリズム論、ポストコロニアル研究、民主化論、国際政治理論などの理論枠組みを導入し、台湾を一つの事例として理論的に位置づける視点を養う。

中国の台頭、米中戦略競争の激化などを背景に、国際秩序は大きな再編過程にある。こうした状況の中で台湾の戦略的重要性は一層高まっている。本講座では、台湾を単なる地域研究の対象としてではなく、国際政治・知識論・歴史認識の交差点として捉え直し、受講生が同時代的課題として主体的に考察することを促す。

授業の到達目標: 1.台湾をめぐる主要な学術的議論を整理し、その論点を説明することができる。（学修成果：専門知識の深化）

2.社会科学の理論枠組みを用いて台湾の歴史・政治・社会現象を分析できる。（学修成果：理論的分析力）

3.台湾に関する複数の視点（歴史・政治・文化・国際関係）を統合的に考察できる。（学修成果：統合的思考力）

4.台湾問題をグローバルな国際秩序の変動の中で位置づけて論じることができる。（学修成果：国際的視野）

5.学術的資料を批判的に検討し、自らの問題意識に基づいた考察を言語化できる。（学修成果：研究基礎力・表現力）

事前・事後学習の内容:

事前学修
指定文献（論文・専門書抜粋等）の読解を中心とする。各回の理論的テーマに関する基礎文献を事前に読了し、論点整理を行うこと。
必要に応じて映像資料や補助教材の事前視聴を求める。
予習時間の目安：120分程度

事後学修
授業内で扱った理論枠組みおよび事例分析を整理し、関連文献の追加読解を行う。討論内容を踏まえ、自身の理解を文章化する短い課題を課す場合がある。
復習時間の目安：120分程度

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: *]:pointer-events-auto [content-visibility:auto] supports-[content-visibility:auto]:[contain-intrinsic-size:auto_100lvh] scroll-mt-[calc(var(--header-height)+min(200px,max(70px,20svh)))]" tabindex="-1" dir="auto" data-turn-id="fa7a3c56-5843-4deb-807f-740d9b247283" data-testid="conversation-turn-6" data-scroll-anchor="true" data-turn="assistant">第1回 導入：台湾研究の現在地入門内容の整理と台湾研究の主要論争の概観。第2回 歴史叙述と記憶の政治台湾史をめぐる歴史認識とナラティブの競合。第3回 ポストコロニアル台湾植民地経験・主体性・知識生産の問題。第4回 民主化と政治体制の変容民主化理論から見る台湾政治の特質。第5回 ナショナリズムとアイデンティティ政治台湾ナショナリズムの多層構造。第6回 国際政治の中の台湾非承認国家・戦略的曖昧性・安全保障。第7回 総括：台湾をめぐる知の可能性講義内容の総合的整理・教場試験（期末考査）

授業運営上の補足:
1.本講義は「台湾を知る（入門）」の履修内容を前提とするが、未履修者にも理解できるよう適宜補足を行う。
2.文献講読および討論を重視する。
3.授業内容は最新の国際情勢や研究動向に応じて調整する場合がある。
4.クォーター科目のため、各回は2コマ連続で実施する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定なし。

参考文献: 授業時に指示する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	50	最終回の授業時間内に期末試験を実施する。講義内容全体に関する基礎的理解および論点把握の程度を評価する。
レポート:	20	授業時間内に小レポートを2回実施する（各300字程度）。授業に関する理解度および論点整理の的確さを評価する。
平常点評価:	30	以下の要素を総合的に評価する。 授業内で提示する問いに対する応答やコメントシート等の内容（理解度・思考の深さ） 授業への主体的な参加状況（発言、リアクション、課題提出状況等）

備考・関連URL:

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010101|01|9S09010101[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	地域、環境、エネルギーを考える		
担 当 教 員	納富　信@小野田　弘士@岡田　久典@中野　健太郎@永井　祐二		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

地域、環境、エネルギーの各キーワードに沿って、総合的な観点から、エネルギー、我が国の地域創生問題、地球環境問題等の基礎知識と最新状況を学ぶことができる。
講義のみならず、ワークショップ形式での地域環境・エネルギープロジェクトを通した地域創生の観点での課題発見型グループ活動、ゲストスピーカーによる情報提供など、また希望者に対しては実地での研修、活動の機会も提供する予定である。本講義は、多様な学部、多様な年次の学生が受講するので、ワークショップ等で普段接することの少ない専門分野の学生の考えを知り、議論を深めることができる。
今年度の授業はエネルギー、地球環境問題、地域の抱える問題への対応、地域創生など、それぞれでわが国のトップランナーであるイオングループの協力のもと、地域における環境・エネルギー問題への企業の取り組みを具体的に学習する。（また、今年度は、群馬県みなかみ町、北九州市のNPO等の協力のもと、現場感も学べる具体的な学習につとめる）。
希望者には、イオングループの復興再生関連の実地調査や、学生の専門分野に応じたより深い学習も支援する。今年度は、「里山とは何か」をコンセプトに、イオングループ（イオン環境財団）等と連携した教育を行う。

授業の到達目標：　地域、環境、エネルギーの具体的な事業・計画事例を通じて、SDGs等について総合的に考える場を作り、具体的なソリューションを構築できる人材の基礎づくりを行う。

事前・事後学習の内容：　Moodleに事前学習及び事後学習教材を掲載する。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

第1回（4/17）／本講義の概要・導入（納富、小野田、岡田、永井、中野）：本講義の概要
第2回（4/17）／「里山とは何か」 NPO法人里山を考える会・関宣昭氏
第3回（4/24）／「里山から地域の未来を考える」イオン環境財団および群馬県みなかみ町役場・小池氏
第4回（4/24）／「里山から地域の未来を考える」グループワーク
第5回（5/1）／「地球・地域の環境保全と持続性の両立を考える」日本環境衛生センター理事長・南川氏
第6回（5/1）／「地球・地域の環境保全と持続性の両立を考える」質疑応答の後、グループワーク
第7回（5/8）／「里山の魅力を伝える」南島原市みんなの森守協議会事務局長・高木氏
第8回（5/8）／「里山の魅力を伝える」グループワーク
第9回（5/15）／「里山とバイオ炭」教育テック大学院大学大和田順子・岡田
第10回（5/15）／「里山とバイオ炭」グループワーク
第11回（5/22）／「里山とレジリエンス（能登復興の事例）」
第12回（5/22）／「里山とレジリエンス（能登復興の事例）」グループワーク
第13回（5/29）／総合討論・まとめ（納富）
第14回（5/29）／総合討論・まとめ（納富、小野田、岡田、永井、中野）
なお、各回のテーマ・内容に沿ったゲストスピーカーの招へいも予定している。詳細は、第1回講義時に説明するが、その関係で講義実施回ならびに内容に多少の変更が生じる可能性があることを予め伝えておく。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に指定しない。資料はそのつど配布する。

参考文献：　特に指定しない。各担当講師から推奨図書などの紹介をおこなう。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　50　独自の視点で考察を行うことができたか。 講義の理解度、将来を展望する構想力、情報収集力などを総合的に判断する。

平常点評価：　50　出席状況、グループディスカッション、関連活動への参画状況、その他

備考・関連URL：　http://www.aeontowa.jp/about.html
本講義の基盤となるイオンと早稲田大学環境総合研究センターが共同で設置したAEONTOWA リサーチセンター

のHP　受講希望者は事前に目を通しておいて頂きたい。

忌引き等に関する出欠については、下記を参照のこと。
https://www.waseda.jp/inst/gec/undergraduate/class/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010104|01|9S09010104[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国総合講座（入門）		
担 当 教 員	江 正殷		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

習近平政権下における中国の国際的影響力の拡大と米中関係の急速な変容は、既存の国際秩序に大きな変化をもたらしている。共産党による一党支配体制、対外戦略、台湾問題などは国際社会に広範な影響を及ぼしており、中国をめぐる環境は一層複雑化している。一方で中国は国内においても、経済格差の拡大、高齢化、少数民族問題、統治モデルの変容をめぐる政策など、多層的かつ構造的な課題を抱えている。こうした内外の動態を理解するためには、単一の視点ではなく、多角的かつ総合的な視野が求められる。

本講座では、中国という巨大かつ多面的な存在を、政治・経済・法律・歴史・文化・思想・社会・国際関係など多様な観点から概観する。文献資料、統計データ、映像教材、報道資料などを併用しながら、現代中国の基礎的理解を立体的に形成することを目指す。各回の講義では、社会科学における基本概念や理論枠組みを導入し、中国の諸問題を理論的に位置づける視座を養う。中国を単なる「他者」として捉えるのではなく、同時代の国際社会を構成する重要な主体として理解することを重視する。

本講座は入門科目として、学部・専攻を問わず、中国に関心をもつ学生が基礎から学べるよう構成している。配布資料や映像教材、ゲスト講義等を通じて、中国理解に必要な基礎知識を習得するとともに、政治学・社会学・国際関係の基本概念への理解を深めることを目指す。さらに、中国に関する多様な情報を批判的に読み解き、ステレオタイプに依拠しない視点を養う。中国を題材とした学びを通じて、多面的に思考する力を培い、国際社会の諸課題に主体的に向き合うための基礎的素養を身につけることを目的とする。

授業の到達目標:

1.現代中国の政治・社会・国際関係に関する基礎的事項を説明することができる。（学修成果：専門基礎知識）

2.中国の国内課題と対外関係の特徴を多角的に整理することができる。（学修成果：問題理解力）

3.政治学・社会学・国際関係の基礎概念を用いて現代中国を捉えることができる。（学修成果：理論的思考力）

4.文献・報道・映像資料など多様な情報を基に中国を立体的に理解することができる。（学修成果：情報活用力）

5.中国に関する多様な情報を批判的に検討し、ステレオタイプに依らない理解を形成できる。（学修成果：批判的思考力）

6.中国を題材として国際社会の諸課題について主体的に考察することができる。（学修成果：国際的視野・応用力）

事前・事後学習の内容:

事前学修
指定文献（論文・専門書抜粋等）の読解を中心とする。各回の理論的テーマに関する基礎文献を事前に読了し、論点整理を行うこと。
必要に応じて映像資料や補助教材の事前視聴を求める。
予習時間の目安：120分程度

事後学修
授業内で扱った理論枠組みおよび事例分析を整理し、関連文献の追加読解を行う。討論内容を踏まえ、自身の理解を文章化する短い課題を課す場合がある。
復習時間の目安：120分程度

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回 オリエンテーション：はじめて出会う中国授業の目的・方法の共有。現代中国を理解するための基本視点と問題設定を提示する。第2回 共産党一党支配体制とは何か中国共産党の統治構造、国家と党の関係、政治体制の基本的特徴を概観する。第3回 共産党体制はなぜ続くのか統治正統性、統治能力、社会統合の仕組みなどから体制持続の要因を考察する。第4回 改革開放が何をもたらしたのか経済発展と社会変容、格差拡大、都市化など改革開放以降の変化を整理する。第5回 なぜ歴史が問題となるのか歴史認識、記憶の政治、ナショナリズムとの関係から歴史問題を検討する。第6回 「中国モデル」をどう捉えるか発展モデル、統治モデル、国際的議論を踏まえ、「中国モデル」の多面的理解を試みる。第7回 総括/期末テスト講義全体の内容を整理し、総括を行い、期末テストを実施する。

授業運営上の補足:
1.本講義はクォーター科目のため、各回は2コマ連続で実施する。

2.授業内容は理解度や国際情勢に応じて調整する場合がある。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定なし。

参考文献: 授業時に提示する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	50	最終回の授業時間内に期末試験を実施する。講義内容全体に関する基礎的理解および論点把握の程度を評価する。
レポート:	20	授業時間内に小レポートを2回実施する（各300字程度）。授業に関する理解度および論点整理の的確さを評価する。
平常点評価:	30	以下の要素を総合的に評価する。 授業内で提示する問いに対する応答やコメントシート等の内容（理解度・思考の深さ） 授業への主体的な参加状況（発言、リアクション、課題提出状況等） ※出席のみでは評価対象としない。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010105|01|9S09010105[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国総合講座（発展）		
担 当 教 員	江 正殷		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本講座は「中国総合講座（入門）」に続く発展科目として、現代中国をより理論的かつ多角的に考察することを目的とする。入門科目で扱った基礎的知識を踏まえつつ、中国をめぐる諸問題を深い分析視角から検討する。なお、入門科目を履修しなくても、受講できるように工夫する。

習近平政権下における中国の国際的影響力の拡大や米中関係の急速な変容は、既存の国際秩序に大きな転換をもたらしている。共産党による一党支配体制、対外戦略、台湾政策などは国際社会に広範な影響を及ぼしており、中国を取り巻く環境は一層複雑化している。他方で中国は、経済格差の拡大、高齢化、少数民族問題、統治モデルの変容、パンデミック対応をめぐる政策など、多層的かつ構造的な課題を抱えている。

本講座では、中国という巨大かつ多面的な存在を、政治・経済・法律・歴史・文化・思想・社会・国際関係などの観点から再検討し、現代中国の動態を総合的に捉える。文献資料、統計データ、映像教材、報道資料などを活用しながら、複雑に絡み合う問題群を構造的に読み解くことを目指す。各回の講義では、社会科学の理論枠組みや学術的議論を導入し、中国の諸問題を理論的に位置づける視座を養う。中国を単なる地域研究の対象としてではなく、国際社会の構造変動を理解するための重要な分析対象として捉えることを重視する。

本講座は、中国に関心をもつ学生であれば学部・専攻を問わず履修できるよう設計しており、「中国総合講座（入門）」を履修していない学生にも理解できるよう適宜補足を行う。配布資料や文献講読、映像教材、ゲスト講義などを通じて、中国理解に必要な歴史・政治・社会に関する知識を整理しつつ、より高度な議論へと接続する。
講義内での討論や資料分析を通じて、政治学・社会学・国際関係の基礎概念や理論への理解を深め、中国に関する多様な情報を批判的に読み解く姿勢を養う。ステレオタイプに依存しない中国理解を形成するとともに、中国という題材を通じて多面的に思考する力を培う。最終的には、中国をめぐる諸問題を自らの課題として捉え、複雑化する国際社会を主体的に考察するための思考力と分析力を養うことを目的とする。

授業の到達目標:

1.現代中国をめぐる主要な学術的論点を整理し、その特徴を説明することができる。（学修成果：専門知識の深化）

2.社会科学の理論枠組みを用いて中国の政治・社会・国際関係を分析することができる。（学修成果：理論的分析力）

3.中国の国内課題と国際的役割を相互に関連づけて考察することができる。（学修成果：統合的思考力）

4.文献・統計・報道・映像資料を批判的に検討し、複数の視点から中国を理解することができる。（学修成果：情報分析力）

5.ステレオタイプに依らない中国像を構築し、自らの視点に基づいて論じることができる。（学修成果：批判的思考力・判断力）

6.中国をめぐる問題を通じて、現代の国際社会の構造変動について主体的に考察することができる。（学修成果：国際的視野・応用力）

事前・事後学習の内容:

事前学修
指定文献（論文・専門書抜粋等）の読解を中心とする。各回の理論的テーマに関する基礎文献を事前に読了し、論点整理を行うこと。
必要に応じて映像資料や補助教材の事前視聴を求める。
予習時間の目安：120分程度

事後学修
授業内で扱った理論枠組みおよび事例分析を整理し、関連文献の追加読解を行う。討論内容を踏まえ、自身の理解を文章化する短い課題を課す場合がある。
復習時間の目安：120分程度

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回 断片的な中国情報とどう向き合うか現代中国をめぐる情報環境の特質を整理し、資料批判の視点と分析枠組みを提示する。第2回 社会主義国家としての中国をどう理解するか中国の政治体制と社会主義体制の特徴を、理論的観点から再検討する。第3回 習近平政権と「中国の夢」国家ビジョンとしての「中国の夢」の理念と統

治戦略を分析する。第4回 「共同富裕」と社会構造の変容格差是正政策としての共同富裕を手がかりに、中国社会の課題を考察する。第5回 「中国的民主」をどう捉えるか民主主義概念の多様性を踏まえ、中国における統治正統性の議論を検討する。第6回　中国の対外戦略と国際関係米中関係、台湾問題を中心に、中国の対外戦略と国際秩序への影響を分析する。第7回　総括/期末テスト講義内容を総合的に整理し、現代中国をめぐる諸論点を再検討するとともに、教場にて期末テストを実施する。

授業運営上の補足:
1.本講義はクォーター科目のため、各回は2コマ連続で実施する。
2.授業内容は受講者の理解度や国際情勢の変化に応じて調整する場合がある。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定なし。

参考文献: 授業時に提示する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験:	50	最終回の授業時間内に期末試験を実施する。講義内容全体に関する基礎的理解および論点把握の程度を評価する。
レポート:	20	授業時間内に小レポートを2回実施する(各300字程度)。授業に関する理解度および論点整理の的確さを評価する。
平常点評価:	30	以下の要素を総合的に評価する。 授業内で提示する問いに対する応答やコメントシート等の内容(理解度・思考の深さ) 授業への主体的な参加状況(発言、リアクション、課題提出状況等)

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010122|01|9S09010122[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	プロデュース概論		
担 当 教 員	土田 環@吉川 圭三		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（映像・表象・芸術）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 映画・映像を通して、人間・社会・文化に関する様々な学問分野の専門的知識を体系的に理解し、文理横断的な観点から現代社会における重要な課題を綜合的に把握、究明する。
具体的には、テレビ、映画、アニメ、ネット配信、出版など、今日のメディアの多様化するあり方を、過去から現在へ概観しつつ、未来をプロデュースするために必要な基本的な知識や考え方を養う。また、「企画」「制作」「流通」の実践的な面に即しながら、「プロデュース」に一貫する姿勢を探る。

※この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。
※授業の実施方法については、大学のガイドラインを遵守しつつ、基本的に対面形式で行う。場合によって、オンライン形式を併用することも検討する。

授業の到達目標: 映像業界を理解するために必要な最低限の知識を修得する。
また、「映像創作物」を生み出すための企画の立て方、手法について、実例や具体例を通して理解できるようにする。
授業で扱うトピックに関して、幅広い教養を得るために推薦資料・書籍・映像を多く紹介し、映画・映像に対する受講者の知見をさらに深めると同時に、映画・映像分野の現代的な課題を明示し、その解決のための創造的な思考を学生が自身で養えるようにする。

事前・事後学習の内容: 授業内で扱ったトピックについて、自分自身で調べる、書籍や論文を読むなど、積極的に関心を広げていってほしい。好奇心こそがプロデュースという仕事にとって大切なものであることを実践してほしい。
映画館、アトラクションなど、授業で言及された施設にはできるだけじっさいに足を運ぶこと。映画やドラマ作品についてもとにかくたくさん観ること。結局のところ、人の心を動かすためには、ビジネスを形式で理解していてもそれほど力足り得ない。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:ガイダンス（土田）
映画興行の概観

第2回:日本と世界の映画産業（土田）
日本の映画業界・制作・ビジネス事情と国際比較

第3回:日本と世界の放送産業（吉川）
日本のテレビ局と制作・ビジネス事情と国際比較

第4回:日本と世界のアニメーション産業（吉川）
日本と世界のアニメ業界・制作・ビジネス事情と国際比較

第5回:映像文化の過去・現在・未来（吉川）
日本と世界のネット動画配信およびネット・ビジネス事情インタラクティヴ・新テクノロジーを用いた映像文化のこれから

第6回:テレビ制作・企画論①（吉川）
ドラマ・バラエティ・ドキュメンタリー・エンタテイメント番組の企画から制作までの流れ

第7回:テレビ制作・企画論②（吉川）
卓越した企画立案とプレゼンテーションに必要な要素

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特になし。
必要な場合は、授業中に適宜配付する。

参考文献: 吉川圭三『ヒット番組に必要なことはすべて映画に学んだ』（2014、文芸春秋社）
吉川圭三『たけし、さんま、ところの『すごい』現場』（小学館、2017）

吉川圭三ブログURL：
http://blogos.com/blogger/keizo_yoshikawa/article/

一般社団法人コミュニティシネマセンター=編『映画上映活動年鑑2023』（一般社団法人コミュニティシネマセンター、2024）
Art House Press：
https://arthousepress.jp/

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：	50	期末レポートにより評価する。 課題については授業中及びCourse Naviにて評価する。
平常点評価：	50	出席および授業中の発言等により評価する。 各回リアクションペーパーの提出が求められる。

備考・関連URL：　＊理工3学部所属の皆さんは、理工設置科目を履修申請してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010124|01|9S09010124[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ジャーナリズムの現在（石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞記念講座）		
担 当 教 員	土屋 礼子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	、文・社会科学科目（メディア・ジャーナリズム	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 石橋湛山のジャーナリズム精神と共に

授業概要: 本講義は「石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞記念講座」として運営されている。
ジャーナリズムとは何か。それはどのような社会的な働きをしているのか。ジャーナリストとは誰か。どのような仕事をしているのか、そして何故それをしているのか。こうした問いに、取材過程からアプローチする。
現在活動中の優れたジャーナリストの方々らを講師としてお招きし、お話を聞き、対話し、考える。受講生の皆さんには、彼ら彼女らがどのような問題意識をもち、どのような取材のプロセスを経て、どのような作品を生み出していくのかを見聞きし、考えてもらいたい。そして、ジャーナリズムの現在を知り、ジャーナリズムの公共的な役割とその課題について考察を深めてもらいたい。授業の最後30分間は質疑応答の時間とするので、受講生の活発な発言を期待する。
講師としてお招きするのは、昨年度の「石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞」受賞者やファイナリストの方々、最近のジャーナリズム上のトピックの論客、最近のジャーナリズムにインパクトを与えた方々である。受講生には講義の感想文（300～400字）を毎回提出してもらう。また、期末レポートを予定している。

授業の到達目標: ジャーナリズムとジャーナリストの実践について理解を深める。ジャーナリズムの公共的役割とその課題について自分としての意見を持てるようにする。自分の将来や進路を考える上で必要なものは何かを把握する。

事前・事後学習の内容: 1. 受講生は、各回の講師について、事前に調べておくこと。必読図書・資料等が事前に周知された場合は、それらを読んだうえで受講すること。
2. 毎講義終了後は、講義を振り返りつつ、授業中に不明であった点を自分でしらべると共に、かならず授業感想文（300～400字）をMoodleで提出すること。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

【第1回 4月16日】「兵庫県知事選等めぐるキャンペーン報道～SNSと選挙・広がる誹謗中傷～」

講師：村瀬 健介 氏
TBSテレビ「報道特集」

【第2回 4月23日】「移民・難民たちの新世界地図 ── ウクライナ発「地殻変動」一〇〇〇日の記録」
講師：村山 祐介 氏

【第3回 4月30日】シンポジウム1 テーマ：「テレビ・ドキュメンタリーの過去・現在・未来」
講師： 今林隆史（RKB毎日放送）
小黒純（同志社大学）

【第4回 5月7日】「鍬を握る 満蒙開拓からの問い」
講師：島田隆一 氏
信濃毎日新聞社編集局「鍬を握る」取材班 代表

【第5回 5月14日】被爆80年企画「ヒロシマ ドキュメント」
講師：岡田 浩平 氏、水川 氏
中国新聞「ヒロシマ ドキュメント」取材班 代表

【第6回 5月21日】シンポジウム2 テーマ：「オフレコ取材を考える」
講師： 伊藤聖（BSフジ）
畑仲哲雄（龍谷大学）

【第7回 5月28日】「能登デモクラシー」
講師：五百旗頭 幸男 氏

石川テレビ放送

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定しない。「事前・事後学修の内容」と「参考文献」を参照のこと。

参考文献: 毎年のこの授業の内容を、単行本化した講義録として以下の書籍がある。キャンパス内の生協ブックセンターで購入可能。図書館でも所蔵している。
期末レポートの文献として、それぞれ直近の5冊（2021年『民主主義は支えられることを求めている！』～2025年『分断と闇を超えて』）を使用する。

2025年 『分断と闇を超えて』 早稲田大学出版部
2024年 『「忖度」なきジャーナリズムを考える』 早稲田大学出版部
2023年 『データが切り拓く新しいジャーナリズム』 早稲田大学出版部
2022年 『SNS時代のジャーナリズムを考える』 早稲田大学出版部
2021年 『民主主義は支えられることを求めている！』 早稲田大学出版部
2019年 『ニュースは「真実」なのか』 早稲田大学出版部

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 50 期末レポートを課す。

平常点評価: 50 授業への出席、議論への貢献度、各回の感想文を総合的に評価する。出席回数と感想文提出回数がそれぞれ3分の2以上であることが求められる。

備考・関連URL: 【関連URL】
石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞のWebSite
https://www.waseda.jp/top/about/activities/j-award
備考】
ジャー ナリズムの授業であり、受講者は日頃から新聞や雑誌、ネットのニュースをよく読み、テレビのニュースやドキュメンタリーに接し、ノンフィクションやルポを読み、映画を観るなど、メディアでどのようなジャーナリズムが展開されているかを学んでほしい。それらに強い関心をもち、日々の学びを持続できる学生に受講してもらいたい。毎回異なる講師が登壇するので、「一期一会」を旨として、緊張感をもって各回の授業に臨んでほしい。授業の定員は200人。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010140|01|9S09010140[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ロジカルシンキング入門 01		
担 当 教 員	曽布川 拓也		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	、文・社会科学科目（メディア・ジャーナリズム	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

大学の授業において、「読む」「聞く」といった受動的な活動は多く行われている。また「書く」ことについては、本学グローバル・エデュケーション・センターのアカデミックライティング部門が素晴らしいプログラムを提供している。一方「話す」ことについてのトレーニングはそれほど多くないように思われる。この授業は特に日本語で簡潔に「話す」ことを主たる目標とする。

そのために本授業では、毎週オンデマンド動画などによる講義を視聴し、テキストを読んでその内容を説明出来るように準備してくることを要求する。準備の仕方については初回の授業で具体的に説明する。

扱う題材は中3～高1程度の数学である。しかし数学ができるとかできないとかは全く問題ではない。公式や解法を覚えること、また計算をすることは必要ない。すでに書いてある定理の証明を他人に説明するトレーニングを行う。

テキストは英語で書かれている。そのことが【ロジカルシンキング】のトレーニングに効果的である。結果的に英語で書かれた文献を読むトレーニングにもなる。

欧米やオーストラリアなどの大学では、1つの「講義」に対して「ディスカッション」「ライティング」がセットでついてくることが多い。もちろん専門の内容を学ぶことも大切なのだが、特に学部段階においてはそれにこだわらず広くものの見方・考え方を身につけることが重要であるとされ、そのためにこうした形式が有用であるとされている。多くの学生はこの基盤の上に立って、主専攻のみならず副専攻（2nd major または minor）を持つ。また大学学部を卒業してから大きく専攻分野を変えるケースはたくさんある。これからの世の中では、そんな柔軟性が要求されていくといえるであろう。この「講義」の部分をオンラインで行う「反転授業」とも呼ばれる授業形態は2020年を機に日本でも取り入れられるようになってきた。今期が通算23期目となるこの授業は、その形式（のミニチュア版）で行われる。

授業の到達目標：

論理的に整然とした発表ができるようになること。またそれを簡潔に書けるようになること。

自信を持って人前で発表できるようになること

事前・事後学習の内容：

予習が大切である。目一杯勉強し考えてきて分からないことがあれば、それは良い状況である。
分からないことをオープンにすることが学問に対する第1歩である。

なお、

「動画サイトで調べたのだが内容がわからない」「AIの解説がわからない」「テキストをとりあえず全部和訳してみた」

という受講生をよく見かけるが、それらを用いて準備しようとするのはこの授業に関しては「有害」である。

そのようなことをするならばこの授業の意味がなくなるので、履修を勧めない。準備の仕方について心配がある場合には、担当教員に質問すること。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第一回 （第1週3時限目） 準備・Getting Started
ゼミナール形式の基本的な進め方について（予習の仕方，席の着き方など）

初歩的な数学記号や数学用語（定義，定理，命題など）について
第二回 （第1週4時限目）講義・Basic Techniques to Prove If/Then Statements (2)
講義（オンデマンド形式）：前提と結論，条件・命題の否定について
第三回 （第2週3時限目） ゼミナール・Basic Techniques to Prove If/Then Statements (2)
ゼミナール：If/Then Statement の証明について

第四回 （第2週4時限目）演習／講義・Basic Techniques to Prove If/Then Statements (3)、Special Kinds of
ライティング演習：3時限目のゼミナールの内容に関する内容

講義（オンデマンド形式）：対偶証明法と背理法，同値命題について
第五回 （第3週3時限目） ゼミナール・Basic Techniques to Prove If/Then Statements (3)、Special Kinds of
ゼミナール： 対偶証明法と背理法について／同値命題の証明法について
第六回 （第3週4時限目）演習／講義・Special Kinds of Theorems(2)
ライティング演習：3時限目のゼミナールの内容に関する内容
講義（オンデマンド形式）： 定義の確認の仕方，反例の示し方，存在性と一意性について
第七回 （第4週3時限目） ゼミナール・Special Kinds of Theorems(2)
ゼミナール：定義の確認の仕方，反例の示し方，存在性と一意性について
第八回 （第4週4時限目）演習／講義・Special Kinds of Theorems(3)
ライティング演習：3時限目のゼミナールの内容に関する内容
講義（オンデマンド形式）：条件の絡み合ったStatementについて、集合の考え方と論理について
第九回 （第5週3時限目） ゼミナール・Special Kinds of Theorems(4)、Some Mathematical Topics(1)
ゼミナール：条件の絡み合ったStatementについて、集合の考え方と論理について
第十回 （第5週4時限目）演習／講義・Some Mathematical Topics(2)
ライティング演習：3時限目のゼミナールの内容に関する内容
講義（オンデマンド形式）：集合のデカルト積、関係Relation、同値関係について
第十一回 （第6週3時限目） ゼミナール・Some Mathematical Topics(2)
ゼミナール：集合のデカルト積、関係Relation、同値関係について
第十二回 （第2週4時限目）演習／講義・Some Mathematical Topics(3)
ライティング演習：3時限目のゼミナールの内容に関する内容
講義（オンデマンド形式）：無限を数える
第十三回 （第7週3時限目） ゼミナール・Some Mathematical Topics(3)
ゼミナール：無限を数える
第十四回 （第7週4時限目）ゼミナール・今期の総復習
ゼミナール：今期取り上げた内容全体からピックアップして話す

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： A. Cupillari: The Nuts and Bolts of Proofs, Fourth Edition , Academic Press

早稲田大学図書館でオンライン書籍を購入しています。図書館検索サイトWineからたどるか、学内のネットワークから直接ダウンロードしてください。
http://www.sciencedirect.com/science/book/9780123822178

基本的には印刷して用いることを推奨します。ノートPCやタブレットなどで持ち歩いても構いませんが、スマートフォン上での閲覧はこれまでも様々な困難が起きているため禁止とします。指示に従えない場合には履修をお断りすることがあります。

初回はChapter 1を全部使います。特に初回の授業では英和辞典が使えるようにしておくこと。

参考文献： 新井紀子「生き抜くための数学入門」理論社

曽布川拓也・山本直人「数学的に話す技術・書く技術」東洋経済新報社（Kindle版あり）

成績評価フリー入力サイン： 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 50 第2週以降毎週（第４回以降の偶数回）に実施するライティング演習：その週の準備を十分に行い、その結果紛れのない日本語によって，論理的な文章が書けるようになっているか（5点×5回）

第14回(ゼミナール)：準備してきた内容を自信を持って伝えられるようになっているか(25点)

平常点評価： 50 第1週（第1回および第2回）： シラバスに指示してある通り教科書を準備し、積極的に取り組んだか。(20点)

第2週～第7週(第3回～第13回の奇数回)： 授業に参加し，準備してきた内容を他人に積極的に説明しようとしているか。(5点×6回)

備考・関連URL： まず科目登録(履修申請)の前に必ず以下の2つのページをご覧下さい。

事前準備のページ　ニックネーム登録＆プレミーティングのページ

1）ニックネーム登録について
この授業では事前に登録したニックネームをすべての場面で使います。元々はオンライン授業において履修者のプライバシーを守る観点から導入したものですが、教室での対面授業においてもこれを使います。必ず事前登録をしてください。

2）プレミーティングについて
直接成績には関係ありませんが、授業開始前にオンラインで事前ゼミナールを行います。本編の授業がどのような感じで行われるかのムードを知ることができます。登録締め切りの前にも行いますので、履修について迷っている人も参加してみてください。事前にニックネーム登録を済ませて下さい。
全員「書きながら話す」ことを要求します。方法については事前準備ページからそのサンプルを見ることができます。開催日時等については、履修者が確定し次第メールで知らせます。

注意）プレミーティングも含め、この授業に関連することをオンラインで行う場合はZoomを用います。その際には全員ビデオをonにして行います。基本的に例外を認めません。

※過去の事例で言えば、すべての授業にできる限りの準備をして臨んだ者は全員最終回の試験には満点が取れています。
※最初の授業に参加しない方は履修をお断りいたします。
※同じ授業は今年度秋Qおよび来年度以降にも行います。初回授業に出られない方は、「ロジカルシンキング入門 02」への登録をお待ちしております。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010140|02|9S09010140[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ロジカルシンキング入門 02		
担 当 教 員	曽布川 拓也		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	、文・社会科学科目（メディア・ジャーナリズム	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

大学の授業において、「読む」「聞く」といった受動的な活動は多く行われている。また「書く」ことについては、本学グローバル・エデュケーション・センターのアカデミックライティング部門が素晴らしいプログラムを提供している。一方「話す」ことについてのトレーニングはそれほど多くないように思われる。この授業は特に日本語で簡潔に「話す」ことを主たる目標とする。

そのために本授業では、毎週オンデマンド動画などによる講義を視聴し、テキストを読んでその内容を説明出来るように準備してくることを要求する。準備の仕方については初回の授業で具体的に説明する。

扱う題材は中3～高1程度の数学である。しかし数学ができるとかできないとかは全く問題ではない。公式や解法を覚えること、また計算をすることは必要ない。すでに書いてある定理の証明を他人に説明するトレーニングを行う。

テキストは英語で書かれている。そのことが【ロジカルシンキング】のトレーニングに効果的である。結果的に英語で書かれた文献を読むトレーニングにもなる。

欧米やオーストラリアなどの大学では、1つの「講義」に対して「ディスカッション」「ライティング」がセットでついてくることが多い。もちろん専門の内容を学ぶことも大切なのだが、特に学部段階においてはそれにこだわらず広くものの見方・考え方を身につけることが重要であるとされ、そのためにこうした形式が有用であるとされている。多くの学生はこの基盤の上に立って、主専攻のみならず副専攻（2nd major または minor）を持つ。また大学学部を卒業してから大きく専攻分野を変えるケースはたくさんある。これからの世の中では、そんな柔軟性が要求されていくといえるであろう。この「講義」の部分をオンラインで行う「反転授業」とも呼ばれる授業形態は2020年を機に日本でも取り入れられるようになってきた。今期が通算23期目となるこの授業は、その形式（のミニチュア版）で行われる。

授業の到達目標：

論理的に整然とした発表ができるようになること。またそれを簡潔に書けるようになること。

自信を持って人前で発表できるようになること

事前・事後学習の内容：

予習が大切である。目一杯勉強し考えてきて分からないことがあれば、それは良い状況である。
分からないことをオープンにすることが学問に対する第1歩である。

なお、

「動画サイトで調べたのだが内容がわからない」「AIの解説がわからない」「テキストをとりあえず全部和訳してみた」

という受講生をよく見かけるが、それらを用いて準備しようとするのはこの授業に関しては「有害」である。

そのようなことをするならばこの授業の意味がなくなるので、履修を勧めない。準備の仕方について心配がある場合には、担当教員に質問すること。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第一回 （第1週3時限目） 準備・Getting Started
ゼミナール形式の基本的な進め方について（予習の仕方，席の着き方など）

初歩的な数学記号や数学用語（定義，定理，命題など）について
第二回 （第1週4時限目）講義・Basic Techniques to Prove If/Then Statements (2)
講義（オンデマンド形式）：前提と結論，条件・命題の否定について
第三回 （第2週3時限目）ゼミナール・Basic Techniques to Prove If/Then Statements (2)
ゼミナール：If/Then Statement の証明について

第四回 （第2週4時限目）演習／講義・Basic Techniques to Prove If/Then Statements (3)、Special Kinds of
ライティング演習：3時限目のゼミナールの内容に関する内容

講義（オンデマンド形式）：対偶証明法と背理法，同値命題について
第五回 （第3週3時限目） ゼミナール・Basic Techniques to Prove If/Then Statements (3)、Special Kinds of
ゼミナール： 対偶証明法と背理法について／同値命題の証明法について
第六回 （第3週4時限目）演習／講義・Special Kinds of Theorems(2)
ライティング演習：3時限目のゼミナールの内容に関する内容
講義（オンデマンド形式）： 定義の確認の仕方，反例の示し方，存在性と一意性について
第七回 （第4週3時限目） ゼミナール・Special Kinds of Theorems(2)
ゼミナール：定義の確認の仕方，反例の示し方，存在性と一意性について
第八回 （第4週4時限目）演習／講義・Special Kinds of Theorems(3)
ライティング演習：3時限目のゼミナールの内容に関する内容
講義（オンデマンド形式）：条件の絡み合ったStatementについて、集合の考え方と論理について
第九回 （第5週3時限目） ゼミナール・Special Kinds of Theorems(4)、Some Mathematical Topics(1)
ゼミナール：条件の絡み合ったStatementについて、集合の考え方と論理について
第十回 （第5週4時限目）演習／講義・Some Mathematical Topics(2)
ライティング演習：3時限目のゼミナールの内容に関する内容
講義（オンデマンド形式）：集合のデカルト積、関係Relation、同値関係について
第十一回 （第6週3時限目） ゼミナール・Some Mathematical Topics(2)
ゼミナール：集合のデカルト積、関係Relation、同値関係について
第十二回 （第2週4時限目）演習／講義・Some Mathematical Topics(3)
ライティング演習：3時限目のゼミナールの内容に関する内容
講義（オンデマンド形式）：無限を数える
第十三回 （第7週3時限目） ゼミナール・Some Mathematical Topics(3)
ゼミナール：無限を数える
第十四回 （第7週4時限目）ゼミナール・今期の総復習
ゼミナール：今期取り上げた内容全体からピックアップして話す

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： A. Cupillari: The Nuts and Bolts of Proofs, Fourth Edition , Academic Press

早稲田大学図書館でオンライン書籍を購入しています。図書館検索サイトWineからたどるか、学内のネットワークから直接ダウンロードしてください。
http://www.sciencedirect.com/science/book/9780123822178

基本的には印刷して用いることを推奨します。ノートPCやタブレットなどで持ち歩いても構いませんが、スマートフォン上での閲覧はこれまでも様々な困難が起きておりますので禁止とします。指示に従えない場合には履修をお断りすることがあります。

初回はChapter 1を全部使います。特に初回の授業では英和辞典が使えるようにしておくこと。

参考文献： 新井紀子「生き抜くための数学入門」理論社

曽布川拓也・山本直人「数学的に話す技術・書く技術」東洋経済新報社（Kindle版あり）

成績評価フリー入力サイン： 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 50 第2週以降毎週（第４回以降の偶数回）に実施するライティング演習：その週の準備を十分に行い、その結果紛れのない日本語によって，論理的な文章が書けるようになっているか（5点×5回）

第14回(ゼミナール)：準備してきた内容を自信を持って伝えられるようになっているか(25点)

平常点評価： 50 第1週（第1回および第2回）： シラバスに指示してある通り教科書を準備し、積極的に取り組んだか。(20点)

第2週～第7週(第3回～第13回の奇数回)： 授業に参加し，準備してきた内容を他人に積極的に説明しようとしているか。(5点×6回)

備考・関連URL： まず科目登録(履修申請)の前に必ず以下の2つのページをご覧下さい。

事前準備のページ　ニックネーム登録＆プレミーティングのページ

1）ニックネーム登録について
この授業では事前に登録したニックネームをすべての場面で使います。元々はオンライン授業において履修者のプライバシーを守る観点から導入したものですが、教室での対面授業においてもこれを使います。必ず事前登録をしてください。

2）プレミーティングについて
直接成績には関係ありませんが、授業開始前にオンラインで事前ゼミナールを行います。本編の授業がどのような感じで行われるかのムードを知ることができます。登録締め切りの前にも行いますので、履修について迷っている人も参加してみてください。事前にニックネーム登録を済ませて下さい。
全員「書きながら話す」ことを要求します。方法については事前準備ページからそのサンプルを見ることができます。開催日時等については、履修者が確定し次第メールで知らせます。

注意）プレミーティングも含め、この授業に関連することをオンラインで行う場合はZoomを用います。その際には全員ビデオをonにして行います。基本的に例外を認めません。

※過去の事例で言えば、すべての授業にできる限りの準備をして臨んだ者は全員最終回の試験には満点が取れています。
※最初の授業に参加しない方は履修をお断りいたします。
※同じ授業は今年度夏Qおよび来年度以降にも行います。初回授業に出られない方は、「ロジカルシンキング入門 01」への登録をお待ちしております。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010143|01|9S09010143[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮半島の文化と社会（入門）		
担 当 教 員	崔 チョンア		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

本授業では、朝鮮半島を理解するうえで重要なトピックを通じて、朝鮮半島に関する基礎的かつ総合的な知識を学ぶ。具体的には、地理・言語・歴史・日本との関係・サブカルチャー・時事問題などを扱う。既有の知識を広げるとともに、日本や近隣諸国との比較の視点も取り入れ、偏りのない多角的理解を目指す。

各回の授業は、前回内容のフィードバック、キーワードの確認、講義およびグループでの意見交換、リアクションペーパーの提出によって構成される。

毎回授業の最後に、内容に関連する問いを提示し、リアクションペーパーとして提出する。それを通して理解度を確認するとともに、各テーマについて自らの考えを論理的に整理する力の育成を図る。
また、時事ニュースも積極的に取り上げ、現代的課題への関心を高める。授業への主体的かつ積極的な参加を求める。

授業の到達目標：

朝鮮半島の文化と社会について広く知り、過去からの流れと現在の朝鮮半島をよりよく理解できるようになることを目標とする。

事前・事後学習の内容：

事前学習：授業前週に提示された次回のキーワード（用語）について、簡単な基礎知識を確認してくることが要求される（30～60分かかることが想定される）。

※ 事前知識があったほうが理解が深まると判断した場合は、予習ビデオ視聴を事前学習として課することもある。

授業計画フリー入力サイン：

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

第1回：授業ガイダンス、朝鮮半島に関する理解度クイズ

第2回：朝鮮半島概要（国土・人口・半島の呼称問題）

第3回：文字とことば
－ハングルの概要（『訓民正音』、時代背景、抵抗）
－戦後と言語政策（漢字、ハングル専用法、純化運動）

第4回：ことばと文化
－ことばと人との関係性（本貫、行列字、呼称と敬語）
－方言（標準語と文化語、半島外の朝鮮語）

第5回：冠婚葬祭（トルジャンチ、結婚事情、チェサ（祭祀）など）

第6回：服飾文化（時代劇ドラマから見る韓服史とその変遷）

第7回：食文化（伝統食、儀礼と食、キムジャン）

第8回：確認テストおよびフィードバック（Q&A、補足）

第9回：住文化（韓屋、アパート、オンドル、チョンセ、コシウォン）

第10回：日本統治時代とその影響
―独立運動、創氏改名、徴兵・徴用
―朝鮮戦争と徴兵制（分断、離散家族、兵役）

第11回：光州民主化運動と今日への影響、関連作品（小説、映画）

第12回：韓国の受験・就職事情
―受験と社会問題
―「スペック」「n放」などの若者文化

第13回：K-Culture（文化開放、世界進出戦略、文化の伝播とことば）

第14回：確認テストおよびフィードバック（Q&A、補足）

※ 最新時事ニュースを扱うため、内容を一部変更する場合がある。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: プリント、もしくはPDF資料配布

参考文献: 伊藤亜人ほか 監修『新版 韓国 朝鮮を知る事典』(平凡社、2014)
石坂浩一・福島みのり(編著)『現代韓国を知るための60章』【第2版】(明石書店、2014)
文京珠『新・韓国現代史』(岩波新書、2015)

※ 各トピック別の主要参考文献は随時授業で提示する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 70 二回実施する確認テストで授業の内容全般についての理解度を確認する。

平常点評価: 30 授業への参加度(毎回のリアクションペーパー内容、発言、グループ活動を含む、宿題)

備考・関連URL: ・出席の最低基準を満たしていない者は、試験の成績に関わらず評価の対象とならないので注意すること(レポート等による救済措置はなし)。
・欠席をする場合は、事前に連絡すること。

※ 最新時事ニュースを積極的に取り上げる予定のため、授業内容は一部変更することがある。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010176|01|9S09010176[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	世界資源エネルギー入門 O1		
担 当 教 員	平田 竹男		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

1.ロシアのウクライナ侵攻によりヨーロッパはじめ世界のエネルギー事情は一変した。加えてパレスチナ・イスラエル戦争が起こった。
ヨーロッパはそれまでの天然ガス輸入のロシア依存をあらため、急遽ロシア以外の資源供給先を確保せざるを得なくなった。地球環境のための脱石炭、脱原発を一旦中断し、脱ロシアを猛スピードで進めるヨーロッパのエネルギー戦略から目が離せない。

2.シェールガス革命により、アメリカはエネルギー輸入国から輸出国に転じており、ヨーロッパへの輸出攻勢をかける。エネルギー自給を達成したアメリカの対中東など外交政策の変更が注目される。

3.一方でロシアと中国のパイプラインが繋がり、両国は連携を深める。中国はアフリカでの石油確保に加え、ミャンマー、トルクメスタンからの天然ガスパイプライン、LNGインフラの整備が進む。再エネが伸長するが、再エネ関連産業も世界的に発展する。電気自動車も発展する。

4.こうした世界のエネルギーを取り巻く環境が目まぐるしく変化する中で、日本はどのような戦略を持つか、グラスゴー合意により、脱石炭シフトや産業構造全体のCO2削減へのシフト、太陽光発電や風力発電などの新エネルギー等の充実も検討しつつ、脱ロシアなどとバランスの取れた国家戦略を考える機会を提供する。

5.本授業は全回オンデマンド授業として実施する。各回の内容については可能な限りタイムリーなものを取り上げるため、下記の授業計画とは異なる場合もある。

授業の到達目標： 主要各国の資源エネルギー政策を理解し、基本的知識を取得する。

事前・事後学習の内容： 毎回講義後のレビューシート提出が求められます。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
イントロダクション
第2回
基本的視点
第3回
ロシア①
第4回
ロシア②
第5回
ドイツ
第6回
欧州
第7回
アメリカ①
第8回
アメリカ②
第9回
中国①
第10回
中国②

第11回
中東
第12回
インド・アフリカ
第13回
ASEAN・オーストラリア・韓国・台湾・ブラジル
第14回
日本

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「世界資源エネルギー入門」平田竹男著（東洋経済新報社）

参考文献: ・「サッカーという名の戦争」平田竹男著（新潮文庫）
・毎日の日本経済新聞におけるエネルギー地球関連記事
・エネルギー白書（資源エネルギー庁）
・世界地図帳
・World Energy Outlook (IEA)

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 毎回のレビューシートの内容を重視する

備考・関連URL: ・本授業は秋クォーターの「資源エネルギーと地球環境問題を考える 02」と同内容の講義である。したがって、重ねて履修することはできない。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010176|02|9S09010176[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	世界資源エネルギー入門 02		
担 当 教 員	平田 竹男		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： 1. ロシアのウクライナ侵攻によりヨーロッパはじめ世界のエネルギー事情は一変した。加えてパレスチナ・イスラエル戦争が起こった。ヨーロッパはそれまでの天然ガス輸入のロシア依存をあらため、急遽ロシア以外の資源供給先を確保せざるを得なくなった。地球環境のための脱石炭、脱原発を一旦中断し、脱ロシアを猛スピードで進めるヨーロッパのエネルギー戦略から目が離せない。
2. シェールガス革命により、アメリカはエネルギー輸入国から輸出国に転じており、ヨーロッパへの輸出攻勢をかける。エネルギー自給を達成したアメリカの対中東など外交政策の変更が注目される。
3. 一方でロシアと中国のパイプラインが繋がり、両国は連携を深める。中国はアフリカでの石油確保に加え、ミャンマー、トルクメニスタンからの天然ガスパイプライン、LNGインフラの整備が進む。再エネが伸長するが、再エネ関連産業も世界的に発展する。電気自動車も発展する。
4. こうした世界のエネルギーを取り巻く環境が目まぐるしく変化する中で、日本はどのような戦略を持つか、グラスゴー合意により、脱石炭シフトや産業構造全体のCO2削減へのシフト、太陽光発電や風力発電などの新エネルギー等の充実も検討しつつ、脱ロシアなどとバランスの取れた国家戦略を考える機会を提供する。
5. 本授業は全回オンデマンド授業として実施する。各回の内容については可能な限りタイムリーなものを取り上げるため、下記の授業計画とは異なる場合もある。

授業の到達目標： 主要各国の資源エネルギー政策を理解し、基本的知識を取得する。

事前・事後学習の内容： 毎回講義後のレビューシート提出が求められます。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
イントロダクション
第2回
基本的視点
第3回
ロシア①
第4回
ロシア②
第5回
ドイツ
第6回
欧州
第7回
アメリカ①
第8回
アメリカ②
第9回
中国①
第10回
中国②
第11回
中東
第12回
インド・アフリカ

第13回
ASEAN・オーストラリア・韓国・台湾・ブラジル
第14回
日本

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 「世界資源エネルギー入門」 平田竹男著（東洋経済新報社）

参考文献: ・「サッカーという名の戦争」 平田竹男著（新潮文庫）
・毎日の日本経済新聞におけるエネルギー地球関連記事
・エネルギー白書（資源エネルギー庁）
・世界地図帳
・World Energy Outlook （IEA）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 毎回のレビューシートの内容を重視する

備考・関連URL: ・本授業は夏クォーターの「資源エネルギーと地球環境問題を考える 01」と同じ内容の講義である。したがって重ねて履修することはできない。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010190|01|9S09010190[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	英語と数学の読み方 α		
担 当 教 員	曽布川 拓也		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 社会に出た人たちの多くが，学生時代に「数学」をもっと勉強しておけば良かったという。しかし多くの学生諸君はその必要性はわからないかもしれない。
また「英語」は使えなくては困ると言われながら，しかもすでに大学受験のために十分にこれを勉強してきているはずであるにも関わらず，苦手意識があったり，自信がない者も多いだろう。
この講義では，英語で書かれた数学の初等的(決してくだらないという意味ではなく，豊かなものである)なテキストを用いて，英語の文献の読み方，数学の考え方を学ぶ。
この科目では「数学的な一人ゲーム」を扱い，実際にそのゲームを体験しながら一緒に楽しく考えて、その中から「英語の文献を読む」「数学を考える」ことについて学んでいく。

なお，この講義では以下のことを禁止する。
1. 数学の公式・解法パターンを暗記すること，面倒な計算をたくさんすること
2. 英語で書かれた文献をとりあえず訳して日本語にする「とりあえずの英文和訳」
3. 電子機器および自動翻訳サイトなどのAI による，テキストの自動翻訳の無秩序な利用

また、受講者の理解の状況や人数によって、細かい説明を行ったり、ディスカッション形式を採用することもある。その際には教室および内容の変更がありうる。

授業の到達目標: 1. 英語で書かれた文章に対する恐怖感を取り除き，英語で書かれた専門書を読む手がかりを得る。
2. 数学的なものの見方に親しみ，専門的な内容を学ぶ足がかりを得る。
3. (欧米的な意味で)論理な文章を書くことができる。

事前・事後学習の内容: 予習は必要ではないが、授業内容を概観する復習は必要である。毎回の報告を求める。
英和辞典の持参を推奨するが、スマートフォンなどによる検索や電子辞書を用いてもよい。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

Solitaires (1) 15-puzzleの理論
15-puzzle の解法について考える。英語のヒアリングを容易にする方法を考える。

Solitaires (2) 15-puzzleの理論
15-Graph puzzle の数学的な理論を学びながら、英語で書かれた数学の文献を読むにあたっての心構えについて（辞書の引き方，英文和訳をするかなど）について考える。

Solitaires (3) Triangle puzzleの概要と数学的表現
Triangle solitaire の概要を知る。さらにその数学的な表現について考える。

Solitaires(4) Triangle puzzleの数学的理論
Triangle puzzle の数学理論を学ぶ。英語で表された数学の定理の簡潔さを知る。

Solitaires (5) Peg solitaireの概要と数学的表現
Peg solitaireの概要を知る。さらにその数学的表現について考える。

Solitaires (6) Peg solitaireの理論
Peg solitaire の数学理論を学ぶ。英語で表された数学の定理の簡潔さを知る。

まとめと学力確認
授業全体の内容について検討し、その意義を知る

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: Steven VAJDA, Mathematical Games and How to Play Them, Dover
全員購入のこと

参考文献: 曽布川拓也・山本直人「数学的に話す技術・書く技術」東洋経済新報社(kindle版あり)

成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	30	英語で書かれた数学の易しい話題に関するテキストを読んで，その内容の概要を把握し，それを(日本語の)文章で論理的に表現できるか
レポート:	30	講義で講読した「数学的ゲーム」「数学的パズル」などを，読む人にわかるように表現できるか。
平常点評価:	40	毎回の授業のレビューを求める。授業で得られたこと、気づいたことなどを報告すること。その内容について評価する。（5点×６、最終回のみ１０点）

備考・関連URL:

〇2次登録・3次登録希望の学生諸君へ。 この科目に抽選で落ちることはまずありませんので、どうぞ初回からお越し下さい。
特に初回の授業はこの授業に参加する上で最も大切でもっとも面白いと思います。
一方で欠席した場合には理由の如何を問わず初回のレビュー分は0点となります。

〇AIの使い方について
翻訳ソフト・サイトを始め、AIによる翻訳が広く行われています。それらを用いてその場をしのぐのであればこの講義は意味がないので、履修を勧めません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010191|01|9S09010191[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	英語と数学の読み方 β		
担 当 教 員	曽布川 拓也		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 社会に出た人たちの多くが，学生時代に「数学」をもっと勉強しておけば良かったという。しかし多くの学生諸君はその必要性はわからないかもしれない。
また「英語」は使えなくては困ると言われながら，しかもすでに大学受験のために十分にこれを勉強してきているはずであるにも関わらず，苦手意識があったり，自信がない者も多いだろう。
この講義では，英語で書かれた数学の初等的(決してくだらないという意味ではなく，豊かなものである)なテキストを用いて，英語の文献の読み方，数学の考え方を学ぶ。
今期は「数学的な対戦ゲーム」を扱い，一緒に楽しく考えていく。

また、受講者の理解の状況や人数によって、細かい説明を行ったり、ディスカッション形式を採用することもある。その際には教室および内容の変更がありうる。
なお，この講義では以下のことを禁止する。
1．数学の公式・解法パターンを暗記すること，面倒な計算をたくさんすること
2．英語で書かれた文献をとりあえず訳して日本語にする「とりあえずの英文和訳」
3．電子機器による，テキストの自動翻訳の無秩序な利用

授業の到達目標: 1．英語で書かれた文章に対する恐怖感を取り除き，英語で書かれた専門書を読む手がかりを得る。
2．数学的なものの見方に親しみ，専門的な内容を学ぶ足がかりを得る。
3．(欧米的な意味で)論理な文章を書くことができる。

事前・事後学習の内容: 予習は必要ではないが、授業内容を概観する復習は必要である。さらに毎回の報告を求める。
英和辞典の持参を推奨するが、スマートフォンなどによる検索や電子辞書を用いてもよい。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

Game for 2 players(1)Subtraction game
簡単な例によってSubtraction game（山取りゲーム）について知る。さらに英語で書かれた数学の文献を読むにあたっての心構えについて（辞書の引き方，英文和訳をするかなど）
Game for 2 players(2) Take-away games
Subtraction game のうち，いくつかのTake-away gameについて検討する。
Game for 2 players(3) One-pile games
いくつかのTake-away gameについて検討し，One-pile gameのあらましを知る。
Game for 2 players(4) More general nims
One-pile gameを組み合わせたNimの理論について検討する。
Game for 2 players(5) Welter's game
Welter's game の理論とその派生形について検討する
Game for 2 players(6) Games on board or graph
盤上で行うようないくつかのゲームについて紹介する。
まとめと学力確認
授業全体の内容について検討し、その意義を知る

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: Steven VAJDA, Mathematical Games and How to Play Them, Dover
全員購入のこと

参考文献: 曽布川拓也・山本直人「数学的に話す技術・書く技術」東洋経済新報社(kindle版あり)

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	30	英語で書かれた数学の易しい話題に関するテキストを読んで，その内容の概要を把握し，それを(日本語の)文章で論理的に表現できるか
レポート:	30	講義で講読した「数学的ゲーム」「数学的パズル」などを，読む人にわかるように表現できるか。
平常点評価:	40	毎回の授業のレビューを求める。授業で得られたこと、気づいたことなどを報告すること。その内容について評価する。（5点×6、第7週のみ10点）

備考・関連URL: この授業では、教室内で2人または3人組になって実際に数学ゲームをプレイしてもらい、その経験をもとにテキストの分析をするなどの活動もあります。
〇2次登録・3次登録希望の学生諸君へ。 この科目に抽選で落ちることはまずありませんので、どうぞ初回からお越し下さい。
特に初回の授業はこの授業に参加する上で最も大切でもっとも面白いと思います。
一方で欠席した場合には理由の如何を問わず初回のレビュー分は0点となります。

〇AIの使い方について
翻訳ソフト・サイトを始め、AIによる翻訳が広く行われている。それを用いてその場をしのぐのであればこの講義は意味がないので、履修を勧めない。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010196|01|9S09010196[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	熊野の歴史と文化		
担 当 教 員	高木 徳郎		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

日本の歴史・文化に大きな影響を与えた熊野三山の歴史と文化、およびそれらが生み出した文化財について学ぶ。紀伊半島の南端に位置する熊野地方は、古代・中世という時代においては、都から辿り着くこと自体が困難な地であり、そこで修行した者の霊験が広く知られるようになると、その地を浄土とみなし、憧れを抱く意識が少しずつ醸成されていった。この講義では、そのような形で歴史の表舞台に登場した熊野と熊野三山の歴史的特質を、「熊野詣」のあり方とその変化を軸にして、歴史的に考察していくことにしたい。とくに、実際に熊野に参詣した人々によって筆記された参詣記や、平安時代以来の熊野詣に利用された参詣道の現状など、多種多様な資料を読み解きつつ、熊野詣の実態を解明していきたい。

本講義は、週1回、木曜日をメドに講義動画を配信するオンデマンド方式で行う（1回あたりの講義は2～3本の動画によって構成されている）。受講者は、7週にわたってこの講義動画を視聴し、毎回、期日までに講義内容に関するレビューシートを提出した上で、最後に課題レポートを提出して受講が完結する。動画は開講期間最終日まで視聴できるが、レビューシートおよび課題レポートは期日までに提出しなければならないので注意すること。

授業の到達目標:

熊野の歴史と文化の理解には、密教や修験道、さらには浄土思想や末法思想など、日本独特の宗教や思想への理解が不可欠である。この講義では、熊野がたどった数奇な歴史への関心を深めるとともに、日本の文化の根底にある多様性と普遍性を理解し、日本の歴史、とくに他の時代と比較した、中世という時代の特質・特徴をより深く把握できるようになることをを目標とする。また、この講義では、なるべく多くのビジュアル資料や実際の参詣者が書いた参詣記などのナマの資料多く提供するので、受講者はそれらの資料を自らの感性と知性によって読み解き、それを自らの言葉を使って他者に伝えることができる能力を養ってほしい。その上で、ユネスコの世界文化遺産にも登録されている熊野に伝わる多くの文化財とそれを伝えてきた風土・環境が、幾多の自然災害や人為を経て現在に残されてきたものであることを理解し、歴史を考察する際の基本的な資質を養うことをめざす。

事前・事後学習の内容:

この授業は、熊野三山の古代～中世にかけての歴史を取り上げる。大学入試レベルの日本史に関する知識を有していることが受講の前提となるため、最初の授業開始前に日本史の概説書（とりわけその古代～近世史部分）などを読んでおくと良い（このために約3～4時間程度の時間を要すると想定される）。また、本講義はオンデマンド形式で行うが、毎回の授業が始まる前に、前回お授業内容（動画）の復習を行うとともに、同時に配信された関連資料に目を通し、前回の授業内容の定着を図っておくこと（このために毎回約1時間程度の時間を要すると想定される）。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第１回：イントロダクション

授業内容・評価方法などについてのガイダンスを行った後、熊野とはどのようなところなのか、おおよそのイメージを掴むため、京から熊野三山に至る熊野参詣道（（熊野古道）の現在の様子を画像で紹介し、実際に参詣を行った貴族たちが記した参詣記を合わせて読みながら、当時の参詣の具体的な様相に触れてみたい。

第２回：霊場としての熊野

熊野は歴史の中にどのようにして登場してきたのか。その最初期における霊場としての熊野の姿について、説話や絵画資料、写真や現在に残る祭礼などから探っていく。後に熊野三山と呼ばれることになる本宮・新宮・那智の原書の姿を再現しながら、熊野のあけぼのについての理解を深めたい。

第３回：熊野詣の始まり

平安時代はじめ、俗人として初めて熊野詣を行った宇多上皇・花山上皇の参詣から摂関期までの熊野詣の様子を、多くの記録をたどりながら紹介する。また、霊場としての熊野が、どのようにして「熊野三山」と呼ばれる「形」を整えていったのか、またそうなっていったのは何故なのかについても考えていきたい。

第４回：院政と熊野御幸

熊野が最も脚光を浴びた平安時代後期の院政期。熱狂的なまでの熊野御幸が何故、持続可能となったのかを社会的・経済的・文化的要因から探りつつ、それを支えた人々や随行者の様子、熊野の現地での受け入れ態勢など、熊野御幸の実態に迫る。

第5回：熊野御幸と芸能

熊野詣は本来、修験者による修行という宗教的な営みであったが、国家の最高権力者による御幸が度重なるうちに、次第に彼らの趣向を反映した芸能的な側面が強くなってくる。また、御幸の随行者にとっても、出費がかさんでも随行には大きなメリットがあった。それは何だったのか、残された美術品や参詣の記録などから探っていきたい。

第6回　熊野詣の変容

鎌倉時代中期以降、上皇たちの参詣が途絶した熊野では大きな変容を迫られる。新たな主体・方法によって参詣者を獲得していった熊野三山のあり方を紹介し、中世後期の熊野の新たな展開について述べる。

第7回：美術の中の熊野

熊野三山に伝わる美術品を紹介し、一方で災害によって多くの文化財が失われた歴史にも触れ、歴史・文化と災害の関係について考える。また、華やかな熊野御幸の隆盛の中で、病者や差別を受けた人々をも積極的に受け入れた「もうひとつの熊野」の姿にも光を当てることで、熊野の姿の全体像を明らかにしたい。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　とくに使用しない。

参考文献：　高木徳郎『歴史の旅　熊野古道を歩く』（吉川弘文館、2014年）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：	50	最終回の講義前後をメドに提示される課題について作成・提出されたレポートの内容を総合的に評価する（レポート課題はWaseda　Moodleを通じて提出する）。
平常点評価：	50	毎回の授業終了後、期日までに、WasedaMoodleを通じて授業内容に関するレビューシートの提出を求め、その内容で各回の理解度を評価する。

備考・関連URL：

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010197|01|9S09010197[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	高野山の歴史と文化		
担 当 教 員	高木　徳郎		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　日本の歴史・文化に大きな影響を与えた高野山について学ぶ。高野山は、紀伊半島の中央部に位置し、唐での留学を終えた空海が、彼の地で経験した宗教的体験をこの国でも再現すべく、山河を渡り歩いて見出した宗教的霊地である。この講義では、弘法大師空海による高野山の開創から発展に至る歴史過程を、その鎮守社として、高野山およびその構成員たる僧侶の精神的支柱となった天野社や、空海を思慕してやまなかった改革者・覚鑁が建立し、後に高野山を二分して遂に袂を分かった大伝法院（根来寺）との関係を軸にしながら考察する。またその際、高野山や天野社の周辺で生み出された文化財など、具体的・視覚的な資料を多く活用・紹介し、多種多様な形ではぐくまれてきた高野山の歴史と文化の特色に迫りたい。

授業の到達目標：　高野山の歴史と文化の理解には、密教や修験道、さらには浄土思想や末法思想など、日本独特の宗教や思想への理解が不可欠である。この講義では、高野山がたどった数奇な歴史への関心を深めるとともに、日本の文化の根底にある多様性と普遍性を理解し、日本の歴史、とくに他の時代と比較した中世という時代の特質・特徴を深く把握できるようになることをを目標とする。また、この講義では、なるべく多くのビジュアル資料や地図・図表、さらには古記録をはじめとする文献史料を多く提供するので、受講者はそれらの資料を自らの感性と知性によって読み解き、それを自らの言葉を使って他者に伝えることができる能力を養ってほしい。その上で、ユネスコの世界文化遺産にも登録されている高野山に伝わる多くの文化財とそれを伝えてきた風土・環境が、幾多の自然災害や人為を経て現在に残されてきたものであることを理解し、歴史を考察する際の基本的な資質を養うことをめざす。

事前・事後学習の内容：　この授業は、高野山の古代～中世にかけての歴史を取り上げる。大学入試レベルの日本史に関する知識を有していることが受講の前提となるため、最初の授業開始前に日本史の概説書（とりわけその古代～近世史部分）などを読んでおくと良い（このために約3～4時間程度の時間を要すると想定される）。また、本講義はオンデマンド形式で行うが、毎回の授業が始まる前に、前回お授業内容（動画）の復習を行うとともに、同時に配信された関連資料に目を通し、前回の授業内容の定着を図っておくこと（このために毎回約1時間程度の時間を要すると想定される）。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：ガイダンス

授業内容・評価方法などについてのガイダンスを行った後、高野山への参詣道として知られた高野山町石道および現在の高野山内について、その現地の様子を写真で紹介するとともに、高野山や天野社に伝わった数多くの貴重な文化財と、それが現代に伝わった意義について考察する。

第2回：空海の一生

謎に包まれた空海の前半生を、おもにその親兄弟に関する史料や出生地の問題から、歴史学的に明らかにしていく。また、一介の私度僧に過ぎなかった空海が、正式な国費留学僧として遣唐使船に乗り込み、日本に帰ってきて真言密教を広めるに至るまでの経緯を、同時に渡唐した最澄との比較から検討するとともに、帰国後の空海が高野山の開創に至るまでの経緯、および鎮守社としての天野社の関係を、。史料と説話の双方から検討し、高野開創の実態に迫る。

第3回：大師入定信仰と高野浄土信仰

空海の没後、いったん衰退した高野山が、再び勢力を盛り返していく様相を、その背景とともに具体的に考察し、平安時代後期から鎌倉時代にかけて、高野山上で大きな勢力として成長した金剛峯寺と大伝法院という二大勢力の対立と発展を、天野社との関係を軸に紹介する。

第4回：高野聖と女人高野

院政期以降の高野山の発展を支えた存在としての高野聖の活動に焦点を当てるとともに、女人禁制であった高野山に対する女性たちの信仰についても考察することにより、中世高野山を周縁から支えた人々の活動とその意義について述べる。

第5回：高野山・天野社と鎌倉幕府

鎌倉幕府との関係を足がかりに、大きく成長した高野山と天野社。北条政子や有力御家人の安達氏が山内に建立した金剛三昧院や、天野社惣神主の丹生氏と結びついた高野聖・行勝上人の動向など、複雑に展開する地域社会の中における高野山の様相を明らかにするとともに、モンゴル襲来における高野山と天野社の活躍と、襲来後における両社寺の発展の背景を探る。

第6回：室町時代の高野山と天野社

南北朝の動乱とともに、後醍醐天皇をはじめとする南朝勢力との結びつきを強めた高野山が、寺領荘園の把握などの経済基盤を確立し、その自立を図っていく過程について検討するとともに、室町時代の天野社境内で行われた壮麗な天野社舞楽曼荼羅供の様子を紹介し、合わせて応其上人と秀吉政権の関係から、戦国乱世を生き抜いた高野山の実態について述べる。

第7回：「山の正倉院」高野山に伝わる文化財

高野山はその開創以来、多くの美術品や、宗教活動に伴う様々な遺品、また皇族・貴族・武士から一般庶民に至る幅広い階層から寄進された品々が数多く残されている他、中には戦乱や災害を避けて預けられてきたものなどもあり、「山の正倉院」などとも呼ばれている。ここではそうした数々の文化財のうち、代表的なものを紹介するとともに、何故そうしたものが高野山に残されたのか、また文化財を残し伝えていくことの意義などについて考える。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　とくに使用しない。

参考文献：　山陰加春夫『歴史の旅　中世の高野山を歩く』（吉川弘文館、2014年）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：	50	最終回の講義前後をメドに提示された課題について、作成・提出されたレポートの内容を総合的に評価する（レポート課題はWaseda Moodleを通じて提出する）。
平常点評価：	50	毎回の授業終了後、期日までに、Waseda Moodleを通じて授業内容に関するレビューシートの提出を求め、その内容で各回の理解度を評価する。

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010211|01|9S09010211[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	言語学（形式意味論入門）		
担 当 教 員	菅原 彩加		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 意味論とは、単語やフレーズなどのかたまりからどのように文が構成され文全体の意味を作っているのかを研究する分野である。当たり前に聞こえるかもしれないが、私たちが普段何気なく使っている文のサンプルを見渡すと、文の構成に用いられている規則は単純ではないことに気づく。人間は文を作成したり理解したりする際に、どのようなシステムを使っているのだろうか？今まで聞いたことのない文でも作成でき理解できるのはなぜなのだろうか？初めて聞く文が、一義的かあいまい性をもつかを判断できるのはなぜなのだろうか？このクラスでは、私たちが普段何気なく使っている「ことば」の意味がどのように計算され理解されているのかについて、講義と練習問題で学習する。形式意味論の教科書(Heim & Kratzer 1998, 扱うのはChapter 5まで)を使って表したい意味をできるかぎり正確に記述する方法を学び、人間言語の特徴についての理解を深める。意味の計算には、数学や論理学に根差した考えを使うが、それらの前提知識は必要としない。分析に必要な道具は講義とリーディングで理解を深める。

授業の到達目標: ・形式意味論に関する入門的知識を獲得する。
・構成性原理について理解しわかりやすく説明ができる。
・述語論理の式を用いて簡単な文の意味を記述することができる。
・上述のようなスキルを獲得するに伴って、論理的思考力を養う。
・授業内容をふまえたレポート作成過程およびピアレビューで、批判的思考力を養う。

事前・事後学習の内容: 授業の前後には、リーディングで課された内容（多くの場合は講義の復習、週により予習内容を含む）を読み、質問等があれば準備してきてください。リーディングの他は、週により練習問題やレポートが課されます。1～2時間の時間外学習が想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1－2回:
ガイダンス - 形式意味論とは Principle of Compositionality
Truth-Conditions
第3－4回:
ゲストスピーカーによる講義
最新の意味論研究
（課題:P-set #1）第5－6回:
P-set #1 review
Set theory, Functions
Intensions, Extensions
（課題:P-set #2）
第7－8回:
P-set #2 review
Transitive verbs
Semantic types
The lambda notation
（課題:レポートのドラフトを書く）
第9－10回:
レポートのドラフト締切 ⇒ ピアレビュー
ここまでの復習
（課題:レポートの校正を書く:第11回提出）
第11－12回:
レポートの校正締切 ⇒ ピアレビュー、提出
名詞、形容詞
定冠詞
（課題:P-set #3）
第13－14回:
P-set #3 review
関係節

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: Heim, Irene & Angelika Kratzer. 1998. Semantics in Generative Grammar. Blackwell.
Moodleで配布します。
教科書以外の資料は授業内で提示・配布します。

図書館の当該本のURL:
https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/permalink/81SOKEI_WUNI/1lng8qo/alma991024238319704032

参考文献: 田中拓郎. 2016. 形式意味論入門. 開拓社
教科書の理解の補助として必要があれば使用してください。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	40	「人間以外の存在において “Principle of Compositionality” に則ったコミュニケーションシステムを持っている種はいるか？」というテーマに沿って、YouTube上で人間と双方向の信号・対象のやりとりをしているように見える動物のビデオを観察し、その内容について論じます。最新の研究を報告するニュース記事のような形式で書きます。クラスメートとピアレビューを行います。 レポートの内容とピアレビューへの貢献度を評価します。
平常点評価:	40	授業参加・議論への貢献度を評価します。 40%のうち10%はゲストスピーカーによる講義におけるディスカッション及びリアクションペーパーの内容です。
その他:	20	授業期間中に3回のProblem setsがあります。授業内容の理解を問う課題です。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010212|01|9S09010212[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	言語学（語用論・基礎概念）		
担 当 教 員	益子 真由美		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 言語表現の「意味」の中には，明確に捉えることが難しかったり，規則では捉えきれない要素が含まれています。そのような現象を扱う研究分野を語用論（もしくは運用論）と呼びます。この授業では，出来るだけ広い範囲での意味の記述・分析を行うための基礎概念を学びます。

授業の到達目標: 広い意味での「意味」の種類や，どのように「意味」が表現されているかを理解すること
異なる意味の種類を区別し，それがどのように派生するのか，分かりやすく説明できること
理解した内容を応用して，言語表現の分析を行えるようになること

事前・事後学習の内容: プリント[PDF]をきちんと読み，必要があれば参考文献を読んでください。
不明の点は遠慮せずに積極的に質問してください。
参考文献は必ず読む必要はありませんが，より詳しいことや分からない点を
知るための補足資料として活用してください。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 意味の種類
「意味」とは?
「意味」の種類・語用論の範囲・意味論との関係等
第2回 推意1
「推意」とは？[哲学的背景・定義・分類等]
第3回 推意2
理論上の問題[グライスの理論の枠組の問題・改訂案等]
第4回 前提1
「前提」とは？[哲学的背景・定義等]
第5回 前提2
理論上の問題[投射問題を中心に]
第6回 言語行為論1
「発話」で遂行される行為とは?[哲学的背景・枠組・分析等]
第7回 言語行為論2
理論上の問題[間接発話行為に関する問題等]

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし

参考文献: 金水敏・今仁生美 (2000)「現代言語学入門4 意味と文脈」
田窪行則他(1999)「岩波講座7 談話と文脈

他に随時紹介

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 科目の性質上，中間・期末試験はありません。

平常点評価: 20 出席だけではなく，授業中の問題回答などの参加も評価の対象です。

その他: 80 授業の内容に関連した課題を3回出す予定です。

備考・関連URL:

論理学の知識を前提とはしませんが，語用論は言語学の他の下位分野
（特に統語論と形式意味論の初歩）の知識がないと理解が難しい分野です。
他の言語学関連科目を既習していれば理解し易いと思います。
まだの人には同時に履修することをお勧めします。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010213|01|9S09010213[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	言語学（語用論・応用）		
担 当 教 員	益子 真由美		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 言語表現の「意味」の中には，明確に捉えることが難しかったり，規則では捉えきれない要素が含まれています。そのような現象を扱う研究分野を語用論（もしくは運用論）と呼びます。この授業では，出来るだけ広い範囲での意味の記述・分析を行うための基礎概念を学びます。

授業の到達目標: 語用論の基礎概念を使った発話の分析
[「応用」と銘打った科目であるため，既習であることを前提としますが，
未修者がいる場合は第1週に簡単に復習する予定]
異なる意味の種類を区別し，それがどのように派生するのか，分かりやすく説明できること
理解した内容を応用して，言語表現の分析を行えるようになること
特に複合的な要素を使った言語分析が理解でき，自分でも行えるようになること

事前・事後学習の内容: プリント[PDF]をきちんと読み，必要があれば参考文献を読んでください。
不明の点は遠慮せずに積極的に質問してください。
参考文献は必ず読む必要はありませんが，より詳しいことや分からない点を
知るための補足資料として活用してください。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 語用論とは?
基礎概念の概要・復習

第2回 ポライトネス1
「ポライトネス」とは？グライスの会話の理論[復習]
G・リーチの理論等

第3回 ポライトネス2
ブラウン＆レヴィンソンの理論リーチの理論との比較
言語学の理論としての評価等

第4回 ポライトネス3
所謂「敬語表現」の分類[絶対敬語・相対敬語等]日本語以外の言語における「敬語」
日本語の敬語表現の言語学的分析例
課題

第5回 ディスコース1
「ディスコース」とは?歴史的背景・「ディスコース」とは?・分析の単位・結束性と一貫性・照応関係等

第6回 ディスコース2
ディスコースの構造主に照応

第7回 まとめ
これまでの内容のまとめと応用

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし

参考文献: 金水敏・今仁生美 (2000)「現代言語学入門4 意味と文脈」
田窪行則他(1999)「岩波講座7 談話と文脈

他に随時紹介

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 科目の性質上，中間・期末試験は行いません。

平常点評価: 20 出席だけではなく，授業中の問題回答などの参加も評価の対象です。

その他: 80 授業内容に関連した課題を3回出す予定です。

備考・関連URL: 論理学の知識は前提とはしませんが，「言語学（語用論・基礎概念）」を既習であるか，
他の方法で基礎的な知識を得ていることを前提としています。
そのため，基礎概念の説明は簡単な復習のみです。

語用論は簡単だと思いこんでいる人がいますが，実は言語学の他の下位分野
（特に統語論と形式意味論の初歩）の知識がないと理解がかなり難しい分野です。
他の言語学関連科目を既習していれば理解し易いと思います。
まだの人は同時に履修することをお勧めします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010214|01|9S09010214[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	日本のことばと文学（基礎）　1		
担 当 教 員	水藤　新子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　概説 日本語のレトリック・表現・文体論

授業概要：　「口のきき方を知らない」とか、「ことば遣いがなっていない」という非難の仕方がある。対話において他者への配慮に欠けるとの意味合いだが、こうした表現は、人は相手の意図する表現内容を理解した上で、それとは別の意味をも受け取っていることを物語っている。
たとえば商店の休業告知は、「休みます」ではなく「休ませて頂きます」と書かれることが多い。書き手（店主）の配慮であり、へりくだった方が読み手（客）に与える印象のよいことを見越しての表現であろう。ただ貼紙は情報伝達を第1の目的とする実用的なものだから、書き方はある程度決まっているが、文学作品となると表現の幅はぐっと広がってくる。比喩を例にとるなら、美人を「大輪の花が咲くようなまなざし」に見出す作家がいれば、「蛭の輪のような唇」に着目する作家もいる。また、ある事実について全く逆の見方から描く手法がある。嘘をつくのでなく、真実とは離れた方向――作家の狙った誤解へと読者を導くもので、推理小説ではおなじみの技法だ。
この講義では、こうした表現の技術＝レトリックを概観する。読み手／聞き手としてそれらを理解し、味わうのに役立ててもらうのは勿論、自ら書き手／話し手としてもそれらを使いこなす一助としてほしい。 なお、「日本のことばと文学（基礎）1・2」の中で1回、外部講師（ことばを使いこなすプロフェッショナル）による特別講義を予定している。

授業の到達目標：　表現は「送り手」の側だけで作り上げるものではなく、「受け手」が理解して初めて完成する。従って、「送り手」は「受け手」が理解し易いのはもちろん、興味を覚えるような表現上の工夫を凝らし、片や「受け手」は「送り手」の意図を正確に受け止めると同時に、表現上のサービスを味わうゆとりを持つことが望ましい。キャッチ・ボールをするとき、投げる側は相手が受け取り易いボールを投げ、受ける側もただ立っているのではなく、ちゃんと相手のボールを受け止めようとする。でなければボールはどこかへ転がって行ってしまうだろう。表現もまた双方の協力あって成り立つのである。「送り手」がどれだけいても、「受け手」なしに表現は報われない。よき「送り手」を目指すだけでなく、よき「受け手」になることの大切さ、難しさ、豊かさを知ってほしい。

事前・事後学習の内容：　講義内で紹介した表現技法を手がかりに、実際の用例を収集する。広告、歌詞、書籍、映像、対象は問わないので目に付いたものがあればメモ／DL／撮影し、次回講義時に自分なりの寸評を添えて講師へ渡せば（Waseda Moodleから連絡の上、メールへの送信も可）、講義内で解説する。 講義ではふれていない技法と思われるものであっても、提示してもらえれば同様に解説を加える。
講義内容の予告・講義資料の配付・フィードバックには、いずれも【moodle】のコースページを利用する。
1）初回を除きほぼ毎回、講義内容を振り返りつつさまざまな表現技法にふれる【小テスト】を設置し、講義終了後一定期間で解答を送信してもらい、翌週解答と解説を公開する。
2）初回から毎回【講義アンケート】を設置し、講義内容への感想や意見、また各自の耳目にふれた言語表現について講義終了後一定期間で回答を送信してもらい、翌週の講義で公開する。
1）・2）への解答・回答時間に、そのための振り返りを加えると、毎回90～120分の復習時間が求められる。次回講義前に【小テスト】の結果と解説は公開されるので、それを閲覧し自身の解答を見返して次の講義内容との関連を確認し資料の内容に目を通すためにも、同等の時間が必要となる。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
プロローグ：「虫なんて鳴いてる？」――レトリックとは何か00：身近なレトリック――日常に溢れるあれこれを題材に
第2回
01：配列1 話のわかりやすさ／わかりにくさとは？
第3回
01：配列2 並べ方次第？　組み立て方次第？
第4回
01：配列3 思わず引き込まれる語りの技とは？
第5回
02：反復1 子どもでも使えるレトリックとは？
第6回
02：反復2　大事なことは二度三度？

第7回

02：反復3　物語を活かすキーワードや伏線とは？

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義はPPTを用いて行い、必要があれば参考資料を配付する。例文集は単元開始前／解説PPTの一覧は単元終了後に【moodle】にアップロードするので（期限付）、各自でダウンロードして確認の上、次回講義に臨むこと。

参考文献：　随時紹介する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50　「文学作品の語学的分析」について理解度を問う。表現そのものの解釈は各自の自由だが、分析法は講義内容を踏まえたものとする。試験かレポートかは未定、講義の中でアナウンスをする。試験の場合は【moodle】から受験とし、レポートも同じく【moodle】から提出とする。なお、一度も出席せず課題提出もすることなく、期末試験のみ受験しても単位取得は認めない。

平常点評価：　45　【moodle】に設置した「小テスト」と「アンケート」を、毎回講義終了後一定期間内に解答／回答することを求める。前者は解答期間後評点／解説を公開し、後者は結果を取りまとめ可能な限り次回講義時に紹介し回答する。

その他：　5　対面講義中に教室内外への目立つ出入りをした場合、所属及び姓名を質すこともある。問い合わせは教場で、あるいは【moodle】のメッセージを利用のこと。

備考・関連URL：　本講義は独立した1科目ではあるが、より体系的系統的な理解のために夏学期開講「日本のことばと文学（基礎）2」、また秋学期開講「日本のことばと文学（応用）1」、冬学期開講「日本のことばと文学（応用）2」との連続受講が望ましい。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010215|01|9S09010215[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	日本のことばと文学（基礎）　2		
担 当 教 員	水藤　新子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　概説 日本語のレトリック・表現・文体論

授業概要:　「口のきき方を知らない」とか、「ことば遣いがなっていない」という非難の仕方がある。対話において他者への配慮に欠けるとの意味合いだが、こうした表現は、人は相手の意図する表現内容を理解した上で、それとは別の意味をも受け取っていることを物語っている。
たとえば商店の休業告知は、「休みます」ではなく「休ませて頂きます」と書かれることが多い。書き手（店主）の配慮であり、へりくだった方が読み手（客）に与える印象のよいことを見越しての表現であろう。ただ貼紙は情報伝達を第1の目的とする実用的なものだから、書き方はある程度決まっているが、文学作品となると表現の幅はぐっと広がってくる。比喩を例にとるなら、美人を「大輪の花が咲くようなまなざし」に見出す作家がいれば、「蛭の輪のような唇」に着目する作家もいる。また、ある事実について全く逆の見方から描く手法がある。嘘をつくのでなく、真実とは離れた方向――作家の狙った誤解へと読者を導くもので、推理小説ではおなじみの技法だ。
この講義では、こうした表現の技術＝レトリックを概観する。読み手／聞き手としてそれらを理解し、味わうのに役立ててもらうのは勿論、自ら書き手／話し手としてもそれらを使いこなす一助としてほしい。 なお、「日本のことばと文学（基礎）1・2」の中で1回、外部講師（ことばを使いこなすプロフェッショナル）による特別講義を予定している。

授業の到達目標:　表現は「送り手」の側だけで作り上げるものではなく、「受け手」が理解して初めて完成する。従って、「送り手」は「受け手」が理解し易いのはもちろん、興味を覚えるような表現上の工夫を凝らし、片や「受け手」は「送り手」の意図を正確に受け止めると同時に、表現上のサービスを味わうゆとりを持つことが望ましい。キャッチ・ボールをするとき、投げる側は相手が受け取り易いボールを投げ、受ける側もただ立っているのではなく、ちゃんと相手のボールを受け止めようとする。でなければボールはどこかへ転がって行ってしまうだろう。表現もまた双方の協力あって成り立つのである。「送り手」がどれだけいても、「受け手」なしに表現は報われない。よき「送り手」を目指すだけでなく、よき「受け手」になることの大切さ、難しさ、豊かさを知ってほしい。

事前・事後学習の内容:　講義内で紹介した表現技法を手がかりに、実際の用例を収集する。広告、歌詞、書籍、映像、対象は問わないので目に付いたものがあればメモ／DL／撮影し、次回講義時に自分なりの寸評を添えて講師へ渡せば（Waseda Moodleから連絡の上、メール送信も可）、講義内で解説する。 講義ではふれていない技法と思われるものであっても、提示してもらえれば同様に解説を加える。
講義内容の予告・講義資料の配付・フィードバックには、いずれも【moodle】のコースページを利用する。
1）初回を除きほぼ毎回、講義内容を振り返りつつさまざまな表現技法にふれる【小テスト】を設置し、講義終了後一定期間で解答を送信してもらい、翌週解答と解説を公開する。
2）初回から毎回【講義アンケート】を設置し、講義内容への感想や意見、また各自の耳目にふれた言語表現について講義終了後一定期間で回答を送信してもらい、翌週の講義で公開する。
1）・2）への解答・回答時間に、そのための振り返りを加えると、毎回90～120分の復習時間が求められる。次回講義前に【小テスト】の結果と解説は公開されるので、それを閲覧し自身の解答を見返して次の講義内容との関連を確認し資料の内容に目を通すためにも、同等の時間が必要となる。

授業計画フリー入力サイン:　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
プロローグ再び：「虫なんて鳴いてる？」――レトリックとは何か03：付加1　説明や解説の流儀とは？
第2回
03：付加2　話の長い人短い人の差は？
第3回
03：付加3　一文の長さと情報量の関係は？
第4回
03：付加4　レポートも手紙もメールも会話も？04：省略1　今口にしたそれ、原型は？
第5回
04：省略2　「ことば足らず」か「簡潔」か？
第6回
04：省略3　省かれるべき「無駄」とは？

第7回

04：省略4　書かれていなくても読み取れるものとは？

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義はPPTを用いて行い、必要があれば参考資料を配付する。例文集は単元開始前／解説PPTの一覧は単元終了後に【moodle】にアップロードするので（期限付）、各自でダウンロードして確認の上、次回講義に臨むこと。

参考文献：　随時紹介する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50　「文学作品の語学的分析」について理解度を問う。表現そのものの解釈は各自の自由だが、分析法は講義内容を踏まえたものとする。試験かレポートかは未定、講義の中でアナウンスをする。試験の場合は【moodle】から受験とし、レポートも同じく【moodle】から提出とする。なお、一度も出席せず課題提出もすることなく、期末試験のみ受験しても単位取得は認めない。

平常点評価：　45　【moodle】に設置した「小テスト」と「アンケート」を、毎回講義終了後一定期間内に解答／回答することを求める。前者は解答期間後評点／解説を公開し、後者は結果を取りまとめ可能な限り次回講義時に紹介し回答する。

その他：　5　対面講義中に教室内外への目立つ出入りをした場合、所属及び姓名を質すこともある。問い合わせは教場で、あるいは【moodle】のメッセージを利用のこと。

備考・関連URL：　本講義は独立した1科目ではあるが、より体系的系統的な理解のために春学期開講「日本のことばと文学（基礎）1」、また秋学期開講「日本のことばと文学（応用）1」、冬学期開講「日本のことばと文学（応用）2」との連続受講が望ましい。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010216|01|9S09010216[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	日本のことばと文学（応用）　1		
担 当 教 員	水藤　新子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　概説 日本語のレトリック・表現・文体論

授業概要：　人はある文章を「華麗」と賞し、ある文章に「透明感」を覚える。書かれている内容にもよるだろうが、対象の描かれ方に左右されている面も少なくない。読み手の受ける印象は、主題ばかりでなく表現――「何を」書くか以上に「どのように」書くか、に負うところが、実際のところかなり大きいのである。
文学作品を読む楽しみの1つは、作家の用いる表現の多彩さに出会うことにある。平凡な日常を離れ、作品世界という非日常に遊ぶことこそ読書の第一義だろうが、その際に直接の窓口となるのは表現だ。読み手の目を惹きつけ、没頭させるには、描こうとする世界のイメージをスムーズに伝える必要がある。説明不足だったり、自己満足に陥ったりして、近寄り難くてはならない。誤解を恐れずに言えば、わかりやすくなくてはならないのだ。そこで作家は持てる限りの「ことば」を駆使して、効果的な表現を編み出してゆく。文学作品を味わうことはとりもなおさず、こうしたさまざまな表現-レトリックを味わうことと言っても、過言ではないだろう。
講義ではさまざまなレトリックの実例――文学作品からスーパーのチラシに至るまで――をできる限り紹介し、それらが受容者にどのような印象を与え、どのような効果をもたらすかを考えてゆく。受講者の皆さんには、日常の中で目に付いた印象的な表現――広告コピーでもマンガでも――の報告（ネタ提供）から、講義内容に対し率直な意見や感想を発してくれること、また有志に求める課題作文（主として創作）に至るまで、積極的な参加を求めたい。 なお、「日本のことばと文学（応用）1・2」の中で1回、外部講師（ことばを使いこなすプロフェッショナル）による特別講義を予定している。

授業の到達目標：　表現は「送り手」の側だけで作り上げるものではなく、「受け手」が理解して初めて完成する。従って、「送り手」は「受け手」が理解し易いのはもちろん、興味を覚えるような表現上の工夫を凝らし、片や「受け手」は「送り手」の意図を正確に受け止めると同時に、表現上のサービスを味わうゆとりを持つことが望ましい。キャッチ・ボールをするとき、投げる側は相手が受け取り易いボールを投げ、受ける側もただ立っているのではなく、ちゃんと相手のボールを受け止めようとする。でなければボールはどこかへ転がって行ってしまうだろう。表現もまた双方の協力あって成り立つのである。「送り手」がどれだけいても、「受け手」なしに表現は報われない。よき「送り手」を目指すだけでなく、よき「受け手」になることの大切さ、難しさ、豊かさを知ってほしい。

事前・事後学習の内容：　講義内で紹介した表現技法を手がかりに、実際の用例を収集する。広告、歌詞、書籍、映像、対象は問わないので目に付いたものがあればメモ／DL／撮影し、次回講義時に自分なりの寸評を添えて講師へ渡せば（Waseda Moodleから連絡の上、メール送信も可）、講義内で解説する。 講義ではふれていない技法と思われるものであっても、提示してもらえれば同様に解説を加える。
講義内容の予告・講義資料の配付・フィードバックには、いずれも【moodle】のコースページを利用する。
1）初回を除きほぼ毎回、講義内容を振り返りつつさまざまな表現技法にふれる【小テスト】を設置し、講義終了後一定期間で解答を送信してもらい、翌週解答と解説を公開する。
2）初回から毎回【講義アンケート】を設置し、講義内容への感想や意見、また各自の耳目にふれた言語表現について講義終了後一定期間で回答を送信してもらい、翌週の講義で公開する。
1）・2）への解答・回答時間に、そのための振り返りを加えると、毎回90～120分の復習時間が求められる。次回講義前に【小テスト】の結果と解説は公開されるので、それを閲覧し自身の解答を見返して次の講義内容との関連を確認し資料の内容に目を通すためにも、同等の時間が必要となる。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
プロローグ：「虫なんて鳴いてる？」――レトリックとは何か
00：文法とレトリック――広告・歌詞・文芸・日常会話その他諸々
第2回
05：間接1　アレのこと、どう呼んでる？
第3回
05：間接2　なぜはっきり言おうとしないのか？
第4回
05：間接3　1クッション置く効果とは？
第5回
06：置換1　何を何に置き換えるのか？

第6回
06:置換2　比喩表現の仕組みと効果とは？
第7回
06:置換3 「似ていなくてもよい」比喩とは？

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 講義はPPTを用いて行い、必要があれば参考資料を配付する。例文集は単元開始前／解説PPTの一覧は単元終了後に【moodle】にアップロードするので（期限付）、各自でダウンロードして確認の上、次回講義に臨むこと。

参考文献: 随時紹介する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	50	「文学作品の語学的分析」について理解度を問う。表現そのものの解釈は各自の自由だが、分析法は講義内容を踏まえたものとする。試験かレポートかは未定、講義の中でアナウンスをする。試験の場合は【moodle】から受験とし、レポートも同じく【moodle】から提出とする。なお、一度も出席せず課題提出もすることなく、期末試験のみ受験しても単位取得は認めない。
平常点評価:	45	【moodle】eに設置した「小テスト」と「アンケート」を、毎回講義終了後一定期間内に解答／回答することを求める。前者は解答期間後評点／解説を公開し、後者は結果を取りまとめ可能な限り次回講義時に紹介し回答する。
その他:	5	対面講義中に教室内外への目立つ出入りをした場合、所属及び姓名を質すこともある。問い合わせは教場で、あるいは【moodle】のメッセージを利用のこと。

備考・関連URL: 本講義は独立した1科目ではあるが、より体系的系統的な理解のために冬学期開講「日本のことばと文学（応用）2」、また春学期開講「日本のことばと文学（基礎）1」、夏学期開講「日本のことばと文学（基礎）2」との連続受講が望ましい。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010217|01|9S09010217[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	日本のことばと文学（応用）　2		
担 当 教 員	水藤　新子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　概説 日本語のレトリック・表現・文体論

授業概要：　人はある文章を「華麗」と賞し、ある文章に「透明感」を覚える。書かれている内容にもよるだろうが、対象の描かれ方に左右されている面も少なくない。読み手の受ける印象は、主題ばかりでなく表現――「何を」書くか以上に「どのように」書くか、に負うところが、実際のところかなり大きいのである。
文学作品を読む楽しみの1つは、作家の用いる表現の多彩さに出会うことにある。平凡な日常を離れ、作品世界という非日常に遊ぶことこそ読書の第一義だろうが、その際に直接の窓口となるのは表現だ。読み手の目を惹きつけ、没頭させるには、描こうとする世界のイメージをスムーズに伝える必要がある。説明不足だったり、自己満足に陥ったりして、近寄り難くてはならない。誤解を恐れずに言えば、わかりやすくなくてはならないのだ。そこで作家は持てる限りの「ことば」を駆使して、効果的な表現を編み出してゆく。文学作品を味わうことはとりもなおさず、こうしたさまざまな表現-レトリックを味わうことと言っても、過言ではないだろう。
講義ではさまざまなレトリックの実例――文学作品からスーパーのチラシに至るまで――をできる限り紹介し、それらが受容者にどのような印象を与え、どのような効果をもたらすかを考えてゆく。受講者の皆さんには、日常の中で目に付いた印象的な表現――広告コピーでもマンガでも――の報告（ネタ提供）から、講義内容に対し率直な意見や感想を発してくれること、また有志に求める課題作文（主として創作）に至るまで、積極的な参加を求めたい。 なお、「日本のことばと文学（応用）1・2」の中で1回、外部講師（ことばを使いこなすプロフェッショナル）による特別講義を予定している。

授業の到達目標：　表現は「送り手」の側だけで作り上げるものではなく、「受け手」が理解して初めて完成する。従って、「送り手」は「受け手」が理解し易いのはもちろん、興味を覚えるような表現上の工夫を凝らし、片や「受け手」は「送り手」の意図を正確に受け止めると同時に、表現上のサービスを味わうゆとりを持つことが望ましい。キャッチ・ボールをするとき、投げる側は相手が受け取り易いボールを投げ、受ける側もただ立っているのではなく、ちゃんと相手のボールを受け止めようとする。でなければボールはどこかへ転がって行ってしまうだろう。表現もまた双方の協力あって成り立つのである。「送り手」がどれだけいても、「受け手」なしに表現は報われない。よき「送り手」を目指すだけでなく、よき「受け手」になることの大切さ、難しさ、豊かさを知ってほしい。

事前・事後学習の内容：　講義内で紹介した表現技法を手がかりに、実際の用例を収集する。広告、歌詞、書籍、映像、対象は問わないので目に付いたものがあればメモ／DL／撮影し、次回講義時に自分なりの寸評を添えて講師へ渡せば（Waseda Moodleから連絡の上、メール送信も可）、講義内で解説する。 講義ではふれていない技法と思われるものであっても、提示してもらえれば同様に解説を加える。
講義内容の予告・講義資料の配付・フィードバックには、いずれも【moodle】のコースページを利用する。
1）初回を除きほぼ毎回、講義内容を振り返りつつさまざまな表現技法にふれる【小テスト】を設置し、講義終了後一定期間で解答を送信してもらい、翌週解答と解説を公開する。
2）初回から毎回【講義アンケート】を設置し、講義内容への感想や意見、また各自の耳目にふれた言語表現について講義終了後一定期間で回答を送信してもらい、翌週の講義で公開する。
1）・2）への解答・回答時間に、そのための振り返りを加えると、毎回90～120分の復習時間が求められる。次回講義前に【小テスト】の結果と解説は公開されるので、それを閲覧し自身の解答を見返して次の講義内容との関連を確認し資料の内容に目を通すためにも、同等の時間が必要となる。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
プロローグ：「虫なんて鳴いてる？」――レトリックとは何か
07：多重1　一粒で二度美味しい？

第2回
07：多重2　「掛詞」って習いましたよね？

第3回
07：多重3　「パロディ」の仕組みを説明できる？

第4回
07：多重4　文字種が多いからこその表現とは？08：摩擦1　表現の何が「印象に残る」のか？

第5回
08：摩擦2　「普通じゃない」表現はどこが「普通じゃない」？

第6回
08：摩擦3 「忘れられない一言／一句」ってある？
第7回
08：摩擦4エピローグ：「ああ、鳴いてた！」――レトリックはそこにある

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義はPPTを用いて行い、必要があれば参考資料を配付する。例文集は単元開始前／解説PPTの一覧は単元終了後に【moodle】にアップロードするので（期限付）、各自でダウンロードして確認の上、次回講義に臨むこと。

参考文献：　随時紹介する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	50	「文学作品の語学的分析」について理解度を問う。表現そのものの解釈は各自の自由だが、分析法は講義内容を踏まえたものとする。試験かレポートかは未定、講義の中でアナウンスをする。試験の場合は【moodle】から受験とし、レポートも同じく【moodle】から提出とする。なお、一度も出席せず課題提出もすることなく、期末試験のみ受験しても単位取得は認めない。
平常点評価：	45	【moodle】に設置した「小テスト」と「アンケート」を、毎回講義終了後一定期間内に解答／回答することを求める。前者は解答期間後評点／解説を公開し、後者は結果を取りまとめ可能な限り次回講義時に紹介し回答する。
その他：	5	対面講義中に教室内外への目立つ出入りをした場合、所属及び姓名を質すこともある。問い合わせは教場で、あるいは【moodle】のメッセージ利用のこと。

備考・関連URL：　本講義は独立した1科目ではあるが、より体系的系統的な理解のために秋学期開講「日本のことばと文学（応用）1」、また春学期開講「日本のことばと文学（基礎）1」、夏学期開講「日本のことばと文学（基礎）2」との連続受講が望ましい。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010218|01|9S09010218[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	スポーツジャーナリズム論 1（大久保建男スポーツジャーナリズム講座）		
担 当 教 員	生島 淳@藤井 慶太		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	、文・社会科学科目（メディア・ジャーナリズム	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 「一流と会う、一流を知る」

授業概要: 「一流と会う、一流を知る」がモットーのジャーナリズム論の基礎講座。
春・夏クォーターを通して講義内容が組み立てられているので、通しで受講することでスポーツジャーナリズムの全体像が浮かび上がる。

スポーツに関連する分野の最前線で活躍する人物（アスリート、指導者、アナウンサー、記者、フォトグラファーなど）がゲスト講師として講義を行うほか、前期（春・夏クォーター）にトップ選手や指導者を招聘、受講生が直接インタビューをして、自らコラム記事を書く。
＊2025年度の例 早稲田大学ラグビー部大田尾竜彦監督、テレビ朝日寺川俊平アナなどがゲストに。

スポーツという「窓」を通して、政治、経済、社会、文化そして世界を広く深く考えることがこの講座の目的である。過去の受講生の多くが卒業後は、新聞社、通信社、放送局などの記者やプロデューサー、メディア企業でも活躍し、また製造業やサービス業などその他の分野でも、この講座の文章作成の学びを生かして仕事をしている。

講義の全体構成を担当するスポーツライターと、広告会社のOBのコラボで作り出す、日本のすべての大学で最もユニークなスポーツジャーナリズム論講座。

この講座は、元NHKのスポーツ担当特別主管で早稲田大学OBの故大久保建男氏の遺志による寄付で基金を設置し、スポーツジャーナリズムの振興を目的として活用する講座の一つである。

授業の到達目標: ・スポーツ報道の現場と実際について理解を深めること
・人に対する「取材」「インタビュー」「ライティング」のスキルを獲得すること。
・スポーツは身体を動かすことだけで完結する体系ではないことを理解すること
・スポーツを伝えるには様々な方法があることを理解する
・スポーツという題材を通じてジャーナリズムとは、報道とは、さらに人間とはという本質を考えること

事前・事後学習の内容: 講義で実施したインタビューをもとにコラムを1本執筆する。
講義を聞いて考えた事を必ずレビューにまとめて毎回提出（出欠の代わりになります）。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: [第 1回] スポーツをなぜ描くのか スポーツジャーナリズムの意味（4月17日金曜 担当 生島・藤井）
[第 2回] 体験的インタビュー論（4月24日金曜 担当 生島・藤井）
[第 3回] メディアの現場から①（5月1日金曜 担当 生島・藤井）
[第 4回] 模擬インタビュー用質問課題講評など（5月8日金曜 担当 生島・藤井）
[第 5回] アスリートに対する模擬記者会見①（5月15日金曜 担当 生島・藤井）
[第 6回] メディアの現場から②（5月22日金曜 担当 生島・藤井）
[第 7回] 模擬会見原稿の講評（5月29日金曜 担当 生島・藤井）
（全7回の講義とも生島と藤井の2人の講師が出席して実施。「メディアの現場から」は雑誌編集者、テレビ局ディレクター、アナウンサーなどが登壇予定）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし

参考文献: 参考文献がある場合には、講義の都度それを指示する。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 模擬会見コラムの原稿の出来栄えが60%。
加えて、毎回の講義感想40%の合計評価。

備考・関連URL:

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010219|01|9S09010219[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	スポーツジャーナリズム論　2（大久保建男スポーツジャーナリズム講座）		
担 当 教 員	生島　淳@藤井　慶太		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	、文・社会科学科目（メディア・ジャーナリズム	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　「一流と会う、一流を知る」

授業概要：　「一流と会う、一流を知る」がモットーのジャーナリズム論の基礎講座。
春・夏のクォーターを通しでとることを前提に講義が組み立てられている。

現代日本のトップランナーであるスポーツライター、アナウンサー、記者、フォトグラファーなどがゲスト講師として講義を行うほか、前期（春・夏クォーター）に2人の日本のトップ選手に来てもらい受講生が直接インタビューをして自らコラムを書く。

身体を動かすことやスポーツを見ることが好きな人はもちろん、スポーツにあまり興味のない人にもスポーツという「窓」を通して、政治、経済、社会、文化そして世界を見てもらうのがこの講座の目的である。過去の受講生の多くが卒業後はスポーツ分野にとどまらず、新聞社、通信社、放送局などの記者やプロデューサー、メディア企業でも活躍、また製造業やサービス業などその他の分野でもこの講座の文章作成の学びを生かして仕事をしている。

講義の全体構成を担当するスポーツライターと広告会社OBのコラボで作り出す、日本のすべての大学で最もユニークなスポーツジャーナリズム論講座。

この講座は、元NHKのスポーツ担当特別主管で早稲田大学OBの故大久保建男氏の遺志による寄付で基金を設置し、スポーツジャーナリズムの振興を目的として活用する講座の一つである。

授業の到達目標：　・スポーツ報道の現場と実情について理解を深めること
・人に対する「取材」「インタビュー」「ライティング」のスキルを獲得すること。
・スポーツは身体を動かすことだけで完結する体系ではないことを理解すること
・スポーツという題材を通じてジャーナリズムとは、報道とは、そして人間とはという本質を考えること
・講義を通じて「同好の士」を見つけてもらうこと

事前・事後学習の内容：　講義で実施したインタビューをもとにコラムを1本執筆する
講義を聞いて考えた事を簡単なレビューにまとめて毎回提出

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　[第 1回]　「聞くこと」「書くこと」の上達のために必要なこと。（6月5日金曜　担当　生島・藤井）
[第 2回]　メディアの現場から③（6月12日金曜　担当　生島・藤井）
[第 3回]　模擬記者会見用　質問課題講評など（6月19日金曜　担当　生島・藤井）
[第 4回]　模擬記者会見②（6月26日金曜　担当　生島・藤井）
[第 5回]　会見レビュー（7月3日金曜　担当　生島・藤井）
[第 6回]　メディアの現場から④（7月10日金曜　担当　生島・藤井）
[第 7回]　模擬会見原稿の講評（7月17日金曜　担当　生島・藤井）
（全7回の講義とも生島と藤井の2人の講師が出席して実施する。模擬記者会見にはプロアスリート、引退した選手などを予定。写真家、アナウンサーなどの登壇予定）

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　なし

参考文献：　参考文献がある場合には、講義の都度それを指示する。

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　選手の会見コラムの原稿（60%）と毎回の講義感想（40%）の合計評価。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010230|01|9S09010230[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	現代韓国・北朝鮮研究入門 1		
担 当 教 員	植田 喜兵成智@浅野 豊美		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 現在の日本をとりまく国際情勢を考えるとき、朝鮮半島を無視することはできません。世界的に文化コンテンツを発信する韓国（大韓民国）や、東アジアの安全保障と密接に関係する北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）を研究することは必要不可欠なものです。しかし、冷静で客観的な分析に基づく言説や研究に触れる機会は少なく、ややともすれば朝鮮半島については願望や偏見に基づく主観的な議論にふりまわされやすい状況です。
本講義では、アカデミックな議論や堅実な取材に基づいたジャーナリズムの情報に依拠しながら、韓国・北朝鮮に関する政治・外交・経済・社会・文化などについて概説します。毎回、専任教員に加えて、各分野の第一人者をゲストスピーカーとして招聘し、テーマについての専門的な講義を行います。そのため「入門」と銘打っていますが、高度な内容も含まれます。なお、秋クォーターでは、文化・社会・歴史に中心に論じる予定です。
※ゲストスピーカーと各回の講義内容は予定であり、変更することがあります。

授業の到達目標: (1)現代の韓国・北朝鮮に関する正確な知識を獲得する。
(2)講義で紹介された学術的な成果や方法論に基づいて、現代韓国・北朝鮮に関して、依拠すべき情報を取捨選択できる。
(3)アカデミックな議論や方法論を踏まえて、現代韓国・北朝鮮の諸事象・諸問題について自分で考えられるようになる。

事前・事後学習の内容: オリエンテーションで参考文献を紹介する。事前学習では、関連する参考文献を読んでおくこと。事後学習では、レスポンスシートをまとめる過程で、講義内容の整理をすること。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 第1回 オリエンテーション 現代韓国・北朝鮮を学ぶ意義（植田喜兵成智・浅野豊美）
本講義の目的と内容を説明し、現代韓国・北朝鮮について学ぶ意義を論じます。

第2回 韓国社会とフェミニズム（古橋綾）
近年、フェミニズム小説として『82年生まれ、キム・ジヨン』がベストセラーになったように、韓国のフェミニズムは注目されています。韓国フェミニズムがどのように展開したのか、その歴史的過程を論じます。

第3回 韓国の歴史教育・歴史教科書（上山由利香）
日韓の間には歴史認識問題があるとされています。そうした状況がなぜ生まれるのかを理解するためには、韓国の教育課程において歴史はどのように行われているのかを知らなければなりません。韓国の歴史教科書にはどのような内容で、いかなる特徴があるのか等、韓国の歴史教育について総合的に論じます。

第4回 韓流からみた現代韓国文化（権容奭）
韓流の歴史的な形成過程や、韓流を生み出した政治的、社会的、文化的な背景を論じながら、日本の一部にある韓国現代文化のバイアスを相対化し、国際的に流通するに至った韓流がもっているダイナミズムを解き明かし、その魅力を論じます。

第5回 韓国社会における少子化（笹野美佐恵）
日本だけでなく、韓国においても少子化は深刻な社会問題となっています。その原因はどこにあるのでしょうか。世代間の価値観のギャップに注目してその要因を分析します。

第6回 韓国映画の過去・現在・未来（李鳳宇）
韓国映画の歴史をたどりながら、現在に至る韓国映画の魅力を製作者の立場から論じます。

第7回 中間討論（植田・浅野）
受講者とともに6回の授業についての質疑と討論を行います。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特になし。

参考文献: 李成市・宮嶋博史・糟谷憲一編『世界歴史大系 朝鮮史2』（山川出版社、2017年）
李鍾元・木宮正史・浅野豊美編著『歴史としての日韓国交正常化Ⅰ—東アジア冷戦編』（法政大学出版会、2020年、新装版）
李鍾元・木宮正史・浅野豊美編著『歴史としての日韓国交正常化Ⅱ—脱植民地化編』（法政大学出版会、2020年、新装版）
緒方義広・古橋綾編『韓国学ハンマダン』（岩波書店、2022年）

成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	なし。
レポート:	70	講義から2～3点程度テーマを選び、その内容を整理した2000字程度のレポートを提出する。
平常点評価:	30	毎回出席カード兼レスポンスシートをmoodleで提出する。
その他:	0	なし。
備考・関連URL:	ゲストスピーカーの都合により、講義の日程、ゲストスピーカー、内容が変わることがあります。	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010231|01|9S09010231[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	現代韓国・北朝鮮研究入門 ２		
担 当 教 員	植田 喜兵成智@浅野 豊美		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 現在の日本をとりまく国際情勢を考えるとき、朝鮮半島を無視することはできません。世界的に文化コンテンツを発信する韓国（大韓民国）や、東アジアの安全保障と密接に関係する北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）を研究することは必要不可欠なものです。しかし、冷静で客観的な分析に基づく言説や研究に触れる機会は少なく、ややともすれば朝鮮半島については願望や偏見に基づく主観的な議論にふりまわされやすい状況です。
本講義では、アカデミックな議論や堅実な取材に基づいたジャーナリズムの情報に依拠しながら、韓国・北朝鮮に関する政治・外交・経済・社会・文化などについて概説します。
毎回、専任教員に加えて、各分野の第一人者をゲストスピーカーとして招聘し、テーマについての専門的な講義を行います。そのため「入門」と銘打っていますが、高度な内容も含まれます。なお、冬クォーターでは、政治・外交・経済を中心に論じる予定です。
※ゲストスピーカーと各回の講義内容は予定であり、変更することがあります。

授業の到達目標: (1)現代の韓国・北朝鮮に関する正確な知識を獲得する。
(2)講義で紹介された学術的な成果や方法論に基づいて、現代韓国・北朝鮮に関して、依拠すべき情報を取捨選択できる。
(3)アカデミックな議論や方法論を踏まえて、現代韓国・北朝鮮の諸事象・諸問題について自分で考えられるようになる。

事前・事後学習の内容: オリエンテーションで参考文献を紹介する。事前学習では、関連する参考文献を読んでおくこと。事後学習では、レスポンスシートをまとめる過程で、講義内容の整理をすること。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回 日韓国交正常化（浅野豊美）
本授業の冬クォーターの目的、概要、進め方について説明するとともに、1965年の日韓国交正常化と歴史問題がいかに生じるようになったのかについて論じます。

第2回 韓国民主主義と南北統一の限界（徐台教）
韓国社会のあらゆる問題の淵源を考えた時に、南北分断という課題につきあたります。韓国の社会や南北関係などの現在について、ジャーナリストの視点から論じます。

第3回 在日朝鮮人の帰国運動（朴正鎮）
1959年12月から始まった所謂「帰国運動」の歴史的背景と南北政府の対応について、10万人の「祖国への帰還」とは何であったのか、問われるべき本質を国際政治と人権主義の二つの視点から掘り下げ、南北政府、日本政府が抱えていた問題点について論じます。

第4回 国際的制裁とコロナ禍を生き延びた朝鮮民主主義人民共和国（三村光弘）
北朝鮮は、コロナパンデミックの状況の下、国境を封鎖することを選択しました。また国際的制裁も加えられているため、経済状況は悪化したとされています。それでも体制は崩壊することはありませんでした。北朝鮮の内部ではどのようなことが起こっていたのかを検証し、その政策を評価します。

第5回 日朝国交正常化の歴史と現在（木宮正史）
日本と北朝鮮には現在に至るまで国交がありません。しかし、世界では北朝鮮と国交のある国は150を超えており、日本のように国交の無いケースは珍しくなりつつあります。過去、日朝ではどのような交渉が行われてきたのか、今後どのように展開していくべきかについて論じます。

第6回 独島・竹島問題と日韓関係（玄大松）
古代から近代にいたる独島の歴史的な帰属問題、日露戦争以後の国際法的な見地からの帰属問題、さらに日韓会談における帰属問題の議論を踏まえて、領土問題の平和的な解決の可能性を論じます。

第7回 総括討論（植田喜兵成智）
全講義について受講者とともに総括的な討論を行います。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特になし。

参考文献: 李成市・宮嶋博史・糟谷憲一編『世界歴史大系 朝鮮史2』（山川出版社、2017年）
李鍾元・木宮正史・浅野豊美編著『歴史としての日韓国交正常化Ⅰ—東アジア冷戦編』（法政大学出版会、2020

年、新装版）
李鍾元・木宮正史・浅野豊美編著『歴史としての日韓国交正常化Ⅱ—脱植民地化編』（法政大学出版会、2020年、新装版）
緒方義広・古橋綾編『韓国学ハンマダン』（岩波書店、2022年）

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	なし。
レポート:	70	講義から2～3点程度テーマを選び、その内容を整理した2000字程度のレポートを提出する。
平常点評価:	30	毎回出席カード兼レスポンスシートをmoodleで提出する。
その他:	0	なし。

備考・関連URL: ゲストスピーカーの都合により、講義の日程、ゲストスピーカー、内容が変わることがあります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010234|01|9S09010234[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	「早稲田学」通史編α（近代史のなかの早稲田大学）		
担 当 教 員	佐々木　千恵		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（早稲田文化）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　早稲田大学は1882（明治15）年の創立以来、140年におよぶ長い歴史を誇る。この間、多彩で個性豊かな多くの卒業生を社会に送り出してきた。その教育の基盤となったのは建学の理念と精神である。現在、早稲田大学では、2032年の創立150周年を期して『早稲田大学百五十年史』の編纂を進めている。2022年には創立から旧制大学期までを対象とする第1巻を刊行した。本科目では、『百五十年史』編纂で得られた最新の成果を組み込みつつ、創立から旧制大学期までの早稲田大学の歴史、及び日本の近代史に早稲田大学が果たしてきた役割について講義し、その基礎的知識を獲得することを目指す。本科目を通じて、学生は本学が社会に果たしてきた役割や本学の学生であることの意義、さらには大学と社会との関係や「学の独立」とその意義を学ぶことが可能となる。多くの学生の履修を期待したい。

授業の到達目標：　授業で講義した内容の要点を理解し、自分の言葉でまとめること
講義の内容に関して早稲田生としての感想や見解を述べること

事前・事後学習の内容：　授業前：事前でMoodle上で公開する授業用資料を簡単に目を通すこと
授業後：期末レポートを完成すること

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第１回
ガイダンス・東京専門学校の創設
第２回
草創期の苦労と校勢の進展
第３回
早稲田大学への改名と第二期計画
第４回
早稲田騒動と大学としての認可
第５回
デモクラシーから戦時体制へ
第６回
戦時下の早稲田大学（ゲストスピーカー）
第７回
戦前のキャンパスと学生街

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　なし

参考文献：　WIKI版『早稲田大学百年史』：https://chronicle100.waseda.jp/index.php
『早稲田大学百五十年史』第1巻（早稲田大学出版部、2022年）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　50　授業に対する理解度と自身の見解

平常点評価：　50　出席状況（15%）、授業に対する理解度（35%）

備考・関連URL：

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010235|01|9S09010235[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	「早稲田学」通史編β（現代史のなかの早稲田大学）		
担 当 教 員	佐々木　千恵		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（早稲田文化）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　第二次世界大戦後の1949年、新制大学として再出発した早稲田大学は、70年余りを経た現在、13の学部を擁し、国内外から5万人を超える多種多様な学生・生徒を集めるまでに発展した。しかし、その道のりは決して平坦ではなく、激変する社会の中で、絶え間なく発生する課題との苦闘の連続であった。本科目は、新制大学の設立から現在に至る早稲田大学の歴史、及び日本の現代史に早稲田大学が果たしてきた役割について講義し、その基礎的知識を獲得することを目指す。本科目を通じて、学生は大学と社会との関係や本学の学生であることの意義、さらには現在求められる役割について歴史的に考察する。
なお、本科目と合わせ、春クォーターに開講される「「早稲田学」通史編α（近代史のなかの早稲田大学）」を履修すれば、より深い理解に到達することが可能となる。

授業の到達目標：　授業で講義した内容の要点を理解し、自分の言葉でまとめること
講義の内容に関して早稲田生としての感想や見解を述べること

事前・事後学習の内容：　授業前：事前でMoodle上で公開する授業用資料を簡単に目を通すこと
授業後：期末レポートを完成すること

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第１回
ガイダンス・敗戦直後の大学
第２回
新制早稲田大学の成立と民主化の模索
第３回
高度経済成長と大学の大衆化
第４回
大学紛争と制度改革の時代（1）
第５回
大学紛争と制度改革の時代（2）
第６回
女子教育の発展と現在（ゲストスピーカー）
第７回
創立百周年と二世紀目の早稲田

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　なし

参考文献：　WIKI版『早稲田大学百年史』：https://chronicle100.waseda.jp/index.php

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　50　授業に対する理解度と自身の見解

平常点評価：　50　出席状況（15%）、講義への理解度（35%）

備考・関連URL：

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010236|01|9S09010236[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	「早稲田学」人物編α（「創設者」大隈重信の生涯）		
担 当 教 員	佐々木　千恵		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（早稲田文化）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　1882（明治15）年、大隈重信と、彼のもとに集った人々によって創立された早稲田大学は、140年にわたり多彩な人々を社会に送り出してきた。彼らは唯一無二の個性でありながら、同時に「学の独立」をはじめとする早稲田大学の建学の理念を体現する存在でもある。

本科目は「「創設者」大隈重信の生涯」をテーマに掲げる。大隈重信は本学の創設者であり、日本近代政治史上重要な役割を果たした官僚・政治家である。大隈の生涯を紹介しながら、彼の政治・外交・教育の理念や活動を日本近代史の流れにそって検討する。それによって、大隈の思想と活動が早稲田大学の建学の精神とその後の歩みに多大な影響を及ぼしていることを考える。

授業の到達目標：　授業で講義した内容の要点を理解し、自分の言葉でまとめること
講義の内容に関して早稲田生としての感想や見解を述べること

事前・事後学習の内容：　授業前：事前でMoodle上で公開する授業用資料を簡単に目を通すこと
授業後：期末レポートを完成すること

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第１回
ガイダンス・幕末維新期の大隈重信
第２回
明治新政府のなかの大隈重信
第３回
明治十四年の政変と大隈重信の下野（ゲストスピーカー）
第４回
大隈重信と立憲改進党の人びと（ゲストスピーカー）
第５回
大隈重信と議会政治の発展
第６回
大隈重信の政界引退と文明運動
第７回
第二次大隈内閣の成立と対外政策

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書：　真辺将之『大隈重信：民意と統治の相克』（中公叢書、2017年）

参考文献：　WIKI版『早稲田大学百年史』：https://chronicle100.waseda.jp/index.php
『早稲田大学百五十年史』第1巻（早稲田大学出版部、2022年）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　50　　授業に対する理解度と自身の見解

平常点評価：　50　　出席状況（15%）、講義への理解度（35%）

備考・関連URL：

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010237|01|9S09010237[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	「早稲田学」人物編β（建学者の思想と学生へのまなざし）		
担 当 教 員	佐々木　千恵		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（早稲田文化）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　1882（明治15）年、大隈重信と、彼のもとに集った人々によって創立された早稲田大学は、140年にわたり多彩な人々を社会に送り出してきた。彼らは唯一無二の個性でありながら、同時に「学の独立」をはじめとする早稲田大学の建学の理念を体現する存在でもある。本科目では、「建学者の思想と学生へのまなざし」をテーマに、本学の理念をつくりあげた建学の功労者たちの思想や行動を学ぶことを通じて、本学の理念や学風を具体的に理解することを目指す。それは同時に本学が日本近代史に果たした意義と役割を考察することにつながるであろう。なお、本科目と合わせ、秋クォーターに開講される「「早稲田学」人物編α（「創設者」大隈重信の生涯）」を履修すれば、より深い理解に到達することが可能となる。

授業の到達目標：　授業で講義した内容の要点を理解し、自分の言葉でまとめること
授業で紹介した人物の関連文献を読み、人物に対する理解を深めること

事前・事後学習の内容：　授業前：事前でMoodle上で公開する授業用資料を簡単に目を通すこと
授業後：期末レポートを完成すること

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
ガイダンス
第2回
小野梓がめざした日本の近代と早稲田大学（ゲストスピーカー）
第3回
早稲田の四尊①：初代学長・高田早苗の多面的・先駆的活動
第4回
早稲田の四尊②：天野為之と日本の近代化
第5回
早稲田の四尊③：市島謙吉の自筆資料から見た早稲田大学
第6回
早稲田の四尊④：坪内逍遙と文学科の創設
第7回
大隈重信が託したもの：『大隈重信演説談話集』を読む（ゲストスピーカー）

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書：　なし

参考文献：　WIKI版『早稲田大学百年史』：https://chronicle100.waseda.jp/index.php
『早稲田大学百五十年史』第1巻（早稲田大学出版部、2022年）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　50　　授業に対する理解度と自身の見解

平常点評価：　50　　出席状況（15%）、講義への理解度（35%）

備考・関連URL：

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　1　主管科目　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010262|01|9S09010262[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	映画のすべて　マスターズ･オブ･シネマ　1		
担 当 教 員	土田　環@常石　史子@岡室　美奈子@藤井　仁子@角井　誠@是枝　裕和		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:土4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（映像・表象・芸術）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

映画・映像を通して、人間・社会・文化に関する様々な学問分野の専門的知識を体系的に理解し、文理横断的な観点から現代社会における重要な課題を綜合的に把握、究明する。

具体的には、映画・映像・放送の分野を支え、活躍するゲスト・スピーカーを各回迎え、仕事や作品に対する姿勢や具体的な制作手法について、それぞれの立場からお話しいただき、受講者とのQ＆Aおよびディスカッションを行う。その経験を通して、将来的な映画・映像・放送業界のヴィジョンや、仕事をしていくために必要な基本的な知識や考え方を学ぶ。
たとえ自分がそれまで知らなかったゲスト・スピーカーと方や作品であっても、未知を興味に変え、授業全体を通して自らの映画・映像に対する見方を磨くようにしてほしい。そのために、招聘するゲストスピーカーに関連する作品をなるべく多く観てから授業に参加し、積極的に質問してほしい。

※この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

＊「映画のすべて　マスターズ・オブ・シネマ　1」と「映画のすべて　マスターズ・オブ・シネマ　2」は内容が連動している科目です。
履修順序が設定されており、「映画のすべて　マスターズ・オブ・シネマ　2」を履修申請したい場合には、「映画のすべて　マスターズ・オブ・シネマ　1」も同時に申請する必要があります。
また、毎年「1」のみを履修し、「2」を履修しない学生がいますが、基本的には連動科目であることを十分に理解してください（履修者を選考する際の目安になる場合があります）。

履修登録をする場合には、最後まで必ず授業に出るようにしてください。

＊基本的には、対面方式の予定ですが、様々な状況によって、オンライン系を併用するなど授業の実施形式を変更する場合があります。Waseda Moodleを通じた連絡を必ずチェックするようにしてください。

授業の到達目標:

ゲストスピーカーの話を傾聴することにより映画や映像の魅力を発見し、受講者の各自が固有の関心を拡張していくことを目指す。
また、既存の知識で仕事を判断するのではなく、人やその経験に直接向き合うことによって、映画・映像への関わり方を自ら省察できるようにする。

事前・事後学習の内容:

招聘されるゲスト・スピーカーの携わる作品を観ておくこと。関連する書籍等を調べるなど、自分から「人」に対してリサーチし、アプローチするように習慣づけること。
事前課題をこなすことができないのであれば授業に参加をする意味はないと考えてほしい。

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回目：担当教員（土田／岡室／角井／谷／藤井）によるガイダンスおよび履修上の注意事項
第2回目から第7回目は、映画・映像・放送分野で活躍するゲストスピーカーをお招きして授業を行う。監督、演出家、脚本家、撮影監督、俳優、プロデューサーなどを予定（Waseda Moodleを通して情報を流すので、必ず確認すること（担当教員が全員参加する初回をのぞき、岡室1回、是枝1回、角井1回、常石1回、藤井1回、土田1回の予定。ゲスト確定次第、担当教員もあわせて連絡する）。

2025年度：吉田大八、松本佳奈、柳町光男、秋山恵二郎、佐々木伸一、尾崎裕和、筒井武文、大川景子、瀬田なつき、是枝裕和、呉美保、仲野太賀

2024年度：小森はるか、鶴岡慧子、菊池信之、大森立嗣、三宅唱、牛尾憲輔、代島治彦、荒井晴彦、石井岳龍、飯岡幸子、仲村トオル

2023年度：阪本順治、四宮秀俊、今野勉、村瀬健、原田恭明、山村浩二、坂元裕二、前田哲、万田邦敏、万田珠実、小田香、斎藤工、佐野亜裕美

2022年度：空族、白石和彌、大九明子、塩田明彦、黒崎博、中川龍太郎、岨手由貴子、中島貞夫、オダギリ

ジョー、諏訪敦彦、金子文紀、菊地健雄

2021年度：瀬々敬久、丸山昇一、横浜聡子、青山真治、世武裕子、関弘美、大友啓史、土井裕泰、芦澤明子、沖田修一、森重晃、塚本晋也、ペ・ドゥナ

2020年度：休講

2019年度ゲスト・スピーカー（敬称略）：井筒和幸、原恵一、周防正行、塚原あゆ子、鈴木卓爾、矢口史靖、小林聖太郎、山下敦弘、山川直人、クロード・ルルーシュ、奥寺佐渡子、西谷弘、黒沢清

2018年度ゲスト・スピーカー（敬称略）：
想田和弘、冨永昌敬、高橋洋、荒井晴彦、岸善幸、松岡茉優、古沢良太、大九明子、ナタリー・バイ、瀬々敬久、深田晃司、三宅唱、阪本順治

2017年度ゲスト・スピーカー（敬称略）：
瀬々敬久、片渕須直、柄本明、奥田庸介、熊切和嘉、石井裕也、池松壮亮、
古谷敏、世武裕子、イザベル・ユペール、井浦新、濱口竜介、瀧本幹也、佐野亜裕美、土井裕泰

2016年度ゲスト・スピーカー（敬称略）：
押井守、鈴木敏夫、横浜聡子、真利子哲也、杉野希妃、篠崎誠、井上剛、森達也、西川美和、古舘寛治、山崎貴、石井岳龍など。

これまでのゲスト・スピーカー（敬称略）：山田太一、行定勲、小川久美子、坂元裕二、久石譲、吉田大八、大林宣彦、亀山千広、今野勉、夏帆、諏訪敦彦、廣木隆一など

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特になし。
教科書には指定しませんが、参考文献やゲストの方に関するテキスト、作品を予習してください。

参考文献：　①是枝裕和、土田環、安藤紘平、岡室美奈子、谷昌親、長谷正人、藤井仁子=編
『いま、映画をつくるということ―日本映画の担い手たちとの21の対話』 *2018年度以降の授業を中心に採録。
（フィルムアート社、2023年3月25日発売）

②安藤紘平、岡室美奈子、是枝裕和、谷昌親、土田環、長谷正人、元村直樹=編
『映画の言葉を聞く―早稲田大学「マスターズ・オブ・シネマ」講義録』 *2016年度、2017年度の授業を中心に採録。
（フィルムアート社、2018、2800円＋税）

授業の進め方、レポートの焦点を絞る意味においても、これまでの講義を採録した上記の書籍を読むことを強く推奨する。
②は在庫が少ないので、ない場合には図書館などで。

その他、理解を深めるために必要なテキストは、授業時またはWaseda Moodle上で適宜指示する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　50　期末レポートを課す。具体的な課題については授業時およびWaseda Moodle上で指示する。

平常点評価：　50　授業における発言、出欠を含めた課題によって評価する。
具体的には、毎回、リアクションペーパーを授業終了後に提出してもらい、それによって出席と評価を行う。
ゲスト・スピーカーを招聘する7回のうち、リアクション・ペーパーを5回以上提出することを義務付ける。

備考・関連URL：　授業時間は4時限ですが、2時限終了後（12時半くらい）から同教室にて当日講義いただくゲスト・スピーカーに関係のある映画の上映を行いますので、できるだけ参加してください。上映する映画の内容・スケジュールについては授業中およびWaseda Moodleにて周知します。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　1　主管科目　　）　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010263|01|9S09010263[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	映画のすべて　マスターズ･オブ･シネマ　２		
担 当 教 員	土田　環@常石　史子@岡室　美奈子@藤井　仁子@角井　誠@是枝　裕和		
開 講 学 期	夏Ｑ	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:土４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（映像・表象・芸術）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　映画・映像を通して、人間・社会・文化に関する様々な学問分野の専門的知識を体系的に理解し、文理横断的な観点から現代社会における重要な課題を綜合的に把握、究明する。

具体的には、映画・映像・放送の分野を支え、活躍するゲスト・スピーカーを各回迎え、仕事や作品に対する姿勢や具体的な制作手法について、それぞれの立場からお話しいただき、受講者とのＱ＆Ａおよびディスカッションを行う。その経験を通して、将来的な映画・映像・放送業界のヴィジョンや、仕事をしていくために必要な基本的な知識や考え方を学ぶ。
たとえ自分がそれまで知らなかったゲスト・スピーカーと方や作品であっても、未知を興味に変え、授業全体を通して自らの映画・映像に対する見方を磨くようにしてほしい。そのために、招聘するゲストスピーカーに関連する作品をなるべく多く観てから授業に参加し、積極的に質問してほしい。

※この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

＊「映画のすべて　マスターズ･オブ･シネマ　１」と「映画のすべて　マスターズ･オブ･シネマ　２」は内容が連動している科目です。
履修順序が設定されており、「映画のすべて　マスターズ･オブ･シネマ　２」を履修申請したい場合には、「映画のすべて　マスターズ･オブ･シネマ　１」も同時に申請する必要があります。
また、毎年「１」のみを履修し、「２」を履修しない学生がいますが、基本的には連動科目であることを十分に理解してください（履修者を選考する際の目安になる場合があります）。

＊基本的には、対面方式の予定ですが、様々な状況によって、オンライン系を併用するなど授業の実施形式を変更する場合があります。Waseda Moodleを通じた連絡を必ずチェックするようにしてください。

授業の到達目標:　ゲスト・スピーカーの話を傾聴することにより映画や映像の魅力を発見し、受講者の各自が固有の関心を拡張していくことを目指す。
また、既存の知識で仕事を判断するのではなく、人と経験に直接向き合うことによって、映画・映像への関わり方を自ら省察できるようにする。

事前・事後学習の内容:　招聘されるゲスト・スピーカーの携わる作品を観ておくこと。関連する書籍等を調べるなど、自分から「人」に対してリサーチし、アプローチするように習慣づけること。
特に、事前課題として挙げられた作品やテキストを見る／読むことができないのであれば、授業に参加する意味はないと考えてほしい。

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　第1回目：担当教員（土田／岡室／角井／谷／藤井）によるガイダンスおよび履修上の注意事項

第2回目から第7回目は、映画・映像・放送分野で活躍するゲストスピーカーをお招きして授業を行う。監督、演出家、脚本家、撮影監督、俳優、プロデューサーなどを予定（Waseda Moodleを通して情報を流すので、必ず確認すること（担当教員が全員参加する初回をのぞき、岡室1回、是枝1回、角井１回、谷１回、藤井1回、土田１回の予定。ゲスト確定次第、担当教員もあわせて連絡する）。

2025年度：吉田大八、松本佳奈、柳町光男、秋山恵二郎、佐々木伸一、尾崎裕和、筒井武文、大川景子、瀬田なつき、是枝裕和、呉美保、仲野太賀
2024年度：小森はるか、鶴岡慧子、菊池信之、大森立嗣、三宅唱、牛尾憲輔、代島治彦、荒井晴彦、石井岳龍、飯岡幸子、仲村トオル
2023年度：阪本順治、四宮秀俊、今野勉、村瀬健、原田恭明、山村浩二、坂元裕二、前田哲、万田邦敏、万田珠実、小田香、斎藤工、佐野亜裕美
2022年度：空族、白石和彌、大九明子、塩田明彦、黒崎博、中川龍太郎、岨手由貴子、中島貞夫、オダギリジョー、諏訪敦彦、金子文紀、菊地健雄
2021年度：瀬々敬久、丸山昇一、横浜聡子、青山真治、世武裕子、関弘美、大友啓史、土井裕泰、芦澤明子、

沖田修一、森重晃、塚本晋也、ペ・ドゥナ

2020年度：休講

2019年度ゲスト・スピーカー（敬称略）：井筒和幸、原恵一、周防正行、塚原あゆ子、鈴木卓爾、矢口史靖、小林聖太郎、山下敦弘、山川直人、クロード・ルルーシュ、奥寺佐渡子、西谷弘、黒沢清
2018年度ゲスト・スピーカー（敬称略）：
想田和弘、冨永昌敬、高橋洋、荒井晴彦、岸善幸、松岡茉優、古沢良太、大九明子、ナタリー・バイ、瀬々敬久、深田晃司、三宅唱、阪本順治
2017年度ゲスト・スピーカー（敬称略）：
瀬々敬久、片渕須直、柄本明、奥田庸介、熊切和嘉、石井裕也、池松壮亮、
古谷敏、世武裕子、イザベル・ユペール、井浦新、濱口竜介、瀧本幹也、佐野亜裕美、土井裕泰
2016年度ゲスト・スピーカー（敬称略）：
押井守、鈴木敏夫、横浜聡子、真利子哲也、杉野希妃、篠崎誠、井上剛、森達也、西川美和、古舘寛治、山崎貴、石井岳龍など。

これまでのゲスト・スピーカー（敬称略）：
山田太一、行定勲、小川久美子、坂元裕二、久石譲、吉田大八、大林宣彦、亀山千広、今野勉、夏帆、諏訪敦彦、廣木隆一など

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：
特になし。
教科書は特に指定ないが、参考文献やゲストの方について書かれたテキスト、作品を予習すること。

参考文献：
①是枝裕和、土田環、安藤紘平、岡室美奈子、谷昌親、長谷正人、藤井仁子=編
『いま、映画をつくるということ―日本映画の担い手たちとの21の対話』 *2018年度以降の授業を中心に採録。
（フィルムアート社、2023年3月25日発売）

②安藤紘平、岡室美奈子、是枝裕和、谷昌親、土田環、長谷正人、元村直樹=編
『映画の言葉を聞く―早稲田大学「マスターズ・オブ・シネマ」講義録』 *2016年度、2017年度の授業を中心に採録。
（フィルムアート社、2018、2800円＋税）

授業の進め方、レポートの焦点を絞る意味においても、これまでの講義を採録した上記の書籍を読むことを強く推奨する。
②は在庫が少ないので、ない場合には図書館などで。

その他、理解を深めるために必要なテキストは、授業時またはWaseda Moodle上で適宜指示する。

成績評価フリー入力サイン：
0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　50　授業最終回（第8回目）に教場で理解度確認を行う。具体的な課題については授業時およびWaseda Moodle上で指示する。

平常点評価：　50　授業における発言、出欠を含めた課題によって評価する。
具体的には、毎回、リアクションペーパーを授業終了後に提出してもらい、それによって出席と評価を行う。
ゲスト・スピーカーを招聘する7回のうち、リアクション・ペーパーを5回以上提出することを義務付ける。

備考・関連URL：
授業時間は4時限ですが、2時限終了後（12時半くらい）から同じ教室にて当日講義いただくゲスト・スピーカーに関係のある映画の上映を行いますので、できるだけ参加してください。上映する映画の内容・スケジュールについては授業中およびWaseda Moodleにて周知します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010267|01|9S09010267[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国の文化 α		
担 当 教 員	西田 文信@大野 広之		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： 中国の文化

授業概要： ◆使用言語：中国語◆ 中国の文化について様々な角度からアプローチをすることにより、その複合的な諸相を明らかにしていきます。すでに中国の文化について一定程度の知識を持っている学生を対象に、中国の言語や文化をテーマに、新たな知識、発見がもたらされるような講義を行います。毎回の講義は、中国の文化に関する具体的なテーマ（例えば「日中比較文学」など）を取り上げます。講義は全て中国語で行います。またレポートも全て中国語での提出となります。中国語上級レベルの学習者、中国語圏への留学経験者、中国語圏からの留学生を主な対象とします。

：

授業の到達目標： 中国語による講義を通して、中国文化の複合的な諸相を理解する。

事前・事後学習の内容： 指定された資料を読み、関連する書籍・文献に当たる。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 4月15日 （担当：西田文信）
イントロダクション＋漢字文化圏（1）漢字文化圏概論
本科目の全体概要の説明後、講義の第1回を行います。

第2回 4月22日 （担当：西田文信）
漢字文化圏（2）漢字文化圏各論::：日本における漢字漢文の受容

第3回 4月29日 （担当：西田文信）
漢字文化圏（3）漢字文化圏各論：漢字文化圏の広がり

第4回 5月13日 （担当：大野広之）
日中比較言語文化論（1）日本漢字音の歴史

第5回 5月20日 （担当：大野広之）
日中比較言語文化論（2）日本漢字音と現代漢語との比較

第6回 5月27日 （担当：大野広之）
日中比較言語文化論（3）漢民族の思惟構造

第7回 6月3日 （担当：大野広之）
日中比較言語文化論（4）陰陽五行思想の応用的解釈

言語区分： 0 中国語 Chinese

教科書： なし

参考文献： 授業時に適宜ご紹介します

成績評価フリー入力サイン： 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート： 65 学期末に中国語で執筆し提出

平常点評価:　35　毎回授業の出席と授業コメント(中国語)による。

5回以上の出席と期末レポートの提出が単位認定の必須条件である。

備考・関連URL:　本科目は原則上対面式で行います。コロナ等の感染状況によりオンライン式に変更になる場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010268|01|9S09010268[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国の文化 β		
担 当 教 員	清水 賢一郎@曾 文莉		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ◆使用言語：中国語◆ 中国（ここでは広く華語圏の意。以下同様）の文化について様々の角度からアプローチすることにより、その複合的な諸相を明らかにしていきます。すでに中国の文化について一定程度の知識を持っている学生を対象に、中国の言語や文化をテーマに、新たな知識、発見がもたらされるような講義を行います。毎回の講義は、中国の文化に関する具体的なテーマ（今年度は特に「近代中国与日本」、「台湾电影中不能说的故事」「中日电影里的青春叙事」等）を取り上げます。講義はすべて中国語で行います。また、レポートもすべて中国語での提出となります。中国語上級レベルの学習者、中国語圏への留学経験者、中国語圏からの留学生を主な対象とします。

授業の到達目標: 中国語による講義を通して、中国（華語圏）の文化の複合的諸相を理解する。特に日本との関連性に焦点をあてる。

事前・事後学習の内容: 指定された資料を読み、関連する書籍・文献に当たる。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 6月10日 （担当：清水賢一郎）
近代中国与日本：梁启超与明治东京的传媒文化（1） keywords：“新文体”、“帝都”的都市传媒文化、人文社会景观、“汉文”

第2回 6月17日 （担当：清水賢一郎）
近代中国与日本：梁启超与明治东京的传媒文化（2） keywords：演说、政治小说、民族国家、报纸、电信、“少年中国”

第3回 6月24日 （担当：曾 文莉）
台湾电影中不能说的故事（1）为什么「不能说」：权威、白色恐怖与电影的沉默

第4回 7月1日 （担当：曾 文莉）
台湾电影中不能说的故事（2）那能「怎么说」：隐喻、空间与家庭叙事

第5回 7月8日 （担当：曾 文莉）
台湾电影中不能说的故事（3）为谁而说：观看与被观看的意识与无意识

第6回 7月15日 （担当：曾 文莉）
台湾电影中不能说的故事（4）摆脱失语：日本如何成为台湾意识形态形成的关键他者

第7回 7月22日 （担当：清水＋ゲスト講師：蓋 暁星【文教大学 文学部 准教授】）
中日电影里的青春叙事

言語区分: 0 中国語 Chinese

教科書: なし

参考文献: 授業時に適宜紹介する

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 55 学期末に中国語で提出。

平常点評価: 45 毎回授業の出席と授業コメント（中国語）による。

5回以上の出席と期末レポートの提出が単位認定の必須条件である。

備考・関連URL: 【授業方式について】 対面で行います。コロナ等の感染状況、その他の事情によりオンラインに変更になる場合

があります（変更等はMoodleで通知します）。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010271|01|9S09010271[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	早稲田を知る　1（早稲田大学校友会支援講座）		
担 当 教 員	前田　清司@篠原　初枝		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（早稲田文化）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　本講座は早稲田大学校友会の協力に基づいて開講される早稲田大学校友会支援講座である。 早稲田大学は、創立者大隈重信、大隈侯を助けた小野梓、高田早苗、天野為之等の志によって建てられた大学であることは言うまでもない。彼らの志は後継者に受け継がれ、時代の荒波を受けながらも、早稲田に集う者のアイデンティティーとして今に至っている。早稲田の学生として、学園草創期の功労者の思想・信条・活動に触れることは大切である。本授業では、早稲田大学建学の精神とその後継者たちについて知ることを目的とする。すなわち、大隈重信と学園草創期の功労者について講じ、建学の精神と教旨を理解するとともに、後継者たちが早稲田人として活躍したさまを紹介する。本授業は、複数の教員および校友によるオムニバス形式とする。

授業の到達目標:　早稲田大学創立の理念、特色、アイデンティティー、創設者の思想・信条・教育哲学、140年にわたる歴史、校歌誕生の背景、早稲田スポーツの基礎などを学び、早稲田大学での学生生活を有意義に送ることを願うことから、各回講義の内容を咀嚼することを到達目標とする。

事前・事後学習の内容:　事前学習:各回の授業タイトルに関連する内容について、書物やインターネットなどで調べておく。
事後学習:授業の振り返りを行い、早大生としての誇りや気概を持ち、今後に向けて明確な目標を立てることが望ましい。

授業計画フリー入力サイン:　0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回　4月16日　早稲田大学の140年と早慶戦
川口　浩（名誉教授・元政治経済学術院教授）（担当:前田清司）
第2回　4月23日　大隈重信が目指した男女共同参画・ダイバーシティ推進
篠原初枝（ダイバーシティ推進担当理事・アジア太平洋研究科教授）
第3回　4月30日　早稲田の聖地さがのこれから
山口祥義（佐賀県知事）（担当:前田清司）
第4回　5月7日　早稲田大学と慶應義塾
山内慶太（慶應義塾常任理事・慶應義塾大学看護医療学部教授）（担当:前田清司）
第5回　5月14日　早稲田大学校歌の由来（大隈記念講堂大講堂で開講予定）
菊地哲榮（ハンズオン・エンタテインメント代表取締役会長）（担当:前田清司）
第6回　5月21日　WASEDAが牽引する日本野球
岡村　猛（元野球部監督）（担当:前田清司）
第7回　5月28日　早稲田スポーツを創った人々
葛西順一（名誉教授・元スポーツ科学学術院教授）（担当:前田清司）

言語区分:　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン:　0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:　30　最終課題は、授業内で提示予定。与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する。

平常点評価:　70　毎回の授業において自身の理解度や授業の感想などを記述したリアクションペーパーを提出する。また、授業への積極性も評価する。

備考・関連URL:　第5回授業（5月14日）は大隈記念講堂大講堂で開講予定。詳細は第4回授業時に説明予定。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010272|01|9S09010272[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	早稲田を知る 2（早稲田大学校友会支援講座）		
担 当 教 員	前田 清司@高西 淳夫@日野 愛郎@長谷川 恵一		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（早稲田文化）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本講座は早稲田大学校友会の協力に基づいて開講される早稲田大学校友会支援講座である。
早稲田大学は、創立者大隈重信、大隈侯を助けた小野梓、高田早苗、天野為之等の志によって建てられた大学であることは言うまでもない。彼らの志は後継者に受け継がれ、時代の荒波を受けながらも、早稲田に集う者のアイデンティティーとして今に至っている。早稲田の学生として、学園草創期の功労者の思想・信条・活動に触れることは大切である。本授業では、早稲田大学建学の精神とその後継者たちについて知ることを目的とする。すなわち、大隈重信と学園草創期の功労者について講じ、建学の精神と教旨を理解するとともに、後継者たちが早稲田人として活躍したさまを紹介する。本授業は、複数の教員および校友らによるオムニバス形式とする。

授業の到達目標: 早稲田大学創立の理念、特色、アイデンティティー、創設者の思想・信条・教育哲学、140年にわたる歴史、早稲田スポーツの基礎、大隈重信の出生地である佐賀との関わり、校友会とのつながりなどを学び、早稲田大学での学生生活を有意義に送ることを願うことから、各回講義の内容を咀嚼することを到達目標とする。

事前・事後学習の内容: 事前学習：各回の授業タイトルに関連する内容について、書物やインターネットなどで調べておく。
事後学習：授業の振り返りを行い、早大生としての誇りや気概を持ち、今後に向けて明確な目標を立てることが望ましい。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 6月4日 世界で輝くWASEDAを目指して
田中愛治（総長）（担当：前田清司）
第2回 6月11日 早稲田大学と校友会
萬代 晃（常任理事・校友会代表幹事）（担当：前田清司）
第3回 6月18日 政治学と早稲田大学
日野愛郎（政治経済学術院教授）
第4回 6月25日 早稲田と文学
宗像和重（名誉教授・元文学学術院教授）（担当：前田清司）
第5回 7月2日 安部磯雄と早稲田大学
浅古 弘（名誉教授・元法学学術院教授）（担当：前田清司）
第6回 7月9日 会計学と早稲田大学
長谷川恵一（商学学術院教授）
第7回 7月16日 早稲田のロボット学
高西淳夫（理工学術院教授）

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	30	最終課題は、授業内で提示予定。与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する。
平常点評価:	70	毎回の授業において自身の理解度や授業の感想などを記述したリアクションペーパーを提出する。また、授業への積極性も評価する。

備考・関連URL:

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010273|01|9S09010273[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	早稲田スポーツを学ぶ　1（早稲田大学校友会支援講座）		
担 当 教 員	前田　清司@太田　章@奥野　景介@倉石　平@藤田　善也		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（早稲田文化）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　本講座は早稲田大学校友会の協力に基づいて開講される早稲田大学校友会支援講座である。 早稲田大学の創立者の大隈重信は、日頃から身体を鍛える必要性を唱えていたという。大隈重信が総長に就任した年に体育各部が誕生し、また大運動会が開催された。体育各部の歴史と伝統を受け継いだ学生は、早稲田を代表する選手としてその真髄を発揮し、国民の心を魅了してきた。その一つは、野球の早慶戦（世界三大学生スポーツの一つと称されている）であり、箱根駅伝であり、早明ラグビーや早慶レガッタである。そこに、人々の心の琴線に触れるものがあるからこそ、いつまでもその戦いが語り継がれ、新たな名勝負がまた展開されるのであろう。心を震わせ、感涙でむせび泣くような劇的なシーンが展開されるならば、人は喜んで応援に馳せ参じるに違いない。大隈重信が残した貴重なこの文化遺産を生み出した背景を伝え、人々を魅了した早稲田スポーツに関する講義をオムニバス形式で展開する。

授業の到達目標：　早稲田スポーツの理念、特色、アイデンティティー、100年にわたる歴史などを学び、早稲田大学での学生生活を有意義に送ることを願うことから、各回講義の内容を咀嚼することを到達目標とする。

事前・事後学習の内容：　事前学習：戸山キャンパスの早稲田アリーナ3階にあるスポーツミュージアムを見学し、早稲田スポーツに触れておく。また、各回の授業タイトルに関連する内容について、書物やインターネットなどで調べておく。
事後学習：授業の振り返りを行う。また、早稲田スポーツの魅力を実感するため、早慶野球戦、早明ラグビー、箱根駅伝をはじめ、体育各部の交流戦、定期戦、リーグ戦などの試合を観戦し、仲間を応援することが望ましい。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　10月1日　早稲田スポーツの系譜を語る
葛西順一（名誉教授・元スポーツ科学学術院教授）（担当：前田清司）
第2回　10月8日　スキーの魅力を語る
藤田善也（スポーツ科学学術院准教授・スキー部監督）
第3回　10月15日　オリンピックを語る
太田　章（スポーツ科学学術院教授）
第4回　10月22日　早稲田を応援する魅力を語る
泉　博之（応援部監督）（担当：前田清司）
第5回　10月29日　バスケットボールの魅力を語る
倉石　平（スポーツ科学学術院教授・バスケットボール部ヘッドコーチ）
第6回　11月12日　コーチングを語る
奥野景介（スポーツ科学学術院教授・水泳部競泳部門コーチ）
第7回　11月19日　卓球の魅力を語る
木村興治（元日本卓球協会副会長・元国際卓球連盟副会長）（担当：前田清司）

言語区分：　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：	30	最終課題は、授業内で提示予定。与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する。
平常点評価：	70	毎回の授業において自身の理解度や授業の感想などを記述したリアクションペーパーを提出する。また、授業への積極性も評価する。

備考・関連URL：

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010274|01|9S09010274[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	早稲田スポーツを学ぶ　2（早稲田大学校友会支援講座）		
担 当 教 員	前田　清司@石井　昌幸		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（早稲田文化）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　本講座は早稲田大学校友会の協力に基づいて開講される早稲田大学校友会支援講座である。 早稲田大学創立者の大隈重信は、日頃から身体を鍛える必要性を唱えていたという。大隈重信が総長に就任した年に体育各部が誕生し、また大運動会が開催された。体育各部の歴史と伝統を受け継いだ学生は、早稲田を代表する選手としてその真髄を発揮し、国民の心を魅了してきた。その一つは、野球の早慶戦（世界三大学生スポーツの一つと称されている）であり、箱根駅伝であり、早明ラグビーや早慶レガッタである。そこに、人々の心の琴線に触れるものがあるからこそ、いつまでもその戦いが語り継がれ、新たな名勝負がまた展開されるのであろう。心を震わせ、感涙でむせび泣くような劇的なシーンが展開されるならば、人は喜んで応援に馳せ参じるに違いない。大隈重信が残した貴重なこの文化遺産を生み出した背景を伝え、人々を魅了した早稲田スポーツに関する講義をオムニバス形式で展開する。

授業の到達目標：　早稲田スポーツの理念、特色、アイデンティティー、100年にわたる歴史などを学び、早稲田大学での学生生活を有意義に送ることを願うことから、各回講義の内容を咀嚼することを到達目標とする。

事前・事後学習の内容：　事前学習：戸山キャンパスの早稲田アリーナ3階にあるスポーツミュージアムを見学し、早稲田スポーツに触れておく。また、各回の授業タイトルに関連する内容について、書物やインターネットなどで調べておく。
事後学習：授業の振り返りを行う。また、早稲田スポーツの魅力を実感するため、早明ラグビーや箱根駅伝をはじめ、体育各部の交流戦、定期戦、リーグ戦などの試合を観戦し、仲間を応援することが望ましい。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　11月26日　早稲田スポーツを学ぶ
石井昌幸（スポーツ科学学術院教授・ア式蹴球部部長）
第2回　12月3日　勝つべく使命を担う早稲田スポーツ
岡村　猛（元野球部監督）（担当：前田清司）
第3回　12月10日　早稲田大学校歌の由来
菊地哲榮（ハンズオン・エンタテインメント代表取締役会長）（担当：前田清司）
第4回　12月17日　早稲田と生きる
三木佑二郎（元教務部参与・元応援部監督）（担当：前田清司）
第5回　1月7日　サッカーを語る
兵藤慎剛（ア式蹴球部監督）（担当：前田清司）
第6回　1月14日　陸上競技を通じて学んだこと、そして伝えたいこと
花田勝彦（競走部駅伝監督）（担当：前田清司）
第7回　1月21日　校友としてともに世界へ
野地彦旬（理事・校友会代表幹事）（担当：前田清司）

言語区分：　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　30　最終課題は、授業内で提示予定。与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する。

平常点評価：　70　毎回の授業において自身の理解度や授業の感想などを記述したリアクションペーパーを提出する。また、授業への積極性も評価する。

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010286|01|9S09010286[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	こころとからだの健康 1 01		
担 当 教 員	西多 昌規		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

当講座においては、内外の多彩な講師陣から、こころとからだの健康に影響を及ぼす諸要因について、健康科学や精神保健、精神医学など、専門的な立場から総合的に学びます。また、青年期特有の心身の問題にアプローチし、それらにどのように対処できるかを考えながら、身体的、精神的、社会的に健康度の高い生活を維持増進していくための智恵を修得することを目標とします。
具体的には感染症を含む身体疾患や精神疾患、嗜癖行動、栄養や性における問題など、青年の日常生活に大きな影響を与えることがらについて、医療と生活の共生という視点から、臨床的な立場を基盤にした授業が展開されます。
本講義は、対面講義の回と、Waseda Moodleでの視聴の回で実施します。

授業の到達目標:

春クォーター（こころとからだの健康1 01）と夏クォーター（こころとからだの健康2 01）の計14回の講義を通して、学生生活のみならず卒業後社会人になった後も、日常生活における心身の健康維持に役立つ知識や技能の修得を目指します。

事前・事後学習の内容:

（対面講義の回）
毎回、講義の前に30分程度、講義のテーマに関連するキーワードについて簡単な予習をしてきてください。また、毎回の講義聴講後、要約と感想を書いてもらうことで、講義内容を整理してもらいます。30分～2時間程度の事後学習が必要です。
（Waseda Moodleでの資料の回）
毎回、Waseda Moodleでの視聴後に、要約と感想を書いてもらいます。視聴履歴も確認します。30分～2時間程度の事後学習が必要です。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

オリエンテーション 睡眠とメンタルヘルス

本講義のねらい、履修の仕方、成績評価方法を説明します。
また、心身の不調が深刻にならずに済むよう、自己管理の仕方及び学内に設けられた保健センターの活用の仕方についても説明します。
その後に、睡眠とメンタルヘルスとは、密接な関係にあることを講義します。不適切な睡眠習慣は、メンタルヘルスの悪化を生じる可能性があります。逆に精神障害は、不眠など睡眠の問題をしばしば伴います。本講義では、睡眠とメンタルヘルスの関係を、主に大学生を対象とした所見を集めて講義します。
（講義形式：対面、担当：西多 昌規）

その症状、アレルギー？

日常生活の中で、「咳がとまらない」「体がかゆい」「何かを食べた後に体調が悪くなる」などの症状を感じたことはありますか？「アレルギー」とは免疫による特定の物質に対する防衛・排除反応が過剰となった状態を指し、喘息や花粉症、食物アレルギーなどが代表的な疾患です。若年者にも多いこれらの疾患について、医学的な理解を深め、社会的に必要な対応について考察しましょう。
（講義形式：対面、担当：正木 克宜・西多 昌規）

医療における意思決定について考える

医療が高度に複雑化し、1つの疾患に対して複数の治療法が可能となり、個人の価値観を反映した選択が求められるようになりました。また、もしものときにどのような治療やケアを受けたいか、自分の希望を明らかにしながらプランニングしていくアドバンス・ケア・プランニングの考え方が推奨されています。こうした背景から、医療において、一人ひとりが、自分らしく納得のいく意思決定を行うために、医療情報をわかりやすい形で共有し、本人と医療者が話し合いながら一緒に治療やケアを選ぶ共同意思決定の考え方が注目されています。本講義では、この共同意思決定について取り上げ、本人が何を大事にして決めたいか、個人の価値観を明確にすることを目的とするディシジョン・エイドと呼ばれる支援ツールを紹介しながら、医療における意思決定について一緒に考えたいと思います。
（講義形式：対面、担当：青木 裕見・西多 昌規）

発達障害の基礎知識　～理解と支援のための第一歩～

発達障害は、生まれながらにして持つ特性によって、対人関係や学業、日常生活や社会生活上に問題が生じる障害です。しかし、周囲の人の理解と支援によって、抱える困難さが軽減される可能性があります。本講義では主な発達障害について取り上げ、基本的な知識を習得することを目的とします。また、本学での支援状況についてもご紹介します。
（講義形式：対面、担当：樫木　啓二・西多　昌規）

親密な相手と「いい関係」を築くために　～若者のためのDV予防セミナー

「DV（ドメスティック・バイオレンス）」は、カップルなど親密な関係で起きる暴力です。若年層でも発生しており、国の調査では交際経験のある人の約8人に一人が「被害経験がある」と答えています。DVには精神的暴力や性的暴力も含まれ、心身に大きな影響を与えますが、当事者になると気づくことが難しくなるため、予防のための知識を得ておくことが必要です。 親密な相手と「いい関係」を築くために大切なことは何か。また、第三者としてできるサポートについても考えてみましょう。
（講義形式：対面、担当：山中　多民子・西多　昌規）

低体重の危険性に関する医療知識

「やせ」を美ととらえる西洋的な価値観の広まりや、肥満によるメタボリック・シンドロームの危険性が話題になり、ダイエットなどの情報が氾濫している現代において、過度なダイエット等による低体重のリスクは見逃されがちです。低体重に伴う合併症や摂食症など、「やせ」の危険性に関する情報を紹介いたします。
（講義形式：Waseda Moodleで視聴、担当：米田　良・西多　昌規）

Moral distressと道徳的意思決定

日常生活の様々な場面で行われる意思決定において、大なり小なり道徳的な決断を迫られる瞬間が存在します。医療の世界では、道徳的な問題に対して医療者が感じる苦悩さらには怒りや罪悪感や無力感といったより明示的な心理的反応をmoral distress（道徳的苦悩）と呼びます。確かに医療者には高い倫理性が求められるため、通常よりもmoral distressを感じやすい立場にあると言えますが、一般の方もmoral distressを感じないというわけではありません。本講義では、moral distressの概念を紹介しながら、moral distressの原因であるmoral dilemma（道徳的ジレンマ）を生じさせる様々な道徳規範を見ていきます。
（講義形式：Waseda Moodleの視聴、担当：瀧本　禎之・西多　昌規）

言語区分：　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　聴講状況と聴講後提出された要約・感想から総合的に判断します。

備考・関連URL：

・春・夏クォーターをセットで科目登録することが推奨されます。
・講義の順番等は、講師の都合で変更になることがあります。
・対面講義の回のレジュメは、講義開始前までにWaseda Moodleにアップロードされます。
・Waseda Moodleでの視聴の回は、授業曜日時限開始前までに視聴用資料がWaseda Moodle にアップロードされます。
・対面講義の回は、講義中に提示される「確認ワード」を、Waseda Moodleの当該講義回の所定の箇所に講義時間中に記入することで出席確認を行います。
・毎回の講義について、内容の要約300字程度、感想300字程度を、講義当日より 2 日後の日曜日 23:59 までに Waseda Moodle の当該講義回の所定の箇所に提出してください。遅延提出は認めません。
・Waseda Moodleでの視聴の回の曜日時限であっても、教室は利用できますので自習等に利用してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010286|02|9S09010286[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	こころとからだの健康 1 02		
担 当 教 員	金子 昭彦@西多 昌規		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 当講座においては、内外の多彩な講師陣から、こころとからだの健康に影響を及ぼす諸要因について、健康科学や精神保健、精神医学など、専門的な立場から総合的に学びます。また、青年期特有の心身の問題にアプローチし、それらにどのように対処できるかを考えながら、身体的、精神的、社会的に健康度の高い生活を維持増進していくための智恵を修得することを目標とします。
具体的には感染症を含む身体疾患や精神疾患、嗜癖行動、栄養や性における問題など、青年の日常生活に大きな影響を与えることがらについて、医療と生活の共生という視点から、臨床的な立場を基盤にした授業が展開されます。
本講義は、対面講義の回と、Waseda Moodleでの視聴の回で実施します。

授業の到達目標: 秋クォーター（こころとからだの健康1 02）と冬クォーター（こころとからだの健康2 02）の計14回の講義を通して、学生生活のみならず卒業後社会人になった後も、日常生活における心身の健康維持に役立つ知識や技能の修得を目指します。

事前・事後学習の内容: （対面講義の回）
毎回、講義の前に30分程度、講義のテーマに関連するキーワードについて簡単な予習をしてきてください。また、毎回の講義聴講後、要約と感想を書いてもらうことで、講義内容を整理してもらいます。30分～2時間程度の事後学習が必要です。
（Waseda Moodleでの資料の回）
毎回、Waseda Moodleでの視聴後に、要約と感想を書いてもらいます。視聴履歴も確認します。30分～2時間程度の事後学習が必要です。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

オリエンテーション 経済学で考える健康と行動

本講義のねらい、履修の仕方、成績評価方法を説明します。また、心身の不調が深刻にならずに済むよう、自己管理の仕方及び学内に設けられた保健センターの活用の仕方についても説明します。
その後、経済学の視点から健康や行動について考察します。まず、市場の役割や保険市場の問題点を取り上げ、情報の非対称性が「逆選択」や「モラルハザード」を引き起こすことを説明します。特に健康保険では、病気のリスクが高い人ほど加入しやすく、結果として保険料が上昇するメカニズムを紹介。また、行動経済学の観点から、長期的な健康管理が困難な理由を理解してもらいます。最後に、自己管理の工夫や政策介入など、人々が後悔を減らし健康を維持できる方法を探ります。
（講義形式：対面、担当：金子 昭彦）

睡眠とメンタルヘルス

睡眠とメンタルヘルスとは、密接な関係にあることを講義します。不適切な睡眠習慣は、メンタルヘルスの悪化を生じる可能性があります。逆に精神障害は、不眠など睡眠の問題をしばしば伴います。本講義では、睡眠とメンタルヘルスの関係を、主に大学生を対象とした所見を集めて講義します。
（講義形式：対面、担当：西多 昌規）

Moral distress と道徳的意思決定

日常生活の様々な場面で行われる意思決定において、大なり小なり道徳的な決断を迫られる瞬間が存在します。医療の世界では、道徳的な問題に対して医療者が感じる苦悩さらには怒りや罪悪感や無力感といったより明示的な心理的反応を moral distress（道徳的苦悩）と呼びます。確かに医療者には高い倫理性が求められるため、通常よりも moral distressを感じやすい立場にあると言えますが、一般の方も moral distress を感じないというわけではありません。本講義では、moral distress の概念を紹介しながら、moral distress の原因である moral dilemma（道徳的ジレンマ）を生じさせる様々な道徳規範を見ていきます。
（講義形式：Waseda Moodle の視聴、担当：瀧本 禎之・金子 昭彦）

親密な相手と「いい関係」を築くために ～若者のためのDV予防セミナー

「DV（ドメスティック・バイオレンス）」は、カップルなど親密な関係で起きる暴力です。若年層でも発生しており、国の調査では交際経験のある人の約8人に一人が「被害経験がある」と答えています。DVには精神的暴力や性的暴力も含まれ、心身に大きな影響を与えますが、当事者になると気づくことが難しくなるため、予防のための知識を得ておくことが必要です。 親密な相手と「いい関係」を築くために大切なことは何か。また、第三者としてできるサポートについても考えてみましょう。
（講義形式：対面、担当：山中 多民子・金子 昭彦）

発達障害の基礎知識　～理解と支援のための第一歩～

発達障害は、生まれながらにして持つ特性によって、対人関係や学業、日常生活や社会生活上に問題が生じる障害です。しかし、周囲の人の理解と支援によって、抱える困難さが軽減される可能性があります。本講義では主な発達障害について取り上げ、基本的な知識を習得することを目的とします。また、本学での支援状況についてもご紹介します。
（講義形式：対面、担当：樫木　啓二・金子　昭彦）

低体重の危険性に関する医療知識

「やせ」を美ととらえる西洋的な価値観の広まりや、肥満によるメタボリック・シンドロームの危険性が話題になり、ダイエットなどの情報が氾濫している現代において、過度なダイエット等による低体重のリスクは見逃されがちです。低体重に伴う合併症や摂食症など、「やせ」の危険性に関する情報を紹介いたします。
（講義形式：Waseda Moodleの視聴、担当：米田　良・金子　昭彦）

デジタルテクノロジーと行動嗜癖：ネット、ゲーム、スマホと上手につきあう

デジタル時代を生きる私たちには、デジタルデバイスやそのコンテンツが日常生活で不可欠です。しかし、使用をコントロールできずに社会生活に支障をきたす行動嗜癖、例えばゲーム障害を抱える人々も存在します。この講義では、「わかっているけれどやめられない」というゲーム障害や問題のあるスマホ使用の医療現場での実態、治療法や自己管理のための戦略、最新の脳画像研究やデジタル技術を活用した診療支援の可能性を紹介します。
（講義形式：対面、担当：小林　七彩・金子　昭彦）

言語区分：　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　聴講状況と聴講後提出された要約・感想から総合的に判断します。

備考・関連URL：
・秋・冬クォーターをセットで科目登録することが推奨されます。
・講義の順番等は、講師の都合で変更になることがあります。
・対面講義の回のレジュメは、講義開始前までにWaseda Moodleにアップロードされます。
・Waseda Moodleでの視聴の回は、授業曜日時限開始前までに視聴用資料がWaseda Moodle にアップロードされます。
・対面講義の回は、講義中に提示される「確認ワード」を、Waseda Moodleの当該講義回の所定の箇所に講義時間中に記入することで出席確認を行います。
・毎回の講義について、内容の要約300字程度、感想300字程度を、講義当日より 2 日後の日曜日 23:59 までに Waseda Moodle の当該講義回の所定の箇所に提出してください。遅延提出は認めません。
・Waseda Moodleでの視聴の回の曜日時限であっても、教室は利用できますので自習等に利用してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010287|01|9S09010287[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	こころとからだの健康 ２ ０１		
担 当 教 員	石井 映美@金子 昭彦@中村 宣博@西多 昌規@妙圓園 香苗		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

当講座においては、内外の多彩な講師陣から、こころとからだの健康に影響を及ぼす諸要因について、健康科学や精神保健、精神医学など、専門的な立場から総合的に学びます。また、青年期特有の心身の問題にアプローチし、それらにどのように対処できるかを考えながら、身体的、精神的、社会的に健康度の高い生活を維持増進していくための智恵を修得することを目標とします。
具体的には感染症を含む身体疾患や精神疾患、嗜癖行動、栄養や性における問題など、青年の日常生活に大きな影響を与えることがらについて、医療と生活の共生という視点から、臨床的な立場を基盤にした授業が展開されます。
本講義は、対面講義の回と、Waseda Moodleでの視聴の回で実施します。

授業の到達目標: 春クォーター（こころとからだの健康1 ０1）と夏クォーター（こころとからだの健康2 ０1）の計14回の講義を通して、学生生活のみならず卒業後社会人になった後も、日常生活における心身の健康維持に役立つ知識や技能の修得を目指します。

事前・事後学習の内容:

（対面講義の回）
毎回、講義の前に30分程度、講義のテーマに関連するキーワードについて簡単な予習をしてきてください。また、毎回の講義聴講後、要約と感想を書いてもらうことで、講義内容を整理してもらいます。30分～2時間程度の事後学習が必要です。
（Waseda Moodleでの資料の回）
毎回、Waseda Moodleでの視聴後に、要約と感想を書いてもらいます。視聴履歴も確認します。30分～2時間程度の事後学習が必要です。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

感染症と感染対策

感染症は病原体（細菌、ウイルス等）が体に侵入して、症状が出る病気です。風邪やインフルエンザなど一般的な感染症から稀な感染症まで様々な種類がありますが、感染症のパンデミック（世界的大流行）が発生すれば大きな健康被害と社会的影響が生じます。感染症とその対応や予防について解説するとともに、感染症に強い社会をめざすために必要なことを考えたいと思います。
（講義形式：対面、担当：具 芳明・西多 昌規）

デジタルテクノロジーと行動嗜癖：ネット、ゲーム、スマホと上手につきあう

デジタル時代を生きる私たちには、デジタルデバイスやそのコンテンツが日常生活で不可欠です。しかし、使用をコントロールできずに社会生活に支障をきたす行動嗜癖、例えばゲーム障害を抱える人々も存在します。この講義では、「わかっているけれどやめられない」というゲーム障害や問題のあるスマホ使用の医療現場での実態、治療法や自己管理のための戦略、最新の脳画像研究やデジタル技術を活用した診療支援の可能性を紹介します。
（講義形式：対面、担当：小林 七彩・西多 昌規）

経済学で考える健康と行動

本講義では、経済学の視点から健康や行動について考察する。まず、市場の役割や保険市場の問題点を取り上げ、情報の非対称性が「逆選択」や「モラルハザード」を引き起こすことを説明する。特に健康保険では、病気のリスクが高い人ほど加入しやすく、結果として保険料が上昇するメカニズムを紹介。また、行動経済学の観点から、長期的な健康管理が困難な理由を理解してもらう。最後に、自己管理の工夫や政策介入など、人々が後悔を減らし健康を維持できる方法を探る。
（講義形式：対面、担当：金子 昭彦）

習慣的な運動とからだの健康

「からだが資本」と表現されるように、からだの健康の優先順位は高いと言えます。からだの健康を維持・増進させる方策として、習慣的な運動が広く推奨されています。本講義では、主に習慣的な運動によって得られるからだへのbenefitについてご紹介します。
（講義形式：対面、担当：中村 宣博）

青年期の自殺とその予防について

本邦では長らく若年世代の死因の一位が自殺となっており、これは国を挙げて取り組むべき喫緊の課題です。また、コロナ禍では女性や若者を中心に、自殺の増加もみられました。自殺の予防は、まず早期の気付き、受診・相談、支援が重要です。受診を妨げる偏見を取り除き、自殺に関する基礎知識と気付きや支援の方法について学びましょう。
（講義形式：対面、担当：石井　映美）

栄養情報を正しく理解するために

SNSやインターネット、メディアで発信される栄養情報を科学的根拠に基づいて正しく理解し、信頼性を判断する力を養うことを目的とします。栄養情報の見極め方に加え、サプリメントなど栄養補助食品の役割や適切な利用方法、安全性についても解説します。また、意図しないドーピングを防ぐためのアンチ・ドーピングの基礎知識と注意点についても学び、健康や競技に活かせる実践的知識の習得を目指します。
（講義形式：対面、担当：妙圓園　香苗）

ジェンダーと心の健康

大学生活は、具体的には就職活動や、パートナーとの関係構築、自分らしさの発見、社会の中に自分の居場所を見つけること・・・という葛藤を伴う営みの連続ではないでしょうか。その中で、性別二元論的な規範や役割（ジェンダー）により、自分らしさを見失ってしまいメンタルヘルスの困難に遭遇することがしばしば起こります。講義では、このような生き難さを引き起こす社会文化的な背景を批判的に読み解きつつ、自分と他者を大切にする生き方について一緒に考えていきます。
（講義形式：Waseda Moodleの視聴、担当：中川　浩子・西多　昌規）

言語区分：　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　聴講状況と聴講後提出された要約・感想から総合的に判断します。

備考・関連URL：

・春・夏クォーターをセットで科目登録することが推奨されます。
・講義の順番等は、講師の都合で変更になることがあります。
・対面講義の回のレジュメは、講義開始前までにWaseda Moodleにアップロードされます。
・Waseda Moodleでの視聴の回は、授業曜日時限開始前までに視聴用資料がWaseda Moodle にアップロードされます。
・対面講義の回は、講義中に提示される「確認ワード」を、Waseda Moodleの当該講義回の所定の箇所に講義時間中に記入することで出席確認を行います。
・毎回の講義について、内容の要約300字程度、感想300字程度を、講義当日より 2 日後の日曜日 23:59 までにWaseda Moodle の当該講義回の所定の箇所に提出してください。遅延提出は認めません。
・Waseda Moodleでの視聴の回の曜日時限であっても、教室は利用できますので自習等に利用してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010287|02|9S09010287[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	こころとからだの健康 ２ 02		
担 当 教 員	金子 昭彦@石井 映美@笹月 桃子@中村 宣博@堀 正士@妙圓園 香苗		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 当講座においては、内外の多彩な講師陣から、こころとからだの健康に影響を及ぼす諸要因について、健康科学や精神保健、精神医学など、専門的な立場から総合的に学びます。また、青年期特有の心身の問題にアプローチし、それらにどのように対処できるかを考えながら、身体的、精神的、社会的に健康度の高い生活を維持増進していくための智恵を修得することを目標とします。
具体的には感染症を含む身体疾患や精神疾患、嗜癖行動、栄養や性における問題など、青年の日常生活に大きな影響を与えることがらについて、医療と生活の共生という視点から、臨床的な立場を基盤にした授業が展開されます。
本講義は、対面講義の回と、Waseda Moodleでの視聴の回で実施します。

授業の到達目標: 秋クォーター（こころとからだの健康1 02）と冬クォーター（こころとからだの健康2 02）の計14回の講義を通して、学生生活のみならず卒業後社会人になった後も、日常生活における心身の健康維持に役立つ知識や技能の修得を目指します。

事前・事後学習の内容: （対面講義の回）
毎回、講義の前に30分程度、講義のテーマに関連するキーワードについて簡単な予習をしてきてください。また、毎回の講義聴講後、要約と感想を書いてもらうことで、講義内容を整理してもらいます。30分～2時間程度の事後学習が必要です。
（Waseda Moodleでの資料の回）
毎回、Waseda Moodleでの視聴後に、要約と感想を書いてもらいます。視聴履歴も確認します。30分～2時間程度の事後学習が必要です。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

感染症と感染対策

感染症は病原体（細菌、ウイルス等）が体に侵入して、症状が出る病気です。風邪やインフルエンザなど一般的な感染症から稀な感染症まで様々な種類がありますが、感染症のパンデミック（世界的大流行）が発生すれば大きな健康被害と社会的影響が生じます。感染症とその対応や予防について解説するとともに、感染症に強い社会をめざすために必要なことを考えたいと思います。
（講義形式：対面、担当：具 芳明・金子 昭彦）

その症状、アレルギー？

日常生活の中で、「咳がとまらない」「体がかゆい」「何かを食べた後に体調が悪くなる」などの症状を感じたことはありますか？「アレルギー」とは免疫による特定の物質に対する防衛・排除反応が過剰となった状態を指し、喘息や花粉症、食物アレルギーなどが代表的な疾患です。若年者にも多いこれらの疾患について、医学的な理解を深め、社会的に必要な対応について考察しましょう。
（講義形式：対面、担当：正木 克宜・金子 昭彦）

習慣的な運動とからだの健康

「からだが資本」と表現されるように、からだの健康の優先順位は高いと言えます。からだの健康を維持・増進させる方策として、習慣的な運動が広く推奨されています。本講義では、主に習慣的な運動によって得られるからだへのbenefitについてご紹介します。
（講義形式：対面、担当：中村 宣博）

医療における意思決定について考える

医療が高度に複雑化し、1つの疾患に対して複数の治療法が可能となり、個人の価値観を反映した選択が求められるようになりました。また、もしものときにどのような治療やケアを受けたいか、自分の希望を明らかにしながらプランニングしていくアドバンス・ケア・プランニングの考え方が推奨されています。こうした背景から、医療において、一人ひとりが、自分らしく納得のいく意思決定を行うために、医療情報をわかりやすい形で共有し、本人と医療者が話し合いながら一緒に治療やケアを選ぶ共同意思決定の考え方が注目されています。本講義では、この共同意思決定について取り上げ、本人が何を大事にして決めたいか、個人の価値観を明確にすることを目的とするディシジョン・エイドと呼ばれる支援ツールを紹介しながら、医療における意思決定について一緒に考えたいと思います。
（講義形式：対面、担当：青木 裕見・笹月 桃子）

栄養情報を正しく理解するために

SNSやインターネット、メディアで発信される栄養情報を科学的根拠に基づいて正しく理解し、信頼性を判断する力を養うことを目的とします。栄養情報の見極め方に加え、サプリメントなど栄養補助食品の役割や適切な利用方法、安全性についても解説します。また、意図しないドーピングを防ぐためのアンチ・ドーピングの基礎知識と注意点についても学び、健康や競技に活かせる実践的知識の習得を目指します。
（講義形式：対面、担当：妙圓園　香苗）

青年期の自殺とその予防について

本邦では長らく若年世代の死因の一位が自殺となっており、これは国を挙げて取り組むべき喫緊の課題です。また、コロナ禍では女性や若者を中心に、自殺の増加もみられました。自殺の予防は、まず早期の気付き、受診・相談、支援が重要です。受診を妨げる偏見を取り除き、自殺に関する基礎知識と気付きや支援の方法について学びましょう。
（講義形式：対面、担当：石井　映美）

ジェンダーと心の健康

大学生活は、具体的には就職活動や、パートナーとの関係構築、自分らしさの発見、社会の中に自分の居場所を見つけること・・・という葛藤を伴う営みの連続ではないでしょうか。その中で、性別二元論的な規範や役割（ジェンダー）により、自分らしさを見失ってしまいメンタルヘルスの困難に遭遇することがしばしば起こります。講義では、このような生き難さを引き起こす社会文化的な背景を批判的に読み解きつつ、自分と他者を大切にする生き方について一緒に考えていきます。
（講義形式：Waseda Moodleの視聴、担当：中川　浩子・金子　昭彦）

言語区分：　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　聴講状況と聴講後提出された要約・感想から総合的に判断します。

備考・関連URL：
・秋・冬クォーターをセットで科目登録することが推奨されます。
・講義の順番等は、講師の都合で変更になることがあります。
・対面講義の回のレジュメは、講義開始前までにWaseda Moodleにアップロードされます。
・Waseda Moodleでの視聴の回は、授業曜日時限開始前までに視聴用資料がWaseda Moodle にアップロードされます。
・対面講義の回は、講義中に提示される「確認ワード」を、Waseda Moodleの当該講義回の所定の箇所に講義時間中に記入することで出席確認を行います。
・毎回の講義について、内容の要約300字程度、感想300字程度を、講義当日より 2 日後の日曜日 23:59 までにWaseda Moodle の当該講義回の所定の箇所に提出してください。遅延提出は認めません。
・Waseda Moodleでの視聴の回の曜日時限であっても、教室は利用できますので自習等に利用してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010290|01|9S09010290[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	パブリック・リレーションズ概論 1		
担 当 教 員	尾上 玲円奈		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	、文・社会科学科目（メディア・ジャーナリズム	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 次世代リーダーのためのPR理論

授業概要:

※パブリック・リレーションズ概論1とパブリック・リレーションズ概論2は連続した内容です。秋クォーターの1、冬クォーターの2を必ず同時に履修してください。

明治維新以降、日本は急速な発展を遂げ、経済的には世界を席巻する存在となってきた。ある面では一世紀近く、世界をリードする立場を担ってきたと言っても過言ではない。しかし、政治的、文化的なプレゼンスとしてはどうか。国内世論や国際世論の形成など、いわゆるソフトパワーの面において、日本の競争力は著しく低いと言わざるを得ない。本来ハードパワーを補完するはずのソフトパワーが、国家の足枷となってしまっているのである。これら問題の根本は、日本国の現状を正しく認識し、世界の中でどういった役割を担い、将来どの地位を占めるべきかを考える、情報収集力及び情報発信力の欠如に拠るところが極めて大きい。これら情報収集力、情報発信力の根幹をなすのがパブリック・リレーションズ（本来の意味での「PR」）の機能に他ならず、社会全体（パブリック）との良好な関係構築（リレーションズ）活動、即ちPR活動を充実させていくことが我が国の急務である。
パブリック・リレーションズ（PR）は、個人や組織体が最短距離で目的や目標を達成する手法である。20世紀初頭、米国で登場したパブリック・リレーションズの考え方は米国における政治経済社会の牽引役として、オバマ元大統領やバイデン前大統領、トランプ現大統領らを始め、指導者層の戦略的な意思決定プロセスに組み込まれ、発展を遂げてきた。グローバル化が加速するにつれ、複雑化、多極化する世界にあって、情報の受発信機能は益々重要な位置付けで理解されなくてはならない。長期的な政治空白で国力を弱める日本を尻目に、新興国が国際社会で急速に発言力を増してきたのも、パブリック・リレーションズやプロパガンダの賜物だ。ゆえに、世界の指導者層がパブリック・リレーションズの基本概念を理論的に押さえ、実践的に学習することは、世界全体の喫緊の課題と言い換えることができる。今後の世界をより良いものにしていくために、様々な事例や議論を通してパブリック・リレーションズの普遍的な価値観を学び、受講生が将来国際社会の中で活用すべきPRの枠組みを授業において提示する。

世界は今、真のリーダーを求めている。本授業はそうした社会の要請に応えた、次世代を担うリーダーのためのものである。従来型の狭義の広報とは異なる、学際的視点に立った幅広く奥行きの深い本質的なパブリック・リレーションズの授業であり、理論はもとよりその魂（スピリット）を修得することができるのが特長だ。日本におけるパブリック・リレーションズの第一人者である前任の井之上喬先生が日本で初めて開講させた由緒正しき「パブリック・リレーションズ」の理論講座でもある（2004年に井之上喬先生が始め、尾上が引き継いだ本講義の受講生は3000名を超え社会で更なる活躍が期待されている）。担当教員の尾上は衆議院議員秘書やNHK（日本放送協会）報道記者の経験を有し、現在はPR会社においてクライアント業務の陣頭指揮をとると同時に、PRの専門家としてカンヌライオンズの審査員や国連、政府機関の委員を務めるなどしている。これまでの人生で得てきた知識や経験を、講義を通し惜しみなく紹介する。

また、内外で活躍する著名人をゲストに招き、パブリック・リレーションズが個人や組織体にとって如何に必要で有効であるかについて学ぶ。また、内外で活躍する著名人をゲストに招き、パブリック・リレーションズが個人や組織体にとって如何に必要で有効であるかについて学ぶ。本年度は、井之上喬京都大学経営管理大学院特命教授、近山知史株式会社博報堂エグゼクティブクリエイティブディレクター、矢嶋聡元株式会社メルカリPRチームディレクター／株式会社はね代表らをゲストに招く予定である。

本科目の履修により得られる能力は以下の通り。

①個の力を高め、国際社会に貢献できる21世紀の責任感ある真のリーダーとして自覚が持てるようになる

②「双方向型コミュニケーション」と「自己修正機能」を理解し、「倫理観」をベースとした普遍的なパブリック・リレーションズの手法を学ぶことができる

③日本のメディア（マスコミ）事情とその役割を理解することができる

④グローバルな視点から戦略性を持った上で統合的に思考し、状況を大局的に把握する能力が習得できる

⑤状況の変化を読み取り、「自己修正」を通して柔軟に対応する能力の必要性が理解できる

⑥実社会で活躍している内外のリーダーとの交流を通して、トップのリーダーシップを身近に学ぶことができる

⑦外国語としての英語の授業環境にも触れることができ、クロスカルチャーへの理解とグローバルな感覚を養うことができる

⑧情報化社会に必須のIT(情報技術)スキルを身につけられる

授業の到達目標: 次世代を担う、社会性と戦略性を有する知的かつ行動的で自律的なコミュニケーション手法を学ぶ。グローバル社会で活躍できる、21世紀のリーダーとしての資質を高め、「倫理観」「双方向性コミュニケーション」「自己修正能力」を体得することを目標とする。

事前・事後学習の内容: 井之上喬著 『パブリック・リレーションズ(第3版)』日本評論社(2024年)をよく読んでおくこと。
社会で日々起こっていることを、マスメディアの報道やソーシャルメディアの情報を通して、よく観察しておくこと。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

授業計画フリー: ※本授業は冬クォーターの「パブリック・リレーションズ概論2」を必ず同時に履修して下さい。

第1回 ガイダンスー授業を始めるにあたって

パブリック・リレーションズとは何か?

第2回 パブリック・リレーションズの基本的な概念と定義

「倫理観」「双方向性コミュニケーション」「自己修正」

第3回 様々なリレーションズとリレーションシップ・マネジメント

メディア・リレーションズ、ガバメント・リレーションズ、インベスター・リレーションズ

第4回 パブリック・リレーションズのコアコンピタンスとしてのメディア・リレーションズ

メディア・リレーションズの重要性と考え方

第5回 パブリック・リレーションズの歴史的背景

米国及び日本におけるPRの発展史
＜ゲスト講師＞井之上 喬 京都大学経営管理大学院 特命教授

第6回 パブリック・リレーションズと組織体(ゲスト講師を交えて)ー1

広告代理店におけるパブリック・リレーションズ

＜ゲスト講師＞近山知史 株式会社博報堂エグゼクティブクリエイティブディレクター

第7回 パブリック・リレーションズと組織体(ゲスト講師を交えて)ー2

ベンチャー企業におけるパブリック・リレーションズ

＜ゲスト講師＞矢嶋聡 元株式会社メルカリ PRチーム ディレクター／株式会社はね 代表

※ゲストはあくまで予定、シラバスは初日に配布する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 井之上喬著 『パブリック・リレーションズ(第3版)』日本評論社(2024年3月)をベースに使用。
講義の内容に応じて、適宜資料を配布する。

参考文献: 月刊BOSS、Another life、Value Press、NewsPicks、AdverTimes(アドタイ)

成績評価フリー入力サイン:	1：フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	試験（期末のみ）：60%、レポート提出（2回）：10%、授業出席、発言回数や受講態度など：30%により総合的に評価する。
備考・関連URL:	※パブリック・リレーションズ概論1とパブリック・リレーションズ概論2をセット受講しない場合は選外とする。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010291|01|9S09010291[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	パブリック・リレーションズ概論 2		
担 当 教 員	尾上 玲円奈		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	、文・社会科学科目（メディア・ジャーナリズム	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 次世代リーダーのためのPR理論

授業概要:

※パブリック・リレーションズ概論1とパブリック・リレーションズ概論2は連続した内容です。秋クォーターの1、冬クォーターの2を必ず同時に履修してください。

明治維新以降、日本は急速な発展を遂げ、経済的には世界を席巻する存在となってきた。ある面では一世紀近く、世界をリードする立場を担ってきたと言っても過言ではない。しかし、政治的、文化的なプレゼンスとしてはどうか。国内世論や国際世論の形成など、いわゆるソフトパワーの面において、日本の競争力は著しく低いと言わざるを得ない。本来ハードパワーを補完するはずのソフトパワーが、国家の足枷となってしまっているのである。これら問題の根本は、日本国の現状を正しく認識し、世界の中でどういった役割を担い、将来どの地位を占めるべきかを考える、情報収集力及び情報発信力の欠如に拠るところが極めて大きい。これら情報収集力、情報発信力の根幹をなすのがパブリック・リレーションズ（本来の意味での「PR」）の機能に他ならず、社会全体（パブリック）との良好な関係構築（リレーションズ）活動、即ちPR活動を充実させていくことが我が国の急務である。
パブリック・リレーションズ（PR）は、個人や組織体が最短距離で目的や目標を達成する手法である。20世紀初頭、米国で登場したパブリック・リレーションズの考え方は米国における政治経済社会の牽引役として、オバマ元大統領やバイデン前大統領、トランプ現大統領らを始め、指導者層の戦略的な意思決定プロセスに組み込まれ、発展を遂げてきた。グローバル化が加速するにつれ、複雑化、多極化する世界にあって、情報の受発信機能は益々重要な位置付けで理解されなくてはならない。長期的な政治空白で国力を弱める日本を尻目に、新興国が国際社会で急速に発言力を増してきたのも、パブリック・リレーションズやプロパガンダの賜物だ。ゆえに、世界の指導者層がパブリック・リレーションズの基本概念を理論的に押さえ、実践的に学習することは、世界全体の喫緊の課題と言い換えることができる。今後の世界をより良いものにしていくために、様々な事例や議論を通してパブリック・リレーションズの普遍的な価値観を学び、受講生が将来国際社会の中で活用すべきPRの枠組みを授業において提示する。

世界は今、真のリーダーを求めている。本授業はそうした社会の要請に応えた、次世代を担うリーダーのためのものである。従来型の狭義の広報とは異なる、学際的視点に立った幅広く奥行きの深い本質的なパブリック・リレーションズの授業であり、理論はもとよりその魂（スピリット）を修得することができるのが特長だ。日本におけるパブリック・リレーションズの第一人者である前任の井之上喬先生が日本で初めて開講させた由緒正しき「パブリック・リレーションズ」の理論講座でもある（2004年に井之上喬先生が始め、尾上が引き継いだ本講義の受講生は3000名を超え社会で更なる活躍が期待されている）。担当教員の尾上は衆議院議員秘書やNHK（日本放送協会）報道記者の経験を有し、現在はPR会社においてクライアント業務の陣頭指揮をとると同時に、PRの専門家としてカンヌライオンズの審査員や国連、政府機関の委員を務めるなどしている。これまでの人生で得てきた知識や経験を、講義を通し惜しみなく紹介する。

また、内外で活躍する著名人をゲストに招き、パブリック・リレーションズが個人や組織体にとって如何に必要で有効であるかについて学ぶ。本年度は、三村真宗元株式会社コンカー代表取締役社長、城市孝志元西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）広報部鉄道文化推進室室長らをゲストに招く予定である。

本科目の履修により得られる能力は以下の通り。

①個の力を高め、国際社会に貢献できる21世紀の責任感ある真のリーダーとして自覚が持てるようになる

②「双方向型コミュニケーション」と「自己修正機能」を理解し、「倫理観」をベースとした普遍的なパブリック・リレーションズの手法を学ぶことができる

③日本のメディア（マスコミ）事情とその役割を理解することができる

④グローバルな視点から戦略性を持った上で統合的に思考し、状況を大局的に把握する能力が習得できる

⑤状況の変化を読み取り、「自己修正」を通して柔軟に対応する能力の必要性が理解できる

⑥実社会で活躍している内外のリーダーとの交流を通して、トップのリーダーシップを身近に学ぶことができる

⑦外国語としての英語の授業環境にも触れることができ、クロスカルチャーへの理解とグローバルな感覚を養うことができる

⑧情報化社会に必須のIT(情報技術)スキルを身につけられる

授業の到達目標: 次世代を担う、社会性と戦略性を有する知的かつ行動的で自律的なコミュニケーション手法を学ぶ。グローバル社会で活躍できる、21世紀のリーダーとしての資質を高め、「倫理観」「双方向性コミュニケーション」「自己修正能力」を体得することを目標とする。

事前・事後学習の内容: 井之上喬著 『パブリック・リレーションズ（第3版）』日本評論社（2024年）をよく読んでおくこと。
社会で日々起こっていることを、マスメディアの報道やソーシャルメディアの情報を通して、よく観察しておくこと。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ※本授業は秋クォーターの「パブリック・リレーションズ概論１」を必ず同時に履修して下さい。

第8回 パブリック・リレーションズと組織体（ゲスト講師を交えて）－３

パブリック・リレーションズの中のガバメント・リレーションズ

＜ゲスト講師＞三村 真宗 元株式会社コンカー 代表取締役社長

第9回 パブリック・リレーションズと組織体

企業や政府・自治体で実践されるパブリック・リレーションズ

第10回 企業・組織における危機管理

危機管理の3つの概念とクライシスコミュニケーション

企業における危機管理とクライシスコミュニケーション

＜ゲスト講師＞城市 孝志 元西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）広報部 鉄道文化推進室 室長

第11回 パブリック・リレーションズの専門家に求められる資質と能力

5つの基本条件と10の資質・能力

PRプロフェッショナルとビジネスコミュニケーション

PRプランナー資格認定制度について

第12回 戦略的パブリック・リレーションズの構築と実践

パブリック・リレーションズのライフサイクル・モデル

ケース・スタディ：テネコ・オートモティブ社（日米自動車問題）

第13回 期末試験（筆記）

第14回 まとめ＆オープンディスカッション

パブリック・リレーションズの課題と今後の展望/次世代リーダーを目指して

※ゲストはあくまで予定、シラバスは初日に配布する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:	井之上喬著 『パブリック・リレーションズ（第3版）』日本評論社（2024年3月）をベースに使用。 講義の内容に応じて、適宜資料を配布する。
参考文献:	月刊BOSS、Another life、Value Press、NewsPicks、AdverTimes（アドタイ）
成績評価フリー入力サイン:	1：フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	試験（期末のみ）：60%、レポート提出（2回）：10%、授業出席、発言回数や受講態度など：30%により総合的に評価する。
備考・関連URL:	※パブリック・リレーションズ概論1とパブリック・リレーションズ概論2をセット受講しない場合は選外とする。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　2　非主管科目　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010317|01|9S09010317[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	会計監査入門		
担 当 教 員	林　敬子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人文・社会科学科目（経営・経済・金融）	配 当 年 次	３年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

現代社会において、経営者は自らの説明責任（会計責任）を履行するために、株主・投資家等に対して財務情報を提供することが求められます。この財務情報に信頼性を付与するのが会計監査であり、会計監査は社会の重要なインフラです。
本講義では、監査論の基礎理論から、監査の基本的役割・制度・実務を幅広く取り上げます。 講義の内容の理解を深めるために、対面授業の際には、事例の検討を中心としたグループディスカッションを実施していく予定です。
また、理解の定着のため、中間テストを実施する予定です。

制度の改正等に伴い、授業の進め方を一部変更することがあります。
１１回は教室での対面授業、3回はオンデマンドでの授業の予定です。
オンデマンドでの実施回は、下記の授業計画を参照して下さい。

授業の到達目標:

監査論の基本的な考え方とともに、ディスクロージャー制度、監査基準・監査制度・監査実務の基礎を学び、今後の監査論の学習につなげることを目標とします。

事前・事後学習の内容:

講義スケジュールに対応したテキストの対応個所を事前に読むとともに、講義後は、講義内容を復習し、ポイントや疑問点などを確認し整理することが望まれます。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
（1章・2章）会計監査の基本的役割と現代的機能
第2回
（3章）金融商品取引法に基づく会計監査制度
第3回
（4章）会社法に基づく会計監査制度オンデマンドの予定です。
第4回
（5章）職業監査と監査基準・職業倫理オンデマンドの予定です。
第5回
（6章）会計監査の進め方（1）－リスクアプローチ
第6回
（7章）会計監査の進め方（2）－監査の全体像と監査計画
第7回
中間テスト及び解答解説進捗状況によっては試験後授業を実施します。
第8回
（8章）会計監査の進め方（3）－リスク評価と監査手続（9章）会計監査の進め方（5）－監査の完了まで
オンデマンドの予定です。
第9回
（10章）会計監査と不正への対応
第10回
（11章）監査意見と監査報告書
第11回
（12章）監査意見の種類と諸問題
第12回
（13章）期中期レビュー（15章）適正意見と準拠性意見

第13回
（14章）内部統制監査
第14回
期末テスト及び解説

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 山浦久司著「監査論テキスト第9版」中央経済社

参考文献: 蟹江・井上・栗濱編著「スタンダードテキスト監査論 第7版」中央経済社

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 80 中間テストと期末テストを実施します。

平常点評価: 20 授業中の発言等、授業への積極的な参加及びグループディカッションへの貢献度について評価します。

備考・関連URL: 単位取得のためには、全講義の3分の2以上の出席と上記の基準により一定以上の評価を得ることとが必要となります。
会計研究科における「監査A」「監査B」「監査C」「監査各論」との並行履修は不可。また、「監査A」「監査B」「監査C」「監査各論」履修後の履修は不可。
（学部生の場合）原則として3年生以上及び簿記3級程度の基礎知識を有することを受講要件とする。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010320|01|9S09010320[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	精神医学概論 1 01		
担 当 教 員	石井 映美		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 精神障害は、今や国が定める5大疾病の一つとなっており、国民一人一人が対応していかなければならない健康上の重要な課題である。大学生の位置する青年期は、各種の精神障害の好発年齢に当たる。自己のこころの健康を維持するためには、学生各自が精神障害の知識を身につけて、早期に対処できるようにしておくことが大切である。また、自身の友人や家族が精神障害になったときの対処や早期発見のためにも、このような知識は欠かすことができない。 本講義では、「こころとはなにか」という問いかけから始まり、臨床精神医学の基礎知識を学んで行く。また、司法の現場での精神医学の意義や、思春期・青年期における重大な問題である自殺に関する背景や予防方法についても学ぶ。

授業の到達目標: 心の問題を引き起こす脳の機能からはじまり、各種精神障害の知識を獲得する。さらに、治療方法をはじめとした対処方法を学ぶ。卒業後の長い人生においても、精神障害の早期発見・早期対応が可能となるような知識を身につける。

事前・事後学習の内容: あらかじめレジュメをコースナビ上にアップします。それに従って、下記の教科書などを用いて予習を行って下さい（いずれも専門性の高いものなので、必ずしも購入の必要はありません。毎回、講義資料を準備・配布いたします）。

「DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き（医学書院）」
「現代臨床精神医学（金原出版）」
「ストール精神薬理学エセンシャルズ 第4版 - 神経科学的基礎と応用 -（メディカル・サイエンス・インターナショナル）」
「精神看護の基礎（医学書院）」
厚生労働省；みんなのメンタルヘルス https://www.mhlw.go.jp/kokoro/

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ／ 第1回：オリエンテーション（臨床精神医学とは何か）
精神医学とは何か、またそれを学ぶ意義は何かについて概説します。

第2回／ 第2回：精神科診療の基本

診療の基本について、特に面接方法と精神療法に焦点を絞って学びます。また、精神科医療の枠組みとなる法律「精神保健福祉法」の内容や運用実態について学びます。

第3回／ 第3回：不安障害（パニック障害・全般性不安障害）と強迫性障害
大学生によくみられる不安障害、中でもパニック障害と全般性不安障害に関して、その症状や背景、治療法、予防法などについて学びます。
第4回／ 第4回：転換性・解離性障害とストレス関連性障害（ストレスへの対処）
ストレスのかかるような出来事により生じる身体症状（転換性障害）と意識の障害（解離性障害）について、その症状や背景、治療法、予防法などについて学びます。

第5回／ 第5回：気分障害 I
一般によく知られている精神病性障害である気分障害（うつ病、双極性障害など）について、その症状や発症状況、社会生活への影響などについて学びます。

第6回／ 第6回：気分障害Ⅱ（治療と対応）
一般によく知られている精神病性障害である気分障害（うつ病、双極性障害など）について、治療や対処方法を学びます。
第7回／ 第7回：児童・思春期精神障害（発達障害、摂食障害など）
精神障害の中でも、人生早期に発症する発達障害、摂食障害などについて、発症の背景、症状、治療法などを学びます。また、不登校などとの関連性についても学びます。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　DSM-5　精神疾患の分類と診断の手引き（医学書院）
現代臨床精神医学（金原出版）

（必ずしも購入の必要はありません）

参考文献：　精神看護の基礎（医学書院）
ストール精神薬理学エセンシャルズ　第4版 - 神経科学的基礎と応用 -（メディカル・サイエンス・インターナショナル）

（必ずしも購入の必要はありません）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　50　レポート課題の詳細については、講義中に発表する。

平常点評価：　50　出席状況や受講態度から総合的に判断する。

備考・関連URL：

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010320|02|9S09010320[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	精神医学概論　1　02		
担 当 教 員	石井　映美		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　精神障害は、今や国が定める5大疾病の一つとなっており、国民一人一人が対応していかなければならない健康上の重要な課題である。大学生の位置する青年期は、各種の精神障害の好発年齢に当たる。自己のこころの健康を維持するためには、学生各自が精神障害の知識を身につけて、早期に対処できるようにしておくことが大切である。また、自身の友人や家族が精神障害になったときの対処や早期発見のためにも、このような知識は欠かすことができない。
本講義では、「こころとは何か」という問いかけから始まり、臨床精神医学の基礎知識を学んでいく。また、司法の現場での精神医学の意義や、思春期・青年期における重大な問題である自殺に関する背景や予防方法についても学ぶ。

授業の到達目標:　心の問題を引き起こす脳の機能から始まり、各種精神障害の知識を獲得する。さらに、治療方法を始めとした対処方法を学ぶ。卒業後の長い人生においても、精神障害の早期発見・早期対応が可能となるような知識を身につける。

事前・事後学習の内容:　あらかじめレジュメをコースナビ上にアップします。それに従って、教科書などを用いて予習を行って下さい。

授業計画フリー入力サイン:　0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回／ 第1回:オリエンテーション（臨床精神医学とは何か）
精神医学とは何か、またそれを学ぶ意義は何かについて概説します。

第2回／ 第2回:精神科診療の基本
診療の基本について、特に面接方法と精神療法に焦点を絞って学びます。また、精神科診療の枠組みとなる「精神保健福祉法」の内容や運用実態について学びます。

第3回／ 第3回:不安障害（パニック障害・全般性不安障害）と強迫性障害
大学生によく見られる不安障害、中でもパニック障害と全般性不安障害に関して、その症状や背景、治療法、予防法などについて学びます。

第4回／ 第4回:転換性・解離性障害とストレス関連性障害（ストレスへの対処）
ストレスのかかるような出来事により生じる身体症状（転換性障害）と意識の障害（解離性障害）について、その症状や背景、治療法、予防法などについて学びます。

第5回／ 第5回:気分障害 I
一般によく知られている精神病性障害である気分障害（うつ病、双極性障害など）について、その症状や発症状況、社会生活への影響などについて学びます。

第6回／ 第6回:気分障害 II（治療と対応）
一般によく知られている精神病性障害である気分障害（うつ病、双極性障害など）について、治療や対処方法を学びます。

第7回／ 第7回:児童・思春期精神障害（発達障害、摂食障害など）
精神障害の中でも、人生早期に発症する発達障害、摂食障害などについて、発症の背景、症状、治療法などを学びます。また、不登校などとの関連性についても学びます。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　DSM-5　精神疾患の分類と診断の手引き（医学書院）
現代臨床精神医学（金原出版）

（必ずしも購入する必要はありません）

参考文献:　厚生労働省　みんなのメンタルヘルス　https://www.mhlw.go.jp/kokoro/
精神科看護（医学書院）
ストール精神薬理学エセンシャルズ　第4版 - 神経科学的基礎と応用 -（メディカル・サイエンス・インターナショナ

ル）

（必ずしも購入する必要はありません）

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	50	レポート課題の詳細については、講義中に発表する。
平常点評価:	50	出席状況や受講態度から総合的に判断する。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010321|01|9S09010321[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	精神医学概論 ２ 01		
担 当 教 員	石井 映美		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 精神障害は、今や国が定める5大疾病の一つとなっており、国民一人一人が対応していかなければならない健康上の重要な課題である。大学生の位置する青年期は、各種の精神障害の好発年齢に当たる。自己のこころの健康を維持するためには、学生各自が精神障害の知識を身につけて、早期に対処できるようにしておくことが大切である。また、自身の友人や家族が精神障害になったときの対処や早期発見のためにも、このような知識は欠かすことができない。
本講義では、春クォーターに引き続き、「こころとはなにか」という問いかけから始まり、臨床精神医学の基礎知識を学んで行く。また、司法の現場での精神医学の意義や、思春期・青年期における重大な問題である自殺に関する背景や予防方法についても学ぶ。

授業の到達目標: 春クォーターに引き続き、心の問題を起こす脳の機能を把握し、各種精神障害の知識を獲得する。さらに、治療方法を始めとした対処方法を学ぶ。卒業後の長い人生においても、精神障害の早期発見・早期対応が可能となるような知識をつける。

事前・事後学習の内容: あらかじめレジュメをコースナビ上にアップします。それに従って、教科書などを用いて予習を行って下さい。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回／ 第8回：統合失調症 I
二大精神病の一つであり、思春期の病として知られる統合失調症について、発症状況や発症要因、症状などを学びます。

第2回／ 第9回：統合失調症 II（治療と対応）
二大精神病の一つであり、思春期の病として知られる統合失調症について、薬物療法や社会療法など種々の対処方法を学びます。

第3回／ 第10回：自殺予防
青年期の死因の第1位は自殺です。その背景と予防法について学びます。

第4回／ 第11回：自殺予防演習
自殺予防教育プログラムを利用し、ロールプレイによる模擬体験を通じて、危機対応力を身につけます。

第5回／ 第12回：器質性精神障害（せん妄その他）・睡眠障害
精神障害の中で、脳そのものにダメージが加わって生じるものや、身体疾患が背景となって生じるものを器質性精神障害と呼びます。この中で、代表的な疾患の背景や症状・治療法について学びます。またほとんどの精神疾患で起こる不眠を始めとした睡眠障害についても背景や症状・治療について学びます。

第6回／ 第13回：認知症
器質性精神疾患の中でも、高齢化社会においてますます問題となっていく認知症について、背景や症状・治療法などを学びます。

第7回／ 第14回：司法の場や矯正施設での役割・まとめ
矯正施設や司法の場での精神障害者の治療や処遇に関して、精神科医療の立場から学びます。
また、コース全体を振りかえり、講義の意義について考えます。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き（医学書院）
現代臨床精神医学（金原出版）

（必ずしも購入する必要はありません）

参考文献: 厚生労働省 みんなのメンタルヘルス https://www.mhlw.go.jp/kokoro/
精神科看護（医学書院）
ストール精神薬理学エセンシャルズ 第4版 – 神経科学的基礎と応用 –（メディカル・サイエンス・インターナショナル）

（必ずしも購入する必要はありません）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	50	レポート課題の詳細については、講義中に発表する。
平常点評価:	50	出席状況や受講態度から総合的に判断する。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010321|02|9S09010321[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	精神医学概論 2 02		
担 当 教 員	石井 映美		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

精神障害は、今や国が定める5大疾病の一つとなっており、国民一人一人が対応していかなければならない健康上の重要な課題である。大学生の位置する青年期は、各種の精神障害の好発年齢に当たる。自己のこころの健康を維持するためには、学生各自が精神障害の知識を身につけて、早期に対処できるようにしておくことが大切である。また、自身の友人や家族が精神障害になったときの対処や早期発見のためにも、このような知識は欠かすことができない。

本講義では、秋クォーターに引き続き、「こころとは何か」という問いかけから始まり、臨床精神医学の基礎知識を学んで行く。また、司法の現場での精神医学の意義や、思春期・青年期における重大な問題である自殺に関する背景や予防方法についても学ぶ。

授業の到達目標:

心の問題を引き起こす脳の機能から始まり、各種精神障害の知識を獲得する。さらに、的確な治療方法を始めとした対処方法を学ぶ。卒業後の長い人生においても、精神障害の早期発見・早期対応が可能となるような知識を身につける。

事前・事後学習の内容:

あらかじめレジュメをコースナビ上にアップします。それに従って、下記の教科書などを用いて予習を行って下さい（専門性が高いものなので、必ずしも購入する必要はありません。毎回、講義資料を配布します）。

「DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き（医学書院）」
「現代臨床精神医学（金原出版）」
「精神科看護（医学書院）」
「ストール精神薬理学エセンシャルズ 第4版 - 神経科学的基礎と応用 -（メディカル・サイエンス・インターナショナル）」
厚生労働省 みんなのメンタルヘルス https://www.mhlw.go.jp/kokoro/

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ／ 第8回：統合失調症 I

二大精神病の一つであり、思春期の病として知られる統合失調症について、発症状況や発症要因、症状などを学びます。

第2回 ／ 第9回：統合失調症 II（治療と対応）

二大精神病の一つであり、思春期の病として知られる統合失調症について、薬物療法や社会療法など種々の対処方法を学びます。

第3回 ／ 第10回：自殺予防

青年期の死因の第1位は自殺です。その背景と予防法について学びます。

第4回 ／ 第11回：自殺予防演習

自殺予防教育プログラムを利用し、ロールプレイによる模擬体験を通じて、危機対応力を身につけます。

第5回 ／ 第13回：器質性精神障害（せん妄その他）・睡眠障害

精神障害の中で、脳そのものにダメージが加わって生じるものや、身体疾患が背景となって生じるものを器質性精神障害と呼びます。この中で、代表的な疾患の背景や症状・治療法について学びます。またほとんどの精神疾患で起こる不眠を始めとした睡眠障害についても背景や症状・治療について学びます。

第6回 ／ 第14回：認知症

器質性精神疾患の中でも、高齢化社会においてますます問題となっていく認知症について、背景や症状・治療法などを学びます。

第7回 ／ 第15回：司法の場や矯正施設での役割・まとめ

矯正施設や司法の場での精神障害者の治療や処遇に関して、精神科医療の立場から学びます。また、コース全体を振りかえり、講義の意義について考えます。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き（医学書院）
現代臨床精神医学（金原出版）

（必ずしも購入する必要はありません）

参考文献: 精神科看護（医学書院）
ストール精神薬理学エセンシャルズ　第4版 – 神経科学的基礎と応用 –（メディカル・サイエンス・インターナショナル）
厚生労働省　みんなのメンタルヘルス　https://www.mhlw.go.jp/kokoro/

（必ずしも購入する必要はありません）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	50	レポート課題の詳細については、講義中に発表する。
平常点評価:	50	出席状況や受講態度から総合的に判断する。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010344|01|9S09010344[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ分析の基礎 O1		
担 当 教 員	前園 久智		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： コンピュータの統計ソフトを用いて学ぶ統計分析の基礎

授業概要： 現代社会には膨大な情報（データ）が溢れています。その情報をどれ程多く所有して分析できるかが、組織や個人のあり方を左右する傾向は近年増々強くなっています。そのような社会を生きる者にとって、データ分析の手法を身につけることは必須です。この講義ではデータ分析の基礎を統計ソフトなどを用いて短期間で確認することを目的とします。そのためデータ処理にはExcelをおもに活用します。また、仮説検定ではSPSSを、数式処理ではMATLABやMathematicaなどを用いることがあります。
受講生がExcel操作に習熟していることを前提とはしません。必要があれば自習用の資料を提供します。また、より高度なExcel操作を学びたい方のために、VBAの基礎知識を用いて統計分析に使う関数の作成なども試みます。
最近は高校において正規分布を用いた母平均（母比率）の推定や検定を学習しますが、その知識も前提とはしません。正規分布の基礎から確認します。
煩雑なデータ処理にはExcelなどを用いますが、統計分析の議論ではある程度の数学的概念を正確に理解し、使いこなすことが必要となります。この講義ではPCを用いて対面授業を行いますので、数式証明では理解しがたい事項でも統計ソフトを用いてなるべく実験的に確認し、把握してもらいながら授業を進めていきます。 Excelによる分析結果の数値をそのまま学術論文に用いることは少ないでしょうが、精緻な数値処理を必要としない分野での分析結果は一般社会で流通しています。また、身近なExcelを用いてデータの整理や分析の実験的な試算を行ったり、Ms-Officeを用いてプレゼンテーションを行うことがありますので、Excelでの分析手法などを知っていることには意味があると思われます。

授業の到達目標： Excelなどによるデータの集計やグラフ作成ができるようになる。
（簡単なVBAプログラムについて理解し、ユーザー定義関数を作成できるようになる。）
標本分布や点推定量の性質（不偏性、一致性、有効性）、最尤推定量への理解ができるようになる。
区間推定（母平均、母分散、母比率、母平均の差の区間推定、標本の大きさの決定）ができるようになる。
仮説検定（母平均などの検定、母平均の差の検定、独立性の検定、一元配置分散分析と多重比較）ができるようになる。
（相関分析、重回帰分析ができるようになる。）
以上のExcelなどによる分析を反映させたレポートやプレゼンテーション資料を作成できるようになる。

事前・事後学習の内容： 毎回の講義ノート、例題、その解答例などの授業資料はすべて授業システム Waseda Moodle上に掲示しますので、それを用いて予習・復習することにより、授業内容の理解を深めてください。

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：科目概要とデータ集計法の確認
講義概要と授業システムの確認 受講生へのアンケート調査

Excel操作の復習（数式・関数式計算、グラフ作成、外部データの入出力など）
度数分布表とヒストグラム、クロス集計表の作成

第2回：基本統計量と確率の概念の復習
基本統計量（平均・分散・標準偏差など）の復習
データの標準化 積率母関数
離散型確率変数・分布（二項分布、ポアソン分布など）

第3回：確率変数・分布
連続型確率変数・分布（正規分布、カイ2乗分布、t分布、F分布）
自由度

正規分布などの確率計算
乱数発生機能を用いた確率分布間の関係性の実験的確認

第4回：標本分布と点推定
不偏性・一致性・有効性 最尤推定量
大数の法則 中心極限定理
乱数発生機能を用いた中心極限定理の実験的確認

第5回：Excelのマクロ（VBAプログラム）

記録によるマクロ作成
VBAプログラムの構成要素　VBEによる記述と編集
ユーザー定義関数の作成

第6回：区間推定（1）

区間推定の考え方　信頼係数・信頼区間
母平均の区間推定（母分散既知・未知の場合）

第7回：区間推定（2）

母分散の区間推定　母比率の区間推定
標本の大きさの決定

第8回：仮説検定（1）

仮説検定の考え方　有意水準　両側検定と片側検定
検定の誤りの種類
母平均の検定　母分散・母比率の検定

第9回：仮説検定（2）（区間推定（3））

2標本問題
母平均の差の検定（データに対応がある場合）
等分散性の検定
母平均の差の区間推定（データに対応がある場合）

第10回：仮説検定（3）（区間推定（4））

正規分布やカイ2乗分布の再生性
母平均の差の検定（データに対応がない場合）
母平均の差の区間推定（データに対応がない場合）

第11回：仮説検定（4）

適合度検定　独立性の検定
SPSSによる検定

第12回：仮説検定（5）

一元配置分散分析法
多重比較法（Tukey、Scheffeの方法など）

第13回：重回帰分析（1）

独立変数と従属変数　（標準）偏回帰係数
最小2乗法　決定係数とその補正
残差分析

第14回：重回帰分析（2）（レポート課題作成）

偏回帰係数などの推定と検定
独立変数の選択方法　多重共線性
（レポート課題への質問応答　類題演習）

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に指定しません。毎回講義ノートを用意します。ただし、統計的推定・検定についての参考書をもっていることが望ましい（以下で紹介する文献でなくても良い）。

参考文献：
「統計学入門」東京大学教養学部統計学教室 編（東京大学出版会）
「データ分析のための統計入門」岡太彬訓・都築誉史・山口和範 共著（共立出版）
「自然科学の統計学」東京大学教養学部統計学教室 編（東京大学出版会）
「Excel で学ぶ統計解析入門 Excel2019/2016対応版」菅民郎 著（オーム社）
「Excelで学ぶ回帰分析」阿部圭司 著（ナツメ社）
「SPSSによる心理統計」山田剛史・鈴木雅之 共著（東京図書）
「SPSSによる多変量解析」村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士 共編（オーム社） など

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　試験は実施しません。

レポート：　50　授業中に扱う演習問題とは別に、レポート課題を出題します。
レポート課題の提出回数は1回、第8回目の授業終了後に出題します（レポート課題の内容については備考欄を参照してください）。

平常点評価：　50　毎回の授業中に扱う演習問題に解答し、提出する者には平常点を加算します。

その他：　0　授業における積極性などへの評価は、平常点に含めます。

備考・関連URL：　グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

成績評価方法の割合について上述しましたが、あくまでも出席回数が全授業回数の半数以上あることを前提としますので注意してください。 試験は実施せず、レポート課題を1回提出してもらいますが、その内容は授業中に扱う演習問題の類題です。4問程度出題します。授業における演習内容の復習・定着度の向上を目的とするものです。受講生の皆さんに各自の専門分野のデータを持ち寄って分析してもらいたいところですが、クォーター学期の授業ではそれを行う時間的余裕はありません。シラバスではレポート課題作成の時間を設けていませんが、レポート課題に関する質問等を常にメールやWaseda Moodle上のフォームで受け付けます。また、受講生の皆さんが希望する場合には、第14回目の授業をレポート課題作成の時間とすることがあります。

この授業では、講義資料の掲示以外にもWaseda Moodleを積極的に活用します。課題の出題と提出、講師と受講生の皆さんとのコミュニケーションをはかることなどにも利用します。連絡事項はアナウンスメントに掲示します。また、アンケート機能を用いて、毎回の授業に関する感想・意見・質問等を受講生の皆さんから伺うためのフォームを設けます。

基本的に上述したシラバス通りに授業を行いますが、受講生の皆さんのExcel操作の習熟度や講義内容の理解の度合いによっては一部の内容を自主学習とすることがあります。上述した講義内容のすべてを無理に授業内で扱ったりせず、余裕をもって授業を進めます。授業中に扱えなかった講義内容についても、その講義資料をWaseda Moodle上に掲示します。

Excel操作の習熟度が十分でない受講生のことを考慮し、要望があれば演習問題についての動画資料などもWaseda Moodle上に掲示します。また、大学のPCのExcelバージョンでは確認できない操作内容があれば、最新バージョンによる操作法を説明する動画資料を掲示したりもします。

この講義では対面授業を行います。PCを備えた教室で行いますが、自分のPCを持ち込んで演習を行って構いません。講義資料では基本的にMs-Officeに従って説明がなされていますが、MacのOffice（Excel）に関する操作法や情報も必要に応じて記述します。授業での演習問題などに関しては、必ずMacのExcelで作成・解答できるかどうか確認したものを出題します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010344|02|9S09010344[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ分析の基礎 02		
担 当 教 員	前園 久智		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： コンピュータの統計ソフトを用いて学ぶ統計分析の基礎

授業概要： 現代社会には膨大な情報（データ）が溢れています。その情報をどれ程多く所有して分析できるかが、組織や個人のあり方を左右する傾向は近年増々強くなっています。そのような社会を生きる者にとって、データ分析の手法を身につけることは必須です。この講義ではデータ分析の基礎を統計ソフトなどを用いて短期間で確認することを目的とします。そのためデータ処理にはExcelをおもに活用します。また、仮説検定ではSPSSを、数式処理ではMATLABやMathematicaなどを用いることがあります。
受講生がExcel操作に習熟していることを前提とはしません。必要があれば自習用の資料を提供します。また、より高度なExcel操作を学びたい方のために、VBAの基礎知識を用いて統計分析に使う関数の作成なども試みます。
最近は高校において正規分布を用いた母平均（母比率）の推定や検定を学習しますが、その知識も前提とはしません。正規分布の基礎から確認します。
煩雑なデータ処理にはExcelなどを用いますが、統計分析の議論ではある程度の数学的概念を正確に理解し、使いこなすことが必要となります。この講義ではPCを用いて対面授業を行いますので、数式証明では理解しがたい事項でも統計ソフトを用いてなるべく実験的に確認し、把握してもらいながら授業を進めていきます。 Excelによる分析結果の数値をそのまま学術論文に用いることは少ないでしょうが、精緻な数値処理を必要としない分野での分析結果は一般社会で流通しています。また、身近なExcelを用いてデータの整理や分析の実験的な試算を行ったり、Ms-Officeを用いてプレゼンテーションを行うことがありますので、Excelでの分析手法などを知っていることには意味があると思われます。

授業の到達目標： Excelなどによるデータの集計やグラフ作成ができるようになる。
（簡単なVBAプログラムについて理解し、ユーザー定義関数を作成できるようになる。）
標本分布や点推定量の性質（不偏性、一致性、有効性）、最尤推定量への理解ができるようになる。
区間推定（母平均、母分散、母比率、母平均の差の区間推定、標本の大きさの決定）ができるようになる。
仮説検定（母平均などの検定、母平均の差の検定、独立性の検定、一元配置分散分析と多重比較）ができるようになる。
（相関分析、重回帰分析ができるようになる。）
以上のExcelなどによる分析を反映させたレポートやプレゼンテーション資料を作成できるようになる。

事前・事後学習の内容： 毎回の講義ノート、例題、その解答例などの授業資料はすべて授業システム Waseda Moodle上に掲示しますので、それを用いて予習・復習することにより、授業内容の理解を深めてください。

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：科目概要とデータ集計法の確認
講義概要と授業システムの確認 受講生へのアンケート調査

Excel操作の復習（数式・関数式計算、グラフ作成、外部データの入出力など）
度数分布表とヒストグラム、クロス集計表の作成

第2回：基本統計量と確率の概念の復習
基本統計量（平均・分散・標準偏差など）の復習
データの標準化 積率母関数
離散型確率変数・分布（二項分布、ポアソン分布など）

第3回：確率変数・分布
連続型確率変数・分布（正規分布、カイ2乗分布、t分布、F分布）
自由度

正規分布などの確率計算
乱数発生機能を用いた確率分布間の関係性の実験的確認

第4回：標本分布と点推定
不偏性・一致性・有効性 最尤推定量
大数の法則 中心極限定理
乱数発生機能を用いた中心極限定理の実験的確認

第5回：Excelのマクロ（VBAプログラム）

記録によるマクロ作成
VBAプログラムの構成要素　VBEによる記述と編集
ユーザー定義関数の作成

第6回：区間推定（1）

区間推定の考え方　信頼係数・信頼区間
母平均の区間推定（母分散既知・未知の場合）

第7回：区間推定（2）

母分散の区間推定　母比率の区間推定
標本の大きさの決定

第8回：仮説検定（1）

仮説検定の考え方　有意水準　両側検定と片側検定
検定の誤りの種類
母平均の検定　母分散・母比率の検定

第9回：仮説検定（2）（区間推定（3））

2標本問題
母平均の差の検定（データに対応がある場合）
等分散性の検定
母平均の差の区間推定（データに対応がある場合）

第10回：仮説検定（3）（区間推定（4））

正規分布やカイ2乗分布の再生性
母平均の差の検定（データに対応がない場合）
母平均の差の区間推定（データに対応がない場合）

第11回：仮説検定（4）

適合度検定　独立性の検定
SPSSによる検定

第12回：仮説検定（5）

一元配置分散分析法
多重比較法（Tukey、Scheffeの方法など）

第13回：重回帰分析（1）

独立変数と従属変数　（標準）偏回帰係数
最小2乗法　決定係数とその補正
残差分析

第14回：重回帰分析（2）（レポート課題作成）

偏回帰係数などの推定と検定
独立変数の選択方法　多重共線性
（レポート課題への質問応答　類題演習）

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に指定しません。毎回講義ノートを用意します。ただし、統計的推定・検定についての参考書をもっていることが望ましい（以下で紹介する文献でなくても良い）。

参考文献：
「統計学入門」東京大学教養学部統計学教室 編（東京大学出版会）
「データ分析のための統計入門」岡太彬訓・都築誉史・山口和範 共著（共立出版）
「自然科学の統計学」東京大学教養学部統計学教室 編（東京大学出版会）
「Excel で学ぶ統計解析入門 Excel2019/2016対応版」菅民郎 著（オーム社）
「Excelで学ぶ回帰分析」阿部圭司 著（ナツメ社）
「SPSSによる心理統計」山田剛史・鈴木雅之 共著（東京図書）
「SPSSによる多変量解析」村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士 共編（オーム社） など

成績評価フリー入力サイン：0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　試験は実施しません。

レポート：　50　授業中に扱う演習問題とは別に、レポート課題を出題します。
レポート課題の提出回数は1回、第8回目の授業終了後に出題します（レポート課題の内容については備考欄を参照してください）。

平常点評価：　50　毎回の授業中に扱う演習問題に解答し、提出する者には平常点を加算します。

その他：　0　授業における積極性などへの評価は、平常点に含めます。

備考・関連URL：グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

成績評価方法の割合について上述しましたが、あくまでも出席回数が全授業回数の半数以上あることを前提としますので注意してください。 試験は実施せず、レポート課題を1回提出してもらいますが、その内容は授業中に扱う演習問題の類題です。4問程度出題します。授業における演習内容の復習・定着度の向上を目的とするものです。受講生の皆さんに各自の専門分野のデータを持ち寄って分析してもらいたいところですが、クォーター学期の授業ではそれを行う時間的余裕はありません。シラバスではレポート課題作成の時間を設けていませんが、レポート課題に関する質問等を常にメールやWaseda Moodle上のフォームで受け付けます。また、受講生の皆さんが希望する場合には、第14回目の授業をレポート課題作成の時間とすることがあります。

この授業では、講義資料の掲示以外にもWaseda Moodleを積極的に活用します。課題の出題と提出、講師と受講生の皆さんとのコミュニケーションをはかることなどにも利用します。連絡事項はアナウンスメントに掲示します。また、アンケート機能を用いて、毎回の授業に関する感想・意見・質問等を受講生の皆さんから伺うためのフォームを設けます。

基本的に上述したシラバス通りに授業を行いますが、受講生の皆さんのExcel操作の習熟度や講義内容の理解の度合いによっては一部の内容を自主学習とすることがあります。上述した講義内容のすべてを無理に授業内で扱ったりせず、余裕をもって授業を進めます。授業中に扱えなかった講義内容についても、その講義資料をWaseda Moodle上に掲示します。

Excel操作の習熟度が十分でない受講生のことを考慮し、要望があれば演習問題についての動画資料などもWaseda Moodle上に掲示します。また、大学のPCのExcelバージョンでは確認できない操作内容があれば、最新バージョンによる操作法を説明する動画資料を掲示したりもします。

この講義では対面授業を行います。PCを備えた教室で行いますが、自分のPCを持ち込んで演習を行って構いません。講義資料では基本的にMs-Officeに従って説明がなされていますが、MacのOffice（Excel）に関する操作法や情報も必要に応じて記述します。授業での演習問題などに関しては、必ずMacのExcelで作成・解答できるかどうか確認したものを出題します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010344|03|9S09010344[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ分析の基礎 03		
担 当 教 員	前園 久智		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： コンピュータの統計ソフトを用いて学ぶ統計分析の基礎

授業概要： 現代社会には膨大な情報（データ）が溢れています。その情報をどれ程多く所有して分析できるかが、組織や個人のあり方を左右する傾向は近年増々強くなっています。そのような社会を生きる者にとって、データ分析の手法を身につけることは必須です。この講義ではデータ分析の基礎を統計ソフトなどを用いて短期間で確認することを目的とします。そのためデータ処理にはExcelをおもに活用します。また、仮説検定ではSPSSを、数式処理ではMATLABやMathematicaなどを用いることがあります。
受講生がExcel操作に習熟していることを前提とはしません。必要があれば自習用の資料を提供します。また、より高度なExcel操作を学びたい方のために、VBAの基礎知識を用いて統計分析に使う関数の作成なども試みます。
最近は高校において正規分布を用いた母平均（母比率）の推定や検定を学習しますが、その知識も前提とはしません。正規分布の基礎から確認します。
煩雑なデータ処理にはExcelなどを用いますが、統計分析の議論ではある程度の数学的概念を正確に理解し、使いこなすことが必要となります。この講義ではPCを用いて対面授業を行いますので、数式証明では理解しがたい事項でも統計ソフトを用いてなるべく実験的に確認し、把握してもらいながら授業を進めていきます。 Excelによる分析結果の数値をそのまま学術論文に用いることは少ないでしょうが、精緻な数値処理を必要としない分野での分析結果は一般社会で流通しています。また、身近なExcelを用いてデータの整理や分析の実験的な試算を行ったり、Ms-Officeを用いてプレゼンテーションを行うことがありますので、Excelでの分析手法などを知っていることには意味があると思われます。

授業の到達目標： Excelなどによるデータの集計やグラフ作成ができるようになる。
（簡単なVBAプログラムについて理解し、ユーザー定義関数を作成できるようになる。）
標本分布や点推定量の性質（不偏性、一致性、有効性）、最尤推定量への理解ができるようになる。
区間推定（母平均、母分散、母比率、母平均の差の区間推定、標本の大きさの決定）ができるようになる。
仮説検定（母平均などの検定、母平均の差の検定、独立性の検定、一元配置分散分析と多重比較）ができるようになる。
（相関分析、重回帰分析ができるようになる。）
以上のExcelなどによる分析を反映させたレポートやプレゼンテーション資料を作成できるようになる。

事前・事後学習の内容： 毎回の講義ノート、例題、その解答例などの授業資料はすべて授業システム Waseda Moodle上に掲示しますので、それを用いて予習・復習することにより、授業内容の理解を深めてください。

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：科目概要とデータ集計法の確認
講義概要と授業システムの確認 受講生へのアンケート調査

Excel操作の復習（数式・関数式計算、グラフ作成、外部データの入出力など）
度数分布表とヒストグラム、クロス集計表の作成

第2回：基本統計量と確率の概念の復習

基本統計量（平均・分散・標準偏差など）の復習
データの標準化 積率母関数
離散型確率変数・分布（二項分布、ポアソン分布など）

第3回：確率変数・分布

連続型確率変数・分布（正規分布、カイ2乗分布、t分布、F分布）
自由度

正規分布などの確率計算
乱数発生機能を用いた確率分布間の関係性の実験的確認

第4回：標本分布と点推定

不偏性・一致性・有効性 最尤推定量
大数の法則 中心極限定理
乱数発生機能を用いた中心極限定理の実験的確認

第5回：Excelのマクロ（VBAプログラム）

記録によるマクロ作成
VBAプログラムの構成要素　VBEによる記述と編集
ユーザー定義関数の作成

第6回：区間推定（1）

区間推定の考え方　信頼係数・信頼区間
母平均の区間推定（母分散既知・未知の場合）

第7回：区間推定（2）

母分散の区間推定　母比率の区間推定
標本の大きさの決定

第8回：仮説検定（1）

仮説検定の考え方　有意水準　両側検定と片側検定
検定の誤りの種類
母平均の検定　母分散・母比率の検定

第9回：仮説検定（2）（区間推定（3））

2標本問題
母平均の差の検定（データに対応がある場合）
等分散性の検定
母平均の差の区間推定（データに対応がある場合）

第10回：仮説検定（3）（区間推定（4））

正規分布やカイ2乗分布の再生性
母平均の差の検定（データに対応がない場合）
母平均の差の区間推定（データに対応がない場合）

第11回：仮説検定（4）

適合度検定　独立性の検定
SPSSによる検定

第12回：仮説検定（5）

一元配置分散分析法
多重比較法（Tukey、Scheffeの方法など）

第13回：重回帰分析（1）

独立変数と従属変数　（標準）偏回帰係数
最小2乗法　決定係数とその補正
残差分析

第14回：重回帰分析（2）（レポート課題作成）

偏回帰係数などの推定と検定
独立変数の選択方法　多重共線性
（レポート課題への質問応答　類題演習）

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に指定しません。毎回講義ノートを用意します。ただし、統計的推定・検定についての参考書をもっていることが望ましい（以下で紹介する文献でなくても良い）。

参考文献：
「統計学入門」東京大学教養学部統計学教室 編（東京大学出版会）
「データ分析のための統計入門」岡太彬訓・都築誉史・山口和範 共著（共立出版）
「自然科学の統計学」東京大学教養学部統計学教室 編（東京大学出版会）
「Excel で学ぶ統計解析入門 Excel2019/2016対応版」菅民郎 著（オーム社）
「Excelで学ぶ回帰分析」阿部圭司 著（ナツメ社）
「SPSSによる心理統計」山田剛史・鈴木雅之 共著（東京図書）
「SPSSによる多変量解析」村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士 共編（オーム社） など

成績評価フリー入力サイン：0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　試験は実施しません。

レポート：　50　授業中に扱う演習問題とは別に、レポート課題を出題します。
レポート課題の提出回数は1回、第8回目の授業終了後に出題します（レポート課題の内容については備考欄を参照してください）。

平常点評価：　50　毎回の授業中に扱う演習問題に解答し、提出する者には平常点を加算します。

その他：　0　授業における積極性などへの評価は、平常点に含めます。

備考・関連URL：グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

成績評価方法の割合について上述しましたが、あくまでも出席回数が全授業回数の半数以上あることを前提としますので注意してください。 試験は実施せず、レポート課題を1回提出してもらいますが、その内容は授業中に扱う演習問題の類題です。4問程度出題します。授業における演習内容の復習・定着度の向上を目的とするものです。受講生の皆さんに各自の専門分野のデータを持ち寄って分析してもらいたいところですが、クォーター学期の授業ではそれを行う時間的余裕はありません。シラバスではレポート課題作成の時間を設けていませんが、レポート課題に関する質問等を常にメールやWaseda Moodle上のフォームで受け付けます。また、受講生の皆さんが希望する場合には、第14回目の授業をレポート課題作成の時間とすることがあります。

この授業では、講義資料の掲示以外にもWaseda Moodleを積極的に活用します。課題の出題と提出、講師と受講生の皆さんとのコミュニケーションをはかることなどにも利用します。連絡事項はアナウンスメントに掲示します。また、アンケート機能を用いて、毎回の授業に関する感想・意見・質問等を受講生の皆さんから伺うためのフォームを設けます。

基本的に上述したシラバス通りに授業を行いますが、受講生の皆さんのExcel操作の習熟度や講義内容の理解の度合いによっては一部の内容を自主学習とすることがあります。上述した講義内容のすべてを無理に授業内で扱ったりせず、余裕をもって授業を進めます。授業中に扱えなかった講義内容についても、その講義資料をWaseda Moodle上に掲示します。

Excel操作の習熟度が十分でない受講生のことを考慮し、要望があれば演習問題についての動画資料などもWaseda Moodle上に掲示します。また、大学のPCのExcelバージョンでは確認できない操作内容があれば、最新バージョンによる操作法を説明する動画資料を掲示したりもします。

この講義では対面授業を行います。PCを備えた教室で行いますが、自分のPCを持ち込んで演習を行って構いません。講義資料では基本的にMs-Officeに従って説明がなされていますが、MacのOffice（Excel）に関する操作法や情報も必要に応じて記述します。授業での演習問題などに関しては、必ずMacのExcelで作成・解答できるかどうか確認したものを出題します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010344|04|9S09010344[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ分析の基礎 04		
担 当 教 員	前園 久智		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: コンピュータの統計ソフトを用いて学ぶ統計分析の基礎

授業概要: 現代社会には膨大な情報（データ）が溢れています。その情報をどれ程多く所有して分析できるかが、組織や個人のあり方を左右する傾向は近年増々強くなっています。そのような社会を生きる者にとって、データ分析の手法を身につけることは必須です。この講義ではデータ分析の基礎を統計ソフトなどを用いて短期間で確認することを目的とします。そのためデータ処理にはExcelをおもに活用します。また、仮説検定ではSPSSを、数式処理ではMATLABやMathematicaなどを用いることがあります。
受講生がExcel操作に習熟していることを前提とはしません。必要があれば自習用の資料を提供します。また、より高度なExcel操作を学びたい方のために、VBAの基礎知識を用いて統計分析に使う関数の作成なども試みます。
最近は高校において正規分布を用いた母平均（母比率）の推定や検定を学習しますが、その知識も前提とはしません。正規分布の基礎から確認します。
煩雑なデータ処理にはExcelなどを用いますが、統計分析の議論ではある程度の数学的概念を正確に理解し、使いこなすことが必要となります。この講義ではPCを用いて対面授業を行いますので、数式証明では理解しがたい事項でも統計ソフトを用いてなるべく実験的に確認し、把握してもらいながら授業を進めていきます。 Excelによる分析結果の数値をそのまま学術論文に用いることは少ないでしょうが、精緻な数値処理を必要としない分野での分析結果は一般社会で流通しています。また、身近なExcelを用いてデータの整理や分析の実験的な試算を行ったり、Ms-Officeを用いてプレゼンテーションを行うことがありますので、Excelでの分析手法などを知っていることには意味があると思われます。

授業の到達目標: Excelなどによるデータの集計やグラフ作成ができるようになる。
（簡単なVBAプログラムについて理解し、ユーザー定義関数を作成できるようになる。）
標本分布や点推定量の性質（不偏性、一致性、有効性）、最尤推定量への理解ができるようになる。
区間推定（母平均、母分散、母比率、母平均の差の区間推定、標本の大きさの決定）ができるようになる。
仮説検定（母平均などの検定、母平均の差の検定、独立性の検定、一元配置分散分析と多重比較）ができるようになる。
（相関分析、重回帰分析ができるようになる。）
以上のExcelなどによる分析を反映させたレポートやプレゼンテーション資料を作成できるようになる。

事前・事後学習の内容: 毎回の講義ノート、例題、その解答例などの授業資料はすべて授業システム Waseda Moodle上に掲示しますので、それを用いて予習・復習することにより、授業内容の理解を深めてください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：科目概要とデータ集計法の確認
講義概要と授業システムの確認 受講生へのアンケート調査

Excel操作の復習（数式・関数式計算、グラフ作成、外部データの入出力など）
度数分布表とヒストグラム、クロス集計表の作成

第2回：基本統計量と確率の概念の復習

基本統計量（平均・分散・標準偏差など）の復習
データの標準化 積率母関数
離散型確率変数・分布（二項分布、ポアソン分布など）

第3回：確率変数・分布

連続型確率変数・分布（正規分布、カイ2乗分布、t分布、F分布）
自由度

正規分布などの確率計算
乱数発生機能を用いた確率分布間の関係性の実験的確認

第4回：標本分布と点推定

不偏性・一致性・有効性 最尤推定量
大数の法則 中心極限定理
乱数発生機能を用いた中心極限定理の実験的確認

第5回：Excelのマクロ（VBAプログラム）

記録によるマクロ作成
VBAプログラムの構成要素　VBEによる記述と編集
ユーザー定義関数の作成

第6回：区間推定（1）

区間推定の考え方　信頼係数・信頼区間
母平均の区間推定（母分散既知・未知の場合）

第7回：区間推定（2）

母分散の区間推定　母比率の区間推定
標本の大きさの決定

第8回：仮説検定（1）

仮説検定の考え方　有意水準　両側検定と片側検定
検定の誤りの種類
母平均の検定　母分散・母比率の検定

第9回：仮説検定（2）（区間推定（3））

2標本問題
母平均の差の検定（データに対応がある場合）
等分散性の検定
母平均の差の区間推定（データに対応がある場合）

第10回：仮説検定（3）（区間推定（4））

正規分布やカイ2乗分布の再生性
母平均の差の検定（データに対応がない場合）
母平均の差の区間推定（データに対応がない場合）

第11回：仮説検定（4）

適合度検定　独立性の検定
SPSSによる検定

第12回：仮説検定（5）

一元配置分散分析法
多重比較法（Tukey、Scheffeの方法など）

第13回：重回帰分析（1）

独立変数と従属変数　（標準）偏回帰係数
最小2乗法　決定係数とその補正
残差分析

第14回：重回帰分析（2）（レポート課題作成）

偏回帰係数などの推定と検定
独立変数の選択方法　多重共線性
（レポート課題への質問応答　類題演習）

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に指定しません。毎回講義ノートを用意します。ただし、統計的推定・検定についての参考書をもっていることが望ましい（以下で紹介する文献でなくても良い）。

参考文献：
「統計学入門」東京大学教養学部統計学教室 編（東京大学出版会）
「データ分析のための統計入門」岡太彬訓・都築誉史・山口和範 共著（共立出版）
「自然科学の統計学」東京大学教養学部統計学教室 編（東京大学出版会）
「Excel で学ぶ統計解析入門 Excel2019/2016対応版」菅民郎 著（オーム社）
「Excelで学ぶ回帰分析」阿部圭司 著（ナツメ社）
「SPSSによる心理統計」山田剛史・鈴木雅之 共著（東京図書）
「SPSSによる多変量解析」村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士 共編（オーム社） など

成績評価フリー入力サイン：0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　試験は実施しません。

レポート：　50　授業中に扱う演習問題とは別に、レポート課題を出題します。
レポート課題の提出回数は1回、第8回目の授業終了後に出題します（レポート課題の内容については備考欄を参照してください）。

平常点評価：　50　毎回の授業中に扱う演習問題に解答し、提出する者には平常点を加算します。

その他：　0　授業における積極性などへの評価は、平常点に含めます。

備考・関連URL：グローバルエデュケーションセンター設置情報科目の内容については履修ガイド内、もしくは以下のリンクからご参照ください。
-GEC情報のカリキュラム
-GEC情報の科目マップ
-GEC情報の履修モデル

成績評価方法の割合について上述しましたが、あくまでも出席回数が全授業回数の半数以上あることを前提としますので注意してください。 試験は実施せず、レポート課題を1回提出してもらいますが、その内容は授業中に扱う演習問題の類題です。4問程度出題します。授業における演習内容の復習・定着度の向上を目的とするものです。受講生の皆さんに各自の専門分野のデータを持ち寄って分析してもらいたいところですが、クォーター学期の授業ではそれを行う時間的余裕はありません。シラバスではレポート課題作成の時間を設けていませんが、レポート課題に関する質問等を常にメールやWaseda Moodle上のフォームで受け付けます。また、受講生の皆さんが希望する場合には、第14回目の授業をレポート課題作成の時間とすることがあります。

この授業では、講義資料の掲示以外にもWaseda Moodleを積極的に活用します。課題の出題と提出、講師と受講生の皆さんとのコミュニケーションをはかることなどにも利用します。連絡事項はアナウンスメントに掲示します。また、アンケート機能を用いて、毎回の授業に関する感想・意見・質問等を受講生の皆さんから伺うためのフォームを設けます。

基本的に上述したシラバス通りに授業を行いますが、受講生の皆さんのExcel操作の習熟度や講義内容の理解の度合いによっては一部の内容を自主学習とすることがあります。上述した講義内容のすべてを無理に授業内で扱ったりせず、余裕をもって授業を進めます。授業中に扱えなかった講義内容についても、その講義資料をWaseda Moodle上に掲示します。

Excel操作の習熟度が十分でない受講生のことを考慮し、要望があれば演習問題についての動画資料などもWaseda Moodle上に掲示します。また、大学のPCのExcelバージョンでは確認できない操作内容があれば、最新バージョンによる操作法を説明する動画資料を掲示したりもします。

この講義では対面授業を行います。PCを備えた教室で行いますが、自分のPCを持ち込んで演習を行って構いません。講義資料では基本的にMs-Officeに従って説明がなされていますが、MacのOffice（Excel）に関する操作法や情報も必要に応じて記述します。授業での演習問題などに関しては、必ずMacのExcelで作成・解答できるかどうか確認したものを出題します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 2 非主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010347|01|9S09010347[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	大学における教育と学習 01 （学部生用）		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

近年、大学を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。たとえば、大学院生として自身の研究以外に、TAとして学部生への指導や先輩として後輩への指導が求められるケースも増えてきています。さらに、大学教員となるためには、従来は、研究能力および業績が採用の際に重視されていましたが、教育者としての力量を問われることも増えています。

私たちが身を置いている「大学」とはどのような場所なのか。現在どのような改革を行い、将来どのように変わろうとしているのか。今の大学環境は親世代や指導教員の時代とどう違うのか。豊かな学習経験を得る、将来大学の教壇に立つ、あるいは大学職員として働くためには、今どのような姿勢や準備ができるのか。本授業では、このような問いを意識しながら、TAおよび大学教員・職員を志す学生を対象に、大学生活（自身の学習や研究を進めること、他者と協働することなど）を送る上で必要とされる基礎を学び、各自が大学で働くことに関する広い視野を獲得することを目指します。

授業は対面で実施しますが、授業内でパソコンあるいはスマホなどのモバイル端末を使用する場合がありますので、その場合は各自で準備してください。また、準備学習・事後学習はWasedaMoodleを使用します。

授業の到達目標:

1. 大学を取り巻く状況や変化について簡潔に述べることができる。
2. 自大学の教育活動の概要について簡潔に述べることができる。
3. 大学授業に関わる制度や仕組みについて簡潔に説明することができる。
4. ディスカッションの繰り返しを通して、自己主張と他人の話を聞く態度を身につける。

事前・事後学習の内容:

各回の授業内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーション

1）自己紹介、授業の概要と到達目標の説明、受講上の留意点等の確認（個人の学習目標の設定など）
2)アイスブレイク:「『大学』のイメージを共有する」
3）100分授業について
4）準備学習課題①の説明
5）事後学習①:本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第2回:大学とは何か①

1）準備学習課題①の発表と共有を通して、自大学の教育活動を知る。
2）準備学習を手掛かりに大学に期待される役割と責務について考える。
3） 準備学習課題②の説明
4）事後学習②:本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第3回:大学とは何か②

1)準備学習課題②の発表と共有を通して、「大学」の起源や変遷を理解する。
2)日本の大学の歴史と大学改革のポイントを取り上げる。
3)準備学習課題③の説明
4）事後学習③:本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第4回:大学授業とは何か①

1)大学の基本的な制度について学ぶ。特に、単位制度を取り上げる。
2)準備学習課題③を手掛かりに、学生の学修を促すシラバスについて考える。
3）事後学習④:本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。
4）小テスト①の実施

第5回:大学授業とは何か②

1)アクティブラーニング型授業の理論およびその導入背景を理解する。
2)アクティブラーニング型授業の様々な手法を取り上げる。
3）準備学習課題④の説明
4）事後学習⑤:本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第6回：学生の学修成果の可視化

1)大学に関わる近年の政策動向を取り上げる。
2)準備学習課題④の発表と共有を通して、現代の学生の学習に関わる傾向について理解する。
3）事後学習⑥：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第7回：まとめと振り返り

1)コンセプトマップを用いて、コースでの学びについてまとめを行う。（個人・グループワーク）
2)授業全体の振り返りを行う。
3）事後学習⑦：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。
4）小テスト②の実施

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献：
・天野郁夫著『大学の誕生〈上、下〉』、中公新書、2009
・吉見俊哉著『大学とは何か』、岩波新書、2011（第一刷）
・早田幸政、諸星裕、青野透編著『高等教育論入門』、ミネルヴァ書房、2012
・L,Dee,Fink著、土持ゲーリー法一監訳『学習経験をつくる大学授業法』、玉川大学出版部、2011
・中井俊樹編著「シリーズ大学の教授法3：アクティブラーニング』、玉川大学出版部、2015
・主体的学び第3号『アクティブラーニングとポートフォリオ』、主体的学び研究所、2015
・Barr, R. B., & Tagg, J. (1995). From teaching to learning: A new paradigm for undergraduate education. Change, 27(6), 12–25.
・Marsha C. Lovett, Michael W. Bridges, Michele DiPietro, Susan A. Ambrose & Marie K. Norman, (2023), How Learning Works: Eight Research-Based Principles for Smart Teaching, Jossey-Bass
ほか、各回の授業において、関連文献等を紹介します。

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　【大学院生】 総括レポート（20%　ルーブリックに基づき評価します）、小テスト20%、事後学習（10%　ルーブリックに基づき評価します）、その他（準備学習課題の提出10%×4回、コンセプトマップの提出10%　ルーブリックに基づき評価します）
【学部生】 総括レポート（10%　ルーブリックに基づき評価します）、小テスト20%、事後学習（20%　ルーブリックに基づき評価します）20%、その他（準備学習課題の提出10%×4回、コンセプトマップの提出10%　ルーブリックに基づき評価します）

備考・関連URL：
・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合は授業内で周知します。
・欠席や公欠等の授業内ルールは大学の規定に従います。
・遅刻はできるだけしないようにしましょう。授業途中からの参加は他の受講生の妨げになりますし、意見交換への十分な参加が難しくなる場合があります。

・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 2 非主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010347|02|9S09010347[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	大学における教育と学習 02 （学部生用）		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

近年、大学を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。たとえば、大学院生として自身の研究以外に、TAとして学部生への指導や先輩として後輩への指導が求められるケースも増えてきています。さらに、大学教員となるためには、従来は、研究能力および業績が採用の際に重視されていましたが、教育者としての力量を問われることも増えています。

私たちが身を置いている「大学」とはどのような場所なのか。現在どのような改革を行い、将来どのように変わろうとしているのか。今の大学環境は親世代や指導教員の時代とどう違うのか。豊かな学習経験を得る、将来大学の教壇に立つ、あるいは大学職員として働くためには、今どのような姿勢や準備ができるのか。本授業では、このような問いを意識しながら、TAおよび大学教員・職員を志す学生を対象に、大学生活（自身の学習や研究を進めること、他者と協働することなど）を送る上で必要とされる基礎を学び、各自が大学で働くことに関する広い視野を獲得することを目指します。

この授業はWasedaMoodleを使って動画配信するオンデマンド方式で実施します。各自が積極的に講義動画の視聴や小テスト、課題の提出に取り組むことを期待します。

授業の到達目標:

1. 大学を取り巻く状況や変化について簡潔に述べることができる。
2. 自大学の教育活動の概要について簡潔に述べることができる。
3. 大学授業に関わる制度や仕組みについて簡潔に説明することができる。

事前・事後学習の内容:

各回の動画内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーション

1)自己紹介、授業の概要と到達目標、成績評価の説明、受講上の留意点等の確認（個人の学習目標の設定など）
2)大学に関わる近年の政策動向および制度について理解する。
3)100分授業について
4)準備学習課題①の説明
5)事後学習①:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第2回:大学とは何か①

1)準備学習課題①の発表と共有を通して、自大学の教育活動を知る。
2)大学の基本的な特徴と関係するステークホルダーについて取り上げる。
3) 小テスト①の実施
4)事後学習②:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第3回:大学とは何か②

1)大学の起源や変遷を理解する。
2)日本の大学の変遷と大学改革のポイントを取り上げる。
3) 小テスト②の実施と解説
4)事後学習③:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第4回:大学授業とは何か①

1)大学の基本的な制度について学ぶ。特に、単位制度を取り上げる。
2)単位制度を手掛かりに、学生の学修を促すシラバスについて考える。
3)小テスト③の実施と解説
4)事後学習④:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第5回:大学授業とは何か②

1)アクティブラーニング型授業とそれが求められる背景について理解する。
2)アクティブラーニング型授業の様々な手法と実践事例について取り上げる。
3)小テスト④の実施と解説
4)事後学習⑤:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第6回：学生の学修成果の可視化

1)現代の学生の学習に関わる傾向について考える。
2）教育の質保証とInstitutional Research （IR）について取り上げる。
3）小テスト⑤の実施と解説
4）事後学習⑥：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第7回：まとめと振り返り

1)コンセプトマップを用いて、コースでの学びについてまとめを行う。
2)コース全体の総括を行う。
3）授業の到達目標と自身の学習目標の達成度の自己評価を行う。
4）小テスト⑥の実施と解説
5）事後学習⑦：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献：
・天野郁夫著『大学の誕生〈上、下〉』、中公新書、2009
・吉見俊哉著『大学とは何か』。岩波新書、2011（第一刷）
・早田幸政、諸星裕、青野透編著『高等教育論入門』、ミネルヴァ書房、2012
・L,Dee,Fink著、土持ゲーリー法一監訳『学習経験をつくる大学授業法』、玉川大学出版部、2011
・中井俊樹編著『シリーズ大学の教授法3：アクティブラーニング』、玉川大学出版部、2015
・中井俊樹編『大学の組織と運営』、玉川大学出版部、2019
・主体的学び第3号『アクティブラーニングとポートフォリオ』、主体的学び研究所、2015
・Barr, R. B., & Tagg, J. (1995). From teaching to learning: A new paradigm for undergraduate education. Change, 27(6), 12-25.
・Marsha C. Lovett, Michael W. Bridges, Michele DiPietro, Susan A. Ambrose & Marie K. Norman, (2023), How Learning Works: Eight Research-Based Principles for Smart Teaching, Jossey-Bass
ほか、各回の授業において、関連文献等を紹介します。

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　【大学院生】 総括レポート（10%　ルーブリックに基づき評価します）、小テスト（60%）、準備学習課題の提出（10%）、事後学習（10%　ルーブリックに基づき評価します）、コンセプトマップの提出（10%　ルーブリックに基づき評価します）
【学部生】 小テスト（60%）、準備学習課題の提出（10%）、事後学習（20%　ルーブリックに基づき評価します）、コンセプトマップの提出（10%　ルーブリックに基づき評価します）

備考・関連URL：
・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合は動画内やMoodleで周知します。
・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・小テストは動画公開後3日以内に受けて下さい。準備学習課題は動画公開後4日以内に提出してください。詳しくはオリエンテーション内で説明します。
・授業に関する質問や連絡等はMoodleを通してお願いします。なおすぐに返信できない場合もありますので、時間に余裕をもって連絡をしてください。全員への連絡はフォーラム機能を使って行います。
・WasedaMoodleの利用についてネットワークやハード面でのトラブルは教員が対応できない場合があります。「ITサービスナビ」などを参照するとともに、所属キャンパスの窓口に相談してください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 2 非主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010347|03|9S09010347[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	大学における教育と学習 03 （学部生用）		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

近年、大学を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。たとえば、大学院生として自身の研究以外に、TAとして学部生への指導や先輩として後輩への指導が求められるケースも増えてきています。さらに、大学教員となるためには、従来は、研究能力および業績が採用の際に重視されていましたが、教育者としての力量を問われることも増えています。

私たちが身を置いている「大学」とはどのような場所なのか。現在どのような改革を行い、将来どのように変わろうとしているのか。今の大学環境は親世代や指導教員の時代とどう違うのか。豊かな学習経験を得る、将来大学の教壇に立つ、あるいは大学職員として働くためには、今どのような姿勢や準備ができるのか。本授業では、このような問いを意識しながら、TAおよび大学教員・職員を志す学生を対象に、大学生活（自身の学習や研究を進めること、他者と協働することなど）を送る上で必要とされる基礎を学び、各自が大学で働くことに関する広い視野を獲得することを目指します。

授業は対面で実施しますが、授業内でパソコンあるいはスマホなどのモバイル端末を使用する場合がありますので、その場合は各自で準備してください。また、準備学習・事後学習はWasedaMoodleを使用します。

授業の到達目標:

1. 大学を取り巻く状況や変化について簡潔に述べることができる。
2. 自大学の教育活動の概要について簡潔に述べることができる。
3. 大学授業に関わる制度や仕組みについて簡潔に説明することができる。
4. ディスカッションの繰り返しを通して、自己主張と他人の話を聞く態度を身につける。

事前・事後学習の内容:

各回の授業内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーション

1）自己紹介、授業の概要と到達目標の説明、受講上の留意点等の確認（個人の学習目標の設定など）
2)アイスブレイク:「『大学』のイメージを共有する」
3）100分授業について
4）準備学習課題①の説明
5）事後学習①:本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第2回:大学とは何か①

1）準備学習課題①の発表と共有を通して、自大学の教育活動を知る。
2）準備学習を手掛かりに大学に期待される役割と責務について考える。
3） 準備学習課題②の説明
4）事後学習②:本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第3回:大学とは何か②

1)準備学習課題②の発表と共有を通して、「大学」の起源や変遷を理解する。
2)日本の大学の歴史と大学改革のポイントを取り上げる。
3)準備学習課題③の説明
4）事後学習③:本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第4回:大学授業とは何か①

1)大学の基本的な制度について学ぶ。特に、単位制度を取り上げる。
2)準備学習課題③を手掛かりに、学生の学修を促すシラバスについて考える。
3）事後学習④:本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。
4）小テスト①の実施

第5回:大学授業とは何か②

1)アクティブラーニング型授業の理論およびその導入背景を理解する。
2)アクティブラーニング型授業の様々な手法を取り上げる。
3）準備学習課題④の説明
4）事後学習⑤:本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第6回：学生の学修成果の可視化

1)大学に関わる近年の政策動向を取り上げる。
2)準備学習課題④の発表と共有を通して、現代の学生の学習に関わる傾向について理解する。
3）事後学習⑥：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第7回：まとめと振り返り

1)コンセプトマップを用いて、コースでの学びについてまとめを行う。（個人・グループワーク）
2)授業全体の振り返りを行う。
3）事後学習⑦：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。
4）小テスト②の実施

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献：
・天野郁夫著『大学の誕生〈上、下〉』、中公新書、2009
・吉見俊哉著『大学とは何か』、岩波新書、2011（第一刷）
・早田幸政、諸星裕、青野透編著『高等教育論入門』、ミネルヴァ書房、2012
・L,Dee,Fink著、土持ゲーリー法一監訳『学習経験をつくる大学授業法』、玉川大学出版部、2011
・中井俊樹編著「シリーズ大学の教授法3：アクティブラーニング』、玉川大学出版部、2015
・主体的学び第3号『アクティブラーニングとポートフォリオ』、主体的学び研究所、2015
・Barr, R. B., & Tagg, J. (1995). From teaching to learning: A new paradigm for undergraduate education. Change, 27(6), 12–25.
・Marsha C. Lovett, Michael W. Bridges, Michele DiPietro, Susan A. Ambrose & Marie K. Norman, (2023), How Learning Works: Eight Research-Based Principles for Smart Teaching, Jossey-Bass
ほか、各回の授業において、関連文献等を紹介します。

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　【大学院生】 総括レポート（20%　ルーブリックに基づき評価します）、小テスト20%、事後学習（10%　ルーブリックに基づき評価します）、その他（準備学習課題10%×4回、コンセプトマップの提出10%　ルーブリックに基づき評価します）
【学部生】 総括レポート（10%　ルーブリックに基づき評価します）、小テスト20%、事後学習（20%　ルーブリックに基づき評価します）、その他（準備学習課題10%×4回、コンセプトマップの提出10%　ルーブリックに基づき評価します）

備考・関連URL：
・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合は授業内で周知します。
・欠席や公欠等の授業内ルールは大学の規定に従います。
・遅刻はできるだけしないようにしましょう。授業途中からの参加は他の受講生の妨げになりますし、意見交換への十分な参加が難しくなる場合があります。

・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 2 非主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010347|04|9S09010347[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	大学における教育と学習 04 （学部生用）		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

近年、大学を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。たとえば、大学院生として自身の研究以外に、TAとして学部生への指導や先輩として後輩への指導が求められるケースも増えてきています。さらに、大学教員となるためには、従来は、研究能力および業績が採用の際に重視されていましたが、教育者としての力量を問われることも増えています。

私たちが身を置いている「大学」とはどのような場所なのか。現在どのような改革を行い、将来どのように変わろうとしているのか。今の大学環境は親世代や指導教員の時代とどう違うのか。豊かな学習経験を得る、将来大学の教壇に立つ、あるいは大学職員として働くためには、今どのような姿勢や準備ができるのか。本授業では、このような問いを意識しながら、TAおよび大学教員・職員を志す学生を対象に、大学生活（自身の学習や研究を進めること、他者と協働することなど）を送る上で必要とされる基礎を学び、各自が大学で働くことに関する広い視野を獲得することを目指します。

この授業はWasedaMoodleを使って動画配信するオンデマンド方式で実施します。各自が積極的に講義動画の視聴や小テスト、課題の提出に取り組むことを期待します。

授業の到達目標:

1. 大学を取り巻く状況や変化について簡潔に述べることができる。
2. 自大学の教育活動の概要について簡潔に述べることができる。
3. 大学授業に関わる制度や仕組みについて簡潔に説明することができる。

事前・事後学習の内容:

各回の動画内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーション

1)自己紹介、授業の概要と到達目標、成績評価の説明、受講上の留意点等の確認（個人の学習目標の設定など）
2)大学に関わる近年の政策動向および制度について理解する。
3)100分授業について
4)準備学習課題①の説明
5)事後学習①:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第2回:大学とは何か①

1)準備学習課題①の発表と共有を通して、自大学の教育活動を知る。
2)大学の基本的な特徴と関係するステークホルダーについて取り上げる。
3) 小テスト①の実施
4)事後学習②:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第3回:大学とは何か②

1)大学の起源や変遷を理解する。
2)日本の大学の変遷と大学改革のポイントを取り上げる。
3) 小テスト②の実施と解説
4)事後学習③:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第4回:大学授業とは何か①

1)大学の基本的な制度について学ぶ。特に、単位制度を取り上げる。
2)単位制度を手掛かりに、学生の学修を促すシラバスについて考える。
3)小テスト③の実施と解説
4)事後学習④:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第5回:大学授業とは何か②

1)アクティブラーニング型授業とそれが求められる背景について理解する。
2)アクティブラーニング型授業の様々な手法と実践事例について取り上げる。
3)小テスト④の実施と解説
4)事後学習⑤:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第6回：学生の学修成果の可視化

1)現代の学生の学習に関わる傾向について考える。
2）教育の質保証とInstitutional Research （IR）について取り上げる。
3）小テスト⑤の実施と解説
4）事後学習⑥：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第7回：まとめと振り返り

1)コンセプトマップを用いて、コースでの学びについてまとめを行う。
2)コース全体の総括を行う。
3）授業の到達目標と自身の学習目標の達成度の自己評価を行う。
4）小テスト⑥の実施と解説
5）事後学習⑦：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献：
・天野郁夫著『大学の誕生〈上、下〉』、中公新書、2009
・吉見俊哉著『大学とは何か』。岩波新書、2011（第一刷）
・早田幸政、諸星裕、青野透編著『高等教育論入門』、ミネルヴァ書房、2012
・L,Dee,Fink著、土持ゲーリー法一監訳『学習経験をつくる大学授業法』、玉川大学出版部、2011
・中井俊樹編著『シリーズ大学の教授法3：アクティブラーニング』、玉川大学出版部、2015
・中井俊樹編『大学の組織と運営』、玉川大学出版部、2019
・主体的学び第3号『アクティブラーニングとポートフォリオ』、主体的学び研究所、2015
・Barr, R. B., & Tagg, J. (1995). From teaching to learning: A new paradigm for undergraduate education. Change, 27(6), 12-25.
・Marsha C. Lovett, Michael W. Bridges, Michele DiPietro, Susan A. Ambrose & Marie K. Norman, (2023), How Learning Works: Eight Research-Based Principles for Smart Teaching, Jossey-Bass
ほか、各回の授業において、関連文献等を紹介します。

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　【大学院生】 総括レポート（10%　ルーブリックに基づき評価します）、小テスト（60%）、準備学習課題の提出（10%）、事後学習（10%　ルーブリックに基づき評価します）、コンセプトマップの提出（10%　ルーブリックに基づき評価します）
【学部生】 小テスト（60%）、準備学習課題の提出（10%）、事後学習（20%　ルーブリックに基づき評価します）、コンセプトマップの提出（10%　ルーブリックに基づき評価します）

備考・関連URL：
・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合は動画内やMoodleで周知します。
・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・小テストは動画公開後3日以内に受けて下さい。準備学習課題は動画公開後4日以内に提出してください。詳しくはオリエンテーション内で説明します。
・授業に関する質問や連絡等はMoodleを通してお願いします。なおすぐに返信できない場合もありますので、時間に余裕をもって連絡をしてください。全員への連絡はフォーラム機能を使って行います。
・WasedaMoodleの利用についてネットワークやハード面でのトラブルは教員が対応できない場合があります。「ITサービスナビ」などを参照するとともに、所属キャンパスの窓口に相談してください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010356|01|9S09010356[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	台湾通史（近世） 1		
担 当 教 員	江 正殷		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本講義は、台湾の通史を時代順に学ぶシリーズ科目の一部として、台湾史のうち近世およびそれ以前の時期を対象とする。近年、台湾は東アジアおよび国際社会において重要な位置を占める存在として注目を集めているが、その歴史的形成過程は単線的なものではなく、多様な地域・文化・政治的要素が交錯する中で形成されてきた。本講義では、台湾を「周縁」ではなく、東アジア海域世界の結節点として捉え直し、近世以前から19世紀前半に至る歴史的展開を概観する。

台湾は、先住民社会、漢人移住、海域交易、植民勢力の進出など、複数の歴史層が重なり合う場として発展してきた。本講義では、こうした台湾史の多層性を、中国史・日本史・東南アジア史・海域史など広域的な文脈の中に位置づけながら理解する。特に、近世東アジアにおける人の移動、交易ネットワーク、統治構造の変容などに注目し、台湾がいかにして地域史と世界史の接点となってきたのかを考察する。

また、国家間関係にとどまらず、民族・エスニシティ、社会階層、ジェンダー、文化実践といった視点も取り入れ、台湾社会の形成過程を多角的に捉える。歴史叙述の多様性や記憶の問題にも触れながら、台湾史を単なる地域史としてではなく、比較史的・接続史的観点から理解する基礎を養う。

「台湾通史（近世）1」（春クォーター）では、おおむね19世紀前半までを扱い、先住民社会から清朝統治期に至るまでの歴史的展開を中心に検討する。続く「台湾通史（近世）2」（夏クォーター）では、日本統治期初期を扱う予定であり、本講義はその導入的役割を担う。なお、通史科目としての理解を重視しつつ、履修者の関心や理解度に応じて扱うテーマや史料の比重を調整する場合がある。

授業の到達目標:

① 歴史学の基礎的な概念および史料の読み方を理解し、歴史を学ぶための基本的な知識と方法を説明することができる。（学修成果：基礎的学問能力）
② 近世以前から19世紀前半までの台湾の歴史的展開を概観し、その基本的事項を説明することができる。（学修成果：専門基礎知識）
③ 台湾社会が先住民社会・移住者社会・外来勢力の相互作用の中で形成されてきた過程を理解し、多様なエスニシティをもつ社会の成立背景を説明できる。
（学修成果：歴史理解力）
④ 台湾史の多層性・多様性を、中国史・日本史・海域史など広域的文脈の中で位置づけて考察することができる。（学修成果：比較史的視野）
⑤ 歴史的に形成された台湾の多層的構造を踏まえ、現代の東アジア情勢との連関について基礎的な考察を行うことができる。（学修成果：歴史的思考力・応用力）

事前・事後学習の内容:

■事前学修
各回の授業前に、配布資料および指定文献の該当箇所を読了すること。必要に応じて、歴史地図や年表を参照し、扱う時代の基本的な流れを把握しておく。授業内容に関連する基礎用語や歴史的背景を整理したうえで授業に臨むことを求める。
各回の予習時間の目安：90～120分

■事後学修
授業内容を踏まえ、講義ノートの整理および配布資料の再読を行うこと。授業内で扱った史料や論点について、自身の理解をまとめる簡単な振り返り（コメント整理・小課題等）を求める場合がある。あわせて、関連する参考文献を読み進め、台湾史の通史的理解を深めること。
各回の復習時間の目安：90～120分

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回 イントロダクション：現在の台湾と歴史認識
本講義の目的・方針、全体構成の説明。台湾史研究の基本的枠組み、基礎文献および研究動向を紹介するとともに、現代台湾の位置づけを確認し、台湾史を学ぶ意義と歴史叙述の多様性について概観する。
第2回 人類史と台湾
オーストロネシア語族の拡散と台湾先住民族の起源を取り上げ、人類史的観点から台湾と周辺地域（日本・東南アジア）との関係を考察する。
第3回 大航海時代のなかの台湾
海域アジアの形成と東西交流の拡大を背景に、大航海時代における台湾の位置づけを検討する。オランダ東インド会社の進出と国際交易ネットワークに注目する。
第4回 オランダ統治と海域世界
オランダ東インド会社による台湾統治の構造を分析する。先住民社会との関係、スペインによる北部統治、浜田彌兵衛事件などを通じて、日蘭関係と海域秩序を考察する。
第5回 鄭氏政権と東アジア情勢

鄭成功および鄭氏政権の成立と統治体制を検討する。反清復明運動の文脈、「国性爺」像の形成、日本との関係、清朝の海禁政策との連関を考察する。
第6回　清朝統治初期の台湾社会
清朝による台湾編入後の社会変容を取り上げる。漢人移住と開墾、一田両主制、先住民統治政策、「平埔族」の漢化、宗教・キリスト教の影響などを通じて、多層的社会の形成を理解する。
第7回　総括
講義内容の総合的整理・教場試験（期末考査）

■補足
授業内容は履修者の理解度や関心に応じて一部調整する場合がある。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特に指定なし。

参考文献: 参考書として、以下を挙げるほか、授業内で紹介します
・春山明哲他編『台湾の歴史 大全〔基礎から研究へのレファレンス〕』（藤原書店、2025年）
・若林正丈『台湾の歴史』（講談社学術文庫、2023年）
・家永真幸『台湾のアイデンティティ』（文春新書、2023年）
・周婉窈（濱島敦俊監訳）『図説台湾の歴史』（増補版、平凡社、2013年）

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50　最終回の授業時間内に期末試験を実施する。講義内容全体に関する基礎的理解および論点把握の程度を評価する。

レポート: 20　授業時間内に小レポートを2回実施する（各300字程度）。授業に関する理解度および論点整理の的確さを評価する。

平常点評価: 30　以下の要素を総合的に評価する。
授業内で提示する問いに対する応答やコメントシート等の内容（理解度・思考の深さ）
授業への主体的な参加状況（発言、リアクション、課題提出状況等）

備考・関連URL: 「台湾通史（近世）1」（春クォーター開講）と「台湾通史（近世）2」（夏クォーター開講）は、連続して履修することを原則とし、単独での履修は認めない。また「台湾通史（近現代）1」（秋クォーター）と「台湾通史（近現代）2」（冬クォーター）とは強い関連性がある。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010357|01|9S09010357[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	台湾通史（近世） 2		
担 当 教 員	江 正殷		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本講義は、台湾史を通時的に学ぶ通史シリーズの一部として、「台湾通史（近世）1」に続き、19世紀以降から20世紀初頭に至る台湾の歴史的展開を扱う。台湾は今日、東アジアおよび国際社会において重要な位置を占める存在として注目されているが、その歴史的形成過程は多層的であり、地域史・帝国史・世界史が交錯する中で形づくられてきた。本講義では、こうした歴史的連続性を踏まえ、近世から近代への移行期における台湾社会の変容を検討する。

19世紀後半以降、台湾は清朝統治の再編、開港と国際関係の変化、そして日本による統治の開始という大きな転換を経験した。本講義では、清末期の統治改革、対外関係の変化、社会構造の再編に加え、日本統治初期における統治体制の確立と社会変容を取り上げる。これらの過程を、中国史・日本史・帝国史・海域史といった広域的視座の中に位置づけながら理解する。また、政治・制度の変化のみならず、移民・エスニシティ・社会階層・宗教・教育・文化実践などの観点から台湾社会の再編を多角的に考察する。国家間関係（日台・中台）にとどまらず、社会内部の多様な主体に注目することで、近代台湾の形成過程を立体的に把握することを目指す。

本講義では、おおむね1920年代頃までを対象とし、近世から近代への移行期における台湾の位置づけを明らかにする。続く科目では近代以降の展開へと接続することを念頭に置き、台湾史を中国史・日本史・世界史の交差点として理解するための基礎を養う。
なお、通史科目としての理解を重視しつつ、履修者の関心や理解度に応じて扱うテーマや史料の重点を調整する場合がある。

授業の到達目標:

① 歴史学の基礎的な概念や史料読解の方法を理解し、歴史を学ぶための基本的な知識と能力を身につけることができる。（学修成果：基礎的学問能力）
② 19世紀以降から20世紀初頭にかけての台湾の歴史的展開を概観し、その基本的事項を説明することができる。（学修成果：専門基礎知識）
③ 台湾における「近世から近代への移行」がもつ歴史的意義を理解し、政治・社会・文化の変容との関連から説明できる。（学修成果：歴史理解力）
④ 清末期から日本統治初期に至る台湾社会の変容を、多様な主体（民族・社会階層・文化的背景）に注目して考察することができる。（学修成果：多角的歴史理解）
⑤ 台湾史の多層性・多様性を東アジアおよび世界史的文脈の中で位置づけて考察することができる。（学修成果：比較史的視野）
⑥ 歴史的に形成された台湾の構造を踏まえ、現代の東アジア情勢との連関について基礎的な考察を行うことができる。（学修成果：歴史的思考力・応用力）

事前・事後学習の内容:

■事前学修
各回の授業前に、配布資料および指定文献の該当箇所を読了すること。必要に応じて、歴史地図や年表を参照し、扱う時代の基本的な流れを把握しておく。授業内容に関連する基礎用語や歴史的背景を整理したうえで授業に臨むことを求める。
各回の予習時間の目安：90～120分

■事後学修
授業内容を踏まえ、講義ノートの整理および配布資料の再読を行うこと。授業内で扱った史料や論点について、自身の理解をまとめる簡単な振り返り（コメント整理・小課題等）を求める場合がある。あわせて、関連する参考文献を読み進め、台湾史の通史的理解を深めること。
各回の復習時間の目安：90～120分

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回 明清交替と東アジア秩序の再編
明清交替期の東アジア情勢を概観し、華夷秩序の変容と台湾の位置づけを検討する。
第2回 清朝の台湾統治の確立
清朝による台湾編入と地域支配体制の形成を取り上げる。族群間対立や社会争乱、開港による国際関係の変化を考察する。
第3回 清朝統治下台湾の社会変容
移民社会の成立、交通網の整備、貿易・経済構造の変化を通じて、「近代」台湾の萌芽を検討する。
第4回 世界秩序の変動と台湾
ローバー号事件、台湾出兵、清仏戦争などを手がかりに、19世紀後半の国際秩序再編と台湾の関係を考察する。台湾省設置の意義にも触れる。
第5回 日清戦争と台湾の帰属変動
朝鮮半島情勢を背景とした日清戦争の展開を整理し、下関条約による台湾割譲の歴史的意味を検討する。
第6回 台湾領有戦争と日本帝国統治体制の成立

台湾民主国の成立、武装抵抗運動、日本軍による平定過程を取り上げ、日本統治初期の支配体制の特徴を考察したのち、武装勢力の鎮圧、保甲制度の導入など統治体制の制度化に至るプロセスを概観する。
第7回　総括・教場試験（期末考査）
近世から近代への移行期としての台湾史を総括するとともに、期末考査を実施する。

■補足
授業内容は履修者の関心や理解度に応じて一部調整する場合がある。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に指定なし。

参考文献：　参考書として、以下を挙げるほか、授業内で紹介します
・春山明哲他編『台湾の歴史 大全［基礎から研究へのレファレンス］』（藤原書店、2025年）
・若林正丈『台湾の歴史』（講談社学術文庫、2023年）
・家永真幸『台湾のアイデンティティ』（文春新書、2023年）
・周婉窈（濱島敦俊監訳）『図説台湾の歴史』（増補版、平凡社、2013年）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50　最終回の授業時間内に期末試験を実施する。講義内容全体に関する基礎的理解および論点把握の程度を評価する。

レポート：　20　授業時間内に小レポートを2回実施する（各300字程度）。授業に関する理解度および論点整理の的確さを評価する。

平常点評価：　30　以下の要素を総合的に評価する。
授業内で提示する問いに対する応答やコメントシート等の内容（理解度・思考の深さ）
授業への主体的な参加状況（発言、リアクション、課題提出状況等）

備考・関連URL：　「台湾通史（近世）1」（春クォーター開講）と「台湾通史（近世）2」（夏クォーター開講）は、連続して履修することを原則とし、単独での履修は認めない。また「台湾通史（近現代）1」（秋クォーター）と「台湾通史（近現代）2」（冬クォーター）とは強い関連性がある。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分: 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010358|01|9S09010358[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	台湾通史（近現代） 1		
担 当 教 員	江 正殷		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本講義は、台湾史を通時的に学ぶ通史シリーズの一部として、近現代における台湾の歴史的展開を扱う。「台湾通史（近世）1」「台湾通史（近世）2」に続き、20世紀以降の台湾社会の形成過程を検討し、近代から現代へと至る歴史的連続性の中で台湾を位置づける。
今日、台湾は東アジアおよび国際社会において重要な存在として注目を集めているが、その歴史は単線的な発展ではなく、帝国支配、戦争、体制転換といった複数の歴史層が重なり合う中で形成されてきた。本講義では、台湾を地域史としてのみならず、中国史・日本史・帝国史・世界史の交差点として捉え、近現代台湾の歴史的特質を考察する。

特に本講義では、日本統治期後半から戦後初期にかけての変動期に焦点を当てる。植民地統治の深化と社会変容、台湾人社会の形成、日本との人的・文化的関係、さらに戦後の体制転換と新たな政治秩序の形成などを取り上げ、近現代台湾の基層を理解することを目指す。日本の影響および日台関係の歴史的展開についても重点的に検討する。

また、国家間関係のみならず、民族・エスニシティ、社会階層、世代、ジェンダー、文化実践など多様な視点を取り入れ、台湾社会の内部構造を多角的に捉える。歴史叙述や記憶の問題にも触れながら、近現代台湾を複合的な歴史空間として理解する基礎を養う。
本講義では、おおむね1920年代から1950年代までを対象とし、近代台湾から戦後初期への移行過程を中心に検討する。続く「台湾通史（近現代）2」（冬クォーター）ではその後の展開を扱う予定であり、本講義はその基盤をなす科目として位置づけられる。

なお、本シリーズは通史的理解を重視するが、「台湾通史（近世）1」「台湾通史（近世）2」を履修していない学生の受講も歓迎し、必要に応じて歴史的背景の補足を行う。授業内容は履修者の関心や理解度に応じて一部調整する場合がある。

授業の到達目標:

① 歴史学の基礎的な概念や史料読解の方法を理解し、歴史を学ぶための基本的な知識と能力を身につけることができる。（学修成果：基礎的学問能力）
② 1920年代から1950年代にかけての台湾の歴史的展開を概観し、その基本的事項を説明することができる。（学修成果：専門基礎知識）
③ 日本帝国統治下で形成された台湾の「近代」の特徴を理解し、政治・社会・文化の変容との関連から説明することができる。（学修成果：歴史理解力）
④ 日本統治から中華民国統治への移行過程を歴史的転換として捉え、その連続性と断絶の両面を考察することができる。（学修成果：歴史的分析力）
⑤ 台湾社会の多層性・多様性を民族・社会階層・文化的背景など多様な主体に注目して理解することができる。（学修成果：多角的歴史理解）
⑥ 近現代台湾の歴史的経験を踏まえ、現代の東アジア情勢や国際関係との連関について基礎的な考察を行うことができる。（学修成果：歴史的思考力・応用力）

事前・事後学習の内容:

■事前学修
各回の授業前に、配布資料および指定文献の該当箇所を読了すること。必要に応じて、歴史地図や年表を参照し、扱う時代の基本的な流れを把握しておく。授業内容に関連する基礎用語や歴史的背景を整理したうえで授業に臨むことを求める。
各回の予習時間の目安：90～120分

■事後学修
授業内容を踏まえ、講義ノートの整理および配布資料の再読を行うこと。授業内で扱った史料や論点について、自身の理解をまとめる簡単な振り返り（コメント整理・小課題等）を求める場合がある。あわせて、関連する参考文献を読み進め、台湾史の通史的理解を深めること。
各回の復習時間の目安：90～120分

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回 イントロダクション：現在の台湾と歴史認識
本講義の目的・方針、全体構成の説明。台湾近現代史研究の基本的枠組み、基礎文献および研究動向を紹介するとともに、現代台湾の位置づけを確認し、台湾近現代史を学ぶ意義と歴史叙述の視点について概観する。
第2回 日本の台湾統治①：統治体制の形成
日本統治初期の制度設計を取り上げる。法制度・行政システム、土地調査・旧慣調査、軍事・警察制度など、植民地統治の基盤形成を検討する。
第3回 日本の台湾統治②：社会経済と統治政策
植民地統治下の社会経済構造の変化を分析する。専売制度（アヘン政策）、「豊かな台湾財政」の形成、農業開

発と水利事業、交通網整備、教育・教化政策の展開を考察する。あわせて学校制度、先住民教化、台湾神社の設置など文化政策にも触れる。
第4回　日本帝国と先住民支配
「理蕃」政策をめぐる統治の暴力性と同化政策を検討する。霧社事件やセデック・バレの事例を通じて先住民社会の視点を取り上げ、北海道アイヌ政策との比較も行う。
第5回　帝国支配への抵抗と社会運動
植民地支配に対する政治的・社会的抵抗を扱う。六三法撤廃運動、台湾議会設置請願運動などを通じて、台湾人エリートと社会運動の展開を考察する。
第6回　戦争と台湾社会
戦時体制下の台湾を検討する。皇民化運動、動員体制、文化統制、戦争への動員と生活変容を分析し、日本帝国の戦争と台湾・沖縄の関係にも言及しつつ総括する。
第7回　総括
講義内容の総合的整理・教場試験（期末考査）

■補足
授業内容は履修者の関心や理解度に応じて一部調整する場合がある。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特に指定なし。

参考文献: 参考書として、以下を挙げるほか、授業内で紹介します
・春山明哲他編『台湾の歴史 大全〔基礎から研究へのレファレンス〕』（藤原書店、2025年）
・若林正丈『台湾の歴史』（講談社学術文庫、2023年）
・家永真幸『台湾のアイデンティティ』（文春新書、2023年）
・周婉窈（濱島敦俊監訳）『図説台湾の歴史』（増補版、平凡社、2013年）

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50　最終回の授業時間内に期末試験を実施する。講義内容全体に関する基礎的理解および論点把握の程度を評価する。

レポート: 20　授業時間内に小レポートを2回実施する（各300字程度）。授業に関する理解度および論点整理の的確さを評価する。

平常点評価: 30　以下の要素を総合的に評価する。
授業内で提示する問いに対する応答やコメントシート等の内容（理解度・思考の深さ）
授業への主体的な参加状況（発言、リアクション、課題提出状況等）

備考・関連URL: 「台湾通史（近現代）1」（秋クォーター開講）と「台湾通史（近現代）2」（冬クォーター開講）は、連続して履修することを原則とし、単独での履修は認めない。また「台湾通史（近現代）１」（秋クォーター）と「台湾通史（近現代）2」（冬クォーター）とは強い関連性がある。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010359|01|9S09010359[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	台湾通史（近現代） 2		
担 当 教 員	江 正殷		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本講義は、台湾史を通時的に学ぶ通史シリーズの最終段階として、戦後から現代に至る台湾の歴史的展開を扱う。「台湾通史（近現代）1」に続き、20世紀後半以降の台湾社会の変容を取り上げ、近現代台湾の形成過程を総合的に検討する。

今日、台湾は東アジアのみならず国際社会において重要な位置を占める存在として認識されているが、その背景には、戦争、体制転換、冷戦構造、民主化、グローバル化といった複数の歴史的経験が重層的に重なっている。本講義では、台湾を中国史・日本史・冷戦史・グローバル史の交差点として捉え、戦後台湾の歴史的特質を多角的に考察する。
特に本講義では、日本統治の終焉と中華民国統治の開始、その後の権威主義体制の確立、冷戦下の国際環境、そして民主化と社会変容の過程に焦点を当てる。戦後初期の体制再編、国家と社会の関係、ナショナル・アイデンティティの形成、対外関係の変容などを通じて、現代台湾の歴史的基盤を理解することを目指す。日本との歴史的関係や記憶の継承についても適宜取り上げる。

また、政治史にとどまらず、民族・エスニシティ、社会階層、世代、ジェンダー、文化実践といった観点を取り入れ、台湾社会の内部構造の変化を立体的に把握する。台湾をめぐる歴史叙述や記憶の政治にも触れながら、現代台湾の複雑性を理解する基礎を養う。
本講義では、1950年代以降から現代に至るまでの展開を対象とし、戦後台湾から現代台湾への連続性と変容を検討する。台湾通史シリーズの総括として、近世から現代に至る台湾史の通時的理解を深めることを目的とする。

なお、本シリーズは通史的理解を重視するが、「台湾通史（近世）1」「台湾通史（近世）2」を履修していない学生の受講も歓迎し、必要に応じて歴史的背景の補足を行う。授業内容は履修者の関心や理解度に応じて一部調整する場合がある。

授業の到達目標:

① 歴史学の基礎的な概念や史料読解の方法を理解し、歴史を学ぶための基本的な知識と能力を身につけることができる。（学修成果：基礎的学問能力）
② 1950年代以降の台湾の歴史的展開を概観し、その基本的事項を説明することができる。（学修成果：専門基礎知識）
③ 戦後台湾における政治体制の変化や社会変容を理解し、「現代台湾」の形成過程を歴史的文脈の中で説明することができる。（学修成果：歴史理解力）
④ 冷戦体制、民主化、グローバル化などの歴史的要因が台湾社会に与えた影響を多角的に考察することができる。（学修成果：歴史的分析力）
⑤ 台湾社会の多層性・多様性を民族・世代・文化的背景など多様な主体に注目して理解することができる。（学修成果：多角的歴史理解）
⑥ 台湾の歴史的経験を踏まえ、現代の東アジア情勢や国際関係との連関について主体的に考察することができる。（学修成果：歴史的思考力・応用力）

事前・事後学習の内容:

■事前学修
各回の授業前に、配布資料および指定文献の該当箇所を読了すること。必要に応じて、歴史地図や年表を参照し、扱う時代の基本的な流れを把握しておく。授業内容に関連する基礎用語や歴史的背景を整理したうえで授業に臨むことを求める。
各回の予習時間の目安：90～120分

■事後学修
授業内容を踏まえ、講義ノートの整理および配布資料の再読を行うこと。授業内で扱った史料や論点について、自身の理解をまとめる簡単な振り返り（コメント整理・小課題等）を求める場合がある。あわせて、関連する参考文献を読み進め、台湾史の通史的理解を深めること。
各回の復習時間の目安：90～120分

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回 日本統治の歴史的評価
日本統治期を総括的に振り返り、植民地支配の遺産が戦後台湾社会に与えた影響を検討する。歴史認識や記憶の問題にも触れ、戦後史への導入とする。
第2回 「光復」と戦後初期台湾
1945年の政権交代を取り上げ、「中華民国」の到来と統治体制の再編を検討する。台湾省行政長官公署の統治、台湾社会の期待と失望、二二八事件、脱植民地化の問題を考察する。
第3回 白色テロと権威主義体制の確立
国府遷台後の国民党体制の形成を取り上げる。白色テロ下の統治構造、政治統制と社会変容、アメリカの軍事

的支援と冷戦体制との関係を検討する。
第4回　冷戦構造の中の台湾
戦後国際秩序の中での台湾の位置づけを考察する。二つの「中国」問題、朝鮮戦争と台湾海峡の軍事的緊張、中華民国の外交的孤立、日本・アメリカとの関係、戦後経済体制の形成と対外支援を分析する。
第5回　1970年代の転換と高度成長
外交的挫折と国際的地位の変化（1972年体制）を背景に、蒋経国期の政策転換を検討する。十大建設、輸出志向型経済、NIESとしての台頭、都市化と社会構造の変化を考察する。
第6回　民主化と現代台湾の形成
民主化過程を中心に現代台湾の形成を検討する。党外運動、美麗島事件、戒厳令解除、社会運動の展開、「台湾化」とナショナル・アイデンティティの変容、李登輝期の政治改革と政権交代、中台関係の緊張、族群問題や移民、産業構造の転換（半導体産業など）にも触れる。
第7回　総括：戦後台湾から現代台湾へ・期末考査
戦後から現代に至る台湾史を総合的に整理し、通史シリーズ全体を通じた台湾史の歴史的連続性と変容を振り返り、期末テストを実施する。

■補足
授業内容は履修者の関心や理解度に応じて一部調整する場合がある。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に指定なし。

参考文献：　参考書として、以下を挙げるほか、授業内で紹介します
・春山明哲他編『台湾の歴史 大全〔基礎から研究へのレファレンス〕』（藤原書店、2025年）
・若林正丈『台湾の歴史』（講談社学術文庫、2023年）
・家永真幸『台湾のアイデンティティ』（文春新書、2023年）
・周婉窈（濱島敦俊監訳）『図説台湾の歴史』（増補版、平凡社、2013年）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50　最終回の授業時間内に期末試験を実施する。講義内容全体に関する基礎的理解および論点把握の程度を評価する。

レポート：　20　授業時間内に小レポートを2回実施する（各300字程度）。授業に関する理解度および論点整理の的確さを評価する。

平常点評価：　30　以下の要素を総合的に評価する。
授業内で提示する問いに対する応答やコメントシート等の内容（理解度・思考の深さ）
授業への主体的な参加状況（発言、リアクション、課題提出状況等）

備考・関連URL：　「台湾通史（近現代）1」（秋クォーター開講）と「台湾通史（近現代）2」（冬クォーター開講）は、連続して履修することを原則とし、単独での履修は認めない。また「台湾通史（近現代）1」（秋クォーター）と「台湾通史（近現代）2」（冬クォーター）とは強い関連性がある。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010360|01|9S09010360[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	医療×AI・ビッグデータ・IoT（早稲田大学校友会支援講座）		
担 当 教 員	朝日　透@由良　敬		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　早稲田出身の医療人発「健康・医療α」

授業概要:　早稲田大学出身の医師・歯科医師・看護師などの医療人や医療・医学の分野で活躍している研究者は多く存在しています。本講座は、医療・医学の関係者であり、かつ早稲田大学のOB・OG・教員によるオムニバス形式の講義となります。現在、そして今後、IT・IoT関連の業界、銀行・ファンド・保険の金融業界、超高齢化社会を睨んだビジネス界などで、がん・循環器系疾患・生活習慣病などの病気に対する医療の基礎知識、介護に関わる制度や法律、及び年金や医療保険など社会保障制度の知識が求められています。また、ビックデータをAIなど先端テクノロジーを使って、医療・医学の発展に寄与したり、メディカル・バイオの分野などで起業や新規事業に関わったりするためには、医療の現場や医療システムの現状、将来の社会保障制度や社会システムのあり方、医療に関わる倫理観や法知識など知らなければなりません。今後の進学・就職やビジネスチャンスに繋がるアイデアなどが浮かぶ可能性がある、ちょっと知って得する医療・医学の知識を習得できる講義となります。
本授業では、「医療 x AI・ビッグデータ・IoT」をテーマにします。医学部がない早稲田大学の卒業生の先輩方や教員が現場の医療を語り、何を考え医療に取り組んでいるのか、また、今後、早稲田生が医療・医学にどのように貢献できるのか、など楽しく講義を展開します。
なお、「医療 x ビジネス・経済・経営」（夏期）、「医療 x 超高齢化社会・キャリアデザイン」（秋期）「医療 x 倫理・法・制度」（冬期）の受講も強く推奨します。
本授業は、GECの学術的副専攻「健康・医療」コースの科目であり、本学の「健康・医療」の系統的な教育に資するものです。
＊講義は対面で実施しますが、事情によりオンラインとなる場合があります。

授業の到達目標:　超高齢化社会を迎えるわが国において、「医療・介護・福祉」における現状と未来に向けての課題を理解し、医療とAI・ビッグデータ・IoTなどの情報科学や統計学の技術との融合分野における医療や医学の基礎知識とその実用事例を理解する能力を身に付けるとともに、未来医療を議論できる能力を身に付けることを目指します。

事前・事後学習の内容:　各回のテーマに沿った事前課題をMoodleより通知します。授業後、課題に対する回答と感想を教場もしくはMoodleから提出します。

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＊ゲストが変わることや順番が変わることがあります。

第1回 4月13日 5時限:「オリエンテーション・概論:本授業の狙い」朝日　透（早稲田大学理工学術院・教授）
第2回 4月20日 5時限:「AIなど先端サイエンス・テクノロジーで分析する医師の診察」"ゲスト:竹村　洋典（東京女子医科大学　総合診療・総合内科学分野　教授　三重大学名誉教授）"
第3回 4月27日 5時限:「ワイヤレスエコーを利用した診療技術の革新」ゲスト:冨安　泰生（ATMS CEO）
第4回 5月11日 5時限:「AIと医療事故」ゲスト:粟野公一郎（村田・若槻法律事務所　弁護士）
第5回 5月18日 5時限:「AIを用いた医療機器の開発ベンチャーの日本の現状と将来」ゲスト:羽鳥裕（（医）はとりクリニック理事長、日本医師会元常任理事）
第6回 5月25日 5時限:「IoTの融合テクノロジーで脳外科手術の常識が変わる:スマート治療室"Hyper SCOT"の登場」ゲスト:村垣　善浩（神戸大学大学院医学研究科　副研究科長/医療創成工学専攻長・教授）
第7回 6月1日 5時限:「ゲノム情報が突き止める病気の正体:ゲノム情報からどうやって病因を特定するのか」由良　敬（早稲田大学理工学術院・教授／お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科・教授）

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　特に必要なし。

参考文献:　必要に応じて都度紹介する。

成績評価フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　試験はありません。
講義中に講義の内容についての問いに対する回答および感想を記すレビューシートの提出があります。（70%）
講義への参加積極度及び貢献度なども考慮して評価されます。（25%）
本講義に関係するセミナー、シンポジムへの参加も評価の対象となります。（5%）

備考・関連URL:　＊いかなる理由でも3回以上欠席する(病欠も含む)と単位は取得できません。(欠席は2回まで)
＊3次登録者は、登録後の講義には全て出席してください。(未登録の回を含み欠席は2回まで)
＊講義課題回答レビューシートが3回以上未提出の場合、単位は取得できません。(未提出は2回まで)
＊講義課題およびレビューシートは採点対象のため、出席や課題回答・レビューシート提出を満たしていても合格基準点を上回らなければ単位を取得できません。
＊学会等の「公的な活動」に伴う講義の欠席については考慮しますが、必ず事前に申し出てください。(事後報告は考慮しない)指導教員からの依頼文を求めることがあります。また、公欠は出席扱いとはなりません。
＊担当教員連絡先:朝日　透:tasahi@waseda.jp
＊稲門医会　http://tomonmed.com/

担当教員名の記載がない授業回は、すべて朝日が担当します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010361|01|9S09010361[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	医療×ビジネス・経済・経営（早稲田大学校友会支援講座）		
担 当 教 員	朝日 透@樋原 伸彦		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 早稲田出身の医療人発「健康・医療 β」

授業概要: 早稲田大学出身の医師・歯科医師・看護師などの医療人や医療・医学の分野で活躍している研究者は多く存在しています。本講座は、医療・医学の関係者であり、かつ早稲田大学のOB・OG・教員によるオムニバス形式の講義となります。現在、そして今後、IT・IoT関連の業界、銀行・ファンド・保険の金融業界、超高齢化社会を睨んだビジネス界などで、がん・循環器系疾患・生活習慣病などの病気に対する医療の基礎知識、介護に関わる制度や法律、及び年金や医療保険など社会保障制度の知識が求められています。また、ビックデータをAIなど先端テクノロジーを使って、医療・医学の発展に寄与したり、メディカル・バイオの分野などで起業や新規事業に関わったりするためには、医療の現場や医療システムの現状、将来の社会保障制度や社会システムのあり方、医療に関わる倫理観や法知識など知らなければなりません。今後の進学・就職やビジネスチャンスに繋がるアイデアなどが浮かぶ可能性がある、ちょっと知って得する医療・医学の知識を習得できる講義となります。
本授業では、「医療 x ビジネス・経済・経営」をテーマにします。医学部がない早稲田大学の卒業生の先輩方や教員が現場の医療を語り、何を考え医療に取り組んでいるのか、また、今後、早稲田生が医療・医学にどのように貢献できるのか、など楽しく講義を展開します。
なお、「医療 x AI・データサイエンス・IoT」（春期）、「医療 x 超高齢化社会・キャリアデザイン」（秋期）「医療 x 倫理・法・制度」（冬期）の受講を強く推奨します。
本授業は、GECの学術的副専攻「健康・医療」コースの科目であり、本学の「健康・医療」の系統的な教育に資するものです。
＊講義は対面で実施しますが、事情によりオンラインとなる場合があります。

授業の到達目標: 超高齢化社会を迎えるわが国において、医療・介護・福祉における現状と未来に向けての課題を理解し、医学・医療分野においてビジネスを成功させたり、経済発展させるためのカギとなる基礎知識とその実用事例を理解する能力を身に付けるとともに、病院経営や医学部経営に重要な取り組みや仕組みを説明できる能力を身に付けることを目指す。

事前・事後学習の内容: 各回のテーマに沿った事前課題をMoodleより通知します。授業後、課題に対する回答と感想を教場もしくはMoodleから提出します。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ＊ゲストが変わることや順番が変わることがあります。

第1回 6月8日5時限：「オリエンテーション・概論：本授業の狙い」朝日 透（早稲田大学理工学術院・教授）
第2回 6月15日5時限：「パーソナルウェルネスデータを用いた個人のライフスタイル評価と老化度判定に基づく新しい医療スタイル Personal Wellness Clinic
未病コンディショニングという新しい概念」 ゲスト：田中 俊一（医療法人みなとみらい・理事長）
第3回 6月22日5時限：「医薬品及び医療機器ビジネスの経営上の諸問題」 ゲスト：小島 克己（アボットジャパン合同会社 執行役員、京都府立医科大学 客員教授）
第4回 6月29日5時限：「AIとセキュリティのテクノロジーを駆使したビジネス」 ゲスト：山崎文敬（株式会社イクシス代表取締役 CEO）
第5回 7月6日5時限：「医師のキャリアにおけるMBA取得の意義と実践（仮）」ゲスト：綿貫聡（医療法人社団おうちの診療所）
第6回 7月13日5時限：「『医療機器開発の最前線：日本の課題と未来への挑戦』インキュベーターが語るイノベーションの起こし方」 ゲスト：桜井公美（プレモパートナー株式会社 創業者・代表取締役）
第7回 7月20日5時限：「わが国における病院経営の課題と未来：病院経営の何が難しいのかを明らかにし、未来を語る」ゲスト：紀平浩幸(株式会社 ケイツーブレインズ代表取締役)
ゲスト：公平 誠（医療法人慈公会 公平病院 院長）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし

参考文献: なし

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 試験はありません。

講義中に講義の内容についての問いに対する回答および感想を記すレビューシートの提出があります。(70%)
講義への参加積極度及び貢献度なども考慮して評価されます。(25%)
本講義に関係するセミナー、シンポジムへの参加も評価の対象となります。(5%)

備考・関連URL:

＊いかなる理由でも3回以上欠席する(病欠も含む)と単位は取得できません。(欠席は2回まで)
＊3次登録者は、登録後の講義には全て出席してください。(未登録の回を含み欠席は2回まで)
＊講義課題回答レビューシートが3回以上未提出の場合、単位は取得できません。(未提出は2回まで)
＊講義課題およびレビューシートは採点対象のため、出席や課題回答・レビューシート提出を満たしていても合格基準点を上回らなければ単位を取得できません。
＊学会等の「公的な活動」に伴う講義の欠席については考慮しますが、必ず事前に申し出てください。(事後報告は考慮しない)指導教員からの依頼文を求めることがあります。また、公欠は出席扱いとはなりません。
＊担当教員連絡先:朝日　透:tasahi@waseda.jp
＊稲門医会　http://tomonmed.com/

担当教員名の記載がない授業回は、すべて朝日が担当します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010362|01|9S09010362[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	医療×超高齢化社会・キャリアデザイン（早稲田大学校友会支援講座）		
担 当 教 員	朝日 透@大島 登志男		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 早稲田出身の医療人発「健康・医療γ」

授業概要: 早稲田大学出身の医師・歯科医師・看護師などの医療人や医療・医学の分野で活躍している研究者は多く存在しています。
本講座は、医療・医学の関係者であり、かつ早稲田大学のOB・OG・教員によるオムニバス形式の講義となります。
現在、そして今後、IT・IoT関連の業界、銀行・ファンド・保険の金融業界、超高齢化社会を睨んだビジネス界などで、がん・循環器系疾患・生活習慣病などの病気に対する医療の基礎知識、介護に関わる制度や法律、及び年金や医療保険など社会保障制度の知識が求められています。また、ビックデータをAIなど先端テクノロジーを使って、医療・医学の発展に寄与したり、メディカル・バイオの分野などで起業や新規事業に関わったりするためには、医療の現場や医療システムの現状、将来の社会保障制度や社会システムのあり方、医療に関わる倫理観や法知識など知らなければなりません。今後の進学・就職やビジネスチャンスに繋がるアイデアなどが浮かぶ可能性がある、医療・医学の知識を習得できる講義となります。
本授業では、「医療 x 超高齢化社会・キャリアデザイン」をテーマにします。医学部がない早稲田大学の卒業生の先輩方や教員が現場の医療を語り、何を考え医療に取り組んでいるのか、また、今後、早稲田生が医療・医学にどのように貢献できるのか、など楽しく講義を展開します。
なお、「医療 x AI・データサイエンス・IoT」（春期）、「医療 x ビジネス・経済・経営」（夏期）、「医療 x 倫理・法・制度」（冬期）の受講を強く推奨します。
本授業は、GECの学術的副専攻「健康・医療」コースの科目であり、本学の「健康・医療」の系統的な教育に資するものです。

授業の到達目標: 超高齢化社会を迎えるわが国において、「医療・介護・福祉」における現状と未来に向けての課題を理解し、がん、心疾患、認知症、生活習慣病、アレルギー疾患の増加を止めるために必要な医療・医学の基礎知識を身に付けるとともに、それらの予防施策を考える能力を身に付ける。さらに、医療・医学に従事する場合の魅力と課題などを理解し、当該分野におけるキャリアデザインを構築できる能力を身に付けることを目指す。

事前・事後学習の内容: 各回のテーマに沿った事前課題をMoodleより通知します。授業後、課題に対する回答と感想を教場もしくはMoodleから提出します。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ＊講義は対面で実施しますが、事情によりオンラインとなる場合があります。

第1回 10月5日 5時限：「オリエンテーション・概論：本授業の狙い」朝日 透（早稲田大学理工学術院・教授）
第2回 10月12日 5時限：「未定」 ゲスト：黄 一桂（株式会社 UEC Japan 代表取締役）
第3回 10月19日 5時限：「アレルギー疾患増加の原因と発症予防対策」 ゲスト：斎藤 博久（国立成育医療研究センター）
第4回 10月26日 5時限：「人類史上最大の感染症とは」ゲスト：島﨑 健一郎先生(麻布デンタルアカデミー講師部)
第5回 11月2日 5時限：「脳科学研究の進歩と神経・精神疾患」大島 登志男（早稲田大学理工学術院・教授）
第6回 11月9日 5時限：「大腸発癌及び内視鏡的大腸ポリープ切除の変遷と未来」 ゲスト：竹田 明彦(日本医科大学多摩永山病院 非常勤講師)
第7回 11月16日 5時限：「早大卒医師が生きる唯一無二の人生～医師であり患者の立場から」ゲスト：小田瞳（むさしの病院 甲状腺科医師）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし

参考文献: なし

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 試験はありません。
講義中に講義の内容についての問いに対する回答および感想を記すレビューシートの提出があります。（70%）
講義への参加積極度及び貢献度なども考慮して評価されます。（25%）
本講義に関係するセミナー、シンポジムへの参加も評価の対象となります。（5%）

備考・関連URL:　＊いかなる理由でも3回以上欠席する(病欠も含む)と単位は取得できません。(欠席は2回まで)
＊3次登録者は、登録後の講義には全て出席してください。(未登録の回を含み欠席は2回まで)
＊講義課題回答レビューシートが3回以上未提出の場合、単位は取得できません。(未提出は2回まで)
＊講義課題およびレビューシートは採点対象のため、出席や課題回答・レビューシート提出を満たしていても合格基準点を上回らなければ単位を取得できません。
＊学会等の「公的な活動」に伴う講義の欠席については考慮しますが、必ず事前に申し出てください。(事後報告は考慮しない)指導教員からの依頼文を求めることがあります。また、公欠は出席扱いとはなりません。
＊担当教員連絡先:朝日　透:tasahi@waseda.jp
＊稲門医会　http://tomonmed.com/

担当教員名の記載がない授業回は、すべて朝日が担当します。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010363|01|9S09010363[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	医療×行政・法・倫理（早稲田大学校友会支援講座）		
担 当 教 員	朝日　透@野口　晴子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　早稲田出身の医療人発「健康・医療δ」

授業概要:　早稲田大学出身の医師・歯科医師・看護師などの医療人や医療・医学の分野で活躍している研究者は多く存在しています。
本講座は、医療・医学の関係者であり、かつ早稲田大学のOB・OG・教員によるオムニバス形式の講義となります。
現在、そして今後、IT・IoT関連の業界、銀行・ファンド・保険の金融業界、超高齢化社会を睨んだビジネス界などで、がん・循環器系疾患・生活習慣病などの病気に対する医療の基礎知識、介護に関わる制度や法律、及び年金や医療保険など社会保障制度の知識が求められています。また、ビックデータをAIなど先端テクノロジーを使って、医療・医学の発展に寄与したり、メディカル・バイオの分野などで起業や新規事業に関わったりするためには、医療の現場や医療システムの現状、将来の社会保障制度や社会システムのあり方、医療に関わる倫理観や法知識など知らなければなりません。今後の進学・就職やビジネスチャンスに繋がるアイデアなどが浮かぶ可能性がある、ちょっと知って得する医療・医学の知識を習得できる講義となります。本授業では、「医療 x 行政・法・倫理」をテーマにします。医学部がない早稲田大学の卒業生の先輩方や教員が現場の医療を語り、何を考え医療に取り組んでいるのか、また、今後、早稲田生が医療・医学にどのように貢献できるのか、など楽しく講義を展開します。
なお、「医療 x AI・データサイエンス・IoT」（春期）、「医療 x ビジネス・経済・経営」（夏期）、「医療 x 超高齢化社会・キャリアデザイン」（秋期）の受講を強く推奨します。
本授業は、GECの学術的副専攻「健康・医療」コースの科目であり、本学の「健康・医療」の系統的な教育に資するものです。
＊講義は対面で実施しますが、事情によりオンラインとなる場合があります。

授業の到達目標:　超高齢化社会を迎えるわが国において、「医療・介護・福祉」における現状と未来に向けての課題を理解し、それら課題を解決するために必要な制度、法律などの規則、および政策について議論できる能力を身に付ける。さらに、先端技術が医療や医学の現場に導入されることでますます重要となる生命倫理や医療倫理の基礎知識を身に付け、超高齢化社会において考えておくべき事例など構想できる能力を養成することを目指します。

事前・事後学習の内容:　各回のテーマに沿った事前課題をMoodleより通知します。授業後、課題に対する回答と感想を教場もしくはMoodleから提出します。

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　＊講義は対面で実施しますが、事情によりオンラインとなる場合があります。

第1回 11月23日　5限:「オリエンテーション・概論:本授業の狙い」朝日　透（早稲田大学理工学術院・教授）
第2回 11月30日　5限:「持続可能な医療・介護政策をめざして　ービッグデータに因果推論を応用した政策評価の重要性についてー」野口 晴子（政治経済学術院・教授）
第3回 12月7日　5限:「医療の質と安全の確保」ゲスト:荒神　裕之（山梨大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部・特任教授）
第4回 12月14日　5限:「国際保健」ゲスト:大礒　義一郎（浜松医科大学・法学教授／稲門医学会・副会長）
第5回 12月21日　5限:「医療と法」ゲスト:町田　宗仁（厚生労働省保険局医療課　医療指導監査室長 ）
第6回 1月18日　5限:「医療倫理・生命倫理」ゲスト:杉原　正子（まさこ心のクリニック自由が丘　院長）
第7回 1月25日　5限:「政策シンクタンクからの医療への貢献」ゲスト:栗田　駿一郎 （日本医療政策機構）

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　なし

参考文献:　なし

成績評価フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　試験はありません。
講義中に講義の内容についての問いに対する回答および感想を記すレビューシートの提出があります。（70%）
講義への参加積極度及び貢献度なども考慮して評価されます。（25%）
本講義に関係するセミナー、シンポジムへの参加も評価の対象となります。（5%）

備考・関連URL:　＊いかなる理由でも3回以上欠席する(病欠も含む)と単位は取得できません。(欠席は2回まで)
＊3次登録者は、登録後の講義には全て出席してください。(未登録の回を含み欠席は2回まで)
＊講義課題回答レビューシートが3回以上未提出の場合、単位は取得できません。(未提出は2回まで)
＊講義課題およびレビューシートは採点対象のため、出席や課題回答・レビューシート提出を満たしていても合格基準点を上回らなければ単位を取得できません。
＊学会等の「公的な活動」に伴う講義の欠席については考慮しますが、必ず事前に申し出てください。(事後報告は考慮しない)指導教員からの依頼文を求めることがあります。また、公欠は出席扱いとはなりません。
＊担当教員連絡先:朝日　透:tasahi@waseda.jp
＊稲門医会　http://tomonmed.com/

担当教員名の記載がない授業回は、すべて朝日が担当します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 2 非主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010364|01|9S09010364[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	簿記・会計		
担 当 教 員	松尾 圭祐		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（経営・経済・金融）	配 当 年 次	3年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本講義では、個別財務諸表の作成に関して基本となる論点について学習する（日商簿記検定2級程度の水準から必要に応じてより応用的な論点にも取り組む）。これにより、今後、より発展的な財務会計・簿記の学習を進めることができる基礎的な能力を修得することを目指す。

簿記の学習においては、会計処理の背後にある基本的な考え方の理解と問題演習による反復的なトレーニングが重要である。したがって、本講義では、具体的な会計処理のプロセスだけでなく関連する会計基準等の結論の背景にも重点を置いて講義を行った後、設例や演習問題の復習を通じて知識の定着を図ることを基本的な方針とする。

本講義の履修にあたっては、日商簿記検定3級程度の知識を有していることが望ましい。なお、予習や復習を積極的に行うことで、公認会計士試験等の国家試験における簿記論の学習を行っていない学生や、簿記論に対して苦手意識のある学生であっても履修可能である。

授業の到達目標: 本講義の到達目標は、個別財務諸表の作成方法に関する基本的な知識を修得することである。

事前・事後学習の内容: 毎回の講義終了後、講義内容を復習すること（その際に、関連する会計基準等を実際に確認しながら進めることが望ましい）。なお、翌週の講義において小テストを行い復習の成果について確認する。また、事前の学習にあたっては、Moodleに掲載される事前講義資料を通読し、分からない用語等があれば意味を調べておくことが望ましい。各回の予習および復習には90分から120分程度かかることが想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 イントロダクション／簿記一巡の手続き
イントロダクションの後，簿記一巡の手続きを解説する。
第2回 現金預金／商品売買(1)
現金預金および商品売買の会計処理を解説する。
第3回 商品売買(2)
商品売買および棚卸資産の会計処理を解説する。
第4回 商品売買(3)
棚卸資産の会計処理を解説する。
第5回 固定資産(1)
有形固定資産の会計処理を解説する。
第6回 固定資産(2)
有形固定資産の会計処理を解説する。
第7回 固定資産(3)
有形固定資産の会計処理を解説する。
第8回 固定資産(4)
無形固定資産および投資その他の資産の会計処理を解説する。
第9回 金銭債権債務
金銭債務および金銭債権の会計処理を解説する。
第10回 引当金(1)
金銭債権および引当金の会計処理を解説する。
第11回 引当金(2)／有価証券(1)
引当金および有価証券の会計処理を解説する。

第12回　有価証券(2)
有価証券の会計処理を解説する。
第13回　有価証券(3)
有価証券の会計処理を解説する。
第14回　教場試験
教場試験とその解説

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　Moodle上で講義資料を配付する。

参考文献:　企業会計基準委員会（ASBJ）から公表されている企業会計基準検索システム「ASSET-ASBJ」,
https://www.asb-j.jp/jp/accounting_standards_system.html
その他，必要に応じて講義中に適宜紹介を行う。

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　60　教場試験（第14回の授業時間中に試験を実施し、講義全体を通じた理解度の確認を行う。）

平常点評価:　40　毎回の講義において，前回の授業内容についての小テストを実施する。これにアサインメント（2回実施予定）および受講態度等も加味し、平常点評価を行う。

備考・関連URL:　本講義「基礎簿記」と並行して、春学期に「簿記Ⅰ」あるいは「簿記Ⅱ」の並行履修はできない。また、「簿記Ⅰ」あるいは「簿記Ⅱ」履修後は、基礎簿記を履修することはできない。
簿記は継続的な学習の積み重ねが重要であるため、毎回出席のこと。なお、制度変更等の関係で講義の内容が変更される場合や、授業の進捗状況によっては講義の順序が前後する場合がある。
また、講義資料の閲覧や小テストの受験のため、講義にPC等のMoodleにアクセスできるデバイスを持参すること。
なお、期末教場試験を含む全14回の授業のうち，少なくとも10回の出席が単位修得のために必要となることに留意すること。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010365|01|9S09010365[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	囲碁入門講座		
担 当 教 員	小長井　克@岡田　俊之輔		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　※本講座は公益財団法人日本棋院の協力に基づいて開設されていて、囲碁をまったく知らない学生が対象です。
囲碁は日本の伝統文化であり、国際的にも広く普及しているゲームです。
囲碁の実戦対局を通して、論理的思考力、コミュニケーション能力、大局観、バランス感覚を養い、総合的な実践力の向上を図ります。

授業の到達目標:　14回の授業で、日本の伝統文化である囲碁の世界や歴史を学ぶとともに、19路盤で対局ができるようになることを目標とします。

事前・事後学習の内容:　宿題を全部で5回出します。（第2回、第4回、第8回、第10回、第12回、の授業後）
1回の宿題には問題が10問あり、かかる時間は、15分から30分程度です。

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　第1回：小長井・岡田
授業の進め方、囲碁の紹介（道具と基本ルールの説明）、日本棋院の紹介

第2回：小長井
囲碁の世界について
ルールと基本技術の解説、6路盤模範碁の解説（6路盤）
6路盤での対局、宿題について

第3回：小長井
宿題の解説、9路盤模範碁①の解説、簡単な囲碁用語解説
ルールと基本技術の解説、対局マナーについて

第4回：小長井
囲碁の歴史、9路盤模範碁②の解説、基本技術の解説、9路盤での対局

第5回　日本棋院見学(市ヶ谷)：小長井
囲碁殿堂資料館、幽玄の間見学

第6回　日本棋院見学(市ヶ谷)：小長井
9路盤模範碁③の解説、演習問題

第7回：小長井
宿題の解説、13路盤模範碁の解説
布石の考え方、囲碁の格言

第8回：小長井
13路盤模範碁の解説、練習問題

第9回：小長井
宿題の解説、13路盤での対局

第10回：小長井
19路盤模範碁の解説、13路盤での対局、基本技術の解説

第11回：小長井
宿題の解説、学生の棋譜解説、13路盤での対局

第12回：小長井
13路盤での対局
基本技術の解説、置き碁について

第13回：小長井
宿題の解説、学生の棋譜解説、19路盤による模範碁の解説

第14回：小長井

19路盤での対局、演習問題、まとめ

言語区分:	0	日本語	Japanese
教科書:	「実践囲碁総合演習」(日本棋院刊1,000円＋税)		
参考文献:	「石倉昇の囲碁入門」(光文社新書1,300円＋税)		
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)		

平常点評価:	60	授業の出席
その他:	40	授業への参加態度、宿題

備考・関連URL: 受講する際の注意
本講座は囲碁の経験がまったくない学生が対象です。

※本講座は、以下の名称で設置されていたものと同様です。過年度に以下科目の単位を修得済の方は登録できません。
～2019年度まで 「囲碁で学ぶ数理科学入門」

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 2 非主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010366|01|9S09010366[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	カーボンニュートラルと社会（学部生用）		
担 当 教 員	有村 俊秀@近藤 康之@大塚 直@下川 哲@鷲津 明由@マレン ジョエル ベーカー		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 脱炭素社会の実現のためには、技術革新に加えて、社会そのものが変わっていく必要があり、社会科学の役割も大きい。本講義では、経済学、法学、社会学、経営学等の社会科学の視点から、脱炭素社会をどう考えることができるか、どう貢献できるかを紹介する。温暖化の国際交渉、世代間の公平性、カーボンプライシング、環境法等、様々なトピックを紹介する。

授業の到達目標: 気候変動に関する国際的動向、カーボンニュートラルを達成する技術の開発と社会実装、国内外のエネルギー事情など、カーボンニュートラルに直結する知識や情報を修得し、「カーボンニュートラルリーダー」副専攻を履修していくための環境経済や環境法令、資源循環など、カーボンニュートラルの根底にある「法律」「経済」「社会科学」「理工学」等の環境全般の基礎知識理解を到達目標とする。

事前・事後学習の内容: 報告書や書籍を使った1時間程度の予習と、講義内容に対する1時間程度の復習を要する。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回： 有村俊秀「脱炭素とカーボンプライシングの役割：国内外での普及」

気候変動の脱炭素のためにカーボンプライシングの役割に注目が集まっている。本講義では、カーボンプライシングの仕組み、役割を経済学的に紹介する。そして、国内外でのカーボンプライシングの導入状況について紹介する。

第2回：田村堅太郎「グローバル気候変動ガバナンスの発展と挑戦」

過去30年間におけるグローバル気候変動ガバナンスの発展を、①世界目標や行動規範の変遷、②非国家主体の役割増大、③ガバナンスの多中心化の観点から議論した後、今後の課題・方向性について論じる。日本と世界における「食」を取り巻く社会的問題を紹介し、カーボンニュートラル社会における持続可能な「食」と「農」の重要性、および世界的な動向と課題について解説する。

第3回：下川哲「カーボンニュートラル社会における持続可能な食と農」

日本と世界における「食」を取り巻く社会的問題を紹介し、カーボンニュートラル社会における持続可能な「食」と「農」の重要性、および世界的な動向と課題について解説する。

第4回：近藤 康之「カーボンニュートラルと循環経済への移行」

カーボンニュートラルの達成に向けて新しい技術の導入を進めると、従来は必要としていなかった資源の消費が増大し、持続可能性を達成できない恐れがある。本講義では資源利用の実態とその効率化を含む循環経済への移行の必要性について紹介する。

第5回：鷲津明由「SDGs時代の産業連関分析」

産業連関表によれば，ある部門の生産物が別の部門の投入物となるという部門間相互依存関係を俯瞰的に記述でき，技術変化の経済全体への波及プロセスを分析できる。環境問題は産業連関分析の重要な応用分野である。本講義では産業連関分析について解説するとともに，SDGs達成のためのエビデンスベースドな政策立案のために産業連関分析を活用していくことを提案する。

第6回：大塚直「わが国の気候変動対策法制と脱炭素社会」

2020年の首相の脱炭素化宣言以来、わが国も脱炭素社会に向けた法政策の新たな進展が始まった。どのような法政策が実施されつつあり、その実現にはどのような困難があるかを話していきたいと思う。

第7回：Joel Malen「脱炭素化：企業レベルの視点から」

世界的な気候変動問題に対する解決策は、最終的には企業によって実施される必要がある。本講義では、ビジネスの観点から気候変動に関する環境的な持続可能性が何を意味するか、気候変動問題の範囲およびカーボンニュートラルへの移行がビジネス活動と戦略にどう影響するか、それぞれ紹介する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義内で指定、あるいは配布する。

参考文献:

「カーボンニュートラルと社会」鷲津　明由 、赤尾　健一 、有村　俊秀 編著（2025） 晃洋書房
https://www.koyoshobo.co.jp/book/b658636.html

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生　レポート：80%、平常点20%
学部生　　レポート：70%、平常点30%

レポート: 講義毎に課すレポートを評価する。平常点: 視聴状況ならびに質疑応答の内容を評価する。

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 2 非主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010367|01|9S09010367[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術・研究公正概論（人文・社会科学系）（学部生用） O1		
担 当 教 員	吉澤 剛		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	3年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 責任ある研究活動（RCR）として、単に研究不正を防止・予防するのではなく、学術的・社会的に公正な研究活動を推進していくための自主的で前向きな取り組みを紹介しながら、受講生それぞれの関心や理解の向上を促します。はじめに、科学や研究、倫理や責任といった基本的な概念について検討し、自然科学と人文・社会科学の違い、研究者と研究対象との関係、研究組織や研究評価における実践的な課題について掘り下げます。続いてAIや当事者研究、デジタル人文学などの現代的なテーマにおける研究公正のあり方を考えます。そして、責任ある研究・イノベーション（RRI）と言われるような多様な人々や社会、未来に開かれた研究の意義や課題を展望し、現在の学問や研究のあり方を改めて問い直します。本授業は、全回オンデマンド授業として実施します。

授業の到達目標: 人文・社会科学の研究に携わる学部生・大学院生が、責任ある研究活動（RCR）とは何かを理解し、現代の研究環境や社会を批判的に捉えながら、これからの研究者や社会人に求められる自分なりの問いや考え方を深めます。学術・研究公正とは、研究や公正とは何かを常に振り返り、自分のなかの《正しさ》を不断に問い直していく反省的な姿勢であることを体得します。

事前・事後学習の内容: 履修前に指定した教科書を事前に読み込むこと（3時間）
各回の講義内容について十分な復習を行うこと（1時間×7回=7時間）
eL CoRE （大学院生用）を修了すること（2時間）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：研究とは何か、公正とは何か

科学は確立した知的業績ではなく、科学として作られつつある途上のプロセスです。そのプロセスを研究と呼びますが、自然科学における研究は人文・社会科学と何が異なるのでしょうか？科学と疑似科学の境界線はどこにあるのでしょうか？なぜ研究において倫理や公正さが必要なのでしょうか？そもそも倫理や公正とは何でしょうか？研究公正を学ぶにあたって、そもそも科学や研究、倫理、公正とは何かという根源的な問いについて掘り下げます。

第2回：研究者としての倫理と責任

研究者として、捏造・改ざん・盗用などの研究不正をしないことにとどまらず、利益相反・責務相反をどのようにマネジメントするか、疑わしい研究行為や有害な研究行為を避けるために必要な考えや取り組みについて学びます。こうした適切な研究行為や責任ある研究活動において、研究者の倫理と責任はどのように折り合えるのでしょうか？研究者としての責任と人としての責任についても整理します。

第3回：組織やコミュニティにおける研究実践

今や研究が個人で完結することはほとんどなく、多くの場合は大学や研究機関に所属し、学術出版社や助成機関、政府の支援を受けてチームやグループで進めなければなりません。研究の組織化と科学の巨大化は、研究者個人の規範と頻繁に衝突するようになりますが、個人と組織との衝突とはいったい何でしょうか？それを乗り越えるための新たな個人的規範とはどのようなものでしょうか？研究室における研究データや個人情報の管理、研究指導やハラスメントなどの実務的な課題とあわせて検討します。

第4回：人文学の危機とAI時代の倫理

生成AIの登場は「研究は人が行うものである」というこれまでの常識を覆しました。断りなく生成AIを用いて研究・評価・出版を行うことは明らかに公正さを欠きますが、それでは、どの程度までAIを活用してよいのでしょうか？活用すべきなのでしょうか？AIという技術そのものに内在する倫理的な問題も山積しているなかで、研究者のみならず、私たちはどのようにAIと付き合っていけばよいのでしょうか？研究倫理はAIによってどのように変わりうるのでしょうか？人文・社会科学における評価や出版のあり方が厳しく問われる現代にあって、どのように科学観と倫理観をアップデートすればよいかについて挑戦します。

第5回：研究対象への公正さ

人文・社会科学は人間や社会を研究対象としている以上、どうしても研究者と研究対象との相関が発生してしまうことは避けられません。研究者が自らの倫理観で研究を行うだけでは十分ではなく、研究の結果や成果について社会的に説明責任や応答責任も発生します。当事者研究や被災地調査において留意すべきことは何でしょうか？さらには考古学など、人以外の対象への干渉・介入においてどのような配慮が求められるでしょうか？また、研究対象を量的データ化したときに「嘘」をつかないための統計のあり方についても、事例を通じて学びます。

第6回：社会に開かれた研究

これまでの科学は職業研究者が担い、英語話者の西洋白人男性が支配的な属性でした。しかし、学際的でオープンな活動による科学の進展とその意義が認められるようになると、これを社会的に促進する取り組みが広がり始めました。また、それに対する反発も見られるようになり、研究をより開かれたものにすることの意義が改めて問われるようになっています。多様性や公平性、包摂性に配慮した研究活動は逆差別になるのでしょうか？市民社会科学やデジタル人文学、オープンサイエンス、企業における研究は学術研究のあり方を脅かすのでしょうか？そもそも《開かれた》研究とは何でしょうか？ここでは留意点や課題とともに社会に開かれた研究について考えます。

第7回：これからの学問と社会のために

現代では、科学が社会や世界に与える影響とともに、科学に投資される資源も非常に大きくなっています。この反面、人文学の危機と言われるように、すぐには経済的・社会的価値を生まない学問に対する社会的な批判も少なくありません。学問は知的好奇心だけで駆動されることが善しとされないとすると、何のために学問をするのでしょうか？学問はどのような方向に向かっていけばいいのでしょうか？本講義の最終回として、新しい科学技術の倫理的・法的・社会的影響（ELSI）や責任ある研究・イノベーション（RRI）の考え方や実践を紹介しつつ、学問や社会の未来のあり方を予見することで、現在の学術・研究公正のあり方そのものを問い直します。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会、『科学の健全な発展のために 第2版ー誠実な科学者の心得ー』、丸善、2025年。
https://www.jsps.go.jp/file/storage/j-kousei/data/rinri.pdf

参考文献：　宮本常一・安渓遊地『調査されるという迷惑―フィールドに出る前に読んでおく本』増補版、みずのわ出版、2024年。
https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/permalink/81SOKEI_WUNI/7jeksk/alma991027352912404032

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50　各回授業の最後に講義内容に関する数問の選択肢式のテストを行います。

レポート：　30　小論文（大学院生：2テーマで計1600字程度、学部生：1テーマで800字程度）

その他：　20　日本学術振興会提供の研究倫理eラーニングコース「eL CoRE」の「大学院生向け」修了証の提出

備考・関連URL：

1. 重要な連絡はWaseda Moodleを通じて行うので、よく確認してください。
2. 講義期間の延長、および再受講等は一切行いません。
3. 個人的な事情による問合せに対して、加点などの特別対応は行いません。
4. PCのトラブルや操作ミスを理由とした、受講期間の延長や確認テストの再受験は行いません。
5. 確認テストを受験する前に、すべての講義動画の視聴を完了する必要があります。
6. 講義に関するお問合せは全て「学術・研究公正概論」事務局のメールアドレス（researchethics2@list.waseda.jp）宛にお送りください。担当教員への直接連絡はしないでください。
　※システムに関するお問合せはITヘルプデスク宛にお送りください。
7. 動作環境等を各自確認の上、受講してください。
http://www.waseda.jp/navi/services/system/sys_requirements.html

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 2 非主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010367|02|9S09010367[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術・研究公正概論（人文・社会科学系）（学部生用） 02		
担 当 教 員	吉澤 剛		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	3年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 責任ある研究活動（RCR）として、単に研究不正を防止・予防するのではなく、学術的・社会的に公正な研究活動を推進していくための自主的で前向きな取り組みを紹介しながら、受講生それぞれの関心や理解の向上を促します。はじめに、科学や研究、倫理や責任といった基本的な概念について検討し、自然科学と人文・社会科学の違い、研究者と研究対象との関係、研究組織や研究評価における実践的な課題について掘り下げます。続いてAIや当事者研究、デジタル人文学などの現代的なテーマにおける研究公正のあり方を考えます。そして、責任ある研究・イノベーション（RRI）と言われるような多様な人々や社会、未来に開かれた研究の意義や課題を展望し、現在の学問や研究のあり方を改めて問い直します。本授業は、全回オンデマンド授業として実施します。

授業の到達目標: 人文・社会科学の研究に携わる学部生・大学院生が、責任ある研究活動（RCR）とは何かを理解し、現代の研究環境や社会を批判的に捉えながら、これからの研究者や社会人に求められる自分なりの問いや考え方を深めます。学術・研究公正とは、研究や公正とは何かを常に振り返り、自分のなかの《正しさ》を不断に問い直していく反省的な姿勢であることを体得します。

事前・事後学習の内容: 履修前に指定した教科書を事前に読み込むこと（3時間）
各回の講義内容について十分な復習を行うこと（1時間×7回=7時間）
eL CoRE （大学院生用）を修了すること（2時間）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：研究とは何か、公正とは何か

科学は確立した知的業績ではなく、科学として作られつつある途上のプロセスです。そのプロセスを研究と呼びますが、自然科学における研究は人文・社会科学と何が異なるのでしょうか？科学と疑似科学の境界線はどこにあるのでしょうか？なぜ研究において倫理や公正さが必要なのでしょうか？そもそも倫理や公正とは何でしょうか？研究公正を学ぶにあたって、そもそも科学や研究、倫理、公正とは何かという根源的な問いについて掘り下げます。

第2回：研究者としての倫理と責任

研究者として、捏造・改ざん・盗用などの研究不正をしないことにとどまらず、利益相反・責務相反をどのようにマネジメントするか、疑わしい研究行為や有害な研究行為を避けるために必要な考えや取り組みについて学びます。こうした適切な研究行為や責任ある研究活動において、研究者の倫理と責任はどのように折り合えるのでしょうか？研究者としての責任と人としての責任についても整理します。

第3回：組織やコミュニティにおける研究実践

今や研究が個人で完結することはほとんどなく、多くの場合は大学や研究機関に所属し、学術出版社や助成機関、政府の支援を受けてチームやグループで進めなければなりません。研究の組織化と科学の巨大化は、研究者個人の規範と頻繁に衝突するようになりますが、個人と組織との衝突とはいったい何でしょうか？それを乗り越えるための新たな個人的規範とはどのようなものでしょうか？研究室における研究データや個人情報の管理、研究指導やハラスメントなどの実務的な課題とあわせて検討します。

第4回：人文学の危機とAI時代の倫理

生成AIの登場は「研究は人が行うものである」というこれまでの常識を覆しました。断りなく生成AIを用いて研究・評価・出版を行うことは明らかに公正さを欠きますが、それでは、どの程度までAIを活用してよいのでしょうか？活用すべきなのでしょうか？AIという技術そのものに内在する倫理的な問題も山積しているなかで、研究者のみならず、私たちはどのようにAIと付き合っていけばよいのでしょうか？研究倫理はAIによってどのように変わりうるのでしょうか？人文・社会科学における評価や出版のあり方が厳しく問われる現代にあって、どのように科学観と倫理観をアップデートすればよいかについて挑戦します。

第5回：研究対象への公正さ

人文・社会科学は人間や社会を研究対象としている以上、どうしても研究者と研究対象との相関が発生してしまうことは避けられません。研究者が自らの倫理観で研究を行うだけでは十分ではなく、研究の結果や成果について社会的に説明責任や応答責任も発生します。当事者研究や被災地調査において留意すべきことは何でしょうか？さらには考古学など、人以外の対象への干渉・介入においてどのような配慮が求められるでしょうか？また、研究対象を量的データ化したときに「嘘」をつかないための統計のあり方についても、事例を通じて学びます。

第6回：社会に開かれた研究

これまでの科学は職業研究者が担い、英語話者の西洋白人男性が支配的な属性でした。しかし、学際的でオープンな活動による科学の進展とその意義が認められるようになると、これを社会的に促進する取り組みが広がり始めました。また、それに対する反発も見られるようになり、研究をより開かれたものにすることの意義が改めて問われるようになっています。多様性や公平性、包摂性に配慮した研究活動は逆差別になるのでしょうか？市民社会科学やデジタル人文学、オープンサイエンス、企業における研究は学術研究のあり方を脅かすのでしょうか？そもそも《開かれた》研究とは何でしょうか？ここでは留意点や課題とともに社会に開かれた研究について考えます。

第7回：これからの学問と社会のために

現代では、科学が社会や世界に与える影響とともに、科学に投資される資源も非常に大きくなっています。この反面、人文学の危機と言われるように、すぐには経済的・社会的価値を生まない学問に対する社会的な批判も少なくありません。学問は知的好奇心だけで駆動されることが善しとされないとすると、何のために学問をするのでしょうか？学問はどのような方向に向かっていけばいいのでしょうか？本講義の最終回として、新しい科学技術の倫理的・法的・社会的影響（ELSI）や責任ある研究・イノベーション（RRI）の考え方や実践を紹介しつつ、学問や社会の未来のあり方を予見することで、現在の学術・研究公正のあり方そのものを問い直します。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会、『科学の健全な発展のために 第2版ー誠実な科学者の心得ー』、丸善、2025年。
https://www.jsps.go.jp/file/storage/j-kousei/data/rinri.pdf

参考文献：　宮本常一・安渓遊地『調査されるという迷惑―フィールドに出る前に読んでおく本』増補版、みずのわ出版、2024年。
https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/permalink/81SOKEI_WUNI/7jeksk/alma991027352912404032

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50　各回授業の最後に講義内容に関する数問の選択肢式のテストを行います。

レポート：　30　小論文（大学院生：2テーマで計1600字程度、学部生：1テーマで800字程度）

その他：　20　日本学術振興会提供の研究倫理eラーニングコース「eL CoRE」の「大学院生向け」修了証の提出

備考・関連URL：

1. 重要な連絡はWaseda Moodleを通じて行うので、よく確認してください。
2. 講義期間の延長、および再受講等は一切行いません。
3. 個人的な事情による問合せに対して、加点などの特別対応は行いません。
4. PCのトラブルや操作ミスを理由とした、受講期間の延長や確認テストの再受験は行いません。
5. 確認テストを受験する前に、すべての講義動画の視聴を完了する必要があります。
6. 講義に関するお問合せは全て「学術・研究公正概論」事務局のメールアドレス（researchethics2@list.waseda.jp）宛にお送りください。担当教員への直接連絡はしないでください。
   ※システムに関するお問合せはITヘルプデスク宛にお送りください。
7. 動作環境等を各自確認の上、受講してください。
http://www.waseda.jp/navi/services/system/sys_requirements.html

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010370|01|9S09010370[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	協同組合論		
担 当 教 員	柏 雅之@呉 鳶@尾高 恵美@重頭 ユカリ		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 農業協同組合、生活協同組合、漁業協同組合、森林協同組合、そして海外の協同組合を中心に

授業概要: 地域に根差す協同組合への関心は，近年さらに大きなものとなっている。また，現代社会において公的セクターでも私的セクターでもない協同組合の役割は，両セクターを補完するという大きな意義をもつ。
本講座では，農業協同組合、生協（消費生活協同組合）、漁業協同組合、森林組合、さらに海外の協同組合について主に講義していく。この中でも特に日本の農業協同組合は世界的にみて非常に特徴的であり，これを正確に理解することは日本の農業のみならず，日本社会，地域，環境，さらには国際経済を考えることにもつながっていく。本講義では、こうした協同組合の仕組み，事業，歴史等を通じて協同組合組織および運動の実態・実情について理解し，社会において協同組合が果たすべき役割と可能性について考えていく。さらに，サードセクターとしての協同組合が、近年どのような新たな役割を切り開きつつあり、また期待されているかについて，日本と欧州との比較を通して学んでいく。
講義を担当するのは，各々の分野の専門家である重頭ユカリ（農林中金総合研究所）、尾高恵美（同）、呉鳶（愛国学園大学）柏雅之（人間科学学術院）である。
なお、この講座は京葉ガスエナジーソリューション株式会社からの寄付で開講している提携講座である。

授業の到達目標: 協同組合は多様な形態で社会と関わっているが、まずそこに共通する基本的な考え方、仕組みと役割について広く理解することができる。そのうえで、農業協同組合、消費生活協同組合、漁業協同組合、森林協同組合、また海外の協同組合、そして協同組合の国際比較について理解できるようになる。またそれぞれの成立ち、展開、現在の活動の実態、課題、諸産業や地域との関連を理解できるようになる。
このように協同組合を体系的に学ぶことで、逆に公的セクターとしての行政と私的セクターとしての企業の役割りと行動原理とを再確認することができる。
近年、政治やマスコミ等の場において農政改革の議論がなされているが、JA（農協）についての誤解があるようである。こうした点も踏まえて、本講義をとおして協同組合と農政改革に関する正確な議論ができるように期待している。

事前・事後学習の内容: 講義で使用する専門用語や概念については可能な限り丁寧に説明する。どの講義も同じであるが、個人の事後学習の中で、しっかり復習して翌週以降の講義に備えてほしい。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回（尾高）: 現代社会における協同組合、そして農協【対面】

現代社会における協同組合の意義、そして農協のすがたについて概観する。

第2回（尾高）: 農協とは【対面】

わが国の農協では、農業関連の事業に加え、生活を支える信用、共済、生活購買事業も営んでいる。現在の事業・活動や組織運営について、地域の農協がその機能を強化するために出資して設立した連合組織も含めて説明する。そののち、農協の歴史について説明する。

第3回（尾高）: 農業振興に向けた農協の組織と事業【対面】

農業者の高齢化により農業構造は大きな変革期にある。そのようななかで農協は地域農業の振興にどのように取り組んでいるか、組織と、営農指導、販売、購買や農業融資などの事業の面から説明する。

第4回（尾高）: 地域活性化に向けた農協の組織と事業・活動【対面】

人口減少の加速により、地域経済の低迷が懸念されている。そのような中で農協が地域社会の活性化にどのように取り組んでいるか、組織と事業・活動の面から説明する。

第5回（呉）: 漁業協同組合【対面】

統計データを通じて日本国内の水産業の動向と漁村の変容を理解し、漁業の制度改革、漁村の協同、漁業協同組合の歴史的展開と現状、今日の漁業協同組合の特徴と役割について説明する。

第6回（呉）: 漁村の振興における漁業協同組合の役割り【対面】

漁業協同組合に対する理解を深めていくために、事例学習を通じて、環境保全・漁村振興における協同組合間の連携と役割分担を説明する。

第7回（呉）: 森林資源・山村と協同組合【対面】

森林所有者を組合員とする森林組合の特徴・役割・動向、そして森林組合の構造変化、山村の資源管理のあり方を説明する。

第8回（呉）：森林の保全における森林組合の役割り【対面】

森林組合に対する理解を深めていくために、事例学習を通じて、森林資源管理と山村振興における森林組合の役割と課題を説明する。

第9回（重頭）：世界経済における協同組合のポジショニング【対面】

協同組合が世界各国に存在していることを概観。世界の経済においてどのような位置を占めているか、雇用の創出にどのような役割を果たしているか、またSDGsとの関係について説明する。

第10回（重頭）：世界の農協【対面】

農協のなかには、特定地域の特定産物だけを対象にした小規模ものもあれば、国際的に展開する大規模なものもある。海外、特にヨーロッパを例にとって、農協が他組織との競合のなかでどのような事業戦略をとっているかを説明する。

第11回（重頭）：世界の協同組合銀行【対面】

協同組合銀行のなかには、世界的に見ても非常に規模の大きいものも存在する。協同組合銀行の事業モデルの説明に加え、地域経済においてどのような役割を果たしているか、また、近年話題になっているサステナブル関連の取組みについても紹介する。

第12回（重頭）：様々な課題に対応する協同組合【対面】

新たに発生する社会課題（例えばギグワークの増加等）に対して、協同組合はどのように対応できるか。国内外の事例を含めて説明する。

第13回（柏）：現代の社会・経済と協同組合【対面】

新自由主義とグローバル資本主義の展開とその限界、そして欧州のソーシャル・エコノミーと社会的協同組合の意義と課題について考えていく。

第14回（柏）：到達度の確認【対面】

全体を振り返りつつ、到達度の確認を行う。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に指定しない。

参考文献：　柏 雅之編著『地域再生の論理と主体形成ー農業・農村の新たな挑戦』（早稲田大学出版部、2019年）.

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　70　理解・考察力、文章構成力

平常点評価：　30　出席点等

備考・関連URL：　講義は基礎から行うので履修に際して事前の知識は問わない。毎回出席をとり、平常点として評価する。
講義資料は毎回Moodleで配信する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010371|01|9S09010371[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	持続可能な社会と市民の役割 1		
担 当 教 員	高野 孝子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： この授業は1と2（春及び夏のクオーター）を同時に履修することが推奨される。 気候変動、経済的社会的格差、増え続ける難民、飢餓、とめどないマイクロプラスチックや廃棄物、世界に広がる感染症、現在進行形の侵略戦争や国家による暴力。 これらは全て人間の活動に起因し、同時に人間によって改善する可能性を持っている。 地球上の誰もが、そして多様な生命が、未来にわたって穏やかに暮らしていくために、今、自分は何をしたらいいか、どう生きるか。それを国際的な視野において多角的に考え、行動へのスタートラインに立つのがこの科目の目的だ。
幅広いテーマのため、専門的な知識や情報よりは、現状や問題の本質をクリティカルに考察する力をつけることを意図する。何人かのゲストスピーカーの話から、持続可能な社会のためにどんなアプローチがあるのか視野を広げる。後半はグループでテーマを絞り、自分たちで深めていく。
春クオーターでは、まず「持続可能な社会」に関する議論を整理し、概念と現状を外観する。その上で、個人と地球的課題のつながりについて、幾つかの切り口から理解を深め、社会のありようや自分の行動について考えていく。 授業は一方的な講義ではなく参加型で、学生が主体的に学ぶ姿勢を重視する。小グループでのディスカッション、クラス全体の討議、各自またはグループでの調査と発表などがある。ゲスト講義も予定している。授業外の時間も使って協働する意思があり、自分で変化を生みだす可能性や異なる視点の獲得に関心がある人たちの受講が期待される。 授業計画は、履修生の理解度や関心、希望によって変更していく。

授業の到達目標： 1）持続可能な社会についての議論を把握し概念を説明できる。
2）世界の課題と自分との関わりについて、いくつか上げることができる。
3）多様性に立脚し多角的に物事を捉えることができる。
4）グループワークの可能性とチャレンジを今後に生かすことができる。

事前・事後学習の内容： 春Qでの準備学習は90分程度必要なことがある。事前には、課題についての調査などが求められ、授業後は毎回、レスポンスをmoodleから提出する。

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーションと概念導入
授業の進めかたのオリエンテーションと枠組みの提示。持続可能性という概念の導入

第2回 持続可能な社会の概念の理解
1970年代からの国際社会の議論の整理。地球が閉鎖系である環境資源的な側面と、経済格差や貧困など社会経済的側面が背景にあることの導入。MDGsとSDGsについて。

第3回 地球の現状
気候変動、エネルギー、生物多様性に関して。国家間、国家内での格差と貧困について。格差はなぜ起こるのか。

第4回 ゲスト（予定）
在日コリアン3世のゲストの経験や状況を共有してもらい、差別や偏見の無い社会のあり方について共に考える。

第5回 個人の行動と地球課題
食と水を取り上げ、自分の日常と引きつける。エコロジカルフットプリントやバーチャルウォーターの概念を知る。プラスチックと廃棄物の問題。合理的選択理論を元に、解決策を議論する。

第6回 ゲスト（予定）
コンサルタントとして、民間企業及び官公庁に対する経済性と社会性の両立の実現に向けた支援に取り組むゲストの話から、目指す社会の方向性を考える。

第7回 まとめと教場レポート
振り返って、新たに獲得した学びをアウトプットし意識化する。小グループでの話し合いも実施し、これからの行動を考える。夏クオーターの計画を立てる。

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 必要な資料は適宜、提示する

参考文献: 例えば、次のようなものに目を通しておくと良い。

C.ダグラス・スミス「経済成長がなければ私たちは豊かになれないのだろうか」平凡社2004年
佐藤真久、田代直幸、蟹江憲史編著「SDGsと環境教育」学文社2017年
Berners-Lee, Mike, There Is No Planet B, Cambridge University Press; Revised edition, January 21, 2021

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	10	学びを深めていることがわかるか。思考を明確に伝えることができているか。
平常点評価:	90	授業への積極的参加、毎回の小課題で気づきや意識の深まりがあるか。

備考・関連URL: 同科目1と2を同時に履修することが望ましいです。積極的に授業に関わる意欲のある人、授業外で日程を調整し、時間を確保することにきちんとコミットできる人のみ履修してください。授業後に、任意でディスカッションや計画立てなどがあった場合にも関われる状態であることが望ましいです。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010372|01|9S09010372[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	持続可能な社会と市民の役割　２		
担 当 教 員	高野　孝子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　＊この授業は同科目１（春クオーター）を同時に登録することが要件です。夏クオーターだけの履修はできません。

春クオーターでは、「持続可能な社会」の概念と現状を把握し、個々の暮らしが世界の課題と密接につながっていること、持続可能な社会へのアプローチは様々あることを理解することが目標でした。それを踏まえて夏クオーターでは、持続可能な社会づくりに関してグループごとにテーマを設定し、調査をもとにクラス全体へのワークショップを企画し実施します。履修生の人数によってはゲストを呼ぶ可能性もある。
自分で変化を生みだす可能性や異なる視点の獲得に意欲的な人たちの受講が期待されます。
授業は一方的な講義ではなく参加型で、学生が主体的に学ぶ姿勢を重視します。小グループでのディスカッション、クラス全体の討議、各自またはグループでの調査、ワークショップの組み立てと実施などがあります。課外で時間を調整してグループワークをする必要があることを理解し、そのためにきちんと時間を確保する意思がある人のみ履修してください。

履修生の数や希望などで、スケジュールや内容に変更が生じる可能性があります。

授業の到達目標：　1）持続可能な社会についての議論を把握し概念を説明できる。
2）世界の課題と自分との関わりについて、いくつか上げることができる。
3）多様性に立脚し多角的に物事を捉えることができる。
4）グループワークの可能性とチャレンジを今後に生かすことができる。

事前・事後学習の内容：　グループワークを進めるため、週に2-3回程度、それぞれ1時間以上の時間を確保する必要がある。
授業前には、課題についての調査などが求められ、授業後は問いを立てるなどの小課題やレスポンスをmoodleから提出する。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　授業の進め方とグループワークの開始
授業の進めかたの枠組みの提示。グループワークについての導入と話し合い開始。

第2回　ゲスト講義（予定）
ゲストについては調整中。持続可能な社会作りに関係する仕事をしている方から、仕事についてだけでなく、その哲学や軌跡を含めて話してもらう。

第3回　ディスカッションとグループワーク
補足とディスカッション。並びにグループによるワークショップ準備

第4回　グループワーク実践と討議その1
ワークショップ準備継続

第5回　グループワーク実践と討議その2
いくつかのグループによるワークショップ実施

第6回　グループワーク実践と討議その3
いくつかのグループによるワークショップ実施

第7回　まとめと教場レポート
学びや気づきの振り返りと、これからにつなげるためのディスカッション

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書：　資料は適宜提示する。

参考文献：　C.ダグラス・スミス著「経済成長がなければ私たちは豊かになれないのだろうか」平凡社2004年
佐藤真久、田代直幸、蟹江憲史編著「SDGsと環境教育」学文社2017年
Berners-Lee, Mike, There Is No Planet B, Cambridge University Press; Revised edition, January 21, 2021

成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	10	学びを深めていることがわかるか。思考を明確に伝えることができているか。
平常点評価:	60	授業への積極的参加、毎回の小課題提出のクオリティ
その他:	30	グループワークへの参画、内容、成果のオリジナリティとクオリティ

備考・関連URL: この科目の履修のためには、同科目１の登録が要件です。グループワークを伴うため、授業外で日程を調整し、時間を確保することにきちんとコミットできる人のみ履修してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010373|01|9S09010373[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	映画創作学概論		
担 当 教 員	元村 直樹		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（映像・表象・芸術）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: この授業では、日本語によるグループディスカッション、簡単な創作を行うグループワークを行う。遅刻、欠席はグループワークの進行に影響を及ぼします。積極的に参加する意志がある者だけが履修すること。
映画創作学とは、映画を創作するための様々な知識、技術、技能、方法、手段、考え方を学ぶ学問である。「創作」の範囲は、映画が企画され観客に届けられるまでであり、配給、興行も含む。映画発明前史から現在までの間に培われてきた先人たちの「知」を継承しつつ、新たな技術、考え方を導入し、新たな映画が創作されることを目的とする実学である。この映画創作学の概要と映画創作のための基礎知識を学ぶ。
映画を作ろうとしている者、あるいは映画を作ったことのある者の履修を推奨する。

授業の到達目標: 主に商業・劇・実写映画の創作を学ぶ人を対象に作成した「映画をつくるために必要な能力」のうち、14分野、すなわち、企画、脚本、演出、制作、演技、撮影、照明、サウンドデザイン、美術、VFX、現像、編集、配給、興行それぞれにおいて、基盤となる43の能力を学習する。

事前・事後学習の内容: 履修登録から第1回までの間に、自身と映画の関わりについて考える授業前課題を出す。10分程度を見込む。
事前学習として、次回取り扱うテーマに関するテキストを熟読する。1時間程度を見込む。
事後学習として、その回で紹介しきれなかった知識を教授するテキストを熟読する。また、講義でふれた映画を見ていないのであれば、鑑賞することを勧める。2時間程度を見込む。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーションと企画
※ 第1回から第14回の順番を入れ替えることもあります。
本講義の目的と概要／映画を評価する自分なりの軸を持つ／映画ビジネスの仕組み

第2回:脚本
物語とは何か？／映画の物語構造／柱・ト書き・台詞／脚本の書式

第3回:演出
演出とは何か？／物語の理解／テーマとスタイル

第4回:制作
脚本のブレークダウン／映画制作に関わる人々／映画制作にかかるさまざまな費用

第5回:演技
サブテクスト／登場人物の欲求／スラニスラフスキー・システム

第6回:撮影
何を撮るか／カメラの仕組み／サイズ／カメラの位置／フォーカス／焦点距離／露出／色温度

第7回:照明
光源／照明の役割／光の三大要素／照明の位置

第8回:サウンドデザイン
映画における様々な音とその役割／さまざまな音の属性／音を記録する仕組み

第9回:美術
美術の役割／美術考証／色と配色方法

第10回:VFX
VFXの目的／VFX制作のワークフロー／VFXのさまざまな技法

第11回:現像
映像のルック／上映素材が作られるプロセス／色の知覚／映像のさまざまな記録方式

第12回:編集
編集の役割／編集のプロセス／編集することで可能なさまざまな表現

第13回：配給
劇場営業／宣伝
第14回：興行・まとめ
映画館の特徴／上映素材／上映機材

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　各回ごとに配布します。

参考文献：　オリエンテーションですべての参考文献を紹介します。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	0	なし
レポート：	90	授業初日前課題、各グループが提出する課題、各人が提出する課題への回答
平常点評価：	10	グループワークへの参加度
その他：	0	なし

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010374|01|9S09010374[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	金融DX（デジタルトランスフォーメーション）時代の情報リテラシー基礎		
担 当 教 員	木戸 冬子@山名 早人		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水6時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（経営・経済・金融）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 生成AI時代の金融DX（基礎）

授業概要: 生成AI時代の金融DXについて、金融庁および関連組織の政策担当者・実務者より、最新の技術動向および政策について紹介し、金融DX時代に必要な情報リテラシーの知識を基礎編として講義する。
なお、各講義では、前半講義を行い後半はグループ学習・発表を行う。

授業の到達目標: 生成AI時代の金融DXについて、最新技術動向および金融庁で行われている政策について理解し、金融DXに関連した情報リテラシーについて基礎的な理解を深める。特に、金融庁で行われている政策と金融DXとの関係について理解する。

事前・事後学習の内容: 1) 授業に際し配付されている資料を参照した上で、課題となっている箇所を中心に予習・復習を行うこと。
2) 前週に出される課題を完了させておくこと。
※これらの事前・事後の学習にはそれぞれ60分程度と想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

(4/15) 生成AI時代の金融DX（デジタルトランスフォーメーション）（基礎編） （山名 早人・木戸 冬子）
生成AI時代に必要な金融DXについて、必要な情報リテラシーの概要を説明するとともに授業の進め方について説明する。説明にあたっては、一般的なDX(デジタルトランスフォーメーション)の事例も取り入れつつ、DXとは何かについても講義する。

(4/22) 生成AIとセキュリティーフィンテックは 日本の金融をどう変えたのかー （木戸 冬子：・ ゲストスピーカ
生成AI時代のセキュリティtについて最新技術動向を事例とともに解説する。

(4/29)生成AIとデジタルガバメントーデジタル通貨（ステーブルコイン・トークン化預金）の方向性 ー（木戸 冬
生成AI時代のデジタルガバメントについて最新技術動向を事例とともに解説する。

(5/13) FINTECH概論（木戸 冬子 ・ ゲストスピーカ ： 松尾元信（日本証券業協会 専務理事））
フィンテック、すなわち、ファイナンスとテクノロジーの融合が、金融サービスをどう変革させているかを概観すると共に、フィンテックによるDX推進のあり方について議論する。

(5/20)金融DXと証券業協会（木戸 冬子 ・ ゲストスピーカ ： 松本昌男（日本証券業協会 常務執行役 自主

証券業協会におけるDXについて概観すると共に、金融DXはどうあるべきかについて議論する。

(5/27) ブロックチェーンとイノベーション（木戸 冬子 ・ ゲストスピーカ ： 名取 裕之（金融庁 総合政策局 イノ
金融庁におけるイノベーション推進施策

(6/3) NISA等の資産形成（木戸 冬子 ・ ゲストスピーカ ： 中山 健（金融庁総合政策局総合政策課課長補
顧客本位の業務運営における金融DXのあり方について概観すると共に、業務運営のあり方について議論する。
NISA等の資産形成との関係について概観し、金融DX時代の資産形成について議論を行う。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 無し。毎回の講義で用いる資料は、Moold上で配付（前日までに掲載）。

参考文献: 無し。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 80 講義中に課すレポートにより成績を判定する。

平常点評価:　20　講義中に実施される議論への参加度、課題への取り組みを評価する。

備考・関連URL:　講師のやむを得ぬ事情により、内容・日程等が変更になる場合があります。その場合は、事前にお伝えします。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010375|01|9S09010375[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	金融DX（デジタルトランスフォーメーション）時代の情報リテラシー応用		
担 当 教 員	木戸 冬子@山名 早人		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水6時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（経営・経済・金融）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 生成AI時代の金融DX（応用）

授業概要: 生成AI時代の金融DXについて、金融庁および関連組織の政策担当者・実務者より、最新の技術動向および政策について紹介し、金融DX時代に必要な情報リテラシーの知識を応用編として講義する。

なお、各講義では、前半講義を行い後半はグループ学習・発表を行う。

授業の到達目標: 生成AI時代の金融DXについて、最新技術動向および金融庁で行われている政策と金融DXについて理解を深める。特に、金融庁で行われている政策と金融DXとの関係について将来のあり方を考えることのできる能力を育む。

事前・事後学習の内容: 1) 授業に際し配付されている資料を参照した上で、課題となっている箇所を中心に予習・復習を行うこと。
2) 前週に出される課題を完了させておくこと。
※これらの事前・事後の学習にはそれぞれ60分程度と想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

(6/10) 生成AI時代の金融DX（デジタルトランスフォーメーション）（応用編）（山名早人. 木戸冬子）
生成AI時代に必要な金融DXについて、必要な情報リテラシーとは何かについて概要編から差分は何かを中心に説明するとともに授業の進め方について説明する。ては、一般的なDX(デジタルトランスフォーメーション）で必要となる情報技術（プログラミング、アルゴリズム、知っておく基本事項）についても講義する。

(6/17) サイバーセキュリティ（木戸 冬子・ ゲストスピーカ： 岩下直行（国立情報学研究所 客員教授））
サイバーセキュリティについての事例をもとに、議論する。

(6/24) 社債・デジタル証券市場（木戸冬子・ ゲストスピーカ：吉田 俊 日本証券業協会 自主規制本部
社債・デジタル証券市場についての事例をもとに、議論する。

(7/1) 金融教育（木戸 冬子・ ゲストスピーカ：丹生 健吾 日本証券業協会 政策本部共同本部長兼管
金融教育におけるDXについて概観すると共に、金融DXはどうあるべきかについて議論する。

(7/8) サステイナブルファイナンス（木戸 冬子・ ゲストスピーカ：森川 怜子 日本証券業協会 社会連携
サステイナブルファイナンスについて議論する。

(7/15) 市場監視、インサイダー取引（木戸 冬子・ ゲストスピーカ：松尾 元信 日本証券業協会副会長・専
市場監視、インサイダー取引とDXについて議論する。

(7/22) 金融モニタリング（木戸 冬子・ ゲストスピーカ： 大橋 英樹 日本証券業協会監査本部長）

金融モニタリングについて概観し、金融DX時代の金融モニタリングついて議論を行う。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 無し。毎回の講義で用いる資料は、Moolde上で配付します。（前日までにUPLOAD）。

参考文献: 無し。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 80 講義中に課すレポートにより成績を判定する。

平常点評価: 20 講義中に実施される議論への参加度、課題への取り組みを評価する。

備考・関連URL: 講師のやむを得ぬ事情により、内容・日程等が変更になる場合があります。その場合は、事前にお伝えします。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010376|01|9S09010376[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	心理言語実験からみる比喩と思考 1		
担 当 教 員	生田 美希		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本科目では、ことばがどのように理解されるかという過程について比喩理解という視点から心理言語実験を基に解説します。また、グループディスカッションでは日ごろ自分たちがどのように比喩を理解しているかを、授業で紹介する比喩に関する理論やモデルを通して客観的に考えます。本科目の連動科目として「心理言語実験 からみる比喩と思考 2」が春期後半（夏クォーター）に開講されます。

授業の到達目標: 1. 心理言語実験に関する基本概念を理解する
2. 比喩理解に関する複数の理論やモデルの相違について理解する
3. 理論やモデルを適宜用いながら比喩処理過程を論理的に説明する力を身に付ける

事前・事後学習の内容: 予習としてMoodleに掲載するレジュメの事前読了を求めることがあります。各回の予習、復習には 90 分～120 分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：導入
授業の概要、導入

第2回：比喩理解1
比喩研究初期における比喩理解モデルを紹介する。グループディスカッションを通してモデルについて批判的に考える。

第3回：比喩理解2
1990年以降の比喩理解に関する心理言語モデルを説明する。グループディスカッションを通してモデルについて批判的に考える。

第4回：比喩理解3
1990年以降の比喩理解に関する心理言語モデルを説明する。グループディスカッションを通してモデルについて批判的に考える。

第5回：比喩理解4
2000年代前半に提唱された比喩理解に関する心理言語モデルを説明する。グループディスカッションを通してこれまで紹介した比喩理解モデルについて批判的に考える。

第6回：比喩理解5
第二言語における比喩理解をこれまでのモデル・理論を振り返りつつ説明する。グループディスカッションを通してこれまで紹介した比喩理解モデルについて批判的に考える。

第7回：まとめ・グループディスカッション
グループディスカッションを通してこれまで紹介した比喩理解モデルについて振り返る。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 適宜資料を配布する。

参考文献: Cameron, L., & Low, G. (Eds.). (1999). Researching and Applying Metaphor. Cambridge: Cambridge University Press.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 30 課題は、第 6 回の授業までに提示します。与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価します。

平常点評価: 70 授業内容についての理解度を評価します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010377|01|9S09010377[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	心理言語実験からみる比喩と思考 2		
担 当 教 員	生田 美希		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本科目は、本科目の連動科目として開講される「心理言語実験 からみる比喩と思考 1」(春クォーター）の履修を前提としています。
本科目では、ことばの理解について、比喩理解に関する指標と解釈という視点から解説します。また、データの分析結果と心理言語モデル・理論についてグループディスカッションを行い、日ごろ自分たちがどのように比喩を理解・解釈しているかを客観的に考えます。

授業の到達目標: 1. 心理言語実験に関する基本概念を理解する
2. 比喩理解に関する複数の理論やモデルの相違について理解する
3. 理論やモデルを適宜用いながら比喩処理過程を論理的に説明する力を身に付ける

事前・事後学習の内容: 予習としてMoodleに掲載するレジュメの事前読了を求めることがあります。各回の予習、復習あわせて90分～120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：導入
授業の概要、導入

第2回：比喩理解と指標1
比喩研究に関連する言語指標について解説する。グループディスカッションを通して授業内で紹介する研究について批判的に考える。

第3回：比喩理解と指標2
比喩研究に関連する言語指標について解説する。グループディスカッションを通して授業内で紹介する研究について批判的に考える。

第4回：比喩理解と指標3
比喩研究に関連する言語指標について解説する。グループディスカッションを通して授業内で紹介する研究について批判的に考える。

第5回：比喩理解と解釈1
比喩解釈についての研究論文をとりあげ解説する。これまで取り上げてきたモデルや理論についてグループディスカッションを通して批判的に考える。

第6回：比喩理解と解釈2
比喩解釈についての研究論文をとりあげ解説する。これまで取り上げてきたモデルや理論についてグループディスカッションを通して批判的に考える。

第7回：まとめ・グループディスカッション
グループディスカッションを通してこれまで紹介した比喩理解・解釈に関する理論やモデルについて振り返る。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 適宜資料を配布する。

参考文献: Cameron, L., & Low, G. (Eds.). (1999). Researching and Applying Metaphor. Cambridge: Cambridge University Press.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 30 課題は、第 6 回の授業までに提示します。与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価します。

平常点評価:　　70　　授業内容についての理解度を評価します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010378|01|9S09010378[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	近現代朝鮮社会史 1		
担 当 教 員	上山 由里香		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 民衆の生活世界から歴史を読み解く

授業概要: 本授業は、歴史に対する様々な見方や、主体的に問い直す力を養うことを目的とする集中講義です。女性たちの戦争と平和資料館（wam）での学外実習を出発点に、日本軍「慰安婦」問題を一つの事例として取り上げ、植民地支配や戦争が人々の生活世界にどのように作用したのかを検討します。その際、特定の国家の歴史としてではなく、帝国と植民地、移動と越境といった広域的な歴史構造のなかで捉える視点を養います。
実習では、展示資料や証言と向き合い、それらを批判的に読み解きながら、「誰が歴史を語るのか」「記憶はどのように形成されるのか」について検討します。
日記・写真・証言など様々な史資料を用いた分析や受講生同士の議論を通して、歴史の枠組みそのものを問い直し、自ら問いを立てて論理的に説明する力を養います。

授業の到達目標: 1. 日本による朝鮮半島の植民地支配の様相を民衆の視点から理解し、説明できる。
2. 植民地支配や戦争を、一国史的な観点にとどまらず、広域的な歴史構造のなかで捉え説明できる。
3. 日記、写真、絵など、様々な史資料から当時の状況に迫る。
4. 受講生間での情報交換、議論を通して、各テーマについて多様な視点に触れる。
5. 自ら問い（気になった疑問）を立てた学習し、それを通してわかったことを客観的に論理立てて説明する力を養う。

事前・事後学習の内容: 事前に指定された資料を読み、授業で扱うテーマを自分なりに把握したうえで臨むことが望ましい。
毎回、授業後には、授業の感想、意見、疑問などを提出してもらいます。
各回の事前学習には90～120分程度要すると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション
本授業の目的、内容、進め方について説明します。授業内で扱う資料や参考文献やその他史資料などについても紹介します。

第2回 学外実習（展示を読む）ための事前学習
民衆の生活世界に注目し、植民地支配が日常にどのような変化をもたらしたのかを具体的に考察する。展示を読み解くための視点を形成する。

第3回 学外実習－女性たちの戦争と平和資料館（wam）
女性たちの戦争と平和資料館（wam）を訪問し、展示を単なる情報として受け取るのではなく、歴史叙述として批判的に読み解く。

第4回 学外実習体験の言語化
展示を通して得た気づきや疑問などを言語化し、共有・整理する。

第5回 歴史的背景の整理
個別の経験や事例を、帝国・戦争・動員という歴史的構造のなかに位置づけ直す。

第6回 戦後の語られ方-沈黙と証言
戦後このような問題がどのように語られてきたのかを検討し、歴史はいつ、だれによって、どのような枠組みで語れているのか／語られていないのかについて考察する。

第7回　まとめ－歴史の見方を問い直す
本授業を振り返り、歴史の見方を言語化し、議論する。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　資料を配布します。

参考文献:　日中韓3国共同歴史編纂委員会編『未来をひらく歴史』(高文研、2005)
日中韓3国共同歴史編纂委員会編『新・未来をひらく歴史』(高文研、2025)
日中韓3国共同歴史編纂委員会編『新しい東アジアの近現代史　上・下』(日本評論社、2012)
歴史教育研究会(日本) 編著『日韓歴史共通教材　調べ・考え・歩く　日韓交流の歴史』(明石書店、2020)
韓哲昊他著、三橋広夫訳『韓国近現代の歴史 (世界の教科書シリーズ)』(明石書店、2009)
池明観『韓国近現代史』(明石書店、2010)
その他、必要に応じて適宜紹介する。

成績評価フリー入力サイン:　0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験:　0　試験は実施しません。

レポート:　40　授業内で扱ったテーマのなかで、自ら関心のあるテーマや関連あるテーマを見つけ、レポートを作成してもらいます。

平常点評価:　60　本授業は集中講義のため、授業内での取り組みを重視します。
平常点には、出席状況、実習への参加、事前・事後学習課題の取り組み(Moodleでの課題、アンケートなど)状況などを含みます。

その他:　0　なし。

備考・関連URL:　受講人数により形式は検討する予定ですが、適宜グループでのディスカッションやグループワークなども取り入れる予定です。

本授業は、下記の日程で実施(学外実習を含む)される集中講義です。
学外実習以外は配当された教室での対面授業を実施します。

＜授業実施日程＞
・8月17日(月)1～4限　※学外実習先(3限) : 女性たちの戦争と平和資料館(wam)(東京都新宿区西早稲田2-3-18　AVACOビル2F)
・8月18日(火)1～3限

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010379|01|9S09010379[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	近現代朝鮮社会史 2		
担 当 教 員	上山 由里香		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 民衆の生活世界から戦後東アジア社会を読み解く

授業概要: 本授業は、歴史に対する様々な見方や、主体的に問い直す力を養うことを目的とする集中講義です。植民地支配や戦争が、1945年以降の社会の再編過程で、人びとの生活世界にどのように作用したのかを検討します。その際、特定の国家の歴史としてではなく、帝国と植民地、移動と越境といった広域的な歴史構造のなかで捉える視点を養います。
実習では、在日韓人歴史資料館での学外実習を通して、展示資料や証言と向き合い、それらを批判的に読み解きながら、「誰が歴史を語るのか」「記憶はどのように形成されるのか」について検討します。
日記・写真・証言など様々な史資料を用いた分析や受講生同士の議論を通して、歴史の枠組みそのものを問い直し、自ら問いを立てて論理的に説明する力を養います。

授業の到達目標: 1. 日本による朝鮮半島の植民地支配後の社会の再編を、民衆の視点から理解し、説明できる。
2. 植民地支配・分断・冷戦体制を、一国史的な観点にとどまらず、広域的な歴史構造のなかで捉え説明できる。
3. 日記、写真、絵など、様々な史資料から当時の状況に迫る。
4. 受講生間での情報交換、議論を通して、各テーマについて多様な視点に触れる。
5. 自ら問い（気になった疑問）を立てた学習し、それを通してわかったことを客観的に論理立てて説明する力を養う。

事前・事後学習の内容: 事前に指定された資料を読み、授業で扱うテーマを自分なりに把握したうえで臨むことが望ましい。
毎回、授業後には、授業の感想、意見、疑問などを提出してもらいます。
各回の事前学習には90～120分程度要すると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション
本授業の目的、内容、進め方について説明します。授業内で扱う資料や参考文献やその他史資料などについても紹介します。
「1945年」を「敗戦・解放・分断」という視点から再検討する。

第2回 解放と分断
民衆の生活世界に注目し、民衆の生活資料などの分析を通して、1945～48年頃までの朝鮮の人々の生活について具体的に読み、解放から分断へと向かった背景を考える。

第3回 朝鮮戦争と東アジア冷戦体制
戦争が人々の生活をどう変えたのかを検討し、東アジアの冷戦体制の形成と日本社会との接続について理解する。

第4回 戦後の東アジア社会構造の整理
戦後の東アジアで形成された社会について整理する。

第5回 経済成長と戦後体制の固定化
高度経済成長や外交関係の再編を通して、戦後体制がどのように固定化されたのかを検討し、学外実習で展示を読むための事前学習として、分析視点を整理する。

第6回 学外実習－在日韓人歴史資料館
展示資料や証言と向き合い、それらを批判的に読み解きながら、「誰が歴史を語るのか」「記憶はどのように形成されるのか」について検討する。戦後このような問題がどのように語られてきたのかを検討し、歴史はいつ、だれによって、どのような枠組みで語れているのか／語られていないのかについて考察する。

第7回　まとめ－歴史の見方を問い直す
本授業を振り返り、民衆の生活世界を手掛かりに、戦後東アジア社会の構造と歴史の見方（歴史叙述の枠組み）を問い直し、議論する。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 資料を配布します。

参考文献: 日中韓3国共同歴史編纂委員会編『未来をひらく歴史』（高文研、2005）
日中韓3国共同歴史編纂委員会編『新・未来をひらく歴史』（高文研、2025）
日中韓3国共同歴史編纂委員会編『新しい東アジアの近現代史　上・下』（日本評論社、2012）
歴史教育研究会（日本）編著『日韓歴史共通教材　調べ・考え・歩く　日韓交流の歴史』（明石書店、2020）
韓哲昊他著、三橋広夫訳『韓国近現代の歴史（世界の教科書シリーズ）』（明石書店、2009）
池明観『韓国近現代史』（明石書店、2010）
その他、必要に応じて適宜紹介する。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0　試験は実施しません。

レポート: 40　授業内で扱ったテーマのなかで、自ら関心のあるテーマや関連あるテーマを見つけ、レポートを作成してもらいます。

平常点評価: 60　本授業は集中講義のため、授業内での取り組みを重視します。
平常点には、出席状況、実習への参加、事前・事後学習課題の取り組み（Moodleでの課題、アンケートなど）状況などを含みます。

その他: 0　なし。

備考・関連URL: 受講人数により形式は検討する予定ですが、適宜グループでのディスカッションやグループワークなども取り入れる予定です。

本授業は、下記の日程で実施（学外実習を含む）される集中講義です。
学外実習以外は配当された教室での対面授業を実施します。

＜授業実施日程＞
・8月25日(火)1～4限
・8月26日(水)1～3限　※学外実習先（2～3限）：在日韓人歴史資料館（東京都港区南麻布1-7-32　韓国中央会館別館）

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010380|01|9S09010380[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	近現代朝鮮文化史 1		
担 当 教 員	上山 由里香		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 帝国・戦争・近代によってつくられた朝鮮の文化空間

授業概要: 開港以降の朝鮮半島には西洋の文物が流入し、日本や中国との関係のなかで近代化が模索されました。その過程で、都市空間や交通網、学校教育、メディア、服装や身体観、家族関係など、人びとの生活様式は大きく変容していきます。本授業では、19世紀末から1945年頃までの朝鮮半島を対象に、帝国主義・戦争・近代化のなかで形成された「文化空間」について考察します。その際、朝鮮の歴史を「一国史」的関連から扱うのではなく、日本を含む東アジアの関係のなかに位置づけながら、その歴史的経験を捉えることを目指します。
とりわけ、日本の植民地支配下において文化は、単なる生活様式ではなく、統治・動員・同化の手段ともなりました。本授業では、都市・鉄道・学校・ジェンダー関係など具体的な文化的要素に注目し、それらがいかに人々の身体や意識を組み替え、新たな社会秩序を形成していったのかを検討します。
同時に、それらは過去の出来事として完結しているわけではありません。鉄道に乗ること、学校に通うこと、服を選ぶこと、家族のあり方を考えること――このような身近な行為もまた、歴史のなかで形づくられてきました。
本授業では、自分自身の生活を入口に、近代という時代を問い直し、現在につながる歴史の意味について考えることを目的とします。

授業の到達目標: 1. 朝鮮半島の近代の歴史を、自らの生活（様式）に関わりのある文化的要素（都市、交通、教育、家族、ジェンダーなど）から捉え、説明できる。
2. 歴史的事象を一国史的観点からではなく、東アジア（特に日中韓）の関係史のなかに位置づけて説明できる。
3. 自ら関心のあるテーマを見つけ、関連する資料（文字資料、絵、図、写真など）を自ら収集し、分析する力を養う。
4. 受講生同士での情報交換、議論を通して、各テーマについて多様な視点に触れ、自らの考えを深めることができる。
5. 自ら問いを立て、学習し、それを通してわかったことを客観的に論理立てて説明する力を養う。

事前・事後学習の内容: 事前に指定された資料を読み、授業で扱うテーマを自分なりに把握したうえで臨むことが望ましい。
毎回、授業後には、授業の感想、意見、疑問などを提出してもらいます。
各回の事前学習には90～120分程度要すると想定されます。
詳細は、毎回の授業で提示します。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション
本授業の目的、内容、進め方について説明します。授業内で扱う資料や参考文献やその他史資料などについても紹介します。

第2回 開港と近代化-文化のインフラ形成
文化が成立するための条件（メディア、言語、都市など）について理解する。

第3回 日清・日露戦争期と大衆文化
戦争が情報伝達と世論形成の仕組みを大きく変えたことを理解する。

第4回 植民地朝鮮におけるモダン文化と大衆文化
1920～30年代の植民地朝鮮で需要、発展した文化について理解する。

第5回 1919年と文化の政治化
3・1運動を通して、文化的活動が独立運動の重要な手段となった過程を理解する。

第6回　植民地朝鮮の子ども・若者・女性たちー教育・徴兵・総戦力
文化が人々（主に子ども・若者・女性たち）の身体や生活をいかに動員したのかを理解する。

第7回　まとめー植民地下で生きるとはどのような経験だったのか？
19世紀末頃から1945年頃までの朝鮮で形成された文化を、様々な史資料を参照、議論しながらこれまでの授業を振り返ります。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 日中韓3国共同歴史編纂委員会編『新・未来をひらく歴史』（高文研、2025）

参考文献: 日中韓3国共同歴史編纂委員会編『新しい東アジアの近現代史　上・下』（日本評論社、2012）
歴史教育研究会（日本）編著『日韓歴史共通教材　調べ・考え・歩く　日韓交流の歴史』（明石書店、2020）
韓哲昊他著、三橋広夫訳『韓国近現代の歴史（世界の教科書シリーズ）』（明石書店、2009）
池明観『韓国近現代史』（明石書店、2010）
水野直樹、庵逧由香、酒井裕美、勝村誠編著『図録　植民地朝鮮に生きる』（岩波書店、2012）
その他、必要に応じて適宜紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0　試験は実施しません。

レポート: 40　授業内で扱ったテーマのなかで、自ら関心のあるテーマや関連あるテーマを見つけ、レポートを作成してもらいます。

平常点評価: 60　毎回、授業後には授業の理解度を確認するため、Moodleにて課題（アンケート、課題など）を提出してもらいます。
毎回ではないが、事前学習内容を提出してもらう場合も平常点に含めます。

その他: 0　なし。

備考・関連URL: 受講人数により、形式は検討する予定ですが、適宜グループでのディスカッションやグループワークなども取り入れる予定です。冬クウォーター開講「朝鮮近現代文化史２」も継続して受講していただけると、より理解が深まります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010381|01|9S09010381[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	近現代朝鮮文化史 ２		
担 当 教 員	上山 由里香		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 1945年以降の歴史と記憶のあいだ

授業概要: 1945年の日本の植民地支配からの解放以降、韓国社会は戦争、分断、急速な経済成長、軍事政権、民主化、そして韓流の世界的広がりと、大きな変化を経験してきました。
本授業では、韓国の政治や経済の出来事そのものだけでなく、それが人々の暮らしや文化にどのような影響を与え、どのように語り継がれているのかを、歴史を記憶のあいだを往復しながら文化史的に考察します。
とりわけ、植民地期の経験が韓国社会のなかでそのように継承され、受容され、ときに沈黙され、呼び起されてきたのかに注目します。また、韓国社会の歴史を、日本をはじめとする東アジアとの関係のなかに位置づけることで、自明視されがちな歴史認識を相対化する視点を養います。
歴史とは、単に過去の出来事としてのみ存在するものなのでしょうか。本授業では、歴史を「今も問い続けられている問題」「現在と接続する出来事」として捉え直すことを目指します。

授業の到達目標: 1. 植民地支配解放以降の朝鮮半島（特に韓国）において、人々の暮らしに文化的要素がどのような影響をもたらしたのか理解し、説明できる。
2. 歴史的事象を一国史的観点からではなく、東アジア（特に日中韓）の関係史のなかに位置づけて説明できる。
3. 自ら関心のあるテーマを見つけ、関連する資料（文字資料、絵、図、写真など）を自ら収集し、分析する力を養う。
4. 受講生同士での情報交換、議論を通して、各テーマについて多様な視点に触れ、自らの考えを深めることができる。
5. 自ら問いを立て、学習し、それを通してわかったことを客観的に論理立てて説明する力を養う。

事前・事後学習の内容: 事前に指定された資料を読み、授業で扱うテーマを自分なりに把握したうえで臨むことが望ましい。
毎回、授業後には、授業の感想、意見、疑問などを提出してもらいます。
各回の事前学習には90～120分程度要すると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 1945年8月15日
「解放の始まりか」、それとも「分断の始まり」か？

第2回 高度経済成長の光と影
経済成長は誰のための成長だったのか？

第3回 軍事政権下の表現のと文化
文化は人びとを目覚めさせたのか？

第4回 民主化以後の文化政治
韓流は何を輸出しているのか？

第5回 発表①-韓国大衆文化における歴史の語られ方
韓国の大衆文化（映画、ドラマ、小説など）において、歴史がどのように語れているのかを分析し、発表する。

第6回 発表②-韓国大衆文化における歴史の語られ方
韓国の大衆文化（映画、ドラマ、小説など）において、歴史がどのように語れているのかを分析し、発表する。

第7回　まとめ
朝鮮近現代文化史を学ぶ意義とは？

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　日中韓3国共同歴史編纂委員会編『新・未来をひらく歴史』（高文研、2025）

参考文献:　日中韓3国共同歴史編纂委員会編『新しい東アジアの近現代史　上・下』（日本評論社、2012）
歴史教育研究会（日本）編著『日韓歴史共通教材　調べ・考え・歩く　日韓交流の歴史』（明石書店、2020）
韓哲昊他著、三橋広夫訳『韓国近現代の歴史（世界の教科書シリーズ）』（明石書店、2009）
池明観『韓国近現代史』（明石書店、2010）
その他、必要に応じて適宜紹介します。

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　0　試験は実施しません。

レポート:　40　授業内で扱ったテーマのなかで、自ら関心のあるテーマや関連あるテーマを見つけ、レポートを作成してもらいます。

平常点評価:　60　毎回、授業後には授業の理解度を確認するため、Moodleにて課題（アンケート、課題など）を提出してもらいます。
毎回ではないが、事前学習内容を提出してもらう場合も平常点に含めます。

その他:　0　なし。

備考・関連URL:　受講人数により、形式は検討する予定ですが、適宜グループでのディスカッションやグループワークなども取り入れる予定です。秋クォーター開講「朝鮮近現代文化史1」から継続して受講いただくと、より理解が深まります。
第5～6回で実施予定の発表は、受講人数やテーマによって、発表形式（個別orグループ）を検討する予定です。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　2　非主管科目　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010382|01|9S09010382[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	映像史（理論）		
担 当 教 員	北小路　隆志		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月５時限	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人文・社会科学科目（映像・表象・芸術）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　映画／映像リテラシー基礎（映画理論入門）

授業概要:　映画は、歴史上、初の本格的な“動く映像”として19世紀末に誕生し、娯楽や芸術としての成功のみならず、社会を表現し、読み解くうえでも重要な媒体として20世紀に君臨した。また、映画で築かれた、さまざまな“文法”は、現代社会に溢れかえる多種多様な“動画”の原型と今なお見なすことができる。この授業では、フレームやショットといった映画をめぐる基本概念についての講義を入口に、映画の分析的な見方を理論的かつ実践的に学び、映画を分析的に論じたり、批評文にしたりするための基礎能力を身につける。

映画／映像を分析的に見る能力は、今や人文・社会科学系の学問全体にとって基礎的な素養にあたり、現代社会の全体像を適切かつ批判的に把握するうえでも有益である。したがって、ディプロマポリシーにある、文理横断的な観点から現代社会における重要な課題を綜合的に把握し、究明することや、文化・社会の多様性への理解を深めるうえでも重要である。

本授業は、対面授業（7回）とオンライン（オンデマンド）型授業（7回）のハイブリッドで実施する。

新聞・雑誌他を中心に映画批評を執筆するなど実務の経験を有する教員がその実務経験を活かして講義を行う科目である。

【表現・政策分野】ディプロマポリシー
理工系学生として必要となる、科学技術や人間・社会・文化に関する次のような資質・能力を身につけ広く社会で活躍できる人材を養成する。
＜身につける資質・能力＞
・科学技術が社会や自然に及ぼす影響や、科学者、技術者が社会に対して負う責任など、科学技術と社会との関係について洞察を深めることで、社会的・文化的な環境の創造に貢献できる能力を養う。
・科学者・技術者として必要な客観的根拠に基づく論理的思考や、多角的・綜合的視点からの批判能力を身につける。
・人間・社会・文化に関する様々な学問分野の専門的知識を体系的に理解し、文理横断的な観点から現代社会における重要な課題を綜合的に把握、究明する。
・文化・社会の多様性への理解を通じて、科学者・技術者として必要な、自己の存在・営為を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を養う。
・広範で深い教養と豊かな人間性を培うことで、科学者・技術者として必要な、他者と協働、共生していくためのコミュニケーション・表現能力を高める。

授業の到達目標:　1. 単に物語を追うだけでなく、映画ならではのさまざまな表現や技法を意識しつつ映画を分析的に鑑賞する基礎能力を獲得することで、一定の客観的根拠に基づく論理的思考を身につけることができる。
2. 上記の能力を使い、映画についての議論や批評文の執筆などの基礎能力を獲得することで、多角的・綜合的視点からの批評（批判）能力を身につけることができる。
3. ディプロマポリシーにある、文理横断的な観点から現代社会における重要な課題を綜合的に把握し、究明することや、文化・社会の多様性への理解を深めるための基礎や方法論を獲得できる。

事前・事後学習の内容:　（予習）指定や共有された文献や資料、参考図書の読み込みなど。（90分程度）
（復習）授業で部分的に取り上げるなどした作品の鑑賞、コメントカードの執筆など。（90～120分程度）

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　本授業は、対面授業（7回）とオンライン（オンデマンド）型授業（7回）のハイブリッドで実施する。
（具体的な受講方法の仔細は、moodleなどの機能を使い、別途、お知らせします）
01　イントロダクション――授業の概要や狙いの説明（対面）
02　スクリーン――映画の平面性とさまざまなスクリーン（対面）
03　フレーム――四角いフレームの意味（オンライン）
04　映画と現実感――それは映画に何をもたらすのか？（オンライン）05　画面とは何か？――世界に開かれた「窓」としての映画（対面）
06　画面と画面外空間Ⅰ――画面を通した画面外空間の構築について（対面）
07　画面と画面外空間Ⅱ――さまざまな活用法（オンライン）
08　画面と画面外空間Ⅲ――絵画と映画の差異について（オンライン）
09　ショットの概念Ⅰ――ショットとは何か？（対面）
10　ショットの概念Ⅱ――ショットの分類法（対面）
11　ショットの概念Ⅲ――ショットの活用法（オンライン）

12　映画におけるサウンドについてⅠ――サウンドの分類法や活用法（対面）
13　映画におけるサウンドについてⅡ――映画の分析的な聴き方（オンライン）
14　まとめ――視聴覚的表象としての映画（オンライン）

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 『映画理論講義』A・ベルガラ、J・オーモン他著　勁草書房　2000年
『フィルムアート　映画芸術入門』D・ボードウェル他著　名古屋大学出版会　2007年

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 60　授業内容の理解度とそれを適切に文章に落とし込む文章力や表現力、そこでの論理的・創造的思考（オリジナリティ）の有無を確認する。授業終盤に課題や期限を提示するが、授業全体の理解度を確認するため、期限は授業終了後に設定する。

平常点評価: 40　授業時の発言やコメントカード、小レポートを重視する。欠席4回以上は原則不可とする（オンデマンド授業の場合、コメントカードの提出をもって出席とすることを基本とする）。

備考・関連URL: 各課題のフイードバックは、授業中やmoodleの機能を使うなどして行います。
欠席4回以上は原則不可とします（オンデマンド授業の場合、コメントカードの提出をもって出席とすることを基本とする）。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　2　非主管科目　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010383|01|9S09010383[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	映像史（社会・歴史）		
担 当 教 員	北小路　隆志		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月５時限	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人文・社会科学科目（映像・表象・芸術）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　映画／映像リテラシー応用（映画理論応用）

授業概要:　映画は、モダニティ（現代性・近代性）の進展との密接な関わりのもとで生まれ、20世紀前半にはその一翼を大いに担うまでに成長を遂げた。もちろん、モダニティという概念そのものが論争をはらみ、簡単に言い表すことが困難な複雑さを帯びるが、たとえば、19世紀後半から20世紀にかけてのそれが「大量生産・大量消費」の編成を伴う資本主義化や都市化の進展とともにあったことは疑いなく、とりわけいわゆる主流の映画はそうした流れにおいて不可欠な要素であったといえる。映画は「大量生産」され、いわゆる大衆がそれを「大量消費」したのである。本授業では、そうした前提のもとで、映画をまずは（広義での）「機械」として捉えることに始まり、映画と「建築／都市」、さらには「制作すること」や「労働すること」「演じること」などとの関係性に焦点を当てる。ただし、本授業で主要な関心を寄せるのは、たとえば「建築／都市」でいえば、あくまでも映画のなかでの「建築／都市」である。われわれはそこから何を学び、知ることができるのか。「想像的なもの」である映画のなかの「建築／都市」は、その在り方を通して現実的な「建築／都市」とどのような関係性を結ぶのか。あるいは、映画理論や批評は「建築／都市」をどのように解釈し、自らの議論を補強することができるのか。「制作／労働」など、他の項目に関しても、ほぼ同様のスタンスで取り組むことになる。本授業では、そうした映画に対する考察を、映画研究や映画理論にとどまらず、建築や都市、制作や労働をめぐる理論をはじめ、哲学や歴史学、社会学などの他の人文・社会科学の領域へと応用することで、文理横断的な観点から現代社会の重要な課題を綜合的に把握し、究明するための礎となるような能力の獲得へと受講者を導きたい。
本授業は、対面授業（7回）とオンライン（オンデマンド）型授業（7回）のハイブリッドで実施する。

新聞・雑誌他で映画批評を執筆するなど実務の経験を有する教員がその実務経験を活かして講義を行う科目である。

【表現・政策分野】ディプロマポリシー
理工系学生として必要となる、科学技術や人間・社会・文化に関する次のような資質・能力を身につけ広く社会で活躍できる人材を養成する。
＜身につける資質・能力＞
・科学技術が社会や自然に及ぼす影響や、科学者、技術者が社会に対して負う責任など、科学技術と社会との関係について洞察を深めることで、社会的・文化的な環境の創造に貢献できる能力を養う。
・科学者・技術者として必要な客観的根拠に基づく論理的思考や、多角的・綜合的視点からの批判能力を身につける。
・人間・社会・文化に関する様々な学問分野の専門的知識を体系的に理解し、文理横断的な観点から現代社会における重要な課題を綜合的に把握、究明する。
・文化・社会の多様性への理解を通じて、科学者・技術者として必要な、自己の存在・営為を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を養う。
・広範で深い教養と豊かな人間性を培うことで、科学者・技術者として必要な、他者と協働、共生していくためのコミュニケーション・表現能力を高める。

授業の到達目標:　1.「建築／都市」や「制作／労働」をめぐるものを中心とした既存の理論を学び、それをさまざまな映画作品の批評に結びつけることで、多角的・綜合的視点からの批評（批判）能力を身につけることができる。
2.　映画についての考察や関心を、社会や政治、哲学、歴史全般への考察や関心へと拡張させることで、文化・社会の多様性を理解し、自己の存在・営為を歴史・社会・自然と関連づけて理解する能力を獲得する。

事前・事後学習の内容:　（予習）指定や共有された文献や資料、参考図書の読み込みなど。（90分程度）
（復習）授業で取り上げるなどした関連映画作品の鑑賞やコメントカードの執筆など。（90～120分程度）

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　本授業は、対面授業（7回）とオンライン（オンデマンド）型授業（7回）のハイブリッドで実施する。
（具体的な受講方法の仔細は、rmoodleの機能などを使い、別途、お知らせします）
01 「労働」としての映画制作（1）──『雨に唄えば』による映画史（対面）　02 「労働」としての映画制作（2）──『雨に唄えば』を批評する（対面）
03 「機械」としての映画（1）――シネマトグラフという「機械」（オンライン）
04 「機械」としての映画（2）――シネマトグラフと日本 （対面）05　小津安二郎による映画史（1）――サイレント映画からトーキー映画へ（対面）
06　小津安二郎による映画史（2）──映画と戦争、そして戦後（オンライン）
07　小津安二郎による映画史（3）──日本映画の黄金時代？（オンライン）

08 映画における「家」(1)——西部劇について(オンライン)
09 映画における「家」(2)—— ジャック・タチについて(対面)
10 映画と「機械」(1)——チャールズ・チャップリンについて(オンライン)11 映画と「機械」(2)——バスター・キートンについて(対面)
12 映画における「建築／都市」(1)—— 1960年の「建築／都市論」、ジャック・タチからヌーヴェルヴァーグへ(オンライン)
13 映画における「建築／都市」(2)——1968年の「建築／都市論」 消費社会批判とヌーヴェル・ヴァーグの政治化 (対面)
14 制作／労働／パフォーマンス——資本主義の現在？(オンライン)

言語区分: 0 日本語 Japanese

参考文献:
『映画の理論 物理的現実の救済』S・クラカウアー著 東京大学出版会 2022年
『映画と経験 クラカウアー、ベンヤミン、アドルノ』M・ハンセン著 法政大学出版局 2017年
『ウインドウ・ショッピング 映画とポストモダン』A・フリードバーグ著 松柏社 2008年
『空間へ』磯崎新著 河出書房新社 2017年
『小津安二郎の反映画』 吉田喜重著 岩波現代文庫 2011年
『人間の条件』H・アレント著 講談社学術文庫 2023年(その他)
『もっと速く、もっときれいに 脱植民地化とフランス文化の再編成』K・ロス著 人文書院 2019年
『オリエンタリズム』E.W.サイード著 平凡社ライブラリー 1993年

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート: 60 授業内容の理解度とそれを適切に文章に落とし込む文章力や表現力、そこでの論理的・創造的思考(オリジナリティ)の有無を確認する。授業終盤に課題や期限を提示するが、授業全体の理解度を知るため、期限は授業終了後に設定する。

平常点評価: 40 授業での発言や授業後のコメントカード、小レポートを重視する。欠席4回以上は原則不可とする(オンデマンド授業の場合、コメントカードの提出をもって出席とすることを基本とする)。

備考・関連URL: 各課題のフィードバックは、授業中またはmoodleの機能を使って行う。
欠席4回以上は原則不可とする(オンデマンド授業の場合、コメントカードの提出をもって出席とすることを基本とする)。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010384|01|9S09010384[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	教育システムとマネジメント 1		
担 当 教 員	鳥居 朋子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 学校や大学等の教育機関は、どのようなシステムやマネジメントのもとで学習・教育活動を営んでいる組織なのでしょうか。本授業は、学校や大学における教育システムとマネジメントを理解し、それらを現代教育をめぐる諸問題と関連付けて検討しながら、受講生自身の教育システムとマネジメントに対するイメージを明確にすることを目的とします。「教育システムとマネジメント1」では、主に初等・中等教育に焦点をあて、学校教育のシステムとマネジメントの諸側面に注目します。身近な問題と関連付けながら、学校制度と法規、教育の組織化、教育課程、児童・生徒・学生、学級編制・編成、組織運営等を解説し、受講生の問題意識を深めていきます。講義を聴いて各自の意見や構想を文章にまとめる学習活動が中心となりますが、授業中に受講生同士が協力して行う主体的な学習活動も組み入れます。グループでテーマにそった議論やワークを行いますので、積極的に取り組むことを期待します。

授業の到達目標: 1. 学校や大学における教育システムとマネジメントについて、その原理や体系、主要な論点等を説明できる。
2. 教育システムとマネジメントと現代教育の諸問題との関連について、グローバルな視点から自らの意見を述べることができる。
3. 教育システムとマネジメントに関して興味関心を持ち、主体的に問いを立て、他者の意見を尊重し、考える態度を示す。

事前・事後学習の内容: 毎回の授業内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。課題等の学習成果に関しては、授業内でフィードバックコメントを提供します。講義を聴いて内容を理解することだけではなく、グループでの議論や発表、ワーク等に積極的にかかわり、主体的に授業に参加してください。また、各自が興味関心を持った個々のテーマについて、参考文献を読み、自分自身で掘り下げて考えてください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：イントロダクションおよび教育システムとマネジメントへのまなざし

自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法等、各回の授業の概要、学校の教育システムとマネジメントへの視点
★授業のスケジュールや成績評価方法等に関する重要事項を説明しますので、必ず受講してください。なお、受講生の関心等を考慮し、全体に周知した上で、授業の内容・方法や順序を変更することがあります。

第2回：教育システムの中心的存在

児童・生徒・学生、学習者の発達課題、青少年の問題行動、教育機会の確保、特別なニーズへの対応、支援プログラム等について概説し議論を行う。

第3回：学校教育の組織化

世界の学校体系、日本の学校系統、日本国憲法、教育基本法、学校教育法、教育行政の基本原理、公教育の原則、教育を受ける権利等について概説し議論を行う。

第4回：教育課程と教科書・教材

カリキュラム・マネジメント、学習指導要領、内容と基準、学校教育法施行規則、教科用図書、検定規則・検定制度、教材開発、ICT活用等について概説し議論を行う。

第5回：学級編制・編成と授業運営

学級編制基準、少人数学級編制、複式学級、小中一貫教育、学校選択制等について概説し議論を行う。

第6回：諸外国の学校教育システム

ゲストスピーカーを招き、海外の学校教育システムに関する講義をふまえ、国際比較の視点から日本の教育システムについて考えを深める。

第7回：授業全体の振り返りとまとめ

これまでの講義を振り返り、学校の教育システムとマネジメントを展望する。受講生のミニペーパーや学習成果物を紹介しながら、学びのリフレクションとまとめを行う。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定無し

参考文献: 図書館に所蔵されているものもありますので、適宜参考にしてください。

高妻紳二郎編2023『新・教育制度論：教育制度を考える15の論点（第2版）』ミネルバヴァ書房。
高見茂監修『必携教職六法2027年度版』協同出版（2026年2月刊行予定）。
戸田山和久（2022）『最新版 論文の教室：レポートから卒論まで（NHKブックス 1272）』NHK出版。
濱中淳子（2025）『大学でどう学ぶか（ちくまプリマー新書482）』筑摩書房。
古田薫・山下晃一編著（2020）『法規で学ぶ教育制度』ミネルヴァ書房。
山下絢（2021）『学校選択制の政策評価: 教育における選択と競争の魅惑（日本女子大学叢書 23）』勁草書房。
北川源四郎・竹村彰通編（2024）『教養としてのデータサイエンス　改訂第2版』講談社。
松下佳代（2025）『測りすぎの時代の学習評価論』勁草書房。
マーク・ブレイ、ボブ・アダムソン、マーク・メイソン編著（2011）『比較教育研究ー何をどう比較するか』上智大学出版。

この他、各回のテーマに関連する文献を授業内で随時紹介します。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：	50	最終課題として教育システムとマネジメントに関するまとめレポートを課します（50点）。 到達目標1および2に対応して評価を行います。詳細については授業内で説明します。
平常点評価：	50	到達目標3に対応し、第2～6回の各授業でテーマに関するミニペーパーを課します(10点×5回)。 課題にそくし、教育システムとマネジメントに関して興味関心を持ち主体的に問いを立て、他者の意見を尊重し、考える態度を示していることを基準とし評価を行います。ミニペーパーの提出は、授業への出席が前提となります。

備考・関連URL：　主な参考サイト：
Cinii　http://ci.nii.ac.jp/
J-STAGE　https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja
論文検索のためのサイトです。気になるキーワードをもとに検索してみましょう。

文部科学省　http://www.mext.go.jp/
白書や答申、学習指導要領といった教育政策の基本情報を確認することができます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010385|01|9S09010385[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	教育システムとマネジメント 2		
担 当 教 員	鳥居 朋子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 学校や大学等の教育機関は、どのようなシステムやマネジメントのもとで学習・教育活動を営んでいる組織なのでしょうか。本科目は、学校や大学に関する教育システムとマネジメントを理解し、それらを現代教育をめぐる諸問題と関連付けて検討しながら、受講生自身の教育システムとマネジメントに対するイメージを明確にすることを目的とします。「教育システムとマネジメント2」では、主に高等教育に焦点をあて、大学の教育システムとマネジメントの諸側面に注目します。身近な問題と関連付けながら、大学の制度と関連法規、大学ガバナンス、質保証、学生参画、学習成果測定等を解説し、受講生の問題意識を深めていきます。なおかつ、カリキュラム・マネジメントやインストラクショナル・デザイン等の理論をふまえながら、受講生自身の関心に基づいたあるべきプログラムを構想します。講義を聴いて自分の意見を文章にまとめる学習活動が中心となりますが、授業中に受講生同士が協力して行う学習活動も組み入れます。各回の授業に主体的に取り組むことを期待します。
※「教育システムとマネジメント1」も履修していることが望ましいです。

授業の到達目標: 1. 大学の教育システムとマネジメントをめぐる国内外の動向について、主要な論点等を論述することができる。
2. 大学の教育システムとマネジメントについて、グローバルな視点から現代教育の諸問題と関連付けながら自らの意見を述べることができる。
3. 大学の教育システムとマネジメントに関して興味関心を持ち、主体的に問いを立て、他者の意見を尊重し、考える態度を示す。

事前・事後学習の内容: 毎回の授業内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。課題等の学習成果に関しては、授業内でフィードバックコメントを提供します。講義を聴いて内容を理解することだけではなく、グループでの議論や発表、ワーク等に積極的にかかわり、主体的に授業に参加してください。また、各自が興味関心を持った個々のテーマについて、参考文献を読み、自分自身で掘り下げて考えてください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：イントロダクションおよび教育システムとマネジメントへのまなざし

自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法等、各回の授業の概要、大学の教育システムとマネジメントへの視点
★授業のスケジュールや成績評価方法等に関する重要事項を説明しますので、必ず受講してください。なお、受講生の関心等を考慮し、全体に周知した上で、授業の内容・方法や順序を変更することがあります。

第2回：教育システムの中心的存在

学生という存在、学習者、チェンジ・エージェント、青年期の発達課題、DEI等について概説し議論を行う。

第3回：大学の教育システムと関連法規

大学制度の特性、学士課程・修士課程・博士課程、大学設置基準、法人制度、単位制等について概説し議論を行う。

第4回：教育マネジメントの諸側面

大学ガバナンス、内部質保証、3つのポリシー、学習・教育情報の活用、学生参画等について概説し議論を行う。

第5回：カリキュラム・マネジメント

教育課程、専門教育、教養教育、学習成果測定、インスティチューショナル・リサーチ（IR）、インストラクショナル・デザイン（ID）等について概説し議論を行う。

第6回：多様な学生とプログラム開発

成人教育学（アンドラゴジー）、社会人の学び直し、自己決定型学習、応用の即時性、学習資源としての経験等について概説し議論を行う。

第7回：大学の教育システムとマネジメントの展望

これまでの講義を振り返り、大学の教育システムとマネジメントを展望する。受講生のミニペーパーや学習成果物を紹介しながら、学びのリフレクションとまとめを行う。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定無し

参考文献: 図書館に所蔵されているものもありますので、適宜参考にしてください。

橋本鉱市・阿曽沼明裕 編著(2021)『よくわかる高等教育論』ミネルバヴァ書房。
高妻紳二郎編(2023)『新・教育制度論:教育制度を考える15の論点(第2版)』ミネルバヴァ書房。
戸田山和久(2022)『最新版 論文の教室:レポートから卒論まで(NHKブックス 1272)』NHK出版。
古田薫・山下晃一編著(2020)『法規で学ぶ教育制度』ミネルヴァ書房。
東京大学大学経営・政策コース編(2018)『大学経営・政策入門』東信堂。
小方直幸(2020)『新訂　大学マネジメント論』放送大学。
濱中淳子・葛城浩一編著(2024)『＜学ぶ学生＞の実像:大学教育の条件は何か』勁草書房。
高尾義明(2019)『はじめての経営組織論』有斐閣ストゥデイア。
中井俊樹編著(2019)『大学SD講座1 大学の組織と運営』玉川大学出版部。
両角亜希子編著(2019)『学長リーダーシップの条件』東信堂。
中島英博(2019)『大学教職員のための大学組織論入門』ナカニシヤ出版。
串本剛編(2021)『学士課程教育のカリキュラム研究』東北大学出版会。
山下絢(2021)『学校選択制の政策評価 : 教育における選択と競争の魅惑(日本女子大学叢書, 23)』勁草書房。
今井むつみ・楠見孝・杉村伸一郎・中石ゆうこ・永田良太・西川一二・渡部倫子(2022)『算数文章題が解けない子どもたち : ことば・思考の力と学力不振』岩波書店。
矢野眞和(2023)『今に生きる学生時代の学びとは:卒業生調査にみる大学教育の効果』玉川大学出版部。
吉田文(2013)『大学と教養教育:戦後日本における模索』岩波書店。
鳥居朋子(2021)『大学のIRと学習・教育改革の諸相:変わりゆく大学の経験から学ぶ』玉川大学出版部。
鳥居朋子編著(2024)『大学の質保証における教育プログラムの評価と改善―IR機能を活用した好循環づくりのティップス』東北大学出版会。
北川源四郎・竹村彰通編(2024)『教養としてのデータサイエンス　改訂第2版』講談社。
濱中淳子 (2025)『大学でどう学ぶか (ちくまプリマー新書482) 』筑摩書房。
山田礼子・木村拓也・西野毅朗編著(2025)『日本高等教育の課題と挑戦:比較研究と調査から』東信堂。
松下佳代(2025)『測りすぎの時代の学習評価論』 勁草書房。
『IDE 現代の高等教育』各号。

この他、各回のテーマに関連する文献を授業内で随時紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート: 50　最終課題として教育システムとマネジメントに関するまとめレポートを課します(50点)。
到達目標1および2に対応して評価を行います。詳細については授業内で説明します。

平常点評価: 50　到達目標3に対応し、第2～6回の各授業でテーマに関するミニペーパーを課します(10点×5回)。
課題にそくし、教育システムとマネジメントに関して興味関心を持ち主体的に問いを立て、他者の意見を尊重し、考える態度を示していることを基準とし評価を行います。ミニペーパーの提出は、授業への出席が前提となります。

備考・関連URL: 主な参考サイト:
Cinii　http://ci.nii.ac.jp/
J-STAGE　https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja
論文検索のためのサイトです。気になるキーワードをもとに検索してみましょう。

文部科学省　http://www.mext.go.jp/
白書や答申、学習指導要領といった教育政策の基本情報を確認することができます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010386|01|9S09010386[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	現代教育の諸相 1		
担 当 教 員	鳥居 朋子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本授業は、現代社会における教育の動向に注目して、その問題状況や解決に向けた方策について理解を深め、受講生が自分自身の意見をまとめ上げることを目的とします。具体的には、「現代教育の諸相1」と題して、児童・生徒の学び、学校環境の変動等、主に初等・中等教育に関する個別テーマに沿って解説し、各自の問題意識を形成していきます。講義を聴いて各自の意見を文章にまとめる主体的な学習活動が中心となりますが、授業中に受講生同士が協力して行う学習活動も組み入れます。たとえば、グループでテーマにそった議論やワークを行いますので、積極的に取り組むことを期待します。

授業の到達目標: 1. 現代の教育や学びをめぐる諸問題に関して、背景や原因、主要な論点等についてグローバルな視点から指摘できる。
2. 現代の教育や学びをめぐる諸問題について、教育学的な視点に基づき、解決法や対処すべき課題に関して自らの意見を論述できる。
3. 現代の教育や学びについて興味関心を持ち、主体的に問いを立て、他者の意見を尊重し、考える態度を示す。

事前・事後学習の内容: 毎回の授業内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。課題等の学習成果に関しては、授業内でフィードバックコメントを提供します。講義を聴いて内容を理解することだけではなく、グループでの議論や発表、ワーク等に積極的にかかわり、主体的に授業に参加してください。また、各自が興味関心を持った個々のテーマについて、参考文献を読み、自分自身で掘り下げて考えてください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：現代教育の諸相へのいざない

自己紹介、授業の到達目標・授業の進め方・成績評価方法等の説明、各回の授業概要の説明および現代教育の諸相への視点
※成績評価にかかわること等、重要事項を説明するため、必ず出席してください。なお、受講生の関心等を考慮しながら、全体に周知した上で、授業トピックの内容や順序を変更することがあります。

第2回：現代教育の諸相1/児童・生徒の学び

学習指導要領、子どもたちのキャパシティー、ポストコロナの学び、個別最適化、ICTの活用、教育とAI等について説明し議論を行う。

第3回：現代教育の諸相2/子ども・青少年と特別なニーズ

現代の子ども・青少年像、青少年をめぐる言説、発達課題、インクルージョン、特別なニーズ、学習障害等について説明し議論を行う。

第4回：現代教育の諸相3/地域社会における学校

公立学校の改革、学校選択制、疑似市場、離島離島・へき地の小規模校、複式学級、地域との協働、ICT活用した共同学習等について説明し議論を行う。

第5回：現代教育の諸相4/学校環境の変動とリスク管理

「消費者」としての保護者行動、親の「無理難題要求」、教師の多忙化と働き方改革、教育行政と学校の対応、児童・生徒の問題行動、いじめ、不登校、情報社会の光と影等について説明し議論を行う。

第6回：現代教育の諸相5/諸外国の教育

ゲストスピーカーを招き、海外の学校教育に関する講義をふまえ、国際比較の視点から日本の教育について考えを深める。

第7回：現代教育の諸相6/まとめ

これまでの講義を振り返り、受講生のミニペーパーや学習成果物等を紹介しながら、学びのリフレクションとまとめを行う。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定無し

参考文献: 図書館に所蔵されているものもありますので、適宜参考にしてください。

今井むつみ・楠見孝・杉村伸一郎・中石ゆうこ・永田良太・西川一二・渡部倫子（2022）『算数文章題が解けない子

どもたち：ことば・思考の力と学力不振』岩波書店。
戸田山和久(2022)『最新版 論文の教室：レポートから卒論まで (NHKブックス 1272)』NHK出版。
濱中淳子 (2025)『大学でどう学ぶか (ちくまプリマー新書482) 』筑摩書房。
鳥居朋子(2021)『大学のIRと学習・教育改革の諸相：変わりゆく大学の経験から学ぶ』玉川大学出版部。
山下絢(2021)『学校選択制の政策評価：教育における選択と競争の魅惑(日本女子大学叢書, 23)』勁草書房。
矢野眞和(2023)『今に生きる学生時代の学びとは：卒業生調査にみる大学教育の効果』玉川大学出版部。
北川源四郎・竹村彰通編(2024)『教養としてのデータサイエンス　改訂第2版』講談社。
松下佳代(2025)『測りすぎの時代の学習評価論』 勁草書房。
白井俊(2020)『OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来：エージェンシー、資質・能力とカリキュラム』ミネルヴァ書房。

この他、各回のテーマに関連する文献を授業内で随時紹介します。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート：　50　最終課題としてまとめレポートを課します(50点)。
到達目標1および2に対応し、現代教育の諸相1～6に関して、一つもしくは複合的なテーマについて、複数の文献に当たって多角的に考察しているかどうかが観点となります。各回のミニペーパーよりも深く多面的に考察したレポートを求め、厳格な採点を行います。詳しくは授業内で説明します。

平常点評価：　50　到達目標3に対応し、第2～6回の各授業でテーマに関するミニペーパーを課します(10点×5回)。
現代の教育や学びについて興味関心を持ち、主体的に問いを立て、他者の意見を尊重し、考える態度を示していることが基準となります。ミニペーパーの提出は、授業への出席が前提となります。

備考・関連URL：　主な参考サイト：
Cinii　http://ci.nii.ac.jp/
J-STAGE　https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja
論文検索のためのサイトです。気になるキーワードをもとに検索してみましょう。

文部科学省　http://www.mext.go.jp/
白書や答申、学習指導要領といった教育政策の基本情報を確認することができます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010387|01|9S09010387[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	現代教育の諸相 2		
担 当 教 員	鳥居 朋子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本授業は、現代社会における教育の動向に注目して、その問題状況や解決に向けた方策について理解を深め、受講生が自分自身の意見をまとめ上げることを目的とします。具体的には、「現代教育の諸相2」と題して、大学教育をめぐる国内外の動向、質保証、学習成果の可視化、おとなの学び等、主に高等教育に関する個別テーマに沿って解説し、各自の問題意識を形成していきます。講義を聴いて各自の意見を文章にまとめる学習活動が中心となりますが、授業中に受講生同士が協力して行う主体的な学習活動も組み入れます。たとえば、グループごとにテーマにそった議論やワークを行いますので、積極的に取り組むことを期待します。
※「現代教育の諸相1」も履修していることが望ましいです。

授業の到達目標: 1. 現代の教育や学びをめぐる諸問題に関して、背景や原因、主要な論点等についてグローバルな視点から指摘できる。
2. 現代の教育や学びをめぐる諸問題について、教育学的な視点に基づき、解決法や対処すべき課題に関して自らの意見を論述できる。
3. 現代の教育や学びについて興味関心を持ち、主体的に問いを立て、他者の意見を尊重し、考える態度を示す。

事前・事後学習の内容: 毎回の授業内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。課題等の学習成果に関しては、授業内でフィードバックコメントを提供します。講義を聴いて内容を理解することだけではなく、グループでの議論や発表、ミニ演習等に積極的にかかわり、主体的に授業に参加してください。また、各自が興味関心を持った個々のテーマについて、参考文献を読み、自分自身で掘り下げて考えてください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：現代教育の諸相へのいざない

自己紹介、授業の到達目標・授業の進め方・成績評価方法等の説明、各回の授業概要の説明および現代教育の諸相への視点
※成績評価にかかわること等、重要事項を説明するため、必ず出席してください。なお、受講生の関心等を考慮し、全体に周知した上で、授業トピックの内容や順序を変更することがあります。

第2回：現代教育の諸相1/現代の大学

高等教育をめぐる国内外の状況、質保証、大学評価、グローバル化、キャンパスを持たない大学等について説明し議論を行う。

第3回：現代教育の諸相2/大学生の学び

ユニバーサル化、学士課程教育、学習成果、IR（インスティチューショナル・リサーチ）、学習支援等について説明し議論を行う。

第4回：現代教育の諸相3/大学の多様性・公正・包摂（DEI）

高等教育のDEI、個別大学のDEIポリシー、アクセシビリティ、DEI推進の指標等について説明し議論を行う。

第5回：現代教育の諸相4/ポスト「学校・大学」

社会や労働市場との接続、キャリアの概念、キャリア形成、ウェルビーイング等について説明し議論を行う。

第6回：現代教育の諸相5/おとなの学び

ゲストスピーカーを招き、大学の校外生や夜間学部の歴史等に関する講義をふまえ、成人教育学（アンドラゴジー）やおとなの学びのあり方等について議論を行う。

第7回：現代教育の諸相6/まとめ

これまでの講義を振り返り、受講生のミニペーパーや学習成果物等を紹介しながら、学びのリフレクションとまとめを行う。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定無し

参考文献: 図書館に所蔵されているものもありますので、適宜参考にしてください。

今井むつみ・楠見孝・杉村伸一郎・中石ゆうこ・永田良太・西川一二・渡部倫子（2022）『算数文章題が解けない子どもたち：ことば・思考の力と学力不振』岩波書店。

戸田山和久(2022)『最新版 論文の教室:レポートから卒論まで(NHKブックス 1272)』NHK出版。
濱中淳子 (2025)『大学でどう学ぶか (ちくまプリマー新書482) 』筑摩書房。
鳥居朋子(2021)『大学のIRと学習・教育改革の諸相:変わりゆく大学の経験から学ぶ』玉川大学出版部。
山下絢(2021)『学校選択制の政策評価 : 教育における選択と競争の魅惑(日本女子大学叢書, 23)』勁草書房。
早稲田大学百五十年史編纂委員会編(2022)『早稲田大学百五十年史　第一巻』早稲田大学(Web版有り)。
矢野眞和(2023)『今に生きる学生時代の学びとは:卒業生調査にみる大学教育の効果』玉川大学出版部。
北川源四郎・竹村彰通編(2024)『教養としてのデータサイエンス　改訂第2版』講談社。
松下佳代(2025)『測りすぎの時代の学習評価論』 勁草書房。

この他、各回のテーマに関連する文献を授業内で随時紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート: 50　最終課題としてまとめレポートを課します(50点)。
到達目標1および2に対応し、現代教育の諸相1～6に関して、一つもしくは複合的なテーマについて、複数の文献に当たって多角的に考察しているかどうかが観点となります。各回のミニペーパーよりも深く多面的に考察したレポートを求め、厳格な採点を行います。詳しくは授業内で説明します。

平常点評価: 50　到達目標3に対応し、第2～6回の各授業でテーマに関するミニペーパーを課します(10点×5回)。
現代の教育や学びについて興味関心を持ち、主体的に問いを立て、他者の意見を尊重し、考える態度を示していることが基準となります。ミニペーパーの提出は、授業への出席が前提となります。

備考・関連URL: 主な参考サイト:
Cinii　http://ci.nii.ac.jp/
J-STAGE　https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja
論文検索のためのサイトです。気になるキーワードをもとに検索してみましょう。

文部科学省　http://www.mext.go.jp/
白書や答申、学習指導要領といった教育政策の基本情報を確認することができます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010388|01|9S09010388[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	International Cooperation		
担 当 教 員	遠藤 十亜希		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火2時限@02:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: Students study significance and mechanism of, as well as challenges to, international cooperation as a solution to global or international problems in politics, society, and economy, drawing from relevant theories, histories, and current practices. The mode of teaching consists of lectures, discussions, guest lecture, and films. [Prerequisite: None]

授業の到達目標: Expected learning outcomes are (1) to deepen understanding and insights of peace-building and conflict-resolution via international cooperation, and (2) to develop communication skills to effectively discuss their opinions and ideas with others.

事前・事後学習の内容: Students are expected to spend at least three hours to prepare for each class and another one hour to review it. Read assigned readings as indicated in the syllabus and additional reading (TBA). When the the instructor provide students with a list of questions for class discussion, prepare answers to them.

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 Course Introduction

The instructor introduces the structure and content of the course and explains rules and policies on grading class conducts.
[Theme/key concept] Actors of world politics (international, national, and individual) and levels of analysis in international relations.
[Reading] D'Anieri, Ch. 1

第2回 Ideas behind international cooperation

[Theme/key concept] Causes of war, realism, state of anarchy, balance of power, deterrence, alliance.
[Readings] D'Anieri, pp.237-240 / pp.61-72 (para.1) / pp.78-88
*Read the pages in the order noted above.

第3回 Liberalism

[Theme/key concept] Liberalism as an ideological foundation for international cooperation.
[Readings] 1. Same as Class 3
2. Economist, "Kindness of Strangers"

第4回 United Nations and International Law

[Theme/key concept] Universal Declaration of Human Rights, collective security, missions and organizations of the UN, and Security Council.
[Reading] D'Anieri, Chs. 7&13

第5回 Refugees

[Theme/key concept] Convention relating to the Status of Refugees, UNHCR, Japan's refugee policy
[Readings] 1. D'Anieri, Ch. 13
2. Omata, N. 2015. ''Open Wallet, Closed Doors: Exploring Japan's Low Acceptance of Asylum Seekers.'' Migration Policy Institute, 7 October. Available at: https://www.migrationpolicy.org/article/open-wallet-closed-doors-exploring japan%E2%80%99s-low-acceptance-asylum-seekers
[References] Convention relating to the Status of Refugees | OHCHR

第6回 Nuclear Non-prolifreation (1)

[Theme/key concept] Atomic bombs, nuclear arms race, NPT
[Reading] D'Anieri, Chapter 9

*Orientation for Mid-term Exam

第7回 Nuclear Non-prolifreation (2)

[Theme/key concept] Post-Cold War nuclear proliferation, TPNW
[Case]: "Hidankyo"
[Readings] 1. David P. Barash Nuclear Ideology (Aeon. 2018/1/9) 2. Nihon Hidankyo, Nobel lecture (2024/12/10) Nobel_Lecture_2024_Nihon_Hidankyo.pdf

第8回 Mid-term Exam

Mid-term exam (in class)

第9回 NGOs as Track-Two Diplomacy

[Case] Dr. Nakamura and Afghanistan
[Readings] 1. D'Anieri, Ch.7 (p.192-)
2. NHK World News, "Nakamura's enduring light: Transforming lives in Afghanistan" (2023/12/13). https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/news/backstories/2900/

第10回 Business and Human Rights

[Theme/key concepts] "Conflict resources," global supply chain, human rights due diligence, Corporate Social Responsibility
[Case: Blood Diamond]
[Readings]1. D'Anieri, Ch. 13
2. TBA

第11回 Global Supply Chain and Human Rights

[Case] Chocolate and child slavery
[Readings] 1. D'Anieri, Ch. 13
2. Knight-Ridder, "Taste of Slavery"
3. Guardian, "Apple and Google named in US lawsuit over Congolese child cobalt mining deaths" (2019/12/16)
4. Guardian, "The sweet spot: is ethical and affordable chocolate possible?" (2023/1/21)

第12回 Guest Lecturer (tentative)

To be announced.

第13回 Tentative Conclusion and Exam Review

Orientation for Final Exam and class review

第14回 Final Exam

Final exam (in class)

言語区分: 0 英語 English

教科書: Paul D'Anieri (2021) International Politics: Powers & Purpose in Global Affairs. 5th edition. WadsworthISBN: 978-1133602101

The instructor may provide additional readings in advance of each class.

参考文献: 1. The New York Times (NYT) website: http://www.nytimes.com
2. The Guardian: http://www.guardian.co.uk/world
3. Washington Post (WP) website: (Check on the "World" section) http://www.washingtonpost.com

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 100 Mid-term exam (50%); Final Exam (50%)

* The exams may take either a written or oral form. Details will be explained in class prior to the exam dates.
*Although the rate is shown as "0%", each unexcused absence costs 5 points (to be deducted from your total score).
*A pop quiz may be given for extra points.
*More than 5 absences for any reason will result in failure.

レポート: 0 None

平常点評価: 0 None

その他: 0 None

備考・関連URL: Feedback to class assignments (eg, mid-term exam and report) will be delivered to student in writing or oral communication.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010389|01|9S09010389[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Migrants and Refugees in Japan		
担 当 教 員	遠藤 十亜希		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火2時限@02:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: Students study policies on migration and refugees, as well as current conditions of non-national residents, in Japan, identify problems and challenges associated with them, and seek solutions. The mode of teaching combines lectures, discussions, individual research, presentation, and field activities (or guest lecture). [Prerequisite: None]

授業の到達目標: Expected learning outcomes are (1) to deepen understanding and insights of cross-border migration and refugees in Japan, and (2) to develop communication skills to effectively discuss their opinions and ideas with others.

事前・事後学習の内容: Students are expected to spend at least three hours to prepare for each class and another one hour to review it. Read assigned readings as indicated in the syllabus and additional reading (TBA). When the the instructor provide students with a list of questions for class discussion, prepare answers to them.

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：Course Introduction

The instructor introduces the structure and content of the course and explains rules and grading policies.

第2回：Trends in global migration and issues for Japan

[Theme/key concept] Theories of and trends in international migration; patterns of human flows; stakeholders; foreign-worker acceptance policy, multicultural coexistence, immigration control
[Reading] Handout

第3回：Prewar: Japanese emigration to Latin America

[Theme/key concept] Paradoxes of emigration; state-diaspora relationship; migration-colonization scheme
[Reading] Endoh (2009), Ch.1.
[Optional reading] "Turning the Water into Fair Pools: The Prewar Japan's Paternalistic Outreach in its Emigration policy to South America." In Pedro Iacobelli and Sydney Lu, The Japanese Empire and Latin America. Honolulu: University of Hawaii Press (2023), pp.16-36. ISBN: 9780824892

第4回：Postwar: Japanese emigration to Latin America

[Theme/key concept] Migration to Brazil and Dominican Republic; emigration for international contribution
[Reading] Endoh (2009), Ch.2. [Optional] Endoh (2009), Ch.9.

第5回： Legacies of prewar colonialism"

[Theme/key concept] Colonial migration,immigration control, Zainichi, Koreans, Chinese
[Readings] TBA
Movie: ""Go""

*Orientation for Midterm Exam.

第6回：Foreign worker acceptance policy (1990s-)

[Theme/key concept] Labor shortage, backdoor policy, side-door policy, migrants as labor or human?
[Readings] Endoh (2022): Introduction (pp.7-25)
Play: ""Watashi wa gaijinjanai""

第7回：Midterm Exam

Midterm Exam (In class)

第8回： Multiculturalism and Japan [Case: so-called "foreigner problems"

Reading: TBD

第9回： Guest lecture (tentative)

TBA

第10回：Refugee (Historical background)

[Theme/key concept] International law and historical background (Case: Sugihara Chiune)
[Reading] Handout
Movie: ""Conspiracy of Kindness""

第11回：Refugee policy (1): Japan's accession to the Refugee Convention and refugee policy

[Theme/key concept] Convention relating to the Status of Refugees, UNHCR, Japan's refugee policy
[Reading]　Mukae in Endoh (2022), Ch. 2

第12回：Refugee policy (3): "Open wallet, closed door"

[Theme/key concept] Japan's refugee policy; non-refoulment; deportation
[Reading] Omata, N. (2015) ''Open Wallet, Closed Doors: Exploring Japan's Low Acceptance of Asylum Seekers.'' Migration Policy Institute, 7 October. Available at: https://www.migrationpolicy.org/article/open-wallet-closed-doors-exploring japan%E2%80%99s-low-acceptance-asylum-seekers
Movie: ""My Small Land""

第13回：Tentative conclusion and course review

Class review and orientation for Final Exam

第14回：Final Exam

Final exam (in class)

言語区分：　0　英語　English

教科書：　1.Toake Endoh, 2009. Exporting Japan: Politics of Emigration to Latin America. Urbana and Chicago: University of Illinois Press. ISBN-13 : 978-0252034022
2.Toake Endoh (ed.), 2022. Open Borders, Open Society?: An Interdisciplinary Examination of Japan's Immigration and Integration Policies. Verlag Barbara Budrich. ISBN-13: 978-3847425472
3.Handouts (printout or electronic) will be provided by the instructor."

参考文献：　TBA

成績評価フリー入力サイン：　0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	100	Mid-term exam (40%); Final Exam (60%). Although the rate is shown as "0%", each unexcused absence costs 5 points (to be deducted from your total score). * The exams may take either a written or oral form. Details will be explained in class prior to the exam dates. *A pop quiz may be given for extra points.
レポート：	0	None
平常点評価：	0	None
その他：	0	None

備考・関連URL：　Feedback to class assignments (eg, mid-term exam) will be delivered to student in writing or oral communication

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010390|01|9S09010390[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本の移民・難民政策と課題 1		
担 当 教 員	遠藤 十亜希		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 日本の移民及び難民政策と現状を理解することで問題点や課題を明らかにし、解決策を探求する。授業形態は、講義、クラス討議、特別講義から成る。課題読書には一部英文が含まれる。【Prerequisite：なし】

授業の到達目標: 期待できる学修成果は、（1）日本における移民及び難民に対する理解や知見を深め、広げること、,（2）考えや意見を他者と円滑にコミュニケートする能力を高めることである。

事前・事後学習の内容: 各回につき、予習に3時間以上、復習に1時間以上を費やすことが望ましい。シラバスに示された課題文献を読むこと。クラス討議のための質問リストが配布された場合は、リスト内の質問に対する答えを用意すること。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：コース紹介
本科目の構成や内容、規則、成績評価方法を概説する。

第2回：国境間移民のグローバルな動向と日本の課題
[テーマ・主要コンセプト] 国際移民の動向と関連理論、国境間の人的流れのパターン、ステークホルダー、外国人労働者受入政策、多文化共生、入国管理
[課題読書]望月（2019年）：第１章

第3回：戦前の南米移民
[テーマ・主要コンセプト]移民のパラドクス、 国家とディアスポラ、移民・植民地化政策
[課題読書] 遠藤（2016年）：序章、第１章、第10章

第4回：戦後の米・カリブ海移民
[テーマ・主要コンセプト]ブラジル・ドミニカ移民、 国際貢献のための移民政策
[課題読書] 遠藤（2016年）：第２章、第10章

第5回： 戦前植民地主義のレガシー
[テーマ・主要コンセプト]植民地主義的移民、入国管理、在日コリアン・中国人
[課題読書] 後日配布
映画:「Go」

[課題読書] 配布物

第6回：試験レビュー
1. 第5回の続き
2. 試験のオリエンテーションとレビュー

第7回：試験
試験（教室内）

言語区分: 0 日本語 Japanese

参考文献: 1.遠藤十亜希 『南米「棄民」政策の実像』(岩波現代全書シリーズ) 2016年5月、岩波書店。
2.望月優大 『二つの日本：「移民国家」の建前と現実』 2019年、講談社現代新書。
3.配布資料

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 100 欠席する場合、合理的な理由がない場合、欠席1回ごとに5点が総合点から差し引かれる。
予告なしに「ポップクイズ」をする場合があるが、獲得点数は総合点に加算される。

レポート: 0 なし

平常点評価:	0	なし
その他:	0	なし

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010391|01|9S09010391[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本の移民・難民政策と課題 ２		
担 当 教 員	遠藤 十亜希		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 日本の移民及び難民政策と現状を理解することで問題点や課題を明らかにし、解決策を探求する。授業形態は、講義、クラス討議、特別講義から成る。課題読書には一部英文が含まれる。【Prerequisite:「日本の移民と難民1」】

授業の到達目標: 期待できる学修成果は、（1）日本における移民及び難民に対する理解や知見を広げ、深めること、,（2）考えや意見を他者と円滑にコミュニケートする能力を高めることである。

事前・事後学習の内容: 各回につき、予習に3時間以上、復習に1時間以上を費やすことが望ましい。シラバスに示された課題文献を読むこと。クラス討議のための質問リストが配布された場合は、リスト内の質問に対する答えを用意すること。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:外国人労働者受入政策（1990年代以降）

[テーマ・主要コンセプト] 国内労働者不足、「裏口」政策、「サイドドア」政策、移民は労働力か人間か？
[課題読書] ①遠藤（2016年）:終章、②望月（2019年）:第１章、第2章
ビデオ:「私はガイジンじゃない」

第2回:「外国人問題」と多文化共生

[テーマ・主要コンセプト] 多文化主義、多文化共生、包摂と排除
[課題読書] 配布物

第3回:難民（歴史的背景）

[テーマ・主要コンセプト]歴史的背景と国際難民レジーム 【事例:杉原千畝】
[課題読書] 本間（1990年）:23－31頁
映画: ""Conspiracy of Kindness""

第4回:日本の難民政策

[テーマ・主要コンセプト]難民の地位に関する条約、UNHCR、「ノン・ルフルマン原則」、日本の政策
[課題読書] 本間（1990年）:72－84頁、86－105頁、128－156頁

第5回: 非正規移民、庇護申請者、退去強制

[テーマ・主要コンセプト]
[課題読書] 望月（2019年）:第5章
映画:「マイスモールランド」

第6回:総括と試験レビュー

*試験のオリエンテーションとレビュー

第7回:試験

試験（教室内）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 1望月優大 『二つの日本:「移民国家」の建前と現実』 2019年、講談社現代新書。
2. .配布資料

参考文献: .本間浩 『難民問題とは何か』1990年、岩波新書。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 100 欠席する場合、合理的な理由がない場合、欠席1回ごとに5点が総合点から差し引かれる。
予告なしに「ポップクイズ」をする場合があるが、獲得点数は総合点に加算される。

レポート: 0 なし

平常点評価:	0	なし
その他:	0	なし

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010392|01|9S09010392[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	国際協力		
担 当 教 員	遠藤 十亜希		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火2時限@02:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 国際社会における政治・文化・経済の諸問題の解決策としての国際協力の重要性やメカニズム、課題について、関連する理論や歴史、実践を通じて学修する。授業形態は講義、ディスカッションや特別講義から成る。課題読み物には英文が含まれる。【必須先行履修：なし】

授業の到達目標: 授業の到達目標は、（1）国際協力を通じての平和構築や紛争解決への理解を深めること、（2）自分の意見やアイディアを他者と交換・共有できるコミュニケーション力を高めること、である。

事前・事後学習の内容: 各回につき、予習に3時間以上、復習に1時間以上を費やすことが望ましい。シラバスに示された課題文献を事前に読むこと。クラス討議のための質問リストが配布された場合は、リスト内の質問に対する答えを用意すること。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：コース紹介

本コースの構成や概要、規則や成績評価方法を説明する。
[テーマ／コンセプト] 世界政治の行為者（国際、国、個人）、国際関係における3つの分析レベル
[課題読物] 村田 [Unit 0, 1, 18, (14)]

第2回：「国際協力」の基盤概念（1）現実主義

[テーマ／コンセプト] 戦争の原因、現実主義、無政府状態、力の均衡、抑止論、同盟
[課題読物] 村田 [Unit 6, 7, 10]

第3回：「国際協力」の基盤概念（2）自由主義

[テーマ／コンセプト] 「国際協力」の基盤概念としての自由主義
[課題読物] 1. 村田 [Unit 6, 7, 10]
2. The kindness of strangers (Economist 2019/5/4) (pdf in Eng-lish)

第4回：国際法と国連

[テーマ／コンセプト] 世界人権宣言、集団的安全保障、国連の使命と組織、国連安保理
[課題読物] 村田 [Unit 16, 22]

第5回：難民

[テーマ／コンセプト] 難民の地位に関する条約、UNHCR、日本の難民政策
[課題読物]
1. 村田 [Unit 21]
2. Omata, N. 2015. ‘‘Open Wallet, Closed Doors: Exploring Japan’s Low Acceptance of Asylum Seekers.’’ Migration Policy Institute, 7 October. Available at: https:// www.migrationpolicy.org/article/open-wallet-closed-doors-exploring japan%E2%80%99s-low-acceptance-asylum-seekers
[参考文献] https://www.unhcr.org/jp/refugee-treaty | OHCHR

第6回：核不拡散 (1)

*中間試験オリエンテーション・復習
[テーマ／コンセプト] 原子爆弾、核軍備競争、 NPT（核兵器不拡散条約）
[課題読物] 村田 [Unit 19]

第7回：核不拡散 (2)

[テーマ／コンセプト] ポスト冷戦核拡散、TPNW （核兵器禁止条約）
[ケース]: ""被団協""
[課題読物] 1. 村田 [Unit 19]
2. 日本被団協ノーベル賞受賞スピーチ (2024/12/10) Nobel_Lecture_2024_Nihon_Hidankyo.pdf または https://www3.nhk.or.jp/news/html/20241211/k10014664891000.html

第8回：中間試験

中間試験（教室内）

第9回：国際NGO

[ケース] アフガニスタンと中村哲
[課題読物] 村田　[Unit 24]
[ドキュメンタリー] https://www.youtube.com/watch?v=2ryhI3d76sY 及び
https://www.youtube.com/watch?v=r-nb4-wXBx4（最初の30分）
[参考図書] 中村哲『天、共に在り アフガニスタン三十年の戦い』NHK出版、2013年

第10回：ビジネスと人権

[テーマ／コンセプト] 人権デューデリ、“紛争資源（紛争ダイヤモンド），” グローバルサプライチェーン、CSR（企業の社会責任）、キンバリー・プロセス
[課題読物: 1.「シエラレオネ 豊かな資源が紛争をもたらす--シエラレオネ・紛争ダイヤモンドを追う 」 別府正一郎 『世界』(685), 250-258 (2001-03)
2. 朝日新聞「人権対応　日本は周回遅れ」2023/1/7

映画：Blood Diamond

第11回：グローバルサプライチェーンと人権

[ケース] チョコレートと子供奴隷
[課題読物] 1. Knight-Ridder, “Taste of Slavery”
2. Guardian, “Apple and Google named in US lawsuit over Congolese child cobalt mining deaths” (2019/12/16)
3. Guardian, “The sweet spot: is ethical and affordable chocolate possible?” (2023/1/21)
4. 朝日新聞「ロッテ、実証実験へ」2023/2/18

第12回：特別講義

TBA

第13回：総括と期末試験オリエンテーション

総括と期末試験オリエンテーション

第14回：期末試験

期末試験（於教室）

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　村田 晃嗣, 君塚 直隆, 石川 卓, 栗栖 薫子, 秋山 信将
『国際政治学をつかむ 新版（テキストブックス[つかむ]）』、有斐閣　2015年　ISBN-13: 978-464117722

その他、課題読み物は適宜配布します。

参考文献：　1. The New York Times (NYT) website: http://www.nytimes.com
2. The Guardian: http://www.guardian.co.uk/world

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　100　中間試験 (50%); 期末試験 (50%)
欠席の割合は「0%」と表記されるが、合理的な理由がない場合、欠席1回ごとに5点が総合点から差し引かれる。予告なしに「ポップクイズ」をする場合があるが、獲得点数は総合点に加算される。

レポート：　0　なし

平常点評価：　0　なし

その他：　0　なし

備考・関連URL：　中間試験や課題について、事後、口述または記述で学生にフィードバックする。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 2 非主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010393|01|9S09010393[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術・研究公正概論（人文・社会科学系）（学部生用）（英語授業） 01		
担 当 教 員	吉澤 剛		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	3年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: This course encourages participants to deepen their understanding and interests by introducing self-motivating and proactive initiatives for the promotion of research integrity in academic and societal terms, not merely as preventing misconduct but as responsible conduct of research (RCR). It begins by examining fundamental concepts such as science, research, ethics, and responsibility, and exploring the differences between natural sciences and humanities/social sciences, the relationship between researchers and research subjects, and practical challenges within research organisations and evaluation systems. We then consider the nature of research integrity in contemporary topics such as AI, first-person research, and digital humanities. Our focus moves to the significance and challenges of research that is open to diverse people, society, and the future – often termed responsible research and innovation (RRI) – in order to re-examine the current state of academia and research.
This course will be delivered entirely as an on-demand lecture series.

授業の到達目標: Undergraduate and graduate students engaged in social sciences and humanities will deepen their understanding of responsible research conduct (RCR), critically examine contemporary research environments and society, and develop their own questions and perspectives required of future researchers and professionals. They will internalize that academic and research integrity involves a reflective stance—constantly re-examining what constitutes research and integrity, and continually questioning their own sense of “rightness.”

事前・事後学習の内容: Read the assigned textbook in advance (3 hours).
Review the main points of each lecture after watching it (1 hour x 7 lectures).
Complete the Japan Society of the Promotion of Sciences e-learning course,“eL CoRE.” (For graduate students) (2 hours).

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

1. What is Research, What is Integrity?

Science is not an established body of intellectual achievement, but an ongoing process in the making. We call this process research, but how does research in the natural sciences differ from research in the social sciences and humanities? Where is the boundary between science and pseudoscience? Why is ethics or integrity necessary in research? What is ethics or integrity in the first place? When learning about research integrity, we delve into the fundamental questions: What is science, research, ethics, or integrity?

2. Ethics and Responsibility as a Researcher

As researchers, we must not only refrain from research misconduct such as fabrication, falsification, or plagiarism, but also learn how to manage conflict of interest and conflict of commitment, and the necessary mindset and approaches to avoid questionable or detrimental research practices. How can we reconcile the ethics and responsibilities of researchers within these good research practices and responsible conduct of research? We also argue the difference between professional responsibility and moral responsibility.

3. Research Practice in Organizations and Communities

Research is now rarely conducted solely by individuals. In most cases, researchers belong to universities or research institutions and must advance their work in teams or groups, supported by academic publishers, funding agencies, and the government. Where the organization of research and big science frequently clash with individual researchers' norms, what exactly is this conflict between the individual and the organization? What can new individual norms help overcome it? In addition to this, we examine more practical challenges such as research data management, research supervision, and harassment within laboratories.

4. Crisis in the Humanities and Ethics in the AI Era

The emergence of generative AI has overturned the long-held belief that “research is conducted by humans.” While using generative AI without disclosure for research, evaluation, or publication clearly lacks integrity, how much may or should we utilize AI? Amidst the myriad ethical issues inherent in AI technology itself, how should not only researchers, but all of us, engage with AI? How might research ethics change by AI? In an era where the methods of evaluation and publication in the humanities and social sciences are being rigorously questioned, we discuss how to update our views on science and ethics

5. Sincerity to Research Subject

Since the humanities and social sciences study humans and society, a correlation between researchers and research subjects is unavoidable. It is insufficient for researchers to conduct research based solely on their own ethical standards; they also bear social accountability and responsibility for the results and outcomes of their research. What considerations are essential in first-person research and disaster area survey? Furthermore, what considerations are required when interacting with or intervening in non-human subjects, such as in archaeology? We will also learn, through case studies, about the appropriate use of statistics to avoid “lying” when quantifying research subjects.

6. Opening Science to Society

Traditionally science was the domain of professional researchers, with English-speaking Western white males holding dominant positions. However, as the progress and significance of science through interdisciplinary and open activities gained recognition, efforts to socially promote this began to spread. At the same time, counter-reactions emerged, leading to renewed questioning of the value of making research more open. Does research that prioritizes diversity, equity, and inclusion constitute reverse discrimination? Do citizen social science, digital humanities, open science, and corporate research threaten the nature of academic research? What does “open” research even mean? Here, we explore research open to the society, considering its considerations and challenges.

7. For the Future of Academia and Society

In the modern era, science exerts significant influence on the society and the world, and the resources invested in science have also grown tremendously. For the while, as evidenced by what is termed the crisis in the humanities, there is societal criticism directed at disciplines that do not immediately yield economic or social value. If academia driven solely by intellectual curiosity is no longer considered sufficient, what is the purpose of academia? In what direction should academia move forward? As the final session of this lecture series, we introduce the concepts and practices of Ethical, Legal, and Social Implications (ELSI) of emerging science and technology, as well as Responsible Research and Innovation (RRI). By envisioning the future of academia and society, we re-examine the very nature of current academic and research integrity.

言語区分: 0 英語 English

教科書: Editing Committee "For the Sound Development of Science", the Japan Society for the Promotion of Science. " For the Sound Development of Science: The Attitude of a Conscience Scientist." JSPS (2015).
This text is available at https://www.jsps.go.jp/english/e-kousei/ethics.html

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	50	At the end of each lecture, several multiple-choice questions relating to the lecture content will be administered.
レポート:	30	Short essay (Postgraduate students: approx. 800-1,000 words; Undergraduate students: approx. 400-600 words)
その他:	20	Submission of a certificate of completion of the Japan Society of the Promotion of Sciences e-learning course for Graduate Students,“eL CoRE.”

備考・関連URL: 1. As important notices will be posted in Waseda Moodle, students should be sure to check there regularly.
2. Extension of the lecture viewing period and the retaking of lectures are not permitted.
3. No special arrangement such as the awarding of extra points will be made, regardless of reasons such as personal circumstances.
4. No special arrangement for extending the lecture viewing period will be made, regardless of reasons such as PC trouble /operation error.
5. Students should view all lectures before taking the final comprehension test.
6. All questions and inquiries should be sent by email to the secretariat (researchethics2@list.waseda.jp). Students should not contact the lecturers directly.
※General technical inquiries concerning Waseda Moodle (e.g. viewing difficulty) should be addressed to the IT HelpDesk. To inquire, log in to MyWaseda and access the help desk.
7. Students should check the operating environment of their computer systems before taking the course. The recommended environment for Waseda Moodle is explained at
http://www.waseda.jp/navi/e/services/system/sys_requirements.html

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 2 非主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010393|02|9S09010393[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術・研究公正概論（人文・社会科学系）（学部生用）（英語授業） 02		
担 当 教 員	吉澤 剛		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	3年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: This course encourages participants to deepen their understanding and interests by introducing self-motivating and proactive initiatives for the promotion of research integrity in academic and societal terms, not merely as preventing misconduct but as responsible conduct of research (RCR). It begins by examining fundamental concepts such as science, research, ethics, and responsibility, and exploring the differences between natural sciences and humanities/social sciences, the relationship between researchers and research subjects, and practical challenges within research organisations and evaluation systems. We then consider the nature of research integrity in contemporary topics such as AI, first-person research, and digital humanities. Our focus moves to the significance and challenges of research that is open to diverse people, society, and the future – often termed responsible research and innovation (RRI) – in order to re-examine the current state of academia and research.
This course will be delivered entirely as an on-demand lecture series.

授業の到達目標: Undergraduate and graduate students engaged in social sciences and humanities will deepen their understanding of responsible research conduct (RCR), critically examine contemporary research environments and society, and develop their own questions and perspectives required of future researchers and professionals. They will internalize that academic and research integrity involves a reflective stance—constantly re-examining what constitutes research and integrity, and continually questioning their own sense of “rightness.”

事前・事後学習の内容: Read the assigned textbook in advance (3 hours).
Review the main points of each lecture after watching it (1 hour x 7 lectures).
Complete the Japan Society of the Promotion of Sciences e-learning course,“eL CoRE.” (For graduate students) (2 hours).

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

1. What is Research, What is Integrity?

Science is not an established body of intellectual achievement, but an ongoing process in the making. We call this process research, but how does research in the natural sciences differ from research in the social sciences and humanities? Where is the boundary between science and pseudoscience? Why is ethics or integrity necessary in research? What is ethics or integrity in the first place? When learning about research integrity, we delve into the fundamental questions: What is science, research, ethics, or integrity?

2. Ethics and Responsibility as a Researcher

As researchers, we must not only refrain from research misconduct such as fabrication, falsification, or plagiarism, but also learn how to manage conflict of interest and conflict of commitment, and the necessary mindset and approaches to avoid questionable or detrimental research practices. How can we reconcile the ethics and responsibilities of researchers within these good research practices and responsible conduct of research? We also argue the difference between professional responsibility and moral responsibility.

3. Research Practice in Organizations and Communities

Research is now rarely conducted solely by individuals. In most cases, researchers belong to universities or research institutions and must advance their work in teams or groups, supported by academic publishers, funding agencies, and the government. Where the organization of research and big science frequently clash with individual researchers' norms, what exactly is this conflict between the individual and the organization? What can new individual norms help overcome it? In addition to this, we examine more practical challenges such as research data management, research supervision, and harassment within laboratories.

4. Crisis in the Humanities and Ethics in the AI Era

The emergence of generative AI has overturned the long-held belief that “research is conducted by humans.” While using generative AI without disclosure for research, evaluation, or publication clearly lacks integrity, how much may or should we utilize AI? Amidst the myriad ethical issues inherent in AI technology itself, how should not only researchers, but all of us, engage with AI? How might research ethics change by AI? In an era where the methods of evaluation and publication in the humanities and social sciences are being rigorously questioned, we discuss how to update our views on science and ethics

5. Sincerity to Research Subject

Since the humanities and social sciences study humans and society, a correlation between researchers and research subjects is unavoidable. It is insufficient for researchers to conduct research based solely on their own ethical standards; they also bear social accountability and responsibility for the results and outcomes of their research. What considerations are essential in first-person research and disaster area survey? Furthermore, what considerations are required when interacting with or intervening in non-human subjects, such as in archaeology? We will also learn, through case studies, about the appropriate use of statistics to avoid “lying” when quantifying research subjects.

6. Opening Science to Society

Traditionally science was the domain of professional researchers, with English-speaking Western white males holding dominant positions. However, as the progress and significance of science through interdisciplinary and open activities gained recognition, efforts to socially promote this began to spread. At the same time, counter-reactions emerged, leading to renewed questioning of the value of making research more open. Does research that prioritizes diversity, equity, and inclusion constitute reverse discrimination? Do citizen social science, digital humanities, open science, and corporate research threaten the nature of academic research? What does “open” research even mean? Here, we explore research open to the society, considering its considerations and challenges.

7. For the Future of Academia and Society

In the modern era, science exerts significant influence on the society and the world, and the resources invested in science have also grown tremendously. For the while, as evidenced by what is termed the crisis in the humanities, there is societal criticism directed at disciplines that do not immediately yield economic or social value. If academia driven solely by intellectual curiosity is no longer considered sufficient, what is the purpose of academia? In what direction should academia move forward? As the final session of this lecture series, we introduce the concepts and practices of Ethical, Legal, and Social Implications (ELSI) of emerging science and technology, as well as Responsible Research and Innovation (RRI). By envisioning the future of academia and society, we re-examine the very nature of current academic and research integrity.

言語区分: 0 英語 English

教科書: Editing Committee "For the Sound Development of Science", the Japan Society for the Promotion of Science. " For the Sound Development of Science: The Attitude of a Conscience Scientist." JSPS (2015).
This text is available at https://www.jsps.go.jp/english/e-kousei/ethics.html

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験:	50	At the end of each lecture, several multiple-choice questions relating to the lecture content will be administered.
レポート:	30	Short essay (Postgraduate students: 2 topics, approx. 800-1,000 words; Undergraduate students: 1 topic, approx. 400-600 words)
その他:	20	Submission of a certificate of completion of the Japan Society of the Promotion of Sciences e-learning course for Graduate Students,“eL CoRE.”

備考・関連URL: 1. As important notices will be posted in Waseda Moodle, students should be sure to check there regularly.
2. Extension of the lecture viewing period and the retaking of lectures are not permitted.
3. No special arrangement such as the awarding of extra points will be made, regardless of reasons such as personal circumstances.
4. No special arrangement for extending the lecture viewing period will be made, regardless of reasons such as PC trouble /operation error.
5. Students should view all lectures before taking the final comprehension test.
6. All questions and inquiries should be sent by email to the secretariat (researchethics2@list.waseda.jp). Students should not contact the lecturers directly.
※General technical inquiries concerning Waseda Moodle (e.g. viewing difficulty) should be addressed to the IT HelpDesk. To inquire, log in to MyWaseda and access the help desk.
7. Students should check the operating environment of their computer systems before taking the course. The recommended environment for Waseda Moodle is explained at
http://www.waseda.jp/navi/e/services/system/sys_requirements.html

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010394|01|9S09010394[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	クライメイトポジティブ社会とデジタルツイン 1		
担 当 教 員	藤本 悠		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	2年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

デジタルツインは，現実世界の対象やシステムをデジタル空間に再現し，現実世界から取得されるデータと連携することで，分析・予測・意思決定支援を行う技術です．現実世界の状態を観測し，デジタル空間上で分析・予測・シミュレーションを行い，その結果に基づいて人や組織が意思決定を行うことで，現実世界における運用改善，業務プロセスの最適化，新たな価値創造へとつなげることができます．すなわち，デジタルツインは単に現実を可視化する技術ではなく，現実世界の理解と将来予測を通じて，よりよい判断と行動を支えるための基盤技術であるといえます．
デジタルツインの活用は，製造業をはじめ，都市，物流，素材，医療，人の活動など幅広い領域へと拡大しており，これからの社会を支える基盤技術として期待されています．本講義では「クライメイトポジティブ社会」の実現に関心をもつ，主に人文・社会科学系の学問を学んできた学生に向けて，デジタルツインを社会課題の解決を支える技術として紹介します．企業との共同研究や地域での実践事例を通じて，エネルギー，都市，交通，物流など実社会の多様な分野においてデジタルツイン技術がどのように活用されているかを学び，文理融合・産学連携の重要性を理解することを到達目標の一つとします．また，理工系を学んだ学生にとっても，実社会におけるデジタルツイン技術の活用事例を知る機会となるよう構成します．
本講義は，後続の「デジタルツインに基づく意思決定概論」に向けた導入として位置づけ，デジタルツインを構成する個別技術の詳細に立ち入るのではなく，社会課題とデジタルツインとの関係性を俯瞰的に理解し，クライメイトポジティブ社会の実現に向けてデジタルツインがどのような役割を果たし得るのかを考えることを目的とします．

授業の到達目標：

－「クライメイトポジティブ社会」の概念と実現に必要な要素を理解する．
－ 社会課題とデジタルツインを結びつけて説明できる．
－ 企業におけるデジタルツイン技術の活用事例を理解する．

事前・事後学習の内容：

授業テーマに関する講義資料に基づく1時間程度の概要予習と講義内容に関する1時間程度の復習を要する．

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：クライメイトポジティブ社会とデジタルツインへの招待
クライメイトポジティブ社会の考え方と，その実現に向けてデジタルツインが果たし得る役割を概観する．

第2回：デジタルツインとは何か：現実世界と仮想世界をつなぐ技術
デジタルツインの基本概念を学び，現実世界のデータと仮想空間のモデルがどのように結びつくかを理解する．

第3回：現実世界を観測する：センサ・IoT・気象データ
センサ，IoT，スマートメータ，気象データなどを例に，現実世界を観測するためのデータ取得の考え方を理解する．

第4回：現実世界を予測する：数値気象モデル・AI・シミュレーション
数値気象モデル，AI，シミュレーションを通じて，観測された現実から将来状態を予測する考え方を理解する．

第5回：エネルギーシステムを支えるデジタルツイン
電力需要，再生可能エネルギー，蓄電池，EV充電などを題材に，エネルギー分野でのデジタルツイン活用を理解する．

第6回：都市・交通・物流を支えるデジタルツイン
都市活動，交通流，物流，モビリティを対象に，デジタルツインが運用改善や意思決定支援に用いられる事例を理解する．

第7回：製造・医療・文化・地域への展開
製造業，医療，文化資源，地域課題など多様な分野におけるデジタルツインの展開可能性を理解する．

言語区分：

0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン：

0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	30	講義内容を踏まえた最終レポート
平常点評価:	70	毎回提出するリアクションペーパー

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09010395|01|9S09010395[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	クライメイトポジティブ社会とデジタルツイン 2		
担 当 教 員	藤本 悠		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	2年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: デジタルツインは，現実世界の対象やシステムをデジタル空間に再現し，現実世界から取得されるデータと連携することで，分析・予測・意思決定支援を行う技術です．現実世界の状態を観測し，デジタル空間上で分析・予測・シミュレーションを行い，その結果に基づいて人や組織が意思決定を行うことで，現実世界における運用改善，業務プロセスの最適化，新たな価値創造へとつなげることができます．すなわち，デジタルツインは単に現実を可視化する技術ではなく，現実世界の理解と将来予測を通じて，よりよい判断と行動を支えるための基盤技術であるといえます．
デジタルツインの活用は，製造業をはじめ，都市，物流，素材，医療，人の活動など幅広い領域へと拡大しており，これからの社会を支える基盤技術として期待されています．本講義では「クライメイトポジティブ社会」の実現に関心をもつ，主に人文・社会科学系の学問を学んできた学生に向けて，デジタルツインを社会課題の解決を支える技術として紹介します．企業との共同研究や地域での実践事例を通じて，エネルギー，都市，交通，物流など実社会の多様な分野においてデジタルツイン技術がどのように活用されているかを学び，文理融合・産学連携の重要性を理解することを到達目標の一つとします．また，理工系を学んだ学生にとっても，実社会におけるデジタルツイン技術の活用事例を知る機会となるよう構成します．
本講義は，後続の「デジタルツインに基づく意思決定概論」に向けた導入として位置づけ，デジタルツインを構成する個別技術の詳細に立ち入るのではなく，社会課題とデジタルツインとの関係性を俯瞰的に理解し，クライメイトポジティブ社会の実現に向けてデジタルツインがどのような役割を果たし得るのかを考えることを目的とします．

授業の到達目標: －「クライメイトポジティブ社会」の概念と実現に必要な要素を理解する．
－ 社会課題とデジタルツインを結びつけて説明できる．
－ 企業におけるデジタルツイン技術の活用事例を理解する．

事前・事後学習の内容: 授業テーマに関する講義資料に基づく1時間程度の概要予習と講義内容に関する1時間程度の復習を要する．

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：脱炭素・レジリエンス・地域循環をつなぐデジタルツイン
脱炭素，再生可能エネルギー活用，地域循環，レジリエンスの観点からデジタルツインの役割を整理する．

第2回：デジタルツインと意思決定支援
デジタルツインが単なる可視化や予測にとどまらず，現実の意思決定を支援する仕組みであることを理解する．

第3回：産学連携が生み出すデジタルツイン
企業や自治体との共同研究・実証事例を通じて，実社会の課題解決における産学連携の意義を理解する．

第4回：地域課題と文理融合による価値創造
地域課題の解決には技術だけでなく，制度，生活者，文化，経済を含む文理融合的な視点が必要であることを理解する．

第5回：社会実装に向けた制度・倫理・説明責任
デジタルツインを社会実装する際に必要となる制度，倫理，データ利用，説明責任の課題を理解する．

第6回：未来社会を構想するデジタルツイン
将来の都市，エネルギー，交通，生活を支える社会基盤としてのデジタルツインの可能性を考察する．

第7回：総括：デジタルツインが切り開く未来
講義全体を振り返り，クライメイトポジティブ社会に向けた文理融合・産学連携とデジタルツインの意義を総括する．

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	30	講義内容を踏まえた最終レポート
平常点評価:	70	毎回提出するリアクションペーパー

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020018|01|9S09020018[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	EU共通外交・安全保障・防衛政策と人間の安全保障		
担 当 教 員	臼井 実稲子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月2-3	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: EU共通外交・安全保障政策の現在を知る

授業概要: EUの共通外交安全保障防衛政策がどのように形成され、今後どのような方向に進もうとしているのか、その戦略を、人間の安全保障概念を踏まえて考察する。

授業の到達目標: ・EUの共通外交安全保障防衛政策についての基本的知識の習得
・「人間の安全保障」概念をはじめとする安全保障概念の理解
・欧州と日本の安全保障協力の実際を理解する

事前・事後学習の内容: EU（欧州連合）については、基本的知識を習得してから、本科目を受講することが望ましい。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

オリエンテーション
本演習の目的と概要について説明 EUの現況について解説
EU共通外交・安全保障防衛政策の源流 欧州アイデンティティの萌芽
欧州安保の源流を求め、第二次世界大戦から1980年代までの欧州安全保障の歴史を考察する
EU共通外交安全保障政策の導入
EU共通外交安全保障政策の導入とその後の展開を考察する。
EU共通外交安全保障政策から共通外交安保防衛政策へ
EU共通外交安全保障政策の進展（CFSP ⇨ESDP ⇨CSDP)を、EUと国連・NATOとの関係も含め考察する。
EU共通外交安全保障防衛政策と欧州安全保障戦略
「欧州安全保障戦略文書」により、国際安全保障を担う決意を明らかにしたEUの戦略を考察する。

EU共通外交安保防衛政策と人間の安全保障
人間の安全保障の視点からEU共通外交安保防衛政策について考察する。
欧州防衛庁と欧州対外行動庁
リスボン条約後のEU共通外交安保防衛政策、および欧州軍備協力について考察する。
ロシアによるウクライナ侵攻後のEU共通外交安保防衛政策
直近の欧州安保について考察する。さらにEUと日本の国際安全保障面での協力関係について考察する。
履修者によるプレゼンテーション
履修者のプレゼンテーション
履修者によるプレゼンテーション
履修者のプレゼンテーション
履修者によるプレゼンテーション
履修者のプレゼンテーション
履修者によるプレゼンテーション
履修者のプレゼンテーション
履修者によるプレゼンテーション
履修者のプレゼンテーション
履修者によるプレゼンテーション
履修者のプレゼンテーション

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:	特に指定しない
参考文献:	適宜、演習内で指示する
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	基本的に「平常点評価」である。各個人に割り当てられたテーマに関する発表内容（50%）、ディスカッションにおける発言（50%）を評価する。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020026|01|9S09020026[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	EUにおける人の移動と保健医療政策		
担 当 教 員	福田 八寿絵		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 国際社会保障、保健医療福祉分野の国際協力、医療政策の国家間比較の視点から

授業概要: EUは難民・移民の流入など大きな変化に直面している。本演習では、国境を越える人の移動に係る多様なリスクに、いかに対処すべきかをEUを事例として考えてみたい。EU域内における人、モノ、サービスの越境移動と医療保障、保健医療福祉政策について、国際社会保障の視点から学ぶ。医療専門職（医師・薬剤師・看護師等）と患者の自由移動をめぐる諸問題、臨床研究と生命倫理、医療文化、高齢者、障害者、児童、女性、移民・難民などの人権と係る諸問題について考える。グローバル化と高齢社会化が進む欧州において、社会保障政策とくに保健医療・公衆衛生政策がどのように展開されているのか、その問題点や課題をわが国と比較しつつ議論したい。EUが域内において人の移動を政策的に促進するなか、専門資格を有する労働者の移動にはいかなる制度設計が必要となるのかなど、グローバル化に伴い外国人の流入も増加している日本と比較しつつ、移民・難民問題と国際社会保障を考える手がかりを見出すことを目的とする。
本年度のこの演習は、EUと保健医療政策の基礎を身につける。EU研究の初学者に対してもわかりやすく解説を行うので、EU入門者も積極的に参加することを歓迎する。

授業の到達目標: 人、モノ、サービス、資本の自由移動を促進することで、経済発展を目指すEUが社会保障、保健医療分野でどのような役割を果たしうるのか、その歴史的発展と意義について理解を深める。
また、各加盟国とEUがいかなる連携を行っているのかを保健医療・公衆衛生政策を通じ理解する。

事前・事後学習の内容: 事前に参考文献、教科書を読んでおくこと。事後学修として配布資料、発表資料をまとめておくこと。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
1 ガイダンス・オリエンテーション・EU保健医療政策とは何か
2 EU入門-文献・資料の収集方法
3 EUの諸機関とその役割
4 EUの法制度と医療判例
5 EU加盟国の医療制度
6 EU加盟国の医療制度
7 EUにおける医療専門職の移動
8 EUにおける患者の移動
9 EUにおける生命倫理と医療（臓器移植）
10 EUにおける生命倫理と医療<生殖補助医療）
11 EUの予防保健医療政策-感染症予防政策
12 EUの予防保健医療政策-たばこ政策
13 日本における医療専門職と患者の受け入れ問題（EPA/FTA、GATS）
14 全体報告会・まとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 福田八寿絵他 『EU・国境を越える医療ー医療専門職と患者の自由移動』 文眞堂、2009

参考文献:
福田耕治編『EU・欧州統合研究・改訂新版』成文堂、2016
福田八寿絵「EU(欧州連合）」『新グローバル公共政策・改訂版』晃洋書房、2026
福田八寿絵「EU希少疾患用医薬品（オーファンドラッグ）戦略—患者の医療保障・医療財源の持続可能性と成長戦略の課題ー 『日本EU学会年報』第28号、2014
福田八寿絵「EU先端医療研究政策と生命倫理」『日本EU学会年報』第28号、2008
福田耕治、臼井実稲子、片岡貞治、福田八寿絵『EU・欧州公共圏の形成と国際協力、成文堂、2010

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 40 各自が報告した内容あるいは他の報告者の報告した内容のうち、興味をもったテーマについて最後にまとめレポートを課題とする。その際、引用、参考文献を必ず記載すること。

平常点評価: 60 自らの問題関心の中でテーマについてグループまたは個人で報告する。テーマについて どれだけ、深く考えることができるのか、授業への参加度、積極性を評価する。

備考・関連URL:　■授業実施期間

8月17日（月）2時限～4時限
8月18日（火）2時限～4時限
8月19日（水）2時限～4時限
8月20日（木）2時限～4時限
8月21日（金）2時限～3時限

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020060|01|9S09020060[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	演劇の鑑賞と理解・演習（入門）		
担 当 教 員	澤田　敬司@八木　斉子@近藤　つぐみ		
開 講 学 期	集春	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:土その他	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人文・社会科学科目（映像・表象・芸術）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　舞台を観た後、誰かに自分の感想を伝えたい、他の人はどう思ったか聞いてみたいという気持ちになったことはないだろうか？
この授業では、まず地域や時代を問わず、様々なジャンルの演劇作品を鑑賞する。さらに受講生がおのおの自分の意見を述べ、他の人の意見を聞きながら、作品に対する読みを深めていく。

授業の到達目標：　議論を通して、演劇を理解し批評する力を養成する。演劇は、文学作品と異なる部分が多々ある。演劇を鑑賞する際に、どのような点に着目すべきかを学ぶ。そして、舞台作品への理解と、独りよがりにならずに説得力のある論評を展開できることを目標とする。さらに、演劇学を学ぶ際に素養として知っておいて欲しい古典的な作品や、演劇学の様々な問題系を発見する手がかりになるような作品にふれる機会を提供する。

事前・事後学習の内容：　事前に各教員が指示した資料を読んでくる。
事後には授業内容を振り返った上でレポートを執筆する。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

5月16日　3,4時限　担当：澤田
《ガイダンス》本授業全体の進め方について告知する。また、次週の観劇の料金徴収と打ち合わせを行う。
《人形浄瑠璃文楽①》日本の伝統演劇の一つ、人形浄瑠璃文楽を取り上げる。まず、鑑賞のためのベースとなる知識を学び、また実践者による実演を鑑賞し、質疑応答を行う。世界の舞台芸術家が刮目する人形浄瑠璃文楽の真髄を、徹底解剖する。
【授業はシアター1010（北千住）で行う。】

5月23日　6時限　　担当：澤田
《人形浄瑠璃②》前週で身につけた知識をもとに、劇場で人形浄瑠璃文楽の公演を鑑賞する。
【授業はシアター1010（北千住）で行う。18:15開場。】

5月30日　3,4時限　担当：近藤
博物館は、資料の収集、保存、公開、活用を行う場所である。様々な種別の博物館がある中で、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館（通称：「演博」（エンパク））は、演劇を専門とした世界でも有数の博物館である。所蔵されている多様な資料は、後世に演劇の歴史を伝え、研究に活用されるとともに、展示などにより一般に公開されている。演劇、舞台芸術は〈ライブ〉をひとつの魅力とするが、残された資料にはどのようなものがあるのか、その資料価値を考えるとともに、演劇資料の保存・展示について考える。

6月6日　3,4,5時限　担当：澤田
早稲田大学と大阪大学でそれぞれ上演されてきた、日系オーストラリアの劇作家・金森マユの戯曲『ヤスキチ・ムラカミ―遠いレンズを通して』の出版イベントに参加し、作品について学ぶ。作者、演出家、出演者、物語にゆかりある人々を招き、リーディングを鑑賞したあと質疑応答を行う。
【授業は小野記念講堂で行う。】

6月13日　3,4,5時限　担当：澤田
オペラについて学ぶ。オペラは西洋の舞台芸術に重要な位置を占め、またミュージカルの源流の一つでもある。日本でも近代以降に受容され、独自のオペラ文化を形成してきた。この授業では、「オペラとは何か」という問いを、まず歴史的視点から探求する。次に、現代日本におけるオペラの位置について、実践現場を視野に置きながら議論する。

6月20日　3,4,5時限　担当：八木
20世紀の演劇を論じる際にサミュエル・ベケット（Samuel Beckett)を欠かすことはできない。本授業はベケットによる戯曲の片鱗に触れる機会である。1963年にドイツ語で初演され、翌年に英語版での上演をみた『芝居』(Play)を作品として取り上げる。授業では、まず、20世紀の演劇史と文学史にからめながらベケットの執筆活動と特徴を概観する。次に、日本語訳と英語版による『芝居』の台本を皆で分析する。続いて、『芝居』の英語版を映像で鑑賞し、皆で意見を交換する。さらに、グループへ分かれ、声に出して台本を読み合う。その経験をふまえ、もう一度映像を鑑賞する。最後に、皆で総合的な討論を行う。

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書：　各担当教員が、取り上げる作品に関して授業前に読んでおくべき資料を、Moodleを通じて提示する。

参考文献: 各担当教員が、取り上げる作品に関して授業前に読んでおくべき資料を、Moodleを通じて提示する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	80	開講される日に担当教員はそれぞれレポート課題を出す。 レポートは、説得力のある形で、オリジナリティのある議論が展開できているかどうかを評価する。
平常点評価:	20	議論に積極的にくわわり、建設的な意見を述べているかどうかを評価する。

備考・関連URL: ５月23日に劇場で観劇します（18:15開場、18:45開演）。4,200円のチケット代がかかり、５月16日のガイダンスで代金を回収します。

本授業は、演劇・舞台芸術副専攻の指定科目です。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020075|01|9S09020075[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	海外・在日コリアンを考える		
担 当 教 員	金　敬黙		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　国家のはざまを生きるディアスポラの観点から

授業概要：　2026年は戦後81年、日韓国交正常化61周年という新しい時代の年である。
日韓関係は浮き沈みがあるにせよ、年々関係が良好になっている。 しかし、（北）朝鮮は日本の隣国であり、かつての植民地支配と被支配の構図があり、南北朝鮮の分断は日本の植民地支配の解放から始まっている。この歴史的な史実を政治、経済、社会、文化的な文脈でどのようにとらえれば良いのだろうか。

本授業ではディアスポラやエスニック・マイノリティの視点からコリアンやコリアネスについて学ぶ。多文化共生という視点からも重要なテーマであるので履修者の積極的な参加を期待する。

授業の到達目標：　・朝鮮半島と日本にまつわる諸テーマへの理解を深める
・考えを整理し論理的に発信する力、ほかの履修者と協働する力、文献を読みとく力を育む
・授業で「自分のテーマ」をみつけ、期末レポートとしてまとめる

事前・事後学習の内容：　事前課題として小課題を課す場合があります。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　第1回～第4回　自己紹介と問題関心の共有
第5回～第14回　文献講読、ディスカッション、グループワーク、フィールドワークなど（授業の様子や履修者の希望によって決定）

言語区分：　9　その他　other

教科書：　授業の初回に貸与する。金敬黙他『ハナのストーリー　私、北朝鮮から来ました』（アジアプレスインターナショナル、2016年）

参考文献：　適宜紹介する

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　テストは実施しない

レポート：　50　期末レポート（4000字程度）

平常点評価：　50　授業参加、課題文献の報告担当、グループワーク等

その他：　0　なし

備考・関連URL：　基本は対面形式を前提としますが、数回オンライン（Zoom）で実施する可能性があります。
授業参加に際して合理的配慮が必要な場合は相談に応じます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020077|01|9S09020077[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	環境イシューを再編集する		
担 当 教 員	納富 信		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 環境イシューに一石を投じてみよう

授業概要: 20人程度の少数学生によるゼミ形式の講座。
現代環境論に満足せず、自己の環境主張と環境戦略の提案を行うことを中心的な課題とする。参加学生がチームを編成して企画立案、写真・挿絵、編集、取材等の役割を分担し、詰めの情報収集のための活動を行いつつ、ジャーナルが特集記事を仕上げる要領で、チーム独自のオピニオンを紙媒体又は映像として取り纏める。

授業の到達目標: 環境保全に関する一般的な社会通念を超えて、問題の解決のための政治的、行政的、技術的な方策を、自ら（チーム）が収集し分析した情報に基づいて論理的に提案できる能力を養うことを目標とする。

事前・事後学習の内容: 事前学習として、自分の環境イシューに対する興味関心を確認し、整理すること。
事後学習として、チームの議論を通じて、自分の考えを再整理すること。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ガイダンス・イントロダクション（納富）

・ガイダンス及びイントロダクション・チーム活動：一次チーム分け、ウォームアップ・アイスブレイク

第2回 「自分にとっての身近なイシューとは？」（納富）

・話題提供＋チーム活動：”自分にとっての身近なイシューとは何か？”を個人ならびにチームで考えてシェアすることを通じて、イシューを”自分ごと化”する

第3回 「自分にとっての身近なイシュー・身近な環境イシューとは？」（納富）

・話題提供＋チーム活動：”自分にとっての身近なイシュー・身近な環境イシューとは何か？”を個人ならびにチームで考えてシェアすることを通じて、イシューならびに環境イシューを”自分ごと化”する

第4回 「環境イシューへの疑問を考えてチームで語る」①（納富）

・話題提供＋チーム活動：”（身近な）環境イシューへの疑問」を個人で考え、それをチームでシェアすること通じてイシューの本質に迫る

第5回 「環境イシューへの疑問を考えてチームで語る」②（納富）

・チーム活動：「（身近な）環境イシューへの疑問」を個人で考え、それをチームでシェアすること通じてイシューの本質に迫る

第6回 「環境イシューへの疑問をみんなに語る」（納富）

・全体活動：これまで考えてきた「（身近な）環境イシューへの疑問」を全体（みんな）でシェアすることでイシューの本質を見極める。

第7回 「抱いた疑問（テーマ）にどうアクセスするか？」（納富）

・チーム分け：先鋭化した個人の疑問を分類し、チームのテーマとして再構築・再構成する。・チーム活動：チームで取り組むテーマ（イシュー）にどうアクセスする（迫る）のかを討論して、チームの活動方針を明確にする（出来るだけ具体的なアクションプランを考える）

第8回 「取材に出かけよう！」①（納富）

・チーム活動：チームで必要な情報を取りに行く（取材する）。必要に応じて教室外の活動を推奨する。

第9回 中間発表会①（納富）

・取材成果を中間発表して、いろいろな意見をもらい、活動および考察（オピニオン形成）のブラッシュアップを図る。

第10回 中間発表会②（納富）

・取材成果を中間発表して、いろいろな意見をもらい、活動および考察（オピニオン形成）のブラッシュアップを図る。

第11回 「足りない情報を集め、さらに考察を深めよう！」①（納富）

・チーム活動：中間発表を承けて、足りない情報を集める（追加取材）とともに疑問に対する”オピニオン形成”を進める。

第12回 「足りない情報を集め、さらに考察を深めよう！」②（納富）
・チーム活動：中間発表を承けて、足りない情報を集める（追加取材）とともに疑問に対する”オピニオン形成”を進める。最終発表会に向けた準備を進める。
第13回 「環境イシューへの疑問に対するオピニオンを発表しよう」①（納富）
・”環境イシューへの疑問に対するオピニオン”を発表して、質疑応答（質問・意見・感想など）から、（環境）イシューへの理解と想いを深める
第14回 「環境イシューへの疑問に対するオピニオンを発表しよう」①（納富）
・”環境イシューへの疑問に対するオピニオン”を発表して、質疑応答（質問・意見・感想など）から、（環境）イシューへの理解と想いを深める
・授業全体を通じた学びを述べる（感想）

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 特に無し。
都度、興味関心のある内容に応じて教員から推奨図書等を紹介する

参考文献： 参考文献は、各グループが教員と相談しながら探し出す。

成績評価フリー入力サイン： 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：	20	解明できた事項をレポートとして提出させ、その内容を評価する。
平常点評価：	60	著しい遅刻および著しい早退は出席と認めない。
その他：	20	平常時の態度、プレゼンテーション能力等を評価する。

備考・関連URL： 忌引き等に関する出欠については、下記を参照のこと。https://www.waseda.jp/inst/gec/undergraduate/class/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020089|01|9S09020089[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	グローバルリテラシー演習応用		
担 当 教 員	和智 浩太		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	4
曜 日 時 限	01:木4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	、文・社会科学科目（メディア・ジャーナリズム	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 英語プレゼンテーション&ディスカッションの実践(レベルアップ)と異文化交流

授業概要: 木曜日の4・5時限目に台湾の淡江大学とプレゼンテーションおよびディスカッションを行います。相手校は台湾の大学ですが、受講生は留学生も多く、非常に国際色豊かになっています。
定員は20名までとし、学生の活動が授業の中心です。授業時間外の課題も必須事項です。以下は、主たる活動です。
（1）淡江大学とのオーラル・プレゼンテーションおよびディスカッション
①毎週の授業の前半3分の2程度、初回授業含め合計10回程度がこの活動に当てられます。テレビ会議システムを使用して両大学の学生が各30分程度グループでプレゼンテーションを行います。テーマは「演習基礎」と同様に学生自身が決定しますが、この「演習応用」ではより社会的なトピックを扱う予定です。
②それぞれのプレゼンの後は、内容についてのディスカッションを行います。
③交流後は早稲田の学生同士で振り返りを行い、次回の交流の準備も行います。

※合計10回程度の交流のうち、数回は学生をいくつかのグループに分け、グループごとにトピックを決めてフリーディスカッションを行います。

（2）早稲田のみでの活動
毎週の授業の後半3分の1程度は、早稲田の学生同士でプレゼンテーションの理論や技術を学びます。教員からの講義を少しした後、グループワークを主に行い理解を深めます。

（3）BBSを利用した、学生による意見交換
毎週の授業(交流)後には、（1）の交流テーマについてBBSシステム(使用システム詳細は後日連絡)を利用して両大学の学生同士でやり取りを行い、理解を深めます。

（4）テレビ会議終了後の、早稲田の学生同士のアクティビティ
学年歴の異なる淡江大学との合同授業終了後は、早稲田の学生同士で学期を振り返りTerm-End Paperの執筆およびリライト、グループワーク、そして学習のまとめとして英語での個人プレゼンテーションと質疑応答を行います。

授業の到達目標: ①「国際語としての英語」を使用しながら、より高いレベルでのプレゼンテーション・ディスカッションを実践することが出来る。
② ①を通じて総合的英語力・コミュニケーション能力および適応能力・情報収集能力・自己表現能力を培う。
③ 交流を通じて多くの友人を作り、より高度なトピックでのディスカッションを通して異文化についての理解をさらに深めるとともに国際人としての素養を養う。

事前・事後学習の内容: 事前学習：担当回のプレゼンテーションの入念な準備、他の学生のプレゼンのDiscussion Questionsへの自分の回答の準備、事前資料の読み込み
事後学習：授業内の振り返りへの積極的参加とBBSへの書き込み

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: (4・5時限連続の授業ですので、以下2コマで1回の授業となります)
第1回 タイトル：Course Introduction and Joint Session-1
・Course Introduction：本講義の目的と概要、内容説明。
・Deciding Topics：ジョイント・セッションで話し合うトピックを学生自身の話し合いで決定します。
・Joint Session-1：最初のジョイント・セッションです。テレビ会議システムを使用し、お互いの自己紹介をします。

第2回～第10回 タイトル：Joint Session-2～10
・第2回から、学生自身が選択したトピックに従い、プレゼンテーションを行います。交流後は、BBSに毎回コメントを書き込むことが必須となります。
・「授業概要」にある通り、交流のうち数回はグループごとのフリーディスカッションとなります。

第11回～第12回 タイトル：Post-Joint Acts (Reflection of Joint Session)
＊交流相手校が冬休みに入るため、この回からは早稲田大学だけでの活動となります。
・Group Work：前週までの交流を踏まえて、受講生同士で協力して1つのプロジェクトを完成させます。

第13回～14回 タイトル：Individual Presentation

・1人30分の枠内で、個人によるプレゼンテーションを行い、クラスメートとの質疑応答を行います。使用言語は英語のみ。

言語区分: 0 英語 English

教科書: 特に指定しません。

参考文献: ・発表者が毎回用意する資料は事前に熟読してあることを前提として議論を進めます。
・議論の一助となるような参考文献は担当者から随時紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 演習という授業の性質上、試験による評価はしません。授業時間内外の活動と期末のレポートによって評価します。具体的には以下の通りです。なお、評価の前提として70%以上の出席が必要となります。遅刻は2回で欠席1回とカウントします。なお、法定伝染病や教育実習などの公的な事由による遅刻・欠席は考慮します。

Class Participation(Post-Joint Acts含む)	40%
Group Presentation	30%
BBS Participation	10%
Term-End Paper (学期末のレポート提出)	10%
Final Presentation(QA含む)	10%

備考・関連URL: ・交流相手校の大学生とのディスカッションを行うための基礎英語力として、チュートリアル・イングリッシュの中級レベルを終了しているか、同等あるいはそれ以上の能力が求められます。英語による意見交換がある程度できることが必要です。ただし、英語力そのものよりも積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢が一番大切です。評価にあたっても授業中の積極的な参加を一番重視します。
・秋学期はより理論的・実践的にプレゼンテーションの手法を学び、実際の交流で実践することを目指します。多くの活動をやる必要がありますが、英語力・コミュニケーション力・異文化理解および適応能力・情報収集力・プレゼンテーション能力・自己表現力を身につけたいと強く願っている人の積極的な受講を期待します。また、留学生の受講も大歓迎です。なお、春学期の「グローバルリテラシー演習基礎」を履修していなくても、この授業を履修することができます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020090|01|9S09020090[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	グローバルリテラシー演習基礎		
担 当 教 員	和智 浩太		
開 講 学 期	春期	単 位 数	4
曜 日 時 限	01:木4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	、文・社会科学科目（メディア・ジャーナリズム	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 英語プレゼンテーション＆ディスカッションの実践と異文化交流

授業概要: 木曜日の4・5時限目に台湾の淡江大学、韓国の高麗大学とプレゼンテーション及びディスカッションを行います。相手校はアジアの大学ですが、受講生には留学生も多く国際色豊かです。
定員は20名までとし、学生の活動が授業の中心です。授業時間外の課題も必須事項です。以下は、主たる活動です。
（1）淡江大学・高麗大学とのオーラル・プレゼンテーションおよびディスカッション
①毎週の授業の前半3分の2程度、初回授業含め合計9回程度がこの活動に当てられます。1回の交流につき2大学の学生が各20分程度グループでプレゼンテーションを行います。
テーマは各大学の学生の興味関心に基づき、社会・文化などの幅広いジャンルから決定されます。この「演習基礎」では音楽や大学生活などのよりカジュアルなトピックを想定しています。
②それぞれのプレゼンの後は、内容について3大学の学生全員でディスカッションを行います。
③交流時間後は、まず早稲田の学生同士で振り返り(教員からのコメントを含みます)と次回の交流の準備を行います。
④3大学での交流ののち、高麗大学の学生とは別途Small-Group Discussionを毎回行います。

（2）早稲田のみでの活動
毎週の授業の後半3分の1程度は、早稲田の学生同士でプレゼンテーションの理論や技術を学びます。教員からの講義を少しした後、グループワークを主に行い理解を深めます。

（3）BBSを利用した、学生による意見交換
毎週の授業(交流)後には、（1）の交流テーマについてBBSシステム(使用システムは後日連絡)を利用して3大学の学生同士でやり取りを行い、理解を深めます。

（4）テレビ会議終了後の、早稲田の学生同士のアクティビティ
学年歴の異なる各大学との合同授業終了後は、早稲田の学生同士で学期を振り返りTerm-End Paperの執筆およびリライト、グループワーク、そして学習のまとめとして英語での個人プレゼンテーションと質疑応答を行います。

授業の到達目標: ① 「国際語としての英語」を使用しながら、プレゼンテーション・ディスカッションについてそのノウハウを学び、実践することが出来る。
② ①を通じて総合的英語力・コミュニケーション力および適応能力・情報収集能力・自己表現力を培う。
② 留学生を含むアジアの大学生との交流を通じ、異文化への理解を深めるとともに、多くの友人を作り国際人としての土台を築く。

事前・事後学習の内容: ・事前学習：担当回のプレゼンテーションの入念な準備、他の学生のプレゼンのDiscussion Questionsへの自分の回答の準備、事前資料の読み込み
・事後学習：授業内の振り返りへの積極的参加とBBSへの書き込み

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: (4・5時限連続の授業ですので、以下2コマで1回の授業となります)
第1回 タイトル：Course Introduction and Joint Session-1
・Course Introduction：本講義の目的と概要、内容説明。
・Deciding Topics：ジョイント・セッションで話し合うトピックを学生自身の話し合いで決定します。
・Joint Session-1：両大学との最初のジョイント・セッションです。テレビ会議システムを使用し、お互いの自己紹介をします。

第2～9回 タイトル：Joint Session-2～9/Small-Group Discussion only with KU-1～8
・第2回から、学生自身が選択したトピックに従いプレゼンテーションを行います。交流後は、BBSに毎回コメントを書き込み、交流校の学生とテーマについての意見交換を行うことが必須となります。
・3大学との交流終了後、高麗大学の学生とは別途Small-Group Discussionを行います。

第10回～12回 タイトル：Post-Joint Acts (Reflection of Joint Session)
・交流相手校が夏休みに入るため、この回からは早稲田大学だけでの活動となります。
・Group Work：前週までの交流を踏まえて、受講生同士で協力して1つのプロジェクトを完成させます。

第13回～14回 タイトル：Individual Presentation
・1人30分の枠内で、個人によるプレゼンテーションを行い、クラスメートとの質疑応答を行います。使用言語は英

語のみ。

言語区分: 0 英語 English

教科書: 特に指定しません。

参考文献: ・発表者が毎回用意する資料は事前に熟読してあることを前提として議論を進めます。
・議論の一助となるような参考文献は担当者から随時紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 演習という授業の性質上、試験による評価はしません。授業時間内外の活動と期末のレポートによって評価します。具体的には以下の通りです。なお、評価の前提として70%以上の出席が必要となります。遅刻は2回で欠席1回とカウントします。なお、法定伝染病や教育実習などの公的な事由による遅刻・欠席は考慮します。

Class Participation (Post-Joint Acts含む)	40%
Group Presentation	30%
BBS Participation	10%
Term-End Paper (学期末のレポート提出)	10%
Final Presentation (QA含む)	10%

備考・関連URL: ・交流相手校の大学生とのディスカッションを行うための基礎英語力として、チュートリアル・イングリッシュの中級レベルを終了しているか、同等あるいはそれ以上の能力が求められます。英語による意見交換がある程度できることが必要です。ただし、英語力そのものよりも積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢が一番大切です。評価にあたっても授業中の積極的な参加を一番重視します。
・多くの活動をやる必要がありますが、英語力・コミュニケーション力・異文化理解および適応能力・情報収集力・プレゼンテーション能力・自己表現力を身につけたいと強く願っている人の積極的な受講を期待します。また、留学生の受講も大歓迎です。
・春学期はカジュアルなトピックのもとできる限り沢山ディスカッション中に発言し、交流相手との仲を深めることが大きな目標です。能力をさら伸ばすために、ぜひ秋学期の「グローバルリテラシー演習応用」も合わせて受講して下さい。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 2 非主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020113|01|9S09020113[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	シェイクスピアと映像 （学部生用）		
担 当 教 員	本山 哲人		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（映像・表象・芸術）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: Shakespeare and Film Adaptations

授業概要: This class will explore the relationship between literary texts, in particular the plays of Shakespeare, and film adaptations of the text. Some topics that may be discussed include the differences in the media of the printed word, the stage, and the cinema, the notion of fidelity to the text, as well as the historical/social concerns of the time the films were produced. One play will be chosen for the semester; students will read the play closely and discuss some of the main issues. They will also be required to read some critical writings about cinematic representations of Shakespeare's plays, such as by Allardyce Nicholl, Jack Jorgen, Margaret Jane Kidnie, and Richard Burt. Finally, they will watch several screen adaptations and appropriations of the play on their own, discuss the films, and compare them to the text.

The second purpose of this class will be to improve students' communicative ability and study/research skills in English. The class will be conducted entirely in English. Though students may consult Japanese translations of the required reading, they will be expected to participate in classroom discussions and give presentations in English. As the class will revolve around student discussions and presentations, it will be imperative for students to be willing to take part in classroom activities.

For the final paper, students will be asked to read a play other than the one read in class and use the ideas of the critics discussed in class to examine a film adaptation of the play. The paper must be at least 3000 words long and use at least three other non-electronic/digital secondary sources. Students must provide proper citations using a standard stylesheet such as MLA or the Chicago Manual of Style. (If there is any doubt as to whether the final paper was written by the student or by AI, there will also be an oral exam about the paper.)

授業の到達目標: Students will learn how to read and discuss Shakespeare's plays in English. They will also learn how to discuss films and the various issues concerning the adaptation of written texts into film.
This class is particularly recommended for anyone interested in Shakespeare and performance, or film adaptations; it is also recommended for anyone who is preparing for graduate school in the humanities, in an English speaking country.

事前・事後学習の内容: Students will be given reading assignments for each class and asked to prepare discussion points for these. They will also be assigned scenes from the chosen play, on which they will be asked to present. For the second half of the semester, they will be expected to watch on their own the film adaptations; they will choose a film adaptation and have to present on this.

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: The following is a general guideline and may be altered depending on the size of the class and the background of the students. The first two weeks will be a general introduction to Shakespeare and his works. After that, each class will be divided into two sections: the first half hour will focus on various critical writings about performance or cinematic adaptations; this will include Allerdyce Nicoll, Jack J. Jorgens, Margaret Jane Kidnie, and Richard Burt. The remainder of the class will deal with the assigned play or film. Five to six weeks will be spent covering the chosen play; students will be assigned scenes for which they must prepare summary and discussion questions. The following five to six weeks will be spent discussing film adaptations; again, students will be assigned a film and will be expected to lead the discussion about the film. Finally, two to four weeks will be spent on students presenting on other Shakespeare plays and their film adaptations, which should then be developed into a final paper.

言語区分: 0 英語 English

教科書: To be announced in class

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 35 A 3000-word final paper in English, comparing one of Shakespeare's plays not discussed in class, and

a film adaptation of the play. At least three non-digital/electronic secondary sources must be used and proper citations must be provided.

平常点評価:	30	Participation in classroom discussions and projects.
その他:	35	Presentations and homework; there may also be a number of shorter writing assignments throughout the semester.

備考・関連URL: [IMPORTANT] The class will be conducted in-person, but PPT slides will be shared online, so students will need to bring a digital device to class. The handouts and reading material will be distributed on Moodle.Use of AI or translation software in writing the final paper will result in a failing grade for the class.

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020129|01|9S09020129[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	人類と言語の起源		
担 当 教 員	平山　廉		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火2時限@02:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　化石記録から見た人類進化の概説と言語の起源

授業概要：　アフリカから出現した初期人類が地球環境の変化とともにどのような過程で進化してきたのかについて，人類や他の霊長類の化石記録と形態的特徴、さらに習性について解説します。授業では人類化石や霊長類の標本やキャストに触れてもらい，古脊椎動物学（古人類学）における形態観察についても学びます。また難関とされる人類言語の起源についても独自の考察をします。最後に授業に関連したテーマでレポートを作成、提出してもらいます。授業は対面で実施します。

授業の到達目標：　人類の進化史について基礎的な知識を習得し，「ヒトとは何なのか」という問題について論理的な解釈を身につける．

事前・事後学習の内容：　特にありません。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　オリエンテーション（講義概要）
本講義の概要／化石の発掘調査について．

第2回　生物進化の考え方
化石研究における生物進化の基礎について

第3回　脊椎動物の進化1
脊椎動物の進化史から見たヒトの起源と特徴について

第4回　脊椎動物の進化2
第3回のつづき

第5回　哺乳類の進化
哺乳類の進化から霊長類の起源を考察する

第6回　霊長類の進化
霊長類の進化史から見たヒトの起源と特徴について

第7回　類人猿の進化
類人猿の起源と形態的特徴／ヒトとの違いについて

第8回　人類進化と古環境（猿人）
初期人類の化石と形態的特徴／古環境変化との関係について

第9回　人類進化と古環境（原人）
ホモ属の初期進化を探る

第10回　人類進化と古環境（新人）
現代人（ホモ・サピエンス）の登場

第11回　言語の起源1
生態的アプローチと進化的アプローチに基づく言語起源について

第12回　言語の起源2
第11回の続き

第13回　言語の起源
生態的アプローチと進化的アプローチに基づく言語起源について．

第14回　討論会
これまでの授業で出てきた課題について討論してもらう

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 40 最後の授業までに授業に関連したテーマをレポートにまとめて提出してもらいます。

平常点評価: 60 出席状況や授業態度で評価します。

備考・関連URL: 授業内容や課題への質問等は授業中またはメールで受付けます。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020143|01|9S09020143[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	台湾をめぐる戦後東アジア国際関係史		
担 当 教 員	家永 真幸		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 安定した国際的地位を求めて

授業概要: 台湾は日本人にとって近くて人気の観光スポットである。また、総統（大統領）や立法院（議会）の選挙戦をはじめとする、その近年の政治動向は日本でも大いに注目されている。
しかし、「台湾」という名称は、今日の国際社会の中で「地域名」として定着する一方、その国際的地位は依然として不安定なままである。台湾の国際的地位は、なぜ、どのように不安定なのか。本授業では、台湾を取り巻く国際政治および、その影響下で展開された台湾社会の発展を、歴史的な角度から講義する。
北京の中華人民共和国政府は、1949年の建国以来一貫して「台湾は中国の一部」と国内外に向けて主張している。これに対し、台湾社会では今や「台湾は台湾である」との意識が根強い。戦後の歴史の中では、台湾という島をめぐり、中国ナショナリズムと台湾ナショナリズムが複雑に交錯してきた。これは今日の台湾においても、民主的選挙の大きな争点の1つであり続けている。
いわゆる「台湾問題」は、中国内戦の延長として生まれ、戦後の国際冷戦構造下で展開されてきた。したがって、日本やアメリカは台湾問題と無縁ではなかったどころか、当事者ともいえる関与をしてきた。一方、台湾問題は国際問題であるに止まらず、台湾の内政に対しても民主化、本土化という大きな変動をもたらす要因となった。台湾政治の変動にともない、台湾問題の性質や争点も変化してきている。
台湾の国際的地位の不安定さは、どのようにして生まれ、どのように固定化、制度化され、近年はどのような局面を迎えているのか。そして、国際社会の中で特異な状況に置かれた台湾の人々は、いかなる思いをいだき、いかなる努力を続けてきたのか。この講義では、これらの問題について考えるための糸口を示していきたい。

授業の到達目標: ①台湾をめぐる国際問題を焦点として、東アジアの国際関係に対する明瞭なイメージを作ること。
②いわゆる「戦前」の歴史の延長線上に、「戦後」という時代や現代を捉えられるようになること。
③台湾社会がさらされてきた国際政治の展開を理解し、台湾と日本との関係性を冷静に考察できるようになること。

事前・事後学習の内容: 授業を受け関心を抱いたテーマについて、期末レポートの提出を求める。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ガイダンス
本講義の目的と概要／台湾の概況について
第2回 台湾の戦後はいつ始まったのか
中華民国による台湾の脱植民地化「代行」と228事件
第3回 国共内戦と台湾海峡の分断
台湾と中国内戦・朝鮮戦争
4: 第4回 「一つの中国」をめぐる外交闘争
戦争の講和と日華・日台関係／国民党一党独裁体制の成立と大陸反攻政策／中国の「1つの中国」原則と「2つの中国」問題
第5回 米中和解と台湾問題の新局面
中ソ対立と米中和解
第6回 日台間の「1972年体制」
1972年体制下の米台関係、日台関係の新展開
第7回 対外危機と台湾の民主化（1969-1988）
対外危機への対応と段階的な民主化
第8回 米中台三者関係の再編（1979-1988）
米中関係の展開、中国の対台湾政策の変化
第9回 李登輝政権と中華民国憲法の改正（1988-2000）
台湾本土化の進行と両岸関係の見直し

第10回　台湾初の政権交代と台湾ナショナリズム（2000-2008）
陳水扁政権と共産党・国民党関係の変質
第11回　ジャイアント・パンダをめぐる中台関係
馬英九政権の対中融和政策
第12回　台湾アイデンティティと中台関係（2008-2016）
故宮博物院と歴史認識の分断／中台間の不安定要素
第13回　民進党政権の長期化と台湾海峡の再緊張（2016-）
蔡英文政権の内政改革、頼清徳政権の誕生
第14回　総合討論
近年の政治情勢と国際秩序の変化

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特に指示しない

参考文献:
松田康博『中国と台湾――危機と均衡の政治学』慶應義塾大学出版会、2025年。
赤松美和子、若松大祐編『台湾を知るための72章【第2版】』明石書店、2022年。
家永真幸『台湾のアイデンティティ――「中国」との相克の戦後史』文春新書、2023年。
家永真幸『国宝の政治史――「中国」の故宮とパンダ』東京大学出版会、2017年。
五十嵐隆幸『大陸反攻と台湾』名古屋大学出版会、2021年。
川島真、清水麗、松田康博、楊永明『日台関係史1945-2008』東京大学出版会、2009年。
佐橋亮『共存の模索：アメリカと「二つの中国」の冷戦史』勁草書房、2015年。
菅野敦志『台湾の国家と文化』勁草書房、2011年。
中村元哉、森川裕貴、関智英、家永真幸『概説 中華圏の戦後史』東京大学出版会、2022年。
福田円『中国外交と台湾：「一つの中国」原則の起源』慶應義塾大学出版会、2013年。
若林正丈、家永真幸編『台湾研究入門』東京大学出版会、2020年2月。
若林正丈『台湾の政治―中華民国台湾化の戦後史 増補新装版』東京大学出版会、2021年。
若林正丈『台湾の歴史』講談社学術文庫、2023年。
若林正丈『台湾の半世紀――民主化と台湾化の現場』筑摩選書、2023年。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 50　期末レポートの提出を求める

平常点評価: 50　毎回コメント・シートの提出を求め、その内容等に基づき総合的に判断する。

備考・関連URL: 授業への出席回数が全体の3分の2に満たない場合は、原則として不合格とする。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020156|01|9S09020156[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語会話を学ぶ 基礎編		
担 当 教 員	楊 達		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水5-6	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（経営・経済・金融）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「中国語会話を学ぶ 入門編」に続き、コミュニケーションの基礎語学力を養成するクラスです。入門編同様、授業ではオンデマンド教材と教室の授業で行い、実践的な中国語を学習していきます。授業では中国語の会話練習のほか、情報検索など現代に必要なツールも経験できたらと思います。
なお、履修者は中国語検定4級以上に合格している方、もしくは入門程度の中国語を学習済みであることを要求する。

授業の到達目標: ある程度中国での日常生活をこなせる語学能力を身につけること。

事前・事後学習の内容: 2コマ連続で行われます。先の1コマで必ず当日のオンデマンド授業の内容を完成してください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
とても緊張しています

第2回
相手の意志を確認する

第3回
行き先を尋ねる

第4回
乗り換え必要ですか

第5回
歩いていきましょう

第6回
受付で相手を呼び出しましょう

第7回
打ち合わせ前のご挨拶

第8回
これは山本さんからの贈りものです

第9回
サンプル品は？

第10回
龍井茶を飲んだことありますか

第11回
明日はこられますか？

第12回
上海行きの切符を予約

第13回
チケットを窓口で買う

第14回
教場試験

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教場で指示。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50 会話試験

なし

平常点評価: 50 出席と授業態度

なし

備考・関連URL: 既に入門程度の中国語を学習済みであることがが望ましい。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020157|01|9S09020157[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国語会話を学ぶ 入門編		
担 当 教 員	楊 達		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水5-6	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（経営・経済・金融）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 会話のベースをつくる

授業概要: 本授業はコミュニケーションに必要な基礎的な語学力を身につけるための、徹底・集中型、聞いて覚える基礎中国語クラスです。授業ではオンデマンド教材と教室での授業で行い、実践的な中国語を学習して行きます。2コマ連続で授業行いますが、前半の1コマでオンデマンド教材を必ず終了してください。後半1コマは会話を中心に進めていく予定です。
この授業はあくまでも初習者を対象にしていますので、中級者以上の人は履修しないようにしてください。

授業の到達目標: 発音の定着、基礎的な文法の取得を通して、挨拶、自己紹介などの基本的な表現をマスターすることを目標とします。

事前・事後学習の内容: オンデマンド教材を事前に終了すること

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
声調

第2回
子音

第3回
母音

第4回
挨拶をしましょう

第5回
自己紹介

第6回
これはあなたの荷物ですか。

第7回
数字を覚えましょう

第8回
誕生日は？

第9回
スケジュールを決める

第10回
明日何時に行きますか

第11回
ビジネスセンターありますか

第12回
]お金を換える

第13回
地下にあります

第14回
教場試験

言語区分:	0	日本語	Japanese
教科書:	教場にて指示する。		
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）		
試験:	50	会話テスト	
レポート:	0	なし	
平常点評価:	50	出席、授業態度	
その他:	0	なし	
備考・関連URL:	この授業はあくまでも初習者を対象にしていますので、中級者以上の人は履修しないようにしてください。		

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020267|01|9S09020267[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ドイツ語テレビ会議（言語・文化）		
担 当 教 員	星井 牧子		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	文・社会科学科目（歴史・文化（西欧・中東編	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ＊本科目はドイツ語学習歴のある学生を対象にしています。科目登録にあたっては、シラバスの備考欄を必ず確認してください。
ドイツ語圏の社会・文化をより深く理解し、かつ異文化交流の実践を試みることを目的とします。遠隔システムによってドイツ語圏の大学と結び、双方の学生同士でテレビ会議を行い、お互いの言語や文化などについてドイツ語で話し合います。ドイツ語圏と日本、それぞれの社会を現に生きている者同士が情報・意見を交換し、お互いの言語と文化に対する新たな視点を得ることを目指します。交流のテーマは受講生の希望に基づき、交流先の学生に提案・相談の上、決定します。 2026年度春学期の交流先はウィーン大学の予定です。
＊交流実施日については、交流先大学との調整で、今後変更となる可能性があります。

授業の到達目標: ・ドイツ語圏の学生との交流を通じ、ドイツ語圏の社会・文化を理解すると同時に、互いの言語・文化に対する新たな視点を得る。
・互いの言語・文化について、ドイツ語でプレゼンテーションし、意見交換する力をつける。
・交流での議論を振り返り、ドイツ語で表現する力をつける。

事前・事後学習の内容: ・交流で扱うテーマについて情報を集め、語彙や表現を学ぶ。
・プレゼンテーションや質疑応答で使うドイツ語の表現を学ぶ。
・交流で理解・説明するのが難しかった内容について振り返りを行う。
（所要時間は60分程度が想定されます。）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

授業オリエンテーション
Einführung
テーマ選び
Themenvorschläge
第1回テレビ会議（顔合わせとテーマ選び）
Konferenz 1: Kennenlernen und Themen aushandeln
第2回テレビ会議（テーマ1）
Konferenz 2: Themenblock 1
第3回テレビ会議（テーマ1）
Konferenz 3: Themenblock 1
第4回テレビ会議（テーマ2）
Konferenz 4: Themenblock 2
第5回テレビ会議（テーマ2）
Konferenz 5: Themenblock 2
第6回テレビ会議（テーマ3）
Konferenz 6: Themenblock 3
第7回テレビ会議（テーマ3）
Konferenz 7: Themenblock 3
テレビ会議の振り返り
Reflexion
プレゼンテーションとディスカッション（1）
Präsentation und Diskussion (1)
プレゼンテーションとディスカッション（2）
Präsentation und Diskussion (2)

プレゼンテーションとディスカッション（3）
Präsentation und Diskussion (3)
まとめ
Evaluation

言語区分: 0 ドイツ語 German

教科書: 特になし

参考文献: 開講時に指示します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 70 授業への出席、ディスカッションへの参加、課題提出

その他: 30 プレゼンテーション

備考・関連URL: この授業では実際にドイツ語圏の大学と遠隔システムで結び、ドイツ語を使ってディスカッションを行うため、以下の学習歴／レベルを受講の目安としています。
(1)「ドイツ語コミュニケーション（基礎）」「ドイツ語コミュニケーション（続基礎）」「ドイツ語コミュニケーション（応用）」「ドイツ語コミュニケーション（上級）」「ドイツ語テレビ会議（生活・社会）」のいずれかを受講済みであること。
(2) 交換留学等でドイツ語圏での滞在経験（1年程度）があること。
(3) 欧州共通参照枠（CEFR）のB1（ZD, Zertifikat Deutsch）以上のドイツ語運用能力を有すること。
(4) 短期語学研修等でドイツ語のコミュニケーションに慣れていること
(5) その他、上記に相当するドイツ語運用能力を有すること。
自分が履修可能なレベルかわからない場合には、担当教員まで問い合わせてください。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020268|01|9S09020268[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ドイツ語テレビ会議（生活・社会）		
担 当 教 員	ヘンドリックス　クリストフ@星井　牧子		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	文・社会科学科目（歴史・文化（西欧・中東編	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　＊本科目はドイツ語学習歴のある学生を対象にしています。科目登録にあたっては、シラバスの備考欄も必ず確認してください。
ドイツ語圏の社会・文化をより深く理解し、かつ異文化交流の実践を試みることを目的とします。遠隔システムによってドイツ語圏の大学と結び、双方の学生同士でテレビ会議を行い、お互いの言語や文化などについてドイツ語で話し合います。ドイツ語圏と日本、それぞれの社会を現に生きている者同士が情報・意見を交換し、お互いの言語と文化に対する新たな視点を得ることを目指します。交流のテーマは受講生の希望に基づき、交流先の学生に提案・相談の上、決定します。
2026年度秋学期の交流先はベルリン・フンボルト大学の予定です。
＊交流実施日については、交流先大学との調整で今後変更となる可能性があります。

授業の到達目標：　・ドイツ語圏の学生との交流を通じ、ドイツ語圏の社会・文化を理解すると同時に、互いの言語・文化に対する新たな視点を得る。
・互いの言語・文化について、ドイツ語でプレゼンテーションし、意見交換する力をつける。
・交流での議論を振り返り、ドイツ語で表現する力をつける。

事前・事後学習の内容：　・交流で扱うテーマについて情報を集め、語彙や表現を学ぶ。
・プレゼンテーションや質疑応答で使うドイツ語の表現を学ぶ。
・交流で理解・説明するのが難しかった内容について振り返りを行う。
・プレゼンテーションとディスカッションの内容をまとめてドイツ語で作文する。
（所要時間は60分程度が想定されます。）

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

授業オリエンテーション
Einführung / Kennenlernen
テーマ選び
Themenvorschläge
プレゼンテーション準備（1）
Vorbereitung der Präsentation (1)
第1回 テレビ会議（顔合わせ 1）
Videokonferenz 1: Kennenlernen
第2回テレビ会議（テーマ1）
Videokonferenz 2: Themenblock 1
第3回テレビ会議（テーマ1）
Videokonferenz 3: Themenblock 1
テレビ会議の振り返りとディスカッション（1）
Reflexion und Diskussion (1)
第4回 テレビ会議（顔合わせ 2）
Videokonferenz 4: Kennenlernen (4)
第5回テレビ会議（テーマ2）
Videokonferenz 5: Themenblock 2
第6回テレビ会議（テーマ2）
Videokonferenz 6: Themenblock 2
テレビ会議の振り返りとディスカッション（2）
Reflexion und Diskussion (2)

プレゼンテーションとディスカッション（1）
Präsentation und Diskussion (1)
プレゼンテーションとディスカッション（2）
Präsentation und Diskussion (2)
まとめ
Evaluation

言語区分: 0 ドイツ語 German

教科書: 特になし

参考文献: 開講時に指示します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 70 授業への出席、ディスカッションへの参加、課題提出

その他: 30 プレゼンテーション

備考・関連URL: この授業では実際にドイツ語圏の大学と遠隔システムで結び、ドイツ語を使ってディスカッションを行うため、以下の学習歴／レベルを受講の目安としています。
(1)「ドイツ語コミュニケーション（基礎）」「ドイツ語コミュニケーション（続基礎）」「ドイツ語コミュニケーション（応用）」「ドイツ語コミュニケーション（上級）」「ドイツ語テレビ会議（言語・文化）」のいずれかを受講済みであること。
(2) 交換留学等でドイツ語圏での滞在経験（1年程度）があること。
(3) 欧州共通参照枠（CEFR）のB1（ZD, Zertifikat Deutsch）以上のドイツ語運用能力を有すること。
(4) 短期語学研修等でドイツ語のコミュニケーションに慣れていること
(5) その他、上記に相当するドイツ語運用能力を有すること。
自分が履修可能なレベルかわからない場合には、担当教員まで問い合わせてください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020269|01|9S09020269[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ドイツ人の環境意識を探る		
担 当 教 員	室井 禎之		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	文・社会科学科目（歴史・文化（西欧・中東編	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ドイツは環境先進国として知られています。その環境問題への取り組みは世界的な注目を集めており、その一端は日本でも新聞やテレビの報道などでしばしば取り上げられています。ドイツの環境保護の潮流について指摘されるもっとも重要な特徴の1つは、それが上からの指導によるものではなく、市民レベルの高い意識と実践に支えられているということです。それがどのような意識なのか、どのような背景をもっているのか、どのように生活の中で実践されているのか、などについて調べます。
領域としては、日常生活に関わる環境問題としてのゴミ、エネルギー、交通の分野、加えて意識形成に関わる環境教育、思想的背景などが考えられます。
参加者はそれぞれの調査結果をプレゼンテーションし、それにもとづき全員で討論を行います。発表の際に他の参加者から出された質問やコメントなどを検討し、さらに調査を進めプレゼンテーションの後2, 3週間をめどに初稿を提出します。初稿は担当教員がコメントを付して返しますので、それを踏まえて学期末に改訂した最終稿を提出します。なお、提出されたレポートは成果報告集として電子ファイルにし、参加者に配布します。

授業の到達目標: 調査は文献資料のほかに、Web上で公開されている情報などを利用して、参加者が主体的に行うことが求められます。これらの調査結果を検討し、ドイツ人の環境意識とその実践に迫ることを目指します。
自ら選んだテーマについて、必要な調査を行い、他者の意見を検討し、論理的で説得力あるレポートを自立的に作成できるようになることが到達目標です。

事前・事後学習の内容: 自分のテーマについての文献を探し、読み、発表を準備すること。ディスカッションにもとづき追加調査を行うこと。上記の作業を踏まえてレポートを執筆すること。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 第1回 オリエンテーション：テーマの紹介、参考文献の紹介第2回-第4回 個別テーマの設定、ドイツの環境意識調査結果の概要の紹介
第5回-第13回 発表とディスカッション
第14回 まとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定しない

参考文献: 授業中に随時紹介する

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	50	複数の参考文献を使用するなど、テーマを多角的に扱っていること。飛躍のない丁寧な議論がなされていること。プレゼンテーション時のディスカッションを踏まえて検討が行われていること。
平常点評価:	50	プレゼンテーション、および討論への参加度

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020274|01|9S09020274[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	都市環境の法と政策		
担 当 教 員	黒川 哲志		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： 都市の環境にかかわる法制度とその背後にある政策について理解し、今後の都市環境法政策について展望する。1970年代までの激甚の産業公害、1970年代以降の都市生活型公害、そして今日の重要課題である気候変動などの地球環境問題に至るまで、その問題の構造、これに対応する規制の仕組み、そしてこれを支える法制度について検討する。大気汚染、水質汚濁、廃棄物処理・リサイクルなどの公害環境問題から始まり、気候変動との関連で省エネや再生可能エネルギーや原子力の問題にも取り組む。そして、今日の都市環境において、都市における生物多様性が重要な要素となってい要るので、これを実現するための都市計画や都市緑地法制について学ぶ。都市公園や河川整備、そして近郊の里山環境の保全が重要な要素となる。その延長で、自然公園などのnature reserveの法制度や動植物保護の法制度についても学。 学生の主体的な参加を重視した授業にしたいので、各コマ、学生による30分程度の報告を素材とした議論を中心に授業を進める。

授業の到達目標： 都市環境問題の構造について、歴史的な理解を得、これらを克服するために採用された法システムについて理解する。そして、都市環境問題を、周辺の自然環境と一体となったものとして把握するとともに、地球環境問題とも連続性を持つ者であることを理解する。

事前・事後学習の内容： 事前学習として、参考文献中の関連個所を呼んでくること。
事後学習として、授業の終わりに出す課題をすること。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーション（本講義の目的と概要）

本講義の目的と概要について説明します。日本の環境問題および環境法の歴史についてレクチャーします。
報告の割り当てを行います。

第2回 基本原則および自然保護法制の概要

環境法の基本原則および自然保護法制の概要についてレクチャーします。持続可能な発展、生物多様性、汚染者負担原則、環境権など。

第3回 都市計画法の仕組み

市街化区域と市街化調整区域の線引き、用途地域制、容積率、建蔽率などの基本概念について学びます。
総合設計制度や東京駅丸の駅口の再開発のようなTDR制度についても学びます。

第4回 都市緑地の保全と創出のための法制度

都市緑地法の仕組みについて学びます。緑地保全地域、特別緑地保全地区、あるいは緑化地域などのゾーニングについて学びます。
地方公共団体以外のNPO法人やまちづくり会社などの団体がみどり法人として緑地の保全や緑化の推進を行う緑地保全・緑化推進法人（みどり法人）制度についても学びます。
緑地協定についても学びます。

第5回 都市公園と都市河川の整備

都市公園の種類と役割およびそれにかかわる法制度を学びます。近年盛んに用いられるようになったPFIについても検討します。
都市緑地のネットワーク化に重要な役割を果たしている河川の整備について学びます。
多自然河川による都市と里山との連結について検討します。
市民の親水権とのかかわりも検討します。

第6回 里山の保全

里山環境の現状と保全のための法制度を学びます。
二次的自然の生物多様性の観点からの重要性を学びます。
農業・林業政策と一体化した二次的自然保護の特徴を明らかにします。
コウノトリやトキの野生復帰事業を素材にして考えます。

第7回 都市景観

景観法の仕組みを学びます。
地域の特色ある景観の保全や創出の取り組みについて検討します。

第8回　都市の大気汚染問題(工場)

工場からの大気汚染物質の排出による激甚な大気汚染を克服した規制手法について学びます。いわゆるcommand & controlの手法を学びます。総量規制の仕組みを学びます。

第9回　都市の大気汚染問題(自動車)

自動車の排気ガスによる大気汚染を克服した規制手法について学びます。個々の自動車の排気ガスに関する規制を学びます。
交通需要マネージメントについて学びます。

第10回　都市河川や閉鎖性水域の汚濁

水質汚濁問題を克服してきた取り組みについて学びます。規制制度および下水道の整備などのほか、市民の取り組みについても検討します。

第11回　廃棄物処理

都市における廃棄物処理の仕組みと問題点について学びます。廃棄物処理法の仕組みを学びます。
NIMBYの克服について検討します。

第12回　リサイクル/循環型社会

都市における資源の循環的利用の意義、および法的な仕組みについて学びます。容器包装リサイクル法、家電リサイクル法、小家電リサイクル法などを検討します。

第13回　温暖化と再生可能エネルギー

再生可能エネルギーの必要性とそれを支えるエネルギー政策およびエネルギー法制度について学びます。
Feed-in Tariffやrenewable portfolio standardの仕組みについても検討します。
原子力や電力システム改革についても検討します。

第14回　土壌汚染

土壌汚染対策法の仕組みについて学びます。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　なし

参考文献:　饗庭伸・鈴木伸治ほか『初めて学ぶ 都市計画(第3版)』(市ケ谷出版社・2014年)
大塚直『18歳からはじめる環境法(第3版)』(法律文化社・2024年)
その他、授業中に紹介。

成績評価フリー入力サイン:　0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価:　100　プレゼンテーションの内容を評価します。
授業への参加の積極性および発言の内容により評価します。
ただし、出席が授業回数の三分の二未満の学生は、原則として、不合格となります。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020286|01|9S09020286[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	初めて学ぶ『言語と情報の脳科学』		
担 当 教 員	酒井 弘		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 人間が現在のように科学技術を発展させ、文化や社会を創造することができた重要な理由の一つとして、言語を駆使して知識や情報を記録し、共有し、利用する能力を備えていたことが挙げられる。この授業では、人間の脳がどのようにして言語を使用しているのか、言語学、認知科学、神経科学の観点から概説する。まず言語とは何か、その本質を捉えるために人間言語の特徴を現代言語学の観点から説明する。続いて言語を含む人間の知的能力を情報処理の観点から捉える認知科学の発想を説明し、最後に言語処理を支える基盤となる脳のメカニズムについて、19世紀に始まる失語症研究から最新の脳機能計測研究までの発展を概説する。

授業の到達目標: 1. 言語とは何か、さまざまな立場から捉えられることを踏まえた上で、人間の脳による情報処理メカニズムとして捉える立場の重要性を理解する。
2. 人間の知的活動を情報処理として捉える認知科学の発想を理解し、その発想に基づいた言語研究がどのように進められるかを学習する。
3. 失語症研究から現代の脳機能イメージング研究に至る発展を踏まえて、言語処理を支える脳のメカニズムについて、何がどこまで明らかにされたか理解する。

事前・事後学習の内容: リーディング資料を読んで、各自が授業時までに資料の内容に関連する質問に対する答えを準備する。授業時には少人数のグループに分かれて、準備した解答を利用してディスカッションを行って、グループごとにまとめて発表する。準備段階の解答およびグループで授業時にまとめた解答を課題として提出する。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
イントロダクション−1
講義の概要と担当者の紹介

第2回
イントロダクション−2
言語とは何か

第3回
認知科学の誕生と展開−1
認知革命

第4回
認知科学の誕生と展開−2
形式言語と生成文法

第5回
失語症と脳の機能地図−1失語症の発見

第6回
失語症と脳の機能地図−2認知神経科学の展開

第7回
脳波と電気生理学脳波の発見と脳波計測の方法

第8回
事象関連電位（ERP）
ERPを使った言語研究

第9回
MRI（核磁気共鳴イメージング）とfMRI（機能的MRI）MRIの原理とfMRIの方法

第10回
脳波ラボ（早稲田大学喜久井町キャンパス）見学

第11回
脳機能イメージングfMRIを使った言語研究

第12回
MRI施設（早稲田大学所沢キャンパス）見学
＊見学には所沢キャンパスへの移動時間を含めて約半日要するため、参加できない受講者には代替措置を講じます。
第13回
生体磁気と脳磁図（MEG）
生体磁気計測の方法とMEGを使った言語研究
第14回
まとめと今後の展望

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 授業の中で紹介し、リーディング資料を配布する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	60	授業中に指示するリーディング資料を読んで、関連する質問に対する答えを準備して提出する。授業時のディスカッションを踏まえて、授業後に再び解答を提出する。授業前と授業後、それぞれの提出された課題を評価する。
平常点評価:	40	リーディング資料に関連する質問について、授業時に少人数のグループに分かれてディスカッションを行い、グループごとにまとめて発表しする。ディスカッションへの参加と、グループ発表の内容を評価する。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020287|01|9S09020287[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	初めて学ぶ『自然言語と人工知能』		
担 当 教 員	折田　奈甫		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　「ChatGPTのようなAIは、人間と同じように言葉を学び理解しているのか？」この問いに答えるためには、現在のAI技術だけでなく、認知科学や言語学の知見に立ち返って考える必要があります。本講義では、機械学習、ニューラルネットワークモデル、言語モデルなどの仕組みを文系向けに解説し、言語学・認知科学の視点から「人工知能」を批判的に検討していきます。

授業の到達目標:　1. 自然言語処理技術で自然言語のどのような側面がどのように表現・処理されているのかを理解する。
2. 主要な機械学習モデル（大規模言語モデルなど）の基本的なメカニズムを数式を使わないで概念的に理解する。
3. 最近の機械学習・自然言語処理技術を用いた自然言語に関する認知科学的/言語学的研究を批判的に考え議論できるようになる。

事前・事後学習の内容:　授業では積極的な発言と議論を求めます。そのため、予習としてWaseda Moodleに掲載する参考文献の事前読了を求めます。

授業計画フリー入力サイン:　0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
オリエンテーション、イントロダクション: 言語能力、経験主義と合理主義
第2回
文系向け機械学習入門
第3回
文系向けニューラルネットワーク入門
第4回
文系向け大規模言語モデル入門
第5回
生成AIの言語能力を言語学から考える
第6回
ニューラルネットワークモデルは人間の脳のモデルか
第7回
テスト
第8回
大規模言語モデルと人間の言語獲得を比較する(1)
第9回
大規模言語モデルと人間の言語獲得を比較する(2)
第10回
大規模言語モデルと人間の言語処理を比較する
第11回
言語モデルは差別的か
第12回
大規模言語モデルは絶滅危機言語を救えるか
第13回
実社会における生成AIと言語に関する問題
第14回
まとめとテスト

言語区分:	0　日本語　Japanese
教科書:	指定なし
参考文献:	Waseda Moodleの講義ページに掲載します。
成績評価フリー入力サイン:	1 : フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	毎回の授業でのリアクションペーパー（13回 x 3pt = 39pt） 授業ノート（12回 x 2pt = 24pt） 第7回と14回の筆記テスト（37pt）
備考・関連URL:	・単位を取得するには、授業に 2/3 以上出席することが必要です。・20分以上の遅刻は欠席とみなします。 ・遅刻3回で1回の欠席とカウントします。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020353|01|9S09020353[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	エネルギーと原子力を考える：サステナビリティとレジリエンス		
担 当 教 員	松岡 俊二		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： 21世紀の地球環境とエネルギー・原子力問題

授業概要： 本講義は、21世紀における地球環境問題（気候変動）とエネルギー利用のあり方を、原子力をめぐる問題に焦点を当てて議論する。2011年3月11日に発生した東日本大震災と福島原発事故は、今後の日本社会におけるエネルギーをどのように考え、原子力の利用をどのように位置付けるのかを鋭く問いかけるものであった。福島における放射能汚染と長期にわたる避難の状況は、原子力災害リスクの取り扱いの難しさを教え、再生エネルギーへの移行を強く促すものであった。しかし、再生エネルギーへの転換は技術的にも、経済的にも克服すべき課題が多く、経済発展と気候変動問題を考えたとき、一定程度の原子力発電利用の重要性や合理性も主張されている。一方、安全規制だけでなく、核燃料サイクルをめぐる問題や高レベル核廃棄物処分をめぐるバックエンド問題も大きな問題として存在する。本演習では、2011年の東日本大震災と福島原発事故の大きな教訓である災害に強く（レジリエント）、持続可能な（サステナブル）日本社会のあり方を、エネルギーと原子力を軸として、受講者の発表や討論を通じて考えていく。
本講義は「主体的・対話的な学び」を重視し、参加者との対話型の講義を実践する。

＊ 講義（クオーター科目ですので、2回で1セット）の後には、講義に対する簡単な感想文を書いてもらいます。提出された感想文の中から優れたものは、次回の講義で紹介し、予習・復習のポイントを明確にします。
＊ 本講義は秋クオーター（第3クオーター）科目です。本講義は対面で実施します。

授業の到達目標： (1)現代の世界が抱える環境問題とエネルギー問題との関係を理解し、それに伴う社会・経済的なリスクを正しく理解する。
(2)レジリエンス（復元力・適応力）の強化し、持続可能な社会を形成するための社会制度や政策のあり方について理解する。
(3)講義における発表や討論を通じて、説得力ある議論を展開するために必要とされる論理力と客観的なデータ（証拠）の収集力や分析能力を身につける。

事前・事後学習の内容： 事前にWebサイトに揚げる講義資料や参考文献を事前に読了し、事後には演習内容を整理し、資料や文献を再読する。
予習と復習には90分から120分程度の時間を要すると考えられます。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

講義の進め方：ガイダンス

1. ガイダンス「東日本大震災と福島原発事故の教訓とは何か？」という問いから、「エネルギーと原子力を考える」という本演習の基本的なフレームと進め方を説明する。

サステナビリティについて（1）

2. ブルントラント報告（1987）における「持続可能な発展（SD）」の定義からその後の議論を振り返る（1）SDや持続性をめぐる議論を紹介し、定義や測定方法、指標などについて議論する。

サステナビリティについて（2）

3. ブルントラント報告（1987）における「持続可能な発展（SD）」の定義からその後の議論を振り返る（2）SDGsや気候変動、カーボンニュートラルなどの最近の動向について議論する。

サステナビリティとレジリエンス（1）

4. 持続可能性（サステナビリティ）と21世紀におけるレジリエンス（復元力・回復力）の議論との関係を考える（1）地震・津波・火山噴火などの自然災害、気候変動という気候災害、新型コロナなどの生物災害などを事例について議論する。

サステナビリティとレジリエンス（2）

5. 持続可能性（サステナビリティ）と21世紀におけるレジリエンス（復元力・回復力）の議論との関係を考える（2）地震・津波・火山噴火などの自然災害、気候変動という気候災害、新型コロナなどの生物災害などを事例について議論する。

サステナビリティとレジリエンスのまとめ（1）

6. レジリエンスとサステナビリティのまとめの討論を、受講生の簡潔な報告をベースに行う。

サステナビリティとレジリエンスのまとめ（2）
7. レジリエンスとサステナビリティのまとめの討論を、受講生の簡潔な報告をベースに行う。
エネルギーと原子力をめぐる問題（1）
8. 日本のエネルギー利用と原子力利用を、歴史的・社会的な視点から考察し、基本的要因や構造について議論する。
エネルギーと原子力をめぐる問題（2）
9. 日本のエネルギー利用と原子力利用を、歴史的・社会的な視点から考察し、基本的要因や構造について議論する。
原子力発電をめぐる問題（1）
10. 日本の原子力発電の過去・現在・将来について、欧米や世界の動向なども踏まえて、議論する。
原子力発電をめぐる問題（2）
11. 日本の原子力発電の過去・現在・将来について、欧米や世界の動向なども踏まえて、議論する。
エネルギーと原子力を考える（1）
12. 日本の環境問題の歴史から今後のエネルギーと原子力利用を考える。
エネルギーと原子力を考える（2）
13. 日本の環境政策の歴史から今後のエネルギーと原子力利用を考える。
演習のまとめ：今後のエネルギーと原子力を考える視点
14.「今後のエネルギーと原子力を考える」というテーマで演習のまとめを行う。受講生の報告を踏まえた討論を行う。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:
1. 松岡俊二（編）（2018）『社会イノベーションと地域の持続性：場の形成と社会的受容性の醸成』有斐閣
2. 松岡俊二（他）（2022）『未来へ繋ぐ災害対策：科学と政治と社会の協働のために』有斐閣

参考文献:
1. 松岡俊二（2012）,『フクシマ原発の失敗－事故対応過程の検証とこれから－』早稲田大学出版部
2. 松岡俊二・師岡愼一・黒川哲志（2013）,『原子力規制委員会の社会的評価：3つの基準と3つの要件』早稲田大学出版部
3. 松岡俊二・いわきおてんとSUN企業組合（編）（2013）,『フクシマから日本の未来を創る：復興のための新しい発想』早稲田大学出版部
4. 松岡俊二他（編）（2015）,鎌田薫（監修）『震災後に考える：東日本大震災と向きあう92の分析と提言』早稲田大学出版部

＊講義の進行に応じて、参考文献や参照情報をWaseda^Moodleで配布する。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 50 講義におけるレポートの作成とその発表・討論を評価する。

平常点評価: 50 議論への積極的な参加状況を評価する。

備考・関連URL:
松岡研究室HP https://smatsu.w.waseda.jp
レジリエンス研究所HP http://prj-matsuoka311.w.waseda.jp/

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020357|01|9S09020357[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	地中海世界に生きた人々（歴史編）		
担 当 教 員	宮城　徳也		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	文・社会科学科目（歴史・文化（西欧・中東編	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　地中海世界の歴史と文化

授業概要：　イタリア・ルネサンスに花開いた、絵画、彫刻、建築は私たちを引きつけてやみません。しかし、これらは特定の時代の特定の地域に孤立して栄えたものではなく、オリエント、古代ギリシア、古代ローマ、中世（ビザンティン、ロマネスク、ゴシック）の歴史や文化を前提として、イスラムなど他文化との交流、葛藤の中から生まれ、後世の世界に大きく影響する遺産を残しています。視覚芸術の魅力とその歴史的背景をまとめた参考映像から出発して、それらの魅力と、「地中海性」を考えて行きたいと思います。この学期では，特に「歴史」に注目して，以上のことを考えて行きます.
ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

授業の到達目標：　地中海文化の多様性を、古代と中世、ルネサンスと近現代、イタリアとスペインなどの対比を通じて理解していく。

事前・事後学習の内容：　地中海文化の多様性に興味を持って，多くの参考文献やウェブページにあたり，可能なら，地中海地域をそれぞれ訪ねて見聞，理解を深めてほしい。

授業計画フリー入力サイン：　0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
イタリアの歴史と地中海。映像と講義。

ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない
第2回
ギリシアの歴史と地中海。映像と講義。

ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない
第3回
イベリア半島の歴史と地中海。映像と講義。

ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない
第4回
その他の地中海地域（北アフリカ、アナトリア半島、中近東、南フランスなど）の歴史。映像と講義。

ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない
第5回
発表と討議

ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない
第6回
発表と討議
ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない
第7回
発表と討議
ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書：　教科書は使いませんが、日本語と英語で読めるウェブページを参考にしながら、どれがどのような理由で信用できる可能性が高いか、ということも一緒に考えたいと思います

参考文献：　授業で紹介します

成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	0	定期試験、教場試験などの筆記試験は行いません。
レポート:	30	学期末に、2,000字程度で、学習成果をまとめた報告の提出を求めます（Moodlei提出）。
平常点評価:	70	1. 学期中、最低1回の研究発表（発表に使ったパワーポイントのファイルを提出） 2. 毎回、参考映像、発表の内容をまとめ、それに対する見解を記したMoodleでの課題提出を求めます。 1と2を合わせて平常点として評価します。
その他:	0	レポートと平常点で評価します.
備考・関連URL:	2007年度と2017年度に在外研究で、それぞれ1年間フィレンツェに滞在したので、その成果を踏まえ、できれば「フィレンツェのルネサンス」から見える「地中海文化」を中心に据えたいと考えています。 関連URL: http://www.f.waseda.jp/tokuyam/fir.index.htm ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020358|01|9S09020358[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	地中海世界に生きた人々（民族編）		
担 当 教 員	宮城 徳也		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	文・社会科学科目（歴史・文化（西欧・中東編	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 地中海世界の民族，言語，宗教と文化遺産

授業概要: 「民族」を構成する要素として，言語，宗教，人種，文化など幾つかのものが考えられますが，この中で，特に言語，宗教に焦点をあて，地中海世界に興亡し，また現存している諸民族がどのような文化を産み出していったかを考察します．その際，そこで生み出された芸術作品など文化遺産をヒントにして考察を進めたいと考えます．
ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

授業の到達目標: 地中海世界の言語的多様性と，そこで展開され，現在も大きな影響力を持つ諸宗教の「地中海」性を少しずつで理解していくことを目標とします．

事前・事後学習の内容: 地中海文化の多様性に興味を持って，多くの参考文献やウェブページにあたり，可能なら，地中海地域をそれぞれ訪ねて見聞，理解を深めてほしい。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
地中海世界の民族と文化（映像と講義）
ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

第2回
「民族」から見たイタリアの多様性／「民族」から見たスペインの多様性（映像と講義）

ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

第3回
「民族」から見た地中海世界の文化の多様性と共通性（映像と講義）

ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

第4回
地中海文化の基層としてギリシア（映像と講義）

ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

第5回
発表と討議
ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

第6回
発表と討議
ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

第7回
発表と討議
ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教科書は使いませんが、日本語と英語で読めるウェブページを参考にしながら、どれがどのような理由で信用できる可能性が高いか、ということも一緒に考えたいと思います

参考文献: 授業で紹介します

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 定期試験、教場試験などの筆記試験は行いません。

レポート:	30	学期末に、2,000字程度で、学習成果をまとめた報告の提出を求めます（Moodle提出）。
平常点評価:	70	1．学期中、最低1回の研究発表（発表に使ったパワーポイントのファイルを提出） 2．毎回、参考映像、発表の内容をまとめ、それに対する見解を記したMoodleでの課題提出を求めます。 1と2を合わせて平常点として評価します。
その他:	0	レポートと平常点で評価します.
備考・関連URL:		2007年度と2017年度に在外研究で、それぞれ１年間フィレンツェに滞在したので、その成果を踏まえ、できれば「フィレンツェのルネサンス」から見える「地中海文化」を中心に据えたいと考えています。 関連URL: http://www.f.waseda.jp/tokuyam/fir.index.htm ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020359|01|9S09020359[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	地中海世界に生きた人々（遺産編）		
担 当 教 員	宮城 徳也		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	文・社会科学科目（歴史・文化（西欧・中東編	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 地中海世界に見られる歴史的遺産と芸術的遺産

授業概要: 地中海世界では，長い歴史の中で様々な民族が興亡し，そこに多様な文化が生まれました．それぞれの時代に，それぞれの民族が多くの歴史的遺産を残し，それらの多くは，芸術的観点からも，後世に多大な影響を及ぼしています．イタリアを中心に「地中海世界に」をおける，いわゆる「世界遺産」を取り上げ，その背景にある歴史と，後世や他文化，他民族への影響を考察します．
ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

授業の到達目標: イタリアを中心とする地中海世界の「世界遺産」等に関して学び，異文化の接触と，それによる文化の変容について考える

事前・事後学習の内容: 地中海文化の多様性に興味を持って，多くの参考文献やウェブページにあたり，可能なら，地中海地域をそれぞれ訪ねて見聞，理解を深めてほしい。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
イタリアの世界遺産とその影響（映像と講義）
ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

第2回
ギリシャ，トルコの世界遺産とその影響（映像と講義）
ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

第3回
スペインと南フランスの世界遺産とその影響／北アフリカ，イスラム世界の世界遺産とその影響（映像と講義）

ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

第4回
その他の地中海地域の世界遺産とその影響（映像と講義）

ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

第5回
発表と討議
ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

第6回
発表と討議
ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

第7回
発表と討議
ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教科書は使いませんが、日本語と英語で読めるウェブページを参考にしながら、どれがどのような理由で信用できる可能性が高いか、ということも一緒に考えたいと思います

参考文献: 授業で紹介します

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	定期試験、教場試験などの筆記試験は行いません。
レポート:	30	学期末に、2,000字程度で、学習成果をまとめた報告の提出を求めます（Moodle提出）。
平常点評価:	70	1．学期中、最低1回の研究発表（発表に使ったパワーポイントのファイルを提出） 2．毎回、参考映像、発表の内容をまとめ、それに対する見解を記したMoodleでの課題提出を求めます。 1と2を合わせて平常点として評価します。
その他:	0	レポートと平常点で評価します.

備考・関連URL:　2007年度と2107年度に在外研究で、それぞれ1年間フィレンツェに滞在したので、その成果を踏まえ、できれば「フィレンツェのルネサンス」から見える「地中海文化」を中心に据えたいと考えています。

関連URL:
http://www.f.waseda.jp/tokuyam/fir.index.htm

ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020360|01|9S09020360[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	地中海世界に生きた人々（芸術編）		
担 当 教 員	宮城　徳也		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	文・社会科学科目（歴史・文化（西欧・中東編	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　地中海世界の芸術と文化

授業概要:　イタリア・ルネサンスに花開いた、絵画、彫刻、建築は私たちを引きつけてやみません。しかし、これらは特定の時代の特定の地域に孤立して栄えたものではなく、オリエント、古代ギリシア、古代ローマ、中世（ビザンティン、ロマネスク、ゴシック）の歴史や文化を前提として、イスラムなど他文化との交流、葛藤の中から生まれ、後世の世界に大きく影響する遺産を残しています。視覚芸術の魅力とその歴史的背景をまとめた参考映像から出発して、それらの魅力と、「地中海性」を考えて行きたいと思います。
ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

授業の到達目標:　芸術に関しては，それを専門的に研究する分野もありますが，私たちはあくまでも，一般的に芸術に興味を持って，そこから異文化について何かを学び取る視点から，地中海世界の「芸術」について考えていくことを目指します．

事前・事後学習の内容:　地中海文化の多様性に興味を持って，多くの参考文献やウェブページにあたり，可能なら，地中海地域をそれぞれ訪ねて見聞，理解を深めてほしい。

授業計画フリー入力サイン:　0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
イタリアの芸術（映像講義）
ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない
第2回
スペインの芸術（映像と講義）

ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない
第3回
南フランスの芸術／イスラム世界の芸術（映像と講義）

ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない
第4回
ギリシャとビザンティン（映像と講義）
ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない
第5回
発表と討議

ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない
第6回
発表と討議

ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない
第7回
発表と討議
ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない

言語区分:　0　　日本語　　Japanese

教科書:　教科書は使いませんが、日本語と英語で読めるウェブページを参考にしながら、どれがどのような理由で信用できる可能性が高いか、ということも一緒に考えたいと思います

参考文献:　授業で紹介します

成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	0	定期試験、教場試験などの筆記試験は行いません。
レポート:	30	学期末に、2,000字程度で、学習成果をまとめた報告の提出を求めます（Moodle提出）。
平常点評価:	70	1．学期中、最低1回の研究発表（発表で使ったパワーポイントのファイルを提出） 2．毎回、参考映像、発表の内容をまとめ、それに対する見解をMoodleでの課題提出を求めます。 1と2を合わせて平常点として評価します。
その他:	0	平常点とレポートで評価します.
備考・関連URL:	2007年度と2017年度に在外研究で、それぞれ1年間フィレンツェに滞在したので、その成果を踏まえ、できれば「フィレンツェのルネサンス」から見える「地中海文化」を中心に据えたいと考えています。 関連URL: http://www.f.waseda.jp/tokuyam/fir.index.htm ツールバーを追加今回は使用しない今後表示しない	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020380|01|9S09020380[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	震災後を考える		
担 当 教 員	本田 恵子@三上 貴仁@金井 景子@河村 茂雄		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水6時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 現代社会においては、災害への知識と実践力を獲得していることは必須である。本授業は、地震・津波・液状化被害を初めとして、台風による土石流被害、雪害、火山噴火などの自然災害のメカニズム、及び、火災、ウイルスによる感染被害、都市型災害などについて理解すると同時に、防災活動の担い手として役立つ知識と実践力を獲得する。授業は3部構成とし、第1部は、災害全体についての理解と研究の在り方について、第2部は、東日本大震災の理解とその後の経過、第3部は、これからの防災教育の在り方について学んでいく。 本授業は、ディスカッションを中心とした演習形式のため対面授業とする。 教室は、4月以降提示する。

授業の到達目標: 1. 災害（自然災害、都市型災害、二次災害等）の発生メカニズムが理解できている
2. 避難所設置、運営に関わる基礎知識や地域連携のための実践力が獲得できている
3. 災害に関係するこころと身体のケアについての基礎知識と応急手当の方法が獲得できている
4. 復興に向けての長期展望や災害に強い街づくりへの基礎知識が獲得できている
5. 災害下におけるボランティア組織の運営のあり方についての基礎知識と実践力が獲得できている

事前・事後学習の内容: 1 事前学習：テーマに関係するニュースや提示された教材を読み、ディスカッションテーマについて自分の意見をまとめておく
2 事後学習：事前学習、講義中のディスカッション、講義で学んだ内容をポートフォリオにする

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 10/8 災害全体についての理解と研究の在り方 1

担当：本田恵子教授 授業の概要と進め方のオリエンテーション、自然災害の種類やその影響、対策がどのようにとられているのかの国内外の精度や協力組織について学ぶ。
2020年に拡大した新型コロナウイルスによるパンデミックに対する各国の対応についても比較検討をする。

第2回 10/15 災害全体についての理解と研究の在り方2

担当：三上貴仁教授災害研究の現在（災害調査の国際協力、現地調査の方法等）について、具体例を基に理解を深める。様々な災害のメカニズム、例えば地震と津波被害、台風と高潮、斜面崩壊、火山噴火等を取り上げて概説する。

第3回 10/22 災害が子どもの心に与える影響の理解と心理的ファーストエイドの理解

担当：本田恵子教授 自然災害、コロナ等のパンデミックが子どもの生活や心理に与える影響についての理解
ストレスに強い子どもに育てるための、心理的ファーストエイドの理解

第4回 10/29 東日本大震災における継続的な学校支援

担当：河村 茂雄教授 東日本大震災における学級・学校への支援の在り方
大震災が子どもの心に与える影響について理解する
Q－Uを活用した、学級経営による子ども達の変化
教員への支援の在り方

第5回 11/5 これからの防災教育1

担当： 金井景子教授 災害リテラシーについての理解を深める（様々な自然災害に対応できるように、具体例を提示しながら討論する）

第6回 11/12 これからの防災教育2

担当：金井景子教授 災害リテラシー、災害ボランティアについて理解を深める

第7回 11/19 災害に強い街づくり

担当：本田 恵子 講義のまとめ 防災に強い街づくりをテーマに、行政、教育がどう協力していけるかを話し合う

言語区分: 0 日本語 Japanese

参考文献: 「震災後に考える～東日本大震災に向き合う92の分析と提言」 早稲田大学出版会 2015 の該当部分PDF
Before/withコロナ社会を考える ロギカ書房

それぞれの授業担当者が提示をする

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	80	7回の授業中のワークシートのポートフォリオを評価する
平常点評価:	20	授業中のディスカッション、プレゼンテーション等を評価する

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020386|01|9S09020386[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	文法理論入門 1		
担 当 教 員	近藤 悠介		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 文が構成される規則を確立しようとする言語学の一分野があります。ある言語において、どのような文が文法的に「正しい」文で、どのような文が「正しくない」文なのか見解が分かれるところもあります。「文法」とは、この、文の「正しさ」を記述したものとも言えます。あなたがこの文章を理解できているのも日本語の「文法」と語彙が頭の中にあるからだと考えることができます。本科目では、この「文法」について考えます。

授業では、語とは何か、句とは何か、品詞による単語の分類から始まり、英語、ドイツ語、スペイン語などを例として文の解析方法を学びます。この授業を最後まで受講することで、文脈自由文法の基本的な考え方を身に付けるができます。

本科目の連動科目として「文法理論入門2」が秋学期後半（冬クォーター）に開講されます。

授業の到達目標: 文法理論に基づいて基本的な文の解析ができるようになる。

事前・事後学習の内容: 事前学習が要求されることはありません。授業内容は積み重なるので授業の内容をしっかり理解できているかを自身で確認するために次の授業までに復習しておくことが必要です。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーション
授業概要の説明
第2回:品詞および句
品詞による単語の分類
第3回:一致、属性と制約
句内の一致、単語の文法的素性
第4回:下位範疇化、助動詞と転置
下位範疇化、助動詞と転置に関する記述方法
第5回:ドイツ語における格と性
ドイツ語における格と性の記述方法
第6回:スペイン語の基本動詞
スペイン語の基本動詞に関する制約の記述方法
第7回:まとめと理解度確認テスト
まとめと理解度確認テスト

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 毎回の講義で資料を配布します。

参考文献: Steven Bird (著), Ewan Klein (著), Edward Loper (著), 萩原 正人 (翻訳), 中山 敬広 (翻訳), 水野 貴明. (2010).『入門 自然言語処理』. オライリージャパン.
Timothy Osborne. (2019). A Dependency Grammar of English: An introduction and beyond. John Benjamins Pub Co

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 100 第7回の授業中に理解度確認テストを行います。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020387|01|9S09020387[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	文法理論入門 ２		
担 当 教 員	近藤　悠介		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　「文法理論入門1」で身に付けた文脈自由文法の知識に基づいて、コンピュータを用いて英語の文を解析します（プログラミングのスキルは前提としません）。また、授業の後半では、語彙機能文法、依存文法について学びます。

本科目は「文法理論入門1」の連動科目です。「文法理論入門1」の受講が前提となります。

授業の到達目標：　コンピュータを用いて基本的な英文の解析ができるようになる。
複数の文法理論を理解する。

事前・事後学習の内容：　事前学習が要求されることはありません。授業内容は積み重なるので授業の内容をしっかり理解できているかを自身で確認するために次の授業までに復習しておくことが必要です。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
[第 1回]
本授業のオリエンテーションおよび自然言語処理に関する基礎的な講義
[第 2回]
文脈自由文法に関する基礎的な講義および文脈自由文法に基づいた構文解析の演習
[第 3回]--[第 4回]
語彙機能文法に関する講義
[第 5回]--[第 6回]
依存文法に関する講義
[第 7回]
講義のまとめ、テスト

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：
Steven Bird (著), Ewan Klein (著), Edward Loper (著), 萩原 正人 (翻訳), 中山 敬広 (翻訳), 水野 貴明. (2010).『入門　自然言語処理』. オライリージャパン.
Osborne, T. (2019). A dependency grammar of English: An introduction and beyond. John Benjamins Pub Co.

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　80　第7回の授業中に理解度確認テストを行います。

平常点評価：　20　コンピュータを用いた文法解析の課題

備考・関連URL：

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020388|01|9S09020388[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	国際政治学と平和　1		
担 当 教 員	奥迫　元		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　本授業では、できるだけ幅広い文献・資料（主として英語）を学ぶことを通じて、平和研究における国際政治学の意義と今日的課題について検討し、さらにグローバル化時代の平和問題をめぐる学際的研究・実践の不可避性、意義また可能性について考察していく。
なお、授業自体は日本語で行う。

授業の到達目標：　本授業は、国際政治学、とりわけ国際政治理論の立場から、現代国際社会における平和の問題を体系的・包括的に理解するための基本的な枠組み・方法を提示することによって、受講生たちが平和をめぐる問題について主体的に学び、考え、さらには実践していくための1つの視座を提供することを目的とするものである。

事前・事後学習の内容：　事前・事後学習については、各講義において毎回指示する。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
ガイダンス(授業の進め方・教材配布)
第2回
国際政治経済学の基礎理論(1)(現実主義・重商主義)
第3回
国際政治経済学の基礎理論(2)(自由主義)
第4回
国際政治経済学の基礎理論(3)(マルクス主義)
第5回
国家建設と経済開発(近代化論と従属論・世界システム論)
第6回
経済のグローバル化とその諸問題(1)(国家と市場)
第7回
経済のグローバル化とその諸問題(2)(貧困・格差)

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　初回のガイダンス、および授業の中で紹介・指示する。

参考文献：　初回のガイダンス、および授業の中で紹介・指示する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：	70	授業内容の理解、論理性の高さ、独創性の高さ
平常点評価：	20	主として出席状況による評価
その他：	10	授業における個人・グループ発表による評価

備考・関連URL：

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020389|01|9S09020389[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	国際政治学と平和　２		
担 当 教 員	奥迫　元		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　本授業では、できるだけ幅広い文献・資料（主として英語）を学ぶことを通じて、平和研究における国際政治学の意義と今日的課題について検討し、さらにグローバル化時代の平和問題をめぐる学際的研究・実践の不可避性、意義また可能性について考察していく。
なお、授業自体は日本語で行う。

授業の到達目標：　本授業は、国際政治学、とりわけ国際政治理論の立場から、現代国際社会における平和の問題を体系的・包括的に理解するための基本的な枠組み・方法を提示することによって、受講生たちが平和をめぐる問題について主体的に学び、考え、さらには実践していくための1つの視座を提供することを目的とするものである。

事前・事後学習の内容：　事前・事後学習の内容については、各講義において毎回指示を出す。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
現代の紛争(1)(「失敗国家」と内戦)
第2回
現代の紛争(2)(グローバル・テロリズム)
第3回
現代の紛争(3)(「新冷戦」の到来?)
第4回
人間の安全保障(1)(難民・移民問題)
第5回
人間の安全保障(2)(環境問題)
第6回
人間の安全保障(3)(保健・衛生問題)
第7回
人間の安全保障(2)(食糧問題)

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　初回のガイダンス、および授業の中で紹介・指示する。

参考文献：　初回のガイダンス、および授業の中で紹介・指示する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　70　授業内容の理解、論理性の高さ、独創性の高さ

平常点評価：　20　主として出席状況による評価

その他：　10　授業における個人・グループ発表による評価

備考・関連URL：

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020408|01|9S09020408[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	イスラーム地域の歴史と社会入門（多民族共存）　1		
担 当 教 員	吉村　貴之		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	文・社会科学科目（歴史・文化（西欧・中東編	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　中東・中央アジア諸国についての調査発表

授業概要：　現代世界に大きな存在感を示すようになったイスラーム諸国であるが、その国の成り立ちは多種多様で、必ずしもイスラームという宗教に還元できるわけではない。前期第1クオーターでは、原則として、中東・中央アジア（ただし、この地域のユダヤ教徒、キリスト教徒の多い国も対象。また、留学直前といった事情で、南アジアや東南アジアのイスラ―ム諸国を希望する者がいた場合、1回以内で採り上げる）について受講生が分担発表を行い、その内容について参加者が討論することで、イスラーム諸国の政治や歴史、社会について理解を深める。

授業の到達目標：　中東・中央アジア諸国についての調査発表を行い、この地域についての知識を深めるだけでなく、他の受講者の発表に対して自分の意見が言えるようになるだけの理解力をつける。

事前・事後学習の内容：　自分の発表をしっかり準備するのは言うまででなく、他の受講者が事前に配布するレジュメにも必ず目を通すこと。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　初回のガイダンスに続いて、1回程度は講師がイスラーム教やその社会などに関する概説を行うと同時に発表の担当分けを行う。残りの回では、演習参加者によるイスラーム諸国に関する調査発表。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　なし

参考文献：　初回のガイダンスでで演習に関わる文献リストを配布

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　なし

レポート：　0　演習中の発表に代える

平常点評価：　100　分担発表時のレジュメの完成度だけでなく、討論でどれだけ積極的に発言したかも評価対象。
なお、登録したものの、一度も出席しない履修者がいると、発表者の分担を決める作業に支障を来たすため、受講希望者は、初回ガイダンス終了後に確認メールを教員宛に送る必要がある。受講意思の確認ができない場合には発表グループから外し、成績は不合格とする。受講意思の確認方法に関する詳細は初回ガイダンスにて説明するので必ず出席すること。やむを得ない事情で初回ガイダンスを欠席する場合には、必ずWaseda Moodleの授業ページから教員に連絡すること。

その他：　0　なし

備考・関連URL：　【重要】これは講義でなく、演習であるため、イスラーム関係の基礎知識が必要。受講は、世界史の受験などでイスラーム史に理解があるか、本学の他のイスラーム関連の入門講座を履修済みの学生に限る。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020409|01|9S09020409[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	イスラーム地域の歴史と社会入門（多民族共存）　２		
担 当 教 員	吉村　貴之		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	文・社会科学科目（歴史・文化（西欧・中東編	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　多民族・多宗教社会の統治構造について講読

授業概要：　旧ソ連南部やバルカン半島など、ヨーロッパと中東の境界にはキリスト教徒とムスリム（イスラーム教徒）が共存している地域がある。この地域でどのような形で異教徒の共存が図られたのかを探ることは、現代の国際情勢、特に当該地域の民族紛争や内戦を理解する意味で重要である。本演習では、前クオーターで学んだ内容を踏まえ、対象地域を中東（旧オスマン帝国領）、中央アジアならびにロシアのイスラーム圏に絞り、多民族・多宗教国家の統合の歴史とそれが現代国家にどのように転換したかを探る。

授業の到達目標：　オスマン帝国や現代の中東、さらにはロシア・ソ連の多民族共存に関する日本語の概説書を読んでその内容を理解するだけでなく、他の受講者に対して自分の考えが発表できるようになる。

事前・事後学習の内容：　自分の発表をしっかり準備するのは言うまででなく、他の受講者が事前に配布するレジュメも必ず目を通すこと。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　ガイダンスでは発表担当者の分担を行い、講師が多民族統合あるいはイスラ―ム地域の近代化について講義する。引き続き、演習参加者がテーマに関連した概説書について発表し、討論する。ただし、低学年の受講者が多い場合には、調査発表中心の内容に変える可能性がある。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　なし

参考文献：　初回に文献リストを配布

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　なし

レポート：　0　演習中の発表に代える

平常点評価：　100　担当箇所発表時のレジュメの完成度だけでなく、討論でどれだけ積極的に発言したかも評価対象

その他：　0　なし

備考・関連URL：　【重要】直前のクオーターか昨年度以前に同名の演習1を履修していなければ、受講できない。なお、近年夏クオーターの申し込み忘れで受講不可となる事態が散見される。春クオーターを申し込む際に夏クオーターもセットで申請すること。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020410|01|9S09020410[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	イスラーム地域の歴史と社会応用（少数民族問題）　1		
担 当 教 員	吉村　貴之		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	文・社会科学科目（歴史・文化（西欧・中東編	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　イスラーム圏の少数民族問題の背景を知る

授業概要：　現代の世界は国民国家体制を基盤として成り立っているが、この体制がアジア・アフリカに定着したのは前世紀になってからである。しかし、国内に数多くの少数民族を抱えるこの地域において、少数民族の政治運動は、国家存立に直接かかわる問題であるだけでなく、民族紛争といった地域の安全保障上の懸案事項にも結び付く。本演習では、この地域の少数民族を抱え込む国の情勢を考察する。

授業の到達目標：　イスラーム圏の国民主義と少数民族の関係（非イスラーム地域におけるムスリム系住民の問題も可）について調査発表し、参加者同士で討論することで、広い視野からこの現象を観察する力を養う。

事前・事後学習の内容：　自分の発表をしっかり準備するのは言うまででなく、他の受講者が事前に配布するレジュメも必ず目を通すこと。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　初回のガイダンスに引き続き、1回程度は講師が国民主義と少数民族問題との関係について解説し、同時に発表の担当を決める。残りの回では、イスラーム教徒同士でも異民族、または異教徒が混在している地域で、支配者または被支配者のうちいずれかがイスラーム教徒である国や社会について受講者が調査発表する。なお、前学期の『イスラーム地域の歴史と社会入門』を受講していない（特に低学年の）学生が多数受講した場合は、春クオーターで扱った中東・中央アジアに加えて南アジアや東南アジアのイスラーム諸国の国情についての調査発表に変更することがある。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　なし

参考文献：　初回のガイダンスで文献リストを配布

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　なし

レポート：　0　演習中の発表に代える

平常点評価：　100　本授業は演習形式であり、授業内で発表を行う。分担発表時のレジュメの完成度だけでなく、討論でどれだけ積極的に発言したかも評価対象。
なお、登録したものの、一度も出席しない履修者がいると、発表者の分担を決める作業に支障を来たすため、受講希望者は、初回ガイダンス後に確認メールを教員宛に送る必要がある。受講意思の確認ができない場合には発表グループから外し、成績は不合格とする。受講意思の確認方法に関する詳細は初回ガイダンスにて説明するので必ず出席すること。やむを得ない事情で初回授業を欠席する場合には、必ずWaseda Moodleの授業ページから教員に連絡すること。

なし

備考・関連URL：　【重要】これは講義でなく、演習であるため、イスラーム関係の基礎知識が必要。受講は、世界史受験などでイスラーム史に理解があるか、本学の他のイスラーム関連の入門講座を履修済みの学生に限る。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020411|01|9S09020411[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イスラーム地域の歴史と社会応用（少数民族問題） 2		
担 当 教 員	吉村 貴之		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	文・社会科学科目（歴史・文化（西欧・中東編	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 世界に広がる少数民族問題について調査発表

授業概要: 現代世界は国民国家体制を基盤として成り立っているが、この体制がアジアやアフリカの地に定着したのはわずか1世紀前のことである。しかも、移住による人口移動が活発になっている昨今、少数者の政治運動は、国家存立に直接かかわる問題であるだけでなく、民族紛争といった地域の安全保障上の懸案事項でもある。本演習では、前クオーターの内容を踏まえ、広くイスラーム圏の少数民族問題に限らず、欧米など他地域のムスリム（イスラーム教徒）が関わる少数民族問題も取り上げる。

授業の到達目標: 国民主義と少数民族の問題を、ムスリムが主導的な国家、あるいはムスリムが少数民族として生活している国家を選んで調査発表し、参加者同士で討論することで、広い視野から観察する力を養う。

事前・事後学習の内容: 自分の発表をしっかり準備するのは言うまででなく、他の受講者が事前に配布するレジュメも必ず目を通すこと。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 初回ガイダンスでは発表の分担を行い、引き続き講師が国民主義や少数民族問題に関する内容について講義をすると同時に受講者の発表の分担を行う。引き続いて、受講者が調査発表をしたうえでその内容について受講者同士で討論する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし

参考文献: 初回に文献リストを配布

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 なし

レポート: 0 演習中の発表に代える

平常点評価: 100 本授業は演習形式であり、授業内で発表を行う。分担発表時のレジュメの完成度は言うまでもなく、討論でどれだけ積極的に発言したかも評価対象。

なし

備考・関連URL: 【重要】前クオーターか昨年度以前に同名の演習1を履修していなければ、受講はできない。なお、近年冬クオーターの申し込み忘れで受講不可となる事態が散見される。秋クオーターを申し込む際に冬クオーターもセットで申請すること。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020414|01|9S09020414[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	帝国思想と台湾　1		
担 当 教 員	梅森　直之		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　日本の国民国家形成と台湾の位置

授業概要：　近代の台湾を知ることで、近代の日本及び東アジアを異なる角度から観察する機会を提供する。近代日本は日清戦争の結果台湾を領有することで西欧列強主導の植民地帝国の仲間入りを果たしたが、その半世紀後アジア太平洋戦争で敗れて植民地帝国としての日本は崩壊した。19世紀末に日本は清帝国からどのような台湾を引き継いだのか、その後半世紀にわたる日本の台湾植民地統治とはどのようなものであり、その間の台湾住民の経験はどのようなものであったか、半世紀の日本の統治は台湾の戦後にいったい何を残したのか。本講義では、地域としての台湾の特色が「諸帝国の周縁」と性格付けられることを踏まえながら、日本による植民地統治の前提となる両地域の歴史を概観する。
教科書としては、台湾で使用されている高校生向けの歴史教科書をテクストとして用いる。それを日本で使用されている歴史教科書と対比的に読解することを通じて、現在の二つの社会における歴史意識の重なりと差異について考える。
@font-face { font-family: "MS 明朝";}@font-face { font-family: Century;}@font-face { font-family: "Cambria Math";}@font-face { font-family: "@MS 明朝";}@font-face { font-family: "･ｼ･ø¥7f ^A5✷0Ù¶5✧ S";}p.MsoNormal, li.MsoNormal, div.MsoNormal { margin: 0cm 0cm 0.0001pt; text-align: justify; font-size: 12pt; font-family: Century; }.MsoChpDefault { font-family: Century; }div.WordSection1 { }

授業の到達目標：　本講義を通じて、①台湾史のおおよその輪郭を理解すること、②台湾史から見た近代の東アジアと日本の姿を考える基礎を獲得すること、そして③これらを通じて現代台湾のあり方を考える力を身につけることを目指す。

事前・事後学習の内容：　教科書・事前配布の資料を熟読し、問題点を整理した上で講義に臨むこと。
事後は講義と議論の内容をポジション・ペーパーとしてMoodleに提出すること。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　担当教員とゲストスピーカーにより、概ね以下の順序で講義を進める。

第1回　イントロダクション：概要

第2回　台湾史のはじまりと日本史のはじまり

第3回　16世紀中葉以前の台湾と原住民、日本の中世と近世

第4回　大航海時代の台湾と日本

第5回　清朝統治下の台湾

第6回　明治維新

第7回　日本の東洋的植民地主義

@font-face { font-family: "MS 明朝";}@font-face { font-family: Century;}@font-face { font-family: "Cambria Math";}@font-face { font-family: "@MS 明朝";}@font-face { font-family: "･ｼ･ø¥7f ^A5✷0Ù¶5✧ S";}p.MsoNormal, li.MsoNormal, div.MsoNormal { margin: 0cm 0cm 0.0001pt; text-align: justify; font-size: 12pt; font-family: Century; }.MsoChpDefault { font-family: Century; }div.WordSection1 { }

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書：　『詳説台湾の歴史　台湾高校歴史教科書』雄山閣、2020年

参考文献：　『詳説日本史B　文部科学省検定済教科書』山川出版社、2017年　ほか、授業中に指示する。

成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	0	行わない
レポート:	50	毎回の授業に関するポジション・ペーパー。Moodleへ提出。
平常点評価:	50	出席状況、授業での積極的発言・姿勢を評価する。

備考・関連URL: ゼミ形式の授業です。積極的に議論に参加する意欲のある人のみ受講してください。
日本台湾学会という学術団体があり、そのホームページからは、学会活動の報道の他、学会誌『日本台湾学会報』の論文がダウンロードできます：http://jats.gr.jp/　。
また早稲田大学台湾研究所FBは、同研究所主催の講演会、研究会、ワークショップの他、所員の学術活動も広報しています。積極的に活用してください。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020415|01|9S09020415[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	帝国思想と台湾　２		
担 当 教 員	梅森　直之		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　台湾における戦前と戦後

授業概要：　近代の台湾を知ることで、近代の日本及び東アジアを異なる角度から観察する機会を提供する。近代日本は日清戦争の結果台湾を領有することで遅ればせながら西欧列強主導の植民地帝国の仲間入りを果たしたが、その半世紀後アジア太平洋戦争で敗れて植民地帝国としての日本は崩壊した。19世紀末に日本は清帝国からどのような台湾を引き継いだのか、その後半世紀にわたる日本の台湾植民地統治とはどのようなものであり、その間の台湾住民の経験はどのようなものであったか、半世紀の日本の統治は台湾の戦後にいったい何を残したのか。本講義では、地域としての台湾の特色が、日本の植民地統治を通じて、またはそれに抗して構成されていったのか、それが現在の台湾とどのように連続、または断絶しているのかを考えていく。
教科書としては、台湾で使用されている高校生向けの歴史教科書をテクストとして用いる。それを日本で使用されている歴史教科書と対比的に読解することを通じて、現在の二つの社会における歴史意識の重なりと差異について考える。@font-face { font-family: ″MS 明朝″;}@font-face { font-family: Century;}@font-face { font-family: ″Cambria Math″;}@font-face { font-family: ″@MS 明朝″;}@font-face { font-family: ″･〉･ø¥7f ^A5✷0Ù¶5✧S″;}p.MsoNormal, li.MsoNormal, div.MsoNormal { margin: 0cm 0cm 0.0001pt; text-align: justify; font-size: 12pt; font-family: Century; }.MsoChpDefault { font-family: Century; }div.WordSection1 { }

授業の到達目標：　本講義を通じて、①台湾史のおおよその輪郭を理解すること、②台湾史から見た近代の東アジアと日本の姿を考える基礎を獲得すること、そして③これらを通じて現代台湾のあり方を考える力を身につけることを目指す。

事前・事後学習の内容：　教科書・事前配布の資料を熟読し、問題点を整理した上で講義に臨むこと。
事後は講義と議論の内容をポジション・ペーパーとしてMoodleに提出すること。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　担当教員とゲストスピーカーにより、概ね以下の順序で講義を進める。

第1回　イントロダクション：植民地主義とは何か

第2回　台湾民主国と蝦夷共和国：植民地化と近代化のあいだ

第3回　後藤新平と台湾支配：竹越与三郎『台湾統治志』を読む

第4回　台湾議会設置運動：蔡培火『日本々国民に与ふ』を読む

第5回　敗戦と光復：二・二八事件／「白色テロ」の時代

第6回　民主化と歴史記憶：ひまわり学生運動の現在

第7回　まとめ

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　『詳説台湾の歴史　台湾高校歴史教科書』雄山閣、2020年

参考文献：　『詳説日本史B　文部科学省検定済教科書』山川出版社、2017年　ほか、授業中に指示する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　行わない

レポート：　50　毎回の授業に関するポジション・ペーパー。Moodleへ提出。

平常点評価：　50　出席状況、授業での積極的発言・姿勢を評価する。

その他：　0　行わない

備考・関連URL：　ゼミ形式の授業です。自発的に議論し自律的に学習を進める準備と意欲のある参加者を求めます。
日本台湾学会という学術団体があり、そのホームページからは、学会活動の情報の他、学会誌『日本台湾学会

報』の論文がダウンロードできます。:http://jats.gr.jp/　。また早稲田大学台湾研究所FBは、同研究所主催の講演会、研究会、ワークショップの他、所員の学術活動も広報しています。積極的に活用してください。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020416|01|9S09020416[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮古代の社会と文化（入門）　1		
担 当 教 員	植田　喜兵成智		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　歴史論文を読む。研究史を知る。

授業概要：　本授業は、演習形式で朝鮮史の研究成果を学ぶ。高校までの日本史や世界史の授業、あるいはドラマなどにおいて、高句麗・百済・新羅の古代王朝、モンゴルに抵抗した三別抄、訓民正音（ハングル）を制定した世宗大王、あるいは現在の日韓・日朝関係ともかかわる朝鮮総督府の植民地支配など、いくつかの朝鮮史のキーワードについては聞いたことがある人も多いだろう。だが、体系的にそれらの用語について学ぶ機会は無かったものと思われる。今年度の春・夏クォーターでは、『朝鮮の王朝外交』（集英社新書、2026）をテキストにしてこれを講読する。本書の講読を通じて、朝鮮史の知識を体系的に習得することを目指す。

授業の到達目標：　(1)朝鮮史について正確な知識を習得する。
(2)歴史学の論文の読み方を把握する。
(3)授業での知見をもとに、伝統的な朝鮮の文化や社会について歴史的な観点から思考できるようになる。

事前・事後学習の内容：　事前にテキストの指示された箇所を読み込んでおくこと。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
1　オリエンテーション
本授業の目的、概要、進め方について説明する。
2　問題の所在の確認
テキストの「はじめに」を読むことで、本書の問題意識や現在の研究課題について学習する。
3　古代史概観
古代朝鮮の国家形成などについて学習する。
4　高句麗の外交・軍事戦略
高句麗の歴史について学習する。
5　百済の将軍号と官位
百済の歴史について学習する。
6　新羅の統合政策
新羅の歴史について学習する。
7　高麗時代の概観＋中間討論
これまでの授業内容をまとめつつ、次の高麗時代を概説する。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　森平雅彦編著『朝鮮の王朝外交―“ややこしさ”からの気づき』（集英社新書、2026年）

参考文献：　李成市・糟谷憲一・宮嶋博史編『世界史大系　朝鮮史1・2』（山川出版社、2017年）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	0	なし。
レポート：	70	課題テキストを要約したものを提出する。
平常点評価：	30	毎回レスポンスシートを提出し、その内容を評価する。また教場での発言やレスポンスシートでのコメントに基づき議論を行い、その議論への参加も評価する。
その他：	0	なし。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020417|01|9S09020417[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮古代の社会と文化（入門）　２		
担 当 教 員	植田　喜兵成智		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　歴史論文を読む。研究史を知る。

授業概要：　本授業は、演習形式で朝鮮史の研究成果を学ぶ。高校までの日本史や世界史の授業、あるいはドラマなどにおいて、高句麗・百済・新羅の古代王朝、モンゴルに抵抗した三別抄、訓民正音（ハングル）を制定した世宗大王、あるいは現在の日韓・日朝関係ともかかわる朝鮮総督府の植民地支配など、いくつかの朝鮮史のキーワードについては聞いたことがある人も多いだろう。だが、体系的にそれらの用語について学ぶ機会は無かったものと思われる。今年度の春・夏クォーターでは、『朝鮮の王朝外交』（集英社新書、2026）をテキストにしてこれを講読する。本書の講読を通じて、朝鮮史の知識を体系的に習得することを目指す。

授業の到達目標：　(1)朝鮮史について正確な知識を習得する。
(2)歴史学の先行研究の整理の方法を把握する。
(3)授業での知見をもとに、伝統的な朝鮮の文化や社会について歴史的な観点から思考できるようになる。

事前・事後学習の内容：　事前にテキストの指示された箇所を読み込んでおくこと。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　1　高麗の君主号
高麗王朝の君主制度について学習する。
2　高麗王朝の外交と文化
高麗の外交と外交儀礼などを学習する。
3　モンゴル帝国のなかの高麗
高麗の生存戦略について学習する。
4　朝鮮時代史の概観
朝鮮時代史を概説する。
5　朝鮮王朝の事大と交隣
朝鮮王朝と明・日本との官営について学習する。
6　朝鮮と後金・清との関係
朝鮮王朝と女真族との関係について学習する。
7　朝鮮後期の国際通商＋総括
朝鮮後期の貿易について学び、これまでの授業内容をまとめる。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　森平雅彦編著『朝鮮の王朝外交―“ややこしさ”からの気づき』（集英社新書、2026年）

参考文献：　李成市・糟谷憲一・宮嶋博史編『世界史大系　朝鮮史1・2』（山川出版社、2017年）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	0	なし。
レポート：	70	講読したテキストを基に自らテーマを設定し、関連文献を参照してレポートを作成する。レポートの完成度で評価する。
平常点評価：	30	毎回レスポンスシートを提出し、その内容を評価する。また教場での発言やレスポンスシートでのコメントに基づき議論を行い、その議論への参加も評価する。
その他：	0	なし。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020418|01|9S09020418[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	朝鮮古代の社会と文化（応用）　1		
担 当 教 員	植田　喜兵成智		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　歴史資料を読む。

授業概要：　本授業は、演習形式で朝鮮史の研究成果を学ぶ。高校までの日本史や世界史の授業、あるいはドラマなどにおいて、高句麗・百済・新羅の古代王朝、モンゴルに抵抗した三別抄、訓民正音（ハングル）を制定した世宗大王、あるいは現在の日韓・日朝関係ともかかわる朝鮮総督府の植民地支配など、いくつかの朝鮮史のキーワードについては聞いたことがある人も多いだろう。だが、体系的にそれらの用語について学ぶ機会は無かったものと思われる。この授業では、具体的な歴史資料を読解することで、朝鮮史の知識を体系的に習得することを目指す。

授業の到達目標：　(1)朝鮮史について正確な知識を習得する。
(2)歴史資料の基礎的な読み方を把握する。
(3)授業での知見をもとに、伝統的な朝鮮の文化や社会について歴史的な観点から思考できるようになる。

事前・事後学習の内容：　指示された資料を読み込んでおくこと。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　オリエンテーション
本授業の目的、概要、進め方について説明する。

第2回　研究の論点（1）
朝鮮古代の基本的な史料について解説する。

第3回　研究の論点（2）
朝鮮古代の代表的な出土史料について解説する。

第4回　研究の論点（3）
朝鮮古代の史料に関する論争について解説する。

第5回　歴史資料を読む（1）
古代に関する史料を講読する。

第6回　歴史資料を読む（2）
古代に関する史料を講読する。

第7回　総括
これまでの授業内容をまとめる。

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　李成市・糟谷憲一・宮嶋博史編『世界史大系　朝鮮史1・2』（山川出版社、2017年）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　なし。

レポート：　70　課題史料を読解したものを提出する。

平常点評価：　30　毎回レスポンスシートを提出する。授業終了後1週間以内にWaseda Moodleにレスポンスシートを提出しなければ欠席となります。

その他：　0　なし。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020419|01|9S09020419[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	朝鮮古代の社会と文化（応用） 2		
担 当 教 員	植田 喜兵成智		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： 歴史資料を読む。

授業概要： 本授業は、演習形式で朝鮮史の研究成果を学ぶ。高校までの日本史や世界史の授業、あるいはドラマなどにおいて、高句麗・百済・新羅の古代王朝、モンゴルに抵抗した三別抄、訓民正音（ハングル）を制定した世宗大王、あるいは現在の日韓・日朝関係ともかかわる朝鮮総督府の植民地支配など、いくつかの朝鮮史のキーワードについては聞いたことがある人も多いだろう。だが、体系的にそれらの用語について学ぶ機会は無かったものと思われる。この授業では、自ら設定したテーマに関する歴史資料を読解することで、歴史学の手法に基づいたレポートを作成することを目指す。

授業の到達目標： (1)朝鮮史について正確な知識を習得する。
(2)歴史学のレポート作成方法を把握する。
(3)授業での知見をもとに、伝統的な朝鮮の文化や社会について歴史的な観点から思考できるようになる。

事前・事後学習の内容： 指示された資料を読み込み、発表の準備をすること。

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーション
本授業の目的、概要、進め方について説明する。
第2回 先行研究を調べ、まとめる（1）
自ら選んだ歴史資料に関する先行研究をまとめる。
第3回 先行研究を調べ、まとめる（2）
自ら選んだ歴史資料に関する先行研究をまとめる。
第4回 研究発表（1）
履修者が自ら設定した歴史資料について調べたことを口頭発表する。
第5回 研究発表（2）
履修者が自ら設定した歴史資料について調べたことを口頭発表する。
第6回 研究発表（3）
履修者が自ら設定した歴史資料について調べたことを口頭発表する。
第7回 研究発表（2）
これまでの授業内容をまとめ、レポートをまとめるにあたっての注意点を指導する。

言語区分： 0 日本語 Japanese

参考文献： 李成市・糟谷憲一・宮嶋博史編『世界史大系 朝鮮史1・2』（山川出版社、2017年）

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	0	なし。
レポート：	50	自らの設定したテーマについてのレポートを作成する。その完成度を評価する。
平常点評価：	50	口頭発表での発表方法や議論への参加の積極性を評価する。
その他：	0	なし。

備考・関連URL：

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020430|01|9S09020430[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	実践スポーツジャーナリズム演習　1（大久保建男スポーツジャーナリズム講座）		
担 当 教 員	藤井　慶太@生島　淳		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	、文・社会科学科目（メディア・ジャーナリズム	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　～スポーツという「窓」を通して世界を、社会を見て文章を書いてみる～

授業概要：　本講座では、スポーツという「窓」から見える政治、経済からビジネスや文化、テクノロジーまで含めた広い視野で社会の事象をとらえ、自らテーマ設定してコラムを書くことを主眼とする。
現代のスポーツを報道するための知識を習得し、問題発見能力やインタビューの基礎的なスキルを養成する。

秋・冬四半期の両方を通じて受講することが原則です。

授業の到達目標：　1）スポーツという「窓」から見える諸問題を発見する能力を養いましょう。

2）人物やテーマの選定、質問の内容、記事の執筆などジャーナリズムに関わる基礎技能を学ぼう。

3）自ら選んだ対象者にインタビューを申込み、それをもとに記事やコラムを書くライティング能力を身につけよう。

4）質問の組み立て方、インタビューに必要なこと、そして文章上達に必要な技術を磨く。

5）例年、30人程度のクラスになります。ゼミ形式で「同好の士」を見つけ、充実した早稲田生活を。

事前・事後学習の内容：　◆自分で選んだ相手を取材し、そのインタビューをもとにコラムを1本執筆する
◆講義を聞いて考えた事を簡単なレビューにまとめて毎回提出する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　1）初回のガイダンスに続く毎回の授業においては、自ら選んだ人物やテーマに関して議論し、丁寧なフィードバックを繰り返し、その人と実際に会って記事作成を行う。取材のアレンジがうまくいかない場合にどのような次善、最善の策を練るかも大切な学びである。
2）記事執筆後は、その視点や文章の構成についての講評を全員に対して行う。（毎回の講義感想をMOODLE上に提出）。
3）また各クォーターに1回、スポーツに関わる人物論かコラムを1500字程度で執筆する。

4）全7回の講義とも生島、藤井の二人の講師が指導します。

5）講義計画
第1回　ガイダンス（生島・藤井）
第2回　コラム執筆のためのテーマ・ディスカッションⅠ（グループワーク）
第3回　コラム執筆のためのテーマ・ディスカッションⅡ（グループワーク）
第4回　取材依頼書の執筆始動　テーマ決定
第5回　取材依頼書の講評・取材開始
第6回　取材進捗報告とコラム1500字執筆開始
第7回　完成コラム（1500字）の講評と添削（優秀作品選定）

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書：　指定ありません。

参考文献：　参考文献がある場合には、講義の都度それを指示する。

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　記事（60%）と毎週の講義の感想（40%）の合計評価。

備考・関連URL:　毎年、講義の最後に受講生諸君の作品集をつくります。
力作揃い。
過去には……
高木美帆、和田毅、増田明美、花田勝彦駅伝監督などもあれば、編集者やアナウンサーにインタビューした例も。
また、身近な人に話を聞くのも新たな発見につながるはずです。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020431|01|9S09020431[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	実践スポーツジャーナリズム演習　2（大久保建男スポーツジャーナリズム講座）		
担 当 教 員	藤井　慶太@生島　淳		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	、文・社会科学科目（メディア・ジャーナリズム	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　～スポーツという「窓」を通して世界を、社会を見て文章を書いてみる～

授業概要：　本講座では、スポーツという「窓」から見える政治、経済からビジネスや文化、テクノロジーまで含めた広い視野で社会の事象をとらえ、自らテーマ設定してコラムを書くことを主眼とします（たとえばスポーツは経済的な争いでもあるといったような視点もあるわけですもあるわけです）。
現代のスポーツを報道するための知識を習得し、問題発見能力やインタビューの基礎的なスキルを養成します。

秋・冬四半期の両方を通じて受講することが原則です。

授業の到達目標：　1）スポーツという「窓」から見える諸問題を発見する眼を養う。

2）人物やテーマの選定、質問の内容、記事の執筆などジャーナリズムに関わる基礎技能の入門を学ぶ。

3）自ら選んだ対象者にインタビューを申込み、それをもとに記事やコラムを書くライティング能力に挑戦する。

4）他の学生の作品から学ぶことで、自らのジャーナリスティックな意識を向上させる。

5）スポーツが好きな仲間を見つける。ジャーナリズムを目指す仲間と語る。早稲田に入ったのだから、早稲田ならではの時間をつくる。

事前・事後学習の内容：　自分で選んだ相手を取材し、そのインタビューをもとにコラムを1本執筆する
講義を聞いて考えた事を簡単なレビューにまとめて毎回MOODLE上に提出する

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　1）初回のガイダンスに続く毎回の授業においては、自ら選んだ人物やテーマに関して議論し、丁寧なフィードバックを繰り返し、記事作成を行う。取材がうまくいかない場合にどのような次善、三善の策を練るかも大切な学びである。
2）記事執筆後は、その視点や文章の構成についての講評を全員に対して行う。（毎回の講義感想を提出）。
3）また、毎回の学習の成果を踏まえて、各クォーターに1回、スポーツに関わる人物論かコラムを1500字程度で執筆する。

4）全7回の講義とも生島、藤井の二人の講師が指導します。

5）授業計画

第1回　テーマ・ディスカッション
第2回　取材開始　テーマをめぐる講評
第3回　取材先でのやり取りを学生が発表
第4回　インタビューの実際と方法
第5回　実践的ライティングの方法と編集
第6回　冬期コラムの提出・講評開始
第7回　執筆されたコラムの講評・総括　年間のまとめ

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　参考文献がある場合には、講義の都度それを指示する。

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　記事（60%）と毎週の講義の感想（40%）の合計評価。

備考・関連URL：　2025年度の作品集の「受講生感想」より……（抄訳）
「書くことに抵抗のあった自分が、いまでは書くことの楽しさを知り、さらには書くことを仕事にしたいと思うようになりました」
「自分の興味のある人に取材できる喜び。そしてその言葉を文章にする楽しさを味わう喜び。本当に充実した時間でした」
「SJ論はいままで受けてきた授業とは異質なものでした。何にも先立って自分の行動が重要で、何もしなければ何も得られない。ただ、積極的に参加すれば得られるものは大きいと感じました」
「スポーツへの愛を広げ、幅広い角度からスポーツ、ひいては自らを見つめ直すきっかけの講義になりました」
「金曜朝は、他の平日とは違う朝」

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020432|01|9S09020432[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	文化遺産と保全 1		
担 当 教 員	小岩 正樹@田畑 幸嗣@王 漢陽		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 文化遺産の調査、研究、保存、修復、活用に関して、オムニバス形式の授業により多面的に学ぶ。地域性、文化的背景、担い手や機関、活動実態などについて、講師それぞれの経験に基づいた解説を踏まえ、その具体像への理解を通じて、文化遺産の未来について検討してゆく。
※「文化遺産と保全 2」の受講は、「文化遺産と保全 1」を履修済みであることが必要である（年度をまたぐことも可能）

授業の到達目標: 文化遺産保存修復学、地域開発、国際交流、世界遺産、文化財の保存修復法、文化財の活用、地域の伝統やアイデンティティーと文化遺産の関係や、国内海外の文化遺産の保存に関する現状、周辺住民が文化遺産の保存と活用にどのようにかかわっているかを理解する。

事前・事後学習の内容: 複数名の異なる専門分野の講師で担当する授業のため、各講師ごとに復習と予習を行うこと。講師はそれぞれの専門分野について複数回の授業を担当するが、それぞれの講師の初回に全体の概要を述べるため、そのスケジュールを考慮して復習と次回以降の予習を行う。講師によっては各回に課題が出される場合もあり、その場合は復習や予習を兼ねることとなる。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1回
オリエンテーション（本講義の概要とスケジュール）（小岩 正樹）
東南アジアの文化遺産(1)（田畑 幸嗣）
第2回
東南アジアの文化遺産(2)（田畑 幸嗣）
第3回
東南アジアの文化遺産(3)（田畑 幸嗣）
第4回
アジアの文化遺産と建築(1)（王 漢陽）
第5回
アジアの文化遺産と建築(2)（王 漢陽）
第6回
アジアの文化遺産と建築(3)（王 漢陽）
第7回
ギリシアの文化遺産と建築(1)（川津 彩可）（「文化遺産と保全2」へ継続）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講師それぞれが、適宜授業中にプリント等にて知らせる。

参考文献: 講師それぞれが、適宜授業中にプリント等にて知らせる。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: レポートもしくはプレゼンテーション 60%（各講師が出題する課題や発表）
平常点評価 40%（毎回の授業における自身の理解度や授業の感想など）

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020433|01|9S09020433[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	文化遺産と保全 ２		
担 当 教 員	小岩 正樹@田畑 幸嗣@王 漢陽		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 文化遺産の調査、研究、保存、修復、活用に関して、オムニバス形式の授業により多面的に学ぶ。地域性、文化的背景、担い手や機関、活動実態などについて、講師それぞれの経験に基づいた解説を踏まえ、その具体像への理解を通じて、文化遺産の未来について検討してゆく。
※「文化遺産と保全 2」の受講は、「文化遺産と保全 1」を履修済みであることが必要である（年度をまたぐことも可能）

授業の到達目標: 文化遺産保存修復学、地域開発、国際交流、世界遺産、文化財の保存修復法、文化財の活用、地域の伝統やアイデンティティーと文化遺産の関係や、国内海外の文化遺産の保存に関する現状、周辺住民が文化遺産の保存と活用にどのようにかかわっているかを理解する。

事前・事後学習の内容: 複数名の異なる専門分野の講師で担当する授業のため、各講師ごとに復習と予習を行うこと。講師はそれぞれの専門分野について複数回の授業を担当するが、それぞれの講師の初回に全体の概要を述べるため、そのスケジュールを考慮して復習と次回以降の予習を行う。講師によっては各回に課題が出される場合もあり、その場合は復習や予習を兼ねることとなる。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1回
ギリシアの文化遺産と建築(2)（川津 彩可）（「文化遺産と保全1」より継続）第2回
エジプトの文化遺産と考古(1)（馬場 匡浩）
第3回
エジプトの文化遺産と考古(2)（馬場 匡浩）
第4回
日本の文化遺産と建築(1)（小岩 正樹）
第5回
日本の文化遺産と建築(2)（小岩 正樹）
第6回
日本の文化遺産と建築(3)（小岩 正樹）
第7回
文化遺産の保全に関わる考察とディスカッション（全教員）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講師それぞれが、適宜授業中にプリント等にて知らせる。

参考文献: 講師それぞれが、適宜授業中にプリント等にて知らせる。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: レポートもしくはプレゼンテーション 60%（各講師が出題する課題や発表）
平常点評価 40%（毎回の授業における自身の理解度や授業の感想など）

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020444|01|9S09020444[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学習者言語の分析（基礎） 1		
担 当 教 員	近藤 悠介		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： 本科目では、プログラミング言語(Pytyoh)の基礎的な技術を身につけ、自然言語処理、言語学の基礎を学びます。本科目で学ぶ自然言語処理に関する技術は、一般的な言語分析で利用可能ですが、本科目では、学習者が使用する言語を分析の対象とします。本科目で扱う学習者言語は、英語を外国語として使用している人が書いたり、話したりする言葉です。その特徴を抽出するために必要となる技術、知識を身につけます。学習者言語から抽出した特徴量からその学習者の熟達度を予測する方法を検討します。言語分析ができるようになることが本科目の目的ですが、分析を通して受講者自身の英語力が向上することも期待されます。

本科目の連動科目として「学習者言語の分析（基礎）2」が春学期後半（夏クォーター）に開講されます。また、秋学期には後続科目として「学習者言語の分析（応用）1・2」が開講されます。
過去の授業内容については https://yusuches.w.waseda.jp/index.html を参照してください。

授業の到達目標： Pythonを用いて基本的な言語処理ができる。

事前・事後学習の内容： 事前学習を要求することはありません。授業内容が積み重なっていくので、授業で扱った内容を次の授業までに十分に理解するよう復習をしてください。

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第１回：オリエンテーション、Pythonの準備1
授業概要の説明、Pythonの基礎1（数値と文字列、データ構造）
第２回：Pythonの準備2
Pythonの基礎2（比較演算子、論理演算子、if文、for文）
第３回：Pythonの準備3
Pythonの基礎3（正規表現、ファイルの処理）
第４回：言語処理 の基礎
Pythonを用いた言語処理の演習（NLTKを利用した文の処理）
第５回：言語の統計処理1
Pandas入門（基本的な統計処理）
第６回：言語の統計処理 2
文の類似度計算、ベクトル化
第７回：まとめと理解度確認テスト
まとめと理解度確認テスト

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 毎回の講義で資料を配布する。

参考文献： Steven Bird (著), Ewan Klein (著), Edward Loper (著), 萩原 正人 (翻訳), 中山 敬広 (翻訳), 水野 貴明. (2010). 『入門 自然言語処理』. オライリージャパン.
石井 雄隆, 近藤 悠介. (2020). 『英語教育における自動採点: 現状と課題』. ひつじ書房.

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 100 第7回の授業で理解度確認テストを行います。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020445|01|9S09020445[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学習者言語の分析（基礎） 2		
担 当 教 員	近藤 悠介		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「学習者言語の分析（基礎）1」に引き続き、本科目では、自然言語処理、言語学の基礎を学びます。英語を外国語として使用している人が書く、話す言葉（学習者言語）を対象として、その特徴を抽出するために必要となる技術、知識を身につけます。学習者言語から抽出した特徴量からその学習者の熟達度を予測する方法を検討します。言語分析ができるようになることが本科目の目的ですが、分析を通して受講者自身の英語力が向上することも期待されます。

本科目は「学習者言語の分析（基礎）1」の連動科目です。「学習者言語の分析（基礎）1」の受講を前提としています。本科目の連動科目として秋学期には後続科目として「学習者言語の分析（応用）1・2」が開講されます。

過去の授業内容については https://yusuches.w.waseda.jp/index.html を参照してください。

授業の到達目標: Pythonを用いて学習者言語の簡単な処理、分析ができる。

事前・事後学習の内容: 事前学習を要求することはありません。授業内容が積み重なっていくので、授業で扱った内容を次の授業までに十分に理解するよう復習をしてください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：オリエンテーション
授業概要の説明
第2回：Pythonの基礎の復習
変数とデータ型、算術演算、さまざまなデータ構造、内包表記、関数
第3回：言語の統計
N-gram、Bag-of-wordsモデル、品詞、語幹化とレマ化
第4回：自動採点の方法1
k-近傍法、交差検証法、結果の可視化
第5回：自動採点の方法2
確率とナイーブベイズ分類器
第6回：言語の特徴量
依存文法に基づいた文の解析
第7回：まとめと理解度確認テスト
まとめと理解度確認テスト

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 毎回の講義で資料を配布する。

参考文献: 石井 雄隆, 近藤 悠介. (2020).『英語教育における自動採点: 現状と課題』. ひつじ書房.
Steven Bird (著), Ewan Klein (著), Edward Loper (著), 萩原 正人 (翻訳), 中山 敬広 (翻訳), 水野 貴明. (2010).『入門 自然言語処理』. オライリージャパン.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 100 7回目の授業で理解度確認テストを行います。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020446|01|9S09020446[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	学習者言語の分析（応用）　1		
担 当 教 員	近藤　悠介		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　本科目では、言語学、自然言語処理の観点から「単語とは何か」について考え、単語の意味をコンピュータで扱う方法を学びます。この技術を用いて外国語学習に役立つツールを考案したり、外国語学習者の話し言葉、書き言葉を分析して、学習者の能力について考察します。

言語学の一分野である意味論と自然言語処理の一部で共有している問いのひとつとして「単語とは何か」という問いがあります。この問いは「意味とは何か」という問いと同じ意味を持つ場合があります。伝統的な意味論では、単語の意味を「意味の成分」あるいは「意味の原子要素」へ分解するという手法を用いて単語を理解しようとしました。以下では、4つの単語を4つの意味成分で表現したものです。

当然ながらこれらの成分の組み合わせがそれぞれの単語を表現していると考えているわけではありません。しかしながら、この「成分表」を用いることによって、ここにあげた単語の語彙的・意味的関係は明確になります。
″bachelor″と″spinster″は[MALE]および[FEMALE]成分のみが異なり、他の成分は同じということで対義関係であることが明示されます。このような方法は意味の「成分分析」と呼ばれています。この成分分析が適用できる範囲は限られていて、成分をいくつ用意すれば良いか分からない、単語が多義的である場合の表現方法が分からない、名詞以外の分析が難しいなどの問題点があります。このような素朴な分析から始めて、本科目ではディープラーニングを用いた単語の意味の表現までを概観します。
本科目の連動科目として「学習者言語の分析（応用）2」が秋学期後半（冬クォーター）に開講されます。
本科目の受講は、Pythonに関する基礎的な知識、技術を前提としています。
過年度の授業内容については https://yusuches.w.waseda.jp/index.html を参照してください。

授業の到達目標：　単語の意味の扱い方を理解し、外国語学習について提案ができるようになる。

事前・事後学習の内容：　事前学習が要求されることはありません。授業内容は積み重なるので、授業で扱った内容を理解しているか自身で十分確認し、次の授業にのぞんでください。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第１回：オリエンテーション
授業概要、シソーラス、Wordnet
第２回：単語の意味
頻度に基づく単語の分散表現、単語の類似度
第３回：文書分類
学習者言語と文書分類、機械学習（教師あり）の考え方
第４回：言語の特徴量と機械学習の技法
言語の特徴量の抽出、機械学習の技法
第５回：推論に基づく分散表現
推論に基づく分散表現
第６回：文書ベクトルと依存文法
推論に基づく分散表現、依存文法に基づいた学習者言語の分析
第７回：まとめと理解度確認テスト
まとめと理解度確認テスト

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書：　毎回の講義で資料を配布する。

参考文献：　石井 雄隆, 近藤 悠介. (2020).『英語教育における自動採点: 現状と課題』. ひつじ書房.
Steven Bird (著), Ewan Klein (著), Edward Loper (著), 萩原 正人 (翻訳), 中山 敬広 (翻訳), 水野 貴明. (2010).『入門　自然言語処理』. オライリージャパン

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	100	第6回の授業でレポートに関する指示をします。講義内容を参照して指示に従い期日までにレポートを提出してください。

備考・関連URL: 受講生の理解に応じて授業内容を変更する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020447|01|9S09020447[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学習者言語の分析（応用） 2		
担 当 教 員	近藤 悠介		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

本科目では、言語学、自然言語処理の観点から文の構造（統語）の複雑性について考えます。洗練された文章には、かなりの程度複雑さが伴うと考えれてきまたし、また、実際にそう考えるのが妥当な証拠もいくつかあります。しかしながら、この「複雑さ」を測ることはかなり困難であることが分かっています。広く受け入れられている文の「複雑さ」は現在のところありません。

以下の文、1、2はどちらが統語的に複雑でしょう。

1. A student hurriedly entered the classroom, clearly flustered and out of breath, indicating that he was running late for the class.
2. A student came into the room with a big bag on his back. He looked really tired. Everyone looked at him. He sat down at his desk.

以下の3、4の文ではどうでしょうか（3、4の文の語数は同じです）。

3. A man in a warm coat took a taxi in front of the building.
4. A man took a taxi because it was extremely cold on that sunny day.

統語的複雑性を考えるとき、文を構成する語の数が増えると文の複雑さが増すと考えられるので、語数が文の複雑性の指標として使われてきました。
しかしながら、以下の5つの文は語数は同じですが、その構造（語と語の関係）は異なります（複雑さが異なるかどうかは分かりません）。

You should try it too.
They won the game easily.
She sings like an angel.
A cat chases a mouse.

一方で、外国語学習という観点から複雑性について考えると、複雑なこと（もの）は学習が困難であると考えられます。そのため、複雑な文構造は、学習における困難度が高いため、一般に学習に時間がかかると考えることができます。この前提に基づいて、この授業では、一部「複雑さ＝困難さ」と考えることもあります。一般に「この文の複雑さはどの程度ですか？」という質問に答えるのは難しいですが、「この文はどの程度難しい文ですか」という質問に答えることは可能な場合があります。ですが、文（あるいは文章）を理解することが困難であることは単語に依存する場合があります。以下の2つの文は明らかに9の方が理解が困難と言えますが、この困難さは構造（や語数）ではなく単語に依存しています。

Meteorologists can use computer algorithms.
Students can use computer rooms.

本科目ではこれらについて考えるため、句構造規則と依存文法、spaCyの使い方、グラフ理論、ネットワークに関する特徴量、依存木とグラフについて学びます。

本科目は「学習者言語の分析（応用）1」の連動科目です。「学習者言語の分析（応用）1」の受講を前提としています。
過去の授業内容については https://yusuches.w.waseda.jp/index.html を参照してください。

授業の到達目標： 言語学、自然言語処理の観点から文の構造について考察できる。

事前・事後学習の内容： 事前学習が要求されることはありません。授業内容が積み重なっていくので、授業で扱った内容を十分理解しているか自身で確認して次の授業にのぞんでください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：概要
授業概要の説明句構造文法と依存文法
第2回：spaCyの使い方
spaCyの使い方（文の検知、単語分割、品詞タグ、依存関係の抽出、依存木の描画）
第3回：グラフ理論入門
グラフの定義、グラフの描画、同型なグラフ、次数列、木、木の特徴量
第4回：グラフの行列表現
行列の復習、Numpyで行列を扱う、固有値、固有値の解釈、隣接行列、次数行列、グラフラプラシアン
第5回：複雑さの定義と依存木
複雑さの定義、依存木の違いを検知する
第6回：文章における複雑性の違い
文章における複雑性の違いを抽出する
第7回：まとめと理解度確認テスト
まとめと理解度確認テスト

言語区分: 0 日本語 Japanese

参考文献: 石井雄隆, 近藤悠介. (編). (2020).『英語教育における自動採点 : 現状と課題』. ひつじ書房.
Steven Bird (著), Ewan Klein (著), Edward Loper (著), 萩原 正人 (翻訳), 中山 敬広 (翻訳), 水野 貴明. (2010).『入門　自然言語処理』. オライリージャパン.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 100 第6回の授業でレポートに関する指示をします。講義内容を参照して指示に従い期日までにレポートを提出してください。

備考・関連URL: 受講者の理解に応じて授業内容を変更する場合があります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020455|01|9S09020455[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国の歴史と社会 1		
担 当 教 員	劉 傑		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： 歴史のなかの現代中国

授業概要： 中国はわかり難い国である。このわかり難い国を理解するには、歴史の視点を導入することが効果的である。中国は歴史と対話しながら未来を構想している。そのため、絶えず「伝統」と「近代」の間を往復しながら、現実の問題に対処している。これからの中国はどこに向かうのか。近代史の延長線上にある現代中国の諸事象を検討し、現代中国に対する理解を深める。講義は討論形式で展開し、ディスカッションのなかで中国を認識する方法論を模索してみたい。

授業の到達目標： ①中国近現代史を理解するキーワードと視座を発見し、歴史と現代の関係を理解すること。
②現代中国を理解するための基本文献の調査、解読、分析能力を身に付けること。
③ディスカッションを通して現代中国を歴史的に捉えることの重要性を確認すること。

事前・事後学習の内容： 指定された史料と参考書の熟読が望ましい。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 中国近代史の魔力
本講義の概要と中国近現代史の学び方について説明する。
第2回 近代の中国人はどのように世界をみてきたのか
近代史のなかで中国人はどのように世界を認識してきたのかを考える。
第3回 中国人の国家構想
中国人は伝統と近代の間でどのような国家構想を描いていたのかを考える。
第4回 中国人の戦争
歴史のなかで、中国人はどのように戦ってきたのかについて検証する。
第5回 中国人の改革
近代史上の改革派に光を当てる。
第6回 中国の中の日本
中国近代史のなかで日本はどのような存在だったのかを考える。
第7回 総合討論
歴史と現代を繋げるものはなにかについて、総合討論を行う。

言語区分： 9 日・中併用 other

教科書： 劉傑『中国の強国構想』筑摩書店、2013年。

参考文献： 劉傑・中村元哉『日中関係：敵か友か』東京大学出版会、2026年。
劉傑・中村元哉『超大国・中国のゆくえ』東京大学出版会、2022年。

成績評価フリー入力サイン： 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート： 80 授業後のレヴューシートと最終レポートの完成度で評価する。

平常点評価： 20 講義中の討論などのパフォーマンスを中心に評価する。

その他： 0 特にありません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020456|01|9S09020456[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	中国の歴史と社会 ２		
担 当 教 員	劉 傑		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： 「中国人」という生き方

授業概要： 1949年からの中国現代史は、1978年までの「階級闘争の時代」（毛沢東時代）、1979年以降の「改革開放の時代」（鄧小平時代）、そして「共同富裕」を追求する習近平時代に分けることができる。激動する中国現代史のなかで、一人一人の中国人がどのように生きてきたのか、文学作品と映像作品を通して検証する。1980年代以降、普通の中国人の生活を描いた文学作品や、映画などの映像作品が数多く創作された。これらの作品は中国人と中国社会を理解する絶好の素材である。議論を通して作品に描かれた中国と中国人に対する理解を深める。

授業の到達目標： 1979年から現在までの中国現代史を確認し、政治と人びとの生活との関係を理解すると共に、地域研究としての中国研究の方法論を習得する。

事前・事後学習の内容： 講義前、指定の参考書を熟読すること。また、必要に応じて映像作品を確認すること。
講義後、配付史料の内容確認と講義内容を整理すること。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第１回 文化大革命はなんだったのか
文化大革命と中国人の生活を考える。
第2回 「傷痕文学」ブームと80年代の知識界
知識人の反省と共産党の反省を比較する。
第3回 伝統と現代
伝統的な生き方に疑問を呈した中国人の生き方。
第4回 海外に出た中国人
新華僑の誕生について考える。
第5回 都会にやってきた農民工
農民工と労働移動、戸籍制度を検討する。
第6回 中国人の生き方を変えた日本
日本が現代中国にどのような影響を与えたのか。
第7回 総合討論
中国人がどのように世界に影響を与えているのかについて議論を行う。

言語区分： 9 日・中併用 other

教科書： 劉傑『中国の強国構想』筑摩書店、2013年。

参考文献： 劉傑・中村元哉『超大国・中国のゆくえ：文明観と歴史認識』東京大学出版会、2022年。
劉傑・中村元哉『日中関係：敵か友か』東京大学出版会、2026年。

成績評価フリー入力サイン： 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート： 80 授業後のレヴューシートと最終レポートの完成度で評価する。

平常点評価： 20 講義中の討論などのパフォーマンスを中心に評価する。

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020459|01|9S09020459[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	台湾政治研究 1		
担 当 教 員	魏 逸瑩		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 戦後台湾の国家形成と政治的変容

授業概要: 近年、台湾は国際政治の中で極めて重要な位置を占めるようになっている。2021年、英誌『エコノミスト』は台湾を「地球上で最も危険な場所」と評した。他方で、EIUの民主主義指数（Democracy Index）、フリーダム・ハウス（Freedom House）、V-Dem民主主義指数といった各種指標によれば、台湾はアジアにおいて最も評価の高い民主主義の一つとされている。
中国の急速な台頭や米中対立の激化、半導体産業をめぐる経済安全保障の問題を背景に、台湾の地政学的重要性は一段と高まっている。日本においても「台湾有事」が安全保障政策上の重要課題としてしばしば議論されている。しかし同時に、台湾は国際社会において広く国家承認を受けていないという現実がある。
本授業は、こうした状況を単なる時事問題として扱うのではなく、戦後台湾の国家形成と政治的変容の歴史的過程の中で捉え直すことを目的とする。
前半では、戦後における脱植民地化の課題、権威主義体制の成立と民主化への転換、アメリカとの関係、さらに中台（両岸）関係および日台関係の展開を通じて、台湾という政治空間がいかに形成され、変容してきたのかを検討する。また、国家承認を広く得ていないという制約の下で、台湾がどのような外交戦略を展開し、国際的地位を模索してきたのかについても考察する。
後半では、民主化以後の台湾政治に焦点を当て、選挙制度と政党システム、ジェンダーとマイノリティ、多文化主義とアイデンティティ、市民社会と社会運動、情報戦と認知戦、経済発展と経済安全保障といった諸テーマを扱う。これらを通じて、現代台湾政治の構造とその動態を理解する。
授業は、基礎文献および関連研究の輪読を中心に進め、必要に応じて関連映像資料も活用する。受講生は各回のテーマに即して報告と討論を行い、台湾政治を歴史的・国際的文脈の中で理解する力を養うことを目指す。

授業の到達目標: 本授業の到達目標は、以下の2点である。

1.現代台湾政治の諸事象を歴史的・国際的文脈に位置づけて説明し、東アジアおよび国際政治の変動を自ら分析することができる。

2.輪読資料に基づいて報告および議論を行い、他者の意見を踏まえながら自らの考えを明確かつ論理的に説明することができる。

事前・事後学習の内容: 事前学習は2時間程度、事後学習は1時間程度を目安とする。

事前学習：各回で使用予定の輪読資料は事前に配布する。授業前に必ず目を通し、要点を整理したうえで、当該テーマに関する質問や議論の論点を準備すること。

事後学習：授業後には輪読資料を読み直し、議論内容を踏まえて理解を深めること。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 第1回 ガイダンス、台湾とは何か①

第2回 台湾とは何か②

第3回 脱植民地化と戦後台湾

第4回 日華関係／日台関係

第5回 中台（両岸）関係

第6回 権威主義体制と民主化

第7回 非承認国家の外交ジレンマ

言語区分: 9 日本語/中国語 Japanese/Chinese

教科書: 特に指定しない。各回のテーマに応じて、授業内で輪読資料を配布する。

参考文献: ・家永真幸『台湾のアイデンティティ：「中国」との相克の戦後史』（文春新書、2023年）
・小笠原欣幸『台湾総統選挙 増補版』（晃洋書房、2025年）

・川島真、清水麗、松田康博、楊永明『日台関係史 1945-2020 増補版』(東京大学出版会、2020年)
・周婉窈著・濱島敦俊監訳『増補版 図説 台湾の歴史』(平凡社、2013年)
・福永玄弥『性／生をめぐる闘争:台湾と韓国における性的マイノリティの運動と政治』(明石書店、2025年)
・松田康博『中国と台湾:危機と均衡の政治学』(慶應義塾大学出版会、2025年)
・若林正丈『台湾の政治:中華民国台湾化の戦後史 増補新装版』(東京大学出版会、2021年)
・若林正丈『台湾の歴史』(講談社学術文庫、2023年)
・渡辺将人『台湾のデモクラシー:メディア、選挙、アメリカ』(中公新書、2024年)

成績評価フリー入力サイン: 1:フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 期末試験:40%　論述形式の教場試験

平常点評価:60%　担当回の報告内容および議論への参加度、レスポンスシートなどを総合的に評価する。

備考・関連URL: ・「台湾政治研究1」(秋クォーター開講)と「台湾政治研究2」(冬クォーター開講)は、原則として連続して履修するものとし、単独での履修は認めない。なお、授業の進行状況や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。

・日本台湾学会(https://jats.gr.jp/)および早稲田大学台湾研究所(https://waseda-taiwan.com/)では、不定期に台湾政治に関連する研究会が開催されている。ご関心のある方は、ぜひご参照いただきたい。

・また、台湾を知るための基礎的知識については、日本台湾教育支援研究者ネットワーク(SNET台湾)(https://snet-taiwan.jp/)において公開されている資料や動画も参考になると思われる。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020460|01|9S09020460[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	台湾政治研究 ２		
担 当 教 員	魏 逸瑩		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 戦後台湾の国家形成と政治的変容

授業概要: 近年、台湾は国際政治の中で極めて重要な位置を占めるようになっている。2021年、英誌『エコノミスト』は台湾を「地球上で最も危険な場所」と評した。他方で、EIUの民主主義指数（Democracy Index）、フリーダム・ハウス（Freedom House）、V-Dem民主主義指数といった各種指標によれば、台湾はアジアにおいて最も評価の高い民主主義の一つとされている。
中国の急速な台頭や米中対立の激化、半導体産業をめぐる経済安全保障の問題を背景に、台湾の地政学的重要性は一段と高まっている。日本においても「台湾有事」が安全保障政策上の重要課題としてしばしば議論されている。しかし同時に、台湾は国際社会において広く国家承認を受けていないという現実がある。
本授業は、こうした状況を単なる時事問題として扱うのではなく、戦後台湾の国家形成と政治的変容の歴史的過程の中で捉え直すことを目的とする。
前半では、戦後における脱植民地化の課題、権威主義体制の成立と民主化への転換、アメリカとの関係、さらに中台（両岸）関係および日台関係の展開を通じて、台湾という政治空間がいかに形成され、変容してきたのかを検討する。また、国家承認を広く得ていないという制約の下で、台湾がどのような外交戦略を展開し、国際的地位を模索してきたのかについても考察する。
後半では、民主化以後の台湾政治に焦点を当て、選挙制度と政党システム、ジェンダーとマイノリティ、多文化主義とアイデンティティ、市民社会と社会運動、情報戦と認知戦、経済発展と経済安全保障といった諸テーマを扱う。これらを通じて、現代台湾政治の構造とその動態を理解する。
授業は、基礎文献および関連研究の輪読を中心に進め、必要に応じて関連映像資料も活用する。受講生は各回のテーマに即して報告と討論を行い、台湾政治を歴史的・国際的文脈の中で理解する力を養うことを目指す。

授業の到達目標: 本授業の到達目標は、以下の2点である。

1.現代台湾政治の諸事象を歴史的・国際的文脈に位置づけて説明し、東アジアおよび国際政治の変動を自ら分析することができる。

2.輪読資料に基づいて報告および議論を行い、他者の意見を踏まえながら自らの考えを明確かつ論理的に説明することができる。

事前・事後学習の内容: 事前学習は2時間程度、事後学習は1時間程度を目安とする。

事前学習：各回で使用予定の輪読資料は事前に配布する。授業前に必ず目を通し、要点を整理したうえで、当該テーマに関する質問や議論の論点を準備すること。

事後学習：授業後には輪読資料を読み直し、議論内容を踏まえて理解を深めること。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 第1回 選挙制度と政党システム

第2回 ジェンダーとマイノリティ

第3回 多文化主義とアイデンティティ

第4回 社会運動と市民社会

第5回 情報戦と認知戦

第6回 経済発展と経済安全保障

第7回 期末試験とフィードバック

言語区分: 9 日本語/中国語 Japanese/Chinese

教科書: 特に指定しない。各回のテーマに応じて、授業内で輪読資料を配布する。

参考文献: ・家永真幸『台湾のアイデンティティ：「中国」との相克の戦後史』（文春新書、2023年）
・小笠原欣幸『台湾総統選挙 増補版』（晃洋書房、2025年）

・川島真、清水麗、松田康博、楊永明『日台関係史 1945-2020 増補版』(東京大学出版会、2020年)
・周婉窈著・濱島敦俊監訳『増補版 図説 台湾の歴史』(平凡社、2013年)
・福永玄弥『性／生をめぐる闘争:台湾と韓国における性的マイノリティの運動と政治』(明石書店、2025年)
・松田康博『中国と台湾:危機と均衡の政治学』(慶應義塾大学出版会、2025年)
・若林正丈『台湾の政治:中華民国台湾化の戦後史 増補新装版』(東京大学出版会、2021年)
・若林正丈『台湾の歴史』(講談社学術文庫、2023年)
・渡辺将人『台湾のデモクラシー:メディア、選挙、アメリカ』(中公新書、2024年)

成績評価フリー入力サイン: 1:フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: 期末試験:40%　論述形式の教場試験

平常点評価:60%　担当回の報告内容および議論への参加度、レスポンスシートなどを総合的に評価する。

備考・関連URL: ・「台湾政治研究1」(秋クォーター開講)と「台湾政治研究2」(冬クォーター開講)は、原則として連続して履修するものとし、単独での履修は認めない。なお、授業の進行状況や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。

・日本台湾学会(https://jats.gr.jp/)および早稲田大学台湾研究所(https://waseda-taiwan.com/)では、不定期に台湾政治に関連する研究会が開催されている。ご関心のある方は、ぜひご参照いただきたい。

・また、台湾を知るための基礎的知識については、日本台湾教育支援研究者ネットワーク(SNET台湾)(https://snet-taiwan.jp/)において公開されている資料や動画も参考になると思われる。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020467|01|9S09020467[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	International Interaction for Global Leadership（Local Issues）		
担 当 教 員	近藤 悠介		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：
This course features web-meetings with students of Tamkang University, Korea University, Hannam University, and Ritsumeikan University and in-class presentations by students. The students in this course are required to make proposals on a current problem in Taiwan, Korea, and Japan, describe the situation, present and discuss proposals in the web-meetings, and make in-class presentations on the last day of the course.
Through the discussion, the students will learn how to discuss in English, manage the discussion, reply to the proposal, and improve their own proposals based on the comments. On the last day of this course, the students will make their presentation on their revised proposals. It is such an ability that is needed in international interactions.

授業の到達目標：
To understand the difference in communication styles between Taiwan, Korea, and Japan.
To obtain the skills to present your idea, discuss, and negotiate with Asian students.
To explain local issues adequately and share them with Asian students.

事前・事後学習の内容：
Approx. 90 min. You are required to revise your writing based on comments.

授業計画フリー入力サイン：
0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Lesson 1: Introduction
Introduction to the course
Lesson 2: Web-meeting 1
Self-introduction
Lesson3: Web-meeting 2
Presenting the situation and the proposal
Lesson 4: Web-meeting 3
Presenting evidence to support the proposal 1
Lesson 5: Web-meeting 4
Presenting evidence to support the proposal 2
Lesson 6: Web-meeting 5
Presenting expected results of your proposal
Lesson 7: Web-meeting 6
Presenting research

言語区分： 0 英語 English

成績評価フリー入力サイン：
0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価： 100 Participation, assignments, and presentation.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020468|01|9S09020468[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	International Interaction for Global Leadership（Common Issues Among Asian Countries）		
担 当 教 員	近藤 悠介		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（政治・文化・社会）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： This course features web-meetings with students of Tamkang University, Korea University, Hannam University, and Ritsumeikan University and in-class presentations by students. The students in this course are required to make proposals on common problems in Taiwan, Korea, and Japan. In the web-meetings, the students discuss such problems and find solutions together.
Through the discussion, the students will learn how to discuss in English, manage the discussion, reply to the proposal, and improve their own proposals based on the comments. On the last day of this course, the students will make their presentation on their revised proposals. It is such an ability that is needed in international interactions.

授業の到達目標： To understand the difference in communication styles between Taiwan, Korea, and Japan.
To obtain the skills to present your idea, discuss, and negotiate with Asian students.
To find common issues in Asia and share them with Asian students.

事前・事後学習の内容： Approx. 90 min. You are required to revise your writing based on the comments.

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Lesson 1: Introduction
Introduction to the course
Lesson 2: Web-meeting 1
Self-introduction
Lesson3: Web-meeting 2
Presenting the situation and the proposal
Lesson 4: Web-meeting 3
Presenting evidence to support the proposal 1
Lesson 5: Web-meeting 4
Presenting evidence to support the proposal 2
Lesson 6: Web-meeting 5
Presenting expected results of your proposal
Lesson 7: Web-meeting 6
Presenting research

言語区分： 0 英語 English

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価： 100 Participation, assignments, and presentation.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020475|01|9S09020475[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本言語文化論 1		
担 当 教 員	坂本 麻裕子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

近代日本児童文学を分析的に読む

本授業では、子ども向け読み物のテクスト（語句や表現）に着目し、その揺れや奥行きを読み解くことで、明治時代の言葉と文化のつながりを考える。
学問分野としては、文化学、歴史学、文学、教育史・思想史などをまたぐ学際領域に該当する。当時の歴史について、基礎的なところから学ぶため、専門分野外の学生も大歓迎である。
明治時代という背景を紹介する。明治時代の日本は、急激な近代化の過程で〈西洋〉受容を進めた。その結果、当時、様々な場面で齟齬や葛藤がみられたことは周知の事実である。こうした近代化（明治から現代にまでつながる）の葛藤は、近代日本児童文学に用いられているテクストの揺れからも読み取ることができる。
そこで、実際の文献を分析的に読みながら、テクストから時代を読むことに挑戦する。一次資料として、主に近代日本児童文学（明治時代）のテクストを用いる。学部生が読みやすく身近に感じるイソップ寓話、グリム童話、日本昔話、伝記を主な題材として取り上げ、毎回一つまたは二つのキーワードを軸に分析し、言葉と文化のつながりを考察してゆきたい。授業内外で、普段は触れることがないであろう一次資料と二次資料を読む機会を作る。

◇本授業の目的は二つある。
第一に、テクストの言葉（語句や表現）を手掛かりに文献を読み解き、言葉と文化のつながりを学ぶ。
第二に、学問として文献（一次資料や二次資料）を読むことの基本を学ぶ。

◇授業は、毎回ワークショップ形式で以下のように進める（学生主体）。

授業形態は、全回、対面授業である。次の流れで、毎回の授業を進める。（その学期の履修者の進捗によって、調整する場合がある。）
1)毎回、新しい文献を読む。実際の明治時代の文献（つまり昔の日本語で書かれた文献）を読む。原則、インターネット等を使って調べずに、一読してどこまでわかるかを体験する機会を設ける。
2)毎回ペアまたはグループで、読んだ文献について話し合い、理解内容を共有する。
3)文献に関する専門知識を、教員が説明する。（講義）
4)上記の説明を踏まえて、ペアまたはグループで再検討する。
5)毎回、授業の最後にリアクション・ペーパーを書き、その回の授業で学んだことや自分の意見をまとめる。
質問やクラス全体に投げかけたい問いがあれば、書く。※時間が足りない人は翌週提出も可能。
6)翌週の授業冒頭、教員はリアクション・ペーパーに書かれた内容を、クラス全体で共有する。

※多様な視点を期待し、専門分野外の学生を歓迎します。
※留学生も歓迎します。（ただし、本授業では古い日本語で書かれた文章を読みます。高い日本語レベルが必要です。心配な場合は、第一回の授業で御自身の日本語レベルに合っているかを相談してください。）
※科目登録時に「1」と「2」の両方を、同時に履修登録してください。「1」のみ、または「2」のみの履修は認めません。

授業の到達目標:

◇内容理解
・言葉（テクスト）と文化のつながりを考える力が磨かれる。
・明治時代の文化（教育観、言葉、人々の状況など）が理解できる。

◇スキル形成
・一次資料と二次資料の読み方の基本が身に付く。
・読解力、考察力（自分の意見と根拠の書き分け）が鍛えられる。

事前・事後学習の内容:

予習：約1時間（配布された文献を事前に読み、分析メモを書いてくる。または、指定された文献を探す。）
復習：約1時間（授業で配布された全ての資料を読む。リアクション・ペーパーに自分の意見や感想を書く。）
合計：約2時間

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

1: ガイダンス／児童文学とは

本授業の概要、進め方、成績評価などについて説明する。児童文学に関して考えを深める。

2:　言葉と文化の関係：児童文学のジャンルとは
文化、テクストの関係に関して議論する。特に口承文芸に関して考えを深める。授業内で動画を視聴する。
3:　言葉と文化の関係：文化学の分析方法（一次資料としてテクストを読むとは）
《分析的にテクストを読む》という読み方以外の方法を学ぶ。
一つのテクストを基に、三つの読み方をレクチャーし、各読みの視点を体感する。

4:　明治期イソップ寓話①分析的に読む練習（実践：基本編）
明治期イソップ寓話「アリとキリギリス」について：分析＋ディスカッション。
〔キーワード〕多角的な視点で読み解く
5:　明治期イソップ寓話②分析的に読む練習（実践：基本編の続き）
明治期イソップ寓話「アリとキリギリス」について：分析＋ディスカッション。
〔キーワード〕三つの読み方（イデオロギー、エートス、テクスト）

6: 明治期イソップ寓話③分析的に読む練習（実践：応用編）
明治期イソップ寓話「アリとキリギリス」について：分析＋ディスカッション。授業内で動画を視聴する。
〔キーワード〕近代日本、「貯蓄」

7:　明治期グリム童話
明治期グリム童話「カエルの王様」：分析＋ディスカッション。
〔キーワード〕「母親」「家庭」

_____
※第1回の事前学修と事後学修は、以下の通りです。
事前学修：シラバスを読んでくる。
事後学修：配布資料を全て読み返す。リアクション・ペーパーを書く。

※第2回以降の事前学修と事後学修は、以下の通りです。（毎回）
事前学修：文献・資料を読む。
事後学修：配布資料を全て読み返す。リアクション・ペーパーを書く。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　授業者が作成したプリントを配布します。

参考文献：　随時、授業内で各回の関連文献を紹介します。（講義ノートの中に、書誌情報を明記します。）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　44　課題は、第5回授業で告知します。授業を踏まえ、明治時代に関するテーマを決めて論じてもらいます。講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価します。（44点満点）

平常点評価：　14　・授業中の全体ディスカッションへの積極的な参加（質問など）を評価します。（第1回～7回：各1点）
・ペアワークまたはグループワークにおける貢献度を評価します。（第1回～7回：各1点）

その他：　42　小課題（リアクション・ペーパー）から、授業の理解度を評価します。毎回、授業を踏まえて考えたこと、質問などを書きます。（第1回～7回の小課題：各6点）

備考・関連URL：
履修者の興味関心に応じて、内容は調整します。
＊毎回出される小課題は、翌週以降の授業で教員のコメントを付けて返却したり、全体で共有したりします。
＊最終レポートは、評価後にオンラインシステムやメールなどを通じてフィードバックを行う予定です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020476|01|9S09020476[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本言語文化論 ２		
担 当 教 員	坂本 麻裕子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

近代日本児童文学を分析的に読む

本授業では、子ども向け読み物のテクスト（語句や表現）に着目し、その揺れや奥行きを読み解くことで、明治時代の言葉と文化のつながりを考える。
学問分野としては、文化学、歴史学、文学、教育史・思想史などをまたぐ学際領域に該当する。当時の歴史について、基礎的なところから学ぶため、専門分野外の学生も大歓迎である。
明治時代という背景を紹介する。明治時代の日本は、急激な近代化の過程で〈西洋〉受容を進めた。その結果、当時、様々な場面で齟齬や葛藤がみられたことは周知の事実である。こうした近代化（明治から現代にまでつながる）の葛藤は、近代日本児童文学に用いられているテクストの揺れからも読み取ることができる。
そこで、実際の文献を分析的に読みながら、テクストから時代を読むことに挑戦する。一次資料として、主に近代日本児童文学（明治時代）のテクストを用いる。学部生が読みやすく身近に感じるイソップ寓話、グリム童話、日本昔話、伝記を主な題材として取り上げ、毎回一つまたは二つのキーワードを軸に分析し、言葉と文化のつながりを考察してゆきたい。授業内外で、普段は触れることがないであろう一次資料と二次資料を読む機会を作る。

◇本授業の目的は二つある。
第一に、テクストの言葉（語句や表現）を手掛かりに文献を読み解き、言葉と文化のつながりを学ぶ。
第二に、学問として文献（一次資料や二次資料）を読むことの基本を学ぶ。

◇授業は、毎回ワークショップ形式で以下のように進める（学生主体）。
授業形態は、全回、対面授業である。次の流れで、毎回の授業を進める。（その学期の履修者の進捗によって、調整する場合がある。）
1)毎回、新しい文献を読む。実際の明治時代の文献（つまり昔の日本語で書かれた文献）を読む。原則、インターネット等を使って調べずに、一読してどこまでわかるかを体験する機会を設ける。
2)毎回ペアまたはグループで、読んだ文献について話し合い、理解内容を共有する。
3)文献に関する専門知識を、教員が説明する。（講義）
4)上記の説明を踏まえて、ペアまたはグループで再検討する。
5)毎回、授業の最後にリアクション・ペーパーを書き、その回の授業で学んだことや自分の意見をまとめる
質問やクラス全体に投げかけたい問いがあれば、書く。※時間が足りない人は翌週提出も可能。
6)翌週の授業冒頭、教員はリアクション・ペーパーに書かれた内容を、クラス全体で共有する。

※多様な視点を期待し、専門分野外の学生を歓迎します。
※留学生も歓迎します。（ただし、本授業では古い日本語で書かれた文章を読みます。高い日本語レベルが必要です。心配な場合は、第一回の授業で御自身の日本語レベルに合っているかを相談してください。）
※科目登録時に「1」と「2」の両方を、同時に履修登録してください。「1」のみ、または「2」のみの履修は認めません。

授業の到達目標:

◇内容理解
・言葉（テクスト）と文化のつながりを考える力が磨かれる。
・明治時代の文化（教育観、言葉、人々の状況など）が理解できる。

◇スキル形成
・一次資料と二次資料の読み方の基本が身に付く。
・読解力、考察力（自分の意見と根拠の書き分け）が鍛えられる。

事前・事後学習の内容:

予習：約1時間（配布された文献を事前に読み、分析メモを書いてくる。または、指定された文献を探す。）
復習：約1時間（授業で配布された全ての資料を読む。リアクション・ペーパーに自分の意見や感想を書く。）
合計：約2時間

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

1: 明治期創作童話の分析
明治期創作童話「こがね丸」：分析＋ディスカッション。
〔キーワード〕当時の子ども

2: 明治期日本昔話の分析①（娯楽）

明治期日本昔話「桃太郎」について：分析＋ディスカッション。
〔キーワード〕巌谷小波

3: 秋クォーターのレポートの共有（読書会）、レポート作成の注意点
各個人が書いたレポート内容について、グループで発表し質疑応答をする。授業内で動画を視聴する。

4: 明治期日本昔話の分析②（学校）
明治期日本昔話「桃太郎」について：分析＋ディスカッション。
〔キーワード〕教科書

5: 明治期伝記物語①
明治期子ども向け読み物（伝記）について：分析＋ディスカッション。
〔キーワード〕二宮金次郎

6: 明治期伝記物語②
明治期子ども向け読み物（伝記）について：分析＋ディスカッション。
〔キーワード〕塩原多助

7: 視覚的イメージの分析（発展編）、全体のまとめ
明治期教科書の挿絵について：分析＋ディスカッション。
〔キーワード〕テクストと文字の関係、挿絵の分析

_____
※第3回の事前学修と事後学修は、以下の通りです。
事前学修：発表の準備をする。文献、資料を読む。
事後学修：配布資料を全て読み返す。リアクション・ペーパーを書く。

※第1回、2回、4回、5回、6回、7回の事前学修と事後学修は、以下の通りです。
事前学修：文献・資料を読む。
事後学修：配布資料を全て読み返す。リアクション・ペーパーを書く。

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 授業者が作成したプリントを配布します。

参考文献： 随時、授業内で各回の関連文献を紹介します。（講義ノートの中に、書誌情報を明記します。）

成績評価フリー入力サイン： 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：	44	課題は、第5回授業で告知します。授業を踏まえ、明治時代に関するテーマを決めて論じてもらいます。講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価します。（44点満点）
平常点評価：	14	・授業中の全体ディスカッションへの積極的な参加（質問など）を評価します。（第1回～7回：各1点） ・ペアワークまたはグループワークにおける貢献度を評価します。（第1回～7回：各1点）
その他：	42	小課題（リアクション・ペーパー）から、授業の理解度を評価します。毎回、授業を踏まえて考えたこと、質問などを書きます。（第1回～7回の小課題：各6点）

備考・関連URL： 履修者の興味関心に応じて、内容は調整します。
＊毎回出される小課題は、翌週以降の授業で教員のコメントを付けて返却したり、全体で共有したりします。
＊最終レポートは、評価後にオンラインシステムやメールなどを通じてフィードバックを行う予定です。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020477|01|9S09020477[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	比較文章論　1		
担 当 教 員	坂本　麻裕子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

異なるジャンルの書き手（作家や研究者）が書いた文章論（『文章読本』や書くことに関する論考）を読み、書く工夫を学ぶ。

文章はジャンルごとに書く目的または読む目的が異なる。本授業では、これまで皆さんが一番多く触れてきたであろう文学に関する文章論とレポート・論文に関する文章論を読み比較することで、両者の類似点と相違点を考える。
学問分野としては、ライティング教育領域にあたる。様々な文章を読んだり書いたりする一人の書き手として、二つの文章ジャンルを比較する視点を養うことで自己表現の幅を広げていく。
具体的には、文章の目的、書く行為、読者、作者、書き始めと書き終わり、構成、引用などを扱う予定である。文章論で紹介されている様々な工夫について、実践可能なものについては実際に学生自身で作文を試みる機会を設ける。そして、その効果を皆で読み合って検討したい。なお、本授業でいう文章論とは、作家や研究者が書いた文章に関する論考を指す（小説に関する『文章読本』、レポート指南書など）。

◇本授業の目的
第一に、書き手として、自己表現の幅を広げることである。
第二に、何気なく読んだり書いたりしている文章の技巧を、分析的に読む視点を養うことである。
第三に、文章のジャンルによってどのように表現方法が異なるのかを学び、文章に関する視野を広げることである。

◇授業の進め方：毎回ワークショップ形式で、以下のように進める（学生主体）。
　授業形態は、全回、対面授業である。次の流れで進める。（その学期の履修者の進捗によって、調整する場合がある。）
1) 毎回、新しい文章論を読む。
2) 実際の文学作品や論文を用いて、学んだ視点で実際の文章を読んで分析する。
3) ペアまたはグループで分析内容についてディスカッションする。
4) 教員からのレクチャーを行う。
5) 授業に関する質問や感想などをリアクション・ペーパーに書く。
6) 授業後、学んだ知識を活かして、実際に文章を書く（毎週）。　※大変ですが力はつきます。
7) 翌週、書いた文章を皆で読み合い、意見交換する。（グループディスカッション）

※「比較文章論1」は主に文学（小説）、「比較文章論2」は主に学術的文章（レポート・論文）に関する論考を扱う予定です。両方を合わせて履修することで比較する目を養います。
※科目登録時に「1」と「2」の両方を、同時に履修登録してください。「1」のみ、または「2」のみの履修は認めません。

※多様な視点を期待し、専門分野外の学生を歓迎します。
※留学生も歓迎します。（ただし、毎回高度な日本語文章を読んだり書いたりすることを求めます。高い日本語レベルが必要です。心配な場合は事前にメールまたは第一回の授業で相談すること。）

授業の到達目標:

◇内容理解
様々なジャンルの文章や書く行為について、幅広い視野で考えられる。
特に文学的文章での表現の工夫を学ぶことができる。

◇スキル形成
文章の書かれ方を分析的に読む力が身につく。（読み手意識が養える。）
文章を書く力が身につく。（様々な表現の工夫が学べ、書いてみることで力がつく。）

事前・事後学習の内容:

予習：約1時間（次回の授業に関連した配布資料を読む。または、指定された文献を探してくる、など。）
復習：約2時間（配布された文献、授業資料を読む。練習問題を解く。また、学んだ技巧を活用した実践作文を書く、など。）
合計　約3時間

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

1: ガイダンス（文学的文章とは）
授業の概要、成績評価等の説明。文章に関するブレーンストーミング。ディスカッション。

2: 文学的文章における文や言葉選びの技巧
小説における「文」や「言葉選び」の工夫に関する論考を読む。ディスカッション。実践作文に挑戦する。

3: 文学的文章における文彩／レトリックの技巧
小説における「文彩／レトリック」の工夫に関する論考を読む。ディスカッション。実践作文に挑戦する。

4: 文学的文章におけるプロットの技巧
小説における「プロット」の工夫に関する論考を読む。ディスカッション。実践作文に挑戦する。

5: 文学的文章における語り手の技巧
小説における「語り手」の工夫に関する論考を読む。ディスカッション。実践作文に挑戦する。

6: 文学的文章における始め方（冒頭）、終わり方（末尾）の技巧
（1）小説における「始め方（冒頭）」の工夫に関する論考を読む。
（2）小説における「終わり方（末尾）」の工夫に関する論考を読む。
ディスカッション。実践作文に挑戦する。

7: 文学的文章における会話の技巧、本クォーターの総括
小説における「会話」の工夫に関する論考を読む。ディスカッション。実践作文に挑戦する。総括。

_____
※第1回の事前学修と事後学修は、以下の通りです。
事前学修：シラバスを読んでくる。
事後学修：配布資料を全て読み返す。リアクション・ペーパーを書く。ブレーンストーミングを清書して提出する。

※第2回以降の事前学修と事後学修は、以下の通りです。（毎回）
事前学修：文献・資料を読む。
事後学修：配布資料を全て読み返す。リアクション・ペーパーを書く。実践作文を作成する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 授業者が作成したプリントを配布します。

参考文献: 随時、授業内で各回の関連文献を紹介します。（講義ノートの中に明記します。）
例えば、作家が書いた文章論（文章読本や文章に関する論考）などです。
例：谷崎潤一郎『文章読本』、井上ひさし『自家製文章読本』など。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 37 課題は、第4回授業で告知します。授業を踏まえテーマを決めて論じてもらい、講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価します。（37点満点）

平常点評価: 21 ・授業への積極的な参加、ペアまたはグループワークにおける貢献度を評価します。（第1回～7回：各1点）
・リアクション・ペーパーを評価します。毎回、自身の理解度や授業への質問や感想などを書きます。（第1回～7回：各2点）

その他: 42 毎回出される小課題（第1回はブレーンストーミングの清書、第2回以降は実践作文）を評価します。学んだ技術の実践だけでなく、振り返り欄の記述も重視します。（第1回～第7回の小課題：各6点満点）

備考・関連URL:

履修者の興味関心に応じて、内容は調整します。
＊毎回出される小課題（授業で学んだ事柄に対する感想や意見を書くリアクション・ペーパー、実践作文などの宿題）は、翌週以降の授業で教員のコメントを付けて返却したり、全体で共有したりします。
＊最終レポートは、評価後にオンラインシステムやメールなどを通じてフィードバック・返却する予定です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020478|01|9S09020478[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	比較文章論 ２		
担 当 教 員	坂本 麻裕子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

異なるジャンルの書き手（作家や研究者）が書いた文章論（『文章読本』や書くことに関する論考）を読み、書く工夫を学ぶ。

文章はジャンルごとに書く目的または読む目的が異なる。本授業では、これまで皆さんが一番多く触れてきたであろう文学に関する文章論とレポート・論文に関する文章論を読み比較することで、両者の類似点と相違点を考える。
学問分野としては、ライティング教育領域にあたる。様々な文章を読んだり書いたりする一人の書き手として、二つの文章ジャンルを比較する視点を養うことで自己表現の幅を広げていく。
具体的には、文章の目的、書く行為、読者、作者、書き始めと書き終わり、構成、引用などを扱う予定である。文章論で紹介されている様々な工夫について、実践可能なものについては実際に学生自身で作文を試みる機会を設ける。そして、その効果を皆で読み合って検討したい。なお、本授業でいう文章論とは、作家や研究者が書いた文章に関する論考を指す（小説に関する『文章読本』、レポート指南書など）。

◇本授業の目的
第一に、書き手として、自己表現の幅を広げることである。
第二に、何気なく読んだり書いたりしている文章の技巧を、分析的に読む視点を養うことである。
第三に、文章のジャンルによってどのように表現方法が異なるのかを学び、文章に関する視野を広げることである。

◇授業の進め方：毎回ワークショップ形式で、以下のように進める（学生主体）。
授業形態は、全回、対面授業である。次の流れで進める。（その学期の履修者の進捗によって、調整する場合がある。）
1)毎回、新しい文章論を読む。
2) 実際の文学作品や論文を用いて、学んだ視点で実際の文章を読んで分析する。
3) ペアまたはグループで分析内容についてディスカッションする。
4) 教員からのレクチャーを行う。
5) 授業に関する質問や感想などをリアクション・ペーパーに書く。
6) 授業後、学んだ知識を活かして、実際に文章を書く（毎週）。 ※大変ですが力はつきます。
7) 翌週、書いた文章を皆で読み合い、意見交換する。（グループディスカッション）

※「比較文章論1」は主に文学（小説）、「比較文章論2」は主に学術的文章（レポート・論文）に関する論考を扱う予定です。両方を合わせて履修することで比較する目を養います。
※科目登録時に「1」と「2」の両方を、同時に履修登録してください。「1」のみ、または「2」のみの履修は認めません。

※多様な視点を期待し、専門分野外の学生を歓迎します。
※留学生も歓迎します。（ただし、毎回高度な日本語文章を読んだり書いたりすることを求めます。高い日本語レベルが必要です。心配な場合は事前にメールまたは第一回の授業で相談すること。）

授業の到達目標: ◇内容理解
様々なジャンルの文章や書く行為について、幅広い視野で考えられる。
特に文学的文章での表現の工夫を学ぶことができる。

◇スキル形成
文章の書かれ方を分析的に読む力が身につく。（読み手意識が養える。）
文章を書く力が身につく。（様々な表現の工夫が学べ、書いてみることで力がつく。）

事前・事後学習の内容: 予習：約1時間（次回の授業に関連した配布資料を読む。または、指定された文献を探してくる、など。）
復習：約2時間（配布された文献、授業資料を読む。練習問題を解く。また、学んだ技巧を活用した実践作文を書く、など。）
合計 約3時間

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

1: ガイダンス（学術的文章とは）
授業の概要、成績評価等の説明。文章に関するブレーンストーミング。ディスカッション。

2: 学術的文章の長い引用に関する技巧
学術的文章における「長い引用」に関する工夫を学ぶ。ディスカッション。実践作文に挑戦する。

3: 学術的文章の短い引用、参考文献に関する技巧
学術的文章における「短い引用」や「参考文献」に関する工夫を学ぶ。ディスカッション。実践作文に挑戦する。

4: 学術的文章の文に関する技巧
学術的文章における「文」に関する工夫を学ぶ。ディスカッション。

5: 学術的文章の言葉選びに関する技巧
学術的文章における「言葉」に関する工夫を学ぶ。ディスカッション。

6: 学術的文章の構成、学術的文章の題名に関する技巧
（1）学術的文章における「構成」に関する工夫を学ぶ。
（2）学術的文章における「題名」に関する工夫を学ぶ。
ディスカッション。実践作文に挑戦する。

7: 学術的文章の本論に関する技巧、本クォーターの総括
学術的文章における「本論」に関する工夫を学ぶ。ディスカッション。実践作文に挑戦する。総括。

_____
※第1回の事前学修と事後学修は、以下の通りです。
事前学修：シラバスを読んでくる。
事後学修：配布資料を全て読み返す。リアクション・ペーパーを書く。ブレーンストーミングを清書して提出する。

※第2回以降の事前学修と事後学修は、以下の通りです。（毎回）
事前学修：文献・資料を読む。
事後学修：配布資料を全て読み返す。リアクション・ペーパーを書く。実践作文を作成する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 授業者が作成したプリントを配布します。

参考文献: 随時、授業内で各回の関連文献を紹介します。（講義ノートの中に明記します。）
例えば、研究者が書いた文章論、ライティング教科書などです。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 37 課題は、第5回授業で告知します。授業を踏まえテーマを決めて論じてもらい、講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価します。（37点満点）

平常点評価: 21 ・授業への積極的な参加、ペアまたはグループワークにおける貢献度を評価します。（第1回～7回：各1点）
・リアクション・ペーパーを評価します。毎回、自身の理解度や授業への質問や感想などを書きます。（第1回～7回：各2点）

その他: 42 毎回出される小課題（第1回はブレーンストーミングの清書、第2回以降は実践作文）を評価します。学んだ技術の実践だけでなく、振り返り欄の記述も重視します。（第1回～第7回の小課題：各6点満点）

備考・関連URL:

履修者の興味関心に応じて、内容は調整します。
＊毎回出される小課題（授業で学んだ事柄に対する感想や意見を書くリアクション・ペーパー、実践作文などの宿題）は、翌週以降の授業で教員のコメントを付けて返却したり、全体で共有したりします。
＊最終レポートは、評価後にオンラインシステムやメールなどを通じてフィードバック・返却する予定です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 2 非主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020496|01|9S09020496[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	未来社会を創るセキュリティ最前線（学部生用）		
担 当 教 員	小林 学@扇 健一		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: あなたの未来を守る技術を学ぶ

授業概要: 情報セキュリティは社会生活や企業経営において安心、安全を支える重要な要素であり、情報セキュリティを維持し続けることは、大きな社会課題のひとつと言える。
本授業は、安心、安全な未来社会を実現するために、すべての社会人に求められる情報セキュリティの知識を学ぶことを目的とする。また、履修者自身が将来、情報セキュリティの問題に陥ることを回避するためのスキルを身に付ける。具体的には、社会的責任を果たす企業の立場、企業のサービスを利用する消費者の立場、企業の情報資産を狙う攻撃者の立場、といったそれぞれの立場から情報セキュリティを考察し、サイバー攻撃の脅威情勢と情報セキュリティ対策の現状を学ぶとともに、将来に向けた課題について考察する。各回の講義では、内容に応じて演習を--含めて実施し、理解を深める。

授業の到達目標: 第4次産業革命で中心的な活躍が期待される人材がデータの利活用において、データをセキュアに扱うための考え方を身に付ける。

事前・事後学習の内容:
事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える
-事前学習の連絡があった場合は、連絡内容に従い予習する
事後学習:
-授業資料を見直して復習する
-第5回、第6回の授業の中で説明されるレポートの課題を行う

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1回 情報セキュリティの基礎1 （担当：小林）
セキュリティの必要性と、企業が取り組むセキュリティの実態を理解する。

第2回 情報セキュリティの基礎2 （担当：小林）
攻撃者の思考を理解し、ミニ演習を通してセキュリティを体験する。

第3回 世の中におけるサイバー攻撃の脅威情勢 （担当：扇、小林）
世の中のサイバー攻撃のトレンド、セキュリティ事故事例を通じて、
組織を取り巻くセキュリティ状況を俯瞰して理解する。

第4回 変化する世の中にあわせて進化するセキュリティ対策 （担当：扇、小林）
DXに対応するゼロトラストセキュリティや巧妙化するサイバー攻撃に対応する
サイバーレジリエンスなど世の中の変化に沿ったセキュリティの考え方を理解する。

第5回 敵を知る：攻撃者目線とは（担当：小林）
攻撃者の思考プロセスを考えながら、先端技術分野の攻撃事例をもとに、
未来の攻撃を予測する。

第6回 味方を知る：事業継続に重点を置いたセキュリティの取り組み （担当：扇、小林）
組織・プロセスおよびサプライチェーン全体のセキュリティ確保の在り方など、
防御側に必要な取り組みと、それらを促進するために強化されている規制について理解する。

第7回 未来社会セキュリティ （担当：扇、小林）
Society 5.0 を支えるセキュリティを考察する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
レポート:	30	指定したレポートを提出すること。 自分なりの気づきや学びについて触れていること。
平常点評価:	50	Waseda Moodleを通したレビューシートの提出 授業に積極的に取り組むこと。 積極的に質問すること。 学びについて共有すること。
その他:	20	周囲に対する協力を惜しまず行うこと。
備考・関連URL:	・3回以上欠席すると単位は取得できない（欠席は2回まで）。	

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020502|01|9S09020502[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ことばのリサーチ		
担 当 教 員	近藤　悠介		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　本科目では、受講者が自らがことばに関わる問題を発見し、自らデータを収集し、仮説を提出します。本科目は、「ことば」という現象の多面的な理解を目的としています。本科目は、教員によることばに関するリサーチの方法に関する講義、グループ・ワーク、受講者によるリサーチ、プレゼンテーションで構成されています。
受講者が学際的副専攻「ことばの科学」の科目の中から、言語学、自然言語処理、外国語教育に関する科目を受講し、ことばの分析方法、ことばについて学ぶことを推奨します。

授業の到達目標:　ことばに関する知識を応用し、ことばに関する問題を自ら発見し、その解決方法を提示できる。

事前・事後学習の内容:　受講者自らがことばに関する問題を発見し、解決方法を提案することが授業の目的です。リサーチを行うため授業外にある程度の時間が必要です。

授業計画フリー入力サイン:　0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回: 導入
授業の概要、導入
第2回: リサーチの方法1
ことばに関するリサーチの方法に関する講義
第3回: リサーチの方法2
ことばに関するリサーチの方法に関する講義
第4回: ことばに関するデータ1
ことばに関するデータの収集方法に関する講義
第5回:ことばに関するデータ2
ことばに関するデータの収集方法に関する講義
第6回: 受講者による発表1
リサーチに関する報告
第7回: 受講者による発表2
リサーチに関する報告

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　適宜指示します。

参考文献:　小林雄一郎. (2019).『ことばのデータサイエンス』. 朝倉書店.

成績評価フリー入力サイン:　0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価:　100　第6回、第7回の授業でリサーチの成果を発表します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020509|01|9S09020509[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	早稲田大学と近代中国		
担 当 教 員	江 正殷		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

日中関係はしばしば対立や戦争の歴史として語られてきた。しかし本講義は、その背後に存在するもう一つの軸——「中国はいかに共和国になろうとしたのか」という問い——に注目し、近代日中関係を新たな視点から捉え直す。

清末以降、中国は君主制から共和制への転換という巨大な歴史的変動を経験した。清朝末期の立憲改革、中華民国期の政治的動揺、そして中華人民共和国の成立に至るまで、憲政をめぐる理念と制度の試行錯誤が続いた。本講義では、この百年にわたる歴史過程を「憲政」を軸として再検討し、断絶ではなく連続の視点から近代中国の政治思想と制度形成を考察する。この過程において、日本、とりわけ早稲田大学は重要な役割を果たした。1905年の科挙廃止以降、中国の知識人層は新たな立身の道として海外留学を志向し、日本は近代思想と制度を学ぶ主要な拠点となった。日露戦争後には日本留学ブームが到来し、多くの中国人学生が東京、とりわけ神田・早稲田周辺に集住した。早稲田大学はその中心的舞台の一つであり、近代中国の思想形成と人的ネットワークに深く関与した。

本講義では、大隈重信や高田早苗、有賀長雄ら日本側知識人の思想的影響に加え、宋教仁、李大釗など早稲田で学んだ中国人留学生の思想形成にも注目する。日本は近代中国にとって「師」であると同時に「敵」でもあり、協働と緊張が交錯する複雑な相互作用が存在した。本講義は、こうした人的交流と思想伝播の過程を通じて、もう一つの日中関係史を描き出すことを目指す。また、外交史や戦争史に偏らない視点から、教育交流史・思想史・制度史を横断的に検討し、日中間の知的交流が近代東アジアに与えた影響を多角的に理解する。近代中国の国家形成と憲政運動を素材としながら、大学という場が国際関係に果たした役割を問い直す。

本講義は、早稲田大学の歴史と中国近代史を接続することで、大学史を起点とした新しい日中関係史の理解を提示することを目的とする。日中交流の歴史を単なる国家間関係としてではなく、人・思想・制度の往還として捉え、現代東アジアを考えるための歴史的視座を養う。

授業の到達目標:

1. 近代日中関係を理解するための基礎的な歴史概念や分析視点を身につけることができる。（学修成果：基礎的学問能力）
2. 清末から中華人民共和国成立に至る中国の政治的変動を概観し、憲政をめぐる歴史的展開の基本事項を説明することができる。（学修成果：専門基礎知識）
3. 君主制から共和制への転換という視点から近代中国史を捉え、その歴史的連続性と断絶を考察することができる。（学修成果：歴史理解力）
4. 早稲田大学をはじめとする日本の知識人・教育機関が中国の近代思想形成に与えた影響を理解し、人的交流の意義を説明することができる。（学修成果：専門的理解）
5.中国人留学生の思想形成や日中知的交流の相互作用を踏まえ、日中関係を多角的に捉える視点を身につけることができる。（学修成果：多角的歴史理解）
6.大学・教育・思想の往還という観点から日中関係を再考し、現代東アジアを歴史的文脈の中で主体的に考察することができる。（学修成果：歴史的思考力・応用力）

事前・事後学習の内容:

■事前学修
各回の授業前に、配布資料および指定文献の該当箇所を読了すること。必要に応じて、歴史地図や年表を参照し、扱う時代の基本的な流れを把握しておく。授業内容に関連する基礎用語や歴史的背景を整理したうえで授業に臨むことを求める。
各回の予習時間の目安：90～120分

■事後学修
授業内容を踏まえ、講義ノートの整理および配布資料の再読を行うこと。授業内で扱った史料や論点について、自身の理解をまとめる簡単な振り返り（コメント整理・小課題等）を求める場合がある。あわせて、関連する参考文献を読み進め、台湾史の通史的理解を深めること。
各回の復習時間の目安：90～120分

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回 イントロダクション：早稲田大学と近代中国
本講義の目的・方法・全体構成を説明する。近代中国における国家形成と憲政思想の展開を概観し、大学・教育機関が果たした役割という視点から日中交流史の新たな枠組みを提示する。基礎文献・研究動向を紹介し、本講

義の学問的意義を確認する。
第2回　君主立憲構想と日本の影響
清末における立憲改革の背景を検討し、日本から中国への制度・思想伝播の過程を考察する。大隈重信、有賀長雄、高田早苗、青柳篤恒らを取り上げ、日本側知識人による「憲政伝授」の構造と早稲田の関与を分析する。
第3回　清末立憲運動と早稲田留学生ネットワーク
清末の立憲運動と留学生の役割に注目する。憲政視察団、憲政編査館、諮議局の成立過程を整理し、早稲田大学清国留学生部を中心とした知的ネットワークとその歴史的意義を検討する。
第4回　民主か共和か：中華民国憲法構想
辛亥革命前後の憲政構想を取り上げる。中華民国憲法案の起草過程を検討し、有賀長雄、副島義一、宋教仁、梁啓超らの思想的役割を通じて、共和制国家建設と日中知的交流の相互作用を考察する。
第5回　民国初期の思想転換と知識人交流
対華二十一ヵ条要求以降の日中関係の変化と、中国思想界の転換を扱う。五四運動を軸に、北京大学を中心とした新文化運動の展開と、早稲田との知的連関を検討する。李大釗・陳独秀らの思想的展開にも注目する。
第6回　革命の分岐点：社会主義と民族革命
20世紀前半の革命思想の分岐を検討する。早稲田で学んだ留学生の思想形成を手がかりに、中国共産党の成立、国共合作、孫文の革命思想との関係を考察し、共和主義・民族主義・社会主義の交錯を分析する。
第7回　総括：憲政史からみる日中関係
講義全体を総括し、憲政史を軸としたもう一つの日中関係史の可能性を整理する。早稲田大学を媒介とした知的交流の歴史的意義を再検討し、現代東アジアを考えるための歴史的視座を提示するとともに教場試験（期末考査）を実施する

授業運営上の補足：
1.本講義はクォーター科目のため、各回は2コマ連続で実施する。
2.授業内容は受講者の理解度等に応じて調整する場合がある。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に指定なし。

参考文献：　授業時に指示する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	50	最終回の授業時間内に期末試験を実施する。講義内容全体に関する基礎的理解および論点把握の程度を評価する。
レポート：	20	授業時間内に小レポートを2回実施する（各300字程度）。授業に関する理解度および論点整理の的確さを評価する。
平常点評価：	30	以下の要素を総合的に評価する。 授業内で提示する問いに対する応答やコメントシート等の内容（理解度・思考の深さ） 授業への主体的な参加状況（発言、リアクション、課題提出状況等）

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020510|01|9S09020510[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	株式会社日建設計寄附講座 建築・都市をつくるパブリックスペース		
担 当 教 員	佐藤 洋一@後藤 春彦@清水 健太@稲垣 淳哉@林 廷ミン@田中 大介@佐々木 友		
開 講 学 期	集春	単 位 数	4
曜 日 時 限	01:土その他	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 映像制作を通してパブリックスペースについて考える

授業概要: 【この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です】

【概要】
国内3カ所でのフィールドワークを通じて、設計者・利用者・管理者など多様な視点からパブリックスペースの今日的意義を考えていきます。
フィールドワーク・グループワーク・映像制作を通じて、建築・都市空間に対するクリティカルな視点を養うことを目指します。
フィールドでの調査、調査を踏まえた最終成果物の制作は、映像メディアを主に用いて行います。

【特徴】
・日本を代表する設計事務所である日建設計がサポートする、新しいスタイルの授業です。第一線で活躍する実務者から直接話をうかがい、現地での見学を行います。
・建築はもちろん社会学、映像メディアの観点からもレクチュアを行い、パブリックスペースを多角的に捉える視座を涵養します。
・建築・土木系だけでなく、文系学生も対象とした学際的・文理融合型の実習です。都市・建築、映像等に関する事前の専門知識は不要です。パブリックスペースに関心があり、積極的に参加する意欲のある学生なら誰でも履修できます。
・グループワーク主体で、異なる専門分野の学生が協力して調査・制作を行います。知的生産を共同で創造的に行うための方法を実践的に学びます。
・教員とTA合わせて5-6名程度のコアスタッフで、グループワークの進行を手厚くサポートします。コメントや質問に対するリプライも積極的に行い、双方向的に授業を進めます。

【授業の進め方】
・まず、映像制作の基礎を学びます。カメラの創造的な使用方法と映像を「読む」リテラシーを、ワークショップ形式で身につけます。加えて、パブリックスペースに関する基本的な議論（建築・社会学）を学びます。
・巡検（フィールドワーク）を行い、実際のパブリックスペースを観察・撮影します。2026年度は次の3箇所を訪問予定です。
 -MIYASHITA PARK（東京・渋谷）
 -高輪ゲートウェイタウン（東京・港）
 -岡崎駅エリア（愛知・岡崎）
・巡検とのその振り返りを通じて、グループごとに取り組むテーマを明確化していきます。自分たちで設定したテーマ（問い）に基づき、調査、取材、撮影を計画し、実施します。インタビューや社会実験を行う場合もあるでしょう。
・最終成果物を映像で表現します。最終発表会は、竹橋パレスサイドビルにある日建設計の共創スペース「PYNT竹橋」で行う予定です。

【履修上の注意】
レクチュア、フィールドワークなどを積み重ねて内容を深めていく形式の授業です。欠席は自分のみならず他の学生の学びを妨げることにもつながります。毎回の授業に必ず出席できることが履修の絶対的な条件です。特に冒頭3回（4/11、4/18、4/25）の授業に一つでも出席できない場合、以降の授業（巡検含む）への参加は認めません。既に1回でも欠席することが確定している場合は履修登録を控えてください。ただし、履修意欲があるがどうしてもやむを得ない事情がある場合は、必ず事前に担当教員（佐藤・清水）まで相談してください。

授業の到達目標: パブリックスペースや都市空間に対するクリティカルな視座を身につけること。
クリティカルな視座に立った表現（映像および言語）を試みること。

事前・事後学習の内容: 授業の性格上、グループワークや最終成果物の制作を授業時間内で全て完了させることは難しいでしょう。教員・TAが随時バックアップしますが、授業の事前事後に以下のようなワークが出てくると想定されます。積極的な取り組みが必須の授業です。

・毎授業後のレビュー
・現地巡検の内容整理、写真・映像の整理
・最終発表に向けたグループ内でのディスカッション、映像編集の作業

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 授業日はすべて土曜です。

4月11日
3限　主旨説明、グループ分け、ガイダンス （後藤／佐藤／清水／リム）
4限　ワークショップ「『私のパブリックスペース』から探る『パブリック』の条件」（佐藤／清水／リム）
4月18日
3限　映像ワークショップ （佐々木／佐藤／リム）
4限　映像ワークショップ （佐々木／佐藤／リム）
5限　映像ワークショップ （佐々木／佐藤／リム）
4月25日
3限　オンデマンド・レクチュアへのフィードバック （稲垣／佐藤／清水／田中）
4限　オンデマンド・レクチュアへのフィードバック （稲垣／佐藤／清水／田中）
5限　オンデマンド・レクチュアへのフィードバック （稲垣／佐藤／清水／田中）

5月9日
3限　巡検① MIYASHITA PARK（佐藤／田中）
4限　巡検① MIYASHITA PARK（佐藤／田中）
5限　巡検の振り返り（佐藤／田中）

5月16日
　巡検② 岡崎市市街地＋巡検の振り返り（佐藤／稲垣／清水／リム）
10:30現地集合・夕方17:00ごろ解散（日帰り）で実施予定です。往復交通費は講座が負担します。

5月23日
3限ここまでの振り返りと今後の方針の検討（視点、キーワード、映像的統合）（佐藤／リム）
4限各班中間発表（佐藤／リム）
＊映像制作に関するオンデマンド動画の提供①（佐々木）

5月30日
3限　巡検③ 高輪ゲートウェイシティ（佐藤／稲垣）
4限　巡検③ 高輪ゲートウェイシティ（佐藤／稲垣）
5限　巡検の振り返り（佐藤／稲垣）
＊映像制作に関するオンデマンド動画の提供②（佐々木）

6月13日
3限　各班制作打ち合わせ＋作業（佐藤／リム）
4限　最終計画の発表・最終発表に向けての実施計画・分担など（佐藤／リム）

6月27日
3限　各班打ち合わせ＋作業（佐藤／リム）
4限　各班打ち合わせ＋作業（佐藤／リム）

7月4日
3限　発表会＋振り返り（稲垣／後藤／佐々木／佐藤／清水／田中／リム）
4限　発表会＋振り返り（稲垣／後藤／佐々木／佐藤／清水／田中／リム）
5限　発表会＋振り返り（稲垣／後藤／佐々木／佐藤／清水／田中／リム）

オンデマンドレクチュア（4月）
レクチュア（都市社会学）田中　大介
レクチュア（建築史・都市史）稲垣　淳哉

言語区分:　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン:　0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:　50　巡検の中間レポート（個人評価・グループ評価）
最終課題（グループ評価）

平常点評価:　50　出席（個人）
授業へのコミットメント（個人）

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020516|01|9S09020516[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	テクスト分析入門　1		
担 当 教 員	追田　好章		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　本授業は、中学校・高等学校の国語科教科書に掲載されたテクストを分析することで、大学における学習・研究で必要となる分析技術を身につけることを目標とする。
今回分析の対象とするのは、小説・古文・評論である。授業で取り上げるテクストについて、これまでどのような研究が蓄積されてきたのかを調査する。そのうえで、あるテクストが教科書に掲載された意義や歴史的背景を考えたり、研究対象を興味深く読むための方法論を学んで分析に活かすことで、斬新かつ興味深い解釈を共同で作りあげていく。解釈を練り上げる際には、発表・質疑応答・ディスカッションを取り入れる。従来の自身の見解や一般に付与された作品にたいする印象とは異なる解釈をどれだけ作り出せるか、大学において研究対象を分析するという営みは高等学校までの読解とはどのように異なるのかを考えながら、授業に参加してほしい。
なお、テクスト分析入門1と2は両方を受講することが望ましい。

授業の到達目標：（1）研究において必要となる先行研究の検討方法を知り、実践できるようになる。
（2）先行研究との対話をとおして、自らの解釈を練り上げ、表現できるようになる。
（3）テクストそれ自体だけでなく、指導書・脚注・問い等にあらわれる教科書にテクストを掲載した他者の狙いや、テクストを取り巻く同時代状況といった情報をもとに考察できるようになる。
（4）発表・ディスカッションの方法を身につける。

事前・事後学習の内容：　授業で取りあげる作品は、必ず授業前に読んだうえで、自分なりの意見や問いを提示できるように準備すること。
発表担当者は資料を作成する。
発表を担当しない回であっても、当該作品について問いを一つ考え、議論のなかで共有すること。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

第1回：イントロダクション
　授業の進め方についての説明・参加者の研究関心の共有

第2回：国語科教科書の論じ方／発表作品の決定
　国語科教科書がいかにして研究されてきたのかを整理する。発表する作品を決める。

第3回：発表・ディスカッションの方法を学ぶ
　発表資料の作成・発表の構成・ディスカッションの方法を学ぶ。

第4回：ヘルマン・ヘッセ「少年の日の思い出」
　本作品が教科書に掲載された意図・先行研究・解釈を練り上げたうえで、発表・ディスカッションを行う。

第5回：「児のそら寝」（『宇治拾遺物語』）
　本作品が教科書に掲載された意図・先行研究・解釈を練り上げたうえで、発表・ディスカッションを行う。

第6回：山崎正和「水の東西」
　本作品が教科書に掲載された意図・先行研究・解釈を練り上げたうえで、発表・ディスカッションを行う。

第7回：まとめ
　発表・議論を総括する。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　各作品・先行研究・関連資料等のPDFファイルをWaseda Moodleに掲載する。

参考文献：　適宜指示する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	試験は行わない。
レポート:	0	レポートは課さない。
平常点評価:	60	毎回の課題およびディスカッションへの参加度をもとに評価する。
その他:	40	発表内容とそれに対する質問等を評価する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020517|01|9S09020517[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	テクスト分析入門 2		
担 当 教 員	追田 好章		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

本授業は、中学校・高等学校の国語科教科書に掲載されたテクストを分析することで、大学における学習・研究で必要となる分析技術を身につけることを目標とする。
「テクスト分析入門1」に引き続き、本授業で分析の対象とするのは、小説と詩である。授業で取り上げるテクストについて、これまでどのような研究が蓄積されてきたのかを調査する。そのうえで、あるテクストが教科書に掲載された意義や歴史的背景を考えたり、研究対象を興味深く読むための方法論を学んで分析に活かすことで、斬新かつ興味深い解釈を共同で作りあげていく。解釈を練り上げる際には、発表・質疑応答・ディスカッションを取り入れる。従来の自身の見解や一般に付与された作品にたいする印象とは異なる解釈をどれだけ作り出せるか、大学において研究対象を分析するという営みは高等学校までの読解とはどのように異なるのかを考えながら、授業に参加してほしい。なお、本授業の後半では、各自が教科書掲載作品を自ら選び出し、「テクスト分析入門1」で学んだ分析技術を活かしてレポートを執筆する。
なお、テクスト分析入門1と2は両方を受講することが望ましい。

授業の到達目標：

（1）研究において必要となる先行研究の検討方法を知り、実践できるようになる。
（2）先行研究との対話をとおして、自らの解釈を練り上げ、表現できるようになる。
（3）テクストそれ自体だけでなく、指導書・脚注・問い等にあらわれる教科書にテクストを掲載した他者の狙いや、テクストを取り巻く同時代状況といった情報をもとに考察できるようになる。
（4）発表・ディスカッションの方法を身につける。

事前・事後学習の内容：

授業で取りあげる作品は、必ず授業前に読んだうえで、自分なりの意見や問いを提示できるように準備すること。
発表担当者は資料を作成する。
発表を担当しない回であっても、当該作品について問いを一つ考え、議論のなかで共有すること。
授業内容を復習し、学期末レポートの執筆に活かしてほしい。

授業計画フリー入力サイン：

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

第1回：「テクスト分析入門1」の学期末レポートを振り返る
各自のレポートについてディスカッションを行い、よりよい分析方法や記述方法を見つけ出す。

第2回：米倉斉加年「おとなになれなかった弟たちに・・・」
本作品が教科書に掲載された意図・先行研究・解釈を練り上げたうえで、発表・ディスカッションを行う。

第3回：永瀬清子「流れる髪」
本作品が教科書に掲載された意図・先行研究・解釈を練り上げたうえで、発表・ディスカッションを行う。

第4回：レベッカ・ブラウン「涙の贈り物」
本作品が教科書に掲載された意図・先行研究・解釈を練り上げたうえで、発表・ディスカッションを行う。

第5回：学期末レポートにかんするディスカッション
取り上げる作品や分析の切り口を考え、グループでディスカッションを行う。

第6回：学期末レポートにかんする個別相談会
担当教員と個別にレポート執筆について話し合う。

第7回：まとめ
発表・議論を総括する。

言語区分：

0 日本語 Japanese

教科書：

各作品・先行研究・関連資料等のPDFファイルをWaseda Moodleに掲載する。

参考文献：

適宜指示する。

成績評価フリー入力サイン：

0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	試験は行わない。
レポート:	50	レポートの内容および評価基準は初回の授業で提示する。
平常点評価:	30	毎回の課題およびディスカッションへの参加度をもとに評価する。
その他:	20	発表内容を評価する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020518|01|9S09020518[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	言語文化横断論 1		
担 当 教 員	追田 好章		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本授業では、日本文学をグローバルな視点から再考するべく、かつて「南洋」「南方」と称された地域のうち、東南アジアを描いた日本文学を読む。授業で取りあげる各作品において東南アジア各地の人々や社会がいかに描かれているのかを分析することをとおして、東南アジアという空間が日本文学の形成にいかなる意味を持つのか、そして東南アジアと日本とがいかなる歴史的関係を作りあげてきたのかについて考える。本授業ではとくに植民地主義と戦争という観点から作品分析を試みる。また、文学作品だけでなく、映画版を鑑賞・分析することもある。
「東南アジアと日本文学」というテーマは、高等学校までの国語教育をはじめとして、文学に触れる場面の多くであまり前景化されてこなかったと思われる。そこで履修者には、各回の講義・議論を経て、東南アジアと日本文学の関係性について知識を得て、認識を深めていくことを期待する。また、作品分析の基本となる方法論を学び、先行研究との対話をとおして自分自身の解釈を構築する練習を重ねることも目標とする。なお、先行研究は日本語・英語で書かれた文献を参照する。なお、言語文化横断論1と2は両方を受講すること。

授業の到達目標:

（1）日本と他地域・文化との関係を批判的に考察することができる。
（2）作品をとりまく歴史的文脈の復元をはじめとする基本的な分析手法や、先行研究の検討方法を身につける。
（3）日本語以外の言語で書かれた研究を参照できるようになることで、研究の幅を広げることができる。

事前・事後学習の内容:

授業で取りあげる作品は、必ず授業前に読んでくること。漫然と読むのではなく、自分なりの問いや解釈を他者に提示するという目的をもって読むこと。（約1時間）
授業で提示した解釈や分析方法を復習し、自身の短評の執筆に活かす。（約1時間）
なお、授業で取りあげた作品の他にも東南アジアを描いた作品は多くある。授業で紹介する参考文献等を参照して、自身にとって興味深い作品を探しだしてほしい。

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回：イントロダクション：東南アジアと日本文学1
授業の進め方、履修者の研究関心の共有、明治中期から戦間期にいたるまでの日本文学と東南アジアとの関係を概観する。

第2回：東南アジアと日本文学2、短評の書き方
戦間期から現代にいたるまでの日本文学と東南アジアとの関係を概観する。短評の書き方を学ぶ。

第3回：芥川龍之介「桃太郎」1
芥川龍之介「桃太郎」を解釈するための基礎知識を身につける。

第4回：芥川龍之介「桃太郎」2
芥川龍之介「桃太郎」を解釈する。

第5回：大岡昇平「野火」1
大岡昇平「野火」を解釈するための基礎知識を身につける。

第6回：大岡昇平「野火」2
大岡昇平「野火」を解釈する。

第7回：短評を練り上げる
授業で取り上げた作品についての短評を持ち寄り、ペア・グループワークをとおして練り上げる。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 各作品・先行研究・関連資料等のPDFファイルを配布する。

参考文献: 適宜指示する。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 試験は行わない。

レポート:	60	短評を評価する。短評の書き方と評価基準については第2回の授業で説明する。
平常点評価:	40	出席率とリアクションペーパーの質で評価する。リアクションペーパーでは、授業内容に基づいた質問に答えるだけでなく、作品についての自分なりの意見や問い、授業を経て変化した解釈を記述する。
その他:	0	特になし。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020519|01|9S09020519[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	言語文化横断論 ２		
担 当 教 員	追田 好章		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本授業では、日本文学をグローバルな視点から再考するべく、かつて「南洋」「南方」と称された地域のうち、東南アジアを描いた日本文学を読む。授業で取りあげる各作品において東南アジア各地の人々や社会がいかに描かれているのかを分析することをとおして、東南アジアという空間が日本文学の形成にいかなる意味を持つのか、そして東南アジアと日本とがいかなる歴史的関係を作りあげてきたのかについて考える。本授業ではとくに植民地主義と戦争という観点から作品分析を試みる。
「東南アジアと日本文学」というテーマは、高等学校までの国語教育をはじめとして、文学に触れる場面の多くであまり前景化されてこなかったと思われる。そこで履修者には、各回の講義・議論を経て、東南アジアと日本文学の関係性について知識を得て、認識を深めていくことを期待する。また、作品分析の基本となる方法論を学び、先行研究との対話をとおして自分自身の解釈を構築する練習を重ねることも目標とする。なお、先行研究は日本語・英語で書かれた文献を参照する。なお、言語文化論1と2は両方受講すること。

授業の到達目標: （1）日本と他地域・文化との関係を批判的に考察することができる。
（2）テクストをとりまく歴史的文脈の復元をはじめとする基本的な分析手法や、先行研究の検討方法を身につける。
（3）日本語以外の言語で書かれた研究を参照できるようになることで、研究の幅を広げることができる。

事前・事後学習の内容: 授業で取りあげる作品は、必ず授業前に読んでくること。漫然と読むのではなく、自分なりの問いや解釈を他者に提示するという目的をもって読むこと。（約1時間）
授業で提示した解釈や分析方法を復習し、自身のレポートの執筆に活かす。（約1時間）
なお、授業で取りあげた作品の他にも東南アジアを描いた作品は多くある。授業で紹介する参考文献等を参照して、自身にとって興味深い作品を探しだしてほしい。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1回：太田良博「黒ダイヤ」1
太田良博「黒ダイヤ」を解釈するための基礎知識を身につける。

第2回：太田良博「黒ダイヤ」2
太田良博「黒ダイヤ」を解釈する。

第3回：林芙美子『浮雲』1
林芙美子『浮雲』を解釈するための基礎知識を身につける。

第4回：林芙美子『浮雲』2
林芙美子『浮雲』を解釈する。

第5回：学期末レポートを練り上げる
学期末レポートをグループワークをとおして練り上げる。

第6回：学期末レポートにかんする個別相談会
学期末レポートについて、教員と個別に話し合う。

第7回：まとめ
授業内容を総括する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 各作品・先行研究・関連資料等のPDFファイルを配布する。

参考文献: 適宜指示する。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 試験は行わない。

レポート: 60 レポートの内容と評価基準については初回の授業で説明する。

平常点評価:	40	出席率とリアクションペーパーの質で評価する。リアクションペーパーでは、授業内容に基づいた質問に答えるだけでなく、作品についての自分なりの意見や問い、授業を経て変化した解釈を記述する。
その他:	0	特になし。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020520|01|9S09020520[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ことばを科学する 1		
担 当 教 員	近藤 悠介		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本科目は「ことば」に興味がある人のための科目です。この科目を通して「ことば」を理解しようとするこれまでの研究成果の一端を理解します。現在のことばに関する研究はどのように始まったのか。歴史的経緯をも理解し、言語学の基礎である音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論の概略を理解します。本科目では、教員による講義のあとに学生同士が議論をし、講義への理解を深めます。身近な言語である日本語、英語の現象に加えて日常的に触れることがあまりない言語の例などから多くの言語で見られる現象を理解します。

本科目は学際的副専攻「ことばの科学」の科目です。

授業の到達目標: 本科目で概略を知る音韻論、形態論、統語論などについてそれぞれがどのような事象を説明しようとする分野なのか、さらに、それぞれの分野がどのように関わるかを理解する。

事前・事後学習の内容: 事前の学習は要求しません。講義内容が積み重なっていくので、講義で扱った内容への理解を深めるために自身で参考になる書籍などを読むようにしてください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:「言語学」を理解する
言語学とはどのような学問であり、どのように始まったかを理解し、言語学がこれまで扱ってきた議論の妥当性を検討する。

第2回: 日本の読み方は「にほん」？「にっぽん」？: 音の謎に迫る1
日本語を例として音声の記述方法、音声と音韻の違いを理解し、受講者が言語音において不思議だと思う現象を共有し、音声と音韻に対する理解を深める。

第3回:「さらさら」と「ざらざら」、何が違う？: 音の謎に迫る2
言語の恣意性の反例とも言える音象徴について学び、受講者が日本語、英語のオノマトペを持ち寄り、議論し、言語音に対する理解を深める。

第4回:「ねっける」の過去形は？: 単語とは何か
複数の言語を比較して、「単語とは何か」という問いについて考える。日本語や英語など親しみのある言語において単語の定義について受講者同士で議論し、理解を深める。

第5回:「にのスペイン夏はました今年行き」: 文法はすごい
書き手、話し手の意図を伝える上での文法という観点から文法の役割を理解する。

第6回:「前日」は過去のこと？私たちの「前」にあるのは未来では？:言語で世界をどう捉えるか
メタファーを通して言語の「意味」を理解する。受講者は日常で使われるメタファーを持ち寄り、議論することで「意味」が示すものに対する理解を深める。

第7回:「行けたら行く」は来るの？来ないの？: 発した言葉はどのような受け取られるか
言語を用いて書き手、話し手が意図を伝えるとはどういうことなのか。話された/書かれた言葉にはどのような効力があるのか、受講者が持ち寄った日常の言語使用例を用いて「意図」を理解する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 使用しません。

参考文献: 授業内で指示します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 授業参加の積極性
授業各回で書くコメントシートの内容
毎回の授業で提示される「問い」への答えとその妥当性

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09020521|01|9S09020521[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ことばを科学する 2		
担 当 教 員	近藤 悠介		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「ことばを科学する1」で得た言語学に関する基礎的な知識に基づいて、言語学の知見を応用した分野の概略を理解します。社会言語学、コーパス言語学に加え、外国語教育研究や言語政策などを含む応用言語学、また、工学分野である自然言語処理についてもその概略を理解します。本科目は、教員による講義の後に学生同士が議論をし、講義の理解を深めます。それぞれの分野で言語学はどのように応用されているか、また、これら応用分野の中で解決すべき問題は何かなど、実社会と学問の結びつきに関して理解します。本科目は学際的副専攻「ことばの科学」の科目です。

授業の到達目標: 本科目で概略を知る言語学の応用分野において、言語学の各論の利用、また、それぞれの応用分野において解決すべき中心的な問題を理解する。

事前・事後学習の内容: 事前学習は要求しません。講義内容が積み重なって行くので各回の復習を必ずしてください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：言語はどのように変化するのか（歴史言語学）

日本語、英語を例として、それぞれの言語がどのように変化したか、また、どのような資料に基づいてその変化をたどるのか、これらを学び、言語の変化について考える。

第2回：文化、社会と言語はどう関わっているか（社会言語学）

敬語、方言、ポライトネスといった社会的関係が言語に与える影響を取り扱い、文化、社会が言語に与える影響について学び、受講者自らがその一例となるような言語の現象を持ち寄り、議論をする。

第3回：私たちはどうやって言語を理解しているのか（心理言語学）

心理学的な実験を行い、言語の理解、産出、獲得を解明しようとする心理言語学の研究を理解し、受講者自身で実験計画を考え、理解を深める。

第4回：私たちは言語をどのように使用しているか（コーパス言語学）

言語の集積であるコーパスについて学び、単語、表現がどのように使用されているかを確認する方法を身につける。日常的に使われる表現をコーパスで検索し、実際の言語使用に対する理解を深める。

第5回：コンピュータは言語を理解しているのか（自然言語処理）

コンピュータが「ことば」を理解するということはどういうことなのか。このための技術はどのように発展してきたかを外観し、今後の技術発展は社会に対してどのような影響を与えるか、受講者同士で議論し、理解を深める。

第6回：外国語はどのように学習されるか（言語教育）

これまでの言語教育に関する研究、言語政策について学び、受講者の言語教育に関する経験を共有し、これからの言語教育、言語政策について考える。

第7回：言語学は何をしてきたか（まとめと議論）

これまで授業で扱ってきた話題の中から受講者それぞれが問題を見つけ、解決する方法を提案する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 使用しません。

参考文献: 授業内で指示します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 授業参加の積極性、毎回の授業後に書くコメント、質問の質で評価する

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09030004|01|9S09030004[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	映像・芸術表現		
担 当 教 員	澤 康臣@構 二葵@樋口 喜昭		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（映像・表象・芸術）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 動画の企画から撮影、配信までの基礎を学ぶ

授業概要: 初めてカメラで撮影するに あたり、ショットの構成、構図、カメラポジション、アングル、カメラの動きなどドキュメンタリー撮影に必要な基礎を学ぶことを目的とします。歩く→見る→感じる→考える→伝えるという一連の流れを通し、現場で観察したものをどのように撮影するか、そのことによって、何を伝えるのかを学んでいきます。授業は映像文法講座、技術講座、実践ワークショップ、課題撮影、課題発表といった活動を中心に組み立てます。撮影実習では、「動きのある人物」（約5分）を取り上げ、街へ出て、生活する人の「動き」を切り取ります。ペンとノートによる取材からビデオカメラで「考える」、“Think in Video”の練習です。撮影に欠かせないチームワークの大切さについて、撮影を通じて実感してもらうことも実習の目的です。企画から撮影、編集、インターネットの動画サイトに配信する一連の制作過程を体験します。
本年度は対面で実施する。新型コロナウィルスの感染状況によっては、オンラインに切り替えることがある。

授業の到達目標: 1 企画から撮影、編集、発信、プレゼンテーション、講評までの一連の映像制作を体験することで、メディアをクリティカルに見るだけでなく、メディアを主体的に活用する力を獲得する。
2 グループで共通の目標を設定し、作品を完成することで、コミュニケーション力と協調性を養う。

事前・事後学習の内容: 事前に企画を考えておいてください。撮影する人物に事前に許可を取っておいてください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション
取材について、撮影機材の扱い方、課題について
第2回 撮影講座
カメラのサイズ、アングル、動きについて
第3回 撮影実習①
10カットで表現する撮影実習/講評
第4回 撮影実習 ②
「動きのある人物」撮影実習
第5回 撮影実習 ③
「動きのある人物」撮影実習
第6回 撮影実習 ④
「動きのある人物」撮影実習
第7回 撮影講評 ①
「動きのある人物」撮影ラッシュ発表
第8回 撮影講評 ②
「動きのある人物」撮影ラッシュ発表
第9回 編集ワークショップ ①
編集基礎講座 編集ソフトの使い方
第10回 編集ワークショップ ②
「動きのある人物」のカット編集
第11回 編集ワークショップ ③
「動きのある人物」のカット編集
第12回 編集クリニック ①
あら編発表と再編集

第１３回　編集クリニック②
動画データのアップロード
第１４回　作品講評
「動きのある人物」の作品講評

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　プリントを配布する

成績評価フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:　50% 出席と授業参加度、 50%　個人またはグループ作品

備考・関連URL:　使用する教室が確定しました。
7号館306教室（全日使用）

7月に説明会を開催しますので、その際に、撮影課題についてお知らせします。
一日3コマの授業(最終日以外)ですが、撮影や編集はそれ以上の時間がかかることが予想されますので、時間外も積極的に取り組めるように時間を確保してください。

【費用】
・履修には、実験実習料として10,000円（税込）が必要になります。
授業は8/24-8/27は３－５時限になります。08/28は ４－５時限になります。

澤康臣、樋口喜昭、構二葵が担当します。

澤　康臣（さわ・やすおみ）8/24 3限樋口　喜昭（ひぐち・よしあき）8/24　4-5限, 8/26 5限, 8/27 3-4限, 8/28 4限
構　二葵（かまい・ふき）8/25　3-5限, 8/26 3-4限, 8/27 5限, 8/28 5限

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09030005|01|9S09030005[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	音楽をもっと知ろう（理論入門）		
担 当 教 員	濱崎　友絵		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（映像・表象・芸術）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　本講義は、音楽は好きだけれど音楽理論には馴染みがない学生を対象に開講されます。講義においては、五線譜上の音符の読み方からスタートし、音価、拍子、音程、音階と調、リズム、和音、楽式と順に進め、全14回で音楽理論の基礎を身につけていきます。学んだ理論を用いて簡単な楽曲分析ができるようになることを目標にしつつ、理論が実際の演奏表現とどのように結びついているのかを実践的に考察していきます。
授業は対面を基本として実施します。ただし状況によってはオンデマンドも併用します。その場合は都度、受講生のみなさんにお伝えします。

授業の到達目標：　（1）基本的な楽譜の読み書きができるようになる。
（2）音程概念から調性理論まで一通りの音楽理論を理解し、簡単な楽曲分析ができる基礎知識を身につける。

事前・事後学習の内容：　極めて短時間での理論習得となるため、とくに復習が重要となります。授業では指定する箇所の予習を求めるとともに、復習として問題演習を課します。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
[第 1回] 導入：「音」の世界をめぐって／記譜法
[第 2回] 西洋音楽史概説、世界の音楽と「西洋音楽」、音名
[第 3回] 拍子・リズム
[第 4回] 音程（1）
[第 5回] 音程（2）
[第 6回] 音階（1）
[第 7回] 中間テスト（範囲1-7）、音階（2）
[第 8回] 調性（1）
[第 9回] 調性（2）
[第10回] 和声（1）
[第11回] 和声（2）
[第12回] 演奏表現を学ぶ
[第13回] 楽曲分析：楽式、曲想・表情
[第14回] 総括、試験（範囲1-14）と解説 ※授業の進行状況により講義内容、順番は多少変更することもあります。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特になし。毎回、プリントを配ります。

参考文献：　石桁 真礼生 他著 『楽典―理論と実習 』 音楽之友社、1963年。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　80　中間テスト：20%　期末試験：60%

平常点評価：　20　課題提出状況、単位取得には2／3以上の出席が必要。

備考・関連URL：　授業の進行状況により講義内容、順番は多少変更することもあります。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　1　主管科目　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09030038|01|9S09030038[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	映画監督と学ぶ映像表現		
担 当 教 員	諏訪　敦彦		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（映像・表象・芸術）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:　映画を作る（表現）という視点から映画作品を鑑賞、解析し、映画演出における思考・発想および技術をワークショップ形式で学ぶ。

授業の日程は、以下の通り。
2026/8/20（木）　3-4時限
2026/8/21（金）　2-4時限
2026/8/24（月）　2-4時限
2026/8/25（火）　2-4時限
2026/8/26（水）　2-4時限

※この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。

授業の到達目標:　映画の演出に必要な知識、考え方を習得する。
そのことによって、人間・社会・文化に関する様々な学問分野の専門的知識を体系的に理解し、文理横断的な観点から現代社会における重要な課題を綜合的に把握、究明する。

事前・事後学習の内容:　授業で見せることのできなかった作品については、各自DVDや配信等で観てほしい。
関連する文献等を読み、自身の思考を拡げていってほしい。

授業計画フリー入力サイン:　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回（1日目）
オリエンテーション
第2回（1日目）
映画の演出とは何か？① 作品鑑賞
第3回（1日目）
映画の演出とは何か？②フランスの子供たちはどんなふうに映画を学んでいるか？（映画教育事例紹介）
第4回（2日目）
カットを割る？割らない？①作品鑑賞
第5回（2日目）
カットを割る？割らない？②「禁じられたモンタージュ」
第6回（2日目）
カットを割る？割らない？③ワーク：脚本から撮影計画を立てる（カット割りをしてみる）
第7回（3日目）
ドキュメンタリー？フィクション？①作品鑑賞
第8回（3日目）
ドキュメンタリー？フィクション？②討議
第9回（3日目）
ドキュメンタリー？フィクション？③映画作品と観客／世界への「開かれ」について
第10回（4日目）
映画と子ども①作品鑑賞
第11回（4日目）
映画と子ども②映画における「他者」

第12回（4日目）
映画と子ども③教育と映画：デモクラティック・アートとしての映画表現の可能性
第13回（5日目）
映画の自生性について①作品鑑賞
第14回（5日目）
映画の自生性について②討議：作為と偶然

言語区分：　0　日本語　Japanese

参考文献：　諏訪敦彦『誰も必要としていないかもしれない、映画の可能性のために ――制作・教育・批評』（フィルムアート社、2020）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　30　最後に課すレポート

平常点評価：　70　提出物と出席および授業への積極性

備考・関連URL：

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09030053|01|9S09030053[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ジャーナリズム演習　ベーシック　1		
担 当 教 員	澤　康臣		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	、文・社会科学科目（メディア・ジャーナリズム	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　ジャーナリストの仕事とは何か～社会･地域の問題とどう向き合うか

授業概要：　ジャーナリスト（記者、ディレクター、フォトグラファーなど報道の仕事）を希望したり、それらが希望の中に入っていたりする人のための演習です。「ジャーナリズム演習ベーシック2」（2月に春期集中講義として沖縄において現地視察と演習を行う）と接続する科目であるため、沖縄視察･演習をも念頭に置きつつ、ジャーナリストとしての基礎知識を掘り下げていきます。 ジャーナリズムや社会問題の現場に関する議論を行い（ゲストを交えた討論を多く含む予定です）、それを直ちに記事スタイルで執筆するレポート提出を組み合わせ、ジャーナリズムに欠かせない「問題のポイントをつかむ力」「それをわかりやすく表現する力」の基礎力を付けます。
　下記「授業計画」に挙げたテーマは昨年度の実績に基づく参考例です。今年度、どのようなテーマを取り上げるか、どのようなゲストを呼ぶかは社会情勢、ジャーナリズムをめぐる最新の議論などを踏まえた最良の形を目指し、臨機応変に交渉・決定していきます。
　ディスカッションのための班別プレゼンテーションも行います。

授業の到達目標：　ジャーナリストとして行動する前提知識となる社会問題、社会の矛盾について理解し、自分なりの視点に基づきそれらを列挙、討議することができる。社会や地域の問題を報じることの価値を自ら述べ、説明することができる。それらの問題につき、教員やゲストの話を正確につかみ、かつ、自分の問題意識をあわせて捉え、さらに、「報道する者としてどうあるべきか」の像を自ら創造し、それを踏まえて質問やコメントを表現することができる。

事前・事後学習の内容：　課題として指示する文献を精読して自分なりの理解と意見を用意する。
　班別プレゼンテーションに向け、基礎的な文献を探してよく読むことをはじめ、情報を収集して理解する。プレゼンテーション後の討議で出た論点を改めて整理・記述し、理解を深める。
　ジャーナリズムを学ぶ前提として、最も手軽かつ本格的な報道専業メディアである新聞（紙の新聞を強く推奨する）を購読し、毎日数分のパラ見（見出しパトロール）だけでも良いから、習慣的に一面から最終面までチェックすること。肩肘を張って取り組む必要は無いが、それにより「今何が問題になっているのか」の全体図掌握（これは現状、デジタルメディアの機能では十分と言いがたい）を行う。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
イントロダクション　ジャーナリストとは何か～この授業では受講者がジャーナリストとなる（前編）
全体説明、プレゼン班分け

第2回
イントロダクション　ジャーナリストとは何か～この授業では受講者がジャーナリストとなる（後編）
前半を踏まえ、討論をするとともにレポート（記事）執筆演習を行う

第3回
テーマ討論と執筆（1）沖縄の女性記者とは　何を探し、どう働いてきたか（前編）
※ゲストスピーカーの話を踏まえての討論となる可能性がある。

第4回
テーマ討論と執筆（1）沖縄の女性記者とは　何を探し、どう働いてきたか（後編）
前半を踏まえ、討論をするとともにレポート（記事）執筆演習を行う

第5回
テーマ討論と執筆（2）テレビ報道番組がインフルエンサーのデマ拡散と闘うとき何が起きたか（前編）
※ゲストスピーカーの話を踏まえての討論となる可能性がある。

第6回
テーマ討論と執筆（2）テレビ報道番組がインフルエンサーのデマ拡散と闘うとき何が起きたか後編）
前半を踏まえ、討論をするとともにレポート（記事）執筆演習を行う

第7回
テーマ討論と執筆（3）大手メディアが沈黙する中で報じ続けた　スクープジャーナリズムの戦い方（前編）
※ゲストスピーカーの話を踏まえての討論となる可能性がある。

第8回
テーマ討論と執筆（3）大手メディアが沈黙する中で報じ続けた　スクープジャーナリズムの戦い方（後編）
前半を踏まえ、討論をするとともにレポート（記事）執筆演習を行う
第9回
テーマ討論と執筆（4）横浜・教員性犯罪裁判の傍聴を教委が妨害 若手記者たちの報道のきっかけは（前編）
※ゲストスピーカーの話を踏まえての討論となる可能性がある。
第10回
テーマ討論と執筆（4）横浜・教員性犯罪裁判の傍聴を教委が妨害 若手記者たちの報道のきっかけは（後編）
前半を踏まえ、討論をするとともにレポート（記事）執筆演習を行う
第11回
テーマ討論と執筆（5）被災地で、性被害取材で――取材相手と記者 真実の関係　そして越えられない一線とは（前編）
※ゲストスピーカーの講義および質疑となる可能性がある。
第12回
テーマ討論と執筆（5）被災地で、性被害取材で――取材相手と記者 真実の関係　そして越えられない一線とは（後編）
前半を踏まえ、討論をするとともにレポート（記事）執筆演習を行う。
第13回
テーマ討論と執筆（6）米軍の環境汚染こう暴いた 米情報公開制度を駆使した取材手法、そしてジャーナリストとしての姿勢（前編）
※ゲストスピーカーの講義・質疑となる可能性がある。
第14回
テーマ討論と執筆（6）米軍の環境汚染こう暴いた 米情報公開制度を駆使した取材手法、そしてジャーナリストとしての姿勢（後編）
前半を踏まえ、討論をするとともにレポート（記事）執筆演習を行う

言語区分:	0	日本語　Japanese
教科書:	適宜資料を配布するほか、必要に応じ指示する。	
参考文献:	教員のほか、ゲストスピーカーが指定することがあり、随時授業内、Moodle内で指示するので連絡に注意されたい。	
成績評価フリー入力サイン:	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	

試験:	0	行いません
レポート:	50	プレゼンテーションと小レポート
平常点評価:	50	ディスカッションへの貢献度
その他:	0	なし

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09030054|01|9S09030054[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ジャーナリズム演習 ベーシック ２		
担 当 教 員	澤 康臣		
開 講 学 期	春季	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	、文・社会科学科目（メディア・ジャーナリズム	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 現場を知り、ジャーナリストとしての倫理、心構えを学ぶ

授業概要: 「ジャーナリズム演習ベーシック１」の内容を踏まえて、現場実習を柱として社会・地域の問題とジャーナリズムの役割を学ぶ。 2026年度は沖縄またはその他の国内地域での実地調査・演習を行うことを計画しており、そこでは、▽現地ジャーナリストとの討論▽平和と基地、差別と人権を巡る問題など社会問題の当事者との討論▽現場を訪れての視察――に取り組む（受け入れ先の都合などにより、変更もあり得ることを了解されたい）。
本科目は上記の通り学外実習が柱となるが、その前提であり事前学習の機会となるのが「ジャーナリズム演習ベーシック１」の履修である。本科目は「ジャーナリズム演習ベーシック１」を履修した者を対象とする（過年度も可）。
現地実習は春季集中講義期間である2月3～6日に沖縄県内において行うことを計画している。これに参加することが履修の前提となるので日程を確保しておくよう準備されたい。また、交通費・宿泊費を含む参加費用は学生の負担となる。負担見込額は下記「備考・関連URL」の項目に記載している。なお、悪天候による渡航困難、感染症の流行などにより、安全のためやむを得ず東京での学修に切り替える可能性がある。その際には、利用する航空会社・旅行会社・宿泊施設などの約款により、全額が払い戻されるわけではない可能性があることを理解されたい。

授業の到達目標: 民主主義社会におけるジャーナリズムの役割と倫理を説明し、自らの考えを持って述べ、また討議することができる。社会の諸課題を踏まえたジャーナリストに必要な基礎知識を踏まえ、その自分なりの像を創造し、また説明することができ、そうしたジャーナリズム活動に向けた準備をすることができる。

事前・事後学習の内容: 指示した文献を精読し、自分なりの理解をした上で意見表明と討論ができるようにしておく。
実習先地域とその課題につき、主体的に情報を収集して理解し、意見を用意しておく。
日刊紙を購読し、毎日チェックすること。肩肘を張って取り組む必要は無いが、一面から最終面まで「パラ見」であっても目を通す。それにより「今何が問題になっているのか」の全体図掌握（これは現状、デジタルメディアの機能では十分と言いがたい）を行う。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 2027年2月3日～6日に沖縄県内において現地視察・実習を行うことを予定する。その内容は次の通りで、各項目およそ計4～8時間程度を要し、全てを合わせて3泊4日の日程で取り組む計画である。なお内容は、ジャーナリズムと現地社会を巡る情勢への臨機応変な対応を行うために変わることもあるので、教員からの連絡に注意すること。（実習内容）※ただし現地関係者の都合や日程により、変更もあり得る
【現地視察】沖縄戦は何だったか、その後どのようなインパクトを沖縄社会に残したか
【現地視察】沖縄における米軍・自衛隊基地が与えている影響と、それを巡る議論は何か
【当事者との討議】沖縄のメディアが現在抱えている課題は何か。どのように克服されるべきか
【当事者との討議】沖縄の人々や上記のテーマの関係者は政治・社会・文化に関しどのような姿勢と意見を持っているか
詳しい日程は追って教員から連絡し、また、事前説明・オリエンテーションを行うので必ず参加すること。
なお、上記「授業概要」で述べたとおり、本科目は「ジャーナリズム演習ベーシック１」の履修をした者を対象としていることに留意されたい。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 随時指示する

参考文献: 随時指示する

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 行わない

レポート: 50 実習レポートにより評価する

平常点評価:	50	ディスカッションへの貢献度
その他:	0	なし

備考・関連URL: 現地調査費用の目安は次の通りです（沖縄で3泊の場合。あくまで目安であり、実際の活動内容により増減します）。
宿泊費（3泊）・現地移動費・活動費…¥45,000（※1）
東京ー那覇航空費…¥15,000～35,000（※2）
（※1）食費は含みません
（※2）航空会社や予約時期により大幅に異なります

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09030055|01|9S09030055[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ジャーナリズム演習　アドバーンスト		
担 当 教 員	澤　康臣		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	､文・社会科学科目（メディア・ジャーナリズム	配 当 年 次	２年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　取材・記事作成の実践

授業概要：　ジャーナリズム演習ベーシック1を履修した学生を念頭にした、ジャーナリズムの実地演習を行う科目である。
本授業において学生は「学生記者」として取材を行い、実際に不特定多数の人たちの目に触れるメディア（Waseda Independet Press ）に記事を発表する。そのため、授業の一部は実際に現場に出て取材を行うなどのフィールドワークとなることもありえる。あるいは、その参考になるジャーナリストや社会問題の関係者を訪れ、あるいはゲストとして招き、ディスカッションをすることもある。
このようにフィールドワークを行う可能性があるので、本授業（水曜3～4限）の日には、可能であれば、それ以後の時限に他授業を履修せず時間を空けておくことが、より良い学びのため望ましい。

授業の到達目標：　ジャーナリズムについての理解を深め、ジャーナリストに必要な考え方や知識、取材執筆スキルの基礎を身につけるとともに、その基盤にある視座・哲学・倫理を体得し自らの言葉で語れるようになる。
実際の取材を通じて、話を聞くアポイントメントから取材コミュニケーション、聞いたことをそのまま伝えるのではなく「隠された真実」を見抜く力、そして分かりやすく生き生きと伝える文章力を得る。

事前・事後学習の内容：　記事を完成させることが本科目の最大の課題であり、そのために授業時間外の事前事後学習として▽企画・構想づくり▽取材対象に関する下調べ▽取材交渉▽取材▽記事執筆▽記事の修正・推敲―などを行うことが必要となる。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　以下が授業計画であるが、学生それぞれの取材の進行状況、フィールドワーク協力先の都合などにより変更があり得るから、教員による連絡に常に注意すること。

1-2　ガイダンス　取材とは何か、企画とは何か～企画の立て方、記事の基本を学ぶ
3-4　企画案および取材計画をまとめ、プレゼンテーションする
5-6　取材経過の報告・プレゼンテーション・ディスカッション（編集会議）
7-8　取材経過の報告・プレゼンテーション・ディスカッション（編集会議）
9-10　実際の取材報道に関する文献を用いたディスカッション・読書会
11-12　取材経過の報告・プレゼンテーション・ディスカッション（編集会議）
13-14　作品発表とディスカッション

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　授業内で指示する

参考文献：　授業内で指示するが、より良い文章執筆力を早い段階で身につけておくため次を読了することを推奨する。
本多勝一『【新版】日本語の作文技術』2015，朝日新聞出版
近藤康太郎『三行で撃つ〈善く、生きる〉ための文章塾』2020、CCCメディアハウス

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　試験は実施しない。

レポート：　50　完成した記事をレポートと同等に評価する。これが完成しない場合、単位認定が困難となる（よって、困ったり悩んだりした際にできるだけすぐに教員と相談することを推奨する）。

平常点評価：　50　取材姿勢、ディスカッションでの積極姿勢などを総合的に判断する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09030069|01|9S09030069[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	パブリック・リレーションズ特論 1		
担 当 教 員	尾上 玲円奈		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	、文・社会科学科目（メディア・ジャーナリズム	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 次世代リーダーのためにPRの実践力を

授業概要: ※パブリック・リレーションズ特論1とパブリック・リレーションズ特論2は連続した内容です。春クォーターの1、夏クォーターの2を必ず同時に履修してください。

明治維新以降、日本は急速な発展を遂げ、経済的には世界を席巻する存在となってきた。ある面では一世紀近く、世界をリードする立場を担ってきたと言っても過言ではない。しかし、政治的、文化的なプレゼンスとしてはどうか。国内世論や国際世論の形成など、いわゆるソフトパワーの面において、日本の競争力は著しく低いと言わざるを得ない。本来ハードパワーを補完するはずのソフトパワーが、国家の足枷となってしまっているのである。これら問題の根本は、日本国の現状を正しく認識し、世界の中でどういった役割を担い、将来どの地位を占めるべきかを考える、情報収集力及び情報発信力の欠如に拠るところが極めて大きい。これら情報収集力、情報発信力の根幹をなすのがパブリック・リレーションズ（本来の意味での「PR」）の機能に他ならず、社会全体（パブリック）との良好な関係構築（リレーションズ）活動、即ちPR活動を充実させていくことが我が国の急務である。
パブリック・リレーションズ（PR）は、個人や組織体が最短距離で目的や目標を達成する手法である。20世紀初頭、米国で登場したパブリック・リレーションズの考え方は米国における政治経済社会の牽引役として、オバマ元大統領やバイデン前大統領、トランプ現大統領らを始め、指導者層の戦略的な意思決定プロセスに組み込まれ、発展を遂げてきた。グローバル化が加速するにつれ、複雑化、多極化する世界にあって、情報の受発信機能は益々重要な位置付けで理解されなくてはならない。長期的な政治空白で国力を弱める日本を尻目に、新興国が国際社会で急速に発言力を増してきたのも、パブリック・リレーションズやプロパガンダの賜物だ。ゆえに、世界の指導者層がパブリック・リレーションズの基本概念を理論的に押さえ、実践的に学習することは、世界全体の喫緊の課題と言い換えることができる。今後の世界をより良いものにしていくために、様々な事例や議論を通してパブリック・リレーションズの普遍的な価値観を学び、受講生が将来国際社会の中で活用すべきPRの枠組みを授業において提示する。

世界は今、真のリーダーを求めている。本授業はそうした社会の要請に応えた、次世代を担うリーダーのためのものである。従来型の狭義の広報とは異なる、学際的視点に立った幅広く奥行きの深い本質的なパブリック・リレーションズの授業であり、理論はもとよりその魂（スピリット）を修得することができるのが特長だ。日本におけるパブリック・リレーションズの第一人者である前任の井之上喬先生が日本で初めて開講させた由緒正しき「パブリック・リレーションズ」の理論講座でもある（2004年に井之上喬先生が始め、尾上が引き継いだ本講義の受講生は3000名を超え社会で更なる活躍が期待されている）。担当教員の尾上は衆議院議員秘書やNHK（日本放送協会）報道記者の経験を有し、現在はPR会社においてクライアント業務の陣頭指揮をとると同時に、PRの専門家としてカンヌライオンズの審査員や国連、政府機関の委員を務めるなどしている。これまでの人生で得てきた知識や経験を、講義を通し惜しみなく紹介する。

この授業では、「パブリック・リレーションズ概論」の理論を主体とした講義と比べ、より実践的なPRプログラムの構築を行い、並行して理論を検証することで実践と理論を統合的に学習することになる。原則として、「パブリック・リレーションズ概論」の既習者を対象とする。授業では、5-7名程度のグループにより、クライアント候補（実在の組織体）の協力を得て、その組織体のPR機能として、あらかじめ設定されたテーマを基に、具体的なPRプランを立てシミュレーションを行う。各グループの発表を通じて直面する課題や疑問に、現役ジャーナリストらや教員からフィードバックを受けたり、全員でディスカッションするなどしてパブリック・リレーションズの実践感覚を習得する。

授業形態は春夏クォーター（4月-7月）のゼミ形式（変則）となる。4月の授業は（4/16、4/23、4/30）、5月は（5/14、5/28）、6月は（6/4、6/18）、7月は（7/2、7/9、7/16）と変則でグループワークを行い、7/18(土)もしくは7/25(土)で4コマの集中講義を実施予定。

ゲスト講師はパブリック・リレーションズの第一人者である京都大学経営管理大学院井之上喬特命教授（株式会社井之上パブリックリレーションズ代表取締役会長）、山田厚史ジャーナリスト（元朝日新聞編集委員）、風間直樹元週刊東洋経済編集長、高木徹元NHKチーフ・プロデューサー（『国際メディア情報戦』『戦争広告代理店』著者）を予定している。

本科目の履修により得られる能力は以下の通り。

①個の力を高め、国際社会に貢献できる21世紀の責任感ある真のリーダーとして自覚が持てるようになる

②「双方向型コミュニケーション」と「自己修正機能」を理解し、「倫理観」をベースとした普遍的なパブリック・リレーションズの手法を学ぶことができる

③日本のメディア（マスコミ）事情とその役割を理解することができる

④グローバルな視点から戦略性を持った上で統合的に思考し、状況を大局的に把握する能力が習得できる

⑤状況の変化を読み取り、「自己修正」を通して柔軟に対応する能力の必要性が理解できる

⑥実社会で活躍している内外のリーダーとの交流を通して、トップのリーダーシップを身近に学ぶことができる

⑦現代社会を生き抜くために必須のプレゼンテーションスキルを身につけられる

授業の到達目標: 次世代を担う、社会性と戦略性を有する知的かつ行動的で自律的なコミュニケーション手法を学ぶ。グローバル社会で活躍できる、21世紀のリーダーとしての資質を高め、「倫理観」「双方向性コミュニケーション」「自己修正能力」を体得すると共に、PRのライフサイクル・モデルを体系的に理解し、実践的なPRプランを作成し、実行できるようになる。

事前・事後学習の内容: 井之上喬著 『パブリック・リレーションズ（第3版）』日本評論社（2024年3月）をよく読んでおくこと。
社会で日々起こっていることを、マスメディアの報道やソーシャルメディアの情報を通して、よく観察しておくこと。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ※本授業は夏クォーターの「パブリック・リレーションズ特論２」を必ず同時に履修して下さい。

第1回 オリエンテーションとパブリック・リレーションズ概論の復習

第2回 パブリック・リレーションズのプログラミングの学習（PRライフサイクル・モデルとケーススタディ、プレスリリースの書き方）

第3回 現役ジャーナリストによるメディア事情の講義
＜ゲスト講師＞山田厚史ジャーナリスト（元朝日新聞編集委員）、風間直樹元週刊東洋経済編集長、高木徹元NHKチーフ・プロデューサー

第4回 オリエンテーションとグループ（PRチーム）編成

第5回 各グループのPRプランの提案書ドラフト（素案）をレビュー（PRライフサイクル・モデルを使って）
＜ゲスト講師＞京都大学経営管理大学院井之上喬特命教授

※ゲストはあくまで予定、シラバスは初日に配布する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 井之上喬著 『パブリック・リレーションズ（第3版）』日本評論社（2024年3月）をベースに使用。
講義の内容に応じて、適宜資料を配布する。

参考文献: 月刊BOSS、Another life、Value Press、NewsPicks、AdverTimes（アドタイ）、宣伝会議、サンデー毎日

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: 試験：60%、レポート提出：10%、授業出席、グループ発表やグループ・ワークへの貢献度など：30%により総合的に評価する。

備考・関連URL: ※パブリック・リレーションズ特論　1とパブリック・リレーションズ特論　2をセット受講しない場合は選外とする。

7/18(土)もしくは7/25(土)で4コマの集中講義を実施予定。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S09030070|01|9S09030070[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	パブリック・リレーションズ特論 2		
担 当 教 員	尾上 玲円奈		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	、文・社会科学科目（メディア・ジャーナリズム	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 次世代リーダーのためにPRの実践力を

授業概要: ※パブリック・リレーションズ特論1とパブリック・リレーションズ特論2は連続した内容です。春クォーターの1、夏クォーターの2を必ず同時に履修してください。

明治維新以降、日本は急速な発展を遂げ、経済的には世界を席巻する存在となってきた。ある面では一世紀近く、世界をリードする立場を担ってきたと言っても過言ではない。しかし、政治的、文化的なプレゼンスとしてはどうか。国内世論や国際世論の形成など、いわゆるソフトパワーの面において、日本の競争力は著しく低いと言わざるを得ない。本来ハードパワーを補完するはずのソフトパワーが、国家の足枷となってしまっているのである。これら問題の根本は、日本国の現状を正しく認識し、世界の中でどういった役割を担い、将来どの地位を占めるべきかを考える、情報収集力及び情報発信力の欠如に拠るところが極めて大きい。これら情報収集力、情報発信力の根幹をなすのがパブリック・リレーションズ（本来の意味での「PR」）の機能に他ならず、社会全体（パブリック）との良好な関係構築（リレーションズ）活動、即ちPR活動を充実させていくことが我が国の急務である。
パブリック・リレーションズ（PR）は、個人や組織体が最短距離で目的や目標を達成する手法である。20世紀初頭、米国で登場したパブリック・リレーションズの考え方は米国における政治経済社会の牽引役として、オバマ元大統領やバイデン前大統領、トランプ現大統領らを始め、指導者層の戦略的な意思決定プロセスに組み込まれ、発展を遂げてきた。グローバル化が加速するにつれ、複雑化、多極化する世界にあって、情報の受発信機能は益々重要な位置付けで理解されなくてはならない。長期的な政治空白で国力を弱める日本を尻目に、新興国が国際社会で急速に発言力を増してきたのも、パブリック・リレーションズやプロパガンダの賜物だ。ゆえに、世界の指導者層がパブリック・リレーションズの基本概念を理論的に押さえ、実践的に学習することは、世界全体の喫緊の課題と言い換えることができる。今後の世界をより良いものにしていくために、様々な事例や議論を通してパブリック・リレーションズの普遍的な価値観を学び、受講生が将来国際社会の中で活用すべきPRの枠組みを授業において提示する。

世界は今、真のリーダーを求めている。本授業はそうした社会の要請に応えた、次世代を担うリーダーのためのものである。従来型の狭義の広報とは異なる、学際的視点に立った幅広く奥行きの深い本質的なパブリック・リレーションズの授業であり、理論はもとよりその魂（スピリット）を修得することができるのが特長だ。日本におけるパブリック・リレーションズの第一人者である前任の井之上喬先生が日本で初めて開講させた由緒正しき「パブリック・リレーションズ」の理論講座でもある（2004年に井之上喬先生が始め、尾上が引き継いだ本講義の受講生は3000名を超え社会で更なる活躍が期待されている）。担当教員の尾上は衆議院議員秘書やNHK（日本放送協会）報道記者の経験を有し、現在はPR会社においてクライアント業務の陣頭指揮をとると同時に、PRの専門家としてカンヌライオンズの審査員や国連、政府機関の委員を務めるなどしている。これまでの人生で得てきた知識や経験を、講義を通し惜しみなく紹介する。

この授業では、「パブリック・リレーションズ概論」の理論を主体とした講義と比べ、より実践的なPRプログラムの構築を行い、並行して理論を検証することで実践と理論を統合的に学習することになる。原則として、「パブリック・リレーションズ概論」の既習者を対象とする。授業では、5-7名程度のグループにより、クライアント候補（実在の組織体）の協力を得て、その組織体のPR機能として、あらかじめ設定されたテーマを基に、具体的なPRプランを立てシミュレーションを行う。各グループの発表を通じて直面する課題や疑問に、現役ジャーナリストらや教員からフィードバックを受けたり、全員でディスカッションするなどしてパブリック・リレーションズの実践感覚を習得する。

授業形態は春夏クォーター（4月-7月）のゼミ形式（変則）となる。4月の授業は（4/16、4/23、4/30）、5月は（5/14、5/28）、6月は（6/4、6/18）、7月は（7/2、7/9、7/16）と変則でグループワークを行い、7/18(土)もしくは7/25(土)で4コマの集中講義を実施予定。

ゲスト講師はパブリック・リレーションズの第一人者である京都大学経営管理大学院井之上喬特命教授（株式会社井之上パブリックリレーションズ代表取締役会長）、山田厚史ジャーナリスト（元朝日新聞編集委員）、東洋経済風間直樹元編集長、高木徹元NHKチーフ・プロデューサー（『国際メディア情報戦』『戦争広告代理店』著者）を予定している。

本科目の履修により得られる能力は以下の通り。

①個の力を高め、国際社会に貢献できる21世紀の責任感ある真のリーダーとして自覚が持てるようになる

②「双方向型コミュニケーション」と「自己修正機能」を理解し、「倫理観」をベースとした普遍的なパブリック・リレーションズの手法を学ぶことができる

③日本のメディア（マスコミ）事情とその役割を理解することができる

④グローバルな視点から戦略性を持った上で統合的に思考し、状況を大局的に把握する能力が習得できる

⑤状況の変化を読み取り、「自己修正」を通して柔軟に対応する能力の必要性が理解できる

⑥実社会で活躍している内外のリーダーとの交流を通して、トップのリーダーシップを身近に学ぶことができる

⑦現代社会を生き抜くために必須のプレゼンテーションスキルを身

授業の到達目標: 次世代を担う、社会性と戦略性を有する知的かつ行動的で自律的なコミュニケーション手法を学ぶ。グローバル社会で活躍できる、21世紀のリーダーとしての資質を高め、「倫理観」「双方向性コミュニケーション」「自己修正能力」を体得すると共に、PRのライフサイクル・モデルを体系的に理解し、実践的なPRプランを作成し、実行できるようになる。

事前・事後学習の内容: 井之上喬著 『パブリック・リレーションズ（第3版）』日本評論社（2024年）をよく読んでおくこと。
社会で日々起こっていることを、マスメディアの報道やソーシャルメディアの情報を通して、よく観察しておくこと。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ※本授業は春クォーターの「パブリック・リレーションズ特論１」を必ず同時に履修して下さい。

第6回 組織体広報担当者へのPRプラン提案書最終版プレゼンテーション

第7回 PRプログラム（メディア・リレーションズ）のインプリメンテーション１）新聞編
＜ゲスト講師＞山田厚史ジャーナリスト（元朝日新聞編集委員）

第8回 PRプログラム（メディア・リレーションズ）のインプリメンテーション２）雑誌編
＜ゲスト講師＞東洋経済風間直樹元編集長

第9回 PRプログラム（メディア・リレーションズ）のインプリメンテーション３）TV編
＜ゲスト講師＞NHK高木徹チーフ・プロデューサー

第10回 ケーススタディとPRプラン作成のためのオリエンテーション、グループ（PRチーム）別レビューと合宿前の確認
＜ゲスト講師＞京都大学経営管理大学院井之上喬特命教授

第11回 試験 180分＠集中講義

第12回 試験 ＠集中講義

第13回 オープンディスカッションと講評＠集中講義

第14回 まとめ＠集中講義

※ゲストはあくまで予定、シラバスは初日に配布する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 井之上喬著 『パブリック・リレーションズ（第3版）』日本評論社（2024年3月）をベースに使用。
講義の内容に応じて、適宜資料を配布する。

参考文献:	月刊BOSS、Another life、Value Press、NewsPicks、AdverTimes（アドタイ）、宣伝会議、サンデー毎日
成績評価フリー入力サイン:	1：フリーフォーマット（教員による切替可）
成績評価フリー:	試験：60%、レポート提出：10%、授業出席、グループ発表やグループ・ワークへの貢献度など：30%により総合的に評価する。
備考・関連URL:	※パブリック・リレーションズ特論　1とパブリック・リレーションズ特論　2をセット受講しない場合は選外とする。 7/18（土）もしくは7/25（土）で4コマの集中講義を実施予定。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010034|01|9S11010034[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	日本語教育学入門　１　０１		
担 当 教 員	舘岡　洋子@大舩　ちさと		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　日本語教育を研究するために、日本語教育学の全体像を知り、基礎的な知識を学ぶ科目です。
Waseda Moodleに公開された動画を見ながら、日本語教育における様々な課題について考えます。
そして、受講生同士が意見を述べ合うことで、より深い学びを得ることを目指します。

授業の到達目標：　1）身近な事例をもとに日本語教育の必要性・重要性を学び、様々な角度から日本語教育を捉えられること。
2）外国語/第2言語としての日本語の仕組みや教え方が分かること。

事前・事後学習の内容：　1週間の間に動画を見たうえで、調べたことを記述したり、自分の考えを述べたりします。
決まった授業時間があるわけではなく、1週間のどの時間に取り組んでもかまいません。
事前・事後学習に要する時間は1回あたり、100分程度です。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　【エピソードで学ぶ日本語教育学】
第1回目：日本語教育学の射程
第2回目：留学生の日本語1
第3回目：留学生の日本語2
第4回目：働く人の日本語1
第5回目：働く人の日本語2
第6回目：子どもの日本語1
第7回目：子どもの日本語2

言語区分：　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　各講義で決められた課題の達成度を評価します。

備考・関連URL：　本科目は、フルオンデマンド型（オンラインの教材だけで勉強する授業）の科目です。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010034|02|9S11010034[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	日本語教育学入門　1　02		
担 当 教 員	蒲谷　宏@宮崎　里司		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　日本語教育学の全体像を知り、基礎的な知識を学ぶ科目です。Waseda Moodleに公開された動画を見ながら、日本語教育における様々な課題について考えます。そして、受講生同士が意見を述べ合うことで、より深い学びを得ることを目指します。

授業の到達目標：　1）身近な事例をもとに日本語教育の必要性・重要性を学び、様々な角度から日本語教育を捉えられること。
2）外国語/第2言語としての日本語の仕組みや教え方が分かること。

事前・事後学習の内容：　1週間の間に動画を見たうえで、調べたことを記述したり、自分の考えを述べたりします。決まった授業時間があるわけではなく、1週間のどの時間に取り組んでもかまいません。
事前・事後学習に要する時間は1回あたり、100分程度です。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　担当：宮崎
【エピソードで学ぶ日本語教育学】第1回目：日本語教育学の射程
第2回目：留学生の日本語1
第3回目：留学生の日本語2
第4回目：働く人の日本語1
第5回目：働く人の日本語2
第6回目：子どもの日本語1
第7回目：子どもの日本語2

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は特に指定しません。

参考文献：　各回に関連分野の参考文献を紹介しています。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　各講義で決められた課題の達成度を評価します。

備考・関連URL：　本科目は、フルオンデマンド型（オンラインの教材だけで勉強する授業）の科目です。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010035|01|9S11010035[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	日本語教育学入門　２　０１		
担 当 教 員	舘岡　洋子@大舩　ちさと		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　日本語教育を研究するために、日本語教育学の全体像を知り、基礎的な知識を学ぶ科目です。
Waseda Moodleに公開された動画を見ながら、日本語教育における様々な課題について考えます。
そして、受講生同士が意見を述べ合うことで、より深い学びを得ることを目指します。

授業の到達目標：　1）身近な事例をもとに日本語教育の必要性・重要性を学び、様々な角度から日本語教育を捉えられること。
2）外国語/第2言語としての日本語の仕組みや教え方が分かること。

事前・事後学習の内容：　1週間の間に動画を見たうえで、調べたことを記述したり、自分の考えを述べたりします。
決まった授業時間があるわけではなく、1週間のどの時間に取り組んでもかまいません。
事前・事後学習に要する時間は1回あたり、100分程度です。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　【キーワードで学ぶ日本語教育】
第1回目：日本社会と外国人
第2回目：異文化接触について考える
第3回目：ことばを学ぶ1（個人の観点から考える）
第4回目：ことばを学ぶ2（関係論的な観点から考える）
第5回目：ことばを教える
第6回目：「日本語」はどのような言語か
第7回目：日本語教材について

言語区分：　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　各講義で決められた課題の達成度を評価します。

備考・関連URL：　本科目は、フルオンデマンド型（オンラインの教材だけで勉強する授業）の科目です。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010035|02|9S11010035[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	日本語教育学入門　２　02		
担 当 教 員	蒲谷　宏@宮崎　里司		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　日本語教育を研究するために、日本語教育学の全体像を知り、基礎的な知識を学ぶ科目です。Waseda Moodle に公開された動画を見ながら、日本語教育における様々な課題について考えます。そして、受講生同士が意見を述べ合うことで、より深い学びを得ることを目指します。

授業の到達目標：　1）身近な事例をもとに日本語教育の必要性・重要性を学び、様々な角度から日本語教育を捉えられること。
2）外国語/第2言語としての日本語の仕組みや教え方が分かること。

事前・事後学習の内容：　1週間の間に動画を見たうえで、調べたことを記述したり、自分の考えを述べたりします。決まった授業時間があるわけではなく、1週間のどの時間に取り組んでもかまいません。
事前・事後学習に要する時間は1回あたり、100分程度です。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　担当：蒲谷
【キーワードで学ぶ日本語教育学】
第1回目：日本社会と外国人
第2回目：異文化接触について考える
第3回目：ことばを学ぶ1（個人の観点から考える）
第4回目：ことばを学ぶ2（関係論的な観点から考える）
第5回目：ことばを教える
第6回目：「日本語」はどのような言語か
第7回目：日本語教材について

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は特に指定しません。
各回の担当教員が授業中に各種の資料などを配布します。

参考文献：　各回に関連分野の参考文献を紹介しています。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　各講義で決められた課題の達成度を評価します。

備考・関連URL：　本科目は、フルオンデマンド型（オンラインの教材だけで勉強する授業）の科目です。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010054|01|9S11010054[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	日本語を知る　1		
担 当 教 員	久保　圭		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　「日本語を知る1・2」では、日本語教育を学ぶための入り口として、日本語という言語の音声や語彙、表記、文法、談話がどのような仕組みになっているかを考え、学びます。
日本語を外国語や第二言語として教えるには、日本語の仕組みについての基礎知識が必要ですが、母語は幼い頃、ほとんど無意識に習得してしまうので、母語話者には母語の仕組みは気づきにくいものです。
日本語母語話者にとっては当然のことが、日本語学習者にとってはそうではなく、思わぬ誤解や学習の困難さを生むことも少なくありません。
授業では、日本語に関する質問の答えを考えながら、日本語を日本語非母語話者の視点から眺め、日本語学習者にとっての日本語とはどのようなものか、その仕組みや特徴を理解していきます。

「日本語を知る1」では、音声・語彙・表記（文字）というテーマで、日本語の仕組みを考えます。
それらの学習を通じて音声や語彙、表記の仕組みを知るとともに、それらが日本語学習にはのように感じられるのかも考えてみましょう。

授業では、毎回、グループでの話し合いを行います。話し合いへの積極的な参加を求めます。

授業の到達目標：　①日本語の音声の仕組みについての基礎知識を身につける。
②日本語の語彙の仕組みについての基礎知識を身につける。
③日本語の表記（文字）の仕組みについての基礎知識を身につける。
④日本語の音声、語彙、表記の仕組みを学習者の立場から考えられるようになる。

事前・事後学習の内容：　・事前学習：各回の授業内容に関して、国語教育や日本語教育などを通じて自分がどのような知識を既に持っているかを振り返ってきてください。20分程度かかると想定されます。

・事後学習：資料やメモを使って、毎回の授業内容を復習してください。20分程度かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　オリエンテーション　世界の中の日本語
オリエンテーションで、授業の進め方や評価等について説明します。日本語教育の位置づけについて考えます。

第2回　日本語の音声に関する基礎知識1
日本語の音声（子音・母音）について学びます。

第3回　日本語の音声に関する基礎知識2
日本語のアクセントとイントネーションについて学びます。

第4回　日本語の語彙に関する基礎知識1
日本語の語彙の数や種類について学びます。

第5回　日本語の語彙に関する基礎知識2
語の意味と言語による語の意味のずれについて学びます。

第6回　日本語の表記に関する基礎知識1
日本語の文字の種類と使い分けについて学びます。

第7回　期末試験　まとめ
期末試験を実施し、学習内容のまとめをします。早稲田大学における日本語教育について紹介します。

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書：　なし

参考文献：　太田陽子（編著）・嵐洋子・小口悠紀子・清水由貴子・中石ゆうこ・濱川祐紀代・森篤嗣・柳田直美（著）（2021）『超基礎・日本語教育のための日本語学』くろしお出版　ISBN: 978-4-87424-885-0

成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	60	期末試験：第7回授業時に実施　学習内容全般についての理解度を評価します。
平常点評価:	40	・授業参加態度：出席と話し合いへの積極的な参加 ・毎回の授業での課題
備考・関連URL:	・ 学生への質問、グループワーク、ディスカッションなどを実施します。 ・ 課題のフィードバックは、毎回の授業または Moodle 上でおこないます。	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010055|01|9S11010055[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本語を知る ２		
担 当 教 員	久保 圭		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

「日本語を知る1・2」では、日本語教育を学ぶための入り口として、日本語という言語の音声や語彙、表記、文法、談話がどのような仕組みになっているかを考え、学びます。
日本語を外国語や第二言語として教えるには、日本語の仕組みについての基礎知識が必要ですが、母語は幼い頃、ほとんど無意識に習得してしまうので、母語話者には母語の仕組みは気づきにくいものです。
日本語母語話者にとっては当然のことが、日本語学習者にとってはそうではなく、思わぬ誤解や学習の困難さを生むことも少なくありません。
授業では、日本語に関する質問の答えを考えながら、日本語を日本語非母語話者の視点から眺め、日本語学習者にとっての日本語とはどのようなものか、その仕組みや特徴を理解していきます。

「日本語を知る2」では、表記（漢字）、文法、文章・談話というテーマで、日本語の仕組みを考えます。
それらの学習を通じて文法や表記、文章と談話の仕組みを知るとともに、それらが日本語学習にはのように感じられるのかも考えてみましょう。

授業では、毎回、グループでの話し合いを行います。話し合いへの積極的な参加を求めます。

授業の到達目標:

①日本語の表記（漢字）の仕組みについての基礎知識を身につける。
②日本語の文法の仕組みについての基礎知識を身につける。
③日本語の文章・談話の仕組みについての基礎知識を身につける。
④日本語の文字、文法、文章・談話の仕組みを学習者の立場から考えられるようになる。

事前・事後学習の内容:

・事前学習：各回の授業内容に関して、国語教育や日本語教育などを通じてご自身がどのような知識を既に持っているかを振り返ってきてください。20分程度かかると想定されます。

・事後学習：資料やメモを使って、毎回の授業内容を復習してください。20分程度かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 日本語の表記に関する基礎知識2
日本語の漢字について学びます。

第2回 日本語の文法に関する基礎知識1
文の種類と日本語教育における文法について学びます。

第3回 日本語の文法に関する基礎知識2
文の構成と助詞について学びます。

第4回 日本語の文法に関する基礎知識3
時に関する表現（テンス・アスペクト）について学びます。

第5回 日本語の文法に関する基礎知識4
ヴォイスなど、視点に関わる表現について学びます。

第6回 日本語の文章・談話に関する基礎知識
文体や文章・談話の結束性について学びます。

第7回 期末試験 まとめ
期末試験を実施し、学習内容のまとめをします。ことばの変化やバリエーションについて考えます。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし

参考文献: 太田陽子（編著）・嵐洋子・小口悠紀子・清水由貴子・中石ゆうこ・濱川祐紀代・森篤嗣・柳田直美（著）（2021）『超基礎・日本語教育のための日本語学』くろしお出版 ISBN: 978-4-87424-885-0

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	60	期末試験:第7回授業時に実施　学習内容全般の理解度を評価します。
平常点評価:	40	・授業参加態度:出席と話し合いへの積極的な参加 ・毎回の授業での課題

備考・関連URL:
- 学生への質問、グループワーク、ディスカッションなどを実施します。
- 課題へのフィードバックは、毎回の授業または Moodle 上でおこないます。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010056|01|9S11010056[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	日本語使用を考える　1		
担 当 教 員	李　在鎬		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　「日本語使用を考える1、2」では、日本語が「どのように」「どのような条件で」「どのような目的で」使われているのかを捉えるための見方・考え方を学びます。言語学（言語使用の理論・談話・語用論等）、教育学（学習・指導・評価、4技能等）、情報工学（コーパス、データ駆動型の観察）という複数の視点を往還しながら、日本語を「生きたコミュニケーション」として理解するために必要な概念や方法を身につけます。あわせて、その理解を日本語教育・学習支援の設計に接続する視点を養います。

授業の到達目標：　1）理論的視点に基づいて日本語使用を捉えることができる。2）日本語使用を捉える主要概念（場面・目的・相互行為・規範・媒体・参加者要因等）を説明できる。3）コミュニケーションの観点から、具体事例（会話、SNS、教室、行政場面等）を分析し、論点を言語化できる。

事前・事後学習の内容：　事前学習は特にありません。事後学習として振り返りを書きます。事後学習の時間として30分程度かかります。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　第1回　応用言語学について考える・到達目標：応用言語学が成立した背景（社会的要請・研究課題）を説明できる・内容：言語学とは／応用言語学とコミュニケーション研究
第2回　コミュニケーションの観点から日本語使用を考える・到達目標：言語を「体系」ではなく「使用」として捉える問いを立てられる・内容：ことばの在り処に関する問題／コミュニケーションを構成する要素
第3回　外国人との共生の観点から日本語使用を考える・到達目標：共生社会における言語課題を、理念と実務（伝わる設計）で整理できる・内容：やさしい日本語／読みやすさの設計（対象・目的・情報構造・語彙難度）
第4回　日本語を使用する力を測る・到達目標：テストにもとづく言語能力の評価の方法と限界が分かる・内容：言語テスト／言語能力観
第5回　コーパスから見る日本語使用・到達目標：コーパスを用いた日本語使用の観察方法（用例検索・頻度・共起の見方）を説明できる・内容：コーパスの基本／現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）の概要と検索例
第6回　生成AI・機械翻訳からみる日本語使用・到達目標：生成AIや機械翻訳と言語教育の関係性について自分のことばで語ることができる・内容：生成AI／大規模言語モデル／ことばの意味
第7回　まとめと振り返り・到達目標：全体を振り返り、「日本語使用を考える2」で行うプロジェクトワークの方針を立てられる・内容：振り返り／追加講義（オンデマンド）

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書：　特に指定しません。

参考文献：　授業の時に、参考用のウェブサイトやオンラインで読める論文などを紹介します。発展学習のための参考書としては、近藤安月子・小森和子編（2012）『日本語教育事典』研究社　をおすすめします。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　　授業中のタスクへの取り組み度やWaseda Moodle上の課題提出度をもとに評価します。

備考・関連URL：　講義は日本語で行います。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010057|01|9S11010057[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本語使用を考える ２		
担 当 教 員	李 在鎬		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: コーパス調査に基づいて日本語使用を考える

授業概要: 「日本語使用を考える1、2」では、日本語がどのように使われているかを考える際に、どのような捉え方があるかを学びます。「日本語使用を考える1」での学習を踏まえ、グループでプロジェクトワークを行います。話し合いを通して調査対象と調査方法を決定し、調査・発表・共有・議論までを一連の活動として実施します。これらの活動を通して、日本語使用の多様性に気づくことを目指します。

授業の到達目標: 1）理論的視点に基づいて日本語使用を捉えることができる。2）グループで調査対象と調査方法を検討し、目的に合った調査計画として明文化できる。3）調査結果を分かりやすく構成して口頭発表し、質疑応答を通して内容を補足・修正できる。4）言語、教育、社会の観点から日本語使用を捉えることができる。

事前・事後学習の内容: テーマに応じて事前に調査をしたり、発表資料を作ったりするタスクがあります。事前学習と事後学習で合計で1時間程度かかります。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1回 グループ別の話し合い
第2回 資料作成
第3回 発表とディスカッション
第4回 グループ別の話し合い
第5回 資料作成
第6回 発表とディスカッション
第7回 まとめと振り返り
（受講生の人数により，スケジュールは微調整される可能性があります）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定教科書はありません。

参考文献: 講義中に指示します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 プロジェクトワークへの参加度や発表会でのパフォーマンス（他人の発表に対してどんなコメントをしたかなど）を評価します。

備考・関連URL: 日本語で講義します。グループ別の話し合いなどの活動が多く含まれているので休まずに参加することが重要です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010058|01|9S11010058[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本語を教える 1		
担 当 教 員	大久保 雅子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: この科目では、日本語を母語としない人にどのように日本語を教えるかを学びます。ことばを教えることは、そのことばに対する理解を深めることでもあります。「日本語を教える1」では、日本語を教えるという視点から、日本語に対する理解を深め、日本語を母語としない人に日本語を教える際の留意点を学んでいきます。
日本では外国人の受入拡大が大きなニュースとなり、外国人労働者数が過去最高を更新しています。また、留学生数の増加に伴い、本学においてもグローバル化が進んでいます。我々を取り巻く社会の変化とともに、日本語教師ではない一般の方々も外国人に日本語を教える機会が増えており、日本語ボランティアの活動も広がっています。「日本語を教える1」では、日本語教育の歴史、教授法、コース・デザイン、日本語の基礎知識を中心に、日本語以外のことばの教育にも役立つよう、日本人学生にも外国人学生にも身近で関心の持たれるテーマを扱っていきます。

授業の到達目標: 日本語の基礎知識および教授法に関する基礎知識を得ることができる。

日本語を母語としない人に日本語を教える際の留意点を理解することができる。

事前・事後学習の内容: 各回で出された課題に取り組みます。60分前後かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:ガイダンス、日本語教育の現状
この授業では、本科目のガイダンスを行い、日本語教育の現状についてお話します。

第2回:日本語教育の歴史
この授業では、戦前・戦後の日本語教育の歴史について学びます。

第3回:教授法
この授業では、文法翻訳法、オーディオリンガル・アプローチ、コミュニカティブ・アプローチなどについて学びます。

第4回:コースデザイン
この授業では、コース・デザイン、シラバス・デザイン、カリキュラム・デザインなどについて学びます。

第5回:日本語の音声・音韻
この授業では、日本語の音声の基礎知識について学びます。

第6回:日本語の語彙・意味
この授業では、日本語の語彙の基礎知識について学びます。

第7回:日本語の文法・文型
この授業では、日本語の文法の基礎知識について学びます。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 必要な資料は授業で配布します。

参考文献: 『日本語教育法概論』東海大学留学生教育センター編、東海大学出版会、2005年
『日本語教育 よくわかる教授法』小林ミナ、アルク、2019年

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 なし

レポート: 20 期末レポート（20%×1回＝20%）

平常点評価: 20 授業参加度（20%）

その他: 60 課題（10%×6回＝60%）

備考・関連URL: ＊本講座は日本語を教えたことのない方を対象とした入門講座ですので、より高度な内容の授業を受講したい方には他の講座をおすすめします。
＊毎回の授業は、対面で行います。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010059|01|9S11010059[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	日本語を教える　２		
担 当 教 員	大久保　雅子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　この科目では、日本語を母語としない人にどのように日本語を教えるかを学びます。ことばを教えることは、そのことばに対する理解を深めることでもあります。
「日本語を教える2」では、日本語を教えるという視点から、日本語に対する理解を深め、日本語を母語としない人に日本語を教える際の留意点を学んでいきます。
日本では外国人の受入拡大が大きなニュースとなり、外国人労働者数が過去最高を更新しています。また、留学生数の増加に伴い、本学においてもグローバル化が進んでいます。我々を取り巻く社会の変化とともに、日本語教師ではない一般の方々も外国人に日本語を教える機会が増えており、日本語ボランティアの活動も広がっています。
「日本語を教える２」では、ことばの教育（聞く・話す・読む・書く）に関する基礎知識を中心に、日本語以外のことばの教育にも役立つよう、日本人学生にも外国人学生にも身近で関心の持たれるテーマを扱っていきます。

授業の到達目標：　ことばの教育（聞く・話す・読む・書く）に関する基礎知識を得ることができる。

日本語を母語としない人に日本語を教える際の留意点を理解することができる。

事前・事後学習の内容：　各回で出された課題に取り組みます。60分前後かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：ガイダンス、日本語の指導
この授業では、本科目のガイダンスを行い、日本語の指導についてお話します。
第2回：聞くことの指導
この授業では、日本語の聴解の指導について学びます。
第3回：話すことの指導
この授業では、日本語の口頭表現の指導について学びます。
第4回：読むことの指導
この授業では、日本語の読解の指導について学びます。
第5回：書くことの指導
この授業では、日本語の文章表現の指導について学びます。
第6回：異文化コミュニケーション
この授業では、学習者の異文化体験と異文化コミュニケーションについて考えます。
第7回：接触場面・情意要因
この授業では、学習者の接触場面と情意要因について考えます。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　必要な資料は授業で配布します。

参考文献：　『日本語教育法概論』東海大学留学生教育センター編、東海大学出版会、2005年
『日本語教育　よくわかる教授法』小林ミナ、アルク、2019年

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　なし

レポート：　20　期末レポート（20%×１回＝20%）

平常点評価：　20　授業参加度（20%）

その他: 60 課題（10%×6回＝60%）

備考・関連URL:

＊本講座は日本語を教えたことのない方を対象とした入門講座ですので、より高度な内容の授業を受講したい方には他の講座をおすすめします。
＊毎回の授業は、対面で行います。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010060|01|9S11010060[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本語学習を考える 1		
担 当 教 員	舘岡 洋子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「日本語学習を考える1,2」では、人々が母語あるいは外国語/ 第二言語として、日本語をどのように学んでいるかを知り、自身の言語学習についても内省する目を養います。
授業では、人々がどのようにことばを学んでいるのかについて主に、学習者に焦点をあてて言語学習を検討します。
人がことばを学ぶときにどんな工夫をしているのかを考察し、自分自身の言語学習を振り返ることによって、ことばの学習のあり方について内省する目がもてるようになることを目指します。

★「日本語学習を考える1」では、より基礎的、理論的なテーマを扱います。

授業の到達目標: 人々がどのようにことばを学んでいるのか知り、言語学習について理解を深める。また、言語学習をする上での多様な工夫を知り、自分自身の言語学習について内省する目がもてるようになることをめざします。

また日本語教育におけるいくつかのトピックについて、日本語学習者および日本語学習の視点から考えます。

事前・事後学習の内容: 事前課題:なし
事後課題:授業で学んだことを毎回、「振り返り」としてmoodleに記入します（所要時間20分程度）

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 講義1 ガイダンス＋なぜ「日本語学習を考える」のか＋母語と第二言語／外国語講義2 第二言語習得
講義3 留学生のための初級日本語
講義4 社会における実践コミュニティ
講義5 協働学習
講義6 学習者オートノミー
講義7 ことばの学習とアイデンティティ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に定めません。必要な資料は授業で配布します。

参考文献: 授業の中でその都度、紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 試験はありません

レポート: 50 期末レポート50%

平常点評価: 50 ディスカッションへの参加20%＋毎回の授業後のミニレポート30%

備考・関連URL: 毎回の授業ではグループで話し合う活動があります。
積極的に参加してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010061|01|9S11010061[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本語学習を考える ２		
担 当 教 員	舘岡 洋子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「日本語学習を考える1,2」では、人々が母語あるいは外国語/ 第二言語として、日本語をどのように学んでいるかを知り、自身の言語学習についても内省する目を養います。
授業では、人々がどのようにことばを学んでいるのか、個人から教室や社会などの場へと広げて言語学習を考えます。
人がことばを学ぶときに人やモノなどの環境とどのように相互作用しているのかを考察し、言語学習と環境/社会との関係を検討します。また、ことばとアイデンティティについて内省する目がもてるようになることを目指します。

★「日本語学習を考える2」では、具体的な事例（ケース）をもとに、より社会的および実践的なテーマについて考えます。

授業の到達目標: 人々がどのようにことばを学んでいるのか知り、言語学習について理解を深める。また、言語学習と社会との関係を考察し、自分自身の言語学習と社会との関係について内省する目がもてるようになることを目指します。

また日本語教育におけるいくつかのトピックについて、社会との関係を日本語学習および共生の視点から考えます。

事前・事後学習の内容: 事前課題：なし
事後課題：授業で学んだことを毎回、「振り返り」としてmoodleに記入します（所要時間20分程度）

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 講義８ ことばの教育とジェンダー
講義９ 日本文化とステレオタイプ（1）
講義１０ 日本文化とステレオタイプ（2）
講義１１ 多文化共生の場としての地域の教室
講義１２ 媒介語の使用
講義１３ 母語話者教師と非母語話者教師の協働
講義１４ まとめ＋ディスカッション

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に定めません。必要な資料は授業で配布します。

参考文献: 授業の中でその都度、紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 試験はありません

レポート: 50 期末レポート50%

平常点評価: 50 ディスカッションへの参加20%＋毎回の授業後のミニレポート30%

備考・関連URL: 毎回の授業ではグループで話し合う活動があります。
積極的に参加してください。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010062|01|9S11010062[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	複言語社会を知る　1		
担 当 教 員	宮崎　里司		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　グローバル化、情報化の進展とともに、私たちが暮らす社会は複雑かつ多様化しています。そして、そのような現代社会を理解するには、「複言語・複文化社会」「共生社会」といった言葉がキーワードとなっています。「複言語社会を知る1，2」では、多様な背景をもつ人々が十全なやりとりを行い、豊かな関係性を築くためには、どのような事柄が必要であり、私たちがどのような態度を持つべきかを、日本語教育の視点から考えます。ここで想定される多様な背景をもつ人々とは、日本語非母語話者のみではありません。考え方や価値観の異なる周囲の全ての人々を意味し、それらの人々が共に生きるためのことば、コミュニケーションが視野に入ります。この科目では、上記の関心を社会というマクロなコミュニティにおけることばの使用を軸として考えます。海外を含め、様々な言語事例から、現代日本社会の言語や言語習得環境について考え、その特徴を理解します。

授業の到達目標：　・身近な言語使用・言語環境を分析的にみる目がもてるようになる。
・ことばの使用に反映される考え方や価値観をとらえ、複文化・複言語社会のあり方について考える。

事前・事後学習の内容：　事前課題：身の回りにあることばや文化に関する事例について報告、議論してもらいます。指定する資料等を読み、理解してくることが求められます。
事後課題：振り返りシートの提出が課されます。 見込まれる時間は、およそ2時間を目安とする。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　第1回　オリエンテーション
本講義の目的、概要、進め方、評価等について説明する
複言語・複文化社会と多言語・多文化社会
第2回　移民先進国の事例を見る　アメリカ・ヨーロッパ
第3回　移民先進国の事例を見る　オーストラリア
第4回　国勢調査から見る移民社会の言語意識
第5回　在日外国人の言語問題
第6回　日本語教育と複言語・複文化社会1
第7回　日本語教育と複言語・複文化社会2

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書はありません。
授業では、Zoomの画面共有機能で教材を提示し、ディスカッション等も進めます。教室でZoomに接続できるデバイスを持参してください。

参考文献：　授業中に随時紹介します。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　実施しません

レポート：　20　活動後のミニレポート

平常点評価：　60　振り返りシート30%、授業への貢献度30%

その他：　20　事前課題

備考・関連URL：　上記の授業形態、および授業内容については、学習環境や履修者数により変更する場合があります。
「複言語社会を知る1」と「複言語社会を知る2」の内容は異なります。それぞれの科目で履修登録をしてください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010063|01|9S11010063[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	複言語社会を知る ２		
担 当 教 員	宮崎 里司		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: グローバル化、情報化の進展とともに、私たちが暮らす社会は複雑かつ多様化しています。そして、そのような現代社会を理解するには、「複文化・複言語社会」「共生社会」といった言葉がキーワードとなっています。「複言語社会を知る1，2」では、多様な背景をもつ人々が十全なやりとりを行い、豊かな関係性を築くためには、どのような事柄が必要であり、私たちがどのような態度を持つべきかを、日本語教育の視点から考えます。ここで想定される多様な背景をもつ人々とは、日本語非母語話者のみではありません。考え方や価値観の異なる周囲の全ての人々を意味し、それらの人々が共に生きるためのことば、コミュニケーションが視野に入ります。この科目では、上記の関心を個人／個人間というミクロなコミュニティにおけることばの使用を軸として考えます。さまざまな外国人就労者を中心に、そうした人々が置かれている環境の中で、日本語教育の支援の方法を考えます。「複言語・複文化」に対する理解を深めます。

授業の到達目標: ・日本社会に在住する、身近な外国人の、複言語・複文化問題を考える。
・そうした人々への支援の方法について、日本語教育をキーワードにした支援について、専門的な方策を考える。

事前・事後学習の内容: 事前課題：身の回りにあることばや文化に関する事例について報告、議論してもらいます。指定する資料等を読み、理解してくることが求められます。
事後課題：ふりかえりシートの提出が課されます。見込まれる時間は、およそ2時間を目安とする。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1回 複文化・複言語社会と外国人就労者１
第2回 複文化・複言語社会と外国人就労者２
第3回 アウトリーチ支援と日本語教育１（公立中学校夜間学級）
第4回 アウトリーチ支援と日本語教育２（外国人被収容者（成人・少年））
第5回 専門分野別日本語教育（介護・看護）
第6回 専門分野別日本語教育（外食・接客）
第7回 国家資格「日本語教員」試験と複文化・複言語社会関連領域

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教科書はありません。
授業では、Zoomの画面共有機能で教材を提示し、ディスカッション等も進めます。教室でZoomに接続できるデバイスを持参してください。

参考文献: 授業中に随時紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	実施しません
レポート:	20	活動後のミニレポート
平常点評価:	60	振り返りシート30%、授業への貢献度30%
その他:	20	事前課題

備考・関連URL: 上記の授業形態、および授業内容については、学習環境や履修者数により変更する場合があります。
「複言語社会を知る1」と「複言語社会を知る2」の内容は異なります。それぞれの科目で履修登録をしてください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010064|01|9S11010064[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	複言語社会を作る 1		
担 当 教 員	井上 直美		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

この科目では、多様な言語的・文化的背景をもつ人々が増加する日本社会において、共生社会をいかに実現していくかについて考えます。
講義に加え、統計資料、文献などを通して、日本国内の状況を知り、その課題について理解を深めます。
特に、日本語教育との関連に注目し、複言語社会の形成において日本語教育が果たす役割について検討することを目的とします。

それぞれのトピックについて、知識や情報を確認した後、グループワークやグループディスカッションをします。
グループでの意見交換の際には、肯定的な意見だけでなく、批判的な視点を持って、積極的に発言することが求められます。
第7回の授業終了時に最終レポート課題を課します。
講義および話し合いを通して深めた自身の考えをまとめると同時に、
各自が授業外で調べた事項も加えたレポートを提出してください。

授業の到達目標: (1)日本における複文化・複言語化や多文化・多言語化の現状について、身近なことがらに目を向けて考えることができる。
(2)外国人に関する日本の政策について、理解できる。
(3)多様化する日本社会における日本語教育の役割について考えることができる。

事前・事後学習の内容: 事前課題として指定する文献や資料を読み、理解してくることが求められます。
事後課題としてリフレクションシートの記入が求められます。
各課題の所要時間は30分～1時間程度を目安としてください。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

授業計画フリー:

第1回 オリエンテーション、「外国人」とは誰か
この授業の進め方、目標、評価について、「外国人」という語について考える

第2回 日本にいる外国人の「数」や「分布」、その変化を知る
在留外国人について、データから読み取る

第3回 在留資格から見る「制度としての外国人」
資格や制度について理解する

第4回 必要とされている支援
言語、仕事、教育、住宅、医療など事例から見る

第5回 日本語を学ぶ人々と日本語教育の制度
教育機関や日本語教育人材について知る

第6回 複言語社会とは何か
「複言語」について知り、コミュニケーションについて考える

第7回 複言語化する日本社会における日本語教育の役割
まとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教科書はありません。各授業回用に資料を配付します。

参考文献: 授業中に随時、紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験:	0	試験は実施しない
レポート:	30	まとめのレポート
平常点評価:	70	各回のふりかえりシート30%、事前課題20%、授業への貢献度20%
その他:	0	特になし
備考・関連URL:	＊上記授業形態、および授業内容については、学習環境や履修者数により変更する場合があります。 ＊「複言語社会を作る1」は「複言語社会を作る2」と連動していますが、異なる内容です。それぞれ履修登録してください。	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010065|01|9S11010065[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	複言語社会を作る ２		
担 当 教 員	井上 直美		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

この科目では、「複言語社会を作る1」に続き、
日本語母語話者と多様な言語的・文化的背景をもつ人々が、
どのように共生社会を構築していくかについて日本語教育をキーワードに考えます。

(1)「複言語」とは何か
自分自身の言語学習経験および複言語状況を振り返ることで、「複言語」について改めて考えを深めます。

(2) 日本語教育の実際
時代とともに変化し続ける日本語教育の実情を捉え、これからの日本語教育について考えます。

それぞれのトピックについて、知識や情報を確認した後、グループワーク、グループディスカッションをします。
グループでの意見交換の際には、肯定的な意見だけでなく、批判的な視点を持って、積極的に発言することが求められます。
第7回の授業終了時に最終レポート課題を課します。
講義および話し合いを通して深めた自身の考えをまとめると同時に、授業内容を踏まえ、各自が授業外で調べた事項も加えたレポートを提出してください。

授業の到達目標:

・日本国内の日本語教育の変遷と現状を知る。
・自分自身の複言語状況について理解する。
・複言語社会を作るためのこれからの日本語教育について考える。

事前・事後学習の内容:

事前課題として指定する文献や資料を読み、理解してくることが求められます。
事後課題としてふりかえりシートの記入が求められます。
各課題の所要時間は30分～1時間程度を目安としてください。

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回 オリエンテーション、共存と共生
この授業の進め方や評価について、共存と共生について

第2回 言語学習および個人の言語資源
自らの持つことばについて振り返る

第3回 異文化とコミュニケーション
ことばと文化、わかりやすく伝える方法

第4回 日本語教育の実際を知る①生活者
日本語教室の事例

第5回 日本語教育の実際を知る②留学生
日本語学校事例

第6回 日本語教育の実際を知る③児童生徒
公立小中学校の事例

第7回 複文化複言語教育としての日本語教育のこれから まとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教科書はありません。各授業回用に資料を配付します。

参考文献:	授業中に随時、紹介します。	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	0	試験は実施しない
レポート:	30	まとめのレポート
平常点評価:	70	各回のふりかえりシート30%、事前課題20%、授業への貢献度20%
その他:	0	特になし
備考・関連URL:	＊上記授業形態、および授業内容については、学習環境や履修者数により変更する場合があります。 ＊「複言語社会を作る2」は「複言語社会を作る1」と連動していますが、異なる内容です。それぞれ履修登録してください。	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010066|01|9S11010066[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本語を集める 1		
担 当 教 員	鄭 在喜		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「日本語を集める1,2」では、日本社会で実際に使われている日本語のバリエーションを収集し、分析することで、言語の変化や社会的要因との関連を明らかにします。
同じ日本語でも、話者の年齢や性別、地域、社会的背景によって異なる特徴を持ちます。また、アニメやドラマなどのメディアにおける日本語表現と、実際の会話の違いも重要な考察対象となります。
本授業では、日本語の多様な使用例を検討し、その違いを生み出す要因について考察するとともに、日本語教育との関連についても議論します。
さらに、韓国語との対照言語学的視点を取り入れ、日本語との比較を通じて、言語の多様性がどのように形成されるのかを探求します。

授業の到達目標: ・地域、年齢、性別等による言葉の違いに気づき、その要因について考察できるようになる。
・様々なメディアで使われている日本語の特徴について気づき、その要因について考察できるようになる。
・社会と言語の関係や、日本語の様々なバリエーションと日本語教育との関わりについて考えることができるようになる。
・日本語と韓国語の言語体系の違いや共通点を比較しながら、対照言語学的な視点を理解できるようになる。

事前・事後学習の内容: ・回によって異なりますが、次回授業のための予習課題（20分程度）が出る場合があります。
・毎回授業終了時に振り返りシートを書いてもらいます。回によっては宿題になる場合があります。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション（本講義の目的と概要）

・本講義の目的と概要について説明します。・日本語のバリエーションを概観します。

第2回 ジェンダーと言語

・話し手のジェンダー、年齢・世代によって、使用される日本語に違いが見られます。どのような日本語が使われているかを観察し、その要因について考えます。
・日本語と韓国語におけるジェンダー表現の違いを考察し、社会規範との関連について考えます。

第3回 方言の特徴と変化

・様々な地域で使われている日本語（地域方言）、様々なグループ内で使われている日本語（社会方言）について考えます。・方言、共通語、標準語について考えます。

第4回 若者ことばと新語

・アニメやドラマなどに登場する人物は、そのキャラクターによって、使用される日本語に違いが見られます。また、その日本語は、実生活で使われる言葉とも異なる特徴をもちます。どのような違いや特徴があるかを観察し、その要因について考えます。
・日本と韓国の若者言葉の形成過程についても考えます。

第5回 場面と日本語

・場面や状況により、同じ話し手が使用する日本語に違いが見られることがあります。場面や状況により、どのような使い分けをしているのかを観察し、その要因について考えます。
・日本語と韓国語の敬語の仕組みを比較し、言語文化における対人関係について考えます。

第6回 言葉の変化

・「言葉は変化するもの」であることはよく知られています。ことばの変化について、さまざまな視点から考えます。

第7回 日本語教科書の言葉

・日本語教科書で扱われていることばについて、日本語のバリエーションに焦点を当てて考えます。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: ありません。
教材・資料は適宜、Waseda Moodleにアップロードしますので、プリントアウトする必要はありません。

参考文献: 石黒圭(2013)『日本語は「空気」が決める 社会言語学入門』光文社
金水敏(2011)『役割語研究の展開』くろしお出版

庵功雄（2016）『やさしい日本語』岩波書店
東照二（1997）『社会言語学入門（改訂版）ー生きた言葉のおもしろさに迫る』図書印刷株式会社
日比谷潤子（2012）『はじめて学ぶ社会言語学ーことばのバリュエーションを考える14章ー』ミネルヴァ書房
田中晴美・田中幸子（2015）『よくわかる社会言語学』ミネルヴァ書房
尾崎喜光編（2008）『対人行動の日韓対照研究ー言語行動の基底にあるものー』ひつじ書房

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	試験はありません
レポート:	40	期末レポート
平常点評価:	60	振り返りシート30%：毎回、授業の最後に振り返りシートを提出します。（宿題になる場合もあります） 出席率およびクラス活動への貢献度30%

備考・関連URL: 「日本語を集める1」と「日本語を集める2」は連動しています。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010067|01|9S11010067[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本語を集める ２		
担 当 教 員	鄭 在喜		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「日本語を集める1,2」では、日本社会で実際に使われている日本語のバリエーションを収集し、分析することで、言語の変化や社会的要因との関連を明らかにします。
同じ日本語でも、話者の年齢や性別、地域、社会的背景によって異なる特徴を持ちます。また、アニメやドラマなどのメディアにおける日本語表現と、実際の会話の違いも重要な考察対象となります。
本授業では、日本語の多様な使用例を検討し、その違いを生み出す要因について考察するとともに、日本語教育との関連についても議論します。
さらに、韓国語との対照言語学的視点を取り入れ、日本語との比較を通じて、言語の多様性がどのように形成されるのかを探求します。「日本語を集める2」では、様々な観点から実際に多くのバリエーションを集め、それぞれの使用例について考え、ディスカッションします。
毎回、履修者自身が発題者となります。

授業の到達目標: ・地域、年齢、性別等による言葉の違いに気づき、その要因について考察できるようになる。
・様々なメディアで使われている日本語の特徴について気づき、その要因について考察できるようになる。
・社会と言語の関係や、日本語の様々なバリエーションと日本語教育との関わりについて考えることができるようになる。
・日本語と韓国語の言語体系の違いや、共通点を比較しながら、対照言語学的な観点を理解できるようになる。
・社会とことばの関わりについて自ら調査し、発表・提言することができるようになる。

事前・事後学習の内容: ・回によって異なりますが、次回授業のための予習課題（20分程度）が出る場合があります。
・各自発表（コースの中で1回担当者になる）のための準備は授業時間外に行います。
・発表準備には60分－90分程度かかります。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション(本講義の目的と概要)

・本講義の目的と概要について説明します。
・日本語のバリエーションについて確認します。

第2回 ジェンダーと言語

・話し手のジェンダー、年齢・世代により異なる日本語について、担当者（履修者のうちの数名）が集めてきた例をもとに発表（発題）します。ジェンダー、年齢・世代による言葉の違いやその違いを生み出す要因についてディスカッションします。
・日本語と韓国語におけるジェンダー表現の違いを考察しながら、社会規範との関連についてディスカッションします。

第3回 方言の特徴と変化

・様々な地域で使われている日本語（地域方言）、様々なグループで使われている日本語（社会言語）について、担当者（履修者のうちの数名）が集めてきた例をもとに発表（発題）します。地域方言や社会方言の違いやその違いを生み出す要因についてディスカッションします。

第4回 若者言葉と新語

・アニメ・漫画、ドラマ、小説など、登場人物のキャラクターによって異なる日本語について、担当者（履修者のうちの数名）が集めてきた例をもとに発表（発題）します。役割語の違いやその違いを生み出す要因についてクラスでディスカッションします。
・日本と韓国の若者言葉の形成過程についてディスカッションします。

第5回 場面と日本語

・SNSで使われる言葉について、担当者（履修者のうちの数名）が集めてきた例をもとに、その特徴と、その言葉が生まれた背景や多くの人に使われるようになった要因について、発表（発題）します。それをもとにクラスでディスカッションします。
・日本語と韓国語の敬語の仕組みを比較し、言語文化における対人関係についてディスカッションします。

第6回 発表①
・担当者が日本語のバリエーションについて調べてきたことを発表します。引き続きクラスでディスカッションを行います。
第7回 発表②
・担当者が日本語のバリエーションについて調べてきたことを発表します。引き続きクラスでディスカッションを行います。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: ありません。
教材・資料は適宜、Waseda Moodleにアップロードしますので、プリントアウトする必要はありません。

参考文献: 石黒圭(2013)『日本語は「空気」が決める 社会言語学入門』光文社
金水敏(2011)『役割語研究の展開』くろしお出版
庵功雄(2016)『やさしい日本語』岩波書店
東照二(1997)『社会言語学入門(改訂版)ー生きた言葉のおもしろさに迫る』図書印刷株式会社
日比谷潤子(2012)『はじめて学ぶ社会言語学ーことばのバリュエーションを考える14章ー』ミネルヴァ書房
田中晴美・田中幸子(2015)『よくわかる社会言語学』ミネルヴァ書房
尾崎喜光編(2008)『対人行動の日韓対照研究ー言語行動の基底にあるものー』ひつじ書房

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 0 試験はありません。

レポート: 30 期末レポート(コースの中で発表した内容を,最後にまとめて提出します)

平常点評価: 40 出席率およびクラス活動への貢献度(ディスカッションへの参加など)

その他: 30 発表:コースの中で1回、発題者として、テーマを決めて発表をします。発表後にフォーラムに書き込む感想も評価対象になります。

備考・関連URL: 「日本語を集める1」と「日本語を集める2」は連動しています。
従って、「日本語を集める2」の受講前に、「日本語を集める1」を受講していることが望ましいです。
「日本語を集める1」を受講していない場合は、予め上記の参考文献に目を通しておいてください。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010068|01|9S11010068[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	日本語を見る　1		
担 当 教 員	井下田　貴子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

「日本語を見る1，2」では，コミュニケーションにおいて視覚化されることのない音声の構造や機能を理解し，日本語での音声コミュニケーションについて見る目を養います。
「日本語を見る1」では、主に日本語の音声を記述・可視化させることにより，「構造」について理解します。

授業の到達目標：

・「音声学」に関する基礎的な事項を理解する。
・「音声学」の観点から，日本語による音声コミュニケーションについて考えられるようになる。

事前・事後学習の内容：

・授業前に事前課題として，指定した文献の事前読了や予習課題（30分程度）が課せられることがあります。
・最終課題準備（60～90分程度）は授業時間外に行います。
・授業終了時に行う振り返りシートの記入は，宿題となることがあります。

授業計画フリー入力サイン：

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

第1回　オリエンテーション，「音声」とは何か

第2回　日本語の音声構造（1）

第3回　日本語の音声構造（2）

第4回　音声を記述・可視化する（1）

第5回　音声を記述・可視化する（2）

第6回　音声の社会的機能

第7回　課題発表（受講者の人数によっては課題は提出のみとし、全体の振り返り等を行う場合があります）

＊受講者の人数によって，内容を変更する場合があります。
＊スケジュールの内容や順番は変更になることがあります。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書はありません。

参考文献：　適宜指示します。

成績評価フリー入力サイン：

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：

・平常点：50%（出席20%、振り返りシート30%）
・課題（ワークシート、ミニ発表等）　20%
・最終課題（発表を含む）30%

備考・関連URL：

・この授業は講義科目であるため原則講義という形態を取りますが、受講者数によってはゼミ形式を取り、少人数での話合いやミニ発表も実施することがあります。
・「日本語を見る1」と「日本語を見る2」は連動しています。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010069|01|9S11010069[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本語を見る ２		
担 当 教 員	井下田 貴子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

「日本語を見る1，2」では，コミュニケーションにおいて視覚化されることのない音声の構造や機能を理解し，日本語での音声コミュニケーションについて見る目を養います。
「日本語を見る2」では、音声の「社会的機能」に着目し，音声コミュニケーションについて考えます。また，実際に音声分析ソフトを用いて音声を可視化し，分析を行います。

授業の到達目標:

・音声が持つ意味や印象を作る仕組みを理解し，音声コミュニケーションについて考えられるようになる。
・音声分析ソフトを用いて音声の簡単な分析ができるようになる。

事前・事後学習の内容:

・授業前に事前課題として，指定した文献の事前読了や予習課題（30分程度）が課せられることがあります。
・最終課題準備（60～90分程度）は授業時間外に行います。
・授業終了時に行う振り返りシートの記入は，宿題となることがあります。

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回 オリエンテーション，音声は何を伝えているのか

第2回 アクセント／イントネーション／プロミネンス

第3回 音声を可視化・分析する

第4回 感情と音声

第5回 対人印象と音声

第6回 日本語教育と音声の社会的側面

第7回 課題発表（受講者の人数によっては課題は提出のみとし、全体の振り返り等を行う場合があります）

*音声分析ソフトを使用するため，PCを必ず持参してください。

＊ 受講者の人数によって，内容を変更する場合があります。
＊ スケジュールの内容や順番は変更になることがあります。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教科書はありません。

参考文献: 適宜指示します。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:

・平常点：50%（出席20%、振り返りシート30%）
・課題（ワークシート、ミニ発表等） 20%
・最終課題（発表を含む） 30%

備考・関連URL:

この授業は講義科目であるため原則講義という形態を取りますが、受講者数によってはゼミ形式を取り、少人数での話合いやミニ発表も実施することがあります。
「日本語を見る1」と「日本語を見る2」は連動しています。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010070|01|9S11010070[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本語学習者を支援する 1		
担 当 教 員	木下 直子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「日本語学習を支援する1」では、日本語学習者の自律学習を促進する支援の基礎として、学習者理解に基づく支援の考え方を学ぶことを目的とします。授業では、日本語教育における学習段階の特徴や「やさしい日本語」の考え方を学習者理解の枠組みとして位置づけ、日本語学習者の多様な背景・ニーズ・学習過程を捉える視点を養います。さらに、身近な日本語学習者へのインタビューを通して、学習者が直面する課題やその背景を分析し、学習アドバイジングの視点から個々の学習者に適した支援のあり方について考察します。本講義を通して、日本語学習を多角的に理解し、学習者の自律的な学びを支えるための基礎的な知識と実践的視点を身につけることを目指します。

授業の到達目標: 1. 日本語教育における学習段階、「やさしい日本語」の考え方を学習者理解の枠組みとして理解し、説明できる。
2. 日本語学習者へのインタビューを通して、学習者が直面する課題や背景を分析できる。
3. 学習アドバイジングの視点から、学習者の自律学習を支える支援のあり方について考察できる。

事前・事後学習の内容: 回によって異なりますが、概ね30分から1時間程度の事前・事後学習が求められます。
・事前学習：インタビューをする、資料を読む、自分の考えをまとめるなどのタスクがあります
・事後学習：毎回授業後に、何を学んだかについてレビューシートに記入します

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 授業概要・日本語学習者支援とは
コースの説明、日本語学習者支援・自律学習とは
事前学習: シラバスを読む
事後学習: ふり返り記入、日本語の学習段階を調べる

第2回 日本語教育の学習段階
学習段階における課題
事前学習: 調べた学習段階を整理する
事後学習: ふり返り記入、「やさしい日本語」について調べる

第3回 「やさしい日本語」と学習者への配慮
やさしい日本語の基本
事前学習: 調べた内容を整理する
事後学習: ふり返り記入

第4回 日本語学習者へのインタビューを考える
インタビュー設計
事前学習: 資料を読む
事後学習: ふり返り記入

第5回 日本語学習アドバイジング1
事例の検討1
事前学習: 事例を読み、対応を考える
事後学習: ふり返り記入、ポスター発表の準備をする

第6回 日本語学習アドバイジング2
事例の検討2
事前学習: 事例を読み、対応を考える
事後学習: ふり返り記入、ポスター発表準備

第7回 ポスター発表
インタビューの結果をまとめる
事前学習: インタビューからわかったことをまとめる
事後学習: ふり返り記入、レポートを書く

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 木下直子・黒田史彦・トンプソン美恵子（2024）『日本語学習アドバイジング―自律性を育むための学習支援』ひつ

	じ書房
参考文献:	授業時に、適宜紹介する
成績評価フリー入力サイン:	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	20	レポート20%
平常点評価:	60	授業参加度10%、課題30%、ふり返り20%
その他:	20	ポスター発表20%

備考・関連URL: ＊ディスカッションや発表を取り入れた対話型・問題発見・解決型教育を行います。
わせだ日本語サポート https://www.waseda.jp/inst/cjl/students/support/waseda/
日本語教育研究センター https://www.waseda.jp/inst/cjl/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010071|01|9S11010071[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本語学習者を支援する ２		
担 当 教 員	木下 直子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「日本語学習を支援する2」では、日本語学習者が直面する学習上の課題を理解し、学習者の自律学習を支える支援のあり方について学びます。授業では、自律的な学びを促すためのリソースの企画・作成に取り組み、ペアやグループでの検討や実践を通して理解を深めます。最終的には、日本語学習支援を多角的な視点から考える力を養い、得られた知見を自身の学習や身近な日本語学習者の支援に活かすことを目指します。

授業の到達目標: 1. 日本語学習者のニーズや課題を分析できる
2. 自律学習を促進する学習リソースが提案できる
3. 日本語学習支援について多角的な視点から考えることができる

事前・事後学習の内容: 回によって異なりますが、概ね30分から1時間程度の事前・事後学習が求められます。
・事前学習：事例から対応を検討するタスクがあります
・事後学習：毎回授業後に、学んだこと、考えたことについてふり返りシートに記入します

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ガイダンス
ぺらぺらになりたい！ ー問題の所在を明確化する
事前学習: シラバスを読む
事後学習: 学習スタイル回答・ふり返りシート記入

第2回 調査内容の検討
発音が伝わらない ー学習スタイルの影響
事前学習: 事例を読む
事後学習: 調査実施・ふり返りシート記入

第3回 学習リソースの企画1
調査報告および学習リソースの企画事前学習： 調査結果をまとめる
事後学習： ふり返りシート記入

第4回 学習リソースの企画2
学習リソースを検討する
事前学習: 学習リソースの作成に必要な情報を得る
事後学習: ふり返りシート記入

第5回 学習リソースの企画3
学習リソースを検討・整理する
事前学習: 学習リソースを作成する
事後学習: ふり返りシート記入

第6回 ポスター発表
作成した学習リソースを発表する
事前学習: 発表資料をまとめる
事後学習: ふり返りシート記入

第7回 総括・ふり返り
求められる学習者支援を考える事前学習：資料を読む
事後学習：レポートを作成する

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 木下直子・黒田史彦・トンプソン美恵子（2024）『日本語学習アドバイジング ー自律性を育むための学習支援』ひつじ書房

参考文献: 授業時に、適宜紹介する

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	20	最終レポート20%
平常点評価:	40	授業への参加度10%、ふり返りシート30%
その他:	20	発表（学習リソースの企画・提案）20%

備考・関連URL: わせだ日本語サポート https://www.waseda.jp/inst/cjl/students/support/waseda/
日本語教育研究センター https://www.waseda.jp/inst/cjl/

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010072|01|9S11010072[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	日本語教師を養成する　1		
担 当 教 員	大舩　ちさと		
開 講 学 期	秋クォーター	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　「日本語教師を養成する1・2」では，第二言語/外国語としての日本語を教える教師をどのように養成するかを考えるため、日本語教師の成長のプロセスや必要な資質・能力について取り上げます。
本科目（「日本語教師を養成する1」）では，日本語学習者と日本語教師を取り巻く状況を概観し，学習プログラムデザインについて検討します。

この授業は，第二言語/外国語としての日本語や他の言語を教えた経験のある人や日本語教師の仕事に関心のある人を対象にしています。

授業は，講義のほか，グループワークを取り入れた形式で実施します。
例えば，グループで討論する，クラスメイトと協働して課題を達成する，自身の意見やアイディアをファイルに記録するなどを行います。
このような活動に主体的・積極的・協働的に参加することを、履修の要件とします。

※本科目と「日本語教師を養成する2」（冬クォーター開講）は連動科目です。両科目の連続受講をお薦めします。

授業の到達目標：　1. 国内外の日本語学習者の置かれている現状を把握する。
2. 日本語教師に求められる資質・能力および教師の役割を説明することができる。
3. 教材や教案の作成・分析を体験し，具体的な状況において応用できる。

事前・事後学習の内容：　毎回、授業後にふりかえりを整理し、提出します。最大で30分程度かかると想定されます。
毎回ではありませんが、事前課題・事後課題があり，30分～60分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　第1回：オリエンテーション，イントロダクション，好きな語学の授業・語学の教師
〔観点1〕日本語学習者と日本語教師
第2回：日本語学習者を知る（講義）
第3回：日本語教師という職業（1）（講義・討論）
第4回：日本語教師という職業（2）（講義・討論）

〔観点2〕学習プログラムをデザインする
第5回：日本語教材を知る（講義・討議）
第6回：日本語学習プログラムをデザインする（1）（グループワーク）
第7回：日本語学習プログラムをデザインする（2）（グループ発表）

＊予定は変更する場合があります。

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書：　・教材は授業中に（教室もしくはMoodleで）配付します

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　レポート　30%（課題について適切に答えられているかどうかを評価する）
平常点　50%（ふりかえり 20%，出席およびクラス活動への貢献度30%）
その他　20%（発表20%）
＊試験はありません

備考・関連URL：　・受講にあたって何か質問等がある場合には、大舩までメールで連絡してください。
c.ofune@waseda.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010073|01|9S11010073[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本語教師を養成する ２		
担 当 教 員	大舩 ちさと		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「日本語教師を養成する1・2」では，第二言語/外国語としての日本語を教える教師をどのように養成するかを考えるため、日本語教師の成長のプロセスや必要な資質・能力について取り上げます。
本科目（「日本語教師を養成する2」）では，自分たちでデザインした学習活動の模擬授業を行いながら、専門家としての熟達のプロセスについて検討します。

この授業は，第二言語/外国語としての日本語や他の言語を教えた経験のある人や日本語教師の仕事に関心のある人を対象にしています。

授業は，講義のほか，グループワークを取り入れた形式で実施します。
例えば，グループで討論する，クラスメイトと協働して課題を達成する，自身の意見やアイディアをファイルに記録するなどを行います。
このような活動に主体的・積極的・協働的に参加することを、履修の要件とします。

※本科目と「日本語教師を養成する1」（秋クォーター開講）は連動科目です。両科目の連続受講をお薦めします。

授業の到達目標: 1．自身の授業実践を多面的に内省し，課題を見つけることができる。
2．自身の授業実践を改善するために，授業の客観的な把握ができる。
3．自身の授業実践を改善するための具体的な提案を行うことができる。
4．自身の一連の学びを内省し，専門職としての日本語教師の成長についての理解を深めることができる。

事前・事後学習の内容: 毎回、授業後にふりかえりを整理し、提出します。最大で30分程度かかると想定されます。
毎回ではありませんが、事前課題・事後課題があり，30分～60分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 第1回：オリエンテーション，日本語の教え方について考える①（講義）

〔観点3〕学習活動をデザインする
第2回：日本語の教え方について考える②（講義・討議）
第3回：学習活動デザイン ①（教案・教材作成）
第4回：学習活動デザイン ②（模擬授業）
第5回：学習活動デザイン③（ふりかえりと改善）

〔観点4〕日本語教師の成長モデル
第6回：日本語教師に求められる資質・能力
第7回：専門家の熟達モデル
＊予定は変更する場合があります。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: ・教材は授業中に（教室もしくはMoodleで）配付します

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: レポート 30%（課題について適切に答えられているかどうかを評価する）
平常点 50%（ふりかえり 20%，出席およびクラス活動への貢献度30%）
その他 20%（発表20%）
＊試験はありません

備考・関連URL: ・受講にあたって何か質問等がある場合には、大舩までメールで連絡してください。
c.ofune@waseda.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010074|01|9S11010074[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	複言語社会を考える 1		
担 当 教 員	寅丸 真澄		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「複言語社会を考える1,2」では，多様な背景をもつ人々が共に暮らす社会の中で，ことばと社会，そしてコミュニケーションに関する事象を日本語教育の視点から考えます。
社会がグローバル化している現代では，ことば・文化・社会の異なる国や地域から来た人々とコミュニティを形成したり，一緒に働いたりする機会が増えています。多様な人々と共生していくためには，ことば・文化・社会と私たちとの関わりやその多様性を理解し，尊重していくことが重要になります。
授業では，人とことばの関わりについて振り返るとともに，多様化が進む社会の一端を知り，そこでどのような問題が生じているのか理解を深めます。そして，急速なグローバル化とともに，多様な言語接触やコンフリクトが起こりうる現代社会において，私たちがどのように相互理解を果たし，共生していくのかという複言語複文化社会における課題について，ディスカッションやケース・スタディ等を通して考えていきます。
この授業で取り上げる概念や言語事象は，他者と共生する私たち全てにとって身近なものです。それらに対する理解を深め，知見を日常生活に役立ててください。
なお，「複言語社会を考える1」と「複言語社会を考える2」は異なる科目ですが，内容が密接に関わっていますので，2科目を連続履修することをお勧めします。連続履修する場合は，別々に履修登録をしてください。

授業の到達目標: (1)ことばと社会・文化の関係性，およびコミュニケーションに関わる言語事象について知識を深める。
(2)異文化理解や異文化間コミュニケーションの問題を自身の言語環境と結びつけて理解する。
(3)複言語複文化社会のあり方について多様な視点から議論し，これからの複言語社会を考える。

事前・事後学習の内容: 授業後にコメントシートの記入があります。また，授業で紹介する関連資料等を読み，授業内容の予習・復習をしてください。授業外学習には30分から1時間程度が必要です。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション，複言語複文化社会とは何か

ことばと文化の関係性に触れながら，複言語複文化社会とはどのような社会なのかを身近な例から学びます。

第2回 ことばの発達

ことばの発達とともにアイデンティティが形成され，個人の言語文化が形成されていく過程を振り返ります。

第3回 ことばと社会

ことばが人と人を結び付けてコミュニティを形成し，その町や場独自の人間関係や言語景観を生み出していることを確認します。

第4回 コミュニケーションの方法

複言語複文化社会ではどのような言語・非言語コミュニケーションや文字・音声コミュニケーションが行われているのか検討します。

第5回 コミュニケーションギャップとストラテジー

異文化の人々の間で生じるコミュニケーションギャップやその原因，それらを克服するための方策について考えます。

第6回 ステレオタイプとコンフリクト

異文化の人々の間で生じるステレオタイプやコンフリクトの原因，それらを克服するための方策について考えます。

第7回 発表

複言語複文化社会の課題についてグループ内で発表し合い，それぞれの社会が抱える問題についてディスカッションを行います。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教科書はありません。各授業回で資料を配付します。

参考文献:	授業中に随時紹介します。	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	

試験:	0	ありません。
レポート:	15	複言語複文化社会に関わる自由課題のレポート:15%
平常点評価:	45	出席・授業参加度:45%
その他:	40	複言語複文化社会に関わる自由課題のプレゼンテーション:15% コメントシート:25%

備考・関連URL: (1)上記授業形態，および授業内容については，学習環境や履修者数により変更する場合があります。
(2)「複言語社会を考える1」と「複言語社会を考える2」の内容は異なります。それぞれの科目で履修登録をしてください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010075|01|9S11010075[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	複言語社会を考える ２		
担 当 教 員	寅丸 真澄		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「複言語社会を考える1,2」では，多様な背景をもつ人々が共に暮らす社会の中で，ことばと社会，そしてコミュニケーションに関する事象を日本語教育の視点から考えます。
社会がグローバル化している現代では，ことば・文化・社会の異なる国や地域から来た人々とコミュニティを形成したり，一緒に働いたりする機会が増えています。多様な人々と共生していくためには，ことば・文化・社会と私たちとの関わりやその多様性を理解し，尊重していくことが重要になります。
授業では，人とことばの関わりについて振り返るとともに，多様化が進む社会の一端を知り，そこでどのような問題が生じているのか理解を深めます。そして，急速なグローバル化とともに，多様な言語接触やコンフリクトが起こりうる現代社会において，私たちがどのように相互理解を果たし，共生していくのかという複言語複文化社会における課題について，ディスカッションやケース・スタディ等を通して考えていきます。
この授業で取り上げる概念や言語事象は，他者と共生する私たち全てにとって身近なものです。それらに対する理解を深め，知見を日常生活に役立ててください。

なお，「複言語社会を考える1」と「複言語社会を考える2」は異なる科目ですが，内容が密接に関わっていますので，2科目を連続履修することをお勧めします。連続履修する場合は，別々に履修登録をしてください。

授業の到達目標: (1)ことばと社会・文化の関係性，およびコミュニケーションに関わる言語事象について知識を深める。
(2)異文化理解や異文化間コミュニケーションの問題を自身の言語環境と結びつけて理解する。
(3)複言語複文化社会のあり方について多様な視点から議論し，これからの複言語社会を考える。

事前・事後学習の内容: 授業後にコメントシートの記入があります。また，授業で紹介する関連資料等を読み,授業内容の予習・復習をしてください。授業外学習には30分から1時間程度が必要です。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション，グローバル化社会における言語接触
本講義の目的と概要について説明します。グローバル社会における言語選択や言語レパートリーについて学びます。
第2回 グローバル化社会と言語発達

バイリンガリズムとは何か，複言語複文化社会ではどのようなバイリンガル教育が行われているのか学びます。
第3回 移動する人々

複言語複文化社会における留学生，就労者，生活者の動向について学びます。
第4回 キャリアの多様性

環境・人材・仕事・将来といった観点から多様な社会におけるキャリアについて考えます。
第5回 複言語複文化社会におけるマイクロアグレッション
日常生活に潜むマイクロアグレッションとは何か，その留意点と対処方法について考えます。
第6回 複言語複文化社会におけるコミュニティ問題

複言語複文化社会のコミュニティ（学校・職場・地域等）が抱える問題について考えます。
第7回 発表
複言語複文化社会における課題とその改善・解決策についてグループ内で発表し合い，ディスカッションします。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教科書はありません。各授業回で資料を配付します。

参考文献:	授業中に随時紹介します。
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	ありません。
レポート:	15	複言語複文化社会に関わるレポート:15%
平常点評価:	45	出席，授業参加度:45%
その他:	40	複言語複文化社会に関わるグループ発表:15% コメントシート:25%

備考・関連URL: (1)上記授業形態，および授業内容については，学習環境や履修者数により変更する場合があります。
(2)「複言語社会を考える1」と「複言語社会を考える2」の内容は異なります。それぞれの科目で履修登録をしてください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010076|01|9S11010076[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	複言語社会を生きる 1		
担 当 教 員	福島 青史		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 複言語主義について

授業概要:

「複言語社会を生きる1」では、多様な背景をもつ人々が共に暮らす社会の中で、どのように暮らしているのかに関する事象を日本語教育の視点から考えます。
　この授業では「複言語社会を生きる人」とは、日本人と外国人を問わず、「共に生活する人」を指します。もちろん、日本語が支配的な日本という社会において日本人と外国人は異なり、日本人はマジョリティ、外国人はマイノリティという立場にあります。ただ、このような言語的な差異を乗り越える考えとして「複言語主義」があります。「複言語社会を生きる1」では、複言語主義の政策的な意義について、CEFR、Language Portrait、Profile of Language, DIEなどを使いながら学びます。

授業中に教室活動があり、その結果について受講者同士でディスカッションしたり、発表したりすることもあります。また、クオーターに一つ課題（宿題）もあり、その結果についてもディスカッション、発表することもあります。「複言語社会を生きる1」と「複言語社会を生きる2」は、独立した科目ですが、緩やかに連動しています。2を履修する人は1を履修することをお勧めします。

授業の到達目標: ・複言語主義の政策的な意図がわかる
・複言語主義に基づく言語のありかたを考えることができる

事前・事後学習の内容: ・授業の後にふりかえりを書く活動があります。10-15分程度
・クオーターに一つ課題（宿題）があります。1-2時間程度

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 複言語社会を生きる-複言語主義を知る
オリエンテーションと複言語主義の政策的意義を学びます。
第2回 複言語状況を記述する（複文化主義政策）
複言語主義について説明し、Language Portraitによりその意義を確認します。（教室活動）
第3回 複言語使用を記述する（CEFRとは）
複言語主義の表現の一つとして領域別_言語活動記述シートを作成します。（教室活動）
第4回 複言語能力を記述する（Candoとは）
Profile of Languageを使って、それぞれの複言語能力を記述します。（教室活動）
第5回 文化能力を考える（CEFRの能力観）
異文化間能力についてCEFRやDIE法を使って理解します。（教室活動）
第6回 課題発表（多言語使用者インタビュー）
「複言語社会に生きる」知人知り合いにインタビューし、その成果を発表します。
第7回 異文化を生きる（ゲストスピーカー）+授業まとめ
ゲストスピーカーを招き講演を聞きます。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教科書はありません。各授業回で資料を配付します。

参考文献: 授業中に随時紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 なし

レポート:	30	複言語主義など言語政策に関わるレポート:30%
平常点評価:	40	振り返り(コメントシート)など
その他:	30	課題(授業内外)提出30%

備考・関連URL: (1)上記授業形態，および授業内容については、履修者数や学習環境により変更する場合があります。
(2)「複数言語社会を生きる1」と「複言語社会を生きる2」の内容は異なります。それぞれの科目で履修登録をしてください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010077|01|9S11010077[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	複言語社会を生きる ２		
担 当 教 員	福島 青史		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 行動中心アプローチについて

授業概要: 「複言語社会を生きる2」では、多様な背景をもつ人々が共に暮らす社会の中で、どのように暮らしているのかに関する事象を日本語教育の視点から考えます。
この授業では「複言語社会を生きる人」とは、日本人と外国人を問わず、「共に生活する人」を指します。もちろん、日本語が支配的な日本という社会において日本人と外国人は異なり、日本人はマジョリティ、外国人はマイノリティという立場にあります。ただ、このような言語的な差異を乗り越える考えとして「複言語主義」があります。
「複言語社会を生きる2」では、複言語主義における言語教育の方法を、行動中心アプローチ（actionoriented approach）に基づき、言語学習ストラテジー、第二言語習得理論などを使いながら学びます。

授業中に教室活動があり、その結果について受講者同士でディスカッションしたり、発表したりすることもあります。
「複言語社会を生きる1」と「複言語社会を生きる2」は、独立した科目ですが、緩やかに連動しています。2を履修する人は1を履修することをお勧めします。

授業の到達目標: ・行動中心アプローチの概要がわかる
・行動中心アプローチに基づく言語教育の計画が作れる
・言語学習ストラテジー、第二言語習得理論に則った言語学習の方法が説明できる。

事前・事後学習の内容: ・授業の後にふりかえりを書く活動があります。10-15分
・クオーターに一つ課題（宿題）があります。1-2時間

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 「できる」とはどういうことか
オリエンテーションおよび言語が「できる」とはどういうことかという点について、実際の日本語学習者の会話を例に検討します。

第2回 複言語を計画する
自分が初めて学ぶ外国語について、JF日本語Can-doを使って学びます。（教室活動）

第3回 複言語を計画する（ディスコース作成）
Candoを可能にするディスコースを作成、教室にある言語資源、ChatGPT、Google翻訳などを利用し作成します。（教室活動）

第4回 言語を学ぶ
言語学習ストラテジー、第二言語習得理論を使って、どのように言語を学ぶのか考察します。

第5回 言語を学ぶ(話す・聞く)
新しい言語を学ぶ体験をし、どのように言語を学ぶ(話す・聞く)かを考察します。

第6回 言語を学ぶ(読む・書く)
新しい言語を学ぶ体験をし、どのように言語を学ぶ(読む・書く)かを考察します。

第7回 異文化を生きる（ゲストスピーカー）+授業まとめ
複言語を生きる人に来てもらい話を聞きます。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教科書はありません。各授業回で資料を配付します。

参考文献: 授業中に随時紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	ありません。
レポート:	30	言語教育（行動中心アプローチ）に関わる自由課題のレポート
平常点評価:	40	振り返り（コメントシート）など
その他:	30	課題（授業内外）提出
備考・関連URL:	（1）上記授業形態、および授業内容については、学習環境や履修者数等により変更する場合があります。 （2）「複言語社会を生きる1」と「複言語社会を生きる2」の内容は異なります。それぞれの科目で履修登録をしてください。	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010078|01|9S11010078[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	敬語コミュニケーション論 1 01		
担 当 教 員	蒲谷 宏		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: この授業では、「敬語コミュニケーション」、およびそれに関連する「敬意コミュニケーション」というものについて考えていきます。そこでは、敬語や敬語表現とともに、コミュニケーションにおける「相互尊重」「丁寧さ」などが中心的な課題となります。敬意コミュニケーションにおける具体的な問題点と、その解決策を明らかにし、敬意コミュニケーションのあり方についても検討していきます。
また、日本語教育に関心のある受講生にとっては、敬語コミュニケーションを考察するための論点、説明のための方法なども学ぶことができます。

授業の到達目標: ・敬語や敬語表現の理解が深まる。

・敬語コミュニケーションにおける問題点とその解決策が明らかになり、敬意コミュニケーションのあり方についての理解が深まる。

・敬語コミュニケーションを考察するための論点が明確になることで、問題点の指摘とその説明が可能になる。

事前・事後学習の内容: ・検討課題に関する、教科書の該当箇所を読んでくる。

・授業での検討を踏まえ、課題について自分の考えをまとめる。

（事前の準備、事後の学習には、60分程度かかります。）

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 敬語・敬語表現に関する具体的な検討課題を扱い、敬語コミュニケーションおよび敬意コミュニケーションの観点から検討していきます。
第1回 授業オリエンテーション 敬語コミュニケーションを考えるための枠組み
第2回 敬語の体系 敬語的性質について考える
第3回 敬語・敬語表現・敬語コミュニケーションの観点から考える（第3回～第6回）
適切な敬語 マニュアル敬語等について考える
第4回 尊敬語・謙譲語の可能形等について考える
第5回 「ウチ・ソト関係」の敬語表現等について考える
第6回 「サセテイタダク」の敬語表現等について考える
第7回 面接場面での敬語表現について考える
事前には、教科書・教材を読み、課題について考えてきてください。事後には、実際の言語生活の中で、敬語コミュニケーション・敬意コミュニケーションについて観察する目を養い、自らの実践につなげていくようにしてください。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 蒲谷宏（2013）『待遇コミュニケーション論』大修館書店
蒲谷宏（2007）『大人の敬語コミュニケーション』筑摩書房（電子書籍版）

参考文献: 蒲谷宏・川口義一・坂本恵（1998）『敬語表現』大修館書店
蒲谷宏編（2010）『敬語コミュニケーション』朝倉書店
蒲谷宏（2014）『敬語マスター』大修館書店
蒲谷宏（2015）『敬語だけじゃない敬語表現』大修館書店
その他の参考文献については、適宜紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 65 検討課題について、理解が深まっているか。

平常点評価: 35 授業に主体的・協同的に参加できていたか。

備考・関連URL:　※本科目は、学術的副専攻「日本語教育学」発展2の科目です。

この授業には、大学院日本語教育研究科の学生たちも、「担当者」として参加します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010078|02|9S11010078[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	敬語コミュニケーション論 1 02		
担 当 教 員	蒲谷 宏		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: この授業では、「敬語コミュニケーション」、およびそれに関連する「敬意コミュニケーション」というものについて考えていきます。そこでは、敬語や敬語表現とともに、コミュニケーションにおける「相互尊重」「丁寧さ」などが中心的な課題となります。敬意コミュニケーションにおける具体的な問題点と、その解決策を明らかにし、敬意コミュニケーションのあり方についても検討していきます。
また、日本語教育に関心のある受講生にとっては、敬語コミュニケーションを考察するための論点、説明のための方法なども学ぶことができます。

授業の到達目標: ・敬語や敬語表現の理解が深まる。

・敬語コミュニケーションにおける問題点とその解決策が明らかになり、敬意コミュニケーションのあり方についての理解が深まる。

・敬語コミュニケーションを考察するための論点が明確になることで、問題点の指摘とその説明が可能になる。

事前・事後学習の内容: ・検討課題に関する、教科書の該当箇所を読んでくる。

・授業での検討を踏まえ、課題について自分の考えをまとめる。

（事前の準備、事後の学習には、60分程度かかります。）

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 敬語・敬語表現に関する具体的な検討課題を扱い、敬語コミュニケーションおよび敬意コミュニケーションの観点から検討していきます。
第1回 授業オリエンテーション 敬語コミュニケーションを考えるための枠組み
第2回 敬語の体系 敬語的性質について考える
第3回 敬語・敬語表現・敬語コミュニケーションの観点から考える（第3回～第6回）
適切な敬語 マニュアル敬語等について考える
第4回 尊敬語・謙譲語の可能形等について考える
第5回 「ウチ・ソト関係」の敬語表現等について考える
第6回 「サセテイタダク」の敬語表現等について考える
第7回 面接場面での敬語表現について考える
事前には、教科書・教材を読み、課題について考えてきてください。事後には、実際の言語生活の中で、敬語コミュニケーション・敬意コミュニケーションについて観察する目を養い、自らの実践につなげていくようにしてください。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 蒲谷宏（2013）『待遇コミュニケーション論』大修館書店
蒲谷宏（2007）『大人の敬語コミュニケーション』筑摩書房（電子書籍版）

参考文献: 蒲谷宏・川口義一・坂本恵（1998）『敬語表現』大修館書店
蒲谷宏編（2010）『敬語コミュニケーション』朝倉書店
蒲谷宏（2014）『敬語マスター』大修館書店
蒲谷宏（2015）『敬語だけじゃない敬語表現』大修館書店
その他の参考文献については、適宜紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 65 検討課題について、理解が深まっているか。

平常点評価: 35 授業に主体的・協同的に参加できていたか。

備考・関連URL: ※本科目は、学術的副専攻「日本語教育学」発展2の科目です。

この授業には、大学院日本語教育研究科の学生たちも、「担当者」として参加します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010079|01|9S11010079[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	敬語コミュニケーション論 ２ 01		
担 当 教 員	蒲谷 宏		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: この授業では、現代共通日本語における依頼や誘いや許可求めなど行動展開を意図とする敬語コミュニケーションの諸相について検討します。丁寧さの原理に基づく理論的な背景とともに、実際のコミュニケーションについての検討も行います。
また、日本語教育に関心のある受講生にとっては、敬語コミュニケーションを考察するための論点、説明のための方法などを学ぶことができます。

授業の到達目標: ・行動展開を意図とする敬語コミュニケーションに関する知識が身につくとともに、その実践的なコミュニケーション力が高まる。

・日本語のコミュニケーションにおける丁寧さに関して、理論的に説明する力が高まる。

事前・事後学習の内容: ・検討課題に関する、教科書の該当箇所を読んでくる。

・授業での検討を踏まえ、課題について自分の考えをまとめる。

（事前の準備、事後の学習には、60分程度かかります。）

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 行動展開を意図とする敬語コミュニケーションについて、考えていきます。
第１回 授業オリエンテーション 「丁寧さ」の原理について考える
第２回 「あたかも表現」「許可求め型表現」等について考える
第３回 アドバイスに関する敬語コミュニケーションについて考える
第４回 申し出に関する敬語コミュニケーションについて考える
第５回 誘いに関する敬語コミュニケーションについて考える
第６回 依頼に関する敬語コミュニケーションについて考える
第７回 許可に関する敬語コミュニケーションについて考える
事前には、教科書・教材を読み、課題について考えておいてください。事後には、実際の言語生活の中で、敬語コミュニケーション・敬意コミュニケーションについて観察する目を養い、自らの実践につなげていくようにしてください。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 蒲谷宏（2013）『待遇コミュニケーション論』大修館書店
蒲谷宏（2007）『大人の敬語コミュニケーション』筑摩書房（電子書籍版）

参考文献: 蒲谷宏・川口義一・坂本恵（1998）『敬語表現』大修館書店
蒲谷宏編（2010）『敬語コミュニケーション』朝倉書店
蒲谷宏（2014）『敬語マスター』大修館書店
蒲谷宏（2015）『敬語だけじゃない敬語表現』大修館書店
その他の参考文献については、適宜紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 65 検討課題について、理解が深まっているか。

平常点評価: 35 授業に主体的・協同的に参加できていたか。

備考・関連URL: ※本科目は、学術的副専攻「日本語教育学」発展2の科目です。

この授業には、大学院日本語教育研究科の学生たちも、「担当者」として参加します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S11010079|02|9S11010079[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	敬語コミュニケーション論 ２ 02		
担 当 教 員	蒲谷 宏		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	日本語教育科目	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: この授業では、現代共通日本語における依頼や誘いや許可求めなど行動展開を意図とする敬語コミュニケーションの諸相について検討します。丁寧さの原理に基づく理論的な背景とともに、実際のコミュニケーションについての検討も行います。
また、日本語教育に関心のある受講生にとっては、敬語コミュニケーションを考察するための論点、説明のための方法などを学ぶことができます。

授業の到達目標: ・行動展開を意図とする敬語コミュニケーションに関する知識が身につくとともに、その実践的なコミュニケーション力が高まる。

・日本語のコミュニケーションにおける丁寧さに関して、理論的に説明する力が高まる。

事前・事後学習の内容: ・検討課題に関する、教科書の該当箇所を読んでくる。

・授業での検討を踏まえ、課題について自分の考えをまとめる。

（事前の準備、事後の学習には、60分程度かかります。）

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 行動展開を意図とする敬語コミュニケーションについて、考えていきます。
第１回 授業オリエンテーション 「丁寧さ」の原理について考える
第２回 「あたかも表現」「許可求め型表現」等について考える
第３回 アドバイスに関する敬語コミュニケーションについて考える
第４回 申し出に関する敬語コミュニケーションについて考える
第５回 誘いに関する敬語コミュニケーションについて考える
第６回 依頼に関する敬語コミュニケーションについて考える
第７回 許可に関する敬語コミュニケーションについて考える
事前には、教科書・教材を読み、課題について考えておいてください。事後には、実際の言語生活の中で、敬語コミュニケーション・敬意コミュニケーションについて観察する目を養い、自らの実践につなげていくようにしてください。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 蒲谷宏（2013）『待遇コミュニケーション論』大修館書店
蒲谷宏（2007）『大人の敬語コミュニケーション』筑摩書房（電子書籍版）

参考文献: 蒲谷宏・川口義一・坂本恵（1998）『敬語表現』大修館書店
蒲谷宏編（2010）『敬語コミュニケーション』朝倉書店
蒲谷宏（2014）『敬語マスター』大修館書店
蒲谷宏（2015）『敬語だけじゃない敬語表現』大修館書店
その他の参考文献については、適宜紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 65 検討課題について、理解が深まっているか。

平常点評価: 35 授業に主体的・協同的に参加できていたか。

備考・関連URL: ※本科目は、学術的副専攻「日本語教育学」発展2の科目です。

この授業には、大学院日本語教育研究科の学生たちも、担当者として参加します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010001|01|9S12010001[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	キャリアデザイン学		
担 当 教 員	松居 辰則@村松 慶一		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金5-6	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

リーマン・ショック以降わが国を取り巻く厳しい雇用環境の中で，学生の職業選択や円滑な職業人移行を支援する必要性が高まっている．また，グローバル化とともに急速に経済環境が変化する中で，産業界では製品やサービス，ビジネスモデル等において新たな付加価値を不断に生み出して行くこと，さらにはそうした付加価値を生み出す人的資本を充実させることが競争力の源泉として重要視されている．

このような中，企業においては，「主体的に考え，自ら行動することによってイノベーションを先導し，組織を変革してゆく」人材の必要性が高まっている．一方で，企業が新規大学卒業者の採用時に重視するポイントの上位にも「主体性」が挙げられている．さらに，雇用状況の悪化によって，若手企業人の（起業も含めた）転職ニーズは低下していると言われている一方，中長期的にはわが国でも雇用の流動化と就労形態の多様化（職務地別・職務内容・勤務時間別など多様な形態の正社員を含む）は進むと考えられ，個々人のライフプランの中でキャリア形成のあり方を主体的に捉え，行動していくことが今後ますます求められる．

さらに，「個々人のライフプランの中でキャリア形成のあり方を主体的に捉え，行動していくこと」は企業に就職する場合のみならず，大学や研究機関において，自らの教育・研究を通して，チーム・組織として教育力・研究力を高める場合にも，全く同じ考え方や行動が求められる．

そこで，本講義では「自律型／自立型人材」をキーワードとして，受講生諸君が卒業後（就職後，進学後）も自ら考えて行動し，組織を変革へと導く人材として成長するために必要となる考え方を，産学連携の下で実体験を通して体得していただくことを目標として開講する．

授業の到達目標:

本講義を通して以下のようなことを体験・習得していただきたいと考えます．

① 自立性とは？，自律性とは？ を考える．
② キャリアデザインとは？ を考える．（※決して「就職（活動）対策」ではないことを意識する．）
③ 「人生設計」を常に真面目に考えることを体験し（実習），納得する．
④ 企業での「人材育成（教育）」の体験する（実習）．（※社会ではどのような分野でも「キャリアデザイン能力」が必要．）
⑤ 異なった業種における人材育成を体験して「自立・自律・キャリアデザイン」の不偏的な意味を見出す．
⑥ 企業であれ，大学（研究組織）であれ，教育・研究を高度化するためには「自立・自律・キャリアデザイン」の能力が必要であることを体得する．

さらに，グローバルエデュケーションセンター（GEC）設置の「人間的力量」領域の科目を受講することをお勧めします．

事前・事後学習の内容:

【事前学習】事前に資料が配布されることがあります．その場合には授業までに熟読して内容を十分に理解した上で授業に臨んでください．毎回50分～100分の時間を要します．
【事後学習】毎回課題が出題されます．指示に従い期限までに作成し提出してください．また，全回を通してのグループワーク課題が初回の授業で出題されます．グループのメンバーと協調してワークを確実に進めるようにしてください．毎回100分～150分の時間を要します．

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

※ この授業は「毎週金曜日の5時間目，6時間目の2コマ連続」で行います．
※ したがって，この授業は「春学期（前半）」で行います．
※ 全回を通してのグループワークを行います．

※ 以下のように14回を予定しています．講義の順番，担当は変更になる可能性があります．
※ 教室対面での実施を予定しておりますが，状況によってはオンライン，オンライン併用になる可能性があります．

第1回：「ガイダンス，未来シナリオ演習について」
担当：松居辰則・村松慶一（早稲田大学）
第2回：「キャリアデザインの考え方」
担当：松居辰則・村松慶一（早稲田大学）
第3回：「人間的力量とキャリアデザイン（1）」
担当：松居辰則・村松慶一（早稲田大学）第4回：「人間的力量とキャリアデザイン（2）」
担当：松居辰則・村松慶一（早稲田大学）第5回：「企業におけるキャリア形成の考え方（内田洋行の事例）」（1）
担当：茂手木聡（内田洋行），松居辰則・村松慶一（早稲田大学）
第6回：「企業におけるキャリア形成の考え方（内田洋行の事例）」（2）

担当：冨田伸一郎（ウチダ人材開発センター），松居辰則・村松慶一（早稲田大学）
第7回：「ICT業界におけるキャリアデザイン　～IT企業におけるキャリアアップ」
担当：講師選定中，松居辰則・村松慶一（早稲田大学）
第8回：「モチベーションへの脳科学からのアプローチ（仮題）」
担当：枝川義邦（立命館大学），松居辰則・村松慶一（早稲田大学）第9回・第10回「未来シナリオ演習（中間発表会）」 担当：松居辰則・村松慶一（早稲田大学）
※その後，最終版は映像コンテンツとして提出していただきます．
第11回：「三菱総合研究所におけるキャリアデザイン」（1）
担当：粕谷泰隆他（三菱総合研究所），松居辰則・村松慶一（早稲田大学）
第12回：「三菱総合研究所におけるキャリアデザイン」（2）
担当：柏谷康隆他（三菱総合研究所），松居辰則・村松慶一（早稲田大学）
第13回：「第4次産業革命時代におけるキャリアデザイン」（仮題）
担当：伊藤健二（三幸学園），松居辰則・村松慶一（早稲田大学）
第14回：「授業全体の振り返りワークショップ」
担当：島村公俊（講師ビジョン），松居辰則・村松慶一（早稲田大学）

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：
・特に指定しません．
・各回の担当講師から資料が配布されます．また関連文献も紹介されます．

参考文献：
・特に指定しません．
・各回の担当講師から適宜紹介されます．

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	0	・試験は実施しません．
レポート：	50	・【未来シナリオ演習】の中間報告，最終成果，および取り組み状況によって評価します．
平常点評価：	50	・毎回，レビューシートを作成していただきます． ・これをすべて提出することが必要です．

備考・関連URL：　講義に関する連絡，ディスカッション（の一部），資料提供はすべてWaseda Moodleで行います．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010006|01|9S12010006[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ソーシャルコミュニテラシーの基礎と実践 01		
担 当 教 員	岡田 昭夫		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ねえキミ、ホントにそれでいいの？（恐るべし…情報化社会） —そこで豊かに、キミらしく—

授業概要: ちょっとそこのキミ、このシラバスを読み始めたってことは、「もしかしたら履修してもいいかも・・」って考えているんだよね。だったら聞くけどさ、キミ、友達に電話するとき、その友達のケータイにかける？ 家電（いえでん）にかける？ そーだよね、ケータイにかけるでしょ。なぜ？？ 家電にかけて他の家族が出たら面倒だもんね。このフィーリングに共感できるキミ、ゼッタイこの授業をとったほうがいいよ。なぜって、考えてみろよ。キミが就職してどこかの会社に入ったとしよう。そして大事な取引先の会社に電話をして、キミの顧客であるAさんを呼び出してもらう。キミ、ちゃんと礼を失することなく敬語を使って、Aさんを呼び出してもらえるかい？無理っしょ！ ！

ところで明治十四年の政変で「我らが大隈重信先生」が下野するとき、福沢諭吉はその政情を観て「ポリティカルの時間は常に均一に流れるものではない」のだと感想を漏らしたという。

政治の時間は時として怒涛の如く流れることがあるのだと言いたかったのだろう。奇しくも我々は、それを政治ではなくメディアでそれを経験することのなってしまった。昨今のSNSの普及を考えてみろよ。わずか数年で怒涛の如く普及したスマートフォン、そこにマーケットを見出し群がるコマーシャリズム。それに乗った時代の寵児であるSNS。だけど冷静に考えてみてよ。「楽しい」、「便利」には代償が伴うことを、キミは忘れていないか？
一方で、キミがそれらにどっぷりと浸っている間に、キミは多くのものを失ってしまった。例えば人と対面で話す会話力や表情、語彙力、敬語力、社会性、責任感、現実感…枚挙に遑がない。

他方で、現今の就職状況は、人手不足を背景に売り手市場だと言われている。じゃあ聞くけどさ、キミの周囲にいる先輩は就活に苦労していないかい。ワセダという大学のおかれている状況を考えてみろよ。幸いにも最も評価の高い大学群に位置付けられている。そうであれば、それらの大学群の学生たちが目指す就職先には、この機会を生かすべくそれ以外の大学群からの出願者が殺到してくる。必然的に激戦の就活を避けられないわけさ！
そのような激戦の中で、SNSに象徴されるメディアにどっぷり浸かり、多くの資質を育てることなくむしろ失ってしまったキミが善戦できるのかい？ これまた無理っしょ。結構長くなったけど、ここまでシラバスを読んでくれたキミは、少しは実感できたんじゃないかい？ 今のキミが置かれている状況のヤバさを。それに気が付いたキミは、失ったものを取り戻し、育てなかったものをこれから育てることができるさ。多くの人間たちが失ったことに気づいてさえいない「それ」をね。そのための端緒を与えるのがこの授業だと思ってほしい。

その意味では「メディアや情報スキルから理想的な距離をおくことを学ぶ」と言っても過言ではないかもしれない。友達の家電（いえでん）に電話するのが億劫なキミ、留守電にメッセージを残せないキミ、対面で人と話をするのが苦手なキミ、敬語経つかえないキミ、理解してもらえたかな。キミとはこの授業で是非会いたいよ！

このような状況下で更に深刻な影を投げかけたのがCovid-19だ。経済界が激変してしまったのだ。それが始まる前「花形業種」を考えられた業種が、「あっ」と言う間にヤバイ業種になった。2020年3月、そのような業界に希望を持って学窓を巣立っていった連中をオレたちは「おめでとう！」と言って送り出した。その彼らのアタマに「転職」という文字が去来するまでは、文字通り「あっ」と言う間だった。その時のオレたちの気持ちがわかるかい?? もうこんな気持ちはこりごりだ。だからしっかりポストコロナの社会の変化をしっかり分析していこう。その手伝いもこの授業がやっていく。

この授業では、メディアや情報スキルを駆使する者の人間力の涵養に主眼を置きたい。まずメディア蔓延社会でキミが失ったもの、育てられなかったものを特定しよう。そしてSNSに代表されるメディア社会の特質を理解し、それの罠にはまらない生き方を模索する。そして、情報分析や情報判断の基礎力を涵養し、今後の社会の変容を予測しよう。なぜなら、そこでキミたちは社会人として活躍していかなければならない。くれぐれも言っておくが、これからキミたちに到来する社会は、予測と準備の努力を怠った人間は到底生き抜けないハードなものだ。そこを自由自在に泳ぎ切るためのキャリア・ビルディングのヒントをこの授業でつかんで欲しい。

キミ、よかったね、最後までこのシラバスを読んで。あとは授業で会うだけさっ！ そこで最後にお願いがある。この授業に履修エントリーして選外で涙を呑んでいる学生が非常に多くいるんだよね。中には4年間ずっとエントリー続けたけど、ずっとダメだった… 「だからどうかもぐらせてください！」と言ってきた学生さえいるんだよね。だから履修できるようになったキミ、どうか選外になったヤツのためにも授業には必ず出席してほしい。頼んだよ！

授業の到達目標: いよいよ始まるぞーっ。
今シーズンも「メディア」「インターネット」「情報化社会」という3つと、キミの関わりについて取り上げて行こうと思う。
この授業でボクはキミにアカデミズムを体験してもらおうとは思わない。強いて言えば「自分の心の水面にたった波を鎮める」ための「哲学」をしてほしい。どうか毎回のトピックをキミ自身のことと感じて、考えて欲しい。恐らく結論にはたどり着かないであろう。しかし答えを得るより、答えを得ようと考え続けることの方が、大切でかつ楽しいことだと、きっと気づいてくれるだろう。さあ、今日から、キミの心の「内なる宇宙」に一緒に船出しようぜい!!

この授業で大切なことは、「めっちゃ楽しむこと」と「しっかり考えること」だ。しっかり考えたあとはキミの人生をめっちゃ楽しめ。スイッチを切り替えてこのふたつをしっかりやること。キミにできるか、だいじょーぶかよ??
ソクラテスが模索した「よく生きること」「自分の生を限りなく良いものにしていくこと」、これを楽しく、マジに考えていこうぜ!!

では少し授業っぽく、目標を書くぞ。
①SNSに代表されるメディア社会で、それに依存することなく、理想的な距離を置ける使い手になること。
②上記社会の中で、失ってしまった社会性、危機に瀕している健康状態等について理解し、改善ないし維持向上の端緒をつかむこと。
③就活をはじめ将来に向けたキャリアプラン・ライフプランを的確に策定できる知識と能力を身につけること。
④今年、一貫して底流にあるテーマは「正常性バイアス」と「同調性バイアス」の払拭だっ!!!! 今は なんのことかさっぱりわかんないだろうけど、授業が進む位連れてわかってくるから、しっかりこの二者から自分を解放してほしい。
キーワード：人口動態、地球イベント、自然、逆転の発想、品格、etc
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。「怒られ上手は教わり上手」なんだ。みんな現今の少子化社会で、「大切に」されて成長してきた。そしてその分、生きる力が弱くなってしまった。だから職業共同体の中に入ると、「2の2法則」「3の3の法則」となってしまう…これは厚労省の統計だが、新卒者の離職率だ。2年で2割が退職し、3年でなんと三分の一が退職する…だから、どうか、どうかこの授業を、キミが強く生きる力を養う端緒にしてほしい。

事前・事後学習の内容：
事前・事後学習の内容事前学習は、特にこれを必要としない。
毎回の出席を心掛けてほしい。
事後学習に代えて、授業中に学んだことをキミのアタマで咀嚼して、キミの考え方や価値観を確立すること。それを基に毎回の「きょうのひとこと」を記入し送信すること。これが出席の代わりになるぞー。

授業計画フリー入力サイン：
1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

【第1回授業】ねえキミ、ホントにそれでいいの？―恐るべし情報化社会―（ガイダンスに代えて）

いよいよ始まるぞーっ!!
COVID-19でオンラインか対面か… 今年度後期は何とか対面授業ができそうだが、それもどうなることか…。キミたちにマジにいろんなことを自分のこととして考えて欲しい。だって考えてみろよ。COVID-19のダメージからようやくリカバーが始まると思った矢先、ウクライナ侵攻だもんな…。キミたちの卒業後のキャリアはどうなっちゃうんだろう、考えたことあるかよ？ましてアメリカでは共和党政権が返り咲きだもんな。これで世界のナショナリズムがさらに進みアメリカ、中国、ロシアの三竦み、にらみ合いで、世界を安定せしめる力が弱くなる…だからボクはキミと率直に語り合いたい。そのためにキミとの心の距離が少しでも近いところに居たい!! だからマジ、こんなノリで本音で率直にキミと語り合いたい。ついてきてくれよなっ!!

それと、ボクの授業履修経験が初めての人、下記（教科書欄）に紹介したエッセイ「シナモンロール…」を、出費することになって申しわけないけどさ、必ず入手して大事に持っていてくれよな。将来、キミが生きることに疲れた時（誰でも必ずそういう時ってくるものさ）、取り出してもう一度読んで欲しい。きっとどんな薬よりも効くからさっ。

あっ、それと忘れないでくれ。毎回授業の最後には「きょうのひとこと」をマジに書いてくれよな。出席の代わりだからな。これでキミの授業への思い入れ度を見なきゃなんないんだからさ。授業当日の授業開始時間から、翌週の授業前日の23:55まで入力できるぞ。必ず書いてくれい！

【第2回授業】キミは「ハダカの王様」だよ。失われた社会性を求めて1
きょうも楽しく付き合ってくれよな!!
ちょっと長くなったが、必ずこの下を全部読んでくれよな。
≪遊びに来いよ!!≫
なんかさー、オレめっちゃうれしいんだけど。前回の授業で「先生の家を公開されるとは思ってなかったです笑 近くに行く度に思い出しそうです」とか「東京都文京区小石川2に押し掛けたいと思います。」とか言ってくれたヤツがけっこういてさ。

オンラインじゃないときは、いつも授業の打ち上げパーティーなんかを我が家でやってるんだよね。希望者集合でね。多い時は30人くらい学生が集まるんだよね。これが大丈夫なんだよね。建物たてるときそれを考えて我が家のリビングとキッチンは40畳超え（おれんち、すごくねー）。この授業では、なによりキミの人間力を高めることが大切だ。まだ会ったことのないセンセイを訪ねて一人でやって来られるキミ、ボクはキミのことが大好きになりそうだ。だけどここ数年ひとつ憂慮していることがある。10年前は、この授業のクラスをまとめる求心力のあるヤツが必ず何人もいて、クラス全体でパーティーやりに集まってきた。しかしそのうち、集まる規模が「クラスでやる」「グループワーク（やる授業では、だが…）のメンバーの有志」で来訪することが多くなった。最近では「仲のいい仲間と数人」でというのが圧倒的だ。SNSで個人でしか動かなくなっているのか、ヒトの求心力が減退してきているんだろうか…
キミの人間力修行と何より「遊び」で我が家に遊びに来いよ。我が家はワセダから歩いて20分で来られるぞ。

≪絶対に忘れるなっ!! これから言うことを。≫
「怒られ上手は教わり上手」
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。だからくれぐれも言っておくぞ。「打たれ強くなれっ!!」。

≪今回のメインテーマ 今どきの大学生のキャリアプランニング について≫
「キャリアはケツから決めていけ」

キミたちは学窓を巣立つ時、どのような将来を決めるべきか。その判断根拠はいかなるものか。あまりにも不確定要素が多く、消極要素が多い、というか多すぎる。就職を決めるとき、ほとんどの学生は「今、どのような業態に興味があるか」とか「今、どのような業種が有望と思うか」という視点で決めてしまう。よくよく言っておくがそれではまず間違いなく近い将来に破綻する。なぜなら、不確定要素が多く、消極要素が多いだけでなく、それらが突然現れてくるからだ。Covid-19を思い出せ。わずか半年で人類の運命を一変させた。そういう意味では奴らは、今後我々が将来を考える際の「雄弁無比な反面教師」なのだ。大切なことは、キミの子どもの教育費が最も大変な負担となるとき、キミは社会でいきいきと活躍していられるかということだ。それには「今、なに興味があるか」ではなく、キミが定年を迎えるであろう70歳のころ、社会は、産業構造はどう変わっているかということを透徹した先見性で見据えていることだ。だからもう一度、よくよく言っておく、今を基準に発想して進路を決めるのではなく、「定年を迎えた時幸せであるために」という発想で「ケツ」から考えを起こせ。それには日本人が戦後ず一っと培ってきた因習的な価値観は勇気をもって捨てなければならないかもしれない。象徴的な話だが、おそらく30年後、最も有望な業種は農業や水産業であるかもしれない。 Covid-19禍で、今なお「早く以前に戻そう」と考える人が多いが、ソイツらも内心では気づいているんじゃないだろうか。「もう、以前には戻れない…」新しい価値観を受け入れていくしかないのかもしれなない。そしてキミ自身が新しい価値観を生み出していかなければならない。だって考えてみろよ。去年の卒業生は史上空前の「売り手市場」の好調な状況で就活した。今年はどうだよ。リーマンショックより深刻な状況に陥ってしまった。それも一瞬でね。この就活状況は少なからずキミたちに及ぶ。だからキミには強い人間力と逞しさが必要だ。脆弱な自信など捨ててしまえ。そして自分が所属する「属性」など頼るな。キミの二本の足で立てっ!! こんな視点で今日のコンテンツを見て考えてくれ。どうか目をそらさないで。キミが現実から逃避しても、現実は厳然と確実にキミに対峙してくるのだから。

【第3回授業】漂泊するワセダ、失われた社会性を求めて2
昨年の秋からこっち、しみじみ感じることがある。それは「キミたちはデスレース」をやっているということだ。みんな誕生というスタートラインに立って、「よーい、ドン」。きみたちのコースには至る所に地雷が隠れている。それを踏んだところでキミの人生レースは終わる。小学校時代に踏んで社会生活が終わる者、中学で終わる者、高校で終わる者… キミたちは運よく今現在早稲田でまだ生き延びている。でも部活、人間関係、授業、インターン、就活… 様々な形の地雷が、キミが踏むことを待っている。踏んだらそこで社会生活が終わる危険がある… この秋、それを踏んで(踏みかけて)痛手を負った学生をいったい何人面談したことか… 今年ほど学生のデスレースを感じたことはない。彼らに共通していえることは
① 完璧欲が強くすぐに結論を出そうとする。
② だから遠回りを潔しとしない。
③ 遠回りすらできないから「エスケープルート」を持っていないことだ。「だめだったら、こっちをやろう」というのが無い。それとは逆で「退路を断って」自分を追い詰めて精神を病んでいく…
そこで今回の授業でそれらを払しょくするきっかけを考えよう。それだからこそ、「シナモンロール…」を読んでもらったようなものだ。来週は「人生の遠回りを楽しんでいる」異色の先輩の実例が出てくるぞ。お楽しみに。

次に、「失われた社会性1」を思い返そう。 それにしても韓国で起こった「セウォル号事件」オレらも呆れたり、笑えないよな。メディアに異様に従順で、自ら考えようとしない。人と同じであることに異様にエネルギーを消費する…日本人もそっくりだよな。そして起こったことはすぐに忘れてしまう。東日本大震災でタワーマンションは危険だとわかっても、もう忘れてしまって次々林立しているし…

そのあとは、「失われた社会性2」だ。お楽しみに、でも生まれ変わるほどの覚悟を！これらの教訓を昇華して、キミの「生きるって…」を形作る努力を始めよう!!

【第4回授業ハーフタイム】「夢を捨てるなっ!!」遠回りのススメ。 IAT調査
きょうは、「前へ2」をやろう。前回の授業で「立ち止まる勇気」「遠回りする余裕」がどんなに大切か思い知ったと思う。もう一度言うが、ホワイトアウトの中で、不安にさいなまれて「早く山小屋へ着こう」と歩き回ると、行き着く先は「死」だ。これを「リングワンデリング」と言うんだ。雪洞を掘ってじっとしているヤツは助かる。それをゼッタイ忘れんなっ!! 結局人生でも同じことが言えるんだよな。思考のリングワンデリングが始まりそうなら立ち止まろう、遠回りしてみよう。

そこできょうは、まず「遠回り教教祖」の関秀隆センセイの話だ。今年3月でまた「埼玉県の学校」を辞職して(これが2回目)、世界一周の放浪の旅に出ている。彼のオーラに触れてみて欲しい。キミの心に何が響くかだ。

それと、IAT調査の結果については、メディアによる医学生理学的悪影響という形で、可能な限り次回以降の授業の中で説明していこうと思う。

【第5回授業】「働くってどういうこと？」
きょうは「働くってどういうこと??」をやろう。少しでも早く、「仕事をするということの原点座標」を身に着けて欲しいからね。 ところでさ、この授業の内容をしっかり身に着けて、激戦となるであろう就職戦線を乗り切ってくれ。前にも言ったと思うけど、例えば大手の「S不動産」、「都内のオフィスビル、200棟超」供給しているという「勢い」がウリだった。そこらじゅうで「S不動産」の看板や館銘板の入ったビルを見る。しかしcovid-19でテレワークや会社移転が始まると、このような業界は一瞬にしてリスク業界になってしまった。ほんの一瞬でここまで変わってしまう。GDPは一瞬にしてリーマンショック以前に落ちこんだ。リーマンショックから世界経済が回復するには3年以上かかった。おそらくこれからは、変な例えではあるが、キミが歩いているとして、自分の次の一歩が地面につく寸前に、足下に隠された地雷を見つけて瞬時に着地点を変える…そんなキャリア展開が必要になってくるということなんだろう。だけど、それって可能なんだろうか。
いずれにしても、キミがめでたく就職したとしても、これから言うことは忘れるな。「キミは消耗品だ。キミの替えなどいくらでもいる。」 expendables なんだよ。
例えば公務員の世界などでは「組織の活性化には異動が必要」ということがよく言われる。特に事務方には専門家は必要ないようだ。その仕事は新たに異動してきたヒトが誰でもできることが重要らしい。そのような職場風土でもキミは「やりがい」をみつけていかなければならない。そして「脱消耗品」を目指していかなければならない。そう

じゃなかったら、40年近い長い仕事人生は懲役40年で刑務作業をやっているのと同じだ。やりがいの無い、誰でもできることを、楽しくないのに我慢して40年間続ける…　これってめっちゃ恐ろしいことじゃん??　明治大学でボクの助手たちは殆どが理系の大学院生だ。彼らを見ていると時としてうらやましくなることがある。もう就職の段階から学部卒とは給与体系がちがう。文系で大学院を修了しても学部卒と同じ給与体系で、同じ仕事…、あげくの果てには「過学歴」とか言われて。
明治の助手たちの多くは専門職として企業でも研究開発部門への就職が多い。これはもちろん早稲田でも同じことが言えるが。そんな部門に就職すれば、脱消耗品の道は就職当初から見えやすい。
　だがこんなことも言える。ボクん家は土地活用の必要からビルを建てた。大手ハウスメーカーの鉄筋コンクリート建設部門がやった。わが家の設計を担当した建築士は、文字通り抜きんでたセンスとデザイン力を持っていた。我が家を竣工させて数年後にはその大手企業の建築士全員を束ねる「設計長」になった。ボクは祝福したが、内心は心配していた。そのことは彼自身も身に染みて感じていたようだ。「オカダさん、最近は自分で図面がひけないんです…」だってさ。つまり社内のすべて建築士を束ねる管理が彼の仕事で、自分が建築デザインすることができなくなるのさ。その大企業では「彼がデザインしてコンペに負けたことはない‼」くらい言われた大事な戦力が、第一線を去ることになったんだよ。このへんの詳細は、きょうのコンテンツをよく見て、理解してくれ。キミ、気が付いたか??　彼はこの段階で「余人を以て替え難い」人材から消耗品に編入されたんだよ。この４月から、彼はさらに出世して大阪本社でもっとエラくなっている。だが本人の気持ちは複雑なんだよ。

　最後になるが、参考までに…
オレ、ある時決めた。「好きなことだけやろう」って。オレにとって教壇に立って医事法学教えるのも、こーゆー科目教えるのも楽しい遊びだ。だから授業の前はいつもワクワクしてる。きょうどんなことがあるんだろうな、今日連中はどんな顔をして授業を受けに来るんだろうな、とかね。研究して論文を書くのも遊び。学会や市民団体で講演するのも遊び。メルセデスに乗るのもハーレーに乗るのも遊び。海に潜るのも遊び。楽しくないことはやらない主義者なのかも…　ずーっと昔、高校の教員をやっていた頃、「教師なんていうものは、10のうち9つらいことがあっても、1つはいいことがあればやっていける」と自分に言い聞かせていた。だけどさ、「自分に言い聞かせる」って「本当はそうは思っていないこと」を、「強引にそう思い込ませようという心の営み」だったんだね。だって今、オレ、10のうち9.9以上は楽しいもん。あの時、高校の教師を辞めていなかったらと考えると、ぞーっとするぜ。
　キミもポストコロナで、以前には戻れない社会のなかで、ドラスティックな価値観の変革を行う勇気を持つ必要があるんじゃないかい?? どうか現実から逃げるなよ。

【第6回授業】「品格を磨く‼」それと「キミはハダカの王様だよ2」→メディアによる医学生理学的悪影響
　さあ、きょうの最初のトピックは、「品格を磨く」だ。
　なぜか我が家の周りには昔から、多分確信犯で学生や、元学生や、元学生で結婚して新居をかまえるために住み着いたヤツが結構な人数いるんだよね。ここのところ、元教え子の社会人の女の子２人が毎晩我が家にゴハン食べに来てて、おれんちのエンゲル係数どーなってんのよ、状態なんだよね。みんな我が家を集会所か何かと間違えてるみたいだ。そんな多くのヤツが言う、オカダ先生を「先生っ‼」って呼ぶときの「セ・ン・セ・イ」という音は敬称じゃなくて呼び名だ、と。さらにそれを掘り下げて言った元医学生の教え子の女医さんがいる。ヤツは「オカダ先生の『先生っ‼』は記号だ」と言いやがった…　それを言われて結構ウケて面白がってるオレって何なんだろう…

　その女医さん、実家がすごい。私大の医学部の学生に「アイツの家は財閥だ」と言われるほどの裕福な家の子だ。思い出せば、国試に合格した時父上のお祝いは「メルセデスベンツSLK」というスポーツカーだった。あまりスポーツカーっていうキャラじゃないんだけどね、本人は。父上の結婚祝いは、我が家のすぐそばのタワーマンションの部屋だった。我が家より高いところから我が家を見おろされているっていうのがちょっとねー。彼女も我が家の近くに住む確信犯の一人だ。
　オレ、彼女に言われてずーっと守っていることがあるんだよね。「先生がキーマカレーを作った時は必ずウチに届けてください」だってさ。今月はキーマ１回と超特製パウンドケーキを１回届けたよ、そう言えば…。オレってエラくないかー??
　だけどこの女医さん、やっぱすごいな、とよく感じる。例えばある日のオレたちの会話。「オーイ、オメー今、家にいる??」「ええ、居ますよ」と女医さん。「だったら、配達に行くからさー」「先生、ちょっとアタマボサボサで恥ずかしいから、（マンションの下まで行けないから）上まで上がってきてくださいね」と女医さん。「オレには恥ずかしくないんかよ…」と思ったりしているオレ。こうやって急におすそ分けに行っても、「先生、ちょっとこれ持って行ってください」って必ず手土産が出てくるんだよね。っということは、いつ誰が来てもいいように、常備してるっていうことだよな。これって親の躾け、あるいは帝王学??　だけど彼女見ているといつも感じる。品格を高めると運命を切り開けるってさ。

　そういうわけで、きょうは、ボクが「恐れて」「尊敬する」我が教え子の女医さん「親愛なるミチコセンセイ」に登場してもらおう。ミチコセンセイは1998年に東京医大に入学してきて、ボクの医事法学の授業の筆記試験で歴代最高得点タイを取った、そのまま翌年ボクの医事法学のゼミを取り、臨床研修先はボクが生まれた病院、臨床研修が終わったらなんと「早稲田大学大学院法務研究科」に入学、今は呼吸器内科の専門医と法律家をやってる。後期には早稲田大学教育学部で集中講義をやってるし、オレその講義に巻き込まれてるし（無理やり付き合いで教壇に立たされている）…気が付くと20年超のクサレ縁…
オレさー、ミチコセンセイを見てるとホント思う…　「人間の品格って運命を切り開けるんだよなあ」オレはモロに庶民の子で、文京区小石川2丁目というところは、坂の上が閑静な住宅街で、坂の下が小さな町工場が密集した地域だった。オレ今でも覚えているけど、坂の下の子だったオレは坂の上の子の「親たち」に結構差別された。だけどさー、もちろんオレもそうだけど、キミたちもそろそろ「自分で自分に投資して品格を磨こうぜ‼」　もう「親の育て方が云々」言いわけすんな‼　自分の人生切り開くために、品格を「自分の力」で磨こうぜ‼　だから自分で投資して自分の品格をたかめようぜい‼

【第7回授業　いよいよ最終回‼】いのちの授業「啓子さんのこと」、「ももちゃんのこと」
　きょうの本題、ボクの授業は、前にも言ったかもしれないが「命の授業」という前評判で学生たちに広まっているらしい。先輩たちがそう評したんだけどね。そこで最終回は、渾身のエネルギーを込めて「命の授業」をやります。ここまでの授業で「きょうのひとこと」等でキミの真摯なコトバを見た以上、オレはここで手を抜けない。きょうは、自分のプライベートに関する話だが、キミたちのことは120%信頼している、だから披歴する。まず対面で「啓子さんのこと」を聞いて欲しい。キーワードは「人っていいでしょ」だ。
授業は今日で終わるが、時間のある時、必ずコンテンツ動画「ももちゃんのこと」を見て、「もも地蔵プロジェクト本番」のファイルをダウンロードして読んでくれ。ここでのキーワードは「人生のエスケープルートを持とう！」だ。「エスケープルート」は「逃げ道」と表面的にとらえてよいイメージを持っていない人が多いかもしれない。しかし、きょうは「エスケープルート」を持つことは、人生を健康で幸せに生きるための、とてつもなく大切なソシアルスキルである

と積極的に評価しなおしてほしい。
　どうか、どうか「生きるって」「死とは」、答えをマジに考えてくれ。答えは多分出てこない、しかし答えの出ないことを考え続けることは、答えそのものよりも気高い。それは絶対に「よく生きること」につながる。

　キミたちに「理想の死に方」に言及してもらった。なぜ??　だって天国に旅立つ瞬間まで自分が満足のいく「イイ生き方」をすれば、その延長上にカッコイイ「理想の死に方」があるでしょ。「よく生きる」ということと「よく死ぬ」ということは二律背反することではなく、同一のことなんだ、って徐々にでもいいから気が付いてほしい。

言語区分:	0	日本語　　Japanese
教科書:	教科書「シナモンロールにハチミツをかけて―太平洋で最も偉大なダイバーとボクたち、そして幸せな死別の物語―」 銀の鈴社　刊　ISBN:978-4-87786-274-9 C0095 を必ず入手しておくこと。終講までに読了しておくこと。	
参考文献:	適宜授業中に頒布する。	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	0	筆記試験はこれを実施しない。
レポート:	50	上記サブテキストの感想文、および「キミの理想の死に方」に関するメッセージをこれに充てる。
平常点評価:	50	以下を以て平常点とする。 ①テーマへの積極性 ②出席時に記入する「きょうのひことこ」のインパクトファクター。
備考・関連URL:		

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010006|02|9S12010006[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ソーシャルコミュニテラシーの基礎と実践 02		
担 当 教 員	岡田 昭夫		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ねえキミ、ホントにそれでいいの？（恐るべし…情報化社会） —そこで豊かに、キミらしく—

授業概要: ちょっとそこのキミ、このシラバスを読み始めたってことは、「もしかしたら履修してもいいかも・・」って考えているんだよね。だったら聞くけどさ、キミ、友達に電話するとき、その友達のケータイにかける？ 家電（いえでん）にかける？ そーだよね、ケータイにかけるでしょ。なぜ？？ 家電にかけて他の家族が出たら面倒だもんね。このフィーリングに共感できるキミ、ゼッタイこの授業をとったほうがいいよ。なぜって、考えてみろよ。キミが就職してどこかの会社に入ったとしよう。そして大事な取引先の会社に電話をして、キミの顧客であるAさんを呼び出してもらう。キミ、ちゃんと礼を失することなく敬語を使って、Aさんを呼び出してもらえるかい？無理っしょ！ ！

ところで明治十四年の政変で「我らが大隈重信先生」が下野するとき、福沢諭吉はその政情を観て「ポリティカルの時間は常に均一に流れるものではない」のだと感想を漏らしたという。

政治の時間は時として怒涛の如く流れることがあるのだと言いたかったのだろう。奇しくも我々は、それを政治ではなくメディアでそれを経験することのなってしまった。昨今のSNSの普及を考えてみろよ。わずか数年で怒涛の如く普及したスマートフォン、そこにマーケットを見出し群がるコマーシャリズム。それに乗った時代の寵児であるSNS。だけど冷静に考えてみてよ。「楽しい」、「便利」には代償が伴うことを、キミは忘れていないか？
一方で、キミがそれらにどっぷりと浸っている間に、キミは多くのものを失ってしまった。例えば人と対面で話す会話力や表情、語彙力、敬語力、社会性、責任感、現実感…枚挙に遑がない。

他方で、現今の就職状況は、人手不足を背景に売り手市場だと言われている。じゃあ聞くけどさ、キミの周囲にいる先輩は就活に苦労していないかい。ワセダという大学のおかれている状況を考えてみろよ。幸いにも最も評価の高い大学群に位置付けられている。そうであれば、それらの大学群の学生たちが目指す就職先には、この機会を生かすべくそれ以外の大学群からの出願者が殺到してくる。必然的に激戦の就活を避けられないわけさ！
そのような激戦の中で、SNSに象徴されるメディアにどっぷり浸かり、多くの資質を育てることなくむしろ失ってしまったキミが善戦できるのかい？ これまた無理っしょ。結構長くなったけど、ここまでシラバスを読んでくれたキミは、少しは実感できたんじゃないかい？ 今のキミが置かれている状況のヤバさを。それに気が付いたキミは、失ったものを取り戻し、育てなかったものをこれから育てることができるさ。多くの人間たちが失ったことに気づいてさえいない「それ」をね。そのための端緒を与えるのがこの授業だと思ってほしい。

その意味では「メディアや情報スキルから理想的な距離をおくことを学ぶ」と言っても過言ではないかもしれない。友達の家電（いえでん）に電話するのが億劫なキミ、留守電にメッセージを残せないキミ、対面で人と話をするのが苦手なキミ、敬語経つかえないキミ、理解してもらえたかな。キミとはこの授業で是非会いたいよ！

このような状況下で更に深刻な影を投げかけたのがCovid-19だ。経済界が激変してしまったのだ。それが始まる前「花形業種」を考えられた業種が、「あっ」と言う間にヤバイ業種になった。2020年3月、そのような業界に希望を持って学窓を巣立っていった連中をオレたちは「おめでとう！」と言って送り出した。その彼らのアタマに「転職」という文字が去来するまでは、文字通り「あっ」と言う間だった。その時のオレたちの気持ちがわかるかい?? もうこんな気持ちはこりごりだ。だからしっかりポストコロナの社会の変化をしっかり分析していこう。その手伝いもこの授業がやっていく。

この授業では、メディアや情報スキルを駆使する者の人間力の涵養に主眼を置きたい。まずメディア蔓延社会でキミが失ったもの、育てられなかったものを特定しよう。そしてSNSに代表されるメディア社会の特質を理解し、それの罠にはまらない生き方を模索する。そして、情報分析や情報判断の基礎力を涵養し、今後の社会の変容を予測しよう。なぜなら、そこでキミたちは社会人として活躍していかなければならない。くれぐれも言っておくが、これからキミたちに到来する社会は、予測と準備の努力を怠った人間は到底生き抜けないハードなものだ。そこを自由自在に泳ぎ切るためのキャリア・ビルディングのヒントをこの授業でつかんで欲しい。

キミ、よかったね、最後までこのシラバスを読んで。あとは授業で会うだけさっ！ そこで最後にお願いがある。この授業に履修エントリーして選外で涙を呑んでいる学生が非常に多くいるんだよね。中には4年間ずっとエントリー続けたけど、ずっとダメだった… 「だからどうかもぐらせてください！」と言ってきた学生さえいるんだよね。だから履修できるようになったキミ、どうか選外になったヤツのためにも授業には必ず出席してほしい。頼んだよ！

授業の到達目標: いよいよ始まるぞーっ。
今シーズンも「メディア」「インターネット」「情報化社会」という3つと、キミの関わりについて取り上げて行こうと思う。
この授業でボクはキミにアカデミズムを体験してもらおうとは思わない。強いて言えば「自分の心の水面にたった波を鎮める」ための「哲学」をしてほしい。どうか毎回のトピックをキミ自身のことと感じて、考えて欲しい。恐らく結論にはたどり着かないであろう。しかし答えを得るより、答えを得ようと考え続けることの方が、大切でかつ楽しいことだと、きっと気づいてくれるだろう。さあ、今日から、キミの心の「内なる宇宙」に一緒に船出しようぜい!!

この授業で大切なことは、「めっちゃ楽しむこと」と「しっかり考えること」だ。しっかり考えたあとはキミの人生をめっちゃ楽しめ。スイッチを切り替えてこのふたつをしっかりやること。キミにできるか、だいじょーぶかよ??
ソクラテスが模索した「よく生きること」「自分の生を限りなく良いものにしていくこと」、これを楽しく、マジに考えていこうぜ!!

では少し授業っぽく、目標を書くぞ。
①SNSに代表されるメディア社会で、それに依存することなく、理想的な距離を置ける使い手になること。
②上記社会の中で、失ってしまった社会性、危機に瀕している健康状態等について理解し、改善ないし維持向上の端緒をつかむこと。
③就活をはじめ将来に向けたキャリアプラン・ライフプランを的確に策定できる知識と能力を身につけること。
④今年、一貫して底流にあるテーマは「正常性バイアス」と「同調性バイアス」の払拭だっ!!!! 今は なんのことかさっぱりわかんないだろうけど、授業が進む位連れてわかってくるから、しっかりこの二者から自分を解放してほしい。
キーワード：人口動態、地球イベント、自然、逆転の発想、品格、etc
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。「怒られ上手は教わり上手」なんだ。みんな現今の少子化社会で、「大切に」されて成長してきた。そしてその分、生きる力が弱くなってしまった。だから職業共同体の中に入ると、「2の2法則」「3の3の法則」となってしまう…これは厚労省の統計だが、新卒者の離職率だ。2年で2割が退職し、3年でなんと三分の一が退職する…だから、どうか、どうかこの授業を、キミが強く生きる力を養う端緒にしてほしい。

事前・事後学習の内容：
事前・事後学習の内容事前学習は、特にこれを必要としない。
毎回の出席を心掛けてほしい。
事後学習に代えて、授業中に学んだことをキミのアタマで咀嚼して、キミの考え方や価値観を確立すること。それを基に毎回の「きょうのひとこと」を記入し送信すること。これが出席の代わりになるぞー。

授業計画フリー入力サイン：
1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

【第1回授業】ねえキミ、ホントにそれでいいの？―恐るべし情報化社会―（ガイダンスに代えて）

いよいよ始まるぞーっ!!
COVID-19でオンラインか対面か… 今年度後期は何とか対面授業ができそうだが、それもどうなることか…。キミたちにマジにいろんなことを自分のこととして考えて欲しい。だって考えてみろよ。COVID-19のダメージからようやくリカバーが始まると思った矢先、ウクライナ侵攻だもんな…。キミたちの卒業後のキャリアはどうなっちゃうんだろう、考えたことあるかよ？ましてアメリカでは共和党政権が返り咲きだもんな。これで世界のナショナリズムがさらに進みアメリカ、中国、ロシアの三竦み、にらみ合いで、世界を安定せしめる力が弱くなる…だからボクはキミと率直に語り合いたい。そのためにキミとの心の距離が少しでも近いところに居たい!! だからマジ、こんなノリで本音で率直にキミと語り合いたい。ついてきてくれよなっ!!

それと、ボクの授業履修経験が初めての人、下記（教科書欄）に紹介したエッセイ「シナモンロール…」を、出費することになって申しわけないけどさ、必ず入手して大事に持っていてくれよな。将来、キミが生きることに疲れた時（誰でも必ずそういう時ってくるものさ）、取り出してもう一度読んで欲しい。きっとどんな薬よりも効くからさっ。

あっ、それと忘れないでくれ。毎回授業の最後には「きょうのひとこと」をマジに書いてくれよな。出席の代わりだからな。これでキミの授業への思い入れ度を見なきゃなんないんだからさ。授業当日の授業開始時間から、翌週の授業前日の23:55まで入力できるぞ。必ず書いてくれい！

【第2回授業】キミは「ハダカの王様」だよ。失われた社会性を求めて1
きょうも楽しく付き合ってくれよな!!
ちょっと長くなったが、必ずこの下を全部読んでくれよな。
≪遊びに来いよ!!≫
なんかさー、オレめっちゃうれしいんだけど。前回の授業で「先生の家を公開されるとは思ってなかったです笑 近くに行く度に思い出しそうです」とか「東京都文京区小石川2に押し掛けたいと思います。」とか言ってくれたヤツがけっこういてさ。

オンラインじゃないときは、いつも授業の打ち上げパーティーなんかを我が家でやってるんだよね。希望者集合でね。多い時は30人くらい学生が集まるんだよね。これが大丈夫なんだよね。建物たてるときそれを考えて我が家のリビングとキッチンは40畳超え（おれんち、すごくねー）。この授業では、なによりキミの人間力を高めることが大切だ。まだ会ったことのないセンセイを訪ねて一人でやって来られるキミ、ボクはキミのことが大好きになりそうだ。だけどここ数年ひとつ憂慮していることがある。10年前は、この授業のクラスをまとめる求心力のあるヤツが必ず何人もいて、クラス全体でパーティーやりに集まってきた。しかしそのうち、集まる規模が「クラスでやる」「グループワーク（やる授業では、だが…）のメンバーの有志」で来訪することが多くなった。最近では「仲のいい仲間と数人」でというのが圧倒的だ。SNSで個人でしか動かなくなっているのか、ヒトの求心力が減退してきているんだろうか…
キミの人間力修行と何より「遊び」で我が家に遊びに来いよ。我が家はワセダから歩いて20分で来られるぞ。

≪絶対に忘れるなっ!! これから言うことを。≫
「怒られ上手は教わり上手」
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。だからくれぐれも言っておくぞ。「打たれ強くなれっ!!」。

≪今回のメインテーマ 今どきの大学生のキャリアプランニング について≫
「キャリアはケツから決めていけ」

キミたちは学窓を巣立つ時、どのような将来を決めるべきか。その判断根拠はいかなるものか。あまりにも不確定要素が多く、消極要素が多い、というか多すぎる。就職を決めるとき、ほとんどの学生は「今、どのような業態に興味があるか」とか「今、どのような業種が有望と思うか」という視点で決めてしまう。よくよく言っておくがそれではまず間違いなく近い将来に破綻する。なぜなら、不確定要素が多く、消極要素が多いだけでなく、それらが突然現れてくるからだ。Covid-19を思い出せ。わずか半年で人類の運命を一変させた。そういう意味では奴らは、今後我々が将来を考える際の「雄弁無比な反面教師」なのだ。大切なことは、キミの子どもの教育費が最も大変な負担となるとき、キミは社会でいきいきと活躍していられるかということだ。それには「今、なに興味があるか」ではなく、キミが定年を迎えるであろう70歳のころ、社会は、産業構造はどう変わっているかということを透徹した先見性で見据えていることだ。だからもう一度、よくよく言っておく、今を基準に発想して進路を決めるのではなく、「定年を迎えた時幸せであるために」という発想で「ケツ」から考えを起こせ。それには日本人が戦後ず一っと培ってきた因習的な価値観は勇気をもって捨てなければならないかもしれない。象徴的な話だが、おそらく30年後、最も有望な業種は農業や水産業であるかもしれない。 Covid-19禍で、今なお「早く以前に戻そう」と考える人が多いが、ソイツらも内心では気づいているんじゃないだろうか。「もう、以前には戻れない…」新しい価値観を受け入れていくしかないのかもしれなない。そしてキミ自身が新しい価値観を生み出していかなければならない。だって考えてみろよ。去年の卒業生は史上空前の「売り手市場」の好調な状況で就活した。今年はどうだよ。リーマンショックより深刻な状況に陥ってしまった。それも一瞬でね。この就活状況は少なからずキミたちに及ぶ。だからキミには強い人間力と逞しさが必要だ。脆弱な自信など捨ててしまえ。そして自分が所属する「属性」など頼るな。キミの二本の足で立てっ!! こんな視点で今日のコンテンツを見て考えてくれ。どうか目をそらさないで。キミが現実から逃避しても、現実は厳然と確実にキミに対峙してくるのだから。

【第3回授業】漂泊するワセダ、失われた社会性を求めて2
昨年の秋からこっち、しみじみ感じることがある。それは「キミたちはデスレース」をやっているということだ。みんな誕生というスタートラインに立って、「よーい、ドン」。きみたちのコースには至る所に地雷が隠れている。それを踏んだところでキミの人生レースは終わる。小学校時代に踏んで社会生活が終わる者、中学で終わる者、高校で終わる者… キミたちは運よく今現在早稲田でまだ生き延びている。でも部活、人間関係、授業、インターン、就活… 様々な形の地雷が、キミが踏むことを待っている。踏んだらそこで社会生活が終わる危険がある… この秋、それを踏んで(踏みかけて)痛手を負った学生をいったい何人面談したことか… 今年ほど学生のデスレースを感じたことはない。彼らに共通していえることは
① 完璧欲が強くすぐに結論を出そうとする。
② だから遠回りを潔しとしない。
③ 遠回りすらできないから「エスケープルート」を持っていないことだ。「だめだったら、こっちをやろう」というのが無い。それとは逆で「退路を断って」自分を追い詰めて精神を病んでいく…
そこで今回の授業でそれらを払しょくするきっかけを考えよう。それだからこそ、「シナモンロール…」を読んでもらったようなものだ。来週は「人生の遠回りを楽しんでいる」異色の先輩の実例が出てくるぞ。お楽しみに。

次に、「失われた社会性1」を思い返そう。 それにしても韓国で起こった「セウォル号事件」オレらも呆れたり、笑えないよな。メディアに異様に従順で、自ら考えようとしない。人と同じであることに異様にエネルギーを消費する…日本人もそっくりだよな。そして起こったことはすぐに忘れてしまう。東日本大震災でタワーマンションは危険だとわかっても、もう忘れてしまって次々林立しているし…

そのあとは、「失われた社会性2」だ。お楽しみに、でも生まれ変わるほどの覚悟を！これらの教訓を昇華して、キミの「生きるって…」を形作る努力を始めよう!!

【第4回授業ハーフタイム】「夢を捨てるなっ!!」遠回りのススメ。 IAT調査
きょうは、「前へ2」をやろう。前回の授業で「立ち止まる勇気」「遠回りする余裕」がどんなに大切か思い知ったと思う。もう一度言うが、ホワイトアウトの中で、不安にさいなまれて「早く山小屋へ着こう」と歩き回ると、行き着く先は「死」だ。これを「リングワンデリング」と言うんだ。雪洞を掘ってじっとしているヤツは助かる。それをゼッタイ忘れんなっ!! 結局人生でも同じことが言えるんだよな。思考のリングワンデリングが始まりそうなら立ち止まろう、遠回りしてみよう。

そこできょうは、まず「遠回り教教祖」の関秀隆センセイの話だ。今年3月でまた「埼玉県の学校」を辞職して(これが2回目)、世界一周の放浪の旅に出ている。彼のオーラに触れてみて欲しい。キミの心に何が響くかだ。

それと、IAT調査の結果については、メディアによる医学生理学的悪影響という形で、可能な限り次回以降の授業の中で説明していこうと思う。

【第5回授業】「働くってどういうこと？」
きょうは「働くってどういうこと??」をやろう。少しでも早く、「仕事をするということの原点座標」を身に着けて欲しいからね。 ところでさ、この授業の内容をしっかり身に着けて、激戦となるであろう就職戦線を乗り切ってくれ。前にも言ったと思うけど、例えば大手の「S不動産」、「都内のオフィスビル、200棟超」供給しているという「勢い」がウリだった。そこらじゅうで「S不動産」の看板や館銘板の入ったビルを見る。しかしcovid-19でテレワークや会社移転が始まると、このような業界は一瞬にしてリスク業界になってしまった。ほんの一瞬でここまで変わってしまう。GDPは一瞬にしてリーマンショック以前に落ちこんだ。リーマンショックから世界経済が回復するには3年以上かかった。おそらくこれからは、変な例えではあるが、キミが歩いているとして、自分の次の一歩が地面につく寸前に、足下に隠された地雷を見つけて瞬時に着地点を変える…そんなキャリア展開が必要になってくるということなんだろう。だけど、それって可能なんだろうか。
いずれにしても、キミがめでたく就職したとしても、これから言うことは忘れるな。「キミは消耗品だ。キミの替えなどいくらでもいる。」 expendables なんだよ。
例えば公務員の世界などでは「組織の活性化には異動が必要」ということがよく言われる。特に事務方には専門家は必要ないようだ。その仕事は新たに異動してきたヒトが誰でもできることが重要らしい。そのような職場風土でもキミは「やりがい」をみつけていかなければならない。そして「脱消耗品」を目指していかなければならない。そう

じゃなかったら、40年近い長い仕事人生は懲役40年で刑務作業をやっているのと同じだ。やりがいの無い、誰でもできることを、楽しくないのに我慢して40年間続ける…　これってめっちゃ恐ろしいことじゃん??　明治大学でボクの助手たちは殆どが理系の大学院生だ。彼らを見ていると時としてうらやましくなることがある。もう就職の段階から学部卒とは給与体系がちがう。文系で大学院を修了しても学部卒と同じ給与体系で、同じ仕事…、あげくの果てには「過学歴」とか言われて。
明治の助手たちの多くは専門職として企業でも研究開発部門への就職が多い。これはもちろん早稲田でも同じことが言えるが。そんな部門に就職すれば、脱消耗品の道は就職当初から見えやすい。
　だがこんなことも言える。ボクん家は土地活用の必要からビルを建てた。大手ハウスメーカーの鉄筋コンクリート建設部門がやった。わが家の設計を担当した建築士は、文字通り抜きんでたセンスとデザイン力を持っていた。我が家を竣工させて数年後にはその大手企業の建築士全員を束ねる「設計長」になった。ボクは祝福したが、内心は心配していた。そのことは彼自身も身に染みて感じていたようだ。「オカダさん、最近は自分で図面がひけないんです…」だってさ。つまり社内のすべて建築士を束ねる管理が彼の仕事で、自分が建築デザインすることができなくなるのさ。その大企業では「彼がデザインしてコンペに負けたことはない‼」くらい言われた大事な戦力が、第一線を去ることになったんだよ。このへんの詳細は、きょうのコンテンツをよく見て、理解してくれ。キミ、気が付いたか??　彼はこの段階で「余人を以て替え難い」人材から消耗品に編入されたんだよ。この４月から、彼はさらに出世して大阪本社でもっとエラくなっている。だが本人の気持ちは複雑なんだよ。

　最後になるが、参考までに…
オレ、ある時決めた。「好きなことだけやろう」って。オレにとって教壇に立って医事法学教えるのも、こーゆー科目教えるのも楽しい遊びだ。だから授業の前はいつもワクワクしてる。きょうどんなことがあるんだろうな、今日連中はどんな顔をして授業を受けに来るんだろうな、とかね。研究して論文を書くのも遊び。学会や市民団体で講演するのも遊び。メルセデスに乗るのもハーレーに乗るのも遊び。海に潜るのも遊び。楽しくないことはやらない主義者なのかも…　ずーっと昔、高校の教員をやっていた頃、「教師なんていうものは、10のうち9つらいことがあっても、1ついいことがあればやっていける」と自分に言い聞かせていた。だけどさ、「自分に言い聞かせる」って「本当はそうは思っていないこと」を、「強引にそう思い込ませようという心の営み」だったんだね。だって今、オレ、10のうち9.9以上は楽しいもん。あの時、高校の教師を辞めていなかったらと考えると、ぞーっとするぜ。
　キミもポストコロナで、以前には戻れない社会のなかで、ドラスティックな価値観の変革を行う勇気を持つ必要があるんじゃないかい?? どうか現実から逃げるなよ。

【第6回授業】「品格を磨く‼」それと「キミはハダカの王様だよ2」→メディアによる医学生理学的悪影響
　さあ、きょうの最初のトピックは、「品格を磨く」だ。
　なぜか我が家の周りには昔から、多分確信犯で学生や、元学生や、元学生で結婚して新居をかまえるために住み着いたヤツが結構な人数いるんだよね。ここのところ、元教え子の社会人の女の子2人が毎晩我が家にゴハン食べに来てて、おれんちのエンゲル係数どーなってんのよ、状態なんだよね。みんな我が家を集会所か何かと間違えてるみたいだ。そんな多くのヤツが言う、オカダ先生を「先生っ‼」って呼ぶときの「セ・ン・セ・イ」という音は敬称じゃなくて呼び名だ、と。さらにそれを掘り下げて言った元医学生の教え子の女医さんがいる。ヤツは「オカダ先生の『先生っ‼』は記号だ」と言いやがった…　それを言われて結構ウケて面白がってるオレって何なんだろう…

　その女医さん、実家がすごい。私大の医学部の学生に「アイツの家は財閥だ」と言われるほどの裕福な家の子だ。思い出せば、国試に合格した時父上のお祝いは「メルセデスベンツSLK」というスポーツカーだった。あまりスポーツカーっていうキャラじゃないんだけどね、本人は。父上の結婚祝いは、我が家のすぐそばのタワーマンションの部屋だった。我が家より高いところから我が家を見おろされているっていうのがちょっとねー。彼女も我が家の近くに住む確信犯の一人だ。
　オレ、彼女に言われてず一っと守っていることがあるんだよね。「先生がキーマカレーを作った時は必ずウチに届けてください」だってさ。今月はキーマ１回と超特製パウンドケーキを１回届けたよ、そう言えば…。オレってエラくないかー??
　だけどこの女医さん、やっぱすごいな、とよく感じる。例えばある日のオレたちの会話。「オーイ、オメー今、家にいる??」「ええ、居ますよ」と女医さん。「だったら、配達に行くからさー」「先生、ちょっとアタマボサボサで恥ずかしいから、（マンションの下まで行けないから）上まで上がってきてくださいね」と女医さん。「オレには恥ずかしくないんかよ…」と思ったりしているオレ。こうやって急におすそ分けに行っても、「先生、ちょっとこれ持って行ってください」って必ず手土産が出てくるんだよね。っということは、いつ誰が来てもいいように、常備してるっていうことだよな。これって親の躾け、あるいは帝王学??　だけど彼女見ているといつも感じる。品格を高めると運命を切り開けるってさ。

　そういうわけで、きょうは、ボクが「恐れて」「尊敬する」我が教え子の女医さん「親愛なるミチコセンセイ」に登場してもらおう。ミチコセンセイは1998年に東京医大に入学してきて、ボクの医事法学の授業の筆記試験で歴代最高得点タイを取った、そのまま翌年ボクの医事法学のゼミを取り、臨床研修先はボクが生まれた病院、臨床研修が終わったらなんと「早稲田大学大学院法務研究科」に入学、今は呼吸器内科の専門医と法律家をやってる。後期には早稲田大学教育学部で集中講義をやってるし、オレその講義に巻き込まれてるし（無理やり付き合いで教壇に立たされている）…気が付くと20年超のクサレ縁…
オレさー、ミチコセンセイを見てるとホント思う…　「人間の品格って運命を切り開けるんだよなあ」オレはモロに庶民の子で、文京区小石川2丁目というところは、坂の上が閑静な住宅街で、坂の下が小さな町工場が密集した地域だった。オレ今でも覚えているけど、坂の下の子だったオレは坂の上の子の「親たち」に結構差別された。だけどさー、もちろんオレもそうだけど、キミたちもそろそろ「自分で自分に投資して品格を磨こうぜ‼」　もう「親の育て方が云々」言いわけすんな‼　自分の人生切り開くために、品格を「自分の力」で磨こうぜ‼　だから自分で投資して自分の品格をたかめようぜい‼

【第7回授業　いよいよ最終回‼】いのちの授業「啓子さんのこと」、「ももちゃんのこと」
　きょうの本題、ボクの授業は、前にも言ったかもしれないが「命の授業」という前評判で学生たちに広まっているらしい。先輩たちがそう評したんだけどね。そこで最終回は、渾身のエネルギーを込めて「命の授業」をやります。ここまでの授業で「きょうのひとこと」等でキミの真摯なコトバを見た以上、オレはここで手を抜けない。きょうは、自分のプライベートに関する話だが、キミたちのことは120%信頼している、だから披歴する。まず対面で「啓子さんのこと」を聞いて欲しい。キーワードは「人っていいでしょ」だ。
授業は今日で終わるが、時間のある時、必ずコンテンツ動画「ももちゃんのこと」を見て、「もも地蔵プロジェクト本番」のファイルをダウンロードして読んでくれ。ここでのキーワードは「人生のエスケープルートを持とう！」だ。「エスケープルート」は「逃げ道」と表面的にとらえてよいイメージを持っていない人が多いかもしれない。しかし、きょうは「エスケープルート」を持つことは、人生を健康で幸せに生きるための、とてつもなく大切なソシアルスキルである

と積極的に評価しなおしてほしい。
　どうか、どうか「生きるって」「死とは」、答えをマジに考えてくれ。答えは多分出てこない、しかし答えの出ないことを考え続けることは、答えそのものよりも気高い。それは絶対に「よく生きること」につながる。

　キミたちに「理想の死に方」に言及してもらった。なぜ??　だって天国に旅立つ瞬間まで自分が満足のいく「イイ生き方」をすれば、その延長上にカッコイイ「理想の死に方」があるでしょ。「よく生きる」ということと「よく死ぬ」ということは二律背反することではなく、同一のことなんだ、って徐々にでもいいから気が付いてほしい。

言語区分:	0	日本語　　Japanese
教科書:	教科書「シナモンロールにハチミツをかけて―太平洋で最も偉大なダイバーとボクたち、そして幸せな死別の物語―」 銀の鈴社　刊　ISBN:978-4-87786-274-9 C0095 を必ず入手しておくこと。終講までに読了しておくこと。	
参考文献:	適宜授業中に頒布する。	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	0	筆記試験はこれを実施しない。
レポート:	50	上記サブテキストの感想文、および「キミの理想の死に方」に関するメッセージをこれに充てる。
平常点評価:	50	以下を以て平常点とする。 ①テーマへの積極性 ②出席時に記入する「きょうのひことこ」のインパクトファクター。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010006|03|9S12010006[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ソーシャルコミュニテラシーの基礎と実践 03		
担 当 教 員	岡田 昭夫		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ねえキミ、ホントにそれでいいの？（恐るべし…情報化社会） —そこで豊かに、キミらしく—

授業概要: ちょっとそこのキミ、このシラバスを読み始めたってことは、「もしかしたら履修してもいいかも・・」って考えているんだよね。だったら聞くけどさ、キミ、友達に電話するとき、その友達のケータイにかける？ 家電（いえでん）にかける？ そーだよね、ケータイにかけるでしょ。なぜ？？ 家電にかけて他の家族が出たら面倒だもんね。このフィーリングに共感できるキミ、ゼッタイこの授業をとったほうがいいよ。なぜって、考えてみろよ。キミが就職してどこかの会社に入ったとしよう。そして大事な取引先の会社に電話をして、キミの顧客であるAさんを呼び出してもらう。キミ、ちゃんと礼を失することなく敬語を使って、Aさんを呼び出してもらえるかい？無理っしょ！ ！

ところで明治十四年の政変で「我らが大隈重信先生」が下野するとき、福沢諭吉はその政情を観て「ポリティカルの時間は常に均一に流れるものではない」のだと感想を漏らしたという。

政治の時間は時として怒涛の如く流れることがあるのだと言いたかったのだろう。奇しくも我々は、それを政治ではなくメディアでそれを経験することのなってしまった。昨今のSNSの普及を考えてみろよ。わずか数年で怒涛の如く普及したスマートフォン、そこにマーケットを見出し群がるコマーシャリズム。それに乗った時代の寵児であるSNS。だけど冷静に考えてみてよ。「楽しい」、「便利」には代償が伴うことを、キミは忘れていないか？
一方で、キミがそれらにどっぷりと浸っている間に、キミは多くのものを失ってしまった。例えば人と対面で話す会話力や表情、語彙力、敬語力、社会性、責任感、現実感…枚挙に遑がない。

他方で、現今の就職状況は、人手不足を背景に売り手市場だと言われている。じゃあ聞くけどさ、キミの周囲にいる先輩は就活に苦労していないかい。ワセダという大学のおかれている状況を考えてみろよ。幸いにも最も評価の高い大学群に位置付けられている。そうであれば、それらの大学群の学生たちが目指す就職先には、この機会を生かすべくそれ以外の大学群からの出願者が殺到してくる。必然的に激戦の就活を避けられないわけさ！
そのような激戦の中で、SNSに象徴されるメディアにどっぷり浸かり、多くの資質を育てることなくむしろ失ってしまったキミが善戦できるのかい？ これまた無理っしょ。結構長くなったけど、ここまでシラバスを読んでくれたキミは、少しは実感できたんじゃないかい？ 今のキミが置かれている状況のヤバさを。それに気が付いたキミは、失ったものを取り戻し、育てなかったものをこれから育てることができるさ。多くの人間たちが失ったことに気づいてさえいない「それ」をね。そのための端緒を与えるのがこの授業だと思ってほしい。

その意味では「メディアや情報スキルから理想的な距離をおくことを学ぶ」と言っても過言ではないかもしれない。友達の家電（いえでん）に電話するのが億劫なキミ、留守電にメッセージを残せないキミ、対面で人と話をするのが苦手なキミ、敬語経つかえないキミ、理解してもらえたかな。キミとはこの授業で是非会いたいよ！

このような状況下で更に深刻な影を投げかけたのがCovid-19だ。経済界が激変してしまったのだ。それが始まる前「花形業種」を考えられた業種が、「あっ」と言う間にヤバイ業種になった。2020年3月、そのような業界に希望を持って学窓を巣立っていった連中をオレたちは「おめでとう！」と言って送り出した。その彼らのアタマに「転職」という文字が去来するまでは、文字通り「あっ」と言う間だった。その時のオレたちの気持ちがわかるかい?? もうこんな気持ちはこりごりだ。だからしっかりポストコロナの社会の変化をしっかり分析していこう。その手伝いもこの授業がやっていく。

この授業では、メディアや情報スキルを駆使する者の人間力の涵養に主眼を置きたい。まずメディア蔓延社会でキミが失ったもの、育てられなかったものを特定しよう。そしてSNSに代表されるメディア社会の特質を理解し、それの罠にはまらない生き方を模索する。そして、情報分析や情報判断の基礎力を涵養し、今後の社会の変容を予測しよう。なぜなら、そこでキミたちは社会人として活躍していかなければならない。くれぐれも言っておくが、これからキミたちに到来する社会は、予測と準備の努力を怠った人間は到底生き抜けないハードなものだ。そこを自由自在に泳ぎ切るためのキャリア・ビルディングのヒントをこの授業でつかんで欲しい。

キミ、よかったね、最後までこのシラバスを読んで。あとは授業で会うだけさっ！ そこで最後にお願いがある。この授業に履修エントリーして選外で涙を呑んでいる学生が非常に多くいるんだよね。中には4年間ずっとエントリー続けたけど、ずっとダメだった… 「だからどうかもぐらせてください！」と言ってきた学生さえいるんだよね。だから履修できるようになったキミ、どうか選外になったヤツのためにも授業には必ず出席してほしい。頼んだよ！

授業の到達目標: いよいよ始まるぞーっ。
今シーズンも「メディア」「インターネット」「情報化社会」という3つと、キミの関わりについて取り上げて行こうと思う。
この授業でボクはキミにアカデミズムを体験してもらおうとは思わない。強いて言えば「自分の心の水面にたった波を鎮める」ための「哲学」をしてほしい。どうか毎回のトピックをキミ自身のことと感じて、考えて欲しい。恐らく結論にはたどり着かないであろう。しかし答えを得るより、答えを得ようと考え続けることの方が、大切でかつ楽しいことだと、きっと気づいてくれるだろう。さあ、今日から、キミの心の「内なる宇宙」に一緒に船出しようぜい!!

この授業で大切なことは、「めっちゃ楽しむこと」と「しっかり考えること」だ。しっかり考えたあとはキミの人生をめっちゃ楽しめ。スイッチを切り替えてこのふたつをしっかりやること。キミにできるか、だいじょーぶかよ??
ソクラテスが模索した「よく生きること」「自分の生を限りなく良いものにしていくこと」、これを楽しく、マジに考えていこうぜ!!

では少し授業っぽく、目標を書くぞ。
①SNSに代表されるメディア社会で、それに依存することなく、理想的な距離を置ける使い手になること。
②上記社会の中で、失ってしまった社会性、危機に瀕している健康状態等について理解し、改善ないし維持向上の端緒をつかむこと。
③就活をはじめ将来に向けたキャリアプラン・ライフプランを的確に策定できる知識と能力を身につけること。
④今年、一貫して底流にあるテーマは「正常性バイアス」と「同調性バイアス」の払拭だっ!!!! 今は なんのことかさっぱりわかんないだろうけど、授業が進む位連れてわかってくるから、しっかりこの二者から自分を解放してほしい。
キーワード：人口動態、地球イベント、自然、逆転の発想、品格、etc
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。「怒られ上手は教わり上手」なんだ。みんな現今の少子化社会で、「大切に」されて成長してきた。そしてその分、生きる力が弱くなってしまった。だから職業共同体の中に入ると、「2の2法則」「3の3の法則」となってしまう…これは厚労省の統計だが、新卒者の離職率だ。2年で2割が退職し、3年でなんと三分の一が退職する…だから、どうか、どうかこの授業を、キミが強く生きる力を養う端緒にしてほしい。

事前・事後学習の内容：
事前・事後学習の内容事前学習は、特にこれを必要としない。
毎回の出席を心掛けてほしい。
事後学習に代えて、授業中に学んだことをキミのアタマで咀嚼して、キミの考え方や価値観を確立すること。それを基に毎回の「きょうのひとこと」を記入し送信すること。これが出席の代わりになるぞー。

授業計画フリー入力サイン：
1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

【第1回授業】ねえキミ、ホントにそれでいいの？―恐るべし情報化社会―（ガイダンスに代えて）

いよいよ始まるぞーっ!!
COVID-19でオンラインか対面か… 今年度後期は何とか対面授業ができそうだが、それもどうなることか…。キミたちにマジにいろんなことを自分のこととして考えて欲しい。だって考えてみろよ。COVID-19のダメージからようやくリカバーが始まると思った矢先、ウクライナ侵攻だもんな…。キミたちの卒業後のキャリアはどうなっちゃうんだろう、考えたことあるかよ？ましてアメリカでは共和党政権が返り咲きだもんな。これで世界のナショナリズムがさらに進みアメリカ、中国、ロシアの三竦み、にらみ合いで、世界を安定せしめる力が弱くなる…だからボクはキミと率直に語り合いたい。そのためにキミとの心の距離が少しでも近いところに居たい!! だからマジ、こんなノリで本音で率直にキミと語り合いたい。ついてきてくれよなっ!!

それと、ボクの授業履修経験が初めての人、下記（教科書欄）に紹介したエッセイ「シナモンロール…」を、出費することになって申しわけないけどさ、必ず入手して大事に持っていてくれよな。将来、キミが生きることに疲れた時（誰でも必ずそういう時ってくるものさ）、取り出してもう一度読んで欲しい。きっとどんな薬よりも効くからさっ。

あっ、それと忘れないでくれ。毎回授業の最後には「きょうのひとこと」をマジに書いてくれよな。出席の代わりだからな。これでキミの授業への思い入れ度を見なきゃなんないんだからさ。授業当日の授業開始時間から、翌週の授業前日の23:55まで入力できるぞ。必ず書いてくれい！

【第2回授業】キミは「ハダカの王様」だよ。失われた社会性を求めて1
きょうも楽しく付き合ってくれよな!!
ちょっと長くなったが、必ずこの下を全部読んでくれよな。
≪遊びに来いよ!!≫
なんかさー、オレめっちゃうれしいんだけど。前回の授業で「先生の家を公開されるとは思ってなかったです笑 近くに行く度に思い出しそうです」とか「東京都文京区小石川2に押し掛けたいと思います。」とか言ってくれたヤツがけっこういてさ。

オンラインじゃないときは、いつも授業の打ち上げパーティーなんかを我が家でやってるんだよね。希望者集合でね。多い時は30人くらい学生が集まるんだよね。これが大丈夫なんだよね。建物たてるときそれを考えて我が家のリビングとキッチンは40畳超え（おれんち、すごくねー）。この授業では、なによりキミの人間力を高めることが大切だ。まだ会ったことのないセンセイを訪ねて一人でやって来られるキミ、ボクはキミのことが大好きになりそうだ。だけどここ数年ひとつ憂慮していることがある。10年前は、この授業のクラスをまとめる求心力のあるヤツが必ず何人もいて、クラス全体でパーティーやりに集まってきた。しかしそのうち、集まる規模が「クラスでやる」「グループワーク（やる授業では、だが…）のメンバーの有志」で来訪することが多くなった。最近では「仲のいい仲間と数人」でというのが圧倒的だ。SNSで個人でしか動かなくなっているのか、ヒトの求心力が減退してきているんだろうか…
キミの人間力修行と何より「遊び」で我が家に遊びに来いよ。我が家はワセダから歩いて20分で来られるぞ。

≪絶対に忘れるなっ!! これから言うことを。≫
「怒られ上手は教わり上手」
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。だからくれぐれも言っておくぞ。「打たれ強くなれっ!!」。

≪今回のメインテーマ 今どきの大学生のキャリアプランニング について≫
「キャリアはケツから決めていけ」

キミたちは学窓を巣立つ時、どのような将来を決めるべきか。その判断根拠はいかなるものか。あまりにも不確定要素が多く、消極要素が多い、というか多すぎる。就職を決めるとき、ほとんどの学生は「今、どのような業態に興味があるか」とか「今、どのような業種が有望と思うか」という視点で決めてしまう。よくよく言っておくがそれではまず間違いなく近い将来に破綻する。なぜなら、不確定要素が多く、消極要素が多いだけでなく、それらが突然現れてくるからだ。Covid-19を思い出せ。わずか半年で人類の運命を一変させた。そういう意味では奴らは、今後我々が将来を考える際の「雄弁無比な反面教師」なのだ。大切なことは、キミの子どもの教育費が最も大変な負担となるとき、キミは社会でいきいきと活躍していられるかということだ。それには「今、なに興味があるか」ではなく、キミが定年を迎えるであろう70歳のころ、社会は、産業構造はどう変わっているかということを透徹した先見性で見据えていることだ。だからもう一度、よくよく言っておく、今を基準に発想して進路を決めるのではなく、「定年を迎えた時幸せであるために」という発想で「ケツ」から考えを起こせ。それには日本人が戦後ず一っと培ってきた因習的な価値観は勇気をもって捨てなければならないかもしれない。象徴的な話だが、おそらく30年後、最も有望な業種は農業や水産業であるかもしれない。 Covid-19禍で、今なお「早く以前に戻そう」と考える人が多いが、ソイツらも内心では気づいているんじゃないだろうか。「もう、以前には戻れない…」新しい価値観を受け入れていくしかないのかもしれなない。そしてキミ自身が新しい価値観を生み出していかなければならない。だって考えてみろよ。去年の卒業生は史上空前の「売り手市場」の好調な状況で就活した。今年はどうだよ。リーマンショックより深刻な状況に陥ってしまった。それも一瞬でね。この就活状況は少なからずキミたちに及ぶ。だからキミには強い人間力と逞しさが必要だ。脆弱な自信など捨ててしまえ。そして自分が所属する「属性」など頼るな。キミの二本の足で立てっ!! こんな視点で今日のコンテンツを見て考えてくれ。どうか目をそらさないで。キミが現実から逃避しても、現実は厳然と確実にキミに対峙してくるのだから。

【第3回授業】漂泊するワセダ、失われた社会性を求めて2
昨年の秋からこっち、しみじみ感じることがある。それは「キミたちはデスレース」をやっているということだ。みんな誕生というスタートラインに立って、「よーい、ドン」。きみたちのコースには至る所に地雷が隠れている。それを踏んだところでキミの人生レースは終わる。小学校時代に踏んで社会生活が終わる者、中学で終わる者、高校で終わる者… キミたちは運よく今現在早稲田でまだ生き延びている。でも部活、人間関係、授業、インターン、就活… 様々な形の地雷が、キミが踏むことを待っている。踏んだらそこで社会生活が終わる危険がある… この秋、それを踏んで(踏みかけて)痛手を負った学生をいったい何人面談したことか… 今年ほど学生のデスレースを感じたことはない。彼らに共通していえることは
① 完璧欲が強くすぐに結論を出そうとする。
② だから遠回りを潔しとしない。
③ 遠回りすらできないから「エスケープルート」を持っていないことだ。「だめだったら、こっちをやろう」というのが無い。それとは逆で「退路を断って」自分を追い詰めて精神を病んでいく…
そこで今回の授業でそれらを払しょくするきっかけを考えよう。それだからこそ、「シナモンロール…」を読んでもらったようなものだ。来週は「人生の遠回りを楽しんでいる」異色の先輩の実例が出てくるぞ。お楽しみに。

次に、「失われた社会性1」を思い返そう。 それにしても韓国で起こった「セウォル号事件」オレらも呆れたり、笑えないよな。メディアに異様に従順で、自ら考えようとしない。人と同じであることに異様にエネルギーを消費する…日本人もそっくりだよな。そして起こったことはすぐに忘れてしまう。東日本大震災でタワーマンションは危険だとわかっても、もう忘れてしまって次々林立しているし…

そのあとは、「失われた社会性2」だ。お楽しみに、でも生まれ変わるほどの覚悟を！これらの教訓を昇華して、キミの「生きるって…」を形作る努力を始めよう!!

【第4回授業ハーフタイム】「夢を捨てるなっ!!」遠回りのススメ。 IAT調査
きょうは、「前へ2」をやろう。前回の授業で「立ち止まる勇気」「遠回りする余裕」がどんなに大切か思い知ったと思う。もう一度言うが、ホワイトアウトの中で、不安にさいなまれて「早く山小屋へ着こう」と歩き回ると、行き着く先は「死」だ。これを「リングワンデリング」と言うんだ。雪洞を掘ってじっとしているヤツは助かる。それをゼッタイ忘れんなっ!! 結局人生でも同じことが言えるんだよな。思考のリングワンデリングが始まりそうなら立ち止まろう、遠回りしてみよう。

そこできょうは、まず「遠回り教教祖」の関秀隆センセイの話だ。今年3月でまた「埼玉県の学校」を辞職して(これが2回目)、世界一周の放浪の旅に出ている。彼のオーラに触れてみて欲しい。キミの心に何が響くかだ。

それと、IAT調査の結果については、メディアによる医学生理学的悪影響という形で、可能な限り次回以降の授業の中で説明していこうと思う。

【第5回授業】「働くってどういうこと？」
きょうは「働くってどういうこと??」をやろう。少しでも早く、「仕事をするということの原点座標」を身に着けて欲しいからね。 ところでさ、この授業の内容をしっかり身に着けて、激戦となるであろう就職戦線を乗り切ってくれ。前にも言ったと思うけど、例えば大手の「S不動産」、「都内のオフィスビル、200棟超」供給しているという「勢い」がウリだった。そこらじゅうで「S不動産」の看板や館銘板の入ったビルを見る。しかしcovid-19でテレワークや会社移転が始まると、このような業界は一瞬にしてリスク業界になってしまった。ほんの一瞬でここまで変わってしまう。GDPは一瞬にしてリーマンショック以前に落ちこんだ。リーマンショックから世界経済が回復するには3年以上かかった。おそらくこれからは、変な例えではあるが、キミが歩いているとして、自分の次の一歩が地面につく寸前に、足下に隠された地雷を見つけて瞬時に着地点を変える…そんなキャリア展開が必要になってくるということなんだろう。だけど、それって可能なんだろうか。
いずれにしても、キミがめでたく就職したとしても、これから言うことは忘れるな。「キミは消耗品だ。キミの替えなどいくらでもいる。」 expendables なんだよ。
例えば公務員の世界などでは「組織の活性化には異動が必要」ということがよく言われる。特に事務方には専門家は必要ないようだ。その仕事は新たに異動してきたヒトが誰でもできることが重要らしい。そのような職場風土でもキミは「やりがい」をみつけていかなければならない。そして「脱消耗品」を目指していかなければならない。そう

じゃなかったら、40年近い長い仕事人生は懲役40年で刑務作業をやっているのと同じだ。やりがいの無い、誰でもできることを、楽しくないのに我慢して40年間続ける…　これってめっちゃ恐ろしいことじゃん??　明治大学でボクの助手たちは殆どが理系の大学院生だ。彼らを見ていると時としてうらやましくなることがある。もう就職の段階から学部卒とは給与体系がちがう。文系で大学院を修了しても学部卒と同じ給与体系で、同じ仕事…、あげくの果てには「過学歴」とか言われて。
明治の助手たちの多くは専門職として企業でも研究開発部門への就職が多い。これはもちろん早稲田でも同じことが言えるが。そんな部門に就職すれば、脱消耗品の道は就職当初から見えやすい。
　だがこんなことも言える。ボクん家は土地活用の必要からビルを建てた。大手ハウスメーカーの鉄筋コンクリート建設部門がやった。わが家の設計を担当した建築士は、文字通り抜きんでたセンスとデザイン力を持っていた。我が家を竣工させて数年後にはその大手企業の建築士全員を束ねる「設計長」になった。ボクは祝福したが、内心は心配していた。そのことは彼自身も身に染みて感じていたようだ。「オカダさん、最近は自分で図面がひけないんです…」だってさ。つまり社内のすべて建築士を束ねる管理が彼の仕事で、自分が建築デザインすることができなくなるのさ。その大企業では「彼がデザインしてコンペに負けたことはない‼」くらい言われた大事な戦力が、第一線を去ることになったんだよ。このへんの詳細は、きょうのコンテンツをよく見て、理解してくれ。キミ、気が付いたか??　彼はこの段階で「余人を以て替え難い」人材から消耗品に編入されたんだよ。この４月から、彼はさらに出世して大阪本社でもっとエラくなっている。だが本人の気持ちは複雑なんだよ。

　最後になるが、参考までに…
オレ、ある時決めた。「好きなことだけやろう」って。オレにとって教壇に立って医事法学教えるのも、こーゆー科目教えるのも楽しい遊びだ。だから授業の前はいつもワクワクしてる。きょうどんなことがあるんだろうな、今日連中はどんな顔をして授業を受けに来るんだろうな、とかね。研究して論文を書くのも遊び。学会や市民団体で講演するのも遊び。メルセデスに乗るのもハーレーに乗るのも遊び。海に潜るのも遊び。楽しくないことはやらない主義者なのかも…　ずーっと昔、高校の教員をやっていた頃、「教師なんていうものは、10のうち9つらいことがあっても、1つ いいことがあればやっていける」と自分に言い聞かせていた。だけどさ、「自分に言い聞かせる」って「本当はそうは思っていないこと」を、「強引にそう思い込ませようという心の営み」だったんだね。だって今、オレ、10のうち9.9以上は楽しいもん。あの時、高校の教師を辞めていなかったらと考えると、ぞーっとするぜ。
　キミもポストコロナで、以前には戻れない社会のなかで、ドラスティックな価値観の変革を行う勇気を持つ必要があるんじゃないかい?? どうか現実から逃げるなよ。

【第6回授業】「品格を磨く‼」それと「キミはハダカの王様だよ2」→メディアによる医学生理学的悪影響
　さあ、きょうの最初のトピックは、「品格を磨く」だ。
　なぜか我が家の周りには昔から、多分確信犯で学生や、元学生や、元学生で結婚して新居をかまえるために住み着いたヤツが結構な人数いるんだよね。ここのところ、元教え子の社会人の女の子2人が毎晩我が家にゴハン食べに来てて、おれんちのエンゲル係数どーなってんのよ、状態なんだよね。みんな我が家を集会所か何かと間違えてるみたいだ。そんな多くのヤツが言う、オカダ先生を「先生っ‼」って呼ぶときの「セ・ン・セ・イ」という音は敬称じゃなくて呼び名だ、と。さらにそれを掘り下げて言った元医学生の教え子の女医さんがいる。ヤツは「オカダ先生の『先生っ‼』は記号だ」と言いやがった…　それを言われて結構ウケて面白がってるオレって何なんだろう…

　その女医さん、実家がすごい。私大の医学部の学生に「アイツの家は財閥だ」と言われるほどの裕福な家の子だ。思い出せば、国試に合格した時父上のお祝いは「メルセデスベンツSLK」というスポーツカーだった。あまりスポーツカーっていうキャラじゃないんだけどね、本人は。父上の結婚祝いは、我が家のすぐそばのタワーマンションの部屋だった。我が家より高いところから我が家を見おろされているっていうのがちょっとねー。彼女も我が家の近くに住む確信犯の一人だ。
　オレ、彼女に言われてず一っと守っていることがあるんだよね。「先生がキーマカレーを作った時は必ずウチに届けてください」だってさ。今月はキーマ１回と超特製パウンドケーキを１回届けたよ、そう言えば…。オレってエラくないかー??
　だけどこの女医さん、やっぱすごいな、とよく感じる。例えばある日のオレたちの会話。「オーイ、オメー今、家にいる??」「ええ、居ますよ」と女医さん。「だったら、配達に行くからさー」「先生、ちょっとアタマボサボサで恥ずかしいから、（マンションの下まで行けないから）上まで上がってきてくださいね」と女医さん。「オレには恥ずかしくないんかよ…」と思ったりしているオレ。こうやって急におすそ分けに行っても、「先生、ちょっとこれ持って行ってください」って必ず手土産が出てくるんだよね。っということは、いつ誰が来てもいいように、常備してるっていうことだよな。これって親の躾け、あるいは帝王学??　だけど彼女見ているといつも感じる。品格を高めると運命を切り開けるってさ。

　そういうわけで、きょうは、ボクが「恐れて」「尊敬する」我が教え子の女医さん「親愛なるミチコセンセイ」に登場してもらおう。ミチコセンセイは1998年に東京医大に入学してきて、ボクの医事法学の授業の筆記試験で歴代最高得点タイを取った、そのまま翌年ボクの医事法学のゼミを取り、臨床研修先はボクが生まれた病院、臨床研修が終わったらなんと「早稲田大学大学院法務研究科」に入学、今は呼吸器内科の専門医と法律家をやってる。後期には早稲田大学教育学部で集中講義をやってるし、オレその講義に巻き込まれてるし（無理やり付き合いで教壇に立たされている）…気が付くと20年超のクサレ縁…
オレさー、ミチコセンセイを見てるとホント思う…「人間の品格って運命を切り開けるんだよなあ」オレはモロに庶民の子で、文京区小石川2丁目というところは、坂の上が閑静な住宅街で、坂の下が小さな町工場が密集した地域だった。オレ今でも覚えているけど、坂の下の子だったオレは坂の上の子の「親たち」に結構差別された。だけどさー、もちろんオレもそうだけど、キミたちもそろそろ「自分で自分に投資して品格を磨こうぜ‼」　もう「親の育て方が云々」言いわけすんな‼　自分の人生切り開くために、品格を「自分の力」で磨こうぜ‼　だから自分で投資して自分の品格をたかめようぜい‼

【第7回授業　いよいよ最終回‼】いのちの授業「啓子さんのこと」、「ももちゃんのこと」
　きょうの本題、ボクの授業は、前にも言ったかもしれないが「命の授業」という前評判で学生たちに広まっているらしい。先輩たちがそう評したんだけどね。そこで最終回は、渾身のエネルギーを込めて「命の授業」をやります。ここまでの授業で「きょうのひとこと」等でキミの真摯なコトバを見た以上、オレはここで手を抜けない。きょうは、自分のプライベートに関する話だが、キミたちのことは120%信頼している、だから披歴する。まず対面で「啓子さんのこと」を聞いて欲しい。キーワードは「人っていいでしょ」だ。
授業は今日で終わるが、時間のある時、必ずコンテンツ動画「ももちゃんのこと」を見て、「もも地蔵プロジェクト本番」のファイルをダウンロードして読んでくれ。ここでのキーワードは「人生のエスケープルートを持とう！」だ。「エスケープルート」は「逃げ道」と表面的にとらえてよいイメージを持っていない人が多いかもしれない。しかし、きょうは「エスケープルート」を持つことは、人生を健康で幸せに生きるための、とてつもなく大切なソシアルスキルである

と積極的に評価しなおしてほしい。
　どうか、どうか「生きるって」「死とは」、答えをマジに考えてくれ。答えは多分出てこない、しかし答えの出ないことを考え続けることは、答えそのものよりも気高い。それは絶対に「よく生きること」につながる。

　キミたちに「理想の死に方」に言及してもらった。なぜ??　だって天国に旅立つ瞬間まで自分が満足のいく「イイ生き方」をすれば、その延長上にカッコイイ「理想の死に方」があるでしょ。「よく生きる」ということと「よく死ぬ」ということは二律背反することではなく、同一のことなんだ、って徐々にでもいいから気が付いてほしい。

言語区分:	0	日本語　　Japanese
教科書:	教科書「シナモンロールにハチミツをかけて―太平洋で最も偉大なダイバーとボクたち、そして幸せな死別の物語―」 銀の鈴社　刊　ISBN:978-4-87786-274-9 C0095 を必ず入手しておくこと。終講までに読了しておくこと。	
参考文献:	適宜授業中に頒布する。	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	0	筆記試験はこれを実施しない。
レポート:	50	上記サブテキストの感想文、および「キミの理想の死に方」に関するメッセージをこれに充てる。
平常点評価:	50	以下を以て平常点とする。 ①テーマへの積極性 ②出席時に記入する「きょうのひことこ」のインパクトファクター。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010006|04|9S12010006[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ソーシャルコミュニテラシーの基礎と実践 04		
担 当 教 員	岡田 昭夫		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ねえキミ、ホントにそれでいいの？（恐るべし…情報化社会） —そこで豊かに、キミらしく—

授業概要: ちょっとそこのキミ、このシラバスを読み始めたってことは、「もしかしたら履修してもいいかも・・」って考えているんだよね。だったら聞くけどさ、キミ、友達に電話するとき、その友達のケータイにかける？ 家電（いえでん）にかける？ そーだよね、ケータイにかけるでしょ。なぜ？？ 家電にかけて他の家族が出たら面倒だもんね。このフィーリングに共感できるキミ、ゼッタイこの授業をとったほうがいいよ。なぜって、考えてみろよ。キミが就職してどこかの会社に入ったとしよう。そして大事な取引先の会社に電話をして、キミの顧客であるAさんを呼び出してもらう。キミ、ちゃんと礼を失することなく敬語を使って、Aさんを呼び出してもらえるかい？無理っしょ！ ！

ところで明治十四年の政変で「我らが大隈重信先生」が下野するとき、福沢諭吉はその政情を観て「ポリティカルの時間は常に均一に流れるものではない」のだと感想を漏らしたという。

政治の時間は時として怒涛の如く流れることがあるのだと言いたかったのだろう。奇しくも我々は、それを政治ではなくメディアでそれを経験することのなってしまった。昨今のSNSの普及を考えてみろよ。わずか数年で怒涛の如く普及したスマートフォン、そこにマーケットを見出し群がるコマーシャリズム。それに乗った時代の寵児であるSNS。だけど冷静に考えてみてよ。「楽しい」、「便利」には代償が伴うことを、キミは忘れていないか？
一方で、キミがそれらにどっぷりと浸っている間に、キミは多くのものを失ってしまった。例えば人と対面で話す会話力や表情、語彙力、敬語力、社会性、責任感、現実感…枚挙に遑がない。

他方で、現今の就職状況は、人手不足を背景に売り手市場だと言われている。じゃあ聞くけどさ、キミの周囲にいる先輩は就活に苦労していないかい。ワセダという大学のおかれている状況を考えてみろよ。幸いにも最も評価の高い大学群に位置付けられている。そうであれば、それらの大学群の学生たちが目指す就職先には、この機会を生かすべくそれ以外の大学群からの出願者が殺到してくる。必然的に激戦の就活を避けられないわけさ！
そのような激戦の中で、SNSに象徴されるメディアにどっぷり浸かり、多くの資質を育てることなくむしろ失ってしまったキミが善戦できるのかい？ これまた無理っしょ。結構長くなったけど、ここまでシラバスを読んでくれたキミは、少しは実感できたんじゃないかい？ 今のキミが置かれている状況のヤバさを。それに気が付いたキミは、失ったものを取り戻し、育てなかったものをこれから育てることができるさ。多くの人間たちが失ったことに気づいてさえいない「それ」をね。そのための端緒を与えるのがこの授業だと思ってほしい。

その意味では「メディアや情報スキルから理想的な距離をおくことを学ぶ」と言っても過言ではないかもしれない。友達の家電（いえでん）に電話するのが億劫なキミ、留守電にメッセージを残せないキミ、対面で人と話をするのが苦手なキミ、敬語経つかえないキミ、理解してもらえたかな。キミとはこの授業で是非会いたいよ！

このような状況下で更に深刻な影を投げかけたのがCovid-19だ。経済界が激変してしまったのだ。それが始まる前「花形業種」を考えられた業種が、「あっ」と言う間にヤバイ業種になった。2020年3月、そのような業界に希望を持って学窓を巣立っていった連中をオレたちは「おめでとう！」と言って送り出した。その彼らのアタマに「転職」という文字が去来するまでは、文字通り「あっ」と言う間だった。その時のオレたちの気持ちがわかるかい?? もうこんな気持ちはこりごりだ。だからしっかりポストコロナの社会の変化をしっかり分析していこう。その手伝いもこの授業がやっていく。

この授業では、メディアや情報スキルを駆使する者の人間力の涵養に主眼を置きたい。まずメディア蔓延社会でキミが失ったもの、育てられなかったものを特定しよう。そしてSNSに代表されるメディア社会の特質を理解し、それの罠にはまらない生き方を模索する。そして、情報分析や情報判断の基礎力を涵養し、今後の社会の変容を予測しよう。なぜなら、そこでキミたちは社会人として活躍していかなければならない。くれぐれも言っておくが、これからキミたちに到来する社会は、予測と準備の努力を怠った人間は到底生き抜けないハードなものだ。そこを自由自在に泳ぎ切るためのキャリア・ビルディングのヒントをこの授業でつかんで欲しい。

キミ、よかったね、最後までこのシラバスを読んで。あとは授業で会うだけさっ！ そこで最後にお願いがある。この授業に履修エントリーして選外で涙を呑んでいる学生が非常に多くいるんだよね。中には4年間ずっとエントリー続けたけど、ずっとダメだった… 「だからどうかもぐらせてください！」と言ってきた学生さえいるんだよね。だから履修できるようになったキミ、どうか選外になったヤツのためにも授業には必ず出席してほしい。頼んだよ！

授業の到達目標: いよいよ始まるぞーっ。
今シーズンも「メディア」「インターネット」「情報化社会」という3つと、キミの関わりについて取り上げて行こうと思う。
この授業でボクはキミにアカデミズムを体験してもらおうとは思わない。強いて言えば「自分の心の水面にたった波を鎮める」ための「哲学」をしてほしい。どうか毎回のトピックをキミ自身のことと感じて、考えて欲しい。恐らく結論にはたどり着かないであろう。しかし答えを得るより、答えを得ようと考え続けることの方が、大切でかつ楽しいことだと、きっと気づいてくれるだろう。さあ、今日から、キミの心の「内なる宇宙」に一緒に船出しようぜい!!

この授業で大切なことは、「めっちゃ楽しむこと」と「しっかり考えること」だ。しっかり考えたあとはキミの人生をめっちゃ楽しめ。スイッチを切り替えてこのふたつをしっかりやること。キミにできるか、だいじょーぶかよ??
ソクラテスが模索した「よく生きること」「自分の生を限りなく良いものにしていくこと」、これを楽しく、マジに考えていこうぜ!!

では少し授業っぽく、目標を書くぞ。
①SNSに代表されるメディア社会で、それに依存することなく、理想的な距離を置ける使い手になること。
②上記社会の中で、失ってしまった社会性、危機に瀕している健康状態等について理解し、改善ないし維持向上の端緒をつかむこと。
③就活をはじめ将来に向けたキャリアプラン・ライフプランを的確に策定できる知識と能力を身につけること。
④今年、一貫して底流にあるテーマは「正常性バイアス」と「同調性バイアス」の払拭だっ!!!! 今は なんのことかさっぱりわかんないだろうけど、授業が進む位連れてわかってくるから、しっかりこの二者から自分を解放してほしい。
キーワード：人口動態、地球イベント、自然、逆転の発想、品格、etc
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。「怒られ上手は教わり上手」なんだ。みんな現今の少子化社会で、「大切に」されて成長してきた。そしてその分、生きる力が弱くなってしまった。だから職業共同体の中に入ると、「2の2法則」「3の3の法則」となってしまう…これは厚労省の統計だが、新卒者の離職率だ。2年で2割が退職し、3年でなんと三分の一が退職する…だから、どうか、どうかこの授業を、キミが強く生きる力を養う端緒にしてほしい。

事前・事後学習の内容：
事前・事後学習の内容事前学習は、特にこれを必要としない。
毎回の出席を心掛けてほしい。
事後学習に代えて、授業中に学んだことをキミのアタマで咀嚼して、キミの考え方や価値観を確立すること。それを基に毎回の「きょうのひとこと」を記入し送信すること。これが出席の代わりになるぞー。

授業計画フリー入力サイン：
1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

【第1回授業】ねえキミ、ホントにそれでいいの？―恐るべし情報化社会―（ガイダンスに代えて）

いよいよ始まるぞーっ!!
COVID-19でオンラインか対面か… 今年度後期は何とか対面授業ができそうだが、それもどうなることか…。キミたちにマジにいろんなことを自分のこととして考えて欲しい。だって考えてみろよ。COVID-19のダメージからようやくリカバーが始まると思った矢先、ウクライナ侵攻だもんな…。キミたちの卒業後のキャリアはどうなっちゃうんだろう、考えたことあるかよ？ましてアメリカでは共和党政権が返り咲きだもんな。これで世界のナショナリズムがさらに進みアメリカ、中国、ロシアの三竦み、にらみ合いで、世界を安定せしめる力が弱くなる…だからボクはキミと率直に語り合いたい。そのためにキミとの心の距離が少しでも近いところに居たい!! だからマジ、こんなノリで本音で率直にキミと語り合いたい。ついてきてくれよなっ!!

それと、ボクの授業履修経験が初めての人、下記（教科書欄）に紹介したエッセイ「シナモンロール…」を、出費することになって申しわけないけどさ、必ず入手して大事に持っていてくれよな。将来、キミが生きることに疲れた時（誰でも必ずそういう時ってくるものさ）、取り出してもう一度読んで欲しい。きっとどんな薬よりも効くからさっ。

あっ、それと忘れないでくれ。毎回授業の最後には「きょうのひとこと」をマジに書いてくれよな。出席の代わりだからな。これでキミの授業への思い入れ度を見なきゃなんないんだからさ。授業当日の授業開始時間から、翌週の授業前日の23:55まで入力できるぞ。必ず書いてくれい！

【第2回授業】キミは「ハダカの王様」だよ。失われた社会性を求めて1
きょうも楽しく付き合ってくれよな!!
ちょっと長くなったが、必ずこの下を全部読んでくれよな。
≪遊びに来いよ!!≫
なんかさー、オレめっちゃうれしいんだけど。前回の授業で「先生の家を公開されるとは思ってなかったです笑 近くに行く度に思い出しそうです」とか「東京都文京区小石川2に押し掛けたいと思います。」とか言ってくれたヤツがけっこういてさ。

オンラインじゃないときは、いつも授業の打ち上げパーティーなんかを我が家でやってるんだよね。希望者集合でね。多い時は30人くらい学生が集まるんだよね。これが大丈夫なんだよね。建物たてるときそれを考えて我が家のリビングとキッチンは40畳超え（おれんち、すごくねー）。この授業では、なによりキミの人間力を高めることが大切だ。まだ会ったことのないセンセイを訪ねて一人でやって来られるキミ、ボクはキミのことが大好きになりそうだ。だけどここ数年ひとつ憂慮していることがある。10年前は、この授業のクラスをまとめる求心力のあるヤツが必ず何人もいて、クラス全体でパーティーやりに集まってきた。しかしそのうち、集まる規模が「クラスでやる」「グループワーク（やる授業では、だが…）のメンバーの有志」で来訪することが多くなった。最近では「仲のいい仲間と数人」でというのが圧倒的だ。SNSで個人でしか動かなくなっているのか、ヒトの求心力が減退してきているんだろうか…
キミの人間力修行と何より「遊び」で我が家に遊びに来いよ。我が家はワセダから歩いて20分で来られるぞ。

≪絶対に忘れるなっ!! これから言うことを。≫
「怒られ上手は教わり上手」
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。だからくれぐれも言っておくぞ。「打たれ強くなれっ!!」。

≪今回のメインテーマ 今どきの大学生のキャリアプランニング について≫
「キャリアはケツから決めていけ」

キミたちは学窓を巣立つ時、どのような将来を決めるべきか。その判断根拠はいかなるものか。あまりにも不確定要素が多く、消極要素が多い、というか多すぎる。就職を決めるとき、ほとんどの学生は「今、どのような業態に興味があるか」とか「今、どのような業種が有望と思うか」という視点で決めてしまう。よくよく言っておくがそれではまず間違いなく近い将来に破綻する。なぜなら、不確定要素が多く、消極要素が多いだけでなく、それらが突然現れてくるからだ。Covid-19を思い出せ。わずか半年で人類の運命を一変させた。そういう意味では奴らは、今後我々が将来を考える際の「雄弁無比な反面教師」なのだ。大切なことは、キミの子どもの教育費が最も大変な負担となるとき、キミは社会でいきいきと活躍していられるかということだ。それには「今、なに興味があるか」ではなく、キミが定年を迎えるであろう70歳のころ、社会は、産業構造はどう変わっているかということを透徹した先見性で見据えていることだ。だからもう一度、よくよく言っておく、今を基準に発想して進路を決めるのではなく、「定年を迎えた時幸せであるために」という発想で「ケツ」から考えを起こせ。それには日本人が戦後ず一っと培ってきた因習的な価値観は勇気をもって捨てなければならないかもしれない。象徴的な話だが、おそらく30年後、最も有望な業種は農業や水産業であるかもしれない。 Covid-19禍で、今なお「早く以前に戻そう」と考える人が多いが、ソイツらも内心では気づいているんじゃないだろうか。「もう、以前には戻れない…」新しい価値観を受け入れていくしかないのかもしれなない。そしてキミ自身が新しい価値観を生み出していかなければならない。だって考えてみろよ。去年の卒業生は史上空前の「売り手市場」の好調な状況で就活した。今年はどうだよ。リーマンショックより深刻な状況に陥ってしまった。それも一瞬でね。この就活状況は少なからずキミたちに及ぶ。だからキミには強い人間力と逞しさが必要だ。脆弱な自信など捨ててしまえ。そして自分が所属する「属性」など頼るな。キミの二本の足で立てっ!! こんな視点で今日のコンテンツを見て考えてくれ。どうか目をそらさないで。キミが現実から逃避しても、現実は厳然と確実にキミに対峙してくるのだから。

【第3回授業】漂泊するワセダ、失われた社会性を求めて2
昨年の秋からこっち、しみじみ感じることがある。それは「キミたちはデスレース」をやっているということだ。みんな誕生というスタートラインに立って、「よーい、ドン」。きみたちのコースには至る所に地雷が隠れている。それを踏んだところでキミの人生レースは終わる。小学校時代に踏んで社会生活が終わる者、中学で終わる者、高校で終わる者… キミたちは運よく今現在早稲田でまだ生き延びている。でも部活、人間関係、授業、インターン、就活… 様々な形の地雷が、キミが踏むことを待っている。踏んだらそこで社会生活が終わる危険がある… この秋、それを踏んで(踏みかけて)痛手を負った学生をいったい何人面談したことか… 今年ほど学生のデスレースを感じたことはない。彼らに共通していえることは
① 完璧欲が強くすぐに結論を出そうとする。
② だから遠回りを潔しとしない。
③ 遠回りすらできないから「エスケープルート」を持っていないことだ。「だめだったら、こっちをやろう」というのが無い。それとは逆で「退路を断って」自分を追い詰めて精神を病んでいく…
そこで今回の授業でそれらを払しょくするきっかけを考えよう。それだからこそ、「シナモンロール…」を読んでもらったようなものだ。来週は「人生の遠回りを楽しんでいる」異色の先輩の実例が出てくるぞ。お楽しみに。

次に、「失われた社会性1」を思い返そう。 それにしても韓国で起こった「セウォル号事件」オレらも呆れたり、笑えないよな。メディアに異様に従順で、自ら考えようとしない。人と同じであることに異様にエネルギーを消費する…日本人もそっくりだよな。そして起こったことはすぐに忘れてしまう。東日本大震災でタワーマンションは危険だとわかっても、もう忘れてしまって次々林立しているし…

そのあとは、「失われた社会性2」だ。お楽しみに、でも生まれ変わるほどの覚悟を！これらの教訓を昇華して、キミの「生きるって…」を形作る努力を始めよう!!

【第4回授業ハーフタイム】「夢を捨てるなっ!!」遠回りのススメ。 IAT調査
きょうは、「前へ2」をやろう。前回の授業で「立ち止まる勇気」「遠回りする余裕」がどんなに大切か思い知ったと思う。もう一度言うが、ホワイトアウトの中で、不安にさいなまれて「早く山小屋へ着こう」と歩き回ると、行き着く先は「死」だ。これを「リングワンデリング」と言うんだ。雪洞を掘ってじっとしているヤツは助かる。それをゼッタイ忘れんなっ!! 結局人生でも同じことが言えるんだよな。思考のリングワンデリングが始まりそうなら立ち止まろう、遠回りしてみよう。

そこできょうは、まず「遠回り教教祖」の関秀隆センセイの話だ。今年3月でまた「埼玉県の学校」を辞職して(これが2回目)、世界一周の放浪の旅に出ている。彼のオーラに触れてみて欲しい。キミの心に何が響くかだ。

それと、IAT調査の結果については、メディアによる医学生理学的悪影響という形で、可能な限り次回以降の授業の中で説明していこうと思う。

【第5回授業】「働くってどういうこと？」
きょうは「働くってどういうこと??」をやろう。少しでも早く、「仕事をするということの原点座標」を身に着けて欲しいからね。 ところでさ、この授業の内容をしっかり身に着けて、激戦となるであろう就職戦線を乗り切ってくれ。前にも言ったと思うけど、例えば大手の「S不動産」、「都内のオフィスビル、200棟超」供給しているという「勢い」がウリだった。そこらじゅうで「S不動産」の看板や館銘板の入ったビルを見る。しかしcovid-19でテレワークや会社移転が始まると、このような業界は一瞬にしてリスク業界になってしまった。ほんの一瞬でここまで変わってしまう。GDPは一瞬にしてリーマンショック以前に落ちこんだ。リーマンショックから世界経済が回復するには3年以上かかった。おそらくこれからは、変な例えではあるが、キミが歩いているとして、自分の次の一歩が地面につく寸前に、足下に隠された地雷を見つけて瞬時に着地点を変える…そんなキャリア展開が必要になってくるということなんだろう。だけど、それって可能なんだろうか。
いずれにしても、キミがめでたく就職したとしても、これから言うことは忘れるな。「キミは消耗品だ。キミの替えなどいくらでもいる。」 expendables なんだよ。
例えば公務員の世界などでは「組織の活性化には異動が必要」ということがよく言われる。特に事務方には専門家は必要ないようだ。その仕事は新たに異動してきたヒトが誰でもできることが重要らしい。そのような職場風土でもキミは「やりがい」をみつけていかなければならない。そして「脱消耗品」を目指していかなければならない。そう

じゃなかったら、40年近い長い仕事人生は懲役40年で刑務作業をやっているのと同じだ。やりがいの無い、誰でもできることを、楽しくないのに我慢して40年間続ける…　これってめっちゃ恐ろしいことじゃん??　明治大学でボクの助手たちは殆どが理系の大学院生だ。彼らを見ていると時としてうらやましくなることがある。もう就職の段階から学部卒とは給与体系がちがう。文系で大学院を修了しても学部卒と同じ給与体系で、同じ仕事…、あげくの果てには「過学歴」とか言われて。
明治の助手たちの多くは専門職として企業でも研究開発部門への就職が多い。これはもちろん早稲田でも同じことが言えるが。そんな部門に就職すれば、脱消耗品の道は就職当初から見えやすい。
　だがこんなことも言える。ボクん家は土地活用の必要からビルを建てた。大手ハウスメーカーの鉄筋コンクリート建設部門がやった。わが家の設計を担当した建築士は、文字通り抜きんでたセンスとデザイン力を持っていた。我が家を竣工させて数年後にはその大手企業の建築士全員を束ねる「設計長」になった。ボクは祝福したが、内心は心配していた。そのことは彼自身も身に染みて感じていたようだ。「オカダさん、最近は自分で図面がひけないんです…」だってさ。つまり社内のすべて建築士を束ねる管理が彼の仕事で、自分が建築デザインすることができなくなるのさ。その大企業では「彼がデザインしてコンペに負けたことはない‼」くらい言われた大事な戦力が、第一線を去ることになったんだよ。このへんの詳細は、きょうのコンテンツをよく見て、理解してくれ。キミ、気が付いたか??　彼はこの段階で「余人を以て替え難い」人材から消耗品に編入されたんだよ。この４月から、彼はさらに出世して大阪本社でもっとエラくなっている。だが本人の気持ちは複雑なんだよ。

　最後になるが、参考までに…
オレ、ある時決めた。「好きなことだけやろう」って。オレにとって教壇に立って医事法学教えるのも、こーゆー科目教えるのも楽しい遊びだ。だから授業の前はいつもワクワクしてる。きょうどんなことがあるんだろうな、今日連中はどんな顔をして授業を受けに来るんだろうな、とかね。研究して論文を書くのも遊び。学会や市民団体で講演するのも遊び。メルセデスに乗るのもハーレーに乗るのも遊び。海に潜るのも遊び。楽しくないことはやらない主義者なのかも…　ずーっと昔、高校の教員をやっていた頃、「教師なんていうものは、10のうち9つらいことがあっても、1つはいいことがあればやっていける」と自分に言い聞かせていた。だけどさ、「自分に言い聞かせる」って「本当はそうは思っていないこと」を、「強引にそう思い込ませようという心の営み」だったんだね。だって今、オレ、10のうち9.9以上は楽しいもん。あの時、高校の教師を辞めていなかったらと考えると、ぞーっとするぜ。
　キミもポストコロナで、以前には戻れない社会のなかで、ドラスティックな価値観の変革を行う勇気を持つ必要があるんじゃないかい?? どうか現実から逃げるなよ。

【第6回授業】「品格を磨く‼」それと「キミはハダカの王様だよ2」→メディアによる医学生理学的悪影響
　さあ、きょうの最初のトピックは、「品格を磨く」だ。
　なぜか我が家の周りには昔から、多分確信犯で学生や、元学生や、元学生で結婚して新居をかまえるために住み着いたヤツが結構な人数いるんだよね。ここのところ、元教え子の社会人の女の子2人が毎晩我が家にゴハン食べに来てて、おれんちのエンゲル係数どーなってんのよ、状態なんだよね。みんな我が家を集会所か何かと間違えてるみたいだ。そんな多くのヤツが言う、オカダ先生を「先生っ‼」って呼ぶときの「セ・ン・セ・イ」という音は敬称じゃなくて呼び名だ、と。さらにそれを掘り下げて言った元医学生の教え子の女医さんがいる。ヤツは「オカダ先生の『先生っ‼』は記号だ」と言いやがった…　それを言われて結構ウケて面白がってるオレって何なんだろう…

　その女医さん、実家がすごい。私大の医学部の学生に「アイツの家は財閥だ」と言われるほどの裕福な家の子だ。思い出せば、国試に合格した時父上のお祝いは「メルセデスベンツSLK」というスポーツカーだった。あまりスポーツカーっていうキャラじゃないんだけどね、本人は。父上の結婚祝いは、我が家のすぐそばのタワーマンションの部屋だった。我が家より高いところから我が家を見おろされているっていうのがちょっとねー。彼女も我が家の近くに住む確信犯の一人だ。
　オレ、彼女に言われてず一っと守っていることがあるんだよね。「先生がキーマカレーを作った時は必ずウチに届けてください」だってさ。今月はキーマ１回と超特製パウンドケーキを１回届けたよ、そう言えば…。オレってエラくないかー??
　だけどこの女医さん、やっぱすごいな、とよく感じる。例えばある日のオレたちの会話。「オーイ、オメー今、家にいる??」「ええ、居ますよ」と女医さん。「だったら、配達に行くからさー」「先生、ちょっとアタマボサボサで恥ずかしいから、（マンションの下まで行けないから）上まで上がってきてくださいね」と女医さん。「オレには恥ずかしくないんかよ…」と思ったりしているオレ。こうやって急におすそ分けに行っても、「先生、ちょっとこれ持って行ってください」って必ず手土産が出てくるんだよね。っということは、いつ誰が来てもいいように、常備してるっていうことだよな。これって親の躾け、あるいは帝王学??　だけど彼女見ているといつも感じる。品格を高めると運命を切り開けるってさ。

　そういうわけで、きょうは、ボクが「恐れて」「尊敬する」我が教え子の女医さん「親愛なるミチコセンセイ」に登場してもらおう。ミチコセンセイは1998年に東京医大に入学してきて、ボクの医事法学の授業の筆記試験で歴代最高得点タイを取った、そのまま翌年ボクの医事法学のゼミを取り、臨床研修先はボクが生まれた病院、臨床研修が終わったらなんと「早稲田大学大学院法務研究科」に入学、今は呼吸器内科の専門医と法律家をやってる。後期には早稲田大学教育学部で集中講義をやってるし、オレその講義に巻き込まれてるし（無理やり付き合いで教壇に立たされている）…気が付くと20年超のクサレ縁…
オレさー、ミチコセンセイを見てるとホント思う…「人間の品格って運命を切り開けるんだよなあ」オレはモロに庶民の子で、文京区小石川2丁目というところは、坂の上が閑静な住宅街で、坂の下が小さな町工場が密集した地域だった。オレ今でも覚えているけど、坂の下の子だったオレは坂の上の子の「親たち」に結構差別された。だけどさー、もちろんオレもそうだけど、キミたちもそろそろ「自分で自分に投資して品格を磨こうぜ‼」　もう「親の育て方が云々」言いわけすんな‼　自分の人生切り開くために、品格を「自分の力」で磨こうぜ‼　だから自分で投資して自分の品格をたかめようぜい‼

【第7回授業　いよいよ最終回‼】いのちの授業「啓子さんのこと」、「ももちゃんのこと」
　きょうの本題、ボクの授業は、前にも言ったかもしれないが「命の授業」という前評判で学生たちに広まっているらしい。先輩たちがそう評したんだけどね。そこで最終回は、渾身のエネルギーを込めて「命の授業」をやります。ここまでの授業で「きょうのひとこと」等でキミの真摯なコトバを見た以上、オレはここで手を抜けない。きょうは、自分のプライベートに関する話だが、キミたちのことは120%信頼している、だから披歴する。まず対面で「啓子さんのこと」を聞いて欲しい。キーワードは「人っていいでしょ」だ。
授業は今日で終わるが、時間のある時、必ずコンテンツ動画「ももちゃんのこと」を見て、「もも地蔵プロジェクト本番」のファイルをダウンロードして読んでくれ。ここでのキーワードは「人生のエスケープルートを持とう！」だ。「エスケープルート」は「逃げ道」と表面的にとらえてよいイメージを持っていない人が多いかもしれない。しかし、きょうは「エスケープルート」を持つことは、人生を健康で幸せに生きるための、とてつもなく大切なソシアルスキルである

と積極的に評価しなおしてほしい。
　どうか、どうか「生きるって」「死とは」、答えをマジに考えてくれ。答えは多分出てこない、しかし答えの出ないことを考え続けることは、答えそのものよりも気高い。それは絶対に「よく生きること」につながる。

　キミたちに「理想の死に方」に言及してもらった。なぜ??　だって天国に旅立つ瞬間まで自分が満足のいく「イイ生き方」をすれば、その延長上にカッコイイ「理想の死に方」があるでしょ。「よく生きる」ということと「よく死ぬ」ということは二律背反することではなく、同一のことなんだ、って徐々にでもいいから気が付いてほしい。

言語区分:	0	日本語　　Japanese
教科書:	教科書「シナモンロールにハチミツをかけて―太平洋で最も偉大なダイバーとボクたち、そして幸せな死別の物語―」 銀の鈴社　刊　ISBN:978-4-87786-274-9 C0095 を必ず入手しておくこと。終講までに読了しておくこと。	
参考文献:	適宜授業中に頒布する。	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	0	筆記試験はこれを実施しない。
レポート:	50	上記サブテキストの感想文、および「キミの理想の死に方」に関するメッセージをこれに充てる。
平常点評価:	50	以下を以て平常点とする。 ①テーマへの積極性 ②出席時に記入する「きょうのひことこ」のインパクトファクター。
備考・関連URL:		

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010006|05|9S12010006[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ソーシャルコミュニテラシーの基礎と実践 05		
担 当 教 員	岡田 昭夫		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ねえキミ、ホントにそれでいいの？（恐るべし…情報化社会） —そこで豊かに、キミらしく—

授業概要: ちょっとそこのキミ、このシラバスを読み始めたってことは、「もしかしたら履修してもいいかも・・」って考えているんだよね。だったら聞くけどさ、キミ、友達に電話するとき、その友達のケータイにかける？ 家電（いえでん）にかける？ そーだよね、ケータイにかけるでしょ。なぜ？？ 家電にかけて他の家族が出たら面倒だもんね。このフィーリングに共感できるキミ、ゼッタイこの授業をとったほうがいいよ。なぜって、考えてみろよ。キミが就職してどこかの会社に入ったとしよう。そして大事な取引先の会社に電話をして、キミの顧客であるAさんを呼び出してもらう。キミ、ちゃんと礼を失することなく敬語を使って、Aさんを呼び出してもらえるかい？無理っしょ！ ！

ところで明治十四年の政変で「我らが大隈重信先生」が下野するとき、福沢諭吉はその政情を観て「ポリティカルの時間は常に均一に流れるものではない」のだと感想を漏らしたという。

政治の時間は時として怒涛の如く流れることがあるのだと言いたかったのだろう。奇しくも我々は、それを政治ではなくメディアでそれを経験することのなってしまった。昨今のSNSの普及を考えてみろよ。わずか数年で怒涛の如く普及したスマートフォン、そこにマーケットを見出し群がるコマーシャリズム。それに乗った時代の寵児であるSNS。だけど冷静に考えてみてよ。「楽しい」、「便利」には代償が伴うことを、キミは忘れていないか？
一方で、キミがそれらにどっぷりと浸っている間に、キミは多くのものを失ってしまった。例えば人と対面で話す会話力や表情、語彙力、敬語力、社会性、責任感、現実感…枚挙に遑がない。

他方で、現今の就職状況は、人手不足を背景に売り手市場だと言われている。じゃあ聞くけどさ、キミの周囲にいる先輩は就活に苦労していないかい。ワセダという大学のおかれている状況を考えてみろよ。幸いにも最も評価の高い大学群に位置付けられている。そうであれば、それらの大学群の学生たちが目指す就職先には、この機会を生かすべくそれ以外の大学群からの出願者が殺到してくる。必然的に激戦の就活を避けられないわけさ！
そのような激戦の中で、SNSに象徴されるメディアにどっぷり浸かり、多くの資質を育てることなくむしろ失ってしまったキミが善戦できるのかい？ これまた無理っしょ。結構長くなったけど、ここまでシラバスを読んでくれたキミは、少しは実感できたんじゃないかい？ 今のキミが置かれている状況のヤバさを。それに気が付いたキミは、失ったものを取り戻し、育てなかったものをこれから育てることができるさ。多くの人間たちが失ったことに気づいてさえいない「それ」をね。そのための端緒を与えるのがこの授業だと思ってほしい。

その意味では「メディアや情報スキルから理想的な距離をおくことを学ぶ」と言っても過言ではないかもしれない。友達の家電（いえでん）に電話するのが億劫なキミ、留守電にメッセージを残せないキミ、対面で人と話をするのが苦手なキミ、敬語経つかえないキミ、理解してもらえたかな。キミとはこの授業で是非会いたいよ！

このような状況下で更に深刻な影を投げかけたのがCovid-19だ。経済界が激変してしまったのだ。それが始まる前「花形業種」を考えられた業種が、「あっ」と言う間にヤバイ業種になった。2020年3月、そのような業界に希望を持って学窓を巣立っていった連中をオレたちは「おめでとう！」と言って送り出した。その彼らのアタマに「転職」という文字が去来するまでは、文字通り「あっ」と言う間だった。その時のオレたちの気持ちがわかるかい?? もうこんな気持ちはこりごりだ。だからしっかりポストコロナの社会の変化をしっかり分析していこう。その手伝いもこの授業がやっていく。

この授業では、メディアや情報スキルを駆使する者の人間力の涵養に主眼を置きたい。まずメディア蔓延社会でキミが失ったもの、育てられなかったものを特定しよう。そしてSNSに代表されるメディア社会の特質を理解し、それの罠にはまらない生き方を模索する。そして、情報分析や情報判断の基礎力を涵養し、今後の社会の変容を予測しよう。なぜなら、そこでキミたちは社会人として活躍していかなければならない。くれぐれも言っておくが、これからキミたちに到来する社会は、予測と準備の努力を怠った人間は到底生き抜けないハードなものだ。そこを自由自在に泳ぎ切るためのキャリア・ビルディングのヒントをこの授業でつかんで欲しい。

キミ、よかったね、最後までこのシラバスを読んで。あとは授業で会うだけさっ！ そこで最後にお願いがある。この授業に履修エントリーして選外で涙を呑んでいる学生が非常に多くいるんだよね。中には4年間ずっとエントリー続けたけど、ずっとダメだった… 「だからどうかもぐらせてください！」と言ってきた学生さえいるんだよね。だから履修できるようになったキミ、どうか選外になったヤツのためにも授業には必ず出席してほしい。頼んだよ！

授業の到達目標: いよいよ始まるぞーっ。
今シーズンも「メディア」「インターネット」「情報化社会」という3つと、キミの関わりについて取り上げて行こうと思う。
この授業でボクはキミにアカデミズムを体験してもらおうとは思わない。強いて言えば「自分の心の水面にたった波を鎮める」ための「哲学」をしてほしい。どうか毎回のトピックをキミ自身のことと感じて、考えて欲しい。恐らく結論にはたどり着かないであろう。しかし答えを得るより、答えを得ようと考え続けることの方が、大切でかつ楽しいことだと、きっと気づいてくれるだろう。さあ、今日から、キミの心の「内なる宇宙」に一緒に船出しようぜい!!

この授業で大切なことは、「めっちゃ楽しむこと」と「しっかり考えること」だ。しっかり考えたあとはキミの人生をめっちゃ楽しめ。スイッチを切り替えてこのふたつをしっかりやること。キミにできるか、だいじょーぶかよ??
ソクラテスが模索した「よく生きること」「自分の生を限りなく良いものにしていくこと」、これを楽しく、マジに考えていこうぜ!!

では少し授業っぽく、目標を書くぞ。
①SNSに代表されるメディア社会で、それに依存することなく、理想的な距離を置ける使い手になること。
②上記社会の中で、失ってしまった社会性、危機に瀕している健康状態等について理解し、改善ないし維持向上の端緒をつかむこと。
③就活をはじめ将来に向けたキャリアプラン・ライフプランを的確に策定できる知識と能力を身につけること。
④今年、一貫して底流にあるテーマは「正常性バイアス」と「同調性バイアス」の払拭だっ!!!! 今は なんのことかさっぱりわかんないだろうけど、授業が進む位連れてわかってくるから、しっかりこの二者から自分を解放してほしい。
キーワード：人口動態、地球イベント、自然、逆転の発想、品格、etc
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。「怒られ上手は教わり上手」なんだ。みんな現今の少子化社会で、「大切に」されて成長してきた。そしてその分、生きる力が弱くなってしまった。だから職業共同体の中に入ると、「2の2法則」「3の3の法則」となってしまう…これは厚労省の統計だが、新卒者の離職率だ。2年で2割が退職し、3年でなんと三分の一が退職する…だから、どうか、どうかこの授業を、キミが強く生きる力を養う端緒にしてほしい。

事前・事後学習の内容：
事前・事後学習の内容事前学習は、特にこれを必要としない。
毎回の出席を心掛けてほしい。
事後学習に代えて、授業中に学んだことをキミのアタマで咀嚼して、キミの考え方や価値観を確立すること。それを基に毎回の「きょうのひとこと」を記入し送信すること。これが出席の代わりになるぞー。

授業計画フリー入力サイン：
1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

【第1回授業】ねえキミ、ホントにそれでいいの？―恐るべし情報化社会―（ガイダンスに代えて）

いよいよ始まるぞーっ!!
COVID-19でオンラインか対面か… 今年度後期は何とか対面授業ができそうだが、それもどうなることか…。キミたちにマジにいろんなことを自分のこととして考えて欲しい。だって考えてみろよ。COVID-19のダメージからようやくリカバーが始まると思った矢先、ウクライナ侵攻だもんな…。キミたちの卒業後のキャリアはどうなっちゃうんだろう、考えたことあるかよ？ましてアメリカでは共和党政権が返り咲きだもんな。これで世界のナショナリズムがさらに進みアメリカ、中国、ロシアの三竦み、にらみ合いで、世界を安定せしめる力が弱くなる…だからボクはキミと率直に語り合いたい。そのためにキミとの心の距離が少しでも近いところに居たい!! だからマジ、こんなノリで本音で率直にキミと語り合いたい。ついてきてくれよなっ!!

それと、ボクの授業履修経験が初めての人、下記（教科書欄）に紹介したエッセイ「シナモンロール…」を、出費することになって申しわけないけどさ、必ず入手して大事に持っていてくれよな。将来、キミが生きることに疲れた時（誰でも必ずそういう時ってくるものさ）、取り出してもう一度読んで欲しい。きっとどんな薬よりも効くからさっ。

あっ、それと忘れないでくれ。毎回授業の最後には「きょうのひとこと」をマジに書いてくれよな。出席の代わりだからな。これでキミの授業への思い入れ度を見なきゃなんないんだからさ。授業当日の授業開始時間から、翌週の授業前日の23:55まで入力できるぞ。必ず書いてくれい！

【第2回授業】キミは「ハダカの王様」だよ。失われた社会性を求めて1
きょうも楽しく付き合ってくれよな!!
ちょっと長くなったが、必ずこの下を全部読んでくれよな。
≪遊びに来いよ!!≫
なんかさー、オレめっちゃうれしいんだけど。前回の授業で「先生の家を公開されるとは思ってなかったです笑 近くに行く度に思い出しそうです」とか「東京都文京区小石川2に押し掛けたいと思います。」とか言ってくれたヤツがけっこういてさ。

オンラインじゃないときは、いつも授業の打ち上げパーティーなんかを我が家でやってるんだよね。希望者集合でね。多い時は30人くらい学生が集まるんだよね。これが大丈夫なんだよね。建物たてるときそれを考えて我が家のリビングとキッチンは40畳超え（おれんち、すごくねー）。この授業では、なによりキミの人間力を高めることが大切だ。まだ会ったことのないセンセイを訪ねて一人でやって来られるキミ、ボクはキミのことが大好きになりそうだ。だけどここ数年ひとつ憂慮していることがある。10年前は、この授業のクラスをまとめる求心力のあるヤツが必ず何人もいて、クラス全体でパーティーやりに集まってきた。しかしそのうち、集まる規模が「クラスでやる」「グループワーク（やる授業では、だが…）のメンバーの有志」で来訪することが多くなった。最近では「仲のいい仲間と数人」でというのが圧倒的だ。SNSで個人でしか動かなくなっているのか、ヒトの求心力が減退してきているんだろうか…
キミの人間力修行と何より「遊び」で我が家に遊びに来いよ。我が家はワセダから歩いて20分で来られるぞ。

≪絶対に忘れるなっ!! これから言うことを。≫
「怒られ上手は教わり上手」
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。だからくれぐれも言っておくぞ。「打たれ強くなれっ!!」。

≪今回のメインテーマ 今どきの大学生のキャリアプランニング について≫
「キャリアはケツから決めていけ」

キミたちは学窓を巣立つ時、どのような将来を決めるべきか。その判断根拠はいかなるものか。あまりにも不確定要素が多く、消極要素が多い、というか多すぎる。就職を決めるとき、ほとんどの学生は「今、どのような業態に興味があるか」とか「今、どのような業種が有望と思うか」という視点で決めてしまう。よくよく言っておくがそれではまず間違いなく近い将来に破綻する。なぜなら、不確定要素が多く、消極要素が多いだけでなく、それらが突然現れてくるからだ。Covid-19を思い出せ。わずか半年で人類の運命を一変させた。そういう意味では奴らは、今後我々が将来を考える際の「雄弁無比な反面教師」なのだ。大切なことは、キミの子どもの教育費が最も大変な負担となるとき、キミは社会でいきいきと活躍していられるかということだ。それには「今、なに興味があるか」ではなく、キミが定年を迎えるであろう70歳のころ、社会は、産業構造はどう変わっているかということを透徹した先見性で見据えていることだ。だからもう一度、よくよく言っておく、今を基準に発想して進路を決めるのではなく、「定年を迎えた時幸せであるために」という発想で「ケツ」から考えを起こせ。それには日本人が戦後ず一っと培ってきた因習的な価値観は勇気をもって捨てなければならないかもしれない。象徴的な話だが、おそらく30年後、最も有望な業種は農業や水産業であるかもしれない。 Covid-19禍で、今なお「早く以前に戻そう」と考える人が多いが、ソイツらも内心では気づいているんじゃないだろうか。「もう、以前には戻れない…」新しい価値観を受け入れていくしかないのかもしれなない。そしてキミ自身が新しい価値観を生み出していかなければならない。だって考えてみろよ。去年の卒業生は史上空前の「売り手市場」の好調な状況で就活した。今年はどうだよ。リーマンショックより深刻な状況に陥ってしまった。それも一瞬でね。この就活状況は少なからずキミたちに及ぶ。だからキミには強い人間力と逞しさが必要だ。脆弱な自信など捨ててしまえ。そして自分が所属する「属性」など頼るな。キミの二本の足で立てっ!! こんな視点で今日のコンテンツを見て考えてくれ。どうか目をそらさないで。キミが現実から逃避しても、現実は厳然と確実にキミに対峙してくるのだから。

【第3回授業】漂泊するワセダ、失われた社会性を求めて2
昨年の秋からこっち、しみじみ感じることがある。それは「キミたちはデスレース」をやっているということだ。みんな誕生というスタートラインに立って、「よーい、ドン」。きみたちのコースには至る所に地雷が隠れている。それを踏んだところでキミの人生レースは終わる。小学校時代に踏んで社会生活が終わる者、中学で終わる者、高校で終わる者… キミたちは運よく今現在早稲田でまだ生き延びている。でも部活、人間関係、授業、インターン、就活… 様々な形の地雷が、キミが踏むことを待っている。踏んだらそこで社会生活が終わる危険がある… この秋、それを踏んで(踏みかけて)痛手を負った学生をいったい何人面談したことか… 今年ほど学生のデスレースを感じたことはない。彼らに共通していえることは
① 完璧欲が強くすぐに結論を出そうとする。
② だから遠回りを潔しとしない。
③ 遠回りすらできないから「エスケープルート」を持っていないことだ。「だめだったら、こっちをやろう」というのが無い。それとは逆で「退路を断って」自分を追い詰めて精神を病んでいく…
そこで今回の授業でそれらを払しょくするきっかけを考えよう。それだからこそ、「シナモンロール…」を読んでもらったようなものだ。来週は「人生の遠回りを楽しんでいる」異色の先輩の実例が出てくるぞ。お楽しみに。

次に、「失われた社会性1」を思い返そう。 それにしても韓国で起こった「セウォル号事件」オレらも呆れたり、笑えないよな。メディアに異様に従順で、自ら考えようとしない。人と同じであることに異様にエネルギーを消費する…日本人もそっくりだよな。そして起こったことはすぐに忘れてしまう。東日本大震災でタワーマンションは危険だとわかっても、もう忘れてしまって次々林立しているし…

そのあとは、「失われた社会性2」だ。お楽しみに、でも生まれ変わるほどの覚悟を！これらの教訓を昇華して、キミの「生きるって…」を形作る努力を始めよう!!

【第4回授業ハーフタイム】「夢を捨てるなっ!!」遠回りのススメ。 IAT調査
きょうは、「前へ2」をやろう。前回の授業で「立ち止まる勇気」「遠回りする余裕」がどんなに大切か思い知ったと思う。もう一度言うが、ホワイトアウトの中で、不安にさいなまれて「早く山小屋へ着こう」と歩き回ると、行き着く先は「死」だ。これを「リングワンデリング」と言うんだ。雪洞を掘ってじっとしているヤツは助かる。それをゼッタイ忘れんなっ!! 結局人生でも同じことが言えるんだよな。思考のリングワンデリングが始まりそうなら立ち止まろう、遠回りしてみよう。

そこできょうは、まず「遠回り教教祖」の関秀隆センセイの話だ。今年3月でまた「埼玉県の学校」を辞職して(これが2回目)、世界一周の放浪の旅に出ている。彼のオーラに触れてみて欲しい。キミの心に何が響くかだ。

それと、IAT調査の結果については、メディアによる医学生理学的悪影響という形で、可能な限り次回以降の授業の中で説明していこうと思う。

【第5回授業】「働くってどういうこと？」
きょうは「働くってどういうこと??」をやろう。少しでも早く、「仕事をするということの原点座標」を身に着けて欲しいからね。 ところでさ、この授業の内容をしっかり身に着けて、激戦となるであろう就職戦線を乗り切ってくれ。前にも言ったと思うけど、例えば大手の「S不動産」、「都内のオフィスビル、200棟超」供給しているという「勢い」がウリだった。そこらじゅうで「S不動産」の看板や館銘板の入ったビルを見る。しかしcovid-19でテレワークや会社移転が始まると、このような業界は一瞬にしてリスク業界になってしまった。ほんの一瞬でここまで変わってしまう。GDPは一瞬にしてリーマンショック以前に落ちこんだ。リーマンショックから世界経済が回復するには3年以上かかった。おそらくこれからは、変な例えではあるが、キミが歩いているとして、自分の次の一歩が地面につく寸前に、足下に隠された地雷を見つけて瞬時に着地点を変える…そんなキャリア展開が必要になってくるということなんだろう。だけど、それって可能なんだろうか。
いずれにしても、キミがめでたく就職したとしても、これから言うことは忘れるな。「キミは消耗品だ。キミの替えなどいくらでもいる。」 expendables なんだよ。
例えば公務員の世界などでは「組織の活性化には異動が必要」ということがよく言われる。特に事務方には専門家は必要ないようだ。その仕事は新たに異動してきたヒトが誰でもできることが重要らしい。そのような職場風土でもキミは「やりがい」をみつけていかなければならない。そして「脱消耗品」を目指していかなければならない。そう

じゃなかったら、40年近い長い仕事人生は懲役40年で刑務作業をやっているのと同じだ。やりがいの無い、誰でもできることを、楽しくないのに我慢して40年間続ける…　これってめっちゃ恐ろしいことじゃん??　明治大学でボクの助手たちは殆どが理系の大学院生だ。彼らを見ていると時としてうらやましくなることがある。もう就職の段階から学部卒とは給与体系がちがう。文系で大学院を修了しても学部卒と同じ給与体系で、同じ仕事…、あげくの果てには「過学歴」とか言われて。
明治の助手たちの多くは専門職として企業でも研究開発部門への就職が多い。これはもちろん早稲田でも同じことが言えるが。そんな部門に就職すれば、脱消耗品の道は就職当初から見えやすい。
　だがこんなことも言える。ボクん家は土地活用の必要からビルを建てた。大手ハウスメーカーの鉄筋コンクリート建設部門がやった。わが家の設計を担当した建築士は、文字通り抜きんでたセンスとデザイン力を持っていた。我が家を竣工させて数年後にはその大手企業の建築士全員を束ねる「設計長」になった。ボクは祝福したが、内心は心配していた。そのことは彼自身も身に染みて感じていたようだ。「オカダさん、最近は自分で図面がひけないんです…」だってさ。つまり社内のすべて建築士を束ねる管理が彼の仕事で、自分が建築デザインすることができなくなるのさ。その大企業では「彼がデザインしてコンペに負けたことはない‼」くらい言われた大事な戦力が、第一線を去ることになったんだよ。このへんの詳細は、きょうのコンテンツをよく見て、理解してくれ。キミ、気が付いたか??　彼はこの段階で「余人を以て替え難い」人材から消耗品に編入されたんだよ。この４月から、彼はさらに出世して大阪本社でもっとエラくなっている。だが本人の気持ちは複雑なんだよ。

　最後になるが、参考までに…
オレ、ある時決めた。「好きなことだけやろう」って。オレにとって教壇に立って医事法学教えるのも、こーゆー科目教えるのも楽しい遊びだ。だから授業の前はいつもワクワクしてる。きょうどんなことがあるんだろうな、今日連中はどんな顔をして授業を受けに来るんだろうな、とかね。研究して論文を書くのも遊び。学会や市民団体で講演するのも遊び。メルセデスに乗るのもハーレーに乗るのも遊び。海に潜るのも遊び。楽しくないことはやらない主義者なのかも…　ずーっと昔、高校の教員をやっていた頃、「教師なんていうものは、10のうち9つらいことがあっても、1つはいいことがあればやっていける」と自分に言い聞かせていた。だけどさ、「自分に言い聞かせる」って「本当はそうは思っていないこと」を、「強引にそう思い込ませようという心の営み」だったんだね。だって今、オレ、10のうち9.9以上は楽しいもん。あの時、高校の教師を辞めていなかったらと考えると、ぞーっとするぜ。
　キミもポストコロナで、以前には戻れない社会のなかで、ドラスティックな価値観の変革を行う勇気を持つ必要があるんじゃないかい?? どうか現実から逃げるなよ。

【第6回授業】「品格を磨く‼」それと「キミはハダカの王様だよ2」→メディアによる医学生理学的悪影響
　さあ、きょうの最初のトピックは、「品格を磨く」だ。
　なぜか我が家の周りには昔から、多分確信犯で学生や、元学生や、元学生で結婚して新居をかまえるために住み着いたヤツが結構な人数いるんだよね。ここのところ、元教え子の社会人の女の子２人が毎晩我が家にゴハン食べに来てて、おれんちのエンゲル係数どーなってんのよ、状態なんだよね。みんな我が家を集会所か何かと間違えてるみたいだ。そんな多くのヤツが言う、オカダ先生を「先生っ‼」って呼ぶときの「セ・ン・セ・イ」という音は敬称じゃなくて呼び名だ、と。さらにそれを掘り下げて言った元医学生の教え子の女医さんがいる。ヤツは「オカダ先生の『先生っ‼』は記号だ」と言いやがった…　それを言われて結構ウケて面白がってるオレって何なんだろう…

　その女医さん、実家がすごい。私大の医学部の学生に「アイツの家は財閥だ」と言われるほどの裕福な家の子だ。思い出せば、国試に合格した時父上のお祝いは「メルセデスベンツSLK」というスポーツカーだった。あまりスポーツカーっていうキャラじゃないんだけどね、本人は。父上の結婚祝いは、我が家のすぐそばのタワーマンションの部屋だった。我が家より高いところから我が家を見おろされているっていうのがちょっとねー。彼女も我が家の近くに住む確信犯の一人だ。
　オレ、彼女に言われてず一っと守っていることがあるんだよね。「先生がキーマカレーを作った時は必ずウチに届けてください」だってさ。今月はキーマ１回と超特製パウンドケーキを１回届けたよ、そう言えば…。オレってエラくないかー??
　だけどこの女医さん、やっぱすごいな、とよく感じる。例えばある日のオレたちの会話。「オーイ、オメー今、家にいる??」「ええ、居ますよ」と女医さん。「だったら、配達に行くからさー」「先生、ちょっとアタマボサボサで恥ずかしいから、（マンションの下まで行けないから）上まで上がってきてくださいね」と女医さん。「オレには恥ずかしくないんかよ…」と思ったりしているオレ。こうやって急におすそ分けに行っても、「先生、ちょっとこれ持って行ってください」って必ず手土産が出てくるんだよね。っということは、いつ誰が来てもいいように、常備してるっていうことだよな。これって親の躾け、あるいは帝王学??　だけど彼女見ているといつも感じる。品格を高めると運命を切り開けるってさ。

　そういうわけで、きょうは、ボクが「恐れて」「尊敬する」我が教え子の女医さん「親愛なるミチコセンセイ」に登場してもらおう。ミチコセンセイは1998年に東京医大に入学してきて、ボクの医事法学の授業の筆記試験で歴代最高得点タイを取った、そのまま翌年ボクの医事法学のゼミを取り、臨床研修先はボクが生まれた病院、臨床研修が終わったらなんと「早稲田大学大学院法務研究科」に入学、今は呼吸器内科の専門医と法律家をやってる。後期には早稲田大学教育学部で集中講義をやってるし、オレその講義に巻き込まれてるし（無理やり付き合いで教壇に立たされている）…気が付くと20年超のクサレ縁…
オレさー、ミチコセンセイを見てるとホント思う…「人間の品格って運命を切り開けるんだよなあ」オレはモロに庶民の子で、文京区小石川2丁目というところは、坂の上が閑静な住宅街で、坂の下が小さな町工場が密集した地域だった。オレ今でも覚えているけど、坂の下の子だったオレは坂の上の子の「親たち」に結構差別された。だけどさー、もちろんオレもそうだけど、キミたちもそろそろ「自分で自分に投資して品格を磨こうぜ‼」　もう「親の育て方が云々」言いわけすんな‼　自分の人生切り開くために、品格を「自分の力」で磨こうぜ‼　だから自分で投資して自分の品格をたかめようぜい‼

【第7回授業　いよいよ最終回‼】いのちの授業「啓子さんのこと」、「ももちゃんのこと」
　きょうの本題、ボクの授業は、前にも言ったかもしれないが「命の授業」という前評判で学生たちに広まっているらしい。先輩たちがそう評したんだけどね。そこで最終回は、渾身のエネルギーを込めて「命の授業」をやります。ここまでの授業で「きょうのひとこと」等でキミの真摯なコトバを見た以上、オレはここで手を抜けない。きょうは、自分のプライベートに関する話だが、キミたちのことは120%信頼している、だから披歴する。まず対面で「啓子さんのこと」を聞いて欲しい。キーワードは「人っていいでしょ」だ。
授業は今日で終わるが、時間のある時、必ずコンテンツ動画「ももちゃんのこと」を見て、「もも地蔵プロジェクト本番」のファイルをダウンロードして読んでくれ。ここでのキーワードは「人生のエスケープルートを持とう！」だ。「エスケープルート」は「逃げ道」と表面的にとらえてよいイメージを持っていない人が多いかもしれない。しかし、きょうは「エスケープルート」を持つことは、人生を健康で幸せに生きるための、とてつもなく大切なソシアルスキルである

と積極的に評価しなおしてほしい。
　どうか、どうか「生きるって」「死とは」、答えをマジに考えてくれ。答えは多分出てこない、しかし答えの出ないことを考え続けることは、答えそのものよりも気高い。それは絶対に「よく生きること」につながる。

　キミたちに「理想の死に方」に言及してもらった。なぜ??　だって天国に旅立つ瞬間まで自分が満足のいく「イイ生き方」をすれば、その延長上にカッコイイ「理想の死に方」があるでしょ。「よく生きる」ということと「よく死ぬ」ということは二律背反することではなく、同一のことなんだ、って徐々にでもいいから気が付いてほしい。

言語区分:	0	日本語　　Japanese
教科書:	教科書「シナモンロールにハチミツをかけて―太平洋で最も偉大なダイバーとボクたち、そして幸せな死別の物語―」 銀の鈴社　刊　ISBN:978-4-87786-274-9 C0095 を必ず入手しておくこと。終講までに読了しておくこと。	
参考文献:	適宜授業中に頒布する。	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	0	筆記試験はこれを実施しない。
レポート:	50	上記サブテキストの感想文、および「キミの理想の死に方」に関するメッセージをこれに充てる。
平常点評価:	50	以下を以て平常点とする。 ①テーマへの積極性 ②出席時に記入する「きょうのひことこ」のインパクトファクター。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010006|06|9S12010006[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ソーシャルコミュニテラシーの基礎と実践 06		
担 当 教 員	岡田 昭夫		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ねえキミ、ホントにそれでいいの？（恐るべし…情報化社会） —そこで豊かに、キミらしく—

授業概要: ちょっとそこのキミ、このシラバスを読み始めたってことは、「もしかしたら履修してもいいかも・・」って考えているんだよね。だったら聞くけどさ、キミ、友達に電話するとき、その友達のケータイにかける？ 家電（いえでん）にかける？ そーだよね、ケータイにかけるでしょ。なぜ？？ 家電にかけて他の家族が出たら面倒だもんね。このフィーリングに共感できるキミ、ゼッタイこの授業をとったほうがいいよ。なぜって、考えてみろよ。キミが就職してどこかの会社に入ったとしよう。そして大事な取引先の会社に電話をして、キミの顧客であるAさんを呼び出してもらう。キミ、ちゃんと礼を失することなく敬語を使って、Aさんを呼び出してもらえるかい？無理っしょ！ ！

ところで明治十四年の政変で「我らが大隈重信先生」が下野するとき、福沢諭吉はその政情を観て「ポリティカルの時間は常に均一に流れるものではない」のだと感想を漏らしたという。

政治の時間は時として怒涛の如く流れることがあるのだと言いたかったのだろう。奇しくも我々は、それを政治ではなくメディアでそれを経験することのなってしまった。昨今のSNSの普及を考えてみろよ。わずか数年で怒涛の如く普及したスマートフォン、そこにマーケットを見出し群がるコマーシャリズム。それに乗った時代の寵児であるSNS。だけど冷静に考えてみてよ。「楽しい」、「便利」には代償が伴うことを、キミは忘れていないか？
一方で、キミがそれらにどっぷりと浸っている間に、キミは多くのものを失ってしまった。例えば人と対面で話す会話力や表情、語彙力、敬語力、社会性、責任感、現実感…枚挙に遑がない。

他方で、現今の就職状況は、人手不足を背景に売り手市場だと言われている。じゃあ聞くけどさ、キミの周囲にいる先輩は就活に苦労していないかい。ワセダという大学のおかれている状況を考えてみろよ。幸いにも最も評価の高い大学群に位置付けられている。そうであれば、それらの大学群の学生たちが目指す就職先には、この機会を生かすべくそれ以外の大学群からの出願者が殺到してくる。必然的に激戦の就活を避けられないわけさ！
そのような激戦の中で、SNSに象徴されるメディアにどっぷり浸かり、多くの資質を育てることなくむしろ失ってしまったキミが善戦できるのかい？ これまた無理っしょ。結構長くなったけど、ここまでシラバスを読んでくれたキミは、少しは実感できたんじゃないかい？ 今のキミが置かれている状況のヤバさを。それに気が付いたキミは、失ったものを取り戻し、育てなかったものをこれから育てることができるさ。多くの人間たちが失ったことに気づいてさえいない「それ」をね。そのための端緒を与えるのがこの授業だと思ってほしい。

その意味では「メディアや情報スキルから理想的な距離をおくことを学ぶ」と言っても過言ではないかもしれない。友達の家電（いえでん）に電話するのが億劫なキミ、留守電にメッセージを残せないキミ、対面で人と話をするのが苦手なキミ、敬語経つかえないキミ、理解してもらえたかな。キミとはこの授業で是非会いたいよ！

このような状況下で更に深刻な影を投げかけたのがCovid-19だ。経済界が激変してしまったのだ。それが始まる前「花形業種」を考えられた業種が、「あっ」と言う間にヤバイ業種になった。2020年3月、そのような業界に希望を持って学窓を巣立っていった連中をオレたちは「おめでとう！」と言って送り出した。その彼らのアタマに「転職」という文字が去来するまでは、文字通り「あっ」と言う間だった。その時のオレたちの気持ちがわかるかい?? もうこんな気持ちはこりごりだ。だからしっかりポストコロナの社会の変化をしっかり分析していこう。その手伝いもこの授業がやっていく。

この授業では、メディアや情報スキルを駆使する者の人間力の涵養に主眼を置きたい。まずメディア蔓延社会でキミが失ったもの、育てられなかったものを特定しよう。そしてSNSに代表されるメディア社会の特質を理解し、それの罠にはまらない生き方を模索する。そして、情報分析や情報判断の基礎力を涵養し、今後の社会の変容を予測しよう。なぜなら、そこでキミたちは社会人として活躍していかなければならない。くれぐれも言っておくが、これからキミたちに到来する社会は、予測と準備の努力を怠った人間は到底生き抜けないハードなものだ。そこを自由自在に泳ぎ切るためのキャリア・ビルディングのヒントをこの授業でつかんで欲しい。

キミ、よかったね、最後までこのシラバスを読んで。あとは授業で会うだけさっ！ そこで最後にお願いがある。この授業に履修エントリーして選外で涙を呑んでいる学生が非常に多くいるんだよね。中には4年間ずっとエントリー続けたけど、ずっとダメだった… 「だからどうかもぐらせてください！」と言ってきた学生さえいるんだよね。だから履修できるようになったキミ、どうか選外になったヤツのためにも授業には必ず出席してほしい。頼んだよ！

授業の到達目標: いよいよ始まるぞーっ。
今シーズンも「メディア」「インターネット」「情報化社会」という3つと、キミの関わりについて取り上げて行こうと思う。
この授業でボクはキミにアカデミズムを体験してもらおうとは思わない。強いて言えば「自分の心の水面にたった波を鎮める」ための「哲学」をしてほしい。どうか毎回のトピックをキミ自身のことと感じて、考えて欲しい。恐らく結論にはたどり着かないであろう。しかし答えを得るより、答えを得ようと考え続けることの方が、大切でかつ楽しいことだと、きっと気づいてくれるだろう。さあ、今日から、キミの心の「内なる宇宙」に一緒に船出しようぜい!!

この授業で大切なことは、「めっちゃ楽しむこと」と「しっかり考えること」だ。しっかり考えたあとはキミの人生をめっちゃ楽しめ。スイッチを切り替えてこのふたつをしっかりやること。キミにできるか、だいじょーぶかよ??
ソクラテスが模索した「よく生きること」「自分の生を限りなく良いものにしていくこと」、これを楽しく、マジに考えていこうぜ!!

では少し授業っぽく、目標を書くぞ。
①SNSに代表されるメディア社会で、それに依存することなく、理想的な距離を置ける使い手になること。
②上記社会の中で、失ってしまった社会性、危機に瀕している健康状態等について理解し、改善ないし維持向上の端緒をつかむこと。
③就活をはじめ将来に向けたキャリアプラン・ライフプランを的確に策定できる知識と能力を身につけること。
④今年、一貫して底流にあるテーマは「正常性バイアス」と「同調性バイアス」の払拭だっ!!!! 今は なんのことかさっぱりわかんないだろうけど、授業が進む位連れてわかってくるから、しっかりこの二者から自分を解放してほしい。
キーワード: 人口動態、地球イベント、自然、逆転の発想、品格、etc
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。「怒られ上手は教わり上手」なんだ。みんな現今の少子化社会で、「大切に」されて成長してきた。そしてその分、生きる力が弱くなってしまった。だから職業共同体の中に入ると、「2の2法則」「3の3の法則」となってしまう…これは厚労省の統計だが、新卒者の離職率だ。2年で2割が退職し、3年でなんと三分の一が退職する…だから、どうか、どうかこの授業を、キミが強く生きる力を養う端緒にしてほしい。

事前・事後学習の内容:
事前・事後学習の内容事前学習は、特にこれを必要としない。
毎回の出席を心掛けてほしい。
事後学習に代えて、授業中に学んだことをキミのアタマで咀嚼して、キミの考え方や価値観を確立すること。それを基に毎回の「きょうのひとこと」を記入し送信すること。これが出席の代わりになるぞー。

授業計画フリー入力サイン:
1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

授業計画フリー:

【第1回授業】ねえキミ、ホントにそれでいいの?—恐るべし情報化社会—(ガイダンスに代えて)

いよいよ始まるぞーっ!!
COVID-19でオンラインか対面か… 今年度後期は何とか対面授業ができそうだが、それもどうなることか…。キミたちにマジにいろんなことを自分のこととして考えて欲しい。だって考えてみろよ。COVID-19のダメージからようやくリカバーが始まると思った矢先、ウクライナ侵攻だもんな…。キミたちの卒業後のキャリアはどうなっちゃうんだろう、考えたことあるかよ?ましてアメリカでは共和党政権が返り咲きだもんな。これで世界のナショナリズムがさらに進みアメリカ、中国、ロシアの三竦み、にらみ合いで、世界を安定せしめる力が弱くなる…だからボクはキミと率直に語り合いたい。そのためにキミとの心の距離が少しでも近いところに居たい!! だからマジ、こんなノリで本音で率直にキミと語り合いたい。ついてきてくれよなっ!!

それと、ボクの授業履修経験が初めての人、下記(教科書欄)に紹介したエッセイ「シナモンロール…」を、出費することになって申しわけないけどさ、必ず入手して大事に持っていてくれよな。将来、キミが生きることに疲れた時(誰でも必ずそういう時ってくるものさ)、取り出してもう一度読んで欲しい。きっとどんな薬よりも効くからさっ。

あっ、それと忘れないでくれ。毎回授業の最後には「きょうのひとこと」をマジに書いてくれよな。出席の代わりだからな。これでキミの授業への思い入れ度を見なきゃなんないんだからさ。授業当日の授業開始時間から、翌週の授業前日の23:55まで入力できるぞ。必ず書いてくれい!

【第2回授業】キミは「ハダカの王様」だよ。失われた社会性を求めて1
きょうも楽しく付き合ってくれよな!!
ちょっと長くなったが、必ずこの下を全部読んでくれよな。
≪遊びに来いよ!!≫
なんかさー、オレめっちゃうれしいんだけど。前回の授業で「先生の家を公開されるとは思ってなかったです笑 近くに行く度に思い出しそうです」とか「東京都文京区小石川2に押し掛けたいと思います。」とか言ってくれたヤツがけっこういてさ。

オンラインじゃないときは、いつも授業の打ち上げパーティーなんかを我が家でやってるんだよね。希望者集合でね。多い時は30人くらい学生が集まるんだよね。これが大丈夫なんだよね。建物たてるときそれを考えて我が家のリビングとキッチンは40畳超え(おれんち、すごくねー)。この授業では、なによりキミの人間力を高めることが大切だ。まだ会ったことのないセンセイを訪ねて一人でやって来られるキミ、ボクはキミのことが大好きになりそうだ。だけどここ数年ひとつ憂慮していることがある。10年前は、この授業のクラスをまとめる求心力のあるヤツが必ず何人もいて、クラス全体でパーティーやりに集まってきた。しかしそのうち、集まる規模が「クラスでやる」「グループワーク(やる授業では、だが…)のメンバーの有志」で来訪することが多くなった。最近では「仲のいい仲間と数人」でというのが圧倒的だ。SNSで個人でしか動かなくなっているのか、ヒトの求心力が減退してきているんだろうか…
キミの人間力修行と何より「遊び」で我が家に遊びに来いよ。我が家はワセダから歩いて20分で来られるぞ。

≪絶対に忘れるなっ!! これから言うことを。≫
「怒られ上手は教わり上手」
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。だからくれぐれも言っておくぞ。「打たれ強くなれっ!!」。

≪今回のメインテーマ 今どきの大学生のキャリアプランニング について≫
「キャリアはケツから決めていけ」

キミたちは学窓を巣立つ時、どのような将来を決めるべきか。その判断根拠はいかなるものか。あまりにも不確定要素が多く、消極要素が多い、というか多すぎる。就職を決めるとき、ほとんどの学生は「今、どのような業態に興味があるか」とか「今、どのような業種が有望と思うか」という視点で決めてしまう。よくよく言っておくがそれではまず間違いなく近い将来に破綻する。なぜなら、不確定要素が多く、消極要素が多いだけでなく、それらが突然現れてくるからだ。Covid-19を思い出せ。わずか半年で人類の運命を一変させた。そういう意味では奴らは、今後我々が将来を考える際の「雄弁無比な反面教師」なのだ。大切なことは、キミの子どもの教育費が最も大変な負担となるとき、キミは社会でいきいきと活躍していられるかということだ。それには「今、なに興味があるか」ではなく、キミが定年を迎えるであろう70歳のころ、社会は、産業構造はどう変わっているかということを透徹した先見性で見据えていることだ。だからもう一度、よくよく言っておく、今を基準に発想して進路を決めるのではなく、「定年を迎えた時幸せであるために」という発想で「ケツ」から考えを起こせ。それには日本人が戦後ず一っと培ってきた因習的な価値観は勇気をもって捨てなければならないかもしれない。象徴的な話だが、おそらく30年後、最も有望な業種は農業や水産業であるかもしれない。 Covid-19禍で、今なお「早く以前に戻そう」と考える人が多いが、ソイツらも内心では気づいているんじゃないだろうか。「もう、以前には戻れない…」新しい価値観を受け入れていくしかないのかもしれなない。そしてキミ自身が新しい価値観を生み出していかなければならない。だって考えてみろよ。去年の卒業生は史上空前の「売り手市場」の好調な状況で就活した。今年はどうだよ。リーマンショックより深刻な状況に陥ってしまった。それも一瞬でね。この就活状況は少なからずキミたちに及ぶ。だからキミには強い人間力と逞しさが必要だ。脆弱な自信など捨ててしまえ。そして自分が所属する「属性」など頼るな。キミの二本の足で立てっ!! こんな視点で今日のコンテンツを見て考えてくれ。どうか目をそらさないで。キミが現実から逃避しても、現実は厳然と確実にキミに対峙してくるのだから。

【第3回授業】漂泊するワセダ、失われた社会性を求めて2
昨年の秋からこっち、しみじみ感じることがある。それは「キミたちはデスレース」をやっているということだ。みんな誕生というスタートラインに立って、「よーい、ドン」。きみたちのコースには至る所に地雷が隠れている。それを踏んだところでキミの人生レースは終わる。小学校時代に踏んで社会生活が終わる者、中学で終わる者、高校で終わる者… キミたちは運よく今現在早稲田でまだ生き延びている。でも部活、人間関係、授業、インターン、就活… 様々な形の地雷が、キミが踏むことを待っている。踏んだらそこで社会生活が終わる危険がある… この秋、それを踏んで(踏みかけて)痛手を負った学生をいったい何人面談したことか… 今年ほど学生のデスレースを感じたことはない。彼らに共通していえることは
① 完璧欲が強くすぐに結論を出そうとする。
② だから遠回りを潔しとしない。
③ 遠回りすらできないから「エスケープルート」を持っていないことだ。「だめだったら、こっちをやろう」というのが無い。それとは逆で「退路を断って」自分を追い詰めて精神を病んでいく…
そこで今回の授業でそれらを払しょくするきっかけを考えよう。それだからこそ、「シナモンロール…」を読んでもらったようなものだ。来週は「人生の遠回りを楽しんでいる」異色の先輩の実例が出てくるぞ。お楽しみに。

次に、「失われた社会性1」を思い返そう。 それにしても韓国で起こった「セウォル号事件」オレらも呆れたり、笑えないよな。メディアに異様に従順で、自ら考えようとしない。人と同じであることに異様にエネルギーを消費する…日本人もそっくりだよな。そして起こったことはすぐに忘れてしまう。東日本大震災でタワーマンションは危険だとわかっても、もう忘れてしまって次々林立しているし…

そのあとは、「失われた社会性2」だ。お楽しみに、でも生まれ変わるほどの覚悟を！これらの教訓を昇華して、キミの「生きるって…」を形作る努力を始めよう!!

【第4回授業ハーフタイム】「夢を捨てるなっ!!」遠回りのススメ。 IAT調査
きょうは、「前へ2」をやろう。前回の授業で「立ち止まる勇気」「遠回りする余裕」がどんなに大切か思い知ったと思う。もう一度言うが、ホワイトアウトの中で、不安にさいなまれて「早く山小屋へ着こう」と歩き回ると、行き着く先は「死」だ。これを「リングワンデリング」と言うんだ。雪洞を掘ってじっとしているヤツは助かる。それをゼッタイ忘れんなっ!! 結局人生でも同じことが言えるんだよな。思考のリングワンデリングが始まりそうなら立ち止まろう、遠回りしてみよう。

そこできょうは、まず「遠回り教教祖」の関秀隆センセイの話だ。今年3月でまた「埼玉県の学校」を辞職して(これが2回目)、世界一周の放浪の旅に出ている。彼のオーラに触れてみて欲しい。キミの心に何が響くかだ。

それと、IAT調査の結果については、メディアによる医学生理学的悪影響という形で、可能な限り次回以降の授業の中で説明していこうと思う。

【第5回授業】「働くってどういうこと？」
きょうは「働くってどういうこと??」をやろう。少しでも早く、「仕事をするということの原点座標」を身に着けて欲しいからね。 ところでさ、この授業の内容をしっかり身に着けて、激戦となるであろう就職戦線を乗り切ってくれ。前にも言ったと思うけど、例えば大手の「S不動産」、「都内のオフィスビル、200棟超」供給しているという「勢い」がウリだった。そこらじゅうで「S不動産」の看板や館銘板の入ったビルを見る。しかしcovid-19でテレワークや会社移転が始まると、このような業界は一瞬にしてリスク業界になってしまった。ほんの一瞬でここまで変わってしまう。GDPは一瞬にしてリーマンショック以前に落ちこんだ。リーマンショックから世界経済が回復するには3年以上かかった。おそらくこれからは、変な例えではあるが、キミが歩いているとして、自分の次の一歩が地面につく寸前に、足下に隠された地雷を見つけて瞬時に着地点を変える…そんなキャリア展開が必要になってくるということなんだろう。だけど、それって可能なんだろうか。
いずれにしても、キミがめでたく就職したとしても、これから言うことは忘れるな。「キミは消耗品だ。キミの替えなどいくらでもいる。」 expendables なんだよ。
例えば公務員の世界などでは「組織の活性化には異動が必要」ということがよく言われる。特に事務方には専門家は必要ないようだ。その仕事は新たに異動してきたヒトが誰でもできることが重要らしい。そのような職場風土でもキミは「やりがい」をみつけていかなければならない。そして「脱消耗品」を目指していかなければならない。そう

じゃなかったら、40年近い長い仕事人生は懲役40年で刑務作業をやっているのと同じだ。やりがいの無い、誰でもできることを、楽しくないのに我慢して40年間続ける…　これってめっちゃ恐ろしいことじゃん??　明治大学でボクの助手たちは殆どが理系の大学院生だ。彼らを見ていると時としてうらやましくなることがある。もう就職の段階から学部卒とは給与体系がちがう。文系で大学院を修了しても学部卒と同じ給与体系で、同じ仕事…、あげくの果てには「過学歴」とか言われて。
明治の助手たちの多くは専門職として企業でも研究開発部門への就職が多い。これはもちろん早稲田でも同じことが言えるが。そんな部門に就職すれば、脱消耗品の道は就職当初から見えやすい。
　だがこんなことも言える。ボクん家は土地活用の必要からビルを建てた。大手ハウスメーカーの鉄筋コンクリート建設部門がやった。わが家の設計を担当した建築士は、文字通り抜きんでたセンスとデザイン力を持っていた。我が家を竣工させて数年後にはその大手企業の建築士全員を束ねる「設計長」になった。ボクは祝福したが、内心は心配していた。そのことは彼自身も身に染みて感じていたようだ。「オカダさん、最近は自分で図面がひけないんです…」だってさ。つまり社内のすべて建築士を束ねる管理が彼の仕事で、自分が建築デザインすることができなくなるのさ。その大企業では「彼がデザインしてコンペに負けたことはない‼」くらい言われた大事な戦力が、第一線を去ることになったんだよ。このへんの詳細は、きょうのコンテンツをよく見て、理解してくれ。キミ、気が付いたか??　彼はこの段階で「余人を以て替え難い」人材から消耗品に編入されたんだよ。この４月から、彼はさらに出世して大阪本社でもっとエラくなっている。だが本人の気持ちは複雑なんだよ。

　最後になるが、参考までに…
オレ、ある時決めた。「好きなことだけやろう」って。オレにとって教壇に立って医事法学教えるのも、こーゆー科目教えるのも楽しい遊びだ。だから授業の前はいつもワクワクしてる。きょうどんなことがあるんだろうな、今日連中はどんな顔をして授業を受けに来るんだろうな、とかね。研究して論文を書くのも遊び。学会や市民団体で講演するのも遊び。メルセデスに乗るのもハーレーに乗るのも遊び。海に潜るのも遊び。楽しくないことはやらない主義者なのかも…　ずーっと昔、高校の教員をやっていた頃、「教師なんていうものは、10のうち9つらいことがあっても、1つはいいことがあればやっていける」と自分に言い聞かせていた。だけどさ、「自分に言い聞かせる」って「本当はそうは思っていないこと」を、「強引にそう思い込ませようという心の営み」だったんだね。だって今、オレ、10のうち9.9以上は楽しいもん。あの時、高校の教師を辞めていなかったらと考えると、ぞーっとするぜ。
　キミもポストコロナで、以前には戻れない社会のなかで、ドラスティックな価値観の変革を行う勇気を持つ必要があるんじゃないかい?? どうか現実から逃げるなよ。

【第6回授業】「品格を磨く‼」それと「キミはハダカの王様だよ2」→メディアによる医学生理学的悪影響
　さあ、きょうの最初のトピックは、「品格を磨く」だ。
　なぜか我が家の周りには昔から、多分確信犯で学生や、元学生や、元学生で結婚して新居をかまえるために住み着いたヤツが結構な人数いるんだよね。ここのところ、元教え子の社会人の女の子２人が毎晩我が家にゴハン食べに来てて、おれんちのエンゲル係数どーなってんのよ、状態なんだよね。みんな我が家を集会所か何かと間違えてるみたいだ。そんな多くのヤツが言う、オカダ先生を「先生っ‼」って呼ぶときの「セ・ン・セ・イ」という音は敬称じゃなくて呼び名だ、と。さらにそれを掘り下げて言った元医学生の教え子の女医さんがいる。ヤツは「オカダ先生の『先生っ‼』は記号だ」と言いやがった…　それを言われて結構ウケて面白がってるオレって何なんだろう…

　その女医さん、実家がすごい。私大の医学部の学生に「アイツの家は財閥だ」と言われるほどの裕福な家の子だ。思い出せば、国試に合格した時父上のお祝いは「メルセデスベンツSLK」というスポーツカーだった。あまりスポーツカーっていうキャラじゃないんだけどね、本人は。父上の結婚祝いは、我が家のすぐそばのタワーマンションの部屋だった。我が家より高いところから我が家を見おろされているっていうのがちょっとねー。彼女も我が家の近くに住む確信犯の一人だ。
　オレ、彼女に言われてずーっと守っていることがあるんだよね。「先生がキーマカレーを作った時は必ずウチに届けてください」だってさ。今月はキーマ１回と超特製パウンドケーキを１回届けたよ、そう言えば…。オレってエラくないかー??
　だけどこの女医さん、やっぱすごいな、とよく感じる。例えばある日のオレたちの会話。「オーイ、オメー今、家にいる??」「ええ、居ますよ」と女医さん。「だったら、配達に行くからさー」「先生、ちょっとアタマボサボサで恥ずかしいから、（マンションの下まで行けないから）上まで上がってきてくださいね」と女医さん。「オレには恥ずかしくないんかよ…」と思ったりしているオレ。こうやって急におすそ分けに行っても、「先生、ちょっとこれ持って行ってください」って必ず手土産が出てくるんだよね。っということは、いつ誰が来てもいいように、常備してるっていうことだよな。これって親の躾け、あるいは帝王学??　だけど彼女見ているといつも感じる。品格を高めると運命を切り開けるってさ。

　そういうわけで、きょうは、ボクが「恐れて」「尊敬する」我が教え子の女医さん「親愛なるミチコセンセイ」に登場してもらおう。ミチコセンセイは1998年に東京医大に入学してきて、ボクの医事法学の授業の筆記試験で歴代最高得点タイを取った、そのまま翌年ボクの医事法学のゼミを取り、臨床研修先はボクが生まれた病院、臨床研修が終わったらなんと「早稲田大学大学院法務研究科」に入学、今は呼吸器内科の専門医と法律家をやってる。後期には早稲田大学教育学部で集中講義をやってるし、オレその講義に巻き込まれてるし（無理やり付き合いで教壇に立たされている）…気が付くと20年超のクサレ縁…
オレさー、ミチコセンセイを見てるとホント思う…　「人間の品格って運命を切り開けるんだよなあ」オレはモロに庶民の子で、文京区小石川2丁目というところは、坂の上が閑静な住宅街で、坂の下が小さな町工場が密集した地域だった。オレ今でも覚えているけど、坂の下の子だったオレは坂の上の子の「親たち」に結構差別された。だけどさー、もちろんオレもそうだけど、キミたちもそろそろ「自分で自分に投資して品格を磨こうぜ‼」　もう「親の育て方が云々」言いわけすんな‼　自分の人生切り開くために、品格を「自分の力」で磨こうぜ‼　だから自分で投資して自分の品格をたかめようぜい‼

【第7回授業　いよいよ最終回‼】いのちの授業「啓子さんのこと」、「ももちゃんのこと」
　きょうの本題、ボクの授業は、前にも言ったかもしれないが「命の授業」という前評判で学生たちに広まっているらしい。先輩たちがそう評したんだけどね。そこで最終回は、渾身のエネルギーを込めて「命の授業」をやります。ここまでの授業で「きょうのひとこと」等でキミの真摯なコトバを見た以上、オレはここで手を抜けない。きょうは、自分のプライベートに関する話だが、キミたちのことは120%信頼している、だから披歴する。まず対面で「啓子さんのこと」を聞いて欲しい。キーワードは「人っていいでしょ」だ。
授業は今日で終わるが、時間のある時、必ずコンテンツ動画「ももちゃんのこと」を見て、「もも地蔵プロジェクト本番」のファイルをダウンロードして読んでくれ。ここでのキーワードは「人生のエスケープルートを持とう！」だ。「エスケープルート」は「逃げ道」と表面的にとらえてよいイメージを持っていない人が多いかもしれない。しかし、きょうは「エスケープルート」を持つことは、人生を健康で幸せに生きるための、とてつもなく大切なソシアルスキルである

と積極的に評価しなおしてほしい。
　どうか、どうか「生きるって」「死とは」、答えをマジに考えてくれ。答えは多分出てこない、しかし答えの出ないことを考え続けることは、答えそのものよりも気高い。それは絶対に「よく生きること」につながる。

　キミたちに「理想の死に方」に言及してもらった。なぜ??　だって天国に旅立つ瞬間まで自分が満足のいく「イイ生き方」をすれば、その延長上にカッコイイ「理想の死に方」があるでしょ。「よく生きる」ということと「よく死ぬ」ということは二律背反することではなく、同一のことなんだ、って徐々にでもいいから気が付いてほしい。

言語区分:	0	日本語　　Japanese
教科書:	教科書「シナモンロールにハチミツをかけて―太平洋で最も偉大なダイバーとボクたち、そして幸せな死別の物語―」 銀の鈴社　刊　ISBN:978-4-87786-274-9 C0095 を必ず入手しておくこと。終講までに読了しておくこと。	
参考文献:	適宜授業中に頒布する。	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	0	筆記試験はこれを実施しない。
レポート:	50	上記サブテキストの感想文、および「キミの理想の死に方」に関するメッセージをこれに充てる。
平常点評価:	50	以下を以て平常点とする。 ①テーマへの積極性 ②出席時に記入する「きょうのひことこ」のインパクトファクター。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010006|07|9S12010006[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ソーシャルコミュニテラシーの基礎と実践 07		
担 当 教 員	岡田 昭夫		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ねえキミ、ホントにそれでいいの？（恐るべし…情報化社会） —そこで豊かに、キミらしく—

授業概要: ちょっとそこのキミ、このシラバスを読み始めたってことは、「もしかしたら履修してもいいかも・・」って考えているんだよね。だったら聞くけどさ、キミ、友達に電話するとき、その友達のケータイにかける？ 家電（いえでん）にかける？ そーだよね、ケータイにかけるでしょ。なぜ？？ 家電にかけて他の家族が出たら面倒だもんね。このフィーリングに共感できるキミ、ゼッタイこの授業をとったほうがいいよ。なぜって、考えてみろよ。キミが就職してどこかの会社に入ったとしよう。そして大事な取引先の会社に電話をして、キミの顧客であるAさんを呼び出してもらう。キミ、ちゃんと礼を失することなく敬語を使って、Aさんを呼び出してもらえるかい？無理っしょ！ ！

ところで明治十四年の政変で「我らが大隈重信先生」が下野するとき、福沢諭吉はその政情を観て「ポリティカルの時間は常に均一に流れるものではない」のだと感想を漏らしたという。

政治の時間は時として怒涛の如く流れることがあるのだと言いたかったのだろう。奇しくも我々は、それを政治ではなくメディアでそれを経験することのなってしまった。昨今のSNSの普及を考えてみろよ。わずか数年で怒涛の如く普及したスマートフォン、そこにマーケットを見出し群がるコマーシャリズム。それに乗った時代の寵児であるSNS。だけど冷静に考えてみてよ。「楽しい」、「便利」には代償が伴うことを、キミは忘れていないか？
一方で、キミがそれらにどっぷりと浸っている間に、キミは多くのものを失ってしまった。例えば人と対面で話す会話力や表情、語彙力、敬語力、社会性、責任感、現実感…枚挙に遑がない。

他方で、現今の就職状況は、人手不足を背景に売り手市場だと言われている。じゃあ聞くけどさ、キミの周囲にいる先輩は就活に苦労していないかい。ワセダという大学のおかれている状況を考えてみろよ。幸いにも最も評価の高い大学群に位置付けられている。そうであれば、それらの大学群の学生たちが目指す就職先には、この機会を生かすべくそれ以外の大学群からの出願者が殺到してくる。必然的に激戦の就活を避けられないわけさ！
そのような激戦の中で、SNSに象徴されるメディアにどっぷり浸かり、多くの資質を育てることなくむしろ失ってしまったキミが善戦できるのかい？ これまた無理っしょ。結構長くなったけど、ここまでシラバスを読んでくれたキミは、少しは実感できたんじゃないかい？ 今のキミが置かれている状況のヤバさを。それに気が付いたキミは、失ったものを取り戻し、育てなかったものをこれから育てることができるさ。多くの人間たちが失ったことに気づいてさえいない「それ」をね。そのための端緒を与えるのがこの授業だと思ってほしい。

その意味では「メディアや情報スキルから理想的な距離をおくことを学ぶ」と言っても過言ではないかもしれない。友達の家電（いえでん）に電話するのが億劫なキミ、留守電にメッセージを残せないキミ、対面で人と話をするのが苦手なキミ、敬語経つかえないキミ、理解してもらえたかな。キミとはこの授業で是非会いたいよ！

このような状況下で更に深刻な影を投げかけたのがCovid-19だ。経済界が激変してしまったのだ。それが始まる前「花形業種」を考えられた業種が、「あっ」と言う間にヤバイ業種になった。2020年3月、そのような業界に希望を持って学窓を巣立っていった連中をオレたちは「おめでとう！」と言って送り出した。その彼らのアタマに「転職」という文字が去来するまでは、文字通り「あっ」と言う間だった。その時のオレたちの気持ちがわかるかい?? もうこんな気持ちはこりごりだ。だからしっかりポストコロナの社会の変化をしっかり分析していこう。その手伝いもこの授業がやっていく。

この授業では、メディアや情報スキルを駆使する者の人間力の涵養に主眼を置きたい。まずメディア蔓延社会でキミが失ったもの、育てられなかったものを特定しよう。そしてSNSに代表されるメディア社会の特質を理解し、それの罠にはまらない生き方を模索する。そして、情報分析や情報判断の基礎力を涵養し、今後の社会の変容を予測しよう。なぜなら、そこでキミたちは社会人として活躍していかなければならない。くれぐれも言っておくが、これからキミたちに到来する社会は、予測と準備の努力を怠った人間は到底生き抜けないハードなものだ。そこを自由自在に泳ぎ切るためのキャリア・ビルディングのヒントをこの授業でつかんで欲しい。

キミ、よかったね、最後までこのシラバスを読んで。あとは授業で会うだけさっ！ そこで最後にお願いがある。この授業に履修エントリーして選外で涙を呑んでいる学生が非常に多くいるんだよね。中には4年間ずっとエントリー続けたけど、ずっとダメだった… 「だからどうかもぐらせてください！」と言ってきた学生さえいるんだよね。だから履修できるようになったキミ、どうか選外になったヤツのためにも授業には必ず出席してほしい。頼んだよ！

授業の到達目標: いよいよ始まるぞーっ。
今シーズンも「メディア」「インターネット」「情報化社会」という3つと、キミの関わりについて取り上げて行こうと思う。
この授業でボクはキミにアカデミズムを体験してもらおうとは思わない。強いて言えば「自分の心の水面にたった波を鎮める」ための「哲学」をしてほしい。どうか毎回のトピックをキミ自身のことと感じて、考えて欲しい。恐らく結論にはたどり着かないであろう。しかし答えを得るより、答えを得ようと考え続けることの方が、大切でかつ楽しいことだと、きっと気づいてくれるだろう。さあ、今日から、キミの心の「内なる宇宙」に一緒に船出しようぜい!!

この授業で大切なことは、「めっちゃ楽しむこと」と「しっかり考えること」だ。しっかり考えたあとはキミの人生をめっちゃ楽しめ。スイッチを切り替えてこのふたつをしっかりやること。キミにできるか、だいじょーぶかよ??
ソクラテスが模索した「よく生きること」「自分の生を限りなく良いものにしていくこと」、これを楽しく、マジに考えていこうぜ!!

では少し授業っぽく、目標を書くぞ。
①SNSに代表されるメディア社会で、それに依存することなく、理想的な距離を置ける使い手になること。
②上記社会の中で、失ってしまった社会性、危機に瀕している健康状態等について理解し、改善ないし維持向上の端緒をつかむこと。
③就活をはじめ将来に向けたキャリアプラン・ライフプランを的確に策定できる知識と能力を身につけること。
④今年、一貫して底流にあるテーマは「正常性バイアス」と「同調性バイアス」の払拭だっ!!!! 今は なんのことかさっぱりわかんないだろうけど、授業が進む位連れてわかってくるから、しっかりこの二者から自分を解放してほしい。
キーワード：人口動態、地球イベント、自然、逆転の発想、品格、etc
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。「怒られ上手は教わり上手」なんだ。みんな現今の少子化社会で、「大切に」されて成長してきた。そしてその分、生きる力が弱くなってしまった。だから職業共同体の中に入ると、「2の2法則」「3の3の法則」となってしまう…これは厚労省の統計だが、新卒者の離職率だ。2年で2割が退職し、3年でなんと三分の一が退職する…だから、どうか、どうかこの授業を、キミが強く生きる力を養う端緒にしてほしい。

事前・事後学習の内容：
事前・事後学習の内容事前学習は、特にこれを必要としない。
毎回の出席を心掛けてほしい。
事後学習に代えて、授業中に学んだことをキミのアタマで咀嚼して、キミの考え方や価値観を確立すること。それを基に毎回の「きょうのひとこと」を記入し送信すること。これが出席の代わりになるぞー。

授業計画フリー入力サイン：
1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

【第1回授業】ねえキミ、ホントにそれでいいの？―恐るべし情報化社会―（ガイダンスに代えて）

いよいよ始まるぞーっ!!
COVID-19でオンラインか対面か… 今年度後期は何とか対面授業ができそうだが、それもどうなることか…。キミたちにマジにいろんなことを自分のこととして考えて欲しい。だって考えてみろよ。COVID-19のダメージからようやくリカバーが始まると思った矢先、ウクライナ侵攻だもんな…。キミたちの卒業後のキャリアはどうなっちゃうんだろう、考えたことあるかよ？ましてアメリカでは共和党政権が返り咲きだもんな。これで世界のナショナリズムがさらに進みアメリカ、中国、ロシアの三竦み、にらみ合いで、世界を安定せしめる力が弱くなる…だからボクはキミと率直に語り合いたい。そのためにキミとの心の距離が少しでも近いところに居たい!! だからマジ、こんなノリで本音で率直にキミと語り合いたい。ついてきてくれよなっ!!

それと、ボクの授業履修経験が初めての人、下記（教科書欄）に紹介したエッセイ「シナモンロール…」を、出費することになって申しわけないけどさ、必ず入手して大事に持っていてくれよな。将来、キミが生きることに疲れた時（誰でも必ずそういう時ってくるものさ）、取り出してもう一度読んで欲しい。きっとどんな薬よりも効くからさっ。

あっ、それと忘れないでくれ。毎回授業の最後には「きょうのひとこと」をマジに書いてくれよな。出席の代わりだからな。これでキミの授業への思い入れ度を見なきゃなんないんだからさ。授業当日の授業開始時間から、翌週の授業前日の23:55まで入力できるぞ。必ず書いてくれい！

【第2回授業】キミは「ハダカの王様」だよ。失われた社会性を求めて1
きょうも楽しく付き合ってくれよな!!
ちょっと長くなったが、必ずこの下を全部読んでくれよな。
≪遊びに来いよ!!≫
なんかさー、オレめっちゃうれしいんだけど。前回の授業で「先生の家を公開されるとは思ってなかったです笑 近くに行く度に思い出しそうです」とか「東京都文京区小石川2に押し掛けたいと思います。」とか言ってくれたヤツがけっこういてさ。

オンラインじゃないときは、いつも授業の打ち上げパーティーなんかを我が家でやってるんだよね。希望者集合でね。多い時は30人くらい学生が集まるんだよね。これが大丈夫なんだよね。建物たてるときそれを考えて我が家のリビングとキッチンは40畳超え（おれんち、すごくねー）。この授業では、なによりキミの人間力を高めることが大切だ。まだ会ったことのないセンセイを訪ねて一人でやって来られるキミ、ボクはキミのことが大好きになりそうだ。だけどここ数年ひとつ憂慮していることがある。10年前は、この授業のクラスをまとめる求心力のあるヤツが必ず何人もいて、クラス全体でパーティーやりに集まってきた。しかしそのうち、集まる規模が「クラスでやる」「グループワーク（やる授業では、だが…）のメンバーの有志」で来訪することが多くなった。最近では「仲のいい仲間と数人」でというのが圧倒的だ。SNSで個人でしか動かなくなっているのか、ヒトの求心力が減退してきているんだろうか…
キミの人間力修行と何より「遊び」で我が家に遊びに来いよ。我が家はワセダから歩いて20分で来られるぞ。

≪絶対に忘れるなっ!! これから言うことを。≫
「怒られ上手は教わり上手」
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。だからくれぐれも言っておくぞ。「打たれ強くなれっ!!」。

≪今回のメインテーマ 今どきの大学生のキャリアプランニング について≫
「キャリアはケツから決めていけ」

キミたちは学窓を巣立つ時、どのような将来を決めるべきか。その判断根拠はいかなるものか。あまりにも不確定要素が多く、消極要素が多い、というか多すぎる。就職を決めるとき、ほとんどの学生は「今、どのような業態に興味があるか」とか「今、どのような業種が有望と思うか」という視点で決めてしまう。よくよく言っておくがそれではまず間違いなく近い将来に破綻する。なぜなら、不確定要素が多く、消極要素が多いだけでなく、それらが突然現れてくるからだ。Covid-19を思い出せ。わずか半年で人類の運命を一変させた。そういう意味では奴らは、今後我々が将来を考える際の「雄弁無比な反面教師」なのだ。大切なことは、キミの子どもの教育費が最も大変な負担となるとき、キミは社会でいきいきと活躍していられるかということだ。それには「今、なに興味があるか」ではなく、キミが定年を迎えるであろう70歳のころ、社会は、産業構造はどう変わっているかということを透徹した先見性で見据えていることだ。だからもう一度、よくよく言っておく、今を基準に発想して進路を決めるのではなく、「定年を迎えた時幸せであるために」という発想で「ケツ」から考えを起こせ。それには日本人が戦後ず一っと培ってきた因習的な価値観は勇気をもって捨てなければならないかもしれない。象徴的な話だが、おそらく30年後、最も有望な業種は農業や水産業であるかもしれない。 Covid-19禍で、今なお「早く以前に戻そう」と考える人が多いが、ソイツらも内心では気づいているんじゃないだろうか。「もう、以前には戻れない…」新しい価値観を受け入れていくしかないのかもしれなない。そしてキミ自身が新しい価値観を生み出していかなければならない。だって考えてみろよ。去年の卒業生は史上空前の「売り手市場」の好調な状況で就活した。今年はどうだよ。リーマンショックより深刻な状況に陥ってしまった。それも一瞬でね。この就活状況は少なからずキミたちに及ぶ。だからキミには強い人間力と逞しさが必要だ。脆弱な自信など捨ててしまえ。そして自分が所属する「属性」など頼るな。キミの二本の足で立てっ!! こんな視点で今日のコンテンツを見て考えてくれ。どうか目をそらさないで。キミが現実から逃避しても、現実は厳然と確実にキミに対峙してくるのだから。

【第3回授業】漂泊するワセダ、失われた社会性を求めて2
昨年の秋からこっち、しみじみ感じることがある。それは「キミたちはデスレース」をやっているということだ。みんな誕生というスタートラインに立って、「よーい、ドン」。きみたちのコースには至る所に地雷が隠れている。それを踏んだところでキミの人生レースは終わる。小学校時代に踏んで社会生活が終わる者、中学で終わる者、高校で終わる者… キミたちは運よく今現在早稲田でまだ生き延びている。でも部活、人間関係、授業、インターン、就活… 様々な形の地雷が、キミが踏むことを待っている。踏んだらそこで社会生活が終わる危険がある… この秋、それを踏んで(踏みかけて)痛手を負った学生をいったい何人面談したことか… 今年ほど学生のデスレースを感じたことはない。彼らに共通していえることは
① 完璧欲が強くすぐに結論を出そうとする。
② だから遠回りを潔しとしない。
③ 遠回りすらできないから「エスケープルート」を持っていないことだ。「だめだったら、こっちをやろう」というのが無い。それとは逆で「退路を断って」自分を追い詰めて精神を病んでいく…
そこで今回の授業でそれらを払しょくするきっかけを考えよう。それだからこそ、「シナモンロール…」を読んでもらったようなものだ。来週は「人生の遠回りを楽しんでいる」異色の先輩の実例が出てくるぞ。お楽しみに。

次に、「失われた社会性1」を思い返そう。 それにしても韓国で起こった「セウォル号事件」オレらも呆れたり、笑えないよな。メディアに異様に従順で、自ら考えようとしない。人と同じであることに異様にエネルギーを消費する…日本人もそっくりだよな。そして起こったことはすぐに忘れてしまう。東日本大震災でタワーマンションは危険だとわかっても、もう忘れてしまって次々林立しているし…

そのあとは、「失われた社会性2」だ。お楽しみに、でも生まれ変わるほどの覚悟を！これらの教訓を昇華して、キミの「生きるって…」を形作る努力を始めよう!!

【第4回授業ハーフタイム】「夢を捨てるなっ!!」遠回りのススメ。 IAT調査
きょうは、「前へ2」をやろう。前回の授業で「立ち止まる勇気」「遠回りする余裕」がどんなに大切か思い知ったと思う。もう一度言うが、ホワイトアウトの中で、不安にさいなまれて「早く山小屋へ着こう」と歩き回ると、行き着く先は「死」だ。これを「リングワンデリング」と言うんだ。雪洞を掘ってじっとしているヤツは助かる。それをゼッタイ忘れんなっ!! 結局人生でも同じことが言えるんだよな。思考のリングワンデリングが始まりそうなら立ち止まろう、遠回りしてみよう。

そこできょうは、まず「遠回り教教祖」の関秀隆センセイの話だ。今年3月でまた「埼玉県の学校」を辞職して(これが2回目)、世界一周の放浪の旅に出ている。彼のオーラに触れてみて欲しい。キミの心に何が響くかだ。

それと、IAT調査の結果については、メディアによる医学生理学的悪影響という形で、可能な限り次回以降の授業の中で説明していこうと思う。

【第5回授業】「働くってどういうこと？」
きょうは「働くってどういうこと??」をやろう。少しでも早く、「仕事をするということの原点座標」を身に着けて欲しいからね。 ところでさ、この授業の内容をしっかり身に着けて、激戦となるであろう就職戦線を乗り切ってくれ。前にも言ったと思うけど、例えば大手の「S不動産」、「都内のオフィスビル、200棟超」供給しているという「勢い」がウリだった。そこらじゅうで「S不動産」の看板や館銘板の入ったビルを見る。しかしcovid-19でテレワークや会社移転が始まると、このような業界は一瞬にしてリスク業界になってしまった。ほんの一瞬でここまで変わってしまう。GDPは一瞬にしてリーマンショック以前に落ちこんだ。リーマンショックから世界経済が回復するには3年以上かかった。おそらくこれからは、変な例えではあるが、キミが歩いているとして、自分の次の一歩が地面につく寸前に、足下に隠された地雷を見つけて瞬時に着地点を変える…そんなキャリア展開が必要になってくるということなんだろう。だけど、それって可能なんだろうか。
いずれにしても、キミがめでたく就職したとしても、これから言うことは忘れるな。「キミは消耗品だ。キミの替えなどいくらでもいる。」 expendables なんだよ。
例えば公務員の世界などでは「組織の活性化には異動が必要」ということがよく言われる。特に事務方には専門家は必要ないようだ。その仕事は新たに異動してきたヒトが誰でもできることが重要らしい。そのような職場風土でもキミは「やりがい」をみつけていかなければならない。そして「脱消耗品」を目指していかなければならない。そう

じゃなかったら、40年近い長い仕事人生は懲役40年で刑務作業をやっているのと同じだ。やりがいの無い、誰でもできることを、楽しくないのに我慢して40年間続ける…　これってめっちゃ恐ろしいことじゃん??　明治大学でボクの助手たちは殆どが理系の大学院生だ。彼らを見ていると時としてうらやましくなることがある。もう就職の段階から学部卒とは給与体系がちがう。文系で大学院を修了しても学部卒と同じ給与体系で、同じ仕事…、あげくの果てには「過学歴」とか言われて。
明治の助手たちの多くは専門職として企業でも研究開発部門への就職が多い。これはもちろん早稲田でも同じことが言えるが。そんな部門に就職すれば、脱消耗品の道は就職当初から見えやすい。
　だがこんなことも言える。ボクん家は土地活用の必要からビルを建てた。大手ハウスメーカーの鉄筋コンクリート建設部門がやった。わが家の設計を担当した建築士は、文字通り抜きんでたセンスとデザイン力を持っていた。我が家を竣工させて数年後にはその大手企業の建築士全員を束ねる「設計長」になった。ボクは祝福したが、内心は心配していた。そのことは彼自身も身に染みて感じていたようだ。「オカダさん、最近は自分で図面がひけないんです…」だってさ。つまり社内のすべて建築士を束ねる管理が彼の仕事で、自分が建築デザインすることができなくなるのさ。その大企業では「彼がデザインしてコンペに負けたことはない‼」くらい言われた大事な戦力が、第一線を去ることになったんだよ。このへんの詳細は、きょうのコンテンツをよく見て、理解してくれ。キミ、気が付いたか??　彼はこの段階で「余人を以て替え難い」人材から消耗品に編入されたんだよ。この４月から、彼はさらに出世して大阪本社でもっとエラくなっている。だが本人の気持ちは複雑なんだよ。

　最後になるが、参考までに…
オレ、ある時決めた。「好きなことだけやろう」って。オレにとって教壇に立って医事法学教えるのも、こーゆー科目教えるのも楽しい遊びだ。だから授業の前はいつもワクワクしてる。きょうどんなことがあるんだろうな、今日連中はどんな顔をして授業を受けに来るんだろうな、とかね。研究して論文を書くのも遊び。学会や市民団体で講演するのも遊び。メルセデスに乗るのもハーレーに乗るのも遊び。海に潜るのも遊び。楽しくないことはやらない主義者なのかも…　ずーっと昔、高校の教員をやっていた頃、「教師なんていうものは、10のうち9つらいことがあっても、1つ いいことがあればやっていける」と自分に言い聞かせていた。だけどさ、「自分に言い聞かせる」って「本当はそうは思っていないこと」を、「強引にそう思い込ませようという心の営み」だったんだね。だって今、オレ、10のうち9.9以上は楽しいもん。あの時、高校の教師を辞めていなかったらと考えると、ぞーっとするぜ。
　キミもポストコロナで、以前には戻れない社会のなかで、ドラスティックな価値観の変革を行う勇気を持つ必要があるんじゃないかい?? どうか現実から逃げるなよ。

【第6回授業】「品格を磨く‼」それと「キミはハダカの王様だよ2」→メディアによる医学生理学的悪影響
　さあ、きょうの最初のトピックは、「品格を磨く」だ。
　なぜか我が家の周りには昔から、多分確信犯で学生や、元学生や、元学生で結婚して新居をかまえるために住み着いたヤツが結構な人数いるんだよね。ここのところ、元教え子の社会人の女の子2人が毎晩我が家にゴハン食べに来てて、おれんちのエンゲル係数どーなってんのよ、状態なんだよね。みんな我が家を集会所か何かと間違えてるみたいだ。そんな多くのヤツが言う、オカダ先生を「先生っ‼」って呼ぶときの「セ・ン・セ・イ」という音は敬称じゃなくて呼び名だ、と。さらにそれを掘り下げて言った元医学生の教え子の女医さんがいる。ヤツは「オカダ先生の『先生っ‼』は記号だ」と言いやがった…　それを言われて結構ウケて面白がってるオレって何なんだろう…

　その女医さん、実家がすごい。私大の医学部の学生に「アイツの家は財閥だ」と言われるほどの裕福な家の子だ。思い出せば、国試に合格した時父上のお祝いは「メルセデスベンツSLK」というスポーツカーだった。あまりスポーツカーっていうキャラじゃないんだけどね、本人は。父上の結婚祝いは、我が家のすぐそばのタワーマンションの部屋だった。我が家より高いところから我が家を見おろされているっていうのがちょっとねー。彼女も我が家の近くに住む確信犯の一人だ。
　オレ、彼女に言われてず一っと守っていることがあるんだよね。「先生がキーマカレーを作った時は必ずウチに届けてください」だってさ。今月はキーマ1回と超特製パウンドケーキを1回届けたよ、そう言えば…。オレってエラくないかー??
　だけどこの女医さん、やっぱすごいな、とよく感じる。例えばある日のオレたちの会話。「オーイ、オメー今、家にいる??」「ええ、居ますよ」と女医さん。「だったら、配達に行くからさー」「先生、ちょっとアタマボサボサで恥ずかしいから、（マンションの下まで行けないから）上まで上がってきてくださいね」と女医さん。「オレには恥ずかしくないんかよ…」と思ったりしているオレ。こうやって急におすそ分けに行っても、「先生、ちょっとこれ持って行ってください」って必ず手土産が出てくるんだよね。っということは、いつ誰が来てもいいように、常備してるっていうことだよな。これって親の躾け、あるいは帝王学??　だけど彼女見ているといつも感じる。品格を高めると運命を切り開けるってさ。

　そういうわけで、きょうは、ボクが「恐れて」「尊敬する」我が教え子の女医さん「親愛なるミチコセンセイ」に登場してもらおう。ミチコセンセイは1998年に東京医大に入学してきて、ボクの医事法学の授業の筆記試験で歴代最高得点タイを取った、そのまま翌年ボクの医事法学のゼミを取り、臨床研修先はボクが生まれた病院、臨床研修が終わったらなんと「早稲田大学大学院法務研究科」に入学、今は呼吸器内科の専門医と法律家をやってる。後期には早稲田大学教育学部で集中講義をやってるし、オレその講義に巻き込まれてるし（無理やり付き合いで教壇に立たされている）…気が付くと20年超のクサレ縁…
オレさー、ミチコセンセイを見てるとホント思う…　「人間の品格って運命を切り開けるんだよなあ」オレはモロに庶民の子で、文京区小石川2丁目というところは、坂の上が閑静な住宅街で、坂の下が小さな町工場が密集した地域だった。オレ今でも覚えているけど、坂の下の子だったオレは坂の上の子の「親たち」に結構差別された。だけどさー、もちろんオレもそうだけど、キミたちもそろそろ「自分で自分に投資して品格を磨こうぜ‼」　もう「親の育て方が云々」言いわけすんな‼　自分の人生切り開くために、品格を「自分の力」で磨こうぜ‼　だから自分で投資して自分の品格をたかめようぜい‼

【第7回授業　いよいよ最終回‼】いのちの授業「啓子さんのこと」、「ももちゃんのこと」
　きょうの本題、ボクの授業は、前にも言ったかもしれないが「命の授業」という前評判で学生たちに広まっているらしい。先輩たちがそう評したんだけどね。そこで最終回は、渾身のエネルギーを込めて「命の授業」をやります。ここまでの授業で「きょうのひとこと」等でキミの真摯なコトバを見た以上、オレはここで手を抜けない。きょうは、自分のプライベートに関する話だが、キミたちのことは120%信頼している、だから披歴する。まず対面で「啓子さんのこと」を聞いて欲しい。キーワードは「人っていいでしょ」だ。
授業は今日で終わるが、時間のある時、必ずコンテンツ動画「ももちゃんのこと」を見て、「もも地蔵プロジェクト本番」のファイルをダウンロードして読んでくれ。ここでのキーワードは「人生のエスケープルートを持とう！」だ。「エスケープルート」は「逃げ道」と表面的にとらえてよいイメージを持っていない人が多いかもしれない。しかし、きょうは「エスケープルート」を持つことは、人生を健康で幸せに生きるための、とてつもなく大切なソシアルスキルである

と積極的に評価しなおしてほしい。
　どうか、どうか「生きるって」「死とは」、答えをマジに考えてくれ。答えは多分出てこない、しかし答えの出ないことを考え続けることは、答えそのものよりも気高い。それは絶対に「よく生きること」につながる。

　キミたちに「理想の死に方」に言及してもらった。なぜ??　だって天国に旅立つ瞬間まで自分が満足のいく「イイ生き方」をすれば、その延長上にカッコイイ「理想の死に方」があるでしょ。「よく生きる」ということと「よく死ぬ」ということは二律背反することではなく、同一のことなんだ、って徐々にでもいいから気が付いてほしい。

言語区分:	0	日本語　　Japanese
教科書:	教科書「シナモンロールにハチミツをかけて―太平洋で最も偉大なダイバーとボクたち、そして幸せな死別の物語―」 銀の鈴社　刊　ISBN:978-4-87786-274-9 C0095 を必ず入手しておくこと。終講までに読了しておくこと。	
参考文献:	適宜授業中に頒布する。	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	0	筆記試験はこれを実施しない。
レポート:	50	上記サブテキストの感想文、および「キミの理想の死に方」に関するメッセージをこれに充てる。
平常点評価:	50	以下を以て平常点とする。 ①テーマへの積極性 ②出席時に記入する「きょうのひことこ」のインパクトファクター。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010006|08|9S12010006[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ソーシャルコミュニテラシーの基礎と実践 08		
担 当 教 員	岡田 昭夫		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ねえキミ、ホントにそれでいいの？（恐るべし…情報化社会） —そこで豊かに、キミらしく—

授業概要: ちょっとそこのキミ、このシラバスを読み始めたってことは、「もしかしたら履修してもいいかも・・」って考えているんだよね。だったら聞くけどさ、キミ、友達に電話するとき、その友達のケータイにかける？ 家電（いえでん）にかける？ そーだよね、ケータイにかけるでしょ。なぜ？？ 家電にかけて他の家族が出たら面倒だもんね。このフィーリングに共感できるキミ、ゼッタイこの授業をとったほうがいいよ。なぜって、考えてみろよ。キミが就職してどこかの会社に入ったとしよう。そして大事な取引先の会社に電話をして、キミの顧客であるAさんを呼び出してもらう。キミ、ちゃんと礼を失することなく敬語を使って、Aさんを呼び出してもらえるかい？無理っしょ！ ！

ところで明治十四年の政変で「我らが大隈重信先生」が下野するとき、福沢諭吉はその政情を観て「ポリティカルの時間は常に均一に流れるものではない」のだと感想を漏らしたという。

政治の時間は時として怒涛の如く流れることがあるのだと言いたかったのだろう。奇しくも我々は、それを政治ではなくメディアでそれを経験することのなってしまった。昨今のSNSの普及を考えてみろよ。わずか数年で怒涛の如く普及したスマートフォン、そこにマーケットを見出し群がるコマーシャリズム。それに乗った時代の寵児であるSNS。だけど冷静に考えてみてよ。「楽しい」、「便利」には代償が伴うことを、キミは忘れていないか？
一方で、キミがそれらにどっぷりと浸っている間に、キミは多くのものを失ってしまった。例えば人と対面で話す会話力や表情、語彙力、敬語力、社会性、責任感、現実感…枚挙に遑がない。

他方で、現今の就職状況は、人手不足を背景に売り手市場だと言われている。じゃあ聞くけどさ、キミの周囲にいる先輩は就活に苦労していないかい。ワセダという大学のおかれている状況を考えてみろよ。幸いにも最も評価の高い大学群に位置付けられている。そうであれば、それらの大学群の学生たちが目指す就職先には、この機会を生かすべくそれ以外の大学群からの出願者が殺到してくる。必然的に激戦の就活を避けられないわけさ！
そのような激戦の中で、SNSに象徴されるメディアにどっぷり浸かり、多くの資質を育てることなくむしろ失ってしまったキミが善戦できるのかい？ これまた無理っしょ。結構長くなったけど、ここまでシラバスを読んでくれたキミは、少しは実感できたんじゃないかい？ 今のキミが置かれている状況のヤバさを。それに気が付いたキミは、失ったものを取り戻し、育てなかったものをこれから育てることができるさ。多くの人間たちが失ったことに気づいてさえいない「それ」をね。そのための端緒を与えるのがこの授業だと思ってほしい。

その意味では「メディアや情報スキルから理想的な距離をおくことを学ぶ」と言っても過言ではないかもしれない。友達の家電（いえでん）に電話するのが億劫なキミ、留守電にメッセージを残せないキミ、対面で人と話をするのが苦手なキミ、敬語経つかえないキミ、理解してもらえたかな。キミとはこの授業で是非会いたいよ！

このような状況下で更に深刻な影を投げかけたのがCovid-19だ。経済界が激変してしまったのだ。それが始まる前「花形業種」を考えられた業種が、「あっ」と言う間にヤバイ業種になった。2020年3月、そのような業界に希望を持って学窓を巣立っていった連中をオレたちは「おめでとう！」と言って送り出した。その彼らのアタマに「転職」という文字が去来するまでは、文字通り「あっ」と言う間だった。その時のオレたちの気持ちがわかるかい?? もうこんな気持ちはこりごりだ。だからしっかりポストコロナの社会の変化をしっかり分析していこう。その手伝いもこの授業がやっていく。

この授業では、メディアや情報スキルを駆使する者の人間力の涵養に主眼を置きたい。まずメディア蔓延社会でキミが失ったもの、育てられなかったものを特定しよう。そしてSNSに代表されるメディア社会の特質を理解し、それの罠にはまらない生き方を模索する。そして、情報分析や情報判断の基礎力を涵養し、今後の社会の変容を予測しよう。なぜなら、そこでキミたちは社会人として活躍していかなければならない。くれぐれも言っておくが、これからキミたちに到来する社会は、予測と準備の努力を怠った人間は到底生き抜けないハードなものだ。そこを自由自在に泳ぎ切るためのキャリア・ビルディングのヒントをこの授業でつかんで欲しい。

キミ、よかったね、最後までこのシラバスを読んで。あとは授業で会うだけさっ！ そこで最後にお願いがある。この授業に履修エントリーして選外で涙を呑んでいる学生が非常に多くいるんだよね。中には4年間ずっとエントリー続けたけど、ずっとダメだった… 「だからどうかもぐらせてください！」と言ってきた学生さえいるんだよね。だから履修できるようになったキミ、どうか選外になったヤツのためにも授業には必ず出席してほしい。頼んだよ！

授業の到達目標: いよいよ始まるぞーっ。
今シーズンも「メディア」「インターネット」「情報化社会」という3つと、キミの関わりについて取り上げて行こうと思う。
この授業でボクはキミにアカデミズムを体験してもらおうとは思わない。強いて言えば「自分の心の水面にたった波を鎮める」ための「哲学」をしてほしい。どうか毎回のトピックをキミ自身のことと感じて、考えて欲しい。恐らく結論にはたどり着かないであろう。しかし答えを得るより、答えを得ようと考え続けることの方が、大切でかつ楽しいことだと、きっと気づいてくれるだろう。さあ、今日から、キミの心の「内なる宇宙」に一緒に船出しようぜい!!

この授業で大切なことは、「めっちゃ楽しむこと」と「しっかり考えること」だ。しっかり考えたあとはキミの人生をめっちゃ楽しめ。スイッチを切り替えてこのふたつをしっかりやること。キミにできるか、だいじょーぶかよ??
ソクラテスが模索した「よく生きること」「自分の生を限りなく良いものにしていくこと」、これを楽しく、マジに考えていこうぜ!!

では少し授業っぽく、目標を書くぞ。
①SNSに代表されるメディア社会で、それに依存することなく、理想的な距離を置ける使い手になること。
②上記社会の中で、失ってしまった社会性、危機に瀕している健康状態等について理解し、改善ないし維持向上の端緒をつかむこと。
③就活をはじめ将来に向けたキャリアプラン・ライフプランを的確に策定できる知識と能力を身につけること。
④今年、一貫して底流にあるテーマは「正常性バイアス」と「同調性バイアス」の払拭だっ!!!! 今は なんのことかさっぱりわかんないだろうけど、授業が進む位連れてわかってくるから、しっかりこの二者から自分を解放してほしい。
キーワード：人口動態、地球イベント、自然、逆転の発想、品格、etc
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。「怒られ上手は教わり上手」なんだ。みんな現今の少子化社会で、「大切に」されて成長してきた。そしてその分、生きる力が弱くなってしまった。だから職業共同体の中に入ると、「2の2法則」「3の3の法則」となってしまう…これは厚労省の統計だが、新卒者の離職率だ。2年で2割が退職し、3年でなんと三分の一が退職する…だから、どうか、どうかこの授業を、キミが強く生きる力を養う端緒にしてほしい。

事前・事後学習の内容：
事前・事後学習の内容事前学習は、特にこれを必要としない。
毎回の出席を心掛けてほしい。
事後学習に代えて、授業中に学んだことをキミのアタマで咀嚼して、キミの考え方や価値観を確立すること。それを基に毎回の「きょうのひとこと」を記入し送信すること。これが出席の代わりになるぞー。

授業計画フリー入力サイン：
1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

【第1回授業】ねえキミ、ホントにそれでいいの？―恐るべし情報化社会―（ガイダンスに代えて）

いよいよ始まるぞーっ!!
COVID-19でオンラインか対面か… 今年度後期は何とか対面授業ができそうだが、それもどうなることか…。キミたちにマジにいろんなことを自分のこととして考えて欲しい。だって考えてみろよ。COVID-19のダメージからようやくリカバーが始まると思った矢先、ウクライナ侵攻だもんな…。キミたちの卒業後のキャリアはどうなっちゃうんだろう、考えたことあるかよ？ましてアメリカでは共和党政権が返り咲きだもんな。これで世界のナショナリズムがさらに進みアメリカ、中国、ロシアの三竦み、にらみ合いで、世界を安定せしめる力が弱くなる…だからボクはキミと率直に語り合いたい。そのためにキミとの心の距離が少しでも近いところに居たい!! だからマジ、こんなノリで本音で率直にキミと語り合いたい。ついてきてくれよなっ!!

それと、ボクの授業履修経験が初めての人、下記（教科書欄）に紹介したエッセイ「シナモンロール…」を、出費することになって申しわけないけどさ、必ず入手して大事に持っていてくれよな。将来、キミが生きることに疲れた時（誰でも必ずそういう時ってくるものさ）、取り出してもう一度読んで欲しい。きっとどんな薬よりも効くからさっ。

あっ、それと忘れないでくれ。毎回授業の最後には「きょうのひとこと」をマジに書いてくれよな。出席の代わりだからな。これでキミの授業への思い入れ度を見なきゃなんないんだからさ。授業当日の授業開始時間から、翌週の授業前日の23:55まで入力できるぞ。必ず書いてくれい！

【第2回授業】キミは「ハダカの王様」だよ。失われた社会性を求めて1
きょうも楽しく付き合ってくれよな!!
ちょっと長くなったが、必ずこの下を全部読んでくれよな。
≪遊びに来いよ!!≫
なんかさー、オレめっちゃうれしいんだけど。前回の授業で「先生の家を公開されるとは思ってなかったです笑 近くに行く度に思い出しそうです」とか「東京都文京区小石川2に押し掛けたいと思います。」とか言ってくれたヤツがけっこういてさ。

オンラインじゃないときは、いつも授業の打ち上げパーティーなんかを我が家でやってるんだよね。希望者集合でね。多い時は30人くらい学生が集まるんだよね。これが大丈夫なんだよね。建物たてるときそれを考えて我が家のリビングとキッチンは40畳超え（おれんち、すごくねー）。この授業では、なによりキミの人間力を高めることが大切だ。まだ会ったことのないセンセイを訪ねて一人でやって来られるキミ、ボクはキミのことが大好きになりそうだ。だけどここ数年ひとつ憂慮していることがある。10年前は、この授業のクラスをまとめる求心力のあるヤツが必ず何人もいて、クラス全体でパーティーやりに集まってきた。しかしそのうち、集まる規模が「クラスでやる」「グループワーク（やる授業では、だが…）のメンバーの有志」で来訪することが多くなった。最近では「仲のいい仲間と数人」でというのが圧倒的だ。SNSで個人でしか動かなくなっているのか、ヒトの求心力が減退してきているんだろうか…
キミの人間力修行と何より「遊び」で我が家に遊びに来いよ。我が家はワセダから歩いて20分で来られるぞ。

≪絶対に忘れるなっ!! これから言うことを。≫
「怒られ上手は教わり上手」
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。だからくれぐれも言っておくぞ。「打たれ強くなれっ!!」。

≪今回のメインテーマ 今どきの大学生のキャリアプランニング について≫
「キャリアはケツから決めていけ」

キミたちは学窓を巣立つ時、どのような将来を決めるべきか。その判断根拠はいかなるものか。あまりにも不確定要素が多く、消極要素が多い、というか多すぎる。就職を決めるとき、ほとんどの学生は「今、どのような業態に興味があるか」とか「今、どのような業種が有望と思うか」という視点で決めてしまう。よくよく言っておくがそれではまず間違いなく近い将来に破綻する。なぜなら、不確定要素が多く、消極要素が多いだけでなく、それらが突然現れてくるからだ。Covid-19を思い出せ。わずか半年で人類の運命を一変させた。そういう意味では奴らは、今後我々が将来を考える際の「雄弁無比な反面教師」なのだ。大切なことは、キミの子どもの教育費が最も大変な負担となるとき、キミは社会でいきいきと活躍していられるかということだ。それには「今、なに興味があるか」ではなく、キミが定年を迎えるであろう70歳のころ、社会は、産業構造はどう変わっているかということを透徹した先見性で見据えていることだ。だからもう一度、よくよく言っておく、今を基準に発想して進路を決めるのではなく、「定年を迎えた時幸せであるために」という発想で「ケツ」から考えを起こせ。それには日本人が戦後ず一っと培ってきた因習的な価値観は勇気をもって捨てなければならないかもしれない。象徴的な話だが、おそらく30年後、最も有望な業種は農業や水産業であるかもしれない。 Covid-19禍で、今なお「早く以前に戻そう」と考える人が多いが、ソイツらも内心では気づいているんじゃないだろうか。「もう、以前には戻れない…」新しい価値観を受け入れていくしかないのかもしれなない。そしてキミ自身が新しい価値観を生み出していかなければならない。だって考えてみろよ。去年の卒業生は史上空前の「売り手市場」の好調な状況で就活した。今年はどうだよ。リーマンショックより深刻な状況に陥ってしまった。それも一瞬でね。この就活状況は少なからずキミたちに及ぶ。だからキミには強い人間力と逞しさが必要だ。脆弱な自信など捨ててしまえ。そして自分が所属する「属性」など頼るな。キミの二本の足で立てっ!! こんな視点で今日のコンテンツを見て考えてくれ。どうか目をそらさないで。キミが現実から逃避しても、現実は厳然と確実にキミに対峙してくるのだから。

【第3回授業】漂泊するワセダ、失われた社会性を求めて2
昨年の秋からこっち、しみじみ感じることがある。それは「キミたちはデスレース」をやっているということだ。みんな誕生というスタートラインに立って、「よーい、ドン」。きみたちのコースには至る所に地雷が隠れている。それを踏んだところでキミの人生レースは終わる。小学校時代に踏んで社会生活が終わる者、中学で終わる者、高校で終わる者… キミたちは運よく今現在早稲田でまだ生き延びている。でも部活、人間関係、授業、インターン、就活… 様々な形の地雷が、キミが踏むことを待っている。踏んだらそこで社会生活が終わる危険がある… この秋、それを踏んで(踏みかけて)痛手を負った学生をいったい何人面談したことか… 今年ほど学生のデスレースを感じたことはない。彼らに共通していえることは
① 完璧欲が強くすぐに結論を出そうとする。
② だから遠回りを潔しとしない。
③ 遠回りすらできないから「エスケープルート」を持っていないことだ。「だめだったら、こっちをやろう」というのが無い。それとは逆で「退路を断って」自分を追い詰めて精神を病んでいく…
そこで今回の授業でそれらを払しょくするきっかけを考えよう。それだからこそ、「シナモンロール…」を読んでもらったようなものだ。来週は「人生の遠回りを楽しんでいる」異色の先輩の実例が出てくるぞ。お楽しみに。

次に、「失われた社会性1」を思い返そう。 それにしても韓国で起こった「セウォル号事件」オレらも呆れたり、笑えないよな。メディアに異様に従順で、自ら考えようとしない。人と同じであることに異様にエネルギーを消費する…日本人もそっくりだよな。そして起こったことはすぐに忘れてしまう。東日本大震災でタワーマンションは危険だとわかっても、もう忘れてしまって次々林立しているし…

そのあとは、「失われた社会性2」だ。お楽しみに、でも生まれ変わるほどの覚悟を！これらの教訓を昇華して、キミの「生きるって…」を形作る努力を始めよう!!

【第4回授業ハーフタイム】「夢を捨てるなっ!!」遠回りのススメ。 IAT調査
きょうは、「前へ2」をやろう。前回の授業で「立ち止まる勇気」「遠回りする余裕」がどんなに大切か思い知ったと思う。もう一度言うが、ホワイトアウトの中で、不安にさいなまれて「早く山小屋へ着こう」と歩き回ると、行き着く先は「死」だ。これを「リングワンデリング」と言うんだ。雪洞を掘ってじっとしているヤツは助かる。それをゼッタイ忘れんなっ!! 結局人生でも同じことが言えるんだよな。思考のリングワンデリングが始まりそうなら立ち止まろう、遠回りしてみよう。

そこできょうは、まず「遠回り教教祖」の関秀隆センセイの話だ。今年3月でまた「埼玉県の学校」を辞職して(これが2回目)、世界一周の放浪の旅に出ている。彼のオーラに触れてみて欲しい。キミの心に何が響くかだ。

それと、IAT調査の結果については、メディアによる医学生理学的悪影響という形で、可能な限り次回以降の授業の中で説明していこうと思う。

【第5回授業】「働くってどういうこと？」
きょうは「働くってどういうこと??」をやろう。少しでも早く、「仕事をするということの原点座標」を身に着けて欲しいからね。 ところでさ、この授業の内容をしっかり身に着けて、激戦となるであろう就職戦線を乗り切ってくれ。前にも言ったと思うけど、例えば大手の「S不動産」、「都内のオフィスビル、200棟超」供給しているという「勢い」がウリだった。そこらじゅうで「S不動産」の看板や館銘板の入ったビルを見る。しかしcovid-19でテレワークや会社移転が始まると、このような業界は一瞬にしてリスク業界になってしまった。ほんの一瞬でここまで変わってしまう。GDPは一瞬にしてリーマンショック以前に落ちこんだ。リーマンショックから世界経済が回復するには3年以上かかった。おそらくこれからは、変な例えではあるが、キミが歩いているとして、自分の次の一歩が地面につく寸前に、足下に隠された地雷を見つけて瞬時に着地点を変える…そんなキャリア展開が必要になってくるということなんだろう。だけど、それって可能なんだろうか。
いずれにしても、キミがめでたく就職したとしても、これから言うことは忘れるな。「キミは消耗品だ。キミの替えなどいくらでもいる。」 expendables なんだよ。
例えば公務員の世界などでは「組織の活性化には異動が必要」ということがよく言われる。特に事務方には専門家は必要ないようだ。その仕事は新たに異動してきたヒトが誰でもできることが重要らしい。そのような職場風土でもキミは「やりがい」をみつけていかなければならない。そして「脱消耗品」を目指していかなければならない。そう

じゃなかったら、40年近い長い仕事人生は懲役40年で刑務作業をやっているのと同じだ。やりがいの無い、誰でもできることを、楽しくないのに我慢して40年間続ける…　これってめっちゃ恐ろしいことじゃん??　明治大学でボクの助手たちは殆どが理系の大学院生だ。彼らを見ていると時としてうらやましくなることがある。もう就職の段階から学部卒とは給与体系がちがう。文系で大学院を修了しても学部卒と同じ給与体系で、同じ仕事…、あげくの果てには「過学歴」とか言われて。
明治の助手たちの多くは専門職として企業でも研究開発部門への就職が多い。これはもちろん早稲田でも同じことが言えるが。そんな部門に就職すれば、脱消耗品の道は就職当初から見えやすい。
　だがこんなことも言える。ボクん家は土地活用の必要からビルを建てた。大手ハウスメーカーの鉄筋コンクリート建設部門がやった。わが家の設計を担当した建築士は、文字通り抜きんでたセンスとデザイン力を持っていた。我が家を竣工させて数年後にはその大手企業の建築士全員を束ねる「設計長」になった。ボクは祝福したが、内心は心配していた。そのことは彼自身も身に染みて感じていたようだ。「オカダさん、最近は自分で図面がひけないんです…」だってさ。つまり社内のすべて建築士を束ねる管理が彼の仕事で、自分が建築デザインすることができなくなるのさ。その大企業では「彼がデザインしてコンペに負けたことはない‼」くらい言われた大事な戦力が、第一線を去ることになったんだよ。このへんの詳細は、きょうのコンテンツをよく見て、理解してくれ。キミ、気が付いたか??　彼はこの段階で「余人を以て替え難い」人材から消耗品に編入されたんだよ。この４月から、彼はさらに出世して大阪本社でもっとエラくなっている。だが本人の気持ちは複雑なんだよ。

　最後になるが、参考までに…
オレ、ある時決めた。「好きなことだけやろう」って。オレにとって教壇に立って医事法学教えるのも、こーゆー科目教えるのも楽しい遊びだ。だから授業の前はいつもワクワクしてる。きょうどんなことがあるんだろうな、今日連中はどんな顔をして授業を受けに来るんだろうな、とかね。研究して論文を書くのも遊び。学会や市民団体で講演するのも遊び。メルセデスに乗るのもハーレーに乗るのも遊び。海に潜るのも遊び。楽しくないことはやらない主義者なのかも…　ずーっと昔、高校の教員をやっていた頃、「教師なんていうものは、10のうち9つらいことがあっても、1つはいいことがあればやっていける」と自分に言い聞かせていた。だけどさ、「自分に言い聞かせる」って「本当はそうは思っていないこと」を、「強引にそう思い込ませようという心の営み」だったんだね。だって今、オレ、10のうち9.9以上は楽しいもん。あの時、高校の教師を辞めていなかったらと考えると、ぞーっとするぜ。
　キミもポストコロナで、以前には戻れない社会のなかで、ドラスティックな価値観の変革を行う勇気を持つ必要があるんじゃないかい?? どうか現実から逃げるなよ。

【第6回授業】「品格を磨く‼」それと「キミはハダカの王様だよ2」→メディアによる医学生理学的悪影響
　さあ、きょうの最初のトピックは、「品格を磨く」だ。
　なぜか我が家の周りには昔から、多分確信犯で学生や、元学生や、元学生で結婚して新居をかまえるために住み着いたヤツが結構な人数いるんだよね。ここのところ、元教え子の社会人の女の子２人が毎晩我が家にゴハン食べに来てて、おれんちのエンゲル係数どーなってんのよ、状態なんだよね。みんな我が家を集会所か何かと間違えてるみたいだ。そんな多くのヤツが言う、オカダ先生を「先生っ‼」って呼ぶときの「セ・ン・セ・イ」という音は敬称じゃなくて呼び名だ、と。さらにそれを掘り下げて言った元医学生の教え子の女医さんがいる。ヤツは「オカダ先生の『先生っ‼』は記号だ」と言いやがった…　それを言われて結構ウケて面白がってるオレって何なんだろう…

　その女医さん、実家がすごい。私大の医学部の学生に「アイツの家は財閥だ」と言われるほどの裕福な家の子だ。思い出せば、国試に合格した時父上のお祝いは「メルセデスベンツSLK」というスポーツカーだった。あまりスポーツカーっていうキャラじゃないんだけどね、本人は。父上の結婚祝いは、我が家のすぐそばのタワーマンションの部屋だった。我が家より高いところから我が家を見おろされているっていうのがちょっとねー。彼女も我が家の近くに住む確信犯の一人だ。
　オレ、彼女に言われてずーっと守っていることがあるんだよね。「先生がキーマカレーを作った時は必ずウチに届けてください」だってさ。今月はキーマ１回と超特製パウンドケーキを１回届けたよ、そう言えば…。オレってエラくないかー??
　だけどこの女医さん、やっぱすごいな、とよく感じる。例えばある日のオレたちの会話。「オーイ、オメー今、家にいる??」「ええ、居ますよ」と女医さん。「だったら、配達に行くからさー」「先生、ちょっとアタマボサボサで恥ずかしいから、（マンションの下まで行けないから）上まで上がってきてくださいね」と女医さん。「オレには恥ずかしくないんかよ…」と思ったりしているオレ。こうやって急におすそ分けに行っても、「先生、ちょっとこれ持って行ってください」って必ず手土産が出てくるんだよね。っということは、いつ誰が来てもいいように、常備してるっていうことだよな。これって親の躾け、あるいは帝王学??　だけど彼女見ているといつも感じる。品格を高めると運命を切り開けるってさ。

　そういうわけで、きょうは、ボクが「恐れて」「尊敬する」我が教え子の女医さん「親愛なるミチコセンセイ」に登場してもらおう。ミチコセンセイは1998年に東京医大に入学してきて、ボクの医事法学の授業の筆記試験で歴代最高得点タイを取った、そのまま翌年ボクの医事法学のゼミを取り、臨床研修先はボクが生まれた病院、臨床研修が終わったらなんと「早稲田大学大学院法務研究科」に入学、今は呼吸器内科の専門医と法律家をやってる。後期には早稲田大学教育学部で集中講義をやってるし、オレその講義に巻き込まれてるし（無理やり付き合いで教壇に立たされている）…気が付くと20年超のクサレ縁…
オレさー、ミチコセンセイを見てるとホント思う…「人間の品格って運命を切り開けるんだよなあ」オレはモロに庶民の子で、文京区小石川2丁目というところは、坂の上が閑静な住宅街で、坂の下が小さな町工場が密集した地域だった。オレ今でも覚えているけど、坂の下の子だったオレは坂の上の子の「親たち」に結構差別された。だけどさー、もちろんオレもそうだけど、キミたちもそろそろ「自分で自分に投資して品格を磨こうぜ‼」　もう「親の育て方が云々」言いわけすんな‼　自分の人生切り開くために、品格を「自分の力」で磨こうぜ‼　だから自分で投資して自分の品格をたかめようぜい‼

【第7回授業　いよいよ最終回‼】いのちの授業「啓子さんのこと」、「ももちゃんのこと」
　きょうの本題、ボクの授業は、前にも言ったかもしれないが「命の授業」という前評判で学生たちに広まっているらしい。先輩たちがそう評したんだけどね。そこで最終回は、渾身のエネルギーを込めて「命の授業」をやります。ここまでの授業で「きょうのひとこと」等でキミの真摯なコトバを見た以上、オレはここで手を抜けない。きょうは、自分のプライベートに関する話だが、キミたちのことは120%信頼している、だから披歴する。まず対面で「啓子さんのこと」を聞いて欲しい。キーワードは「人っていいでしょ」だ。
授業は今日で終わるが、時間のある時、必ずコンテンツ動画「ももちゃんのこと」を見て、「もも地蔵プロジェクト本番」のファイルをダウンロードして読んでくれ。ここでのキーワードは「人生のエスケープルートを持とう！」だ。「エスケープルート」は「逃げ道」と表面的にとらえてよいイメージを持っていない人が多いかもしれない。しかし、きょうは「エスケープルート」を持つことは、人生を健康で幸せに生きるための、とてつもなく大切なソシアルスキルである

と積極的に評価しなおしてほしい。
　どうか、どうか「生きるって」「死とは」、答えをマジに考えてくれ。答えは多分出てこない、しかし答えの出ないことを考え続けることは、答えそのものよりも気高い。それは絶対に「よく生きること」につながる。

　キミたちに「理想の死に方」に言及してもらった。なぜ??　だって天国に旅立つ瞬間まで自分が満足のいく「イイ生き方」をすれば、その延長上にカッコイイ「理想の死に方」があるでしょ。「よく生きる」ということと「よく死ぬ」ということは二律背反することではなく、同一のことなんだ、って徐々にでもいいから気が付いてほしい。

言語区分:	0	日本語　　Japanese
教科書:	教科書「シナモンロールにハチミツをかけて―太平洋で最も偉大なダイバーとボクたち、そして幸せな死別の物語―」 銀の鈴社　刊　ISBN:978-4-87786-274-9 C0095 を必ず入手しておくこと。終講までに読了しておくこと。	
参考文献:	適宜授業中に頒布する。	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	0	筆記試験はこれを実施しない。
レポート:	50	上記サブテキストの感想文、および「キミの理想の死に方」に関するメッセージをこれに充てる。
平常点評価:	50	以下を以て平常点とする。 ①テーマへの積極性 ②出席時に記入する「きょうのひことこ」のインパクトファクター。
備考・関連URL:		

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010006|09|9S12010006[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ソーシャルコミュニテラシーの基礎と実践 09		
担 当 教 員	岡田 昭夫		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ねえキミ、ホントにそれでいいの？（恐るべし…情報化社会） —そこで豊かに、キミらしく—

授業概要: ちょっとそこのキミ、このシラバスを読み始めたってことは、「もしかしたら履修してもいいかも・・」って考えているんだよね。だったら聞くけどさ、キミ、友達に電話するとき、その友達のケータイにかける？ 家電（いえでん）にかける？ そーだよね、ケータイにかけるでしょ。なぜ？？ 家電にかけて他の家族が出たら面倒だもんね。このフィーリングに共感できるキミ、ゼッタイこの授業をとったほうがいいよ。なぜって、考えてみろよ。キミが就職してどこかの会社に入ったとしよう。そして大事な取引先の会社に電話をして、キミの顧客であるAさんを呼び出してもらう。キミ、ちゃんと礼を失することなく敬語を使って、Aさんを呼び出してもらえるかい？無理っしょ！ ！

ところで明治十四年の政変で「我らが大隈重信先生」が下野するとき、福沢諭吉はその政情を観て「ポリティカルの時間は常に均一に流れるものではない」のだと感想を漏らしたという。

政治の時間は時として怒涛の如く流れることがあるのだと言いたかったのだろう。奇しくも我々は、それを政治ではなくメディアでそれを経験することのなってしまった。昨今のSNSの普及を考えてみろよ。わずか数年で怒涛の如く普及したスマートフォン、そこにマーケットを見出し群がるコマーシャリズム。それに乗った時代の寵児であるSNS。だけど冷静に考えてみてよ。「楽しい」、「便利」には代償が伴うことを、キミは忘れていないか？
一方で、キミがそれらにどっぷりと浸っている間に、キミは多くのものを失ってしまった。例えば人と対面で話す会話力や表情、語彙力、敬語力、社会性、責任感、現実感…枚挙に遑がない。

他方で、現今の就職状況は、人手不足を背景に売り手市場だと言われている。じゃあ聞くけどさ、キミの周囲にいる先輩は就活に苦労していないかい。ワセダという大学のおかれている状況を考えてみろよ。幸いにも最も評価の高い大学群に位置付けられている。そうであれば、それらの大学群の学生たちが目指す就職先には、この機会を生かすべくそれ以外の大学群からの出願者が殺到してくる。必然的に激戦の就活を避けられないわけさ！
そのような激戦の中で、SNSに象徴されるメディアにどっぷり浸かり、多くの資質を育てることなくむしろ失ってしまったキミが善戦できるのかい？ これまた無理っしょ。結構長くなったけど、ここまでシラバスを読んでくれたキミは、少しは実感できたんじゃないかい？ 今のキミが置かれている状況のヤバさを。それに気が付いたキミは、失ったものを取り戻し、育てなかったものをこれから育てることができるさ。多くの人間たちが失ったことに気づいてさえいない「それ」をね。そのための端緒を与えるのがこの授業だと思ってほしい。

その意味では「メディアや情報スキルから理想的な距離をおくことを学ぶ」と言っても過言ではないかもしれない。友達の家電（いえでん）に電話するのが億劫なキミ、留守電にメッセージを残せないキミ、対面で人と話をするのが苦手なキミ、敬語経つかえないキミ、理解してもらえたかな。キミとはこの授業で是非会いたいよ！

このような状況下で更に深刻な影を投げかけたのがCovid-19だ。経済界が激変してしまったのだ。それが始まる前「花形業種」を考えられた業種が、「あっ」と言う間にヤバイ業種になった。2020年3月、そのような業界に希望を持って学窓を巣立っていった連中をオレたちは「おめでとう！」と言って送り出した。その彼らのアタマに「転職」という文字が去来するまでは、文字通り「あっ」と言う間だった。その時のオレたちの気持ちがわかるかい?? もうこんな気持ちはこりごりだ。だからしっかりポストコロナの社会の変化をしっかり分析していこう。その手伝いもこの授業がやっていく。

この授業では、メディアや情報スキルを駆使する者の人間力の涵養に主眼を置きたい。まずメディア蔓延社会でキミが失ったもの、育てられなかったものを特定しよう。そしてSNSに代表されるメディア社会の特質を理解し、それの罠にはまらない生き方を模索する。そして、情報分析や情報判断の基礎力を涵養し、今後の社会の変容を予測しよう。なぜなら、そこでキミたちは社会人として活躍していかなければならない。くれぐれも言っておくが、これからキミたちに到来する社会は、予測と準備の努力を怠った人間は到底生き抜けないハードなものだ。そこを自由自在に泳ぎ切るためのキャリア・ビルディングのヒントをこの授業でつかんで欲しい。

キミ、よかったね、最後までこのシラバスを読んで。あとは授業で会うだけさっ！ そこで最後にお願いがある。この授業に履修エントリーして選外で涙を呑んでいる学生が非常に多くいるんだよね。中には4年間ずっとエントリー続けたけど、ずっとダメだった… 「だからどうかもぐらせてください！」と言ってきた学生さえいるんだよね。だから履修できるようになったキミ、どうか選外になったヤツのためにも授業には必ず出席してほしい。頼んだよ！

授業の到達目標: いよいよ始まるぞーっ。
今シーズンも「メディア」「インターネット」「情報化社会」という3つと、キミの関わりについて取り上げて行こうと思う。
この授業でボクはキミにアカデミズムを体験してもらおうとは思わない。強いて言えば「自分の心の水面にたった波を鎮める」ための「哲学」をしてほしい。どうか毎回のトピックをキミ自身のことと感じて、考えて欲しい。恐らく結論にはたどり着かないであろう。しかし答えを得るより、答えを得ようと考え続けることの方が、大切でかつ楽しいことだと、きっと気づいてくれるだろう。さあ、今日から、キミの心の「内なる宇宙」に一緒に船出しようぜい!!

この授業で大切なことは、「めっちゃ楽しむこと」と「しっかり考えること」だ。しっかり考えたあとはキミの人生をめっちゃ楽しめ。スイッチを切り替えてこのふたつをしっかりやること。キミにできるか、だいじょーぶかよ??
ソクラテスが模索した「よく生きること」「自分の生を限りなく良いものにしていくこと」、これを楽しく、マジに考えていこうぜ!!

では少し授業っぽく、目標を書くぞ。
①SNSに代表されるメディア社会で、それに依存することなく、理想的な距離を置ける使い手になること。
②上記社会の中で、失ってしまった社会性、危機に瀕している健康状態等について理解し、改善ないし維持向上の端緒をつかむこと。
③就活をはじめ将来に向けたキャリアプラン・ライフプランを的確に策定できる知識と能力を身につけること。
④今年、一貫して底流にあるテーマは「正常性バイアス」と「同調性バイアス」の払拭だっ!!!! 今は なんのことかさっぱりわかんないだろうけど、授業が進む位連れてわかってくるから、しっかりこの二者から自分を解放してほしい。
キーワード：人口動態、地球イベント、自然、逆転の発想、品格、etc
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。「怒られ上手は教わり上手」なんだ。みんな現今の少子化社会で、「大切に」されて成長してきた。そしてその分、生きる力が弱くなってしまった。だから職業共同体の中に入ると、「2の2法則」「3の3の法則」となってしまう…これは厚労省の統計だが、新卒者の離職率だ。2年で2割が退職し、3年でなんと三分の一が退職する…だから、どうか、どうかこの授業を、キミが強く生きる力を養う端緒にしてほしい。

事前・事後学習の内容：
事前・事後学習の内容事前学習は、特にこれを必要としない。
毎回の出席を心掛けてほしい。
事後学習に代えて、授業中に学んだことをキミのアタマで咀嚼して、キミの考え方や価値観を確立すること。それを基に毎回の「きょうのひとこと」を記入し送信すること。これが出席の代わりになるぞー。

授業計画フリー入力サイン：
1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

【第1回授業】ねえキミ、ホントにそれでいいの？―恐るべし情報化社会―（ガイダンスに代えて）

いよいよ始まるぞーっ!!
COVID-19でオンラインか対面か… 今年度後期は何とか対面授業ができそうだが、それもどうなることか…。キミたちにマジにいろんなことを自分のこととして考えて欲しい。だって考えてみろよ。COVID-19のダメージからようやくリカバーが始まると思った矢先、ウクライナ侵攻だもんな…。キミたちの卒業後のキャリアはどうなっちゃうんだろう、考えたことあるかよ？ましてアメリカでは共和党政権が返り咲きだもんな。これで世界のナショナリズムがさらに進みアメリカ、中国、ロシアの三竦み、にらみ合いで、世界を安定せしめる力が弱くなる…だからボクはキミと率直に語り合いたい。そのためにキミとの心の距離が少しでも近いところに居たい!! だからマジ、こんなノリで本音で率直にキミと語り合いたい。ついてきてくれよなっ!!

それと、ボクの授業履修経験が初めての人、下記（教科書欄）に紹介したエッセイ「シナモンロール…」を、出費することになって申しわけないけどさ、必ず入手して大事に持っていてくれよな。将来、キミが生きることに疲れた時（誰でも必ずそういう時ってくるものさ）、取り出してもう一度読んで欲しい。きっとどんな薬よりも効くからさっ。

あっ、それと忘れないでくれ。毎回授業の最後には「きょうのひとこと」をマジに書いてくれよな。出席の代わりだからな。これでキミの授業への思い入れ度を見なきゃなんないんだからさ。授業当日の授業開始時間から、翌週の授業前日の23:55まで入力できるぞ。必ず書いてくれい！

【第2回授業】キミは「ハダカの王様」だよ。失われた社会性を求めて1
きょうも楽しく付き合ってくれよな!!
ちょっと長くなったが、必ずこの下を全部読んでくれよな。
≪遊びに来いよ!!≫
なんかさー、オレめっちゃうれしいんだけど。前回の授業で「先生の家を公開されるとは思ってなかったです笑 近くに行く度に思い出しそうです」とか「東京都文京区小石川2に押し掛けたいと思います。」とか言ってくれたヤツがけっこういてさ。

オンラインじゃないときは、いつも授業の打ち上げパーティーなんかを我が家でやってるんだよね。希望者集合でね。多い時は30人くらい学生が集まるんだよね。これが大丈夫なんだよね。建物たてるときそれを考えて我が家のリビングとキッチンは40畳超え（おれんち、すごくねー）。この授業では、なによりキミの人間力を高めることが大切だ。まだ会ったことのないセンセイを訪ねて一人でやって来られるキミ、ボクはキミのことが大好きになりそうだ。だけどここ数年ひとつ憂慮していることがある。10年前は、この授業のクラスをまとめる求心力のあるヤツが必ず何人もいて、クラス全体でパーティーやりに集まってきた。しかしそのうち、集まる規模が「クラスでやる」「グループワーク（やる授業では、だが…）のメンバーの有志」で来訪することが多くなった。最近では「仲のいい仲間と数人」でというのが圧倒的だ。SNSで個人でしか動かなくなっているのか、ヒトの求心力が減退してきているんだろうか…
キミの人間力修行と何より「遊び」で我が家に遊びに来いよ。我が家はワセダから歩いて20分で来られるぞ。

≪絶対に忘れるなっ!! これから言うことを。≫
「怒られ上手は教わり上手」
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。だからくれぐれも言っておくぞ。「打たれ強くなれっ!!」。

≪今回のメインテーマ 今どきの大学生のキャリアプランニング について≫
「キャリアはケツから決めていけ」

キミたちは学窓を巣立つ時、どのような将来を決めるべきか。その判断根拠はいかなるものか。あまりにも不確定要素が多く、消極要素が多い、というか多すぎる。就職を決めるとき、ほとんどの学生は「今、どのような業態に興味があるか」とか「今、どのような業種が有望と思うか」という視点で決めてしまう。よくよく言っておくがそれではまず間違いなく近い将来に破綻する。なぜなら、不確定要素が多く、消極要素が多いだけでなく、それらが突然現れてくるからだ。Covid-19を思い出せ。わずか半年で人類の運命を一変させた。そういう意味では奴らは、今後我々が将来を考える際の「雄弁無比な反面教師」なのだ。大切なことは、キミの子どもの教育費が最も大変な負担となるとき、キミは社会でいきいきと活躍していられるかということだ。それには「今、なに興味があるか」ではなく、キミが定年を迎えるであろう70歳のころ、社会は、産業構造はどう変わっているかということを透徹した先見性で見据えていることだ。だからもう一度、よくよく言っておく、今を基準に発想して進路を決めるのではなく、「定年を迎えた時幸せであるために」という発想で「ケツ」から考えを起こせ。それには日本人が戦後ず一っと培ってきた因習的な価値観は勇気をもって捨てなければならないかもしれない。象徴的な話だが、おそらく30年後、最も有望な業種は農業や水産業であるかもしれない。 Covid-19禍で、今なお「早く以前に戻そう」と考える人が多いが、ソイツらも内心では気づいているんじゃないだろうか。「もう、以前には戻れない…」新しい価値観を受け入れていくしかないのかもしれなない。そしてキミ自身が新しい価値観を生み出していかなければならない。だって考えてみろよ。去年の卒業生は史上空前の「売り手市場」の好調な状況で就活した。今年はどうだよ。リーマンショックより深刻な状況に陥ってしまった。それも一瞬でね。この就活状況は少なからずキミたちに及ぶ。だからキミには強い人間力と逞しさが必要だ。脆弱な自信など捨ててしまえ。そして自分が所属する「属性」など頼るな。キミの二本の足で立てっ!! こんな視点で今日のコンテンツを見て考えてくれ。どうか目をそらさないで。キミが現実から逃避しても、現実は厳然と確実にキミに対峙してくるのだから。

【第3回授業】漂泊するワセダ、失われた社会性を求めて2
昨年の秋からこっち、しみじみ感じることがある。それは「キミたちはデスレース」をやっているということだ。みんな誕生というスタートラインに立って、「よーい、ドン」。きみたちのコースには至る所に地雷が隠れている。それを踏んだところでキミの人生レースは終わる。小学校時代に踏んで社会生活が終わる者、中学で終わる者、高校で終わる者… キミたちは運よく今現在早稲田でまだ生き延びている。でも部活、人間関係、授業、インターン、就活… 様々な形の地雷が、キミが踏むことを待っている。踏んだらそこで社会生活が終わる危険がある… この秋、それを踏んで(踏みかけて)痛手を負った学生をいったい何人面談したことか… 今年ほど学生のデスレースを感じたことはない。彼らに共通していえることは
① 完璧欲が強くすぐに結論を出そうとする。
② だから遠回りを潔しとしない。
③ 遠回りすらできないから「エスケープルート」を持っていないことだ。「だめだったら、こっちをやろう」というのが無い。それとは逆で「退路を断って」自分を追い詰めて精神を病んでいく…
そこで今回の授業でそれらを払しょくするきっかけを考えよう。それだからこそ、「シナモンロール…」を読んでもらったようなものだ。来週は「人生の遠回りを楽しんでいる」異色の先輩の実例が出てくるぞ。お楽しみに。

次に、「失われた社会性1」を思い返そう。 それにしても韓国で起こった「セウォル号事件」オレらも呆れたり、笑えないよな。メディアに異様に従順で、自ら考えようとしない。人と同じであることに異様にエネルギーを消費する…日本人もそっくりだよな。そして起こったことはすぐに忘れてしまう。東日本大震災でタワーマンションは危険だとわかっても、もう忘れてしまって次々林立しているし…

そのあとは、「失われた社会性2」だ。お楽しみに、でも生まれ変わるほどの覚悟を！これらの教訓を昇華して、キミの「生きるって…」を形作る努力を始めよう!!

【第4回授業ハーフタイム】「夢を捨てるなっ!!」遠回りのススメ。 IAT調査
きょうは、「前へ2」をやろう。前回の授業で「立ち止まる勇気」「遠回りする余裕」がどんなに大切か思い知ったと思う。もう一度言うが、ホワイトアウトの中で、不安にさいなまれて「早く山小屋へ着こう」と歩き回ると、行き着く先は「死」だ。これを「リングワンデリング」と言うんだ。雪洞を掘ってじっとしているヤツは助かる。それをゼッタイ忘れんなっ!! 結局人生でも同じことが言えるんだよな。思考のリングワンデリングが始まりそうなら立ち止まろう、遠回りしてみよう。

そこできょうは、まず「遠回り教教祖」の関秀隆センセイの話だ。今年3月でまた「埼玉県の学校」を辞職して(これが2回目)、世界一周の放浪の旅に出ている。彼のオーラに触れてみて欲しい。キミの心に何が響くかだ。

それと、IAT調査の結果については、メディアによる医学生理学的悪影響という形で、可能な限り次回以降の授業の中で説明していこうと思う。

【第5回授業】「働くってどういうこと？」
きょうは「働くってどういうこと??」をやろう。少しでも早く、「仕事をするということの原点座標」を身に着けて欲しいからね。 ところでさ、この授業の内容をしっかり身に着けて、激戦となるであろう就職戦線を乗り切ってくれ。前にも言ったと思うけど、例えば大手の「S不動産」、「都内のオフィスビル、200棟超」供給しているという「勢い」がウリだった。そこらじゅうで「S不動産」の看板や館銘板の入ったビルを見る。しかしcovid-19でテレワークや会社移転が始まると、このような業界は一瞬にしてリスク業界になってしまった。ほんの一瞬でここまで変わってしまう。GDPは一瞬にしてリーマンショック以前に落ちこんだ。リーマンショックから世界経済が回復するには3年以上かかった。おそらくこれからは、変な例えではあるが、キミが歩いているとして、自分の次の一歩が地面につく寸前に、足下に隠された地雷を見つけて瞬時に着地点を変える…そんなキャリア展開が必要になってくるということなんだろう。だけど、それって可能なんだろうか。
いずれにしても、キミがめでたく就職したとしても、これから言うことは忘れるな。「キミは消耗品だ。キミの替えなどいくらでもいる。」 expendables なんだよ。
例えば公務員の世界などでは「組織の活性化には異動が必要」ということがよく言われる。特に事務方には専門家は必要ないようだ。その仕事は新たに異動してきたヒトが誰でもできることが重要らしい。そのような職場風土でもキミは「やりがい」をみつけていかなければならない。そして「脱消耗品」を目指していかなければならない。そう

じゃなかったら、40年近い長い仕事人生は懲役40年で刑務作業をやっているのと同じだ。やりがいの無い、誰でもできることを、楽しくないのに我慢して40年間続ける…　これってめっちゃ恐ろしいことじゃん??　明治大学でボクの助手たちは殆どが理系の大学院生だ。彼らを見ていると時としてうらやましくなることがある。もう就職の段階から学部卒とは給与体系がちがう。文系で大学院を修了しても学部卒と同じ給与体系で、同じ仕事…、あげくの果てには「過学歴」とか言われて。
明治の助手たちの多くは専門職として企業でも研究開発部門への就職が多い。これはもちろん早稲田でも同じことが言えるが。そんな部門に就職すれば、脱消耗品の道は就職当初から見えやすい。
　だがこんなことも言える。ボクん家は土地活用の必要からビルを建てた。大手ハウスメーカーの鉄筋コンクリート建設部門がやった。わが家の設計を担当した建築士は、文字通り抜きんでたセンスとデザイン力を持っていた。我が家を竣工させて数年後にはその大手企業の建築士全員を束ねる「設計長」になった。ボクは祝福したが、内心は心配していた。そのことは彼自身も身に染みて感じていたようだ。「オカダさん、最近は自分で図面がひけないんです…」だってさ。つまり社内のすべて建築士を束ねる管理が彼の仕事で、自分が建築デザインすることができなくなるのさ。その大企業では「彼がデザインしてコンペに負けたことはない‼」くらい言われた大事な戦力が、第一線を去ることになったんだよ。このへんの詳細は、きょうのコンテンツをよく見て、理解してくれ。キミ、気が付いたか??　彼はこの段階で「余人を以て替え難い」人材から消耗品に編入されたんだよ。この４月から、彼はさらに出世して大阪本社でもっとエラくなっている。だが本人の気持ちは複雑なんだよ。

　最後になるが、参考までに…
オレ、ある時決めた。「好きなことだけやろう」って。オレにとって教壇に立って医事法学教えるのも、こーゆー科目教えるのも楽しい遊びだ。だから授業の前はいつもワクワクしてる。きょうどんなことがあるんだろうな、今日連中はどんな顔をして授業を受けに来るんだろうな、とかね。研究して論文を書くのも遊び。学会や市民団体で講演するのも遊び。メルセデスに乗るのもハーレーに乗るのも遊び。海に潜るのも遊び。楽しくないことはやらない主義者なのかも…　ずーっと昔、高校の教員をやっていた頃、「教師なんていうものは、10のうち9つらいことがあっても、1ついいことがあればやっていける」と自分に言い聞かせていた。だけどさ、「自分に言い聞かせる」って「本当はそうは思っていないこと」を、「強引にそう思い込ませようという心の営み」だったんだね。だって今、オレ、10のうち9.9以上は楽しいもん。あの時、高校の教師を辞めていなかったらと考えると、ぞーっとするぜ。
　キミもポストコロナで、以前には戻れない社会のなかで、ドラスティックな価値観の変革を行う勇気を持つ必要があるんじゃないかい?? どうか現実から逃げるなよ。

【第6回授業】「品格を磨く‼」それと「キミはハダカの王様だよ2」→メディアによる医学生理学的悪影響
　さあ、きょうの最初のトピックは、「品格を磨く」だ。
　なぜか我が家の周りには昔から、多分確信犯で学生や、元学生や、元学生で結婚して新居をかまえるために住み着いたヤツが結構な人数いるんだよね。ここのところ、元教え子の社会人の女の子２人が毎晩我が家にゴハン食べに来てて、おれんちのエンゲル係数どーなってんのよ、状態なんだよね。みんな我が家を集会所か何かと間違えてるみたいだ。そんな多くのヤツが言う、オカダ先生を「先生っ‼」って呼ぶときの「セ・ン・セ・イ」という音は敬称じゃなくて呼び名だ、と。さらにそれを掘り下げて言った元医学生の教え子の女医さんがいる。ヤツは「オカダ先生の『先生っ‼』は記号だ」と言いやがった…　それを言われて結構ウケて面白がってるオレって何なんだろう…

　その女医さん、実家がすごい。私大の医学部の学生に「アイツの家は財閥だ」と言われるほどの裕福な家の子だ。思い出せば、国試に合格した時父上のお祝いは「メルセデスベンツSLK」というスポーツカーだった。あまりスポーツカーっていうキャラじゃないんだけどね、本人は。父上の結婚祝いは、我が家のすぐそばのタワーマンションの部屋だった。我が家より高いところから我が家を見おろされているっていうのがちょっとねー。彼女も我が家の近くに住む確信犯の一人だ。
　オレ、彼女に言われてずーっと守っていることがあるんだよね。「先生がキーマカレーを作った時は必ずウチに届けてください」だってさ。今月はキーマ１回と超特製パウンドケーキを１回届けたよ、そう言えば…。オレってエラくないかー??
　だけどこの女医さん、やっぱすごいな、とよく感じる。例えばある日のオレたちの会話。「オーイ、オメー今、家にいる??」「ええ、居ますよ」と女医さん。「だったら、配達に行くからさー」「先生、ちょっとアタマボサボサで恥ずかしいから、（マンションの下まで行けないから）上まで上がってきてくださいね」と女医さん。「オレには恥ずかしくないんかよ…」と思ったりしているオレ。こうやって急におすそ分けに行っても、「先生、ちょっとこれ持って行ってください」って必ず手土産が出てくるんだよね。っということは、いつ誰が来てもいいように、常備してるっていうことだよな。これって親の躾け、あるいは帝王学??　だけど彼女見ているといつも感じる。品格を高めると運命を切り開けるってさ。

　そういうわけで、きょうは、ボクが「恐れて」「尊敬する」我が教え子の女医さん「親愛なるミチコセンセイ」に登場してもらおう。ミチコセンセイは1998年に東京医大に入学してきて、ボクの医事法学の授業の筆記試験で歴代最高得点タイを取った、そのまま翌年ボクの医事法学のゼミを取り、臨床研修先はボクが生まれた病院、臨床研修が終わったらなんと「早稲田大学大学院法務研究科」に入学、今は呼吸器内科の専門医と法律家をやってる。後期には早稲田大学教育学部で集中講義をやってるし、オレその講義に巻き込まれてるし（無理やり付き合いで教壇に立たされている）…気が付くと20年超のクサレ縁…
オレさー、ミチコセンセイを見てるとホント思う…「人間の品格って運命を切り開けるんだよなあ」オレはモロに庶民の子で、文京区小石川2丁目というところは、坂の上が閑静な住宅街で、坂の下が小さな町工場が密集した地域だった。オレ今でも覚えているけど、坂の下の子だったオレは坂の上の子の「親たち」に結構差別された。だけどさー、もちろんオレもそうだけど、キミたちもそろそろ「自分で自分に投資して品格を磨こうぜ‼」　もう「親の育て方が云々」言いわけすんな‼　自分の人生切り開くために、品格を「自分の力」で磨こうぜ‼　だから自分で投資して自分の品格をたかめようぜい‼

【第7回授業　いよいよ最終回‼】いのちの授業「啓子さんのこと」、「ももちゃんのこと」
　きょうの本題、ボクの授業は、前にも言ったかもしれないが「命の授業」という前評判で学生たちに広まっているらしい。先輩たちがそう評したんだけどね。そこで最終回は、渾身のエネルギーを込めて「命の授業」をやります。ここまでの授業で「きょうのひとこと」等でキミの真摯なコトバを見た以上、オレはここで手を抜けない。きょうは、自分のプライベートに関する話だが、キミたちのことは120%信頼している、だから披歴する。まず対面で「啓子さんのこと」を聞いて欲しい。キーワードは「人っていいでしょ」だ。
授業は今日で終わるが、時間のある時、必ずコンテンツ動画「ももちゃんのこと」を見て、「もも地蔵プロジェクト本番」のファイルをダウンロードして読んでくれ。ここでのキーワードは「人生のエスケープルートを持とう！」だ。「エスケープルート」は「逃げ道」と表面的にとらえてよいイメージを持っていない人が多いかもしれない。しかし、きょうは「エスケープルート」を持つことは、人生を健康で幸せに生きるための、とてつもなく大切なソシアルスキルである

と積極的に評価しなおしてほしい。
　どうか、どうか「生きるって」「死とは」、答えをマジに考えてくれ。答えは多分出てこない、しかし答えの出ないことを考え続けることは、答えそのものよりも気高い。それは絶対に「よく生きること」につながる。

　キミたちに「理想の死に方」に言及してもらった。なぜ??　だって天国に旅立つ瞬間まで自分が満足のいく「イイ生き方」をすれば、その延長上にカッコイイ「理想の死に方」があるでしょ。「よく生きる」ということと「よく死ぬ」ということは二律背反することではなく、同一のことなんだ、って徐々にでもいいから気が付いてほしい。

言語区分:	0	日本語　　Japanese
教科書:	教科書「シナモンロールにハチミツをかけて―太平洋で最も偉大なダイバーとボクたち、そして幸せな死別の物語―」 銀の鈴社　刊　ISBN:978-4-87786-274-9 C0095 を必ず入手しておくこと。終講までに読了しておくこと。	
参考文献:	適宜授業中に頒布する。	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	0	筆記試験はこれを実施しない。
レポート:	50	上記サブテキストの感想文、および「キミの理想の死に方」に関するメッセージをこれに充てる。
平常点評価:	50	以下を以て平常点とする。 ①テーマへの積極性 ②出席時に記入する「きょうのひことこ」のインパクトファクター。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010006|10|9S12010006[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ソーシャルコミュニテラシーの基礎と実践 １０		
担 当 教 員	岡田 昭夫		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ねえキミ、ホントにそれでいいの？（恐るべし…情報化社会） —そこで豊かに、キミらしく—

授業概要: ちょっとそこのキミ、このシラバスを読み始めたってことは、「もしかしたら履修してもいいかも・・」って考えているんだよね。だったら聞くけどさ、キミ、友達に電話するとき、その友達のケータイにかける？ 家電（いえでん）にかける？ そーだよね、ケータイにかけるでしょ。なぜ？？ 家電にかけて他の家族が出たら面倒だもんね。このフィーリングに共感できるキミ、ゼッタイこの授業をとったほうがいいよ。なぜって、考えてみろよ。キミが就職してどこかの会社に入ったとしよう。そして大事な取引先の会社に電話をして、キミの顧客であるAさんを呼び出してもらう。キミ、ちゃんと礼を失することなく敬語を使って、Aさんを呼び出してもらえるかい？無理っしょ！ ！

ところで明治十四年の政変で「我らが大隈重信先生」が下野するとき、福沢諭吉はその政情を観て「ポリティカルの時間は常に均一に流れるものではない」のだと感想を漏らしたという。

政治の時間は時として怒涛の如く流れることがあるのだと言いたかったのだろう。奇しくも我々は、それを政治ではなくメディアでそれを経験することのなってしまった。昨今のSNSの普及を考えてみろよ。わずか数年で怒涛の如く普及したスマートフォン、そこにマーケットを見出し群がるコマーシャリズム。それに乗った時代の寵児であるSNS。だけど冷静に考えてみてよ。「楽しい」、「便利」には代償が伴うことを、キミは忘れていないか？
一方で、キミがそれらにどっぷりと浸っている間に、キミは多くのものを失ってしまった。例えば人と対面で話す会話力や表情、語彙力、敬語力、社会性、責任感、現実感…枚挙に遑がない。

他方で、現今の就職状況は、人手不足を背景に売り手市場だと言われている。じゃあ聞くけどさ、キミの周囲にいる先輩は就活に苦労していないかい。ワセダという大学のおかれている状況を考えてみろよ。幸いにも最も評価の高い大学群に位置付けられている。そうであれば、それらの大学群の学生たちが目指す就職先には、この機会を生かすべくそれ以外の大学群からの出願者が殺到してくる。必然的に激戦の就活を避けられないわけさ！
そのような激戦の中で、SNSに象徴されるメディアにどっぷり浸かり、多くの資質を育てることなくむしろ失ってしまったキミが善戦できるのかい？ これまた無理っしょ。結構長くなったけど、ここまでシラバスを読んでくれたキミは、少しは実感できたんじゃないかい？ 今のキミが置かれている状況のヤバさを。それに気が付いたキミは、失ったものを取り戻し、育てなかったものをこれから育てることができるさ。多くの人間たちが失ったことに気づいてさえいない「それ」をね。そのための端緒を与えるのがこの授業だと思ってほしい。

その意味では「メディアや情報スキルから理想的な距離をおくことを学ぶ」と言っても過言ではないかもしれない。友達の家電（いえでん）に電話するのが億劫なキミ、留守電にメッセージを残せないキミ、対面で人と話をするのが苦手なキミ、敬語経つかえないキミ、理解してもらえたかな。キミとはこの授業で是非会いたいよ！

このような状況下で更に深刻な影を投げかけたのがCovid-19だ。経済界が激変してしまったのだ。それが始まる前「花形業種」を考えられた業種が、「あっ」と言う間にヤバイ業種になった。2020年３月、そのような業界に希望を持って学窓を巣立っていった連中をオレたちは「おめでとう！」と言って送り出した。その彼らのアタマに「転職」という文字が去来するまでは、文字通り「あっ」と言う間だった。その時のオレたちの気持ちがわかるかい?? もうこんな気持ちはこりごりだ。だからしっかりポストコロナの社会の変化をしっかり分析していこう。その手伝いもこの授業がやっていく。

この授業では、メディアや情報スキルを駆使する者の人間力の涵養に主眼を置きたい。まずメディア蔓延社会でキミが失ったもの、育てられなかったものを特定しよう。そしてSNSに代表されるメディア社会の特質を理解し、それの罠にはまらない生き方を模索する。そして、情報分析や情報判断の基礎力を涵養し、今後の社会の変容を予測しよう。なぜなら、そこでキミたちは社会人として活躍していかなければならない。くれぐれも言っておくが、これからキミたちに到来する社会は、予測と準備の努力を怠った人間は到底生き抜けないハードなものだ。そこを自由自在に泳ぎ切るためのキャリア・ビルディングのヒントをこの授業でつかんで欲しい。

キミ、よかったね、最後までこのシラバスを読んで。あとは授業で会うだけさっ！ そこで最後にお願いがある。この授業に履修エントリーして選外で涙を呑んでいる学生が非常に多くいるんだよね。中には4年間ずっとエントリー続けたけど、ずっとダメだった… 「だからどうかもぐらせてください！」と言ってきた学生さえいるんだよね。だから履修できるようになったキミ、どうか選外になったヤツのためにも授業には必ず出席してほしい。頼んだよ！

授業の到達目標: いよいよ始まるぞーっ。
今シーズンも「メディア」「インターネット」「情報化社会」という3つと、キミの関わりについて取り上げて行こうと思う。
この授業でボクはキミにアカデミズムを体験してもらおうとは思わない。強いて言えば「自分の心の水面にたった波を鎮める」ための「哲学」をしてほしい。どうか毎回のトピックをキミ自身のことと感じて、考えて欲しい。恐らく結論にはたどり着かないであろう。しかし答えを得るより、答えを得ようと考え続けることの方が、大切でかつ楽しいことだと、きっと気づいてくれるだろう。さあ、今日から、キミの心の「内なる宇宙」に一緒に船出しようぜい!!

この授業で大切なことは、「めっちゃ楽しむこと」と「しっかり考えること」だ。しっかり考えたあとはキミの人生をめっちゃ楽しめ。スイッチを切り替えてこのふたつをしっかりやること。キミにできるか、だいじょーぶかよ??
ソクラテスが模索した「よく生きること」「自分の生を限りなく良いものにしていくこと」、これを楽しく、マジに考えていこうぜ!!

では少し授業っぽく、目標を書くぞ。
①SNSに代表されるメディア社会で、それに依存することなく、理想的な距離を置ける使い手になること。
②上記社会の中で、失ってしまった社会性、危機に瀕している健康状態等について理解し、改善ないし維持向上の端緒をつかむこと。
③就活をはじめ将来に向けたキャリアプラン・ライフプランを的確に策定できる知識と能力を身につけること。
④今年、一貫して底流にあるテーマは「正常性バイアス」と「同調性バイアス」の払拭だっ!!!! 今は なんのことかさっぱりわかんないだろうけど、授業が進む位連れてわかってくるから、しっかりこの二者から自分を解放してほしい。
キーワード：人口動態、地球イベント、自然、逆転の発想、品格、etc
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。「怒られ上手は教わり上手」なんだ。みんな現今の少子化社会で、「大切に」されて成長してきた。そしてその分、生きる力が弱くなってしまった。だから職業共同体の中に入ると、「2の2法則」「3の3の法則」となってしまう…これは厚労省の統計だが、新卒者の離職率だ。2年で2割が退職し、3年でなんと三分の一が退職する…だから、どうか、どうかこの授業を、キミが強く生きる力を養う端緒にしてほしい。

事前・事後学習の内容：
事前・事後学習の内容事前学習は、特にこれを必要としない。
毎回の出席を心掛けてほしい。
事後学習に代えて、授業中に学んだことをキミのアタマで咀嚼して、キミの考え方や価値観を確立すること。それを基に毎回の「きょうのひとこと」を記入し送信すること。これが出席の代わりになるぞー。

授業計画フリー入力サイン：
1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

【第1回授業】ねえキミ、ホントにそれでいいの？―恐るべし情報化社会―（ガイダンスに代えて）

いよいよ始まるぞーっ!!
COVID-19でオンラインか対面か… 今年度後期は何とか対面授業ができそうだが、それもどうなることか…。キミたちにマジにいろんなことを自分のこととして考えて欲しい。だって考えてみろよ。COVID-19のダメージからようやくリカバーが始まると思った矢先、ウクライナ侵攻だもんな…。キミたちの卒業後のキャリアはどうなっちゃうんだろう、考えたことあるかよ？ましてアメリカでは共和党政権が返り咲きだもんな。これで世界のナショナリズムがさらに進みアメリカ、中国、ロシアの三竦み、にらみ合いで、世界を安定せしめる力が弱くなる…だからボクはキミと率直に語り合いたい。そのためにキミとの心の距離が少しでも近いところに居たい!! だからマジ、こんなノリで本音で率直にキミと語り合いたい。ついてきてくれよなっ!!

それと、ボクの授業履修経験が初めての人、下記（教科書欄）に紹介したエッセイ「シナモンロール…」を、出費することになって申しわけないけどさ、必ず入手して大事に持っていてくれよな。将来、キミが生きることに疲れた時（誰でも必ずそういう時ってくるものさ）、取り出してもう一度読んで欲しい。きっとどんな薬よりも効くからさっ。

あっ、それと忘れないでくれ。毎回授業の最後には「きょうのひとこと」をマジに書いてくれよな。出席の代わりだからな。これでキミの授業への思い入れ度を見なきゃなんないんだからさ。授業当日の授業開始時間から、翌週の授業前日の23:55まで入力できるぞ。必ず書いてくれい！

【第2回授業】キミは「ハダカの王様」だよ。失われた社会性を求めて1
きょうも楽しく付き合ってくれよな!!
ちょっと長くなったが、必ずこの下を全部読んでくれよな。
≪遊びに来いよ!!≫
なんかさー、オレめっちゃうれしいんだけど。前回の授業で「先生の家を公開されるとは思ってなかったです笑 近くに行く度に思い出しそうです」とか「東京都文京区小石川2に押し掛けたいと思います。」とか言ってくれたヤツがけっこういてさ。

オンラインじゃないときは、いつも授業の打ち上げパーティーなんかを我が家でやってるんだよね。希望者集合でね。多い時は30人くらい学生が集まるんだよね。これが大丈夫なんだよね。建物たてるときそれを考えて我が家のリビングとキッチンは40畳超え（おれんち、すごくねー）。この授業では、なによりキミの人間力を高めることが大切だ。まだ会ったことのないセンセイを訪ねて一人でやって来られるキミ、ボクはキミのことが大好きになりそうだ。だけどここ数年ひとつ憂慮していることがある。10年前は、この授業のクラスをまとめる求心力のあるヤツが必ず何人もいて、クラス全体でパーティーやりに集まってきた。しかしそのうち、集まる規模が「クラスでやる」「グループワーク（やる授業では、だが…）のメンバーの有志」で来訪することが多くなった。最近では「仲のいい仲間と数人」でというのが圧倒的だ。SNSで個人でしか動かなくなっているのか、ヒトの求心力が減退してきているんだろうか…
キミの人間力修行と何より「遊び」で我が家に遊びに来いよ。我が家はワセダから歩いて20分で来られるぞ。

≪絶対に忘れるなっ!! これから言うことを。≫
「怒られ上手は教わり上手」
社会に出たら仕事は教わるんじゃなく、先輩や上司がやってるのを盗んで覚えろ。「そんなことおそわってませーん」と言い訳する新人が多すぎる。先輩や上司が気軽に怒れるヤツ、ソイツには気軽に教えることもできるんだよ。だから怒られ上手は可愛がられて仕事も教わる機会が増える。だからくれぐれも言っておくぞ。「打たれ強くなれっ!!」。

≪今回のメインテーマ 今どきの大学生のキャリアプランニング について≫
「キャリアはケツから決めていけ」

キミたちは学窓を巣立つ時、どのような将来を決めるべきか。その判断根拠はいかなるものか。あまりにも不確定要素が多く、消極要素が多い、というか多すぎる。就職を決めるとき、ほとんどの学生は「今、どのような業態に興味があるか」とか「今、どのような業種が有望と思うか」という視点で決めてしまう。よくよく言っておくがそれではまず間違いなく近い将来に破綻する。なぜなら、不確定要素が多く、消極要素が多いだけでなく、それらが突然現れてくるからだ。Covid-19を思い出せ。わずか半年で人類の運命を一変させた。そういう意味では奴らは、今後我々が将来を考える際の「雄弁無比な反面教師」なのだ。大切なことは、キミの子どもの教育費が最も大変な負担となるとき、キミは社会でいきいきと活躍していられるかということだ。それには「今、なに興味があるか」ではなく、キミが定年を迎えるであろう70歳のころ、社会は、産業構造はどう変わっているかということを透徹した先見性で見据えていることだ。だからもう一度、よくよく言っておく、今を基準に発想して進路を決めるのではなく、「定年を迎えた時幸せであるために」という発想で「ケツ」から考えを起こせ。それには日本人が戦後ず一っと培ってきた因習的な価値観は勇気をもって捨てなければならないかもしれない。象徴的な話だが、おそらく30年後、最も有望な業種は農業や水産業であるかもしれない。 Covid-19禍で、今なお「早く以前に戻そう」と考える人が多いが、ソイツらも内心では気づいているんじゃないだろうか。「もう、以前には戻れない…」新しい価値観を受け入れていくしかないのかもしれなない。そしてキミ自身が新しい価値観を生み出していかなければならない。だって考えてみろよ。去年の卒業生は史上空前の「売り手市場」の好調な状況で就活した。今年はどうだよ。リーマンショックより深刻な状況に陥ってしまった。それも一瞬でね。この就活状況は少なからずキミたちに及ぶ。だからキミには強い人間力と逞しさが必要だ。脆弱な自信など捨ててしまえ。そして自分が所属する「属性」など頼るな。キミの二本の足で立てっ!! こんな視点で今日のコンテンツを見て考えてくれ。どうか目をそらさないで。キミが現実から逃避しても、現実は厳然と確実にキミに対峙してくるのだから。

【第3回授業】漂泊するワセダ、失われた社会性を求めて2
昨年の秋からこっち、しみじみ感じることがある。それは「キミたちはデスレース」をやっているということだ。みんな誕生というスタートラインに立って、「よーい、ドン」。きみたちのコースには至る所に地雷が隠れている。それを踏んだところでキミの人生レースは終わる。小学校時代に踏んで社会生活が終わる者、中学で終わる者、高校で終わる者… キミたちは運よく今現在早稲田でまだ生き延びている。でも部活、人間関係、授業、インターン、就活… 様々な形の地雷が、キミが踏むことを待っている。踏んだらそこで社会生活が終わる危険がある… この秋、それを踏んで(踏みかけて)痛手を負った学生をいったい何人面談したことか… 今年ほど学生のデスレースを感じたことはない。彼らに共通していえることは
① 完璧欲が強くすぐに結論を出そうとする。
② だから遠回りを潔しとしない。
③ 遠回りすらできないから「エスケープルート」を持っていないことだ。「だめだったら、こっちをやろう」というのが無い。それとは逆で「退路を断って」自分を追い詰めて精神を病んでいく…
そこで今回の授業でそれらを払しょくするきっかけを考えよう。それだからこそ、「シナモンロール…」を読んでもらったようなものだ。来週は「人生の遠回りを楽しんでいる」異色の先輩の実例が出てくるぞ。お楽しみに。

次に、「失われた社会性1」を思い返そう。 それにしても韓国で起こった「セウォル号事件」オレらも呆れたり、笑えないよな。メディアに異様に従順で、自ら考えようとしない。人と同じであることに異様にエネルギーを消費する…日本人もそっくりだよな。そして起こったことはすぐに忘れてしまう。東日本大震災でタワーマンションは危険だとわかっても、もう忘れてしまって次々林立しているし…

そのあとは、「失われた社会性2」だ。お楽しみに、でも生まれ変わるほどの覚悟を！これらの教訓を昇華して、キミの「生きるって…」を形作る努力を始めよう!!

【第4回授業ハーフタイム】「夢を捨てるなっ!!」遠回りのススメ。 IAT調査
きょうは、「前へ2」をやろう。前回の授業で「立ち止まる勇気」「遠回りする余裕」がどんなに大切か思い知ったと思う。もう一度言うが、ホワイトアウトの中で、不安にさいなまれて「早く山小屋へ着こう」と歩き回ると、行き着く先は「死」だ。これを「リングワンデリング」と言うんだ。雪洞を掘ってじっとしているヤツは助かる。それをゼッタイ忘れんなっ!! 結局人生でも同じことが言えるんだよな。思考のリングワンデリングが始まりそうなら立ち止まろう、遠回りしてみよう。

そこできょうは、まず「遠回り教教祖」の関秀隆センセイの話だ。今年3月でまた「埼玉県の学校」を辞職して(これが2回目)、世界一周の放浪の旅に出ている。彼のオーラに触れてみて欲しい。キミの心に何が響くかだ。

それと、IAT調査の結果については、メディアによる医学生理学的悪影響という形で、可能な限り次回以降の授業の中で説明していこうと思う。

【第5回授業】「働くってどういうこと？」
きょうは「働くってどういうこと??」をやろう。少しでも早く、「仕事をするということの原点座標」を身に着けて欲しいからね。 ところでさ、この授業の内容をしっかり身に着けて、激戦となるであろう就職戦線を乗り切ってくれ。前にも言ったと思うけど、例えば大手の「S不動産」、「都内のオフィスビル、200棟超」供給しているという「勢い」がウリだった。そこらじゅうで「S不動産」の看板や館銘板の入ったビルを見る。しかしcovid-19でテレワークや会社移転が始まると、このような業界は一瞬にしてリスク業界になってしまった。ほんの一瞬でここまで変わってしまう。GDPは一瞬にしてリーマンショック以前に落ちこんだ。リーマンショックから世界経済が回復するには3年以上かかった。おそらくこれからは、変な例えではあるが、キミが歩いているとして、自分の次の一歩が地面につく寸前に、足下に隠された地雷を見つけて瞬時に着地点を変える…そんなキャリア展開が必要になってくるということなんだろう。だけど、それって可能なんだろうか。
いずれにしても、キミがめでたく就職したとしても、これから言うことは忘れるな。「キミは消耗品だ。キミの替えなどいくらでもいる。」 expendables なんだよ。
例えば公務員の世界などでは「組織の活性化には異動が必要」ということがよく言われる。特に事務方には専門家は必要ないようだ。その仕事は新たに異動してきたヒトが誰でもできることが重要らしい。そのような職場風土でもキミは「やりがい」をみつけていかなければならない。そして「脱消耗品」を目指していかなければならない。そう

じゃなかったら、40年近い長い仕事人生は懲役40年で刑務作業をやっているのと同じだ。やりがいの無い、誰でもできることを、楽しくないのに我慢して40年間続ける…　これってめっちゃ恐ろしいことじゃん??　明治大学でボクの助手たちは殆どが理系の大学院生だ。彼らを見ていると時としてうらやましくなることがある。もう就職の段階から学部卒とは給与体系がちがう。文系で大学院を修了しても学部卒と同じ給与体系で、同じ仕事…、あげくの果てには「過学歴」とか言われて。
明治の助手たちの多くは専門職として企業でも研究開発部門への就職が多い。これはもちろん早稲田でも同じことが言えるが。そんな部門に就職すれば、脱消耗品の道は就職当初から見えやすい。
　だがこんなことも言える。ボクん家は土地活用の必要からビルを建てた。大手ハウスメーカーの鉄筋コンクリート建設部門がやった。わが家の設計を担当した建築士は、文字通り抜きんでたセンスとデザイン力を持っていた。我が家を竣工させて数年後にはその大手企業の建築士全員を束ねる「設計長」になった。ボクは祝福したが、内心は心配していた。そのことは彼自身も身に染みて感じていたようだ。「オカダさん、最近は自分で図面がひけないんです…」だってさ。つまり社内のすべて建築士を束ねる管理が彼の仕事で、自分が建築デザインすることができなくなるのさ。その大企業では「彼がデザインしてコンペに負けたことはない‼」くらい言われた大事な戦力が、第一線を去ることになったんだよ。このへんの詳細は、きょうのコンテンツをよく見て、理解してくれ。キミ、気が付いたか??　彼はこの段階で「余人を以て替え難い」人材から消耗品に編入されたんだよ。この４月から、彼はさらに出世して大阪本社でもっとエラくなっている。だが本人の気持ちは複雑なんだよ。

　最後になるが、参考までに…
オレ、ある時決めた。「好きなことだけやろう」って。オレにとって教壇に立って医事法学教えるのも、こーゆー科目教えるのも楽しい遊びだ。だから授業の前はいつもワクワクしてる。きょうどんなことがあるんだろうな、今日連中はどんな顔をして授業を受けに来るんだろうな、とかね。研究して論文を書くのも遊び。学会や市民団体で講演するのも遊び。メルセデスに乗るのもハーレーに乗るのも遊び。海に潜るのも遊び。楽しくないことはやらない主義者なのかも…　ずーっと昔、高校の教員をやっていた頃、「教師なんていうものは、10のうち9つらいことがあっても、1ついいことがあればやっていける」と自分に言い聞かせていた。だけどさ、「自分に言い聞かせる」って「本当はそうは思っていないこと」を、「強引にそう思い込ませようという心の営み」だったんだね。だって今、オレ、10のうち9.9以上は楽しいもん。あの時、高校の教師を辞めていなかったらと考えると、ぞーっとするぜ。
　キミもポストコロナで、以前には戻れない社会のなかで、ドラスティックな価値観の変革を行う勇気を持つ必要があるんじゃないかい?? どうか現実から逃げるなよ。

【第6回授業】「品格を磨く‼」それと「キミはハダカの王様だよ2」→メディアによる医学生理学的悪影響
　さあ、きょうの最初のトピックは、「品格を磨く」だ。
　なぜか我が家の周りには昔から、多分確信犯で学生や、元学生や、元学生で結婚して新居をかまえるために住み着いたヤツが結構な人数いるんだよね。ここのところ、元教え子の社会人の女の子２人が毎晩我が家にゴハン食べに来てて、おれんちのエンゲル係数どーなってんのよ、状態なんだよね。みんな我が家を集会所か何かと間違えてるみたいだ。そんな多くのヤツが言う、オカダ先生を「先生っ‼」って呼ぶときの「セ・ン・セ・イ」という音は敬称じゃなくて呼び名だ、と。さらにそれを掘り下げて言った元医学生の教え子の女医さんがいる。ヤツは「オカダ先生の『先生っ‼』は記号だ」と言いやがった…　それを言われて結構ウケて面白がってるオレって何なんだろう…

　その女医さん、実家がすごい。私大の医学部の学生に「アイツの家は財閥だ」と言われるほどの裕福な家の子だ。思い出せば、国試に合格した時父上のお祝いは「メルセデスベンツSLK」というスポーツカーだった。あまりスポーツカーっていうキャラじゃないんだけどね、本人は。父上の結婚祝いは、我が家のすぐそばのタワーマンションの部屋だった。我が家より高いところから我が家を見おろされているっていうのがちょっとねー。彼女も我が家の近くに住む確信犯の一人だ。
　オレ、彼女に言われてずーっと守っていることがあるんだよね。「先生がキーマカレーを作った時は必ずウチに届けてください」だってさ。今月はキーマ１回と超特製パウンドケーキを１回届けたよ、そう言えば…。オレってエラくないかー??
　だけどこの女医さん、やっぱすごいな、とよく感じる。例えばある日のオレたちの会話。「オーイ、オメー今、家にいる??」「ええ、居ますよ」と女医さん。「だったら、配達に行くからさー」「先生、ちょっとアタマボサボサで恥ずかしいから、（マンションの下まで行けないから）上まで上がってきてくださいね」と女医さん。「オレには恥ずかしくないんかよ…」と思ったりしているオレ。こうやって急におすそ分けに行っても、「先生、ちょっとこれ持って行ってください」って必ず手土産が出てくるんだよね。っということは、いつ誰が来てもいいように、常備してるっていうことだよな。これって親の躾け、あるいは帝王学??　だけど彼女見ているといつも感じる。品格を高めると運命を切り開けるってさ。

　そういうわけで、きょうは、ボクが「恐れて」「尊敬する」我が教え子の女医さん「親愛なるミチコセンセイ」に登場してもらおう。ミチコセンセイは1998年に東京医大に入学してきて、ボクの医事法学の授業の筆記試験で歴代最高得点タイを取った、そのまま翌年ボクの医事法学のゼミを取り、臨床研修先はボクが生まれた病院、臨床研修が終わったらなんと「早稲田大学大学院法務研究科」に入学、今は呼吸器内科の専門医と法律家をやってる。後期には早稲田大学教育学部で集中講義をやってるし、オレその講義に巻き込まれてるし（無理やり付き合いで教壇に立たされている）…気が付くと20年超のクサレ縁…
オレさー、ミチコセンセイを見てるとホント思う…「人間の品格って運命を切り開けるんだよなあ」オレはモロに庶民の子で、文京区小石川2丁目というところは、坂の上が閑静な住宅街で、坂の下が小さな町工場が密集した地域だった。オレ今でも覚えているけど、坂の下の子だったオレは坂の上の子の「親たち」に結構差別された。だけどさー、もちろんオレもそうだけど、キミたちもそろそろ「自分で自分に投資して品格を磨こうぜ‼」　もう「親の育て方が云々」言いわけすんな‼　自分の人生切り開くために、品格を「自分の力」で磨こうぜ‼　だから自分で投資して自分の品格をたかめようぜい‼

【第7回授業　いよいよ最終回‼】いのちの授業「啓子さんのこと」、「ももちゃんのこと」
　きょうの本題、ボクの授業は、前にも言ったかもしれないが「命の授業」という前評判で学生たちに広まっているらしい。先輩たちがそう評したんだけどね。そこで最終回は、渾身のエネルギーを込めて「命の授業」をやります。ここまでの授業で「きょうのひとこと」等でキミの真摯なコトバを見た以上、オレはここで手を抜けない。きょうは、自分のプライベートに関する話だが、キミたちのことは120%信頼している、だから披歴する。まず対面で「啓子さんのこと」を聞いて欲しい。キーワードは「人っていいでしょ」だ。
授業は今日で終わるが、時間のある時、必ずコンテンツ動画「ももちゃんのこと」を見て、「もも地蔵プロジェクト本番」のファイルをダウンロードして読んでくれ。ここでのキーワードは「人生のエスケープルートを持とう！」だ。「エスケープルート」は「逃げ道」と表面的にとらえてよいイメージを持っていない人が多いかもしれない。しかし、きょうは「エスケープルート」を持つことは、人生を健康で幸せに生きるための、とてつもなく大切なソシアルスキルである

と積極的に評価しなおしてほしい。
　どうか、どうか「生きるって」「死とは」、答えをマジに考えてくれ。答えは多分出てこない、しかし答えの出ないことを考え続けることは、答えそのものよりも気高い。それは絶対に「よく生きること」につながる。

　キミたちに「理想の死に方」に言及してもらった。なぜ??　だって天国に旅立つ瞬間まで自分が満足のいく「イイ生き方」をすれば、その延長上にカッコイイ「理想の死に方」があるでしょ。「よく生きる」ということと「よく死ぬ」ということは二律背反することではなく、同一のことなんだ、って徐々にでもいいから気が付いてほしい。

言語区分:	0	日本語　　Japanese
教科書:	教科書「シナモンロールにハチミツをかけて―太平洋で最も偉大なダイバーとボクたち、そして幸せな死別の物語―」 銀の鈴社　刊　ISBN:978-4-87786-274-9 C0095 を必ず入手しておくこと。終講までに読了しておくこと。	
参考文献:	適宜授業中に頒布する。	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	0	筆記試験はこれを実施しない。
レポート:	50	上記サブテキストの感想文、および「キミの理想の死に方」に関するメッセージをこれに充てる。
平常点評価:	50	以下を以て平常点とする。 ①テーマへの積極性 ②出席時に記入する「きょうのひことこ」のインパクトファクター。
備考・関連URL:		

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010011|01|9S12010011[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	税理士実務概論 （早稲田大学校友会支援講座）		
担 当 教 員	下山 憲治		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 企業活動に伴う法人税・所得税・消費税・相続税・贈与税

授業概要: 本講座は早稲田大学校友会の協力に基づいて開設される早稲田大学校友会支援講座＜稲士会提供＞です。

会社の起業から会社運営、役員・従業員を取り巻く様々な税務問題の解決等について、多くの学生が卒業後の社会人活動に不可欠な企業法務のうち、税務・会計及びそれに関連する実務上の問題点につき、租税法と実務的な観点から実社会で役立つ実務知識を習得し、社会人として活躍していくための基礎知識の取得を目的とする。

【この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。】

授業の到達目標: （科目の全体像）
本講座は、税理士が税理士の中心的な業務内容である簿記会計・法人税・所得税・消費税・相続税・贈与税につき講義する。
必要な基礎的な知識を習得し、現場の実務、事例、判例を盛り込んで、ケーススタディを取り入れながら、将来直面する問題に対し良く対応できる素養を身に付ける。
企業内で起こる税務の諸問題について、自らが企業の一員としてまた社会人として遭遇する租税の制度や仕組みについて必要な基礎的知識を習得することを目指し、また専門家からみた解決の視点を学ぶと共に将来それぞれの場面で専門家と連携していける基礎的な知識の習得を目指す。さらに、副次的効果として、資格取得に興味を持ち、資格取得を目指す者には、資格取得方法や資格取得後の業務活動についても講義することも予定している。

事前・事後学習の内容: 復習として講義初日にアプロードするレジュメ「税理士実務概論」の事後読了を求めます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

税理士とはどんな資格か。簿記・会計の概略

1. 税理士はどんな資格か。税理士と公認会計士・弁護士との違い、比較
2. 簿記会計の概略・簿記の仕組み
3. 貸借対照表
4. 損益計算書

会社の決算と会社の税務・法人税の概要

1. 会社の決算
2. 会社の税務・法人税の概要

事業年度の所得と計算Ⅰ 営業収益の確定（益金の額）

1. 各事業年度の所得の金額
2. 資産の販売等の収益の額・資産の無償譲渡、譲受による収益の額
3. 受取配当等・資産の評価益・還付金等

事業年度の所得と計算Ⅱ 売上原価・棚卸資産の評価

1. 棚卸資産の売上原価の計算
2. 棚卸資産の評価

損金の額 営業経費Ⅰ 役員等給与・退職金・福利厚生費・交際接待費

1. 役員等の給与・退職金・福利厚生費
2. 交際費等

損金の額 営業経費Ⅱ 公租公課等・寄付金・資本的支出と修繕費

1. 公租公課等
2. 寄付金
3. 資本的支出と修繕費

減価償却費・繰延資産償却・引当金・貸倒損失

1. 減価償却費・繰延資産償却
2. 引当金
3. 貸倒損失・貸倒引当金

決算と申告、法人税の計算

1. 各事業年度の所得に対する法人税
2. 税額控除と繰越欠損金
3. 税法上の積立金
4. 法人税法における更正及び決定の特例
5. 税務調査と質問検査権

会社の役員・従業員の所得税Ⅰ　所得税の概要

1. 所得の種類と内容
2. 所得税の課税標準の計算　所得の金額の計算方法の概要
3. 所得控除（雑損控除、医療費控除、社会保険料控除他）
4. 税率、税額の計算及び税額控除

会社の役員・従業員の所得税Ⅱ　源泉所得税制度

1. 源泉徴収制度の仕組み
2. 年末調整
3. 所得税の申告、納付及び還付

消費税Ⅰ

1. 消費税の総説・あらまし
2. 課税の対象、非課税と免税
3. 納税義務者と納税義務の成立

消費税Ⅱ

1. 納税義務者と納税義務の成立
2. 課税標準と税率
3. 税額控除（仕入税額控除・簡易課税制度）
4. 課税期間、申告・納付、納税地
5. 地方消費税の概要

相続税Ⅰ

1. 相続税のあらまし、納税義務者
2. 相続税の課税価格と税額

相続税Ⅱ（資産の評価）・贈与税／テスト

1. 財産の評価
2. 贈与税のあらまし、納税義務
3. 贈与税の課税価格と税額の計算

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: レジュメ「税理士実務概論」

参考文献: 税務大学講本（税法入門・所得税法・法人税法・消費税法・相続税法）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 30　試験（予定されている課題）は授業で説明し、学んだ一般的な基礎知識について、授業範囲から出題する。別途の課題は予定していない。

その他: 70　出席率

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010012|01|9S12010012[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	企業経営・コンサルティング実務概論 （早稲田大学校友会支援講座）		
担 当 教 員	金子 良太		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:火５時限@02:金５時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 早稲田大学校友会支援講座

授業概要: 本講座は、早稲田大学校友会の協力に基づいて開設された早稲田大学校友会支援講座＜稲士会提供＞です。経営コンサルタントの国家資格である「中小企業診断士」として、さまざまな分野で活躍する実務家たちが講師を務めるリレー形式の講座です。
多くの受講生が卒業後にビジネスパーソンとして直面するさまざまな課題に対応し、経営的な判断をするために必要な「企業経営の基本」を理解することを第一の目的としています。また、昨今、キャリアの選択肢が広がる資格としても人気の高い中小企業診断士について、制度の概要や活動事例などを学ぶとともに、日本経済の担い手である中小企業の実情やその重要性を、正しく認識することを狙いとしています。
最大の特徴は、単なる知識や理論の解説にとどまらず、講師陣の豊富な現場経験に基づく「生きた事例」や「その人にしか話せない体験」から学ぶ点にあります。経営分析、財務、人事・組織、マーケティングといった企業経営の基本から、最新のビジネストレンドに至るまで、具体的な事例を通じて学びます。
授業は一方通行の座学ではなく、グループディスカッションやワークショップを豊富に取り入れた対話重視の構成です。学生同士や社会人講師との対話を通じて、主体的に考え、議論を深める力を養います。
【この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です】

授業の到達目標:
本講座を受講することで、以下の成果・効果を得ることを目標とします。
1.実践的な「ビジネスマインド」と「問題解決スキル」の習得＝社会で直面する複雑な経営課題に対し、論理的に考え、説得力のある解決策を導き出すためのコンサルティング手法を身につけます。
2.企業経営を俯瞰する多面的な視点の獲得＝財務・会計、組織・人事労務、マーケティングといった経営の根幹となる仕組みを理解し、IT活用、海外展開など、企業が対応すべき外部環境の変化について具体的なイメージを持てるようになります。
3.日本経済を支える「中小企業」のリアルな理解＝日本の企業の大半を占める中小企業の強みや課題、中小企業政策の実態を正しく認識し、地域活性化や日本経済における中小企業の重要性について深い理解を得ます。
4.自分自身の「キャリアデザイン」の構築＝独立起業して活躍する講師や、企業に勤務しながら複業として診断士活動を行う講師など、多様なロールモデルに触れることで、自分自身の将来のキャリアや働き方を具体的に考える契機とします。

事前・事後学習の内容: 予習・復習として毎回レポートなどの簡易な課題を出題する。その準備に、各回90分～120分かかると想定される。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 中小企業と中小企業診断士（講座概論）（ゲスト講師：荒川 孝行 氏／二原 万結氏）
①中小企業と中小企業診断士の概要
②会社員から独立したキャリアと中小企業支援
③会社員による複業としての中小企業支援
【事前・事後の学修】教材を読んでおくこと、課題を次回授業の前日までに提出すること

第2回 財務・会計 （ゲスト講師：谷口 弘晃氏／姫野 智子氏）
①財務三表（損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書）
②主要な財務指標
③財務指標を用いた経営分析
【事前・事後の学修】教材を読んでおくこと、課題を次回授業の前日までに提出すること

第3回 経営分析・コンサルティング手法 （ゲスト講師：片平 智之氏／大谷 裕一郎氏）
①コンサルティング手法の全体像
②コンサルティング手法（1）構造化手法
③コンサルティング手法（2）コミュニケーション手法
【事前・事後の学修】教材を読んでおくこと、課題を次回授業の前日までに提出すること

第4回　マーケティング　（ゲスト講師：矢野 達也氏／竹田　有輝子氏）

①マーケティングの全体像
②商品企画から発売までの実例
③デジタル広告を中心としたプロモーション施策とAI広告の展望

【事前・事後の学修】教材を読んでおくこと、課題を次回授業の前日までに提出すること

第5回　経営組織・人事戦略（ゲスト講師：荒井 ゆき氏／盛澤　陽一郎氏）

①組織を動かす仕組みと、組織・人を捉える視点
②中小企業における人材採用・育成と人材戦略
③組織の力を引き出すリーダーシップ【事前・事後の学修】教材を読んでおくこと、課題を次回授業の前日までに提出すること

第6回　外部環境への対応　製造業・自動車産業編　（ゲスト講師：但田 真紀氏／平井 智貴氏）

①イメージしながら理解する、モノづくりの着眼点
②製造業とQCD（品質・コスト・納期）
③モノづくりの現場から見た自動車業界

【事前・事後の学修】教材を読んでおくこと、課題を次回授業の前日までに提出すること

第7回　外部環境への対応　流通サービス編　（ゲスト講師：安田 和博氏 ／遊佐 知広氏）

①観光産業における旅行会社の役割変化
②出版業界の流通と現状
③環境変化に挑む企業の取り組み
【事前・事後の学修】教材を読んでおくこと、課題を次回授業の前日までに提出すること

第8回　中小企業の改善・改革　（ゲスト講師：小島 洋介氏 ／霜田 久子氏）

①第3講「コンサルティング手法」の振り返り
②構造化による課題整理・解決策提案　ケーススタディー1 美容サロン事業
③構造化による課題整理・解決策提案　ケーススタディー2 バナナ事業

【事前・事後の学修】教材を読んでおくこと、課題を次回授業の前日までに提出すること

第9回　創業・資金調達　（ゲスト講師：野村 元治 氏／大森 渚氏）

①好きを仕事にする―低リスク&自己資金型スモールビジネス
②事業を伸ばすお金の集め方―お金の出し手の考え方から
③【ワーク】創業アイデアと乗り越えるべきハードル
【事前・事後の学修】教材を読んでおくこと、課題を次回授業の前日までに提出すること

第10回　中小企業のAI&IT活用　（ゲスト講師：五百田 誉子氏 ／ 日景 聡氏）

①大企業と何が違う？中小企業のAI＆IT活用
②中小企業こそのIT活用策と施策
③生成AIで広がる中小企業の可能性

【事前・事後の学修】教材を読んでおくこと、課題を次回授業の前日までに提出すること

第11回　中小企業の海外展開　（ゲスト講師：鈴木 祥子氏 ／ 二原 経太氏 ）

①海外展開についての概要
②海外展開事例と重要ポイントの確認
③行政機関等による中小企業の海外展開支援スキーム

【事前・事後の学修】教材を読んでおくこと、課題を次回授業の前日までに提出すること

第12回　　中小企業支援政策／地域活性化　（ゲスト講師：谷池 公治氏 ／ 服平 周氏）

①日本の中小企業支援政策と支援の担い手
②中小企業支援の現場から
③地域活性化の現状と課題、コンサルタントとの関係
【事前・事後の学修】教材を読んでおくこと、課題を次回授業の前日までに提出すること

第13回　未来に向けた持続的な経営（ゲスト講師：布施　太一氏）

（ゲスト講師の紹介）株式会社布施商店（宮城県石巻市）　布施　太一代表取締役
早稲田大学教育学部卒業。創業115年の水産加工会社の四代目。大学卒業後は大手総合商社に入社するも、東日本大震災で故郷が壊滅。
その後、地元の復興と家業の立て直しのため帰郷。漁獲量の減少、理想と現実に打ちのめされながら、アメリカへの販路拡大に挑戦しています。

【事前・事後の学修】教材を読んでおくこと、課題を次回授業の前日までに提出すること

第１４回 〃中小企業診断士の活動 ／理解度の確認（試験）（ゲスト講師：田邊 佑介氏／岡 夏輝氏）

①中小企業診断士を目指したきっかけとキャリア
②事業経営・コンサルティングの実践と中小企業診断士の活用
③企業内診断士としての活動と今後の可能性
【事前・事後の学修】教材を読んでおくこと、課題を授業終了後3日以内に提出すること

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 担当するゲスト講師がテキストや資料を用意する。

参考文献： 中小企業庁『中小企業白書2026年版(上)(下)』日経印刷、2026年
中小企業庁のホームページにも掲載されています
https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/2026/PDF/chusho.html

成績評価フリー入力サイン： 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 50 期末試験を、第14回目の授業時間中に実施する。高度な応用ではなく、講義内容の理解を問うものである。

平常点評価： 50 成績評価手段として、毎回レポートを出題する。授業の理解と、関連した受講者の考察を評価する。

備考・関連URL： 1) 3分の2以上出席した学生が評価対象となる（3分の2未満の場合には単位は修得できない）。2) 毎回レポート中に質問が含まれた場合、講師の時間的余裕等の許す範囲でWaseda Moodle上でフィードバックする。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010013|01|9S12010013[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	行政書士による起業支援および企業法務実務概論 α（早稲田大学校友会支援講座）		
担 当 教 員	田村 達久		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 企業活動関連編

授業概要:

本講座は、早稲田大学校友会・行政書士稲門会が母校の学生に贈る、実践的キャリア形成プログラムです。2008年度から始まった「稲士会」による企業法務概論を発展させ、2011年度から行政書士の専門講座として独立開講しています。
なぜ今、行政書士なのか?
行政書士は、起業・ビジネス・社会活動のあらゆる場面で必要となる「許認可」「契約」「届出」を扱う、最もビジネスに近い国家資格です。企業設立から事業展開、新規事業参入まで、ビジネスの最前線で経営者とともに戦略を練る。それが行政書士の仕事です。
本講座で得られる3つの価値
1.実務最前線の知見: 風俗営業法、建設業許可、医療法人運営、選挙法務など、各分野のトップランナーである稲門会員が、教科書では学べない現場の判断基準とビジネス感覚を直接伝授します。
2.起業家マインドの獲得: 行政書士の多くは独立開業者。様々な業界を経験した後に独立した講師陣から、リスクマネジメント、顧客開拓、専門性の磨き方など、起業に必要な実践知を学べます。
3.キャリアの選択肢拡大: 企業法務担当者、スタートアップ起業家、行政書士として独立—。本講座は、あなたのキャリアに新たな可能性を開きます。実際、稲門出身の行政書士には、多様な分野で第一線を走り、他士業と同等以上の成果を上げている事例が多数存在します。
科目の全体像
本講座では、行政書士の中核業務である「①企業活動における行政の関わりと行政法」「②行政許認可業務とその申請手続の仕組み」について、法令・判例の解説に留まらず、現場の実務と具体的事例を豊富に盛り込みます。
例えば、「民泊を始めたい」という相談一つとっても、旅館業法、消防法、食品衛生法など複数の法令が絡み合います。また「外国人を雇用したい」という企業からの相談では、入管法に基づく在留資格の選択から申請まで、専門的な判断が求められます。「新しいビジネスを始めたい」と思ったとき、どんな許認可が必要で、どう行政と交渉し、どうリスクを管理するのか。本講座は、そうした「ビジネスを動かす法務力」を養成します。
各講師は業務内容だけでなく、独自のキャリア観についても語ります。早稲田で学んだあなたが、どのように社会で価値を生み出し、どう自分の専門性を確立していくか。その具体的なロールモデルがここにあります。
こんな学生に特に推奨
・ 将来、起業・創業を考えている
・ スタートアップや新規事業に関心がある
・ 企業の法務・総務部門でのキャリアを視野に入れている
・ 独立・開業という働き方に興味がある
・ 実社会で即戦力となるスキルを身につけたい
本講座は、あなたのキャリアに「法務という武器」を授けます。ビジネスの現場で、起業の準備段階で、そして人生の様々な局面で、この知識は確実にあなたの力になるでしょう。

【この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です】

授業の到達目標: 本講座は、受講生に対して、起業支援および企業法務の実務について教えると伴に自らが企業社会の一員として、また社会人として遭遇する社会の諸制度や仕組みについて必要な知識と情報を身につけることを目指す。
そして、卒業後の実社会において期待される起業家または健全かつ有能な社会人として社会の一翼を担うために必要な基礎的識の習得を実現することを目標とする。さらに、副次的な効果として、行政書士の資格取得に興味を持った学生に対して、資格取得のための学習方法や資格取得後の活動のしかた等についても教授することを予定している。

事前・事後学習の内容: 予習として教科書該当ページの事前読了を求める。予習には30分～40分かかると想定される。
本講義は、「行政書士による起業支援および企業法務実務概論 β」とあわせて履修することが望ましい。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

行政書士の職域と行政書士法改正について

行政書士業務と起業の親和性および行政書士法改正の影響を理解する　ゲスト：岩崎弘太郎
遺言・終活などの高齢者関連法務および相続に関する行政書士業務について
遺言のデジタル化および終活関連ビジネスや相続に関する行政書士業務を理解する　ゲスト：佐々木正彦
企業経営における外国人雇用の法務について
アジア地域出身外国人の就労資格について、最新の状況および行政書士業務を理解する　ゲスト：間瀬英智
医療法人設立および運営に関する行政書士業務について
日本の医療制度概要と、医療法人にかかわる行政手続を理解する　ゲスト：吉田真美
風俗営業に関する許認可について
風俗営業法のイメージをつかみ、法律の目的や実社会での機能を理解する　ゲスト：渡辺人支
政治と選挙に関する行政書士業務について
公職選挙法等の選挙法務は行政書士の独占業務であること、および特定行政書士による不服申立代理を理解する　ゲスト：戸川大冊
車両に関する行政書士業務について
自動車登録の出張封印や営業用自動車の登録（緑ナンバー/黒ナンバー）に関する行政書士業務を理解する　ゲスト：富澤多幸
　及び　試験実施（20分～30分）

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　『行政書士の業務展開』～早稲田大学GEC校友会支援講座 （成文堂）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	60	試験問題は、全7回の授業のそれぞれにおいて取り上げたテーマに関する基礎的な事項についての知識の正確さ等を確認するためものとする。各回1問を出題する予定である。授業を聴講していれば合格できるレベルである。
レポート：	10	各回授業後に提出を求めるリアクションペーパーの内容を加味する。
平常点評価：	30	出席の状況を加味する。「3回以下」の出席である場合には、この評点を得ることができないものと考えておくとよいであろう。

備考・関連URL：
日本行政書士連合会Webサイト:https://www.gyosei.or.jp/

なお、合理的配慮についての申出がなされた場合には、適切に判断し、対応します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010014|01|9S12010014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	行政書士による起業支援および企業法務実務概論 β（早稲田大学校友会支援講座）		
担 当 教 員	田村 達久		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 社会活動関連編

授業概要:

本講座は、早稲田大学校友会・行政書士稲門会が母校の学生に贈る、実践的キャリア形成プログラムです。2008年度から始まった「稲士会」による企業法務概論を発展させ、2011年度から行政書士の専門講座として独立開講しています。
なぜ今、行政書士なのか?
行政書士は、起業・ビジネス・社会活動のあらゆる場面で必要となる「許認可」「契約」「届出」を扱う、最もビジネスに近い国家資格です。企業設立から事業展開、新規事業参入まで、ビジネスの最前線で経営者とともに戦略を練る。それが行政書士の仕事です。
本講座で得られる3つの価値
1.実務最前線の知見: 風俗営業法、建設業許可、医療法人運営、選挙法務など、各分野のトップランナーである稲門会員が、教科書では学べない現場の判断基準とビジネス感覚を直接伝授します。
2.起業家マインドの獲得: 行政書士の多くは独立開業者。様々な業界を経験した後に独立した講師陣から、リスクマネジメント、顧客開拓、専門性の磨き方など、起業に必要な実践知を学べます。
3.キャリアの選択肢拡大: 企業法務担当者、スタートアップ起業家、行政書士として独立—。本講座は、あなたのキャリアに新たな可能性を開きます。実際、稲門出身の行政書士には、多様な分野で第一線を走り、他士業と同等以上の成果を上げている事例が多数存在します。
科目の全体像
本講座では、行政書士の中核業務である「①企業活動における行政の関わりと行政法」「②行政許認可業務とその申請手続の仕組み」について、法令・判例の解説に留まらず、現場の実務と具体的事例を豊富に盛り込みます。
例えば、「民泊を始めたい」という相談一つとっても、旅館業法、消防法、食品衛生法など複数の法令が絡み合います。また「外国人を雇用したい」という企業からの相談では、入管法に基づく在留資格の選択から申請まで、専門的な判断が求められます。「新しいビジネスを始めたい」と思ったとき、どんな許認可が必要で、どう行政と交渉し、どうリスクを管理するのか。本講座は、そうした「ビジネスを動かす法務力」を養成します。
各講師は業務内容だけでなく、独自のキャリア観についても語ります。早稲田で学んだあなたが、どのように社会で価値を生み出し、どう自分の専門性を確立していくか。その具体的なロールモデルがここにあります。
こんな学生に特に推奨
・将来、起業・創業を考えている
・スタートアップや新規事業に関心がある
・企業の法務・総務部門でのキャリアを視野に入れている
・独立・開業という働き方に興味がある
・実社会で即戦力となるスキルを身につけたい
本講座は、あなたのキャリアに「法務という武器」を授けます。ビジネスの現場で、起業の準備段階で、そして人生の様々な局面で、この知識は確実にあなたの力になるでしょう。

【この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です】

授業の到達目標: 本講座は、受講生に対して、起業支援および企業法務の実務について教えると伴に自らが企業社会の一員として、また社会人として遭遇する社会の諸制度や仕組みについて必要な知識と情報を身につけることを目指す。
そして、卒業後の実社会において期待される起業家または健全かつ有能な社会人として社会の一翼を担うために必要な基礎的識の習得を実現することを目標とする。さらに、副次的な効果として、行政書士の資格取得に興味を持った学生に対して、資格取得のための学習方法や資格取得後の活動のしかた等についても教授することを予定している。

事前・事後学習の内容: 予習として教科書該当ページの事前読了を求める。予習には30分～40分かかると想定される。
本講義は、「行政書士による起業支援および企業法務実務概論 α」とあわせて履修することが望ましい。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

宿泊事業関連法務と行政書士業務について
住宅宿泊事業・特区民泊・旅館業など宿泊事業に関わる行政書士業務と最新の法令を理解する ゲスト: 戸川大冊

環境法令に関連する許認可と行政書士業務について

水質汚濁防止法や廃棄物処理法をはじめ、太陽光発電に必要な農地転用、林地開発許可、FIT申請、土壌汚染対策法、盛土規制法など環境関連法令の許認可概要と行政書士業務を理解する　ゲスト：涌井史明

建設業に関する行政書士業務について

一定規模の工事を請け負うために必要な建設業許可の概要と行政書士業務を理解する　ゲスト：延廣隆之

中小企業向け補助金申請書類等の作成に関する行政書士業務について

各種補助金の種類、法的な位置付けおよび今後の動向について、他士業との関係を行政書士法改正とあわせて理解する　ゲスト：千葉勇人

化粧品に関わる行政書士業務について

化粧品の製造・販売に許認可が必要であり、その方法および行政書士業務について理解する　ゲスト：今村彰啓

FinTech時代の行政書士業務金融商品取引法関連許可業務

〇〇payサービスを始めるために必要な法規制など金融関係の許認可と行政書士行政書士業務について理解する　ゲスト：小倉純一

日本が求める外国人材の在留資格と行政書士業務について

招聘、高度人材、芸術など西欧系に多い在留資格について理解する　ゲスト：下山記靖　及び試験実施（20分～30分）

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　『行政書士の業務展開』～早稲田大学GEC校友会支援講座 （成文堂）

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	60	試験問題は、全7回の授業のそれぞれにおいて取り上げたテーマに関する基礎的な事項についての知識の正確さ等を確認するためものとする。各回1問を出題する予定である。授業を聴講していれば合格できるレベルである。
レポート：	10	各回授業後に提出を求めるリアクションペーパーの内容を加味する。
平常点評価：	30	出席の状況を加味する。「3回以下」の出席である場合には、この評点を得ることができないものと考えておくとよいであろう。

備考・関連URL：　日本行政書士連合会Webサイト:https://www.gyosei.or.jp/

なお、合理的配慮についての申出がなされた場合には、適切に判断し、対応します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010015|01|9S12010015[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	不動産鑑定士による不動産学 1（早稲田大学校友会支援講座）		
担 当 教 員	大場 浩之		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本講座では、不動産が注目される場面を紹介しつつ、不動産という財の特性と、これを動かす価格の原則について、専門家である現役の不動産鑑定士が、実務経験や分かりやすい実例を交えて講義を行う。
不動産は人の生活や企業活動にとって欠かすことのできない重要な資産である。それゆえ、日々の生活や企業活動のあらゆる場面で、不動産に絡む様々な問題が生じ、想像以上に多くの人が、その生涯を通じて何らの問題に直面することになるが、不動産は他の一般の財とは異なる特性を有するため、その価値判断が難しく、問題の所在の把握やその解決を困難にしている現実がある。
内容とそのレベルは初学者を念頭に置いているが、単なる不動産鑑定評価基準の解説ではなく、経済学、地理学、歴史学、民俗学、法制史、環境学、統計学、金融工学等の幅広い分野の初歩的な内容を含んでいる。
可能であれば、秋・冬クウォーターを通しての受講が望ましい。

【この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です】

授業の到達目標:

不動産及び不動産市場の特性、その価格の形成過程を理解し、受講生が将来どのような分野に進むとしても役に立つ素養として、不動産及びその価値判断に関する知識を身につけることを目標とする。
不動産鑑定士の資格取得に興味を持つ受講生に対しては、学習方法や資格取得後の活動分野を紹介する。さらには、不動産に関する最新の潮流にも触れるので、不動産ならではの特性を掴むにはどのような知見が必要かも理解し、これらを新たな興味分野として自己開拓してもらいたい。

事前・事後学習の内容:

特に予習の必要はないが、各講師が配布するレジュメの復習を求める。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

オリエンテーション・不動産の価格の特殊性と不動産の初歩的知識 （田村竜二・江藤美香）

講座全体の構成を解説するとともに、不動産鑑定士の資格取得に興味を持つ受講生に対しては、学習方法や資格取得後の活動分野を紹介する。さらには、不動産に関する最新の潮流にも触れるので、不動産ならではの特性を掴むにはどのような知見が必要かも理解し、これらを新たな興味分野として自己開拓してもらいたい。
一物四価といわれる土地価格について、公的評価（公示価格、基準地価格、相続税路線価、固定資産税路線価）のしくみを解説する。路線価図では、受講生に所縁のある不動産について調べてみることも含める。
不動産の初歩的知識として、公図や登記簿等を、受講生が知っている場所を例に概要を説明する。「価格の三面性」という言葉を知ってもらう。

不動産の価格を形成する要因（伊矢野忠寿）

不動産の価格を形成する要因について、一般的要因、地域的要因、個別的要因のほかに、取引事情や時間の経過も含めて体系的に説明し、具体的な都市の参考例について考察することによって理解を深め、不動産の価格形成の背景について学習する。

不動産の価格と賃料（水谷賀子）

不動産の価格と賃料の間にはどのような関係があり、どのように形成されるのか。価格と賃料の基本知識及び相関関係について講義する。価格と賃料を求める手法の概念、および、手法が実社会における価格・賃料決定のメカニズムに基づくことを、マクロ経済・不動産市場動向などを参照しながら解説する。

日本の不動産ビジネスの全体像、変遷と有効活用トレンド（成田隆一）

不動産業界の全体像、プレイヤーの種類、特徴に加え、業界やトレンドの歴史変遷を解説。不動産ビジネスに身を置く上での必須基礎知識の習得を目指す。また、最新の不動産有効活用トレンド、不要不動産問題等を紹介、業界将来展望を考察する。

不動産と法律（蒲原茂明）

民法を中心に、借地借家法、不動産登記法等を解説し、不動産に関する法律的な把握の仕方を解説するとともに、基本となる所有権とその絶対性の制限についてその他の権利について講義する。

統計的手法による価格検証（山縣滋）
ビッグデータの取扱いと回帰分析の初歩的な解説を踏まえ、公示価格、市街地価格指数等の時系列データ、不動産情報ライブラリー（国土交通省）の取引データ等を利用した統計分析の実践的活用方法とその限界を併せて講義する。
市街地開発事業とまちづくり（浅井康徳）
都市計画法に定める市街地開発事業のうち、土地区画整理事業（土地区画整理法）、市街地再開発事業（都市再開発法）にスポットを当て、その目的や仕組み、メリットついて解説する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 基本はPPTのハンドアウトとする。

参考文献: 山野目章夫監修 東京都不動産鑑定士協会編「不動産実務ガイド（第4版）」（中央経済社）
日本不動産鑑定士協会連合会監修「要説 不動産鑑定評価基準と価格等調査ガイドライン」（住宅新報社）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 70 毎回講義終了後にミニテストを行う。

レポート: 0 なし

平常点評価: 30 講義への出席、授業態度などを総合的に評価する。

備考・関連URL: https://www.fudousan-kanteishi.or.jp/
https://www.reinfolib.mlit.go.jp/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010016|01|9S12010016[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	不動産鑑定士による不動産学 2（早稲田大学校友会支援講座）		
担 当 教 員	大場 浩之		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本講座では、秋クォーターで解説した、不動産という財の特性と、価格の原則を踏まえ、最初に鑑定評価手法（三手法）を解説する。その後、現役の不動産鑑定士が、日々の実務において経験するより具体的な実例を交えた講義を行う。
不動産は人の生活や企業活動にとって欠かすことのできない重要な資産である。それゆえ、日々の生活や企業活動のあらゆる場面で、不動産に絡む様々な問題が生じ、想像以上に多くの人が、その生涯を通じて何らの問題に直面することになるが、不動産は他の一般の財とは異なる特性を有するため、その価値判断が難しく、問題の所在の把握やその解決を困難にしている現実がある。
内容とそのレベルは初学者を念頭に置いているが、単なる不動産鑑定評価基準の解説ではなく、経済学、地理学、歴史学、民俗学、法制史、環境学、統計学、金融工学等の幅広い分野の初歩的な内容を含んでいる。

【この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です】

授業の到達目標: 不動産及び不動産市場の特性、その価格の形成過程を理解し、受講生が将来どのような分野に進むとしても役に立つ素養として、不動産及びその価値判断に関する知識を身につけることを目標とする。
不動産鑑定士の資格取得に興味を持つ受講生に対しては、学習方法や資格取得後の活動分野を紹介する。さらには、不動産に関する最新の潮流にも触れるので、不動産ならではの特性を掴むにはどのような知見が必要かも理解し、これらを新たな興味分野として自己開拓してもらいたい。

事前・事後学習の内容: 特に予習の必要はないが、各講師が配布するレジュメの復習を求める。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

取引事例比較法の考え方と基礎（吉田勇光）
市場性からの価格アプローチである取引事例比較法（比準方式）について解説する。
価格形成要因である地域要因や個別的要因の優劣比較とその方法について理解する。

原価法の考え方と基礎（鈴木一樹）
費用性からの価格アプローチである原価法（積算方式）について解説するとともに、会計・税務評価との接点と相違点についても触れる。

収益還元法の考え方と基礎（井上幹康）
収益性からの価格アプローチ収益還元法（収益方式）について解説する。
併せてDCF法の仕組みや還元利回り、割引率の機能や査定方法について理解する。

不動産投資（横田雅之）
不動産投資は誰がどのように行っているのか、その実態と投資対象としてのメリット・デメリットを解説するとともに、不動産投資を行う場合の留意点・着眼点を解説する。

不動産証券化（川畑正幸）
不動産市場と金融市場の融合を目的としたREIT市場の仕組みとその動向を中心に、不動産鑑定評価の役割を不動産のデューディリジェンスを含めて解説する。

不動産評価と企業価値評価 ～評価のやり方はどちらも同じ？～（金井浩之）
価格の三面性は資産評価の共通原則であること。企業価値評価が必要となる背景・場面等を踏まえ、企業価値評価手法と不動産評価手法の類似点と相違点を踏まえて解説する。

海外不動産の実情と日本不動産市場の将来展望（福山雄次）
海外不動産の実情と対比しつつ、人口減少社会における日本の不動産の価格変動について、総括としての講義を行う。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 基本はPPTのハンドアウトとする。

参考文献: 山野目章夫監修 東京都不動産鑑定士協会編「不動産実務ガイド（第4版）」（中央経済社）

日本不動産鑑定士協会連合会監修「要説 不動産鑑定評価基準と価格等調査ガイドライン」（住宅新報社）

成績評価フリー入力サイン：0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	70	毎回講義終了後にミニテストを行う。
レポート：	0	なし
平常点評価：	30	講義への出席、授業態度などを総合的に評価する。

備考・関連URL：https://www.fudousan-kanteishi.or.jp/
https://www.reinfolib.mlit.go.jp/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010017|01|9S12010017[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	司法書士と学ぶ家族・地域・企業をめぐる法律問題 α（早稲田大学校友会支援講座）		
担 当 教 員	大場 浩之		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 身近な法律問題から企業法務まで

授業概要: 日常生活で耳にする事柄の多くに司法書士がかかわっています。相続がおこったとき、土地を買うとき、会社をつくるとき、親の今後が心配、そのときどうすればよいのか、にお応えします。
本講座は早稲田大学校友会の協力に基づいて開設される早稲田大学校友会支援講座＜稲士会提供＞です。
本講座は、2008年度から司法書士・税理士・行政書士・社会保険労務士・中小企業診断士各稲門会で構成する「稲士会」が母校早稲田大学で行ってきたオープン教育センター講座「企業法務概論」を発展させ、2011年度から司法書士の単独講座として独立させたものである。
本講座は、社会人になった後直面すると思われる様々な法律問題及び企業法務に関する基礎知識を教えることによって社会人として問題解決にあたるための最低限の知識を習得させることを主たる目的としている。

〔科目の全体像〕
本講座の講義内容は、αとβで司法書士の中心的な業務内容である、①不動産登記（売買・担保設定・相続等）の理論と実務②法人登記（会社設立・役員変更・増資等）の理論と実務③成年後見制度（高齢者問題・後見制度等）の理論と実務④簡易裁判所関係業務（一般民事事件・多重債務問題等）の理論と実務を解説する。αでは主として①④ついて実務現場の事例を盛り込んだ講義を行う。なお本シラバスは一部変更する可能性がある。
【この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です】

授業の到達目標: 受講生に対して、企業の法務現場が取り扱っている広義の企業法務の実際について教えるとともに、受講生が社会に出た後、彼らが企業の構成員としてだけでなく、個人としても直面すると想定される社会問題の対処法についての必要な知識を身につけさせることを目指し、ひいては少子高齢化社会の担い手として健全な社会活動ができるだけの素養を身につけさせることを目標とする。
さらに、副次的な効果として、司法書士の資格取得に興味を持つ学生に対し、資格取得のための学習方法や資格取得後の活動のしかた等についても講義する予定である。

事前・事後学習の内容: 事前学習 レジュメを一読すること
事後学習 レジュメと授業内容を復習すること

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

不動産取引における司法書士の関わり合い

今日の経済状況において不動産取引は、経済の中心部分に位置しており、近時は海外の人も多く関与しています。かかる不動産取引に司法書士は、どのように関わってどのような役回りを託されているか、等不動産登記の実務家が生の話をお伝えします。司法書士などの士業希望の方だけでなく、経済取引実体に興味がある方には、有益な情報が確保できる講義内容です。

民法と不動産登記法の関係

まず不動産登記を知る前提として、不可欠なことは民法に対する知識です。本講義では、不動産登記に深く関わる民法の基礎知識を中心に講義致します。

不動産登記（所有権）

ジャイアン（ドラえもんの登場人物）に「お前のモノは俺のモノ、俺のモノも俺のモノ。」と言わしめる程の魅力的感動的な所有権。所有権とは、法令の制限内において、人が物を自由に使用・収益・処分できる物権。本講義では、所有権の魅力を具体的な事例を交えお話し致します。

不動産登記（相続）

人が死亡すると、死亡した人間が持っていたお金などの財産、時には借金までもが、誰かの手に渡ることになります。これを「相続」といいます。お金が絡むことには、トラブルがつきもの。相続でモメないためにはどうすればいいか？それは講義でお話し致します。

不動産登記（その他の登記）

不動産登記制度においては、所有権以外にも、様々な登記することのできる権利が存在し、住宅ローンをはじめ、我々日常生活に不可欠なものとなっております。本講義では、登記することの出来る権利の内容について、具体的な事例を交えお話し致します。

民事裁判事件

司法書士事務所には様々な裁判の相談が持ち込まれます。本講義では、原告と被告、それぞれから持ち込まれる典型的事件の争点と対策について、民法や民事訴訟法と関連づけながら、具体的に検討していきます。

社会問題への取り組み、テスト

現代社会においては、司法書士も、登記、裁判等の本来的業務だけを行うのではなく、多重債務・貧困問題、ご高齢の方・障がいを持つ方への支援、空き家、所有者不明土地等社会的課題に積極的に取り組んでいます。本講義では、具体例を挙げながら各種取り組みを紹介していきます。その後テストを実施します（択一問題）。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: すべてゲストがレジュメを準備する。（授業開始前までにWaseda Moodleにレジュメをアップするので、受講生は自身がプリントアウトした資料を授業の際に持参すること又は資料をダウンロードしたパソコン等を持参すること。教室でレジュメは配布しません。）
但し、受講生は小六法の持参が望ましい。

参考文献: 民法教科書（特に指定しない）

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 全問択一問題とし、40点満点とする（出席点を60点とする）。

レポート: 0 予定せず。

平常点評価: 0 授業態度が好ましくない者は出席点から減点とする。

その他: 60 出席率を重視する（15分以上の遅刻、早退者は出席扱いとしない）。

備考・関連URL: 興味のある学生は誰でも受講できる。

本講座は、2011年～2025年度「企業法務概論（司法書士講座）」及び「司法書士実務概論」、「司法書士と学ぶ家族・地域・企業をめぐる法律問題（α）」と同様の内容の講座である。前記講座を履修済みの学生は、本講座を科目登録することはできない。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010018|01|9S12010018[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	司法書士と学ぶ家族・地域・企業をめぐる法律問題　β（早稲田大学校友会支援講座）		
担 当 教 員	大場　浩之		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　身近な法律問題から企業法務まで

授業概要:　日常生活で耳にする事柄の多くに司法書士がかかわっています。相続がおこったとき、土地を買うとき、会社をつくるとき、親の今後が心配、そのときどうすればよいのか、にお応えします。
本講座は早稲田大学校友会の協力に基づいて開設される早稲田大学校友会支援講座＜稲士会提供＞です。
　本講座は、2008年度から司法書士・税理士・行政書士・社会保険労務士・中小企業診断士各稲門会で構成する「稲士会」が母校早稲田大学で行ってきたオープン教育センター講座「企業法務概論」を発展させ、2011年度から司法書士の単独講座として独立させたものである。
　本講座は、社会人になった後直面すると思われる様々な法律問題及び企業法務に関する基礎知識を教えることによって社会人として問題解決にあたるための最低限の知識を習得させることを主たる目的としている。

〔科目の全体像〕
　本講座の講義内容は、αとβで司法書士の中心的な業務内容である、①不動産登記（売買・担保設定・相続等）の理論と実務②法人登記（会社設立・役員変更・増資等）の理論と実務③成年後見制度（高齢者問題・後見制度等）の理論と実務④簡易裁判所関係業務（一般民事事件・多重債務問題等）の理論と実務を解説する。βでは主として②③について実務現場の事例を盛り込んだ講義を行う。なお本シラバスは一部変更する可能性がある。

【この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です】

授業の到達目標:　受講生に対して、企業の法務現場が取り扱っている広義の企業法務の実際について教えるとともに、受講生が社会に出た後、彼らが企業の構成員としてだけでなく、個人としても直面すると想定される社会問題の対処法についての必要な知識を身につけさせることを目指し、ひいては少子高齢化社会の担い手として健全な社会活動ができるだけの素養を身につけさせることを目標とする。
　さらに、副次的な効果として、司法書士の資格取得に興味を持つ学生に対し、資格取得のための学習方法や資格取得後の活動のしかた等についても講義する予定である。

事前・事後学習の内容:　事前学習　レジュメを一読すること
事後学習　レジュメと授業内容を復習すること

授業計画フリー入力サイン:　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

会社法務と司法書士

司法書士は、企業法務と関わりが深く、中でも会社法務は司法書士業務に占める割合も高いです。企業の法務部門に「組織内司法書士」として長年（35年間）勤務した経験から、企業法務と司法書士双方の視点から、企業法務・会社法務の実務について解説致します。

会社設立登記

本講義では、最も件数の多い株式会社の設立登記を取り上げ、実際の登記申請書や定款、その他添付書類の書式例をもとに、設立実務の話を織り交ぜながら、会社設立に必要な基礎知識を理解してもらうことに主眼を置きます。また、外国会社やその日本法人の登記についても実例をもとに簡単に触れる予定です。

会社の変更登記

会社組織における「役員」の役割、任期や「役員」選ぶ／変えるにはどのような手続きが必要なのか、についてその概要を講義します。また登記実務において、役員に関する手続を行うにはどのような書類が必要なのか、またそれは何のために必要なのかについて解説致します。

会社・株主・役員の関係（増資と利益相反を通して）

一見無関係に見える2つのテーマですが、それぞれ株主相互の議決権割合の問題、会社と取締役との取引等の問題という利害関係者間の利害の調整という問題を含んでいます。このような観点から、会社法の役割と登記の問題を考えていきます。

成年後見制度（法定後見）

法定後見制度は、病気や怪我、障がいなどにより、十分な判断能力がないため自らの権利を守ることができない方々を支援していくための制度です。講義では、その概要、利用方法などの基礎知識のほか、後見の現場からのリアルなレポートを通じて、事案の困難さや厳しさの先にある大きな喜びとやりがいをお伝え致します。

成年後見制度（任意後見）

任意後見制度は、判断能力が低下した後に備え、十分な判断能力があるうちに信頼している人と契約し支援を委託しておくことができる制度です。今後ますます利用が見込まれる制度ですが、講義では、様々な問題点や課題を指摘した上で、より信頼できる制度にしていくための考察を加えます。

民事信託、テスト

高齢者や障害者の支援につながるものとして、成年後見制度や遺言のほか、民事信託が注目されています。これから発展する制度をわかりやすく解説致します。その後テストを実施します（択一問題）。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: すべてゲストがレジュメを準備する。（授業開始前までにWaseda Moodleにレジュメをアップするので、受講生は自身がプリントアウトした資料を授業の際に持参すること又は資料をダウンロードしたパソコン等を持参すること。教室でレジュメは配布しません。）
但し、受講生は小六法の持参が望ましい。

参考文献: 民法教科書（特に指定しない）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40 全問択一問題とし、40点満点とする（出席点を60点とする）。

レポート: 0 予定せず。

平常点評価: 0 授業態度が好ましくない者は出席点から減点とする。

その他: 60 出席率を重視する（15分以上の遅刻、早退者は出席扱いとしない）。

備考・関連URL: 興味のある学生は誰でも受講できる。

本講座は、2011年～2025年度「企業法務概論（司法書士講座）」及び「司法書士実務概論」、「司法書士と学ぶ家族・地域・企業をめぐる法律問題（β）」と同様の内容の講座である。前記講座を履修済みの学生は、本講座を科目登録することはできない。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010019|01|9S12010019[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	アナウンス入門講座（早稲田大学校友会支援講座）		
担 当 教 員	福原 健一@奥野 景介		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本講座は早稲田大学校友会の協力に基づいて開設される早稲田大学校友会支援講座です。アナウンサーを目指す人だけでなく、これから社会で有用な仕事をしていくためには「何をどう上手に伝えられるか」の表現力を身につけることが何よりも大切です。この講座は「自分なりの的確なプレゼンテーション」のスキルを身につけ、マスメディアの他、多様な職種に就くためのノウハウを教えます。

【この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です】

授業の到達目標: 1）発音、発声の基礎訓練を通して、正しい日本語や豊かな表現力を身につけます。
2）他人とのコミュニケーション力を高めるための方法を習得します。
3）アナウンサー、リポーター、キャスターなど放送表現者を目指す学生に基礎を教えるとともに、一般社会でも役立つコミュニケーション能力も磨きます。

事前・事後学習の内容: 復習として、講義で配布や指示する各回のレジュメ・教材の読了および発音・発話練習を求めます。復習には、90～120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

オリエンテーション：福原

本講座の目指すものは何かや概要について説明する。

発音、発声法などの表現力の基礎：福原
伝わる声の出し方や腹式呼吸を実技指導する。

日本語の正しい発音や発声の訓練：福原
活舌を良くして、聞きやすい音声表現を習得する。

文章を読んで伝える：福原
小説やエッセイを声を出して読み 表現力を磨く。

即時描写の基礎とは何か：福原
スポーツ放送などで求められる即時描写力を学ぶ。

スポーツ実況描写をしてみる（実習）：福原
スポーツの中継映像を見ながら自分の言葉で表現する即時描写力を習得する。

ニュースを読んでみる①：福原
ニュースの成り立ちを学び原稿を読んでみる。

ニュースを読んでみる②：福原
放送のニュース原稿を読み、わかりやすく伝える力をつける。

わかりやすくリポートする力をつける①：福原
関心ある問題を調べ、整理して組み立てて伝えるノウハウを学ぶ。

わかりやすくリポートする力をつける②：福原
わかりやすい構成を考えて声に出してリポートしてみる。

インタビューとは何か①：福原
他人に話を聞くためには、どのような準備が必要なのかを知る。

インタビューとは何か②（ビデオ実習）：福原
インタビュー実習を通して、「傾聴力」と「質問力」の基本をマスターする。

自分のセールスポイントを伝える：福原
「面接」の際に注意する点や役立つ表現力を身につける。
面接に強くなるために：福原
講師が面接官役になり実習し、面接に強くなる技術を磨く。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　「

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　10　与えられた課題を、講義での内容とどのように絡めて深く考察しているかを評価する。

平常点評価：　90　出席状況および授業への積極性を評価する。

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010020|01|9S12010020[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	アナウンス実践講座（早稲田大学校友会支援講座）		
担 当 教 員	福原 健一@奥野 景介		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本講座は早稲田大学校友会の協力に基づいて開設される早稲田大学校友会支援講座です。特にアナウンサーや放送記者、ディレクターなど、放送メディアで仕事をすることを希望する人の為に、実技指導も交えて学んでいきます。また、この講座を受講した人は、自らの表現力やコミュニケーション能力をブラッシュアップさせ、放送以外の様々なメディアや社会のあらゆる分野で必要な能力も身につけ、活躍できるようになります。

【この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です】

授業の到達目標: 1）日本語の発音や発声の基本を学び、豊かな音声表現力を習得します。
2）アナウンサーなど放送表現者を目指すために、自分自身の課題を知り、これから何が必要かを学び、将来の目標への準備を進めます。
3）実習を通して、いろいろなプレゼンテーションや表現方法を学び、社会の様々な分野でも役に立つコミュニケーション能力を身につけます。

事前・事後学習の内容: 復習として、講義中に配布・指示する各回のレジュメ・教材の読了および発音・発話練習を求めます。復習には、90～120分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

オリエンテーション：福原
この講座の目指すものは何か。

発声と呼吸法の基本を習得する：福原
腹式呼吸や早口言葉を訓練し、自分の発音や発声の課題を確認する。

文章を読んで伝える：福原
コラムや小説を読み、声の表情を身につける。

ニュースを読んで伝える：福原
ニュース原稿を声に出して、わかりやすく伝える力を習得する。

スポーツの実況をする力をつける①：福原
スポーツの実況放送の準備と放送までの過程を学ぶ

スポーツの実況をする力をつける②：福原
スポーツ中継の映像を見ながら実況描写をおこない、課題を確認し実況能力を磨く。

中継リポート力をつける①：福原
中継リポートの際に、どのように取材し準備をするのかを学ぶ。

中継リポート力をつける②：：福原
興味のある話題やニュースを取材し、構成し、声に出してリポートする。

気象情報や気象ニュースを伝える：福原
気象情報や災害放送の重要性を学習する。

声で表現する様々な仕事とは：福原
声優など多様化する音声表現の仕事について知る。

プレゼンテーション能力を高める：福原
関心のある話題やニュースをまとめ自分の考えをリポートする。

ビデオ実習（自己PR）：福原
自分自身をPRし、社会に出たら何をしたいのかを伝える。

ビデオ実習（インタビュー）：福原
学生同士がインタビューをして、それぞれの課題を検証する。

面接力の向上を目指す：福原
講師が面接官役になり、面接の技術のノウハウを習得する。

言語区分：　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：	10	与えられた課題を講義内容の視点と、どのように絡めて深く考察しているかを評価する。
平常点評価：	90	出席状況および授業への積極性を評価する。

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010021|01|9S12010021[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	最新航空産業概論 1		
担 当 教 員	片岡 淳之介@近藤 圭一郎		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

本講座は全日本空輸（株）の協力に基づいて開設される提携講座です。
航空業界の最新の状況、航空産業全般についての基本知識に加え、現在抱える課題や将来の方向性について学ぶことを通じ、航空輸送産業に関する知識を深めることを目的としています。
各方面の最前線で活躍される第一人者をゲストスピーカーに迎え、環境変化が著しい航空産業における活きた情報を直接学ぶことができます。また、エアラインの視点のみならず、様々な視点から航空産業全体を展望することができる講義内容となっています。
航空輸送産業に関わらず、産業構造はめまぐるしく変化しています。航空輸送産業の構造変化を学ぶことを通じて、今後のグローバルビジネスで活躍する際の知識として役立つことを期待しています。
尚、航空業界・産業に関する最新の内容を講義しますので、航空に興味を持ち、更に理解を深めたい学生を対象としています。

授業の到達目標: 航空産業に関する理解を深めるとともに、現在抱える課題や将来の方向性についてグローバルな視点での講義を踏まえて、将来の日本の航空輸送産業のあり方について自らの考察を深めることが出来る。

事前・事後学習の内容: Waseda Moodleに掲載する各回のレジュメの事前読了を求めます。毎授業後、次回の授業前日までにレビューレポートを提出してください。提出期限や詳細については授業で説明します。各回の復習およびレビューレポート作成には60分～90分かかると想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回イントロダクション、航空の歴史と変遷、他 （片岡）
最初に講義の紹介とスケジュール、受講するにあたっての注意点、Optionとして計画しているANA施設見学実習の詳細、評点のつけ方の説明をします。その後、航空会社の業務についての簡単な紹介と航空の歴史と変遷の紹介をします。
【事前・事後の学修】レジュメを読んでおくこと、授業後にレビューレポートを提出すること。

第2回旅客機のオペレーションについて （片岡）

ゲストスピーカー（ANA運航乗務員）による講義です。
旅客機を飛ばすための準備から飛行が終了するまでの一連の流れを紹介し、安心と信頼の運航はどのように保たれているのかを解説します。
【事前・事後の学修】レジュメを読んでおくこと、授業後にレビューレポートを提出すること。

第3回エアラインの経営戦略について （片岡）

ゲストスピーカー（ANA）による講義です。
エアラインの経営戦略等について紹介します。
【事前・事後の学修】レジュメを読んでおくこと、授業後にレビューレポートを提出すること。

第4回航空会社における商品企画について （片岡）

ゲストスピーカー（ANA）による講義です。
航空会社における商品企画について紹介します。
【事前・事後の学修】レジュメを読んでおくこと、授業後にレビューレポートを提出すること。

第5回日本の航空行政について （片岡）
ゲストスピーカー（国土交通省 航空局）による講義です。
日本の航空行政等について紹介します。
【事前・事後の学修】レジュメを読んでおくこと、授業後にレビューレポートを提出すること。

第6回総合商社における航空ビジネスについて （片岡）
ゲストスピーカー（総合商社）による講義です。
総合商社における航空分野での事業取り組みについて紹介します。
【事前・事後の学修】レジュメを読んでおくこと、授業後にレビューレポートを提出すること。

第7回航空産業における宇宙ビジネスについて （片岡）
ゲストスピーカー（ANA、情報処理サービス会社、保険会社、NPO法人）による講義です。
宇宙に関連したビジネスについて紹介します。
【事前・事後の学修】レジュメを読んでおくこと、授業後にレビューレポートを提出すること。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義はスライドを主な教材として行います。なお資料を事前にWaseda Moodleに掲示しますので、履修者は必要に応じて印刷し、講義に持参してください。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 40 期末に課題に対するレポートの提出を求めます。尚、課題はWaseda Moodleに掲示します。

平常点評価: 60 出席点、並びにレビューレポート点の合計で決定します。
レポートおよび平常点評価にて、総合的な理解度を確認し、評価を決定します。

備考・関連URL: ・本講座の受講希望者が定員を上回る場合には抽選を行います。
・オプション講座（参加は任意で、成績には影響しません）として、ANA施設見学実習（ANA Blue Baseの見学等）を予定しています。日程については、11月18日（水）および11月20日（金）の実施を予定しており、いずれかの希望日での任意参加とします。詳細は講座開講後にご連絡します。希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。なお、ANA施設見学の費用はかかりません。交通費等は各自負担となります。
国土交通省航空局：http://www.mlit.go.jp/koku/
ICAO（国際民間航空機関）：http://www.icao.int/
IATA（国際航空運送協会）：http://www.iata.org/
米国連邦航空局：http://www.faa.gov/
Boeing：http://www.boeing.com/
Airbus：http://www.airbus.com/
ANA：http://www.ana.co.jp/

※授業計画については、2026年8月28日時点での最新の情報で更新しています。
なお、ゲストの都合により、授業計画などは変更する場合がありますので、随時確認してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010023|01|9S12010023[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ダイバーシティを学ぶ		
担 当 教 員	石田 京子@濱中 淳子@釜野 さおり@藤本 浩志@高山 あかり@ドボルザーク グレッ		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ダイバーシティ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 基礎講義編―ダイバーシティの可能性と課題を考える

授業概要: 「ダイバーシティを学ぶ」は、新しい社会理念として重視されているダイバーシティについて、学生の皆さんが基礎的、具体的理解を深めていくことを目的とします。 ダイバーシティは、アメリカ公民権運動にルーツを持ち、1980年以降に多様な人材活用による企業の競争力強化策として実施されるようになったものです。早稲田大学は2017年に「早稲田大学ダイバーシティ推進宣言」を策定し、今後の大学像として「一人ひとりの多様性と平等の尊重」を掲げました。このように近年日本でも、ダイバーシティを理念として掲げる企業や組織が増えています。しかし現実に目を向けると、ジェンダーやセクシュアリティ、障がい、国籍などによる差別があり、生きにくさを感じさせられる人が大勢います。
本講義ではダイバーシティの可能性と課題について、大学、企業、メディア、ジェンダーやセクシュアリティ、市民参加、障がいなど幅広い視点から検討します。この授業が、ダイバーシティ・男女共同参画の視点から現代社会を理解し、自分たちの将来を組み立て、そのために大学で何をどのように学んでいくかを考察する一助になればと考えていますので、積極的に参加してください。
この授業はオムニバス形式で進めていきますので、担当者の都合により、授業の順番がシラバスから変更される可能性があります。受講者は必ず、Moodleの掲示を確認してください。

授業の到達目標: ①ダイバーシティの目的、課題、可能性について、政治、経済、教育、労働、科学技術などの複合的視点から理解し、深く考える。
②グローバル社会で一層重要となるダイバーシティの視点からの社会問題解決、公正で人権を尊重した社会形成への意識を高める。
※毎回、学生の皆さんが発言・意見交換できる機会を設けます。

事前・事後学習の内容: 授業において事前に配布された資料、紹介された文献等の理解を深めておくこと。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回（4/17）オリエンテーション、ダイバーシティについて考える（石田京子）
本授業の目的や進め方について説明をした後に、ダイバーシティとは何か、なぜこの価値が重要なのかを考えます。

第2回（4/24）Queering Japan: Past and Present（クィアリング・ジャパン―過去と現在）（ドボルザーク グレッ
国際的な人の移動がもたらすダイバーシティについて考えます。

第3回（5/1）障がいとダイバーシティ（藤本浩志）
障がいとダイバーシティについて考えます。

第4回（5/8）進路と職業の選択におけるダイバーシティ（高山あかり）
進学や職業選択でのダイバーシティの現状を知り、問題とその解決方法について考えます。

第5回（5/15）研究者のダイバーシティ（濱中淳子）
研究者におけるダイバーシティについて考えます。

第6回 (5/22)ダイバーシティと統計（釜野 さおり）
統計についてダイバーシティの視点から考えます。

第7回（5/29）市民参加とダイバーシティ（近藤牧子）
市民参加におけるダイバーシティを考えます。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 必要な資料を授業において配布する。

参考文献: 参考文献は授業時に適宜、指示する。

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　①授業への参加と、②その成果であるレポート等、によって総合的に評価する。
※詳細については授業開始後に説明します。

備考・関連URL：　早稲田大学ダイバーシティ推進宣言
https://www.waseda.jp/inst/diversity/about/mission/
Waseda Vision 150
http://www.waseda.jp/keiei/vision150/core/

早稲田大学ダイバーシティ推進室
https://www.waseda.jp/inst/diversity/

他のダイバーシティ関連科目：
https://www.waseda.jp/inst/diversity/information/diversity-courses/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010026|01|9S12010026[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	手話の社会言語学 -手話とろう者の社会-		
担 当 教 員	森 壮也@高嶋 由布子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ダイバーシティ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 日本のマイノリティ言語の一つであり，先天的聴覚障害者が第一言語とする日本手話の社会言語学的状況について学ぶ。手話とその言語使用者集団であるろう者の関係、同じ手指言語である手指日本語（日本語対応手話）の使用者集団である難聴者との関係や、家族全員がろう者であるデフ・ファミリー、ろう成人の聞こえるこどもたちであるコーダなど様々なろう者を取り巻く社会の状況を紹介する。ろう者の職業や教育、手話通訳者の養成の変遷，現状，その問題点について議論する。これらを障害者の人権を保障する条約などと照らし，手話を取り巻く言説のあるべき姿を探る。

授業の到達目標: 日本のろう者を取り囲む社会の状況について客観的に学んで理解する。
日本における障害者・言語的なマイノリティに対する考え方と障害者の権利条約に書かれている姿のズレを把握し，そのズレについて論じることができるようになる。

事前・事後学習の内容: 授業で論じられる予定の内容に関する教科書の部分は授業に参加する前に読んでから授業に臨むことが望ましい。
授業後は、各回の授業で論じられた内容に関して、受講生独自が振り返りを行う。ミニレポートの提出を求めることがある（所要時間30分程度）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

01 ろう者とはだれか？家族の言語（担当 高嶋由布子）
聴覚障害者とろう者の違い、ろう文化とろう社会、デフ・ファミリー、コーダ 、ろう者の親

02 日本語と日本手話の関係（担当 森壮也）
ジョリティ言語とマイノリティ言語、ろう文化とバイリンガリズム、手指日本語

03 ろう者の仕事・ろう者と仕事（手話通訳）（担当 高嶋由布子）
本の手話通訳：養成・資格・派遣、ろう者の職業の歴史的変遷、障害者雇用促進法

04 ろう者と手話の歴史①：日本の聴覚障害当事者団体（担当 森壮也）
日本のろう・難聴の当事者団体、国連障害者権利条約、手話言語条例と手話言語法案

05 ろう者と手話の歴史②：教育と手話（担当 森壮也）
特別支援教育とろう教育の歴史、バイリンガル・バイカルチュラル教育、世界的な動向

06 ゲスト・レクチャー（担当 森壮也）
伊藤ホサナ氏（ろうのパティシェ）

07 ディスカッション・授業内試験（担当 高嶋由布子）
その他のやり残したトピックスと定期試験

言語区分: 9 日本語/日本手話 Japanese/Sign Language

教科書: 丸山正樹『デフ・ヴォイス』文藝春秋社，2011年（2015年）

参考文献: 森壮也/・佐々木倫子編『手話を言語と言うのなら』ひつじ書房、2016年
佐野愛子・佐々木倫子・田中瑞穂編『日本手話で学びたい』ひつじ書房、2023年
明晴学園手話科（小学部・中学部）・狩野桂子・森田明 著・バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター 編、『手話に関心があるすべての人のための 知る・学ぶ・教える 日本手話－明晴学園メソッド』、学事出版、2023年
榧陽子・岡典栄，『日本手話がおしえてくれること―ろう者から学ぶための65の疑問（まなびの地図）』大修館書店、2025年

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	60	クォータ末に実施する授業内筆記試験の成績。試験は主に記述式問題で行う。紙媒体のみ持ち込み可。
レポート:	0	休講の時を除いてレポートは課さないがミニレポートを課し、授業への積極的参加状況と合わせて評価する。
平常点評価:	30	授業に出席し、毎回コメントシート等を提出すること。提出状況や内容を総合的に評価する。
その他:	10	授業中・後の質問，ミニレポートの内容など授業への積極的参加状況を総合的に評価する。
備考・関連URL:	他のダイバーシティ関連科目: https://www.waseda.jp/inst/diversity/information/diversity-courses/	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010027|01|9S12010027[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	手話の社会言語学 -世界の手話と地域のろう社会-		
担 当 教 員	高嶋 由布子@森 壮也		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ダイバーシティ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 日本の手話をとりまく社会的現状を，アメリカを中心とした「ろう文化」の考え方や，開発途上国のろう者との比較，手話に関する言語政策があるブラジルの状況などと比較しながら検討する。また，それらを現代的な社会問題としてどのように扱うかを議論したい。

授業の到達目標: 国際的な状況と比較して日本の手話をとりまく現状がどのようであるかを理解する。
現在日本で進行中の施策である電話リレーサービスや難聴児早期支援対策などを知り，これらにどのような整備が必要か自分の考えを論じられるようになる。

事前・事後学習の内容: 授業で論じられる予定の内容に関する教科書の部分は授業に参加する前に読んでから授業に臨むことが望ましい。
授業後は、各回の授業で論じられた内容に関して、受講生独自が振り返りを行う。ミニレポートの提出を求めることがある（所要時間30分程度）
春学期の「手話の社会言語学ー手話とろう者の社会ー」を合わせて受講すると理解が深まる。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

ろう文化とは何か（担当 高嶋由布子）
ろう文化宣言と言語的マイノリティ，アメリカのろう文化
アメリカと日本のろう文化と制度（担当 森壮也）
ADA法，電話リレーサービス，新しい技術とろう者
開発途上国のろう者たち（担当 森壮也）
途上国のいくつかの国の手話、ろう者の置かれた状況
手話にまつわる言語政策と法（担当 高嶋由布子）
ブラジルの言語政策，手話言語法案，日本の早期支援への議論，権利条約
聴覚障害と教育の未来（担当 高嶋由布子）
医療技術の進展とあらたな優生思想の体現，危機言語化
ゲストレクチャー（担当 森壮也）
小野広祐（明晴学園校長）
ディスカッション・期末試験（担当 森壮也）
当事者研究とろう者、その他まとめ、定期試験

言語区分: 9 日本語/日本手話 Japanese/Sign Language

教科書: 丸山正樹『デフ・ヴォイス』文藝春秋社，2011年（2015年）（一度は目を通すこと）

参考文献: パッデン＆ハンフリーズ『新版「ろう文化」案内』（森壮也・森亜美訳）明石書店、2016年
現代思想編集部編『ろう文化』青土社，2000年
亀井伸孝『手話の世界を訪ねよう』岩波ジュニア新書、2009年

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 60 クォータ末に実施する授業内筆記試験の成績。試験は主に記述式問題で行う。紙媒体のみ持ち込み可。

平常点評価: 30 授業に出席し、毎回コメントシート等を提出すること。提出状況や内容を総合的に評価する。

その他: 10 授業中・後の質問，ミニレポートの内容など授業への積極的参加状況を総合的に評価する。

備考・関連URL：　他のダイバーシティ関連科目：
https://www.waseda.jp/inst/diversity/information/diversity-courses/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010028|01|9S12010028[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	手話言語学 -日本手話の構造：手話の音と語の仕組み-		
担 当 教 員	森 壮也@高嶋 由布子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ダイバーシティ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： 「手話も自然言語である」とはどういうことかについて、主に手話の音韻と形態の仕組みにから学ぶ。手話音韻論では、手話の音素という最小単位がどのようにして認識され、その研究が進んできたのかを歴史的な流れを追いながら理解する。手話言語学の父と言われるウィリアム・ストーキー・Jr.から最も完成された手話の音韻論と呼ばれる韻律音韻論までを学ぶ。
手話の形態論では、CL（分類辞）のような手話で特徴的とされてきた要素の特徴のほか、手話の動詞、複合語などについて音声言語と比較しながら学ぶ。

授業の到達目標： 「手話が言語である」ことを言語学の諸概念を用いて説明できるようになる。
手話の音素と形態素について概念を理解し、実際の日本手話の音素と形態素を分析できるようになる。
これらの基礎概念を用いて、日本手話の言語的特徴について説明できるようになる。

事前・事後学習の内容： 授業で論じられる予定の内容に関する教科書の部分は授業に参加する前に読んでから授業に臨むことが望ましい。
授業後は、各回の授業で論じられた内容に関して、受講生独自が振り返りを行う。ミニレポートの提出を求めることがある（所要時間30分程度）。

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

「手話も言語である」の発見と手話音韻論①（担当 高嶋由布子）
手話の音素の発見と手話言語学の発達
手話音韻論②（担当：森壮也）
手話の音素をどのように記述するか。組み合わせ規則としてのバティソンの法則、手話の音韻モデルの発展、手話の韻律音韻論・非手指要素の記述
手話形態論①（担当 森壮也）
手話で用いられるさまざまな否定の形と他の構成要素との関連、複合語
手話形態論②（担当 森壮也）
手話の動詞のさまざまな類型とその振る舞い、手話の否定詞
手話形態論③（担当 高嶋由布子）
Classifier構文（類像的表現，CL：類辞）
ゲストレクチャー（担当 森壮也）
植松隼人氏（デフサッカー前監督）
ディスカッション・期末試験（担当 高嶋由布子）
まとめとその他やり残したトピックスと定期試験

言語区分： 9 日本語/日本手話 Japanese/Sign Language

教科書： 松岡和美『日本手話で学ぶ 手話言語学の基礎』くろしお出版 2015年

参考文献： 赤堀仁美・岡典栄『文法が基礎から分かる 日本手話の仕組み』大修館書店 、2011年
岡典栄・赤堀仁美 ・バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター『日本手話のしくみ練習帳 DVD付』大修館書店、2016年
窪薗晴夫編『よくわかる言語学』ミネルヴァ書房 2019年
前川 和美 ・下谷 奈津子・平 英司『しくみが身につく手話1 入門編《DVD付》』白水社、2022年
同『しくみが身につく手話2 初級編《DVD付》』白水社、2022年

成績評価フリー入力サイン： 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	60	クォータ末に実施する授業内筆記試験の成績。試験は主に記述式問題で行う。紙媒体のみ持ち込み可。
レポート:	0	休講の時を除いて、レポートは課さないが、ミニレポートを課して授業への積極的参加と合わせて評価する。
平常点評価:	30	授業に出席し、毎回コメントシート等を提出すること。提出状況や内容を総合的に評価する。
その他:	10	授業中・後の質問，ミニレポートの内容など授業への積極的参加状況を総合的に評価する。
備考・関連URL:	他のダイバーシティ関連科目: https://www.waseda.jp/inst/diversity/information/diversity-courses/	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010029|01|9S12010029[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	手話言語学 −日本手話の文法・意味・語用−		
担 当 教 員	高嶋 由布子@森 壮也		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ダイバーシティ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 日本手話の文法・意味・語用の特徴を学ぶ。日本手話は，日本語対応手話と異なり，日本語の文法に準拠しない。手指で日本語をすべて表現しようとすると日本語を話すよりも時間がかかるが，日本手話は非手指要素や空間を用いた参照構造，類義語群があることで，単位時間あたりに伝えられる情報量は音声言語と同等になっている。これらの文構造，空間使用，語彙の使い分けについて紹介する。また，手話にもとづく「ろう文化」の特徴とステレオタイプについて議論する。

授業の到達目標: 日本手話らしい特徴とは何かを理解する。「非手指要素」の役割とは何か，「空間をうまく使う」とはどういうことなのかを説明できるようになる。言語にもとづく文化としての「ろう文化」とは何かを知り，それらがどのような意味を持つのか考察する。

事前・事後学習の内容: 授業で論じられる予定の内容に関する教科書の部分は授業に参加する前に読んでから授業に臨むことが望ましい。
授業後は、各回の授業で論じられた内容に関して、受講生独自が振り返りを行う。ミニレポートの提出を求めることがある（所要時間30分程度）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

手話の文法（イントロダクション），文構造と非手指動作1（担当 森壮也）
基本語順，平叙文・疑問文を作る非手指動作の役割を分析する
空間動詞と空間照応の分析（担当 高嶋由布子）
位置に意味がある，「空間をうまく使う」とはどういうことか
文構造と非手指動作（担当 森壮也）
非手指動作と手話の文構造（基本文型からの変化とロールシフト）
テンスとアスペクト（担当 高嶋由布子）
独特の時間概念と手話語彙の関係
手話の語用論（担当 高嶋由布子）
手話話者は直接的で失礼なのか？
ゲストレクチャー（担当 森壮也）
甲斐更紗（国立研究開発法人国立がん研究センター がん対策研究所がん情報提供部 特任研究員）
ディスカッション・期末試験（担当 高嶋由布子）
まとめとその他やり残したトピック、定期試験

言語区分: 9 日本語/日本手話 Japanese/Sign Language

教科書: 松岡和美『日本手話で学ぶ 手話言語学の基礎』くろしお出版 2015年

参考文献: 窪薗晴夫編『よくわかる言語学』ミネルヴァ書房 2019年
木村晴美・市田泰弘『はじめての手話』生活書院 2014年
亀井伸孝『手話の世界を訪ねよう』岩波ジュニア新書 2009年

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 60 クォータ末に実施する授業内筆記試験の成績。試験は主に記述式問題で行う。紙媒体のみ持ち込み可。

平常点評価: 30 授業に出席し、毎回コメントシート等を提出すること。提出状況や内容を総合的に評価する。

その他: 10 授業中・後の質問, ミニレポートの内容など授業への積極的参加状況を総合的に評価する。

備考・関連URL: 他のダイバーシティ関連科目:
https://www.waseda.jp/inst/diversity/information/diversity-courses/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010030|01|9S12010030[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ジェンダーを考える 1		
担 当 教 員	弓削 尚子@コーベル アメリ@石田 京子@金井 景子@森山 至貴		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ダイバーシティ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「ジェンダー」とは、文化的・社会的・歴史的につくられた性のありようを考える重要な概念です。
今日では、世界中で人びとを「男」「女」に二分し、かつ両者の不均衡な関係を永続化させてきた性別編成体制を問うことが、あらゆる学問分野に不可欠な営みとなっています。
この講義では、領域を異にする教員がそれぞれの角度からジェンダーに関して授業を行い、ジェンダーへの多角的な認識を促そうとするものです。
授業を通じて、自らのジェンダー観をみつめなおし、ジェンダーに関する新たな知見を深めることで、現代社会を生きていくのに有益なジェンダー・コンシャスな思考を獲得する貴重な学びの場となるでしょう。

授業の到達目標: 履修者個々人が性のステレオタイプや性の二元制について主体的に考え、従来のジェンダー・イデオロギーに縛られない柔軟な力を身に着ける。

事前・事後学習の内容: 授業で提示される参考文献で各自、学びを深めること。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 10月 2日
ジェンダーとは何か ＋ グループディスカッション 弓削尚子（法）
第2回 10月9日
日本文学にみる「男らしさ」「女らしさ」 金井景子（教）
第3回 10月16日
LGBTQ＋の現在地 森山至貴（文構）
第4回 10月23日
政治とジェンダー コーベル・アメリ（政経）
第5回 10月30日
スポーツとジェンダー 山田ゆかり（ゲストスピーカー）
第6回 11月13日
法律とジェンダー 石田京子（法務）
第7回 11月20日
未定 ＋ 総括ディスカッション 弓削尚子（法）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 各担当教員が教室で指示する。

参考文献: 各担当教員が教室で指示する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 毎回の出席および、授業時に提出するコメントシートを採点し、総合評価する

備考・関連URL: 受講者は「ジェンダーを考える2」を連続して受講するのが望ましい。
授業の順番については、変更の可能性がある。

他のダイバーシティ関連科目：
https://www.waseda.jp/inst/diversity/information/diversity-courses/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010031|01|9S12010031[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ジェンダーを考える ２		
担 当 教 員	豊田 真穂@矢内 義顯@釜野 さおり@高井 詩穂@村田 晶子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ダイバーシティ）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「ジェンダー」とは、文化的・社会的・歴史的につくられた性のありようを考える重要な概念です。 今日では、世界中で人びとを「男」「女」に二分し、かつ両者の不均衡な関係を永続化させてきた性別編成体制を問うことが、あらゆる学問分野に不可欠な営みとなっています。
この講義では、領域を異にする教員がそれぞれの角度からジェンダーに関して授業を行い、ジェンダーへの多角的な認識を促そうとするものです。
授業を通じて、自らのジェンダー観をみつめなおし、ジェンダーに関する新たな知見を深めることで、現代社会を生きていくのに有益なジェンダー・コンシャスな思考を獲得する貴重な学びの場となるでしょう。

授業の到達目標: 履修者個々人が性のステレオタイプや性の二元制について主体的に考え、従来のジェンダー・イデオロギーに縛られない柔軟な力を身に着ける。

事前・事後学習の内容: 事前学習120分（Moodleに掲出する資料を読んでから授業に参加すること）
事後学習120分（授業内容を踏まえたリアクション・ペーパーをMoodle上に提出すること）
また、「ジェンダーを考える1」を含め、各回の授業内容を振り返り、第7回の授業ではグループディスカッションを行う。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1回 11/27
キリスト教とジェンダー 矢内義顯（商）

第2回 12/4
教育とジェンダー 村田晶子（文）

第3回 12/11
令和の迷える男たち 怒られたくも傷つけたくもない「一般男性」の話 清田隆之（ゲストスピーカー）

第4回 12/18
戦争とジェンダー 豊田真穂（文構）

第5回 1/8
江戸とジェンダー 髙井詩穂（文構）

第6回 1/15
統計とジェンダー 釜野さおり（社）

第7回 1/22
まとめ 豊田真穂

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 各担当教員が教室で指示する。

参考文献: 各担当教員が教室で指示する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 毎回の出席、および授業時に提出するリアクションペーパー

備考・関連URL: 「ジェンダーを考える1」と連続受講するのが望ましい。
授業の順番は、変更の可能性がある。

他のダイバーシティ関連科目：
https://www.waseda.jp/inst/diversity/information/diversity-courses/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010032|01|9S12010032[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ウーマン・キャリアクリエイト講座		
担 当 教 員	田村 真理子@矢口 徹也		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ダイバーシティ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： サービスの経済化の進展や、超高齢化社会を背景に、日本経済は今、多様な産業分野、多様な人材、多様なビジネス形態が共存し始めています。そのような中で、女性のキャリアスタイルは多様化し、個々の能力を生かしながらキャリアをクリエイトする傾向にあります。実際、ここ数年では、自分の能力を発揮する方法として、資格を取得するなど就職・転職・独立してキャリアをクリエイトする女性が増えています。
当クラスでは、このような動きを捉えてプロフェッショナルとして、現役の第一線で活躍している先輩社会人から仕事の内容やその魅力・やりがいなどを語っていただき、仕事をする上で有効な資格の活かし方などを具体的に習得します。※本講座は、EY Japanの協力に基づき開設されています。

授業の到達目標： 社会人として仕事をする上で最低限必要な知識やキャリアプランの作成を通して、キャリアをクリエイトするための基本的なノウハウなどを学び、オ リジナルデーターベースの作成の重要性を習得することを目的とします。

事前・事後学習の内容： 配布資料などを参考にして授業中に気づいた事柄や気になった言葉などをもとにオリジナルデーターベースを作成してください。

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回／オリエンテーション —本講座のねらい 仕事に対する心構えとは （第1週 4限）
本講座の授業内容や目的などを説明し、「ウーマン・キャリアクリエイト講座」を受講した早大卒業生から仕事への心構えなどを聞く （担当教員：田村真理子）

第2回／活躍する女性を応援するサービスやモノづくりとは （第1週 5限）
女性が働きやすい環境づくりなどに役立つサービスやモノづくりのヒントなどを聞く （担当教員：田村真理子）

第3回／キャリアを続ける秘訣 —資格を活かしてキャリアクリエイト （第2週 4限）
どのように資格を活かしてキャリアを継続してこられたかその秘訣などを聞く （担当教員：田村真理子）

第4回／転職経験を活かしてキャリアクリエイト （第2週 5限）
転職するタイミングやその経験をどのように活かしてキャリを形成したかなどを聞く （担当教員：田村真理子）

第5回／エンターテインメントの新エリア戦略とは （第3週 4限）
キャリアを活かしたマーケティング戦略などを聞く （担当教員：田村真理子）

第6回／行政で働く姿勢とは一女性官僚の働く現場の現状と課題 （第3週 5限）
行政で働くうえでどのような心構えが必要かなどを聞く （担当教員：田村真理子）

第7回／ノウハウを活かしたビジネスの醍醐味とは （第4週 4限）
周りを巻き込んで事業展開するヒントなどを聞く （担当教員：田村真理子）

第8回／作品をつくる楽しさ 作品のヒットを支えることとは （第4週 5限）
ヒット商品づくりの過程やその秘訣などを聞く （担当教員：田村真理子）

第9回／主婦の視点でビジネス展開 （第5週 4限）
子育て経験など主婦の視点を活かしたキャリア形成の現状と課題などを聞く （担当教員：田村真理子）

第10回／マスコミにおけるキャリア作りとは （第5週 5限）
雑誌や広告業界などマスコミにおけるキャリア形成の秘訣などを聞く（担当教員：田村真理子）

第11回／就職に必要な要素 —卒業生が就職して実感したこと （第6週 4限）
早大卒業して3～4年ぐらいの先輩から学生と社会人との違いなどを聞く （担当教員：矢口徹也）

第12回／就職に必要な要素 —卒業生が就職、結婚、出産などを経験して実感したこと （第6週 5限）
早大卒業生から就職、結婚、子育てなどについて実体験を聞く （担当教員：矢口徹也）

第13回／多様な人材が生き生きと活躍できる企業とは （第7週 4限）
企業で多様な人材が活躍できる支援の取り組みなどを聞く （担当教員：田村真理子）

第14回／これから求められる女性の働き方とは （第7週 5限）
働く女性を取り巻く環境の変化などについて聞く （担当教員：田村真理子）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特にありません。
毎回、資料を配布します。

参考文献: 適宜指示します。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 50 クラスで説明します

平常点評価: 50 クラスで説明します

備考・関連URL: 2024年度早大［ウーマン・キャリアクリエイト講座］ http://www.waseda-wcc2.com/
EY Japan http://www.shinnihon.or.jp/
一般社団法人日本ベンチャー学会 http://www.venture-ac.ne.jp

他のダイバーシティ関連科目：
https://www.waseda.jp/inst/diversity/information/diversity-courses/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010035|01|9S12010035[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	LGBTQ+をめぐる法と社会		
担 当 教 員	石田 京子@秋葉 丈志@森山 至貴@國弘 暁子@橋場 典子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ダイバーシティ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: LGBTQ＋をめぐる法と社会: 平等かつインクルーシブな社会の実現には何が必要か

授業概要: 本講義は、LGBTとアライのための法律家ネットワーク（LLAN: Lawyers for LGBT and Allies Network）との協働により、社会がより平等かつインクルーシブになるために必要な社会基盤としての法を検討する。受講要件として法律の知識を求めておらず、ごく初歩的な社会基盤としての法の成り立ち、LGBTQ＋の基礎知識を説明することから講義を始め、様々な視点からLGBTQ＋と法の在り方について検討する。研究者とLLAN所属の実務家（弁護士）とが交互に講義を行っていく、オムニバス形式で行う。＊授業の順番およびLLAN講師については、講師の都合により変更となる可能性があります。授業が始まる時期にMoodleで確認してください。

授業の到達目標: より平等かつインクルーシブな社会の実現のために、現在の法制度にどのような課題があるのかを検討し、自分なりの意見を述べることができるようになること。

事前・事後学習の内容: 事前資料がアップされている場合にはそれに目を通しておくこと。
授業終了後、毎回、講義で学んだことを踏まえた短いレポートを提出する。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回（10/5） LGBTQ＋をめぐる法と社会：問題の視座（石田京子、橋場典子）
本講義の目的と、到達目標について話をした後、ごく基本的なLGBTQ＋に関する概念事項を説明し、なぜそれが司法や法律家との関係で問題となるのか、議論する。

第2回（10/12） LGBTQ＋と法律（佐々木弘造弁護士、藤田直介弁護士、橋場典子）
LLAN所属の弁護士から、LGBTQ＋をめぐる裁判についてについて話を聞き、議論する。

第3回（10/19） 文化人類学とジェンダーの視点から考える（國弘暁子、橋場典子）
文化人類学とジェンダーの視点から、LGBTQ＋問題について話を聞き、議論する。

第4回（10/26） LGBTQ＋と職場（立石由夏弁護士、堀川歩氏（株式会社アカルク代表）、橋場典子）
LLAN所属の弁護士から同性カップルをめぐる問題について話を聞き、議論する。

第5回（11/2） 海外の動向と早稲田での取り組み（秋葉丈志、橋場典子）
グローバルな視点と早稲田での取り組み状況から、LGBTQ＋をめぐる法と社会の状況について考える。

第6回（11/9） LGBTQ＋と同性カップル（井上皓子弁護士、橋場典子）
LLAN所属の弁護士から、トランスジェンダーに関する諸問題について話を聞き、議論する。

第7回（11/16） LGBTQ＋研究の現在（森山至貴、橋場典子）
LGBTQ＋に関する現代の学術研究における論点の解説を聞き、議論する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定なし。

参考文献: 授業の前に必要に応じてMoodle上で指定する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	60	毎回の講義終了後、授業内容を踏まえた小レポートの提出させる。詳細については、講義内で別途説明する。
平常点評価:	40	毎回、講義の半ばでコメントシートを配布し、意見や質問を記入してもらい、その後、講師とのディスカッションを行う。 コメントシートの提出で出席状況と問題意識を確認すると共に、授業への積極的な参加は、積極的に評価する。

備考・関連URL：　他のダイバーシティ関連科目：
https://www.waseda.jp/inst/diversity/information/diversity-courses/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010036|01|9S12010036[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	地域連携学 1		
担 当 教 員	加藤 基樹		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（地域連携）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

「地域連携学」は「地域と地域連携の性質・実態・機能を、諸学問の成果をもとに明らかにする学問体系」と定義されますが、本講座では、現実的にどのような地域連携が行われており、どのように取り組むべきか、また、地域連携を実践するにあたって知っておくべき事項などを学ぶことで、地域連携を体系的に整理します。そのために、まず、地域の現状と問題の源泉を明らかにした上で、政策や重要なプレーヤーの性質と役割について学び、コレクティブ・インパクトなどの現実的なアプローチについても説明します。
地域連携を担う人材には、専門性のほか、「地域社会や地域経済を巡る共通的な課題の理解」が求められていますが、本講座ではこれを広く紹介して履修後の自学自習に役立てることができるようにします。また、各論については、冬クォーターの「地域連携学2」で展開するので、引き続き履修してください。

講義では初学者を想定して基礎レベルから説明します。多くの学生は、その後の学生生活、また、卒業後も様々な形で地域と関わる機会があると思いますが、本講座で学ぶことになる実態や課題だけでなく、地域に対する考え方、認識が、その際には役に立つものと考えます。また、地域連携とその実態を学ぶため、公務員志望の学生にもおすすめします。
できるだけ地域連携に関する知識を身につけ、考える機会としてほしい、という趣旨の講義型科目ですが、グループワークなども取り入れます。ぜひ積極的に参加してください。

授業の到達目標：

・地域連携の全体像について理解する。
・地域の課題を解決するために、なぜ地域連携が必要なのか、地域連携にはどのような種類があるのか、などについて学ぶことで、地域のもつ課題を理解し、その解決方法についてのアプローチを考えることができるようにする。
・それらによって、地域とのかかわる際に、本講座で学んだ考え方、認識を役立てることができるようにする。

事前・事後学習の内容：

・授業後には毎回の課題にしっかり取り組んでください。
・専門用語や概念については、初出のときには詳しく説明するが、2回目以降は既知のものとして授業を進行します。そのため、毎回の授業をしっかり復習してください。
・各事項について、論点を示すので、自分の考えを整理するように心がけてください。

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：オリエンテーション、総論
授業の内容の内容について確認した上で、総論として地域連携の多様性やその類型について考える。

第2回：地域の現状と問題の源泉
現在の地域はどのような状況にあるのか、そして、それはどのような要因によるものであり、それに対してどのような政策がとられてきたかについて学ぶ。

第3回：地域連携に関する経済学の概念
地域連携を実践する際、主要なプレーヤーが考えることを経済学で説明するとしたらどうなるのか、基本的な概念について説明する。

第4回：地域における行政と企業の役割
行政と企業の性質と、地域のおける役割、連携の実態について学ぶ。

第5回：地域におけるサードセクターの役割
協同組合、NPO、地域団体の性質と、地域における役割、連携の実態について学ぶ。

第6回：地域連携に関わる仕事とキャリア（ゲスト講義）
地域連携の実践者から、業務の実態、学生自体の活動、就職活動についてご講義をいただく。

第7回：コレクティブ・インパクト
地域の課題を解決する手段として、コレクティブ・インパクトについて学ぶ。

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 指定しない。

参考文献:	必要に応じて紹介する。	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
レポート:	40	期末レポートの評価
平常点評価:	60	授業への参加と貢献。特に、毎回の課題提出とその内容を重視する。

備考・関連URL: 本講座は、副専攻「地域連携・地域貢献」の必修科目です。
https://www.waseda.jp/inst/gec/assets/uploads/2025/08/301d43910c1f088b6e42b3230ac93ae8.pdf#page=50

不明な点は問い合わせて下さい。
担当教員　加藤基樹
motokato@aoni.waseda.jp

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010037|01|9S12010037[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	地域連携学　２		
担 当 教 員	加藤　基樹		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（地域連携）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　本講座は、「地域連携学1」で説明したことを前提として、地域連携を各論的に整理し、そこから、地域に関わる諸問題について考えていく講座です。
様々な切り口があるうち、特に重要な「観光」「医療・健康・福祉」「教育・大学」「SDGs」「産業・金融」をテーマとして扱います。また、地域連携に関する仕事に関心を持つ学生が多いので、ゲストから地域連携のキャリアについてもお話しいただきます。さらに、履修者による活動報告も予定します。
多くの学生は、その後の学生生活、また、卒業後も様々な形で地域と関わる機会があると思いますが、本講座で学ぶことになる実態や課題だけでなく、地域に対する考え方、認識が、その際には役に立つものと考えます。
できるだけ地域連携に関する知識を身につけ、考える機会としてほしい、という趣旨の講義型科目ですが、グループワークなども取り入れます。ぜひ積極的に参加してください。

授業の到達目標：　地域連携の重要テーマについて学ぶことで、地域のもつ課題を理解し、その解決方法についてのアプローチを考えることができるようにする。
さらに、それらによって、地域とのかかわる際に、本講座で学んだ考え方、認識を役立てることができるようにする。

事前・事後学習の内容：　・授業後には毎回の課題にしっかり取り組んでください。
・専門用語や概念については、初出のときには詳しく説明するが、2回目以降は既知のものとして授業を進行します。そのため、毎回の授業をしっかり復習してください。
・各事項について、論点を示すので、自分の考えを整理するように心がけてください。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第１回：地域連携と観光
観光とは何か、地域連携によって何ができ、そこでは何が問題となっているのかを考える。

第２回：地域連携と医療・健康・福祉
地域包括ケア制度を中心に、地域における医療・健康・福祉の連携について学ぶ。

第３回：地域連携と教育・大学
地域における教育の問題を取り上げ、地域連携によるアプローチについて説明する。とくに、地域連携の重要なプレーヤーである大学に着目し、その実態と課題を明らかにする。

第４回：地域連携とSDGs、産業・金融
地域連携におけるSDGs、産業・金融の重要トピックについてこれまでの授業と関連付けながら説明する。

第５回：地域連携に関わる仕事とキャリア（ゲスト講義）
ゲストより、地域連携の実態、楽しさと難しさ、求められる能力などについてご講義いただく。

第６回：地域連携の実践を発表
履修者から報告者を募り、地域連携の実践について発表してもらう。

第７回：まとめ
授業のまとめを行う。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　指定しない。

参考文献：　必要に応じて紹介する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　40　期末レポートの評価

平常点評価:　60　授業への参加と貢献、とくに毎回の課題提出とその内容を重視する。

備考・関連URL:　全学副専攻「地域連携・地域貢献」の必修科目です。
https://www.waseda.jp/inst/gec/assets/uploads/2025/08/301d43910c1f088b6e42b3230ac93ae8.pdf#page=50

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010040|01|9S12010040[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	トップスポーツビジネス概論		
担 当 教 員	平田 竹男		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

近年、トップスポーツビジネスの世界は大きく発展しており、ますます深く広い知識が求められるようになってきた。
例えば、そもそもなぜ野球にはドラフト制度が存在するのか。サッカーでは、各球団が自由に選手を獲得できる。
共産主義の米国、自由競争の欧州。スポーツビジネスは一般ビジネスのイメージと正反対である。
経営破綻を未然に防ぐ。戦力を均衡させる。人件費高騰を防ぐ。勝っても負けても儲かるように仕組む。そのようなアメリカ型ビジネスに対し、欧州型は弱肉強食のエンドレスの入れ替え戦。多くのクラブが資金不足に悩むが、FIFAワールドカップ、欧州チャンピオンズリーグは最高の興行となっている。
日本においてはプロ野球、Jリーグ、そしてバスケット、ラグビー、卓球、駅伝等の経営課題に直面する。
そして選手、チーム、リーグ、代表それぞれに課題を持つ。
本講義では、リーグ構造、クラブ経営、メディア、スポンサー、スタジアム・アリーナなど、スポーツビジネスを俯瞰（ふかん）的に理解してもらうことを通じて、何らかの形でスポーツ界を発展させることのできる人材を輩出することを目的とする。
内容については可能な限りタイムリーなものを取り上げるため、下記の授業計画とは異なる場合もある。

授業の到達目標:

①スポーツビジネスの基本的構造を分析する能力を身に付ける
②スポーツビジネスに不可欠な存在であるメディア、スポンサー、スタジアム・アリーナに関する基本的知識をマスターする
③日本、アメリカ、欧州のスポーツの進化過程を知る

事前・事後学習の内容:

オンデマンド授業の形式ですが、ビデオ視聴のみならず、並行して「スポーツビジネス 最強の教科書」（東洋経済新報社）を読み進めることが求められます。
また、毎回レビューシートにおいて、授業に対する各自の感じたことや考えを3点整理して記述する「書く力」も求められます。
最初から的確に書けない場合もありますが、回を追うごとに、自分の言葉で書き表せるようになっていく皆さんの成長を楽しみにしています。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
イントロダクション、スポーツメーカー
第2回
MLB
第3回
プレミアリーグ
第4回
日本のテレビとスポーツ
第5回
欧州サッカー総論
第6回
ラ・リーガ
第7回
個人競技
第8回
MSL
第9回
OTT配信

第10回
NBA
第11回
NFL
第12回
スタジアム・アリーナ
第13回
ドイツ・イタリア・フランス等のサッカーリーグ
第14回
スポンサー、終わりに　（補論NHL）

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書:
・スポーツビジネス　最強の教科書　第2版　平田竹男（東洋経済）
・なでしこジャパンはなぜ世界一になれたのか？　平田竹男（ポプラ社）
・サッカーという名の戦争　平田竹男（新潮社）
・パラリンピックを学ぶ　平田竹男編著　（早稲田大学出版部）

参考文献:
・新・野球を学問する　平田竹男　（桑田真澄との共著　新潮文庫）
・サッカーの経済学　平田竹男監修　（新星出版社）
・「トップスポーツビジネスの最前線2009＜ドリーム・ジョブへの道＞」平田竹男　中村好男（新潮社）
・トップスポーツビジネスの最前線2008＜夢を実現させる仕事＞（新潮社）
・トップスポーツビジネスの最前線2007＜モーニング娘。のフットサル普及ミッションから中田英寿引退プロジェクトまで＞（新潮社）
・トップスポーツビジネスの最前線＜スポーツライティングから放映権ビジネスまで＞（新潮社）
・トップスポーツビジネスの最前線＜勝利と収益を生む戦略＞（新潮社）
・トップスポーツビジネスの最前線＜「勝利」「マーケット」「普及」のトリプルミッション＞（新潮社）
・「超一流論 トップリーダー1%に上りつめる 平田流「ハーバードKS」思考法」 平田竹男（双葉社）

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100　毎回のレビューシートの内容を重視する

備考・関連URL: 1）重要な連絡はMoodle上の「お知らせ」で行うので、随時チェックすること。
2）関連科目：「トップスポーツビジネス入門」「資源エネルギーと地球環境問題を考える」

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010065|01|9S12010065[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ボランティア入門 1 01		
担 当 教 員	兵藤 智佳@筒井 久美子@佐野 洋輔@岡田 美優		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

「誰かの役に立ちたい」「困っている人を助けたい」「世界をちょっとでもよくしたい」
そんな気持ちはありませんか。
この科目は、そんな気持ちを応援する授業です。

科目では、ボランティアを知るために、早稲田大学のボランティアセンターが主催する「早稲田ボランティアプロジェクト」の活動について、写真や動画、さらに、参加学生のインタビュー等を通じて学びます。ボランティアの活動分野は、震災、障害者、環境、など多岐にわたりますが、受講生は、一連の講義を通じて、ボランティアの具体的な内容を知り、大学生ボランティアが果たす役割や限界についての理解を深めます。

ボランティアは、支援される当事者のためのみならず、活動を通じて学生が成長する機会でもあります。講義を通じて受講生は「世界をちょっとでもよくしようとボランティアを実践した学生たちがどう変わっていったのか」を知ります。

本科目は、社会貢献活動への興味があり、「実際にボランティアをやってみたいと思っている」、「ボランティアって本当に誰かの役に立つの？」、「ボランティアって自己満足や偽善じゃないかと思うと一歩を踏み出せない」、そんな学生たちが対象です。

講義形式は、フルオンデマンドです。受講生は、全回を通じて設定された日時に合わせて各回の動画を視聴し、提出課題に取り組んでください。

この授業で学んだことをもとにして、ぜひ社会課題の解決に向けて行動を起こしてほしいと願っています。

授業の到達目標:

（1）大学生のボランティアには、どういった活動があるかを理解する
（2）ボランティアの限界と可能性、活動を通じて学べることを知る
（3）社会課題の解決に向けて行動を起こす意識が高まる

事前・事後学習の内容:

各講義の前にその分野における活動の概要について調べ、講義の後には、各活動の可能性と課題についてコメントをMoodleに毎回記入してもらいます。
事前に調べたり、事後のコメント記入には90分程度の時間が予定されます。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 「オリエンテーション」 担当（兵藤智佳）
WAVOCと科目の目標、内容を知り、ボランティアの概要を知ります。

第2回 早稲田ボランティアプロジェクトの活動を知る① 担当（筒井久美子）「東日本大震災とボランティア」
2011年の東日本大震災で被害を受けた陸前高田市でのボランティア活動を知ります。震災の発生時、その後、時間を経た現地の実情と現在のボランティア活動の意味についての理解を深めます。

第3回 早稲田ボランティアプロジェクトの活動を知る② 担当（兵藤智佳）「パラスポーツとボランティア」
パラダンスを事例として、パラスポーツの可能性を知ります。障害者にとってのスポーツの意味、そして、障害者との「共生社会」について理解を深めます。

第4回 早稲田ボランティアプロジェクトの活動を知る③ 担当（岩井雪乃）「獣害問題とボランティア」
「人間と野生動物との共生」はどのように可能なのでしょうか。特に、タンザニアのアフリカゾウによる被害、日本における獣害被害についての理解を深めます。

第5回 早稲田ボランティアプロジェクトの活動計画を知る④ 担当（岡田美優）「スポーツとボランティア～車
車いすに乗る子供たちのクラブ活動を知ります。そして、すべての人にとってのスポーツの可能性について理解を深めます。

第6回 早稲田ボランティアプロジェクトの活動計画を知る⑤ 担当（佐野洋輔）「水銀汚染問題とボランティ
開発途上国で広がる水銀汚染問題について知ります。インドネシアを事例として現状の課題を整理し、課題解決に向けたボランティア活動の計画と可能性について理解します。

第7回 「ボランティアのまとめ」 担当（兵藤智佳）
ボランティアの可能性と限界について講義します。
大学生によるボランティアの意味、その可能性と限界についてまとめます。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター編集「学生の心に火を灯す」 成文堂 2022年

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 50 課題レポートをMoodleに提出してもらいます。
レポート課題：教科書「学生の心に火を灯す」（成文堂 2022年）を読み、同書1部で取り上げられている5つのボランティア事例から1つを選択し、「大学生は、ボランティアから何を学ぶのか」について1000字程度で書いてください。事例をもとに自分の考えを持てているかを評価します。

平常点評価: 50 毎回の動画視聴のあとに「取り上げられた課題に対する自分の意見」を提出してもらいます。その内容が課題に対してどれだけ深く考察されたものかを評価をします。

備考・関連URL: 本科目は、平山郁夫記念ボランティアセンターの提供科目となる。

副専攻「社会貢献とボランティア」のコア科目である。

2024年度以前の「ボランティア論1」の単位を取得済の学生は履修不可。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010065|02|9S12010065[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ボランティア入門 1 02		
担 当 教 員	兵藤 智佳@筒井 久美子@佐野 洋輔@岡田 美優		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

「誰かの役に立ちたい」「困っている人を助けたい」「世界をちょっとでもよくしたい」
そんな気持ちはありませんか。
この科目は、そんな気持ちを応援する授業です。

科目では、ボランティアを知るために、早稲田大学のボランティアセンターが主催する「早稲田ボランティアプロジェクト」の活動について、写真や動画、さらに、参加学生のインタビュー等を通じて学びます。ボランティアの活動分野は、震災、障害者、環境など多岐にわたりますが、受講生は、一連の講義を通じて、ボランティアの具体的な内容を知り、大学生ボランティアが果たす役割や限界についての理解を深めます。

ボランティアは、支援される当事者のためのみならず、活動を通じて学生が成長する機会でもあります。講義を通じて受講生は「世界をちょっとでもよくしようとボランティアを実践した学生たちがどう変わっていったのか」を知ります。

本科目は、社会貢献活動への興味があり、「実際にボランティアをやってみたいと思っている」、「ボランティアって本当に誰かの役に立つの？」、「ボランティアって自己満足や偽善じゃないかと思うと一歩を踏み出せない」、そんな学生たちが対象です。

講義形式は、フルオンデマンドです。受講生は、全回を通じて日時に合わせて各回の動画を視聴し、提出課題に取り組んでください。
この授業で学んだことをもとにして、ぜひ社会課題の解決に向けて行動を起こしてほしいと願っています。

授業の到達目標：

（1）大学生のボランティアには、どういった活動があるかを理解する

（2）ボランティアの限界と可能性、活動を通じて学べることを知る

（3）社会課題の解決に向けて行動を起こす意識が高まる

事前・事後学習の内容：

各講義の前にその分野における活動の概要について調べ、講義の後には、各活動の可能性と課題についてコメントをMoodleに毎回記入してもらいます。
事前に調べたり、事後のコメント記入には90分程度の時間が予定されます。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 「オリエンテーション」 担当（兵藤智佳）
WAVOCと科目の目標、内容を知り、ボランティアの概要を知ります。

第2回 早稲田ボランティアプロジェクトの活動を知る① 担当（筒井久美子）「東日本大震災とボランティア」
2011年の東日本大震災で被害を受けた陸前高田市でのボランティア活動を知ります。震災の発生時、その後、時間を経た現地の実情と現在のボランティア活動の意味についての理解を深めます。

第3回 早稲田ボランティアプロジェクトの活動を知る② 担当（兵藤智佳）「パラスポーツとボランティア」
パラダンスを事例として、パラスポーツの可能性を知ります。障害者にとってのスポーツの意味、そして、障害者との「共生社会」について理解を深めます。

第4回 早稲田ボランティアプロジェクトの活動を知る③ 担当（岩井雪乃）「獣害問題とボランティア」
「人間と野生動物との共生」はどのように可能なのでしょうか。 特に、タンザニアのアフリカゾウによる被害、日本における獣害被害についての理解を深めます。

第5回 早稲田ボランティアプロジェクトの活動を知る④ 担当（岡田美優）「車いすスポーツクラブを事例とし
車いすに乗る子供たちのクラブ活動を知ります。そして、すべての人にとってのスポーツの可能性について理解を深めます。

第6回 早稲田ボランティアプロジェクトの活動を知る⑤ 担当（佐野洋輔）「水銀汚染問題とボランティア」
開発途上国で広がる水銀汚染問題について知ります。インドネシアを事例として現状の課題を整理し、課題解決に向けたボランティア活動の計画と可能性について理解します。

第7回　「ボランティアのまとめ」担当（兵藤智佳）
ボランティアの可能性と限界について講義します。
大学生によるボランティアの意味、その可能性と限界についてまとめます。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター編「学生の心に火を灯す」 成文堂　2022年

参考文献: 各回で適宜指定します

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	50	課題レポートをMoodleに提出してもらいます。 レポート課題：教科書「学生の心に火を灯す」（成文堂　2022年）を読み、同書1部で取り上げられている5つのボランティア事例から1つを選択し、「大学生は、ボランティアから何を学ぶのか」について1000字程度で書いてください。事例をもとに自分の考えを持てているかを評価します。
平常点評価:	50	毎回の動画視聴のあとに「取り上げられた課題に対する自分の意見」を提出してもらいます。その内容が課題に対してどれだけ深く考察されたものかを評価をします。

備考・関連URL: 本科目は、平山郁夫記念ボランティアセンターの提供科目となる。

副専攻「社会貢献とボランティア」のコア科目である。

2024年度以前の「ボランティア論1」の単位を修得済の学生は履修不可。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010066|01|9S12010066[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ボランティア入門 ２		
担 当 教 員	兵藤 智佳		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

本科目は対面授業となります。

本科目は、「ボランティア入門1」を受講した学生を対象とした応用編となり、引き続き、早稲田大学でのボランティアマインドの育成を目指します。
「もっと深くボランティアを考えてみたい」人が対象です。

ボランティア入門1（オンデマンド）では、主に「学生による多様なボランティア活動」を紹介しましたが、ボランティア入門2では、「ボランティアと社会課題」に焦点をあてます。講義では、当事者が「生きづらさ」を抱える背景には、社会の課題が存在しているという視点に立ち、多様な課題について学びます。特に、障がい者アスリートなどボランティアでは支えられる側になる当事者による語りや講義を通じて、当事者の視点からの課題の所在とボランティアについて理解を深めます。

講義では、自己責任論を越えて、社会の課題への視点を持つことで多様な当事者、個々人がその可能性を発揮できる社会とボランティアの持つ力についての考察を深めます。

7回の講義では、当事者ゲストによる講演のほか、ディスカッションの時間を多く取り入れた参加型の形で進める予定です。

また、受講生は、期間中、実際にボランティアを実践し、その体験をもとに「社会の課題」を考える時間を持ちます。
ボランティアの内容についてはごみ拾いや学習支援などが想定されますが、必要に応じてボランティアセンターからの紹介を行います。

授業の到達目標：

（1）「当事者」の声から社会の課題を理解します
（2）実際にボランティア活動を実践します
（3）自分が行ったボランティア活動から社会の課題を分析します

事前・事後学習の内容：

授業の前には「当事者をめぐる課題」について調べ、授業の後に、「その可能性と課題」について毎回のコメントを記入します
事前に調べる時間と事後のコメントの作成で90分程度の時間が予定されます

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーション

科目の概要と「社会の課題を理解する」という科目の目的を理解します。
「ボランティアと社会課題の視点」についての講義を聞きます。

第2回 「障害者アスリート」の声を聴く

「障害者アスリートの語り」から、障害者を巡る社会の課題を理解します。
特に、障害を個人の問題とする個人モデルから、障害を社会の問題とする「社会モデル」への視点を得ます。

第3回 「当事者の声とボランティア」のふりかえり①

「体験の言語化」の手法を用いて、当事者の語りから自己理解を深め、社会の課題を分析します。
発見した課題についてグループディスカッションを行います。

第4回 「東日本大震災被災者」の声を聴く

気仙沼や福島の被災者や支援者の声を聞き、背景にある社会の問題を理解します。
「復興」の課題や可能性について理解を深めます。

第5回 「当事者の声とボランティア」のふりかえり②

「体験の言語化」の手法を用いて、当事者の語りから自己理解を深め、社会の課題を分析します。
発見した課題についてグループディスカッションを行います。

第6回　ボランティア実践とふりかえり
実際のボランティア活動を実施したレポートを持ち寄り、社会の課題を分析します。分析の結果を受講生同士でディスカッションします。
第7回　ボランティア活動とまとめ
「ボランティアと社会の課題」についてのまとめを行います。
まとめについて受講生同士でディスカッションします。

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 兵藤智佳（2013）『僕たちがみつけた道標』晶文社

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 65　ボランティア活動を実践し、そこから発見した社会の課題について独創性があるか、課題の所在をどれほど深く考察できているかを評価します。

平常点評価: 35　各回の授業後に「講義で取り上げられた当事者の語りから見える社会課題に対する自分の意見」を提出してもらいます。その内容が社会課題に対して深く考察されているかを評価します。

備考・関連URL: 本科目は、平山郁夫記念ボランティアセンターの提供科目となります。
副専攻「社会貢献とボランティア」のコア科目です。
7回の講義では、当事者ゲストによる講演のほか、ディスカッションの時間を多く取り入れた参加型の形で進める予定です。

2024年度以前の「ボランティア論2」の単位を修得した学生の履修は不可。
2024年度以前の「ボランティア論1」、もしくは「ボランティア入門1」の単位を修得済の学生が履修対象となります。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010079|01|9S12010079[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	人間的力量学 1 01		
担 当 教 員	村松 慶一		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 状況（事実）を正確に把握することが問題解決の第一歩である．さらに，チームで問題解決に取り組む場合には，その状況（事実）に対する共通認識が必要である．チーム内で共通認識が得られているかどうかを確認するためには，まず自身で概念を適切に表現できることが求められる．
この授業では「オントロジー」という概念を記述する枠組みの基礎を学び，概念の体系化を実習する．具体的には，あるテーマについてのディスカッションを通して「感覚的」に共通認識を確認した上で，オントロジーとして「論理的」に共通認識を記述する．この授業の目的は概念を体系化するために用いられるオントロジーの考え方を理解し，オントロジー構築を体験することであり，オントロジー構築の入門に位置づけられる．各回の授業は，講義としてトピックの解説，実習として個人ワークあるいはグループワーク，小課題で構成される．

授業の到達目標: (1) 階層性を意識して物の分類を表現できること．
(2) コンテキストに依存した物の役割を表現できること．

事前・事後学習の内容: 事前学修として，授業計画内容に含まれるキーワード・用語について事前に意味を調べてまとめておくこと．
事後学修として，授業内に行う演習，ワークの振り返りおよび実践を行うこと．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 第1回：イントロダクション
概念を体系化する方法としてのオントロジーとは何かについて解説を行う．

第2回：事例の弁別と分類
図形の性質を例に弁別と分類について解説を行い，弁別と分類の個人ワークを課す．

第3回：発散技法（Divergent Thinking）
発散思考の分類である自由連想法と強制連想法について解説を行い，ブレインストーミングあるいはブレインライティングのグループワークを課す．

第4回：収束技法（Convergent Thinking）
収束思考の分類である空間型法と系列型法について解説を行い，KJ法のグループワークを課す．

第5回：概念の階層的記述
is-a（一般-特殊）関係を用いた概念の階層化について解説を行い，演習のグループワークを課す．

第6回：ロール概念による依存性の記述
コンテキストに依存して定義される役割の表現について解説を行い，演習のグループワークを課す．

第7回：発表とまとめ
グループワークで演習した内容についての発表と振り返りを行う．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定しない．
必要な資料は授業内で配布・指示する．

参考文献: 指定しない．
参照すべき資料は授業内で紹介する．

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 なし

レポート: 60 学期末に出題するレポートから，課題に対する理解および考察の内容を評価する．

平常点評価:	40	毎回出題する小課題から，授業内容の理解度および取り組み態度を評価する.
その他:	0	なし
備考・関連URL:	第3回から第6回にかけてのグループワークでは，グループごとに一貫して同じテーマ，題材を扱う. 遅刻，早退，欠席があった場合には，自らグループ内での情報共有を図り次の授業に備えること. また，Zoomを用いてグループワークを行う場合がある. その場合には，ヘッドセット・マイクを各自で用意すること.	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010079|02|9S12010079[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	人間的力量学 1 02		
担 当 教 員	村松 慶一		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 状況（事実）を正確に把握することが問題解決の第一歩である．さらに，チームで問題解決に取り組む場合には，その状況（事実）に対する共通認識が必要である．チーム内で共通認識が得られているかどうかを確認するためには，まず自身で概念を適切に表現できることが求められる．
この授業では「オントロジー」という概念を記述する枠組みの基礎を学び，概念の体系化を実習する．具体的には，あるテーマについてのディスカッションを通して「感覚的」に共通認識を確認した上で，オントロジーとして「論理的」に共通認識を記述する．この授業の目的は概念を体系化するために用いられるオントロジーの考え方を理解し，オントロジー構築を体験することであり，オントロジー構築の入門に位置づけられる．各回の授業は，講義としてトピックの解説，実習として個人ワークあるいはグループワーク，小課題で構成される．

授業の到達目標: (1) 階層性を意識して物の分類を表現できること．
(2) コンテキストに依存した物の役割を表現できること．

事前・事後学習の内容: 事前学修として，授業計画内容に含まれるキーワード・用語について事前に意味を調べてまとめておくこと．
事後学修として，授業内に行う演習，ワークの振り返りおよび実践を行うこと．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 第1回：イントロダクション
概念を体系化する方法としてのオントロジーとは何かについて解説を行う．

第2回：事例の弁別と分類
図形の性質を例に弁別と分類について解説を行い，弁別と分類の個人ワークを課す．

第3回：発散技法（Divergent Thinking）
発散思考の分類である自由連想法と強制連想法について解説を行い，ブレインストーミングあるいはブレインライティングのグループワークを課す．

第4回：収束技法（Convergent Thinking）
収束思考の分類である空間型法と系列型法について解説を行い，KJ法のグループワークを課す．

第5回：概念の階層的記述
is-a（一般-特殊）関係を用いた概念の階層化について解説を行い，演習のグループワークを課す．

第6回：ロール概念による依存性の記述
コンテキストに依存して定義される役割の表現について解説を行い，演習のグループワークを課す．

第7回：発表とまとめ
グループワークで演習した内容についての発表と振り返りを行う．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定しない．
必要な資料は授業内で配布・指示する．

参考文献: 指定しない．
参照すべき資料は授業内で紹介する．

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 なし

レポート: 60 学期末に出題するレポートから，課題に対する理解および考察の内容を評価する．

平常点評価:	40	毎回出題する小課題から，授業内容の理解度および取り組み態度を評価する.
その他:	0	なし

備考・関連URL: 第3回から第6回にかけてのグループワークでは，グループごとに一貫して同じテーマ，題材を扱う. 遅刻，早退，欠席があった場合には，自らグループ内での情報共有を図り次の授業に備えること. また，Zoomを用いてグループワークを行う場合がある. その場合には，ヘッドセット・マイクを各自で用意すること.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010080|01|9S12010080[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	人間的力量学 ２ 01		
担 当 教 員	村松 慶一		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 状況（事実）を正確に把握することが問題解決の第一歩である．さらに，チームで問題解決に取り組む場合には，その状況（事実）に対する共通認識が必要である．「人間的力量学基礎 1：概念に基づいた知識の整理手法」に引き続き，知識を整理し表現する手法を学ぶ．
この授業では，明示化することが難しい曖昧性・暗黙性の高い知識を扱うための工夫について解説と実習を行う．具体的には，定量値と定性値，形式知と暗黙知，感性と感性情報のトピックを扱い，それぞれで解説した手法のグループワークを行う．この授業の目的は，曖昧性・暗黙性の高い事柄の「見える化」を体験することである．
各回の授業は，講義としてトピックの解説，実習として個人ワークあるいはグループワーク，小課題で構成される．

授業の到達目標: (1) 定量化の手法を用いて「見える化」できること．
(2) 形式知化の手法を用いて「見える化」できること．

事前・事後学習の内容: 事前学修として，授業計画内容に含まれるキーワード・用語について事前に意味を調べてまとめておくこと．
事後学修として，授業内に行う演習，ワークの振り返りおよび実践を行うこと．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回：イントロダクション
曖昧性および暗黙性の高い知識とは何かについて解説を行う．

第2回：定量値と定性値
定量値と定性値を理解するために性質の概念について解説を行い，それらの表現を収集するグループワークを課す．

第3回：定量化の方法
定性的にとらえられる事物の性質を定量的に表す方法について解説を行い，演習のグループワークを課す．

第4回：形式知と暗黙知
形式知と暗黙知のモデルについて解説を行い，インタビューのグループワークを課す．

第5回：形式知化の方法
暗黙知を形式知化する方法について解説を行い，演習のグループワークを課す．

第6回：感性と感性情報
人間の心の働きである感性の定義について解説を行い，演習のグループワークを課す．

第7回：発表とまとめ
グループワークで演習した内容についての発表と振り返りを行う．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定しない．
必要な資料は授業内で配布・指示する．

参考文献: 指定しない．
参照すべき資料は授業内で紹介する．

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	なし
レポート:	60	学期末に出題するレポートから，課題に対する理解および考察の内容を評価する．
平常点評価:	40	毎回出題する小課題から，授業内容の理解度および取り組み態度を評価する．
その他:	0	なし

備考・関連URL: 第2回からと第6回にかけてのグループワークでは，グループごとに同じテーマ，題材を扱う．遅刻，早退，欠席が

あった場合には，自らグループ内での情報共有を図り次の授業に備えること．また，Zoomを用いてグループワークを行う場合がある．その場合には，ヘッドセット・マイクを各自で用意すること．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010080|02|9S12010080[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	人間的力量学 ２ 02		
担 当 教 員	村松 慶一		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 状況（事実）を正確に把握することが問題解決の第一歩である．さらに，チームで問題解決に取り組む場合には，その状況（事実）に対する共通認識が必要である．「人間的力量学基礎 1：概念に基づいた知識の整理手法」に引き続き，知識を整理し表現する手法を学ぶ．
この授業では，明示化することが難しい曖昧性・暗黙性の高い知識を扱うための工夫について解説と実習を行う．具体的には，定量値と定性値，形式知と暗黙知，感性と感性情報のトピックを扱い，それぞれで解説した手法のグループワークを行う．この授業の目的は，曖昧性・暗黙性の高い事柄の「見える化」を体験することである．
各回の授業は，講義としてトピックの解説，実習として個人ワークあるいはグループワーク，小課題で構成される．

授業の到達目標: (1) 定量化の手法を用いて「見える化」できること．
(2) 形式知化の手法を用いて「見える化」できること．

事前・事後学習の内容: 事前学修として，授業計画内容に含まれるキーワード・用語について事前に意味を調べてまとめておくこと．
事後学修として，授業内に行う演習，ワークの振り返りおよび実践を行うこと．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回：イントロダクション
曖昧性および暗黙性の高い知識とは何かについて解説を行う．

第2回：定量値と定性値
定量値と定性値を理解するために性質の概念について解説を行い，それらの表現を収集するグループワークを課す．

第3回：定量化の方法
定性的にとらえられる事物の性質を定量的に表す方法について解説を行い，演習のグループワークを課す．

第4回：形式知と暗黙知
形式知と暗黙知のモデルについて解説を行い，インタビューのグループワークを課す．

第5回：形式知化の方法
暗黙知を形式知化する方法について解説を行い，演習のグループワークを課す．

第6回：感性と感性情報
人間の心の働きである感性の定義について解説を行い，演習のグループワークを課す．

第7回：発表とまとめ
グループワークで演習した内容についての発表と振り返りを行う．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定しない．
必要な資料は授業内で配布・指示する．

参考文献: 指定しない．
参照すべき資料は授業内で紹介する．

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	なし
レポート:	60	学期末に出題するレポートから，課題に対する理解および考察の内容を評価する．
平常点評価:	40	毎回出題する小課題から，授業内容の理解度および取り組み態度を評価する．
その他:	0	なし

備考・関連URL: 第2回からと第6回にかけてのグループワークでは，グループごとに同じテーマ，題材を扱う．遅刻，早退，欠席が

あった場合には，自らグループ内での情報共有を図り次の授業に備えること．また，Zoomを用いてグループワークを行う場合がある．その場合には，ヘッドセット・マイクを各自で用意すること．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010083|01|9S12010083[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	狩猟とジビエから考える地域貢献 1		
担 当 教 員	佐野 洋輔		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 講義編

授業概要:

本科目は、獣害問題の対策手段として重要性が増している「狩猟」と、狩猟の活発化により新たな地域資源として注目されている「ジビエ」（野生鳥獣肉）について学び、狩猟とジビエ利活用を通じた地域課題の解決のあり方を考えます。

近年、シカやイノシシによる農林業被害や、クマによる人身被害が増加しています。獣害問題は全国的に拡大し、過疎高齢化が進む農山村地域の衰退をさらに深刻化させています。こうした状況の中で、狩猟は増えすぎた野生動物を適正に管理する手段として期待され、漫画やメディアでハンターが取り上げられる機会も増えてきました。

狩猟は、単なる獣害対策の手段にとどまらず、自然、食、命、そして自分自身と向き合う契機となる多面的な魅力を持つ営みです。また、狩猟の成果物であるジビエが有効に利活用されることで、農村には新たな産業が生まれます。このように、農山村地域を苦しめる獣害問題は、同時に地域課題解決への可能性も内包しています。

本科目では、このような可能性を秘めた狩猟とジビエについて、日本国内で狩猟を実践する教員や学生、グリーンランドの北極圏や東南アジアの熱帯雨林で狩猟を実践するゲストや教員、仕事としてジビエの処理や料理に携わる実務者による講義をもとに、多角的に学んでいきます。狩猟やジビエ、農山村の課題に興味のある方は、ぜひ履修してみてください。

※本科目は、2025年度まで開講されていた「狩猟と獣害対策論1」が名称変更したものです。「狩猟と獣害対策論1」の単位を修得済みの方は履修できません。
※本科目は講義形式ですが、本科目の履修者は、農山村での実習を伴う科目「狩猟とジビエから考える地域貢献2 01」（冬クォーター）あるいは「狩猟とジビエから考える地域貢献2 02」（冬クォーター）を履修できます。併せて履修することで狩猟やジビエに対する理解を一層深めることができます。

授業の到達目標:
1. 狩猟という行為が内包する多様な意味を説明できる
2. 狩猟に参加するための多様な方法と、参加に必要な許可を説明できる
3. ジビエの利活用による地域課題解決の可能性と現状を説明できる

事前・事後学習の内容:
事前学習：毎回、教員が指示する文献や映像を読解／視聴し、授業内容に関連する基礎知識を学ぶ（60分程度）
事後学習：毎回、「問い」（授業で疑問に感じた点やもっと知りたいと考えた点）と「その問いを考えた理由」を書いてMoodle上で提出することで、授業で学んだことを一段階深めた思考へ発展させる（60分程度）

授業計画フリー入力サイン:
0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 狩猟を学ぶ①―東南アジアと日本における狩猟（6月10日）

・冒頭で本科目の概要と授業の進め方を確認します。
・担当教員が経験してきた、インドネシアの先住民プナンが実践する槍や吹き矢を用いた狩猟やジビエ料理、国内で実践している猟銃やくくり罠を用いた狩猟など、国内外の狩猟実践を学びます。

第2回 狩猟を学ぶ②―北極圏における狩猟（ゲスト講義）（6月17日）

・グリーンランドで犬ぞりを用いた狩猟漂泊旅行を実践しているゲスト講師から、北極圏での狩猟やジビエ料理、そして、先住民イヌイットの狩猟をめぐる考え方を学びます。

第3回 狩猟に参加する①―獣害問題の理解と狩猟免許の取得（6月24日）

・前半は、日本における獣害問題拡大の歴史的推移や、それ伴う野生動物管理政策の転換について学びます。後半は、ハンターになるための具体的ステップとして、狩猟免許制度、猟銃所持許可制度、猟友会、罠シェアリングの取り組みについて学びます。

第4回 狩猟に参加する②―大学生ができる獣害対策活動（7月1日）

・東京都周辺の農山村地域で獣害対策活動に取り組む大学生から、獣害問題や地域活性化に対して大学生に何ができるのかを学びます。

第5回 ジビエを学ぶ①―ジビエの基礎知識（ゲスト講義）（7月8日）

・フレンチシェフとしてジビエ料理の普及に取り組んでいるゲスト講師から、ジビエの食肉として特性、ジビエの流通をめぐる法制度、近年の全国的なジビエ振興の動きと課題を学びます。

第6回　ジビエを学ぶ②—ジビエ事業と地域おこし（ゲスト講義）（7月15日）

・農山村地域でジビエ事業に取り組んでいるゲスト講師から、農山村地域が抱える課題、ジビエ事業の可能性、事業を通じた地域おこしの実践を学びます。

第7回　まとめ—狩猟とジビエを通じた地域貢献（7月22日）

・授業への理解度を確認する試験を実施します。
・試験終了後は、試験の正答を確認しながら、過去6回分の授業の内容を振り返ります。

言語区分:　0　日本語　Japanese

参考文献:
1. 角幡唯介 (2021)『狩りの思考法』アサヒグループホールディングス.
2. 田中淳夫 (2020)『獣害列島—増えすぎた日本の野生動物たち』イーストプレス.
3. 東雲輝之 (2018)『これから始める人のための狩猟の教科書』秀和システム.
4. 押田敏雄 (2021)『これからの日本のジビエ—野生動物の適切な利活用を考える』緑書房.

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:　40　授業内容の理解度から評価（第7回の授業時間中に実施）

平常点評価:　60　授業内容の理解度と考察の深さを事後学習課題から評価（各10%×6回）

備考・関連URL:
・授業内では、「動物にとどめを刺す」「動物を解体する」といった狩猟に関する映像を流すことがあります。それを理解した上で履修してください。
・本科目は、副専攻「社会貢献とボランティア」の選択科目です。
・本科目は、平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）の提供科目です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010095|01|9S12010095[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	人間的力量ファンダメンタル O1		
担 当 教 員	村松 慶一		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人間的力量科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 世界のいかなる場所・場面においてもグローバルな視点をもって社会に貢献するグローバルリーダーには，専門知識の習得に加えて，様々な価値観やバックグラウンドを持った人々をまとめていく力，すなわち「人間的力量」が求められます．人間的力量は問題解決力，コミュニケーション力など，さまざまな力を含んでいます．それは，答えのない問題に挑戦する「たくましい知性」，多様な価値観を持つ人々に敬意をもって接し理解する「しなやかな感性」と言い換えることができるかもしれません．さらに，人間的力量は知識理解のみならずマインドを涵養することが大切です．みなさんがマインドを涵養し知性と感性を鍛えるために，グローバルエデュケーションセンターでは実践的な教育プログラムとして，キャリア形成，ダイバーシティ，ボランティア，地域連携，リーダーシップ，ビジネス創出の科目群を提供しています．この人間的力量ファンダメンタルの授業では，それらの科目群に通底するマインドを学びます．それによって，みなさんがそれぞれ持つ，知性と感性を鍛える目的と理由を改めて確認することが授業の目的です．この科目の内容を修得することで，正課の科目と正課外の活動（ボランティア活動，インターンシップ等）を適切に選択・組み合わせることができ，理論と実践のサイクルを意識できるようになることを期待します．

授業の到達目標: 自分にとっての「たくましい知性」と「しなやかな感性」を鍛える目的と理由を説明できること．

事前・事後学習の内容: 事前学修として，授業計画内容に含まれるキーワード・用語について事前に意味を調べてまとめておくこと．
事後学修として，小課題に取り組み授業内容の振り返りおよび実践を行うこと．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 第1回：イントロダクション
人間的力量の考え方の解説（ゲストスピーカーを予定）を行い，この授業の狙いと構成について説明する．

第2回：人間のもつ原初の能力
マインドを涵養し知性と感性を鍛える出発点として，その土台になっていると考えられる，人類が進化過程で獲得した能力について解説する．

第3回：社会において求められる能力
マインドを涵養し知性と感性を鍛える目標のひとつとして，現代文化的な発展を遂げた現代社会において求められる能力およびマインドについて解説する．

第4回：求められる能力の今昔ギャップ
人類が進化で獲得した能力と現代社会において求められる能力のギャップについて解説する．

第5回：今昔ギャップを埋めるマインドとツール（1）
人間的力量育成の科目群（キャリア形成，ダイバーシティ，ボランティア，地域連携，リーダーシップ，ビジネス創出）に関する「ひとりディベート」のワークを通してギャップを埋めるためのマインドを涵養する．

第6回：今昔ギャップを埋めるマインドとツール（2）
人間的力量育成の科目群（キャリア形成，ダイバーシティ，ボランティア，地域連携，リーダーシップ，ビジネス創出）に関する「ひとりディベート」のワークを通してギャップを埋めるためのマインドを涵養する．

第7回：まとめ
人間的力量領域の専門科目，体験科目の関連の各教員からのメッセージをもらい，ファンダメンタルとの関係（固有性，共通性）について説明する．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定しない．
必要な資料は授業内で配布・指示する．

参考文献: 指定しない．
参照すべき資料は授業内で紹介する．

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 なし

レポート:	60	学期末に出題するレポートから，課題に対する理解および考察の内容を評価する.
平常点評価:	40	毎回出題する小課題から，授業内容の理解度および取り組み態度を評価する.
その他:	0	なし

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010095|02|9S12010095[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	人間的力量ファンダメンタル 02		
担 当 教 員	村松 慶一		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人間的力量科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 世界のいかなる場所・場面においてもグローバルな視点をもって社会に貢献するグローバルリーダーには，専門知識の習得に加えて，様々な価値観やバックグラウンドを持った人々をまとめていく力，すなわち「人間的力量」が求められます．人間的力量は問題解決力，コミュニケーション力など，さまざまな力を含んでいます．それは，答えのない問題に挑戦する「たくましい知性」，多様な価値観を持つ人々に敬意をもって接し理解する「しなやかな感性」と言い換えることができるかもしれません．さらに，人間的力量は知識理解のみならずマインドを涵養することが大切です．みなさんがマインドを涵養し知性と感性を鍛えるために，グローバルエデュケーションセンターでは実践的な教育プログラムとして，キャリア形成，ダイバーシティ，ボランティア，地域連携，リーダーシップ，ビジネス創出の科目群を提供しています．この人間的力量ファンダメンタルの授業では，それらの科目群に通底するマインドを学びます．それによって，みなさんがそれぞれ持つ，知性と感性を鍛える目的と理由を改めて確認することが授業の目的です．この科目の内容を修得することで，正課の科目と正課外の活動（ボランティア活動，インターンシップ等）を適切に選択・組み合わせることができ，理論と実践のサイクルを意識できるようになることを期待します．

授業の到達目標: 自分にとっての「たくましい知性」と「しなやかな感性」を鍛える目的と理由を説明できること．

事前・事後学習の内容: 事前学修として，授業計画内容に含まれるキーワード・用語について事前に意味を調べてまとめておくこと．
事後学修として，小課題に取り組み授業内容の振り返りおよび実践を行うこと．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 第1回：イントロダクション
人間的力量の考え方の解説（ゲストスピーカーを予定）を行い，この授業の狙いと構成について説明する．

第2回：人間のもつ原初の能力
マインドを涵養し知性と感性を鍛える出発点として，その土台になっていると考えられる，人類が進化過程で獲得した能力について解説する．

第3回：社会において求められる能力
マインドを涵養し知性と感性を鍛える目標のひとつとして，現代文化的な発展を遂げた現代社会において求められる能力およびマインドについて解説する．

第4回：求められる能力の今昔ギャップ
人類が進化で獲得した能力と現代社会において求められる能力のギャップについて解説する．

第5回：今昔ギャップを埋めるマインドとツール（1）
人間的力量育成の科目群（キャリア形成，ダイバーシティ，ボランティア，地域連携，リーダーシップ，ビジネス創出）に関する「ひとりディベート」のワークを通してギャップを埋めるためのマインドを涵養する．

第6回：今昔ギャップを埋めるマインドとツール（2）
人間的力量育成の科目群（キャリア形成，ダイバーシティ，ボランティア，地域連携，リーダーシップ，ビジネス創出）に関する「ひとりディベート」のワークを通してギャップを埋めるためのマインドを涵養する．

第7回：まとめ
人間的力量領域の専門科目，体験科目の関連の各教員からのメッセージをもらい，ファンダメンタルとの関係（固有性，共通性）について説明する．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定しない．
必要な資料は授業内で配布・指示する．

参考文献: 指定しない．
参照すべき資料は授業内で紹介する．

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 なし

レポート:	60	学期末に出題するレポートから，課題に対する理解および考察の内容を評価する.
平常点評価:	40	毎回出題する小課題から，授業内容の理解度および取り組み態度を評価する.
その他:	0	なし

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010095|03|9S12010095[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	人間的力量ファンダメンタル 03		
担 当 教 員	村松 慶一		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人間的力量科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 世界のいかなる場所・場面においてもグローバルな視点をもって社会に貢献するグローバルリーダーには，専門知識の習得に加えて，様々な価値観やバックグラウンドを持った人々をまとめていく力，すなわち「人間的力量」が求められます．人間的力量は問題解決力，コミュニケーション力など，さまざまな力を含んでいます．それは，答えのない問題に挑戦する「たくましい知性」，多様な価値観を持つ人々に敬意をもって接し理解する「しなやかな感性」と言い換えることができるかもしれません．さらに，人間的力量は知識理解のみならずマインドを涵養することが大切です．みなさんがマインドを涵養し知性と感性を鍛えるために，グローバルエデュケーションセンターでは実践的な教育プログラムとして，キャリア形成，ダイバーシティ，ボランティア，地域連携，リーダーシップ，ビジネス創出の科目群を提供しています．この人間的力量ファンダメンタルの授業では，それらの科目群に通底するマインドを学びます．それによって，みなさんがそれぞれ持つ，知性と感性を鍛える目的と理由を改めて確認することが授業の目的です．この科目の内容を修得することで，正課の科目と正課外の活動（ボランティア活動，インターンシップ等）を適切に選択・組み合わせることができ，理論と実践のサイクルを意識できるようになることを期待します．

授業の到達目標: 自分にとっての「たくましい知性」と「しなやかな感性」を鍛える目的と理由を説明できること．

事前・事後学習の内容: 事前学修として，授業計画内容に含まれるキーワード・用語について事前に意味を調べてまとめておくこと．
事後学修として，小課題に取り組み授業内容の振り返りおよび実践を行うこと．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 第1回：イントロダクション
人間的力量の考え方の解説（ゲストスピーカーを予定）を行い，この授業の狙いと構成について説明する．

第2回：人間のもつ原初の能力
マインドを涵養し知性と感性を鍛える出発点として，その土台になっていると考えられる，人類が進化過程で獲得した能力について解説する．

第3回：社会において求められる能力
マインドを涵養し知性と感性を鍛える目標のひとつとして，現代文化的な発展を遂げた現代社会において求められる能力およびマインドについて解説する．

第4回：求められる能力の今昔ギャップ
人類が進化で獲得した能力と現代社会において求められる能力のギャップについて解説する．

第5回：今昔ギャップを埋めるマインドとツール（1）
人間的力量育成の科目群（キャリア形成，ダイバーシティ，ボランティア，地域連携，リーダーシップ，ビジネス創出）に関する「ひとりディベート」のワークを通してギャップを埋めるためのマインドを涵養する．

第6回：今昔ギャップを埋めるマインドとツール（2）
人間的力量育成の科目群（キャリア形成，ダイバーシティ，ボランティア，地域連携，リーダーシップ，ビジネス創出）に関する「ひとりディベート」のワークを通してギャップを埋めるためのマインドを涵養する．

第7回：まとめ
人間的力量領域の専門科目，体験科目の関連の各教員からのメッセージをもらい，ファンダメンタルとの関係（固有性，共通性）について説明する．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定しない．
必要な資料は授業内で配布・指示する．

参考文献: 指定しない．
参照すべき資料は授業内で紹介する．

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 なし

レポート:	60	学期末に出題するレポートから，課題に対する理解および考察の内容を評価する.
平常点評価:	40	毎回出題する小課題から，授業内容の理解度および取り組み態度を評価する.
その他:	0	なし

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010095|04|9S12010095[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	人間的力量ファンダメンタル O4		
担 当 教 員	村松 慶一		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人間的力量科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 世界のいかなる場所・場面においてもグローバルな視点をもって社会に貢献するグローバルリーダーには，専門知識の習得に加えて，様々な価値観やバックグラウンドを持った人々をまとめていく力，すなわち「人間的力量」が求められます．人間的力量は問題解決力，コミュニケーション力など，さまざまな力を含んでいます．それは，答えのない問題に挑戦する「たくましい知性」，多様な価値観を持つ人々に敬意をもって接し理解する「しなやかな感性」と言い換えることができるかもしれません．さらに，人間的力量は知識理解のみならずマインドを涵養することが大切です．みなさんがマインドを涵養し知性と感性を鍛えるために，グローバルエデュケーションセンターでは実践的な教育プログラムとして，キャリア形成，ダイバーシティ，ボランティア，地域連携，リーダーシップ，ビジネス創出の科目群を提供しています．この人間的力量ファンダメンタルの授業では，それらの科目群に通底するマインドを学びます．それによって，みなさんがそれぞれ持つ，知性と感性を鍛える目的と理由を改めて確認することが授業の目的です．この科目の内容を修得することで，正課の科目と正課外の活動（ボランティア活動，インターンシップ等）を適切に選択・組み合わせることができ，理論と実践のサイクルを意識できるようになることを期待します．

授業の到達目標: 自分にとっての「たくましい知性」と「しなやかな感性」を鍛える目的と理由を説明できること．

事前・事後学習の内容: 事前学修として，授業計画内容に含まれるキーワード・用語について事前に意味を調べてまとめておくこと．
事後学修として，小課題に取り組み授業内容の振り返りおよび実践を行うこと．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 第1回：イントロダクション
人間的力量の考え方の解説（ゲストスピーカーを予定）を行い，この授業の狙いと構成について説明する．

第2回：人間のもつ原初の能力
マインドを涵養し知性と感性を鍛える出発点として，その土台になっていると考えられる，人類が進化過程で獲得した能力について解説する．

第3回：社会において求められる能力
マインドを涵養し知性と感性を鍛える目標のひとつとして，現代文化的な発展を遂げた現代社会において求められる能力およびマインドについて解説する．

第4回：求められる能力の今昔ギャップ
人類が進化で獲得した能力と現代社会において求められる能力のギャップについて解説する．

第5回：今昔ギャップを埋めるマインドとツール（1）
人間的力量育成の科目群（キャリア形成，ダイバーシティ，ボランティア，地域連携，リーダーシップ，ビジネス創出）に関する「ひとりディベート」のワークを通してギャップを埋めるためのマインドを涵養する．

第6回：今昔ギャップを埋めるマインドとツール（2）
人間的力量育成の科目群（キャリア形成，ダイバーシティ，ボランティア，地域連携，リーダーシップ，ビジネス創出）に関する「ひとりディベート」のワークを通してギャップを埋めるためのマインドを涵養する．

第7回：まとめ
人間的力量領域の専門科目，体験科目の関連の各教員からのメッセージをもらい，ファンダメンタルとの関係（固有性，共通性）について説明する．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定しない．
必要な資料は授業内で配布・指示する．

参考文献: 指定しない．
参照すべき資料は授業内で紹介する．

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 なし

レポート:	60	学期末に出題するレポートから，課題に対する理解および考察の内容を評価する.
平常点評価:	40	毎回出題する小課題から，授業内容の理解度および取り組み態度を評価する.
その他:	0	なし

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010096|01|9S12010096[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	感性の科学α 01		
担 当 教 員	村松 慶一@松居 辰則		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人間的力量科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 以前に，人工知能（AI）の発展によって将来なくなる可能性の高い職業を紹介した論文が話題になりました．その詳細な議論はさておき，少なくともAIが我々の働き方に大きな影響を与えるということは確かです．AIにとっては，大量のデータを正確に素早く処理することは得意で，少ない手がかりをもとに文脈をくみ取りながら推論することは苦手なことです．しかし，我々にとってはその逆で，むしろ後者の方が得意だといえるかもしれません．このAIと我々の違いには，我々のもつ感性が大きく関わっていると考えられます．我々は感性を確かにもっていてそれを大いに発揮することができますが，感性それ自体についてはあまりわかっていません．人間の感性を理解することは，我々の強みを理解することでもありますから，非常に大きな課題であると言えます．
我々の日常生活において印象やイメージといった主観性をもった情報は大きな役割を担っており，人間の感性に合ったプロダクトやサービスの創造が求められています．これからの社会経済活動の様々な場面で，人間の感性を理解し応用することの重要性がさらに増していくと考えられます．この授業では，人文科学・社会科学のアプローチから人間の感性を明らかにする研究方法論について学びます．その基礎として感性の起源や感性の捉え方についての考察を共有した上で，人文科学・社会科学的なアプローチで用いられる研究方法論および研究事例を紹介します．
※「感性の科学α」では「人文科学・社会科学的アプローチ」について焦点をあてます．「情報科学・自然科学的アプローチ」に興味がある場合には「感性の科学β」の受講を勧めます．

授業の到達目標: 感性を明らかにするための人文科学・社会科学の研究方法について理解すること．

事前・事後学習の内容: 事前学修として，授業計画内容に含まれるキーワード・用語について事前に意味を調べてまとめておくこと．
事後学修として，小課題に取り組み授業内容の振り返りおよび実践を行うこと．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ※本科目は、全授業回を村松 慶一が担当します（コーディネーター：松居 辰則）。

第1回：イントロダクション
この授業の説明とともに，感性とは何かについて解説する．

第2回：知性と感性
対の概念として捉えられる知性と感性の違いや，問題解決における感性の役割について解説する．

第3回：感性の起源
感性の進化的起源および感性の捉え方について解説する．

第4回：研究方法と研究事例の紹介1
事例研究という研究方法論について解説を行い，その研究事例を紹介する．

第5回：研究方法と研究事例の紹介2
会話分析という研究方法論について解説を行い，その研究事例を紹介する．

第6回：研究方法と研究事例の紹介3
SD法およびMD法という研究方法論について解説を行い，その研究事例を紹介する．

第7回：研究方法と研究事例の紹介4
質問紙調査という研究方法論について解説を行い，その研究事例を紹介する．

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 60 学期末に出題するレポートから，課題に対する理解および考察の内容を評価する．

平常点評価: 40 毎回出題する小課題から，授業内容の理解度および取り組み態度を評価する．

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010096|02|9S12010096[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	感性の科学α 02		
担 当 教 員	村松 慶一@松居 辰則		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人間的力量科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 以前に，人工知能（AI）の発展によって将来なくなる可能性の高い職業を紹介した論文が話題になりました．その詳細な議論はさておき，少なくともAIが我々の働き方に大きな影響を与えるということは確かです．AIにとっては，大量のデータを正確に素早く処理することは得意で，少ない手がかりをもとに文脈をくみ取りながら推論することは苦手なことです．しかし，我々にとってはその逆で，むしろ後者の方が得意だといえるかもしれません．このAIと我々の違いには，我々のもつ感性が大きく関わっていると考えられます．我々は感性を確かにもっていてそれを大いに発揮することができますが，感性それ自体についてはあまりわかっていません．人間の感性を理解することは，我々の強みを理解することでもありますから，非常に大きな課題であると言えます．
我々の日常生活において印象やイメージといった主観性をもった情報は大きな役割を担っており，人間の感性に合ったプロダクトやサービスの創造が求められています．これからの社会経済活動の様々な場面で，人間の感性を理解し応用することの重要性がさらに増していくと考えられます．この授業では，人文科学・社会科学のアプローチから人間の感性を明らかにする研究方法論について学びます．その基礎として感性の起源や感性の捉え方についての考察を共有した上で，人文科学・社会科学的なアプローチで用いられる研究方法論および研究事例を紹介します．
※「感性の科学α」では「人文科学・社会科学的アプローチ」について焦点をあてます．「情報科学・自然科学的アプローチ」に興味がある場合には「感性の科学β」の受講を勧めます．

授業の到達目標: 感性を明らかにするための人文科学・社会科学の研究方法について理解すること．

事前・事後学習の内容: 事前学修として，授業計画内容に含まれるキーワード・用語について事前に意味を調べてまとめておくこと．
事後学修として，小課題に取り組み授業内容の振り返りおよび実践を行うこと．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ※本科目は、全授業回を村松 慶一が担当します（コーディネーター：松居 辰則）。

第1回：イントロダクション
この授業の説明とともに，感性とは何かについて解説する．

第2回：知性と感性
対の概念として捉えられる知性と感性の違いや，問題解決における感性の役割について解説する．

第3回：感性の起源
感性の進化的起源および感性の捉え方について解説する．

第4回：研究方法と研究事例の紹介1
事例研究という研究方法論について解説を行い，その研究事例を紹介する．

第5回：研究方法と研究事例の紹介2
会話分析という研究方法論について解説を行い，その研究事例を紹介する．

第6回：研究方法と研究事例の紹介3
SD法およびMD法という研究方法論について解説を行い，その研究事例を紹介する．

第7回：研究方法と研究事例の紹介4
質問紙調査という研究方法論について解説を行い，その研究事例を紹介する．

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 60 学期末に出題するレポートから，課題に対する理解および考察の内容を評価する．

平常点評価: 40 毎回出題する小課題から，授業内容の理解度および取り組み態度を評価する．

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010097|01|9S12010097[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	感性の科学β 01		
担 当 教 員	村松 慶一@松居 辰則		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人間的力量科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 以前に，人工知能（AI）の発展によって将来なくなる可能性の高い職業を紹介した論文が話題になりました．その詳細な議論はさておき，少なくともAIが我々の働き方に大きな影響を与えるということは確かです．AIにとっては，大量のデータを正確に素早く処理することは得意で，少ない手がかりをもとに文脈をくみ取りながら推論することは苦手なことです．しかし，我々にとってはその逆で，むしろ後者の方が得意だといえるかもしれません．このAIと我々の違いには，我々のもつ感性が大きく関わっていると考えられます．我々は感性を確かにもっていてそれを大いに発揮することができますが，感性それ自体についてはあまりわかっていません．人間の感性を理解することは，我々の強みを理解することでもありますから，非常に大きな課題であると言えます．
人間の感性に合ったプロダクトやサービスを創り出そうとするときに，ユーザの感性を知りたくなります．さらに，情報システムとして実装しようとすると，客観的な形で感性を理解する必要があります．この授業では，情報科学・自然科学のアプローチから人間の感性を明らかにする研究方法論について学びます．その基礎として感性情報の考え方および情報処理技術についての解説を行った上で，情報科学・自然科学的なアプローチで用いられる研究方法論および研究事例を紹介します．
※「感性の科学β」では「情報科学・自然科学的アプローチ」について焦点をあてます．「人文科学・社会科学的アプローチ」に興味がある場合には「感性の科学α」の受講を勧めます．

授業の到達目標: 感性を明らかにするための情報科学・自然科学の研究方法について理解すること．

事前・事後学習の内容: 事前学修として，授業計画内容に含まれるキーワード・用語について事前に意味を調べてまとめておくこと．
事後学修として，小課題に取り組み授業内容の振り返りおよび実践を行うこと．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ※本科目は、全授業回を村松 慶一が担当します（コーディネーター：松居 辰則）。

第1回：イントロダクション
この授業の説明とともに，感性情報とは何かについて解説する．

第2回：知性と感性
対の概念として捉えられる知性と感性の違いや，ものづくりにおける感性の役割について解説する．

第3回：研究方法と研究事例の紹介1
遺伝的アルゴリズムについて解説を行い，感性に適用した研究事例を紹介する．

第4回：研究方法と研究事例の紹介2
ニューラルネットワークについて解説を行い，感性に適用した研究事例を紹介する．

第5回：AI研究の変遷
人間の感性の理解を志向するに至った人工知能研究の変遷ついて解説する．

第6回：研究方法と研究事例の紹介3
脳機能モデルについて解説を行い，感性に適用した研究事例を紹介する．

第7回：研究方法と研究事例の紹介4
モーション解析について解説を行い，感性に適用した研究事例を紹介する．

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 60 学期末に出題するレポートから，課題に対する理解および考察の内容を評価する．

平常点評価: 40 毎回出題する小課題から，授業内容の理解度および取り組み態度を評価する．

備考・関連URL: 第5回および第7回はゲストスピーカーを予定している．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010097|02|9S12010097[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	感性の科学β 02		
担 当 教 員	村松 慶一@松居 辰則		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人間的力量科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 以前に，人工知能（AI）の発展によって将来なくなる可能性の高い職業を紹介した論文が話題になりました．その詳細な議論はさておき，少なくともAIが我々の働き方に大きな影響を与えるということは確かです．AIにとっては，大量のデータを正確に素早く処理することは得意で，少ない手がかりをもとに文脈をくみ取りながら推論することは苦手なことです．しかし，我々にとってはその逆で，むしろ後者の方が得意だといえるかもしれません．このAIと我々の違いには，我々のもつ感性が大きく関わっていると考えられます．我々は感性を確かにもっていてそれを大いに発揮することができますが，感性それ自体についてはあまりわかっていません．人間の感性を理解することは，我々の強みを理解することでもありますから，非常に大きな課題であると言えます．
人間の感性に合ったプロダクトやサービスを創り出そうとするときに，ユーザの感性を知りたくなります．さらに，情報システムとして実装しようとすると，客観的な形で感性を理解する必要があります．この授業では，情報科学・自然科学のアプローチから人間の感性を明らかにする研究方法論について学びます．その基礎として感性情報の考え方および情報処理技術についての解説を行った上で，情報科学・自然科学的なアプローチで用いられる研究方法論および研究事例を紹介します．
※「感性の科学β」では「情報科学・自然科学的アプローチ」について焦点をあてます．「人文科学・社会科学的アプローチ」に興味がある場合には「感性の科学α」の受講を勧めます．

授業の到達目標: 感性を明らかにするための情報科学・自然科学の研究方法について理解すること．

事前・事後学習の内容: 事前学修として，授業計画内容に含まれるキーワード・用語について事前に意味を調べてまとめておくこと．
事後学修として，小課題に取り組み授業内容の振り返りおよび実践を行うこと．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ※本科目は、全授業回を村松 慶一が担当します（コーディネーター：松居 辰則）。

第1回：イントロダクション
この授業の説明とともに，感性情報とは何かについて解説する．

第2回：知性と感性
対の概念として捉えられる知性と感性の違いや，ものづくりにおける感性の役割について解説する．

第3回：研究方法と研究事例の紹介1
遺伝的アルゴリズムについて解説を行い，感性に適用した研究事例を紹介する．

第4回：研究方法と研究事例の紹介2
ニューラルネットワークについて解説を行い，感性に適用した研究事例を紹介する．

第5回：AI研究の変遷
人間の感性の理解を志向するに至った人工知能研究の変遷ついて解説する．

第6回：研究方法と研究事例の紹介3
脳機能モデルについて解説を行い，感性に適用した研究事例を紹介する．

第7回：研究方法と研究事例の紹介4
モーション解析について解説を行い，感性に適用した研究事例を紹介する．

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 60 学期末に出題するレポートから，課題に対する理解および考察の内容を評価する．

平常点評価: 40 毎回出題する小課題から，授業内容の理解度および取り組み態度を評価する．

備考・関連URL: 第5回および第7回はゲストスピーカーを予定している．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010098|01|9S12010098[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	感性の科学的研究法α O1		
担 当 教 員	村松 慶一		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 我々は感性を確かにもっていてそれを大いに発揮することができますが，感性それ自体についてはあまりわかっていません．つまり，「感情」を表出したり「印象」を感じて意思決定や行動選択を行いますが，そこにあるはずの感性を定量的に捉えることは困難です．しかし，価値の創造に重きを置いたこれからの社会を考えると，人間の感性に対する理解を求められる場面に数多く遭遇すると考えられます．
この授業では，人文科学・社会科学的アプローチのひとつとして心理尺度の構成とそれを用いた調査を実習します．グループワークで調査のテーマを設定した後に，尺度構成の手続きによって作成した心理尺度を用いて調査を行います．さらに，調査の分析結果について授業の最後にプレゼンテーションを行います．
※「感性の科学的研究法α」では「人文科学・社会科学的アプローチ」について焦点をあてます．「情報科学・自然科学的アプローチ」に興味がある場合には「感性の科学的研究法β」の受講を勧めます．

授業の到達目標: 心理尺度を用いた調査を行うことで感性を明らかにする方法について理解すること．

事前・事後学習の内容: 事前学修として，授業計画内容に含まれるキーワード・用語について事前に意味を調べてまとめておくこと．
事後学修として，授業内に行う演習，ワークの振り返りおよび実践を行うこと．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ※本科目は、全授業回を村松 慶一が担当します（コーディネーター：松居 辰則）。

第1回：イントロダクション
この授業の説明とともに，調査テーマについて解説する．

第2回：尺度構成と調査の理論
尺度構成の手続きと理論を解説し，演習を行う．

第3回：調査テーマの発見
社会的課題に対して調査テーマ（仮説）を発見するグループワークを行う．

第4回：尺度構成
設定した仮説の検証に向けて尺度構成のグループワークを行う．

第5回：調査の実施
作成した尺度を用いて調査を実施するグループワークを行う．

第6回：調査結果の分析
調査結果の分析と発表準備のグループワークを行う．

第7回：発表とまとめ
グループごとに調査報告のプレゼンテーションと，授業のまとめを行う．

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 40 学期末に出題するレポートから，課題に対する理解および考察の内容を評価する．

平常点評価: 40 毎回出題する小課題から，授業内容の理解度および取り組み態度を評価する．

その他: 20 プレゼンテーションを総合的に評価する．

備考・関連URL: 遅刻，早退，欠席があった場合には，自ら情報共有を図り次の授業に備えること．
授業の進捗状況により内容が前後することがある．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010098|02|9S12010098[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	感性の科学的研究法α 02		
担 当 教 員	村松 慶一		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 我々は感性を確かにもっていてそれを大いに発揮することができますが，感性それ自体についてはあまりわかっていません．つまり，「感情」を表出したり「印象」を感じて意思決定や行動選択を行いますが，そこにあるはずの感性を定量的に捉えることは困難です．しかし，価値の創造に重きを置いたこれからの社会を考えると，人間の感性に対する理解を求められる場面に数多く遭遇すると考えられます．
この授業では，人文科学・社会科学的アプローチのひとつとして心理尺度の構成とそれを用いた調査を実習します．グループワークで調査のテーマを設定した後に，尺度構成の手続きによって作成した心理尺度を用いて調査を行います．さらに，調査の分析結果について授業の最後にプレゼンテーションを行います．
※「感性の科学的研究法α」では「人文科学・社会科学的アプローチ」について焦点をあてます．「情報科学・自然科学的アプローチ」に興味がある場合には「感性の科学的研究法β」の受講を勧めます．

授業の到達目標: 心理尺度を用いた調査を行うことで感性を明らかにする方法について理解すること．

事前・事後学習の内容: 事前学修として，授業計画内容に含まれるキーワード・用語について事前に意味を調べてまとめておくこと．
事後学修として，授業内に行う演習，ワークの振り返りおよび実践を行うこと．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ※本科目は、全授業回を村松 慶一が担当します（コーディネーター：松居 辰則）。

第1回：イントロダクション
この授業の説明とともに，調査テーマについて解説する．

第2回：尺度構成と調査の理論
尺度構成の手続きと理論を解説し，演習を行う．

第3回：調査テーマの発見
社会的課題に対して調査テーマ（仮説）を発見するグループワークを行う．

第4回：尺度構成
設定した仮説の検証に向けて尺度構成のグループワークを行う．

第5回：調査の実施
作成した尺度を用いて調査を実施するグループワークを行う．

第6回：調査結果の分析
調査結果の分析と発表準備のグループワークを行う．

第7回：発表とまとめ
グループごとに調査報告のプレゼンテーションと，授業のまとめを行う．

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 40 学期末に出題するレポートから，課題に対する理解および考察の内容を評価する．

平常点評価: 40 毎回出題する小課題から，授業内容の理解度および取り組み態度を評価する．

その他: 20 プレゼンテーションを総合的に評価する．

備考・関連URL: 遅刻，早退，欠席があった場合には，自ら情報共有を図り次の授業に備えること．
授業の進捗状況により内容が前後することがある．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010099|01|9S12010099[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	感性の科学的研究法β 01		
担 当 教 員	村松 慶一		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 我々は感性を確かにもっていてそれを大いに発揮することができますが，感性それ自体についてはあまりわかっていません．つまり，「感情」を表出したり「印象」を感じて意思決定や行動選択を行いますが，そこにあるはずの感性を定量的に捉えることは困難です．しかし，価値の創造に重きを置いたこれからの社会を考えると，人間の感性に対する理解を求められる場面に数多く遭遇すると考えられます．
この授業では，情報科学・自然科学的アプローチのひとつとして生体計測（視線計測）の実験とデータ分析を実習します．グループワークで実験のテーマを設定した後に，仮説検証のためにデザインした実験を行います．さらに，実験データの分析結果について授業の最後にプレゼンテーションを行います．
※「感性の科学的研究法β」では「情報科学・自然科学的アプローチ」について焦点をあてます．「人文科学・社会科学的アプローチ」に興味がある場合には「感性の科学的研究法α」の受講を勧めます．

授業の到達目標: 生体計測（視線計測）を行う実験を行うことで感性を明らかにする方法について理解すること．

事前・事後学習の内容: 事前学修として，授業計画内容に含まれるキーワード・用語について事前に意味を調べてまとめておくこと．
事後学修として，授業内に行う演習，ワークの振り返りおよび実践を行うこと．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ※本科目は、全授業回を村松 慶一が担当します（コーディネーター：松居 辰則）。

第1回：イントロダクション
この授業の説明とともに，実験テーマについて解説する．

第2回：尺度構成と調査の理論
生体計測の方法と分析について解説し，演習を行う．

第3回：実験テーマの発見
社会的課題に対して実験テーマ（仮説）を発見するグループワークを行う．

第4回：実験デザイン
設定した仮説の検証に向けて実験デザインのグループワークを行う．

第5回：生体計測実験1
視線計測装置を用いて実験を行う．

第6回：実験データの分析
実験のデータ分析と発表準備のグループワークを行う．

第7回：発表とまとめ
グループごとに実験報告のプレゼンテーションと，授業のまとめを行う．

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	40	学期末に出題するレポートから，課題に対する理解および考察の内容を評価する．
平常点評価:	40	毎回出題する小課題から，授業内容の理解度および取り組み態度を評価する．
その他:	20	プレゼンテーションを総合的に評価する．

備考・関連URL: 遅刻，早退，欠席があった場合には，自ら情報共有を図り次の授業に備えること．
授業の進捗状況により内容が前後することがある．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010099|02|9S12010099[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	感性の科学的研究法β 02		
担 当 教 員	村松 慶一		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 我々は感性を確かにもっていてそれを大いに発揮することができますが，感性それ自体についてはあまりわかっていません．つまり，「感情」を表出したり「印象」を感じて意思決定や行動選択を行いますが，そこにあるはずの感性を定量的に捉えることは困難です．しかし，価値の創造に重きを置いたこれからの社会を考えると，人間の感性に対する理解を求められる場面に数多く遭遇すると考えられます．
この授業では，情報科学・自然科学的アプローチのひとつとして生体計測（視線計測）の実験とデータ分析を実習します．グループワークで実験のテーマを設定した後に，仮説検証のためにデザインした実験を行います．さらに，実験データの分析結果について授業の最後にプレゼンテーションを行います．
※「感性の科学的研究法β」では「情報科学・自然科学的アプローチ」について焦点をあてます．「人文科学・社会科学的アプローチ」に興味がある場合には「感性の科学的研究法α」の受講を勧めます．

授業の到達目標: 生体計測（視線計測）を行う実験を行うことで感性を明らかにする方法について理解すること．

事前・事後学習の内容: 事前学修として，授業計画内容に含まれるキーワード・用語について事前に意味を調べてまとめておくこと．
事後学修として，授業内に行う演習，ワークの振り返りおよび実践を行うこと．

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ※本科目は、全授業回を村松 慶一が担当します（コーディネーター：松居 辰則）。

第1回：イントロダクション
この授業の説明とともに，実験テーマについて解説する．

第2回：尺度構成と調査の理論
生体計測の方法と分析について解説し，演習を行う．

第3回：実験テーマの発見
社会的課題に対して実験テーマ（仮説）を発見するグループワークを行う．

第4回：実験デザイン
設定した仮説の検証に向けて実験デザインのグループワークを行う．

第5回：生体計測実験1
視線計測装置を用いて実験を行う．

第6回：実験データの分析
実験のデータ分析と発表準備のグループワークを行う．

第7回：発表とまとめ
グループごとに実験報告のプレゼンテーションと，授業のまとめを行う．

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	40	学期末に出題するレポートから，課題に対する理解および考察の内容を評価する．
平常点評価:	40	毎回出題する小課題から，授業内容の理解度および取り組み態度を評価する．
その他:	20	プレゼンテーションを総合的に評価する．

備考・関連URL: 遅刻，早退，欠席があった場合には，自ら情報共有を図り次の授業に備えること．
授業の進捗状況により内容が前後することがある．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010100|01|9S12010100[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ボランティアの現場と社会学 α		
担 当 教 員	筒井 久美子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ボランティア活動は、日常の外に出て他者と出会う経験である。その現場は、普段感覚することができない、もやもやした違和感を感覚することができる場所である。本講座では、ボランティア活動の現場やそこで出会う人々の世界を、社会学的視点から考察することで、日常的な見え方や社会福祉学や教育学等によって開かれる視座とは異なる視座を提供する。また、講義を踏まえたうえでディスカッションを行うことで、履修生自身がボランティア活動等によって出会う違和感に言葉を与える一助としたい。
「ボランティアの現場と社会学α」では、「ボランティア」という言説が孕むパラドクス、精神科病院等に代表される「施設」が入所者の「自己」に与える影響、「福祉」を「贈与」として立ち上げようとした全身性障がい者と支援者たちの世界、早大生が出会った「ホームレス」と呼ばれる人びとの世界について、主に社会学的視点から考察を深める。

授業の到達目標: ①ボランティア活動の現場やそこで出会う人々の世界を社会学的な視点から理解する。
②当該領域で出会う問いが、自分自身の切実な問いや、当該領域を超えたより普遍的な問いへ接続していることを学ぶ。
③自分の意見を他者に自分の言葉で説明できるようになると共に、他者の意見を聞くことが出来るようになる。
④自分なりの問いを発見する。

事前・事後学習の内容: 事前学習として授業内容に関連する情報収集を行ことが望ましい。所要時間は1時間程度が望ましい。
事後学習として授業中に提示した課題についてリアクションペーパーに自分自身の言葉で意見を述べる。所要時間は2時間程度が望ましい。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 第1回：オリエンテーション
授業の概要・進め方を理解する。また、社会学者のE・デュルケムを導き手に、社会学は社会を支える「あたりまえ」に逆らい、戸惑わせる見方を可能にすること、社会への違和を出発点として、「比較」「歴史」「実験」「理論」という方法で社会から距離をとり、そこから改めて社会を記述する方法の束であることを理解する。

第2回：「贈与」としてのボランティア
ボランティアという言説は、冷笑と称賛を同時に引き起こす言説である。その原因を「一方的に他者に与える行為」＝「贈与」であるにも関わらず、「一方的な贈与」という表象は必ず否定されるという「贈与のパラドックス」を孕んでいるからであるという仮説をもとに、「贈与のパラドックス」の解決方法の歴史的変遷を紹介する。

第3回：「全制的施設」と「儀礼」
ボランティアの活動場所にもなる「施設」とはどのような場所なのか。社会学者のE・ゴフマンが精神科病院におけるフィールドワークをもとに執筆した書籍をもとに、人びとの「自己」を支える「儀礼」がはぎ取られた世界としての「全制的施設」を紹介する。

第4回：全身性障がい者と介護者たち①
他者を支えようとすること自体が他者を抑圧してしまうという「福祉のパラドックス」。「福祉」の抑圧性を告発しながらも、ただの「サービス」ではなく「福祉の贈与性」にこだわり続けた全身性障がい者がいた。彼の介護者による著書を通して、彼がどのような「福祉」を拒み、どのような「福祉」を立ち上げようとしたのかを紹介する。前半では彼が拒もうとした「福祉」について確認する。

第5回：全身性障がい者と介護者たち②
他者を支えようとすること自体が他者を抑圧してしまうという「福祉のパラドックス」。「福祉」の抑圧性を告発しながらも、ただの「サービス」ではなく「福祉の贈与性」にこだわり続けた全身性障がい者がいた。彼の介護者による著書を通して、彼がどのような「福祉」を拒み、どのような「福祉」を立ち上げようとしたのかを紹介する。後半では彼が立ち上げようとした「福祉」を確認する。

第6回：生きられた路上の現実に出会う①
私たちは「ホームレス」と呼ばれる人びとを「無力な弱者」とイメージしがちである。しかし、出会い方を変えてみると、違った見方が生まれてくる。路上を歩き、そこに生きる人たちの声に耳を傾けることで、路上の生きられた現実を彼らの側から理解し、わたしたちの「アタリマエ」を問い直そうとした早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンターで実際に行われていたボランティアプロジェクトをベースに書かれた書籍を紹介する。前半では路上で生きる人たちと出会った大学生のレポートを紹介する。

第7回：生きられた路上の現実に出会う②・まとめ
私たちは「ホームレス」と呼ばれる人びとを「無力な弱者」とイメージしがちである。しかし、出会い方を変えてみると、違った見方が生まれてくる。路上を歩き、そこに生きる人たちの声に耳を傾けることで、路上の生きられた現実を彼らの側から理解し、わたしたちの「アタリマエ」を問い直そうとした早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンターで実際に行われていたボランティアプロジェクトをベースに書かれた書籍を紹介する。後半では、路上で生きる人たちと出会うことで、わたしたちの「アタリマエ」がどのように問い直されたのかを考察する。
最後に7回の授業のまとめを行う。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　指定しない。

参考文献：　デュルケム,E.,1895=1978、『社会学的方法の規準』岩波書店。
深田耕一郎、2013、『福祉と贈与――全身性障害者・新田勲と介護者たち』生活書院。
ゴフマン,E., 1961=1984、石黒毅訳、『アサイラム：施設被収容者の日常世界 』誠信書房。
仁平典宏、2011、『「ボランティア」の誕生と終焉』名古屋大学出版会。
二文字屋脩、2022、『トーキョーサバイバー』うつつ堂。
奥村隆編、1997、『社会学になにができるか』八千代出版。
奥村隆、2013、『反コミュニケーション』弘文堂。
その他を適宜紹介する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	0	試験は実施しない。
レポート：	30	最終レポートを6月上旬までに提出してもらう。授業における学習を踏まえ、自身が設定した研究課題について、オリジナルな考察がなされているかを評価する。
平常点評価：	70	ディスカッションへの参加や寄与、リアクションペーパーなどを総合的に評価する。
その他：	0	特になし。

備考・関連URL：　授業の冒頭でリアクションペーパーへのフィードバックを行う。
本科目は副専攻「社会貢献とボランティア」の選択科目である。
本科目は副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目である。
本科目は平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）の提供科目である。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010101|01|9S12010101[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ボランティアの現場と社会学 β		
担 当 教 員	筒井 久美子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: ボランティア活動は、日常の外に出て他者と出会う経験である。その現場は、普段感覚することができない、もやもやした違和感を感覚することができる場所である。本講座では、ボランティア活動の現場やそこで出会う人々の世界を、社会学的視点から考察することで、日常的な見え方や社会福祉学や教育学等によって開かれる視座とは異なる視座を提供する。また、講義を踏まえたうえでディスカッションを行うことで、履修生自身がボランティア活動等によって出会う違和感に言葉を与える一助としたい。「ボランティアの現場と社会学β」では、「当事者」の世界に「身体」や「外見」という視角からフォーカスする。具体的には、加齢により頭髪が少なくなるという「外見のままならなさ」を抱えた男性たち、色素を持たないアルビノの人びと、病により自らが身体障がい者になっていくプロセスを記録し続けた人類学者を扱い、社会の中でかれらが出会った問題やその問題を通して見えてくる私たちが生きる社会の在り方について考える。

授業の到達目標: ①ボランティア活動の現場やそこで出会う人々の世界を社会学的な視点から理解する。
②当該領域で出会う問いが、自分自身の切実な問いや、当該領域を超えたより普遍的な問いへ接続していることを学ぶ。
③自分の意見を他者に自分の言葉で説明できるようになると共に、他者の意見を聞くことが出来るようになる。
④自分なりの問いを発見する。

事前・事後学習の内容: 事前学習として授業内容に関連する情報収集を行ことが望ましい。所要時間は1時間程度が望ましい。
事後学習として授業中に提示した課題についてリアクションペーパーに自分自身の言葉で意見を述べる。所要時間は2時間程度が望ましい。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 第1回：オリエンテーション
授業の概要・進め方を理解する。また、社会学者のE・デュルケムを導き手に、社会学は社会を支える「あたりまえ」に逆らい、戸惑わせる見方を可能にすること、社会への違和を出発点として、「比較」「歴史」「実験」「理論」という方法で社会から距離をとり、そこから改めて社会を記述する方法の束であることを理解する。

第2回：加齢と「ままならない」身体①
外見（身体）は、ジェンダーの提示において非常に重要な情報源である一方で、ままならないものである。今回は、男性の加齢による「ハゲ」という「外見のままならなさ」を取り上げ、「男らしさ」の提示の危機を自他がいかに扱っているのかを考察する。前半となる今回は、「ハゲ」が人びとの相互行為の中で作られる社会的現象であることを示した上で、「フィクションとしての女性の目」という概念を導入し、その利用のされ方や相互行為にもたらす影響を考察する。

第3回：加齢と「ままならない」身体②
外見（身体）はジェンダーの提示において非常に重要な情報源である一方で、ままならないものである。今回は、男性の加齢による「ハゲ」という「外見のままならなさ」を取り上げ、「男らしさ」の提示の危機を自他がいかに扱っているのかを考察する。後半となる今回は、「ハゲ」をめぐる典型的な相互行為である男性同士のからかいに焦点を当て、その背後に隠された「人格のテスト」という意味付けについて考察する。

第4回：「どうすれば私は納得できるのか」――アルビノ当事者研究①
従来のアルビノ研究への違和感から社会学の力を借りて「どうすれば私は納得できるのか」という問いに迫った当事者研究を紹介する。今回はアルビノ当事者である筆者のライフストーリーを紹介し、冒頭の問いの設定にいたった経緯を確認する。

第5回：「どうすれば私は納得できるのか」――アルビノ当事者研究②
従来のアルビノ研究への違和感から社会学の力を借りて「どうすれば私は納得できるのか」という問いに迫った当事者研究を紹介する。今回は、当事者へのライフストーリーインタビューを通じて、「がんばれない人」も含めて誰も否定・抑圧しないあり方を模索し、筆者が冒頭の問いにどのような答えを与えたのか明らかにする。

第6回：身体障がいの「フィールド・トリップ」①
脊髄の腫瘍によって自分自身の身体が動かなくなっていく過程を「フィールド・トリップ」と位置づけ記述した人類学

者による記録を紹介する。今回は、身体障がい者になっていくとはどのような経験なのかについて紹介する。

第7回：身体障がいの「フィールド・トリップ」②・まとめ
脊髄の腫瘍によって自分自身の身体が動かなくなっていく過程を「フィールド・トリップ」と位置づけ記述した人類学者による記録を紹介する。今回は、この記録を通じて、私たちが生きる社会が囚われている価値観を明らかにする。
最後に7回の授業のまとめを行う。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　指定しない。

参考文献：　デュルケム,E, 1895=1978、『社会学的方法の規準』岩波書店。
マーフィー, ロバート・F., 1987＝1992、辻信一訳、『ボディ・サイレント――病いと障害の人類学』新宿書房。
須長史生、1999、『ハゲを生きる――外見と男らしさの社会学』勁草書房。
奥村隆編、1997、『社会学になにができるか』八千代出版。
矢吹康夫、2017、『私がアルビノについて調べて考えて書いた本――当事者から始める社会学』生活書院。
その他を適宜紹介する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　試験は実施しない。

レポート：　30　最終レポートを1月下旬までに提出してもらう。授業における学習を踏まえ、自身が設定した研究課題について、オリジナルな考察がなされているかを評価する。

平常点評価：　70　ディスカッションへの参加や寄与、リアクションペーパーなどを総合的に評価する。

その他：　0　特になし。

備考・関連URL：　授業の冒頭でリアクションペーパーへのフィードバックを行う。
本科目は副専攻「社会貢献とボランティア」の選択科目である。
本科目は副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目である。
本科目は平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）の提供科目である。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010102|01|9S12010102[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	経験の地平から学ぶ東日本大震災と社会貢献 1		
担 当 教 員	筒井 久美子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

2011年3月11日の東日本大震災後、さまざまな個人・団体が災害ボランティア活動や復興支援活動といった社会貢献活動を開始した。発災から15年が経過した今、多くの活動は終息し、東日本大震災はその教訓をいかにして防災・減災に生かすかという視点から語られることが多くなっている。しかし、東日本大震災が開いた問いは「防災・減災」のみではなかったのではないか。この授業では、東日本大震災を経験した人々や東日本大震災に伴う活動に従事した人々の経験の地平に立ち、社会学の視点からいくつかの問いをピックアップして紹介し、履修者と共にディスカッションを行いたい。本授業で取り上げる問いの中には、学生の皆さんが直面する問いと重なるものもあるのではないだろうか。皆さんの経験も踏まえながら、これらの問いを丁寧に問うための準備を行いたい。
「経験の地平から学ぶ東日本大震災と社会貢献1」では、東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県陸前高田市の被災状況を確認した上で、「家」や「学校」などをトピックスとして扱うと共に、ゲストスピーカーをお招きして経験談を伺う。

授業の到達目標:

①東日本大震災をめぐる多様な問題を理解する。
②当該領域で出合う問いが、自分自身の切実な問いや、当該領域を超えたより普遍的な問いへ接続していることを学ぶ。
③自分の意見を他者に自分の言葉で説明できるようになると共に、他者の意見を聞くことが出来るようになる。
④自分なりの問いを発見する。

事前・事後学習の内容:

事前学習として授業内容に関連する情報収集を行ことが望ましい。所要時間は1時間程度が望ましい。
事後学習として授業中に提示した課題についてリアクションペーパーに自分自身の言葉で意見を述べる。所要時間は2時間程度が望ましい。

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回:オリエンテーション
授業の概要・進め方を理解する。
講師を知る。

第2回:東日本大震災による被災状況
甚大な津波被害を受けた岩手県陸前高田市を事例に東日本大震災の被災状況を理解する。陸前高田市や東日本大震災の基本情報をおさえた上で、東日本大震災当日の状況、その後の復興過程を確認する。

第3回:「家」をめぐる問題
東日本大震災による津波で多くの人々が「家」を失った。震災直後から自ら森で木を伐り、自分の家を建て直した「きこり」を追ったドキュメンタリー映画やその作品の監督の経験を通して、「家」とは何かを考える。

第4回:地元新聞社の経験を聞く
東日本大震災発生後、地元新聞社では自ら被災した人もいる中で、地元住民に必要な情報を届け続けた。その後も震災をどのように伝えるのか、被災した人々とどのように向き合うのか、考え続けている。今回は、地元新聞社の方をゲストスピーカーとしてお招きし、震災前から現在に至るまでのご自身の経験、そして、新聞社の一員としての経験についてお話いただく。

第5回:「学校」をめぐる問題①
東日本大震災後に発生した津波は学校の校舎や体育館に被害を与え、生徒や教師が亡くなったり、家や家族を失ったりして、学校生活も大きく変化した。このような状況下、学校はどのように作り直されていくのか。学校の中に「震災」はどのように織り込まれていくのか。まずは震災前から進んでいた中学校統合計画や学校の被災状況を確認する。

第6回:「移住」の経験を聞く
震災後、多くの人々が災害ボランティア活動や復興支援活動に従事し、中には活動していた地域に移り住む人もいた。今回は、大学時代にボランティアとして陸前高田市を訪れ、その後、同市に移住するという生き方を選択した方をゲストスピーカーとしてお招きし、ご自身の経験をお話い
ただく。

第7回:「学校」をめぐる問題②
東日本大震災後に発生した津波は学校の校舎や体育館に被害を与え、生徒や教師が亡くなったり、家や家族を失ったりして、学校生活も大きく変化した。このような状況下、学校はどのように作り直されていくのか。学校の中に「震災」はどのように織り込まれていくのか。今回は〈震災からの自由〉／〈震災への自由〉という枠組みを導入し、教師や生徒らの取り組みについて、社会学者による学校への参与観察の報告をもとに考える。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定しない。

参考文献: 池谷薫監督、2013、『先祖になる』(製作・配給 蓮ユニバース)
宮城孝・山本俊哉・神谷秀美、2020、『仮設住宅その10年――陸前高田における被災者の暮らし』御茶の水書房。
陸前高田市、2014、『陸前高田市東日本大震災検証報告書』。
清水睦美・堀健志・松田洋介編著、2013、『「復興」と学校――被災地のエスノグラフィー』岩波書店。
清水睦美・妹尾渉・日下田岳史・堀健志・松田洋介・山本宏樹、2020、『震災と学校のエスノグラフィー――近代教育システムの慣性と摩擦』勁草書房。
その他を適宜紹介する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 0 試験は実施しない。

レポート: 30 最終レポートを6月上旬までに提出してもらう。授業における学習を踏まえ、自身が設定した研究課題について、オリジナルな考察がなされているかを評価する。

平常点評価: 70 ディスカッションへの参加や寄与、リアクションペーパーなどを総合的に評価する。

その他: 0 特になし。

備考・関連URL: 授業の冒頭でリアクションペーパーへのフィードバックを行う。

本科目は副専攻「社会貢献とボランティア」の選択科目である。
本科目は副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目である。

本科目は平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)の提供科目である。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010103|01|9S12010103[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	経験の地平から学ぶ東日本大震災と社会貢献 2		
担 当 教 員	筒井 久美子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

2011年3月11日の東日本大震災後、さまざまな個人・団体が災害ボランティア活動や復興支援活動といった社会貢献活動を開始した。発災から15年が経過した今、多くの活動は終息し、東日本大震災はその教訓をいかにして防災・減災に生かすかという視点から語られることが多くなっている。しかし、東日本大震災が開いた問いは「防災・減災」のみではなかったのではないか。この授業では、東日本大震災を経験した人々や東日本大震災に伴う活動に従事した人々の経験の地平に立ち、社会学の視点からいくつかの問いをピックアップして紹介し、履修者と共にディスカッションを行いたい。本授業で取り上げる問いの中には、学生の皆さんが直面する問いと重なるものもあるのではないだろうか。皆さんの経験も踏まえながら、これらの問いを丁寧に問うための準備を行いたい。
「経験の地平から学ぶ東日本大震災と社会貢献1」では、岩手県陸前高田市の事例を取り上げたが、「2」では、ゲストスピーカーの方から経験談を伺うほか、震災後に作られた小説や映像作品を通して東日本大震災が開いた問いについて考察を深めていく。

授業の到達目標:

①東日本大震災をめぐる多様な問題を理解する。
②当該領域で出合う問いが、自分自身の切実な問いや、当該領域を超えたより普遍的な問いへ接続していることを学ぶ。
③自分の意見を他者に自分の言葉で説明できるようになると共に、他者の意見を聞くことが出来るようになる。
④自分なりの問いを発見する。

事前・事後学習の内容:

事前学習として授業内容に関連する情報収集を行ことが望ましい。所要時間は1時間程度が望ましい。
事後学習として授業中に提示した課題についてリアクションペーパーに自分自身の言葉で意見を述べる。所要時間は2時間程度が望ましい。

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回:オリエンテーション
授業の概要・進め方を理解する。

第2回:「避難」の経験を聞く
東日本大震災後に発生した福島第一原子力発電所の事故により、多くの人々が避難を余儀なくされた。今回は福島県からの避難を経験された方をゲストスピーカーとしてお招きして、震災前から現在に至るまでの経験をお話いただく。

第3回:「痛み」をめぐる問題①
東日本大震災は多くの人に「痛み」をもたらした。人びとは自分自身の「痛み」、そして決して共有することは出来ない他者の「痛み」とどのように向き合おうとしたのか。震災から10年の間に多くの作品が執筆・制作されてきたが、今回はそのような作品の1つを取り上げる。作品の背景説明も交えながら、「痛み」の共有不可能性との向き合い方について考える。

第4回:「痛み」をめぐる問題②
東日本大震災は家や家族を失ったのか否か、津波を見たのか否か、地域にいたのか否かといった多様な立場をもたらし、多様な「痛み」を生じさせた。前回に引き続き東日本大震災を扱った作品を取り上げることで、「痛み」の多様性を理解すると共に、その作品において、「痛み」の多様性がもたらした分断はどのように乗り越えうるのかについて考察する。

第5回:「こども」の経験を聞く
東日本大震災から10年以上が経過し、子ども時代に被災を経験した方が自身の経験を語ることが出来る年齢になっている。今回は、岩手県陸前高田市出身で発災当時に小学生だった方をゲストスピーカーとしてお招きし、震災前から現在に至るまでの経験をお話いただく。

第6回:「こども」をめぐる問題
今回は家や家族に被害を受けなかった人びとに焦点を当てる。被災した地域に暮らす人々には「被災者」イメージを押し付けられることがある。他方で、そのイメージに同一化しようとしてしまうこともある。今回は震災により現れた「希望の子ども」というイメージと当時の子どもたちとの葛藤を描いた作品を取り上げ、作品の中で子どもたちが

どのようにそのイメージと向き合っていくのかを考察する。

第7回:「継承」をめぐる問題
東日本大震災は発災から10年以上が経過し、何をどのように継承していくかが課題となっている。今回は被災した地域における経験の継承の取り組みを確認した上で、広島で被爆経験を聞き取り絵を描くという方法で経験を継承する高校生の取り組みを事例として紹介し、経験の継承の在り方について考える。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定しない。

参考文献: 安達奈緒子作、2021年放送、NHK連続テレビ小説『おかえりモネ』。
蘭信三・小倉康嗣・今野日出晴編、2021、『なぜ戦争体験を継承するのか ポスト体験時代の歴史実践』みずき書林。
くどうれいん、2021、『氷柱の声』講談社。
熊谷晋一郎・大澤真幸、2011、「痛みの記憶／記憶の痛み――痛みでつながるとはどういうことか」『現代思想』2011.8月号。
その他を適宜紹介する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験: 0 試験は実施しない。

レポート: 30 最終レポートを7月下旬までに提出してもらう。授業における学習を踏まえ、自身が設定した研究課題について、オリジナルな考察がなされているかを評価する。

平常点評価: 70 ディスカッションへの参加や寄与、リアクションペーパーなどを総合的に評価する。

その他: 0 特になし。

備考・関連URL: 授業の冒頭でリアクションペーパーへのフィードバックを行う。
本科目は副専攻「社会貢献とボランティア」の選択科目である。
本科目は副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目である。
本科目は平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)の提供科目である。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010105|01|9S12010105[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	地域貢献論		
担 当 教 員	加藤 基樹		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（地域連携）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: この講義では、地域貢献の理論や実践について学びながら、地域社会の発展と持続可能性について考察し、地域社会の課題やニーズを理解するためのフレームワークや手法を学びます。具体的には、地域課題へのアプローチを学び、さらに、大学・文化・環境について説明した上で、地域貢献の一形態である地域イベントの企画と実施についても考えます。講義科目ですが、ペアワーク、グループディスカッションなども取り入りますので、積極的に参加してください。

授業の到達目標: ・地域社会の課題やニーズを深く理解し、持続可能性の観点から地域の発展に寄与するフレームワークや手法を習得します。
・地域課題への取り組み方を学びつつ、大学、文化、環境等の要素との関連性を理解し、これらを融合させた地域貢献の形を模索する能力を養成します。
・ 地域貢献としてのイベント企画の重要性を認識し、実際のイベントを企画・実施する際の考え方や手法を習得します。

事前・事後学習の内容: ・授業後には毎回の課題にしっかり取り組んでください。
・説明した内容は、理解したものとして授業を進めるので、毎回の復習を大事にしてください。
・予習の指示があった場合は、しっかり対応してください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 地域貢献論の概要と目的
オリエンテーションとして、授業の概要と目的を説明します。また、地域貢献の主体について考えます。

第2回 地域のニーズと社会課題の分析
地域に貢献するには、地域のニーズや課題を把握して、これを分析した上での実践になります。そこで、地域課題の捉え方について考えます。

第3回 大学の地域貢献
大学の社会的責任と地域社会への役割をその経過とともに確認し、本学の地域連携ワークショップなど、地域との協働プロジェクトや研究活動の例を見ていきます。また、学生ボランティア活動と地域連携についても触れます。

第4回 地域の文化と伝統の保護と活性化
文化・伝統の価値とその意義について確認し、その保護についても考えながら、地域文化・伝統を活用した観光資源の創出について事例とともに見ていきます。

第5回 地域環境保護と持続可能な開発
地域の課題に対応するときに、環境や開発の問題をどのように考えたらよいのか、という点に直面することがあります。そのため、持続可能な開発について確認し、地域資源の有効活用と循環型経済について述べます。

第6回 地域イベントの企画と実施
地域課題の解決＝地域貢献と考えたときに、地域でイベントを実施することがあります。B級グルメ大会などのイベントだけでなく、地域イベントの企画と実施について事例を見ながら、地域貢献について考えます。

第7回 まとめ
これまでの講義のまとめを行います。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定しない。

参考文献: 講義内で紹介する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	実施しない。
レポート:	40	期末レポート
平常点評価:	60	毎回の授業課題の提出とその内容
その他:	0	なし
備考・関連URL:	全学副専攻「地域連携・地域貢献」のコア科目です。 https://www.waseda.jp/inst/gec/assets/uploads/2025/08/301d43910c1f088b6e42b3230ac93ae8.pdf#page=50 不明な点は、担当教員に問い合わせて下さい。 motokato@waseda.jp	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010106|01|9S12010106[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	地域資源活用論 1		
担 当 教 員	加藤 基樹		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（地域連携）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 地域連携・地域貢献において、地域活性化に取り組むことは比較的多いですが、その場合、既存の地域資源に着目し、または、地域資源を発掘、再発見して、それらを活用することが重要になります。そこで、この講義では、まず地域資源の種類や特性について確認し、さらに、SDGs、観光、空き家問題等について考え、「因果ループ図」を使ってシステムとして理解する方策ついても学びます。ペアワーク、グループディスカッションなども取り入りますので、積極的に参加してください。なお、冬クォーター科目「地域資源活用論2」と合わせて完結するように設計しているので、そちらも履修することをおすすめします。

授業の到達目標: ・地域の独自性や地域資源の内容を理解します。
・具体的な地域の課題や地域資源の状況を見ながら、それを基に地域振興の戦略やプランを策定するスキルを身につけます。

事前・事後学習の内容: ・授業後には毎回の課題にしっかり取り組んでください。
・説明した内容は、理解したものとして授業を進めるので、毎回の復習を大事にしてください。
・予習の指示があった場合は、しっかり対応してください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 地域資源活用論の概要と目的、地域ブランド化

オリエンテーションとして、この授業の概要と目的について説明します。また、地域のブランド化の定義やその方策について履修者の考えを聞きながら進めます。

第2回 地域農業と食の資源の活用、食の安全と表示

地域に展開する農業と地域資源としての食について考えます。特に、有機農業と農薬・化学肥料の問題、地理的表示の制度から、食の安全と表示について説明します。

第3回 持続型社会構築の展開とSDGs

SDGsと地域の関係を地域資源とその活用という点から説明します。具体的には、ローマクラブの「成長の限界」から、京都議定書、パリ協定をへて、最新のCOP、また、MDGs、SDGsへの展開を確認します。

第4回 観光のまちづくり

まちづくりにおける観光戦略と、地域固有の観光資源のあり方について考えます。また、持続可能な観光（サステナブルツーリズム）や観光振興のための地域内振興についても、事例を見ながら説明します。

第5回 消費者が求めるものとは（ゲスト講義）

地域資源を活用した商品やサービスを提供する側としては、どのようなことを考えたら良いか。専門家であるゲスト講師から学びます。

第6回 空き家問題の実態と対応

空き家増加の背景と社会的影響、特に、老朽化や犯罪発生などの地域リスクについて確認した上で、空き家対策特別措置法、空き家バンクの実態について見ていきます。また具体的なリノベーション事例についても触れます。

第7回 地域をシステムとして理解する

全体像を把握するアプローチの1つとして「因果ループ図」があります。この基本的な概念と作成方法について説明した上で、地域資源の最適な活用策について考えます。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定しない。

参考文献: 講義内で紹介する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 実施しない。

レポート:	40	期末レポート
平常点評価:	60	毎回の授業課題
その他:	0	なし

備考・関連URL: 全学副専攻「地域連携・地域貢献」のコア科目です。
https://www.waseda.jp/inst/gec/assets/uploads/2025/08/301d43910c1f088b6e42b3230ac93ae8.pdf#page=50

不明な点は、担当教員に問い合わせて下さい。
motokato@waseda.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010107|01|9S12010107[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	地域資源活用論 2		
担 当 教 員	加藤 基樹		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（地域連携）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「地域資源活用論1」を踏まえて、地域資源の活用に焦点を当て、地域観光の開発やプロモーション、教育、文化遺産、地域産業において、地域資源をどのように活かすか、について事例も交えて説明していきます。
さらに、PPP（Public Private Partnership）やPFI（Private Finance Initiative）などによる公民連携のまちづくり、ソーシャルイノベーションについても学びます。グループディスカッションなども取り入りますので、積極的に参加してください。

授業の到達目標: ・地域資源の持続的な活用方法を学び、地域住民やステークホルダーとの協力のもと、資源を最大限に活かす取り組みを実践できる能力を養います。
・地域の魅力や資源を活用した企画を提案できるようになることを目指します。

事前・事後学習の内容: ・授業後には毎回の課題にしっかり取り組んでください。
・説明した内容は、理解したものとして授業を進めるので、毎回の復習を大事にしてください。
・予習の指示があった場合は、しっかり対応してください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 地域資源と地域コミュニティ
地域資源がコミュニティの経済的、社会的、文化的側面にどのように寄与するかを探ります。

第2回 地域教育と地域資源の連携
地域教育の重要性とその目的、学校と地域コミュニティの協働の実態について確認し、地域資源を活用した教育プログラムの事例を見ます。

第3回 地域文化遺産の保護と活性化
地域の人口が減少していく中で、地域の文化遺産が失われています。この回では文化遺産について、その保護の法的枠組みと政策、地域住民との連携による文化遺産の保存、保護と活用のバランスについて考えます。

第4回 地域産業と地域資源の連携戦略
地域資源を活用した地域産業について、商品開発、地域ブランド、地域商社とその機能などに着目して、具体例を示しながら説明します。

第5回 公民連携のまちづくり
PPPやPFIなど公民連携の基本概念を確認した上で、地域資源を活用した公民連携のまちづくりの事例とその効果、課題について説明します。

第6回 ソーシャルイノベーション
ソーシャルイノベーションとは何か。地域資源を活用したソーシャルイノベーションの事例を示しながら、地域社会の持続可能性と課題・展望について考えます。

第7回 まとめ
これまでの授業のまとめを行います。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定しない。

参考文献: 講義内で紹介する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 実施しない。

レポート: 40 期末レポート

平常点評価:	60	毎回の授業課題の提出とその内容
その他:	0	なし

備考・関連URL: 全学副専攻「地域連携・地域貢献」のコア科目です。
https://www.waseda.jp/inst/gec/assets/uploads/2025/08/301d43910c1f088b6e42b3230ac93ae8.pdf#page=50

不明な点は、担当教員に問い合わせて下さい。
motokato@waseda.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010108|01|9S12010108[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	地域連携実践論		
担 当 教 員	加藤 基樹		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（地域連携）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 地域連携プログラムに参加して、地域連携・地域貢献を実践することには大きな意味がありますが、地域連携・地域貢献の形態は様々です。では、自分が主体的に地域連携に取り組む場合には、何をどのように進めたらよいでしょうか。
本講義では、現地調査やインタビュー、データ収集・分析などを通じて、地域のニーズを把握し、課題解決のための戦略を立案します。講義科目ですが、グループディスカッションなども取り入りますので、積極的に参加してください。

授業の到達目標: ・現地調査、インタビュー、データ収集と分析を通じて、地域の実際の課題やニーズを正確に理解する能力を習得します。
・地域のニーズを基に、具体的な課題解決のための戦略や提案を立案する思考力を養成します。
・講義内での内容を実際の場面で適用することの重要性を認識し、理論だけでなく実践的な視点からも学びを深める能力を培います。

事前・事後学習の内容: ・授業後には毎回の課題にしっかり取り組んでください。
・説明した内容は、理解したものとして授業を進めるので、毎回の復習を大事にしてください。
・予習の指示があった場合は、しっかり対応してください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 授業の概要と目的
オリエンテーションとして、授業の概要と目的について説明します。

第2回 フィールドワーク実践のポイント
地域連携において、実際に現地を訪問して調査等を行うフィールドワークは非常に重要です。この回ではフィールドワークの計画、仮説の立て方、アポイントメントの取り方、聞き取り調査の方法など、フィールドワーク実践のポイントを整理して説明します。

第3回 フィールドワークとデータ収集・データと分析について
フィールドワークの目的は多くの場合、データの収集にあります。では、地域連携のフィールドワークにおいてどのような・どのようにデータを収集したらよいでしょうか。目的や手段に分けながら、具体的に説明します。また、フィールドワークによって収集されたデータをどのように分析するか、また、それによって何がわかるのか。定量データと定性データに分けて、基礎的な統計的手法に触れながら説明します。

第4回 プレゼンテーションについて
地域連携において、提案等のプレゼンテーションは非常に重要です。ここでは、プレゼンテーションのやり方について、実践に活かせるように説明します。

第5回 大学の地域連携実践（ゲスト講義）
ゲスト講師より、大学の地域連携の実態のほか、地域連携を実践するときのポイントについても学びます。

第6回 地域課題について考える 課題解決へのアプローチ
地域課題を解決するのにヒントになる手法について学びます。

第7回 まとめ
これまでの講義のまとめて、地域連携実践論について総括します。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定しない。

参考文献: 講義内で紹介する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 実施しない。

レポート:	40	期末レポート
平常点評価:	60	毎回の授業の課題提出とその内容
その他:	0	なし

備考・関連URL: 全学副専攻「地域連携・地域貢献」のコア科目です。
https://www.waseda.jp/inst/gec/assets/uploads/2025/08/301d43910c1f088b6e42b3230ac93ae8.pdf#page=50

講義に必要な内容の関係で、「農とSDGs（研究と実践のために）A/B」（社会科学部設置全学オープン科目）のオンデマンド授業と一部重複します。了解の上、履修登録してください。

不明な点は、担当教員に問い合わせて下さい。
motokato@waseda.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010109|01|9S12010109[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	農山漁村地域システム論 1		
担 当 教 員	加藤 基樹		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（地域連携）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 地域連携・地域貢献を実践するにあたって、その地域の具体的な事情や特徴について事前に学ぶことは必須ですが、さらに地域をシステムとして理解していることは重要です。とくに、農山漁村地域の人口は全国の4割弱、面積は約8割となっており、本学学生の地域連携・地域貢献の対象としても、この農山漁村地域が多いのではないでしょうか。
そこで、本講義では、農山漁村地域とそのシステムについて学びます。そのために、まず現在の日本の農山村社会がどのような過程のもとに成り立っているかを確認した上で、主要な農業政策と、6次産業化・RMOについて説明します。
なお、夏クォーター「農山漁村地域システム論2」と合わせて完結するように設計しているので、こちらも履修することをおすすめします。

授業の到達目標: ・農山漁村地域の形成と過程を理解します。
・農業政策とその影響を把握します。
・6次産業化・RMOの概念を理解し、地域連携・貢献の実践に繋げます。

事前・事後学習の内容: ・授業後には毎回の課題にしっかり取り組んでください。
・説明した内容は、理解したものとして授業を進めるので、毎回の復習を大事にしてください。
・予習の指示があった場合は、しっかり対応してください。″

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 日本農業の現状と中山間地域の課題
日本農業の現状について確認した上で、地域の見方、用語の定義、中山間地域の課題を整理します。

第2回 農山村社会の成り立ち1
農山漁村地域の現状を理解するために、その社会の成り立ちを土地利用、農業、農村での生活など変化や経過を含めて、江戸時代から学びます。

第3回 農山村社会の成り立ち2
農山漁村地域の現状を理解するために、その社会の成り立ちを明治以降から学びます。地租改正による土地の私的所有、山林原野の利用と所有の関係、新旧財産区や地縁団体についても言及します。

第4回 地名と市町村合併の歴史
地域にとって地名は非常に重要です。戦後、わが国は3度の市町村大合併を経験していますが、これによって、行政と市町村名がどのように変化してきたか、そのことが、人々の生活にどのような影響を与えたかについて説明します。

第5回 農業政策の展開（ゲスト講義）
農山漁村は、当然のことながら、政策に大きな影響を受けてきました。その展開を戦後の生産促進、食糧管理制度、減反政策、基本法農政から、現在のみどり戦略にかけて説明します。

第6回 6次産業化と農業・農村
6次産業化の内容と、日本各地での取り組み、その実例を見ながら、地域活性化や農山漁村地域システムにおいて大きな役割を果たしている6次産業化について具体的に考えていきます。

第7回 農村型地域運営組織（農村RMO）の形成
人口減少と高齢化に直面している農山漁村をどのように維持管理していったらよいか、現在のRMOのシステムと実態から考えていきます。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定しない。

参考文献: 講義内で紹介する。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	実施しない
レポート:	40	期末レポート
平常点評価:	60	毎回の授業課題の提出とその内容
その他:	0	なし

備考・関連URL: 全学副専攻「地域連携・地域貢献」のコア科目です。
https://www.waseda.jp/inst/gec/assets/uploads/2025/08/301d43910c1f088b6e42b3230ac93ae8.pdf#page=50

不明な点は、担当教員に問い合わせて下さい。
motokato@waseda.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010110|01|9S12010110[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	農山漁村地域システム論 2		
担 当 教 員	加藤 基樹		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（地域連携）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「農山漁村地域システム論1」で確認した全体像をもとに、これらの地域で大きな役割を果たしている協同組合と土地改良区について学びます。
さらに各論的に、「中山間地域農業・林業地域」「畜産農業地域」「漁村地域」「北海道大規模農業地域」について、それぞれ事例を示しながら説明していきます。

授業の到達目標: ・協同組合と土地改良区の役割と機能を理解します。
・事例を通じて地域による特性の違いを理解します。
・地域開発と持続可能性の視点を強化します。

事前・事後学習の内容: ・授業後には毎回の課題にしっかり取り組んでください。
・説明した内容は、理解したものとして授業を進めるので、毎回の復習を大事にしてください。
・予習の指示があった場合は、しっかり対応してください。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 地域における協同組合の役割

地域で様々な役割を果たしている協同組合について、その原理と歴史を確認した上で、農業協同組合、漁業協同組合、森林組合の機能について、具体例を見ながら学びます。

第2回 地域における土地改良区の役割（ゲスト講義）

一般にはほどんど知られていませんが、土地改良区は現在、全国で4,000以上設立されており、農業基盤整備やその維持管理について大きな役割を果たしています。ここでは、具体例を見ながら、その役割について学びます。

第3回 様々な地域の姿1（中山間地域農業・林業地域）

中山間地域と林業地域について、その農業生産構造と地域コミュニティ、林業の重要性とその現状、地域資源の活用と持続可能性の課題等について説明します。

第4回 様々な地域の姿2（畜産農業地域）

畜産農業地域について、日本の畜産農業の地域的特性と分布、畜産製品の価格動向と畜産ブランドと付加価値戦略、畜産業の環境問題などについて、事例を見ながら説明します。

第5回 様々な地域の姿3（漁村地域）

漁業についての基本的な点にも触れながら、主要な漁獲資源の持続可能性と資源管理の課題、漁村地域の地域ブランドと新たな市場戦略などについて説明します。

第6回 様々な地域の姿4（北海道大規模農業地域）

北海道農業は、都府県の農業とその構造が大きく異なります。北海道の地理的・気候的特性と主要作物の状況、大規模農業の背景とメリット・デメリット、北海道独特の農業インフラと機械化の進展、法人化と雇用形態などについてここで取り上げます。

第7回 まとめ

これまでの授業をまとめて、農山漁村地域システム論を総括します。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定しない。

参考文献: 講義内で紹介する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 実施しない。

レポート: 40 期末レポート

平常点評価:	60	毎回の授業課題の提出とその内容
その他:	0	なし

備考・関連URL: 全学副専攻「地域連携・地域貢献」のコア科目です。
https://www.waseda.jp/inst/gec/assets/uploads/2025/08/301d43910c1f088b6e42b3230ac93ae8.pdf#page=50

不明な点は、担当教員に問い合わせて下さい。
motokato@waseda.jp

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010111|01|9S12010111[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	社会保険労務士と学ぶ働く前に知っておきたいワークルールと人事・労務コンサルティン		
担 当 教 員	川村　顕		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　企業を取り巻く環境や労働者の意識は大きく変容し、組織と個人との関わり方も変わりつつある。そのため企業は、人事・労務管理における様々な問題への対応を迫られている。社会保険労務士は、企業が行うこれらの対応を人事・労務の専門コンサルタントとしてサポートする。
本講座では、各回に早稲田卒の社会保険労務士がゲストスピーカーとして登壇し、働く前に知っておくべき労働法や社会保険などのワークルールと、経営資源たる「ヒト」に関する人事・労務コンサルティングの実務を講義する。また、皆さんとの意見交換やディスカッションを通じて、現在生じている様々なワークルールに関する課題について考えていく。なお、春クォーターにαを、夏クォーターにβを開設し、α β 両講座を通して受講することで、より一層知識が深まる授業設計となっている。今年度中にα βを併せて履修登録することが望ましい。
本講座は、早稲田大学校友会の協力に基づいて開設される早稲田大学校友会支援講座＜稲士会提供＞として運営される。また、本講座は、2008年度から、社会保険労務士・司法書士・税理士・行政書士・中小企業診断士各稲門会で構成する「稲士会」が母校早稲田大学で行ってきた「企業法務概論」を発展させ、2011年度から社労士の単独講座として独立させたものである。なお、本講座は2017年度から2023年度まで開講していた「労働・社会保障実務概論」を改称した2024年度「社会保険労務士と学ぶ働く前に知っておきたいワークルールと人事・労務コンサルタントα」の一部を改称したものである。

【この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です】

授業の到達目標：
・採用から退職までの企業の人事労務管理の基本を習得する。
・在学中も卒業後も必要になるワークルールを身につける。
・社会保険労務士による人事・労務コンサルティングを知ることで、将来の職業の選択肢を増やす。

事前・事後学習の内容：
・各回WasedaMoodleに掲載する講義レジュメを各自で事前にダウンロードしたうえで受講すること。
・授業後、講師並びにゲストスピーカーが紹介する参考文献等を読み、授業で得た知識を深めること。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　社会保険労務士と人事・労務コンサルティング
社会保険労務士がワークルールとどのようにかかわり、人事・労務コンサルタントとしてどのような活躍をするのかを学ぶ。木村　辰幸

第2回　ワークルール①総論
労働法、社会保険関係法の全体像を学ぶ。笹井　健司

第3回　ワークルール②労働契約
採用・内定・試用期間・労働契約による権利義務関係などの実務を学ぶ。河野　千怜

第4回　ワークルール③賃金
働くときに重要な賃金を企業はどのようにして管理するのかを学ぶ。羽鳥　智雄

第5回　ワークルール④労働時間・休日・休暇
昨今話題になることの多い労働時間・休日・休暇を企業はどのようにして管理するのかを学ぶ。渡井　保仁

第6回　人事・労務コンサルティング①労働編
労働関係法規に則って行われる人事・労務コンサルタントとはどのような業務かを学ぶ。市村　剛史

第7回　多様な働き方／試験・アンケート
多様な働き方について社会保険労務士と学ぶ。見付　季代子

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　社会保険労務士稲門会編『労働・社会保障実務講義−社会保険労務士の仕事と役割−』（早稲田大学出版部，2015年）新版発刊の準備中
その他の講義用教材は、WasedaMoodleに掲載する。

参考文献：　各授業で、講師及びゲストスピーカーが紹介する。

成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	40	試験は、講義の中から、基礎的な事項について5問出題し理解度を評価する。 予定していない。
平常点評価:	60	Waseda Moodle上でレビューシートに理解度や感想などを入力してもらいます。授業への積極性を評価します。 再試験・追試験等は行わない。
備考・関連URL:	本講座は、2011年～2013年度「企業法務概論（社会保険労務士講座）」2014年度～2016年度「社会保険労務士実務概論（早稲田大学校友会支援講座）」、2017年度～2023年度「労働・社会保障実務概論（早稲田大学校友会支援講座）」、2024年度「社会保険労務士と学ぶ働く前に知っておきたいワークルールと人事・労務コンサルタントα（早稲田大学校友会支援講座）」、2025年度「社会保険労務士と学ぶ働く前に知っておきたいワークルールと人事・労務コンサルティングα（早稲田大学校友会支援講座）」と同講座である。前記講座を履修済みの学生は、本講座を科目登録することはできない。 講義動画はこちら→　https://waseda.box.com/s/s5bybzl725qvk4ycnzk1htxsddnvkb04	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010112|01|9S12010112[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	社会保険労務士と学ぶ働く前に知っておきたいワークルールと人事・労務コンサルティン		
担 当 教 員	川村 顕		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 企業を取り巻く環境や労働者の意識は大きく変容し、組織と個人との関わり方も変わりつつある。そのため企業は、人事・労務管理における様々な問題への対応を迫られている。社会保険労務士は、企業が行うこれらの対応を人事・労務の専門コンサルタントとしてサポートする。
本講座では、各回に早稲田卒の社会保険労務士がゲストスピーカーとして登壇し、働く前に知っておくべき労働法や社会保険などのワークルールと、経営資源たる「ヒト」に関する人事・労務コンサルティングの実務を講義する。また、皆さんとの意見交換やディスカッションを通じて、現在生じている様々なワークルールに関する課題について考えていく。なお、春クォーターにαを、夏クォーターにβを開設し、αβ両講座を通して受講することで、より一層知識が深まる授業設計となっている。今年度中にαβを併せて履修登録することが望ましい。
本講座は、早稲田大学校友会の協力に基づいて開設される早稲田大学校友会支援講座＜稲士会提供＞として運営される。また、本講座は、2008年度から、社会保険労務士・司法書士・税理士・行政書士・中小企業診断士各稲門会で構成する「稲士会」が母校早稲田大学で行ってきた「企業法務概論」を発展させ、2011年度から社労士の単独講座として独立させたものである。なお、本講座は2017年度から2023年度まで開講していた「労働・社会保障実務概論」を改称した2024年度「社会保険労務士と学ぶ働く前に知っておきたいワークルールと人事・労務コンサルタントβ」の一部を改称したものである。

【この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です】

授業の到達目標: ・採用から退職までの企業の人事労務管理の基本を習得する。
・在学中も卒業後も必要になるワークルールを身につける。
・社会保険労務士による人事・労務コンサルティングを知ることで、将来の職業の選択肢を増やす。

事前・事後学習の内容: ・各回WasedaMoodleに掲載する講義レジュメを各自で事前にダウンロードしたうえで受講すること。
・授業後、講師並びにゲストスピーカーが紹介する参考文献等を読み、授業で得た知識を深めること。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ワークルール⑤労働保険概論
労災保険、雇用保険、助成金の利活用、労働保険料の基礎知識を学ぶ。太田 佳孝

第2回 ワークルール⑥社会保険概論
健康保険、公的年金の基礎知識を学ぶ。萱原 しのぶ

第3回 人事・労務コンサルティング②ワークライフバランス
職業人生におけるライフイベントと仕事をいかに両立させるかという課題に、企業はどのように対応する必要があるのかを学ぶ。荒 久美子

第4回 人事・労務コンサルティング③ハラスメント
労働法実務において大きな課題になっているハラスメントに、企業はどのようにして対処しなければならないかを学ぶ。村井 小桃

第5回 ワークルール⑦労働契約の終了
希望退職、定年退職、懲戒解雇、解雇など雇用関係が終了する際に生じる諸問題に関するワークルールを学ぶ。織田 京子

第6回 人事・労務コンサルティング④社会保険編
社会保険労務士ならではの、労働保険・助成金・健康保険や年金保険制度を使った企業へのコンサルティング実務を学ぶ。前澤 光則

第7回 人事・労務コンサルティングの実際／試験・アンケート
人事・労務コンサルティングはどのように業務を行っていくのかを学ぶ。大津 章敬

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 社会保険労務士稲門会編『労働・社会保障実務講義-社会保険労務士の仕事と役割-』（早稲田大学出版部，2015年）新版発刊の準備中
その他の講義用教材は、WasedaMoodleに掲載する。

参考文献:	各授業で、講師及びゲストスピーカーが紹介する。	
成績評価フリー入力サイン:	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	40	試験は、講義の中から、基礎的な事項について5問出題し理解度を評価する。 予定していない。
平常点評価:	60	Waseda Moodle上でレビューシートに理解度や感想などを入力してもらいます。授業への積極性を評価します。 再試験・追試験等は行わない。
備考・関連URL:	本講座は、2011年～2013年度「企業法務概論（社会保険労務士講座）」2014年度～2016年度「社会保険労務士実務概論（早稲田大学校友会支援講座）」、2017年度～2023年度「労働・社会保障実務概論（早稲田大学校友会支援講座）」、2024年度「社会保険労務士と学ぶ働く前に知っておきたいワークルールと人事・労務コンサルタントβ（早稲田大学校友会支援講座）」、2025年度「社会保険労務士と学ぶ働く前に知っておきたいワークルールと人事・労務コンサルティングβ（早稲田大学校友会支援講座）」と同講座である。前記講座を履修済みの学生は、本講座を科目登録することはできない。 講義動画はこちら→ https://waseda.box.com/s/s5bybzl725qvk4ycnzk1htxsddnvkb04	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010113|02|9S12010113[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	社会生活のリーダーシップ開発 02		
担 当 教 員	森永 雄太@塩川 太嘉朗		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 現代社会は、かつてないスピードで変化しています。
その中で、これまで当たり前とされてきた仕組みやルールがうまく機能しなくなる場面も増えてきました。こうした状況に直面したとき、変化を起こし、社会や組織をより良い方向へ導いていく力――すなわちリーダーシップの重要性が高まっています。
本授業では、リーダーシップに関する基本的な知識を学ぶとともに、それを「自分が発揮するもの」として捉え直すことを目的としています。
皆さんは「リーダーシップ」と聞いて、どのような場面を思い浮かべるでしょうか。部活動のキャプテンやアルバイト先の店長など、役職のある人の姿を思い浮かべる人も多いかもしれません。確かに、役職者がリーダーシップを発揮する場面は多く見られます。しかし、リーダーシップは特定の立場の人だけに限られたものではありません。
変化の激しい現代においては、「リーダーシップは誰もが発揮しうるもの」という考え方が重視されています。たとえば、誰も気づいていない問題に気づいたとき、あなたが専門知識を持っている領域の課題に直面した時、あなたが周囲を巻き込みながら解決に取り組めはじめれば、そこには確かにリーダーシップが発揮されています。
本授業では、リーダーシップとは何か、そしてそれをどのように学び、育むことができるのかを理解するとともに、他の誰でもない「あなた自身」がリーダーシップを発揮するための準備を進めていきます。

授業の到達目標: (1)リーダーシップとは何かについての基本的な考え方を理解する
(2)授業内容を踏まえて、自分なりのリーダーシップの発揮の仕方を言語化できるようになる
(3)社会を善くするためにリーダーシップを発揮したいという意識が高まる

事前・事後学習の内容: 事後学修として，授業内で紹介したキーワードや事例について調べてみるとともに、自分なりのリーダーシップの発揮に引き寄せるための振り返りを行うこと。
提示される課題と合わせて毎回90分程度の事前・事後学習を見込んでいる。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 イントロダクション(本講義の目的と概要)
本講義におけるリーダーシップの考え方および、本科目を含むリーダーシップ開発プログラム全体の目的や背景について説明します。

第2回 変わる社会と自分らしさのリーダーシップ
私たちが活きている社会の変化と課題、そこで自分なりにリーダーシップを発揮するとはどういうことなのか、どのような準備を進めていく必要があるのかについて説明します。

第3回 リーダーシップ論の基本
企業や組織で求められるリーダーシップ論でどのようなことが明らかになってきたのかについて紹介します。

第4回 リーダーシップ論の応用
変化の激しい時代にどのようなリーダーシップ論が注目されるようになってきたのかについて紹介します。

第5回 リーダーシップの学び方と学ばせ方
リーダーシップが重要だとして、私たちはどのようにして友人や同僚のリーダーシップを育成することができるのでしょうか。リーダーシップの育成や教育についての知見を解説します。

第6回 キャリアとリーダーシップ
人生100年時代と呼ばれる長い「キャリア」を過ごす時代が到来しています。私たちは、キャリアを通してどのようにリーダーシップを向き合っていく必要があるのでしょうか。キャリア論の視点からリーダーシップを扱います。

第7回 まとめ
変化の時代に私たちはどのようにリーダーシップを活かすことができるのでしょうか。
授業の総まとめとして、リーダーシップ論の復習をするとともに、どこでどのように活用していくかについて考えてもらいます。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 授業内で適宜支持します。

参考文献:	鈴木竜太(2025)『人を動かし、成果を生み出す リーダーシップの科学』ダイヤモンド社	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
レポート:	40	学期末に出題するレポートから，課題に対する理解および考察の内容を評価する.
平常点評価:	60	毎回出題する小課題から，授業内容の理解度および取り組み態度を評価する.
備考・関連URL:	この授業は人間的力量領域のリーダーシップ開発プログラム（https://www.waseda.jp/inst/gec/gec/program/leadership/）の関連科目です。 この授業を履修してリーダーシップに関心を持った場合には、関連科目である「リーダーシップ開発：理論とスキル」や「リーダーシップ開発：問題解決プロジェクト」などを履修されることを強く勧めます。	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010114|01|9S12010114[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	キャリアデザイン入門 O1		
担 当 教 員	松居 辰則@河村 耕平@兵藤 智佳@村松 慶一		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

キャリアデザインに関する考え方，および自律的・自立的に自身のキャリアをデザインできる能力（キャリアデザイン能力）は，一生涯にわたる生き方の基礎的な能力となる．一方，早稲田大学においては「人間的力量の涵養」を人材育成の主軸としてとらえている．そこで，早稲田大学では「早稲田らしいキャリア教育」の実現を目指して「キャリア教育指針」（下記）を制定し，この指針に基づいて体系的にキャリア教育を提供予定である．本科目はこれらの科目群の基盤となる科目である．キャリアデザインや人間的力量の考え方，グローバルな視点でのコンピテンシー，体験の言語化，様々なキャリアデザインの様態を知ることを通して，人生設計としてのキャリデザイン能力の基礎を体得していただく．

【人間的力量を育むキャリア教育指針】
「キャリア教育」とは，学生一人一人の社会的・職業的自立に向け，必要な基礎となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促すもの，と定義され（2011年1月中教審「今後の学校に おけるキャリア教育・職業教育の在り方」（答申）），職業教育や就職活動支援のみならずライフキャリア（社会人としての生き方）全体を捉えた考え方となっている．また、「キャリア教育」においてとりわけ重視すべき育成対象の能力は，「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」からなる「基礎的・汎用的能力」であり，特に、これらの能力の育成を大学教育全体で取組むべきものであることも重要な視点である．一方、人間的力量は早稲田大学における研究・教育・貢献に通底する能力であり，これは早稲田大学におけるディプロマ・ポリシーで掲げられている内容とも連動する．したがって，本学ならではのキャリア教育を「人間的力量を育むキャリア教育」ととらえ，ここに人間的力量育成を目標とすることを特徴とする「人間的力量を育むキャリア教育指針」を示す．具体的には以下のような項目で構成する．
1）人間的力量を基盤として，意思の自律に則り、社会規範や倫理を尊重しながら社会に貢献しつつ，幸福な社会の実現を目指し，生涯にわたって自身にとってふさわしいキャリアをデザインできる能力を涵養する．
2）キャリアデザインを「自身の生涯にわたる人生設計を考えること」と捉えそのための能力を涵養する．
3）ライフキャリアにおける「働く」ことの本質的意味を「貢献（誰かのために）を通しての自己成長」と捉え，キャリアデザインとの関係性を意識できるように導く．
4）「働く」ことのバリエーションとそれぞれの意義を理解し，それらを実現するためには多様なアプローチ（教育体系）があることを意識させ，主体的に自身にとってのカリキュラムをデザインできるよう導く．

授業の到達目標:

・人間的力量を基盤として，社会に貢献し，幸福な社会の実現を目指し，生涯にわたって自身にとってふさわしいキャリアをデザインできる能力の基礎を修得する．
・キャリアデザインを「自身の生涯にわたる人生設計を考えること」と捉えそのための能力の基礎を修得する．
・ライフキャリアにおける「働く」ことの本質的意味を「貢献（誰かのために）を通しての自己成長」と捉え、キャリアデザインとの関係性を意識できるようなる．
・「働く」ことのバリエーションとそれぞれの意義を理解し，早稲田大学にはそれらを実現するためには多様なアプローチ（教育体系）があることを意識でき，主体的に自身にとってのカリキュラムをデザインできるようになる．

事前・事後学習の内容:

【事前学習】事前に資料が配布されることがあります．その場合には授業までに熟読して内容を十分に理解した上で授業に臨んでください．毎回50分～100分の時間を要します．
【事後学習】毎回課題が出題されます．指示に従い期限までに作成し提出してください．毎回100分～150分の時間を要します．

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：キャリアデザインの考え方

キャリデザインの意味，人間的力量の理解，「働く」ことの本質的意味を考えることで，キャリアデザインの考え方の基礎を修得する．

第2回：グローバル人材としてのコンピテンシー

UNDP（国連開発計画）からゲスト講師をお招きして，グローバルな視点でのキャリアデザイン，そのために必要とされるコンピテンシーについて学ぶ．

第3回：体験の言語化

自身の思考や体験を言語化することは自身の理解の深化・汎化の礎となる．そのための思考ツールとして，ボランティアセンターが提供している「体験の言語化」を実体験する．

第4回：多様な価値観，働き方（1）

様々なキャリアに対する価値観や働き方の事例として学び，自身のキャリアデザインに対する考え方の多様化を期待する．その中から，自身のキャリアデザインの考え方を思考する．15分程度のビデオを視聴し，自身の考え方を言語化する．

第5回：多様な価値観，働き方（2）

様々なキャリアに対する価値観や働き方の事例として学び，自身のキャリアデザインに対する考え方の多様化を期待する．その中から，自身のキャリアデザインの考え方を思考する．15分程度のビデオを視聴し，自身の考え方を言語化する．第4回の続きという位置づけである．

第6回：早稲田大学におけるキャリアデザインに関する教育体系

早稲田大学におけるキャリアデザイン能力を育てるための学びの体系を知る．GEC，GCC，WAVOC，ICC，アントレプレーナーセンター，キャリアセンターのキャリア支援（インターンシップ・就活への向き合い方）等の仕組みを知り，自身のキャリアデザインを計画する．

第7回：キャリアデザインに関する総括と展望

キャリア理論，職業選択の理論に触れ，この授業の学びを自身の中で整理する．その上で，大学での学びを社会やキャリアに活かす，学び続けることの重要性を認識する．

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に指定しません．授業中に適宜紹介します．

参考文献：　特に指定しません．授業中に適宜紹介します．

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　試験は行いません．

レポート：　30　授業の総まとめとしてのレポートを出題します

平常点評価：　70　毎回授業でレビューシートまたは小テストを行います．1回の授業に対して10点の配点です．

その他：　0　特に予定していません．

備考・関連URL：　・授業中に適宜紹介します．・GECの人間的力量関連科目の受講をお勧めします．
・この授業はオンデマンド形式で実施します．コンテンツの配信，資料配布，課題提示，課題提出等の授業に関することは全てWaseda Moodleを利用します．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010114|02|9S12010114[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	キャリアデザイン入門 02		
担 当 教 員	松居 辰則@河村 耕平@兵藤 智佳@村松 慶一		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

キャリアデザインに関する考え方，および自律的・自立的に自身のキャリアをデザインできる能力（キャリアデザイン能力）は，一生涯にわたる生き方の基礎的な能力となる．一方，早稲田大学においては「人間的力量の涵養」を人材育成の主軸としてとらえている．そこで，早稲田大学では「早稲田らしいキャリア教育」の実現を目指して「キャリア教育指針」（下記）を制定し，この指針に基づいて体系的にキャリア教育を提供予定である．本科目はこれらの科目群の基盤となる科目である．キャリアデザインや人間的力量の考え方，グローバルな視点でのコンピテンシー，体験の言語化，様々なキャリアデザインの様態を知ることを通して，人生設計としてのキャリデザイン能力の基礎を体得していただく．

【人間的力量を育むキャリア教育指針】
「キャリア教育」とは，学生一人一人の社会的・職業的自立に向け，必要な基礎となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促すもの，と定義され（2011年1月中教審「今後の学校に おけるキャリア教育・職業教育の在り方」（答申）），職業教育や就職活動支援のみならずライフキャリア（社会人としての生き方）全体を捉えた考え方となっている．また、「キャリア教育」においてとりわけ重視すべき育成対象の能力は，「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」からなる「基礎的・汎用的能力」であり，特に、これらの能力の育成を大学教育全体で取組むべきものであることも重要な視点である．一方、人間的力量は早稲田大学における研究・教育・貢献に通底する能力であり，これは早稲田大学におけるディプロマ・ポリシーで掲げられている内容とも連動する．したがって，本学ならではのキャリア教育を「人間的力量を育むキャリア教育」ととらえ，ここに人間的力量育成を目標とすることを特徴とする「人間的力量を育むキャリア教育指針」を示す．具体的には以下のような項目で構成する．
1）人間的力量を基盤として，意思の自律に則り、社会規範や倫理を尊重しながら社会に貢献しつつ，幸福な社会の実現を目指し，生涯にわたって自身にとってふさわしいキャリアをデザインできる能力を涵養する．
2）キャリアデザインを「自身の生涯にわたる人生設計を考えること」と捉えそのための能力を涵養する．
3）ライフキャリアにおける「働く」ことの本質的意味を「貢献（誰かのために）を通しての自己成長」と捉え，キャリアデザインとの関係性を意識できるように導く．
4）「働く」ことのバリエーションとそれぞれの意義を理解し，それらを実現するためには多様なアプローチ（教育体系）があることを意識させ，主体的に自身にとってのカリキュラムをデザインできるよう導く．

授業の到達目標:

・人間的力量を基盤として，社会に貢献し，幸福な社会の実現を目指し，生涯にわたって自身にとってふさわしいキャリアをデザインできる能力の基礎を修得する．
・キャリアデザインを「自身の生涯にわたる人生設計を考えること」と捉えそのための能力の基礎を修得する．
・ライフキャリアにおける「働く」ことの本質的意味を「貢献（誰かのために）を通しての自己成長」と捉え、キャリアデザインとの関係性を意識できるようなる．
・「働く」ことのバリエーションとそれぞれの意義を理解し，早稲田大学にはそれらを実現するためには多様なアプローチ（教育体系）があることを意識でき，主体的に自身にとってのカリキュラムをデザインできるようになる．

事前・事後学習の内容:

【事前学習】事前に資料が配布されることがあります．その場合には授業までに熟読して内容を十分に理解した上で授業に臨んでください．毎回50分～100分の時間を要します．
【事後学習】毎回課題が出題されます．指示に従い期限までに作成し提出してください．毎回100分～150分の時間を要します．

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：キャリアデザインの考え方

キャリデザインの意味，人間的力量の理解，「働く」ことの本質的意味を考えることで，キャリアデザインの考え方の基礎を修得する．

第2回：グローバル人材としてのコンピテンシー

UNDP（国連開発計画）からゲスト講師をお招きして，グローバルな視点でのキャリアデザイン，そのために必要とされるコンピテンシーについて学ぶ．

第3回：体験の言語化

自身の思考や体験を言語化することは自身の理解の深化・汎化の礎となる．そのための思考ツールとして，ボランティアセンターが提供している「体験の言語化」を実体験する．

第4回：多様な価値観，働き方（1）

様々なキャリアに対する価値観や働き方の事例として学び，自身のキャリアデザインに対する考え方の多様化を期待する．その中から，自身のキャリアデザインの考え方を思考する．15分程度のビデオを視聴し，自身の考え方を言語化する．

第5回：多様な価値観，働き方（2）

様々なキャリアに対する価値観や働き方の事例として学び，自身のキャリアデザインに対する考え方の多様化を期待する．その中から，自身のキャリアデザインの考え方を思考する．15分程度のビデオを視聴し，自身の考え方を言語化する．第4回の続きという位置づけである．

第6回：早稲田大学におけるキャリアデザインに関する教育体系

早稲田大学におけるキャリアデザイン能力を育てるための学びの体系を知る．GEC，GCC，WAVOC，ICC，アントレプレーナーセンター，キャリアセンターのキャリア支援（インターンシップ・就活への向き合い方）等の仕組みを知り，自身のキャリアデザインを計画する．

第7回：キャリアデザインに関する総括と展望

キャリア理論，職業選択の理論に触れ，この授業の学びを自身の中で整理する．その上で，大学での学びを社会やキャリアに活かす，学び続けることの重要性を認識する．

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に指定しません．授業中に適宜紹介します．

参考文献：　特に指定しません．授業中に適宜紹介します．

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　試験は行いません．

レポート：　30　授業の総まとめとしてのレポートを出題します

平常点評価：　70　毎回授業でレビューシートまたは小テストを行います．1回の授業に対して10点の配点です．

その他：　0　特に予定していません．

備考・関連URL：　・授業中に適宜紹介します．・GECの人間的力量関連科目の受講をお勧めします．
・この授業はオンデマンド形式で実施します．コンテンツの配信，資料配布，課題提示，課題提出等の授業に関することは全てWaseda Moodleを利用します．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010115|01|9S12010115[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	社会貢献を仕事にする		
担 当 教 員	岡田 美優		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ～社会起業家と共に自分のキャリアを考える～

授業概要: 「社会に役立つことを仕事にしたい」「何か新しいことに挑戦してみたい」──そんな気持ちはありませんか？

アントレプレナーシップ（起業家精神）とは、新しい価値を生み出すために、変化や困難に向き合い、自ら行動を起こす力のことを指します。現代社会では、環境、地域、福祉、教育など、さまざまな社会課題が存在しており、それらをビジネスの力で解決しようとする「社会起業家（ソーシャルアントレプレナー）」が注目されています。

この授業では、アントレプレナーシップやソーシャルビジネス、社会貢献活動について学ぶだけでなく、実際に挑戦している人のリアルなストーリーに触れることを大切にしています。学生時代に起業した社会起業家など、現場で活動する人たちの事例を通して、成功だけでなく、悩みや葛藤、失敗も含めたリアルな意思決定や挑戦の過程を学びます。

また、ディスカッションやグループワークを通して、自分の考えを言葉にし、他者と一緒に新しい価値を生み出す経験をしていきます。授業を通して、「社会に関わる仕事とは何か」「自分はどんな価値を生み出したいのか」を考えるきっかけをつくります。

将来の進路に迷っている人、社会に役立つ仕事に関心がある人、新しい挑戦をしてみたい人にとって、自分の可能性を広げるきっかけになる授業です。

授業の到達目標: ①社会貢献や社会起業に関する基礎的な情報を理解する
②様々な社会貢献との関わり方を理解する
③社会起業家の生き方や考え方を参考に、自分なりの社会貢献との関わり方について構想することができる

事前・事後学習の内容: ・事前学習：興味のある分野のソーシャルビジネスや社会起業家に関する情報や、講義で扱うテーマに関する情報を書籍やネットで調べる（60分程度）
・事後学習：毎回、その日の学びや疑問を振り返りシートに記入する（60分程度）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：オリエンテーション

授業の目的や概要、評価基準について説明する。「社会貢献と自分との関わり（なぜ社会貢献に興味があるのか）」について少数グループで意見を交換し、社会貢献に関する多様な価値観・考え方を共有する。

第2回：社会貢献とキャリア概論

「社会貢献を仕事にしたい」そんな悩みをもつAさんがいると仮定したケーススタディをしていく中で「社会貢献となにか？」「社会貢献と関わるにはどうすればよいのか？」を受講生と共に考える。
社会貢献との様々な関わり方（ボランティア・プロボノ・企業のCSR/SDGs・非営利法人・起業）やそれぞれの特徴について概説する。

第3回：社会起業家の生き方にふれる 事例① 貧困家庭に生まれた子どもの教育支援

子どもの貧困と教育格差の問題について概説する。加えて、貧困家庭に生まれた子どもの教育支援に取り組む社会起業家をお呼びし、「なぜこの課題に取り組むのか」「なぜ起業という選択肢を取ったのか」について30分程度のプレゼンを聞く。
プレゼンを聞いた後、子どもの貧困と教育格差について受講生が起業家と共にディスカッションを行い、貧困と教育格差の問題を「自分ごと」として考える機会を提供する。

第4回：社会起業家の生き方にふれる 事例② 虐待サバイバーの就労支援

虐待と就労の問題について概説する。加えて、貧困家庭に生まれた子どもの教育支援に取り組む社会起業家の取り組み事例について紹介する。
虐待サバイバーの就労問題について受講生とディスカッションを行い、虐待問題を「自分ごと化」として考える機会を提供する。

第5回：社会起業家の生き方にふれる 事例③ スポーツを通じた障害者支援

教員が社会起業家としてのキャリア選択をした背景や経緯、現在の活動、事業のビジネスモデル等紹介する。プレゼン後、教員が代表理事を務める「一般社団法人Knocku」が直面している社会課題について受講生と共にディスカッションを行い、障害者の社会課題を「自分ごと」として考える機会を提供する。

第6回：社会起業家の生き方にふれる 事例④ 女性のジェンダーギャップ解消

女性のジェンダーギャップの問題に関する課題について概説する。加えて、女性のジェンダーギャップ問題に取り組む社会起業家をお呼びし、「なぜこの課題に取り組むのか」「なぜ起業という選択肢を取ったのか」について30分程度のプレゼンを聞く。
プレゼンを聞いた後、女性とテクノロジーの問題について受講生が起業家と共にディスカッションするワークを実践し、ジェンダーに関する社会課題を「自分ごと」として考える機会を提供する。

第7回：まとめと振り返り

全6回の授業の学びを振り返るとともに、各授業で学んだことから「自分にとって興味のある社会課題のテーマ（自分と社会の繋がり）」「自分らしい社会貢献との関わり方」を考え、グループワークで自分の考えを言語化し共有する。

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 授業用に作成したレジュメを必要に応じて配布する。

参考文献： 社会起業家「よい社会」をつくる人たち（2000）町田洋次
日本のNPO史（2006）今田 忠
CSR経営戦略（2014）伊吹英子
競争優位を実現するSDGs経営（2023）笹谷秀光

成績評価フリー入力サイン： 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	0	試験は実施しない。
レポート：	35	授業の最終レポートとして作成する「社会貢献との関わり方のキャリアプラン」を、自分自身の過去の経験や価値観、授業での学びを反映して描くことができているか
平常点評価：	65	授業内で行うディスカッションで、自分の意見・考えを他者に共有するとともに、他者の意見を傾聴し自分の考え方に取り入れることができているか。 毎授業後に提出する振り返りのレポートで、授業での学びを自身のキャリア観・価値観と結びつけ言語化することができているか。

備考・関連URL： 本科目は副専攻「社会貢献とボランティア」の選択科目である。
本科目は平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）の提供科目である。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12010116|01|9S12010116[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	スポーツを通じた社会貢献とビジネスの可能性 1		
担 当 教 員	岡田 美優		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

※本授業は、秋クオーターに開講する「スポーツを通じた社会貢献とビジネスの可能性2」と連動しています。本授業では、スポーツを通じた社会貢献とビジネスの可能性を「理解する」ことをゴールとします。続く「2」では、社会課題を解決するスポーツ事業を「構想する（ビジネスプランを作成する）」ことをゴールとし、段階的に実践力を身につけていきます。

※「スポーツを通じた社会貢献とビジネスの可能性1」「2」をあわせて履修することで、合計4単位の授業となります。

「スポーツは、どこまで社会を変えられると思いますか？」
スポーツ×社会貢献×ビジネスの最前線を、リアルな実践から学びます。

スポーツは、健康づくりだけでなく、地域活性化、多様な人々との共生、途上国支援など、さまざまな社会的価値を生み出しています。現在、スポーツを活用した社会貢献活動は、企業、NPO、スポーツ団体などによって世界中で実践されています。

しかし、社会貢献活動は収益化や継続性が課題になることも多く、「社会に良いこと」と「ビジネスとして成立すること」を両立させることは簡単ではありません。また、ビジネス化を進める中で、本来の社会課題解決の目的が見えにくくなるケースもあります。

本授業では、スポーツを通じた社会貢献とビジネスを両立させる方法を、実際の現場での実践例から学びます。スポーツ×社会貢献をビジネスとして展開している経営者や組織の事例を通して、社会価値をどのように生み出し、それをどのように持続可能な事業として成立させているのかを考えていきます。

さらに本授業では、「社会に良いことをしている」で終わらせず、社会価値をどのように捉え、説明し、伝えていくのかという視点も重視します。スポーツビジネス、ソーシャルビジネス、プログラム理論などをもとに、実践を理論的にも理解していきます。

授業では、ディスカッションやグループワークを通して、社会課題とビジネスを結びつけて考える力を身につけ、「スポーツで社会を変えるとはどういうことか」を、自分の言葉で説明できるようになることを目指します。

授業の到達目標：

①スポーツを通じた社会貢献活動の具体的な活動内容を理解できる
②スポーツを通じた社会貢献活動における課題を多様な視点から理解できる

事前・事後学習の内容：

・事前学習：スポーツを通じた社会貢献活動に関する事例や興味のあるテーマを書籍やネットで調べる（60分）
・事後学習：毎回、その日の学びや疑問を振り返りシートに記入する（60分）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：オリエンテーション

授業概要や評価基準、最終プレゼンについて説明する。「自分とスポーツとの関わり（この授業を選んだ理由）」、「社会貢献に対する自分の関心」について1人1人意見を交換し、多様な価値観・考え方を共有する。

第2回：スポーツと社会貢献概論

スポーツのもつ様々な社会的価値と、それを活かした様々な取り組みについて、取り組みを行うスポーツ組織について概説する。また、スポーツビジネスの基礎的な情報を理解するため、スポーツクラブビジネスやスポーツプログラムビジネスを例に挙げ、ビジネスモデルの分析を行う。

第3回：スポーツと地方創生

本授業では、スポーツを通じて地方創生・災害復興を目指した取り組み事例を複数紹介する。そのうちの1つの事例として、株式会社スポーツネーションの副社長をお呼びし、事例について30分程度のプレゼンを聞く。株式会社スポーツネーションは、2024年に北陸復興のアイデア創出を目指し、ビジネスコンテストを開催した。ビジネスコンテストは国内バレーボールトップリーグ「SV.LEAGUE」を主催する一般社団法人SVリーグと協力し行われた。プレゼン後は、受講生がゲストスピーカーと共に、プロスポーツリーグと地方創生の可能性に関するディスカッションを行う。

第４回：：スポーツと国際協力

スポーツを通じた国際協力に関する取り組み事例を複数紹介する（ホームレスサッカー、スラムサッカー、Little Bridge、Sports for Tomorrow、JICA等の取り組み）。これらの事業について、プログラム評価の理論をもとに分析を行い、どのようなプロセスで社会課題の解決を行っているのか理解を深めるワークを行う。

第５回：スポーツと障害者支援

スポーツを通じて障害者の自立と社会参加、そして健常者との共生を目指した取り組みを行うスポーツクラブについて、複数事例を紹介する。一般のスポーツビジネスと、これらの事例のビジネスモデルを比較し、公益性の高いスポーツビジネスの特徴と課題について分析するワークを行う。

第６回：Jリーグクラブと社会連携活動（シャレン！）

Jリーグに所属するプロサッカークラブが行う社会連携活動（シャレン！）について、複数事例を紹介する。そのうちの1つの事例として、Jリーグ所属クラブである「東京ヴェルディ」の職員の方をお呼びし、東京ヴェルディが地域と連携し実践している様々な地域貢献活動について30分程度のプレゼンを聞く。プレゼン後、地域貢献活動がクラブの経営にどのような影響を及ぼしているのか、その関係性について分析するワークを実施する。

第７回：ゲストスピーカーによる講義の振り返りと学びの整理

これまでの授業を振り返るとともに、スポーツと社会貢献、そしてビジネスとの多様な関係性について整理する。特に、「ビジネスとソーシャルビジネスの違い」「スポーツビジネスとビジネスの違い」について、ゲストスピーカーの事例を踏まえて説明する。
授業後半では、スポーツを通じた社会貢献と自分自身のキャリア（生き方）について、いまの考えをグループワークによって言語化し、グループメンバーとの対話を通じて自己理解を深める。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　授業用に作成したレジュメを必要に応じて配布する。

参考文献：　実践で学ぶ！学生の社会貢献―スポーツとボランティアでつながる（2018）田中暢子ほか
公共政策の中のスポーツ（2021）真山達志, 成瀬和弥, & 日本体育スポーツ政策学会

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	0	試験は実施しない
レポート：	35	授業の最終レポートとして作成する「スポーツと社会貢献との関わり方のキャリアプラン」を、自分自身の過去の経験や価値観、授業での学びを反映して描くことができているか
平常点評価：	65	スポーツを通じた社会貢献のあり方に対する自分の意見や考えを他者に説明することができる。他者の意見を傾聴し、自分の考えに取り入れることができる。 毎回の授業の振り返りレポートで、講義の学びや体験について、自分自身の経験や価値観と照らし合わせ、自分の言葉で意見を記述することができている

備考・関連URL：　本科目は副専攻「社会貢献とボランティア」の選択科目である。
本科目は平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）の提供科目である。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12020001|01|9S12020001[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ジェンダーと教育 1		
担 当 教 員	矢内 琴江		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ダイバーシティ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ジェンダー平等・性の多様性の尊重の実現に向けた教育を創造する

授業概要: 本演習では、わたしたちの性／生をジェンダー・セクシュアリティの視点からとらえ返し、誰もがありたい自分で生きることのできる社会を創り出すための教育の課題を検討する。研究にあたっては、学校、社会、家庭教育の各領域において問題を共同で発見し、検討していく方法を取る。
また、可能な限り実践的な方法も試みる。

授業の到達目標: （1）性に関わるわたしたち自身の経験をふりかえり、他者と共有し得る言葉として表現をする。
（2）社会的、文化的、政治的、経済的、歴史的な諸状況とそれらの課題について、ジェンダーの位相から分析、記述する。
（3）大学におけるジェンダー平等教育のあり方を考察する。

事前・事後学習の内容: 事前学修・事後学習、それぞれ120分とする。

【事前学修】他に人のリフレクション・ペーパーを読む、ジェンダー・セクシュアリティの視点から社会の動向や身の回りの状況を意識的に考える
【事後学修】リフレクション・ペーパーを書く。ディスカッションの内容をふり返り、自分の考えを深める。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション
授業の説明／受講者同士の自己紹介
第2回 日常に埋め込まれたジェンダー・セクシュアリティ
ワークショップ形式で日常の中にあるジェンダー・セクシュアリティの問題を考える
第3回 学校教育におけるジェンダー・セクシュアリティの問題
隠れたカリキュラムについて考える
第4回 人権教育として性／生の教育
ドキュメンタリーを見てディスカッションをする
第5回 大学におけるジェンダー・セクシュアリティ
大学における課題や取り組みをワークショップ形式で考える
第6回 大学におけるジェンダー平等と性の多様性の尊重を考える（1）
グループ発表
第7回 総括
これまでの学習をふり返り、ジェンダー平等・性の多様性の尊重の実現に向けた教育のあり方を考える

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 村田晶子・森脇健介・矢内琴江・弓削尚子『ジェンダーのとびらを開こう』大和書房・2022.

参考文献: 小林富久子、村田晶子、弓削尚子編『ジェンダー研究／教育の深化のために －早稲田からの発信－』彩流社、2016
佐藤文香監修・一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同著『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』明石書店、2019年。
村田晶子・弓削尚子『なぜジェンダー教育を大学でおこなうのか』青弓社、2017
矢内琴江『性差別を克服する実践のコミュニティーカナダ・ケベック州のフェミニズムに学ぶ』明石書店、2024年。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 なし

レポート:	50	事実に基づき自分の考えたことを論理的に記述できる
平常点評価:	50	リフレクション・ペーパー、グループワークへの主体的かつ協働的な参加

備考・関連URL: ジェンダーと教育1，2を連続して受講することが望ましい。
受講者の興味関心に応じて授業計画内容を変更する場合がある。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12020002|01|9S12020002[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ジェンダーと教育 2		
担 当 教 員	矢内 琴江		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ダイバーシティ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ジェンダー平等・性の多様性の尊重の実現に向けた教育を創造する

授業概要: 本演習では、わたしたちの性／生をジェンダー・セクシュアリティの視点からとらえ返し、誰もがありたい自分で生きることのできる社会を創り出すための教育の課題を検討する。研究にあたっては、学校、社会、家庭教育の各領域において問題を共同で発見し、検討していく方法を取る。
また、可能な限り実践的な方法も試みる。

授業の到達目標: （1）性に関わるわたしたち自身の経験をふりかえり、他者と共有し得る言葉として表現をする。
（2）社会的、文化的、政治的、経済的、歴史的な諸状況とそれらの課題について、ジェンダーの位相から分析、記述する。
（3）今日求められるジェンダー平等教育のあり方を考察する視点を獲得する。

事前・事後学習の内容: 事前事後の学修はそれぞれ120分。

【事前学修】他に人のリフレクション・ペーパーを読む、ジェンダー・セクシュアリティの視点から社会の動向や身の回りの状況を意識的に考える
【事後学修】リフレクション・ペーパーを書く。ディスカッションの内容をふり返り、自分の考えを深める。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション
授業の説明、問題意識の共有
第2回 地域におけるジェンダー・セクシュアリティの教育
地域の中で行われているジェンダー・セクシュアリティの教育や市民の活動から学ぶ
第3回 ジェンダー・セクシュアリティと自己教育・相互教育（1）
ドキュメンタリー映画を見て話し合う
第4回 ジェンダー・セクシュアリティと自己教育・相互教育（2）
グループワーク
第5回 わたしたちが創るジェンダー・セクシュアリティの学習（1）
グループワーク
第6回 わたしたちが創るジェンダー・セクシュアリティの学習（2）
ポスター発表
第7回 総括
これまでの学習をふり返り、ジェンダー平等・性の多様性の尊重の実現に向けた教育のあり方について考える

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 村田晶子・森脇健介・矢内琴江・弓削尚子『ジェンダーのとびらを開こう』大和書房・2022.

参考文献: 小林富久子、村田晶子、弓削尚子編『ジェンダー研究／教育の深化のために －早稲田からの発信－』彩流社、2016年。
佐藤文香監修・一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同著『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』明石書店、2019年。
村田晶子・弓削尚子『なぜ大学でジェンダー教育をおこなうのか』青弓社、2017年。
矢内琴江『性差別を克服する実践のコミュニティーカナダ・ケベック州のフェミニズムに学ぶ』明石書店、2024年。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	なし
レポート:	50	事実に基づきながら自分の考えたことを論理的に記述できる
平常点評価:	50	リフレクション・ペーパー、グループディスカッションへの主体的かつ協働的な参加
その他:	0	なし

備考・関連URL: ジェンダーと教育1，2を受講することが望ましい。
受講者の興味関心に応じて授業計画内容を変更する場合がある。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12020005|01|9S12020005[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	地域連携基礎演習		
担 当 教 員	加藤 基樹		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:土3-4	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（地域連携）	配 当 年 次	1年のみ
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

この講座は、地域探究・貢献入試（地域連携型・北九州地域連携型推薦入試）で入学した1年生をおもな対象としていますが、このほかにも、地域連携・地域貢献に関心を持つ1年生の受講を歓迎します。

早稲田大学は「地域探究・貢献入試」を実施して、グローバルな視野と高い志を持って、社会的・文化的・学術的に地域へ貢献する意識を持った学生を募集しています。そして、その入学者と地域連携に関心を持つ1年生が、地域連携、地域貢献のために第一歩目の学びをするのが、この「地域連携基礎演習」です。受講者は、地域と関わるにあたって、何をどのように考え、取り組めばよいのかについて学びます。
また授業では、地域連携を題材としてプレゼンテーションを実践し、夏の活動について計画を立てます。授業内で紹介するので、夏には、早稲田大学が行う課外プログラムに参加してもらうことで、経験値を上げてください（参加は任意）。

その意味でも、本授業を、これをその先の活動や学びに活かし、将来、地域の発展のために働く、関わっていくための入口としてもらいたいと思います。

授業の到達目標：

地域連携では、何をどのようにするべきかを考え、実践できるようにする。
話の聞き方、議論の仕方、プレゼンテーションの作り方を会得する。
今後の学生生活の中で、どのように地域と関わったらよいかの指針を見つける。

事前・事後学習の内容：

授業外においても、調べ物、プレゼンテーション作成のほか、個人・グループでの作業（対面・zoomなど）が必要となる場合がある。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：オリエンテーション・地域連携とは
オリエンテーションとして、この講座の狙いと内容について説明する。

第2回：プレゼンテーションのポイント
プレゼンテーションのポイントを理解し、実践する。

第3回：地域の現状と地域資源の活用・地域連携と自分
地域と大学の連携の取り組み事例を含めた地域の全体像と、地域資源の活用の仕方について説明する。

第4回：グループワーク（1）
地域連携に関わるテーマについて、グループワークを行う。

第5回：出身地域の課題に関するプレゼンテーション（1）
受講者が自分の出身地域の課題についてのプレゼンテーションを行い、それをもとにディスカッションする。

第6回：出身地域の課題に関するプレゼンテーション（2）
同上。

第7回：出身地域の課題に関するプレゼンテーション（3）
同上。

第8回：出身地域の課題に関するプレゼンテーション（4）
同上。

第9回：ゲストに向けたプレゼンテーションの作成（1）
第11回のゲストに向けてグループでプレゼンテーションを作成する

第10回：ゲストに向けたプレゼンテーションの作成（2）
同上。

第11回：ゲストに対するプレゼンテーション指導
第9回、第10回で作成したプレゼンテーションをゲストに見ていただき、指導をいただく。

第12回：（ゲスト講義）地域連携で求められる人材とスキル
地域連携で求められる人材とスキルについてのゲスト講義を聞き、質疑応答を行う。
第13回：フィールドワークのポイント
フィールドワークを行うにあたって、どのような事前学習が必要か、学習の仕方についてのポイントを示す。
第14回：グループワーク（2）
地域連携に関わるテーマについて、グループワークを行う。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　指定しない。

参考文献：　必要に応じて紹介する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　70　授業への貢献、議論の内容、提出物の提出とその評価

その他：　30　2回（出身地域、ゲスト向け）のプレゼンテーションの評価

備考・関連URL：　全学副専攻「地域連携・地域貢献」のコア科目です。
https://www.waseda.jp/inst/gec/assets/uploads/2025/08/301d43910c1f088b6e42b3230ac93ae8.pdf#page=50

不明な点は問い合わせて下さい。
担当教員　加藤基樹
motokato@waseda.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12020007|01|9S12020007[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	地域連携ケーススタディ 1		
担 当 教 員	加藤 基樹		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（地域連携）	配 当 年 次	2年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

地域連携を実践する際、必要な知識を身につけて、経験を積み重ねることでスキル向上を目指すことができますが、この他に欠かすことのできないのが地域連携の事例研究です。というのは、状況や課題の詳細は地域によって違っており、厳密な意味で同じ状況の地域は存在しないからです。逆に言えば、他地域の地域連携の事例は、それが成功例であれ、失敗例であれ、地域連携を実践するにあたって非常に大きなヒントになるということです。

そこで本講座では、受講学生から自分の地域連携の実践経験を事例としてプレゼンテーションしてもらいます。受講者はそのプレゼンテーションをもとに、もっとよく実践するにはどうしたらよいか、についてグループでディスカッションをします。各自のプレゼンテーションは秋・冬クォーター合わせて期間中1回とし、初講日に順番を決めます。

地域で何らかの連携の実践経験があり、地域連携に関心のあることを受講の条件としますが、実践した地域連携の内容、時期、期間は問いません。地域（の方）と一緒に何かをした経験、例えば、ある地域で行った単発のボランティアや、高校の総合的探究の時間に市役所を訪問して、地域の課題について学んだのも立派な地域連携です。

なお、「地域連携ケーススタディ2」と合わせて受講することで完結するように設計してあるので、合わせて履修し

授業の到達目標：

・地域についての理解を深め、行政やコミュニティ、NPOと地域の関わりを実態的に学ぶ。
・他の地域に関する発表を見ることで、自分と地域コミュニティの視点や考え方について同じ部分と違う部分を見つける。
・議論の仕方を学び、プレゼンテーション能力を高める。

事前・事後学習の内容：

授業時間外に、プレゼンテーションの準備（リハーサルを含む）や提出課題への対応をしてもらいます。

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：講座の概要、オリエンテーション

オリエンテーションとして、事例研究とは何か、地域連携における事例研究の意味、事例研究の進め方について説明する。

第2回：事例研究1（地域活性化）

地域活性化とは何か、教員から活性化に関する議論を紹介した上で、テーマについてディスカッションと共有を行い、自分の考えを整理する。

第3回：事例研究2（少子高齢化）

わが国の少子高齢化の現状をどのように考えたらよいか。教員から関連議論を紹介した上で、テーマについてディスカッションと共有を行い、自分の考えを整理する。

第4回：事例研究3（地域ブランド化）

地域ブランド化に着目して、教員が地域連携の事例を紹介する。受講者は、テーマについてディスカッションと共有を行い、自分の考えを整理する

第5回：学生による事例研究発表1

受講学生が自分の地域連携の経験を発表し、これをもとにグループディスカッションと共有を行う。

第6回：学生による事例研究発表2

受講学生が自分の地域連携の経験を発表し、これをもとにグループディスカッションと共有を行う。

第7回：学生による事例研究発表3

受講学生が自分の地域連携の経験を発表し、これをもとにグループディスカッションと共有を行う。

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 指定しない。

参考文献:	必要に応じて紹介する。	
成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	0	実施しない。
レポート:	0	実施しない。
平常点評価:	70	授業・議論への参加と貢献、提出物等の評価
その他:	30	自分の地域連携の経験に関するプレゼンテーションの評価

備考・関連URL: 履修者数が多い場合には、事例研究回の授業を減らして、学生の発表回を増やすことがあります。

全学副専攻「地域連携・地域貢献」のコア科目です。
https://www.waseda.jp/inst/gec/assets/uploads/2025/08/301d43910c1f088b6e42b3230ac93ae8.pdf#page=50

2023年度まで開講されていた「地域連携演習：ケーススタディ1」の名称変更科目です。同科目の既履修者は、重複して履修登録できません。

不明な点は問い合わせて下さい。
担当教員　加藤基樹
motokato@waseda.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12020008|01|9S12020008[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	地域連携ケーススタディ ２		
担 当 教 員	加藤 基樹		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（地域連携）	配 当 年 次	２年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

「地域連携ケーススタディ1」から継続して受講することを前提に授業を構成しています。

本講座では、受講学生が自分の地域連携の実践を事例としてプレゼンテーションしてもらい、それをもとにグループディスカッションと共有を行います。
受講者のプレゼンテーションは「ケーススタディ1」と「ケーススタディ2」のうちいずれか1回です。

なお、履修者数によって、事例発表の授業回数が変わるため、内容が変更になる場合があります。

授業の到達目標：

・地域についての理解を深め、行政やコミュニティ、NPOと地域の関わりを実態的に学ぶ。
・他の地域に関する発表を見ることで、自分と地域コミュニティの視点や考え方について同じ部分と違う部分を見つける。
・議論の仕方を学び、プレゼンテーション能力を高める。

事前・事後学習の内容：

授業時間外に、プレゼンテーションの準備（リハーサルを含む）や提出課題への対応をしてもらいます。

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第１回：事例研究（観光）
観光における地域資源の活用など、教員から観光に関する議論を紹介した上で、受講者は、テーマについてディスカッションと共有を行い、自分の考えを整理する。

第2回：学生による事例研究発表1
受講学生が自分の地域連携の経験を発表し、これをもとにグループディスカッションと共有を行う。

第3回：学生による事例研究発表2
受講学生が自分の地域連携の経験を発表し、これをもとにグループディスカッションと共有を行う。

第4回：学生による事例研究発表3
受講学生が自分の地域連携の経験を発表し、これをもとにグループディスカッションと共有を行う。

第5回：学生による事例研究発表4
受講学生が自分の地域連携の経験を発表し、これをもとにグループディスカッションと共有を行う。

第6回：学生による事例研究発表5
受講学生が自分の地域連携の経験を発表し、これをもとにグループディスカッションと共有を行う。

第7回：まとめ
自分のプレゼンテーションに対する履修者のコメントを見ながら、授業のまとめを行う。

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 指定しない。

参考文献： 必要に応じて紹介する。

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 0 実施しない。

レポート： 0 実施しない。

平常点評価:	70	授業・議論への参加と貢献、提出物等の評価
その他:	30	自分の地域連携の経験に関するプレゼンテーションの評価

備考・関連URL: 全学副専攻「地域連携・地域貢献」のコア科目です。
https://www.waseda.jp/inst/gec/assets/uploads/2025/08/301d43910c1f088b6e42b3230ac93ae8.pdf#page=50

2023年度まで開講されていた「地域連携演習：ケーススタディ2」の名称変更科目です。同科目の既履修者は、重複して履修登録できません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030002|01|9S12030002[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本手話入門 1		
担 当 教 員	小林 京子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ダイバーシティ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 日本のマイノリティ言語の一つであり，先天的聴覚障害者が第一言語とする日本手話の社会言語学的状況について学ぶ。手話とその言語使用者集団であるろう者の関係、同じ手指言語である手指日本語（日本語対応手話）の使用者集団である難聴者との関係や、家族全員がろう者であるデフ・ファミリー、ろう成人の聞こえるこどもたちであるコーダなど様々なろう者を取り巻く社会の状況を紹介する。ろう者の職業や教育、手話通訳者の養成の変遷，現状，その問題点について議論する。これらを障害者の人権を保障する条約などと照らし，手話を取り巻く言説のあるべき姿を探る。

授業の到達目標: 日本のろう者を取り囲む社会の状況について客観的に学んで理解する。
日本における障害者・言語的なマイノリティに対する考え方と障害者の権利条約に書かれている姿のズレを把握し，そのズレについて論じることができるようになる。

事前・事後学習の内容: 授業で論じられる予定の内容に関する教科書の部分は授業に参加する前に読んでから授業に臨むことが望ましい。
授業後は、各回の授業で論じられた内容に関して、受講生独自が振り返りを行う。ミニレポートの提出を求めることがある（所要時間30分程度）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

01 ろう者とはだれか？家族の言語（担当 高嶋由布子）
聴覚障害者とろう者の違い、ろう文化とろう社会、デフ・ファミリー、コーダ 、ろう者の親

02 日本語と日本手話の関係（担当 森壮也）
ジョリティ言語とマイノリティ言語、ろう文化とバイリンガリズム、手指日本語

03 ろう者の仕事・ろう者と仕事（手話通訳）（担当 高嶋由布子）
本の手話通訳：養成・資格・派遣、ろう者の職業の歴史的変遷、障害者雇用促進法

04 ろう者と手話の歴史①：日本の聴覚障害当事者団体（担当 森壮也）
日本のろう・難聴の当事者団体、国連障害者権利条約、手話言語条例と手話言語法案

05 ろう者と手話の歴史②：教育と手話（担当 森壮也）
特別支援教育とろう教育の歴史、バイリンガル・バイカルチュラル教育、世界的な動向

06 ゲスト・レクチャー（担当 森壮也）
伊藤ホサナ氏（ろうのパティシェ）

07 ディスカッション・授業内試験（担当 高嶋由布子）
その他のやり残したトピックスと定期試験

言語区分: 9 日本語/日本手話 Japanese/Sign Language

教科書: 丸山正樹『デフ・ヴォイス』文藝春秋社，2011年（2015年）

参考文献: 森壮也/・佐々木倫子編『手話を言語と言うのなら』ひつじ書房、2016年
佐野愛子・佐々木倫子・田中瑞穂編『日本手話で学びたい』ひつじ書房、2023年
明晴学園手話科（小学部・中学部）・狩野桂子・森田明 著・バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター 編、『手話に関心があるすべての人のための 知る・学ぶ・教える 日本手話－明晴学園メソッド』、学事出版、2023年
榧陽子・岡典栄，『日本手話がおしえてくれること―ろう者から学ぶための65の疑問（まなびの地図）』大修館書店、2025年

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	60	クォータ末に実施する授業内筆記試験の成績。試験は主に記述式問題で行う。紙媒体のみ持ち込み可。
レポート:	0	休講の時を除いてレポートは課さないがミニレポートを課し、授業への積極的参加状況と合わせて評価する。
平常点評価:	30	授業に出席し、毎回コメントシート等を提出すること。提出状況や内容を総合的に評価する。
その他:	10	授業中・後の質問，ミニレポートの内容など授業への積極的参加状況を総合的に評価する。
備考・関連URL:	他のダイバーシティ関連科目: https://www.waseda.jp/inst/diversity/information/diversity-courses/	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030003|01|9S12030003[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本手話入門 2		
担 当 教 員	小林 京子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ダイバーシティ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： レベル2

授業概要： ナチュラルアプローチ（NA）という直接教授法を用いて日本手話を指導する。
NAには二つの重要な原則がある。
1.日本手話だけで授業を進める。日本語の話し言葉による説明はしない。
2.学生に文を話すよう強制することはしない。
大切なのは日本手話で話されることを「理解する」ことである。毎回の「理解」（＝インプット）の積み重ねが「表出」（＝アウトプット）につながるので、休まずに授業に参加し、インプット量を増やすことが重要である。日本手話は目で見ることばである。メガネなどの必要な方はきちんと準備すること。
最終回にテストを行う。

授業の到達目標： ・基本的な会話ができるようになる。
・NM表現（Non-manualの略で、手指以外の身体部分を用いる表現）を正しく用いて、YES/NO疑問文やWH疑問文で相手に簡単な質問ができるようになる。

事前・事後学習の内容： 授業時に指示する。

授業計画フリー入力サイン： 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
1） 略歴
入学・卒業・何年間・何年目・過去・現在・未来・WH疑問文
2） カレンダー
曜日・昨日・一昨日・明日・明後日・週・月日の表現・YES/NO疑問文・WH疑問文
3） タイムテーブル
時刻・一日の行動の表現・YES/NO疑問文・WH疑問文
4） 通学
通学方法・距離の表現
5)まとめ
これまでのまとめ
6） 講義

7） 夏クォーターテスト
筆記（手話の読み取り）および表現（手話で表現）

言語区分： 9 日本語/日本手話 Japanese/Sign Language

参考文献： 木村晴美・市田泰弘『はじめての手話』生活書院 2014年

成績評価フリー入力サイン： 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験： 60 筆記試験・表現試験の成績を総合的に判断する。

平常点評価： 30 出席ならびに授業への積極的参加

その他： 10 授業中の態度など

備考・関連URL： 他のダイバーシティ関連科目：
https://www.waseda.jp/inst/diversity/information/diversity-courses/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030004|01|9S12030004[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本手話初級 1		
担 当 教 員	小林 京子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ダイバーシティ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: レベル3

授業概要: ナチュラルアプローチ（NA）という直接教授法を用いて日本手話を指導する。
NAには二つの重要な原則がある。
1.日本手話だけで授業を進める。日本語の話し言葉による説明はしない。
2.学生に文を話すよう強制することはしない。
大切なのは日本手話で話されることを「理解する」ことである。毎回の「理解」（＝インプット）の積み重ねが「表出」（＝アウトプット）につながるので、休まずに授業に参加し、インプット量を増やすことが重要である。日本手話は目で見ることばである。メガネなどの必要な方はきちんと準備すること。
最終回にテストを行う。

授業の到達目標: ・WH分裂文やNM表現（Non-manualの略で、手指以外の身体部分を用いる表現）を使って簡単な会話ができる。

事前・事後学習の内容: 本科目の内容は「日本手話入門1・2」を受講し、単位を取得していることを前提としている。
授業時に指示する。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 1） 春・夏クオーターの復習・夏休み
春・夏クオーターの復習・夏休みの出来事
2） 嗜好品
酒・飲物・頻度の表現・YES/NO疑問文・WH疑問文
3） 食習慣
朝食・昼食・夕食・食べ物・YES/NO疑問文・WH疑問文
4） スポーツ
オリンピック種類・機能・経験の有無の表現・YES/NO疑問文・WH疑問文
5） 旅行（国内・海外）
目的・期間・交通手段・費用の表現・YES/NO疑問文・WH疑問文
6） 趣味
旅行・読書・スポーツ・YES/NO疑問文・WH疑問文
7） 秋クォーターテスト
筆記（手話の読み取り）および表現（手話で表現）

言語区分: 9 日本語/日本手話 Japanese/Sign Language

参考文献: 木村晴美・市田泰弘『はじめての手話』生活書院 2014年

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 60 筆記試験・表現試験の成績を総合的に判断する。

平常点評価: 30 出席ならびに授業への積極的参加

その他: 10 授業中の態度など

備考・関連URL: 他のダイバーシティ関連科目：
https://www.waseda.jp/inst/diversity/information/diversity-courses/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030005|01|9S12030005[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本手話初級 ２		
担 当 教 員	小林 京子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ダイバーシティ）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: レベル4

授業概要: ナチュラルアプローチ（NA）という直接教授法を用いて日本手話を指導する。
NAには二つの重要な原則がある。
1.日本手話だけで授業を進める。日本語の話し言葉による説明はしない。
2.学生に文を話すよう強制することはしない。
大切なのは日本手話で話されることを「理解する」ことである。毎回の「理解」（＝インプット）の積み重ねが「表出」（＝アウトプット）につながるので、休まずに授業に参加し、インプット量を増やすことが重要である。日本手話は目で見ることばである。メガネなどの必要な方はきちんと準備すること。
最終回にテストを行う。

授業の到達目標: ・WH分裂文やNM表現（Non-manualの略で、手指以外の身体部分を用いる表現）を使って、具体的な事象に関する会話ができる。例えば、過去にケガをした経験について話す際、いつ、どこ、なに、どのように、ケガの程度などを話せるようになる。

事前・事後学習の内容: 本科目の内容は「日本手話入門1・2」を受講し、単位を取得していることを前提としている。
授業時に指示する。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 1） 病気・けが
部位・けがの程度の表現・YES/NO疑問文・WH疑問文
2） 行事・授業
行事（早稲田祭）の表現・YES/NO疑問文・WH疑問文
3） 自転車・自動車
駐輪場・駐車場・免許取得の希望の表現・YES/NO疑問文・WH疑問文
4） 約束・待ち合わせ
場所・時間・YES/NO疑問文・WH疑問文
5） まとめ
これまで（春・夏・秋・冬クォーター）のまとめ
6） デフゲストとの交流会
ろう者との交流会
7） 冬クォーターテスト
筆記（手話の読み取り）および表現（手話で表現）

言語区分: 9 日本語/日本手話 Japanese/Sign Language

参考文献: 木村晴美・市田泰弘『はじめての手話』生活書院 2014年

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 60 筆記試験・表現試験の成績を総合的に判断する。

平常点評価: 30 出席ならびに授業への積極的参加

その他: 10 授業中の態度など

備考・関連URL: 他のダイバーシティ関連科目：
https://www.waseda.jp/inst/diversity/information/diversity-courses/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|01|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 O1		
担 当 教 員	兵藤 智佳		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL:
●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|02|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 02		
担 当 教 員	兵藤 智佳		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL:
●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|03|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 03		
担 当 教 員	兵藤 智佳		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL: ●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|04|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 04		
担 当 教 員	兵藤 智佳		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL: ●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|05|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 05		
担 当 教 員	佐野 洋輔		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL:
●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|06|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 06		
担 当 教 員	佐野 洋輔		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL:
●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|07|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 07		
担 当 教 員	佐野 洋輔		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL: ●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|08|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 08		
担 当 教 員	岡田 美優		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL:
●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|09|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 09		
担 当 教 員	岡田 美優		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL:
●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|10|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 10		
担 当 教 員	岡田 美優		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL: ●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|11|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 11		
担 当 教 員	兵藤 智佳		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL: ●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|12|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 12		
担 当 教 員	佐野 洋輔		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL: ●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|13|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 13		
担 当 教 員	兵藤 智佳		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL: ●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|14|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 14		
担 当 教 員	岡田 美優		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか―「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL:
●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化―世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化―ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化―世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化―世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化―ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|15|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 15		
担 当 教 員	兵藤 智佳		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①

「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②

「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分:　0　日本語　Japanese

参考文献:
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン:　0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価:　35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他:　65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL:
●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|16|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 16		
担 当 教 員	兵藤 智佳		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL:
●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|17|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 17		
担 当 教 員	佐野 洋輔		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL: ●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|18|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 18		
担 当 教 員	岡田 美優		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: なし

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL:
●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|19|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 19		
担 当 教 員	岡田 美優		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標：

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容：

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL: ●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|20|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 20		
担 当 教 員	筒井 久美子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL: ●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|21|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 21		
担 当 教 員	兵藤 智佳		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL:
●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|22|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 22		
担 当 教 員	筒井 久美子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL: ●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|23|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 23		
担 当 教 員	筒井 久美子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL: ●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|24|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 24		
担 当 教 員	筒井 久美子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL: ●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|25|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 25		
担 当 教 員	岡田 美優		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL:
●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|26|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 26		
担 当 教 員	佐野 洋輔		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL: ●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030014|27|9S12030014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	体験の言語化―世界と自分 27		
担 当 教 員	佐野 洋輔		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

＊本科目は全27クラスが開講しています。もしも希望クラスで選外になってしまっても、他クラスには定員の空きがあります。
曜日・時限・クオーター・担当教員を変更して、ぜひ他クラスの二次募集に登録してください。
本科目では、あなたの体験を立ち止まってふりかえり（リフレクション、内省的考察）、それを分析して「社会の課題」とつなげます。
さらに、「語り」という形で言語化することで、今後の大学生活の充実につなげていきます。
履修対象は、ボランティア、インターン、アルバイト、サークルなど、何かしら社会での体験をした学生です。
1日のゴミ拾い、3日間の企業インターン、1か月の家庭教師アルバイト、2年間のサークル活動など、期間や内容は問いません。
その活動の中で、悲しかったり、怒ったり、辛かったり、もやもやした経験はありませんでしたか？
体験を通じて感じたことを、あなたは言葉にできますか？
授業では、こうした「ひっかかり」を感じた場面に着目します。教員の支援を受けて、「なぜそう感じたのか」「なぜその人はそう言ったのか」と問いを重ね、
その体験と「社会の課題」とのつながりを考えます。
今は、自分の体験が社会の課題につながっているとは感じられないかもしれません。
しかし実はその体験は、政治・文化・国際関係・環境・教育・貧困・ジェンダーなど、さまざまな課題につながっている可能性があります。
この「自分自身と社会の課題とのつながり」に気づくことは、あなたが世界とのつながりを感じる機会となります。

授業の到達目標:

本科目では、以下の3つの力を身につけることを目指します。
①体験を「自分の言葉」で語る力
②体験から社会の課題を発見する力
③体験をさらなる学びへとつなげる力

事前・事後学習の内容:

予習および復習として、授業中に作成したワークシートに次の授業までに記述を追加する。
これにより、各自が言語化に向けての思考を深め、グループワークや発表の質を高めることにつなげる。（60分~120分程度が望ましい）

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 参加型・対話型授業の心構えと目標設定

科目の目的と内容を知る
教員と受講生について知る
最終語りのモデル事例を見て、科目のゴールイメージをつかむ
自分の体験の中で気もちが動いた場面を描写する

第2回 個人の内面のふりかえり

自分の気もちが多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する
他者をめぐる事情と背景、気もちを想像する
他者の気もちも多層的であることに気づき、それを「自分の言葉」で表現する

第3回 社会の課題を発見するふりかえり①

場面や出来事を図（マップ）にして視覚化する
関連する人物や組織の関係性に気づく
気もちをもたらす社会の課題をさがす

第4回 社会の課題を発見するふりかえり②

前回のマップを、他の履修生の視点を加えてさらに展開する
社会の課題を様々な角度から複数発見する

第5回 最終語りにむけて「有機的なつながり」をつくる

最終語りで求められている内容を再確認する
発表する社会の課題を1つに絞り込む
体験と社会の課題の「有機的なつながり」を意識して最終語りを作る

第6回　受講生のよる「語り」とディスカッション①
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる
第7回　受講生のよる「語り」とディスカッション②
「語り」の形式で、これまでの成果を発表する
相手のためとなる批判的かつ建設的なコメントができるようになる
聞き手からのフィードバックを受けて、体験をさらなる学びへとつなげる

言語区分: 0　日本語　Japanese

参考文献: 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター【編】兵藤 智佳・二文字屋 脩・平山 雄大・岩井 雪乃【監修】(2019)『ボランティアで学生は変わるのか—「体験の言語化」からの挑戦』ナカニシヤ出版
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2018)『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(2016)『体験の言語化』成文堂

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 35　発言の積極性、グループワークにおける貢献度、ワークシートを元にした授業への準備状況

その他: 65　最終発表の5分の「語り」を、以下の点から評価する。
【1】自分および相手の気もちを想像できているか
【2】自分および相手の気もちを「自分の言葉」で語れているか
【3】体験からつながる社会の課題を発見できているか
【4】体験からつながる社会の課題を「自分の言葉」で語れているか
【5】共感、感動があったか。論旨が明快だったか。身体表現(声、話し方、表情、姿勢、ジェスチャー等)など総合的インパクト

備考・関連URL: ●授業内容の補足説明
・あなたの体験の一場面を切り取って、その体験の意味を分析し、「語り」という形で言葉にします。
・履修前からあなたがもっている主義主張に、説得力をもたせるための授業ではありません。
・この授業での最終発表は「語り」です。パワーポイントスライドや画像などは使わず、語りだけで発表してもらいます。
・語りの「手法」(テクニック)の指導は、この授業の中心ではありません。
●本科目「体験の言語化—世界と自分01～29」は、副専攻「社会貢献とボランティア」の必修コア科目です。
また、副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
●科目「体験の言語化」には、「世界と自分」のほか、体験の内容別に「体験の言語化—ボランティア体験から01～02」があります。
これらは別科目なので、「世界と自分01～29」の履修者は、「ボランティア体験から」も履修することが可能です。
●英語科目「Contextualizing Self in Society」は、科目「体験の言語化—世界と自分」と同じ内容です。
そのため、「体験の言語化—世界と自分01～29」のいずれかを履修した人は重複履修できません。
「Conceptualizing Self in Society」と「体験の言語化—ボランティア体験から」は、別科目のため重複履修が可能です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030018|01|9S12030018[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	狩猟とジビエから考える地域貢献 ２ 01		
担 当 教 員	佐野 洋輔		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 実習編

授業概要: ※本科目は例年、希望者多数のため抽選により履修者を選考します。「授業計画」に記載の6回の講義および2日間の実習（12/19（土）～12/20（日））に確実に参加でき、本気で取り組む意欲のある方のみ登録してください。就職活動等により参加が難しくなる可能性がある場合は、登録を控えてください。

本科目では、農山村での実習を通じて、狩猟による害獣の捕獲やジビエ（野生鳥獣肉）利活用の取り組みを学び、また、獣害対策のボランティア活動を体験することで、地域貢献のあり方を考えます。
「狩猟とジビエから考える地域貢献1」では、「狩猟」、「ジビエ」、「地域貢献」の基礎知識や実践事例について教室で学びました。本科目では、この学びを基礎としつつ、実際に狩猟の現場を訪ね、罠猟の方法や野生動物を解体して食肉にする方法を学びます。さらに、獣害に悩む住民の声を聴き、自分たちで獣害対策のボランティア活動を計画し、実際に取り組みます。

※本科目は以下1・2の両方を満たす方のみ履修可能です。
1. 2025年度以前に「狩猟と地域おこしボランティア01・02」の単位を修得していない
2. 以下（A）（B）のいずれかに該当する
（A）「狩猟とジビエから考える地域貢献1」を登録中または単位修得済
（B）2025年度以前に「狩猟と獣害対策論1」を単位修得済

授業の到達目標: 1. 狩猟について、安全に配慮した準備・足くくり罠の設置・捕獲の手順を説明できる
2. ジビエについて、衛生に配慮した野生鳥獣の解体・精肉・調理の手順を説明できる
3. 獣害に苦しむ人びとに寄り添った獣害対策ボランティア活動を実行できる

事前・事後学習の内容: 事前学習：毎回、グループごとの調査課題の担当箇所について調べ、まとめたものをMoodle上で提出することで、授業に関連する知識を深める（90分程度）
事後学習：毎回、教員が指定したテーマについて、授業で学んだことと考えたことを書いてMoodle上で提出することで、授業内容を復習する（45分程度）

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ※本科目は、講義6回と1泊2日の実習1回（講義換算で8回分）で構成されています。

【教室11/25（水）】第1回 イントロダクション
・授業の目的と進め方を確認します。
・罠猟の猟場選びと猟具の準備について、教員の実践をもとに学びます。
・実習地（奥多摩町）がどのような地域であるのか、また、住民が直面している獣害関係のさまざまな困りごとについて学びます。そして、個別の困りごとに対応して獣害対策ボランティアを計画するためのグループを履修者同士で作ります。
・グループワークとして、担当する困りごとについて、調べるべき前提情報をリストアップします。

【教室12/2（水）】第2回 実習準備①
・罠猟の足くくり罠の設置方法について、教員の実習地での実践をもとに学びます。
・グループワークとして、調べてきたことを報告し、ボランティア活動案の作成に向けて、さらに必要な情報をリストアップします。

【教室12/9（水）】第3回 実習準備②
・罠猟で捕獲した個体の処理方法について、教員の実習地での実践をもとに学びます。
・グループワークとして、ボランティア活動計画の草案を作成し、実施の可否を判断するために追加で調べるべき情報を考えます。

【教室12/16（水）】第4回 実習準備③
・シカの解体・処理・調理方法の流れについて、シカの骨格模型や映像をもとに学びます。
・グループワークとして、ボランティア活動計画の最終案を議論し、履修者全体へ向けて発表してフィードバックを得ます。

【実習12/19（土）】第5回～第9回
9:00、JR青梅線川井駅に集合し、奥多摩町内で実習を開始

第5回　シカの捕獲を学ぶ
第6回　シカの解体を学ぶ
第7回　シカの精肉を学ぶ
第8回　シカの調理を学ぶ
19:00、全員で奥多摩町内の宿泊施設に宿泊

【実習12/20（日）】第9回～第12回
8:00、奥多摩町内で実習再開
第9回　獣害対策ボランティアを実践する①
第10回　獣害対策ボランティアを実践する②
第11回　獣害対策ボランティアを実践する③
第12回　獣害対策ボランティアを実践する④
18:00、実習を終了し、JR青梅線川井駅解散

【教室1/13（水）】第13回　実習を振り返る
・実習で学んだことを、履修者同士が事後学習課題の提出物をもとに振り返ります。
・グループワークとして、奥多摩町町民向けのグループ活動報告書の作成に向けて、グループごとに内容案を議論し、各項目の担当者を決めます。

【教室1/20（水）】第14回　グループ活動報告書をつくる
・グループワークとして、グループ活動報告書案をまとめ、各グループが全体へ向けて発表し、フィードバックを得ます。このフィードバックをもとに、各グループで修正項目とその担当者を決めます。

言語区分:　0　日本語　Japanese

参考文献:
1. 新狩猟世界編集部（編）(2025)『新狩猟世界これから始める人のためのわな猟の教科書決定版』株式会社チカト商会.
2. 垣内忠正・林利栄子 (2017)『美味しく食べるために狩りをする! ジビエハンターガイドブック』応用芸術研究所.

成績評価フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:
事前学習課題48%　知識を深められているかを評価（各8%×6回）
事後学習課題32%　授業内容の理解度から評価（各4%×8回）
グループ活動報告書20%　「授業の到達目標」3の観点から評価（グループで作成するため、各自の貢献度を考慮する）

備考・関連URL:
［実習について］
・履修者は参加費（約1万円）の負担が必要です。内訳は、宿泊費（約3,000円）、食事代（4食分・約3,000円）、交通費（自宅―JR青梅線川井駅の往復電車代約2,500円（【参考】早稲田駅―川井駅の場合は2,246円）と奥多摩町内移動用のバス代約1,000円）、消耗品費（約500円）です。
・宿泊場所は古民家で、数名ずつの相部屋となる予定です。
・真冬の野外で長時間歩いたり、力仕事をしたりしますので、防寒着や体力面の準備が必要になります。

［その他］
・授業内では、「動物にとどめを刺す」「動物を解体する」といった狩猟に関する事柄を体験したり、映像で視聴したりします。それを理解した上で履修してください。
・本科目は、副専攻「社会貢献とボランティア」の選択科目です。
・本科目は、平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）の提供科目です。
・本科目は2025年度までの「狩猟と地域おこしボランティアO1」が名称変更したものです。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030018|02|9S12030018[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	狩猟とジビエから考える地域貢献 2 02		
担 当 教 員	佐野 洋輔		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 実習編

授業概要: ※本科目は例年、希望者多数のため抽選により履修者を選考します。「授業計画」に記載の6回の講義および2日間の実習（1/9（土）～1/10（日））に確実に参加でき、本気で取り組む意欲のある方のみ登録してください。就職活動等により参加が難しくなる可能性がある場合は、登録を控えてください。

本科目では、農山村での実習を通じて、狩猟による害獣の捕獲やジビエ（野生鳥獣肉）利活用の取り組みを学び、また、獣害対策のボランティア活動を体験することで、地域貢献のあり方を考えます。
「狩猟とジビエから考える地域貢献1」では、「狩猟」、「ジビエ」、「地域貢献」の基礎知識や実践事例について教室で学びました。本科目では、この学びを基礎としつつ、実際に狩猟の現場を訪ね、罠猟の方法や野生動物を解体して食肉にする方法を学びます。さらに、獣害に悩む住民の声を聴き、自分たちで獣害対策のボランティア活動を計画し、実際に取り組みます。

※本科目は以下1・2の両方を満たす方のみ履修可能です。
1. 2025年度以前に「狩猟と地域おこしボランティア01・02」の単位を修得していない
2. 以下（A）（B）のいずれかに該当する
（A）「狩猟とジビエから考える地域貢献1」を登録中または単位修得済
（B）2025年度以前に「狩猟と獣害対策論1」を単位修得済

授業の到達目標: 1. 狩猟について、安全に配慮した準備・足くくり罠の設置・捕獲の手順を説明できる
2. ジビエについて、衛生に配慮した野生鳥獣の解体・精肉・調理の手順を説明できる
3. 獣害に苦しむ人びとに寄り添った獣害対策ボランティア活動を実行できる

事前・事後学習の内容: 事前学習：毎回、グループごとの調査課題の担当箇所について調べ、まとめたものをMoodle上で提出することで、授業に関連する知識を深める（90分程度）
事後学習：毎回、教員が指定したテーマについて、授業で学んだことと考えたことを書いてMoodle上で提出することで、授業内容を復習する（45分程度）

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ※本科目は、講義6回と1泊2日の実習1回（講義換算で8回分）で構成されています。

【教室11/25（水）】第1回 イントロダクション
・授業の目的と進め方を確認します。
・罠猟の猟場選びと猟具の準備について、教員の実践をもとに学びます。
・実習地（奥多摩町）がどのような地域であるのか、また、住民が直面している獣害関係のさまざまな困りごとについて学びます。そして、個別の困りごとに対応して獣害対策ボランティアを計画するためのグループを履修者同士で作ります。
・グループワークとして、担当する困りごとについて、調べるべき前提情報をリストアップします。

【教室12/2（水）】第2回 実習準備①
・罠猟の足くくり罠の設置方法について、教員の実習地での実践をもとに学びます。
・グループワークとして、調べてきたことを報告し、ボランティア活動案の作成に向けて、さらに必要な情報をリストアップします。

【教室12/9（水）】第3回 実習準備②
・罠猟で捕獲した個体の処理方法について、教員の実習地での実践をもとに学びます。
・グループワークとして、ボランティア活動計画の草案を作成し、実施の可否を判断するために追加で調べるべき情報を考えます。

【教室12/16（水）】第4回 実習準備③
・シカの解体・処理・調理方法の流れについて、シカの骨格模型や映像をもとに学びます。
・グループワークとして、ボランティア活動計画の最終案を議論し、履修者全体へ向けて発表してフィードバックを得ます。

【実習1/9（土）】第5回～第9回
9:00、JR青梅線川井駅に集合し、奥多摩町内で実習を開始

第5回　シカの捕獲を学ぶ
第6回　シカの解体を学ぶ
第7回　シカの精肉を学ぶ
第8回　シカの調理を学ぶ
19:00、全員で奥多摩町内の宿泊施設に宿泊

【実習1/10（日）】第9回～第12回
8:00、奥多摩町内で実習再開
第9回　獣害対策ボランティアを実践する①
第10回　獣害対策ボランティアを実践する②
第11回　獣害対策ボランティアを実践する③
第12回　獣害対策ボランティアを実践する④
18:00、実習を終了し、JR青梅線川井駅解散

【教室1/13（水）】第13回　実習を振り返る
・実習で学んだことを、履修者同士が事後学習課題の提出物をもとに振り返ります。
・グループワークとして、奥多摩町町民向けのグループ活動報告書の作成に向けて、グループごとに内容案を議論し、各項目の担当者を決めます。

【教室1/20（水）】第14回　グループ活動報告書をつくる
・グループワークとして、グループ活動報告書案をまとめ、各グループが全体へ向けて発表し、フィードバックを得ます。このフィードバックをもとに、各グループで修正項目とその担当者を決めます。

言語区分:　0　日本語　Japanese

参考文献:
1. 新狩猟世界編集部（編）(2025)『新狩猟世界これから始める人のためのわな猟の教科書決定版』株式会社チカト商会.
2. 垣内忠正・林利栄子 (2017)『美味しく食べるために狩りをする! ジビエハンターガイドブック』応用芸術研究所.

成績評価フリー入力サイン:
1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:
事前学習課題48%　知識を深められているかを評価（各8%×6回）
事後学習課題32%　授業内容の理解度から評価（各4%×8回）
グループ活動報告書20%　「授業の到達目標」3の観点から評価（グループで作成するため、各自の貢献度を考慮する）

備考・関連URL:
［実習について］
・履修者は参加費（約1万円）の負担が必要です。内訳は、宿泊費（約3,000円）、食事代（4食分・約3,000円）、交通費（自宅―JR青梅線川井駅の往復電車代約2,500円（【参考】早稲田駅―川井駅の場合は2,246円）と奥多摩町内移動用のバス代約1,000円）、消耗品費（約500円）です。
・宿泊場所は古民家で、数名ずつの相部屋となる予定です。
・真冬の野外で長時間歩いたり、力仕事をしたりしますので、防寒着や体力面の準備が必要になります。

［その他］
・授業内では、「動物にとどめを刺す」「動物を解体する」といった狩猟に関する事柄を体験したり、映像で視聴したりします。それを理解した上で履修してください。
・本科目は、副専攻「社会貢献とボランティア」の選択科目です。
・本科目は、平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）の提供科目です。
・本科目は2025年度までの「狩猟と地域おこしボランティア02」が名称変更したものです。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030026|01|9S12030026[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	農山村体験実習		
担 当 教 員	弦間　正彦@加藤　基樹@西原　是良		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　−持続可能な農村の共創をめざして−

授業概要:　千葉県館山市における実習と農業経済学に関連する座学を組み合わせ、持続可能な農村社会を考えていく課題解決型講義です。
本講義は、京葉ガスエナジーソリューション（KGES）株式会社の寄附による提携講座です。

少子高齢化社会となった日本の中でも、農村はその影響が非常に深刻な地域です。産業としての農業の衰退、後継者不足だけではなく、
祭りのような地域の文化や、ため池や棚田といった農業資源と農村景観、そして生物多様性、これら農村が持つ価値の持続可能性が危機に瀕しています。

その一方、この地域で仕事を創り、また生きがいを見つけ出す人々がいます。また、それを支援する企業の取り組みや、様々な制度が存在します。

本講義は、農村・食品産業等に関わる現場の人たちとのZOOMインタビューや、農村体験実習を通じて、社会科学的観点から「なぜこのような状況が生まれたのか」を考えます。
毎回、グループワークや発表を実施します。受講学生の皆さんに積極的な参加を求め、実習に向けた準備を行なっていきます。

授業の到達目標:　①講義とインタビューを通じて、日本の農業・農村が置かれている現状を自分なりの解釈で理解すること。

②農業・農村の現状に至るまでの背景や農業政策、農村の制度についての知識を持つこと。

③農村地域の住民・関係者と共に実習を行い、農村地域の課題を解決するためのアイデアを考え、発表すること。

④都市部に住む大学生として、農村や地域社会とどのようにかかわっていけるのか、自分なりの考えを持つこと。

事前・事後学習の内容:　講義は、グループワークを中心に運営されます。受講者は積極的な発言や役割分担を求められます。また、議論に参加してもらうため、資料の準備や予習を指示することがあります。

実習は本講義の到達目標実現に必須の活動であるため、必ず参加してください。代行措置はありません。
5月30日（土）・31日（日）に、1泊2日の実習を予定しています。

講義回数は13回とし、1回分は実習の代替として開講しません。講義日については初回のガイダンスで必ず確認してください。また、実習の日程とゲスト講師の講義回は前後する可能性があります。

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:　第1回：オリエンテーション・農業と農村の課題について　（4月17日・担当教員：弦間正彦・西原是良）
授業の進め方を説明します。また、農業という特定の産業をなぜそれ以外の人々が支援するのか、
農村が持つ森林・水・農地・生態系などの資源とその管理の仕組みについて学びます。
講義の作業を行うグループ分けをします。

第2回：KGES社の取り組み＋グループ学習の目標極め　（4月24日・担当教員：西原是良）
寄付社の活動を事例とした、農村と企業との協働について学びます。また、実習グループのテーマを決めてもらいます。

第3回：事前リサーチ：館山市を調べる +グループ学習の目標決め（5月1日・担当教員：西原是良）
グループごとに、事前学習に取り組んでもらいます。そのための方法や作業分担を確認します。

第4回：地方創生と早稲田大学の挑戦（5月8日・担当教員：加藤基樹）
地方創生が政策課題になる中で、早稲田大学を含む様々な教育組織もこの問題に取り組んでいます。
地方創生の取り組みや、その方向性、早稲田大学を事例とした具体的な活動について、他の講義の例なども紹介しつつ学びます。

第5回:「生きたい場所がある。だから生業(ナリワイ)を創る」(ゲスト講師:小松圭子氏) 事前学習の発表会(5月15日・担当教員:西原是良)
はたやま夢楽社長・小松圭子氏(06年政経卒)をお招きします。
中山間地域に定住するまでのあゆみ、中山間地域で、養鶏と宿泊を組み合わせた6次産業経営体の社長となるまで、
そして、新しい農村の姿についての構想をご紹介いただきます。

第6回:事前リサーチ:館山市を調べる+先行研究を調べる(5月22日・担当教員:西原是良)
実習地である館山市について事前情報を収集します。

第7回:実習前オリエンテーション (5月29日・担当教員:西原是良)
グループワークの続きをするほか、翌日からの実習オリエンテーションを行います。

第8回:グループワーク:実習の振り返りと班別課題の決定(6月5日・担当教員:西原是良)
実習での経験を元に、班ごとに取り組む課題を決定します。

第9回:定性調査レポートの書き方(6月12日・担当教員:西原是良)
ここまでの作業結果を共有します。
レポートを作成する方法について学びます。実習終了後のレポートについての指示も行います。

第10回:農業と他産業の連携(6月19日・担当教員:西原是良)
農業と食品産業との関係性や、それらが協働することの意義について学びます。
翌週のゲスト講義に備えて質問などを準備します。

第11回 食品企業と地域貢献(アサヒビール株式会社様よりゲスト講義招聘予定) (6月26日・担当教員:西原是良)
農村に貢献する役割は、政府だけではなく企業も担っています。
食品企業による持続可能な社会への貢献活動について、また被災地域の復興支援の事例を、アサヒビール株式会社様からご紹介頂きます。

第12回 グループワーク:発表準備 (7月3日・担当教員:西原是良)
発表会の準備を行なってもらいます。

第13回 グループ発表・全体総括(7月10日・全教員)
グループごとに学んだことの発表をしてもらいます。また、全体の総括をします。

(1回分は実習の代替として開講しません。講義日・実習予定日については初回のガイダンスで必ず確認してください。また、直前オリエンテーション・ゲスト講師の講義回は変更する可能性があります。)

言語区分:	0	日本語 Japanese
教科書:	柏雅之編(2019)『地域再生の論理と主体形成:農業・農村の新たな挑戦』早稲田大学学術叢書 ISBN-13: 978-4657197016	
参考文献:	堀口健治・加藤基樹編(2011):『書を持って農村に行こう 早稲田発 農山村体験実習』(早稲田大学出版部) ほか、必要に応じて各講師が紹介する	
成績評価フリー入力サイン:	0:評価方法毎フォーマット(教員による切替可)	
試験:	0	試験は実施しない。
レポート:	35	実習終了後、レポートを提出してもらう。
平常点評価:	45	毎回、グループワークに参加し、その成果をもとに講義内課題の提出を求める。詳細は講義回ごとに指示する。
その他:	20	実習への参加による加点。 成績評価の配点としては大きくないが、体験講義という形態であるため、実習への参加は単位取得のための必須条件とする。
備考・関連URL:	実習費用(自己負担額)は, 現地への移動や食事にかかわる費用となります。自己負担額は2万円程度です。	

【問い合わせ先】西原　是良（yukinaga@aoni.waseda.jp）

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030031|01|9S12030031[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発：理論とスキル 01		
担 当 教 員	片岡 亜紀子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

この「理論とスキル」に始まる「リーダーシップ開発」プログラムでは、「リーダーとしてもっと組織の力を引き出せないか」あるいは「もっと自分に合ったリーダーシップスタイルがあるのではないか？」など、リーダーシップについての切実な疑問に応えます。学ぶのは、 多様性あるメンバーの能動的な行動を引き出すための、リーダーシップです。リーダーシップの理論と、 その発揮に必要なスキルを学んだ上で、実践と振り返りの中で確実に使えるものにしていきます。

《授業の背景・目的》

グローバル化が進む現代社会において、私たちは様々な変化に直面しています。その結果、前例踏襲ではなく、新しいアイディアを実現していくこと、変化を作り出していくことこと(イノベーション)が求められています。、このようにいうと、皆さんの中には、自分はアイディア豊富な人材ではないから・・・とがっかりしてしまう人がいるかもしれませんが、心配はありません。多様な価値観や知識・経験を持つメンバーと協働し、協働を促す文化や環境を作り出す役割を担っていくことで、創造的な成果を生み出すことが可能になります。
この授業では、 変化の激しい時代に活躍する際に必須のスキルである「全員戦力化のリーダーシップ」を学びます。この授業で学び身に付けたリーダーシップのスキルを、他の授業やサークル等の課外活動でも応用することで、さらに充実した大学生活を送ることができます。また、こうした全員戦力化のリーダーシップを若手に求める企業も非常に増えていますので、卒業直後から使うことができるライフ･スキルが身につけることができるとも言えます。

《授業の全体像》
（基礎）
「リーダーシップ開発プログラム」は（基礎）（応用）（発展）に含まれる、次の科目から成り立っています。

（基礎）
・理論とスキル(同一内容年2回、春･秋クォーター)
・問題解決プロジェクト(同一内容年2回、夏･冬クォーター)

（応用）
・他者のリーダーシップ開発(同一内容年2回、春夏クォーター連続、秋冬クォーター連続)
・授業外への適用（秋クォーター）
・社会人へのトランジション（冬クォーター）

（発展）
・リーダーシップ開発授業設計実習（同一内容年2回、春夏クォーター連続、秋冬クォーター連続））

このうち、「理論とスキル」では「全員戦力化のリーダーシップ」の考え方、リーダーシップ発揮に必要な思考技術、コミュニケーションの技術等を、レクチャーとグループワークを通して学びます。。

二番目の「問題解決プロジェクト」では、 企業からの課題に対して提案を行うべくグループワークと振り返りを繰り返してリーダーシップの経験学習を行い、実戦で使えるリーダーシップ・スキルを身につけます。

三番目の「他者のリーダーシップ開発」では、リーダーシップの全員発揮を促す組織づくりについて学び、自ら実践していきます。質問を通じた組織開発について体験的に学ぶとともに、教員やTAに頼らないクラスづくりに自ら挑戦していきます。

四番目の「授業外への適用」では、部活やゼミ等授業外の機会に効果的にリーダーシップを発揮するためのワークを行うとともに、自ら成長していく力を高めます。いずれの受講にも「理論とスキル」「問題解決プロジェクト」修得済み（科目によっては修得済みか同時申請）であることが必要になります。

五番目の「社会人へのトランジション」では、1)自身の強み・価値観、2)仕事の世界の現状と未来、3)権限者の下でのリーダーシップ をPDCAを回しながら学ぶことを通じて、大学生から社会人へのトランジションを円滑に行います。

六番目の「リーダーシップ開発授業設計実習」では、リーダーシップ開発プログラムの設計に実習として参画します。プログラムの学びを最大化するために組織開発と教材開発の面からリーダーシップの発揮を実践します。

なお（応用）および（発展）科目の受講には、「理論とスキル」「問題解決プロジェクト」が修得済み（科目によっては修得済みか同時申請）であることが必要になります。逆に、(基礎)を受講していれば、その他の科目は関心に応じて好きな順序で好きなタイミングで履修することができます。

なお、春夏/秋冬で連続改稿している科目はセットで履修することを強くお勧めします。、、。一つには学習効果が高まること点、二つには、クラス替えなく同じメンバーで次のクォーターに進めることが理由です。

《授業の特徴》

a) 社会だけでなく、大学生活において活用ができる

リーダーシップ開発では、論理思考力、伝える力、質問力、フィードバックなど、グループ活動でより良い成果を出すための具体的な方法を学びます。この授業で学んだリーダーシップを実践することで、就職後はもちろんのこと、サークル活動やアルバイト、インターンシップでの課題を解決しやすくなるでしょう。

b) 授業そのものが多様な人材の活躍を促すリーダーシップのモデルになっている

全てのメンバーがそれぞれの力を発揮し最大の成果を上げる「全員戦力化のリーダーシップ」を、学生運営スタッフと教員全員が体現しながらクラスを作っていきます。日々変化する状況の中でいかに組織を全員で前進させていくか、リーダーを目指す人も含めて、目の前にモデルを見ながら学ぶことができます。

c) 学部・学年を超えたクラスメイトとのつながりができる

クラスには1・2年生はもちろん、就職活動や社会人への一歩を踏み出すタイミングである3・4年生もたくさん履修しています。クラス内では毎回グループワークを行いますので、学部・学年を超えたクラスメイトとのつながりができます。多様なメンバーが関係構築できるように授業内容の設計をおこなっているので、クラスへの積極的な参加が求められる一方で、たとえ内向的な人であってもこのゴールを達成しています。

授業の到達目標: 授業の中で、そして生活のなかで「「全員戦力化のリーダーシップ」を発揮し始めること。そして、人間関係をリーダーシップの観点から見直せるようになること。

事前・事後学習の内容: 日常に活用できる実戦的な課題がほぼ毎週出されます。所要時間は1～2時間/週程度。2時間は、それだけかかるというより課題にじっくり取り組んで気がついたら2時間たっていたという感じでしょう。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 授業計画タイトル01　イントロダクション
これからのリーダーシップとは？
全員戦力化のリーダーシップを体感する

授業計画タイトル02　全員戦力化のリーダーシップの基盤となる心理的安全性（衝突安全性）の構築方法を知る
心理的安全性の意義と働き方を理論と体験から理解する
心理的安全性構築のためのスキルを学ぶ

授業計画タイトル03　自分らしいリーダーシップの発見と発揮/ビジョン策定

いろいろなリーダーシップ理論を活用して自分らしいリーダーシップを発見する
ビジョン・目標策定と全員戦力化のリーダーシップの関係をワークから学ぶ

授業計画タイトル04　解像度を上げる
論理思考導入
ビジョンをするための仕組みを考える

授業計画タイトル05　モチベーション
ビジョン実現の具体策を考える
人や組織が動く仕組みとして、モチベーションの理論を知る

授業計画タイトル06　協働の相手を知る
ビジョン策定→メカニズム把握→ビジョン実現の演習としてミニPBLに取り組む
リーダーシップ理論を活用して人を巻き込む（ミニケースを使ったグループワーク

授業計画タイトル07　巻き込み力を高める/総括
ミニPBL取り組み完了。これまでの学びをフル活用する
総括・振り返り

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　なし.

参考文献：　森永雄太『ジョブ・クラフティングのマネジメント』（千倉書房）
日向野幹也『「権限によらないリーダーシップ」で組織が変わる』(ちくま新書).
他に適宜指示します.

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　提出課題，出席，クラス全体への貢献.

備考・関連URL：　a) 定員枠の有効活用のために、春「理論とスキル」と夏「問題解決プロジェクト」(秋と冬も同様)をセットで履修申請した人を優先します。

b) グループワークが多く、遅刻/早退(20分以下のものを欠席0。5とカウントします、それ以上は欠席1とカウントします)や欠席はグループやクラスにとって大きな損失になるので、減点対象とせざるを得ません。欠席が3回(3週ではなく3コマ)を超えると不合格ですのでご注意ください。

科目名のあとの数字（春は01-04、秋は05-08)は同クオータに行われる同一科目の中のクラス番号を示しています。クラス分けはGECで行うので、履修申請時はこの数字は気にせずに申請してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030031|02|9S12030031[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発：理論とスキル 02		
担 当 教 員	宮澤 俊彦		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

この「理論とスキル」に始まる「リーダーシップ開発」プログラムでは、「リーダーとしてもっと組織の力を引き出せないか」あるいは「もっと自分に合ったリーダーシップスタイルがあるのではないか？」など、リーダーシップについての切実な疑問に応えます。学ぶのは、 多様性あるメンバーの能動的な行動を引き出すための、リーダーシップです。リーダーシップの理論と、 その発揮に必要なスキルを学んだ上で、実践と振り返りの中で確実に使えるものにしていきます。

《授業の背景・目的》

グローバル化が進む現代社会において、私たちは様々な変化に直面しています。その結果、前例踏襲ではなく、新しいアイディアを実現していくこと、変化を作り出していくことこと(イノベーション)が求められています。、このようにいうと、皆さんの中には、自分はアイディア豊富な人材ではないから・・・とがっかりしてしまう人がいるかもしれませんが、心配はありません。多様な価値観や知識・経験を持つメンバーと協働し、協働を促す文化や環境を作り出す役割を担っていくことで、創造的な成果を生み出すことが可能になります。
この授業では、変化の激しい時代に活躍する際に必須のスキルである「全員戦力化のリーダーシップ」を学びます。この授業で学び身に付けたリーダーシップのスキルを、他の授業やサークル等の課外活動でも応用することで、さらに充実した大学生活を送ることができます。また、こうした全員戦力化のリーダーシップを若手に求める企業も非常に増えていますので、卒業直後から使うことができるライフ･スキルが身につけることができるとも言えます。

《授業の全体像》
（基礎）
「リーダーシップ開発プログラム」は（基礎）（応用）（発展）に含まれる、次の科目から成り立っています。

（基礎）
・理論とスキル(同一内容年2回、春･秋クォーター)
・問題解決プロジェクト(同一内容年2回、夏･冬クォーター)

（応用）
・他者のリーダーシップ開発(同一内容年2回、春夏クォーター連続、秋冬クォーター連続)
・授業外への適用（秋クォーター）
・社会人へのトランジション（冬クォーター）

（発展）
・リーダーシップ開発授業設計実習（同一内容年2回、春夏クォーター連続、秋冬クォーター連続））

このうち、「理論とスキル」では「全員戦力化のリーダーシップ」の考え方、リーダーシップ発揮に必要な思考技術、コミュニケーションの技術等を、レクチャーとグループワークを通して学びます。。

二番目の「問題解決プロジェクト」では、企業からの課題に対して提案を行うべくグループワークと振り返りを繰り返してリーダーシップの経験学習を行い、実戦で使えるリーダーシップ・スキルを身につけます。

三番目の「他者のリーダーシップ開発」では、リーダーシップの全員発揮を促す組織づくりについて学び、自ら実践していきます。質問を通じた組織開発について体験的に学ぶとともに、教員やTAに頼らないクラスづくりに自ら挑戦していきます。

四番目の「授業外への適用」では、部活やゼミ等授業外の機会に効果的にリーダーシップを発揮するためのワークを行うとともに、自ら成長していく力を高めます。いずれの受講にも「理論とスキル」「問題解決プロジェクト」修得済み（科目によっては修得済みか同時申請）であることが必要になります。

五番目の「社会人へのトランジション」では、1)自身の強み・価値観、2)仕事の世界の現状と未来、3)権限者の下でのリーダーシップ をPDCAを回しながら学ぶことを通じて、大学生から社会人へのトランジションを円滑に行います。

六番目の「リーダーシップ開発授業設計実習」では、リーダーシップ開発プログラムの設計に実習として参画します。プログラムの学びを最大化するために組織開発と教材開発の面からリーダーシップの発揮を実践します。

なお（応用）および（発展）科目の受講には、「理論とスキル」「問題解決プロジェクト」が修得済み（科目によっては修得済みか同時申請）であることが必要になります。逆に、(基礎)を受講していれば、その他の科目は関心に応じて好きな順序で好きなタイミングで履修することができます。

なお、春夏/秋冬で連続改稿している科目はセットで履修することを強くお勧めします。、、。一つには学習効果が高まること点、二つには、クラス替えなく同じメンバーで次のクォーターに進めることが理由です。

《授業の特徴》

a) 社会だけでなく、大学生活において活用ができる

リーダーシップ開発では、論理思考力、伝える力、質問力、フィードバックなど、グループ活動でより良い成果を出すための具体的な方法を学びます。この授業で学んだリーダーシップを実践することで、就職後はもちろんのこと、サークル活動やアルバイト、インターンシップでの課題を解決しやすくなるでしょう。

b) 授業そのものが多様な人材の活躍を促すリーダーシップのモデルになっている

全てのメンバーがそれぞれの力を発揮し最大の成果を上げる「全員戦力化のリーダーシップ」を、学生運営スタッフと教員全員が体現しながらクラスを作っていきます。日々変化する状況の中でいかに組織を全員で前進させていくか、リーダーを目指す人も含めて、目の前にモデルを見ながら学ぶことができます。

c) 学部・学年を超えたクラスメイトとのつながりができる

クラスには1・2年生はもちろん、就職活動や社会人への一歩を踏み出すタイミングである3・4年生もたくさん履修しています。クラス内では毎回グループワークを行いますので、学部・学年を超えたクラスメイトとのつながりができます。多様なメンバーが関係構築できるように授業内容の設計をおこなっているので、クラスへの積極的な参加が求められる一方で、たとえ内向的な人であってもこのゴールを達成しています。

授業の到達目標: 授業の中で、そして生活のなかで「「全員戦力化のリーダーシップ」を発揮し始めること。そして、人間関係をリーダーシップの観点から見直せるようになること。

事前・事後学習の内容: 日常に活用できる実戦的な課題がほぼ毎週出されます。所要時間は1～2時間/週程度。2時間は、それだけかかるというより課題にじっくり取り組んで気がついたら2時間たっていたという感じでしょう。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 授業計画タイトル01　イントロダクション
これからのリーダーシップとは？
全員戦力化のリーダーシップを体感する

授業計画タイトル02　全員戦力化のリーダーシップの基盤となる心理的安全性（衝突安全性）の構築方法を知る
心理的安全性の意義と働き方を理論と体験から理解する
心理的安全性構築のためのスキルを学ぶ

授業計画タイトル03　自分らしいリーダーシップの発見と発揮/ビジョン策定

いろいろなリーダーシップ理論を活用して自分らしいリーダーシップを発見する
ビジョン・目標策定と全員戦力化のリーダーシップの関係をワークから学ぶ

授業計画タイトル04　解像度を上げる
論理思考導入
ビジョンをするための仕組みを考える

授業計画タイトル05　モチベーション
ビジョン実現の具体策を考える
人や組織が動く仕組みとして、モチベーションの理論を知る

授業計画タイトル06　協働の相手を知る
ビジョン策定→メカニズム把握→ビジョン実現の演習としてミニPBLに取り組む
リーダーシップ理論を活用して人を巻き込む（ミニケースを使ったグループワーク

授業計画タイトル07　巻き込み力を高める/総括
ミニPBL取り組み完了。これまでの学びをフル活用する
総括・振り返り

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: なし.

参考文献: 森永雄太『ジョブ・クラフティングのマネジメント』（千倉書房）
日向野幹也『「権限によらないリーダーシップ」で組織が変わる』(ちくま新書).
他に適宜指示します.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100　提出課題, 出席, クラス全体への貢献.

備考・関連URL: a) 定員枠の有効活用のために、春「理論とスキル」と夏「問題解決プロジェクト」(秋と冬も同様)をセットで履修申請した人を優先します。

b) グループワークが多く、遅刻/早退(20分以下のものを欠席0。5とカウントします、それ以上は欠席1とカウントします)や欠席はグループやクラスにとって大きな損失になるので、減点対象とせざるを得ません。欠席が3回(3週ではなく3コマ)を超えると不合格ですのでご注意ください。

科目名のあとの数字（春は01-04、秋は05-08)は同クオータに行われる同一科目の中のクラス番号を示しています。クラス分けはGECで行うので、履修申請時はこの数字は気にせずに申請してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030031|03|9S12030031[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発：理論とスキル 03		
担 当 教 員	山崎 秀雄		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

この「理論とスキル」に始まる「リーダーシップ開発」プログラムでは、「リーダーとしてもっと組織の力を引き出せないか」あるいは「もっと自分に合ったリーダーシップスタイルがあるのではないか？」など、リーダーシップについての切実な疑問に応えます。学ぶのは、 多様性あるメンバーの能動的な行動を引き出すための、リーダーシップです。リーダーシップの理論と、 その発揮に必要なスキルを学んだ上で、実践と振り返りの中で確実に使えるものにしていきます。

《授業の背景・目的》

グローバル化が進む現代社会において、私たちは様々な変化に直面しています。その結果、前例踏襲ではなく、新しいアイディアを実現していくこと、変化を作り出していくことこと(イノベーション)が求められています。、このようにいうと、皆さんの中には、自分はアイディア豊富な人材ではないから・・・とがっかりしてしまう人がいるかもしれませんが、心配はありません。多様な価値観や知識・経験を持つメンバーと協働し、協働を促す文化や環境を作り出す役割を担っていくことで、創造的な成果を生み出すことが可能になります。
この授業では、変化の激しい時代に活躍する際に必須のスキルである「全員戦力化のリーダーシップ」を学びます。この授業で学び身に付けたリーダーシップのスキルを、他の授業やサークル等の課外活動でも応用することで、さらに充実した大学生活を送ることができます。また、こうした全員戦力化のリーダーシップを若手に求める企業も非常に増えていますので、卒業直後から使うことができるライフ･スキルが身につけることができるとも言えます。

《授業の全体像》
（基礎）
「リーダーシップ開発プログラム」は（基礎）（応用）（発展）に含まれる、次の科目から成り立っています。

（基礎）
・理論とスキル(同一内容年2回、春･秋クォーター)
・問題解決プロジェクト(同一内容年2回、夏･冬クォーター)

（応用）
・他者のリーダーシップ開発(同一内容年2回、春夏クォーター連続、秋冬クォーター連続)
・授業外への適用（秋クォーター）
・社会人へのトランジション（冬クォーター）

（発展）
・リーダーシップ開発授業設計実習（同一内容年2回、春夏クォーター連続、秋冬クォーター連続))

このうち、「理論とスキル」では「全員戦力化のリーダーシップ」の考え方、リーダーシップ発揮に必要な思考技術、コミュニケーションの技術等を、レクチャーとグループワークを通して学びます。。

二番目の「問題解決プロジェクト」では、企業からの課題に対して提案を行うべくグループワークと振り返りを繰り返してリーダーシップの経験学習を行い、実戦で使えるリーダーシップ・スキルを身につけます。

三番目の「他者のリーダーシップ開発」では、リーダーシップの全員発揮を促す組織づくりについて学び、自ら実践していきます。質問を通じた組織開発について体験的に学ぶとともに、教員やTAに頼らないクラスづくりに自ら挑戦していきます。

四番目の「授業外への適用」では、部活やゼミ等授業外の機会に効果的にリーダーシップを発揮するためのワークを行うとともに、自ら成長していく力を高めます。いずれの受講にも「理論とスキル」「問題解決プロジェクト」修得済み（科目によっては修得済みか同時申請）であることが必要になります。

五番目の「社会人へのトランジション」では、1)自身の強み・価値観、2)仕事の世界の現状と未来、3)権限者の下でのリーダーシップ をPDCAを回しながら学ぶことを通じて、大学生から社会人へのトランジションを円滑に行います。

六番目の「リーダーシップ開発授業設計実習」では、リーダーシップ開発プログラムの設計に実習として参画します。プログラムの学びを最大化するために組織開発と教材開発の面からリーダーシップの発揮を実践します。

なお（応用）および（発展）科目の受講には、「理論とスキル」「問題解決プロジェクト」が修得済み（科目によっては修得済みか同時申請）であることが必要になります。逆に、(基礎)を受講していれば、その他の科目は関心に応じて好きな順序で好きなタイミングで履修することができます。

なお、春夏/秋冬で連続改稿している科目はセットで履修することを強くお勧めします。、、。一つには学習効果が高まること点、二つには、クラス替えなく同じメンバーで次のクォーターに進めることが理由です。

《授業の特徴》

a) 社会だけでなく、大学生活において活用ができる

リーダーシップ開発では、論理思考力、伝える力、質問力、フィードバックなど、グループ活動でより良い成果を出すための具体的な方法を学びます。この授業で学んだリーダーシップを実践することで、就職後はもちろんのこと、サークル活動やアルバイト、インターンシップでの課題を解決しやすくなるでしょう。

b) 授業そのものが多様な人材の活躍を促すリーダーシップのモデルになっている

全てのメンバーがそれぞれの力を発揮し最大の成果を上げる「全員戦力化のリーダーシップ」を、学生運営スタッフと教員全員が体現しながらクラスを作っていきます。日々変化する状況の中でいかに組織を全員で前進させていくか、リーダーを目指す人も含めて、目の前にモデルを見ながら学ぶことができます。

c) 学部・学年を超えたクラスメイトとのつながりができる

クラスには1・2年生はもちろん、就職活動や社会人への一歩を踏み出すタイミングである3・4年生もたくさん履修しています。クラス内では毎回グループワークを行いますので、学部・学年を超えたクラスメイトとのつながりができます。多様なメンバーが関係構築できるように授業内容の設計をおこなっているので、クラスへの積極的な参加が求められる一方で、たとえ内向的な人であってもこのゴールを達成しています。

授業の到達目標: 授業の中で、そして生活のなかで「「全員戦力化のリーダーシップ」を発揮し始めること。そして、人間関係をリーダーシップの観点から見直せるようになること。

事前・事後学習の内容: 日常に活用できる実戦的な課題がほぼ毎週出されます。所要時間は1～2時間/週程度。2時間は、それだけかかるというより課題にじっくり取り組んで気がついたら2時間たっていたという感じでしょう。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 授業計画タイトル01　イントロダクション
これからのリーダーシップとは？
全員戦力化のリーダーシップを体感する

授業計画タイトル02　全員戦力化のリーダーシップの基盤となる心理的安全性（衝突安全性）の構築方法を知る
心理的安全性の意義と働き方を理論と体験から理解する
心理的安全性構築のためのスキルを学ぶ

授業計画タイトル03　自分らしいリーダーシップの発見と発揮/ビジョン策定

いろいろなリーダーシップ理論を活用して自分らしいリーダーシップを発見する
ビジョン・目標策定と全員戦力化のリーダーシップの関係をワークから学ぶ

授業計画タイトル04　解像度を上げる
論理思考導入
ビジョンをするための仕組みを考える

授業計画タイトル05　モチベーション
ビジョン実現の具体策を考える
人や組織が動く仕組みとして、モチベーションの理論を知る

授業計画タイトル06　協働の相手を知る
ビジョン策定→メカニズム把握→ビジョン実現の演習としてミニPBLに取り組む
リーダーシップ理論を活用して人を巻き込む（ミニケースを使ったグループワーク

授業計画タイトル07　巻き込み力を高める/総括
ミニPBL取り組み完了。これまでの学びをフル活用する
総括・振り返り

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: なし.

参考文献: 森永雄太『ジョブ・クラフティングのマネジメント』（千倉書房）
日向野幹也『「権限によらないリーダーシップ」で組織が変わる』(ちくま新書).
他に適宜指示します.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100　提出課題, 出席, クラス全体への貢献.

備考・関連URL: a) 定員枠の有効活用のために、春「理論とスキル」と夏「問題解決プロジェクト」(秋と冬も同様)をセットで履修申請した人を優先します。

b) グループワークが多く、遅刻/早退(20分以下のものを欠席0。5とカウントします、それ以上は欠席1とカウントします)や欠席はグループやクラスにとって大きな損失になるので、減点対象とせざるを得ません。欠席が3回(3週ではなく3コマ)を超えると不合格ですのでご注意ください。

科目名のあとの数字（春は01-04、秋は05-08)は同クオータに行われる同一科目の中のクラス番号を示しています。クラス分けはGECで行うので、履修申請時はこの数字は気にせずに申請してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030031|04|9S12030031[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発：理論とスキル 04		
担 当 教 員	齋藤 みずほ		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

この「理論とスキル」に始まる「リーダーシップ開発」プログラムでは、「リーダーとしてもっと組織の力を引き出せないか」あるいは「もっと自分に合ったリーダーシップスタイルがあるのではないか？」など、リーダーシップについての切実な疑問に応えます。学ぶのは、 多様性あるメンバーの能動的な行動を引き出すための、リーダーシップです。リーダーシップの理論と、 その発揮に必要なスキルを学んだ上で、実践と振り返りの中で確実に使えるものにしていきます。

《授業の背景・目的》

グローバル化が進む現代社会において、私たちは様々な変化に直面しています。その結果、前例踏襲ではなく、新しいアイディアを実現していくこと、変化を作り出していくことこと(イノベーション)が求められています。、このようにいうと、皆さんの中には、自分はアイディア豊富な人材ではないから・・・とがっかりしてしまう人がいるかもしれませんが、心配はありません。多様な価値観や知識・経験を持つメンバーと協働し、協働を促す文化や環境を作り出す役割を担っていくことで、創造的な成果を生み出すことが可能になります。
この授業では、変化の激しい時代に活躍する際に必須のスキルである「全員戦力化のリーダーシップ」を学びます。この授業で学び身に付けたリーダーシップのスキルを、他の授業やサークル等の課外活動でも応用することで、さらに充実した大学生活を送ることができます。また、こうした全員戦力化のリーダーシップを若手に求める企業も非常に増えていますので、卒業直後から使うことができるライフ･スキルが身につけることができるとも言えます。

《授業の全体像》
（基礎）
「リーダーシップ開発プログラム」は（基礎）（応用）（発展）に含まれる、次の科目から成り立っています。

（基礎）
・理論とスキル(同一内容年2回、春･秋クォーター)
・問題解決プロジェクト(同一内容年2回、夏･冬クォーター)

（応用）
・他者のリーダーシップ開発(同一内容年2回、春夏クォーター連続、秋冬クォーター連続)
・授業外への適用（秋クォーター）
・社会人へのトランジション（冬クォーター）

（発展）
・リーダーシップ開発授業設計実習（同一内容年2回、春夏クォーター連続、秋冬クォーター連続））

このうち、「理論とスキル」では「全員戦力化のリーダーシップ」の考え方、リーダーシップ発揮に必要な思考技術、コミュニケーションの技術等を、レクチャーとグループワークを通して学びます。。

二番目の「問題解決プロジェクト」では、企業からの課題に対して提案を行うべくグループワークと振り返りを繰り返してリーダーシップの経験学習を行い、実戦で使えるリーダーシップ・スキルを身につけます。

三番目の「他者のリーダーシップ開発」では、リーダーシップの全員発揮を促す組織づくりについて学び、自ら実践していきます。質問を通じた組織開発について体験的に学ぶとともに、教員やTAに頼らないクラスづくりに自ら挑戦していきます。

四番目の「授業外への適用」では、部活やゼミ等授業外の機会に効果的にリーダーシップを発揮するためのワークを行うとともに、自ら成長していく力を高めます。いずれの受講にも「理論とスキル」「問題解決プロジェクト」修得済み（科目によっては修得済みか同時申請）であることが必要になります。

五番目の「社会人へのトランジション」では、1)自身の強み・価値観、2)仕事の世界の現状と未来、3)権限者の下でのリーダーシップ をPDCAを回しながら学ぶことを通じて、大学生から社会人へのトランジションを円滑に行います。

六番目の「リーダーシップ開発授業設計実習」では、リーダーシップ開発プログラムの設計に実習として参画します。プログラムの学びを最大化するために組織開発と教材開発の面からリーダーシップの発揮を実践します。

なお（応用）および（発展）科目の受講には、「理論とスキル」「問題解決プロジェクト」が修得済み（科目によっては修得済みか同時申請）であることが必要になります。逆に、(基礎)を受講していれば、その他の科目は関心に応じて好きな順序で好きなタイミングで履修することができます。

なお、春夏/秋冬で連続改稿している科目はセットで履修することを強くお勧めします。、、。一つには学習効果が高まること点、二つには、クラス替えなく同じメンバーで次のクォーターに進めることが理由です。

《授業の特徴》

a) 社会だけでなく、大学生活において活用ができる

リーダーシップ開発では、論理思考力、伝える力、質問力、フィードバックなど、グループ活動でより良い成果を出すための具体的な方法を学びます。この授業で学んだリーダーシップを実践することで、就職後はもちろんのこと、サークル活動やアルバイト、インターンシップでの課題を解決しやすくなるでしょう。

b) 授業そのものが多様な人材の活躍を促すリーダーシップのモデルになっている

全てのメンバーがそれぞれの力を発揮し最大の成果を上げる「全員戦力化のリーダーシップ」を、学生運営スタッフと教員全員が体現しながらクラスを作っていきます。日々変化する状況の中でいかに組織を全員で前進させていくか、リーダーを目指す人も含めて、目の前にモデルを見ながら学ぶことができます。

c) 学部・学年を超えたクラスメイトとのつながりができる

クラスには1・2年生はもちろん、就職活動や社会人への一歩を踏み出すタイミングである3・4年生もたくさん履修しています。クラス内では毎回グループワークを行いますので、学部・学年を超えたクラスメイトとのつながりができます。多様なメンバーが関係構築できるように授業内容の設計をおこなっているので、クラスへの積極的な参加が求められる一方で、たとえ内向的な人であってもこのゴールを達成しています。

授業の到達目標: 授業の中で、そして生活のなかで「「全員戦力化のリーダーシップ」を発揮し始めること。そして、人間関係をリーダーシップの観点から見直せるようになること。

事前・事後学習の内容: 日常に活用できる実戦的な課題がほぼ毎週出されます。所要時間は1～2時間/週程度。2時間は、それだけかかるというより課題にじっくり取り組んで気がついたら2時間たっていたという感じでしょう。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 授業計画タイトル01　イントロダクション
これからのリーダーシップとは？
全員戦力化のリーダーシップを体感する

授業計画タイトル02　全員戦力化のリーダーシップの基盤となる心理的安全性（衝突安全性）の構築方法を知る
心理的安全性の意義と働き方を理論と体験から理解する
心理的安全性構築のためのスキルを学ぶ

授業計画タイトル03　自分らしいリーダーシップの発見と発揮/ビジョン策定

いろいろなリーダーシップ理論を活用して自分らしいリーダーシップを発見する
ビジョン・目標策定と全員戦力化のリーダーシップの関係をワークから学ぶ

授業計画タイトル04　解像度を上げる
論理思考導入
ビジョンをするための仕組みを考える

授業計画タイトル05　モチベーション
ビジョン実現の具体策を考える
人や組織が動く仕組みとして、モチベーションの理論を知る

授業計画タイトル06　協働の相手を知る
ビジョン策定→メカニズム把握→ビジョン実現の演習としてミニPBLに取り組む
リーダーシップ理論を活用して人を巻き込む（ミニケースを使ったグループワーク

授業計画タイトル07　巻き込み力を高める/総括
ミニPBL取り組み完了。これまでの学びをフル活用する
総括・振り返り

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: なし.

参考文献: 森永雄太『ジョブ・クラフティングのマネジメント』（千倉書房）
日向野幹也『「権限によらないリーダーシップ」で組織が変わる』(ちくま新書).
他に適宜指示します.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100　提出課題, 出席, クラス全体への貢献.

備考・関連URL: a) 定員枠の有効活用のために、春「理論とスキル」と夏「問題解決プロジェクト」(秋と冬も同様)をセットで履修申請した人を優先します。

b) グループワークが多く、遅刻/早退(20分以下のものを欠席0。5とカウントします、それ以上は欠席1とカウントします)や欠席はグループやクラスにとって大きな損失になるので、減点対象とせざるを得ません。欠席が3回(3週ではなく3コマ)を超えると不合格ですのでご注意ください。

科目名のあとの数字（春は01-04、秋は05-08)は同クオータに行われる同一科目の中のクラス番号を示しています。クラス分けはGECで行うので、履修申請時はこの数字は気にせずに申請してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030031|05|9S12030031[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発：理論とスキル 05		
担 当 教 員	塩川 太嘉朗		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

この「理論とスキル」に始まる「リーダーシップ開発」プログラムでは、「リーダーとしてもっと組織の力を引き出せないか」あるいは「もっと自分に合ったリーダーシップスタイルがあるのではないか？」など、リーダーシップについての切実な疑問に応えます。学ぶのは、 多様性あるメンバーの能動的な行動を引き出すための、リーダーシップです。リーダーシップの理論と、 その発揮に必要なスキルを学んだ上で、実践と振り返りの中で確実に使えるものにしていきます。

《授業の背景・目的》

グローバル化が進む現代社会において、私たちは様々な変化に直面しています。その結果、前例踏襲ではなく、新しいアイディアを実現していくこと、変化を作り出していくことこと(イノベーション)が求められています。、このようにいうと、皆さんの中には、自分はアイディア豊富な人材ではないから・・・とがっかりしてしまう人がいるかもしれませんが、心配はありません。多様な価値観や知識・経験を持つメンバーと協働し、協働を促す文化や環境を作り出す役割を担っていくことで、創造的な成果を生み出すことが可能になります。
この授業では、変化の激しい時代に活躍する際に必須のスキルである「全員戦力化のリーダーシップ」を学びます。この授業で学び身に付けたリーダーシップのスキルを、他の授業やサークル等の課外活動でも応用することで、さらに充実した大学生活を送ることができます。また、こうした全員戦力化のリーダーシップを若手に求める企業も非常に増えていますので、卒業直後から使うことができるライフ･スキルが身につけることができるとも言えます。

《授業の全体像》
（基礎）
「リーダーシップ開発プログラム」は（基礎）（応用）（発展）に含まれる、次の科目から成り立っています。

（基礎）
・理論とスキル(同一内容年2回、春･秋クォーター)
・問題解決プロジェクト(同一内容年2回、夏･冬クォーター)

（応用）
・他者のリーダーシップ開発(同一内容年2回、春夏クォーター連続、秋冬クォーター連続)
・授業外への適用（秋クォーター）
・社会人へのトランジション（冬クォーター）

（発展）
・リーダーシップ開発授業設計実習（同一内容年2回、春夏クォーター連続、秋冬クォーター連続））

このうち、「理論とスキル」では「全員戦力化のリーダーシップ」の考え方、リーダーシップ発揮に必要な思考技術、コミュニケーションの技術等を、レクチャーとグループワークを通して学びます。。

二番目の「問題解決プロジェクト」では、企業からの課題に対して提案を行うべくグループワークと振り返りを繰り返してリーダーシップの経験学習を行い、実戦で使えるリーダーシップ・スキルを身につけます。

三番目の「他者のリーダーシップ開発」では、リーダーシップの全員発揮を促す組織づくりについて学び、自ら実践していきます。質問を通じた組織開発について体験的に学ぶとともに、教員やTAに頼らないクラスづくりに自ら挑戦していきます。

四番目の「授業外への適用」では、部活やゼミ等授業外の機会に効果的にリーダーシップを発揮するためのワークを行うとともに、自ら成長していく力を高めます。いずれの受講にも「理論とスキル」「問題解決プロジェクト」修得済み（科目によっては修得済みか同時申請）であることが必要になります。

五番目の「社会人へのトランジション」では、1)自身の強み・価値観、2)仕事の世界の現状と未来、3)権限者の下でのリーダーシップ をPDCAを回しながら学ぶことを通じて、大学生から社会人へのトランジションを円滑に行います。

六番目の「リーダーシップ開発授業設計実習」では、リーダーシップ開発プログラムの設計に実習として参画します。プログラムの学びを最大化するために組織開発と教材開発の面からリーダーシップの発揮を実践します。

なお（応用）および（発展）科目の受講には、「理論とスキル」「問題解決プロジェクト」が修得済み（科目によっては修得済みか同時申請）であることが必要になります。逆に、(基礎)を受講していれば、その他の科目は関心に応じて好きな順序で好きなタイミングで履修することができます。

なお、春夏/秋冬で連続改稿している科目はセットで履修することを強くお勧めします。、、。一つには学習効果が高まること点、二つには、クラス替えなく同じメンバーで次のクォーターに進めることが理由です。

《授業の特徴》

a) 社会だけでなく、大学生活において活用ができる

リーダーシップ開発では、論理思考力、伝える力、質問力、フィードバックなど、グループ活動でより良い成果を出すための具体的な方法を学びます。この授業で学んだリーダーシップを実践することで、就職後はもちろんのこと、サークル活動やアルバイト、インターンシップでの課題を解決しやすくなるでしょう。

b) 授業そのものが多様な人材の活躍を促すリーダーシップのモデルになっている

全てのメンバーがそれぞれの力を発揮し最大の成果を上げる「全員戦力化のリーダーシップ」を、学生運営スタッフと教員全員が体現しながらクラスを作っていきます。日々変化する状況の中でいかに組織を全員で前進させていくか、リーダーを目指す人も含めて、目の前にモデルを見ながら学ぶことができます。

c) 学部・学年を超えたクラスメイトとのつながりができる

クラスには1・2年生はもちろん、就職活動や社会人への一歩を踏み出すタイミングである3・4年生もたくさん履修しています。クラス内では毎回グループワークを行いますので、学部・学年を超えたクラスメイトとのつながりができます。多様なメンバーが関係構築できるように授業内容の設計をおこなっているので、クラスへの積極的な参加が求められる一方で、たとえ内向的な人であってもこのゴールを達成しています。

授業の到達目標: 授業の中で、そして生活のなかで「「全員戦力化のリーダーシップ」を発揮し始めること。そして、人間関係をリーダーシップの観点から見直せるようになること。

事前・事後学習の内容: 日常に活用できる実戦的な課題がほぼ毎週出されます。所要時間は1～2時間/週程度。2時間は、それだけかかるというより課題にじっくり取り組んで気がついたら2時間たっていたという感じでしょう。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 授業計画タイトル01　イントロダクション
これからのリーダーシップとは？
全員戦力化のリーダーシップを体感する

授業計画タイトル02　全員戦力化のリーダーシップの基盤となる心理的安全性（衝突安全性）の構築方法を知る
心理的安全性の意義と働き方を理論と体験から理解する
心理的安全性構築のためのスキルを学ぶ

授業計画タイトル03　自分らしいリーダーシップの発見と発揮/ビジョン策定

いろいろなリーダーシップ理論を活用して自分らしいリーダーシップを発見する
ビジョン・目標策定と全員戦力化のリーダーシップの関係をワークから学ぶ

授業計画タイトル04　解像度を上げる
論理思考導入
ビジョンをするための仕組みを考える

授業計画タイトル05　モチベーション
ビジョン実現の具体策を考える
人や組織が動く仕組みとして、モチベーションの理論を知る

授業計画タイトル06　協働の相手を知る
ビジョン策定→メカニズム把握→ビジョン実現の演習としてミニPBLに取り組む
リーダーシップ理論を活用して人を巻き込む（ミニケースを使ったグループワーク

授業計画タイトル07　巻き込み力を高める/総括
ミニPBL取り組み完了。これまでの学びをフル活用する
総括・振り返り

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　なし.

参考文献：　森永雄太『ジョブ・クラフティングのマネジメント』（千倉書房）
日向野幹也『「権限によらないリーダーシップ」で組織が変わる』(ちくま新書).
他に適宜指示します.

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　提出課題，出席，クラス全体への貢献.

備考・関連URL：　a) 定員枠の有効活用のために、春「理論とスキル」と夏「問題解決プロジェクト」(秋と冬も同様)をセットで履修申請した人を優先します。

b) グループワークが多く、遅刻/早退(20分以下のものを欠席0。5とカウントします、それ以上は欠席1とカウントします)や欠席はグループやクラスにとって大きな損失になるので、減点対象とせざるを得ません。欠席が3回(3週ではなく3コマ)を超えると不合格ですのでご注意ください。

科目名のあとの数字（春は01-04、秋は05-08)は同クオータに行われる同一科目の中のクラス番号を示しています。クラス分けはGECで行うので、履修申請時はこの数字は気にせずに申請してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030031|06|9S12030031[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発：理論とスキル 06		
担 当 教 員	桑原 正義		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

この「理論とスキル」に始まる「リーダーシップ開発」プログラムでは、「リーダーとしてもっと組織の力を引き出せないか」あるいは「もっと自分に合ったリーダーシップスタイルがあるのではないか？」など、リーダーシップについての切実な疑問に応えます。学ぶのは、 多様性あるメンバーの能動的な行動を引き出すための、リーダーシップです。リーダーシップの理論と、 その発揮に必要なスキルを学んだ上で、実践と振り返りの中で確実に使えるものにしていきます。

《授業の背景・目的》

グローバル化が進む現代社会において、私たちは様々な変化に直面しています。その結果、前例踏襲ではなく、新しいアイディアを実現していくこと、変化を作り出していくことこと(イノベーション)が求められています。、このようにいうと、皆さんの中には、自分はアイディア豊富な人材ではないから・・・とがっかりしてしまう人がいるかもしれませんが、心配はありません。多様な価値観や知識・経験を持つメンバーと協働し、協働を促す文化や環境を作り出す役割を担っていくことで、創造的な成果を生み出すことが可能になります。
この授業では、変化の激しい時代に活躍する際に必須のスキルである「全員戦力化のリーダーシップ」を学びます。この授業で学び身に付けたリーダーシップのスキルを、他の授業やサークル等の課外活動でも応用することで、さらに充実した大学生活を送ることができます。また、こうした全員戦力化のリーダーシップを若手に求める企業も非常に増えていますので、卒業直後から使うことができるライフ･スキルが身につけることができるとも言えます。

《授業の全体像》
（基礎）
「リーダーシップ開発プログラム」は（基礎）（応用）（発展）に含まれる、次の科目から成り立っています。

（基礎）
・理論とスキル(同一内容年2回、春･秋クォーター)
・問題解決プロジェクト(同一内容年2回、夏･冬クォーター)

（応用）
・他者のリーダーシップ開発(同一内容年2回、春夏クォーター連続、秋冬クォーター連続)
・授業外への適用（秋クォーター）
・社会人へのトランジション（冬クォーター）

（発展）
・リーダーシップ開発授業設計実習（同一内容年2回、春夏クォーター連続、秋冬クォーター連続））

このうち、「理論とスキル」では「全員戦力化のリーダーシップ」の考え方、リーダーシップ発揮に必要な思考技術、コミュニケーションの技術等を、レクチャーとグループワークを通して学びます。。

二番目の「問題解決プロジェクト」では、企業からの課題に対して提案を行うべくグループワークと振り返りを繰り返してリーダーシップの経験学習を行い、実戦で使えるリーダーシップ・スキルを身につけます。

三番目の「他者のリーダーシップ開発」では、リーダーシップの全員発揮を促す組織づくりについて学び、自ら実践していきます。質問を通じた組織開発について体験的に学ぶとともに、教員やTAに頼らないクラスづくりに自ら挑戦していきます。

四番目の「授業外への適用」では、部活やゼミ等授業外の機会に効果的にリーダーシップを発揮するためのワークを行うとともに、自ら成長していく力を高めます。いずれの受講にも「理論とスキル」「問題解決プロジェクト」修得済み（科目によっては修得済みか同時申請）であることが必要になります。

五番目の「社会人へのトランジション」では、1)自身の強み・価値観、2)仕事の世界の現状と未来、3)権限者の下でのリーダーシップ をPDCAを回しながら学ぶことを通じて、大学生から社会人へのトランジションを円滑に行います。

六番目の「リーダーシップ開発授業設計実習」では、リーダーシップ開発プログラムの設計に実習として参画します。プログラムの学びを最大化するために組織開発と教材開発の面からリーダーシップの発揮を実践します。

なお（応用）および（発展）科目の受講には、「理論とスキル」「問題解決プロジェクト」が修得済み（科目によっては修得済みか同時申請）であることが必要になります。逆に、(基礎)を受講していれば、その他の科目は関心に応じて好きな順序で好きなタイミングで履修することができます。

なお、春夏/秋冬で連続改稿している科目はセットで履修することを強くお勧めします。、、。一つには学習効果が高まること点、二つには、クラス替えなく同じメンバーで次のクォーターに進めることが理由です。

《授業の特徴》

a) 社会だけでなく、大学生活において活用ができる

リーダーシップ開発では、論理思考力、伝える力、質問力、フィードバックなど、グループ活動でより良い成果を出すための具体的な方法を学びます。この授業で学んだリーダーシップを実践することで、就職後はもちろんのこと、サークル活動やアルバイト、インターンシップでの課題を解決しやすくなるでしょう。

b) 授業そのものが多様な人材の活躍を促すリーダーシップのモデルになっている

全てのメンバーがそれぞれの力を発揮し最大の成果を上げる「全員戦力化のリーダーシップ」を、学生運営スタッフと教員全員が体現しながらクラスを作っていきます。日々変化する状況の中でいかに組織を全員で前進させていくか、リーダーを目指す人も含めて、目の前にモデルを見ながら学ぶことができます。

c) 学部・学年を超えたクラスメイトとのつながりができる

クラスには1・2年生はもちろん、就職活動や社会人への一歩を踏み出すタイミングである3・4年生もたくさん履修しています。クラス内では毎回グループワークを行いますので、学部・学年を超えたクラスメイトとのつながりができます。多様なメンバーが関係構築できるように授業内容の設計をおこなっているので、クラスへの積極的な参加が求められる一方で、たとえ内向的な人であってもこのゴールを達成しています。

授業の到達目標: 授業の中で、そして生活のなかで「「全員戦力化のリーダーシップ」を発揮し始めること。そして、人間関係をリーダーシップの観点から見直せるようになること。

事前・事後学習の内容: 日常に活用できる実戦的な課題がほぼ毎週出されます。所要時間は1～2時間/週程度。2時間は、それだけかかるというより課題にじっくり取り組んで気がついたら2時間たっていたという感じでしょう。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 授業計画タイトル01　イントロダクション
これからのリーダーシップとは？
全員戦力化のリーダーシップを体感する

授業計画タイトル02　全員戦力化のリーダーシップの基盤となる心理的安全性（衝突安全性）の構築方法を知る
心理的安全性の意義と働き方を理論と体験から理解する
心理的安全性構築のためのスキルを学ぶ

授業計画タイトル03　自分らしいリーダーシップの発見と発揮/ビジョン策定

いろいろなリーダーシップ理論を活用して自分らしいリーダーシップを発見する
ビジョン・目標策定と全員戦力化のリーダーシップの関係をワークから学ぶ

授業計画タイトル04　解像度を上げる
論理思考導入
ビジョンをするための仕組みを考える

授業計画タイトル05　モチベーション
ビジョン実現の具体策を考える
人や組織が動く仕組みとして、モチベーションの理論を知る

授業計画タイトル06　協働の相手を知る
ビジョン策定→メカニズム把握→ビジョン実現の演習としてミニPBLに取り組む
リーダーシップ理論を活用して人を巻き込む（ミニケースを使ったグループワーク

授業計画タイトル07　巻き込み力を高める/総括
ミニPBL取り組み完了。これまでの学びをフル活用する
総括・振り返り

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: なし.

参考文献: 森永雄太『ジョブ・クラフティングのマネジメント』（千倉書房）
日向野幹也『「権限によらないリーダーシップ」で組織が変わる』(ちくま新書).
他に適宜指示します.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100　提出課題, 出席, クラス全体への貢献.

備考・関連URL: a) 定員枠の有効活用のために、春「理論とスキル」と夏「問題解決プロジェクト」(秋と冬も同様)をセットで履修申請した人を優先します。

b) グループワークが多く、遅刻/早退(20分以下のものを欠席0。5とカウントします、それ以上は欠席1とカウントします)や欠席はグループやクラスにとって大きな損失になるので、減点対象とせざるを得ません。欠席が3回(3週ではなく3コマ)を超えると不合格ですのでご注意ください。

科目名のあとの数字（春は01-04、秋は05-08)は同クオータに行われる同一科目の中のクラス番号を示しています。クラス分けはGECで行うので、履修申請時はこの数字は気にせずに申請してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030031|07|9S12030031[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発:理論とスキル 07		
担 当 教 員	松下 慶太		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

この「理論とスキル」に始まる「リーダーシップ開発」プログラムでは、「リーダーとしてもっと組織の力を引き出せないか」あるいは「もっと自分に合ったリーダーシップスタイルがあるのではないか？」など、リーダーシップについての切実な疑問に応えます。学ぶのは、 多様性あるメンバーの能動的な行動を引き出すための、リーダーシップです。リーダーシップの理論と、 その発揮に必要なスキルを学んだ上で、実践と振り返りの中で確実に使えるものにしていきます。

《授業の背景・目的》

グローバル化が進む現代社会において、私たちは様々な変化に直面しています。その結果、前例踏襲ではなく、新しいアイディアを実現していくこと、変化を作り出していくことこと(イノベーション)が求められています。、このようにいうと、皆さんの中には、自分はアイディア豊富な人材ではないから・・・とがっかりしてしまう人がいるかもしれませんが、心配はありません。多様な価値観や知識・経験を持つメンバーと協働し、協働を促す文化や環境を作り出す役割を担っていくことで、創造的な成果を生み出すことが可能になります。
この授業では、 変化の激しい時代に活躍する際に必須のスキルである「全員戦力化のリーダーシップ」を学びます。この授業で学び身に付けたリーダーシップのスキルを、他の授業やサークル等の課外活動でも応用することで、さらに充実した大学生活を送ることができます。また、こうした全員戦力化のリーダーシップを若手に求める企業も非常に増えていますので、卒業直後から使うことができるライフ･スキルが身につけることができるとも言えます。

《授業の全体像》
（基礎）
「リーダーシップ開発プログラム」は（基礎）（応用）（発展）に含まれる、次の科目から成り立っています。

（基礎）
・理論とスキル(同一内容年2回、春･秋クォーター)
・問題解決プロジェクト(同一内容年2回、夏･冬クォーター)

（応用）
・他者のリーダーシップ開発(同一内容年2回、春夏クォーター連続、秋冬クォーター連続)
・授業外への適用（秋クォーター）
・社会人へのトランジション（冬クォーター）

（発展）
・リーダーシップ開発授業設計実習（同一内容年2回、春夏クォーター連続、秋冬クォーター連続))

このうち、「理論とスキル」では「全員戦力化のリーダーシップ」の考え方、リーダーシップ発揮に必要な思考技術、コミュニケーションの技術等を、レクチャーとグループワークを通して学びます。。

二番目の「問題解決プロジェクト」では、 企業からの課題に対して提案を行うべくグループワークと振り返りを繰り返してリーダーシップの経験学習を行い、実戦で使えるリーダーシップ・スキルを身につけます。

三番目の「他者のリーダーシップ開発」では、リーダーシップの全員発揮を促す組織づくりについて学び、自ら実践していきます。質問を通じた組織開発について体験的に学ぶとともに、教員やTAに頼らないクラスづくりに自ら挑戦していきます。

四番目の「授業外への適用」では、部活やゼミ等授業外の機会に効果的にリーダーシップを発揮するためのワークを行うとともに、自ら成長していく力を高めます。いずれの受講にも「理論とスキル」「問題解決プロジェクト」修得済み（科目によっては修得済みか同時申請）であることが必要になります。

五番目の「社会人へのトランジション」では、1)自身の強み・価値観、2)仕事の世界の現状と未来、3)権限者の下でのリーダーシップ をPDCAを回しながら学ぶことを通じて、大学生から社会人へのトランジションを円滑に行います。

六番目の「リーダーシップ開発授業設計実習」では、リーダーシップ開発プログラムの設計に実習として参画します。プログラムの学びを最大化するために組織開発と教材開発の面からリーダーシップの発揮を実践します。

なお（応用）および（発展）科目の受講には、「理論とスキル」「問題解決プロジェクト」が修得済み（科目によっては修得済みか同時申請）であることが必要になります。逆に、(基礎)を受講していれば、その他の科目は関心に応じて好きな順序で好きなタイミングで履修することができます。

なお、春夏/秋冬で連続改稿している科目はセットで履修することを強くお勧めします。、、。一つには学習効果が高まること点、二つには、クラス替えなく同じメンバーで次のクォーターに進めることが理由です。

《授業の特徴》

a) 社会だけでなく、大学生活において活用ができる

リーダーシップ開発では、論理思考力、伝える力、質問力、フィードバックなど、グループ活動でより良い成果を出すための具体的な方法を学びます。この授業で学んだリーダーシップを実践することで、就職後はもちろんのこと、サークル活動やアルバイト、インターンシップでの課題を解決しやすくなるでしょう。

b) 授業そのものが多様な人材の活躍を促すリーダーシップのモデルになっている

全てのメンバーがそれぞれの力を発揮し最大の成果を上げる「全員戦力化のリーダーシップ」を、学生運営スタッフと教員全員が体現しながらクラスを作っていきます。日々変化する状況の中でいかに組織を全員で前進させていくか、リーダーを目指す人も含めて、目の前にモデルを見ながら学ぶことができます。

c) 学部・学年を超えたクラスメイトとのつながりができる

クラスには1・2年生はもちろん、就職活動や社会人への一歩を踏み出すタイミングである3・4年生もたくさん履修しています。クラス内では毎回グループワークを行いますので、学部・学年を超えたクラスメイトとのつながりができます。多様なメンバーが関係構築できるように授業内容の設計をおこなっているので、クラスへの積極的な参加が求められる一方で、たとえ内向的な人であってもこのゴールを達成しています。

授業の到達目標: 授業の中で、そして生活のなかで「「全員戦力化のリーダーシップ」を発揮し始めること。そして、人間関係をリーダーシップの観点から見直せるようになること。

事前・事後学習の内容: 日常に活用できる実戦的な課題がほぼ毎週出されます。所要時間は1～2時間/週程度。2時間は、それだけかかるというより課題にじっくり取り組んで気がついたら2時間たっていたという感じでしょう。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 授業計画タイトル01　イントロダクション
これからのリーダーシップとは？
全員戦力化のリーダーシップを体感する

授業計画タイトル02　全員戦力化のリーダーシップの基盤となる心理的安全性（衝突安全性）の構築方法を知る
心理的安全性の意義と働き方を理論と体験から理解する
心理的安全性構築のためのスキルを学ぶ

授業計画タイトル03　自分らしいリーダーシップの発見と発揮/ビジョン策定

いろいろなリーダーシップ理論を活用して自分らしいリーダーシップを発見する
ビジョン・目標策定と全員戦力化のリーダーシップの関係をワークから学ぶ

授業計画タイトル04　解像度を上げる
論理思考導入
ビジョンをするための仕組みを考える

授業計画タイトル05　モチベーション
ビジョン実現の具体策を考える
人や組織が動く仕組みとして、モチベーションの理論を知る

授業計画タイトル06　協働の相手を知る
ビジョン策定→メカニズム把握→ビジョン実現の演習としてミニPBLに取り組む
リーダーシップ理論を活用して人を巻き込む（ミニケースを使ったグループワーク

授業計画タイトル07　巻き込み力を高める/総括
ミニPBL取り組み完了。これまでの学びをフル活用する
総括・振り返り

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　なし.

参考文献：　森永雄太『ジョブ・クラフティングのマネジメント』（千倉書房）
日向野幹也『「権限によらないリーダーシップ」で組織が変わる』(ちくま新書).
他に適宜指示します.

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　提出課題，出席，クラス全体への貢献.

備考・関連URL：　a) 定員枠の有効活用のために、春「理論とスキル」と夏「問題解決プロジェクト」(秋と冬も同様)をセットで履修申請した人を優先します。

b) グループワークが多く、遅刻/早退(20分以下のものを欠席0。5とカウントします、それ以上は欠席1とカウントします)や欠席はグループやクラスにとって大きな損失になるので、減点対象とせざるを得ません。欠席が3回(3週ではなく3コマ)を超えると不合格ですのでご注意ください。

科目名のあとの数字（春は01-04、秋は05-08)は同クオータに行われる同一科目の中のクラス番号を示しています。クラス分けはGECで行うので、履修申請時はこの数字は気にせずに申請してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030031|08|9S12030031[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発：理論とスキル 08		
担 当 教 員	伊勢坊 綾		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

この「理論とスキル」に始まる「リーダーシップ開発」プログラムでは、「リーダーとしてもっと組織の力を引き出せないか」あるいは「もっと自分に合ったリーダーシップスタイルがあるのではないか？」など、リーダーシップについての切実な疑問に応えます。学ぶのは、 多様性あるメンバーの能動的な行動を引き出すための、リーダーシップです。リーダーシップの理論と、 その発揮に必要なスキルを学んだ上で、実践と振り返りの中で確実に使えるものにしていきます。

《授業の背景・目的》

グローバル化が進む現代社会において、私たちは様々な変化に直面しています。その結果、前例踏襲ではなく、新しいアイディアを実現していくこと、変化を作り出していくことこと(イノベーション)が求められています。、このようにいうと、皆さんの中には、自分はアイディア豊富な人材ではないから・・・とがっかりしてしまう人がいるかもしれませんが、心配はありません。多様な価値観や知識・経験を持つメンバーと協働し、協働を促す文化や環境を作り出す役割を担っていくことで、創造的な成果を生み出すことが可能になります。
この授業では、変化の激しい時代に活躍する際に必須のスキルである「全員戦力化のリーダーシップ」を学びます。この授業で学び身に付けたリーダーシップのスキルを、他の授業やサークル等の課外活動でも応用することで、さらに充実した大学生活を送ることができます。また、こうした全員戦力化のリーダーシップを若手に求める企業も非常に増えていますので、卒業直後から使うことができるライフ･スキルが身につけることができるとも言えます。

《授業の全体像》
（基礎）
「リーダーシップ開発プログラム」は（基礎）（応用）（発展）に含まれる、次の科目から成り立っています。

（基礎）
・理論とスキル(同一内容年2回、春･秋クォーター)
・問題解決プロジェクト(同一内容年2回、夏･冬クォーター)

（応用）
・他者のリーダーシップ開発(同一内容年2回、春夏クォーター連続、秋冬クォーター連続)
・授業外への適用（秋クォーター）
・社会人へのトランジション（冬クォーター）

（発展）
・リーダーシップ開発授業設計実習（同一内容年2回、春夏クォーター連続、秋冬クォーター連続））

このうち、「理論とスキル」では「全員戦力化のリーダーシップ」の考え方、リーダーシップ発揮に必要な思考技術、コミュニケーションの技術等を、レクチャーとグループワークを通して学びます。。

二番目の「問題解決プロジェクト」では、企業からの課題に対して提案を行うべくグループワークと振り返りを繰り返してリーダーシップの経験学習を行い、実戦で使えるリーダーシップ・スキルを身につけます。

三番目の「他者のリーダーシップ開発」では、リーダーシップの全員発揮を促す組織づくりについて学び、自ら実践していきます。質問を通じた組織開発について体験的に学ぶとともに、教員やTAに頼らないクラスづくりに自ら挑戦していきます。

四番目の「授業外への適用」では、部活やゼミ等授業外の機会に効果的にリーダーシップを発揮するためのワークを行うとともに、自ら成長していく力を高めます。いずれの受講にも「理論とスキル」「問題解決プロジェクト」修得済み（科目によっては修得済みか同時申請）であることが必要になります。

五番目の「社会人へのトランジション」では、1)自身の強み・価値観、2)仕事の世界の現状と未来、3)権限者の下でのリーダーシップ をPDCAを回しながら学ぶことを通じて、大学生から社会人へのトランジションを円滑に行います。

六番目の「リーダーシップ開発授業設計実習」では、リーダーシップ開発プログラムの設計に実習として参画します。プログラムの学びを最大化するために組織開発と教材開発の面からリーダーシップの発揮を実践します。

なお（応用）および（発展）科目の受講には、「理論とスキル」「問題解決プロジェクト」が修得済み（科目によっては修得済みか同時申請）であることが必要になります。逆に、(基礎)を受講していれば、その他の科目は関心に応じて好きな順序で好きなタイミングで履修することができます。

なお、春夏/秋冬で連続改稿している科目はセットで履修することを強くお勧めします。、、。一つには学習効果が高まること点、二つには、クラス替えなく同じメンバーで次のクォーターに進めることが理由です。

《授業の特徴》

a) 社会だけでなく、大学生活において活用ができる

リーダーシップ開発では、論理思考力、伝える力、質問力、フィードバックなど、グループ活動でより良い成果を出すための具体的な方法を学びます。この授業で学んだリーダーシップを実践することで、就職後はもちろんのこと、サークル活動やアルバイト、インターンシップでの課題を解決しやすくなるでしょう。

b) 授業そのものが多様な人材の活躍を促すリーダーシップのモデルになっている

全てのメンバーがそれぞれの力を発揮し最大の成果を上げる「全員戦力化のリーダーシップ」を、学生運営スタッフと教員全員が体現しながらクラスを作っていきます。日々変化する状況の中でいかに組織を全員で前進させていくか、リーダーを目指す人も含めて、目の前にモデルを見ながら学ぶことができます。

c) 学部・学年を超えたクラスメイトとのつながりができる

クラスには1・2年生はもちろん、就職活動や社会人への一歩を踏み出すタイミングである3・4年生もたくさん履修しています。クラス内では毎回グループワークを行いますので、学部・学年を超えたクラスメイトとのつながりができます。多様なメンバーが関係構築できるように授業内容の設計をおこなっているので、クラスへの積極的な参加が求められる一方で、たとえ内向的な人であってもこのゴールを達成しています。

授業の到達目標: 授業の中で、そして生活のなかで「「全員戦力化のリーダーシップ」を発揮し始めること。そして、人間関係をリーダーシップの観点から見直せるようになること。

事前・事後学習の内容: 日常に活用できる実戦的な課題がほぼ毎週出されます。所要時間は1～2時間/週程度。2時間は、それだけかかるというより課題にじっくり取り組んで気がついたら2時間たっていたという感じでしょう。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 授業計画タイトル01　イントロダクション
これからのリーダーシップとは？
全員戦力化のリーダーシップを体感する

授業計画タイトル02　全員戦力化のリーダーシップの基盤となる心理的安全性（衝突安全性）の構築方法を知る
心理的安全性の意義と働き方を理論と体験から理解する
心理的安全性構築のためのスキルを学ぶ

授業計画タイトル03　自分らしいリーダーシップの発見と発揮/ビジョン策定

いろいろなリーダーシップ理論を活用して自分らしいリーダーシップを発見する
ビジョン・目標策定と全員戦力化のリーダーシップの関係をワークから学ぶ

授業計画タイトル04　解像度を上げる
論理思考導入
ビジョンをするための仕組みを考える

授業計画タイトル05　モチベーション
ビジョン実現の具体策を考える
人や組織が動く仕組みとして、モチベーションの理論を知る

授業計画タイトル06　協働の相手を知る
ビジョン策定→メカニズム把握→ビジョン実現の演習としてミニPBLに取り組む
リーダーシップ理論を活用して人を巻き込む（ミニケースを使ったグループワーク

授業計画タイトル07　巻き込み力を高める/総括
ミニPBL取り組み完了。これまでの学びをフル活用する
総括・振り返り

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: なし.

参考文献: 森永雄太『ジョブ・クラフティングのマネジメント』（千倉書房）
日向野幹也『「権限によらないリーダーシップ」で組織が変わる』(ちくま新書).
他に適宜指示します.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100　提出課題, 出席, クラス全体への貢献.

備考・関連URL: a) 定員枠の有効活用のために、春「理論とスキル」と夏「問題解決プロジェクト」(秋と冬も同様)をセットで履修申請した人を優先します。

b) グループワークが多く、遅刻/早退(20分以下のものを欠席0。5とカウントします、それ以上は欠席1とカウントします)や欠席はグループやクラスにとって大きな損失になるので、減点対象とせざるを得ません。欠席が3回(3週ではなく3コマ)を超えると不合格ですのでご注意ください。

科目名のあとの数字（春は01-04、秋は05-08)は同クオータに行われる同一科目の中のクラス番号を示しています。クラス分けはGECで行うので、履修申請時はこの数字は気にせずに申請してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030032|01|9S12030032[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト O1		
担 当 教 員	片岡 亜紀子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目(リーダーシップ)	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: リーダーシップは、実践なくして修得できません.この科目は「リーダーシップ開発」授業シリーズの2番目の科目で、1番目の「理論とスキル」で学んだ全員戦力化のリーダーシップを、プロジェクトでの実践とリーダーシップの理論に基づく振り返りを通じて自分のものにします.プロジェクトの課題は企業から提示され、教員のみならず企業からも定期的にフィードバックがなされます. 理論の理解やスキルの習得はリーダーシップの効果的な学習を助け、実践と適切な振り返りは真の修得につながります. このことから「理論とスキル」と、この「問題解決プロジェクト」のセットでの受講を強く勧めます. また、定員枠の有効活用のため「理論とスキル」とこの科目を連続してセット履修する人を優先します. また前述のようなことから、本科目の受講には「理論とスキル」が先に必要になります.
「リーダーシップ開発」授業シリーズ全体については「理論とスキル」 のシラバスを見てください.

授業の到達目標: 「理論とスキル」で学んだ内容を活用して「全員戦力化のリーダーシップ」を発揮しプロジェクト成果を上げること.

事前・事後学習の内容: 1)プロジェクトを進めるための個人・グループ課題、 2)リーダーシップを振り返るための個人・グループ課題に取り組みます。所要時間は1～2時間/週程度。2時間は、それだけかかるというより、課題にじっくり取り組んでいるうちに気がついたら2時間たっていたという感じでしょう.

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

授業計画フリー:
授業計画タイトル01キックオフ授業計画内容01プロジェクトキックオフとクライアント企業からの課題提示
チームビルディング、テーマ理解授業計画タイトル02プロジェクト課題の理解深化、テーマ決定,チームの動き方確立に向けた試行と振り返り授業計画内容02プロジェクト課題掘り下げ、テーマ候補検討～テーマ決定(合意形成実践)
チームプロセスの振り返りと相互フィードバック(以降毎回継続)授業計画タイトル03状況分析～方向性の決定、中間発表準備授業計画内容03状況分析、テーマの本質への深掘り
方向性の決定、中間発表準備授業計画タイトル04中間発表、中間振り返り授業計画内容04クライアントへのプレゼンとフィードバック(クライアント、教員、クラスメンバー)
中間振り返り(プラン面, チーム運営面)～方針再検討授業計画タイトル05本質的価値実現のための具体策検討、伝わるプレゼンづくり, リハーサル授業計画内容05人が動く仕組みを押さえた提案
一瞬で大事なことが伝わるプレゼンテーション授業計画タイトル06ビジネスプラン発表と振り返り授業計画内容06ビジネスプラン発表、審査
クライアント及び教員からのフィードバック、プランとチームプロセスの振り返り授業計画タイトル07リーダーシップの振り返りと総括授業計画内容07リーダーシップの振り返り
総括と今後の実践プランづくり

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし.

参考文献: 適宜指示します.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 100 提出課題、出席, クラス全体への貢献, 問題解決コンテストの成績.

備考・関連URL:
グループワークが多く、遅刻/早退(20分以下のものを欠席0.5とカウントします、それ以上は欠席1とカウントします)や欠席はグループやクラスにとって大きな損失になるので、減点対象とせざるを得ません。特に欠席は、3回(3週ではなく3コマ)を超えると不合格ですのでご注意ください.

科目名のあとの数字(春は01-04、秋は05-08)は同クオーターに行われる同一科目の中のクラス番号を示しています. クラス分けはGECで行うので、履修申請時はこの数字は気にせずに申請してください.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030032|02|9S12030032[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト 02		
担 当 教 員	宮澤 俊彦		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目(リーダーシップ)	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: リーダーシップは、実践なくして修得できません.この科目は「リーダーシップ開発」授業シリーズの2番目の科目で、1番目の「理論とスキル」で学んだ全員戦力化のリーダーシップを、プロジェクトでの実践とリーダーシップの理論に基づく振り返りを通じて自分のものにします.プロジェクトの課題は企業から提示され、教員のみならず企業からも定期的にフィードバックがなされます. 理論の理解やスキルの習得はリーダーシップの効果的な学習を助け、実践と適切な振り返りは真の修得につながります. このことから「理論とスキル」と、この「問題解決プロジェクト」のセットでの受講を強く勧めます. また、定員枠の有効活用のため「理論とスキル」とこの科目を連続してセット履修する人を優先します. また前述のようなことから、本科目の受講には「理論とスキル」が先に必要になります.
「リーダーシップ開発」授業シリーズ全体については「理論とスキル」 のシラバスを見てください.

授業の到達目標: 「理論とスキル」で学んだ内容を活用して「全員戦力化のリーダーシップ」を発揮しプロジェクト成果を上げること.

事前・事後学習の内容: 1)プロジェクトを進めるための個人・グループ課題、 2)リーダーシップを振り返るための個人・グループ課題に取り組みます。所要時間は1～2時間/週程度。2時間は、それだけかかるというより、課題にじっくり取り組んでいるうちに気がついたら2時間たっていたという感じでしょう.

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

授業計画フリー:
授業計画タイトル01キックオフ授業計画内容01プロジェクトキックオフとクライアント企業からの課題提示
チームビルディング、テーマ理解授業計画タイトル02プロジェクト課題の理解深化、テーマ決定,チームの動き方確立に向けた試行と振り返り授業計画内容02プロジェクト課題掘り下げ、テーマ候補検討～テーマ決定(合意形成実践)
チームプロセスの振り返りと相互フィードバック(以降毎回継続)授業計画タイトル03状況分析～方向性の決定、中間発表準備授業計画内容03状況分析、テーマの本質への深掘り
方向性の決定、中間発表準備授業計画タイトル04中間発表、中間振り返り授業計画内容04クライアントへのプレゼンとフィードバック(クライアント、教員、クラスメンバー)
中間振り返り(プラン面, チーム運営面)～方針再検討授業計画タイトル05本質的価値実現のための具体策検討、伝わるプレゼンづくり, リハーサル授業計画内容05人が動く仕組みを押さえた提案
一瞬で大事なことが伝わるプレゼンテーション授業計画タイトル06ビジネスプラン発表と振り返り授業計画内容06ビジネスプラン発表、審査
クライアント及び教員からのフィードバック、プランとチームプロセスの振り返り授業計画タイトル07リーダーシップの振り返りと総括授業計画内容07リーダーシップの振り返り
総括と今後の実践プランづくり

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし.

参考文献: 適宜指示します.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 100 提出課題、出席, クラス全体への貢献, 問題解決コンテストの成績.

備考・関連URL:
グループワークが多く、遅刻/早退(20分以下のものを欠席0.5とカウントします、それ以上は欠席1とカウントします)や欠席はグループやクラスにとって大きな損失になるので、減点対象とせざるを得ません。特に欠席は、3回(3週ではなく3コマ)を超えると不合格ですのでご注意ください.

科目名のあとの数字(春は01-04、秋は05-08)は同クオーターに行われる同一科目の中のクラス番号を示しています. クラス分けはGECで行うので、履修申請時はこの数字は気にせずに申請してください.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030032|03|9S12030032[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト 03		
担 当 教 員	山崎 秀雄		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: リーダーシップは、実践なくして修得できません.この科目は「リーダーシップ開発」授業シリーズの2番目の科目で、1番目の「理論とスキル」で学んだ全員戦力化のリーダーシップを、プロジェクトでの実践とリーダーシップの理論に基づく振り返りを通じて自分のものにします.プロジェクトの課題は企業から提示され、教員のみならず企業からも定期的にフィードバックがなされます. 理論の理解やスキルの習得はリーダーシップの効果的な学習を助け、実践と適切な振り返りは真の修得につながります. このことから「理論とスキル」と、この「問題解決プロジェクト」のセットでの受講を強く勧めます. また、定員枠の有効活用のため「理論とスキル」とこの科目を連続してセット履修する人を優先します. また前述のようなことから、本科目の受講には「理論とスキル」が先に必要になります.
「リーダーシップ開発」授業シリーズ全体については「理論とスキル」 のシラバスを見てください.

授業の到達目標: 「理論とスキル」で学んだ内容を活用して「全員戦力化のリーダーシップ」を発揮しプロジェクト成果を上げること.

事前・事後学習の内容: 1)プロジェクトを進めるための個人・グループ課題、 2)リーダーシップを振り返るための個人・グループ課題に取り組みます。所要時間は1～2時間/週程度。2時間は、それだけかかるというより、課題にじっくり取り組んでいるうちに気がついたら2時間たっていたという感じでしょう.

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
授業計画タイトル01キックオフ授業計画内容01プロジェクトキックオフとクライアント企業からの課題提示
チームビルディング、テーマ理解授業計画タイトル02プロジェクト課題の理解深化、テーマ決定,チームの動き方確立に向けた試行と振り返り授業計画内容02プロジェクト課題掘り下げ、テーマ候補検討～テーマ決定（合意形成実践）
チームプロセスの振り返りと相互フィードバック（以降毎回継続）授業計画タイトル03状況分析～方向性の決定、中間発表準備授業計画内容03状況分析、テーマの本質への深掘り
方向性の決定、中間発表準備授業計画タイトル04中間発表、中間振り返り授業計画内容04クライアントへのプレゼンとフィードバック（クライアント、教員、クラスメンバー）
中間振り返り（プラン面, チーム運営面）～方針再検討授業計画タイトル05本質的価値実現のための具体策検討、伝わるプレゼンづくり, リハーサル授業計画内容05人が動く仕組みを押さえた提案
一瞬で大事なことが伝わるプレゼンテーション授業計画タイトル06ビジネスプラン発表と振り返り授業計画内容06ビジネスプラン発表、審査
クライアント及び教員からのフィードバック、プランとチームプロセスの振り返り授業計画タイトル07リーダーシップの振り返りと総括授業計画内容07リーダーシップの振り返り
総括と今後の実践プランづくり

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし.

参考文献: 適宜指示します.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 提出課題、出席, クラス全体への貢献, 問題解決コンテストの成績.

備考・関連URL:
グループワークが多く、遅刻/早退(20分以下のものを欠席0.5とカウントします、それ以上は欠席1とカウントします)や欠席はグループやクラスにとって大きな損失になるので、減点対象とせざるを得ません。特に欠席は、3回(3週ではなく3コマ)を超えると不合格ですのでご注意ください.

科目名のあとの数字（春は01-04、秋は05-08)は同クオーターに行われる同一科目の中のクラス番号を示しています. クラス分けはGECで行うので、履修申請時はこの数字は気にせずに申請してください.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030032|04|9S12030032[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト O4		
担 当 教 員	齋藤 みずほ		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目(リーダーシップ)	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: リーダーシップは、実践なくして修得できません.この科目は「リーダーシップ開発」授業シリーズの2番目の科目で、1番目の「理論とスキル」で学んだ全員戦力化のリーダーシップを、プロジェクトでの実践とリーダーシップの理論に基づく振り返りを通じて自分のものにします.プロジェクトの課題は企業から提示され、教員のみならず企業からも定期的にフィードバックがなされます. 理論の理解やスキルの習得はリーダーシップの効果的な学習を助け、実践と適切な振り返りは真の修得につながります. このことから「理論とスキル」と、この「問題解決プロジェクト」のセットでの受講を強く勧めます. また、定員枠の有効活用のため「理論とスキル」とこの科目を連続してセット履修する人を優先します. また前述のようなことから、本科目の受講には「理論とスキル」が先に必要になります.
「リーダーシップ開発」授業シリーズ全体については「理論とスキル」 のシラバスを見てください.

授業の到達目標: 「理論とスキル」で学んだ内容を活用して「全員戦力化のリーダーシップ」を発揮しプロジェクト成果を上げること.

事前・事後学習の内容: 1)プロジェクトを進めるための個人・グループ課題、 2)リーダーシップを振り返るための個人・グループ課題に取り組みます。所要時間は1～2時間/週程度。2時間は、それだけかかるというより、課題にじっくり取り組んでいるうちに気がついたら2時間たっていたという感じでしょう.

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

授業計画フリー:
授業計画タイトル01キックオフ授業計画内容01プロジェクトキックオフとクライアント企業からの課題提示
チームビルディング、テーマ理解授業計画タイトル02プロジェクト課題の理解深化、テーマ決定,チームの動き方確立に向けた試行と振り返り授業計画内容02プロジェクト課題掘り下げ、テーマ候補検討～テーマ決定(合意形成実践)
チームプロセスの振り返りと相互フィードバック(以降毎回継続)授業計画タイトル03状況分析～方向性の決定、中間発表準備授業計画内容03状況分析、テーマの本質への深掘り
方向性の決定、中間発表準備授業計画タイトル04中間発表、中間振り返り授業計画内容04クライアントへのプレゼンとフィードバック(クライアント、教員、クラスメンバー)
中間振り返り(プラン面, チーム運営面)～方針再検討授業計画タイトル05本質的価値実現のための具体策検討、伝わるプレゼンづくり, リハーサル授業計画内容05人が動く仕組みを押さえた提案
一瞬で大事なことが伝わるプレゼンテーション授業計画タイトル06ビジネスプラン発表と振り返り授業計画内容06ビジネスプラン発表、審査
クライアント及び教員からのフィードバック、プランとチームプロセスの振り返り授業計画タイトル07リーダーシップの振り返りと総括授業計画内容07リーダーシップの振り返り
総括と今後の実践プランづくり

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし.

参考文献: 適宜指示します.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 100 提出課題、出席, クラス全体への貢献, 問題解決コンテストの成績.

備考・関連URL:
グループワークが多く、遅刻/早退(20分以下のものを欠席0.5とカウントします、それ以上は欠席1とカウントします)や欠席はグループやクラスにとって大きな損失になるので、減点対象とせざるを得ません。特に欠席は、3回(3週ではなく3コマ)を超えると不合格ですのでご注意ください.

科目名のあとの数字(春は01-04、秋は05-08)は同クオーターに行われる同一科目の中のクラス番号を示しています. クラス分けはGECで行うので、履修申請時はこの数字は気にせずに申請してください.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030032|05|9S12030032[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発：問題解決プロジェクト 05		
担 当 教 員	塩川 太嘉朗		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： リーダーシップは、実践なくして修得できません.この科目は「リーダーシップ開発」授業シリーズの2番目の科目で、1番目の「理論とスキル」で学んだ全員戦力化のリーダーシップを、プロジェクトでの実践とリーダーシップの理論に基づく振り返りを通じて自分のものにします.プロジェクトの課題は企業から提示され、教員のみならず企業からも定期的にフィードバックがなされます. 理論の理解やスキルの習得はリーダーシップの効果的な学習を助け、実践と適切な振り返りは真の修得につながります. このことから「理論とスキル」と、この「問題解決プロジェクト」のセットでの受講を強く勧めます. また、定員枠の有効活用のため「理論とスキル」とこの科目を連続してセット履修する人を優先します. また前述のようなことから、本科目の受講には「理論とスキル」が先に必要になります.
「リーダーシップ開発」授業シリーズ全体については「理論とスキル」 のシラバスを見てください.

授業の到達目標： 「理論とスキル」で学んだ内容を活用して「全員戦力化のリーダーシップ」を発揮しプロジェクト成果を上げること.

事前・事後学習の内容： 1)プロジェクトを進めるための個人・グループ課題、2)リーダーシップを振り返るための個人・グループ課題に取り組みます。所要時間は1～2時間/週程度。2時間は、 それだけかかるというより、 課題にじっくり取り組んでいるうちに気がついたら2時間たっていたという感じでしょう.

授業計画フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー： 授業計画タイトル01キックオフ授業計画内容01プロジェクトキックオフとクライアント企業からの課題提示
チームビルディング、テーマ理解授業計画タイトル02プロジェクト課題の理解深化、テーマ決定,チームの動き方確立に向けた試行と振り返り授業計画内容02プロジェクト課題掘り下げ、テーマ候補検討～テーマ決定（合意形成実践）
チームプロセスの振り返りと相互フィードバック（以降毎回継続）授業計画タイトル03状況分析～方向性の決定、中間発表準備授業計画内容03状況分析,、テーマの本質への深掘り
方向性の決定、中間発表準備授業計画タイトル04中間発表、中間振り返り授業計画内容04クライアントへのプレゼンとフィードバック（クライアント、教員、クラスメンバー）
中間振り返り（プラン面, チーム運営面）～方針再検討授業計画タイトル05本質的価値実現のための具体策検討、伝わるプレゼンづくり, リハーサル授業計画内容05人が動く仕組みを押さえた提案
一瞬で大事なことが伝わるプレゼンテーション授業計画タイトル06ビジネスプラン発表と振り返り授業計画内容06ビジネスプラン発表、審査
クライアント及び教員からのフィードバック、プランとチームプロセスの振り返り授業計画タイトル07リーダーシップの振り返りと総括授業計画内容07リーダーシップの振り返り
総括と今後の実践プランづくり

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： なし.

参考文献： 適宜指示します.

成績評価フリー入力サイン： 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価： 100 提出課題、出席, クラス全体への貢献, 問題解決コンテストの成績.

備考・関連URL： グループワークが多く、遅刻/早退(20分以下のものを欠席0.5とカウントします、それ以上は欠席1とカウントします)や欠席はグループやクラスにとって大きな損失になるので、減点対象とせざるを得ません。特に欠席は、3回(3週ではなく3コマ)を超えると不合格ですのでご注意ください.
科目名のあとの数字（春は01-04、秋は05-08)は同クオーターに行われる同一科目の中のクラス番号を示しています. クラス分けはGECで行うので、履修申請時はこの数字は気にせずに申請してください.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030032|06|9S12030032[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト 06		
担 当 教 員	桑原 正義		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目(リーダーシップ)	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: リーダーシップは、実践なくして修得できません.この科目は「リーダーシップ開発」授業シリーズの2番目の科目で、1番目の「理論とスキル」で学んだ全員戦力化のリーダーシップを、プロジェクトでの実践とリーダーシップの理論に基づく振り返りを通じて自分のものにします.プロジェクトの課題は企業から提示され、教員のみならず企業からも定期的にフィードバックがなされます. 理論の理解やスキルの習得はリーダーシップの効果的な学習を助け、実践と適切な振り返りは真の修得につながります. このことから「理論とスキル」と、この「問題解決プロジェクト」のセットでの受講を強く勧めます. また、定員枠の有効活用のため「理論とスキル」とこの科目を連続してセット履修する人を優先します. また前述のようなことから、本科目の受講には「理論とスキル」が先に必要になります.
「リーダーシップ開発」授業シリーズ全体については「理論とスキル」 のシラバスを見てください.

授業の到達目標: 「理論とスキル」で学んだ内容を活用して「全員戦力化のリーダーシップ」を発揮しプロジェクト成果を上げること.

事前・事後学習の内容: 1)プロジェクトを進めるための個人・グループ課題、 2)リーダーシップを振り返るための個人・グループ課題に取り組みます。所要時間は1～2時間/週程度。2時間は、それだけかかるというより、課題にじっくり取り組んでいるうちに気がついたら2時間たっていたという感じでしょう.

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

授業計画フリー:
授業計画タイトル01キックオフ授業計画内容01プロジェクトキックオフとクライアント企業からの課題提示
チームビルディング、テーマ理解授業計画タイトル02プロジェクト課題の理解深化、テーマ決定,チームの動き方確立に向けた試行と振り返り授業計画内容02プロジェクト課題掘り下げ、テーマ候補検討～テーマ決定(合意形成実践)
チームプロセスの振り返りと相互フィードバック(以降毎回継続)授業計画タイトル03状況分析～方向性の決定、中間発表準備授業計画内容03状況分析、テーマの本質への深掘り
方向性の決定、中間発表準備授業計画タイトル04中間発表、中間振り返り授業計画内容04クライアントへのプレゼンとフィードバック(クライアント、教員、クラスメンバー)
中間振り返り(プラン面, チーム運営面)～方針再検討授業計画タイトル05本質的価値実現のための具体策検討、伝わるプレゼンづくり, リハーサル授業計画内容05人が動く仕組みを押さえた提案
一瞬で大事なことが伝わるプレゼンテーション授業計画タイトル06ビジネスプラン発表と振り返り授業計画内容06ビジネスプラン発表、審査
クライアント及び教員からのフィードバック、プランとチームプロセスの振り返り授業計画タイトル07リーダーシップの振り返りと総括授業計画内容07リーダーシップの振り返り
総括と今後の実践プランづくり

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし.

参考文献: 適宜指示します.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 100 提出課題、出席, クラス全体への貢献, 問題解決コンテストの成績.

備考・関連URL:
グループワークが多く、遅刻/早退(20分以下のものを欠席0.5とカウントします、それ以上は欠席1とカウントします)や欠席はグループやクラスにとって大きな損失になるので、減点対象とせざるを得ません。特に欠席は、3回(3週ではなく3コマ)を超えると不合格ですのでご注意ください.

科目名のあとの数字(春は01-04、秋は05-08)は同クオーターに行われる同一科目の中のクラス番号を示しています. クラス分けはGECで行うので、履修申請時はこの数字は気にせずに申請してください.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030032|07|9S12030032[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト O7		
担 当 教 員	松下 慶太		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目(リーダーシップ)	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: リーダーシップは、実践なくして修得できません.この科目は「リーダーシップ開発」授業シリーズの2番目の科目で、1番目の「理論とスキル」で学んだ全員戦力化のリーダーシップを、プロジェクトでの実践とリーダーシップの理論に基づく振り返りを通じて自分のものにします.プロジェクトの課題は企業から提示され、教員のみならず企業からも定期的にフィードバックがなされます. 理論の理解やスキルの習得はリーダーシップの効果的な学習を助け、実践と適切な振り返りは真の修得につながります. このことから「理論とスキル」と、この「問題解決プロジェクト」のセットでの受講を強く勧めます. また、定員枠の有効活用のため「理論とスキル」とこの科目を連続してセット履修する人を優先します. また前述のようなことから、本科目の受講には「理論とスキル」が先に必要になります.
「リーダーシップ開発」授業シリーズ全体については「理論とスキル」 のシラバスを見てください.

授業の到達目標: 「理論とスキル」で学んだ内容を活用して「全員戦力化のリーダーシップ」を発揮しプロジェクト成果を上げること.

事前・事後学習の内容: 1)プロジェクトを進めるための個人・グループ課題、 2)リーダーシップを振り返るための個人・グループ課題に取り組みます。所要時間は1～2時間/週程度。2時間は、それだけかかるというより、課題にじっくり取り組んでいるうちに気がついたら2時間たっていたという感じでしょう.

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

授業計画フリー:
授業計画タイトル01キックオフ授業計画内容01プロジェクトキックオフとクライアント企業からの課題提示
チームビルディング、テーマ理解授業計画タイトル02プロジェクト課題の理解深化、テーマ決定,チームの動き方確立に向けた試行と振り返り授業計画内容02プロジェクト課題掘り下げ、テーマ候補検討～テーマ決定(合意形成実践)
チームプロセスの振り返りと相互フィードバック(以降毎回継続)授業計画タイトル03状況分析～方向性の決定、中間発表準備授業計画内容03状況分析、テーマの本質への深掘り
方向性の決定、中間発表準備授業計画タイトル04中間発表、中間振り返り授業計画内容04クライアントへのプレゼンとフィードバック(クライアント、教員、クラスメンバー)
中間振り返り(プラン面, チーム運営面)～方針再検討授業計画タイトル05本質的価値実現のための具体策検討、伝わるプレゼンづくり, リハーサル授業計画内容05人が動く仕組みを押さえた提案
一瞬で大事なことが伝わるプレゼンテーション授業計画タイトル06ビジネスプラン発表と振り返り授業計画内容06ビジネスプラン発表、審査
クライアント及び教員からのフィードバック、プランとチームプロセスの振り返り授業計画タイトル07リーダーシップの振り返りと総括授業計画内容07リーダーシップの振り返り
総括と今後の実践プランづくり

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし.

参考文献: 適宜指示します.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 100 提出課題、出席, クラス全体への貢献, 問題解決コンテストの成績.

備考・関連URL:
グループワークが多く、遅刻/早退(20分以下のものを欠席0.5とカウントします、それ以上は欠席1とカウントします)や欠席はグループやクラスにとって大きな損失になるので、減点対象とせざるを得ません。特に欠席は、3回(3週ではなく3コマ)を超えると不合格ですのでご注意ください.

科目名のあとの数字(春は01-04、秋は05-08)は同クオーターに行われる同一科目の中のクラス番号を示しています. クラス分けはGECで行うので、履修申請時はこの数字は気にせずに申請してください.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030032|08|9S12030032[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト 08		
担 当 教 員	伊勢坊 綾		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: リーダーシップは、実践なくして修得できません.この科目は「リーダーシップ開発」授業シリーズの2番目の科目で、1番目の「理論とスキル」で学んだ全員戦力化のリーダーシップを、プロジェクトでの実践とリーダーシップの理論に基づく振り返りを通じて自分のものにします.プロジェクトの課題は企業から提示され、教員のみならず企業からも定期的にフィードバックがなされます. 理論の理解やスキルの習得はリーダーシップの効果的な学習を助け、実践と適切な振り返りは真の修得につながります. このことから「理論とスキル」と、この「問題解決プロジェクト」のセットでの受講を強く勧めます. また、定員枠の有効活用のため「理論とスキル」とこの科目を連続してセット履修する人を優先します. また前述のようなことから、本科目の受講には「理論とスキル」が先に必要になります.
「リーダーシップ開発」授業シリーズ全体については「理論とスキル」 のシラバスを見てください.

授業の到達目標: 「理論とスキル」で学んだ内容を活用して「全員戦力化のリーダーシップ」を発揮しプロジェクト成果を上げること.

事前・事後学習の内容: 1)プロジェクトを進めるための個人・グループ課題、 2)リーダーシップを振り返るための個人・グループ課題に取り組みます。所要時間は1～2時間/週程度。2時間は、それだけかかるというより、課題にじっくり取り組んでいるうちに気がついたら2時間たっていたという感じでしょう.

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
授業計画タイトル01キックオフ授業計画内容01プロジェクトキックオフとクライアント企業からの課題提示
チームビルディング、テーマ理解授業計画タイトル02プロジェクト課題の理解深化、テーマ決定,チームの動き方確立に向けた試行と振り返り授業計画内容02プロジェクト課題掘り下げ、テーマ候補検討～テーマ決定（合意形成実践）
チームプロセスの振り返りと相互フィードバック（以降毎回継続）授業計画タイトル03状況分析～方向性の決定、中間発表準備授業計画内容03状況分析、テーマの本質への深掘り
方向性の決定、中間発表準備授業計画タイトル04中間発表、中間振り返り授業計画内容04クライアントへのプレゼンとフィードバック（クライアント、教員、クラスメンバー）
中間振り返り（プラン面, チーム運営面）～方針再検討授業計画タイトル05本質的価値実現のための具体策検討、伝わるプレゼンづくり, リハーサル授業計画内容05人が動く仕組みを押さえた提案
一瞬で大事なことが伝わるプレゼンテーション授業計画タイトル06ビジネスプラン発表と振り返り授業計画内容06ビジネスプラン発表、審査
クライアント及び教員からのフィードバック、プランとチームプロセスの振り返り授業計画タイトル07リーダーシップの振り返りと総括授業計画内容07リーダーシップの振り返り
総括と今後の実践プランづくり

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし.

参考文献: 適宜指示します.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 提出課題、出席, クラス全体への貢献, 問題解決コンテストの成績.

備考・関連URL:
グループワークが多く、遅刻/早退(20分以下のものを欠席0.5とカウントします、それ以上は欠席1とカウントします)や欠席はグループやクラスにとって大きな損失になるので、減点対象とせざるを得ません。特に欠席は、3回(3週ではなく3コマ)を超えると不合格ですのでご注意ください.

科目名のあとの数字（春は01-04、秋は05-08)は同クオーターに行われる同一科目の中のクラス番号を示しています. クラス分けはGECで行うので、履修申請時はこの数字は気にせずに申請してください.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030034|01|9S12030034[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	他者のリーダーシップ開発 1（OD1） O1		
担 当 教 員	森永 雄太		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木4-5	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 自分だけではなく，自分の周囲の人にもリーダーシップを発揮してほしいと思ったことはありませんか？ このOD1-2に始まる他者のリーダーシップ開発や組織開発の科目群は、他者のリーダーシップを開発し，組織を開発する(メンバーの関係性を向上させて成果に結びつける)ことを通じて，めぐりめぐって自分のリーダーシップも開発してしまうことに主眼をおきます。本科目（OD-1）はその最初の科目で，少人数のゼミ型式で運営します。特に後半のOD-2では全員が輪番で教員とともに授業設計を分担し授業中のファシリテーションも行ないます．
他の科目等との関係として，
1)この授業を受けるために，「理論とスキル」「問題解決プロジェクト」を履修済みであることが必須です．
2) OD-2のセット履修が必須です．
3)「リーダーシップ開発」のTAを志望する者は，この授業を履修してからTAになるか，あるいは並行履修しつつTAを務めることが必要です．なお，この授業を受けた人全員が必ずしもTAを志願する必要はありません．

授業の到達目標: 1) インストラクショナル・デザインの初歩の考え方を用いてリーダーシップ開発の構成を理解し，授業改善の提案を行えるようになる．
2) 少人数授業のファシリーテションを行えるようになる．
3) 他者のリーダーシップ開発と組織開発のツールとして，アクション・ラーニング(質問会議)を社会人や一般学生対象に実施できるようになる．

事前・事後学習の内容: ・課題図書を読んだうえで問いにこたえる
・リアクションペーパーに記入する

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 1) リーダーシップ開発の基礎理論を学ぶ．
2) インストラクショナル・デザインの初歩の考え方を理解する．
3) 社会人や一般学生を対象とする小グループのアクションラーニング(質問会議)のコーチ役になってメンバーの学習を促し問題解決を支援する実習を行う．
4) リーダーシップ開発授業の改善提案を行う．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 松本雄一（2024)『学びのコミュニティづくり』同文館出版

参考文献: 森永雄太（2019)『ウェルビーイング経営の考え方と進め方 健康経営の新展開』労働新聞社．
森永雄太（2023)『ジョブ・クラフティングのマネジメント』千倉書房．
松本雄一（2024)『学びのコミュニティづくり』同文館出版．
青島美佳・山口裕幸（2021)『リーダーのための心理的安全性ガイドブック』労務行政．

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 なし

レポート: 0 なし

平常点評価: 100 出席、クラス全体への発言の量と質、グループのプロジェクト成果、提出物(毎週)の提出度と質。

その他: 0 なし

備考・関連URL: 授業計画(3)の「一般学生や社会人」を幅広い層から集めるために，全7週のうち第4-6週はオンライン(zoom)で行う可能性があります．zoomによるアクションラーニングセッションの運営スキル自体が，これからの社会で高く評価されると予想されます．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030034|02|9S12030034[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	他者のリーダーシップ開発 1（OD1） 02		
担 当 教 員	森永 雄太		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水4-5	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 自分だけではなく，自分の周囲の人にもリーダーシップを発揮してほしいと思ったことはありませんか？ このOD1-2に始まる他者のリーダーシップ開発や組織開発の科目群は、他者のリーダーシップを開発し，組織を開発する(メンバーの関係性を向上させて成果に結びつける)ことを通じて，めぐりめぐって自分のリーダーシップも開発してしまうことに主眼をおきます。本科目（OD-1）はその最初の科目で，少人数のゼミ型式で運営します。特に後半のOD-2では全員が輪番で教員とともに授業設計を分担し授業中のファシリテーションも行ないます．
他の科目等との関係として，
1)この授業を受けるために，「理論とスキル」「問題解決プロジェクト」を履修済みであることが必須です．
2) OD-2のセット履修が必須です．
3)「リーダーシップ開発」のTAを志望する者は，この授業を履修してからTAになるか，あるいは並行履修しつつTAを務めることが必要です．なお，この授業を受けた人全員が必ずしもTAを志願する必要はありません．

授業の到達目標: 1) インストラクショナル・デザインの初歩の考え方を用いてリーダーシップ開発の構成を理解し，授業改善の提案を行えるようになる．
2) 少人数授業のファシリーテションを行えるようになる．
3) 他者のリーダーシップ開発と組織開発のツールとして，アクション・ラーニング(質問会議)を社会人や一般学生対象に実施できるようになる．

事前・事後学習の内容: ・課題図書を読んだうえで問いにこたえる
・リアクションペーパーに記入する

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 1) リーダーシップ開発の基礎理論を学ぶ．
2) インストラクショナル・デザインの初歩の考え方を理解する．
3) 社会人や一般学生を対象とする小グループのアクションラーニング(質問会議)のコーチ役になってメンバーの学習を促し問題解決を支援する実習を行う．
4) リーダーシップ開発授業の改善提案を行う．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書:

参考文献: 森永雄太（2019）『ウェルビーイング経営の考え方と進め方 健康経営の新展開』労働新聞社．
森永雄太（2023）『ジョブ・クラフティングのマネジメント』千倉書房..
青島美佳・山口裕幸（2021）『リーダーのための心理的安全性ガイドブック』労務行政．
松本雄一（2024）『学びのコミュニティづくり』同文館出版

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 なし

レポート: 0 なし

平常点評価: 100 出席、クラス全体への発言の量と質、グループのプロジェクト成果、提出物(毎週)の提出度と質。

その他: 0 なし

備考・関連URL: 授業計画(3)の「一般学生や社会人」を幅広い層から集めるために，全7週のうち第4-6週はオンライン(zoom)で行う可能性があります．zoomによるアクションラーニングセッションの運営スキル自体が，これからの社会で高く評価されると予想されます．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030035|01|9S12030035[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	他者のリーダーシップ開発 2（OD2） 01		
担 当 教 員	森永 雄太		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木4-5	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: OD-1の既習を前提として，引き続き他者のリーダーシップ開発を学ぶ．OD-1で習得したアクションラーニングなどを駆使して，学内外の小集団を対象に実践活動を行う．OD1を修得済み，または履修中の学生のみ受講可能である．

授業の到達目標: 1) 心理的安全性と心理的安全性を高めるリーダーシップの基本を理解するとともに、リーダーシップ開発実践に適宜応用できるようになる．
2) リーダーシップ不足が原因で成果が達成できない組織・団体・グループに対してリーダーシップ開発・組織開発を実行して，その効果を把握できるようになる

事前・事後学習の内容: ・輪番でTAを務められるよう準備する
・リアクションペーパーに記入する

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 1) 成果目標が高いのにリーダーシップ不足状態にある組織・団体・グループに対してリーダーシップ開発・組織開発を実演する．
2) 1)に対してリーダーシップ開発・組織開発を実行する．
3) 2)の効果を計測するためのアンケートや振り返りシートを制作し実行する．
4) 上記と並行して適応的課題と技術的課題の違いおよび心理的安全性と心理的安全性を高めるリーダーシップを理解するための文献を輪読する．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 青島美佳・山口裕幸（2021）『リーダーのための心理的安全性ガイドブック』労務行政．

参考文献: 森永雄太（2019）『ウェルビーイング経営の考え方と進め方 健康経営の新展開』労働新聞社．
森永雄太（2023）『ジョブ・クラフティングのマネジメント』千倉書房．
青島美佳・山口裕幸（2021）『リーダーのための心理的安全性ガイドブック』労務行政．
松本雄一（2024）『学びのコミュニティづくり』同文館出版．

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 なし

レポート: 0 なし

平常点評価: 100 出席、クラス全体への発言の量と質、グループのプロジェクト成果、提出物(毎週)の提出度と質。

その他: 0 なし

備考・関連URL: 本科目を受講するには，「他者のリーダーシップ開発 1(OD1)」を履修中，または履修済みであることが必要である．
なお，本OD2においても外部クライアントが参加する回を中心にzoomでのオンライン授業を行う予定である．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030035|02|9S12030035[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	他者のリーダーシップ開発 2（OD2） 02		
担 当 教 員	森永 雄太		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水4-5	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: OD-1の既習を前提を前提して，引き続き他者のリーダーシップ開発を学ぶ．OD-1で習得したアクションラーニングなどを駆使して，学内外の小集団を対象に実践活動を行う．OD1を修得済み，または履修中の学生のみ受講可能である．

授業の到達目標: 1) 心理的安全性と心理的安全性を高めるリーダーシップの基本を理解するとともに、リーダーシップ開発実践に適宜応用できるようになる．
2) リーダーシップ不足が原因で成果が達成できない組織・団体・グループに対してリーダーシップ開発・組織開発を実行して，その効果を把握できるようになる

事前・事後学習の内容: ・輪番でTAを務められるよう準備する
・リアクションペーパーに記入する

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 1) 成果目標が高いのにリーダーシップ不足状態にある組織・団体・グループに対してリーダーシップ開発・組織開発を実演する．
2) 1)に対してリーダーシップ開発・組織開発を実行する．
3) 2)の効果を計測するためのアンケートや振り返りシートを制作し実行する．
4) 上記と並行して適応的課題と技術的課題の違いおよび心理的安全性と心理的安全性を高めるリーダーシップを理解するための文献を輪読する．

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 青島美佳・山口裕幸（2021）『リーダーのための心理的安全性ガイドブック』労務行政．

参考文献: 森永雄太（2019）『ウェルビーイング経営の考え方と進め方 健康経営の新展開』労働新聞社．
森永雄太（2023）『ジョブ・クラフティングのマネジメント』千倉書房．
青島美佳・山口裕幸（2021）『リーダーのための心理的安全性ガイドブック』労務行政．
松本雄一（2024）『学びのコミュニティづくり』同文館出版．

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 なし

レポート: 0 なし

平常点評価: 100 出席、クラス全体への発言の量と質、グループのプロジェクト成果、提出物(毎週)の提出度と質。

その他: 0 なし

備考・関連URL: 本科目を受講するには，「他者のリーダーシップ開発 1(OD1)」を履修中，または履修済みであることが必要である．
なお，本OD2においても外部クライアントが参加する回を中心にzoomでのオンライン授業を行う予定である．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030038|01|9S12030038[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発授業設計実習 1 O1		
担 当 教 員	森永 雄太		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水3時限@02:水6時限	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 「リーダーシップ開発:理論とスキル」の授業運営実習

授業概要: OD1-2の既習を前提として，春クオータの「リーダーシップ開発:理論とスキル」の授業運営を教員とともに行なって，他者のリーダーシップ開発と組織開発を実習する．この授業は時間割上も春クオータの「リーダーシップ開発:理論とスキル」と同一曜日に開講され，実習はその授業の教室で行われる．リーダーシップ開発授業設計実習1受講生の教室での役割は従来のコース・アシスタントに近い．すなわち「リーダーシップ開発:理論とスキル」の授業前はチームで教材作成補助を行ない，授業中はTAと協力して受講生の理解度やチーム状態のモニタリングを行なう．授業後は授業中に得られた情報をもとに翌週以降の教材案の修正・改善を行なう．他者がリーダーシップを教えるための教材を作り,その成果を振り返って改良することで、リーダーシップやそのための技術を，教わっていた時よりも深く理解することができる．また複数クラスをまたにかけた授業運営は，真剣勝負と高度な振り返りの繰り返しの中で全員発揮のリーダーシップを学ぶ機会となる。それだけの真剣な姿勢が必要であるが、得るものも大きいはずである。

授業の到達目標: 春クオータの「リーダーシップ開発:理論とスキル」の授業設計と運営を教員とともに行えるようになり，秋クオータの「リーダーシップ開発:理論とスキル」運営スタッフ(秋クオータのリーダーシップ開発授業設計実習1受講生)のメンターになる．

事前・事後学習の内容: ・「リーダーシップ開発:理論とスキル」教材案の作成
・「リーダーシップ開発:理論とスキル」授業のモニタリング

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 1)「リーダーシップ開発:理論とスキル」の教科書・参考書の内容を確認．
2) 今期のカリキュラム方針と受講生の状況を踏まえ，前期の授業スライドも参考に教材案を作成.3) 教員との討議を経て教材を完成.4)「リーダーシップ開発:理論とスキル」の授業をモニタリング．
5) 「リーダーシップ開発:理論とスキル」授業後の運営ミーティングにて振り返りと次週案内
6) 秋クオータの「リーダーシップ開発:理論とスキル」への助言をまとめる．

これらを下記の「リーダーシップ開発:理論とスキル」授業回に対して行っていく予定である．
1. これからのリーダーシップを理解し体感する
2. 心理的安全性構築方法を知る
3. 自分らしいリーダーシップの発見と発揮,ビジョン策定
4. 解像度を上げる
5. モチベーション
6. 協働の相手を知る
7. 巻き込み力を高める/総括

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 授業内で適宜指示する。

参考文献: 森永雄太（2019）『ウェルビーイング経営の考え方と進め方 健康経営の新展開』労働新聞社.
森永雄太（2023）『ジョブ・クラフティングのマネジメント』千倉書房.
日向野幹也（2024）『「権限によらないリーダーシップ」で組織が変わる』ちくま書房.
本多達也『SDGs時代のソーシャル・イントラプレナーという働き方』日経BP.

その他適宜指示する．

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 なし

レポート: 0 なし

平常点評価: 100 提出物の確実性と質、クラス内での発言による貢献度。

その他: 0 なし

備考・関連URL: 本科目を受講するには「他者のリーダーシップ開発　2(OD2) 」を修得済みであることが必要である。また履修希望者は履修申請前に担当教員に連絡すること。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030038|02|9S12030038[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発授業設計実習 1 02		
担 当 教 員	森永 雄太		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木3時限@02:木6時限	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 「リーダーシップ開発:理論とスキル」の授業運営実習

授業概要: OD1-2の既習を前提として，秋クオータの「リーダーシップ開発:理論とスキル」の授業運営を教員とともに行なって，他者のリーダーシップ開発と組織開発を実習する．この授業は時間割上も秋クオータの「リーダーシップ開発:理論とスキル」と同一曜日に開講され，実習はその授業の教室で行われる．リーダーシップ開発授業設計実習1受講生の教室での役割は従来のコース・アシスタントに近い．すなわち「リーダーシップ開発:理論とスキル」の授業前はチームで教材作成補助を行ない，授業中はTAと協力して受講生の理解度やチーム状態のモニタリングを行なう．授業後は授業中に得られた情報をもとに翌週以降の教材案の修正・改善を行なう．他者がリーダーシップを教えるための教材を作り,その成果を振り返って改良することで、リーダーシップやそのための技術を，教わっていた時よりも深く理解することができる．また複数クラスをまたにかけた授業運営は，真剣勝負と高度な振り返りの繰り返しの中で全員発揮のリーダーシップを学ぶ機会となる。それだけの真剣な姿勢が必要であるが、得るものも大きいはずである。

授業の到達目標: 秋クオータの「リーダーシップ開発:理論とスキル」の授業設計と運営を教員とともに行えるようになり，次年度の春クオータの「リーダーシップ開発:理論とスキル」運営スタッフ(次年度の春クオータのリーダーシップ開発授業設計実習1受講生)のメンターになる．

事前・事後学習の内容: ・「リーダーシップ開発:理論とスキル」教材案の作成
・「リーダーシップ開発:理論とスキル」授業のモニタリング

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 1)「リーダーシップ開発:理論とスキル」の教科書・参考書の内容を確認．
2) 今期のカリキュラム方針と受講生の状況を踏まえ，前期の授業スライドも参考に教材案を作成.3) 教員との討議を経て教材を完成.4)「リーダーシップ開発:理論とスキル」の授業をモニタリング．
5) 「リーダーシップ開発:理論とスキル」授業後の運営ミーティングにて振り返りと次週案内
6) 春クオータの「リーダーシップ開発:理論とスキル」への助言をまとめる．

これらを下記の「リーダーシップ開発:理論とスキル」授業回に対して行っていく予定である．
1. これからのリーダーシップを理解し体感する
2. 心理的安全性構築方法を知る
3. 自分らしいリーダーシップの発見と発揮,ビジョン策定
4. 解像度を上げる
5. モチベーション
6. 協働の相手を知る
7. 巻き込み力を高める/総括

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 授業内で適宜指示する。

参考文献: 森永雄太（2019）『ウェルビーイング経営の考え方と進め方 健康経営の新展開』労働新聞社.
森永雄太（2023）『ジョブ・クラフティングのマネジメント』千倉書房.
日向野幹也（2024）『「権限によらないリーダーシップ」で組織が変わる』ちくま書房.
青島美佳・山口裕幸（2021）『リーダーのための心理的安全性ガイドブック』労務行政.
本多達也(2023)『SDGs時代のソーシャル・イントラプレナーという働き方」日経BP..

その他適宜指示する.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 なし

レポート: 0 なし

平常点評価: 100 提出物の確実性と質、クラス内での発言による貢献度。

その他: 0 なし

備考・関連URL: 本科目を受講するには「他者のリーダーシップ開発　2(OD2) 」を修得済みであることが必要である。また履修希望者は履修申請前に担当教員に連絡すること。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030039|01|9S12030039[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発授業設計実習 2 01		
担 当 教 員	森永 雄太		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:水3時限@02:水6時限	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」の授業運営実習

授業概要: OD1-2の既習を前提として，夏クオータの「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」の授業運営を教員とともに行なって，「他者のリーダーシップ開発と組織開発」を実習する．この授業は時間割上も夏クオータの「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」と同一曜日に開講され，実習はその授業の教室で行われる．教室でのこのクラスの受講生の役割は従来のコース・アシスタントに近い．すなわち授業前は予習として教材作成補助を行ない，授業中はTAと協力して受講生の理解度やチーム状態のモニタリングを行なう．授業後は授業中に得られた情報をもとに翌週以降の教材案の修正・改善を行なう．他者がリーダーシップを教えるための教材を作り,その成果を振り返って改良することで，リーダーシップやそのための技術を，教わっていた時よりも深く理解することができる．また複数クラスをまたにかけた授業運営は，真剣勝負と高度な振り返りの繰り返しの中で「全員発揮のリーダーシップ」を学ぶ機会となる。それだけの真剣な姿勢が必要であるが、得るものも大きいはずである。

授業の到達目標: 夏クオータの「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」の授業設計と運営を教員とともに行えるようになり，冬クオータの「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」運営スタッフ(冬クオータのリーダーシップ開発授業設計実習2受講生)のメンターになる．

事前・事後学習の内容: ・「リーダーシップ開発：問題解決プロジェクト」教材案の作成
・「リーダーシップ開発：問題解決プロジェクト」授業のモニタリング

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 1)「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」の教科書・参考書の内容を確認する．
2) 今期のカリキュラム方針と受講生の状況を踏まえ，前期の授業スライドも参考に教材案を作成.3) 教員との討議を経て教材を完成.4) 「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」の授業をモニタリング．
5) 「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」授業後の運営ミーティングにて振り返りと次週案内6) 秋クオータの「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」への助言をまとめる．
これらを下記の「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」授業回に対して行っていく予定である．
1. キックオフ，チームビルディング，テーマ理解
2. プロジェクト課題の理解深化，テーマ候補検討，チームの動き方確立に向けて
3. 状況分析～方向性の決定，中間発表準備
4. 中間発表，中間振り返り，方向性再検討
5. 本質的価値実現のための具体策検討．伝わるプレゼンづくり，リハーサル
6. ビジネスプラン発表と振り返り
7. リーダーシップの振り返りと総括

言語区分: 0 日本語 Japanese

参考文献: 森永雄太（2019）『ウェルビーイング経営の考え方と進め方 健康経営の新展開』労働新聞社．
森永雄太（2023）『ジョブ・クラフティングのマネジメント』千倉書房．
日向野幹也（2024）『「権限によらないリーダーシップ」で組織が変わる』ちくま書房．
青島美佳・山口裕幸（2021）『リーダーのための心理的安全性ガイドブック』労務行政．
松本雄一（2024）『学びのコミュニティづくり』同文館出版．

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 提出物の確実性と質、クラス内での発言による貢献度。

備考・関連URL: 本科目を受講するには「他者のリーダーシップ開発 2(OD2) 」を既習であることが必要である．また履修希望者は履修申請前に担当教員に連絡すること．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030039|02|9S12030039[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発授業設計実習 2 02		
担 当 教 員	森永 雄太		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木3時限@02:木6時限	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」の授業運営実習

授業概要: OD1-2の既習を前提として，冬クオータの「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」の授業運営を教員とともに行なって，「他者のリーダーシップ開発と組織開発」を実習する．この授業は時間割上も冬クオータの「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」と同一曜日に開講され，実習はその授業の教室で行われる．教室でのこのクラスの受講生の役割は従来のコース・アシスタントに近い．すなわち授業前は予習として教材作成補助を行ない，授業中はTAと協力して受講生の理解度やチーム状態のモニタリングを行なう．授業後は授業中に得られた情報をもとに翌週以降の教材案の修正・改善を行なう．他者がリーダーシップを教えるための教材を作り,その成果を振り返って改良することで，リーダーシップやそのための技術を，教わっていた時よりも深く理解することができる．また複数クラスをまたにかけた授業運営は，真剣勝負と高度な振り返りの繰り返しの中で「全員発揮のリーダーシップ」を学ぶ機会となる。それだけの真剣な姿勢が必要であるが、得るものも大きいはずである。

授業の到達目標: 冬クオータの「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」の授業設計と運営を教員とともに行えるようになり，夏クオータの「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」運営スタッフ(夏クオータのリーダーシップ開発授業設計実習2受講生)のメンターになる．

事前・事後学習の内容: ・「リーダーシップ開発：問題解決プロジェクト」教材案の作成
・「リーダーシップ開発：問題解決プロジェクト」授業のモニタリング

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 1)「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」の教科書・参考書の内容を確認する．
2) 今期のカリキュラム方針と受講生の状況を踏まえ，前期の授業スライドも参考に教材案を作成.3) 教員との討議を経て教材を完成.4) 「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」の授業をモニタリング．
5) 「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」授業後の運営ミーティングにて振り返りと次週案内6) 秋クオータの「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」への助言をまとめる．
これらを下記の「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」授業回に対して行っていく予定である．
1. キックオフ，チームビルディング，テーマ理解
2. プロジェクト課題の理解深化，テーマ候補検討，チームの動き方確立に向けて
3. 状況分析～方向性の決定，中間発表準備
4. 中間発表，中間振り返り，方向性再検討
5. 本質的価値実現のための具体策検討．伝わるプレゼンづくり，リハーサル
6. ビジネスプラン発表と振り返り
7. リーダーシップの振り返りと総括

言語区分: 0 日本語 Japanese

参考文献: 森永雄太（2019）『ウェルビーイング経営の考え方と進め方 健康経営の新展開』労働新聞社．
森永雄太（2023）『ジョブ・クラフティングのマネジメント』千倉書房．
日向野幹也（2024）『「権限によらないリーダーシップ」で組織が変わる』ちくま書房．
青島美佳・山口裕幸（2021）『リーダーのための心理的安全性ガイドブック』労務行政．
松本雄一（2024）『学びのコミュニティづくり』同文館出版．

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 100 提出物の確実性と質、クラス内での発言による貢献度。

備考・関連URL: 本科目を受講するには,「リーダーシップ開発:理論とスキル」、「リーダーシップ開発:問題解決プロジェクト」「他者のリーダーシップ開発 2(OD2) 」を既習であることが必要である．また履修希望者は履修申請前に担当教員に連絡すること．リーダーシップ開発授業設計実習1とリーダーシップ開発授業設計実習2の履修順序は問わない．

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030040|02|9S12030040[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	リーダーシップ開発：授業外への適用 02		
担 当 教 員	塩川 太嘉朗		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（リーダーシップ）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

「リーダーシップ開発：理論とスキル」「同：問題解決プロジェクト」を学んで，「この内容を知らない人たちの中でもリーダーシップを効果的に発揮できるようになりたい」「ここで学んだものをもっと確立したい」と思いませんでしたか？

本授業では、「リーダーシップ開発：理論とスキル」「同：問題解決プロジェクト」で学んだ内容を、学校外の様々な場面（サークル、バイト、学生団体、ボランティア、SNSなど）でリーダーシップを発揮できる力を養い、人生全体のキャリア（ライフキャリア）においても活かせる視点を得ることを目的とします。
これにより、リーダーシップが単なる職務上のスキルではなく、「どのような人生を歩みたいか？」という問いにもつながることを学びます。

このため一つには「リーダーシップ開発：理論とスキル」，「リーダーシップ開発：問題解決プロジェクト」での学習内容を自身で体系化できるレベルに理解を深めると共に一段高度なレベルの実践を行うための共通課題ワークを行います．また並行して各自持ち込みの，現実のリーダーシップ課題についてワークをおこないます。

後半は，各人のリーダーシップ・テーマを実践の場（部活・サークル，ゼミ，学生団体等）で実現するべくワークと授業外での実践，振り返りを行います．

授業の到達目標：

・自分らしいリーダーシップ行動を通じて，学校外の実践の場で，目指す変化を起こすプランを立て，実行に移せるようになる．
・理論とスキルで学んだリーダーシップの理論とスキルを自らの中に体系化し，活用できるようになる．
・リーダーシップの発揮を通じて、学校外の実践での経験を通じ、自身のライフキャリアについて考えられるようになる．

自分らしいリーダーシップ行動とは例えば「共感で人を巻き込む」「魅力的な目標・ビジョンを打ち出す」「ブレークスルーの糸口を見つける」「周りを活かす形を見つける」等．

事前・事後学習の内容：

毎週1～2時間程度の課題取り組みが必要になります．
・「リーダーシップ開発：理論とスキル」，「同：問題解決プロジェクト」で学んだ内容を深める共通課題，
・各自が持ちこむ現実のリーダーシップ課題
の二本立てです。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：イントロダクションとチームビルディング

オリエンテーション，アイスブレイクとグループディスカッション
「リーダーシップ・ベースキャンプ」の基礎構築

第2回：「リーダーシップ宝島への地図」作成

自身のリーダーシップ・ビジョンの可視化ワークと対話
理論とスキル，問題解決プロジェクトで学んで来たことの棚卸しワーク

第3回：目的・本質を捉えた思考

目的・本質を押さえて成果を上げた事例の共有
ズレが起きる理由の解明
目的・本質を押さえるための方策の抽出
社会や個人の場でも目的を貫く重要性を理解

第4回：リーダーシップ作戦会議1

持ち込みテーマの共有とグループワークによる再定義

第5回：仕組み・要素を捉える（中級編導入）
共通課題を通じて，物事や人が動く仕組み・要素を捉える力を高める個人のプロジェクトやコミュニティ活動でも活用できるリーダーシップの考え方を習得

第6回：リーダーシップ作戦会議2
マイナス状態からゼロを超えてプラスに転換する
ビジョンの解像度を上げる
第7回：仕組み・要素を捉える（中級編応用）
受講生の実践事例を使ったグループワークによる理解の深化

第8回：リーダーシップ作戦会議3
ビジョン実現の要素と仕組みを捉える
ビジョン実現の確率を高める具体化
第9回：自身のこだわりを知る：ライフキャリアとリーダーシップ
自身のビジョンにつながるこだわりの，グループワークによる探究
ライフキャリア視点で「自分の価値観」を整理（自分はどんなリーダーとしての役割を果たしたいのかについて考察を含む）
第10回：リーダーシップ作戦会議4
フォーメーションの設計
（自身の役割，他者に協力を依頼する部分の切り分け）
第11回：人を心から動かす説得
正しいだけでは人が動かない状況での説得
「人生の様々な場面で影響を与える」ことを意識し理解する

第12回：リーダーシップ作戦会議5
次の取り組みテーマ出し（授業終了後に向けて）
（良いテーマの見つけ方についての考察を含む）
第13回：学びの総括
グループワークと発表による授業全体振り返り
ライフキャリアの視点で自身のリーダーシップの変化を振り返る
（どのようなリーダーを目指すのか、リーダーシップの学びが自身のキャリア形成にどのような影響を与えたか）
第14回：次テーマ攻略作戦概要
授業終了後に取り組む次テーマの攻略作戦立案

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　なし.

参考文献：　適宜指示します.

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　授業内での発言の質と量，毎回の提出課題の質.

備考・関連URL：　「リーダーシップ開発：問題解決プロジェクト」科目を既習（単位修得済み）または履修中であることが受講要件になります.
授業は通常，毎回の提出課題を題材にグループワークや全体ディスカッションを行う形式を取りますが，具体的な進め方は受講生の状況を見て柔軟に決定します.
リーダーシップのクラスなので，クラスを作り上げる一員として，自分ならではのリーダーシップを発揮するつもりで来てほしいと思います. 必ずしも現時点で自分ならではのリーダーシップが分かっている必要はありません. 探りながらトライするうちにそれが見えてくるでしょう. またその中で，多様な強みを持ったクラスメートとの将来に渡るつながりが育っていくでしょう.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030041|01|9S12030041[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	パラスポーツとボランティア		
担 当 教 員	兵藤 智佳		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

講義と実習は、対面が基本となる。

実習については、4月18日（土）、5月9日（土）全日、2回実施を予定している。

実習では、車いす体験、パラスポーツ体験、車いすハンドボールチームの練習サポート活動を行う。

中高生パラハンドボールチームの都合で実習日程が変更になることもあり、日程変更によって実習に参加できない受講生には代替活動を考慮する。

「失ったものを数えるな、残されたものを最大限生かせ！」

これはパラリンピックを生んだグッドマン医師の言葉であるが、障がいとともに生きる人々にとって、スポーツは、生きる意味を感じる可能性でもある。また、パラスポーツは、「ルールを工夫することによってどんな人でもスポーツを楽しみ、公平に競える」という特徴を持つ。これは、現実の社会では実現困難でもある「共生社会」に対して多様な示唆を与えるものでもある。

そこで、本授業では、7回の講義、そして、実際の車いす体験、パラスポーツ体験、ボランティア活動を行う実習を通じて、パラスポーツと障がい問題、ボランティアの意味についての考察を深めることを目的とする。また、障がい者アスリートの当事者による体験の語りを聞くことで既存社会に存在する「障がい者が生きる困難」に対する考察を深めていく。特に、「障害」を巡る「個人モデルから社会モデル」への理解を深めたい。

その他、授業では、少人数のグループによる実践プロジェクトとして、受講生自らがボランティア活動を立案し、実際に実行する。パラスポーツとボランティアの体験を通じて、「障がいを持つ人もそうでない人も、一緒にスポーツを楽しむことで生まれる場の力」について知る機会としたい。

いままでスポーツに親しみ、魅力を感じてきた人のみならず、実際の体験を通じて、パラスポーツや障がい問題について理解を深めたい人が対象である。

授業の到達目標：

1．車いす体験やパラスポーツ体験、当事者との出会いを通じてパラスポーツのもつ多様な意味について知る。
2．当事者の語りやボランティア実践を通じてパラスポーツと共生社会の構築にむけた可能性を考察する。

事前・事後学習の内容：

毎回1－2時間の事前学習を必要とする
実習を含むグループによるプロジェクト形式ですすめるので、各自、パラスポーツやパラアスリートについて書籍やネットでの情報収集やスライド作成等の発表準備をする。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーション
科目概要の説明と学外実習の内容を理解する。
プロジェクト実施のためのグループをつくり、役割を決める。
第2回 「パラスポーツの可能性と課題」

第1回実習をふりかえり、パラスポーツの可能性を議論する。
パラスポーツ体験の「体験の言語化」を実施する。

第3回 「パラスポーツと共生社会」

パラスポーツのルール、及び障害のクラス分けについて発表する。
多様なパラスポーツのルールを知り、「公正と平等」についてディスカッションを行う。

第4回 「障害者アスリートの体験」

車いすアスリートの体験と講義を聴くことで、障害に関する「個人モデル」から「社会モデル」への理解を深める。
障がい者にとってのスポーツの意味についてディスカッションを行う。

第5回 「ボランティアの可能性と課題」

第2回実習のふりかえりを実施する施する。
「共生社会の構築」にとってボランティアの果たす役割についてまとめを行う。

第6回 「パラスポーツとボランティアの可能性」

大学生ボランティアの可能性と課題について、講義を聞き、ディスカッションを行う。
グループごとの発表の準備を行う。

第7回 「共生社会にむけて」

グループごとに「パラスポーツとボランティアの可能性」に関する発表を実施する。
発表についてのフィードバックとグループでのディスカッションを行い、講義のまとめとする。

学内実習Ⅰ①「パラスポーツ体験」

チームごとに「ボッチャ（パラスポーツ）」を実施する。
パラスポーツ体験をふりかえり、その意味を言語化する。

学内実習Ⅰ②「車いすの試乗体験」

大学構内で実際に車いすに試乗してみる。
車いすを押す体験をする。

学内実習Ⅰ③「車いす中高生チーム練習支援のボランティア計画」

車いす中高生の練習支援ボランティアについて、活動計画を立てる。

学内実習Ⅰ④ 「車いす中高生との交流活動計画」

グループごとに交流活動における準備と役割を分担する。

学外実習Ⅱ①「車いす中高生のパラスポーツ練習支援ボランティア活動」

車いす中高生のパラハンドボール練習支援ボランティア活動を行う。

学外実習Ⅱ② 「車いす中高生との交流会」

自分たちが立案した車いす中高生との交流会を開催する。

学外実習Ⅱ③ 「車いす中高生との交流会」

車いすとも生きる中高生たちと交流し、「障害とともに生きる」ことの困難と可能性」についてディスカッションを行う。パラスポーツとボランティアの可能性についてまとめる。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 兵藤智佳・花岡伸和編著「パラスポーツとボランティア～大学生がパラアスリートに出会う」2022年 ナカニシヤ出版

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 20 教科書を読んでレポートを提出する。
パラスポーツの意味について自分なりの意見を持てているかを評価する。

平常点評価: 55 毎回の授業でのコメントシートの提出（5点×7回講義）＋実習2回でのグループワークへの貢献×10点＝55点

その他: 25 パラスポーツの可能性に関するグループ発表を評価の対象とする

備考・関連URL: 実習場所は、早稲田大学構内、および千葉県障害者スポーツセンターを予定している。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030051|01|9S12030051[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	東日本大震災のフィールドワーク 1		
担 当 教 員	筒井 久美子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 震災経験のライフストーリーを聞き取り、記録する

授業概要: この授業では、岩手県陸前高田市をフィールドとして、東日本大震災を経験した人びとと関係を構築した上でライフストーリーインタビュー（社会学におけるインタビュー手法の1つ）を実施、インタビューで得られた語りをアーカイブ化すると共に、各自の問題関心に従って設定した問いを元に報告書を作成します。

災害や戦争の経験は、継承される中で凡庸化、陳腐化、形骸化にさらされ、人を揺り動かす力を喪失していきがちです。この授業では、切実感をともなった生きられた経験を受け取り、履修者自身の問題関心を重ね合わせることで、今だからこそ付与できる意味を積み重ねていきます。このような方法で継承した経験を報告書として残すことで、社会に貢献することを目指します。

「東日本大震災のフィールドワーク1」では、ライフストーリーインタビューについて理解すると共に、フィールドや自ら設定した問いについて事前に情報収集を行い、その上で調査計画を立て、インタビュー実施に備えます。

【重要】インタビューやフィールドワークは「東日本大震災のフィールドワーク2」で実施するので、併せて履修登録をしてください。

※インタビューやフィールドワークは可能な限り履修生の関心に合わせて実施します。担当教員が東日本大震災以降積み重ねてきた地域の人びととの関係性を活かしながら、観光を目的とした訪問や、自分一人で訪問する場合とは異なる経験を履修生と一緒に作り上げ、陸前高田で暮らす人々の生活世界について理解を深めます。

※過去の履修生は各自の問題関心に従い、まちづくりに取り組む方、消防団の方、地元紙記者の方など、多彩な人びとにインタビューを実施、報告書を執筆しています。

※過去のフィールドワークではインタビューのほかにも、様々な場所を訪れました。例えば、自社ビルのてっぺんまで登って生き延びた方から、その方自身が震災遺構として保存されているそのビルで震災当日の経験談を伺いました。また、陸前高田市で伝統的に行われている七夕祭りの山車作りの手伝いをさせていただいたこともあります。

授業の到達目標: ①ライフストーリーインタビューの基本的枠組みを理解する。
②自分の意見を他者に自分の言葉で説明できるようになると共に、他者の意見を聞くことが出来るようになる。
③自分なりの問いを設定し、調査計画を立てる。

事前・事後学習の内容: 事前学習としてレジュメや調査計画の作成が、事後学習として授業中のディスカッションを踏まえたそれらのブラッシュアップが必要な授業回があります。所要時間は2から3時間程度が想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回：オリエンテーション
授業の概要・進め方を理解する。自己紹介を行い、各自の問題関心を共有、役割分担を行う。

第2回：報告書を批評する。
過去の履修者が執筆した報告書を批評する。この作業を通して、自らが調査を開始し報告書を執筆する過程で注意すべき点を確認する。

第3回：ライフストーリーインタビューについて理解する①
文献に基づきライフストーリーインタビューについて理解する。今回は、文献をもとにディスカッションを行うことで、ライフストーリーインタビューの基本的な枠組み（対話的構築主義、調査者のリフレクシビティ、モデル・ストーリーとマスター・ナラティブなど）について理解する。

第4回：ライフストーリーインタビューについて理解する②
文献に基づきライフストーリーインタビューについて理解する。今回は、ライフストーリーインタビューを実践する調査者が自身の調査経験を記述した作品を通して、前回学習したライフストーリーインタビューの枠組みを実践的に学び、調査者が持つべき視点を身に着ける。

第5回：東日本大震災及び岩手県陸前高田市を知る。フィールドワークの準備
教員の講義を聞き、陸前高田市の人口・産業構造等の基本情報、東日本大震災による被災状況、復興過程、8月に実施するフィールドワークについて理解する。各自の問題関心に関連する事項について報告、ディスカッションを行う。

第6回：問いを設定する①
第1グループについて、履修者が設定した問いとインタビュー協力者の候補を報告し合いブラッシュアップする。問いについては、独創性があるか、知的な面白さがあるか、調査可能かという軸から評価し、適切な問いへと磨き上げる。また、その問いに迫るために適切なインタビュー協力者が設定されているか議論する。

第7回：問いを設定する②
第2グループについて、履修者が設定した問いとインタビュー協力者の候補を報告し合いブラッシュアップする。問いについては、独創性があるか、知的な面白さがあるか、調査可能かという軸から評価し、適切な問いへと磨き上げる。また、その問いに迫るために適切なインタビュー協力者が設定されているか議論する。

第1回からのまとめを行うとともに、次回以降の進め方について確認する。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　指定しない。

参考文献：　桜井厚・小林多寿子編著、2005、『ライフストーリー・インタビュー―質的研究入門』せりか書房。
桜井厚・石川良子、2015、『ライフストーリー研究に何ができるか――対話的構築主義の批判的継承』新曜社。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　試験は実施しない。

レポート：　50　インタビュー実施に向けて、問いの設定、先行研究のまとめ、インタビュー協力者の選定が適切に行われているかに基づき評価する。

平常点評価：　50　レジュメ作成・報告、討議への参加や寄与の度合いをもとに総合的に判断する。

その他：　0　特になし。

備考・関連URL：　履修者数によって授業計画を調整する場合があります。
「東日本大震災のフィールドワーク2」で8月17日（月）～8月20日（木）（3泊4日）で陸前高田市にてフィールドワークを実施するので、併せて履修登録してください。履修者は交通費・宿泊費（6万円程度）のほか、食費、現地交通費（タクシー等履修者数により検討）、インタビュー協力者へのお礼用菓子折り代等が必要になります。

本科目は副専攻「社会貢献とボランティア」の選択科目です。
本科目は副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
本科目は平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）の提供科目です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030052|01|9S12030052[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	東日本大震災のフィールドワーク 2		
担 当 教 員	筒井 久美子		
開 講 学 期	夏秋	単 位 数	3
曜 日 時 限	01:木4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 震災経験のライフストーリーを聞き取り、記録する

授業概要: この授業では、岩手県陸前高田市をフィールドとして、東日本大震災を経験した人びとと関係を構築した上でライフストーリーインタビュー（社会学におけるインタビュー手法の1つ）を実施、インタビューで得られた語りをアーカイブ化すると共に、各自の問題関心に従って設定した問いを元に報告書を作成します。

災害や戦争の経験は、継承される中で凡庸化、陳腐化、形骸化にさらされ、人を揺り動かす力を喪失していきがちです。この授業では、切実感をともなった生きられた経験を受け取り、履修者自身の問題関心を重ね合わせることで、今だからこそ付与できる意味を積み重ねていきます。このような方法で継承した経験を報告書として残すことで、社会に貢献することを目指します。

「東日本大震災のフィールドワーク2」では1で立てた計画をもとにフィールドワーク及びライフストーリーインタビューを実施し、報告書を執筆します。1で発見した自分なりの問いをインタビュー協力者や他の履修者とのコミュニケーションを通して問い直しながら、答えに向けて粘り強く考えていきましょう。

※インタビューやフィールドワークは可能な限り履修生の関心に合わせて実施します。担当教員が東日本大震災以降積み重ねてきた地域の人びととの関係性を活かしながら、観光を目的とした訪問や、自分一人で訪問する場合とは異なる経験を履修生と一緒に作り上げ、陸前高田で暮らす人々の生活世界について理解を深めます。

※過去の履修生は各自の問題関心に従い、まちづくりに取り組む方、消防団の方、地元紙記者の方など、多彩な人びとにインタビューを実施、報告書を執筆しています。

※過去のフィールドワークではインタビューのほかにも、様々な場所を訪れました。例えば、自社ビルのてっぺんまで登って生き延びた方から、その方自身が震災遺構として保存されているそのビルで震災当日の経験談を伺いました。また、陸前高田市で伝統的に行われている七夕祭りの山車作りの手伝いをさせていただいたこともあります。

授業の到達目標: ①東日本大震災をめぐる語りをインタビュー協力者の主観的世界に即して理解する。
②自分なりに設定した問いを、他者とのコミュニケーションを通して問い直しながら、答えに向けて考え続ける。
③インタビュー協力者の語りを他者に伝えられるとともに、オリジナルな分析・考察ができる。

事前・事後学習の内容: 事前学習としてレジュメや調査計画の作成が、事後学習として授業中のディスカッションを踏まえたそれらのブラッシュアップが必要な授業回があります。所要時間は2から3時間程度が想定されます。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

※現地活動と教室での授業で構成されています。

【現地活動】
フィールドワーク 1日目：8月17日（月）
現地視察（東日本大震災津波伝承館、震災遺構等）、語り部の方からお話を伺う。
振り返り・調査計画の確認

フィールドワーク 2日目：8月18日（火）
地元の方からお話を伺う。
各自インタビューおよびフィールドワーク
振り返り・翌日の計画の確認

フィールドワーク 3日目：8月19日（水）
各自インタビューおよびフィールドワーク
振り返り・翌日の計画の確認

フィールドワーク 4日目：8月20日（木）
各自インタビューおよびフィールドワーク
振り返り・秋クオーター初回授業までの課題確認

【授業】
第1回：調査結果を報告する①：10月1日（木）4時限
第1グループのメンバーから、自ら設定した問いに対する答えを出す手前で、調査により明らかになったことを報告し、問いの設定や追加調査項目についてコメントをもらう。

第2回：調査結果を報告する②：10月1日（木）5時限
第2グループのメンバーから、自ら設定した問いに対する答えを出す手前で、調査により明らかになったことを報告し、問いの設定や追加調査項目についてコメントをもらう。

第3回：問い・先行研究の再検討①：10月8日（木）4時限
第1グループのメンバーから、前回の報告へのコメントをもとに問いの設定、先行研究の検討部分を再検討し、その結果を報告する。

第4回：問い・先行研究の再検討②：10月8日（木）5時限
第2グループのメンバーから、前回の報告へのコメントをもとに問いの設定、先行研究の検討部分を再検討し、その結果を報告する。

第5回：調査計画を立てる①：10月15日（木）4時限
第1グループのメンバーから、報告書のうち問いの設定、先行研究の検討、調査概要、調査結果、2回目のインタビュー調査計画を報告し、他の履修者からコメントをもらう。その後、インタビュー調査を各自で実施する。

第6回：調査計画を立てる②：10月15日（木）5時限
第2グループのメンバーから、報告書のうち問いの設定、先行研究の検討、調査概要、調査結果、2回目のインタビュー調査計画を報告し、他の履修者からコメントをもらう。その後、インタビュー調査を各自で実施する。

第7回：調査結果を報告する①：10月22日（木）4時限
2回目のインタビューを実施したメンバーから、自ら設定した問いに対する答えを出す手前で、調査により明らかになったことを報告し、問いに対する答えに向けた意見交換を行う。

第8回：調査結果を報告する②：10月22日（木）5時限
前回報告していないメンバーから、自ら設定した問いに対する答えを出す手前で、調査により明らかになったことを報告し、問いに対する答えに向けた意見交換を行う。

第9回：問いに対する答えを報告する①：10月29日（木）4時限
第1グループのメンバーの半分から、報告書全体、特に自分が設定した問いへの答えを報告し合い、報告書完成に向けてブラッシュアップを行う。

第10回：問いに対する答えを報告する②：10月29日（木）5時限
第1グループのメンバーの半分から、報告書全体、特に自分が設定した問いへの答えを報告し合い、報告書完成に向けてブラッシュアップを行う。

第11回：問いに対する答えを報告する③：11月12日（木）4時限
第2グループのメンバーの半分から、報告書全体、特に自分が設定した問いへの答えを報告し合い、報告書完成に向けてブラッシュアップを行う。

第12回：問いに対する答えを報告する④：11月12日（木）5時限
第2グループのメンバーの半分から、報告書全体、特に自分が設定した問いへの答えを報告し合い、報告書完成に向けてブラッシュアップを行う。

第13回：最終報告会①：11月19日（木）4時限
第1グループのメンバーから、各自作成した報告書をもとにレジュメを作成し、最終報告を行い、履修者同士で批評し合う。

第14回：最終報告会②：11月19日（木）5時限
第2グループのメンバーから、各自作成した報告書をもとにレジュメを作成し、最終報告を行い、履修者同士で批評し合う。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　指定しない

参考文献：　桜井厚・小林多寿子編著、2005、『ライフストーリー・インタビュー―質的研究入門』せりか書房。
桜井厚・石川良子、2015、『ライフストーリー研究に何ができるか――対話的構築主義の批判的継承』新曜社。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	0	試験は実施しない。
レポート：	50	自身が設定した問いについて、十分な調査と考察を経た上でオリジナルな答えが示されているかに基づき評価する。
平常点評価：	50	インタビューおよびフィールドワークの実施、レジュメ作成・報告、討議への参加や寄与の度合いをもと

に総合的に判断する。

その他: 0 特になし。

備考・関連URL: 履修者数によって授業計画を調整する場合があります。
履修者は交通費・宿泊費（6万円程度）のほか、食費、現地交通費（タクシー等履修者数により検討）、インタビュー協力者へのお礼用菓子折り代等が必要になります。

本科目は副専攻「社会貢献とボランティア」の選択科目です。
本科目は副専攻「地域連携・地域貢献」の選択科目です。
本科目は平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）の提供科目です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030055|01|9S12030055[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	スポーツを通じた社会貢献とビジネスの可能性 2		
担 当 教 員	岡田 美優		
開 講 学 期	集秋	単 位 数	3
曜 日 時 限	01:金3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ボランティア）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

※本授業は、夏クオーター実施の「スポーツを通じた社会貢献とビジネスの可能性1」と連動しています。「スポーツを通じた社会貢献とビジネスの可能性2」を履修する場合は、「スポーツを通じた社会貢献とビジネスの可能性1」を履修済みであることが必須です。

「スポーツで社会課題を解決する“ビジネス”を、本気で考えてみませんか？」
現場に入り、当事者の声を聞き、社会を変える事業を構想する実践型授業です。

スポーツは、健康づくりだけでなく、地域活性化、多様な人々との共生、途上国支援など、さまざまな社会的価値を生み出しています。現在、スポーツを活用した社会貢献活動は、企業、NPO、スポーツ団体などによって世界中で実施されています。
しかし、社会貢献活動は収益化や継続性が課題になることも多く、「社会に良いこと」と「ビジネスとして成立すること」を両立させることは簡単ではありません。また、ビジネス化を進める中で、社会課題解決という本来の目的が見えにくくなるケースもあります。
この授業では、スポーツビジネスやソーシャルビジネスについて、講義だけでなく、現場での活動体験やインタビュー調査を通して理解を深めます。そのうえで、グループワークを通して、スポーツを通じた社会貢献活動をビジネスとして成立させるためのアイデアを構想し、ビジネスプランを作成します。

【学外実習・ビジネスプラン構想について】

本授業では、パラスポーツ界で高い人気を誇るパラリンピック競技「車いすバスケットボール」をフィールドとして、現場実習を複数回実施します。
ヨーロッパでは、車いすバスケットボールはプロスポーツとして成立しており、ドイツではプロリーグ（ブンデスリーガ）が運営されています。こうした環境の中で、子どもから高齢者まで参加できるクラブが数多く存在し、障害者の自立や社会参加を支える重要な役割を担っています。
一方、日本では車いすバスケットボールのビジネス化はまだ発展途上の段階にあります。本実習では、車いすバスケットボールを題材に、新しい事業モデルを構想したり、既存クラブを持続可能な形で運営するためのビジネスプランを検討したりします。

現場を見て、関わる人の声を聞き、課題の構造を理解したうえで、「社会課題解決」と「ビジネス」をどう両立するかを考えていきます。

授業の到達目標:

①スポーツを通じた社会貢献活動とビジネスの多様な関係性やその違いについて理解できる
②現場実習での体験やインタビューを通じて、当事者の視点から障害者スポーツの課題を理解できる
③事業の対象者と課題を特定し、ロジックモデル・セオリーオブチェンジ等の枠組みに基づいた事業プランを構想できる

事前・事後学習の内容:

・事前学習：スポーツを通じた社会貢献活動やソーシャルビジネスに関する事例を書籍やネットで調べる（30分）
・事後学習：その日の学びを振り返りシートに記入する、授業外の時間でグループ課題を行う（120分）

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

※本授業は、全7回の講義（教室授業+オンライン）、1日×2回の現場実習、1泊2日の学外合宿で構成される3単位の実習科目です。現場実習2回および学外合宿は必須参加となります。
※シラバスの内容に一部変更箇所があります（2026年10月5日変更）
第1回：オリエンテーション【10/2（金）教室授業①】本授業と、「スポーツを通じた社会貢献とビジネスの可能性1」との繋がりについて説明する。
本授業の目的と内容、3回の現場実習、1泊2日の学外合宿について説明する。学生のグループを作成し、アイスブレイクを行う。

第2回：車いすバスケットボール体験 @所沢キャンパス【10/3（土）現場実習①】
今回の事業プラン構想における大きなテーマである「車いすバスケットボール」に対する理解を深めるため、早稲田大学所沢キャンパスで車いすバスケットボールの体験を行う。体験するとともに、「する」側としての車いすバスケットボールの持つ競技の魅力や、多様なプレーヤー（障害者・健常者）が共に参加できるしくみを理解する。体験後に、学びを振り返る言語化のワークを実施する。（5時間程度を想定）
スケジュール：
13:00 早稲田大学所沢キャンパス集合～18:00終了（実習時間5時間）

第3回：ソーシャルビジネスとスポーツビジネス概論【10/9（金）教室授業②】
ソーシャルビジネスについて、一般のビジネスや類似する取り組み（ボランティア・CSR・NPO等非営利組織が行う事業）との比較により理解を深める。
加えて、ビジネスとスポーツビジネスの違いについても説明する。事業プラン構想ワークの進め方を説明するとともに、ソーシャルビジネスにおける事業構想のフレームワークを提示し、既存事例をフレームワークに当てはめるワークを実践する。
プロスポーツクラブの事業モデル（事業性高）と、車いすバスケットボールの事業スモデル（公益性高）を比較し、それぞれの違いを理解する。
国内と国外の車いすバスケットボールクラブの事業モデルの違いについても、比較検討し理解を深める。

第4回：ソーシャルビジネスとロジックモデル【10/16（金）教室授業③】
ソーシャルビジネスを構想するにあたり欠かせないのがロジックモデルやセオリーオブチェンジといったフレームワークである。これらを用いて車椅子バスケットボールの現場における社会課題を分析するワークを実践する。
また、ソーシャルビジネスでは、課題を抱えている「当事者」と、その当事者が抱えている「課題」を明確に定義する必要がある。またその解像度が低いと、現場の課題感とズレが生じ、なんの課題も解決できない事業となってしまう。この授業では、これまでの実習で少しずつ見えてきた「車いすバスケットボールを取り巻く諸課題」やその課題を抱える「当事者」を思い浮かべ、「当事者」と「課題」の分析を行う。

第5回：インタビューガイドの作成【10/23（金）教室授業④】
第4回の授業で分析した「当事者」と「課題」についてより解像度を高めるため、次の実習でインタビュー調査を実施する。そこに向けて、まずインタビュー調査の方法論について説明を行った後、グループに分かれてインタビューガイドの目的と対象を決める。それをもとにインタビューガイドを作成し、インタビュー調査の準備を行う。

第6回：パラスポーツ関係のステークホルダーに対するインタビュー調査【10/24（土）現場実習③ 】@味の素スタジアム
パラスポーツの活動を行う現場に再び訪問し、グループごとに決めた対象者に対してインタビュー調査を実施する。
スケジュール：
9:00 集合・事前打ち合わせ
9:30 ユニバーサルスポーツフェスタ参加
11:00 東京ヴェルディ関係者の講話
12:30 昼食
13:30 東京ヴェルディ関係者へのインタビュー
15:00 東京ヴェルディ vs アビスパ福岡 の試合観戦
18:00 解散
（実習時間8時間）※1時間昼休憩あり

第7回：ソーシャルビジネスとステークホルダーマネジメント【10/30（金）教室授業⑤】
ソーシャルビジネスによって取り組む社会課題は、制度の狭間にあり限られたリソースで社会課題を解決する必要がある場合も多く、多様なステークホルダーと協力しながら事業をおこなっていくことが重要である。この授業では、車いすバスケットボールを事例に、ソーシャルビジネスのステークホルダーマネジメントに対する理解を深めていく。

【変更箇所】
第8回：顧客へのインタビュー【オンライン】※受講者とインタビュー対象者で日時調整し決定
作成したインタビューガイドを用いて障害当事者に対するインタビュー調査をオンラインで実施し、顧客が何を求めているのか、何を課題としているのかを明らかにする。

第9回：ビジネスプラン考案合宿 （1泊2日）【10/31～11/1（土日）2日間終日学外合宿】@静岡県 清水J-STEP / ちゅ～るスタジアム / 清水エスパルスIAIスタジアム日本平
これまでの講義・実習で得た経験・インタビューで得た情報をもとに、合宿形式でビジネスプラン構想合宿を行う。この2日間でグループごとにビジネスプランを考案し、考案したプランを次の講義授業の際にピッチコンテスト形式でグループ発表する。
＜1日目スケジュール＞
9:00 清水駅集合・移動
10:00 ちゅ～るスタジアム 施設見学・練習見学・経営者の講話
12:00 昼食
13:00 移動
14:00 清水エスパルスIAIスタジアム日本平 / 三保クラブハウス見学
15:00 清水エスパルスホームタウン事業部関係者インタビュー
17:00 移動
18:00 宿泊施設チェックイン・夕食
19:00 1日目の振り返り / グループワーク
20:00 1日目終了

＜2日目スケジュール＞
8:00 集合・朝食
9:00 ビジネスプラン企画ワーク
11:00 ユニバーサルスポーツの実践
12:30 昼食13:30 静岡市スポーツ課 ユニバーサルスポーツ担当者との合同ワーク
15:00 ビジネスプラン企画ワーク
17:00 移動
18:00 静岡駅解散

第10回：構想した事業プランのピッチコンテストと学びの振り返り【11/13（金）教室授業⑥】
学外合宿で構想した事業プランについて、ピッチコンテスト形式でグループごとに発表する。車いすバスケットボール関係者の方にも参加頂き、グループ発表に対し評価と講評を行う。最終的に、最も優れたプランのグループを発表する。
最後に、これまでの授業を振り返り、得た体験と学びについて言語化するワークを行う。また、全授業の参加にあたり、自身の社会課題との関係性やキャリアの考え方に対する変化があれば、それについても言語化を行い、他者の意見を聞く中で、自己理解を深める。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　授業用に作成したレジュメを必要に応じて配布する。

参考文献：　実践で学ぶ！学生の社会貢献―スポーツとボランティアでつながる（2018）田中暢子ほか
公共政策の中のスポーツ（2021）真山達志, 成瀬和弥, & 日本体育スポーツ政策学会
スポーツマネジメント 改訂版（2015） 原田宗彦 & 小笠原悦子

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　試験は実施しない

レポート：　0　レポートの提出はない

平常点評価：　60　グループワークで自分の考えを伝えるとともに、他者の意見を傾聴しグループの発表内容に取り入れることができる。グループワークに貢献している。
現場実習後の振り返りシートや言語化のワークで、体験や当事者の語りから得た学びを自分自身の経験や価値観と照らし合わせ、自分の言葉で記述することができている

その他：　40　最終プレゼンの内容で、「当事者」と「課題」を明確にし、様々なデータから課題の解像度を高めることができる。事業のビジネスとしての位置づけを明確にすることができるとともに、選択理由も説明できる。ロジックモデルやセオリーオブチェンジに基づき、理論的繋がりをもって課題解決の道筋を示すことができている。

備考・関連URL：　実習や合宿にかかる交通費や食事代はすべて自己負担です。
おおよそ必要となる費用：合計 2万円 ※内訳：宿泊費（2500円*合宿時1泊分） + 交通費（1万円*学外実習2回分と合宿時の移動） + 食事代（5~6000円*学外実習の際の昼食3回分と合宿時の4食分）

※本授業担当教員である岡田が実施予定の早稲田ボランティアプロジェクトに参加予定の人は、積極的に履修すること。
（当該早稲田ボランティアプロジェクトの詳細については、2026年8月までに情報を掲載予定）

本科目は副専攻「社会貢献とボランティア」の選択科目である。
本科目は平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）の提供科目である。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S12030056|01|9S12030056[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	アントレプレナーシップとインパクト投資		
担 当 教 員	河村 耕平		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	2年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 社会課題解決に向けた金融のすがた

授業概要: 人口減少、気候変動、格差拡大など社会課題が多様化・複雑化する中、利益だけでなく社会的な課題の解決というインパクトを生み出すアントレプレナーシップ（起業家精神）と、収益性とともに公益性を重視する社会的金融との結合による、新たな価値創造が求められています。

本科目では、社会課題解決への資金供給において大きな役割を果たす機関投資家、そして社会課題解決に挑む起業家の双方の立場から、資産運用や金融を「社会を変える」「課題に挑戦する」力（≒アントレナーシップ）の基盤としてとらえ直し、資本市場・資産運用・保険の社会的役割、サステナブル投資、ベンチャーキャピタルや、プライベートエクイティの現場や最新事例を体系的かつ体験的に学びます。

受講生一人ひとりが、専門分野・学問領域・キャリアプランを問わず、「自ら仕掛ける力」「自分ならではの価値を形にする力」を育てる場となることを目的とするため、「社会課題解決」「イノベーション」の視点から実践的かつ新しいことを学びたい学生（全学部2年生以上、文理不問／ファイナンス・経済学未履修者も歓迎）の皆さんの受講を歓迎します。

※本科目は株式会社かんぽ生命保険のご協力のもと、実務経験を有する講師がその経験を生かして講義を行います。具体的には、株式会社かんぽ生命保険の Chief Investment Officer やインパクト投資実務担当者のほか、インパクトファンドを運営するベンチャーキャピタルの責任者、インパクトファイナンスにより資金を調達しているスタートアップ企業の経営者が登壇します。

授業の到達目標: ・資本市場・資産運用・保険などの社会的金融の基礎やその社会的役割、さらにサステナブル投資・インパクト投資の考え方と課題を学ぶ。

・社会課題の解決に向けて資金を「届ける立場」と、それをもとに事業を「動かす立場」の両面から金融の役割を捉え、実際の投資事例を通じて現場の価値観やアプローチを体感する。

・社会課題を自分ごととして発見し、チームで解決を通した価値創造案をアウトプットする経験を得る。

事前・事後学習の内容: 事前に資料が配布されることがあります。その場合は授業までにその内容を理解した上で授業に臨んでください。後半はグループワークの提出があります。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

資本市場・資産運用の基礎

株式や債券といった主要な金融商品や資本市場の仕組み、銀行・保険・証券といった金融業態の社会的・経済的役割、さらには資産運用の初歩的な考え方について、幅広く学び、「お金の流れ」の基本構造を理解する。

株式会社かんぽ生命 立花淳 専務執行役

投資家としての生命保険 および金融サービスの社会的意義

生命保険の基本原理とともに、保障・相互扶助といった社会的機能、そして長期投資家としての役割について深掘りする。金融サービスが“責任ある機関投資家”として社会課題解決にどう関わるのか——投資家側の社会的使命を学ぶ。
株式会社かんぽ生命 立花淳 専務執行役

社会課題を自分ごとに変える—アントレプレナーシップの視点

社会課題を「自分ごと」として考えるきっかけや事例の紹介を通じて、起業家たちは何を考え、なぜ取り組んだのか、どんなアプローチがあるのか、”社会を変える”起業家の挑戦を学ぶ。
かんぽNEXTパートナーズ株式会社 塙浩一 パートナー

インパクト投資家は何を見るか—インパクト投資の理論と現場

近年注目を集めるインパクト投資の考え方を学ぶとともに、社会的インパクト投資の実務現場として、かんぽ生命の「インパクトKプロジェクト」を取り上げ、取り組みの背景や設計、具体的な投資実例、投資判断・社会的効果の評価など、実務担当者の視点から現場のリアルを共有する。
株式会社かんぽ生命 運用企画部 責任投資推進室 課長

ベンチャーキャピタルから見たインパクトファイナンス

ベンチャーキャピタルが「インパクトファイナンス」にどのような視点と戦略で取り組んでいるかに焦点を当てる。インパクトファンドの運営方法や投資判断、社会課題への具体的アプローチについて、実際にファンド運営に関わるゲストから話を聞き、投資家として「どんな企業・プロジェクトに資金を振り向けるのか」その意義・ロジックを学ぶ。
インパクト・キャピタル株式会社 高塚清佳 代表取締役

スタートアップ企業から見たインパクトファイナンス

スタートアップ企業側＝起業家の視点から、社会課題の発見と資金調達、インパクト実現の現実について学ぶ。実際に起業家の話を聞いた後、「自分が起業家の立場だったらどのような社会課題をどのような事業・ファイナンスでインパクト創出を目指すか？」という問いを、これまでの講義内容と結びつけ、チームで社会的インパクトを生み出す具体的なビジネスアイディア・資金調達計画として検討し、討議する。
ライフイズテック株式会社 水野雄介 代表取締役CEO（一般社団法人インパクトスタートアップ協会 代表理事）

総括・未来へのアクション

最終回では、グループワークで練り上げた課題解決・インパクト創出案を各チームが発表し、投資家／VC双方の観点から講師・ゲストが多角的な講評を行う。最後に本講義全体を振り返り、これからの金融・アントレプレナーシップのあるべき姿や、自らのキャリアや社会への関わりをどう形成していくかまで、実践的・対話的に展望していく。
インパクト・キャピタル株式会社 高塚清佳 代表取締役

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 指定しません。

参考文献: 指定しませんが、事前、事後に各回の登壇者から紹介されることがあります。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 60 出席、授業中の発言、各回のコメント

その他: 40 グループワーク

備考・関連URL: オープンカンパニー（実践研修・任意）: 生保業務の各種実務

・春学期終了後、本科目履修者向けに、かんぽ本社（大手町）にて1日間のオープンカンパニー（実践研修）を開催します。
・研修内容は、資産運用・デジタル等各部門の実務です。（開催時期、研究内容などの詳細は5月に決定予定です）
・参加を希望する方を募集し、定員は最大で20名程度です。希望者多数の場合は、出席状況などを考慮して選抜します。
・オープンカンパニーへの参加は成績評価に一切影響しません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010004|01|9S91010004[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	起業特論A:トップリーダーマネジメント		
担 当 教 員	朝日 透@一木 広治		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金6時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: トップリーダーマネジメント

授業概要:

この授業では、起業家から起業に必要なマインドセット、考え方、実際の起業経験を、業界のイノベーターから業界を変える戦略を、ベンチャーキャピタリストからどのような人や事業に投資したいと思うのかなどを知り、ゲストとのインタラクティブなやりとりを通して、起業や新しいことへ挑戦するモチベーションを高めていく。授業は対面で実施する。

ゲストが変更となることがある。

授業の到達目標: これまでビジネスや研究成果の事業化への関心が低かった、もしくはそれらキャリアにハードルを感じて諦めていた学生が、起業家の実体験を知ることを通して、起業の楽しさ・面白さを体感し挑戦するマインドを醸成すること、および起業に向けての具体的なイメージを持つことを目指す。本授業を通じて、Volatility、Uncertainty、Complexity、Ambiguity（VUCA）の時代におけるビジネスや社会活動について考える契機となることも期待する。

事前・事後学習の内容: 指示された事前資料など目を通して自身の意見を述べられるように事前準備する。
授業終了後は、授業通して学んだことや感想を事後学習としてレビューシートを提出する。詳細は初回と都度、説明する。
事前学習に30分程度、事後学習に1時間程度必要となる。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

Ø 第1回4月17日(金)18時55分～20時35分 朝日・一木
ゲスト
・ DD水谷 HACCI`sJAPAN 合同会社

Ø 第2回4月24日(金) 18時55分～20時35分 朝日・一木
ゲスト
・ 頼定 誠 キャンピングカー株式会社 代表取締役社長
・ 鬼塚 公平 株式会社イリアル 本部長

Ø 第3回5月1日(金) 18時55分～20時35分 朝日
ゲスト
・ 藤田 健司 三井住友海上火災保険株式会社ビジネスデザイン部 部長 三井住友海上キャピタル株式会社兼務・TIB(TokyoInnovation Base) スターティングメンバー・情報経営イノベーション専門職大学 客員教授・Shibuya QWS コミュニティパートナー
・ 清水 和彦 フォースタートアップス株式会社 取締役 兼 アクセラレーション本部長
・ 小池 伶佳 株式会社Cinderelax代表取締役社長

Ø 第4回5月8日(金) 18時55分～20時35分 朝日・一木
・ 重松 大輔 株式会社スペースマーケット 社長／ベンチャー稲門会 副会長
・ 藤原 寛 株式会社エヌリンクス 代表取締役

Ø 第5回5月15日(金) 18時55分～20時35分 朝日
ゲスト
・ 喜多埜 裕明 前ソフトバンクモバイル 常務・元ヤフー 取締役CO
・ 佐々木 広行 株式会社プロラボホールディングス 代表取締役会長 兼 CEO

Ø 第6回5月22日(金) 18時55分～20時35分 朝日・一木
ゲスト
・ 廣末 紀之 ビットバンク株式会社 代表取締役社長
・ 福井 康夫 インパクトホールディングス株式会社 ファウンダー／株式会社MFTrustLead 代表取締役社長／ベンチャー稲門会 幹事

Ø 第7回5月29日(金)18時55分～20時35分 朝日・一木
ゲスト

・ 堀 義貴　ホリプログループホールディングス 代表取締役社長・ホリプログループ 会長
・ 中辻 新　LYTA CAPITAL Inc Founder & CEO ／一般社団法人 日本文化共創機構 理事

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: なし

参考文献: なし

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:
（1）学部生
・試験：0%（試験は実施しない）
・レポート：85%　毎授業後に1週間以内に提出するレビューシート
・平常評価：10%　授業への積極的な参画
・その他：5%　事後学習として、関連するセミナーや講座に参加し、レポートを提出

（2）大学院生
・試験：0%（試験は実施しない）
・レポート：80%　毎授業後に1週間以内に提出するレビューシート
・平常評価：10%　授業への積極的な参画
・その他：10%　事後学習として、関連するセミナーや講座に参加し、レポートを提出

備考・関連URL:
＊いかなる理由でも3回以上欠席する(病欠も含む)と単位は取得できません。（欠席は2回まで）
＊3次登録者は、登録後の講義には全て出席しなければ単位取得できません。（未登録の回を含み欠席は2回まで）
＊レビューシートの未提出が3回以上の場合、単位は取得できません。（未提出は2回まで）（必ず期限までに提出すること。期限外に未提出回のレビューシートを提出してもカウントしない。Moodle以外への提出はカウントしない。欠席回のレビューシートを提出してもカウントしない。）
※レビューシートの内容は成績に反映されます。「新しい発見があった」「面白かった」「勉強になった」などの、抽象的で内容の薄いレビューや、Webや参考書に書かれている一般論や講義内容をただ単に要約しただけ、指定文字数を下回るレビューは、評価しません。
＊学会等の「公的な活動」に伴う講義の欠席については考慮しますが、必ず事前に申し出てください。（事後報告は考慮しない）指導教員からの依頼文を求めることがあります。また、公欠は出席扱いとはなりません。

＊問合せがある場合は、担当教員の朝日のメールアドレス（tasahi@waseda.jp）へ自分のメールアドレスを明記の上、連絡してください。
【履修上の注意】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
・2025年度以前に「起業特論A：トップリーダーマネジメント（学部生用）」の単位を修得済みの方は履修できません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010005|01|9S91010005[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	起業特論B:いかに企業内/企業と共に新規事業を立ち上げられる人材になるか		
担 当 教 員	島岡 未来子@朝日 透		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木6時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目(ビジネス創出)	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: いかに企業内で新規事業を立ち上げられる人材になるか

授業概要: 企業が生き残るためには、絶えざる成長と、競争に対する防衛が必要です。長期的な競争力の維持はイノベーションと新規事業の創出なしにはありえません。アントレプレナーシップ(起業家精神)は、スタートアップ企業のみならず、すでに基盤を確立している企業にも必要です。最近では、複数の企業が参画するオープンイノベーションやスタートアップ企業との連携の議論も盛んです。しかし、多くの失敗事例が示すように、そこには困難さがつきまといます。どうしたら企業における新規事業は成功するのでしょうか？

授業では、新規事業にかかる理論的な背景、スタートアップとの相違点を学ぶとともに、総合商社やリーディングカンパニーなど企業における新規事業化への具体的な取組を取り上げます。現場で活躍されているゲストを招聘して、他では聞くことのできない貴重な経験談や今後の企業のあり方などを学びます。

企業は新規事業を開発・創造できる人材を求めています。本授業は、「いかに企業内で 新規事業を立ち上げられる人材になるか」に問題意識を持つ学生にとっても役立つ授業となります。授業は、島岡未来子、朝日透が担当し、芳賀和恵(コーチ)が支援します。

＊講義は対面を予定しています。
＊都合によりゲストならびに日程が変更になる場合があります。

授業の到達目標: ・企業における新規事業立ち上げに必要な知識を学び、それらの具体的なイメージを持てるようになる。
・企業内起業とスタートアップ立ち上げの違いを理解する。
・複数企業の新規事業立ち上げの例を知ることにより、異なる業種における新規事業の立ち上げの相違点を理解する。

事前・事後学習の内容: ・事前にゲスト講師の所属企業における新規事業等について調べ、質問を考える。
・事後は講義で得た考え方や手法などを整理した内容を、レビューシートで提出する。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

授業計画フリー: 2026年度／起業特論B:いかに企業内/企業と共に新規事業を立ち上げられる人材になるか

1: 第1回 6/4 イントロダクション(担当:島岡)

ゲスト講師: 西前純子氏(キリンホールディングス株式会社)
【社会課題解決に向けた新規事業創出への挑戦】キリンホールディングスはCSVを経営の中核におき、事業を通じた社会課題解決を目指しており、その一環として主に健康課題解決にむけた新規事業開発に取り組んでいる。年間数百名の応募がある社内ビジネスコンテストやベンチャー企業との協業など、活動を進化させながら複数の事業が生まれている。キリンホールディングス株式会社ヘルスサイエンス事業部部長、Cowellnex株式会社代表取締役社長である西前純子氏より、取り組みの概要とその背景にある企業における新規事業開発の意義についてご講義いただく。

西前氏は、キリンホールディングスにて、営業、マーケティング、人事、広報、と幅広く経験した後、2015年より新規事業開発に携わり、自ら新規事業開発を行う傍ら、社内ビジネスコンテストやコーポレートベンチャーキャピタルの立ち上げを行った。2024年にキリンホールディングスと傘下の協和キリン株式会社による合弁事業(Cowellnex社)を立ち上げ、代表として新たな領域での価値創造をリードしている。

2:第2回 6/11 (担当:島岡、朝日)

ゲスト講師: 河合秀治氏(セイノーホールディングス株式会社、セイノーラストワンマイル株式会社)
【イントレプレナーシップ～物流企業グループでの変革～】セイノーホールディングス株式会社オープンイノベーション推進室長、ラストワンマイル推進チーム担当とセイノーラストワンマイル株式会社代表取締役社長を兼任されている河合秀治氏をゲスト講師に迎える。河合氏は、1997年に西濃運輸株式会社に入社。トラックドライバー業務、岐阜県大垣市での本社監査室業務等を経て、ISO認証取得プロジェクト、内部統制プロジェクト等の各種プロジェクトに携わった。2011年に社内ベンチャーとしてココネット設立後、2024年4月からはラストワンマイル関連グループの中間持株会社制に移行し、傘下にある5社の代表取締役を兼務。2016年からセイノーHDのオープンイノベーション推進室長にも就任し、複数の新規事業開発を推進し現職。日本初の物流領域のスタートアップ投資を行う総額170億円規模のCVCを管掌、事業承継を行う50億円規模の投資ファンドも設立するなど、業界全体の

バージョンアップを目指している。
河合秀治氏についての参考記事： https://incubationinside.jp/2019/07/12/seino-holdings/

ゲスト講師: 小松洋介氏（一般社団法人VENTURE FOR JAPAN）
【中小企業に新規事業を起こすVENTURE FOR JAPANの取り組み】VENTURE FOR JAPAN 代表理事である小松洋介氏に、VENTURE FOR JAPANの取り組みについてご講義いただく。VENTUREFOR JAPANは、成長意欲の高い優秀な新卒・若手人材を優良な地方の中小企業やベンチャー企業へ事業責任者としてお送りし、「若者」・「企業」・「地方」の成長を通して「日本の復興」を目指す事業を行っている。小松氏は、株式会社リクルートを経て、東日本大震災の被災地である宮城県女川町で復興支援に関わった。その後、特定非営利活動法人アスヘノキボウを設立し、代表理事就任、2022年11月に代表理事を退任後、一般社団法人VENTURE FOR JAPANを設立、代表理事に就任した。
2014年 AERA 日本を突破する100人
2015年 日本青年会議所 人間力大賞 経済産業大臣賞
2017年 復興庁「新しい東北」復興顕彰
2017年 フォーブスジャパン ローカルイノベーター88人
2017年 日本財団 ソーシャルイノベーターなど

3: 第3回 6/18 （担当：島岡、朝日）
ゲスト講師：大野健彦（NTTテクノクロス株式会社こころを動かすデザイン室
ディスティングイッシュトデザイナー）
【NTTグループで「デザイン」と言って通じる時代が来ました】1994年にNTT入社、研究所で、Human-Computer Interaction、認知心理学、視線計測等の基礎研究に従事、途中からUXデザイン、デザイン思考、参加型デザイン等の研究にシフトし、その研究成果を社会で活用するために、2014年に現部署を立ち上げ、自らもその部署に出向、サービスデザイン、リビングラボ、技能継承などのデザインコンサルティングビジネスを確立するとともに、NTTグループにおけるデザイン活動の活発化に注力。これまでの経験を通じて得られた、大企業においてやりたいことをやるための作戦をいろいろとお伝えする。
こころを動かすデザイン室:https://www.ntt-tx.co.jp/products/ictdesign/
IT批評による紹介記事:https://it-hihyou.com/recommended/45351/
著書に、ぼちぼち働くAI共生論(風濤社)がある。

ゲスト講師：中村龍太氏（パラレルアントレプレナー（複業家）、コラボワークス、サイボウズ株式会社）
【パラレルワークがもたらすアントレプレナー】中村氏の事業は、10事業を超える。なぜ、このようなことができるのか。副業と複業の違いなどを解説し、起業のケースをエフェクチュエーションというフレームワークでお話しいただく。
プロフィール： 1964年広島県生まれ。日本大学生産工学部卒業後、1986年に日本電気入社。1997年マイクロソフトに転職し、いくつもの新規事業の立ち上げに従事。2013 年、サイボウズと中小IT企業に同時に転職、複業を開始。さらに、2015 年には NKアグリの提携社員として就農。現在は、コラボワークス代表、サイボウズ執行役員、自営農業のポートフォリオワーカー。2016年「働き方改革に関する総理と現場との意見交換会」で副業の実態を説明した複業のエバンジェリストとして活躍中。著書に、『出世しなくても、幸せに働けます』（PHP研究所）、『多様な自分を生きる働き方』（エッセンシャル出版）、『エフェクチュエーション：優れた起業家が実践する「5つの原則」』（ダイヤモンド社）がある。

4: 第4回 6/25（担当：島岡）

ゲスト講師: 鈴木啓太氏（インテグラル・インベストメント株式会社）
【アントレプレナーからのメッセージ】本学校友の鈴木啓太氏（インテグラル・インベストメント株式会社）に登壇いただきます。鈴木氏は本学政治経済学部卒業後、起業。現在、インテグラルインベストメント 株式会社マネジング・パートナーとして活躍されている。鈴木氏は、起業を志す本学学生を応援するため「鈴木啓太奨学金」を設立しておられる。在学時より起業を志していたという鈴木氏に、その考え方、起業哲学を伺う。

ゲスト講師：吉成雄一郎（三菱商事株式会社）
【三菱商事における新規事業開発】商社における新規事業開発について、三菱商事AI CoEセンター長（CoE: Center of Excellence）の吉成雄一郎氏に伺う。吉成氏は1996年 三菱商事入社、宇宙航空機部配属。人工衛星ビジネスに従事。2002年三菱商事100%出資の位置情報サービス社内ベンチャージクー・データシステムズ（株）を立案、設立、出向（7年）。2009年 本店復帰、金属グループへ異動。資源（原料炭）事業に従事。オーストラリアMitsubishi Development社に赴任。BHPとの原料炭JV事業BMA(BHP Mitsubishi Alliance)で鉱山・港湾開発やJV運営全般を担当（VP, Planning & Coordination）。2014年 本店復帰、チリ・エスコンディーダ銅鉱山担当次長。2016年 シリコンバレー支店に赴任。スタートアップ投資（CVC）、イノベーション活動・新規事業創造、デジタル・トランスフォーメーション（DX）、デザイン思考トレーニングを主導。スタートアップ企業の取締役会に陪席しスタートアップ企業の経営に詳しい。EV・バッテリー産業動向にも造詣深い。本業の傍ら、社内外で2000名以上にデザイン思考のコーチング（東京大学、早稲田大学ビジネススクール、ソフトバンク、東京海上HD等）、イノベーション事例の講演（京都大学経営管理大学院、名古屋商科大学ビジネススクール等）、研修講師やパネリスト（イノベーション教育学会等）、ハッカソンでの審査員（小松製作所等）なども行っている。2023年 帰任。2024年 デジタル事業部長。2025年 AIソリューションタスクフォース AIインテリジェンス・ハブ 室長。2026年 AI CoEセンター長（CoE: Center of Excellence）Yuichiro's official page

5: 第5回 7/2 （担当：島岡）

ゲスト講師: 成迫剛志氏（株式会社デンソー）
【デンソーにおける新規事業開発】株式会社デンソー研究開発センター シニアアドバイザーの 成迫剛志氏からは、自動車部品のトップメーカー、デンソーで、生成AIxロボティクスの取り組みを加速させている成迫氏に、伝統的な日本企業における新規事業開発について、チーム形成、マネジメントの工夫を交えて講義いただく。

ゲスト講師:片岡道昌 氏(ソフトバンク株式会社)
【産学連携における新規事業開発】片岡氏はプログラマーを経て、中途でソフトバンク株式会社に入社。情報セキュリティ部門、法務部を経て、購買本部にてデータセンター構築、LTE・5G基地局建設、ソフトバンクTVCM、デジタルマーケティングのメディア関連の調達業務を担当。現職はSBパワー株式会社の購買課長。
2024年度より東京大学とソフトバンクの連携事業である「Beyond AI研究推進機構」に兼務。東京大学が持つ卓越した研究力とソフトバンクのAIテクノロジーを融合させ、AI研究の促進と社会実装への貢献を目的としたエコシステム形成に関する業務も担当。
2025年度よりソフトバンクの社内起業制度を運営しているSBイノベンチャー株式会社にも兼務。メンターとしてスタートアップの伴奏支援を担当。
慶應義塾大学法学部卒。第二種情報処理技術者。

6: 第6回　7/9 (担当:島岡)

ゲスト講師:藤田健司氏(三井住友海上火災保険株式会社)
【保険業界における企業内新規事業】藤田健司氏は三井住友海上ビジネスデザイン部部長であり三井住友海上キャピタル 投資開発パートナーである藤田氏は、早稲田大学法学部卒後、三井住友海上火災保険入社、グループ業務プロセス改革プロジェクトに参画後、営業推進部門・企業営業部門を経て、2016年より現職に従事。VCやアクセラレーターとの協業を通じて新たなリスクソリューション策を展開し、最新の保険技術を駆使してスタートアップの成長支援を行っている。また、三井住友海上の持株会社であるMS＆ADホールディングスやシリコンバレーに拠点を構えるグループCVCのMS＆AD Venturesと協力してスタートアップ支援活動やビジネスディベロップメントを手掛けている。
藤田健司氏ホームページ: https://my.prairie.cards/u/kenji.fujita
三井住友海上保険とスタートアップエコシステムの関わりや、チームの組成背景・現状についてのNewsPicks『Ambitions』掲載記事: https://ambitions-web.com/articles/aggressive-insurance-pioneer

ゲスト講師:手嶋達也氏(株式会社日立製作所研究開発グループ)
【新規事業のための研究開発部署の取り組み及びその課題】研究開発は新事業創生の原動力の一つですが、実際の成果を生み続けることは容易ではない。技術志向の電機メーカにおけるその実態と問題点を、具体事例を交えて講義する。

1992年物性物理学で学位(博士(理学))取得後日立製作所中央研究所に配属され半導体の数値解析研究に従事。2001年内閣府へ移り科学技術関係予算計数、2004年から日立製作所に戻り、研究企画、絵経営企画、SDGs、産学官連携推進に従事。
現在社外連携、DFFT(Data Free Flow with Trust)、核融合研究の推進を担当。

7: 第7回　7/16　授業のまとめと振り返り(担当:島岡)

ゲスト講師:小野寺昭則(株式会社EARTHBRAIN)
【建設業界にデジタル技術を取り入れ、未来の建設環境を作る。】建設機械の製造メーカーであるコマツは、建設生産プロセスをデジタルで繋ぎ、生産性、安全性、環境性を飛躍的に高める新たなソリューション「スマートコンストラクション」を2015年に発表し、2021年7月には、グローバル事業展開を加速させるために事業をカーブアウトし㈱EARTHBRAINを立ち上げた。EARTHBRAIN株式会社代表取締役である小野寺昭則氏は1987年コマツ入社以降、国内外で様々な事業に携わってこられた。小野寺氏から、コマツ/EARTHBRAINの顧客価値創造手法とビジネスモデルを事例を用いてご紹介いただく。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特になし

参考文献: 特になし

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー:
(1)学部生
レポート: 70%　授業後、学んだことについてレビューシートを提出
平常点評価: 30%　講義内での発表・発言・積極的な参加を評価
(2)大学院生
レポート: 80%　授業後、学んだことについてレビューシートを提出
平常点評価: 20%　講義内での発表・発言・積極的な参加を評価

＊3回以上欠席すると単位は取得できません。(欠席は2回まで)
＊レビューシートの3回以上の未提出の場合、単位は取得できません。(未提出は2回まで)

備考・関連URL: 担当教員

島岡未来子（研究戦略センター 教授）
2013年早稲田大学公共経営研究科博士課程修了、公共経営博士。2011年（公財）地球環境戦略研究機関特任研究員、2011年早稲田大学商学学術院早稲田ビジネススクール研究センター助手。早稲田大学研究戦略センター准教授、政治経済学術院教授を経て、現職。研究戦略センター教授。（一財)生涯学習開発財団認定コーチ。

朝日透（理工学術院 教授)(コーチ）

1992年に理学（博士）、2007年に経営学修士（専門職）を早稲田大学にて取得し、Super Technology Officer（STO）となる。
先進理工学部生命医科学科、先進理工学研究科生命医科学専攻・ナノ理工学専攻・5年一貫制博士課程先進理工学専攻教授、WASEDA-EDGE人材育成プログラム副実行委員長、ナノ・ライフ創新研究機構副機構長、グローバル科学知融合研究所所長を務める。キラリティの研究に取り組むとともに、学際的研究を推進。
https://www.waseda.jp/inst/cro/other/2018/03/31/4213/

****
・問合せ先教員：島岡未来子（ m.shimaoka@waseda.jp ）

【履修上の注意】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
・2025年度以前に「起業特論B：いかに企業内/企業と共に新規事業を立ち上げられる人材になるか」の単位を修得済みの方は履修できません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010007|01|9S91010007[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Advanced Course on Entrepreneurship		
担 当 教 員	島岡 未来子@渡邊 哲		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目(ビジネス創出)	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: INTRODUCTION TO GLOBAL ENTREPRENEURSHIP AND INTRAPRENEURSHIP (FUNDAMENTALS AND SKILLS TO STARTING AND BUILDING SUCCESSFUL NEW BUSINESSES)

授業概要: Students will learn essential skills and techniques for launching a new business, whether as an entrepreneurial startup or as a new venture within an established company.
The course explores key building blocks of new business creation, including developing a business plan, marketing strategies, and team management. It also addresses the personal dimensions of building a new venture

Students will hear firsthand experiences from guest speakers, including company founders and other members of the entrepreneurial ecosystem.

Please note that the order of lectures may be subject

授業の到達目標: The goal of this course is to encourage students to challenge themselves to create startups and to equip them with the tools and knowledge needed to pursue a successful entrepreneurial path.

事前・事後学習の内容: Please note that students will be expected to prepare about one hour of homework each week before class and be prepared to have a class discussion about the reading material or case study. In addition, students will be asked to form teams which will work on developing and presenting a business idea to the class.

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

授業計画フリー: 1: Course Overview and Introduction (Shimaoka) ― 11/25 M/DShimaoka will explain the objectives and structure of the course.
Students will introduce themselves and share their motivations for taking the class.
A mini-workshop based on Effectuation, a decision-making theory that has gained attention in entrepreneurship research, will also be conducted.2: How to Start a Startup (Shimaoka) ― 12/2Guest Lecturer: Marcel Rasinger
After eight years at Advantage Austria Tokyo, where he supported Austrian technology companies, Rasinger is currently founding genten LLC, a company dedicated to enabling the successful market entry of foreign companies and startups into the Japanese market.
He will share practical insights into how to start and develop a startup.3: An Introduction to Design Thinking (Shimaoka) ― 12/9Guest Lecturer: Yuichiro Yoshinari
Students will learn the fundamental principles of design thinking through a rapid design challenge.4: How to Develop a Business Plan I (Watanabe) ― 12/16Using the framework of the Business Model Navigator, Watanabe will guide students through the fundamentals of constructing a business plan.5: How to Develop a Business Plan II (Watanabe) ― 1/6Students will engage in team discussions to further develop and refine their business plans.6: How to Develop a Business Plan III (Watanabe) ― 1/13Teams will continue working on and polishing their business plans in preparation for final presentations.7: Team Presentations & Reflections (Shimaoka & Watanabe) ― 1/20Student teams will present their business plans.

言語区分: 0 英語 English

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: The review sheet by participants must be submitted by next Tueseday and they will be evaluated by faculties and/or guests. Contribution to this course is also evaluated.

(1)For undergraduate students, the evaluation ratio is as follows:
Review sheets of each lecture (60%)
Contribution to this course (40%)

(2)For graduate students, the evaluation ratio is as follows:

Review sheets of each lecture (70%)
Contribution to this course (30%)

*You will not receive credit for more than 3 absences. (3 absences = no credit)
*You will not receive credit for more than 3 missed review sheets. (3 missed review sheets = no credit)

備考・関連URL:　【履修上の注意/Course Registration Notes】

・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
This course is offered to bothundergraduate and graduate students.

・2025年度以前に「AdvancedCourse on Entrepreneurship D（学部生用）」の単位を修得済みの方は履修できません。
Students who have earned credit for"Advanced Course on Entrepreneurship D" in or before the 2025academic year are not eligible to enroll in this course.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010012|01|9S91010012[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	博士実践特論A：イノベーションリーダーシップ		
担 当 教 員	朝日 透@島岡 未来子@谷 益美@鶴谷 武親		
開 講 学 期	集春	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:土その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：
産業界ならびにアカデミアにおいてイノベーションを惹起するためには、研究力を高めるだけでなく、マネジメント力、リーダーシップ、ネゴシエーション力などが必要になります。
本講義では、それらの力を高めるための考え方や基本的スキルを学びます。
授業では、教員とクラス参加者あるいはクラス参加者同士のインタラクティブ（双方向）のものとなります。
授業は対面で実施します。

授業の到達目標： リーダーシップとは何かを考えさせ、それを発揮するための思考力や交渉力を養うことを目標としています。

事前・事後学習の内容： 事前に「リーダーシップ」に関する書物を読んでおくことを推奨します。授業後は感想などをレビューシートに書いて身に付けたことを振り返ります。事前学習に30分程度、事後学習に3時間程度必要となります。

授業計画フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
＊講師の順番が変更となることがあります。
第1-3回：4/18（土）3限-5限 ネゴシエーションスキル1-3（鶴谷）
第4-6回：4/25（土）3限-5限 ネゴシエーションスキル4-6（鶴谷）
第7-9回：5/9（土）4限 リーダーシップ1（朝日） ゲスト：株式会社イノベスト 代表取締役 松岡 洋佑「リーダーシップ開発」
第10回：5/16（土）3限-5限 リーダーシップ実践1-3（谷）
第11回：5/23（土）4限 リーダーシップ2（朝日） ゲスト：フィールドアップ合同会社 代表 田上 誠司 「リーダーシップ、マネジメント、ガバナンス」
第12回：5/30（土）4限 リーダーシップ3（朝日） ゲスト：株式会社Prima Pinguino志創部部長／Ascend Momentum合同会社代表 喜久里 要「リーダーシップとアントレプレナーシップ」
第13-14回：6/20（土）3限-4限 ファシリテーティブ・リーダーシップ1-2（島岡）

言語区分： 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン： 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：	0	テストは実施しません。
レポート：	50	授業後、レビューシートを提出
平常点評価：	40	対話型講義ならびにグループディスカッション型講義に対する参加度
その他：	10	事後学習として、指定された学内外のセミナーや講座に参加し、レポートを提出。交通費は自己負担となります。

備考・関連URL：
＊定員30名を超えた場合は抽選とします
＊いかなる理由でも3回以上欠席する(病欠も含む)と単位は取得できません。（欠席は2回まで）
＊3次登録者は、登録後の講義には全て出席しなければ単位取得できません。（未登録の回を含み欠席は2回まで）
＊レビューシートの未提出が3回以上の場合、単位は取得できません。（未提出は2回まで）（必ず期限までに提出すること。期限外に未提出回のレビューシートを提出してもカウントしない。Moodle以外への提出はカウントしない。欠席回のレビューシートを提出してもカウントしない。）
※レビューシートの内容は成績に反映されます。「新しい発見があった」「面白かった」「勉強になった」などの、抽象的で内容の薄いレビューや、Webや参考書に書かれている一般論や講義内容をただ単に要約しただけ、指定文字数を下回るレビューは、評価しません。
＊問合せ教員
朝日 透：tasahi@waseda.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010013|01|9S91010013[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	博士実践特論B：産業イノベーションとキャリアデザイン		
担 当 教 員	朝日 透@廣末 雅之		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： 産業イノベーションとキャリアデザイン

授業概要： 21世紀に入り、世界規模での産業技術の大競争が始まった。経済を持続的に成長させていくには、絶え間ない産業イノベーションが必要であり、そのイノベーションを支える中核人材は「専門能力」と「俯瞰的に物事を見る能力」をもった人材である。
本講義では、高い専門能力（研究力）と俯瞰力をあわせもつ人材育成の観点から、「キャリアデザイン」の考え方とその実行事例や産業界におけるイノベーション事例を各界のゲストから学ぶことにより、履修者自身がイノベーションとは何かを考え、実践的な人材として産業界で活躍するために必要な能力は何かを知り、それらを身に付けるために何をすべきかを知る機会を与える。

なお、第2回目と第3回目は新化学技術推進協会（JACI：https://www.jaci.or.jp/）との連携したキャリアパスガイダンス講演となる予定である。

授業の到達目標： これまでの産業界でのイノベーションンを間近で経験された方、グローバルに活躍してきた方、博士学位を取得され産業界で活躍されている人材などをゲストにお呼びして、「自分のキャリアデザインをつくる」ために大事になる自己啓発は何か、イノベーションを引き起こす人材には何が必要かなどゲストのキャリア開発事例を学ぶことで、履修者自身がキャリア開発について考え、キャリアデザインを構築することができる力を身につける。

事前・事後学習の内容： 事前に講義資料に目を通しておき、授業後はレビューシートを提出する。

授業計画フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー： *ゲストが変更となることがあります。
第1回：2026年11月24日（火）17時～18時40分 オリエンテーション 「私の波乱万丈のキャリアパス」
朝日透／ゲスト：杉村領一（産業技術総合研究所 情報・人間工学領域連携推進室 チーフ連携オフィサー）
杉村領一：1980年松下電器産業株式会社入社、1984 年新世代コンピュータ技術開発機構（ICOTICOT）出向。1999 年パナソニックOWLOWL（UKUK）社長。2001 年松下電器モバイルネットワーク研究所所長。2004 年パナソニックモバイルコミュニケーションズモバイルシステム開発センター所長、Symbian Supervisory Board Member など。2006 年ESTEEMO副社長、LIMO 財団設立メンバー、財務担当役員。2012 年NTT ドコモ入社、戦略アライアンス担当部長、プロダクトイノベーション担当部長、TIZEN アソシエーション理事長、FIDOアライアンスD@SWG 議長。2016 年現職。2018年4 月ISO / IEC JTC 1 / SC 42 国内専門委員会委員長。工学博士（京都大学）、教養修士（英国ランカスター大学）IMPMIMPM, IMPM ディプロマ（INSEAD、フランス）。人工知能学会理事、ソフトウェア科学会理事、電子情報通信学会評議員を歴任。経済産業省AI 原理実践検討委員会委員。経済産業省スマートシステム標準化検討専門委員会委員。筑波大学客員教授。

第2回：2026年12月1日（火）17時～18時40分 「企業側から見たキャリア形成1：どのような人材を獲得したいか」
朝日透／ゲスト 基調講演：三菱ケミカル株式会社 笹岡 泰／体験講演：東レ株式会社 石川 達也
※笹岡 泰：東京大学大学院工学系研究科化学工学専攻修士課程を修了後、1992年に三菱化成社（現三菱ケミカル社）に入社。研究開発と製造業務を担当し、機能性化学製品を世に送り出す業務を経験後、新化学技術推進協会に着任し、化学企業間の連携業務に係わる。帰任後、学協会の外部組織活動に携わりながら現在に至る。
※石川 達也：信州大学大学院にて 繊維工学（材料力学、レオロジー等）を専門として博士（工学）取得後、2018年に東レ株式会社繊維研究所に入社。2018～2022年：繊維研究所配属、2022年～：繊維研究所 研究員

第3回：2026年12月8日（火）17時～18時40分 「企業側から見たキャリア形成2：どのような人材に機会を与えたいか」
朝日透／ゲスト 基調講演：経済社会システム総合研究所 村山 英樹／体験講演：三井化学株式会社 佐藤 陽日
※村山 英樹：1986 東京大学大学院工学系研究科 博士課程修了、1986 三菱化成（現 三菱ケミカル）入社、1990 ハーバード大学（米国）Whitesides研、1998 三菱化学（株）メディア技術開発センター センター長、2001 フロンティアカーボン株式会社 副社長 兼 研究開発センター長、2012 三菱樹脂（株）理事 商品開発基盤部門 所管、2014 三菱化学（株）執行役員 兼 （株）三菱化学科学技術研究センター 社長、2016 三菱化学（株）執行役員 RD戦略室長 兼 （株）三菱ケミカルホールディングス執行役員 R＆D戦略室長、2017 三菱ケミカル（株）常務執行役員CTO（研究開発・知的財産部門所管）、2018（株）地球快適化インスティテュート 代表取締役社長、2022（一般社団法人）経済社会システム総合研究所 研究顧問、文科省「産学官連携推進委員会」委員長代理、文部科学省「科学技術・学術審議会専門委員会」委員、日本工学アカデミー会員、日本オープンイノベーション大賞（文部科学大臣賞省）専門委員会 委員、文部科学省「データ創出・活用型マテリアル研究開発プロジェクト」事業審査委員などを歴任

※佐藤　陽日：2019年　早稲田大学先進理工学研究科応用化学専攻　博士（工学）取得後、三井化学株式会社に入社。2019年～2023年9月　合成化学品研究所有機合成G、2023年10月～2025年3月　ﾊﾟｰｿﾅﾙｹｱ材料事業部事業企画G、2025年4月～現在　ﾊﾟｰｿﾅﾙｹｱ材料事業部　ﾊﾞｲｵ事業開発G。

第4回：2026年12月15日（火）17時～18時40分
廣末雅之(三井化学株式会社・研究本部常務本部長付／国立大学法人東京農工大学・産業技術専攻・客員准教授)
※廣末雅之：京都大学 工学部 工業化学科卒業、京都大学大学院工学研究科　高分子科学専攻修了。独ザールブリュッケン大学にて博士号を取得。2006年、BASFドイツグローバル本社に入社、ドイツ・日本・香港で研究・経営企画・経営戦略・技術営業など歴任後、BASFを退職し、出戻りも経験。

第5回：2027年1月12 日（火）17時～18時40分　「グローバルに活躍する企業人になるためには2」
廣末雅之(三井化学株式会社・研究本部常務本部長付／国立大学法人東京農工大学・産業技術専攻・客員准教授)

第6回：2027年1月19日（火）17時～18時40分　「グローバルに活躍する企業人になるためには3」
廣末雅之(三井化学株式会社・研究本部常務本部長付／国立大学法人東京農工大学・産業技術専攻・客員准教授)

第7回：2027年1月26日（火）17時～18時40分「グローバルに活躍する企業人になるためには4」
朝日透／ゲスト：稲田和男(株式会社日水コン海外統括本部海外統括部審議役／元ヒューマンリンク株式会社みらい人事研究所シニアアセッサー／元三菱商事株式会社中東・中央アジア統括補佐兼トルコ総代表)

稲田和男：1987年早稲田大学大学院理工学研究科を修了。1987年三菱商事株式会社入社後、パキスタン、イラン（2回）、トルコと計4回の海外駐在を経験。本店在勤中には排出権事業ユニットマネージャー（部長）、環境ソリューション事業部長を歴任し、2018年に理事就任と同時に、中東・中央アジア統括補佐として中東・中央アジア地域を管轄し、2019年よりトルコ総代表。2022年より、ヒューマンリンク株式会社みらい人事研究所シニアアセッサーを経て現職。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　なし

参考文献：　なし

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　（1）学部生
レポート: 60%　すべての講義終了後、レビューシートによるレポートを提出。レビューシートの内容を評価。
平常点評価: 30%　授業への参加積極性およびクラスに対する付加価値向上の度合い
その他: 10%　関係するシンポジムやセミナーへの参加

（2）大学院生
レポート: 70%　すべての講義終了後、レビューシートによるレポートを提出。レビューシートの内容を評価。
平常点評価: 20%　授業への参加積極性およびクラスに対する付加価値向上の度合い
その他: 10%　関係するシンポジムやセミナーへの参加

備考・関連URL：　＊いかなる理由でも3回以上欠席する(病欠も含む)と単位は取得できません。（欠席は2回まで）

＊レビューシートの未提出が3回以上の場合、単位は取得できません。（未提出は2回まで）（必ず期限までに提出すること。期限外に未提出回のレビューシートを提出してもカウントしない。Moodle以外への提出はカウントしない。欠席回のレビューシートを提出してもカウントしない。）

※レビューシートの内容は成績に反映されます。「新しい発見があった」「面白かった」「勉強になった」などの、抽象的で内容の薄いレビューや、Webや参考書に書かれている一般論や講義内容をただ単に要約しただけ、指定文字数を下回るレビューは、評価しません。

＊学会等の「公的な活動」に伴う講義の欠席については考慮しますが、必ず事前に申し出てください。（事後報告は考慮しない）指導教員からの依頼文を求めることがあります。また、公欠は出席扱いとはなりません。

＊授業への出欠は、教場で出席票を使って確認するか、授業終了後、Moodleに出席登録をすることにより確認する場合があります。
Moodleを通して登録する場合は、授業に出席したとしても、期限内に出席登録しなかった場合、欠席扱いとなることに留意してください。

＊問合せ教員：朝日 透（tasahi@waseda.jp）

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010014|01|9S91010014[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	博士実践特論S：ロジカルコミュニケーション		
担 当 教 員	朝日 透@清水 久三子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:土1-2	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: アカデミア及びビジネスの何れの世界でも論理的に物事を伝える能力や会話を通して良好な関係を構築する能力を身に付けておくことは重要です。また、学会、シンポジム、セミナーや上司への報告、企画案の説明、営業活動などにおいてプレゼンテーションする能力を高めることは重要となります。
本授業では基本的なコミュニケーション能力を高めるためのスキルを学びます。とくに、共同で研究やプロジェクトを進める際に、相手に「正確に伝える」および「快適に伝える」という2つの切り口から、「話し方」とともにコミュニケーションスキルを学ぶ講義です。
組織や取り組みのおける、ビジョン、パーパス、ミッション、バリューの意義も学びます。
グループディスカッション・グループプレゼンテーションなども実施して、実践力も養います。
＊講義は、原則、対面で実施します。

授業の到達目標: 情報を共有して、正確に伝えるスキルは欠かせません。また、正確に伝えることができたとしても、その伝え方や話し方が相手にとって不愉快なものであったら、受け入れてもらえないでしょう。ロジカル・コミュニケーションとコンフォタブル・コミュニケーションを身に付けることを目指します。

事前・事後学習の内容: 事前学習は事前資料を読んでおくこと。事後学習はMoodleのレビューシートの提出あるいは講義中の振り返りにより行います。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ＊ゲストは変更となる場合があります。
第1-2回：10/3（土） 1-2限 オリエンテーション・ ロジカル・コミュニケーション1-2 清水 久三子（株式会社ANDCREATE代表取締役/人材育成コンサルタント）
第3-4回：10/10（土）1限-2限 ロジカル・コミュニケーション3-4 清水 久三子（株式会社ANDCREATE代表取締役/人材育成コンサルタント）
第5-6回：10/17（土）1限-2限 ロジカル・コミュニケーション5-6 清水 久三子（株式会社ANDCREATE代表取締役/人材育成コンサルタント）
第7-8回：10/24（土）1限-2限 ロジカル・コミュニケーション7-8 清水 久三子（株式会社ANDCREATE代表取締役/人材育成コンサルタント）
第9-10回：10/31（土）1限-2限 ロジカル・コミュニケーション7-8 清水 久三子（株式会社ANDCREATE代表取締役/人材育成コンサルタント）
第11-12回：11/14（土）1限-2限 コンフォタブル・コミュニケーション1-2 朝日／ゲスト 小倉 星羅（大妻女子大学文学部 非常勤講師／読売ジャイアンツ場内アナウンサー）

第13-14回：11/21（土）1限-2限 インパクト・コミュニケーション 1-2：ビジョン／パーパス／ミッション／バリュー 朝日／ゲスト 齊藤 三希子（エスエムオー株式会社 CEO）

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: （1）学部生
プレゼンテーション: 40%
レポート: 30%
プレゼンテーション試験: 20%（14回の授業中に実施）
本講義に関係する学内外ピッチコンテスト、セミナー、シンポジムへの参加: 10%
（2）大学院生
プレゼンテーション: 45%
レポート: 25%
プレゼンテーション試験: 25%（14回の授業中に実施）
本講義に関係する学内外ピッチコンテスト、セミナー、シンポジムへの参加: 5%

備考・関連URL:　＊いかなる理由でも3回以上欠席する(病欠も含む)と単位は取得できません。(欠席は2回まで)
＊3次登録者は、登録後の講義には全て出席しなければ単位取得できません。(未登録の回を含み欠席は2回まで)
＊レビューシートの未提出が3回以上未の場合、単位は取得できません。(未提出は2回まで)(必ず期限までに提出すること。期限外に未提出回のレビューシートを提出してもカウントしない。Moodle以外への提出はカウントしない。欠席回のレビューシートを提出してもカウントしない。)

担当教員連絡先:朝日透　tasahi@waseda.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010018|01|9S91010018[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イノベーション概論 1：次世代イノベーター―のためのエッセンシャルズ		
担 当 教 員	朝日 透@澤山 陽平@鶴谷 武親		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木6時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 次世代イノベーター―のためのエッセンシャルズ(ESSENTAIALS FOR NEXT GENERATION INNOVATORS)

授業概要: イノベーター、ベンチャーキャピタル、経営者、研究者らから、新規事業の創出や先端的新産業の振興に挑戦できる人材のマインドセットに触れることにより、産学界におけるイノベーター―に必要なことは何かを知るとともに、新規事業を立ち上げるに必要な知識などを学び、ビジネスプランの構築をグループワークを通して実践する。
インタラクティブ方式の講義とするが、授業中にビジネスプランを構築したり、発表する時間に当てることもある。
初回では各人がこの授業で何を学びたいのか、最終回ではグループワークの成果を発表する。
授業形式は対面である。「イノベーション概論2」も履修することを強く推奨する。
本授業は、早稲田大学専門部卒業生であり、元CSK社長・会長及び元セガ・エンタープライゼス会長を務めた故大川功氏の思いの一つである「新産業を創出できるアントレプレナーの養成」に貢献するものである。早稲田大学総合研究機構グローバル科学知融合研究所招聘研究員の井上智治大川ドリーム基金理事長がコーチとして本授業の運営にご協力する。

【担当教員】
・澤山陽平
CoralCapital 創業パートナー。東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻を修了し、2009年に修士(工学)を取得。
JPモルガン証券投資銀行部門にて、テクノロジー・メディア・テレコム業界を中心に、数千億円規模のクロスボーダーM&Aやファイナンスのアドバイザリーなどに従事し、その後、野村證券の未上場企業調査部門である野村リサーチ・アンド・アドバイザリーにて、IT セクターの未上場企業の調査、評価、支援業務に携わり、多くのテックIPOを手がけた。その後、独立系ベンチャーキャピタルのCoral Capitalを創業し、スタートアップ企業120社以上に投資。総額約600億円を運用している。この間、日本ベンチャーキャピタル協会 ベンチャーキャピタリスト研修における講師や経済産業省 コンバーティブル投資手段に関する研究会、スタートアップの報酬制度にかかる研究会などの委員を務め、ベンチャーキャピタル業界を牽引している。

・鶴谷武親
早稲田大学大学院経営管理研究科(ビジネススクール) 客員教授
埼玉大学教養学部卒業、金沢工業大学大学院修了。ポリゴンマジック株式会社代表取締役。多摩美術大学講師を経て、2005年より早稲田大学大学院で教鞭をとる。セコムにてグループ事業戦略などを担当後、デジタルハリウッド、アイ・エム・ジェイ（現アクセンチュアグループ）、デジタルスケープ（現イマジカグループ）をはじめ、数多くのスタートアップの創業に携わる。また、総合電機メーカー、総合商社、通信キャリアなどの企業の事業アドバイザー・社外取締役、医療法人社団理事、政府委員会委員、非営利団体理事などを歴任。早稲田大学では社会人教育をはじめ、博士人材の育成、起業家育成等を担当。早稲田大学EDGEプログラムアドバイザーを務めた経歴をもち、大学発ベンチャーの育成にも力を入れる。

・朝日透
早稲田大学先進理工学部長・研究科長／早稲田大学理工学術院教授／ナノ・ライフ創新研究機構副機構長／グローバル科学知融合研究所所長
1992年に理学（博士）、2007年に経営学修士（専門職）を早稲田大学にて取得し、SuperTechnology Officer（STO）となる。先進理工学部生命医科学科、先進理工学研究科の生命医科学専攻・ナノ理工学専攻・5年一貫制博士課程先進理工学専攻教授。学際的研究を推進し、イノベーション人材の育成に取り組む。内閣府ムーンショット型農林水産研究開発事業目標5の「地球規模の食料問題の解決と人類の宇宙進出に向けた昆虫が支える循環型食料生産システムの開発」副プロジェクトマネージャーおよび「藻類と動物細胞を用いたサーキュラーセルカルチャーによるバイオエコノミカルな培養食料生産システム」プロジェクトメンバー、JST創造科学技術推進事業（ERATO）「山内物質空間テクトニクスプロジェクト」プロジェクトマネージャー、尾道市ウェルビーイング政策アドバイザー。早稲田大学サスティナブルな未来食の普及に向けた産官学共創コンソーシアムの会長を務める。専門はキラル科学、生物物性科学、結晶光学、機能性薄膜、対称性の破れ、循環型食料生産システムの研究。

【コーチ】
・井上 智治
一般財団法人大川ドリーム基金理事長／ひびき証券株式会社代表取締役社長／一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン代表理事／株式会社美術出版社取締役会長／新経済連盟幹事
早稲田大学総合研究機構グローバル科学知融合研究所招聘研究員
東京大学法学部、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修士卒。1994年株式会社井上ビジネスコンサルタンツ設立、代表取締役社長し、経営戦略やM&A、新規事業創業のアドバイザリー業務を務める。
2004年東北楽天イーグルスのプロ野球の参入を実現し、取締役オーナー代行就任。2008年から2012年、パシフィック野球連盟の理事長及び一般社団法人日本野球機構副会長を務め、2006年から2012年、一般社団法人東京ニュービジネス協議会副会長を務める。http://okawa-dream.net/about/staff/
早稲田大学のアントレプレナー育成に大きく貢献し、ベンチャーへの支援も行っている。

授業の到達目標: 起業（スタートアップ）やリーディンング企業の新規事業立ち上げや新しい学問分野の開拓に挑戦するマインドセットに触れ、ビジネスアイディアを構築する能力を実践的に身に付け、ビジネス、学問に関係なく新しい途を切り拓く人材に必要なことは何かを修得する。

事前・事後学習の内容: 事前に指示した場合、資料などを読んで授業に参加する。
授業後はレビューシートに学びや感想など記して提出する。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: ・授業スケジュール
第1回10月1日(木)18時55分～20時35分　澤山・鶴谷・朝日 「オリエンテーション・アイスブレイキング」

第2回10月8日(木)18時55分～20時35分　朝日・澤山　ゲスト:西川 響（株式会社Wanderlust　CEO）／金 剛洙（株式会社松尾研究所　取締役副社長）

第3回10月15日(木)18時55分～20時35分　鶴谷・朝日 「市場選択、ストーリーテリング」

第4回10月22日(木)18時55分～20時35分　澤山 ・朝日 「アイディア創出−発想法・ビジネスモデル」

第5回10月29日(木)18時55分～20時35分　朝日・鶴谷・澤山 「ビジネスのフレームワーク(リーンスタートアップ、リーンキャンバス、イノベーションのジレンマなど）」

第6回11月12日(木)18時55分～20時35分　朝日・鶴谷・澤山 「スタートアップの仕組みとファイナンス」／グループワーク

第7回11月19日(木)18時55分～20時35分　朝日・鶴谷・澤山　グループプレゼンテーション

第7回11月19日(木)18時55分～20時35分　朝日・鶴谷・澤山　グループプレゼンテーション

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: なし。

参考文献: 適宜、事前に読了すべき資料を指示します。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: （1）学部生
試験：なし
平常点 50%：授業での発言や質問など、授業への貢献度
レポート 40%：授業後にレビューシートに学びや感想など記して、授業終了後、一週間以内に提出
その他 10%：授業に関係するセミナーや講演会に参加し、感想を提出
（1）大学院生
試験：なし
平常点 50%：授業での発言や質問など、授業への貢献度
レポート 45%：授業後にレビューシートに学びや感想など記して、授業終了後、一週間以内に提出
その他 5%：授業に関係するセミナーや講演会に参加し、感想を提出

備考・関連URL: ＊いかなる理由でも3回以上欠席する(病欠も含む)と単位は取得できません。（欠席は2回まで）
＊3次登録者は、登録後の講義には全て出席しなければ単位取得できません。（未登録の回を含み欠席は2回まで）
＊レビューシートの未提出が3回以上の場合、単位は取得できません。（未提出は2回まで）（必ず期限までに提出すること。期限外に未提出回のレビューシートを提出してもカウントしない。Moodle以外への提出はカウントしない。欠席回のレビューシートを提出してもカウントしない。）
※レビューシートの内容は成績に反映されます。「新しい発見があった」「面白かった」「勉強になった」などの、抽象的で内容の薄いレビューや、Webや参考書に書かれている一般論や講義内容をただ単に要約しただけ、指定文字数を下回るレビューは、評価しません。

＊学会等の「公的な活動」に伴う講義の欠席については考慮しますが、必ず事前に申し出てください。（事後報告は考慮しない）指導教員からの依頼文を求めることがあります。また、公欠は出席扱いとはなりません。
＊一般財団法人大川ドリーム基金：故大川功氏（元CSK社長・会長、セガ・エンタープライゼス会長、ニュービジネス協議会会長）の遺志に基づき、先端的新産業分野におけるベンチャー企業家・事業創造者への助成や支援、アントレプレナーの育成を通じてベンチャー企業の振興・発展を図ること等を目的として2010年7月に発足した法人
＊本授業の何回かは学外での講演やセミナーに参加することがあります。その場合、遅れての参加は考慮し、授業時間以外の参加は任意とします。交通費は自己負担となります。

【履修上の注意】

・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
・2025年度以前に「イノベーション概論　1：次世代イノベーター―のためのエッセンシャルズ （学部生用）」の単位を修得済みの方は履修できません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010019|01|9S91010019[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イノベーション概論 2：次世代イノベータ―のためのエッセンシャルズ		
担 当 教 員	朝日 透@澤山 陽平@鶴谷 武親		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木6時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 次世代イノベータ―のためのエッセンシャルズ(ESSENTAIALS FOR NEXT GENERATION INNOVATORS)

授業概要: 将来、創業や企業内起業に関わりたいと思っている学生を対象とした参加型の授業である。
◆個人事業主として会社を興す、チームメンバーの一人として会社を興す、パートナーの一人として会社を興すなど、創業する際の形態によってメリットとデメリットがどう変わるのか
◆学生時代に会社を興す、卒業したらすぐに会社を興す、企業でキャリアを積んでから会社を興すなど、創業までのキャリアデザインが異なると何が違ってくるのか
◆全く新しい会社を興す、スピンオフ・スピンアウトで会社を興す、買収して会社を興すなど創業の仕方とプロセスの違いは何か
◆テクノロジーを活用して会社を興す、その中でもビジネスのコアはモノづくりなのか否か、サービスを指向したビジネスで会社を興すなど、ビジネスの業種や分野によって何が大きく違うのか
◆自己資金のみで会社を興す、ベンチャーキャピタルから資金調達して会社を興す、公的資金を使って会社を興すなど、資本の入れ方が異なる場合のメリットとデメリットは何か
など、正解を求めるのではなく、議論し、グループワークなどを通して、ビジネスアイディアの組み立て方を学ぶ。
本授業を履修するためには、「イノベーション概論1」を履修していることが求められる。

【担当教員】
・澤山陽平
CoralCapital 創業パートナー。東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻を修了し、2009年に修士(工学)を取得。
JPモルガン証券投資銀行部門にて、テクノロジー・メディア・テレコム業界を中心に、数千億円規模のクロスボーダーM&Aやファイナンスのアドバイザリーなどに従事し、その後、野村證券の未上場企業調査部門である野村リサーチ・アンド・アドバイザリーにて、IT セクターの未上場企業の調査、評価、支援業務に携わり、多くのテックIPOを手がけた。その後、独立系ベンチャーキャピタルのCoral Capitalを創業し、スタートアップ企業120社以上に投資。総額約600億円を運用している。この間、日本ベンチャーキャピタル協会 ベンチャーキャピタリスト研修における講師や経済産業省 コンバーティブル投資手段に関する研究会、スタートアップの報酬制度にかかる研究会などの委員を務め、ベンチャーキャピタル業界を牽引している。

・鶴谷武親
早稲田大学大学院経営管理研究科(ビジネススクール) 客員教授
埼玉大学教養学部卒業、金沢工業大学大学院修了。ポリゴンマジック株式会社代表取締役。多摩美術大学講師を経て、2005年より早稲田大学大学院で教鞭をとる。セコムにてグループ事業戦略などを担当後、デジタルハリウッド、アイ・エム・ジェイ（現アクセンチュアグループ）、デジタルスケープ（現イマジカグループ）をはじめ、数多くのスタートアップの創業に携わる。また、総合電機メーカー、総合商社、通信キャリアなどの企業の事業アドバイザー・社外取締役、医療法人社団理事、政府委員会委員、非営利団体理事などを歴任。早稲田大学では社会人教育をはじめ、博士人材の育成、起業家育成等を担当。早稲田大学EDGEプログラムアドバイザーを務めた経歴をもち、大学発ベンチャーの育成にも力を入れる。

・朝日透
早稲田大学先進理工学部長・研究科長／早稲田大学理工学術院教授／ナノ・ライフ創新研究機構副機構長／グローバル科学知融合研究所所長
1992年に理学（博士）、2007年に経営学修士（専門職）を早稲田大学にて取得し、SuperTechnology Officer（STO）となる。先進理工学部生命医科学科、先進理工学研究科の生命医科学専攻・ナノ理工学専攻・5年一貫制博士課程先進理工学専攻教授。学際的研究を推進し、イノベーション人材の育成に取り組む。内閣府ムーンショット型農林水産研究開発事業目標5の「地球規模の食料問題の解決と人類の宇宙進出に向けた昆虫が支える循環型食料生産システムの開発」副プロジェクトマネージャーおよび「藻類と動物細胞を用いたサーキュラーセルカルチャーによるバイオエコノミカルな培養食料生産システム」プロジェクトメンバー、JST創造科学技術推進事業（ERATO）「山内物質空間テクトニクスプロジェクト」プロジェクトマネージャー、尾道市ウェルビーイング政策アドバイザー。早稲田大学サスティナブルな未来食の普及に向けた産官学共創コンソーシアムの会長を務める。専門はキラル科学、生物物性科学、結晶光学、機能性薄膜、対称性の破れ、循環型食料生産システムの研究。

【コーチ】
・井上 智治
一般財団法人大川ドリーム基金理事長／ひびき証券株式会社代表取締役社長／一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン代表理事／株式会社美術出版社取締役会長／新経済連盟幹事
早稲田大学総合研究機構グローバル科学知融合研究所招聘研究員
東京大学法学部、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修士卒。1994年株式会社井上ビジネスコンサルタンツ設立、代表取締役社長し、経営戦略やM&A、新規事業創業のアドバイザリー業務を務める。
2004年東北楽天イーグルスのプロ野球の参入を実現し、取締役オーナー代行就任。2008年から2012年、パシフィック野球連盟の理事長及び一般社団法人日本野球機構副会長を務め、2006年から2012年、一般社団法人東

京ニュービジネス協議会副会長を務める。http://okawa-dream.net/about/staff/
早稲田大学のアントレプレナー育成に大きく貢献し、ベンチャーへの支援も行っている。

【ゲスト】
・渡邊 哲（わたなべ・さとる）
株式会社マキシマイズ シニアパートナー／Japan Society of NorthernCalifornia日本事務所代表／早稲田大学非常勤講師
海外の有力ITやイノベーション手法の日本導入と大企業向けのイノベーション支援を専門とする。特に海外ベンチャー企業と日本の大手企業との連携による新規事業創出に強みを持つ。三菱商事、シリコンバレーでのベンチャー投資業務等を経て現職。欧州で開発された大企業向けビジネスモデル・イノベーション手法の国内向け導入、イノベーションを切り口としたシリコンバレーと日本のイノベーション・コミュニティ運営など、日本のイノベーションを促進するための活動を展開中。東京大学工学部卒。米国Yale大学院修了。『アントレプレナーの教科書』『ビジネスモデル・ナビゲーター』『イノベーションの攻略書』『DXナビゲーター』『イノベーション・アカウンティング』共訳/

授業の到達目標: 自分の専門分野や関わりたいビジネスの業種に関係なく、新しく企業を興したり、既存企業において新規事業を立ち上げたり、新しい学問分野の開拓に挑戦する人材に必要なことは何かを修得するとともに、ビジネスプランコンテストに挑戦できる実践力を修得することを目指す。

事前・事後学習の内容: 事前に指示した場合、資料などを読んで授業に参加する。
授業後はレビューシートに学びや感想など記して提出する。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回11月26日(木)18時55分～20時35分　澤山・鶴谷・朝日　オリエンテーション／「イノベーション概論2」の振り返り

第2回12月3日(木)18時55分～20時35分　澤山「投資家の視点を知る」

第3回12月10日(木)18時55分～20時35分　澤山・鶴谷・朝日　グループワーク

第4回12月17日(木)18時55分～20時35分　朝日　ゲスト　株式会社マキシマイズ シニアパートナー　渡邊哲

第5回1月7日(木)18時55分～20時35分　朝日　ゲスト　株式会社マキシマイズ シニアパートナー　渡邊哲

第6回1月14日(木)18時55分～20時35分　澤山 ・鶴谷・朝日　グループワーク

第7回1月21日(木)18時55分～20時35分　澤山・鶴谷・朝日 グループプレゼン

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: なし。

参考文献: 『ビジネスモデル・ナビゲーター』（翔泳社、オリヴァー・ガスマン、カロリン・フランケンバーガー、ミハエラ・チック 著／渡邊 哲、森田 寿 翻訳、ISBN: 9784798146881）
http://www.shoeisha.co.jp/book/detail/9784798146881

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: （1）学部生
試験：なし
平常点 50%：授業での発言や質問など、授業への貢献度
レポート 40%：授業後にレビューシートに学びや感想など記して、授業終了後、一週間以内に提出
その他 10%：授業に関係するセミナーや講演会に参加し、感想を提出
（1）大学院生
試験：なし
平常点 50%：授業での発言や質問など、授業への貢献度
レポート 45%：授業後にレビューシートに学びや感想など記して、授業終了後、一週間以内に提出
その他 5%：授業に関係するセミナーや講演会に参加し、感想を提出

備考・関連URL:
＊いかなる理由でも3回以上欠席する(病欠も含む)と単位は取得できません。（欠席は2回まで）
＊3次登録者は、登録後の講義には全て出席しなければ単位取得できません。（未登録の回を含み欠席は2回まで）
＊レビューシートの未提出が3回以上の場合、単位は取得できません。（未提出は2回まで）（必ず期限までに提出すること。期限外に未提出回のレビューシートを提出してもカウントしない。Moodle以外への提出はカウントしない。欠席回のレビューシートを提出してもカウントしない。）
＊レビューシートの内容は成績に反映されます。「新しい発見があった」「面白かった」「勉強になった」などの、抽象的で内容の薄いレビューや、Webや参考書に書かれている一般論や講義内容をただ単に要約しただけ、指定文字数を下回るレビューは、評価しません。
＊学会等の「公的な活動」に伴う講義の欠席については考慮しますが、必ず事前に申し出てください（事後報告は考慮しない）。指導教員などからの欠席理由書を求めることがあります。また、公欠は出席扱いとはなりません。
＊一般財団法人大川ドリーム基金：故大川功氏（元CSK社長・会長、セガ・エンタープライゼス会長、ニュービジネ

ス協議会会長）の遺志に基づき、先端的新産業分野におけるベンチャー企業家・事業創造者への助成や支援、アントレプレナーの育成を通じてベンチャー企業の振興・発展を図ること等を目的として2010年7月に発足した法人
＊本授業の何回かは学外での講演やセミナーに参加することがあります。その場合、遅れての参加は考慮します。交通費は自己負担となります。
【履修上の注意】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
・2025年度以前に「イノベーション概論　2：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ （学部生用）」の単位を修得済みの方は履修できません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010021|01|9S91010021[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Innovation and Technology Fundamentals β		
担 当 教 員	朝日 透@鶴谷 武親		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水6時限	授業方法区分	【オンライン】リアルタイム配信
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

You will learn aboutactual examples of businesses utilizing big data. You will listen to guest speakers' realexperiences on what to keep in mind when starting up a new Big Data business.You will thereby learn what it takes to be an innovator in the industry andacademia. All classes will be given in English and online.

授業の到達目標： This course is designed to train future innovators who have insight into global issues, knowledge of advancing science and technology, and the ability to build new businesses, demonstrate leadership and drive innovation through the use of big data science and technology.

事前・事後学習の内容： You would read pre-assignments or presentation materials of speakers in advance. You should submit each review sheet or report after class.

授業計画フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

*Guest speakers and the order of them mightbe changed
Ø June 10 (Wed) : Classorientation and "AI Research and Business 1: Past, Present, and Future
Toru Asahi, Takechika Tsurutani,and Guest: Ryoichi Sugimura (Supervisory Innovation Coordinator of the NationalInstitute of Advanced Industrial Science and Technology/Visiting Professor ofTsukuba University)
Ø June 17 (Wed) : AIResearch and Business 2: Business Strategy and Global Standard"
Toru Asahi, Takechika Tsurutani,and Guest: Ryoichi Sugimura (Supervisory Innovation Coordinator of the NationalInstitute of Advanced Industrial Science and Technology/Visiting Professor ofTsukuba University)
Ø June24 (Wed) : "Innovative Business with Honda"
Toru Asahi and Guest: TsutomuWakitani (Honda R&D Co., Ltd. Executive Chief Engineer, Chief Technical Evaluator of Solution)
Ø July 1 (Wed) :"DeepTechnology Business in Life Sciences"
Toru Asahi and Guest: HidehikoOtake (CEO of Corundum Systems Biology Inc.)
Ø July 8 (Wed) : "What is Necessaryto Start a Global Venture Company?"
Toru Asahi and Guest: Shogo Ishida(CEO of EMURGO Middle East & Africa,)
Ø July 15 (Wed) : "WhatMakes Blockchain and Web3 Businesses Attractive to Venture Capitalists"
Toru Asahi and Guest: Shogo Ishida(CEO of EMURGO Middle East & Africa,)
Ø July 22 (Wed) : "BusinessCreation and Innovation with Digital Transformation"

Toru Asahi, Takechika Tsurutani,and Guest: Alexander Didenko (Professor of SKOLKOVO School ofManagement)

言語区分： 0 英語 English

成績評価フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：

(1) Undergraduates
Report assignments: Review sheet and final report 40%
Class participation: attendance and contribution to the class 40%
Others: attendance on recommended seminars and events 20%
(2) Graduates
Report assignments: Review sheet and final report 40%
Class participation: attendance and contribution to the class 50%
Others: attendance on recommended seminars and events 10%

Evaluation will be based on active class participation, homework assignments, attendance, and review sheet. There will be no formal examinations, but there will ongoing presentations in class.

備考・関連URL： *Absent must be 2 or less.

*Missing submission of the review sheet must be 2 or less.
*The review sheet by participants must be submitted by the 2 day (until Friday) after each lecture and they will be evaluated by faculties and/or guests.
*You have to submit review sheets of each class to the Moodle.
*Attendance will be checked by us during the lecture. Please turn on the zoom screen during the lecture.
*If you are absent from the class over twice (If you fail to submit the review sheet more than twice), you will not be able to get the credit on this course.
*Contribution to this course is also evaluated.
Contact information: Prof. Toru ASAHI (tasahi@waseda.jp)

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010023|01|9S91010023[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Innovation and Technology Practice β		
担 当 教 員	朝日 透@吉成 雄一郎@樋原 伸彦		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水6時限	授業方法区分	【オンライン】リアルタイム配信
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

You will learn aboutactual examples of big data businesses in companies that promote the DigitalTransformation (DX). You will listen to guest speakers' real experiences onwhat to keep in mind when starting up a new big data business. You will therebylearn what it takes to be an innovator in the industry and academia.Furthermore, you will learn about a way of thinking and approach to solveissues, Effectuation, which has been proposed by Professor Saras Sarasvathy. Inaddition, you will learn a way of thinking and approach to solve issues, DesignThinking.
All classes will begiven in English and online.

授業の到達目標: This course is designed to train future innovators who have insight into global issues, knowledge of advancing science and technology, and the ability to build new businesses, demonstrate leadership and drive innovation through the use of big data science and technology.

事前・事後学習の内容: You would read pre-assignments or presentation materials of speakers in advanced. You should submit each review sheet or report after class.

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

*Guest speakers and the order of them wouldbe changed.

Ø Nov. 25 (Wed) : "Whatis Effectuation?"
Nobuhiko Hibara (AssociateProfessor of Waseda Business School)
Ø Dec. 2 (Wed) : "How toAct in the Effectuation Process"
Nobuhiko Hibara (AssociateProfessor of Waseda Business School)
Ø Dec. 9 (Wed) : "DigitalTransformation 1"
Yuichiro Yoshinari(Mitsubishi Corp.)
Ø Dec. 16 (Wed) : "DigitalTransformation 2"
Yuichiro Yoshinari(Mitsubishi Corp.)
Ø Jan. 6 (Wed) : "NewBusiness with Advanced Technologies"
Toru Asahi and Guest: HirokiTanaka (CEO of Urth inc.) ／Taihei Kosuge (CEO of FLEDGEinc.)

Ø Jan. 13 (Wed) : "A wayto Create Social Innovation with Global Networks"
Toru Asahi and Guest: KenichiWatanabe (President and Experience Designer of XPJP Inc.／Visiting Professor of Kyoto University of the Art)

Ø Jan. 20 (Wed) : "DigitalTransformation 3: Corporate Venture Capital"
Yuichiro Yoshinari (MitsubishiCorp.)

言語区分: 0 英語 English

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: Report assignments: Review sheet and final report 40%
Class participation: attendance and contribution to the class 40%
Others: attendance on recommended seminars and events 20%
(2) Graduates
Report assignments: Review sheet and final report 40%
Class participation: attendance and contribution to the class 50%
Others: attendance on recommended seminars and events 10%

Evaluation will be based on active class participation, homework assignments, attendance, and review sheet.

There will be no formal examinations, but there will ongoing presentations in class and final presentations at the end of the term.

備考・関連URL：

*Absent must be 2 or less.
*Missing submission of thereview sheet must be 2 or less.
*The review sheet by participants must be submitted by the 2 day (until Friday) after each lecture and they will be evaluated by faculties and/or guests.
*You have to submit review sheets of each class to the Moodle.
*Attendance will be checked by us during the lecture. Please turn on the zoom screen during the lecture.
*If you are absent from the class over twice (If you fail to submit the review sheet more than twice), you will not be able to get the credit on this course.
*Contribution to this course is also evaluated.

【履修上の注意/Course Registration Notes】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
This course is offered to both undergraduate and graduate students.
・2025年度以前に「Innovation and Technology Practice β (for undergraduates)」の単位を修得済みの方は履修できません。

Students who have earned credit for "「Innovation and Technology Practice β (for undergraduates)" in or before the 2025 academic year are not eligible to enroll in this course.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010039|01|9S91010039[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	大学における教育と学習 01		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

近年、大学を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。たとえば、大学院生として自身の研究以外に、TAとして学部生への指導や先輩として後輩への指導が求められるケースも増えてきています。さらに、大学教員となるためには、従来は、研究能力および業績が採用の際に重視されていましたが、教育者としての力量を問われることも増えています。

私たちが身を置いている「大学」とはどのような場所なのか。現在どのような改革を行い、将来どのように変わろうとしているのか。今の大学環境は親世代や指導教員の時代とどう違うのか。豊かな学習経験を得る、将来大学の教壇に立つ、あるいは大学職員として働くためには、今どのような姿勢や準備ができるのか。本授業では、このような問いを意識しながら、TAおよび大学教員・職員を志す学生を対象に、大学生活（自身の学習や研究を進めること、他者と協働することなど）を送る上で必要とされる基礎を学び、各自が大学で働くことに関する広い視野を獲得することを目指します。

授業は対面で実施しますが、授業内でパソコンあるいはスマホなどのモバイル端末を使用する場合がありますので、その場合は各自で準備してください。また、準備学習・事後学習はWasedaMoodleを使用します。

授業の到達目標：

1. 大学を取り巻く状況や変化について簡潔に述べることができる。
2. 自大学の教育活動の概要について簡潔に述べることができる。
3. 大学授業に関わる制度や仕組みについて簡潔に説明することができる。
4. ディスカッションの繰り返しを通して、自己主張と他人の話を聞く態度を身につける。

事前・事後学習の内容：

各回の授業内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：オリエンテーション

1）自己紹介、授業の概要と到達目標の説明、受講上の留意点等の確認（個人の学習目標の設定など）
2)アイスブレイク：「『大学』のイメージを共有する」
3）100分授業について
4）準備学習課題①の説明
5）事後学習①：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第2回：大学とは何か①

1）準備学習課題①の発表と共有を通して、自大学の教育活動を知る。
2）準備学習を手掛かりに大学に期待される役割と責務について考える。
3） 準備学習課題②の説明
4）事後学習②：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第3回：大学とは何か②

1)準備学習課題②の発表と共有を通して、「大学」の起源や変遷を理解する。
2)日本の大学の歴史と大学改革のポイントを取り上げる。
3)準備学習課題③の説明
4）事後学習③：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第4回：大学授業とは何か①

1)大学の基本的な制度について学ぶ。特に、単位制度を取り上げる。
2)準備学習課題③を手掛かりに、学生の学修を促すシラバスについて考える。
3）事後学習④：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。
4）小テスト①の実施

第5回：大学授業とは何か②

1)アクティブラーニング型授業の理論およびその導入背景を理解する。
2)アクティブラーニング型授業の様々な手法を取り上げる。
3）準備学習課題④の説明
4）事後学習⑤：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第6回：学生の学修成果の可視化

1)大学に関わる近年の政策動向を取り上げる。
2)準備学習課題④の発表と共有を通して、現代の学生の学習に関わる傾向について理解する。
3）事後学習⑥：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第7回：まとめと振り返り

1)コンセプトマップを用いて、コースでの学びについてまとめを行う。（個人・グループワーク）
2)授業全体の振り返りを行う。
3）事後学習⑦：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。
4）小テスト②の実施

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献：
・天野郁夫著『大学の誕生〈上、下〉』、中公新書、2009
・吉見俊哉著『大学とは何か』、岩波新書、2011（第一刷）
・早田幸政、諸星裕、青野透編著『高等教育論入門』、ミネルヴァ書房、2012
・L,Dee,Fink著、土持ゲーリー法一監訳『学習経験をつくる大学授業法』、玉川大学出版部、2011
・中井俊樹編著「シリーズ大学の教授法3：アクティブラーニング』、玉川大学出版部、2015
・主体的学び第3号『アクティブラーニングとポートフォリオ』、主体的学び研究所、2015
・Barr, R. B., & Tagg, J. (1995). From teaching to learning: A new paradigm for undergraduate education. Change, 27(6), 12–25.
・Marsha C. Lovett, Michael W. Bridges, Michele DiPietro, Susan A. Ambrose & Marie K. Norman, (2023), How Learning Works: Eight Research-Based Principles for Smart Teaching, Jossey-Bass
ほか、各回の授業において、関連文献等を紹介します。

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　【大学院生】 総括レポート（20%　ルーブリックに基づき評価します）、小テスト20%、事後学習（10%　ルーブリックに基づき評価します）、その他（準備学習課題の提出10%×4回、コンセプトマップの提出10%　ルーブリックに基づき評価します）
【学部生】 総括レポート（10%　ルーブリックに基づき評価します）、小テスト20%、事後学習（20%　ルーブリックに基づき評価します）20%、その他（準備学習課題の提出10%×4回、コンセプトマップの提出10%　ルーブリックに基づき評価します）

備考・関連URL：
・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合は授業内で周知します。
・欠席や公欠等の授業内ルールは大学の規定に従います。
・遅刻はできるだけしないようにしましょう。授業途中からの参加は他の受講生の妨げになりますし、意見交換への十分な参加が難しくなる場合があります。

・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分: 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010039|02|9S91010039[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	大学における教育と学習 02		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

近年、大学を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。たとえば、大学院生として自身の研究以外に、TAとして学部生への指導や先輩として後輩への指導が求められるケースも増えてきています。さらに、大学教員となるためには、従来は、研究能力および業績が採用の際に重視されていましたが、教育者としての力量を問われることも増えています。

私たちが身を置いている「大学」とはどのような場所なのか。現在どのような改革を行い、将来どのように変わろうとしているのか。今の大学環境は親世代や指導教員の時代とどう違うのか。豊かな学習経験を得る、将来大学の教壇に立つ、あるいは大学職員として働くためには、今どのような姿勢や準備ができるのか。本授業では、このような問いを意識しながら、TAおよび大学教員・職員を志す学生を対象に、大学生活（自身の学習や研究を進めること、他者と協働することなど）を送る上で必要とされる基礎を学び、各自が大学で働くことに関する広い視野を獲得することを目指します。

この授業はWasedaMoodleを使って動画配信するオンデマンド方式で実施します。各自が積極的に講義動画の視聴や小テスト、課題の提出に取り組むことを期待します。

授業の到達目標:

1. 大学を取り巻く状況や変化について簡潔に述べることができる。
2. 自大学の教育活動の概要について簡潔に述べることができる。
3. 大学授業に関わる制度や仕組みについて簡潔に説明することができる。

事前・事後学習の内容:

各回の動画内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーション

1)自己紹介、授業の概要と到達目標、成績評価の説明、受講上の留意点等の確認（個人の学習目標の設定など）
2)大学に関わる近年の政策動向および制度について理解する。
3)100分授業について
4)準備学習課題①の説明
5)事後学習①:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第2回:大学とは何か①

1)準備学習課題①の発表と共有を通して、自大学の教育活動を知る。
2)大学の基本的な特徴と関係するステークホルダーについて取り上げる。
3) 小テスト①の実施
4)事後学習②:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第3回:大学とは何か②

1)大学の起源や変遷を理解する。
2)日本の大学の変遷と大学改革のポイントを取り上げる。
3) 小テスト②の実施と解説
4)事後学習③:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第4回:大学授業とは何か①

1)大学の基本的な制度について学ぶ。特に、単位制度を取り上げる。
2)単位制度を手掛かりに、学生の学修を促すシラバスについて考える。
3)小テスト③の実施と解説
4)事後学習④:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第5回:大学授業とは何か②

1)アクティブラーニング型授業とそれが求められる背景について理解する。
2)アクティブラーニング型授業の様々な手法と実践事例について取り上げる。
3)小テスト④の実施と解説
4)事後学習⑤:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第6回：学生の学修成果の可視化

1)現代の学生の学習に関わる傾向について考える。
2）教育の質保証とInstitutional Research （IR）について取り上げる。
3）小テスト⑤の実施と解説
4）事後学習⑥：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第7回：まとめと振り返り

1)コンセプトマップを用いて、コースでの学びについてまとめを行う。
2)コース全体の総括を行う。
3）授業の到達目標と自身の学習目標の達成度の自己評価を行う。
4）小テスト⑥の実施と解説
5）事後学習⑦：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献：
・天野郁夫著『大学の誕生〈上、下〉』、中公新書、2009
・吉見俊哉著『大学とは何か』。岩波新書、2011（第一刷）
・早田幸政、諸星裕、青野透編著『高等教育論入門』、ミネルヴァ書房、2012
・L,Dee,Fink著、土持ゲーリー法一監訳『学習経験をつくる大学授業法』、玉川大学出版部、2011
・中井俊樹編著『シリーズ大学の教授法3：アクティブラーニング』、玉川大学出版部、2015
・中井俊樹編『大学の組織と運営』、玉川大学出版部、2019
・主体的学び第3号『アクティブラーニングとポートフォリオ』、主体的学び研究所、2015
・Barr, R. B., & Tagg, J. (1995). From teaching to learning: A new paradigm for undergraduate education. Change, 27(6), 12-25.
・Marsha C. Lovett, Michael W. Bridges, Michele DiPietro, Susan A. Ambrose & Marie K. Norman, (2023), How Learning Works: Eight Research-Based Principles for Smart Teaching, Jossey-Bass
ほか、各回の授業において、関連文献等を紹介します。

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　【大学院生】 総括レポート（10%　ルーブリックに基づき評価します）、小テスト（60%）、準備学習課題の提出（10%）、事後学習（10%　ルーブリックに基づき評価します）、コンセプトマップの提出（10%　ルーブリックに基づき評価します）
【学部生】 小テスト（60%）、準備学習課題の提出（10%）、事後学習（20%　ルーブリックに基づき評価します）、コンセプトマップの提出（10%　ルーブリックに基づき評価します）

備考・関連URL：
・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合は動画内やMoodleで周知します。
・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・小テストは動画公開後3日以内に受けて下さい。準備学習課題は動画公開後4日以内に提出してください。詳しくはオリエンテーション内で説明します。
・授業に関する質問や連絡等はMoodleを通してお願いします。なおすぐに返信できない場合もありますので、時間に余裕をもって連絡をしてください。全員への連絡はフォーラム機能を使って行います。
・WasedaMoodleの利用についてネットワークやハード面でのトラブルは教員が対応できない場合があります。「ITサービスナビ」などを参照するとともに、所属キャンパスの窓口に相談してください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分: 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010039|03|9S91010039[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	大学における教育と学習 03		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

近年、大学を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。たとえば、大学院生として自身の研究以外に、TAとして学部生への指導や先輩として後輩への指導が求められるケースも増えてきています。さらに、大学教員となるためには、従来は、研究能力および業績が採用の際に重視されていましたが、教育者としての力量を問われることも増えています。

私たちが身を置いている「大学」とはどのような場所なのか。現在どのような改革を行い、将来どのように変わろうとしているのか。今の大学環境は親世代や指導教員の時代とどう違うのか。豊かな学習経験を得る、将来大学の教壇に立つ、あるいは大学職員として働くためには、今どのような姿勢や準備ができるのか。本授業では、このような問いを意識しながら、TAおよび大学教員・職員を志す学生を対象に、大学生活（自身の学習や研究を進めること、他者と協働することなど）を送る上で必要とされる基礎を学び、各自が大学で働くことに関する広い視野を獲得することを目指します。

授業は対面で実施しますが、授業内でパソコンあるいはスマホなどのモバイル端末を使用する場合がありますので、その場合は各自で準備してください。また、準備学習・事後学習はWasedaMoodleを使用します。

授業の到達目標:

1. 大学を取り巻く状況や変化について簡潔に述べることができる。
2. 自大学の教育活動の概要について簡潔に述べることができる。
3. 大学授業に関わる制度や仕組みについて簡潔に説明することができる。
4. ディスカッションの繰り返しを通して、自己主張と他人の話を聞く態度を身につける。

事前・事後学習の内容:

各回の授業内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーション

1）自己紹介、授業の概要と到達目標の説明、受講上の留意点等の確認（個人の学習目標の設定など）
2)アイスブレイク:「『大学』のイメージを共有する」
3）100分授業について
4）準備学習課題①の説明
5）事後学習①:本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第2回:大学とは何か①

1）準備学習課題①の発表と共有を通して、自大学の教育活動を知る。
2）準備学習を手掛かりに大学に期待される役割と責務について考える。
3） 準備学習課題②の説明
4）事後学習②:本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第3回:大学とは何か②

1)準備学習課題②の発表と共有を通して、「大学」の起源や変遷を理解する。
2)日本の大学の歴史と大学改革のポイントを取り上げる。
3)準備学習課題③の説明
4）事後学習③:本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第4回:大学授業とは何か①

1)大学の基本的な制度について学ぶ。特に、単位制度を取り上げる。
2)準備学習課題③を手掛かりに、学生の学修を促すシラバスについて考える。
3）事後学習④:本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。
4）小テスト①の実施

第5回:大学授業とは何か②

1)アクティブラーニング型授業の理論およびその導入背景を理解する。
2)アクティブラーニング型授業の様々な手法を取り上げる。
3）準備学習課題④の説明
4）事後学習⑤:本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第6回：学生の学修成果の可視化

1)大学に関わる近年の政策動向を取り上げる。
2)準備学習課題④の発表と共有を通して、現代の学生の学習に関わる傾向について理解する。
3）事後学習⑥：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第7回：まとめと振り返り

1)コンセプトマップを用いて、コースでの学びについてまとめを行う。（個人・グループワーク）
2)授業全体の振り返りを行う。
3）事後学習⑦：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。
4）小テスト②の実施

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献：
・天野郁夫著『大学の誕生〈上、下〉』、中公新書、2009
・吉見俊哉著『大学とは何か』、岩波新書、2011（第一刷）
・早田幸政、諸星裕、青野透編著『高等教育論入門』、ミネルヴァ書房、2012
・L,Dee,Fink著、土持ゲーリー法一監訳『学習経験をつくる大学授業法』、玉川大学出版部、2011
・中井俊樹編著「シリーズ大学の教授法3：アクティブラーニング』、玉川大学出版部、2015
・主体的学び第3号『アクティブラーニングとポートフォリオ』、主体的学び研究所、2015
・Barr, R. B., & Tagg, J. (1995). From teaching to learning: A new paradigm for undergraduate education. Change, 27(6), 12–25.
・Marsha C. Lovett, Michael W. Bridges, Michele DiPietro, Susan A. Ambrose & Marie K. Norman, (2023), How Learning Works: Eight Research-Based Principles for Smart Teaching, Jossey-Bass
ほか、各回の授業において、関連文献等を紹介します。

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　【大学院生】 総括レポート（20%　ルーブリックに基づき評価します）、小テスト20%、事後学習（10%　ルーブリックに基づき評価します）、その他（準備学習課題10%×4回、コンセプトマップの提出10%　ルーブリックに基づき評価します）
【学部生】 総括レポート（10%　ルーブリックに基づき評価します）、小テスト20%、事後学習（20%　ルーブリックに基づき評価します）、その他（準備学習課題10%×4回、コンセプトマップの提出10%　ルーブリックに基づき評価します）

備考・関連URL：
・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合は授業内で周知します。
・欠席や公欠等の授業内ルールは大学の規定に従います。
・遅刻はできるだけしないようにしましょう。授業途中からの参加は他の受講生の妨げになりますし、意見交換への十分な参加が難しくなる場合があります。

・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分: 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010039|04|9S91010039[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	大学における教育と学習 04		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

近年、大学を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。たとえば、大学院生として自身の研究以外に、TAとして学部生への指導や先輩として後輩への指導が求められるケースも増えてきています。さらに、大学教員となるためには、従来は、研究能力および業績が採用の際に重視されていましたが、教育者としての力量を問われることも増えています。

私たちが身を置いている「大学」とはどのような場所なのか。現在どのような改革を行い、将来どのように変わろうとしているのか。今の大学環境は親世代や指導教員の時代とどう違うのか。豊かな学習経験を得る、将来大学の教壇に立つ、あるいは大学職員として働くためには、今どのような姿勢や準備ができるのか。本授業では、このような問いを意識しながら、TAおよび大学教員・職員を志す学生を対象に、大学生活（自身の学習や研究を進めること、他者と協働することなど）を送る上で必要とされる基礎を学び、各自が大学で働くことに関する広い視野を獲得することを目指します。

この授業はWasedaMoodleを使って動画配信するオンデマンド方式で実施します。各自が積極的に講義動画の視聴や小テスト、課題の提出に取り組むことを期待します。

授業の到達目標:

1. 大学を取り巻く状況や変化について簡潔に述べることができる。
2. 自大学の教育活動の概要について簡潔に述べることができる。
3. 大学授業に関わる制度や仕組みについて簡潔に説明することができる。

事前・事後学習の内容:

各回の動画内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーション

1)自己紹介、授業の概要と到達目標、成績評価の説明、受講上の留意点等の確認（個人の学習目標の設定など）
2)大学に関わる近年の政策動向および制度について理解する。
3)100分授業について
4)準備学習課題①の説明
5)事後学習①:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第2回:大学とは何か①

1)準備学習課題①の発表と共有を通して、自大学の教育活動を知る。
2)大学の基本的な特徴と関係するステークホルダーについて取り上げる。
3) 小テスト①の実施
4)事後学習②:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第3回:大学とは何か②

1)大学の起源や変遷を理解する。
2)日本の大学の変遷と大学改革のポイントを取り上げる。
3) 小テスト②の実施と解説
4)事後学習③:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第4回:大学授業とは何か①

1)大学の基本的な制度について学ぶ。特に、単位制度を取り上げる。
2)単位制度を手掛かりに、学生の学修を促すシラバスについて考える。
3)小テスト③の実施と解説
4)事後学習④:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第5回:大学授業とは何か②

1)アクティブラーニング型授業とそれが求められる背景について理解する。
2)アクティブラーニング型授業の様々な手法と実践事例について取り上げる。
3)小テスト④の実施と解説
4)事後学習⑤:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第6回：学生の学修成果の可視化

1)現代の学生の学習に関わる傾向について考える。
2）教育の質保証とInstitutional Research （IR）について取り上げる。
3）小テスト⑤の実施と解説
4）事後学習⑥：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第7回：まとめと振り返り

1)コンセプトマップを用いて、コースでの学びについてまとめを行う。
2)コース全体の総括を行う。
3）授業の到達目標と自身の学習目標の達成度の自己評価を行う。
4）小テスト⑥の実施と解説
5）事後学習⑦：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献：
・天野郁夫著『大学の誕生〈上、下〉』、中公新書、2009
・吉見俊哉著『大学とは何か』。岩波新書、2011（第一刷）
・早田幸政、諸星裕、青野透編著『高等教育論入門』、ミネルヴァ書房、2012
・L,Dee,Fink著、土持ゲーリー法一監訳『学習経験をつくる大学授業法』、玉川大学出版部、2011
・中井俊樹編著『シリーズ大学の教授法3：アクティブラーニング』、玉川大学出版部、2015
・中井俊樹編『大学の組織と運営』、玉川大学出版部、2019
・主体的学び第3号『アクティブラーニングとポートフォリオ』、主体的学び研究所、2015
・Barr, R. B., & Tagg, J. (1995). From teaching to learning: A new paradigm for undergraduate education. Change, 27(6), 12-25.
・Marsha C. Lovett, Michael W. Bridges, Michele DiPietro, Susan A. Ambrose & Marie K. Norman, (2023), How Learning Works: Eight Research-Based Principles for Smart Teaching, Jossey-Bass
ほか、各回の授業において、関連文献等を紹介します。

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　【大学院生】 総括レポート（10%　ルーブリックに基づき評価します）、小テスト（60%）、準備学習課題の提出（10%）、事後学習（10%　ルーブリックに基づき評価します）、コンセプトマップの提出（10%　ルーブリックに基づき評価します）
【学部生】 小テスト（60%）、準備学習課題の提出（10%）、事後学習（20%　ルーブリックに基づき評価します）、コンセプトマップの提出（10%　ルーブリックに基づき評価します）

備考・関連URL：
・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合は動画内やMoodleで周知します。
・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・小テストは動画公開後3日以内に受けて下さい。準備学習課題は動画公開後4日以内に提出してください。詳しくはオリエンテーション内で説明します。
・授業に関する質問や連絡等はMoodleを通してお願いします。なおすぐに返信できない場合もありますので、時間に余裕をもって連絡をしてください。全員への連絡はフォーラム機能を使って行います。
・WasedaMoodleの利用についてネットワークやハード面でのトラブルは教員が対応できない場合があります。「ITサービスナビ」などを参照するとともに、所属キャンパスの窓口に相談してください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010040|01|9S91010040[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	カーボンニュートラル技術概論α		
担 当 教 員	所 千晴@齋藤 潔@田邉 新一@森本 章倫@高口 洋人@若尾 真治@林 泰弘@犬束		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金6時限	授業方法区分	オンライン】ハイブリッド（対面回数半数未満
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： カーボンニュートラル宣言（https://www.waseda.jp/netzero/）に至った気候変動に対する科学的根拠を解説するとともに、その実現のためにエネルギーや都市において検討されている最先端の技術開発について、その考え方と現状、展望を解説する。

授業の到達目標： 気候変動に対する科学的根拠を正確に理解するとともに、カーボンニュートラル実現に向けたエネルギーや都市における種々の技術革新の考え方と現状、展望について理解する。

事前・事後学習の内容： 報告書や書籍を使った1時間程度の予習と、講義内容に対する1時間程度の復習を要する。

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回
6/5 当該科目のオリエンテーション（所千晴）
第2回
6/12 既築建築物のカーボンキュートラルとその政策（高口洋人）
第3回
6/19 太陽光発電システム技術革新がもたらすカーボンニュートラル（若尾真治）
第4回
6/26 カーボンニュートラルとこれからの都市計画（森本章倫）
第5回
7/3 電力マネジメントシステム技術革新がもたらすカーボンニュートラル（藤本悠）
第6回
7/10 熱エネルギー技術革新がもたらすカーボンニュートラル（齋藤潔）
第7回
7/17 住宅・建築・都市のカーボンニュートラル先進技術―ZEB／ZEH（ネット・ゼロエネルギービル・ハウス）とくらしー（田邉新一）

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 講義内で指定、あるいは配布する。

参考文献： 講義内で指定、あるいは配布する。

成績評価フリー入力サイン： 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー： 大学院生
レポート 40% 講義毎に課すレポートを評価する。
平常点 60% 出席状況ならびに講義内での質疑応答内容を評価する。

学部生
レポート 30% 講義毎に課すレポートを評価する。
平常点 70% 出席状況ならびに講義内での質疑応答内容を評価する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010041|01|9S91010041[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	カーボンニュートラル技術概論β		
担 当 教 員	所 千晴@中垣 隆雄@國本 雅宏@関根 泰@納富 信@小野田 弘士@犬束 学@岩井		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月6時限	授業方法区分	オンライン】ハイブリッド（対面回数半数未満
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: カーボンニュートラルの実現のために資源、物質循環において検討されている最先端の技術開発について、その考え方と現状、展望を解説する。また、持続可能な社会構築のために欠かせないライフサイクルを通した環境負荷の評価方法や、経済性との両立をはかるサーキュラーエコノミーの考え方についても学ぶ。

授業の到達目標: カーボンニュートラルと資源、物質循環との関係性を正確に理解するとともに、カーボンニュートラル実現に向けた資源、物質循環における種々の技術革新の考え方と現状、展望について理解する。また、持続可能な社会構築のためには、技術革新のみならず、サプライチェーンの構築やライフサイクル評価、経済性との両立などシステム革新も必要であることを理解する。

事前・事後学習の内容: 報告書や書籍を使った1時間程度の予習と、講義内容に対する1時間程度の復習を要する。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回
10/5 当該講義のオリエンテーション，資源リサイクル技術革新がもたらすカーボンニュートラル （犬束学）
第2回
10/12 物質閉鎖系の地球における水素・炭素・窒素・酸素の循環とカーボンニュートラル（関根泰）
第3回
10/19 蓄エネルギー技術革新がもたらすカーボンニュートラル（國本雅宏）
第4回
10/26 環境配慮エネルギー・循環システム革新がもたらすカーボンニュートラル（小野田弘士）
第5回
11/2 カーボンニュートラルに関するゲストスピーカーによる特別講義（所千晴）
第6回
11/9 カーボンニュートラルにおけるCCUSの役割（中垣隆雄）
第7回
11/16 ライフサイクル影響評価から見たカーボンニュートラル（納富信）

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義内で指定、あるいは配布する。

参考文献: 講義内で指定、あるいは配布する。

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:
大学院生
レポート 40% 講義毎に課すレポートを評価する。
平常点 60% 出席状況ならびに講義内での質疑応答内容を評価する。

学部生
レポート 30% 講義毎に課すレポートを評価する。
平常点 70% 出席状況ならびに講義内での質疑応答内容を評価する。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010042|01|9S91010042[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	カーボンニュートラルと社会		
担 当 教 員	有村 俊秀@下川 哲@大塚 直@鷲津 明由@マレン ジョエル ベーカー@近藤 康之		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 脱炭素社会の実現のためには、技術革新に加えて、社会そのものが変わっていく必要があり、社会科学の役割も大きい。本講義では、経済学、法学、社会学、経営学等の社会科学の視点から、脱炭素社会をどう考えることができるか、どう貢献できるかを紹介する。温暖化の国際交渉、世代間の公平性、カーボンプライシング、環境法等、様々なトピックを紹介する。

授業の到達目標: 気候変動に関する国際的動向、カーボンニュートラルを達成する技術の開発と社会実装、国内外のエネルギー事情など、カーボンニュートラルに直結する知識や情報を修得し、「カーボンニュートラルリーダー」副専攻を履修していくための環境経済や環境法令、資源循環など、カーボンニュートラルの根底にある「法律」「経済」「社会科学」「理工学」等の環境全般の基礎知識理解を到達目標とする。

事前・事後学習の内容: 報告書や書籍を使った1時間程度の予習と、講義内容に対する1時間程度の復習を要する。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回： 有村俊秀「脱炭素とカーボンプライシングの役割：国内外での普及」

気候変動の脱炭素のためにカーボンプライシングの役割に注目が集まっている。本講義では、カーボンプライシングの仕組み、役割を経済学的に紹介する。そして、国内外でのカーボンプライシングの導入状況について紹介する。

第2回：田村堅太郎「グローバル気候変動ガバナンスの発展と挑戦」

過去30年間におけるグローバル気候変動ガバナンスの発展を、①世界目標や行動規範の変遷、②非国家主体の役割増大、③ガバナンスの多中心化の観点から議論した後、今後の課題・方向性について論じる。日本と世界における「食」を取り巻く社会的問題を紹介し、カーボンニュートラル社会における持続可能な「食」と「農」の重要性、および世界的な動向と課題について解説する。

第3回：下川哲「カーボンニュートラル社会における持続可能な食と農」

日本と世界における「食」を取り巻く社会的問題を紹介し、カーボンニュートラル社会における持続可能な「食」と「農」の重要性、および世界的な動向と課題について解説する。

第4回：近藤 康之「カーボンニュートラルと循環経済への移行」

カーボンニュートラルの達成に向けて新しい技術の導入を進めると、従来は必要としていなかった資源の消費が増大し、持続可能性を達成できない恐れがある。本講義では資源利用の実態とその効率化を含む循環経済への移行の必要性について紹介する。

第5回：鷲津明由「SDGs時代の産業連関分析」

産業連関表によれば，ある部門の生産物が別の部門の投入物となるという部門間相互依存関係を俯瞰的に記述でき，技術変化の経済全体への波及プロセスを分析できる。環境問題は産業連関分析の重要な応用分野である。本講義では産業連関分析について解説するとともに，SDGs達成のためのエビデンスベースドな政策立案のために産業連関分析を活用していくことを提案する。

第6回：大塚直「わが国の気候変動対策法制と脱炭素社会」

2020年の首相の脱炭素化宣言以来、わが国も脱炭素社会に向けた法政策の新たな進展が始まった。どのような法政策が実施されつつあり、その実現にはどのような困難があるかを話していきたいと思う。

第7回：Joel Malen「脱炭素化：企業レベルの視点から」

世界的な気候変動問題に対する解決策は、最終的には企業によって実施される必要がある。本講義では、ビジネスの観点から気候変動に関する環境的な持続可能性が何を意味するか、気候変動問題の範囲およびカーボンニュートラルへの移行がビジネス活動と戦略にどう影響するか、それぞれ紹介する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義内で指定、あるいは配布する。

参考文献:

「カーボンニュートラルと社会」鷲津　明由 、赤尾　健一 、有村　俊秀 編著（2025） 晃洋書房
https://www.koyoshobo.co.jp/book/b658636.html

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　大学院生　レポート：80%、平常点20%
学部生　　レポート：70%、平常点30%

レポート: 講義毎に課すレポートを評価する。平常点: 視聴状況ならびに質疑応答の内容を評価する。

備考・関連URL：

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010043|01|9S91010043[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術・研究公正概論（人文・社会科学系） O1		
担 当 教 員	吉澤 剛		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 責任ある研究活動（RCR）として、単に研究不正を防止・予防するのではなく、学術的・社会的に公正な研究活動を推進していくための自主的で前向きな取り組みを紹介しながら、受講生それぞれの関心や理解の向上を促します。はじめに、科学や研究、倫理や責任といった基本的な概念について検討し、自然科学と人文・社会科学の違い、研究者と研究対象との関係、研究組織や研究評価における実践的な課題について掘り下げます。続いてAIや当事者研究、デジタル人文学などの現代的なテーマにおける研究公正のあり方を考えます。そして、責任ある研究・イノベーション（RRI）と言われるような多様な人々や社会、未来に開かれた研究の意義や課題を展望し、現在の学問や研究のあり方を改めて問い直します。本授業は、全回オンデマンド授業として実施します。

授業の到達目標: 人文・社会科学の研究に携わる学部生・大学院生が、責任ある研究活動（RCR）とは何かを理解し、現代の研究環境や社会を批判的に捉えながら、これからの研究者や社会人に求められる自分なりの問いや考え方を深めます。学術・研究公正とは、研究や公正とは何かを常に振り返り、自分のなかの《正しさ》を不断に問い直していく反省的な姿勢であることを体得します。

事前・事後学習の内容: 履修前に指定した教科書を事前に読み込むこと（3時間）
各回の講義内容について十分な復習を行うこと（1時間×7回=7時間）
eL CoRE （大学院生用）を修了すること（2時間）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：研究とは何か、公正とは何か

科学は確立した知的業績ではなく、科学として作られつつある途上のプロセスです。そのプロセスを研究と呼びますが、自然科学における研究は人文・社会科学と何が異なるのでしょうか？科学と疑似科学の境界線はどこにあるのでしょうか？なぜ研究において倫理や公正さが必要なのでしょうか？そもそも倫理や公正とは何でしょうか？研究公正を学ぶにあたって、そもそも科学や研究、倫理、公正とは何かという根源的な問いについて掘り下げます。

第2回：研究者としての倫理と責任

研究者として、捏造・改ざん・盗用などの研究不正をしないことにとどまらず、利益相反・責務相反をどのようにマネジメントするか、疑わしい研究行為や有害な研究行為を避けるために必要な考えや取り組みについて学びます。こうした適切な研究行為や責任ある研究活動において、研究者の倫理と責任はどのように折り合えるのでしょうか？研究者としての責任と人としての責任についても整理します。

第3回：組織やコミュニティにおける研究実践

今や研究が個人で完結することはほとんどなく、多くの場合は大学や研究機関に所属し、学術出版社や助成機関、政府の支援を受けてチームやグループで進めなければなりません。研究の組織化と科学の巨大化は、研究者個人の規範と頻繁に衝突するようになりますが、個人と組織との衝突とはいったい何でしょうか？それを乗り越えるための新たな個人的規範とはどのようなものでしょうか？研究室における研究データや個人情報の管理、研究指導やハラスメントなどの実務的な課題とあわせて検討します。

第4回：人文学の危機とAI時代の倫理

生成AIの登場は「研究は人が行うものである」というこれまでの常識を覆しました。断りなく生成AIを用いて研究・評価・出版を行うことは明らかに公正さを欠きますが、それでは、どの程度までAIを活用してよいのでしょうか？活用すべきなのでしょうか？AIという技術そのものに内在する倫理的な問題も山積しているなかで、研究者のみならず、私たちはどのようにAIと付き合っていけばよいのでしょうか？研究倫理はAIによってどのように変わりうるのでしょうか？人文・社会科学における評価や出版のあり方が厳しく問われる現代にあって、どのように科学観と倫理観をアップデートすればよいかについて挑戦します。

第5回：研究対象への公正さ

人文・社会科学は人間や社会を研究対象としている以上、どうしても研究者と研究対象との相関が発生してしまうことは避けられません。研究者が自らの倫理観で研究を行うだけでは十分ではなく、研究の結果や成果について社会的に説明責任や応答責任も発生します。当事者研究や被災地調査において留意すべきことは何でしょうか？さらには考古学など、人以外の対象への干渉・介入においてどのような配慮が求められるでしょうか？また、研究対象を量的データ化したときに「嘘」をつかないための統計のあり方についても、事例を通じて学びます。

第6回：社会に開かれた研究

これまでの科学は職業研究者が担い、英語話者の西洋白人男性が支配的な属性でした。しかし、学際的でオープンな活動による科学の進展とその意義が認められるようになると、これを社会的に促進する取り組みが広がり始めました。また、それに対する反発も見られるようになり、研究をより開かれたものにすることの意義が改めて問われるようになっています。多様性や公平性、包摂性に配慮した研究活動は逆差別になるのでしょうか？市民社会科学やデジタル人文学、オープンサイエンス、企業における研究は学術研究のあり方を脅かすのでしょうか？そもそも《開かれた》研究とは何でしょうか？ここでは留意点や課題とともに社会に開かれた研究について考えます。

第7回：これからの学問と社会のために

現代では、科学が社会や世界に与える影響とともに、科学に投資される資源も非常に大きくなっています。この反面、人文学の危機と言われるように、すぐには経済的・社会的価値を生まない学問に対する社会的な批判も少なくありません。学問は知的好奇心だけで駆動されることが善しとされないとすると、何のために学問をするのでしょうか？学問はどのような方向に向かっていけばいいのでしょうか？本講義の最終回として、新しい科学技術の倫理的・法的・社会的影響（ELSI）や責任ある研究・イノベーション（RRI）の考え方や実践を紹介しつつ、学問や社会の未来のあり方を予見することで、現在の学術・研究公正のあり方そのものを問い直します。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会、『科学の健全な発展のために 第2版ー誠実な科学者の心得ー』、丸善、2025年。
https://www.jsps.go.jp/file/storage/j-kousei/data/rinri.pdf

参考文献：　宮本常一・安渓遊地『調査されるという迷惑―フィールドに出る前に読んでおく本』増補版、みずのわ出版、2024年。
https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/permalink/81SOKEI_WUNI/7jeksk/alma991027352912404032

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50　各回授業の最後に講義内容に関する数問の選択肢式のテストを行います。

レポート：　30　小論文（大学院生：2テーマで計1600字程度、学部生：1テーマで800字程度）

その他：　20　日本学術振興会提供の研究倫理eラーニングコース「eL CoRE」の「大学院生向け」修了証の提出

備考・関連URL：

1. 重要な連絡はWaseda Moodleを通じて行うので、よく確認してください。
2. 講義期間の延長、および再受講等は一切行いません。
3. 個人的な事情による問合せに対して、加点などの特別対応は行いません。
4. PCのトラブルや操作ミスを理由とした、受講期間の延長や確認テストの再受験は行いません。
5. 確認テストを受験する前に、すべての講義動画の視聴を完了する必要があります。
6. 講義に関するお問合せは全て「学術・研究公正概論」事務局のメールアドレス（researchethics2@list.waseda.jp）宛にお送りください。担当教員への直接連絡はしないでください。
　※システムに関するお問合せはITヘルプデスク宛にお送りください。
7. 動作環境等を各自確認の上、受講してください。
http://www.waseda.jp/navi/services/system/sys_requirements.html

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010043|02|9S91010043[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術・研究公正概論（人文・社会科学系）02		
担 当 教 員	吉澤 剛		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 責任ある研究活動（RCR）として、単に研究不正を防止・予防するのではなく、学術的・社会的に公正な研究活動を推進していくための自主的で前向きな取り組みを紹介しながら、受講生それぞれの関心や理解の向上を促します。はじめに、科学や研究、倫理や責任といった基本的な概念について検討し、自然科学と人文・社会科学の違い、研究者と研究対象との関係、研究組織や研究評価における実践的な課題について掘り下げます。続いてAIや当事者研究、デジタル人文学などの現代的なテーマにおける研究公正のあり方を考えます。そして、責任ある研究・イノベーション（RRI）と言われるような多様な人々や社会、未来に開かれた研究の意義や課題を展望し、現在の学問や研究のあり方を改めて問い直します。本授業は、全回オンデマンド授業として実施します。

授業の到達目標: 人文・社会科学の研究に携わる学部生・大学院生が、責任ある研究活動（RCR）とは何かを理解し、現代の研究環境や社会を批判的に捉えながら、これからの研究者や社会人に求められる自分なりの問いや考え方を深めます。学術・研究公正とは、研究や公正とは何かを常に振り返り、自分のなかの《正しさ》を不断に問い直していく反省的な姿勢であることを体得します。

事前・事後学習の内容: 履修前に指定した教科書を事前に読み込むこと（3時間）
各回の講義内容について十分な復習を行うこと（1時間×7回=7時間）
eL CoRE （大学院生用）を修了すること（2時間）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：研究とは何か、公正とは何か

科学は確立した知的業績ではなく、科学として作られつつある途上のプロセスです。そのプロセスを研究と呼びますが、自然科学における研究は人文・社会科学と何が異なるのでしょうか？科学と疑似科学の境界線はどこにあるのでしょうか？なぜ研究において倫理や公正さが必要なのでしょうか？そもそも倫理や公正とは何でしょうか？研究公正を学ぶにあたって、そもそも科学や研究、倫理、公正とは何かという根源的な問いについて掘り下げます。

第2回：研究者としての倫理と責任

研究者として、捏造・改ざん・盗用などの研究不正をしないことにとどまらず、利益相反・責務相反をどのようにマネジメントするか、疑わしい研究行為や有害な研究行為を避けるために必要な考えや取り組みについて学びます。こうした適切な研究行為や責任ある研究活動において、研究者の倫理と責任はどのように折り合えるのでしょうか？研究者としての責任と人としての責任についても整理します。

第3回：組織やコミュニティにおける研究実践

今や研究が個人で完結することはほとんどなく、多くの場合は大学や研究機関に所属し、学術出版社や助成機関、政府の支援を受けてチームやグループで進めなければなりません。研究の組織化と科学の巨大化は、研究者個人の規範と頻繁に衝突するようになりますが、個人と組織との衝突とはいったい何でしょうか？それを乗り越えるための新たな個人的規範とはどのようなものでしょうか？研究室における研究データや個人情報の管理、研究指導やハラスメントなどの実務的な課題とあわせて検討します。

第4回：人文学の危機とAI時代の倫理

生成AIの登場は「研究は人が行うものである」というこれまでの常識を覆しました。断りなく生成AIを用いて研究・評価・出版を行うことは明らかに公正さを欠きますが、それでは、どの程度までAIを活用してよいのでしょうか？活用すべきなのでしょうか？AIという技術そのものに内在する倫理的な問題も山積しているなかで、研究者のみならず、私たちはどのようにAIと付き合っていけばよいのでしょうか？研究倫理はAIによってどのように変わりうるのでしょうか？人文・社会科学における評価や出版のあり方が厳しく問われる現代にあって、どのように科学観と倫理観をアップデートすればよいかについて挑戦します。

第5回：研究対象への公正さ

人文・社会科学は人間や社会を研究対象としている以上、どうしても研究者と研究対象との相関が発生してしまうことは避けられません。研究者が自らの倫理観で研究を行うだけでは十分ではなく、研究の結果や成果について社会的に説明責任や応答責任も発生します。当事者研究や被災地調査において留意すべきことは何でしょうか？さらには考古学など、人以外の対象への干渉・介入においてどのような配慮が求められるでしょうか？また、研究対象を量的データ化したときに「嘘」をつかないための統計のあり方についても、事例を通じて学びます。

第6回：社会に開かれた研究

これまでの科学は職業研究者が担い、英語話者の西洋白人男性が支配的な属性でした。しかし、学際的でオープンな活動による科学の進展とその意義が認められるようになると、これを社会的に促進する取り組みが広がり始めました。また、それに対する反発も見られるようになり、研究をより開かれたものにすることの意義が改めて問われるようになっています。多様性や公平性、包摂性に配慮した研究活動は逆差別になるのでしょうか？市民社会科学やデジタル人文学、オープンサイエンス、企業における研究は学術研究のあり方を脅かすのでしょうか？そもそも《開かれた》研究とは何でしょうか？ここでは留意点や課題とともに社会に開かれた研究について考えます。

第7回：これからの学問と社会のために

現代では、科学が社会や世界に与える影響とともに、科学に投資される資源も非常に大きくなっています。この反面、人文学の危機と言われるように、すぐには経済的・社会的価値を生まない学問に対する社会的な批判も少なくありません。学問は知的好奇心だけで駆動されることが善しとされないとすると、何のために学問をするのでしょうか？学問はどのような方向に向かっていけばいいのでしょうか？本講義の最終回として、新しい科学技術の倫理的・法的・社会的影響（ELSI）や責任ある研究・イノベーション（RRI）の考え方や実践を紹介しつつ、学問や社会の未来のあり方を予見することで、現在の学術・研究公正のあり方そのものを問い直します。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会、『科学の健全な発展のために 第2版ー誠実な科学者の心得ー』、丸善、2025年。
https://www.jsps.go.jp/file/storage/j-kousei/data/rinri.pdf

参考文献：　宮本常一・安渓遊地『調査されるという迷惑―フィールドに出る前に読んでおく本』増補版、みずのわ出版、2024年。
https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/permalink/81SOKEI_WUNI/7jeksk/alma991027352912404032

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50　各回授業の最後に講義内容に関する数問の選択肢式のテストを行います。

レポート：　30　小論文（大学院生：2テーマで計1600字程度、学部生：1テーマで800字程度）

その他：　20　日本学術振興会提供の研究倫理eラーニングコース「eL CoRE」の「大学院生向け」修了証の提出

備考・関連URL：

1. 重要な連絡はWaseda Moodleを通じて行うので、よく確認してください。
2. 講義期間の延長、および再受講等は一切行いません。
3. 個人的な事情による問合せに対して、加点などの特別対応は行いません。
4. PCのトラブルや操作ミスを理由とした、受講期間の延長や確認テストの再受験は行いません。
5. 確認テストを受験する前に、すべての講義動画の視聴を完了する必要があります。
6. 講義に関するお問合せは全て「学術・研究公正概論」事務局のメールアドレス（researchethics2@list.waseda.jp）宛にお送りください。担当教員への直接連絡はしないでください。
　※システムに関するお問合せはITヘルプデスク宛にお送りください。
7. 動作環境等を各自確認の上、受講してください。
http://www.waseda.jp/navi/services/system/sys_requirements.html

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010044|01|9S91010044[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術・研究公正概論（生命・理工系） O1		
担 当 教 員	吉澤 剛		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 責任ある研究活動（RCR）として、単に研究不正を防止・予防するのではなく、学術的・社会的に公正な研究活動を推進していくための自主的で前向きな取り組みを紹介しながら、受講生それぞれの関心や理解の向上を促します。はじめに、科学や研究、倫理や責任といった基本的な概念について検討し、自然科学と人文・社会科学の違い、研究者と研究対象との関係、研究組織や研究評価における実践的な課題について掘り下げます。続いてAIや民間企業、安全保障などの現代的なテーマにおける研究公正のあり方を考えます。そして、責任ある研究・イノベーション（RRI）と言われるような多様な人々や社会、未来に開かれた研究の意義や課題を展望し、現在の学問や研究のあり方を改めて問い直します。本授業は、全回オンデマンド授業として実施します。

授業の到達目標: 生命・理工系の研究に携わる学部生・大学院生が、責任ある研究活動（RCR）とは何かを理解し、現代の研究環境や社会を批判的に捉えながら、これからの研究者や社会人に求められる自分なりの問いや考え方を深めます。学術・研究公正とは、研究や公正とは何かを常に振り返り、自分のなかの《正しさ》を不断に問い直していく反省的な姿勢であることを体得します。

事前・事後学習の内容: 履修前に指定した教科書を事前に読み込むこと（3時間）
各回の講義内容について十分な復習を行うこと（1時間×7回=7時間）
eL CoRE （大学院生用）を修了すること（2時間）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：研究とは何か、公正とは何か

科学は確立した知的業績ではなく、科学として作られつつある途上のプロセスです。そのプロセスを研究と呼びますが、自然科学における研究は人文・社会科学と何が異なるのでしょうか？科学と疑似科学の境界線はどこにあるのでしょうか？なぜ研究において倫理や公正さが必要なのでしょうか？そもそも倫理や公正とは何でしょうか？研究公正を学ぶにあたって、そもそも科学や研究、倫理、公正とは何かという根源的な問いについて掘り下げます。

第2回：研究者としての倫理と責任

研究者として、捏造・改ざん・盗用などの研究不正をしないことにとどまらず、利益相反・責務相反をどのようにマネジメントするか、疑わしい研究行為や有害な研究行為を避けるために必要な考えや取り組みについて学びます。こうした適切な研究行為や責任ある研究活動において、研究者の倫理と責任はどのように折り合えるのでしょうか？研究者としての責任と人としての責任についても整理します。

第3回：組織やコミュニティにおける研究実践

今や研究が個人で完結することはほとんどなく、多くの場合は大学や研究機関に所属し、学術出版社や助成機関、政府の支援を受けてチームやグループで進めなければなりません。研究の組織化と科学の巨大化は、研究者個人の規範と頻繁に衝突するようになりますが、個人と組織との衝突とはいったい何でしょうか？それを乗り越えるための新たな個人的規範とはどのようなものでしょうか？研究室における研究ノートや研究データの管理、研究指導やハラスメントなどの実務的な課題とあわせて検討します。

第4回：再現性の危機とAI時代の倫理

生成AIの登場は「研究は人が行うものである」というこれまでの常識を覆しました。断りなく生成AIを用いて研究・評価・出版を行うことは明らかに公正さを欠きますが、それでは、どの程度までAIを活用してよいのでしょうか？活用すべきなのでしょうか？AIという技術そのものに内在する倫理的な問題も山積しているなかで、研究者のみならず、私たちはどのようにAIと付き合っていけばよいのでしょうか？研究倫理はAIによってどのように変わりうるのでしょうか？科学実験の再現性が深刻な問題となり、評価や出版のあり方が厳しく問われる現代にあって、どのように科学観と倫理観をアップデートすればよいかについて挑戦します。

第5回：研究対象への公正さ

AIの登場までは、研究は人間だけが行うものでした。人が研究する以上、同じ世界で研究対象に干渉・介入する限りにおいて、どうしても研究者と研究対象との相関が発生してしまうことは避けられません。研究者が自らの倫理観で研究を行うだけでは十分ではなく、研究の結果や成果について社会的に説明責任や応答責任も発生します。人を対象とする研究や生命倫理・動物福祉、バイオセーフティ/セキュリティ、デュアルユース、安全保障などのテーマを通じて、学術的・社会的に公正な研究活動のあり方を捉えます。

第6回：社会に開かれた研究

これまでの科学は職業研究者が担い、英語話者の西洋白人男性が支配的な属性でした。しかし、学際的でオープンな活動による科学の進展とその意義が認められるようになると、これを社会的に促進する取り組みが広がり始めました。また、それに対する反発も見られるようになり、研究をより開かれたものにすることの意義が改めて問われるようになっています。多様性や公平性、包摂性に配慮した研究活動は逆差別になるのでしょうか？市民科学やオープンサイエンス、企業における研究は学術研究のあり方を脅かすのでしょうか？そもそも《開かれた》研究とは何でしょうか？ここでは留意点や課題とともに社会に開かれた研究について考えます。

第7回：これからの学問と社会のために

現代では、科学が社会や世界に与える影響とともに、科学に投資される資源も非常に大きくなっています。学問は知的好奇心だけで駆動されることが善しとされないとすると、何のために学問をするのでしょうか？学問はどのような方向に向かっていけばいいのでしょうか？本講義の最終回として、新しい科学技術の倫理的・法的・社会的影響（ELSI）や責任ある研究・イノベーション（RRI）の考え方や実践を紹介しつつ、学問や社会の未来のあり方を予見することで、現在の学術・研究公正のあり方そのものを問い直します。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会、『科学の健全な発展のために 第2版ー誠実な科学者の心得ー』、丸善、2025年。
https://www.jsps.go.jp/file/storage/j-kousei/data/rinri.pdf

参考文献：　田中智之・小出隆規・安井裕之『科学者の研究倫理―化学・ライフサイエンスを中心に』東京化学同人、2018年。
https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/permalink/81SOKEI_WUNI/16dpchh/cdi_nii_cinii_1130282271138075264

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50　各回授業の最後に講義内容に関する数問の選択肢式のテストを行います。

レポート：　30　小論文（大学院生：2テーマで計1600字程度、学部生：1テーマで800字程度）

その他：　20　日本学術振興会提供の研究倫理eラーニングコース「eL CoRE」の「大学院生向け」修了証の提出

備考・関連URL：

1. 重要な連絡はWaseda Moodleを通じて行うので、よく確認してください。
2. 講義期間の延長、および再受講等は一切行いません。
3. 個人的な事情による問合せに対して、加点などの特別対応は行いません。
4. PCのトラブルや操作ミスを理由とした、受講期間の延長や確認テストの再受験は行いません。
5. 確認テストを受験する前に、すべての講義動画の視聴を完了する必要があります。
6. 講義に関するお問合せは全て「学術・研究公正概論」事務局のメールアドレス（researchethics2@list.waseda.jp）宛にお送りください。担当教員への直接連絡はしないでください。
　※システムに関するお問合せはITヘルプデスク宛にお送りください。
7. 動作環境等を各自確認の上、受講してください。
http://www.waseda.jp/navi/services/system/sys_requirements.html

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010044|02|9S91010044[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術・研究公正概論（生命・理工系）02		
担 当 教 員	吉澤 剛		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 責任ある研究活動（RCR）として、単に研究不正を防止・予防するのではなく、学術的・社会的に公正な研究活動を推進していくための自主的で前向きな取り組みを紹介しながら、受講生それぞれの関心や理解の向上を促します。はじめに、科学や研究、倫理や責任といった基本的な概念について検討し、自然科学と人文・社会科学の違い、研究者と研究対象との関係、研究組織や研究評価における実践的な課題について掘り下げます。続いてAIや民間企業、安全保障などの現代的なテーマにおける研究公正のあり方を考えます。そして、責任ある研究・イノベーション（RRI）と言われるような多様な人々や社会、未来に開かれた研究の意義や課題を展望し、現在の学問や研究のあり方を改めて問い直します。本授業は、全回オンデマンド授業として実施します。

授業の到達目標: 生命・理工系の研究に携わる学部生・大学院生が、責任ある研究活動（RCR）とは何かを理解し、現代の研究環境や社会を批判的に捉えながら、これからの研究者や社会人に求められる自分なりの問いや考え方を深めます。学術・研究公正とは、研究や公正とは何かを常に振り返り、自分のなかの《正しさ》を不断に問い直していく反省的な姿勢であることを体得します。

事前・事後学習の内容: 履修前に指定した教科書を事前に読み込むこと（3時間）
各回の講義内容について十分な復習を行うこと（1時間×7回=7時間）
eL CoRE （大学院生用）を修了すること（2時間）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：研究とは何か、公正とは何か

科学は確立した知的業績ではなく、科学として作られつつある途上のプロセスです。そのプロセスを研究と呼びますが、自然科学における研究は人文・社会科学と何が異なるのでしょうか？科学と疑似科学の境界線はどこにあるのでしょうか？なぜ研究において倫理や公正さが必要なのでしょうか？そもそも倫理や公正とは何でしょうか？研究公正を学ぶにあたって、そもそも科学や研究、倫理、公正とは何かという根源的な問いについて掘り下げます。

第2回：研究者としての倫理と責任

研究者として、捏造・改ざん・盗用などの研究不正をしないことにとどまらず、利益相反・責務相反をどのようにマネジメントするか、疑わしい研究行為や有害な研究行為を避けるために必要な考えや取り組みについて学びます。こうした適切な研究行為や責任ある研究活動において、研究者の倫理と責任はどのように折り合えるのでしょうか？研究者としての責任と人としての責任についても整理します。

第3回：組織やコミュニティにおける研究実践

今や研究が個人で完結することはほとんどなく、多くの場合は大学や研究機関に所属し、学術出版社や助成機関、政府の支援を受けてチームやグループで進めなければなりません。研究の組織化と科学の巨大化は、研究者個人の規範と頻繁に衝突するようになりますが、個人と組織との衝突とはいったい何でしょうか？それを乗り越えるための新たな個人的規範とはどのようなものでしょうか？研究室における研究ノートや研究データの管理、研究指導やハラスメントなどの実務的な課題とあわせて検討します。

第4回：再現性の危機とAI時代の倫理

生成AIの登場は「研究は人が行うものである」というこれまでの常識を覆しました。断りなく生成AIを用いて研究・評価・出版を行うことは明らかに公正さを欠きますが、それでは、どの程度までAIを活用してよいのでしょうか？活用すべきなのでしょうか？AIという技術そのものに内在する倫理的な問題も山積しているなかで、研究者のみならず、私たちはどのようにAIと付き合っていけばよいのでしょうか？研究倫理はAIによってどのように変わりうるのでしょうか？科学実験の再現性が深刻な問題となり、評価や出版のあり方が厳しく問われる現代にあって、どのように科学観と倫理観をアップデートすればよいかについて挑戦します。

第5回：研究対象への公正さ

AIの登場までは、研究は人間だけが行うものでした。人が研究する以上、同じ世界で研究対象に干渉・介入する限りにおいて、どうしても研究者と研究対象との相関が発生してしまうことは避けられません。研究者が自らの倫理観で研究を行うだけでは十分ではなく、研究の結果や成果について社会的に説明責任や応答責任も発生します。人を対象とする研究や生命倫理・動物福祉、バイオセーフティ/セキュリティ、デュアルユース、安全保障などのテーマを通じて、学術的・社会的に公正な研究活動のあり方を捉えます。

第6回：社会に開かれた研究

これまでの科学は職業研究者が担い、英語話者の西洋白人男性が支配的な属性でした。しかし、学際的でオープンな活動による科学の進展とその意義が認められるようになると、これを社会的に促進する取り組みが広がり始めました。また、それに対する反発も見られるようになり、研究をより開かれたものにすることの意義が改めて問われるようになっています。多様性や公平性、包摂性に配慮した研究活動は逆差別になるのでしょうか？市民科学やオープンサイエンス、企業における研究は学術研究のあり方を脅かすのでしょうか？そもそも《開かれた》研究とは何でしょうか？ここでは留意点や課題とともに社会に開かれた研究について考えます。

第7回：これからの学問と社会のために

現代では、科学が社会や世界に与える影響とともに、科学に投資される資源も非常に大きくなっています。学問は知的好奇心だけで駆動されることが善しとされないとすると、何のために学問をするのでしょうか？学問はどのような方向に向かっていけばいいのでしょうか？本講義の最終回として、新しい科学技術の倫理的・法的・社会的影響（ELSI）や責任ある研究・イノベーション（RRI）の考え方や実践を紹介しつつ、学問や社会の未来のあり方を予見することで、現在の学術・研究公正のあり方そのものを問い直します。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会、『科学の健全な発展のために 第2版ー誠実な科学者の心得ー』、丸善、2025年。
https://www.jsps.go.jp/file/storage/j-kousei/data/rinri.pdf

参考文献：　田中智之・小出隆規・安井裕之『科学者の研究倫理―化学・ライフサイエンスを中心に』東京化学同人、2018年。
https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/permalink/81SOKEI_WUNI/16dpchh/cdi_nii_cinii_1130282271138075264

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　50　各回授業の最後に講義内容に関する数問の選択肢式のテストを行います。

レポート：　30　小論文（大学院生：2テーマで計1600字程度、学部生：1テーマで800字程度）

その他：　20　日本学術振興会提供の研究倫理eラーニングコース「eL CoRE」の「大学院生向け」修了証の提出

備考・関連URL：

1. 重要な連絡はWaseda Moodleを通じて行うので、よく確認してください。
2. 講義期間の延長、および再受講等は一切行いません。
3. 個人的な事情による問合せに対して、加点などの特別対応は行いません。
4. PCのトラブルや操作ミスを理由とした、受講期間の延長や確認テストの再受験は行いません。
5. 確認テストを受験する前に、すべての講義動画の視聴を完了する必要があります。
6. 講義に関するお問合せは全て「学術・研究公正概論」事務局のメールアドレス（researchethics2@list.waseda.jp）宛にお送りください。担当教員への直接連絡はしないでください。
　※システムに関するお問合せはITヘルプデスク宛にお送りください。
7. 動作環境等を各自確認の上、受講してください。
http://www.waseda.jp/navi/services/system/sys_requirements.html

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010045|01|9S91010045[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	人工知能とビジネスモデル創出		
担 当 教 員	奥田 聡@朝日 透		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木6時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

LLM（ChatGPT等）やディープラーニング,機械学習といった人工知能テクノロジーはこれから10年の世界を大きく変える力をもっている。人工知能を活用したビジネスをするにはコンピューターサイエンス能力とビジネスデザイン能力が高度にバランスされていることが必要となる。
本授業では先端テクノロジーに興味がある学生向けに、人工知能によるデータ活用とビジネスモデルの創り方の両面を学ぶことを目的としている。
授業形態は講義形式、ワークショップ形式がミックスされたインタラクティブなもので、学習した内容を実践できるようなカリキュラムとなっている。
本授業は野口哲也氏（株式会社アイモバイル代表取締役社長）の協力によって設置される提携講座となる。
本提携講座の統括責任者である朝日透理工学術院教授がコーディネーター教員として本授業をサポートします。
授業形式は、対面で実施します。事情によってオンラインになる場合は、リアルタイムオンラインとなります。

授業の到達目標: 人工知能によるデータ活用
1. 問題設計手法の理解
2. オープンデータを基にした問題設計
3. データ整理とアルゴリズム選定
ビジネスモデルの創り方
4. アイディエーション手法の実践
5. バリュープロポジションキャンバスやビジネスモデルキャンバスの理論と実践
6. データを活用したビジネスモデルデザインとピッチの実施
なお、本授業では授業で生まれた優秀なアイディアを支援できるよう、成績優秀者にはインターナショナルビジネスモデルコンペティション（IBMC）への出場権を競うABMC-Japanへの無審査参加資格を付与する。

事前・事後学習の内容: 事前学習はMoodleより指示します。
事後学習はMoodleのレビューシートの提出により行います。
到達目標に掲載したABMC-Japanの参加資格は、人工知能とビジネス・クリエーションαの最終発表で優秀な成績を収めた場合に提供する。なお、ゲスト自体の変更や担当日の変更の可能性がある。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回
4月16日 ビジネスモデル創出基礎A
オリエンテーション。本講座全体の流れを理解する。本授業で一緒にワークをするチームを作る。World Cafe方式で思いつくビジネスアイディアをディスカッションに回すことで新たに仕掛けることができるビジネスを考える。
担当：朝日、奥田

第2回
4月23日ビジネスモデル創出基礎B
イノベーションとは何かを学び、IT業界のイノベーションのポイントを理解する。現在あるアイディアを整理し、チーム内で1つに絞る。
データサイエンティスト向けオープンデータ群を基に分析対象を選択し、それを基にしたビジネスアイディアづくりの基礎を学ぶ。
担当：奥田

第3回
4月30日 ビジネスモデル創出基礎C
ビジネスアイディアのつくりかたを理解する。選択したビジネスアイディアに対して、活用できるオープンデータ群を選定しアイディアをチームワークで深化させていく手法を学ぶ。
担当：奥田

第4回
5月7日 ビジネスモデル創出基礎D
ビジネスモデル構築手法を理解する。ビジネスモデル構築にあたって仮説構築の重要性を学ぶ。仮説を作る理由や評価方法、ビジネスモデルにまとめ上げる手法を事例をもって学ぶ。
チームでビジネスアイディアを基礎的なビジネスモデルに昇華させる。
担当：奥田

第5回
5月14日 人工知能概論 —人工知能の業界動向/ AIテクノロジー概論—
AIテクノロジーの何が優れていて、なぜブームになったのか、世の中の流れはどこに向かっているのか。また、現在のAIテクノロジーの限界は何かを理解する。
AIテクノロジーの全体像と機能概要（何ができるのか）を理解することで、何がAIで実現でき、何がAIで実現できないのかを理解する。
担当：奥田

第6回
5月21日 人工知能概論—AI適用ケーススタディー（ベストプラクティス） / AIプロジェクトマネジメント —
AIを利用すると何ができるのか、ビジネスに対してどのようなインパクトがあるのかを適用事例を通じて理解する。また、AI開発プロジェクトを実施する際のアプローチとプロジェクト管理手法を理解し、AI推進部署やユーザー部署が陥るピットフォールやプロジェクトリスクをディスカッションする。選定したオープンデータ群を基に対象ユーザーと課題、ソリューションを定義するワークを実施する。オープンデータ、補助データ、独自データの違いを理解しビジネスアイディア発表の準備を行う。
担当：奥田ゲスト

第7回
5月28日 ビジネスアイディア発表
本講座αで検討したビジネスアイディアの発表を行う。発表に至るグループワークの中でリーダーシップ、ロジカルシンキング、アイディエーション手法を理解する。

担当：奥田
ゲスト：野口哲也（株式会社アイモバイル 代表取締役社長）、大江健（株式会社総合コンサルティングオアシス 代表取締役）

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講師作成の資料をプロジェクター画面で使用またはプリントを配布。

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：
（1）学部生
平常点（40%）：出席率及び授業内での積極的な発言やワークショップでの貢献度合いを平常点評価とする。3回以上の欠席の場合は評価は「F」となる。
レポート（50%）：毎回、授業後、レビューシートを提出すること。3回以上の未提出の場合は評価は「F」となる。授業内で適宜実施される演習課題が提出されること。第8回の最終発表資料が提出されること 。
その他（10%）：指定されたセミナーやシンポジムへの参加、感想の提出。

（2）大学院生
平常点（30%）：出席率及び授業内での積極的な発言やワークショップでの貢献度合いを平常点評価とする。3回以上の欠席の場合は評価は「F」となる。
レポート（60%）：毎回、授業後、レビューシートを提出すること。3回以上の未提出の場合は評価は「F」となる。授業内で適宜実施される演習課題が提出されること。第8回の最終発表資料が提出されること 。
その他（10%）：指定されたセミナーやシンポジムへの参加、感想の提出。

備考・関連URL：　本科目は、グローバルエデュケーションセンター実践型教育プログラム「ビジネス・クリエーションコース」の産学連携科目群の対象科目です。
問合せ先：奥田聡　satoshi.okuda@aoni.waseda.jp

【履修上の注意】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
・2025年度以前に「人工知能とビジネスモデル創出　α　（学部生用）」「Business Model Creation with AI Technologies　β （for undergraduates）」の単位を修得済みの方は履修できません。
・「Business Model Creation with AI Technologies」を登録中または単位修得済みの方は履修できません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010046|01|9S91010046[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Business Model Creation with AI Technologies		
担 当 教 員	奥田 聡@朝日 透		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木6時限	授業方法区分	【オンライン】リアルタイム配信
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：
Artificial intelligence technologies such as LLM(ChatGPT etc), deep learning and machine learning, have the power to change the world in the next ten years. To conduct business using artificial intelligence, it is necessary to have a high level of balance between computer science skills and business design skills.
This class will be conducted through real-time online in English. This class is designed for students interested in advanced technology to learn how to utilize data and how to create business models using artificial intelligence. The class format is an interactive mix of lectures and workshops, and the curriculum is designed to allow students to practice what they have learned.
This class will be offered in cooperation with Mr. Tetsuya Noguchi (President of iMobile Co., Ltd.).

授業の到達目標：
Objectives of the class
Data utilization with artificial intelligence
1. Understand the problem design method
2. Understanding of relevant technologies
How to create a business model
3. Practice ideation techniques
4. Theory and practice of Value Proposition Canvas and Business Model Canvas
5. Designing a business model using data and conducting a pitch
In addition, to support the excellent ideas generated in the class, students with excellent grades will be granted the qualification to participate in the ABMC-Japan, where they will compete for the right to participate in the Asia Business Model Challenge (ABMC).

事前・事後学習の内容：
Content of prior and post-learning learning will be instructed from Moodle.
Post-learning will be done by submitting a review sheet on Moodle.
Eligibility for participation in the ABMC-Japan listed in the Objectives will be provided if the student achieves excellent results in the final presentation of Artificial Intelligence and Business Creation β. Please note that there is a possibility that the guest itself may change or the date of the assignment may change.

授業計画フリー入力サイン：
1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
[1] FirstSession (Orientation)
June 4th: Basic Business Model Creation A
Understand the overall flow of this course.Create a team to work together in this class and discuss business ideas thatcome to mind using the World Cafe method to think of new businesses that can belaunched in Japan.
In charge: Okuda

[2] Secondsession
June 11th: Basic Business Model Creation B
Learn the basics of selecting analysistargets based on open data for data scientists and creating business ideasbased on them.
In charge: Okuda

[3] 3rdSession
June 18th: Basic Business Model Creation C
Understand how to create a business idea.Learn how to select open data that can be used for the chosen business idea andhow to deepen the concept through teamwork.
In charge: Okuda

[4] 4thSession
June25th - Basic Business Model Creation D
Understand business model building methods.Learn the importance of hypothesis building in building business models. Learnwhy hypotheses are created, how to evaluate them, and how to put them togetherinto a business model through case studies. Students will work in teams tosublimate their business ideas into basic business models.
In charge: Okuda

[5] 5thSession
July 2nd - Introduction to ArtificialIntelligence - Industry Trends in Artificial Intelligence / Introduction to AITechnology-
What are the advantages of AI technology,why did it become a boom, and where is the world going? What are

thelimitations of current AI technology? By understanding the overall picture ofAI technology and its functions (what it can do), we can understand what can berealized by AI and what cannot be realized by AI.
In charge: Okuda

[6] 6hSession
July 9th Group work 1
Group work to understand AI technology andsublimate business ideas into business models; deepen understanding ofcustomers and their needs through GOB-type (Get out of the Building) marketresearch. Work on defining target users, issues, and solutions based on theselected open data groups. Understand the difference between open data,supplementary data, and original data, and prepare to present business ideas.
In charge: Okuda

[7] 7thSession
July 16th : Business Idea Presentation
Students will present the business ideasthat they have discussed in this course. In the group work leading up to thepresentation, students will understand leadership, logical thinking, andideation techniques and learn how to create a service.
In charge: Okuda, Asahi
Guests: Ohe, Noguchi

言語区分: 0 英語 English

教科書: Presentation materials on screen and/or documents given on lectures

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: (1) Undergraduate students
Attendance(40%):active class participation
If the student is absent more than three times, the grade will be "F."
Reports (50%): Final presentation materials for the 8th Session must be submitted.
Others (10%): Participation in seminars and symposium, and submission of feedback.

(2) Graduate students
Attendance(30%):active class participation
Students are expected to submit the materials for the final presentation.
Reports (60%): Final presentation materials for the 8th Session must be submitted.
Others (10%): Participation in seminars and symposium, and submission of feedback.

備考・関連URL: Remarks and related URL
This course is subject to the Industry-Academia Collaboration Course Group of the Practical Education Program "Business Creation Course" of the Global Education Center.

＊和文
・授業概要
LLM(ChatGPT等)やディープラーニング,機械学習,といった人工知能テクノロジーはこれから10年の世界を大きく変える力をもっている。人工知能を活用したビジネスをするにはコンピューターサイエンス能力とビジネスデザイン能力が高度にバランスされていることが必要となる。
本授業では先端テクノロジーに興味がある学生向けに、人工知能によるデータ活用とビジネスモデルの創り方の両面を学ぶことを目的としている。
授業は英語で実施し、授業形式はリアルタイムオンラインとなる。
授業形態は講義形式、ワークショップ形式がミックスされたインタラクティブなもので、学習した内容を実践できるようなカリキュラムとなっている。
本授業は野口哲也(株式会社アイモバイル代表取締役社長)の協力によって設置される提携講座となる。

・授業の到達目標
人工知能でできることの把握
1. 問題設計手法の理解
2. 関連する技術の理解
ビジネスモデルの創り方
3. アイディエーション手法の実践
4. バリュープロポジションキャンバスやビジネスモデルキャンバスの理論と実践
5. データを活用したビジネスモデルデザインとピッチの実施
なお、本授業では授業で生まれた優秀なアイディアを支援できるよう、成績優秀者にはインターナショナルビジネスモデルコンペティション(IBMC)への出場権を競うジャパンビジネスモデルコンペティション(JBMC)への無審査参加資格を付与する。

・事前・事後学習の内容
事前学習はMoodleより指示します。
事後学習はMoodleのレビューシートの提出により行います。
到達目標に掲載したジャパンビジネスモデルコンペティション(JBMC)の参加資格は、人工知能とビジネス・クリエーション α 及び β の両科目とも受講し、β の最終発表で優秀な成績を収めた場合に提供する。なお、ゲスト自体の変更や担当日の変更の可能性がある。

・授業計画
[1]　　第1回　6月4日 ビジネスモデル創出基礎A
オリエンテーション。本講座全体の流れを理解する。本授業で一緒にワークをするチームを作る。World Cafe方式で思いつくビジネスアイディアをディスカッションに回すことで日本で新たに仕掛けることができるビジネスを考える。
担当：奥田、朝日

[2]　　第2回　6月11日ビジネスモデル創出基礎B
現在あるアイディアを整理し、チーム内で1つに絞る。データサイエンティスト向けオープンデータ群を基に分析対象を選択し、それを基にしたビジネスアイディアづくりの基礎を学ぶ。
担当：奥田

[3]　　第3回　6月18日 ビジネスモデル創出基礎C
ビジネスアイディアのつくりかたを理解する。選択したビジネスアイディアに対して、活用できるオープンデータ群を選定しアイディアをチームワークで深化させていく手法を学ぶ。
担当：奥田

[4]　　第4回　6月25日 ビジネスモデル創出基礎D
ビジネスモデル構築手法を理解する。ビジネスモデル構築にあたって仮説構築の重要性を学ぶ。仮説を作る理由や評価方法、ビジネスモデルにまとめ上げる手法を事例をもって学ぶ。チームでビジネスアイディアを基礎的なビジネスモデルに昇華させる。
担当：奥田

[5]　　第5回　7月2日 人工知能概論 ―人工知能の業界動向 / AIテクノロジー概論―
AIテクノロジーの何が優れていて、なぜブームになったのか、世の中の流れはどこに向かっているのか。現在のAIテクノロジーの限界は何かを理解する。また、AIテクノロジーの全体像と機能概要（何ができるのか）を理解することで、何がAIで実現でき、何がAIで実現できないのかを理解する。
担当：奥田

[6]　　第6回　7月9日 グループワーク1
AIテクノロジー理解とビジネスアイディアをビジネスモデルに昇華するためのグループワークを実施する。GOB型の(Get out of the Building)マーケットリサーチにより顧客とニーズの理解を深める。選定したオープンデータ群を基に対象ユーザーと課題、ソリューションを定義するワークを実施する。オープンデータ、補助データ、独自データの違いを理解しビジネスアイディア発表の準備を行う。
担当：奥田

[7]　　第7回　7月16日　ビジネスアイディア発表
本講座αで検討したビジネスアイディアの発表を行う。発表に至るグループワークの中でリーダーシップ、ロジカルシンキング、アイディエーション手法を理解し、サービスの作り方の基本を習得する。
担当：奥田、朝日
ゲスト：大江、野口

・教科書
講師作成の資料をプロジェクター画面で使用またはプリントを配布。
・成績評価方法
（1）学部生
平常点（40%）：出席率及び授業内での積極的な発言やワークショップでの貢献度合いを平常点評価とする。3回以上の欠席の場合は評価は「F」となる。
レポート（50%）：毎回、授業後、レビューシートを提出すること。3回以上の未提出の場合は評価は「F」となる。授業内で適宜実施される演習課題が提出されること。第8回の最終発表資料が提出されること 。
その他（10%）：指定されたセミナーやシンポジムへの参加、感想の提出。
（2）大学院生
平常点（30%）：出席率及び授業内での積極的な発言やワークショップでの貢献度合いを平常点評価とする。3回以上の欠席の場合は評価は「F」となる。
レポート（60%）：毎回、授業後、レビューシートを提出すること。3回以上の未提出の場合は評価は「F」となる。授業内で適宜実施される演習課題が提出されること。第8回の最終発表資料が提出されること 。
その他（10%）：指定されたセミナーやシンポジムへの参加、感想の提出。

・備考・関連URL
本科目は、グローバルエデュケーションセンター実践型教育プログラム「ビジネス・クリエーションコース」の産学連携科目群の対象科目です。

【履修上の注意/Course Registration Notes】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
　This course is offered to both undergraduate and graduate students.
・2025年度以前に「人工知能とビジネスモデル創出　α　（学部生用）」「Business Model Creation with AI Technologies　β （for undergraduates）」の単位を修得済みの方は履修できません。
　Students who have earned credit for "Artificial Intelligence and Business Model Creation alpha"or "Business Model Creation with AI Technologies beta (for undergraduates)" in or before the 2025 academic year are not eligible to enroll in this course.
・「人工知能とビジネスモデル創出」を登録中または単位修得済みの方は履修できません。
　Students who are currently enrolled in or have already earned credit for "人工知能とビジネスモデル創出" are not eligible to enroll in this course.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010047|01|9S91010047[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学生による授業支援入門 O1		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

ピア・サポートのピアとは「仲間」を意味しており、職場の同僚などもそれに当たります（日本ピア・サポート学会）。ピア・サポートの考え方は欧米を中心に発展しており、高等教育においては「学生に対して教育サービスを提供するために選ばれ、そして訓練された学生によるピア・リーダーシッププログラム」（山田、2005）など様々に展開されています。そのようなプログラムに従事する学生を育成する訓練や研修には大学組織や教授・学習に関する知識だけでなく、基盤となるコミュニケーション能力の育成が不可欠です。

この授業では、ピア・サポートに関する基礎的な知識、支援対象である学生の特徴をつかむための基本的な青年期発達理論、基礎的なコミュニケーション技能など、ピア・サポート等に従事する学生に求められる能力を、受講者同士あるいは教員や外部講師を交えた意見交換も行いながら習得することを目指します。大学教育やピア・サポートに関心のある学生、TAに従事する学生など、実際にピア・サポートを実践する意欲のある学生の皆さんの受講を歓迎します。

授業内ではパソコンあるいはスマホなどのモバイル端末を使用する場合がありますので、その場合は各自で準備してください。また、準備学習・事後学習はWasedaMoodleを使用します。

授業の到達目標：

1. ピア・サポートの理念や目的、自大学における各種ピア・サポートの仕組みについて簡潔に述べることができる。
2. ピア・サポートに求められるコミュニケーションや問題解決等に関わる知識と技能を習得する。
3. ピア・サポートに関心を持ち、実際に取り組もうとする。

事前・事後学習の内容：

各回の授業内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：オリエンテーション

1)自己紹介、授業の到達目標と概要の説明、受講上の留意点等の確認
2)基本的な教授・学習理論について取り上げる。
3)ピア・サポートのイメージの共有を通して、大学におけるピア・サポートについて考える。
4)準備学習課題①の説明
5）事後学習①：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第2回：自大学を知る

1）準備学習課題①の発表と共有を通して、自大学の学習支援組織を知る。
2）学生相互に支援経験を共有する。
3)事後学習②：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第3回：青年期とピア・サポート

1）基本的な発達の理論について理解する。
2）国内外の大学におけるピア・サポートの取り組みを取り上げる。
3) 事後学習③：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。
4）小テスト①の実施

第4回：コミュニケーションを学ぶ①

◎テーマ：相手の話を受容的に聞く力（傾聴）
1）カウンセリング技法である「来談者中心療法」を取り上げる。
2）グループワークを通して「傾聴」のためのスキルを身に着ける。（ワークシート作成）
3) 事後学習④：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第5回:コミュニケーションを学ぶ②

◎テーマ:相手のモチベーションを上げる話し方(ほめ言葉)
1)教育的コミュニケーションについて理解する。
2)グループワークを通して相手を意欲的にする話し方のスキルを身に着ける。(ワークシート作成)
3) 準備学習課題②の説明
4)事後学習⑤:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第6回:コーチングを学ぶ

◎外部講師(予定)
1)準備学習課題②を踏まえてコーチングとはどのようなものかを理解する。
2)外部講師との意見交換やグループワークを通してコーチングの基礎的なスキルを身に着ける。
3)準備学習課題②の発表と共有。
4)事後学習⑥:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第7回:まとめと振り返り

1)コンセプトマップを用いてコースでの学びについてまとめを行う。
2)授業の到達目標と自身の学習目標の達成度の自己評価・相互評価を行う(ペア/グループワーク)
3)事後学習⑦:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。
4)小テスト②の実施

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献:
・山田礼子『一年次(導入)教育の日米比較』、東信堂、2005
・松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編著『ディープ・アクティブラーニング』、勁草書房、2015
・日本ピア・サポート学会企画、春日井敏之・増田梨花・池雅之編著『大学でのピア・サポート入門 始める・進める・深める』、ほんの森出版、2020
・E.F.Barkley, K.P.Cross,& C.H.Major 緒、安永悟監訳『協同学習の技法－大学教育の手引き』、ナカニシヤ出版、2009
・林徳治編著『相互理解を深めるコミュニケーション実践学(改訂版)』、ぎょうせい、2010
・エリザベス＝バークレイ、パトリシア＝クロス、クレア・メジャー著、安永悟監訳『協同学習の技法－大学教育の手引き』、ナカニシヤ出版、2009
ほか、各回の授業において、関連文献等を紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 70 準備学習課題の提出(2回 30%)、演習ワークシートの提出(10%×2回)、事後学習(20% ルーブリックに基づき評価します)

その他: 30 小テスト(2回 20%)、コンセプトマップの提出(10% ルーブリックに基づき評価します)

備考・関連URL:
・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合は授業内で周知します。
・欠席や公欠等の授業内ルールは大学の規定に従います。
・遅刻はできるだけしないようにしましょう。授業途中からの参加は他の受講生の妨げになりますし、グループワークへの参加が難しくなる場合があります。

・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010047|02|9S91010047[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学生による授業支援入門 02		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【オンライン】リアルタイム配信
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

ピア・サポートのピアとは「仲間」を意味しており、職場の同僚などもそれに当たります（日本ピア・サポート学会）。ピア・サポートの考え方は欧米を中心に発展しており、高等教育においては「学生に対して教育サービスを提供するために選ばれ、そして訓練された学生によるピア・リーダーシッププログラム」（山田、2005）など様々に展開されています。そのようなプログラムに従事する学生を育成する訓練や研修には大学組織や教授・学習に関する知識だけでなく、基盤となるコミュニケーション能力の育成が不可欠です。

この授業では、ピア・サポートに関する基礎的な知識、支援対象である学生の特徴をつかむための基本的な青年期発達理論、教授法やアクティブラーニングに関する知識、基礎的なコミュニケーション技能など、ピア・サポート等に従事する学生に求められる能力を、オンデマンド授業（講義動画の視聴）とリアルタイム配信授業（Zoomでの対面授業）によって習得することを目指します。大学教育やピア・サポートに関心のある学生、TAに従事する学生など、実際にピア・サポートを実践する意欲のある学生の受講を歓迎します。

この授業はWasedaMoodleを使って講義動画を配信するオンデマンド授業とZoomでのリアルタイム配信授業を組み合わせて実施します。各自が積極的に講義動画の視聴やリアルタイム配信授業への参加、課題の提出、小テストに取り組むことを期待します。

授業の到達目標：

1. ピア・サポートの理念や目的、大学における各種ピア・サポートの仕組みについて簡潔に述べることができる。
2. ピア・サポートに求められるコミュニケーションや問題解決等に関わる知識・技能を習得する。
3. ピア・サポートに関心を持ち、実際に取り組もうとする。

事前・事後学習の内容：

各回の授業内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：オリエンテーション （オンデマンド）

1)自己紹介、授業の到達目標と概要の説明、受講上の留意点等の確認、個人の学習目標の設定
2)ピア・サポートについて知る。
3）日本の大学における学生参画の現状と課題について取り上げる。
4)100分授業について知る。

第2回：大学授業とアクティブラーニング （オンデマンド）

1）現代の大学授業の動向を理解する。とくにアクティブラーニングを取り上げる。
2）基本的な教授・学習理論について知る。
3)小テスト①の実施と解説

第3回：青年期とピア・サポート （オンデマンド）

1）基本的な発達の理論について理解する。
2）海外の大学におけるピア・サポートの取り組みを取り上げる。
3) 小テスト②の実施と解説

第4回：コミュニケーションを学ぶ （※Zoomでのリアルタイム配信）

◎テーマ：相手の話を受容的に聞く力（傾聴）
1）コミュニケーションの基礎知識を得る。
2）カウンセリング技法である「来談者中心療法」を取り上げる。
3）「傾聴」のためのスキルを身に着ける。（演習：ワークシート提出）

第5回：コーチングを学ぶ① （オンデマンド）

◎外部講師（予定）
1）コーチングとはどのようなものかを理解する。
2）準備学習課題の説明。
3)小テスト③の実施と解説

第6回:コーチングを学ぶ② （※Zoomでのリアルタイム配信）

◎外部講師（予定）
1）準備学習課題の共有と講師からのフィードバック（準備学習課題の提出）
2）コーチングについての振り返りとまとめ。

第7回:まとめと振り返り （オンデマンド）

1)コースでの学びについてまとめと振り返りを行う。
2)コンセプトマップの作成について
3）授業の到達目標と自身の学習目標の振り返りを行う。
4）小テスト④の実施と解説

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献:
・山田礼子『一年次（導入）教育の日米比較』、東信堂、2005
・松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編著『ディープ・アクティブラーニング』、勁草書房、2015
・日本ピア・サポート学会企画、春日井敏之・増田梨花・池雅之編著『大学でのピア・サポート入門　始める・進める・深める』、ほんの森出版、2020
・E.F.Barkley, K.P.Cross,& C.H.Major 緒、安永悟監訳『協同学習の技法－大学教育の手引き』、ナカニシヤ出版、2009
・林徳治編著『相互理解を深めるコミュニケーション実践学（改訂版）』、ぎょうせい、2010
・エリザベス＝バークレイ、パトリシア＝クロス、クレア・メジャー著、安永悟監訳『協同学習の技法－大学教育の手引き』、ナカニシヤ出版、2009
ほか、動画内で関連文献等を紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 50 リアルタイム配信授業への参加と取り組み（準備学習課題の提出20%、演習ワークシートの提出10%、演習への参画10%×2回）

その他: 50 コンセプトマップの提出（10% ルーブリックに基づき評価します）、小テスト（4回 40%）

備考・関連URL:
・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合はMoodleで周知します。
・第4回と第6回はリアルタイム配信（Zoomでの対面授業）で行いますので、日時や授業回の間違いの無いよう参加してください。Zoomは出欠等の確認のためカメラオンを基本とし、録画をしますのであらかじめ了解をお願いします。録画は成績確定後に消去します。本授業のリアルタイム配信回では、公的および交通・通信トラブル等のやむを得ない理由以外で授業開始後10分経過後の参加は「遅刻」として、20分経過後からの参加は「欠席」として、授業終了前の退出は「早退」として扱いますので留意してください。なお、公欠や交通・通信トラブル等の場合は証明書等の提出が必須となりますので必ず証拠資料を取得しておくようにしましょう。詳しくは第一回のオリエンテーション内で説明します。
・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・小テストは動画公開後3日以内に受けて下さい。課題は動画配信後4日以内にMoodleに提出してください。提出期限等に変更がある場合はMoodle内で周知します。
・授業に関する質問や連絡等はMoodle等を通してお願いします。なおすぐに返信できない場合もありますので、時間に余裕をもって連絡をしてください。全員への連絡はフォーラム機能を使って行います。
・Moodleの利用についてネットワークやハード面でのトラブルは教員が対応できない場合があります。「ITサービスナビ」などを参照するとともに、所属キャンパスの窓口に相談してください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010047|03|9S91010047[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学生による授業支援入門 03		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

ピア・サポートのピアとは「仲間」を意味しており、職場の同僚などもそれに当たります（日本ピア・サポート学会）。ピア・サポートの考え方は欧米を中心に発展しており、高等教育においては「学生に対して教育サービスを提供するために選ばれ、そして訓練された学生によるピア・リーダーシッププログラム」（山田、2005）など様々に展開されています。そのようなプログラムに従事する学生を育成する訓練や研修には大学組織や教授・学習に関する知識だけでなく、基盤となるコミュニケーション能力の育成が不可欠です。

この授業では、ピア・サポートに関する基礎的な知識、支援対象である学生の特徴をつかむための基本的な青年期発達理論、基礎的なコミュニケーション技能など、ピア・サポート等に従事する学生に求められる能力を、受講者同士あるいは教員や外部講師を交えた意見交換も行いながら習得することを目指します。大学教育やピア・サポートに関心のある学生、TAに従事する学生など、実際にピア・サポートを実践する意欲のある学生の皆さんの受講を歓迎します。

授業内ではパソコンあるいはスマホなどのモバイル端末を使用する場合がありますので、その場合は各自で準備してください。また、準備学習・事後学習はWasedaMoodleを使用します。

授業の到達目標：

1. ピア・サポートの理念や目的、自大学における各種ピア・サポートの仕組みについて簡潔に述べることができる。
2. ピア・サポートに求められるコミュニケーションや問題解決等に関わる知識と技能を習得する。
3. ピア・サポートに関心を持ち、実際に取り組もうとする。

事前・事後学習の内容：

各回の授業内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：オリエンテーション

1)自己紹介、授業の到達目標と概要の説明、受講上の留意点等の確認
2)基本的な教授・学習理論について取り上げる。
3)ピア・サポートのイメージの共有を通して、大学におけるピア・サポートについて考える。
4)準備学習課題①の説明
5）事後学習①：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第2回：自大学を知る

1）準備学習課題①の発表と共有を通して、自大学の学習支援組織を知る。
2）学生相互に支援経験を共有する。
3)事後学習②：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第3回：青年期とピア・サポート

1）基本的な発達の理論について理解する。
2）国内外の大学におけるピア・サポートの取り組みを取り上げる。
3) 事後学習③：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。
4）小テスト①の実施

第4回：コミュニケーションを学ぶ①

◎テーマ：相手の話を受容的に聞く力（傾聴）
1）カウンセリング技法である「来談者中心療法」を取り上げる。
2）グループワークを通して「傾聴」のためのスキルを身に着ける。（ワークシート作成）
3) 事後学習④：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第5回:コミュニケーションを学ぶ②

◎テーマ:相手のモチベーションを上げる話し方(ほめ言葉)
1)教育的コミュニケーションについて理解する。
2)グループワークを通して相手を意欲的にする話し方のスキルを身に着ける。(ワークシート作成)
3) 準備学習課題②の説明
4)事後学習⑤:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第6回:コーチングを学ぶ

◎外部講師(予定)
1)準備学習課題②を踏まえてコーチングとはどのようなものかを理解する。
2)外部講師との意見交換やグループワークを通してコーチングの基礎的なスキルを身に着ける。
3)準備学習課題②の発表と共有。
4)事後学習⑥:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第7回:まとめと振り返り

1)コンセプトマップを用いてコースでの学びについてまとめを行う。
2)授業の到達目標と自身の学習目標の達成度の自己評価・相互評価を行う(ペア/グループワーク)
3)事後学習⑦:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。
4)小テスト②の実施

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献:
・山田礼子『一年次(導入)教育の日米比較』、東信堂、2005
・松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編著『ディープ・アクティブラーニング』、勁草書房、2015
・日本ピア・サポート学会企画、春日井敏之・増田梨花・池雅之編著『大学でのピア・サポート入門 始める・進める・深める』、ほんの森出版、2020
・E.F.Barkley, K.P.Cross,& C.H.Major 緒、安永悟監訳『協同学習の技法－大学教育の手引き』、ナカニシヤ出版、2009
・林徳治編著『相互理解を深めるコミュニケーション実践学(改訂版)』、ぎょうせい、2010
・エリザベス＝バークレイ、パトリシア＝クロス、クレア・メジャー著、安永悟監訳『協同学習の技法－大学教育の手引き』、ナカニシヤ出版、2009
ほか、各回の授業において、関連文献等を紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

平常点評価: 70 準備学習課題の提出(2回 30%)、演習ワークシートの提出(10%×2回)、事後学習(20% ルーブリックに基づき評価します)

その他: 30 小テスト(2回 20%)、コンセプトマップの提出(10% ルーブリックに基づき評価します)

備考・関連URL:
・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合は授業内で周知します。
・欠席や公欠等の授業内ルールは大学の規定に従います。
・遅刻はできるだけしないようにしましょう。授業途中からの参加は他の受講生の妨げになりますし、グループワークへの参加が難しくなる場合があります。

・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010047|04|9S91010047[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学生による授業支援入門 04		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【オンライン】リアルタイム配信
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

ピア・サポートのピアとは「仲間」を意味しており、職場の同僚などもそれに当たります（日本ピア・サポート学会）。ピア・サポートの考え方は欧米を中心に発展しており、高等教育においては「学生に対して教育サービスを提供するために選ばれ、そして訓練された学生によるピア・リーダーシッププログラム」（山田、2005）など様々に展開されています。そのようなプログラムに従事する学生を育成する訓練や研修には大学組織や教授・学習に関する知識だけでなく、基盤となるコミュニケーション能力の育成が不可欠です。

この授業では、ピア・サポートに関する基礎的な知識、支援対象である学生の特徴をつかむための基本的な青年期発達理論、教授法やアクティブラーニングに関する知識、基礎的なコミュニケーション技能など、ピア・サポート等に従事する学生に求められる能力を、オンデマンド授業（講義動画の視聴）とリアルタイム配信授業（Zoomでの対面授業）によって習得することを目指します。大学教育やピア・サポートに関心のある学生、TAに従事する学生など、実際にピア・サポートを実践する意欲のある学生の受講を歓迎します。

この授業はWasedaMoodleを使って講義動画を配信するオンデマンド授業とZoomでのリアルタイム配信授業を組み合わせて実施します。各自が積極的に講義動画の視聴やリアルタイム配信授業への参加、課題の提出、小テストに取り組むことを期待します。

授業の到達目標：

1. ピア・サポートの理念や目的、大学における各種ピア・サポートの仕組みについて簡潔に述べることができる。
2. ピア・サポートに求められるコミュニケーションや問題解決等に関わる知識・技能を習得する。
3. ピア・サポートに関心を持ち、実際に取り組もうとする。

事前・事後学習の内容：

各回の授業内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：オリエンテーション （オンデマンド）

1)自己紹介、授業の到達目標と概要の説明、受講上の留意点等の確認、個人の学習目標の設定
2)ピア・サポートについて知る。
3）日本の大学における学生参画の現状と課題について取り上げる。
4)100分授業について知る。

第2回：大学授業とアクティブラーニング （オンデマンド）

1）現代の大学授業の動向を理解する。とくにアクティブラーニングを取り上げる。
2）基本的な教授・学習理論について知る。
3)小テスト①の実施と解説

第3回：青年期とピア・サポート （オンデマンド）

1）基本的な発達の理論について理解する。
2）海外の大学におけるピア・サポートの取り組みを取り上げる。
3) 小テスト②の実施と解説

第4回：コミュニケーションを学ぶ （※Zoomでのリアルタイム配信）

◎テーマ：相手の話を受容的に聞く力（傾聴）
1）コミュニケーションの基礎知識を得る。
2）カウンセリング技法である「来談者中心療法」を取り上げる。
3）「傾聴」のためのスキルを身に着ける。（演習：ワークシート提出）

第5回：コーチングを学ぶ① （オンデマンド）

◎外部講師（予定）
1）コーチングとはどのようなものかを理解する。
2）準備学習課題の説明。
3)小テスト③の実施と解説

第6回:コーチングを学ぶ② （※Zoomでのリアルタイム配信）

◎外部講師（予定）
1）準備学習課題の共有と講師からのフィードバック（準備学習課題の提出）
2）コーチングについての振り返りとまとめ。

第7回:まとめと振り返り （オンデマンド）

1)コースでの学びについてまとめと振り返りを行う。
2)コンセプトマップの作成について
3）授業の到達目標と自身の学習目標の振り返りを行う。
4）小テスト④の実施と解説

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献:
・山田礼子『一年次（導入）教育の日米比較』、東信堂、2005
・松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編著『ディープ・アクティブラーニング』、勁草書房、2015
・日本ピア・サポート学会企画、春日井敏之・増田梨花・池雅之編著『大学でのピア・サポート入門　始める・進める・深める』、ほんの森出版、2020
・E.F.Barkley, K.P.Cross,& C.H.Major 緒、安永悟監訳『協同学習の技法－大学教育の手引き』、ナカニシヤ出版、2009
・林徳治編著『相互理解を深めるコミュニケーション実践学（改訂版）』、ぎょうせい、2010
・エリザベス＝バークレイ、パトリシア＝クロス、クレア・メジャー著、安永悟監訳『協同学習の技法－大学教育の手引き』、ナカニシヤ出版、2009
ほか、動画内で関連文献等を紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 50 リアルタイム配信授業への参加と取り組み（準備学習課題提出20%、演習ワークシートの提出10%、演習への参画10%×2）

その他: 50 コンセプトマップの提出（10% ルーブリックに基づき評価します）、小テスト（4回 40%）

備考・関連URL:
・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合はMoodleで周知します。
・第4回と第6回はリアルタイム配信（Zoomでの対面授業）で行いますので、日時や授業回の間違いの無いよう参加してください。Zoomは出欠等の確認のためカメラオンを基本とし、録画をしますのであらかじめ了解をお願いします。録画は成績確定後に消去します。本授業のリアルタイム配信回では、公的および交通・通信トラブル等のやむを得ない理由以外で授業開始後10分経過後の参加は「遅刻」として、20分経過後からの参加は「欠席」として、授業終了前の退出は「早退」として扱いますので留意してください。なお、公欠や交通・通信トラブル等の場合は証明書等の提出が必須となりますので必ず証拠資料を取得しておくようにしましょう。詳しくは第一回のオリエンテーション内で説明します。
・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・小テストは動画公開後3日以内に受けて下さい。課題は動画配信後4日以内にMoodleに提出してください。提出期限等に変更がある場合はMoodle内で周知します。
・授業に関する質問や連絡等はMoodle等を通してお願いします。なおすぐに返信できない場合もありますので、時間に余裕をもって連絡をしてください。全員への連絡はフォーラム機能を使って行います。
・Moodleの利用についてネットワークやハード面でのトラブルは教員が対応できない場合があります。「ITサービスナビ」などを参照するとともに、所属キャンパスの窓口に相談してください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分:　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010048|01|9S91010048[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	大学における教育と学習（応用）　01		
担 当 教 員	井上　史子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

私たちは大学や大学院に所属し、日々勉強や研究を行っています。おそらく、将来大学教員・職員を目指す院生も多数いるでしょう。なかには、大学（院）生という経験を通じて、親や高校の先生から聞いている大学と、実際の大学になにかギャップのようなものを感じてきた学生もいるかもしれません。近年、大学を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。たとえば、大学院生として自身の研究以外に、TAとして学部生への指導や先輩として後輩への支援が求められるケースも増えてきています。さらに、大学教員となるためには、従来は研究能力および業績が採用の際に重視されていましたが、近年は教育者としての力量を問われることも増えています。

本授業は、TAおよび大学教員・職員を志す学生を対象に、「大学における教育と学習」での学びをより発展させ、将来、大学で働く上で必要となる教授・学習および大学組織に関するより幅広い知識や考え方を、最新の高等教育に関する動向や研究も紹介しながら獲得することを目指します。自身の関心に基づき、最終回には各自が大学教育の課題について口頭発表を行います。なお、自身の教育実践力の習得を目指す方は、「教授法実践演習」の受講も推奨します。

授業は対面で実施しますが、授業内でパソコンあるいはスマホなどのモバイル端末を使用する場合がありますので、その場合は各自で準備してください。また、準備学習・事後学習はWasedaMoodleを使用します。

授業の到達目標:

1. 日本の大学における教学マネジメントシステムについて簡潔に説明することができる。
2. 日本の大学におけるファカルティ・ディベロップメントの現状について簡潔に述べることができる。
3. 日本の大学における学生参画の現状と課題について簡潔に述べることができる。
4. 授業での議論等も踏まえて自身が関心をもつ大学教育の課題について他者に分かりやすく説明することができる。

事前・事後学習の内容:

各回の授業内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。

授業計画フリー入力サイン:

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーション

1)自己紹介、授業の概要と到達目標の説明、受講上の留意点等の確認
2)個人の学習目標と発表テーマの設定
3)事後学習①:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第2回:大学の教学マネジメントシステム

1）日本の高等教育制度と教学マネジメントシステムについて理解する。
2）教学改善に向けたPDCAサイクルの構築について取り上げる。
3)準備学習課題①の説明
4） 事後学習②:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第3回:大学教員とFD

1）準備学習課題①の発表と共有
2）ファカルティ・ディベロップメント（FD）の義務化と各大学の取り組みについて取り上げる。
3）大学教員に求められる職能とキャリア形成の概要について理解する。
4） 事後学習③:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第4回:大学教育の動向

1）最新の大学教育の動向について取り上げる。とくにAIを活用した授業の設計と評価を巡る課題について考える。
2）準備学習課題②の説明
3）事後学習④:本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。
4）小テスト①の実施

第5回：大学授業の研究①

1）準備学習課題②の発表と共有を通して、「Scholarship of Teaching and Learning （SoTL）」とはどのようなものか理解する。
2）授業を研究対象とすることによる授業改善への効果について考える。
3)準備学習課題③の説明
4）事後学習⑤：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第6回：大学授業の研究②

1）準備学習課題③の発表と共有を通して、日本の大学における学生参画の現状と課題について考える。
2）「Students as Partners （SaP）」とはどのようなものか理解する。
3) 事後学習⑥：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第7回：大学授業の研究③

1）自身が関心を持つ大学教育の課題について個別に口頭発表を行う。
2）コンセプトマップの提出について
3) 事後学習⑦：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。
4）小テスト②の実施

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献：
・有本章著『大学教授職とFD』、東信堂、2008
・潮木守一著『世界の大学危機－新しい大学像を求めて』、中公新書、2004
・吉見俊哉著『大学は何処へ－未来への設計』、岩波新書、2021
・バーバラ・クロス・ディビス著、香取草之助監訳『授業の道具箱』、東海大学出版会、2002
・佐藤浩章『大学教員の能力開発研究（高等教育シリーズ）』、玉川大学出版部、2023
・ R.J.マルザーノ・J.S.ケンドール著、黒上晴夫・泰山裕訳『教育目標をデザインする』、北大路書房、2013
・ジョナサン・バーグマン、アーロン・サムズ著、山内祐平・大浦弘樹　序文監修、上原裕美子訳『反転授業』、オデッセイコミュニケーションズ; 第1版、2014
・中井俊樹編『大学の組織と運営』、玉川大学出版部、2019
・Dannelle, D. Stevens and Antonia J. Levi,佐藤浩章 監訳、井上敏憲、俣野秀典 訳、『大学教員のためのルーブリック評価入門』、玉川大学出版部、2013
・'What is SoTL ?', Center for Engaged Learning, ELON University, https://www.centerforengagedlearning.org/studying-engaged-learning/what-is-sotl/
ほか、各回の授業において、関連文献等を紹介する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　50　準備学習課題の提出（10%×3回）、事後学習（20%　ルーブリックに基づき評価します）

その他：　50　口頭発表（20%　ルーブリックに基づき評価します）、コンセプトマップの提出（10%　ルーブリックに基づき評価します）、小テスト（10%×2回）

備考・関連URL：
・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合は授業内で周知します。
・欠席や公欠等の授業内ルールは大学の規定に従います。
・遅刻はできるだけしないようにしましょう。授業途中からの参加は他の受講生の妨げになりますし、意見交換への十分な参加が難しくなる場合があります。

・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010048|02|9S91010048[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	大学における教育と学習（応用） 02		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【オンライン】リアルタイム配信
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

私たちは大学や大学院に所属し、日々勉強や研究を行っています。おそらく、将来大学教員・職員を目指す院生も多数いるでしょう。なかには、大学（院）生という経験を通じて、親や高校の先生から聞いている大学と、実際の大学になにかギャップのようなものを感じてきた学生もいるかもしれません。近年、大学を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。たとえば、大学院生として自身の研究以外に、TAとして学部生への指導や先輩として後輩への支援が求められるケースも増えてきています。さらに、大学教員となるためには、従来は、研究能力および業績が採用の際に重視されていましたが、教育者としての力量を問われることも増えています。

本授業では、TAおよび大学教員・職員を志す学生を対象に、「大学における教育と学習」での学びを発展させ、将来、大学で働く上で必要となる教授・学習および大学組織に関するより幅広い知識や考え方を、最新の高等教育に関する動向や研究も紹介しながら獲得することを目指します。なお、自身の教育実践力の習得を目指す方は、「教授法実践演習」の受講も推奨します。

この授業はWasedaMoodleを使って講義動画を配信するオンデマンド授業とZoomでのリアルタイム配信授業を組み合わせて実施します。各自が積極的に講義動画の視聴やリアルタイム配信授業への参加、課題の提出、小テストに取り組むことを期待します。

授業の到達目標：

1. 日本の大学における教学マネジメントシステムについて簡潔に説明することができる。
2. 日本の大学におけるファカルティ・ディベロップメントの現状について簡潔に述べることができる。
3. 日本の大学における学生参画の現状と課題について簡潔に述べることができる。
4. 授業での議論等も踏まえて自分なりにこれからの大学教育のあり方について述べることができる。

事前・事後学習の内容：

各回の動画内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：オリエンテーション （オンデマンド）

1)自己紹介、授業の概要と到達目標の説明、受講上の留意点等の確認
2)個人の学習目標・学習計画の設定
3)「大学における教育と学習」の振り返りと確認を行う。
4）事後学習①：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第2回：大学の教学マネジメントシステム （オンデマンド）

1）日本の高等教育制度と教学マネジメントシステムについて理解する。
2）教学改善に向けたPDCAサイクルの構築について取り上げる。
3)準備学習課題①の説明
4）事後学習②：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。
5）小テスト①の実施

第3回：大学教員とFD （※Zoomでのリアルタイム配信）

1）準備学習課題①の発表と共有
2）ファカルティ・ディベロップメント（FD）の義務化と各大学の取り組みについて取り上げる。
3）大学教員に求められる職能とキャリア形成の概要について理解する。
4) 事後学習③：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第4回：大学教育の動向 （オンデマンド）

1）AIを活用した授業の設計と評価を巡る課題について取り上げる。
2）小テスト②の実施と解説
3）事後学習④：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第5回：大学授業の研究① （オンデマンド）

1）「Scholarship of Teaching and Learning （SoTL）」とはどのようなものか理解する。
2）授業を研究対象とすることによる授業改善への効果について取り上げる。
3)準備学習課題②の説明
4）事後学習⑤：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第6回：大学授業の研究②　（※Zoomでのリアルタイム配信）

1）準備学習課題②の発表と共有を通して、日本の大学における学生参画の現状と課題について考える。
2）「Students as Partners （SaP）」とはどのようなものか理解する。
3）事後学習⑥：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第7回：まとめと振り返り　（オンデマンド）

1）コンセプトマップを用いてコース全体の振り返りと総括を行う。
2）授業全体の振り返りを行う。
3）小テスト③の実施と解説
4）事後学習⑦：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献：
・有本章著『大学教授職とFD』、東信堂、2008
・潮木守一著『世界の大学危機－新しい大学像を求めて』、中公新書、2004
・吉見俊哉著『大学は何処へ－未来への設計』、岩波新書、2021
・バーバラ・クロス・ディビス著、香取草之助監訳『授業の道具箱』、東海大学出版会、2002
・佐藤浩章『大学教員の能力開発研究（高等教育シリーズ）』、玉川大学出版部、2023
・ R.J.マルザーノ・J.S.ケンドール著、黒上晴夫・泰山裕訳『教育目標をデザインする』、北大路書房、2013
・Dannelle, D. Stevens and Antonia J. Levi,佐藤浩章 監訳、井上敏憲、俣野秀典 訳、『大学教員のためのルーブリック評価入門』、玉川大学出版部、2013
・中井俊樹編『大学の組織と運営』、玉川大学出版部、2019
・'What is SoTL ?', Center for Engaged Learning, ELON University, https://www.centerforengagedlearning.org/studying-engaged-learning/what-is-sotl/
ほか、各回の授業において、関連文献等を紹介する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　60　準備学習課題の提出（10%×2回）、リアルタイム配信授業への参画（10%×2回）、事後学習（20%　ルーブリックに基づき評価します）

その他：　40　コンセプトマップの提出（10%　ルーブリックに基づき評価します）、小テスト（10%×3回）

備考・関連URL：
・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合はMoodleで周知します。
・第3回と第6回はリアルタイム配信（Zoomでの対面授業、木曜3限）で行いますので、日時や授業回の間違いの無いよう参加してください。Zoomは出欠等の確認のためカメラオンを基本とし、録画をしますのであらかじめご了解をお願いします。本授業のリアルタイム配信回では、公的および交通・通信トラブル等のやむを得ない理由が無く授業開始後10分経過後の参加は「遅刻」として、20分経過後からの参加は「欠席」として、授業終了前の退出は「早退」として扱いますので留意してください。なお、公欠や交通・通信トラブル等の場合は証明書等の提出が必須となりますので必ず証拠資料を取得しておくようにしましょう。詳しくは第一回のオリエンテーション内で説明します。
・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・小テストは動画公開後3日以内に受けて下さい。準備学習課題は動画公開後4日以内に提出してください。
・授業に関する質問や連絡等はMoodleを通してお願いします。なおすぐに返信できない場合もありますので、時間に余裕をもって連絡をしてください。全員への連絡はフォーラム機能を使って行います。
・Moodleの利用についてネットワークやハード面でのトラブルは教員が対応できない場合があります。「ITサービスナビ」などを参照するとともに、所属キャンパスの窓口に相談してください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010048|03|9S91010048[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	大学における教育と学習（応用） 03		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

私たちは大学や大学院に所属し、日々勉強や研究を行っています。おそらく、将来大学教員・職員を目指す院生も多数いるでしょう。なかには、大学（院）生という経験を通じて、親や高校の先生から聞いている大学と、実際の大学になにかギャップのようなものを感じてきた学生もいるかもしれません。近年、大学を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。たとえば、大学院生として自身の研究以外に、TAとして学部生への指導や先輩として後輩への支援が求められるケースも増えてきています。さらに、大学教員となるためには、従来は研究能力および業績が採用の際に重視されていましたが、近年は教育者としての力量を問われることも増えています。

本授業は、TAおよび大学教員・職員を志す学生を対象に、「大学における教育と学習」での学びをより発展させ、将来、大学で働く上で必要となる教授・学習および大学組織に関するより幅広い知識や考え方を、最新の高等教育に関する動向や研究も紹介しながら獲得することを目指します。自身の関心に基づき、最終回には各自が大学教育の課題について口頭発表を行います。なお、自身の教育実践力の習得を目指す方は、「教授法実践演習」の受講も推奨します。

授業は対面で実施しますが、授業内でパソコンあるいはスマホなどのモバイル端末を使用する場合がありますので、その場合は各自で準備してください。また、準備学習・事後学習はWasedaMoodleを使用します。

授業の到達目標：

1. 日本の大学における教学マネジメントシステムについて簡潔に説明することができる。
2. 日本の大学におけるファカルティ・ディベロップメントの現状について簡潔に述べることができる。
3. 日本の大学における学生参画の現状と課題について簡潔に述べることができる。
4. 授業での議論等も踏まえて自分が関心をもつ大学教育の課題について他者に分かりやすく説明することができる。

事前・事後学習の内容：

各回の授業内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：オリエンテーション

1)自己紹介、授業の概要と到達目標の説明、受講上の留意点等の確認
2)個人の学習目標と口頭発表テーマの設定
3)「大学における教育と学習」の振り返りを行う。
4)事後学習①：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第2回：大学の教学マネジメントシステム

1）日本の高等教育制度と教学マネジメントシステムについて理解する。
2）教学改善に向けたPDCAサイクルの構築について取り上げる。
3)準備学習課題①の説明
4） 事後学習②：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第3回：大学教員とFD

1）準備学習課題①の発表と共有
2）ファカルティ・ディベロップメント（FD）の義務化と各大学の取り組みについて取り上げる。
3）大学教員に求められる職能とキャリア形成の概要について理解する。
4） 事後学習③：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第4回：大学教育の動向

1）最新の大学教育の動向について取り上げる。とくにAIを活用した授業の設計と評価を巡る課題について考える。
2）準備学習課題②の説明
3）事後学習④：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。
4）小テスト①の実施

第5回：大学授業の研究①

1）準備学習課題②の発表と共有を通して、「Scholarship of Teaching and Learning （SoTL）」とはどのようなものか理解する。
2）授業を研究対象とすることによる授業改善への効果について考える。
3)準備学習課題③の説明
4）事後学習⑤：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第6回：大学授業の研究②

1）準備学習課題③の発表と共有を通して、日本の大学における学生参画の現状と課題について考える。
2）「Students as Partners （SaP）」とはどのようなものか理解する。
3) 事後学習⑥：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第7回：まとめと振り返り

1）自身が関心を持つ大学教育の課題について個別に口頭発表を行う。
2）コンセプトマップの提出について
3) 事後学習⑦：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。
4）小テスト②の実施

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献：
・有本章著『大学教授職とFD』、東信堂、2008
・潮木守一著『世界の大学危機－新しい大学像を求めて』、中公新書、2004
・吉見俊哉著『大学は何処へ－未来への設計』、岩波新書、2021
・バーバラ・クロス・ディビス著、香取草之助監訳『授業の道具箱』、東海大学出版会、2002
・佐藤浩章『大学教員の能力開発研究（高等教育シリーズ）』、玉川大学出版部、2023
・ R.J.マルザーノ・J.S.ケンドール著、黒上晴夫・泰山裕訳『教育目標をデザインする』、北大路書房、2013
・ジョナサン・バーグマン、アーロン・サムズ著、山内祐平・大浦弘樹　序文監修、上原裕美子訳『反転授業』、オデッセイコミュニケーションズ; 第1版、2014
・中井俊樹編『大学の組織と運営』、玉川大学出版部、2019
・Dannelle, D. Stevens and Antonia J. Levi,佐藤浩章 監訳、井上敏憲、俣野秀典 訳、『大学教員のためのルーブリック評価入門』、玉川大学出版部、2013
・'What is SoTL ?', Center for Engaged Learning, ELON University, https://www.centerforengagedlearning.org/studying-engaged-learning/what-is-sotl/
ほか、各回の授業において、関連文献等を紹介する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　50　準備学習課題の提出（10%×3回）、事後学習（20%　ルーブリックに基づき評価します）

その他：　50　口頭発表（20%　ルーブリックに基づき評価します）、コンセプトマップの提出（10%　ルーブリックに基づき評価します）、小テスト（20%）

備考・関連URL：
・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合は授業内で周知します。
・欠席や公欠等の授業内ルールは大学の規定に従います。
・遅刻はできるだけしないようにしましょう。授業途中からの参加は他の受講生の妨げになりますし、意見交換への十分な参加が難しくなる場合があります。

・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010048|04|9S91010048[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	大学における教育と学習（応用） 04		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木4時限	授業方法区分	【オンライン】リアルタイム配信
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

私たちは大学や大学院に所属し、日々勉強や研究を行っています。おそらく、将来大学教員・職員を目指す院生も多数いるでしょう。なかには、大学（院）生という経験を通じて、親や高校の先生から聞いている大学と、実際の大学になにかギャップのようなものを感じてきた学生もいるかもしれません。近年、大学を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。たとえば、大学院生として自身の研究以外に、TAとして学部生への指導や先輩として後輩への支援が求められるケースも増えてきています。さらに、大学教員となるためには、従来は、研究能力および業績が採用の際に重視されていましたが、教育者としての力量を問われることも増えています。

本授業では、TAおよび大学教員・職員を志す学生を対象に、「大学における教育と学習」での学びを発展させ、将来、大学で働く上で必要となる教授・学習および大学組織に関するより幅広い知識や考え方を、最新の高等教育に関する動向や研究も紹介しながら獲得することを目指します。なお、自身の教育実践力の習得を目指す方は、「教授法実践演習」の受講も推奨します。

この授業はWasedaMoodleを使って講義動画を配信するオンデマンド授業とZoomでのリアルタイム配信授業を組み合わせて実施します。各自が積極的に講義動画の視聴やリアルタイム配信授業への参加、課題の提出、小テストに取り組むことを期待します。

授業の到達目標:

1. 日本の大学における教学マネジメントシステムについて簡潔に説明することができる。
2. 日本の大学におけるファカルティ・ディベロップメントの現状について簡潔に述べることができる。
3. 日本の大学における学生参画の現状と課題について簡潔に述べることができる。
4. 授業での議論等も踏まえて自分なりにこれからの大学教育のあり方について述べることができる。

事前・事後学習の内容:

各回の動画内で事前・事後学習課題の実施・提出方法等について説明します。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：オリエンテーション （オンデマンド）

1)自己紹介、授業の概要と到達目標の説明、受講上の留意点等の確認
2)個人の学習目標・学習計画の設定
3)「大学における教育と学習」の振り返りと確認を行う。
4）事後学習①：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第2回：大学の教学マネジメントシステム （オンデマンド）

1）日本の高等教育制度と教学マネジメントシステムについて理解する。
2）教学改善に向けたPDCAサイクルの構築について取り上げる。
3)準備学習課題①の説明
4）事後学習②：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。
5）小テスト①の実施

第3回：大学教員とFD （※Zoomでのリアルタイム配信）

1）準備学習課題①の発表と共有
2）ファカルティ・ディベロップメント（FD）の義務化と各大学の取り組みについて取り上げる。
3）大学教員に求められる職能とキャリア形成の概要について理解する。
4) 事後学習③：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第4回：大学教育の動向 （オンデマンド）

1）AIを活用した授業の設計と評価を巡る課題について取り上げる。
2) 小テスト②の実施と解説
3）事後学習④：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第5回：大学授業の研究① （オンデマンド）

1）「Scholarship of Teaching and Learning （SoTL）」とはどのようなものか理解する。
2）授業を研究対象とすることによる授業改善への効果について取り上げる。
3)準備学習課題②の説明
4）事後学習⑤：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第6回：大学授業の研究②　（※Zoomでのリアルタイム配信）

1）準備学習課題②の発表と共有を通して、日本の大学における学生参画の現状と課題について考える。
2）「Students as Partners （SaP）」とはどのようなものか理解する。
3）事後学習⑥：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第7回：まとめと振り返り　（オンデマンド）

1）コンセプトマップを用いてコース全体の振り返りと総括を行う。
2）授業全体の振り返りを行う。
3）小テスト③の実施と解説
4）事後学習⑦：本時を振り返り自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献：
・有本章著『大学教授職とFD』、東信堂、2008
・潮木守一著『世界の大学危機－新しい大学像を求めて』、中公新書、2004
・吉見俊哉著『大学は何処へ－未来への設計』、岩波新書、2021
・バーバラ・クロス・ディビス著、香取草之助監訳『授業の道具箱』、東海大学出版会、2002
・佐藤浩章『大学教員の能力開発研究（高等教育シリーズ）』、玉川大学出版部、2023
・ R.J.マルザーノ・J.S.ケンドール著、黒上晴夫・泰山裕訳『教育目標をデザインする』、北大路書房、2013
・Dannelle, D. Stevens and Antonia J. Levi,佐藤浩章 監訳、井上敏憲、俣野秀典 訳、『大学教員のためのルーブリック評価入門』、玉川大学出版部、2013
・中井俊樹編『大学の組織と運営』、玉川大学出版部、2019
・'What is SoTL ?', Center for Engaged Learning, ELON University, https://www.centerforengagedlearning.org/studying-engaged-learning/what-is-sotl/
ほか、各回の授業において、関連文献等を紹介する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　60　準備学習課題の提出（10%×2回）、リアルタイム配信授業への参画（10%×2回）、事後学習（20%　ルーブリックに基づき評価します）

その他：　40　コンセプトマップの提出（10%　ルーブリックに基づき評価します）、小テスト（10%×3回）

備考・関連URL：
・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合はMoodleで周知します。
・第3回と第6回はリアルタイム配信（Zoomでの対面授業、木曜3限）で行いますので、日時や授業回の間違いの無いよう参加してください。Zoomは出欠等の確認のためカメラオンを基本とし、録画をしますのであらかじめご了解をお願いします。本授業のリアルタイム配信回では、公的および交通・通信トラブル等のやむを得ない理由が無く授業開始後10分経過後の参加は「遅刻」として、20分経過後からの参加は「欠席」として、授業終了前の退出は「早退」として扱いますので留意してください。なお、公欠や交通・通信トラブル等の場合は証明書等の提出が必須となりますので必ず証拠資料を取得しておくようにしましょう。詳しくは第一回のオリエンテーション内で説明します。
・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・小テストは動画公開後3日以内に受けて下さい。準備学習課題は動画公開後4日以内に提出してください。
・授業に関する質問や連絡等はMoodleを通してお願いします。なおすぐに返信できない場合もありますので、時間に余裕をもって連絡をしてください。全員への連絡はフォーラム機能を使って行います。
・Moodleの利用についてネットワークやハード面でのトラブルは教員が対応できない場合があります。「ITサービスナビ」などを参照するとともに、所属キャンパスの窓口に相談してください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010049|01|9S91010049[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	カーボンニュートラル社会に向けた人文科学入門		
担 当 教 員	山本　聡美@河野　貴美子@ホサイン　タニア@嶋崎　尚子@山部　能宜@川瀬　由照@小		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　環境人文学の射程

授業概要:　カーボンニュートラルに関連する人文科学系のテーマを幅広くカバーした科目。
環境人文学の方法を用い、環境と、社会学、文学、哲学、宗教、言語学、文化財学
との関連について領域横断的に学ぶ。

授業の到達目標:　環境人文学の方法と論点を理解する。

事前・事後学習の内容:　毎回、講義の前に1時間程度、講義のテーマに関連するキーワードについて予習をすること。
また、授業終了後には1～2時間程度の事後学習が必要となる。

授業計画フリー入力サイン:　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第１回：総論／環境人文学の射程について（山本）

環境人文学（Ecohumanities）の対象、方法、近年の論点について概説する。また、人文学を通じた社会課題解決に取り組む実践例を、講義担当者が専門とする芸術領域から紹介する。

第2回：環境と近代産業（嶋﨑）

近代社会において産業・労働・地域が環境問題にどう取り組んで来たのか。エネルギー産業を例に社会学での研究と論点を概説する。

第3回：環境文学（河野）

古典文学が長大な時間とともに紡ぎ重ねてきた知、その中でも特に自然と人との関係、環境と社会の関係に対する思考の蓄積に注目し、人文学が現在に有する意義について考える。具体的には、中国の古典文学にみえる問題意識を通して、古典文学研究が現代に有する可能性についても検討を試みる。

第4回：環境と哲学・宗教（小村）

人間と自然のかかわりについて、主にセム的一神教とその周辺の哲学思想を中心に論ずる。世界の構成要素、神と被造物のかかわり、人間とそれ以外の存在の関係などについて、「自然」をテーマとして取り扱う。

第5回：環境と禅（山部）

「少欲知足」を旨とする禅院の生活は、多くのものを所有・消費しなくても我々は充足した人生を送れるということを実地に示すものであろう。そのようなminimalistとも言うべき生活態度が、環境保護に対して果たしうる役割について考察する。

第6回：環境言語学（ホサインタニア）

Environmental linguistics is a new linguistic conception that combines linguistics and natural sciences. It focuses on the mutual relationship between cultural and ecological diversity, documenting linguistic structures and verbal practices by which speakers conceptualize, encode, and transmit knowledge about the natural world. This class will focus on how linguistics and environment are related and how it helps us explore unknown culture and heritage.

第7回：環境と文化財学（川瀬）

絵画・彫刻・工芸品・書跡古文書など、わが国の文化財は、ぜい弱な材質（紙・絹・木など）によって製作されている。こうした文化財は環境変化によって損傷・劣化することが最も多い。文化財の特質と劣化要因、環境変化への対応について学ぶ。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　指定しない。各回の授業において関連文献を紹介する。

参考文献:　各回の授業で紹介する。

成績評価フリー入力サイン:　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	100	毎回の講義ごとに理解度を確認するための小テストを実施し、総合評価する。 小テストの実施にはMoodleを利用する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010050|01|9S91010050[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	カーボンニュートラル社会に向けた社会科学入門（ライフ）		
担 当 教 員	松原 由美@野口 晴子@菊池 馨実@川村 顕@松岡 宏高@古山 周太郎@兪 炳匡		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: カーボンニュートラルに関連する社会科学系のテーマを幅広くカバーした科目。

カーボンニュートラルの実装には、社会への理解が重要である。成熟社会を支える制度が社会保障であり、かつその社会保障の下で生活に密着し欠かせないサービスが、医療、介護、福祉といえよう。さらに心身の健康や心の豊かさにスポーツは大きな影響を与える。本科目では、社会と個人のWell Beingに不可欠な社会保障、医療、介護、福祉、スポーツの現状と課題、今後のあり方について学ぶ。

授業の到達目標: 少子高齢化が進む我が国にとり不可欠な社会保障、医療、介護、福祉、スポーツおよびマネジメントの基礎を理解する。
加えて、カーボンニュートラル社会の実現を念頭に社会科学系の科目履修を進める指標を得る

事前・事後学習の内容: 事前に90分、事後に90分程度の学習を要します。
第7回：松岡宏高『スポーツマネジメントの概念の再検討』（スポーツマネジメント研究、2010年）を読み、それがどのような学問であるのかについてある程度理解しておいてください（2時間程度要する）。
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsm/2/1/2_1_33/_article/-char/ja

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 社会保障法

我が国の社会保障制度の基礎を法的観点から学ぶ。戦後、給付を中心に発展を遂げてきた社会保障制度に相談支援の仕組みが組み込まれつつある現状を、制度の発展過程と法理論の両面から解説する。そのうえで、全世代型社会保障、子ども・子育て支援、勤労者皆保険、医療・介護制度、地域共生社会といった我が国社会保障が抱える現代的諸問題につき学ぶ。

第2回 社会保障論

格差の緩和とそのための再分配機能は、社会保障が担う重要な役割の1つである。では、再分配がどうあるべきかというと、その根底には効率と公平のトレードオフにどう相対するかという命題があることに気づく。特に問題なのは、公平性をどう捉えるかに唯一の解が存在するわけではないという点である。この回では主に経済学的視点に基づき、第1に効率と公平、特に公平に関する議論を概観し、第2に、格差の測定方法と再分配機能について学ぶ。

第3回 社会福祉

社会福祉に関連する事業の評価方法として、先ず費用対便益分析・費用対効果分析の概念を説明する。評価の具体例として新型コロナウイルス・パンデミックにおいて最もリスクの高い高齢者施設の入居者に対する、スクリーニング検査の経済評価研究について詳解する。また、地域から孤立することを予防し、個人の望ましい行動変容を促す新奇の（演劇手法を応用する）健康教育プログラムの理論的背景と潜在的な効果についても解説する。

第4回 医療経済学

本講義では、様々な国の医療制度と医療を取り巻く現状を概観しつつ、准公共財である「医療サービス」のさまざまな特徴を、近代経済学の理論的枠組みを用いて需給両面から多角的・包括的に検討する。また、理論と実際のデータを用いた実証分析との対話を通じて、医療経済学を基盤とした人々の行動変容や、それを応用した政策提言のあり方について考えていく。本講義の主要な目的は、医療経済学の基礎理論とデータ分析を通して、現在の日本の医療現場を取り巻く状況や医療政策に対する課題を客観的に検証する眼差しを身につけることにある。

第5回 地域福祉

本講義では、コミュニティにおける地域福祉の取り組みや生活サポートの場面における自然環境との関わりをテーマとする。特に、自然環境の豊かな地方部で、住民の日々の暮らしに根付いた環境保全の事例や、福祉分野での自然環境資源を活用した取り組みを紹介し、地域循環共生圏が目指す自立・分散型の持続可能な社会に向けて、地域福祉が果たせる役割について考えていく。

第6回　健康福祉マネジメント論

医療、介護、福祉分野のマネジメント全般の基礎について説明する。医療、介護、福祉分野は人の存在意義の発揮を支援する分野であり、共生社会構築により社会の分断を防ぐ役割も期待される。また、事業費の大半が広い意味での公的資金で賄われるという特質を有する。そうした分野における資金、組織、ケア、環境のマネジメントについて、経営分析を軸に学ぶ。

第7回　スポーツ経営

スポーツをすることは私たちの心身を健やかにし、見ることは興奮や感動を通して私たちの心を豊かにする。スポーツは共通の話題となってコミュニケーションを促進する。言葉や文化が違う多様な人々に対しても同じように、スポーツはWell-beingをもたらす。このようなスポーツを人々に提供する仕組みをつくるスポーツ組織のマネジメントやマーケティングについて理解すると同時に、スポーツが広く社会に貢献する方法を検討することを目的とする。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　特になし

参考文献:　第1回:菊池馨実『社会保障再考－〈地域〉で支える－』(岩波新書、2019年)
第2回:駒村康平他『社会政策』(有斐閣、2015年)
小塩隆士『社会保障の経済学　第4版』(日本評論社、2013年)
第3回:兪炳匡『日本再生のための「プランB」― 医療経済学による所得倍増計画』(集英社新書、2021年)
第6回:松原由美『介護事業と非営利組織の経営のあり方－利益の内部留保のあり方を中心に－』(医療文化社、2015年)
第7回:山下秋二他『図とイラストで学ぶ新しいスポーツマネジメント』(大修館書店、2016年)

成績評価フリー入力サイン:　0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験:　100　毎回の講義ごとに理解度を確認するための小テストを実施し、総合評価する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010051|01|9S91010051[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	カーボンニュートラル社会に向けた社会科学入門（国際関係）		
担 当 教 員	萬歳 寛之@中村 英俊@遠矢 浩規@河野 真理子@菊地 朋生@目時 壮浩@根本 直		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: カーボンニュートラルに関連する社会科学系のテーマを幅広くカバーした科目。

具体的には、環境社会科学という新しい融合分野を想定して、環境学と国際関係、国際法、国際環境法、国際協力、国際資本移動、ESGとの融合分野についてテーマを幅広くカバーした科目となっている。

授業の到達目標: カーボンニュートラル社会の実現に向けては、文理を隔てず事象を探求することが必要である。
環境社会学という新しい分野を習得することで、理工系である環境学と社会科学の融合を学び、カーボンニュートラル社会の実現を念頭に社会科学系の科目履修を進める指標を得る。

事前・事後学習の内容: 第5回：国際資本移動：二つ論文Lucas (1990)とGalor (1996)を事前に読むこと。
第6回：ESG（環境、社会、企業統治）：配布資料の中のワークを学習後に行うこと。

その他の講義については授業内容をより深く理解するため、講義のテーマに関連するキーワードについて、事前に購読や調べ学習等を行うこと（2時間程度）。また、授業内容の定着のために、復習として、予習用の学習教材・資料や授業のノートを振り返りつつ、課題を出された場合には、それに取り組むようにすること（2時間程度）。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：国際関係（遠矢）

カーボンニュートラルな世界を「地球公共財」、その実現のための国際協調や体制を「国際公共財」または「国際レジーム」と捉え、国際政治経済学の観点から、それらの財・レジームの供給の問題について説明する。

第2回：国際法（萬歳）

国際法とはどのような法か。環境に関する基本的な国際文書である人間環境宣言や環境と開発に関するリオ宣言などの規範性（法源論）。気候変動対策に関する気候変動枠組条約、京都議定書、パリ協定の解釈はどのように行い、また、それぞれの関係性はどのようなものか（条約法）、これらの論点を取り上げることで、カーボンニュートラルに関する国際法上のルールを理解していくための基礎知識を学んでいく。

第3回：国際環境法（河野）

現在の国際社会においては、人の経済活動の持続可能性を考えるという文脈で、環境の保護・保全をはかる必要がある。国際環境法の規則は、伝統的な国際法の原則を尊重しつつ、環境に関する科学的知見の発展に対応していく必要がある。特に地球全体に関わる環境問題への対応のためには、国際的な協力を実現するための法制度が必要とされる。

第4回：国際協力（中村）

主権国家から成る社会（国際社会）において、なぜ国際協力が進展するのか（しないのか）。カーボンニュートラルに関する国際レジームとして「気候変動レジーム」の事例を取り上げ、京都議定書やパリ協定などによるレジーム変化の政治過程を説明したい。さらに、そのレジーム変化において、主権国家の集合体であるEU（欧州連合）が一つの「国際アクター」として果たした役割も考察したい。

第5回：国際資本移動（菊地）

「なぜ資本は豊かな国から貧しい国に流れないのか」を提唱したルーカスの逆説を国際資本移動に関する最新の実証研究を基に考察する。資本と技術が欧米諸国に集中する中、カーボンニュートラルの課題を各国の所得格差の視点から提起したい。

第6回：ESG（環境、社会、企業統治）（根本）

世界の株式市場で財務数字に反映されない企業の価値に注目して投資先を世界の株式市場で、財務数字には反映されない企業の価値に注目して投資先を選ぶ動きが広がっている。中でも代表的なものは、環境、社会、企業統治への取り組みを評価する「ESG投資」であり、その潮流は欧州から米国、アジアに広がっている。企業が環境保護、カーボンニュートラルの実現といった分野への投資を積極化すれば、企業価値が向上し、投資家のリターンは上昇し、さらに日本経済の成長にもつながる可能性がある。授業では、企業の具体的な事例を基に、今後ESG投資が確かな潮流として根付いていくためには、何が必要なのかを考察する。
またESGを取り入れた経営の実例を学び、自分の所属する組織に対する提案を考える。

第7回：ESG管理会計（目時）
ESGと企業経営を結びつけるESG経営を促進するためには、環境や人的資本などのESGに関するファクターを企業のマネジメントシステムに結び付ける必要がある。本講義では，投資案の評価，業績評価，インセンティブなどのマネジメントシステムにESGをどのように結びつける必要があるのか、事例や最新の研究をもとに解説する。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　第6回：ESG（環境、社会、企業統治）：配布資料を教科書とする。
その他の講義はなし。

参考文献：　第1回：国際関係：インゲ・カールら（編）『地球公共財―グローバル時代の新しい課題』（日本経済新聞出版、1999年）
第5回：国際資本移動：Lucas, Robert E. “Why doesn’t capital flow from rich to poor countries?” American Economic Review 80.2 (1990): 92-96.
Galor, Oded. “Convergence? Inferences from theoretical models.” Economic Journal (1996): 1056-1069.
その他の講義については授業内で提示する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　100　毎回の講義ごとに理解度を確認するための小テストを実施し、総合評価する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010052|01|9S91010052[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	カーボンニュートラル社会に向けた社会科学入門（経済・経営）		
担 当 教 員	下川 哲@有村 俊秀@菊地 朋生@目時 壮浩@入山 章栄@川上 智子@根本 直子@		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: カーボンニュートラルに関連する社会科学系のテーマを幅広くカバーした科目。

具体的には、環境社会科学という新しい融合分野を想定して、環境学と科学技術、イノベーション、経営、マーケティング、経済学による環境問題の解決法、国際資本移動、ESGとの融合分野についてテーマを幅広くカバーした科目となっている。

授業の到達目標: カーボンニュートラル社会の実現に向けては、文理を隔てず事象を探求することが必要である。
環境社会学という新しい分野を習得することで、理工系である環境学と社会科学の融合を学び、カーボンニュートラル社会の実現を念頭に社会科学系の科目履修を進める指標を得る。

事前・事後学習の内容: 毎回、講義の前に1時間程度、講義のテーマに関連するキーワードについて予習をすること。
また、授業終了後には1～2時間程度の事後学習が必要となる。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 科学技術とイノベーション（牧）

新しい技術やアイデアを社会の人々にどのように届けるかを考え、そこで役立つ知識を取り入れながら日々の研究開発に取り組むことの重要性を学ぶ。

第2回 イノベーションと経営（入山）

企業が経営としてイノベーションを生み出す際にどういう視点が必要かを、学術的理論に基づき、実際のビジネスを例にとりながら学ぶ。

第3回 イノベーションとマーケティング（川上）

マーケティングとは何かを知り、イノベーションを成功させるためのマーケティングの必要性を学ぶ。
イノベーションとマーケティングの関係性について事例を交えながら紹介する。

第4回 経済学による環境問題の解決法（有村）

環境問題について、技術だけではなく経済学の視点からの解決策を学ぶ。
市場メカニズムのメリットとデメリットについて、事例を交えて紹介する。

第5回 国際資本移動（菊地）

「なぜ資本は豊かな国から貧しい国に流れないのか」を提唱したルーカスの逆説を国際資本移動に関する最新の実証研究を基に考察する。資本と技術が欧米諸国に集中する中、カーボンニュートラルの課題を各国の所得格差の視点から提起したい。

第6回 ESG（環境、社会、企業統治）（根本）

世界の株式市場で財務数字に反映されない企業の価値に注目して投資先を世界の株式市場で、財務数字には反映されない企業の価値に注目して投資先を選ぶ動きが広がっている。中でも代表的なものは、環境、社会、企業統治への取り組みを評価する「ESG投資」であり、その潮流は欧州から米国、アジアに広がっている。企業が環境保護、カーボンニュートラルの実現といった分野への投資を積極化すれば、企業価値が向上し、投資家のリターンは上昇し、さらに日本経済の成長にもつながる可能性がある。授業では、企業の具体的な事例を基に、今後ESG投資が確かな潮流として根付いていくためには、何が必要なのかを考察する。
またESGを取り入れた経営の実例を学び、自分の所属する組織に対する提案を考える。

第7回 ESG管理会計（目時）

ESGと企業経営を結びつけるESG経営を促進するためには，環境や人的資本などのESGに関するファクターを企業のマネジメントシステムに結び付ける必要があります。本講義では，投資案の評価，業績評価，インセンティブなどのマネジメントシステムに，ESGをどのように結びつける必要があるのか，事例や最新の研究をもとに解説する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし

参考文献: 授業内で提示する。

成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	100	毎回の講義ごとに理解度を確認するための小テストを実施し、総合評価する。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010053|01|9S91010053[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	カーボンニュートラル社会に向けた社会科学入門（人文・学際、公共政策）		
担 当 教 員	下川　哲@有村　俊秀@田中　幹人@黒川　哲志@入山　章栄@川上　智子@牧　兼充@藤		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　カーボンニュートラルに関連する社会科学系のテーマを幅広くカバーした科目。

具体的には、環境社会科学という新しい融合分野を想定して、環境学と、イノベーション、経営、マーケティング、環境法、食と農業、社会論リスクコミュニケーション、経済学による環境問題の解決法との融合分野についてテーマを幅広くカバーした科目となっている。

授業の到達目標：　カーボンニュートラル社会の実現に向けては、文理を隔てず事象を探求することが必要である。
環境社会科学という新しい分野を習得することで、環境学と社会科学の融合を学び、カーボンニュートラル社会の実現を念頭に社会科学系の科目履修を進める指標を得る。

事前・事後学習の内容：　毎回、講義の前に1時間程度、講義のテーマに関連するキーワードについて予習をすること。
また、授業終了後には1～2時間程度の事後学習が必要となる。

授業計画フリー入力サイン：　0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回　イノベーションと経営（入山）
企業が経営としてイノベーションを生み出す際にどういう視点が必要かを、学術的理論に基づき、実際のビジネスを例にとりながら学ぶ。

第2回　イノベーションとマーケティング（川上）
マーケティングとは何かを知り、イノベーションを成功させるためのマーケティングの必要性を学ぶ。
イノベーションとマーケティングの関係性について事例を交えながら紹介する。

第3回　日本のエネルギー政策と環境法（黒川）
エネルギー産業が進むべき方向を考えることにもつながる環境法について知識を深め、エネルギー問題と密接に関連する環境問題への対策がまとめられた法制度について学ぶ。

第4回　カーボンニュートラル社会における持続的な食と農（下川）
「食」を取り巻く問題を紹介し、持続可能な「食」と「農」について世界的な動向と対策および課題について解説する。

第5回　科学技術とイノベーション（牧）
新しい技術やアイデアを社会の人々にどのように届けるかを考え、そこで役立つ知識を取り入れながら日々の研究開発に取り組むことの重要性を学ぶ。

第6回　科学技術のリスクとコミュニケーション（田中）
リスクコミュニケーションの実践を念頭におき、リスクのメッセージを社会に向けて語る際のコツについて、知識を交えながら学ぶ。

第7回　経済学による環境問題の解決法（有村）
環境問題について、技術だけではなく経済学の視点からの解決策を学ぶ。
市場メカニズムのメリットとデメリットについて、事例を交えて紹介する。

言語区分：　0　　日本語　　Japanese

教科書：　なし

参考文献：　授業内で提示する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　100　　毎回の講義ごとに理解度を確認するための小テストを実施し、総合評価する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010054|01|9S91010054[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	カーボンニュートラル社会に向けた自然科学入門（ライフ）		
担 当 教 員	大島 登志男@宮地 元彦@田口 素子@林 直亨@竹山 春子@浜田 道昭@坂内 博子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: カーボンニュートラルに関連する自然科学系のテーマを幅広くカバーした科目。

具体的には、環境自然科学という新しい融合分野を想定して、環境学と生命医科学、脳神経科学、生命物理・合成生物学、バイオインフォマティクス、スポーツ生理学、スポーツセーフティ、スポーツ栄養学との融合分野についてテーマを幅広くカバーした科目となっている。

授業の到達目標: カーボンニュートラル社会の実現に向けては、文理を隔てず事象を探求することが必要である。
環境自然科学という新しい分野を習得することで、環境学と自然科学の融合を学び、カーボンニュートラル社会の実現を念頭に自然科学系の科目履修を進める指標を得る。

事前・事後学習の内容: 毎回、講義の前に1時間程度、講義のテーマに関連するキーワードについて予習をすること。
また、授業終了後には1～2時間程度の事後学習が必要となる。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：生命医科学（大島・竹山）
生命科学とバイオテクノロジーの基礎、医療応用等について概説する。

第2回：脳神経科学（大島）
脳の仕組みとその応用、脳神経系の疾患と治療について、最近の話題を含めて概説する。

第3回：生命物理・合成生物学（坂内）
生物は、省エネルギーで持続的なシステムである。生体分子という部品同士が相互作用した結果、物理・化学法則に従い自発的に形成される高次な組織・機能・振る舞いに注目することで、カーボンニュートラルのヒントとなる知見を身につける。本講義では生物で見られる省エネルギーシステムを紹介し、それをヒトの暮らしに応用する合成生物学の考え方を紹介する。

第4回第4回：バイオインフォマティクス（浜田）
近年の測定・実験技術の急速な発展にともない生命・医学・薬学分野においては大量のデータが蓄積されるようになってきた。そこで重要になるのが人工知能技術などの情報科学を用いたデータ駆動型の研究である。バイオインフォマティクスはこのようなデータ駆動型研究を行う際に必須の研究分野となる。本講義ではバイオインフォマティクス研究の概要と最先端の研究について紹介をおこなう。

第5回：スポーツ生理学（林、宮地）
エネルギー代謝に関する基礎的な知識を学習し、様々な移動手段でのエネルギー消費量について理解する。また、一人ひとりの健康だけでなくプラネタリーヘルスの視点から、人のスポーツ・身体活動やエネルギー代謝に関する生理学的知識を学修する（林、宮地）。

第6回：スポーツセーフティ（細川）
本講義では以下の内容を取り上げる。
·スポーツと安全について（ヒト・モノ・体制の整備）
·暑熱ストレスに対するレジリエンス
·競技スポーツ大会のあり方について（医療サービスの観点から）

第7回：スポーツ栄養学（田口）
カーボンニュートラルの実現には、ライフスタイルをサステナブルなものに変えていくことが不可欠であり、中でも食の取組は大変重要である。環境への影響を考えた持続可能な食の実現を目指す一方で、健康寿命の更なる延伸が課題となっている中、身体活動量にマッチした健康を維持増進できる食生活でなくてはならない。本講義では、一人ひとりが行動変容をするために必要な食とスポーツ栄養の知識について習得する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし

参考文献: 第6回：（スポーツセーフティ）WasedaX: Sport Safety: A Guide to Preventing Sudden Death in Sport
その他の講義については授業内で提示する。

成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験:	90	毎回の講義ごとに理解度を確認するための小テストを課し、総合評価する。
レポート:	10	一部の講義では理解度を確認するためのレポートを課す。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010055|01|9S91010055[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	カーボンニュートラル社会に向けた自然科学入門（国際関係、人文・学際）		
担 当 教 員	守屋 和佳@富永 基樹@松本 淳@山田 和芳@平塚 基志@横沢 正幸@吉竹 晋平@		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: カーボンニュートラルに関連する自然科学系のテーマを幅広くカバーした科目。

具体的には、環境自然科学という新しい融合分野を想定して、環境学と化学（分子）、古気候変動、気候変動と海、森林生態系、生態学、植物機能強化によるバイオマス増産、農業と水資源との融合分野についてテーマを幅広くカバーした科目となっている。

授業の到達目標: カーボンニュートラル社会の実現に向けては、文理を隔てず事象を探求することが必要である。
環境自然科学という新しい分野を習得することで、環境学と自然科学の融合を学び、カーボンニュートラル社会の実現を念頭に自然科学系の科目履修を進める指標を得る。

事前・事後学習の内容: 毎回、講義の前に1時間程度、講義のテーマに関連するキーワードについて予習をすること。
また、授業終了後には1～2時間程度の事後学習が必要となる。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：化学（分子）の視点からみた気候変動（地球温暖化）の基礎事項（松本）

分子レベルで起こる諸過程（黒体放射・赤外線の吸収・温室効果など）から影響を決める諸要因（大気寿命・放射強制力・地球温暖化ポテンシャルなど）までを解説し、カーボンニュートラルを考える前提としての気候変動の基礎事項の習得を目指す。

第2回：地球史を通じた大気中の二酸化炭素濃度の変動と古気候変動（守屋）

46億年前に誕生した地球は、その歴史のなかで様々な表層環境を経験してきた。特に、大気中の二酸化炭素濃度は地球の表層環境に大きな影響を与えてきたことから、二酸化炭素濃度の変遷と古気候変動を概観する。さらに、地球表層の炭素収支に関与する地球のメカニズムについても紹介する。

第3回：気候変動は海にどのような影響を与えているのか？（山田）

気候変動（地球温暖化）による海水温の上昇や、海洋酸性化など海への影響について解説する。また、カーボンニュートラル社会実現のため海洋エネルギーの活用の現状と課題について国際的動向についての理解を深める。

第4回：森林生態系における炭素循環とバイオチャーを用いた炭素隔離（吉竹）

主に森林生態系を対象として、1）炭素循環や純生態系生産量（NEP）について、および2）気候変動緩和策の1つであるバイオ炭を用いた炭素隔離について解説する。

第5回：カーボンニュートラルに向けての生態学的アプローチ（平塚）

気候変動について、Landscape（景観）の構造と機能の関係、及びそれらの変化と人間活動の関係を解説し、生態学的により良い土地利用の在り方について理解を深める。

第6回：植物機能強化によるバイオマス増産の試み（富永）

植物機能強化によるバイオマス増産技術、植物細胞内輸送（原形質流動）の人工的高速化について解説する。

第7回：気候変動の影響と適応、それに対する緩和 ―農業と水資源を対象として―（横沢）

気候変動による影響が見え始めている産業分野を対象として、現状と今後の予測、考えられている適応策と緩和策の具体例を解説することにより、カーボンニュートラル社会の意義と方向性を考える際の枠組みならびに今後の課題について理解を深める。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 第6回：富永基樹（2020）図解よくわかる植物細胞工学 タンパク質操作で広がるバイオテクノロジー. 日刊工業新聞社
その他の講義についてはなし。

参考文献: 第6回：
Tominaga, M. and Ito, K., Curr. Opn. Plant Sci. 27, 104-117 (2015)
Tominaga, M. et al., Dev. Cell 27, 345-352 (2013)
Duan, Z. et al., Plant Biothecnol. (2020)

その他の講義については授業内で提示する。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 100　毎回の講義ごとに理解度を確認するための小テストを実施し、総合評価する。

備考・関連URL:
・「植物の大きさを制御する新たな手法を発見」～植物の原形質流動の本質的な役割を解明～
（http://www.jst.go.jp/pr/announce/20131112/）
・「バイオディーゼル原料植物の成長促進に成功」～遺伝子融合によるモーターたんぱく質の高速化で実験～
（https://www.waseda.jp/top/news/68768）
・「コケミオシンに原形質流動を発生させる機能が備わっていることを発見」～地球温暖化対策につながる「植物の成長促進原理」解明へ～
（https://www.waseda.jp/top/news/69902）
・「生物界で最速のミオシンの発見とその構造解析に成功」～植物の成長促進やナノマシン開発に期待～
（http://www.f.waseda.jp/motominaga/publication.html#sousetsu）
・IPCC assement report AR6
（https://www.ipcc.ch/assessment-report/ar6/）

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010056|01|9S91010056[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術・研究公正概論（人文・社会科学系）（英語授業） O1		
担 当 教 員	吉澤 剛		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

This course encourages participants to deepen their understanding and interests by introducing self-motivating and proactive initiatives for the promotion of research integrity in academic and societal terms, not merely as preventing misconduct but as responsible conduct of research (RCR). It begins by examining fundamental concepts such as science, research, ethics, and responsibility, and exploring the differences between natural sciences and humanities/social sciences, the relationship between researchers and research subjects, and practical challenges within research organisations and evaluation systems. We then consider the nature of research integrity in contemporary topics such as AI, first-person research, and digital humanities. Our focus moves to the significance and challenges of research that is open to diverse people, society, and the future – often termed responsible research and innovation (RRI) – in order to re-examine the current state of academia and research.
This course will be delivered entirely as an on-demand lecture series.

授業の到達目標：

Undergraduate and graduate students engaged in social sciences and humanities will deepen their understanding of responsible research conduct (RCR), critically examine contemporary research environments and society, and develop their own questions and perspectives required of future researchers and professionals. They will internalize that academic and research integrity involves a reflective stance—constantly re-examining what constitutes research and integrity, and continually questioning their own sense of “rightness.”

事前・事後学習の内容：

Read the assigned textbook in advance (3 hours).
Review the main points of each lecture after watching it (1 hour x 7 lectures).
Complete the Japan Society of the Promotion of Sciences e-learning course,“eL CoRE.” (For graduate students) (2 hours).

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

1. What is Research, What is Integrity?

Science is not an established body of intellectual achievement, but an ongoing process in the making. We call this process research, but how does research in the natural sciences differ from research in the social sciences and humanities? Where is the boundary between science and pseudoscience? Why is ethics or integrity necessary in research? What is ethics or integrity in the first place? When learning about research integrity, we delve into the fundamental questions: What is science, research, ethics, or integrity?

2. Ethics and Responsibility as a Researcher

As researchers, we must not only refrain from research misconduct such as fabrication, falsification, or plagiarism, but also learn how to manage conflict of interest and conflict of commitment, and the necessary mindset and approaches to avoid questionable or detrimental research practices. How can we reconcile the ethics and responsibilities of researchers within these good research practices and responsible conduct of research? We also argue the difference between professional responsibility and moral responsibility.

3. Research Practice in Organizations and Communities

Research is now rarely conducted solely by individuals. In most cases, researchers belong to universities or research institutions and must advance their work in teams or groups, supported by academic publishers, funding agencies, and the government. Where the organization of research and big science frequently clash with individual researchers' norms, what exactly is this conflict between the individual and the organization? What can new individual norms help overcome it? In addition to this, we examine more practical challenges such as research data management, research supervision, and harassment within laboratories.

4. Crisis in the Humanities and Ethics in the AI Era

The emergence of generative AI has overturned the long-held belief that “research is conducted by humans.” While using generative AI without disclosure for research, evaluation, or publication clearly lacks integrity, how much may or should we utilize AI? Amidst the myriad ethical issues inherent in AI technology itself, how should not only researchers, but all of us, engage with AI? How might research ethics change by AI? In an era where the methods of evaluation and publication in the humanities and social sciences are being rigorously questioned, we discuss how to update our views on science and ethics

5. Sincerity to Research Subject

Since the humanities and social sciences study humans and society, a correlation between researchers and research subjects is unavoidable. It is insufficient for researchers to conduct research based solely on their own ethical standards; they also bear social accountability and responsibility for the results and outcomes of their research. What considerations are essential in first-person research and disaster area survey? Furthermore, what considerations are required when interacting with or intervening in non-human subjects, such as in archaeology? We will also learn, through case studies, about the appropriate use of statistics to avoid “lying” when quantifying research subjects.

6. Opening Science to Society

Traditionally science was the domain of professional researchers, with English-speaking Western white males holding dominant positions. However, as the progress and significance of science through interdisciplinary and open activities gained recognition, efforts to socially promote this began to spread. At the same time, counter-reactions emerged, leading to renewed questioning of the value of making research more open. Does research that prioritizes diversity, equity, and inclusion constitute reverse discrimination? Do citizen social science, digital humanities, open science, and corporate research threaten the nature of academic research? What does “open” research even mean? Here, we explore research open to the society, considering its considerations and challenges.

7. For the Future of Academia and Society

In the modern era, science exerts significant influence on the society and the world, and the resources invested in science have also grown tremendously. For the while, as evidenced by what is termed the crisis in the humanities, there is societal criticism directed at disciplines that do not immediately yield economic or social value. If academia driven solely by intellectual curiosity is no longer considered sufficient, what is the purpose of academia? In what direction should academia move forward? As the final session of this lecture series, we introduce the concepts and practices of Ethical, Legal, and Social Implications (ELSI) of emerging science and technology, as well as Responsible Research and Innovation (RRI). By envisioning the future of academia and society, we re-examine the very nature of current academic and research integrity.

言語区分: 0 英語 English

教科書: Editing Committee "For the Sound Development of Science", the Japan Society for the Promotion of Science. " For the Sound Development of Science: The Attitude of a Conscience Scientist." JSPS (2015).
This text is available at https://www.jsps.go.jp/english/e-kousei/ethics.html

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験:	50	At the end of each lecture, several multiple-choice questions relating to the lecture content will be administered.
レポート:	30	Short essay (Postgraduate students: approx. 800-1,000 words; Undergraduate students: approx. 400-600 words)
その他:	20	Submission of a certificate of completion of the Japan Society of the Promotion of Sciences e-learning course for Graduate Students,“eL CoRE.”

備考・関連URL: 1. As important notices will be posted in Waseda Moodle, students should be sure to check there regularly.
2. Extension of the lecture viewing period and the retaking of lectures are not permitted.
3. No special arrangement such as the awarding of extra points will be made, regardless of reasons such as personal circumstances.
4. No special arrangement for extending the lecture viewing period will be made, regardless of reasons such as PC trouble /operation error.
5. Students should view all lectures before taking the final comprehension test.
6. All questions and inquiries should be sent by email to the secretariat (researchethics2@list.waseda.jp). Students should not contact the lecturers directly.
※General technical inquiries concerning Waseda Moodle (e.g. viewing difficulty) should be addressed to the IT HelpDesk. To inquire, log in to MyWaseda and access the help desk.
7. Students should check the operating environment of their computer systems before taking the course. The recommended environment for Waseda Moodle is explained at
http://www.waseda.jp/navi/e/services/system/sys_requirements.html

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010056|02|9S91010056[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術・研究公正概論（人文・社会科学系）（英語授業） 02		
担 当 教 員	吉澤 剛		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： This course encourages participants to deepen their understanding and interests by introducing self-motivating and proactive initiatives for the promotion of research integrity in academic and societal terms, not merely as preventing misconduct but as responsible conduct of research (RCR). It begins by examining fundamental concepts such as science, research, ethics, and responsibility, and exploring the differences between natural sciences and humanities/social sciences, the relationship between researchers and research subjects, and practical challenges within research organisations and evaluation systems. We then consider the nature of research integrity in contemporary topics such as AI, first-person research, and digital humanities. Our focus moves to the significance and challenges of research that is open to diverse people, society, and the future – often termed responsible research and innovation (RRI) – in order to re-examine the current state of academia and research.
This course will be delivered entirely as an on-demand lecture series.

授業の到達目標： Undergraduate and graduate students engaged in social sciences and humanities will deepen their understanding of responsible research conduct (RCR), critically examine contemporary research environments and society, and develop their own questions and perspectives required of future researchers and professionals. They will internalize that academic and research integrity involves a reflective stance—constantly re-examining what constitutes research and integrity, and continually questioning their own sense of “rightness.”

事前・事後学習の内容： Read the assigned textbook in advance (3 hours).
Review the main points of each lecture after watching it (1 hour x 7 lectures).
Complete the Japan Society of the Promotion of Sciences e-learning course,“eL CoRE.” (For graduate students) (2 hours).

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

1. What is Research, What is Integrity?

Science is not an established body of intellectual achievement, but an ongoing process in the making. We call this process research, but how does research in the natural sciences differ from research in the social sciences and humanities? Where is the boundary between science and pseudoscience? Why is ethics or integrity necessary in research? What is ethics or integrity in the first place? When learning about research integrity, we delve into the fundamental questions: What is science, research, ethics, or integrity?

2. Ethics and Responsibility as a Researcher

As researchers, we must not only refrain from research misconduct such as fabrication, falsification, or plagiarism, but also learn how to manage conflict of interest and conflict of commitment, and the necessary mindset and approaches to avoid questionable or detrimental research practices. How can we reconcile the ethics and responsibilities of researchers within these good research practices and responsible conduct of research? We also argue the difference between professional responsibility and moral responsibility.

3. Research Practice in Organizations and Communities

Research is now rarely conducted solely by individuals. In most cases, researchers belong to universities or research institutions and must advance their work in teams or groups, supported by academic publishers, funding agencies, and the government. Where the organization of research and big science frequently clash with individual researchers' norms, what exactly is this conflict between the individual and the organization? What can new individual norms help overcome it? In addition to this, we examine more practical challenges such as research data management, research supervision, and harassment within laboratories.

4. Crisis in the Humanities and Ethics in the AI Era

The emergence of generative AI has overturned the long-held belief that “research is conducted by humans.” While using generative AI without disclosure for research, evaluation, or publication clearly lacks integrity, how much may or should we utilize AI? Amidst the myriad ethical issues inherent in AI technology itself, how should not only researchers, but all of us, engage with AI? How might research ethics change by AI? In an era where the methods of evaluation and publication in the humanities and social sciences are being rigorously questioned, we discuss how to update our views on science and ethics

5. Sincerity to Research Subject

Since the humanities and social sciences study humans and society, a correlation between researchers and research subjects is unavoidable. It is insufficient for researchers to conduct research based solely on their own ethical standards; they also bear social accountability and responsibility for the results and outcomes of their research. What considerations are essential in first-person research and disaster area survey? Furthermore, what considerations are required when interacting with or intervening in non-human subjects, such as in archaeology? We will also learn, through case studies, about the appropriate use of statistics to avoid “lying” when quantifying research subjects.

6. Opening Science to Society

Traditionally science was the domain of professional researchers, with English-speaking Western white males holding dominant positions. However, as the progress and significance of science through interdisciplinary and open activities gained recognition, efforts to socially promote this began to spread. At the same time, counter-reactions emerged, leading to renewed questioning of the value of making research more open. Does research that prioritizes diversity, equity, and inclusion constitute reverse discrimination? Do citizen social science, digital humanities, open science, and corporate research threaten the nature of academic research? What does “open” research even mean? Here, we explore research open to the society, considering its considerations and challenges.

7. For the Future of Academia and Society

In the modern era, science exerts significant influence on the society and the world, and the resources invested in science have also grown tremendously. For the while, as evidenced by what is termed the crisis in the humanities, there is societal criticism directed at disciplines that do not immediately yield economic or social value. If academia driven solely by intellectual curiosity is no longer considered sufficient, what is the purpose of academia? In what direction should academia move forward? As the final session of this lecture series, we introduce the concepts and practices of Ethical, Legal, and Social Implications (ELSI) of emerging science and technology, as well as Responsible Research and Innovation (RRI). By envisioning the future of academia and society, we re-examine the very nature of current academic and research integrity.

言語区分: 0 英語 English

教科書: Editing Committee "For the Sound Development of Science", the Japan Society for the Promotion of Science. " For the Sound Development of Science: The Attitude of a Conscience Scientist." JSPS (2015).
This text is available at https://www.jsps.go.jp/english/e-kousei/ethics.html

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験:	50	At the end of each lecture, several multiple-choice questions relating to the lecture content will be administered.
レポート:	30	Short essay (Postgraduate students: 2 topics, approx. 800-1,000 words; Undergraduate students: 1 topic, approx. 400-600 words)
その他:	20	Submission of a certificate of completion of the Japan Society of the Promotion of Sciences e-learning course for Graduate Students,“eL CoRE.”

備考・関連URL: 1. As important notices will be posted in Waseda Moodle, students should be sure to check there regularly.
2. Extension of the lecture viewing period and the retaking of lectures are not permitted.
3. No special arrangement such as the awarding of extra points will be made, regardless of reasons such as personal circumstances.
4. No special arrangement for extending the lecture viewing period will be made, regardless of reasons such as PC trouble /operation error.
5. Students should view all lectures before taking the final comprehension test.
6. All questions and inquiries should be sent by email to the secretariat (researchethics2@list.waseda.jp). Students should not contact the lecturers directly.
※General technical inquiries concerning Waseda Moodle (e.g. viewing difficulty) should be addressed to the IT HelpDesk. To inquire, log in to MyWaseda and access the help desk.
7. Students should check the operating environment of their computer systems before taking the course. The recommended environment for Waseda Moodle is explained at
http://www.waseda.jp/navi/e/services/system/sys_requirements.html

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010057|01|9S91010057[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術・研究公正概論（生命・理工系）（英語授業） O1		
担 当 教 員	吉澤 剛		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： This course encourages participants to deepen their understanding and interests by introducing self-motivating and proactive initiatives for the promotion of research integrity in academic and societal terms, not merely as preventing misconduct but as responsible conduct of research (RCR). It begins by examining fundamental concepts such as science, research, ethics, and responsibility, and exploring the differences between natural sciences and humanities/social sciences, the relationship between researchers and research subjects, and practical challenges within research organisations and evaluation systems. We then consider the nature of research integrity in contemporary topics such as AI, private enterprise, and security. Our focus moves to the significance and challenges of research that is open to diverse people, society, and the future – often termed responsible research and innovation (RRI) – in order to re-examine the current state of academia and research. This course will be delivered entirely as an on-demand lecture series.

授業の到達目標： Undergraduate and graduate students engaged in life sciences and engineering research will deepen their understanding of responsible research conduct (RCR), critically examine contemporary research environments and society, and develop their own questions and perspectives required of future researchers and professionals. They will internalize that academic and research integrity involves a reflective stance—constantly re-examining what constitutes research and integrity, and continually questioning their own sense of “rightness.”

事前・事後学習の内容： Read the assigned textbook in advance (3 hours).
Review the main points of each lecture after watching it (1 hour x 7 lectures).
Complete the Japan Society of the Promotion of Sciences e-learning course,“eL CoRE.” (For graduate students) (2 hours).

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

1. What is Research, What is Integrity?

Science is not an established body of intellectual achievement, but an ongoing process in the making. We call this process research, but how does research in the natural sciences differ from research in the social sciences and humanities? Where is the boundary between science and pseudoscience? Why is ethics or integrity necessary in research? What is ethics or integrity in the first place? When learning about research integrity, we delve into the fundamental questions: What is science, research, ethics, or integrity?

2. Ethics and Responsibility as a Researcher

As researchers, we must not only refrain from research misconduct such as fabrication, falsification, or plagiarism, but also learn how to manage conflict of interest and conflict of commitment, and the necessary mindset and approaches to avoid questionable or detrimental research practices. How can we reconcile the ethics and responsibilities of researchers within these good research practices and responsible conduct of research? We also argue the difference between professional responsibility and moral responsibility.

3. Research Practice in Organizations and Communities

Research is now rarely conducted solely by individuals. In most cases, researchers belong to universities or research institutions and must advance their work in teams or groups, supported by academic publishers, funding agencies, and the government. Where the organization of research and big science frequently clash with individual researchers' norms, what exactly is this conflict between the individual and the organization? What can new individual norms help overcome it? In addition to this, we examine more practical challenges such as lab note-taking, research data management, research supervision, and harassment within laboratories.

4. Replication Crisis and Ethics in the AI Era

The emergence of generative AI has overturned the long-held belief that “research is conducted by humans.” While using generative AI without disclosure for research, evaluation, and publication clearly lacks integrity, how much may or should we utilize AI? Amidst the myriad ethical issues inherent in AI technology itself, how should not only researchers, but all of us, engage with AI? How might research ethics change by AI? In an era where the reproducibility of scientific experiments has become a serious problem and the nature of evaluation and publication is being rigorously questioned, we discuss how to update our views on science and ethics.

5. Sincerity to Research Subject

Before the advent of AI, research was conducted solely by humans. As long as humans conduct research, and as long as they interfere with or intervene their research subjects in the same world, a correlation between researcher and subject inevitably arises. It is insufficient for researchers to conduct research based solely on their own ethical standards; they also bear social accountability and responsibility for the results and outcomes of their research. Through issues such as human subjects research, bioethics and animal welfare, biosafety/biosecurity, dual-use, and national security, we explore how to ensure research integrity in academic and societal terms.

6. Opening Science to Society

Traditionally science was the domain of professional researchers, with English-speaking Western white males holding dominant positions. However, as the progress and significance of science through interdisciplinary and open activities gained recognition, efforts to socially promote this began to spread. At the same time, counter-reactions emerged, leading to renewed questioning of the value of making research more open. Does research that prioritizes diversity, equity, and inclusion constitute reverse discrimination? Do citizen science, open science, and corporate research threaten the nature of academic research? What does “open” research even mean? Here, we explore research open to the society, considering its considerations and challenges.

7. For the Future of Academia and Society

In the modern era, science exerts significant influence on the society and the world, and the resources invested in science have also grown enormously. If academia driven solely by intellectual curiosity is no longer considered sufficient, what is the purpose of academia? In what direction should academia move forward? As the final session of this lecture series, we introduce the concepts and practices of Ethical, Legal, and Social Implications (ELSI) of emerging science and technology, as well as Responsible Research and Innovation (RRI). By envisioning the future of academia and society, we re-examine the very nature of current academic and research integrity.

言語区分: 0 英語 English

教科書: Editing Committee "For the Sound Development of Science", the Japan Society for the Promotion of Science. " For the Sound Development of Science: The Attitude of a Conscience Scientist." JSPS (2015).
This text is available at https://www.jsps.go.jp/english/e-kousei/ethics.html

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 50 At the end of each lecture, several multiple-choice questions relating to the lecture content will be administered.

レポート: 30 Short essay (Postgraduate students: approx. 800-1,000 words; Undergraduate students: approx. 400-600 words)

その他: 20 Submission of a certificate of completion of the Japan Society of the Promotion of Sciences e-learning course for Graduate Students,“eL CoRE.”

備考・関連URL: 1. As important notices will be posted in Waseda Moodle, students should be sure to check there regularly.
2. Extension of the lecture viewing period and the retaking of lectures are not permitted.
3. No special arrangement such as the awarding of extra points will be made, regardless of reasons such as personal circumstances.
4. No special arrangement for extending the lecture viewing period will be made, regardless of reasons such as PC trouble /operation error.
5. Students should view all lectures before taking the final comprehension test.
6. All questions and inquiries should be sent by email to the secretariat (researchethics2@list.waseda.jp). Students should not contact the lecturers directly.
※General technical inquiries concerning Waseda Moodle (e.g. viewing difficulty) should be addressed to the IT HelpDesk. To inquire, log in to MyWaseda and access the help desk.
7. Students should check the operating environment of their computer systems before taking the course. The recommended environment for Waseda Moodle is explained at
http://www.waseda.jp/navi/e/services/system/sys_requirements.html

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010057|02|9S91010057[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術・研究公正概論（生命・理工系）（英語授業） 02		
担 当 教 員	吉澤 剛		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	自然科学科目	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： This course encourages participants to deepen their understanding and interests by introducing self-motivating and proactive initiatives for the promotion of research integrity in academic and societal terms, not merely as preventing misconduct but as responsible conduct of research (RCR). It begins by examining fundamental concepts such as science, research, ethics, and responsibility, and exploring the differences between natural sciences and humanities/social sciences, the relationship between researchers and research subjects, and practical challenges within research organisations and evaluation systems. We then consider the nature of research integrity in contemporary topics such as AI, private enterprise, and security. Our focus moves to the significance and challenges of research that is open to diverse people, society, and the future – often termed responsible research and innovation (RRI) – in order to re-examine the current state of academia and research. This course will be delivered entirely as an on-demand lecture series.

授業の到達目標： Undergraduate and graduate students engaged in life sciences and engineering research will deepen their understanding of responsible research conduct (RCR), critically examine contemporary research environments and society, and develop their own questions and perspectives required of future researchers and professionals. They will internalize that academic and research integrity involves a reflective stance—constantly re-examining what constitutes research and integrity, and continually questioning their own sense of “rightness.”

事前・事後学習の内容： Read the assigned textbook in advance (3 hours).
Review the main points of each lecture after watching it (1 hour x 7 lectures).
Complete the Japan Society of the Promotion of Sciences e-learning course,“eL CoRE.” (For graduate students) (2 hours).

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

1. What is Research, What is Integrity?

Science is not an established body of intellectual achievement, but an ongoing process in the making. We call this process research, but how does research in the natural sciences differ from research in the social sciences and humanities? Where is the boundary between science and pseudoscience? Why is ethics or integrity necessary in research? What is ethics or integrity in the first place? When learning about research integrity, we delve into the fundamental questions: What is science, research, ethics, or integrity?

2. Ethics and Responsibility as a Researcher

As researchers, we must not only refrain from research misconduct such as fabrication, falsification, or plagiarism, but also learn how to manage conflict of interest and conflict of commitment, and the necessary mindset and approaches to avoid questionable or detrimental research practices. How can we reconcile the ethics and responsibilities of researchers within these good research practices and responsible conduct of research? We also argue the difference between professional responsibility and moral responsibility.

3. Research Practice in Organizations and Communities

Research is now rarely conducted solely by individuals. In most cases, researchers belong to universities or research institutions and must advance their work in teams or groups, supported by academic publishers, funding agencies, and the government. Where the organization of research and big science frequently clash with individual researchers' norms, what exactly is this conflict between the individual and the organization? What can new individual norms help overcome it? In addition to this, we examine more practical challenges such as lab note-taking, research data management, research supervision, and harassment within laboratories.

4. Replication Crisis and Ethics in the AI Era

The emergence of generative AI has overturned the long-held belief that “research is conducted by humans.” While using generative AI without disclosure for research, evaluation, and publication clearly lacks integrity, how much may or should we utilize AI? Amidst the myriad ethical issues inherent in AI technology itself, how should not only researchers, but all of us, engage with AI? How might research ethics change by AI? In an era where the reproducibility of scientific experiments has become a serious problem and the nature of evaluation and publication is being rigorously questioned, we discuss how to update our views on science and ethics.

5. Sincerity to Research Subject

Before the advent of AI, research was conducted solely by humans. As long as humans conduct research, and as long as they interfere with or intervene their research subjects in the same world, a correlation between researcher and subject inevitably arises. It is insufficient for researchers to conduct research based solely on their own ethical standards; they also bear social accountability and responsibility for the results and outcomes of their research. Through issues such as human subjects research, bioethics and animal welfare, biosafety/biosecurity, dual-use, and national security, we explore how to ensure research integrity in academic and societal terms.

6. Opening Science to Society

Traditionally science was the domain of professional researchers, with English-speaking Western white males holding dominant positions. However, as the progress and significance of science through interdisciplinary and open activities gained recognition, efforts to socially promote this began to spread. At the same time, counter-reactions emerged, leading to renewed questioning of the value of making research more open. Does research that prioritizes diversity, equity, and inclusion constitute reverse discrimination? Do citizen science, open science, and corporate research threaten the nature of academic research? What does “open” research even mean? Here, we explore research open to the society, considering its considerations and challenges.

7. For the Future of Academia and Society

In the modern era, science exerts significant influence on the society and the world, and the resources invested in science have also grown enormously. If academia driven solely by intellectual curiosity is no longer considered sufficient, what is the purpose of academia? In what direction should academia move forward? As the final session of this lecture series, we introduce the concepts and practices of Ethical, Legal, and Social Implications (ELSI) of emerging science and technology, as well as Responsible Research and Innovation (RRI). By envisioning the future of academia and society, we re-examine the very nature of current academic and research integrity.

言語区分: 0 英語 English

教科書: Editing Committee "For the Sound Development of Science", the Japan Society for the Promotion of Science. " For the Sound Development of Science: The Attitude of a Conscience Scientist." JSPS (2015).
This text is available at https://www.jsps.go.jp/english/e-kousei/ethics.html

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	50	At the end of each lecture, several multiple-choice questions relating to the lecture content will be administered.
レポート:	30	Short essay (Postgraduate students: 2 topics, approx. 800-1,000 words; Undergraduate students: 1 topic, approx. 400-600 words)
その他:	20	Submission of a certificate of completion of the Japan Society of the Promotion of Sciences e-learning course for Graduate Students,“eL CoRE.”

備考・関連URL: 1. As important notices will be posted in Waseda Moodle, students should be sure to check there regularly.
2. Extension of the lecture viewing period and the retaking of lectures are not permitted.
3. No special arrangement such as the awarding of extra points will be made, regardless of reasons such as personal circumstances.
4. No special arrangement for extending the lecture viewing period will be made, regardless of reasons such as PC trouble /operation error.
5. Students should view all lectures before taking the final comprehension test.
6. All questions and inquiries should be sent by email to the secretariat (researchethics2@list.waseda.jp). Students should not contact the lecturers directly.
※General technical inquiries concerning Waseda Moodle (e.g. viewing difficulty) should be addressed to the IT HelpDesk. To inquire, log in to MyWaseda and access the help desk.
7. Students should check the operating environment of their computer systems before taking the course. The recommended environment for Waseda Moodle is explained at
http://www.waseda.jp/navi/e/services/system/sys_requirements.html

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010058|01|9S91010058[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	CSRマネジメント実践		
担 当 教 員	朝日 透@羽生田 慶介		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: CorporateSocial Responsibility(CSR)の経営分析の基礎とCSRへの国内外の取組みを学び、その上で、企業・自治体・国家が2030年までの達成を目指して取り組んでいるSustainableDevelopment Goals(SDGs)やESG(E:環境、S:社会、G:ガバナンス）投資やインパクト投資についての現状と課題を知り、その課題を議論すると共に、その実現や推進に向けて何が必要かなどの洞察する能力を養う。
また、ビジネスにおける社会課題の解決という社会性や公益性の重要度が高まる中で、今後、ルール形成に対してどのように対応するのかを考えたり、国家的イベントについても取り合上げながら、実現可能な各種ビジネスモデルを考察する。
授業形式は対面である。

授業の到達目標: CSRマネジメントの手法の基礎を学び、また拡大するCSRの領域や多様性を考察しながら、その視点からSDGsやESG投資・インパクト投資との関係性や、VUCAの時代と言われる現代において求められる社会課題の解決と新しいビジネスの創出をともに満たす方策を提案できる能力を修得することを目指す。

事前・事後学習の内容: 事前に資料を配布された際には、事前に読み、自身の意見を述べられるように準備する。事業終了後は、授業で学んだことをレビューシートとして提出する。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

◆第1回10月1日(木)13:10－14:50
ビジネスの新潮流：デロイトトーマツが展開するSDGs実現に向けた特徴ある取り組みを通じてSDGsの目的を改めて考える
朝日 透/ゲスト：藤井 麻野 デロイト トーマツ コンサルティング合同会社 マネージングディレクター・執行役員、河内 萌未デロイト トーマツ コンサルティング合同会社 CSRマネージャー

◆第2回10月8日(木)13:10－14:50
グローバル企業のCSRとは：コンプライアンス・コーポレートガバナンス・ステークホルダー・説明責任と世界企業のCSRの現状を考える
朝日 透/ゲスト：丸田 健太郎 KPMGジャパン（あずさ監査法人）常務執行理事 Digital Innovation本部長 パートナー 第5統轄事業部長／公認会計士、鎌田 祥史 株式会社 KPMGForensic & Risk Advisory ディレクター/公認会計士

◆第3回10月15日(木)13:10－14:50
社会課題の解決と平和の実現：社会課題の解決と平和の実現に向けたSDGsピースコミュニケーション活動を紹介する
朝日 透/ゲスト：一木 広治 早稲田大学客員研究院教授／（株）ヘッドライン代表取締役社長／（株）LDHJAPAN顧問／淑徳大学客員教授

◆第4回10月22日(木)13:10－14:50 SDGsの実現とウェルビーイング コンピテンシー「SDGsの実現とウェルビーイング コンピテンシーを高めるための考え方と実践方法を学ぶ」
朝日 透/ゲスト：渡邊 淳司 NTT コミュニケーション科学基礎研究所 上席特別研究員

◆第5回10月29日(木)13:10－14:50：ビジネスと人権「新たな最重要経営アジェンダとしての「ビジネスと人権」を学ぶ」 羽生田 慶介 非常勤講師@グローバルエデュケーションセンター

◆第6回11月12日(木)13:10－14:50：社会課題解決×ルール形成による新市場創出1「企業によるルール形成戦略概論を学ぶ」 羽生田 慶介 非常勤講師@グローバルエデュケーションセンター

◆第7回11月19日(木)13:10－14:50：社会課題解決×ルール形成による新市場創出2「トライセクター（政府・企業・NPO/NGO）連携による新市場創出の事例を学ぶ」 羽生田 慶介 非常勤講師@グローバルエデュケーションセンター

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 配信された講義資料を教科書として使用することがある。

参考文献: なし

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: ・試験0%なし
・レポート50%講義の終了後、1週間以内にレビューシートを提出
・平常点40%授業での質問やグループワークへの積極的な参画及びプレゼンテーションの評価
・その他10%関連するセミナーや講座、学びの動機づけに繋がるイベントに参加し、レポートを提出

備考・関連URL: ＊いかなる理由でも3回以上欠席する(病欠も含む)と単位は取得できません。（欠席は2回まで）
＊3次登録者は、登録後の講義には全て出席しなければ単位取得できません。（未登録の回を含み欠席は2回まで）
＊レビューシートの未提出が3回以上の場合、単位は取得できません。（未提出は2回まで）
必ず期限までに提出すること。期限外に未提出回のレビューシートを提出してもカウントしない。Moodle以外への提出はカウントしない。欠席回のレビューシートを提出してもカウントしない。）
＊学会等の「公的な活動」に伴う講義の欠席については考慮するが、必ず事前に申し出てください。（事後報告は考慮しない）指導教員からの依頼文を求めることがあります。また、公欠は出席扱いとはなりません。
＊問合せがある場合は、担当教員の朝日のメールアドレス（tasahi@waseda.jp）へ連絡すること。

【履修上の注意】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
・2025年度以前に「CSRマネジメント実践　（学部生用）」の単位を修得済みの方は履修できません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010059|01|9S91010059[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Examining Corporate Social Responsibility from a Global Perspective		
担 当 教 員	朝日 透		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木3時限	授業方法区分	【オンライン】リアルタイム配信
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

This course provides afoundational understanding of Corporate Social Responsibility (CSR) managementanalysis and examines both domestic and international approaches to CSR.Building upon this foundation, students will explore the current status andchallenges of initiatives such as the Sustainable Development Goals (SDGs), ESG(Environment, Society, Governance) investment, and impact investment, all ofwhich corporations, municipalities, and nations aim to achieve by 2030.
Through criticaldiscussion, students will develop the ability to generate insights into therequirements for realizing and advancing these initiatives. The course alsoaddresses the growing importance of social responsibility and public interestin business, encouraging students to consider responses to future rule-makingprocesses and to analyze national-level events. Feasible business models willbe evaluated in light of these developments.
Classes will beconducted online.
Guest speakers might be changed.

授業の到達目標：

By the end of the course, students will be able to:
- Acquire fundamental knowledge of CSR management methods.
- Analyze the expanding scope and diversity of CSR.
- Evaluate the relationship between CSR, SDGs, ESG investment, and impact investment.
- Propose strategies that simultaneously address social challenges and foster new business creation in the contemporary VUCA (Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity) environment.

事前・事後学習の内容：

Preparation: Students are expected to read assigned materials in advance and prepare to articulate their own perspectives during class discussions.
Review: Following each session, students must submit a review sheet summarizing key learnings and reflections.

授業計画フリー入力サイン：

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

11/26 第1回：BalancingEnvironmental Sustainability and Economic Growth
Think about BusinessStrategies That Reconcile Environmental Sustainability with Economic Growth.
Guest: TakeshiNakanishi（CEO of CARBON FREECONSULTING CORPORATION）

12/3 第2回：New BusinessDevelopment with DX Implementation
Think about Achievingthe SDGs through New Business Development via DX Implementation.
Guest: Satoshi Okuda（CEO of Primestyle Co.,Ltd.）

12/10第3回：Venture Company andIts Social Responsibilities 1
Thinkabout Social Responsibilities of Venture Company
Guest:Gali Einav (Entrepreneurship Professor of Reichman University: https://www.runi.ac.il/en/faculty/einavgali,LinkedIn: https://jp.linkedin.com/in/gali-einav-phd)/Hila Rom (Managing Partner- Future First fund, Co-founder RUNI ventures)

12/17 第4回：Venture Company andIts Social Responsibilities 2
Think about SocialResponsibilities of Venture Company
Guest: KenichiWatanabe (President and Experience Designer of XPJP Inc.／Visiting Professor ofKyoto University of the Art)

1/7 第5回：SDGs, ESG Investmentand Impact Investment
Think about theRealization of SDGs and the Importance of ESG and Impact Investments
Guest: Moeka Inada（Consultant of Ernst& Young Japan）

1/14 第6回：ESG Investment from aGlobal Perspective
Think about ESGInvestment from a Global Perspective
Guest: Ikko Nakatsuka（Adviser of EARTHINFINITY CO. LTD.／Former Minister ofState for Special Missions in the Cabinet Office／Former Member of the House ofRepresentatives of Japan／Former Representative Directorand President of SBI Smart Energy Co., Ltd.）

1/21 第7回：Venture Company andIts Social Responsibilities 2
Learn Business forSocial Innovation and Well-being Enhancement

Guest: Ibun Hirahara（CEO of HI LLC）

言語区分: 0 英語 English

教科書: Course materials as presentation slides would be given as texts

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: ・Report: 40%Submission of a review sheet detailing learning points and reflections after each session, due within one week after the class
・Class participation: 50%Contribution to class, including comments and questions
・Others: 10%Submission of reflections/feedback after participating in seminars or lectures related to the course content.

備考・関連URL: ・The review sheet byparticipants must be submitted by the 2 day (until Friday) after each lectureand they will be evaluated by faculties and/or guests.
・You have to submitreview sheets of each class to the Moodle.
・Attendance will bechecked by TA and/or the faculty during the lecture. Please show your face onthe zoom screen during the lecture. If not, you are registered to be absent.
・If you are absent fromthe class over twice, and/or if you fail to submit the review sheet more thantwice, you will not be able to get the credit on this course.
・Contribution to thiscourse, e.g., group work, is also evaluated.
＊If you have anyquestion, please send your e-mail to Prof. Asahi (tasahi@waseda.jp).

【履修上の注意/Course Registration Notes】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
This course is offered to both undergraduate and graduate students.
・2025年度以前に「CSRマネジメント実践 （学部生用）」「CSRマネジメント実践」の単位を修得済みの方は履修できません。

Students who have earned credit for "CSR Management" in or before the 2025 academic year are not eligible to enroll in this course.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010060|01|9S91010060[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Data Business Creation		
担 当 教 員	朝日 透@鶴谷 武親		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火6時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

This course invitesguest speakers who are leading innovators—entrepreneurs and professionalschallenging the introduction of new business ventures, services, and socialsystems utilizing cutting-edge technologies such as Web3, Metaverse, NFT, AI,and XR/VR—as well as the investors who support them.
The guests will sharetheir essential mindsets, perspectives, and real-world experiences necessaryfor founding a startup or launching a new business, including their personaljourneys and philosophies.
Students will learn theessential mindsets and perspectives of successful innovators throughinteractive sessions with the guest speakers.
Students will gainmotivation and practical insights for launching their own startups or newbusiness initiatives.
*All classes will begiven in English and in person.
*Guest speakers might bechanged.

授業の到達目標：

Upon completion of this course, students and young researchers who previously had little interest in commercialization or felt discouraged from pursuing such careers will be able to (1) Develop a Challenging Mindset: Cultivate a mindset to take on challenges by experiencing the joy and excitement of entrepreneurship, new business creation, and implementing new social systems, through learning from the real-world experiences of innovators and experts, and (2) Form Concrete Business Visions: Gain a concrete image and practical understanding of what is involved in starting a new venture.

事前・事後学習の内容：

Pre-class Work
Students are expected to read the lecture materials and other relevant documents prior to each class session.

Post-class Work
Students may have the opportunity to practice and implement what they have learned by:
Utilizing the knowledge acquired and the network established in this course.
Conceiving a new business idea and presenting it at workshops, seminars, or competitions organized by the course instructor.

授業計画フリー入力サイン：

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

第1回：Introductionof New Business with AI Technologies 1
Oct 6(Tues)
Toru Asahi,Takechika Tsurutani, and Guest: Under negociation.

第2回：Introductionof New Business with AI Technologies 2
Oct 13(Tues) “Introduction of Conception and Execution Ability of New SpaceBusinesses by DX and Strategic Consulting Talents”
Toru Asahi,Takechika Tsurutani, and Guest: Shingo Horiguchi (CEO of DigitalBlast,Inc.)”

第3回：NewBusiness and Research for Solving Social Issues with Big Data
Oct 20(Tues) “Introduction of New Business and Research for Solving Social Issues Basedon Gig Data Analyses

ToruAsahi, Takechika Tsurutani, and Guest: Naohiro Shichijo (Counsellor andProfessor, Graduate School of Social Data Science and Hitotsubashi BusinessSchool, Hitotsubashi University)

第4回：Web3Technology and Its Business 1
Oct 27(Tues)“Introduction of the Web 3 Strategy of ‘NOT A HOTEL’ ”
Toru Asahi,Takechika Tsurutani, and Guest: Ryo Watanabe (CEO of NOT A HOTEL DAO, Inc.)／IzumiOkamoto (PR and Marketing of NOT A HOTEL DAO, Inc)／NatsumiAoyama (Community Manager of NOT A HOTEL DAO, Inc.) ”

第5回：Web3Technology and Its Business 2
Nov 3(Tues)“Understand the Future of Financial Infrastructure Transitioning fromTraditional Finance”
Toru Asahi,Takechika Tsurutani, and Guest: Tokio Nakamoto (COO of SLASH VISION PTE.LTD.)”

第6回：Introductionof New Business with Complex Technologies of Cyber Security and AI
Nov10(Tues) “Why Have We Launched Big Data Business Based on Complex Technologiesof Cyber Security and AI?”
Toru Asahi,Takechika Tsurutani, and Guest: Hiroki Imabayashi (Co-Founder and CEO ofEAGLYS, Inc.)”

第7回：NewBusiness and Research for Solving Social Issues with Big Data
Nov 17(Tues) “Introduction of New Business of Real Estate Development with AITechnologies”
Toru Asahi,Takechika Tsurutani, and Guest: Yoshimori Ito (Founder and CEO of toggleholdings Inc.)”

言語区分：　0　英語　English

教科書：　Course materials such as presentation slides would be given as texts

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：
・Report:: 40%Submission of a review sheet detailing learning points and reflections after each session, due within one week after the class
・Class participatoin: 50%Contribution to class, including comments and questions
・Others: 10%Submission of reflections/feedback after participating in seminars or lectures related to the course content.

備考・関連URL：
・The review sheet by participantsmust be submitted by 6 days after each lecture and they will be evaluated byfaculties and/or guests.
・You have to submit review sheets ofeach class to the Moodle.
・Attendance will be checked by TAand/or the faculty during the lecture. Please show your face on the zoom screenduring the lecture. If not, you are registered to be absent.
・If you are absent from the classover twice, and/or if you fail to submit the review sheet more than twice, youwill not be able to get the credit on this course.
・Contribution to this course, e.g.,group work, is also evaluated.
＊If you have any question, pleasesend your e-mail to Prof. Asahi (tasahi@waseda.jp).

【履修上の注意/Course Registration Notes】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
This course is offered to bothundergraduate and graduate students.
・2025年度以前に「データビジネスクリエーション　α」「データビジネスクリエーション　α（学部生用）」の単位を修得済みの方は履修できません。
Students who have earned credit for”Data Business Creation alpha” in or before the 2025 academic yearare not eligible to enroll in this course.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010061|01|9S91010061[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Innovation and Technology Fundamentals α		
担 当 教 員	中川 鉄馬@丸山 祐丞@渡邊 哲		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水6時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目(ビジネス創出)	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

This course is designed for students interested in starting a business in the fields of Blockchain, Artificial Intelligence (AI) and IT, Robotics Technology, Space-related Technologies, Medical Technology, and the fusion of these technologies. We will invite guest speakers who are currently active as entrepreneurs and intrapreneurs to share real-world examples and practical experiences of business startup processes and business model creation. Students will learn how to develop effective business models, understand key considerations when launching new ventures, and explore what is necessary to be an innovator in academia and industry.

This is an interactive course that will also incorporate group work for developing and structuring business ideas.

*All classes will be given in English and in person.

*The content, order of lectures, invited guest speakers, and teaching methods are subject to change due to scheduling, speaker availability, or other unavoidable circumstances. Any such changes will be announced via Moodle in advance whenever possible.

授業の到達目標:

This course aims to cultivate future innovators who can:

--- Possess insight into global challenges, an understanding of diverse cultures and history, and knowledge of advancing science and technology.

--- Construct new businesses and lead initiatives by demonstrating effective leadership and involving others in practical implementation.

Furthermore, this lecture is positioned as a key component of a curriculum designed to develop individuals capable of contributing to the resolution of global environmental issues and complex international situations, serving as either entrepreneurs or intrapreneurs.

事前・事後学習の内容:

・Pre-class Assignment: Pre-class assignments may be announced via Moodle.

--- Textbook Reading: The textbook will be required for classes starting from Lecture 5. Students are required to purchase the textbook and read it thoroughly before the fifth lecture.

・Post-class Work:

--- Review Sheet: After each lecture (Lectures 1-7), students must complete a review sheet (approx. 1,500 words) summarizing their learning points, impressions, and personal opinions related to the lecture content.

--- Group Work (Lectures 5-7): In Lectures 5 through 7, groups will be tasked with developing a business idea. Students are expected to engage in thorough group discussions and work on creating presentation materials outside of class hours.

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット(教員による切替可)

授業計画:

Lecture 1: Orientation/Introduction of New Business with Blockchain Technologies (Nakagawa) April 15

OrientationBlockchain Business and Cryptocurrency: Challengeto New Business
Instructor: Kenta Nakagawa (Comprehensive Research Organization, Waseda Univ.)
Guest speaker: Yuto Takei (Information Security Team Manager of Mercari, Inc)

Lecture 2: Startup Challenge 1 (Maruyama) April 22

"How to Start Small and Scale Big", "Find the BEat"
Instructor: Yusuke Maruyama (Co-Founder and CSO of EAGLYS, Inc.)Guest speaker 1: Shiori Yoshida (CEO of Linksenpai, Inc.)
Guest speaker 2: Reika Koike (CEO of Cinderelax Inc.)

Lecture 3: Startup Challenge 2 (Maruyama) April 29

"Business Application on Secure Computing Platform"
Instructor: Yusuke Maruyama (Co-Founder and CSO of EAGLYS, Inc.)

Lecture 4: Introduction of Intrapreneur Challenge (Maruyama) May 13

AI Evolution with Large-Scale SSD and apply on Logistics
Instructor: Yusuke Maruyama (Co-Founder and CSO of EAGLYS, Inc.)Guest speaker 1: Kengo Nakata (Kioxia Co.)
Guest speaker 2: Shota Matsumura (Tsubakimoto Chain Co.)

Lecture 5: How to Build Business Ideas 1 (Watanabe) May 20

Learn How to Build Business Ideas with the BusinessModel Navigator
Instructor: Satoru Watanabe (Senior Partner of Maximize, Inc./Japan Chief Representative of Japan Society of Northern California (JSNC) Japan Office/President of BMI Lab Japan)

Lecture 6: How to Build Business Ideas 2 (Watanabe) May 27

Practice and Group Presentation to Build BusinessIdeas with AI Technologies
Instructor: Satoru Watanabe (Senior Partner of Maximize, Inc./Japan Chief Representative of Japan Society of Northern California (JSNC) Japan Office/President of BMI Lab Japan)

Lecture 7: How to Build Business Ideas 2 (Watanabe) June 3

Practice and Group Presentation to Build BusinessIdeas with AI Technologies
Instructor: Satoru Watanabe (Senior Partner of Maximize, Inc./Japan Chief Representative of Japan Society of Northern California (JSNC) Japan Office/President of BMI Lab Japan)

言語区分: 0 英語 English

教科書: Oliver Gassmann, Karolin Frankenberger, Michaela Csik, "The Business Model Navigator"

参考文献: The following is the Japanese version of the textbook.
--- オリヴァー・ガスマン、カロリン・フランケンバーガー、ミハエラ・チック著、渡邊哲、森田寿翻訳、『ビジネスモデル・ナビゲーター』(翔泳社)

Additional instructions will be provided during lectures as needed.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験:	0	No final examination will be conducted.
レポート:	50	After each lecture, students must submit a "Review sheet" via Moodle by summarizing the lecture content and providing their reflections and opinions in 1,300–1,700 words. (See also following Grading Policy.)
平常点評価:	50	Attendance, active participation, contribution, and engagement in group work will be evaluated. (See also following Grading Policy.)
その他:	0	(Additional) Submission of reflections/feedback after participating in seminars or lectures related to the course content.

備考・関連URL: Grading Policy
--- No final examination will be conducted.
--- After each lecture (Lectures 1–7), students must submit a "Review sheet" via Moodle by summarizing the lecture content and providing their reflections and opinions in 1,300–1,700 words.
*The content of the review sheet will be reflected in the grade. Reviews that are vague or superficial (e.g., "I learned something new," "It was interesting," "It was informative"), that merely summarize the lecture content, or that repeat general statements found on websites or in textbooks will not be evaluated positively.
*The review sheet must be submitted via Moodle by "23:59:00 on the Saturday following the lecture date". Late submissions will not be accepted under any circumstances. Failure to submit or submission of insufficient content will result in point deductions. Submissions by e-mail or by any method other than the designated one will not be accepted. Resubmission is not allowed, even within the submission period. Technical issues (including internet connectivity, device malfunction, or file upload errors) are not considered valid reasons for late submission.
*Submitted review sheets will be checked using a similarity detection system to compare them with websites and other submitted reports. If an unnatural level of similarity exceeding a certain threshold is found with materials from this course (including other sessions), books, papers, or other literature, the student who submitted the report will receive an "F" (fail). If an unnatural level of similarity is found between reports submitted by students in this course, both parties will receive an "F." In addition, excessive reliance on AI-generated content without substantial personal intellectual contribution will also be treated as academic misconduct.
--- Attendance, active participation, contribution, and engagement in group work will be evaluated.
Attendance slips will be distributed and collected at a random time after the lecture begins. Students who are not present in the classroom at the time of distribution and/or collection due to late arrival or early departure will be marked absent.
*Questions and comments directed to guest speakers are highly encouraged. Depending on the quality of the questions or comments, bonus points may be awarded.

Important Notes
--- This course will be conducted in person in the classroom. (However, due to unavoidable circumstances, guest speakers may deliver their lectures online via Zoom or similar platforms.)
--- If a student has three or more absences, they will not receive credit for the course. (A maximum of two absences is permitted, including sessions before official registration.) In particular, students who register during the third registration period must attend all lectures after registration in order to receive credit.
--- If a student fails to submit the review sheet three or more times, they will not receive credit. (Up to two non

submissions are permitted.)
--- As this is an interactive course, requests for online participation will not be accepted. Absences due to official activities (e.g., academic conferences) may be considered, but the instructor must be informed in advance. Post-facto notifications will not be considered. However, such absences will not be treated as official attendance, and a formal letter from the student's academic advisor may be required. Absence due to illness must be supported by official documentation. Personal reasons will not be considered unless accompanied by formal documentation.
--- The lecture venue may be Nihonbashi or Shibuya; transportation costs must be borne by the student. → This academic year, all lectures are scheduled to be held at the Waseda Campus.

Lead Instructor Contact Information
--- Kenta Nakagawa (Comprehensive Research Organization, Waseda Univ.) (kenta.nakagawa "at" aoni.waseda.jp)
*If you have any inquiries about the course, please contact the lead instructor directly by e-mail instead of using the Moodle messaging or chat functions.
*Prof. Toru Asahi (Dean Professor of School of Advanced Science and Engineering, Waseda Univ.) play a supportive role as a coach in the course.

【履修上の注意/Course Registration Notes】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
This course is offered to both undergraduate and graduate students.
・2025年度以前に「イノベーションとテクノロジー基礎　α：人工知能・先端ロボットテクノロジーの基礎とスタートアップを学ぶ」「イノベーションとテクノロジー基礎　α：人工知能・先端ロボットテクノロジーの基礎とスタートアップを学ぶ（学部生用）」の単位を修得済みの方は履修できません。
Students who have earned credit for "Innovation and Technology Start-Up alpha" in or before the 2025 academic year are not eligible to enroll in this course.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010062|01|9S91010062[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Innovation and Technology Practice α		
担 当 教 員	中川 鉄馬@丸山 祐丞@野中 朋美		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水6時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目(ビジネス創出)	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

This course is designed for students interested in starting a business in the fields of Artificial Intelligence (AI) and IT, Robotics Technology, Space-related Technologies, Medical Technology, and the fusion of these technologies.
We will invite guest speakers who are currently active as entrepreneurs and intrapreneurs to share real-world examples and practical experiences of business startup processes and business model creation. Students will learn how to develop effective business models, understand key considerations when launching new ventures, and explore what is necessary to be an innovator in academia and industry.
*All classes will be given in English and in person.
*The content, order of lectures, invited guest speakers, and teaching methods are subject to change due to scheduling, speaker availability, or other unavoidable circumstances. Any such changes will be announced via Moodle in advance whenever possible.

授業の到達目標：

This course aims to cultivate future innovators who can:
--- Possess insight into global challenges, an understanding of diverse cultures and history, and knowledge of advancing science and technology.
--- Construct new businesses and lead initiatives by demonstrating effective leadership and involving others in practical implementation.
Furthermore, this course is positioned as a key component of a curriculum designed to develop individuals capable of contributing to the resolution of global environmental issues and complex international situations, serving as either entrepreneurs or intrapreneurs.

事前・事後学習の内容：

・Pre-class Assignment: Pre-class assignments may be announced via Moodle.
・Post-class Work:
--- Review Sheet: After each lecture (Lectures 1-7), students must complete a review sheet (approx.1,500 words) summarizing their learning points, impressions, and personal opinions related to the lecture content.
--- Business Idea Development (Lectures 2 & 3): In and after Lectures 2 and 3, students will be tasked with developing a business idea.

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット(教員による切替可)

授業計画：

Lecture 1: Orientation/Introduction of New Business with AI Technologies (Nakagawa)

Orientation
Introduction of New Business Towards Human-AI Co-Evolving Society
Instructor: Kenta Nakagawa (Comprehensive Research Organization, Waseda Univ.)
Guest speaker: Yoichi Matsuyama (Co-Founder and CEO of Equmenopolis, Inc./Associate Research Professor of Perceptual Computing Laboratory, Waseda Univ.)

Lecture 2: Introduction of New Business with AI, Web3, and Blockchain 1 (Nakagawa)

Learn How to Make Effective Plans for New Business with Emerging Technologies as AI, Web3, and Blockchain 1
Instructor: Kenta Nakagawa (Comprehensive Research Organization, Waseda Univ.)
Guest speaker: Yuji Akaba (Managing Director of Breakthrough Partners Inc.)

Lecture 3: Introduction of New Business with AI, Web3, and Blockchain 2 (Nakagawa)

Learn How to Make Effective Plans for New Business with Emerging Technologies as AI, Web3, and Blockchain 2
Instructor: Kenta Nakagawa (Comprehensive Research Organization, Waseda Univ.)
Guest speaker: Yuji Akaba (Managing Director of Breakthrough Partners Inc.)

Lecture 4: Introduction of New Business with Medical Big Data (Maruyama)

Introduction of Challenge to Innovative Business inLife and Medical Sciences with Big Data
Instructor: Yusuke Maruyama (Co-Founder and CSO of EAGLYS, Inc.)
Guest speaker 1: Yasushi Yamamoto (Founder and CEO of Corundum Corp.)
Guest speaker 2: Chieko Mori (CEO of Pheno.AI Japan Ltd.)

Lecture 5: Introduction of Intrapreneur Challenge (Maruyama)

AI Evolution with Large-Scale SSD and apply onLogistics
Instructor: Yusuke Maruyama (Co-Founder and CSO of EAGLYS, Inc.)
Guest speaker 1: Kengo Nakata (Kioxia Co.)
Guest speaker 2: Shota Matsumura (Tsubakimoto Chain Co.)

Lecture 6: Introduction of New Business with Innovative Immersive Device (Maruyama)

Introduction of New Business with InnovativeImmersive Device
Instructor: Yusuke Maruyama (Co-Founder and CSO of EAGLYS, Inc.)
Guest speaker: Kentaro Mihara (Software Director of Celid, Inc.)

Lecture 7: Introduction of New Business with Space Technologies (Nonaka)

Dream and Real Business with Space Technologies
Instructor: Tomomi Nonaka (Professor of School of Creative Science and Engineering, Waseda Univ.)
Guest speaker: Seiko Shirasaka (Dean and Professor of Graduate School of System Design and Management, Keio Univ.)

言語区分: 0 英語 English

教科書: No specific textbook will be designated.

参考文献: Additional instructions will be provided during lectures as needed.

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

試験:	0	No final examination will be conducted.
レポート:	50	After each lecture, students must submit a "Review sheet" via Moodle by summarizing the lecture content and providing their reflections and opinions in 1,300-1,700 words. (See also following Grading Policy.)
平常点評価:	50	Attendance, active participation, contribution, and engagement in group work will be evaluated. (See also following Grading Policy.)
その他:	0	(Additional) Submission of reflections/feedback after participating in seminars or lectures related to the course content.

備考・関連URL:

Grading Policy
--- No final examination will be conducted.
--- After each lecture (Lectures 1-7), students must submit a "Review sheet" via Moodle by summarizing the lecture content and providing their reflections and opinions in 1,300-1,700 words.
*The content of the review sheet will be reflected in the grade. Reviews that are vague or superficial (e.g., "I learned something new," "It was interesting," "It was informative"), that merely summarize the lecture content, or that repeat general statements found on websites or in textbooks will not be evaluated positively.
*The review sheet must be submitted via Moodle by "23:59:00 on the Saturday following the lecture date". Late submissions will not be accepted under any circumstances. Failure to submit or submission of insufficient content will result in point deductions. Submissions by e-mail or by any method other than the designated one will not be accepted. Resubmission is not allowed, even within the submission period. Technical issues (including internet connectivity, device malfunction, or file upload errors) are not considered valid reasons for late submission.
*Submitted review sheets will be checked using a similarity detection system to compare them with websites and other submitted reports. If an unnatural level of similarity exceeding a certain threshold is found with materials from this course (including other sessions), books, papers, or other literature, the student who submitted the report will receive an "F" (fail). If an unnatural level of similarity is found between reports submitted by students in this course, both parties will receive an "F." In addition, excessive reliance on AI-generated content without substantial personal intellectual contribution will also be treated as academic misconduct.
--- Attendance, active participation, contribution, and engagement in group work will be evaluated.
*Attendance slips will be distributed and collected at a random time after the lecture begins. Students who are not present in the classroom at the time of distribution and/or collection due to late arrival or early departure will be marked absent.
*Questions and comments directed to guest speakers are highly encouraged. Depending on the quality of the questions or comments, bonus points may be awarded.

Important Notes
--- This course will be conducted in person in the classroom. (However, due to unavoidable circumstances, guest speakers may deliver their lectures online via Zoom or similar platforms.)
--- If a student has three or more absences, they will not receive credit for the course. (A maximum of two absences is permitted, including sessions before official registration.) In particular, students who register during the third registration period must attend all lectures after registration in order to receive credit.
--- If a student fails to submit the review sheet three or more times, they will not receive credit. (Up to two nor submissions are permitted.)
--- As this is an interactive course, requests for online participation will not be accepted. Absences due to official activities (e.g., academic conferences) may be considered, but the instructor must be informed in advance. Post-facto notifications will not be considered. However, such absences will not be treated as official attendance, and a formal letter from the student's academic advisor may be required. Absence due to illness

must be supported by official documentation. Personal reasons will not be considered unless accompanied by formal documentation.
--- The lecture venue may be Nihonbashi or Shibuya; transportation costs must be borne by the student. → This academic year, all lectures are scheduled to be held at the Waseda Campus.

Lead Instructor Contact Information
--- Kenta Nakagawa (Comprehensive Research Organization, Waseda Univ.) (kenta.nakagawa ″at″ aoni.waseda.jp)
*If you have any inquiries about the course, please contact the lead instructor directly by e-mail instead of using the Moodle messaging or chat functions.
*Prof. Toru Asahi (Dean Professor of School of Advanced Science and Engineering, Waseda Univ.) play a supportive role as a coach in the course.

【履修上の注意/Course Registration Notes】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
This course is offered to both undergraduate and graduate students.
・2025年度以前に「イノベーションとテクノロジー実践　α：人工知能・先端ロボットテクノロジー実践」「イノベーションとテクノロジー実践　α：人工知能・先端ロボットテクノロジー実践　（学部生用）」の単位を修得済みの方は履修できません。
Students who have earned credit for ″Innovation and Technology Practice alpha″ in or before the 2025 academic year are not eligible to enroll in this course.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010063|01|9S91010063[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学びと授業デザインの基礎 01		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

本授業は、「学習」および「学習者」の理解を中心に据えた内容となっています。学習者がどのように理解し、どのような環境や働きかけによって学びが深まるのか──そのプロセスを紐解きながら、学習の成立を支える基本原理を基礎から学びます。授業設計・運営・評価についても、単なる手法の紹介ではなく、「学習者の視点から見てどのように機能するのか」という観点で整理します。学習者の認知過程や動機づけ、学習環境との相互作用を踏まえ、よりよい学びを生み出すための考え方を身につけていきます。さらに、ICT を活用した学習支援についても扱い、オンライン学習やデジタルツールが学習者の理解をどのように支えられるのかを具体的に検討します。教育に関心を持つ学生のみならず、大学での自身の学びをより深く理解したい学生にも受講を推奨します。

授業はフルオンデマンド形式で行います。小テストと最終テストを通して授業内容の理解を確かめながら、「学習者を理解する」という視点を軸に、学びとは何かについて考えることを目指します。

授業の到達目標：

①学習の基本原理の内容を説明できる。
②授業設計・授業運営・学習評価の基本的な考え方と役割を説明できる。
③学習者の学びを支える ICT 活用の方法と特徴を説明できる。

事前・事後学習の内容：

毎回、小テストの受験と復習を課します。具体的な課題はMoodle内で指示をします。

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 人はどのように学ぶのか
①学習とは何か
②事前知識と学習
③知識の構造化
④小テストと授業内容の振り返り

第2回 学びを深める仕組み
①動機づけと学習
②練習と熟達化
③フィードバックと自己調整学習
④小テストと授業内容の振り返り

第3回 情報技術が変える学び
①効果的な学習方法
②情報技術による学習支援
③生成AIと学習
④小テストと授業内容の振り返り

第4回 学習をデザインする
①学びを促す授業の条件
②学習活動をどう設計するか
③教材と学習環境
④小テストと授業内容の振り返り

第5回 学びを引き出す授業の進め方
①学習者の参加を促す工夫
②対話と協働による学び
③学習者支援の方法
④小テストと授業内容の振り返り

第6回 学びを確かめる
①学習を促進する評価とは
②テストとフィードバックの役割
③評価結果の活用
④小テストと授業内容の振り返り

第7回　振り返りとまとめ
①学習の原理と授業
②授業デザイン・授業運営・学習評価の関連
③情報技術時代の学びと授業
④最終テストの実施

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 特に指定しません。

参考文献: 各回の授業の中で紹介します。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 40　最終テスト

平常点評価: 60　小テスト（10%×6回）

備考・関連URL: ・各回の内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合は動画内やMoodleで周知します。
・小テストは授業動画公開後3日以内に受験してください。受験期間を過ぎてからのテスト受験は原則として認められませんので留意してください。
・授業に関する質問や連絡等はMoodleを通してお願いします。なお、すぐに返信できない場合もありますので時間に余裕をもって連絡をしてください。全員への連絡はフォーラム機能を使って行います。
・WasedaMoodleの利用についてネットワークやハード面でのトラブルは教員が対応できない場合があります。「ITサービスナビ」などを参照するとともに、所属キャンパスの窓口に相談をしてください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010064|01|9S91010064[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	デジタルツインに基づく意思決定概論 1		
担 当 教 員	藤本 悠		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本講義では，デジタルツインを現実世界における意思決定を支援するための基盤技術として捉え，その設計原理と構造設計の基本的な考え方を学びます．対象システムをどのように捉え，どの情報を観測し，どのようなモデルを構築して意思決定へと結び付けるかという，一連の設計思想を理解することを目的とします．
また，観測データ，数理モデル，制約条件，制度環境，説明責任など，意思決定を支える様々な要素が相互にどのような関係を持ち，デジタルツイン全体の設計に影響を与えるのかを俯瞰的に学びます．技術的妥当性と社会的妥当性を両立させるための設計思想を理解し，社会課題に応じたデジタルツインを構想するための基礎を身に付けることを目指します．
本講義では，AI，シミュレーション，最適化などの個別技術そのものではなく，それらを意思決定支援のためにどのような考え方で組み合わせ，デジタルツインとして設計するかという「設計原理」に重点を置きます．個別技術の考え方や役割については，後続の「デジタルツインに基づく意思決定概論2」で学びます．

授業の到達目標: - デジタルツインをクライメイトポジティブ社会の実現を支える意思決定支援基盤として説明できる．
- 観測データ・数理モデル・制約条件の役割を説明できる．
- 技術的妥当性と社会的妥当性の関係を理解できる．
- 異なる社会課題に対するデジタルツインの設計原理を説明できる．

事前・事後学習の内容: 授業テーマに関する講義資料に基づく1時間程度の概要予習と講義内容に関する1時間程度の復習を要する．

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：デジタルツインと意思決定支援の考え方
デジタルツインを意思決定支援のための構造モデルとして捉え，その役割と基本的な設計思想を整理する．

第2回：現実世界を抽象化する：モデル化とシステム設計
現実世界をモデルとして表現する考え方を学び，対象システムの抽象化とモデル化の基本を理解する．

第3回：観測データが支えるデジタルツイン：センサ・IoT・気象データ
センサ，IoT，気象データなどの観測情報がデジタルツインの品質や意思決定に与える影響を理解する．

第4回：数理モデルとデータ駆動モデル：それぞれの役割と限界
数理モデルとAIなどのデータ駆動モデルの特徴や限界を比較し，それぞれの適用場面を理解する．

第5回：不確実性を考慮した予測と意思決定
予測に伴う不確実性と，その不確実性を考慮した意思決定の考え方を理解する．

第6回：制約条件・目的関数・トレードオフの考え方
制約条件や目的関数，複数の評価指標の間に存在するトレードオフについて理解する．

第7回：デジタルツイン設計原理の統合と社会課題への適用
これまで学んだ設計原理を整理し，社会課題への適用方法について考察する．

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 40 講義内容を踏まえたレポート

平常点評価: 60 毎回提出するリアクションペーパー

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91010065|01|9S91010065[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	デジタルツインに基づく意思決定概論 2		
担 当 教 員	藤本 悠		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本講義では，デジタルツインに基づく意思決定を実現するための技術要素について学びます．AIによる予測，シミュレーション，最適化，観測データとモデルの統合など，デジタルツインを構成する主要な技術の基本的な考え方と，それぞれが意思決定支援において果たす役割を理解することを目的とします．
また，個々の技術を独立して学ぶのではなく，不確実性や説明可能性，信頼性などを考慮しながら，複数の技術を組み合わせて現実世界の意思決定を支援する仕組みについて俯瞰的に学びます．技術的妥当性と社会的妥当性を両立させるために，それぞれの技術の特徴や限界を理解し，社会課題に応じて適切に活用するための基礎を身に付けることを目指します．
本講義では，デジタルツインを構成する各技術の役割や特徴に重点を置きます。これらの技術を組み合わせた意思決定支援システム全体の設計については，前半科目である「デジタルツインに基づく意思決定概論1」で学びます．

授業の到達目標: - デジタルツインを支える技術要素をクライメイトポジティブ社会への応用と関連付けて理解できる．
- 意思決定のためのAI，シミュレーション，最適化の役割を説明できる．
- 技術的妥当性と社会的妥当性の関係を理解できる．
- 異なる社会課題に対するデジタルツインの技術要素を説明できる．

事前・事後学習の内容: 授業テーマに関する講義資料に基づく1時間程度の概要予習と講義内容に関する1時間程度の復習を要する．

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：AIによる予測とデータ解析
AIを用いた予測・データ解析の基本的な考え方と意思決定支援への活用方法を理解する．

第2回：シミュレーションによる未来予測とシナリオ分析
シミュレーションを用いた将来予測と複数シナリオの比較・評価手法を理解する．

第3回：最適化による意思決定支援
最適化の基本概念を学び，限られた資源の中でより良い意思決定を行う考え方を理解する．

第4回：観測データとモデルの統合：データ同化とモデル更新
観測データとモデルを継続的に統合・更新する考え方を学び，デジタルツインの精度向上の仕組みを理解する．

第5回：説明可能AIと信頼できる意思決定支援
AIによる判断の説明可能性や信頼性，透明性の重要性について理解する．

第6回：デジタルツインの評価と品質保証
デジタルツインの性能や信頼性を評価するための考え方を学び，モデル評価，妥当性検証，品質保証の基本的な考え方を理解する．

第7回：デジタルツインを支える技術の統合と将来展望
AI，シミュレーション，最適化などの技術要素を統合した意思決定支援について整理し，今後の展望を考察する．

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 40 講義内容を踏まえたレポート

平常点評価: 60 毎回提出するリアクションペーパー

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020015|01|9S91020015[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	シェイクスピアと映像		
担 当 教 員	本山 哲人		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:木1時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（映像・表象・芸術）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: Shakespeare and Film Adaptations

授業概要: This class will explore the relationship between literary texts, in particular the plays of Shakespeare, and film adaptations of the text. Some topics that may be discussed include the differences in the media of the printed word, the stage, and the cinema, the notion of fidelity to the text, as well as the historical/social concerns of the time the films were produced. One play will be chosen for the semester; students will read the play closely and discuss some of the main issues. They will also be required to read some critical writings about cinematic representations of Shakespeare's plays, such as by Allardyce Nicholl, Jack Jorgen, Margaret Jane Kidnie, and Richard Burt. Finally, they will watch several screen adaptations and appropriations of the play on their own, discuss the films, and compare them to the text.

The second purpose of this class will be to improve students' communicative ability and study/research skills in English. The class will be conducted entirely in English. Though students may consult Japanese translations of the required reading, they will be expected to participate in classroom discussions and give presentations in English. As the class will revolve around student discussions and presentations, it will be imperative for students to be willing to take part in classroom activities.

For the final paper, students will be asked to read a play other than the one read in class and use the ideas of the critics discussed in class to examine a film adaptation of the play. The paper must be at least 3000 words long and use at least three other non-electronic/digital secondary sources. Students must provide proper citations using a standard stylesheet such as MLA or the Chicago Manual of Style. (If there is any doubt as to whether the final paper was written by the student or by AI, there will also be an oral exam about the paper.)

授業の到達目標: Students will learn how to read and discuss Shakespeare's plays in English. They will also learn how to discuss films and the various issues concerning the adaptation of written texts into film.
This class is particularly recommended for anyone interested in Shakespeare and performance, or film adaptations; it is also recommended for anyone who is preparing for graduate school in the humanities, in an English speaking country.

事前・事後学習の内容: Students will be given reading assignments for each class and asked to prepare discussion points for these. They will also be assigned scenes from the chosen play, on which they will be asked to present. For the second half of the semester, they will be expected to watch on their own the film adaptations; they will choose a film adaptation and have to present on this.

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: The following is a general guideline and may be altered depending on the size of the class and the background of the students. The first two weeks will be a general introduction to Shakespeare and his works. After that, each class will be divided into two sections: the first half hour will focus on various critical writings about performance or cinematic adaptations; this will include Allerdyce Nicoll, Jack J. Jorgens, Margaret Jane Kidnie, and Richard Burt. The remainder of the class will deal with the assigned play or film. Five to six weeks will be spent covering the chosen play; students will be assigned scenes for which they must prepare summary and discussion questions. The following five to six weeks will be spent discussing film adaptations; again, students will be assigned a film and will be expected to lead the discussion about the film. Finally, two to four weeks will be spent on students presenting on other Shakespeare plays and their film adaptations, which should then be developed into a final paper.

言語区分: 0 英語 English

教科書: To be announced in class

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 35 A 3000-word final paper in English, comparing one of Shakespeare's plays not discussed in class, and

a film adaptation of the play. At least three non-digital/electronic secondary sources must be used and proper citations must be provided.

平常点評価:	30	Participation in classroom discussions and projects.
その他:	35	Presentations and homework; there may also be a number of shorter writing assignments throughout the semester.

備考・関連URL: [IMPORTANT] The class will be conducted in-person, but PPT slides will be shared online, so students will need to bring a digital device to class. The handouts and reading material will be distributed on Moodle.Use of AI or translation software in writing the final paper will result in a failing grade for the class.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020027|01|9S91020027[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本語文章と文体の研究 1		
担 当 教 員	坂本 麻裕子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

日本語文章・文体の背景にある思想を読み解く
言（話し言葉）と文（書き言葉）を一致させていく過程で、明治の人々はどのような思想を持ち、また、どのような工夫を考えたのか。

本授業では、近代の「日本語」を作っていく過程での試み・工夫を知ることで、明治時代の思想や言葉に対する考え方を学ぶ。言文一致運動を軸にするが、小説以外のテクストを積極的に取り上げる。文章・文体に関連する事柄を取り上げながら、当時の言葉や文化について理解を深めてゆくという面白い試みである。また、文化学的視点で文章を分析するスキルを磨いていく。
学問分野としては、日本語の歴史、思想史、文学などをまたぐ学際領域に該当する。明治時代に興味関心がある学生はもちろんのこと、文章、書くという行為に興味関心がある学生も大歓迎である。

「日本語文章と文体の研究1」では、主に文体史、当時の社会（日本語の状況）を学ぶ。
「日本語文章と文体の研究2」では、主に日本語に関する様々な明治期テクスト（文章）を用いて背景にある思想を学ぶ。

◇授業は、おおむね以下のように進める（学生主体）。
授業形態は、全回、対面授業である。次の流れで、毎回の授業を進める。（その学期の履修者の進捗によって、調整する場合がある。また、理解を深めるための補足資料として授業内で動画を視聴する場合もある。）
1)事前学修：毎回、新しい文献を読む（実際の明治時代の文献、つまり昔の日本語で書かれた文章を読み、読める範囲で一読してどこまでわかるかを体験する機会を設ける）。事前に読む文献と「分析メモ」（ワークシート）を配布する（授業後、翌週の資料を配布する）。明治時代に関する知識がない人でも読めるように、「分析メモ」には読み解く問いが書かれている。授業当日、記入済の「分析メモ」を持参する。
2)授業当日（水曜日）、持参した「分析メモ」を元に読んだ文献について話し合い、クラス全体で理解内容を共有する。
3)文献に関する専門知識および背景知識を、教員が説明（講義）する。
4)上記の説明を踏まえて、再度クラスでディスカッションする。
5）事後学修：「振り返りシート」に、その回の授業で学んだことや自分の興味関心に沿って考えたことを書く。また、質問やクラス全体に投げかけたい問いを考えて書く。「分析メモ」と「振り返りシート」を、期日（日曜日締め切り）までにMoodle上に提出する。
6)翌週の授業冒頭、「振り返りシート」に書かれた内容を、クラス全体でディスカッションする。

※多様な視点を期待し、専門分野外の学生を歓迎します。
※履修者の興味関心に応じて、内容は調整します。
※留学生も歓迎します。（ただし、毎回様々な日本語文章を読んだり、考えを書いたりすることを求めます。ある程度の日本語レベルが必要です。心配な場合は第一回の授業で相談すること。）

※「日本語文章と文体の研究1」だけの履修も可能です。
※「日本語文章と文体の研究2」を履修する場合は、「1」も履修登録して下さい。

※何か心配な点があればメールで御相談ください。

授業の到達目標: ◇「日本語文章と文体の研究1」では、主に明治時代に関する理解を深めます。
◇「日本語文章と文体の研究2」では、主に明治期の一次資料を読む力を養います。

事前・事後学習の内容: 事前学修：約1時間（次回の授業で扱う文献を読み、「分析メモ」に記入する。）
事後学習：約1時間（「振り返りシート」を書き、その回の授業で学んだことや自分の興味関心に沿って意見を書く。また、質問やクラス全体に投げかけたい問いを考えて書く。）
合計 約2時間

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

1: ガイダンス

本授業の目的や概要、成績評価などについて説明する。

2: 言語と思想、日本語の歴史／文体史の基礎①
文体史に関する論考を読み、基礎知識を学ぶ。

3: 言語と思想、日本語の歴史の基礎②：言文一致運動の創成期（混沌時期）に焦点を当てる
文体史に関する論考を読み、基礎知識を学ぶ。

4: 言語と思想、日本語の歴史の基礎③：言文一致運動の創成期（混沌時期）に焦点を当てる
文体史に関する論考を読み、基礎知識を学ぶ。

5: 前島密『漢字御廃止之義』
当時に関する映像や文献を通して、言文一致に関する背景・思想を学ぶ。ディスカッション。
[キーワード]前島密『漢字御廃止之義』

6: 江戸時代の「書き言葉」「話し言葉」
当時に関する映像や文献を通して言文一致に関する背景・思想を学ぶ。ディスカッション。
[キーワード]江戸時代の教育制度、そこでの「書くこと」「読むこと」。

7: 福沢諭吉「世俗通用の俗文」
当時に関する映像や文献を通して言文一致に関する背景・思想を学ぶ。ディスカッション。
[キーワード]福沢諭吉「世俗通用の俗文」

_____
※第1回の事前学修と事後学修は、以下の通りです。
事前学修：シラバスを読んでくる。
事後学修：配布されたすべての資料に目を通して、「振り返りシート」を書き、期日までに提出する。

※第2回以降の事前学修と事後学修は、以下の通りです。（毎回）
事前学修：授業で扱う文献を読んで「分析メモ」に気づいた点を記入し、授業当日に持参する。

事後学修：授業や配布資料を踏まえて「振り返りシート」を書く。期日までに「分析メモ」と「振り返りシート」を提出する。

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 授業者が作成したプリント配布します。
（底本として、山本正秀（1965）『近代文体発生の史的研究』岩波書店を用います。）

参考文献： 随時、授業中に関連図書を紹介します（書誌情報は、講義ノートに明記します）。

成績評価フリー入力サイン： 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート： 44 第4回で課題を提示します。授業を踏まえてテーマを決めて論じてもらいます。授業で学んだり考えたりした事柄と関連付けて、深く考察しているかを評価します。

【内訳】44点満点

平常点評価： 56 ・「文献メモ」を踏まえて発表します。授業後に「分析メモ」を提出します。そこから授業への積極性を評価します。（3点）
・「振り返りシート」を提出します。そこから、授業の理解度を評価します。（3点）
・授業内での発表、質疑応答、ディスカッションへの貢献度を評価します。（2点）

【内訳】全7回×8点

備考・関連URL：

＊感想や意見を書いた「振り返りシート」に対して、翌週の授業で教員からコメントを付けて返却したり、全体で共有したりします。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020028|01|9S91020028[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	日本語文章と文体の研究 ２		
担 当 教 員	坂本 麻裕子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

日本語文章・文体の背景にある思想を読み解く
言（話し言葉）と文（書き言葉）を一致させていく過程で、明治の人々はどのような思想を持ち、また、どのような工夫を考えたのか。

本授業では、近代の「日本語」を作っていく過程での試み・工夫を知ることで、明治時代の思想や言葉に対する考え方を学ぶ。言文一致運動を軸にするが、小説以外のテクストを積極的に取り上げる。文章・文体に関連する事柄を取り上げながら、当時の言葉や文化について理解を深めてゆくという面白い試みである。また、文化学的視点で文章を分析するスキルを磨いていく。
学問分野としては、日本語の歴史、思想史、文学などをまたぐ学際領域に該当する。明治時代に興味関心がある学生はもちろんのこと、文章、書くという行為に興味関心がある学生も大歓迎である。

「日本語文章と文体の研究1」では、主に文体史、当時の社会（日本語の状況）を学ぶ。
「日本語文章と文体の研究2」では、主に日本語に関する様々な明治期テクスト（文章）を用いて背景にある思想を学ぶ。

◇授業は、おおむね以下のように進める（学生主体）。
　授業形態は、全回、対面授業である。次の流れで、毎回の授業を進める。（その学期の履修者の進捗によって、調整する場合がある。また、理解を深めるための補足資料として授業内で動画を視聴する場合もある。）
1)事前学修：毎回、新しい文献を読む（実際の明治時代の文献、つまり昔の日本語で書かれた文章を読み、読める範囲で一読してどこまでわかるかを体験する機会を設ける）。事前に読む文献と「分析メモ」（ワークシート）を配布する（授業後、翌週の資料を配布する）。明治時代に関する知識がない人でも読めるように、「分析メモ」には読み解く問いが書かれている。授業当日、記入済の「分析メモ」を持参する。
2)授業当日（水曜日）、持参した「分析メモ」を元に読んだ文献について話し合い、クラス全体で理解内容を共有する。
3)文献に関する専門知識および背景知識を、教員が説明（講義）する。
4)上記の説明を踏まえて、再度クラスでディスカッションする。
5）事後学修：「振り返りシート」に、その回の授業で学んだことや自分の興味関心に沿って考えたことを書く。また、質問やクラス全体に投げかけたい問いを考えて書く。「分析メモ」と「振り返りシート」を、期日（日曜日締め切り）までにMoodle上に提出する。
6)翌週の授業冒頭、「振り返りシート」に書かれた内容を、クラス全体でディスカッションする。

※多様な視点を期待し、専門分野外の学生を歓迎します。
※履修者の興味関心に応じて、内容は調整します。
※留学生も歓迎します。（ただし、毎回様々な日本語文章を読んだり、考えを書いたりすることを求めます。ある程度の日本語レベルが必要です。心配な場合は第一回の授業で相談すること。）

※「日本語文章と文体の研究1」だけの履修も可能です。
※「日本語文章と文体の研究2」を履修する場合は、「1」も履修登録して下さい。
※何か心配な点があればメールで御相談ください。

授業の到達目標: ◇「日本語文章と文体の研究1」では、主に明治時代に関する理解を深めます。
◇「日本語文章と文体の研究2」では、主に明治期の一次資料を読む力を養います。

事前・事後学習の内容: 事前学修：約1時間（次回の授業で扱う文献を読み、「分析メモ」に記入する。） ＊第3回は発表準備。
事後学修：約1時間（「振り返りシート」を書き、その回の授業で学んだことや自分の興味関心に沿って意見を書く。また、質問やクラス全体に投げかけたい問いを考えて書く。）
合計 約2時間

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 1: 雑誌上の言文一致改良意見
当時に関する映像や文献を通して、言文一致に関する背景・思想を学ぶ。ディスカッション。
[キーワード]明六雑誌

2: 新聞の談話体文体
当時に関する映像や文献を通して、言文一致に関する背景・思想を学ぶ。ディスカッション。
[キーワード]「大新聞」「小新聞」

3: 春レポートの共有、レポートの引用指南（剽窃防止）
春レポートの内容を発表・共有し、互いに学びあう。ディスカッション。その後、本授業レポートにおける引用に関するポイントを講義する。

4: 速記出版物の言文一致促進
当時に関する映像や文献を通して、言文一致に関する背景・思想を学ぶ。ディスカッション。
[キーワード]三遊亭圓朝

5: かな文字論者の主張
当時に関する映像や文献を通して、言文一致に関する背景・思想を学ぶ。ディスカッション。
[キーワード]「かなのくわい」

6: ローマ字論者の主張
当時に関する映像や文献を通して、言文一致に関する背景・思想を学ぶ。ディスカッション。
[キーワード]「RomajiZashi」

7: 小説における言文一致
当時に関する映像や文献を通して、言文一致に関する背景・思想を学ぶ。ディスカッション。
[キーワード]二葉亭四迷

_____
※第3回の事前学修と事後学修は以下の通りです。
事前学修：発表の準備をする。
事後学修：授業を踏まえて「振り返りシート」を書く。期日までに「振り返りシート」を提出する。

※第1回、2回、4回、5回、6回、7回の事前学修と事後学修は、以下の通りです。
事前学修：授業で扱う文献を読んで「分析メモ」に気づいた点を記入し、授業当日に持参する。
事後学修：授業や配布資料を踏まえて「振り返りシート」を書く。期日までに「分析メモ」と「振り返りシート」を提出する。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　授業者が作成したプリント配布します。
（底本として、山本正秀（1965）『近代文体発生の史的研究』岩波書店を用います。）

参考文献：　随時、授業中に関連図書を紹介します（書誌情報は、講義ノートに明記します）。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　44　第4回で課題を提示します。授業を踏まえてテーマを決めて論じてもらいます。授業で学んだり考えたりした事柄と関連付けて、深く考察しているかを評価します。

【内訳】44点満点

平常点評価：　56　・「文献メモ」を踏まえて発表します。授業後に「分析メモ」を提出します。そこから授業への積極性を評価します。（3点）　＊第3回は発表準備に置き換えます。
・「振り返りシート」を提出します。そこから、授業の理解度を評価します。（3点）
・授業内での発表、質疑応答、ディスカッションへの貢献度を評価します。（2点）

【内訳】全7回×8点

備考・関連URL：　「2」を履修したい場合は、「1」も履修して下さい。

＊感想や意見を書いた「振り返りシート」に対して、翌週の授業で教員からコメントを付けて返却したり、全体で共有したりします。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020033|01|9S91020033[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	地域研究としての台湾　1		
担 当 教 員	浅野　豊美		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：　現代国際政治の焦点としての台湾

授業概要：　2026年2月の総選挙による圧勝以後も、台湾問題は国際政治の焦点でありつづけている。この台湾問題に対して、安全保障、政治、経済、文学、歴史ということなる分野を超越した橋をかけて、独自の思考を展開する糸口を、各ゲストと主任講師・および参加学生との対談で得て、それを起点にレポートをまとめるのが、地域研究の醍醐味となる。分野を超越した発想は、各分野を深く突き詰めて考える中で磨かれる。

新鮮な問題意識や研究成果の吸収を通じて、これらの問題にアプローチする。第一線で活躍しているゲストを7回中、6回招いて議論をする。

授業の到達目標：　以下の問いが主な目標となる。
第一に、台湾という政治実体、台湾の中華民国に共有される記憶がいかにネーションを生み出しているのか、独立か統一か、さらに政治実体をめぐる感情が国内で引き起こす正統性をめぐる論争と、それが国際政治に及ぼすインパクトは、いかに相互作用をしているのか。

第二に、そもそも台湾社会とは何か、いかに形成されたのか。慣習や言語そして共有されている集合的記憶を手がかりに、日本の植民地時代にも遡り複眼的な思考で、国家主導の開発と、それへの反発としての環境保護運動などをめぐるジレンマとはどのようなものかを考える。

事前・事後学習の内容：　台湾はかつて清帝国の辺境で開拓され、近代においては日本の統治下で同化と差別にさらされ、戦後はアメリカの勢力範囲に入って経済発展と政治的民主化を成し遂げた。近代的国家を複数の主権国家との関わりで経験したことで、その国民は内部に幾つかの異なる集合的記憶と、それに対応する「族群」エスニック的集団を抱えている。

⑴受講生は、ゲストから指定されたリーディング課題をあらかじめ精読してから演習にのぞむ。ゲストを質問攻めにするのが授業後半。

⑵Waseda Moodleにおけるレスポンスを通じて、毎回の演習で得られた知識や思考方法について自分なりに整理する。

⑶最後のレポートとして、複数のゲストのテーマを結びつけ、さらに、各教員が講義中に提示した参考文献を中心に、関連文献に目を通し、講義中のディスカッションをふまえ、自分の論点をレポートにまとめること。

台湾という地域への幾つかのディシプリンからのアプローチの概要と特質を理解し、受講者それぞれの関心地域の研究への切り口を鍛える。学部学生のみならず、大学院生、それも台湾研究に限らず、広く地域研究を志す受講生も歓迎する。

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
第1回　オリエンテーション、自己紹介、報告担当者の決定。以下のゲストは変動することがあり得る。
第2回　湊照宏(立教大学)「アメリカ援助と公営企業
第3回　劉彦甫　経済安全保障
第4回　林泉忠(東京大学東文研)「台湾社会のアイデンティティ」
第5回　平井新(東海大学政治経済学部)「台湾の移行期正義」
第6回　松田康博（東京大学東洋文化研究所）、台湾をめぐる安全保障
第7回　福田円(法政大学)「台湾の国際関係」

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に指定しない。文献は教員がムードル上にアップするのでそれをダウンロードして事前に精読しておくこと。

参考文献：　演習において直接扱うわけではないが、台湾に関する基本的知識背景を備えておくために、周婉窈（濱島敦俊監訳）『増補版　図説　台湾の歴史』（平凡社、2013年）を閲読すること。その他、講義で使用する文献は以下の書籍から抜粋したものとする。
『次の夜明けに』（文学）、『台湾映画表彰の現在』（映画）、『民主化に挑んだ台湾』（政治史）、『誰の日本時代』（社会史）、『戦後台湾における「日本」』（社会史）、若林正丈・家永真幸編『台湾研究入門』（東京大学出版会、2020

年）、川島真、清水麗、松田康博、楊立明『日台関係史1945-2020』（東京大学出版会、2020）
小笠原欣幸『台湾総統選挙』（晃洋書房、2019年）、後藤武秀『台湾法の歴史と思想』（法律文化社、2011年）。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	試験はしない
レポート:	50	講義内容に関するもので、二つのゲストを結んで、独自の視角から仮説を打ち出し、参考文献で補強して、ユニークな議論を展開つつまとめること（200-3000字程度）
平常点評価:	30	レスポンスシートとして、簡単な学んだ内容整理を毎回Moodleに提出してもらう
その他:	20	出席点

備考・関連URL: ①本講座は地域研究としての台湾2と連動しているので、なるべく両方受講することが望ましい。②本講座に関する詳細について、Waseda moodeを通じてメール連絡するので注意すること。③日本台湾学会のサイト（http://wwwsoc.nii.ac.jp/jats/index.shtml）では、『日本台湾学会報』の論文がPDFファイルで閲覧できるほか、「戦後日本台湾研究関連文献目録」へのアクセス、学会大会・定例研究会などの情報に接することができる）。④「早稲田大学台湾研究所」フェイスブックには、同研究所ワークショップや研究所員の活動が報道される。⑤台湾政治ウォッチャーの東京外国語大学小笠原欣幸教授のホームページ（http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ogasawara/ ）では、台湾政治や中台関係（「両岸関係」）のアクチャルな分析が節目毎に発表される。台湾および台湾をめぐる現代政治に関心のある人は必見。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020034|01|9S91020034[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	地域研究としての台湾　２		
担 当 教 員	浅野　豊美		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（歴史・文化（アジア編）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題:　現代国際政治の焦点としての台湾

授業概要:　2026年2月の総選挙による圧勝以後も、台湾問題は国際政治の焦点でありつづけている。この台湾問題に対して、安全保障、政治、経済、文学、歴史ということなる分野を超越した橋をかけて、独自の思考を展開する糸口を、各ゲストと主任講師・および参加学生との対談で得て、それを起点にレポートをまとめるのが、地域研究の醍醐味となる。分野を超越した発想は、各分野を深く突き詰めて考える中で磨かれる。

新鮮な問題意識や研究成果の吸収を通じて、これらの問題にアプローチする。第一線で活躍しているゲストを7回中、6回招いて議論をする。

授業の到達目標:　以下の問いが主な目標となる。
第一に、台湾という政治実体、台湾の中華民国に共有される記憶がいかにネーションを生み出しているのか、独立か統一か、さらに政治実体をめぐる感情が国内で引き起こす正統性をめぐる論争と、それが国際政治に及ぼすインパクトは、いかに相互作用をしているのか。

第二に、そもそも台湾社会とは何か、いかに形成されたのか。慣習や言語そして共有されている集合的記憶を手がかりに、日本の植民地時代にも遡り複眼的な思考で、国家主導の開発と、それへの反発としての環境保護運動などをめぐるジレンマとはどのようなものかを考える。

事前・事後学習の内容:　台湾はかつて清帝国の辺境で開拓され、近代においては日本の統治下で同化と差別にさらされ、戦後はアメリカの勢力範囲に入って経済発展と政治的民主化を成し遂げた。近代的国家を複数の主権国家との関わりで経験したことで、その国民は内部に幾つかの異なる集合的記憶と、それに対応する「族群」エスニック的集団を抱えている。

⑴受講生は、ゲストから指定されたリーディング課題をあらかじめ精読してから演習にのぞむ。ゲストを質問攻めにするのが授業後半。

⑵Waseda Moodleにおけるレスポンスを通じて、毎回の演習で得られた知識や思考方法について自分なりに整理する。

⑶最後のレポートとして、複数のゲストのテーマを結びつけ、さらに、各教員が講義中に提示した参考文献を中心に、関連文献に目を通し、講義中のディスカッションをふまえ、自分の論点をレポートにまとめること。

台湾という地域への幾つかのディシプリンからのアプローチの概要と特質を理解し、受講者それぞれの関心地域の研究への切り口を鍛える。学部学生のみならず、大学院生、それも台湾研究に限らず、広く地域研究を志す受講生も歓迎する。

授業計画フリー入力サイン:　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1回　菅野敦志（文教大学）「台湾人アスリートと近現代ナショナリズムの相剋―個人を通して考える」
第2回　劉彦甫（東洋経済新報）「日本における台湾認識対立の構造と形成」
第3回　やまだあつし（名古屋市立大学）「日本統治期台湾の農業政策」
第4回　明田川聡士「台湾現代詩を通して考える環境問題」
第5回　川上桃子（神奈川大学）「台湾の半導体産業：産業史の視点から」
第6回　星純子(茨城大学)「台湾の社区営造(まちづくり)の混淆化」
第7回　各自のレポートテーマのフォローアップ

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　特に指定しない。文献は教員がムードル上にアップするのでそれをダウンロードして事前に精読しておくこと。

参考文献:　演習において直接扱うわけではないが、台湾に関する基本的知識背景を備えておくために、周婉窈（濱島敦俊監訳）『増補版　図説　台湾の歴史』（平凡社、2013年）を閲読すること。その他、講義で使用する文献は以下の書籍から抜粋したものとする。
『次の夜明けに』（文学）、『台湾映画表彰の現在』（映画）、『民主化に挑んだ台湾』（政治史）、『誰の日本時代』（社会史）、『戦後台湾における「日本」』（社会史）、若林正丈・家永真幸編『台湾研究入門』（東京大学出版会、2020

年）、川島真、清水麗、松田康博、楊立明『日台関係史1945-2020』（東京大学出版会、2020）
小笠原欣幸『台湾総統選挙』（晃洋書房、2019年）、後藤武秀『台湾法の歴史と思想』（法律文化社、2011年）。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	試験はしない
レポート:	50	講義内容に関するもので、二つのゲストを結んで、独自の視角から仮説を打ち出し、参考文献で補強して、ユニークな議論を展開つつまとめること（200-3000字程度）
平常点評価:	30	レスポンスシートとして、簡単な学んだ内容整理を毎回Moodleに提出してもらう
その他:	20	出席点

備考・関連URL: ①本講座は地域研究としての台湾1と連動しているので、なるべく両方受講することが望ましい。②本講座に関する詳細について、Waseda moodeを通じてメール連絡するので注意すること。③日本台湾学会のサイト（http://wwwsoc.nii.ac.jp/jats/index.shtml）では、『日本台湾学会報』の論文がPDFファイルで閲覧できるほか、「戦後日本台湾研究関連文献目録」へのアクセス、学会大会・定例研究会などの情報に接することができる）。④「早稲田大学台湾研究所」フェイスブックには、同研究所ワークショップや研究所員の活動が報道される。⑤台湾政治ウォッチャーの東京外国語大学小笠原欣幸教授のホームページ（http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ogasawara/ ）では、台湾政治や中台関係（「両岸関係」）のアクチャルな分析が節目毎に発表される。台湾および台湾をめぐる現代政治に関心のある人は必見。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020035|01|9S91020035[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	質的研究方法入門 1 01クラス		
担 当 教 員	太田 裕子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

■授業の構成
本授業は、「質的研究方法入門1」および「質的研究方法入門2」からなる授業である。本授業を履修する者は、これら2科目を、同一学期に連続して履修登録をする必要がある。

■授業の目的
「質的研究方法入門1」および「同2」を通して、質的研究方法を用いた研究を行い、人文社会科学系の学術論文を作成する際必要となる基本的な考え方や研究手法を学ぶことを、目的とする。
質的研究方法は、「具体的な事例を重視して、それを時間的、地域的な特殊性の中で捉えようとし、また人々自身の表現や行為を立脚点として、それを人々が生きている地域的な文脈と結びつけて理解しようとする」(フリック, 2002, p. 19)点がその特徴である。質問紙調査や実験によって収集したデータを統計処理する数量的研究方法に対し、質的研究方法は、観察、インタビュー、映像分析などの手法を単独または複数組み合わせることによって、現象を捉えようとする。
どのような手法を用いてデータを収集し分析するかは、研究者の立場や研究の問いによって決定づけられる。そのため、本授業では、多様な質的研究方法とそれぞれの研究方法の理論的背景を学び、受講者が自分の研究の立場や問いに適した研究方法を見つけることを目指す。本授業では、特に観察とインタビューを取り上げ、それらの種類と方法を学ぶ。
受講者は、実際に観察やインタビューを用いた研究を行い、小型の学術論文を作成する（最終レポート）。そのために、毎週、論文の一部を書く課題や、論文を書くために必要な作業を行う課題が出される（課題レポート）。授業では、講義と演習を行う。演習には、受講者同士が互いのレポートやデータを検討し、助言し合う活動が含まれる。また、学期の最後には、互いの最終レポートを評価しあう活動も行う（相互評価）。よって、受講者には、積極的な参加を期待する。

■授業の進め方
履修者は、指示された事前課題に取り組んだうえで、授業に参加する。授業時間中は、事前課題に基づくディスカッションや質疑応答、課題文章の検討等を行う。ペアやグループでのディスカッションも行う。授業後、事後課題に取り組み、指定された期日までに提出する。
課題文章や最終レポート、相互評価表等は、ピアで検討するため、他の履修者に公開される。そのため、調査協力者が特定されないよう、個人情報を伏せた状態で、研究結果等を記述すること。また、受講者は、他の受講者のレポートを第三者に公開したり、流出させることのないよう、細心の注意を払うこと。
本授業は、全回、教室で対面で行われる。授業に出席し、ディスカッションに参加することを重視する。そのため、3回以上欠席した場合、不合格となる。

授業の到達目標:

本授業は、次の五点をねらいとする。
1）質的研究方法の理論的背景、および観察とインタビューの種類と方法を理解する。
2）質的研究法の強みと弱み、倫理的問題を理解する。
3）観察、インタビューの手法を用いた研究をデザインし、実施することができる。
4）質的研究法を用いた論文を執筆することができる。
5）質的研究法を用いた論文を評価し、改善に向けて建設的な助言を行うことができる。

事前・事後学習の内容:

■事前学習
質的研究法に関する文献（教科書）を講読する課題が出される。その中の活動に取り組むよう指示される場合もある。
グループで質的研究法に関して文献を調べ、発表準備をする課題が出される場合もある。
所要時間は、1時間程度である。

■事後学習
授業中に検討した内容を踏まえ、文章を作成する課題が出される。所要時間は1～3時間程度である。

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

■「質的研究方法入門1」、「同2」を通して、以下の内容を扱う。
第1回から7回が「1」、第8回から14回が「2」で扱われる。
＜ ＞内は、授業後に提出する課題レポートである。

「質的研究方法入門1」
第 1回 ガイダンス、質的研究方法の特徴と種類
★授業：ディスカッション、質疑応答等
□事後課題：教科書第1章を読む、教科書p.20活動2, 3に取り組む

第 2回　研究の立場と研究方法の関係
◇事前課題：教科書第2章、課題文献を読む
★授業：ディスカッション、質疑応答
□事後課題：＜①先行研究を読む＞

第 3回　研究の問いと研究方法の関係
◇事前課題：教科書第3章を読む
★授業：ディスカッション、質疑応答、課題①検討
□事後課題：＜②序章を書く＞

第 4回　理論的枠組と文献レビュー
◇事前課題：教科書第4章を読む
★授業：ディスカッション、質疑応答、課題②検討
□事後課題：＜③先行研究章を書く＞

第 5回　インタビューの種類と方法
◇事前課題：教科書第5章を読む
★授業：ディスカッション、質疑応答、課題③検討
□事後課題：＜④インタビュー報告を書く＞、課題⑥準備

第 6回　観察の種類と方法
◇事前課題：教科書第6章を読む
★授業：ディスカッション、質疑応答、課題④検討
□事後課題：＜⑤フィールドノーツを書く＞、課題⑥準備

第 7回　研究方法を決める
◇事前課題：教科書第7章を読む
★授業：ディスカッション、質疑応答、課題⑤検討
□事後課題：＜⑥研究方法論を知る＞

第 8回　調査を始める―研究対象へのアクセス、研究対象との関係、倫理的問題
◇事前課題：教科書第8章、課題文献を読む
★授業：ディスカッション、質疑応答
□事後課題：課題⑥に関する質疑応答（オンライン）、＜⑦研究方法章を書く＞

第 9回　データを分析する（1）、研究過程の振り返り
◇事前課題：教科書第9章を読む、p.177-181の論文作成ワークに取り組む
★授業：ディスカッション、課題⑦検討、論文作成ワーク検討
□事後課題：調査を進める、収集したデータを分析する

第10回　データを分析する（2）、調査結果の記述
◇事前課題：教科書第10章を読む、第10章活動1に取り組む
★授業：ディスカッション、各自のデータ分析結果検討、活動1検討
□事後課題：自身のデータ分析を進める、＜⑧研究結果を書く＞

第11回　論文を評価する、先行研究、調査結果を踏まえて考察する
◇事前課題：教科書11章を読む
★授業：ディスカッション、質疑応答、課題⑧検討、研究過程の振り返り
□事後課題：＜⑨考察・結論を書く＞

第12回　論文を推敲する
◇事前課題：論文全体を印刷し、持参する
★授業：ディスカッション、質疑応答、課題⑨検討
□事後課題：最終レポート推敲、完成

第13回　相互評価シート作成（対面授業なし）

第14回　相互評価会（相互評価シート提出）、授業の振り返り

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　太田裕子（2019）『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ―研究計画から論文作成まで』東京図書

参考文献：
ガーゲン, K. J.（Gergen, K. J.）（2004）『あなたへの社会構成主義』ナカニシヤ出版（原著は1999）
桜井厚（2002）『インタビューの社会学―ライフストーリーの聞き方』せりか書房
佐藤郁哉（2002）『フィールドワークの技法―問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社
佐渡島紗織・吉野亜矢子（2021）『これから研究を書くひとのためのガイドブック―ライティングの挑戦15週間　第2版』ひつじ書房
舘岡洋子編（2015）『日本語教育のための質的研究　入門―学習・教師・教室をいかに描くか―』ココ出版
フリック, ウヴェ（Flick, U.）（2002）『質的研究入門―〈人間の科学〉のための方法論』（小田博志・山本則子・春日常・宮地尚子訳）春秋社（原著は1995）
メリアム, S.B.（Merriam, S. B.）（2004）『質的研究方法入門―教育における調査法とケース・スタディ―』（堀薫夫・成島美弥訳）ミネルヴァ書房（原著は1998）
Crotty, M. (1998). The foundations of social research: Meaning and perspective in the research process. Crows Nest: Allen & Unwin.

その他の文献は、授業中に指示する。また、教科書に示された文献も参考にすること。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: ■「質的研究方法入門1」「2」の2科目を通して以下の基準で評価する。
課題レポート…45%（5点×9＝45点）
最終レポート…30%（30点×1＝30点）
相互評価シート…10%
平常点評価（授業での発言、グループワークへの貢献、他者の文章への助言）…15%
※出席を重視する。欠席が3回以上の場合、不合格となる。
※＜⑥研究方法論を知る＞では、興味ある研究方法論についての文献を読み、レポート及び口頭で報告する。グループワークを原則とする。

備考・関連URL: 4月17日（金）から授業が始まります。履修を希望する方は、必ず出席してください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020035|02|9S91020035[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	質的研究方法入門 1 02クラス		
担 当 教 員	太田 裕子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

■授業の構成
本授業は、「質的研究方法入門1」および「質的研究方法入門2」からなる授業である。本授業を履修する者は、これら2科目を、同一学期に連続して履修登録をする必要がある。

■授業の目的
「質的研究方法入門1」および「同2」を通して、質的研究方法を用いた研究を行い、人文社会科学系の学術論文を作成する際必要となる基本的な考え方や研究手法を学ぶことを、目的とする。
質的研究方法は、「具体的な事例を重視して、それを時間的、地域的な特殊性の中で捉えようとし、また人々自身の表現や行為を立脚点として、それを人々が生きている地域的な文脈と結びつけて理解しようとする」(フリック, 2002, p. 19)点がその特徴である。質問紙調査や実験によって収集したデータを統計処理する数量的研究方法に対し、質的研究方法は、観察、インタビュー、映像分析などの手法を単独または複数組み合わせることによって、現象を捉えようとする。
どのような手法を用いてデータを収集し分析するかは、研究者の立場や研究の問いによって決定づけられる。そのため、本授業では、多様な質的研究方法とそれぞれの研究方法の理論的背景を学び、受講者が自分の研究の立場や問いに適した研究方法を見つけることを目指す。本授業では、特に観察とインタビューを取り上げ、それらの種類と方法を学ぶ。
受講者は、実際に観察やインタビューを用いた研究を行い、小型の学術論文を作成する（最終レポート）。そのために、毎週、論文の一部を書く課題や、論文を書くために必要な作業を行う課題が出される（課題レポート）。授業では、講義と演習を行う。演習には、受講者同士が互いのレポートやデータを検討し、助言し合う活動が含まれる。また、学期の最後には、互いの最終レポートを評価しあう活動も行う（相互評価）。よって、受講者には、積極的な参加を期待する。

■授業の進め方
履修者は、指示された事前課題に取り組んだうえで、授業に参加する。授業時間中は、事前課題に基づくディスカッションや質疑応答、課題文章の検討等を行う。ペアやグループでのディスカッションも行う。授業後、事後課題に取り組み、指定された期日までに提出する。
課題文章や最終レポート、相互評価表等は、ピアで検討するため、他の履修者に公開される。そのため、調査協力者が特定されないよう、個人情報を伏せた状態で、研究結果等を記述すること。また、受講者は、他の受講者のレポートを第三者に公開したり、流出させることのないよう、細心の注意を払うこと。
本授業は、全回、教室で対面で行われる。授業に出席し、ディスカッションに参加することを重視する。そのため、3回以上欠席した場合、不合格となる。

授業の到達目標:

本授業は、次の五点をねらいとする。
1）質的研究方法の理論的背景、および観察とインタビューの種類と方法を理解する。
2）質的研究法の強みと弱み、倫理的問題を理解する。
3）観察、インタビューの手法を用いた研究をデザインし、実施することができる。
4）質的研究法を用いた論文を執筆することができる。
5）質的研究法を用いた論文を評価し、改善に向けて建設的な助言を行うことができる。

事前・事後学習の内容:

■事前学習
質的研究法に関する文献（教科書）を講読する課題が出される。その中の活動に取り組むよう指示される場合もある。
グループで質的研究法に関して文献を調べ、発表準備をする課題が出される場合もある。
所要時間は、1時間程度である。

■事後学習
授業中に検討した内容を踏まえ、文章を作成する課題が出される。所要時間は1～3時間程度である。

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

■「質的研究方法入門1」、「同2」を通して、以下の内容を扱う。
第1回から7回が「1」、第8回から14回が「2」で扱われる。
＜ ＞内は、授業後に提出する課題レポートである。

「質的研究方法入門1」
第 1回 ガイダンス、質的研究方法の特徴と種類
★授業：ディスカッション、質疑応答等
□事後課題：教科書第1章を読む、教科書p.20活動2, 3に取り組む

第 2回　研究の立場と研究方法の関係
◇事前課題：教科書第2章、課題文献を読む
★授業：ディスカッション、質疑応答
□事後課題：＜①先行研究を読む＞

第 3回　研究の問いと研究方法の関係
◇事前課題：教科書第3章を読む
★授業：ディスカッション、質疑応答、課題①検討
□事後課題：＜②序章を書く＞

第 4回　理論的枠組と文献レビュー
◇事前課題：教科書第4章を読む
★授業：ディスカッション、質疑応答、課題②検討
□事後課題：＜③先行研究章を書く＞

第 5回　インタビューの種類と方法
◇事前課題：教科書第5章を読む
★授業：ディスカッション、質疑応答、課題③検討
□事後課題：＜④インタビュー報告を書く＞、課題⑥準備

第 6回　観察の種類と方法
◇事前課題：教科書第6章を読む
★授業：ディスカッション、質疑応答、課題④検討
□事後課題：＜⑤フィールドノーツを書く＞、課題⑥準備

第 7回　研究方法を決める
◇事前課題：教科書第7章を読む
★授業：ディスカッション、質疑応答、課題⑤検討
□事後課題：＜⑥研究方法論を知る＞

第 8回　調査を始める―研究対象へのアクセス、研究対象との関係、倫理的問題
◇事前課題：教科書第8章、課題文献を読む
★授業：ディスカッション、質疑応答
□事後課題：課題⑥に関する質疑応答（オンライン）、＜⑦研究方法章を書く＞

第 9回　データを分析する（1）、研究過程の振り返り
◇事前課題：教科書第9章を読む、p.177-181の論文作成ワークに取り組む
★授業：ディスカッション、課題⑦検討、論文作成ワーク検討
□事後課題：調査を進める、収集したデータを分析する

第10回　データを分析する（2）、調査結果の記述
◇事前課題：教科書第10章を読む、第10章活動1に取り組む
★授業：ディスカッション、各自のデータ分析結果検討、活動1検討
□事後課題：自身のデータ分析を進める、＜⑧研究結果を書く＞

第11回　論文を評価する、先行研究、調査結果を踏まえて考察する
◇事前課題：教科書11章を読む
★授業：ディスカッション、質疑応答、課題⑧検討、研究過程の振り返り
□事後課題：＜⑨考察・結論を書く＞

第12回　論文を推敲する
◇事前課題：論文全体を印刷し、持参する
★授業：ディスカッション、質疑応答、課題⑨検討
□事後課題：最終レポート推敲、完成

第13回　相互評価シート作成（対面授業なし）

第14回　相互評価会（相互評価シート提出）、授業の振り返り

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　太田裕子（2019）『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ―研究計画から論文作成まで』東京図書

参考文献：
ガーゲン, K. J.（Gergen, K. J.）（2004）『あなたへの社会構成主義』ナカニシヤ出版（原著は1999）
桜井厚（2002）『インタビューの社会学―ライフストーリーの聞き方』せりか書房
佐藤郁哉（2002）『フィールドワークの技法―問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社
佐渡島紗織・吉野亜矢子（2021）『これから研究を書くひとのためのガイドブック―ライティングの挑戦15週間　第2版』ひつじ書房
舘岡洋子編（2015）『日本語教育のための質的研究　入門―学習・教師・教室をいかに描くか―』ココ出版
フリック, ウヴェ（Flick, U.）（2002）『質的研究入門―〈人間の科学〉のための方法論』（小田博志・山本則子・春日常・宮地尚子訳）春秋社（原著は1995）
メリアム, S.B.（Merriam, S. B.）（2004）『質的研究方法入門―教育における調査法とケース・スタディ―』（堀薫夫・成島美弥訳）ミネルヴァ書房（原著は1998）
Crotty, M. (1998). The foundations of social research: Meaning and perspective in the research process. Crows Nest: Allen & Unwin.

その他の文献は、授業中に指示する。また、教科書に示された文献も参考にすること。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: ■「質的研究方法入門1」「2」の2科目を通して以下の基準で評価する。
課題レポート…45%（5点×9＝45点）
最終レポート…30%（30点×1＝30点）
相互評価シート…10%
平常点評価（授業での発言、グループワークへの貢献、他者の文章への助言）…15%
※出席を重視する。欠席が3回以上の場合、不合格となる。
※＜⑥研究方法論を知る＞では、興味ある研究方法論についての文献を読み、レポート及び口頭で報告する。グループワークを原則とする。

備考・関連URL: 10月1日（木）から授業が始まります。履修を希望する方は、必ず出席してください。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020036|01|9S91020036[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	質的研究方法入門　２　01クラス		
担 当 教 員	太田　裕子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　本授業は、「質的研究方法入門　1」および「質的研究方法入門　2」からなる授業である。本授業を履修する者は、これら2科目を、同一学期に連続して履修登録をする必要がある。「1」のみ、あるいは「2」のみの履修は認めない。

授業概要の詳細は、「質的研究方法入門　1」のシラバスを参照すること。

授業の到達目標：「質的研究方法入門　1」のシラバスを参照すること。

事前・事後学習の内容：「質的研究方法入門　1」のシラバスを参照すること。

授業計画フリー入力サイン：1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：「質的研究方法入門　1」のシラバスを参照すること。

言語区分：0　日本語　Japanese

教科書：「質的研究方法入門　1」のシラバスを参照すること。

参考文献：「質的研究方法入門　1」のシラバスを参照すること。

成績評価フリー入力サイン：1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：「質的研究方法入門　1」のシラバスを参照すること。

備考・関連URL：「質的研究方法入門1」は、4月17日（金）から始まります。「質的研究方法入門2」を履修する方は、必ず「質的研究方法入門1」も登録し、4月17日（金）から出席すること。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ）

[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020036|02|9S91020036[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	質的研究方法入門 2 02クラス		
担 当 教 員	太田 裕子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： 本授業は、「質的研究方法入門 1」および「質的研究方法入門 2」からなる授業である。本授業を履修する者は、これら2科目を、同一学期に連続して履修登録をする必要がある。「1」のみ、あるいは「2」のみの履修は認めない。

授業概要の詳細は、「質的研究方法入門 1」のシラバスを参照すること。

授業の到達目標： 「質的研究方法入門 1」のシラバスを参照すること。

事前・事後学習の内容： 「質的研究方法入門 1」のシラバスを参照すること。

授業計画フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー： 「質的研究方法入門 1」のシラバスを参照すること。

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 「質的研究方法入門 1」のシラバスを参照すること。

参考文献： 「質的研究方法入門 1」のシラバスを参照すること。

成績評価フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー： 「質的研究方法入門 1」のシラバスを参照すること。

備考・関連URL： 「質的研究方法入門1」は、10月1日（木）から始まります。「質的研究方法入門2」を履修する方は、必ず「質的研究方法入門1」も登録し、10月1日（木）から出席すること。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020041|01|9S91020041[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	実践データ分析ビジネスコンサルティング		
担 当 教 員	鶴谷 武親@森島 秀明		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:月6-7@02:無フルOD	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: ビッグデータ・AIを活用したビジネス創出実践

授業概要: ビッグデータ、AIの現状について知り、データ分析ツールであるTableau（https://www.tableau.com/ja-jp）をハンズオンで活用し、企業等から提供される、実際の事業におけるデータをもとに課題抽出や事業提案を行う。
また、現役コンサルタントの指導により、思考方法、アプローチ方法の知見を得る。
授業は対面・グループワークで実施する。

授業の到達目標: ビッグデータ、AIの現状と可能性について理解するとともに、それを可視化、解析できる能力を習得し、今後の研究・学業及びキャリアにおいて積極的に活用できる能力を身に付ける。

事前・事後学習の内容: 課題が提示される場合があり、準備にそれぞれ60分程度を要する。
授業ごとにレビューシートを課し、20-30分程度を要する。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回目 11月23日(月):概論1（2時限連続の初回）（担当:鶴谷） ※祝日だが授業を行うことに注意
世界の現状を俯瞰し、その課題について理解し、考える。協力企業による通期課題の提示。AI/自動化の可能性について知る
第2回目 11月23日(月):概論2（2時限連続の2回目）（担当:鶴谷）
実践者による事例講義－AI活用編

第3回目 オンデマンド（担当:鶴谷、ゲスト Tableauエンジニア）

第4回目 11月30日(月):データ分析ツールワークショップ－1（2時限連続の初回）（担当:鶴谷、ゲスト Tableauエンジニア）
データ分析ツール実践ワークショップ（Tableau）
第5回目 11月30日(月):データ分析ツールワークショップ－2（2時限連続の2回目）（担当:鶴谷、ゲスト Tableauエンジニア）
データ分析ツール実践ワークショップ（Tableau）

第6回目 オンデマンド（担当:鶴谷、ゲスト Tableauエンジニア）

第7回目 12月7日(月):データ分析ツールワークショップ－3（2時限連続の初回）（担当:鶴谷、ゲスト Tableauエンジニア）
データ分析ツール実践ワークショップ（Tableau）
第8回目 12月7日(月):データ分析ツールワークショップ－4（2時限連続の2回目）（担当:鶴谷、ゲスト Tableauエンジニア）
データ分析ツール実践ワークショップ（Tableau）

第9回目 オンデマンド（担当:森島）

第10回目 12月14日(月):AI・データワークショップ－1（2時限連続の初回）（担当:鶴谷、森島）
AI・データ実践ワークショップ（データ・AI活用コンサルの現場から）
第11回目 12月14日(月):AI・データワークショップ－2（2時限連続の2回目）（担当:鶴谷、森島）
AI・データ実践ワークショップ（データ・AI活用コンサルの現場から）

第12回目 オンデマンド（担当:森島）

第13回目 12月21日(月):AI・データワークショップ－３(2時限連続の初回)(担当:鶴谷、森島)
AI・データ実践ワークショップ(データ・AI活用コンサルの現場から)
第14回目 12月21日(月):AI・データワークショップ－４(2時限連続の2回目)(担当:鶴谷、森島)
AI・データ実践ワークショップ(データ・AI活用コンサルの現場から)

第15回目 オンデマンド(担当:鶴谷)
第16回目 オンデマンド(担当:鶴谷)
第17回目 オンデマンド(担当:鶴谷)

第18・19回目 1月18日(月):課題取組み発表－１(2時限連続)(担当:鶴谷)
通期課題に関する途中経過発表＆ディスカッション

第20・21回目 1月25日(月):最終プレゼンテーション－１(2時限連続)(担当:鶴谷)
各チームによる最終プレゼンテーション
まとめと振り返り

*非常勤講師紹介
森島秀明:アクセンチュア株式会社／KIT虎ノ門大学院 客員教授
東京大学理科I類工学部航空学科卒業／東京大学大学院工学系研究科航空学専修修了／シカゴ大学Global ExecutiveMBAコース修了

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし

参考文献: なし

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー:
(1)学部生
・試験なし
・レポート:30%
自分なりの気づきや学びについて
本科目を受ける前と受けた後に変化したこと
全講義修了後の3日以内にコースナビを通じて提出すること(文字制限は800字以上)
・平常点評価:50%
授業の後、毎回、コースナビを通したレビューシートを提出すること。
授業に積極的に取り組むこと。
積極的に質問すること。
学びについて共有すること。
・その他:20%
周囲に対する協力を惜しまず行うこと
関連したワークショップやシンポジムへ参加すること
(2)大学院生
・試験なし
・レポート:40%
自分なりの気づきや学びについて
授業を受ける前と受けた後に変化したこと
全講義修了後の3日以内にコースナビを通じて提出すること(文字制限は800字以上)
・平常点評価:50%
授業の後、毎回、コースナビを通したレビューシートを提出すること。
授業に積極的に取り組むこと。
積極的に質問すること。
学びについて共有すること。
・その他:10%
周囲に対する協力を惜しまず行うこと
関連したワークショップやシンポジムへ参加すること

備考・関連URL:
＊3回以上欠席すると単位は取得できません。(欠席は2回まで)
＊レビューシートの3回以上の未提出の場合、単位は取得できません。(未提出は2回まで)
＊本科目は、グローバルエデュケーションセンターの実践型教育プログラム「ビジネス・クリエーションコース」の対象科目です。

【履修上の注意】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
・2025年度以前に「データビジネスクリエーション β(学部生用)」の単位を修得済みの方は履修できません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分: 1 主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020042|01|9S91020042[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	未来社会を創るセキュリティ最前線		
担 当 教 員	小林 学@扇 健一		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月４時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	情報科目（日本語）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: あなたの未来を守る技術を学ぶ

授業概要: 情報セキュリティは社会生活や企業経営において安心、安全を支える重要な要素であり、情報セキュリティを維持し続けることは、大きな社会課題のひとつと言える。
本授業は、安心、安全な未来社会を実現するために、すべての社会人に求められる情報セキュリティの知識を学ぶことを目的とする。また、履修者自身が将来、情報セキュリティの問題に陥ることを回避するためのスキルを身に付ける。具体的には、社会的責任を果たす企業の立場、企業のサービスを利用する消費者の立場、企業の情報資産を狙う攻撃者の立場、といったそれぞれの立場から情報セキュリティを考察し、サイバー攻撃の脅威情勢と情報セキュリティ対策の現状を学ぶとともに、将来に向けた課題について考察する。各回の講義では、内容に応じて演習を--含めて実施し、理解を深める。

授業の到達目標: 第４次産業革命で中心的な活躍が期待される人材がデータの利活用において、データをセキュアに扱うための考え方を身に付ける。

事前・事後学習の内容:
事前学習:
-シラバスを読み、授業全体における次回の内容の位置づけを確認する
-前の回や関連する回の内容を確認し、次回の内容に備える
-事前学習の連絡があった場合は、連絡内容に従い予習する
事後学習:
-授業資料を見直して復習する
-第5回、第6回の授業の中で説明されるレポートの課題を行う

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
第1回 情報セキュリティの基礎1 （担当:小林）
セキュリティの必要性と、企業が取り組むセキュリティの実態を理解する。

第2回 情報セキュリティの基礎2 （担当:小林）
攻撃者の思考を理解し、ミニ演習を通してセキュリティを体験する。

第3回 世の中におけるサイバー攻撃の脅威情勢 （担当:扇、小林）
世の中のサイバー攻撃のトレンド、セキュリティ事故事例を通じて、
組織を取り巻くセキュリティ状況を俯瞰して理解する。

第4回 変化する世の中にあわせて進化するセキュリティ対策 （担当:扇、小林）
DXに対応するゼロトラストセキュリティや巧妙化するサイバー攻撃に対応する
サイバーレジリエンスなど世の中の変化に沿ったセキュリティの考え方を理解する。

第5回 敵を知る:攻撃者目線とは（担当:小林）
攻撃者の思考プロセスを考えながら、先端技術分野の攻撃事例をもとに、
未来の攻撃を予測する。

第6回 味方を知る:事業継続に重点を置いたセキュリティの取り組み （担当:扇、小林）
組織・プロセスおよびサプライチェーン全体のセキュリティ確保の在り方など、
防御側に必要な取り組みと、それらを促進するために強化されている規制について理解する。

第7回 未来社会セキュリティ （担当:扇、小林）
Society 5.0 を支えるセキュリティを考察する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン:	0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
レポート:	30	指定したレポートを提出すること。 自分なりの気づきや学びについて触れていること。
平常点評価:	50	Waseda Moodleを通したレビューシートの提出 授業に積極的に取り組むこと。 積極的に質問すること。 学びについて共有すること。
その他:	20	周囲に対する協力を惜しまず行うこと。
備考・関連URL:	・3回以上欠席すると単位は取得できない（欠席は2回まで）。	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020043|01|9S91020043[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	デザインシンキング		
担 当 教 員	大森 峻一		
開 講 学 期	夏季	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

デザイン思考は、人間中心のアプローチで知られる発想法であり、複雑な問題の解決に適した強力な手法です。社会が直面する課題を解決するには、多くのステークホルダーや影響要因を考慮しながら、個々の人々への深い理解と全体像の把握を両立させる必要があります。また、不完全な情報の中で明確な判断を下し、無数の可能性の中から最も効果的な介入策を発見・選択しなければなりません。人間中心設計（Human-Centered Design）は、このような課題に取り組むための強力な方法論であり、マインドセットとして知られています。

本コースでは、デザイン思考の基本概念を学びながら、創造性を引き出し、新たな問題解決の視点を獲得することを目指します。デザイン思考は、ビジネス、技術、アート、日常生活においても活用できる汎用性の高いアプローチであり、未知の課題に柔軟かつ効果的に取り組むためのフレームワークを提供します。受講生はランダムに割り当てられたチームメイトとともにデザイン課題に取り組みます。講義、ディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、自己・グループでの振り返りを通じて学習を深め、実践的なスキルを身につけます。

授業の到達目標:

問題領域に対し、人間中心視点で問題発見・解決のためのアイデア創出の実践ができるようになることを目標とします。特に、コース終了後に以下のスキルセット・マインドセットを身に着けることを目的としています。
・失敗をプロセスの一部にする（実験する）。
・アイデアを生み出し続ける。
・問題を定義し直し、視点を変える。
・言葉ではなく、形にして伝える（アイデアを具体化する）。
・他者から学ぶ。
・物事のつながりを見出し、統合する（シンセサイズする）。
・異なる視点を持つ人と協働する。
・初心者の視点を持ち、気づきを大切にする。

事前・事後学習の内容:

事前学習（2時間）
・授業内で使うツールの予習
・授業に関連する動画視聴とレポート作成

事後学習（2時間）
・授業に関するリフレクションレポート作成

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

第1回目－第4回目 7月23日(木) 8:50－16:45
第1・2回目 8:50-12:20 Check-In and Rapid Design Challenge
・本講義の概要・進め方・評価基準を理解する。
・ペアでRapid Design Challengeに取り組み、デザインシンキングの一連の流れを体験する。
・デザインシンキングの基本コンセプトの講義を聞き、必要なスキルセットとプロセスを把握する。

第3回目 13:10-14:50 Empathy
・ インタビューや行動観察の方法論を学び、ツールキットを用いて実践できるようになる。
・得られた気づきを類推・統合し、インサイトを導き出せるようになる

第4回目 15:05-16:45 Opportunity Statement
・目的と手段の階層構造を理解し、ユーザーの潜在的ニーズを把握できるようになる。
・共感フェーズで得られた成果を基に、問題を正しく定義できるようになる。
・初日の活動を振り返り、重要なTakeawayを整理し、翌日の計画を立てる。

第5回目－第7回目：7月24日(金) 8:50－14:50
第5回目 8:50-10:40 Ideation
・前日に定義した問題に対してアイディエーションを行う。
・アイデア創出における発散フェーズと収束フェーズの違いを理解し、各フェーズで適切な行動がとれる様になる。
・ブレーンストーミングの重要な原則を学び、実際に適用できるようになる。

第6回目10:50-12:20 Prototype
・アイディエーションで生まれたアイデアの中から、1つを選び、プロトタイプを作る。
・プロトタイプの重要性と必要な要素を理解し、説明できるようになる。

第7回目13:10-14:50 Team’s pitch
・プロトタイプをテストし、フィードバックを受けて改良する。

・チーム毎に最終成果物をプレゼンテーションする。
・2日間のアクティビティを振り返り、重要なTakeawayを整理したうえで、最終レポートに取り組む。

言語区分: 0 日本語 Japanese

参考文献: Introduction to Design Thinking (Video)
https://www.youtube.com/playlist?list=PLYA2ls7vsjMRTm3cx4kj3-eutqDfUcYO7

Tim Brown(2009), Change by Design: How Design Thinking Transforms Organizations and Inspires Innovation, HarperBusiness.

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: Class Participation 80%: Students are required to participate in class discussions.
Presentation 20%: Students are required to make a presentation about their business idea at the end of day 2.

備考・関連URL: 【履修上の注意】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
・2025年度以前に「デザインシンキング　02」「デザインシンキング(学部生用)　01」「デザインシンキング(学部生用)　02」の単位を修得済みの方は履修できません。
・「Design Thinking」を登録中または単位修得済みの方は履修できません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020044|01|9S91020044[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	責任ある学術研究活動のために		
担 当 教 員	吉澤 剛		
開 講 学 期	集春	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 責任ある学術研究は、学術研究における公正さの担保にとどまらず、研究活動を通じて人や社会、そして未来に対する責任を伴います。しかし、この責任は法規制や社会規範によって外側から与えられて一義的にすべて決まっているものではなく、研究者個人の置かれた文脈や認識によって異なり、研究活動の進展によって日々改められなければなりません。科学の営みが本質的に有する多様な不定性があるがゆえに、「責任」という明確な主体と対象を持つような行為を常にとることが難しいのです。そこで本授業ではまず、グループディスカッションを通じて受講生それぞれが有する問題意識や責任ある学術研究とは何かについての理解をお互いに共有します。次に、座学において科学、研究、組織、社会という観点から学問そのものの不定性を捉え直し、そのなかで関係する主体がどのように社会的責任を遂行しているのかについて議論を開いていきます。そして、研究活動において生じうる倫理的問題について具体的な事例を通して考察し、各受講生の認識の多様性や共通性を見出し、責任ある研究活動がより創造的なものになるための理論的・実務的示唆を導きます。
本授業は、基本的には「学術・研究公正概論」受講者を前提とし、概論の内容を踏まえて、受講生の間で気になったことやさらに掘り下げたいことなどを議論してもらいたいと考えています。昨年度以前の概論を受けた方でも構いません。
本授業は、最初と最後の各2回の授業を教室で実施し、途中の3回はオンデマンド配信型授業として実施します。

授業の到達目標: 研究者を目指す大学院生が、「責任ある研究活動」に関わる当事者性を示すとともに、討論を通じて「責任ある研究活動」がいかなるものであるかについて認識を深めます。具体的な到達目標は以下のとおりです。
・学術・研究公正について最も関心のある部分やその理由について説明できる。
・責任ある研究活動について自身の研究活動に関連づけ、自分の理解や問題意識を他の受講生と共有できる。
・科学の不定性と社会的責任の関係について適切に理解し、説明できる。
・責任ある研究活動に関する仮想事例の検討において当事者の立場や役割においてとるべき適切な行動を推測し、様々な課題や解決策を考案できる。
・責任ある研究活動についての自己の認識を相対的に位置づけ、認識のバイアスやダイナミクスについて意識できるようになる。
・グループワークにおける対話のルールを理解・尊重して、他者と対話できる。

事前・事後学習の内容: 指定した教科書や配布する資料を事前に読み込むこと（3時間）
責任ある学術研究活動についてのステートメントの優先順位付け（1時間）
「仮想事例」に沿った課題の作成（5時間）

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：責任ある学術研究活動の個人的な振り返り

授業「学術・研究公正概論」を簡単に振り返り、本授業の目標や進め方について確認した後、受講生それぞれが最も関心のある部分やその理由について話し合います。また、責任ある研究活動について自身の研究活動に関連づけ、自分の理解や問題意識を他の受講生と共有します。

第2回：改めて責任ある学術研究活動とは何か

受講生それぞれの理解や問題意識を確認した後、グループワークによって受講生それぞれが重要だと思われる責任ある学術研究活動を簡単な文章形式で出し合い、全員でそれらのステートメントを整理し、表現を整えます。第6回の授業までに受講生はこれらのステートメントに優先順位を付けます。

第3回：科学の不定性と社会的責任（1）

科学を進める行為である研究を取り上げ、研究者と研究対象との避けられない相互作用や、研究における暗黙知や偶然性、規範性を掘り下げます。次に、研究室やチームサイエンス、学協会という組織的文脈による知識の不定性とそのなかの社会的責任について考察します。そして研究成果についての知識を確定させるための評価に焦点を当て、個人や組織、システムレベルで研究と評価との相関がもたらす課題を明らかにします。

第4回：科学の不定性と社会的責任（2）

研究による知識が産業や政策にどのように利用されてきたのかを追跡し、トランスディシプリナリー研究など、研究者と実務者との双方向的な知識の流れの登場に伴う責任とガバナンスのあり方を模索します。続いて、社会のデジタル化とグローバル化における学問の問題を個人の知的態度と責任の認識に関連づけて議論します。そして最後に、未来についての学問と学問についての未来を見通し、幅広い主体の関与による公共性と責任の概念の変容について追求します。

第5回：仮想事例の検討

倫理的意思決定の方法としてセブン・ステップ・ガイドについて学び、仮想事例を用いて倫理意思決定の具体的な検討ポイントや課題について掘り下げます。

第6回：ケーススタディ演習

仮想事例を用いて、第5回で学習した倫理的意思決定の演習を行います。受講生はロールプレイを交えながら、事例の登場人物それぞれの立場や役割を理解しつつ、どのようにすればより公正で責任ある研究活動ができるか議論します。

第7回：創造的な研究活動に向けて

第2回で作成したステートメントの各受講者による優先順位付けの結果から各受講生における認識の多様性と、共通性を見出します。受講生がそれぞれ自身の認識バイアスや大切にしている価値観に気づいた後、これから個人や組織で進める学術研究活動が公正でありながら創造的なものになるために必要な知識やスキルについて理解します。最後に本授業をまとめ、受講生それぞれが振り返りを行います。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　日本医療研究開発機構「研究公正に関するヒヤリ・ハット集」第2版、2023年。
https://www.amed.go.jp/content/000124338.pdf

参考文献：　吉澤剛『不定性からみた科学―開かれた研究・組織・社会のために』名古屋大学出版会、2021年。
https://waseda.primo.exlibrisgroup.com/permalink/81SOKEI_WUNI/1lng8qo/alma991026870599804032

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　70　仮想事例に関する課題の提出
討議報告書及びレスポンスシート

平常点評価：　30　グループワークにおける貢献度を評価します。

備考・関連URL：

1. 講義スケジュール
第1回および第2回は対面授業（6月27日（土）3時限、4時限）
第6回および第7回は対面授業（7月18日（土）3時限、4時限）
第3回、第4回、第5回はオンデマンド講義です。
2. オンデマンド講義については、以下の点に注意してください。
・詳細な講義スケジュールはWaseda Moodleに掲載しますので、必ず受講前に確認してください。
・重要な連絡はWaseda Moodleを通じて行うので、よく確認してください。
・講義に関するお問合せは全て「学術・研究公正概論」事務局のメールアドレス（researchethics2@list.waseda.jp）宛にお送りください。
※システムに関するお問合せはITヘルプデスク宛にお送りください。
・ 動作環境等を各自確認の上、受講してください。
http://www.waseda.jp/navi/services/system/sys_requirements.html

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020045|01|9S91020045[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学研究演習 1 01		
担 当 教 員	小林 学		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	オンライン】ハイブリッド（対面回数半数未満
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

データから意思決定を行うための数理的プロセスであるデータサイエンスは、多くの学術領域及びビジネス領域において重要となっている。本科目は新しいデータサイエンス手法に関する研究やデータサイエンスを応用したシステムの開発などが行える人材の育成を目指す「データ科学研究力養成プログラム」の一科目である。

演習1では、それぞれの研究テーマにおける先行研究を調査することで、データサイエンスにおける様々な数理モデルや分析方法、最適化アルゴリズムを深く理解するとともに、本質的な研究課題を見出す事を目的とする。

本科目は以下の内容を学んだ学生を対象とする。

・データ科学の考え方（データ科学認定制度初級レベル：「データ科学入門α－δ」，「データ科学実践」）

・各種数理モデル（データ科学認定制度中級レベル：「時系列構造のデータ科学」、「空間構造のデータ科学」，「潜在構造のデータ科学」等）

本科目はデータ科学センターが提供する「データ科学研究力養成プログラム」の一環として行う。そのため5月にデータ科学センターにおいて募集を行い、その 後選考を行う。

曜日・時限は履修者との調整の上決まる。

詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

授業の到達目標：

データサイエンスの研究を行うために必要な先行研究に関する知見の獲得並びに研究課題の発見

事前・事後学習の内容：

事前学修：

解説論文や先行研究の調査，発表資料の作成、プログラム作成（100分程度）

事後学修：

人の発表や自身の発表、授業中のコメントなど授業に対するフィードバックを行い、復習する（100分程度）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：演習内容と目的
演習内容のガイダンス、演習の進め方と各研究テーマの策定方法の説明、発表スケジュールの決定

第2回：研究テーマの検討
解説論文の調査発表、討論

第3回：研究テーマの検討
解説論文の調査発表、討論

第4回：研究テーマの検討
解説論文の調査発表、討論

第5回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論

第6回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論

第7回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論

第8回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論

第9回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論

第10回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論

第11回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論

第12回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第13回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第14回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義内で指示する。

参考文献：　講義内で指示する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　講義への参加状況、先行研究の調査発表及び討論への貢献度によって評価

備考・関連URL：　本科目はデータ科学センターが提供する「データ科学研究力養成プログラム」の一環として行う。そのため5月にデータ科学センターにおいて募集を行い、その後選考を行う。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020045|02|9S91020045[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学研究演習 1 02		
担 当 教 員	野村 亮		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	オンライン】ハイブリッド（対面回数半数未満
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： データから意思決定を行うための数理的プロセスであるデータサイエンスは、多くの学術領域及びビジネス領域において重要となっている。本科目は新しいデータサイエンス手法に関する研究やデータサイエンスを応用したシステムの開発などが行える人材の育成を目指す「データ科学研究力養成プログラム」の一科目である。
演習1では、それぞれの研究テーマにおける先行研究を調査することで、データサイエンスにおける様々な数理モデルや分析方法、最適化アルゴリズムを深く理解するとともに、本質的な研究課題を見出す事を目的とする。
本科目は以下の内容を学んだ学生を対象とする。
・データ科学の考え方（データ科学認定制度初級レベル：「データ科学入門α－δ」，「データ科学実践」）
・各種数理モデル（データ科学認定制度中級レベル：「時系列構造のデータ科学」、「空間構造のデータ科学」，「潜在構造のデータ科学」等）
本科目はデータ科学センターが提供する「データ科学研究力養成プログラム」の一環として行う。そのため5月にデータ科学センターにおいて募集を行い、その後選考を行う。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

授業の到達目標： データサイエンスの研究を行うために必要な先行研究に関する知見の獲得並びに研究課題の発見

事前・事後学習の内容： 事前学修：
解説論文や先行研究の調査，発表資料の作成、プログラム作成（100分程度）
事後学修：
人の発表や自身の発表、授業中のコメントなど授業に対するフィードバックを行い、復習する（100分程度）

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：演習内容と目的
演習内容のガイダンス、演習の進め方と各研究テーマの策定方法の説明、発表スケジュールの決定
第2回：研究テーマの検討
解説論文の調査発表、討論
第3回：研究テーマの検討
解説論文の調査発表、討論
第4回：研究テーマの検討
解説論文の調査発表、討論
第5回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第6回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第7回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第8回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第9回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第10回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第11回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第12回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論

第13回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第14回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義内で指示する。

参考文献：　講義内で指示する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　講義への参加状況、先行研究の調査発表及び討論への貢献度によって評価

備考・関連URL：　本科目はデータ科学センターが提供する「データ科学研究力養成プログラム」の一環として行う。そのため5月にデータ科学センターにおいて募集を行い、その後選考を行う。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020045|03|9S91020045[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学研究演習 1 03		
担 当 教 員	堀井 俊佑		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	オンライン】ハイブリッド（対面回数半数未満
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

データから意思決定を行うための数理的プロセスであるデータサイエンスは、多くの学術領域及びビジネス領域において重要となっている。本科目は新しいデータサイエンス手法に関する研究やデータサイエンスを応用したシステムの開発などが行える人材の育成を目指す「データ科学研究力養成プログラム」の一科目である。
演習1では、それぞれの研究テーマにおける先行研究を調査することで、データサイエンスにおける様々な数理モデルや分析方法、最適化アルゴリズムを深く理解するとともに、本質的な研究課題を見出す事を目的とする。
本科目は以下の内容を学んだ学生を対象とする。
・データ科学の考え方（データ科学認定制度初級レベル：「データ科学入門α－δ」，「データ科学実践」）
・各種数理モデル（データ科学認定制度中級レベル：「時系列構造のデータ科学」、「空間構造のデータ科学」，「潜在構造のデータ科学」等）

本演習はゼミ形式で行う。ゼミは週に1度行い、曜日時限は全履修者との調整の上決定する。

本科目はデータ科学センターが提供する「データ科学研究力養成プログラム」の一環として行う。そのため5月にデータ科学センターにおいて募集を行い、その後選考を行う。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

授業の到達目標：

データサイエンスの研究を行うために必要な先行研究に関する知見の獲得並びに研究課題の発見

事前・事後学習の内容：

事前学修：
解説論文や先行研究の調査，発表資料の作成、プログラム作成（100分程度）
事後学修：
人の発表や自身の発表、授業中のコメントなど授業に対するフィードバックを行い、復習する（100分程度）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：演習内容と目的
演習内容のガイダンス、演習の進め方と各研究テーマの策定方法の説明、発表スケジュールの決定
第2回：研究テーマの検討
解説論文の調査発表、討論
第3回：研究テーマの検討
解説論文の調査発表、討論
第4回：研究テーマの検討
解説論文の調査発表、討論
第5回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第6回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第7回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第8回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第9回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第10回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第11回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論

第12回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第13回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第14回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義内で指示する。

参考文献：　講義内で指示する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　講義への参加状況、先行研究の調査発表及び討論への貢献度によって評価

備考・関連URL：　本科目はデータ科学センターが提供する「データ科学研究力養成プログラム」の一環として行う。そのため5月にデータ科学センターにおいて募集を行い、その後選考を行う。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020045|04|9S91020045[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学研究演習 1 04		
担 当 教 員	安田 豪毅		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	オンライン】ハイブリッド（対面回数半数未満
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： データから意思決定を行うための数理的プロセスであるデータサイエンスは、多くの学術領域及びビジネス領域において重要となっている。本科目は新しいデータサイエンス手法に関する研究やデータサイエンスを応用したシステムの開発などが行える人材の育成を目指す「データ科学研究力養成プログラム」の一科目である。
演習1では、それぞれの研究テーマにおける先行研究を調査することで、データサイエンスにおける様々な数理モデルや分析方法、最適化アルゴリズムを深く理解するとともに、本質的な研究課題を見出す事を目的とする。
本科目は以下の内容を学んだ学生を対象とする。
・データ科学の考え方（データ科学認定制度初級レベル：「データ科学入門α－δ」，「データ科学実践」）
・各種数理モデル（データ科学認定制度中級レベル：「時系列構造のデータ科学」、「空間構造のデータ科学」，「潜在構造のデータ科学」等）
本科目はデータ科学センターが提供する「データ科学研究力養成プログラム」の一環として行う。そのため5月にデータ科学センターにおいて募集を行い、その後選考を行う。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

授業の到達目標： データサイエンスの研究を行うために必要な先行研究に関する知見の獲得並びに研究課題の発見

事前・事後学習の内容： 事前学修：
解説論文や先行研究の調査，発表資料の作成、プログラム作成（100分程度）
事後学修：
人の発表や自身の発表、授業中のコメントなど授業に対するフィードバックを行い、復習する（100分程度）

授業計画フリー入力サイン： 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回：演習内容と目的
演習内容のガイダンス、演習の進め方と各研究テーマの策定方法の説明、発表スケジュールの決定
第2回：研究テーマの検討
解説論文の調査発表、討論
第3回：研究テーマの検討
解説論文の調査発表、討論
第4回：研究テーマの検討
解説論文の調査発表、討論
第5回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第6回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第7回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第8回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第9回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第10回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第11回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第12回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論

第13回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論
第14回：先行研究の調査
先行研究の文献調査発表及び討論

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義内で指示する。

参考文献：　講義内で指示する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　100　講義への参加状況、先行研究の調査発表及び討論への貢献度によって評価

備考・関連URL：　本科目はデータ科学センターが提供する「データ科学研究力養成プログラム」の一環として行う。そのため5月にデータ科学センターにおいて募集を行い、その後選考を行う。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020046|01|9S91020046[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	教授法実践演習 01		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

「Preparing Future Faculty Program （PFFP）」とは、大学院生から大学教員への接続をよりスムーズにすることを目的として開発された教育プログラムです。日本の大学においても2000年代以降同様のプログラムを設置する大学は増加しており、その内容は授業設計やティーチングスキルなど、教育実践の訓練を含むことが一般的です。本授業は、将来、大学教授職を目指す大学院生を対象に、大学授業の設計、実施・運営、評価に関する実践的な知識と技能を習得することを目指すものです。

授業では、受講者の皆さんは大学教員に求められる職能について理解するとともに、シラバスおよび授業案の作成を段階的に進めます。さらに授業の最終成果としてマイクロティーチング（模擬授業）とピア・レビューを体験します。将来のキャリア選択の一つとして大学教員となることを考えている学生の皆さんの受講を歓迎します。

授業で必要なパソコンなどの情報機器や情報環境等は自身で準備をしてください。また、準備学習課題や事後学習の提出はWsasedaMoodleを使用します。なお、本授業の受講にあたっては、「大学における教育と学習」「大学における教育と学習（応用）」「学生による授業支援入門」の各授業を受講していることを推奨します。

授業の到達目標：

①大学教授職を目指す学生が、自ら有する学識を教授するために必要な基本的な能力を身につける。
②大学において学習者主体の授業を実践するために必要な基本的な能力を身につける。

事前・事後学習の内容：

マイクロティーチング（模擬授業）を実施するため、コースを通じてシラバスと授業案の作成および教材作成の課題を課します。また、毎回、授業の振り返りを事後学習として課します。

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 オリエンテーション

1)自己紹介、授業の到達目標と概要の説明、受講上の留意点等の確認
2)大学教授職としての責務とその職能について取り上げる。
3)シラバス、授業案の作成とマイクロティーチングの実施について。
4)事後学習①：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第2回 大学授業の設計①

1)授業の到達目標の立て方について理解する。
2)マイクロティーチングの準備（授業テーマと到達目標の設定、発表と意見交換）
3)事後学習②：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第3回 大学授業の設計②

1)授業設計の理論（バックワードデザイン他）と授業方法について理解する。
2)マイクロティーチングの準備（授業内容・方法の検討、発表と意見交換）
3)事後学習③：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第4回 大学授業の実施・運営

1)学生のアクティブラーニングを促すための方策について理解する。
2)アクティブラーニングの実践事例を取り上げる。
3)マイクロティーチングの準備（授業内容・方法の検討、発表と意見交換）
4)事後学習④：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第5回 大学授業の評価

1)成績評価の意義と役割、方法について理解する。とくにルーブリックについて取り上げる。
2)マイクロティーチングの準備（成績評価方法の検討、発表と意見交換）
3)事後学習⑤：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第6回 大学授業の改善

1)ファカルティ・ディベロップメント（授業改善）に取り組む意義について理解する。
2)マイクロティーチングの準備（授業案の完成、発表と意見交換）
3)事後学習⑥：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第7回　マイクロティーチングの実施
1）一人ずつマイクロティーチング（模擬授業）を行い、ピア・レビューと振り返りを行う。
2）全体総括とシラバス・授業案・授業教材の提出について
3）事後学習⑦：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献：
・R.K.ソーヤー編、森敏昭・秋田喜代美翻訳『学習科学ハンドブック』、培風館、2009
・中島英博編著『シリーズ大学の教授法1：授業設計』、玉川大学出版部、2016
・佐藤浩章編著『シリーズ大学の教授法2：講義法』、玉川大学出版部、2017
・中井俊樹編著『シリーズ大学の教授法3：アクティブラーニング』、玉川大学出版部、2015
・中島英博編著『シリーズ大学の教授法4：学習評価』、玉川大学出版部、2018
・近田政博編著『シリーズ大学の教授法5：研究指導』、玉川大学出版部、2018
・佐藤浩章、栗田佳代編著『シリーズ大学の教授法6：授業改善』、玉川大学出版部、2021
・E.L.ボイヤー著、有本章訳『大学教授職の使命－スカラーシップ再考』、玉川大学出版部、1996
・Marsha C. Lovett, Michael W. Bridges, Michele DiPietro, Susan A. Ambrose & Marie K. Norman, (2023), How Learning Works: Eight Research-Based Principles for Smart Teaching, Jossey-Bass
ほか、各回の授業において、関連文献等を紹介します。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　65　授業教材の作成　15%、事後学習（20%　ルーブリックに基づき評価します）、シラバス・授業案の提出　30%

その他：　35　マイクロティーチング　35%　（ルーブリックに基づき評価します）

備考・関連URL：
・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合は授業内で周知します。
・欠席や公欠等の授業内ルールは大学の規定に従います。
・遅刻は出来るだけしないようにしましょう。授業途中からの参加は他の受講生の妨げになりますし、意見交換への十分な参加が難しくなる場合があります。
・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020046|02|9S91020046[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	教授法実践演習 02		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「Preparing Future Faculty Program （PFFP）」とは、大学院生から大学教員への接続をよりスムーズにすることを目的として開発された教育プログラムです。日本の大学においても2000年代以降同様のプログラムを設置する大学は増加しており、その内容は授業設計やティーチングスキルなど、教育実践の訓練を含むことが一般的です。本授業は、将来、大学教授職を目指す大学院生を対象に、大学授業の設計、実施・運営、評価に関する実践的な知識と技能を習得することを目指すものです。

授業では、受講者の皆さんは大学教員に求められる職能について理解するとともに、シラバスおよび授業案の作成を段階的に進めます。さらに授業の最終成果としてマイクロティーチング（模擬授業）とピア・レビューを体験します。将来のキャリア選択の一つとして大学教員となることを考えている学生の皆さんの受講を歓迎します。

授業で必要なパソコンなどの情報機器や情報環境等は自身で準備をしてください。また、準備学習課題や事後学習の提出はWsasedaMoodleを使用します。なお、本授業の受講にあたっては、「大学における教育と学習」「大学における教育と学習（応用）」「学生による授業支援入門」の各授業を受講していることを推奨します。

授業の到達目標: ①大学教授職を目指す学生が、自ら有する学識を教授するために必要な基本的な能力を身につける。
②大学において学習者主体の授業を実践するために必要な基本的な能力を身につける。

事前・事後学習の内容: マイクロティーチング（模擬授業）を実施するため、コースを通じてシラバスと授業案の作成および教材作成の課題を課します。また、毎回、授業の振り返りを事後学習として課します。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション

1)自己紹介、授業の到達目標と概要の説明、受講上の留意点等の確認
2)大学教授職としての責務とその職能について取り上げる。
3)シラバス、授業案の作成とマイクロティーチングの実施について。
4）事後学習①：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第2回 大学授業の設計①

1）授業の到達目標の立て方について理解する。
2）マイクロティーチングの準備（授業テーマと到達目標の設定、発表と意見交換）
3）事後学習②：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第3回 大学授業の設計②

1）授業設計の理論（バックワードデザイン他）と授業方法について理解する。
2）マイクロティーチングの準備（授業内容・方法の検討、発表と意見交換）
3）事後学習③：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第4回 大学授業の実施・運営

1）学生のアクティブラーニングを促すための方策について理解する。
2）アクティブラーニングの実践事例を取り上げる。
3）マイクロティーチングの準備（授業内容・方法の検討、発表と意見交換）
4）事後学習④：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第5回 大学授業の評価

1）成績評価の意義と役割、方法について理解する。とくにルーブリックについて取り上げる。
2）マイクロティーチングの準備（成績評価方法の検討、発表と意見交換）
3）事後学習⑤：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第6回 大学授業の改善

1）ファカルティ・ディベロップメント（授業改善）に取り組む意義について理解する。
2）マイクロティーチングの準備（授業案の完成、発表と意見交換）
3）事後学習⑥：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第7回　マイクロティーチングの実施
1）一人ずつマイクロティーチング（模擬授業）を行い、ピア・レビューと振り返りを行う。
2）全体総括とシラバス・授業案・授業教材の提出について
3）事後学習⑦：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献：
・R.K.ソーヤー編、森敏昭・秋田喜代美翻訳『学習科学ハンドブック』、培風館、2009
・中島英博編著『シリーズ大学の教授法1：授業設計』、玉川大学出版部、2016
・佐藤浩章編著『シリーズ大学の教授法2：講義法』、玉川大学出版部、2017
・中井俊樹編著『シリーズ大学の教授法3：アクティブラーニング』、玉川大学出版部、2015
・中島英博編著『シリーズ大学の教授法4：学習評価』、玉川大学出版部、2018
・近田政博編著『シリーズ大学の教授法5：研究指導』、玉川大学出版部、2018
・佐藤浩章、栗田佳代編著『シリーズ大学の教授法6：授業改善』、玉川大学出版部、2021
・E.L.ボイヤー著、有本章訳『大学教授職の使命－スカラーシップ再考』、玉川大学出版部、1996
・Marsha C. Lovett, Michael W. Bridges, Michele DiPietro, Susan A. Ambrose & Marie K. Norman, (2023), How Learning Works: Eight Research-Based Principles for Smart Teaching, Jossey-Bass
ほか、各回の授業において、関連文献等を紹介します。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　65　授業教材の作成　15%、事後学習（20%　ルーブリックに基づき評価します）、シラバス・授業案の提出　30%

その他：　35　マイクロティーチング　35%　（ルーブリックに基づき評価します）

備考・関連URL：
・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合は授業内で周知します。
・欠席や公欠等の授業内ルールは大学の規定に従います。
・遅刻は出来るだけしないようにしましょう。授業途中からの参加は他の受講生の妨げになりますし、意見交換への十分な参加が難しくなる場合があります。
・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020046|03|9S91020046[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	教授法実践演習 03		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「Preparing Future Faculty Program （PFFP）」とは、大学院生から大学教員への接続をよりスムーズにすることを目的として開発された教育プログラムです。日本の大学においても2000年代以降同様のプログラムを設置する大学は増加しており、その内容は授業設計やティーチングスキルなど、教育実践の訓練を含むことが一般的です。本授業は、将来、大学教授職を目指す大学院生を対象に、大学授業の設計、実施・運営、評価に関する実践的な知識と技能を習得することを目指すものです。

授業では、受講者の皆さんは大学教員に求められる職能について理解するとともに、シラバスおよび授業案の作成を段階的に進めます。さらに授業の最終成果としてマイクロティーチング（模擬授業）とピア・レビューを体験します。将来のキャリア選択の一つとして大学教員となることを考えている学生の皆さんの受講を歓迎します。

授業で必要なパソコンなどの情報機器や情報環境等は自身で準備をしてください。また、準備学習課題や事後学習の提出はWsasedaMoodleを使用します。なお、本授業の受講にあたっては、「大学における教育と学習」「大学における教育と学習（応用）」「学生による授業支援入門」の各授業を受講していることを推奨します。

授業の到達目標: ①大学教授職を目指す学生が、自ら有する学識を教授するために必要な基本的な能力を身につける。
②大学において学習者主体の授業を実践するために必要な基本的な能力を身につける。

事前・事後学習の内容: マイクロティーチング（模擬授業）を実施するため、コースを通じてシラバスと授業案の作成および教材作成の課題を課します。また、毎回、授業の振り返りを事後学習として課します。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション

1)自己紹介、授業の到達目標と概要の説明、受講上の留意点等の確認
2)大学教授職としての責務とその職能について取り上げる。
3)シラバス、授業案の作成とマイクロティーチングの実施について。
4）事後学習①：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第2回 大学授業の設計①

1）授業の到達目標の立て方について理解する。
2）マイクロティーチングの準備（授業テーマと到達目標の設定、発表と意見交換）
3）事後学習②：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第3回 大学授業の設計②

1）授業設計の理論（バックワードデザイン他）と授業方法について理解する。
2）マイクロティーチングの準備（授業内容・方法の検討、発表と意見交換）
3）事後学習③：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第4回 大学授業の実施・運営

1）学生のアクティブラーニングを促すための方策について理解する。
2）アクティブラーニングの実践事例を取り上げる。
3）マイクロティーチングの準備（授業内容・方法の検討、発表と意見交換）
4）事後学習④：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第5回 大学授業の評価

1）成績評価の意義と役割、方法について理解する。とくにルーブリックについて取り上げる。
2）マイクロティーチングの準備（成績評価方法の検討、発表と意見交換）
3）事後学習⑤：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第6回 大学授業の改善

1）ファカルティ・ディベロップメント（授業改善）に取り組む意義について理解する。
2）マイクロティーチングの準備（授業案の完成、発表と意見交換）
3）事後学習⑥：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第7回　マイクロティーチングの実施
1）一人ずつマイクロティーチング（模擬授業）を行い、ピア・レビューと振り返りを行う。
2）全体総括とシラバス・授業案・授業教材の提出について
3）事後学習⑦：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献：
・R.K.ソーヤー編、森敏昭・秋田喜代美翻訳『学習科学ハンドブック』、培風館、2009
・中島英博編著『シリーズ大学の教授法1：授業設計』、玉川大学出版部、2016
・佐藤浩章編著『シリーズ大学の教授法2：講義法』、玉川大学出版部、2017
・中井俊樹編著『シリーズ大学の教授法3：アクティブラーニング』、玉川大学出版部、2015
・中島英博編著『シリーズ大学の教授法4：学習評価』、玉川大学出版部、2018
・近田政博編著『シリーズ大学の教授法5：研究指導』、玉川大学出版部、2018
・佐藤浩章、栗田佳代編著『シリーズ大学の教授法6：授業改善』、玉川大学出版部、2021
・E.L.ボイヤー著、有本章訳『大学教授職の使命－スカラーシップ再考』、玉川大学出版部、1996
・Marsha C. Lovett, Michael W. Bridges, Michele DiPietro, Susan A. Ambrose & Marie K. Norman, (2023), How Learning Works: Eight Research-Based Principles for Smart Teaching, Jossey-Bass
ほか、各回の授業において、関連文献等を紹介します。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　65　授業教材の作成　15%、事後学習（20%　ルーブリックに基づき評価します）、シラバス・授業案の提出　30%

その他：　35　マイクロティーチング　35%　（ルーブリックに基づき評価します）

備考・関連URL：
・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合は授業内で周知します。
・欠席や公欠等の授業内ルールは大学の規定に従います。
・遅刻は出来るだけしないようにしましょう。授業途中からの参加は他の受講生の妨げになりますし、意見交換への十分な参加が難しくなる場合があります。
・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020046|04|9S91020046[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	教授法実践演習 04		
担 当 教 員	井上 史子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「Preparing Future Faculty Program （PFFP）」とは、大学院生から大学教員への接続をよりスムーズにすることを目的として開発された教育プログラムです。日本の大学においても2000年代以降同様のプログラムを設置する大学は増加しており、その内容は授業設計やティーチングスキルなど、教育実践の訓練を含むことが一般的です。本授業は、将来、大学教授職を目指す大学院生を対象に、大学授業の設計、実施・運営、評価に関する実践的な知識と技能を習得することを目指すものです。

授業では、受講者の皆さんは大学教員に求められる職能について理解するとともに、シラバスおよび授業案の作成を段階的に進めます。さらに授業の最終成果としてマイクロティーチング（模擬授業）とピア・レビューを体験します。将来のキャリア選択の一つとして大学教員となることを考えている学生の皆さんの受講を歓迎します。

授業で必要なパソコンなどの情報機器や情報環境等は自身で準備をしてください。また、準備学習課題や事後学習の提出はWsasedaMoodleを使用します。なお、本授業の受講にあたっては、「大学における教育と学習」「大学における教育と学習（応用）」「学生による授業支援入門」の各授業を受講していることを推奨します。

授業の到達目標: ①大学教授職を目指す学生が、自ら有する学識を教授するために必要な基本的な能力を身につける。
②大学において学習者主体の授業を実践するために必要な基本的な能力を身につける。

事前・事後学習の内容: マイクロティーチング（模擬授業）を実施するため、コースを通じてシラバスと授業案の作成および教材作成の課題を課します。また、毎回、授業の振り返りを事後学習として課します。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 オリエンテーション

1)自己紹介、授業の到達目標と概要の説明、受講上の留意点等の確認
2)大学教授職としての責務とその職能について取り上げる。
3)授業案の作成とマイクロティーチングの実施について。
4）事後学習①：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第2回 大学授業の設計①

1）授業の到達目標の立て方について理解する。
2）マイクロティーチングの準備（授業テーマと到達目標の設定、発表と意見交換）
3）事後学習②：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第3回 大学授業の設計②

1）授業設計の理論（バックワードデザイン他）と授業方法について理解する。
2）マイクロティーチングの準備（授業内容・方法の検討、発表と意見交換）
3）事後学習③：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第4回 大学授業の実施・運営

1）学生のアクティブラーニングを促すための方策について理解する。
2）アクティブラーニングの実践事例を取り上げる。
3）マイクロティーチングの準備（授業内容・方法の検討、発表と意見交換）
4）事後学習④：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第5回 大学授業の評価

1）成績評価の意義と役割、方法について理解する。とくにルーブリックについて取り上げる。
2）マイクロティーチングの準備（成績評価方法の検討、発表と意見交換）
3）事後学習⑤：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第6回 大学授業の改善

1）ファカルティ・ディベロップメント（授業改善）に取り組む意義について理解する。
2）マイクロティーチングの準備（授業案の完成、発表と意見交換）
3）事後学習⑥：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

第7回　マイクロティーチングの実施
1）一人ずつマイクロティーチング（模擬授業）を行い、ピア・レビューと振り返りを行う。
2）全体総括とシラバス・授業案・授業教材の提出について
3）事後学習⑦：本時を振り返り、自身の学びを学習ポートフォリオに記録する。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教科書は特に定めません。論文や文献・資料等によって授業を進めます。

参考文献：　・R.K.ソーヤー編、森敏昭・秋田喜代美翻訳『学習科学ハンドブック』、培風館、2009
・中島英博編著『シリーズ大学の教授法1：授業設計』、玉川大学出版部、2016
・佐藤浩章編著『シリーズ大学の教授法2：講義法』、玉川大学出版部、2017
・中井俊樹編著『シリーズ大学の教授法3：アクティブラーニング』、玉川大学出版部、2015
・中島英博編著『シリーズ大学の教授法4：学習評価』、玉川大学出版部、2018
・近田政博編著『シリーズ大学の教授法5：研究指導』、玉川大学出版部、2018
・佐藤浩章、栗田佳代編著『シリーズ大学の教授法6：授業改善』、玉川大学出版部、2021
・E.L.ボイヤー著、有本章訳『大学教授職の使命－スカラーシップ再考』、玉川大学出版部、1996
・Marsha C. Lovett, Michael W. Bridges, Michele DiPietro, Susan A. Ambrose & Marie K. Norman, (2023), How Learning Works: Eight Research-Based Principles for Smart Teaching, Jossey-Bass
ほか、各回の授業において、関連文献等を紹介します。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価：　65　授業教材の作成　15%、事後学習（20%　ルーブリックに基づき評価します）、シラバス・授業案の提出　30%

その他：　35　マイクロティーチング　35%　（ルーブリックに基づき評価します）

備考・関連URL：　・各回のスケジュールや内容・順序は進捗具合により変更の可能性があります。その場合は授業内で周知します。
・欠席や公欠等の授業内ルールは大学の規定に従います。
・遅刻は出来るだけしないようにしましょう。授業途中からの参加は他の受講生の妨げになりますし、意見交換への十分な参加が難しくなる場合があります。
・受講に際してとくに対応が必要な場合は遠慮なく申し出てください。
・本授業での学習におけるAI等の活用ルールについてはオリエンテーション内で説明します。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020047|01|9S91020047[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学研究演習 ２ 01		
担 当 教 員	小林 学		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	オンライン】ハイブリッド（対面回数半数未満
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要： データから意思決定を行うための数理的プロセスであるデータサイエンスは、多くの学術領域及びビジネス領域において重要となっている。本科目は新しいデータサイエンス手法に関する研究やデータサイエンスを応用したシステムの開発などが行える人材の育成を目指す「データ科学研究力養成プログラム」の一科目である。
本科目は「データ科学研究演習１」の単位を取得した学生を対象とする。本演習ではデータ科学研究演習１で行った各自の研究テーマにおける先行研究の調査及び見出した研究課題に対して、その課題解決方法の提案や応用システムの開発などを行う。
曜日・時限は履修者との調整の上決まる。
データ科学研究力養成プログラムについてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

授業の到達目標： データサイエンスに関する研究課題の設定を行い、その解決方法の提案あるいは応用システムの開発を行い、その有効性の評価を行う

事前・事後学習の内容： 事前学習：
先行研究の調査、研究課題に対する研究演習の遂行、プログラム作成、資料の作成等（100分程度）
事後学習：
人の発表や自身の発表、授業中のコメントなど授業に対するフィードバックを行い復習する他、コメントや課題に対する検討を実施（100分程度）

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第１回：演習内容と目的
演習内容のガイダンス、演習の進め方と各研究テーマの策定方法の説明、発表スケジュールの決定

第２回：研究課題の策定
従来研究の調査を基に具体的な研究課題について検討する

第３回：研究課題の策定と研究計画の立案
先行研究の調査を基に具体的な研究課題について検討し、研究計画を立案

第４回：研究課題の策定と研究計画の立案
先行研究の調査を基に具体的な研究課題について検討し、研究計画を立案

第５回：研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い進めた研究課題の進捗を発表及び討論

第６回：研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い進めた研究課題の進捗を発表及び討論

第７回：研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い進めた研究課題の進捗を発表及び討論

第８回：研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い進めた研究課題の進捗を発表及び討論

第９回：研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い進めた研究課題の進捗を発表及び討論

第１０回：研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い進めた研究課題の進捗を発表及び討論

第１１回：研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い進めた研究課題の進捗を発表及び討論

第１２回：研究課題のレポートと研究発表準備
研究課題のレポートへのまとめと研究発表に関する検討

第１３回：研究課題のレポートと研究発表準備
研究課題のレポートへのまとめと研究発表に関する検討
第１４回：研究課題のレポートと研究発表
研究課題のレポートへのまとめと研究発表

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義内で指示する。

参考文献：　講義内で指示する。

成績評価フリー入力サイン：　0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　50　研究演習レポートの提出及びその内容によって評価

平常点評価：　50　講義への参加状況、先行研究の調査発表及び討論への貢献度によって評価

備考・関連URL：　本科目はデータ科学センターが提供する「データ科学研究力養成プログラム」の一環として行う。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumをご参照ください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020047|02|9S91020047[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学研究演習 ２ 02		
担 当 教 員	野村 亮		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	オンライン】ハイブリッド（対面回数半数未満
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：
データから意思決定を行うための数理的プロセスであるデータサイエンスは、多くの学術領域及びビジネス領域において重要となっている。本科目は新しいデータサイエンス手法に関する研究やデータサイエンスを応用したシステムの開発などが行える人材の育成を目指す「データ科学研究力養成プログラム」の一科目である。
本科目は「データ科学研究演習１」の単位を取得した学生を対象とする。本演習ではデータ科学研究演習１で行った各自の研究テーマにおける先行研究の調査及び見出した研究課題に対して、その課題解決方法の提案や応用システムの開発などを行う。
曜日・時限は履修者との調整の上決まる。
データ科学研究力養成プログラムについてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumを参照のこと

授業の到達目標：
データサイエンスに関する研究課題の設定を行い、その解決方法の提案あるいは応用システムの開発を行い、その有効性の評価を行う

事前・事後学習の内容：
事前学習：
先行研究の調査、研究課題に対する研究演習の遂行、プログラム作成、資料の作成等（100分程度）
事後学習：
人の発表や自身の発表、授業中のコメントなど授業に対するフィードバックを行い復習する他、コメントや課題に対する検討を実施（100分程度）

授業計画フリー入力サイン：
0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

演習内容と目的
演習内容のガイダンス、演習の進め方と各研究テーマの策定方法の説明、発表スケジュールの決定
研究課題の策定
従来研究の調査を基に具体的な研究課題について検討する
研究課題の策定と研究計画の立案
先行研究の調査を基に具体的な研究課題について検討し、研究計画を立案
研究課題の策定と研究計画の立案
先行研究の調査を基に具体的な研究課題について検討し、研究計画を立案
研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い進めた研究課題の進捗を発表及び討論
研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い進めた研究課題の進捗を発表及び討論
研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い進めた研究課題の進捗を発表及び討論
研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い進めた研究課題の進捗を発表及び討論
研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い進めた研究課題の進捗を発表及び討論
研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い進めた研究課題の進捗を発表及び討論
研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い進めた研究課題の進捗を発表及び討論
研究課題のレポートと研究発表準備
研究課題のレポートへのまとめと研究発表に関する検討

研究課題のレポートと研究発表準備
研究課題のレポートへのまとめと研究発表に関する検討
研究課題のレポートと研究発表
研究課題のレポートへのまとめと研究発表

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 講義内で指示する。

参考文献: 講義内で指示する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 50 研究演習レポートの提出及びその内容によって評価

平常点評価: 50 講義への参加状況、先行研究の調査発表及び討論への貢献度によって評価

備考・関連URL: 本科目はデータ科学センターが提供する「データ科学研究力養成プログラム」の一環として行う。
詳しくはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculumを参照のこと

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020047|03|9S91020047[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	データ科学研究演習 ２ 03		
担 当 教 員	堀井 俊佑		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	オンライン】ハイブリッド（対面回数半数未満
科 目 区 分	データ科学科目（日本語）	配 当 年 次	１年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

データから意思決定を行うための数理的プロセスであるデータサイエンスは、多くの学術領域及びビジネス領域において重要となっている。本科目は新しいデータサイエンス手法に関する研究やデータサイエンスを応用したシステムの開発などが行える人材の育成を目指す「データ科学研究力養成プログラム」の一科目である。本科目は「データ科学研究演習１」の単位を取得した学生を対象とする。本演習ではデータ科学研究演習１で行った各自の研究テーマにおける先行研究の調査及び見出した研究課題に対して、その課題解決方法の提案や応用システムの開発などを行う。

本演習はゼミ形式で行う。ゼミは週に1度行い、曜日時限は全履修者との調整の上決定する。

データ科学研究力養成プログラムについてはhttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculum をご参照ください。

授業の到達目標：

データサイエンスに関する研究課題の設定を行い、その解決方法の提案あるいは応用システムの開発を行い、その有効性の評価を行う

事前・事後学習の内容：

事前学習：
先行研究の調査、研究課題に対する研究演習の遂行、プログラム作成、資料の作成等（100分程度）
事後学習：
人の発表や自身の発表、授業中のコメントなど授業に対するフィードバックを行い復習する他、コメントや課題に対する検討を実施（100分程度）

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第１回：演習内容と目的
演習内容のガイダンス、演習の進め方と各研究テーマの策定方法の説明、発表スケジュールの決定
第２回：研究課題の策定
従来研究の調査を基に具体的な研究課題について検討する
第３回：研究課題の策定と研究計画の立案
先行研究の調査を基に具体的な研究課題について検討し、研究計画を立案
第４回：研究課題の策定と研究計画の立案
先行研究の調査を基に具体的な研究課題について検討し、研究計画を立案
第５回：研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い勧めた研究課題の進捗を発表及び討論
第６回：研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い勧めた研究課題の進捗を発表及び討論
第７回：研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い勧めた研究課題の進捗を発表及び討論
第８回：研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い勧めた研究課題の進捗を発表及び討論
第９回：研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い勧めた研究課題の進捗を発表及び討論
第１０回：研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い勧めた研究課題の進捗を発表及び討論
第１１回：研究課題の進捗報告及び討論
研究計画に従い勧めた研究課題の進捗を発表及び討論

第12回：研究課題のレポートと研究発表準備
研究課題のレポートへのまとめと研究発表に関する検討
第13回：研究課題のレポートと研究発表準備
研究課題のレポートへのまとめと研究発表に関する検討
第14回：研究課題のレポートと研究発表
研究課題のレポートへのまとめと研究発表

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　講義内で指示する。

参考文献：　講義内で指示する。

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　50　研究演習レポートへの提出及びその内容によって評価

平常点評価：　50　講義への参加状況、先行研究の調査発表及び討論への貢献度によって評価

備考・関連URL：　本科目はデータ科学センターが提供する「データ科学研究力養成プログラム」の一環として行う。詳しくは https://www.waseda.jp/inst/cds/education/curriculum をご参照ください。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020048|01|9S91020048[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	事業創造演習α 01		
担 当 教 員	藤本 悠@下川 哲		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（経営・経済・金融）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

この科目では，企業が実際に抱える社会課題を題材にし，受講生の主専攻およびカーボンニュートラル副専攻で培った知識と分析能力を活かした事業創造プラン等について演習する。演習は講義，ディスカッション，グループワーク，プレゼンテーションで構成される。企業の第一線で活躍している方を講師として招聘し、講師らとの議論および交流を通して社会的なニーズとシーズへの理解を深め、より実践的な視点からカーボンニュートラル社会実現に向けた事業創造について考察する。

協力企業：
株式会社みずほフィナンシャルグループ
PwCアドバイザリー合同会社

※当該科目を設計するにあたって、履修者は「カーボンニュートラル」および「データ分析」に関する知識を有していることを前提としている。次に示す各科目で扱う内容を理解できることを確認した上で履修することを推奨する。
・「カーボンニュートラル技術概論α」、「カーボンニュートラル技術概論β」、「カーボンニュートラルと社会」
・データ科学認定制度「中級」程度
データ科学認定制度について： httphttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditation
・グローバルエデュケーション設置「ビジネス創出科目」群
【詳細】
大学院分野横断型副専攻「大学院カーボンニュートラル副専攻」（グローバルエデュケーションWEBサイト）：
https://www.waseda.jp/inst/gec/graduate/minor-3/

授業の到達目標：

現在のビジネス業界の最前線の基本知識の習得、分析手法の修得、社会的ニーズやシーズとの関連性について理解する。また、それらの知識や分析手法が、カーボンニュートラル社会の実現に向けた事業創造にどのようにつなげられるかを実践的に学ぶ。

事前・事後学習の内容：

毎回、講義の前に1時間程度、講義のテーマに関連するキーワードについて予習をすること。
また、授業終了後には1～2時間程度の事後学習が必要となる。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 【みずほフィナンシャルグループ】脱炭素時代の企業の戦略と金融機関の役割

カーボンニュートラル（CN）に向けた全体感を理解すべく、脱炭素やサステナビリティの潮流、日本の戦略、金融グループによる企業支援の概観等について、理解を深める。

第2回 【みずほフィナンシャルグループ】みずほのSX支援事例① 脱炭素戦略策定支援

2050年CNに向けて社会が変化する中、企業は自社の脱炭素目標や戦略の策定を投資家等から求められている。本講義では、企業の置かれている状況、脱炭素戦略の事例、みずほの支援例を解説する。

第3回 【みずほフィナンシャルグループ】みずほのSX支援事例② 電力・燃料調達支援

自社の脱炭素化に向け、企業は使用する電力や燃料を再生可能エネルギーや水素等の低炭素・脱炭素な燃料へ切り替えていく必要がある。本講義では、脱炭素に貢献する電力や燃料の現状や事例、みずほの支援例を解説する。

第4回 【みずほフィナンシャルグループ】みずほのSX支援事例③ 新規ビジネス検討支援

企業は、脱炭素に関する社会ニーズを捉え、自社のビジネス拡大と社会問題解決の同時実現を目指すことも重要である。本講義では、みずほによる、企業向け新規事業戦略立案・実行の支援例を解説する。

第5回 【PwCアドバイザリー】演習1ケース（自動車LCA/EV投資）の説明/議論

・CN化の取組みが進んでいる自動車業界の取組みを紹介、CNと営利活動のバランスをどう取りながら進めているか講義を行う。トピックスはEV化とLCAでのCO2削減（CO2のデータ分析・可視化、サプライヤーへのCN要請、CN部品の展開、再エネ活用等）。
・また、EV化については自国産業育成・経済安全保障の側面からも取組みが進んでいる旨の講義を行う（国際的なCN要請×企業の営利活動×ブロック経済化各国政策の融合体としてCN取組みが進む旨）。
・グループディスカッション：今後、CN化を進めるにあたって日系自動車OEM・サプライヤーが何をすべきか。

第6回 【PwCアドバイザリー】演習2ケース（サーキュラーエコノミーとCN）の説明/議論

・ CNの実現のためには、マテリアルの脱炭素化は不可欠である。GHG排出量のうち、約40%はサーキュラーエコノミーの取り組みにより削減が可能と試算されている。
・本講義では、サーキュラーエコノミーの概念や関連施策、各企業の取り組みなどを紹介しながら、サーキュラーエコノミーの必要性やCNに与えるインパクトについて講義を行う。
・グループディスカッション： 今後、CN化を進めるにあたって企業がどのようなサーキュラーエコノミーの取り組みを行うべきか。

第7回 【PwCアドバイザリー】演習3ケース（地域脱炭素とサーキュラーエコノミー）の説明/議論

・社会全体の脱炭素やサーキュラーエコノミーの実現については、各地域における取組の推進が不可欠である。
・政策的な後押しもあり、太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーの導入等による脱炭素化は全国各地で進展している。また、資源循環の高度化を通じて資源採掘・製造段階を含むライフサイクル全体のCO_2排出削減にも貢献するサーキュラーエコノミーは、CN実現に向けた重要なアプローチであるものの、異なるバリューチェーンや業界横断での連携が求められ、現在は黎明期にある。
・こうした政策・業界動向を俯瞰しながら、日本における脱炭素化およびサーキュラーエコノミーの推進に向けた方向性や課題について講義を行う。
・グループディスカッション：脱炭素・サーキュラーエコノミーを進めるうえでの課題は何か、また、官民学でどの様な連携が今後必要となるか。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 毎回、講義資料を用意する。

参考文献: 第5回～第7回:
「SXの時代~究極の生き残り戦略としてのサステナビリティ経営」（日経BP）
「LCAが変える産業の未来」（ダイヤモンド社）
その他の講義については授業内で提示する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 10 課す場合がある

平常点評価: 90 毎回の講義への取り組みを総合的に評価する。

備考・関連URL:

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020049|01|9S91020049[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	事業創造演習α 02		
担 当 教 員	川上 智子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（経営・経済・金融）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

この科目では，企業が実際に抱える社会課題を題材にし，受講生の主専攻およびカーボンニュートラル副専攻で培った知識と分析能力を活かした事業創造プラン等について演習する。演習は講義，ディスカッション，グループワーク，プレゼンテーションで構成される。企業の第一線で活躍している方を講師として招聘し、講師らとの議論および交流を通して社会的なニーズとシーズへの理解を深め、より実践的な視点からカーボンニュートラル社会実現に向けた事業創造について考察する。

協力企業：
野村證券株式会社
野村不動産株式会社
デロイト トーマツコンサルティング合同会社

※当該科目を設計するにあたって、履修者は「カーボンニュートラル」および「データ分析」に関する知識を有していることを前提としている。次に示す各科目で扱う内容を理解できることを確認した上で履修することを推奨する。
・「カーボンニュートラル技術概論α」、「カーボンニュートラル技術概論β」、「カーボンニュートラルと社会」
・データ科学認定制度「中級」程度
データ科学認定制度について： httphttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditation
・グローバルエデュケーション設置「ビジネス創出科目」群
【詳細】
大学院分野横断型副専攻「大学院カーボンニュートラル副専攻」（グローバルエデュケーションWEBサイト）：
https://www.waseda.jp/inst/gec/graduate/minor-3/

授業の到達目標：

現在のビジネス業界の最前線の基本知識の習得、分析手法の修得、社会的ニーズやシーズとの関連性について理解する。また、それらの知識や分析手法が、カーボンニュートラル社会の実現に向けた事業創造にどのようにつなげられるかを実践的に学ぶ。

事前・事後学習の内容：

毎回、講義の前に1時間程度、講義のテーマに関連するキーワードについて予習をすること。
また、授業終了後には1～2時間程度の事後学習が必要となる。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回 【野村証券】次世代核エネルギービジネス

次世代核エネルギーとして、次世代革新炉と核融合が期待されている。これらの技術概要や産業動向、関連企業等について紹介する。また、これら次世代核エネルギーを普及させる上で鍵となるいくつかのポイントについて検討していく。

第2回 【野村証券】ネガティブ・エミッション技術関連ビジネス

中長期的な地球温暖化対策にとって必須の技術であるネガティブ・エミッション技術、その中でも特に期待が大きいDACS（Direct Air Capture and Storage）とDOCS(Direct Ocean Capture and Storage)についての技術概要や産業動向、関連企業等について紹介する。また、DACSとDOCSを普及させる上で鍵となるいくつかのポイントについて検討していく。

第3回 【野村不動産】野村不動産グループの企業理念とマテリアリティ

A)野村不動産グループの企業概要・理念から生まれたサステナビリティポリシー制定の経緯を説明し、それを実現するための重要課題（マテリアリティ）についてお話しします。
B)マテリアリティである気候変動と自然環境（脱炭素、サーキュラーデザイン、生物多様性）と社会と社員（D&I、人権）に対する野村不動産グループの取り組みを学び、自分事として、社会課題の解決につなげていく意識について議論してもらいます。

第4回 【野村不動産】5つマテリアリティとサステナブルな事業

-第3回の振り返り（サステナビリティポリシーとマテリアリティ）
C)野村不動産グループの東京都多摩市で運営する森林（つなぐ森）を舞台にした体験講義を通じて、サステナブルな事業創発を検討してもらいます。
D)野村不動産グループのインクルーシブデザインを活用した体験講義を通じて、サステナブルな価値創造を検討してもらいます。
E)講義を通して学んだ5つのマテリアリティの相互のつながりについて思考を深めてもらいます。

第5回 【デロイト トーマツコンサルティング】カーボンニュートラル×政治経済産業動向

カーボンニュートラルの実現には、国内外の政治・経済・産業における動向を踏まえたマクロな視点が不可欠である。本講義では第5回から第7回の導入として、エネルギー安全保障やGX産業立地、注目される最新技術（例：フュージョンエネルギー・核融合等）についても触れながら、カーボンニュートラル政策やそれに対する経済・産業の現状と今後の展望について検討を深めていく。

第6回 【デロイト トーマツコンサルティング】資源循環ビジネス検討

生産・廃棄段階での資源循環（サーキュラーエコノミー）の取組みは、国内外でますます重要性を増している。本講義ではサーキュラーエコノミーに関連するEU・米国などの国際的な規制・トレンド・グローバル企業の事例を取り上げ、日本が置かれている状況を分析し解説する。また、サーキュラーエコノミーの国家プロジェクトを通じた我が国としての国際的な再資源活用競争の勝ち筋を描くと共に、ケーススタディ形式での実践を通じて理解を深める。

第7回 【デロイト トーマツコンサルティング】カーボンニュートラルに対する企業の取組み

カーボンニュートラルの実現に向け、企業は国際認証ルールやサプライチェーン全体での脱炭素要請への対応が求められている。本講義ではグローバル企業による対応事例や、日本企業の先進的な取り組みを紹介しつつ、企業が持続可能な競争力を確保するための戦略を考察する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 毎回、講義資料を用意する。

参考文献: 授業内で提示する。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 10 課す場合がある。

平常点評価: 90 毎回の講義への取り組みを総合的に評価する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020050|01|9S91020050[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	複数言語環境で成長する子どものリテラシー 1		
担 当 教 員	太田 裕子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 「移動する子ども」のことばを捉える―理論編
Literacies of children in a multilingual context 1: Theoretical perspectives on language practices of children across borders

授業概要: グローバル化に伴い、国境を越えた人々の移動が日常的になっている。大人に伴われ、子どももまた、移動している。本授業では、「空間」「言語間」「言語教育カテゴリー間」の移動を経験しながら複数言語環境で成長する子どもの、リテラシーとその教育を考える。本授業では、複数言語環境で成長する子どものリテラシーを捉えるための理論を紹介しながら、様々な事例を通して、子どもの多様で動態的なことばの様相への理解を促す。また、子どもの複言語リテラシーを育てるための教育についての理論と実践事例も紹介する。
本授業では、ディスカッションや履修者同士の協働作業を重視する。その際、各履修者の言語学習・言語使用経験、複数言語環境で成長する子どもに関する経験や知識を振り返り、自身と関連づけて考えることを促す。講義は主に日本語で行われるが、履修者のニーズによっては、英語を交える場合もある。また、個人活動や履修者同士のグループ活動では、自身の理解とグループ・メンバーとの相互理解を深めるために、各自の言語レパートリーを活用して、複数の言語で考え、調べ、表現し、やり取りすること奨励する。多様な言語背景を持つ学生が集まることを期待する。
本授業は、学部生と大学院生を対象とする。学部生と大学院生は、同じ対面授業を受けるが、異なる課題が出される。学部生は、授業で提示された問いに対する自身の考えを、500字程度で書き、Moodleで提出する。（約30分） 大学院生は、提示された参考文献を読み、それに対するコメント（興味深い点、疑問、議論したい点等）を800字程度で書き、Moodleで提出する。また、他者が挙げた論点に対して、コメントする。（約30分程度） 学部生には、大学院生向けの課題文献の講読は求めないが、授業内容をさらに深めたい場合は掲示された文献を読むことを奨励する。コメントを提出した場合は、加点する。最終週には、授業で学んだ理論や事例を踏まえて考察する最終レポートが課される（学部生は2000字程度、大学院生は3000～4000字程度）。
本授業は、「複数言語環境で成長する子どものリテラシー2」とあわせて受講することを前提としている。「複数言語環境で成長する子どものリテラシー2」では、自分やクラスの持つ言語リソースを全て活用するTranslanguaging教育実践を体験する。最終レポートでは、日本や世界で、複数言語環境で成長する子どものための、リテラシー教材・教育実践案を作成する。作成した教材・教育実践案の内、作者が同意したものは、ウェブサイト※で公開し、子どもや親、支援者が活用できるようにする。

※「ふくふく（複言語複文化）リテラシー」https://fukufukuliteracy.w.waseda.jp/
本授業は、全回、教室で対面形式で行われる。

With the advancement of globalization, cross-border mobility has become an everyday phenomenon. Children, accompanying adults, are also on the move. In this course, we examine the literacies and literacy education of children growing up in a multilingual context through the lens of mobility across “spaces,” “languages,” and “language education categories.” The course introduces theoretical frameworks for understanding the literacies of children growing up in a multilingual context and, through various case studies, fosters an understanding of the diverse and dynamic language practices of children. It also presents theories and practical examples of education aimed at fostering children’s plurilingual literacy.

This course places emphasis on discussion and collaborative work among students. Participants are encouraged to reflect on their own experiences of language learning and language use, as well as their experiences and knowledge related to children growing up in a multilingual context, and to connect these reflections to course content. The lectures will be conducted primarily in Japanese; however, depending on students’ needs, English may also be used. In individual and group activities, students are encouraged to draw on their full linguistic repertoires to think, investigate, express ideas, and interact, thereby deepening their understanding of the issues under discussion and fostering mutual understanding among group members. Students with diverse linguistic backgrounds are welcome.

This course is open to both undergraduate and graduate students. While both groups attend the same in-person classes, different assignments are required. Undergraduate students will write a short reflection in response to questions presented in class and submit it via Moodle (approximately 30 minutes). The reflection should be approximately 500 Japanese characters or 250 words in English. Graduate students will read assigned readings and submit a written commentary via Moodle (approximately 1-2 hours). The commentary should be approximately 800 Japanese characters or 400-450 words in English. In their commentary, students are expected to address points of interest, questions, and issues for discussion. They will also provide comments on points raised by others. Undergraduate students are not required to read the references assigned to graduate students; however, those who wish to deepen their understanding are encouraged to read the listed materials.

Additional credit will be given for submitted commentaries. In the final week, students will submit a final paper based on the theories and practices learned in the course. The length requirement is approximately 2,000 Japanese characters or 1000 words in English for undergraduates, and 3,000-4,000 Japanese characters or 1,50 -2,000 words in English for graduate students.

This course is designed to be taken in conjunction with "Literacies of children in a multilingual context 2". In "Literacies of children in a multilingual context 2", students will experience Translanguaging pedagogy that makes full use of the linguistic resources of individuals and the class as a whole. For the final paper, students will design literacy learning resources and educational practice plans for children growing up in a multilingual context in Japan and around the world. With the author's consent, literacy learning resources and educational practice plans will be published on the website below so that children, parents, and supporters may use them.

"Fukufuku (Plurilingual and Pluricultural) Literacy"
https://fukufukuliteracy.w.waseda.jp/

*All classes will be held in person in a classroom.

授業の到達目標:

(1)複数言語環境で成長する子どものことばとリテラシー実践に対する様々な理論を分析し、比較できる。
(2)複数言語環境で成長する子どもの複数言語を育てる教育について、その現状と課題を理解し、可能性を検討できる。
(3)授業で学んだことばとリテラシーに対する理論や実践に基づいて、自身の考える複言語リテラシー教育のあり方を議論できる。

By the end of this course, students will be able to:
1. analyze and compare different theoretical perspectives on the language and literacy practices of children growing up in a multilingual context;
2. examine and critically evaluate the current situation, challenges, and possibilities of education aimed at fostering the multiple languages of children growing up in a multilingual context;
3. discuss their own ideas about Plurilingual literacy education drawing on relevant theories and practices of language and literacy introduced in the course.

事前・事後学習の内容:

【学部生】
・事前学習(必須):回によっては、提示された参考文献を読むことが求められる。(1時間程度)
・事前学習(任意):興味がある学部生は、提示された参考文献を読み、Moodleにコメントを投稿する。(1～2時間程度)読んでコメントを残した場合は加点する。
・事後学習(必須):授業で提示された問いに対する自身の考えを、500字程度で書き、Moodleで提出する。(約30分)

【大学院生】
・事前学習:提示された参考文献を読み、それに対するコメント(興味深い点、疑問、議論したい点等)を800字程度で書き、Moodleで提出する。(1～2時間程度)
・事後学習:課題文献に対する他者のコメントを読み、他者が挙げた論点に対して、コメントする。(30分～1時間程度)

【Undergraduate Students】
・Pre-class work (required): Depending on the session, students may be required to read assigned readings (approximately 1 hour).
・Pre-class work (optional): Undergraduate students who are interested may read the assigned readings for graduate students and post a commentary on Moodle (approximately 1-2 hours). Additional credit will be awarded for submitted commentaries.
・Post-class work (required): Students are required to write a reflection in response to questions presented in class and submit it via Moodle. The reflection should be written in Japanese (approximately 500 characters) or English (approximately 250 words). (Approximately 30 minutes)

【Graduate Students】
・Pre-class work (required): Students are required to read the assigned readings and submit a written commentary via Moodle. The commentary (e.g., points of interest, questions, issues for discussion) should be written in Japanese (approximately 800 characters) or English (approximately 400 words). (Approximately 1-2 hours)
・Post-class work (required): Students are required to read other students' commentaries on the assigned readings and respond to points raised by their peers via Moodle. (Approximately 30 minutes)

授業計画フリー入力サイン:

1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

授業計画フリー:

※テーマや扱う内容、課題文献は、履修者の関心や授業の進み具合によって変更する可能性がある。

第1回:「移動する子ども」の「ことばの実践」とは？
「移動する子ども」(川上2011)という概念を紹介したうえで、移動の時代において、子どもたちがどのような「移動」を経験し、どのような「ことばの実践」を行っているかを考える。また、「リテラシー」とは何かを、「移動する子ども」の事例や自身の実践から考える。

第2回:「移動する子ども」のことばの力はどのように捉えられてきたか？
複数言語環境で成長する子どものことばの力がどのように捉えられてきたかを主要な理論を通して考える。ま

た、様々な子どもの事例を通して、「移動する子ども」が学校の文脈で直面する課題にはどのようなものがあるかを考える。

第3回:「移動する子ども」の複数の言語をどう捉えるか？
「移動する子ども」が持つ複数の言語を捉えるための理論を紹介し、履修者自身やケーススタディを通して、個人の中にある言語の複数性、複数言語間を行き来することばの実践を理解する。

第4回:第二言語を学ぶ子どもへの指導・支援とは？
日本の学校で日本語を第二言語として学びながら学習に参加する子どもや、英語圏の学校で英語を第二言語として学びながら学習に参加する子どもにたいして、どのような指導・支援が行われているのか、その事例を紹介し、課題と留意点を考える。

第5回:リテラシーとは何か？—「移動する子ども」のことばを社会文化的実践として見る視点
「移動する子ども」のことば、リテラシーを、社会文化的実践として、多角的に捉える理論を紹介し、どのような側面に注目して、「移動する子ども」のリテラシーを捉えるべきかを考える。

第6回:「移動する子ども」の複数言語の力をどう育てるのか—Translanguagingの視点
Translanguagingの理論と教育実践事例の紹介を通して、教室にいる全ての子どもたちが複数言語リソースを活用し、かつ伸ばすための教育実践のあり方を考える。

第7回:「移動する子ども」の語りから見る複言語・複文化 「移動する子ども」としての経験と記憶を持った当事者が書いたエッセイ等を読み、複言語・複文化能力、Translanguaging実践、アイデンティティを考える。

Course Schedule

Note: Themes, content, and assigned readings may be adjusted depending on students' interests and the progress of the course.

Session 1: What Are the "Language Practices" of "Children across Borders"?
After introducing the concept of "children across borders" (Kawakami, 2011), we will examine what kinds of "mobility" children experience in an age of global movement and what kinds of "language practices" they engage in. We will also explore what "literacy" means by reflecting on case studies of children across borders as well as on our own practices.

Session 2: How Have the Language Abilities of "Children across Borders" Been Understood?
We will examine how the language abilities of children growing up in a multilingual context have been conceptualized through major theoretical frameworks. Through various case studies, we will also consider the challenges that children across borders face in school contexts.

Session 3: In What Ways Can We Understand the Plurilingual Competence of "Children across Borders"?
We will introduce theoretical perspectives for understanding the plurilingual competence of children across borders. Through reflection on students' own experiences and case studies, we will explore linguistic plurality within individuals and language practices that move between languages.

Session 4: What Forms of Instruction and Support Are Provided for Children Learning a Second Language?
We will examine educational practices designed to support children learning Japanese as a second language in Japan and those learning English as a second language in English-speaking contexts. We will consider the challenges and key considerations involved in such practices.

Session 5: What Is Literacy? — Viewing the Language of "Children across Borders" as Sociocultural Practice
We will introduce theoretical perspectives that conceptualize the language and literacy of children across borders as sociocultural practices. We will consider which aspects should be foregrounded when examining their literacy.

Session 6: How Can We Foster the Plurilingual Competence of "Children across Borders"? — A Translanguaging Perspective
Through an introduction to Translanguaging theory and examples of educational practice, we will consider how classroom practices can enable all children to make use of and further develop their plurilingual repertoires.

Session 7: Understanding Plurilingual and Pluricultural Experiences through the Narratives of "Children across Borders"
By reading essays and other writings by individuals who have experienced life as children across borders, we will examine plurilingual and pluricultural competence, Translanguaging practices, and identity.

言語区分: 0 日・英併用 Japanese/English

参考文献:
川上郁雄・尾関史・太田裕子(2014)『日本語を学ぶ／複言語で育つ—子どものことばを考えるワークブック』くろしお出版
ガルシア, O.、ジョンソン, S. I.、セルツァー, K.(2024/2016)『トランスランゲージング・クラスルーム—子どもたちの複数言語を活用した学校教師の実践』(佐野愛子・中島和子監訳)明石書店
Garcia, O., Johnson, S. I., & Seltzer, K. (2017). The translanguaging classroom: Leveraging student bilingualism for learning. Calson.
Seltzer, K., Johnson, S. I., &. Garcia, O. (2025). The translanguaging classroom: Leveraging student bilingualism for learning (2nd ed.). Calson.

その他の、課題文献は授業中に指示する。

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:
【学部生】
レポート80%：授業の振り返り50%、最終レポート30%
議論への積極的参加20%、参考文献へのコメント加点

【大学院生】
レポート90%：課題文献へのコメントおよび他者へのコメント60%、最終レポート30%
議論への貢献10%

【Undergraduate Students】
Reports (80%): Weekly reflections after class 50%, Final report 30%
Participation (20%): Active participation in discussions. Additional credit will be given for reading the assigned references and submitting commentary.

【Graduate Students】
Reports (90%): Comments on assigned readings and peers' comments 60%, Final report 30%
Participation (10%): Contributions to discussions

備考・関連URL:
ふくふくリテラシー（複言語複文化リテラシー）
「複数言語環境で成長する子どものリテラシー2」（冬クォーター）履修者が最終レポートとして作成した教材、教育実践案が、こちらのウェブサイトで公開されています。

Fukufuku Literacy: https://fukufukuliteracy.w.waseda.jp/
Teaching and learning materials and educational practice plans created as final projects by students enrolled in "Literacies of children in a multilingual context 2" (Winter Quarter) are available on the website below.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020051|01|9S91020051[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	複数言語環境で成長する子どものリテラシー 2		
担 当 教 員	太田 裕子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 「移動する子ども」へのことばの教育を考える―実践編
Literacies of children in a multilingual context 2: Practical perspectives on language education for children across borders

授業概要: 本授業では、「複数言語環境で成長する子どものリテラシー1」を踏まえて、複数言語環境で成長する「移動する子ども」のための複言語教育実践のあり方を、課題文献の講読、言語活動の体験、授業実践案と教材の協働的作成を通して、考える。特に、子どもの持つ複数言語の能力・知識、複数言語リソースを活用しながら、子どもの複言語・複文化能力を伸ばす、Translanguagingによる教育実践に焦点を当てる。本授業では、履修者の持つ複数言語リソースを活用し、複言語でのリテラシーを育むTranslanguaging教材と教育実践案を、履修者同士の協働作業を通して作成する。作成した教育実践案と教材は、世界各地で複数言語環境で成長する子どもやその支援者が自由に活用できるよう、以下のサイトで公開する予定である。
「ふくふく（複言語複文化）リテラシー」https://fukufukuliteracy.w.waseda.jp/
講義は主に日本語で行われるが、履修者のニーズによっては、英語を交える場合もある。講義は主に日本語で行われるが、履修者のニーズによっては、英語を交える場合もある。また、個人活動や履修者同士のグループ活動では、自身の理解とグループ・メンバーとの相互理解を深めるために、各自の言語レパートリーを活用して、複数の言語で考え、調べ、表現し、やり取りすること奨励する。多様な言語背景を持つ学生が集まることを期待する。
本授業は、学部生と大学院生を対象とする。学部生と大学院生は、同じ対面授業を受けるが、授業後は異なる課題が出される。学部生は、授業前に提示された参考文献を読み、授業後には授業で提示された問いに対する自身の考えを、500字程度で書く。（約30分） 大学院生は、提示された参考文献を読み、それに対するコメント（興味深い点、疑問、議論したい点等）をA4 1枚程度で書き、授業前にMoodleで提出する。また、他者が挙げた論点に対して、コ授業後にコメントする。（約1.5時間）
授業は、全回、教室で対面で行われる。
本授業は、「複数言語環境で成長する子どものリテラシー1」で扱った理論やディスカッションを前提としているため、「複数言語環境で成長する子どものリテラシー1」を秋クォーターに履修すること。

Building on "Literacies of Children in a Multilingual Context 1", this course examines approaches to educational practice for "children across borders" through close reading of assigned texts, engagement in language activities, and the collaborative development of lesson plans and teaching/learning materials. In particular, the course focuses on Translanguaging pedagogy that draws on children's plurilingual repertoires, knowledge, and linguistic resources in order to further develop their plurilingual and pluricultural competence. Students will collaboratively create Translanguaging-based teaching and learning materials and educational practice plans that foster plurilingual literacy by making use of their own linguistic resources. The completed materials and practice plans will be published online* so that children growing up in multilingual contexts around the world, as well as their supporters, may freely access and use them.
*"Fukufuku (Plurilingual and Pluricultural) Literacy"
https://fukufukuliteracy.w.waseda.jp/

The lectures will be conducted primarily in Japanese; however, depending on students' needs, English may also be used. In individual and group activities, students are encouraged to draw on their full linguistic repertoires to think, investigate, express ideas, and interact, thereby deepening their understanding of the issues under discussion and fostering mutual understanding among group members. Students with diverse linguistic backgrounds are welcome.

This course is open to both undergraduate and graduate students. While both groups attend the same in-person classes, they are assigned different coursework outside class. Undergraduate students will read assigned reference materials before class. After each session, undergraduate students will write a short reflection in response to questions presented in class and submit it via Moodle (approximately 30 minutes). The reflection should be approximately 500 Japanese characters or 250 words in English. Graduate students will read assigned readings and submit a written commentary via Moodle (approximately 1-2 hours). The commentary should be approximately 800 Japanese characters or 400-450 words in English. In their commentary, students are expected to address points of interest, questions, and issues for discussion. They will also provide comments on points raised by others.

All sessions of this course will be conducted in person in a classroom setting.

Because this course presupposes the theories and discussions covered in ″Literacies of children in a multilingual context 1″, Students are expected to take ″Literacies of Children in a Multilingual Context 1″ prior to or in sequence with this course.

授業の到達目標:

(1)学校および学校以外の文脈で、「移動する子ども」がどのように複数の言語で「ことばの実践」を行っているかを理解できる。
(2)社会・学校で使用される言語ではないマイノリティ言語を、「移動する子ども」が学習するために、家庭やコミュニティで行われている取り組みを理解できる。
(3)子どもの持つ複数言語のリソースを活用し、複数言語の力を伸ばすための教育実践のあり方を理解できる。
(4)複数言語を用いた教育実践を構想し、教材を作成することができる。

By the end of this course, students will be able to:
1. understand how “children across borders” engage in language practices in multiple languages both within and beyond school contexts;
2. understand initiatives undertaken in families and communities to support “children across borders” in learning minority languages that are not used in wider society or in school;
3. understand approaches to educational practice that draw on children’s plurilingual repertoires in order to further develop their plurilingual competence;
4. design Translanguaging-based lesson plans and develop teaching and learning materials.

事前・事後学習の内容:

【学部生】
・事前学習:提示された参考文献を読む。(約1時間)参考文献の講読とコメントは必須ではないが、読んでコメントを残した場合は加点する。
・事後学習:授業で提示された問いに対する自身の考えを、500字程度で書き、授業後にMoodleで提出する。(約30分)

【大学院生】
・事前学習:提示された参考文献を読み、それに対するコメント(興味深い点、疑問、議論したい点等)を800字程度で書き、Moodleで提出する。(1～2時間程度)
・事後学習:課題文献に対する他者のコメントを読み、他者が挙げた論点に対して、授業内容を踏まえてコメントする。(30分程度)

【Undergraduate Students】
・Pre-class work (required): Students are required to read assigned readings (approximately 1 hour).
・Pre-class work (optional): Additional credit will be awarded for submitted commentaries on assigned readings (approximately 1 hour). Deadline: Friday at 10:00 a.m.
・Post-class work (required): Students are required to write a reflection in response to questions presented in class and submit it via Moodle. The reflection should be written in Japanese (approximately 500 characters) or English (approximately 250 words).
Deadline: Friday at 10:00 a.m. of the following week.

【Graduate Students】
・Pre-class work (required): Students are required to read the assigned readings and submit a written commentary via Moodle. The commentary (e.g., points of interest, questions, issues for discussion) should be written in Japanese (approximately 800 characters) or English (approximately 400 words).
Deadline: Friday at 10:00 a.m.
・Post-class work (required): Students are required to read other students’ commentaries on the assigned readings and respond to points raised by their peers via Moodle.
Deadline: Friday at 10:00 a.m. of the following week.

授業計画フリー入力サイン:

1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

授業計画フリー:

※課題文献、テーマ、順番は、変更する場合があります。

第1回:少数派言語を教育する取り組みとは？ 家庭編
「移動する子ども」が、学校や社会で使用されている言語とは異なる少数派言語を学ぶために、家庭ではどのような取り組みを行っているかを、複数の事例を通して理解する。また、家庭において少数派言語教育を行う際の困難さ、課題、葛藤、工夫、豊かさ、楽しさ等を理解する。

第2回:少数派言語を教育する取り組みとは？ コミュニティ編
少数派言語を教育するために、その言語コミュニティがどのような取り組みを行っているかを、事例を通して理解する。コミュニティで言語教育の場をつくる際の課題と可能性を考える。

第3回:子どもたちの持つ全ての言語を活かし伸ばす教育実践とは？ Translanguagingの理論と実践事例
Translanguagingの理論と教育実践事例の紹介を通して、教室にいる全ての子どもたちの複数言語リソースを活用し、かつ伸ばすための教育実践のあり方を考える。
第4回:Translanguagingの実践事例の検討と体験
Translanguagingの理論に基づく教育実践事例を紹介したうえで、履修者の持つ言語リソースを活用し、類似の言語活動を体験する。その体験を振り返り、Translanguagingによる教育実践に必要な視点、留意点は何かを考える。

第5回:「移動する子ども」のためのTranslanguaging教育実践案を作成する
グループごとに、想定した子どもたちの背景、教科に合わせて、Translanguaging教育実践案を作成する。

第6回:「移動する子ども」のためのTranslanguaging教材を作成する
個人またはグループごとに、想定した子どもたちの背景に合わせて、Translanguaging教材を作成する。その際、履修者が持つ複言語リソースを活用し、協働する。
第7回:Translanguaging教育実践案、教材の発表とディスカッション
　第5回、第6回で準備したTranslanguaging教育実践案と教材を、クラスの履修者に対して発表し、相互にコメントし合う。

Course Schedule

Note: Assigned readings, themes, and the order of sessions may be subject to change.

Session 1: Educational Initiatives for Minority Languages — The Family Context
　Through multiple case studies, we will examine how families support "children across borders" in learning minority languages that differ from those used in school and wider society. We will also explore the challenges, difficulties, tensions, strategies, richness, and enjoyment involved in minority language education in the home.

Session 2: Educational Initiatives for Minority Languages — The Community Context
　Through case studies, we will examine how language communities support minority language education. We will consider the challenges and possibilities involved in creating spaces for language education within community settings.

Session 3: What Educational Practices Draw on and Develop All of Children's Languages? — Translanguaging Theory and Practice
　Through an introduction to Translanguaging theory and examples of educational practice, we will examine how classroom practices can draw on and further develop the plurilingual resources of all children.

Session 4: Examining and Experiencing Translanguaging in Practice
　After reviewing examples of educational practices based on Translanguaging theory, students will engage in similar language activities by drawing on their own linguistic resources. Through reflection on these experiences, we will consider key perspectives and points of attention necessary for Translanguaging pedagogy.

Session 5: Designing Translanguaging Educational Practice Plans for "Children across Borders"
　In groups, students will design Translanguaging-based educational practice plans tailored to the imagined backgrounds and subject areas of specific groups of children across borders.

Session 6: Developing Translanguaging Teaching and Learning Materials for "Children across Borders"
　Individually or in groups, students will develop Translanguaging-based teaching and learning materials tailored to the imagined backgrounds of specific groups of children. In doing so, they will collaboratively draw on their own plurilingual resources.

Session 7: Presentation and Discussion of Translanguaging Practice Plans and Materials
　Students will present the Translanguaging-based practice plans and materials developed in Sessions 5 and 6 and engage in peer discussion and feedback.

言語区分: 0 日・英併用 Japanese/English

教科書: ガルシア, O.、ジョンソン, S. I.、セルツァー, K.(2024)「1 トランスランゲージング・クラスルーム—教室環境と目的」(佐野愛子・中島和子監訳)『トランスランゲージング・クラスルーム—子どもたちの複数言語を活用した学校教師の実践』明石書店(原著は2016)

参考文献: Garcia, O., Johnson, S. I., & Seltzer, K. (2017). The Translanguaging Classroom: Leveraging student bilingualism for learning. Caslon.
Seltzer, K., Johnson, S. I., &. Garcia, O. (2025). The translanguaging classroom: Leveraging student bilingualism for learning (2nd ed.). Calson.

成績評価フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:

【学部生】
・レポート　86%：授業後の振り返り　56%、最終レポート 30%
・平常点　14%：議論およびグループ活動への貢献。課題文献へのコメントをした場合、平常点に加点される。

【大学院生】
・レポート　93%：課題文献へのコメントおよび他者へのコメント 30%
・平常点　7%：議論およびグループ活動への貢献 7%

【Undergraduate Students】
Reports (86%): Weekly reflection (56%), Final report (30%)
Participation (14%): Contributions to discussions and group activities. Additional credit will be given for commentary submitted on assigned readings.

【Graduate Students】
Reports (93%): Comments on assigned readings and peers' comments (63%), Final report (30%)
Participation (7%): Contributions to discussions and group activities

備考・関連URL: ふくふくリテラシー（複言語複文化リテラシー）
　本授業「複数言語環境で成長する子どものリテラシー2」（冬クォーター）履修者が最終レポートとして作成した教材、教育実践案は、こちらのウェブサイトで公開されます。

Fukufuku Literacy: https://fukufukuliteracy.w.waseda.jp/
Teaching and learning materials and educational practice plans created as final projects by students enrolled in "Literacies of children in a multilingual context 2" (Winter Quarter) will be published on the website.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020052|01|9S91020052[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	事業創造演習α 03		
担 当 教 員	犬束 学@天沢 逸里		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水5時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（経営・経済・金融）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

この科目では，企業が実際に抱える社会課題を題材にし，受講生の主専攻およびカーボンニュートラル副専攻で培った知識と分析能力を活かした事業創造プラン等について演習する。演習は講義，ディスカッション，グループワーク，プレゼンテーションで構成される。企業の第一線で活躍している方を講師として招聘し、講師らとの議論および交流を通して社会的なニーズとシーズへの理解を深め、より実践的な視点からカーボンニュートラル社会実現に向けた事業創造について考察する。

協力企業：
SMBC日興証券株式会社
SOMPOケア株式会社
株式会社大和証券グループ本社

※当該科目を設計するにあたって、履修者は「カーボンニュートラル」および「データ分析」に関する知識を有していることを前提としている。次に示す各科目で扱う内容を理解できることを確認した上で履修することを推奨する。
・「カーボンニュートラル技術概論α」、「カーボンニュートラル技術概論β」、「カーボンニュートラルと社会」
・データ科学認定制度「中級」程度
データ科学認定制度について： httphttps://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditation
・グローバルエデュケーション設置「ビジネス創出科目」群
【詳細】
大学院分野横断型副専攻「大学院カーボンニュートラル副専攻」（グローバルエデュケーションWEBサイト）：
https://www.waseda.jp/inst/gec/graduate/minor-3/

授業の到達目標：

現在のビジネス業界の最前線の基本知識の習得、分析手法の修得、社会的ニーズやシーズとの関連性について理解する。また、それらの知識や分析手法が、カーボンニュートラル社会の実現に向けた事業創造にどのようにつなげられるかを実践的に学ぶ。

事前・事後学習の内容：

毎回、講義の前に1時間程度、講義のテーマに関連するキーワードについて予習をすること。
また、授業終了後には1～2時間程度の事後学習が必要となる。

授業計画フリー入力サイン：

0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

第1回【SMBC日興証券株式会社】脱炭素時代の事業ポートフォリオ戦略

近年、企業価値向上を目的とした事業ポートフォリオ改革に脱炭素視点が不可欠となる中、同視点からの事業再構築の動向を俯瞰しつつ、具体例をもとに事業ポートフォリオの見直しを行った企業の問題意識や、それに対する株式市場の評価を理解する。

第2回【SMBC日興証券株式会社】サステナブルファイナンスマーケットの動向

企業の持続的な成長を金融面から支えるサステナブルファイナンスを巡る関連諸制度、金融機関の果たす役割、資金調達者の活用意義等を踏まえたサステナブルファイナンスマーケット動向の理解を深める。

第3回【SMBC日興証券株式会社】サステナビリティ情報開示の取組み

財務情報だけでなくサステナビリティ情報を統合した投資が進む中、企業に求められているサステナビリティ情報開示の枠組みや統合報告書等の開示媒体の潮流・課題、ESG格付等による資本市場からの評価について理解を深める。

第4回【SOMPOケア株式会社】パーパスを軸とした社会課題解決戦略

超高齢社会を背景に、「日本の介護を変える。そして、日本の未来を創る。」というパーパスを経営の軸に据えたSOMPOケアの企業戦略を学ぶ。介護の知見を食や健康、他社連携へと展開する事例を通じ、社会課題解決を目指す企業の全体像を理解する。

第5回【SOMPOケア株式会社】テクノロジーを活用した「未来の介護」へ向けた取組み

SOMPOケア社内で展開されている技術等や研究内容について紹介し、超少子高齢化におけるさまざまな社会課題を解決するために、人の特性とセンサーの特性を踏まえ、どのように連携させるべきなのかについて考え、新しいアイデアを生み出す議論を行う。

第6回【株式会社大和証券グループ本社】カーボンニュートラル社会と金融機関の役割
カーボンニュートラル社会の実現に向けた世界の潮流や課題に関する講義の後、ゲーム形式でのグループワークを実施する。
第7回【株式会社大和証券グループ本社】社会課題解決のための新規事業創出について
サステナビリティの重要性が高まる中、金融機関グループにおける新規事業・戦略とその具体的な取り組みについて解説する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 毎回、講義資料を用意する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 10 課す場合がある

平常点評価: 90 毎回の講義への取り組みを総合的に評価する。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020053|01|9S91020053[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	批評理論 1		
担 当 教 員	追田 好章		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本授業は、さまざまなジャンルの表現を興味深く批判的に読みとるための方法論、すなわち批評理論を身につけ、駆使できるようになることを目標とする。今回は特にアダプテーション理論・ポストコロニアル理論・クィア理論を取り上げる。それぞれの理論の基礎を学んだ上で、理論を支えにして問いを立てたり、研究対象を分析したりするための方法を知り、実践する。本授業の対象は学部生と大学院生とする。履修に際しては、理論に関する事前知識は必要としない。これらの理論に興味がある人や、分野を問わず理論をとおして思考することに関心がある人の受講を歓迎する。課題について、学部生は授業で提示された課題を提出する。大学院生は、発展的な内容を含み、かつ文字数が異なる学部生と同一内容の課題を提出する。理論的思考は、書くことをとおして整理され、他者と共有される。そのため、授業で取り上げる3つの理論をはじめとして、履修者が関心を持つ理論をとおして研究対象を分析し、その成果をわかりやすく表現する練習を積む。具体的には、大学における研究で作成することになるさまざまな学術的文章のうち、研究計画書の形態で自らの思考を表現する。なお、批評理論1と2は両方を受講すること。

授業の到達目標: （1）アダプテーション理論・ポストコロニアル理論・クィア理論に関する基礎知識を身につける。（2）自らが関心のある理論を見つける。（3）理論をもとにして、研究テーマと問いを設定し、分析し、論述できるようになる。（3）自らの思考を練り上げたり、研究をデザインする際に、授業で学んだ理論だけでなく、すでに学んだ、あるいはこれから学ぶことになる理論を役立てられるようになる。

事前・事後学習の内容: 事前に資料が提示された場合には、授業前に読んでくること。資料は、Waseda Moodle に掲載する。（約1時間）
毎回復習として宿題を課す。指定された期日までにWaseda Moodleに提出すること。（約1時間）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：イントロダクション
授業の概要と目標、進め方を説明する。

第2回：批評理論とは何か
批評理論の概要を知る。また、なぜ理論を学ぶのかを理解する。

第3回：研究計画書とディスクリプションの作成方法を学ぶ
研究計画書とは何か、なぜ書くのか、どのように書くのかを理解する。また、「批評理論2」で実践するディスクリプションの作成方法を理解する。

第4回：アダプテーション理論
アダプテーション理論の基礎を把握する。問いを立てるための方法に変化させる。

第5回：ポストコロニアル理論
ポストコロニアル理論の基礎を把握する。問いを立てるための方法に変化させる。

第6回：クィア理論
クィア理論の基礎を把握する。問いを立てるための方法に変化させる。

第7回：個別相談会／研究計画書を作成する
研究計画書を執筆する。また、担当教員と個別に執筆の方向性について話し合う。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 授業内でハンドアウトを配布する。

参考文献: 適宜指示する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験: 0 試験は行わない。

レポート: 0 レポートは課さない。

平常点評価:	50	【学部生】授業内課題と授業への参加度を評価する。大学院生用の課題を行った場合には、平常点を加点する。【大学院生】大学院生用の授業内課題と授業への参加度を評価する。
その他:	50	研究計画書。評価の観点は第2回の授業で提示する。

備考・関連URL: 本授業は、毎回提出される課題に教員がコメントをつけてフィードバックする演習系の科目である。毎回の授業の課題をとおして研究計画書の構成要素を記述していくことで、研究計画書を少しずつ練り上げていく。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020054|01|9S91020054[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	批評理論 2		
担 当 教 員	追田 好章		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（言語・文学）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本授業は、さまざまなジャンルの表現を興味深く批判的に読みとるための方法論、すなわち批評理論を身につけ、駆使できるようになることを目標とする。今回は特にアダプテーション理論・ポストコロニアル理論・クィア理論を取り上げる。それぞれの理論の基礎を学んだ上で、理論を支えにして問いを立てたり、研究対象を分析したりするための方法を知り、実践する。対象は学部生と大学院生とする。履修に際しては、理論に関する事前知識は必要としない。これらの理論に興味がある人や、分野を問わず理論をとおして思考することに関心がある人の受講を歓迎する。本授業では、「批評理論1」で学んだ事項を活かし、研究対象にたいして学んだ理論を援用する。具体的には、馴染み深い昔話である「桃太郎」と、各自が関心のある美術館・博物館等の展示資料を対象とする。「批評理論1」では理論にもとづいて練り上げた思考を表現することに重点を置き、研究計画書を作成した。本授業でも、書く営みを重視する。学期末課題として、研究計画書に基づいたレポート／論文を作成する。また、理論をとおして展示資料を分析するための前提として、対象を客観的に記述するための方法であるディスクリプションを練習し、表現の幅を広げる。批評理論1と2は両方を受講すること。なお、課題について、学部生は各授業で提示された課題と、研究計画書に基づいた4000字程度のレポートを提出する。大学院生は、発展的な内容を含み、かつ文字数が異なる学部生と同一内容の課題を提出するほか、学期末レポートとして研究計画書に基づいた投稿論文の初稿を執筆する。学部生が大学院生用の課題に取り組んだ場合には加点する。

授業の到達目標: （1）アダプテーション理論・ポストコロニアル理論・クィア理論に関する基礎知識を身につける。（2）理論をもとにして、研究テーマと問いを設定し、分析し、論述できるようになる。（3）自らの思考を練り上げたり、研究をデザインする際に、授業で学んだ理論だけでなく、すでに学んだ、あるいはこれから学ぶことになる理論を役立てられるようになる。（4）ディスクリプションを作成できるようになる。

事前・事後学習の内容: 課題文献は授業前に読んでくること。文献は、Waseda Moodle に掲載する。（約1時間）
毎回復習として宿題を課す。指定された期日までにWaseda Moodleに提出すること。（約1時間）

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：イントロダクション／研究計画書を相互批評（ピアレビュー）する
授業の概要と目標、進め方を説明する。相互批評の方法を知り、「批評理論入門1」で作成した研究計画書をグループ・ペアで相互批評する。

第2回：理論を援用したレポート／論文の作成法を学ぶ
レポート／論文の構成要素を知る。とくに理論を援用する際の注意点を理解する。

第3回：展示資料を読む1／研究計画書をもとにレポート／論文を書き始める
前半では、キャンパスメンバーズ制度を知り、訪問する美術館・博物館を考える。後半では、研究計画書の相互批評を行った後でレポート／論文を書き始める。

第4回：「桃太郎」を読む1
巌谷小波「桃太郎」と芥川龍之介「桃太郎」の概要を知り、理論をとおしていかなる問いが立てられるかを考える。

第5回：展示資料を読む2
選んだ展示資料のディスクリプションと、設計した研究課題（問い）についてグループ・ペアで相互批評する。

第6回：「桃太郎」を読む2
事前に記した「桃太郎」についての問いと、それに対する答えをグループ・ペアで相互批評する。

第7回：まとめ
「批評理論1」「批評理論2」の学習内容を総括する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 授業内でハンドアウトを配布する。

参考文献: 適宜指示する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験:	0	試験は行わない。
レポート:	50	レポートの評価基準は初回の授業で提示する。
平常点評価:	50	【学部生】授業内課題と授業への参加度を評価する。大学院生用の課題を行った場合には、平常点を加点する。【大学院生】大学院生用の授業内課題と授業への参加度を評価する。
その他:	0	特になし。
備考・関連URL:	本授業は、毎回の授業で提出される課題に教員がコメントをつけてフィードバックする演習系の科目である。毎回の授業の課題をとおして、レポートの構成要素を記述したり、理論を援用するためのよりよい方法を学ぶことで、レポートを少しずつ練り上げていく。	

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020055|01|9S91020055[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	事業創造演習β 01		
担 当 教 員	下川 哲@川上 智子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（経営・経済・金融）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

この科目では、企業が実際に抱える社会課題を題材にし、受講生の主専攻およびカーボンニュートラル副専攻で培った知識と分析能力を活かした事業創造プランを提案する。

※ この科目は、「事業創造演習α」の単位を修得済みの博士課程学生を履修対象とする。

カーボンニュートラル社会の実現に向けて国際社会で活躍する博士人材を輩出するには、企業の実情を知ることが必須である。自身が受講した「事業創造演習α」の講義で提示された課題を基に自身で課題を再設定し、自身の主指導教員にも相談しながら、主専攻の専門性を生かしたビジネスモデル案をレポートとして提出する。
レポートの作成過程を担当教員（場合によっては企業担当者）に報告・相談し、担当教員がレビューを返すことで、主専攻と副専攻の学びを活かした実践的な「事業創造」を学ぶ。

なお、過年度に事業創造演習αを受講した場合は、必要に応じて当年度開講している最新の事業創造演習αを聴講しても良いこととする（希望する場合は事前にカーボンニュートラル社会研究教育センターへ申し出ること）。

【詳細】
大学院分野横断型副専攻「大学院カーボンニュートラル副専攻」（グローバルエデュケーションWEBサイト）:
https://www.waseda.jp/inst/gec/graduate/minor-3/
カーボンニュートラル社会研究教育センター： wcans-staff@list.waseda.jp

授業の到達目標:

現在のビジネス業界の最前線の基本知識の習得、分析手法の修得、社会的ニーズやシーズとの関連性や、それらの知識や分析手法が、カーボンニュートラル社会の実現に向けた事業創造にどのようにつなげられるかを理解したうえで、主専攻と副専攻の学びを活かした実践的な「事業創造」について学ぶ。

事前・事後学習の内容:

自身が受講した「事業創造演習α」の各講義で提示された資料や講義内容について十分に復讐すること。
「事業創造演習α」で示された課題を基に自身で課題を再設定し、自身の主指導教員にも相談しながら、主専攻の専門性を生かしたビジネスモデル案をレポートとして提出すること。

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 レポート作成について
提出するレポートについての詳細説明を受け、必要事項を確認する。
第2回 レポート作成の進捗報告
レポートの作成過程を担当教員（場合によっては企業担当者）に報告・相談しレビューを受ける。
第3回 レポート作成の進捗報告
レポートの作成過程を担当教員（場合によっては企業担当者）に報告・相談しレビューを受ける。
第4回 レポート作成の進捗報告
レポートの作成過程を担当教員（場合によっては企業担当者）に報告・相談しレビューを受ける。
第5回 レポート作成の進捗報告
レポートの作成過程を担当教員（場合によっては企業担当者）に報告・相談しレビューを受ける。
第6回 レポート作成の進捗報告
レポートの作成過程を担当教員（場合によっては企業担当者）に報告・相談しレビューを受ける。
第7回 レポート提出
レポートを提出し、概要を担当教員に説明する。

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 自身が受講した「事業創造演習α」の各講義で提示された資料や講義内容を確認すること。

参考文献: 自身が受講した「事業創造演習α」の各講義で提示された資料や講義内容を確認すること。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 100 自身の主専攻と副専攻の学びを活かした内容であること

備考・関連URL: 当該科目に企業担当者は講師として参加しないが、事業創造演習αにて協力いただい企業担当者からコメントをいただく場合がある。

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020056|01|9S91020056[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	責任ある学術研究活動のために（英語授業）		
担 当 教 員	吉澤　剛		
開 講 学 期	集秋	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】ハイブリッド（対面回数半数以上）
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

Responsible conduct of academic research entails not only ensuring integrity in academia but also entailing responsibility for the people, the society, and the future through the research activity. However, this is not solely determined externally by laws, regulations, or social norms. It varies depending on the individual researcher's context and awareness, and must be continually revised as research activities progress. Precisely because scientific endeavors inherently possess various types of incertitude, it is difficult to consistently engage in actions that clearly define a subject and object of "responsibility." Therefore, in this course, through group discussions we first share each student's concerns and understanding of what constitutes responsible academic research. Next, in lectures, we re-examine the inherent incertitude of academia itself from the perspectives of science, research, organizations, and society, opening discussions on how the relevant actors fulfill their social responsibilities within this framework. We then examine ethical issues that may arise in research activities through fictive case studies, identifying the diversity and commonalities in each student's understanding, and derive theoretical and practical implications for making responsible research activities more creative.
This course is intended for students who have taken the course "Introduction to Academic and Research Integrity". Building upon the content covered in the Introduction, I would like students to discuss points that have caught their attention or topics they wish to explore further. Those who have taken the Introduction in previous years are also welcome.
This course will hold the first and last two sessions in the classroom, with the three sessions in between conducted as on-demand streaming lectures.

授業の到達目標：

Graduate students aspiring to become researchers show their sense of ownership in responsible conduct of research and deepen their understanding of what constitutes such practices through discussion. Specific learnin objectives are as follows:
·Explain the aspects of academic and research integrity that interest you most and the reasons why.
·Relate responsible conduct of research to your own research activities and share your understanding and concerns with fellow students.
·Appropriately understand and explain the relationship between incertitude in science and social responsibility.
·Infer appropriate actions to take from the perspective and role of parties involved when examining fictive cases related to responsible research activities, and devise various challenges and solutions.
·Relatively position your own understanding of responsible research activities and become aware of biases and dynamics in perception.
·Understand and respect the rules of dialogue in group work and engage in dialogue with others.

事前・事後学習の内容：

Read the assigned textbook and reading materials in advance (3 hours).
Prioritisation of the statement on responsible conduct of academic research (1 hour)
Implementation of tasks based on a fictive case study (5 hours)

授業計画フリー入力サイン：

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

1. Personal Reflection on Responsible Conduct of Academic Research

After briefly reviewing the course "Introduction to Academic and Research Integrity" and confirming this course's objectives and approach, participants discuss the aspects they find most interesting and why. They also relate responsible research practices to their own research activities, sharing their understanding and concerns with fellow participants.

2. Re-examining What Constitutes Responsible Conduct of Academic Research

After confirming each participant's understanding and concerns, they exchanging brief written statements on responsible conduct of academic research they deem important via group work. The group then collectively organise and refine these statements. By Session 6, participants are required to prioritize these statements.

3. Incertitude of Science and Social Responsibility (1)

This session examines research as an act of advancing science, delving into the inevitable interaction between researchers and their subjects, as well as the tacit knowledge, serendipity, and normative aspects inherent in research. It then explores the incertitude of knowledge within organizational contexts such as laboratories, team science, and academic societies, and the social responsibility within them. Finally, it focuses on the evaluation process for confirming knowledge about research outcomes, clarifying the challenges arising from the correlation between research and evaluation at the individual, organizational, and systemic levels.

4. Incertitude of Science and Social Responsibility (2)

We trace how knowledge generated by research has been utilised in industry and policy, exploring the responsibilities and governance models emerging with the advent of bidirectional knowledge flows between researchers and practitioners, exemplified by transdisciplinary research. Subsequently, we discuss academic issues in the context of societal digitalisation and globalisation, linking them to individual intellectual attitudes and awareness of responsibility. Finally, we look ahead to academia about the future and the future of academia itself, pursuing the transformation of concepts of publicness and responsibility through the involvement of a wide range of actors.

5. Examination of Fictive Cases

We learn about the Seven-Step Guide as a method for ethical decision-making and use fictive cases to delve into specific points for consideration and challenges in ethical decision-making.

6. Case Study Exercise

Using the fictive case, we practice the ethical decision-making process learned in Session 5. Participants will engage in role-playing to understand the perspectives and roles of each character in the case, discussing how to conduct more sincere and responsible research activities.

7. Towards Creative Research Activities

We identify both the diversity and commonalities in each participant's perceptions based on the results of the prioritization of the statements created in Session 2. After participants recognise their own cognitive biases and cherished values, they understand the knowledge and skills necessary for academic research activities, whether conducted individually or organizationally, to be both sincere and creative. Finally, we will summarise this course, and each participant engage in reflection.

言語区分: 0 英語 English

教科書: Japan Agency for Medical Research and Development, A Compendium of Near-Miss Incidents Related to Research Integrity, 2nd ed., 2024, available at https://www.amed.go.jp/content/000124282.pdf

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット(教員による切替可)

レポート: 70 Report on a fictive case study
Submission of group discussion reports and response reports

平常点評価: 30 Contributions within group work will be assessed.

備考・関連URL: 1. Course schedule
The first and second classes are face-to-face (in periods 3 and 4 on Saturday, October 24).
The sixth and seventh classes are face-to-face (in periods 3 and 4 on Saturday, November 21).
Lectures 3-5 are on-demand.

2. For on-demand lectures, please note the following points:
・The detailed schedule of lectures will be announced on Waseda Moodle, so students should be sure to check the schedule regularly until the course start is announced.
・As important notices will be posted in Waseda Moodle, students should be sure to check there regularly.
・All questions and inquiries should be sent by email to the secretariat (researchethics2@list.waseda.jp).
・General technical inquiries concerning Waseda Moodle (e.g. viewing difficulty) should be addressed to the IT HelpDesk. To inquire, log in to MyWaseda and access the help desk.
・Students should check the operating environment of their computer systems before taking the course. The recommended environment for Waseda Moodle is explained at
http://www.waseda.jp/navi/e/services/system/sys_requirements.html

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020057|01|9S91020057[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Design Thinking		
担 当 教 員	大森 峻一		
開 講 学 期	春季	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：

Design thinking is a well-known ideation method based on a human-centered approach, making it a powerful tool for solving complex problems. Addressing societal challenges requires balancing a deep understanding of individuals with a broader perspective while considering multiple stakeholders and influencing factors. Additionally, it is essential to make clear decisions despite incomplete information and to identify and select the most effective interventions from numerous possibilities. Human-Centered Design is recognized as both a robust methodology and a mindset for tackling such challenges.

This course aims to introduce the fundamental concepts of design thinking, fostering creativity and providing new perspectives on problem-solving. Design thinking is a highly versatile approach applicable to business, technology, art, and everyday life, offering a flexible and effective framework for addressing unknown challenges. Students will work on design challenges with randomly assigned teammates and engage in lectures, discussions, group work, fieldwork, and individual and group reflections to deepen their learning and develop practical skills.

授業の到達目標：

The goal is to be able to practice creating ideas for finding and solving problems from a human-centered perspective. Especially, at the end of the course, students will be able to apply the following skillset and mindset:

Make failing part of the process (Experiment)
Be generative in creating ideas
Frame and reframe problems
Show, don't tell (Make ideas tangible)
Learn from others
Synthesize (See connections between things)
Collaborate (with those with different perspectives)
Take a beginner's mindset (Notice)

事前・事後学習の内容：

Pre work Assignment and Report submission (approx. 6 hours)

授業計画フリー入力サイン：

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：

Sessions 1-4: FEB 8, 8:50-16:45
Sessions 1-2 (8:50-12:20) — Check-In and Rapid Design Challenge
・Understand the course overview, structure, and evaluation criteria.
・Experience the full cycle of design thinking through a Rapid Design Challenge in pairs.
・Grasp the basic concepts of design thinking, including the required skill set and process.

Session 3 (13:10-14:50) — Empathy
・Learn methods for conducting interviews and observations, and practice using toolkits.
・Derive insights by synthesizing and integrating observations.

Session 4 (15:05-16:45) — Opportunity Statement
・Recognize the hierarchy of goals and means, and identify hidden user needs.
・Define problems accurately based on the outcomes of the empathy phase.
・Reflect on the first day's activities, summarize key takeaways, and prepare for Day 2.

Sessions 5-7: FEB 9 8:50-14:50
Session 5 (8:50-10:40) — Ideation
・Generate ideas to address the problem defined on the previous day.
・Distinguish between divergent and convergent phases of ideation, and act appropriately in each.
・Learn and apply the key principles of brainstorming.

Session 6 (10:50-12:20) — Prototype
・Select one idea from the ideation phase and build a prototype.
・Understand the importance of prototyping and explain its essential elements.

Session 7 (13:10–14:50) — Team Pitch
・Test prototypes, receive feedback, and iterate improvements.
・Present project outcomes as a team.
・Reflect on the two-day activities, summarize key takeaways, and begin the final report.

言語区分: 0 英語 English

参考文献: Introduction to Design Thinking (Video)
https://www.youtube.com/playlist?list=PLYA2ls7vsjMRTm3cx4kj3-eutqDfUcYO7

Tim Brown(2009), Change by Design: How Design Thinking Transforms Organizations and Inspires Innovation, HarperBusiness.

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: Class Participation 80%: Students are required to participate in class discussions.
Presentation 20%: Students are required to make a presentation about their business idea at the end of day 2.

備考・関連URL: 【履修上の注意/Course Registration Notes】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
This course is offered to both undergraduate and graduate students.
・2025年度以前に「デザインシンキング 02」「デザインシンキング(学部生用) 01」「デザインシンキング(学部生用) 02」の単位を修得済みの方は履修できません。
Students who have earned credit for "Design Thinking 01" or "Design Thinking 02" in or before the 2025 academic year are not eligible to enroll in this course.
・「デザインシンキング」を登録中または単位修得済みの方は履修できません。
Students who are currently enrolled in or have already earned credit for "デザインシンキング" are not eligible to enroll in this course.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020058|01|9S91020058[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	デジタルツインに基づく意思決定演習 1		
担 当 教 員	藤本 悠		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本演習では，実社会におけるデジタルツインの活用事例を分析することを通じて，意思決定支援システムとしてのデジタルツインの特徴や設計上の考え方を学びます．エネルギー，交通，都市，地域などの社会システムを対象としたケーススタディを取り上げ，デジタルツインがどのような課題を対象とし，どのような情報を活用し，どのような意思決定を支援しているのかを読み解くことを目的とします．
また，各事例について，対象システムの特徴，利用されているデータやモデル，評価指標，制約条件，制度的背景などを整理し，設計上の工夫や限界について考察します．複数の事例を比較・分析することで，分野を超えて共通する設計思想や，社会課題に応じて異なる設計上の考え方を理解します．
本講義では，ケーススタディを分析する力を養うことに重点を置きます。実際にデジタルツインを設計・提案する演習については，後続の「デジタルツインに基づく意思決定演習2」で取り組みます．

授業の到達目標: - 社会課題に応じたデジタルツインの設計プロセスを説明できる．
- クライメイトポジティブ社会の実現に向けた文理融合・産学連携研究への活用事例を知る．
- 活用事例を分析し，設計思想や設計上の工夫を説明できる．
- 異なる分野の事例を比較し，共通する設計思想を説明できる．

事前・事後学習の内容: 授業テーマに関する講義資料に基づく1時間程度の概要予習と講義内容に関する1時間程度の復習を要する．

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：ケーススタディから学ぶデジタルツイン設計
デジタルツインの活用事例を概観し，ケーススタディの分析方法と着眼点を整理する．

第2回：エネルギーシステムにおける意思決定支援
エネルギー分野の事例を通じて，デジタルツインによる予測・運用・意思決定支援の仕組みを理解する．

第3回：モビリティ・交通システムにおける意思決定支援
モビリティや交通システムにおけるデジタルツインの活用事例を分析し，設計上の特徴を理解する．

第4回：都市システムにおける意思決定支援
都市運営や都市サービスを対象としたデジタルツインの活用事例を分析する．

第5回：地域システムにおける意思決定支援
地域システムやレジリエンス分野におけるデジタルツインの役割と意思決定支援について理解する．

第6回：分野横断型デジタルツインと文理融合・産学連携
異なる分野の事例を比較し，文理融合・産学連携による価値創造について考察する．

第7回：ケーススタディの比較分析と設計思想の整理
各事例を比較し，デジタルツイン設計に共通する考え方と設計思想を整理する．

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 40 講義内容を踏まえたレポート

平常点評価: 60 毎回提出するリアクションペーパー

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020059|01|9S91020059[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	デジタルツインに基づく意思決定演習 2		
担 当 教 員	藤本 悠		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（環境・医療）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本演習では，実社会の課題を対象として，デジタルツインによる意思決定支援システムの構想・設計に取り組みます．特に「デジタルツインに基づく意思決定演習1」で学んだケーススタディの分析結果を踏まえ，社会課題に対するデジタルツインを自ら設計・提案する演習に取り組みます．対象システムの課題を整理し，必要なデータ，モデル，評価指標，制約条件などを検討しながら，意思決定支援システムとしてのデジタルツインを構想することを目的とします．
また，不確実性や説明可能性，制度的条件，社会受容性なども考慮しながら，実社会で活用可能なデジタルツインの設計について検討します．設計した内容は発表・討論を通じて相互に評価し，設計思想や改善点について議論することで，より実践的な理解を深めます．
本講義では，デジタルツインを分析する立場ではなく，自ら設計・提案する立場で考えることに重点を置きます．設計原理や技術要素を実際の社会課題へ適用し，意思決定支援を実現するデジタルツインの基本設計を構想する力を養います．

授業の到達目標: - 社会課題に応じたデジタルツインを設計できる．
- クライメイトポジティブ社会の実現に向けたデジタルツインの活用方法を構想できる．
- 必要なデータ，モデル，評価指標，制約条件を整理できる．
- 小規模な設計課題を通じて意思決定支援のためのデジタルツインを提案できる．

事前・事後学習の内容: 授業テーマに関する講義資料に基づく1時間程度の概要予習と講義内容に関する1時間程度の復習を要する．

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回：社会課題の設定とデジタルツイン設計
対象とする社会課題を設定し，デジタルツインによる課題解決の方向性を検討する．

第2回：対象システムのモデル化と要件整理
対象システムをモデル化し，必要となるデータや機能，制約条件を整理する．

第3回：観測データ・気象データ・AIの活用設計
観測データ，気象データ，AIをどのように組み合わせて意思決定支援に活用するかを検討する．

第4回：シミュレーション・最適化による意思決定設計
シミュレーションや最適化を用いた意思決定支援プロセスを設計する．

第5回：不確実性・説明可能性・社会制度を考慮した設計
不確実性や説明可能性，制度的条件を考慮したデジタルツイン設計について検討する．

第6回：デジタルツイン設計演習とプロトタイプ検討
設計したデジタルツインの構成や機能を整理し，プロトタイプとしてまとめる

第7回：設計提案の発表と総合討論
設計したデジタルツインを発表し，相互評価と討論を通じて設計を改善する．

言語区分: 0 日本語 Japanese

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 40 講義内容を踏まえたレポート

平常点評価: 60 毎回提出するリアクションペーパー

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020101|01|9S91020101[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術的文章の作成とその指導 1 01クラス		
担 当 教 員	太田 裕子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: アカデミック・ライティング指導者を目指して

授業概要:

■授業の目的
本授業の目的は、学術的文章の作成を指導する者を育成することです（全14回、対面授業です）。具体的には、早稲田大学グローバル・エデュケーション・センターのアカデミック・ライティング教育部門における、学部生向け授業の「指導員」（非対面、個別指導）、または学生・教員が利用するライティング・センターにおける「チューター」（原則対面、個別指導）の候補者を育成します。そのために、本授業の履修者は、学術的文章の作成に必要な文章技術を身につけることを目標に学習します。
授業では、複数の文章技術を学びます。これから書く様々な文章において、どの文章技術を意識し、また組み合わせて使うとよいかを判断する基礎となる力を磨きます。
※履修後に「指導員」または「チューター」として勤務する気持ちのない方は、履修しないでください。

■授業の流れ
文章を書く技能は、他の技能と同様、文章へのフィードバックを受けて初めて磨かれるものです。しかし、文章へのフィードバックは、残念ながら、通常ではなかなか得ることができません。そこでこの授業では、論理的で明快な学術的文章を書くための文章技術を、実際に文章を書き、フィードバックを受け、直していくことで学びます。
具体的には、週ごとに一つの文章技術または一つのライティング・プロセスを学びます。毎回、クラスの他の履修者と文章を読み合い、ディスカッションをします。授業後に、その週の文章技術を使って課題文章を作成し、提出します。翌週の授業冒頭で、教員からのコメントが付いた課題文章が返却されます。毎回、返却された課題文章1、2編をクラスで共有し、ディスカッションします。活発な授業への参加を期待しています。

■履修登録に関する注意事項
本授業は「学術的文章の作成とその指導 1」と「同 2」から構成されます。「1」と「2」は、原則として同一学期に、同一の教員による、同一の曜日時限の授業を連続して登録する必要があります。科目登録時に「1」と「2」の両方を、同時に履修登録してください。「1」のみ、または「2」のみの履修は認めません。

授業の到達目標:

■文章指導者を目指す
本授業では、「指導員」、「チューター」に応募できるレベル到達を目指します。「指導員」（非対面）は、早稲田大学グローバル・エデュケーション・センター科目「学術的文章の作成」（主に学部初年次生が履修）で、履修者の文章に対して個別にコメントと点数をつけます。「チューター」（原則対面）は、ライティング・センター（全学生・教員対象）で、対話を通して書き手の文章作成を支援します。（文章指導業務の詳細については、ウェブサイト「早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラム」を御覧下さい。）
大学教員を目指す博士後期課程の学生、および、博士後期課程に進学する意思のある修士課程の学生に履修を勧めます。大学院在籍中に、「指導員」や「チューター」として学生の文章指導に携わる経験は、将来大学生を指導する上で貴重だからです。

■文章指導者としての応募資格
「学術的文章の作成とその指導1」と「同2」を通して欠席が2回以下で、文章作成力と文章指導力において指導に携わるレベルに到達したと授業者が判断した人は、次学期より「指導員」として、あるいは「チューター」として、文章指導に携わります。「チューター」を希望する場合は、次学期開始前に行われる面接審査を通過する必要があります。

■登録時に提出する文書
ウェブ登録時に、「志望理由」の欄に、以下4点を記入すること。以下の文書は、「学術的文章の作成とその指導 1」の登録時に入力する。同じ内容を「学術的文章の作成とその指導 2」の登録時に入力する必要はありません。
登録時に提出された文章と、勤務できる年数によって、履修者を決定します。より長期間勤務できる人を優先します。授業履修後に文章指導者としての応募資格を教員から与えられた履修者は、科目登録時に申告した期間、勤務していただきます（授業履修の次学期から最低2学期）。

1. 修士または博士の研究計画を記述した文章。（1000字以内）
　単なる箇条書きでは文章力を判定できません。
2. 指導に携わることを希望する動機。（300字以内）
　研究科や教授からの推薦を受けている場合には、必ずその旨を明記してください。
3. 指導についた場合、何学期間勤務できるか。
　ここで申告した期間を実際に勤務していただきます。正直に記入してください。

4. 連絡先（メールアドレスまたは電話番号）
　　提出書類に不備があった場合に、教員から連絡をする場合があります。

事前・事後学習の内容:
■本クラスでは、次のような事前・事後学修が求められます。
【事前学修】
・授業で指示された課題に取り組む。（1時間程度）
・回によっては、授業で指定された動画を視聴する。（1時間程度）

【事後学修】
・授業で学んだ文章技術を用いて課題文章をWordで作成する。作成した課題文章は、授業で指示された締切日（授業の3，4日後）までにMoodleに提出する。（1～2時間）
・回によっては、授業で指定された動画を視聴する。（1時間程度）

授業計画フリー入力サイン:
1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:
「学術的文章の作成とその指導　1」「同　2」を通して、以下の内容を扱う。
「1」では第1回から第7回、「2」では第8回から第14回を扱う。

1）ガイダンス、学術的文章の基本、学術的文章における不正行為を防ぐ
2）ことばと思考、「一文一義」で書く
3）接続表現で文と文との関係を自覚する
4）語句を明確に使う、外来語や専門用語を扱う
5）ブレインストーミングをする、問いを立てる
6）主張を記す
7）全体を構成する
8）論点を整理する
9）抽象度の調節をする
10）「パラグラフ」を作る
11）参考文献を示す
12）「ブロック引用」をする、図や表を作る
13）「キーワード引用」をする
14）題を付ける、読者を案内する

※毎回、800字から1000字の文章を書く課題が課せられます。
※課題は、Waseda Moodleで締切日までに提出し、翌週の授業でフィードバックされます。
※上記、全ての回で、以下の事前学修、事後学修があります。
[事前学修]授業で指示された課題に取り組む。
[事後学修]授業で学んだ文章技術を用いて課題文章を作成し、期日までに提出する。回によっては、授業で指定された動画を視聴する。

言語区分:
0　　日本語　　Japanese

教科書:
『これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版』(佐渡島紗織・吉野亜矢子、2021年、ひつじ書房)

参考文献:
『課題に応える　卒論に活かせる　大学生のためのレポートの書き方』(佐渡島紗織・坂本麻裕子・中島宏治・太田裕子、2022年、ナツメ社)
『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』(佐渡島紗織・オリベイラ,ディエゴ・嶋田大海・デルグレゴ,ニコラス編著、2020年、大修館書店)
『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド―大学生・大学院生のための自己点検法29』(佐渡島紗織・坂本麻裕子・大野真澄編著、2015年、大修館書店)
『レポート・論文をさらによくする「観点」ガイド―学習と授業作りに役立つ25の観点－』(佐渡島紗織・宇都伸之・中島宏治編著／後藤大輔・坂本麻裕子・嶋田大海・外村江里奈・千仙永・平松友紀・渡寛法著、2025年、大修館書店)

成績評価フリー入力サイン:
1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:
「学術的文章の作成とその指導1」「同2」を通して、以下の基準で評価します。
1. 提出された文章の出来栄え96%（8点×12課題）
2. オンデマンド授業の視聴4%（指定された動画の章をすべて視聴した場合は4点。1～2章未視聴の場合は3点。3章以上未視聴があった場合は0点。）

＊授業に参加しなかった週は、課題文章を提出することができません。
＊「学術的文章の作成とその指導1」「同2」を通して3回以上欠席すると、指導員、チューターに応募する資格が失われますので御注意ください。
＊遅刻は厳禁です。欠席する際には、できれば事前に断ってください。

備考・関連URL:
・本授業の開始日は4月16日（木）です。履修を希望する方は必ず出席してください。

【留意点】
◆指導員・チューターのどちらの職を希望するかは、授業履修後に授業者から「合格」通知を受け取った後で、申告できます。
◆チューター希望者は、申告後、面接審査があります。面接審査で不合格になった場合は、指導員として勤務し

ていただきます。
◆指導員またはチューターになった場合は早稲田キャンパスまたは所沢キャンパスでの研修や勤務があります。指導員は毎週1回、早稲田キャンパス（複数の時間から選択可）または所沢キャンパス（特定の時間のみ）で行われるミーティングに参加する必要があります。ミーティングを含め、週8時間程度の業務を行います。
チューターは毎週月曜に行われる早稲田キャンパスでのミーティングに参加する必要があります。ミーティングを含め、少なくとも週5時間程度の業務を行います。
◆休学中は、指導員、チューターとして勤務することができません。

※不明な点はグローバル・エデュケーション・センター担当者または担当教員までお問い合わせください。
【関連URL】
「早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラム」： https://www.waseda.jp/inst/aw/
「学術的文章の作成」授業ページ： https://www.waseda.jp/inst/aw/course
「ライティング・センター」ページ： https://www.waseda.jp/inst/aw/about

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020101|02|9S91020101[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術的文章の作成とその指導 1 02クラス		
担 当 教 員	追田 好章		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: アカデミック・ライティング指導者を目指して

授業概要:

■授業の目的
本授業の目的は、学術的文章の作成を指導する者を育成することです（全14回、対面授業です）。具体的には、早稲田大学グローバル・エデュケーション・センターのアカデミック・ライティング教育部門における、学部生向け授業の「指導員」（非対面、個別指導）、または学生・教員が利用するライティング・センターにおける「チューター」（原則対面、個別指導）の候補者を育成します。そのために、本授業の履修者は、学術的文章の作成に必要な文章技術を身につけることを目標に学習します。
授業では、複数の文章技術を学びます。これから書く様々な文章において、どの文章技術を意識し、また組み合わせて使うとよいかを判断する基礎となる力を磨きます。

※履修後に「指導員」または「チューター」として勤務する気持ちのない方は、履修しないでください。

■授業の流れ
文章を書く技能は、他の技能と同様、文章へのフィードバックを受けて初めて磨かれるものです。しかし、文章へのフィードバックは、残念ながら、通常ではなかなか得ることができません。そこでこの授業では、論理的で明快な学術的文章を書くための文章技術を、実際に文章を書き、フィードバックを受け、直していくことで学びます。
具体的には、週ごとに一つの文章技術または一つのライティング・プロセスを学びます。毎回、クラスの他の履修者と文章を読み合い、ディスカッションをします。授業後に、その週の文章技術を使って課題文章を作成し、提出します。翌週の授業冒頭で、教員からのコメントが付いた課題文章が返却されます。毎回、返却された課題文章1、2編をクラスで共有し、ディスカッションします。活発な授業への参加を期待しています。

■履修登録に関する注意事項
本授業は「学術的文章の作成とその指導 1」と「同 2」から構成されます。「1」と「2」は、原則として同一学期に、同一の教員による、同一の曜日時限の授業を連続して登録する必要があります。科目登録時に「1」と「2」の両方を、同時に履修登録してください。「1」のみ、または「2」のみの履修は認めません。

授業の到達目標: ■文章指導者を目指す
本授業では、「指導員」、「チューター」に応募できるレベル到達を目指します。「指導員」（非対面）は、早稲田大学グローバル・エデュケーション・センター科目「学術的文章の作成」（主に初年次生が履修）で、履修者の文章に対して個別にコメントと点数をつけます。「チューター」（原則対面）は、ライティング・センター（全学生・教員対象）で、対話を通して書き手の文章作成を支援します。（文章指導業務の詳細については、ウェブサイト「早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラム」を御覧下さい。）
大学教員を目指す博士後期課程の学生、および、博士後期課程に進学する意思のある修士課程の学生に履修を勧めます。大学院在籍中に、「指導員」や「チューター」として学生の文章指導に携わる経験は、将来大学生を指導する上で貴重だからです。

■文章指導者としての応募資格
「学術的文章の作成とその指導1」と「同2」を通して欠席が2回以下で、文章作成力と文章指導力において指導に携わるレベルに到達したと授業者が判断した人は、次学期より「指導員」として、あるいは「チューター」として、文章指導に携わります。「チューター」を希望する場合は、次学期開始前に行われる面接審査を通過する必要があります。

■登録時に提出する文書
ウェブ登録時に、「志望理由」の欄に、以下4点を記入すること。以下の文書は、「学術的文章の作成とその指導 1」の登録時に入力する。同じ内容を「学術的文章の作成とその指導 2」の登録時に入力する必要はありません。
登録時に提出された文章と、勤務できる年数によって、履修者を決定します。より長期間勤務できる人を優先します。授業履修後に文章指導者としての応募資格を教員から与えられた履修者は、科目登録時に申告した期間、勤務していただきます（授業履修の次学期から最低2学期）。

1. 修士または博士の研究計画を記述した文章。（1000字以内）
単なる箇条書きでは文章力を判定できません。
2. 指導に携わることを希望する動機。（300字以内）

研究科や教授からの推薦を受けている場合には、必ずその旨を明記してください。
3. 指導についた場合、何学期間勤務できるか。
ここで申告した期間を実際に勤務していただきます。正直に記入してください。
4. 連絡先（メールアドレスまたは電話番号）
提出書類に不備があった場合に、教員から連絡をする場合があります。

事前・事後学習の内容:

■本クラスでは、次のような事前・事後学修が求められます。
【事前学修】
・授業で指示された課題に取り組む。（1時間程度）
・回によっては、授業で指定された動画を視聴する。（1時間程度）

【事後学修】
・授業で学んだ文章技術を用いて課題文章をWordで作成する。作成した課題文章は、授業で指示された締切日（授業の3, 4日後）までにMoodleに提出する。（1～2時間）
・回によっては、授業で指定された動画を視聴する。（1時間程度）

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

「学術的文章の作成とその指導　1」「同　2」を通して、以下の内容を扱う。
「1」では第1回から第7回、「2」では第8回から第14回を扱う。

1）ガイダンス、学術的文章の基本、学術的文章における不正行為を防ぐ
2）ことばと思考、「一文一義」で書く
3）接続表現で文と文との関係を自覚する
4）語句を明確に使う、外来語や専門用語を扱う
5）ブレインストーミングをする、問いを立てる
6）主張を記す
7）全体を構成する
8）論点を整理する
9）抽象度の調節をする
10）「パラグラフ」を作る
11）参考文献を示す
12）「ブロック引用」をする、図や表を作る
13）「キーワード引用」をする
14）題を付ける、読者を案内する

※毎回、800字から1000字の文章を書く課題が課せられます。
※課題は、Waseda Moodleで締切日までに提出し、翌週の授業でフィードバックされます。
※上記、全ての回で、以下の事前学修、事後学修があります。
[事前学修]授業で指示された課題に取り組む。

[事後学修]授業で学んだ文章技術を用いて課題文章を作成し、期日までに提出する。回によっては、授業で指定された動画を視聴する。

言語区分:　0　日本語　Japanese

教科書:　『これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版』(佐渡島紗織・吉野亜矢子、2021年、ひつじ書房)

参考文献:

『課題に応える　卒論に活かせる　大学生のためのレポートの書き方』（佐渡島紗織・坂本麻裕子・中島宏治・太田裕子、2022年、ナツメ社）
『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』（佐渡島紗織・オリベイラ,ディエゴ・嶼田大海・デルグレゴ,ニコラス編著、2020年、大修館書店）
『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド―大学生・大学院生のための自己点検法29』（佐渡島紗織・坂本麻裕子・大野真澄編著、2015年、大修館書店）
『レポート・論文をさらによくする「観点」ガイド―学習と授業作りに役立つ25の観点－』（佐渡島紗織・宇都伸之・中島宏治編著／後藤大輔・坂本麻裕子・嶼田大海・外村江里奈・千仙永・平松友紀・渡寛法著、2025年、大修館書店）

成績評価フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:

「学術的文章の作成とその指導1」「同2」を通して、以下の基準で評価します。
1. 提出された文章の出来栄え96%（8点×12課題）
2. オンデマンド授業の視聴4%（指定された動画の章をすべて視聴した場合は4点。1～2章未視聴の場合は3点。3章以上未視聴があった場合は0点。）

備考・関連URL:　・本授業の開始日は4月17日（金）です。履修を希望する方は必ず出席してください。

【留意点】
◆指導員・チューターのどちらの職を希望するかは、授業履修後に授業者から「合格」通知を受け取った後で、申告できます。
◆チューター希望者は、申告後、面接審査があります。面接審査で不合格になった場合は、指導員として勤務していただきます。
◆指導員またはチューターになった場合は早稲田キャンパスまたは所沢キャンパスでの研修や勤務があります。
指導員は毎週1回、早稲田キャンパス（複数の時間から選択可）または所沢キャンパス（特定の時間のみ）で行われるミーティングに参加する必要があります。ミーティングを含め、週8時間程度の業務を行います。
チューターは毎週月曜に行われる早稲田キャンパスでのミーティングに参加する必要があります。ミーティングを含め、少なくとも週5時間程度の業務を行います。
◆休学中は、指導員、チューターとして勤務することができません。

※不明な点はグローバル・エデュケーション・センター担当者または担当教員までお問い合わせください。

【関連URL】
「早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラム」： https://www.waseda.jp/inst/aw/
「学術的文章の作成」授業ページ： https://www.waseda.jp/inst/aw/course

「ライティング・センター」ページ： https://www.waseda.jp/inst/aw/about

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020101|04|9S91020101[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術的文章の作成とその指導 1 04クラス		
担 当 教 員	坂本 麻裕子		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: アカデミック・ライティング指導者を目指して

授業概要:

■授業の目的
本授業の目的は、学術的文章の作成を指導する者を育成することです（全14回、対面授業です）。具体的には、早稲田大学グローバル・エデュケーション・センターのアカデミック・ライティング教育部門における、学部生向け授業の「指導員」（非対面、個別指導）、または学生・教員が利用するライティング・センターにおける「チューター」（原則対面、個別指導）の候補者を育成します。そのために、本授業の履修者は、学術的文章の作成に必要な文章技術を身につけることを目標に学習します。
授業では、複数の文章技術を学びます。これから書く様々な文章において、どの文章技術を意識し、また組み合わせて使うとよいかを判断する基礎となる力を磨きます。
※履修後に「指導員」または「チューター」として勤務する気持ちのない方は、履修しないでください。

■授業の流れ
文章を書く技能は、他の技能と同様、文章へのフィードバックを受けて初めて磨かれるものです。しかし、文章へのフィードバックは、残念ながら、通常ではなかなか得ることができません。そこでこの授業では、論理的で明快な学術的文章を書くための文章技術を、実際に文章を書き、フィードバックを受け、直していくことで学びます。
具体的には、週ごとに一つの文章技術または一つのライティング・プロセスを学びます。毎回、クラスの他の履修者と文章を読み合い、ディスカッションをします。授業後に、その週の文章技術を使って課題文章を作成し、提出します。翌週の授業冒頭で、教員からのコメントが付いた課題文章が返却されます。毎回、返却された課題文章1、2編をクラスで共有し、ディスカッションします。活発な授業への参加を期待しています。

■履修登録に関する注意事項

本授業は「学術的文章の作成とその指導 1」と「同 2」から構成されます。「1」と「2」は、原則として同一学期に、同一の教員による、同一の曜日時限の授業を連続して登録する必要があります。科目登録時に「1」と「2」の両方を、同時に履修登録してください。「1」のみ、または「2」のみの履修は認めません。

授業の到達目標:

■文章指導者を目指す
本授業では、「指導員」、「チューター」に応募できるレベル到達を目指します。「指導員」（非対面）は、早稲田大学グローバル・エデュケーション・センター科目「学術的文章の作成」（主に学部初年次生が履修）で、履修者の文章に対して個別にコメントと点数をつけます。「チューター」（原則対面）は、ライティング・センター（全学生・教員対象）で、対話を通して書き手の文章作成を支援します。（文章指導業務の詳細については、ウェブサイト「早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラム」を御覧下さい。）
大学教員を目指す博士後期課程の学生、および、博士後期課程に進学する意思のある修士課程の学生に履修を勧めます。大学院在籍中に、「指導員」や「チューター」として学生の文章指導に携わる経験は、将来大学生を指導する上で貴重だからです。

■文章指導者としての応募資格
「学術的文章の作成とその指導1」と「同2」を通して欠席が2回以下で、文章作成力と文章指導力において指導に携わるレベルに到達したと授業者が判断した人は、次学期より「指導員」として、あるいは「チューター」として、文章指導に携わります。「チューター」を希望する場合は、次学期開始前に行われる面接審査を通過する必要があります。

■登録時に提出する文書
ウェブ登録時に、「志望理由」の欄に、以下4点を記入すること。以下の文書は、「学術的文章の作成とその指導 1」の登録時に入力する。同じ内容を「学術的文章の作成とその指導 2」の登録時に入力する必要はありません。
登録時に提出された文章と、勤務できる年数によって、履修者を決定します。より長期間勤務できる人を優先します。授業履修後に文章指導者としての応募資格を教員から与えられた履修者は、科目登録時に申告した期間、勤務していただきます（授業履修の次学期から最低2学期）。

1. 修士または博士の研究計画を記述した文章。（1000字以内）
　単なる箇条書きでは文章力を判定できません。
2. 指導に携わることを希望する動機。（300字以内）
　研究科や教授からの推薦を受けている場合には、必ずその旨を明記してください。
3. 指導についた場合、何学期間勤務できるか。

ここで申告した期間を実際に勤務していただきます。正直に記入してください。
4. 連絡先（メールアドレスまたは電話番号）
提出書類に不備があった場合に、教員から連絡をする場合があります。

事前・事後学習の内容:

■本クラスでは、次のような事前・事後学修が求められます。

【事前学修】
・授業で指示された課題に取り組む。（1時間程度）
・回によっては、授業で指定された動画を視聴する。（1時間程度）

【事後学修】
・授業で学んだ文章技術を用いて課題文章をWordで作成する。作成した課題文章は、授業で指示された締切日（授業の3，4日後）までにMoodleに提出する。（1～2時間）
・回によっては、授業で指定された動画を視聴する。（1時間程度）

授業計画フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー:

「学術的文章の作成とその指導　1」「同　2」を通して、以下の内容を扱う。
「1」では第1回から第7回、「2」では第8回から第14回を扱う。

1）ガイダンス、学術的文章の基本、学術的文章における不正行為を防ぐ
2）ことばと思考、「一文一義」で書く
3）接続表現で文と文との関係を自覚する
4）語句を明確に使う、外来語や専門用語を扱う
5）ブレインストーミングをする、問いを立てる
6）主張を記す
7）全体を構成する
8）論点を整理する
9）抽象度の調節をする
10）「パラグラフ」を作る
11）参考文献を示す
12）「ブロック引用」をする、図や表を作る
13）「キーワード引用」をする
14）題を付ける、読者を案内する

※毎回、800字から1000字の文章を書く課題が課せられます。
※課題は、Waseda Moodleで締切日までに提出し、翌週の授業でフィードバックされます。
※上記、全ての回で、以下の事前学修、事後学修があります。
[事前学修]授業で指示された課題に取り組む。
[事後学修]授業で学んだ文章技術を用いて課題文章を作成し、期日までに提出する。回によっては、授業で指定された動画を視聴する。

言語区分: 0　日本語　Japanese

教科書: 『これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版』(佐渡島紗織・吉野亜矢子、2021年、ひつじ書房)

参考文献:
『課題に応える　卒論に活かせる　大学生のためのレポートの書き方』(佐渡島紗織・坂本麻裕子・中島宏治・太田裕子、2022年、ナツメ社)
『レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド』(佐渡島紗織・オリベイラ,ディエゴ・嶼田大海・デルグレゴ,ニコラス編著、2020年、大修館書店)
『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド―大学生・大学院生のための自己点検法29』(佐渡島紗織・坂本麻裕子・大野真澄編著、2015年、大修館書店)
『レポート・論文をさらによくする「観点」ガイド―学習と授業作りに役立つ25の観点－』(佐渡島紗織・宇都伸之・中島宏治編著／後藤大輔・坂本麻裕子・嶼田大海・外村江里奈・千仙永・平松友紀・渡寛法著、2025年、大修館書店)

成績評価フリー入力サイン:

1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー:
「学術的文章の作成とその指導1」「同2」を通して、以下の基準で評価します。
1. 提出された文章の出来栄え96%（8点×12課題）
2. オンデマンド授業の視聴4%（指定された動画の章をすべて視聴した場合は4点。1～2章未視聴の場合は3点。3章以上未視聴があった場合は0点。）

＊授業に参加しなかった週は、課題文章を提出することができません。
＊「学術的文章の作成とその指導1」「同2」を通して3回以上欠席すると、指導員、チューターに応募する資格が失

われますので御注意ください。
＊遅刻は厳禁です。欠席する際には、できれば事前に断ってください。

備考・関連URL:　・本授業の開始日は10月2日（金）です。履修を希望する方は必ず出席してください。

【留意点】
◆指導員・チューターのどちらの職を希望するかは、授業履修後に授業者から「合格」通知を受け取った後で、申告できます。
◆チューター希望者は、申告後、面接審査があります。面接審査で不合格になった場合は、指導員として勤務していただきます。
◆指導員またはチューターになった場合は早稲田キャンパスまたは所沢キャンパスでの研修や勤務があります。
指導員は毎週1回、早稲田キャンパス（複数の時間から選択可）または所沢キャンパス（特定の時間のみ）で行われるミーティングに参加する必要があります。ミーティングを含め、週8時間程度の業務を行います。
チューターは毎週月曜に行われる早稲田キャンパスでのミーティングに参加する必要があります。ミーティングを含め、少なくとも週5時間程度の業務を行います。
◆休学中は、指導員、チューターとして勤務することができません。

※不明な点はグローバル・エデュケーション・センター担当者または担当教員までお問い合わせください。

【関連URL】
「早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラム」:　https://www.waseda.jp/inst/aw/
「学術的文章の作成」授業ページ:　https://www.waseda.jp/inst/aw/course
「ライティング・センター」ページ:　https://www.waseda.jp/inst/aw/about

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020102|01|9S91020102[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術的文章の作成とその指導 2 01クラス		
担 当 教 員	太田 裕子		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:木2時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： アカデミック・ライティング指導者を目指して

授業概要：
本科目（「学術的文章の作成とその指導 2」）は、「学術的文章の作成とその指導 1」と連続した内容になっています。
※授業概要は、「学術的文章の作成とその指導 1」を参照してください。
※同一教員による「学術的文章の作成とその指導 1」と「同 2」を同時に履修登録してください。

授業の到達目標： 「学術的文章の作成とその指導 1」と本科目（「学術的文章の作成とその指導 2」の履修を通して、文章指導者の育成を目指します。詳しくは、「学術的文章の作成とその指導 1」のシラバスを参照してください。

■授業の構成に関する注意事項
本授業は「学術的文章の作成とその指導 1」と「同 2」から構成されます。「1」と「2」は、原則として同一学期に、同一の教員による、同一の曜日時限の授業を連続して登録する必要があります。「1」のみ、または「2」のみの履修は認めません。

■登録時に提出する文書
「学術的文章の作成とその指導 1」をウェブ登録する際に、入力が必要な文書があります。必ず入力してください。未入力の場合は、「1」「2」ともに自動的に選外となります。

事前・事後学習の内容： 「学術的文章の作成とその指導 1」を参照してください。

授業計画フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー： 「学術的文章の作成とその指導 1」を参照してください。

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 「学術的文章の作成とその指導 1」を参照してください。

参考文献： 「学術的文章の作成とその指導 1」を参照してください。

成績評価フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー： 「学術的文章の作成とその指導1」「同2」を通して、以下の基準で評価します。
1. 提出された文章の出来栄え96%（8点×12課題）
2. オンデマンド授業の視聴4%（指定された動画の章をすべて視聴した場合は4点。1～2章未視聴の場合は3点。3章以上未視聴があった場合は0点。）

＊授業に参加しなかった週は、課題文章を提出することができません。
＊「学術的文章の作成とその指導1」「同2」を通して3回以上欠席すると、指導員、チューターに応募する資格が失われますので御注意ください。
＊遅刻は厳禁です。欠席する際には、できれば事前に断ってください。

備考・関連URL： ・本授業（「学術的文章の作成とその指導 2」）の開始日は6月4日（木）となっていますが、
本授業を履修する者は、必ず「学術的文章の作成とその指導 1」の第1回授業4月16日（木）から続けて出席してください。

【関連URL】
「早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラム」： https://www.waseda.jp/inst/aw/
「学術的文章の作成」授業ページ： https://www.waseda.jp/inst/aw/course
「ライティング・センター」ページ： https://www.waseda.jp/inst/aw/about

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020102|02|9S91020102[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術的文章の作成とその指導 2 02クラス		
担 当 教 員	追田 好章		
開 講 学 期	夏ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： アカデミック・ライティング指導者を目指して

授業概要：
本科目（「学術的文章の作成とその指導 2」）は、「学術的文章の作成とその指導 1」と連続した内容になっています。
※授業概要は、「学術的文章の作成とその指導 1」を参照してください。
※同一教員による「学術的文章の作成とその指導 1」と「同 2」を同時に履修登録してください。

授業の到達目標： 「学術的文章の作成とその指導 1」と本科目（「学術的文章の作成とその指導 2」の履修を通して、文章指導者の育成を目指します。詳しくは、「学術的文章の作成とその指導 1」のシラバスを参照してください。

■授業の構成に関する注意事項
本授業は「学術的文章の作成とその指導 1」と「同 2」から構成されます。「1」と「2」は、原則として同一学期に、同一の教員による、同一の曜日時限の授業を連続して登録する必要があります。「1」のみ、または「2」のみの履修は認めません。

■登録時に提出する文書
「学術的文章の作成とその指導 1」をウェブ登録する際に、入力が必要な文書があります。必ず入力してください。未入力の場合は、「1」「2」ともに自動的に選外となります。

事前・事後学習の内容： 「学術的文章の作成とその指導 1」を参照してください。

授業計画フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：
「学術的文章の作成とその指導 1」を参照してください。

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 「学術的文章の作成とその指導 1」を参照してください。

参考文献： 「学術的文章の作成とその指導 1」を参照してください。

成績評価フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー： 「学術的文章の作成とその指導1」「同2」を通して、以下の基準で評価します。
1. 提出された文章の出来栄え96%（8点×12課題）
2. オンデマンド授業の視聴4%（指定された動画の章をすべて視聴した場合は4点。1～2章未視聴の場合は3点。3章以上未視聴があった場合は0点。）

＊授業に参加しなかった週は、課題文章を提出することができません。
＊「学術的文章の作成とその指導1」「同2」を通して3回以上欠席すると、指導員、チューターに応募する資格が失われますので御注意ください。
＊遅刻は厳禁です。欠席する際には、できれば事前に断ってください。

備考・関連URL：
・本授業（「学術的文章の作成とその指導 2」）の開始日は6月5日（金）となっていますが、本授業を履修する者は、必ず「学術的文章の作成とその指導 1」の第1回授業4月17日（金）から続けて出席してください。

【関連URL】
「早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラム」： https://www.waseda.jp/inst/aw/
「学術的文章の作成」授業ページ： https://www.waseda.jp/inst/aw/course

「ライティング・センター」ページ： https://www.waseda.jp/inst/aw/about

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91020102|04|9S91020102[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	学術的文章の作成とその指導 2 04クラス		
担 当 教 員	坂本 麻裕子		
開 講 学 期	冬ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:金4時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人文・社会科学科目（教育・研究・学習）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： アカデミック・ライティング指導者を目指して

授業概要：

本科目（「学術的文章の作成とその指導 2」）は、「学術的文章の作成とその指導 1」と連続した内容になっています。
※授業概要は、「学術的文章の作成とその指導 1」を参照してください。
※同一教員による「学術的文章の作成とその指導 1」と「同 2」を同時に履修登録してください。

授業の到達目標： 「学術的文章の作成とその指導 1」と本科目（「学術的文章の作成とその指導 2」の履修を通して、文章指導者の育成を目指します。詳しくは、「学術的文章の作成とその指導 1」のシラバスを参照してください。

■授業の構成に関する注意事項
本授業は「学術的文章の作成とその指導 1」と「同 2」から構成されます。「1」と「2」は、原則として同一学期に、同一の教員による、同一の曜日時限の授業を連続して登録する必要があります。「1」のみ、または「2」のみの履修は認めません。

■登録時に提出する文書
「学術的文章の作成とその指導 1」をウェブ登録する際に、入力が必要な文書があります。必ず入力してください。未入力の場合は、「1」「2」ともに自動的に選外となります。

事前・事後学習の内容： 「学術的文章の作成とその指導 1」を参照してください。

授業計画フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー： 「学術的文章の作成とその指導 1」を参照してください。

言語区分： 0 日本語 Japanese

教科書： 「学術的文章の作成とその指導 1」を参照してください。

参考文献： 「学術的文章の作成とその指導 1」を参照してください。

成績評価フリー入力サイン： 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー： 「学術的文章の作成とその指導1」「同2」を通して、以下の基準で評価します。
1. 提出された文章の出来栄え96%（8点×12課題）
2. オンデマンド授業の視聴4%（指定された動画の章をすべて視聴した場合は4点。1～2章未視聴の場合は3点。3章以上未視聴があった場合は0点。）

＊授業に参加しなかった週は、課題文章を提出することができません。
＊「学術的文章の作成とその指導1」「同2」を通して3回以上欠席すると、指導員、チューターに応募する資格が失われますので御注意ください。
＊遅刻は厳禁です。欠席する際には、できれば事前に断ってください。

備考・関連URL：

・本授業（「学術的文章の作成とその指導 2」）の開始日は11月27日（金）となっていますが、本授業を履修する者は、必ず「学術的文章の作成とその指導 1」の第1回授業10月2日（金）から続けて出席してください。

【関連URL】
「早稲田大学アカデミック・ライティング・プログラム」： https://www.waseda.jp/inst/aw/
「学術的文章の作成」授業ページ： https://www.waseda.jp/inst/aw/course

「ライティング・センター」ページ： https://www.waseda.jp/inst/aw/about

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 2 非主管科目 ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91030001|01|9S91030001[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ビジネスアイデア・デザイン（BID）		
担 当 教 員	井上 達彦@浜口 隆則@黒田 訓英@瀧口 匡		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:金4-5	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: 欲しいアイデアを入札ゲームで競り落とせ

授業概要: 起業を考えている人たち悩ませる三大要因をご存知ですか。それは、(1)資金がない、(2)アイデアがない、(3)リスクがある、というものです（「起業意識に関する調査」）。素晴らしいアイデアがあれば、資金も集めやすくなりますし、リスクも減らせます。この講座では、その「ビジネスアイデア」の悩みを解決するためのお手伝いをします。ビジネス設計のフレームワークや制約を学び、単なる思いつきを超えた実践的なアイデアを創出する方法について学びます。アイデア創出は、新製品開発や企画業務にも役立ちます。起業を目指す人のみならず、社内でイノベーションを起こそうという人にも受けていただきたいと思います。ビジネスゲーム的な発想で毎週アイデアを創出する演習を行いますので、金曜日の2コマ連続で開講します。自らも起業し、数々の起業家を支援してきたエキスパートの協力を得て、実際に役立ったツールを体験してもらいます。ユニークなゲストも招きます。授業の最後には、受講者が生み出したビジネスアイデアに対して、実際に値段をつけてもらいます。起業家たちと一緒にセッションを創り上げていきませんか。＊対面で実施しますが、必要に応じてリアルタイム配信やオンデマンドも活用します。

授業の到達目標: ・ビジネスモデルの設計や企業の技術について学び、アイデアを生み出す素養を身につけます。
・ビジネスアイデアを創出する手法を学び、実際に使えるようにします。

事前・事後学習の内容: ある週で学んだ発想法を用いて、次の週までにビジネスアイデアを準備していただきます。グループワークが基本ですが、毎週のように3分のピッチ（プレゼンテーション）を行っていただきます。

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 ガイダンス

BIDの目的やルールについて解説した後、リーダーとなるべき社長（架空）を選出し、グループ分けを行います。
（担当：黒田訓英／浜口隆則／瀧口匡／井上達彦）

第2回 発想法：困りごとマラソン（講義と演習）

次週、グループごとにアイデアを出していただきます。そのアイデアを創出するための方法として「困りごとマラソン」を紹介します。簡単な解説の後、実際に演習形式でグループワークをこなしていただきます。（担当：黒田訓英／浜口隆則／瀧口匡／井上達彦）

第3回 BID1（プレゼンテーション後に入札）

各グループ3分程度でロケットピッチ（ミニプレゼンテーション）を行います。アイデアは、先週学んだ発想法から生み出されたものでなければなりません（困りごとマラソン）。手持ち金額100万円（架空）でBIDして入札していただき、買い付けに成功すれば欲しいアイデアが自分のものになります（権利の50%が移転）。買い付けした分だけ手持ち金額が減りますが、売却に成功した分だけ、残高を補充することができます。（担当：黒田訓英／浜口隆則／瀧口匡／井上達彦）

第4回 発想法：あったらいいな、未来を過去にする（講義と演習）

次週、グループごとにアイデアを出していただきますが、その創出法として「あったらいいな」を紹介します。簡単な解説の後、実際に演習形式でグループワークをこなしていただきます。（担当：黒田訓英／浜口隆則／瀧口匡／井上達彦）

第5回 BID2（プレゼンテーション後に入札）

各グループ3分程度でロケットピッチ（ミニプレゼンテーション）を行います。アイデアは、先週学んだ発想法から生み出されたものでなければなりません。手持ち金額100万円（架空）でBIDして入札していただき、買い付けに成功すれば欲しいアイデアが自分のものになります（権利の50%が移転）。買い付けした分だけ手持ち金額が減りますが、売却に成功した分だけ、残高を補充することができます。前回までのBIDで手持ち金額が変化しているはずなので、それを前提にBIDを行ってください。（担当：黒田訓英／浜口隆則／瀧口匡／井上達彦）

第6回 発想法：ビジネスの種（講義と演習）

次週、グループごとにアイデアを出していただきますが、その創出法として「ビジネスの種」を紹介します。簡単な解説の後、実際に演習形式でグループワークをこなしていただきます。（担当：黒田訓英／浜口隆則／瀧口匡／井上達彦）

第7回　BID3（プレゼンテーション後に入札）

各グループ3分程度でロケットピッチ（ミニプレゼンテーション）を行います。アイデアは、先週学んだ発想法から生み出されたものでなければなりません。手持ち金額100万円（架空）でBIDして入札していただき、買い付けに成功すれば欲しいアイデアが自分のものになります（権利の50%が移転）。買い付けした分だけ手持ち金額が減りますが、売却に成功した分だけ、残高を補充することができます。前回までのBIDで手持ち金額が変化しているはずなので、それを前提にBIDを行ってください。（担当：黒田訓英／浜口隆則／瀧口匡／井上達彦）

第8回　発想法：アナロジー（講義と演習）

次週、グループごとにアイデアを出していただきますが、その創出法として「アナロジー」を紹介します。簡単な解説の後、実際に演習形式でグループワークをこなしていただきます。（担当：黒田訓英／浜口隆則／瀧口匡／井上達彦）

第9回　BID4（プレゼンテーション後に入札）

各グループ3分程度でロケットピッチ（ミニプレゼンテーション）を行います。アイデアは、先週学んだ発想法から生み出されたものでなければなりません。手持ち金額100万円（架空）でBIDして入札していただき、買い付けに成功すれば欲しいアイデアが自分のものになります（権利の50%が移転）。買い付けした分だけ手持ち金額が減りますが、売却に成功した分だけ、残高を補充することができます。前回までのBIDで手持ち金額が変化しているはずなので、それを前提にBIDを行ってください。（担当：黒田訓英／浜口隆則／瀧口匡／井上達彦）

第10回　発想法：メンタルブロック／常識の打破（講義と演習）

次週、グループごとにアイデアを出していただきますが、その創出法として「常識の打破」を紹介します。最初にメンタルブロックについての簡単な解説を行いその後、実際に演習形式でグループワークをこなしていただきます。（担当：黒田訓英／浜口隆則／瀧口匡／井上達彦）

第11回　BID5（プレゼンテーション後に入札）

各グループ3分程度でロケットピッチ（ミニプレゼンテーション）を行います。アイデアは、先週学んだ発想法から生み出されたものでなければなりません。手持ち金額100万円（架空）でBIDして入札していただき、買い付けに成功すれば欲しいアイデアが自分のものになります（権利の50%が移転）。買い付けした分だけ手持ち金額が減りますが、売却に成功した分だけ、残高を補充することができます。前回までのBIDで手持ち金額が変化しているはずなので、それを前提にBIDを行ってください。（担当：黒田訓英／浜口隆則／瀧口匡／井上達彦）

第12回　発想法：ポジショニングと組み合わせ（講義と演習）

次週、グループごとにアイデアを出していただきますが、その創出法として「ポジショニング」を紹介します。簡単な解説の後、実際に演習形式でグループワークをこなしていただきます。（担当：黒田訓英／浜口隆則／瀧口匡／井上達彦）

第13回　BID6（プレゼンテーション後に入札）

各グループ3分程度でロケットピッチ（ミニプレゼンテーション）を行います。アイデアは、先週学んだ発想法から生み出されたものでなければなりません。手持ち金額100万円（架空）でBIDして入札していただき、買い付けに成功すれば欲しいアイデアが自分のものになります（権利の50%が移転）。買い付けした分だけ手持ち金額が減りますが、売却に成功した分だけ、残高を補充することができます。前回までのBIDで手持ち金額が変化しているはずなので、それを前提にBIDを行ってください。（担当：黒田訓英／浜口隆則／瀧口匡／井上達彦）

第14回　ビジネスアイデアを評価する

優れたビジネスアイデアとは何かについて、理論と実践から評価していきます。学内外のコンテストに向けて、実際にアクションをとるための最終準備を行います。（担当：黒田訓英／浜口隆則／瀧口匡／井上達彦）

言語区分：	0	日本語　Japanese
教科書：	浜口隆則『起業の技術』かんき出版	
参考文献：	井上達彦『ゼロからつくるビジネスモデル』東洋経済新報社	
成績評価フリー入力サイン：	0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）	
試験：	0	なし
レポート：	0	なし
平常点評価：	20	授業への参加の積極性、課題への取り組み（大学院生はより積極的に授業に参加して課題に取り組んでください）
その他：	80	最終段階での所持金ランキング（提案されたビジネスアイデアの市場評価を反映）、ならびに手持ちのアイデアから評価
備考・関連URL：	授業紹介 https://www.youtube.com/watch?v=I64Uz66flHw&feature=youtu.be 講師について http://bbank.jp/ http://www.waseda.jp/sem-inoue/	

本科目は、グローバルエデュケーションセンターの実践型教育プログラム「ビジネス・クリエーションコース」の対象科目です。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91030002|01|9S91030002[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ビジネスモデル仮説検証（エッセンシャル） O1		
担 当 教 員	堤 孝志@大森 峻一		
開 講 学 期	集春	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 自らの商品アイデアを基にビジネスモデルを構築し，仮説検証を繰り返しながらそれをブラッシュアップする取り組みを通じて，事業立ち上げ手法の基礎を実践的に学ぶ．具体的には，新規事業開発のための理論である『ジョブ理論』、『ビジネスモデルキャンバス』と『リーンスタートアップ』を，顧客インタビューに基づき、ビジネスモデルの仮説検証を繰り返す中で実践的に学ぶ．
本科目は以下日時に行われる全2回の集中授業と、その間の宿題（10人程度の顧客候補にインタビューを行い商品ニーズを検証して結果をレポートにまとめる、他）とで構成される（詳細は以下授業計画を参照）
授業日程：
6/6（土） 1～4時限
7/4（土） 1～3時限
なお、授業はすべて堤孝志が担当する。

授業の到達目標: 1.『ジョブ理論』『ビジネスモデルキャンバス』，『リーンスタートアップ』，『顧客開発モデル』の理論を理解する．
2. 自ら，ビジネスモデルを構築し，顧客インタビューを行うことで，上記理論を実践し，活用できるようにする．

事前・事後学習の内容: ＜初回授業までの事前課題＞
・別途送付する受講ガイドに記載される事前課題（本科目で仮説検証の対象とする商品アイデアを考えて説明資料を作成してくること等）を実施すること

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回（授業）
・オリエンテーション（含む各自自己紹介）
第2回（授業、第1回と同日に連続して実施）
・ビジネスモデルとその設計手法に関する講義（ジョブ理論を学ぶ）
第3回（授業、第1回と同日に連続して実施）
・ビジネスモデルとその設計手法に関する講義（価値顧客シートを用いたビジネスモデルの基本設計を学ぶ）
第4回（授業、第1回と同日に連続して実施）
・ビジネスモデルの仮説検証手法に関する講義（リーンスタートアップ，顧客開発モデルを学ぶ）・宿題：10人程度の顧客候補にインタビューを行い商品需要を検証して結果をレポートにまとめる等
第5回（授業）
・ビジネスモデルの検証結果の発表とディスカッション
第6回（授業、第5回と同日に連続して実施）
・ビジネスモデルの検証結果の発表とディスカッション
第7回（授業、第5回と同日に連続して実施）
・ビジネスモデルの全体設計の手法を学ぶ（ビジネスモデル・キャンバス）・宿題：ビジネスモデル・キャンバスでビジネスモデルを設計する等

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 授業時に資料を配布．

参考文献: Steaven G.Blank著，堤 孝志・渡邊哲訳，アントレプレナーの教科書，翔泳社．

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート: 50 指定した回数のインタビューの結果とビジネスモデルの改訂内容が提出されること．改訂にあたっては，

その改訂理由について根拠となる理論やデータに基づいた十分な考察が行われていること.

注:学部生はこの割合は40%で評価します。

平常点評価: 50 ビジネスモデルキャンバスとリーンスタートアップの理論についての深い理解のもとで, ビジネスモデルとインタビュー結果を適切にまとめ, 教員のみならず授業出席者が理解できるように発表すること. また, 他のチームの発表に対して積極的に意見を述べること.

注:学部生はこの割合は60%で評価します。

備考・関連URL: 授業日程:
6/6(土) 1～4時限
7/4(土) 1～3時限

授業の様子を以下URLで参考まで紹介する。
https://youtu.be/uwrYIZnqldQまた過去の受講者の事後の感想を参考までに以下に示す。
「ビジネスモデルや商品の企画は、ヒアリングを通じて磨き上げていくものだという考え方がまず自分にはなかったため、その考え方と道具(顧客開発モデルやリーンスタートアップの概念)を身に着けることができ、成長を感じた。」

「仮説は小さな検証(インタビューの繰り返し、プロトタイプの繰り返し、etc)を繰り返すことでしかブラッシュアップはできないということ。「起業したい」「誰もやってないなら自 分がしたらいいじゃん」という感情を持以来初めて、本格的な仮説検証をさせていただく機会となり、すでに今後の糧になっている。」

「現代社会ではこのような授業やBMCなどの先人によって完成されたプロセスがあるから新規ビジネスは誰にでも可能だしやらない言い訳ができない世界。」

「ビジネスモデルを仮説検証することは非常に重要である。アイディアがあるだけでなく、それが現実のニーズにマッチし、実現可能性があるかどうかを確認することは、失敗を最小限に抑え、持続可能なビジネスを築くために欠かせない。」

「ビジネスモデル・キャンパス自体は, 以前学科の授業で学習したことがあったが, その時はいまいちビジネスモデルの解像度が上がらなかった. しかし, 今回価値顧客シートと一緒に使うことで, ビジネスモデル・キャンパスの網羅性がビジネスモデル理解に重要であることを実感することができた. 」

「ネットフリックスやプリンター、ホテルのルームサービスなど、当たり前のようにお金を払っていた商品が様々なマネタイズの工夫の末に消費者の下に届いていることを知る機会であった。商品を売る、買うという双方向の矢印だけでなく、色々な工夫ができることは大変いい勉強になった。」

「マネタイズの工夫として、人物時で分けた8パターンは今回初めて知ったことであり、大変興味深かった。特に、ジレットの話や、コストコの話はとても面白く、いつか私が事業を始めた際には参考にしたいと思う。」

以上

【履修上の注意】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
・2025年度以前に「ビジネスモデル仮説検証(エッセンシャル) (学部生用) 01」の単位を修得済みの方は履修できません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91030002|02|9S91030002[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ビジネスモデル仮説検証（エッセンシャル） 02		
担 当 教 員	堤 孝志@大森 峻一		
開 講 学 期	集秋	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 自らの商品アイデアを基にビジネスモデルを構築し，仮説検証を繰り返しながらそれをブラッシュアップする取り組みを通じて，事業開発手法の基礎を実践的に学ぶ．具体的には，新規事業立ち上げのための理論である『ジョブ理論』、『ビジネスモデルキャンバス』と『リーンスタートアップ』を，顧客インタビューに基づき、ビジネスモデルの仮説検証を繰り返す中で実践的に学ぶ．
本科目は以下日時に行われる全2回の集中授業と、その間の宿題（10人程度の顧客候補にインタビューを行い商品ニーズを検証して結果をレポートにまとめる、他）とで構成される（詳細は以下授業計画を参照）
授業日程：
11/14（土） 1～4時限
12/19（土） 1～3時限なお、授業はすべて堤孝志が担当する。

授業の到達目標: 1.『ジョブ理論』,『ビジネスモデルキャンバス』,『リーンスタートアップ』,『顧客開発モデル』の理論を理解する．
2. 自ら，ビジネスモデルを構築し，顧客インタビューを行うことで，上記理論を実践し，活用できるようにする．

事前・事後学習の内容: ＜受講に際しての諸注意＞
本科目はビジネスモデル仮説検証（プレミアム）01との重複受講はできません。本科目とビジネスモデル仮説検証（プレミアム）01の両方に履修申請することはできますが、履修許可は1科目までになります。

＜初回授業までの事前課題＞
別途送付する受講ガイドに記載される事前課題（本科目で仮説検証の対象とする商品アイデアを考えて説明資料を作成してくること等）を実施すること

授業計画フリー入力サイン: 0：講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回（授業）
・オリエンテーション（含む各自自己紹介）
第2回（授業、第1回と同日に連続して実施）
・ビジネスモデルとその設計手法に関する講義（ジョブ理論を学ぶ）
第3回（授業、第1回と同日に連続して実施）
・ビジネスモデルとその設計手法に関する講義（価値顧客シートを用いたビジネスモデルの基本設計を学ぶ）
第4回（授業、第1回と同日に連続して実施）
・ビジネスモデルの仮説検証手法に関する講義（リーンスタートアップ，顧客開発モデルを学ぶ）・宿題：10人程度の顧客候補にインタビューを行い商品需要を検証して結果をレポートにまとめる等
第5回（授業）
・ビジネスモデルの検証結果の発表とディスカッション
第6回（授業、第5回と同日に連続して実施）
・ビジネスモデルの検証結果の発表とディスカッション
第7回（授業、第5回と同日に連続して実施）
・ビジネスモデルの全体設計の手法を学ぶ（ビジネスモデル・キャンバス）・宿題：ビジネスモデル・キャンバスでビジネスモデルを設計する等

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 授業時に資料を配布．

参考文献: Steaven G.Blank著，堤 孝志・渡邊哲訳，アントレプレナーの教科書，翔泳社．

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート:	50	指定した回数のインタビューの結果とビジネスモデルの改訂内容が提出されること. 改訂にあたっては, その改訂理由について根拠となる理論やデータに基づいた十分な考察が行われていること. 注:学部生はこの割合は40%で評価します。
平常点評価:	50	ビジネスモデルキャンバスとリーンスタートアップの理論についての深い理解のもとで, ビジネスモデルとインタビュー結果を適切にまとめ, 教員のみならず授業出席者が理解できるように発表すること. また, 他のチームの発表に対して積極的に意見を述べること. 注:学部生はこの割合は60%で評価します。

備考・関連URL: 授業日程:
11/14(土) 1～4時限
12/19(土) 1～3時限

授業の様子を以下URLで参考まで紹介する。
https://youtu.be/uwrYIZnqldQ
また過去の受講者の事後の感想を参考までに以下に示す。
「ビジネスモデルや商品の企画は、ヒアリングを通じて磨き上げていくものだという考え方がまず自分にはなかったため、その考え方と道具(顧客開発モデルやリーンスタートアップの概念)を身に着けることができ、成長を感じた。」

「仮説は小さな検証(インタビューの繰り返し、プロトタイプの繰り返し、etc)を繰り返すことでしかブラッシュアップはできないということ。「起業したい」「誰もやってないなら自 分がしたらいいじゃん」という感情を持以来初めて、本格的な仮説検証をさせていただく機会となり、すでに今後の糧になっている。」

「現代社会ではこのような授業やBMCなどの先人によって完成されたプロセスがあるから新規ビジネスは誰にでも可能だしやらない言い訳ができない世界。」

「ビジネスモデルを仮説検証することは非常に重要である。アイディアがあるだけでなく、それが現実のニーズにマッチし、実現可能性があるかどうかを確認することは、失敗を最小限に抑え、持続可能なビジネスを築くために欠かせない。」

「ビジネスモデル・キャンパス自体は, 以前学科の授業で学習したことがあったが, その時はいまいちビジネスモデルの解像度が上がらなかった. しかし, 今回価値顧客シートと一緒に使うことで, ビジネスモデル・キャンパスの網羅性がビジネスモデル理解に重要であることを実感することができた. 」

「ネットフリックスやプリンター、ホテルのルームサービスなど、当たり前のようにお金を払っていた商品が様々なマネタイズの工夫の末に消費者の下に届いていることを知る機会であった。商品を売る、買うという双方向の矢印だけでなく、色々な工夫ができることは大変いい勉強になった。」

「マネタイズの工夫として、人物時で分けた8パターンは今回初めて知ったことであり、大変興味深かった。特に、ジレットの話や、コストコの話はとても面白く、いつか私が事業を始めた際には参考にしたいと思う。」

以上

【履修上の注意】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
・2025年度以前に「ビジネスモデル仮説検証(エッセンシャル) (学部生用) 02」の単位を修得済みの方は履修できません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91030003|01|9S91030003[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	ビジネスモデル仮説検証（プレミアム）		
担 当 教 員	堤 孝志@大森 峻一		
開 講 学 期	集秋	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要:

自らの商品アイデアや研究成果の技術を基にビジネスモデルを構築し，仮説検証を繰り返しながらそれをブラッシュアップすることで，事業をゼロから開発する手法を実践的に学ぶ．具体的には，事業開発の国際標準規格『ISO56002』で全体プロセスを把握し、そのプロセスに従って、事業開発の中核理論『ジョブ理論』、アイデアの発案手法である『デザイン思考』や『ビジネスモデル・キャンバス』、ビジネスモデルの検証手法である『リーンスタートアップ』や『顧客開発モデル』、収益性検証のための『シンプル収益モデル』などの事業開発手法を学習する。プロセスと手法を理解したら、実際に商品アイデアやビジネスモデルを発案し、顧客インタビューやプロトタイプ作成を通じてビジネスモデルの仮説検証を実践して力をつける．最終的には仮説検証の結果をすべて総括したビジネスプランを作成して、ビジネスコンテストさながらのピッチを行う．

本科目は以下日程で行われるの5回の集中授業と、その間の宿題とで構成される（詳細は以下授業計画を参照）
授業日程:
10/10（土）1～4限
10/24（土）2～4限
11/7（土）2～3限
11/21（土）2～4限
12/5（土）2～3限
なお、授業はすべて堤孝志が担当する。

授業の到達目標:

1. 事業開発プロセスの国際標準規格『ISO56002.8:イノベーションプロセス』を知り、事業開発の全体像を把握する
2. 事業開発の中核概念『ジョブ理論』を使いこなせるようになる。
3.『デザイン思考』の理論を理解し、製品、サービスやアプリ等の商品アイデアを発案できるようになる
3.『ビジネスモデルキャンバス』を活用し、発案商品のビジネスモデルの仮説を構築できるようになる
4.『リーンスタートアップ』『顧客開発モデル』の理論を理解し、顧客インタビュー等を通じて、発案商品の需要やビジネスモデルの不確かな要素を検証して実現性を高められるようになる
5. ビジネスモデルの仮説検証のためのプロトタイプ（MVP）が作れるようになる．
6. 手早く収益計算をする『シンプル収益モデル』を学び、ビジネスモデルを定量化した収益モデルを作り、投資家目線でそれを評価できるようになる
7. シリコンバレー流のビジネスプランの構成を知り、ビジネスモデルをビジネスプランとして表現し，ピッチ（＝短時間でのプレゼンテーション）できるようになる．

事前・事後学習の内容:

＜受講に際しての諸注意＞
①本科目はビジネスモデル仮説検証（エッセンシャル）02との重複受講はできません。本科目とビジネスモデル仮説検証（エッセンシャル）02の両方に履修申請することはできますが、履修許可は1科目までになります。
②本科目では原則としてグループで新たな事業を創るための各種演習に取り組みます。グループは集中授業内で組成します。
③別途送付する受講ガイドに記載される開講前事前課題（日々の生活での困りごとを話せるようしてくる、本科目で題材としたいビジネスアイデアを考えてくる、など）を実施すること

授業計画フリー入力サイン:

0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回（授業）
・オリエンテーション（含む各自の自己紹介）
・事業開発プロセスの国際標準規格『ISO56002.8:イノベーションプロセス』の講義・事業開発の中核概念『ジョブ理論』の講義

第2回（授業、第1回と同日に連続して実施）
・商品アイデアの発案手法『デザイン思考』の講義・デザイン思考による商品アイデアの発案演習（1）

第3回（授業、第1回と同日に連続して実施）
・デザイン思考による商品アイデアの発案演習（2）

第4回（授業、第1回と同日に連続して実施）
・デザイン思考による商品アイデアの発案演習（3）
・宿題：商品アイデアを考えてくる

第5回（授業）

・商品アイデアの発表

第6回（授業、第5回と同日に連続して実施）

・需要検証のための価値仮説の構築演習・需要検証のための顧客インタビューの準備

第7回（授業、第5回と同日に連続して実施）

・商品の需要検証手法に関する講義（リーンスタートアップ、顧客開発モデルを学ぶ）
・宿題：顧客候補とインタビューを行い、商品への需要を検証してくる

第8回（授業）

・商品需要の検証結果の中間発表とディスカッション

第9回（授業、第8回と同日に連続して実施）

・ビジネスモデルとその設計手法に関する講義（ビジネスモデルキャンバスを学ぶ）と演習・宿題：顧客候補とインタビューを行い、商品への需要を検証してくる。またビジネスモデル上の不確実要素を検証してくる。

第10回（授業）

・商品需要とビジネスモデルの検証結果の中間発表とディスカッション

第11回（授業、第10回と同日に連続して実施）

・収益モデルの作成手法に関する講義（シンプル収益モデル）・収益モデルの作成演習

第12回（授業、第10回と同日に連続して実施）

・収益モデルの作成手法に関する講義（シンプル収益モデル）・収益モデルの作成演習
・シリコンバレー流のビジネスプランの構成に関する講義
宿題：収益モデルを組み込んだビジネスプランを作成し、発表の準備をしてくる。

第13回（授業）

・ビジネスプランの最終発表とディスカッション

第14回（授業、第13回と同日に連続して実施）

・ビジネスプランの最終発表とディスカッション宿題：本科目を振り返り学び・気づきをまとめる

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　授業時にテキストを配布.

参考文献：　Steaven G.Blank, Bob Dorf著, 堤 孝志・渡邊哲訳, アントレプレナーの教科書, 翔泳社.

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　50　・各回に出題をする宿題が提出されること（宿題は事業アイデアの発案と商品説明資料の作成、価値仮説とその検証のための顧客インタビュー、ビジネスモデル仮説とその検証のための各種インタビュー、プロトタイプ作成、ビジネスプランと数値計画の作成などを予定）.
・検証を進めたビジネスモデルをもとに作成したビジネスプランが提出されること.

注：学部生はこの割合は40%で評価します。

平常点評価：　50　・各回にて, 事業アイデア、価値仮説の検証結果、ビジネスモデル仮説の検証結果を適切にまとめ, 教員のみならず授業出席者が理解できるように発表すること. また, 他のチームの発表に対して積極的に意見・助言を述べること.
・ビジネスモデルの仮説検証のために適切なプロトタイプを披露すること.
・収益性のあるビジネスモデルを設計すること.
・最終発表にてビジネスプランを適切にまとめ, 教員のみならず授業出席者が理解でき, かつ成長事業として魅力ある内容・形式で発表すること. また, 他のチームの発表に対して積極的に意見・助言を述べること.

注：学部生はこの割合は60%で評価します。

備考・関連URL：　授業日程：

10/10（土）1～4限
10/24（土）2～4限
11/7（土）2～3限
11/21（土）2～4限
12/5（土）2～3限

授業の様子を以下URLで参考まで紹介する。
https://youtu.be/uwrYIZnqldQ
また過去の受講者の事後の感想を参考までに以下に示す。
「ビジネスモデル仮説検証の授業を受けて、これまで曖昧だった知識が明確になった気がする。なんとなく、「課題って大切だよなー」「ニーズはあった方がいいよなー」と考えていたが、ジョブ、課題、現状対策、残課題というニーズのメカニズムを常に意識して考えられるようになった。他にも、アーリーアダプターやインタビューなど、初めて学ぶことも多く、この授業によって知識的な土台ができた気がする。いろんな場面で自信を持って考えたり自分

の意見を言ったりできるようになれそうだ。また、アプリを開発するときのアイデア出しにもどんどんこの授業で身につけたことを使っていきたい。」
「なんだかんだいちばん大事なのは、やっぱりチームメンバーだなと思いました。僕らのグループは非常にバランスもよく、各々が結構強みを活かせていたのかなという気がします。もちろん、インタビューもっとやろうと思えばできたなーとか、ここ追い込めればもっと良いもの作れたかもしれないと思う気持ちは多少残るし、チームメンバーにも迷惑をかけることも何回か合ったので、すごく申し訳ない気持ちもありました。それでもお互いにリスペクトして、がんばれたのは非常に良い経験だったなと個人的には思っています。」
「起業のシード期における必要な流れを体型的に学ぶことができた。ビジネスを立ち上げるために必要な事項を丁寧に学ぶことができた。これまで、ビジネスモデルを構築するにあたって、何も知識がなかったため、とてもハードルが高く感じていた。しかし、授業を受けることによって、行わなければならないことが見えてきた。そのためハードルが低くなったように感じることができて良かった。」
「ビジネスモデルの組み立て方については抽象的には把握していたものの実際にビジネスコンテストに参加してみると不備ばかりで自分でもなかなか納得の行くプレゼンが作れていない状況でした。しかし、本講義を受講し、どのようにビジネスアイディアを創造し、仮説検証を行い、そして実際にマネタイズやスケーリングを考えるまでの一連の流れが身につきました。」

「ビジネスを実際に行うまでのイメージが具体的に分かりました。アットホームな雰囲気で色々な人達の意見を聞けます。初めて会う人とプランを考えるので自分にはない考えを発見できます。色々なアイデアを聞いて知らない事業機会も発見できました。」

「ビジネスをゼロから考えるとはどういうことかを学べます。実際にピッチの経験もつめます。そして多くの優秀な学生とも出会えます」

「顧客インタビューはしんどいけど、めっちゃ起業のハードルが下がるし、やり方が分かったので解像度もあがりました」

「人で起業していたら仮説検証を繰り返す回数もきっと少なくなってしまうし、収益計画も困難（そもそも先生が配布した収益モデルのエクセルフォーマットを得るのも難しい）であると考えるので、興味あったら聞いて欲しいです。アウトプット中心であるのも好みです」

以上

【履修上の注意】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
・2025年度以前に「ビジネスモデル仮説検証（プレミアム）（学部生用） 01」の単位を修得済みの方は履修できません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91030004|01|9S91030004[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	イノベーション人材になるためのコーチング研修（ベーシック）		
担 当 教 員	島岡 未来子		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:水3時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: イノベーションは新しいものを創造するための挑戦の連続です。その挑戦においては、人に与えられたものではなく、自分自身の内側から湧き上がってくるモチベーションを発見して維持することが重要です。すなわちイノベーション人材とは、何のために、何を目標にし、どうやったら達成できるか、を自らに問い続けることで、自らのモチベーションを高く持続させることができる人、とも言えましょう。
本講座では、コーチングによってその能力の醸成を目指します。コーチングは、質問を投げかけることによって、その人自身のモチベーションや探究心を引き出すことに注力します。具体的な質問のスキルを使い、受講者同士がピアコーチすることで質問力の効果的な体得を促します。さらに、質問のスキルを使いながらビジョンメイキングすることで自分の目指す姿の明確化を目指します。人をコーチし、コーチを受けることを通じて、自分自身をコーチングすることもできるようにもなります。
企業は自ら主体的にビジネスを起こしていけるイノベーション人材を求めています。これから企業へ就職を考えている学部生、大学院生の皆さんにとっても、自分を改めて見つめ直し、ビジョンを明確にしていく本講義は就職活動に役立つものになります。

授業の到達目標: ・ビジョンメイキングや内発的動機の重要性ついてコーチングを通じて理解する。
・コーチングの考え方、基本的な手法を学び、実践ができるようになる。
・他者へのコーチングに加え、自身をコーチングする方法を学び、実践ができるようになる。

事前・事後学習の内容: ・毎回の授業後、授業での学び等についてレビューシートを提出する。
・授業と授業の間に、前回の授業で習った内容を活用しつつ、ペアを組んだ学生とのピアコーチを行う。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回:オリエンテーション（本講義の目的と概要）、コーチングとは

オリエンテーション（本講義の目的と概要） ／ 本講義の目的と概要について説明します。
コーチングの基本的な知識と双方向コミュニケーション（傾聴と質問力）について学び、実践します。コーチングのペアを組みます。

第2回:視点を変え発想力を高める質問力(1)

視点を変え発想力を高める質問力(1)として、さまざまな質問（オープンクエスチョン、クローズドクエスチョン、質問のチャンク）について学び、実践します。

第3回:視点を変え発想力を高める質問力(2)

視点を変え発想力を高める質問力(2)として、実行力を高めるコーチングフロー、自身のモチベーションマネジメント、について学び、実践します。

第4回:中間振り返り、ビジョンメイキング

ピアコーチングについて振り返ります。
ビジョンメイキングとして、目的と目標の違い。真に達成したいビジョンを引き出す質問とは、について学び、実践します。
この授業はゲスト講師である本間氏と共同で行います。
本間 達哉氏:、一般社団法人ダイアローグ・カフェ・クラブ代表理事、国際コーチ連盟マスター認定コーチ
日本で最初のコーチング・ファームである 株式会社コーチ・エィのエグゼクティブ・コーチとして、これま で約300人の経営者や管理職を対象にコーチングを実施。「Coachacademia」の講師を長年つとめ、2 万人以上のコーチ型リーダーを養成してきた。

第5回:ダイバーシティ（個別対応）

ダイバーシティとは何か、タイプによって異なるコーチング方法、効果的なフィードバックについて、学び、実践します。
この授業は、ゲスト講師である田上誠司氏と共同で行います。
田上 誠司氏
フィールドアップ代表／エグゼクティブコーチ
国際コーチ連盟プロフェッショナル認定コーチ

第6回：アカウンタビリティ（自分ごとにする）
アカウンタビリティとヴィクテムの違いは何か、どうやって「自分ごと」にするか、について学び、実践します。
さらに、受講生は授業成果の発表を行いフィードバックを受けます。
第7回：発表と振り返り
各人は各々のビジョンと授業での学びを発表します。

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　教室で配布します。

参考文献：　鈴木義幸『コーチングの基本　この1冊ですべてわかる』日本実業出版社 2009年

成績評価フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：　学部生:

レポート30%
毎回授業後のレビューシート提出

平常点70%
出席、授業への積極性を評価します。
ピアコーチングの積極的な参加を評価します。
自身のビジョン、ピアコーチイング、この講義における学びについて、各人が発表（第7回授業）

大学院生:

レポート40%
毎回授業後のレビューシート提出

平常点60%
出席、授業への積極性を評価します。
ピアコーチングの積極的な参加を評価します。
自身のビジョン、ピアコーチイング、この講義における学びについて、各人が発表（第7回授業）

共通：
＊3回以上欠席すると単位は取得できません。（欠席は2回まで）
＊レビューシートの3回以上の未提出の場合、単位は取得できません。（未提出は2回まで）

備考・関連URL：　【履修上の注意】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
・2025年度以前に「イノベーション人材になるためのコーチング研修（ベーシック）（学部生用）」の単位を修得済みの方は履修できません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91030005|01|9S91030005[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	AIビジネスクリエーション		
担 当 教 員	鶴谷 武親@丸山 祐丞		
開 講 学 期	春ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月6時限	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題: AI・機械学習を活用したビジネスモデルを考える

授業概要: 人工知能技術や機械学習を用いたビジネスの現状の概要を知るとともに、まず、ビジネス事例を学ぶ。

次いで、ハンズオンで人工知能技術や機械学習を用いたツールを習得し、将来のビジネスシーンにおいてそれらのテクノロジーがどのように活用できるかを実践的に考える能力をグループワークなどを通じて養成する。

＊今年度の講義形式は対面で実施します。事情によりオンラインとなる場合は、リアルタイム配信となります。

授業の到達目標: 人工知能技術や機械学習を駆使して、新しいビジネスモデルを提案できる知識とスキルを身に付けることを目的とする。

事前・事後学習の内容: 予習・復習をするとともに、授業中に課された宿題がある場合はそれに従事する。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 4月13日(月) 6限 （担当：鶴谷・丸山）
オリエンテーション・ AIビジネス・アイスブレイキング

第2回 4月20日(月) 6限 （担当：鶴谷・丸山）
AI・機械学習の基礎

第3回 4月27日(月) 6限（担当：鶴谷・丸山）
AI・機械学習ビジネスの事例、グループワーク

第4回 5月11日(月) 6限 （担当：鶴谷・丸山）
AI・機械学習の実装ハンズオン講義

第5回 5月18日(月) 6限 （担当：鶴谷・丸山）
AI・機械学習プロジェクトの進め方、グループワーク

第6回 5月25日(月) 6限 （担当：鶴谷・丸山）
グループワーク

第7回 6月1日(月) 6限 （担当：鶴谷・丸山）
グループワーク発表会・講評・まとめ

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: なし

参考文献: なし

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー: （1）学部生
レポート: 40% 期末レポートの提出
平常点評価: 40% 授業への参加度と、毎回のMoodleを通したレビューシートの提出
その他: 20% グループワークでのグループへの貢献度や関連のセミナーやシンポジムへの参加
（2）大学院生
レポート: 50% 期末レポートの提出
平常点評価: 40% 授業への参加度と、毎回のMoodleを通したレビューシートの提出
その他: 10% グループワークでのグループへの貢献度や関連のセミナーやシンポジムへの参加

備考・関連URL:　3回以上の欠席は単位を取得できない(欠席は2回まで)。

レビューシートの未提出が3回以上の場合は単位を取得できない(未提出は2回まで)。

【履修上の注意】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
・2025年度以前に「AIビジネスクリエーション　α (学部生用)」「AI Business Creation β (for undergraduates)」の単位を修得済みの方は履修できません。
・「AI Business Creation」を登録中または単位修得済みの方は履修できません。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91030006|01|9S91030006[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	AI Business Creation		
担 当 教 員	鶴谷 武親@丸山 祐丞		
開 講 学 期	秋ク	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:月6時限	授業方法区分	【オンライン】リアルタイム配信
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題：
Let's present your own business model using AI and machine learning technologies.

授業概要：
This course introduces concepts andpractices of business utilizing AI and machine learning technologies includingsome cases. We will also experience some tools using AI and machine learningtechnologies. Based on the basic understandings, we will do some group works todiscuss about how we utilize the technologies in the future.

This course will be in English and by realtime online format using Zoom.

授業の到達目標：
The students will be able to
1. create and present new business models utilizing AI and machine learning technologies to solve social problems.
2. take actions to realize what they think.

事前・事後学習の内容：
You will be required to do some assignments as an individual and as a group.

授業計画フリー入力サイン：
0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Oct 5, Monday, Period 6, instructed by Tsurutani and Maruyama
Class orientation.
Oct 12, Monday, Period 6 , instructed by Tsurutani and Maruyama
Basics of AI and machine learning.
Oct 19, Monday, Period 6, instructed by Tsurutani and Maruyama
AI and machine learning for research and business.Hands-on with AI and machine learning, part 1.
Oct 26, Monday, Period 6, instructed by Tsurutani and Maruyama
Hands-on with AI and machine learning, part 2.
Nov 2, Monday, Period 6, instructed by Tsurutani and Maruyama
Group work
Nov 9, Monday, Period 6, instructed by Tsurutani and Maruyama
Group work
Nov 16, Monday, Period 6, instructed by Tsurutani and Maruyama
Review

言語区分：
0 英語 English

成績評価フリー入力サイン：
1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

成績評価フリー：
Report assignments: Review sheet and final paper 40%
Class participation: attendance and groupwork participation 40%
Others: attendance on recommended seminars and events.

Evaluation will be based on active class participation, group homework assignments, attendance, review sheet, and a final presentaion project. There will be no formal examinations, but there will ongoing presentations in class and final presentations at the end of the term.

備考・関連URL：
Absent must be 2 or less.

Missing submission of the review sheet mustbe 2 or less.

【履修上の注意/Course Registration Notes】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
　This course is offered to both undergraduate and graduate students.
・2025年度以前に「AIビジネスクリエーション　α（学部生用）」「AI Business Creation β (for undergraduates)」の単位を修得済みの方は履修できません。
　Students who have earned credit for "AI Business Creation alpha" or "AI Business Creation beta (for undergraduates)" in or before the 2025 academic year are not eligible to enroll in this course.
・「AIビジネスクリエーション」を登録中または単位修得済みの方は履修できません。
　Students who are currently enrolled in or have already earned credit for "AIビジネスクリエーション" are not eligible to enroll in this course.

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91030007|01|9S91030007[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ジョブ型研究インターンシップ実習（春）		
担 当 教 員	松居　辰則		
開 講 学 期	春期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　ジョブ型研究インターンシップ推進協議会が行うインターンシップに応募し、受け入れが決定した学生が必ず履修する必要のある科目です。『ジョブ型研究インターンシップ実習（春）』は、当該協議会インターンシップに応募をし、2026年4月1日から2026年9月30日までに開始するインターンシップを行う場合に対象となります。履修は自動登録となります。
※2026年度の日程はキャリアセンターに確認してください.

授業の到達目標：　今後拡大が見込まれるジョブ型採用を見据え、国際競争に耐え得る研究力に裏打ちされた実践力を身に着ける。

事前・事後学習の内容：　プログラム参加学生向け事前説明会への参加

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　以下の1）～3）の全てに参加する必要があります。

1）学生向け事前説明会
本説明会はジョブ型研究インターンシップ事務局が毎月月初にオンラインにて開催しております（日本語・英語別開催）。
プログラムの概要と参加の心得、実習までのステップの理解としてご参加をお願いいたします。
※視聴方法がわからない方はキャリアセンターまでお問い合わせください

2）インターンシップ実習
マッチング先企業で2か月程度の就業体験を行う

3）事後面接
インターンシップ終了後、担当教員との面接を行う

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に指定しません.

参考文献：　必要に応じて情報を提供いたします.

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　試験は実施しません。

レポート：　80　実習先の指導者による評価によります。

平常点評価：　20　大学の科目担当者との面接によります。

実習先の指導者による評価と実習後の科目担当者の面談を踏まえ、単位を付与します。
成績は、Pass/Fail表記で，A+,A,B,C,F等ではありません。

備考・関連URL：　この科目についての詳細や手続きについては、キャリアセンターホームページ「在学生の方へ＞博士学生」を確認してください。なお、インターンシップの受け入れが決定次第、自動登録いたします。

https://www.waseda.jp/inst/career/students/dscd/

2026年度　グローバル・エデュケーション・センター　講義要項

（合併科目区分：　0　合併なし　　）　　[SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91030008|01|9S91030008[/SYLLABUS_ID]

科　目　名	ジョブ型研究インターンシップ実習（秋）		
担 当 教 員	松居　辰則		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（キャリア形成）	配 当 年 次	１年以上
備　　考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要：　ジョブ型研究インターンシップ推進協議会が行うインターンシップに応募し、受け入れが決定した学生が必ず履修する必要のある科目です。『ジョブ型研究インターンシップ実習（春）』は、当該協議会インターンシップに応募をし、2026年10月1日から2027年3月31日までに開始するインターンシップを行う場合に対象となります。履修は自動登録となります。
※2026年度の日程はキャリアセンターに確認してください.

授業の到達目標：　今後拡大が見込まれるジョブ型採用を見据え、国際競争に耐え得る研究力に裏打ちされた実践力を身に着ける。

事前・事後学習の内容：　プログラム参加学生向け事前説明会への参加

授業計画フリー入力サイン：　1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー：　以下の1）～3）の全てに参加する必要があります。

1）学生向け事前説明会
本説明会はジョブ型研究インターンシップ事務局が毎月月初にオンラインにて開催しております（日本語・英語別開催）。
プログラムの概要と参加の心得、実習までのステップの理解としてご参加をお願いいたします。
※視聴方法がわからない方はキャリアセンターまでお問い合わせください

2）インターンシップ実習
マッチング先企業で2か月程度の就業体験を行う

3）事後面接
インターンシップ終了後、担当教員との面接を行う

言語区分：　0　日本語　Japanese

教科書：　特に指定しません.

参考文献：　必要に応じて情報を提供いたします.

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

試験：　0　試験は実施しません。

レポート：　80　実習先の指導者による評価によります。

平常点評価：　20　大学の科目担当者との面接によります。

実習先の指導者による評価と実習後の科目担当者の面談を踏まえ、単位を付与します。
成績は、Pass/Fail表記で，A+,A,B,C,F等ではありません。

備考・関連URL：　この科目についての詳細や手続きについては、キャリアセンターホームページ「在学生の方へ＞博士学生」を確認してください。なお、インターンシップの受け入れが決定次第、自動登録いたします。

https://www.waseda.jp/inst/career/students/dscd/

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91030009|01|9S91030009[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	企業インターンシップ（カーボンニュートラル）春		
担 当 教 員	下川 哲		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無その他	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（経営・経済・金融）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 「事業創造演習α」および「事業創造演習β」を履修し、単位修得済みの博士課程学生を履修対象とする。

「企業インターンシップ（カーボンニュートラル）春」は、当年度4月1日以降開始、9月30日までに終了するインターンシップに参加する場合に対象となる。

インターンシップ派遣先企業は「事業創造演習α」および「事業創造演習β」の協力企業が対象となる。
履修学生の派遣先希望を確認後、企業によるセレクションの後、派遣可否が決定する。

※履修希望の場合、日程等含め詳細をカーボンニュートラル社会研究教育センターに確認すること。
カーボンニュートラル社会研究教育センター： wcans-staff@list.waseda.jp

授業の到達目標: 主専攻の専門知識に加え、異なる専攻の体系的知識を習得することで、学際的または文理融合的取り組みに貢献できる資質を身に着けたうえで、 当インターンシップにて、より実践的な思考力や起業家的能力を身に付ける。

事前・事後学習の内容: 事前の企業によるセレクションの後、派遣可否が決定する。
インターンシップ期間終了後、担当教員との面談を行う。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 以下の1）～3）の行程があり、全てに参加する必要がある。

1）学生向け事前説明
カーボンニュートラル社会研究教育センターより、詳細説明を実施。

2）インターンシップ実習
マッチング先企業で1か月以上の就業体験を行う

3）事後面接
インターンシップ終了後、担当教員との面接を行う

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定しない。

参考文献: 必要に応じて情報を提供する。

成績評価フリー入力サイン: 0 : 評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 20 インターンシップ期間終了後、担当教員との面談を行う。

その他: 80 メンター（企業担当者）による評価。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91030010|01|9S91030010[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	企業インターンシップ（カーボンニュートラル）秋		
担 当 教 員	藤本 悠@下川 哲		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	人文・社会科学科目（経営・経済・金融）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 業創造演習α」および「事業創造演習β」を履修し、単位修得済みの博士課程学生を履修対象とする。

「企業インターンシップ（カーボンニュートラル）春」は、当年度10月1日移行開始、翌1月31日までに終了するインターンシップに参加する場合に対象となる。

インターンシップ派遣先企業は「事業創造演習α」および「事業創造演習β」の協力企業が対象となる。
履修学生の派遣先希望を確認後、企業によるセレクションの後、派遣可否が決定する。

※履修希望の場合、日程等含め詳細をカーボンニュートラル社会研究教育センターに確認すること。
カーボンニュートラル社会研究教育センター： wcans-staff@list.waseda.jp

授業の到達目標: 主専攻の専門知識に加え、異なる専攻の体系的知識を習得することで、学際的または文理融合的取り組みに貢献できる資質を身に着けたうえで、 当インターンシップにて、より実践的な思考力や起業家的能力を身に付ける。

事前・事後学習の内容: 事前の企業によるセレクションの後、派遣可否が決定する。
インターンシップ期間終了後、担当教員との面談を行う。

授業計画フリー入力サイン: 1：フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 以下の1）～3）の行程があり、全てに参加する必要がある。

1）学生向け事前説明
カーボンニュートラル社会研究教育センターより、詳細説明を実施。

2）インターンシップ実習
マッチング先企業で1か月以上の就業体験を行う

3）事後面接
インターンシップ終了後、担当教員との面接を行う

言語区分: 0 日本語 Japanese

教科書: 特に指定しない。

参考文献: 必要に応じて情報を提供する。

成績評価フリー入力サイン: 0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

平常点評価: 20 インターンシップ期間終了後、担当教員との面談を行う。

その他: 80 メンター（企業担当者）による評価。

備考・関連URL: 日程等含め、詳細はカーボンニュートラル社会研究教育センターに確認すること。
カーボンニュートラル社会研究教育センター： wcans-staff@list.waseda.jp

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S91030011|01|9S91030011[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	Fundamentals and Practice of Business Idea Pitching		
担 当 教 員	莉々 紀子		
開 講 学 期	集秋	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:火その他	授業方法区分	【対面】
科 目 区 分	人間的力量科目（ビジネス創出）	配 当 年 次	1年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

科目副題： From Concept to Global Presentation

授業概要： This intensive course is designed to help students develop practical skills to structure and deliver business ideas effectively in English within an international context. Conducted entirely in English, the course guides students through the entire process—from idea generation and opportunity recognition to storytelling, pitch deck creation, and delivery skills—using real cases from global startups and international pitch events. In the final session, students will present their own business ideas in English, simulating a global-standard pitch environment.

授業の到達目標： By the end of the course, students will be able to:
1.Structure business ideas logically and present them clearly and persuasively to an international audience.
2.Acquire effective presentation skills in English, including storytelling and expressions required for pitching.
3.Understand and apply the structure, conventions, and expectations of pitches in global business contexts.
4.Demonstrate flexible communication skills for impromptu Q&A sessions and practice persuasive techniques tailored to the audience.

事前・事後学習の内容： Preparation: Watch assigned materials such as TED Talks and international startup pitch videos, analyze expressions and structures, and prepare short summaries or opinions in English. Conduct research on a business idea related to one's own field of interest and create notes in English.

Review: Revise pitch decks and scripts based on in-class feedback. Reflect on key takeaways from each session and prepare for the following class.

授業計画フリー入力サイン： 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画：

Introduction, Global Pitching Landscape, and Key Principles (Fourth period, 10/06)

Course objectives, characteristics of international business pitching, case studies of global pitch competitions, key elements of globally effective pitches, and basic exercises in clear English expressions.

From Idea to Opportunity & Finding and Shaping Ideas (Fifth period, 10/06)

Idea generation, identifying market needs, developing solutions from problems, group sharing of ideas, and impromptu speech practice.

Business Model & Value Proposition for a Global Audience (Fourth period, 10/13)

Designing business models for international markets, articulating customer value in English, and practicing short speeches/mini-pitches.

Storytelling, Pitch Structure, and Cross-Cultural Persuasion (Fifth period, 10/13)

Storytelling that resonates with global audiences, typical pitch structures (problem → solution → market → strengths), persuasive techniques across cultures, and hands-on exercises.

Pitch Deck Design, Visual Communication, and Workshop (Fourth period, 10/20)

Creating effective slides, designing visual messages, explaining slides in English, analyzing sample pitch decks, and peer review of students' own decks.

Rehearsal, Mock Pitch, and Feedback Session (Fifth period, 10/20)

Group rehearsals, mock pitch sessions, immediate peer and instructor feedback, and identification of improvement points.

Final Pitch Presentation (Fourth period, 10/27)

Students' final English business idea pitches, Q&A, and course wrap-up.

言語区分： 0 英語 English

教科書： Course materials will be provided by the instructor.

参考文献： Guy Kawasaki, The Art of the Start 2.0 (Portfolio, 2015)
Bill Aulet, Disciplined Entrepreneurship (Wiley, 2013)

John Doerr, Measure What Matters (Portfolio, 2017)
Archived videos of international pitch events (e.g., TechCrunch Disrupt, Slush, SXSW Pitch)
Supplementary materials: TED Talks on entrepreneurship, startup pitch videos, instructor-distributed materials, and online case studies

成績評価フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー: Class participation (active contribution in discussions and exercises) and review sheets: 30%
Assignments (idea summaries, short English presentations, etc.): 30%
Final pitch presentation: 40%

備考・関連URL: All sessions will be conducted in English.
No prior business experience or specific English proficiency level is required; however, active participation and willingness to take on challenges in a global, practice-oriented environment will be highly valued.

【履修上の注意/Course Registration Notes】
・本科目は学部生も大学院生も履修可能です。
This course is offered to both undergraduate and graduate students.

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S990F0001|01|9S990F0001[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	医学入門 （東京女子医科大学）		
担 当 教 員	他大学単位互換協定		
開 講 学 期	秋期	単 位 数	2
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	東京女子医科提供科目	配 当 年 次	2年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 本科目は、早稲田大学の全学部の学生を対象に、医学・医療の基本的知識から最新の進歩・トピックスに至るまでわかりやすく解説する。
講義は基礎医学系および臨床医学系の教授が担当する。

授業の到達目標: 医学や医療の現状を各分野の専門家による講義により理解し、今後の生活、学習、研究に生かす。

事前・事後学習の内容: 原則的事前学習は必要ありませんが、各回レジュメが事前に配布された場合は、事前読了により理解が深まると思います。事後はレポート作成などの課題に対応する学習が必要です。

授業計画フリー入力サイン: 0 : 講義回毎フォーマット（教員による切替可）

授業計画:

第1回 10月2日（金）＜病理学を元に医者の思考回路を探る＞
医学の中で基礎医学と臨床医学の結節点でもある病理学、その中には、①概念としての病理学、②学問としての病理学、③病理診断学の3つがある。本講義では臨床医が①を元に病気を推理する過程を解説する。
人体病理学・病態神経科学分野 倉田 厚 教授

第2回 10月7日（水）＜セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて考える＞
セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（SRHR）は、「性と生殖に関する健康と権利」である。本講義では、SRHRについて考える。
統合教育学修センター 水主川 純 教授

第3回 10月9日（金）＜血液がんの最新治療について＞
白血病、リンパ腫、骨髄腫の病態および最新の治療について
血液内科学分野 瀬尾 幸子 教授

第4回 10月14日（水）＜心臓病に対する薬物治療と低侵襲カテーテル治療の進化について＞
心臓病に対する薬物治療と低侵襲カテーテル治療の進化について
循環器内科学分野 山口 淳一 教授

第5回 10月16日（金）＜ATMPとは何か＞
ATMPとは欧州の薬事法で定められた組織工学、細胞治療、遺伝子治療からなる新規医療のカテゴリーである。これらについて詳説する
先端生命医科学研究所 大和 雅之 教授

第6回 10月23日（金）＜臓器移植の現状＞
臓器移植について
移植管理科 石田 英樹 教授

第7回 10月28日（水）＜人工知能（AI）の臨床実用の実際＞
画像診断におけるAIの臨床実用の現状に関して、講演を行う
画像診断学・核医学分野 坂井 修二 教授

第8回 10月30日（金）＜難聴のサイエンス＞
難聴の治療は古くて新しいテーマです。難聴の概念と、今の研究のトピックについて概説します。
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野 水足 邦雄 教授

第9回 11月4日（水）＜ゲノム医療と生命倫理＞
発展するゲノム医療は我々に恩恵をもたらすが、一方で生命倫理と相反する部分がある
ゲノム診療科 山本 俊至 教授

第10回 11月13日（金）＜脳神経内科ってなに？＞
脳神経内科学の概要と主な疾患（脳卒中、認知症、パーキンソン病など聞き覚えのある疾患や若い世代に好発する。免疫疾患）を紹介し、疾患啓発を行います。そして、医療経済を学ぶ機会になればよいと思います。
医療安全科・脳神経内科学分野 清水 優子 教授

第11回　11月20日（金）＜臓器移植と臓器提供＞

腎移植を中心に移植医療に関する様々話題問題について講義する
東京女子医科大学附属八千代医療センター泌尿器科　乾 政志 教授

第12回　11月27日（金）＜救急医学の最前線と諸問題＞

生命の危機に対応する救急医療の最先端治療と、それを支える基礎・臨床研究を紹介する。あわせて、超高齢社会、救急搬送逼迫、医療費増大、資源配分、終末期医療などの倫理的・経済的課題を概説する。
救急医学分野　森 周介 教授

第13回　12月4日（金）＜大学病院における実臨床としてのゲノム診療：現状と展望＞

大学病院におけるゲノム診療が、研究から“日常診療”へ移行していく過程とその課題
東京女子医科大学附属足立医療センター病理診断科　黒田 一 教授

第14回　12月11日（金）＜不思議な脳の魅力に迫る＞

脳神経外科の立場から神経回路の可塑性、意識と感情の神経基盤、記憶形成、錯覚やてんかん発作にみる脳機能の破綻と再編を通して、脳の神秘と科学的理解の最前線に迫る講義。東京女子医科大学附属足立医療センター脳神経外科　久保田 有一 教授

言語区分：　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン：　0：評価方法毎フォーマット（教員による切替可）

レポート：　100　「オンライン講義受講後は、毎回レポート提出を必須とし、その回に沿った内容について独自の感想をまとめているか評価する （レポート評価100%）」
googleフォームからのレポート提出は受講日の2週後までとし、400字以上800字以内にまとめ送信すること

備考・関連URL：　・全講義オンラインで行います。
視聴は受講日から年度末まで可能。

2026年度 グローバル・エデュケーション・センター 講義要項

（合併科目区分： 0 合併なし ） [SYLLABUS_ID]2026|9S|9S990P0001|01|9S990P0001[/SYLLABUS_ID]

科 目 名	医学概論 （日本医科大学）		
担 当 教 員	他大学単位互換協定		
開 講 学 期	春期	単 位 数	1
曜 日 時 限	01:無フルOD	授業方法区分	【オンライン】フルオンデマンド
科 目 区 分	日本医科大学提供科目	配 当 年 次	2年以上
備 考	オープン科目		

※講義要項やWebシラバスの記載内容は、履修学生の人数や理解度に応じて、授業開始後に変更される場合があります。

授業概要: 医学概論（日本医科大学）では、医学と医療の現状と展望について、研究倫理や医療を取り巻く文化や歴史などを含めて概説する。

授業の到達目標: (1)医学と医療−今日と明日について理解する。
(2)医科学と研究倫理について理解する。
(3)日本の医療の現状と将来について理解する。
(4)医学を取り巻く文化と歴史について理解する。
(5)医師の使命とプロフェッショナリズムについて理解する。
(6)医療倫理学について理解する。
(7)内科学の考え方について理解する。
(8)外科学の考え方について理解する。
(9)救急医療体制について理解する。
(10) コロナパンデミックについて理解する
(11)病理学の位置づけについて理解する。
(12)人工知能について理解する。

事前・事後学習の内容: 事前学習（予習）として各回のレジュメ（スライド）を読了する。約90分かかると想定される。事後学習（復習）として課題に対するレポートを提出する。

授業計画フリー入力サイン: 1 : フリーフォーマット（教員による切替可）

授業計画フリー: 本科目は、フルオンデマンドで構成される。

(1)オリエンテーション・本科目の構成
授業内容:本科目の学修目的・社会的意義、構成内容の説明
講義担当者:藤倉 輝道（医学教育副センター長）

(2)医学と医療−今日と明日
授業内容:「医の未来―生と医の未来」を考える
講義担当者:弦間 昭彦（学長）

(3)医科学と研究倫理
授業内容:科学的エビデンスに基づく医学の重要性、その基盤となる研究倫理について理解する
講義担当者:桑名 正隆（大学院医学研究科長）

(4)日本の医療の現状と将来
授業内容:日本の医療の現状と将来に向けた変動
講義担当者:南 砂（特任教授）

(5)医学を取り巻く文化と歴史
授業内容:医学の歴史や文化的背景をひも解き、医学とは何か、今後の医学はどうなるか考える
講義担当者:藤倉 輝道（医学教育副センター長）

(6)医師の使命とプロフェッショナリズム−1
授業内容:プロフェッション、医のプロフェッショナリズムとは何か？について理解する
講義担当者:大生 定義（客員教授）

(7)医師の使命とプロフェッショナリズム−2
授業内容:同上
講義担当者:大生 定義（客員教授）

(8)医療倫理学とは何か
授業内容:患者の自己決定権と意思の裁量権
講義担当者:吉川 栄省（教授）

(9)内科学の考え方
授業内容:内科学の概念、歴史、医の倫理と道徳、医学における内科学の位置づけを理解する
講義担当者:弦間 昭彦（学長）

(10)外科学の考え方
授業内容:外科治療の歴史、変遷を理解する
講義担当者:石井　庸介(大学院教授)

(11)救急医療体制
授業内容:救急医療体制の推移と現在、今後の課題について理解する
講義担当者:横堀　將司(大学院教授)

(12)コロナパンデミックを振り返る
授業内容:コロナパンデミックを一度振り返り、今後の課題について理解する。
講義担当者:北村　義浩(医学教育副センター長)

(13)病理学総論
授業内容:病理学の歴史と序論を通じて、基礎医学から臨床医学への展開について理解する。
講義担当者:清水　章(大学院教授)

(14)人工知能概論・イントロダクション
授業内容:AIの歴史、Society5.0、データ駆動型思考、機械学習の種類、シンギュラリティについて
講義担当者:藤崎　弘士(教授)

(15)医学を俯瞰する
授業内容:医学とは何か・改めて省察する
講義担当者:藤倉　輝道(医学教育副センター長)

言語区分:　0　日本語　Japanese

成績評価フリー入力サイン:　1:フリーフォーマット(教員による切替可)

成績評価フリー:
【評価方法】
一般目標を認識し、学習行動目標を達成しているか否かについて、以下の方法で評価を行う。
出席は受験資格において勘案し、レポートをもって総合的に評価する。

【評価基準】
評価基準は早稲田大学の規則に定める。